

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20001A0A |
| 科目名  | ミクロ経済学基礎   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Microeconomics  |       |           |
| 担当者名   | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | 経済学 A     |
| 講義概要   | 本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。具体的には、 （1）財・サービスの価格はどのように決まるか、 （2）競争がもたらすものは何か、 （3）政府介入の効果、 以上の3点を主題とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | J.E.スティグリッツ・C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学（第3版）』東洋経済新報社  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | ・平常点（30%） 中間試験（30%） 定期試験（40%） ・中間試験および定期試験の受験は単位取得のための必要条件である（いずれか一方でも受験しない場合は「不可」）。                   |       |           |
| 到達目標   | 今後経済学の専門科目を学ぶ際に有用となる「経済学的な考え方」を身につけること。  |       |           |
| 準備学習   | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎回復習を欠かさないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 基本的競争モデル、需要曲線 3. 需要曲線のシフト 4. 供給曲線、供給曲線のシフト 5. 市場均衡、均衡の変化 6. 余剰分析1 7. 余剰分析2 8. 余剰分析3 9. 復習1 10. 中間試験 11. 需要・供給の価格弾力性 12. 価格弾力性の応用、不足と過剰 13. 政府介入の効果 14. 復習2 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20001A0B |
| 科目名  | ミクロ経済学基礎   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Elementary Microeconomics  |       |           |
| 担当者名   | 川端 和美  | 旧科目名称 | 経済学 A     |
| 講義概要   | 本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。具体的には、  (1) 財・サービスの価格はどのように決まるか、  (2) 競争がもたらすものは何か、  (3) 政府介入の効果、 以上の3点を主題とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | J.E.スティグリッツ・C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | ・平常点 (30%) 中間試験 (30%) 定期試験 (40%)  ・中間試験および定期試験の受験は単位取得のための必要条件である (いずれか一方でも受験しない場合は「不可」)。                    |       |           |
| 到達目標   | 今後経済学の専門科目を学ぶ際に有用となる「経済学的な考え方」を身につけること。  |       |           |
| 準備学習   | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎回復習を欠かさないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 基本的競争モデル、需要曲線 3. 需要曲線のシフト 4. 供給曲線、供給曲線のシフト 5. 市場均衡、均衡の変化 6. 余剰分析1 7. 余剰分析2 8. 余剰分析3 9. 復習1 10. 中間試験 11. 需要・供給の価格弾力性 12. 価格弾力性の応用、不足と過剰 13. 政府介入の効果 14. 復習2 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20001A0C |
| 科目名  | ミクロ経済学基礎   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Elementary Microeconomics  |       |           |
| 担当者名   | 宮崎 泉   | 旧科目名称 | 経済学 A     |
| 講義概要   | 本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。具体的には、  (1) 財・サービスの価格はどのように決まるか、  (2) 競争がもたらすものは何か、  (3) 政府介入の効果、 以上の3点を主題とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | J.E.スティグリッツ・C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | ・平常点 (30%) 中間試験 (30%) 定期試験 (40%)  ・中間試験および定期試験の受験は単位取得のための必要条件である (いずれか一方でも受験しない場合は「不可」)。                    |       |           |
| 到達目標   | 今後経済学の専門科目を学ぶ際に有用となる「経済学的な考え方」を身につけること。  |       |           |
| 準備学習   | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎回復習を欠かさないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 基本的競争モデル、需要曲線 3. 需要曲線のシフト 4. 供給曲線、供給曲線のシフト 5. 市場均衡、均衡の変化 6. 余剰分析1 7. 余剰分析2 8. 余剰分析3 9. 復習1 10. 中間試験 11. 需要・供給の価格弾力性 12. 価格弾力性の応用、不足と過剰 13. 政府介入の効果 14. 復習2 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20001A0D |
| 科目名  | ミクロ経済学基礎   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Elementary Microeconomics  |       |           |
| 担当者名   | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 | 経済学 A     |
| 講義概要   | 本講義では、経済学の最も基本となる「需要・供給分析」を学ぶ。具体的には、  (1) 財・サービスの価格はどのように決まるか、  (2) 競争がもたらすものは何か、  (3) 政府介入の効果、 以上の3点を主題とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | J.E.スティグリッツ・C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 (第3版)』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | ・平常点 (30%) 中間試験 (30%) 定期試験 (40%)  ・中間試験および定期試験の受験は単位取得のための必要条件である (いずれか一方でも受験しない場合は「不可」)。                    |       |           |
| 到達目標   | 今後経済学の専門科目を学ぶ際に有用となる「経済学的な考え方」を身につけること。  |       |           |
| 準備学習   | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎回復習を欠かさないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 基本的競争モデル、需要曲線 3. 需要曲線のシフト 4. 供給曲線、供給曲線のシフト 5. 市場均衡、均衡の変化 6. 余剰分析1 7. 余剰分析2 8. 余剰分析3 9. 復習1 10. 中間試験 11. 需要・供給の価格弾力性 12. 価格弾力性の応用、不足と過剰 13. 政府介入の効果 14. 復習2 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20001B0A |
| 科目名        | マクロ経済学基礎  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Macroeconomics   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 | 経済学 B     |
| 講義概要       | 現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は、経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | スティグリッツ『スティグリッツ入門経済学（第3版）』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義ノート、問題集を配布予定  |       |           |
| 評価方法       | 中間試験30%、期末試験40%、小テスト30%   |       |           |
| 到達目標       | （1）景気・国民所得の決定などマクロ経済学の基礎理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | （1）配付された資料に目を通す。 （2）毎日、経済ニュースを1つ読み、調べ、理解する。   |       |           |
| 受講者への要望    | （1）中間試験、定期試験を必ず受験すること （2）毎講義実施される小テストを受験すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション（経済学とは何か、講義の進め方、評価方法） 2. GDP①（GDPとは、名目と実質） 3. GDP②（GDPの計測1・2・3） 4. GDP③（潜在GDP、好況・不況、GNP(GNI)） 5. 失業（インフレ・デフレ） 6. 完全雇用モデル①（労働市場、生産物市場） 7. 完全雇用モデル②（資本市場、一般均衡） 8. 中間まとめ 9. 中間試験、補足説明 10. 所得・支出分析①（総支出曲線と総産出曲線） 11. 所得・支出分析②（乗数、政府、外国貿易） 12. 所得・支出分析③（マクロ経済政策） 13. 経済成長①（経済成長とは） 14. 経済成長②（経済成長と労働生産性） 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20001B0C |
| 科目名        | マクロ経済学基礎  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Macroeconomics   |       |           |
| 担当者名       | 宮崎 泉  | 旧科目名称 | 経済学 B     |
| 講義概要       | 現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は、経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | スティグリッツ『スティグリッツ入門経済学（第3版）』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義ノート、問題集を配布予定  |       |           |
| 評価方法       | 中間試験30%、期末試験40%、小テスト30%   |       |           |
| 到達目標       | （1）景気・国民所得の決定などマクロ経済学の基礎理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | （1）配付された資料に目を通す。 （2）毎日、経済ニュースを1つ読み、調べ、理解する。   |       |           |
| 受講者への要望    | （1）中間試験、定期試験を必ず受験すること （2）毎講義実施される小テストを受験すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション（経済学とは何か、講義の進め方、評価方法） 2. GDP①（GDPとは、名目と実質） 3. GDP②（GDPの計測1・2・3） 4. GDP③（潜在GDP、好況・不況、GNP(GNI)） 5. 失業（インフレ・デフレ） 6. 完全雇用モデル①（労働市場、生産物市場） 7. 完全雇用モデル②（資本市場、一般均衡） 8. 中間まとめ 9. 中間試験、補足説明 10. 所得・支出分析①（総支出曲線と総産出曲線） 11. 所得・支出分析②（乗数、政府、外国貿易） 12. 所得・支出分析③（マクロ経済政策） 13. 経済成長①（経済成長とは） 14. 経済成長②（経済成長と労働生産性） 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20001B0D |
| 科目名        | マクロ経済学基礎  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Macroeconomics   |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 | 経済学 B     |
| 講義概要       | 現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学部生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は、経済成長、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | スティグリッツ『スティグリッツ入門経済学（第3版）』東洋経済新報社   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義ノート、問題集を配布予定  |       |           |
| 評価方法       | 中間試験30%、期末試験40%、小テスト30%   |       |           |
| 到達目標       | （1）景気・国民所得の決定などマクロ経済学の基礎理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | （1）配付された資料に目を通す。 （2）毎日、経済ニュースを1つ読み、調べ、理解する。   |       |           |
| 受講者への要望    | （1）中間試験、定期試験を必ず受験すること （2）毎講義実施される小テストを受験すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション（経済学とは何か、講義の進め方、評価方法） 2. GDP①（GDPとは、名目と実質） 3. GDP②（GDPの計測1・2・3） 4. GDP③（潜在GDP、好況・不況、GNP(GNI)） 5. 失業（インフレ・デフレ） 6. 完全雇用モデル①（労働市場、生産物市場） 7. 完全雇用モデル②（資本市場、一般均衡） 8. 中間まとめ 9. 中間試験、補足説明 10. 所得・支出分析①（総支出曲線と総産出曲線） 11. 所得・支出分析②（乗数、政府、外国貿易） 12. 所得・支出分析③（マクロ経済政策） 13. 経済成長①（経済成長とは） 14. 経済成長②（経済成長と労働生産性） 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2000200A |
| 科目名  | 日本経済入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to the Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名   | 内山 隆夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>1960年代の日本の経済発展は、世界中の人びとによって絶賛された。日本と同様に第2次世界大戦に敗れた西ドイツ（当時）も1960年代に高度経済成長を実現した。フランスのジャーナリストは両国の戦後の経済発展を『敗戦国の復讐』というテーマで一冊の本に纏めている。ところが、1990年代（バブル景気の崩壊後）の日本の経済は、「失われた20年」と特徴付けられるように長期低迷に喘ぎ、日本は世界経済の「お荷物」にさえなった。  他方、世界経済はリーマンショック(2008年秋)後の金融不安への応急措置からの出口戦略を実施し始めた矢先に、ギリシャ危機に端を発する金融不安に再び見舞われた。そのような中で、日本経済は未曾有の円高に直面している。日本経済はこれ以外にも、震災後の経済社会の立て直し、TPP参加問題、税と財政の一体改革、とくに消費税の増税などの多くの課題に直面している。  このため、生活不安が国民生活に蔓延し、日本では初めての本格的な政権交代が起こったものの、大方の期待を裏切った。日本経済を再生させるためには、何をしなければならないのか？残念ながら起死回生の妙薬はなく、日本経済は当面、これまで先送りされてきた懸案事項をひとつひとつ解決しながら、将来展望を切り開いていかなければならないだろう。講義では、できるだけ具体的にそのための課題を設定し、関連するキーワードを解説する。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 高橋 進 『2012年度版 図解 ゼロからわかる日本経済ダイジェスト』高橋書店  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内レポートと学期末試験  |       |           |
| 到達目標   | 世界の中の日本経済の現状と問題点について理解する   |       |           |
| 準備学習   | 新聞や雑誌などの経済記事に目を向けよう！   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 100年に一度と言われる世界的な経済危機の動向とわが国経済の対応を注視しよう！！   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 第1章 プレトンウッズ体制と日本経済   2. 第1章 プレトンウッズ体制と日本経済   3. 第2章 バブル景気と失われた10年   4. 第3章 病める日本経済の自覚症状   5. 第3章 病める日本経済の自覚症状   6. 第4章 金融システムの動揺   7. 第4章 金融システムの動揺   8. 第5章 財政赤字の急増   9. 第5章 財政赤字の急増   10. 第6章 IT革命と産業社会の変貌   11. 第6章 IT革命と産業社会の変貌   12. 第7章 生活不安とセイフティーネット   13. 第7章 生活不安とセイフティーネット   14. 第8章 グローバリゼーションと日本経済   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2000200B |
| 科目名  | 日本経済入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to the Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>1960年代の日本の経済発展は、世界中の人びとによって絶賛された。日本と同様に第2次世界大戦に敗れた西ドイツ（当時）も1960年代に高度経済成長を実現した。フランスのジャーナリストは両国の戦後の経済発展を『敗戦国の復讐』というテーマで一冊の本に纏めている。ところが、1990年代（バブル景気の崩壊後）の日本の経済は、「失われた20年」と特徴付けられるように長期低迷に喘ぎ、日本は世界経済の「お荷物」にさえなった。  他方、世界経済はリーマンショック(2008年秋)後の金融不安への応急措置からの出口戦略を実施し始めた矢先に、ギリシャ危機に端を発する金融不安に再び見舞われた。そのような中で、日本経済は未曾有の円高に直面している。日本経済はこれ以外にも、震災後の経済社会の立て直し、TPP参加問題、税と財政の一体改革、とくに消費税の増税などの多くの課題に直面している。  このため、生活不安が国民生活に蔓延し、日本では初めての本格的な政権交代が起こったものの、大方の期待を裏切った。日本経済を再生させるためには、何をしなければならないのか？残念ながら起死回生の妙薬はなく、日本経済は当面、これまで先送りされてきた懸案事項をひとつひとつ解決しながら、将来展望を切り開いていかなければならないだろう。講義では、できるだけ具体的にそのための課題を設定し、関連するキーワードを解説する。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 高橋 進 『2012年度版 図解 ゼロからわかる日本経済ダイジェスト』高橋書店  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内レポートと学期末試験  |       |           |
| 到達目標   | 世界の中の日本経済の現状と問題点について理解する   |       |           |
| 準備学習   | 新聞や雑誌などの経済記事に目を向けよう！   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 100年に一度と言われる世界的な経済危機の動向とわが国経済の対応を注視しよう！！   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 第1章 プレトンウッズ体制と日本経済   2. 第1章 プレトンウッズ体制と日本経済   3. 第2章 バブル景気と失われた10年   4. 第3章 病める日本経済の自覚症状   5. 第3章 病める日本経済の自覚症状   6. 第4章 金融システムの動揺   7. 第4章 金融システムの動揺   8. 第5章 財政赤字の急増   9. 第5章 財政赤字の急増   10. 第6章 IT革命と産業社会の変貌   11. 第6章 IT革命と産業社会の変貌   12. 第7章 生活不安とセイフティーネット   13. 第7章 生活不安とセイフティーネット   14. 第8章 グローバリゼーションと日本経済   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20005001 |
| 科目名   | 国際経済学   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | International Economics   |       |           |
| 担当者名  | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 近年、グローバル化している経済状況を理解し、そこで生じる様々な課題に対処するための分析ツールを提供するのが国際経済学です。本講義の前半では、国際貿易論の分野を扱います。具体的には、貿易のパターンや貿易の利益を説明する理論モデルを扱います。後半では、国際マクロ経済学の分野から、主に国際マクロ経済政策の政策効果について学びます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 下記の参考文献・その他に記載されたテキストに従ってレジュメを作成し配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ○澤田康幸(2003)『基礎コース 国際経済学』 新世社  ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』 新世社  ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』 有斐閣  |       |           |
| 教材 (その他)  | ○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎 国際経済学』 中央経済社  ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門 国際経済学』 岩波書店  ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』 有斐閣   |       |           |
| 評価方法  | 学期末テスト(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標  | グローバル化する経済活動の現状を理解しながら、国際経済学を理解するための理論モデルを学習し、理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の授業を必ず履修しておいて下さい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とします。遅刻の場合、その理由を求めます。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回：イントロダクション (国際経済学とは?)  第2回：貿易の基本モデル：部分均衡分析(1)  第3回：貿易の基本モデル：部分均衡分析(2)  第4回：貿易の基本モデル(2)：2財の貿易モデル(1)  第5回：貿易の基本モデル(2)：2財の貿易モデル(2)  第6回：リカード・モデル(1)  第7回：リカード・モデル(2)  第8回：ヘクシャー・オーリンモデル(1)  第9回：ヘクシャー・オーリンモデル(2)  第10回：不完全競争と国際貿易(1)  第11回：不完全競争と国際貿易(2)  第12回：完全競争と貿易政策(1)  第13回：完全競争と貿易政策(2)  第14回：不完全競争と貿易政策(1)  第15回：不完全競争と貿易政策(2)  第16回：生産要素の国際移動(1)  第17回：生産要素の国際移動(2)  第18回：前半のまとめ  第19回：海外取引と国際収支  第20回：外国為替の仕組み(1)  第21回：外国為替の仕組み(2)  第22回：為替レートの決定(1)：絶対的購買力平価  第23回：為替レートの決定(2)：相対的購買力平価  第24回：為替レートの決定(3)：金利平価式  第25回：IS-LM分析の復習(1)  第26回：IS-LM分析の復習(2)  第27回：国際マクロ経済政策：固定相場制における財政金融政策 (資本移動が完全なケース)  第28回：国際マクロ経済政策：変動相場制における財政金融政策 (資本移動が完全なケース)  第29回：国際マクロ経済政策：固定相場制・変動相場制における財政金融政策 (資本移動がないケース)  第30回：後半のまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J2000900A |
| 科目名       | 経済学のための数学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Mathematics for Economic s  |       |           |
| 担当者名      | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>クラスの水準に応じて、経済学に必要な数学からより重要なものを取り上げる。予定される項目は以下の通りであるが、受講者の理解の状況に応じて追加・削除することもある。  Aクラス（基本）座標とグラフの読み方、1次関数の作図、多項式の整理、連立方程式の解法  Bクラス（標準）方程式・不等式の復習、2次関数、2次方程式、関数、微分の基礎  Cクラス（発展）関数、数列、級数、微分、偏微分、多変数の微分</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | クラスおよび達成水準に応じて、資料や問題集を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 達成度確認テスト（3回）：60% 平常点+授業内プリント課題：40%  ただし、達成度に応じて編成されるクラス毎に、以下のような評価点の上限を設定する。  Aクラス：80点 Bクラス：90点 Cクラス：100点   |       |           |
| 到達目標      | <p>1. 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 2. 企業の採用試験の初期段階においては、SPIと呼ばれる基礎学力を確認するための試験が実施されている。この試験に対応できる数学能力を獲得すること。</p>  |       |           |
| 準備学習      | 中学・高校の数学の教科書・参考書に目を通しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

数学の基本を復習する最後のチャンスである。これからの大学生活だけでなく、就職活動や卒業後の社会生活にも必ず役立つ「技術」として数的処理能力を身に付けて欲しい。この授業での数学の学び方は、反復による機械的な処理能力を高めることではない。数や式の性質を理解し、それに基づいて論理的に処理する能力を高めることである。つまり、授業の中で「なるほど!」「分かった!」という実感が得られることが何よりも重要である。| 数学は集中して取り組むことでより効率良く学ぶことができる。秋学期開講の「経済数学」(Cクラス向け)や春学期開講の「入門数学」(A・Bクラス向け)を是非とも履修されることを薦めたい。

講義の順序とポイント

1. クラス分けのための確認テストを実施し、現在の数学の理解度に応じたクラス編成を行う。 |2. 毎回の授業で小テストを実施する。 |3. 達成度確認テストでの成績優秀者は上位クラスへの転入を認める。|4. 期末試験はクラス共通問題とクラス独自問題の2つから成る。|5. 15回の授業の進行スケジュールは以下の通りである。 | 1-4回：通常授業 5回：第1回まとめと達成度確認テスト| 6-9回：通常授業 10回：第2回まとめと達成度確認テスト| 11-14回：通常授業 15回：総復習と達成度確認テスト||クラス別のスケジュールは以下の通りである。|A クラス 1-4：式の記述法 比例式の記述と作図 反比例式の記述と作図 5：まとめ| 6-9：一次関数の記述と作図 連立方程式の解法と作図 10：まとめ| 11-14：多項式の整理 絶対値の計算 平方根の計算 百分率の利用方法 15：まとめ|B クラス(1) 1.ガイダンス 2.多項式と単項式の情報・除法 3.式の展開 4.素因数分解 5.まとめ 6.因数分解 | 7.因数分解と整数の性質 8.平方根 9.平方根を含む式の計算 10.まとめ 11.2次方程式 12.2次方程式の利用| 13.2次関数 14.2次関数と極地 15.まとめ|B クラス(2) 1.直線の式 2.連立方程式 3.関数と方程式 4.2次関数の最大・最小 5.まとめ 6.領域 7.数列 8.指数法則| 9.指数関数・指数方程式 10.テスト 11.対数関数・対数方程式 12.復習1 13.復習2 14.復習3 15.テスト|C クラス 1.直線の式・方程式 2.2次関数 3.指数関数 4.対数関数 5.まとめ 6.数列 7.数列の極限 8.無限級数 9.微分| 10.まとめ 11.微分の計算と応用1 12.微分の計算と応用1 13.偏微分 14.偏微分の応用 15.まとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J2000900B |
| 科目名       | 経済学のための数学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Mathematics for Economic s  |       |           |
| 担当者名      | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>クラスの水準に応じて、経済学に必要な数学からより重要なものを取り上げる。予定される項目は以下の通りであるが、受講者の理解の状況に応じて追加・削除することもある。  Aクラス（基本）座標とグラフの読み方、1次関数の作図、多項式の整理、連立方程式の解法  Bクラス（標準）方程式・不等式の復習、2次関数、2次方程式、関数、微分の基礎  Cクラス（発展）関数、数列、級数、微分、偏微分、多変数の微分</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | クラスおよび達成水準に応じて、資料や問題集を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | <p>達成度確認テスト（3回）：60% 平常点+授業内プリント課題：40%  ただし、達成度に応じて編成されるクラス毎に、以下のような評価点の上限を設定する。  Aクラス：80点 Bクラス：90点 Cクラス：100点</p>  |       |           |
| 到達目標      | <p>1. 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 2. 企業の採用試験の初期段階においては、SPIと呼ばれる基礎学力を確認するための試験が実施されている。この試験に対応できる数学能力を獲得すること。</p>  |       |           |
| 準備学習      | 中学・高校の数学の教科書・参考書に目を通しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

数学の基本を復習する最後のチャンスである。これからの大学生活だけでなく、就職活動や卒業後の社会生活にも必ず役立つ「技術」として数的処理能力を身に付けて欲しい。この授業での数学の学び方は、反復による機械的な処理能力を高めることではない。数や式の性質を理解し、それに基づいて論理的に処理する能力を高めることである。つまり、授業の中で「なるほど!」「分かった!」という実感が得られることが何よりも重要である。| 数学は集中して取り組むことでより効率良く学ぶことができる。秋学期開講の「経済数学」(Cクラス向け)や春学期開講の「入門数学」(A・Bクラス向け)を是非とも履修されることを薦めたい。

講義の順序とポイント

1. クラス分けのための確認テストを実施し、現在の数学の理解度に応じたクラス編成を行う。 |2. 毎回の授業で小テストを実施する。 |3. 達成度確認テストでの成績優秀者は上位クラスへの転入を認める。|4. 期末試験はクラス共通問題とクラス独自問題の2つから成る。|5. 15回の授業の進行スケジュールは以下の通りである。 | 1-4回：通常授業 5回：第1回まとめと達成度確認テスト | 6-9回：通常授業 10回：第2回まとめと達成度確認テスト | 11-14回：通常授業 15回：総復習と達成度確認テスト | |クラス別のスケジュールは以下の通りである。|Aクラス 1-4：式の記述法 比例式の記述と作図 反比例式の記述と作図 5：まとめ | 6-9：一次関数の記述と作図 連立方程式の解法と作図 10：まとめ | 11-14：多項式の整理 絶対値の計算 平方根の計算 百分率の利用方法 15：まとめ |Bクラス(1) 1.ガイダンス 2.多項式と単項式の情報・除法 3.式の展開 4.素因数分解 5.まとめ 6.因数分解 | 7.因数分解と整数の性質 8.平方根 9.平方根を含む式の計算 10.まとめ 11.2次方程式 12.2次方程式の利用 | 13.2次関数 14.2次関数と極地 15.まとめ |Bクラス(2) 1.直線の式 2.連立方程式 3.関数と方程式 4.2次関数の最大・最小 5.まとめ 6.領域 7.数列 8.指数法則 | 9.指数関数・指数方程式 10.テスト 11.対数関数・対数方程式 12.復習1 13.復習2 14.復習3 15.テスト |Cクラス 1.直線の式・方程式 2.2次関数 3.指数関数 4.対数関数 5.まとめ 6.数列 7.数列の極限 8.無限級数 9.微分 | 10.まとめ 11.微分の計算と応用1 12.微分の計算と応用1 13.偏微分 14.偏微分の応用 15.まとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J2000900C |
| 科目名       | 経済学のための数学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Mathematics for Economic s  |       |           |
| 担当者名      | 齋藤 弘樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>クラスの水準に応じて、経済学に必要な数学からより重要なものを取り上げる。予定される項目は以下の通りであるが、受講者の理解の状況に応じて追加・削除することもある。  Aクラス（基本）座標とグラフの読み方、1次関数の作図、多項式の整理、連立方程式の解法  Bクラス（標準）方程式・不等式の復習、2次関数、2次方程式、関数、微分の基礎  Cクラス（発展）関数、数列、級数、微分、偏微分、多変数の微分</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | クラスおよび達成水準に応じて、資料や問題集を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 達成度確認テスト（3回）：60% 平常点+授業内プリント課題：40%  ただし、達成度に応じて編成されるクラス毎に、以下のような評価点の上限を設定する。  Aクラス：80点 Bクラス：90点 Cクラス：100点   |       |           |
| 到達目標      | <p>1. 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 2. 企業の採用試験の初期段階においては、SPIと呼ばれる基礎学力を確認するための試験が実施されている。この試験に対応できる数学能力を獲得すること。</p>  |       |           |
| 準備学習      | 中学・高校の数学の教科書・参考書に目を通しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

数学の基本を復習する最後のチャンスである。これからの大学生活だけでなく、就職活動や卒業後の社会生活にも必ず役立つ「技術」として数的処理能力を身に付けて欲しい。この授業での数学の学び方は、反復による機械的な処理能力を高めることではない。数や式の性質を理解し、それに基づいて論理的に処理する能力を高めることである。つまり、授業の中で「なるほど!」「分かった!」という実感が得られることが何よりも重要である。| 数学は集中して取り組むことでより効率良く学ぶことができる。秋学期開講の「経済数学」(Cクラス向け)や春学期開講の「入門数学」(A・Bクラス向け)を是非とも履修されることを薦めたい。

講義の順序とポイント

1. クラス分けのための確認テストを実施し、現在の数学の理解度に応じたクラス編成を行う。 |2. 毎回の授業で小テストを実施する。 |3. 達成度確認テストでの成績優秀者は上位クラスへの転入を認める。|4. 期末試験はクラス共通問題とクラス独自問題の2つから成る。|5. 15回の授業の進行スケジュールは以下の通りである。 | 1-4回：通常授業 5回：第1回まとめと達成度確認テスト | 6-9回：通常授業 10回：第2回まとめと達成度確認テスト | 11-14回：通常授業 15回：総復習と達成度確認テスト | |クラス別のスケジュールは以下の通りである。|Aクラス 1-4：式の記述法 比例式の記述と作図 反比例式の記述と作図 5：まとめ | 6-9：一次関数の記述と作図 連立方程式の解法と作図 10：まとめ | 11-14：多項式の整理 絶対値の計算 平方根の計算 百分率の利用方法 15：まとめ |Bクラス(1) 1.ガイダンス 2.多項式と単項式の情報・除法 3.式の展開 4.素因数分解 5.まとめ 6.因数分解 | 7.因数分解と整数の性質 8.平方根 9.平方根を含む式の計算 10.まとめ 11.2次方程式 12.2次方程式の利用 | 13.2次関数 14.2次関数と極地 15.まとめ |Bクラス(2) 1.直線の式 2.連立方程式 3.関数と方程式 4.2次関数の最大・最小 5.まとめ 6.領域 7.数列 8.指数法則 | 9.指数関数・指数方程式 10.テスト 11.対数関数・対数方程式 12.復習1 13.復習2 14.復習3 15.テスト |Cクラス 1.直線の式・方程式 2.2次関数 3.指数関数 4.対数関数 5.まとめ 6.数列 7.数列の極限 8.無限級数 9.微分 | 10.まとめ 11.微分の計算と応用1 12.微分の計算と応用1 13.偏微分 14.偏微分の応用 15.まとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2000900D |
| 科目名        | 経済学のための数学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Mathematics for Economic s  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>クラスの水準に応じて、経済学に必要な数学からより重要なものを取り上げる。予定される項目は以下の通りであるが、受講者の理解の状況に応じて追加・削除することもある。  Aクラス (基本) 座標とグラフの読み方、1次関数の作図、多項式の整理、連立方程式の解法  Bクラス (標準) 方程式・不等式の復習、2次関数、2次方程式、関数、微分の基礎  Cクラス (発展) 関数、数列、級数、微分、偏微分、多変数の微分</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | クラスおよび達成水準に応じて、資料や問題集を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法       | <p>達成度確認テスト (3回): 60% 平常点+授業内プリント課題: 40%  ただし、達成度に応じて編成されるクラス毎に、以下のような評価点の上限を設定する。  Aクラス: 80点 Bクラス: 90点 Cクラス: 100点</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>1. 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。  2. 企業の採用試験の初期段階においては、SPIと呼ばれる基礎学力を確認するための試験が実施されている。この試験に対応できる数学能力を獲得すること。</p>   |       |           |
| 準備学習       | 中学・高校の数学の教科書・参考書に目を通しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

数学の基本を復習する最後のチャンスである。これからの大学生活だけでなく、就職活動や卒業後の社会生活にも必ず役立つ「技術」として数的処理能力を身に付けて欲しい。この授業での数学の学び方は、反復による機械的な処理能力を高めることではない。数や式の性質を理解し、それに基づいて論理的に処理する能力を高めることである。つまり、授業の中で「なるほど!」「分かった!」という実感が得られることが何よりも重要である。| 数学は集中して取り組むことでより効率良く学ぶことができる。秋学期開講の「経済数学」(Cクラス向け)や春学期開講の「入門数学」(A・Bクラス向け)を是非とも履修されることを薦めたい。

講義の順序とポイント

1. クラス分けのための確認テストを実施し、現在の数学の理解度に応じたクラス編成を行う。 | 2. 毎回の授業で小テストを実施する。 | 3. 達成度確認テストでの成績優秀者は上位クラスへの転入を認める。 | 4. 期末試験はクラス共通問題とクラス独自問題の2つから成る。 | 5. 15回の授業の進行スケジュールは以下の通りである。 | 1-4回: 通常授業 5回: 第1回まとめと達成度確認テスト | 6-9回: 通常授業 10回: 第2回まとめと達成度確認テスト | 11-14回: 通常授業 15回: 総復習と達成度確認テスト | クラス別のスケジュールは以下の通りである。 | Aクラス 1-4: 式の記述法 比例式の記述と作図 反比例式の記述と作図 5: まとめ | 6-9: 一次関数の記述と作図 連立方程式の解法と作図 10: まとめ | 11-14: 多項式の整理 絶対値の計算 平方根の計算 百分率の利用方法 15: まとめ | Bクラス(1) 1. ガイダンス 2. 多項式と単項式の情報・除法 3. 式の展開 4. 素因数分解 5. まとめ 6. 因数分解 | 7. 因数分解と整数の性質 8. 平方根 9. 平方根を含む式の計算 10. まとめ 11. 2次方程式 12. 2次方程式の利用 | 13. 2次関数 14. 2次関数と極地 15. まとめ | Bクラス(2) 1. 直線の式 2. 連立方程式 3. 関数と方程式 4. 2次関数の最大・最小 5. まとめ 6. 領域 7. 数列 8. 指数法則 | 9. 指数関数・指数方程式 10. テスト 11. 対数関数・対数方程式 12. 復習1 13. 復習2 14. 復習3 15. テスト | Cクラス 1. 直線の式・方程式 2. 2次関数 3. 指数関数 4. 対数関数 5. まとめ 6. 数列 7. 数列の極限 8. 無限級数 9. 微分 | 10. まとめ 11. 微分の計算と応用1 12. 微分の計算と応用1 13. 偏微分 14. 偏微分の応用 15. まとめ

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20019001 |
| 科目名  | 白書で学ぶ現代日本   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Lectures on Contemporary Japan in White Paper   |       |           |
| 担当者名   | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 | 経済カレント講義D |
| 講義概要   | <p>(1) 本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やTV等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 (2) 毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基づいて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の3つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では各省庁間の現場で展開される協議の内容についても解説が期待でき、白書の背後にあるより広範かつ深遠な議論にも触れることができよう。 (3) 白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 毎回の講義で解説資料等を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各省庁発表の白書は、省庁HP上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、指定・紹介する。   |       |           |
| 評価方法   | ①毎回の受講レポート70%  ②レポートおよび授業内発表30%   |       |           |
| 到達目標   | ① 現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法について、確実に理解する。 ② 時事問題の現状、背景等への理解を深める。 ③ 経済学等の専門分野の政策問題への応用方法について理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | ① 翌週取り上げる白書の概要をまとめた資料を前の週の講義で配布するので、それらに目を通しておく。 ② 省庁HP上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 3回生履修者は就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 2. 卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 3. 私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 講義の順序  第1回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か  第2回-第7回 (前半)：毎回1つの白書を取り上げていく。 第8回：前半の白書の要点整理とその確認  第9回-第14回 (後半)：毎回1つの白書を取り上げていく。 第15回：後半の白書の要点整理とその確認   2. 昨年2011年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 ① 経済財政白書 ② 労働経済白書 ③ 観光白書 ④ 厚生労働白書 ⑤ 環境白書 ⑥ 食料・農業・農村白書 ⑦ 通商白書 ⑧ 外交青書 ⑨ 防衛白書 ⑩ 国土交通白書 ⑪ 防災白書   3. 日本の白書一覧  &lt;国会に提出される白書&gt;  公務員白書 (人事院) 防災白書 (内閣府) 交通安全白書 (内閣府) 障害者白書 (内閣府) 高齢社会白書 (内閣府) 少子化社会白書 (内閣府) 男女共同参画白書 (内閣府) 人権教育・啓発白書 (法務省、文部科学省) 地方財政白書 (総務省) 独占禁止白書 (公正取引委員会) 公害紛争処理白書 (公害等調整委員会) 科学技術白書 (文部科学省) 母子家庭白書 (厚生労働省) 水産白書 (水産庁) 森林・林業白書 (林野庁) 食料・農業・農村白書 (農林水産省) エネルギー白書 (経済産業省) 中小企業白書 (中小企業庁) ものづくり白書・製造基盤白書 (経済産業省、厚生労働省、文部科学省) 首都圏白書 (国土交通省) 観光白書 (国土交通省) 土地白書 (国土交通省) 環境白書 (環境省)  &lt;閣議に報告または配布される白書&gt;  経済財政白書 (内閣府) 青少年白書 (内閣府) 国民生活白書 (内閣府) 原子力白書 (内閣府原子力委員会) 世界経済の潮流 (内閣府) 原子力安全白書 (内閣府原子力安全委員会) 警察白書 (警察庁) 防衛白書 (防衛庁) 情報通信白書 (総務省) 公益法人白書 (総務省) 消防白書 (消防庁) 犯罪白書 (法務省) 外交青書 (外務省) 政府開発援助 (ODA) 白書 (外務省) 文部科学白書 (文部科学省) 厚生労働白書 (厚生労働省) 労働経済白書 (厚生労働省) 通商白書 (経済産業省) 国土交通白書 (国土交通省)   </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20020001 |
| 科目名   | コンピュータによる統計学入門   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Computer Statistics  |       |           |
| 担当者名  | 臼井 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | Excel の操作に習熟するとともに、統計学の基礎的概念を学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、適宜プリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%；出席状況等による）＋レポート（50%）。出席は2／3以上が必要です。   |       |           |
| 到達目標  | Excel での関数、グラフ作成、データ分析ツールなどの操作に習熟するとともに、記述統計（平均、標準偏差、相関係数など）、確率分布（二項分布、正規分布など）、区間推定・検定など、統計学の基礎的概念を学ぶことを目指す。 |       |           |
| 準備学習  | Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導するつもりである。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. データの平均、データのソート、移動平均  2. 同上  3. データの分散、四分位偏差、偏差値  4. 同上  5. 度数分布  6. 同上  7. 相関、散布図、回帰曲線  8. 同上  9. 分割表  10. 乱数  11. 同上  12. 2項分布  13. 同上  14. ポアソン分布  15. 正規分布  16. 同上  17. 同上  18. 大数の法則、中心極限定理  19. 同上  20. カイ2乗分布  21. 同上  22. t 分布  23. 同上  24. 区間推定  25. 同上  26. 仮説検定  27. 同上  28. 復習問題1  29. 復習問題2  30. 復習問題3 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                      |
|------------|---|-------|----------------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20021A01            |
| 科目名        | デリバティブ入門A   | 単位数   | 2                    |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Derivatives A   |       |                      |
| 担当者名       | 無相 大拙   | 旧科目名称 | デリバティブ論 s, デリバティブ論 I |
| 講義概要       | <p>・2012年並びに中期的観点より世界経済と世界のマネーフロー（おカネの流れ）を展望していくなかで、実体経済、あるいは、あらゆる事業に使用されているデリバティブの考え方並びに基礎を概観する。  ・金融技術から発したデリバティブ（派生商品）は、金融のみならず環境問題・事業（企業）運営にかかるリスク マネジメントの根幹を成すに至っており、一部実際の例を教授する。  ・受講者が、社会人として必須の知識として役立つ「デリバティブの考え方」を説明する。  ・また、デリバティブの広範囲に及ぶ具体例・応用事例はデリバティブ入門Bにて行う。</p> |       |                      |
| 教材（テキスト）   | 随時指示  |       |                      |
| 教材（参考文献）   | 随時指示  |       |                      |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布   |       |                      |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況による。授業中に使用するプリント提出（30%）。定期テスト（40%）  |       |                      |
| 到達目標       | デリバティブの考え方・基礎の理解と実際例を会得   |       |                      |
| 準備学習       | <p>・新聞の経済面（特に株式・為替等の動き）に日々感心を持つこと ・具体例は、都度講義中に指示</p>  |       |                      |
| 受講者への要望    | <p>・正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む </p>  |       |                      |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 世界経済の動きと予測  2. 資産価格の動きと予測  3. デリバティブとは  4. 株式とは  5. 株式とデリバティブ  6. 為替とは  7. 為替とデリバティブ  8. 債券とは  9. 債券とデリバティブ  10. デリバティブの活用例  11. デリバティブの活用例  12. デリバティブの活用例  13. リスクマネジメントとしてのデリバティブ  14. 自分のポートフォリオの作成  15. 自分のポートフォリオの作成</p>  |       |                      |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                       |
|------------|--|-------|-----------------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20021B01             |
| 科目名        | デリバティブ入門B  | 単位数   | 2                     |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Derivatives B  |       |                       |
| 担当者名       | 無相 大拙  | 旧科目名称 | デリバティブ論 f, デリバティブ論 II |
| 講義概要       | <p>・デリバティブ（派生商品）の基礎に係る説明の詳細は、春季のデリバティブ入門 A に譲ることとし、B では世間一般に多く観られるデリバティブを使った商品・事業・経営の実際を教授する。  ・受講者が、明日から身近に使える「デリバティブの考え方、利用方法」を会得するため、今の経済実態或いは企業で活用されている資産・経営管理という観点から、デリバティブの実際を観ていく。</p>  |       |                       |
| 教材（テキスト）   | 随時指示   |       |                       |
| 教材（参考文献）   | 随時指示   |       |                       |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布  |       |                       |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況による。授業中に使用するプリント提出（30%）。定期テスト（40%）   |       |                       |
| 到達目標       | 生活のあらゆる場所で、当たり前のように使用されているデリバティブ商品の分析と組成方法の習得  |       |                       |
| 準備学習       | 経済・国際面の動向を、新聞・ネット・TV 等で追うこと。   |       |                       |
| 受講者への要望    | 正解、不正解を問わず、自由闊達な発言を望む。   |       |                       |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 世界経済の動向と予測  2. 予測に沿った資産価格の動き  3. 資産価格を決定する要因  4. 株式  5. 債券  6. 為替  7. デリバティブの使用例－先物  8. デリバティブの使用例－オプション  9. デリバティブの使用例－スワップ  10. リスク管理手法とは  11. リスク管理手法とデリバティブ  12. 金融商品とデリバティブ  13. デリバティブによる商品組成  14. デリバティブによる商品組成  15. 今後のデリバティブの発展</p> |       |                       |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20029001 |
| 科目名  | 日本経済論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | The Japanese Economy  |       |           |
| 担当者名   | 川端 和美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本経済は、戦後復興・高度経済成長・オイルショック・円高・バブル経済・失われた10年などを経て、大きく変化してきた。そして経済の目標は量的拡大から質重視にシフトしてきている。また、近年急速に進む経済のグローバル化や少子高齢化のなかで、これまでの社会システムのままでは対応しきれなくなりつつある。日本経済の将来に対する不安も生じてきている。  本講義では、日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題について総合的かつ理論的に解説する。そして受講者自身が身の周りで起こる経済事象に興味・関心を持ち、自ら感じ考えることができる手助けになればと考えている。必要に応じて統計資料なども用いる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀 『ゼミナール日本経済入門』最新版 日本経済新聞出版社   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 講義ノートおよび参考資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 講義中の課題：20%、中間試験：30%、定期試験：50%にて評価する。   |       |           |
| 到達目標   | (1)日本経済について基本的な知識を得、要点をまとめる力をつける。(理論的思考力) (2)日本経済の現状について、自らの言葉で表現できる力を養う。(課題発見力) (3)他人の意見や考えを受け止め、他方で自分の考えを分かり易く伝える力をつける。(コミュニケーション力)   |       |           |
| 準備学習   | 日頃からニュースや新聞・雑誌などの経済トピックスに関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①受講希望者は初回講義から必ず出席すること。 ②講義への積極的な参加を望む。 ③私語、飲食、携帯電話の使用厳禁。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス  2. 日本経済 TODAY (近年の日本経済の概要など)  3. 景気の謎を解く① (景気循環など)  4. 景気の謎を解く②  5. 新成長の設計① (経済成長の理論、国民所得の決定、GDP など)  6. 新成長の設計②  7. 物価と市場経済① (デフレ・インフレの経済学、日本的物価問題など)  8. 物価と市場経済②  9. 発表日 10. 人口減少時代の財政① (財政の役割、公共財の理論など) 11. 人口減少時代の財政② 12. 金融システムの再構築① (金融政策、不良債権問題など) 13. 金融システムの再構築② 14. 復習 15. 中間試験 16. 経済記事を読む 17. 国際経済と日本の貿易① (日本の貿易構造など) 18. 国際経済と日本の貿易② 19. グローバリゼーション下の円① (円、購買力平価など) 20. グローバリゼーション下の円② 21. 変わる産業構造① (産業構造の移り変わりなど) 22. 変わる産業構造② 23. 発表日 24. VIDEO 25. 経営改革と雇用問題 (企業経営など) 26. 地球環境問題を考える① (京都議定書、外部不経済など) 27. 地球環境問題を考える② 28. 環境立国への道 (国家目標の構築、資源生産性など) 29. 発表日 30. まとめ  *①では各項目の主要テーマを解説し、②ではそれぞれの問題の背景や歴史的経過、経済理論との関係を解説します。  *発表日には、各自が関心のある日本経済の事象についてのレポートを発表してもらいます。  (詳細はガイダンスで説明します。) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20029002 |
| 科目名  | 日本経済論   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | The Japanese Economy  |       |           |
| 担当者名   | 川端 和美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本経済は、戦後復興・高度経済成長・オイルショック・円高・バブル経済・失われた10年などを経て、大きく変化してきた。そして経済の目標は量的拡大から質重視にシフトしてきている。また、近年急速に進む経済のグローバル化や少子高齢化のなかで、これまでの社会システムのままでは対応しきれなくなりつつある。日本経済の将来に対する不安も生じてきている。  本講義では、日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題について総合的かつ理論的に解説する。そして受講者自身が身の周りで起こる経済事象に興味・関心を持ち、自ら感じ考えることができる手助けになればと考えている。必要に応じて統計資料なども用いる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀 『ゼミナール日本経済入門』最新版 日本経済新聞出版社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義の中で適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義ノートおよび参考資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 講義中の課題：20%、中間試験：30%、定期試験：50%にて評価する。   |       |           |
| 到達目標   | (1)日本経済について基本的な知識を得、要点をまとめる力をつける。(理論的思考力) (2)日本経済の現状について、自らの言葉で表現できる力を養う。(課題発見力) (3)他人の意見や考えを受け止め、他方で自分の考えを分かり易く伝える力をつける。(コミュニケーション力)   |       |           |
| 準備学習   | 日頃からニュースや新聞・雑誌などの経済トピックスに関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①受講希望者は初回講義から必ず出席すること。 ②講義への積極的な参加を望む。 ③私語、飲食、携帯電話の使用厳禁。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス  2. 日本経済 TODAY (近年の日本経済の概要など)  3. 景気の謎を解く① (景気循環など)  4. 景気の謎を解く②  5. 新成長の設計① (経済成長の理論、国民所得の決定、GDP など)  6. 新成長の設計②  7. 物価と市場経済① (デフレ・インフレの経済学、日本的物価問題など)  8. 物価と市場経済②  9. 発表日 10. 人口減少時代の財政① (財政の役割、公共財の理論など) 11. 人口減少時代の財政② 12. 金融システムの再構築① (金融政策、不良債権問題など) 13. 金融システムの再構築② 14. 復習 15. 中間試験 16. 経済記事を読む 17. 国際経済と日本の貿易① (日本の貿易構造など) 18. 国際経済と日本の貿易② 19. グローバリゼーション下の円① (円、購買力平価など) 20. グローバリゼーション下の円② 21. 変わる産業構造① (産業構造の移り変わりなど) 22. 変わる産業構造② 23. 発表日 24. VIDEO 25. 経営改革と雇用問題 (企業経営など) 26. 地球環境問題を考える① (京都議定書、外部不経済など) 27. 地球環境問題を考える② 28. 環境立国への道 (国家目標の構築、資源生産性など) 29. 発表日 30. まとめ  *①では各項目の主要テーマを解説し、②ではそれぞれの問題の背景や歴史的経過、経済理論との関係を解説します。  *発表日には、各自が関心のある日本経済の事象についてのレポートを発表してもらいます。  (詳細はガイダンスで説明します。) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20030001 |
| 科目名        | 産業組織論   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Industrial Organization   |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 今日、日本の産業では、企業間で様々な競争が繰り広げられている。この競争は企業にとって、また消費者にとってどの様な意味を持つのだろうか。ペインの産業組織論に基づいて、産業組織分析の方法を学び、日本の市場での企業間の競争の原理と実態をとらえよう。  はじめに、産業組織を学ぶために必要な理論を確認する。1～3章が理論編で、正統派の産業組織論の方法と体系に基づく。そのあと具体的な企業間の競争の状態を見ていく。それぞれの項目で日本の産業組織の実態を紹介する。  こうして産業組織論の原理の理解と現実の産業における競争関係を明らかにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『産業組織論入門』, 土井教之編、ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回授業でレジュメを配付する  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 2 0 点 (授業内容について質問, 要望, 感想を書いて提出。出席点ではない。) <br> 試験に替わるレポート 8 0 点   |       |           |
| 到達目標       | 産業組織論の基礎範疇である市場構造, 市場行動, 市場成果, 産業政策を理解する。 具体的な日本の産業における自由競争, 寡占支配の実態を知っておくこと。 就職しようとする業界でどのような競争が繰り広げられているかつかんでおくこと。  |       |           |
| 準備学習       | 寡占価格を理解しなければならないので価格論 (「ミクロ経済学 1」「ミクロ経済学 2」で講義) を学習しておくことよい。スティグリッツ『ミクロ経済学』が参考になる。  |       |           |

受講者への要望

価格論を学習しておくこと。|現在の日本の産業における企業間の競争に関心を持っておくこと。|就職しようとする業界の競争状態に関心を持っておくこと。

講義の順序とポイント

|  |
|--|
| I 産業組織論の方法  1 (1)産業組織論の枠組み  (2)産業組織論の主要概念  2 ①産業・市場構造  3 ②競争・市場行動  4 ③企業・市場成果  5 ④産業政策  II 市場の構造と企業の行動  ミクロ経済学の基礎  6 (1)完全競争  7 (2)独占的競争  8 (3)独占  (4)寡占  9 ①協調  1 0 ②複占  企業の経済学  (5)企業の理論  1 1 ①利潤極大化, 売上高極大化  1 2 ②所有と経営の分離  III 産業組織論の発展  1 3 (1)ゲームの理論 1   1 4 (2)ゲームの理論 2   戦略と競争の分析  IV 合併  1 5 合併の効果, 実態  V 企業協定  1 6 (1)カルテル, 事例  1 7 (2)垂直的取引制限  VI 戦略的行動  1 8 (1)戦略的行動  1 9 (2)参入阻止価格論  VII 企業の価格・非価格戦略  2 0 (1)価格・非価格戦略   2 1 (2)製品差別化  VIII 最近の産業組織  2 2 (1)ネットワーク  2 3 (2)グローバル化, 貿易  IX 公共政策  2 4 (1)競争政策 独禁政策  2 5 (2)規制緩和と規制緩和  X 日本の産業組織  2 6 (1)日本の産業組織の特徴 1   2 7 (2)日本の産業組織の特徴 2   産業組織論のまとめ  2 8 市場構造  2 9 市場行動  3 0 市場成果 |
|--|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20039001 |
| 科目名        | 情報システム設計実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practice of Information System Design  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 木暮 仁 著「情報システム設計論」 日科技連 加藤 英雄 著 「SEのための図解システム設計の基礎」 共立出版株式会社  |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメを適時配布  |       |           |
| 評価方法       | 「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+平常点(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 1. 情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2. 実習にて基本的なシステム設計の経験を積み重ねて、情報社会に必要な実践的な技術の習得。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Visual Basic を使ってシステム設計の実習をおこなうこともあるので、その知識を習得しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 第1回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。 2. 実習は Visual Basic を用いる場合もあり、その知識の知識を習得しておくこと。 （本講義では Visual Basic の基本知識に関する講義は行わない） 3. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. システム設計とは 3. システムの開発について 4. システムの開発手順(1) 5. システムの開発手順(2) 6. 基本設計手法(1) 7. 基本設計手法(2) 8. 基本設計手法(3) 9. 基本設計手法(4) 10. システム設計実習(1) 11. システム設計実習(2) 12. システム設計実習(3) 13. システム設計実習(4) 14. システム設計実習(5) 15. まとめ  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |      |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20044001 |
| 科目名       | 交通経済論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Transportation Economics  |       |           |
| 担当者名      | 西藤 二郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 鉄道・道路・空港などは社会全体で、世代を超えて利用していくもので、こうした設備は交通社会資本といわれる。わが国におけるこれらの交通社会資本の整備は、戦後の人口増加と、経済成長の中で、特有の財源制度に支えられて進められてきたが、いまわが国は世界に類を見ないほど速いスピードで、少子・高齢化が進んでいる。しかも、こうした社会資本が整備されてから40～50年が経ち、更新投資が必要になってきている。そうした状況の中で、財政の逼迫問題が同時に生じてきている。 そうであるだけに、今後のわが国における交通社会資本の整備は、どのような資金で、誰が、どのように負担していくことが望ましいのかについて考えるために、わが国での特有の財源制度の問題と負担の関係について考察していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各時間ごとに、プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 講義に関連するビデオ教材を用いることもある。  |       |           |
| 評価方法      | 1.各章が終わるごとに、チームを構成し、チームでまとめて行うプレゼンを評価（30%） 2.各省ごとのプレゼンノートの評価して返却する（30%） 3.レポート：亀岡市のコミュニティバスの観察乗車報告（20%） 4.質問など平常点（20%）を総合する。  |       |           |
| 到達目標      | 今起きている社会現象について、要点をまとめる力をつける（論理的思考力） その解決方法についての自分の意見をまとめる力を身に付ける（課題発見力） チームで考えて、まとめる力をつける。（協働力） プレゼンの要領を習得する。（コミュニケーション力）   |       |           |
| 準備学習      | 日常から新聞・雑誌・ニュースに注意を払い、友人と意見を交わす習慣を身に付ける  |       |           |

|  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 受講者への要望  |  |  |  |  |  |  |
| 講義中の私語、飲食、携帯メールなどは、厳禁。   |  |  |  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント   |  |  |  |  |  |  |
| 1. 交通社会資本の特質と費用負担   (道路・鉄道・空港などの建設維持の費用負担はどうあるべきなのか)  第1回目：交通社会資本の性格を考える 第2回目：交通社会資本の費用の負担のあり方  第3回目：費用負担のあるべき方向  第4回目：開発利益還元の方法と問題点 第5回目：プレゼン  2. 高速道路政策を考える   (道路公団は何が問題で民営化されたのか、そして新会社にどのような問題があるのか)  第6回目：道路公団民営化の必要性  第7回目：資金調達方法と運営方法  第8回目：新会社の仕組みの問題点 第9回目：総合交通政策からの問題点 第10回目：プレゼン   3. 道路混雑問題の解消   (交通需要管理の方法と問題点について考える)  第11回目：渋滞発生の原因と対策 第12回目：TDM政策 第13回目：プライシング制度の有効性 第14回目：ピークロードプライシング制の有効性と問題点 第15回目：プレゼン    4. 地方におけるバス事業のありかた   (地方交通の足としてバス事業は、どのようにして維持すべきか)  第16回目：バス事業の推移と実態  第17回目：バス事業の性格と経営努力  第18回目：バス事業に対する補助政策  第19回目：地域協議会の組織化の重要性を考える 第20回目：プレゼン  5. 運賃決定原理と仕組み   (通常の財の価格が市場で自ずと「決まる」のに対して、運賃はなぜ「決める」のか)  第21回目：公共料金としての運賃が持つ3つの性格  第22回目：運賃決定の諸方式を考える   ①原価補償主義 ②総括原価方式(積上げ方式)とその問題点  第23回目：③総括原価方式(レートベース方式)  第24回目：④ヤードスティック方式 ⑤プライスカップ方式 ⑥インセンティブ規制  第25回目：プレゼン  6. 規制の理論と緩和の理論   (規制は何のために行うのか、そしてどのような理論に基づくのか)  第26回目：規制理論のパターンと類型  第27回目：伝統的規制理論とその問題点  第28回目：産業利益説とその問題点  第29回目：コンテストابل・マーケット理論とその限界 第30回目：プレゼン |  |  |  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20052001 |
| 科目名       | 福祉社会論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Welfare Society   |       |           |
| 担当者名      | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。  そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について多角的に検討し、来たるべき「福祉社会」を展望したい。  なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要に応じて授業中に資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高学出版  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて授業中に資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 中間試験（35%）、学期末試験（52%）、平常点（13%） （別途指示するレポート等により加点する場合があります。）  |       |           |
| 到達目標      | 高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解をする。  |       |           |
| 準備学習      | 日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 各回に配布された資料を熟読しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

・初回の授業で授業の進め方や評価方法について説明するので、初回から必ず出席すること。|・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。|・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には試験結果に関わりなく単位を認定しない。|・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

#### 講義の順序とポイント

1. 授業の進め方と講義の概要| 2. 少子・高齢社会の到来（参考文献の第1章）| 3. 社会保障の誕生（同）| 4. 社会保障の普及（同）| 5. 日本の社会保障（同）| 6. 高齢化と医療保障（同）| 7. 高齢化と年金問題（同）| 8. 介護問題登場の背景（参考文献の第2章）| 9. 四種類の介護供給システム（同）| 10. わが国の介護保障システムの展開（同）| 11. 公的介護保険の構造と問題点（同）| 12. 介護保険の2005年改正（同）| 13. 前半のまとめ| 14. 労働時間の短縮（参考文献の第3章）| 15. 労働と自由時間（同）| 16. わが国の勤労観（同）| 17. 自由時間の意識と活用形態（同）| 18. 自由時間と無償労働（同）| 19. 自由時間の使途（同）| 20. 少子社会の問題（参考文献の第4章）| 21. 少子化の趨勢（同）| 22. 「近代」の原理と人口動態（同）| 23. 社会保障の限界（同）| 24. 少子化対策の種類（同）| 25. 各国の少子化対策（同）| 26. 近代の精神（参考文献の第5章）| 27. 自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題（同）| 28. 福祉国家の誕生と経済社会問題（同）| 29. 福祉国家批判と福祉社会の展望（同）| 30. 全体のまとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20055A01 |
| 科目名        | 経済政策 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Economic Policy A   |       |           |
| 担当者名       | 永合 位行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現在、日本を含め、世界全体が経済不況の時代の中であり、そのため経済政策がきわめて重要なものになってきています。しかし、経済政策と一言で言っても、財政政策、金融政策、産業政策、労働政策、社会保障政策等、実にさまざまな政策が存在しています。こうした個別具体的な政策を理解するためには、最初にいずれの政策を理解する上でも必要となる一般的な経済政策論の知識を身につけておく必要があります。経済政策 A では、こうした基本認識から、一般的な経済政策論について講義をします。具体的には、経済政策論の歴史、経済政策論の学問的性質、経済政策論の分類、経済政策論の課題、代表的な経済政策思想等について講義をする予定にしています。</p>              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法       | 半年間の講義中に数回小テストを実施する (30%)。定期テスト (70%)。なお、授業妨害行為 (私語等) に対しては減点措置をとる。   |       |           |
| 到達目標       | 個別具体的な政策を理解するために必要となる一般的な経済政策論の基本知識を身につけることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 日々、新聞を読んだりニュースを見たりし、経済問題や経済政策への関心を持ちつけておいて下さい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 私語は厳禁である。私語は、明確な授業妨害であるので、私語をした学生には退出を命ずるとともに、減点措置をとる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 講義概要の説明  2. 経済政策論の歴史 (1) 経済政策論の誕生  3. 経済政策論の歴史 (2) 経済段階論と保護主義的経済政策論の展開  4. 経済政策論の歴史 (3) 干渉主義の時代とケインズの登場  5. 経済政策論の歴史 (4) 福祉国家の時代とその危機  6. 現代の経済政策論の課題  7. 経済政策論の学問的性質  8. 経済政策の目的  9. 価値判断問題をめぐって  10. 経済政策論の分類  11. 経済政策の主体をめぐって  12. 現代の経済政策思想 (1) 新自由主義  13. 現代の経済政策思想 (2) 新社会主義  14. 現代の経済政策思想 (3) 新たな秩序構想  15. 講義のまとめ </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20055B01 |
| 科目名  | 経済政策 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Economic Policy B   |       |           |
| 担当者名   | 永合 位行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 前期講義の経済政策 A を受けて、経済政策 B ではまずより経済理論的な観点からさまざまな経済政策の必要性を講義します。そのため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的知識が必要となりますが、講義ではこれらについても簡単な説明を合わせて行う予定にしています。経済政策の必要性を理解した上で、次に、現実の政府が、そうした必要とされる経済政策を実際実施してくれるのかどうかを理論的に見ていきます。具体的には、政治家の行動、官僚の行動、利益団体の行動等を講義する予定にしています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法   | 半年間の講義中に数回小テストを実施する (30%)。定期テスト (70%)。なお、授業妨害行為 (私語等) に対しては減点措置をとる。   |       |           |
| 到達目標   | 本講義の目標は次の 2 点である。第一に、さまざまな経済政策の必要性を理論的に理解する。第二に、現実の政府が必要な政策を実施してくれるかどうかを理論的に理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 日々、新聞を読んだりニュースを見たりし、経済問題や経済政策への関心を持ちつづけておいて下さい。また、経済政策 A を履修しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 私語は厳禁である。私語は、明確な授業妨害であるので、私語をした学生には退出を命ずるとともに、減点措置をとる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 講義概要の説明  2. 市場の期待機能 (1) 需要と供給の機能  3. 市場の期待機能 (2) 厚生経済学の基本定理  4. 市場の失敗 (1) 独占の問題と独占禁止政策  5. 市場の失敗 (2) 自然独占と規制政策  6. 市場の失敗 (3) 公共財の供給と公共投資  7. 市場の失敗 (4) 外部性の問題と環境政策  8. 市場の失敗 (5) 分配の問題と社会政策  9. 市場の失敗 (6) 経済の不安定性と総需要管理政策  10. 政府の失敗 (1) アローの不可能性定理と投票のパラドクス  11. 政府の失敗 (2) 政治家の行動  12. 政府の失敗 (3) 官僚の行動  13. 政府の失敗 (4) 利益団体の行動  14. 政府の失敗 (5) 政治的景気循環  15. 講義のまとめ |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待           |            |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J20056001 |
| 科目名       | 社会政策   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Social Policy  |       |           |
| 担当者名      | 平田 謙輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>今日わが国では、他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障が期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。  そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療、年金、介護という社会保障の主要な分野を取り上げて見ていく。ここでは、それぞれの制度の目的と概要、そしてその現状と問題点などについて説明を行う。  次に、社会保障の原理と体系について述べた上で、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていく。ここでは、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。  最後に、少子・高齢化が進行するわが国における社会保障の今日的課題について検討し、これからの社会保障のあり方について展望する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要に応じて授業中に資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて授業中に資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法      | 中間試験（35%）、学期末試験（52%）、平常点（13%） （別途指示するレポート等により加点する場合があります。）   |       |           |
| 到達目標      | 社会保障の諸制度の目的と意義を理解する。   |       |           |
| 準備学習      | 日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 各回に配布された資料を熟読しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

・初回の授業で授業の進め方や評価方法について説明するので、初回から必ず出席すること。|・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。|・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には試験結果に関わりなく単位を認定しない。|・資料配布は原則として授業中のみ行う。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方と講義の概要|2.社会保障の概念と制度①（参考文献の第1章1節）|3.社会保障の概念と制度②（同）|4.高齢化と少子化|5.医療保障の概念と方法（第3章1節）|6.医療保障の制度体系（第3章2節）|7.医療保険の現状（第3章4節）|8.医療保険の課題（第3章5節）|9.所得保障と年金（第4章1節）|10.年金制度の現状①（第4章3節）|11.年金制度の現状②（同）|12.年金制度の課題（第4章4節）|13.前半のまとめ|14.高齢者介護をめぐる状況①（第5章1節）|15.高齢者介護をめぐる状況②（同）|16.高齢者介護システムの類型（第5章3節）|17.介護保険制度の概要（第5章4節）|18.介護保険制度の課題（第5章5節）|19.社会保障の必要性①（第1章2節）|20.社会保障の必要性②（同）|21.社会保障の必要性③（同）|22.体系と二定型（第1章3節）|23.福祉国家の光と陰①（第1章4節）|24.福祉国家の光と陰②（同）|25.社会保障の源流（第2章1節）|26.社会保障の登場と発展（第2章2節）|27.わが国の社会保障の発展（第2章3節）|28.福祉国家の危機と社会保障の新展開（第2章4節）|29.社会保障の展望（第6章）|30.全体のまとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20057A01 |
| 科目名   | ファイナンシャル・エコノミクス s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Financial Economics (s)                                    |       |           |
| 担当者名  | 秋田 将知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 金融の重要性を理解するために、金融取引、金融市場、金融機関、金融システム、およびブルードレンス政策について説明する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特になし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義中に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 基本的には定期試験で評価するが、小テスト等の平常点を考慮する。                            |       |           |
| 到達目標  | 金融の仕組みに関する基本的な理解を目標とする。                                    |       |           |
| 準備学習  | 去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい。                                 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 「金融」に対して興味、疑問を持って受講してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 : ガイダンス   2～3 : 金融とはなにか   4～5 : 金融取引   6～7 : 金融市場   8～9 : 金融機関   10～11 : 金融システム   12～13 : ブルードレンス政策   14～15 : まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20057B0A |
| 科目名        | ファイナンシャル・エコノミクス f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Financial Economics (f)  |       |           |
| 担当者名       | 秋田 将知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業および個人の意思決定に焦点を当て、前半は企業金融について学び、後半は金融契約について考える。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特になし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 基本的には定期試験で評価するが、小テスト等の平常点を考慮する。  |       |           |
| 到達目標       | 物事を論理的に考える。  |       |           |
| 準備学習       | 去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | ある時点での意思決定が将来にどのような影響を及ぼすか、ということについて論理的に考える意識を持ってください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 : ガイダンス   2 : 企業金融とはなにか   3～4 : 資本コスト   5～6 : 企業の投資   7～8 : 企業の資金調達   9～11 : 情報の非対称性と金融契約   12～13 : 企業統治   14～15 : まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20062001 |
| 科目名       | 財政学   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Public Finance  |       |           |
| 担当者名      | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国は様々な問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直していく必要がある。そこで、本講義では政府の役割や税制度の在り方、政府支出のあり方などについての理解を深めることを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 無   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 1.金澤 史男 「財政学（有斐閣ブックス）」（2005/4） 2.貝塚 啓明「財政学」（2003/3） 3.林 宜嗣 「基礎コース 財政学（基礎コース経済学）」（2005/5）  |       |           |
| 教材（その他）   | 無   |       |           |
| 評価方法      | 試験 70%、レポート提出 20%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標      | 税の在り方や政府支出の在り方などについて理解を深める。   |       |           |
| 準備学習      | ミクロ経済学やマクロ経済学について理解を深めておくことが望ましい。   |       |           |

#### 受講者への要望

新聞記事などを通じて疑問に思ったことについて、積極的に質問することを歓迎する。

#### 講義の順序とポイント

1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。|2.政府の役割（1） 政府がなぜ必要であるかについて説明する。|3.政府の役割（2） 前回講義を踏まえて、政府の役割をより詳しく説明する。|4.国の歳入 我が国の歳入の実態について、概要を説明する。|5.課税の原則 税の在り方についての基本原則について説明する。|6.消費税（1） 個別消費税と一般消費税の特徴の違いを説明する。|7.消費税（2） 一般消費税の特徴を詳しく説明する。|8.消費税（3） 我が国の付加価値税制度について説明する。|9.消費税（4） 一般消費税の課題とその改善策について説明する。|10.消費税（5） 個別消費税の特徴を詳しく説明する。|11.消費税（6） ガソリンや酒、タバコを個別消費税の課税ベースとする根拠を説明する。|12.法人税（1） 法人税の帰着と天下の問題について説明する。|13.法人税（2） 近年の法人税の実態とその背景を説明する。|14.法人税（3） 前回講義に引き続き、近年の法人税の実態とその背景を説明する。|15.前半講義のまとめ 前半講義のまとめを行う。|16.所得税（1） 効率性の視点から見た所得税の在り方について説明する。|17.所得税（2） 公平性の視点から見た所得税の在り方について説明する。|18.所得税（3） 公平性と効率性のトレードオフについて説明する。|19.国債（1） 我が国の国債発行の実態について説明する。|20.国債（2） 国債発行の良い点と悪い点について説明する。|21.社会保障（1） 社会保障の機能について説明する。|22.社会保障（2） 社会保障がなぜ必要かについて説明する。|23.社会保障（3） 我が国の年金制度について説明する。|24.社会保障（4） 賦課型年金制度と積立型年金制度の違いを説明する。|25.社会保障（5） 年金制度改革に伴う二重の負担について説明する。|26.社会保障（6） 年金制度改革の在り方について説明する。|27.地方分権（1） 中央集権国家と地方分権国家の違いについて説明する。|28.地方分権（2） 地方分権がもたらす弊害について説明する。|29.地方分権（3） 地方分権下での中央政府の役割について説明する。|30.後半講義のまとめ 後半講義のまとめを行う。

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20064001 |
| 科目名       | 金融論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Money and Banking   |       |           |
| 担当者名      | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 初めて金融を学ぶ者にも十分理解できるように、できるだけ平易な言葉で金融の問題を解説したい。金融政策および金融システムの基礎理論の解説から始め、金融政策の現実、応用に順次段階的に進める。今年度は金融危機をキーワードに、特にバブル、不況という繰返しはどのようにして生ずるのか、また金融政策はいかにあるべきか、金融規制はどの程度必要かという点に重点をおきつつ講義する。1929年に始まる世界大恐慌におけるアメリカ連銀の金融政策を検証し、金融政策にどのような問題点や誤りがあったかを明らかにし、不況期における望ましい金融政策のあり方についても講義する。また、アメリカのサブプライム金融危機をはじめこれまで各国が経験した、バブル、不況の事例についても紹介する。身近な事例を紹介しつつ金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 最初の講義日にテキスト、参考書を紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 中間試験（30%）、学期末試験（55%）、講演会出席レポート（5%）  |       |           |
| 到達目標      | 現実の経済問題を理解し、新聞の経済記事が読め、自分の考えを他人に話せる能力をつける。  |       |           |
| 準備学習      | 復習を心がけること。それが、次の講義の理解につながる。   |       |           |

受講者への要望

分からないことは恥ではありません。積極的に分からないところを指摘してください。また、友達とディスカッションすることを奨励します。

講義の順序とポイント

以下のように講義展開をはかる。||1-2 金融危機と金融政策、概説 | デフレ、バブル、バブルバスト ||3-4 伝統的金融政策の手法 | 金融市場、情報の非対称性 ||5-6 マネーサプライと経済活動 | 貨幣数量理論 ||7-8 預金通貨の供給メカニズム | 信用乗数、貸し渋り、B I S規制 ||9-10 日銀の伝統的金融調節 | 日銀理論、日銀当座預金、積み進捗率 ||11-12 非伝統的金融政策| 量的金融緩和政策と信用緩和政策||13-14 デフレ下の金融政策の効果 | 貨幣乗数、コールレート、時間軸政策、ポートフォリオ・リバランス効果、流動性のワナ ||15 大恐慌1（20年代のアメリカ経済と連銀の金融政策） | 消費ブーム、フロリダの土地投機、株価高騰 ||16-17 大恐慌2（金融引締めとバブル崩壊） | ブローカーズローン、銀行倒産、債務デフレ、マネービュー、クレジットビュー- ||18-19 大恐慌3（株価下落とその後の不況） | 真正手形ドクトリン、金利と金融政策指標、預金保険、37年の教訓 ||20-21 アメリカの80年代の金融危機（貯蓄貸付組合危機） | 金融自由化、金融規制と監督 ||22-23 東アジアの金融危機 | 金融自由化、固定相場制 | ||24-25 北欧の金融システムと金融危機 | フィンランド、スウェーデン、ノルウェー ||26-27 サブプライム金融危機 | 証券化、影の銀行、資金余剰、テールルール ||28-29 金融規制改革| バーゼル合意、自己資本比率、銀証分離、利益相反、モラルハザード、規制アービトラージ||30 この講義で学んだことの総括 | ||

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20065001 |
| 科目名        | ファイナンスの数理   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Mathematics of Finance  |       |           |
| 担当者名       | 澤田 吉孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ① 投資理論としてどのようなポートフォリオを構築すればよいかについて代表的な考えを述べる。 ② 離散時間型の簡単な2項モデルを用いて、ファイナンスの基礎となる裁定評価の考え方と、  オプションの価格決定法を述べる。 ③ ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に PC を使いながら出来るだけ平易に解説する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリント配布を行う。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | ① 藤林/岡村/矢野『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』金融財政事情研究会。 ② 今野浩『金融工学の挑戦』中央新書。  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)；複数回のレポートと出席による。 定期試験(70%)。   |       |           |
| 到達目標       | ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく。  |       |           |
| 準備学習       | ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。 レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ポートフォリオのリターンとリスク  2. 同上  3. マーケット・モデル  4. 資本資産価格モデル (CAPM)  5. 同上  6. 債券の価格と利回り  7. 同上  8. イールドカーブの特性  9. 債券のリスク (価格変動リスク、信用リスク) とポートフォリオ  10. 同上  11. 先物の理論価格とヘッジ  12. オプションの概要  13. 同上  14. 同上 15. まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20066001 |
| 科目名   | 時系列データ分析   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Time Series Analysis   |       |           |
| 担当者名  | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 経済時系列データの統計分析を行う。データの取得、加工、基本的性質（定常、非定常）の確認、時系列モデリング、作成モデルの検証、モデルによる経済現象の解明といった一連の大きな実証分析の流れを勉強する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要に応じて、資料やデータを EXCEL、EViews のファイルで配布。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 毎回の課題提出（30%）と5回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）  |       |           |
| 到達目標  | お互いに関連しながら動く時系列データ間の基礎的な分析方法の取得。時間差を伴う関連の概念の理解。  |       |           |
| 準備学習  | 分析手法は数学とコンピュータを要するが、使っていれば少しずつ慣れてくる。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いなどである。経済学の基礎知識が必要である。          |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.データ取得と加工 2.季節調整、平均化、smoothing 3.定常、非定常の検定（単位根の考え方） 4.同上（遅れ次数と AIC） 5.同上（検定力の検証） 6.同上（日本のデータへの応用） 7.同上（ヨーロッパのデータへの応用） 8.レベル変数（非定常）と階差変数（定常） 9.モデル作成と AIC による遅れ次数決定 10.同上 11.自己相関、相互相関 12.相関関数（時間遅れ） 13.同上 14.回帰モデル 15.同上 16.自己回帰モデル（AR モデル、Auto Regressive Model） 17.同上 18.VAR モデル(Vector Auto Regressive Model) 19.同上（多変数モデルにおける変数の選択） 20.同上（インパルス応答） 21.同上（成長率モデルとレベルモデル） 22.同上（日本のマクロ VAR モデル） 23.同上（ヨーロッパのマクロ VAR モデル） 24.Granger の因果性 25.同上(日本のマクロ VAR モデル) 26.同上（ヨーロッパのマクロ VAR モデル） 27.共和分の検出と貨幣需要関数への応用 28.同上（日本のマクロ VEC モデル） 29.同上（ヨーロッパのマクロ VEC モデル） 30.まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                          |  |       |           |
|--------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                       | 2012   | 授業コード | J20070001 |
| 科目名                      | 金融市場論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                | Theory of Financial Market   |       |           |
| 担当者名                     | 秋田 将知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                     | <p>先ず、金融市場の分類や機能についての包括的な説明をする。次に、特に重要である証券市場（株式市場・債券市場）、貸出市場について講義する。これらの後に、金融市場を理解する上で欠かすことができない要素である、情報の非対称性が引き起こす様々な問題について考える。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）                 | 特になし。  |       |           |
| 教材（参考文献）                 | 講義中に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）                  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法                     | 基本的には定期試験で評価するが、小テスト等の平常点を考慮する。  |       |           |
| 到達目標                     | 金融および金融市場について、大学生にふさわしい知識を獲得する。  |       |           |
| 準備学習                     | 去年までに金融関連科目を受講していることが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望                  |  |       |           |
| 他の金融関連科目にも出席するようにしてください。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント               |  |       |           |
| 1                        | : ガイダンス   2～3 : 金融市場とはなにか   4～5 : 株式市場   6～7 : 債券市場   8～10 : 貸出市場   11～13 : 情報の非対称性と金融市場   14～15 : まとめ                                 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20075001 |
| 科目名        | 国際金融論  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | International Finance  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在は経済のグローバル化が進み、外国の経済状況を無視できないだけでなく、日本経済が世界に及ぼす影響も考慮して政策運営を進める必要がますます高まっています。この講義は現実の国際金融を理解する上で不可欠な国際金融の理論的な知識と制度に関する知識の修得を目的とします。特に為替レートの決定メカニズム、為替レートと貿易収支の関係、国際金融の仕組みや開放経済における政策効果といった点に焦点を当てて説明します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 下記の参考文献・その他に記載されたテキストに従ってレジュメを作成し配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ○高木信二(1992)『入門 国際金融』 日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』 新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』 有斐閣   |       |           |
| 教材 (その他)   | ○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』 日本経済新聞社  ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』 新世社   |       |           |
| 評価方法       | 学期末テスト(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)  |       |           |
| 到達目標       | 国際金融における為替レートの役割、為替レートの決定メカニズム、そして為替レートが及ぼすマクロ経済効果を主に学習することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 「マクロ経済学」、「金融論」の授業を必ず履修しておいて下さい。  |       |           |

受講者への要望

遅刻や私語を厳禁とします。遅刻の場合、その理由を求めます。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。

講義の順序とポイント

第1回：イントロダクション（国際金融とは？） | 第2回：開放経済の対外経済取引（開放経済における国民所得勘定） | 第3回：開放経済の対外経済取引（国際収支表の見方・書き方） | 第4回：外国為替の基礎1（外国為替の仕組み、外国為替市場の特徴） | 第5回：外国為替の基礎2（為替レートの見方、名目為替レートと実質為替レート） | 第6回：外国為替の基礎3（円高・円安と貿易収支） | 第7回：外国為替の基礎4（マーシャル・ラーナー条件、Jカーブ効果） | 第8回：復習 | 第9回：為替レート決定理論1（絶対的購買力平価） | 第10回：為替レート決定理論1（相対的購買力平価） | 第11回：為替レート決定理論1（バラッサ・サミュエルソンの定理） | 第12回：為替レート決定理論1（金利平価） | 第13回：為替レート決定理論2を分析するための準備 | 第14回：為替レート決定理論2（伸縮価格マネタリーモデル） | 第15回：為替レート決定理論2（硬直価格マネタリーモデル） | 第16回：為替レート決定理論2（為替リスクを考慮したケースの為替レート決定理論） | 第17回：復習 | 第18回：開放経済における政策効果を分析するための準備1（マクロ経済学の復習1） | 第19回：開放経済における政策効果を分析するための準備2（マクロ経済学の復習2） | 第20回：為替介入の方法と効果（介入の仕組みと効果経路） | 第21回：開放経済における政策効果（固定相場制における財政金融政策：資本移動が完全なケース） | 第22回：開放経済における政策効果（変動相場制における財政金融政策：資本移動が完全なケース） | 第23回：開放経済における政策効果（固定相場制における財政金融政策：資本移動がないケース） | 第24回：開放経済における政策効果（変動相場制における財政金融政策：資本移動がないケース） | 第25回：復習 | 第26回：通貨危機の考え方（通貨危機の発生メカニズム） | 第27回：通貨危機の考え方（通貨危機に対する通貨制度） | 第28回：国際通貨制度1 | 第29回：国際通貨制度2 | 第30回：まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20078A01 |
| 科目名        | 簿記原理 I s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of Bookkeeping I (s)   |       |           |
| 担当者名       | 齊藤 稔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといっ<br>てよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論<br>をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指<br>します。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記3級 Ver.5.0』(TAC 出版)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点、授業内提出物 (小テストを含む)、定期試験等から総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 日商簿記検定3級の範囲の知識の習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっ<br>かりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 簿記って何!   2, 簿記の流れ   3, 簿記上の取引   4, 日常の手続き   5, 商品売買 1   6, 商品売買 2   7, 商品売買 3  <br>8, 現金、当座預金   9, 小口現金、手形   10, 期中の取引 1   11, 期中の取引 2   12, 期中の取引 3   13, 期中の取引 4<br>  14, 期中の取引 5   15, 春学期のまとめ   16, 試算表の作成 1   17, 試算表の作成 2   18, 試算表の作成 3   19, 決算<br>の手続き 1   20, 決算の手続き 2   21, 決算の手続き 3   22, 勘定の締め切り   23, 財務諸表の作成 1   24, 財務諸表の<br>作成 2   25, 財務諸表の作成 3   26, 簿記一巡の手続き 1   27, 簿記一巡の手続き 2   28, 伝票式会計   29, その他の簿<br>記   30, 秋学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20078B0A |
| 科目名        | 簿記原理 I f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of Bookkeeping I (f)   |       |           |
| 担当者名       | 齊藤 稔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといっ<br>てよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論<br>をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指<br>します。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記3級 Ver.5.0』(TAC 出版)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点、授業内提出物 (小テストを含む)、定期試験等から総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 日商簿記検定3級の範囲の知識の習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっ<br>かりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 簿記って何!   2, 簿記の流れ   3, 簿記上の取引   4, 日常の手続き   5, 商品売買 1   6, 商品売買 2   7, 商品売買 3  <br>8, 現金、当座預金   9, 小口現金、手形   10, 期中の取引 1   11, 期中の取引 2   12, 期中の取引 3   13, 期中の取引 4<br>  14, 期中の取引 5   15, 春学期のまとめ   16, 試算表の作成 1   17, 試算表の作成 2   18, 試算表の作成 3   19, 決算<br>の手続き 1   20, 決算の手続き 2   21, 決算の手続き 3   22, 勘定の締め切り   23, 財務諸表の作成 1   24, 財務諸表の<br>作成 2   25, 財務諸表の作成 3   26, 簿記一巡の手続き 1   27, 簿記一巡の手続き 2   28, 伝票式会計   29, その他の簿<br>記   30, 秋学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |            |
|------------|--|-------|------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20085A01  |
| 科目名        | マーケティング I  | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記) | Marketing I  |       |            |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 | マーケティング論 s |
| 講義概要       | <p>本講義は、マーケティングを理解するための基礎となる理論を解説する。より具体的には、①マーケティングの概念および②4P's を解説する。その主たる問いは、①なぜ世の中にマーケティングがあるのかであり、②マーケティングの仕事とは何なのかである。  マーケティングは商品を守るための万能の道具ではないけれども、複雑なビジネス社会を整理するには有用である。しかし、有用と感ずるためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。</p> |       |            |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めない。  |       |            |
| 教材 (参考文献)  | 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣 2008 1,995 円  |       |            |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |            |
| 評価方法       | 講義内小試験 (20%)、講義内中試験 (40%)、講義内大試験 (40%)   |       |            |
| 到達目標       | 受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①マーケティングの機能を説明することができる。 ②実際のマーケティングに興味を抱く。   |       |            |
| 準備学習       | 社会にはヒット商品が次々と生まれている。自分自身で興味関心のあるヒット商品を最低限 1 つ挙げることでできるよう、新聞やテレビを見ておくこと。  |       |            |

受講者への要望

私語は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する|2. 「分析視座」：簡単なゲームから、マーケティングを理解するための視座を解説する|3. 「説明するということ」：分析視座から説明を試みる|4. 「マーケティング概念 1」：商業の品揃え機能と生産者の関係を解説する|5. 「マーケティング概念 2」：マーケティングの出現を解説する|6. 「マーケティング概念 3」：マーケティングの歴史的展開を解説する|7. 「マーケティング概念 4」：マーケティングの現代的問題を解説する|8. 「中間総括」：これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストをおこなう|9. 「企業の中のマーケティング活動」：企業の営業の組織的位置を解説する|10. 「4P's 1 製品」：製品とマーケティングとの関係を解説する|11. 「4P's 2 価格」：価格とマーケティングとの関係を解説する|12. 「4P's 3 プロモーション」：プロモーションとマーケティングの関係を解説する|13. 「4P's 4 流通」：流通とマーケティングの関係を解説する|14. 「総括」：これまでの講義を総括する|15. 「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20085B01  |
| 科目名   | マーケティングII   | 単位数   | 2          |
| 科目名(英語表記)   | Marketing II  |       |            |
| 担当者名  | 涌田 龍治   | 旧科目名称 | マーケティング論 f |
| 講義概要  | <p>本講義は、マーケティングを理解するための基礎となる分析方法を解説する。より具体的には、①市場の不均質性および②実際のマーケティングを解説する。その主たる問いは、①なぜ世の中にさまざまなマーケティングがあるのかであり、②その中でうまくいくマーケティングとは何なのかである。  マーケティングは商品を守るための万能の道具ではないけれども、複雑なビジネス社会を整理するには有用である。しかし、有用と感ずるためには自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。</p> |       |            |
| 教材(テキスト)  | 特に定めない。   |       |            |
| 教材(参考文献)  | 嶋口充輝・竹内弘高・片平秀貴・石井淳蔵『マーケティング革新の時代 4 営業・流通革新』有斐閣 1998 3,045円  |       |            |
| 教材(その他)   | 適宜プリントを配布する。  |       |            |
| 評価方法  | 講義内小試験(20%)、講義内中試験(40%)、講義内大試験(40%)   |       |            |
| 到達目標  | 受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①マーケティングの読み解き方を理解できる。 ②実際のマーケティングの巧拙を評価できる。   |       |            |
| 準備学習  | マーケティングIを履修しておくことが望ましい。もし履修していないならば、マーケティングIに挙げた参考文献には目を通しておくこと。  |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| 私語は厳禁。  |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| <p>1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 「分析視座」：簡単なゲームから、マーケティング分析のための視座を解説する 3. 「マーケティングIの復習」：マーケティング概念と4P'sを復習する 4. 「4P'sの展開1」：セグメンテーションを解説する 5. 「4P'sの展開2」：製品ライフサイクルを解説する 6. 「4P'sの展開3」：市場地位に合わせたマーケティング活動を解説する 7. 「4P'sの展開4」：市場地位に合わせたマーケティング活動を解説する 8. 「中間総括」：これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストをおこなう 9. 「マーケティングの応用1」：消費者の購買意思決定モデルを解説する 10. 「マーケティングの応用2」：消費の外部性を解説する 11. 「マーケティングの実際1」：マーケティングの巧拙(製品対応)を解説する 12. 「マーケティングの実際2」：マーケティングの巧拙(流通対応)を解説する 13. 「マーケティングの実際3」：マーケティングの巧拙(消費対応)を解説する 14. 「総括」：これまでの講義を総括する 15. 「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する</p> |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20117001 |
| 科目名        | 現代ドイツ事情   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Current Topics in Germany   |       |           |
| 担当者名       | 大前 智美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ドイツ」という国について、みなさんはどんなことを知っているでしょうか？ドイツだけでなく「ドイツ語」を話す国はどれぐらいあるか知っているでしょうか？この講義では、「ドイツ」の文化、社会、歴史、街並みなど、それぞれテーマを決めて、自発的にドイツについて調べてみましょう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | PCを使ってWEBから必要な情報を調べられるようにしておきましょう。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60%、授業中にまとめるレポート・発表 40%で評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 「ドイツ」について、これまで知らなかった一面を知り、ドイツに旅してみたいという気持ち、知識を高める。  |       |           |
| 準備学習       | 必要な情報を収集する方法を身につける。 レポートを作る事ができるようにする。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に授業に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス：講義の内容、進め方についての説明。ドイツについて紹介します。 2. ドイツ語圏について 3. 「ドイツ」の文化について、それぞれテーマを決めて、調査します 4. 調査した内容をレポートとしてまとめます。① 5. 調査した内容をレポートとしてまとめます。② 6. レポート内容を発表しましょう。① 7. レポート内容を発表しましょう。② 8. 「ドイツの街」について調べてみましょう。① 9. 「ドイツの街」について調べましょう。② 10. 「ドイツの街」について、調べた内容をレポートとしてまとめます。 ただし、発表することを念頭においたレポート資料を作成しましょう。 11. 「ドイツの街」について発表しましょう① 12. 「ドイツの街」について発表しましょう。② 13. 「ドイツ語圏」について新たな発見は？ 14. ドイツ事情、ドイツ文学について講義 15. この講義を通して知った新たな「ドイツの一面」についてレポートを作成します。  この授業では上記の通り、グループで調査、まとめ、発表を行います。 また、それ以外にこちらから色々な資料を用意し、ドイツの街、文化、産業、映画などについて紹介します。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20120001 |
| 科目名        | ヨーロッパの文学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Literature of Europe  |       |           |
| 担当者名       | 大前 智美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ヨーロッパの文学」と聞いて、どんな作品が思い浮かびますか？ 「ヨーロッパの作家」は誰が思い浮かびますか？  この講義を通して、今まで知らなかったヨーロッパの文学作品やヨーロッパの作家についての 知識を身につけ、作品や映像にも触れながら、ヨーロッパの文学作品に関する理解を深めることを 主眼としています。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60%、レポート 40%によって評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 今まで知らなかったヨーロッパの文学作品への知識を深め、作品が作られた時代背景などについても熟考すること。  |       |           |
| 準備学習       | 自発的に作品、作家に関する情報を集めること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に授業に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス：講義説明、ヨーロッパの文学と聞いて何を思い浮かべますか？ 2. 知っている作家、作品は？ 3. ミヒャエル エンデ① 4. ミヒャエル エンデ② 5. エルンスト ケストナー① 6. エルンスト ケストナー② 7. ギュンター グラス① 8. ギュンター グラス② 9. シェイクスピア① 10. シェイクスピア② 11. 作家、作品について調査① 12. 作家、作品について調査② 13. 発表 14. 講義を通して知った新たな文学作品の一面 15. 講義のまとめ、レポート  その他、シェイクスピア、ギュンター・グラス、エーリッヒ・ケストナーなど作家を紹介しながら、その代表作の映画をみます。 映画を通して、その作家が何を伝えたかったのか、その頃の時代背景がどういう状況だったのか考えていきましょう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20190001 |
| 科目名   | 西洋経済史  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Economic History of Western Countries  |       |           |
| 担当者名  | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「西洋経済史」という科目名からわかるように、ヨーロッパやアメリカなど西洋諸国の経済の歴史について学ぶことが、この科目の目的です。具体的には、3つの項目を予定しています。第一に、小麦、ビール、コーヒー、砂糖、綿織物など様々な物産の歴史を通じて、どのようにしてヨーロッパ世界が形成されたのかを見ていきます。第二に、絹（シルク）の歴史について学びます。中国で発見された絹はイタリアやフランスに伝わりました。ヨーロッパで考案された器械製糸技術は明治政府の手で富岡製糸場に導入されましたが、日本はそれに独自の改良を加えました。日本産生糸の欧米向け輸出が躍進した理由について考えます。第三に、19世紀末にヨーロッパで馬車を元にして自動車が考案されてから今日に至るまでの歴史を概観します。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 大野彰「アメリカ絹工業が生糸に求めた要件は何か」、『京都学園大学経済学部論集』、第17巻第2号、2008年。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート（28%）、期間外試験（72%）  |       |           |
| 到達目標  | 創意工夫によって経済が大きく発展することを学んでほしいと思います。  |       |           |
| 準備学習  | 参考文献（1～46ページ）を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 座席を指定するので、授業中は指示された席に着席すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 ガイダンス 2 農耕の起源 3 牧畜の起源 4 オリエンツの灌漑農業 5 ヨーロッパの二圃制と三圃制 6 中世ヨーロッパの大開墾運動と森林の破壊 7 中世ヨーロッパの荘園と村落共同体 8 三圃制の解体と囲い込み運動 9 コーヒーの歴史①イスラーム世界からヨーロッパへの伝播 10 コーヒーの歴史②ヨーロッパ人によるコーヒー園の経営 11 ヨーロッパ世界の膨張①レコンキスタ 12 ヨーロッパ世界の膨張②コロンブスのアメリカ大陸到達 13 ヨーロッパ世界の膨張③環大西洋経済圏の形成 14 産業革命 15 絹の発見と伝播 16 ヨーロッパの絹工業とアメリカの絹工業の比較 17 日本の開国と欧米向け生糸輸出の始まり 18 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件①逆選択の解消 19 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件②荷口の斉一化 20 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件③繰返し工程 21 イタリア産生糸と日本産生糸（信州上一番格生糸）の比較 22 アメリカ市場における住み分けの成立と崩壊 23 生糸の格付と商標 24 レーヨンとナイロンの登場 25 ヨーロッパにおける自動車産業の誕生（馬車から自動車へ） 26 アメリカにおける自動車大量生産体制の確立 27 アメリカ自動車産業の国際競争力低下 28 自動車貿易摩擦 29 自動車産業における競争関係の変化 30 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20199001 |
| 科目名  | 経済数学  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Mathematics for Economics   |       |           |
| 担当者名   | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この講義では、高校で既習の1次関数・2次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）  | レジメプリントとホームページ  |       |           |
| 評価方法   | 平常点出席状況と授業内レポート（54%）、その理解度を確認する試験（46%）、この2つの項目を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用・行列の計算と応用などの能力を獲得すること。   |       |           |
| 準備学習   | 高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 数学的な記号や法則は、本だけで自習するのは困難であるので、毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め、その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.経済数学とは 2.高校数学の復習 1 3.高校数学の復習 2 4.高校数学の復習 3 5.数列 6.数列の極限 7.関数 8.指数関数・対数関数 9.総合演習 10.まとめ 1 11.関数の極限と微分 12.微分の公式 13.微分の計算 14.微分の応用 15.微分の応用 2 16.ベクトル 17.行列 18.行列式 19.総合練習 20.まとめ 21.逆行列 22.ランク 23.線形計画法 24.固有値と対角化 25.2次形式 26.2変数関数の偏微分 27.2変数関数の極大・極小 28.2変数関数の条件付極値 29.総合練習 30.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2020100A |
| 科目名        | 経済データの見方   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to the Analysis of Economic Data  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済の動きを理解するためには、現実のデータ（経済統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きはSNAというシステムにまとめられています。GDPなど経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。  データの基本的性格を知るだけでなく、経済理論とどう関わっているかを調べるのも重要です。単に、何%増えた減ったではなく、その原因となるデータも押さえることが重要です。この授業は、特に、マクロ経済学と関連性が高く、理論を現実データで検証するという役割も持っています。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストはなく、プリントで参考文献や資料を紹介します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | ほとんど毎回授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が70%。(毎回必ず出席しなければ得点できません) 期末試験が残りの30%です。  |       |           |
| 到達目標       | マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連(理論的バックグラウンド)を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | マクロ経済学を勉強することが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①授業中のおしゃべり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作る  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 講義の全体構成、SNAと日本経済、経済の循環   2 付加価値とGDP   3 GDPと需要項目   4 1人あたりGDP、日本は豊かな国か   5 経済成長と需要の寄与度   6 景気変動と景気動向   7 物価指数   8 物価指数の実際   9 人口   10 労働人口、失業と賃金、物価   11 利率とマネー   12 為替レート   13 輸出入、内需・外需   14 世界を駆けめぐるマネー   15 まとめ   資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2020100B |
| 科目名        | 経済データの見方   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to the Analysis of Economic Data  |       |           |
| 担当者名       | 森田 圭亮  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済の動きを理解するためには、現実のデータ（経済統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きはSNAというシステムにまとめられています。GDPなど経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。  データの基本的性格を知るだけでなく、経済理論とどう関わっているかを調べるのも重要です。単に、何%増えた減ったではなく、その原因となるデータも押さえることが重要です。この授業は、特に、マクロ経済学と関連性が高く、理論を現実データで検証するという役割も持っています。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストはなく、プリントで参考文献や資料を紹介します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | ほとんど毎回授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が70%。(毎回必ず出席しなければ得点できません) 期末試験が残りの30%です。  |       |           |
| 到達目標       | マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連(理論的バックグラウンド)を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | マクロ経済学を勉強することが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①授業中のおしゃべり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作る  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 講義の全体構成、SNAと日本経済、経済の循環   2 付加価値とGDP   3 GDPと需要項目   4 1人あたりGDP、日本は豊かな国か   5 経済成長と需要の寄与度   6 景気変動と景気動向   7 物価指数   8 物価指数の実際   9 人口   10 労働人口、失業と賃金、物価   11 利率とマネー   12 為替レート   13 輸出入、内需・外需   14 世界を駆けめぐるマネー   15 まとめ   資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2020400A |
| 科目名        | 統計学の初歩  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Statistics   |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 統計学の基礎分野（記述統計）を学ぶ。データが与えられたとき、それをグラフ化し、あるいは平均値などを求めて、データの特徴を捕まえることが大事であり、そのための手法を学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回、資料配布。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 毎回の小テスト（15%）、レポート2回（10%）、定期試験(75%)  |       |           |
| 到達目標       | 基礎的な統計学の理解（ヒストグラム、散布図）  |       |           |
| 準備学習       | 難しい数学は使わない。授業中にパソコンを使って統計学の計算やグラフ作成ができれば好都合であるが、パソコンルームの収容人数に限りがあるので、できない。パソコン入門の時間にグラフの描き方や計算の仕方をよく勉強しておくこと。                         |       |           |
| 受講者への要望    | 統計学の知識を事前には要求しない（ゼロからのスタート）ので、休まずに授業に出て話を聞けば理解できる。出席率 100%を目指してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.度数分布表 2.累積度数 3.ヒストグラム 4.同上 5.代表値（平均値、幾何平均、中央値、最頻値） 6.同上 7.分散、標準偏差 8.同上 9.四分位数、箱ヒゲ図 10.散布図 11.相関係数、回帰直線 12.同上 13.確率 14.期待値、分散 15.まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2020400B |
| 科目名        | 統計学の初歩  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Elementary Statistics   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 統計学の基礎分野（記述統計）を学ぶ。データが与えられたとき、それをグラフ化し、あるいは平均値などを求めて、データの特徴を捕まえることが大事であり、そのための手法を学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回、資料配布。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 毎回の小テスト（15%）、レポート2回（10%）、定期試験(75%)  |       |           |
| 到達目標       | 基礎的な統計学の理解（ヒストグラム、散布図）  |       |           |
| 準備学習       | 難しい数学は使わない。授業中にパソコンを使って統計学の計算やグラフ作成ができれば好都合であるが、パソコンルームの収容人数に限りがあるので、できない。パソコン入門の時間にグラフの描き方や計算の仕方をよく勉強しておくこと。                         |       |           |
| 受講者への要望    | 統計学の知識を事前には要求しない（ゼロからのスタート）ので、休まずに授業に出て話を聞けば理解できる。出席率 100%を目指してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.度数分布表 2.累積度数 3.ヒストグラム 4.同上 5.代表値（平均値、幾何平均、中央値、最頻値） 6.同上 7.分散、標準偏差 8.同上 9.四分位数、箱ヒゲ図 10.散布図 11.相関係数、回帰直線 12.同上 13.確率 14.期待値、分散 15.まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20206001 |
| 科目名  | 経済学史  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | History of Economic Thought   |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも16世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始されている。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで200年以上の歴史をへて発展してきた。  本講義では、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第1部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）・第2部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからマルクスまで）・第3部「近代経済学の成立と発展」（限界革命から現代まで）という順序で概説する。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）3,200円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義のなかで適宜指摘する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 講義資料としてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）確認テスト・出席状況等による。レポート試験2回（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 経済学の歴史を切り拓いてきた過去の偉大な経済学者の理論や思想について学びながら、現実起こっているさまざまな経済問題にたいする基本的な見方や考え方を学習することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書を予習してから授業に出席すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業で「分からないこと」や「疑問に思ったこと」は、授業中に質問するか、または参考書にあたって調べるようにする。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 経済学史の課題   2. 重商主義の定義   3. 重商主義の経済政策(1)   4. 重商主義の経済政策(2)   5. 重商主義の経済学説   6. 重農主義成立の歴史的背景   7. ケネーの『経済表』(1)   8. ケネーの『経済表』(2)   9. アダム・スミスの生涯と著作   10. 『国富論』解説(1)   11. 『国富論』解説(2)   12. 『国富論』解説(3)   13. 『国富論』解説(4)   14. 前半の総括（第1回目レポート課題の発表）   15. マルサス人口論   16. 穀物法論争—マルサス vs. リカードウ   17. リカードウの経済学(1)   18. リカードウの経済学(2)   19. J・S・ミルと現代   20. マルクスと現代(1)   21. マルクスと現代(2)   22. 近代経済学の成立(1)   23. 近代経済学の成立(2)   24. シュンペーターの経済学   25. ケインズ革命(1)   26. ケインズ革命(2)   27. ケインズ革命(3)   28. ケインズ以後の近代経済学の展開   29. 後半の総括（第1回目レポート課題の発表）   30. 経済学の課題と現代 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20207001 |
| 科目名        | 計量経済学   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Econometrics  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済・社会データを数量的に分析する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方など一々チェックするので、細かく修正してもらう。 （なぜ文句を言われるのか、どう修正すれば社会に受け入れられる水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。例年、4種類ぐらいのテーマになる。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『初歩からの計量経済学（第2版）』 白砂堤津耶著 日本評論社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | この科目は難しいイメージがあるが、実は過去の合格率は95%以上である。 授業中にみんなで取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。   |       |           |
| 到達目標       | Excel を使って、相関分析、回帰分析ができるようになること   |       |           |
| 準備学習       | パソコンの授業は別に受講しておく方がいいが、知らなくても親切に教えるので心配は要らない   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>休むと次の内容に進んでいるので、理解できなくなる。決して休まないこと。 毎回、コンピュータ室で分析とレポート作りに励むので、Excel などが苦手では困るが、できるだけ親切に指導する。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 講義の全体構成   2 平均と分散   3 平均と分散の実例   4 課題（1）の分析   5～7 課題（1）の修正と完成   8 回帰分析その1   9 回帰分析その2   10 より進んだ回帰分析   11 回帰分析と評価   12 回帰分析と評価その2   13 回帰分析と評価その3   14 課題（2）の分析   15～18 課題（2）の修正と完成   19 回帰分析と多変量解析   20 課題（3）の分析   21～24 課題（3）の修正と完成   25 課題（4）の分析   26～29 課題（4）の修正と完成   30 まとめ  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20209001 |
| 科目名  | マクロ経済学   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Macroeconomics I   |       |           |
| 担当者名   | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「マクロ経済学基礎」から一歩進み、より高度なマクロ経済学を学びます。しかしながら、数学的に込み入ったモデルを追うのではなく、現実の日本経済のデータをフォローしながら理解を深めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 滝川好夫 『たのしく学ぶマクロ経済学』 ミネルヴァ書房 2008年 ※ 2012年1月現在 2,800円（税別）                                   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 使用する場合は指示します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 京学なびから講義ノートを各自ダウンロードし、プリントアウトして持参する。   |       |           |
| 評価方法   | 中間試験：50% 期末試験：50%  |       |           |
| 到達目標   | 簡単なマクロ経済モデルの説明ができること。 マクロ経済を説明するために必要な統計データを見つけることができること。                                  |       |           |
| 準備学習   | 時々マクロ経済学基礎を復習しましょう。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学を用いた解説は最小限にとどめる予定です。しかし、受講者が体感する難しさにはバラつきがあるので、よく考えてから受講しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 国民経済計算と日本経済 三面等価の原則 3 国民所得勘定① 国内総生産と国内総支出 4 国民所得勘定② 経済成長率と寄与度 5 景気① GDPギャップ 6 景気② 景気動向指数 7 経済成長① 成長会計 8 経済成長② 経済成長の諸理論 9 マクロの消費① 消費関連の統計 10 マクロの消費② 消費関数 11 マクロの投資① 投資関連の統計 12 マクロの投資② 投資の決定理論 13 資金循環勘定 マクロのお金の流れ 14 利子率と収益率① 利回りとは 15 利子率と収益率② 各種の金利 16 貨幣の需要と供給① 貨幣需要とは 17 貨幣の需要と供給② 貨幣供給のコントロール 18 株価決定の理論 株価に影響を与える要因 19 GDPの決定① 45度線モデル 20 GDPの決定② 乗数モデル 21 IS-LMモデル① IS曲線の導出 22 IS-LMモデル② LM曲線の導出 23 一般物価水準 物価水準の計算方法 24 AS曲線 総供給曲線の考え方 25 AD曲線 実質GDPと物価水準の決定 26 外国為替レート 為替レートの決定 27 開放体系のマクロ経済モデル① 国際収支表 28 開放体系のマクロ経済モデル② IS-LM-BPモデル 29 日本の財政① 歳入と歳出 30 日本の財政② 財政赤字と国債 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20209002 |
| 科目名  | マクロ経済学   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Macroeconomics I   |       |           |
| 担当者名   | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「マクロ経済学基礎」から一歩進み、より高度なマクロ経済学を学びます。しかしながら、数学的に込み入ったモデルを追うのではなく、現実の日本経済のデータをフォローしながら理解を深めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 滝川好夫 『たのしく学ぶマクロ経済学』 ミネルヴァ書房 2008年 ※ 2012年1月現在 2,800円（税別）                                   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 使用する場合は指示します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 京学なびから講義ノートを各自ダウンロードし、プリントアウトして持参する。   |       |           |
| 評価方法   | 中間試験：50% 期末試験：50%  |       |           |
| 到達目標   | 簡単なマクロ経済モデルの説明ができること。 マクロ経済を説明するために必要な統計データを見つけることができること。                                  |       |           |
| 準備学習   | 時々マクロ経済学基礎を復習しましょう。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学を用いた解説は最小限にとどめる予定です。しかし、受講者が体感する難しさにはバラつきがあるので、よく考えてから受講しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 国民経済計算と日本経済 三面等価の原則 3 国民所得勘定① 国内総生産と国内総支出 4 国民所得勘定② 経済成長率と寄与度 5 景気① GDPギャップ 6 景気② 景気動向指数 7 経済成長① 成長会計 8 経済成長② 経済成長の諸理論 9 マクロの消費① 消費関連の統計 10 マクロの消費② 消費関数 11 マクロの投資① 投資関連の統計 12 マクロの投資② 投資の決定理論 13 資金循環勘定 マクロのお金の流れ 14 利子率と収益率① 利回りとは 15 利子率と収益率② 各種の金利 16 貨幣の需要と供給① 貨幣需要とは 17 貨幣の需要と供給② 貨幣供給のコントロール 18 株価決定の理論 株価に影響を与える要因 19 GDPの決定① 45度線モデル 20 GDPの決定② 乗数モデル 21 IS-LMモデル① IS曲線の導出 22 IS-LMモデル② LM曲線の導出 23 一般物価水準 物価水準の計算方法 24 AS曲線 総供給曲線の考え方 25 AD曲線 実質GDPと物価水準の決定 26 外国為替レート 為替レートの決定 27 開放体系のマクロ経済モデル① 国際収支表 28 開放体系のマクロ経済モデル② IS-LM-BPモデル 29 日本の財政① 歳入と歳出 30 日本の財政② 財政赤字と国債 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J20211001 |     |       |        |
| 科目名                                     | ミクロ経済学   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Microeconomics I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | ミクロ経済学 I  |     |       |        |
| 講義概要                                    | ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体（消費者、生産者）の意思決定に焦点を当てて、どのような資源配分が行われるのか、どのように価格が決定されるかを分析する。その分析手法は、経済学を学ぶ上で必要不可欠である。 本講義では、 （1）競争市場における価格決定と資源配分の効率性、 （2）消費者および生産者の意思決定、 を中心に講義する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 使用しない。   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点（10%） レポート（30%） 定期試験（60%）   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 経済分析の手法の基礎を身につけること。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 毎回復習を欠かさないこと。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. イントロダクション 2. 需要曲線と消費者行動1 3. 需要曲線と消費者行動2 4. 需要曲線と消費者行動3 5. 需要曲線と消費者行動4 6. 需要曲線と消費者行動5 7. 供給曲線と生産者行動1 8. 供給曲線と生産者行動2 9. 供給曲線と生産者行動3 10. 供給曲線と生産者行動4 11. 供給曲線と生産者行動5 12. 部分均衡分析1 13. 部分均衡分析2 14. 部分均衡分析3 15. 前半まとめ 16. 消費者行動の理論1 17. 消費者行動の理論2 18. 消費者行動の理論3 19. 消費者行動の理論4 20. 消費者行動の理論5 21. 生産者行動の理論1 22. 生産者行動の理論2 23. 生産者行動の理論3 24. 生産者行動の理論4 25. 生産者行動の理論5 26. 生産者行動の理論6 27. 一般均衡分析1 28. 一般均衡分析2 29. 一般均衡分析3 30. まとめ |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J20211002 |     |       |        |
| 科目名                                     | ミクロ経済学   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Microeconomics I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | ミクロ経済学 I  |     |       |        |
| 講義概要                                    | ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体（消費者、生産者）の意思決定に焦点を当てて、どのような資源配分が行われるのか、どのように価格が決定されるかを分析する。その分析手法は、経済学を学ぶ上で必要不可欠である。 本講義では、 （1）競争市場における価格決定と資源配分の効率性、 （2）消費者および生産者の意思決定、 を中心に講義する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 使用しない。   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点（10%） レポート（30%） 定期試験（60%）   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 経済分析の手法の基礎を身につけること。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 毎回復習を欠かさないこと。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. イントロダクション 2. 需要曲線と消費者行動1 3. 需要曲線と消費者行動2 4. 需要曲線と消費者行動3 5. 需要曲線と消費者行動4 6. 需要曲線と消費者行動5 7. 供給曲線と生産者行動1 8. 供給曲線と生産者行動2 9. 供給曲線と生産者行動3 10. 供給曲線と生産者行動4 11. 供給曲線と生産者行動5 12. 部分均衡分析1 13. 部分均衡分析2 14. 部分均衡分析3 15. 前半まとめ 16. 消費者行動の理論1 17. 消費者行動の理論2 18. 消費者行動の理論3 19. 消費者行動の理論4 20. 消費者行動の理論5 21. 生産者行動の理論1 22. 生産者行動の理論2 23. 生産者行動の理論3 24. 生産者行動の理論4 25. 生産者行動の理論5 26. 生産者行動の理論6 27. 一般均衡分析1 28. 一般均衡分析2 29. 一般均衡分析3 30. まとめ |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20213001 |     |       |        |
| 科目名   | 情報処理概論   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Information Processing   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | 情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。 このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしていくにはワープロ、表計算ソフトウェアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきた。 本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウェア、ソフトウェアの基本的構成」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 井上 義祐、小池 俊隆 編書 「経営情報処理概論 (改訂版)」 同文館出版  飯島 淳一 著 「入門情報システム学」 上山 清二 著 「Web で学ぶ情報処理概論」 晃洋書房  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)  | レジュメを適時配布  |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 「授業中の小テスト」(20%)+「レポート+試験」(50%)+平常点(30%)  |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得を目指す。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか?」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か?」等を予習しておくことが望ましい。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。   |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |     |       |        |
| 1. ガイダンス-情報処理とは 2. コンピュータの歴史 3. コンピュータの種類 4. デジタルとアナログ 5. ハードウェアとソフトウェア 6. 情報の表現(1) 7. 情報の表現(2)-10進数と2進数 8. 情報の表現(3)-16進数 9. コンピュータの計算の仕組み-2進数による計算 10. コンピュータの基本論理回路 11. コンピュータの構成装置(1) 入力装置と出力装置 12. コンピュータの構成装置(2) 制御装置と演算装置 13. コンピュータの構成装置(3) 記憶装置 14. コンピュータの情報処理方式(1) 15. コンピュータの情報処理方式(2)-コンピュータシステムと信頼性 16. コンピュータの情報処理方式(3)-集中処理と分散処理 17. コンピュータのOSとプログラミング言語 18. ソフトウェアシステムの開発 19. 情報通信ネットワーク(1)-通信とネットワーク 20. 情報通信ネットワーク(2)-インターネット 21. 暮らしのなかの情報処理(1)-情報社会 22. 暮らしのなかの情報処理(2)-携帯電話 23. 暮らしのなかの情報処理(3)-電子商取引 24. 暮らしのなかの情報処理(4)-情報倫理とセキュリティ  25. 暮らしのなかの情報処理(5)-著作権 26. 暮らしのなかの情報処理(6)-個人情報 27. 暮らしのなかの情報処理(7)-反社会的情報 28. 暮らしのなかの情報処理(8)-ウイルス 29. ユビキタス社会への発展 30. まとめ |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  |  |       | ○         |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |           |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20214001 |
| 科目名   | やさしい税の話   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Elementary Theory of Tax  |       |           |
| 担当者名  | 齊藤 稔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は50種類にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。  講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業中に配布するプリントを中心に授業を進める。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点、授業内提出物（小テストを含む）、定期試験等から総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正確に理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものとする。                                    |       |           |
| 準備学習  | テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その意味や内容について理解できるよう下調べを心掛けてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1, 税金って何?   2, 税の歴史   3, 所得にかかる税金   4, サラリーマンと税金   5, 事業経営者と税金   6, 学生と税金   7, 保険金・年金と税金   8, 相続・贈与と税金   9, 会社経営と税金   10, その他の税金   11, ちょっと得する税金豆知識!   12, 税金についての不服申し立て   13, 納税者の義務と権利   14, 特別講演   15, 税に関するまとめの授業 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20214002 |
| 科目名   | やさしい税の話   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Elementary Theory of Tax  |       |           |
| 担当者名  | 齊藤 稔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 税とは、私たちの生活に密接にかかわるものであり、その数は50種類にも及ぶといわれています。この授業では、特に私たちの生活に直接かかわる身の回りの税について、わかりやすく解説します。  講義の順序とポイントは以下に示すとおりですが、これとは別に特別講師を迎えた授業の実施も予定しています。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業中に配布するプリントを中心に授業を進める。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点、授業内提出物（小テストを含む）、定期試験等から総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | テレビや新聞等の税に関する報道の意味内容を正確に理解することができるように、税に関する基礎的な知識や考え方を知り、納税者としての義務と権利に深い関心を持ってもらうことができれば、この授業の目標が達成されたものとする。                                    |       |           |
| 準備学習  | テレビ、新聞等の税に関する報道には特に関心を持って注目し、その意味や内容について理解できるよう下調べを心掛けてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業には積極的に参加し、税に関する基礎的な知識の習得を目指して下さい。税に対する関心を深め、納税の義務と納税者としての権利について考えてみて下さい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1, 税金って何?   2, 税の歴史   3, 所得にかかる税金   4, サラリーマンと税金   5, 事業経営者と税金   6, 学生と税金   7, 保険金・年金と税金   8, 相続・贈与と税金   9, 会社経営と税金   10, その他の税金   11, ちょっと得する税金豆知識!   12, 税金についての不服申し立て   13, 納税者の義務と権利   14, 特別講演   15, 税に関するまとめの授業 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20219001 |
| 科目名        | 公共経済学   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Public Economics  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>公共経済学の基本的テーマとしては、政策主体としての政府の役割に焦点が当てられる。つまり、政府とは何か？政府は何をすべきであるか？政府には何ができるのか？といった問題に対して経済学的な分析を与えるのが公共経済学である。また、社会にとって望ましい政府の在り方を考察する際に用いる合理性や公平性の判断基準は多様であり、実はそれらの基準自体が全て不完全で怪しい。本講義では、社会を構成する最小単位としての個人のレベルで判断基準を分解し、個人の意思決定のメカニズムを多面的に考えることから始めたい。  他方で、個々人の経済的な選択を集計するシステムとしての市場機構もやはり不完全であり、様々な失敗を引き起す。それを補おうとする現実の政府も不完全であり、政府も失敗を犯す。また、その政府を選び出し、またその活動を規定するシステムとしての民主主義も不完全である。これらの不完全さの原因はどこにあるのか、どのようなメカニズムで失敗が生じるのかを考え、次にそれらが少しでもより良く機能するための処方箋について考察する。その応用として、現実の日本社会における具体的な諸問題を公共経済学という視点から捉え、問題の本質を理解しその解決策としての政策について考える。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 井堀利宏 (1998)『基礎コース・公共経済学』新世社  土居丈朗 (2002)『入門公共経済学』日本評論社  加藤寛 (1999)『入門公共選択・改訂版』三嶺書房  |       |           |
| 教材 (その他)   | 『世界統計白書・2009 年度版』木本書店  その他、内外の調査研究機関発表の統計データ  |       |           |
| 評価方法       | ① 中間・期末試験 70%, 授業内テスト・レポート 30%  ② 授業中の発表など平常点は加点材料として、授業中の私語や途中退室は減点材料として、それぞれ扱う。   |       |           |
| 到達目標       | ① 「効率性」と「公平性」を判断基準に、公共部門の経済的役割とその意思決定過程を理論的に理解する。 ② 現代日本が直面する諸問題に関して、その原因と解決策を中心に公共経済学的視点からの理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | ① 公共経済学で利用されるミクロ経済学の分析道具を復習・確認しておく。 ② 授業内で配布された資料に目を通しておく。 ③ 指定された項目について調べ、その基本概念を理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | ① 授業開始後 20 分以降の入室は認めない。 ②「記憶」という作業を忘れ、論理を「理解」することに集中すること。 ③ ミクロ経済学の単位を修得していることが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 公共経済学とは何か：公共経済学の焦点と、その成立の歴史的・経済的背景  2. 政府の誕生：政府は昔、盗賊だった？ 社会契約はいつ結ばれたのか？  3. 政府はなぜ肥る：皆が政府に頼るから？ 政府自身が大きくなりたいから？  4. 公平性とは何か：価値判断とは何か？公平性の基準：功利主義 マキシミン原理 利他主義  5. 効率性とは何か？無駄とは何か？効率性の比較基準 1：パレート基準  6. 効率性とは何か？無駄とは何か？効率性の比較基準 2：カルドア基準 ヒックス基準  7. 効率性と公平性：両立は可能か？社会の幸福を一番大きくするには？  8. 市場機構と効率性：市場での取引で得る利益とは？ 余剰分析の基礎  9. 市場機構への政府介入：規制は必要なのか？ 価格規制、数量規制、参入規制の余剰分析  10. 市場の失敗①：公企業はなぜ必要か？ 規制の経済学  11. 市場の失敗②：民間企業はなぜ販売しないのか？ 公共財の経済学 (1)  12. 市場の失敗③：政府はどこまで供給すべきか？ 公共財の経済学 (2)  13. 市場の失敗④：公害はゼロにしないで良いのか？ 外部効果の経済学  14. 中間試験  15 .財政赤字の経済学①：なぜ政府の借金は膨らむのか？ 16. 財政赤字の経済学②：世代間で負担の先送りは生じるのか？ 17. 財政赤字の経済学③：借金返済のシナリオはあるのか？ 18. 民主主義の経済分析①：個人の選択を集計できるか？ 投票の経済学(1)  19. 民主主義の経済分析②：個人の選択を集計できるか？ 投票の経済学(2)  20. 民主主義の経済分析③：政策の立案と実行は誰が？ I：政治家と官僚の経済学  21. 民主主義の経済分析④：政策の立案と実行は誰が？ II：利益集団の経済学  22. 現代日本の公共経済学的課題①：消費税と所得税のどちらが良いか？ 課税の経済学  23. 現代日本の公共経済学的課題②：政府の借金はだれがいつ返すのか？ 財政赤字と公債  24. 現代日本の公共経済学的課題③：少子高齢化が生じるのはなぜか？ 結婚と家族の経済学  25. 現代日本の公共経済学的課題④：年金はもらえるのか？ 年金の経済学  26. 現代日本の公共経済学的課題⑤：核兵器は必要か？ 安全保障の経済学  27. 幸福の経済学①：効用の前提と限界とは？ 効用と幸福  28. 幸福の経済学②：金持ちは幸福か？ 所得と幸福  29. 幸福の経済学③：国が違えば幸福も違うか？ 政治体制や政治参加と幸福  30. 講義のまとめ：公共経済学の現代的役割</p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2022300A |
| 科目名        | 仕事研究講座   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career & Job Study   |       |           |
| 担当者名       | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回生の秋学期は、そろそろ自分の進路を考えるべき時期である。世の中が世界的規模で非常なスピードで変化するとき、世の中の企業では、どのような状況の中で、どのような問題を解決しようとし、どのような人材を求めているのかについて考える必要がある。 そこで、この「仕事研究講座」では、入社後2～3年目の若い社員が、どのような状況の中で、どのような仕事することが求められているのかについて学び、その仕事に就くには、今から何をすべきかを考えることを目的とするものである。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書：プリント教材 参考書：各話題毎に指示 その他：時の話題についての補助プリント教材   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオを使う場合もある  |       |           |
| 評価方法       | 1.講義内で取ったノートを提出し、それを評価（50%） 2.気づきと決意の記入・提出（50%） 減点対象：遅刻・講義中の入退出・友人任せの提出  |       |           |
| 到達目標       | 1.各自の目指す進路が明確に自覚できるようになること（課題発見力） 2.そのために、今何をすべきなのか、について明確な気づきができること（行動力）  |       |           |
| 準備学習       | 1.自分の志望する業界の動向を明確にするため、新聞・雑誌・TVなどの様々なニュースを読む 2.一般常識的能力（読み・書き・話す）を身につける   |       |           |
| 受講者への要望    | 1..誰のためでもない、自分のための講座であることを強く自覚すること 2.遅刻や私語や、途中の入退出は減点の対象とする 3.毎回の資料と返却されたノートは、確実にファイルし、コメントされた点を修正すること   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回目：本講義の趣旨とスケジュール 第2回目：広告代理店業界 第3回目：金融業界 第4回目：旅行業界 第5回目：情報通信業界 第6回目：家電販売業界 第7回目：不動産・住宅販売業界 第8回目：アパレル業界 第9回目：スポーツ用品業界 第10回目：スーパーマーケット業界 第11回目：電気・電子製品業界 第12回目：自動車業界と自動車販売業界 第13回目：医療・医薬品・サービス業界 第14回目：産業鳥瞰図 第15回目：まとめ                |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300B |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミCの目標は、スタートアップゼミA・Bで学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。スタートアップゼミCでは、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点 30%  ②レポートなど提出課題 20%  ③学内討論大会への参加と成績 50%  |       |           |
| 到達目標       | <p>スタートアップゼミCでは、「ディベート」の実践を通じて、スタートアップゼミA・Bで修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(1)第1回-第3回：ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身につけるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回：調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点（主張）を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回：立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回：ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回：学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回：確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300C |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 教材 (その他) 適宜、案内する。  |       |           |
| 評価方法       | ①平常点 30%  ②レポートなど提出課題 20%  ③学内討論大会への参加と成績 50%  |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300D |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点30%  ②レポートなど提出課題20%  ③学内討論大会への参加と成績50%   |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300E |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎   | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点30%  ②レポートなど提出課題20%  ③学内討論大会への参加と成績50%   |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20233001 |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 森田 敬信  | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点30%  ②レポートなど提出課題20%  ③学内討論大会への参加と成績50%   |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300J |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一  | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点30%  ②レポートなど提出課題20%  ③学内討論大会への参加と成績50%   |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023300Z |
| 科目名        | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 | ゼミ3       |
| 講義概要       | ゼミ3の目標は、ゼミ1・2で学んだ情報を集め活用する能力、および人前で分かり易く説明するプレゼンテーション能力を基礎にして、「ディベート」の実践を通じて、客観的で説得力ある議論を展開する能力を身につけることである。  ディベートとは、討論の一つの形式である。与えられた論題について、肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張をチームで行い、その優劣を競い合うものである。ゼミ3では、競技ディベートの方式に則して、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。ゼミ内でのディベートの準備と実践を経て、例年7月初旬に実施される「学内討論大会」に参加し、実際のディベート競技を体験する。  ディベートを通じて、情報の収集と活用による客観的な事実に基づく説得力のある論理の組み立てることや、討論相手の主張を理解しその問題点を発見・指摘する、といった高度なコミュニケーション能力が身につくはずである。チームとしての準備段階では、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし!」を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 教材（その他） 適宜、案内する。   |       |           |
| 評価方法       | ①平常点30%  ②レポートなど提出課題20%  ③学内討論大会への参加と成績50%   |       |           |
| 到達目標       | ゼミ3では、「ディベート」の実践を通じて、ゼミ1・2で修得した情報を収集し活用する能力、およびプレゼンテーション能力を実際に用いて、説得力ある議論を展開するための技術の修得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ディベート・テーマに関連する資料の収集を日頃から心がける。 (2) 7月のディベート大会の開催日に合わせたスケジュール調整をする。 (3) ディベート大会に向けたチーム練習を行っておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 ②ディベート・チームのメンバーとして、準備と実践で責任を果たすこと。 ③学内討論大会は授業の一部であり、全員に参加が義務付けられる。また、大会での取り組み・パフォーマンスが成績評価の材料として重視され、低い水準の取り組み・パフォーマンスは実質的に「欠席」扱いとなる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)第1回-第3回:ディベートの基礎を学ぶ   ディベートとは何か、ディベートを通じてどのような技術を身に付けるか、を理解する。また、「立論」「反対尋問」「第一反駁」「第二反駁」それぞれの役割や主張の組み立て方など、競技ディベートの基礎をテキストとビデオを使って学ぶ。 (2)第4回-第5回:調査・情報収集   与えられた論題について、肯定側・否定側それぞれの立場で論点(主張)を組み立てるため、それをサポートする客観的な事実・資料を収集し整理する。図書館、パソコンルームなどを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から自分たちの論点をサポートするに役立つものや、あるいは相手側の論点を崩すために役立つ事実・資料を取捨選択する。 (3)第6回-第9回:立論の作成・反駁の準備   集めた情報・資料を活用しながら、自分たちの論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。さらに、自分たちの論点の弱点をさらにサポートするための追加的な証拠資料を集めて反駁を組み立てる。ここでは、メンバー同士が協力し議論しながらアイデアを出し合うことが重要となる。 (4)第10回-第13回:ゼミ内でのディベート実践   肯定側・否定側に分かれてゼミ内でディベートを実践してみよう。ここで重要なことは、競技ディベートに慣れることと、「学内討論大会」に備えて自分たちの時間配分や証拠資料の活用方法などでの問題点に気づき、その改善を図ることである。 (5)第14回:学内討論大会への参加   例年7月上旬に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」に参加し、競技ディベートを体験する。トーナメント方式の勝ち抜き戦で実施される。 (6)第15回:確認とまとめ   学内討論大会への参加を通じて気付いたことを整理し、いま一度、ディベート・討論の技術として何が大切かを確認する。特に、将来の就職活動で経験するであろう「集団討論」を想定して、「分かりやすく」「客観的で」「説得力のある」議論を人前で展開するためには技術として何が必要か、この機会にしっかりと頭に入れておこう。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023400A |
| 科目名        | ゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IV  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会で生じている様々な経済問題や社会問題に対して、グループワークを通じて理解を深めていく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指定する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指定する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指定する  |       |           |
| 評価方法       | 報告内容 30% 報告中の態度 30% グループワークの態度 20% 議論への積極的参加 20%  |       |           |
| 到達目標       | 様々な経済問題や社会問題に対して、グループメンバーと協力し、独自の回答を見出す能力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ時間は報告する場と考えているので、授業時間外で報告準備作業をしないとけない。  |       |           |
| 受講者への要望    | 経済問題や社会問題に目を向け、日頃からそういったニュースに関心を持ち、ゼミに望むことを求めます。また、ゼミは学生主体なので積極的な姿勢で参加し取り組むことを求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 第1回グループワーク 3. 第1回報告会 4. 第2回グループワーク 5. 第2回報告会 6. 第3回グループワーク 7. 第3回報告会 8. 第4回グループワーク 9. 第4回報告会 10. 第5回グループワーク 11. 第5回報告会 12. 第6回グループワーク 13. 第6回報告会 14. 第7回グループワーク 15. 第7回報告会および総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023400B |
| 科目名   | ゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IV   |       |           |
| 担当者名  | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ミクロ経済学あるいはゲーム理論に関連する文献を取り上げ、経済分析のミクロ的な手法の基礎を学ぶ。            |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講者と相談の上決める。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (80%) レポート (20%)                                       |       |           |
| 到達目標  | 物事を論理的に考えることができるようになること。                                   |       |           |
| 準備学習  | ゼミは報告の場であるので、ゼミ中に資料作成などの報告準備の時間は設けない。 したがって、報告の事前準備は必須である。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 報告の事前準備を必ず行うこと。受講者は基本的に毎回報告が求められる。 2. 毎回出席すること。遅刻・無断欠席は厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 報告・ディスカッション1 3. 報告・ディスカッション2 4. 報告・ディスカッション3 5. 報告・ディスカッション4 6. 報告・ディスカッション5 7. 報告・ディスカッション6 8. 報告・ディスカッション7 9. 報告・ディスカッション8 10. 報告・ディスカッション9 11. 報告・ディスカッション10 12. 報告・ディスカッション11 13. 報告・ディスカッション12 14. 報告・ディスカッション13 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023400C |
| 科目名        | ゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IV  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 第1回 ガイダンス 第2回 研究課題を見つけよう(1) 第3回 研究課題を見つけよう(2) 第4回 各自課題の参考資料・文献をどうやって見つけるか  発表方法はどうか 第5回 発表と討論(1) 第6回 発表と討論(2) 第7回 発表と討論(3) 第8回 発表と討論(4) 第9回 発表と討論(5) 第10回 発表と討論(6) 第11回 数量的分析の入門(1、Excelが使えるようになる、以下同様) 第12回 数量的分析の入門(2) 第13回 数量的分析の入門(3) 第14回 数量的分析の入門(4) 第15回 まとめ |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特にない。教員が適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 授業への積極的参加の度合いを中心に、平常点を評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 課題を見つけ出し、それを実現するために何をどうするのか、自分で組み立てることができる必要がある。<br>  |       |           |
| 準備学習       | 特に前提となる科目はないが、エクセルを使う機会が比較的多いので、知識があれば好都合である。しかし、知識がない場合でも問題はない。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的な参加が必要。失敗を恐れないこと、間違えてもいい。それを明るく「自覚する」ことを通じて成長しよう・・・そんな気持ちで参加してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | このゼミでは、新聞を題材にしたり、社会的関心の高い事柄を話題にしたりしながら、課題を見つける、課題を組み立てる訓練をする。一見、何をどうしたらよいか分からない問題について、どう取り組むのか、「こんなんんで良いの?」というレベルから始めて、いくつもトライしてみると、意外に課題が浮かんでくるはずで、皆さんにその経験をしてもらおう。 また、後半では課題を数量的に扱うための訓練も少し始める。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023400D |
| 科目名   | ゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IV   |       |           |
| 担当者名  | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義では、マクロ経済学の基礎理論を復習し、それに基づき現代の日本経済および世界経済の抱える諸問題に対する理解を深める。それぞれ経済問題の本質を踏まえ、それが及ぼす経済的影響とそのメカニズムを確認し、解決に有効な経済政策の在り方を検討する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 酒井・寺本・村上・吉田 『経済政策入門』第2版 成文堂  |       |           |
| 教材 (その他)  | 日本経済新聞など経済ニュースに日頃から目を通すことが望ましい。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内試験100%  |       |           |
| 到達目標  | (1) マクロ経済学の基礎理論を理解する。  (2) 日本経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。  (3) 世界経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。                          |       |           |
| 準備学習  | (1) 国民経済統計を調べる。  (2) 政府の経済政策の種類とその効果を調べる。  (3) 経済の時事問題を調べる。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| (1) 欠席3回で成績評価の対象から除外する。  (2) 内容は経済学の基本である。記憶も理解も徹底せよ。  (3) 社会人への準備となる取り組みにも意識的・積極的に参加せよ。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 講義の流れは以下の通りである。毎回、日本地図や世界地図を頭に入れながら、地域や国ごとの関連する統計データや経済問題についても解説する。  第1回:ゼミの運営とルール、自己紹介の作法 第2回:国民所得とは何か、GDPとGNPの違い 第3回:経済成長率と失業率の関係 第4回:有効需要の原理、総需要 第5回:消費関数 第6回:投資関数 第7回:経常収支 第8回:為替レート 第9回:減税の効果 第10回:政府支出増大の効果 第12回:金融政策の効果 第13回:財政赤字とソブリン・リスク 第14回:税と社会保障の一体改革 第15回:まとめ&テスト |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023400E |
| 科目名        | ゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IV   |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私が「フリー・ゼミ」とよぶやり方で、ゼミをおこないます。「フリー・ゼミ」方式とは、ゼミ担当者がかかじめいくつかのテーマを設定し、ゼミ生一人ひとりが自分でやってみたいテーマを自由に選び、同じ関心を持つ他のゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことで、ぜひ取り組んでみたいテーマがあるなら、ゼミ担当者が設定したもの以外のもを提案してもらっても構いません。各グループでテーマが確定したら、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。  昨年までのテーマを参考のために示せば、「情報社会」(クラウド、スマホ)、「地球環境」(温暖化、原発問題)、「格差社会」(貧困問題)、「自動車産業」(ハイブリッド車、電気自動車) など、ゼミ生は、さまざまなテーマに取り組んできました。  各グループには、責任者としてリーダーをおいています。リーダーがしっかり内部調整しないと、結果的に所定の期日に研究報告ができなかったり、レポート作成が未完成のままになるグループも出てきます。そうしたグループについては、運営方法の改善を指導し、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散をおこなうこともあります。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 最初の時間に、各テーマごとの文献リストを提示します。最終的には各グループで決めるものとする。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜情報を提供する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。研究報告・レポート作成 (60%)。  |       |           |
| 到達目標       | ゼミを通じて自主的な学習スタイルを確立し、グループ研究における各自の責任能力を身につけてもらうことを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から広く社会に関心を持ち、自分自身が研究したいテーマをできるだけ明確にしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>積極的な姿勢でゼミに取り組むこと。自宅でもゼミのテーマについては自主的に学習する時間を確保することを望みます。遅刻や無断欠席は、グループの他のメンバーにも迷惑をかける結果となるので、厳禁です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ゼミ 4 のシラバス説明   2. テーマ、グループの決定   3. 研究計画の策定と提出   4. 研究報告の実演   5. 研究報告(1)   6. 研究報告(2)   7. 研究報告(3)   8. 研究報告の批評(1)   9. 研究報告(4)   10. 研究報告(5)   11. 研究報告(6)   12. 研究報告の批評(2)   13. 研究報告(7)   14. 研究報告(8)   15. ゼミ 4 のグループ総括  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023400G |
| 科目名        | ゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IV   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミでは金融危機について勉強する。まず、最初に金融危機の原型である、1930年代に起きた、世界大恐慌について勉強する。グループをいくつかに分けて、テキストを用いながら、各章ごとに発表するという形式をとる。しかし、最初は金融についての知識のない人が多いので、私が金融についての概略を講義する。金融および金融危機についての知識をつけると共に、まとめる力、プレゼン能力、仲間と協力し、コミュニケーション力を高める、これらの点に力を入れる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ホールとファーグソン『大恐慌』(多賀出版)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%)、報告等 (40%)  |       |           |
| 到達目標       | 金融危機について自分なりの分析、意見が述べられる、能力をつける。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 無断欠席、遅刻を厳禁する。 毎回必ず1回以上発言をすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション — ゼミの進め方 2. 金融政策の説明 1 3.金融政策の説明 2  4. テキスト 1 章 5.テキスト 2 章 6.テキスト 3 章 7.テキスト 4 章 8.テキスト 5 章 9 テキスト 6 章 10 テキスト 7 章 11 テキスト 8 章 12 テキスト 9 章 13 テキスト 10 章 14 テキスト 11 章 15 今後の勉強について                            |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023400L |
| 科目名        | ゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IV  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文の素案づくりの研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 日本経済新聞記事など  |       |           |
| 評価方法       | ゼミレポート(50%)+平常点(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 1) ゼミテーマの基礎知識の習得 2) ゼミテーマの決定と卒業論文完成までの計画立案  |       |           |
| 準備学習       | ゼミテーマに関連ある記事等を学習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1) 「ゼミテーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「ゼミテーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとにも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)  6) 講義中の私語が過ぎれば他の事項性への迷惑を勘案し退出を求める</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) ガイダンス  2) 「情報社会とは」  3) 「技術戦略とは」  4) 「イノベーションとは」  5) 「第二創業とは」  6) 「地域資源とは」  7) 各自テーマの選択・決定  8) 各自テーマの関連資料の調査報告  9) 各自テーマの関連資料の調査報告  10) 各自テーマの関連資料の調査報告  11) 各自テーマの関連資料の調査報告  12) 卒業論文完成までの計画立案  13) ゼミ 4 レポート作成 14) ゼミ 4 レポート発表  15) まとめ</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023500A |
| 科目名   | サブゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 4   |       |           |
| 担当者名  | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ミクロ経済学あるいはゲーム理論に関連する文献を取り上げ、経済分析のミクロ的な手法の基礎を学ぶ。            |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講者と相談の上決める。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (80%) レポート (20%)                                       |       |           |
| 到達目標  | 物事を論理的に考えることができるようになること。                                   |       |           |
| 準備学習  | ゼミは報告の場であるので、ゼミ中に資料作成などの報告準備の時間は設けない。 したがって、報告の事前準備は必須である。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 報告の事前準備を必ず行うこと。受講者は基本的に毎回報告が求められる。 2. 毎回出席すること。遅刻・無断欠席は厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 報告・ディスカッション1 3. 報告・ディスカッション2 4. 報告・ディスカッション3 5. 報告・ディスカッション4 6. 報告・ディスカッション5 7. 報告・ディスカッション6 8. 報告・ディスカッション7 9. 報告・ディスカッション8 10. 報告・ディスカッション9 11. 報告・ディスカッション10 12. 報告・ディスカッション11 13. 報告・ディスカッション12 14. 報告・ディスカッション13 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023500B |
| 科目名        | サブゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 4  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 第1回 ガイダンス 第2回 研究課題を見つけよう(1) 第3回 研究課題を見つけよう(2) 第4回 各自課題の参考資料・文献をどうやって見つけるか  発表方法はどうか 第5回 発表と討論(1) 第6回 発表と討論(2) 第7回 発表と討論(3) 第8回 発表と討論(4) 第9回 発表と討論(5) 第10回 発表と討論(6) 第11回 数量的分析の入門(1、Excelが使えるようになる、以下同様) 第12回 数量的分析の入門(2) 第13回 数量的分析の入門(3) 第14回 数量的分析の入門(4) 第15回 まとめ |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特にない。教員が適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 授業への積極的参加の度合いを中心に、平常点を評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 課題を見つけ出し、それを実現するために何をどうするのか、自分で組み立てることができる必要がある。<br>  |       |           |
| 準備学習       | 特に前提となる科目はないが、エクセルを使う機会が比較的多いので、知識があれば好都合である。しかし、知識がない場合でも問題はない。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的な参加が必要。失敗を恐れないこと、間違えてもいい。それを明るく「自覚する」ことを通じて成長しよう・・・そんな気持ちで参加してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | このゼミでは、新聞を題材にしたり、社会的関心の高い事柄を話題にしたりしながら、課題を見つける、課題を組み立てる訓練をする。一見、何をどうしたらよいか分からない問題について、どう取り組むのか、「こんなんんで良いの?」というレベルから始めて、いくつもトライしてみると、意外に課題が浮かんでくるはずで、皆さんにその経験をしてもらおう。 また、後半では課題を数量的に扱うための訓練も少し始める。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023500C |
| 科目名   | サブゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 4   |       |           |
| 担当者名  | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義では、マクロ経済学の基礎理論を復習し、それに基づき現代の日本経済および世界経済の抱える諸問題に対する理解を深める。それぞれ経済問題の本質を踏まえ、それが及ぼす経済的影響とそのメカニズムを確認し、解決に有効な経済政策の在り方を検討する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 酒井・寺本・村上・吉田 『経済政策入門』第2版 成文堂  |       |           |
| 教材 (その他)  | 日本経済新聞など経済ニュースに日頃から目を通すことが望ましい。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内試験100%  |       |           |
| 到達目標  | (1) マクロ経済学の基礎理論を理解する。  (2) 日本経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。  (3) 世界経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。                          |       |           |
| 準備学習  | (1) 国民経済統計を調べる。  (2) 政府の経済政策の種類とその効果を調べる。  (3) 経済の時事問題を調べる。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| (1) 欠席3回で成績評価の対象から除外する。  (2) 内容は経済学の基本である。記憶も理解も徹底せよ。  (3) 社会人への準備となる取り組みにも意識的・積極的に参加せよ。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 講義の流れは以下の通りである。毎回、日本地図や世界地図を頭に入れながら、地域や国ごとの関連する統計データや経済問題についても解説する。  第1回:ゼミの運営とルール、自己紹介の作法 第2回:国民所得とは何か、GDPとGNPの違い 第3回:経済成長率と失業率の関係 第4回:有効需要の原理、総需要 第5回:消費関数 第6回:投資関数 第7回:経常収支 第8回:為替レート 第9回:減税の効果 第10回:政府支出増大の効果 第12回:金融政策の効果 第13回:財政赤字とソブリン・リスク 第14回:税と社会保障の一体改革 第15回:まとめ&テスト |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023500D |
| 科目名        | サブゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 4  |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私が「フリー・ゼミ」とよぶやり方で、ゼミをおこないます。「フリー・ゼミ」方式とは、ゼミ担当者がかじめいくつかのテーマを設定し、ゼミ生一人ひとりが自分でやってみたいテーマを自由に選び、同じ関心を持つ他のゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことで、ぜひ取り組んでみたいテーマがあるなら、ゼミ担当者が設定したもの以外のもを提案してもらっても構いません。各グループでテーマが確定したら、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。  昨年までのテーマを参考のために示せば、「情報社会」(クラウド、スマホ)、「地球環境」(温暖化、原発問題)、「格差社会」(貧困問題)、「自動車産業」(ハイブリッド車、電気自動車) など、ゼミ生は、さまざまなテーマに取り組んできました。  各グループには、責任者としてリーダーをおいています。リーダーがしっかり内部調整しないと、結果的に所定の期日に研究報告ができなかったり、レポート作成が未完成のままになるグループも出てきます。そうしたグループについては、運営方法の改善を指導し、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散をおこなうこともあります。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 最初の時間に、各テーマごとの文献リストを提示します。最終的には各グループで決めるものとする。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜情報を提供する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。研究報告・レポート作成 (60%)。   |       |           |
| 到達目標       | ゼミを通じて自主的な学習スタイルを確立し、グループ研究における各自の責任能力を身につけてもらうことを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から広く社会に関心を持ち、自分自身が研究したいテーマをできるだけ明確にしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>積極的な姿勢でゼミに取り組むこと。自宅でもゼミのテーマについては自主的に学習する時間を確保することを望みます。遅刻や無断欠席は、グループの他のメンバーにも迷惑をかける結果となるので、厳禁です。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ゼミ 4 のシラバス説明   2. テーマ、グループの決定   3. 研究計画の策定と提出   4. 研究報告の実演   5. 研究報告(1)   6. 研究報告(2)   7. 研究報告(3)   8. 研究報告の批評(1)   9. 研究報告(4)   10. 研究報告(5)   11. 研究報告(6)   12. 研究報告の批評(2)   13. 研究報告(7)   14. 研究報告(8)   15. ゼミ 4 のグループ総括  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023500F |
| 科目名        | サブゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 4  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会で生じている様々な経済問題や社会問題に対して、グループワークを通じて理解を深めていく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指定する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指定する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指定する  |       |           |
| 評価方法       | 報告内容 30% 報告中の態度 30% グループワークの態度 20% 議論への積極的参加 20%  |       |           |
| 到達目標       | 様々な経済問題や社会問題に対して、グループメンバーと協力し、独自の回答を見出す能力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ時間は報告する場と考えているので、授業時間外で報告準備作業をしないとイケない。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経済問題や社会問題に目を向け、日頃からそういったニュースに関心を持ち、ゼミに望むことを求めます。また、ゼミは学生主体なので積極的な姿勢で参加し取り組むことを求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 第1回グループワーク 3. 第1回報告会 4. 第2回グループワーク 5. 第2回報告会 6. 第3回グループワーク 7. 第3回報告会 8. 第4回グループワーク 9. 第4回報告会 10. 第5回グループワーク 11. 第5回報告会 12. 第6回グループワーク 13. 第6回報告会 14. 第7回グループワーク 15. 第7回報告会および総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023500G |
| 科目名        | サブゼミ 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 4   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミでは金融危機について勉強する。まず、最初に金融危機の原型である、1930年代に起きた、世界大恐慌について勉強する。グループをいくつかに分けて、テキストを用いながら、各章ごとに発表するという形式をとる。しかし、最初は金融についての知識のない人が多いので、私が金融についての概略を講義する。金融および金融危機についての知識をつけると共に、まとめる力、プレゼン能力、仲間と協力し、コミュニケーション力を高める、これらの点に力を入れる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ホールとファーグソン『大恐慌』(多賀出版)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%)、報告等 (40%)  |       |           |
| 到達目標       | 金融危機について自分なりの分析、意見が述べられる、能力をつける。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 無断欠席、遅刻を厳禁する。 毎回必ず1回以上発言をすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション — ゼミの進め方 2. 金融政策の説明 1 3.金融政策の説明 2  4. テキスト 1 章 5.テキスト 2 章 6.テキスト 3 章 7.テキスト 4 章 8.テキスト 5 章 9 テキスト 6 章 10 テキスト 7 章 11 テキスト 8 章 12 テキスト 9 章 13 テキスト 10 章 14 テキスト 11 章 15 今後の勉強について                            |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023500L |
| 科目名        | サブゼミ 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 4  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文の素案づくりの研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 日本経済新聞記事など  |       |           |
| 評価方法       | ゼミレポート(50%)+平常点(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 1) ゼミテーマの基礎知識の習得 2) ゼミテーマの決定と卒業論文完成までの計画立案  |       |           |
| 準備学習       | ゼミテーマに関連ある記事等を学習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1) 「ゼミテーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「ゼミテーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとにも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)  6) 講義中の私語が過ぎれば他の事項性への迷惑を勘案し退出を求める</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) ガイダンス  2) 「情報社会とは」  3) 「技術戦略とは」  4) 「イノベーションとは」  5) 「第二創業とは」  6) 「地域資源とは」  7) 各自テーマの選択・決定  8) 各自テーマの関連資料の調査報告  9) 各自テーマの関連資料の調査報告  10) 各自テーマの関連資料の調査報告  11) 各自テーマの関連資料の調査報告  12) 卒業論文完成までの計画立案  13) ゼミ 4 レポート作成 14) ゼミ 4 レポート発表  15) まとめ</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023600A |
| 科目名        | ゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar V   |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、6セメで提出するゼミ論文の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献(学習テーマ)について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、就職活動を念頭に置いて、時事問題についての解説やそれに関する討論を行う場合がある。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(その他)    | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(60%)、報告等(40%)   |       |           |
| 到達目標       | 現代の経済・社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。 ・毎回必ず1回以上発言(質問等)をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.イントロダクション 2.各自の学習テーマの決定 3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1) 4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2) 5.各自の学習テーマに関する報告(1-1) 6.各自の学習テーマに関する報告(1-2) 7.各自の学習テーマに関する報告(1-3) 8.各自の学習テーマに関する報告(2-1) 9.各自の学習テーマに関する報告(2-2) 10.各自の学習テーマに関する報告(2-3) 11.各自の学習テーマに関する報告(3-1) 12.各自の学習テーマに関する報告(3-2) 13.各自の学習テーマに関する報告(3-3) 14.各自の学習テーマに関する報告(3-4) 15.今学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023600B |
| 科目名   | ゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar V   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本ゼミでは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ 5 では、ゼミ 4 でのグループワークを継続し完成させたいうえで、この東アジアのテーマのなかから、各自が適切なテーマをみつけ、関連する文献を読み、調査を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 未定  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配る。  |       |           |
| 評価方法  | ゼミでの取り組み (40%) + グループ・レポート (30%) + 個人発表 (30%)   |       |           |
| 到達目標  | 現代日本をはじめ、東アジアにおかる社会的・文化的な諸問題を理解すること、またそうした社会的・文化的諸問題を理解するための知識と方法を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | レポート、発表の準備をすること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| このゼミでは東アジアにおける幅広い社会的・文化的な諸問題・諸現象を扱うので、そうしたことにいつも感心をもって情報を収集してほしい。また、並行して、「社会学概論」を履修するなどして、社会学的な知識・見方を学んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 春休みの報告とゼミの概要の説明   2 ゼミ 4 でのテーマの文章化の段取りと分担を決める   3 文章化の作業 (1)   4 文章化の作業 (2)   5 文章化の作業 (3)   6 文章化の完成 (4)   7 テーマの探索 (1)   8 テーマの探索 (2)   9 テーマの決定   10 テーマについての文献リストの作成   11 文献の読解 (1)   12 文献の読解 (2)   13 文献の読解 (3)   14 発表   15 発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023600C |
| 科目名        | ゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar V   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 株式会社の中でも監査役会設置会社では、その名の通り監査役会や取締役会が経営陣に対するモニタリングの役割を果たすことをまず確認します。その上で、監査役会や取締役会によるモニタリングが形骸化している理由について考察します。さらに、社外取締役をモニタリングの中心に据える委員会設置会社が必ずしもうまく機能していない理由について検討します。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時で紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) と授業内レポート (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | モニタリング・システムに対する理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 当然のことですが、毎回きちんと出席すること。6回以上欠席すると単位を取得できないこととします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 監査役会設置会社の株主総会  2 監査役会設置会社の取締役会  3 監査役会設置会社の代表取締役  4 監査役会設置会社の監査役会  5 監査役会設置会社の会計監査人  6 所有と経営の分離及びモニタリングの意義  7 監査役会設置会社におけるモニタリングの形骸化  8 委員会設置会社におけるモニタリングの仕組み  9 委員会設置会社におけるモニタリングの形骸化  10 委員会設置会社の事例研究①  11 委員会設置会社の事例研究②  12 取締役会非設置会社  13 合同会社の定義  14 有限責任事業組合  15 まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023600D |
| 科目名        | ゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar V  |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ネットワークに関する各自の研究テーマを決定し、ゼミ論文に必要な調査と資料作成・報告を行う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | ゼミレポート(40%)、報告発表(30%)、課題への取り組み(30%)  |       |           |
| 到達目標       | ゼミ論文のためのレポートの完成  |       |           |
| 準備学習       | 関係知識はそのつど調べ、理解することを心がける。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常の情報収集と資料の整理に心がけ、積極的に活動すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 2.情報ネットワーク社会 3.ネットワーク社会 4.ネットワーク組織 5.ネットワークのメカニズム 6.各種ネットワーク 7.テーマの決定 8.テーマ課題への取り組み 9.テーマ課題への取り組み 10.各自テーマ課題報告 11.各自テーマ課題報告 12.レポートの作成 13.レポートの作成 14.レポートの提出と発表 15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023600E |
| 科目名   | ゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar V   |       |           |
| 担当者名  | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業論文の作成に向けてゼミをおこなう。自分で作成した資料に基づき学生が報告を行い、報告内容に対して学生主体で討論をおこなう。討論の結果生じた課題は、次回報告までに改善しなければならない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 無   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜指定する。   |       |           |
| 評価方法  | 報告態度 30% 討論への積極参加 30% 課題への取組30% 裁量 10%  |       |           |
| 到達目標  | 自分で資料を収集し、それを元に意見を取りまとめ、論文を作成する能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 微積分、確率論、集合論を理解していることが望ましい。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学を受講していることが望ましい。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の基本的な知識を身につけていることが望ましい。報告担当者が報告責任を全うしない場合、厳正に対処するので注意されたい。また、報告担当者以外の者がゼミの進行を妨げる行為をした場合にも厳正な対処をおこなう。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 資料の収集・作成 第8回～第15回 分析結果報告及び討論  |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2023600G |
| 科目名  | ゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar V  |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 昨年度は大恐慌について学んだが、本年度はアメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機について学ぶ。              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 岩田規久男『金融危機の経済学』東洋経済  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社 |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 出席、発表内容、ゼミ参加熱意   |       |           |
| 到達目標   | 大恐慌および金融危機について自分なりの意見が述べられる。   |       |           |
| 準備学習   | 発表にあたってはグループは協力して、しっかりとレジュメ作成しなければならない。                                |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本年度はインターゼミに参加を予定している。できればすべてのグループが出場することを願っている。インターゼミ参加のための論文作りに励む。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 12 月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。<br> 内容は、大恐慌、金融危機、に関する金融問題。   1. インター参加のグループ分け  2. インター参加テーマの設定  3. テーマごとの参考文献の紹介  4. グループ 1 の報告①  5. グループ 1 の報告②  6. グループ 2 の報告①  7. グループ 2 の報告②  8. グループ 3 の報告①  9. グループ 3 の報告②  10. グループ 1 の報告  11. グループ 2 の報告  12. グループ 3 の報告  13. レポートの書き方指導  14. レポート作成①  15. レポート作成② |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023600H |
| 科目名        | ゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar V  |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、デフレ経済化におけるマネーの動きを分析する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて、資料配布。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (80%)、レポート (20%)   |       |           |
| 到達目標       | 金融システムの理解、EViews の操作方法の習得。   |       |           |
| 準備学習       | 金融論、ミクロ、マクロなどの基礎知識。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席が非常に大事。数理的な部分をすこしずつ理解できるように進めていくので、休んでしまうとついて来れなくなる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.EXCEL の復習ー計算 2.計算 3.論理 4.論理 5.グラフ 6.グラフ 7.マネー (通貨と準通貨) と金利 (短期、長期、スプレッド)  8.GDP、物価、日銀の金融政策 9.EViews の使い方ー 1  10.EViews の使い方ー 2  11.データ分析 (回帰分析)  12.データ分析 (定常・非定常)  13.データ分析 (推定)  14.データ分析 (系列相関)  15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023600L |
| 科目名        | ゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar V   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 地域ごとの特徴を調べたり、それを示したりするには、統計的データを用いることが有効である。人口や可住地面積などの地理的データや県内総生産などの経済データは、そのままでも多くの情報を与えてくれるし、組み合わせたり加工したりすれば、見えなかったものが見えてくることもある。本講義では、地域別の統計的データを調べたり、使うことを学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 随時指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | U S B メモリーなどの記憶媒体を使う場合もある。  |       |           |
| 評価方法       | 課題への取り組み方で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 都道府県別等の統計的データの入手方法、整理の仕方、加工の技法などを身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 統計処理作業に時間がかかる場合は、宿題として授業時間外に取り組まなければならない。   |       |           |
| 受講者への要望    | 少人数での学習であることを心得ておいてもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ガイダンス 2 人口と面積 3 産業分類 4 県内総生産 5 消費関連統計 6 統計的データの入手 7 エクセル操作の確認 8 共通課題の説明 9～12 課題への取り組み作業 13～14 課題の発表 15 まとめと夏期休暇中の課題の説明  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023700A |
| 科目名   | サブゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 5  |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本ゼミでは、現代日本における社会的諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ 5 では、ゼミ 4 でのグループワークを継続し完成させたいうえで、この東アジアのテーマのなかから、各自が適切なテーマをみつけ、関連する文献を読み、調査を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 未定  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配る。  |       |           |
| 評価方法  | ゼミでの取り組み (40%) + グループ・レポート (30%) + 個人発表 (30%)   |       |           |
| 到達目標  | 現代日本をはじめ、東アジアにおかる社会的・文化的な諸問題を理解すること、またそうした社会的・文化的諸問題を理解するための知識と方法を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | レポート、発表の準備をすること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| このゼミでは東アジアにおける幅広い社会的・文化的な諸問題・諸現象を扱うので、そうしたことにいつも感心をもって情報を収集してほしい。また、並行して、「社会学概論」を履修するなどして、社会学的な知識・見方を学んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 春休みの報告とゼミの概要の説明 2 ゼミ 4 でのテーマの文章化の段取りと分担を決める 3 文章化の作業 (1) 4 文章化の作業 (2) 5 文章化の作業 (3) 6 文章化の完成 (4) 7 テーマの探索 (1) 8 テーマの探索 (2) 9 テーマの決定 10 テーマについての文献リストの作成 11 文献の読解 (1) 12 文献の読解 (2) 13 文献の読解 (3) 14 発表 15 発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023700B |
| 科目名        | サブゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 5  |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 株式会社の中でも監査役会設置会社では、その名の通り監査役会や取締役会が経営陣に対するモニタリングの役割を果たすことをまず確認します。その上で、監査役会や取締役会によるモニタリングが形骸化している理由について考察します。さらに、社外取締役をモニタリングの中心に据える委員会設置会社が必ずしもうまく機能していない理由について検討します。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時で紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) と授業内レポート (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | モニタリング・システムに対する理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 当然のことですが、毎回きちんと出席すること。6回以上欠席すると単位を取得できないこととします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 監査役会設置会社の株主総会  2 監査役会設置会社の取締役会  3 監査役会設置会社の代表取締役  4 監査役会設置会社の監査役会  5 監査役会設置会社の会計監査人  6 所有と経営の分離及びモニタリングの意義  7 監査役会設置会社におけるモニタリングの形骸化  8 委員会設置会社におけるモニタリングの仕組み  9 委員会設置会社におけるモニタリングの形骸化  10 委員会設置会社の事例研究①  11 委員会設置会社の事例研究②  12 取締役会非設置会社  13 合同会社の定義  14 有限責任事業組合  15 まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023700C |
| 科目名        | サブゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 5   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ネットワークに関する各自の研究テーマを決定し、ゼミ論文に必要な調査と資料作成・報告を行う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | ゼミレポート(40%)、報告発表(30%)、課題への取り組み(30%)  |       |           |
| 到達目標       | ゼミ論文のためのレポートの完成  |       |           |
| 準備学習       | 関係知識はそのつど調べ、理解することを心がける。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常の情報収集と資料の整理に心がけ、積極的に活動すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 2.情報ネットワーク社会 3.ネットワーク社会 4.ネットワーク組織 5.ネットワークのメカニズム 6.各種ネットワーク 7.テーマの決定 8.テーマ課題への取り組み 9.テーマ課題への取り組み 10.各自テーマ課題報告 11.各自テーマ課題報告 12.レポートの作成 13.レポートの作成 14.レポートの提出と発表 15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023700D |
| 科目名   | サブゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 5  |       |           |
| 担当者名  | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業論文の作成に向けてゼミをおこなう。自分で作成した資料に基づき学生が報告を行い、報告内容に対して学生主体で討論をおこなう。討論の結果生じた課題は、次回報告までに改善しなければならない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 無   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜指定する。   |       |           |
| 評価方法  | 報告態度 30% 討論への積極参加 30% 課題への取組30% 裁量 10%  |       |           |
| 到達目標  | 自分で資料を収集し、それを元に意見を取りまとめ、論文を作成する能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 微積分、確率論、集合論を理解していることが望ましい。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学を受講していることが望ましい。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の基本的な知識を身につけていることが望ましい。報告担当者が報告責任を全うしない場合、厳正に対処するので注意されたい。また、報告担当者以外の者がゼミの進行を妨げる行為をした場合にも厳正な対処をおこなう。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 資料の収集・作成 第8回～第15回 分析結果報告及び討論  |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023700F |
| 科目名        | サブゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 5  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、6セメで提出するゼミ論文の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献(学習テーマ)について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、就職活動を念頭に置いて、時事問題についての解説やそれに関する討論を行う場合がある。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(その他)    | 各自の選択したテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(60%)、報告等(40%)   |       |           |
| 到達目標       | 現代の経済・社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。 ・毎回必ず1回以上発言(質問等)をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</li> </ul>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.イントロダクション 2.各自の学習テーマの決定 3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1) 4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2) 5.各自の学習テーマに関する報告(1-1) 6.各自の学習テーマに関する報告(1-2) 7.各自の学習テーマに関する報告(1-3) 8.各自の学習テーマに関する報告(2-1) 9.各自の学習テーマに関する報告(2-2) 10.各自の学習テーマに関する報告(2-3) 11.各自の学習テーマに関する報告(3-1) 12.各自の学習テーマに関する報告(3-2) 13.各自の学習テーマに関する報告(3-3) 14.各自の学習テーマに関する報告(3-4) 15.今学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2023700G |
| 科目名  | サブゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 5   |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 昨年度は大恐慌について学んだが、本年度はアメリカのサブプライ金融危機を含む、最近のいくつかの金融危機について学ぶ。              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 岩田規久男『金融危機の経済学』東洋経済  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社 |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 出席、発表内容、ゼミ参加熱意   |       |           |
| 到達目標   | 大恐慌および金融危機について自分なりの意見が述べられる。   |       |           |
| 準備学習   | 発表にあたってはグループは協力して、しっかりとレジュメ作成しなければならない。                                |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本年度はインターゼミに参加を予定している。できればすべてのグループが出席することを願っている。インターゼミ参加のための論文作りに励む。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 12月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。<br> 内容は、大恐慌、金融危機、に関する金融問題。   1. インター参加のグループ分け  2. インター参加テーマの設定  3. テーマごとの参考文献の紹介  4. グループ1の報告①  5. グループ1の報告②  6. グループ2の報告①  7. グループ2の報告②  8. グループ3の報告①  9. グループ3の報告②  10. グループ1の報告  11. グループ2の報告  12. グループ3の報告  13. レポートの書き方指導  14. レポート作成①  15. レポート作成② |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023700H |
| 科目名        | サブゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 5   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、デフレ経済化におけるマネーの動きを分析する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて、資料配布。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (80%)、レポート (20%)   |       |           |
| 到達目標       | 金融システムの理解、EViews の操作方法の習得。   |       |           |
| 準備学習       | 金融論、ミクロ、マクロなどの基礎知識。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席が非常に大事。数理的な部分をすこしずつ理解できるように進めていくので、休んでしまうとついて来れなくなる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.EXCEL の復習ー計算 2.計算 3.論理 4.論理 5.グラフ 6.グラフ 7.マネー (通貨と準通貨) と金利 (短期、長期、スプレッド)  8.GDP、物価、日銀の金融政策 9.EViews の使い方ー1  10.EViews の使い方ー2  11.データ分析 (回帰分析)  12.データ分析 (定常・非定常)  13.データ分析 (推定)  14.データ分析 (系列相関)  15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2023700L |
| 科目名  | サブゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 5  |       |           |
| 担当者名   | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 地域ごとの特徴を調べたり、それを示したりするには、統計的データを用いることが有効である。人口や可住地面積などの地理的データや県内総生産などの経済データは、そのままでも多くの情報を与えてくれるし、組み合わせたり加工したりすれば、見えなかったものが見えてくることもある。本講義では、地域別の統計的データを調べたり、使うことを学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 随時指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | U S B メモリーなどの記憶媒体を使う場合もある。  |       |           |
| 評価方法   | 課題への取り組み方で評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 都道府県別等の統計的データの入手方法、整理の仕方、加工の技法などを身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 統計処理作業に時間がかかる場合は、宿題として授業時間外に取り組まなければならない。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 少人数での学習であることを心得ておいてもらいたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 人口と面積 3 産業分類 4 県内総生産 5 消費関連統計 6 統計的データの入手 7 エクセル操作の確認 8 共通課題の説明 9～12 課題への取り組み作業 13～14 課題の発表 15 まとめと夏期休暇中の課題の説明 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023800A |
| 科目名        | ゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VI  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミ 5 に引き続き、各自の設定したテーマに沿ってゼミ論文の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献 (テーマ) について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、就職活動を念頭に置いて、時事問題についての解説やそれに関する討論を行う場合がある。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%)、報告等 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にする事。   |       |           |
| 受講者への要望    | ・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。 ・毎回必ず1回以上発言 (質問等) をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.イントロダクション 2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1) 3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2) 4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3) 5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4) 6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1) 7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2) 8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3) 9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4) 10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1) 11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2) 12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3) 13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4) 14.ゼミ論文についての最終報告(1) 15.ゼミ論文についての最終報告(2) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023800B |
| 科目名   | ゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VI   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本ゼミでは、現代日本における社会的な諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ 6 では、ゼミ 5 でのテーマとその探求を継続し発展させ、発表するとともに、卒業論文の準備をする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 未定   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配る。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミでの取り組み (60%) + 発表 (40%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代日本をはじめ東アジアにおける社会的・文化的諸問題・諸現象についての知識を増やしながらか、自分の選んだテーマについての探求を正しい方法のもと行っていく。                      |       |           |
| 準備学習  | ゼミ以外の時間にも、各自のテーマに取り組んでほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 日本を含めて東アジアについての幅広い社会的・文化的諸問題・諸現象についての知識を広げるとともに、自分の決めたテーマの勉強を自分の力で進めていってほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 夏休みの報告とゼミの概要の説明   2 テーマの設定とその説明 (1)   3 テーマの設定とその説明 (2)   4 再び文献を読む (1)   5 再び文献を読む (2)   6 テーマについての調査 (1)   7 テーマについての調査 (2)   8 テーマについての調査 (3)   9 テーマについての調査 (4)   10 テーマについての調査 (5)   11 テーマについての調査 (6)   12 発表 (1)   13 発表 (2)   14 発表 (3)   15 発表 (4) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023800C |
| 科目名        | ゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VI   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 株式会社の経営機構に関する理解を前提にして、企業経営に関する事例研究を行います。具体的には、成長する企業と不振に陥った企業について比較します。ゼミ生は一つの企業を選んで調査し、その結果をゼミ内で報告することとします。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) とゼミ内の報告 (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 企業によって業績に差が出る理由について理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 当然のことですが、毎回「きちんと出席すること。6回以上欠席すると単位を取得できないこととします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 事例研究を行うための資料の集め方  2 論文の書き方  3 事例研究のテーマ設定  4 ゼミ生による事例研究の報告  5 ゼミ生による事例研究の報告  6 ゼミ生による事例研究の報告  7 ゼミ生による事例研究の報告  8 ゼミ生による事例研究の報告  9 ゼミ生による事例研究の報告  10 ゼミ生による事例研究の報告  11 ゼミ生による事例研究の報告  12 ゼミ生による事例研究の報告  13 ゼミ生による事例研究の報告  14 ゼミ生による事例研究の報告  15 ゼミ生による事例研究の報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023800D |
| 科目名        | ゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VI   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマに沿ったゼミ論文の完成を目指す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | ゼミ論文(30%)、報告発表(40%)、課題への取り組み(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 定めたテーマに沿った論文を作成し、発表できる能力をみにつける。  |       |           |
| 準備学習       | 報告内容の事前確認を行い、必要な調査を行う。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常の情報収集と資料の整理に心がけ、積極的に活動すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 2.共通テーマの設定 3.論文の書き方 4.共通テーマ資料作成 5.共通テーマ資料作成 6.共通テーマ報告 7.ゼミ論文の作成 8.ゼミ論文の作成 9.ゼミ論文の作成 10.中間報告 11.中間報告 12.ゼミ論文の作成 13.ゼミ論文の作成 14.ゼミ論文の提出と発表 15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023800E |
| 科目名   | ゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VI  |       |           |
| 担当者名  | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業論文の作成に向けてゼミをおこなう。自分で作成した資料に基づき学生が報告を行い、報告内容に対して学生主体で討論をおこなう。討論の結果生じた課題は、次回報告までに改善しなければならない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 無   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜指定する。   |       |           |
| 評価方法  | 報告態度 30% 討論への積極参加 30% 課題への取組30% 裁量 10%  |       |           |
| 到達目標  | 自分で資料を収集し、それを元に意見を取りまとめ、論文を作成する能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 微積分、確率論、集合論を理解していることが望ましい。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学を受講していることが望ましい。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の基礎知識を身につけていることが望ましい。報告担当者が報告責任を全うしない場合、厳正に対処するので注意されたい。また、報告担当者以外の者がゼミの進行を妨げる行為をした場合にも厳正な対処をおこなう。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 資料の収集・作成 第8回～第15回 分析結果報告及び討論  |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023800G |
| 科目名   | ゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VI   |       |           |
| 担当者名  | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 春学期に続き、金融危機について学ぶ。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 岩田『金融危機の経済学』東洋経済新報社  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社 |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 出席、ゼミ参加の熱意   |       |           |
| 到達目標  | インターゼミに参加し、他大学のゼミ生と徹底した議論ができること。                                       |       |           |
| 準備学習  | インター-ゼミでの議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。                                 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 見学者も含めて、インターゼミに全員が参加できるようにしよう。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 12月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。<br> 内容は大恐慌、金融危機、に関する金融問題。   1. グループ1論文発表   2. グループ1論文発表  3. グループ2論文発表  4. グループ2論文発表  5. グループ3論文発表  6. グループ3論文発表  7. ディベート①  8. ディベート②  9. ディベート③  10. インター参加の注意と説明  11. 反省会  12. 論文まとめ①  13. 論文まとめ②  14. 論文まとめ③  15. 来年度にむけて諸注意 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2023800H |
| 科目名  | ゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VI  |       |           |
| 担当者名   | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | マクロマネーシステムを学ぶ。景気の良し悪しで、マネーと GDP、金利の関係がどう変わるかを調べる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (80%)、レポート (20%)                              |       |           |
| 到達目標   | マネー、GDP、金利の関係を明らかにする                              |       |           |
| 準備学習   | 経済学の基礎知識を確かなものしておく                                |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 休まずに出席すること   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.日銀の景況判断 DI 2.好況、不況時のマネー 3.precautionary demand の変動と推定 4.同上 5.同上 6.貨幣需要関数 (transaction demand) の推定 7.同上 8.同上 9.マネーと GDP と金利の関係 9.同上 10.同上 11.デフレの特徴 12.同上 13.インフレの特徴 14.同上 15.まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023800L |
| 科目名   | ゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VI   |       |           |
| 担当者名  | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミ 5 に引き続いて、各自のテーマで地域データに関するレポートを作成する。                           |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 指定しない。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 指定しない。   |       |           |
| 評価方法  | レポートで評価する。   |       |           |
| 到達目標  | ある程度まとまった分量のレポートを自分の力でまとめられるようになる。                               |       |           |
| 準備学習  | 講義よりも準備学習の方が時間を要するかもしれない。時間短縮も大切であるが、レポート作成に悩んで時間を使うことも時には重要である。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| コピーではなく、自分自身の発見をレポートにまとめるということを心掛けてもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 夏期休暇中の活動報告  2 レポート作成計画の確認  3～6 各自のテーマに基づいてレポート作成  7 進捗状況報告  8～11 レポート作成の継続  12～14 レポート報告  15 全体のまとめ |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023900A |
| 科目名   | サブゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 6   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本ゼミでは、現代日本における社会的な諸問題を中心に、広く東アジアの社会と文化をテーマとする。ゼミ 6 では、ゼミ 5 でのテーマとその探求を継続し発展させ、発表するとともに、卒業論文の準備をする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 未定   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配る。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミでの取り組み (60%) + 発表 (40%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代日本をはじめ東アジアにおける社会的・文化的諸問題・諸現象についての知識を増やしなが、自分の選んだテーマについての探求を正しい方法のもと行っていく。                        |       |           |
| 準備学習  | ゼミ以外の時間にも、各自のテーマに取り組んでほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 日本を含めて東アジアについての幅広い社会的・文化的諸問題・諸現象についての知識を広げるとともに、自分の決めたテーマの勉強を自分の力で進めていってほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 夏休みの報告とゼミの概要の説明   2 テーマの設定とその説明 (1)   3 テーマの設定とその説明 (2)   4 再び文献を読む (1)   5 再び文献を読む (2)   6 テーマについての調査 (1)   7 テーマについての調査 (2)   8 テーマについての調査 (3)   9 テーマについての調査 (4)   10 テーマについての調査 (5)   11 テーマについての調査 (6)   12 発表 (1)   13 発表 (2)   14 発表 (3)   15 発表 (4) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023900B |
| 科目名        | サブゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 6   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 株式会社の経営機構に関する理解を前提にして、企業経営に関する事例研究を行います。具体的には、成長する企業と不振に陥った企業について比較します。ゼミ生は一つの企業を選んで調査し、その結果をゼミ内で報告することとします。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) とゼミ内の報告 (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 企業によって業績に差が出る理由について理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 当然のことですが、毎回「きちんと出席すること。6回以上欠席すると単位を取得できないこととします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 事例研究を行うための資料の集め方  2 論文の書き方  3 事例研究のテーマ設定  4 ゼミ生による事例研究の報告  5 ゼミ生による事例研究の報告  6 ゼミ生による事例研究の報告  7 ゼミ生による事例研究の報告  8 ゼミ生による事例研究の報告  9 ゼミ生による事例研究の報告  10 ゼミ生による事例研究の報告  11 ゼミ生による事例研究の報告  12 ゼミ生による事例研究の報告  13 ゼミ生による事例研究の報告  14 ゼミ生による事例研究の報告  15 ゼミ生による事例研究の報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2023900C |
| 科目名        | サブゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 6   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマに沿ったゼミ論文の完成を目指す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | ゼミ論文(30%)、報告発表(40%)、課題への取り組み(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 定めたテーマに沿った論文を作成し、発表できる能力をみにつける。  |       |           |
| 準備学習       | 報告内容の事前確認を行い、必要な調査を行う。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常の情報収集と資料の整理に心がけ、積極的に活動すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 2.共通テーマの設定 3.論文の書き方 4.共通テーマ資料作成 5.共通テーマ資料作成 6.共通テーマ報告 7.ゼミ論文の作成 8.ゼミ論文の作成 9.ゼミ論文の作成 10.中間報告 11.中間報告 12.ゼミ論文の作成 13.ゼミ論文の作成 14.ゼミ論文の提出と発表 15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2023900D |
| 科目名   | サブゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 6  |       |           |
| 担当者名  | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業論文の作成に向けてゼミをおこなう。自分で作成した資料に基づき学生が報告を行い、報告内容に対して学生主体で討論をおこなう。討論の結果生じた課題は、次回報告までに改善しなければならない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 無   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜指定する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜指定する。   |       |           |
| 評価方法  | 報告態度 30% 討論への積極参加 30% 課題への取組30% 裁量 10%  |       |           |
| 到達目標  | 自分で資料を収集し、それを元に意見を取りまとめ、論文を作成する能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 微積分、確率論、集合論を理解していることが望ましい。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学を受講していることが望ましい。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の基礎知識を身につけていることが望ましい。報告担当者が報告責任を全うしない場合、厳正に対処するので注意されたい。また、報告担当者以外の者がゼミの進行を妨げる行為をした場合にも厳正な対処をおこなう。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 資料の収集・作成 第8回～第15回 分析結果報告及び討論  |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2023900F |
| 科目名        | サブゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 6  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミ 5 に引き続き、各自の設定したテーマに沿ってゼミ論文の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献 (テーマ) について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、就職活動を念頭に置いて、時事問題についての解説やそれに関する討論を行う場合がある。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%)、報告等 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 基礎ゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。 ・毎回必ず1回以上発言 (質問等) をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</li> </ul>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.イントロダクション 2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1) 3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2) 4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3) 5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4) 6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1) 7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2) 8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3) 9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4) 10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1) 11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2) 12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3) 13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4) 14.ゼミ論文についての最終報告(1) 15.ゼミ論文についての最終報告(2) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2023900G |
| 科目名  | サブゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 6   |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 春学期に続き、金融危機について学ぶ。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 岩田『金融危機の経済学』東洋経済新報社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ホールとファ-グソン『大恐慌』多賀出版 パーカー『大恐慌を見た 11 人の経済学者はどう生きたか』中央経済社 田中『現代日本経済』日本評論社 |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 出席、ゼミ参加の熱意   |       |           |
| 到達目標   | インターゼミに参加し、他大学のゼミ生と徹底した議論ができること。                                       |       |           |
| 準備学習   | インターゼミでの議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。                                  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 見学者も含めて、インターゼミに全員が参加できるようにしよう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 12月のインターゼミ参加に合わせて、夏休み中に論文作成に取り組む。9,10,11月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。<br> 内容は、大恐慌、金融危機、に関する金融問題。   1. グループ1論文発表   2. グループ1論文発表  3. グループ2論文発表  4. グループ2論文発表  5. グループ3論文発表  6. グループ3論文発表  7. ディベート①  8. ディベート②  9. ディベート③  10. インター参加の注意と説明  11. 反省会  12. 論文まとめ①  13. 論文まとめ②  14. 論文まとめ③  15. 来年度にむけて諸注意 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2023900H |
| 科目名  | サブゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 6                                  |       |           |
| 担当者名   | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | マクロマネーシステムを学ぶ。景気の良し悪しで、マネーと GDP、金利の関係がどう変わるかを調べる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (80%)、レポート (20%)                              |       |           |
| 到達目標   | マネー、GDP、金利の関係を明らかにする                              |       |           |
| 準備学習   | 経済学の基礎知識を確かなものしておく                                |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 休まずに出席すること   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.日銀の景況判断 DI 2.好況、不況時のマネー 3.precautionary demand の変動と推定 4.同上 5.同上 6.貨幣需要関数 (transaction demand) の推定 7.同上 8.同上 9.マネーと GDP と金利の関係 9.同上 10.同上 11.デフレの特徴 12.同上 13.インフレの特徴 14.同上 15.まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2023900L |
| 科目名   | サブゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 6   |       |           |
| 担当者名  | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミ 5 に引き続いて、各自のテーマで地域データに関するレポートを作成する。                           |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 指定しない。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 指定しない。   |       |           |
| 評価方法  | レポートで評価する。   |       |           |
| 到達目標  | ある程度まとまった分量のレポートを自分の力でまとめられるようになる。                               |       |           |
| 準備学習  | 講義よりも準備学習の方が時間を要するかもしれない。時間短縮も大切であるが、レポート作成に悩んで時間を使うことも時には重要である。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| コピーではなく、自分自身の発見をレポートにまとめるということを心掛けてもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 夏期休暇中の活動報告  2 レポート作成計画の確認  3～6 各自のテーマに基づいてレポート作成  7 進捗状況報告  8～11 レポート作成の継続  12～14 レポート報告  15 全体のまとめ |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024000A |
| 科目名        | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文作成前に準備となる学習を行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 日本経済, 地域経済に関する書籍等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 2011 年度ゼミ 6 でまとめられた資料   |       |           |
| 評価方法       | 学習への取り組み方で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文のテーマを決定できる知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ 4 からゼミ 6 までの内容を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動の進捗状況により, 学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし, 成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが, 就職活動と学習を並行して行うことは有益な経験となるはずである。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回 授業計画の確認 第 2 回 振り返り学習 1 第 3 回 振り返り学習 2 第 4 回 日本経済についての資料研究 第 5 回 日本経済についての資料研究 第 6 回 日本経済についての資料研究 第 7 回 地域経済についての資料研究 第 8 回 地域経済についての資料研究 第 9 回 地域経済についての資料研究 第 10 回 研究テーマ設定 第 11 回 研究テーマ設定 第 12 回 研究テーマ設定 第 13 回 研究計画作成 第 14 回 研究計画作成 第 15 回 展望報告会 |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024000C |
| 科目名        | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 財務と証券市場の面から株式会社に関する理解を深める。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) と授業内レポート (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 財務諸表に関する基礎的な知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動のさなかとは思いますが、きちんと出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 貸借対照表の見方  2 損益計算書の見方  3 証券取引所の仕組み  4 上場会社  5 破綻企業の処理①私的整理  6 破綻企業の処理②法的整理  7 時事問題研究  8 時事問題研究  9 時事問題研究  10 時事問題研究  11 時事問題研究  12 時事問題研究  13 時事問題研究  14 時事問題研究  15 時事問題研究 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |                             |       |           |
|--|-----------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                        | 授業コード | J2024000D |
| 科目名  | ゼミ 7                        | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VII                 |       |           |
| 担当者名   | 尾崎 タイヨ                      | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業研究の準備、特に課題を設定し、資料を集め発表する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |                             |       |           |
| 教材 (参考文献)  |                             |       |           |
| 教材 (その他)   |                             |       |           |
| 評価方法   | 平常点で評価します。                  |       |           |
| 到達目標   | 資料収集と分析結果のイメージを形成すること       |       |           |
| 準備学習   | 特にありません                     |       |           |
| 受講者への要望  |                             |       |           |
| 課題の設定と関連資料の収集はみんなのノルマを設定しますから、期限等を確実に守って下さい。   |                             |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                             |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回 課題に関する討論会 第3回 課題リストの作成 第4回 各自課題の参考資料・文献を見いだす 第5回 その2 第6回 中間発表会 第7回 中間発表会その2 第8回 分析 第9回 分析その2 第10回 分析その2 第11回 分析結果の発表その1 第12回 その2 第13回 その3 第14回 全体のまとめ 第15回 その2 |                             |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024000E |
| 科目名   | ゼミ 7   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VII  |       |           |
| 担当者名  | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代日本の社会経済問題の内容と背景を理解し、それへの政策対応の効果について研究する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 総務省統計局『日本の統計 2012』 (財) 日本統計協会  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、案内・配布する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜、案内・配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内発表+レポート 50% 期末課題 50%  |       |           |
| 到達目標  | (1) 卒業論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、現代日本の社会経済問題について一定範囲の理解に到達する。 (2) 現代日本の社会経済問題を分析対象として取り上げ、分析の視点および方法を中心に学ぶ、分析の基本技術を身に付ける。 |       |           |
| 準備学習  | (1) 日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通す。 (2) 重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| (1) 「大学で何を学んだことは何か」と問われて、テーマと同時にその内容について一定の説明ができる程度まで勉強をすることを要求する。 (2) 「知識・理解」と同時に、説明力を磨くことを意識して取り組んでほしい。 (3) あらゆるテーマを将来の希望進路・業界に関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回: 資料配布と担当テーマの決定 第2回・第3回: 関連資料の収集 第4回-第13回: 研究報告 第14回-第15回: 卒論のテーマ選択の準備   |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024000F |
| 科目名  | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名   | 西藤 二郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ゼミ 6 に引き続き ①：個別の交通社会資本を取り上げ、②：それがどのような資金で整備され ③：今後の整備方法としてはどのようなものが考えられるか ④：地方における当該交通社会資本の整備の問題点を考える |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 話題ごとにプリント教材配布   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 話題ごとに適宜指示   |       |           |
| 教材 (その他)   | 話題ごとに情報検索   |       |           |
| 評価方法   | 1.発表内容 (50%)  2.質疑応答 (30%)  3.協力態度. (20%)   |       |           |
| 到達目標   | 協同して作業を行う (協働力)  仲間と話し合ってみとめられる (コミュニケーション力)  新しい発見 (課題発見力)   |       |           |
| 準備学習   | 新聞・雑誌などのニュースを見聞きしておく  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 毎回の出席と、自主的な態度 (発言) を求める  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 毎回の要領 第 1 回目：ゼミ運営の方法について  クラスを 5 つのチームに分け、各チームによる発表 第 2 回目~6 回目：共通テーマに関する論文の要旨発表  ..質疑応答 第 7 回目:二つ目のテーマを選ぶ 第 8 回目~12 回め:二つ目のテーマの要旨発表  質疑応答 第 13 回目~15 回目：優秀チームの発表と質疑応答  合評 |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024000G |
| 科目名  | ゼミ 7   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VII  |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒論作成に取り組む。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 春学期と同様のテキストを使うが、終了すれば他のテキストを使う。新しいテキストは春学期の全員の理解度を考慮して決める。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済  『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『デフレの経済学』 東洋経済  『まずデフレを止めよ』 日本経済新聞社  『昭和恐慌の研究』 東洋経済  『日本経済を学ぶ』 ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いのか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』 (上巻) 講談社  『経済論戦は蘇る』 東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況』 講談社 </p> |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 卒論の前段階になるレポートによって評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 卒論の最終的内容を頭でイメージできるようにする。その内容を 5 分間、ゼミの時間にメモなしで話せるようになる。  |       |           |
| 準備学習   | 卒論用の資料を集める。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 卒論作成がこのゼミの最終目標であることを忘れないこと。この時期就職活動と重なりゼミに出席できないことがあるが、必ず欠席の旨メールで担当者に連絡すること。担当者と密接に連絡を取らねばならない。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていないといけない。   1. 卒論についての説明  2. テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介  3. テーマおよび論文概要報告①  4. テーマおよび論文概要報告②  5. テーマおよび論文概要報告③  6. テーマおよび論文概要報告④  7. テーマおよび論文概要報告⑤  8. テーマおよび論文概要報告⑥  9. テーマおよび論文概要報告⑦  10. テーマおよび論文概要報告⑧  11. 卒論概要論文の提出とコメント①  12. 卒論概要論文の提出とコメント②  13. 卒論概要論文の提出とコメント③  14. 全体の総括  15. 夏休み中の論文作成の方針指導</p> |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|             |   |       |           |
|-------------|---|-------|-----------|
| 年度          | 2012  | 授業コード | J2024000H |
| 科目名         | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名        | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要        | デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性  |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)    |   |       |           |
| 評価方法        | 卒業論文の出来上がり  |       |           |
| 到達目標        | 卒業論文完成  |       |           |
| 準備学習        | 3 回生時の金融システムの理解   |       |           |
| 受講者への要望     |   |       |           |
| 出来るだけ出席すること |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
|             | 1.卒業論文作成(デフレ時のマネー変動)  2.同上 3.同上 4.同上 5.インフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罫の検証 14.同上 15.同上 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20240001 |
| 科目名   | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名  | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミ 8 (秋学期) に卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。ゼミ 7 では、最近話題となっている書物を取りあげ、本の読み方のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら、読む力と理解力の向上を目指す。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 本田雅一『iCloud とクラウドメディアの夜明け』(ソフトバンク新書) 2011 年   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じて、適宜プリントや資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標  | 卒論を書くためには、専門書を読むことが必要となる。共通のテキストを「輪読する」ことによって、専門書を正確に読むためのノウハウと要点を指導する。   |       |           |
| 準備学習  | テキストを事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞書やインターネット検索等によって、必ず調べる習慣を身につけること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 就活でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミに休まないこと。そのため担当教員との連絡を常に密にすることを望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ゼミ 7 のシラバス説明   2. 読書の仕方: 専門書の読み方   3. 輪読(1)   4. 論読(2)   5. 輪読(3)   6. 討論会(1)   7. 輪読(4)   8. 輪読(5)   9. 輪読(6)   10. 討論会(2)   11. 輪読(7)   12. 輪読(8)   13. 輪読(9)   14. 討論会(3)   15. ゼミ 7 の総括と卒論について |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024000J |
| 科目名        | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミ 6 までに得た知識をもとに、各自のテーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献(テーマ)について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(その他)    | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(60%)、報告等(40%)   |       |           |
| 到達目標       | 各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて十分な知識を得ること。  |       |           |
| 準備学習       | 各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集すること。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。ただし、就職活動による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、別途、担当者の指示を受けること。 ・毎回必ず1回以上発言(質問等)をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.各自のテーマ報告 2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1) 3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2) 4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3) 5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4) 6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1) 7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2) 8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3) 9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4) 10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1) 11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2) 12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3) 13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4) 14.今学期のまとめ(1.これまでの総括) 15.今学期のまとめ(2.今後の方針)</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024000K |
| 科目名        | ゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VII   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文の素案づくりの研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 「日本経済新聞」およびその他関連資料から抜粋し適時配布する   |       |           |
| 評価方法       | 「調査報告」(20%)+「中間進捗報告」(20%)+「卒業論文」素案(30%)+平常点(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 1. 「情報社会における技術戦略」、「イノベーションと技術戦略」、「情報社会における第二創業」、「地域資源とイノベーション」等の卒業論文テーマに関する専門知識の習得 2. 調査研究計画に基づいた「卒業論文」の素案完成  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文テーマの関連知識を深く学習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1)「卒業論文テーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「卒業論文テーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 2. 「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認 3. 「卒業論文」のテーマ選択・決定 4. 各自テーマの関連資料の調査報告(1) 5. 各自テーマの関連資料の調査報告(2) 6. 各自テーマの関連資料の調査報告(3) 7. 各自テーマの関連資料の調査報告(4) 8. 「卒業論文」の中間進捗の報告(1) 9. 「卒業論文」の中間進捗の報告(2) 10. 各自テーマの関連資料の調査報告(5) 11. 各自テーマの関連資料の調査報告(6) 12. 「卒業論文」の中間進捗の報告(3) 13. 「卒業論文」の中間進捗の報告(4) 14. 「卒業論文」の素案提出および発表 15. まとめ</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024100A |
| 科目名        | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文作成前に準備となる学習を行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 日本経済, 地域経済に関する書籍等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 2011 年度ゼミ 6 でまとめられた資料   |       |           |
| 評価方法       | 学習への取り組み方で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文のテーマを決定できる知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ 4 からゼミ 6 までの内容を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動の進捗状況により, 学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし, 成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが, 就職活動と学習を並行して行うことは有益な経験となるはずである。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回 授業計画の確認 第 2 回 振り返り学習 1 第 3 回 振り返り学習 2 第 4 回 日本経済についての資料研究 第 5 回 日本経済についての資料研究 第 6 回 日本経済についての資料研究 第 7 回 地域経済についての資料研究 第 8 回 地域経済についての資料研究 第 9 回 地域経済についての資料研究 第 10 回 研究テーマ設定 第 11 回 研究テーマ設定 第 12 回 研究テーマ設定 第 13 回 研究計画作成 第 14 回 研究計画作成 第 15 回 展望報告会 |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024100B |
| 科目名        | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 財務と証券市場の面から株式会社に関する理解を深める。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) と授業内レポート (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 財務諸表に関する基礎的な知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動のさなかとは思いますが、きちんと出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 貸借対照表の見方  2 損益計算書の見方  3 証券取引所の仕組み  4 上場会社  5 破綻企業の処理①私的整理  6 破綻企業の処理②法的整理  7 時事問題研究  8 時事問題研究  9 時事問題研究  10 時事問題研究  11 時事問題研究  12 時事問題研究  13 時事問題研究  14 時事問題研究  15 時事問題研究 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |                             |       |           |
|--|-----------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                        | 授業コード | J2024100C |
| 科目名  | サブゼミ 7                      | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 7            |       |           |
| 担当者名   | 尾崎 タイヨ                      | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業研究の準備、特に課題を設定し、資料を集め発表する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |                             |       |           |
| 教材 (参考文献)  |                             |       |           |
| 教材 (その他)   |                             |       |           |
| 評価方法   | 平常点で評価します。                  |       |           |
| 到達目標   | 資料収集と分析結果のイメージを形成すること       |       |           |
| 準備学習   | 特にありません                     |       |           |
| 受講者への要望  |                             |       |           |
| 課題の設定と関連資料の収集はみんなのノルマを設定しますから、期限等を確実に守って下さい。   |                             |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                             |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回 課題に関する討論会 第3回 課題リストの作成 第4回 各自課題の参考資料・文献を見いだす 第5回 その2 第6回 中間発表会 第7回 中間発表会その2 第8回 分析 第9回 分析その2 第10回 分析その2 第11回 分析結果の発表その1 第12回 その2 第13回 その3 第14回 全体のまとめ 第15回 その2 |                             |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024100D |
| 科目名   | サブゼミ 7   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 7   |       |           |
| 担当者名  | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代日本の社会経済問題の内容と背景を理解し、それへの政策対応の効果について研究する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 総務省統計局『日本の統計2010』 (財)日本統計協会  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、案内・配布する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜、案内・配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内発表+レポート 50% 期末課題 50%  |       |           |
| 到達目標  | (1) 卒業論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、現代日本の社会経済問題について一定範囲の理解に到達する。 (2) 現代日本の社会経済問題を分析対象として取り上げ、分析の視点および方法を中心に学ぶ、分析の基本技術を身に付ける。 |       |           |
| 準備学習  | (1) 日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通す。 (2) 重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| (1) 「大学で何を学んだことは何か」と問われて、テーマと同時にその内容について一定の説明ができる程度まで勉強をすることを要求する。 (2) 「知識・理解」と同時に、説明力を磨くことを意識して取り組んでほしい。 (3) あらゆるテーマを将来の希望進路・業界に関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回：資料配布と担当テーマの決定 第2回・第3回：関連資料の収集 第4回-第13回：研究報告 第14回-第15回：卒論のテーマ選択の準備   |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024100E |
| 科目名  | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名   | 西藤 二郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ゼミ 6 に引き続き ①：個別の交通社会資本を取り上げ、②：それがどのような資金で整備され ③：今後の整備方法としてはどのようなものが考えられるか ④：地方における当該交通社会資本の整備の問題点を考える |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 話題ごとにプリント教材配布   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 話題ごとに適宜指示   |       |           |
| 教材 (その他)   | 話題ごとに情報検索   |       |           |
| 評価方法   | 1.発表内容 (50%)  2.質疑応答 (30%)  3.協力態度. (20%)   |       |           |
| 到達目標   | 協同して作業を行う (協働力)  仲間と話し合ってみてまとめられる (コミュニケーション力)  新しい発見 (課題発見力)   |       |           |
| 準備学習   | 新聞・雑誌などのニュースを見聞きしておく  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 毎回の出席と、自主的な態度 (発言) を求める  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 毎回の要領 第 1 回目：ゼミ運営の方法について  クラスを 5 つのチームに分け、各チームによる発表 第 2 回目~6 回目：共通テーマに関する論文の要旨発表  ..質疑応答 第 7 回目:二つ目のテーマを選ぶ 第 8 回目~12 回め:二つ目のテーマの要旨発表  質疑応答 第 13 回目~15 回目：優秀チームの発表と質疑応答  合評 |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024100G |
| 科目名   | サブゼミ 7   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 7   |       |           |
| 担当者名  | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒論作成に取り組む。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 春学期と同様のテキストを使うが、終了すれば他のテキストを使う。新しいテキストは春学期の全員の理解度を考慮して決める。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済  『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『デフレの経済学』 東洋経済  『まずデフレを止めよ』 日本経済新聞社  『昭和恐慌の研究』 東洋経済  『日本経済を学ぶ』 ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いのか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』 (上巻) 講談社  『経済論戦は蘇る』 東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況』 講談社 |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 卒論の前段階になるレポートによって評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 卒論の最終的内容を頭でイメージできるようにする。その内容を 5 分間、ゼミの時間にメモなしで話せるようになる。  |       |           |
| 準備学習  | 卒論用の資料を集める。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 卒論作成がこのゼミの最終目標であることを忘れないこと。この時期就職活動と重なりゼミに出席できないことことがあるが、必ず欠席の旨メールで担当者に連絡すること。担当者とは密接に連絡を取らねばならない。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 5 月中に担当者と相談の上、各自の卒論のテーマを決めるが、その内容は金融危機および大恐慌に関するものとする。 7 月末までに卒論前のレポート提出、これにより成績評価をする。 脚注、参考文献の書き方が、卒論同様に整っていないといけない。   1. 卒論についての説明  2. テーマ設定のポイントおよび参考文献紹介  3. テーマおよび論文概要報告①  4. テーマおよび論文概要報告②  5. テーマおよび論文概要報告③  6. テーマおよび論文概要報告④  7. テーマおよび論文概要報告⑤  8. テーマおよび論文概要報告⑥  9. テーマおよび論文概要報告⑦  10. テーマおよび論文概要報告⑧  11. 卒論概要論文の提出とコメント①  12. 卒論概要論文の提出とコメント②  13. 卒論概要論文の提出とコメント③  14. 全体の総括  15. 夏休み中の論文作成の方針指導 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |                          |       |           |
|---|--------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                     | 授業コード | J2024100H |
| 科目名   | サブゼミ 7                   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 7         |       |           |
| 担当者名  | 森田 洋二                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性 |       |           |
| 教材 (テキスト)   |                          |       |           |
| 教材 (参考文献)   |                          |       |           |
| 教材 (その他)  |                          |       |           |
| 評価方法  | 卒業論文の出来上がり               |       |           |
| 到達目標  | 卒業論文完成                   |       |           |
| 準備学習  | 3 回生時の金融システムの理解          |       |           |
| 受講者への要望   |                          |       |           |
| 出来るだけ出席すること   |                          |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                          |       |           |
| 1.卒業論文作成(デフレ時のマネー変動)  2.同上 3.同上 4.同上 5.インフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罫の検証 14.同上 15.同上 |                          |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20241001 |
| 科目名   | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名  | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミ 8 (秋学期) に卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。ゼミ 7 では、最近話題となっている書物を取りあげ、本の読み方のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら、読む力と理解力の向上を目指す。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 本田雅一『iCloud とクラウドメディアの夜明け』(ソフトバンク新書) 2011 年   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じて、適宜プリントや資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標  | 卒論を書くためには、専門書を読むことが必要となる。共通のテキストを「輪読する」ことによって、専門書を正確に読むためのノウハウと要点を指導する。   |       |           |
| 準備学習  | テキストを事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞書やインターネット検索等によって、必ず調べる習慣を身につけること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 就活でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミに休まないこと。そのため担当教員との連絡を常に密にすることを望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ゼミ 7 のシラバス説明   2. 読書の仕方: 専門書の読み方   3. 輪読(1)   4. 論読(2)   5. 輪読(3)   6. 討論会(1)   7. 輪読(4)   8. 輪読(5)   9. 輪読(6)   10. 討論会(2)   11. 輪読(7)   12. 輪読(8)   13. 輪読(9)   14. 討論会(3)   15. ゼミ 7 の総括と卒論について |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024100J |
| 科目名        | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミ 6 までに得た知識をもとに、各自のテーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献(テーマ)について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生は報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。  なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 教材(その他)    | 各自のテーマに応じて収集すること。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(60%)、報告等(40%)   |       |           |
| 到達目標       | 各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて十分な知識を得ること。  |       |           |
| 準備学習       | 各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集すること。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。ただし、就職活動による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、別途、担当者の指示を受けること。 ・毎回必ず1回以上発言(質問等)をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.各自のテーマ報告 2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1) 3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2) 4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3) 5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4) 6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1) 7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2) 8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3) 9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4) 10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1) 11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2) 12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3) 13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4) 14.今学期のまとめ(1.これまでの総括) 15.今学期のまとめ(2.今後の方針)</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024100K |
| 科目名        | サブゼミ 7  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 7  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文の素案づくりの研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 「日本経済新聞」およびその他関連資料から抜粋し適時配布する   |       |           |
| 評価方法       | 「調査報告」(20%)+「中間進捗報告」(20%)+「卒業論文」素案(30%)+平常点(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 1. 「情報社会における技術戦略」、「イノベーションと技術戦略」、「情報社会における第二創業」、「地域資源とイノベーション」等の卒業論文テーマに関する専門知識の習得 2. 調査研究計画に基づいた「卒業論文」の素案完成  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文テーマの関連知識を深く学習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1)「卒業論文テーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「卒業論文テーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 2. 「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認 3. 「卒業論文」のテーマ選択・決定 4. 各自テーマの関連資料の調査報告(1) 5. 各自テーマの関連資料の調査報告(2) 6. 各自テーマの関連資料の調査報告(3) 7. 各自テーマの関連資料の調査報告(4) 8. 「卒業論文」の中間進捗の報告(1) 9. 「卒業論文」の中間進捗の報告(2) 10. 各自テーマの関連資料の調査報告(5) 11. 各自テーマの関連資料の調査報告(6) 12. 「卒業論文」の中間進捗の報告(3) 13. 「卒業論文」の中間進捗の報告(4) 14. 「卒業論文」の素案提出および発表 15. まとめ</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024200A |
| 科目名        | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自が設定したテーマに基づいて卒業論文を作成する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマにより異なる。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマにより教材・資料が必要となる。  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文作成に費やした努力によって評価する。 (論文自体の評価は別途行われる)  |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文作成のためにできる限り努力することが目標であり、上限は無い。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ 4 からゼミ 7 までの内容を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動の進捗状況により、学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし、成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが、就職活動と卒業論文の作成を並行して行うことは有益な経験となるはずである。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回 卒業論文の書き方 第 2 回 卒業論文のテーマ設定 第 3 回 卒業論文の作成と添削指導 第 4 回 卒業論文の作成と添削指導 第 5 回 卒業論文の作成と添削指導 第 6 回 中間報告 第 7 回 中間報告 第 8 回 中間報告 第 9 回 論文修正 第 10 回 論文修正 第 11 回 論文修正 第 12 回 論文修正 第 13 回 論文修正 第 14 回 最終報告 第 15 回 最終報告 |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024200B |
| 科目名        | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自が設定したテーマに基づいて卒業論文を作成してもらいます。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) とゼミ内における卒論の報告 (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 論文に求められる一定の要件を満たした卒業論文を作成する。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業論文は何度も書き直して一定の水準を超えるようにすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒業論文の書き方  2 卒業論文のテーマ設定  3 卒業論文の作成と添削指導  4 卒業論文の作成と添削指導  5 卒業論文の作成と添削指導  6 卒業論文の作成と添削指導  7 卒業論文の作成と添削指導  8 卒業論文の作成と添削指導  9 卒業論文の作成と添削指導  10 ゼミ生による卒業論文の報告  11 ゼミ生による卒業論文の報告  12 ゼミ生による卒業論文の報告  13 ゼミ生による卒業論文の報告  14 ゼミ生による卒業論文の報告  15 ゼミ生による卒業論文の報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024200C |
| 科目名  | ゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VIII  |       |           |
| 担当者名   | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業論文を作成する   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点と卒論で評価します。 卒論を提出することは絶対条件ですから、少なくとも卒論を提出しなければ評価対象になりません。 |       |           |
| 到達目標   | 良質な卒論を書くこと  |       |           |
| 準備学習   | 特にありません   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| この時期、単位数も充分で、出席がおっくうになる学生が多く見られます。 欠席は許しませんからご注意ください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回 卒論テーマの発表会 第3回 各自作業 第4回 その2 第5回 その3 第6回 中間発表 第7回 中間発表 第8回 各自作業 第9回 その2 第10回 その3 第11回 発表 第12回 発表その2 第13回 発表その3 第14回 発表その4 第15回 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024200E |
| 科目名        | ゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VIII  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。  卒業論文作成の大まかな手順は、(1)テーマ設定、(2)テーマの現状と背景に関する基本理解、(3)テーマに関する資料の収集と読み込み、(4)資料の系統立てた整理、(5)卒業論文の章立て、(6)卒業論文の執筆、(7)卒業論文の完成 である。これに沿った取り組みを指導していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに応じて、適宜、案内する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマに応じて、適宜、配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間報告 40% 卒業論文 60%   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成   |       |           |
| 準備学習       | (1) 資料収集とその読み込み   (2) 系統立てた資料の整理  |       |           |
| 受講者への要望    | 論文作成にはテーマの選択・設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。また、卒業論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒論を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：卒業論文の作成方法について   第2回：テーマ選択1：関心領域の絞込みと資料収集   第3・4回：テーマ選択2：分析視点の絞込みと資料収集   第5回：卒業論文の章立て作成と中間報告   第6回～第10回：卒業論文初校の作成   第11回：初校提出と中間報告   第12・13回：卒業論文第2校の作成   第14・15回：卒業論文提出と発表                                      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024200F |
| 科目名   | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名  | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒論指導をする。 春学期に自分が担当した問題ごとに、卒論執筆の指導  |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 課題に応じて、個別に提示   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 課題に応じて適宜指示   |       |           |
| 教材 (その他)  | 課題に応じて適宜指示   |       |           |
| 評価方法  | 卒論執筆の内容と姿勢を評価の対象とする 内容：(50%)  1.先行研究を十分に読破しているか 2.それを要領よくまとめているか 3.その中における問題点を認識しているか 姿勢：(50%)  1:時期までに、 2.何度も修正しているか 3.形式が守られているか を評価する |       |           |
| 到達目標  | 先行研究を充分理解する (論理的思考力・課題発見力)   |       |           |
| 準備学習  | 文献補充と検索をしておく   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 就職試験に合格するためには、明確なゼミでの勉強の内容と姿勢が求められることを自覚する  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 各自の進捗状況に応じて運用するが、おおむね次のステップで指導 第 1 ステップ  第 1 回：研究領域を考える  第 2 回：概要を書き出す  第 3 回：文献を書き出す 第 2 ステップ  第 4 回：章の構成を考える  第 5 回：文献を書き出す。 第 3 ステップ  第 6 回：執筆を始める  第 7 回：執筆に苦労した点を考える  第 8 回：文献を探す  第 9 回：朱を入れられたところを改訂する 第 4 ステップ  第 10 回：中間発表  第 11 回：中間発表で指摘された箇所を修正する 第 5 ステップ  第 12 回：第 1 グループ合同発表とコメント  第 13 回：第 2 グループ合同発表とコメント  第 14 回：第 3 グループ合同発表とコメント  第 15 回：合評 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024200G |
| 科目名  | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒論を作成する  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済  『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『デフレの経済学』 東洋経済  『まずデフレを止めよ』 日本経済新聞社  『昭和恐慌の研究』 東洋経済  『日本経済を学ぶ』 ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いのか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』 (上巻) 講談社  『経済論戦は蘇る』 東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況』 講談社 </p> |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 卒論の内容  |       |           |
| 到達目標   | 卒業論文の完成をめざす。   |       |           |
| 準備学習   | この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。 その後、何度も修正を求められる。 締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。   1. 各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告  2. 一次卒論報告① (以下毎時間 2-3 名が報告者となる)  3. 一次卒論報告②  4. 一次卒論報告③  5. 一次卒論報告④  6. 一次卒論報告⑤  7. 二次卒論報告①  8. 二次卒論報告②  9. 二次卒論報告③  10. 二次卒論報告④  11. 二次卒論報告⑤  12. 卒論最終チェック①  13. 卒論最終チェック②  14. 卒論最終チェック③  15. 卒論総括</p> |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024200H |
| 科目名        | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文の出来具合  |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成  |       |           |
| 準備学習       | 金融システムの理解  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席して卒業論文を完成させる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.卒業論文作成 (共和分計算による実証研究)  2.デフレ時のモデルと、流動性の罫の検証 3.同上 4.同上 5.同上 6.インフレ時のモデル 7.同上 8.同上 9.同上 10.全期間を通したモデル 11.同上 12.同上 13.同上 14.まとめ 15.同上 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024200I |
| 科目名  | ゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VIII  |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ゼミ 8 では卒論指導をおこなう。卒論の書き方から、卒論の完成までを、その基礎から徹底指導する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による。卒論の提出 (60%)  |       |           |
| 到達目標   | 自分が関心を持つテーマについて、卒業論文を作成することが最終目標となる。この目的を達するためには、まず自分の研究テーマに関連する基本文献や資料を収集し、それらを批判的に分析する作業が、第1段階として必要である。第2段階は、論文の作成であるが、このときのポイントは、とりあげる過去の研究の論点を整理した上で、自分の主張を明確に示すこと、そしてその主張を自分の言葉と表現で文章化することである。 |       |           |
| 準備学習   | 卒論作成の第1段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第1段階の作業におよそ3ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第2段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低3ヶ月程度の時間的余裕を見っておかなければならない。したがって、卒論作成の作業については、できるだけ早期に着手することが望ましい。                       |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力だからである。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ゼミ 8 (卒論) のシラバス説明   2. 卒論の書き方(1)   3. 卒論の書き方(2)   4. 卒論の書き方(3)   5. 概要報告(1)   6. 概要報告(2)   7. 概要報告(3)   8. 概要報告(4)   9. 中間報告(1)   10. 中間報告(2)   11. 中間報告(3)   12. 中間報告(4)   13. 卒論最終チェック(1)   14. 卒論最終チェック(2)   15. 卒論最終チェック(3) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024200J |
| 科目名  | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名   | 平田 謙輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ゼミ7に引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。そのために、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%)、報告等 (20%)、卒業論文 (60%)   |       |           |
| 到達目標   | 各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。   |       |           |
| 準備学習   | 各自の設定したテーマについて、必要な文献・資料を収集・分析し、十分な知識を得ること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の3分の1以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。ただし、就職活動による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、別途、担当者の指示を受けること。 ・毎回必ず1回以上発言(質問等)をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.ガイダンス (今学期の計画)  2.卒業論文の概要報告(1-1) 3.卒業論文の概要報告(1-2) 4.卒業論文の概要報告(1-3) 5.卒業論文の概要報告(1-4) 6.卒業論文の概要報告(1-5) 7.卒業論文の概要報告(2-1) 8.卒業論文の概要報告(2-2) 9.卒業論文の概要報告(2-3) 10.卒業論文の概要報告(2-4) 11.卒業論文の概要報告(2-5) 12.卒業論文の最終報告(1) 13.卒業論文の最終報告(2) 14.卒業論文の最終報告(3) 15.全体の総括 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024200K |
| 科目名        | ゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar VIII   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文完成のための研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時配布する   |       |           |
| 評価方法       | 「中間報告」(20%)+「卒業論文」(20%)+平常点(60%)   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文の素案内容の再確認  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1)「卒業論文テーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「卒業論文テーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 2. 「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認 3. 「卒業論文」のテーマ最終決定 4. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(1) 5. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(2) 6. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(3) 7. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(4) 8. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(5) 9. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(6) 10. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(7) 11. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(8) 12. 「卒業論文」の提出 13. 「卒業論文」の発表報告(1) 14. 「卒業論文」の発表報告(2) 15. まとめ</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024300A |
| 科目名        | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自が設定したテーマに基づいて卒業論文を作成する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマにより異なる。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマにより教材・資料が必要となる。  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文作成に費やした努力によって評価する。 (論文自体の評価は別途行われる)  |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文作成のためにできる限り努力することが目標であり、上限は無い。   |       |           |
| 準備学習       | ゼミ 4 からゼミ 7 までの内容を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 就職活動の進捗状況により、学習への集中力が影響を受けることと思われる。しかし、成人として社会生活を送る上では二つ以上の事柄に対してバランスを取りながら注力していかなければならない状況がほとんどである。早期に進路が決定するに越したことは無いが、就職活動と卒業論文の作成を並行して行うことは有益な経験となるはずである。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回 卒業論文の書き方 第 2 回 卒業論文のテーマ設定 第 3 回 卒業論文の作成と添削指導 第 4 回 卒業論文の作成と添削指導 第 5 回 卒業論文の作成と添削指導 第 6 回 中間報告 第 7 回 中間報告 第 8 回 中間報告 第 9 回 論文修正 第 10 回 論文修正 第 11 回 論文修正 第 12 回 論文修正 第 13 回 論文修正 第 14 回 最終報告 第 15 回 最終報告 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024300B |
| 科目名        | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自が設定したテーマに基づいて卒業論文を作成してもらいます。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業内で使用するテキストについては、その一部をコピーして配布するので、購入する必要はありません。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定せず、授業時に紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) とゼミ内における卒論の報告 (50%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 論文に求められる一定の要件を満たした卒業論文を作成する。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞の経済欄をふだんからよく読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業論文は何度も書き直して一定の水準を超えるようにすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒業論文の書き方  2 卒業論文のテーマ設定  3 卒業論文の作成と添削指導  4 卒業論文の作成と添削指導  5 卒業論文の作成と添削指導  6 卒業論文の作成と添削指導  7 卒業論文の作成と添削指導  8 卒業論文の作成と添削指導  9 卒業論文の作成と添削指導  10 ゼミ生による卒業論文の報告  11 ゼミ生による卒業論文の報告  12 ゼミ生による卒業論文の報告  13 ゼミ生による卒業論文の報告  14 ゼミ生による卒業論文の報告  15 ゼミ生による卒業論文の報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024300C |
| 科目名  | サブゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 8  |       |           |
| 担当者名   | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業論文を作成する   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点と卒論で評価します。 卒論を提出することは絶対条件ですから、少なくとも卒論を提出しなければ評価対象になりません。 |       |           |
| 到達目標   | 良質な卒論を書くこと  |       |           |
| 準備学習   | 特にありません   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| この時期、単位数も充分で、出席がおっくうになる学生が多く見られます。 欠席は許しませんからご注意ください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 ガイダンス 第2回 卒論テーマの発表会 第3回 各自作業 第4回 その2 第5回 その3 第6回 中間発表 第7回 中間発表 第8回 各自作業 第9回 その2 第10回 その3 第11回 発表 第12回 発表その2 第13回 発表その3 第14回 発表その4 第15回 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024300D |
| 科目名        | サブゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 8  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。  卒業論文作成の大まかな手順は、(1)テーマ設定、(2)テーマの現状と背景に関する基本理解、(3)テーマに関する資料の収集と読み込み、(4)資料の系統立てた整理、(5)卒業論文の章立て、(6)卒業論文の執筆、(7)卒業論文の完成 である。これに沿った取り組みを指導していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに応じて、適宜、案内する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自のテーマに応じて、適宜、配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間報告 40% 卒業論文 60%   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成   |       |           |
| 準備学習       | (1) 資料収集とその読み込み   (2) 系統立てた資料の整理  |       |           |
| 受講者への要望    | 論文作成にはテーマの選択・設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。また、卒業論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒論を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：卒業論文の作成方法について   第2回：テーマ選択1：関心領域の絞込みと資料収集   第3・4回：テーマ選択2：分析視点の絞込みと資料収集   第5回：卒業論文の章立て作成と中間報告   第6回～第10回：卒業論文初校の作成   第11回：初校提出と中間報告   第12・13回：卒業論文第2校の作成   第14・15回：卒業論文提出と発表                                      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024300E |
| 科目名   | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名  | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒論指導をする。 春学期に自分が担当した問題ごとに、卒論執筆の指導  |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 課題に応じて、個別に提示   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 課題に応じて適宜指示   |       |           |
| 教材 (その他)  | 課題に応じて適宜指示   |       |           |
| 評価方法  | 卒論執筆の内容と姿勢を評価の対象とする 内容：(50%)  1.先行研究を十分に読破しているか 2.それを要領よくまとめているか 3.その中における問題点を認識しているか 姿勢：(50%)  1：時期までに、 2.何度も修正しているか 3.形式が守られているか を評価する |       |           |
| 到達目標  | 先行研究を充分理解する (論理的思考力・課題発見力)   |       |           |
| 準備学習  | 文献補充と検索をしておく   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 就職試験に合格するためには、明確なゼミでの勉強の内容と姿勢が求められることを自覚する  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 各自の進捗状況に応じて運用するが、おおむね次のステップで指導 第 1 ステップ  第 1 回：研究領域を考える  第 2 回：概要を書き出す  第 3 回：文献を書き出す 第 2 ステップ  第 4 回：章の構成を考える  第 5 回：文献を書き出す。 第 3 ステップ  第 6 回：執筆を始める  第 7 回：執筆に苦労した点を考える  第 8 回：文献を探す  第 9 回：朱を入れられたところを改訂する 第 4 ステップ  第 10 回：中間発表  第 11 回：中間発表で指摘された箇所を修正する 第 5 ステップ  第 12 回：第 1 グループ合同発表とコメント  第 13 回：第 2 グループ合同発表とコメント  第 14 回：第 3 グループ合同発表とコメント  第 15 回：合評 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024300G |
| 科目名  | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒論を作成する  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>ホールとファーグソン 『大恐慌』 多賀出版 バーカ 『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』 中央経済社 安達誠司 『デフレは終わるのか』 東洋経済  『脱デフレの歴史分析』 藤原書店 岩田規久男 『デフレの経済学』 東洋経済  『まずデフレを止めよ』 日本経済新聞社  『昭和恐慌の研究』 東洋経済  『日本経済を学ぶ』 ちくま新書 原田泰 『デフレは何故怖いのか』 文春新書 若田部昌澄 『改革の経済学』 ダイヤモンド、2005 若田部昌澄 「失敗に学ぶマクロ経済政策」 『経済セミナー』 2007 年 4 月号から 8 月号に掲載 竹森俊平 『デフレは 3 度くる』 (上巻) 講談社  『経済論戦は蘇る』 東洋経済 林 『大恐慌のアメリカ』 岩波新書 秋元 『世界大恐慌』 講談社 侘美 『大恐慌型不況』 講談社 </p> |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 卒論の内容  |       |           |
| 到達目標   | 卒業論文の完成をめざす。   |       |           |
| 準備学習   | この時期、ほとんどの学生は就職活動を終了していると思われるので、自宅で卒論完成目指して全力を尽くすこと。何度も書き直しを求められるので、その覚悟が必要である。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 申すまでもなく、諸君の集大成としての卒業論文であるので、安易な論文は認められない。何度も書き直させられることを覚悟すること。教務課に提出しても、卒論としてのレベルに達していなければ当然却下されるので注意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>卒論の教務課への最終締切りは 1 月半ばであるが、12 月半ばまでに担当者に提出しなければならない。 その後、何度も修正を求められる。 締切り間際に、駆け込み的に直接教務課に提出しても、卒論として認められず、却下されるので注意すること。   1. 各ゼミ生の夏休み中の卒論進捗状況の報告  2. 一次卒論報告① (以下毎時間 2-3 名が報告者となる)  3. 一次卒論報告②  4. 一次卒論報告③  5. 一次卒論報告④  6. 一次卒論報告⑤  7. 二次卒論報告①  8. 二次卒論報告②  9. 二次卒論報告③  10. 二次卒論報告④  11. 二次卒論報告⑤  12. 卒論最終チェック①  13. 卒論最終チェック②  14. 卒論最終チェック③  15. 卒論総括</p> |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024300H |
| 科目名        | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文の出来具合  |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成  |       |           |
| 準備学習       | 金融システムの理解  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席して卒業論文を完成させる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.卒業論文作成 (共和分計算による実証研究)  2.デフレ時のモデルと、流動性の罫の検証 3.同上 4.同上 5.同上 6.インフレ時のモデル 7.同上 8.同上 9.同上 10.全期間を通したモデル 11.同上 12.同上 13.同上 14.まとめ 15.同上 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J2024300I |
| 科目名  | サブゼミ 8  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sub Colloquium 8  |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ゼミ 8 では卒論指導をおこなう。卒論の書き方から、卒論の完成までを、その基礎から徹底指導する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による。卒論の提出 (60%)  |       |           |
| 到達目標   | 自分が関心を持つテーマについて、卒業論文を作成することが最終目標となる。この目的を達するためには、まず自分の研究テーマに関連する基本文献や資料を収集し、それらを批判的に分析する作業が、第 1 段階として必要である。第 2 段階は、論文の作成であるが、このときのポイントは、とりあげる過去の研究の論点を整理した上で、自分の主張を明確に示すこと、そしてその主張を自分の言葉と表現で文章化することである。 |       |           |
| 準備学習   | 卒論作成の第 1 段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第 1 段階の作業におよそ 3 ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第 2 段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低 3 ヶ月程度の時間的余裕を見っておかなければならない。したがって、卒論作成の作業については、できるだけ早期に着手することが望ましい。                 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力だからである。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ゼミ 8 (卒論) のシラバス説明   2. 卒論の書き方(1)   3. 卒論の書き方(2)   4. 卒論の書き方(3)   5. 概要報告(1)   6. 概要報告(2)   7. 概要報告(3)   8. 概要報告(4)   9. 中間報告(1)   10. 中間報告(2)   11. 中間報告(3)   12. 中間報告(4)   13. 卒論最終チェック(1)   14. 卒論最終チェック(2)   15. 卒論最終チェック(3) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024300J |
| 科目名   | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名  | 平田 謙輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミ 7 に引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。そのために、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 各自のテーマに応じて収集すること。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (20%)、報告等 (20%)、卒業論文 (60%)   |       |           |
| 到達目標  | 各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。   |       |           |
| 準備学習  | 各自の設定したテーマについて、必要な文献・資料を収集・分析し、十分な知識を得ること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席、遅刻を厳禁する。 ・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には、単位を認定しない。ただし、就職活動による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、別途、担当者の指示を受けること。 ・毎回必ず 1 回以上発言 (質問等) をすること。 ・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。 ・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。</li> </ul> |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.ガイダンス (今学期の計画)  2.卒業論文の概要報告(1-1) 3.卒業論文の概要報告(1-2) 4.卒業論文の概要報告(1-3) 5.卒業論文の概要報告(1-4) 6.卒業論文の概要報告(1-5) 7.卒業論文の概要報告(2-1) 8.卒業論文の概要報告(2-2) 9.卒業論文の概要報告(2-3) 10.卒業論文の概要報告(2-4) 11.卒業論文の概要報告(2-5) 12.卒業論文の最終報告(1) 13.卒業論文の最終報告(2) 14.卒業論文の最終報告(3) 15.全体の総括          |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024300K |
| 科目名        | サブゼミ 8   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sub Colloquium 8   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。 その結果、こんにちでは社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、次のようなテーマについて卒業論文完成のための研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略論」 ②「イノベーションと技術戦略」 ③「情報社会における第二創業」  ④「地域資源とイノベーション」</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時配布する   |       |           |
| 評価方法       | 「中間報告」(20%)+「卒業論文」(20%)+平常点(60%)   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の完成  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文の素案内容の再確認  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1)「卒業論文テーマ」に興味をもつ。 2) 自分で問題意識をもって、「卒業論文テーマ」の調査研究をおこなう。 3) なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動できる。 4) ゼミメンバーと協調性がある。 5) ゼミを欠席しない。(やもうえず欠席する時は事前に欠席理由を連絡すること)</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 2. 「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認 3. 「卒業論文」のテーマ最終決定 4. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(1) 5. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(2) 6. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(3) 7. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(4) 8. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(5) 9. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(6) 10. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(7) 11. 「卒業論文」の中間進捗の報告と添削(8) 12. 「卒業論文」の提出 13. 「卒業論文」の発表報告(1) 14. 「卒業論文」の発表報告(2) 15. まとめ</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024400A |
| 科目名        | キャリアゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 5  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2011 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級  それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込   第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認   第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き (1)   第8回: 自己分析シート清書 (2)   第9回: 就職サイト登録 & E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文 (1) の作成   第12回: 自己PR文 (1) の完成   第13回: 自己PR文 (2) の作成   第14回: 自己PR文 (2) の完成   第15回: まとめ・総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024400B |
| 科目名        | キャリアゼミ5  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Career Development Seminar 5   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) プリント教材  (2) 2011就職ガイド  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「2011年度版・就職四季報」東洋経済新報社  「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイヤモンド社 等  |       |           |
| 教材(その他)    | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料   |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級 それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込  第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認  第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る  第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する  第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する  第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する  第7回: 自己分析シート下書き(1)  第8回: 自己分析シート清書(2)  第9回: 就職サイト登録&amp;E-testing への登録説明と活用方法  第10回: 自己分析シートの完成と提出  第11回: 自己PR文(1)の作成  第12回: 自己PR文(1)の完成  第13回: 自己PR文(2)の作成  第14回: 自己PR文(2)の完成  第15回: まとめ・総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024400C |
| 科目名        | キャリアゼミ5   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Career Development Seminar 5  |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) プリント教材  (2) 2011就職ガイド   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「2011年度版・就職四季報」東洋経済新報社  「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイヤモンド社 等   |       |           |
| 教材(その他)    | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級 それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込  第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認  第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き(1)   第8回: 自己分析シート清書(2)   第9回: 就職サイト登録&E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文(1)の作成  第12回: 自己PR文(1)の完成  第13回: 自己PR文(2)の作成  第14回: 自己PR文(2)の完成  第15回: まとめ・総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024400D |
| 科目名        | キャリアゼミ 5  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 5  |       |           |
| 担当者名       | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2011 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級  それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込   第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認   第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き (1)   第8回: 自己分析シート清書 (2)   第9回: 就職サイト登録 & E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文 (1) の作成   第12回: 自己PR文 (1) の完成   第13回: 自己PR文 (2) の作成   第14回: 自己PR文 (2) の完成   第15回: まとめ・総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024400E |
| 科目名        | キャリアゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 5   |       |           |
| 担当者名       | 森田 圭亮  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2011 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料   |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級  それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込   第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認   第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き (1)   第8回: 自己分析シート清書 (2)   第9回: 就職サイト登録 &amp; E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文 (1) の作成   第12回: 自己PR文 (1) の完成   第13回: 自己PR文 (2) の作成   第14回: 自己PR文 (2) の完成   第15回: まとめ・総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024400G |
| 科目名        | キャリアゼミ5   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Career Development Seminar 5  |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) プリント教材  (2) 2011就職ガイド   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「2011年度版・就職四季報」東洋経済新報社  「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイヤモンド社 等   |       |           |
| 教材(その他)    | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級 それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込  第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認  第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き(1)   第8回: 自己分析シート清書(2)   第9回: 就職サイト登録&E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文(1)の作成  第12回: 自己PR文(1)の完成  第13回: 自己PR文(2)の作成  第14回: 自己PR文(2)の完成  第15回: まとめ・総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024400H |
| 科目名        | キャリアゼミ 5   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 5   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2011 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料   |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級  それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込   第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認   第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き (1)   第8回: 自己分析シート清書 (2)   第9回: 就職サイト登録 &amp; E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文 (1) の作成   第12回: 自己PR文 (1) の完成   第13回: 自己PR文 (2) の作成   第14回: 自己PR文 (2) の完成   第15回: まとめ・総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024400L |
| 科目名        | キャリアゼミ5   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Career Development Seminar 5  |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) プリント教材  (2) 2011就職ガイド   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「2011年度版・就職四季報」東洋経済新報社  「絶対内定 2011」杉村太郎 ダイヤモンド社 等   |       |           |
| 教材(その他)    | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | 単位認定要件:  ①自己分析シート ②4つの検査模試 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing 初級 それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 文字通り、「自らのキャリア」について考える。 自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析法を指導する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回: スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、インターンシップ申込  第2回: 就職登録票、E-Testing 申込み、京学ナビ確認  第3回: 自分探し: 過去の自分を振り返る   第4回: 自分史1: 自分の歴史を整理する   第5回: 自分史2: 自分の歴史を整理する   第6回: 自分のウリ: 自分のセールス・ポイントを整理する   第7回: 自己分析シート下書き(1)   第8回: 自己分析シート清書(2)   第9回: 就職サイト登録&E-testing への登録説明と活用方法   第10回: 自己分析シートの完成と提出   第11回: 自己PR文(1)の作成  第12回: 自己PR文(1)の完成  第13回: 自己PR文(2)の作成  第14回: 自己PR文(2)の完成  第15回: まとめ・総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024500A |
| 科目名        | キャリアゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 6  |       |           |
| 担当者名       | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。   (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。   (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。   (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。   (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、webエントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによるwebエントリー⇒(最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー」   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J2024500B |
| 科目名   | キャリアゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Career Development Seminar 6   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)  | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料   |       |           |
| 評価方法  | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標  | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。  |       |           |
| 準備学習  | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。   (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。   (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。   (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。   (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、webエントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによるwebエントリー⇒(最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー」   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024500C |
| 科目名  | キャリアゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Career Development Seminar 6   |       |           |
| 担当者名   | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料   |       |           |
| 評価方法   | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標   | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。  |       |           |
| 準備学習   | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。   (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。   (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。   (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。   (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、web エントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによる web エントリー⇒ (最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J2024500E |
| 科目名  | キャリアゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Career Development Seminar 6   |       |           |
| 担当者名   | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材  (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料   |       |           |
| 評価方法   | ①履歴書 ②エントリーシート ③キャリアサポ面談 ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講 ⑤E-Testing 中級  それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標   | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。  |       |           |
| 準備学習   | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。  (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。  (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、web エントリー 第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによる web エントリー⇒ (最低100社) 第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成  第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成  第5回：履歴書を書く (1)  第6回：履歴書を書く (2)  第7回：エントリーシートを書く (1)  第8回：エントリーシートを書く (2)  第9回：エントリーシートを書く (3)  第10回：4回生による「就職活動体験セミナー 第11回：E-testing 第12回：E-testing  第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接 第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接 第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2024500G |
| 科目名        | キャリアゼミ 6   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 6   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料   |       |           |
| 評価方法       | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出   |       |           |
| 到達目標       | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。  (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。  (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、web エントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによる web エントリー⇒ (最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J2024500H |
| 科目名   | キャリアゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Career Development Seminar 6  |       |           |
| 担当者名  | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)  | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料  |       |           |
| 評価方法  | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標  | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。   |       |           |
| 準備学習  | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。  (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。  (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、web エントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによる web エントリー⇒ (最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024500I |
| 科目名        | キャリアゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 6  |       |           |
| 担当者名       | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。   (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。   (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。   (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。   (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、webエントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによるwebエントリー⇒(最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー」   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2024500L |
| 科目名        | キャリアゼミ 6  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Development Seminar 6  |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ5での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材   (2) 2011 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「2012 年度版・就職四季報」東洋経済新報社   「絶対内定 2012」杉村太郎 ダイアモンド社 等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 都学園大学キャリアサポート・センター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | ①履歴書   ②エントリーシート   ③キャリアサポ面談   ④就職対策講座 STEP1(基礎) の受講   ⑤E-Testing 中級   それぞれを所定の期日までに提出  |       |           |
| 到達目標       | 自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 自分のこれからを見通して、いまずべきことを確実にやる。  (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。  (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：仕事内容研究・企業研究 (1) キャリアゼミ6の概要説明、キャリアサポ注目企業リスト、就職ナビの活用方法確認、webエントリー   第2回：仕事内容研究・企業研究 (2) キャリアサポ企業リスト、およびマイナビと陸ナビによるwebエントリー⇒(最低100社)   第3回：仕事内容研究・企業研究 (3) ⇒シートの作成   第4回：仕事内容研究・企業研究 (4) ⇒シートの作成   第5回：履歴書を書く (1)   第6回：履歴書を書く (2)   第7回：エントリーシートを書く (1)   第8回：エントリーシートを書く (2)   第9回：エントリーシートを書く (3)   第10回：4回生による「就職活動体験セミナー」   第11回：E-testing   第12回：E-testing   第13回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第14回：面接の基本質問 (30) 面接の要領・グループ面接   第15回：総括：就職活動の心得・2月合同説明会にむけて |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20265001 |
| 科目名  | ネットワークセキュリティ論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Network Security  |       |           |
| 担当者名   | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | インターネットの普及とともに、ネットワークの世界も、サーバを攻撃対象とする不正アクセス、ユーザを対象とする詐欺など、現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースのOSであるLinux上で実験することにより、セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書： 独立行政法人 情報処理推進機構 著 「情報セキュリティ読本」改訂版 実教出版 500円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）  | レジメプリントとホームページ  |       |           |
| 評価方法   | 授業・出席と授業内レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この2つの項目を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。  |       |           |
| 準備学習   | 普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。 第二に大学の電子メールのIDを取得し、使い方を理解していること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.今日のセキュリティリスク 2.情報セキュリティの基礎 3.マルウェア(コンピュータウイルス)  4.見えない脅威とその対策 5.組織の一員としての情報セキュリティ対策 6.実際のセキュリティ対策 7.セキュリティ技術 8.Linuxでのセキュリティ技術 9.暗号 10.電子認証 11.暗号化通信 1 12.暗号化通信 2 13.ファイアウォール 14.情報セキュリティ関連の法規と制度 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20328001 |
| 科目名        | 金融入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Finance   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（30%）、試験（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 資産形成および生涯設計の基礎知識を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の目的  2. 経済の動き、証券市場の基本的仕組み  3. マネープランの必要性と金融商品  4. 債券の基礎知識  5. 債券投資の実際  6. 株式投資の魅力とリスク  7. 株価の変動要因  8. 決算書の見方  9. 主な投資指標の見方 10. 株式投資の判断 11. 投資信託をの基礎知識 12. 投資信託を選ぶポイント 13. 資産運用についての 14. 講義のまとめ1 15. 講義のまとめ2  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20329001 |
| 科目名  | 財政入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Public Finance  |       |           |
| 担当者名   | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識を活用して、政策にあり方について説明する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 無   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1.井堀 利宏「財政学（新経済学ライブラリ）」（2006/2） 2.畑農 鋭矢、林 正義、吉田 浩「財政学をつかむ（テキストブックス「つかむ」）」（2008/6/14） 3.小塩 隆士「コア・テキスト財政学（ライブラリ経済学コア・テキスト&最先端）」（2003/1） |       |           |
| 教材（その他）  | 無   |       |           |
| 評価方法   | 試験 70%、レポート 20%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標   | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識を確認し、それらを使って具体的に政策の在り方が議論できることを理解する。  |       |           |
| 準備学習   | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識について、予習復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ミクロ経済学やマクロ経済学をベースにして授業を進めるため、事前にこれらの学問について知識を深めておくことが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。 2.余剰分析（1） ミクロ経済学の基本的な考え方について説明する。 3.余剰分析（2） 余剰の概念を使って市場のゆがみについて説明する。 4.余剰分析（3） 余剰分析を使って市場独占の弊害を説明する。 5.余剰分析（4） 余剰分析を使って税がもたらす歪みについて説明する。 6.余剰分析（5） 余剰分析を使って関税の功罪について説明する。 7.余剰分析（6） 余剰分析を使って公害の問題について説明する。 8.IS-LM 分析（1） マクロ経済学の基本的な考え方について説明する。 9.IS-LM 分析（2） 財市場均衡および貨幣市場均衡について説明する。 10.IS-LM 分析（3） 乗数効果について説明する。 11.IS-LM 分析（4） クラウディング・アウトについて説明する。 12.IS-LM 分析（5） 財政政策と金融政策を併用する意味について説明する。 13.雇用対策 雇用対策の在り方について説明する。 14.少子高齢化対策 社会保障の在り方を中心に、少子高齢化社会における政策の在り方を説明する。 15.講義のまとめ これまでの講義のまとめを行う。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20330001 |
| 科目名        | 情報社会  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Society   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義で資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。レポート（35%）、定期試験（55%）  |       |           |
| 到達目標       | 情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。 講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.消費社会と情報社会  情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化  マスメディアの多様化と情報環境の変化、デジタル経済  2.情報技術  情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理  3.新しい情報技術  ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題  電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点  電子署名・電子認証、電子取引  4.情報システム  集中と分散、情報産業の多様化  コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業  5.情報と産業  情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化  企業倫理  高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット  6.情報と職業  労働・職業上の問題  情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質  職業と自己実現、職業観と職業意識  7.情報と個人  日常生活と情報システム、情報モラル、デジタル格差  個人情報保護、個人情報の取得・利用に際してのルール  知的財産、企業等による個人情報の利用  8.情報と著作権  情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権  知的所有権  9.情報と教育  人間形成、情報社会で求められる教育  情報環境、マルチメディア  10.IT 技術者  IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用  IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法  11.情報と通信  u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消  情報アクセスへの格差、情報格差  通信・放送の融合・連携  12.情報倫理 (1)  情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護  13.情報倫理 (2)  情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール  個人情報の保護  14.情報化と社会 (1)  高度情報通信社会の諸課題  情報化とグローバル化に伴う生活の変化  15.情報化と社会 (2)  産業、社会生活、モラル、人との関わり  現代社会の情報の意義役割の理解 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20348A01 |
| 科目名        | 話し方・コミュニケーション実践 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Speech and Communication (s)  |       |           |
| 担当者名       | 神谷 キヨ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「話す」ということは人と人とを繋ぐとても重要な活動である。「話し方」は人そのものである。音声言語表現、非言語表現（身振り、手振り、表情等）の双方で、人は他者とコミュニケーションを行う。何をどのような表情で話すのか、そのパターンは、何千通りもあるにもかかわらず、意図的な選択ではなく、習慣的な選択を行ってしまうのが日常の私達のありようではないだろうか。「話す」ことを如何にすればよいか。 この講義では、ロールプレイングやシュミレーション等の実践的な方法を取り入れ、よりよい「話し方」の方法を選択する力を育てていきたい。この講義を受講することにより、自分の「話し方」を知り、よりよい「話し方」について理解し、コミュニケーション力を身に付け、その結果、自分のキャリアアップに繋げていきたいと考える。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) 出席状況による。 授業中の課題 (20%) 最終レポート (50%)  |       |           |
| 到達目標       | <p>○自分の「話し方」を知り、よりよい「話し方」を理解し実践しようとする。 ○会議、報告、インタビュー等、様々な場面に応じた話し方について理解する。 ○ロールプレイングにしっかり取り組む。 ○シュミレーションに取り組む。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | シラバス授業計画を見ておく。授業中の課題を確認する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の実践を大事に取り組み、実践に生かして欲しい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>春学期 1. 「話す」ことに対する意識について・・・どのように自身の「話し方」を捉えているかを調査する。 2. 「話し方」の基本1・・・非言語要素を中心に一姿勢、表情 3. 「話し方」の基本2・・・言語要素を中心に一発声、滑舌、リズム 4. 自分について「話す」(1)・・・自己紹介のスピーチをするという設定で、内容を考える。 5. 自分について「話す」(2)・・・実際に自己紹介のスピーチを行う。 6. 同級生と「話す」(1)・・・与えられた題材について2人で会話を続ける。 7. 同級生と「話す」(2)・・・与えられた題材についてグループで会話を続ける。 8. メディアの話し方(1)・・・原稿を読む。 9. メディアの話し方(2)・・・コメント力について 10. メディアの話し方(3)・・・会議・報告をする 11. メディアの話し方(4)・・・司会をする力 12. メディアの話し方(5)・・・敬語について 13. コミュニケーション・ゲーム(1) 14. コミュニケーション・ゲーム(2) 15. 春学期の振り返り</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20349B0A |
| 科目名   | 話し方・コミュニケーション実践 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Speech and Communication (f)  |       |           |
| 担当者名  | 神谷 キヨ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「話す」ことは人と人を繋ぐとても重要な活動である。「話し方」は人そのものである。音声言語表現、非言語表現（身振り、手振り、表情等）の双方で、人は他者とコミュニケーションを行う。何をどのような表情で話すのか、そのパターンは、何千通りもあるにもかかわらず、意図的な選択ではなく、習慣的な選択を行ってしまうのが日常の私達のありようではないだろうか。「話す」ことを如何にすればよいか。 この講義では、ロールプレイングやシュミレーション等の実践的な方法を取り入れ、よりよい「話し方」の方法を選択する力を育んでいきたい。この講義を受講することにより、自分の「話し方」を知り、よりよい「話し方」について理解し、コミュニケーション力を身に付け、その結果、自分のキャリアアップに繋げていきたいと考える。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (30%) 出席状況による。 授業中の課題 (20%) 最終レポート (50%)  |       |           |
| 到達目標  | <p>○自分の「話し方」を知り、よりよき「話し方」を理解し実践しようとする。 ○会議、報告、インタビュー等、様々な場面に応じた話し方について理解する。 ○ロールプレイングにしっかり取り組む。 ○シュミレーションに取り組む。 </p>  |       |           |
| 準備学習  | シラバス授業計画を見とく。前時の課題を確認する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業中の実践を大事に取り組み、学習したことを実践に生かすようにして欲しい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 秋学期 16. インタビューの基本 (1)・・・取材力 17. インタビューの基本 (2)・・・インタビュー者からどんなことをどのように引き出すのか。 18. インタビューの基本 (3)・・・インタビューする相手を決める。 19. インタビューの実践 (1)・・・インタビューの準備ー構成、役割について 20. インタビューの実践 (2)・・・インタビューを行う。 21. インタビューの実践 (3)・・・インタビューの報告 22. 同級生と議論をする (1)・・・ディベートについて理解する。 23. 同級生と議論をする (2)・・・ディベートの準備を行う。 24. 同級生と議論をする (3)・・・ディベートを行う。 25. 同級生と議論をする (4)・・・ディベートを評価する。 26. プレゼンテーション力 (1)・・・何を使って自己表現を行うのか。 27. プレゼンテーション力 (2)・・・シュミレーションによるプレゼンテーション実践① 28. プレゼンテーション力 (3)・・・シュミレーションによるプレゼンテーション実践② 29. プレゼンテーション力 (3)・・・シュミレーションによるプレゼンテーション実践③ 30. 秋学期の振り返り |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20354A01 |
| 科目名        | 日本語学概論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study A  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本語史における音韻・文法・文字・表記・語彙の各分野の重要事項について通時的に概観する。基本的なことがらについても丁寧でわかりやすい説明を試み、本格的に日本語の勉強を始めるためのガイダンスとしたい。学習者にとって効果的でわかりやすい授業という見地から、ひとつひとつの項目について個別的、羅列的に論を展開することは避け、音韻、文法をはじめとする各項目が有機的繋がりを持ちながら変化を遂げてきた日本語のダイナミズムとも言うべきものを探りながら授業を進めていきたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『日本語要説』 ひつじ書房  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）と期末試験（50％）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | 日本語学の基礎知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 図書館等で、日本語の概説書を一冊読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の概要説明  2 日本語学の時代区分  3 古代語と近代語  4 各時代語の主な文献  5 日本語の音韻数の変遷  6 上代特殊仮名遣  7 唇音退化  8 ハ行転呼音現象  9 ヲコト点  10 変体仮名（1）  11 変体仮名（2）  12 仮名遣（1）  13 仮名遣（2）  14 アクセント  15 まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20354A0A |
| 科目名        | 日本語学概論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study A  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本語史における音韻・文法・文字・表記・語彙の各分野の重要事項について通時的に概観する。基本的なことがらについても丁寧でわかりやすい説明を試み、本格的に日本語の勉強を始めるためのガイダンスとしたい。学習者にとって効果的でわかりやすい授業という見地から、ひとつひとつの項目について個別的、羅列的に論を展開することは避け、音韻、文法をはじめとする各項目が有機的繋がりを持ちながら変化を遂げてきた日本語のダイナミズムとも言うべきものを探りながら授業を進めていきたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『日本語要説』 ひつじ書房  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）と期末試験（50%）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | 日本語学の基礎知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 図書館等で、日本語の概説書を一冊読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の概要説明  2 日本語学の時代区分  3 古代語と近代語  4 各時代語の主な文献  5 日本語の音韻数の変遷  6 上代特殊仮名遣  7 唇音退化  8 ハ行転呼音現象  9 ヲコト点  10 変体仮名（1）  11 変体仮名（2）  12 仮名遣（1）  13 仮名遣（2）  14 アクセント  15 まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20354B01 |
| 科目名  | 日本語学概論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study B  |       |           |
| 担当者名   | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本語が最も大きく変化した室町後期の資料を実際に見ることによって、日本語を研究する上で勘案しなければならない重要な点を体得させる。特に、狂言詞章、キリシタン資料には十分な時間をとり、多方面からの分析を試みる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 市販の教材は使用しない。コピーを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）と期末試験（50%）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標   | 語学資料を読み解く眼を育成する。   |       |           |
| 準備学習   | 実際の狂言をビデオなどで観ておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 授業の概要説明  2 学校文法の復習  3 古典文法の復習  4 中世語の資料  5 狂言のことば（1）  6 狂言のことば（2）  7 狂言のことば（3）  8 キリシタン資料の背景  9 加津佐版の研究  10 天草版の研究（1）  11 天草版の研究（2）  12 長崎版の研究  13 中国資料  14 朝鮮資料  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20354B0B |
| 科目名  | 日本語学概論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study B  |       |           |
| 担当者名   | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本語が最も大きく変化した室町後期の資料を実際に見ることによって、日本語を研究する上で勘案しなければならない重要な点を体得させる。特に、狂言詞章、キリシタン資料には十分な時間をとり、多方面からの分析を試みる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 市販の教材は使用しない。コピーを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）と期末試験（50%）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標   | 語学資料を読み解く眼を育成する。   |       |           |
| 準備学習   | 実際の狂言をビデオなどで観ておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 授業の概要説明  2 学校文法の復習  3 古典文法の復習  4 中世語の資料  5 狂言のことば（1）  6 狂言のことば（2）  7 狂言のことば（3）  8 キリシタン資料の背景  9 加津佐版の研究  10 天草版の研究（1）  11 天草版の研究（2）  12 長崎版の研究  13 中国資料  14 朝鮮資料  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2037900A |
| 科目名        | 特別演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Seminar                             |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | G デスクで課題を配布し、期日までにレポートとして提出してもらう。           |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）                                  |       |           |
| 到達目標       | 時事問題に対する理解を深める。                             |       |           |
| 準備学習       | オリエンテーション期間中に開催される説明会に参加すること。               |       |           |
| 受講者への要望    | レポートを4回全て提出すること。                            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 第1回課題の配布 2 第2回課題の配布 3 第3回課題の配布 4 第4回課題の配布 |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |      | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2037900B |
| 科目名        | 特別演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Seminar                             |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | G デスクで課題を配布し、期日までにレポートとして提出してもらう。           |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）                                  |       |           |
| 到達目標       | 時事問題に対する理解を深める。                             |       |           |
| 準備学習       | オリエンテーション期間中に開催される説明会に参加すること。               |       |           |
| 受講者への要望    | レポートを4回全て提出すること。                            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 第1回課題の配布 2 第2回課題の配布 3 第3回課題の配布 4 第4回課題の配布 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2037900C |
| 科目名        | 特別演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Seminar                             |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一                                       | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | G デスクで課題を配布し、期日までにレポートとして提出してもらう。           |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）                                  |       |           |
| 到達目標       | 時事問題に対する理解を深める。                             |       |           |
| 準備学習       | オリエンテーション期間中に開催される説明会に参加すること。               |       |           |
| 受講者への要望    | レポートを4回全て提出すること。                            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 第1回課題の配布 2 第2回課題の配布 3 第3回課題の配布 4 第4回課題の配布 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2037900D |
| 科目名        | 特別演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Seminar                             |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一                                       | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | G デスクで課題を配布し、期日までにレポートとして提出してもらう。           |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）                                  |       |           |
| 到達目標       | 時事問題に対する理解を深める。                             |       |           |
| 準備学習       | オリエンテーション期間中に開催される説明会に参加すること。               |       |           |
| 受講者への要望    | レポートを4回全て提出すること。                            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 第1回課題の配布 2 第2回課題の配布 3 第3回課題の配布 4 第4回課題の配布 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20386001 |
| 科目名       | キャリア形成ワークショップ   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Career Development Workshop   |       |           |
| 担当者名      | 西藤 二郎   | 旧科目名称 | 25        |
| 講義概要      | 本学では「コミュニケーション力」「協働力」「行動力」「適応力」「課題発見力」「論理的思考力」の6つの能力の育成を教育目標にかかげているが、この科目は、まさにその集大成を、グループワークを通じて鍛えることを目的とするものである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 毎回プリント配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 課題ごとに適宜指示   |       |           |
| 教材（その他）   | 課題ごとに適宜指示   |       |           |
| 評価方法      | 1.毎回の受講ノートを提出させそれを評価（50％） 2.チームプレーと積極的な提案力を評価（50％）  |       |           |
| 到達目標      | 分かりやすく伝えることができるようにする。 協力する能力を身につける。 論理的思考力を身につけるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | 前の時間の評価をどのようにして修正・実践すれば良いかを考える  |       |           |

#### 受講者への要望

1.積極的にグループディスカッションに参加する|2.日々の小さな夢（目標）を、どうすれば達成できるか（手段・方法）を考え、行動できるようにする|3.遅刻・欠席をせずに受講すること

#### 講義の順序とポイント

第1回目：講義の進め方と評価の方法|第2回目：昨年度の就職戦線を分析し、その問題点を指摘する|第3回目：問題解決能力とはどのような能力か|第4回目：帰納法・演繹法とはどのような論理展開をするのか|第5回目：帰納法・演繹法による論法の演習|第6回目：帰納法と演繹法との関係を理解する|第7回目：帰納法と演繹法の関係にもとづく論法の演習|第8回目：問題を解決するために思考方法を学習する|第9回目：因果関係にもとづく問題解決方法を学習する|第10回目：因果関係のパターンを考える|第11回目：因果関係ツリーを作成する|第12回目：思考方法の基本を学ぶ|第13回目：ゼロベース思考とはどのような思考方法か|第14回目：ゼロベース思考を用いた演習|第15回目：仮説思考とはどのような思考方法か|第16回目：仮説思考を用いた演習|第17回目：成果の出るグループワークをするための基本を学ぶ|第18回目：グループワークによる演習|第19回目：マーケティング的考え方の基本を学ぶ|第20回目：マーケティング活動の流れを理解する|第21回目：環境分析・ターゲットの特定・マーケティングミックスの策定を学ぶ|第22回目：アクションプラン作り・実行・検証・修正の考え方を学習する|第23回目：企業の取る戦略（アンゾフのマトリックス）を学習する|第24回目：事例（スニーカー、スポーツシューズ）を用いて市場浸透・市場開拓の戦略を考える|第25回目：事例（スニーカー、スポーツシューズ）を用いて市場開発・製品開発の戦略を考える|第26回目：事例（スニーカー、スポーツシューズ）を用いて企業の総合戦略を考える|第27回目：プレゼンテーションの要領を学習し、相互評価する（第1回目）|第28回目：プレゼンテーションの要領を学習し、相互評価する（第2回目）|第29回目：プレゼンテーションの要領を学習し、相互評価する（第3回目）|第30回目：まとめ

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20396A01 |
| 科目名   | 経済英書講読A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Readings of Foreign Texts in Economics A   |       |           |
| 担当者名  | 道和 孝治郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 英語文献の講読を通じて、経済学の基礎的な考え方、および専門用語の理解を正確にすることを目的とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 下記の参考文献に記載されたテキストのコピーを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | N. Gregory Mankiw (2007), 『Principles of Economics』 4th Edition                          |       |           |
| 教材（その他）   | 特になし   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%), 授業内テスト (30%), レポート (40%)   |       |           |
| 到達目標  | 1. 英語文献を通じて、経済学の基礎概念を正確に理解することを目的とする。 2. また、基礎学力にかかわる内容として英文音読、単語、文法事項、読解の力を付けることを目的とする。 |       |           |
| 準備学習  | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 必ず辞書を持参するようにして下さい。また、予習を前提とした講義を考えているので、予習はこの講義を受講する上での条件です。また、授業の内容をもとに授業内テストを数回行います。よって、復習も重要なので、必ず予習・復習をするようにして下さい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回：Market and Competition 第2回：Demand 第3回：Supply 第4回：Supply and Demand Together 第5回：復習 第6回：The Elasticity of Demand 第7回：The Elasticity of Supply 第8回：Three Applications of Supply, Demand, and Elasticity 第9回：Controls on Prices 第10回：Taxes 第11回：復習 第12回：Consumer Surplus 第13回：Producer Surplus 第14回：Market Efficiency 第15回：まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20478001 |
| 科目名  | 企業金融論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Economics for Business   |       |           |
| 担当者名   | 澤田 吉孝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 企業金融は金融論の一分野であり、とくに企業の資金調達の方法を中心に学びます。 具体的には、(1)資金調達手段の選択、(1)資金運用(投資)、そして(3)企業の実物投資です。 本講義では、企業金融における基本的な考え方を理解し、確認することを目的としている。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜プリントを配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 随時指示   |       |           |
| 教材（その他）  | 特になし。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(20%)；出席状況等による。定期試験(80%)。   |       |           |
| 到達目標   | 証券市場や金融市場について理解する。 企業金融における理論や技法の基礎的知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 企業金融の流れ、現状そして課題について初歩的な段階からはじめるので、特に準備などの必要はない。 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 企業金融輪なぜ学ぶか  2. 金融市場の役割 ①  3. 金融市場の役割 ②  4. 企業の資金調達 - 株式発行 ①  5. 企業の資金調達 - 株式発行 ②  6. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化 ①  7. 企業の資金調達 - 社債発行と証券化 ②  8. 企業の資金調達 - 銀行借入 ①  9. 企業の資金調達 - 銀行借入 ② 10. 企業の資金調達 - 銀行借入 ③ 11. コーポレートガバナンス ① 12. コーポレートガバナンス ② 13. 企業価値の財務的表現 ① 14. 企業価値の財務的表現 ② 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20482A01 |
| 科目名  | 日本文学概論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Studies of Japanese Literature A               |       |           |
| 担当者名   | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 平安時代の物語  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを用意する。                                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内の発言・毎回の小レポート 40% 期末レポート 60%                 |       |           |
| 到達目標   | 平安文学の中でも、特に物語を概観し、同時代の物語文学の状況について基礎的な知識を身につける。 |       |           |
| 準備学習   | 高校の日本史・文学史における平安時代の記述を読んでおくことが望ましい。            |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業内ではしばしば発言を求めるので、積極的に答えてほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 授業の概要について 2 竹取物語 1 アジアのファンタジー 3 竹取物語 2 結婚したくない女 求婚難題譚 4 竹取物語 3 月に帰る聖女 5 伊勢物語 1 在原業平・藤原高子との駆け落ち 6 伊勢物語 2 在原業平・伊勢斎宮との秘話 7 伊勢物語 3 在原業平・政治の裏側で 8 伊勢物語 4 愛と友情 9 落窪物語 1 虐待姫と玉の輿  10 落窪物語 2 特異なスカトロジー 11 蜻蛉日記 古物語よりリアルを！ 12 源氏物語 1 初めてのリアリズム  13 源氏物語 2 創作と権力 14 源氏物語 3 栄華と苦悩、光と闇 15 総括 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J20482A0A |
| 科目名  | 日本文学概論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Studies of Japanese Literature A               |       |           |
| 担当者名   | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 平安時代の物語  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを用意する。                                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内の発言・毎回の小レポート 40% 期末レポート 60%                 |       |           |
| 到達目標   | 平安文学の中でも、特に物語を概観し、同時代の物語文学の状況について基礎的な知識を身につける。 |       |           |
| 準備学習   | 高校の日本史・文学史における平安時代の記述を読んでおくことが望ましい。            |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業内ではしばしば発言を求めるので、積極的に答えてほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 授業の概要について 2 竹取物語 1 アジアのファンタジー 3 竹取物語 2 結婚したくない女 求婚難題譚 4 竹取物語 3 月に帰る聖女 5 伊勢物語 1 在原業平・藤原高子との駆け落ち 6 伊勢物語 2 在原業平・伊勢斎宮との秘話 7 伊勢物語 3 在原業平・政治の裏側で 8 伊勢物語 4 愛と友情 9 落窪物語 1 虐待姫と玉の輿  10 落窪物語 2 特異なスカトロジー 11 蜻蛉日記 古物語よりリアルを！ 12 源氏物語 1 初めてのリアリズム  13 源氏物語 2 創作と権力 14 源氏物語 3 栄華と苦悩、光と闇 15 総括 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20482B01 |
| 科目名   | 日本文学概論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Studies of Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 紫式部の人生  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 山本淳子『私が源氏物語を書いたわけ 紫式部ひとり語り』（角川学芸出版、2011年）定価 1400円 （一括購入するので個人で用意しなくてもよろしい。） |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内の発言・小レポート 40% 期末レポート 60%   |       |           |
| 到達目標  | 紫式部の人生と思想を知ること、平安時代の女性の置かれた状況、源氏物語を生んだ文化的土壌、人間の普遍的葛藤などを学ぶ。                  |       |           |
| 準備学習  | 文学史における源氏物語の位置づけについて知っておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業内ではしばしば意見を求めるので、積極的に発言してほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の概要 2 紫式部の少女期 3 越前に下る・恋 4 紫式部の夫 5 夫との死別 6 喪失の果てに 世と身と心 7 人生への再生 創作によって 8 源氏物語への問いかけ 1 9 源氏物語への問いかけ 2 10 不本意出仕と自己陶冶  11 本領発揮 漢文進講 12 彰子の出産 13 紫式部と道長 14 弟の死 ささやかな生への思い 15 総括 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J20482B0A |
| 科目名   | 日本文学概論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Studies of Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 紫式部の人生  |       |           |
| 教材(テキスト)  | 山本淳子『私が源氏物語を書いたわけ 紫式部ひとり語り』(角川学芸出版、2011年) 定価1400円 (一括購入するので個人で用意しなくてもよろしい。) |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内の発言・小レポート40% 期末レポート60%   |       |           |
| 到達目標  | 紫式部の人生と思想を知ること、平安時代の女性の置かれた状況、源氏物語を生んだ文化的土壌、人間の普遍的葛藤などを学ぶ。                  |       |           |
| 準備学習  | 文学史における源氏物語の位置づけについて知っておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業内ではしばしば意見を求めるので、積極的に発言してほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の概要 2 紫式部の少女期 3 越前に下る・恋 4 紫式部の夫 5 夫との死別 6 喪失の果てに 世と身と心 7 人生への再生 創作によって 8 源氏物語への問いかけ1 9 源氏物語への問いかけ2 10 不本意出仕と自己陶冶  11 本領発揮 漢文進講 12 彰子の出産 13 紫式部と道長 14 弟の死 ささやかな生への思い 15 総括 |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J20523001 |
| 科目名   | 家計金融論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Financial Economics for Household  |       |           |
| 担当者名  | 坂本 勝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>こだわりのライフスタイルがもてはやされる時代。 好きなように生きるのは個人の自由ですが、そこには「自己責任」の認識を持たなければなりません。 得をするのも損をするのも、自分の選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わります。 実社会では現実的に「知っている人は得をして、知らない人は損をする」ことが起こります。  この講座では、上手なライフプランの実現に必要な知識となるファイナンシャルプランニングを学びます。 金融商品・年金・保険・税金や実現の前提となる金融や経済情勢を、家計簿やチラシの見方、ポイントカード など日常生活の身近な事例から解説していきます。  人生 80 年、あなたのこれからの人生で、いくらの生活資金が必要でしょう？また、いくら準備できますか？ 全て、この視点を持って講義に参加してください。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義で適時プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 日々の新聞（新聞名は問わない） 朝刊・夕刊・曜日版など  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業中に行なう確認テスト（40%） レポート課題（20%） 定期テスト（40%）   |       |           |
| 到達目標  | 最終目標は、生涯に必要な資金計画を具体的に把握し、そのために必要な手立てが行なえる能力を身につけるレベルです。 全ての講義回はそのための基本知識です。  |       |           |
| 準備学習  | 新聞等経済ニュースには目を通すように。 毎回の確認テストにおいて、質問を行いません。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>各回の講義内容は難しいものではありません。 「面白そう」「ためになりそう」など履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。  経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。 日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。 半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1.ガイダンス   2.ライフプランニング①（一生涯に必要な金額）   3.ライフプランニング②（ライフイベントに必要な金額）   4.ライフプランニング③（社会保険制度の仕組み）   5.ライフプランニング④（年金制度の概要）   6.保険の知識①（生命保険の仕組み）   7.保険の知識②（損害保険の仕組み）   8.金融商品①（経済状況と金融の関連性）   9.金融商品②（各金融機関の特性と金融商品）   10.金融商品③（主な金融商品の知識）   11.金融商品④（投資型金融商品の知識）   12.不動産の知識①（不動産関連法規）   13.不動産の知識②（不動産の活用と税金）   14.生活に関連する税の知識①（所得税の仕組み）   15.生活に関連する税の知識②（消費税、相続・贈与税）</p> |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J2052500A |
| 科目名        | 経済学の扉   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Economics   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 毎回、経済学部所属の教員が自分の担当する専門科目と関連するテーマを取り上げ、その解説を通じて科目の面白さ、そして経済学的な視点・捉え方および分析の仕方を紹介する。「経済学とは何か?」「経済学の考え方とは何か?」「経済学で何が学べるか?」「経済学のどこが面白いのか?」といった基本的な質問に答えようとするのが本講義である。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回の講義で資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、指定・紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート・テスト 60% + 期末試験 40%  |       |           |
| 到達目標       | ① 経済学分野の各領域において特に重要な項目への基本的な理解を確実にする。 ② 現実の事象や問題への経済学の適用方法の基本を学ぶ。 ③ 各科目から明示される「5つの最重要項目」を確実に理解・記憶する。 ④ 学問としての経済学の研究領域の配置について、鳥瞰図的視点からのイメージを得る。  |       |           |
| 準備学習       | ① 翌週に取り上げられる科目について、シラバスにある講義概要等に目を通しておく。 ② シラバス記載の各項目について、必要に応じて調べ、一定の理解に到達しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①毎回の出席（入室は授業開始 20 分までとし、それ以降の入室は認めない。）  ②遅刻や途中退出には厳しく対処する。  ③毎回の担当者の指示に従うこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 2012 年度の担当者および講義タイトルは以下のような予定である。  第 1 回久下沼「講義の概要」：講義の目的、受講上の注意事項、成績評価方法、等々  第 2 回渡辺「経済学史」：経済学は進化する  第 3 回尾崎「計量経済学」：経済分析と統計、コンピュータの融合領域を学ぶ  第 4 回森田洋「時系列データ分析」：時間変動する経済データ（株価）はなぜ予測できないか?  第 5 回齋藤「ミクロ経済学」：対立と協調の数理－ゲームの理論・初歩の初歩－  第 6 回畔上「マクロ経済学」：通貨管理－お金はどこから生まれてどこに行くのか?－  第 7 回大野「西洋経済史」：西洋経済史の学び方－古代・中世・近代の時代区分を例にとって－  第 8 回西藤「交通経済論」：道路・港湾・空港などはどんな資金で整備すれば良いのか  第 9 回 川田「社会学概論」：公（仕事）と私（私生活）の分離と統合  第 10 回 森田敬「産業心理学」：働く人の意欲を高めるには－リーダーの心理学－  第 11 回宇佐美「情報社会と経済」：情報社会の進化で「経済」や「生活」はどのように変化していくのか?  第 12 回宮川「金融論」：バブルや不況はどうして起きるのか  第 13 回道和「国際金融論」：為替レートの決まり方  第 14 回森田圭「財政学」：公債発行の功罪  第 15 回久下沼「公共経済学」：政府の失敗－なぜ政府は政策に失敗するのか?!－ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J2056200A |
| 科目名        | 世界経済入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to the World Economy  |       |           |
| 担当者名       | 内山 隆夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 経済のグローバル化が急速に進展する今日、世界経済の動向および実情を的確に理解することは極めて重要です。この講義は3人の講師のリレー方式で実施され、ヨーロッパ（内山）、アジア（尾崎）、アメリカ（宮川）を中心にして世界経済の潮流を分析、紹介するものです。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席および講義内でおこなう小テスト  |       |           |
| 到達目標       | 世界経済の現状をおおまかに把握できること   |       |           |
| 準備学習       | 与えられた資料および紹介された参考文献をよく読むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | この講義では出席がとくに重視されるので、病気以外は絶対に休まないこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 世界の中の EU   2. 欧州統合の歴史---拡大の歴史---   3. 欧州統合の歴史---深化の歴史---   4. EU の政治機構と経済   5. リスボン戦略から新経済成長戦略「欧州2020」へ   6. 世界の中のアジア   7. 巨大国家、中国とインドの躍進   8. 東アジアの国々と社会   9. 奇蹟の経済成長と経済危機   10. 変貌する貿易・産業構造、日本・中国・アメリカ   11. 世界の中のアメリカ   12. 「大草原の小さな家」時代のアメリカ   13. 大恐慌のアメリカ   14. 偉大な社会、ケネディの時代からインフレと戦うレーガンの時代   15. サプライムショックと戦う、バーナンキのアメリカ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20565001 |
| 科目名  | 情報処理技術  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Processing Technology   |       |           |
| 担当者名   | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし 各講義で資料をネットワークから配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 教材から指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | ネットワークから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40％）学習履歴状況等による。e-learning により課す課題評価（60％）。   |       |           |
| 到達目標   | 社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。   |       |           |
| 準備学習   | 新技術・機器等の推移を知ることを心がける。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.講義の概要、e-learning の進め方  セキュリティ問題と対策  セキュリティと暗号技術、デジタル署名  システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性 2.基本的なデータ構造  各種データ構造の特徴  線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2分探索木  表計算  表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理 3.SQL 文から見たデータベース  テーブル作成からサブクエリ 4.データベース  データベースの種類と特徴  ファイル 正規化演習 5.リレーショナルデータベース  構造と正規化、設計 6.データベースを使ったデータ処理（1 正規化作業）  データ整理、集計、分析  7.データベースを使ったデータ処理（2 Select 文の基本）  データ整理、集計、分析  8.データベースと SQL（1 データ処理演習）  SQL 言語による操作  問い合わせ、副問い合わせ 9.データベースと SQL（2 流れのある処理）  SQL 言語による定義・生成と修正  表の設計、表・ビューの定義 10.データベースの設計・利用  演習 SQL 操作理解確認演習 11.SQL によるデータベースの定義・利用  演習 SQL・データベースまとめ課題 12.スクリプト(java)  スクリプト記述の基本  基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム  接続・繰り返し・判断  イベント処理 14.基本的なアルゴリズム  並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み  スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J20566001 |
| 科目名        | 情報社会と経済  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information and Economics  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおりつつある。 本講義は、この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？また、IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？すなわち、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、今後私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのかを考え習得する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適時指示する   |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメを適時配布  |       |           |
| 評価方法       | 「授業中の小テスト」(20%)+「レポート+試験」(50%)+「平常点」(30%)  |       |           |
| 到達目標       | IT イノベーションによる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するか等の知見の習得。  |       |           |
| 準備学習       | 情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会との違いを予習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 情報社会とは(1) 3. 情報社会とは(2) 4. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(1) 5. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(2) 6. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(3) 7. IT 革命が経済に与える影響 8. IT 革命への国の施策 9. 情報社会での各業界における新しい事業形態(1) 10. 情報社会での各業界における新しい事業形態(2) 11. 情報社会での各業界における新しい事業形態(3) 12. 情報社会での各業界における新しい事業形態(4) 13. 情報社会での各業界における新しい事業形態(5) 14. これからの高度情報社会での暮らしと経済 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J20569001 |
| 科目名       | Web技術応用  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Web Technological Application Theory   |       |           |
| 担当者名      | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Webアプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Webページ作成と効果的なWebページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述するHTML言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTMLの構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性とWeb技術を体系的に学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | ネットワークドライブから教材・資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 授業中に課す課題（70%）および課題Webページ作成（30%）により評価する。（課題Webページ作成は必修）   |       |           |
| 到達目標      | 目的に応じたWebページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。   |       |           |
| 準備学習      | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。   |       |           |

#### 受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

#### 講義の順序とポイント

1. ホームページとインターネット | インターネット技術の多様性 | 2. ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説 | Webアプリケーションを構築するために必要な機能 | 3. ホームページ作成ソフトとHTMLの解説 | 4. タグを用いたページの作成 | 基本的なタグの解説、画像を含むページの作成 | 5. ページ間リンク記述 | 演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用 | 6. ページの公開 | ウェブサーバ機能の解説 | 演習：サイト管理 | 7. ホームページ作成ソフトを用いたページの作成 | スタイルシートと適用 | 演習：スタイルシートの作成と適用 | 8. フレームを持つページの作成、各種リンクの作成 | 演習：フレームを持つページの作成 | 9. マルチメディアの組み込み | 演習：マルチメディアを含んだページの作成 | 10. HTMLとスクリプト | スクリプトの基礎、HTMLの生成、マウス処理 | 演習：スクリプトによる動的なページの作成 | 11. フォームとスクリプト処理 | フォームとスクリプトの利用、データベースの利用 | 演習：データベースとの連携 | 演習：アンケートページの作成 | 12. 情報モラルについて | 情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、 | プライバシーの保護 | 13. 既存資料からWebページの作成（携帯端末の利用） | 演習：既存資料からWebページの作成 | 14. Webページの作成と提出 | 演習：課題Webページ作成 | 15. Webページの作成と提出 | 演習：Webページの改善

| 人間力（6つの基礎力）                               | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待  | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20570A01 |
| 科目名  | ファイナンシャル・プランニング I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Financial Planning I  |       |           |
| 担当者名   | 山本 陽一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義ではファイナンシャル・プランニングIIと併せFPとしての基礎的なことを学ぶものとする。ファイナンシャル・プランニングIではFP基礎、ライフ・リタイアメントプランニング、タックスプランニングを軸に全体像を掌握し、FPの資格であるAFP資格審査試験取得の対応を図る。受講するにあたっては本講義では税金にも関連するため将来、税理士等の資格を目指す学生にも是非受講してもらいたい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ファイナンシャル・プランニング入門(日本FP協会)および、「FP基礎」学習時のテキストとして、FP総論(日本FP協会)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社   |       |           |
| 教材 (その他)   | 問題集の使用を予定   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(50%)小試験など   |       |           |
| 到達目標   | 難易度を高く設定はしないが、FPとしての基本を理解し、AFP資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。  |       |           |
| 準備学習   | AFP資格審査試験取得のみならず、学生諸君の将来においてのお金に関わる事象に興味を持って臨んでほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席し、AFP資格審査試験取得を目指すならば復習もきっちりしてもらいたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味  2. FPの社会的役割  3. 社会的責任とコンプライアンス  4. FPの職業倫理  5. 個人におけるファイナンス  6. 金融・経済の知識  7. 財形制度  8. 教育資金設計  9. 住宅資金設計 10. 社会保険 11. 公的年金 12. 企業年金・個人年金 13. 利子所得・配当所得・不動産所得 14. 事業所得・給与所得・退職所得 15. 山林所得・譲渡所得・一時所得・雑所得 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J20570A0A |
| 科目名  | ファイナンシャル・プランニング I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Financial Planning I  |       |           |
| 担当者名   | 山本 陽一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義ではファイナンシャル・プランニングIIと併せFPとしての基礎的なことを学ぶものとする。ファイナンシャル・プランニングIではFP基礎、ライフ・リタイアメントプランニング、タックスプランニングを軸に全体像を掌握し、FPの資格であるAFP資格審査試験取得の対応を図る。受講するにあたっては本講義では税金にも関連するため将来、税理士等の資格を目指す学生にも是非受講してもらいたい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ファイナンシャル・プランニング入門(日本FP協会)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社   |       |           |
| 教材 (その他)   | 問題集の使用を予定   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(50%)小試験など   |       |           |
| 到達目標   | 難易度を高く設定はしないが、FPとしての基本を理解し、AFP資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。  |       |           |
| 準備学習   | AFP資格審査試験取得のみならず、学生諸君の将来においてのお金に関わる事象に興味を持って臨んでほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席し、AFP資格審査試験取得を目指すならば復習もきっちりしてもらいたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味  2. FPの社会的役割  3. 社会的責任とコンプライアンス  4. FPの職業倫理  5. 個人におけるファイナンス  6. 金融・経済の知識  7. 財形制度  8. 教育資金設計  9. 住宅資金設計 10. 社会保険 11. 公的年金 12. 企業年金・個人年金 13. 利子所得・配当所得・不動産所得 14. 事業所得・給与所得・退職所得 15. 山林所得・譲渡所得・一時所得・雑所得 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J20570B01 |
| 科目名       | ファイナンシャル・プランニングⅡ  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記) | Financial Planning II   |       |           |
| 担当者名      | 岡本 久嗣   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 本講義ではファイナンシャル・プランニングⅠと併せFPとしての基礎的なことを学ぶものとする。ファイナンシャル・プランニングⅡではタックスプランニング、リスクと保険、相続・事業承継、不動産運用設計について講義を行い、FPの資格であるAFP資格審査試験取得の対応を図る。また、日本FP協会の指導に準拠した提案書の作成の課題を課することとする。受講するにあたっては本講義では税金にも関連するため将来、税理士等の資格を目指す学生にも是非受講してもらいたい。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | ファイナンシャル・プランニング入門(日本FP協会)   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社   |       |           |
| 教材(その他)   | 問題集の使用を予定   |       |           |
| 評価方法      | 平常点(50%)小試験など   |       |           |
| 到達目標      | 難易度を高く設定はしないが、FPとしての基本を理解し、AFP資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。  |       |           |
| 準備学習      | AFP資格審査試験取得のみならず、学生諸君の将来においてのお金に関わる事象に興味を持って臨んでほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、AFP資格審査試験取得を目指すならば復習もきっちりしてもらいたい。|先修条件あり:「ファイナンシャル・プランニングⅠ」および「金融入門」の単位を取得していることが受講条件

#### 講義の順序とポイント

1. 提案書についての概要|2. 提案書の課題について|3. 所得税の基礎知識|4. 所得控除と源泉徴収制度|5. 法人税の基礎知識|6. リスクマネジメントとは|7. 保険制度(1)|8. 生命保険(1)|9. 生命保険(2)|10. 損害保険(1)|11. 損害保険(2)|12. 相続の基礎知識|13. 相続税(1)|14. 相続税(2)|15. 贈与税|16. 相続財産の評価|17. 事業承継|18. 不動産の見方|19. 不動産取引|20. 区分所有法|21. 不動産に関する法令上の規制|22. 不動産の税金|23. 居住用不動産の譲渡の特例|24. 提案書の作成(1)|25. 提案書の作成(2)|26. 提案書の作成(3)|27. 提案書の作成(4)|28. 提案書の作成(5)|29. 提案書の作成(6)|30. 提案書の作成(7)|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20571001 |
| 科目名        | 外国人留学生演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 外国人留学生がスムーズに日本の大学になじみ4年間の有意義な大学生活の第一歩を踏み出すための就学支援を目的とする。 本科目は、設置の趣旨から入学年度の最初の学期（4月入学は春学期、9月入学は 秋学期）に履修する。経済学部のカリキュラムの構成、単位取得の要点、大学での クラブ・サークル活動、地域情報などを学習する。また日本の風土、文化等の理解の ためには必要に応じて学外学習もおこなっていく。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 新聞記事等を適時参考にする。  |       |           |
| 評価方法       | レポート（40%）+平常点（60%）  |       |           |
| 到達目標       | 1) 大学の活動（講義・クラブ・サークル等）につて理解する 2) 地域の情報を習得する。 3) 日本の風土・文化を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日本の文化に興味を持って学習しておくことが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望    | 1) 大学での4年間での目標を考えておくこと。 2) 日本の文化に興味を持つように心がけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) ガイダンス  2) 大学のカリキュラムについて  3) クラブ・サークル活動について  4) 大学での学生生活について（1）  5) 大学での学生生活について（2）  6) 大学での学生生活について（3）  7) 大学での学生生活について（4）  8) 大学での学生生活について（5）  9) 地域の情報について（1） 10) 地域の情報について（2） 11) 地域の情報について（3） 12) 日本の文化について（1） 13) 日本の文化について（2） 14) 日本の文化について（3） 15) まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J20571002 |
| 科目名        | 外国人留学生演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 外国人留学生がスムーズに日本の大学になじみ4年間の有意義な大学生活の第一歩を踏み出すための就学支援を目的とする。 本科目は、設置の趣旨から入学年度の最初の学期（4月入学は春学期、9月入学は 秋学期）に履修する。経済学部のカリキュラムの構成、単位取得の要点、大学での クラブ・サークル活動、地域情報などを学習する。また日本の風土、文化等の理解の ためには必要に応じて学外学習もおこなっていく。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 新聞記事等を適時参考にする。  |       |           |
| 評価方法       | レポート（40%）+平常点（60%）  |       |           |
| 到達目標       | 1) 大学の活動（講義・クラブ・サークル等）につて理解する 2) 地域の情報を習得する。 3) 日本の風土・文化を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日本の文化に興味を持って学習しておくことが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望    | 1) 大学での4年間での目標を考えておくこと。 2) 日本の文化に興味を持つように心がけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) ガイダンス  2) 大学のカリキュラムについて  3) クラブ・サークル活動について  4) 大学での学生生活について（1）  5) 大学での学生生活について（2）  6) 大学での学生生活について（3）  7) 大学での学生生活について（4）  8) 大学での学生生活について（5）  9) 地域の情報について（1） 10) 地域の情報について（2） 11) 地域の情報について（3） 12) 日本の文化について（1） 13) 日本の文化について（2） 14) 日本の文化について（3） 15) まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30002001 |
| 科目名  | NPO経営論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | NPO Management  |       |           |
| 担当者名   | 坂本 信雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 非営利組織の具体的な活動や組織の特徴を探ることとする。そして、NPO 活動と行政の関係、企業との関係を総合的に取上げる。そこでは NPM の路線や協働、自治会、さらには、企業の社会的貢献などがキーワードになる。また、NPO の起業、NPO の経営問題なども取上げられる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「起業時代の NPO」坂本信雄著（八千代出版株式会社）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「ローカル・ガバナンスの実証分析」坂本信雄著（八千代出版株式会社）   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。期末定期試験 70%。  |       |           |
| 到達目標   | NPO の現実的かつ実際的な役割や課題に迫ってみよう。そこでは、市場経済のもとで NPO 活動がどのような意義をもっているかを理解することに通じる。  |       |           |
| 準備学習   | 受講生が住んでいる地域社会において、何らかの NPO 活動に気づいて欲しい。それがどのような活動をしているのか、眼を向けて欲しい。また、実際に NPO 活動に関連している方（2～3名）お呼びして、現実的な取組みを話してもらおう機会も工夫している。             |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生自らが NPO に関心をもつだけでなく、できれば受講生が住んでいるところの NPO 活動に実際に参加することを期待したい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1、入門 NPO から NPO 経営論への引継ぎ   2、これだけは理解してから始めましょう。公共とは何か？   3、行政の変化と NPO   4、協働の実態と問題を探ってみよう   5、市民参加と協働の関係を考えてみよう   6、自治会・町内会の役割を探る   7、企業と NPO の関係を考えてみよう   8、企業の社会的貢献を考えてみよう   9、社会的貢献の実態をみてみよう   10、地域通貨とは何だろう   11、「エンデの遺言」から現代の経済社会の実像に迫ってみよう   12、NPO も起業なのです。起業へのステップを探ることにしよう   13、NPO 法人設立のノウハウ、手順を学びましょう   14、NPO の経営問題は何だろう。企業における経営問題との関連を比較しながら、NPO 特有の経営問題を取上げる   15、再び、NPO はどうしてこの世に存在するのでしょうか？ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30009001 |
| 科目名  | アントレプレナー論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Entrepreneurship   |       |           |
| 担当者名   | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）  |       |           |
| 教材（その他）  | 毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト（50%）   |       |           |
| 到達目標   | アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方やステップを理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 日常的に起業家に関心を持ち、その考え方や活動を取り上げた新聞や雑誌等を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業参加をしてもらいたい。 やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. アントレプレナーの定義と役割 2. 産業構造の変化とアントレプレナー 3. 労働市場から見た起業の意味 4. 新規開業調査に見る起業の実態 5. さまざまな支援体制 6. 海外のアントレプレナー 7. アメリカのアントレプレナー 8. 起業のステップ 9. ケーススタディ 事業機会の認識  10. // 経営資源の調達  11. // 資金調達 12. // 組織の作り方  13. // 人材確保と育成  14. // 創業時のマーケティング 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                             |  |       |           |
|-----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                          | 2012   | 授業コード | J30011001 |
| 科目名                         | インターネットビジネス論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                   | Theory of Internet Business  |       |           |
| 担当者名                        | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                        | 今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。  本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。   |       |           |
| 教材（テキスト）                    | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）                    | 中村忠之著『ネットビジネス進化論 ―e ビジネスからクラウド、ソーシャルメディアへ』中央経済社、2011年。   |       |           |
| 教材（その他）                     | 適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。  |       |           |
| 評価方法                        | 平常点（40%）出席状況、授業内レポート等。定期テスト（60%）。  |       |           |
| 到達目標                        | インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。   |       |           |
| 準備学習                        | 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。   |       |           |
| 受講者への要望                     |  |       |           |
| 私語や遅刻を厳禁とする。私語が過ぎれば、退出を求める。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                  | 1 ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等）   2 インターネットの基本特性とビジネスに与える影響   3 電子商取引の種類と動向   4 電子商取引（B to B）   5 電子商取引（B to C、C to C）   6 ビジネスモデルの定義とビジネスモデルの分類   7 ビジネスモデル特許、競争優位を巡る争い   8 ソーシャルメディアとビジネス①   9 ソーシャルメディアとビジネス②   10 インターネット広告   11 新しいビジネスモデル（グーグルの例）   12 電子商取引の安全性   13 電子決済と電子マネー   14 インターネットビジネスの展望   15 まとめ   授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30020001 |
| 科目名       | キャリア・マネジメント論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Career Management  |       |           |
| 担当者名      | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 雇用の流動化、企業の人材戦略の変化などにより、個人のキャリアマネジメントの必要性が注目されるようになってきている。心理学、社会学、経済学、教育学などさまざまな分野から「キャリア」へのアプローチが行われているが、ここでは「経営学」としてのキャリア・マネジメントを考える。 キャリアの基本的考え方や理論を学ぶことにより、個人としてのキャリアマネジメント、企業にとってのキャリアマネジメント、社会におけるキャリアマネジメントの必要性を理解しする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『私にできる幸せマネジメント～キャリアを伸ばす7つの法則』大石友子著（日本実業出版社、2006年）  |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト（50%）   |       |           |
| 到達目標      | キャリアマネジメントの必要性を理解し、その基本的考え方と理論について習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習      | 家族や周囲の働いている人たちにその仕事の内容、仕事についたきっかけ、働きがい等についてヒアリングしておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。|積極的に授業に参加してもらいたい。|やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

#### 講義の順序とポイント

1. キャリア・マネジメントとは何か|2. 雇用の変化とキャリア・マネジメント|3. 日本的雇用システムとキャリア|4. 企業経営とキャリア・マネジメント①|5. // ②|6. キャリアの考え方|7. キャリア論の基本|8. キャリアデザインとスキル|9. モチベーションとインセンティブ|10. 企画力と問題解決力|11. リーダーシップ|12. キャリア・マネジメント 事例|13. 女性のキャリア・マネジメント|14. 新しい働き方とキャリアをめぐる動き|15. まとめ

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30032001 |
| 科目名   | スポーツマネジメント概論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Sports Management   |       |           |
| 担当者名  | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツビジネスの歴史的な展開を見てゆくことと、事例に基づくビジネスマネジメントを理解していくこととします。8-10 兆円市場（経済産業省「2003 レジャー白書」より）のビジネスは面白い。                                 |       |           |
| 教材（テキスト）  | ありません   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 渡辺保『現代スポーツ産業論』同友館   |       |           |
| 教材（その他）   | 授業にあったプリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法  | 定期試験と平常点を総合して評価します。 評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。  |       |           |
| 到達目標  | 1 スポーツ産業の現状を理解する。 2 成長しているスポーツ産業とそうでない産業を概況し、経営者の立場で考える力を養いたい。 3 自分も経営者になれるのだ、そのためには、どのような経営の知識とITの利用が求められているかを知る、 などを到達目標としたい。 |       |           |
| 準備学習  | スポーツ関係の雑誌、専門誌、新聞のスポーツ欄とスポーツ新聞に目を通しておくこと。 また、疑問に思うことを習慣づけること   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 遅刻や私語は厳禁です。 私語が多い人は、他の学生の迷惑となりますので退出を求めます。 鉛筆とノートを持参して、筆記をする習慣をつけてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 スポーツビジネスの生成 2 海外のスポーツのビジネス 3 スポーツ産業の市場構造と動向  4 スポーツ産業の現状と成長  5 海外のスポーツ産業 6-7 スポーツビジネスのプロとアマチュアの事例   ① スキー   ② 野球   ③ サッカー など  8 スポーツとマーケティング  9 スポーツマーケティング戦略 10 スポーツと会計  11 スポーツと経営戦略  12 スポーツと人、組織  13 スポーツとコミュニケーション  14 スポーツのベンチャービジネス 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30033001 |
| 科目名        | スポーツ栄養学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Nutrition  |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 体を構成している物質は食事により栄養素として供給され、主に運動により消費されることから、栄養素の摂取と運動のバランスは健康の維持・増進や競技スポーツのパフォーマンスに大きな影響を与えることが知られている。本講義ではタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素の役割を栄養学的に解説する。さらに、健康増進と競技力向上を目指した食事の実践方法についても紹介する。 なお、本講義は健康運動実践指導者養成講座のうちの1つである。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業中にプリントを配布する。 京学なびおよびRドライブによりファイル提供を提供する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(10%)、定期テスト(70%)、レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標       | 食事・栄養に関する基礎的内容を理解し、実際の生活やスポーツに応用できる知識を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から自分の健康状態や食事内容に関心を持つておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には毎回出席し、意欲的に取り組んでほしい。 講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめにースポーツ栄養学とはー 2.五大栄養素の役割と日本人の食事摂取基準 3.消費エネルギーの算出と摂取量 4.食品の消化吸収 5.運動時のエネルギー代謝 6.筋力づくりとタンパク質の代謝 7.スタミナづくりと糖質・脂質の代謝 8.肥満による健康障害と正しいダイエット法 9.ビタミンの役割 10.ミネラルの役割 11.水分補給の重要性と摂取方法 12.サプリメントの種類と摂取方法 13.外食・コンビニ食と栄養バランス 14.食生活の展望と健康増進 15.まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30041002 |
| 科目名  | ビジネスゲーム演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Business Game Practicum  |       |           |
| 担当者名   | 藤川 義雄  | 旧科目名称 | ビジネス演習    |
| 講義概要   | <p>実際の企業が利益を獲得する様子をマネジメント・ゲーム（MG）によって仮想体験すると同時に利益計算の仕組みを学ぶ。MG は製造業をモデルとしたシミュレーション・ゲームであり、受講者は二人一組で 1 社の経営と会計処理を担当してゲームに参加し、モノの製造・販売を通してより多くの利益を獲得することをめざすと同時に、予測し得ないような事態にいかに対応するかが求められる。1 会計期間終了ごとに、簡易的な原価計算図表を用いて利益計算と財務諸表を作成し、自分の意思決定の結果、会社の経営成績と財政状態がどのように財務諸表に表現されるのかを学ぶ。 なお、受講人数に制限があるため、事前登録科目となる。意欲的に参加したいと思う学生を優先的に選抜したい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 指定しない  |       |           |
| 教材（その他）  | 指定しない  |       |           |
| 評価方法   | 受講姿勢 60%、レポート 40%  |       |           |
| 到達目標   | <p>メーカーの利益獲得プロセスを理解できる。 企業活動がいかん財務諸表に反映されるか理解できる。 損益分岐点を理解できる。</p>   |       |           |
| 準備学習   | 毎回講義の終わりに、次回への準備内容を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講者は必ず大きめの電卓を用意しておくこと。 講義の性格上、欠席および遅刻・早退は厳禁である。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 マネジメント・ゲーム (MG) とは何か  2 ルール説明と資金繰り表の記帳法  3 原価計算と財務諸表の作成方法  4 実践練習(1): ゲーム編  5 実践練習(2): 原価計算編  6 MG 第 1 期: ゲーム  7 MG 第 1 期: 原価計算  8 MG 第 2 期: ゲーム  9 MG 第 2 期: 原価計算  10 損益分岐点と直接原価計算による利益計算のしくみ  11 経営方針と利益計画の立案  12 MG 第 3 期: ゲーム  13 MG 第 3 期: 原価計算  14 仮想株主総会  15 総括: ゲームを通して何を学んだか</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800A |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要なものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800B |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800C |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800D |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディ스플레이  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800E |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800F |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800H |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004800J |
| 科目名        | フィールドワーク実習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900A |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900B |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900C |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディ스플레이  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900E |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900F |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900G |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3004900H |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30049001 |
| 科目名        | フィールドワーク実習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30052A01 |
| 科目名   | ブランド・マネジメント論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Brand Management I   |       |           |
| 担当者名  | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ブランドに係わる基礎的な理論を学んでいく。 教科書、参考書を中心に、補助的にVTRや各種教材を使用して進めていく。加えて、授業内で適宜小レポートを課し授業内容の理解度のアップを図り、また自ら考えながら学ぶ方式も取り入れていく。 なお、授業内講師(実務家)を1名予定 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房 2000円  |       |           |
| 教材(参考文献)  | D.A.アーカー『ブランド・エクイティ戦略』ダイヤモンド社  |       |           |
| 教材(その他)   | 授業内配布資料  |       |           |
| 評価方法  | 期末テストの得点による。 但し授業への参加状況や授業内レポートも加味する。(全体の20%以内)  |       |           |
| 到達目標  | ブランド学を学ぶための基礎的知識(ブランドの定義、機能)を習得することを目標とする。 秋学期のブランド・マネジメント論IIを学ぶための準備学習でもある。   |       |           |
| 準備学習  | 身近にあるブランドものについて予め購入動機(なぜ買ったのか)や満足度などを考えておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ○関連科目、「マーケティング」「消費者行動論」「広告ビジネス論」なども併せて受講すること。 ○授業には必ず出席し、積極的に学ぶという姿勢で臨むこと。 ○教科書に沿って授業を進めていき、期末テストでは教科書持込可とするので必ず早い時期に入手すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクション――ブランド・マネジメントを学ぶに当たって  2 ブランドとは―京都はブランドか  3 ブランドとは―ブランドの定義  4 ブランドの成り立ちと商標法  5 ブランドの種類  6 ブランドの構成要素  7 ブランドのネーミング1  8 ブランドのネーミング2  9 ブランドの機能1 -- ブランドの識別機能  10 ブランドの機能2 --ブランドの信頼機能  11 ブランドの機能3 --ブランド世界造り機能  12 ブランド戦略事例研究(1) 13 ブランド戦略事例研究(2) 14 特別講義(実務家によるケーススタディ)  15 授業のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30052B01 |
| 科目名  | ブランド・マネジメント論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Brand Management II   |       |           |
| 担当者名   | 足立 勝彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ブランドに係わる戦略的課題を具体的な事例を元に学んでいく。 ブランド・マネジメント論 I（春学期）と同様に、教科書、参考書を中心に、補助的に VTR や各種教材を使用して進めていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | D.A.アーカー『ブランド・エクイティ戦略』ダイヤモンド社   |       |           |
| 教材（その他）  | 授業内資料   |       |           |
| 評価方法   | 期末テストの得点による。 但し j 授業への参加状況や授業内レポートも加味する。（全体の 20%以内）   |       |           |
| 到達目標   | ブランド戦略が経済活動の中でどのような機能・役割を担っているのかを習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 春学期のブランド・マネジメント論 I で学んだことをよく復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ○春学期のブランド・マネジメント論 I の受講者向け。 ○授業には必ず出席し、積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。 ○教科書は春学期と同じ教科書を使用するので、まだ入手していない学生は必ず早い時期に取得しておくこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 イントロダクションーブランド・マネジメント論 I のまとめ  2 ブランドのコアバリュー(1) 3 ブランドのコアバリュー(2) 4 ブランド・ロイヤルティ(1) 5 ブランド・ロイヤルティ(2) 6 ブランドの記憶  7 ブランドの寿命  8 ブランドの再生  9 ブランドの開発  10 ブランドの紛争(1)  11 ブランドの紛争(2)  12 ブランドキャンペーン事例 研究(1) 13 ブランドキャンペーン事例研究(2) 14 ブランド M&A 事例研究 15 授業のまとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30061001 |
| 科目名        | ベンチャー・ビジネス論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Venture Business Management  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム (流行) の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面からの接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの本質およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家) の理念を中心に実践的な側面も併せ講義をする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』(嵯峨野書院、2004年)   井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』(嵯峨野書院、2007)   P.F.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』(ダイヤモンド社、2007)  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。  |       |           |
| 受講者への要望    | ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに(本講義の概要)   2 ベンチャービジネス(以下 VB という) の定義   3 VB の変遷の歴史   4 VB とイノベーション・企業 (起業) 家精神   5 VB の経営理念   6 VB の組織と戦略 1   7 VB の組織と戦略 2   8 VB とリーダーシップ   9 VB における会計的側面   10 VB における資本政策と資金調達   11 VB 創造の実際 (VB のデザインからプランニングへ)   12 VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見)   13 VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用)   14 VB システムの構築(ビジネスモデル特許など)   15 おわりに(本講義の総括) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30069001 |
| 科目名        | リーダーシップ論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Leadership   |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには、その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって1つにまとめなければならないが、そのような働きかけの1つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動的な今日、このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では、リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって、リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して、将来、学生諸子が企業組織に参加したときに、主体的に行動し、活躍するための基礎力が養われれば幸いである。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | プリントやレジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | <p>基本的には、平常点（出席状況や受講姿勢など）20%、小テスト（講義の切りの良いところで1度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%、学期末に行う試験50%の割合で評価する。 また、講義に関して積極的な発言あるいは意見を言う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次の講義で担当教員に質問する。 3. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。 2. 講義への積極的な参加を望む。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。  1. オリエンテーション   2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ   3. リーダーシップの特性論   4. リーダーシップの行動論① - ミシガン・オハイオ研究 -   5. リーダーシップの行動論② - マネジリアル・グリッド -   6. リーダーシップの行動論③ - PM理論 -   7. 個人の動機とリーダーシップ   8. 前半のまとめと理解度の確認（小テストを予定）   9. リーダーシップの条件適合理論① - リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル -   10. リーダーシップの条件適合理論② - 目標経路理論 -   11. リーダーシップの条件適合理論③ - 3次元リーダー効果性モデル -   12. リーダーシップ論のその後の動向① - リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ -   13. リーダーシップ論のその後の動向② - EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど -   14. リーダーシップ論のその後の動向③ - リーダーシップとフォロワーシップ -   15. まとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30070001 |
| 科目名       | 応用商業簿記   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Applied Bookkeeping for a Commercial Firm  |       |           |
| 担当者名      | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 日本商工会議所簿記検定3級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定2級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記II」でカバーします）。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 渡部・片山・北村編著 『検定簿記講義2級商業簿記 平成24年度版』 中央経済社、2012年。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | ホームワーク20%、平常点10%、試験70%   |       |           |
| 到達目標      | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる   |       |           |
| 準備学習      | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義で提出してください 3. 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください                        |       |           |

#### 受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記I」の単位取得者または日商簿記3級合格者が対象です。「商業簿記II」との同時履修を強く勧めます。|2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。|3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。|4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

#### 講義の順序とポイント

I 商業簿記Iの復習 |1. 簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記IIとの違い） |2. 商業簿記Iの復習 ||II 商業簿記Iから応用商業簿記へ |3. 株式会社の会計（その1）：株式会社の設立 |4. 株式会社の会計（その2）：増資 |5. 株式会社の会計（その3）：剰余金 |6. 株式会社の会計（その4）：利益の処分/損失の処理 |7. 株式会社の会計（その5）：社債(1) |8. 株式会社の会計（その6）：社債(2) |9. 株式会社の会計（その7）：株式会社会計の総復習|10. 本支店会計（その1）：本支店会計の意義と連結財務諸表 |11. 本支店会計（その2）：本支店間の取引 |12. 本支店会計（その3）：未達事項 |13. 本支店会計（その4）：内部取引と内部利益の控除 |14. 本支店会計（その5）：本支店合併財務諸表 |15. 本支店会計（その6）：本支店会計の総復習

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30074001 |
| 科目名        | 会計学概論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Accounting   |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>(1) 企業などの経営活動の成果を表す「決算書」(財務諸表)の作成とその読み方については、春学期の「会計学入門」でその基礎を学んできた。こうした財務諸表の公表を通じて、企業の外部利害関係者の意思決定に有用な会計情報を提供する会計分野は、いわゆる「財務会計」と呼ばれる分野である。財務会計の主たる内容は、財務諸表の作成及び表示に関する諸原則の展開である。 (2) このような観点から、本講義では「会計学入門」で習得した基礎知識を踏まえて、さらに「財務諸表を読むためのエッセンス」として、「財務会計」の基本的な仕組みを、企業経営との結び付けて学んでいくことにしたい。 (3) そこでは、主要財務諸表としての貸借対照表と損益計算書に、さらには、新しく導入されたキャッシュ・フロー計算書や株主資本等変動計算書の関連性を視野に入れながら、全体像を概観することにしたい。 (4) 春学期の「会計学入門」と本科目の履修により修得できる財務会計に関する基礎知識は、経営学部における管理会計論・税務会計論・監査論など、各種の会計分野の専門科目を履修する道しるべとしても有用なものとなろう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 井出健二郎・高久隆太・成岡浩一・山内 暁 編 『入門会計学』 ¥1,900  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 関西学院大学 会計学研究室 編 『最新 会計学総論』 中央経済社 ¥2,800  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリント配布を行う。  |       |           |
| 評価方法       | 原則として、平素の受講状況(20%)、レポート(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | <p>(1) 会計情報の特徴や作成プロセスが説明できる。 (2) 財務諸表の意義・特徴を説明できる。 (3) 財務会計の必要性と内容を説明できる。 (4) 会計情報の読み方が説明できる。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト箇所を、事前に解読して準備しておくこと。 (2) 配布する私製アンケート「ミニッツ・ペーパー」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | 春学期の「会計学入門」で使用したような基本的テキストを十分に読みこなしたうえで、本講義を受講されるよう希望する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定である。  1. 講義展開のガイダンスと財務会計の意義   2. 企業経営と会計制度   3. 企業会計と複式簿記システム   4. 会計の情報利用者とグローバル化   5. 会計情報のディスクロージャーと入手方法   6. 財務諸表の体系   7. 貸借対照表の意義・様式・構成   8. 資産の意義・区分・内容と評価   9. 負債及び純資産の意義・区分・内容と評価  10. 損益計算書の意義・様式・区分  11. 各区分の利益計算構造  12. キャッシュ・フロー計算書の意義・様式と内容  13. 株主資本等変動計算書の意義・様式と内容  14. ケーススタディ「会計情報を読む」  15. 総括</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30076001 |
| 科目名   | 会計学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Accounting  |       |           |
| 担当者名  | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>(1) 企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景にある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 (2) 経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営にとって極めて重要である理由は、ここにある。 (3) このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説することにしたい。積極的な関心を持って受講していただきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング—現代会計入門—【四訂版】』 同文館出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 山田真哉 著 『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?—身近な疑問からはじめる会計学—』 光文社  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜、プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 原則として、平素の受講状況(20%)、レポート(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。   |       |           |
| 到達目標  | (1) 会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 (2) 組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 (3) 経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。  |       |           |
| 準備学習  | (1) 講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト箇所を、事前に解読して準備しておくこと。 (2) 配布する私製アンケート「ミニッツ・ペーパー」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| (1) まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。 (2) 本「入門」および秋学期の「概論」の講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。  1. 講義の展開予定と評価、簿記と会計   2. 会計の役立ち   3. 会計情報の内容   4. 会計情報の開示 = 制度会計におけるディスクロージャー =   5. 会計情報の読み方 (1) = 経営分析と収益性分析 =   6. 会計情報の読み方 (2) = 安全性分析と成長性分析 =   7. 会計情報の信頼性 = 会計監査 =   8. 会計情報の作り方 (1) = 簿記及び会計の基本ルール =   9. 会計情報の作り方 (2) = 連結財務諸表の作成 =   10. 会計情報と原価管理 = 原価計算 =   11. 会計情報と利益管理 = 管理会計 =   12. 会計情報と税務 = 税務会計 =   13. 会計情報と国際化 = 国際会計 =   14. 会計情報と環境 = 環境会計 =   15. 総括 (会計と資格)</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30090001 |
| 科目名   | 環境ビジネス論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Environment-Related Business  |       |           |
| 担当者名  | 長澤 忠彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 地球温暖化をはじめ森林破壊や砂漠化など地球環境の破壊が進行しつつある。これらの破壊を防止し、「持続可能な発展」を実現することが21世紀の人類最大の課題である。  「気候変動枠組み条約―京都議定書」の目標最終年次を迎え、今後の国際的取り組みに関する議論が本格化しつつある。地球温暖化の主原因である二酸化炭素の発生は、人口の増加や経済活動に起因するものであり、発生抑制のための技術や社会経済システムの開発、さらには我々のライフスタイルの見直しが要求されている。  講義では、まず温暖化をはじめ地球環境問題の現状とその原因を理解するとともに、その対策を考える。次に、我が国がかつて経験した高度経済成長に伴う公害問題の発生とその克服の歴史をレビューする。さらに、「循環型社会の形成」について、現状と今後の方向について考える。最後に「環境経営」と「企業の社会的責任」について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 地球環境研究会編集「地球環境キーワード事典（五訂版）」中央法規出版 1, 500円   |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイントを活用する。   |       |           |
| 評価方法  | 期末に実施するレポート（80%）、平常点（20%）出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標  | 地球環境問題の現況やその原因を理解し、社会人や企業人としてそれに対応や対策ができる基礎的な力を習得する。  |       |           |
| 準備学習  | 新聞等のメディアで日々報じられる環境問題について関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 遅刻や私語を厳禁とする。私語がひどい場合、退出を求めることがある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 地球環境問題の概要 [ガイダンス]  2. 地球環境問題と対策 1 現在の状況  3. 地球環境問題と対策 2 対策と取り組み  4. 地球温暖化問題 1 地球温暖化のメカニズム  5. 地球温暖化問題 2 温暖化防止への国際的動向  6. 地球温暖化問題 3 温暖化防止技術と取り組み  7. 公害問題 1 日本における公害克服の歴史  8. 公害問題 2 残された問題と法規制の仕組み  9. 循環型社会の形成 1 ごみ問題と対策  10. 循環型社会の形成 2 リサイクルの現状と問題  11. 新しい化学物質への対応 化学物質の問題と対策  12. 企業の社会的責任 企業のコンプライアンス等  13. 環境問題と経済的手段 環境税、炭素税等  14. 環境問題とライフスタイルの変革   15. 環境経営と環境ビジネス |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30094001 |
| 科目名       | 監査論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Auditing   |       |           |
| 担当者名      | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 監査は社会のインフラとして非常に重要な役割を果たしています。それにもかかわらず、馴染みがないので、取っつきにくい分野です（オリンパスの不正経理で監査法人が何をしたか分かるでしょうか？）。監査基準の解説をしても何のこともさっぱり分からないことも多いようです。そこで、監査論では、社会のインフラとしての監査の意義と特徴を、実際のケースを通して理解します。ビデオの視聴を交えて講義を進める回もあります。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント配布   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 吉見 宏 著 『ケースブック監査論第4版』 新生社、2008年。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | ホームワーク 20%、平常点 10%、試験 50%、発言 20%   |       |           |
| 到達目標      | 1. 監査の意義を何も知らない人に説明できる 2. 日本の監査制度の特徴を理解している 3. 不正経理が行われる背景を理解している 4. 監査を受けた会計情報の特徴や監査プロセスを理解している   |       |           |
| 準備学習      | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください   |       |           |

|            |   |
|------------|---|
| 受講者への要望    | 「入門簿記」、「簿記原理」、「会计学入門」、「会计学概論」は、必ず履修しておくこと。「商業簿記Ⅱ」、「応用商業簿記」、「財務諸表論」、「税務会計論」を既に履修しているか同時履修が望ましい。  |
| 講義の順序とポイント | 1. ミーティング 2. 会計監査の必要性：ケース  3. 会計専門職による監査：ケース  4. 監査期待ギャップ問題：ケース  5. 金融商品取引法監査制度：ケース  6. 公認会計士の仕事内容  7. 会社法_監査役監査制度：ケース  8. 会社法_会計監査人監査：ケース  9. 監査と粉飾経理  10. 監査基準と監査手続：ケース  11. 監査報告書：ケース  12. 他の監査人等の利用と内部監査：ケース  13. 継続企業の前提の監査：ケース  14. 不正な支出の監査：ケース  15. 総括 講義の順序は以上のように予定していますが、ビデオ等の視聴を入れる場合があります。 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30098001 |
| 科目名  | 管理会計論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management Accounting  |       |           |
| 担当者名   | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 管理会計は経営管理のための会計といわれます。この講義では、テキストをもとに、管理会計の基本的な考え方と技法をケースなどを使って分かりやすく解説していきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 加登豊・李建 『ケースブック コストマネジメント〔第2版〕』 新世社、2011年。                                      |       |           |
| 教材（参考文献）   | 加登豊編 『インサイト管理会計』 中央経済社、2008年。  |       |           |
| 教材（その他）  | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内確認テスト（20%）、ホームワーク（20%）、レポート（20%）、中間・期末テスト（40%）                              |       |           |
| 到達目標   | ① 売上高・費用・利益の関係を理解している。 ② 意思決定のための管理会計手法を理解している。 ③ 業績管理のための管理会計手法を理解している。       |       |           |
| 準備学習   | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。                      |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本科目履修後、引き続き「原価計算論」（秋学期）を履修することを強くお勧めします。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション（企業と市場）   2 設備投資計画（Ⅰ）：NPV法   3 設備投資計画（Ⅱ）：IRR法   4 損益分岐点分析（Ⅰ）   5 損益分岐点分析（Ⅱ）   6 予算管理（Ⅰ）   7 予算管理（Ⅱ）   8 問題演習   9 業績評価（Ⅰ）   10 業績評価（Ⅱ）   11 標準原価計算   12 在庫管理   13 輸送計画   14 財務情報分析   15 まとめと問題演習 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30100001 |
| 科目名   | 管理工学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                                   | Industrial Engineering and Management  |       |           |
| 担当者名  | 櫻井 俊則  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>技術には製品技術と生産技術の2つがあるといわれている。性能をいかに良くするかは製品技術であり、それらをいかに経済的、効果的に作るかが生産技術である。この生産技術の分野が管理工学（経営工学ともいう）の分野である。顧客に満足して使用してもらえらるものを供給するためには、製品技術の分野の固有技術だけでは不十分で、管理工学の考え方や手法が重要である。産業分野における技術革新は目覚ましいものがある。それに伴い、企業間のコストダウン競争は国内はもちろん国際的にもますますその激しさを増している。我が国の生産技術は国際的に高い水準にあり、これが日本経済の発展を進展させた理由でもある。しかし、グローバル化された生産環境はこの日本の生産技術の優位性を生かせなくなってきた。円高やコスト競争に立ち向かうために生産工場の海外移転が盛んにおこなわれている。このように、その時代の社会的、経済的環境により企業は大きく影響を受ける存在である。しかし、管理工学の中心をになう生産技術は、我が国にとって重要な技術である。管理工学が生成した過程を検証し、これからの在り方を検討する重要な時期にさしかかっているといえる。生産技術の普遍的な手法を学びながら今後の在り方を追求する講義を行いたいと考えている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）                                    | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）                                    | 適宜示す。  |       |           |
| 教材（その他）                                     | 講義はパワーポイントを使用して行うが、必要に応じ、プリントを配布することもある。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点30%（出席、授業内レポート等による）、定期試験70%で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | <p>管理工学の生成過程が理解できる。 経営学と管理工学の関係が理解できる。 生産技術の歴史が理解できる。 企業を取り巻く社会的・経済的環境が理解できる。 今後の我が国の生産企業のあり方が理解できる。 </p>  |       |           |
| 準備学習  | 情報の収集に務めること（新聞・テレビ・書籍・雑誌等よる） 世界の状況に常に関心を持っていること。   |       |           |
| 受講者への要望                                     |  |       |           |
| 遅刻・欠席をしないこと。 私語を慎むこと。 毎回実施する授業アンケートに解答すること。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                                  | <p>1.管理工学の生成過程（1） 2. 管理工学の生成過程（2） 3. 管理工学の生成過程（3） 4. 経営学と管理工学（1） 5. 経営学と管理工学（2） 6. 管理とは 7. 管理工学と生産（1） 8. 管理工学と生産（2） 9. 作業管理と工程管理 10. 管理工学と品質 11. 原価管理と経済性工学（1） 12. 原価管理と経済性工学（2） 13. 経営システムとシステム工学 14. 管理工学と情報システム 15. まとめ 米 進度により講義の順序や内容に変更の可能性あり。 </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30103001 |
| 科目名   | 企業家史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Great Entrepreneurs  |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り上げる。可能であれば、いままし取り上げる企業家を増やしたいと考えている。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。毎回資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の中でその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論社 宮本又郎『日本をつくった企業家』新書館             |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席を加味して、総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 企業家の行動原理を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の予定を伝えるので、推薦書などを参照されると良い。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。 日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新  2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)  3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)  4.電気鉄道網の形成(小林一三)  5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)  6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)  7.重化学工業の成長(野口 遵)  8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)  9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助) 10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介) 11.本田宗一郎・藤沢武夫と「世界のホンダ」 12.井深 大・盛田昭夫とソニー 13.日本型生産システムの構築(大野耐一) 14.宅配便事業の実現・発展(小倉昌男) 15.大量生産時代と大量消費時代の担い手 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100B |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3011100C |
| 科目名       | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名      | 山下 勤  | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要      | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職厳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習      | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |

|            |   |
|------------|---|
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100D |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 安達 房子   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100F |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3011100G |
| 科目名       | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名      | 上川 芳実   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要      | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習      | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |

|            |   |
|------------|---|
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100H |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝  | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100I |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 吉中 康子   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3011100J |
| 科目名       | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名      | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。  そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。  それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習      | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |

受講者への要望

遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。|2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1)|3 自己PRの作成（作文と校正）(2)|4 自己PRの作成（作文と校正）(3)|5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから）|6 人材開発プログラムの説明と実施(1)|7 人材開発プログラムの説明と実施(2)|8 人材開発プログラムの説明と実施(3)|9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。|10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。|11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。|12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。|13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。|14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。|15 各種アンケート（進路調査等）。個人面談。||\* 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100K |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3011100L |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治   | 旧科目名称 | 基礎ゼミナールⅢ  |
| 講義概要       | 就職活動は3回生の秋から本格化します。しかしながら、就職歳冬期の今日、それほど簡単に就職先は決まりません。 そこで、本格的な就職活動に入る前の2回生春学期に開講されるこのゼミでは、就職までの過程を理解し、就職試験対策として、「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験における出題パターンに的を絞りと、高得点を獲得するための効果的な対策を講じます。 それによって能力ある社会人として必要な読解力、計数能力、論理能力等を養うことを目的とします。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。ビデオ教材やOHPを活用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やOHPを活用する。また、適時参考書を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 課題・宿題・授業内テスト（30%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業の採用選考の過程で用いられる「エントリーシート」や「SPI2」などの採用試験に対応できるだけの力を付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ゼミの趣旨説明。自己紹介。履修確認。クラブ・サークルの所属確認と参加の勧め。内定を得るまでの過程、およびエントリーシート・筆記試験・面接試験について。資格について。本学の制度に関して（インターンシップや留学制度などについて）。 2 履歴書の作成・清書（表面上半分の作成）。自己PRの作成（作文と校正）(1) 3 自己PRの作成（作文と校正）(2) 4 自己PRの作成（作文と校正）(3) 5 本学の就職状況と就職支援の活動について（キャリアサポから） 6 人材開発プログラムの説明と実施(1) 7 人材開発プログラムの説明と実施(2) 8 人材開発プログラムの説明と実施(3) 9 適職発見に向けて（1）、筆記試験対策（1）。 10 適職発見に向けて（2）、筆記試験対策（2）。 11 専門ゼミの選択について。来季の履修について。エントリーシートについて。京學堂の説明と見学。 12 適職発見に向けて（3）、筆記試験対策（3）。 13 適職発見に向けて（4）、筆記試験対策（4）。 14 適職発見に向けて（5）、筆記試験対策（5）。 15 各種アンケート（進路調査、等）。個人面談。  * 担当者や進度によって順序が変わったり、内容が若干変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30113A01 |
| 科目名   | 京都の観光産業 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Tourism Industry in Kyoto I   |       |           |
| 担当者名  | 櫻井 正明   | 旧科目名称 | 京都の観光産業 A |
| 講義概要  | 世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取り組みや地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 『観光白書』各年度版 観光庁編 2,095 円 『観光学大事典』 香川 眞編 木楽舎発行 3,333 円+税<br> 『LRT と持続可能なまちづくり』 青山吉隆・小谷通泰 編著 2008 年学芸出版社                                 |       |           |
| 教材 (その他)  | パワーポイントを活用し、授業ごとにプリントを配布する  |       |           |
| 評価方法  | 授業中課題ミニッツ・レポート (20%)、レポート (20%)、 定期テスト (60%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における「観光の重要性」を理解する。  |       |           |
| 準備学習  | 新聞などのメディアに掲載される観光関連情報に日々関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁である。筆記具を持って教室に入ること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.この科目のオリエンテーション (講義概要、評価方法など)  2.観光とは 3.現代における観光の意義 4.観光の歴史 5.観光の現状と課題 (国内観光)  6.観光の現状と課題 (海外観光)  7.観光の現状と課題 (訪日外国人観光)  8.観光対象と観光資源 9.地域社会と観光振興 10.旅行産業 11.運輸産業 12.宿泊産業 13.テーマパーク産業 14.クルーズ 15.まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30113B01 |
| 科目名        | 京都の観光産業 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Tourism Industry in Kyoto II  |       |           |
| 担当者名       | 櫻井 正明   | 旧科目名称 | 京都の観光産業 B |
| 講義概要       | 日本の観光政策、国と自治体、京都の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 教科書は用いないが、パワーポイント・スライドを中心とした講義とし、授業ごとにプリント資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『観光マーケティング論』 山上 徹著 白桃書房 1,680 円 『観光白書』 各年度版 観光庁編 2,095 円  『観光学大事典』 香川 眞編 木楽舎 3,333+税  |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイントを活用し授業ごとにプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 授業中課題ミニツレポート(20%)、 レポート (20%)、 定期テスト (60%)  |       |           |
| 到達目標       | 国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取り組みでのマーケティングの基本について理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアによる観光関連の情報に日々関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「京都の観光産業」のタイトルであるが、グローバルな観光潮流の中での日本政府、地方自治体の観光政策と各観光関連産業の観光マーケティングについて学ぶので、観光を総合的に理解する意欲を持って受講されたい。 私語は厳禁である。筆記具を持って教室に入ること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.この科目のオリエンテーション (講義概要、評価方法など)  2.世界での観光事象データの解説 3.日本の観光政策① 4.日本の観光政策② 5.観光マーケティング理論① 6.観光マーケティング理論②  7.地方自治体のマーケティング 8.地方自治体のマーケティング(京都市のケース①)  9.地方自治体のマーケティング(京都市のケース②)  10.観光産業のマーケティング (旅行産業)  11.観光産業のマーケティング (航空産業①)  12.観光産業のマーケティング (航空産業②)  13 観光産業のマーケティング (宿泊産業) . 14.観光産業のマーケティング (テーマパークなど)  15.まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30126001 |
| 科目名        | 業界事情研究   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | A Study of the Industry  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の産業は戦後「奇跡」と呼ばれるまでの大きな発展と変貌を遂げてきた。また今日グローバル化時代を迎え、今後の課題などが明らかとなってきている。そこで日本を代表する業界を取り上げその過去・現在・未来についての考察を行いたい。加えてその業界の発展の要となった経営手法(例えば自動車産業におけるトヨタ看板方式、アパレル産業におけるSPA、流通・外食産業におけるチェーンマネジメントシステムなど)についての理解も進めたい。また事例研究として各業界を代表する企業から講師を招き、求める人材像や業界における現状課題についての講義も合わせて行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | 日本産業を代表する業界に関する知識を涵養するとともに、事例研究を通して受講生の進路選択への参考とすることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | さまざまな業界に興味を持つとともに、関連する情報収集に新聞、雑誌、テレビなど多くのメディアを通じて努め受講に望むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに(本講座の概要)   2 戦後日本産業の軌跡   3 加工組立産業(業界)   4 消費財産業(業界)   5 流通産業(業界)   6 外食産業(業界)   7 金融産業(業界)   8 事例研究①((注) 以下同じ)   9 事例研究②   10 事例研究③   11 事例研究④   12 事例研究⑤   13 事例研究⑥   14 事例研究⑦   15 おわりに(本講座の総括)    (注) 事例研究については、各業界からの外部講師による講義を受講する。                             |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30140001 |
| 科目名        | 経営学史   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Management Theories   |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | いかなる経営課題を先人はどのようにして解決していこうとしたかを学びます。経営学は課題解決に必要なとされる知識を様々な学問領域から借用しています。経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは様々です。一見すると、何でもありのように見えますが、様々な角度から事象を見ているわけであり、多角的視点を養うことができると考えております。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ビデオ教材や OHC を活用する。 適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間課題・宿題 (45%) と期末課題・宿題 (45%)、 および講義内小テストや感想文、等により評価する (10%)。   |       |           |
| 到達目標       | 次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 *経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。 *多角的な視点で事象を分析することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 経営学総論と経営管理論の単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |

受講者への要望

\*遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。|\*配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。|\*経営学総論と経営管理論の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.経営学史の内容と進行について。内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的な管理運動、等。||2.伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等 (テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等) 。||3.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的な管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。 ||4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等 (メイヨー、レスリスバーガー、等)。 ||5.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。 ||6.近代管理論、協働システム、誘因一貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等 (バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等)。 中間課題について。||7.近代管理論、協働システム、誘因一貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。 ||8.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等 (ワイヤーマン、シェーニッツ、プレントナー、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等) 。||9.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等 (ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等)。 ||10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。 ||11.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 ||12.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 ||13.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 期末課題について。||14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等 (チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等)。 ||15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                       | 2012   | 授業コード | J30141001 |     |       |        |
| 科目名                                      | 経営学総論  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                               | Principles of Business Administration  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                     | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                     | <p>欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。  本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。  より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってほしい。</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                                | <p>・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上にアップロードしておきます。  ・トップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義に臨んで下さい。  ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。  ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。  ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくとう便利です。 </p>   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                                | <p>一般的な「経営学総論」の参考書は第1回目の講義で言います。  各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                 | <p>パワーポイントを使って、虫食い状態でない資料に基づいて講義を進めます。  ビデオや新聞の切抜き等も使います。</p>  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                     | <p>原則として、平常点 (20%)、期末試験 (80%)</p>  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                     | <p>経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。  経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。</p>  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                     | <p>事前に講義用のプリントに目を通しておくこと</p>   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                  | <p>私語は厳禁とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。</p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                               | <p>第1部 はじめに  01. 予備的考察①  02. 予備的考察②  03. 予備的考察③  第2部 経営学の基礎  04. 豊かさの時代と企業  05. 大企業の誕生  06. 大企業の行きづまり  07. 日本の企業  08. 企業の新たな歩み  09. なぜ経営学が必要か  10. 経営・企業・管理   11. アメリカの経営学   12. ドイツの経営学   13. 経営の「通知簿」(会計の話)   14. 身近な「経営」(コンビニの話)   15. 中間的まとめ  第3部 経営学の中心問題 (1) 組織と戦略   16. 経営組織のいろいろ   17. 経営戦略とは   18. 「選択と集中」と組織能力の戦略   19. 組織と経営戦略の事例 ①   20. 組織と経営戦略の事例 ②  第4部 経営学の中心問題 (2) 企業統治   21. 企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは   22. 企業統治の理論   23. 企業統治の事例   第5部 経営学の中心問題 (3) 企業の国際化   24. 企業の国際化とは   25. 比較優位の理論   26. 企業の国際化の事例   第6部 経営の未来   27. 未来を見据えて ①新たな歩み   28. 未来を見据えて ②技術の未来   29. 未来を見据えて ③経営の未来   30. まとめ </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                       | 2012   | 授業コード | J3014100A |     |       |        |
| 科目名                                      | 経営学総論  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                                | Principles of Business Administration  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                     | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                     | <p>欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。  本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。  より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                 | <p>・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上にアップロードしておきます。  ・トップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義に臨んで下さい。  ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。  ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。   ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくとう便利です。 </p>  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                 | <p>一般的な「経営学総論」の参考書は第1回目の講義で言います。  各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                  | <p>パワーポイントを使って、虫食い状態でない資料に基づいて講義を進めます。  ビデオや新聞の切抜き等も使います。</p>  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                     | <p>原則として、平常点（20%）、期末試験（80%）</p>  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                     | <p>経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。   経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。</p>   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                     | <p>事前に講義用のプリントに目を通しておくこと</p>   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                  | <p>私語は厳禁とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。</p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                               | <p>第1部 はじめに  01. 予備的考察①  02. 予備的考察②  03. 予備的考察③  第2部 経営学の基礎  04. 豊かさの時代と企業  05. 大企業の誕生  06. 大企業の行きづまり  07. 日本の企業  08. 企業の新たな歩み  09. なぜ経営学が必要か  10. 経営・企業・管理  11. アメリカの経営学  12. ドイツの経営学  13. 経営の「通知簿」（会計の話）  14. 身近な「経営」（コンビニの話）  15. 中間的まとめ  第3部 経営学の中心問題（1）組織と戦略  16. 経営組織のいろいろ  17. 経営戦略とは  18. 「選択と集中」と組織能力の戦略  19. 組織と経営戦略の事例 ①  20. 組織と経営戦略の事例 ②  第4部 経営学の中心問題（2）企業統治  21. 企業統治（コーポレート・ガバナンス）とは  22. 企業統治の理論  23. 企業統治の事例  第5部 経営学の中心問題（3）企業の国際化  24. 企業の国際化とは  25. 比較優位の理論  26. 企業の国際化の事例  第6部 経営の未来  27. 未来を見据えて ①新たな歩み  28. 未来を見据えて ②技術の未来  29. 未来を見据えて ③経営の未来  30. まとめ </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30150A01 |
| 科目名  | 経営管理論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Business Management I   |       |           |
| 担当者名   | 倉田 致知   | 旧科目名称 | 経営管理論 A   |
| 講義概要   | <p>企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの経営学の文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての事例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。  経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ビデオ教材や OHC を活用する。  適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 中間課題・宿題 (45%) と期末課題・宿題 (45%)、  および講義内小テストや感想文、等により評価する (10%)。   |       |           |
| 到達目標   | 次のいずれかの修得を目指す。  * 企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。  * 経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。  * 多角的な視点で事象を分析することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。  各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。  配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 企業の形態と株式会社について、上場や非上場について①  2. 企業の形態と株式会社について、上場や非上場について②  3. 利益の源泉と投資、財務諸表の見方、金融機関の役割について  4. 経営管理の変遷と学説: 伝統的管理論、管理過程論、人間関係論、近代管理論 中間課題について   5. 管理論のジャングル戦、動機づけ理論におけるジャングル戦、条件適合理論、条件適合的リーダーシップ論①   6. 管理論のジャングル戦、動機づけ理論におけるジャングル戦、条件適合理論、条件適合的リーダーシップ論②  7. 株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係について  8. コーポレート・ガバナンス: 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴①  9. コーポレート・ガバナンス: 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴②  10. 経営戦略論 (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、GE グリッド、チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ) ①  11. 経営戦略論 (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、GE グリッド、チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ) ②  12. アライアンス、M&amp;A、持ち株会社について① 期末課題について  13. アライアンス、M&amp;A、持ち株会社について②  14. 経営組織: ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織  15. 戦略的事業単位、マトリックス組織、組織とは何かに対する様々な見解: 近年の研究の紹介</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30150B01 |
| 科目名   | 経営管理論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Business Management II   |       |           |
| 担当者名  | 倉田 致知  | 旧科目名称 | 経営管理論B    |
| 講義概要  | 企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの経営学の文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての事例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。  経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを適時配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | ビデオ教材やOHCを活用する。 適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適時参考書や論文を指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 中間課題・宿題(45%)と期末課題・宿題(45%)、 および講義内小テストや感想文、等により評価する(10%)。   |       |           |
| 到達目標  | 次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 *経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。 *多角的な視点で事象を分析することができる。  |       |           |
| 準備学習  | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。および、経営管理論Iの単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.労働基準法について(36協定、労働時間、割増賃金を中心にして)① 2.労働基準法について(36協定、労働時間、割増賃金を中心にして)② 3.人事管理論 遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合、持株会社について① 4.人事管理論 遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合、持株会社について② 5.非正規と正規社員の現状と課題 中間課題について 6.生産管理、テイラー=フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式① 7.生産管理、テイラー=フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式② 8.生産管理、テイラー=フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式③ 9.情報と通信ネットワーク：TQM、BPR、EC、Posシステム、テレコミュニケーション① 10.情報と通信ネットワーク：TQM、BPR、EC、Posシステム、テレコミュニケーション② 11.CALS、バーチャルコーポレーション 12.SCM、CIM、IT革命?K革命?① 期末課題について 13.SCM、CIM、IT革命?K革命?② 14.知識社会と知識創造 知識創造の理論について、暗黙知と形式知の関係、コンピテンシーとは① 15.知識社会と知識創造 知識創造の理論について、暗黙知と形式知の関係、コンピテンシーとは② |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30155001 |
| 科目名   | 経営情報概論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Management and Information Systems   |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。  経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 遠山暁／村田潔『新版 経営情報論』有斐閣   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。（サイズは主に A4 と A3） 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。   |       |           |
| 評価方法  | 単位認定要件を満たした上で、授業内提出物及び小テスト(20%)、レポート(20%)、定期試験(30%)、平常点(30%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に2時間程度の予習、講義後に2時間程度の復習を行うこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1. 受講ガイダンス 2. 現代の情報システムの組織戦略・事業戦略との融合 3. 経営情報システムの管理 1 4. 経営情報システムの管理 2 5. 情報技術とビジネス・プロセス革新 1 6. 情報技術とビジネス・プロセス革新 2 7.授業内テスト 8. 情報技術と組織変革 1 9. 情報技術と組織変革 2 10.授業内テスト 11. 情報技術と組織コミュニケーション 1 12. 情報技術と組織コミュニケーション 2 13. 情報技術と社会 1 14. 情報技術と社会 2 15. 経営情報の課題</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30156001 |
| 科目名   | 経営情報入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Information Systems for Management  |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報入門では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが、どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講義する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 遠山暁／村田潔『新版 経営情報論』有斐閣  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。（主に A4 と A3） 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。  |       |           |
| 評価方法  | 出席が 2/3 以上を単位認定要件とする。 単位認定要件を満たした上で、授業内での提出物及び小テスト(20%)、レポート(20%)、定期試験(30%)、平常点(30%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 経営情報は、企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの視点から考察する。 特に経営情報の基礎を学ぶことに主眼をおく。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1. 経営情報の基礎 2. 経営組織と情報処理 3. 経営戦略と情報処理 4. システムとネットワーク 5.授業内テスト 6. 経営情報システムの変遷 7. 経営情報システムの変遷 8. 情報技術の進展 9. 情報技術の進展 10. ネットワーク・コンピューティング 11. ネットワーク・コンピューティング 12.授業内テスト 13. 経営情報システムの開発方法論 14. 経営情報システムの開発方法論 15. まとめ</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30161001 |
| 科目名       | 経営数学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Management Mathematics  |       |           |
| 担当者名      | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>経営科学の基礎的な考え方と分析方法について学習するのが、本講義の目的です。経営科学は、経営上の問題を数学や統計学的手法を用いて分析し、問題解決に役立てるための学問です。  この講義では、経営科学の入門として、最も基本的な分析手法である統計基本量、回帰分析、線形計画法について勉強します。また、これらを理解する上で必要となる関数と領域についても勉強します。  これらの学習を通して、その数学的な論理的理解とともに、経営科学における分析方法について理解を深めます。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 宮川公男、野々山隆幸、佐藤修著 『入門経営科学 改訂版』 実教出版   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点(30%)出席状況、提出物等による。定期テスト(70%)   |       |           |
| 到達目標      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。 </li> <li>・問題を関数やグラフを用いて具体的に表現することができる。 </li> <li>・数理的表現に基づいて問題の分析ができ、結論を導き出すことができる。</li> </ul>   |       |           |
| 準備学習      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 </li> <li>・詳細は各講義の最後に指示する。</li> </ul>   |       |           |
| 受講者への要望   | <p>数学は知識を1段1段積み上げて行く学問です。休みが重なると講義内容が理解出来なくなるので、毎回出席することを望む。</p> <p>講義の順序とポイント</p> <p>1 経営数学の講義について  2 平均値と度数分布(1) 平均値  3 平均値と度数分布(2) 度数分布  4 関数と領域(1) 1次関数  5 関数と領域(2) 2次関数  6 関数と領域(3) 領域  7 関数と領域(4) 演習問題  8 回帰分析(1) 散布図と相関  9 回帰分析(2) 単回帰式  10 回帰分析(3) 演習問題  11 線形計画法(1) 線形計画問題  12 線形計画法(2) グラフによる解法  13 線形計画法(3) シンプレックス法①  14 線形計画法(4) シンプレックス法②  15 線形計画法(5) 演習問題</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30163A01 |
| 科目名  | 経営戦略論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Business Strategy I   |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行   | 旧科目名称 | 経営戦略論 A   |
| 講義概要   | 経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する → 企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる → 新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる → 経営戦略の知識や実践力が深まる  という好循環になればしめたものです。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配付します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1. 石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣  2. 伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社  3. 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学 新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内レポート (70%)、定期テスト (30%)   |       |           |
| 到達目標   | 経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞やテレビのニュースに常に関心を持つようにしてください。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 経営戦略とは 2. 事例研究：マクドナルドとモスバーガー 3. ポイントカード 4. 価格戦略 5. 事例研究：餃子の王将 6. 事例研究：サイゼリヤ 7. ビジネスモデル 8. 事例研究：コンビニ 9. SWOT 分析 10. 顧客囲い込み 11. 企業価値 12. M & A  13. 事例研究：新日鉄とミタルスチール 14. これからの日本型経営 15. まとめ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30163B01 |
| 科目名   | 経営戦略論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Business Strategy II   |       |           |
| 担当者名  | 大島 博行  | 旧科目名称 | 経営戦略論B    |
| 講義概要  | 経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する → 企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる → 新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる → 経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし、各講義でプリントを配付します。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 1. 石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 2. 伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 3. 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学 新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。   |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜プリントを配付します。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート(70%)、定期テスト(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞やテレビのニュースに常に関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 毎回授業の最後に10分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 経営戦略と組織 2. 事例研究：パナソニック 3. ブランド戦略 4. PB(プライベートブランド) 5. デフレスパイラル 6. SCM(サプライチェーン・マネジメント) 7. ローコスト経営 8. 事例研究：オーケストア 9. 事例研究：みずほの村市場 10. 多角化戦略 11. PPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント) 12. イノベーションのジレンマ 13. 事例研究：デジカメ 14. アウトソーシング 15. まとめ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J30166A01 |     |       |        |
| 科目名                                     | 経営組織論 I  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Business Organization Theory I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが、経営組織論 I では、組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。</p>                    |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | バーナード著、山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968 年。 その他、必要に応じて指示する。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | プリントやレジュメを配布する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 基本的には、平常点 (出席状況や受講姿勢など) 20%、小テスト (講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。) 30%、学期末に行う試験 50% の割合で評価する。 また、講義に関して積極的な発言あるいは意見をを行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。 2. 講義への積極的な参加を望む。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。  1. オリエンテーション   2. 経営学における組織論の展開   3. 組織における個人の捉え方   4. 組織の定義と成立条件①   5. 組織の定義と成立条件②   6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長   7. 組織の専門化と組織形態   8. 前半のまとめと理解度の確認 (小テストを予定)   9. 個人の行動原理と組織の行動原理   10. 組織の均衡① - 誘因の方法 -   11. 組織の均衡② - 説得の方法 -   12. 組織における権限の理論   13. 組織の道徳的側面   14. 組織における意思決定と人間の合理性   15. まとめ</p> |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30166B01 |
| 科目名        | 経営組織論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Business Organization Theory II  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものである。経営組織論Iでは組織の特徴と組織における個人に関して学習したが、その内容を踏まえ、経営組織論IIでは、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討し、そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。</p>  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | バーナード著、山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年。 その他、必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材(その他)    | プリントやレジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 基本的には、平常点(出席状況や受講姿勢など)20%、小テスト(講義の切りの良いところで1度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。)30%、学期末に行う試験50%の割合で評価する。 また、講義に関して積極的な発言あるいは意見をを行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 春学期の「経営組織論I」で学んだことをさらに深く理解し、「個人の立場」と「組織の立場」がどのようなものであるのかを簡単に説明することができる。 2. 経営組織論の歴史的な変遷を理解する。 3. アメリカの経営組織論とドイツの経営組織論との違いを理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次の講義で担当教員に質問する。 3. 日常における組織の諸問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。 2. 経営組織論IIを受講する前に、経営組織論Iを履修していることが望ましい。 3. 講義への積極的な参加を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。 </p> <p>1. オリエンテーション   2. 経営学における組織論の展開   3. アメリカにおける組織論の流れ① - 科学的管理法 -   4. アメリカにおける組織論の流れ② - 管理過程学派 -   5. アメリカにおける組織論の流れ③ - 人間関係論 -   6. アメリカにおける組織論の流れ④ - バーナードの近代組織論① -   7. アメリカにおける組織論の流れ⑤ - バーナードの近代組織論② -   8. 前半のまとめと理解度の確認(小テストを予定)   9. アメリカにおける組織論の流れ⑥ - バーナードの近代組織論③ -   10. アメリカにおける組織論の流れ⑦ - その他の動向① -   11. アメリカにおける組織論の流れ⑧ - その他の動向② -   12. ドイツにおける組織論① - ニックリッシュの組織論 -   13. ドイツにおける組織論② - グーテンベルクの組織論 -   14. ドイツにおける組織論③ - その他の動向 -   15. まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30169001 |
| 科目名        | 経営統計学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management Statistics  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ビジネス分野における重要課題として、「予測」と「要因分析」があります。的確な予測や要因分析を行うには、数学や統計学的手法を用いた定量的なデータ分析が必要になります。  この講義では、「良製品の予測」や「売上高の予測」等に目して、統計学的手法によるデータ分析の方法について学習します。ここでは、これらの手法の理論的な理解よりも、それを応用するという観点から講義します。  講義形式ではありますが、グラフの作成、確率の計算、回帰分析等は表計算ソフトを使って行います。受講生には、講義の後実際に表計算ソフトを使って計算することを課します。</p>                  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況、提出物等による。授業内実習(70%)  |       |           |
| 到達目標       | <p>・経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。  ・データを統計的に整理し、データの特徴を表やグラフを用いて説明できる。  ・変数間の関係を検証するために統計的手法を活用できる。</p>  |       |           |
| 準備学習       | この科目では事後学習とします。 各章の終わりに課題を提示する。(課題は、講義の内容に関する実習です。)  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・数学は知識を1段1段積み上げて行く学問です。休みが重なると講義内容が理解出来なくなるので、毎回出席することを望む。  ・数学や統計学の基礎知識も必要になるので、統計入門や経営数学を受講していることが望ましい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 統計学について 2 経営統計学について 3 確率分布の利用(1) 確率分布 4 確率分布の利用(2) いろいろな確率分布 5 確率分布の利用(3) 確率分布の利用 6 回帰分析の利用(1) 相関 7 回帰分析の利用(2) 回帰分析の方法 8 回帰分析の利用(3) 予測 9 回帰分析の利用(4) 演習 10 時系列分析の利用(1) 重回帰分析(2変数)の方法 11 時系列分析の利用(2) 重回帰分析(多変数)の方法 12 時系列分析の利用(3) 予測 13 時系列分析の利用(4) 演習 14 実習(1) 確率分布の利用、相関 15 実習(2) 回帰分析と予測</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30173001 |
| 科目名       | 経営分析論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Financial Statement Analysis   |       |           |
| 担当者名      | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点から見ると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 田中弘 『会計データの読み方・活かし方』中央経済社 1890 円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回レジュメを配布する予定です  |       |           |
| 評価方法      | 授業内レポート(20点)、授業内テスト(50点)および平常点(30点)  |       |           |
| 到達目標      | 会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。  |       |           |
| 準備学習      | 教科書の指定ページを読んでくること  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 積極的な講義への参加を期待します。  |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1. 企業分析の意義  2. 会計の役割と株式会社  3. 売上と利益  4. 貸借対照表の見方  5. 損益計算書の見方  6. いくつかの業種の財務諸表  7. 収益性の分析(1)  8. 収益性の分析(2)  9. 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方  14. 企業グループと連結決算 15. 総合評価  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3017700A |
| 科目名        | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 実在の企業の戦略をまとめたケースを参考にしながら、自分でいろいろと情報収集・分析し、その企業の戦略をまとめます。 専門ゼミで学んだ知識やスキルを活用しながら、さらに高度なレベルを目指します。 ケースは一応用意しますが、希望する企業や業界があればそれにも応じます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配付します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況や受講姿勢など) 50%。企業分析のレポートおよび発表 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 書籍、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。   |       |           |
| 準備学習       | 分析対象に選んだ企業のニュースに関心を持っておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。|なお、経営戦略論 I、II を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

#### 講義の順序とポイント

専門ゼミナール、研究ゼミナール I、II は継続して履修します。研究ゼミナール I では、専門ゼミナールで学んだことを活かして、さらに深く企業の経営戦略を分析します。|また、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。|1. 春学期オリエンテーション|2. 企業の選択、参考文献の紹介|3. 参考文献の要点整理|4. 参考文献の要点整理|5. 中間発表、ディスカッション|6. 中間発表、ディスカッション|7. 情報収集と分析|8. 情報収集と分析|9. 中間発表、ディスカッション|10. 中間発表、ディスカッション|11. 追加調査|12. 追加調査|13. 発表、ディスカッション|14. 発表、ディスカッション|15. 春学期まとめ|16. 秋学期オリエンテーション|17. 企業の選択、参考文献の紹介|18. 参考文献の要点整理|19. 参考文献の要点整理|20. 中間発表、ディスカッション|21. 中間発表、ディスカッション|22. 情報収集と分析|23. 情報収集と分析|24. 中間発表、ディスカッション|25. 中間発表、ディスカッション|26. 追加調査|27. 追加調査|28. 発表、ディスカッション|29. 発表、ディスカッション|30. まとめ

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3017700B |
| 科目名        | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本ゼミナールでは、テーマを「企業会計の最新動向および会計情報の活用に関する演習」とし、その展開内容は次のようである。なお、以下における報告手順などは、「専門ゼミナール」における展開方法と同様である。 【春semester】 ① まず、プリントを配布して、大学生として活用すべき基本的な知的生産スキル(調べ、まとめ、発表する技法)を再確認したうえで、配布プリントを資料とした要約・感想文の演習を数回行う。 ② 次に、テキスト(1)を数回輪読し、その後はグループ単位で報告・質疑応答を行う。 ③ semester期末に、テキストの報告担当章に関するレポート提出を求める。 【秋semester】 ① テキスト(2)を活用して、企業会計をめぐる最新の動向についてグループ単位で順に報告・質疑応答を行う。能動的に会計学分野の全体像を確認できるように心がける。 ② 最終部では、上場企業の決算情報などを活用して、財務諸表の実態分析を行う予定である。 ③ semester期末に、テキストの報告担当章に関するレポート提出を求める。</p>  |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) 田中靖浩 著 『実学入門 経営がみえる会計 [第3版]』 日本経済新聞社   (2) 明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング—現代会計入門—【四訂版】』 同文館出版  |       |           |
| 教材(参考文献)   | (1) 佐藤 望 編著 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』 慶應義塾大学出版   (2) その他、適宜、指示する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜、プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 原則として、ゼミへの取組状況(30%)、期中課題(40%)、期末レポート(30%)に基づき、総合評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | (1) 企業組織などの経営目標に対して、個人が関わるべき義務及び責任を理解することができる。  (2) 組織経営の課題を発見・分析・評価するために利用可能な、基礎的な経営知識を用いることができる。  (3) 基礎的なキャッシュ・フロー経営について理解することができる。  (4) 現行の企業会計制度の基礎について理解することができる。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 輪読予定箇所について、事前に解読して予習しておくこと。  (2) 報告予定箇所について、事前にレジュメ作成と報告準備あるいは質問準備をしておくこと。  (3) 企業訪問を通じて現場実習を行う場合には、事前に当該企業の経営についてゼミナールとして事前学習を行うが、訪問時に行う質問事項についても各自で準備を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 本ゼミナールの履修者は「会計学専攻」であることを意識し、専攻内容の充実に努めて下さい。  (2) 「研究ゼミナール I」が必修化されている意味を再確認し、自己投資(テキスト等購入を含む)には積極的に行動して下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>本研究ゼミナール I の展開は、一応、次のように予定している。 【春semester】  1. 参加者全員の他己紹介、本ゼミナールの意義および次回以降のガイダンス   2. アカデミック・スキルズの確認   3. アカデミック・スキルズの演習   4. テキスト(1)第1講の輪読   5. テキスト(1)第2講の輪読   6. テキスト(1)第3・4講に関するグループ A の報告・質疑応答   7. テキスト(1)第5・6講に関するグループ B の報告・質疑応答   8. テキスト(1)第7・8講に関するグループ C の報告・質疑応答   9. テキスト(1)第9・10講に関するグループ D の報告・質疑応答   10. 小括—①キャッシュフロー経営について ②レポート提出について—   11. 各自のレポート報告及び内容に関する質疑応答①   12. 各自のレポート報告及び内容に関する質疑応答②   13. 提出レポートに関する総括   14. ケーススタディー—公表財務諸表の内容—   15. semester総括   【秋semester】  1. 秋semesterのガイダンス   2. テキスト(2)第1章の輪読   3. テキスト(2)第2章の輪読   4. テキスト(2)第3章に関するグループ A の報告と質疑応答(1)   5. テキスト(2)第4章に関するグループ B の報告と質疑応答(1)   6. テキスト(2)第5章に関するグループ C の報告と質疑応答(1)   7. テキスト(2)第6章に関するグループ D の報告と質疑応答(1)   8. テキスト(2)第7章に関するグループ A の報告と質疑応答(2)   9. テキスト(2)第8章に関するグループ B の報告と質疑応答(2)   10. テキスト(2)第9章に関するグループ C の報告と質疑応答(2)   11. テキスト(2)第10章に関するグループ D の報告と質疑応答(2)   12. テキスト(2)第11章「財務諸表分析の基礎」の輪読   13. 財務諸表分析の演習   14. 論文作成要領の指導   15. semester総括</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3017700D |
| 科目名  | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名   | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。  高度情報化がすすむにつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。  ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。  反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。  授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。  その他の特記事項 時間外での相当量の学習、調査を要する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 4GB 以上の USB メモリ。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 中でも、春学期は、  1.現在の情報システムの動向や問題点を整理する。  2.現在の情報管理の動向や問題点を整理する。 ことを重点目標とする。 秋学期は、  1.情報システム、情報管理の手法を実際に構築する。  2.構築したシステム、手法を検討する。 ことを重点目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のためのトレーニングを常にしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>専門ゼミの内容から、関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。  《研究ゼミナール Is》  1.はじめに 2.レポートの書き方の復習 3.経営学の基礎知識の復習 4.外部アカウントの取得 5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新  WAMP の構築 6.ホームページの作成(1) 7.ホームページの作成(2) 8.ホームページの作成(3) 9.ホームページの作成(4) 10.プログラミング(1) 11.プログラミング(2) 12.プログラミング(3) 13.プログラミング(4) 14.レジユメの作成 15.まとめ   《研究ゼミナール If》  春学期の研究をもとに実際に情報管理手法をパソコンに展開し、情報システムの構築を行う。 そして、その成果を個人研究報告または共同研究報告してもらおう。  16.はじめに 17.経営学の基礎知識の復習 18.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 19.情報システムの構築演習(1) 20.情報システムの構築演習(2) 21.情報システムの構築演習(3) 22.情報システムの構築演習(4) 23.情報システムの構築演習(5) 24.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 25.各自の情報管理テーマ (設定) 26.各自の情報管理のテーマ (レジユメの作成) 27.各自の情報管理のテーマ (レジユメの作成) 28.各自の情報管理のテーマ (発表) 29.各自の情報管理のテーマ (発表) 30.まとめ  授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3017700E |
| 科目名        | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | もともとゼミは、教員ではなく学生が中心となって運営されるものである。できるだけこの考えに沿ってゼミを進めたい。ゼミ生各自が自分でテーマ (主題) を選び、資料・文献等を収集し、分析・整理し、レジメを作成してもらう。そして他のゼミ生の前で発表し (プレゼン)、その後、全員で討論する。これをゼミ生各人が順番におこなっていく。  個別指導はプレゼン・討論の前におこなう。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各報告者に紹介してもらう   |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイント、スライド、板書など  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%)、レジメとプレゼン (20%)・討論 (20%)  |       |           |
| 到達目標       | 問題発見能力、コミュニケーションスキル、生涯学習力を身につけること  |       |           |
| 準備学習       | 経営や社会問題を常に意識し、新聞・雑誌等のメディアにいつも触れておくこと。  携帯やパソコンでも新聞の記事を読むことができますが、できれば紙媒体で新聞を読んでほしい。というのは、携帯などでは読んでいる記事しか目にする事ができませんが、紙媒体の新聞なら、読んでいる記事以外の記事のタイトルなども同時に目に入ってくるからです。新聞を読むことがより刺激的になります 。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>学術論文に触れることはもちろん、3 回生の終わりぐらいまでには、「日本経済新聞」を毎日読む習慣をつけてほしい。週刊誌「日経ビジネス」もたまには見てほしい。また、月刊誌の『文芸春秋』・『中央公論』・『VOICE』・『婦人公論』などは、かなり専門的なことがらが分かりやすく論じられていて、ためになることも知ってほしい。   レジメ報告後は積極的な討論を望む。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 01 A 君報告 (単独報告)  02 B 君報告  03 C 君報告  04 D 君報告  05 E 君報告  06 F 君報告  07 G 君報告  08 H 君報告  09 I 君報告  10 J 君報告  11 K L M 君報告 (グループ報告)  12 N O P 君報告  13 Q R S 君報告  14 T U V 君報告  15 W X Y 君報告  16 A 君報告  17 B 君報告  18 C 君報告  19 D 君報告  20 E 君報告  21 F 君報告  22 G 君報告  23 H 君報告  24 I 君報告  25 J 君報告  26 K L M 君報告  27 N O P 君報告  28 Q R S 君報告  29 T U V 君報告  30 W X Y 君報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J3017700F |
| 科目名   | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 専門ゼミの延長線上で、各自関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。各学期中に研究の途中経過をパワーポイントを用いてプレゼンテーションしてもらう予定である。                        |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 開講後指示する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)  |       |           |
| 到達目標  | 会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。   |       |           |
| 準備学習  | 各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的に議論に参加すること。 毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 演習計画のガイダンス  2. ゼミ・レポートの書き方  3. 研究テーマの報告と決定(1)  4. 研究テーマの報告と決定(2)  5. 図書館での資料検索  6. 財務データの入手方法  7. 貸借対照表の見方  8. 損益計算書の見方  9. キャッシュ・フロー計算書の見方  10. クロスセクション分析と時系列分析  11. 財務分析の手法(1) 収益性分析  12. 財務分析の手法(2) 安全性分析  13. 財務分析の手法(3) 成長性分析  14. 財務分析結果の報告(1)  15. 財務分析結果の報告(2)  16. 企業経営と会計 17. 日本の会計制度の概要 18. 業種による財務データの違い 19. 会計情報の開示制度 20. 有価証券報告書の見方 21. 企業集団と連結会計  22. セグメント情報 23. 企業の戦略と会計 24. 企業の抱えるリスク  25. 株価と財務データ  26. 配当と株価 27.業績見通しと株価 28.総合評価の方法 29.最終報告(1) 30.最終報告(2) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3017700H |
| 科目名        | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 今日のビジネスでは、インターネットに代表される情報ネットワークが重要なツールとして活用されています。そこでインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。  春学期には表計算ソフトを使いデータを加工、処理する知識を身につけます。秋学期には、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%) 出席状況等。課題提出 (30%)。   |       |           |
| 到達目標       | インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトを使いデータを加工・処理する知識を身につけることを目標とします。  |       |           |
| 準備学習       | 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 春学期オリエンテーション   2 レポートの書き方の復習①   3 レポートの書き方の復習②   4 ワードソフト、プレゼンテーションソフトの使い方の復習   5 表計算ソフトの使い方 (関数、グラフの作成)   6 表計算ソフトの使い方 (データベース機能など)   7 表計算ソフトの使い方 (応用)   8 経営学の知識① (共通教材の提供)   9 経営学の知識② (情報収集の仕方)   10 経営学の知識③ (レジュメの作成)   11 経営学の知識④ (レジュメの作成)   12 経営学の知識⑤ (発表)   13 経営学の知識⑥ (まとめ)   14 SPI2、時事問題等   15 春学期のまとめ   16 秋学期オリエンテーション   17 経営学の知識の復習①   18 経営学の知識の復習②   19 経営学の知識の復習③   20 インターネットビジネスの研究① (各自のテーマの設定)   21 インターネットビジネスの研究② (資料収集)   22 インターネットビジネスの研究③ (概要の作成)   23 インターネットビジネスの研究④ (概要の作成)   24 インターネットビジネスの研究⑤ (発表)   25 業界研究①   26 業界研究②   27 企業研究①   28 企業研究②   29 企業研究③   30 秋学期のまとめ   授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。 |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J3017700J |
| 科目名   | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 会計を学びます。春学期は京セラを取り上げ、その経営管理手法と会計の関係を学びます。秋学期に比較的やさしい財務会計のテキストを選び、会計について理解します。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | ゼミナール開始後に相談のうえ決定します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%、報告 40%、課題 40%   |       |           |
| 到達目標  | 1. 経営学部の専門教育におけるゼミナールの意義を理解し、研究ゼミナール II の学習に参加できる態度を身につける 2. 指定した教科書を理解・要約し、他人が理解できる報告を行うことができる 3. 理解できなかった箇所について、調査や質問などで解消できる |       |           |
| 準備学習  | 1. 割り当てられた課題を行ってください 2. 割り当てられた課題が何かの事情でできない場合は、直ちに連絡をしてください 3. (事前学習で)理解できなかった箇所を質問してください                                      |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| やむをえず遅刻・欠席する場合には必ず事前に連絡してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 春学期は京セラを取り上げ、その経営管理手法と会計の関係を学びます。秋学期に比較的やさしい財務会計のテキストを選び、会計について理解します。輪読終了後には、各自の興味・関心に応じて、その知識を深めてもらいます。  テキストの輪読では、単にテキストを理解するだけではなく、理解 (誤解?) した内容を基に質疑応答を行い、コミュニケーション能力を磨きます。次に、理解した分析手法を実際に適用するだけではなく、その分析結果を、上手に伝えるプレゼンテーション能力を磨きます。  これらの能力を磨くために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの簡単な利用方法も学びます。  秋学期は、就職活動の準備を平行して行います。  1. ミーティング 2. 自己 PR と京セラについて 3. 京セラの経営管理手法「アメーバ経営」について 4. 『アメーバ経営』第1章 5. 『アメーバ経営』第2章1 6. 『アメーバ経営』第2章2 7. 『アメーバ経営』第2章3 8. 『アメーバ経営』第2章4 9. 『アメーバ経営』第3章1 10. 『アメーバ経営』第3章2 11. 『アメーバ経営』第3章3 12. 『アメーバ経営』第4章1 13. 『アメーバ経営』第4章2 14. 『アメーバ経営』第4章3 15. 『アメーバ経営』第5章 16. 自己 PR / 実績報告 17. テキストの輪読(1) 18. テキストの輪読(2) 19. テキストの輪読(3) 20. テキストの輪読(4) 21. テキストの輪読(5) 22. キャリアサポートセンターの研修 23. テキストの輪読(6) / 業界研究(1) 24. テキストの輪読(7) / 業界研究(2) 25. 上級生の報告を聴く (就職活動) 26. テキストの輪読(8) / 業界研究(3) 27. 上級生の報告を聴く (卒業研究) 28. テキストの輪読(9) 29. 卒業研究について 30. 面談 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3017700K |
| 科目名        | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 足立 勝彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | マーケティング・広告企画の実践的学習 春学期は主として、教科書、教材を用いての輪読や討議にあて、マーケティング・広告の理論や方法を学んでいく。秋学期では、マーケティング・広告の現場での実習、観察、リサーチなどを体験し、それらから得た結果をレポート形式にまとめ発表する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 足立勝彦『ブランドストウリィ 広告を超える広告』愛育出版 2000 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業内配布物  |       |           |
| 評価方法       | 授業の参加度(50%)、演習の達成度(50%)により評価する (ゼミ出席回数70%以上必要)  |       |           |
| 到達目標       | マーケティング・広告の企画についてのポイントを、教科書やマーケティング・広告の現場の学習を通じて習得することを目的とする。   |       |           |
| 準備学習       | 日ごろから、広告 (CM、新聞、店頭広告物など) をよく観察しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内での積極的な参加を期待する。また、適宜宿題も提示するので必ずやってくること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>春学期   1. オリエンテーション   2. マーケティング・広告企画・研究について   以下研究書の輪読形式ですすめ、内容を全員で討議しながら理解を深めていく   3. 研究書輪読 1   4. 研究書輪読 2   5. 研究書輪読 3   6. 研究書輪読 4   7. 研究書輪読 5   8. 研究書輪読 6   9. 研究書輪読 7   10. 研究書輪読 8   11. 研究書輪読 9   12. 研究書輪読 10   13. 研究書輪読 11   14. 研究チーム編成、秋学期の研究テーマの検討   15. 春学期まとめ    秋学期   1. 研究調査のオリエンテーション   2. チーム研究 資料収集 1   3. 資料収集 2   4. 資料収集 3   5. 資料収集 4   6. 調査企画   7. 調査実施 1   8. 調査実施 2   9. 調査実施 3   10. 研究レポート作成 1   11. 研究レポート作成 2   12. 研究レポート作成 3   13,14. 研究発表   15. 研究ゼミナール 1 まとめ</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3017700L |
| 科目名        | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究ゼミナール I では、文献研究と事例研究 (その前提となる文献検索・収集) を併行して進め ねばならない。文献研究では、テキストの輪読を通じて、プロ野球球団について企業経営の発展を考察する。これを踏まえて各自課題を選び、秋学期には各自の研究成果を報告し、ゼミナール I 終了レポートをまとめてもらう。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 橘川武郎・奈良堂史『ファンから見たプロ野球の歴史』日本経済評論社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 出席・報告・レポートをもって総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営史の基礎的知識を習得し、歴史の連続と断絶を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>春学期：テキストを読み進める。  I. ファンの目線の重要性  1.曲がり角に立つ日本のプロ野球  2.日本のプロ野球をめぐる四つの危険な徴候  II. 国民的スポーツへの苦闘(1936~57年)  3.プロ野球誕生と「本業シナジーモデル」  4.戦後の再出発  5.二リーグ分裂と巨人依存  6.ラジオの時代と「広告宣伝モデル」  III. ONの時代(1958~80年)  7.長島・王の登場、巨人V9と巨人依存の本格化  8.プロ野球人気とテレビの時代  IV. 挑戦と危機の交錯(1981~2008年)  9.「総合力の時代」の到来  10.「巨人依存モデル」の継続  11.マルチメディア化とプロ野球  V. 日本プロ野球再生への道  12.「地域密着モデル」を深化させる  13.プロ野球を文化にする  14.球場の収入を球団の収入にする  15.日本プロ野球のこれから 秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。  16.各自の研究報告第一回(1)  17.各自の研究報告第一回(2)  18.各自の研究報告第一回(3)  19.各自の研究報告第一回(4)  20.各自の研究報告第一回(5)  21.各自の研究報告第二回(1)  22.各自の研究報告第二回(2)  23.各自の研究報告第二回(3)  24.各自の研究報告第二回(4)  25.各自の研究報告第二回(5)  26.各自の研究報告第三回(1)  27.各自の研究報告第三回(2)  28.各自の研究報告第三回(3)  29.各自の研究報告第三回(4)  30.各自の研究報告第三回(5)</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3017700M |
| 科目名        | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>企業経営のうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。 </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント・ビデオ  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%) 出席と発表、レポート (30%)  |       |           |
| 到達目標       | <p>企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、何事にも好奇心を持って、情報収集力を高められるようにしておくこと。 新聞・雑誌・TV等で気になったことをコピーやメモしておく習慣をつけるように。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回の出席と積極的参加。 メンバー相互の協力で楽しく達成感の得られるゼミにしましょう。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション (ゼミの目的と進め方)  2. グループワーク①  3. グループワーク②  4. ケーススタディ①<br/>新聞・雑誌から  5. ケーススタディ② //  6. ケーススタディ③ビデオで見る事例  7. ケーススタディ④ //<br/> 8. 企業と個人のキャリアの関係①  9. 企業と個人のキャリアの関係②  10. グループ研究テーマ設定  11. 企画書作り<br/>①  12. // ②  13. グループ研究・調査  14. //  15. //  16. グループ研究まとめ作業  17. グループ研究発表<br/> 18. 企業見学準備  19. 企業見学準備  20. 企業見学  21. 企業見学  22. レポート作成の方法  23. レポートのテーマ<br/>決め  24. レポート作成  25. レポート作成  26. レポート発表  27. レポート発表  28. レポート発表  29. 研究ゼミ II に向け<br/>て  30. まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3017700P |
| 科目名        | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>専門ゼミナールで養成したイノベーションと企業（起業）家精神にかかる知識を活用して、事業機会の認識、経営資源の調達・ビジネスシステムの構築と実践的な起業構想および起業計画の策定に取り組む。  なお昨今では、業歴のある企業においても「企業内起業家」が求められる時代となっている。この意味は、事業を取り巻く環境変化が厳しい時代においては、過去の成功体験や実績に依存することのみによって事業経営を維持継続させることが困難な時代を迎えており、常に事業における「イノベーション」が求められ、その原点には「企業（起業）家精神」の存在が不可欠となっていることにある。この観点からも事業経営に必要とされる幅広い知識およびスキルの習得にも努める。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 梅木晃他編著 『事業構想と経営』 嵯峨野書店   日本政策金融公庫編 『創業の手引き』  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50%、研究成果 50%   |       |           |
| 到達目標       | <p>起業家、企業内起業家(一般サラリーマン)、事業後継者として求められる基礎的な知識および思考能力を習得のため、事業構想を行うとともに、具体的な形としてビジネスプラン(事業計画の策定)に取り組み、そのプロセスを通して、ビジネスにおける実践力の習得を目標とする。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>社会において展開されているビジネスについて深い関心を持ち、ビジネスへの感性を磨くことを心掛けるとともに、新たなビジネスチャンスの発見、ビジネスシステムの構築に努め、紹介する参考書をはじめとした、周辺情報の取得に努める。</p>   |       |           |

#### 受講者への要望

起業家、企業内起業家(創造的サラリーマン)、事業後継者を目指す受講生を希望します。またゼミナールの運営をグループ中心に行うため、その活動を通して、コミュニケーション、リーダーシップについても学んでもらうことを希望します。

#### 講義の順序とポイント

グループ研究により起業構想および起業計画の策定に取り組む。| 研究の進捗状況に応じて、文献研究、ケース研究、フィールドワークと幅広い研究方法の活用を行う。| 1 本ゼミナールの概要(講義)| 2 起業構想から起業計画へ必要とされる知識とスキルの習得(総論)(講義)| 3 起業機会の認識(各論)(講義)| 4 経営資源の調達(各論)(講義)| 5 ビジネスシステムの構築(各論)(講義)| 6 起業構想のためのグループ分けおよび各ゼミ生のグループ内での役割決定(起業構想のための組織作り)| 7 起業機会の認識(起業を目指す市場、業界、業種についての調査、研究、決定をフィールドワーク実施)| 8 起業機会の認識②| 9 経営資源の調達(起業を実現するため必要とされる経営資源(人・モノ・金など)の調達についての考察①)| 10 経営資源の調達②| 11 ビジネスシステムの構築(新たなビジネスの仕組みの構築)| 12 ビジネスシステムの構築②| 13 中間発表会(今後の進め方、ブラッシュアップなどについて意見交換、質疑応答など)| 14 中間発表会②| 15 起業構想のブラッシュアップ①| 16 起業構想のブラッシュアップ②| 17 起業構想のブラッシュアップ③| 18 起業構想のブラッシュアップ④| 19 起業構想のブラッシュアップ⑤| 20 評価の実施(起業構想の実現可能性などについて)| 21 評価の実施②| 22 評価の実施③| 23 プレゼンテーションの準備①| 24 プレゼンテーションの準備②| 25 プレゼンテーションの準備③| 26 プレゼンテーションの実施(起業構想についての発表、質疑応答、評価など)| 27 プレゼンテーションの実施②| 28 プレゼンテーションの実施③| 29 プレゼンテーションの実施④| 30 総合評価およびまとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J3017700Q |
| 科目名  | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名   | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | HRM(Human Resources Management)に関する事例をまずは輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいか<br>にして企業で行われているかを理解する。また、若年労働市場の現状と課題を学ぶ。10%にせまる失業率、<br>多くのフリーターやニート、就職して3人に1人が辞めるという大卒の離職率、週50時間にせまる長時間<br>労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議する。   加えて、あなたが大学卒業後に進みたい業界<br>あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明<br>らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ<br>作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 課題・宿題 (30%)、および平常点 (70%) 出席状況等により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 次のいずれかの修得を目指す。   *企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提<br>案・実践しようとする姿勢を持つことができる。   *企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について<br>認識できる。   *エントリーシートや筆記試験に対応できる。   |       |           |
| 準備学習   | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。 および、パソコン入門またはパソコン応用の単位を取得し<br>ている方が望ましい。   各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 何事にもチャレンジする方を望む。パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行について 各種ビジネスソフトの教習① 2.各種ビジネスソフトの教習② 3.各種ビジ<br>ネスソフトの教習③ 4.企業規模・年齢・業界別の所得分析  5.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について①<br> 6.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について②  7.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等<br>について③  8.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について④  9.勤務地限定制度の有無、労働時間について①  10.<br>勤務地限定制度の有無、労働時間について②  11.SPI、時事問題①  12.SPI、時事問題②  13.未上場企業の HRM について①  14.未<br>上場企業の HRM について②  15.エントリーとは? エントリーシートの書き方について①  16.エントリーとは? エントリーシ<br>ートの書き方について②  17.エントリーシートの書き方について③  18.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について①  19.財務<br>諸表の読み方と経営分析の仕方について②  20.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について③ 21.成果主義・能力主義とは何か?<br>①  22.成果主義・能力主義とは何か?②  23.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して①  24.初任給は決め手<br>にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して②  25.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について①  26.不祥事を起こした会<br>社・人財軽視の会社について②  27.エントリーシートの書き方について④   留学・進学について  28.SPI、時事問題③ 29.研究論<br>文について①。  30.研究論文について②。 来期のゼミについて。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J3017700R |
| 科目名   | 研究ゼミナール I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Research Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 2 回生の専門ゼミナールでは経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習したが、研究ゼミナール I ではそれらに基づきながら、経営組織に関する研究をさらに深め、組織の行動と個人の行動の本質を探る。このことによって、次年度の研究ゼミナール II で各自が研究を行う際の土台を構築したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 基本的には、平常点 (出席状況や受講姿勢など) 30%、報告内容 40%、学期末のレポート 30% の割合で評価する。ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 経営学あるいは経営組織論について基本的な文献を読むことができる。 2. 上記の文献について、内容を要約することができる。 3. 上記の文献を用いて、4000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。  |       |           |
| 準備学習  | 1. 受講者は、次回の講義で扱う内容 (配布資料・指定された文献) を読み、報告者に対する質問を考えておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 受講者は、前回の内容を復習しておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. ゼミナールへの積極的な参加を望む。 2. 必ず出席すること。(遅刻・欠席については厳しく対処する。) 3. 講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行うため、事前の学習が不可欠である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行う。具体的には、経営学および経営組織論に関するテキストに基づき、学生の 1 人 (あるいはグループ) がそのテキストの一定部分を担当し、資料を作成して報告する。その後、質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。 基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、初回の講義で報告者を割り当て、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。  1. 春学期オリエンテーション  2. 経営学総論①  3. 経営学総論②  4. 経営学総論③  5. 科学的管理法①  6. 科学的管理法②  7. 科学的管理法③  8. 管理過程学派①  9. 管理過程学派② 10. 人間関係論① 11. 人間関係論② 12. 人間関係論③ 13. レポート作成 14. レポート発表 15. 春学期まとめ 16. 秋学期オリエンテーション 17. 近代組織論① 18. 近代組織論② 19. 近代組織論③ 20. 組織における個人の行動① 21. 組織における個人の行動② 22. モチベーション論① 23. モチベーション論② 24. モチベーション論③ 25. リーダーシップ論① 26. リーダーシップ論② 27. リーダーシップ論③ 28. レポート作成 29. レポート発表 30. 秋学期まとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3017700S |
| 科目名        | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>専門ゼミナールではスポーツビジネスだけでなく社会に巣立つ前段階への導入として、皆さんが興味を持つスポーツ種目の歴史と現在における組織活動、企業の仕組みの比較などについて発表していただきました。パワーポイントで資料を作成し、みんなの前で発表する、限られた時間内に課題をまとめることに重きを置いていました。  研究ゼミナール I では、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネス研究を対象に、これまでに専門的に研究にかかわってきた人々の研究成果を学び、自分なりに課題を見つけることを出発とします。 しかし、それまでに経営学的な考え方を既存の経営学から学び、経営組織に関する研究を深め、組織の行動と個人の行動の本質を探り、スポーツビジネスに応用するというビジネスマインドを持ってください。ビジネスは今後さらに進化していくと考えられますが、それをけん引するシステムを構築するぐらいの気持ちで取り組みたいものです。  本研究ゼミナールは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか?新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。次年度の研究ゼミナール II に向かって、実践と理論を結び付けていきましょう。</p>                                   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 発表内容とレポート(50%)。 ゼミナールへの積極的関与(50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. 2つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. ゼミには積極的に参加する。 2. 遅刻や無断欠席をしない。 3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>研究ゼミナールでは主として学生の報告やディスカッションで進めていくという参加型の授業をします。そこでは事前学習、報告書の作成という積極的なアクションが実行されないと授業は成立しません。今までのように事業を聞き、ノートを取るという受け身の姿勢ではなく、ゼミ生全員の積極的な態度が必要です。ゼミの時間を有意義にするのはあなた自身であるということで、他に責任転嫁をしないで取り組んでください。初回の事業だけは課題がありますが、次回からはみなさんが主役です。 1. 春学期オリエンテーション、研究テーマの報告 2. ビジネス研究① 3. ビジネス研究② 4. ビジネス研究③ 5. ビジネス研究④ 6. ビジネス研究⑤ 7. ビジネス研究⑥ 8. ビジネス研究⑦ 9. ワールドカップの現状分析① 10.ワールドカップの現状分析② 11.ワールドカップの現状分析③ 12.ワールドカップの現状分析④ 13.ワールドカップの現状分析⑤ 14.スポーツにかかわる人材と組織① 15..スポーツにかかわる人材と組織② 16.秋学期オリエンテーション 17.ITビジネスの可能性 18.スポーツビジネスとIT革命と戦略 19.企業とスポーツのかかわり分析 20.研究論文の検索と概要報告・ディスカッション 21.研究論文の検索と概要報告・ディスカッション 22.研究論文の検索と概要報告・ディスカッション 23.研究論文の検索と概要報告・ディスカッション 24.研究論文の検索と概要報告・ディスカッション 25.企業研究(企業見学) 26.レポート作成 27.発表内容のまとめ 28.研究ミニ発表会 29.研究ミニ発表会 30.秋学期のまとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3017700T |
| 科目名        | 研究ゼミナール I  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Research Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本ゼミナールでは、マーケティング論からスポーツの現象を説明することを目的とする。具体的には、① 先行研究を批判的に読み込み、②1 次データを収集し分析する。  そのために前半では (1) 提示されたテキストを輪読し、(2) 2 次データの収集を行ない、後半では (1) 1 次データを収集し、(2) それらを分析し、報告する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜、指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし。  |       |           |
| 教材 (その他)   | なし。  |       |           |
| 評価方法       | 演習内報告 (50%)、課題報告 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | マーケティング現象を説明する仮説を検証するために必要な作業を行なうことができる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. テキストの熟読 2. 2 次データの収集 (図書館に通う)  3. 1 次データの収集 (現地に通う)   |       |           |
| 受講者への要望    | 課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。 また他大学の図書館へ出向く可能性もあるので、図書館で共通閲覧証の発行を求めている。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>■春学期 1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 「テキストの提示」：このゼミナールで取り組む本年度の課題を提示する 3. 「チーム決定」：課題遂行は複数のチームで行うため、チームを決定する 4. 「テキスト輪読 1」：担当チームがレジュメで内容を報告する 5. 「テキスト輪読 2」：担当チームがレジュメで内容を報告する 6. 「テキスト輪読 3」：担当チームがレジュメで内容を報告する 7. 「2 次データ収集 1」：担当チームが収集状況を報告する 8. 「2 次データ収集 2」：担当チームが収集状況を報告する 9. 「2 次データ収集 3」：担当チームが収集状況を報告する 10. 「2 次データ収集 4」：担当チームが収集状況を報告する 11. 「2 次データ収集 5」：担当チームが収集状況を報告する 12. 「2 次データ収集 6」：担当チームが収集状況を報告する 13. 「2 次データ分析報告 1」：担当チームが分析結果を報告する 14. 「2 次データ分析報告 2」：担当チームが分析結果を報告する 15. 「中間総括」：これまでの進捗状況を確認する ■秋学期 16. 「1 次データ収集のための心得」：現場に降り立つ際の注意事項を説明する 17. 「1 次データ収集 1」：担当チームが収集状況を報告する 18. 「1 次データ収集 2」：担当チームが収集状況を報告する 19. 「1 次データ収集 3」：担当チームが収集状況を報告する 20. 「1 次データ収集 4」：担当チームが収集状況を報告する 21. 「1 次データ収集 5」：担当チームが収集状況を報告する 22. 「1 次データ収集 6」：担当チームが収集状況を報告する 23. 「1 次データ収集 7」：担当チームが収集状況を報告する 24. 「1 次データ収集 8」：担当チームが収集状況を報告する 25. 「1 次データ分析報告 1」：担当チームが分析結果を報告する 26. 「1 次データ分析報告 2」：担当チームが分析結果を報告する 27. 「1 次データ分析報告 3」：担当チームが分析結果を報告する 28. 「報告会 1」：担当チームが全分析結果を報告する 29. 「報告会 2」：担当チームが全分析結果を報告する 30. 「総括」：これまでのゼミナールを総括する</p> |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30181001 |
| 科目名   | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名  | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 専門ゼミ、研究ゼミIで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。                                 |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 必要に応じて紹介します。  |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜プリントを配付します。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(出席状況や受講姿勢など)50%。レポートおよび発表(50%)。                                     |       |           |
| 到達目標  | 自分で研究テーマを見つけることができる。 研究テーマに関する文献や関連資料を収集することができる。 研究成果を論文としてまとめることができる。 |       |           |
| 準備学習  | ゼミの時間だけでなく、常日頃から文献の調査や論文の作成を行うことが必要である。                                 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 専門ゼミナール、研究ゼミナールI、IIは継続して履修します。研究ゼミナールIIでは、専門ゼミ、研究ゼミIで学んだことをさらに深く研究し、大学生活の集大成として、卒業研究としてまとめます。 1. オリエンテーション 2. 研究の進め方、論文のまとめ方について 3. 研究テーマ案の検討 4. 関連文献、資料の調査 5. 関連文献、資料の調査 6. 研究計画の作成 7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換 8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換 9. 研究テーマ、研究計画の決定 10. 研究論文作成 11. 研究論文作成 12. 研究論文作成 13. 途中経過発表、意見交換 14. 途中経過発表、意見交換 15. 研究論文作成 16. 研究論文作成 17. 研究論文作成 18. 途中経過発表、意見交換 19. 途中経過発表、意見交換 20. 研究論文作成 21. 研究論文作成 22. 研究論文作成 23. 途中経過発表、意見交換 24. 途中経過発表、意見交換 25. 研究論文作成 26. 研究論文作成 27. 研究論文作成 28. 研究発表 29. 研究発表 30. まとめ |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30181002 |
| 科目名       | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記) | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名      | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>(1) 本ゼミナールでは、次のような展開方法を予定している。  ①就職活動が本格化する前に、「自己分析」に関して再確認する。  ②企業会計をめぐる最新の動向と財務会計分野の問題点を再確認する。  ③6月頃には、ゼミナリステン全員が卒業論文のテーマを選定し、必要な資料収集を開始する。  ④論文構成(章立て)を検討し、夏季休暇中には就職活動と並行して、論文作成に取り組む。  ⑤秋 semester には、論文の推敲を重ねる中で、各自レジュメを作成し、研究報告を行う。  ⑥最終的には、本ゼミナールの卒業論文として完成するよう指導する。 (2) 本ゼミナールにおける単位取得要件は、原則的に卒業論文の提出であることに注意して頂きたい。なお、卒業論文は、別途「卒業研究」としての申請や学生論集『ビジネス・アカデミア』への投稿のベースとなることを再認識して欲しい。卒業論文は大学での学習面の総括であり、積極的な取り組みを期待している。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | 明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウントティング—現代会計入門—【四訂版】』 同文館出版  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 各自の選定した卒論テーマに関連する適切な文献を指示する。  |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜、プリント配布を行う。   |       |           |
| 評価方法      | 原則として、ゼミへの平常の取組状況(30%)、卒業論文(70%)に基づき、総合評価を行う。   |       |           |
| 到達目標      | <p>(1) 最新の企業会計制度の現状を理解することにより、企業を取り巻く現実の諸問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 (2) 会計専門職の実社会における意義や役割を理解することができる。 (3) 卒業論文の作成を通じて、企業経営に重要な影響を及ぼす会計事象の課題について、問題点の発見・整理・分析・評価などのプロセスを実体験することができる。</p>   |       |           |
| 準備学習      | <p>(1) 常に、自主的に課題へ取り組む姿勢を示すことが肝要であり、平素より積極的な姿勢を準備すること。 (2) 必ず疑問・問題意識をもってゼミへ参加するよう、事前準備に努めること。 (3) 双方向の活発な議論となるように、コミュニケーション能力あるいはディベート能力を事前準備として磨き、ゼミへの参加を心がけること。</p>  |       |           |

#### 受講者への要望

(1) 「会計学専攻」としての本ゼミナール履修者は、会計学分野に関する知識充実に努め、その集大成として卒業論文を作成し、さらには、学生論集への投稿まで結びつけて頂きたい。|(2) 特に、公認会計士を志望して専門職大学院への進学を希望する者、あるいは、税理士等を志望して大学院への進学を希望する者にとっては、こうした卒業論文作成の経験は極めて重要であり、必修課業であるともいえる。大学における会計学履修の総括として、特定のテーマについてまとめることが学習の総まとめの一端となり、また、大学院進学後に修士論文などを作成する際の大きなステップとしての重要な必須経験となるからである。|(3) 一般企業などへの就職を指向する場合も、自主的なテーマ設定・資料収集・下書き・推敲といった一連のプロセスを経て完成する卒業論文こそ、大学における唯一の「自主的な学習成果」となり、社会人となった際にも、その経験は生きることとなろう。|(4) 以上のことを再認識し、ゼミの卒業論文作成に積極的に取り組んで頂きたい。

#### 講義の順序とポイント

本研究ゼミナールIIの展開内容は、次のように予定している。|【春semester】| 1. ゼミナール・ガイダンス | 2. 自己分析などに関する手法と内容 | 3. 自己分析などに関する演習 | 4. 企業会計分野における最新の動向 | 5. 財務会計分野の問題点の確認(1) | 6. 財務会計分野の問題点の確認(2) | 7. テーマ選定の指導と演習(1) | 8. テーマ選定の指導と演習(2) | 9. 資料収集の指導と演習(1) | 10. 資料収集の指導と演習(2) | 11. 論文構成に関する指導 | 12. 論文構成に関する演習(1) | 13. 論文構成に関する演習(2) | 14. 卒業論文作成に関する確認 | 15. semester総括|【秋semester】| 1. 卒業論文作成に関する再確認 | 2. 論文構成に関する再確認 | 3. 論文構成に関する演習(1) | 4. 論文構成に関する演習(2) | 5. 論文構成に関する演習(3) | 6. 研究報告(1) | 7. 研究報告(2) | 8. 研究報告(3) | 9. 研究報告(4) | 10. 研究報告(5) | 11. 研究報告(6) | 12. 研究報告(7) | 13. 研究報告(8) | 14. 秀作報告 | 15. 総括

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30181004 |
| 科目名   | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | Research Seminar II  |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。  高度情報化がすすむにつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。  ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。  反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。  授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。)  その他の特記事項 時間外での相当量の学習、調査を要する。また、ゼミナールの特性上、ノートPCを必須とする。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 適宜指示する。  |       |           |
| 教材(その他)   | ノートPC、無線LANカード(PC本体内蔵の場合は不要)   |       |           |
| 評価方法  | 平常点40%、演習課題及びレポート60%で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、卒業論文作成に向けた知の充実を図る。   |       |           |
| 準備学習  | 授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のためのトレーニングを常にしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 新しいIT技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。  1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。  2.実験構築した内容の評価を行う。  研究ゼミナールII s 《春学期》 1 はじめに 2~3 経営学の基礎・応用知識の復習 4~5 テーマの設定 6 中間報告 7~14 資料収集、システム構築、レジユメの作成、報告、検証、討論を重ねる  15 まとめ  研究ゼミナールII f 《秋学期》 16 はじめに 17 春学期の復習 18~20 論文の書き方 21~27 卒業論文(卒業制作)の作成 28-29 論文発表 30 まとめ   授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30181005 |
| 科目名        | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Research Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究ゼミナールIの続きである。ただし、形式も整った「研究論文」の作成が目的である。時間もエネルギーもかかるが、がんばってほしい。  さまざまな講義はもちろん、自主的な読書に関しても、普段からノートをとっておく習慣をつけてほしい。ある程度ノートがたまってくると、問題発見→さらなる資料収集→論点整理→論文作成のプロセスが容易になる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 各報告者が提示する  |       |           |
| 教材（その他）    | パワーポイント、スライド、板書。各報告者の論文のコピー。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（60%）、レジメ・プレゼン（20%）、討論（20%）   |       |           |
| 到達目標       | 問題発見能力、計画力、コミュニケーション力、生涯学習力の育成   |       |           |
| 準備学習       | 経営や社会問題を常に意識し、新聞や雑誌などのメディアにいつも目を通しておくこと。  携帯やパソコンでも新聞の記事を読むことができますが、できれば紙媒体で新聞を読んでもほしい。というのは、携帯などでは読んでいる記事しか目にするできませんが、紙媒体の新聞なら、読んでいる記事以外の記事のタイトルなども同時に目に入ってくるからです。新聞を読むことがより刺激的になります 。  |       |           |
| 受講者への要望    | 計画的にレポートを作成すること、積極的に討論に参加すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 01 A君報告（単独報告）  02 B君報告  03 C君報告  04 D君報告  05 E君報告  06 F君報告  07 G君報告  08 H君報告  09 I君報告  10 J君報告  11 KLM君報告（グループ報告）  12 NOP君報告  13 QRS君報告 14 TUV君報告 15 WXY君報告 16 A君報告 17 B君報告 18 C君報告 19 D君報告 20 E君報告 21 F君報告 22 G君報告  23 H君報告 24 I君報告 25 J君報告 26 KLM君報告 27 NOP君報告 28 QRS君報告 29 TUV君報告 30 WXY君報告 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30181006 |
| 科目名  | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Research Seminar II                                      |       |           |
| 担当者名   | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業研究指導   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 研究テーマに合わせて個別に指導します                                       |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)  |  |       |           |
| 評価方法   | 中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)                          |       |           |
| 到達目標   | 問題意識を持って研究対象を見つめ、問題の所在を明らかにするとともに、体系的に説明できる能力を身につける      |       |           |
| 準備学習   | 各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。 |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>春学期： 1. 各自の今後の研究方向の決定 2. 卒業研究の書き方の指導(1) 3. 卒業研究の書き方の指導(2) 4. 卒業研究の書き方の指導(3) 5. 関連書籍・データの収集(1) 6. 関連書籍・データの収集(2) 7. 関連書籍・データの収集(3) 8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1) 9. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2) 10. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3) 11. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4) 12. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5) 13. 中間報告(1) 14. 中間報告(2) 15. 中間報告(3) 秋学期： 16. 卒業研究の方向性の確認(1) 17. 卒業研究の方向性の確認(2) 18. 卒業研究の方向性の確認(3) 19. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1) 20. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2) 21. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3) 22. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4) 23. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5) 23. 論文形式の再確認 24. 受講生ごとの問題点とその確認(1) 25. 受講生ごとの問題点とその確認(2) 26. 受講生ごとの問題点とその確認(3) 27. 受講生ごとの問題点とその確認(4) 28. 最終報告(1) 29. 最終報告(2) 30. 最終報告(3) </p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30181008 |
| 科目名  | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名   | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 研究ゼミナールIで学んだことを基に、論文のテーマを決めます。各自の設定したテーマごとにレジユメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていきます。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布します。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 各自の研究テーマに合わせて適宜指示します。   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜プリント等の資料を配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(50%)出席状況等。課題提出(50%)。  |       |           |
| 到達目標   | 論文を作成するための知識(テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等)の習得を目標とします。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とします。         |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけてください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 春学期オリエンテーション 2 経営学の知識の復習①  3 経営学の知識の復習② 4 経営学の知識の復習③ 5 論文テーマの設定① 6 論文テーマの設定② 7 論文テーマの設定③ 8 資料収集① 9 資料収集② 10 論文構成の作成① 11 論文構成の作成② 12 論文構成の作成③ 13 論文構成の発表① 14 論文構成の発表② 15 春学期のまとめ  16 秋学期オリエンテーション  17 論文の書き方① 18 論文の書き方② 19 中間報告に向けた準備①(資料収集、論文の作成) 20 中間報告に向けた準備②(資料収集、論文の作成)  21 中間報告に向けた準備③(論文の作成) 22 中間報告に向けた準備④(論文の作成) 23 中間報告①  24 中間報告② 25 論文の作成① 26 論文の作成② 27 論文の作成③ 28 論文の作成④ 29 最終報告 30 秋学期のまとめ   授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。 |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30181010 |
| 科目名        | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 最初に、輪読の続きを行います。次に、各自が選択したテーマについて学習を進め、卒業研究のテーマを決定します(ここまでは全員)。研究ゼミナールIで積極的にゼミに取り組んだ希望者は、卒業論文の作成を行います。   |       |           |
| 教材(テキスト)   |   |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、報告 40%、課題 40%   |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部の専門教育におけるゼミナールの意義を理解し、自ら課題を設定し学習を進めることができる<br> 2. 選択したテーマに沿った資料(論文・専門書)を理解・要約し、他人が理解できる報告を行うことができる<br> 3. 報告に基づく質疑応答・アドバイスを踏まえ、自らの研究課題を進めることができる   |       |           |
| 準備学習       | 1. 自ら選択した研究課題に沿って資料を集め、理解してください 2. (事前学習で)理解できなかった箇所を質問してください   |       |           |
| 受講者への要望    | やむをえず遅刻・欠席する場合には必ず事前に連絡してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>研究ゼミナールIでの学習を元に各自で研究ゼミナールIIで学習するテーマを選択してもらいます。そのテーマの学習をさらに進めるとともに、卒業論文の作成も視野に入れることにします。  1. 面談  2. 輪読の復習(1)  3. 輪読の復習(2)  4. 輪読の再開(1)  5. 輪読の再開(2)  6. 輪読の再開(3)  7. 輪読の再開(4)  8. 卒業研究の候補(1)  9. 卒業研究の候補(2)  10. 卒業研究の候補(3)  11. 卒業研究のやり方(1)  12. 卒業研究のやり方(2)  13. 卒業研究テーマの仮決定  14. 面談 15. 卒業研究報告：タイトル 16. 卒業研究報告：タイトルとねらい  17. 卒業研究報告：構成  18. 卒業研究報告：第1章  19. 卒業研究報告：第2章  20. 卒業研究報告：第3章  21. 卒業研究報告：第4章  22. 卒業研究：仮報告会 23. 校正ソフトを使った校正 24. 卒業研究報告：タイトルと構成  25. 卒業研究仮報告：下級生ゼミで報告 26. 卒業研究報告 27. 卒業研究報告 28. 卒業研究：最終校正 29. 卒業研究：報告会(1) 30. 卒業研究：報告会(2)</p> |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |                |                                  |
|------------|---|----------------|----------------------------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード          | J30181011                        |
| 科目名        | 研究ゼミナールII   | 単位数            | 4                                |
| 科目名（英語表記）  | Research Seminar II                                     |                |                                  |
| 担当者名       | 足立 勝彦   | 旧科目名称          |                                  |
| 講義概要       | マーケティング・広告プランニングのトータルな企画力獲得とレポート能力を磨く。秋学期は主として卒論作成に充てる。 |                |                                  |
| 教材（テキスト）   | 適宜提供する。   |                |                                  |
| 教材（参考文献）   |   |                |                                  |
| 教材（その他）    |   |                |                                  |
| 評価方法       | ゼミ参加度（50%）と課題達成度（50%）による                                |                |                                  |
| 到達目標       | 大学での最終学習としての卒論を仕上げることを目的とする。                            |                |                                  |
| 準備学習       | 3回生での学習の復習をしておくこと。                                      |                |                                  |
| 受講者への要望    | 就職活動も重なり、忙しい時期ではあるが、ぜひ卒論を仕上げるという意気込みで望んでもらいたい。          |                |                                  |
| 講義の順序とポイント |   |                |                                  |
| 春学期   1    | イントロダクション   2、3   | 研究テーマ設定   4～12 | 個人研究   （学生の進捗状況に応じて個別指導）   13,14 |
|            | プレレポート提出   15   | 春学期まとめ         | 秋学期   1                          |
| 卒論指導       | （学生の進捗状況に応じて個別指導）   13,14                               | 卒論完成   15      | 研究ゼミナール2まとめ                      |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30181012 |
| 科目名   | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 研究ゼミナールIIにおいては、研究ゼミナールIで選んだ研究課題について、研究報告を積み重ね、卒業論文にまで研究を深めてもらう。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 全員に統一したテキストはない。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に紹介する。                                   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 出席・報告・卒業研究をもって総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 卒業研究(論文)を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。           |       |           |
| 準備学習  | 自分の研究の深化に全力を注いでもらいたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 春学期：  1.ゼミナールI 終了論文の確認と今後の研究方向(1)  2.ゼミナールI 修了論文の確認と今後の研究方向(2)  3.ゼミナールI 修了論文の確認と今後の研究方向(3)  4.ゼミナールI 修了論文の確認と今後の研究方向(4)  5.第一回研究報告(1)  6.第一回研究報告(2)  7.第一回研究報告(3)  8.第一回研究報告(4)  9.第一回研究報告(5)  10.第二回研究報告(1)  11.第二回研究報告(2)  12.第二回研究報告(3)  13.第二回研究報告(4)  14.夏季休業中の研究に関する指導(1)  15.夏季休業中の研究に関する指導(2)  秋学期：  16.夏季休業中の研究報告(1)  17.夏季休業中の研究報告(2)  18.夏季休業中の研究報告(3)  19.夏季休業中の研究報告(4)  20.夏季休業中の研究報告(5)  21.卒業研究(論文)の構想検討(1)  22.卒業研究(論文)の構想検討(2)  23.卒業研究(論文)の構想検討(3)  24.卒業研究(論文)の構想検討(4)  26.卒業研究(論文)の最終検討(1)  27.卒業研究(論文)の最終検討(2)  28.卒業研究(論文)の最終検討(3)  29.卒業研究(論文)の最終検討(4)  30.卒業研究(論文)の最終検討(5) |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30181013 |
| 科目名  | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名   | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 研究ゼミ I で学んだこと、感じた問題意識を基に、卒業研究のテーマを見つける。 テーマに関する情報収集や整理、分析を通じ、問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる構成力・文章力も育成する。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況だけでなく、卒業後に進む企業についての情報交換等も行い、理解を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | テーマに応じて適宜提供する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）、提出物（50%）   |       |           |
| 到達目標   | 経営学部生として学んだ4年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得する。  |       |           |
| 準備学習   | 専門ゼミ、研究ゼミ I を通じて常に、興味関心のある企業や経営者についての情報をキャッチしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ゼミの目的と方法  2. 論文の書き方①  3. // ②  4. 研究テーマの見つけ方  5. テーマの洗い出し  6. テーマ周辺情報収集  7. //  8. 関連書籍・データの収集  9. //  10. 整理・分析  11. //  12. テーマの決定  13. //  14. 意見交換会  15. 構成  16. //  17. 補足情報収集  18. 卒業研究作成  19. //  20. //  21. //  22. 中間報告会  23. 卒業研究作成  24. //  25. //  26. 手直し作業  27. 手直し作業  28. 提出  29. 総括  30. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30181014 |
| 科目名   | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | Research Seminar II  |       |           |
| 担当者名  | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>研究ゼミナールIで学んだことを基盤に、各自が自分のテーマにそって論文をまとめていこう。 スポーツの世界で、今何が課題となっているのだろうか?人間はスポーツという知識を全て情報としてストックできているのであろうか? さて、君はスポーツをどの程度理解しているのだろうか?学問とは、いつでも、わからないことからスタートし、わかろうとして、知識を追求し、さまざまな感覚と、人々の行動から多くを学んでいくものだ。 学び、明らかにされたことだけが知識なのだろうか?学校で学んだことだけが知識なのだろうか?メディアに取り上げられながら、スポーツのルールは日々変化していく、新しい戦略や技術がこれからも必要である。ひとは24時間学び続けているのではないだろうか? 41年前の1970年4月11日、13時13分に打ち上げられたアポロ13号は、地球から33万km離れた宇宙で発生した爆発事故により、搭載していた酸素ボンベ、電力供給ライン、燃料電池を失った。当時、有人宇宙飛行史上最大といわれたこの事故において、アポロ13号のクルーとミッション管制センターは、現状把握のための情報の収集・分析、課題解決策の立案・開発、意思決定を繰り返し、奇跡の生還を成し遂げた。このように情報は人の意思決定や行動に不可欠であり、またそれらに大きな影響を与える。4年間の最後に、学ぶとは何かを考え、よりよき人生に繋げていこう。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜指示する   |       |           |
| 評価方法  | 発表内容とレポート(50%)。 ゼミナールへの積極的関与(50%)。   |       |           |
| 到達目標  | <p>1. 各自が目標とする課題の解決に努める。 2. 計画的に課題をこなし、目標を達成できるように努力する。 3. 毎回、自らのテーマとすることが達成できるようにする。 4. 自分史をまとめ、これからの人生の足掛かりとする。みんなの前で、プレゼンテーションができるようにする。</p>  |       |           |
| 準備学習  | <p>1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、準備を怠らないようにする。 3. わからない専門用語は前もって調べ、質問に答えられるようにしておく。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>1. ゼミには積極的に参加する。 2. 遅刻や無断欠席をしない。 3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>研究ゼミナールIIでは主として学生の報告やディスカッションで進めていくという参加型の授業をします。そこでは事前学習、報告書の作成という積極的なアクションが実行されないと授業は成立しません。今までのように講義を聞き、ノートを取るという受け身の姿勢ではなく、ゼミ生全員の積極的な態度が必要です。ゼミの時間を有意義にするのはあなた自身であるということで、他に責任転嫁をしないで取り組んでください。初回の講義だけは課題がありますが、次回からはみなさんが主役です。 1. 春学期オリエンテーション、研究とはなにか? 2. 自分史を創ろう!内発的な動機付け、自尊心、尊厳、好奇心、喜び① 3. 自分史を創ろう!自分のビジョンと真摯な志、チームの中の自分、競争② 4. 自分史を創ろう!感謝と行動、現実を変えてきた行動とは?③ 5. 自分史を創ろう!スポーツは学習する組織である。④ 6. 卒論研究① 7. 卒論研究② 8. 卒論研究③ 9. 資料分析① 10. 資料分析② 11.資料分析③ 12資料分析④ 13資料分析⑤ 14.資料分析⑥ 15..資料分析⑦ 16.秋学期オリエンテーション 17.自分史2012の配布・評価 18.中間発表 19.卒論研究 20.卒論研究 21.卒論研究 22.卒論研究 23.卒論研究 24.卒論研究 25.卒論研究提出 26.卒論研究手直し 27.卒論研究手直し 28.卒論研究手直し 29.卒論研究発表会 30.秋学期のまとめ</p> |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30181015 |
| 科目名        | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Research Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本ゼミナールでは、マーケティング論からスポーツの現象を説明することを目的とする。具体的には、①先行研究を批判的に読み込み、②1次データを収集分析し、③それらを報告書にまとめる。  そのために前半では(1)提示されたテキストを輪読し、(2)2次データの収集を行ない、後半では(1)1次データを収集し、(2)それらを分析し、報告書にまとめる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし。  |       |           |
| 教材（その他）    | なし。  |       |           |
| 評価方法       | 演習内報告（50%）、課題報告（50%）   |       |           |
| 到達目標       | マーケティング現象を説明する仮説を検証するために必要な作業を行なうことができる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. テキストの熟読 2. 2次データの収集（図書館に通う） 3. 1次データの収集（現地に通う）  |       |           |
| 受講者への要望    | 課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人の受講が望ましい。 また他大学の図書館へ向う可能性もあるので、図書館で共通閲覧証の発行を求めている。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>■春学期 1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 「テキストの提示」：このゼミナールで取り組む本年度の課題を提示する 3. 「チーム決定」：課題遂行は複数のチームで行うため、チームを決定する 4. 「テキスト輪読1」：担当チームがレジュメで内容を報告する 5. 「テキスト輪読2」：担当チームがレジュメで内容を報告する 6. 「テキスト輪読3」：担当チームがレジュメで内容を報告する 7. 「2次データ収集1」：担当チームが収集状況を報告する 8. 「2次データ収集2」：担当チームが収集状況を報告する 9. 「2次データ収集3」：担当チームが収集状況を報告する 10. 「2次データ収集4」：担当チームが収集状況を報告する 11. 「2次データ収集5」：担当チームが収集状況を報告する 12. 「2次データ収集6」：担当チームが収集状況を報告する 13. 「2次データ分析報告1」：担当チームが分析結果を報告する 14. 「2次データ分析報告2」：担当チームが分析結果を報告する 15. 「中間総括」：これまでの進捗状況を確認する ■秋学期 16. 「1次データ収集のための心得」：現場に降り立つ際の注意事項を説明する 17. 「1次データ収集1」：担当チームが収集状況を報告する 18. 「1次データ収集2」：担当チームが収集状況を報告する 19. 「1次データ収集3」：担当チームが収集状況を報告する 20. 「1次データ収集4」：担当チームが収集状況を報告する 21. 「1次データ収集5」：担当チームが収集状況を報告する 22. 「1次データ収集6」：担当チームが収集状況を報告する 23. 「1次データ収集7」：担当チームが収集状況を報告する 24. 「1次データ収集8」：担当チームが収集状況を報告する 25. 「1次データ分析報告1」：担当チームが分析結果を報告する 26. 「1次データ分析報告2」：担当チームが分析結果を報告する 27. 「1次データ分析報告3」：担当チームが分析結果を報告する 28. 「報告会1」：担当チームが全分析結果を報告する 29. 「報告会2」：担当チームが全分析結果を報告する 30. 「総括」：これまでのゼミナールを総括する</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30181016 |
| 科目名   | 研究ゼミナールII  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | Research Seminar II  |       |           |
| 担当者名  | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 研究ゼミナールIにおける研究成果を踏まえて卒業論文・卒業制作に取り組む。   |       |           |
| 教材(テキスト)  |  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 研究課題により適宜紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点50%、研究成果(卒業論文、卒業レポートなど)50%  |       |           |
| 到達目標  | 大学4年間にわたる学習の集大成として論文の作成および学習成果を活用可能な進路の決定を行うことを目標とする。また日常でのコミュニケーションや意見交換を通じてリクルート活動に求められるスキルの涵養も図りたい。 |       |           |
| 準備学習  | 論文作成のため必要とされる文献はじめ必要な情報および進路決定に必要な情報の入手および活用を日頃から心掛けてゼミに臨むよう準備されたい。                                    |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 研究ゼミナールI受講者の受講が望ましい。また論文作成のテーマについては、事業構想関連の選択を希望する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 1回生からのゼミナールにおける研究により習得した、知識、スキルなどを活用して、ゼミナールの集大成としての卒業論文・卒業制作(以下卒論と言う)を行う。このため卒論など作成のための基礎知識の取得から完成までの研究を進める。一方春学期は、進路決定に重要な時期でもあり、適宜リクルート活動における課題問題点について、個別またはゼミ全体での解決にも取り組みたい。 1 はじめに(本ゼミナールの概要) 2 論文作成に関する基礎知識の習得(論文の書き方、まとめ方、論述の進め方、研究方法、情報の集め方など)① 3 論文作成に関する基礎知識の習得② 4 論文作成に関する基礎知識の習得③ 5 論文作成に関する基礎知識の習得④ 6 論文作成に関する基礎知識の習得⑤ 7 論題の選定(文献研究・事例研究・フィールドワークの実施を通じて行う)① 8 論題の選定② 9 論題の選定③ 10 論題についての仮説と検証についての考察(研究方法の考察を含む)① 11 論題についての仮説と検証についての考察② 12 論題についての仮説と検証についての考察③ 13 論文の作成(論旨および論文構成の考察ならびに論述を進める)① 14 論文の作成② 15 論文の作成③ 16 論文の作成④ 17 論文の作成⑤ 18 中間発表会(論文作成の進捗状況、今後の進め方などについて検討を行う)① 19 中間発表会② 20 中間発表会③ 21 論文の作成⑥ 22 論文の作成⑦ 23 論文の作成⑧ 24 論文の作成⑨ 25 論文の作成⑩ 26 論文の作成⑪ 27 論文の作成⑫ 28 発表会および講評① 29 発表会および講評② 30 おわりに(本ゼミナールの総括) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30181017 |
| 科目名  | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名   | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的にはレポートあるいは論文に仕立ててもらう。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材(その他)  | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 研究論文の内容(70%) および平常点(30%) 出席状況等により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 *企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 *エントリーシートや筆記試験に対応できる。                   |       |           |
| 準備学習   | 経営管理論、経営組織論、あるいは人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 研究論文の作成に意欲ある人を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行に関して  2.エントリーシートの書き方について① 3.エントリーシートの書き方について② 4.研究論文のテーマ発表① 5.研究論文のテーマ発表② 6.研究論文のテーマ発表③ 7.SPI、時事問題① 8.SPI、時事問題② 9.就職活動の近況報告と未内定者との面談 10.研究論文の書き方について① 11.研究論文の書き方について② 12.研究論文の書き方について③ 13.研究論文の書き方について④ 14.就職活動の近況報告と未内定者との面談 15.研究論文の中間発表① 16.研究論文の中間発表② 17.研究論文の中間発表③ 18.研究論文の中間発表④ 19.就職活動の近況報告と未内定者との面談 20.研究論文の提出と発表①・・・内容と書き方のチェック 21.研究論文の提出と発表②・・・内容と書き方のチェック 22.研究論文の提出と発表③・・・内容と書き方のチェック 23.研究論文の提出と発表④・・・内容と書き方のチェック 24.研究論文の提出と発表⑤・・・内容と書き方のチェック 25.研究論文の修正①、就職活動の近況報告と未内定者との面談 26.研究論文の修正②、就職活動の近況報告と未内定者との面談 27.研究論文の修正③、就職活動の近況報告と未内定者との面談 28.研究論文の修正④、就職活動の近況報告と未内定者との面談 29.研究論文の修正⑤、就職活動の近況報告と未内定者との面談 30.未内定者との面談 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30181018 |
| 科目名        | 研究ゼミナールII   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Research Seminar II   |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 2 回生の専門ゼミナールでは経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習した。3 回生の研究ゼミナール I ではそれらに基づきながら、経営組織に関する研究をさらに深め、組織の行動と個人の行動の本質を探った。 本ゼミナールでは、2・3 回生で学んだことを土台にし、経営組織に関して各自が興味のある組織現象を研究する。そのことによって、二年半に及ぶゼミナールの集大成としてもらいたい。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 基本的には、平常点(出席状況や受講姿勢など)30%、報告内容30%、学期末のレポート(あるいは論文)40%の割合で評価する。ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学あるいは経営組織論の中で、自らが関心のある事柄について文献を用いて調べることができる。 2. 上記の内容を要約することができる。 3. 上記の文献を用いて、6000 字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. 学年末に提出するレポートに向けて、各自関心のある組織現象に関する文献に目を通しておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 他の学生が報告した研究内容について質問やアドバイスができるように日常から考えておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. ゼミナールへの積極的な参加を望む。 2. 必ず出席すること。(遅刻・欠席については厳しく対処する。)  3. 講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行うため、事前の学習が不可欠である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行う。具体的には、経営学および経営組織論に関するテキストに基づき、各自が興味のある組織現象を研究する。その際、学生の1人(あるいはグループ)がそのテキストの一定部分を担当し、資料を作成して報告する。その後、質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。 基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、初回の講義で報告者を割り当て、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。   1. 春学期オリエンテーション  2. 研究ゼミナール I の復習①  3. 研究ゼミナール I の復習②  4. 研究の進め方  5. 研究テーマの洗い出し①  6. 研究テーマの洗い出し②  7. 研究テーマに関連する文献・データの収集①  8. 研究テーマに関連する文献・データの収集②  9. 文献・データの整理・分析① 10. 文献・データの整理・分析② 11. 研究テーマの確定・研究計画書の作成① 12. 研究テーマの確定・研究計画書の作成② 13. 研究計画発表 14. 意見交換 15. 春学期まとめ 16. 秋学期オリエンテーション 17. 研究論文(研究レポート)作成① 18. 研究論文(研究レポート)作成② 19. 意見交換・補足情報の収集・分析 20. 研究論文(研究レポート)作成③ 21. 研究論文(研究レポート)作成④ 22. 研究論文(研究レポート)作成⑤ 23. 中間報告・意見交換① 24. 中間報告・意見交換② 25. 研究論文(研究レポート)作成⑥ 26. 研究論文(研究レポート)作成⑦ 27. 研究論文(研究レポート)作成⑧ 28. 研究論文(研究レポート)作成⑨ 29. 研究発表 30. 秋学期まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30185001 |
| 科目名   | 原価計算論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Cost Accounting  |       |           |
| 担当者名  | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義では、管理会計の分野のうち、とりわけ戦略的な管理会計のトピックスを取り上げます。テキストをもとに、さまざまな原価計算・コストマネジメント技法について、ケースなどを使って分かりやすく解説していきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 加登豊・李建 『ケースブック コストマネジメント (第2版)』 新世社、2011年。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内確認テスト (20%)、ホームワーク (20%)、レポート (20%)、中間・期末テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標  | ① 伝統的原価管理の特徴を理解している。 ② 戦略的コストマネジメントの意義を説明できる。 ③ 戦略的コストマネジメントの特徴を理解している。                                |       |           |
| 準備学習  | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 春学期の「管理会計論」を既に履修していることが望ましい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクション (原価・利益・価格の関係)   2 ABC/ABM (I)   3 ABC/ABM (II)   4 品質コストマネジメント   5 原価企画 (I)   6 原価企画 (II)   7 環境コストマネジメント   8 問題演習   9 ライフサイクルコストニング   10 価格決定   11 バランス・スコアカード   12 資源配分計画: PPM   13 グローバル管理会計 (I)   14 グローバル管理会計 (II)   15 まとめと問題演習 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30189001 |
| 科目名        | 現代日本経済論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advance to Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バブルはどうして起ったのだろうか？終身雇用・年功序列制などの日本型経済経営システムやバブル崩壊、不良債権問題、景気後退の長期化、さらには少子化・高齢化、巨額な財政赤字、どれもこれも日本経済が抱えた問題、否、まだ抱えている問題でもある。それらを正しく理解することがスタートになる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。授業時にパワーポイントで講義内容を表示する。また、一定期間後、これを受講生に開示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 植松・坂本ほか「日本経済論」 八千代出版株式会社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等、期末定期試験（60％）   |       |           |
| 到達目標       | 日本経済を理解するうえで、GDP、為替レート、国際収支、金利、物価などのマクロ経済から、コーポレート・ガバナンス、株式会社、バランスシート、特別損失、規制緩和、成長戦略などの基礎的な理解が欠かせないので、できるだけ現実の経済に迫まることにしましょう。   |       |           |
| 準備学習       | 主要な日刊紙で報道されている経済ニュースの内容や背景などが理解できるようになって欲しい。そうなれば自ずと日常的に経済社会の変化に関心をもつことができるばかりでなく、自らも経済社会のあり方に関して問題意識を高めることができる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「入門日本経済論」の履修者が望ましい。また、原則として講義終了後、理解度テストを実施する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、プラザ合意による日本経済への影響  2、円高のメリットとデメリット  3、内外価格差問題の理解  4、平成景気のプロセス  5、バブルとは何か、何故、バブルが起こるのか   6、バブルによる影響を考えてみる。「バブルの大きさ、山高ければ谷深し」の比喻を解明しよう   7、バブルはどのようにして崩壊したか   8、不良債権の発生と処理に向けてどのような対策がとられたか。何故、大手銀行まで潰れたのだろうか  9、過去のバブルを検証してみる。バブルの教訓と課題。  10、日本型リスク行動を検証する。さらに日本型経営システムを問う。  11、「失われた10年」の景気プロセス  12、デフレ・スパイラルの検証  13、金融危機後の日本経済  14、人口減少による日本経済への影響  15、日本経済の課題と展望 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30194A01 |
| 科目名        | 工業簿記 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Factory Bookkeeping I   |       |           |
| 担当者名       | 李 建   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>基本的に、「工業簿記・原価計算」をはじめて学ぶ学生を対象にします。原価とは何か、原価はどのように計算するのか、原価の計算方法にはどんなものがあるか、計算した原価情報で何ができるか、こうした素朴な疑問に答えを出していくことがこの講義の大きな狙いとなっています。日商簿記検定試験(2級)をも念頭においた講義なので、受講後は検定試験にチャレンジすることをお勧めします。 </p>                                       |       |           |
| 教材 (テキスト)  | T A C 簿記検定講座著 『合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記』 T A C 出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回ホームワークのプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (25%)、ホームワーク (25%)、中間・期末テスト (50%)   |       |           |
| 到達目標       | ① 工業簿記の意義と特徴を理解している。 ② 原価計算と工業簿記の関連を理解している。 ③ 個別原価計算の手続きを理解している。  |       |           |
| 準備学習       | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 若干の「商業簿記」の知識があることを前提に講義を進めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 工業簿記の基礎   2 工業簿記の勘定連絡   3 個別原価計算 (I)   4 個別原価計算 (II)   5 個別原価計算 (III)   6 材料費 (I)   7 材料費 (II)   8 問題演習 (I)   9 労務費 (I)   10 労務費 (II)   11 経費   12 部門別個別原価計算 (I)   13 部門別個別原価計算 (II)   14 部門別個別原価計算 (III)   15 問題演習 (II)  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                           |  |       |           |
|---------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                        | 2012   | 授業コード | J30194B01 |
| 科目名                       | 工業簿記Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                 | Factory Bookkeeping II   |       |           |
| 担当者名                      | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                      | 本講義では、総合原価計算のさまざまな計算手続きについて学びます。また、単なる原価計算に留まらず、原価の管理に役立つ手法として、標準原価計算や直接原価計算についても学習します。日商簿記検定2級工業簿記の範囲のうち、後半部分をカバーすることを目指します（前半部分は「工業簿記Ⅰ」でカバー）。受講後はぜひ検定試験にチャレンジして下さい。                        |       |           |
| 教材（テキスト）                  | T A C 簿記検定講座著 『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記』 T A C 出版  |       |           |
| 教材（参考文献）                  |  |       |           |
| 教材（その他）                   | 毎回ホームワークのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法                      | 平常点（25%）、ホームワーク（25%）、中間・期末テスト（50%）   |       |           |
| 到達目標                      | ① 総合原価計算の手続きを理解している。 ② 工企業の財務諸表が作成できる。 ③ 原価管理の考え方を理解している。  |       |           |
| 準備学習                      | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。  |       |           |
| 受講者への要望                   |  |       |           |
| 原則として、「工業簿記Ⅰ」の単位取得者が対象です。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                | 1 総合原価計算（Ⅰ）  2 総合原価計算（Ⅱ）  3 総合原価計算（Ⅲ）  4 総合原価計算（Ⅳ）  5 総合原価計算（Ⅴ）  6 財務諸表（Ⅰ）  7 財務諸表（Ⅱ）  8 問題演習（Ⅰ）  9 標準原価計算（Ⅰ）  10 標準原価計算（Ⅱ）  11 標準原価計算（Ⅲ）  12 直接原価計算（Ⅰ）  13 直接原価計算（Ⅱ）  14 本社工場会計  15 問題演習（Ⅱ） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30201A01 |
| 科目名   | 国際経営論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | International Management A   |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正  | 旧科目名称 | 国際経営論     |
| 講義概要  | <p>グローバルゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。  なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。  そこで「国際経営論A」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較を試みたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。  非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012年）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | <p>・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上に資料をアップロードしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論A」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかりと聴いて確認をしてください。  ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくとう便利です。 </p>  |       |           |
| 教材（その他）   | そのつど、指示します。  |       |           |
| 評価方法  | ほとんど毎回行う小テスト（20%）、期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標  | 世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成   |       |           |
| 準備学習  | 教科書の該当箇所を読んでおくことと上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>01. はじめに、講義のテーマと進め方 02. 欧米の経済発展 ①科学技術の発展 03. 欧米の経済発展 ②大衆消費社会の到来 04. 欧米の経済発展 ③グローバルゼーション（自動車を例にとりて） 05. マックス・ヴェーバー「倫理論文」その1 06. マックス・ヴェーバー「倫理論文」その2 07. 中国 ①秦の始皇帝 08. 中国 ②盛世と呼ばれた時代・清 09. 中国 ③18-19世紀とヨーロッパ  10. 中国 ④戦後の経済成長 11. 台湾 ①矛盾と分裂の台湾 12. 台湾 ②戦後台湾の経済と経営 13. 東南アジアにおける華人 14. 巨大消費市場としてのアジア 15. 講義のまとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30201B01 |
| 科目名   | 国際経営論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | International Management A  |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正   | 旧科目名称 | 各国経済・経営事情 |
| 講義概要  | <p>グローバルゼーション (地球規模化) という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。  なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。  「国際経営論 A」では欧米とアジア (特に中国文化圏) との比較を中心に論じているが、「国際経営論 B」では韓国と東南アジア諸国とインドのそれぞれの文化と産業・経営について論じる。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。  非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』(森山書店・2012年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | <p>・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上に資料をアップロードしておきます。  ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 B」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。  ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。  ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかりと聴いて確認をしてください。   ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくことと便利です。</p>  |       |           |
| 教材 (その他)  | そのつど、指示します。   |       |           |
| 評価方法  | しばしば行う小テスト (20%)、期末試験 (80%)   |       |           |
| 到達目標  | 世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成  |       |           |
| 準備学習  | 教科書の該当箇所を読んでおくことと上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。  ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>0 1. アジアの変貌  0 2. 朝鮮半島の歴史  0 3. 戦後朝鮮半島の産業と経営  0 4. 韓国の財閥 (Chaebol チェボル) の経営  0 5. ベトナム社会主義共和国の産業と経営  0 6. タイ王国と華人経営  0 7. マレーシアの経済発展  0 8. シンガポール共和国の経済発展  0 9. インドネシア共和国の歴史と産業 その1  1 0. インドネシア共和国の歴史と産業 その2  1 1. インドの歴史とヒンドゥー教  1 2. インドの産業と経営  1 3. アジアと日本企業 その1  1 4. アジアと日本企業 その2  1 5. 講義のまとめ</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30220001 |
| 科目名        | 事業構想概論   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Business Design  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場的に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家)精神が求められるようになった。  新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は異なり、活動領域や提供する財・サービスも個別化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しく変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えていけば良いのか、基本的な問題を明らかにしていきたい。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 梅木晃、井形浩治編著 『事業構想と経営』 嵯峨野書院   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 随時プリントを配付する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | 経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考え。この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標とした。   |       |           |
| 準備学習       | 事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには、単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれた。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者数が多いため、受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに (本講座の概要)   2 経営をめぐる環境の変化   3 ネット社会の出現   4 グローバリゼーションの本質   5 新たな企業の役割・使命   6 マネジメントのあり方   7 事業構想の視点   8 なぜ事業構想なのか、事業構想とは何か   9 事業構想のカテゴリー   10 構想立案の着眼点   11 事業構想とアントレプレナー ①   12 事業構想とアントレプレナー ②   13 事業構想策定の基本   14 アントレプレナーの役割   15 構想立案の焦点   16 構想の推進策   17 事業構想策定のプロセス   18 企業個性の実現 (創造力・効率性など)   19 企業文化の構築   20 コスト・リスク・市場への対応 ①   21 コスト・リスク・市場への対応 ②   23 コスト・リスク・市場への対応 ③   24 事業構想の具体的手順   25 思考転換の推進 (構想の進め方、着眼点)   26 構想計画の作成   27 構想計画の評価   28 未来構想へ向けて①   29 未来構想へ向けて②   30 まとめ (本講座の総括)</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3022000A |
| 科目名        | 事業構想概論   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Business Design  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場的に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家)精神が求められるようになった。  新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は異なり、活動領域や提供する財・サービスも個別化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しく変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えていけば良いのか、基本的な問題を明らかにしていきたい。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 梅木晃、井形浩治編著 『事業構想と経営』 嵯峨野書院   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 随時プリントを配付する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | 経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考え。この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標とした。   |       |           |
| 準備学習       | 事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには、単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれた。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者数が多いため、受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに (本講座の概要)   2 経営をめぐる環境の変化   3 ネット社会の出現   4 グローバリゼーションの本質   5 新たな企業の役割・使命   6 マネジメントのあり方   7 事業構想の視点   8 なぜ事業構想なのか、事業構想とは何か   9 事業構想のカテゴリー   10 構想立案の着眼点   11 事業構想とアントレプレナー ①   12 事業構想とアントレプレナー ②   13 事業構想策定の基本   14 アントレプレナーの役割   15 構想立案の焦点   16 構想の推進策   17 事業構想策定のプロセス   18 企業個性の実現 (創造力・効率性など)   19 企業文化の構築   20 コスト・リスク・市場への対応 ①   21 コスト・リスク・市場への対応 ②   23 コスト・リスク・市場への対応 ③   24 事業構想の具体的手順   25 思考転換の推進 (構想の進め方、着眼点)   26 構想計画の作成   27 構想計画の評価   28 未来構想へ向けて①   29 未来構想へ向けて②   30 まとめ (本講座の総括)</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30226001 |
| 科目名        | 女性経営者論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Women Own's Businesses  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④IT化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。                   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 毎回レジュメプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてビデオ教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。  |       |           |
| 準備学習       | マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者について関心を持ち、情報を得ておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ 事業機会の認識 6. // 起業プロセス 7. // 資金調達 8. // マーケティング 9. // 人材活用 10. 女性が中心となるNPO 11. SOHOと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30230001 |
| 科目名   | 商学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Business and Commerce  |       |           |
| 担当者名  | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本経済において流通・商業がになう役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。このため商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く論じられているのが現状である。このような認識を踏まえ、商業において中心的役割を果たす小売機構・機関を中心として、一般的に論じられている流通・商業に関する社会経済的視点および流通・商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアオペレーション等についての理解を進める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%、レポート 30%、試験 50%  |       |           |
| 到達目標  | 商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識・スキルの習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 はじめに（本講座の概要）   2 商学の研究対象としての流通・商業   3 商学への接近①（流通・商業・マーケティング）   4 ②（伝統的・近代的接近方法）   5 商業の発展   6 商業を担う卸売機構および小売機構   7 卸売機構の現状と課題   8 小売機構①現状と課題   9 ②業態発展理論  10 業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など  11 商圏と商業集積の考察 ① 商店街  12 ② ショッピングセンター  13 商業の実際 ① マーチャンダイジング  14 ② ストアオペレーション  15 おわりに（本講義の総括） |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30231A01 |
| 科目名   | 商業簿記 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Bookkeeping for a Commercial Firm I   |       |           |
| 担当者名  | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 簿記の基礎知識(経営学部開講科目「簿記原理」)を前提にして、1)商業簿記の基礎を復習し、続いて、2)商業簿記の基礎を学習します。日本商工会議所簿記検定3級の試験範囲をカバーすることを目指します。   |       |           |
| 教材(テキスト)  | 渡部 裕巨・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義/3級商業簿記』中央経済社* *2011年度「簿記原理」の教科書です(2010年度以前に「簿記原理」を受講した人は、その時の教科書で構いません)。他学部の学生で、簿記を受講したことがある人は、その際に使用した教科書を持参してください。 |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | ホームワーク 20%、平常点 10%、試験 70%   |       |           |
| 到達目標  | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 個人企業で行われる各種の取引を記帳できる 3. 個人企業の決算手続きを理解している 4. 個人企業の財務諸表を作成できる  |       |           |
| 準備学習  | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 原則として、「簿記原理」の単位取得者が対象です。「入門簿記」のみを受講した人にはやや難しいようです。履修にあたっては、図書館で教科書を確認するなどしてから決めてください。 2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。 3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。 4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。                |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| I. 簿記原理の復習  1. 簡単なテスト(成績には関係ありません)  2. 簿記原理の復習(その1)  3. 簿記原理の復習(その2)と小テスト   II. 簿記原理から商業簿記Iへ  4. 商品勘定(3分法)  5. 手形(その1)  6. 手形(その2)  7. 有価証券  8. 固定資産(その1)  9. 固定資産(その2)  10. 貸倒引当金  11. 収益と費用(その1)  12. 収益と費用(その2)  13. 帳簿組織 14. 決算と財務諸表(その1)  15. 決算と財務諸表(その2) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30231B01 |
| 科目名  | 商業簿記Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Bookkeeping for a Commercial Firm II  |       |           |
| 担当者名   | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本商工会議所簿記検定3級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定2級商業簿記のうち、各種取引の記帳をカバーすることを目指します（株式会社の会計と本支店会計は、「応用商業簿記」でカバーします）。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 渡部・片山・北村編著 『検定簿記講義2級商業簿記 平成24年度版』 中央経済社、2012年。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | ホームワーク 20%、平常点 10%、試験 70%   |       |           |
| 到達目標   | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 小売・卸売業における各種取引（例：手形取引、特殊商品売買取引）の記帳ができる  |       |           |
| 準備学習   | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください                                      |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記3級（全商2級）合格者が対象です。「応用商業簿記」との同時履修を強く勧めます。 2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。 3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定2級への挑戦を勧めます。 4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Ⅰ 商業簿記Ⅰの復習  1.簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（応用商業簿記との違い） 2.商業簿記Ⅰの復習   Ⅱ 商業簿記Ⅰから商業簿記Ⅱへ  3.現金預金（その1）：当座勘定 4.現金預金（その2）：銀行勘定調整表 5.有価証券：売買・評価と貸借・差入れ・預かり・保管 6.債権債務：債務保証・未決算・ 7.手形（その1）：自己指図為替手形と自己宛為替手形 8.手形（その2）：手形の裏書・割引 9.手形（その3）：不渡りと荷為替手形 10.商品売買（その1）：商品の割引・割戻 11.商品売買（その2）：商品評価損と商品減耗損 12.特殊商品売買（その1）：「通常の商品売買」と「特殊商品売買」 13.特殊商品売買（その2）：未着品取引と委託販売・受託販売 14.特殊商品売買（その3）：委託買付・受託買付と割賦販売 15.帳簿組織 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30248001 |
| 科目名  | 情報と職業   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information and Occupation  |       |           |
| 担当者名   | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>情報通信社会の中で、職業と自己のあり方生き方と職業を考える。若者を取り巻く現状を白書等から述べ、職業の意義と役割を考え、自己のあり方生き方と職業を論じる。  教職希望者には、教育者としての進路指導、職業指導のあり方を論じる。職業指導では、生徒の入学時からの計画的で継続的な指導が重要であり、望ましい勤労観、職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択できるように指導する必要がある。また、教育者としての進路指導はいかにあるべきか、情報化を進路指導にどのように活用するか、大量の情報が交換できる高度情報通信社会の中で、主として専門教科「情報」を学ぶ生徒が将来、技術者として活躍するために、進路指導がいかにあるべきか、また情報化を進路指導にどのように活用していくか論じる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30％）学習履歴状況等による。e-learning により課す課題評価（70％）  |       |           |
| 到達目標   | 職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。   |       |           |
| 準備学習   | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、自分の都合の良い時間にコンピュータ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意欲がないものとみなす場合がある。  能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 白書等から、若者を取り巻く現状   職業の意義と役割   職業とキャリア   1-1. 職業指導とは何か   学習指導要領の規定   2. 情報産業の現状   これからの情報化社会で求められる人材   人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル   3. 厚生労働省等統計データから、現状分析   3-1. 高等学校における進路指導の現状   4. 高校生の就職に関わる法・制度・仕組み   職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法   公共職業安定所と学校との職業紹介の分担   新規高等学校卒業生の就職のための推薦および選考開始期日等   統一応募書類   5. 高等学校卒業生・大卒の就職の推移と現状   高卒者と大卒者の評価、採用問題   雇用情勢・経済成長   6. 職業意識   自分が望むあるいは目標とする職業   何のために働くか   6-1. 生徒の職業意識の希薄化   7. インターシップの実施   8. キャリアデザイン   職種に必要な能力、何が必要か   8-1. ホームルーム等での進路指導   9. 職業と職業生活について   職業及び職業生活   勤労・職業の意義と役割   職業生活と法令   10. 情報化と社会の変化について   情報化に伴う産業と社会生活の変化   情報関連産業の発達と資源・環境問題   情報社会のモラル   11. 職業と自己実現   職業適性の理解   自己のあり方生き方と職業   進路選択と自己実現   12. 求められる進路指導の改善   キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策   13. インターネットの進路指導への活用   14. 若年失業者問題と対策   15. 職業とキャリアの形成</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30250001 |
| 科目名   | 情報セキュリティ論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Privacy Protection  |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せれば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 相戸浩志『情報セキュリティの基本と仕組み第3版 基礎から学ぶセキュリティリテラシー』秀和システム  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 情報処理推進機構『情報セキュリティ読本 改訂版』実教出版 新藤茂・加藤直樹『教師のための情報セキュリティ入門』日本標準 その他は適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン・ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内提出物及び小テスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(30%)、平常点(20%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることが出来る知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に2時間程度の予習、講義後に2時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。   1. 受講ガイダンス、IT(情報技術)に潜む危険  2. 企業における情報セキュリティの対象  3. 情報セキュリティを取り巻く状況  4. 情報漏えいの防止  5. インターネットの安全を図る(1)  6. インターネットの安全を図る(2)  7. 電子メールの安全を図る技術  8. 暗号化とデジタル署名  9. 情報資産のライフサイクルマネジメント  10. 情報セキュリティマネジメントシステム  11. 個人情報保護  12. 事業継続管理  13. リスクマネジメントシステム  14. 情報セキュリティリテラシーの強化  15. まとめ</p>        |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                             |  |       |           |
|-----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                          | 2012   | 授業コード | J30252A01 |
| 科目名                         | 情報ネットワーク論 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                  | The Study of Information Network Community I   |       |           |
| 担当者名                        | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                        | パソコン等のコンピュータをインターネットに代表される通信ネットワークに接続して、情報をやり取りすることが多くなっています。このような情報ネットワークを利用したコミュニケーションは、私たちの生活に欠かせなくなっています。  本講義では、コンピュータと通信ネットワークの基礎的な知識を学び、情報ネットワークの仕組みを理解できるようになることをめざします。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                   | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                   | 田上博司著『デジタルコミュニケーション』晃洋書房,2007年,2415円 その他授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)                    | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材やパワーポイントを活用します。   |       |           |
| 評価方法                        | 平常点 (40%) 出席状況、授業内レポート等。定期テスト (60%)。   |       |           |
| 到達目標                        | コンピュータの基本的な仕組みを理解することを目標とします。 通信ネットワークの基本的な仕組みを理解することを目標とします。  |       |           |
| 準備学習                        | 新聞等のメディアを活用し、最新の情報ネットワークの動向に関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望                     |  |       |           |
| 私語や遅刻をしないこと。私語が過ぎれば、退出を求める。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                  | 1 ガイダンス (授業の進め方や目的の説明、情報と通信の概念)   2 コンピュータの歴史   3 コンピュータの仕組み①   4 コンピュータの仕組み②   5 ソフトウェアと周辺機器①   6 ソフトウェアと周辺機器②   7 コンピュータ・ネットワークの仕組み①   8 コンピュータ・ネットワークの仕組み②   9 インターネットの歴史と仕組み   10 インターネットの仕組み   11 Web ページを活用したコミュニケーション   12 電子メールを活用したコミュニケーション   13 携帯電話によるコミュニケーションの仕組み   14 情報ネットワークの展望   15 まとめ    授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新的话题を取り上げていきたいと考えています。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30252B01 |
| 科目名   | 情報ネットワーク論Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | The Study of Information Network Community II   |       |           |
| 担当者名  | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 携帯電話やパソコンをインターネットに接続して利用することが日常的に行われるようになってきました。このような情報ネットワークの利用は、私たちの生活に大きな影響を与えています。  本講義では、情報ネットワークが社会でどのように活用されているのかを学びます。さらに、情報ネットワークを活用する上で問題点や課題について学習します。講義を通じて、情報ネットワークを安全に活用するために必要な知識を学んでいきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 情報処理推進機構編著『情報セキュリティ読本』実教出版,2009年,500円 山住富也『モバイルネットワーク時代の情報倫理』近代科学社,2009年,1680円 その他授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材やパワーポイントを活用します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況、授業内レポート等。定期テスト（60%）。   |       |           |
| 到達目標  | 社会での情報ネットワークの活用状況を知るとともに、問題点について理解することを目標とします。 情報ネットワークを安全に活用するために必要な知識を習得します。  |       |           |
| 準備学習  | 新聞等のメディアを活用し、最新の情報ネットワークの動向に関心を持つようになしてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語や遅刻をしないこと。私語が過ぎれば、退出を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス（授業の進め方や目的の説明等、携帯電話の歴史と動向） 2 通信ネットワークとサービスの発展① 3 通信ネットワークとサービスの発展② 4 情報格差の問題と対策 5 電子商取引 6 ソーシャルメディア  7 テレワーク 8 個人情報の保護 9 コンピュータウイルス 10 サイバー攻撃 11 情報セキュリティ 12 ネットワークと知的財産権 13 情報ネットワークの動向 14 情報ネットワーク社会の展望  15 まとめ    授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30256A01 |
| 科目名        | 情報科学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Information Science I  |       |           |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、FORTRAN、BASIC、C、Javaなどの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いてFORTRANのプログラムを作成し、実行を行ってもらおう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門 I』培風館  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート (60%)、定期試験 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 情報処理に関する問題を常に意識し、新聞等のメディアやインターネットに日々関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. アルゴリズムとは何か   2. アルゴリズムと流れ図   3. 数のアルゴリズム   4. 変数   5. 入力と出力   6. 浮動小数点表示   7. 基本的な流れ図   8. カウンタと見張り役   9. 部分文字列の探索   10. 算術式   11. まるめ   12. 最大値を求めるアルゴリズム 1   13. 最大値を求めるアルゴリズム 2   14. 集計のアルゴリズム   15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30256B01 |
| 科目名        | 情報科学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Science II   |       |           |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、FORTRAN、BASIC、C、Javaなどの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いてFORTRANのプログラムを作成し、実行を行ってもらおう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門I』培風館   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（60%）、定期試験（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 情報処理に関する問題を常に意識し、新聞等のメディアやインターネットに日々関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ユークリッドのアルゴリズム1   2. ユークリッドのアルゴリズム2   3. 平方根のアルゴリズム   4. 多重判断の簡潔な表現   5. 一次元配列1   6. 一次元配列2   7. 整列のアルゴリズム1   8. 整列のアルゴリズム2   9. 整列のアルゴリズム3   10. ループ構造   11. 探索のアルゴリズム   12. 二次元配列1   13. 二次元配列2   14. 段階的分解   15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30260A01 |
| 科目名        | 情報管理論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of Information Management I  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | <p>プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ等を用意することが望ましい。</p>  |       |           |
| 評価方法       | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(35%)、平常点(15%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経営、情報に関する諸科目をより多く受講していただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。   1. 受講ガイダンス  2. 情報化技術の理解  3. 経営戦略の理解  4. 情報化戦略の立案  5. まとめ(テスト)  6. 情報の収集  7. 情報の整理    8. 情報の整理    9. 情報の加工  10. 情報の表現  11. まとめ(テスト)  12. パソコンソフトの活用    13. パソコンソフトの活用    14. 関連法規の理解  15. 理論的側面のまとめ</p>                                   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30260B01 |
| 科目名   | 情報管理論II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Information Management II   |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版社  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。（主に A4 と A3）  配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。  Twitter が利用できるケータイ等の準備が望ましい。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(35%)、平常点(15%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に2時間程度の予習、講義後に2時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。  1. 受講ガイダンス   2. 情報システムの種類   3. ITソリューションの調達方法   4. ITソリューションの活用   5. まとめ(テスト)   6. システム化計画の立案   7. システム要求の分析と要件定義 II   8. システム要求の分析と要件定義 III   9. システム開発におけるその他の業務   10. まとめ(テスト)   11. システムの運用   12. 情報セキュリティ I   13. 情報セキュリティ II   14. 情報システム導入の失敗の原因   15. システム面からのまとめ</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30278001 |
| 科目名        | 西洋社会経済史  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Social and Economic History of Europe  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近世以降の欧米における社会経済史を、通史ではなくテーマごとに考察したいと思う。主に16世紀と19世紀のイギリスを対象にして、当時の経済事情から生じた様々な社会問題を取り上げたい。特に、都市化に伴う貧困や犯罪の増加、工業化による生活の変化など、庶民の日常生活を具体的に見ていきたいと思う。また、そうしたミクロの世界と同時に、世界経済システムというマクロの世界を認識することによって、両者をリンクさせ、広い視野から物事を考えられるようにしたいと思う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 乳原 孝著 『「怠惰」に対する闘い』 嵯峨野書院（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間レポート（20%）、レポート試験（40%）、授業内レポート（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 西洋における社会経済史の諸問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 授業中に指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 16世紀イギリスの経済（1） 2. 16世紀イギリスの経済（2） 3. ロンドンの人口増加と都市化（1） 4. ロンドンの人口増加と都市化（2） 5. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（1） 6. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（2） 7. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（3） 8. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（1） 9. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（2） 10. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（3） 11. 「流行」の社会経済史（1） 12. 「流行」の社会経済史（2） 13. 「流行」の社会経済史（3） 14. 「流行」の社会経済史（4） 15. 産業革命再考（1） 16. 産業革命再考（2） 17. 19世紀イギリスの社会経済（1） 18. 19世紀イギリスの社会経済（2） 19. 給水問題とコレラ（1） 20. 給水問題とコレラ（2） 21. 給水問題とコレラ（3） 22. 19世紀イギリスの犯罪と社会（1） 23. 19世紀イギリスの犯罪と社会（2） 24. 19世紀イギリスの貧民問題（1） 25. 19世紀イギリスの貧民問題（2） 26. イギリスの奴隷貿易（1） 27. イギリスの奴隷貿易（2） 28. イギリスの奴隷貿易（3） 29. イギリスと世界システム（1） 30. イギリスと世界システム（2） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J30282001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 税務会計論  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)                               | Tax Accounting   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>(1) 本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金(法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基礎を学ぶのが本講義の目的である。ここでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。</p> <p>  (2) このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算されるのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その要点を出来るだけ平易に講述する。そこの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得税法会計、法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにした。</p> <p>  (3) なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際に、は税務職員にも来て頂き、講演及び実務面の補助指導をして頂く予定である。  (4) また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務会計能力検定試験の内容に関連する問題演習も活用したい。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)                                | ①岩崎 功 著 / 奥田よし子 監修 『所得税法テキスト』 英光社 ¥1,200 ②岩崎 功 著 / 奥田よし子 監修 『法人税法テキスト』 英光社 ¥1,200  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)                                | 中田 信正 著 『税務会計要論【13訂版】』 同文館出版 ¥3,600  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)                                 | 適宜、必要に応じてプリント配布を行う。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 原則として、平常の受講状況(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | (1) 税法の概要および税務会計の基礎を理解している。  (2) 所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。  (3) 基本的な所得税の確定申告書が作成できる。  (4) 法人税申告書「別表4」の構造を理解している。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | (1) 講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 (2) 毎回配布する私製アンケート「ミニッツ・ペーパー」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点があればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り次回の講義時に説明する予定であるので、積極的にどうぞ。 (3) 所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 (4) 講義内で税務職員の講演も設定するので、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 (5) 国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | (1) 企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が十分に無い場合も想定して講義を進める。 (2) 実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3) 実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。  【税務会計の基礎】   (1) 講義展開のガイダンスと租税制度の概要   (2) 企業会計と税務会計   【所得税会計分野】   (3) 所得税の概要   (4) 所得の種類とその計算方法   (5) 課税標準と所得控除の内容   (6) 課税総所得金額と所得税額の計算方法   (7) 納税申告書の作成演習   【法人税会計分野】   (8) 法人税の概要   (9) 所得金額の計算   (10) 「益金の額」の計算   (11) 「損金の額」の計算①   (12) 「損金の額」の計算②   (13) 「損金の額」の計算③   (14) 法人税額の計算と申告・納税   (15) 総括   |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3028400A |
| 科目名  | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 初めに、パソコンを使ったビジネスゲームをチームごとに分かれて行い、企業経営の一端を体験をしながら、ゼミの雰囲気にも慣れてもらいます。その後、実在の企業をいくつか取り上げて、その経営戦略を分析します。ケーススタディを中心に、企業の実務で役立つようパソコンを使った分析やプレゼンテーションにも慣れてもらいます。 (1) ケースを読んで、要点をパワーポイントでまとめる。 (2) (1)の内容の裏付けや補足のためのデータを図書館やインターネットで収集し、エクセルを使って分析を行う。 (3) (1)と(2)を基に自分なりの意見をまとめる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配付します。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（出席状況や受講姿勢など）50%。レポートおよび発表（50%）。  |       |           |
| 到達目標   | ケースを読んで、企業の経営戦略をまとめることができる。  |       |           |
| 準備学習   | 分析対象に選んだ企業のニュースに関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。 なお、経営戦略論Ⅰ、Ⅱを事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 専門ゼミナール、研究ゼミナールⅠ、Ⅱは継続して履修します。専門ゼミナールはその入門的な位置付けです。 また、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。 1. オリエンテーション 2. ビジネスゲームの概要説明、試行 3. ビジネスゲーム実施、結果分析 4. ビジネスゲームについてのまとめ 5. ケースの要点整理 6. ケースの要点整理 7. プレゼンテーション資料作成 8. 中間発表、ディスカッション 9. 中間発表、ディスカッション 10. 情報収集と分析 11. 情報収集と分析 12. プレゼンテーション資料作成 13. 発表、ディスカッション 14. 発表、ディスカッション 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3028400B |
| 科目名        | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本ゼミナールでは、テーマを「会社と経営・会計」とし、テキストの輪読および報告・質疑応答により、新会社法における「会社の仕組み」や「実践的経営と会計」について学ぶ。 本ゼミナールにおける報告・質疑応答の展開方法としては、次のように予定している。 ① 本ゼミナール参加者を4グループ化し、グループ単位で順に報告・質疑応答を行う。 ② 毎回の報告に当たっては、各グループをそれぞれ司会・報告・質問の各担当に割り当てる。 ③ 司会担当グループは、当日の進行役を努め、終了時に各グループの担当状況について5段階評価を行う。 ④ 報告担当グループは、事前にレジュメを作成して当日配布し、報告を行い、質疑に答える。 ⑤ 質問担当グループは、他のグループに先んじて質問を行う義務と権利がある。 ⑥ 報告終了後、テキスト(1)(2)の報告担当章に関するレポート提出を求める。 ⑦ 参考文献(1)について、期末に「内容を各自の行動にどのように活かすか」と題するレポート提出を求める。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | (1) 澤 昭人 監修『面白いほどよくわかる 会社のしくみ』 日本文芸社 ¥1,300  (2) 稲盛 和夫 著『アメーバ経営』 日本経済新聞社 ¥1,500  |       |           |
| 教材(参考文献)   | (1) 稲盛 和夫 著『稲盛和夫の実学—経営と会計—』 日本経済新聞社 ¥524  (2) 稲盛 和夫 著『稲盛和夫の経営塾—Q&A 高収益企業のつくり方—』 日本経済新聞社 ¥648   |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜、プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平素のゼミへの取組状況(30%)、期中課題(30%)、期末レポート(40%)に基づく総合評価。  |       |           |
| 到達目標       | (1) 企業などの組織の一員として、現実問題に直面した場合にその解決策を提案・実践しようとする姿勢をもつことができる。  (2) 株式会社制度の内容について理解している。  (3) 企業経営における会計の意義・重要性について理解している。  (4) 実践経営の実例として、京セラの「アメーバ経営」について理解している。  |       |           |
| 準備学習       | (1) 輪読予定箇所について、事前に解読し予習しておくこと。  (2) 報告予定箇所について、事前にレジュメ作成と報告準備あるいは質問準備をしておくこと。  (3) 企業訪問を通じて現場実習を行う場合には、事前に当該企業の経営についてゼミナールとして事前学習を行うが、訪問時に行う質問事項についても各自で準備を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 「大学での専攻は、研究ゼミナールの履修分野によって決まる」との観点から、自らの専攻を明確に意識しよう。その入り口が本ゼミナールであり、次年度の「研究ゼミナールⅠ」へ進む助走として意識して下さい。  (2) 会計専門職志望者は3年生終了時の「要卒単位修得と簿記検定2級合格」を目標とするよう、平素より心がけること。  (3) 書籍代は学生時代の重要な自己投資の典型であること心得て、テキスト及び参考文献への投資は積極的に行って欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>本ゼミナールにおける展開内容は、一応、次のように予定している。  1. 参加者全員の他己紹介、ゼミ内容と次回以降のガイダンス   2. テキスト(1)第1章の輪読—株式会社の基本—、レポートの作成指導   3. テキスト(1)第2章の輪読—株式会社の設立と機関—   4. テキスト(1)第3章の輪読—株式会社の財務と経理—   5. テキスト(1)第4章に関するグループAの報告・質疑応答   6. テキスト(1)第5章に関するグループBの報告・質疑応答   7. テキスト(1)第6章に関するグループCの報告・質疑応答   8. テキスト(1)第7章に関するグループDの報告・質疑応答   9. テキスト(2)第1章の輪読—アメーバ経営と全員参加経営—   10. テキスト(2)第2章の輪読—経営哲学の必要性—   11. テキスト(2)第3章に関するグループAの報告・質疑応答   12. テキスト(2)第4章前半部に関するグループBの報告・質疑応答   13. テキスト(2)第4章後半部に関するグループCの報告・質疑応答   14. テキスト(2)第5章に関するグループDの報告・質疑応答   15. 総括—経営における会計の必要性の再確認—</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400D |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。  高度情報化がすすむにつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。  ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。  反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。  授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。  その他の特記事項 時間外での相当量の学習、調査を要する。また、ゼミナールの特性上、ノート PC を必須とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ノート PC、無線 LAN カード(PC 本体内蔵の場合は不要)  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。中でも、  1. 情報システムの基本を理解する。  2.情報管理の基本を理解する。 ことを重点目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のためのトレーニングを常にしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ゼミナールは、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 主として情報システム、情報管理に関わる文献の輪読、そしてパソコンによるプレゼンテーション作成、発表を行っていく。   1.はじめに  2.経営学部で学ぶための基礎(1)  3.経営学部で学ぶための基礎(2)  4.プレゼンテーションソフトの使い方  5.発表レジュメの作成  6.発表レジュメの作成  7.発表  8.発表の評価、修正  9.インターネットを使った情報収集の仕方 10.ノート PC の構成確認 11.アプリケーション環境の構築 12.セキュリティ・アップデート 13.情報携帯の対策 14.移動体通信と固定通信網 15.まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J3028400E |
| 科目名   | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | もともとゼミは、教員ではなく学生が中心となって運営されるものである。しかしこのゼミでは、当方で適当な資料を選び、全員に配布する。そして毎週、1~3名のゼミ生が資料の一定部分(あるいは章)を担当し、他のゼミ生のためにレジメを作成して配布し、皆の前で発表(プレゼン)、その後、全員で討論する。これをゼミ生各人が順番におこなっていく。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 当方で用意する  |       |           |
| 教材(参考文献)  | そのつど提示する   |       |           |
| 教材(その他)   | パワーポイント、スライド、板書  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(60%)、発表(プレゼン20%)・討論(20%)   |       |           |
| 到達目標  | 少人数の課題探求型の学習によって、計画力、実行力、コミュニケーション力を身につけること  |       |           |
| 準備学習  | 社会や経営を常に意識し、幅広く活字を読み、関連のテレビ等を見ること  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 能動的にゼミの討論に参加すること  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 01 A君報告(単独報告) 02 B君報告 03 C君報告 04 D君報告 05 E君報告 06 F君報告 07 G君報告 08 H君報告 09 I君報告 10 J君報告 11 KLM君報告(グループ報告) 12 NOP君報告 13 QRS君報告 14 TUV君報告 15 WXY君報告 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400F |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>中小企業や個人事業を対象にした財務の問題を検討する。一般的に、大企業に比較してスモール・ビジネスにおいては資金的な問題によって事業活動が制約されることが多い。事業に必要な資金の調達、銀行などからの借り入れを中心とした、いわゆる間接金融に大きく依存し、必要なとき必要な額を調達することが困難になっている。これは新規事業に伴う長期的な資金調達にも、日々の営業活動に伴う短期的な運転資金調達においてもあてはまる。  自分で新たにビジネスを始めようとするとき、あるいは従来のビジネスを拡張しようとするときの投資計画および資金調達に生じる問題とその解決策を一緒に考えていきたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開講後、受講生と相談しながら決定する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)  |       |           |
| 到達目標       | <p>企業経営において会計情報の重要性を理解する 事業計画を立案するにあたっての見積損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を作成できる 自分自身の事業計画をプレゼンできる</p>  |       |           |
| 準備学習       | 毎回課題を出すので、準備しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 企業経営における会計の重要性 2. 事業計画の立て方 3. 報告と討論(1) 4. ビジネス・モデルとプロフィット・センター 5. ケース・スタディ(1) 6. 損益分岐点の考え方 7. 損益分岐点の応用 8. ケース・スタディ(2) 9. 報告と討論(2) 10. 事業計画の立案と資金計画(1) 11. 事業計画の立案と資金計画(2) 12. 業種による目標値の差異 13. 報告と討論(3) 14. 事業計画書の作成 15. 研究ゼミに向けて</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J3028400H |
| 科目名  | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名   | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このゼミでは、企業の事例を読むことによって、経営学の基礎的な知識を学びます。また、コンピュータを使って情報を収集したり、発表したりする知識を身につけます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事等を活用します。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（80%）出席状況等。課題提出（20%）。  |       |           |
| 到達目標   | 経営学の基礎知識を理解することを目標とします。 コンピュータを使った情報収集、活用能力を身につけることを目標とします。                   |       |           |
| 準備学習   | 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。                                      |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 オリエンテーション   2 経営学部で学ぶための基礎①   3 経営学部で学ぶための基礎②   4 レポートの書き方①   5 レポートの書き方②   6 企業の事例研究①   事例企業の選択・グループ分け   7 企業の事例研究②   事例を読む   8 企業の事例研究③   事例の発表レジュメの作成   9 企業の事例研究④   事例の発表レジュメの作成   10 企業の事例研究⑤   発表   11 情報収集の仕方（新聞記事検索）   12 情報のまとめ方   13 プレゼンテーションソフトの使い方   14 プレゼンテーションソフトを使った発表   15 まとめ   授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400J |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 専門ゼミナールの目標は、経営についての基礎学力の向上と、報告に慣れることです。そのために、下記の経営・経済の教材を使って、経営と経済のキホンを学びます (報告も行ってもらいます)。専門ゼミナールは、研究ゼミナールⅠ・Ⅱでの本格的な学習の準備を行うという位置づけです。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 京セラ株式会社『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』 筑波大学附属小学校社会科教育研究部 『街のけいざい教室』   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 25%、報告 40%、課題 35%   |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部の専門教育におけるゼミナールの意義を理解し、研究ゼミナールⅠの学習に参加できる態度を身につける 2. 資料を理解・要約し、他人が理解できる報告を行うことができる   |       |           |
| 準備学習       | 1. 課題内容を予習して理解してください 2. 分からない内容は、自分で調べてください 3. それでも分からない場合は、ゼミで質問してください 4. 報告のために資料をまとめてください 5. 資料がまとめられなければ、事前に相談してください 6. 資料の内容から、新聞・テレビ・インターネットで話題になっている経済と経営の問題を考えてください   |       |           |
| 受講者への要望    | やむをえず遅刻・欠席する場合には必ず事前に連絡してください。報告があたっている場合、無断で休むことは厳禁です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>専門ゼミナールで行うことは以下の項目です。教材はやさしいモノを使いますが、内容はトコトン突き詰めて考えます！遅刻・欠席のないようにしましょう。  (1) 『街のけいざい教室』を使い、会社経営の基礎にある経済について理解を深めます。内容をトコトン突き詰めて考えます。  (2) 『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』を使い、京セラの経営管理手法 (「アメーバ経営」) が生まれた背景について理解を深めます。経営のイロハとアメーバ経営の背景が詰まっています。   1. ミーティング   2. 『街のけいざい教室』 お金体験：お金ってなんだろう？   3. 『街のけいざい教室』 買いもの体験：値段ってなんだろう？   4. 『街のけいざい教室』 工業・生産体験：つくるってなんだろう？   5. 『街のけいざい教室』 会社体験：会社ってなんだろう？   6. 『街のけいざい教室』 貿易体験：円高・円安ってなんだろう？   7. 『街のけいざい教室』 交通体験：運ぶってなんだろう？   8. 『街のけいざい教室』 仕事体験：仕事っていろいろあるんだね   9. 『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』 誕生から高校生まで   10. 『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』 大学受験から就職まで   11. 『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』 就職から創業まで   12. 『必ず夢は実現する 京セラ創業者 稲盛和夫ものがたり』 創業から現在まで   13. 京セラの経営管理手法「アメーバ経営」について   14. 京セラはどんな会社？ - 財務データから見た京セラの姿   15. 総括と面談</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3028400K |
| 科目名        | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | マーケティング・広告プランナーへの入門ゼミ。広告・調査を通じてマーケティングを学ぶ。 毎週広告を提示し、広告になじむ事からはじめ、その広告の意味や目標を考える過程で、企業やそのマーケティングについて学んでいく。後半では、3～4名のチーム単位で調査演習も行い、グループ作業も体験する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 足立勝彦『原寸大の日本人』文芸社 1000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業の参加度(50%)、演習の達成度(50%)により評価する（ゼミ出席回数70%以上必）   |       |           |
| 到達目標       | 多くの広告に接し1つ1つの広告に含まれている情報の意味を読み取っていくことによりより深く広告の目的・機能を理解することを目的とする。 後半では、広告調査についても学び、研究ゼミ1（3回生）で必要となる基礎的調査技術も身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 日ごろから広告(テレビ、新聞、ラジオ、雑誌など)に興味を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 授業内での積極的な参加を期待する。また、適宜宿題も提示するので必ずやってくること   |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | 1. イントロダクション 2. 広告提示&評価1  3. 広告提示&評価2  4. 広告提示&評価3  5. 広告提示&評価4  6. 広告提示&評価5  7. 広告提示&評価6 8. 調査のオリエンテーション  9. 調査企画1  10. 調査企画2  11. 調査実施1  12. 調査実施2  13. 調査レポート作成1  14. 調査レポート作成2  15. 調査発表、まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400L |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 江戸時代の遺産と会社制度の普及のなかで活躍した企業家・経営者について学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席・報告・レポートをもって総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 経営史の基礎的知識を習得し、歴史の連続と断絶を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 輪読形式であるので、テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.経済発展と企業家  2.江戸時代から明治へ  3.三井・住友・鴻池の危機と打開  4.政商たちの時代  5.会社制度の普及  6.専門経営者の登場  7.ビジネス・リーダーの役割(渋沢栄一・五代友厚)  8.明治期企業家の特徴  9.財閥と会社制度 10.三井財閥と専門経営者(中上川彦次郎・益田孝・団琢磨・池田成彬) 11.三菱財閥(岩崎弥之助・岩崎久弥・岩崎小弥太) 12.住友財閥と専門経営者(伊庭貞剛・川上謹一・鈴木馬左也・小倉正恒) 13.都市化と私鉄文化(小林一三) 14.モーターバイクから自動車へ(本田宗一郎) 15.家電ブームの演出者(松下幸之助) |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3028400M |
| 科目名  | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名   | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本の企業経営は大きく変化してきたと言われるが、なぜ変化したのか。どう変化したのか。また、個人個人は自分のキャリアをどう考えて働けばいいのか。 このゼミでは、まず現代の企業や働く人の置かれた状況を把握しすることを目的としている。 ゲームやグループワーク、ディスカッション等を通じて、コミュニケーションスキルやプレゼンテーション能力を高められる方法を取り入れる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「私にできる幸せマネジメント」（大石友子、日本実業出版社） 「キャリア支援と人材開発」（川喜多喬他、経営書院）  |       |           |
| 教材（その他）  | プリント・ビデオ他  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（70%）出席と発表による。レポート（30%）   |       |           |
| 到達目標   | 企業と人材の関係を把握し、外部環境分析と内部環境分析のあらましを理解する。 また、グループワークを通し、コミュニケーション能力、企画力、プレゼンテーション能力を高める。   |       |           |
| 準備学習   | 出された課題や、グループでの役割分担によって、準備する。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎回出席するとともに、グループワークに積極的に参加してほしい。 少しでもおもしろいと感じることのできるテーマを見つけて、楽しいゼミにしましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. オリエンテーション（ゼミの目的と方法） 2. ゼミで取り組むこと（ディスカッション） 3. グループワークの方法① 4. グループワークの方法② 5. ゼミの先輩との意見交換 6. 企業の変化と人材 7. 業界と企業研究 8. 企業見学企画書作り 9. 企業見学に向けての準備 10. 企業見学 11. レポート作成 12. // 13. レポート発表 14. // 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3028400P |
| 科目名       | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名      | 堀池 敏男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>21世紀は「起業家時代」を迎えたと言われるものの、約10年を経ていまだ日本では、事業における開業率は廃業率を下回る状況が、現実として存在する。その理由にはさまざまなものが考えられているが、ネットワークとなる要因の一つが、起業に関する知識・感性の欠落にあると考える。  起業は、事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステム（モデル）の構築のプロセスを経て行われるが、どのプロセスにおいても広範囲にマネジメントに関する幅広い知識・感性が求められる。  これらの知識・感性は起業に必要とされることはもとより、組織人、社会人にとっても求められる重要なことと考える。  当ゼミナールにおいては、起業における出発点ともいわれる事業機会の認識（ビジネスチャンスの発見）を中心に据え、その基本と原則としてのイノベーションと起業家精神に関する知識・感性の習得に努めたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | P. F. ドラッカー著・上田惇生訳『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点 50%、発表 50%  |       |           |
| 到達目標      | 「イノベーションと企業（起業）家精神」に関する本質の理解を進めるとともに、研究ゼミナールⅠへの基礎知識の習得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | ビジネスの世界において日常生じているイノベーションを受講生自身のものとするとともに、受講生自身がイノベーターたらんがために、ありとあらゆる事業活動に問題意識を持ち、感性と知識の習得を日常的に行うことを心掛けて受講に望むこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

起業、事業承継、創造的サラリーマンを目指す学生の受講を希望する。また当ゼミナールでは、受講生の研究発表を中心に運営するので、議論、質疑応答などに積極的に参加していただきたい。

#### 講義の順序とポイント

ゼミ生による教科書の輪読に基づいて意見交換を行い、イノベーションと企業（起業）家精神に関する基本と原則について理解を深める。なお、意見交換、討議において参考となるべき事項については、講義や補足説明を行い理解を進めたい。|1 はじめに（ゼミナールの概要）について（講義）|2 第1章 イノベーションと企業家精神|3 第2章 イノベーションのための7つの機会|4 第3章 予期せぬ成功と失敗を利用する|5 第4章 ギャップを探す|6 第5章 ニーズを見つける|7 第6章 産業構造の変化を知る|8 第7章 人口構造の変化に着目する|9 第8章 認識の変化をとらえる|10 第9章 新しい知識を活用する|11 第10章 アイデアによるイノベーション|12 第11章 イノベーションの原理|13 第12章 企業家としてのマネージメント～終章企業家社会（講義）①|14 第12章 企業家としてのマネージメント～終章企業家社会（講義）②|15 おわりに（本ゼミナールの総括）

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3028400Q |
| 科目名        | 専門ゼミナール  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スポーツ行動は、本質的には社会との関係性で成立する。環境、文化、経済などの影響を受けながら、人間の営みとして行われるスポーツがこれからも発展し、多くの人の生きがいとなるよう支援をするには  ①自らの力で、自主的、自発的なスポーツ活動を進めていく行動力  ②生涯を通じての継続的な活動を進めていくシステム構築力  ③みんなで楽しめるような活動を進めていくリーダーシップ力 ④良い環境を維持していく、行動力や実行力  が必要である。  スポーツを多様な角度から学び、自らが楽しんできたスポーツの素晴らしさを伝え、自身と同じようにスポーツを愛し、楽しめる仲間を増やしていくことで、地域でのスポーツの輪を少しでも広げていくことがスポーツに関わる者に求められる役割である。そのためのノウハウだけでなく、社会の位置づけとしてのスポーツのあり方と進化するスポーツ・スポーツビジネスを学んでいこう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 新・健康スポーツの科学(晃洋書房)  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 江戸川大学スポーツビジネス研究所編著「スポビズガイドブック 08-09」プレジデント社、2008 原田宗彦・小笠原悦子編著「スポーツマネジメント」大修館書店、2008 原田宗彦編著「スポーツ産業論」杏林書院、2007   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 研究レポートの作成、授業への参加度  |       |           |
| 到達目標       | スポーツや健康支援を社会との関連から眺めてみよう。そして、経営的な視点から、スポーツビジネスや地域活動としてのマネジメントのあり方を探ろう。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ関連企業について、調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業には積極的に参加し、報告する内容についてはしっかりと事前準備をすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに   2 経営学部で学ぶための基礎①   3 経営学部で学ぶための基礎②   4 レポートの書き方   5 プレゼンテーションソフトの使い方   6 スポーツ関連企業の事例研究① 事例企業の選択・グループ分け   7 スポーツ関連企業の事例研究② 事例を読む   8 スポーツ関連企業の事例研究③ 事例の発表レジュメの作成   9 スポーツ関連企業の事例研究④ 事例の発表レジュメの作成   10 スポーツ関連企業の事例研究⑤ 発表   11 スポーツ関連企業の事例研究⑤ 発表   12 スポーツ関連企業の事例研究⑤ 発表   13 経営学の基礎知識①   14. 経営学の基礎知識②   15. まとめ</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400R |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | HRM(Human Resources Management)に関する事例をまずは輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、若年労働市場の現状と課題を学ぶ。10%にせまる失業率、多くのフリーターやニート、就職して3人に1人が辞めるという大卒の離職率、週60時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 課題・宿題 (30%) および平常点 (70%) 出席状況等により評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 *企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 *エントリーシートや筆記試験に対応できる。   |       |           |
| 準備学習       | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。および、パソコン入門またはパソコン応用の単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 何事にもチャレンジする方を望む。パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行に関して  2.各種ビジネスソフトの教習①  3.各種ビジネスソフトの教習②  4.理系と文系の違いに関して  5.業界とは? 職種とは?①  6.業界とは? 職種とは?②  7.総合職、一般職、専門職、等のコース制について ① 8.総合職、一般職、専門職、等のコース制について ② 9.財務諸表の読み方  10.財務諸表の読み方  11.就職活動と大卒の進路に関して  12.企業規模・年齢・業界別の所得(労働条件) 分析① 13.企業規模・年齢・業界別の所得(労働条件) 分析②  14.SPI・時事問題対策①  15.SPI・時事問題対策② |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3028400S |
| 科目名       | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名      | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 現代社会においては、組織というものがさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、それらの組織との関係を避けて通ることはできないものである。そのなかでも、われわれが生活してゆくうえで、企業という組織は必要不可欠な存在となっている。経営学および経営組織論はその企業を研究の対象としている学問である。 本ゼミナールを履修する者は、3回生の研究ゼミナールⅠ、4回生の研究ゼミナールⅡを履修することになるので、積極的に参加することが必要である。 本ゼミナールでは、次年度のゼミナールの基礎となる理論を学習する。まず、企業を取り巻く社会経済的な環境がどのように変化してきたのかということ概観し、その後、経営学の基礎について復習し、経営組織に関する基礎的な研究成果を学習する。これらを検討することによって、企業とはどういうものなのかということを考えることにしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 評価方法      | 基本的には、平常点（出席状況や受講姿勢など）30%、報告内容40%、学期末のレポート30%の割合で評価する。ゼミナールに関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。  |       |           |
| 到達目標      | 1. 経営学あるいは経営組織論について初歩的な文献を読むことができる。 2. 上記の文献について、内容を要約することができる。 3. 上記の文献について、2000字程度のレポートを書くことができる。 4. 上記のレポートについて、人前で発表することができる。   |       |           |
| 準備学習      | 1. 受講者は、今回の講義で扱う内容（配布資料・指定された文献）を読み、報告者に対する質問を考えておく。 2. 報告者は、自分が担当する部分をまとめて、報告用のプリントを準備しておく。 3. 受講者は、前回の内容を復習しておく。  |       |           |

#### 受講者への要望

1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。|2. ゼミナールへの積極的な参加を望む。|3. 必ず出席すること。（遅刻・欠席については厳しく対処する。）|4. 講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行うため、毎回事前の学習が必要である。

#### 講義の順序とポイント

講義は主として学生による報告、質疑および議論によって行う。具体的には、経営学および経営組織論に関する初歩的なテキストに基づき、学生の1人（あるいはグループ）がそのテキストの一定部分を担当し、資料を作成して報告する。その後、質疑や議論を行うことによって理解を深める。これを順番に行っていく。受講者全員の積極的な参加を期待する。|基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、初回の講義で報告者を割り当て、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。|さらに、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定である。| 1. オリエンテーション| 2. 日本の経済発展①| 3. 日本の経済発展②| 4. 日本の経済発展③| 5. 経営学入門①| 6. 経営学入門②| 7. 経営学入門③| 8. 経営学入門④| 9. 経営学における組織論の展開|10. 組織における個人の行動①|11. 組織における個人の行動②|12. 組織における個人の行動③|13. レポート作成|14. レポート発表|15. まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J3028400T |
| 科目名       | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名      | 涌田 龍治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 本ゼミナールでは、マーケティングやスポーツマーケティングを学ぶための基礎となる思考技法を修得する。そのため、基本テキストを徹底的に輪読する。具体的には、①内容を丁寧に報告し、②章末に提示された課題に答える。  思考技法の修得には地道な鍛錬が必要である。そのため、受講生 1 人 1 人がテキストを事前に熟読する必要がある。レジユメの作り方や章末問題のヒントはその都度指示していくので、それを参照してほしい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | レイブ&マーチ『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社 1992 3,045 円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 特に定めない。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法      | 演習内報告（50%）、課題報告（50%）  |       |           |
| 到達目標      | マーケティングやスポーツで生じた現象を説明するための仮説を作ることができる。  |       |           |
| 準備学習      | 1. テキストの熟読（全員）  2. レジユメの作成（担当者）  3. 章末問題の解答（全員）   |       |           |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |
| 担当箇所を割り振るので無断欠席は厳禁。  パソコンを多用するので慣れておくこと。  なお、課外の活動も予定しているので、時間に余裕のある人が望ましい。   |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |
| 1. 「オリエンテーション」：ゼミナールの目標と進め方、成績評価の方法を解説する  2. 「レジユメの作り方」：報告書の作り方を解説する  3. 「テキスト輪読 1」：担当者がレジユメで内容を報告する  4. 「テキスト輪読 2」：担当者がレジユメで内容を報告する  5. 「テキスト輪読 3」：担当者がレジユメで内容を報告する  6. 「章末問題 1」：全員が問題の解答を報告する  7. 「章末問題 2」：全員が問題の解答を報告する  8. 「テキスト輪読 4」：担当者がレジユメで内容を報告する  9. 「テキスト輪読 5」：担当者がレジユメで内容を報告する  10. 「テキスト輪読 6」：担当者がレジユメで内容を報告する  11. 「章末問題 3」：全員が問題の解答を報告する  12. 「章末問題 4」：全員が問題の解答を報告する  13. 「テキスト輪読 7」：担当者がレジユメで内容を報告する  14. 「テキスト輪読 8」：担当者がレジユメで内容を報告する  15. 「総括」：これまでのゼミナールを総括する |  |  |  |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3028400U |
| 科目名        | 専門ゼミナール   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（出席や受講態度）70%、レポート30%により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。  |       |           |
| 準備学習       | 企業経営やスポーツ経営のニュース（テレビ・新聞・ネットなど）に関心を持ち、自分なりの考えを持つように心がける。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション  2. 経営学部で学ぶための基礎  3. グループワークとプレゼンテーションの方法  4. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究①  5. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究②  6. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③  7. レポートの書き方  8. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究④  9. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑤  10. 企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑥  11. レポート作成  12. レポート作成  13. レポート発表  14. レポート発表  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30401A01 |
| 科目名        | 中小企業経営論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Small & Medium Business Management I  |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本では、全体の企業数のうち、中小企業は 99%です。これらの、歴史、経営戦略を勉強しましょう。  1960年代からの高度経済成長期、'70年代のオイルショックの反動期、'80年代の情報化、ハイテク化、国際化の期間、'90年代の社会主義の解体・変質と発展途上国の成長により、21世紀より市場経済が地球規模に拡大して世界大競争時代へと変質してきました。21世紀は若者に起業（ベンチャービジネス）をもとめています。  この間、わが国における中小企業の変化には、著しいものがありました。そこで本講義では、この間の中小企業の歴史と政策を顧みたくうえで、現象的な側面から本質的な側面まで見て行くこととします。  特に、諸君たちが生まれてからの変わりようと、21世紀を睨んだ将来の方向（起業家精神の精神・知識・戦略）に力点を置きます。その中でなにがしかのヒントとインパクトを感じて、より勉強される事を目的としています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業効果が上がるべく、動画、図や表を使つてのパワーポイントの授業になります。事例やデータは、そのつどインターネットを駆使しての説明とします。内容を追つて進めていくが、参考文献や資料、コピーはその都度配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 山根節 山田英夫 『経営戦略の考え方』 日本経済新聞社  フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング・コンセプト』 大川修三 訳   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験と平常点を総合して評価します。  評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。   |       |           |
| 到達目標       | 1 日本国内の企業のほとんどが中小企業であることを理解する。  2 そこでの経営がどのようにして行われているかの現況を知つた上で、これからの在り方を勉強します。  3 特に、中小企業独自の経営戦略を詳細に勉強するつもりです。  |       |           |
| 準備学習       | 日常の生活の中で、習つたことの中小企業経営と比較してしてください。その上で、次回の授業の疑問点として頭に残しておいてください。また、質問をされることを期待しています。   |       |           |
| 受講者への要望    | 休まず、私語をせず、遅れずに出席しましょう。楽しく、役に立つ、勉強をします。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 中小企業の経営とは (1回)   2. 中小企業との経営の課題 (2回)   3. 中小企業の経営戦略 (3-5回)   4. 中小企業の財務戦略 (6-7回)   5. 経営分析 (8-9回)   6. 中小企業のマーケティング (10-13回)   7. ITとサービス化の中小企業経営 (14-15回)   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30401B01 |
| 科目名  | 中小企業経営論II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Small & Medium Business Management II   |       |           |
| 担当者名   | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 前期の授業において中小企業を取り巻く環境と経営について、講義しました。 後期においては、現況の分析加えて中小企業経営の将来展望を講義することとします。 特に、21世紀を睨んだ将来の方向(起業家精神の精神・知識・戦略)に力点を置きます。その中でなにかのヒントとインパクトを感じて、より勉強されん事を目的としています。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 授業効果上がるべく、動画、図や表を使つてのパワーポイントの授業になります。事例やデータは、そのつどインターネットを駆使しての説明とします。内容を追つて進めていくが、参考文献や資料、コピーはその都度配布します。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 山根節 山田英夫 『経営戦略の考え方』 日本経済新聞社 フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング・コンセプト』 大川修三 訳  |       |           |
| 教材(その他)  |   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験と平常点を総合して評価します。 評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。  |       |           |
| 到達目標   | 1 学習したベンチャービジネスの知識を持って、自分なりの起業ができるよう努力してみる。 2 そのでの問題点と疑問点を見つけたことが必要でしょう。 3 実社会での企業経営の展望を見つきたい。  |       |           |
| 準備学習   | ベンチャービジネスについての記事を見逃がさず読んでください。また、インターネットで検索をする癖をくけてください。準備としては「検索することと、読むこと」が事前の学習としています。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻や私語は厳禁です。 私語が多い人は、他の学生の迷惑となりますので退出を求めます。 鉛筆とノートを持参して、筆記をする習慣をつけてください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| はじめに 春学期とのとの繋がりを説明する 10. ベンチャービジネス(1-3回) 11. 起業家精神と事業構想とは(4-5回) 12. 起業の発想と道具(6回) 13. 関西起業家の先人より学ぶ(7回) 14. 中小企業の人材の育成とリーダーシップ(8-9回) 15. 中小企業の海外進出 中国(10回) 16. 中小企業の海外進出 ベトナム(11回) 17 中小企業の生産管理(12回) 18. 21世紀の中小企業 (13-14回) 19. まとめ(15回) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30410A01 |
| 科目名   | 日本経営史 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Japanese Business History I   |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実   | 旧科目名称 | 日本経営史 A   |
| 講義概要  | 江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。     |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。毎回資料を配付する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義の中でその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 次の書籍を薦める。(いずれも本学図書館に所蔵)  宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣 |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席などを加味して、総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の講義予定を伝えるので、推薦書に目を通しておくと良い。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけてたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.日本経営史の課題  2.江戸時代の経済発展  3.豪商の企業者活動  4.商家の企業形態(上方商人・三井家)  5.近江商人の企業者活動  6.明治維新改革と近代経営の形成  7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助)  8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進  9.銀行業の生成と発展(国立銀行の発足と普通銀行への過程)  10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任)  11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家、  12.明治維新と三井家の家政改革  13.財閥の形成過程  14.経済団体の形成  15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30410B01 |
| 科目名   | 日本経営史 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Japanese Business History II   |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実  | 旧科目名称 | 日本経営史 B   |
| 講義概要  | 大正期より昭和戦後期に至る企業経営の発展過程を概説する。 第一次大戦期の企業成長と戦後不況期の企業経営の困難、さらに第二次大戦後の日本型企业経営の構築について講義する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。毎回資料を配付する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義の中でその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 次の書籍を薦める。(いずれも本学図書館に所蔵)  宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣    |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席などを加味して、総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 経営史の基礎知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の講義予定を伝えるので、推薦書を参照してほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけてたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.日本経営史の課題  2.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長  3.大企業時代の到来と企業間関係の変化  4.財閥の巨大化、  5.企業金融の構造と展開(間接金融制と株式・社債発行)  6.日本的労務管理の形成 (第一次大戦・戦後期の労働問題)   7.「商業革命」と大企業の流通政策  8.化学工業の発展  9.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 10.企業集団の成立とその機能、 11.家電量産・量販体制の形成 12.自動車産業の発展 13.事業部制、企業系列の展開 14.中間組織と日本型企业 15.まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30420001 |
| 科目名        | 入門NPO論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to NPO  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 会社のような企業と国や地方の政府のほかに、ボランティアのような NPO(非営利組織) はどうして存在するのでしょうか？ボランティア活動はそもそも好き勝手に行っているのだろうか？NPO といってもボランティア活動を担う団体だけでなく、社会福祉法人や公益法人、さらには大学などの学校法人も含むのはどうしてなのだろうか？この授業を通じて学ぶことはあまりに多い。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「起業時代の NPO」坂本信雄著（八千代出版株式会社）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「ローカル・ガバナンスの実証分析」坂本信雄著（八千代出版株式会社）  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末試験70%   |       |           |
| 到達目標       | NPO が存在する理由とその役割を理解して欲しい。また、NPO は企業と政府とも異なる組織体だが、共通しているところもあるのでそれを見出すこと、さらには企業、政府、NPO のトライアングルがどのような相互関連にあるかについても理解できるようにしましょう。  |       |           |
| 準備学習       | 受講生自ら NPO に関心をもつだけでなく、できれば受講生が住んでいるところの NPO 活動に実際に参加することを期待したい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生自らもボランティア活動に関心を持てば、勉強への意欲は一段と高まることでしょう。また、この授業は公開講義になっており、一般社会人も受講する場合があります。さらに、授業の一環として、5月ないし6月の特定の日曜日に保津川の清掃ボランティアに参加しましょう。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、NPO の全体像  2、非営利組織の特徴  3、様々な組織の特徴（会社、政府、非営利組織）と相互関連を見てみよう   4、公共・公益とは何だろう   5、NPO の定義・論理は何だろう   6、NPO とボランティアの関連を考えてみよう   7、NPO を法律面から見てみよう   8、心理面から見た NPO も考えてみよう   9、NPO の優遇政策や寄付の制度をみてみよう   10、公益法人制度と NPO はどんな関係があるのだろうか   11、NPO の様々な種類・タイプを探ってみよう   12、ユニークなボランティア団体を探ってみよう   13、強制力とフリーライダーの関係を考えてみよう   14、公共財と NPO の関係   15、ソーシャル・キャピタルと NPO の関係 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30421001 |
| 科目名       | 入門日本経済論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名      | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 経済の変化が大きいほど、私たちへの教訓もまた大きい。いわゆるバブルが崩壊した後の日本経済は「失われた10年」と言われたが、その後一度、立ち直りかけたものの、1 昨年アメリカ発の金融危機をきっかけに再び経済は困難な状況にあり、「失われた20年」とも評されている。日本経済の現状と課題を理解することを目指してみよう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用しない。授業時にパワーポイントで講義内容を表示する。また、一定期間後、これを受講生に開示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 植松・坂本ほか「日本経済論」 八千代出版株式会社   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（40％）出席状況等、期末定期試験（60％）  |       |           |
| 到達目標      | 少なくとも主要な日刊紙で報道されている経済ニュースの内容や背景などが理解できるようになって欲しい。そうなれば自ずと日常的に経済社会の変化に関心をもつことができる。  |       |           |
| 準備学習      | 授業の開始後、10分程度は最新のWEBニュースを取上げて解説するので、事前に経済ニュースに眼を向けて欲しい。   |       |           |

#### 受講者への要望

経済活動は個々の企業を主体に行われる、経営の外的要因として為替レートや物価、金利などのマクロ経済の変化に着目することも欠かせない。例えば、仮に効率的に経営されている企業であっても輸出比率が高ければ円高の影響は避けられない。経済の変化をミクロ的な見方だけでなく、マクロ的な変化も含めて理解するアプローチが求められているので、これを理解しましょう。

#### 講義の順序とポイント

1、経済成長率・景気の尺度について理解しよう | 2、GDP/GNPの理解、付加価値概念の理解 | 3、3面等価の考え方（生産・支出・分配）を理解しよう | 4、景気動向指数（DI）とは何だろう。先行・一致指数の考え方 | 5、戦後の日本経済の復興要因は何か | 6、復興期にはどのような経済政策がとられたか | 7、日本にもあった高度経済成長はどのようにして実現したか | 8、高度経済成長期の経済政策の特徴は何か | 9、高度経済成長による負の遺産は何か | 10、石油危機はどうして生じたのか | 11、資源の無い国・日本がどうして石油危機を乗り越えられたのだろうか？ | 12、固定相場制から変動相場制への移行はどうして起きたのだろうか | 13、高度経済成長の終焉を整理してみよう | 14、アメリカのレーガノミックスと双子の赤字問題 | 15、プラザ合意の成立

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3042200A |
| 科目名  | 入門簿記   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Bookkeeping  |       |           |
| 担当者名   | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>（１）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう）」を作成する方法です。 （２）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （３）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （４）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （５）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定３級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第２版』 中央経済社 ￥1,260   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。   |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。  |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産（資本）]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3042200B |
| 科目名  | 入門簿記   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Bookkeeping  |       |           |
| 担当者名   | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう）」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定3級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第2版』 中央経済社 ￥1,260   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。   |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。  |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産（資本）]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J3042200D |
| 科目名  | 入門簿記   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Bookkeeping  |       |           |
| 担当者名   | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>（１）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう）」を作成する方法です。 （２）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （３）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （４）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （５）この講義は、秋学期の「簿記原理」（日商簿記検定３級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第２版』 中央経済社 ￥1,260   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。   |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。  |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産（資本）]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30431001 |
| 科目名  | 品質管理  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Industrial Quality Control  |       |           |
| 担当者名   | 櫻井 俊則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中国をはじめ、東南アジア諸国の経済発展に伴い、わが国が世界に誇る「品質」についても、安くてよい製品が海外で生産され、わが国製造業は、価格競争・品質競争において非常に厳しい状況におかれている。品質管理活動も、従来のQCサークルを中心としたボトムアップの品質改善活動から、トップダウンを主体としたマネジメントとしての品質管理活動に移行しつつある。そのひとつが、品質システムの国際規格ISO9000である。第2次世界大戦後、アメリカの統計的品質管理の導入からスタートしたわが国の品質管理活動をわかりやすく事例を取り入れながら講義を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。パワーポイントで作成したスライドで講義を進める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「よくわかるこれからの品質管理」、山田 正美著、同文館出版。平成16年。  |       |           |
| 教材（その他）  | エクスペローラ→レポートドライブ→教員個人→櫻井俊則→教材提供→品質管理→配布資料印刷   |       |           |
| 評価方法   | 毎回、学んだ中で、もっとも大事だと思ったことや質問を書いてもらいこれ出席をとります。これを授業内レポートとし、平常点（30%）出席・授業内レポート、定期試験(70%)で評価する。 定期試験は全て持ち込み可。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 品質管理の歴史的展開過程について説明できる  2. 品質管理の重要性について説明できる  3. 統計的品質管理の基礎が理解できる  4. 社会で生じている品質管理の問題に関心をもち、自主的に情報を獲得し、問題点を的確に把握することができる  5. 授業で取り上げた問題について、自分の考えを簡潔に書くことができる  6. パワーポイントで作成したものを配布資料として自分で印刷できる  |       |           |
| 準備学習   | 品質管理に関する新聞記事や報道に常に関心をもっていること  図書館で品質管理に関する文献を読んでおくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 欠席・遅刻することなく、授業中は私語を慎み、積極的に参加すること  授業内レポートは時間内に提出すること  社会や産業界の品質管理に関する動向に関心をもち、新聞、雑誌などに目を通しておくこと  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1回目：技術革新と品質管理  2回目：品質管理の定義と歴史   3回目：品質管理の概念  4回目：品質を管理するとは   5回目：TQMについて  6回目：ISOについて  7回目：データをとる目的  8回目：QCの七つ道具について  9回目：統計的品質管理について  10回目：検査とは   11回目：抜取検査   12回目：品質保証とは  13回目：品質保証と信頼度   14回目：バスタブ曲線について  15回目：総括  * 進度により順序や内容が若干変わることがあります。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J30435001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 簿記原理   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                               | Theory of Bookkeeping  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることが経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることが、会計領域科目を理解するための基礎として必要不可欠になる。  実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。  このような観点から、本講義では、簿記をはじめて学ぶ者を対象として分かり易い解説を行い、複式簿記の基礎知識と記帳技法の効率的な修得を図ることにその目的がおかれている。  なお、簿記検定に挑戦しようと思う学生は2月に実施される日商簿記検定を目標にしてほしいが、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。また11月の検定に挑戦しようと思うものは、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記ワークブック／3級商業簿記』中央経済社  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 | 毎回レジュメを配布する予定です  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を当日（または翌日までに）解いて、次回の講義で提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>1 簿記の基本原則(1)：貸借対照表と損益計算書  2 簿記の基本原則(2)：取引と仕訳  3 簿記の基本原則(3)：勘定転記  4 簿記の基本原則(4)：試算表と精算表  5 簿記の基本原則(5)：決算処理  6 現金処理の記帳(1)：現金と当座預金  7 現金処理の記帳(2)：現金過不足、インプレスト・システム  8 商品売買の記帳(1)：分記法と三分法  9 商品売買の記帳(2)：三分法による決算整理  10 商品売買の記帳(3)：仕入帳、売上帳、商品有高帳  11 商品売買の記帳(4)：売掛金、買掛金と貸倒れ  12 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形  13 手形の記帳(2)：裏書と割引  14 有価証券の取得と売却  15 その他の債権債務(1)：前受金と前払金  16 その他の債権債務(2)：未収金と未払金  17 その他の債権債務(3)：借入金、貸付金、立替金、預り金  18 その他の債権債務(4)：仮払金と仮受金  19 固定資産の取得と減価償却  20 固定資産の売却  21 営業費の記帳  22 資本金の処理  23 税金の処理 24 決算整理(1)：商品売買益、減価償却、貸倒の見積もり  25 決算整理(2)：費用の見越し・繰り延べ(1) 26 決算整理(3)：費用の見越し・繰り延べ(2) 27 決算整理(4)：8桁精算表 28 決算整理(5)：8桁精算表(2) 29 財務諸表の作成 30 総合復習 </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       |           |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30452001 |
| 科目名        | コーチング論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Theory of Sport Coaching   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。  そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニク、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）   |       |           |
| 評価方法       | 試験、レポートを総合して成績評価を行う。   |       |           |
| 到達目標       | さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の授業で指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション  2. コーチングとは  3. コーチングとスポーツ界の歴史  4. 競技スポーツと生涯スポーツのコーチング  5. 各年代の発育発達によるコーチング  6. トレーニングの原理・原則  7. トレーニング処方  8. 動機づけとその工夫  9. 各種目のトレーニング計画、発表  10. 各種目のトレーニング計画、発表  11. コーチングの実践  12. コーチングの実践  13. コーチングの実践  14. 理想のコーチ像  15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30454001 |
| 科目名   | 生産管理論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Production Management   |       |           |
| 担当者名  | 櫻井 俊則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 生産活動は、材料等をインプットし、製品をアウトプットする過程における活動である。この過程には、企画・設計、管理、原価の低減等が含まれる。この中でも生産管理には、生産効率、製品品質、納期、コストを中心にこれらの改善と管理に関する理論や方法論があり、これらについて講義を進める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイントで作成したスライドを使用して講義を行う  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）出席・授業内レポート、定期試験（70%）で評価する。定期試験は全て持ち込み可。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 生産管理の歴史的展開について理解できる   2. 生産管理で使われる手法をある程度理解できる   3. これからの生産活動に関心を持ち、それを理解し、他人に説明することができる   |       |           |
| 準備学習  | 生産活動に関する地誌を得るため新聞等のメディアに関心を持つこと   生産管理に関する書籍を図書館で探し、読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 欠席・遅刻することなく、授業中は私語を慎み積極的に参加すること   授業内レポートは時間内に提出すること   社会や産業界の動向に関心を新聞や雑誌等に目を通しておくこと  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 回目：生産管理の歴史   2 回目：生産システムについて   3 回目：MRP について   4 回目：JIT 生産方式について   5 回目：SCM について   6 回目：生産計画について   7 回目：各種生産方式について   8 回目：生産統制について   9 回目：日程計画について   10 回目：作業管理について   11 回目：作業の標準化について   12 回目：生産管理の新しい方向（1）   13 回目：生産管理の新しい方向（2）   14 回目：生産管理の新しい方向（3）   15 回目：総括   * 進度により、順序や内容の変更がある |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30456001 |
| 科目名        | 証券市場論 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Securities Trading  |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 株式証券の価格動向は、経済の先行指標といわれています。 そこで、世界各国 特にアメリカと欧州経済と日本、中国経済を理解し、その背景、あるいは影響を再考して今後の世界と日本経済の方向を探ることとしたい。  進め方としては、①世界各国の経済(過去、現在、将来予測)、②企業動向と株式関連の動き(エネルギー、先端技術、消費・サービス動向など)、③理解するための道具(各種チャート、騰落率の推移、REIT など)、④その他を見てゆくこととする。  同時に、N 社のバーチャル投資に参加して、実際と同じ条件で株式の売買を経験することとする。また、市内の証券会社を訪問して、実態を知ることとしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 毎回の出席点を重視し、50点 パーチャル投資の成績を25点 各自の発表と成果を25点とします。   |       |           |
| 到達目標       | 株式投資に必要な基礎知識を理解すること、株式投資の仕組みと実際の仕事を知ることです。 決してギャンブル的な投機を促すものではありません。 投資についての正しい知識とルールを知ろうとしています。  |       |           |
| 準備学習       | 相場は日々刻々と動いています。一分たりとも止まってくれません。 その意味で、コンピューターを利用したの授業が主となります。各自でコンピューターや携帯機器を持っているか、大学での利用が多くなります。 加えて、各自宅や大学へのアクセスが多く求められますので、ついていけるようにしてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 専門的な用語の理解が求められますので、ノートと鉛筆は必ず持参してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 株式とは (1 回目) 2 株式市場の歴史 (2 回目) 3 株式投資の基礎 (3、4 回目) 4 投資の考え方 I 指標とデーター (5、6、7 回目) 5 投資の考え方 II 動向と推移を予測する (9、10 回目) 6 バーチャル投資を検証する (11、12、13 回目) 7 証券会社の訪問 (14、15 回目)  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30458001 |
| 科目名   | 流通論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | A Theory of Distribution  |       |           |
| 担当者名  | 堀池 敏男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 戦後「流通」は、社会経済の環境変化により日々進化してきたが、21世紀に入り急激に進むグローバル経済化、IT革命のもと新たな進化を遂げようとしている。そこで、「流通」の実態に幅広い観点からのアプローチを試み、基礎理論の習得に努める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%   |       |           |
| 到達目標  | 現代流通論に関する基礎知識の習得および進化する流通の現状と課題について理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 流通および流通活動に関して興味を持ち、日経 MJ はじめ講義関連情報情報の入手に努めた上で受講されたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 はじめに～考察の観点 2 流通を取り巻く環境変化について 3 流通の経済的側面 4 流通の産業的側面 5 流通の機構的側面 6 小売機構について 7 ～業態面からの考察 8 ～集積面からの考察 9 ～組織面からの考察 10 卸売機構について① 11 卸売機構について② 12 物流機構について① 13 物流機構について② 14 IT革命と流通 15 おわりに～流通戦略の新展開および本講義の総括 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J30459001 |
| 科目名       | 財務管理論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Financial Management   |       |           |
| 担当者名      | 近藤 汐美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 本講義では、最初に企業活動に必要な不可欠な「資金」の流れをもとに、財務管理の基本的考え方を解説します。その後、財務諸表分析などの分析手法を用いて財務管理を行っていくために重要な分析数値を見ていきます。最後に、「企業価値」の基本概念について解説し、理解を深めます。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 第一回目の講義時に伝えます。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 平野 秀輔（著）『財務管理の基礎知識 [第2版増補版] 一財務諸表の見方から経営分析、管理会計まで』（2011年、白桃書房）   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 出席状況(40%)、授業中に課す小テスト(10%)および定期試験(50%)の結果を総合して評価します。  |       |           |
| 到達目標      | 財務会計の基本的知識をもとに、財務「管理」の基礎となる考え方の習得を目指します。   |       |           |
| 準備学習      | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を伝えます。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 簿記や会計理論に関連する基本的な知識をもって受講することが望ましいです。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1. ガイダンス（総論） 2. 財務会計の考え方と財務管理の重要性 3. 資金を集める（1） 4. 資金を集める（2） 5. 資金を運用する（1） 6. 資金を運用する（2） 7. 資金運用の成果を上げる 8. 財務諸表分析の基礎概念 9. 財務諸表分析の手法（1） 10. 財務諸表分析の手法（2） 11. 財務諸表分析の手法（3） 12. 損益分岐点分析とCVP分析 13. 企業価値の評価（1） 14. 企業価値の評価（2） 15. 総括 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30460001 |
| 科目名   | 財務諸表論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Financial Accounting  |       |           |
| 担当者名  | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。  企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。  また時に、簿記1、2級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回レジュメを配布する予定です   |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート(20%)、授業内小テスト数回(50%)および平常点(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義・特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。   |       |           |
| 準備学習  | 講義内容に応じて宿題を課す   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 簿記原理を履修済みか、日商簿記3級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.日本の会計制度 4.財務会計のシステムと複式簿記 5.会計基準と会計原則 6.貸借対照表の内容 7.損益計算書の内容 8.キャッシュ・フロー計算書の内容 9.その他のディスクロージャー 10.企業集団と連結会計 11.企業の設立・資金調達と会計 12.仕入・生産活動と会計 13.販売活動と会計 14.会計の国際化 15.総括：改めて会計とは何か |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30461001 |
| 科目名        | 国際会計論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | International Accounting   |       |           |
| 担当者名       | 近藤 汐美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では、最初に企業活動のグローバル化および会計基準のグローバル化に伴う会計制度の動きについて概観します。そして、世界標準(グローバル・スタンダード)とされる国際会計基準の史的展開を整理し、わが国に与える影響を見ていきます。最後に、国際会計基準の各論について解説し、国際会計の基本的考え方の習得を目指します。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 第一回目の講義時に伝えます。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 古賀智敏(著) 『グローバル財務会計』 (2011年, 森山書店)  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況(40%)、授業中に課す小テスト(10%)および定期試験(50%)の結果を総合して評価します。  |       |           |
| 到達目標       | グローバル・スタンダードとなる国際会計について、基礎となる考え方や知識の習得を目指します。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を説明します。   |       |           |
| 受講者への要望    | 簿記や会計理論に関連する授業を事前に履修し、受講をすることが望ましいです。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス (総論)   2. 会計基準のグローバル化の流れ   3. 日本の会計制度の動き (1)   4. 日本の会計制度の動き (2)   5. グローバル・スタンダードの考え方   6. 国際会計基準の史的展開 (1)   7. 国際会計基準の史的展開 (2)   8. 日本の会計制度の改正—国際会計の導入 (1)   9. 日本の会計制度の改正—国際会計の導入 (2)   10. 国際会計基準の各論 (1)   11. 国際会計基準の各論 (2)   12. 国際会計基準の各論 (3)   13. 国際会計基準の各論 (4)   14. 国際会計基準の各論 (5)   15. 総括 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30462001 |
| 科目名  | スポーツファイナンス   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Finance   |       |           |
| 担当者名   | 幸田 圭一朗   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>ビジネスにおいて欠かせない経営資源として「ヒト・モノ・カネ」が重要であると言われています。それは、スポーツビジネスにおいても同様で、これら諸要素をうまく活用していくことがスポーツ組織の発展に重要となってきます。 そこで本講義では、そのなかでも「カネ」の部分に焦点を当て、スポーツビジネスに関わる資金の流れ等について概観します。また、スポーツ組織の事例などを取り上げたうえで、資金面にまつわる個別の現状や特徴および問題点などについて整理し、把握していくことを課題とします。 なお本講義では、一般的なファイナンス理論に留まるのではなく、予算計画やパブリック・ファイナンスなど、幅広くスポーツビジネスを行う際の資金面のマネジメントを取り扱っていきます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストの指定は行わず、下記参考文献に従って作成したレジュメを配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 武藤泰明（2008）『スポーツファイナンス』大修館書店  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、資料を配布します。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30％）出席状況、小テスト（不定期）などによる。 レポート試験（30％） 期末試験（40％） また、その他提出物など踏まえ、総合して成績評価を行います。   |       |           |
| 到達目標   | 本講義を通して、スポーツビジネスに関わる資金の流れを理解すること   |       |           |
| 準備学習   | スポーツファイナンスに関係があると思う新聞やニュースなどに目を通してください。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>遅刻や私語、携帯電話の使用など他人への迷惑を考えたいうえでの常識を求めます。 配布物などの欠席時の対応は、相当の理由がある場合のみ応じます。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。 なお、レポート課題などの指示は、原則、講義内で行いますので、それを踏まえて出席するようにしてください。 また、一部電卓を使用しますが、必要な際にその都度指示します。</p>                   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1.イントロダクション ～スポーツファイナンスの位置づけ～ 2.財務諸表の構成と基本概念 3.スポーツ組織の収入構成と収入特性 4.事業計画と予算 5.資金調達 6.キャッシュフロー・マネジメント 7.財務管理 8.これまでの復習 9.資本と資本政策 10.決算と情報開示 11.財務リスクのマネジメント 12.中長期ファイナンス計画 13.パブリック・ファイナンス 14.無体財産とファイナンス 15.まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30463001 |
| 科目名        | スポーツ指導者論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Sports Leader   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を30%、学習態度、テストなどを70%とする。  |       |           |
| 到達目標       | スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに、文化としてのスポーツ  2 指導者の役割①  3 指導者の役割②  4 トレーニング論①  5 トレーニング論②  6 成長・発育のスキルの発達  7 スポーツ指導の方法と運動の学習理論  8 スポーツ指導の方法と運動の学習理論  9 指導計画のたて方  10 性、年齢に応じたスポーツ指導計画  11 スポーツ活動と安全管理  12 スポーツと栄養  13 スポーツと心理的な要因  14 スポーツと法  15 まとめ             |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30464001 |
| 科目名        | 野球ビジネス論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Baseball Business Theory   |       |           |
| 担当者名       | 堀込 孝二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>四国・九州アイランドリーグ球団代表の立場により現場の生きた声を伝える。教科書的な話一辺倒ではなく、現場でいかに役に立つかにテーマを絞り、現場で実際に使える情報や知識の習得を目指す。チケット販売や集客のためのイベント、そして運営。スポーツビジネスの現場では実際どのようなことが行われているのか、現場ではどのような知識や能力、経験が必要とされているのか。現役の球団代表がリアルに伝え、学習することができる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 広瀬一郎著『スポーツ・マネジメント入門』東洋経済新報社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点、授業内レポート、定期テストにより評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 机上の空論ではなく実際のスポーツビジネスの現場で役に立つ情報や知識を習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 単なる競技部分 (試合の勝敗) だけでなく球団のビジネス部分にも日ごろから興味をもち、インターネットや新聞などから情報収集しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 各講義ごとにレポートお提出してもらう予定。内容はその日の講義について。 私語を厳禁とする。過ぎる場合、他者への迷惑を勘案し退室を求める場合もありうる。 正解を求めるのではなく、様々な提案やアイデアを出してほしいと願う内容の講義であるのでそのつもりで用意しておくこと。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. はじめに 2. スポーツ産業と他産業との違い 3. マネジメントの本質 (スポーツマネジメントとは) 4. ステークホルダーを理解する 5. スポーツがもつ公共性 6. GMの役割 7. 人事マネジメント 8. グループワーク 9. コミュニケーション戦略 10. 顧客管理とは 11. スポーツマーケティング 12. 顧客満足とは 13. 自治体との関わり方 14. 定期テスト 15. まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30465001 |
| 科目名  | サッカービジネス論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Soccer Business Theory  |       |           |
| 担当者名   | 廣嶋 禎数   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本に於いてサッカー文化を根付かせ、ビジネスとして成り立たせ、さらにサッカーを発展させるために必要なことについて考察する。                       |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材、パワーポイント等を使用<br>適宜プリント等を配布し使用する  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30％）出席状況と参加態度による。レポート（70％）  |       |           |
| 到達目標   | プロサッカーを日本の中において、定着させるために必要な知識を身に付ける。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞等の各メディアに掲載されているスポーツ関連の記事をマネジメントの視点から興味を持って読むこと。その他、次回の講義に必要な準備学習があれば、各講義の最後に指示する。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積極的な態度で受講するとともに、私語等他の受講者の迷惑になる行動は慎むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. プロスポーツとは 3. 日本におけるプロサッカーの位置 4. Jリーグの理念について考える 5. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと1 6. Jリーグの理念を実現させるためにひつようなこと2 7. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと3 8. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと4 9. Jクラブの経営の現状1 10. Jクラブの経営の現状2 11. Jクラブの経営の現状3 12. Jクラブの経営の現状4 13. サッカークラブの運営1 14. サッカークラブの運営2 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30466001 |
| 科目名       | 競技スポーツ論（野球）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports(Baseball)  |       |           |
| 担当者名      | 原田 富士雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業をしたい。                |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 評価方法      | 授業内試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標      | プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、硬式野球というジャンルの全体像を把握し、選手・監督・組織の理解を深める。  野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 |       |           |
| 準備学習      | 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。                              |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

#### 講義の順序とポイント

1. "はじめに（オリエンテーション）| 授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じてスポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）" |2. "野球の組織（野球とは）| 日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらおう。" |3. 日本の野球と世界の野球 |4. "野球のマネジメント 監督の役割（指導者の行動範囲）| コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。" |5. "技能向上コーチング（指導方法）| 育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。" |6. 野球における指導者のリーダーシップ |7. "一流選手への道 | 一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）" |8. "育てて勝った名将達 | 野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。" |9. "育てて勝った名将達 | 野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。" |10. "必勝法と必敗法 | どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？を 具体的事例を挙げて説明する。" |11. "ミーティングとサイン | スポーツについて、ミーティングの必要性和サインの重要性を説明する。" |12. "ワンプレーの重さ | ツーツのプレーには重みがある。事例を挙げ、プレーの組み合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。" |13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う |14. "データの活用と感ピューター | データに基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。" |15. 授業内 試験 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J30467001 |
| 科目名   | 競技スポーツ論（サッカー）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Competitive Sports(Soccer)  |       |           |
| 担当者名  | 廣嶋 禎数   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツの派生から生涯スポーツと競技スポーツへの分化そしてプロスポーツの出現という歴史的な背景を学び、さらにこれから競技スポーツをいかに発展せ、選手の競技力をいかに向上させ、さらにそれをいかにチーム力の向上に結びつけるかを学ぶ |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材、パワーポイント等を使用<br>適宜プリント等を配布し使用する  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30％）出席状況と参加態度による。レポート（70％）  |       |           |
| 到達目標  | 競技スポーツに振興に必要な要素を理解し、また、選手個人およびチームとしての競技力をいかに向上させるかを理解する   |       |           |
| 準備学習  | サッカーに関わる技術書とを読むこと。また新聞等のプロサッカーに関わる記事に目を通すこと。次回の講義に必要な事前準備があれば講義終了時に連絡する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で受講するとともに、私語等他の受講者の迷惑になる行動は慎むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. スポーツとは 3. サッカーの起源 4. サッカーの発展 5. 日本サッカーの歴史 6. システムの変遷 7. ルールの変遷 8. 現在のルールについて 9. 競技力の向上1 10. 競技力の向上2 11. コーチの役割 12. 選手の育成 13. コーチの育成 14. 審判の育成 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30468001 |
| 科目名   | フィールドワーク京都（スポーツ活動研究）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Fieldwork in Kyoto (Sports Activity Research)  |       |           |
| 担当者名  | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、様々な話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなど、日常生活になくてはならないものとなっている。  フィールドワーク京都（スポーツ活動研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関するビジネスを題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに様々な文献とフィールドワークから、スポーツ・レクリエーション・スポーツや生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考え、スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業参加度、課題レポートによる総合評価  |       |           |
| 到達目標  | 報告書を作成できるようにする。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に自分が報告書作成のテーマとするスポーツについて調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 土曜日等にフィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。 個人又はグループで視察するスポーツイベントを決定し、報告書を作成します。 また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス・スポーツ活動とレクリエーション活動（目的にあわせたRW）  2. 学内イベントの企画（目的にあわせたRW） 3. 学内イベントの企画（目的にあわせたRW） 4. 学内イベントの運営実施と評価  （レポート提出：目的にあわせたRW） 5. 課題の設定：スポーツ活動研究レポートをつくろう  （目的にあわせたRW）  6. スポーツで世界1になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか？  7. スポーツを数字で評価するには？ ① 8. スポーツを数字で評価するには？ ②  9. フィールドワーク：アシックススポーツミュージアム見学  10. スポーツの競技者人口の動向グラフの作成  11. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成  12. フィールドワーク：京都サンガの試合視察とレポート作成  （目的にあわせたRW）  13. 京都サンガ視察レポート発表  14. 京都サンガ視察レポート発表 15. 京都サンガ視察レポート発表 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30470001 |
| 科目名        | 経営倫理論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Business Ethics Theory   |       |           |
| 担当者名       | 仲田 正機  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>企業は事業の経営を通じて社会に奉仕する。この基本的な考え方を深く把握し、その上でその実践的で具体的な在りようを理解するために設けられたのが、経営倫理論である。そこには、大学で経営を学ぶ土台とも言うべきものが横たわっている。これを、分析し、わかりやすく受講生の皆さんにお伝えしたい。  昔も今も、また欧米でもアジアでも成功を遂げた企業家に共通しているのは、「事業の経営を通じて社会に奉仕する」という基本点を押さえた上で様々な分野の事業を展開していることである。今日では、「法令遵守」とか、「CSR（企業の社会的責任）」とか、「企業の社会貢献」とか言われているが、根っこはみな同じである。  今年度の、経営倫理論では、経営倫理に関する学問的な研究状況を紹介し、学修課題と目標を理解したあとで、実際に企業経営に携わってこられたエクセレント企業の経営者の実践に裏付けられた経営倫理論を学び取ることにしたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 立石信雄（著）『企業の作法』（実業之日本社 刊）を使用する予定ですが、本書は市販本が売り切れ状態です。したがって、著者から残部を直接に入手して、担当教員が毎週の該当箇所をコピーして教室で配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の進捗状況に合わせて、適宜、紹介します。   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業の進捗状況に合わせて、適宜、資料や各社のHP等を利用して、実際の経営倫理を学びます。   |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加度（50%）、学期末の試験（50%）で総合評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 企業は、事業を通じて、社会に貢献する存在であることについて理解するのが、この科目の獲得目標である。  |       |           |
| 準備学習       | 授業中に紹介する文献やインターネットの関連資料を一覧して、問題意識を持って講義を受けて欲しい。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>将来、会社に勤めてどんな態度で仕事したら良いのか知りたい人、いつか何か事業を起こしてみたいと考えている人は、その気持ちを、この講義にぶつけるように質問や意見を出してほしい。その時間は、講義の途中や最後に設けます。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 経営倫理論とは、何を、どのように学ぶ科目なのか  2 国際的にも急速に高まる「企業の社会的責任（CSR）」  3 CSRから見た日本企業の課題  4 国際労働機関（ILO）は、この問題にどんな答を用意したか  5 先進諸国で実践されるコーポレート・ガバナンス改革  6 日本でも急ピッチに進むCG改革  7 美しい「企業の作法」で大切な人材育成  8 高齢者をいかに活かすか  9 女性・若者・外国人の雇用環境と活性化の鍵 10 東アジアビジネス圏のなかの日本企業の役割 11 隣人・中国と韓国との共生を目指す日本企業の課題 12 経営倫理の基本にあるものは何か―各社の事例検証 13 「事業を通じて社会へ貢献する」とは、どんなことか 14 新しい時代にふさわしいCSR 15 グローバルなCSRに向けて</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30471001 |
| 科目名  | トレーニング論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Training Theory  |       |           |
| 担当者名   | 山田 陽介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>体力トレーニングとは、運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では、さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした、数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え、一般人にまで、体力トレーニングについての情報はあふれており、さらに新しい理論が加わってきている。  本講義では一般的体力の向上を目指した、体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し、体力を総括的にとらえた上で、目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに、具体例を提示しながら進めていく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要時にプリントを用意  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60点以上）およびレポート、出席・学習態度により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標   | <p>身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに、実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。</p>   |       |           |
| 準備学習   | <p>身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めて欲しい。 事前に解剖学や運動生理学の基礎的な知識を得ておくこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義と実際の実技を取り入れて行う。 トレーニングルームを使用するので、指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 はじめに 2 体力とは 3 トレーニングの進め方 4 トレーニングの種類 5 体力要素による分類 6 トレーニング計画とその実際 1 7 トレーニング計画とその実際 2 8 体力指標の測定とその評価 9 体力指標の測定とその評価 10 体脂肪量の測定 11 体力テストについて 12 体力テストについて 13 動作様式に合わせたトレーニング 14 実技試験 15 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30472001 |
| 科目名       | 競技スポーツ実技（サッカー）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports Practice(Soccer)   |       |           |
| 担当者名      | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>競技スポーツとしてのサッカーで重要なことは、何よりも試合に勝つことであり、そのためには得点をしなければなりません、それがサッカーの楽しさです。選手には、パーフェクトスキルを獲得し、状況に応じたプレーを行うことが求められ、ゴールを奪うために攻撃を継続的に行うことが求められます。守備については、ボールを取られたらすばやく奪い返すことや、相手チームのボールをどのように奪い、効果的に攻撃につなげることが出来るかの視点で考えなければなりません。  そこで、この授業では、競技スポーツ論（サッカー）と連携し、サッカー競技における理論の理解（技術・戦術）とスキルの向上を目指します。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（出席状況や参加態度等）20% 実技60% レポート20%  |       |           |
| 到達目標      | この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上をはかり、クリエイティブでたくましい選手として、友情や人間関係を深め、アスリートとしての資質向上をはかる。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツを安全に実施できる知識（ウォーム・アップ・クーリングダウン、ケガに対する応急処置）を事前に理解しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

競技スポーツの目的は、最高のパフォーマンスを達成することであり、そのためにはコンディションをよい状態に保つことが必要であり、自己の健康管理を行え、生活することが必要である。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットテストA | 2. フィットテストB、安全対策（ウォームアップ、クーリングダウン、応急処置） | 3. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）ミニゲーム① | ・ ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロール、スクリーン&ターン | ・ インターセプト、ボディーコンタクト、タックル | 4. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム② | 5. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム③ | 6. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム | ・ パス、ドリブル、シュート | ・ スルーパス、壁パス、クロスオーバー、 | ・ ポジショニング、アプローチ、チャレンジ&カバー | 7. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム① | 8. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム② | 9. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム③ | 10. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム④ | 11. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。 | ・ MTM、ホーメイション、ゲーム分析 | 12. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム① | 13. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム② | 14. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム③ | 15. まとめ レポート提出

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30473001 |
| 科目名       | 競技スポーツ実技（野球）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports Practice(Baseball)   |       |           |
| 担当者名      | 原田 富士雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 評価方法      | 実技試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。 |       |           |
| 準備学習      | 野球ルールを徹底的に学習しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。|遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

1. "はじめに（オリエンテーション）| 授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。" |2. "硬式野球実技（基本） \* 準備運動 \* キャッチボール \* トスバッティング \* 守備練習 |（投・打・捕の体験） \* 打撃練習（野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらおう）" |3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |7. "実技（ゲーム形式） | 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |8. "実技（ゲーム形式） | 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |9. "実技（ゲーム形式） | 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J3047400A |
| 科目名        | スポーツ実技（水泳・水中運動）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Practice (Swim and Exercise in Water)   |       |           |
| 担当者名       | 池田 早耶香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 水泳・水中運動については以下の点を理解させる。水の性質の理解。水中運動:水中での立ち方、腕、脚を動かし、抵抗感をつかませる。歩く、走るなど速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。  水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させる。運動プログラムを作成し、運動を実施し、心拍数で確かめさせる。指導上の留意点を理解させる。水と体の衛生及び水温、救急法などの安全対策を理解させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を2回実施する（評価割合50%）。また、授業内筆記テスト（評価割合25%）、気づきシート（評価割合20%）、学習態度（評価割合5%）を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | 健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の授業で、指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。 サンスポーツにおいて実習を行います。プール使用料（1万円）を事前に徴収します。 4/24・5/8・22・29・6/5・12・19・26・7/3・10は現地集合・現地解散となります。遅刻は許されません。 タトゥーや入れ墨をしている人も許可されません。水着とスイミングキャップを準備すること。 サンスポーツの会員メンバーの迷惑にならないよう、服装・マナーにも気をつけてください。 初回の授業は教室でオリエンテーションをします。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 水中エアロビクス 3 水中エアロビクス 4 水中運動 5 水中運動 6 水中運動と安全対策 7 水泳・水中運動 8 水泳・水中運動 9 水泳・水中運動 10 実技テスト 11 基本プログラム 12 基本プログラム 13 基本プログラム 14 実技テスト 15 まとめ  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |  |       |                        |
|---|--|-------|------------------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J3047500A              |
| 科目名   | スポーツ実技(エアロビックスports)   | 単位数   | 1                      |
| 科目名(英語表記)   | Sports Practice(Aerobic Sports)  |       |                        |
| 担当者名  | 吉中 康子  | 旧科目名称 | スポーツ実技(エアロビックダンス・健康体操) |
| 講義概要  | <p>ちょっとしたことばかけやアクションで「笑い」が起こる。スポーツ実技(エアロビックスports)ではQOLの向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しみながら効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲーム、及び社会的な課題の発見・解決力までを身につける。イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。  将来は地域のボランティアとしてあるいは非営利組織で、企業の業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。</p> |       |                        |
| 教材(テキスト)  | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)   |       |                        |
| 教材(参考文献)  | レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学 必要に応じて指示する。   |       |                        |
| 教材(その他)   | 体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット  |       |                        |
| 評価方法  | 試験は、実技試験を2回実施する(評価割合60%)。また、授業内筆記テスト(評価割合25%)、振り返りメモ(評価割合20%)、学習態度(評価割合5%)など、これらの結果を総合して成績評価を行う。   |       |                        |
| 到達目標  | 健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。   |       |                        |
| 準備学習  | 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。  |       |                        |
| 受講者への要望   |  |       |                        |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。   |  |       |                        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |                        |
| 1 ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビックスportsを楽しむために   2 コミュニケーションゲームの体験とエアロビックスports   3 エアロビックダンス初級   4 エアロビックダンス中級(運動量を上げるための指導)   5 エアロビックダンス中級(運動量を上げるための指導)と   対象を想定したレクリエーション支援の実際①   6 中高年者のための健康体操   7 エアロビックダンス中級と対象に合わせたアクティビティの   選択方法とその視点   8 ウォーミングアップの方法とニュースportsの展開①   9 ニュースportsとクーリングダウン   10 アイスブレイキングの実習とスポーツ   11 アイスブレイキングの実習とスポーツ   12 対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法   13. アクティビティの指導案の作成   14. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出   15. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出 |  |       |                        |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3047600A |
| 科目名        | スポーツ実技（ジョギング・ウォーキング）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Practice (Jog Walking)   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 健康・体力づくりの運動であるジョギング・ウォーキングを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、ウォーキングカレンダーの記入（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | 安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。 対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて理解する。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。毎回筆記具を持参してください。晴天時は人工芝のグラウンド、雨天時は体育館ランニングコースを使用する。服装とシューズを各自が用意してください。心拍数の測定などもするので前日は十分な睡眠をとっておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション  2. ストレッチングとウォーキング  3. ジョギング  4. ジョギング  5. ジョギング  6. ウォーキング  7. ウォーキング  8. ウォーキング  9. ウォーキング  10. 基本プログラム  11. 基本プログラム  12. 実技テスト  13. 基本プログラム  14. 実技テスト  15. まとめ |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30477001 |
| 科目名        | メンタルトレーニング論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Mental Training Theory  |       |           |
| 担当者名       | 池田 早耶香  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この講義は、運動習慣の確立を含め、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解させ、適切な動機づけとその工夫、ストレス解消の生理・心理・社会的な側面の関連を理解し習得させる。また、スポーツを心理的側面からとらえる事を目的とし、スポーツ心理学という学問的背景から、メンタル面強化のメンタルトレーニングを紹介する。基本的に、講義で紹介した心理的スキルを毎日の練習や試合で応用し、自分自身のメンタル面を強化していく内容である。          |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。   |       |           |
| 到達目標       | スポーツを心理的側面からとらえ、スポーツと人間の心理を理解し、さまざまな場面で応用できるように学ぶことが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の講義で指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに 2 生活習慣病予防と運動習慣確立のための心理学の意義 3 メンタルヘルスとストレス 4 生活習慣病の発症と心理特性 5 メンタルトレーニングとは 6 メンタルトレーニングの現場での活用 7 メンタルヘルスの実際 8 理想的心理状態と方法 9 目標設定、プラン作成 10 イメージトレーニング1 11 イメージトレーニング2 12 イメージトレーニング3 13 集中力のトレーニング 14 試合に対する心理的準備 15 まとめ |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J3047800A |
| 科目名        | トレーニング実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Training Practice   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。   |       |           |
| 到達目標       | 補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. 補強運動の必要性  3. 目的に応じた体操  4. トレーニングの特徴  5. ウェイト・トレーニングの原則、効果  6. ウェイト・トレーニングの原則、効果  7. サーキット・トレーニングの原則・効果  8. サーキット・トレーニングの原則・効果  9. トレーニングの期分け  10. ハイパワートレーニング  11. ミドルパワートレーニング  12. ローパワートレーニング  13. 実技試験  14. 実技試験  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J30479001 |
| 科目名        | コーチング実習（野球）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Sport Coaching Practice(Baseball)  |       |           |
| 担当者名       | 住友 平   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の野球レベルは世界でもトップです。なぜ今、日本の野球がこのレベルに君臨できるのかを考えた時、日本人はこの野球というものに「野球道」として取り組んできたからなのではないかと考えられます。ベースボールと野球の違いは「ベースボール」はゲームとして楽しむところから成立しています。「野球」は子どもを教育するために、ということで日本に広がっていきました。そこで、このベースボールと野球を融合させ、厳しく、楽しく、を子供たちにどのように教えていくべきかを指導していきます。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要時にプリントを用意  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意  |       |           |
| 評価方法       | 実技試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 自分が指導する選手に対して的確なアドバイスと練習方法、なぜ礼儀が大切なのかを指導できるようにする。挨拶や返事はなぜ大切か、それは相手に心意気を伝えることである。バッティングや守備という技術面だけでなく、チームプレーとしての心を学んでほしい。   |       |           |
| 準備学習       | 野球ルールを徹底的に学習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>&lt;小学生向けの指導&gt; (1) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶、指導者やチーム関係者に対して挨拶や言葉使いなど。  ■グラウンド整備、トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。 (2) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方などを教える。正確な投げ方、腕の使い方の指導。  ■ノック 内野の捕球姿勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。 (3) 4 技術面（打撃）  ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バスター ■フリーバッティング (4) 5 技術面（走塁）  ■ベースランニング ■リード ■スライディング &lt;中学生の指導&gt; (5) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶 指導者やチーム関係者に対して挨拶や言葉使いなど。団体行動の周知徹底。  ■グラウンド整備 トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。  チームの道具、ヘルメットやキャッチャー道具、チーム旗の管理。 (6) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。関節可動域を大きくする体操の指導。体幹系の体操やトレーニングの指導。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方などを教える。遠投、クイックスロー、スナップスローの指導  ポジション別 投手、捕手、内野手、外野手にスローイングフォームを指導。（専門知識要）  ■ノック 内野の捕球姿勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。  ポジション別にフィールディングやカバーリング、バックアップを指導。（専門知識要） (7) 4 技術面（打撃） ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バスター ■フリーバッティング (8) 5 技術面（走塁） ■ベースランニング ■リード ■スライディング (9) 6 戦術面（作戦） ■サイン フラッシュサイン、ブロックサインの指導 ■セオリー 攻撃面、守備面のセオリーの指導（座学） &lt;高校生の指導&gt; (10) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶 指導者や学校関係者に対して挨拶や言葉使いなど。団体行動の周知徹底。  ■グラウンド整備 トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。  チームの道具、ヘルメットやキャッチャー道具、チーム旗の管理。 (11) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  フィジカル系のトレーニング、強化系のトレーニングの指導。乳酸走系の強化ランニングの指導  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。関節可動域を大きくする体操の指導。体幹系の体操やトレーニングの指導。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方などを教える。遠投、クイックスロー、スナップスローの指導  ポジション別 投手、捕手、内野手、外野手にスローイングフォームを指導。（専門知識要）  ■ノック 内野の捕球姿</p> |       |           |

勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。| ポジション別にフィルディングやカ  
 バーリング、バックアップを指導。(専門知識要) | (12) 4 技術面 (打撃) ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バス  
 ター ■フリーバッティング | (13) 5 技術面 (走塁) ■ベースランニング ■リード ■スライディング | (14) 6 戦術  
 面 (作戦) | ■サイン フラッシュサイン、ブロックサインの指導 ■セオリー 攻撃面、守備面のセオリーの指導 (座学) |  
 ■分析 (データ) 他チームのデータ収集。自チームのデータ分析。 | (15) 総括 レポート作成

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30480001 |
| 科目名   | コーチング実習（サッカー）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Sport Coaching Practice(Soccer)  |       |           |
| 担当者名  | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | コーチング実習では、将来的にサッカーの指導者を目指している学生を対象として、コーチング論（サッカーをベースとした）と連携し、競技レベルの向上を目指すサッカーチーム（U-12）に関わり、指導（観察・分析・コーチング補助）を実習形式で行います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況や参加態度等）20% 実技40% レポート40%   |       |           |
| 到達目標  | この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上を図り、指導者として、スポーツの楽しさを自ら表現できるモデルとなり、言動で見本を示し、プレイヤーと信頼関係を持てるようにする。                     |       |           |
| 準備学習  | 基本的な安全対策（救急処置、応急処置）が理解できていることや、スポーツ事故における指導者の法的責任についての知識を獲得していること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 本授業の特性を理解し、スポーツにふさわしい服装であることはもちろんのこと、自主性と探究心をもって取り組めること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. オリエンテーション  2. 指導現場観察①（グラウンドで行われているU-12の指導を観察し、レポートにまとめる。）  3. 指導現場観察②（グラウンドで行われているU-12の指導を観察し、レポートにまとめる。）  4. 指導現場観察③（トレーニングの準備から終了までの状況把握する。）  5. 指導現場観察④（トレーニングの準備から終了までの状況把握し、レポートにまとめる。）  6. 指導実習①（指導担当を決め、担当者に付き観察する。）  7. 指導実習②（指導担当を決め、担当者に付き観察する。）  8. 指導実習③（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。）  9. 指導実習④（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。）  10. 指導実習⑤（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。）  11. 指導立案と実践①（トレーニングメニューを作成し、指導する。）  12. 指導立案と実践②（トレーニングメニューを作成し、指導する。）  13. 指導立案と実践③（トレーニングメニューを作成し、指導する。）  14. 指導立案と実践④（トレーニングメニューを作成し、指導する。）  15. まとめ レポート提出 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |              |
|--|--|-------|--------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J30481001    |
| 科目名  | コーチング実習（生涯スポーツ）  | 単位数   | 1            |
| 科目名（英語表記）  | Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)   |       |              |
| 担当者名   | 吉中 康子  | 旧科目名称 | レクリエーション現場実習 |
| 講義概要   | <p>コーチング実習（生涯スポーツ）の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得です。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」等を授業で身につけます。次の段階として、実際の授業にTA(ティーチングアシスタント)として入り、授業をサポートします。また、学外での事業参加も必修です。  本来のレクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」ということを基本コンセプトにしています。この資格の取得を目指すことでキャリアアップに役立てましょう。授業時間外での現場実習では、各自が時間調整に最大の努力を払うこと。挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守ること。(実習の参加費や交通費は各自で負担する)</p> |       |              |
| 教材（テキスト）   | レクリエーション支援の基礎  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）  | 印刷資料、DVD、参考図書などを随時提示します。   |       |              |
| 評価方法   | 指導案、指導レポート、事業の企画書の作成（50%） 実技試験(50%)  |       |              |
| 到達目標   | 自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、様々なイベントのサポートができる。   |       |              |
| 準備学習   | TAをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習しておくこと。 レクリエーション・インストラクターの資格を取得するために、教科書内の知識はすべて事前学習しておくこと。   |       |              |
| 受講者への要望  |  |       |              |
| 挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。 TAに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常により授業となるように働きかけること。   |  |       |              |
| 講義の順序とポイント   |  |       |              |
| <p>授業以外の現場実習だけでなく、授業内でのTA実習なども取り入れます。 1. コーチング実習（生涯スポーツ）オリエンテーション・ さまざまな対象とアクティビティ・生涯スポーツのTA及び レクリエーションインストラクターの資格についての説明 2. ホスピタリティトレーニング実習 3. 遊びのマニュアル作成（ゲームや自然環境利用の遊び) 4. アイスプレーキング実習（グループまたは個人でゲームを紹介します） 5. グループで種目別に分かれて指導案作成 6. 生涯スポーツ指導実習 7. 生涯スポーツ指導実習 8. 生涯スポーツ指導実習 9. 生涯スポーツ指導実習 10. 生涯スポーツ指導実習 11. イベントの企画と運営（集いの演出実習） 12. 事業参加①（レク楽園・ワークショップの出席） 13. 事業参加②（レク楽園の出席） 14. 事業参加③（レク楽園の出席） 15. 学内イベント実施</p> |  |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J30482A01 |
| 科目名  | スポーツ生理学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Physiology of Physical Exercise I   |       |           |
| 担当者名   | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間の身体構造 (解剖学) と機能 (生理学) の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの1つ。<br> なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指示または配布する   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) + 小テスト (30%) + 期末試験 (50%)   |       |           |
| 到達目標   | 生理学と解剖学の基礎を修得する。  |       |           |
| 準備学習   | 常に健康や運動について関心をもつこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。 2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。 3.教室内は飲食禁止。 4.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.授業ガイダンス 2.骨・骨格について (その1) 3.骨・骨格について (その2) 4.関節、靭帯、腱について 5.筋肉について 6.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構 7.筋線維タイプと収縮特性 8.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋 9.身体運動に関係する骨 (その1) 10.身体運動に関係する骨 (その2) 11.身体運動に関係する骨 (その3) 12.身体運動に関係する筋 (その1) 13.身体運動に関係する筋 (その2) 14.身体運動に関係する筋 (その3) 15.まとめ  (なお受講者の理解度や希望などに応じて内容を変更することもある。) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30482B01 |
| 科目名       | スポーツ生理学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Physiology of Physical Exercise II  |       |           |
| 担当者名      | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの1つ。<br> なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示または配布する   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（20%）+小テスト（30%）+期末試験（50%）  |       |           |
| 到達目標      | 生理学と解剖学の基礎を修得する。  |       |           |
| 準備学習      | 常に健康や運動について関心をもつこと。   |       |           |

受講者への要望

1.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。|2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。|3.教室内は飲食禁止。|4.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス|2.呼吸について|3.呼吸器系の解剖学（その1）|4.呼吸器系の解剖学（その2）|5.呼吸のメカニズム（その1）|6.呼吸のメカニズム（その2）|7.運動と呼吸について（その1）|8.運動と呼吸について（その2）|9.血液循環について|10.循環器系の解剖学（その1）|11.循環器系の解剖学（その2）|12.循環器系の生理学（その1）|13.循環器系の生理学（その2）|14.運動と血液循環について|15.まとめ|（なお受講者の理解度や希望などに応じて内容を変更することもある。）

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30483001 |
| 科目名        | スポーツマーケティング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Marketing  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、生産と消費というマーケティング論の基本概念を用いてスポーツマーケティングを解説する。より具体的には、①スポーツマーケティングという概念および②マーケティング論を通じてみたスポーツを解説する。その主たる問いは、①なぜスポーツ界にはマーケティング論が必要となったのかであり、②マーケティング論からスポーツをみれば何が説明できるのかである。  現実のスポーツとマーケティングはきわめて複雑に絡み合っている。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦 [編] 『スポーツ政策論』 成文堂 2011 3,500 円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ジョン・スポールストラ 『エスキモーに氷を売る』 きこ書房 2000 1,680 円  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 講義内小試験（20%）、講義内中試験（40%）、講義内大試験（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツマーケティングとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題をマーケティング論の視点で説明することができる。  |       |           |
| 準備学習       | マーケティングと商学の基礎知識が必須。   |       |           |
| 受講者への要望    | 私語は厳禁。 テキストは講義内中試験の試験問題とするので準備するように。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツマーケティングを捉える視座を解説する 3. 「説明するということ」：分析視座から説明を試みる 4. 「マーケティング概念」：マーケティングの現代的問題を解説する 5. 「サービスとしての試合」：商品としての試合を解説する 6. 「スポーツマーケティングという概念 1」：チームの行うマーケティングを解説する 7. 「スポーツマーケティングという概念 2」：スポーツマーケティングを解説する 8. 「中間総括」：これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストをおこなう 9. 「Product の設定」：チームの行う品質管理の困難さを解説する 10. 「Price の設定」：チームの行う価格設定の困難さを解説する 11. 「Place の設定」：チームの行う流通政策の困難さを解説する 12. 「Promotion の設定」：チームの行う広告管理の困難さを解説する 13. 「4Ps 設定の困難さの理由」：ファンという特殊な消費者を解説する 14. 「総括」：これまでの講義を総括する 15. 「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度                                     | 2012   | 授業コード | J30484001 |
| 科目名                                    | スポーツビジネス論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                              | Sports Business Theory   |       |           |
| 担当者名                                   | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                   | <p>本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。  現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）                               | 菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦 [編] 『スポーツ政策論』 成文堂 2011 3,500 円  |       |           |
| 教材（参考文献）                               | 松岡憲司 『スポーツ・エコノミクスの発見』 法律文化社 1996 1,575 円   |       |           |
| 教材（その他）                                | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法                                   | 講義内小試験（20%）、講義内中試験（40%）、講義内大試験（40%）  |       |           |
| 到達目標                                   | <p>受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。</p>  |       |           |
| 準備学習                                   | <p>スポーツビジネスを語るためには、比較対象が必要となる。あなたが野球をしているならば、それはサッカーで言うとは何をしていることになり、それは音楽や演劇で言うとは何をしていることになるのか、常に意識しておく必要がある。</p>   |       |           |
| 受講者への要望                                |  |       |           |
| 私語は厳禁。 テキストは講義内中試験の試験問題とするので必ず準備するように。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                             | <p>1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する 3. 「スポーツにおける市場の経済性」：市場の経済性を解説する 4. 「スポーツにおける組織の経済性」：組織の経済性を解説する 5. 「スポーツビジネスという業界 1」：スポーツビジネスの業界構造を解説する 6. 「スポーツビジネスという業界 2」：権利ビジネスを解説する 7. 「中間総括」：これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストをおこなう 8. 「スポーツの流通 1」：放映権とスポーツの関係を解説する（1） 9. 「スポーツの流通 2」：放映権とスポーツとの関係を解説する（2） 10. 「スポーツの流通 3」：スポンサーシップとスポーツの関係を解説する（1） 11. 「スポーツの流通 4」：スポンサーシップとスポーツの関係を解説する（2） 12. 「スポーツの流通 5」：関連用具・用品とスポーツの関係を解説する（1） 13. 「スポーツの流通 6」：関連用具・用品とスポーツの関係を解説する（2） 14. 「総括」：これまでの講義を総括する 15. 「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30485A01 |
| 科目名        | スポーツ医学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sports Medicine I   |       |           |
| 担当者名       | 西川 弘恭   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮らしの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく、学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。   |       |           |
| 到達目標       | 健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の講義で指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 健康管理と運動の役割  2 健康管理と運動の役割  3 健康管理と運動の役割  4 健康管理と運動の役割  5 健康管理と運動の役割  6 生活習慣病 (1)  7 生活習慣病 (2)  8 生活習慣病 (3)  9 生活習慣病 (4)  10 感染症とその他の疾患  11 救急処置実習  12 救急処置実習  13 救急処置実習  14 救急処置実習  15 まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J30485B01 |
| 科目名   | スポーツ医学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Sports Medicine II   |       |           |
| 担当者名  | 西川 弘恭  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防、治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する。運動環境、運動と疾病の関係を医学的に考察する。スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響、さらにスポーツ外傷・障害の概要等について学習する。また、運動場面で遭遇する、熱中症(熱疲労、熱痙攣、熱射病)過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 課題解決レポートの評価を50%、学習態度、ポストテストなどを50%とする。  |       |           |
| 到達目標  | 運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習  | 毎回の講義で指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5分前には着席しておいてください。座席指定とします。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 スポーツ選手健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防 7 運動障害と予防 8 運動障害と予防 9 運動障害と予防 10 運動障害と予防 11 スポーツによる内科的障害とその対策 12 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 13 スポーツによる外科的傷害とその対策 14 発育期に多いケガ・成人で多いケガ 15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30489001 |
| 科目名       | 経営特別講義D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Management Studies D  |       |           |
| 担当者名      | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師にお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 未定  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 未定  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30％）出席状況、受講態度等による。各回の講義内容についての感想文（70％）。   |       |           |
| 到達目標      | 経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習      | 適宜指示する。   |       |           |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |
| 企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁。マナーを守れない受講生の退出を求めます。マナーを守れない学生は受講を控えてください。   |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |
| 1 ガイダンス  2 10/2 遠矢家永子（NPO法人SEAN副理事長・事務局長）  「NPOで働くということ」 3 10/9 日根野聖子（京都ライフケア株式会社 代表取締役）  「今を生き生き生きる ー自ら内に抱えている生命力を花開かせる」 4 10/16 田中峰子（株式会社 富田屋 代表取締役）  「町屋くらしと女の精神力(こころ)」 5 10/23 河内幸枝（マロニー株式会社 代表取締役）  「和をもって、うんと働き、うんと働こう！」 6 10/30 和田登美子（株式会社 和田勝 代表取締役、「新おばんざい塾」代表）  「攻撃は、最大の防衛」志は、高く！」 7 11/6 松村敦子（有限会社アクティア 代表取締役）  「専業主婦からの起業」 8 11/13 三根早苗（有限会社パワーエンハンスメント 代表取締役）  「女性が起業して自分らしく生きる」 9 11/20 大奈（Office Daina 代表 兼 歌手タレント）  「絶望と人と再生」 10 11/27 細井郁美（株式会社 PHP 研究所 PHP くらしラク〜る♪編集部）  「出版社の雑誌編集という仕事 ーいかに読者ニーズをつかみ、利益を生むか」 11 12/4 市田ひろみ（服飾評論家、市田ひろみ美容室、市田アドプラン 代表取締役）  「私のあるいた道」 12 12/11 藤原旗江子（土高会計事務所）  清水知美（株式会社ネクストソリューション ウィルコムプラザ有松店 店長）  芝崎瑠美（本学卒業生） 13 12/18 伊庭節子（まいづる肉じゃがまつり実行委員会会長兼料理長、金物店主婦、NPO 法人まいづるネットワークの会理事長、八島おかみさん会会長、京都府中小企業女性中央会会長、舞鶴観光ガイドボランティア「けやきの会」会長）  「まいづる肉じゃが祭り実行委員会 会長・料理長として地域活性化に関わって考えること」 14 1/8 小澤裕美子（オザワ社労士事務所代表、特定社会保険労務士）  「「社労士」やっています！ ー「ヒト」に関わる、「ヒト」と繋がるサービス業」 15 1/15 中村裕子（株式会社 モンマルシェ 代表取締役会長）  「時代の波にのる」 |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30490A01 |
| 科目名        | 京都社会起業家養成講座 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Training for Social Entrepreneur in Kyoto I   |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本科目は、過去に大学コンソーシアム京都で開講された「学生ベンチャー・スタートアップスクール」「アントレプレナーシップ養成講座」「京都起業家実践講座」の各講座の成果を受け、開講されるものである。  本講座においては、近年注目を集めているソーシャルビジネス（社会的事業）を担うソーシャルアントレプレナー（社会起業家）および非営利組織のマネジメントにかかる基本と原則を修得するための講義およびグループワークを実施する。  この講座の背景には、21世紀は起業家社会が到来するといわれ、はや10年余を過ぎたが、わが国においては他の国と比較しても起業活動が低調に推移していることは、財団法人ベンチャーエンタープライズセンターが行う「起業活動に関する調査（GEM調査）」からも明らかである。  このような現状の中において、直接的な営利を目的としたビジネスではなく、社会的な観点から環境問題、地域活性化問題、社会的弱者支援など京都発の地域に密着した事業活動や発展してグローバルな事業、いわゆる社会的事業が展開されるに至っている。このような事業に積極的に参画するために、伝統と革新のはざまに生きるコミュニティとしての京都の文化、歴史、産業およびビジネスにおける特色を理解し、一方では、一つの生き方としての社会起業家について、必要とされるマネジメントに関する知識の習得に努めたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要の都度プリントなど資料配布を行う。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要の都度紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20点）、レポート（30点）、定期試験（50点）  |       |           |
| 到達目標       | 社会起業家に求められるマネジメントにかかる基本と原則の習得に努めるとともに、この講座を通じて、社会的事業に対する構想力、創造力、革新力など、知見された知識修得に留まる事無く、新たな知見の発見を自らが行うことにも、実践において有益と考えられる能力の習得にも努めたい。  |       |           |
| 準備学習       | 自分自身が社会起業家という生き方を選択するか否かは別として、自分たちを取り巻くコミュニティへの興味を持ち、社会起業家精神を維持することに努めるとともに、これからの社会が必要としているビジネスとは何かについての問題意識を日常から持つことに努める。またこれらに関連する知識や情報の収集について、日常的に心がけられたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に授業に参加することを希望いたします。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに（本講座の概要など）  2 京都の歴史・文化・産業～社会的事業との関りにおいて  3 京都におけるビジネス～社会的事業との関りにおいて  4 社会的事業とは  5 社会起業家（精神）とは  6 社会的事業における理念  7 社会的事業における戦略と組織①  8 社会的事業における戦略と組織②  9 社会的事業におけるマネジメントの実際  10 特別講義①  11 特別講義②  12 特別講義③  13 特別講義④  14 特別講義⑤  15 まとめ  （注）特別講義においては、国の支援制度、非営利組織の税法、事例研究など予定している。</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30490B01 |
| 科目名        | 京都社会起業家養成講座Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Training for Social Entrepreneur in Kyoto II  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講座は、基本的には、京都社会起業家養成講座Ⅰにおいて習得した知識などを活かして行う、少人数制の演習講座となっている。このため講義については、オリエンテーション的なものを除き最小限にとどめ、京都におけるソーシャルビジネスを担う社会起業家として、社会的事業を立ち上げるための、ビジネスデザインおよびビジネスプランニングの策定に取り組むための実践重視の講座となっている。  よって当該講座における研究方法は、グループを中心とした、文献研究、事例研究、フィールドワークなどを各グループごとに計画し、実践し、進捗管理を行い、最終的には成果としての社会的事業にかかるデザインおよびプランニングを練り上げていくものである。よって単なる知識、実践力の修得に留まらず、その過程を通じて研究における自主的な進捗管理、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに関する能力やスキルを修得することも視野に入れている。  なお研究を進めるにあたっては、担当教員はもとより、複数のコンサルタントが各受講生およびグループに対して個別具体的な指導を行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要の都度紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 社会的事業のプランニングにおける基本的ツールとして必要なビジネスプラン作成支援システムは、独立行政法人中小企業基盤整備機構、日本政策金融公庫などの資料を提示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20点）、プレゼンテーション（30点）、研究成果（50点）   |       |           |
| 到達目標       | 社会起業家に必要とされるマネジメントにかかる基本と原則を修得するとともに、グループ研究の過程を通じてリーダーシップ力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの涵養を図るとともに、社会的事業の構想、計画を通じて、革新力、創造力などの修得も行いたい。   |       |           |
| 準備学習       | 京都社会起業家養成講座Ⅰに同じ。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>積極的なグループワークへの参加はもとより、社会的事業への興味を持ち、社会的事業における事業機会の認識に、問題意識を持って、参加されたい。  なお可能な受講生は、ノート型パソコンを受講時持参されたい。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第一日目 1 講座についてのガイダンス 2 グループ分けおよび事業構想、事業計画への組織作り、役割分担など 3 グループ討議による社会的事業の発見および事業計画策定への進め方についての検討 4 各受講者、グループからの質疑応答（以下質疑応答という）、コンサルタントの個別指導①（以下個別指導という） 5 各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導②  第二日目 6 研究の進め方についての打ち合わせ 7 情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導③ 8 情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導④ 9 情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導⑤ 10 各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導⑥  第三日目 11 各グループ研究結果のまとめおよびプレゼンテーションの準備 12 各グループ研究成果のまとめおよびプレゼンテーションの準備 13 研究成果発表会① 14 研究成果発表会② 15 まとめ（コンサルタントからの講評など）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J30500001 |
| 科目名        | ファイナンス論   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Finance   |       |           |
| 担当者名       | 幸田 圭一朗  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、ファイナンスのなかでも、コーポレート・ファイナンス (企業の資金に関するマネジメント) に焦点を当て、資金の流れを通じた企業の経済活動について考えます。このファイナンス論では、正味現在価値 (NPV) の計算に軸を置き、ある投資プロジェクトに対して実施すべきか否かの意識決定プロセスの修得を目指します。したがって、本講義では主に計算を通じた算定を行いますので、数学や数式について抵抗を感じるかもしれません。しかし、簡単な設定から計算練習などを行いながら、理解度に応じて進行していく予定です。 なお、本講義 (ファイナンス論) に付随する金融商品の仕組みやデリバティブなどは、秋学期開講の金融工学にて扱いますので、合わせて受講されますことを推奨いたします。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | テキストの指定は特に行わず、毎回レジュメを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 石野雄一 (2005) 『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社 砂川伸幸ほか (2008) 『日本企業のコーポレートファイナンス』 日本経済新聞出版社  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、資料を配布します。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) 出席状況、小テスト (不定期) などによる。 期末試験 (70%)  また、その他提出物など踏まえ、総合して成績評価を行います。  |       |           |
| 到達目標       | 本講義を通して、企業の投資に関する意思決定プロセスを理解すること  |       |           |
| 準備学習       | 前回講義の復習   |       |           |

#### 受講者への要望

前回の講義の復習をきちんと行うようにしてください。また、答えを待つのではなく、自らの力で計算していくことが力になります。|また、電卓 (携帯電話の電卓機能は不可) を毎回持参するようにしてください。|遅刻や私語、携帯電話の使用など他人への迷惑を考えたいうえでの常識を求めます。|配布物などの欠席時の対応は、相当の理由がある場合のみ応じます。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。|

#### 講義の順序とポイント

1. イントロダクション ～ファイナンスとは～|2. 時間価値 ～単利と複利、将来価値と現在価値～|3. 企業による資金調達概要～株式と負債、間接金融と直接金融～|4. 財務諸表と重要な財務指標 ～貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、損益分岐点、自己資本比率～|5. キャッシュフロー (1) ～利益とキャッシュフロー～|6. キャッシュフロー (2) ～キャッシュフロー計算書、フリー・キャッシュフロー～|7. リスクとリターン (1) ～期待収益率、リスク～|8. リスクとリターン (2) ～リスク・プレミアム、ハイリスク・ハイリターン～|9. 復習、計算問題の練習など|10. 企業の資本コスト (1) ～債権者と株主のリスクとリターン、負債コスト、株主資本コスト～|11. 企業の資本コスト (2) ～加重平均資本コスト～|12. 現在価値と正味現在価値 (1) ～現在価値 (復習)、永続価値、成長永続価値～|13. 現在価値と正味現在価値 (2) ～正味現在価値 (NPV) ～|14. 復習、計算問題の練習など|15. まとめ

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J30501001 |
| 科目名       | 金融工学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Financial Engineering   |       |           |
| 担当者名      | 幸田 圭一朗  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>本講義では、ファイナンス論（春学期）にて扱ったコーポレート・ファイナンス（企業の資金に関するマネジメント）の流れから、金融に関するリスクのコントロールとその価値評価について考えます。この金融工学では、ファイナンス論で学習した正味現在価値（NPV）の関連事項や株式・債券投資分析およびデリバティブなどのファイナンスと関連した諸問題について焦点を当てます。 なお、本講義（金融工学）では、金融商品（債権や株式）に関する詳細やCAPMに関する理論などについても扱いますので、ファイナンス論の発展・補完的な位置づけとなります。したがって、現在価値の概念やキャッシュフロー等については、ファイナンス論の習得を前提としますので、可能な限りの本講義との合わせての受講を推奨いたします。 また、本講義では主に計算を通じた算定を行いますので、数学や数式についてある程度の慣れが必要です。しかし、工学が専門ではない文系の受講者を想定しておりますので、簡単な設定から計算練習なども行いながら、理解度に応じて進行していく予定です。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | テキストの指定は特に行わず、毎回レジュメを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 藤田岳彦（2005）『道具としての金融工学』日本実業出版社   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、資料を配布します。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30%）出席状況、小テスト（不定期）などによる。 期末試験（70%） また、その他提出物など踏まえ、総合して成績評価を行います。  |       |           |
| 到達目標      | 本講義を通して、企業の資金調達手法について理解すること 債券やデリバティブについて理解すること   |       |           |
| 準備学習      | 前回講義の復習 講義と関係があると思う新聞やニュースなどに目を向けてください。 また、統計学や確率などの数学の知識があると、大きな手助けとなります。  |       |           |

#### 受講者への要望

ファイナンス論（春学期）の履修を出来れば済ませておいてください。|前回の講義の復習をきちんと行うようにしてください。また、答えを待つのではなく、自らの力で計算していくことが力になります。|また、電卓（携帯電話の電卓機能は不可）を毎回持参するようにしてください。|遅刻や私語、携帯電話の使用など他人への迷惑を考えたいうでの常識を求めます。|配布物などの欠席時の対応は、相当の理由がある場合のみ応じます。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。|

#### 講義の順序とポイント

1. イントロダクション ～ファイナンス論の復習とその展開①～|2. イントロダクション ～ファイナンス論の復習とその展開②～|3. 確率の基本など数学的補足 ～確率、確率分布、分散、共分散～|4. 資金調達の方法（1） ～株式による調達～|5. 資金調達の方法（2） ～CAPM（資本資産評価モデル）～|6. 資金調達の方法（3） ～債券による調達①～|7. 資金調達の方法（4） ～債券による調達②～|8. 資金調達の方法（5） ～債券による調達③～|9. 復習、計算問題の練習など|10. 金融派生商品（デリバティブ）（1） ～先物～|11. 金融派生商品（デリバティブ）（2） ～オプション①～|12. 金融派生商品（デリバティブ）（3） ～オプション②～|13. ファイナンスの諸問題 ～資本構成・配当政策～|14. 復習、計算問題の練習など|15. まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J4000300A |
| 科目名       | スタートアップゼミC  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Start-up Seminar C  |       |           |
| 担当者名      | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 | 基礎演習C     |
| 講義概要      | テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、1回生の基礎演習A・Bで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。 【担当教員】木藤 伸一郎、立石雅彦、宮川 不可止、渡邊 博己、カライスコス、小林明夫 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2007年)。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。   |       |           |
| 教材(その他)   | 六法(セレクト、デイリー、ポケットなど)。   |       |           |
| 評価方法      | 担当教員により異なるが、一定程度出席した者について、演習における質問等の発言や課題への取り組み、報告の内容等を評価する。担当者により、小テスト・レポート等の提出物も評価に加味することがある。                           |       |           |
| 到達目標      | レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。   |       |           |
| 準備学習      | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |

#### 受講者への要望

この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。

#### 講義の順序とポイント

『法学の扉』第4章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。|担当者により、取り上げるテーマ及び順序は若干異なる。|| 1. 序 開講に当たって | 2・3. 公法系 ①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件 | 4. ②住基ネットとプライバシーの権利 | 5. ③消費税の負担者は誰か | 6. 民事法系 ④エホパの証人・輸血拒否事件 | 7. ⑤抵当権妨害 | 8. ⑥有責配偶者からの離婚請求事件 | 9. 商事法系 ⑦社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件 | 10. ⑧100円手形事件 | 11. 刑事法系 ⑨マジックホン事件 | 12. ⑩東海大学付属病院事件 | 13. 労働法 ⑪職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件 | 14. 国際法 ⑫少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法―二風谷ダム事件 | 15. まとめ|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J4000300B |
| 科目名       | スタートアップゼミC  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Start-up Seminar C  |       |           |
| 担当者名      | 立石 雅彦   | 旧科目名称 | 基礎演習C     |
| 講義概要      | テキスト『法学の扉』に掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、1回生の基礎演習A・Bで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。 このほかに、受講生が警察・消防コースの学生であることを考慮して、進路に関する情報交換を行う。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2007年)。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。   |       |           |
| 教材(その他)   | 毎回六法を持参すること   |       |           |
| 評価方法      | 一定程度出席した者について、演習における質問等の発言や課題への取り組み、報告の内容等を評価する。最終のレポートも評価に加味する。  |       |           |
| 到達目標      | レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。   |       |           |
| 準備学習      | 各回の最後に次回のための準備学習を指示する。  |       |           |

#### 受講者への要望

この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。

#### 講義の順序とポイント

『法学の扉』第4章を扱う。テーマは、受講生の選択による。|テーマ例は3～14に示されているとおりである。新たな教材も追加する予定である。| 1. 序 開講に当たって | 2. 判例報告の方法について | 3. モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件 | 4. 住基ネットとプライバシーの権利 | 5. 消費税の負担者は誰か | 6. エホバの証人・輸血拒否事件 | 7. 抵当権妨害 | 8. 有責配偶者からの離婚請求事件 | 9. 社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件 | 10. 100円手形事件 | 11. マジックホン事件 | 12. 東海大学付属病院事件 | 13. 職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件 | 14. 少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法―二風谷ダム事件 | 15. まとめ|

| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4000300D |
| 科目名  | スタートアップゼミC   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Start-up Seminar C   |       |           |
| 担当者名   | 小野里 光広   | 旧科目名称 | 基礎演習C     |
| 講義概要   | テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、1回生のスタートアップゼミA・Bで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。            |       |           |
| 教材(テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2007年)。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 教科書中に明示されたもののほか、適宜指示する。  |       |           |
| 教材(その他)  | 六法必携。  |       |           |
| 評価方法   | 担当教員により異なるが、一定程度出席した者について、演習における質問・発言や課題への取り組み、報告の内容等を評価する。担当者により、小テスト・レポート等の提出物も評価に加味することがある。 |       |           |
| 到達目標   | レジュメ作成や報告方法について、今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第4章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。 1. はじめに  2・公法系 ①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め — 「石に泳ぐ魚」事件  3. 公法系 ①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め — 「石に泳ぐ魚」事件(続き)  4. 公法系 ②住基ネットとプライバシーの権利  5. 公法系 ③消費税の負担者は誰か  6. 民法法系 ④エホバの証人・輸血拒否事件  7. 民法法系 ⑤抵当権妨害  8. 民法法系 ⑥有責配偶者からの離婚請求事件  9. 商法法系 ⑦社内で不祥事が起こったら — ダスキン事件  10. 商法法系 ⑧100円手形事件  11. 刑法法系 ⑨マジックホン事件  12. 刑法法系 ⑩東海大学付属病院事件  13. 労働法 ⑪職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント — 福岡セクハラ事件  14. 国際法 ⑫少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法 — 二風谷ダム事件  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000300E |
| 科目名  | スタートアップゼミC  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Start-up Seminar C  |       |           |
| 担当者名   | 渡邊 博己   | 旧科目名称 | 基礎演習C     |
| 講義概要   | テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、1回生のスタートアップゼミA・Bで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2007年)。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。   |       |           |
| 教材(その他)  | 六法(セレクト、デイリー、ポケットなど)。   |       |           |
| 評価方法   | レポート 60%   課題報告 20%   授業への参加(発言) 20%  |       |           |
| 到達目標   | レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。                                   |       |           |
| 準備学習   | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 『法学の扉』第4章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。    1. 序 開講に当たって   2・3. 公法系 ①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件   4. ②住基ネットとプライバシーの権利   5. ③消費税の負担者は誰か   6. 民事法系 ④エホバの証人・輸血拒否事件   7. ⑤抵当権妨害   8. ⑥有責配偶者からの離婚請求事件   9. 商事法系 ⑦社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件   10. ⑧100円手形事件   11. 刑事法系 ⑨マジックホン事件   12. ⑩東海大学付属病院事件   13. 労働法 ⑪職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件   14. 国際法 ⑫少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法―二風谷ダム事件   15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000300F |
| 科目名   | スタートアップゼミ C   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar C  |       |           |
| 担当者名  | 小林 明夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 公務員コースのゼミであるため、行政職の自治体職員その他一般行政系の公務員への進路を意識した運営を行う予定である。 『法学の扉』に掲載された判例の中から必要な判例を適宜選び出し、それに若干の判例を補強して、それらの判例について、学生からの報告・発表を行い、質疑応答を行うことを予定している。 なお、行政に携わる者としての意識や行政系公務員への志望動機をしっかりと持つための内容も取り入れていく予定である。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2008年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要に応じ授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 六法 (セレクト、ポケットなど)  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況、質問等の発言状況等による。 報告・発表、授業内レポート (50%)  なお、自らの発表の際、病気等正当な理由なく欠席した学生には単位を与えないので注意のこと。  |       |           |
| 到達目標  | 判例報告の方法を習得する。 また、行政系公務員の職務内容について具体的なイメージを持ち、奉職して自分自身が働いている姿を想像できるようにする。そのことにより、行政系公務員への志望動機を確かなものとする。   |       |           |
| 準備学習  | テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 なお、報告・発表の順番の際にはテキストの内容を単純にまとめるのみでなく、それに関連する事項を図書館やインターネット等を駆使して自分なりに調査し、肉付けしたレジュメを作成しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 報告・発表者への質問など、ゼミへの能動的な参加の姿勢を歓迎する。 携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| ※内容・順序等は変更の可能性がある。  1. オリエンテーション  2. 行政系公務員を主人公としたドラマの視聴と意見交換 (1)  3. " (2)   4. " (3)  5. " (4)   6. " (5)  7. 判例の報告と質疑応答  8. "   9. "   10. "   11. "   12. "   13. "   14. "   15. まとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | 16         | 16  | 14  | 10  | 8     | 11     |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000300G |
| 科目名  | スタートアップゼミC  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Start-up Seminar C  |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 | 基礎演習C     |
| 講義概要   | テキストに掲載されている判例を素材にして、法学の基本的な考え方を学ぶ。演習は、1回生のスタートアップA・Bで学んだノウハウを活かした報告と討論の形式により進める。               |       |           |
| 教材(テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2007年)。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 教科書中に明示されたもののほか、適宜指摘する。   |       |           |
| 教材(その他)  | 六法(セレクト、デイリー、ポケットなど)。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員により異なるが、一定程度出席した者について、演習における質問等の発言や課題への取り組み、報告の内容等を評価する。担当者により、小テスト・レポート等の提出物も評価に加味することがある。 |       |           |
| 到達目標   | レジュメ作成や報告方法について今後の判例学習の基礎固めをする中で、基本判例を読み、内容を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| この演習により、今後の演習で必要とされる、レジュメ作成や報告についての技術を身につけて欲しい。また、各回の演習において、何か一つは新しいことを理解して欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 『法学の扉』第4章を扱う。取り上げるテーマの例は以下の通りである。   なお、取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいたうえで、内容や順序を若干変更することがある。    1. 序 開講に当たって   2. 発表の担当及び日程の決定   3. 判例・文献の調べ方   4. ⑨マジックホン事件   5. ⑩東海大学付属病院事件   6. 刑事訴訟法判例   7. レジュメの作り方   8. ①モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め―「石に泳ぐ魚」事件   9. ②住基ネットとプライバシーの権利   10. ④エホバの証人・輸血拒否事件   11. ⑥有責配偶者からの離婚請求事件   12. ⑦社内で不祥事が起こったら―ダスキン事件   13. ⑪職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント―福岡セクハラ事件   14. ⑫少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法―二風谷ダム事件   15. まとめ |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                               | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待  | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000300Z |
| 科目名   | スタートアップゼミ C   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar C                                  |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一   | 旧科目名称 | 基礎演習 C    |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A・Bにて習得した能力を用いつつ、さらに法学の基礎的能力と知識を身につける。    |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉』(成文堂、第3版、2008)。その他必要な教材は適宜配付する。     |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | やむを得ない事情がある場合を除き、原則として、15回に出席することを条件として平常点をもって評価する。 |       |           |
| 到達目標  | より高度な法律的な文章に慣れ、また論理的な文章が書けるようになる。                   |       |           |
| 準備学習  | 日常生活においても、たとえば、テレビのニュースや新聞を読む際には、法律を意識すること。         |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 欠席する際には事前連絡のこと。体調不良等で、やむを得ず欠席してしまったときは、事後でも良いから連絡のこと。興味がない、分からない、と言わずに、少しは考えること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 本演習は、原則として『法学の扉 (第3版)』第4章に基づいて行う。生活と法コース専攻の者を主体とするため、適宜一般常識等の知識も養う。 第1回目 オリエンテーション (自己紹介・班決め・ゼミの心構え) 第2回～第15回は下記のテーマを順次扱い、合間に一般常識や時事問題を扱う 1. モデル小説によるプライバシー侵害と出版差止め 2. 住基ネットとプライバシーの権利 3. 消費税の負担者は誰か 4. エホバの証人・輸血拒否事件 5. 抵当権妨害 6. 有責配偶者からの離婚請求 7. 社内で不祥事が起こったら 8. 100円手形事件 9. マジックホン事件 10. 東海大学付属病院事件 11. 職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント 12. 少数者としてのアイヌ民族の人権と国際法 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000400A |
| 科目名  | 専門演習 1  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar I   |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要   | <p>行政法が対象とする分野は大変広く、その法的課題はさまざまに困難な問題が山積している。 この演習では、トピックススタディの行政法版というイメージで、行政法の課題の中からいくつかを取り上げ、班別に研究を進めていくことにする。 具体的なイメージとしては、以前の行政法ゼミでは、水、温泉、酒をテーマを取り上げ、それぞれの班が、各テーマのに関する現状、法的制度、その問題点、課題という順序で研究し、最後にレポートとしてまとめた経験がある。また、トピックススタディで沖縄問題を取り上げ、基地問題、環境問題、観光問題などの班に分けて研究したことがある。 考えられる課題としては、自転車の規制、違法駐車、ごみ問題、京都の景観、亀岡の水、予防接種、マンションの建設、風営法の出店規制、道路、原発問題など数え切れない。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 70% 報告・発表 30%   |       |           |
| 到達目標   | 行政法の現代的課題をとりあげその法的問題点を分析し、政策課題を明らかにする。 行政法学習の仕上げをする。  |       |           |
| 準備学習   | それぞれの課題について十分に資料を収集し、報告に備える。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 担当する課題の提示と班分け 3. 各テーマについて基本情報の収集 4. // 5. 各テーマに関する法律、条例その他の規制について 6. // 7. // 8. 各テーマの問題点 9. // 10. 中間まとめ 11. // 12. 最終報告 13. // 14. 15. 専門演習 1 のまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4000400B |
| 科目名        | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 立石 雅彦  | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要       | 演習演習の最終目標は、「卒業研究」の完成である。専門演習 1 では、刑法学の基礎を固め読解力を高めるために、共通のテキストを読む。あわせて、報告や討論の仕方をみにつける。また、演習 2 以降で取り組むべき各自のテーマを探す。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 六法を毎回持参すること  |       |           |
| 評価方法       | 授業参加の積極性 (出席状況、報告への取組み、討論での発言等) 70%、レポート等 30%  |       |           |
| 到達目標       | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。 他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。  |       |           |
| 準備学習       | テキストをあらかじめ読み、不明な事柄については調べた上で演習に臨む  |       |           |

|  |  |
|--|--|
| 受講者への要望  |  |
| 卒業研究を完成させることは、読み書く力、調べる力、自分の考えを伝える力を必要とする。それらは、よい社会生活を送るのに不可欠な力である。たいへんな努力を要するが、完成させた喜びも大きい。卒業研究にはぜひ挑戦してほしい。   |  |
| 講義の順序とポイント   |  |
| <p>おおよその進行は以下の通りである。 受講生の理解度に応じて調整する必要があることを了承されたい。  1. 開講にあたって  2. 刑事手続について  3. 犯罪について  4. 刑罰について  5. 罪刑法定主義 (1) 法律主義  6. 罪刑法定主義 (2) 遡及処罰の禁止  7. 罪刑法定主義 (3) 明確性の原則、適正処罰の原則  8. 犯罪の成立要件 (1) 結果  9. 犯罪の成立要件 (2) 因果関係  10. 犯罪の成立要件 (3) 作為と不作為  11. 犯罪の成立要件 (4) 故意と過失  12. 未遂と共犯  13. 違法性阻却事由  14. 正当防衛  15. まとめ </p> |  |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000400C |
| 科目名        | 専門演習 1  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克   | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要       | <p>日本国憲法が施行されて早くも 65 年目を迎えんとしているが、その間、人権判例は多数積み重ねられてきた。もとより、これらを研究することは、「生きた憲法」を知る上で欠くことのできない作業である。その作業に当たって、本専門演習 1 では、まず、最高裁の人権判例、特に人権総論の基本的な論点を扱った判例 (例えば下記②～⑤) を選んでもらい、どのような人権判例理論であったか、それがどのように動いてきたか、学説その他との関連でそれはどのように評価されるべきか、また、どうあるべきかなどを検討していくという形で報告してもらおう。各々は非常に奥行きが深い難解な論点を扱ったものであるため、続けて扱う予定の人権各論関連の判例、例えば、平等権・平等原則については、議員定数不均衡訴訟最高裁違憲判決、国籍法最高裁違憲判決、信教の自由・政教分離原則については、津地鎮祭事件最高裁判決、靖国公式参拝訴訟判決など (下記⑥以下列挙) を学習・研究するための十分なトレーニングにもなる。ここでは基礎演習 C で既に扱った判例 (「石に泳ぐ魚」事件判決、住基ネット訴訟判決、「エホバの証人」輸血拒否事件判決など) は省いていることに注意を促しておく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選 I (第 5 版)』 (有斐閣、2007 年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 開講時に参考文献一覧表を配布予定。   |       |           |
| 教材 (その他)   | ゼミでその都度指摘する   |       |           |
| 評価方法       | レジュメも含めた報告内容 (30%)、討論参加状況等 (30%)、単位論文提出 (40%) で総合評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 人権総論関係の判例を扱うことにより人権問題の奥行きと重要性についてより一層の理解を深めるとともに、それらの判例がもつ今日的意義や課題についても各自が共通理解することを目指し、論文作成能力はもとより発表能力・討議能力の涵養にも努めたい。   |       |           |
| 準備学習       | このゼミが同時代的な学習であることを理解するためにも、新聞・テレビなどで報道されている人権問題の中身を常に意識し、メモ等を心掛けておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 図書館を大いに利用すること。また、ゼミは「沈黙の会」ではないので、諸君の活発な質問・討論が為されることを期待する。加えて、ゼミでの学習だけでなく、人間関係の面でも積極的な態度を発揮しようと考えている者の受講を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>① 序 講 (ゼミの進め方や報告テーマの選定)   ② マクリーン事件——外国人の人権   ③ 八幡製鉄政治献金事件——法人の人権享有主体性   ④ 三菱樹脂事件——人権の私人間効力   ⑤ 猿払事件——公務員の人権   ⑥ 議員定数不均衡訴訟——投票価値の平等   ⑦ 婚外子国籍確認訴訟——国籍法 3 条と平等権   ⑧ 麴町中学校事件——内申書の記載内容と生徒の思想・信条の自由   ⑨ 南九州税理士会政治献金事件——公益法人の政治献金と構成員の思想の自由   ⑩ 津地鎮祭訴訟——地鎮祭と政教分離原則   ⑪ 靖国公式参拝訴訟——内閣総理大臣の靖国公式参拝と政教分離原則   ⑫ 岐阜県青少年保護育成条例事件——「有害図書」指定と表現の自由   ⑬ 立川事件——ビラ配布と表現の自由   ⑭ 証言拒絶 (NHK 記者) 事件——取材源の秘匿と表現の自由   ⑮ 博多駅事件——フィルム提出命令と取材の自由  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4000400D |
| 科目名        | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己  | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要       | <p>教科書で取り上げられている各章の課題を分担して、あらかじめ指示された報告者が報告を行い、その報告に基づいて議論をするという形式をとる。議論を通して、人間の営みの中で、「民法」がどのような機能と役割を果たしているかについて、お互いに考えてみることにする。(取り上げられている素材は、講義・ゼミ等でひととおりは学んだものが多いと思う。これを改めて深く考えてみることに本ゼミの主眼がある。)  以上の活動を続けていくことで、民法の基礎知識を再確認するとともに、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得し、併せて、4 回生の専門演習 3・4・卒業研究に至るまでの基礎固めを行うことにする。 </p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 河上正二「民法学入門[第 2 版] - 民法総則講義・序論」(日本評論社)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 発表の内容・方法(20%)、出席・発言の状況(20%)のほか、具体的なテーマに関するレポート(60%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 1 民法の基本となる考え方について、その活用レベルに達する段階まで、習得すること。  2 「就活」において、大学・ゼミで「何を、どう学んだか。」について、いきいきと話せるようにすること。  |       |           |
| 準備学習       | 1・2 回生で学んだ民法の知識をいつでも使えるように整理すると共に、指定教科書を事前に読んでおく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席は認めない。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 ゼミの進め方  2 民法の意義と機能 - 隣人訴訟判決 (津地裁昭和 58 年 2 月 25 日判決)   3 民法における「権利」の意味 - 宇奈月温泉事件判決 (大審院昭和 10 年 10 月 5 日判決)   4 「人の法」としての民法 - 阪神電鉄事件判決 (大審院昭和 7 年 10 月 6 日判決)   5 民法における権利の実現と「公序良俗」 - 酌婦前借金事件判決 (最高裁昭和 30 年 10 月 7 日判決)   6 民法を支配する「信義則」 - マンション分譲契約交渉破棄事件 (最高裁昭和 59 年 9 月 18 日判決)   7 ローマ法の継受と「日本民法典」 - 条件付き奴隷解放遺言事件 (年代不詳・古代ローマ時代)   8 民法規範の費用・便益 (法の経済分析) - 立退料「正当事由」補強判決 (最高裁昭和 38 年 3 月 1 日判決)   9 民法における一般法・特別法および法の解釈 - 制限超過利息返還請求事件判決 (最高裁昭和 43 年 11 月 13 日判決)   10 民法によって体现される憲法的価値 - 自衛官合祀事件判決 (最高裁昭和 63 年 6 月 1 日判決)   11 現代社会における民法 - 高齢化   12 現代社会における民法 - 高度情報   13 予備日程 1(報告または理解が不十分であった回のやり直し)   14 予備日程 2(同上)   15 専門演習 1 のまとめ  </p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000400E |
| 科目名   | 専門演習 1  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar I   |       |           |
| 担当者名  | 西片 聡哉   | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要  | <p>国際法は、基本的に国家間の関係について定めた法ですが、国内法とは異なり、その具体的なはたらきなどについてイメージしづらいかもしれません。国際法の専門演習では、通常の国際法の講義では詳しく触れることのできない日本に関わる国際法の諸問題を検討します。そのことを通じて、国際法の基本的な考え方やはたらきを理解し、そして、知識として知っている歴史的事実や新聞・ニュースで取り上げられる時事問題を国際法の観点から考えてみましょう。国際法の視点から捉え直さないと正確に理解できない現象もあるはずですし、新たな発見や見方ができる問題もあるのではないのでしょうか。  専門演習 1 では、担当者が取り上げるテーマについて毎回講義を行います。受講生には担当者が毎回与える課題について簡単な報告を課します。また、受講生には授業で興味を持ったテーマについてレポートを書いてもらいます。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 松井芳郎ほか『国際法〔第5版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業で適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義レジュメ・資料を毎回配布する。  その他、以下の条約集のいずれか 1 冊を準備すること。  1. 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009 年)   2. 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)  |       |           |
| 評価方法  | 毎回行う小テスト・発言状況 50 点、レポート 30 点、報告 20 点。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。  2. 報告や集団での討論の仕方を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 毎回出される課題を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 国際問題に興味のある学生を歓迎する。国際法 I、II の双方またはいずれかを履修していることが望ましい。 無断欠席はしないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 履修ガイダンス  2. 伝統的国際法と明治政府の欧化政策および条約改正  3. 伝統的国際法における戦争と近代日本  4. 東京裁判、靖国神社参拝問題  5. 戦後補償問題  6. 国連の集団安全保障体制と平和憲法  7. 在日米軍基地問題  8. 日本の領土 (1) - 領土の変遷  9. 日本の領土 (2) - 北方領土、竹島および尖閣諸島問題  10. 日本の領土 (3) - 北方領土、竹島および尖閣諸島問題 (続き)   11. 海洋法と日本 (1) - 日本の海域  12. 海洋法と日本 (2) - 日中韓での海域の境界画定問題  13. TPP 参加問題  14. 京都議定書と日本の地球温暖化対策  15. 外国への犯罪人引渡し  ※受講生の要望などにより変更することがある。 |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000400F |     |       |        |
| 科目名   | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar I  |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 | 専門演習 I    |     |       |        |
| 講義概要  | <p>1. 目的   民法は、法曹になりたい学生、各種国家試験・資格試験を受験する学生および企業への就職を目指している学生にとって必須の科目である。このゼミでは、  (1) 前半の「基礎知識編」において民法の各分野における重要な条文の要件と効果を確認し、民事訴訟において民法の各制度がどのような形で攻撃防御方法として利用できるのかを理解したうえで、  (2) 後半の「展開編」において、民法のいくつかの比較的新たな問題について検討し、現代社会における民法の機能と役割について考察する。  2. 進め方   原則として次の方法でゼミを進める。  (1) 担当教員による入門的な説明。  (2) 2人～3人1組でその回のテーマについて報告（報告に際しては、受講者にレジュメを配布）。  (3) 報告後、受講者からの質問等に報告者が回答する形で議論。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | なし。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況や授業態度等による。授業での報告の評価 (50%)。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | <p>1. 法科大学院での学習、各種国家試験・資格試験の受験および企業実務で役に立つ民法の知識を身につける。  2. ゼミでの発言や議論を通じて法的思考力および分析力を高め、コミュニケーション能力を養う。</p>   |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 初回到報告テーマの割当てを行う。また、各授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 能動的な姿勢で授業に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |     |       |        |
| <p>1. 参加者の自己紹介、ガイダンスおよび報告テーマの割当て   【基礎知識編】   2. 総則の条文における要件と効果   3. 物権法の条文における要件と効果   4. 債権法の条文における要件と効果 (1)   5. 債権法の条文における要件と効果 (2)   6. 親族法の条文における要件と効果   7. 相続法の条文における要件と効果   【展開編】   8. 消費者契約法と契約の内容規制   9. フランチャイズ契約の現状と課題   10. 医療行為とインフォームドコンセント   11. テレビ報道・インターネットでの名誉棄損   12. 芸能人の氏名権・肖像権   13. 生物学的親子の自明性と代理母   14. 人工生殖による出生子の法的地位   15. まとめ</p> |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。  |  |       |           |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4000400G |
| 科目名  | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名   | 原 弘明   | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要   | <p>会社法および商法にかかるテーマを各自が決めて個別研究を行い、報告、討論、レポート作成を通じて会社法・商法の法的論点の理解を深めることを目標とする。卒業時には、12,000 字程度の卒業研究を完成することをめざす。 専門演習では、人数によっては受講者をグループ分けし、各グループごとに基本判例等について、調査研究・レジュメ作成・発表を行ってもらい、それを踏まえて全員で討論する。これらをもとに専門演習 1・2 終了時、各自、具体的なテーマに関するレポートを仕上げてもらおう(演習 2 では、6,000 字程度)。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 江頭憲治郎『株式会社法〔第 4 版〕』(有斐閣、2011 年予定) 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「準備学習」のために、会社法 I・II・III の指定教科書を一読することを勧める。会社法 I・II・III の同時履修で対応する場合も、講義・演習開始前に、神田秀樹『会社法入門』(岩波書店、2006 年)は通読しておくこと。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 最新版の六法を持参すること。   |       |           |
| 評価方法   | レジュメを含めた報告内容と討論参加状況(70%)、 期末レポート(30%)をおおよその基準とし、総合的に評価する。無断欠席は減点とする。また、グループワークにおいて一部の学生に負担が偏った場合には、意図的に負担を軽くした学生には厳しい評価で臨むこともありうる。   |       |           |
| 到達目標   | 会社法を中心とする商法分野につき体系的な知識を修得し、自己の力で基本的な問題解決ができる。  |       |           |
| 準備学習   | 会社法 I・II・III の履修状況にかかわらず、参考書などで会社法の全体構造をあらかじめ理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>会社法 I・会社法 II を履修済みか、必ず同時並行で履修すること。会社法 III を履修することが望ましい。 平成 17 年改正前商法の判例を取り扱う場合には、当時の商法条文に当たる労を惜しまないこと。 法科大学院進学や司法書士試験合格を目指す学生を、積極的に歓迎する。それ以外の学生も、互いの切磋琢磨を求める者は、同様に歓迎する。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. オリエンテーション・人数によってはグループ分け 2. 会社法総則・商法総則・商行為総則の相互関係 3. 設立にかかる諸問題 4. 株式制度・株主の権利 5. 募集株式の発行にかかる諸問題 6. 株主総会の招集・決議・瑕疵 7. 取締役・取締役会の権限 8. 代表取締役 9. 監査役制度の諸論点 10. 会計監査人・会計参与の法的論点 11. 役員等の任務懈怠責任(1)原則 12. 役員等の任務懈怠責任(2)責任の軽減・免除、役員等の対第三者責任 13. 総合事例問題の検討(1) 14. 総合事例問題の検討(2) 15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000400H |
| 科目名   | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 | 専門演習 I    |
| 講義概要  | <p>専門演習 1 では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法を主たる対象とする。必要に応じて集団的労働関係法も対象とする。  近年、労働法の領域も種々新たな立法や改正がなされているが、この演習では労働法上の基本的な問題を取り上げて、ゼミ生全員で調べ、考え、議論しながら、各テーマについて検討していくこととする。  専門演習 2 以降では、内容的により難しい課題へとステップアップしていくが、この演習 1 では、労働基準法や労働契約法および判例法理等を踏まえつつ、検討していく。  まずは、学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際も、最低限知っておいてほしいと思われる基本事項を取り扱う予定である。授業で取り上げる各テーマにつき、大学の講義で使用するテキストのほか、雑誌に掲載されている論文や裁判例等を素材として、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の修得を目的に、考察を加えていく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか「労働法判例百選〔第 8 版〕」(有斐閣、2009 年) 2476 円+税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第 2 版〕』(有斐閣、2011 年) 2700 円+税を必帯のこと。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 角田邦重ほか編「労働法の争点〔第 3 版〕」(有斐閣、2004 年) 2800 円+税  |       |           |
| 教材 (その他)  | 菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』(弘文堂、2012 年) 価格未定   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提に授業内での発言内容や授業内小テストなど (50%) と期末レポート試験 (50%) とで評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標  | 将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識の取得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 初回および各ゼミ開講の際に、参考文献等を指摘しつつ次回講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。授業中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。   第 1 回 演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明  第 2 回 労働法の概観 (歴史・労働法とは)   第 3 回 労働法の主体 (労働者・使用者・労働組合)   第 4 回 労働契約と権利・義務  第 5 回 就業規則  第 6 回 労働協約  第 7 回 募集・採用内定  第 8 回 男女雇用平等  第 9 回 解雇・労働契約の終了  第 10 回 賃金・退職金   第 11 回 労働時間   第 12 回 労働組合の結成  第 13 回 労働組合の運営  第 14 回 団体交渉   第 15 回 まとめ</p> |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000400J |
| 科目名   | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 小林 明夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>現在、私たちが地域において直面している問題には、行政が関わって公共的に解決すべき問題が多々ある。そのため、自治体には、そのような問題を的確に認識し、行政課題として設定し、市民のための解決方策を企画立案・実施することが求められている。また、市民の側においても、こういった問題の解決に向けて、行政過程に積極的に参加していくことが、地方自治の実質化の観点からも重要となる。自治体がこのような行政課題の解決を図るための有力なツールの一つ。それが、条例をはじめとする自治立法である。 この演習(ゼミ)においては、行政法の基本判例の知識を基礎として、自治立法を企画立案する制度設計者としての「行政系公務員」の立場を意識しながら、条例等の立案、法律・条例の解釈運用、争訟への的確な対応のための知識を身につける。 この専門演習1では、ベースとなる知識を身につけるため、行政法の基本判例の検討を行う予定である。 学生からの報告・発表とそれに対する質疑応答というスタイルをとる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | テキストは使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要に応じ授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況、質問等の発言状況等による。 報告・発表 (50%)  なお、自らの発表の際、病気等正当な理由なく欠席した学生には単位を与えないので注意のこと。   |       |           |
| 到達目標  | 行政法の基本判例の検討を行うことにより、条例等の立案、法律・条例の解釈運用、争訟への的確な対応のためのベースとなる知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習  | 普段から新聞などをよく読み、現在の自治体が直面している行政課題に関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 憲法、行政法等の関連科目は履修することが望ましい。 報告・発表者への質問など、ゼミへの能動的な参加の姿勢を歓迎する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>受講者と相談した上で、なるべく地方自治に関わりのある判例を取り上げること考えている。 1. オリエンテーションと報告判例の決定 2. 判例の報告と質疑応答 3.                    //  4.                    //  5.                    //  6.                    //  7.                    //  8.                    //  9.                    //  10.                    //  11.                    //  12.                    //  13.                    //  14.                    //  15.                    //</p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | 16         | 20  | 14  | 12  | 9     | 10     |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000400K |
| 科目名        | 専門演習 1  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 右近 潤一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>1. 目的   法律問題には答えがないといひます。その証拠に、ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがあります。判例や学説を勉強することで、ものの見方・考え方を学び取りましよう。演習では、自分の考えを人に伝え、また、人の意見を理解することが基本になります。この能力は、将来も有用ですから、身につけましよう。 2. 進め方  原則として次の方法で行いたい。  (1) 数名で1班とし、1班ずつ自らの選択したテーマについて報告 (報告は各テーマにつき2回程度)。  (2) 報告に際しては、受講者にレジュメを配布。  (3) 報告後、受講者からの質問等をふまえ、報告者各自がレポートとして提出。 </p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 中田 邦博、高崙 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』(法律文化社、2007)   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 取り扱うテーマに向かう真摯な態度を評価する。 すなわち、15回出席することを前提として(もちろんやむを得ない場合を除く)、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 社会で必要とされる最低限のマナーを身につけつつ、民法にかかわる問題に取り組み、一定程度民法の深みを体験するとともに、報告をすることでプレゼンテーション能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 次回テーマについては、一度教科書や判例に目を通しておく。報告担当者(班)は、事前にレジュメを作成し、担当教員のチェックをもらっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 民法の知識を深めてやろうという人、民法は苦手だから、克服してやろうという人いずれも大歓迎です。民法関連の単位は積極的に取得してください。また、ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問ましよう。同じ理由から、やむなく欠席する場合には、事前に連絡をまさい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>判例を中心に扱うこととしたい。 初回 参加者の自己紹介、報告班及び報告テーマの決定を行う。  渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110頁～114頁 第2回 報告の仕方、レジュメの作成方法及び判例・文献検索方法の確認。  新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87頁～109頁 第3回～第14回 下記のテーマ等から報告者を決め報告まらう。 1. 取消しと現に利益を受ける限度  2. 親権者の代理権濫用  3. 無権代理の本人共同相続  4. 本人の無権代理人相続  5. 民法109条と110条の競合適用  6. 民法761条と表見代理  7. 民法416条2項の予見時期  8. 契約準備段階の過失  9. 遺産分割協議と詐害行為取消権  10. 第三者の債権侵害と妨害排除  11. 連帯債務の相続  12. 事情変更の原則の要件  13. 賃貸人の地位の譲渡  14. 債権譲渡の対抗要件の構造 15. 更新料と消費者契約法10条 第15回 レポートについて(脚注、参考文献の付け方の確認)、専門演習2の担当決定。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000400L |
| 科目名        | 専門演習 1  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この専門演習 1 では、金融商品取引法の (必要に応じ会社法についての) 基礎を固め、読解力を高めるために、テキストを読み、また基本的判例のいくつかを検討する。合わせて、報告や討論の仕方を身につける。専門演習 2 以降では、金融商品取引法 (あるいは会社法) に係わる取り組むべき各自のテーマを探すことになる。なお、証券取引所などの社会見学や、証券外務員資格試験 (一種・二種) などの合格を目指す学生に対しての支援を予定している。担当教員の金融・証券業務に係わる実務経験も生かしたゼミ内容にしたいと考えている。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 近藤光男・志谷匡史・石田真得・釜田薫子『基礎から学べる金融商品取引法』(弘文堂、2011 年)。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 六法を毎回持参すること。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況、報告への取り組み、討論での発言等) 70%、レポート等 30%。  |       |           |
| 到達目標       | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。   |       |           |
| 準備学習       | テキスト・判例を予習し、不明な事項については調べた上で演習に臨むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 会社法、金融商品取引法など、関連科目を履修しているか、専門演習と並行して履修していくこと。民間企業への就職を希望している学生や、金融商品・金融問題について興味関心のある学生を歓迎する。また、卒業研究には積極的に挑戦してもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | おおよその進行は以下のとおりであるが、受講生の理解度に応じて調整する場合もある。  1. オリエンテーション  2. 金融商品市場の基本的な仕組み  3. 金融商品取引法と投資家保護  4. 有価証券の内容 (株券・国債証券・社債券・投資信託受益証券 他)  5. 有価証券の上場と上場会社  6. 有価証券取引の仕組み  7. 証券取引所 (金融商品取引所) の役割と機能  8. 投資信託の仕組みと規制  9. 企業買収 (M&A) と公開買付 (TOB) 規制①  10. 企業買収 (M&A) と公開買付 (TOB) 規制②  11. インサイダー取引 (内部者取引) の規制①  12. インサイダー取引 (内部者取引) の規制②  13. 相場操縦 (株価の人為的操作) の禁止①  14. 相場操縦 (株価の人為的操作) の禁止②  15. まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000400M |
| 科目名   | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 村田 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>日本における経済法の中心は、独占禁止法です。この法律は、市場経済における経済活動の基本ルール「公正かつ自由な競争」を定めています。独占禁止法の基礎理論は、「経済法」及び「経済法特別講義」で学びます。この専門演習では、2年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、4改正で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。  まず、3回生春の専門演習1では、経済法の前知識として、経済学の基本概念を中心に学びます。このような経済知識は、実際の企業行動や私たち消費者の行動の理解に役立つツールであり、たとえば法学部生とえども身につけて欲しいものです。  演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 吉本佳生『出社が楽しい経済学』(NHK出版) 1200円 (外税)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業の進行に応じて適宜指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (30%) 授業内レポート、意欲、出席状況等   報告 (40%)   レポート (30%)   欠席は、事前連絡の有無、理由に応じた減点を行う。  |       |           |
| 到達目標  | 経済の基本概念を理解し、報告やレポートの基本を修得する。   |       |           |
| 準備学習  | 授業で指示する課題に丁寧に取り組むこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 知的な好奇心、向上心、じっくり考える粘り強さ。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 オリエンテーション 経済とは サンクコスト   2 機会費用   3 比較優位   4 インセンティブ   5 モラルハザード   6 逆選択   7 価格差別   8 裁定   9 囚人のジレンマ   10 共有地の悲劇   11 現在割引価値   12 ネットワーク外部性   13 ロックイン   14 スクリーニング   15 規模の経済 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4000400N |
| 科目名  | 専門演習 1   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar I  |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』(有斐閣、第9版、2011)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業の中でそのつど個別のものを指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | <p>原則、欠席は認めない(特に無断欠席)。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。  ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容(60%)、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点(40%)によって評価する。</p>   |       |           |
| 到達目標   | <p>刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ確に事案を処理するための判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として4年次には「卒業研究」を完成させる。</p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備すること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいたうえで、内容や順序を若干変更することがある。  1 演習の進め方等についてのガイダンス  2 裁判所、刑事事件について  3 刑事手続の流れ  4 強制捜査と任意捜査  5 職務質問  6 違法収集証拠の証拠能力  7 強制採尿手続  8 おとり捜査  9 自白の任意性  10 伝聞証拠  11 模擬裁判  12 少年法における問題点  13 死刑と無期(少年に対する死刑の是非)  14 犯罪被害者の刑事手続における保護  15 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000500A |
| 科目名  | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要   | <p>行政法が対象とする分野は大変広く、その法的課題はさまざまに困難な問題が山積している。 この演習では、トピックスタディの行政法版というイメージで、行政法の課題の中からいくつかを取り上げ、班別に研究を進めていくことにする。 具体的なイメージとしては、以前の行政法ゼミでは、水、温泉、酒をテーマを取り上げ、それぞれの班が、各テーマのに関する現状、法的制度、その問題点、課題という順序で研究し、最後にレポートとしてまとめた経験がある。また、トピックスタディで沖縄問題を取り上げ、基地問題、環境問題、観光問題などの班に分けて研究したことがある。 考えられる課題としては、自転車の規制、違法駐車、ごみ問題、京都の景観、亀岡の水、予防接種、マンションの建設、風営法の出店規制、道路、原発問題など数え切れない。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 70% 報告・発表 30%   |       |           |
| 到達目標   | 行政法の現代的課題をとりあげその法的問題点を分析し、政策課題を明らかにする。 行政法学習の仕上げをする。  |       |           |
| 準備学習   | それぞれの課題について十分に資料を収集し、報告に備える。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 専門演習 1 の成果の確認 3. // 4. // 5. 各テーマの政策課題 6. // 7. // 8. レポート作成に向けて 9. // 10. 最終報告 11. // 12. // 13. // 14. 専門演習 1・2 のまとめ 15. 専門演習 3・4 にむけて |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4000500B |
| 科目名  | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名   | 立石 雅彦  | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要   | ゼミテーマ『現代社会と刑法』 専門演習の最終目標は「卒業研究」の完成である。専門演習 2 では、各自選択したテーマについて個人研究または共同研究の成果を報告し、全員で討議する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 六法を毎回持参すること。   |       |           |
| 評価方法   | 授業参加の積極性 (出席状況、報告への取組み、討論での発言等) 70%、レポート等 30%  |       |           |
| 到達目標   | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。 他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。                    |       |           |
| 準備学習   | 資料等を調べ報告の準備をする。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| この授業は 2 年間で卒業研究 (12,000 字程度) を完成させることを目標とする。卒業研究を完成させることは、読み書く力、調べる力、自分の考えを伝える力を必要とする。それらは、よい社会生活を送るのに不可欠な力である。たいへんな努力を要するが、完成させた喜びも大きい。卒業研究にはぜひ挑戦してほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 各自がテーマを選択し、報告、討論し、レポートを作成する。以下は、これまでの受講生が選択したテーマ例である。  1. 死刑について  2. 罰金刑について  3. 刑法における因果関係  4. 偶然防衛について  5. 事実の錯誤について  6. 安楽死、尊厳死について  7. 脳死と臓器移植  8. 墮胎と人工妊娠中絶  9. 刑法における消費者保護  10. インサイダー取引について  11. 環境保護と刑法  12. ネット犯罪について  13. 少年非行と少年法  14. 犯罪被害者の権利  15. 犯罪報道について |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000500C |
| 科目名   | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>専門演習 1 で残った報告テーマがあればそれを本専門演習 2 で報告してもらい、続いて下記に列挙した判例テーマから選んで順次報告してもらう予定である。もちろん、下記に列挙した判例テーマ以外の人権判例を指定のテキストから選んでもらっても結構である。  本演習でも、演習 1 と同じく、どのような人権りろんであったか、それがどのように動いてきたか、学説などとの関連でそれはどのように評されるべきか、また、そうあるべきかかげるの妥当と思われるかなどを検討していくというという形で報告してもらう。  ここでは基礎演習 C で扱っている判例(「石に泳ぐ魚」事件最高裁判決、住基ネット訴訟最高裁判決など)は省いているが、もちろん、それも含めて取り上げてもらって結構である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 基礎演習 1 で指定したテキストに加えて、高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選 II (第 5 版)』(有斐閣、2007 年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 開講時に参考文献一覧表を配布予定。   |       |           |
| 教材 (その他)  | その都度指示する。   |       |           |
| 評価方法  | レジュメも含めた報告内容(30%)、討論参加・出席状況(30%)、単位論文提出(40%)で総合評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 扱われる人権判例の今日的意義や課題についてゼミ生各自が共通理解することを目的とし、論文作成能力はもとより、発表能力・討議能力の涵養にも努めたい。  |       |           |
| 準備学習  | このゼミが同時代的な学習であることを理解するためにも、新聞・テレビなどで報道されている人権問題の中身を常に意識し、メモ等を心掛けておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 図書館を大いに利用すること。また、ゼミは「沈黙の会」ではないので、諸君の活発な質問・討論が為されることを期待する。加えて、ゼミでの学習だけでなく、人間関係面でも積極的な態度を発揮しようと考えている者の受講を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>① ポルノ税関検査事件———検閲の禁止 ② 薬事法事件———薬局の距離制限と職業の自由 ③ 森林法共有林事件———財産権の保障と制限 ④ 第三者所有物没収事件———適正手続保障 ⑤ 川崎民商事件———行政手続と令状主義と黙秘権 ⑥ 麻薬取扱者の貴重義務———自己負罪拒否特権  ⑦ 見制限規定違憲訴訟———弁護士依頼権 ⑧ 死刑の合憲性———死刑は「残虐な刑罰」に当たるか ⑨ 朝日訴訟———生存権の法的性格 ⑩ 塩見訴訟———定住外国人の社会保障 ⑪ 旭川学力テスト事件———教育を受ける権利と教育権 ⑫ 全農林警職法事件———国家公務員の労働基本権 ⑬ 衆議院小選挙区比例代表並立制訴訟———選挙権の平等 ⑭ 在外邦人選挙権訴訟———在外選挙権と立法不作為 ⑮ 郵便法免責規定違憲訴訟———国家賠償請求権</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000500D |
| 科目名        | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要       | <p>市民社会・企業社会における紛争事例を中心に、ゼミ生の関心のあるテーマを設定し、紛争の発生原因とその解決方法について議論をしながら、民法の理解を深めていく。  具体的には、数名で班を構成し、各自がすでに身につけた民商法の知識を活かしながら基調報告を行ってもらい、これを踏まえて参加者全員で議論を進めるという方式をとる。   以上の活動を続けていくことで、民法の基礎知識を再確認するとともに、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得し、併せて、4 回生の専門演習 3・4・卒業研究に至るまでの基礎固めを行うこととする。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 発表の内容・方法(20%)、出席・発言の状況(20%)のほか、具体的なテーマに関するレポート(60%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 民法の基本となる考え方について、その活用レベルに達する段階まで、習得する。 併せて、「就活」において、大学・ゼミで「何を、どう学んだか。」について、いきいきと話せるようにすること。  |       |           |
| 準備学習       | 今まで受講した講義科目で学んだ民法の知識をいつでも使えるように整理すると共に、指定教科書を事前に読んでおく。  なお、民法科目で未履修のある学生は、可能な限り早期に履修しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席は認めない。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 名誉・プライバシー等の侵害と民法 2. 消費者破産 3. 多重債務者の救済をめぐる法の対応 4. 豊田商事事件 5. マンションでのペットの飼育 6. 代理母 7. 欠陥製品による被害と製造物責任法の役割 8. 欠陥建物と施工業者の責任 9. 敷金返還をめぐるトラブル 10. 更新料条項等と消費者契約法 11. 契約交渉の相手方に契約締結を期待させた者の責任 12. 有責配偶者からの離婚請求の是非 13. いじめ自殺と学校の責任 14. 電子マネー・インターネットショッピング 15. ネットオークション・ネットショッピングと民法                              |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000500E |
| 科目名  | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要   | <p>国際法は、基本的に国家間の関係について定めた法ですが、国内法とは異なり、その具体的なはたらきなどについてイメージしづらいかもしれません。国際法の専門演習では、通常の国際法の講義では詳しく触れることのできない日本に関わる国際法の諸問題を検討します。そのことを通じて、国際法の基本的な考え方やはたらきを理解し、そして、知識として知っている歴史的事実や新聞・ニュースで取り上げられる時事問題を国際法の観点から考えてみましょう。国際法の視点から捉え直さないと正確に理解できない現象もあるはずですし、新たな発見や見方ができる問題もあるのではないのでしょうか。  専門演習 2 では、受講生が演習 1 で作成したレポートを基にして報告を行い、各テーマについてさらに掘り下げた検討を行います。そのうえで卒業研究執筆に向けての足がかりをつかみましょう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年)。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業で適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 資料を授業で適宜配布する。  その他、以下の条約集をいずれか 1 冊を準備すること。  1. 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009 年)  2. 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)   |       |           |
| 評価方法   | 出席・発言状況 50 点、報告 30 点、レポート 20 点。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのか理解する。  2. 報告や集団での討論の仕方を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習   | 毎回出される課題を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 国際問題に興味のある学生を歓迎する。国際法 I、II の双方またはいずれかを履修していることが望ましい。無断欠席はしないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 受講ガイダンス  2. 受講生の報告  3. 受講生の報告  4. 受講生の報告  5. 受講生の報告  6. 受講生の報告  7. 受講生の報告  8. 受講生の報告  9. 受講生の報告  10. 受講生の報告  11. 受講生の報告  12. 残された課題の検討  13. 残された課題の検討  14. 残された課題の検討  15. 残された課題の検討 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000500F |
| 科目名   | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>1. 目的   民法は、法曹になりたい学生、各種国家試験・資格試験を受験する学生および企業への就職を目指している学生にとって必須の科目である。このゼミでは、  (1) 民法の各分野における重要な条文の要件と効果を確認し、民事訴訟において民法の各制度がどのような形で攻撃防御方法として利用できるのかを理解したうえで、  (2) 民法のいくつかの比較的新たな問題について検討し、現代社会における民法の機能と役割について考察する。  2. 進め方  原則として次の方法でゼミを進める。  (1) 担当教員による入門的な説明。  (2) 2人～3人1組でその回のテーマについて報告(報告に際しては、受講者にレジュメを配布)。  (3) 報告後、受講者からの質問等に報告者が回答する形で議論。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況や授業態度等による。授業での報告の評価 (50%)。   |       |           |
| 到達目標  | <p>1. 法科大学院での学習、各種国家試験・資格試験の受験および企業実務で役に立つ民法の知識を身につける。  2. ゼミでの発言や議論を通じて法的思考力および分析力を高め、コミュニケーション能力を養う。</p>   |       |           |
| 準備学習  | 各授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 能動的な姿勢で授業に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. 参加者の自己紹介およびガイダンス  2. ～14. 専門演習1の参加者に、各自の興味のあるテーマにつき報告をしてもらう。  同時に、卒業研究のテーマの確定および準備作業の指導ならびに民事法の基礎知識の確認を行う。  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000500G |
| 科目名   | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>会社法および商法にかかるテーマを各自が決めて個別研究を行い、報告、討論、レポート作成を通じて会社法・商法の法的論点の理解を深めることを目標とする。卒業時には、12,000 字程度の卒業研究を完成することをめざす。 専門演習では、人数によっては受講者をグループ分けし、各グループごとに基本判例等について、調査研究・レジュメ作成・発表を行ってもらい、それを踏まえて全員で討論する。これらをもとに専門演習 1・2 終了時、各自、具体的なテーマに関するレポートを仕上げてもらおう(演習 2 では、6,000 字程度)。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 江頭憲治郎『株式会社法〔第 4 版〕』(有斐閣、2011 年予定) 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 「準備学習」のために、会社法 I・II・III の指定教科書を一読することを勧める。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新版の六法を持参すること。   |       |           |
| 評価方法  | レジュメを含めた報告内容と討論参加状況(70%)、 期末レポート(30%。6,000 字程度)をおおよその基準とし、総合的に評価する。無断欠席は減点とする。また、グループワークにおいて一部の学生に負担が偏った場合には、意図的に負担を軽くした学生には厳しい評価で臨むこともありうる。   |       |           |
| 到達目標  | 会社法を中心とする商法分野につき体系的な知識を修得し、自己の力で基本的な問題解決ができる。  |       |           |
| 準備学習  | 会社法 I・II・III の履修状況にかかわらず、参考書などで会社法の全体構造をあらかじめ理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>会社法 I・会社法 II を履修済みか、必ず同時並行で履修すること。会社法 III を履修することが望ましい。 平成 17 年改正前商法の判例を取り扱う場合には、当時の商法条文に当たる労を惜しまないこと。 法科大学院進学や司法書士試験合格を目指す学生を、積極的に歓迎する。それ以外の学生も、互いの切磋琢磨を求める者は、同様に歓迎する。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. イントロダクション・レポートテーマの提供 2. 剰余金分配に関する諸論点 3. 持分会社制度にかかる諸問題 4. 社債制度にかかる諸問題 5. 組織再編(1)合併・事業譲渡 6. 組織再編(2)会社分割・株式交換・株式移転 7. 企業買収・委任状勧誘 8. レポートテーマ発表会 9. 総合事例問題の検討(1) 10. 総合事例問題の検討(2) 11. レポート進捗状況報告会 12. 総合事例問題の検討(3) 13. 総合事例問題の検討(4) 14. 総合事例問題の検討(5) 15. レポート内容報告会</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000500H |
| 科目名   | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>専門演習 2 では、専門演習 1 で学んだ労働法の基礎知識をもとに、個別的労働関係法および集団的労働関係法の領域における裁判例を正確に読み込んでいく力を養う。  個人又は一定人数のグループ単位で裁判例の報告を行って、ゼミ生全員で考え、議論しながら、当該裁判例に含まれている各テーマ (争点) について検討していく。テーマとしては専門演習 1 で取り扱った項目も対象とする場合があるが、その場合でも内容的にはより深く掘り下げて、レベルアップしたものとする。  学生諸君が将来社会人として企業等に勤務した際にも、最低限必要な法律知識のみならず、裁判例 (判例法理) をも踏まえた、より実務に即した形での基礎知識を身につけられるように展開していくこととする。授業で取り上げる各テーマについては、大学の講義で使用するテキストや裁判例のほか、雑誌に掲載されている論文等も素材としながら、考察を加えていく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | <p>開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選 [第 8 版]」(有斐閣、2009 年) 2476 円 + 税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法 [第 2 版]』(有斐閣、2011 年) 2700 円 + 税を必帯のこと。</p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 角田邦重ほか編「労働法の争点 [第 3 版]」(有斐閣、2004 年) 2800 円 + 税   |       |           |
| 教材 (その他)  | 菅野和夫『労働法 [第 10 版]』(弘文堂、2012 年) 価格未定  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提に授業内での発言内容や授業内小テストなど (50%) と期末レポート試験 (50%) とで評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標  | 将来社会人として必要とされる労働法の基本的な知識に加え、裁判例をも踏まえたより高いレベルの知識の把握および理解を目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 初回および各ゼミ開講の際に、参考文献等を指摘しつつ次回講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義開始までに労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。授業中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>おおむね以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。  第 1 回 配置転換・出向   第 2 回 時間外労働・休日労働   第 3 回 年次有給休暇   第 4 回 派遣労働   第 5 回 パートタイム労働   第 6 回 女性労働・年少労働   第 7 回 外国人労働   第 8 回 職場規律・懲戒   第 9 回 災害補償   第 10 回 組合活動   第 11 回 争議行為・使用者の争議行為 (ロック・アウト)   第 12 回 不当労働行為   第 13 回 不当労働行為の救済   第 14 回 労働関係紛争の解決手続   第 15 回 まとめ</p> |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4000500J |
| 科目名        | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名       | 小林 明夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現在、私たちが地域において直面している問題には、行政が関わって公共的に解決すべき問題が多々ある。そのため、自治体には、そのような問題を的確に認識し、行政課題として設定し、市民のための解決方策を企画立案・実施することが求められている。また、市民の側においても、こういった問題の解決に向けて、行政過程に積極的に参加していくことが、地方自治の実質化の観点からも重要となる。自治体がこのような行政課題の解決を図るための有力なツールの一つ。それが、条例をはじめとする自治立法である。 この演習(ゼミ)においては、行政法の基本判例の知識を基礎として、自治立法を企画立案する制度設計者としての「行政系公務員」の立場を意識しながら、条例等の立案、法律・条例の解釈運用、争訟への的確な対応のための知識を身につける。 この専門演習2においては、専門演習1で検討した判例の知識をベースに、実際に制定された条例等の研究など応用的課題を各学生自身が設定して、ゼミでの議論を進めていくことを予定している。 学生からの報告・発表とそれに対する質疑応答というスタイルをとる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | テキストは使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じ授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況、質問等の発言状況等による。 報告・発表 (50%)  なお、自らの発表の際、病気等正当な理由なく欠席した学生には単位を与えないので注意のこと。   |       |           |
| 到達目標       | 各自のテーマに応じた個別研究を行うことにより、行政法・自治体法に関する問題意識を養うとともに、それを法的観点から整理し、自らの意見として他者に説明する力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 普段から新聞などをよく読み、現在の自治体が直面している行政課題に関心を持つこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 憲法、行政法等の関連科目は履修することが望ましい。 報告・発表者への質問など、ゼミへの能動的な参加の姿勢を歓迎する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーションと報告テーマの決定 2. 各自のテーマ報告と質疑応答 3. //  4. //  5. //<br> 6. //  7. //  8. //  9. //  10. //  11. //  12. //  13. //<br> 14. //  15. //   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | 14         | 13  | 14  | 12  | 10    | 10     |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000500K |
| 科目名        | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 右近 潤一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 1. 目的   法律問題には答えがないといひます。その証拠に、ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがあります。判例や学説を勉強することで、ものの見方・考え方を学び取りましよう。演習では、自分の考えを人に伝え、また、人の意見を理解することが基本になります。この能力は、将来も有用ですから、身につけましよう。 2. 進め方  原則として次の方法で行いたい。  (1) 数名で1班とし、1班ずつ自らの選択したテーマについて報告 (報告は各テーマにつき2回程度)。  (2) 報告に際しては、受講者にレジュメを配布。  (3) 報告後、受講者からの質問等をふまえ、報告者各自がレポートとして提出。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 中田 邦博、高崙 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』(法律文化社、2007)   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 取り扱うテーマに向かう真摯な態度を評価する。 すなわち、15回出席することを前提として(もちろんやむを得ない場合を除く)、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 社会で必要とされる、最低限のマナーを身につけつつ、民法にかかわる問題に取り組み、一定程度民法の深みを体験するとともに、報告をすることでプレゼンテーション能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 次回テーマについては、一度教科書や判例に目を通しておく。報告担当者(班)は、事前にレジュメを作成し、担当教員のチェックをもらっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 民法関連の単位は積極的に取得してください。また、ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問ましよう。同じ理由から、やむなく欠席する場合には、事前に連絡をまさい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 比較的新しい判例を扱うことで、民法を復習しながら最新状況を学ぶ。 今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。 第1回 専門演習1 提出レポートの講評、卒業論文作成に向けて、第2回以降の担当者再確認(専門演習1の最終回に決定しておく) 第2回~第15回 下記のテーマにつき、「講義概要」欄記載の進め方に従い、各2回ずつ報告する。  1. 相続させる旨の遺言と代襲相続(最判平23・2・22判時2108-52)  2. 不動産賃貸借の更新料と消費者契約法10条(最判平23・7・15民集65-5-2269)  3. 敷引特約の有効性と消費者契約法10条(最判平23・3・24民集65-2-903、最判平23・7・12最高裁ウェブサイト)  4. 売買目的物である土地の土壤にフッ素が含まれている場合の瑕疵担保責任(最判平22・6・1民集64巻4号953頁)  5. 新築建物買主による建物工事施工者らに対する損害賠償請求における居住利益等の控除の可否(最判平22・6・17民集64巻4号1197頁)  6. リース契約の不成立と請負代金の支払義務(最判平22・7・20裁時1512号7頁)  7. 集合動産譲渡担保における物情代位の可否(最決平22・12・2民集64-8-1990) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000500L |
| 科目名        | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 金融商品取引法、会社法に係わる近時の事例を中心にテーマを設定し、議論を行いながら、理解を深めていく。具体的には、学生各自がすでに身につけた金融商品取引法、会社法などの知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて参加者全員で議論を進めていく。このような活動を続けていくことで、口頭で説明し、それを対して質問し、さらに議論を進めて問題解決を図るという共同作業のノウハウを習得し、4回生の専門演習に向けて基礎固めを行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 六法必携。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況、報告への取り組み、討論での発言等) 70%、レポート等 30%。  |       |           |
| 到達目標       | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。  |       |           |
| 準備学習       | それぞれの課題について十分に資料を収集し、報告に備えること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 会社法、金融商品取引法など、関連科目を履修しているか、専門演習と並行して履修していくこと。また、卒業研究には積極的に挑戦してもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | おおよその進行は以下のとおりであるが、受講生の希望や理解度に応じて調整する場合がある。 1. オリエンテーション 2. 公開買付の規制 3. 説明義務 4. 不公正取引 (1)  5. 不公正取引 (2)  6. 不公正取引 (3)  7. 株主総会決議 8. 経営判断の原則  9. 株主代表訴訟 10. 株式買取請求 11. 剰余金分配 12. 社債制度 13. 組織再編 14. 企業買収 15. まとめ       |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4000500M |
| 科目名  | 専門演習 2   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar II   |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』(有斐閣、第9版、2011)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業の中でそのつど個別のものを指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | <p>原則、欠席は認めない(特に無断欠席)。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。  ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容(60%)、出席、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点(40%)によって評価する。</p>   |       |           |
| 到達目標   | <p>刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ確に事案を処理するための判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として4年次には「卒業研究」を完成させる。</p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備すること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいたうえで、内容や順序を若干変更することがある。  1 はじめに  2 裁判所見学について  3 文献の検索について  4 判例の調べ方  5 ゼミ論文の書き方(引用の仕方)  6 エックス線検査の適法性  7 任意同行と逮捕  8 被疑者の取調べの適法性  9 訴因変更  10 証拠開示制度  11 実況見分調査の証拠能力  12 犯罪被害者の刑事裁判への参加  13 裁判員制度における問題点  14 社会奉仕命令  15 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|              |   |       |           |
|--------------|---|-------|-----------|
| 年度           | 2012  | 授業コード | J4000500N |
| 科目名          | 専門演習 2  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar II  |       |           |
| 担当者名         | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要         | 日本における経済法の中心は、独占禁止法です。独占禁止法の基礎理論は、「経済法」及び「経済法特別講義」で学びます。この専門演習では、2年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、4改正で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。  まず、3回生秋の専門演習2では、専門演習1で学んだ経済学の知識と報告・レポートの書き方の力を土台として、講義で学ぶ独占禁止法の内容を掘り上げていきます。演習では、担当を決め報告をしたり、議論をしたり、レポートを作成するという作業が中心になるので、積極的な参加が不可欠です。このようなことを通じて、人前で分かりやすく説明するプレゼンテーション力や文章力を鍛えます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)    | 経済法の講義と同じ。  |       |           |
| 教材 (参考文献)    | 進度に応じて適宜指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)     |   |       |           |
| 評価方法         | 平常点 (30%) 授業内レポート、意欲、出席状況等   報告 (40%)   レポート (30%)   欠席は、事前連絡の有無、理由に応じた減点を行う。   |       |           |
| 到達目標         | 独占禁止法の理解を深める。比較的シンプルな事例について、独禁法上のどの行為類型が問題になるのか、  その違法性判断の方法を理解できるようになる。そして、報告やレポートの作成の基礎を習得する。   |       |           |
| 準備学習         | 「経済法」及び「経済法特別講義」を受講し、独占禁止法の基礎を勉強しておく。   |       |           |
| 受講者への要望      |   |       |           |
| 知的的好奇心と粘り強さ。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 講義の順序の目安     | 1 オリエンテーション 競争とは   2 独占禁止法の目的と全体像   3 入札談合   4 入札談合   5 カルテル   6 カルテル   7 私的独占   8 私的独占   9 企業結合   10 企業結合   11 不当な取引制限 (取引拒絶)   12 不当な取引制限 (拘束条件付き取引)   13 不当な取引制限 (抱き合わせ)   14 不当な取引制限 (優越的地位の乱用)   15 総括   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J4000600A |
| 科目名       | 専門演習3  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Specialized Seminar III  |       |           |
| 担当者名      | 三並 敏克  | 旧科目名称 | 専門演習III   |
| 講義概要      | 専門演習3の受講生は、専門演習1に参加し、演習1ゼミ生の報告や討論を聞いて、ゼミの先輩として積極的に質疑・応答を行うことが、ここでの科目の中心的な内容となる。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 高橋和之・長谷部泰男・石川健治編『憲法判例百選』（有斐閣、2007年）。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 特に定めていない。  |       |           |
| 評価方法      | 出席状況、質問等の発言状況など平常点による。なお、就職活動のためやむを得ず欠席する場合には、メールによる事前連絡を要する。事前連絡が総合評価の際に考慮されることになるからである。  |       |           |
| 到達目標      | ここでは人権総論関係の判例を扱うことになるので、人権問題の奥行きの深さと重要性を再認識してもらおうと同時に、質疑・討論に積極的に参加することにより、プレゼンテーション能力を身につけ、就職活動や社会人になってから役立つスキルに磨きをかけることをも目標とする。 |       |           |
| 準備学習      | 毎回予定されているテーマを十分に予習しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

既に身につけた知見を生かして積極的に質疑・応答することにより、後輩に刺激を与え、これまでのゼミで見られがちであった「沈黙の会」として様相を一変させて欲しい。

講義の順序とポイント

① 序 講（ゼミの進め方や報告テーマの選定）|② マクリーン事件——外国人の人権|③ 八幡製鉄政治献金事件——法人の人権享有主体性|④ 三菱樹脂事件——人権の私人間効力|⑤ 猿払事件——公務員の人権|⑥ 議員定数不均衡訴訟——投票価値の平等|⑦ 婚外子国籍確認訴訟——国籍法 3 条と平等権|⑧ 麴町中学校事件——内申書の記載内容と生徒の思想・信条の自由|⑨ 南九州税理士会政治献金事件——公益法人の政治献金と構成員の思想の自由|⑩ 津地鎮祭訴訟——地鎮祭と政教分離原則|⑪ 靖国公式参拝訴訟——内閣総理大臣の靖国公式参拝と政教分離原則|⑫ 岐阜県青少年保護育成条例事件——「有害図書」指定と表現の自由|⑬ 立川事件——ビラ配布と表現の自由|⑭ 証言拒絶（NHK 記者）事件——取材源の秘匿と表現の自由|⑮ 博多駅事件——フィルム提出命令と取材の自由|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000600B |
| 科目名  | 専門演習3   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar III   |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 | 専門演習III   |
| 講義概要   | <p>行政法が対象とする分野は大変広く、その法的課題はさまざまに困難な問題が山積している。 この演習では、トピックスタディの行政法版というイメージで、行政法の課題の中からいくつかを取り上げ、班別に研究を進めていくことにする。 具体的なイメージとしては、以前の行政法ゼミでは、水、温泉、酒をテーマを取り上げ、それぞれの班が、各テーマのに関する現状、法的制度、その問題点、課題という順序で研究し、最後にレポートとしてまとめた経験がある。また、トピックスタディで沖縄問題を取り上げ、基地問題、環境問題、観光問題などの班に分けて研究したことがある。 考えられる課題としては、自転車の規制、違法駐車、ごみ問題、京都の景観、亀岡の水、予防接種、マンションの建設、風営法の出店規制、道路、原発問題など数え切れない。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 70% 報告・発表 30%   |       |           |
| 到達目標   | 行政法の現代的課題をとりあげその法的問題点を分析し、政策課題を明らかにする。 行政法学習の仕上げをする。  |       |           |
| 準備学習   | それぞれの課題について十分に資料を収集し、報告に備える。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 専門演習1・2の成果の確認 3. // 4. // 5. 各テーマの政策課題 6. // 7. // 8. レポート作成に向けて 9. // 10. 最終報告 11. // 12. // 13. // 14. 専門演習3のまとめ 15. 専門演習4にむけて |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000600C |
| 科目名  | 専門演習3   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Seminar III   |       |           |
| 担当者名   | 渡邊 博己   | 旧科目名称 | 専門演習III   |
| 講義概要   | 各自の卒業研究の進捗度合いに応じて、途中経過の報告を行う。  報告に基づき、民法の体系と読み方、判例の使い方、民法解釈の方法など、専門演習1・2で修得したことを基礎にして、民法（財産法）分野の諸問題について、実際的な問題解決能力を身につけることとする。必要に応じ、関係する事項について、ワンポイント解説を行うこととする。  あわせて、卒業研究(卒業論文)のまとめ方、執筆方法などについて、ひとつおりのノウハウを身につけるようにしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 河上正二「民法学入門[第2版]-民法総則講義・序論」（日本評論社）   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | ・平常点(40%)  発表の内容・方法、出席・発言の状況により評価する。  ・レポート(60%)  |       |           |
| 到達目標   | 1. 卒業論文をまとめる。  2. 民事法の基礎的課題に取り組むことを通じて、行政や企業等のビジネス社会や市民社会で現実に生ずる紛争を多角的に分析・理解するとともに、それを法的に解決し、紛争発生を予防する実践的能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習   | 参考文献の関連部分に目を通しておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席はそれ相応の対応をする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| テーマとしては、次を考えている。  ● 隣人訴訟  ● 消費者破産  ● 多重債務者の救済をめぐる法の対応  ● 豊田商事事件  ● マンションでのペットの飼育  ● 代理母  ● 欠陥製品による被害と製造物責任法の役割  ● 欠陥建物と施工業者の責任  ● 敷金返還をめぐるトラブル  ● 更新料条項等と消費者契約法  ● 契約交渉の相手方に契約締結を期待させた者の責任  ● 有責配偶者からの離婚請求の是非  ● いじめ自殺と学校の責任  ● ネットオークション・ネットショッピングと民法  ● 偽造・盗難キャッシュカードによる被害の救済  ● 高齢者の財産管理  ● 割賦販売法・特定商取引法の改正  ● 消費者団体訴訟制度の発展 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000600D |     |       |        |
| 科目名   | 専門演習3  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)   | Specialized Seminar III  |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 | 専門演習III   |     |       |        |
| 講義概要  | <p>1. 目的   民法は、法曹になりたい学生、各種国家試験・資格試験を受験する学生および企業への就職を目指している学生にとって必須の科目である。このゼミでは、  (1) 前半の「基礎知識編」において民法の各分野における重要な条文の要件と効果を確認し、民事訴訟において民法の各制度がどのような形で攻撃防御方法として利用できるのかを理解したうえで、  (2) 後半の「展開編」において、民法のいくつかの比較的新たな問題について検討し、現代社会における民法の機能と役割について考察する。  2. 進め方   原則として次の方法でゼミを進める。  (1) 担当教員による入門的な説明。  (2) 2人～3人1組でその回のテーマについて報告(報告に際しては、受講者にレジュメを配布)。  (3) 報告後、受講者からの質問等に報告者が回答する形で議論。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)  | なし。  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 平常点(50%)出席状況や授業態度等による。授業での報告の評価(50%)。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | <p>1. 法科大学院での学習、各種国家試験・資格試験の受験および企業実務で役に立つ民法の知識を身につける。  2. ゼミでの発言や議論を通じて法的思考力および分析力を高め、コミュニケーション能力を養う。</p>   |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 初回到報告テーマの割当てを行う。また、各授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 能動的な姿勢で授業に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |     |       |        |
| <p>1. 参加者の自己紹介、ガイダンスおよび報告テーマの割当て  【基礎知識編】  2. 総則の条文における要件と効果  3. 物権法の条文における要件と効果  4. 債権法の条文における要件と効果(1)  5. 債権法の条文における要件と効果(2)  6. 親族法の条文における要件と効果  7. 相続法の条文における要件と効果  【展開編】  8. 消費者契約法と契約の内容規制  9. フランチャイズ契約の現状と課題  10. 医療行為とインフォームドコンセント  11. テレビ報道・インターネットでの名誉棄損  12. 芸能人の氏名権・肖像権  13. 生物学的親子の自明性と代理母  14. 人工生殖による出生子の法的地位  15. まとめ</p> |  |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)   | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |           |     |       |        |

|  |   |       |           |     |       |        |
|--|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000600E |     |       |        |
| 科目名  | 専門演習3   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)  | Specialized Seminar III   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 原 弘明  | 旧科目名称 | 専門演習III   |     |       |        |
| 講義概要   | <p>会社法および商法にかかるテーマを各自が決めて個別研究を行い、報告、討論、レポート作成を通じて会社法・商法の法的論点の理解を深めることを目標とする。卒業時には、12,000字程度の卒業研究を完成することをめざす。 専門演習では、人数によっては受講者をグループ分けし、各グループごとに基本判例等について、調査研究・レジュメ作成・発表を行ってもらい、それを踏まえて全員で討論する。これらをもとに専門演習1・2終了時、各自、具体的なテーマに関するレポートを仕上げてもらう(卒業演習では、12,000字程度)。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)   | <p>江頭憲治郎『株式会社法〔第4版〕』(有斐閣、2011年予定) 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第2版〕』(別冊ジュリスト、有斐閣、2011年)</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)   | <p>「準備学習」のために、会社法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指定教科書を一読することを勧める。</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)  | <p>最新版の六法を持参すること。</p>   |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | <p>レジュメを含めた報告内容と討論参加状況(70%)、期末レポート(30%)をおおよその基準とし、総合的に評価する。無断欠席は減点とする。また、グループワークにおいて一部の学生に負担が偏った場合には、意図的に負担を軽くした学生には厳しい評価で臨むこともありうる。</p>  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | <p>会社法を中心とする商法分野につき体系的な知識を修得し、自己の力で基本的な問題解決ができる。</p>  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | <p>会社法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修状況にかかわらず、参考書などで会社法の全体構造をあらかじめ理解しておくこと。</p>  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |           |     |       |        |
| <p>会社法Ⅰ・会社法Ⅱを履修済みか、必ず同時並行で履修すること。会社法Ⅲを履修することが望ましい。 平成17年改正前商法の判例を取り扱う場合には、当時の商法条文に当たる労を惜しまないこと。 法科大学院進学や司法書士試験合格を目指す学生を、積極的に歓迎する。それ以外の学生も、互いの切磋琢磨を求める者は、同様に歓迎する。</p>   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |     |       |        |
| <p>1. オリエンテーション・人数によってはグループ分け 2. 会社法総則・商法総則・商行為総則の相互関係 3. 設立にかかる諸問題 4. 株式制度・株主の権利 5. 募集株式の発行にかかる諸問題 6. 株主総会の招集・決議・瑕疵 7. 取締役・取締役会の権限 8. 代表取締役 9. 監査役制度の諸論点 10. 会計監査人・会計参与の法的論点 11. 役員等の任務懈怠責任(1)原則 12. 役員等の任務懈怠責任(2)責任の軽減・免除、役員等の対第三者責任 13. 総合事例問題の検討(1) 14. 総合事例問題の検討(2) 15. まとめ</p> |   |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)  | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000600F |
| 科目名   | 専門演習3  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Seminar III  |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミテーマ『現代社会と刑法』 専門演習の最終目標は「卒業研究」の完成である。専門演習3では、各自選択したテーマについて個人研究または共同研究の成果を報告し、全員で討議する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その都度紹介する   |       |           |
| 教材（その他）   | 六法を毎回持参すること  |       |           |
| 評価方法  | 授業参加の積極性（出席状況、報告への取組み、討論での発言等）70%、レポート等30%   |       |           |
| 到達目標  | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。 他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。                  |       |           |
| 準備学習  | 資料等を調べ報告の準備をする。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| この授業は2年間で卒業研究（12,000字程度）を完成させることを目標とする。卒業研究を完成させることは、読み書く力、調べる力、自分の考えを伝える力を必要とする。それらは、よい社会生活を送るのに不可欠な力である。たいへんな努力を要するが、完成させた喜びも大きい。卒業研究にはぜひ挑戦してほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 各自がテーマを選択し、報告、討論し、レポートを作成する。以下は、これまでの受講生が選択したテーマ例である。 1. 死刑について 2. 罰金刑について 3. 刑法における因果関係 4. 偶然防衛について 5. 事実の錯誤について 6. 安楽死、尊厳死について 7. 脳死と臓器移植 8. 墮胎と人工妊娠中絶 9. 刑法における消費者保護 10. インサイダー取引について 11. 環境保護と刑法 12. ネット犯罪について 13. 少年非行と少年法 14. 犯罪被害者の権利 15. 犯罪報道について |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000600G |
| 科目名  | 専門演習 3  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar III   |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 専門演習 3 は、専門演習 1 と合同で行う。この演習では、日本に関わる国際法の諸問題を検討する。  演習での報告は、専門演習 1 の受講生である 3 回生が中心になって行う。専門演習 3 の受講生は  3 回生の報告に対して、質問や助言などを行うことが求められる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年)  杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業で適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義レジュメ・資料を毎回配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席・発言状況 70 点、レポート 30 点。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質や特徴を理解し、国際法が私たちの日常生活をどのように関わっているのかを理解する。  2. 報告や集団での討論の仕方を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 毎回出される課題を事前に読んでくること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 専門演習 1 の受講生に報告の仕方や内容について適宜助言を行うこと。  2. 就活等で忙しいとは思いますが、無断欠席はしないこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 受講ガイダンス  2. 伝統的国際法と明治政府の欧化政策および条約改正  3. 伝統的国際法における戦争と近代日本  4. 東京裁判、政治家の靖国神社参拝問題  5. 戦後補償問題  6. 国連の集団安全保障体制と平和憲法  7. 在日米軍基地問題  8. 日本の領土 (1) - 領土の変遷  9. 日本の領土 (2) - 北方領土、竹島および尖閣諸島問題  10. 日本の領土 (3) - 北方領土、竹島および尖閣諸島問題 (続き)  11. 海洋法と日本 (1) - 日本の海域  12. 海洋法と日本 (2) - 日中韓での海域の境界画定問題  13. 日本の TPP 参加問題  14. 京都議定書と日本の地球温暖化対策  15. 外国への犯罪人引渡し |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000600H |
| 科目名  | 専門演習3   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Specialized Seminar III   |       |           |
| 担当者名   | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>専門演習3では、労働判例百選および水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第2版〕』掲載されている重要判例の報告を中心に演習を進めていく予定である。  個別的労働関係法の領域における判例を主たる対象としつつも、集団的労働関係法の領域における判例も対象とする。毎回ゼミ生に一事案を報告してもらい、その事案に含まれている法律上の争点などに関してゼミ生全員で考え、議論しながら検討していく。  報告者には必ず判決原文に当たったうえで、争点や当該判決等についての考え方などを発表してもらう。判例を素材に現実社会での事例を通じて、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の習得を目的に、考察を加えていく。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | <p>開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」(有斐閣、2009年)2476円+税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第2版〕』(有斐閣、2011年)2700円+税を必帯のこと。</p>   |       |           |
| 教材(参考文献)   | <p>角田那重ほか編「労働法の争点〔第3版〕」(有斐閣、2004年)2800円+税</p>   |       |           |
| 教材(その他)  | <p>菅野和夫『労働法〔第10版〕』(弘文堂、2012年)価格未定</p>   |       |           |
| 評価方法   | <p>出席・報告・授業内レポートなど(50%)と期末レポート(50%)とで評価する予定である。</p>   |       |           |
| 到達目標   | <p>労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を理解することを目標とする。</p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>初回および各ゼミ開講の際に指示する。</p>   |       |           |
| <p>受講者への要望</p> <p>演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。授業中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。</p>   |   |       |           |
| <p>講義の順序とポイント</p> <p>おおむね以下の内容で進める予定であるが、春学期にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。 ただし、判例百選および事例演習労働法掲載のものに限定する。  第1回 横浜南労基署長(旭紙業)事件 第2回 朝日放送事件 第3回 全農林警職法事件 第4回 ルフトハンザドイツ航空事件 第5回 三菱樹脂事件 第6回 大日本印刷事件 第7回 三菱樹脂事件 第8回 東京電力(千葉)事件 第9回 岩手銀行事件 第10回 野村証券事件 第11回 丸子警報機事件 第12回 福岡セクシュアル・ハラスメント事件 第13回 秋北バス事件 第14回 オリnbas光学工業事件 第15回 松下電器産業(年金減額)事件</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                                    | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| <p>○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。</p> |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4000700A |
| 科目名        | 専門演習 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar IV   |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 | 専門演習IV    |
| 講義概要       | <p>専門演習 4 では、大学 4 年間の総括として労働法全般の中から重要テーマにつき総合的検討を加えていく。取り扱うテーマについては、秋学期開講時にゼミ生の希望等も聞いたうえで決定する。卒業研究を履修するゼミ生には各自の希望テーマに応じて論文指導等していく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 8 版〕」(有斐閣、2009 年) 2476 円+税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第 2 版〕』(有斐閣、2011 年) 2700 円+税を必帯のこと。</p>              |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 角田邦重ほか編「労働法の争点〔第 3 版〕」(有斐閣、2004 年) 2800 円+税等   |       |           |
| 教材 (その他)   | 菅野和夫『労働法〔第 10 版〕』(弘文堂、2012 年) 価格未定   |       |           |
| 評価方法       | 出席・報告・授業内レポートなど (50%) と期末レポート試験 (50%) とで評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標       | 労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を、多角的に、しかも高度に理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 初回および各ゼミ開講の際に指示する。   |       |           |

#### 受講者への要望

演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。授業中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

#### 講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、秋学期開講時にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。ただし、判例百選掲載のものに限定する。|第 1 回 日立製作所武蔵工場事件|第 2 回 白石宮林署事件|第 3 回 時事通信社事件|第 4 回 陸上自衛隊八戸車両整備工場事件|第 5 回 電通事件|第 6 回 炭研精工事件|第 7 回 東亜ペイント事件|第 8 回 高知放送事件|第 9 回 国労広島地本事件|第 10 回 国鉄札幌運転区事件|第 11 回 都南自動車教習所事件|第 12 回 弘南バス事件|第 13 回 丸島水門事件|第 14 回 中労委 (オリエンタルモーター) 事件|第 15 回 国鉄事件

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4000700B |
| 科目名        | 専門演習 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar IV   |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克  | 旧科目名称 | 専門演習IV    |
| 講義概要       | <p>専門演習 4 では、これまで人権判例についてゼミで報告したテーマの中から選んで、掘り下げた検討を加えたものを中間報告してもらおう。その際、ゼミでの共同討議や担当教員の個別指導を経て、よりグレードアップした論文内容になる機会を作るとともに、各自の単位取得論文の完成に繋がっていくように、様々な工夫を加えてゼミを運営して行きたいと考えている。  中間報告と共同討議と論文個別指導を経て提出が予定されている単位取得論文のテーマは、これまでのように判例そのものではなく、判例がその一つの例示となるような一般的なテーマ、例えば、マクリーン事件最高裁判決で問題になった「外国人の人権」、八幡製鉄政治献金事件最高裁判決で問題になった「法人の人権」、三菱樹脂事件最高裁判決で問題になった「人権の私人間効力」、津地鎮祭訴訟最高裁判決で問題になった「政教分離原則」等といった如きテーマでもって書くことを心掛けてもらいたい。  なお、人権判例に関して各自が既に報告したテーマ以外に希望する人権テーマがある場合には、もちろんそれを書いてもらっても結構である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めていない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その都度指摘する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 特に定めていない。  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況・報告内容・討論参加状況等による平常点 (30%) と提出された単位取得論文 (70%) とで評価する。 なお、「卒業研究」での卒業論文を提出する者については、このゼミの単位取得論文の提出を免除する。   |       |           |
| 到達目標       | 人権判例が一つの例示となるような一般的にテーマに対して掘り下げた検討を試みることにより、ゼミ生各自が人権問題についてのより一層の理解を深めるとともに、文章理解力・文章構成力・プレゼンテーション能力の向上を目指す。   |       |           |
| 準備学習       | この授業が同時代的なものであることを意識するためにも、新聞・テレビなどで報道される今日の人権問題を常にフォローし、メモなど心掛けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 多くの文献を読む必要があるので、大いに図書館を利用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ① はじめに——各自の中間報告・個別指導の順番を決定 ② 中間報告・共同討議 ③ 中間報告・共同討議 ④ 中間報告・共同討議 ⑤ 中間報告・共同討議 ⑥ 中間報告・共同討議 ⑦ 中間報告・共同討議 ⑧ 中間報告・共同討議 ⑨ 個別指導 ⑩ 個別指導 ⑪ 個別指導 ⑫ 個別指導 ⑬ 単位論文提出目前相談 ⑭ 単位論文提出目前相談 ⑮ まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000700C |
| 科目名  | 専門演習 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar IV  |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 | 専門演習IV    |
| 講義概要   | <p>行政法が対象とする分野は大変広く、その法的課題はさまざまに困難な問題が山積している。 この演習では、トピックスタディの行政法版というイメージで、行政法の課題の中からいくつかを取り上げ、班別に研究を進めていくことにする。 具体的なイメージとしては、以前の行政法ゼミでは、水、温泉、酒をテーマを取り上げ、それぞれの班が、各テーマのに関する現状、法的制度、その問題点、課題という順序で研究し、最後にレポートとしてまとめた経験がある。また、トピックスタディで沖縄問題を取り上げ、基地問題、環境問題、観光問題などの班に分けて研究したことがある。 考えられる課題としては、自転車の規制、違法駐車、ごみ問題、京都の景観、亀岡の水、予防接種、マンションの建設、風営法の出店規制、道路、原発問題など数え切れない。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 70% 報告・発表 30%   |       |           |
| 到達目標   | 行政法の現代的課題をとりあげその法的問題点を分析し、政策課題を明らかにする。 行政法学習の仕上げをする。  |       |           |
| 準備学習   | それぞれの課題について十分に資料を収集し、報告に備える。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 専門演習 3 までの成果の確認 3. // 4. // 5. 各テーマの政策課題 6. // 7. // 8. レポート作成に向けて 9. // 10. 最終報告 11. // 12. // 13. // 14. 専門演習全体のまとめ 15. 専門演習全体のまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4000700D |
| 科目名        | 専門演習 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized Seminar IV  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 | 専門演習IV    |
| 講義概要       | 各自の卒業研究の進捗度合いに応じて、途中経過の報告を行う。  報告に基づき、民法の体系と読み方、判例の使い方、民法解釈の方法など、専門演習1・2・3で修得したことを基礎にして、民法(財産法)分野の諸問題について、実際的な問題解決能力を身につけることとする。  あわせて、卒業研究(卒業論文)のまとめ方、執筆方法などについて、ひとつおりのノウハウを身につけるようにしたい。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 河上正二「民法学入門[第2版]-民法総則講義・序論」(日本評論社)   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | ・平常点(40%)  発表の内容・方法、出席・発言の状況により評価する。  ・レポートまたは卒業論文(60%)   |       |           |
| 到達目標       | 1. 卒業論文をまとめる。  2. 民事法の基礎的課題に取り組むことを通じて、行政や企業等のビジネス社会や市民社会で現実に生ずる紛争を多角的に分析・理解するとともに、それを法的に解決し、紛争発生を予防する実践的能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 参考文献の関連部分に目を通しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加し、発言すること。とりわけ、ゼミへの積極的な参加意欲を重視したい。なお、理由の如何を問わず、無断欠席はそれ相応の対応をする。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 今後の進め方、各自の進捗状況の確認  2~14. 卒業研究経過報告  または、お互いの関心を元にテーマを定め、それに対する意見を発表する。  15. まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4000700E |
| 科目名   | 専門演習 4   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar IV   |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>1. 目的   民法は、法曹になりたい学生、各種国家試験・資格試験を受験する学生および企業への就職を目指している学生にとって必須の科目である。このゼミでは、  (1) 民法の各分野における重要な条文の要件と効果を確認し、民事訴訟において民法の各制度がどのような形で攻撃防御方法として利用できるのかを理解したうえで、  (2) 民法のいくつかの比較的新たな問題について検討し、現代社会における民法の機能と役割について考察する。  2. 進め方  原則として次の方法でゼミを進める。  (1) 担当教員による入門的な説明。  (2) 2人～3人1組でその回のテーマについて報告(報告に際しては、受講者にレジュメを配布)。  (3) 報告後、受講者からの質問等に報告者が回答する形で議論。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況や授業態度等による。授業での報告の評価 (50%)。   |       |           |
| 到達目標  | <p>1. 法科大学院での学習、各種国家試験・資格試験の受験および企業実務で役に立つ民法の知識を身につける。  2. ゼミでの発言や議論を通じて法的思考力および分析力を高め、コミュニケーション能力を養う。</p>   |       |           |
| 準備学習  | 各授業の最後に次の授業のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 能動的な姿勢で授業に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. 参加者の自己紹介およびガイダンス  2. ～14. 専門演習1の参加者に、各自の興味のあるテーマにつき報告をしてもらう。  同時に、卒業研究のテーマの確定および準備作業の指導ならびに民事法の基礎知識の確認を行う。  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000700F |
| 科目名   | 専門演習 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar IV  |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明  | 旧科目名称 | 専門演習 II   |
| 講義概要  | <p>会社法および商法にかかるテーマを各自が決めて個別研究を行い、報告、討論、レポート作成を通じて会社法・商法の法的論点の理解を深めることを目標とする。卒業時には、12,000 字程度の卒業研究を完成することをめざす。 専門演習では、人数によっては受講者をグループ分けし、各グループごとに基本判例等について、調査研究・レジュメ作成・発表を行ってもらい、それを踏まえて全員で討論する。これらをもとに専門演習 1・2 終了時、各自、具体的なテーマに関するレポートを仕上げてもらう(卒業研究では、12,000 字程度)。発表者以外の受講者にも、積極的な発言とコメントカードの提出を求めるので、十分な予習が必要である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 江頭憲治郎『株式会社法〔第 4 版〕』(有斐閣、2011 年予定) 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト、有斐閣、2011 年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 「準備学習」のために、会社法 I・II・III の指定教科書を一読することを勧める。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新版の六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法  | レジュメを含めた報告内容と討論参加状況(70%)、 期末レポート(30%、6,000 字程度)をおおよその基準とし、総合的に評価する。無断欠席は減点とする。また、グループワークにおいて一部の学生に負担が偏った場合には、意図的に負担を軽くした学生には厳しい評価で臨むこともありうる。  |       |           |
| 到達目標  | 会社法を中心とする商法分野につき体系的な知識を修得し、自己の力で基本的な問題解決ができる。   |       |           |
| 準備学習  | 会社法 I・II・III の履修状況にかかわらず、参考書などで会社法の全体構造をあらかじめ理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>会社法 I・会社法 II を履修済みか、必ず同時並行で履修すること。会社法 III を履修することが望ましい。 平成 17 年改正前商法の判例を取り扱う場合には、当時の商法条文に当たる労を惜しまないこと。 法科大学院進学や司法書士試験合格を目指す学生を、積極的に歓迎する。それ以外の学生も、互いの切磋琢磨を求める者は、同様に歓迎する。</p>  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. イントロダクション・レポートテーマの提供 2. 剰余金分配に関する諸論点 3. 持分会社制度にかかる諸問題 4. 社債制度にかかる諸問題 5. 組織再編(1)合併・事業譲渡 6. 組織再編(2)会社分割・株式交換・株式移転 7. 企業買収・委任状勧誘 8. レポートテーマ発表会 9. 総合事例問題の検討(1) 10. 総合事例問題の検討(2) 11. レポート進捗状況報告会 12. 総合事例問題の検討(3) 13. 総合事例問題の検討(4) 14. 総合事例問題の検討(5) 15. レポート内容報告会</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J4000700G |
| 科目名   | 専門演習 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized Seminar IV  |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゼミテーマ『現代社会と刑法』 専門演習の最終目標は「卒業研究」の完成である。専門演習4では、卒業研究の最終的完成に向け各自選択したテーマについて個人研究または共同研究の成果を報告し、全員で討議する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特になし  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | その都度紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回六法を持参すること   |       |           |
| 評価方法  | 授業参加の積極性 (出席状況、報告への取組み、討論での発言等) 70%、レポート等 30%   |       |           |
| 到達目標  | 課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。 他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。                               |       |           |
| 準備学習  | 資料等を調べ報告の準備をする。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| この授業は2年間で卒業研究(12,000字程度)を完成させることを目標とする。卒業研究を完成させることは、読み書く力、調べる力、自分の考えを伝える力を必要とする。それらは、よい社会生活を送るのに不可欠な力である。たいへんな努力を要するが、完成させた喜びも大きい。卒業研究にはぜひ挑戦してほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 各自がテーマを選択し、報告、討論し、レポートを作成する。以下は、これまでの受講生が選択したテーマ例である。 1. 死刑について 2. 罰金刑について 3. 刑法における因果関係 4. 偶然防衛について 5. 事実の錯誤について 6. 安楽死、尊厳死について 7. 脳死と臓器移植 8. 墮胎と人工妊娠中絶 9. 刑法における消費者保護 10. インサイダー取引について 11. 環境保護と刑法 12. ネット犯罪について 13. 少年非行と少年法 14. 犯罪被害者の権利 15. 犯罪報道について |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4000700H |
| 科目名  | 専門演習 4  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Specialized Seminar IV  |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 専門演習 2 と合同で行う。専門演習 2 の受講生による報告に対して、質問や助言を行うことが求められる。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年) 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)                           |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業で適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 資料を毎回配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 出席および発言状況 70 点、レポート 30 点。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。  2. 集団での討論の仕方を学ぶ。 |       |           |
| 準備学習   | 毎回出す課題を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 専門演習 2 の受講生による報告に対して、適宜助言を行うこと。  2. 無断欠席はしないこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 受講ガイダンス  2. 専門演習 2 の受講生の報告  3. 専門演習 2 の受講生の報告  4. 専門演習 2 の受講生の報告  5. 専門演習 2 の受講生の報告  6. 専門演習 2 の受講生の報告  7. 専門演習 2 の受講生の報告  8. 専門演習 2 の受講生の報告  9. 専門演習 2 の受講生の報告  10. 専門演習 2 の受講生の報告  11. 専門演習 2 の受講生の報告  12. 残された課題の検討  13. 残された課題の検討  14. 残された課題の検討  15. 残された課題の検討 |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40009000 |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究は、大学における学業の総まとめである。これまでに講義およびゼミで学んだ知識を用いて、「労働法」の卒業論文を執筆する。ただし、執筆を希望するゼミ生に限られる。  論文を執筆する場合には、(3回生の秋学期もしくは)4回生の春学期から準備が必要となる。希望者は、できる限り早い時期に執筆の意思を示すこと。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | テーマに合わせたものを指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | テーマに合わせたものを指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）価格未定  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文の形式および内容の基準を満たした論文を提出した場合に単位を認定する。  |       |           |
| 到達目標       | 労働法のテーマを設定し、関係する資料を収集して、読解し、自分の見解を展開できること。  |       |           |
| 準備学習       | 春学期から研究テーマについて考え、文献資料を収集しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | テーマを決定し、できる限り文献を収集して、論文を執筆すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>おおむね以下のとおりであるが、各自の論文執筆状況に応じて、適宜指導する。中間報告では、文章化したものを報告すること。</p> <p>  第1回 卒業研究の進め方・方法 第2回 テーマ設定・資料収集 第3回 テーマ設定・資料収集 第4回 目次作成 その1 第5回 目次作成 その2 第6回 中間報告 その1 第7回 指導（校正） 第8回 指導（校正） 第9回 指導（校正） 第10回 指導（校正） 第11回 中間報告 その2 第12回 個人指導（校正） 第13回 個人指導（校正） 第14回 個人指導（校正） 第15回 まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40009001 |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「卒業研究」の受講希望者は、これまで専門演習で取り組んだテーマの中から「卒業論文」のテーマを選び、報告・討論や担当教員の個別の論文指導の過程を経て、卒業論文として仕上げるのが求められており、それがここでの中心的な内容を占める。と同時に、卒業論文の執筆は、そのテーマについての研究を深めるだけでなく、資料の集め方や論理的な文章構成についての力を身につけ、大変な労力と忍耐力を要する作業であることから、卒業後の仕事に役立つ様々な能力を高めることにもなる筈である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めていない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指摘する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 特に定めていない。   |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文(70%)、出席状況・報告内容・討論参加状況等による平常点(30%)。   |       |           |
| 到達目標       | 論理的な文章構成力を身につけさせ、卒業論文を完成させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 春学期から卒業論文テーマを考え、文献資料を図書館などで十分に収集しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業論文は、4年間の学習の集大成としても位置づけることができ、論文の字数とし1万～1万5千字になるものであるので、卒業論文を最初から執筆するつもりがない学生にとっては、この科目は受講に適していないことを留意されたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ① はじめに——卒業研究の進め方・方法 ② テーマ設定・資料収集 ③ テーマ設定・資料収集 ④ 目次作成 ⑤ 目次作成 ⑥ 中間報告（その1） ⑦ 個別指導 ⑧ 個別指導 ⑨ 中間報告（その2） ⑩ 個別指導 ⑪ 個別指導 ⑫ 個別指導 ⑬ 個別指導 ⑭ 最終報告（その1） ⑮ 最終報告（その2）   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40009002 |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 専門演習での研究の最終仕上げと大学生活のまとめとして卒業研究に取り組む。 行政法の現代的課題の中からテーマを設定して、文献や資料を収集して研究をまとめる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 20% 卒業研究の提出 80%   |       |           |
| 到達目標   | 各人でテーマを設定して、文献、資料をまとめて論文を完成できるようになることを目標にする。                                  |       |           |
| 準備学習   | 研究計画に即して準備してくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学生活最後の仕上げの機会なので、ぜひ登録して卒業研究を完成させること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定 3. // 4. 研究の計画・方法 5. 文献収集・資料収集 6. // 7. // 8. 中間報告 9. // 10. 最終報告 11. // 12. // 13. // 14. 原稿の完成 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40009003 |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の卒業研究の進捗度合いに応じて、途中経過の報告を行う。  報告に基づき、民法の体系と読み方、判例の使い方、民法解釈の方法など、専門演習1・2・3で修得したことを基礎にして、民法（財産法）分野の諸問題について、実際的な問題解決能力を身につけることとする。  あわせて、卒業研究(卒業論文)のまとめ方、執筆方法などについて、ひとつおりのノウハウを身につけるようにしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 河上正二「民法学入門[第2版]-民法総則講義・序論」（日本評論社）   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | ・卒業論文(100%)   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文をまとめる。  |       |           |
| 準備学習       | 参考文献の関連部分に目を通しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 専門演習4の中での取組であるので、自分のテーマだけでなく、他のメンバーのテーマにも関心を持ち、積極的に参加し、発言すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 今後の進め方、各自の進捗状況の確認  2～14. 卒業研究経過報告、執筆方法等の指導  15. まとめ  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40009004 |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 専門演習の仕上げとして、そこで取り組んだ研究の成果を卒業論文として完成させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 作成過程における態度等（50%）、完成した卒業論文（50%）を評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 文書作成能力および論理的思考能力を身につけ、卒業論文を完成させる。   |       |           |
| 準備学習       | 選択したテーマにつき、常日頃から各自参考文献を収集し、分析、検討および執筆を進めること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 論文執筆は、将来の社会生活において必要な能力を養うのに最適であるとともに、困難な作業でもある。そのことを自覚して、真摯な態度で取り組んで欲しい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 各人の能力、準備や進行状況に左右されるので、講義の順序はそれぞれ異なるが、大まかな流れは下記の通りである。   1. 資料収集の方法（データベースの使い方等）  2. 論文の執筆方法  3. 論文の執筆方法  4. 参考文献や引用判例等の分析  5. 参考文献や引用判例等の分析  6. 仮タイトルの設定  7. 論文の構成について  8. 中間報告  9. 文章の校正  10. 文章の校正  11. 文章の校正  12. 文章の校正  13. 文章の校正  14. 最終報告  15. 最終校正 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40009005 |
| 科目名   | 卒業研究   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 専門演習 1-4 の集大成として、商法・会社法にかかわるテーマを選択して論文を執筆する者に対する指導を目的とした講義である。         |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 随時紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 卒業論文の内容(80%)、取組みの姿勢(20%)   |       |           |
| 到達目標  | 商法・会社法の具体的な論点とその問題点を認識することができる。自力で当該問題点についての解決策を見だし、論理的な文章で説明することができる。 |       |           |
| 準備学習  | 商法・会社法の基礎知識を十分に養っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 一昨年度の卒業研究においては、相当程度の時間をかけて指導を行った。論文を書くには根気と冷静な思考の双方が必要となるので、覚悟をもって履修してほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| おおまかには、以下のようなスケジュールで個別指導を行うが、進捗状況に併せて柔軟に見直すこととする。 1. テーマの選択 2. 論文執筆に必要な知識の整理 3. 論文進捗状況の確認・指導(1) 4. 論文進捗状況の確認・指導(2) 5. 論文進捗状況の確認・指導(3) 6. 論文進捗状況の確認・指導(4) 7. 論文進捗状況の確認・指導(5) 8. 中間報告 9. 論文進捗状況の確認・指導(6) 10. 論文進捗状況の確認・指導(7) 11. 論文進捗状況の確認・指導(8) 12. 論文進捗状況の確認・指導(9) 13. 草稿の提出、体裁・内容のチェック 14. 草稿の体裁・内容のチェック 15. 報告、最終原稿提出 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40009007 |
| 科目名   | 卒業研究   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業研究に取り組むことにより、テーマについて資料を調べ、問題点を明らかにするとともにそれらにつき考察し、自分の考えを他人に伝えるという社会人にとっても重要な能力を養うことができる。 本授業では、卒業研究作成をマン・ツー・マンでバックアップする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | テーマに応じて紹介する  |       |           |
| 教材（その他）   | テーマに応じて紹介する  |       |           |
| 評価方法  | 卒業研究によって評価する   |       |           |
| 到達目標  | 課題について問題点を発見し整理し、適切な解決方法を考える力を養う。 他人の考えを理解し、自らの考えを口頭および文章で他人に伝える力を向上させる。 学術論文の書き方をマスターする。                                  |       |           |
| 準備学習  | テーマについて、資料や参考文献を読み、問題点について考察し、卒業研究の草稿を作成する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 卒業研究を完成する作業はたいへんな労力を必要とする。近年はこれに取り組む学生が減少してきている。 しかし、卒業研究は大学での学習総仕上げである。また、これを完成することにより、社会人として必要な能力は著しく向上している。また、大きな仕事を仕上げた喜びはなにもものにも代えがたい。積極的に取り組んでほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 各自がテーマを選択し、報告、討論し、レポートを作成する。以下は、これまでの受講生が選択したテーマ例である。 1. 死刑について 2. 罰金刑について 3. 刑法における因果関係 4. 偶然防衛について 5. 事実の錯誤について 6. 安楽死、尊厳死について 7. 脳死と臓器移植 8. 墮胎と人工妊娠中絶 9. 刑法における消費者保護 10. インサイダー取引について 11. 環境保護と刑法 12. ネット犯罪について 13. 少年非行と少年法 14. 犯罪被害者の権利 15. 犯罪報道につ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40009008 |
| 科目名   | 卒業研究   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名  | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 受講生が専門演習で作成したレポートを基にして卒業研究論文を執筆し、担当教員が論文指導を行う。受講生は進捗状況に応じて中間報告を行い、集団での討論を通じて、完成までの課題を発見する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業で適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 出席、中間報告、受講態度および卒業研究の提出を総合して評価を行う。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 論文執筆を通じて、筋道だった論文構成および論理展開を身につける。  2. 書き言葉の正しい日本語を身につける。                                 |       |           |
| 準備学習  | 中間報告を行うにあたり、事前に出される課題をこなしてこよう。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 卒業研究の完成には忍耐力が求められるが、途中で投げ出さないこと。  2. 無断欠席はしないこと（とくに報告があたっている場合）  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 受講ガイダンス  2. 受講生の中間報告  3. 受講生の中間報告  4. 受講生の中間報告  5. 受講生の中間報告  6. 受講生の中間報告  7. 受講生の中間報告  8. 受講生の中間報告  9. 受講生の中間報告  10. 受講生の中間報告  11. 残された課題の検討  12. 残された課題の検討  13. 残された課題の検討  14. 残された課題の検討  15. 残された課題の検討 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40012001 |
| 科目名        | 法哲学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Legal Philosophy I   |       |           |
| 担当者名       | 佐別当 義博   | 旧科目名称 | 法哲学       |
| 講義概要       | <p>本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。  本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係 (例えば立法精神)、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義の進行に合わせてその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。   |       |           |
| 評価方法       | 授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が6割未満だった場合には、再レポートを課す。  |       |           |
| 到達目標       | 法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 授業内で書いていただく小論文は実施日を事前に告知するので、論点等を確認しておくこと。 新聞等で正義に関わる記事等は常日頃から読むようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡 (講義時と京学なび) で確認すること。)  1. 初めに   2. 序論 § 1 法哲学とは? (法を哲学するとは?)   3. § 2 法の目的とは? (法が目的とするとされている諸々の事柄と正義の関係)   4. (第1回授業内レポート)   第1章 古典的正義論 § 3 ソクラテス   5. § 4 アリストテレス   6. 同上   7. (第2回授業内レポート)   § 5 ユダヤ・キリスト教   8. 第2章 近代的正義論 § 6 カント   9. 同上   10. § 7 J. S. ミル   11. (第3回授業内レポート)   第3章 現代の正義論 § 8 近代的正義論の限界   12. § 9 ロールズ   13. 同上   14. § 10 リバタリアニズムとコミュニタリアニズム   15. (第4回授業内レポート)   まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40014001 |
| 科目名        | 法社会学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sociology of Law I   |       |           |
| 担当者名       | 沼口 智則  | 旧科目名称 | 法社会学      |
| 講義概要       | 春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学 (I～IV)・生命をめぐる法社会学 (I～III)・宗教をめぐる法社会学 (I～III) のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義の都度紹介していく。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 学期末試験 (80%)、講義の際の小レポート (20%) による総合評価。  |       |           |
| 到達目標       | 裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。  |       |           |
| 準備学習       | 法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 開講にあたって ー春・秋の講義全体のアウトラインー  2. 法社会学とは何か I 日本の法社会学 (1)   3. 法社会学とは何か II 欧米の法社会学 (1)   4. 裁判をめぐる法社会学 I 民事裁判・行政裁判・刑事裁判  5. 裁判をめぐる法社会学 II 冤罪  6. 裁判をめぐる法社会学 III 死刑制度  7. 裁判をめぐる法社会学 IV 裁判員制度  8. 生命をめぐる法社会学 I 生殖技術と法  9. 生命をめぐる法社会学 II 脳死・臓器移植と法  10. 生命をめぐる法社会学 III 安楽死・尊厳死と法  11. 宗教をめぐる法社会学 I 政治と宗教と法  12. 宗教をめぐる法社会学 II 政教分離  13. 宗教をめぐる法社会学 III 愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析  14. 全体のまとめ  15. 全体のまとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40017001 |
| 科目名        | 税法  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Tax Law   |       |           |
| 担当者名       | 村井 淳一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目(所得税、法人税等)についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味をもてるような内容とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 清永敬次『税法』(ミネルヴァ書房) 3,360円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 岡村忠生ほか『ベーシック税法』(有斐閣アルマ) 2,205円 その他は、初回の講義時に説明する。また、授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート(1~2回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1 税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2 税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3 主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。  |       |           |

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはweb上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. 総論1 導入、租税と税法 |2. 総論2 租税法律主義と租税平等主義 |3. 総論3 税法の解釈と適用、課税要件 |4. 所得税1 納税義務者、課税単位、所得概念 |5. 所得税2 課税標準と所得分類 |6. 所得税3 所得税の計算構造 |7. 所得税4 確定申告、申告書作成演習 |8. 法人税1 法人税の性格、種類、納税義務者 |9. 法人税2 法人税の計算構造 |10. 法人税3 法人税の課税標準(個別規定その1)|11. 法人税4 法人税の課税標準(個別規定その2)|12. 相続税・贈与税 相続税の体系と課税要件 |13. 消費税 消費税の仕組と概要 |14. 地方税 地方税の概要|15. 租税手続法等 納税申告と税務調査、脱税

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40020001 |
| 科目名        | 都市開発関係法実務   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law and Practice on Urban Planning  |       |           |
| 担当者名       | 上林 研二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>都市計画行政は、無秩序な開発行為を規制し、地域全体のつり合いのとれた土地利用計画を立て、都市生活（働く・住む・育てる・学ぶ・憩う・遊ぶ）を快適にするための施設を配置することに努めるものである。その場合、都市計画法と建築基準法を基本法とし、規制・誘導事項ごとに制定された関連法をもとに進められる。しかし、法はその数を増加させ複雑化し、日々改正される。従って、当初に全体を概観した後は、身近に起こる市民の開発行為を規制・誘導する法律とその運用を中心に講義を進める。住宅建築行政とボトムアップ型都市計画である「地区計画」制度に関しては詳述する。なぜならば、安心安全な住宅や快適な都市環境は市民自らが追い求めなければ獲得できず、その獲得に多いに寄与すると考えるからである。また、安全に市民生活を送ってもらうため、理系の知識であるが地震発生の仕組みと予測については図解的に教示する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回テキストを配布   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 三村浩史著『地域共生の都市計画』学芸出版社   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況（20%） 講義感想文（50%） 定期試験（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 都市基盤整備の基礎となる土地整備についての法定の仕組みが理解できること。  |       |           |
| 準備学習       | 積極的に街歩きを行うこと。町並みや都市施設の実態を記憶したり、「何故こうなっているのか」と深い興味をいだくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 問題意識をもって授業に臨んで欲しい。講義内容を暗記する必要はないが、法定都市計画の仕組みについては納得のいくまで考えること。私語厳禁であるが、疑問点を表明することは多いに歓迎する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 講義ガイダンス／京都府の近代史概説   2. 近代期の都市計画における後藤新平の偉業   3. 英国に学ぶわが国の都市計画   4. 都市計画法1 大正法の限界と昭和法制定の目的   5. 都市計画法2 開発行為の制限   6. 都市計画法3 都市計画法以外の法による開発行為の制限（付録：地価乱高下のしくみ）   7. 建築基準法1 法の目的、用語の理解   8. 建築基準法2 安全な建築物   9. 歴史的市街地の構造的理解   10. 市街地景観整備事業   11. 土地区画整理事業のしくみと今日的課題   12. 市街地再開事業（法によるもの、国交省制度によるもの）   13. 京都における路地型共同住宅団地の整備   14. 市民を災害から守る上での基礎知識   15. 大規模災害と復興事業</p>                              |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J4002200A |
| 科目名  | 民法法入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Introduction to Civil Law  |       |           |
| 担当者名   | 右近 潤一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 民法が問題となる場面を取り上げながら、民法の条文や法律用語を解説し、民法に親しむ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 随時資料を配付する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 中田 邦博、高嵩 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』(法律文化社、2007) 978-4589030276 <br>松井茂記、松宮孝明、曾野裕夫『はじめての法律学 — HとJの物語』(有斐閣、第3版、2010)978-4641124257 |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験 (60%) 及び各講義後にその講義における重要な点に関する問題を出し、それへの回答又は講義内容に対する質問をもって平常点とし、評価の対象とする (40%)。  |       |           |
| 到達目標   | 法律科目、特に民法の専門講義を聴くに当たって必要となる基礎的な法律用語を理解し、高校とは異なる講義形式に慣れること。   |       |           |
| 準備学習   | 日々、今どんな契約をしているのだろう、と関心を持って生活してみたい。また、ニュースにも関心を向けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎度必ず出席し、六法を持参すること。初めての法律科目であるため、主体的に講義に臨むこと。 近時、出席を取ることの弊害として、出席すればよいと思っている学生諸君がいるように思われるが、単に出席することには全く意味はないことを早めに悟って欲しい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 一部修正をする可能性があるが、一応次の内容を考えている。   1. 「民法法入門」案内  本講義の概要・目標 <br>民法法の学び方  2. 私たちが法に出会う時 (1) — 赤ちゃんが生まれた  私権の享有  権利能力・意思<br>能力  行為能力者制度  3. 私たちが法に出会う時 (2) — 結婚しようよ  婚姻の成立・効果  夫<br>婦財産制など  4. 私たちが法に出会う時 (3) — 賭に負けてしまった  不法原因給付  公序良俗  5.<br>私たちが法に出会う時 (4) — 欠陥商品を買ってしまった  契約の成立  瑕疵担保責任  6. 私たちが法<br>に出会う時 (5) — 代金の支払い  クレジットカード (立替払)  デビットカード  電子マネー <br>消費者問題のいくつか  7. 私たちが法に出会う時 (5) — ローンやクレジットを利用したい  金銭消費貸借契約 <br>金利の問題  消費者問題のいくつか  8. 私たちが法に出会う時 (6) — ネットで買物  契約の成立時期 <br>錯誤と重過失  クーリング・オフ  9. 私たちが法に出会う時 (7) — コロが子どもに噛みついた!  不<br>法行為  動物占有者の責任  10. 民法の基本を理解するためのいくつかの用語  善意・悪意  権<br>利・義務  物権・債権  権利濫用、信義則など  11. 規定や法律の分類 — 民法の特色  ルール<br>の生成とその分類  公法・私法  実体法・手続法  民法法・刑事法  12. 法源のはなし  成<br>文法・慣習法、判例、条理  13. 民法法の適用  民事裁判の仕組み  調停制度その他  14. 今後の民法法<br>の学習をみのり多きものにするために  講義の聴き方、ゼミ参加の心得  試験答案・レポート課題の書き方 <br>15. 民法法入門全体のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40027001 |
| 科目名   | 消費者法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Consumer Law  |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | インターネットトラブル、クレジット被害や高齢者を狙った悪質商法など、多くの消費者被害の発生が日々報道されている。本講義では、このような消費者問題の現状を把握すると共に、これに対する法的対応の手法を検討する。「消費者契約法」、「特定商取引法」、「割賦販売法」などの法律やこれまで蓄積されてきた重要判例を中心に、日常生活からの事例を取り上げながらなるべく分かり易く講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 日本弁護士連合会編『消費者法講義（第3版）』（日本評論社、2009）  |       |           |
| 教材（その他）   | 1. パワーポイントを活用する。  2. 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）出席状況等による。学期末試験（80%）。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における消費者問題のあり方およびこれに対する法的対応を理解する。  2. 具体的な消費者トラブルを多角的に分析し、解決する能力を養う。  |       |           |
| 準備学習  | 1. 現代社会における消費者問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。  2. 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 民法総則および契約法の基本的知識があることが望ましい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  3. 他者への迷惑となるので、私語を厳禁とする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 消費者問題と消費者法  2. 消費者契約と民法（1）  契約の成立と意思表示の瑕疵  3. 消費者契約と民法（2）  契約内容と効力  4. 消費者契約法（1）  契約締結過程の適正化（前半）  5. 消費者契約法（2）  契約締結過程の適正化（後半）  6. 消費者契約法（3）  契約内容の適正化（前半）  7. 消費者契約法（4）  契約内容の適正化（後半）  8. 特定商取引法（1）  規制の特徴、クーリング・オフ制度、契約取消権  9. 特定商取引法（2）  過量販売解除制度、中途解約制度、ネガティブ・オプション  10. 割賦販売法（1）  クレジット被害の実態と背景、割賦販売法の適用対象  11. 割賦販売法（2）  主な規制内容  12. 製造物責任法  13. 消費者信用と多重債務（利息制限法、貸金業法など）  14. 情報通信・電子商取引と消費者保護  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J40029001 |
| 科目名       | 知的財産法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Intellectual Property Law   |       |           |
| 担当者名      | 市政 梓  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | なぜ知的財産法を学ぶのか。知的財産法は、現代の経済社会においてなくてはならないものとなっています。世界中の人々が知的財産の重要性に気づきました。それは、経済の発展をもたらすからです。グローバル社会の中、知的財産の保護はますます重要となっています。授業では、知的財産法の諸制度である、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、不正競争防止法、著作権法について概説を行います。我が国における知的財産の法的保護、救済制度を理解することを目的としています。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 角田政芳『知的財産権六法 2011〔平成 23 年版〕』（三省堂、2011 年）※購入するときは最新版を購入すること  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 土肥一史『知的財産法入門〔第 12 版〕』（中央経済社、2010 年） 辻本希世士（著）＝ 辻本 一義（編）『「商品のモノマネ」のルール』（PHP 研究所、2009 年）   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法      | 定期試験(100%)  |       |           |
| 到達目標      | 知的財産法についての基本的な知識を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | 憲法、民法の基礎知識があることが望ましい。   |       |           |

#### 受講者への要望

知的財産権六法持参のこと。|私語厳禁。私語がすぎるものは退室を命ずる。|他人に迷惑をかける行為（教室をうろうろする、大声を出す、ごみを出すなど）をするものは、退出を命じたり、単位を認めないことがある。|毎回確認小テストを行なう（点数には反映しない）。

#### 講義の順序とポイント

講義の順序とポイント】 |1. 知的財産とは (1)：知的財産法の概要 |2. 知的財産とは (2)：知的財産の歴史 |3. 特許法(1)：特許制度概説|4. 特許法(2)：特許権侵害、実用新案法：制度概説|5. 著作権法(1)：著作権法概説 |6. 著作権法(2)：著作権の制限 |7. 意匠法：意匠制度概説 |8. 商標法：商標制度概説|9. 商標法：商標権侵害|10. 不正競争防止法：不正競争法概説|11. 不正競争行為、救済、制限|12. 国際的知的財産法(1)：国際的な知的財産侵害、歴史 |13. 国際的知的財産法(2)：ガット・W T O、発展途上国への技術移転|14. 知的財産権制度の現状：日本における知的財産政策、著作権のフェアユース|15. 独占禁止法：概説

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                |   |       |           |
|----------------|---|-------|-----------|
| 年度             | 2012  | 授業コード | J40031001 |
| 科目名            | 倒産法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）      | Bankruptcy Law  |       |           |
| 担当者名           | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要           | 倒産法（破産、民事再生、会社更生、特別清算）の概要を一覧して解説したうえで、清算型と再建型の法制度全体の解説をする。破産法は、実体法（民法、商法など）の特別法であり、手続法（民事訴訟法、民事執行法など）の特別法でもあり、本来、複雑でむずかしい法律である。破産法をはじめとする倒産法は実社会と結びついているため、卒業後は実益が大きいであろう。  |       |           |
| 教材（テキスト）       | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）       | 伊藤真・倒産法（弘文堂 2010 年）   |       |           |
| 教材（その他）        | 必要に応じプリントを配布する  |       |           |
| 評価方法           | 定期試験（80%） レポート他（20%）  |       |           |
| 到達目標           | 企業はどのような状況で倒産するのか、倒産企業の関係者への影響を理解できること、を目標とする。  |       |           |
| 準備学習           | 社会経済における企業ないし事業に関心を持ち倒産法の条文の有無と規定内容につき考えること   |       |           |
| 受講者への要望        |   |       |           |
| 小六法を持参し、参照すること |   |       |           |
| 講義の順序とポイント     | 1.再建型倒産処理（民事再生法、会社更生法） 2.清算型倒産処理（破産法、特別清算（会社法）） 3.個人の倒産、法人の倒産 4.民事再生、再生手続の開始、再生手続の機関 5.特別清算とは 6.民事再生と担保 7.会社更生と担保 8.破産法の概要 9.破産手続の機関 10.別除権、相殺権 取戻権 11.否認の要件 12.同族会社の倒産と経営者保証 13.免責不許可事由 免責手続 免責の効果 14.私的整理 15.まとめ、優良取引先、倒産不安先の見分け方 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40038A02 |
| 科目名  | 会社法 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Corporation Law I  |       |           |
| 担当者名   | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法 I では、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。抽象的な部分についても、簡単なモデル・ケースを提示しつつ、講義を進める。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 北村雅史=柴田和史=山田純子『現代会社法入門〔第 4 版〕』(有斐閣、2010 年) ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1. 江頭憲治郎『株式会社法〔第 4 版〕』(有斐閣、2011 年予定) 2. 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第 2 版〕』(有斐閣、2011 年) 3. 山下友信=神田秀樹編『商法判例集〔第 4 版〕』(有斐閣、2010 年)                                   |       |           |
| 教材 (その他)   | 随時、教員作成のレジュメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。   |       |           |
| 評価方法   | 1. 平常点 (20%) 出席状況等から判断する。 2. 期末試験 (80%)  |       |           |
| 到達目標   | 1. 会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等について基本的な理解ができ、それを文章で説明できる。 2. 講義範囲について、簡単なケースの法的処理を文章で説明できる。   |       |           |
| 準備学習   | 1. 講義前に、講義対象部分のテキストを一読しておくのが望ましい。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくことよ。 3. 社会生活上の問題と会社法との関連について、信頼できるメディアの情報に気を配ってほしい。                                    |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。 2. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. ガイダンス--会社法とは何か  2. 会社の法的性質  3. 会社の種類  4. 会社法の総則規定  5. 株主の有限責任と資本制度  6. 株式会社の設立  7. 株式の意義、株主の権利  8. 株式の内容と種類  9. 株主名簿、株式の譲渡  10. 自己株式  11. 募集株式の発行 12. 株式発行の瑕疵  13. 新株予約権 14. 社債  15. 全体を通した復習 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40038B01 |
| 科目名  | 会社法 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Corporation Law II   |       |           |
| 担当者名   | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。会社法を学ぶことは、将来企業社会で活躍しようとする皆さんに必ず役に立つであろう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 神田秀樹『会社法』(弘文堂)。最新版を用いる。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (10%) 出席状況等による。定期テスト (90%)。  |       |           |
| 到達目標   | 会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション  2. 株式会社の機関設計  3. 株主総会の権限・招集  4. 株主総会の議事・決議  5. 取締役  6. 取締役の義務  7. 取締役会  8. 代表取締役  9. 監査役・監査役会  10. 会計監査人  11. 委員会設置会社  12. 役員等の責任  13. 株主代表訴訟  14. 計算  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40043001 |
| 科目名        | 金融商品取引法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Instruments and Exchange Law   |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済活動において企業は非常に重要な役割を果たしているが、ある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスにおいて成功することはできない。世の中における資金の流れの重要性は、体中に栄養を運ぶ血液の流れにたとえることもできる。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合は、赤字でも利子をつけて返済しなければならないが、株式を発行して集めた資金は、会社が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を支払えばよい。このように、リスクがつきものであるビジネスにとっては、株式による資金調達が適している。しかし、投資家が安心して株式を購入するには、いろいろとルールが整っていることが必要である。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしている。この講義では、この金融商品取引法の基本的な仕組みを学ぶ。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる金融商品取引法』（弘文堂、2011年）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。定期テスト（90%）。   |       |           |
| 到達目標       | 金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に係わる報道・ニュースについて関心を持ち、その問題点を把握できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、金融と法との関係を意識するよう努めてもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション   2. 有価証券の取引方法   3. 企業内容の開示規制   4. 金融商品取引業者の規制（1）   5. 金融商品取引業者の規制（2）   6. 公開買付け（TOB）   7. 投資信託   8. 集団投資スキーム   9. 詐欺的行為の禁止   10. インサイダー取引の規制   11. 相場操縦の規制   12. 金融商品取引業者による不公正取引   13. 罰則と課徴金   14. デリバティブ取引   15. まとめ</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40048001 |
| 科目名   | 刑法 I (刑法総論)   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Criminal Law I (General Part)   |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>刑法は、どのような行為が犯罪になるか、それに対していかなる刑罰が加えられるかを定めた法である。大学では、総論と各論に分けて講義されるのが一般的である。犯罪には、殺人罪、窃盗罪、放火罪ほか多くのものがあるが、総論ではすべての、あるいは多くの犯罪に共通する問題や、刑罰の基本問題を取り上げる。 なお、刑法総論をより深く学ぶために、「刑法特別講義」が設けられている。できるだけ多くの学生諸君が刑法特別講義を受講することを希望する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義内で紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)  | レジュメを配布する。 六法を持参すること  |       |           |
| 評価方法  | 期末試験 (記述式) の成績 60%、小テスト(ほぼ毎回実施する)成績 40%   |       |           |
| 到達目標  | <p>刑法総論のさまざまな課題を考える基礎を身につけることを目標とする。刑法総論の主要な課題について理解を深め、それらに関する簡単な事例をとりあげ、それをどのように解決するかを考えていくことを通じて、刑法総論の諸問題を考察する方法を身につけるようにしていきたい。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>前回の講義を復習して授業に望んでほしい。刑法総論は体系的に組み立てられているので、前回までの内容がしっかりと理解できていないと、つぎの講義が分からなくなることが多いことに留意されたい。 次回講義内容については、参考書で予習することも大切である。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>刑法総論は体系的に構成されており、連続して講義に出席することが大切である。 受講にあたっての心構えは、1に「参加」、2に「集中」である。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. 刑法の意義と機能   2. 罪刑法定主義 その1   3. 罪刑法定主義 その2   4. 犯罪論の体系、構成要件の基本問題   5. 作為と不作為   6. 因果関係 (客観的帰属)   7. 違法性の基本問題   8. 正当防衛と緊急避難   9. その他の違法性阻却事由   10. 責任の基本問題、責任能力   11. 故意と違法性の意識の可能性   12. 錯誤   13. 過失   14. 未遂   15. 共犯</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40050001 |
| 科目名        | 刑法Ⅱ（刑法各論）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Criminal Law II (Specific Offences)   |       |           |
| 担当者名       | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪というようなさまざまな犯罪に固有の成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が体系的、抽象的であったのに対して、各論は、断片的で具体的である。総論の方が面白いというのが定評であるが、わたしたちの身近にある問題と直結しているので、各論の方が理解しやすいかもしれない。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 立石雅彦ほか『テキスト刑法各論 [補訂第2版]』青林書院（2007年）   |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメを配布する 六法を毎回持参すること   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験（記述式）60%、小テスト（ほぼ毎回実施する）結果40%  |       |           |
| 到達目標       | 各犯罪について、成立要件を理解し、個々の成立要件に関して主要な問題点を考察する基礎を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の講義を復習し、しっかり理解した上、つぎの講義に臨んでほしい。 参考書等を利用して次回の講義内容をあらかじめ把握しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 刑法各論の分野では、社会の変化にともなう新たなテーマがしばしば問題となる。社会問題への関心を持つ姿勢が、楽しく受講することにつながる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 刑法各論の対象と課題   2. 生命・身体に対する罪の基本問題   3. 殺人の罪   4. 傷害の罪   5. 過失傷害の罪、墮胎の罪、遺棄の罪   6. 自由に対する罪の諸問題   7. 秘密・名誉に対する罪   8. 財産に対する罪の基本問題   9. 窃盗の罪   10. 強盗の罪   11. 詐欺および恐喝の罪   12. 横領罪および背任の罪   13. 公共の安全に対する罪の基本問題、放火のおよび失火の罪   14. 取引の安全に対する罪の基本問題、文書偽造の罪   15. 国家的法益に対する罪の基本問題、公務の執行を妨害する罪 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40052001 |
| 科目名        | 犯罪学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Criminology   |       |           |
| 担当者名       | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>刑事立法の改正が進み、現在さまざまな刑事司法制度についての法律改正がなされている。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会が作れるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 学期末の論述式試験の結果（80%）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（20%）によって成績を評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 「刑法」、「刑事訴訟法」などで身に付けた法律の知識を前提として、刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書の関係箇所を読んでおくこと。 新聞やニュースを見て、報道された刑事司法に関連する内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 犯罪学、刑事政策とは  2 犯罪情勢  3 治安状況  4 犯罪の原因  5 犯罪化と非犯罪化  6 日本の警察制度  7 刑罰、保安処分、保護処分  8 犯罪者の処遇（施設内処遇、社会内処遇）  9 児童虐待、DV、ストーカー  10 犯罪被害者対策  11 少年非行対策  12 薬物犯罪  13 暴力団犯罪  14 交通犯罪  15 精神障害者の犯罪</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40054001 |
| 科目名  | 刑事訴訟法 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Law of Criminal Procedure I   |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 | 刑事訴訟法     |
| 講義概要   | <p>テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。  では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。犯罪に対する制裁である刑罰を科すには、日本国憲法 31 条によって、手続に従った捜査・裁判を経なければならない。そして、その刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。  この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 渡辺咲子『刑事訴訟法講義』(信山社、第 5 版、2010)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』(有斐閣、第 9 版、2011)  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。  |       |           |
| 評価方法   | 学期末試験の結果 (80%)、そのほかに授業の中で実施する小テスト (20%) によって成績を評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになる。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 刑事訴訟法とは  2 強制捜査と任意捜査  3 任意捜査の限界 (写真撮影、おとり捜査など)  4 捜査の端緒 (職務質問、所持品検査など)  5 捜査の端緒② (任意同行、自動車検問など)  6 違法収集証拠排除法則  7 逮捕・勾留 (通常逮捕)  8 逮捕・勾留 ② (現行犯逮捕、緊急速捕)  9 逮捕・勾留 ③ (勾留、別件逮捕・勾留)  10 検証・通信傍受  11 搜索・差押え  12 搜索・差押え②  13 搜索・差押え③  14 被疑者の取調べ  15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40056001 |
| 科目名        | 国際法 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | International Law I   |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>国際法 I では、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第 1 部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第 2 部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年) 2,000 円 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>【教科書】 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第 3 版〕』(東信堂、2011 年) 浅田正彦編『国際法』(東信堂、2011 年) 小寺彰ほか編『講義国際法〔第 2 版〕』(有斐閣、2010 年) 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第 4 版〕』(有斐閣、2007 年)  【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 奥脇直也編『国際条約集』(有斐閣) 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009 年) 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)  【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト 204 号、2011 年) 松井芳郎編『判例国際法〔第 2 版〕』(東信堂、2006 年) 杉原高嶺・酒井啓互編『国際法基本判例 5 0』(三省堂、2010 年)  *その他のものについては講義で適宜紹介する</p> |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイントやスライドを用いる場合がある   |       |           |
| 評価方法       | 毎回行う小テスト 40 点、定期試験 60 点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 2. 国際法の中心的な主体である国家について理解する。 3. 世界の空間秩序(陸・海・空)が国際法上どのように構成されているのか理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語をつつしむこと。 3. 講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>導入部 総論 1. 受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法 2. 国際法の主体  第 1 部 国際法における国家 3. 国家の成立と変動(1) - 国家承認 4. 国家の成立と変動(2) - 国家承継 5. 国家の機関 6. 国家の基本的権利義務 7. 国家管轄権の規律 8. 主権免除  第 2 部 国際社会の空間秩序 9. 国家領域 10. 日本の領土問題 11. 海の国際法(1) - 現代の海洋秩序の構造 12. 海の国際法(2) - 航行利用制度 13. 海の国際法(3) - 海域の境界画定など 14. 空の国際法 15. まとめ  *進度により若干の変更がありうる</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40058001 |
| 科目名  | 国際法 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | International Law II   |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 国際法 II では、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第 1 部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第 2 部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年) 2,000 円 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 【教科書】 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第 3 版〕』(東信堂、2011 年) 浅田正彦編『国際法』(東信堂、2011 年) 小寺彰ほか編『講義国際法〔第 2 版〕』(有斐閣、2010 年) 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第 4 版〕』(有斐閣、2007 年)  【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 奥脇直也編『国際条約集』(有斐閣) 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009 年) 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)  【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト 204 号、2011 年) 松井芳郎編『判例国際法〔第 2 版〕』(東信堂、2006 年) 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例 5 0』(三省堂、2010 年)  *その他のものについては講義で適宜紹介する |       |           |
| 教材 (その他)   | 国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。   |       |           |
| 評価方法   | 毎回行う小テスト (40%)、定期試験 (60%)  詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 分権的な国際社会で国際法 (条約や慣習法) がどのように形成されるのか理解する。 2. 国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 3. 分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。   |       |           |
| 準備学習   | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第 1 部 国際法の成立 1. 受講ガイダンス、国際法の法源 2. 国際法の法源 3. 条約法 (1) 一条約の成立 4. 条約法 (2) 一留保 5. 条約法 (3) 一条約の無効など  第 2 部 国際法の適用・実施 6. 国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に 7. 国家責任 (1) ー国家責任の成立 8. 国家責任 (2) ー国家責任の追及 9. 紛争の平和的処理 10. 紛争の司法的解決 (1) ー国際司法裁判所の手続 11. 紛争の司法的解決 (2) ー国際司法裁判所の活動 12. 国際司法裁判所についての DVD 鑑賞 13. 紛争の司法的解決 (3) ー紛争処理の「司法化」 14. 国連の政治的機関による紛争処理 15. まとめ  *進度により若干の変更がありうる |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40060001 |
| 科目名        | 国際法Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Law III  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第1部）、次に平和の維持、人権保障、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第2部）。また、国連の活動に関するDVD鑑賞も予定している。講義では、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 松井芳郎ほか『国際法〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ、2007年）2,000円/毎回、講義レジュメ・資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>【教科書】松井芳郎『国際法から世界を見る〔第3版〕』（東信堂、2011年）浅田正彦編『国際法』（東信堂、2011年）小寺彰ほか編『講義国際法〔第2版〕』（有斐閣、2010年）家正治ほか編『国際機構〔第4版〕』（世界思想社、2009年）杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第4版〕』（有斐閣、2007年）佐藤哲夫『国際機構法』（有斐閣、2005年）</p> <p>   【条約集】松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂）奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣）松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年）杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年）</p> <p>   【判例集】小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第2版〕』（別冊ジュリスト204号、2011年）松井芳郎編『判例国際法〔第2版〕』（東信堂、2006年）杉原高嶺・酒井啓巨編『国際法基本判例50』（三省堂、2010年）</p> <p>   *その他のものについては講義で適宜紹介する</p> |       |           |
| 教材（その他）    | 国連の活動に関するビデオ教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回行う小テスト（40%）、定期試験（60%） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 2. 国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 3. 条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 1. 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。 2. 講義の最後に、次回の予習範囲を明示するので、教科書などの該当箇所を事前に呼んでくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1部 国際社会の組織化と国際機構 1. 受講ガイダンス、国際機構の展開（1）—第二次大戦まで 2. 国際機構の展開（2）—第二次大戦以降 3. 国際機構の設立および組織構造 4. 国際機構の表決手続 5. 国連の活動に関するDVD鑑賞  第2部 国際公益のための国際協力 6. 平和の維持（1）—国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障 7. 平和の維持（2）—国連における武力行使の禁止との集団安全保障 8. 平和の維持（3）—自衛権、国連の平和維持活動 9. 平和の維持（4）—軍縮、国際人道法 10. 国際公域における国際協力 11. 国際人権保障 12. 経済的国際協力 13. 環境保全（1）—展開・基本原則 14. 環境保全（2）—環境条約における履行確保の仕組み 15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40065001 |
| 科目名        | 国際経済法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Economic Law   |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心に国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。  講義では、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、とくに WTO 体制を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法』（有斐閣、2003年） 小室程夫『新版 国際経済法』（東信堂、2007年） 滝川敏明『WTO法 第2版』（三省堂、2010年）  【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集 第2版』（東信堂、2002年）  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 小テスト 60 点（2 回目以降毎回行う）。レポート 40 点。 詳細は初回の講義で説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 2. WTO 体制を中心とした国際貿易の法的枠組みを理解する。 3. 海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞やニュースで頻繁に取り上げられる国際経済問題に日頃から関心を持ち、注意を払うこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 2. 講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 導入部 1. 受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法  第1部 国際貿易と国際法 2. 貿易に関する国際法の展開 3. GATT の成立と展開 4. WTO 体制の成立と概要 5. WTO の紛争解決手続 6. WTO における物品貿易 7. WTO におけるサービス貿易 8. WTO における知的財産権 9. WTO と環境保護 10. WTO と地域経済統合 11. WTO と南北問題  第2部 海外投資および国際金融と国際法 12. 海外投資に関する国際法の展開 13. 投資紛争解決 14. 国際金融に関する国際法の展開 15. IMF・世界銀行の組織構造と活動 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40068A01 |
| 科目名   | 労働法 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Labour Law I   |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という2つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者の基礎的な事項を考察する。  まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題を検討する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』(弘文堂、2011年) 2400円+税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」(有斐閣、2009年) 2476円+税   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』(有斐閣、2012年) 価格未定  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜レジュメを配布する(原則1回のみ)。   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提に、期末の試験(70%)、および、授業内小テスト等(30%)で評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標  | 職場において必要とされる法律知識のうち、本講義ではとくに労働法に焦点を当てて授業を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や情報等を身につけてもらうことが本講義のねらいである。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やTVニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。  第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 労働法の概観(歴史・労働法とは) 第3回 労働法の主体(労働者・使用者・労働組合) 第4回 労働契約と権利・義務 第5回 就業規則(1) 第6回 就業規則(2) 第7回 募集・採用内定 第8回 男女雇用平等 第9回 解雇・労働契約の終了(1) 第10回 解雇・労働契約の終了(2) 第11回 賃金・退職金(1) 第12回 賃金・退職金(2) 第13回 労働時間(1) 第14回 労働時間(2) 第15回 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40068B01 |
| 科目名  | 労働法 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Labour Law II   |       |           |
| 担当者名   | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法 I」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。  法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』(有斐閣、2011年) 2400円+税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」(有斐閣、2009年) 2476円+税  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』(弘文堂、2012年) 価格未定   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜レジュメを配布する (原則1回のみ)。   |       |           |
| 評価方法   | 出席を前提に、期末の試験 (80%) および授業内小テスト等 (20%) で評価する予定である。  |       |           |
| 到達目標   | 社会人として求められる労働法の基礎知識 (とくに労働基準法および労働契約法についての基礎知識) を判例等も踏まえたうえで理解すること。   |       |           |
| 準備学習   | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やTVニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。  第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 配置転換・出向 第3回 時間外労働・休日労働 第4回 年次有給休暇 第5回 派遣労働(1) 第6回 派遣労働(2) 第7回 パートタイム労働 第8回 女性労働・年少労働 第9回 外国人労働 第10回 職場規律・懲戒 第11回 災害補償(1) 第12回 災害補償(2) 第13回 個別的労働関係紛争の解決手続 第14回 最近の個別的労働法をめぐる諸問題 第15回 まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40070001 |
| 科目名        | 社会保障法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Security Law  |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。  それには大きく（1）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金）、（2）社会福祉（老人・児童・障がい者）、（3）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | <p>西村健一郎『社会保障法入門〔補訂版〕』（有斐閣、2010年）1900円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第4版〕」（有斐閣、2008年）2600円＋税</p>   |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001年）3200円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003年）3500円＋税 </p>   |       |           |
| 教材（その他）    | その他の参考文献等については開講時に指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。  |       |           |
| 到達目標       | 社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目についてテキストを通読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにTVニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 社会保障法とは 社会保障法の体系 第3回 医療保険法（1）健康保険法 第4回 医療保険法（2）国民健康保険法 第5回 年金保険法（1）国民年金法 第6回 年金保険法（2）厚生年金保険法 第7回 介護保険法 第8回 授業内小テスト 第9回 労災保険法 第10回 雇用保険法 第11回 児童手当 児童福祉 母子福祉 障がい者福祉  第12回 高齢者福祉 生活保護法 第13回 社会保障法総論 社会保障法の共通事項 憲法と条約 第14回 社会保障法総論 権利救済 第15回 まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40071001 |
| 科目名        | 経済法 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Competition Law I  |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子  | 旧科目名称 | 経済法       |
| 講義概要       | <p>スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。また、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。  この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法[第3版]』(有斐閣) 1995 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『経済法判例・審決百選』(有斐閣) 2940 円 泉水文雄・土佐和生・宮井雅明・林秀弥『経済法』(有斐閣) 2700 円 (外税)  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 1) 平常点 (30%) 出席状況・授業内レポート等  2) 小テスト (70%)  |       |           |
| 到達目標       | 入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、カルテルに関する基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。  各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 市場経済と競争  2. 独占禁止法の目的と全体像  3. 入札談合   4. 独占禁止法のキーワード  6. 不当な取引制限①  7. 不当な取引制限②  8. 不当な取引制限③  9. 小テスト  10. 事業者団体に対する規制  11. 私的独占①  12. 私的独占②  13. 私的独占③  14. エンフォースメント①  15. エンフォースメント②・小テスト   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40076001 |
| 科目名        | 地方自治論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Local Autonomy   |       |           |
| 担当者名       | 長澤 高明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の方途を探るために、基礎的知識を提供することを目的としています。テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。話が抽象的にならないように常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、今の諸君の生活にも密接にかかわる分野であるということをごきちんと理解できる講義にしたいと思っています。新聞記事も題材に取り上げます。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しません。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | そのつど指示しますが、さしあたり、今井照『図解 よくわかる地方自治のしくみ 第3次改訂版』学陽書房、2008。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験50%、レポート50%。 定期試験は、基礎用語の理解と論述問題をくみあわせたもの。 レポートは、2000字程度。テーマは各自が設定する。最終講義時までに担当者に直接手渡すこと。 もちろん講義への積極的な姿勢も加味して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 自分の住んでいる自治体の出している公報を読んで理解できるようになること。また新聞の地方版を読んで理解できるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 毎日、新聞に目を通す習慣をつけ、疑問を感じた事柄を自分で調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 諸君とともに問題を考えながら講義し、時には諸君にマイクを向けることもあるので常に頭をフル回転の状態にしておくこと。また、受講者の人数にもよるが、諸君を複数のグループに分けて討論してもらうこともあるので、積極的に発言すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 地方自治についての私たちの知識と意識の確認。 2 地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3 自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4 自治体の成立過程とその必然性について考える。 5 明治期以降の自治体について。版籍奉還や廃藩置県の意味を再確認する。 6 第二次世界大戦後の自治体について。戦後改革の意味を考える。 7 政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8 政策と手段②：公共事業と政策評価システム。ダム問題や空港問題についても考える。 9 自治体の地域経営と条例。さまざまな条例について紹介する。 10 財務と運営：国税と地方税。直接税と間接税。補助金。 11 直接請求権と常設型住民投票について考える。 12 市民活動とNPOについて考える。 13 地方議会と地方公務員の役割について考える。 14 首長のリーダーシップとは何かについて考える。 15 全般をまとめ、今後何を考えなければならないか、皆で議論する。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40077001 |
| 科目名        | 地方自治法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Local Autonomy Law   |       |           |
| 担当者名       | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 20世紀末以来これまで、数次にわたる「地方分権改革」及び「地域主権改革」が検討・実施されてきた。 他方、地方自治体をめぐる個別的課題は、観光の振興、議会改革、市民参加、さらには地域公共交通の維持確保、公立病院における医師確保の問題など山積している。 この講義では、地方自治法に関する基礎的理解を深めるとともに、亀岡市を中心とした個別・具体的な事例を参考に地方自治の課題を考えていきたい。 亀岡市の職員の方に講義の一部を担当していただくことを予定している。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、講義の際、レジュメ、資料を配付する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じ、講義の際に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）出席状況等による。 授業内レポート（30%） 定期試験は予定していないので必ず出席すること。授業内レポートは全15回のうち11回分の講義で課す予定。   |       |           |
| 到達目標       | 地方自治のしくみを理解するとともに、その現代的課題について認識を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 地方自治に関わる問題に興味を持ち、新聞等のメディアに常日頃から注意を払っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 憲法の各科目は履修すること。行政法の各科目も履修済みか同時に履修していること。六法は必ず持参のこと。 遅刻や私語を厳禁とする。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ※ おおよそ以下のような内容を予定しているが、亀岡市役所との協議の結果等に応じて、テーマを変更する可能性がある。 1 オリエンテーション、地方自治制度（1） 2 地方自治制度（2） 3 地方自治制度（3） 4 議会のしくみと活動について 5 上下水道事業の推進について 6 観光行政について 7 市民協働のまちづくりについて 8 少子化対策・子育て支援について 9 小中学校教育の現状と特色について 10 地域防災について 11 資源循環型まちづくりの推進について 12 地域公共交通について 13 病院経営について 14 亀岡市のまちづくりについて 15 まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40079001 |
| 科目名  | 憲法 I (憲法総論)   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Constitutional Law I (General Part)   |       |           |
| 担当者名   | 三並 敏克   | 旧科目名称 | 憲法総論      |
| 講義概要   | <p>はじめて憲法を体系的に学ぶに当たっては、その前提として、「憲法の学び方」はもとよりのこと、「憲法」の概念や「憲法の解釈」といった憲法総論上の基本問題を概観しておく必要がある。通例、憲法総論としては、以上のような「憲法の理解」にかかわる問題のほかに、憲法の法源、憲法の変動などを概観するのが普通であるが、本講義では、講義時間の関係上、日本国憲法との関連でそれらを適宜触れるにとどめておく。</p> <p>日本国憲法総論としては、まず日本国憲法の歴史的意味・位置を明らかにするために「日本の憲法の歴史」を概観することにし、次いで、日本国憲法の基本原理と特徴（象徴天皇制や戦争放棄など）を述べることにする。その上で、憲法講義を受ける者ならば当然に履修すべきものとして設けられている憲法Ⅱ（基本的人権）・憲法Ⅲ（統治機構）・憲法Ⅳ（憲法訴訟）の科目との関連で、これらを受講する者の前提作業として、それぞれについて学習しておくべき基本的な事項を憲法Ⅰで概説的・総論的に講義しておくこととしよう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 小林武・三並敏克編『いま日本国憲法は〔第5版〕』（法律文化社、2011年）   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による(レジュメの肉付けしたものを講義終了時に提出してもらおう場合もあるあるし、小テストも何回か行う)。定期テスト (60%)。   |       |           |
| 到達目標   | 憲法の基礎知識を習得し、特にそれぞれの項目の基本原則について、各自が基本的に理解できるようにすることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 今日における憲法問題を常に意識し、特に新聞、テレビなどで報道される憲法問題をメモしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもとよりのこと、積極的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| ① 憲法とはな何か (憲法の内容・本質・特質)   ② 日本の憲法の歴史   ③ 平和主義と平和的生存権   ④ 象徴天皇制   ⑤ 人権の憲法的保障の意味と範囲   ⑥ 精神的自由権——なぜ表現の自由は優越的地位をもつか   ⑦ 経済的自由権——近代の経済的自由権と現代の経済的自由権   ⑧ 身体的自由権——適正手続の保障   ⑨ 社会権   ⑩ 政治参加の権利   ⑪ 国会——その性格と地位   ⑫ 内閣——内閣の地位と組織   ⑬ 裁判所——裁判を受ける権利と裁判所   ⑭ 財政の基本原則並びに地方自治の基本原則   ⑮ 憲法改正と憲法尊重擁護義務 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40081001 |
| 科目名  | 憲法Ⅱ（基本的人権）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Constitutional Law II (Fundamental Human Rights)   |       |           |
| 担当者名   | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>憲法Ⅱでは基本的人権、特に日本国憲法の下での基本的人権を巡る問題を中心に扱う。まず、人権の憲法的保障の意味、人権の体系論、人権の主体論、人権規定の効力論（人権の私人間効力論のほか、いわゆる「特別権力関係理論」や部分社会の法理）、人権の限界論（「人権と公共の福祉」論）といった人権総論的問題を比較的詳しく講義した上で、人権各論として、包括的人権、平等権、精神的自由権、身体的自由権、経済的自由権、社会権、選挙権・被選挙権、受益権という順序で、しかも各項目に微細に立ち入って講義するのは時間の関係から無理なことから、できるだけ重要論点や最近の問題を指摘・検討・フォローするという形で講義する予定である。但し、その場合でも、余り深く立ち入ると学生に理解困難なことも予想されることから、むしろ講義内容を理解してもらうということの方に力点を置いた講義となるよう、資料配布なども含めて色々工夫したいと思っている。  なお、憲法の人権規定の解釈を巡っては、これまでに無数と言ってよいほどの判例・学説の蓄積があるが、特に法実務における「生きた憲法」を知るためには、人権判例の学習も不可欠であることから、本講義では、人権判例にできるだけ焦点を当てることにも心掛けたいと思っている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小林武・三並敏克編『いま日本国憲法は〔第5版〕』（法律文化社、2011年）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40％）出席状況等による（レジュメの肉付けしたものを講義の終了時に提出してもらった場合もあるし、何回か小テストも行う）。定期テスト(60％)。  |       |           |
| 到達目標   | 人権の観念・新しい人権など基本的人権の総論問題についてより一層の理解を深め、日本国憲法の下で、自由権・平等権をはじめ各種人権が今日抱えている問題の所在と今後の議論の行方について理解し、学生自身も意見をもつことができるようにしたい。  |       |           |
| 準備学習   | 今日における人権問題を常に意識し、特に新聞・テレビ等で報道される人権問題のメモ等しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもよりのこと、能動的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。図書館も大いに利用してもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| ① 人権の体系論と新しい人権 ② 人権は誰のものか（人権の主体論） ③ 人権規定の効力論(人権規定の私人間効力といわれる特別権力関係における人権規定の効力) ④ 人権の限界論(公共の福祉論など) ⑤ 法の下での平等と合理的差別 ⑥ 思想・良心の自由、学問の自由 ⑦ 信教の自由・政教分離原則 ⑧ いま表現の自由が危ない ⑨ 経済的自由権(その1)——居住移転の自由・職業選択の自由 ⑩ 経済的自由権(その2)——財産権の保障 ⑪ 身体的自由権——加害者の人権と被害者の人権 ⑫ 社会権(その1)——老人の人権、環境権、教育を受ける権利 ⑬ 社会権(その2)——勤労の権利、労働基本権 ⑭ 選挙権と被選挙権 ⑮ 受益権 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40082001 |
| 科目名   | 憲法Ⅲ（統治機構）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Constitutional Law III (Frame of Government)   |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>憲法Ⅲでは、日本国憲法下の統治機構論を中心に学習する。この憲法Ⅲを受講するに当たって、次の二点に留意してもらいたい。  第一は、人権保障と統治機構の関係が目的と手段の関係にあるということである。そこにまた統治機構の存在理由があるわけである。しかし、その現実態から見れば、むしろパラドクシカルな局面が眼につく。それだけに、あえて人権と統治機構の相互関係のあり方については、本来のあるべき姿に焦点を当てて検討しておく必要がある。  第二は、日本国憲法が採用する統治機構の構成原理を歴史的・原理的に考察し、それを踏まえて現実の統治機構の諸問題に接近するということである。近代憲法の統治機構の構成原理として一般に指摘される「国民主権」「権力分立」「法の支配」など、各々がいかなる歴史的背景と意義をもって登場し、矛盾を孕みつつ現代に至っているか、そして、日本国憲法がこれらの原理に支えられたどのような諸制度を採用し、それらをどのように組み合わせて全体の統治機構を構成しているか、といった歴史的、原理的考察視角を重視したい。  なお、講義は、講義時間の関係から、日本国憲法の下での統治機構各論を微細に立ち入って検討する余裕がないと思われるので、重要論点や最近の問題を指摘・検討・フォローという形で進めて行くことになる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利＝著『憲法Ⅱ（第4版）』（有斐閣、2006年）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40％）出席状況等による（レジュメの内付けしたものを講義の終了時に提出してもらった場合もあるし、小テストを何回か行う）。定期テスト（60％）を考えているが、受講人数によっては、レポート試験に替えることもある。   |       |           |
| 到達目標  | 日本国憲法下の統治機構について、その構成原理のより一層の理解を深め、国会、内閣、裁判所、財政、地方自治に関する基礎的知識を踏まえた上で、特に今日における問題の所在や議論の行方についてもより一層の理解を深めるようにする。  |       |           |
| 準備学習  | この講義が同時代的なものであることを理解するためにも、今日における統治機構の問題を常に意識し、特に新聞・テレビ等で報じられている統治機構問題をメモしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもとよりのこと、能動的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ① 統治機構の構成原理（その1）——なぜ「国民主権」なのか ② 統治機構の構成原理（その2）——なぜ「権力分立」・「法の支配」なの ③ 国会の唯一立法機関として地位と立法の意味 ④ 国会の構成——二院制(両院制) ⑤ 国会の活動 ⑥ 国会の権限と国会議員の地位・権能 ⑦ 議院の権限（国政調査権、議院規則制定権、懲罰権など） ⑧ 議院内閣制と政党 ⑨ 内閣総理大臣の権能 ⑩ 内閣の権限と責任 ⑪ 司法権と司法審査 ⑫ 司法権の独立 ⑬ 裁判所の構成・権能 ⑭ 財政——財政監督の方式(予算・予備費・決算・財政状況の報告など) ⑮ 地方自治——地方公共団体の種類・組織・権能と住民の権利 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40083001 |
| 科目名        | 憲法Ⅳ（憲法訴訟）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Constitutional Law IV (Constitutional Litigations)   |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>憲法Ⅳでは、憲法訴訟論を中心に学習する。もっとも、憲法訴訟論の範囲に関して必ずしも確固とした共通理解があるわけではない。例えば、憲法問題が提起される固有の手続等を対象とする「狭義の憲法訴訟論」が展開されたり、憲法問題が提起される固有の手続等と言っても、その母体たる司法権とは何かという問題と切り離し難く、その意味で司法権と密接な、或いは不可分なものとして考えて行く必要があるとするアプローチをとる「広義の憲法訴訟論」が展開されたり、これに違憲審査基準論もプラスして、実体的なものも直接視野に入れながら、それらとのからみで憲法判断のあり方とか手順とかを広く考察して行こうとするアプローチをとる「最広義の憲法訴訟論」が展開されたりしているのも、まさにそうした事情を物語っている。しかし、本講義では、わが国においても種々の社会問題、政治問題が、憲法訴訟の形で争われてきていること、しかもそれらは裸の対立の場ではなく、司法過程において訴訟の形で、司法権、違憲審査権等といった法の世界に固有の概念の了解の下で展開されていることを忘れないためにも、憲法訴訟論の射程を最広義に捉えて講義しておくことが肝要であると考えている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利＝著『憲法Ⅱ（第4版）』（有斐閣、2006年）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等による（ここではレジュメを肉付けしたものの提出で評価する場合もあるし、小テストを何回か行う）。定期テスト（60％）を考えているが、受講人数によっては、レポート試験に替えることもある。   |       |           |
| 到達目標       | 憲法訴訟についての基礎的な知識と現在の論点を理解できるようにする。問題の所在や議論の行方を知ることにより、自分自身の考えをまとめるなどして、来るべきレポート試験に対応する能力をも身につけてもらう。   |       |           |
| 準備学習       | この講義が同時代的なものであることを理解してもらうためにも、新聞、テレビ等で報道される憲法訴訟の記事を常にフォローし、それらを自分なりにメモしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語を厳禁することはもよりのこと、能動的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。図書館の方も大いに利用してもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ① 憲法Ⅳを学ぶに当たって ② 司法改革と憲法・訴訟法・弁護士法との関係 ③ 違憲審査制の意義と性格 ④ 違憲審査権の主体と対象 ⑤ 憲法訴訟論の流行・効用・限界 ⑥ 憲法訴訟の意義とあり方 ⑦ 憲法訴訟の要件（前提としての訴訟要件） ⑧ 違憲主張の当事者適格と手続 ⑨ 違憲審査の方法 ⑩ 違憲審査の基準（その1） ⑪ 違憲審査の基準（その2） ⑫ 憲法判断の方法 ⑬ 違憲判決の効力 ⑭ 憲法判例とその拘束力 ⑮ 憲法裁判所の導入！？  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40085001 |
| 科目名   | 行政法Ⅰ（総論）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Administrative Law I (Introduction)  |       |           |
| 担当者名  | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の3つの講義で構成される。本講義では、行政法総論のうち、行政法の基本原理と、行政組織法のうち、行政組織の基本概念などを、そのほか、行政作用法の一部も扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 櫻井敬子・橋本博之『行政法 [第3版]』弘文堂  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 定期試験 60% 授業内テスト 20% 平常点（20%）出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標  | 行政法の基礎、行政法の基本原理を習得し、行政組織法と行政手続、情報公開、個人情報保護の分野の概要を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 次週の講義テーマについて、必ず教科書を読む。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 行政法の学び方   2. 行政法の基礎－行政の概念・公法と私法   3. 法律による行政の原理   4. 行政の一般原則   5. 行政上の法律関係   6. 行政組織法の基本原理   7. 国の行政組織   8. 地方の行政組織   9. 中間まとめ   10. 行政手続<br>①   11. 行政手続 ②   12. 情報公開 ①   13. 情報公開 ②   14. 個人情報保護   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40088001 |
| 科目名        | 行政法Ⅲ（救済法）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Law III (Remedies)   |       |           |
| 担当者名       | 小林 明夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合、どのような救済手段があるのかを探る。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井敬子・橋本博之『行政法』[第3版]（弘文堂、2011年）3,465円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験（論述式）による。   |       |           |
| 到達目標       | 国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 行政法Ⅰ・Ⅱで学習する基本的な概念（行政主体、行政庁、行政行為、公定力、不可争力など）をきちんと理解しておくこと。 ※ 行政救済法の学習・理解には、このような「基本的な概念」が理解できていることがその前提となる。そのため本講義開講初回ないしその近辺において、その理解度を問う小テストを実施する予定である。  |       |           |
| 受講者への要望    | 行政法Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。 私語を厳禁とする。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ※ 内容・順序は多少変更の可能性がある。 1. オリエンテーション、行政救済法の体系、損失補償制度 2. 国家賠償制度（1） 3. 国家賠償制度（2） 4. 国家賠償制度（3） 5. 国家賠償制度（4）、国家補償法におけるその他の問題  6. 行政不服申立て（1） 7. 行政不服申立て（2） 8. 行政不服申立て（3） 9. その他の行政上の救済制度 10. 行政事件訴訟概観、行政事件訴訟の種類、当事者訴訟、客観訴訟 11. 取消訴訟の訴訟要件（1） 12. 取消訴訟の訴訟要件（2） 13. 取消訴訟の訴訟要件（3） 14. 取消訴訟の審理・判決など 15. その他の抗告訴訟 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40090001 |
| 科目名        | 民法 I (総則)   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Civil Law I (General Provisions)  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民法総則に規定されている主要な制度について、現在社会の実際面での役割を確認するという作業を、講義を通じて追及していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 永田眞三郎・松本恒雄・松岡久和「民法入門・総則 エッセンシャル民法1 [第4版]」(有斐閣双書ブックス)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 佐久間毅「民法の基礎1 総則[第3版]」(有斐閣)  佐久間毅・石田剛・山下純司・原田昌和「民法 I 総則」(有斐閣 Legal Quest)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義用レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ・小テスト(5回程度実施、40%)  ・レポート(2回程度実施、20%)  ・定期試験(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 1 「民法総則」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文・判例を立体的に理解する。  2 民法総則の中の各制度が実際界においてどのような使われ方をしているかを知る。  3 各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。 |       |           |
| 準備学習       | 講義用レジュメは15回分をまとめて配布するので、各回の講義の概要程度は予習しておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

民法入門の次に学ぶ科目として位置づけられている。また、他の民法科目を学ぶにあたって、民法総則の十分な理解が要求される場合が多い。したがって、講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。| 教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。|

#### 講義の順序とポイント

1 民法とは何か(民法のシステム・民法の基本原則・民法の適用範囲)| 2 私権・私権行使についての原則| 3 権利者や義務者としての「人」-権利能力| 4 取引行為者としての「人」-意思能力と行為能力/行為能力の制限| 5 法人| 6 法律行為と意思表示との関係/意思表示の到達と受領| 7 不完全な意思表示(1)(心裡留保・虚偽表示・錯誤)| 8 不完全な意思表示(2)(詐欺・強迫)| 9 法律行為の自由と制約(強行法規違反・公序良俗違反)| 10 無効と取消し| 11 条件・期限・期間| 12 代理(1)(代理権の基本的仕組みと機能・代理権・代理行為)| 13 代理(2)(無権代理)| 14 代理(3)(表見代理)| 15 時効|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40091001 |
| 科目名   | 民法Ⅱ（物権法）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Civil Law II (Law of Real Estates)   |       |           |
| 担当者名  | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代の物権法の全般を対象にする。物権法の基礎知識として、物権の意義、物権の性質、物権法定主義、民法上の物権、慣習法上の物権につき、その概要を講義する。 次に、物権の効力、物権の変動（物権変動の公示と公信、物権変動の一般理論、不動産の物権変動、動産の物権変動）、所有権（所有権の内容、所有権の取得、共有、建物区分所有権）、用益物権、占有権等につき講義する。担保物権法との関係についても触れる。 最後にまとめを行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 近江幸治・民法講義Ⅱ 物権法（第3版）（成文堂、2006年）、初日にプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%)出席状況等による。定期テスト(80%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会で行われている物権法の知識を有して、その活用方法を習得する。土地に関する諸施策や不動産鑑定評価との関連知識、土地に関する総合的な情報提供などの問題についても基礎知識を得ることを目標に加える。土地私法学の観点からも注意を払ってほしい。   |       |           |
| 準備学習  | 民法総則の教材を読み直しておくこと。 教科書の緒言（はしがき）を読んでおくこと。 法律学小辞典（第4版補訂版）を活用して民事法に関する項目のうち、民法総則、物権法に関するものにつき、簡単に目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 初日に講義方針を説明する。初日の欠席者につき減点するので注意のこと。 遅刻は時には思わぬ迷惑となりかねないことを留意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ①物権制度総説  ②物権法定主義  ③物権の本質  ④物権の客体  ⑤物権の優先的効力  ⑥物上請求権  ⑦物権の変動 ----公示と公信 ⑧不動産の物権変動  ⑨動産の物権変動  ⑩占有権  ⑪所有権  ⑫共有、建物区分所有  ⑬用益物権  ⑭担保物権  ⑮まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40093001 |
| 科目名        | ドイツ中近世の文学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | German Literature (The Early Modern Age)  |       |           |
| 担当者名       | 奥村 哲夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ドイツ文学史上における頂点の一つである12、13世紀の中世封建期の文学から、更にもう一つの頂点をなす古典主義文学及びその後に花咲いたロマン主義期の文学までを取り上げる。時代をあまりに丹念に追って数多くを網羅することなく、言わば点描的に紹介する。  封建期の文学としては、騎士階級の詩人に担われた宮廷文学、即ち、英雄叙事詩と恋愛詩をとりあげ、それ以降は主に古典主義とロマン主義のものを重点的にとりあげる。  それぞれの時期、時代を代表する作家とその作品を出来るだけ具体的に考察する。精彩ある文学表現の妙を味わうべく、各個別にその作品の何節かを抜粋し、鑑賞と思考の材料を提供していく。   </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 手塚富雄著 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 660円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 折にふれ紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜,プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験レポート(60%) 授業内レポート・テスト(20%) その他、出席しての意見発表等も加点。以上はさほど厳密なものではない。   |       |           |
| 到達目標       | 詩や小説や戯曲の面白さを知り、言語表現への豊かな感性を磨くこと。  |       |           |
| 準備学習       | 第一に、テキストにとりあげられる章を毎回読んでくること。第二に、そのなかのいくつかの作品を折々読むようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 詩、小説、物語等を愛好する受講生を歓迎する。堅苦しくかまえず、気楽に自由な発言ができる場を共に創り出そう。意欲的に取り組んでくれることを願っている。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(都合により、一部変更もありうる。)  1. 序論 文学とは何か。ドイツ文学とは?  2. 中世期 : 作者不詳 『ニーベルンゲンの歌』  3. 中世期 : ヴォルフラム 『パルチファル』  4. 中世期 : ゴットフリート 『トリスタン』 ヴァルター 『ミネザング』  5. 啓蒙主義期 : レッシング 『賢者ナータン』他  6. 疾風怒涛期 : ゲーテ 『ウェルテル』  7. 疾風怒涛期 : シラー 『群盗』   8. 古典主義期 : ゲーテ 『ファウスト』他  9. 古典主義期 : シラー 『ウィリアム・テル』他  10. ロマン主義期 : 前期ロマン派 ノヴァーリス 『青い花』他  11. ロマン主義期 : 後期ロマン派 ホフマン 『悪魔の霊液』他  12. 流派を超えた作家 : クライスト 『ペンテシレイア』  13. 流派を超えた作家 : ジャン・パウル 『長靴をはいた牡猫』  14. 授業内レポート作成   15. レポート講評及び授業総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40094A01 |
| 科目名        | 法制史 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Legal History I  |       |           |
| 担当者名       | 小宮山 直子   | 旧科目名称 | 法制史 s     |
| 講義概要       | この授業では、中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について概観します。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法は明治以降の近代日本法に大きな影響を与えたとされていますが、そのことを念頭におきつつ、ヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて学んでいきます。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』(ナカニシヤ出版) その他は、講義の中で適宜紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験80%、平常点(レポートなどの課題)20%  |       |           |
| 到達目標       | ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得することを目的とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回講義への準備学習を指示します。   |       |           |
| 受講者への要望    | 2～3回に1度の割合で、授業内レポートなどの課題を実施する予定です。 教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 ガイダンス 第2回 中世の社会と法 第3回 中世都市と法 第4回 キリスト教と法 第5回 近世の社会と法① 第6回 近世の社会と法②(魔女裁判) 第7回 フランス革命①(旧制度の解体、裁判制度の改革) 第8回 フランス革命②(民法典の成立等) 第9回 19世紀におけるフランスの社会と近代法① 第10回 19世紀におけるフランスの社会と近代法② 第11回 19世紀におけるドイツの社会と近代法① 第12回 19世紀におけるドイツの社会と近代法② 第13回 フランス・ドイツの戦間期の法 第14回 戦後のヨーロッパの社会と法(EUの成立) 第15回 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40094B01 |
| 科目名        | 法制史 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Legal History II   |       |           |
| 担当者名       | 小宮山 直子   | 旧科目名称 | 法制史 f     |
| 講義概要       | この授業の前半では、中世以降のヨーロッパ社会の展開を踏まえつつ、ヨーロッパにおける近代法と「法学」の発展を中心に学びます。特に日本近代法に大きな影響を与えたフランス及びドイツの「法学」の歴史に重点を置きます。また、後半は、ヨーロッパ法からの影響を考えつつ、日本における近代法形成の歴史について考察します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』(ナカニシヤ出版) その他は、講義の中で随時紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験80%、平常点(授業内の小レポートなど)20%  |       |           |
| 到達目標       | ヨーロッパ(ドイツ・フランス)の近代法学、及び日本における近代法の歴史について基礎的な知識を習得することを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回講義への準備学習を指示します。   |       |           |

受講者への要望

2～3回に1度の割合で、授業内レポートなどの課題を実施する予定です。|春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第1回 ガイダンス|第2回 中世における大学の成立と法学の発展・ローマ法の継受|第3回 フランスのアンシャン・レジーム期における法学|第4回 フランス革命と法|第5回 フランス民法典の成立と影響|第6回 19世紀フランスの法学|第7回 19世紀ドイツの法学(歴史法学・ドイツ民法典)|第8回 20世紀フランス・ドイツの法学|第9回 明治維新・日本における近代法の継受|第10回 明治期・日本近代法の形成①(憲法)|第11回 明治期・日本近代法の形成②(民法)|第13回 明治期・日本近代法の形成③(刑法)|第14回 明治期・日本近代法の形成④(司法制度の整備)|第15回 全体のまとめ|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4009700A |
| 科目名        | 刑事法入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Criminal Law   |       |           |
| 担当者名       | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本学部には、「刑法」、「刑事訴訟法」、「犯罪学」という科目がある。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。刑事法の内容は、犯罪と刑罰に関する法、およびそれと密接に関連する学問分野である。この講義では、刑事法ではどのようなことが問題になるかを具体例を挙げつつ示すことにより、刑事法への関心を高め、全体の見取り図を得ることを目的とする。 刑事法では刑罰という制裁が問題になることが、他の法分野と違っている。そこで、まず刑罰についての理解を深めることにする。つづいて「刑法」の基本原則や典型的な課題について説明する。さらに刑法に書かれていることを実現するための手続を定める「刑事訴訟法」について述べる。その際刑事手続に関わる人々を紹介していく。最後に、犯罪および少年非行の現状や対策について紹介する。 刑事法への関心を高めるため、最近の事件や話題にもできるだけ言及していきたい。</p>                   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | その都度レジュメを配布する。 毎回六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験の成績（60%）と授業内の小テスト（40%）を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | <p>1. 刑事法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、犯罪や刑罰への関心を高める。 2. 刑罰制度や犯罪動向ならびに刑事手続の現状と問題点について、基本的な知識を身につける。 3. 刑法、刑事訴訟法、犯罪学の基本的な考え方に触れ、刑法のしくみやはたらき、刑事訴訟法の流れなどを大まかに理解する。</p>   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から犯罪と刑罰に関する報道に関心を持ち、出版物などにもできるだけ接してほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>授業には、やむを得ない場合以外、出席してほしい。 授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてほしい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 刑事法とは何か - 刑法、刑事訴訟法、犯罪学 2. さまざまな刑罰（その1） - 死刑と財産刑 3. さまざまな刑罰（その2） - 自由刑と刑罰を回避する制度 4. さまざまな犯罪（その1） - どのような行為が犯罪とされているか 5. さまざまな犯罪（その2） - 刑法の基本原則 6. 刑法の典型的課題（その1） - 安楽死と尊厳死 7. 刑法の典型的問題（その2） - 脳死と臓器移植 8. 刑事法に関係する人々（その1） - 裁判官、検察官、弁護士 9. 刑事法に関係する人々（その2） - 警察官、一般の人々 10. 刑事手続の流れ（その1） - 犯罪捜査 11. 刑事手続の流れ（その2） - 公訴の提起と公判手続 12. 裁判員制度 - 裁判員裁判によって刑事裁判はどのように変わったか 13. 犯罪の要因と対策 - 犯罪学の成果 14. 少年非行と少年法のゆくえ - 少年非行の現状と少年法の動向 15. まとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40099A01 |
| 科目名        | 法曹特別研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Legal Profession Examinations A  |       |           |
| 担当者名       | 原 弘明   | 旧科目名称 | 法曹研究 A    |
| 講義概要       | 2011 年度より、法曹となるための最終試験は、司法試験に一本化される。司法試験の受験資格を得るためには、予備試験に合格しない限り、法科大学院を修了する必要がある。法科大学院入学試験に際して課される共通試験が、いわゆる適性試験である。 本講義は、適性試験に必要な論理・分析・読解力を養い、実際に問題に解答できる能力を養成することを目的とする、演習時間を含む講義科目である。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適性試験委員会編『2010 年法科大学院統一適性試験ガイドブック』(商事法務、2010 年) ※現時点ではこの書籍が最新版であるが、改訂の場合は最新版を使用する。絶版の場合は適宜対応する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に随時指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 随時、プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 1. 2 回行う試験の成績(各 40%・計 80%) 2. 平常点(20%)出席状況・授業参加度などから判断する。  |       |           |
| 到達目標       | 法科大学院適性試験を、独力で時間内に高成績をとれる基礎能力を得る。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に、日弁連法務研究財団ウェブサイト{ <a href="http://www.jlf.or.jp/index.php">http://www.jlf.or.jp/index.php</a> }で、試験問題などを見ておくこと。可能であれば、1 回分を時間を計って解いてみてほしい。  |       |           |

#### 受講者への要望

1. 本講義は、法科大学院適性試験向けの演習講義であって、進学希望者以外の受講を前提としていない。また、法科大学院修了者の司法試験合格率は低迷しており(2 割~3 割程度)、法科大学院を取り巻く環境はきわめて厳しくなっている。受講希望者は、漠然とロースクールに行きたいと思うのではなく、現状をよく理解した上で受講して欲しい。|2. 特に論理・分析力問題の解答に際しては、メモ用紙が大量に必要となるので、ルーズリーフなどを毎回持参すること。|3. 法曹特別研究 B を履修することが望ましい。継続受講を前提として内容を編成している。

#### 講義の順序とポイント

1. ガイダンス--学習内容のあらまし|2. 論理的思考方法(講義)--逆・裏・対偶、論理式|3. 論理的判断力(1)問題演習・講義|4. 論理的判断力(2)問題演習・講義|5. 論理的判断力(3)問題演習・講義|6. 論理的判断力(4)問題演習・講義|7. 論理的判断力(5)問題演習・講義|8. 試験(論理的判断力パート)|9. 分析的把握の思考方法(講義)--表・樹形図による分析|10. 分析的判断力(1)問題演習・講義|11. 分析的判断力(2)問題演習・講義|12. 分析的判断力(3)問題演習・講義|13. 分析的判断力(4)問題演習・講義|14. 分析的判断力(5)問題演習・講義|15. 試験(分析的判断力パート)

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40099B01 |
| 科目名        | 法曹特別研究 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Legal Profession Examinations B  |       |           |
| 担当者名       | 原 弘明   | 旧科目名称 | 法曹研究 B    |
| 講義概要       | 2011 年度より、法曹となるための最終試験は、司法試験に一本化される。司法試験の受験資格を得るためには、予備試験に合格しない限り、法科大学院を修了する必要がある。法科大学院入学試験に際して課される共通試験が、いわゆる適性試験である。 本講義は、適性試験に必要な論理・分析・読解力を養い、実際に問題に解答できる能力を養成することを目的とする、演習時間を含む講義科目である。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適性試験委員会編『2010 年法科大学院統一適性試験ガイドブック』(商事法務、2010 年) ※現時点ではこの書籍が最新版であるが、改訂の場合は最新版を使用する。絶版の場合は適宜対応する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に随時指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 随時、プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 1. 2 回行う試験の成績(各 40%・計 80%) 2. 平常点(20%)出席状況・授業参加度などから判断する。  |       |           |
| 到達目標       | 法科大学院適性試験を、独力で時間内に高成績をとれる基礎能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に、日弁連法務研究財団ウェブサイト{ <a href="http://www.jlf.or.jp/index.php">http://www.jlf.or.jp/index.php</a> }で、試験問題などを見ておくこと。可能であれば、1 回分を時間を計って解いてみてほしい。  |       |           |

#### 受講者への要望

1. 本講義は、法科大学院適性試験向けの演習講義であって、進学希望者以外の受講を前提としていない。また、法科大学院修了者の司法試験合格率は低迷しており(2 割~3 割程度)、法科大学院を取り巻く環境はきわめて厳しくなっている。受講希望者は、漠然とロースクールに行きたいと思うのではなく、現状をよく理解した上で受講して欲しい。|2. 特に論理・分析力問題の解答に際しては、メモ用紙が大量に必要となるので、ルーズリーフなどを毎回持参すること。|3. 法曹特別研究 A を履修済みであることが望ましい。継続受講を前提として内容を編成している。

#### 講義の順序とポイント

1. ガイダンス--学習内容のあらまし|2. 長文読解の方法(講義)--論理的文章の理解|3. 長文読解力(1)問題演習・講義|4. 長文読解力(2)問題演習・講義|5. 長文読解力(3)問題演習・講義|6. 長文読解力(4)問題演習・講義|7. 長文読解力(5)問題演習・講義|8. 試験(長文読解力パート)|9. 本試験過去問演習(論理的判断力 1)問題演習・講義|10. 本試験過去問演習(論理的判断力 2)問題演習・講義|11. 本試験過去問演習(分析的判断力 1)問題演習・講義|12. 本試験過去問演習(分析的判断力 2)問題演習・講義|13. 本試験過去問演習(長文読解力 1)問題演習・講義|14. 本試験過去問演習(長文読解力 2)問題演習・講義|15. 試験(全パートを通じた内容)

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4010100A |
| 科目名        | ケーススタディ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Case Study Seminar   |       |           |
| 担当者名       | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 憲法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例批評の基礎を学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。 報告（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 判例の原文を読み込むことができるようにすることと、判例解説・判例批評の基礎が理解できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | 報告があった場合は、その準備をすることと。事前に配られた資料を読む。   |       |           |
| 受講者への要望    | 憲法の講義科目の履修が望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション 判例の調べ方  2. 報告分担 レジユメの作成方法 報告の仕方  3. マクリーン事件  4. 三菱樹脂事件  5. 猿払事件  6. 宴のあと事件  7. 尊属殺重罰規定事件  8. 津地鎮祭事件  9. チャタレー事件  10. 博多駅事件  11. 薬局距離制限事件  12. 東大ポポロ事件  13. 朝日訴訟  14. 旭川学力テスト事件  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4010100B |
| 科目名        | ケーススタディ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Case Study Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「刑法の基本判例」 本ケーススタディーでは、講義で学んだことをベースにして、刑法の基本問題を具体的事例や判例を題材によりしっかりと理解することを目指す。授業は、担当教員の提示する教材を読み、それに付けられた設問に答えることによって進行する。最後にはグループ報告も予定している。 なお、警察や消防の任務や活動について認識を深めるような企画も実施していきたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | その都度紹介する  |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配付する。 六法を毎回持参すること。   |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加度（発言等）70%、レポート 30%  |       |           |
| 到達目標       | 1. 具体的事例を通じて、法的問題解決の方法について理解を高める。 2. 資料を読みこなし、問題整理力をつける。 3. 自分の考えを他人に伝える力をつける。 4. 文章表現力を向上させる。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に資料を読み、わからないことは調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ケーススタディの目標はすべてのクラスで共通であるが、本ケーススタディでは刑法を素材とする。 警察・消防コース生のためだけの授業ではないが、受講希望者が多数の場合は、同コースの学生を優先することを了承されたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 2011年度の進行は、おおよそ次の通りであった。新しい判例の登場や、受講生の理解度によって変更することがあることをあらかじめ了承されたい。 1. 開講に当たって 2. 窃盗罪における「占有」の概念（その1） 3. 窃盗罪における占有の概念（その2） 4. 窃盗罪における占有の概念（その3） 5. 建造物の一体性（その1） 6. 建造物の一体性（その2） 7. 建造物の一体性（その3） 8. 傷害の概念（その1） 9. 傷害の概念（その2） 10. 刑法解釈の厳格性（その1） 11. 刑法解釈の厳格性（その2） 12. 刑法解釈の厳格性（その3） 13. グループ報告第1回 14. グループ報告第2回 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4010100C |
| 科目名  | ケーススタディ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Case Study Seminar  |       |           |
| 担当者名   | 三並 敏克   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>このケーススタディでは、「人権の私人間効力」という特定の人権総論的な問題に絞って、わが国の判例がどのように展開してきたかをつぶさに検討する。そのことがケーススタディという科目の有用な学習方法ではないかと思われるからである。この憲法論点が学説でいくら理論武装されても、それが裁判の場で耐え得る有用な実践的理論としての内容がなければ、それは単なる理論の表明ないし自己主張の開陳に終わってしまいかねない。そうならないためには、最高裁判所の判例はもとより、下級審判例も含めて、戦後から今日に至るまでの私人間効力関連の判例を取り上げて、裁判実務の理論の実像を明にしておくことが、不可欠の作業として求められよう。  ここに本ケーススタディの狙いがあるわけであるが、わが国憲法施行後 64 年目に入るといって長いスパンの中で、しかも下級審判例まで取り上げるとなると、その数は実は無数といつてよいほど多く、当然の事ながら、このケーススタディにおいて網羅的に検討する時間的余裕は全く無いといわざるを得ない。それ故、ここでは、私人間効力が議論の対象となると思われる人権、或いは学説でもよく取り上げられる事例・判例に焦点を当てながら、しかも、それらが多様な私人相互関係において問題となり得ることからして、下記の如く、多少とも分類・整理した形で事例・判例を取り上げる、というスタイルでもって私人間効力判例の検討を進めることとしよう。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に決めることはしなが、その代わりこれまでの私人間効力判例の一覧表を資料として配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 私人間効力判例に関する参考文献の一覧表を開講時に配布する予定。   |       |           |
| 評価方法   | レジュメを含めた報告内容（30%）、討論参加・出席などの状況（30%）、単位論文提出(40%)で総合評価する。   |       |           |
| 到達目標   | このケーススタディの受講を通して判例学習の妙味と実務での「生きた人権」を知ってもらおうと同時に、諸学説で展開されている人権理論とのバラリーガルな学習を身をもって体験してもらおう。そうした作業を通して、もちろん批判的に洞察する能力・学力が身につけばと願ったりもしている。  |       |           |
| 準備学習   | 「人権の私人間効力」に関する著書はこれまで多数刊行されているが、その内どれか一つ選んで読んでおくこと。この問題に関する新聞記事の切り抜き・インターネット利用なども常日頃から心掛けて、自ら積極的に学習準備しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| このケーススタディが「沈黙の会」にならないためにも、諸君の活発な質問・討論が行われることを切に望む。当然の事ながら、図書館を大いに利用し、予備的学習をしておくことが不可欠の作業となる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>① 序 講——報告テーマを選定など ② 判例学習の方法 ③ 自由権的基本の私人間効力に関するリーディング・ケース——三菱樹脂事件最高裁判決 ④ 企業と労働者との関係で労働者の思想信条の自由が争われた事例——三菱樹脂事件最高裁判決・高裁判決 ⑤ 企業と労働者との関係で男女差別定年制が争われた事例——日産自動車男女差別定年制事件最高裁判決 ⑥ 会社と株主との関係で株主の思想信条の自由が争われた事例——八幡製鉄政治献金事件最高裁判決 ⑦ 強制加入団体と構成員との関係で構成員の思想信条の自由が争われた事例——南九州税理士会事件献金事件最高裁判決 ⑧ 労働組合と組合員との関係で統制権や立候補の自由が争われた事例——三井美咲労組事件最高裁判決 ⑨ 私立大学と学生との関係で学生の政治活動の自由が争われた事例——昭和女子大事件最高裁判決 ⑩ 私立学校と生徒との関係で生徒の自己決定権が争われた事例——修徳高校パーマ退学訴訟最高裁判決 ⑪ 病院と患者との関係で患者の信仰の自由や自己決定権が争われた事例——「エホバの証人」輸血拒否事件最高裁判決 ⑫ 出版社・著者と小説モデルとの関係でプライバシー侵害が争われた事例——「石に泳ぐ魚」事件最高裁判決 ⑬ コンビニと客との関係で防犯カメラによるプライバシー侵害が争われた事例——当該下級審判決 ⑭ 温泉旅館と外国人客との患いで入国差別が争われた事例——当該下級審判決 ⑮ 家族関係で妻の信仰の自由が争われた事例——当該下級審判決</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J4010100D |
| 科目名  | ケーススタディ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Case Study Seminar  |       |           |
| 担当者名   | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代取引社会において発生する問題について、全員で検討し、理解を深めるような方法で進める。                |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | とくに指定しない。   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要なプリントを随時配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 積極的な発言、出席(除遅刻)、報告内容、発表態度、レポート提出内容を評価する(レポート 50%、報告その他 50%)。 |       |           |
| 到達目標   | 民事問題を総合的に把握し、それを解決するための法適用を身につけること。                         |       |           |
| 準備学習   | 報告分担をやり遂げること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| テーマに関係のない私語厳禁。 初日欠席者は、已むをえない事由がない限り大幅に減点する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.契約書の作成 2.日本マクドナルド事件 3.堂本印象の贋作 4.民法 900 条 4 号但書前段 5.贈与と書面 6.民法 110 条の正当の理由<br> 7.包括代理権授与 8.トラブルを起こす契約書 9.冬季五輪の観戦 10.動機の錯誤 11.消費者契約法について 12.虚偽表示 13.盗難預金<br> 14.日常家事債務とは 15.ワールドカップの観戦 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4010100E |
| 科目名        | ケーススタディ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Case Study Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代の社会生活上無視できない重要な存在が、会社である。このゼミでは、会社法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、判例批評の基礎を学ぶ。また、会社法が、現実社会で、どのような役割を果たしているかその手掛かりを得られるようにしたい。進め方としては、指定した判例を分担し、担当者・班がゼミで報告を行い、その報告に基づいて、当該事件の事実関係のもとで、なぜそのような結論が採られたかを受講者全員で検討していくという形式をとる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 神田秀樹『会社法』（弘文堂）。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な資料は、随時配布する。六法必携。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(70%)、出席・報告の内容・発言の状況による。レポート(30%)。   |       |           |
| 到達目標       | 会社法の知識を再確認しつつ、判例研究の基礎的方法を習得するとともに、口頭で説明・質問・討論を行う能力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 1. 報告担当者・班は、事前に判例を熟読した上で適切なレベルのレジュメを作成し、報告の準備を行うこと。<br> 2. 報告担当者・班以外の者も、判例を一読し、予習して授業にのぞむこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 十分な準備学習を行った上で、授業に積極的に参加し、発言すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>テーマとしては以下のようなものを考えているが、受講者の興味関心や理解度などによって、内容や順序を変更することがある。</p> <p> 1. オリエンテーション 判例に基づくレジュメの作成方法・報告の仕方 2. 会社の目的と政治献金 3. 法人格の否認 4. 株主名簿 5. 株式の譲渡 6. 株式の譲渡制限 7. 株主総会の招集 8. 経営判断の原則 9. 取締役の競業 10. 取締役の報酬 11. 取締役の会社に対する責任 12. 取締役の第三者に対する責任 13. 会計帳簿の閲覧権 14. 違法な募集株式 15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4010100F |
| 科目名   | ケーススタディ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Case Study Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 判例の事案をもとに民法の定めを再確認したうえで、判示事項を解説し、また、それに対する学会の反応を概観して、民法の理解を深める。                  |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房、第3版、2010） 978-4326450930 民法判例百選Ⅰ・Ⅱ                        |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 各自の発表内容（40%）、本演習に臨む平素の態度（報告者への質問内容、報告者ないし教員からの質問に対する回答内容など；30%）及びレポート（30%）を評価する。 |       |           |
| 到達目標  | ・スタートアップゼミBで身につけた論理的な文章を読む能力を用いて、自らが判例を読み理解できるようになる。 ・自らの考えを人に伝えることができるようになる。    |       |           |
| 準備学習  | 当日までに全員が、その日の判例を一読し、事案については一応の理解をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 出席することが大前提であるが、ただ座っていることに意味はないので、毎回必ず一度は質問するようにしよう。評価方法の欄にあるように、一度も発表せず、出席するだけでは、単位が取れないことを認識しておいてください。六法は必携。事前に事案程度は一読しておくこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 民法総則と家族法を履修済みであることを前提とし、下記のテーマを扱う。  【進め方】 担当者（班）は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず1度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。  【テーマ等】 1. ガイダンスー報告者（ないし報告班）の決定、自己紹介  渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110頁～114頁 2. 新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87頁～109頁 3. 遺留分減殺の意思表示（最判平10・6・11民集52-4-1034）  遺留分減殺の意思表示； 意思表示の到達時点 4. 同上 5. 東京地裁「厚生部」事件（最判昭35・10・21民集14-12-2661）  代理権授与の表見代理； 名板貸 6. 同上 7. 無権代理人が本人を相続する場合（最判平5・1・21民集47-1-265）  無権代理； 相続制度 8. 同上 9. 民法160条の法意による民法724条後段の効果の制限（最判平21・4・28民集63-4-853）  時効期間と除斥期間； 時効の停止 10. 同上 11. 無権限者の播種した苗の所有権の帰属（最判昭31・6・19民集10-6-678） 12. 同上 13. 指名債権譲渡の二重譲渡における通知の同時到達（最判昭55・1・11民集34-1-42）  指名債権譲渡とその対抗要件； 二重譲渡の際の優劣の決定方法 14. 同上 15. レポートについて（引用方法、参考文献の書き方） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |              |
|-----------|--|-------|--------------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J40103001    |
| 科目名       | 民法V（家族法）   | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記） | Civil Law V (Family and Inheritance)                       |       |              |
| 担当者名      | 右近 潤一  | 旧科目名称 | 民法V（家族法）、家族法 |
| 講義概要      | 夫婦や親子の法律関係（民法第4編親族）、相続や死後の財産処分（第5編相続）について学ぶ。               |       |              |
| 教材（テキスト）  | 高橋 朋子、床谷 文雄、棚村 政行 『民法7 親族・相続』（有斐閣、第3版、2011）978-4641124523  |       |              |
| 教材（参考文献）  | 中田 邦博、高嶋 英弘 『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 |       |              |
| 教材（その他）   | 講義中にプロジェクターで表示するものを京学なびにて配付します。事前にプリントして持参して下さい。           |       |              |
| 評価方法      | 期末試験のみに基づき評価する。  |       |              |
| 到達目標      | 親族相続法上の制度とその背後にある民法の考え方を知識として得る。                           |       |              |
| 準備学習      | 提供する資料を事前にプリントし1度目を通しておくこと。必ず復習すること。                       |       |              |

#### 受講者への要望

評価は期末テストの結果に従いますが、期末テストの結果は、受講生の出席と受講態度に左右されることが明白です。履修登録をしても出席しなければ、単位は取れません。主に一年生が受講する講義ですので、メモをとり易く話す心がけますから、とる練習もしましょう。

#### 講義の順序とポイント

民法の第4編及び第5編を扱う。他の民法科目は、最大でも1編で1科目となっているところ、本講義は2編を扱わなければならないため、最初の7回を親族法に当て、後半の8回を相続法に当てる。|第1回 導入、婚姻の成立、婚姻意思、婚姻障害事由|第2回 婚姻の効果、日常家事債務、婚姻の解消|第3回 有責配偶者からの離婚請求、離婚の効果|第4回 実親子関係（父性推定、認知、準正）|第5回 養親子関係（普通養子縁組、特別養子縁組）|第6回 親権（親権者、身上監護、財産管理）|第7回 後見（未成年後見、成年後見制度）|第8回 相続（相続人、代襲相続、同時死亡の推定）|第9回 相続権の剥奪（相続欠格、相続人の廃除）、相続の承認と放棄|第10回 相続財産、債権・債務の相続、遺産共有、|第11回 相続分（法定相続分・指定相続分）|第12回 相続人間の平等（特別受益の持ち戻し、寄与分）、遺産分割|第13回 遺言（遺言の種類、自筆証書遺言の方式、遺言の撤回）|第14回 遺留分（遺留分の範囲、基礎財産）|第15回 遺留分額、遺留分減殺請求権、減殺の方法|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40104001 |
| 科目名  | 民法Ⅳ（債権総論）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law of Obligations   |       |           |
| 担当者名   | 右近 潤一  | 旧科目名称 | 民法Ⅲ（債権総論） |
| 講義概要   | 民法典の第3編「債権」中、第1章「総則」の内容を取り上げる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、永田 眞三郎『民法（3）債権総論（有斐閣 S シリーズ）』（有斐閣、第3版、2005）978-4641159136                                  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | 講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。 中田 邦博、高嶋 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 |       |           |
| 評価方法   | 期末試験の評価に従う。  |       |           |
| 到達目標   | 契約法の基本を押さえる。   |       |           |
| 準備学習   | 事前に配付資料を一読し、できる限り教科書の該当部分に目を通す。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められる。 成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回 債権総論を学ぶにあたって；債権の目的と種類1（特定物債権） 第2回 債権の目的と種類2（特定物債権種類債権～利率） 第3回 債権の目的と種類3（利息制限・選択債権） 第4回 債務不履行1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由） 第5回 債務不履行2（履行の強制、416条の理解） 第6回 損害賠償 第7回 債権の対外的効力1（債権者代位権） 第8回 債権の対外的効力2（債権者代位権） 第9回 債権の対外的効力3（詐害行為取消権） 第10回 多数当事者の債権関係1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務） 第11回 多数当事者の債権関係2（連帯債務） 第12回 多数当事者の債権関係3（連帯債務2） 第13回 多数当事者の債権関係4（保証債務、連帯保証債務） 第14回 当事者の交替1（債権譲渡、債務引受） 第15回 債権の消滅1（消滅の意義・弁済等） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40107001 |
| 科目名   | 民法V（契約法）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Civil Law V (Contracts)  |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義の前半部分では、すべての契約に共通するルールを、後半部分では現代社会において重要ないくつかの契約類型に関するルールを取り扱う。  契約についての日常生活からの身近な事例を中心に、なるべく分かり易く講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 近江幸治著『民法講義V契約法（第3版）』（成文堂、2006）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし。  |       |           |
| 教材（その他）   | 1. パワーポイントを活用する。  2. 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）出席状況や授業態度等による。学期末テスト（80%）。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における契約のあり方および関連する民法の条文の仕組みを理解する。  2. 日常生活における契約に関する事例を多角的に分析し、解決する能力を養う。                            |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 講義で取り上げた箇所については、教科書等でよく復習すること。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  3. 他者への迷惑となるので、私語を厳禁する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに  講義概要、他の民法科目との関係  2. 契約の意義  契約の拘束力および種類  3. 契約の成立  申込みと承諾、契約締結上の過失責任  4. 同時履行の抗弁権  意義、要件および効果  5. 危険負担  意義、債権者主義および債務者主義  6. 契約の解除（1）  意義、解除権の発生要件および行使  7. 契約の解除（2）  解除の効果、解除権の消滅  8. 売買契約（1）  意義と成立（予約、手付）  9. 売買契約（2）  売買の効力（前半）  10. 売買契約（3）  売買の効力（後半）  11. 消費貸借契約  契約の成立、利息など  12. 賃貸借契約（1）  意義、性質、成立、存続期間、効力および終了  13. 賃貸借契約（2）  借地関係、借家関係  14. 請負契約  意義、成立、効力および終了  15. まとめ |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40108001 |
| 科目名        | 民法Ⅲ（担保物権法）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law of Real Security   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会は信用取引を基礎にして成り立っている。担保になるべきものをいかにして見出し、交渉をして担保提供してもらうかが重要なポイントとなる。 担保手段の種類、共通の性質のあらましと民法上の法定担保物権、約定担保物権の全般にわたり概要を説明する。 抵当権については、意義、設定、効力の及ぶ範囲、実行前の効力、優先弁済権の実現について説明する。 非典型担保については、仮登記担保と不動産譲渡担保の違いを説明し、動産譲渡担保、債権譲渡担保の仕組みについても説明する。 最後にまとめを行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 松井宏興ほか・プリメール民法 2 物権・担保物権法(第3版)(法律文化社、2005年)。 初日にプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(20%)出席状況等による。定期テスト(80%)  |       |           |
| 到達目標       | 現代社会で行われている担保物権法の基礎知識を具有して、その活用方法を習得する。 不動産鑑定評価等の関連知識を得る。 抵当権に関する占有と優先弁済権につき基礎知識を得る。   |       |           |
| 準備学習       | 民法総則の教材を読み直しておくこと。 教科書の緒言(はしがき)を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初日に講義方針を説明する。初日の欠席者につき減点するので注意のこと。 遅刻は思わぬ迷惑となりかねないことを留意すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.担保物権とはなにか、担保物件の種類  2.担保物権の性質と効力  3.留置権  4.先取特権  5.質権  6.動産質・不動産質・権利質  7.抵当権の設定  8.抵当権の効力の及ぶ範囲  9.抵当権の実行前の効力 10.抵当権の優先弁済権の実現 11.抵当権の賃貸借 12.根抵当権 13.仮登記担保 14.譲渡担保 15.まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40109B01 |
| 科目名  | 行政書士実務論 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Practice of Administrative Scriveners A   |       |           |
| 担当者名   | 三木 常照   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>わが国の行政省庁は、法令用語にいう許可・認可・免許などの多数の規制権限を有している。こうした規制行政が許認可行政と称されている。許認可行政は経済活動の公正確保や市民の権利の保護、生活上の安全確保などの目的を掲げて展開されているが、その目標とは裏腹に社会の発展に逆行する事態や既得の権利の擁護につながり、また申請や実施については多大のコストがかかるという側面を併せ持っている。 また、許認可手続と行政手続は密接な関係にある。申請と許認可の取消や営業停止などの不利益処分にもその焦点を当て、検討してみたい。  そもそも、行政にとって何故、許認可が必要なのか。許認可申請をとおして申請者である市民と行政を媒介している行政書士と許認可の関係を考察し、許認可行政の問題点を学生諸君と共同討議方式ですすめていきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 三木常照著 『増補改訂版 行政書士の役割』 ふくろう出版 2,100 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 出席状況等による。レポート (30%)、定期試験 (50%) など多面的評価を行います。  |       |           |
| 到達目標   | 許認可行政を市民と行政を媒介する行政書士の視点から捉え、わが国の行政と許認可の仕組みについて理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のためのテキスト準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 各講義テーマ毎の学生諸君の積極的な発言を期待しています。但し、私語は厳禁。他の受講生への配慮から退室を求める場合があります。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.行政書士とは  2.法律関連資格者の紹介  3.法律関連資格者の歴史  4.法律関連資格者の諸外国事情  5.業務の仕組みと現実  6.業務の実際  7.申請と行政手続  8.行政手続法と許認可  9.許認可・行政書士・市民 10.行政書士をめぐる環境と課題 11.業際問題 12.規制緩和と地方分権 13. IT化と行政書士 14.許認可書類作成 (建設業許可・入札手続) 15.許認可書類作成 (相続手続・株式会社設立) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40110001 |
| 科目名        | 民法VI (不法行為法)  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Civil Law VI (Torts)  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民法第三編第五章(709～724 条)に規定の不法行為法の基本的な構造について、判例の考え方にに基づき講義する。基本的な事項について、具体例に基づき、ていねいに説明するという方法で進めていくこととする。これによって、一般的な資格試験に対応できるだけの情報を提供するようにしたい。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」(新世社・ライブラリ法学基本講義)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ・藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄「民法IV－債権各論[第3版補訂]」(有斐閣Sシリーズ、2009年) <br>・内田貴「民法II[第2版]債権各論」(東大出版会、2007年) <br>・窪田充見「不法行為法－民法を学ぶ」(有斐閣、2007年) <br>・野澤正充「事務管理・不当利得・不法行為 セカンドステージ債権法III(法セミLAW CLASSシリーズ)」(日本評論社、2011年)   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ・小テスト(5回程度実施、40%)  ・レポート(2回程度実施、20%)  ・定期試験(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 1 「不法行為法」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文・判例を立体的に理解する。  2 不法行為法の中の各制度が、実際界においてどのような使われ方をしているかを知る。  3 各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。  |       |           |
| 準備学習       | 講義用レジュメは15回分をまとめて配布するので、各回の講義の概要程度は予習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。  教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 不法行為制度とは  2. 不法行為の要件 (故意・過失)   3. 不法行為の要件 (権利・利益侵害)   4. 不法行為の要件 (損害の発生)   5. 不法行為の要件 (因果関係)   6. 責任能力・監督者の責任  7. 不法行為の効果 (賠償額の算定・物損の金銭的評価)   8. 不法行為の効果 (身体・生命の侵害による損害の金銭的評価、精神的損害)   9. 不法行為の効果 (損害賠償の範囲、賠償額の減額)   10. 損害賠償請求権者  11. 使用者責任  12. 物の支配管理から生じる責任、共同不法行為  13. 消滅時効、原状回復・差止請求  14. ケース・スタディ(1)－交通事故  15. ケース・スタディ(2)－プライバシー・名誉の侵害 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40111001 |
| 科目名   | 民事訴訟法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Code of Civil Procedure   |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明  | 旧科目名称 | 民事手続法     |
| 講義概要  | 民事実体法上の権利の存否・範囲を、法規を適用して裁判所が判断する一連の手続が、民事訴訟手続であり、これを規律するのが民事訴訟法である。 本講義では、コマ数の制約上、民事訴訟法のうち、訴えの提起から第一審判決が確定するまでの手続を中心に講義する。複雑訴訟・上訴・再審については、可能な限り扱うこととする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 中野貞一郎『民事裁判入門〔第4版〕』（有斐閣、2012年予定） ※改訂版が出版されない場合には、旧版で対応する。その場合には、いずれの版の購入者にも不利益にならないよう配慮する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編『民事訴訟法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2010年）   |       |           |
| 教材（その他）   | 随時、教員作成のレジュメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法  | 1. 平常点（20%）出席状況等から判断する。 2. 期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標  | 1. 民事法上の権利実現制度としての民事訴訟制度の重要性を認識し、その骨格を理解し説明できる。 2. 民事訴訟法上の規定や判例が、実際の手続に与える影響を理解し、基礎的な問題を解ける。  |       |           |
| 準備学習  | 1. 講義前に、講義対象部分のテキストを一読しておくのが望ましい。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくことよい。 3. どのような社会生活上の問題が民訴法に関連するのか、信頼できるメディアの情報に気を配ってほしい。                                |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 一定程度民商法の履修が終わっているか、履修中であることが望ましい。 2. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。 3. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。 4. 実務が採用する旧訴訟物理論を中心に講義するので、興味のある受講生は、新訴訟物理論の教科書にも取り組んで欲しい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス--講義内容の全体像 2. 訴訟と非訟・民事訴訟法の一般原則 3. 訴えの3類型・訴えの提起 4. 裁判所・管轄・民事裁判権 5. 訴訟当事者(当事者の確定・当事者能力・訴訟能力)・訴訟代理 6. 訴えの利益・訴え提起の効果 7. 当事者主義・口頭弁論 8. 弁論準備・争点整理 9. 証拠(1)証明のレベル・証拠方法 10. 証拠(2)自由心証主義・証明責任 11. 当事者の行為による訴訟の終了 12. 判決(1)判決の形式 13. 判決(2)判決の効力 14. 複雑訴訟・上訴・再審の概要 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40113001 |
| 科目名   | 経済法 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Competition Law II   |       |           |
| 担当者名  | 村田 淑子  | 旧科目名称 | 経済法特別講義   |
| 講義概要  | <p>「経済法」の講義では、独占禁止法、競争政策の基礎となる考え方や制度を学びました。「経済法特別講義」では、「経済法」で学んだことを土台として、「カルテル (不当な取引制限)」や「私的独占」以外の独占禁止法の内容について学びます。具体的には、人気商品を買いたければ不人気商品も買わないと売らないという「抱き合わせ販売」や、不当な安売である「不当廉売」等の「不公正な取引方法」や企業合併等の「企業結合」を取り上げます。これらは、カルテルよりも複雑な行為類型であり、本当に競争に悪影響を及ぼすため禁止されるべき行為なのかどうかを丁寧に分析する必要があります。それゆえ、面白さの度合いも高まり、実際の経済活動をより深く理解できるようになります。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法[第3版]』(有斐閣) 1995 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 『経済法判決・審決百選』(有斐閣) 2940 円   |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 1) 平常点 (30%) 出席状況・授業内レポート等 2) 小テスト (2回) 70%  |       |           |
| 到達目標  | 独占禁止法の基本概念を理解し、不公正な取引方法及び企業結合に関する基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 各回の講義の最後に指示する教科書の箇所を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席すること。 ビジネスや企業活動に関心を持ち、新聞を読んだり、ニュースを視聴すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 独占禁止法の目的と全体像 2 独禁法の重要キーワード 3. 企業結合規制1 (なぜ企業は合併や業務提携をするのか?)  4. 企業結合規制2 (市場確定) 5. 企業結合規制3 (競争の実質的制限) 6. 一般集中規制・小テスト 7. 不公正な取引方法の全体像・景品表示規制 8. 再販売価格維持 (なぜ、どこの店で買っても同じ値段の商品があるのか?)  9. 取引拒絶 (嫌いな相手との取引を拒絶したら独禁法違反になるのか?)  10. 不当廉売 (なぜ安売りが独禁法違反になるのか?)  11. 抱き合わせ販売 (マイクロソフト事件) 12. 排他条件付き取引など (資生堂事件) 13. 優越的地位の濫用 (ローソン事件) など 14. エンフォースメント・公正取引委員会 15. まとめ・小テスト |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     | ○   |     |       | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40115001 |
| 科目名        | 法哲学II  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Legal Philosophy II  |       |           |
| 担当者名       | 佐別当 義博   | 旧科目名称 | 法哲学特別講義   |
| 講義概要       | <p>本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。  本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域において正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係(例えば立法精神)、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教科書は指定しない。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義の進行に合わせてその都度紹介する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 講義のレジュメは京学ナビに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内で書いてもらう、4回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。  |       |           |
| 到達目標       | 法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 授業内で書いていただく小論文は実施日を事前に告知するので、論点等を確認しておくこと。 新聞等で正義に関わる記事等は常日頃から読むようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(注:授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡(講義時と京学ナビ)で確認すること。)    1. 初めに  2. 序論「法哲学」で学習したことの確認  3. 同上  4. 第1章 生命倫理と法   § 1 臓器移植法と正義  5. § 2 安楽死法と正義(オランダのケース)  6. § 3 死刑と正義  7. 同上   8. (第1回授業内レポート)  第2章 環境倫理と法  § 4 環境基本法と正義  9. § 5 グローバリゼーションと正義  10. (第2回授業内レポート)  第3章 多文化状況における正義  § 6 ブルカ禁止法(フランスのケース)と正義  11. § 7 少数民族と国家の関連における正義   12. 同上  13. (第3回授業内レポート)  第4章 報復的正義から修復的正義へ   § 8 報復的正義と問題点  14. § 9 修復的正義  15. (第4回授業内レポート)  まとめ    </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40116001 |
| 科目名        | 法社会学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Sociology of Law II  |       |           |
| 担当者名       | 沼口 智則  | 旧科目名称 | 法社会学特別講義  |
| 講義概要       | 秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学(I~IV)・天皇制をめぐる法社会学(I~III)・正義をめぐる法社会学(I~II)を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義の都度紹介していく。   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 学期末試験(80%)・講義の際の小レポート(20%)による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。  |       |           |
| 準備学習       | 法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 法社会学の現状 I 日本の法社会学(2) 2. // II 欧米の法社会学(2) 3. フェミニズムをめぐる法社会学 I 女性の権利の歴史(1) 4. // II // (2) 5. // III 男女平等-特に憲法14条と第24条- 6. // IV 男女平等-夫婦別氏(姓)論議- 7. 天皇制をめぐる法社会学 I 天皇制とは? 8. // II 近代神権的天皇制 9. // III 象徴天皇制 10. 正義をめぐる法社会学 I 法哲学と法社会学 11. // II 正義と法 12. 法社会学の役割と任務 I -全体の総括- 13. // II // 14. 全体のまとめ 15. 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40118001 |
| 科目名  | 会社法Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Corporation Law III  |       |           |
| 担当者名   | 小野里 光広   | 旧科目名称 | 会社法特別講義Ⅰ  |
| 講義概要   | 現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、事業譲渡・合併・会社分割など、会社の組織再編について、基本的な枠組みを講義する。会社法を学ぶことは、将来企業社会で活躍しようとする皆さんに必ず役に立つであろう。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（10%）出席状況等による。定期テスト（90%）。   |       |           |
| 到達目標   | 会社法のうち、組織再編に関わる基本的な理解を得る。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 組織再編手続 3. 事業譲渡 4. 合併の意義 5. 合併の手続 6. 合併の無効 7. 会社分割の意義 8. 会社分割の手続 9. 会社分割の無効 10. 株式交換・株式移転の意義 11. 株式交換の手続 12. 株式移転の手続 13. 株式交換・株式移転の無効 14. 企業グループ・結合企業 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40121001 |
| 科目名   | 刑事訴訟法Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Law of Criminal Procedure II  |       |           |
| 担当者名  | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 | 刑事訴訟法特別講義 |
| 講義概要  | <p>2009年5月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきている。刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか。どのようなルールがあるのか。誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある。  また、問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第9版、2010）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 第1回授業で指定する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。  |       |           |
| 評価方法  | 学期末試験の結果（80%）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（20%）によって成績を評価する。   |       |           |
| 到達目標  | <p>刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになる。  重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになる。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>事前に判例百選の関係箇所を読んでおくこと。  学習にあたっては刑事手続の全体像を把握しておく必要があるため、前回の復習をしておくこと。新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。  捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 刑事手続の流れ  2 任意捜査と強制捜査の区別  3 写真撮影とビデオ撮影  4 おとり捜査  5 強制採尿  6 職務質問  7 接見交通  8 起訴状  9 訴因変更  10 証拠開示  11 自白法則  12 伝聞法則  13 違法収集証拠排除法則  14 裁判員制度  15 まとめ |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40122001 |
| 科目名        | 国際人権法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Human Rights Law  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉   | 旧科目名称 | 国際法特別講義   |
| 講義概要       | 人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本であり、今後もおそらく変わらないであろう。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の1つとなり、国連の60年を超える活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本における人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第1部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第2部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。        |       |           |
| 教材（テキスト）   | 芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、2008年）2500円 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、1988年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法（第3版）』（日本評論社、2009年） 畑 博行・水上千之編『国際人権法概論（第4版）』（有信堂、2006年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック 国際人権法』（日本評論社、2006年）  【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集（第3版）』（東信堂、2006年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法       | 2回目以降毎回行う小テスト60点、レポート40点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際人権保障の意義と限界を理解する。 2. 人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 3. 日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのかを考える。   |       |           |
| 準備学習       | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1部 国際人権保障の仕組み 1. 受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開  2. 国際人権保障の理念と特徴  3. 国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するDVD鑑賞も行う）  4. 人権条約の実施措置（1）－普遍的人権条約  5. 人権条約の実施措置（2）－地域的人権条約  6. 個人の国際刑事責任（1）－国際犯罪の成立と展開  7. 個人の国際刑事責任（2）－国際刑事裁判所の活動 第2部 日本における国際人権法の実施 8. 総論、国籍  9. 一般外国人の処遇、犯罪人引渡  10. 難民の保護  11. 刑事施設における被拘禁者の処遇  12. 少数者の権利  13. 社会権の保障  14. 私人間における差別撤廃  15. 戦後補償  *進度により若干の変更がありうる |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40123001 |
| 科目名        | 労働法Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Labour Law III   |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 | 労働法特別講義   |
| 講義概要       | 本講義では、労働法の領域のうち、集団的労働法を学んでいく。労使関係における制度および法的枠組み、並びに、法的問題について考察する。労働組合の結成から、その組織を維持・運営していくための様々の活動、使用者との労働条件をめぐる団体交渉、場合によっては争議行為をへて、労働協約の締結にいたるまでの過程を考察対象とする。  本講義は科目名「労働法」または「労働法Ⅰ」および「労働法Ⅱ」の履修が前提となる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』（有斐閣、2011年）2400円＋税、および、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）価格未定   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。   |       |           |
| 評価方法       | 出席を前提に、期末の試験(80%)および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標       | 社会人として求められる労働法の基礎知識（とくに労働組合法）を判例等も踏まえたうえで理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に、参考文献等を指摘したうえで、次回講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。  また、講義時のマナーが守れない場合には、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 労働法とは 集団的労働法の概観  第3回 労働基本権  第4回 労働組合の結成および運営（1） 第5回 労働組合の結成および運営（2）  第6回 組合活動 第7回 団体交渉 第8回 労働協約（1） 第9回 労働協約（2） 第10回 争議行為 第11回 使用者の争議行為（ロック・アウト） 第12回 不当労働行為およびその救済（1） 第13回 不当労働行為およびその救済（2） 第14回 最近の集団的労働法をめぐる諸問題 第15回 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40127001 |
| 科目名        | 不動産法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Real estate Law   |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 | 不動産法特別講義  |
| 講義概要       | 土地や建物に関する法律について、売買・賃貸借等の取引で、どのようなルールが適用されるかについて解説する。このほか、今日の不動産法の理解にとって不可欠のマンションの法律関係についても取り上げる。<br>  受講人数によっては、ゼミ形式で運営することも考えている。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | レジュメ資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 秋山靖浩「不動産法入門」（日本評論社）  鎌野邦樹「不動産の法律知識」（日経文庫）   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート(80%) 授業中課題(20%)  |       |           |
| 到達目標       | 1. 民法(不動産の所有・売買・賃貸借等に関する範囲)の原則・概念・ルールについて、その概要の説明ができる。 2. 各条文の要件・効果を正確に理解し、各種試験に必要な基礎知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 民法の教科書・参考書等で、不動産の所有・売買・賃貸借等に関する部分を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、民法等の参考書で内容確認を行うことが重要。なお、最新版の六法は必ず持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | I はじめに  1 不動産法とは、本講義の課題   II 不動産の売買   2 契約の成立と内容   3 不動産登記の意義と役割   4 売買目的物の瑕疵  III 不動産の賃貸借   5 契約の内容と成立   6 賃貸人・借入人の義務  7 借地の法律関係(借地借家法①)   8 借家の法律関係(借地借家法②)   9 その他特殊問題(借地借家法③)   IV マンションの保有と管理   10 マンションと関連する法律   11 マンションの財産関係   12 マンションの管理   V 最近の訴訟事件から(以下の項目については予定)  13 汚染土壌等が存在していた場合の売主の責任(最判平成 22・6・1)  14 欠陥住宅－施工業者の責任(最判平成 23・7・21)  15 景観権ないし景観権の侵害による不法行為責任(最判平成 18・3・30) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40128001 |
| 科目名        | 金融法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Law  |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 | 金融法特別講義   |
| 講義概要       | 金融取引（融資、保証、担保、預金等）の全般にわたり、最近の実務をまじえて概要を講義する。次に、決済システム法について手形・小切手、為替、企業間相殺を取り上げて法的仕組みを解説する。これらの中から、民法、商法、銀行法等が現代社会においてどのように機能しているのかを学び、法的理解を深めることを第一の目的とする。 経済と金融の動向が根底において新たな問題を発生させているので、第二の目的は、金融取引における契約書をとりあげて契約書を作成している実務の行動目的や主要な条項--たとえば期限の利益喪失条項--について解説することにより実務法学の理解を深めることにある。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 宇佐美大司ほか著・プリメール民法3（第2版）（法律文化社、2005年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況等による。定期テスト(70%)  |       |           |
| 到達目標       | 現代社会における金融取引法につき理解する   |       |           |
| 準備学習       | 日本経済新聞その他により、毎回金融と経済の動向につき注意しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 初日に講義方針を説明する。初日の欠席者につき減点するので注意のこと。 自分と向き合い、足りない民法知識を補っておくこと。 遅刻は時には思わぬ迷惑となることがあるので注意すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①現代社会における金融法 ②現代社会における銀行の役割 ③融資の仕組み、融資の種類 ④住宅ローンの法律問題 ⑤設備資金融資 ⑥預金取引(1) ⑦預金取引(2) ⑧手形・小切手取引 ⑨為替取引 ⑩企業間相殺取引 ⑪金銭消費貸借契約書 ⑫売買契約書 ⑬契約書の主要な条項 ⑭伝統的担保、キャッシュフロー担保 ⑮まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40130A01 |
| 科目名        | 法文化とことば   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Writing for Law Students   |       |           |
| 担当者名       | 佐別当 義博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本学で勉学するうえで、ノートがとれない、ノートはとれるがうまく文章にできない、したがって答案をかけない、レポートが書けないといったことで悩んでいる学生のために開講される科目である。講義を聴く、ノートをとる、講義内容をまとめる、教科書・参考書を読む、レポートを書く、答案を作成するなど、大学での勉学を可能にする最低限度の能力、すなわち「聞きとる」「読みとる」「書く」の三つの能力を養成することが、本講義の目的である。これらの知的能力は、体力と同じで使わなければ低下する。したがって、講義は、講義参加者がこれらの能力を使用するさまざまな作業を中心に展開される。とりわけ、「書く」作業は毎時間行ってもらおう。「書く」ための「聞き取り」「読みとり」の資料は、社会問題への関心を広げるために、新聞、雑誌、ビデオなどさまざまなメディアから、今日的なテーマに関するものを選ぶ予定である。  今年度の担当は、諸戸樹一、田中暁次、佐別当義博。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 各担当者作成の教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | ワークシート、作文、レポート等の提出物によって総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 文書資料を論理的に理解できるようになる。  2. 理解した内容や自分の意見を論理的に文章化できるようになる。  3. レジユメが作成できるようになる  4. 文章校正ができるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 具体的には各担当者が提示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 欠席せず毎回与えられた課題に取り組む熱心さが、第一に要求されることである。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>以下は、講義で取り上げる内容の目安です。  担当者により、それぞれの課題が複合することもありますし、順番が多少入れ替わることもあります。  また、漢字力、語彙力を向上させる別途内容が加わることもあります。   1. 講義への導入   2. 時事問題に関する資料の「読解」、「メモ作成」、「縮約・要約の作文」、「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  3. 同上   4. 同上   5. 同上   6. 同上   7. 評論の「読解」、「メモ作成」、「縮約・要約の作文」、「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  8. 同上   9. 同上   10. 同上   11. 資料の「読解」、それに基づいた「意見文の作成」並びに「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  12. 同上   13. 同上   14. 同上   15. まとめ</p>                         |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40130A03 |
| 科目名        | 法文化とことば   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Writing for Law Students   |       |           |
| 担当者名       | 田中 曜次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本学で勉学するうえで、ノートがとれない、ノートはとれるがうまく文章にできない、したがって答案をかけない、レポートが書けないといったことで悩んでいる学生のために開講される科目である。講義を聴く、ノートをとる、講義内容をまとめる、教科書・参考書を読む、レポートを書く、答案を作成するなど、大学での勉学を可能にする最低限度の能力、すなわち「聞きとる」「読みとる」「書く」の三つの能力を養成することが、本講義の目的である。これらの知的能力は、体力と同じで使わなければ低下する。したがって、講義は、講義参加者がこれらの能力を使用するさまざまな作業を中心に展開される。とりわけ、「書く」作業は毎時間行ってもらおう。「書く」ための「聞き取り」「読みとり」の資料は、社会問題への関心を広げるために、新聞、雑誌、ビデオなどさまざまなメディアから、今日的なテーマに関するものを選ぶ予定である。  今年度の担当は、諸戸樹一、田中曜次、佐別当義博。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 各担当者作成の教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | ワークシート、作文、レポート等の提出物によって総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 文書資料を論理的に理解できるようになる。  2. 理解した内容や自分の意見を論理的に文章化できるようになる。  3. レジユメが作成できるようになる  4. 文章校正ができるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 具体的には各担当者が提示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 欠席せず毎回与えられた課題に取り組む熱心さが、第一に要求されることである。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>以下は、講義で取り上げる内容の目安です。  担当者により、それぞれの課題が複合することもありますし、順番が多少入れ替わることもあります。  また、漢字力、語彙力を向上させる別途内容が加わることもあります。   1. 講義への導入   2. 時事問題に関する資料の「読解」、「メモ作成」、「縮約・要約の作文」、「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  3. 同上   4. 同上   5. 同上   6. 同上   7. 評論の「読解」、「メモ作成」、「縮約・要約の作文」、「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  8. 同上   9. 同上   10. 同上   11. 資料の「読解」、それに基づいた「意見文の作成」並びに「校正」。  場合によっては「レジユメ」を作成する。  12. 同上   13. 同上   14. 同上   15. まとめ</p>                         |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40133001 |
| 科目名        | 有価証券法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Negotiable Instruments Law   |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 有価証券の典型である手形・小切手は、商取引における支払又は信用供与の手段として、現代の企業活動に重要な役割を果たしている。この講義では、手形・小切手の基礎的な知識を身につけるとともに、現実のビジネス社会において手形・小切手がどのように利用されているのかを学んでいく。 手形・小切手を扱うのは人（自然人・法人）であるため、民法Ⅰ（民法総則）の内容を理解していることが、手形法・小切手法を学ぶうえで助けとなる。また、手形・小切手を用いているのは主として企業であるため、金融取引の総論となる民法Ⅳ（債権総論）や、会社法Ⅰ・Ⅱをあわせて受講することが望ましい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 早川徹『基本講義 手形・小切手法』（新世社、2007年）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 小塚荘一郎・森田果『支払決済法』（商事法務、2010年）   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。定期テスト（90%）。   |       |           |
| 到達目標       | 手形・小切手に関わる基礎知識を身につけ、ビジネス社会における手形・小切手の利用方法をイメージできるようにすることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアにおいて経済問題に注目し、関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ①民法Ⅰ（民法総則）を履修済みであること。 ②民法Ⅳ（債権総論）、会社法Ⅰ・Ⅱの履修が望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 有価証券とは何か   2. 手形・小切手の意義と経済的機能   3. 手形行為の意義と特性   4. 手形行為の成立要件、有効要件   5. 無権代理と偽造   6. 振出、白地手形   7. 裏書   8. 手形取得者の保護   9. 手形の支払   10. 遡求   11. 手形保証   12. 手形訴訟   13. 為替手形   14. 小切手   15. 電子記録債権   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40134001 |
| 科目名   | 金融取引実務と民商法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Financial Transaction Business and Commercial Law   |       |           |
| 担当者名  | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 銀行など金融機関で、日常的に行われている預金取引・融資取引などの実際を素材にして、民法・商法等の規定が、どのように活かされているかを検討する。あわせて、振り込み詐欺等による預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件の発生、金融機関窓口での金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に、金融機関実務が、どのような対応を図ろうとしているかを、現場の動きを可能な限りフォローしながら考えていきたいと思います。  民法・商法などの法律になじみのない方もおられると思いますので、入門的な解説は必要に応じ行っていくことを予定しております。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | レジュメ資料配付予定  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 階猛・渡邊雅之「銀行の法律知識<第2版>」（日経文庫）   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | レポート(100%)  |       |           |
| 到達目標  | 1 金融機関の日常業務である預金取引・融資取引などにおいて、民法・商法等の規定が、どのように活かされているかを理解する。  2 預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件、金融機関窓口での金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に、金融機関実務が、どのような対応を図ろうとしているかを知る。  3 金融機関実務、金融取引実務に関心を持つ。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の予定テーマに関しては、日本経済新聞等で報道されていることも多いので、これらの話題について関心を持って講義に望む。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、参考書等で内容確認を行い、確実な知識を身につけるようにしていただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 金融機関の機能と役割・金融監督  2 金融機関取引とその相手方  3 金融商品の販売①（法規制の概要）  4 金融商品の販売②（ルールの適用と問題点）  5 預金取引①（預金取引開始にあたっての本人確認）  6 預金取引②（預金契約の成立）  7 預金取引③（盗難通帳による預金の払戻し、偽造・盗難カード、インターネットバンキングのなりすまし事例など）  8 預金取引④（預金の相続）  9 決済システム①（手形・小切手の支払い、内国為替の仕組み）  10 決済システム②（誤振込・振り込み詐欺の問題、電子マネーなど）  11 融資取引①（基本的な仕組み、融資判断における取締役の責任など）  12 融資取引②（担保・保証）  13 貸出金の回収①（基本）  14 貸出金の回収②（いくつかの事例の研究）  15 金融取引実務とコンプライアンス（疑わしい取引の届出制度など） |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J40136001 |
| 科目名       | 現代日本政治   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Modern Japanese Politics   |       |           |
| 担当者名      | 服部 聡   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣 2003年）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 筆記試験による。   |       |           |
| 到達目標      | 日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。  |       |           |
| 準備学習      | 可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。   |       |           |

|            |  |
|------------|--|
| 受講者への要望    | 現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。   |
| 講義の順序とポイント | <p>1 明治憲法体制から新憲法体制へ 戦後日本政治の特徴について   2 国会と立法過程 立法過程の特徴とその問題について   3 国会と予算成立過程 予算成立過程とその問題について   4 官僚制 日本における官僚制の特徴について   5 政治家・官僚・財界 日本政治における癒着の問題について   6 日本の政党 1 各政党の特徴について   7 日本の政党 2   8 選挙 1 選挙制度とその特徴について   9 選挙 2   10 地方自治 1 日本における地方自治の歴史とその現状について   11 地方自治 2   12 政治とマス・メディア 政治とマス・メディアの関係について   13 日本と国際政治 戦後日本の外交政策とその課題について   14 福祉政策 福祉政策の現状とその問題点について   15 まとめ</p> |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J40137001 |
| 科目名       | 外交史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Diplomatic History  |       |           |
| 担当者名      | 服部 聡  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論じる。それを踏まえ、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 入江昭『日本の外交』（中公新書）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 筆記試験による。  |       |           |
| 到達目標      | 日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。  |       |           |
| 準備学習      | テキストをよく読んでおくこと。   |       |           |

|   |  |
|---|--|
| 受講者への要望   |  |
| 本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 |  |
| 講義の順序とポイント  |  |
| 1 外交とは<br>国際秩序について  3 開国と近代化<br>の意味<br>との対等化の達成                               | 外交の歴史と基本的な仕組みについて  2 様々な国際秩序<br>江戸時代の特徴と開国以後の日本について  4 日清戦争とそ<br>日清戦争の意味について  5 日露戦争とその意味<br>日露戦争の意味について  6 欧米<br>日露戦争後の日本外交と条約改正について  7 第一次世界大戦<br>第一次世界大戦と日本の対応  8 ベルサイユ体制の成立<br>ベルサイユ体制の成立とその実態について  9 ワシントン体制<br>ワシントン体制の成立とその実態について  10 満州事変と満州国建国<br>満州事変の原因とその結果について  11 華北分離工作と日中戦争<br>日中戦争の原因とその展開  12 太平洋戦争<br>太平洋戦争の原因とその展開について  13 敗戦と占領<br>アメリカの対日占領政策について   14 戦後日本の再出発<br>戦後日本外交の展開について  15 まとめ |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |            |
|------------|--|-------|------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40138A01  |
| 科目名        | 行政書士特別研究 I   | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Administrative Scriven er Examinations I   |       |            |
| 担当者名       | 三木 常照  | 旧科目名称 | 行政書士特別演習 I |
| 講義概要       | 本特別研究は行政書士試験合格への基礎編です。具体的には法令科目の憲法、民法、行政法等の主要三科目の過去問を中心とした問題演習を毎回行い、資格試験に対応できる基礎力を養う。試験範囲が広範なため、受講者への要望でも述べたが、必ず、予習、復習が必要となる。なお、上記三科目は履修済か並行履修中で、かつ、キャリア・サポートセンターで「行政書士対策講座」の受講者が望ましい。 |       |            |
| 教材 (テキスト)  | 担当者が問題プリントを毎回、配布する。  |       |            |
| 教材 (参考文献)  | 『わかる行政書士』 住宅新報社 『一問一答行政書士問題集』 成美堂出版  |       |            |
| 教材 (その他)   |  |       |            |
| 評価方法       | 定期試験 100%  |       |            |
| 到達目標       | 「行政書士試験」に合格することを目標とする。   |       |            |
| 準備学習       | 毎回、配布する問題プリントの予習、復習が必要となる。   |       |            |
| 受講者への要望    | 行政書士試験の合格を目指す科目なので、目的意識を持った学生のみ受講。ポイントのみ指示するので、必ず、予習、復習の上、本特別研究に臨むこと。無断欠席は以後、受講不可。六法持参のこと。単位取得のみを希望する学生は受講を遠慮願いたい。   |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1.民法 (1)   2.民法 (2)   3.民法 (3)   4.民法 (4)   5.民法 (5)   6.憲法 (1)   7.憲法 (2)   8.憲法 (3)   9.行政法 (1)  10.行政法 (2)  11.行政法 (3)  12.行政法 (4)  13.行政法 (5)  14.情報公開法 15.個人情報保護                  |       |            |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |             |
|---|---|-------|-------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40138B01   |
| 科目名   | 行政書士特別研究 II   | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記)  | Special Study for Administrative Scriven er Examinations II   |       |             |
| 担当者名  | 三木 常照   | 旧科目名称 | 行政書士特別演習 II |
| 講義概要  | 本特別研究は行政書士試験に合格するための発展編です。行政書士特別研究 I を履修した上で、具体的には重要法令の憲法、民法、行政法等の問題演習を中心に試験対策、弱点補強を行い、行政書士試験に合格できる力を養う。合格のために担当者は全面的なサポートを惜しまない。試験範囲が広範なため、受講者への要望でも述べたが、必ず、予習・復習が必要となる。基礎力を持ち合わせた上での受講と判断するので、一からの講義は行わない。なお、上記三科目は履修済か並行履修中で、かつ、キャリア・サポートセンターの「行政書士対策講座」の受講者が望ましい。 |       |             |
| 教材 (テキスト)   | 担当者が問題プリントを毎回、配布する。   |       |             |
| 教材 (参考文献)   | 特に指示はしないが、自らが分かりやすいと判断できる行政書士試験に関する問題集および参考書。   |       |             |
| 教材 (その他)  | 適宜、レジュメを配布する。   |       |             |
| 評価方法  | 定期試験 100%   |       |             |
| 到達目標  | 「行政書士試験」に合格することを目標とする。  |       |             |
| 準備学習  | 毎回、配布する問題プリントの予習、復習が必要となる。根拠条文も必ず、調べておくこと。  |       |             |
| 受講者への要望   |   |       |             |
| 行政書士試験の合格を目指す科目なので、はっきりと目的意識を持った学生のみ受講。重点箇所のみを指示するので、予習、復習は欠かせない。無断欠席は以後、受講不可とする。 六法持参のこと。単位取得のみを希望する学生は受講を遠慮願いたい。  |   |       |             |
| 講義の順序とポイント  |   |       |             |
| 1.民法 (1)   2.民法 (2)   3.民法 (3)   4.民法 (4)   5.民法 (5)   6.憲法 (1)   7.憲法 (2)   8.憲法 (3)   9.行政法 (1)  10.行政法 (2)  11.行政法 (3)  12.行政法 (4)  13.行政法 (5)  14.情報公開法 15.個人情報保護 |   |       |             |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40139A01 |
| 科目名        | 宅建特別研究 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Real Estate Agent Examinations I  |       |           |
| 担当者名       | 三木 常照   | 旧科目名称 | 宅建特別演習 I  |
| 講義概要       | 本特別研究は宅地建物取引主任者試験合格への基礎編です。具体的には民法、不動産登記法、都市計画法、建築基準法、農地法、土地区画整理法、国土利用計画法、宅地建物取引業法等の重点法令を問題演習でマスターし、合格を目指します。講義数の関係で自ずと受講者の予習、復習が不可欠となる。民法の並行履修が履修済みで、かつキャリアサポートセンターの「宅地建物取引主任者対策講座」の受講者が望ましい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『受験用図解 宅地建物取引主任者』 西東社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指示はしないが、自らが分かりやすいと判断できる市販の問題集。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験 100%   |       |           |
| 到達目標       | 「宅地建物取引主任者」試験に合格することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回、配布する問題プリントの予習、復習が必要となる。根拠条文も必ず、調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 資格取得を目指す科目なので、目的意識を持った学生。必ず、テキストを熟読し予習、復習の上、問題に臨むこと。六法持参のこと。無断欠席は以後、受講不可とする。単位取得のみを希望する学生の受講は遠慮願いたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 民法   2. 民法   3. 民法   4. 民法、不動産登記法   5. 都市計画法、建築基準法   6. 都市計画法、建築基準法   7. 都市計画法、建築基準法   8. 農地法・土地区画整理法   9. 国土利用計画法   10. 宅地建物に関する税・鑑定評価   11. 宅地建物取引業法 (免許・宅地建物取引主任者)   12. 宅地建物取引業法 (営業保証金・宅地建物取引業保証協会)   13. 宅地建物取引業法 (業務に関する規制・監督・罰則)   14. 宅地建物取引業法 (媒介契約・重要事項説明・37条書面)   15. 土地と建物の知識 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40139B01 |
| 科目名        | 宅建特別研究 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Real Estate Agent Examinations II   |       |           |
| 担当者名       | 三木 常照   | 旧科目名称 | 宅建特別演習 II |
| 講義概要       | 宅地建物取引主任者試験合格への発展編です。宅建特別研究 I を履修した上で、必ず、資格取得できるように、過去問等、問題演習をとおして試験対策、弱点補強を行う。講義数の関係で当然のことながら受講生の予習、復習が不可欠となる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『受験用図解 宅地建物取引主任者』 西東社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指示はしないが、自らが分かりやすいと判断できる市販の問題集。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験 100%   |       |           |
| 到達目標       | 「宅地建物取引主任者」試験に合格することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回、配布する問題プリントの予習、復習が必要となる。根拠条文も必ず、調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 必ず、資格取得を達成するという強固な意志を持った学生のみ受講。試験科目の基礎力が必要なことはいうまでもない。無断欠席は以後、受講不可とする。六法持参要。単位取得のみを希望する学生の受講は遠慮願いたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.民法   2.民法   3.民法   4.民法   5.不動産登記法   6.都市計画法、建築基準法   7.都市計画法、建築基準法   8.都市計画法、建築基準法   9.農地法・土地区画整理法   10.国土利用計画法   11.宅地建物に関する税・鑑定評価   12.宅地建物取引業法   13.宅地建物取引業法   14.宅地建物取引業法   15.宅地建物取引業法 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40142A01 |
| 科目名  | 法科大学院特別研究 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Special Study for Law School Examination s I  |       |           |
| 担当者名   | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「法科大学院入試に必要な基礎能力である小論文作成力を高める」 法科大学院入試において、小論文試験の重要性は高い。法律家としての資質は、社会科学分野の一般的・学問的素養や論理的な記述、説明の能力に依存するため、これらの素養・能力を判定するために、小論文試験が有用であると考えられている。 小論文試験の形式は、主として長文の資料を読みそのうえでその要約・見解を求めるものや、特定のテーマに対する論述を要求するものなどがある。このゼミでは、法科大学院入試に必要な素養・能力を養うために、小論文の作成・推敲が繰り返される(なお、適性試験対策はこのゼミではしない)。 なお、受講生の希望に応じて既修者コースの受験や進学の後に必要な法の知識(民事法分野)の基礎固めにも時間をあてる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | とくに指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に個別のものを紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 原則として、欠席2回以内でかつ提出を命じた小論文のすべてにわたり合格点に達するものを提出した者につき単位を認定する。 小論文の内容のほか、受講者の態度をも勘案して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 上記評価方法を参照。  |       |           |
| 準備学習   | 指示に従い課題論文の作成、推敲を反復すること。 これに必要な下調べをしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻厳禁。 「自分のために」よく学ぶこと。「自分に厳しく」なること。 (課題提出につき)時間がなかったなどと弁明することは社会人として、通例、許されない。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.はじめに 2.小論文とは何か 法科大学院における小論文の特色 3.法学の基礎知識を固める(1) 4.読解力と文章構成力を高める(1) 5.法学の基礎知識を固める(2) 6.読解力と文章構成力を高める(2) 7.法学の基礎知識を固める(3) 8.読解力と文章構成力を高める(3) 9.中間のまとめ 10.読解力と文章構成力を高める(4) 11.応募にあたっての志望理由・課題論文 12.読解力と文章構成力を高める(5) 13.応募にあたっての志望理由・課題論文 14.読解力と文章構成力の総合検討 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40142B01 |
| 科目名   | 法科大学院特別研究Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Special Study for Law School Examination sⅡ   |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 法科大学院の既修者コース向け法律科目試験の基礎対策を行う演習型の講義である。本年度は、法科大学院コア・カリキュラムに沿って、憲法・民法・刑法の基本3法について、主要な論点を網羅的に検討する。                               |       |           |
| 教材（テキスト）  | とくに指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 随時プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 1. 平常点(15%)出席状況や授業態度等で判断する。 2. 小テスト 3回(85%)各科目の理解度を確認するために行う。   |       |           |
| 到達目標  | 法科大学院既修者コース法律科目試験において、一定の成績が達成できるような基礎学力を得る。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に{ <a href="http://www.congre.co.jp/core-curriculum/">http://www.congre.co.jp/core-curriculum/</a> }でコア・カリキュラムの内容を一読しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 最新版の六法を必ず持参すること。 2. 本講義は、法科大学院志望者以外の受講を予定していない。 3. 法曹養成制度は、司法試験合格率の低迷、司法修習修了者の弁護士登録率の減少など、極めて厳しい状況にある。現状を十分に認識の上、研鑽を怠らないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 憲法(1)総論・国民主権・平和主義 3. 憲法(2)基本的人権 4. 憲法(3)統治機構 5. 小テスト(憲法) 6. 民法(1)総則 7. 民法(2)物権法 8. 民法(3)担保物権法・債権総論 9. 民法(4)契約法 10. 民法(5)事務管理・不当利得・不法行為・親族法・相続法 11. 小テスト(民法) 12. 刑法(1)構成要件該当性・違法性・責任 13. 刑法(2)未遂・共犯・罪数・個人的法益に対する罪(1) 14. 刑法(3)個人的法益に対する罪(2)・公共的法益に対する罪・国家的法益に対する罪 15. 小テスト(刑法) |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40144A01 |
| 科目名        | ビジネス実務法務検定特別研究 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for the Japan Business Law Examinations I   |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ビジネスにおいて業務のリスクを察知し、法的にチェックし、問題点を解決に導くコンプライアンス能力は、全てのビジネスパーソンにとって必要不可欠な能力と言える。「ビジネス実務法務検定試験」の受験準備を通して、コンプライアンス能力の基礎となる実践的な法律知識を体系的・効率的に学ぶことができると思われる。 この特別研究では、検定試験2級あるいは3級の過去問集を解きながら試験対策用の講義を行い、実践的な学習を行う。なお、全ての項目を講義中に扱うことは困難であるため、合格のために受講者には十分な自習が求められる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>東京商工会議所編『2012 年度版 ビジネス実務法務検定試験 2 級公式テキスト』(中央経済社)  東京商工会議所編『2012 年度版 ビジネス実務法務検定試験 2 級問題集』(中央経済社)</p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (20%) 出席状況等による。授業内テスト (40%)、期末定期試験 (40%)。   |       |           |
| 到達目標       | <p>ビジネス実務法務検定試験の問題集を中心とした演習を行い、コンプライアンス能力の基礎となる法的知識を身につけ、検定試験に合格することを目標とする。</p>   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「ビジネス実務法務検定試験」の合格を目指す科目であるので、当試験を受験予定の者が受講すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ビジネス実務法務の基礎 2. 株式会社の仕組み 3. 株式会社の運営 4. 会社取引の法務 I  5. 会社取引の法務 II  6. 会社財産の管理・活用と法律 I  7. 会社財産の管理・活用と法律 II  8. 債権の管理と回収 I  9. 債権の管理と回収 II  10. 企業活動に関する法規制 I  11. 企業活動に関する法規制 II  12. 会社と従業員との関係 13. 紛争の解決方法 14. 国際法務 (渉外法務) I  15. 国際法務 (渉外法務) II</p>           |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500A |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500B |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500D |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500E |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 渡邊 博己  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500F |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4014500G |
| 科目名        | キャリアゼミ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Development Seminar  |       |           |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p>                                  |       |           |
| 教材（テキスト）   | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>   |       |           |
| 到達目標       | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。  |       |           |
| 準備学習       | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500H |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500I |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500K |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500L |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500M |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか  2. 就職登録票の作成  3. 自己分析がなぜ必要なのか  4. 自分探しの手法を考える  5. 過去の自分を知る  6. 他人から見た自分を知る  7. 自己分析シートの作成（1）  8. 自己分析シートの作成（2）  9. 自己分析シートの作成（3）  10. 自己PRの方法を学ぶ  11. 自己PR文の作成（1）  12. 自己PR文の作成（2）  13. 自己PR文の作成（3）  14. 人前での自己PR（プレゼン学習）  15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J4014500N |
| 科目名   | キャリアゼミ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Career Development Seminar   |       |           |
| 担当者名  | 村田 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行うとともに、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すための後押しをするものである。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | キャリアサポートセンター編『就職ガイド2012』   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | <p>原則的には、出席が良好で、かつ、以下の6要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己PR文の作成。 ③自己分析シートと自己PR文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 ④内定獲得基礎講座への出席。 ⑤E-Testing3分野（SPI2&lt;言語&gt;・同&lt;非言語&gt;・一般常識）においてレベルIを60%以上クリアし、レベルIIへ進んでいる。 ⑥第1回就職実践模試の受験</p>  |       |           |
| 到達目標  | 1) 就職活動の流れを理解する。 2) 自己分析シートを作成する。 3) 自己PR文を作成する。   |       |           |
| 準備学習  | 常に自分の進路を意識し、その進路に就くためには何が必要かを考えておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>担当教員それぞれが、工夫をこらした教材を用いてゼミを進めていく。下記の予定とは若干異なる場合もありうるが、その場合には初回のゼミで連絡する。 1. ガイダンスー今何をすべきか 2. 就職登録票の作成 3. 自己分析がなぜ必要なのか 4. 自分探しの手法を考える 5. 過去の自分を知る 6. 他人から見た自分を知る 7. 自己分析シートの作成(1) 8. 自己分析シートの作成(2) 9. 自己分析シートの作成(3) 10. 自己PRの方法を学ぶ 11. 自己PR文の作成(1) 12. 自己PR文の作成(2) 13. 自己PR文の作成(3) 14. 人前での自己PR(プレゼン学習) 15. まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |                     |
|---|--|-------|---------------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40146001           |
| 科目名   | 憲法特別研究   | 単位数   | 2                   |
| 科目名（英語表記）   | Special Study of Constitutional Law                            |       |                     |
| 担当者名  | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 | 公務員研究 A（憲法）、公務員研究 A |
| 講義概要  | 憲法の基礎知識を前提に、公務員試験と行政書士試験の受験のため、憲法全体の範囲を対象に、過去問を解きながら実践的な学習を行う。 |       |                     |
| 教材（テキスト）  | 公務員Vテキスト 3 憲法 第9版（T A C出版）                                     |       |                     |
| 教材（参考文献）  |  |       |                     |
| 教材（その他）   |  |       |                     |
| 評価方法  | 平常点（70%） 講義内での課題に対する評価（30%）                                    |       |                     |
| 到達目標  | 公務員試験や行政書士試験に合格するための基礎力の養成。                                    |       |                     |
| 準備学習  | 次週のテーマについて、憲法の教科書を読んで予習する。                                     |       |                     |
| 受講者への要望   |  |       |                     |
| 公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。  |  |       |                     |
| 講義の順序とポイント  |  |       |                     |
| 1. 憲法の内容・歴史・基本原理   2. 日本国憲法の基本原理   3. 基本的人権の歴史・人権の主体・人権の効力・限界   4. 包括的人権と法の下での平等   5. 思想・良心・信教の自由   6. 表現の自由   7. 経済的自由   8. 社会権（生存権・教育を受ける権利・労働基本権）   9. 刑事手続と人身の自由   10. 国会   11. 内閣   12. 司法   13. 地方自治   14. 憲法改正   15. まとめ |  |       |                     |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40147001 |
| 科目名   | 行政法特別研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Special Study of Administrative Law                  |       |           |
| 担当者名  | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 公務員試験や行政書士試験のための行政法の基礎知識を習得し、試験問題を解くことによって実力養成をしていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『新スーパー過去問ゼミ3 行政法』実務教育出版                              |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（70%）出席状況等による。 授業内課題による評価（30%）                    |       |           |
| 到達目標  | 公務員試験、行政書士試験の合格のための力を養成する。                           |       |           |
| 準備学習  | 次週のテーマについて、行政法の教科書を読んで予習する。                          |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 行政法の科目、地方自治法、憲法の科目などの履修が望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. オリエンテーション  2. 行政と法  3. 行政立法  4. 行政行為①  5. 行政行為②  6. 行政計画・行政契約・行政指導  7. 実効性確保  8. 行政手続  9. 行政事件訴訟法の類型  10. 取消訴訟の訴訟要件  11. 取消訴訟の審理と判決  12. 行政不服申立て  13. 国家賠償法  14. 損失補償  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40147A01 |
| 科目名  | 行政法特別研究 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Special Study of Administrative Law I   |       |           |
| 担当者名   | 小林 明夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 公務員試験 (主として一般行政系) のための行政法の基礎知識の習得をめざし、過去問を中心とした問題演習を行う。問題演習の前には簡単に知識の整理のための講義を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『新スーパー過去問ゼミ 3 行政法』 (実務教育出版) 1,890 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業内テスト (50%)   |       |           |
| 到達目標   | 公務員試験のための行政法の基礎知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | テキストの次回範囲 (各節冒頭の「必修問題」、「必修問題の解説」、「POINT」の部分まで) に目を通しておくこと。次回範囲は各回の授業で指示する。        |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 行政法 I・II・III、地方自治法を履修することが望ましい。 遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合その理由を求める。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| テキストの第1章から第3章までを終了させる。(テキストの「実戦問題」を使った過去問演習と解説)  ※内容・順序は多少変更の可能性がある。 1. オリエンテーション  2. 行政法の基礎 3. 行政上の法律関係 4. 行政立法・行政計画 5. 行政行為の概念と種類 6. 行政行為の効力 7. 行政行為の瑕疵 8. 行政行為の効力の発生と消滅 9. 行政行為の附款 10. 行政裁量 11. 実効性確保の手段 12. 行政手続法 13. 行政指導・行政契約 14. 行政情報の収集と管理 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | 5          | 5   | 10  | 11  | 8     | 8      |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40148A01 |
| 科目名  | 民法特別研究A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Study of Civil Law A  |       |           |
| 担当者名   | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 公務員試験対策の講義である。Aでは、民法の中から総則、物権法および担保物権を取り上げ、よく出題されているテーマについての講義と過去問の演習を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | TAC 公務員講座編『民法（上）《公務員Vテキスト1》』（TAC出版、第9版、2011）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房、第3版、2010）978-4326450930 中田 邦博、高嵩 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 永田眞三郎ほか『民法入門・総則《エッセンシャル民法1》』（有斐閣、第4版、2008）978-4641183636 永田眞三郎ほか『物権《エッセンシャル民法2》』（有斐閣、2005）978-4641183278 |       |           |
| 教材（その他）  | 過去問題集を各自1冊手に入れておくこと。  |       |           |
| 評価方法   | 4回実施予定の小テストの結果を成績評価の基準とする。  |       |           |
| 到達目標   | 民法の知識を公務員試験合格できるようしっかりと身につける。   |       |           |
| 準備学習   | ただ何となくではなく、絶対に合格するんだという意識を持って、予習復習に努めること。 過去問題集を1冊購入し、繰り返し解くこと。 オフィスアワーに開室予定の自習室を利用すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 公務員試験合格という目標がある以上、他の科目以上に予習復習が重要である。本特別研究を自らの知識の再確認の場とするつもりで挑んで欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 原則として教科書の順に従う 第1回 ガイダンス・心構え・講義の進め方について 第2回 権利の主体（権利能力、意思能力、行為能力） 第3回 法律行為（法律行為と意思表示） 第4回 小テスト1・法律行為の付款 第5回 代理 第6回 時効 第7回 小テスト2・法人 第8回 所有権・共有 第9回 占有・用益物権 第10回 不動産物権変動 第11回 即時取得（動産物権変動） 第12回 小テスト3・担保物権の性質（留置権・先取特権・質権） 第13回 抵当権1（法定地上権） 第14回 抵当権2（第三取得者、処分；根抵当権） 第15回 小テスト4・まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40149B01 |
| 科目名        | 民法特別研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Study of Civil Law B  |       |           |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、公務員試験科目の中でも民法（債権総論および債権各論）の基礎知識の取得を目的とするものである。民法は、公務員試験において毎年かなりの量で出題されているため、民法を得意科目とすることは、公務員試験対策を進めるうえで非常に有利である。  本講義では、債権総論および債権各論の分野の中で、よく出題されているテーマについての講義・演習（過去問の演習を含む）を行う。                        |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 近江幸治著『民法講義IV債権総論（第3版補訂）』（成文堂、2009） 近江幸治著『民法講義V契約法（第3版）』（成文堂、2006）   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況や授業態度等による。学期末試験（90%）。   |       |           |
| 到達目標       | 公務員試験に必要な民法（債権総論および債権各論）の知識を取得する。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 最新版の六法を必ず持参すること。 2. 予習・復習を怠らないこと。 3. 講義中に扱える過去問の数は限られているので、各自で過去問の問題集・解説集を使ってよく勉強すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. 債務不履行  3. 債権者代位権  4. 債権者取消権  5. 多数当事者の債権・債務  6. 債権譲渡・債務引受  7. 債権の消滅  8. 契約総論  9. 債権各論（1）  所有権移転型の契約  10. 債権各論（2）  賃貸型の契約  11. 債権各論（3）  役務提供型の契約  12. 事務管理・不当利得  13. 不法行為(1)  14. 不法行為(2)  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                       |
|---|---|-------|-----------------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40150001             |
| 科目名   | 文章理解特別研究  | 単位数   | 2                     |
| 科目名（英語表記）   | Special Study of Reading Comprehension  |       |                       |
| 担当者名  | 佐別当 義博  | 旧科目名称 | 公務員研究E（法と文章理解）、公務員研究E |
| 講義概要  | <p>この講義は、公務員の採用試験や行政書士試験に耐え得るだけの文章理解の能力を向上させることを目的とする。そのために、毎回演習形式で、過去の試験問題や類題を実際に解いてもらい、解説をするという作業を繰り返す。しかし、過去の試験問題とその類題を教材にするからといって、単なる試験向けの解法の技術を身につけるのではなく、その技術を駆使できるだけの基礎的な文章理解の能力を、具体的には接続詞や指示語の使い方、語彙の理解、文章構成の仕方、段落の取り方、要約の要領などの基礎的な日本語能力を磨き上げることが目的である。基礎的な文章理解の能力が、行政書士試験や公務員試験のためだけでなく、本学でのレポートの作成や試験答案作成、さらに社会人になってから様々な文章を作成する場面でも役に立つように、講義を展開する。なお、本年度の担当者は、村田淑子、佐別当義博。</p> |       |                       |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。  |       |                       |
| 教材（参考文献）  | 講義の進行に合わせて適宜紹介する。   |       |                       |
| 教材（その他）   | 担当者が作成した教材を使用する。  |       |                       |
| 評価方法  | 課題等提出物によって評価する。   |       |                       |
| 到達目標  | 1. 文章全体の論理的構成が把握出来るようになる。  2. 語彙力が向上する。  3. 言語感覚をとぎすます。   |       |                       |
| 準備学習  | 具体的には各担当者が提示するが、ふだんから様々のジャンルの本を読んでおくこと。   |       |                       |
| 受講者への要望   |   |       |                       |
| 講義には毎回出席するだけでなく、普段からの読書量を増す努力をしてください。そのためには、自分の志望を堅持し、それを実現出来るだけの文章理解の能力を琢磨したいという向上心を持ち続けてください。   |   |       |                       |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                       |
| <p>以下は、講義の中で取り上げる内容の共通項目です。  担当者により、それぞれの内容が複合することもありますし、順番が多少入れ替わることもあります。  さらには、漢字力や語彙力をつけるための内容を別途追加する場合があります。   1. はじめに 文章理解とは？   2. 要旨問題   3. 同上   4. 同上   5. 文章整序問題   6. 同上   7. 同上   8. 空欄補充問題   9. 同上   10. 同上   11. 段落問題   12. 同上   13. 同上   14. 総合問題   15. 同上</p> |   |       |                       |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |                       |
|--|--|-------|-----------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40150002             |
| 科目名  | 文章理解特別研究   | 単位数   | 2                     |
| 科目名（英語表記）  | Special Study of Reading Comprehension   |       |                       |
| 担当者名   | 村田 淑子  | 旧科目名称 | 公務員研究E（法と文章理解）、公務員研究E |
| 講義概要   | この講義は、公務員の採用試験や行政書士試験に耐え得るだけの文章理解の能力を向上させることを目的とする。そのために、毎回演習形式で、過去の試験問題や類題を実際に解いてもらい、解説をするという作業を繰り返す。  しかし、過去の試験問題とその類題を教材にするからといって、単なる試験向けの解法の技術を身につけるのではなく、その技術を駆使できるだけの基礎的な文章理解の能力を、具体的には接続詞や指示語の使い方、語彙の理解、文章構成の仕方、段落の取り方、要約の要領などの基礎的な日本語能力を磨き上げることが目的である。基礎的な文章理解の能力が、行政書士試験や公務員試験のためだけでなく、本学でのレポートの作成や試験答案作成、さらに社会人になってから様々な文章を作成する場面でも役に立つように、講義を展開する。  なお、本年度の担当者は、村田淑子、佐別当義博。 |       |                       |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。   |       |                       |
| 教材（参考文献）   | 講義の進行に合わせて適宜紹介する。  |       |                       |
| 教材（その他）  | 担当者が作成した教材を使用する。   |       |                       |
| 評価方法   | 課題等提出物によって評価する。  |       |                       |
| 到達目標   | 1. 文章全体の論理的構成が把握出来るようになる。  2. 語彙力が向上する。  3. 言語感覚をとぎすます。  |       |                       |
| 準備学習   | 具体的には各担当者が提示するが、ふだんから様々のジャンルの本を読んでおくこと。  |       |                       |
| 受講者への要望  |  |       |                       |
| 講義には毎回出席するだけでなく、普段からの読書量を増す努力をしてください。そのためには、自分の志望を堅持し、それを実現出来るだけの文章理解の能力を琢磨したいという向上心を持ち続けてください。  |  |       |                       |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                       |
| 以下は、講義の中で取り上げる内容の共通項目です。  担当者により、それぞれの内容が複合することもありますし、順番が多少入れ替わることもあります。  さらには、漢字力や語彙力をつけるための内容を別途追加する場合があります。   1. はじめに 文章理解とは？  2. 要旨問題   3. 同上  4. 同上   5. 文章整序問題   6. 同上   7. 同上  8. 空欄補充問題   9. 同上   10. 同上  11. 段落問題   12. 同上   13. 同上   14. 総合問題   15. 同上 |  |       |                       |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J40151B01 |
| 科目名       | 警察・消防特別研究II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Special Study for Police Officer and Fire Fighter Examinations II  |       |           |
| 担当者名      | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | この講義では、警察官・消防官の採用試験に必要な文章理解の能力を向上させるために、毎時間、過去の試験問題とその類題を自ら解くこととその解説に当てられる。解説にあつては、文章理解の方法だけでなく、採用試験の科目である文系の一般教養の一部（国語、歴史、思想）も身に付くよう心がけるつもりである。  演習・説明の内容は、刑務官の採用試験にもある程度まで役立つものなので、これを目指す人も受講することができる。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の進行にあわせ適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 教材は担当者が作成し配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 毎回の提出物をその都度採点し、その合計点がそのまま最終成績の素点になる。   |       |           |
| 到達目標      | 1. 論理的に文章を分析できるようになる。  2. 語彙力が向上する。  3. 合格に向けての自習方法が身に付く。  |       |           |
| 準備学習      | 日頃から、新聞をはじめ、様々なジャンルの本を読むように心がけて下さい。  毎回「実戦テスト」を配布しますので、1週間後に提出してください。  |       |           |

受講者への要望  
途中で投げ出さず講義には毎回出席して下さい。| 復習をしっかりと行ってください。| 初心を忘れずに頑張ってください。

講義の順序とポイント  
1. はじめに(警察官・消防官採用試験について) | 第1回授業内試験と解説、第1回実戦テスト配布 | 2. 第1回実戦テストから文章理解問題の解説、第2回授業内試験と解説、第2回実戦テスト配布 | 3. 第2回実戦テストから文章理解問題の解説、第3回授業内試験と解説、第3回実戦テスト配布 | 4. 第3回実戦テストから文章理解問題の解説、第4回授業内試験と解説、| 5. 第1回復習テスト（実戦テスト第1回～第3回、授業内試験第1回～第5回）、第4回実戦テスト配布 | 6. 第4回実戦テストから文章理解問題の解説、第5回授業内試験と解説、第5回実戦テスト配布 | 7. 第5回実戦テストから文章理解問題の解説、第6回授業内試験と解説、第6回実戦テスト配布 | 8. 第6回実戦テストから文章理解問題の解説、第7回授業内試験と解説、第7回実戦テスト配布 | 9. 第7回実戦テストから文章理解問題の解説、第8回授業内試験と解説、| 10. 第2回復習テスト（実戦テスト第4回～第7回、授業内試験第6回～第8回）、第8回実戦テスト配布 | 11. 第8回実戦テストから文章理解問題の解説、第9回授業内試験と解説、第9回実戦テスト配布 | 11. 第9回実戦テストから文章理解問題の解説、第10回授業内試験と解説、第10回実戦テスト配布 | 12. 第10回実戦テストから文章理解問題の解説、第11回授業内試験と解説、第11回実戦テスト配布 | 13. 第11回実戦テストから文章理解問題の解説、第12回授業内試験と解説、第12回実戦テスト配布 | 14. 第12回実戦テストから文章理解問題の解説、第12回授業内試験と解説 | 15. 第3回復習テスト（実戦テスト第8回～第12回、授業内試験第9回～第12回）

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|   |   |       |              |
|---|---|-------|--------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J40152001    |
| 科目名   | 人文科学特別研究  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）   | Special Study of Cultural Sciences  |       |              |
| 担当者名  | 船越 義正   | 旧科目名称 | 公務員研究H（一般教養） |
| 講義概要  | 公務員試験対策講座として日本歴史を学習する。 第一章では先土器文化と縄文文化、水稲耕作の開始と弥生文化、小国の分立と邪馬台国、統一国家と大和政権を扱う。第二章では推古朝の政治から律令の制定、奈良時代・平安時代前期の政治と文化を扱う。第三章では摂関政治・院政と平氏政権の成立を扱う。第四章では鎌倉政権・北条執権政治・蒙古襲来と幕府政治の衰退と滅亡を学習する。第五章では建武の新政、南北朝の動乱と足利義満による幕府政治の確立、勘合貿易、応仁の乱と戦国時代を扱う。第六章ではヨーロッパ人の来航から織豊政権、徳川幕藩体制の確立、鎖国体制の完成。第七章幕藩体制の動揺、幕政改革と藩政改革、ヨーロッパ列強の接近と海防を扱う。第九章では憲法と議会政治、日清・日露の両戦争を通じて「一等国」に成長する過程を扱う。第十章では政党政治の成立によって、近代国家として成熟する一方で、経済的不振と対外的緊張が次第に高まっていった両戦争間の日本を扱う。 |       |              |
| 教材（テキスト）  | 1.菱刈隆永『story 日本の歴史—古代中世編』山川出版社 菱刈隆永『story 日本の歴史—近現代史編』山川出版社 2.各講義でプリントを配布する。  |       |              |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |              |
| 教材（その他）   | 公務員試験過去問題(日本史部門)を配布する。  |       |              |
| 評価方法  | 平常点(20%) 小テストとレポート(30%) 定期テスト(50%)  |       |              |
| 到達目標  | 1.各時代の背景及び推移を科学的観点から理解することを目標とする。 2.歴史的事象や事件の原因・経過・結果・影響を総合的に理解することを目標とする。  |       |              |
| 準備学習  | 1.高校時代に使用したテキスト「高校日本史」を携行すること。  |       |              |
| 受講者への要望   |   |       |              |
| 1.教養日本史としての知識を身につけよう。 2.能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 3.質問は歓迎、講義中の私語は慎むこと。   |   |       |              |
| 講義の順序とポイント  |   |       |              |
| 1.日本最古の文化から縄文・弥生文化、大和国家と古墳文化 2.推古朝の政治から大化改新、律令の制定 3.律令国家の成立、奈良時代そして平安初期の政治と文化 4.摂関政治から院政と平氏政権 5.鎌倉幕府の成立から滅亡 6.南北朝の動乱・室町幕府の成立、応仁の乱、戦国大名の領国経営 7.ヨーロッパ人の来航、織豊政権、幕藩体制の成立、鎖国 8.幕藩体制の動揺と三大改革、文化の成熟 9.近代への転換、開国から幕末の動乱 10.明治維新そして文明開化 11.近代国家の形成、民権運動から国会開設 12.日清・日露戦争そして産業革命 13.両大戦間の日本、大正デモクラシー、第一次世界大戦、ベルサイユ体制 14.十五年戦争と日本。満州事変から太平洋戦争まで 15.現代の日本。戦後の民主化と経済高度成長 |   |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40153A01 |
| 科目名  | 警察・消防特別研究 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Study for Police Officer and Fire Fighter Examinations I   |       |           |
| 担当者名   | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義内で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内テスト 70%、期末テスト 30%   |       |           |
| 到達目標   | 警察や消防の仕事に理解を深める。 採用試験に臨む心構えをつくる。 筆記試験(択一式)の準備を促す。  |       |           |
| 準備学習   | 確実に実力アップするためには、授業外での学習が不可欠である。 講義にあわせて、練習問題にできるだけ多く取り組むことが重要である。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本講義は3回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない4回生の登録は、歓迎しない。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 警察官、消防官の仕事   2. 論理的に考える   3. 嘘を見抜く   4. 暗号を解読する   5. 対応表を使いこなす   6. 軌跡をたどる   7. 空間を把握する   8. 整数の性質   9. 文章題に強くなる その1   10. 文章題に強くなる その2   11. 確率に強くなる   12. 平面図形に慣れる   13. 立体図形に慣れる   14. 資料を解釈する   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40155B01 |
| 科目名        | 行政書士実務論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practice of Administrative Scriveners B  |       |           |
| 担当者名       | 三木 常照  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>行政書士の機能と機能障害を中心にその役割を検討する。具体的業務の紹介を交えながら、実際に権利・義務に関する相続・遺言や会社の設立、建設業許可から入札参加資格審査などの申請書類を作成し、その根拠法を探る。また、許認可手続と不可分な関係にある行政手続法では、許可取消、営業停止などの不利益処分時に行われる聴聞や弁明手続に行政書士が聴聞代理人となり得るが、その点も併せて、検討を加えたい。</p> <p>わが国の法律専門職は細分化しすぎ、それが市民に不便をもたらしている。市民は行政と接触しながら、日常生活を営んでいる。学生の諸君も自動車の運転免許や車庫証明・自動車登録、住民票や戸籍の取得などを経験したことがあると思うが、行政側の所管や縄張りによって日常生活が細分化されていることを望んでいるわけではない。市民にとって今後の行政と法律専門職のあり方を学生諸君と共同討議方式で検討したい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 三木常照著 『増補改訂版 行政書士の役割』 ふくろう出版 2,100円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席状況等による。レポート（30%）、定期試験（50%）など多面的評価を行います。  |       |           |
| 到達目標       | 行政書士業務の実際とその機能について理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のためのテキスト準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 各講義テーマ毎の学生諸君の積極的な発言を期待しています。但し、私語は厳禁。他の受講生への配慮から退室を求める場合もあります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 法律関連資格者の紹介   2. 行政書士の資格要件   3. 行政書士の目的および業務   4. 行政書士の義務   5. 業務の実際   6. 相続・遺言（書類作成）   7. 法人設立（書類作成）   8. 建設業の許可（書類作成）   9. 入札と談合   10. 鉄の三角同盟   11. 許認可の概要   12. 行政手続法と許認可   13. 行政と市民   14. 行政書士の機能と機能障害   15. 国民視点の規制改革  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J4016500A |
| 科目名        | 企業法入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Corporate Law   |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 2回生以上で商法・会社法など、企業に関する様々な法律分野を勉強していくことになります。その準備として、1回生の秋学期に開講する「企業法入門」の講義では、企業法全体の見取り図を示し、2回生以降の勉強にスムーズに進んでいけるようにします。そのため、企業を取り巻く主要な法制度を身近な例から解説し、それによって、商法、会社法を理解する手がかりを提供します。実際には、商法、会社法を中心に、その具体的な適用事例のいくつかを紹介することになります。この講義では、これらを通じて企業法についての見取図を得、どのようなことが具体的に問題となるかをイメージしてもらうことを目的とします。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 龍田節・杉浦市郎『企業法入門〔第四版〕』悠々社 2000円（外税）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回レジュメ（プリント）を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（25%）出席状況・授業内レポート等による 中間試験（25%） 定期試験（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 企業に関する基本的な仕組みについて理解し、説明できるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を見ること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 普段から経済や企業関係のニュースに関心を持って、新聞を読んだり、ニュースを見ること。 毎回の授業には、最新版の六法をもち、体調を整えて出席すること。 第1回目の講義で半年間の座席を決め、授業では指名も行うので、積極的に 授業に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション・企業法とは何か・民法と商法の違い   2. わが国の事業所・会社の実態   3. 「日本型資本主義」の成立と変遷   4. 商品の流通   5. 金の流れと決済 1（銀行振込み・クレジットカード）  6. 金の流れと決済 2（手形・小切手）  7. 企業の組織   8. 中間試験  9. 企業のグループ   10. 企業の資金   11. 投資と利殖   12. 企業の失敗   13. 企業と責任   14. 権利の乗物－紙からネットへ   15. 会社法の沿革・総括                                     |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40166A01 |
| 科目名  | 消防と法 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Fire Fighting and Law I   |       |           |
| 担当者名   | 廣瀬 仁久   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>公務員の中でも、住民の生命と財産を守るために、時には我が身の危険を顧みず消火活動や人命救助に当たる消防職員は、一般の事務職員とは異なり阪神淡路大震災以後、大きな注目を浴び、男女を問わずこの職業を目指す若者が増加しています。一方、消防職員の日常業務、災害現場における活動等、その真の姿を理解している方は多くはないと思います。この講義では、消防の仕事を知り、理解することで、将来、消防職員に就こうとする学生諸君の目的意識の向上を図ると共に、身近な防火・防災に関心を持ってもらうこと。併せて職員になるためには何をなすべきか、なしたなら如何にあるべきかを伝えていきます。講義内容は、机上学習の他に、訓練参加、実技、事例研究などを取り入れ、多彩なものとしします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しません  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その都度、紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリント等を配布します。  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況と、期末レポートによる総合評価   |       |           |
| 到達目標   | 地方公務員である消防職員の仕事と多様化する災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。  |       |           |
| 準備学習   | 現在、地球上では前例のない災害が毎年のように発生しています。このような災害の発生メカニズムから被災者の自立支援にまで関心を持ち、その防災の一端に携わっている消防の活動をテレビや新聞、雑誌等で常に注視しておいて下さい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>消防は、どのような法律を根拠に活動しており、起こりうる災害に対してどのように備えているのか？住民の生命・財産を守る消防職員に興味を持ち、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。なお、「消防と法 I」は、法令等に基づき消防の業務や今日の災害を知り、その対処の方法などを学び、「消防と法 II」では、実戦の訓練や図上訓練、防災地図の作成などの他、各種講習会などを体験する実技中心の講義とします。「消防と法 I」「消防と法 II」はどちらか一方、または双方の受講が可能です。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1 講時 公務員と消防職員  2 講時 日本における災害の現状  3 講時 消防業務の概要  4 講時 消防の日常業務と現場活動  5 講時 消防組織法  6 講時 消防法   7 講時 その他の消防関係法令  8 講時 消防財政  9 講時 警防業務(火災)  10 講時 火災原因調査  11 講時 警防業務(救助)  12 講時 警防業務(救急)  13 講時 予防業務(学園大学内の建物の査察を実施)  14 講時 予防業務(危険物の知識と防火管理)   15 講時 亀岡消防署消防活動(救助訓練大会：5月末実施)見学    </p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                    | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J40166B01 |
| 科目名   | 消防と法Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Fire Fighting and Law II   |       |           |
| 担当者名  | 廣瀬 仁久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 「消防と法Ⅱ」は、実戦訓練や図上訓練、防災地図作成等の他、各種講習会などを体験する消防実技中心の講義です。                              |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しません   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その都度、紹介します。  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリント等を配布します。   |       |           |
| 評価方法  | 出席状況と、期末レポートによる総合評価  |       |           |
| 到達目標  | 消防職員の仕事と災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。                            |       |           |
| 準備学習  | 消防の活動に絶えず関心を持ち、テレビや新聞、雑誌等から消防に対する知識を吸収しておくこと。 また、大学の周辺の地理や地形的特徴などにも関心を持って観察しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 消防の実践的活動を目にし、また自ら体験し、住民の生命・財産を守る消防職員が実際にどんなことをしているのかを知るなどして、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 講時 消防活動の概要 2 講時 危機管理と安全管理 3 講時 K Y T(危険予知訓練) 4 講時 普通救命講習受講(1) 5 講時 普通救命講習受講(2) 6 講時 消防署見学と消防体験(亀岡消防署) 7 講時 住民に安心安全を届ける防災指導 8 講時 子供の頃から防災教育を！ 9 講時 災害を知り、町を知る(大学周辺の防災調査) 10 講時 地図を読み取る(1) 11 講時 地図を読み取る(2) 12 講時 防災マップの作成 13 講時 DIG(Disaster-災害 Imagination-想像力 Game-ゲーム) = 災害対策  14 講時 防災講演会聴講(11月に実施) 15 講時 現職消防職員の話聞く(財政その他)  ※14 講時は、11月の下旬、「ガレリアかめおか」で行います。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J40167001 |
| 科目名  | 少年法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Juvenile Law  |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小6女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを確認に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。  警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 河村博編『少年法―その動向と実務―』（東京法令出版、改訂版、2009）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法   | 学期末試験の結果（80%）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（20%）によって成績を評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになる。   |       |           |
| 準備学習   | 事前に教科書の関係箇所を読んでおくこと。  新聞やニュースを見て、報道された少年事件の内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。  学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 少年法とは  2 少年法制の沿革  3 少年法の目的と対象  4 少年保護事件の対象と手続  5 警察による捜査・予防活動（1）  6 警察による捜査・予防活動（2）  7 警察による捜査・予防活動（3）  8 警察における非行防止活動  9 家庭裁判所における事件受理  10 観護措置  11 調査・試験観察   12 少年審判  13 終局決定  14 刑事処分相当による検察官送致決定・刑罰の緩和  15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40179001 |
| 科目名        | ドイツ近現代の文学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Modern German Literature  |       |           |
| 担当者名       | 奥村 哲夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 19世紀に入って30年位で、ドイツ理想主義は終息する。哲学ではヘーゲルが観念論体系を完成させた頃である。以降は、技術時代に踏み入った時代の変転の中で文学はその質を大きく変え、現代の我々の文学とかなり相似するものが登場することとなる。  本講では、写実主義、自然主義、反自然主義、表現主義、新即物主義を経て第2次世界大戦の終わる1945年までを主に扱い、それ以降の約半世紀間の「今」に至るまでは、受講生の興味に応じて選択的に取り上げることとする。  それぞれの時期、時代を代表する作家とその作品を具体的に考察してゆく。精彩ある表現の妙を味わうべく、各個別にその作品の何節かを抜粋し、鑑賞と思考の材料を提供していく。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 手塚富雄著 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 660円+税  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 折にふれ紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験レポート (60%)、授業内テスト・レポート (20%)、出席しての意見発表点等も若干加点。以上はさほど厳密なものではない。  |       |           |
| 到達目標       | 様々な文学表現を楽しみ、自らも表現意欲を高めていくこと。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回、テキストの指定された箇所を読んでくることと、そこに出てくるいくつかの作品を読むようにすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 私的に詩や小説やドラマ等を愛好されている諸君の受講を特に歓迎します。なんでも自由に伸び伸びと意見をかわせる場にしたいと思えます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (都合により、一部変更もありえます。)  1. 写実主義 : 青年ドイツ派 ハイネ 『歌の本』他  2. 写実主義 : 詩的写実主義 ケラー 『グライフェン湖の代官』  3. 自然主義 : ハウプトマン 『日の出前』他  4. 反自然主義 : 印象主義 ホフマンスタール 『バッソンピエール元帥の体験』他  5. 反自然主義 : 理想主義的文学 : リルケ 『マルテの手記』他  6. 表現主義、新即物主義から1945年まで : カフカ 『変身』  7. 同上 : ヘッセ 『데미アン』  8. 同上 : Th.マン 『トニオ・クレーゲル』  9. 同上 : プレヒト 『三文オペラ』  10. 第2次大戦後から現在まで ベル 『ある道化の意見』他  11. 同上 : グラス 『ブリキの太鼓』他  12. 同上 : ハントケ 『ゴールキーパーの不安』他  13. 同上 : エンデ 『モモ』  14. 授業内レポート作成  15. レポート講評及び授業総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4018100A |
| 科目名        | 現代社会と法1  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Seminar on Contemporary Legal Issues 1   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会においては、さまざまな民事上の法律問題が発生しています。毎回、その個別問題をとりあげて検討していきます。教科書を指定していませんが、時事問題などで学習の幅を広げ、現代社会人へ一歩近づいてもらうことが狙いです。 民法は、法律学の根幹をなす科目であり、社会人にとって年を重ねても役立つ重要な科目でもあります。ともすれば、断片的な知識になりがちなところを補い、実際に体系化された知識を吸収する機会とするようテーマを選んでいきます。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 適宜プリントを配付する。   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況等による。授業中の問題により(70%)評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 現代社会でどのような民事問題が発生し、その発生原因を理解することを目標とする。 断片的な知識を総合化・体系化して理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 現代社会における社会問題につき、日頃から関心を持つこと。 各講義の最後に、次回取り上げる問題につき、準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 民事問題を総合化・体系化してとらえるよい機会と自覚してください。 遅刻も迷惑となる場合があります。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.利息制限法と過払金 2.意思無能力 3.住所と法律 4.生活とトラブル 5.年金担保 6.故・藤山寛美の遺産、誰のもの 7.賭けマージャン 頼まれて買った馬券 8.名義貸の立替払契約 9.内縁・認知 10.離婚と法律 11.金銭消費貸借と利息 12.損害賠償範囲 13.いろいろな損害賠償 14.夫婦間の契約・贈与 15.連帯保証  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J4018200A |
| 科目名        | 現代社会と法2  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Contemporary Legal Issues 2   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会においては、さまざまな民事上の法律問題が発生しています。毎回、その個別問題を取りあげて検討していきます。教科書を指定していませんが、時事問題などで学習の幅を広げ、現代社会人へ一歩近づいてもらうことが狙いです。 民法は、法律学の根幹をなす科目であり、社会人にとって年を重ねても役立つ重要な科目でもあります。ともすれば、断片的な知識になりがちなところを補い、実際に体系化された知識を吸収する機会とするようテーマを選んでいきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜プリントを配付する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。授業中の問題により（70%）評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 現代社会でどのような民事問題が発生し、その発生原因を理解することを目標とする。 断片的な知識を総合化・体系化して理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 現代社会における社会問題につき、日頃から関心を持つこと。 各講義の最後に、次回取り上げる問題につき、準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 民事問題を総合化・体系化してとらえるよい機会と自覚してください。 遅刻も迷惑となる場合があります。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.サインとハンコ 2.暮らしと契約 3.ダイヤルQ2 4.遺産相続 5.電子消費者契約 6.隣人とのトラブル 7.時効 8.クーリングオフ 9.契約の成立、解消 10.用地取得事例 11.任意後見制度 12.旅行のトラブル 13.マンションのトラブル 14.女の再婚禁止期間 15.条件—出世払事例   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40211001 |
| 科目名  | 行政法Ⅱ（作用法）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Law II (Actions)  |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の3つの講義で構成される。本講義では、行政作用法の部分と行政の義務履行確保の部分、行政手続、情報公開、個人情報保護を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井敬子・橋本博之『行政法 [第3版]』弘文堂  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%） 授業内テスト（20%） 平常点（20%）   |       |           |
| 到達目標   | 行政作用のそれぞれの特色を理解するとともに、行政救済法との関係も学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 次週の講義テーマについて教科書を読む。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 行政法の学び方と講義の概要   2. 行政作用の種類   3. 行政立法   4. 行政行為の概念と種類   5. 行政裁量   6. 行政行為の効力   7. 行政行為の瑕疵   8. 行政行為の取消しと撤回   9. 行政行為の附款   10. 行政計画   11. 行政契約   12. 行政指導   13. 行政上の強制執行   14. 行政上の即時強制・行政罰   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40216A01 |
| 科目名        | 公務員特別研究 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Civil Servant Examinations I   |       |           |
| 担当者名       | 山下 功   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を通年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、（経済学研究科、MBA などの）大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 前期は個別経済主体の意思決定と取引を主な分析対象とするミクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回及び第2回の講義において、本講義で最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用して、復習を行って理解を深めましょう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ3 ミクロ経済学』実務教育出版, 2011年   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略 新・経済学入門塾V 計算マスター編』中央経済社 成生達彦『ミクロ経済学入門—需要、供給、市場』有斐閣アルマ   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜講義中にプリントを配布  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験 (70%) レポート及び平常点 (30%)   |       |           |
| 到達目標       | ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。   |       |           |
| 準備学習       | 講義中の演習だけでは、テキストの全ての問題をフォローすることはできません。 各自、十分な予復習を行ってください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみるのが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義ガイダンス 2. 数学準備 3. 消費者理論1 4. 消費者理論2 5. 消費者理論3 6. 消費者理論4 7. 生産者理論1 8. 生産者理論2 9. 生産者理論3 10. 不完全競争1 11. 不完全競争2 12. 不完全競争3 13. 市場の理論1 14. 市場の理論2 15. 市場の理論3   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J40216B01 |
| 科目名        | 公務員特別研究 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Special Study for Civil Servant Examinations II   |       |           |
| 担当者名       | 山下 功  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、公務員試験において最重要科目と言える経済原論（ミクロ経済学、マクロ経済学）の対策を本年で行います。 対象は、公務員試験受験を考えている方、経済学研究科、MBA などの大学院試験受験を考えている方、経済学に興味がある方等です。入門的な内容から行いますので、事前の知識は問いません。 後期は個別経済主体の経済活動の集計としての「国」の活動を分析対象とするマクロ経済学です。 テキストとして指定しているのは公務員試験勉強の定番と言える問題集です。 各トピックについて講義をした後、テキストの主要な問題を解説します。 パワーポイントの使用を最低限にし、板書を中心に行います。また、演習時間を設けることがあるので筆記用具は必携です。 皆さんがテキストの各問題を自力で解けるようになることを本講義の目標にしたいと思います。 なお、経済学を勉強するにあたって数学を回避することは出来ません。 初回の講義において、本講義において最低限必要な数学について説明しますが、適宜参考文献などを利用し、復習を行って理解を深めましょう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ3 マクロ経済学』実務教育出版, 2011 年   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | N.G.マンキュー『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社 石川秀樹『試験攻略 新・経済学入門塾V 計算マスター編』中央経済社 福田慎一, 照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜講義中にプリントを配布   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験 (70%) レポート及び平常点 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | マクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、それを問題へ応用する力をつける。  |       |           |
| 準備学習       | 講義中の演習だけではテキストの全問題をフォローすることはできません。 各自、十分な予復習を行ってください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみるのが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義ガイダンス 2. 45 度線分析 1 3. 45 度線分析 2 4. IS 曲線 1 5. IS 曲線 2 6. LM 曲線 1 7. LM 曲線 2 8. IS-LM 分析 1 9. IS-LM 分析 2 10. マンデル=フレミング・モデル 1 11. マンデル=フレミング・モデル 2 12. 乗数理論の基本 1 13. 乗数理論の基本 2 14. IS-LM 型の計算問題 1 15. IS-LM 型の計算問題 2  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40217001 |
| 科目名  | 自治体政策法務論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Policy and Legal Practice of Local Governments   |       |           |
| 担当者名   | 小林 明夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>政策法務とは、「法を政策実現の手段と捉え、政策実現のためにどのような立法、法執行、争訟評価が求められるかを検討する理論及び実務における取組」であるとするのが学界における代表的な定義である。  第一次分権改革前の旧来型の集権的行政システムの下では、「国が政策を考え、それを自治体が行う。」という法律上・事実上の役割分担ないしその意識が、当然のように、国だけでなく多くの自治体にも支配的であった。それ故、国の考えた政策を忠実に実行する役割を長年果たしてきた自治体において、「法務」は「政策」とは切り離されてきた。  しかしながら、分権的行政システムへの指向性が時代の大きな流れとなっている現在及び将来においては、法（特に行政法）の執行に当たっても、政策との結びつきを考慮して政策実現のために最も合理的な解釈運用を行わなければならない。また、地域に解決すべき問題がある場合には、自治体が独自の政策をつくり、これを実現するために、条例制定等の自治立法対応をとる必要がある。  以上から、政策法務は、現在では特に自治体において必要かつ有効な考え方であり、このことを強調する観点から「自治体政策法務」とも呼称される。  本講義においては、理論と実務とを架橋するという自治体政策法務論の特質を意識しつつ、政策法務の考え方を紹介していく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 田村泰俊ほか編『自治体政策法務』（八千代出版、2009年）。その他、必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）出席状況等による。定期試験（50%）   |       |           |
| 到達目標   | 自治体の政策法務についての認識を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 自治体政策法務論は、現在も発展しつつある最先端の理論と実践の融合体である。このことから、地方自治、地方分権、条例、法政策に関わる新聞記事等のメディア情報に常日頃から関心を持ち、自分であればどう課題解決を図るのか等を考えることを習慣化しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>憲法、行政法への基礎的な理解ができていないことが前提となる。 行政法等の関連科目は履修することが望ましい。 自治体職員をはじめとする行政系公務員・行政書士をめざしている者歓迎。 私語を厳禁とする。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。 【重要！他学部の諸君へ】法学部以外の学部の学生は、まず法学概論を履修すること。それからでないこの科目の理解は困難であるので注意。</p>                  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>※ 内容・順序は変更の可能性がある。 1. オリエンテーション 2. 政策法務とは 3. 政策法務の歴史と展開 4. 民主主義と政策法務 5. 自治立法の評価 6. 行政手法とその的確な選択（1） 7. 行政手法とその的確な選択（2） 8. 条例制定権とその限界（1） 9. 条例制定権とその限界（2） 10. 条例制定権とその限界（3） 11. 自治立法過程（1） 12. 自治立法過程（2） 13. 執行法務 14. 争訟・評価法務 15. 総括</p> |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | 6          | 6   | 5   | 9   | 10    | 11     |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40218001 |
| 科目名  | スポーツと法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports and Law   |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | スポーツにかかる法は、憲法・民法・行政法・労働法・知的財産法・独占禁止法・刑法など広範囲にわたる。競技者または観戦者としてかかわる場合に問題となる法律、選手と競技団体との関係で問題となる法律、スポーツビジネスを行う場合に問題となる法律など、スポーツに関連する法の姿を浮かび上がらせる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 井上 洋一ほか「導入対話によるスポーツ法学 第2版」信山社（2007/04） 道垣内正人・早川吉尚「スポーツ法への招待」ミネルヴァ書房（2011/04）   |       |           |
| 教材（その他）  | レジュメ等を配布   |       |           |
| 評価方法   | 授業内課題(40%) レポート(60%)   |       |           |
| 到達目標   | 生きている法の現状と役割を知り、さらに深く法を学ぶための動機付けとなるようにする。  |       |           |
| 準備学習   | 履修済みまたは現在履修中の法律科目については、十分復習しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 履修済みまたは現在履修中の法律科目については、十分復習しておく。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 スポーツ法とは何か 2 スポーツと憲法 3 スポーツと行政 4 スポーツと不法行為法(1) 5 スポーツと不法行為法(2) 6 スポーツと刑事法  7 スポーツと契約法 8 スポーツ団体の法律関係 9 スポーツにかかる紛争処理手続き 10 スポーツと労働法 11 スポーツと知的財産法 12 スポーツと独占禁止法 13 国際スポーツ法 14 最近のスポーツと法をめぐる問題点 15 まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J40219001 |
| 科目名  | 女性と法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Woman and Law  |       |           |
| 担当者名   | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 女性の社会進出が進み、職場、家庭、育児など、女性を取り巻く法律や法制度を理解することは重要になってきている。女性を取り巻く法律や法制度を理解することは、男性にとっても重要である。男性も女性もキャリアプラン、ライフプランを考える上で、仕事、結婚、離婚、子供の養育等に関連して、女性の立場がどのように変わり、男性にはどのような影響があるのか。これらのことを基本的知識として、知っておく必要がある。そこで、この授業では、キャリアプラン、ライフプランを考える上で重要になってくる法律や法制度に着目し、女性と法に関する基本的知識と問題点についての理解を深めていくことを目的とする。 【担当教員】阿部千寿子、右近潤一、柏崎洋美、西片聡哉（五十音順） |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | ・ 出席状況及び授業ごとに行う小テスト（40%） ・ 期末レポート試験（60%）   |       |           |
| 到達目標   | 女性に関連した法律状況を理解し、日常生活に役立つ法律を勉強することで、卒業後のキャリアプラン・ライフプランを考える上で必要な法律に関わる素養を身につける。  |       |           |
| 準備学習   | 日々、新聞やニュースを見て、女性と法律に関連する内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 毎度必ず出席し、六法を持参すること。集中して講義の望むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 はじめに（阿部） 2 結婚（民法関係：右近） 3 離婚（民法関係：右近） 4 母と子一母の認知・代理母など（民法関係：右近） 5 相続（民法関係：右近） 6 女性の人権の国際的保障（国際法関係：西片） 7 女性差別撤廃条約と日本（国際法関係：西片） 8 女性差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法（労働法関係：柏崎） 9 男女雇用機会均等法（労働法関係：柏崎） 10 セクシュアル・ハラスメント（労働法関係：柏崎） 11 非典型雇用とアンペイド・ワーク（労働法関係：柏崎） 12 児童虐待（刑事法関係：阿部） 13 ストーカー、DV（刑事法関係：阿部） 14 墮胎と母体保護法（刑事法関係：阿部） 15 まとめ（阿部） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J40220001 |
| 科目名       | 食の安全と法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） |  |       |           |
| 担当者名      | 小林 明夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 食の安全の確保は、市民生活の重要な基盤の一つであるとともに、行政からみても最も基本的な行政課題の一つである。この講義においては、行政がこのような食の安全の確保のためにどのような施策を講じているかを主に制度論の観点から明らかにする。また、食の安全が脅かされた場合の民事賠償責任についても言及していく。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 食品表示ハンドブック（全国食品安全自治ネットワーク、第4版、2011年）。その他、必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（50％）出席状況等による。定期試験（50％）   |       |           |
| 到達目標      | 食の安全に関する法制度についての認識を深める。  |       |           |
| 準備学習      | 新聞記事等に常日頃から関心を持つておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 私語を厳禁とする。私語が過ぎれば他者への迷惑を勘案し退出を求める。 携帯の電源は授業中OFFにしておくこと。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | ※ 内容・順序は変更の可能性がある。 1. 緒論 2. 食品安全基本法 3. 食品衛生法の仕組み（1） 4. 食品衛生法の仕組み（2） 5. 食の安全に関するその他の法律 6. 食品表示に関する法律（1） 7. 食品表示に関する法律（2） 8. 都道府県の食品安全条例（1） 9. 都道府県の食品安全条例（2） 10. 都道府県の食品安全条例（3） 11. 自治体の食品衛生条例 12. 食の安全に関する民事賠償責任（1） 13. 食の安全に関する民事賠償責任（2） 14. 食に関するその他の法律 15. 総括 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | 6          | 7   | 7   | 8   | 10    | 6      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40221001 |
| 科目名        | 商法総則・商行為法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Commercial Code (General Provisions and Commercial Transaction)  |       |           |
| 担当者名       | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 商法・会社法に代表される商事法の原則を規定する商法総則と、商法第2編(商行為)について講義する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する、会社法総則についても適宜触れる。 民法上の契約は、商人でない者同士のもの(C2C取引)を想定する。これに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為法では、商人間のもの(B2B取引)および商人と消費者のもの(B2C取引)が想定される。これらを、簡単なモデル・ケースを提示しつつ、講義する。                        |       |           |
| 教材（テキスト）   | 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法I-総則・商行為〔第4版〕』（有斐閣、2009年） ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1. 森本滋編『商法総則講義〔第3版〕』（成文堂、2007年） 2. 森本滋編著『商行為法講義〔第3版〕』（成文堂、2009年） 3. 江頭憲治郎=山下友信編『商法(総則・商行為)判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2008年） ※1・2は教科書の類書であり、購入は自由。3は判例集で、なるべく購入してほしいが、必須とはしない。  |       |           |
| 教材（その他）    | 随時、教員作成のレジメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法       | 1. 平常点(20%)出席状況等から判断する。 2. 期末試験(80%)   |       |           |
| 到達目標       | 1. 現代社会において、商法がどのように役立っているか、知識を得て法的に理解できる。 2. 商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. 講義前に、講義対象部分のテキストを一読しておくのが望ましい。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくことよい。 3. どのような社会生活上の問題が商法に関連するのか、信頼できるメディアの情報に気を配ってほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 民法総則・契約法を履修済みであるか、並行して受講していること。昨年度までに「商法総則」「商行為各論」の両方の単位を取得した者は、本講義を履修できない。 2. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。 3. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 商法の意義、商法の法源、商人主義と商行為主義 3. 商人資格とその取得時期 4. 営業・営業譲渡、商号規制 5. 商業帳簿、資産の評価 6. 商業使用人、代理商 7. 商業登記 8. 商法総則のまとめ 9. 商行為概念とその効果 10. 商行為の代理・商事契約の成立 11. 商事担保:債権総論・担保物権の特則 12. 企業取引の補助者(仲立人・問屋)、商事売買 13. 問屋営業・運送営業 14. 場屋営業・倉庫営業 15. 全体を通じた復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40222001 |
| 科目名        | 執行・保全法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Civil Execution and Provisional Remedies Act   |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 執行・保全法は、私人の権利実現のため、不可欠な制度である。民法が定める権利は、執行手続を経てはじめて現実のものになる。  本講義は、担保物権法(民法Ⅲ)で学んだ担保権者の権利について、これが具体化されるまでの手続きについて、担保権者の側から見ていくことを目的とする。(その意味で、執行・保全法の一部を取り扱うに過ぎない。)  受講にあたっては担保物権法の知識が必要であるが、自信のない方にも、本講義を受講することによって、担保物権法についても立体的な勉強をしていただけるように進めていくこととしたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 上原敏夫・長谷部由起子・山本和彦『民事執行・保全法[第3版]』（2011年、有斐閣アルマ） 和田吉弘『基礎からわかる民事執行法・民事保全法[第2版]』（2010年、弘文堂） 中野貞一郎『民事執行・保全入門』（2010年、有斐閣）   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義用レジュメおよび資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | レポート(70%)・授業中課題(30%)   |       |           |
| 到達目標       | 1.民法上の権利と民事執行法・民事保全法の機能・役割を知る。 2.担保権実行手続等の概要について説明できる。   |       |           |
| 準備学習       | 民法の教科書・参考書等で、担保物権法に関する部分を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 民法の教科書・参考書等で、担保物権法に関する部分を読んでおくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 執行・保全法とは  2 民事執行手続の基本 2-1 概要 2-2 執行機関  3 商取引と担保の活用 3-1 法定担保権 3-2 約定担保権(1)－抵当権(不動産) 3-3 約定担保権(2)－質権・譲渡担保権(動産・債権)  4 法定担保権の実行－取引先破綻時の対応(1) 4-1 留置権 4-2 先取特権  5 約定担保権の実行－取引先破綻時の対応(2) 5-1 抵当権 5-1-1 担保不動産競売 5-1-2 担保不動産収益執行  5-2 質権・譲渡担保権 5-2-1 動産競売 5-2-2 債権執行  6 民事保全手続 6-1 概要 6-2 金銭債権の保全(仮差押え)  7 まとめ－講義を通じて明らかにされたこと |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J40223001 |
| 科目名        | 企業法務   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |  |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業（会社）法務ではどのような法的問題があるのか、契約法関係と会社法関係に区分してビジネス法学を学ぶこととする。会社法関係は判例を中心に扱うこととする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じプリントを配布する   |       |           |
| 評価方法       | レポート試験（40%）、定期試験(50%)、その他（10%）による  |       |           |
| 到達目標       | 企業における法務問題への対処方法、解決方法を理解できることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞、テレビ等の報道する会社法務につき関心をもつこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 小六法を持参し、参照すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.企業契約法総論  契約自由の原則、契約の成立段階、契約の効力 2.契約書の基本  契約書の要件とは 3.売買契約法① 4.売買契約法② 5.賃貸借契約法 6.担保契約－質権 7.担保契約－抵当権 8.担保契約－譲渡担保 9.銀行取引と経営者の保証 10.株式会社の構造 11.株主提案権について 12.取締役の注意義務と経営判断原則について 13.内部統制システムについて 14.取締役会決議を経ない取引の効力 15.まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50001001 |
| 科目名  | CM表現論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Commercial Expression   |       |           |
| 担当者名   | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告やCM表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせる参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつCMは、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告やCM作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか!？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 天野祐吉編『あたらしい教科書6 広告』プチグラパブリッシング、2006年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CMプランナー入門』、電通、2007年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007年  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40%）：授業内での広告制作課題（2回程度）、期末レポートないし広告作品の制作（60%）  |       |           |
| 到達目標   | 広告・CMの制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングやPR活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。   |       |           |
| 準備学習   | 1) 授業内で出される広告・CM表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告やCMの企画や作品を作成し、授業で発表すること（=授業時間外の作業が必要となる）。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2) 日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3) さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 イントロダクション 第2回 広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM表現を見て、考える 第3回 広告・コマーシャルの制作プロセス（1）：広告クリエイターの制作の実際を見る 第4回 広告・コマーシャルの制作プロセス（2）：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ 第5回 マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野のCM表現戦略（シャンプーなど） 第6回 CM表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など） 第7回 広告・CM制作課題の発表（1） 第8回 CMクリエイターの手法研究（1）：佐藤雅彦 第8回 CMクリエイターの手法研究（2）：佐藤可士和 第9回 CMクリエイターの手法研究（3）：箭内道彦 第10回 CMクリエイターの手法研究（4）：堀井組と市川準 第11回 広告・CM制作課題の発表（2） 第12回 CM音楽の役割と効果：近年の秀作CM音楽 第13回 歴史に残る日本の秀作、広告賞受賞作品を見る 第14回 世界のCM作品 第15回 まとめ、最終制作作品の発表 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50002001 |
| 科目名   | デジタル出版編集実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Digital Publication Edit Practice  |       |           |
| 担当者名  | 中本 真由美   | 旧科目名称 | DTP実習     |
| 講義概要  | 雑誌づくりの現場で使用されている代表的なグラフィック・ソフト「インデザイン」「イラストレーター」「フォトショップ」を使って、紙面レイアウトの制作作業を実習します。 ソフトの使い方を基礎から学び、編集技術、レイアウトやデザインについても習得していきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 実習にあわせてプリントを用意します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 作品提出で評価します。 学んだ知識を活用し、一般的な編集ルールに沿っているかがポイントとなります。  |       |           |
| 到達目標  | グラフィックソフトの基本的な使い方と編集についての知識を習得し、 自分でレイアウトできるようになることを目標とします。  |       |           |
| 準備学習  | 自分の好きな雑誌や、気に入ったページ、読みやすいと思っている本を集めておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 「読む立場」から「読んでもらう立場」に、記事に接する視点が変わります。 出版に限らず、「読ませる技術」は実社会でも様々な場面で活用できます。 自分自身でどのように活用できるか考えながら受講してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 雑誌のレイアウトを制作します。   1～3. グラフィックソフトの特性を知る  4～6. インデザインでページレイアウトに挑戦<1> (文字のみ)   7～9. 編集およびレイアウトの基礎  10～11. フォトショップを使った画像処理  12～13. イラストレーターを使った図版処理  14～15. インデザインでページレイアウトに挑戦<2> (文字と画像) |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50003A01 |
| 科目名        | アートギャラリー実習 I  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Art Gallery I   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>この授業は美術家の藤阪新吾と社会学者の岡崎宏樹が共同で担当します。授業のねらいは「生きた社会としての展覧会」を共に制作する経験を通じて、社会性と感性を育むことにあります。  アート (art) は、絵画や彫刻、写真や映像といった作品として具現化されますが、たんなるモノをつくる活動ではありません。アートとは、作品とその制作を通じて、社会的な場や状況それ自体を美的・感性的 (aesthetic) に問いかけるものです。キレイなモノではない美しいモノゴトとしての人と人の交流=交感、言いかえれば「社会美」という関係性をめぐる活動でもあります。  こうした観点をふまえ、「アートギャラリー実習」は、日常における美的・感性的認識とその社会的な意義への理解を経験的に深めることを目的としています。具体的には、アートについての画像・映像を用いたレクチャー、フィールドワークによる現場リサーチ、さまざまな実材を用いたワークショップと作品制作、ゲスト (アーティスト/建築家) を招いた授業などをおこないます。そして、授業の総仕上げとして「展覧会」を協働して制作します。  J.ボイスは、「すべての人間は芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして彫塑 (造形) される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。  よって、この授業では、個人の作品制作だけでなく、「小さな社会」としての授業その自体を重視します。授業に関係するさまざまな人たち (教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者) との関わり合いを通じて、展覧会を共に作りあげることを自覚し、「生きた社会としての展覧会」を協働制作することをめざします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%) : 出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。  作品 (30%)。レポート (10%)。  |       |           |
| 到達目標       | アートワークの体験を通じて、日常における美的・感性的 (aesthetic) なものごとの味わい (taste) とその社会的意義への理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 準備学習は授業ごとに提示します : 下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・この授業は、授業は特殊なスケジュールで行われることをよくふまえたうえで受講してください。 ・今年度の展覧会は、2012年11月30日 (金)・12月1日 (土)・12月2日 (日) の3日間を予定しています。展覧会期間中の会場運営は授業の一環ですので、かならず参加してください。 ・通常授業は金曜日4時間目ですが、展覧会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日/日曜日などに振り替える場合があります。 ・「フィールドワーク」や会場での作品の制作・展示は、4・5時間目の2コマとなります (代わりに他の授業日が休講になります)。 ・この授業は、個人的な作品制作だけでなく、展覧会の関係者と共に、受講者全員が協働して「展覧会」を制作するものです。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。 ・学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。 ・春学期の集中講義 (8月)「現代アートへの招待」を受講することが望ましい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション   2. ワークショップ   3・4. フィールドワーク (学外学習) *    5. 作品構想のプレゼンテーション①    6. 作品構想のプレゼンテーション②    7・8. 会場の美化と作品の準備・制作 (学外現場学習) *    9・10. 作品の展示 (学外現場学習) *   11・12. 展覧会プレオープン (学外現場学習) 【11/30 (金)】 *    13. 展覧会初日 (学外現場学習) 【12/1 (土)】    14. 展覧会2日目 (学外現場学習) 【12/2 (日)】    15. 振り返り : プレゼンテーション③   * 4・5時間目の2コマとなり、他の授業日が休講になります。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50009001 |
| 科目名        | アニメ・イングリッシュ 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Anime English  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 自然な速度で話されている標準的な英語を聞くことによって、実践的なリスニング力をつけることを第一の目標とする。英語の「音」を聞き分けるための「音の弱化、短縮、連結、消失、同化などを学習して、リスニング力の向上を図る。アニメの DVD を用いて、日常生活で頻繁に使われる基本的な単語、熟語、英語独特の言い回しなどを習得し、それらを用いて将来的に英語で自分の気持ちを伝えられるようになるための基本的なトレーニングをするのがこの授業の狙いである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内テスト(50%). 授業内レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 平易な英語で交わされる日常の英語が理解できるようになること。また、すこしは自分でも話せるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、英語の映画やできればアニメなどを見るようにすることを薦める   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に出席することはもちろんであるが、毎回復習することを要望する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Pepa Pig Mary Poppins 2. Pepa Pig Mary Poppins 3. Pepa Pig Mary Poppins 4. Peppa Pig Mary Poppins 5. Peppa Pig Mapry Poppins 6. Peppa Pig Kipper the Dog 7. Peppa Plg Kipper the Dog 8. Pepa Pig Kipper the DOg 9. Pepa Pig Kipper the Dog 10. Peppa Pig Kipper the Dog 11. Enchanted Peppa Pig 12. Enchanted Peppa Pig 13. Enchanted Peppa Plg 14. Enchanted Peppa Pig 15. Encahnted Peppa Pig |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50010001 |
| 科目名        | アニメ制作実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Making Animations   |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本実習では、まず「なぜアニメは動くのか」の基本原則を理解することから始める。それに基づいて「動き」分解する練習を行い、動画用紙を使って各自動画を描き、その動画を撮影して、動きを描くコツをつかむ。基本的なアニメートの技術が習得できたところで、授業後半では、その技術を応用して、立体物（粘土、人形など）を動かして立体アニメーションを作る練習をする。機材の操作法、撮影のためのセッティングも学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 田中望『パソコンでチャレンジ！クレイアニメーションを作ろう』技術評論社。他により参考書があれば授業の中で紹介。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントを配布。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30％）出席状況等による。練習課題(20％)、提出作品（50％）。   |       |           |
| 到達目標       | 短編アニメーションを制作してみることを通して、アニメの特性を理解し、表現としての可能性を探る。   |       |           |
| 準備学習       | テレビアニメ以外のアニメ（CMなど）もできるだけ見る機会を作ること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 作品作りにあたってはアイデアと根気が必要になる。機材の関係で少人数制で実施する。希望者多数の場合は選抜を行う。動画を実際に描く練習をするので、絵を描く必要がある。絵が上手である必要はまったくないが絵を描くこと自体が嫌いな人はその点注意してほしい。またテレビアニメのようなセル・アニメについては技法は紹介するが授業の課題としての制作はしない。                            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1日目 1、オリエンテーション 2、アニメーションの原理 3、「動き」を分解する 4、平面アニメーションの製作法 5、動画製作練習と撮影テスト 2日目 1、立体アニメーションの製作法 2、立体物（粘土、人形）の製作 3、撮影機材の操作法 4、撮影のためのセッティング 5、立体アニメーションの製作練習 3日目 自主作品（短編アニメ）製作                              |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50011002 |
| 科目名        | アニメ文化論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Anime Cultures  |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、特にスタジオ・ジブリへの道筋に焦点をあてて、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント配布、ビデオなどの副教材を使用。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等による。レポート（60％）  |       |           |
| 到達目標       | アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得すること。   |       |           |
| 準備学習       | 現代社会におけるアニメの影響を意識し、なるべく多様な作品を見るようにつとめること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。課題レポートは必ず提出すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、アニメーションとは何か  2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1）  3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2）  4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3）  5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4）  6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法）  7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法）  8、アニメーションの様々な技法（3）（CG、その他の技法）  9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ  10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立  11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展  12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・1970年以降  13、日本のアニメーションの歴史（5）人形アニメーション・日本アニメのもう一つの顔  14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ  15、日本のアニメーションの歴史（7）アニメの現在から未来へ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50021001 |
| 科目名  | エコロジー入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introductory Ecology   |       |           |
| 担当者名   | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>近年、地球温暖化問題に関連して、「エコ」あるいは「エコロジー」という言葉が盛んに使われるようになってきました。これらは「環境に配慮した」という意味で使用されていますが、本来「エコロジー」というのは、日本語では「生態学」と翻訳される生物学の一学問分野を意味しています。この名称は、1986年にドイツの生物学者、エルンスト・ヘッケルによって初めて使用され、「生物と環境の間の相互作用を解明する科学」と定義されています。したがって、地球温暖化のような地球エコシステムに関わる環境問題を考える際には、エコロジーの考え方についての理解がとて重要になります。  本授業では、エコロジーの基本的な考え方を理解するために、特に「エコシステム」（「生態系」と翻訳され、多様な生物とその環境の要素からなるシステムとして定義される）の理解に重点を置きます。まずは、様々なエコシステムの形態を紹介していきます。また、エコシステムを理解するための基礎用語についても解説します。次にエコシステムを構成する生物と環境の要素との様々な機能や仕組みなども紹介します。最後に、人間活動がエコシステムに及ぼす影響についても考えていきます。  なお、毎回、実際の生態系（森林、草原、砂漠、生態系、海洋、河川、湖沼の生態系）をビデオで紹介していきます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 鷲谷いづみ著『絵でわかる生態系のしくみ』講談社（2008年）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ① M. ベーゴン、J. L. ハーパー、C. R. タウンSEND著・堀道雄監訳『生態学 - 個体・個体群・群集の科学』  京都大学学術出版、原著第3版（1996年）  ② 日本生態学会編集『生態学入門』東京化学同人（2004年）   |       |           |
| 教材（その他）  | 教科書を補う資料等を適宜配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40%）、学期末試験（60%）  |       |           |
| 到達目標   | エコシステム（生態系）の構成、動態、機能、仕組みなどを概観しながら、エコロジー（生態学）の基本的な考え方を理解すること。その上で、地球のエコシステムは我々の生存にいかほど重要であるか、またその保全や再生の必要性を理解すること。  |       |           |
| 準備学習   | 教科書リーディング： PP.12-19 PP.20-27, PP.32-33, PP.36-43, PP.46-61, PP.68-95, PP.98-103, pp.108-113, PP.116-119, PP.122-129, PP.134-159  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. シラバスの説明・エコロジー（生態学）とは  2. エコシステム（生態系）とバイオーム（生物群系）  3. 窒素・炭素循環とエコシステム  4. 食物網と生態ピラミッド  5. 生態系サービスと生態系評価  6. 環境・資源・条件・ニッチ  7. 生物個体・個体群・群集  8. 遷移説とシフティングモザイク  9. 生物の順化と動物の適応  10. 共生関係とエコシステム  11. エコシステムをつなぐ生物  12. ヒトの出現とエコシステム  13. 近代農業・林業とエコシステムの危機  14. 生物多様性の減少  15. エコシステムの修復・再生 |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J5002100A |
| 科目名  | エコロジー入門  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Introductory Ecology   |       |           |
| 担当者名   | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>近年、地球温暖化問題に関連して、「エコ」あるいは「エコロジー」という言葉が盛んに使われるようになってきました。これらは「環境に配慮した」という意味で使用されていますが、本来「エコロジー」というのは、日本語では「生態学」と翻訳される生物学の一学問分野を意味しています。この名称は、1986年にドイツの生物学者、エルンスト・ヘッケルによって初めて使用され、「生物と環境の間の相互作用を解明する科学」と定義されています。したがって、地球温暖化のような地球エコシステムに関わる環境問題を考える際には、エコロジーの考え方についての理解がとて重要になります。  本授業では、エコロジーの基本的な考え方を理解するために、特に「エコシステム」(「生態系」と翻訳され、多様な生物とその環境の要素からなるシステムとして定義される)の理解に重点を置きます。まずは、様々なエコシステムの形態を紹介していきます。また、エコシステムを理解するための基礎用語についても解説します。次にエコシステムを構成する生物と環境の要素との様々な機能や仕組みなども紹介します。最後に、人間活動がエコシステムに及ぼす影響についても考えていきます。  なお、毎回、実際の生態系(森林、草原、砂漠、生態系、海洋、河川、湖沼の生態系)をビデオで紹介していきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 鷲谷いづみ著『絵でわかる生態系のしくみ』講談社(2008年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ① M. ベーゴン、J. L. ハーパー、C. R. タウンSEND著・堀道雄監訳『生態学 - 個体・個体群・群集の科学』  京都大学学術出版、原著第3版(1996年)  ② 日本生態学会編集『生態学入門』東京化学同人(2004年)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 教科書を補う資料等を適宜配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(40%)、学期末試験(60%)  |       |           |
| 到達目標   | エコシステム(生態系)の構成、動態、機能、仕組みなどを概観しながら、エコロジー(生態学)の基本的な考え方を理解すること。その上で、地球のエコシステムは我々の生存にいかにかに重要であるか、またその保全や再生の必要性を理解すること。   |       |           |
| 準備学習   | 教科書リーディング: PP.12-19 PP.20-27, PP.32-33, PP.36-43, PP.46-61, PP.68-95, PP.98-103, pp.108-113, PP.116-119, PP.122-129, PP.134-159  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. シラバスの説明・エコロジー(生態学)とは  2. エコシステム(生態系)とバイオーム(生物群系)  3. 窒素・炭素循環とエコシステム  4. 食物網と生態ピラミッド  5. 生態系サービスと生態系評価  6. 環境・資源・条件・ニッチ  7. 生物個体・個体群・群集  8. 遷移説とシフティングモザイク  9. 生物の順化と動物の適応  10. 共生関係とエコシステム  11. エコシステムをつなぐ生物  12. ヒトの出現とエコシステム  13. 近代農業・林業とエコシステムの危機  14. 生物多様性の減少  15. エコシステムの修復・再生 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50022001 |
| 科目名        | カウンセリング論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories and Methods of Counseling   |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>カウンセリングとは「相談」という意味であり、歴史的には職業指導のためのガイダンス（助言指導）から発展してきた。1940年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法はカウンセリングの土台を作ったと言える。フロイトによる精神分析に端を発する心理療法は「患者を治療する」という枠組みであったのに対して、カウンセリングは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みだと考えられる。しかし対象者が広がるにつれて心理療法とカウンセリングの境界は曖昧なものとなり、カウンセリングにおいても様々な技法が利用されるようになってきた。  本講義ではカウンセリングで用いられる様々な技法を学ぶと共に、実際のカウンセリング場面のVTRを視聴してそのあり方についてグループディスカッションを行い、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深める。またロールプレイを通して、カウンセラーとクライアントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶ。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 佐々木正宏・大貫敬一共著 『適応と援助の心理学／援助編』 培風館   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(出席および課題) 50% 及び レポート提出 50%。  |       |           |
| 到達目標       | カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を学ぶと共に、初歩的なカウンセリング的応答の技法を経験する。   |       |           |
| 準備学習       | カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておくこと。講義内で来週までに実施すべき課題を出すので、それをきちんとこなすこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・早退せず主体的に参加すること。臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に1、2回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1～2. カウンセリングとは   3～4. カウンセリングの基本的技法――マイクロ・カウンセリング   5. カウンセリングの実際―― a. ロジャーズの来談者中心療法   6. b. パールズのゲシュタルト療法   7. c. エリスの論理療法   8～10. 紙上応答練習   11～13. ロールプレイヤー――（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い）   14. 各グループ毎の発表   15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50026A01 |
| 科目名        | コミュニケーション社会学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Communication A  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。  コミュニケーション社会学 A のサブテーマは「コードの理論」。コード（または記号）は、何かを表わす何かと定義できる。人々のコミュニケーションの多くはコードを介して行なわれ、社会はさまざまな面でコードの影響を受ける。人々が使うコードは、必ずしもそれと意識して使われるわけではないので、いらぬ固定観念を生んだり、社会問題につながったりする。講義では、ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて、こうしたコードと社会とのかかわりを論じる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会的に分析するという方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>《イントロダクション》 1. 講義概要、予備知識 《記号論》 2. 記号 3. デノテーションとコノテーション 4. ファッション 5. ワーディング 6. パンクのコノテーション  《二元論》 7. 二元論 8. 二元論批判 9. 国語教育というコミュニケーション 10. 物語 11. 景観  《ラベリング》 12. ラベリング 13. 期待  《まとめ》 14. 復習と補足 15. 全体のまとめ</p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50026B01 |
| 科目名        | コミュニケーション社会学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Communication B  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。  コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なつたという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会的に分析するという方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>《イントロダクション》 1. 講義概要、予備知識 《現代人の相互行為》 2. 都市のストレンジャー(1) 3. 都市のストレンジャー(2) 4. 相互行為儀礼 5. ぼかし表現 《大衆社会のコミュニケーション》 6. 大衆と中間集団 7. 大衆の社会心理 8. 「盗撮ソング」論 《応用問題——郊外とメディア》 9. 郊外(1) 10. 郊外(2) 11. ネット社会 12. ソーシャルメディア 13. 流言 《まとめ》 14. 復習と補足 15. 全体のまとめ</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50030001 |
| 科目名  | シミュレーション・ゲーム   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Simulation and Gaming  |       |           |
| 担当者名   | 有馬 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この授業では、シミュレーション・ゲーミングの手法を使って、人間の相互作用がどのように社会を作り出すのかを考える。複数の要素が相互作用することで作る構造は、初期条件や時間の経過によって様々な様態を見せる。これは複雑系の過程とよばれ、通常の実験法や調査法で研究することができないため、シミュレーションによる研究が行われている。授業では、簡単なコンピュータ・シミュレーションの作成と、セカンドライフなどのコンピュータ・ゲームにおける体験を組み合わせ、複雑系現象としての社会の理解を目指す。各人で作成したゲームと、レポート（ゲーム結果のまとめ）を提出する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）  | Google Apps から教材・データ配布を行う。 受講生の観察記録・レポート提出も同じ場所にブログ形式でアップしていただく予定。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）とレポート（50%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。   |       |           |
| 準備学習   | 一般的なITリテラシー（インターネット・PC使用経験）を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 出席重視なので、遅刻、欠席のないように。 やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 春学期の土曜午後2～3コマ×5～6週間で実施する。下記の順序は、受講人数などによって変更する。 1. 概論 2. Google Appsに個人ページ作成 3. 囚人のジレンマゲーム 4. ジレンマゲームのシミュレーション 5. 進化ゲーム 6. StarLogoを用いたシミュレーション1 7. StarLogoを用いたシミュレーション2 8. 情報の伝播シミュレーション 9. インターネットの心理 10. 陪審員実験1 11. 陪審員実験2 12. 集団の協同行為1 13. 集団の協同行為2 14. 仮想現実空間の心理1 15. 仮想現実空間の心理2 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50036A01 |
| 科目名       | ジャーナリズム論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Journalism A   |       |           |
| 担当者名      | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その時々授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的に授業に出席してください。就職の際にも役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（20%）、期末（期間外）試験（50%）です。  |       |           |
| 到達目標      | ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けられるわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います   |       |           |
| 準備学習      | 授業では新聞やテレビで報道されているその時々ニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るため、出来るだけニュースをよく読み、よく見ておいてほしいと思います。  |       |           |

#### 受講者への要望

講義者は32年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。| このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

#### 講義の順序とポイント

1 ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義| 2 民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由| 3 新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容| 4 発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪| 5 「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道| 6 坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任| 7 「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断| 8 社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道| 9 「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分| 10 全国紙も報じた死者の尊厳を冒瀆する「東電女性社員殺人事件」報道| 11 メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報保護| 12 週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害| 13 「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由| 14 「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表| 15 ジャーナリストを志す学生諸君のために|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50036B01 |
| 科目名        | ジャーナリズム論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Journalism B   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知るとは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思えます。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニュース映像を見てもらいます。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | <p>ともかく、授業に積極的に出席して、ジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(20%)、期末(期間外)試験(50%)です。    </p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>最終的には卓越した社会常識や情報感覚を養うことですが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>授業ではジャーナリズム理論だけではなく、その時々ニュース報道を分析、解説するので、日頃から新聞やテレビのニュースをよく見ておいてください。</p>   |       |           |

#### 受講者への要望

ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。| この科目を受講する学生諸君には、教科書と一緒に全学共通の関連科目「マスコミ論A・B」を是非とも受講することを薦めます。||

#### 講義の順序とポイント

1 「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象| 2 放送の自律性の危機—「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか| 3 「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性| 4 メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか| 5 「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作| 6 「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム| 7 欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ| 8 当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態| 9 戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇| 10 戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”| 11 情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か| 12 「朝まで生テレビ」(テレビ朝日)に常連出演する“知性の人々”| 13 「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義| 14 論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム| 15 大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50044001 |
| 科目名  | スタジオ放送実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Studio Broadcasting   |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが“コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 教材プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。実習及び作品評価点（70%）   |       |           |
| 到達目標   | 本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 春学期 ①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②ラジオ副調整室の音響機器操作  ③ラジオ番組の企画・構成、選曲  ④ 同 ⑤ラジオ番組放送・リハーサル  ⑥ 同 ⑦～⑭ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか)  ⑮実習ラジオ作品の審査と合評   秋学期 ①テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②テレビスタジオの映像・音声機器操作  ③「ニュースワイド」番組の企画・構成  ④ 同 ⑤～⑦「ニュースワイド」のニュース映像取材 ⑧～⑩「ニュースワイド」のニュース映像編集作業 ⑫テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル  ⑬テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番（校内放送ほか） ⑭ 同 ⑮実習テレビ作品の審査と合評  協働概要 ・学生と市民との共同企画会議 ・学生・市民による共同取材、制作 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50044002 |
| 科目名  | スタジオ放送実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Studio Broadcasting   |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが“コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 教材プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。実習及び作品評価点（70%）   |       |           |
| 到達目標   | 本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 春学期 ①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②ラジオ副調整室の音響機器操作  ③ラジオ番組の企画・構成、選曲  ④ 同 ⑤ラジオ番組放送・リハーサル  ⑥ 同 ⑦～⑭ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか)  ⑮実習ラジオ作品の審査と合評   秋学期 ①テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②テレビスタジオの映像・音声機器操作  ③「ニュースワイド」番組の企画・構成  ④ 同 ⑤～⑦「ニュースワイド」のニュース映像取材 ⑧～⑩「ニュースワイド」のニュース映像編集作業 ⑫テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル  ⑬テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番（校内放送ほか） ⑭ 同 ⑮実習テレビ作品の審査と合評  協働概要 ・学生と市民との共同企画会議 ・学生・市民による共同取材、制作 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50045001 |
| 科目名        | テレビ局番組制作実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical TV Broadcasting  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本実習は、KBS京都（京都放送）テレビが毎週月～木、午後7時～8時に放送しているニュース情報番組「やのぼんの生活情報部」の学生スタッフとしてアシスタント、テロップ、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「やのぼんの生活情報部」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。  主な実習内容は 毎週木曜日午後7時～8時までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週木曜日午後6時から8時までとなるが、場合によっては時間を越えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>定員は1名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は4月から7月で、実習日は木曜日のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。  交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>① 実習ガイダンス（KBS京都テレビ局見学兼） ②～④ KBS京都「やのぼんの生活情報部」ニュース情報番組実習 ⑤ まとめ（実習成果発表）</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50047001 |
| 科目名        | テレビ放送論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of TV-Broadcasting  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多様な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、NHKと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化をもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年12月頃に開催される「全日本CM大賞入賞作品発表会」の鑑賞を通じて学ぶ。 </p>         |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教材プリントを随時配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 北川泰三著『新版・テレビ映像論』（2000年版）比叡書房 2500円 ビデオ教材を使用する  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 日常的にテレビ放送に関心を持ち、問題意識をもって視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「ACC全日本CM大賞入賞作品発表会」見学実習（12月頃、於KBSホール）の入場料（300円）が必要。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>秋学期  1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題 2. テレビ放送の定義 人間の拡張－マクルーハンの世界 媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命  3. テレビ放送の機能 マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－  4. 報道番組の役割① 情報伝達－真実の報道 その1－  5. 報道番組の役割② 情報伝達－真実の報道 その2－  6. 報道番組の役割③ 情報伝達－真実の報道 その3－  7. 報道番組の役割④ 環境監視－権力監視－  8. 報道番組の役割⑤ 世論形成－民意の代弁－  9. テレビ放送の潜在的機能① 印象化－イメージ付け－  10.学外学習 全日本CMフェスティバル入賞作品鑑賞会  11. テレビ放送の潜在的機能② 慢性化－感覚の麻痺－  12.テレビ放送の潜在的機能③ 娯楽化－衝撃の期待－  13.テレビ放送の潜在的機能④ 画一化－模倣と流行－  14.テレビ放送の潜在的機能⑤ 行動化－感性与理性の二極化－ 15.まとめ   </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50050001 |
| 科目名  | デジタル出版論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Digital Publication   |       |           |
| 担当者名   | 南 徹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 出版の世界は激変しています。デジタル出版や電子出版と呼ばれる出版の動向を知らずにはや出版メディアを語ることはできません。最新のメディア状況を紹介し、分析を加え、今後のゆくえを探求します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 湯浅俊彦著『電子出版学入門』（出版メディアパル、税込定価 1,260 円）   |       |           |
| 教材（その他）  | 授業で配布するレジメ  |       |           |
| 評価方法   | 授業でのミニレポートを含む平常点 5 0 %、試験あるいはレポート 5 0 %   |       |           |
| 到達目標   | 今日のデジタル環境下における出版コンテンツの生産、流通、利用、保存に関する知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 教材（参考文献）を読むだけでなく、日常から新聞、テレビなどで報道される電子書籍に関するニュースをチェックし、その動向を事前に把握する。                           |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 新聞、雑誌、インターネットなどさまざまなメディアを通して、出版コンテンツのデジタル化とネットワーク化の動向を把握しておくことを求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 電子出版学とはなにか   2. 電子出版の定義と統計   3. 既存の出版業界の現状   4. 電子出版の歴史   5. さまざまなネット情報とケータイ読書   6. Web 2. 0 と電子書籍   7. 電子書籍を巡るプラットフォーム争い   8. 日本の電子出版の現状   9. 電子出版と文字コード、フォーマット   10. 電子出版物の生産・流通・利用   11. 電子出版と出版の自由   12. 電子出版と著作権   13. 電子出版と図書館・長期保存問題   14. 電子書籍と読書   15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                               | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                       | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50051A01  |
| 科目名   | デジタル映像編集実習 I   | 単位数   | 1          |
| 科目名 (英語表記)  | Digital Image Edit Practice I  |       |            |
| 担当者名  | 畠中 隆好  | 旧科目名称 | デジタル編集実習 I |
| 講義概要  | <p>ノンリニア映像編集ソフト (Finalcut Express HD) を使った映像編集の実習です。  映像ディレクター入門用のレッスンプログラム (米国製) を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。  編集ソフト (Finalcut Express HD) の基本操作を確実にマスターし、 映像クリエイター (ディレクター) に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。  受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。  (imac OS X 10.6.6 Snow Leopard)  このPCは講義時間以外でも自由に使用しますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。  ※注; 実習「II」(秋季のみ開講) は、「I」(春/秋) を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「I」を先に受講してください。</p> |       |            |
| 教材 (テキスト)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |            |
| 教材 (参考文献)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |            |
| 教材 (その他)  | 必要な映像素材は、随時提供します。  |       |            |
| 評価方法  | <p>・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします (20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します (20%)。  ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。</p>  |       |            |
| 到達目標  | <p>・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における3つのエレメントを認識する。 ・モニター・ジュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。</p>  |       |            |
| 準備学習  | <p>TV番組やWEB動画、映画作品など、日頃接する映像メディアへの目線を、ただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。  常に意識することにより「視聴者」から「制作者 (クリエイター)」への意識変革が目覚めます。 そういう意味で、本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。  なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。</p>   |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 本講義はパソコン教室ではありません。 アップルコンピュータ (Mac/OSX) を使用しますが、Windowsなどで、PCの基本操作を理解していることが必須です。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| <p>(1) 使用教室(H21)のシステムオリエンテーション  (2) 映像制作基礎 (編集のための基本知識)   (3) アップルコンピュータ (Mac/OSX) の基本操作  (4) DVビデオと Quicktime ファイルについて  (5) ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成  (6) タイムライン/キャンパスの操作  (7) ビューアでの操作  (8) 上書き編集と挿入編集  (9) タイムラインでのクリップ操作  (10) プレゼンテーション映像制作① (編集作業/絵コンテ・ナレーション作成)   (11) プレゼンテーション映像制作② (仮ナレーション収録/映像ファイル化)   (12) 3ポイント編集とは  (13) 課題映像制作① (出題)   (14) 課題映像制作② (編集)   (15) 課題映像制作③ (編集)</p> |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50051A02  |
| 科目名   | デジタル映像編集実習 I  | 単位数   | 1          |
| 科目名 (英語表記)  | Digital Image Edit Practice I   |       |            |
| 担当者名  | 畠中 隆好   | 旧科目名称 | デジタル編集実習 I |
| 講義概要  | <p>ノンリニア映像編集ソフト (Finalcut Express HD) を使った映像編集の実習です。  映像ディレクター入門用のレッスンプログラム (米国製) を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。  編集ソフト (Finalcut Express HD) の基本操作を確実にマスターし、 映像クリエイター (ディレクター) に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。  受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。  (imac OS X 10.6.6 Snow Leopard)  このPCは講義時間以外でも自由に使用できますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探究したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。  ※注; 実習「II」(秋季のみ開講) は、「I」(春/秋) を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「I」を先に受講してください。</p> |       |            |
| 教材 (テキスト)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。  |       |            |
| 教材 (参考文献)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。  |       |            |
| 教材 (その他)  | 必要な映像素材は、随時提供します。   |       |            |
| 評価方法  | <p>・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします (20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します (20%)。  ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。</p>   |       |            |
| 到達目標  | <p>・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における3つのエレメントを認識する。 ・モニタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。</p>  |       |            |
| 準備学習  | <p>TV番組やWEB動画、映画作品など、日頃接する映像メディアへの目線を、ただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。  常に意識することにより「視聴者」から「制作者 (クリエイター)」への意識変革が目覚めます。 そういう意味で、本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。  なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。</p>  |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| 本講義はパソコン教室ではありません。 アップルコンピュータ (Mac/OSX) を使用しますが、Windowsなどで、PCの基本操作を理解していることが必須です。   |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| <p>(1) 使用教室(H21)のシステムオリエンテーション  (2) 映像制作基礎 (編集のための基本知識)   (3) アップルコンピュータ (Mac/OSX) の基本操作  (4) DVビデオと Quicktime ファイルについて  (5) ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成  (6) タイムライン/キャンパスの操作  (7) ビューアでの操作  (8) 上書き編集と挿入編集  (9) タイムラインでのクリップ操作  (10) プレゼンテーション映像制作① (編集作業/絵コンテ・ナレーション作成)   (11) プレゼンテーション映像制作② (仮ナレーション収録/映像ファイル化)   (12) 3ポイント編集とは  (13) 課題映像制作① (出題)   (14) 課題映像制作② (編集)   (15) 課題映像制作③ (編集)</p> |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50051A03  |
| 科目名   | デジタル映像編集実習 I   | 単位数   | 1          |
| 科目名 (英語表記)  | Digital Image Edit Practice I  |       |            |
| 担当者名  | 畠中 隆好  | 旧科目名称 | デジタル編集実習 I |
| 講義概要  | <p>ノンリニア映像編集ソフト (Finalcut Express HD) を使った映像編集の実習です。  映像ディレクター入門用のレッスンプログラム (米国製) を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。  編集ソフト (Finalcut Express HD) の基本操作を確実にマスターし、 映像クリエイター (ディレクター) に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。  受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。  (imac OS X 10.6.6 Snow Leopard)  このPCは講義時間以外でも自由に使用しますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探究したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。  ※注; 実習「II」(秋季のみ開講) は、「I」(春/秋) を履修済み程度の操作スキルがあることを前提とした内容です。まったく編集が初めての場合は、必ず「I」を先に受講してください。</p> |       |            |
| 教材 (テキスト)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |            |
| 教材 (参考文献)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |            |
| 教材 (その他)  | 必要な映像素材は、随時提供します。  |       |            |
| 評価方法  | <p>・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします (20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します (20%)。  ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。</p>  |       |            |
| 到達目標  | <p>・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における3つのエレメントを認識する。 ・モニター・ジュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。</p>  |       |            |
| 準備学習  | <p>TV番組やWEB動画、映画作品など、日頃接する映像メディアへの目線を、ただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。  常に意識することにより「視聴者」から「制作者 (クリエイター)」への意識変革が目覚めます。 そういう意味で、本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。  なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。</p>   |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 本講義はパソコン教室ではありません。 アップルコンピュータ (Mac/OSX) を使用しますが、Windowsなどで、PCの基本操作を理解していることが必須です。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| <p>(1) 使用教室(H21)のシステムオリエンテーション  (2) 映像制作基礎 (編集のための基本知識)   (3) アップルコンピュータ (Mac/OSX) の基本操作  (4) DVビデオと Quicktime ファイルについて  (5) ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成  (6) タイムライン/キャンパスの操作  (7) ビューアでの操作  (8) 上書き編集と挿入編集  (9) タイムラインでのクリップ操作  (10) プレゼンテーション映像制作① (編集作業/絵コンテ・ナレーション作成)   (11) プレゼンテーション映像制作② (仮ナレーション収録/映像ファイル化)   (12) 3ポイント編集とは  (13) 課題映像制作① (出題)   (14) 課題映像制作② (編集)   (15) 課題映像制作③ (編集)</p> |  |       |            |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |      | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |  |       |             |
|---|--|-------|-------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50051B01   |
| 科目名   | デジタル映像編集実習 II  | 単位数   | 1           |
| 科目名 (英語表記)  | Digital Image Edit Practice II   |       |             |
| 担当者名  | 畠中 隆好  | 旧科目名称 | デジタル編集実習 II |
| 講義概要  | <p>ノンリニア映像編集ソフト (Finalcut Express HD) を使った映像編集の実習の応用編です。  (※秋学期のみの開講ですのでご注意ください)    デジタル映像編集実習「I」(春/秋開講) を履修済みの操作スキルがあることを前提とした内容です。  まったく編集が初めての場合は、必ず「I」を先に受講してください。   映像ディレクター入門用のレッスンプログラム (米国製) を使いながら、デジタルエフェクトを中心に、より高度な映像編集スキルを身につけていきます。   編集ソフト (Finalcut Express HD) の応用操作を確実にマスターし、映像クリエイター (ディレクター) に必要不可欠である「映像構成力」を学び、編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。   受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。  (imac OS X 10.6.6 Snow Leopard)   この PC は講義時間以外でも自由に使えますので、課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。</p> |       |             |
| 教材 (テキスト)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |             |
| 教材 (参考文献)   | なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。   |       |             |
| 教材 (その他)  | 必要な映像素材は、随時提供します。  |       |             |
| 評価方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題制作の映像ファイル提出を以て、評価対象とします(60%)。  ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします (20%)。  ・出席状況などの平常点を加算します (20%)。  ※課題作品の提出がない場合は一切評価しません。</li> </ul>  |       |             |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンリニア映像編集ソフトの総合的な操作能力を身につける。  ・映像構成上でのエフェクトの使い方やポイントをマスターする。  ・複数トラックを使った映像合成や音声 M A のコツを理解する。  ・カラーバーや安全フレームなどの放送基礎技術を把握する</li> </ul>   |       |             |
| 準備学習  | <p>TV 番組や WEB 動画、映画作品など、日頃接する映像メディアへの目線を、ただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。   常に意識することにより「視聴者」から「制作者 (クリエイター)」への意識変革が目覚めます。  そういう意味で、本講義の教材は日常生活の中に溢れています。   なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。</p>   |       |             |
| 受講者への要望   |  |       |             |
| 講師よりのプレゼンテーションで講義は進みますが、自ら制作に取り組む映像ワークショップ実施も可能です。  積極的に自由研究課題を提言してください。  |  |       |             |
| 講義の順序とポイント  |  |       |             |
| <p>(1) 編集点微調整ツールの使用方法   (2) ビデオ・オーディオトランジションの適用   (3) ビデオトランジションの応用   (4) オーディオトラックでの作業   (5) ビデオフィルターの利用   (6) 複数トラックを使った作業 (映像合成の基本)   (7) マルチオーディオでの調整 (M A 作業)   (8) モーションエフェクト① (ダイナミックモーション)   (9) モーションエフェクト② (ワイヤーフレーム①)   (10) モーションエフェクト③ (ワイヤーフレーム②)   (11) タイトルの挿入 (カラーバー、テロップの知識)   (12) DV カメラからの取り込み   (13) 課題映像制作① (出題)   (14) 課題映像制作② (編集)   (15) 課題映像制作③ (編集)</p> |  |       |             |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50056001 |
| 科目名  | ファッション文化論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Culture Fashion Theory  |       |           |
| 担当者名   | 横越谷 勝雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ファッション美的感性（ファッション感性のあいまいさ）はファッショントレンド感性分析の手法を用いて数値化する事によりデータとして明確にされる。 消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。 ファッション美的感性を中心としたファッションデザインマーケティングをファッションビジネスの変遷と輪郭、産業構造とマーチャダイジングシステム、さらにファッション IMC(インテグレートド マーケティング コミュニケーション)によるファッションブランド構築のプロセスを学習する。 ファッション IMC の体系化による、ファッションブランドのビジネスモデルの構築はファッションビジネスが消費者に対し、ファッションを文化として位置づけ、夢と憧れを提供するビジネスであることを実証する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、プリント配付と黒板の板書にて行う。講義との関連でビデオまたは DVD によるトレンド解説(2012 年度 SS/AW パリ・ミラノファッション情報など)を適時行う。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 使用せず  |       |           |
| 教材（その他）  | 使用せず  |       |           |
| 評価方法   | 授業に対する意欲を平常点として評価 30% 授業内レポート 20% 定期試験または最終レポート提出 50%   |       |           |
| 到達目標   | ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造と、マーチャダイジングシステム、さらにファッション IMC(インテグレートド マーケティング コミュニケーション)によるファッションブランド構築のプロセスを理解し、ファッションビジネスのノウハウをヒントに将来のライフワークに役立つ事を切望する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常の生活の中、ファッションを中心にトレンドの動きを、観察分析する習慣を付ける   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、ファッション文化論専用のノートを作成する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 ファッション概説 パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要  第2回 ファッションビジネス基礎知識  第3回 日本におけるファッションビジネスの変遷  第4回 ファッションビジネスの産業構造と問題点  第5回 ファッション産業の輪郭  第6回 ファッション産業の機能と業務内容  第7回 ファッショントレンド情報  第8回 ファッションビジネスにおけるファッションデザインマーケティングの重要性 と戦略 第9回 ファッション美的感性（ファッショントレンドクラスター）分析 第10回 ファッション消費と消費者ニーズ 第11回 ファッションマーチャダイジングシステムのフロー  第12回 ファッションブランド事例 第13回 ファッションブランド戦略(ファッション IMC ロケーション企画) 第14回 ファッションブランド戦略(ファッション IMC コミュニケーション企画) 第15回 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50067001 |
| 科目名   | プロジェクトワーク論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Study of Project Work   |       |           |
| 担当者名  | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>なんらかの目標を達成するための「計画」を意味する「プロジェクト (project)」の語源は「pro + ject = 前方 (未来) に向かって投げかける」である。また、究極の“personal computer = dynabook”プロジェクトの提唱者である Alan Kay は次のようにも語っている。“The best way to predict the future is to invent it. (未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことである)”。   本講義では、コミュニケーションの手段としての「メディア (media)」についてのこれまでのプロジェクトの実践例を検証するとともに、「プロジェクト」および「ワーク (work)」を実践的に考察し、可能であれば、「未来を構築する」をテーマに、グループワークで実際にプロジェクトの立案/運営を試みる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じてプリント等を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 西村佳哲『自分の仕事をつくる』晶文社 2003  関口久雄『メディアのプリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008  |       |           |
| 教材 (その他)  | プリント、映像教材他。   |       |           |
| 評価方法  | 最終レポート (100%)。  |       |           |
| 到達目標  | プロジェクトを、ワークを、考える/実践する。  |       |           |
| 準備学習  | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 講義内で紹介する文献/web サイト等を自分の関心に応じて復習する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>主体的に参加することを望む (事前に「マルチメディア論」「情報ネットワーク論」「メディア表現実習」を受講していることが望ましい)。  ※グループワークをおこなう場合には「集中して何かをつくる/考える (= 試行錯誤する)」「他のメンバーと協調する」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません </p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>01 オリエンテーション  02 プロジェクトについて  03 プロジェクトの実例検証 (1)  04 プロジェクトの実例検証 (2)  05 プロジェクトの実例検証 (3)  06 プロジェクトの実例検証 (4)  07 プロジェクトの実例検証 (5)  08 ワークについて (1)  09 ワークについて (2)  10 グループワーク (1)  11 グループワーク (2)  12 グループワーク (3)  13 グループワーク (4)  14 グループワーク (5)  15 プロジェクトワークについて   ※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業 (=メディア)を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意ください。</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50068001 |
| 科目名  | ポップ・ミュージック論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Study of Popular Music   |       |           |
| 担当者名   | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>本講義では、ポピュラー音楽という文化を表現者（人間）と社会（制度）の両面から考察する。 前半では、英米世界で人気を博するポピュラー音楽（ロック、レゲエ、ファンク、ラップなど）をとりあげ、これらを音楽表現と社会的コンテクストの両面から考察する。後半では、これら英米の音楽の影響を受けて展開する日本のポピュラー音楽をとりあげて論じる。表現者にかんしては、ライフヒストリー、作品、パフォーマンス、インタビュー等に着目し、社会的コンテクストにかんしては、メディア、若者文化、音楽産業、エスニシティ等を考察する。以上をつうじて、音楽文化を理解するための「パースペクティブ（視座）」を学ぶことをめざす。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50点）、レポート（50点）   |       |           |
| 到達目標   | 音楽文化を考えるための「視点」を学びとること   |       |           |
| 準備学習   | 授業でとりあげるアーティストの作品を授業前／後によく聴くこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業では音楽教材を扱うので、私語は厳禁です。授業内に書くショートエッセイによって平常点を判断します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. イントロダクション 2. 英米のポピュラー音楽(1):エルヴィス・プレスリーのロックンロール 3. 英米のポピュラー音楽(2):ビートルズのロック① 4. 英米のポピュラー音楽(3):ビートルズのロック② 5. 英米のポピュラー音楽(4):ブルースとジミ・ヘンドリックス 6. 英米のポピュラー音楽(5):セックス・ピストルズのパンク 7. 英米のポピュラー音楽(6):ボブ・マーリーのレゲエ 8. 英米のポピュラー音楽(7):ヒップ・ホップの誕生 9. 英米のポピュラー音楽(8):マイケル・ジャクソンの表現① 10. 英米のポピュラー音楽(9):マイケル・ジャクソンの表現② 11. 英米のポピュラー音楽のリズム:ジャズ、R &amp; B、ファンク 12. 日本のポピュラー音楽(1):日本語のロック① 13. 日本のポピュラー音楽(2):日本語のロック② 14. 日本のポピュラー音楽(3):歌謡曲からJポップへ 15. 音楽ビジネス論、まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50072001 |
| 科目名        | マスコミ文章講座   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Journalism Writing   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>文章は人間の感情や思想を言語化したもので、私たちはそれを通してコミュニケーションを図っております。どんなに堅固な思想や美しい感性をもっていても、文章表現が貧困であれば、そのことを伝達することはできません。新聞やテレビ、雑誌などマスコミ世界の文章は一種独特の特徴があります。それは読みやすく、分かりやすく、親しみやすいということに尽きますが、それを如何に実現していくかが、この授業の目的です。そのためには学生が書いた文章を個別にチェックして、本人の前で添削作業するしかありません。どれほど文章論の講義を聴いてもけっして文章はうまくならないもので、その難点をご授業では個別指導で克服するつもりです。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | <p>文章作法を一から学ぶ授業ですので、文章の上手、下手は評価に関係ありません。どれだけ出席して、どれだけ添削用文章を書いたかが重要になります。評価基準は授業中に提出した文章の添削本数80～90%、平常点（授業への参加の度合い）20～10%とします。</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>昨今、雑誌のライター希望者が増えております。もちろん、メディア業界への就職は難しいのですが、できればその世界でもっとも重視される文章力でもって夢をかなえてほしいと思います。その意味で、この授業は学習と就職がもっとも関連していると言えるかもしれてません。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>入門編として朝日新聞の天声人語、読売の編集手帳、毎日の余禄など1面下の記事を読むと勉強になると思います。もちろん、授業でもそれらの記事を教材にして文章作法を学びます。また、文章入門などの参考書も興味があれば読んでおいてください。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>とにかく、何でも書いてやろうという意欲が大事です。文章が上手くないからこそ、この授業を受けるわけで、恥ずかしがらずに挑戦してください。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 マスコミ文章の基本について  2 新聞における文章学  3 使ってはいけない言葉・良い言葉と表現方法  4～13 各自が書いてきた文章の個別添削  14 それぞれの文章についての講評  15 総括</p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50072002 |
| 科目名        | マスコミ文章講座   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Journalism Writing   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>文章は人間の感情や思想を言語化したもので、私たちはそれを通してコミュニケーションを図っております。どんなに堅固な思想や美しい感性をもっていても、文章表現が貧困であれば、そのことを伝達することはできません。新聞やテレビ、雑誌などマスコミ世界の文章は一種独特の特徴があります。それは読みやすく、分かりやすく、親しみやすいということに尽きますが、それを如何に実現していくかが、この授業の目的です。そのためには学生が書いた文章を個別にチェックして、本人の前で添削作業するしかありません。どれほど文章論の講義を聴いてもけっして文章はうまくならないもので、その難点をご授業では個別指導で克服するつもりです。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | <p>文章作法を一から学ぶ授業ですので、文章の上手、下手は評価に関係ありません。どれだけ出席して、どれだけ添削用文章を書いたかが重要になります。評価基準は授業中に提出した文章の添削本数80～90%、平常点（授業への参加の度合い）20～10%とします。</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>昨今、雑誌のライター希望者が増えております。もちろん、メディア業界への就職は難しいのですが、できればその世界でもっとも重視される文章力でもって夢をかなえてほしいと思います。その意味で、この授業は学習と就職がもっとも関連していると言えるかもしれてません。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>入門編として朝日新聞の天声人語、読売の編集手帳、毎日の余禄など1面下の記事を読むと勉強になると思います。もちろん、授業でもそれらの記事を教材にして文章作法を学びます。また、文章入門などの参考書も興味があれば読んでおいてください。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>とにかく、何でも書いてやろうという意欲が大事です。文章が上手くないからこそ、この授業を受けるわけで、恥ずかしがらずに挑戦してください。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 マスコミ文章の基本について  2 新聞における文章学  3 使ってはいけない言葉・良い言葉と表現方法  4～13 各自が書いてきた文章の個別添削  14 それぞれの文章についての講評  15 総括</p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50086001 |
| 科目名        | マルチメディア論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | The Study of Multi-Media Society   |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「メディア（media）」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。   本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会における新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考えていく。 </p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 水越伸『メディア・ピオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法       | 定期テスト（100%）。   |       |           |
| 到達目標       | 「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考える。   |       |           |
| 準備学習       | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 講義内で紹介する文献/web サイト等を自分の関心に応じて復習する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的に参加することを望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>01 オリエンテーション  02 メディアとは《その1》  03 文字メディア《その1》  04 文字メディア《その2》  05 映像メディア《その1》  06 映像メディア《その2》  07 音メディア《その1》  08 音メディア《その2》  09 コンピュータというメディア《その1》  10 コンピュータというメディア《その2》  11 コンピュータというメディア《その3》  12 ラジオとテレビ《その1》  13 ラジオとテレビ《その2》  14 ラジオとテレビ《その3》  15 ゲームというメディア  16 電話というメディア  17 メディアとは《その2》  18 intermission メディア関連作品上映会  19 社会とコンピュータ《その1》  20 メディアと表現《その1》  21 メディアと表現《その2》  22 メディアと表現《その3》  23 社会とコンピュータ《その2》  24 メディアと教育《その1》  25 メディアと教育《その2》  26 社会とコンピュータ《その3》  27 メディアで遊ぶ《その1》  28 メディアで遊ぶ《その2》  29 メディアとは《その3》  30 まとめ  ※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意ください。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50093001 |
| 科目名        | マンガ・イングリッシュ 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Manga English   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界的に有名になった日本の漫画を英語で読む・書く・訳す・話す総合的英語講座。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材を配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20% 授業ないレポート 50% 定期試験 30%   |       |           |
| 到達目標       | 英語でマンガの読むことによって語彙や表現を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | とにかくたくさん英文を読んで、語彙習得のためにノートや辞書を用意すること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Introduction/ Dragonball (1)  2. Dragonball (2) 3. Death Note (1) 4. Death Note (2) 5. One Piece (1) 6. One Piece (2)  7. Ranma 1/2 (1) 8. Ranma 1/2 (2) 9. Blackjack (1) 10. Blackjack (2) 11. Vagabond (1) 12. Vagabond (2) 13. Buddha (1) 14. Buddha (2) 15. Final test |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50095001 |
| 科目名        | マンガ文化論   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of Manga Culture  |       |           |
| 担当者名       | 二階堂 茂  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「MANGA (+ ANIME)」として国際的に認知されている日本の「マンガ (+アニメ)」を、「20 世紀美術」の歴史的側面から、あるいは 1950 年代以降に発生した、さまざまな若者文化(サブカルチャー)とのかかわり、などからも考察し、「マンガ (+アニメ)」を「文化/美術」として語ります。「マンガ (+アニメ)」の意味を「記号によるコミュニケーション」として考えていくつもりです。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書 (テキスト): 指定なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 夏目房之介「マンガの力」晶文社   布施英利「マンガを解剖する」ちくま書房   Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」 Tuttle Publishing   |       |           |
| 教材 (その他)   | その他: 適宜プリント配付  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。 レポート提出: 50%   レポートのテーマは講義内で発表する。   |       |           |
| 到達目標       | マンガ・アニメを中心にした、現代日本文化への深い理解。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |

|            |   |  |  |
|------------|---|--|--|
| 受講者への要望    | 「マンガ (アニメも含む)」あるいは「アート」など、現代の日本文化に関して強い興味をもっていること。講義中の私語・飲食は厳禁。   |  |  |
| 講義の順序とポイント | <p>(1)「はじめに」   ~講義オリエンテーション~   (2)「日本の現代文化」   ~マンガ影響下にある日本の現代文化~   (3)「記号化されたマンガ表現: MANGA って何だ?」   ~世界へ浸透する巨大な目をもつ少女たち~   (4)「マンガのさまざまな記号表現: 絵とことば」   ~日本マンガに定着したさまざまな表現 (1) ~   (5)「表面と平面~平面という認識」   ~日本マンガに定着したさまざまな表現 (2) ~   (6)「マンガからアニメへ」   ~2次元空間の論理をもつアニメーション~   (7)「オリジナルと複製、引用とコピー」   ~ポップアート (印刷物) としてのマンガ~   (8)「ポップアートとメディア」   ~大量生産、大量消費のシステム~   (9)「海外のマンガ」   ~ COMICS (米)、B.D. (仏)、MANGA (日) ~   (10)「日本のアニメ/アニメーション」   ~リアリズムから逸脱した日本の商業アニメ~   (11)「サブカルチャー/ポップカルチャー」   ~偉大なるアマチュア (素人) 文化~   (12)「巨大化するマンガ文化」   ~マンガ文化と経済~   (13)「オタク文化」   ~熱狂的趣味、HOBBY 文化~   (14)「MANGA 産業」   ~コンテンツ・ビジネスとしてのマンガ~   (15)「まとめ」   ~講義のまとめ~</p> |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50096001 |
| 科目名   | メディア・リテラシー  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Media Literacy  |       |           |
| 担当者名  | 畑 律江  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 今や私たちが現実だと思っていることの大半は、実は新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどのメディアから得た知識である。「メディアが現実を構成している」とも言える現代では、この世界を生きていく上で「メディア・リテラシー」の力が欠かせないものとなっている。この講義は、「メディア・リテラシー」の意味と意義を理解し、その能力を身につけることを狙いとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリントを配布。ビデオ、DVDなどの視聴覚資料を用いることもある。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況、時間内の発表、提出物などの総合評価）が60%、最終日の午後に行うレポート作成が40%   |       |           |
| 到達目標  | 日本のメディアの現状や課題を知った上で、メディアに見られるさまざまな表現を分析・評価し、メディアから流れてくる情報をクリティカルに読み解く習慣を身につける。それと同時に、メディアを通して自身の考えを発信し、多様なコミュニケーションを創り出していくことの重要性を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 現在のメディアについて疑問や関心を持って接しておくこと、未来のメディアのあり方などについて、自分なりに考えを深めておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 日ごろから新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどのメディアに積極的に接し、メディアに対する問題意識を持つように心掛けておいてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに～メディア・リテラシーへの扉 </li> <li>・メディア・リテラシー教育の歩みと多様な試み </li> <li>・映像とBGMの効果 </li> <li>・メディアの中の暴力表現 </li> <li>・ワイドショーの表現とメディアスクラム </li> <li>・新聞の表現形式 </li> <li>・メディアに描かれるマイノリティー市民 </li> <li>・ジェンダーとメディア </li> <li>・演説とプロパガンダ </li> <li>・漫画、アニメーション作品を読み解く </li> <li>・広告表現と視聴率をめぐって </li> <li>・インターネットと既存メディア </li> <li>・携帯電話による束縛とサイバーリテラシー </li> <li>・男性雑誌と女性雑誌 </li> <li>・雑誌のテーマを分析する   以上のようなテーマのほか、時事的な話題に触れることがある。必要に応じて内容を省略したり、順序を入れ替えることもある。   </li> </ul> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50100A01 |
| 科目名   | メディア学入門 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Media Studies I   |       |           |
| 担当者名  | 菅原 祥  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。  私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。  講義においては、活字メディア・映像メディアといったさまざまなメディアの歴史を概観しつつ、現代における身近なメディア現象の分析へと視野を広げる。また、映画をはじめとした映像資料などを多く紹介する予定である。  * 本講義はメディア社会学科1回生の時間割指定科目である。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (30%) : 出席状況等によって評価 期末試験 (70%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。  |       |           |
| 準備学習  | 現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 01 : 導入 : メディア学とは何か 02 : 活字メディアと近代 (1) : 声の文化から文字の文化へ 03 : 活字メディアと近代 (2) : グーテンベルクの銀河系 04 : インターネットと社会 (1) : インターネットと著作権 05 : インターネットと社会 (2) : インターネットと知識 06 : インターネットと社会 (3) : インターネットと社会問題 07 : インターネットと社会 (4) : 流行の現象から 08 : ケータイ電話と社会 09 : 視覚メディアと映像 (1)  10 : 視覚メディアと映像 (2)  11 : 視覚メディアと映像 (3)  12 : 映画と歴史表象 (1)  13 : 映画と歴史表象 (2)  14 : 映画と歴史表象 (3)  15 : 復習 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50100A0A |
| 科目名   | メディア学入門 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Media Studies I   |       |           |
| 担当者名  | 菅原 祥  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。  私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。  講義においては、活字メディア・映像メディアといったさまざまなメディアの歴史を概観しつつ、現代における身近なメディア現象の分析へと視野を広げる。また、映画をはじめとした映像資料などを多く紹介する予定である。  * 本講義はメディア社会学科1回生の時間割指定科目である。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (30%) : 出席状況等によって評価 期末試験 (70%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。  |       |           |
| 準備学習  | 現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 01 : 導入 : メディア学とは何か 02 : 活字メディアと近代 (1) : 声の文化から文字の文化へ 03 : 活字メディアと近代 (2) : グーテンベルクの銀河系 04 : インターネットと社会 (1) : インターネットと著作権 05 : インターネットと社会 (2) : インターネットと知識 06 : インターネットと社会 (3) : インターネットと社会問題 07 : インターネットと社会 (4) : 流行の現象から 08 : ケータイ電話と社会 09 : 視覚メディアと映像 (1)  10 : 視覚メディアと映像 (2)  11 : 視覚メディアと映像 (3)  12 : 映画と歴史表象 (1)  13 : 映画と歴史表象 (2)  14 : 映画と歴史表象 (3)  15 : 復習 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50100B01 |
| 科目名   | メディア学入門II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Media Studies II  |       |           |
| 担当者名  | 菅原 祥  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。  私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。  講義においては、テレビをはじめとしたマスコミやポピュラー文化を中心に扱いながら、現代社会とメディアについての多角的な分析を目指す。また、映画をはじめとした映像資料などを多く紹介する予定である。  * 本講義は、春学期開講の「メディア学入門I」に続いて履修することが望ましい。 * 本講義はメディア社会学科1回生の時間割指定科目である。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   | 授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）：出席状況等によって評価 期末試験（70%）  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。  |       |           |
| 準備学習  | 現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 01：ガイダンス 02：マーシャル・マクルーハンのメディア理論（1） 03：マーシャル・マクルーハンのメディア理論（2） 04：テレビ文化とオーディエンス 05：メディア・リテラシー（1）：リアリティの構成 06：メディア・リテラシー（2）：テレビニュースの分析1 07：メディア・リテラシー（3）：テレビニュースの分析2 08：ドキュメンタリー映画と現実（1） 09：ドキュメンタリー映画と現実（1） 10：メディアとジェンダー（1）：ジェンダーとは？ 11：メディアとジェンダー（2）：映画鑑賞1 12：メディアとジェンダー（3）：映画鑑賞2 13：プロパガンダとメディアの効果（1） 14：プロパガンダとメディアの効果（2） 15：復習 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50100B0A |
| 科目名   | メディア学入門II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Media Studies II  |       |           |
| 担当者名  | 菅原 祥  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、メディアと社会の関わりを考察するメディア学の入門的講義である。  私たちの生活はさまざまなメディアによって浸透されている。本講義では日常生活において「あたりまえ」のものとして受け入れられている多様なメディアとそれに関係する社会現象にあらためて目をむけることで、普段わたしたちが意識しないようなメディアと社会の関わりについての理解を深めることをめざす。  講義においては、テレビをはじめとしたマスコミやポピュラー文化を中心に扱いながら、現代社会とメディアについての多角的な分析を目指す。また、映画をはじめとした映像資料などを多く紹介する予定である。  * 本講義は、春学期開講の「メディア学入門I」に続いて履修することが望ましい。 * 本講義はメディア社会学科1回生の時間割指定科目である。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   | 授業時に適宜レジュメ・プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）：出席状況等によって評価 期末試験（70%）  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における多様なメディアのあり方を分析するための基礎的な知識・感性を養うこと。  |       |           |
| 準備学習  | 現代社会におけるメディアの重要性について日常生活の中で意識的に考えてみることによって、普段とは異なる視点からメディアを見ることに慣れておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁。あまりにひどい場合は退室を命じます。また、具体的なメディアの分析などもあるので、主体的かつ能動的な姿勢で授業に臨んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 01：ガイダンス 02：マーシャル・マクルーハンのメディア理論（1） 03：マーシャル・マクルーハンのメディア理論（2） 04：テレビ文化とオーディエンス 05：メディア・リテラシー（1）：リアリティの構成 06：メディア・リテラシー（2）：テレビニュースの分析1 07：メディア・リテラシー（3）：テレビニュースの分析2 08：ドキュメンタリー映画と現実（1） 09：ドキュメンタリー映画と現実（1） 10：メディアとジェンダー（1）：ジェンダーとは？ 11：メディアとジェンダー（2）：映画鑑賞1 12：メディアとジェンダー（3）：映画鑑賞2 13：プロパガンダとメディアの効果（1） 14：プロパガンダとメディアの効果（2） 15：復習 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50112001 |
| 科目名        | 映像制作実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Media-Product Making   |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 | メディア上級実習  |
| 講義概要       | デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 教材プリントを随時配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30％）出席状況等による。実習及び作品評価点（70％）  |       |           |
| 到達目標       | 「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 春学期 1. 映像制作ガイダンス① 企画－何が魅力の企画か－  2. 同 ② 撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－  3. 絵コンテを作ろう－ 教習編－  4. 同 同 実習編－  5. 同  6. 同 作品選出 7. 撮影取材 8. 同  9. 同  10. 同 11 撮影映像を編集  12 同  13.ミックスダウン－ナレーション、BGM音楽、テロップ－  14 同 15.実習番組の審査と合評 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50119001 |
| 科目名  | メディア表現実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The Practicum of Media Expression  |       |           |
| 担当者名   | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。Ⅱアナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。Ⅱ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする   →名刺をつくる／Tシャツをつくる／写真集をつくる Ⅱ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する   →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる /ライブビデオをつくる |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 関口久雄『メディアのプリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて、プリント・映像教材他。   |       |           |
| 評価方法   | 課題提出（100%）。  |       |           |
| 到達目標   | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。  |       |           |
| 準備学習   | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。Ⅱ※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 01 オリエンテーション  02 名刺をつくる (1)  03 名刺をつくる (2)  04 Tシャツをつくる (1)  05 Tシャツをつくる (2)  06 Tシャツをつくる (3)  07 Tシャツをつくる (4)  08 動くフォトアルバムをつくる (1)  09 動くフォトアルバムをつくる (2)  10 動くフォトアルバムをつくる (3)  11 動くフォトアルバムをつくる (4)  12 写真集をつくる (1)  13 写真集をつくる (2)  14 写真集をつくる (3)  15 写真集をつくる (4)  16 ムービーをつくる (1)  17 ムービーをつくる (2)  18 ムービーをつくる (3)  19 ムービーをつくる (4)  20 ライブビデオをつくる (1)  21 ライブビデオをつくる (2)  22 ライブビデオをつくる (3)  23 個人作品制作 (1)  24 個人作品制作 (2)  25 個人作品制作 (3)  26 個人作品制作 (4)  27 個人作品制作 (5)  28 個人作品制作 (6)  29 DVD 制作 (1)  30 DVD 制作 (2) Ⅱ※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する）」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50119002 |
| 科目名  | メディア表現実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The Practicum of Media Expression  |       |           |
| 担当者名   | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。Ⅱアナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。Ⅱ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする   →名刺をつくる／Tシャツをつくる／写真集をつくる Ⅱ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する   →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる /ライブビデオをつくる |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 関口久雄『メディアのプリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて、プリント・映像教材他。   |       |           |
| 評価方法   | 課題提出（100%）。  |       |           |
| 到達目標   | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。  |       |           |
| 準備学習   | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。Ⅱ※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 01 オリエンテーション  02 名刺をつくる (1)  03 名刺をつくる (2)  04 Tシャツをつくる (1)  05 Tシャツをつくる (2)  06 Tシャツをつくる (3)  07 Tシャツをつくる (4)  08 動くフォトアルバムをつくる (1)  09 動くフォトアルバムをつくる (2)  10 動くフォトアルバムをつくる (3)  11 動くフォトアルバムをつくる (4)  12 写真集をつくる (1)  13 写真集をつくる (2)  14 写真集をつくる (3)  15 写真集をつくる (4)  16 ムービーをつくる (1)  17 ムービーをつくる (2)  18 ムービーをつくる (3)  19 ムービーをつくる (4)  20 ライブビデオをつくる (1)  21 ライブビデオをつくる (2)  22 ライブビデオをつくる (3)  23 個人作品制作 (1)  24 個人作品制作 (2)  25 個人作品制作 (3)  26 個人作品制作 (4)  27 個人作品制作 (5)  28 個人作品制作 (6)  29 DVD 制作 (1)  30 DVD 制作 (2) Ⅱ※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する）」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50124001 |
| 科目名        | ヨーロッパ文化 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | European Culture   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ヨーロッパには多くの国があり、それぞれの文化をもっています。各国は他国の文化を取り入れつつ、自国の文化を大切にしています。多文化社会の中で自分のアイデンティティーを失わないで共に生きるコツを教えます。イギリス、ドイツ、スペイン、イタリア、ベルギー、スイスの文化の話も致します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要なヨーロッパ文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. ヨーロッパの名前について 3. ヨーロッパの中で生きるために 4. ヨーロッパの言葉 5. ヨーロッパの国々と自分の国 6. フランスの文化 7. フランスの歴史 8. フランスの日常生活 9. お隣の国イギリス 10. お隣の国ドイツ 11. お隣の国スペイン 12. お隣の国イタリア 13. お隣の国ベルギーとスイス 14. 日常生活の中で生まれる平和 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50131002 |
| 科目名        | 情報サービス実習Ⅱ【司】  | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)  |   |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>総論としての「情報サービス概説」および、コンピュータによる「情報検索演習」の知識を基礎として、この演習では主に印刷媒体である冊子体の資料について解説し検索・調査を進めていく。実際の図書館現場でのレファレンスワークにおいて要求されるであろうあらゆる分野の質問を想定しながら、各種の演習課題に回答を与え解決していく。  毎回授業ではレファレンス資料を「課題」により実際に使いこなしてみる。また個々の演習課題だけでなく、論文や評論の一部を読みながら「文脈のなかで検索・調査する」という態度も身につけ、各種レファレンス資料を熟知し比較・評価する能力を養っていく。  なお授業は、教室および図書館レファレンスコーナー、司書課程資料室を利用することになるので、授業内の連絡や掲示等には十分注意をすること。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   |   |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%) 出席状況等による。レポート(70%)   |       |           |
| 到達目標       | 課程科目の目標は基本的に資格取得であり、その資格にふさわしい学識を身につけることにある。  |       |           |
| 準備学習       | 図書館にある辞書、参考図書の種類を引くことに忙殺されるはずである。   |       |           |
| 受講者への要望    | さまざまな事象に興味を抱き、調べてみようという意欲を持ちたい。 原則として堀田クラスに登録できるのは歴史民俗学専攻所属の学生に限る。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 レファレンスサービス演習の概要 —図書館の「情報サービス」として 2 レファレンス資料の概要とその種類 —「文脈のなかでの検索・調査(1)」 3 辞書・事典の種類とその評価 —「文脈のなかでの検索・調査(2)」 4 便覧・年鑑の種類とその評価 —「文脈のなかでの検索・調査(3)」 5 地名・人名情報の種類とその評価 —「レファレンス質問と回答作成(1)」 6 新聞・雑誌記事索引の種類とその評価 —「レファレンス質問と回答作成(2)」 7 所在・所収情報の種類とその評価 —「レファレンス質問と回答作成(3)」 8 二次資料作成の必要性とその効用 —「二次資料作成の実際(1)」 9 二次資料作成のための書誌収集 —「二次資料作成の実際(2)」 10 構成と排列 —「二次資料作成の実際(3)」 11 編成・作成 —「二次資料作成の実際(4)」 12 レファレンス資料の比較・検討 —「レファレンス資料評価表の作成(1)」 13 「書誌の書誌」と当館所蔵資料 —「レファレンス資料評価表の作成(2)」 14 当館レファレンスコレクションの評価 —「レファレンス資料評価表の作成(3)」 15 まとめ —レファレンスサービスの理解とその応用について</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |            |
|------------|--|-------|------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5013100A  |
| 科目名        | 情報サービス実習Ⅱ 【司】  | 単位数   | 1          |
| 科目名（英語表記）  |  |       |            |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 | レファレンス資料実習 |
| 講義概要       | この実習では主に印刷媒体である冊子体の資料について解説し、検索・調査できる技術を身につける。実際の図書館現場でのレファレンスワークにおいて要求されるであろうあらゆる分野の質問を想定しながら、各種の演習課題に回答を与え解決していく。毎回授業ではレファレンス資料を「課題」により実際に使いこなしてみる。個々の課題だけでなく論文や評論の一部を読みながら「文脈のなかで検索・調査する」態度を養う。   |       |            |
| 教材（テキスト）   |  |       |            |
| 教材（参考文献）   |  |       |            |
| 教材（その他）    |  |       |            |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）   |       |            |
| 到達目標       | 利用者の質問に対する情報検索サービスの技術を身につける。Ⅰを主に情報検索サービスとし、Ⅱを主にレファレンスサービスの演習と位置付ける。情報サービスの設計から評価の実務、積極的な発信型情報サービスについても触れていく。   |       |            |
| 準備学習       | 図書館にある辞書、参考図書の種類を引くことに忙殺されるはずである。  |       |            |
| 受講者への要望    | さまざまな事象に興味を抱き、調べてみようという意欲を持ちたい。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1、レファレンスコレクションの整備、資料評価表 2、レファレンスインタビューの技法と実際 3、レファレンス資料の概要とその種類 4、辞書・事典の種類と評価 5、便覧・年鑑の種類と評価 6、書誌・目録の種類と評価 7、地名・人名情報の種類と評価 8、歴史関係文献の種類と評価 9、統計関係資料の種類と評価 10、レファレンス質問と回答作成 11、二次資料作成の必要性和効用 12、二次資料作成の実際 13、レファレンス資料評価表の作成 14、「書誌の書誌」と当館所蔵資料 15、文脈の中で検索・調査すること |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50134001 |
| 科目名        | おいしいフランス語 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Delicious French Language and Culture  |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日常生活において基本的に大切なのは、コミュニケーションとしての言葉の使い方と食事です。この講義の目的は、フランス語のやさしい会話をしながら、家庭料理、宮廷料理のレシピを紹介することです。これは、他では聞けない京都学園限定の講義です。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なフランス語の知識と学び方およびフランス文化を身につけ、現代社会に必要なフランス語力とヨーロッパ文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. あいさつ 3. フランスの「いただきます」と「ごちそうさま」 4. 好き嫌いが言えるように 5. 朝のお食事(1) 6. 朝のお食事(2) 7. お昼のお食事(1) 8. お昼のお食事(2) 9. フランスのお弁当 10. 夜のお食事(1) 11. 夜のお食事(2) 12. お菓子—一般家庭と宮殿 13. お食事のときの飾り 14. お客さんを招くとき 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50135A01 |
| 科目名        | かな文字基礎講読A 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Basic Seminar on Japanese-Kana Character A  |       |           |
| 担当者名       | 竹島 一希   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字(字形)しか存在しない。「あ」という音を、「あ(安)」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、一つの音は多くの字形によって書かれた(変体仮名)。「阿・愛・垂・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体(くずし字)が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材(テキスト)に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。春学期は『伊勢物語』を中心に講読する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』(淡交社・2006年) 児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版・1993年)  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子校注『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』(新編日本古典文学全集12・1994年)  |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加態度80%+期末テスト20%=100%   |       |           |
| 到達目標       | くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 教材(テキスト)を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 秋学期開講の「かな文字基礎講読B」を続けて受講することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション/遠州本第一〇六段 2 遠州本第四九段 3 遠州本初段前半 4 遠州本初段後半 5 遠州本第四段前半 6 遠州本第四段後半 7 嵯峨本第九段前半 8 嵯峨本第九段後半 9 嵯峨本第二三段前半 10 嵯峨本第二三段後半 11 真界本第六九段 12 真界本第八二段 13 真界本第八四段 14 真界本第一二三段・一二五段 15 試験</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50135B01 |
| 科目名        | かな文字基礎講読B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Seminar on Japanese-Kana Character B   |       |           |
| 担当者名       | 竹島 一希  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字（字形）しか存在しない。「あ」という音を、「あ（安）」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、ある音は多くの字形によって書かれた（変体仮名）。「阿・愛・亜・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。秋学期は和歌を中心に講読する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』（淡交社・2006年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版・1993年）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 小島憲之・新井栄蔵校注『古今和歌集』（新日本古典文学大系5・1989年） 田中裕・赤瀬信吾校注『新古今和歌集』（新日本古典文学大系11・1992年）   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加態度 80% + 期末テスト 20% = 100%  |       |           |
| 到達目標       | くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。   |       |           |
| 準備学習       | 教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 春学期開講の「かな文字基礎講読A」から引き続いて受講することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション／八代集抄 古今集夏歌 2 八代集抄 古今集恋歌二 3 八代集抄 古今集仮名序 4 八代集抄 春歌上 5 二十一代集 古今集恋歌二 6 二十一代集 古今集雑歌下 7 二十一代集 古今集秋歌上 8 二十一代集 古今集羈旅歌 9 二十一代集 新古今集春歌上 10 二十一代集 新古今集秋歌上 11 新古今集（伝為相筆） 哀傷歌 12 新古今集（伝為相筆） 恋歌五 13 新古今集（伝為相筆） 雑歌下 14 新古今集（伝為相筆） 神祇歌 15 試験</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50137001 |
| 科目名       | はじめての国際文化   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | The First International Culture   |       |           |
| 担当者名      | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 人間文化学部・国際ヒューマン・コミュニケーション学科の専任教員を中心に、様々な国や分野における文化学入門のリレー講義を行なう。個別の国として、ヨーロッパ諸国、イギリス、アイルランド、オーストラリア、アメリカ、韓国、フランスについて、それぞれの国の文化の概要を紹介する。また、イスラム文化、音楽文化、スポーツ文化、異文化コミュニケーションといった角度からも、国際的な文化について紹介する。最後に、私たちの日本文化（案外知らないことが多い）や外国から見た日本文化についても考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回授業レジュメや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法      | 毎回の授業での小レポート提出（100%）  |       |           |
| 到達目標      | 国際ヒューマン・コミュニケーション学科の学生として、これから国際文化について学んでいくための入り口として、幅広い国際文化の基礎知識を身につけること。  |       |           |
| 準備学習      | 毎回の講義でテーマとなる国の文化について、インターネットなどを利用して大まかなことを調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   | <p>毎回講師が変わるリレー形式の講義なので、1冊の教科書ですべてを理解することはできない。したがって、講義に出席して内容を理解することが中心になる。</p> <p>講義の順序とポイント</p> <p>1. はじめに・シラバスの説明（内藤）  2. ヨーロッパ文化入門（今西）  3. イギリス・アイルランド文化入門（今西）  4. オーストラリア文化入門（リッチモンド）  5. アメリカ文化入門Ⅰ（内藤）  6. アメリカ文化入門Ⅱ（内藤）  7. 韓国文化入門（曹）  8. フランスの食・生活文化入門（藤田）  9. イスラム文化入門Ⅰ（矢野）  10. イスラム文化入門Ⅱ（矢野）  11. 音楽文化入門（岡崎）  12. スポーツ文化入門（リッチモンド）  13. 異文化コミュニケーション入門（岡本）  14. 現代の日本文化（岡崎）  15. 外国からみた日本文化（リッチモンド） </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5013700A |
| 科目名        | はじめての国際文化   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The First International Culture   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間文化学部・国際ヒューマン・コミュニケーション学科の専任教員を中心に、様々な国や分野における文化学入門のリレー講義を行なう。個別の国として、ヨーロッパ諸国、イギリス、アイルランド、オーストラリア、アメリカ、韓国、フランスについて、それぞれの国の文化の概要を紹介する。また、イスラム文化、音楽文化、スポーツ文化、異文化コミュニケーションといった角度からも、国際的な文化について紹介する。最後に、私たちの日本文化（案外知らないことが多い）や外国から見た日本文化についても考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回授業レジュメや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 毎回の授業での小レポート提出（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 国際ヒューマン・コミュニケーション学科の学生として、これから国際文化について学んでいくための入り口として、幅広い国際文化の基礎知識を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の講義でテーマとなる国の文化について、インターネットなどを利用して大まかなことを調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回講師が変わるリレー形式の講義なので、1冊の教科書ですべてを理解することはできない。したがって、講義に出席して内容を理解することが中心になる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに・シラバスの説明（内藤）  2. ヨーロッパ文化入門（今西）  3. イギリス・アイルランド文化入門（今西）  4. オーストラリア文化入門（リッチモンド）  5. アメリカ文化入門Ⅰ（内藤）  6. アメリカ文化入門Ⅱ（内藤）  7. 韓国文化入門（曹）  8. フランスの食・生活文化入門（藤田）  9. イスラム文化入門Ⅰ（矢野）  10. イスラム文化入門Ⅱ（矢野）  11. 音楽文化入門（岡崎）  12. スポーツ文化入門（リッチモンド）  13. 異文化コミュニケーション入門（岡本）  14. 現代の日本文化（岡崎）  15. 外国からみた日本文化（リッチモンド） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50139001 |
| 科目名        | 異文化コミュニケーション   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cross-Cultural Communication   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 外国語で話すとき、単語や文法、発音をマスターしても、理解してもらえないことが多いのはなぜでしょう？素晴らしい語学力を持っていても、それを会話で適切に対応できなければ意味がありません。このクラスの前半では語彙や文法だけでなく、英語でうまく話せるようになるためのコミュニケーション方法や文化を学び習得していきます。後半では、日本と外国だけではなく文化と文化の間にあるコミュニケーションの相違点や共通点を探しだす比較文化を研究します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | Stapleton, Paul. How Culture Affects Communication, Kinseido Publishing  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20% 授業ないレポート 50% 定期試験 30%  |       |           |
| 到達目標       | 英語で話すとき覚えておきたい文化的なルールを習って、また、実例で異文化コミュニケーションの基本を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 自分が住む環境と異文化について考える姿勢や興味を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に毎回出席すること。課題に出されたテーマについて考えて、自分を意見を述べることも大事。 原則としてこの講座は英語で行われる予定だが、必要に応じて説明、質問、討論などは日本語使用可能です。辞書を持ってくることを勧める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Introduction/What is culture? 2. Silence and communication 3. Length of speech 4. Variation of speech  5. Age, Status and Family  6. Rituals and Titles 7. Personal Space 8. Conversation styles/ Feedback 9. Communication in shops  10. Communication in the house 11. Idioms and Proverbs 12. Agreeing and Disagreeing 13. Public and Private Behavior 14. Reflections on Language and Culture 15. Discussion/final test |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5013900A |
| 科目名        | 異文化コミュニケーション   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cross-Cultural Communication   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 外国語で話すとき、単語や文法、発音をマスターしても、理解してもらえないことが多いのはなぜでしょう？素晴らしい語学力を持っていても、それを会話で適切に対応できなければ意味がありません。このクラスの前半では語彙や文法だけでなく、英語でうまく話せるようになるためのコミュニケーション方法や文化を学び習得していきます。後半では、日本と外国だけではなく文化と文化の間にあるコミュニケーションの相違点や共通点を探しだす比較文化を研究します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | Stapleton, Paul. How Culture Affects Communication, Kinseido Publishing  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20% 授業ないレポート 50% 定期試験 30%  |       |           |
| 到達目標       | 英語で話すとき覚えておきたい文化的なルールを習って、また、事例で異文化コミュニケーションの基本を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 自分が住む環境と異文化について考える姿勢や興味を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に毎回出席すること。課題に出されたテーマについて考えて、自分を意見を述べることも大事。 原則としてこの講座は英語で行われる予定だが、必要に応じて説明、質問、討論などは日本語使用可能です。辞書を持ってくることを勧める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Introduction/What is culture? 2. Silence and communication 3. Length of speech 4. Variation of speech  5. Age, Status and Family  6. Rituals and Titles 7. Personal Space 8. Conversation styles/ Feedback 9. Communication in shops  10. Communication in the house 11. Idioms and Proverbs 12. Agreeing and Disagreeing 13. Public and Private Behavior 14. Reflections on Language and Culture 15. Discussion/final test |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50140001 |
| 科目名        | 医療心理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Psychology of Medical Care   |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけでなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点からどのような援助ができるか考察したい。         |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅佐和子編 「医療現場に生かす臨床心理学」 朱鷺書房   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験（70%）、平常点（30%）出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標       | 医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解を深めることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 患者の心理Ⅰ 3 患者の心理Ⅱ 4 患者の心理Ⅲ 5 精神科（入院）領域 6 精神科（外来）領域 7 心療内科領域 8 小児科領域（乳児期・幼児期） 9 小児科領域（児童期・思春期） 10 小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） 11 内科領域（糖尿病患者への心理的援助） 12 外科領域 13 ターミナルケア領域 14 HIV感染症領域 15 医療スタッフのストレスと対応 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5014100A |
| 科目名        | 医療心理実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Training in Medical Care Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学において心理アセスメントは、心理療法とともに車の両輪をなすものである。臨床心理学や医療心理学を实践する領域において、パーソナリティをどのように査定し理解するかということ抜きにして、心理療法やカウンセリングを行うことはまず考えられない。そこで本講では、医療心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指し、各種の心理検査を通じての事例分析も行う。  また、単に技術面のことにのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は特に使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、レポート（30%）、発表（30%）。   |       |           |
| 到達目標       | 様々な心理検査の実習を通じて、医療心理臨床の現場で求められる心理アセスメント技術の習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 各実習の最後に次の実習のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 ロールシャッハテスト 施行法 3 ロールシャッハテスト スコアリング（反応領域） 4 ロールシャッハテスト スコアリング（決定因） 5 ロールシャッハテスト スコアリング（反応内容、P反応） 6 ロールシャッハテスト サイコグラム、 7 ロールシャッハテスト 解釈法Ⅰ  8 ロールシャッハテスト 解釈法Ⅱ  9 ロールシャッハテスト 事例分析  10 ロールシャッハテスト 事例分析  11 TAT 事例分析 12 TAT 事例分析 13 P-Fスタディ 事例分析 14 P-Fスタディ 事例分析 15 P-Fスタディ 事例分析 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50142001 |
| 科目名        | 映画撮影所実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Movie Studio Internship   |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 撮影所の現場における実習（インターンシップ）科目である。実習参加者は、「映画撮影論」（担当：春岡）の受講者の中から、面接によって選考される。選考を通過した受講者は東映京都映画撮影所（太秦スタジオ）においてテレビ映画等の撮影・制作にスタッフとして参加し実習する。実習期間は8月、9月の4週間前後が予定されている。                 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書等は使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて授業の中で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてレジュメ等を用意する。   |       |           |
| 評価方法       | 実習への出席等（40%）、実習状況評価等（40%）、修了後のレポート（20%）。  |       |           |
| 到達目標       | 映画の制作現場にスタッフとして参加し、映画がどのように制作されているのか知識と経験を得る。   |       |           |
| 準備学習       | 「映画撮影論」を受講し、映画制作の現場に関する知識を習得しておくこと。 キャリアサポート・センターによるビジネス実習講義・体験ディスカッションに参加し、実習のための基本知識と技能を身につける。  |       |           |
| 受講者への要望    | プロたちが働く現場は厳しく真剣そのものであり、自分のやるべきことを主体的に考えて行動することが求められる。ハードな実習をやりぬく覚悟、映画への情熱が求められる。夜の撮影がある場合は各自で帰宅の足を確保する必要がある。なお、受け入れ側の撮影スケジュールと大学の授業スケジュールが折り合わない場合は実習が行われなかったこともあるので注意されたい。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 撮影所での映画・テレビ制作現場の一員として制作作業の一部を担う。内容については撮影所からの指示に従うこと。 1、実習前のオリエンテーション 2～14、撮影所実習 15、実習後にまとめの授業を行う。  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50143001 |
| 科目名  | 映画撮影論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Movie Making   |       |           |
| 担当者名   | 春岡 勇二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>京都は日本映画発祥の地であり、本校近隣の太秦では、昭和の初め、複数の映画会社及び独立プロダクションの撮影所が林立し、「日本のハリウッド」と呼ぶにふさわしい様相を呈していた。幾多の変遷を経て整理統合されたが、現在でも現存映画会社の撮影所が稼働し、地域全体に「映画都市」の雰囲気を残している。また、本校では映画会社・東映の協力のもと、学生が撮影所で働き、実際の撮影現場を体験できるインターンシップを実施している。そこでインターンシップを希望する学生を始め、日本映画に興味を持つ学生諸君に、太秦の歴史、撮影所の歴史を教え、さらにすでに消滅したものを含めた各映画会社の歴史・個性・特徴を知ってもらい、日本映画全般の教養を深めてもらう。さらに講師が実際に行った撮影現場取材等で得た知識をもとに、撮影そのものの基礎知識を教え、現場でとまどうことがないインターンシップ生を育てると共に、他の学生諸君も就職活動時に日本映画の知識、教養がアピールできるレベルを目指したい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（60％）出席状況等による。期末レポート（40％）。  |       |           |
| 到達目標   | 日本映画発達の歴史を、発祥の地であり、「映画の都」であった京都を通して深く理解する。また、映画製作会社ごとの特徴や歴史、活躍した人々の仕事を理解し、日本映画の教養を深めることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 映画への興味を常に持ち、現時点で映画館で上映されている作品についても、できるだけ多くの情報を入手しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席し、質問等も積極的にしてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. 京都における日本映画誕生の歴史的背景  2. 「日本のハリウッド」太秦撮影所の歴史①  3. 「日本のハリウッド」太秦撮影所の歴史②  4. 日本の映画会社①、東宝の歴史・作品の特徴・監督・俳優   5. 日本の映画会社②、松竹の歴史・作品の特徴・監督・俳優  6. 日本の映画会社③、日活の歴史・作品の特徴・監督・俳優  7. 日本の映画会社④、大映の歴史・作品の特徴・監督・俳優   8. 日本の映画会社⑤、東映の歴史・作品の特徴・監督・俳優  9. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち①  10. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち②  11. 京都で活躍した日本映画の巨匠たち③  12. 京都を舞台にした映画、京都で撮影された映画①  13. 京都を舞台にした映画、京都で撮影された映画②  14. 撮影現場の雰囲気及び基礎知識  15. 全講義のまとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50148001 |     |       |        |
| 科目名  | 映像文化論  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | Theory of Video Culture  |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 深井 勉   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>リュミエール兄弟のシネマトグラフの上映 (1895 年) で始まった映像文化は、20 世紀の映画とテレビによって大きく開花した。 初期映画時代から今日に至るまで、多くの映画監督や放送人によって制作されたドラマやドキュメンタリー、テレビ中継は、国境を越えて人々に感動を与えてきた。それは、「映像」が地球規模での「文化コミュニケーション」を可能にすることを示唆している。 特に、映画監督や映像理論家によって研究された“劇的映像”の表現理論と映画では成し得なかった“テレビ中継”の美的表現理論は、映像作品が“芸術”であり得ることを教え、その表現方法を学ぶことが、即ち「映像文化」を学ぶことになることを教えている。  文化を「人間の生き方」と考えるなら、様々な人間の生き方を記録した映像作品こそ「映像文化」であり、その鑑賞を通して感動を伝える美的映像表現理論を実証的に学ぶと同時に、デジタル時代の 21 世紀の「映像文化」の役割と課題について考察する。   </p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | 北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版) 比叡書房 2500 円  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材を活用する。適宜教材プリントを配布する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 平常点 (30%) 出席状況等による。定期テスト (70%)。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 「映像」の歴史をその理論と実際 (作品) から検証することで、21 世紀の「映像文化」の役割と課題を理解する。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 様々な映像に接する時は、その表現方法等に常に関心を持って臨むこと。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |           |     |       |        |
| 本講義は 2 時間連続で同一テーマを扱うため必ず両時間とも出席すること。出席チェックは厳格に行い不正が判明した際は受講を拒否する場合がある。また、私語は厳禁、過ぎた場合は退室を求めることがある。  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |     |       |        |
| <p>1. 映像文化の定義 映像とは「二次元における三次元の再現」  2. 映像の特性 視覚による「具体性」と記録による「再現性、創造性」  3. 映像の歴史① 映像文化の魁「写真」  4. 同 (映像検証)  5. 映像の歴史② 映画の誕生 その 1「銀幕に登場した世紀の映像、シネマトグラフ」  6. 同 (映像検証)  7. 映像の歴史③ 映画の誕生 その 2「劇映画への道」  8. 同 (映像検証)  9. 映像の歴史④ 映画の成長 その 1「ストーリーテラーの監督・グリフィス」  10. 同 (映像検証)  11. 映像の歴史⑤ 映画の成長 その 2「笑いと涙の喜劇王・チャップリン」  12. 同 (映像検証)  13. 映像の歴史⑥ 記録から創作へ「驚異のモンタージュ手法」  14. 同 (映像検証)  15. 映像の歴史⑦ 映画芸術への道「弁証法的編集、コリジョン (衝突)」  16. 同 (映像検証)  17. 映像の手法① トーカーの出現「音と映像によるアクチュアリティ」   カラーの登場「映像イメージを変えた総天然色」  18. 同 (映像検証)  19. 映像の手法② シネマスコープの世界「拡大する映像空間の迫力」   S F X・V F Xの世界「新たな映像表現」  20. 同 (映像検証)  21. 映画の形式① ネオリアリズム「映画界のドキュメンタリードラマ」  22. 同 (映像検証)  23. 映画の形式② ヌーベルバーグ「映像表現の常識を打ち破る新しい波」  24. 同 (映像検証)  25. 日本映画の魅力① 「日本映画の誕生と世界のクロサワ」  26. 同 (映像検証)  27. 日本映画の魅力② 「世界をリードするジャパニメーション」  28. 同 (映像検証)  29. テレビの時代 自由に進化する映像表現「テレビ映像とコマーシャル映像」  30. 同 (映像検証)  </p> |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待  |  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50150A0C |
| 科目名        | 社会学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IA in Sociology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースについても研究する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点と、発表とレポートに依る。  |       |           |
| 到達目標       | 共通テーマを理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, ガイダンス   2・3, 家族   4・5, 地域社会   6・7, 教育   8・9, 企業   10・11, 労働   12・13, 政治   14・15, メディア  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50150A0D |
| 科目名  | 社会学専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Advanced Seminar IA in Sociology   |       |           |
| 担当者名   | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本演習では、様々な社会問題をジェンダーと関連づけて読み解く社会学です。来年度の卒業研究にむけて、自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば性別、セクシュアリティ、ライフコース、男性問題、出産と生殖医療、子育て、日本の雇用環境、介護、メディアなど今日的な問題を、ジェンダーの視点から考えていきます。考える力とは、問いをたてる力と状況把握であり、社会で求められる能力の一つです。 演習では、具体的には教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、学生は「自分の問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが4年生の卒業研究の出発点になります。 また、本演習では、就職活動にむけて、先輩との情報交換や共有を行う予定です。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『ジェンダーの社会学入門』江原由美子・山田昌弘 岩波書店 2008  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ゼミにて適宜指定する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオを活用する。 その他の教材および新しいデータは適宜配布する   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(40%)出席状況などによる、課題レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標   | ジェンダー社会学の基礎的な理解を通して、来年度の卒業研究を視野をおいた自分の課題(問い)を発見する。   |       |           |
| 準備学習   | ゼミでのディスカッションに参加できるよう、指定された教科書や資料などを読んで出席する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 「ジェンダー論」を履修しておいてください   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1, イントロダクション  2~3, 社会学とは 4~5, ジェンダー社会学とは  6, 2年生ゼミの「ファイナルレポート」発表とコメント 7~9, 指定教材の発表とディスカッション 10~14, 教科書の発表とディスカッション 15, 前期まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50150B0C |
| 科目名        | 社会学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IB in Sociology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースについても研究する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点と、発表とレポートに依る。  |       |           |
| 到達目標       | 自らの研究テーマを見つける。  |       |           |
| 準備学習       | 常日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1・2, 高齢化社会   3・4, 情報化社会   5・6, 国際化   7・8, 近代社会   9・10, 宗教と社会   11・12, 文明と社会   13・14, レポートの書き方   15, まとめ                         |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |  |  |  |
|------------|---|-------|-----------|--|--|--|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50150B0D |  |  |  |
| 科目名        | 社会学専門演習ⅠB   | 単位数   | 2         |  |  |  |
| 科目名(英語表記)  | Advanced Seminar IB in Sociology  |       |           |  |  |  |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |  |  |  |
| 講義概要       | 本演習では、様々な社会問題をジェンダーと関連づけて読み解く社会学です。来年度の卒業研究にむけて、自分だけの「問い」を発見するために、ジェンダー社会学の問題を取り上げます。たとえば性別、セクシュアリティ、ライフコース、男性問題、出産と生殖医療、子育て、日本の雇用環境、介護、メディアなど今日的な問題を、ジェンダーの視点から考えていきます。考える力とは、問いをたてる力と状況把握であり、社会で求められる能力の一つです。 演習では、具体的には教科書や指定教材をもとに、学生発表と講義、ディスカッションなどを行うなかで、学生は「自分の問い」を探し、期末レポートを作成します。この期末レポートが4年生の卒業研究の出発点になります。 また、本演習では、就職活動にむけて、先輩との情報交換や共有を行う予定です |       |           |  |  |  |
| 教材(テキスト)   | 『ジェンダーの社会学入門』江原由美子・山田昌弘 岩波書店 2008   |       |           |  |  |  |
| 教材(参考文献)   | ゼミにて適宜指定する  |       |           |  |  |  |
| 教材(その他)    | ビデオを活用する。 その他の教材および新しいデータは適宜配布する  |       |           |  |  |  |
| 評価方法       | 平常点(40%)出席状況などによる、期末レポート(60%)   |       |           |  |  |  |
| 到達目標       | ジェンダー社会学の基礎的な理解を通して、卒業研究を視野をおいた期末レポートの執筆を行う。  |       |           |  |  |  |
| 準備学習       | ゼミでのディスカッションに参加できるよう、 指定された教科書や資料などを読んで出席する。  |       |           |  |  |  |
| 受講者への要望    |   |       |           |  |  |  |
|            | 出来れば「ジェンダー論」を履修しておいてください  |       |           |  |  |  |
| 講義の順序とポイント |   |       |           |  |  |  |
|            | 1, インTRODクション(後期)  2~4, 夏休み宿題の発表とコメント  5~9、指定教科書の発表とディスカッション 10, 就職活動に向けて説明 11, リサーチ方法とレポートの書き方 12~14, ファイナル・レポート経過報告 15, 後期のまとめ  |       |           |  |  |  |

  

| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50152A0C |
| 科目名        | 社会学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar II A in Sociology   |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとしての卒業論文を執筆する準備をする。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースについても研究する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点と、発表とレポートに依る。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文を執筆できる準備をする。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, ガイダンス   2・3, 家族   4・5, 地域社会   6・7, 教育   8・9, 企業   10・11, 労働   12・13, 政治   14・15, メディア   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50152A0D |
| 科目名   | 社会学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Seminar II A in Sociology   |       |           |
| 担当者名  | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業研究の計画書作成から執筆まで。 前期：各学生は卒業研究のための文献リサーチを行い、問題設定と研究方法を設定する。                           |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 適宜指定する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各学生の卒業研究テーマに応じて配布あるいは指定する  |       |           |
| 教材 (その他)  | ビデオ教材を活用する。 その他教材は適宜配布、あるいは指定する  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)出席状況などによる、前期レポート (70%)   |       |           |
| 到達目標  | 卒業研究の問題提起と仮説の設定。   |       |           |
| 準備学習  | 卒業研究はテーマよりも問題提起が重要になる。論文構成を考える前に、自分の研究関心についてどのような議論がなされてきたのか、先行研究を読んで、文献リサーチをして把握する。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 準備学習を参照   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 順番は変わることがあります 1,      イントロダクション 2~4,      ゼミ 3 の期末レポート発表 5~6      卒業研究計画書の発表 7,   卒業研究執筆の手順  8~9,   就職活動について 10~14,   卒論個別指導 15,      前期まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50152B0C |
| 科目名        | 社会学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar II B in Sociology   |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとして卒業論文を執筆する。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースについても研究する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点と、発表とレポートに依る。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文を執筆する。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。 論文執筆のトレーニングをする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1・2, 高齢化社会   3・4, 情報化社会   5・6, 国際化   7・8, 近代社会   9・10, 宗教と社会   11・12, 文明と社会   13・14, 卒業論文について   15, まとめ  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |                                    |       |           |
|---|------------------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                               | 授業コード | J50152B0D |
| 科目名   | 社会学専門演習 II B                       | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Seminar II B in Sociology |       |           |
| 担当者名  | 黒木 雅子                              | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業研究の進展具合の報告と個別指導を経て執筆を完成させる。      |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 適宜指定する                             |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 学生の卒業研究に応じて指定する                    |       |           |
| 教材 (その他)  | ビデオ教材を活用する。 その他教材は適宜配布、あるいは指定する    |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)出席状況などによる、卒業研究 (70%)       |       |           |
| 到達目標  | 卒業研究論文の執筆。                         |       |           |
| 準備学習  | 最初の演習で指示する                         |       |           |
| 受講者への要望   |                                    |       |           |
| 特になし  |                                    |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                                    |       |           |
| 順番は変わることがあります 1, イントロダクション(後期)  2~4,<br>宿題発表 5~10, 卒論個別指導 11~13, 卒論進捗状況の発表とフィードバック  14, 卒論報告 15,<br>後期まとめ |                                    |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50178001 |
| 科目名   | 家族社会学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Family Sociology  |       |           |
| 担当者名  | 桂 容子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、共通のイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、メディア等によって流布する極めて限定的なイメージであり、現代の日本社会における一つのライフスタイルに過ぎない。夫と妻と子どもから成る核家族の形態、あるいはその上の世代との同居家族など、いくらかのバリエーションが展開するだけで、画一的なイメージが流通しており、それを私たちは「家族」と呼んでいる。授業では、「家族」の歴史的な変化や、様々な展開を見せる実態の多様性を確認して、「家族」を相対化する思考を養う。そして、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート（回数、内容も評価対象）＋授業内ミニテスト＝50％ 期末試験＝50％ 通常の授業内の提出物と試験との合計点で評価。  |       |           |
| 到達目標  | 固定的な「家族」イメージを相対化し、社会問題と家族問題との連動に気づき、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。  |       |           |
| 準備学習  | 特に課題は課さないが、身近な問題であるので、メディアで論じられたりする機会も多く、常に興味を持って情報を得る姿勢を持って欲しい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ホームワークや授業外の課題は課さないで、普段の授業を大切にすること。授業内で理解が進むような講義をするので、90分を有意義なものにしてほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 導入：授業ガイダンス 2 家族とは何か 3 イエ制度と近代家族 4 近代家族とは 5 戦後家族の形成 6 恋愛と性 7 専業主婦の誕生 8 子育て 9 ドメスティック・バイオレンス 10 子ども虐待 11 少子高齢化 12 民法改正問題 13 多様なライフスタイル 14 変容する家族 15 まとめ  授業テーマは、時事的な話題等の状況に応じて、適宜変更を加えることがあります。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50182001 |
| 科目名  | 学校臨床心理学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Clinical School Psychology  |       |           |
| 担当者名   | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点を理解するためには、学校という場を知った上で、そこにおいて必要とされる臨床心理学的実践は如何なるものであるかを理解し、スクールカウンセラーの活動の実際を知ることが必要である。第二の観点では、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していくことを可能にするための、それぞれの方法論や観点の異同を理解することが重要である。  本講義においては学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、上述の二つの観点から分析・解説する。そしてこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法を包括的に論じる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 横湯園子 教育臨床心理学 東京大学出版会  倉光修編 学校臨床心理学 誠信書房   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて、プリント類を配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 学期末試験 50% レポートおよび平常点(授業内小レポートを含む) 50%   |       |           |
| 到達目標   | <p>学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。また、学校現場においてどのような問題が発生しており、その解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。</p>  |       |           |
| 準備学習   | 新聞・インターネットなどにおける学校関係の報道について、関心を持って見ておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業中は私語厳禁です。社会的にも関心の高い領域であるので、積極的に勉強すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 学校とはどのようなところか   2. 学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性   3. 教育臨床心理学とは   4. コミュニティ心理学の視点   5. 児童期・思春期の心理的発達   6. 学校現場での問題 ①不登校   7. ②不登校児童生徒の実態   8. ③いじめ   9. ④非行   10. ⑤発達障害   11. 家族の問題 ①子供を取り巻く環境   12. ②虐待   13~14. スクールカウンセラーの仕事   15. まとめ</p> |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50186001 |     |       |        |
| 科目名  | 学習の動機づけ  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | Human Motivation   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>学習の動機づけとは一般にいう「やる気」に近い概念です。動機づけに関する概念は非常に多く、これは人間が様々なことからやる気になるということを反映しているといえます。  なぜ人はやらなくてはならないとわかっていてもやる気にならないのか、同じ状況でもやる気になる人とならない人がいるのはなぜか、同じだけ努力しているのに、同じ結果にならないのはなぜか、など日常にも見られる現象について動機づけ研究の立場から考えていきます。  動機づけを理解することで、日常においてどのような工夫ができるか、また動機づけについて考えるだけでは難しい問題、その解決のための考え方を理解し、自分自身の動機づけについて改めて考える機会としていただきたい。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示します  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   | 講義中に適宜配布します  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 平常点 (45%) : 毎回、理解度の確認、次回のテーマについて事前に考える課題等を実施し、評価する  定期テスト (55%) : 筆記試験を実施する  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 1. 各動機づけ概念が、何によって行動を始発するのかを説明できるようになる  2. 動機づけ概念を用いて、日常の行動を説明することができるようになる  3. さまざまな動機づけ概念を理解し、最終講義までに動機づけを高めるための方法を3つ以上提案できるようになる   |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |           |     |       |        |
| <p>受講するからには有意義な時間としていただきたいと考え以下のことを求めます。  1. 毎回の講義から何かを学ぶ、得る、という形で、目標を持って参加してください。  2. 講義中の私語、携帯電話の使用は厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。  3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。</p>  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |     |       |        |
| <p>1 講義概要 動機づけとは何か  2 成功したい、失敗したくない - 達成動機づけ  3 できること、意味のあることをしたい - 期待・価値理論  4 自信とやる気 - 自己効力感  5 なぜ成功したのか、なぜ失敗したのか - 原因帰属理論  6 動機づけのネガティブな側面 - テスト不安・学習性無力感  7 有能さによる違い - 達成目標理論  8 環境からの影響 - 達成目標の再考・目標構造  9 やりたいことをする - 自己決定理論  10 行動する意味 - 基本的欲求  11 さまざまな動機づけ概念の総合的理解と動機づけの限界の理解  12 自分をコントロールする - メタ認知  13 動機づけ+メタ認知=? - 自己調整学習という考え方  14 自己調整の仕方 - 自己調整学習方略  15 まとめと質問</p> |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)   | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。   |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50187A01 |
| 科目名        | 漢文学講読A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Chinese Writing Study Reading A   |       |           |
| 担当者名       | 中村 健史   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 『論語』の講読を通して、漢文の訓読（書き下しと解釈）を学ぶ。  この授業では、訓読に関する基本的な知識の確認からはじめて、訓点の付された漢文を自在に読める程度にまで進みたい。授業は用意された文章を皆で読む形式を取る。文法や語義を確認しつつ、丁寧に作品を読んでゆく。特に担当者を指名することはしないので、全員が予習をして授業に臨んでほしい。  授業では、内容に沿って、適宜、漢文学や国文学に関する知識を紹介する。分からないこと、疑問に思ったこと、知りたいと思ったことがあれば、積極的に質問してほしい。  日本の文学・言語・文化は、長いあいだにわたり、中国から大きな影響を受けている。また、近代以前の漢文には、東アジアの共通語としての性格もあった。漢文を学ぶことは、内と外から同時に日本をながめるということでもある。興味を持って取り組んでほしい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。各講義でプリントを配布する。ただし、漢和辞典をかならず用意すること。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし。   |       |           |
| 教材（その他）    | 各自で漢和辞典を用意すること（電子辞書は不可）。漢和辞書については、特に書名を指定することはしないが、新しく購入するのであれば、『角川 新字源』改訂版（角川学芸出版、2400円）を推薦する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%、授業への参加度、予習状況）、授業中に課す簡単なプリント問題（30%、2回程度）、定期テスト（30%）で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 漢文の基本的な語彙、語法（文法）、訓読、解釈、及び関連する知識を習得することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 次回講読する教材を授業中に配布するので、かならず予習し、書き下し文と現代語訳をつかって授業に臨むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | かならず予習をして授業に出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.漢文法の基礎 2.『論語』と孔子 3.伊藤仁斎と『論語』 4.『論語』講読 学問 5.『論語』講読 学問 6.『論語』講読 教育・弟子 7.『論語』講読 教育・弟子 8.『論語』講読 修養・徳 9.『論語』講読 修養・徳 10.『論語』講読 修養・徳 11.『論語』講読 仁・礼楽 12.『論語』講読 仁・礼楽 13.『論語』講読 政治 14.『論語』講読 政治 15.定期テスト  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50187B01 |
| 科目名        | 漢文学講読B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Chinese Writing Study Reading B  |       |           |
| 担当者名       | 中村 健史  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>頼山陽『日本外史』の講読を通して、漢文の訓読（書き下しと解釈）を学ぶ。  『日本外史』は幕末の儒者・頼山陽が鎌倉～戦国時代の歴史を漢文でつづった書物であり、幕末にひろく読まれた流行書でもあった。授業では、そのうち「豊臣氏」のくだり、すなわち豊臣秀吉の一代記を読む。  この授業では、訓読に関する基本的な知識の確認からはじめて、訓点の付された漢文を自在に読める程度にまで進みたい。授業は用意された文章を皆で読む形式を取る。文法や語義を確認しつつ、丁寧に作品を読んでゆく。特に担当者を指名することはしないので、全員が予習をして授業に臨んでほしい。  授業では、内容に沿って、適宜、漢文学や国文学に関する知識を紹介する。分からないこと、疑問に思ったこと、知りたいと思ったことがあれば、積極的に質問してほしい。  日本の文学・言語・文化は、長いあいだにわたり、中国から大きな影響を受けている。また、近代以前の漢文には、東アジアの共通語としての性格もあった。漢文を学ぶことは、内と外から同時に日本をながめるということでもある。興味を持って取り組んでほしい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。各講義でプリントを配布する。ただし、漢和辞典をかならず用意すること。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし。  |       |           |
| 教材（その他）    | 各自で漢和辞典を用意すること（電子辞書は不可）。漢和辞書については、特に書名を指定することはないが、新しく購入するのであれば、『角川 新字源』改訂版（角川学芸出版、2400円）を推薦する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%、授業への参加度、予習状況）、授業中に課す簡単なプリント問題（30%、2回程度）、定期テスト（30%）で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 漢文の基本的な語彙、語法（文法）、訓読、解釈、及び関連する知識を習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 次回講読する教材を授業中に配布するので、かならず予習し、書き下し文と現代語訳をつくって授業に臨むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | かならず予習をして授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.漢文法の基礎 2.『日本外史』と頼山陽 3.『日本外史』講読 秀吉の出生 4.『日本外史』講読 寺を出る 5.『日本外史』講読 松下家 6.『日本外史』講読 織田家 7.『日本外史』講読 織田信長 8.『日本外史』講読 屏の工事 9.『日本外史』講読 結婚 10.『日本外史』講読 刀の盗難 11.『日本外史』講読 墨俣城 12.『日本外史』講読 墨俣城 13.『日本外史』講読 墨俣城 14.『日本外史』講読 竹中重治 15.定期テスト ※第3回～第14回は講読の授業を行う。なお、内容・順序等は授業の進度に合わせて多少変更する場合がある。</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50190A01 |
| 科目名        | 環境社会学 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Environmental Sociology A   |       |           |
| 担当者名       | 寺田 憲弘   | 旧科目名称 | 環境社会学 s   |
| 講義概要       | 環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもある。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっている。  環境社会学の対象としては、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題(イシュー型)。つまり、公害問題あるいは環境問題として社会問題化した、あるいは、している環境問題と、人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題(コンテキスト型)。身近な地域共同体と周囲の自然環境との関わりとしての環境問題の二つがあるが、本講座においては前者を扱う。  社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考える。環境問題を歴史的に概観しながら、環境を問題たらしめている社会自体について考察していき、環境社会学の考え方とその対象を学んでもらいたいと思う。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 授業においては、レジュメを配付し、それを基づき進めるので、特に指定しない。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 特になし  |       |           |
| 評価方法       | 授業第度、出席状況等を含む平常点(50%)と、テスト(50%)の二点から総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標       | 社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 社会学を中心に大学教育における、一般的な教養。   |       |           |
| 受講者への要望    | 環境問題に対する関心を少くくはもっていること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション 「自然」とは「環境」とは何か 2. 社会学の成立と「環境」 自然<br/>近代の自然観 3. 環境社会学の成立と対象 社会科学と自然 4. 近代化<br/>近代化とは何か 5. 明治大正期の公害 足尾銅山 近代化と公害 6. 明治大正期の公害 別子銅山<br/>近代化と公害 7. 戦後の経済復興と高度経済成長 戦後の社会変動 8. 四大公害訴訟一水俣病(1)<br/>被害構造論 9. 四大公害訴訟一水俣病(2) 実態と新聞報道 10. 四大公害訴訟一新潟水俣病<br/>認定問題 11. その他の公害問題一騒音問題など 受益圏・受苦圏論 12. 公害問題から環境問題へ 環<br/>境問題の変質  13. 社会問題の社会学 構築主義について 14. 社会問題とし<br/>ての地球温暖化 構築主義の応用 15. 現代社会とリスク 科学技術とリスク </p>      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J50190B01 |     |       |        |
| 科目名                                     | 環境社会学B   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                               | Environmental Sociology B  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 寺田 憲弘  | 旧科目名称 | 環境社会学 f   |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもある。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっている。  環境社会学の対象としては、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イシュー型）。つまり、公害問題あるいは環境問題として社会問題化した、あるいは、している環境問題と、人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）。身近な地域共同体と周囲の自然環境との関わりとしての環境問題の二つがあるが、本講座においては後者を扱う。  社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考える。環境問題を歴史的に概観しながら、環境を問題たらしめている社会自体について考察していき、環境社会学の考え方とその対象を学んでもらいたいと思う。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 授業においては、レジュメを配付し、それを基づき進めるので、特に指定しない。  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 授業中に指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 | 特になし   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 授業態度、出席状況等を含む平常点(50%)と、テスト(50%)の二点から総合的に判断する。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 社会学を中心に大学教育における、一般的な教養。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 環境問題に対する関心を少くくはもっていること。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>1. イントロダクション  2. コモンズ<br/> 入会地とムラ社会  3. 里山と村 里山の社会学  4. 農業と自然<br/> 食の近代化と農業  5. 農業と自然 グリーンツーリズム  6. 生活環境主<br/> 義 理論と応用  7. 公共事業と地元（1）<br/> 河川行政を中心に  8. 公共事業と地元（2） ダムに<br/> ついて  9. 公共事業と地元（3） ダム言説とフレーム  10. 自然観<br/> すばらしい自然とは何か  11. 歴史的環境保全（1） 景観保全の制度と運動  12. 歴史的環境<br/> 保全（2） 茅葺き観光による村おこし  13. 観光と自然（1）<br/> 国立公園制度  14. 観光と自然（2） 世界自然遺産  15. エコツーリズム<br/> 観光と環境</p>   |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |  |       |           |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |  |       |                        |
|--|--|-------|------------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50204A01              |
| 科目名  | 教育心理学 I  | 単位数   | 2                      |
| 科目名 (英語表記)   | Educational Psychology I   |       |                        |
| 担当者名   | 赤間 健一  | 旧科目名称 | 教育・学習心理学 A, 教育・学習心理学 s |
| 講義概要   | 教育心理学は、学校教育を対象とする心理学である。従来は、学習効果を高めることに注目が集まっていたが、個々の生徒だけではなく、生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境なども注目されるようになった。 本講義では、まず学習者である生徒・児童について理解することを目指す。人間は生まれながらに何でもできるわけではない。よりよい教育を提供するためには、各成長段階における子どもについての理解が不可欠である。学習に関わる人間の基本的な機能や子どもの発達を中心に説明する。 |       |                        |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |                        |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示する   |       |                        |
| 教材 (その他)   | 適宜配布する   |       |                        |
| 評価方法   | 平常点 (45%) : 毎回、理解度の確認、次回のテーマについて事前に考える課題等を実施し、評価する 定期テスト (55%) : 筆記試験を実施する   |       |                        |
| 到達目標   | 1. 子どもの発達に伴う変化について、各発達段階ごとにできること、できないことを区別することができるようになる 2. 学習を行う際に関係する人間の機能について、どのような機能が、どのように学習に関係しているのかを説明することができるようになる  |       |                        |
| 準備学習   | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい 特に何かある場合は、講義中に指示する   |       |                        |
| 受講者への要望  |  |       |                        |
| 受講するからには有意義な時間としていただきたいと考え以下のことを求めます。 1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って講義に参加してください。 2. 講義中の私語、携帯電話の使用は厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。 3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。 4. 秋学期開講科目の教育心理学 II も受講することが望ましい。教育心理学という分野、学校における心理学の役割が理解しやすくなると思います。 |  |       |                        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                        |
| 1 講義概要 教育心理学について 2 学習を支えるもの① -記憶 3 学習を支えるもの② -メタ認知 4 学習を支えるもの③ -文章理解力 5 学習に向かわせる① -条件づけ 6 学習に向かわせる② -動機づけ(1) 7 学習に向かわせる③ -動機づけ(2) 8 学習方法を考える 9 子どもの発達① 10 子どもの発達② 11 子どもの発達③ 12 学習に関わるもの① -能力観 13 学習に関わるもの② -個人差 14 子どもの総合的理解 15 まとめと質問                                  |  |       |                        |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                      |
|--|---|-------|----------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50204B01            |
| 科目名  | 教育心理学Ⅱ  | 単位数   | 2                    |
| 科目名（英語表記）  | Educational Psychology II   |       |                      |
| 担当者名   | 赤間 健一   | 旧科目名称 | 教育・学習心理学B, 教育・学習心理学f |
| 講義概要   | 教育心理学は、学校教育を対象とする心理学である。従来は、学習効果を高めることに注目が集まっていたが、個々の生徒だけではなく、生徒間の関係や生徒と教師の関係、いじめや不登校などの問題、学校環境なども注目されるようになった。 本講義では、教師という存在、役割を考えるとともに、学校を一つの社会ととらえ、その中で生徒・児童がどのように関係しあい、学ぶのかということを考えたい。授業形態や評価方法、人間関係やそれに付随する問題、生徒・児童の心の健康などのテーマについて説明する。 |       |                      |
| 教材（テキスト）   | 使用しない   |       |                      |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示する  |       |                      |
| 教材（その他）  | 適宜配布する  |       |                      |
| 評価方法   | 平常点（45%）：毎回、理解度の確認、次回のテーマについて事前に考える課題等を実施し、評価する 定期テスト（55%）：筆記試験を実施する  |       |                      |
| 到達目標   | 本講義をととして以下の内容を達成することを目標とする 1. 授業方法や評価方法がどのように学習に影響するか、複数の方法を比較し、説明できるようになる 2. 学校における人間関係が何に、どのように影響するかを説明することができるようになる 3. 学校における問題について特徴、原因を説明することができるようになる   |       |                      |
| 準備学習   | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい 特に何かある場合は、講義中に指示する  |       |                      |
| 受講者への要望  |   |       |                      |
| 受講するからには有意義な時間としていただきたいと考え以下のことを求めます。 1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って参加してください。 2. 講義中の私語、携帯電話の使用は厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。 3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。 4. 春学期開講科目の教育心理学Ⅰも受講することが望ましい。教育心理学という分野、学校における心理学の役割が理解しやすくなると思います。 |   |       |                      |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                      |
| 1 講義概要 教育心理学について 2 授業方法 3 評価方法 4 学習における障害① 5 学習における障害② 6 子どもの社会① 7 子どもの社会② 8 学校における人間関係 9 学校における問題① 10 学校における問題② 11 学校における問題③ 12 子どもの精神的健康① 13 子どもの精神的健康② 14 子どもの精神的健康③ 15 まとめと質問  |   |       |                      |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                |
|---|---|-------|----------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50213A01      |
| 科目名   | 教育学A  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）   | Pedagogy A  |       |                |
| 担当者名  | 土屋 尚子   | 旧科目名称 | 教育の思想A, 教育の思想s |
| 講義概要  | 現代の「教育問題」を考える  いじめ、学級崩壊、学力低下、モンスター・ペアレント、教育格差・・・マスコミは、連日のように「教育問題」を報道し、その「問題」を解決するための教育改革の必要性をしきりに論じている。そこでは、国家論、経済論、家族論など、様々な視点から「教育」というトピックが語られており、個々の議論がかみあわないまま、混乱状況を呈している。これらの言説に振り回されず、大局を見失わず、わたしたちは、「改革」に向けて新たな展望を見出していかなければならないのだが、果たして可能なのだろうか。その手掛かりを得るために、本講義では、これらの教育言説を整理する作業を行っていききたい。 |       |                |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |                |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜紹介する  |       |                |
| 教材（その他）   | 授業中にプリントを適宜配布する   |       |                |
| 評価方法  | 平常点（50%）出席状況、授業中作成レポート等 定期テスト（50%）  |       |                |
| 到達目標  | ・日本の教育制度の意味と概要を基本的に理解する ・「教育問題」について教育社会学的観点から読み解く視座を獲得する  |       |                |
| 準備学習  | マスコミによって報道される「教育問題」や「子ども問題」に関心を持っておくこと  |       |                |
| 受講者への要望   |   |       |                |
| ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう  |   |       |                |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                |
| 1 はじめに 2 国家と教育—日本の公教育制度 3 国家と教育—学校で何を教えるのか 4 マイノリティと教育—整備の遅れた障害児教育 5 マイノリティと教育—インテグレーションとインクルージョン 6 マイノリティと教育—ノーマルであるということ 7 家族と教育—親子観の歴史的変遷 8 家族と教育—児童虐待 9 家族と教育—しつけの今昔 10 若者と教育—現代若者バッシング 11 若者と教育—学力低下論争 12 若者と教育—就労問題 13 格差と教育—格差社会 14 格差と教育—再生産理論 15 まとめ |   |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                |
|------------|---|-------|----------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50213B01      |
| 科目名        | 教育学B  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | Pedagogy B  |       |                |
| 担当者名       | 土屋 尚子   | 旧科目名称 | 教育の思想B, 教育の思想f |
| 講義概要       | 学校のモノ・コトが教えてくれること  学校には、学校組織特有の文化が存在する。建物、服装、本、人間関係など、一般社会でも見かける、でもよく見ると形も性質が異なるものが、学校世界の中に息づき、学校を学校たらしめている。本講義では、これらの学校文化を形づくっている、モノ・コトに焦点をあて、それを歴史的、社会学的に考察することを通して、新たな視点から学校教育をとらえることができるようになることを目指す |       |                |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |                |
| 教材（参考文献）   | 授業中適宜紹介する   |       |                |
| 教材（その他）    | 授業中適宜プリントを配布する  |       |                |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況、授業中に作成するレポートの内容など 定期テスト（50%）   |       |                |
| 到達目標       | ・日本の学校教育の特徴を歴史的、社会学的観点から理解する ・自分の学校教育体験を相対化する視座を獲得する  |       |                |
| 準備学習       | マスコミによって報道される「教育問題」や「子ども問題」に関心を持つておくこと  |       |                |
| 受講者への要望    | ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう  |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに 2 学校 3 学校 4 教科書 5 教科書 6 教科書/心のノート 7 校舎 8 校舎 9 制服 10 制服 11 総合的な学習の時間 12 総合的な学習の時間 13 成績評価 14 成績評価 15 まとめ  |       |                |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50220A01 |
| 科目名   | 教育社会学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Educational Sociology A  |       |           |
| 担当者名  | 新堂 粧子  | 旧科目名称 | 教育社会学 s   |
| 講義概要  | <p>教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつその要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを發する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。  本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 作田啓一『三次元の人間 — 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして — 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 学期末の試験（あるいはレポート）   |       |           |
| 到達目標  | 今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみる   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 出席した以上は、私語を慎んでほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 社会化と超社会化(1) 2. 社会化と超社会化(2) 3. 自己境界の拡大と溶解(1) 4. 自己境界の拡大と溶解(2) 5. 自己境界の拡大と溶解(3) 6. 主体－客体関係の三類型(1) 7. 主体－客体関係の三類型(2) 8. 主体－客体関係の三類型(3) 9. 生命感について(1) 10. 生命感について(2) 11. 定着と生成(1) 12. 定着と生成(2) 13.～15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50220B01 |
| 科目名  | 教育社会学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Educational Sociology B   |       |           |
| 担当者名   | 新堂 粧子   | 旧科目名称 | 教育社会学 f   |
| 講義概要   | <p>本講義では、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』をとりあげる。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。まずはその時代的要請を踏まえて彼の議論をたどり、さらには今日の視点から、その議論の不十分な点を指摘する。また、余裕があれば、デュルケームの他のテキスト『自殺論』や、D.リースマン『孤独な群集』なども紹介する。  以上のテキスト案内を通して、現代の教育において特に重要な要素とは何なのか、という問題を、今日の犯罪事件や教育問題に言及しながら検討する。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | E.デュルケーム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』1・2〔世界教育学選集 32・33〕明治図書   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 学期末の試験（あるいはレポート）  |       |           |
| 到達目標   | 人間と社会、そして教育に関するデュルケームの考え方を理解し、その批判的検討を通しての、もうひとつの道徳論の考え方を習得する。  |       |           |
| 準備学習   | 各自がこれまでに受けてきた道徳教育の有無、その内容を思い出しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 出席した以上は、私語を慎んでほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国民社会とそれを超えるもの(1) 2. 国民社会とそれを超えるもの(2) 3. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(1) 4. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神(2) 5. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(1) 6. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着(2) 7. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(1) 8. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性(2) 9. 世俗道徳論(1) 10. 世俗道徳論(2) 11. もうひとつの道徳、あるいは倫理(1) 12. もうひとつの道徳、あるいは倫理(2) 13. 社会化論を超えて 14.～15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50227001 |
| 科目名   | 現代アートへの招待 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Invitation to Contemporary Art   |       |           |
| 担当者名  | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>アート art は本来、生の技法 art であり、私たちに活力を与え、生活をより良くする力を持っています。アートは、道徳の善悪や科学の真偽の枠に収まらず、「感じること」と「考えること」を同時に作動させます。この授業では、「感じること」と「考えること」をともに大切にしつつ、現代アートの魅力とその力の源を探っていきます。  現代アートは「わからない」「難しい」という言い方がよくなされます。他方、現代アートは自由に「感じればいい」という言い方もなされます。この「わかるようなわからないような」、「難しいようなそうでないような」、「自由に感じられるようなそうでないような」ところに、現代アートの独特な味わいがあります。  授業では、現代アートの基礎を解説する講義に加えて、フィールドワークや創作ワークショップ、制作実習などを行い、現代アートを多様な角度から学びます。この総合的な学びによって、何気ない日常のなかに新たな喜びや豊かさを発見できる知性と感性を養うこと。これがこの授業の目標です。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | 学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（60％）・・・講義、フィールドワーク、ワークショップへの参加を含む レポート及び作品（40％）  |       |           |
| 到達目標  | 現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 本や雑誌、テレビやインターネットをはじめ、アートをめぐるビジュアルとテキストに意識的に触れること。 さまざまなギャラリーや美術館にできるだけ足を運ぶこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>* 8月上旬（6～9日）の4日間の集中講義期間を予定しています。 *前半は京町家キャンパスにて、後半は大学（亀岡）にて授業を行う予定です。 *フィールドワークにかかる交通費および施設入場料等は自己負担となります。 *展覧会の会期や現場の事情等によって日時・内容は調整される場合があります。 *本講義の受講者には、秋学期「アートギャラリー実習Ⅰ」を受講することを期待します。  現代アートをより深く感じ、理解するには、受け身で授業を受ける（消費する）だけでは不十分です。情報による固定観念をわきに置いて、アートを積極的かつ意欲的に味わう姿勢によって、味わいもより深いものとなります。このことがわかれば、感覚的にキモチいいこととも、観念的に楽しいこととも異なる「別の快感・喜び」の体験世界が広がることでしょう。</p>                            |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. はじめに：アートを味わうために 2. レクチャー①：現代アートとアートの現代 3. フィールドワーク①：街並み・建築・風景 4. レクチャー②：わかるアート／わからないアート 5. レクチャー③：感じるアート／考えるアート 6. フィールドワーク②（ギャラリー・美術館・アートスペース） 7. フィールドワーク③（ギャラリー・美術館・アートスペース） 8. レクチャー④：アートの社会／社会のアート 9. ワークショップ① 10. ワークショップ②  11. レポート制作 12. アート現場実習① 13. アート現場実習② 14. アート現場実習③ 15. まとめ：アートの味わい  *8月6日（月）～9日（木）：4日間の集中講義を予定しています。 *前半（8月6日・7日）は京町家キャンパス、後半（8月7日、8日）は大学（亀岡）で授業を行う予定です。</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50228001 |
| 科目名        | 現代イギリス・アイルランド事情  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Contemporary English and Irish Society   |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、この授業は教員が一方的に話すのではなく、相互間の話し合いを通して授業を進める。英語がわかる学生がそろえば英語で授業を行う。そろわない場合は、英単語を日本語での授業に入れる。  言葉と文化は密接に結びついています。できるだけ、英語の資料を多く用い、復習を兼ねて毎回、[英語のテスト]を行いますので、英国の文化を知るだけでなく、英語の学習をする気持ちで受講してください。  文化に関して言うと、他の国の文化を知ることは二つの意味で大切です。それは、その国の文化を知ること、そしてもう一つは、日本の文化をより良く理解するためにも他国の文化を知ることが大切なのです。スライド、インターネットなどの情報を駆使して、イギリスの歴史や文化について学習します。まずは、ロンドンが都市として発展した経緯を追い、ロンドンを検証します。また、イギリスのスポーツや美術、文学、演劇、映画、音楽、ファッションなどの流行からお茶やコーヒー文化、イギリス人の日常なども見てみましょう。さらに、アイルランドに関しては、イギリスとの密接な歴史的な関係や、背景を踏まえて、国と国との結びつきの原点を探ってみましょう。  英語を勉強する中で、英語の発祥の国であるイギリス(アイルランド)をすこしずつ理解していく気持ちで受講してください。語彙を増やすために、毎回のテストは主に単語テストとします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（英語教材も用いる）   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート(50%)、 授業内テスト(30%)、 授業内レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標       | 地の国の成り立ちや文化を知るだけでなく、それによって日本のことも相対的に比較できる多角的な価値判断能力の基礎を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 常々、海外のニュースなどを興味を持って見たり、読んだりするように努めてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | なにか、自分の興味のある事柄に関して、他の国と日本と比較するようにしてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 2. 3. ロンドンを中心に、歴史的な観点から大切な場所を、スライド、ネット、動画などで探訪し、その現代的な意義について学ぶ。 4. 5. 6. イギリスのスポーツ、ファッション、音楽などを知る。 7. 8. イギリスの地方都市について 9. イギリス映画について  10. 11. 12. イギリス演劇、ミュージカル、文学などの大衆芸術について 13. イギリスとアイルランドの関係を知る。 14. 15. 民話(英語で)、神話、伝説について </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50233A01 |
| 科目名        | 現代映画論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Movie Theory of Present Age A  |       |           |
| 担当者名       | 春岡 勇二  | 旧科目名称 | 現代映画論 s   |
| 講義概要       | 核とメディア、そして映像の世紀であった 20 世紀を越え、さらにコンピューターによる映像関連技術の驚異的な発達も加わり、まさに映像表現は新世紀、新時代に入ったと言える。そういう時代だからこそ、映画芸術に関する知識や本質的な意味を探る試みはますます重要な意味を持つ。また、時代の傾向に敏感であること、優れた表現を鋭い感性で受け止めることは、豊かな人格形成や社会人としての能力向上に役立つものであり、時事性と芸術性を併せて内包する映画を意識しておくことは、その訓練としても有効である。本講義では、批評という方法を通して映画の題材や表現を分析し、芸術表現に対する批評眼・鑑賞眼を養っていく。さらに主に新作映画を対象に、監督・脚本・主題といった点に注目し、現代映画の傾向、作家（表現者）の意向を把握し、映画を通して見えてくる時代性を認識をする。映画の対する感性と教養の双方に豊かな人材の育成を目指したい。       |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義内容に応じて適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（60％）出席状況等による。各期末提出のレポート（40％）。  |       |           |
| 到達目標       | 映画という芸術表現に関して深い知識を有し、豊かな感性で表現に接して作品の意味、製作方法、製作技術など様々な観点から分析、批評することができるようにしたい。そして、就職活動時にそれを自己分析の一つとしてアピールできるよう図りたい。   |       |           |
| 準備学習       | 映画を常に意識してもらいたい。例えば、映画館において上映中、もしくは上映予定の作品についても、物語や内容ばかりでなく、監督、原作、脚本、撮影といったスタッフの陣容にまで注意を払う興味を持って講義に臨むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。授業中の私語は厳禁。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 映画批評とはなにか   2. 現代米映画の傾向（昨年度アカデミー賞から見えるもの）①   3. 現代米映画の傾向（昨年度アカデミー賞から見えるもの）②   4. 現代日本映画の傾向①（昨年度ベストテン作品を中心に①）   6. 現代日本映画の傾向②（昨年度ベストテン作品を中心に②）   7. 現代日本映画の傾向③（本年公開作品を中心に①）   8. 現代日本映画の傾向④（本年公開作品を中心に②）   9. 本年公開の外国映画の特徴（近々公開作品から）①   10. 本年公開の外国映画の特徴（近々公開作品から）②   11. 本年公開の外国映画の特徴（近々公開作品から）③   12. 本年公開の日本映画の特徴（近々公開作品から）①   13. 本年公開の日本映画の特徴（近々公開作品から）②   14. 本年公開の日本映画の特徴（近々公開作品から）③   15. 前期講義のまとめ とレポート執筆 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50233B01 |
| 科目名  | 現代映画論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Movie Theory of Present Age B   |       |           |
| 担当者名   | 春岡 勇二   | 旧科目名称 | 現代映画論 f   |
| 講義概要   | 前期の「現代映画論 A」の講義をさらに進めていく。誕生から百年ほどしか経っていないなかで、大衆文化をリードし、流行を生み出す強力なメディアとしての存在し続ける“映画”。また、文学作品や戯曲、オリジナル・ストーリーなどを映像で表現する芸術である一方で、映像による時事の記録という側面まで持つ“映画”というものに、講義を行う時点での近々の劇場公開作品を題材にしつつ、その作品へと連なる過去の作品を選び、製作者たち、作品の内容の変遷など歴史的視点から迫り、より深い理解と分析を促していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義内容によってプリントを適宜配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし。適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（60％）出席状況等による。期末レポート（40％）。   |       |           |
| 到達目標   | 映画の歴史的背景を理解し、映画をより深く分析、批評することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 講義を行う時点での近々の劇場公開作品を題材とするので、常に現在の映画状況について関心を抱いておくこと。講義終了後に、次回の題材とする作品について予告を行った場合は、その作品について監督名、内容などの下調べをしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。講義中の私語は厳禁。質問等あれば積極的に尋ねてほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 近々の公開作品を題材にしつつ、米映画の傾向をみる①  2. 近々の公開作品を題材にしつつ、米映画の傾向をみる② 3. 近々の公開作品を題材にしつつ、米映画の傾向をみる③ 4. 近々の公開作品を題材にしつつ、日本映画の傾向をみる① 5. 近々の公開作品を題材にしつつ、日本映画の傾向をみる② 6. 近々の公開作品を題材にしつつ、日本映画の傾向をみる③ 7. 近々の公開作品を題材にしつつ、欧州映画の傾向をみる ① 8. 近々の公開作品を題材にしつつ、欧州映画の傾向をみる ②  9. 近々の公開作品を題材にしつつ、欧州映画の傾向をみる ③ 10. 外国映画の巨匠たち①  11. 外国映画の巨匠たち②  12. 日本映画の巨匠たち①  13. 日本映画の巨匠たち②  14. レポート課題用作品鑑賞  15. 講義のまとめとレポート執筆 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50234001 |
| 科目名        | 現代経済の読み方   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Analysis of Contemporary Economics   |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現代社会にあつて、まず、どのような経済現象を取り上げるのか、そして経済現象をどのように分析するのか、そこから現代をどのように読み解くのかを考える。 今日は、商品経済の社会であり、人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手している。その商品の価格はどのようにして決まるのだろうか。 また、今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどのような影響を与えているのだろうか。  さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっている。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えている。国民所得はどう循環しているのか、税率や利子はどうか。  そして、国際的な金融資産の市場での取引が、経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にもある。為替レートや株価は何によって動いているのだろうか。  以上のような現実の経済を法則的に捉えることを目的とする。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | 新聞記事や雑誌記事を紹介する。 毎回、レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回の授業の感想・質問・要望 20 点。出席点ではない。 試験に替わるレポート 80 点。  |       |           |
| 到達目標       | 経済現象の背後に法則があること、堂々巡りにならない因果関係があることをつかむ。 富は、生産活動からしか生まれぬ。うまい話はない。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 経済学とは何か？ 何が経済問題か、深刻な不況 2 価格はどうか 3 企業の業績 4 不況、好況 5 大企業の製品 6 談合 7 国内総生産 8 予算、国債、消費税 9 貨幣、利子率 10 株価、バブル 11 インフレーション、デフレーション  12 為替レート、原油価格 13 国際収支、貿易 14 グローバリズム 15 まとめ </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50238A01 |
| 科目名  | 現代雑誌論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Magazine Theory of Present Age A   |       |           |
| 担当者名   | 石原 基久  | 旧科目名称 | 現代雑誌論 s   |
| 講義概要   | 書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc. 日常生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc. 専門的な分野まで多種多様。雑誌が売れないといわれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。その歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | パワーポイント等を活用する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（60%）出席状況等による。定期テスト40%。   |       |           |
| 到達目標   | いまに至る日本の雑誌の歴史を理解する。  |       |           |
| 準備学習   | 日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 愛読誌を必ず作ろう！   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 雑誌とは？ 2. 雑誌の形式・各部名称 3. 出版産業の構造と規模 4. 雑誌の歴史 1 近代雑誌の始まり 5. 雑誌の歴史 2 講談社、小学館など、創業者の志 6. 雑誌の歴史 3 雑誌ジャーナリズムと戦争 7. 雑誌の歴史 4 テレビの登場が雑誌を活性化 8. 雑誌の歴史 5 多様化する価値観へ対応 9. 雑誌の歴史 6 創刊ラッシュ 10. 雑誌の歴史 7 読む雑誌→見る雑誌→使う雑誌 11. ロック雑誌の誕生・発展 12. ロック雑誌の停滞と新たな挑戦 13. 情報誌の誕生 大量情報時代の羅針盤 14 .情報誌の進化 フリーペーパー、デジタル・マガジン 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50238B01 |
| 科目名  | 現代雑誌論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Magazine Theory of Present Age B  |       |           |
| 担当者名   | 石原 基久   | 旧科目名称 | 現代雑誌論 f   |
| 講義概要   | 雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか……などを学ぶ。雑誌の種類は、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc. 日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc. 専門的な分野まで多種多様。雑誌が売れないといわれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。作られる現場や各雑誌編集部の創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | パワーポイント等を活用する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（60%）出席状況等による。定期テスト40%。  |       |           |
| 到達目標   | これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。  |       |           |
| 準備学習   | 日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 愛読誌を必ず作ろう！   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場1 企画が命 3. 雑誌づくりの現場2 編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場3 デザイン/印刷 5. 雑誌のメディア特性1 他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性2 セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性3 東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズム 12. 雑誌の未来1 読者との絆 13. 雑誌の未来2 デジタル・マガジン 14. 雑誌の未来3 大きな変化とその可能性 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50239001 |
| 科目名        | 現代社会とメディア  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Contemporary Society and Media   |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会のいくつかの側面とメディアのさまざまな問題について幅広く学ぶことによって、「メディア社会学科」で学ぶ内容の全体を理解することをねらいとする。 また、この講義はメディア社会学科に関わる全ての教員が1回ずつ担当するので、それぞれの先生の専門分野などを知る機会ともしてほしい。 なお、この科目はメディア社会学科1回生と、「人間関係論入門」「メディアと文化」の未履修者を対象とする科目である。 この科目の担当者は以下の通りである（アイウエオ順）。有吉末充、岡崎宏樹、岡本裕介、小川賢治、君塚洋一、黒木雅子、近藤晴夫、関口久雄、福永勝也、他。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に配布あるいは紹介する場合がある。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、資料を配付する。ビデオ教材等も活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回の講義の最後に書いてもらう小レポートにより評価する。小レポートは全部で15回ある。  |       |           |
| 到達目標       | 社会学とメディア学の基礎を理解する。また、メディア社会学科での学習目標を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 普段から新聞やテレビなどのメディアに接して現代社会の動きに関心をもつよう習慣付けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回必ず出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, この科目のねらい。「メディア社会学科」とは。 2, 現代社会1, 現代若者論 3, 現代社会2, 女と男の人間関係論 4, 現代メディア1, ジャーナリズムの世界 5, 現代メディア2, 映像のもつ力 6, 現代メディア3, 広告広報の可能性 7, 現代社会3, コミュニケーションと現代 8, 現代社会4, 社会問題のいろいろ 9, 現代メディア4, アニメを学ぶ 10, 現代メディア5, メディアで遊ぶ 11, 特別講義1 12, 特別講義2 13, 現代社会とメディア1 14, 現代社会とメディア2 15, まとめ      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5023900A |
| 科目名        | 現代社会とメディア  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Contemporary Society and Media   |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会のいくつかの側面とメディアのさまざまな問題について幅広く学ぶことによって、「メディア社会学科」で学ぶ内容の全体を理解することをねらいとする。 また、この講義はメディア社会学科に関わる全ての教員が1回ずつ担当するので、それぞれの先生の専門分野などを知る機会としてもほしい。 なお、この科目はメディア社会学科1回生と、「人間関係論入門」「メディアと文化」の未履修者を対象とする科目である。 この科目の担当者は以下の通りである（アイウエオ順）。有吉末充、岡崎宏樹、岡本裕介、小川賢治、君塚洋一、黒木雅子、近藤晴夫、関口久雄、福永勝也、他。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に配布あるいは紹介する場合がある。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、資料を配付する。ビデオ教材等も活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回の講義の最後に書いてもらう小レポートにより評価する。小レポートは全部で15回ある。  |       |           |
| 到達目標       | 社会学とメディア学の基礎を理解する。また、メディア社会学科での学習目標を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 普段から新聞やテレビなどのメディアに接して現代社会の動きに関心をもつよう習慣付けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回必ず出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, この科目のねらい。「メディア社会学科」とは。 2, 現代社会1, 現代若者論 3, 現代社会2, 女と男の人間関係論 4, 現代メディア1, ジャーナリズムの世界 5, 現代メディア2, 映像のもつ力 6, 現代メディア3, 広告広報の可能性 7, 現代社会3, コミュニケーションと現代 8, 現代社会4, 社会問題のいろいろ 9, 現代メディア4, アニメを学ぶ 10, 現代メディア5, メディアで遊ぶ 11, 特別講義1 12, 特別講義2 13, 現代社会とメディア1 14, 現代社会とメディア2 15, まとめ      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50240001 |
| 科目名        | 現代社会論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories on Modern Society  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業では「現代社会と若者」をテーマに社会学の講義をおこなう。若者は現代社会を映し出す鏡であるといわれる。講義では、社会学の諸理論を参照し、現代社会の基本構造を概説するとともに、この社会条件のもとにおかれた若者の生の諸相を考察する。これによって、社会的思考の基礎を学習し、現代の社会・文化を社会的にとらえる方法を習得することが、この授業のねらいである。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』（筑摩書房） 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 6 メディア・情報・消費社会』（世界思想社） 井上俊・長谷正人編『文化社会学入門：テーマとツール』（ミネルヴァ書房）  |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメや関連資料は授業内にプリント配布する  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）、定期テスト（60%）   |       |           |
| 到達目標       | 自らが置かれた社会的条件を客観的に把握するための知識と方法を習得すること。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞やニュースなどから積極的に現代社会の情報を入手すること。 指定した文献などを読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「考える」姿勢を重視します。授業内にショートエッセイを書いてもらいます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに 2. アイデンティティ① 3. アイデンティティ② 4. 若者のコミュニケーション① 5. 若者のコミュニケーション② 6. 若者文化論① 7. 若者文化論② 8. 消費社会論① 9. 消費社会論② 10. 若者と労働世界① 11. 若者と労働世界② 12. 若者と労働世界③ 13. リスク社会論 14. 現代の共同性 15. まとめ  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50243A01 |
| 科目名        | 言語学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Linguistics I  |       |           |
| 担当者名       | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 言語学 s     |
| 講義概要       | 「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」という。それはなぜなのかということを考えることから始める、人間の言葉について考察をする。現代言語学の父であるソシュールの説を学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学を少し多めに学ぶ。それから日本語について、方言を含めて学んでいく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点40パーセント (授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代えることができる。   |       |           |
| 到達目標       | 言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の2側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深める。発音記号を見て、対応する音声の違いが理解できるようにする。日本語の方言を学ぶ時点で自分の方言を客観的に記述できるようにする。さらに言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。  |       |           |
| 受講者への要望    | 身近な言葉に対して「面白いな〜!」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 言語学の学習対象   2. ソシュールの紹介   3. 言語学の専門用語導入 1   4. 言語学の専門用語導入 2   5. 音素とローマ字表記   6. 音素と音声   7. 前半のまとめと小テスト   8. 国際音声字母表の見方と調音 1   9. 国際音声字母表の見方と調音 2   10. 国際音声字母表の見方と調音 3   11. 音韻論 1   12. 音韻論 2   13. 日本語の方言 1   14. 日本語の方言 2   15. 春学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50243B01 |
| 科目名  | 言語学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Linguistics II   |       |           |
| 担当者名   | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 言語学 f     |
| 講義概要   | 言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学 I の概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 40 パーセント (授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト 60 パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代えることができる。   |       |           |
| 到達目標   | 音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 言語学 I を履修しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 春学期学習内容の概要   2. 方言と音韻論 1   3. 方言と音韻論 2   4. 素性表示と音韻論   5. 連濁と日本語の形態論   6. 動詞の連用形と日本語の形態論   7. 前半のまとめと小テスト   8. 直接構成素分析と句構造文法   9. 句構造文法と統語論 1   10. 句構造文法と統語論 2   11. 生成文法 1   12. 生成文法 2   13. 意味論・語用論   14. 類型論といろいろなトピック・セム語紹介   15. 秋学期のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50250A01 |
| 科目名  | 言語表現論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Language Expression A   |       |           |
| 担当者名   | 松本 朋子   | 旧科目名称 | 言語表現論s    |
| 講義概要   | 日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会が多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。  春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 随時プリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時間中に適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）  | 国語辞典などの持参を勧める   |       |           |
| 評価方法   | 学期末レポートと平常点（出席、小テスト、提出物等）から総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標   | さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 言語表現論A《春学期》 1. ガイダンス  2. メールを送る  3. わかりやすく説明する  4. 専門用語を文章で説明する  5. 経験から事実を述べる  6. 与えられたテーマについて意見を書く  7. 要約文を書く  8. 身近な言葉に興味を持つ①  9. 身近な言葉に興味を持つ②  10. アンケート調査を行う  11. 文献調査を行う  12. 方言調査①  13. 方言調査②  14. 予備  15. 予備  ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50250B01 |
| 科目名  | 言語表現論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Language Expression B   |       |           |
| 担当者名   | 松本 朋子   | 旧科目名称 | 言語表現論 f   |
| 講義概要   | 日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会が多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。  秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 随時プリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房   |       |           |
| 教材（その他）  | 国語辞典などの持参を勧める   |       |           |
| 評価方法   | 学期末レポートと平常点（出席、小テスト、提出物等）から総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標   | さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 言語表現論B《秋学期》 1. 敬語① 2. 敬語② 3. 季節のはがきを書く 4. 手紙の基本 5. 依頼の手紙を書く 6. 断りの手紙を書く 7. 就職活動の準備をする 8. 社会問題について、意見文を書く① 9. 社会問題について、意見文を書く② 10. レポートで用いる表現① 11. レポートで用いる表現② 12. レポートで用いる表現③ 13. 社会と言葉 14. 予備 15. 予備 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50252A01 |
| 科目名   | 漢文入門 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Classical Chinese   |       |           |
| 担当者名  | 濱中 祐子   | 旧科目名称 | 古典入門Ⅰ（漢文） |
| 講義概要  | 漢文や漢詩に慣れ親しみ、訓点のついた漢文を読解する能力を身につけることを目的とする。毎回の授業で、練習問題を通じて漢文訓読のための基礎的な句形や語彙を確認する時間と、漢詩文に親しむ時間とを設ける。  日本の文学は漢詩文から大きな影響を受けている。漢詩文にふれ、理解を深めることは、日本の文学作品を理解する上でも極めて意義のあることである。日本人が特に好んで読んできた作品を中心にとりあげ、日本文学との関わりも紹介する。とりあげた作品の概要や背景についても解説し、有機的な知識が身につくように工夫して授業をおこなう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 漢和辞典。他、授業中に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 授業中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業中に課すプリント問題による評価（20%）、期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標  | 訓点のついた漢文、及び漢詩を読む能力を身につける。さらに、漢詩文の読解を通して、中国の文学や文化を理解することを目標とする。また、漢詩文と日本の古典文学とを比較することによって、日本の文学や文化の特徴を考察するきっかけとしてほしい。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を提示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。 指示した課題を必ず提出すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業のすすめ方、漢文と訓点   2 訓点のルール / 『論語』(1)   3 再読文字(1) / 『論語』(2)   4 再読文字(2) / 『論語』(3)   5 置き字 / 老荘思想   6 否定表現(1) / 『史記』(1)   7 否定表現(2) / 『史記』(2)   8 否定表現(3) / 『史記』(3)   9 疑問・反語(1) / 『文選』『玉台新詠』   10 疑問・反語(2) / 『蒙求』(1)   11 疑問・反語(3) / 『蒙求』(2)   12 比況・抑揚・累加(1) / 漢詩の歴史—『詩経』から近体詩成立まで—   13 比況・抑揚・累加(2) / 漢詩の歴史—唐代を中心に(1)—   14 詠嘆 / 漢詩の歴史—唐代を中心に(2)—   15 これまでの復習 / 唐宋八大家   16 試験 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50253B01 |
| 科目名  | 古文入門 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Ancient Writing   |       |           |
| 担当者名   | 濱中 祐子   | 旧科目名称 | 古典入門Ⅱ（古文） |
| 講義概要   | 古文に慣れ、基本的な読解力を身につけることを目的とする。毎回の授業で、練習問題を通じて古文読解のための基礎的な文法を確認する時間と、古文に親しむ時間とを設ける。  文法を確認する時間では、古文を読む上での鍵となる助動詞と助詞を中心にとりあげる。古文に親しむ時間では、著名でよく親しまれている文学作品をとりあげ、丁寧に読んでいく。主に散文を対象とするが、題材を変え、歌物語、日記、軍記物など様々なジャンルにふれられるようにする。文法や語彙だけでなく、作品の背景や当時の習慣などについてもつど解説する。古典文学作品を通して、古人のものの見方や考え方を知り、日本文化への理解を深めるきっかけとなるよう講義をおこなう。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 古語辞典。他、授業中に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 授業中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 授業中に課すプリント問題による評価（20%）、期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標   | 古文に慣れ、基本的な読解力を身につける。さらに、古典文学作品を通して、日本文化への理解を深めることを目標とする。古文を読むことは楽な作業ではないが、自力で読むことによって先人の考えをたどり、自らの世界を広げてほしい。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を提示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。 指示した課題を必ず提出すること。 興味を持てる作品があれば、授業中に紹介した箇所以外も読んでほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 授業のすすめ方／『ものくさ太郎』（1） 2 時制を表す助動詞（1）／『ものくさ太郎』（2） 3 時制を表す助動詞（2）／『伊勢物語』（1） 4 時制を表す助動詞（3）／『伊勢物語』（2） 5 推量や意志を表す助動詞（1）／『蜻蛉日記』 6 推量や意志を表す助動詞（2）／『枕草子』（1） 7 推量や意志を表す助動詞（3）／『枕草子』（2） 8 これまでのまとめ／『大鏡』（1） 9 助動詞「る」「らる」（1）／『大鏡』（2）  10 助動詞「る」「らる」（2）／『平家物語』（1） 11 助動詞「す」「さす」／『平家物語』（2） 12 助動詞の識別／『徒然草』 13 断定の助動詞／『一寸法師』  14 古典文法の助詞（1）／『奥の細道』  15 古典文法の助詞（2）／『好色一代男』 16 試験 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50256001 |
| 科目名  | 古文書学   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | Japanese Paleography   |       |           |
| 担当者名   | 中森 洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 近世の村方文書を原文で読み、その様式、読み方、内容の調べ方等を学ぶ。日本史研究の基礎となる古文書を、原文で読めるようになるための講義と演習。「日本史研究入門」を履修した人は、継続して履修することが望ましい。とくに、近世史の研究を希望する人は必ず受講すること。近世史の資料は、その大半が活字化されていないため、原文が読めなければ研究が進まないからである。古文書解読の基本は、まず反復練習。授業は、当初は、まず講師が解読と解説を行い、次回に受講者の復習という形式とし、後半は、受講者を指名した輪読形式とする予定。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 林英夫監修『必修・近世古文書演習』(柏書房株式会社)をテキストとする。各自購入してください。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「くずし字解読辞典」。各種あり。最初の講義で、いくつか紹介するので、ぜひ購入して活用してほしい。本気で古文書が読めるようになりたい人の自学自習のためには、必須の手引きである。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 40% (出席状況・報告内容・小テスト・レポート等による)、定期試験 60%。  |       |           |
| 到達目標   | 近世の村方文書の原文を読み、その内容が理解できるようになることをめざす。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に、次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 歴史学を研究するためには、その基礎となる史料(古文書)を原文で読み、その内容を理解できるようになることが必要です。他の語学と同様に最初は難しいが、努力次第では上達も早い。講師は、普通の高齢の主婦が、生涯学習の一つとして一年間学習し、一般的な近世文書ならスラスラ読めるようになった例を知っています。負けずに努力してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| *以下の授業計画は、受講者の習熟度により、変更することがあります。 1. はじめに(かな文字を覚えよう) 2. 村明細帳1 3. 村明細帳2 4. 村明細帳3 5. 村明細帳4 6. 村明細帳5 7. 村明細帳6 8. 村入用帳・村定1 9. 村入用帳・村定2 10. 五人組帳前書1 11. 五人組帳前書2 12. 五人組帳前書3 13. 五人組帳前書4 14. 五人組帳前書5 15. 五人組帳前書6 16. 検地帳1 17. 検地帳2 18. 年貢割付状・請取状1 19. 年貢割付状・請取状2 20. 宗門改帳・寺請証文1 21. 宗門改帳・寺請証文2 22. 往来手形1 23. 往来手形2 24. 田地売渡証文・借用証文1 25. 田地売渡証文・借用証文2 26. 願書・裁許状1 27. 願書・裁許状2 28. 請書・詫状、その他1 29. 請書・詫状、その他2 30. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50259A01 |
| 科目名   | 口承文芸論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Oral Literature A  |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。  Aでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 期末考査（70%） 授業内提出物（30%）  |       |           |
| 到達目標  | 作品分析の主要な方法論を理解すること。  |       |           |
| 準備学習  | 講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 口承文芸的発想とはなにか。（書くことと語ること、歌うことは果たして同じ次元なのか、考えてみましょう）  2 神話学の系譜（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します）  3 民族学的アプローチ1（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう）  4 民族学的アプローチ2  5 民族学的アプローチ3  6 心理学的アプローチ1（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう）  7 心理学的アプローチ2  8 心理学的アプローチ3  9 構造分析1（レヴィ＝ストロースの分析するに神話に触れてみましょう）  10 構造分析2  11 構造分析3  12 構造分析4（ダンデスの分析手法について検討してみましょう）  13 宗教学的アプローチ1（エリアーデの神話の読み方を味わってみましょう）  14 宗教学的アプローチ2  15 まとめ  </p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50259B01 |
| 科目名   | 口承文芸論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Oral Literature B   |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっていますが、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。  Bでは口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 期末考査（70%） 授業内提出物（30%）   |       |           |
| 到達目標  | 口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。   |       |           |
| 準備学習  | 講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 シャーマニズムと口承文芸1（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます）  2 シャーマニズムと口承文芸2   3 歴史としてのナラティブ1（文字で伝えられたのではない歴史について考えます）  4 歴史としてのナラティブ2   5 歴史としてのナラティブ3   4 ナラティブ構成法1（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます）  5 ナラティブ構成法2   6 ナラティブ構成法3   7 短詩型定型詩1（日本を含むアジアには、歌を交わし合う文化があります。どうして歌を交わし合うことができるのでしょうか？）  8 短詩型定型詩2   9 短詩型定型詩3   10 詩の始まり（詩の始まりを人類学的に考えてみます）  11 詩の始まり   12 口承文芸とポップカルチャー1（「古くて新しい」について考えます）  13 口承文芸とポップカルチャー2   14 口承文芸とポップカルチャー3   15 まとめ  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50262A01 |
| 科目名        | 広告広報論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theories of Advertising and Public Relations I  |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年</p>   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) : 授業内レポート (2 回程度)、定期テスト (60%)   |       |           |
| 到達目標       | <p>基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>1) テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 2) ひとつの広告表現について、オーディエンス (市民・消費者)、送り手・作り手 (広告主、広告会社) の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。</p>  |       |           |

|   |  |  |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |  |  |  |
| <p>1) 「広告広報論 I」 (基礎編)、「広告広報論 II」 (応用編) はできれば双方を履修することが望ましい。 2) 「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I」、できれば「広告広報論 II」を履修した上で登録を行うこと。 3) CM や広告を眺めることに労力はいらぬが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦勞のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められるよう。 </p>  |  |  |  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |  |  |  |
| <p>第 1 回 開講にあたって 第 2 回 広告広報とは何か? マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体 第 3 回 広告の定義/その類似概念 (宣伝/広告/PR/パブリシティ) 第 4 回 宣伝 (プロパガンダ) と広告 第 5 回 宣伝とメディア・リテラシー/授業内レポート 第 6 回 広告媒体 (1): 人を寄せるもの、すべてがメディアになる 第 7 回 広告媒体 (2): 放送メディア/印刷メディア 第 8 回 広告媒体 (3): インターネット 第 9 回 ブランド商品の誕生と広告 第 10 回 市場情報システムとしての広告: 市場情報のコストは誰が負担するか? 第 11 回 広告の表現と手法: 広告は何を語っているか? (1) コカ・コーラ CM 等 第 12 回 広告の表現と手法: 広告は何を語っているか? (2) ビール類 CM 等 第 13 回 広告キャンペーンはこんなふうに展開される: 日清食品・カップヌードル CM 等 第 14 回 授業内レポート 第 15 回 まとめ  </p> |  |  |  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50262B01 |
| 科目名   | 広告広報論II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Theories of Advertising and Public Relations II   |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>企業や行政、団体やNPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPOの広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材(参考文献)  | <p>天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』ブチグラパブリッシング、2006年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995年</p>  |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(40%)：授業内レポート(2回程度)、定期テスト(60%)   |       |           |
| 到達目標  | <p>応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングやPR活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>1) テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 2) ひとつの広告表現について、オーディエンス(市民・消費者)、送り手・作り手(広告主、広告会社)の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>1) 「広告広報論I」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編)はできれば双方を履修することが望ましい。 2) 「CM表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論I」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。 3) CMや広告を眺めることに労力はいらぬが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦勞のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。 </p>  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1回 イントロダクション  第2回 広告産業と広告取引  第3回 広告会社の組織と業務(1)  第4回 広告会社の組織と業務(2)：CMディレクターの仕事等  第5回 広告計画の策定と実施(1) 市場競争と広告表現(ビール類)  第6回 広告計画の策定と実施(2) ブランドと広告表現・その1(コカ・コーラ)  第7回 広告計画の策定と実施(3) ブランドと広告表現・その2(ナイキ1)  第8回 広告計画の策定と実施(4) ブランドと広告表現・その3(ナイキ2)  第9回 広告計画の策定と実施(5) ブランドと広告表現・その4(ユニクロ)  第10回 広報・PRの基本概念と歴史(アメリカ・日本におけるPRの発展)  第11回 広報・PRの実務を知る  第12回 企業の社会的責任と広報・PR(1)  第13回 企業の社会的責任と広報・PR(2) 映画鑑賞  第14回 授業内レポート  第15回 まとめ </p> |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50270001 |
| 科目名        | 表現文化論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Culture Expression   |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一  | 旧科目名称 | 広告文化論     |
| 講義概要       | 社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方——メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000年  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）：授業内レポート2回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作   |       |           |
| 到達目標       | さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 イントロダクション 第2回 メディアとしての芸術・デザイン 第3回 メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第4回 メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第5回 メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第6回 課題の発表とコメント 第7回 社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第8回 作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルとR & B） 第9回 文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ポサノヴァ、ヒップホップ 第10回 ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第11回 課題の発表とコメント 第12回 ポストモダンと作品表現 第13回 流動する社会における作品表現の役割 第14回 まとめ 第15回 最終課題の発表とコメント |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50275001 |
| 科目名        | ベーシック・マナー講座   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Manners   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 | 国際マナー講座   |
| 講義概要       | <p>「ベーシック・マナー講座」は、国際ヒューマン・コミュニケーション学科1 年生対象の科目です（時間割指定科目）。この授業は、国際社会で活躍する人になるための基礎能力を習得することを目標としています。そのために特に重要なのが、文化や習慣、価値観の異なる人とのあいだでも良好な人間関係を築く「基本マナー」の習得です。また、自分の考えを伝える能力を高めることも重要ですから、プレゼンテーションの能力を高めるための実践的学習もおこないます。また、和の文化や国際マナーに関する知識・技能を伝達し、国際人としての基礎力を育成することをめざします。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）・レポート・テスト（30%）  |       |           |
| 到達目標       | ①国際人として通用する基本マナーを習得する ②積極的な自己表現の能力を高める ③和の礼儀作法と国際マナーに対する理解を深める  |       |           |
| 準備学習       | 国内外の動きに関心を持って生活すること   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>講座を担当するのはウィズネス社の女性講師です（岡崎はコーディネーターを担当します）。 受講者には、講座で学んだことを日常でも活かして生活することを要望します。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 講義全体の解説：国際人として通用するために必要なことは？ マナーとは何か？ 第一印象の重要性 2. マナー力①笑顔での挨拶法トレーニング：身だしなみのマナー、TPO に合わせたガイドライン 3. マナー力②敬語の理解：日常で使っている今どき言葉の払拭 4. マナー力③ 日常生活での習慣づけるべきマナー：公衆マナー 5. プレゼン力開発：印象に残る自己紹介の How-to、自己紹介の実践とフィードバック力を高める 6. アサーション①：自他尊重のコミュニケーション、アサーション分析による自己の気づきと助言 7. アサーション②：アサーティブな話し方の理解、アサーティブ実践のためのロールプレイング  8. 傾聴力：自己の聞き方のスタイル、積極的傾聴法の理解と実践 9. 国際人として輝く① 和のマナーを学ぶ：和室での立ち居振る舞い、お箸やお椀の扱い（和室にて）  10. 国際人として輝く②和のマナーを学ぶ：おつきあいの心得（教室にて） 11. 国際人として輝く② 国際マナーを学ぶ：出会い時、食事の場面 12. プレゼン力① プレゼンテーションの定義：多数の人に自分の考えを伝える手法 13. プレゼン力② 新聞記事を題材としてプレゼン実習準備  14. プレゼン力③プレゼン発表（評価対象）：具体的なフィードバックと自己開示、経験から学べることの大切さ 15. テスト：経験から学ぶことの大切さを知る（体験学習）、マナー確認テスト</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5027500A |
| 科目名        | ベーシック・マナー講座  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Manners  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 | 国際マナー講座   |
| 講義概要       | <p>「ベーシック・マナー講座」は、国際ヒューマン・コミュニケーション学科1 年生対象の科目です（時間割指定科目）。この授業は、国際社会で活躍する人になるための基礎能力を習得することを目標としています。そのために特に重要なのが、文化や習慣、価値観の異なる人とのあいだでも良好な人間関係を築く「基本マナー」の習得です。また、自分の考えを伝える能力を高めることも重要ですから、プレゼンテーションの能力を高めるための実践的学習もおこないます。また、和の文化や国際マナーに関する知識・技能を伝達し、国際人としての基礎力を育成することをめざします。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）・レポート・テスト（30%）   |       |           |
| 到達目標       | ①国際人として通用する基本マナーを習得する ②積極的な自己表現の能力を高める ③和の礼儀作法と国際マナーに対する理解を深める   |       |           |
| 準備学習       | 国内外の動きに関心を持って生活すること  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>講座を担当するのはウィズネス社の女性講師です（岡崎はコーディネーターを担当します）。 受講者には、講座で学んだことを日常でも活かして生活することを要望します。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス 講義全体の解説：国際人として通用するために必要なことは？ マナーとは何か？ 第一印象の重要性  2. マナー力①笑顔での挨拶法トレーニング：身だしなみのマナー、TPO に合わせたガイドライン  3. マナー力②敬語の理解：日常で使っている今どき言葉の払拭  4. マナー力③ 日常生活での習慣づけるべきマナー：公衆マナー  5. プレゼン力開発：印象に残る自己紹介の How-to、自己紹介の実践とフィードバック力を高める  6. アサーション①：自他尊重のコミュニケーション、アサーション分析による自己の気づきと助言  7. アサーション②：アサーティブな話し方の理解、アサーティブ実践のためのロールプレイング   8. 傾聴力：自己の聞き方のスタイル、積極的傾聴法の理解と実践  9. 国際人として輝く① 和のマナーを学ぶ：和室での立ち居振る舞い、お箸やお椀の扱い（和室にて）   10. 国際人として輝く②和のマナーを学ぶ：おつきあいの心得（教室にて）  11. 国際人として輝く② 国際マナーを学ぶ：出会い時、食事の場面  12. プレゼン力① プレゼンテーションの定義：多数の人に自分の考えを伝える手法  13. プレゼン力② 新聞記事を題材としてプレゼン実習準備   14. プレゼン力③プレゼン発表（評価対象）：具体的なフィードバックと自己開示、経験から学ぶことの大切さ  15. テスト：経験から学ぶことの大切さを知る（体験学習）、マナー確認テスト</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50276001 |
| 科目名   | 雑誌編集実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Magazine Edit Practice   |       |           |
| 担当者名  | 石原 基久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアなメ切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイント等を活用する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%）出席状況等による。課題提出 50%。   |       |           |
| 到達目標  | 雑誌づくりの基礎を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 雑誌編集とは？ 2. 雑誌編集の流れ 3. 企画が命！ 4. 編集会議（企画決定） 5. 情報収集と取材 6. レイアウトの基礎 7. 取材1 その方法 8. 取材2 取材体験 9. 原稿1 書き方 10. 原稿2 タイトルなどを決定 11. 素材（原稿・写真 etc）整理 12. レイアウト作業 13. 校正 14. 製本→完成 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50281001 |
| 科目名        | 子どもの社会学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Child's Sociology   |       |           |
| 担当者名       | 野村 洋平   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。  子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。  しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。  子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に適宜紹介していく。   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全3回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 最終レポート（60%）：最終レポート課題では、講義によって学んだことに触れながら、課するテーマについて論じてもらう。  ※小レポートの2回以上の提出および最終レポートの提出を単位取得の必須条件とする。   |       |           |
| 到達目標       | 「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。  |       |           |
| 準備学習       | 日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについてのDVD、ビデオ、文学作品などを見ていくことになるが、個人でもさまざまな作品に触れるようにしておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>【講義の順序】 1. 導入（この授業について） 2. 子どもとは何か、子どもと大人  3. 子どもと社会（1）映像資料鑑賞→小レポート提出  4. 子どもと社会（2）  5. 子どもと社会（3）  6. 子どもと社会（4） 7. 子どもの「苦悩」の経験（1）映像資料鑑賞→小レポート提出  8. 子どもの「苦悩」の経験（2）  9. 子どもの「苦悩」の経験（3）  10. 子どもの「苦悩」の経験（4） 11. 子どもの生命感について（1）映像資料鑑賞①（12回目と連続） 12. 子どもの生命感について（2）映像資料鑑賞②（11回目と連続）→小レポート提出 13. 子どもの生命感について（3）  14. 子どもの生命感について（4）  15. まとめ ※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。 ※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。  【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】 1～2については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。 3～6については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。 7～10については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。 11～14については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。 15において、これまでの講義の総括を行う。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50282001 |
| 科目名   | 思考心理学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Psychology of Thinking  |       |           |
| 担当者名  | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 人間の思考のメカニズムに対する、認知心理学的研究に関する講義を行う。推論、判断、意思決定などの分野を取り上げ、その認知過程に関する心理学理論と、関連する心理学実験を紹介する。また人間の思考のさまざまな性質を踏まえて、批判的思考を行うためのポイントやトレーニング方法なども取り上げる。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に紹介する  |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回プリントを配布   |       |           |
| 評価方法  | 授業時間内に作成する小レポート 50%，学期末試験 50%。  |       |           |
| 到達目標  | 人間の思考の性質，日常場面での推論・意思決定などの仕組みについて理解を深める。 批判的思考をするためのポイントや，批判的思考の態度を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 人間の日常的な思考の性質について日頃から意識し，興味を持つこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業では，学習内容を考えるための思考問題を皆で解き，それをもとに人間の思考の性質についての検討を進める。問題に積極的に取り組むとともに，各自の意見を授業中に活発に表明して欲しい。 毎回授業の最後に，各回の授業内容の理解を確認するための小レポートを課す。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 思考の仕組みを考える視点 2. 日常的推論と論理的推論 3. 日常的推論を支える思考の仕組み 4. 帰納的推論と確証バイアス 5. 思考のバイアスとヒューリスティックス(1) 6. 思考のバイアスとヒューリスティックス(2) 7. 確率的な事象の認知 8. 統計的な相関関係についての認知 9. 因果関係の推論(1) 10. 因果関係の推論(2) 11. 判断と意思決定(1) 12. 判断と意思決定(2) 13. 批判的思考(1) 14. 批判的思考(2) 15. 授業のまとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J5028300A |
| 科目名  | 思考心理学上級実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Laboratory in Psychology of Thinking  |       |           |
| 担当者名   | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間の思考メカニズムを解明するための、心理学実験の実習を行う。授業では3個程度の実験の実施を予定している。各実験について、実験材料の準備、実験実施によるデータ収集、データの分析をおこない、報告書を作成する。これらを通して、認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 授業中に文献を紹介する。  |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加状況に基づく日常点（50%）、実験レポート（50%）を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 思考の実験心理学的研究に対する理解を深めるとともに、実験法の基礎と実験報告書の作成方法を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 実験材料の作成や、データ収集、実験レポートの作成等の、授業での指示を確実に行って次回の授業に参加すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業に積極的に参加し、実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。 授業時間は実験の立案や準備、結果の分析等が中心となるので、授業外の時間にも実験を行う必要がある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 思考の実験心理学的研究の概観 2. 実験計画立案のポイント、実験報告書の作成の仕方 3. 意思決定の実験(1) 4. 意思決定の実験(2) 5. 意思決定の実験(3) 6. 意思決定の実験(4) 7. 日常的推論と論理的推論に関する実験(1) 8. 日常的推論と論理的推論に関する実験(2) 9. 日常的推論と論理的推論に関する実験(3) 10. 日常的推論と論理的推論に関する実験(4) 11. 確率判断に関する実験(1) 12. 確率判断に関する実験(2) 13. 確率判断に関する実験(3) 14. 確率判断に関する実験(4)  15. 研究報告会 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50290001 |
| 科目名   | 質的社会調査法   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Qualitative Social Research Methods   |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができます。とほいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 提出物 (70%) 授業への貢献度 (30%)   |       |           |
| 到達目標  | 質的調査を実施し、それを作品に仕上げる。  |       |           |
| 準備学習  | 他者への感受性をあげておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておく必要があります。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 質的調査 質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する   2 ライフヒストリー クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。   3 ライフヒストリー 方法論としてのライフヒストリーを考える。   4 ライフヒストリー 代表的なライフヒストリーの作品を読む。   5 ライフヒストリー 前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。   6 フィールドワーク 人類学的なフィールドワーク方法について概括する。   7 フィールドワーク 人類学的手法によるモノグラフを読む。   8 フィールドワーク 民俗学的なフィールドワークについて概括する。   9 フィールドワーク 民俗学的手法による民族誌を読む。   10 フィールドワークの企画 個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。   11 聞き手と語り手 インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。   12 ライフヒストリー作品の作成 インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。   13 モノグラフの作成 フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。   14 日本におけるフィールドワークの歴史   15 作品合評会  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50292001 |
| 科目名   | 社会意識論  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Social Consciousness   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称である。講義では、この社会意識を様々な文化的表象・産物のなかを読みとるための視点と方法を、社会学・文化研究・心理学など人文的研究の諸成果を紹介しながら、明らかにしていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし   |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回プリントを配ります  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート・平常点（40％）＋通常レポート(30％)＋試験（30％）   |       |           |
| 到達目標  | 映画・小説・物語・芸術などの文化的表象・産物のなかに入れられた社会的・心理的な意味・要素を洞察することによって、我々の生きるこの社会のありさまを理解できるようになること。  |       |           |
| 準備学習  | 具体的な準備学習については、各回の講義の最後に伝えます。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 社会学理論だけではなく、昔話や映画など様々な物語を紹介・読解しながら、心理学的・文化研究的な知見もわかりやすく紹介していきますので、物語が好きで、その分析や解釈に興味のある方も受講してみてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1・はじめに～社会意識とは何か  2・社会学における意識論 3・無意識とその表現・1  4・無意識とその表現・2  5・フロイトの文化論  6・欲望の模倣と物語の解釈・1  7・欲望の模倣と物語の解釈・2  8・神話・昔話の心理学的解釈  9・神話・昔話の人類学的解釈  10・対象関係論の概要 11・対象関係論における集団論  12・対象関係論による社会分析  13・外傷理論の社会的背景  14・外傷理論の概要1  15・外傷理論の概要2  16・ライフ・サイクル論、青春期 17・ライフ・サイクル論、成年期  18・ライフ・サイクル論、老年期  19・映像資料の鑑賞と読解・1  20・映像資料の鑑賞と読解・2  21・映像資料の読解とまとめ 22・近代社会の構造と精神・1  23・近代社会の構造と精神・2  24・現代社会の構造と精神・1  25・現代社会の構造と精神・2  26・現代社会の構造と精神・3  27・現代日本文化と精神の表現・1  28・現代日本文化と精神の表現・2  29・現代日本文化と精神の表現・3  30・まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50299A0A |
| 科目名        | 社会学調査演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Social Research Methods (s)   |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>社会調査は、社会学的研究のための重要な手段である。社会調査には、調査を企画して実施し、収集したデータを所定の手続きに従って分析し、社会について考察し、まとめたものを報告して社会に還元するまでの一連の過程が含まれる。「社会学調査演習」では、これらすべての過程を体験することを通して、社会調査に必要な知識を学習する。  社会調査士資格の【G】社会調査の実習を中心とする科目に該当する。詳しくは、一般社団法人社会調査協会の「社会調査士資格取得カリキュラム詳細」(<a href="http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html">http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html</a>)を参照。  この演習では、主としてドキュメント分析の方法を学ぶ。ドキュメントとは記録のことであり、ドキュメント分析とは自伝、手紙、新聞記事などの記録されたものを分析することを通して、社会について考える手法である。  2010年度演習では、主に雑誌を取り上げる。テレビ番組など、他のメディアも適宜参照しながら、こうしたメディアで、対象となるものがどのように描かれているか、それぞれのメディアの傾向、暗黙のメッセージなどを分析する。  春学期は、調査の基礎の学習から、資料収集までを行なう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材 (授業中に配付する)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 分析資料 (授業中に指示する)。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況等 50%、発表 50%) による。  |       |           |
| 到達目標       | ドキュメント分析の方法を使う社会調査を体験し、どのような過程で行なわれるかを理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | 雑誌メディアに常に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 調査は根気が必要な作業の連続である。集中力を絶やさないようにすること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 社会調査概論 社会調査の目的、内容、種類などについて 2. 社会調査の方法概論 聞き取り調査、観察法、質問紙調査法の適用対象 3. 質的調査分析法概論 フィールドワーク・内容分析などの質的調査の種類と方法 4. 資料収集 1 文献・新聞記事などによる資料収集実習 5. 資料収集 2 ウェブ公開データ・データベースなどを用いた資料収集実習 6. 資料収集 3 紙文献・文献データベース・オンラインジャーナルからの引用実習 7. テーマ設定のための資料発表とディスカッション 1 8. テーマ設定のための資料発表とディスカッション 2 9. 方法論決定のための文献発表とディスカッション 1 10. 方法論決定のための文献発表とディスカッション 2 11. 研究計画 1 研究グループの役割分担など 12. 研究計画 2 調査対象者の選定など 13. 分析項目の設計 1 14. 分析項目の設計 2 15. 資料収集</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50299A0B |
| 科目名        | 社会学調査演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Social Research Methods (s)   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>誰もが何かの決断をする時、必ずその前に、データ収集と分析があります。大学選びから、友達、ゼミ、アルバイトまで、選択の前には十分な情報が必要です。複雑化する社会をどう生きるか、情報の量と質、その分析によって変わってくると言っても過言ではありません。ただし情報と事実とは同じではありません。また手軽に手に入る情報に貴重なもの多くありません。本物の情報は自分というフィルターを通して初めてあなたにとって役に立つのです。 聞き取り調査は、自分の目で見て、自分の耳で聞き、自分の肌で感じるという「一次データ」収集の一方法です。本演習では聞き取り調査のノウハウを学び、自前のデータで「仕事・働きつなぎ方」を考えていきます。具体的には、夏休みに様々な仕事や働き方をしている先輩たち（ゼミやクラブあるいは家族や人生の先輩）を対象に、「私の仕事・働き方」について聞き取り調査をします。調査終了後はテープをおこし、中間報告書作成、発表、ゼミ内でのフィードバックをへて期末レポートを完成させます。また本演習では聞き取り調査の他に、観察調査と文献調査をグループ単位で行う予定です。 調査方法論の学習だけでなく、調査過程で学んだことを、来年の秋から始まる就職活動に生かしてください。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜配布あるいは指定   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜配布および指定します   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)出席状況などによる、前期レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標       | 聞き取り調査計画書と質問項目の設計  |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 演習にて指示します  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1, イントロダクション 2, 社会調査概論：社会調査の目的、内容、種類など 3, 社会調査の方法概論：量的調査、質的調査の適用対象 4, 質的調査分析法概論：聞き取り調査、観察法など、質的調査の種類と方法 5, 資料収集実習：文献、新聞記事、ウェブ、公開データベース、オンラインジャーナルなど 6, 聞き取り調査の方法論に関する資料発表とディスカッション 7, 聞き取り調査のための文献発表とディスカッション 8, テーマ設定のための基礎資料収集とディスカッション 9, テーマと対象者設定のための資料発表とディスカッション 10, 聞き取り調査の手順と注意 11, 社会調査の倫理問題 12, フィールドワークとは：ゲストスピーカー (予定)  13~14, 調査計画の発表とフィードバック：テーマの具体化、質問項目の設計 15, 前期まとめ   </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50299B0A |
| 科目名        | 社会学調査演習 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Social Research Methods (f)  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>社会調査は、社会学的研究のための重要な手段である。社会調査には、調査を企画して実施し、収集したデータを所定の手続きに従って分析し、社会について考察し、まとめたものを報告して社会に還元するまでの一連の過程が含まれる。「社会学調査演習」では、これらすべての過程を体験することを通して、社会調査に必要な知識を学習する。  社会調査士資格の【G】社会調査の実習を中心とする科に該当する。詳しくは、一般社団法人社会調査協会の「社会調査士資格取得カリキュラム詳細」(<a href="http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html">http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html</a>)を参照。  この演習では、主としてドキュメント分析の方法を学ぶ。ドキュメントとは記録のことであり、ドキュメント分析とは自伝、手紙、新聞記事などの記録されたものを分析することを通して、社会について考える手法である。  2010年度演習では、主に雑誌を取り上げる。テレビ番組など、他のメディアも適宜参照しながら、こうしたメディアで、対象となるものがどのように描かれているか、それぞれのメディアの傾向、暗黙のメッセージなどを分析する。  秋学期は、資料の分析から、報告書の作成までを行なう。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材 (授業中に配付する)。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 分析資料 (授業中に指示する)。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況等) 50%、レポート 50%。   |       |           |
| 到達目標       | ドキュメント分析の手法を使う社会調査を体験し、どのような過程で行なわれるかを理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 雑誌メディアに常に関心をもっておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 調査は根気が必要な作業の連続である。集中力を絶やさないようにすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. エディティング 1 コーディング・カテゴリー化など 2. エディティング 2 3. 内容分析 1 ドキュメントの分析 4. 内容分析 2 5. 内容分析 3 6. 内容分析 4 7. データ整理 1 データの視覚化・簡単な数量化など 8. データ整理 2 9. 仮説検証 1 データのプレゼンテーションとディスカッション 10. 仮説検証 2 データのプレゼンテーションとディスカッション 11. 報告書の作成 1 調査報告書の書き方・互いに添削 12. 報告書の作成 2 13. 報告書の作成 3 14. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等 (予備日 1) 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等 (予備日 2)</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50299B0B |
| 科目名        | 社会学調査演習 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Social Research Methods (f)   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 秋学期は、各自 (グループ) が夏休み中に実施した聞き取り調査のテープ起こしによる、中間報告書発表から始まる。中間報告書(一次原稿)を作成し、ゼミでの発表とフィードバックをへて刈り取り作業を行い、期末レポート(三次原稿)を完成させます。 三次原稿完成前には、必ず調査対象者にネィティブチェックをしてもらう。また本演習では聞き取り調査の他に、観察調査と文献調査をグループ単位で行う予定。 調査方法論の学習だけでなく、調査過程で学んだことを、来年の秋から始まる就職活動に生かしてください。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜配布あるいは指定   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜配布および指定します   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)出席状況などによる、調査報告書 (60%)  |       |           |
| 到達目標       | 聞き取り調査報告書の執筆   |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習にて指示します  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 後期イントロダクション 2~4, 中間発表とフィードバック 5, 聞き取り調査のデータ分析 6, 文献調査 7~8, 文献調査発表 9, 観察調査とフィールドノート 10~11, 観察調査結果の発表 12, 調査報告書の書き方: 構成と留意点 13~14, 調査報告書発表とディスカッション 15, まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50304A01 |
| 科目名        | 社会心理学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Social Psychology I   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 | 社会心理学 s   |
| 講義概要       | 社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、1テーマ1時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | よくわかる社会心理学 山田・北村・結城編著 ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。   |       |           |
| 評価方法       | 試験 (70%) と小テストによる平常点 (30%) により評価する。 試験は論述題と専門用語の知識を問う小問からなる。 論述題はあらかじめ告知するので、事前に準備してよい。   |       |           |
| 到達目標       | 周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。   |       |           |
| 準備学習       | 基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業と並行して、メールを用いたディスカッションを行って頂く予定です。積極的に参加して下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 数字は、教科書の章番号を示しています。 第 1 回 概論 7-1 研究を理解するための視点、7-2 実証研究の方法 第 2 回 認知心理学の基礎 1-5 素朴な現実主義 第 3 回 動機と感情 1-2 自動性とコントロール 第 4 回 対人認知 1-1 印象形成の 2 過程、1-7 対人認知の期待の確証 第 5 回 推論 1-3 対応バイアス、1-4 責任帰属、1-6 自己中心性バイアス 第 6 回 自己 3-1 自己呈示 第 7 回 社会的比較 2-5 社会的比較、2-7 ステイグマ 第 8 回 非言語的コミュニケーション 3-2 マインドリーディング 第 9 回 説得的コミュニケーション 2-2 説得、2-3 依頼 第 10 回 態度 1-8 態度、2-1 態度変化 第 11 回 対人関係 3-3 社会的排除、3-6 ソーシャルサポート、3-8 葛藤解決 第 12 回 攻撃 3-7 攻撃行動 第 13 回 社会的交換 3-4 社会的交換、3-5 援助行動 第 14 回 進化心理 7-4 新しい社会心理学 第 15 回 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50304B01 |
| 科目名  | 社会心理学II  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Social Psychology II   |       |           |
| 担当者名   | 有馬 淑子  | 旧科目名称 | 社会心理学 f   |
| 講義概要   | 社会心理IIでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | よくわかる社会心理学 山田・北村・結城編著 ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)  | ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。  |       |           |
| 評価方法   | 試験(70%)と小テストによる平常点(30%)により評価する。 試験は論述題と専門用語の知識を問う小問からなる。 論述題はあらかじめ告知するので、事前に準備してよい。  |       |           |
| 到達目標   | 周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。  |       |           |
| 準備学習   | 基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業と並行して、メールを用いたディスカッションを行って頂く予定です。積極的に参加して下さい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 数字は、教科書の章番号を示しています。 第1回 概論  春学期のまとめ 第2回 社会的影響  2-4 勢力と服従 第3回 集団の意思決定  4-3 集団意思決定 第4回 同調と逸脱  2-6 多数派と少数派 第5回 社会的促進  4-1 集団の生産性、6-1 組織のネットワーク 第6回 リーダーシップ  4-2 リーダーシップ 第7回 社会的アイデンティティ  4-4 内集団ひいき 第8回 ジレンマ状況  4-5 囚人のジレンマ、4-6 社会的ジレンマ 第9回 ネットワーク  6-1 スモールワールド、6-2 3者閉包、6-3 弱い紐帯、6-7 社会関係資本  第10回 集合現象  5-6 ニュースと噂の伝播、6-4 普及とネットワーク、6-5 閾値モデル 第11回 インターネット  5-7 デジタルデバイド、5-3 培養理論 第12回 メディア  5-1 フレーミング、5-2 議題設定、5-4 沈黙の螺旋、5-5 第三者効果 第13回 社会的共有認知 第14回 文化と進化 第15回 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5030700A |
| 科目名        | 社会心理学上級実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Laboratory in Social Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はSPSSにより統計的に分析する。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な文献、教材は授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 主に平常点により評価する。作業過程は Google Apps に随時アップしていただく予定。 実験によっては授業時間内に実施できない場合もあるため、作業に要した時間を評価に加味する。   |       |           |
| 到達目標       | 実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。                   |       |           |
| 準備学習       | 心理学基礎実験 A・B、心理学研究法、社会調査、情報処理演習を受講しておくことが望ましい  |       |           |
| 受講者への要望    | 実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。 失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～3. 実験機材・質問紙・プログラム等の準備   4～5. 実験 1   6～10. 実験 2   11～13. 実験 3   14～15. 予備日   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50310001 |
| 科目名       | 社会調査法   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Social Research Methods   |       |           |
| 担当者名      | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。  社会調査士資格の【A】社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。  社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブサイト（{http://jasr.or.jp/content/}）を、カリキュラムについては「社会調査士資格取得カリキュラム詳細」（{http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html}）を参照。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材を利用する。   |       |           |
| 評価方法      | 授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）  |       |           |
| 到達目標      | 社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習      | できれば、「統計分析の基礎」または「心理統計学」I、IIを、予めあるいは並行して、履修してほしい。   |       |           |

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。|

講義の順序とポイント

《I インTRODクシヨン》|1. インTRODクシヨン：講義の概要、事前知識など||《II 社会調査の基本的事項》|2. 社会調査の目的|3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助|4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果|5. 社会調査のための情報収集|6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計|7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査|8. 社会調査の論理(1)：問題・概念・仮説|9. 社会調査の論理(2)：推論、記述と説明|10. 復習と練習問題(1)||《III 量的調査の設計と実施》|11. 量的調査と質的調査のちがい、調査票調査の概要|12. 調査票の作り方(1)：ワーディング|13. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他|14. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法|15. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標|16. サンプリング(3)：標本と母集団の関係|17. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳|18. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率|19. 調査データの整理：エディティング、コーディング|20. 統計パッケージ：種類、使用の注意点|21. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義|22. 復習と練習問題(2)||《IV 質的調査の設計と実施》|23. 質的調査の概要：メリット・デメリット、注意点|24. 質的調査の事例(1)：聞き取り調査法|25. 質的調査の事例(2)：参与観察法|26. 参考：非参与観察法|27. 質的調査の事例(3)：ドキュメント分析|28. 質的調査の事例(4)：会話分析、その他|29. 復習と練習問題(3)||《V 全体のまとめ》|30. 全体のまとめ|

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J5031000A |
| 科目名       | 社会調査法   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Social Research Methods   |       |           |
| 担当者名      | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。  社会調査士資格の【A】社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。  社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブサイト（{<a href="http://jasr.or.jp/content/">http://jasr.or.jp/content/</a>}）を、カリキュラムについては「社会調査士資格取得カリキュラム詳細」（{<a href="http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html">http://jasr.or.jp/content/curriculum/curricu_sr.html</a>}）を参照。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材を利用する。   |       |           |
| 評価方法      | 授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）  |       |           |
| 到達目標      | 社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習      | できれば、「統計分析の基礎」または「心理統計学」I、IIを、予めあるいは並行して、履修してほしい。   |       |           |

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。|

講義の順序とポイント

《I インTRODクシヨN》|1. イNTRDクシヨN：講義の概要、事前知識など||《II 社会調査の基本的事項》|2. 社会調査の目的|3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助|4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果|5. 社会調査のための情報収集|6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計|7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査|8. 社会調査の論理(1)：問題・概念・仮説|9. 社会調査の論理(2)：推論、記述と説明|10. 復習と練習問題(1)||《III 量的調査の設計と実施》|11. 量的調査と質的調査のちがい、調査票調査の概要|12. 調査票の作り方(1)：ワーディング|13. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他|14. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法|15. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標|16. サンプリング(3)：標本と母集団の関係|17. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳|18. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率|19. 調査データの整理：エディティング、コーディング|20. 統計パッケージ：種類、使用の注意点|21. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義|22. 復習と練習問題(2)||《IV 質的調査の設計と実施》|23. 質的調査の概要：メリット・デメリット、注意点|24. 質的調査の事例(1)：聞き取り調査法|25. 質的調査の事例(2)：参与観察法|26. 参考：非参与観察法|27. 質的調査の事例(3)：ドキュメント分析|28. 質的調査の事例(4)：会話分析、その他|29. 復習と練習問題(3)||《V 全体のまとめ》|30. 全体のまとめ|

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | J50311001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 社会病理学   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Social Pathology  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 高橋 裕子   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 あるいは、次のように言えるかもしれない。 「個々人の人格が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない、と。つまり、「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「人格の尊重」と「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待やDV問題の増加といった負の社会現象は繋がっているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語る事ができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 「人格の尊重」に限らず、閉塞感の漂う、不安定な現状にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私であること」の意味と「他者と共にあること」の意味、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。  本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考え、発表したりレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 使用しない   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | 適宜紹介する  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | レジュメを配布する   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 基本的には課題レポート (50%) と最終講義日試験 (50%) による総合評価によって成績を判定するが、j 授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 1) 社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2) 社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3) 自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べるようになること。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 自分自身の問題関心に即して少なくとも2週間分の新聞のスクラップ帳を作ることからはじめてほしい。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | <p>社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。  当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。</p>   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>1.イントロダクション (自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など)  2.イデオロギーの磁場としての社会 3.社会病理学の方法論 4.『愛を乞う人』鑑賞 5.事例研究：児童虐待① 6.事例研究：児童虐待② 7.『家族愛』の発見 8.『迷走する家族』① 9.『迷走する家族』② 10.まとめ 11.【レポート課題指導】 12.犯罪とは何か (デュルケイムの定義より) ① 13.犯罪とは何か (デュルケイムの定義より) ② 14.事例研究：「まなごしの地獄」① 15.事例研究：「まなごしの地獄」② 16.ラベリング論 17.犯罪の効用 18.まとめ 19.狂気① 20.狂気② 21.『17歳のカルテ』鑑賞 22.【レポート課題指導】 23.事例研究：自殺① (グループワーク)  24.事例研究：自殺② (グループワーク)  25.『自殺論』① 26.『自殺論』② 27.若者の「労働」問題 28.若者の「貧困」問題 29.まとめ 30.講義全体のまとめ </p>   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50318A01 |
| 科目名        | 社会福祉論 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Social Welfare Theory I  |       |           |
| 担当者名       | 金 春男   | 旧科目名称 | 社会福祉論 s   |
| 講義概要       | 社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論 I IIでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえ体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | とくに指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『よくわかる社会福祉』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房 (2011)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 資料配布する。必要に応じて、ビデオ、CD など使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (20%) 出席状況等、ミニレポート (30%) と定期テスト (50%) により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 社会福祉論 I では、①社会福祉の全体像をイメージできる、②社会福祉の歴史的な意味を理解できる。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 社会福祉論 I (理論分野)  1. オリエンテーション、社会福祉という考え方 2. 社会福祉の基礎概念① 3. 社会福祉の基礎概念② 4. 社会福祉をとりまく状況 5. 社会福祉の歴史と展開① 6. 社会福祉の歴史と展開② 7. 社会福祉の仕組みと運営① 8. 社会福祉の仕組みと運営② 9. 社会福祉の機関と施設① 10. 社会福祉の機関と施設② 11. 社会福祉の援助と方法① 12. 社会福祉の援助と方法② 13. 社会福祉の援助と方法③ 14. 社会福祉専門職とマンパワー 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50318B01 |
| 科目名        | 社会福祉論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Welfare Theory II   |       |           |
| 担当者名       | 金 春男   | 旧科目名称 | 社会福祉論 f   |
| 講義概要       | 社会福祉の基本的知識を理解して、社会福祉の考え方を学ぶ。 社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力であると考えられる。社会福祉論 I IIでは、社会福祉の理論分野（社会福祉の考え方、基礎概念、しくみ、専門職）と実践分野（社会福祉の実践とこれからの社会福祉の課題）を学ぶことにより、社会福祉に対する正しい理解と専門性が求められることについて理解する。 また、専門職の福祉だけでなく、一人の市民として参加する福祉、例えば、学生生活をとおして、進んでボランティア活動を実践し、その実践をとおして社会福祉を理解してもらえ体験をしてみることなど、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『よくわかる社会福祉』山縣文治・岡田忠克編、ミネルヴァ書房（2011）  |       |           |
| 教材（その他）    | 資料配布する。必要に応じて、ビデオ、CD など使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席状況等、ミニレポート（30%）と定期テスト（50%）により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 社会福祉論IIでは、①社会福祉専門機関（施設）とそこでの専門職の仕事や役割を理解することができる、②社会福祉を必要とする人々の抱える問題を理解できる。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 自分自身の生活にひきつけて、社会福祉を考えていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 社会福祉論II（実践分野） 1. オリエンテーション、社会福祉という考え方 2. 社会保障 3. 公的扶助 4. 児童福祉① 5. 児童福祉② 6. 高齢者福祉① 7. 高齢者福祉② 8. 障害者福祉① 9. 障害者福祉② 10. 地域福祉① 11. 地域福祉② 12. その他の福祉 13. これからの社会福祉の課題① 14. これからの社会福祉の課題② 15. まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50321001 |
| 科目名        | 社会問題論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Problems  |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースの解説をおこなう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）  |       |           |
| 到達目標       | 現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。 2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。 2, 貧困：格差、ホームレス、生活保護。 3, 労働1：派遣労働。 4, 労働2：過労死、失業、ニート。 5, 外国人：不法入国と国内定住。 6, 女性：パート労働、母子家庭。 7, 子ども：学童保育、子どもの権利条約。 8, 高齢者：介護保険、高齢者医療。 9, 年金：年金財政、年金負担と給付。 10, 医療：一部に見られる医師不足。 11, 健康保険：国民医療費。 12, 税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。 13, 食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。 14, 政治の責任と「自己責任」 15, まとめ。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50330A01 |
| 科目名  | 宗教社会学 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Sociology of Religion A   |       |           |
| 担当者名   | 岡尾 将秀   | 旧科目名称 | 宗教社会学 s   |
| 講義概要   | 本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である世俗化について、近世までの宗教史を事例に再考する。とくに鎌倉時代の日本における新仏教の勃興を、伝統宗教の世俗化に対する宗教革新という観点から捉え直す。さらに軍事支配の確立以降の社会全体の世俗化については、近世以降の宗教史を事例に再考する。とくに江戸時代以降の日本におけるいわゆる現世利益と葬式仏教の隆盛を、民衆による伝統宗教の民俗宗教としての受容と捉え直す。私たちの家の宗教となっている仏教諸派が、元来は新宗教であり、以後も民俗宗教として民衆の日常生活のなかに浸透していったことを明らかにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 宗教社会学の会編『宗教を理解するということ』創元社   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 期末レポートもしくは期末テストに (6割)、講義中の小レポートもしくは小テスト (2割)、出席率 (2割) を加えて評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 日本の社会において、伝統宗教が私たちの先祖の生活のなかに、どのように組み込まれるようになったのかを理解する。  |       |           |
| 準備学習   | テレビや新聞で宗教に関する番組や記事を見つけたら、何が話題とされているかを把握する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 身の周りの宗教に関心をもって、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1、春学期の目標と計画  2、私の宗教への関心  3、社会学による宗教理解  4、宗教の世俗化と社会の世俗化  5、伝統宗教の世俗化  6、日本の原始宗教  7、宗教が支配する社会  8、日本の古代宗教  9、宗教による国家統合  10、日本の歴史宗教  11、国家に対抗する宗教  12、近世以降の日本社会の世俗化  13、民俗宗教の隆盛  14、民俗宗教の変容  15、春学期のまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50330B01 |
| 科目名        | 宗教社会学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Religion B   |       |           |
| 担当者名       | 岡尾 将秀   | 旧科目名称 | 宗教社会学 f   |
| 講義概要       | 本講義では、いわゆる近代化と呼ばれる文明の進歩による世俗化にもかかわらず、宗教がどのように刷新されてきたのかを考える。特に日本の近代以降に、「民衆宗教」さらには「新宗教」に分類されるようないわゆる「教派神道」や「新興宗教」が、どのように成立したのかを明らかにする。それらの民衆自身が担う新しい宗教の教祖たちが、近世までの民衆の日常生活において受容されていた修験道などの「民俗宗教」から逸脱した簡易な呪術に従事しつつ、僧侶によって担われる仏教などの「伝統宗教」と異なる教義と儀礼を形成していった過程を説明する。現代社会において反社会的な行為に踏み切りやすい「カルト」との比較を試みることによって、今後の私たちの信仰のあり方も考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 宗教社会学の会編『宗教を理解するということ』創元社   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 期末レポートもしくは期末テストに（6割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（2割）、出席率（2割）を加えて評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | テレビや新聞で宗教に関する番組や記事を見つけたら、何が話題とされているかを把握する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 身の周りの宗教に関心をもって、一般的に考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、秋学期の目標と計画  2、日本の近代における社会の「世俗化」と「脱世俗化」  3、幕末維新时期における「宗教革新」  4、「民衆宗教」から「新宗教」へ  5、流行神としての「生き神」  6、教義形成と儀礼化  7、講の結成と組織化  8、「カリスマ」としての教祖  9、明治末から大正期にかけての「宗教革新」  10、「民衆宗教」としての大本教の発生  11、「新宗教」としての大本教の展開  12、「大本事件」と「オウム真理教事件」  13、「カルト」の多様性  14、新しい霊性（スピリチュアリティ）の追求  15、秋学期のまとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50333A01 |
| 科目名   | 宗教民俗学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Religious folklore I  |       |           |
| 担当者名  | 橘 弘文  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>人と人のつながり。人と超自然的存在とのつながり。それらのつながりを民間信仰の研究から考える。  日本の前近代のムラでは、多くの場合、神道や仏教などの宗教が民間信仰とかわりながら受容された。民間信仰をふくめた、それらの宗教は生活と深くつながっていた。  この授業では、日本の前近代の生活と宗教の関係について考えるてがかりとして、福井県小浜市矢代地区の手杵祭をとりあげ、その祭りの起源伝説である矢代の「観音堂縁起」を読み解く作業をおこなう。矢代の祭りや祭りの起源伝説の考察を軸にして、ムラの生活と寺社の関係、怪鳥退治伝説と地名の起源、よそ者にたいするホスピタリティ、ムラの危機とその克服、民間の宗教者と個人・社会の関係、来訪者伝承と異人殺し伝承、社会変化と祭りの変容などの問題について考える。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜、映像資料を使用する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (10%) 出席状況等による。授業内レポート (20%) レポート (70%)   |       |           |
| 到達目標  | 祭りや伝説の多義性を理解し、民間信仰の豊かな精神世界について考える視点を獲得することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。 私語を厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 「宗教」、「民俗」ということばについて 2 手杵祭と「観音堂縁起」について 3 賀茂社と若狭 4 善無畏と仏像 5 事件の年代「天平宝字丁酉」と祭りが始まる「大同元年」 6 怪鳥退治伝説と地名の起源 7 漂着船の乗船者にたいするホスピタリティ 8 ムラの危機とその克服 9 民間宗教者と個人・社会の関係 10 仮面仮装の来訪者が登場する儀礼 11 人と人の関係と祭りの役割 12 仏像の秘密と公開 13 縁起の成立と伝承 14 社会変化と祭りの変容 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50333B01 |
| 科目名   | 宗教民俗学Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Religious folklore II   |       |           |
| 担当者名  | 矢野 裕巳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>宗教は世界の人々の生活にどのような影響を与えているのでしょうか？ 世界のそれぞれの地域で暮らす人々の暮らしを宗教との関わりにおいて考えてみます。特にこの講義では神道、仏教といった我々日本人の代表的宗教とは違った、一神教について学んでいきます。世界3大一神教である、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の成り立ち、誕生、基本的教えについて、広く浅くしかし重点的に学んでいきます。これらの一神教が誕生した中東地域は日本とは、地理的、歴史的にもかけ離れています。中東問題の中心であるパレスチナ問題の基本を学ぶことによって、つまりイスラエルとパレスチナの紛争の検証を土台にこの地域の問題を考えてみたいと考えています。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地、エルサレムの問題は、パレスチナ問題解決への1つの大きな要素であり、3つの宗教を理解する上で特に重要であると考えこの講義でとりあげます。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 毎回プリント教材を配布   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 毎回プリント教材を配布   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 毎講義の後半 25 分～35 分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC3 段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。 10 講義の出席が絶対条件です。  |       |           |
| 到達目標  | 世界の一神教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教がどのような宗教であるのか概要を知る事によって、日本人との思考の違いを検証する。   |       |           |
| 準備学習  | 講義は1回1回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 世界で起こる事柄に日ごろから関心を持ってもらいたいと思います。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1、一神教の成立について 2、パレスチナ問題 1 3、パレスチナ問題 2 4、パレスチナ問題 3 5、パレスチナ問題 4 6、パレスチナ問題 5 7、パレスチナ問題 6 8、パレスチナ問題 7 9、パレスチナ問題 8 10、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較1 11、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較2 12、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較3 13、一神教と多神教 1、 14、一神教と多神教 2、 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50337001 |
| 科目名        | 出版文化論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Publication and Culture  |       |           |
| 担当者名       | 南 徹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 出版メディアの歴史をまず把握した上で、机上の学問ではない「現代出版論」を展開します。出版社、取次、書店という各プレイヤーの関係性、再販制、委託販売制といった取引上のしくみ、コンビニエンスストア、新古書店、複合カフェ、オンライン書店の登場など読書を取り巻く環境の変化など最新のトピックスを取り上げ、出版メディアの動向をあらゆる角度から紹介します。そして電子出版など新たな動向がこれからの社会をどのように変革していくのかをみなさんと共に考えます。      |       |           |
| 教材（テキスト）   | 川井良介編『出版メディア入門(第2版)』（日本評論社）、ISBN:978-4535586161   (4月中旬発売予定、旧版は不可)   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 授業で配布するレジメ   |       |           |
| 評価方法       | 授業でのミニレポートを含む平常点50%、試験あるいはレポート50%  |       |           |
| 到達目標       | 出版文化の歴史に関する基礎知識を習得し、出版コンテンツの未来を考える力を育成する。  |       |           |
| 準備学習       | テキストを熟読し、不明な用語等について事前に学習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 新聞、雑誌、インターネットなどのメディアに目を通し、出版メディアの動向を意識的に把握してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめに一出版文化とはなにか   2.出版メディアの歴史①文字、写本、印刷   3.出版メディアの歴史②近世、近代、現代   4.書籍の出版   5.雑誌/マンガの出版   6.出版社と出版流通   7.電子出版とはなにか   8.電子出版の現状(1)   9.電子出版の現状(2)   10.電子出版と図書館   11.書誌情報・物流情報のデジタル化   12.表現の自由と出版倫理   13.著作権と出版   14.読書と読者   15.まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50340A01 |
| 科目名  | 書道（書写を含む）A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Calligraphy A (The Transcript is Include d)   |       |           |
| 担当者名   | 西尾 利香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 義務教育における書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。 本講では、毛筆を用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざまな書写場面で生かしていくとともに、板書や作品鑑賞を加えることにより国語科書写を指導するうえで求められる資質・能力の基礎を育成することを目的とする。 また、楷書から行書へ段階的に移行できるように、書写力の定着と応用をはかる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義で適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『明解：書写教育』全国大学書写書道教育学会編（萱原書房）、『小学書写』・『中学書写』（日本文教出版他）   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%)、出席状況などによる。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 小・中学校の書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 1. 現代社会において文字を用いる際の目的・場面等に応じ、情報機器の利用と手で書くこととを適切に使い分けることを常に意識する。 2. 文字を素材とする書道は、言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って臨む。 3.各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1.実技科目である。毎講時の作品制作での基本技術習得と創造性を期待したい。 2.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。 3.書道（書写を含む）Bからでも履修可能だが、講義順序からしてもAを先に履修しておくことが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.はじめにー書写・書道の概要ー 2.楷書の特徴 3.楷書の基本点画 1 4.楷書の基本点画 2 5.書体の変遷からみる楷書・行書の研究 6.楷書・行書に調和する仮名（ひらがな・カタカナ）1 7.楷書・行書に調和する仮名（ひらがな・カタカナ）2 8.板書技法 9.漢字仮名交じりの書（創作）1 10.漢字仮名交じりの書（創作）2 11.漢字仮名交じりの書（創作）3 12.篆刻 13.作品鑑賞法 14.課題研究 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50340B01 |
| 科目名   | 書道（書写を含む）B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Calligraphy B (The Transcript is Include d)   |       |           |
| 担当者名  | 西尾 利香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 行書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。 本講では、毛筆を用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、行書および仮名の実用性を基盤としながらも、創作へと学習を拡大できる指導力を育成することを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義で適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『明解：書写教育』全国大学書写書道教育学会編（萱原書房）、『中学書写』（日本文教出版他）  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)、出席状況などによる。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 小・中学校の書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。                    |       |           |
| 準備学習  | 1. 現代社会において文字を用いる際の目的・場面等に応じ、情報機器の利用と手で書くことを適切に使い分けることを常に意識する。 2. 文字を素材とする書道は、言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って臨む。 3.各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1.実技科目である。毎講時の作品制作での基本技術習得と創造性を期待したい。 2.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。 3.書道（書写を含む）Bからでも履修可能だが、講義順序からしてもAを先に履修しておくことが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.はじめにー書写・書道の概要ー 2.行書の特徴 3.行書の基本点画 1 4.行書の基本点画 2 5.仮名の特徴 6.仮名の基本 1 7.仮名の基本 2 8.書体の変遷からみる行書・仮名の研究 9.漢字仮名交じりの書（小筆）1 10.漢字仮名交じりの書（小筆）2 11.和装本創作 1 12.和装本創作 2 13.作品鑑賞法 14.課題研究 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50342A01 |
| 科目名   | 社会調査実習 I  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)  | Social Research Practice I  |       |           |
| 担当者名  | 吉岡 洋介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する授業である。社会調査のなかでも質的調査と呼ばれる方法を中心に学習した上で、実際にインタビュー調査を経験してもらう。学生は自身にとって身近で関心ある事柄の中からテーマを選択し、インタビュー・データの収集、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。  なお、この授業は、秋学期の「社会調査実習Ⅱ (担当: 吉岡)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G: 社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 質的調査の技法を身につけることを目標とする。自分自身で問題設定を行った上で、先行研究をよく調べ、質的調査 (本学は、若者へのインタビュー調査を予定) を行い、収集したデータを分析し、レポートとしてまとめる。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査の分析について積極的な議論をしてもらいたい。   2. 自分が実習を通して明らかにしたい問題を、先人はどこまで明らかにしてきたのかについて、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 質的調査の概説   2. 質的調査の方法・企画   3. 質的調査の先行理論、仮説構成   4. 質的調査の問い・対象者・トピックの設定   5. インタビュー調査の方法   6. フィールドワークの方法   7. 参与観察の方法   8. 会話分析・ライフストーリー分析の方法   9. インタビュー調査・フィールドワークの実施   10. データの整理、エディティング   11. 回収した質的データの分析 (1)   12. 回収した質的データの分析 (2)   13. 質的データの読み方・解釈   14. 分析結果報告の作成   15. 研究成果の報告と討論 |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50342B01 |
| 科目名   | 社会調査実習 II   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Social Research Practice II   |       |           |
| 担当者名  | 吉岡 洋介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する授業である。社会調査のなかでも質的調査と呼ばれる方法を中心に学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近で関心ある事柄の中からテーマを選択し、ドキュメント・データの収集、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。  なお、この授業は、春学期の「社会調査実習 I（担当：吉岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | <p>質的調査の技法を身につけることを目標とする。自分自身で問題設定を行った上で、先行研究をよく調べ、質的調査（本学は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析し、レポートとしてまとめる。</p>  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査の分析について積極的な議論をしてもらいたい。   2. 自分が実習を通して明らかにしたい問題やテーマを、先人はどこまで明らかにしてきたのかについて、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所   2. 内容分析の方法   3. ドキュメント分析の方法   4. 新聞・雑誌の読み方   5. 映像メディアの読み方   6. 新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法   7. コンピュータを用いた質的データの整理・分析法   8. 収集した新聞記事データのコーディング   9. 自由回答データのコーディング   10. 新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計   11. 新聞記事・自由回答データの分析 (1)   12. 新聞記事・自由回答データの分析 (2)   13. 質的データを用いた研究論文の紹介   14. 分析結果報告の作成   15. 研究成果の報告と討論 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50345001 |
| 科目名        | 情報ネットワーク論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The Study of Information Network Community  |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>かつては人間がコミュニケーションをするための手段（媒体）である“メディア”という存在を考える際には、「新聞」「TV」のようなマスメディアを想定し〈送り手—媒介—受け手〉という図式で、その関係をみてきた。しかし、現在そういった発想そのものが無意味となりつつある。メディアとは単なるコミュニケーションの「通路」ではなく、むしろコミュニケーションそのものを成立させる「場」として機能しているからである。言うまでもなく、その代表的な存在がデジタルという技術の発展とともに成長し続ける「インターネット」のような新たな“場=ネットワーク社会”である。  本講義では、コンピュータ等を介してネットワーク上で行われる人間同士のコミュニケーションが一般的なものとなりつつある現代社会を、「情報」「コミュニケーション」「ネットワーク」をキーワードにアプローチする。つまり、「インターネット（=メディアとしてのコンピュータ）」によるコミュニケーションと、既存のメディアによるコミュニケーションとの相違を整理し、ネットワーク上での人々のアクティビティや新しい流れ、そして、それらに伴う現実社会での“変革”の動きを、その可能性／問題点等を含め考えていく。 </p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリント等を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 三村忠史、倉又俊夫『デジタルネイティブ：次代を変える若者たちの肖像』NHK 出版 生活人新書 2009   ローレンス・レッシング『CODE VERSION 2.0』翔泳社（山形浩生・守岡桜訳）2007   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、映像教材他  |       |           |
| 評価方法       | 定期テスト（100%）。  |       |           |
| 到達目標       | 今日のネットワーク社会の可能性／問題点を考える。  |       |           |
| 準備学習       | 講義内で紹介する文献／web サイト等を自分の関心に応じて復習する。 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的に参加することを望む（事前に「マルチメディア論」を受講していることが望ましい）。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>01 オリエンテーション  02 インターネットの基本 その 1 コンピュータのしくみ 03 インターネットの基本 その 2 インターネットのしくみ 04 インターネットの基本 その 3 電子メール  05 インターネットの基本 その 4 情報検索  06 インターネットの基本 その 5 オンラインショッピング／ネットオークション  07 インターネットの基本 その 6 掲示板／ブログ  08 インターネットの基本 その 7 web 2.0  09 情報と社会 その 1 情報格差  10 情報と社会 その 2 ネットという社会  11 情報と社会 その 3 情報技術と組織  12 情報と社会 その 4 情報技術と知  13 情報と社会 その 5 個人の自由と公共の福祉 14 情報と社会 その 6 デジタル・ネイティブ  15 まとめ   ※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（=メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意ください。 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50346001 |
| 科目名       | 情報サービス論 【司】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Information Services  |       |           |
| 担当者名      | 川瀬 綾子   | 旧科目名称 | 情報サービス概説  |
| 講義概要      | 図書館の基幹機能である「情報サービス」について基礎的な概念、代表的な情報サービス、情報源などを従来の方法とインターネットの普及に伴い新しく登場したサービスに着目し概説する。  |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | そのつど、指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリント等を配布する  |       |           |
| 評価方法      | 期末試験 60%、課題など 40%による総合評価  |       |           |
| 到達目標      | 図書館司書を目指す学生については、職員採用試験において求められる情報サービスに関する専門知識の獲得、また、広く図書館情報学としての知識を身につけたい学生については、社会人として主体的に情報収集を行い、各人のキャリアアップに寄与することとなるような情報リテラシーの重要性を認識してもらうことと目指す。 |       |           |
| 準備学習      | 教科書の概要を確認するとともに、「講義の順序とポイント」を熟読し、本科目のアウトラインをつかんでおくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

自分の関心テーマを持ち、積極的に図書館を利用し「情報サービス」に関する事項に意見を持つこと。|また、受講者全員でのディスカッションも交えて課題を深めたい。その妨げとなる遅刻は厳に慎むこと。

#### 講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス | 2.情報サービスとはなにか | 意義、機関、法的根拠 | 3.情報サービスの種類・機能①レファレンスサービス | レファレンスサービスの基本的な概念 | 4. .情報サービスの種類・機能②レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス | 図書館の能動的なサービスであるレフェラル・カレントウェアネスサービスの基本的な概念 | 5.情報サービスの種類・機能③オンライン,CD-ROM 検索サービス | 電子メディアを使った検索サービスの基本的な概念 | 6.情報サービスの種類・機能④その他のサービス | 児童サービスなど利用対象別、図書館のイベント、研修など | 7.情報源の種類とコレクション構築 | 図書館で提供する情報源の種類やその特徴提供方法について | 8.情報ニーズへの対応：レファレンスプロセス、レファレンス質問 | 図書館員が利用者からのレファレンスを受け、処理する過程について | 図書館員が利用者の質問に的確に答えるための手法や基本ルールなど | 9. 情報源:①書誌データ、事実データ探索：目録、索引、レファレンスブック | 二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など | 10.インターネットを活用した情報サービス | 11.情報サービスの管理：組織、料金問題、職員の専門性 | 情報サービスを推進する組織や職員の専門性や新しいニーズに対応する組織 | 12.レファレンス質問と回答事例①| 13.レファレンス質問と回答事例②| 14. レファレンスインタビュー| 15. .主な公共図書館の情報サービスの実情、まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50348003 |
| 科目名        | 情報サービス実習 I 【司】  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) |   |       |           |
| 担当者名       | 高橋 和子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>調査・研究や個々の問題解決にとってまず必要なことは、レファレンス資料に習熟していること、データベースの内容を熟知していることである。そのことは、司書やサーチャーが、それまでに、どれだけ自分のモチーフに添って検索した経験があるか、ということにかかっている。  本講義では、文献情報の検索を、「調査・研究の補助ではあるが不可欠な手段」として位置付け、自身のモチーフに添って各種データベースに触れつつ、各自の設定したテーマに沿って検索しその習熟を目指す。その際大切なことは、検索すべき情報源の「構築経緯」や内容を熟知していること、そのうえで検索する能力を高めること、それら情報源を正しく評価できること、そして入手した情報を整理し利用・応用できること、である。  そうしたことを念頭に、本演習では、まず自分の専攻分野や関心領域についてテーマを設定し、各講時ごと情報の性格や情報源の特色を説明し理解を深めながら、その文献リストの完成を目指していく。結果として「図書館の情報サービス」を有効に展開していける技術を身につけていく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、USB メモリーで各講義資料を提供する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 情報科学技術協会編「情報検索の基礎知識」 2,000 円  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (20%) 出席状況等による。毎回のレポート (80%)。、(社) 情報科学技術協会主催「情報検索基礎能力試験」に合格した者は合格点を付与する。  |       |           |
| 到達目標       | 情報検索基礎能力試験の合格を目標とする、その資格にふさわしい検索技術を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | パソコンの基本的な操作能力は前提なので、自ら習熟しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分の関心領域を持つこと。日々の出席は単位取得の必須条件である。パソコンの習熟特にエクセルに慣れておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1、図書館員としての情報検索とは  2、消えたサイト検索、検索結果の見方  3、Google 検索オプション活用 1  4、Google 検索オプション活用 2  5、and 検索、or 検索、not 検索活用  6、インターネット活用、情報提供の方法  7、国会図書館検索実習 1   8、国会図書館検索実習 2  9、国会図書館検索実習 3  10、国立情報学研究所検索実習 1  11、国立情報学研究所検索実習 2  12、官邸、政府情報検索  13、政府統計、法律情報検索実習  14、有料データベース実習 1  15、まとめ、情報検索基礎能力試験問題を解く</p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5034800A |
| 科目名        | 情報サービス実習 I 【司】  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) |   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 | 情報検索実習    |
| 講義概要       | 文献情報の検索を、「調査・研究の補助ではあるが必要不可欠な手段」として位置づけ、自身のモチーフに添って各種データベースに触れつつ、各自の設定したテーマに沿って検索し、その習熟を旨とする。その際大切なことは、検索すべき情報源の「構築経緯」や内容を熟知していること、そのうえで検索する能力を高めること、それら情報源を正しく評価できること、入手した情報を整理し利用できること、である。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。文献目録 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 利用者の質問に対する情報検索サービスの技術を身につける。I を主に情報検索サービスとし、II を主にレファレンスサービスの演習と位置付ける。情報サービスの設計から評価の実務、積極的な発信型情報サービスについても触れていく。   |       |           |
| 準備学習       | パソコンの基本的な操作能力は前提なので、自ら習熟しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分の関心領域を持つこと。日々の出席は単位取得の必須条件である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、インターネットと、図書館の情報サービスの設計 2、各種 OPAC からの検索 3、横断検索、総合目録、所在情報と書誌情報 4、雑誌記事索引からの検索 5、Cinii、大宅壮一文庫雑誌記事索引、マガジンプラス等 6、国立情報学研究所と国立国会図書館 7、新聞記事検索 8、電子ジャーナル 9、公共サイト 10、電子目録の今後 11、質問に対する検索と回答、各種 DB への理解 12、発信型情報サービス、パスファインダー 13、デジタル出版、電子書籍 14、デジタルアーカイブ 15、専門データベース |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5034800B |
| 科目名        | 情報サービス実習 I 【司】  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) |   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 | 情報検索実習    |
| 講義概要       | 文献情報の検索を、「調査・研究の補助ではあるが必要不可欠な手段」として位置づけ、自身のモチーフに添って各種データベースに触れつつ、各自の設定したテーマに沿って検索し、その習熟を旨とする。その際大切なことは、検索すべき情報源の「構築経緯」や内容を熟知していること、そのうえで検索する能力を高めること、それら情報源を正しく評価できること、入手した情報を整理し利用できること、である。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。文献目録 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 利用者の質問に対する情報検索サービスの技術を身につける。I を主に情報検索サービスとし、II を主にレファレンスサービスの演習と位置付ける。情報サービスの設計から評価の実務、積極的な発信型情報サービスについても触れていく。   |       |           |
| 準備学習       | パソコンの基本的な操作能力は前提なので、自ら習熟しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分の関心領域を持つこと。日々の出席は単位取得の必須条件である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、インターネットと、図書館の情報サービスの設計 2、各種 OPAC からの検索 3、横断検索、総合目録、所在情報と書誌情報 4、雑誌記事索引からの検索 5、Cinii、大宅壮一文庫雑誌記事索引、マガジンプラス等 6、国立情報学研究所と国立国会図書館 7、新聞記事検索 8、電子ジャーナル 9、公共サイト 10、電子目録の今後 11、質問に対する検索と回答、各種 DB への理解 12、発信型情報サービス、パスファインダー 13、デジタル出版、電子書籍 14、デジタルアーカイブ 15、専門データベース |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50363A01 |
| 科目名  | 心理学基礎 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Introduction to Psychology I   |       |           |
| 担当者名   | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「心理学」という言葉を聞いたことがある人、自分なりのイメージを持っている人は多いかもしれませんが、実際の心理学が何かを知っている人は少ないのではないのでしょうか。講義を受けると少なからず思っていた心理学とは違う、と感じる人もいるかもしれません。心理学は人間を理解するための学問です。  本講義では、学問としての心理学とはどのようなものであるのか、心理学の考え方とはどのようなものかといった心理学の基本や、心理学が扱う様々な内容について説明します。この心理学入門 I では、人の感覚や記憶などの、人間に備わっている機能や個人に関する内容を中心に扱います。当たり前と知っていることについて、どうしてなのか、なぜなのか、など考えてみてください。  人間関係など他者とのかかわりに関する内容は心理学入門 II で扱います。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示します  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義中に適宜配布します  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (30%) : 毎講義、理解度のチェックなどにより評価する   テーマ毎の小テスト (25%) : 5 回実施する   定期テスト (45%) : 筆記試験を実施する  |       |           |
| 到達目標   | 1. 毎授業、用語を最低 1 つは理解し、説明できるようになる   2. 日常生活に見られる現象を心理学の用語を用いて説明できるようになる  |       |           |
| 準備学習   | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい   特に何かある場合は、講義中に指示する   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って参加してください。  2. 講義中の私語、携帯電話による通話などは厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。  3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。  4. 秋学期開講科目の心理学入門 II も受講していただく心理学を一層理解できると思います   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 講義概要 - 心理学とは何か   2 心理学の歴史・考え方 - 心理学という科学   3 実際の世界と見えている世界 - 知覚   4 なぜ気付かないのか - 注意 (小テスト)   5 記憶力の違いは何か - 記憶の仕組み   6 鍵をかけただろうか - 記憶の正確さ・他 (小テスト)   7 パブロフの犬 - 古典的条件づけ   8 しつけの仕組み - オペラント条件づけ   9 見るだけで学ぶことができる? - 観察学習・他 (小テスト)   10 生まれてすぐにできること - 子どもの発達   11 自分探しの大学生 - アイデンティティの獲得 (小テスト)   12 なぜ食べるのか - 生理的動機づけ   13 なぜやる気がしないのか - 達成動機づけ   14 頭がいいってどういうこと - 知能観 (小テスト)   15 まとめと質問 |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50363A0A |
| 科目名  | 心理学基礎 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Introduction to Psychology I   |       |           |
| 担当者名   | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「心理学」という言葉を聞いたことがある人、自分なりのイメージを持っている人は多いかもしれませんが、実際の心理学が何かを知っている人は少ないのではないのでしょうか。講義を受けると少なからず思っていた心理学とは違う、と感じる人もいるかもしれません。心理学は人間を理解するための学問です。  本講義では、学問としての心理学とはどのようなものであるのか、心理学の考え方とはどのようなものかといった心理学の基本や、心理学が扱う様々な内容について説明します。この心理学入門 I では、人の感覚や記憶などの、人間に備わっている機能や個人に関する内容を中心に扱います。当たり前と知っていることについて、どうしてなのか、なぜなのか、など考えてみてください。  人間関係など他者とのかかわりに関する内容は心理学入門 II で扱います。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示します  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義中に適宜配布します  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (30%) : 毎講義、理解度のチェックなどにより評価する   テーマ毎の小テスト (25%) : 5 回実施する   定期テスト (45%) : 筆記試験を実施する  |       |           |
| 到達目標   | 1. 毎授業、用語を最低 1 つは理解し、説明できるようになる   2. 日常生活に見られる現象を心理学の用語を用いて説明できるようになる  |       |           |
| 準備学習   | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい   特に何かある場合は、講義中に指示する   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って参加してください。  2. 講義中の私語、携帯電話による通話などは厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。  3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。  4. 秋学期開講科目の心理学入門 II も受講していただく心理学を一層理解できると思います   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 講義概要 - 心理学とは何か   2 心理学の歴史・考え方 - 心理学という科学   3 実際の世界と見えている世界 - 知覚   4 なぜ気付かないのか - 注意 (小テスト)   5 記憶力の違いは何か - 記憶の仕組み   6 鍵をかけただろうか - 記憶の正確さ・他 (小テスト)   7 パブロフの犬 - 古典的条件づけ   8 しつけの仕組み - オペラント条件づけ   9 見るだけで学ぶことができる? - 観察学習・他 (小テスト)   10 生まれてすぐにできること - 子どもの発達   11 自分探しの大学生 - アイデンティティの獲得 (小テスト)   12 なぜ食べるのか - 生理的動機づけ   13 なぜやる気がしないのか - 達成動機づけ   14 頭がいいってどういうこと - 知能観 (小テスト)   15 まとめと質問 |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50363B01 |
| 科目名       | 心理学基礎Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Psychology II  |       |           |
| 担当者名      | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 心理学は人間の心や行動を理解することを目指す学問です。しかし人間の心や行動が関係するものは非常に多い。そのために心理学が扱う対象は非常に多岐にわたる。 本講義ではその中でも日常生活に関連があるテーマを中心に扱う。人間関係の始まりや終わり、ストレスとの付き合い方、性格は変えられるのか、などさまざまなテーマを取り上げ、心理学について、さらには人間についての理解を深めることを目指します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示します  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義中に適宜配布します  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30%）：毎講義、理解度のチェックなどにより評価する テーマ毎の小テスト（25%）：5回実施する 定期テスト（45%）：筆記試験を実施する  |       |           |
| 到達目標      | 1. 毎授業で、最低1つの用語を理解し、説明できるようになる 2. 心理学の用語を、日常生活における現象を例として説明できるようになる  |       |           |
| 準備学習      | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい 特に何かある場合は、講義中に指示する   |       |           |

#### 受講者への要望

受講するからには有意義な時間としていただきたいと考え以下のことを求めます。|1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って参加してください。|2. 講義中の私語、携帯電話による通話などは厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。|3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。|4. 春学期開講科目の心理学入門Ⅰを受講しておくことが望ましい。講義内容の理解がしやすくなると思います。

#### 講義の順序とポイント

1 講義概要 心理学について|2 喜怒哀楽を考える -感情とは|3 悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか -感情の理論（小テスト）|4 血液型で性格はわかるのか -性格の考え方|5 性格は変えられる？ -性格の規定因（小テスト）|6 人に話すことの意味 -自己開示|7 人によく思われたい -自己呈示|8 なぜそうしたの？ -帰属過程（小テスト）|9 魅力的な人とは -人間関係の始まり|10 友達は大事 -ソーシャルサポート|11 電車で席を譲りますか？ -援助行動（小テスト）|12 心の健康 -精神的健康とストレス|13 ストレスとの付き合い方 -ストレス過程|14 ストレスに強い人、弱い人 -影響要因（小テスト）|15 まとめと質問

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50363B0A |
| 科目名       | 心理学基礎Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Psychology II  |       |           |
| 担当者名      | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 心理学は人間の心や行動を理解することを目指す学問です。しかし人間の心や行動が関係するものは非常に多い。そのために心理学が扱う対象は非常に多岐にわたる。 本講義ではその中でも日常生活に関連があるテーマを中心に扱う。人間関係の始まりや終わり、ストレスとの付き合い方、性格は変えられるのか、などさまざまなテーマを取り上げ、心理学について、さらには人間についての理解を深めることを目指します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示します  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義中に適宜配布します  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30%）：毎講義、理解度のチェックなどにより評価する テーマ毎の小テスト（25%）：5回実施する 定期テスト（45%）：筆記試験を実施する  |       |           |
| 到達目標      | 1. 毎授業で、最低1つの用語を理解し、説明できるようになる 2. 心理学の用語を、日常生活における現象を例として説明できるようになる  |       |           |
| 準備学習      | 特別なことは要求しないが、毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にもかかわるため、各講義の内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けてほしい 特に何かある場合は、講義中に指示する   |       |           |

#### 受講者への要望

受講するからには有意義な時間としていただきたいと考え以下のことを求めます。|1. 毎回の講義から何か一つでも学ぼう、など自分なりの目標を持って参加してください。|2. 講義中の私語、携帯電話による通話などは厳禁です。他の受講者の迷惑となります。場合によっては退室を求めます。|3. 質問は講義後をお願いします。ただし、のちの内容の理解に支障をきたすような疑問の場合にはその場で答えます。|4. 春学期開講科目の心理学入門Ⅰを受講しておくことが望ましい。講義内容の理解がしやすくなると思います。

#### 講義の順序とポイント

1 講義概要 心理学について|2 喜怒哀楽を考える -感情とは|3 悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか -感情の理論（小テスト）|4 血液型で性格はわかるのか -性格の考え方|5 性格は変えられる？ -性格の規定因（小テスト）|6 人に話すことの意味 -自己開示|7 人によく思われたい -自己呈示|8 なぜそうしたの？ -帰属過程（小テスト）|9 魅力的な人とは -人間関係の始まり|10 友達は大事 -ソーシャルサポート|11 電車で席を譲りますか？ -援助行動（小テスト）|12 心の健康 -精神的健康とストレス|13 ストレスとの付き合い方 -ストレス過程|14 ストレスに強い人、弱い人 -影響要因（小テスト）|15 まとめと質問

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50364001 |
| 科目名        | 心理アセスメント   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Psychological Assessment   |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、授業では心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になればと思う。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。これらの検査の限界と効用の両方をバランスよく学んでほしい。また心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどにもふれる。さらに、心理的異常についても、DSM（精神障害の診断と統計の手引き）にそって概要を解説しておきたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>下山晴彦編「よくわかる臨床心理学 改訂新版」2009 ミネルヴァ書房 皆藤章編「よくわかる心理臨床」2007 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。</p>  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント類を使用する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度による平常点（50%）。授業内まとめ作業の成果の提出（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 心理アセスメントに関する基本的な考え方を身につけ、代表的な心理検査についてその概要を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 講義内容をよく整理し、次の授業にそなえてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.はじめに～アセスメントとは何か  2.初回面接を中心に  3.面接法や観察法  4.検査法（1）質問紙法や投影法、作業検査法  5. 同 （2）知能・発達検査法  6. 同 （3）家族に関する検査法  7. 同 （4）その他のアセスメントに関すること  8.前半のまとめ  9.精神障害と臨床心理学 10.診断名（1）統合失調症や気分障害 11. 同 （2）不安障害や身体表現性障害、解離性障害 12. 同 （3）摂食障害や性同一性障害、性障害 13 同 （4）パーソナリティ障害と発達障害 14.その他の障害や事象 15.後半のまとめ ※講義の内容や順序は変更されることがある。  </p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50365001 |
| 科目名        | 心理学への招待   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Invitation to Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本学心理学科各教員の専門領域等について、入門的に解説する。心理学全般については他の学科でも扱うが、この科目では教員（全員ではない）が交代で自分の専門領域を中心に授業を行う。心理学のさまざまな分野の講義を通して受講することにより分野間で共通する心理学の視点を身につけるとともに、領域ごとのとりあげる内容や人間へのアプローチの違いを理解して欲しい。そのことによって、上級学年での専門的学習へとつながってゆけばよいと考える。</p>                          |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業のなかで適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、プリント等を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。レポート(50%)。 各授業担当教員から、それぞれレポート課題が出題される。   |       |           |
| 到達目標       | 心理学という学問の全体像をつかむとともに、心理学諸領域の内容の違いを理解する。 上級学年で専門的に学習する心理学領域についてのイメージを身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 人間の心や行動に関わるさまざまな問題について日頃から意識を高め、授業内容との関係を考えること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 上級学年における専門的学習へのオリエンテーションとなる大切な授業なので、他の授業同様、熱心な受講を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1回 久保克彦（はじめに） 第 2回 久保克彦（医療心理学） 第 3回 久保克彦 第 4回 小川嗣夫（認知心理学） 第 5回 小川嗣夫 第 6回 橋本尚子（臨床心理学） 第 7回 橋本尚子 第 8回 行廣隆次（思考心理学） 第 9回 行廣隆次 第 10回 川畑 隆（発達臨床心理学） 第 11回 川畑 隆 第 12回 有馬淑子（社会心理学） 第 13回 有馬淑子 第 14回 山 愛美（心理臨床学） 第 15回 山 愛美 （講義の順序は変更になることがあります） </p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5036500A |
| 科目名        | 心理学への招待  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Invitation to Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本学心理学科各教員の専門領域等について、入門的に解説する。心理学全般については他の学科でも扱うが、この科目では教員（全員ではない）が交代で自分の専門領域を中心に授業を行う。心理学のさまざまな分野の講義を通して受講することにより分野間で共通する心理学の視点を身につけるとともに、領域ごとのとりあげる内容や人間へのアプローチの違いを理解して欲しい。そのことによって、上級学年での専門的学習へとつながってゆけばよいと考える。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業のなかで適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。レポート(50%)。 各授業担当教員から、それぞれレポート課題が出題される。  |       |           |
| 到達目標       | 心理学という学問の全体像をつかむとともに、心理学諸領域の内容の違いを理解する。 上級学年で専門的に学習する心理学領域についてのイメージを身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 人間の心や行動に関わるさまざまな問題について日頃から意識を高め、授業内容との関係を考えること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 上級学年における専門的学習へのオリエンテーションとなる大切な授業なので、他の授業同様、熱心な受講を期待する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回 久保克彦（はじめに） 第 2 回 久保克彦（医療心理学） 第 3 回 久保克彦 第 4 回 小川嗣夫（認知心理学） 第 5 回 小川嗣夫 第 6 回 橋本尚子（臨床心理学） 第 7 回 橋本尚子 第 8 回 行廣隆次（思考心理学） 第 9 回 行廣隆次 第 10 回 川畑 隆（発達臨床心理学） 第 11 回 川畑 隆 第 12 回 有馬淑子（社会心理学） 第 13 回 有馬淑子 第 14 回 山 愛美（心理臨床学） 第 15 回 山 愛美 （講義の順序は変更になることがあります） </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50366001 |
| 科目名        | 心理学概論  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ヒトの心は、きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが、脳を機能させているのは、やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は、心理学である。しかし、「心」を直接観察したり、分析することはできないので、実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は、人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。  本講では、心理学の歴史的展開を眺めながら、心理学の各領域についてある程度を深く論述する。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）  |       |           |
| 到達目標       | 日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 講義を聴くだけでなく、配付された資料を深く理解するために、複数の心理学概論書を参考に勉学すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>①授業には必ず出席してください。  ②授業内容は、心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。  ③資料をしっかりと勉強しなければ、簡単に単位が取れる訳ではありません。  </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 心理学とは何か：「心理学」という用語  2. 心理学の課題と方法  3. 心理学の領域と課題  4. 心理学の歴史的展開：①連合主義、②感覚・知覚研究 5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学、④心理学の独立  6. 心理学の歴史的展開：⑤19世紀末の心理学、⑥比較心理学  7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学、⑧精神分析学 8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学 9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義、⑪新行動主義  10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学、⑬発達心理学  11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学、⑮臨床心理学  12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか  13. 脳と心：②脳と神経  14. 脳と心：③生理心理学  15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎  16. 知覚：②知覚範囲  17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界  18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界  19. 知覚：⑤意味づけられた世界  20. 知覚：⑥注意  21. 学習：①学習とは何か  22. 学習：②行動主義と学習理論  23. 学習：③媒介理論  24. 学習：④オペラント条件づけ  25. 記憶：①記憶のしくみ  26. 記憶：②記録のメカニズム  27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却  28. 記憶：④ワーキングメモリー 29. 記憶の情報処理過程 30. 日常性の記憶 </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50367A0A |
| 科目名        | 心理学基礎実験 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Experiments in Psychology A   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>実験の概要   心理学基礎実験 A では、心理学の代表的な実験をできるだけ多く実習することによって、心理学の基本的な実験方法、データの分析法、レポートの作成法などを学修することを目的とする。   この授業は、小川のほか、有馬先生、行廣先生、赤間先生が担当し、各授業時間に実験課題を提示します。それらの実験課題について、グループごとに実験計画に従って実験を実施し、データを収集する。なお、授業時間内に十分なデータを収集できない場合には、授業時間外にも実験を行いデータを収集する。各グループで得られたデータを全員が共有して各自がデータを分析し、可能な解釈や説明などを加えて実験のレポートを提出する、という方法で授業を進める。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』ブレーン出版, 2004   小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい2』ブレーン出版, 2005   小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい3』ブレーン出版, 2008</p>   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) は出席状況等による。実験レポート (60%)  |       |           |
| 到達目標       | <p>実験を実施し、得られたデータを分析し、レポートに仕上げるのが、授業の狭義の目標であるが、広義には、 心理学実験によって、人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。</p>   |       |           |
| 準備学習       | レポート作成  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>この授業は、実験実習です。授業に出席して実験に参加し、データを分析して、レポートを提出しなければなりません。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>最初の授業では、実験プログラムの使い方などのオリエンテーションを行う。   &lt;実験課題の例&gt;   (1) 社会心理学   ① 集団知   ② 集団記憶   ③ 錯誤帰属   ④ 囚人ジレンマゲーム   ⑤ 複雑適応系シミュレーション   (2) 感覚・知覚   ⑥ 錯視   ⑦ 動きの知覚   ⑧ 瞬間情報処理   ⑨ 時間順序   ⑩ ヒューマン・エラー   (3) 記憶   ⑪ 形態処理と音韻処理   ⑫ 記憶検索   (4) 思考・推論   ⑬ 帰納推論   ⑭ 確率推論   ⑮ 意思決定</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50367A0B |
| 科目名        | 心理学基礎実験 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Experiments in Psychology A  |       |           |
| 担当者名       | 赤間 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>実験の概要   心理学基礎実験 A では、心理学の代表的な実験をできるだけ多く実習することによって、心理学の基本的な実験方法、データの分析法、レポートの作成法などを学修することを目的とする。   この授業は、小川の他、有馬先生、行廣先生、赤間先生が担当し、各授業時間に実験課題を提示します。それらの実験課題について、グループごとに実験計画に従って実験を実施し、データを収集する。なお、授業時間内に十分なデータを収集できない場合には、授業時間外にも実験を行いデータを収集する。各グループで得られたデータを全員が共有して各自がデータを分析し、可能な解釈や説明などを加えて実験のレポートを提出する、という方法で授業を進める。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』ブレーン出版, 2004   小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい 2』ブレーン出版, 2005   小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい 3』ブレーン出版, 2008</p>  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) は出席状況等による。実験レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標       | <p>実験を実施し、得られたデータを分析し、レポートに仕上げるのが、授業の狭義の目標であるが、広義には、 心理学実験によって、人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。</p>  |       |           |
| 準備学習       | レポート作成   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>この授業は、実験実習です。授業に出席して実験に参加し、データを分析して、レポートを提出しなければなりません。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>最初の授業では、実験プログラムの使い方などのオリエンテーションを行う。   &lt;実験課題の例&gt;   (1) 社会心理学   ① 集団知   ② 集団記憶   ③ 錯誤帰属   ④ 囚人ジレンマゲーム   ⑤ 複雑適応系シミュレーション   (2) 感覚・知覚   ⑥ 錯視   ⑦ 動きの知覚   ⑧ 瞬間情報処理   ⑨ 時間順序   ⑩ ヒューマン・エラー   (3) 記憶   ⑪ 形態処理と音韻処理   ⑫ 記憶検索   (4) 思考・推論   ⑬ 帰納推論   ⑭ 確率推論   ⑮ 意思決定</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50367B0A |
| 科目名  | 心理学基礎実験B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Experiments in Psychology B  |       |           |
| 担当者名   | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>人間を理解するための心理学的方法には、観察法、実験法、面接法、調査法、心理検査法などがある。人間の行動を観察して、行動の法則性を明らかにすることは可能だが、感情や欲求、動機づけといった人間の心の中で生起する主観的なものの解明には、面接法、質問紙法、心理検査法といった研究方法が必要である。それぞれの研究方法には長所と短所があるが、心理学の研究を行う際には、その特徴を理解した上で、自らのテーマに沿った研究方法を選ぶことが必要である。  本実験では、これらの研究方法についてその概要を学ぶと共に、それを用いたデータの収集・分析、報告書の作成の仕方などについて学習する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | <p>中澤潤、他 『心理学マニュアル 観察法』 北大路書房   鎌原雅彦、他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房   保坂亨、他 『心理学マニュアル 面接法』 北大路書房</p>  |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>B.フィンドレイ著 細江達郎訳 『心理学実験・研究レポートの書き方』 北大路書房</p>  |       |           |
| 教材（その他）  | <p>実施する具体的内容について記載したプリントを配布する。</p>   |       |           |
| 評価方法   | <p>平常点およびレポートを総合して評価する。片方だけでは評価の対象とならないので、注意すること。</p>  |       |           |
| 到達目標   | <p>心理学の基本的な研究方法である観察法、面接法、質問紙法、心理検査法を習得する。</p>   |       |           |
| 準備学習   | <p>授業中に指示する。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁です。  授業への出席とレポート提出はセットになっています。一方だけではカウントされません。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 心理学実験の方法論／基礎実習   2 心理検査法 1   3 観察法 1   4 観察法 2   5 面接法   6 データベース検索   7 質問紙法 1   8 質問紙法 2   9 質問紙法 3   10 心理検査法 2   11 質問紙法 4   12 質問紙法 5   13 質問紙法 6   14 心理検査法 3   15 心理検査法 4   ※講義の内容と順序は変更されることがある。</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50367B0B |
| 科目名   | 心理学基礎実験B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Experiments in Psychology B   |       |           |
| 担当者名  | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 人間を理解するための心理学的方法には、観察法、実験法、面接法、調査法、心理検査法などがある。人間の行動を観察して、行動の法則性を明らかにすることは可能だが、感情や欲求、動機づけといった人間の心の中で生起する主観的なものの解明には、面接法、質問紙法、心理検査法といった研究方法が必要である。それぞれの研究方法には長所と短所があるが、心理学の研究を行う際には、その特徴を理解した上で、自らのテーマに沿った研究方法を選ぶことが必要である。  本実験では、これらの研究方法についてその概要を学ぶと共に、それを用いたデータの収集・分析、報告書の作成の仕方などについて学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 中澤潤、他 『心理学マニュアル 観察法』 北大路書房   鎌原雅彦、他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房   保坂亨、他 『心理学マニュアル 面接法』 北大路書房  |       |           |
| 教材（参考文献）  | B.フィンドレイ著 細江達郎訳 『心理学実験・研究レポートの書き方』 北大路書房  |       |           |
| 教材（その他）   | 実施する具体的内容について記載したプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点およびレポートを総合して評価する。片方だけでは評価の対象とならないので、注意すること。  |       |           |
| 到達目標  | 心理学の基本的な研究方法である観察法、面接法、質問紙法、心理検査法を習得する。   |       |           |
| 準備学習  | 授業中に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁です。  授業への出席とレポート提出はセットになっています。一方だけではカウントされません。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 心理学実験の方法論／基礎実習   2 心理検査法 1   3 観察法 1   4 観察法 2   5 面接法   6 データベース検索   7 質問紙法 1   8 質問紙法 2   9 質問紙法 3   10 心理検査法 2   11 質問紙法 4   12 質問紙法 5   13 質問紙法 6   14 心理検査法 3   15 心理検査法 4   ※講義の内容と順序は変更されることがある。 |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50369001 |
| 科目名   | 心理学研究法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Research Methods in Psychology                                |       |           |
| 担当者名  | 菊野 春雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 研究の計画を建て、実験・調査を実施し、データ分析するまでのスキルを習得する。また、心理学研究における倫理規定についても学ぶ |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(40%)、日常のレポート(30%)、最終課題(30%)に基づいて評価する。                     |       |           |
| 到達目標  | 本授業では、研究の計画を建てるスキル、実験・調査を実施するスキル、データ分析するまでのスキルを習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 授業中の指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業に対しては、受身的ではなく、積極的主体的に参加してほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1～3. 研究計画の建て方  4～6. 実験法  知覚実験  記憶実験  発達実験  7～9. 質問紙調査法  10～12. データの入力の仕方、図表の作成の方法  13～15. 心理学研究における倫理規定 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5037000A |
| 科目名        | 心理学初級実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Preliminary Laboratory in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業では、日常生活における心理的事象に関して、観察法と調査法、検査法、実験を用いてデータを収集し、分析・解釈するための基礎的な心理学研究法を学びます。観察、調査、実験等の課題を実施し、レポートを提出させる方法で授業を進める。  なお、授業は、小川の他、赤間先生、福田先生、大学院生（TA）の協力を得て、進めます。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）は出席状況等による。レポート（60%）   |       |           |
| 到達目標       | 心理学における初歩的研究法による人間の理解   |       |           |
| 準備学習       | レポート作成  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業には必ず出席し、必ずレポートを提出すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>&lt;観察、調査、実験課題の例&gt;  第1回 初級実験の進め方とレポートの書き方 （1）観察法  第2回 日常場面の行動観察  第3回 発話場面での「手の動き」の観察 （2）調査法  第4回 友人関係における同調性傾向と心理的距離  第5回 自己同一性と愛着  第6回 セルフモニタリングと社会的スキル  第7回 ストレスコーピング （3）実験法  第8回 パーソナルスペースの実験実施  第9回 急速反復書字法によるヒューマン・エラー  第10回 動きの知覚  第11回 重さの知覚  第12回 明度対比  第13回 風景の記憶  第14回 手がかり再生の効果  第15回 音楽と問題解決</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50372A0A |
| 科目名        | 心理学専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IA in Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 3回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて4回生の演習IIで卒業研究を行うことになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。  |       |           |
| 到達目標       | ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。   |       |           |
| 準備学習       | 社会心理学 I・II、シミュレーション&ゲーミング、社会心理学上級実験を履修のこと  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。  |       |           |
|            | 講義の順序とポイント   |       |           |
|            | 1～2. 方法論概論  3～6. 文献探索  7～14. 文献報告  15. 春学期まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50372A0B |
| 科目名        | 心理学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IA in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、主として下記の領域に関する内外の文献を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。そのような文献研究が卒業研究のテーマ設定や、論文作成に際して序論や考察の論述に役立つよう配慮する。  (1) 視覚認知に関する研究   (2) 記憶認知に関する研究   (3) 人間の情動および認知活動の生理的指標による研究 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) は出席状況等による。研究発表 (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 人間の情動と認知活動を探究できる能力を身につけさせる。   |       |           |
| 準備学習       | レジュメ作成  |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1~5回 研究テーマを設定する。 第6~10回 文献収集を行う。 第11~15回 レジュメを作成して発表する。  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50372A0C |
| 科目名        | 心理学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IA in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて、認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが、次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では、演習を進めるための基本的知識の共有をはかる。そのために、認知心理学の基本的な枠組みや、取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を中心に演習を進める。 また、将来のキャリアを見据えた専門分野の学習について考える機会を設ける。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業中に文献を紹介する   |       |           |
| 評価方法       | 演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 認知心理学に関する基礎的知識を習得する。 演習での発表と討論の仕方を習得する。 批判的に考える習慣を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。テーマとなる文献を読んでおくことや、発表の準備等が、授業ごとに求められる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので、積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学の学習と進路について 3. 文献購読 4. 文献購読 5. 文献購読 6. 文献購読 7. 文献購読 8. 心理学の学習と進路について 9. 文献購読 10. 文献購読 11. 文献購読 12. 心理学の学習と進路について 13. 文献購読 14. 文献購読 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50372B0A |
| 科目名        | 心理学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 3回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて4回生の演習IIで卒業研究を行うことになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。   |       |           |
| 到達目標       | 実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 社会心理学 I・II、シミュレーション&ゲーミング、社会心理学上級実験を履修のこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～3. テーマ設定  4～8. 研究計画  9～14. 報告・検討会  15. 秋学期のまとめ  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50372B0B |
| 科目名        | 心理学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、主として下記の領域に関する内外の文献を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。そのような文献研究が卒業研究のテーマ設定や、論文作成に際して序論や考察の論述に役立つよう配慮する。  (1) 視覚認知に関する研究   (2) 記憶認知に関する研究   (3) 人間の情動および認知活動の生理的指標による研究 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) は出席状況等による。研究発表 (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 人間の情動と認知活動を探究できる能力を身につけさせる。   |       |           |
| 準備学習       | レジュメ作成  |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1~5 回 研究テーマを設定する。 第 6~10 回 文献収集を行う。 第 11~15 回 レジュメを作成して発表する。  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50372B0C |
| 科目名        | 心理学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて、認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが、次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では、受講生自らの興味をもとに、関連する研究文献を収集し、その購読と発表を行うことを中心とする。                              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業中に文献を紹介する   |       |           |
| 評価方法       | 演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 心理学論文の読み方を習得する。 文献検索等による文献の探し方を身につける。 批判的に考える習慣を身につける。 卒業研究に向けた方向付けを決定する。   |       |           |
| 準備学習       | 各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。テーマとなる文献を読んでおくことや、発表の準備等が、授業ごとに求められる   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので、積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究テーマの設定 2. 文献検索の方法 3. 文献購読および発表 4. 文献購読および発表 5. 文献購読および発表 6. 文献購読および発表 7. 文献購読および発表 8. 文献購読および発表 9. 文献購読および発表 10. 文献購読および発表 11. 文献購読および発表 12. 文献購読および発表 13. 卒業研究にむけた研究計画検討 14. 卒業研究にむけた研究計画検討 15. まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50374A0A |
| 科目名        | 心理学専門演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIA in Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 3回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分(6000字)程度の分量を目安としている。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。   |       |           |
| 到達目標       | 実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。3回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
|            | 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。   |       |           |
|            | 講義の順序とポイント  |       |           |
|            | 1~3. 中間発表 4~8. 研究実施 9~14. 報告・検討会  15. 春学期のまとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50374A0B |
| 科目名        | 心理学専門演習ⅡA   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar IIA in Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、心理学専門演習ⅠAにおいて研究した課題等をさらに発展させ、卒業研究として成果を発表できるよう指導する。  下記の領域に関する内外の文献を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。卒業研究のテーマ設定や、論文の作成を指導する。  （１）視覚認知に関する研究   （２）記憶認知に関する研究   （３）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 人間の認知活動を探究できる能力を身につけさせる。  |       |           |
| 準備学習       | レジュメ作成  |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1～5回 研究テーマを設定する。 第6～10回 文献収集を行う。 第11～15回 レジュメを作成して発表する。卒業研究を作成する。  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50374A0C |
| 科目名  | 心理学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar IIA in Psychology  |       |           |
| 担当者名   | 行廣 隆次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて、認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習 I A・B で行った学習をもとに、各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い、卒業研究を進める。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 文献の批判的な読み方を身につける。 卒業研究の研究計画を完成する。  |       |           |
| 準備学習   | 各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。テーマとなる文献を読んでおくことや、発表の準備等が、授業ごとに求められる。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので、積極的な参加を希望する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 年間の研究進行計画の立案 2. 卒業研究のテーマ検討 3. 卒業研究のテーマ検討 4. 研究計画の発表と検討 5. 研究計画の発表と検討 6. 研究計画の発表と検討 7. 研究計画の発表と検討 8. 研究計画の発表と検討 9. 実験・調査の実施 10. 実験・調査の実施 11. 実験・調査の実施 12. 実験・調査の実施 13. 実験・調査の実施 14. 実験・調査の実施 15. 春学期のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50374B0A |
| 科目名        | 心理学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIB in Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 3回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分(6000字)程度の分量を目安としている。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。   |       |           |
| 到達目標       | 実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。3回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
|            | 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。   |       |           |
|            | 講義の順序とポイント  |       |           |
|            | 1~3. 中間発表 4~8. 研究実施 9~14. 報告・検討会  15. 春学期のまとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50374B0B |
| 科目名        | 心理学専門演習ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar IIB in Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、心理学専門演習ⅡAにおいて研究した課題等をさらに発展させ、卒業研究として成果を発表できるよう指導する。  下記の領域に関する内外の文献を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。卒業研究のテーマ設定や、論文の作成を指導する。  （1）視覚認知に関する研究   （2）記憶認知に関する研究   （3）人間の情動および認知活動の生理的指標による研究 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 人間の認知活動を探究できる能力を身につけさせる。  |       |           |
| 準備学習       | レジュメ作成  |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学概論および認知心理学を履修しておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1～5回 研究テーマを設定する。 第6～10回 文献収集を行う。 第11～15回 レジュメを作成して発表する。卒業研究を作成する。  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50374B0C |
| 科目名  | 心理学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar IIB in Psychology  |       |           |
| 担当者名   | 行廣 隆次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて、認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習 I A・B, II A で行った学習をもとに、各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い、卒業研究を完成させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と、卒業研究に関する研究発表(30%)によって評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 卒業研究を進め、論文を完成させる。 研究発表の技術を習得する。  |       |           |
| 準備学習   | 各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。テーマとなる文献を読んでおくことや、発表の準備等が、授業ごとに求められる。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので、積極的な参加を希望する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 研究の進行状況に関する発表と討論 2. 実験・調査の実施 3. 実験・調査の実施 4. 実験・調査の実施 5. 実験・調査の実施 6. 実験・調査の結果分析 7. 実験・調査の結果分析 8. 実験・調査の結果分析 9. 実験・調査の結果分析 10. 論文作成 11. 論文作成 12. 論文作成 13. 研究発表の準備と練習 14. 研究発表の準備と練習 15. 研究発表会 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50378001 |
| 科目名        | 心理測定法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Psychological Measurement  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して、「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として、尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また、心理尺度の構成や、尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小塩真司（2011）『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第2版]』東京図書 2,940円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配付する。   |       |           |
| 評価方法       | レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト30%，期末試験40%。  |       |           |
| 到達目標       | 質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」を履修済であること（あるいは、同等の内容を既に習得していること）。 毎回、課題を出題する。課題の内容は、授業内容の確認や、学習した分析手法をPCの統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み、次の授業に出席すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内容は易しくないで、毎回授業に積極的に参加し、さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。 学習内容の積み上げが重要な科目であるので、遅刻や欠席をしないこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識 2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線 3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説 4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説 5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際 6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際 7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル 8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法 9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針 10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法 11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想 12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル 13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際 14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準 15. 授業内容の整理 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50380A01 |
| 科目名        | 心理統計学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Statistical Methods in Psychology I  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次  | 旧科目名称 | 心理統計学入門   |
| 講義概要       | 心理学研究では、データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では、質的変数と量的変数のそれぞれについて、分析の視点、データの収集と整理の方法、分析結果の解釈の仕方について、記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して、自ら収集したデータを解析できる能力、また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 山田剛史・村井潤一郎 (2004) 『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2,940 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回プリントを配布  |       |           |
| 評価方法       | レポート課題 (授業ごとに毎回出題, 30%) および学期末試験 (70%) を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 心理学研究に必要な統計手法のうち、表やグラフの作成、要約指標 (平均、標準偏差、相関係数、等) の算出と、これらの利用方法を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の課題に必ず取り組むとともに、各回の授業内容をよく復習して、次回の授業に臨むこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので、遅刻や欠席は厳禁である。|授業には電卓を準備すること。|講義内容をただ聞いているのではなく、演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。|毎回、学習内容を確認するための課題を出題する。

#### 講義の順序とポイント

1. 統計データの役割、種類、収集の方法|2. 変数のタイプ分類 (量的変数と質的変数) とその分析の視点|3. 質的変数 (カテゴリカル変数) の分析(1): クロス集計表を用いた記述、比率の比較|4. 質的変数 (カテゴリカル変数) の分析(2): 連関と連関係数|5. 量的変数の分析(1): 度数分布とヒストグラム、代表値|6. 量的変数の分析(2): 代表値と散布度、グラフによる記述|7. 量的変数の分析(3): 変数の標準化と集団内での相対的位置の評価、正規分布|8. 量的変数の条件間比較(1): 条件間比較のポイント、グラフを用いた比較、散布度の重要性、効果量|9. 量的変数の条件間比較(2): t 検定の概説|10. 量的変数の条件間比較(3): 対応のあるデータ (反復測定データ) の性質とその分析方法|11. 量的変数の条件間比較(4): 分布の偏りに関する留意点、平均と中央値の違い|12. 二つの量的変数間の関係の分析(1): 散布図と相関係数|13. 二つの量的変数間の関係の分析(2): 相関係数の算出方法と特性|14. 二つの量的変数間の関係の分析(3): 相関の解釈における留意点、相関関係と因果関係|15. 授業のまとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50380B01 |
| 科目名        | 心理統計学Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Statistical Methods in Psychology II  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次   | 旧科目名称 | 心理統計学     |
| 講義概要       | 心理学を学ぶ学生が、研究に必要な統計的手法を理解し、自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学Ⅱでは、心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について、推測統計的手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で、各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと、分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また、分析を正しく使用するために必要な、分析手法の原理の解説を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2,940円   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配布   |       |           |
| 評価方法       | レポート課題（授業ごとに毎回出題，30％）および学期末試験（70％）を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 心理統計学Ⅰでの学習内容を基礎として、以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理 (2) 各種の統計的検定の目的と使用方法 (3) 特に、分散分析の原理と使用方法、結果の意味  |       |           |
| 準備学習       | 心理統計学Ⅰを先に履修していること。 毎回の課題に必ず取り組むとともに、各回の授業内容をよく復習して、次回の授業に臨むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学習内容の積み重ねが重要な科目であるので、遅刻や欠席は厳禁である。 授業には電卓を準備すること。 講義内容をただ聞いているのではなく、演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。 毎回、学習内容を確認するための課題を出題する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点 2. 統計的検定の原理(1)： t検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本概念 3. 統計的検定の原理(2)： 確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布） 4. 統計的検定の原理(3)： 帰無仮説と対立仮説，第1種の誤りと第2種の誤り，検定力 5. 相関係数に関する検定 6. クロス集計表の独立性の検定 7. 検定手法の選択基準と手法間の関係 8. 一要因分散分析 9. 二要因分散分析(1)： 要因と水準，各要因の主効果 10. 二要因分散分析(2)： 交互作用効果 11. 二要因分散分析(3)： 主効果と交互作用の意味と解釈 12. 多重比較，単純効果の検定 13. 被験者内要因の分散分析 14. ノンパラメトリック検定 15. 授業のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J5038300A |
| 科目名   | 心理面接実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Training in Counseling  |       |           |
| 担当者名  | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>カウンセリングの技法は厳密にはカウンセリングの理論の数だけあると言えるし、またその修得には長い年月とエネルギーを要する。従って一人前のカウンセラーとして活動できるようになるためには相当の訓練が必要であり、それにとまなう知識も重要になってくる。  ただ、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となるのは、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法であると考えられるので、本実習においては、ロールプレイやその逐語録の分析を通して、カウンセリング的応答の基礎的訓練を行なう。  また、その時にはカウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であり、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱおよびカウンセリング論で使用しているテキストは、各自準備しておくこと。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要な図書は、授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要な図書は、授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業中の発表・平常点 50% 及び レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | カウンセリングの基礎となるロジャーズの理論について、深く学習すること。カウンセリング論での体験について、自分なりに整理をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験B、カウンセリング論の単位取得済みであることが必要。                      |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1～3 カウンセリングの基礎   4～6 ロールプレイ 1   7～8 結果の検討および討論   9～12 ロールプレイ 2   13～14 結果の検討及び討論   15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J5038500A |
| 科目名   | 心理療法実習  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Training in Psychotherapy   |       |           |
| 担当者名  | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 実習を通して他者と関わり、自分を知ること为目标とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考えることや、他者に意見や気持ちを伝えることも学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価   |       |           |
| 到達目標  | 実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。                                  |       |           |
| 準備学習  | 心理療法について多くの文献に接すること   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 自主的に学ぼうとする姿勢を大切にしてください。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1、オリエンテーション 2、バウムテスト、風景構成法 3、グループでの討論 4、箱庭 5、グループでの討論 6、コラージュ 7、グループでのコラージュ 8、言語連想 9、心理テスト 10、スクイグル 11、事例についてグループで討論 12、ロールプレイ 13、事例を読む 14、夢分析 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50391001 |
| 科目名        | 深層心理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Depth Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 深層心理学においては、心のなかに無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学を基盤とした視点に立ち、昔話、児童文学、芸術作品などを素材にして深く人間の心について洞察することを試みる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に配布する。 文献については適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内に課す課題（70%） 読書レポート課題（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 深層心理学的な見方の基礎を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 参考文献の中から自らの興味、関心に合わせて何冊かは読むこと。 注)読書レポート課題を出す。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・私語は厳禁。場合によっては退席を求める。 能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション（講義の進め方など） 読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。 2 深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界） 3 現代社会と心の問題について 4 フロイトとその生涯—無意識の発見 5 フロイトの理論 6 ユング—その人と生涯 7 ユングの考え方（1） 8 ユングの考え方（2） 9 ユングの考え方（3）  10 心の深層と表現（1） 11 心の深層と表現（2） 12 心の深層と表現（3） 13 昔話の深層心理学的アプローチ  14 昔話の比較文化的アプローチ 15 まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50395001 |
| 科目名  | 人格心理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Personality Psychology   |       |           |
| 担当者名   | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間のパーソナリティをどのように捉え、どのように理解するのかは人格心理学ないしは心理学における中核的な課題である。本講義では、まず人格心理学における基本的な内容ーパーソナリティの認知、理論、構造、発達、理解などーを一通りおさえる。その上で、人間の心についてテーマを定めて、映画などをマテリアルとして深層心理学的、臨床心理学的な視点から考察を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 講義中配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中紹介  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内に課す課題 50% 定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標   | 人間のパーソナリティについて理解する上で基本的な理論を理解し、 現代社会に生きる人間の心に纏わるさまざまな問題の深い理解につなげること。   |       |           |
| 準備学習   | 心理学に限らず読書の幅を広げる事。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。 能動的に授業に出席すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 オリエンテーションーどのように学ぶか   「私」の歴史について考える 2 パーソナリティの認知 3 パーソナリティの理論 4 パーソナリティの構造 5 パーソナリティの発達 (1) 6 パーソナリティの発達 (2) 7 パーソナリティの理解 心理テスト実習 8 子どもの心の世界について考える (1) テーマ：目に見えないものを見る 9 解説 授業内レポート 10 心について理解を深める(1) テーマ：心の変容について 11 心について理解を深める(2) 12 解説 授業内レポート 13 適応とは？まとめ 14 子どもの心の世界について考える (2) テーマ：子どもの遊びに見る宗教性 15 解説 授業内レポート |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                       |   |       |           |
|---------------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                                    | 2012  | 授業コード | J50410A0A |
| 科目名                                   | 歴史民俗学資料講読（歴史地理）A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                             | Reading: Historical Folklore Materials ( Historical Geography) A  |       |           |
| 担当者名                                  | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                  | <p>歴史民俗学講読（歴史地理学）A では、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 を講読します。本書は分かりやすい英文で書かれており、初心者には最適のテキストです。  本講読では、本書第1章の「The Origins of the Vikings」を読みます。受講者には、事前にコピーを配付し、訳してきてもらいます。英語の授業ではないので、主に書かれている内容について解説します。また、英語に自信のない学生も、ゆっくり訳していきますので、受講して下さい。英語で専門書を読みたいという学生ももちろん歓迎します。特に大学院進学を考えている学生は、英語が必要なので、受講することを勧めます。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）                              | John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の講読部分をコピーして配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）                              | 適宜紹介  |       |           |
| 教材（その他）                               | 配布資料  |       |           |
| 評価方法                                  | 平常点（20%）、発表（60%）、レポート（20%）  |       |           |
| 到達目標                                  | 歴史地理学の基本的な英文を読めるようになること。  |       |           |
| 準備学習                                  | 配布資料の予習   |       |           |
| 受講者への要望                               |   |       |           |
| ノートパソコンで電子辞書を引き、訳文を作成していくことを望む。       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                            |   |       |           |
| 1 教科書の選定と解説  2～14 受講者による講読  15 まとめ・討論 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                  |  |       |           |
|----------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                               | 2012   | 授業コード | J50410B0A |
| 科目名                              | 歴史民俗学資料講読（歴史地理）B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                        | Reading: Historical Folklore Materials ( Historical Geography) A   |       |           |
| 担当者名                             | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                             | 歴史民俗学講読Bでは、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 のテーマ別に分かれたパートを受講生一人ずつに担当してもらい、レジュメを作成して発表する。  したがって、この歴史民俗学講読Bでは、ある程度の分量を訳してもらい、レジュメを作成した上での発表形式で行います。特に大学院進学を考えている学生は、専門的な英語が必要なので、受講することを勧めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）                         | 受講生と相談の上で変更する場合もある。  |       |           |
| 教材（参考文献）                         | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）                          | 受講生の作成したレジュメ   |       |           |
| 評価方法                             | 平常点（20%）、発表（60%）、レポート（20%）   |       |           |
| 到達目標                             | 歴史地理学の専門的な英文を読めるようになること。   |       |           |
| 準備学習                             | 教科書の予習と関連文献の把握   |       |           |
| 受講者への要望                          |  |       |           |
| 直訳ではなく日本語として理解できる翻訳文を作成する努力を要望   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                       |  |       |           |
| 1 教科書の選定と解説 2~14 受講者による講読 15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50411001 |
| 科目名        | 図書館概論 【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Library Science  |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>近年、情報技術の飛躍的発展とともに、資料は多様化を見せ、無定形の情報まで扱う時代が到来した。それとともに、図書館の館種も、大学図書館、企業などの専門図書館、小中学校、高校の学校図書館、自治体のサービス機関としての公共図書館など、各種多様になり、その相互の協力やネットワークが課題となってきた。さらにまた各個人のライフスタイルに合わせた種々の生涯学習機会を保障する機関としての意義も問われるに至った。つまり、サービス対象も、子どもから高齢者まで大きな広がりを持つとともに、生活圏の形成にも重要な役割を果たすことが期待されているのである。また、我が国のNGOが東南アジアで活動している国際教育援助のメニューとして、図書館サービスが加えられていることに見られるように、「人間らしさ」の基盤としての図書館という視点も浮上している。  本講義では、これらを念頭に置き、社会の急激な変化に対応する図書館像をさぐりたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 図書館の基本についての理解をし、司書という資格取得のための学識を得る。その学識には図書館の社会における位置、意義、歴史と現状、館種別図書館、利用者ニーズ、類縁機関との連携、図書館職員の役割と資格、社会的状況と展望等が含まれる。  |       |           |
| 準備学習       | 図書館および公共図書館の経営者たる地方公共団体への関心を常に必要とする。   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 図書館司書の資格を取る第一歩であるから、覚悟をしっかりとて受講するように。  |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | <p>1. 身近な図書館  2. 身近な図書館からさまざまな図書館へ  3. 図書館間ネットワーク  4. 図書館活動  5. 国際的な図書館活動  6. 読書の推進  7. 書誌コントロール  8. 情報の社会基盤整備  9. 資源の共有  10. 地域の資料  11. 図書館の自由と歴史  12. 図書館の経営  13. 図書館法をめぐる  14. 都市と図書館  15. 図書館の可能性</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50416001 |
| 科目名  | 政治社会学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Political Sociology   |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライバシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。 <br>なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）   |       |           |
| 到達目標   | 現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。  |       |           |
| 準備学習   | 日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に興味をもってほしい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。 2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて  2, 監視カメラの増加とプライバシー  3, 住民基本台帳ネットワークと個人情報の保護  4, 信教の自由と国家の強制力  5, 政教分離  6, 国旗の問題  7, 国歌の問題  8, 教科書検定  9, 愛国心とは何か  10, 民主主義の意味  11, 自由主義の意味  12, 国家の概念  13, 現在の天皇制の特色 14, 天皇制と民主主義の関わり 15, まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50420A01 |
| 科目名  | 生涯学習概論 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Lifelong Learning I   |       |           |
| 担当者名   | 土屋 尚子   | 旧科目名称 | 生涯学習概論 s  |
| 講義概要   | 2006 (平成18) 年12月に改正された教育基本法には、旧法にはなかった、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今、なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。  本講義では、代表的な生涯学習論、日本における生涯学習政策の歴史の変遷、現代の教育改革論議における生涯学習の位置づけなどから生涯学習の基本的原理について学習する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業中適宜プリントを配布する  |       |           |
| 評価方法   | A、B のどちらか好きな方を選ぶこと  A 平常点とテストの点数の混合 中間テスト (20%)  平常点 (40%) 出席状況、毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等 定期テスト (40%)   B テストの点数のみ 中間テスト (20%)  定期テスト (80%)   ※どちらの評価方法の場合も、中間テストを受験していることが、定期テストの受験資格となる   |       |           |
| 到達目標   | 生涯学習の基本原則を理論的観点、歴史的観点から理解できる  |       |           |
| 準備学習   | 自分の周囲にある、生涯学習関連施設 (センター、図書館、博物館、美術館、民間の学習施設等) を常に意識し、その活動内容に関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう ・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。①授業を聴いてわかったこと、②授業の内容に関する感想、意見、の二つのポイントで作成すること   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| ガイダンス 1 生涯学習の理論—ユネスコにおける生涯教育論 2 —OECD における生涯学習論 3<br>—日本における生涯学習政策 4 —石田梅岩の思想 5 中間テスト 6 日本社会と生涯学習政策—<br>イントロダクション 7 —学歴社会の是正① 8 —学歴社会の是正② 9 —<br>—日本型雇用制度の変化への対応 10 —<br>若年不安定就業者に対する支援 11 生涯学習と学校教育—ゆとり教育の推進 12 —奉仕・体験<br>活動の導入 13 生涯学習とスポーツ—生涯スポーツという考え方 14 —学校体育の変化 15<br>まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50420B01 |
| 科目名  | 生涯学習概論II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Learning II   |       |           |
| 担当者名   | 土屋 尚子  | 旧科目名称 | 生涯学習概論 f  |
| 講義概要   | 日本国憲法は、法の下での平等について規定し、社会的身分、門地、人種、信条又は性別による不当な差別を禁止している。その実現のために国は、様々な人権教育、人権啓発の活動を推進しているが、生涯学習政策の分野においても関連施策を策定し、実施している。  本講義では、生涯学習の中でも人権にかかわる領域をいくつかとりあげ、その実態を見ていきながら、人権問題の解決のために生涯学習が果たす役割について考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中適宜紹介する  |       |           |
| 教材（その他）  | 授業中適宜プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法   | A、Bのどちらか好きな方を選ぶこと  A 平常点とテストの点数の混合 平常点（40%）出席状況、毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等 中間テスト（20%） 定期テスト（40%）  B テストの点数のみ 中間テスト（20%） 定期テスト（80%）  ※どちらの評価方法も、中間テストを受験していることが定期テストの受験資格となります                           |       |           |
| 到達目標   | ・現代社会における人権問題への理解を深めること ・生涯学習において人権を学ぶことの意義を理解すること   |       |           |
| 準備学習   | 現代社会における人権問題を常に意識し、新聞、メディアに日々関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう ・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。①授業を聴いてわかったこと、②授業の内容に関する感想、意見、の二つのポイントで作成すること   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 生涯学習に関して留意すべきこと—管理装置としての側面 3 —再生産装置としての側面 4 「人権」を教える・学ぶということ 5 中間テスト 6 部落差別と生涯学習—教育を受ける権利の保障① 7 —教育を受ける権利の保障② 8 —識字運動の展開 9 —同和教育の存在意義をめぐる議論 10 女性差別と生涯学習—近代的性別役割分業論の成立と普及 11 —性別役割分業観が反映する学校教育 12 —男女共同参画学習政策の課題① 13 —男女共同参画学習政策の課題② 14 障害者差別と生涯学習—障害者の教育の歴史 15 —障害者の社会参画を目指して |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50425A01 |
| 科目名        | 生物学概論 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Biology A  |       |           |
| 担当者名       | 藤井 恒   | 旧科目名称 | 生物学概論 s   |
| 講義概要       | 生物学概論 A では、生物の体をつくる物質とその働き、細胞の構造と機能、生殖、遺伝子の働きと遺伝子工学について概説する。この講義では生物学的な知識だけでなく、最新の技術を応用したり、研究を行う際に留意すべき点などについても議論したい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業の時に、必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 筆記試験、レポート、発表等で総合評価する。詳しくは初回の講義で説明する。   |       |           |
| 到達目標       | 最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。   新しい高校生物の教科書 (ブルーボックス) 梶内 新・左巻 健男編  講談社 1260 円   高校の生物が根本からわかる本 細胞・代謝・発生・遺伝編  (社会人・大学生のための理数系再入門テキスト) 藤井 恒著  中経出版 1680 円   視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 数研出版編集部編  数研出版 924 円  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻、欠席をすると講義の内容を理解できなくなりますので、遅刻などをしないように。 講義中に意見を求めることがあります。積極的な参加を求めます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 注) 学生の理解度を確認しながら講義を進めるため、およその順序を示した。受講している学生の理解度によって、扱う項目の内容や、各項目毎の講義回数、順序などは多少変動するかもしれない。   1. 講義の受け方。科学的方法。  2~4 生体物質  生元素  水の重要性  糖質、脂質  タンパク質の構造と機能  ATP  核酸 (DNA、RNA)   5~7 細胞の構造と機能  原核細胞と真核細胞  生体膜の働き  真核細胞の構造と機能  8~9 細胞分裂と生殖  体細胞有糸分裂  減数分裂  配偶子形成  無性生殖と有性生殖  ヒトの生殖と発生  10~13 遺伝  遺伝子とゲノム  セントラルドグマ  DNA 合成  RNA 合成  タンパク質合成  14~15 遺伝子工学  遺伝子工学の基礎  応用例 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50425B01 |
| 科目名        | 生物学概論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Biology B   |       |           |
| 担当者名       | 藤井 恒  | 旧科目名称 | 生物学概論 f   |
| 講義概要       | 生物学概論Bでは、生物（特にヒト）のホメオスタシス（恒常性、内部環境を維持する現象）と生態系と環境問題について講義する。この講義では生物学的な知識だけでなく、最新の技術を応用したり、研究を行う際に留意すべき点などについても議論したい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の時に、必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 筆記試験、レポート、発表等で総合評価する。詳しくは初回の講義で説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 最近目にすることが多い生物学関連の用語の意味を正しく理解し、適切に使えるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 高校で生物、化学などを履修していた人は復習をしておく。 教科書その他を持っていない場合は、以下の本などを利用するとよい。   新しい高校生物の教科書（ブルーボックス） 梶内 新・左巻 健男編  講談社 1260 円   視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 数研出版編集部編  数研出版 924 円  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻、欠席をすると講義の内容を理解できなくなりますので、遅刻などをしないように。 講義中に意見を求めることがあります。積極的な参加を求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 注) 学生の理解度を確認しながら講義を進めるため、およその順序を示した。受講している学生の理解度によって、扱う項目の内容や、各項目毎の講義回数、順序などは多少変動するかもしれない。   1～12 ホメオスタシス  ホメオスタシスとは  体液の種類  血液の成分  血液凝固のしくみ  酸素と二酸化炭素の運搬  免疫のしくみ  液性調節（ホルモン）  神経調節 13～15 エコロジー  エコロジーとは  個体群  生態遷移  物質生産  環境問題 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50429001 |
| 科目名        | 西洋のゲームとスポーツ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Western Games and Sports   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本で広く知られていないスポーツとゲームを英語で習ったり練習したりする体験型異文化講座です。国際理解・交流を深めるため、スポーツやスポーツ文化を学ぶのが大事なカギです。日本ではあまり知られていないスポーツ（クリケット、オーストラリアン・フットボール、ネットボールなど）の起源、ルール、スキル、などを勉強しながら、実際に体で体験するのがこのコースの目標です。それに、外国の有名なボード・ゲーム、カード・ゲーム、子供の遊びを体験する場になります。受講生はゲームを由来、特徴、作戦などを学びながら、自分の考え方を広げる大切なチャンスです。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材を配布します。授業中に DVD も使用します   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20% 授業ないレポート 50% 定期試験 30%  |       |           |
| 到達目標       | 異国のスポーツやゲームを通して、外国の文化・歴史・風習などの理解を含めることや英語の理解力の向上を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 海外のスポーツやゲームについて調べておくことを勧める。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に毎回出席すること。各スポーツの「theory」の授業に出席しなければ次の週の「practice」体験授業に参加できませんので、ご了承ください。体験授業の日は必ず運動靴やスポーツウエアを着用してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. cricket? theory   2. cricket? practice (運動靴・ウエア必要)   3. cricket? practice (運動靴・ウエア必要)   4. Australian rules football? theory   5. Australian rules football? practice (運動靴・ウエア必要)   6. Australian rules football? practice (運動靴・ウエア必要)   7. netball? theory   8. netball? practice (運動靴・ウエア必要)   9. petanque? theory   10. petanque? practice (運動靴必要)   11. schoolyard games (運動靴必要)   12. board games   13. card games   14. other games   15. discussion/final test |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50430001 |
| 科目名        | 西洋の礼儀とマナー 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Western Etiquette and Manners   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | (1)フランスの社会で人に会うときのマナーを考える。 (2)西欧料理をいただく際のマナーを考える。 やさしいフランス語を覚えながら、すぐコミュニケーションできるように、そして、楽しく食事ができるように講義します。テーブル・セッティングの勉強も致します。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%   |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要なマナーの根本を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. 礼義と常識 3. 礼儀とマナーの関係 4. やさしいフランス語と礼儀 5. やさしいフランス語とマナー 6. 20代の人達のマナー 7. 20代の人達の礼儀 8. 自然に身につける思いやりとマナー― 9. お外のマナー 10. 家の中のマナー 11. マナーに必要な品々 12. マナー違反の賛沢 13. 気付かれていない気品 14. 礼儀とマナーの楽しさ 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5043600A |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 指導のもとで各自の卒業研究を完成させる  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 卒業研究100%   |       |           |
| 到達目標       | 12000字の論文を完成させる。またこれを通じて論理的思考や分析能力を培う。   |       |           |
| 準備学習       | 各自が選んだテーマに関連する文献を読み込むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分の選んだテーマを徹底的に追求してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.テーマの設定 2.研究計画 3.文献収集：一覧作成 4.先行研究の検討① 5.先行研究の検討② 6.先行研究の検討③ 7.先行研究の検討④ 8.論文指導① 9.論文指導② 10.論文指導③ 11.論文指導④ 12.論文指導⑤ 13.校正 14.製本 15.提出 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5043600B |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅠおよびⅡの演習を通して卒業研究を進め、卒業論文を執筆する。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。この主題にそったテーマを各自で選び、5人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文（100％）。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文を完成させること。   |       |           |
| 準備学習       | 講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「ヒューマン・コミュニケーション専門演習」に積極的に参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>《ヒューマン・コミュニケーション専門演習ⅡB》 1. ガイダンス 2. 中間報告会(1) 3. 中間報告会(2) 4. 中間報告会(3) 5. 中間報告会(4) 6. 中間報告会(5) 7. 長文ライティングのコツ(1) 8. 長文ライティングのコツ(2) 9. 卒業研究の作成と相互添削(1) 10. 卒業研究の作成と相互添削(2) 11. 卒業研究の作成と相互添削(3) 12. 卒業研究の作成と相互添削(4) 13. 卒業研究の作成と相互添削(5) 14. 卒業研究の最終確認 15. まとめと卒業論文集作成についての解説</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5043600D |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 4月提出の卒業計画書にもとづき、卒業研究論文の執筆を行う。 ゼミ単位で発表とフィードバックを経て            |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜配布あるいは指定する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 指定する  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし  |       |           |
| 評価方法       | 出席、発表、課題(前期)と卒論(後期)の提出                                      |       |           |
| 到達目標       | 卒業研究論文の執筆   |       |           |
| 準備学習       | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望    | 4月初めに指示   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 前期：卒業計画書の提出。  卒業研究の問題提起が設定できるように、文献リサーチと発表を中心に。 後期：卒業研究論文執筆 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J5043600E |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名   | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 4年間の心理学科での学習の集大成として、卒業研究を行い、報告論文を作成する。各自の定めた研究テーマに沿って、実験や調査を計画・実施し、結果の分析と考察を行って、それらをまとめた心理学論文を執筆する。 研究の進め方は、心理学研究演習の授業によって学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 提出された研究論文によって評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 主体的に研究プロジェクトを進める態度と能力を身につける。 心理学研究の進め方、心理学論文の作成の仕方身につける。 論理的に議論を展開する力を身につける。  |       |           |
| 準備学習   | 卒業研究で取り組もうと考えるテーマを、他の心理学科目や日常生活の中で、受講生それぞれの興味に従って考えること。 心理学論文の書き方、心理データの統計分析手法などを、他の授業を通して学習しておくこと。                             |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 自ら問題意識をもち、テーマを選んで研究を進めて欲しい。 研究を進める過程ではたいへんなことも多いが、選んだテーマに関する問題を解明することを楽しんで取り組むことを期待する。                     |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 心理学研究演習 IIA, IIB の授業を通して、研究の進め方、論文の作成について学習を行う。 研究の遂行、論文の作成は、受講者各自が進めること。 指示された締め切り日と提出方法に従って、研究論文を提出すること。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                      |                                   |       |           |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-------|-----------|
| 年度                                   | 2012                              | 授業コード | J5043600G |
| 科目名                                  | 卒業研究                              | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                            | Graduation Research               |       |           |
| 担当者名                                 | 山崎 ふさ子                            | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                 | 卒業研究の書き方を指導する                     |       |           |
| 教材（テキスト）                             |                                   |       |           |
| 教材（参考文献）                             |                                   |       |           |
| 教材（その他）                              |                                   |       |           |
| 評価方法                                 | 提出した卒業研究で評価する                     |       |           |
| 到達目標                                 | 1つの問題に長い間取り組むことができる 継続して考えることができる |       |           |
| 準備学習                                 | 自分のテーマに関する資料を集める                  |       |           |
| 受講者への要望                              |                                   |       |           |
| 卒業にするまでに、1つのことにじっくり取り組んだという経験をしてほしい。 |                                   |       |           |
| 講義の順序とポイント                           |                                   |       |           |
| 10月下旬に中間発表を行う                        |                                   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                            |  |       |           |
|----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                         | 2012   | 授業コード | J5043600H |
| 科目名                        | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名                       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                       | 学部における心理学の学習の成果をこの卒業研究で発揮する。「臨床心理学専門演習」の中で指導は行われる。                       |       |           |
| 教材（テキスト）                   | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）                   | 都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ                                   |       |           |
| 教材（その他）                    | 必要に応じてプリント類を配布する。  |       |           |
| 評価方法                       | 論文の内容を吟味して評価する。  |       |           |
| 到達目標                       | 論文の必要条件について最低限のレベルを満たす内容が作成できていること。                                      |       |           |
| 準備学習                       | 「臨床心理学専門演習」での解説や先行研究論文、書籍などとおして、自分の研究テーマを検討し、論文執筆についての心構えを作るところから始めて欲しい。 |       |           |
| 受講者への要望                    |  |       |           |
| 登録指定科目であり、必ず執筆して提出すること。    |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                 |  |       |           |
| 指導は「臨床心理学専門演習」において及び随時に行う。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                    |  |       |           |
|------------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                                 | 2012   | 授業コード | J50436001 |
| 科目名                                | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                          | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名                               | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                               | 臨床心理学専門演習Ⅰや臨床心理学専門演習Ⅱにおいて取り組んできた卒業研究への取り組みを、実際に卒業論文にまとめあげる過程を指導する。 |       |           |
| 教材（テキスト）                           | 教科書は特に使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）                           |  |       |           |
| 教材（その他）                            | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法                               | 提出された卒業論文（80%）、中間発表など（20%）。  |       |           |
| 到達目標                               | 卒業研究を通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探究を押し進めることを目標とする。                       |       |           |
| 準備学習                               | 卒業研究の経過の中で、必要な準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望                            |  |       |           |
| 卒業論文の作成には、積極的・主体的に取り組んでほしい。        |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                         |  |       |           |
| 講義科目ではないので、各自の卒業研究の進捗状況に応じて、指導を行う。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                |                     |       |           |
|----------------|---------------------|-------|-----------|
| 年度             | 2012                | 授業コード | J5043600K |
| 科目名            | 卒業研究                | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）      | Graduation Research |       |           |
| 担当者名           | 橋本 尚子               | 旧科目名称 |           |
| 講義概要           | 各自取り組む              |       |           |
| 教材（テキスト）       |                     |       |           |
| 教材（参考文献）       |                     |       |           |
| 教材（その他）        |                     |       |           |
| 評価方法           | 提出された論文をもとに評価する     |       |           |
| 到達目標           | 論文の完成               |       |           |
| 準備学習           | 論文作成に必要な計画をきちんとたてる  |       |           |
| 受講者への要望        |                     |       |           |
| がんばりましょう       |                     |       |           |
| 講義の順序とポイント     |                     |       |           |
| 各自に応じて適宜時間をとる。 |                     |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |                     |       |           |
|------------|---------------------|-------|-----------|
| 年度         | 2012                | 授業コード | J5043600L |
| 科目名        | 卒業研究                | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶               | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 専門演習に同じ             |       |           |
| 教材（テキスト）   |                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |                     |       |           |
| 教材（その他）    |                     |       |           |
| 評価方法       |                     |       |           |
| 到達目標       |                     |       |           |
| 準備学習       |                     |       |           |
| 受講者への要望    |                     |       |           |
| 講義の順序とポイント |                     |       |           |

|             |            |      |     |     |       |        |
|-------------|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5043600M |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究は専門分野における未解決の問題を発見し、先行研究を吟味し、方法論の有効性を検討し、その上で、フィールドワーク、資料調査を行い、論を組み立てていく訓練を行い、その結果を論文にまとめる。これらを達成するために、個々人の発表に基づき指導していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）    | 演習生のレジュメ等  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文100%   |       |           |
| 到達目標       | 自分で問題点を発見し、解決すること。   |       |           |
| 準備学習       | 文献のまとめ、フィールドワークの実施、論文の下書き等を常に行っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 常に参考文献を読み、まとめ、データベース等を作成しておくこと。フィールドワークを実施しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 問題設定  2～1 5 発表  1 6～2 4 論文の下書き作成  2 5～3 0 卒論の最終チェックと提出   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5043600N |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究は専門分野における未解決の問題を発見し、先行研究を吟味し、方法論の有効性を検討し、その上で、フィールドワーク、資料調査を行い、論を組み立てていく訓練を行い、その結果を論文にまとめる。これらを達成するために、個々人の発表に基づき指導していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）    | 演習生のレジュメ等  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文100%   |       |           |
| 到達目標       | 自分で問題点を発見し、解決すること。   |       |           |
| 準備学習       | 文献のまとめ、フィールドワークの実施、論文の下書き等を常に行っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 常に参考文献を読み、まとめ、データベース等を作成しておくこと。フィールドワークを実施しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 問題設定  2～1 5 発表  1 6～2 4 論文の下書き作成  2 5～3 0 卒論の最終チェックと提出   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50436000 |
| 科目名   | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。                                 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 受講生のテーマに応じ、適時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）：卒業論文・制作についてのディスカッション、経過報告 定期試験（70%）：卒業論文・制作の提出物   |       |           |
| 到達目標  | 自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。   |       |           |
| 準備学習  | 1) 自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2) 他の受講生の論文・制作についてもよく把握し、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 就職活動などで慌ただしい時期だが、4年間の学習や取り組みの集大成となるものであり、大学における自分自身の最大の課題として力を注いでくれることを期待する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ゼミにおいて各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。  <講義予定> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1） 第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2） 第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第9回：卒業研究の発表・指導 第10回：卒業研究の発表・指導 第11回：卒業研究の発表・指導 第12回：卒業研究の発表・指導 第13回：卒業研究の発表・指導 第14回：卒業研究の発表・指導 第15回：ふりかえり |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J5043600Q |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research                                     |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | メディア専門演習II A・B 学ぶことに基づいて、卒業制作の映像作品、または卒業論文を作成する。        |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 放送、映像に関する論文および卒業研究の映像制作によって評価する。                        |       |           |
| 到達目標   | これまで培ったノウハウを活かし、斬新な発想をもって映像制作を本格的に制作、または論文化する。          |       |           |
| 準備学習   | 卒業研究テーマに沿った優れた放送番組、映像作品にできる限り多く触れ、計画をたてて実行に移し期日を順守すること。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 映像制作においては一人でもグループでも可。テーマを決めたら、積極的に取り組むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 春学期 ①～⑤ テーマを決める                       テーマに関したりサーチを行う                       台本制作                       取材・撮影  秋学期<br>  ①～⑪ テーマ再確認・見直し                       編集                       作成 ⑫～⑬                      チェック ⑭                      提出 ⑮                      鑑賞 |   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J5043600R |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名   | 福永 勝也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 3、4 回生を中心にゼミにおいて各自が卒業論文のテーマを設定し、私がそれぞれのテーマについてどのように研究を進めれば良いかを指導します。その研究過程におい、何度か皆の前で中間発表をし、その討議を通じて研究を一層深めます。4 回生になると論文作成に入り、私とその文章や中身について具体的に修正指導します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | ゼミを通じて研究、論文作成指導をしますので、それに従って研究を進め、規定分量の論文に仕上がっておれば大丈夫です。  |       |           |
| 到達目標   | 卒業研究ですから、やはりアカデミックな意味において高度でなければいけません。それに加えて、ジャーナリズムの観点から現代性、つまり話題になるような研究であることを望みます。   |       |           |
| 準備学習   | よく新聞を読み、テレビのナイトニュースを見て、いま世の中で何が起きているのかを知っておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業のレポートと違って、かなりの長文ですので、できるだけ早い段階から情報収集と論文構成を考えておいてください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 3 回生、4 回生のゼミで定期的にテーマの設定、研究のための情報、データ収集状況のチェック、さらにゼミにおける中間発表などを通じて論文の構成や執筆状況を見ます。4 回生に入ると、実際に論文執筆に入り、その文章チェックや修正をします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J5043600S |
| 科目名                             | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                       | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名                            | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各自の興味や将来の進路に合わせて、適切な研究テーマを選び、文献収集を行い、調査や実験を実施して、卒業研究として論文に仕上げる。 |       |           |
| 教材（テキスト）                        |   |       |           |
| 教材（参考文献）                        |   |       |           |
| 教材（その他）                         |   |       |           |
| 評価方法                            | 論文のテーマの適切性、調査・実験の方法、結果の分析、考察の内容を評価する。                           |       |           |
| 到達目標                            | テーマを設定し、適切な方法で探求し、一つの論文に仕上げることを目標とする。                           |       |           |
| 準備学習                            | 研究テーマは日常生活の中の認知に関係のある事柄から探して下さい。                                |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 論文に仕上げるために、あらゆる努力をする覚悟で履修して下さい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      |   |       |           |
| ゼミの時間に随時指導を行う。                  |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5043600T |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 3回生ゼミでの研究成果を発展させて実験計画をたて、社会心理学上級実験で実施した実験・調査結果のデータ分析を行い、卒業論文にまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。                                     |       |           |
| 到達目標       | 実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。3回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 社会心理学上級実験で調査または実験研究を実施しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
|            | 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。   |       |           |
|            | 講義の順序とポイント  |       |           |
|            | 1～3. 実験機材・質問紙・プログラム等の準備   4～5. 本実験  6～10. 入力・分析下準備  11～13. 分析  14～15. 予備日   1～3. 中間発表 4～8. 執筆 9～14. 報告・検討会  15. 予備日   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J5043600U |
| 科目名       | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名      | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 卒業研究は専門分野における未解決の問題を発見し、先行研究を吟味し、方法論の有効性を検討し、その上で、フィールドワーク、資料調査を行い、論を組み立てていく訓練を行い、その結果を論文にまとめる。これらを達成するために、個々人の発表に基づき指導していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 卒業論文 100%  |       |           |
| 到達目標      | 自分で問題点を発見し、解決すること。   |       |           |
| 準備学習      | 先行研究の解読、フィールドワークの実施、論文の下書き等を常に行っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 常に参考文献を読み、まとめ、データベース等を作成しておくこと。フィールドワークを実施しておくこと。  |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1 問題設定 2～15 発表 16～24 論文の下書き作成 25～30 卒論の採集チェックと提出   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J5043600V |
| 科目名       | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名      | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 卒業研究は専門分野における未解決の問題を発見し、先行研究を吟味し、方法論の有効性を検討し、その上で、フィールドワーク、資料調査を行い、論を組み立てていく訓練を行い、その結果を論文にまとめる。これらを達成するために、個々人の発表に基づき指導していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 卒業論文 100%  |       |           |
| 到達目標      | 自分で問題点を発見し、解決すること。   |       |           |
| 準備学習      | 文献のまとめ、フィールドワークの実施、論文の下書き等を常に行なっておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 常に参考文献を読み、まとめ、データベース等を作成しておくこと。フィールドワークを実施しておくこと。  |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
| 1         | 問題設定 2～15 発表 16～24 論文の下書き作成 25～30 卒論の最終チェックと提出   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5043600W |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文製作のための実質的な作業を行う。具体的には、①卒論テーマの決定 ②先行研究の調査 ③資料の調査 の3つがメインとなる。①②③はこの順序で行うのではなく、並行して進めていく。特に①のテーマの決定は、あまり早急にすると、逆にテーマに拘束されることがあるので慎重に絞っていく。卒論の段階では、オリジナリティより調査力が重視されるべきである。したがって②の先行研究の調査は時間をかけてじっくり取り組みたいと思う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点のみ。   |       |           |
| 到達目標       | 論文製作のための、調査力の育成。   |       |           |
| 準備学習       | 興味のある事項について、それに関する書物を一冊でも読んでおく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 論文製作は長丁場になるので、功を焦らず、地道な活動を息長く続けてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 興味のある題材についてのディスカッション 2 研究内容の検討 3 同上 4 同上 5 先行研究の吟味 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 問題点の抽出 12 同上 13 同上 14 同上 15 合評   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                      |   |       |           |
|--------------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                                   | 2012  | 授業コード | J5043600Y |
| 科目名                                  | 卒業研究  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                            | Graduation Research                               |       |           |
| 担当者名                                 | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                 | 卒業研究の作成を行う。                                       |       |           |
| 教材（テキスト）                             |   |       |           |
| 教材（参考文献）                             |   |       |           |
| 教材（その他）                              |   |       |           |
| 評価方法                                 | 卒業研究 100%   |       |           |
| 到達目標                                 | 本学で日本語日本文化専攻学生として学んだ意義を注入し、現段階で作成しうる最高の研究を作成すること。 |       |           |
| 準備学習                                 | テーマを決定しておくこと                                      |       |           |
| 受講者への要望                              |   |       |           |
| コミュニケーションを密にし、授業への要望があれば遠慮せずに言ってほしい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                           |   |       |           |
| 1～15 卒業研究についての指導を行う。                 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J504360AA |
| 科目名  | 卒業研究   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名   | 藤田 ジャクリーン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 私の専門分野はヨーロッパの文化、法、言語です。各自が自分の関心のあるテーマを選び、主体的な努力をかさねて卒業研究を完成できるよう、これらの専門知識をもって指導にあたります。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 卒業研究 100%  |       |           |
| 到達目標   | 充実した内容の卒業研究を完成させること。   |       |           |
| 準備学習   | 各自の課題に即した研究を進めること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 卒業研究が大学での学びの集大成となるよう、最善の努力をすること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.テーマの設定 2. 研究計画 3. 文献収集：一覧作成 4. 先行研究の検討① 5. 先行研究の検討② 6. 先行研究の検討③ 7. 先行研究の検討④ 8. 論文指導① 9. 論文指導② 10. 論文指導③ 11. 論文指導④ 12. 論文指導⑤ 13. 校正 14. 製本 15. 提出 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50447A01 |
| 科目名        | 地域文化論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Culture Regional Theory A   |       |           |
| 担当者名       | 中野 洋平   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>地域社会に生きる人々は多様である。現代の私たちにとって、その多様性をお互いが認識し尊重し合うことが相互理解のために重要であることはいうまでもない。しかし、では地域社会とはなにか、人間の多様性とは何か、これまでどの程度多様な人々が地域に生きてきたのか、という素朴な問題に対して、私たちはじゅうぶんな解答を得ることができるだろうか。  この講義では、地域社会やそこに生きた人々の諸相を考察していく。なかでも、呪いや祈禱を職業とした宗教者や、門付けなどを行なった芸能者に注目していきたい。彼らは、中世段階では「職人」というカテゴリに属し活動していた。しかし近世には「遊民」とされ支配者や農民からは疎んじられた。そして近代には新たに「平民」として明治国家に組み込まれる。  自身の社会的位置付けが変化するなかで、彼らはどのように生きてきたのか。それを学ぶことによって、私たちとは「異なる」多様な人々に対する理解を促進したい。また、宗教者・芸能者の活動を知るということは、すなわち日本の宗教文化や芸能、身分制度など多くの問題についても学ぶ、ということである。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』 岩波書店、1984  高埜利彦編『民間に生きる宗教者』吉川弘文館2000   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材などを適宜使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況による。定期試験（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 日本の伝統的な地域社会を理解する。 彼らが地域社会においてどのように生きてきたのか、を理解する。 人間多様性について理解する。   |       |           |
| 準備学習       | できれば参考文献を一読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 他の民俗学関連の講義と併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1、ガイダンス；地域社会とはなにか 2、研究史；「普通の人々」と「異なる人々」 3、江戸時代の村落社会1 4、江戸時代の村落社会2 5、村落社会と身分 6、身分と職分 7、村落社会と民俗社会 8、被差別民について 9、民間宗教者の世界 10、男性の宗教者 11、女性の宗教者 12、民間宗教者と地域社会 13、近代化と身分の変動 14、近代社会と宗教者・芸能者 15、まとめ </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50447B01 |
| 科目名        | 地域文化論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Culture Regional Theory B  |       |           |
| 担当者名       | 中野 洋平  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>近年の日本では、地域社会および地域に根差した文化、すなわち地域文化への関心が高まっている。それは私たちの生活をより豊かにするために必要なものであると考えられているが、では果たして日本において生活に関連した地域社会や地域文化とはいかなるものなのかを問うた時、明確な答を見出せない場合が多い。  この講義では、日本における生活に関連した年中行事について学ぶ。わたし達が平素暮らしているなかで接している地域や文化とは何か。それがどのようなサイクルで日々私たちに関係しているのかを考える。その手段として、主に民俗学の成果を参考にしたい。民俗学は本講義の考察対象である地域や文化を、民俗社会・民俗文化として対象化し、長年考察を加えてきた。  最終的には受講者が、民俗学の成果を学びながら自身が生活する地域及び文化をより深く理解することを目的とする。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。 適宜授業中に配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 福田アジオ等編『図説 日本民俗学』吉川弘文館 2009  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材などを適宜使用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）出席状況による。期末テスト（50％）   |       |           |
| 到達目標       | 日本の年中行事を理解する。 地域社会に介在する生活文化を理解する。 地域や地域文化を読む力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 可能ならば参考文献に目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 前期の地域文化論Aと併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1、ガイダンス一年中行事とはなにか 2、地域社会と民俗文化 3、正月の年中行事、年のはじまり 4、小正月の行事、来訪者の諸行事 5、2月の行事、農耕儀礼について 6、3月の行事、寺社の祭礼 7、4月・5月の行事、春の民俗 8、6月の行事、夏の祓い 9、7月の行事、盆行事 10、夏の火の風流 11、9月・8月の行事、収穫の民俗 12、10月・11月・12月の行事 13、霜月祭り 14、冬の火の風流 15、まとめ </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50458A01 |
| 科目名   | 中国文学概論A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Chinese Literature A                                       |       |           |
| 担当者名  | 成田 健太郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 中国文学（中国の多数民族＝漢族の言語である漢語で書かれた文学）の歴史、ジャンル、主な作者や作品について講述する。本講義では唐以前を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。講義中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 音声・映像メディアを適宜活用したい。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）出席等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標  | 中国文化の精髓であり、現代中国文化や日本文化の礎にもなっている中国文学の特質を理解する。                         |       |           |
| 準備学習  | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに 2. 言志と載道—中国文学の特質— 3. 太古の歌謡—詩経と楚辞— 4. 熱弁する人々—諸子百家の著作— 5. 壮大なる時空—史記・漢書と漢賦— 6. 愛と生のうた—五言詩の登場— 7. 英雄たちの文学—建安文学— 8. 隠棲詩人の祖—陶淵明— 9. 貴族たちのいづまい—世説新語— 10. 怪異を語る—志怪小説— 11. アンソロジーの決定版—文選— 12. 「漢詩」の完成—近体詩— 13. 詩仙と詩聖—李白と杜甫— 14. ルネサンスの胎動—韓愈・柳宗元— 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50458B01 |
| 科目名  | 中国文学概論B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Chinese Literature A                                       |       |           |
| 担当者名   | 成田 健太郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中国文学（中国の多数民族＝漢族の言語である漢語で書かれた文学）の歴史、ジャンル、主な作者や作品について講述する。本講義では宋以降を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 音声・映像メディアを適宜活用したい。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 中国文化の精髓であり、現代中国文化や日本文化の礎にもなっている中国文学の特質を理解する。                         |       |           |
| 準備学習   | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. はじめに  2. 士大夫たちの文学—北宋—  3. 民間へひろがる文学世界と亡国のなげき—南宋—  4. もうひとつの「漢詩」—詞—  5. オペラの隆盛—元曲—  6. エンターテインメント小説の頂点—白話小説・四大奇書—  7. 擬古か自我解放か—明の詩文—  8. 伝統文学の総決算—清の詩・詞・散文・戯曲—  9. 珠玉の恋愛小説—紅樓夢—  10. 和尚たちの文学—五山文学—  11. 侍たちの文学—江戸漢文学—  12. ゆらぐ伝統文学—西洋文明の流入と中国文学—  13. たちあがる民族と文学—文学革命—  14. 国家と自由と文学と—現代文学—  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50462B0A |
| 科目名        | 伝統文化講読B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Reading: Traditional Culture B  |       |           |
| 担当者名       | 西村 俊範   | 旧科目名称 | 日本文化講読B   |
| 講義概要       | 鑑真和上  井上靖の歴史小説「天平の薨」を輪読して、鑑真和上が奈良（天平）時代の仏教・文化全般に与えた影響について考え、和上の来日が以後の日本の文化に与えた影響も多方面にわたって大きなものがあったことを理解したい。 OHCやビデオも出来る限り用いる予定。                 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 井上靖「天平の薨」（新潮文庫）   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配布する予定。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(25点満点、出席状況等による)と発表内容を総合して行う。  |       |           |
| 到達目標       | 日本文化の基層を成すものに対する認識の確立   |       |           |
| 準備学習       | 高校の日本史レベルの天平文化に関する知識があれば良い。   |       |           |
| 受講者への要望    | 欠席を繰り返さず、他者の発表も積極的に傍聴するように心がけてもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.鑑真和上について 2.唐帝国と中華世界   以後は輪読で担当した部分の要約発表と補足説明を組み合わせる  3.遣唐使1 4.遣唐使2 5.日本の仏教 6・7.中国における鑑真 8.渡日の経緯 9・10.東渡 11・12.日本での鑑真 13.唐招提寺 14・15.鑑真和上が齎したもの |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50463A01 |
| 科目名        | 伝統文化実習 A (茶道)  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Traditional Culture A  |       |           |
| 担当者名       | 飯島 照仁  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎を、茶を「飲む」、「点てる」という実践を通し「もてなしの文化」を理解していただきたい。また個々にお菓子のデザインをして頂き、そのお菓子でもてなしの文化を楽しんでいただきたい。更に可能な範囲でお香の話をしてみたい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は特に使用しない。必要に応じてプリント等の配布をする。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著淡交社 『茶の匠』 飯島照仁著 淡交社  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 実習なので平常点重視。  |       |           |
| 到達目標       | 茶の湯実践の基礎点前ともてなしの心の習得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 講義の際に必要なに応じて指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 実習なので積極的に出席するように心がけていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 実習のための総論 2. 茶の湯の基礎・割稽古 3. 同上 4. 同上 5. 茶の湯の基礎・益略点前 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上独自のお菓子をデザインして創作する 10. 実践茶の湯のもてなし 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 伝統的なお菓子と濃茶を体験する 15. 世界のお茶でもてなす   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50463B01 |
| 科目名        | 伝統文化実習B（能楽）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Traditional Culture B  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 仕舞は、扇を持って、舞台上で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。  謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分を含んで一緒に謡って練習します。  どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。  着付けも練習します。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント・CDなどを配布   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点。授業への参加度。   |       |           |
| 到達目標       | 仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること  |       |           |
| 準備学習       | 配布したCDを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 初心者歓迎。伝統文化論Bの講義をあらかじめ受講する必要はありません。 受講するかどうかを迷う場合はあらかじめ担当者に相談してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 仕舞の基本 扇の持ち方と構え方 足拍子のリズム  2 入門の曲 鶴亀 仕舞「鶴亀」(前半)  3 復習  4 入門の曲 鶴亀 仕舞「鶴亀」(後半)  5 復習  6 謡「鶴亀」・仕舞の復習  7 謡 復習・仕舞の復習  8 謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり 仕舞「鶴亀」  9 謡「橋弁慶」牛若丸登場 仕舞「鶴亀」  10 謡「橋弁慶」五条の橋の対決 仕舞「鶴亀」  11 練習  12 リハーサル  13 着付けをして仕舞を舞う 第一グループ 14 同上 第二グループ 15 総復習 |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |      |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50465001 |
| 科目名       | 伝統文化実習C（やきもの）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Practical Traditional Culture C  |       |           |
| 担当者名      | 佐々木 大和   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000円程度）を授業内で行うので注意のこと。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 各種出版物  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。  |       |           |
| 到達目標      | 作品の完成  |       |           |
| 準備学習      | 美術館見学  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1.陶磁器の歴史 2～6.土こね 7～10.成形 11～12.施釉 13～14.焼成 15.評価   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50475001 |
| 科目名        | 伝統文化論C 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories of Traditional Culture C  |       |           |
| 担当者名       | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 陶芸の歴史を認識し、残された名品を鑑賞しながら、陶芸の奥深さを理解したい。ビデオと写真資料を多く紹介する予定。  伝統文化実習C（担当・佐々木）を合わせて履修して、陶芸の実技も体験することを薦めたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、1998年）   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（25点満点、出席状況等による）と期末のレポート（75点満点）の合計で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 工芸が持つ「用の美」の理解  |       |           |
| 準備学習       | 特に求めない   |       |           |
| 受講者への要望    | 日本美術、特に陶芸に興味を持ち、実技(伝統文化実習C)も併せて受講する意欲のある学生を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 土器作りとは   2. 世界の焼き物   3. 陶器と磁器   4. 縄文・弥生・須恵   5. 中国—陶芸の発展—  6. 青磁の展開   7. 天目茶碗   8. 景德鎮窯   9. 日本の六古窯   10. 備前焼   11. 桃山の茶陶  12. 織部焼   13. 京焼の歴史   14. 伊万里焼1   15. 伊万里焼2 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50476A01 |
| 科目名        | 伝統文化論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Theories of Traditional Culture A   |       |           |
| 担当者名       | 飯島 照仁   | 旧科目名称 | 伝統文化論 I   |
| 講義概要       | 日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考えてる。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著 淡交社(1,900円+税) 必要に応じてプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 『茶の匠』 飯島照仁著 淡交社 『茶室をつくる』飯島照仁著 淡交社   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席率と試験(教科書持込可)による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 日本の伝統文化(茶の湯)の基礎をもとに、異文化との関わり、衣・食・住の価値観の相違などを理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 講義の際に準備学習の指示をする。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日本の伝統文化である茶の湯に興味のある方。 日本建築や庭園に興味のある方。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 総論 2. 日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 3. 同上 4. 茶の湯入門 5. 同上 6. 同上 7. 茶の湯の建築入門 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 茶の湯の庭入門 12. 同上 13. 同上 14. 茶の湯と異文化交流 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50476B01 |
| 科目名  | 伝統文化論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories of Traditional Culture B  |       |           |
| 担当者名   | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 | 伝統文化論II   |
| 講義概要   | この時間は日本の中世の演劇である「能楽」がテーマである。 担当者の山崎美紗子は観世流能楽師なので、実技を指導することができる。この利点を生かして、受講生のみなさんに毎回声を出して謡を謡ってもらい、最終の授業までに結婚式でうたわれる「高砂や〜」がうたえるようにしたい。秋学期には、仕舞の実習の時間も設けられている。  日本の伝統演劇である能と狂言のうち、能は悲劇であり、狂言は喜劇である。能で涙し、肩をこらしたお客さんは、狂言で笑い、こった肩をほぐす。両方を交互に組み合わせて、一日の興行が成立する。 この時間は主に能や狂言の基本的な約束事や、仕組み、を知ってもらうことに重点をおきたい。 ビデオを見、解説をして能を知ってもらう。 また、授業の一環として、平安神宮の薪能（たきぎのう）を見学するほか、 能楽師を招いて能面や装束の着付の実演を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 初めての能・狂言（小学館）  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点30% 学期末試験50% 薪能など実演見学のレポート提出20%   |       |           |
| 到達目標   | 能楽の基本的知識理解、ひいては日本の伝統芸能の本質を 海外の文化と比べて知ること   |       |           |
| 準備学習   | テレビなどで伝統芸能の能・狂言、文楽や歌舞伎の時間があれば、 5分か10分でも見たり聞いたりしておくことがのぞましい   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 秋学期に「実習」があります。実習とこの講義はどちらを先に履修してもかまいません。 一方だけ履修してもかまいません。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 『道成寺絵巻』の話……安珍・清姫  2 いちばん面白い能・「道成寺」…DVDで見る  3 「道成寺」後半を見る 4 能面のいろいろ  5 能「鉄輪」と『陰陽師』  6 能の五番立て 神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼  7 能の台本・謡の見方と能舞台の工夫  8 囃子 大鼓・小鼓・笛・太鼓  9 「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇  10 曾我兄弟の能と歌舞伎  11 「葵上」源氏物語と能  12 「海士」玉取り伝説と能  13 「邯鄲」中国の伝説と能  14 「鞍猿（うつぼざる）」の狂言  15 能面・能装束の着付（器楽練習室Iで行います）   その他 平安神宮の薪能の見学（5/30または6/1）   （都合がつかない人は別の公演を代用して貰います） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50478A01 |
| 科目名  | 都市文化史 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Urban Culture History A   |       |           |
| 担当者名   | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史 A では江戸での怪談の形成から都市文化史を考える。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 出席状況等による。レポート (80%)   |       |           |
| 到達目標   | 現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。  |       |           |
| 準備学習   | 各自関連文献を読んでおくのは重要である。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| (1) 江戸という都市   (2) 死霊解脱物語   (3) 累伝説   (4) 四谷怪談   (5) 皿屋敷その他   (6) 江戸の河川開発   (7) 西と東   (8) 祐天上人   (9) 通り悪魔   (10) 江戸の人口と大衆社会   (11) 秋葉原と『ドグラ・マグラ』   (12) 『青空』とスペイン内戦   (13) ドン・ジュアン伝説   (14) 表現主義と図像学   (15) まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50495001 |
| 科目名        | 日本の文化 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Culture   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この時間は、京町家キャンパスで行う。 それぞれの教員が専門の領域をわかりやすく紹介していく講義形式の授業とともに、 京町家キャンパスで開講される利点を活かし、京都の三大祭りのうち、王朝文化を今に伝える葵祭や、安土桃山から江戸期にかけて財力を誇った京都町衆の豪華絢爛な祇園祭に準備段階から参加して、見学するだけではわからない祭りの内側を経験し、京都文化を体験する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点40%、行事出席40%、レポート20%   |       |           |
| 到達目標       | 日本語・日本文化専攻1回生の導入科目。京町家キャンパスで開講し、専任教員が順番に専門領域を紹介する。京都の祭りなど行事に参加し、日本文化を京都で体験を通して学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 京都観光のガイドブックで京町家キャンパスの周辺や、 祇園祭・葵祭などの項目を見ておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回必ず出席すること。 費用のかかるものを予約してある場合もあり、 衣装を用意する場合もあり、 現地で集合する場合もあるので、 やむを得ず欠席の場合は、遠慮せず必ず前もって連絡すること。 天候による日程変更があるときは、わからなければ教員に電話してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、京都御所一般公開の見学（山本）（4月上旬） 2、京町家と祇園祭（山崎） 3 京都文化博物館の見学（西村）  4、京都語と武士（丸田）  5、葵祭（賀茂祭）の見学（山本）  6、京都とキリシタン文化（丸田）  7、煎茶の入れ方の実習（西村）（5月頃 寺町通り二条上る、一保堂にて） 8、源氏物語絵巻（山本）  9、京都の埋蔵文化財の話（西村） 10、町家のしつらえ替え体験（山崎）  11、南観音山のちまき作り（西村）（6月下旬土曜日夕方） 12、宵山のスタッフ参加準備～浴衣の着付け指導（山崎）（6月下旬） 13、浴衣を着て宵山を見学する（山崎） 14、祇園祭に奉仕する（山本）（各自1回2時間）  15、山鉦巡行の見学（丸田・山崎）   （その年度の行事の日程によって、授業の順序などが変わることがあります。 土曜日に振り替えを行うこともありますので、日程変更にご注意下さい。） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   |       | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5049500A |
| 科目名        | 日本の文化 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Culture  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この時間は、京町家キャンパスで行う。 それぞれの教員が専門の領域をわかりやすく紹介していく講義形式の授業とともに、 京町家キャンパスで開講される利点を活かし、京都の三大祭りのうち、王朝文化を今に伝える葵祭や、安土桃山から江戸期にかけて財力を誇った京都町衆の豪華絢爛な祇園祭に準備段階から参加して、見学するだけではわからない祭りの内側を経験し、京都文化を体験する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点40%、行事出席40%、レポート20%  |       |           |
| 到達目標       | 日本語・日本文化専攻1回生の導入科目。京町家キャンパスで開講し、専任教員が順番に専門領域を紹介する。京都の祭りなど行事に参加し、日本文化を京都で体験を通して学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | 京都観光のガイドブックで京町家キャンパスの周辺や、 祇園祭・葵祭などの項目を見ておくこと  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回必ず出席すること。 費用のかかるものを予約してある場合もあり、 衣装を用意する場合もあり、 現地で集合する場合もあるので、 やむを得ず欠席の場合は、遠慮せず必ず前もって連絡すること。 天候による日程変更があるときは、わからなければ教員に電話してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、京都御所一般公開の見学（山本）（4月上旬） 2、京町家と祇園祭（山崎） 3 京都文化博物館の見学（西村）  4、京都語と武士（丸田）  5、葵祭（賀茂祭）の見学（山本）  6、京都とキリシタン文化（丸田）  7、煎茶の入れ方の実習（西村）（5月頃 寺町通り二条上る、一保堂にて） 8、源氏物語絵巻（山本）  9、京都の埋蔵文化財の話（西村） 10、町家のしつらえ替え体験（山崎）  11、南観音山のちまき作り（西村）（6月下旬土曜日夕方） 12、宵山のスタッフ参加準備～浴衣の着付け指導（山崎）（6月下旬） 13、浴衣を着て宵山を見学する（山崎） 14、祇園祭に奉仕する（山本）（各自1回2時間）  15、山鉦巡行の見学（丸田・山崎）   （その年度の行事の日程によって、授業の順序などが変わることがあります。 土曜日に振り替えを行うこともありますので、日程変更に注意して下さい。） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50501B01 |
| 科目名       | 歴史学特殊講義（日本近現代史）II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Specialized Historical Science (Modern J Japanese History) II  |       |           |
| 担当者名      | 橋本 章彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 上方芸能の歴史を取りあげる。上方とは、本来は皇居のあった京都とその周辺をさす言葉であったが、江戸時代に商都・大阪を含めた地域をも言うようになった。上方には、江戸とは異なる独特の雰囲気を持った芸能が育った。幾分フォーマルな江戸に対して上方の芸能はくだけたニュアンスを持っている。本講では、そうした上方芸能のなかで漫才と喜劇を中心に取りあげてその近代における歴史をたどり、上方地方における芸能の特質を浮かび上がらせてみたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを使用する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『上方演芸大全』（創元、2008年） 個別のテーマの参考書については、授業内で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 授業内で適宜映像資料や録音資料を使用する。  |       |           |
| 評価方法      | 期末レポート（50%）、授業への取り組み（50%） 授業への取り組みとは主として出席である。   |       |           |
| 到達目標      | 上方芸能の歴史を理解する。  |       |           |
| 準備学習      | 日本近代史の大まかな流れを把握しておいてほしい。ただし、授業内でも整理する予定である。  |       |           |

|   |  |
|---|--|
| 受講者への要望   |  |
| 漫才や喜劇は、その時代の世相と連動している。漫才史や喜劇史の学習は、近代の世相史を学ぶことでもある。それ故に授業を通してそれぞれの時代の世相とその移り変わりを読み取るように心がけてほしい。  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |
| 1 ガイダンスー日本の近代 2 上方演芸とは 3 漫才の歴史をまなぶ（1）一言祝ぎの芸能としての万歳楽 4 漫才の歴史をまなぶ（2）一玉子屋円辰の登場とその果たした役割 5 漫才の歴史をまなぶ（3）一神戸新開地と砂川捨丸・高級漫才師の登場 6 漫才の歴史をまなぶ（4）一主要な演芸場の成立と展開 7 漫才の歴史をまなぶ（5）一横山エンタツ・花菱アチャコの登場と漫才の変革 8 漫才の歴史をまなぶ（6）一昭和漫才師列伝 9 漫才の歴史をまなぶ（7）一戦争と漫才師・わらし隊の記録 10 漫才の歴史をまなぶ（8）一戦後漫才の復興と漫才ブーム 11 上方喜劇の歴史をまなぶ（1）一淵源としての「にわか」と曾我廼家十郎・五郎の登場 12 上方喜劇の歴史をまなぶ（2）一松竹家庭劇から松竹新喜劇へ 13 上方喜劇の歴史をまなぶ（3）一松竹新喜劇を鑑賞する（DVD） 14 上方喜劇の歴史をまなぶ（4）一テレビ時代の到来と吉本新喜劇 15 まとめ |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                  |
|------------|--|-------|------------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50505A01        |
| 科目名        | 歴史学特殊講義（日本近世史）Ⅰ  | 単位数   | 2                |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I  |       |                  |
| 担当者名       | 森本 一彦  | 旧科目名称 | 日本近世史 A, 日本近世史 s |
| 講義概要       | 江戸時代についての基本的な知識を身に付けるとともに、現代との比較の視点を養ってもらいたい。特に歴史の知識を増やすことも重要であるが、どのような史料に基づいて歴史が語られているのを知ってほしい。江戸時代という時代の特徴をそれぞれのトピックスから論じる。本講義では、できる限り新しい知見やテーマを扱っていきたいので、教科書を指定せずに授業中に参考文献を紹介するので必ず一読すること。また、イメージを優先して歴史像を構築するのではなく、史料に基づいた歴史像の構築をめざすために、できる限り史料の紹介もおこなっていききたい。 |       |                  |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。  |       |                  |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |                  |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |                  |
| 評価方法       | 平常点 30%、最終レポート 70%   |       |                  |
| 到達目標       | 近世史の基礎的な知識を身につける。  |       |                  |
| 準備学習       | 日本史の教科書の近世については目を通しておくこと。  |       |                  |
| 受講者への要望    | 日ごろから、近世に関わることがらについて注意を払っておくこと。  |       |                  |
| 講義の順序とポイント | 1. 幕府成立  2. 幕府の組織  3. 大奥  4. 近世の天皇  5. 外交関係  6. 宗教政策  7. 石高制  8. 慶安の触書  9. 生類憐みの令  10. 主君押し込め  11. 都市のにぎわい  12. 三大改革  13. 幕末の混乱 ①  14. 幕末の混乱②  15. まとめ   |       |                  |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                 |
|---|---|-------|-----------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50505B01       |
| 科目名   | 歴史学特殊講義（日本近世史）II  | 単位数   | 2               |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II  |       |                 |
| 担当者名  | 森本 一彦   | 旧科目名称 | 日本近世史B, 日本近世史 f |
| 講義概要  | 江戸幕府は長期・安定政権であったために、長らく暗黒の時代として評価されてきた。それは近世をマイナスのものとして評価することによって、近代社会を高く評価する意図の中でおこなわれたものであった。そのような近世像は実態分析の上に描かれたというよりも、描かれるべきイメージにあわせて実態が分析されたと言える。本講義では近世像の再構築をめざした研究について論じる。秋学期においては庶民の生活を中心とした社会史的な側面を中心として論じる。 本講義では、できる限り新しい知見やテーマを扱っていきたいので、教科書を指定せずに授業中に参考文献を紹介するので必ず一読すること。また、イメージを優先して歴史像を構築するのではなく、史料に基づいた歴史像の構築をめざすために、できる限り史料の紹介もおこなっていききたい。 |       |                 |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用しない。   |       |                 |
| 教材（参考文献）  | 授業中に指示する。   |       |                 |
| 教材（その他）   | プリントを配布する。  |       |                 |
| 評価方法  | 平常点 30%、最終レポート 70%  |       |                 |
| 到達目標  | さまざまな資料から歴史を読み取る。   |       |                 |
| 準備学習  | 高校で学習した基本的な知識を確認しておくこと。   |       |                 |
| 受講者への要望   |   |       |                 |
| 日ごろから古文や漢文などに接するようにしておく。  |   |       |                 |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                 |
| 1. 庶民史・計量分析について  2. 人口変動①  3. 人口変動②  4. 家族の歴史①  5. 家族の歴史②  6. 村の生活①  7. 村の生活②  8. 生産と税①  9. 生産と税②  10. 旅行と交通①  11. 旅行と交通②  12. 村の事件簿①  13. 村の事件簿② |   |       |                 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50510A01 |
| 科目名   | 日本文学特殊講義A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Japanese Literature A  |       |           |
| 担当者名  | 三嶋 潤子  | 旧科目名称 | 日本近代文学A   |
| 講義概要  | 明治・大正時代に発表された小説を読んで、それらの小説について考える。前期は、近現代文学に親しむために、複数の小説を読む。それぞれの小説を問題設定に沿って読み解く中で、「小説とは何か」という問題についても考えたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 泉鏡花『外科室』（岩波文庫） 芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』（岩波文庫） 伊藤左千夫『野菊の墓』（新潮文庫）   |       |           |
| 教材（その他）   | DVD教材を活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）出席状況等による。レポート（30%）、定期テスト（50%）  |       |           |
| 到達目標  | 近現代の小説を自分なりの視点から読み進められるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 授業で扱う作品について、出来る範囲で前もって読み進めておくことを希望する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| レポート・試験では、自分なりの考えを文章にすることが求められる。授業を受ける際にも、受け身でなく、主体的に考えることを心がけてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1、イントロダクション 2、「外科室」映画鑑賞 3、外科室1 4、外科室2 5、「藪の中」映画鑑賞 6、藪の中1 7、藪の中2 8、藪の中3 9、藪の中4 10、「野菊の墓」映画鑑賞 11、野菊の墓1 12、野菊の墓2 13、野菊の墓3 14、野菊の墓4 15、まとめ なお、受講者の理解状況等により、内容・順序に変更を加えることがある。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50510B01 |
| 科目名  | 日本文学特殊講義B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名   | 三嶋 潤子  | 旧科目名称 | 日本近代文学B   |
| 講義概要   | 昭和初期に発表された谷崎潤一郎「春琴抄」を読む。一つの小説を様々な方向から読み解く中で、「小説とは何か」、「文学とは何か」という問題について、一緒に考えたい。なお、谷崎の代表作である「春琴抄」への理解を深めるために、彼の評伝や、他の作品にも適宜触れる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 谷崎潤一郎『春琴抄』（新潮文庫）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | DVD教材を活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（20％）出席状況等による。レポート（30％）、定期テスト（50％）  |       |           |
| 到達目標   | 近現代の小説を自分なりの視点から読み進められるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 授業で扱う作品について、前もって読み進めておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| レポート・試験では、自分なりの考えを文章にすることが求められる。授業を受ける際にも、受け身でなく、主体的に考えることを心がけてほしい。 なお、本講義は日本文学特殊講義Aと連動しているため、必ずしもAを受講することを要求はしないが、一部Aの内容を前提として講義を進めることがある。                          |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1、イントロダクション 2、谷崎潤一郎について 3、作品背景について 4、「春琴抄」映画鑑賞 5、春琴抄1 6、春琴抄2 7、春琴抄3 8、春琴抄4 9、春琴抄5 10、春琴抄6 11、春琴抄7 12、春琴抄8 13、春琴抄9 14、春琴抄10 15、まとめ なお、受講者の理解状況等により、内容・順序に変更を加えることがある。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50510C01 |
| 科目名   | 日本文学特殊講義C 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Japanese Literature C                              |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 基本的には、源氏物語を丁寧に読む授業。原文と現代語訳で味わった後、大和和紀作の『あさきゆめみし』を読む。今回は「葵」を読む。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 大和和紀著『あさきゆめみし』2（講談社漫画文庫）660円 ISBN4-06-360051-3 必ず購入すること。       |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(40%) 毎時の授業での発言等 期末課題（60%）                                  |       |           |
| 到達目標  | 原作と漫画の違いを具体的に知り、それについて考える。                                     |       |           |
| 準備学習  | 授業開始前に少なくとも漫画版は読了しておくことがのぞましい。                                 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 源氏物語の発端 2 源氏物語の女君 3 （ここから読み始め）葵1 天皇交代による政治情勢の変化 4 葵2 六条御息所とは 5 葵3 左大臣の娘葵の上と光源氏の関係 6 葵4 賀茂祭について 7 葵5 車争い 8 葵6 御息所の生霊？ 9 葵7 葵の上出産、生霊の登場 10 葵8 葵の上との死別 11 葵9 光源氏の悲嘆 12 葵10 哀傷（死別を悼む歌）と紫式部 13 葵11 二条邸への帰宅 若紫とのいきさつ 14 葵12 若紫との新枕 その意味 15 授業を振り返って |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50510D01 |
| 科目名        | 日本文学特殊講義D 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Japanese Literature D   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた江戸時代の町の人々のくらしの様子や、歴史上の英雄や妖怪などの絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『北斎漫画』1～5編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点50%、発表またはレポート50%   |       |           |
| 到達目標       | 絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。   |       |           |
| 準備学習       | 葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 江戸時代の絵画 2 浮世絵師の勢力分布と画風 3 葛飾北斎の画風の変遷 4 『北斎漫画』の紹介 5 『国芳の絵本』の紹介 6～12 各図の出典を考える 13 同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する 14～15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50510E01 |
| 科目名        | 日本文学特殊講義E   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Japanese Literature E   |       |           |
| 担当者名       | 白方 佳果   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 泉鏡花は、明治・大正・昭和時代にかけて活躍し、「日本語の魔術師」と賞賛された小説家である。彼の作品を読むことを通して、近代文学を読むうえで必要な知識や考え方を身に付けることを目標とする。 とくに取り扱う作品は、「錦帯記」（明治三十二年）、「高野聖」（明治三十三年）、「国貞丞がく」（明治四十三年）である。必要に応じて、他の作品も紹介する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 泉鏡花著『歌行燈・高野聖』（新潮文庫）を購入すること。また授業中にレジュメを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（30%）、小テスト（40%）。平常点（30%）は出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標       | 近代文学を読むうえで必要な知識や考え方を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 授業中に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | アンケート等を配布することがあるが、その際は積極的に意見や感想を述べて欲しい。 第五回以降の授業では、扱う作品を前もって読み進めておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 2.泉鏡花について1 3.泉鏡花について2 4.泉鏡花の受容・研究史概観 5.「高野聖」を読む1 6.「高野聖」を読む2 7.「高野聖」を読む3 8.「高野聖」を読む4 9.「国貞丞がく」を読む1 10.「国貞丞がく」を読む2 11.「国貞丞がく」を読む3 12.「錦帯記」を読む1 13.「錦帯記」を読む2 14.「錦帯記」を読む3 15.まとめ・補足  *参加者の状況に応じて講義の順序・内容は変更する場合がある。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50510F01 |
| 科目名  | 日本文学特殊講義F 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Japanese Literature F   |       |           |
| 担当者名   | 濱中 祐子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 『小倉百人一首』は、勅撰和歌集から精選されたアンソロジーである。四季折々の自然を詠んだものや、男女の恋の歌が多く、いずれも珠玉の作品である。この授業では、『小倉百人一首』の歌を毎回一～二首ずつ取り上げ、歌枕や本歌取りなど和歌の表現技法について説明をくわえた上で、個々の和歌を鑑賞する。さらに、各歌が詠まれた背景となる文献や歌人のエピソードも紹介し、和歌に対する理解を深められるようにする。  また、『小倉百人一首』では、奈良時代から鎌倉時代まで、ほぼ時代順に歌人が配列されている。各時代の代表的な歌人を順にとりあげ、王朝和歌史についても把握できるよう工夫して講義を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業中に実施する小テスト（50%）、期末試験（50%）   |       |           |
| 到達目標   | 和歌は日本古典文学の中心に位置する。『小倉百人一首』を通して、日本人の美意識や心のありように対して関心を持ち、日本文化を理解する一助としてほしい。また、真摯にテキストと向き合い、情報を鵜呑みにするのではなく、自ら問題点を見つけ、解決のために努力できる習慣を身につけることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で授業に参加するよう心がけてもらいたい。また、私語は厳禁とする。古典文法に苦手意識がある受講生にもわかるよう文法もふくめ解説するので、特に和歌や古文の知識は必要としない。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 授業のすすめ方及び『小倉百人一首』について  2 柿本人麿 —『万葉集』、序詞について—  3 小野小町 在原業平 —六歌仙時代、掛詞について—  4 大江千里 菅原道真 —漢詩文と和歌—  5 紀貫之 —『古今和歌集』について、本意とは何か—  6 平兼盛 壬生忠見 —歌合について—  7 藤原公任 能因法師 —「三舟の才」の貴公子と数寄歌人、歌枕について—  8 清少納言 和泉式部 —『枕草子』、『和泉式部日記』を読む—  9 源俊賴 —『俊賴髓』を読む—  10 崇徳院 藤原俊成 —『平家物語』を読む—  11 藤原定家 —藤原定家の書写活動、『新古今和歌集』時代—  12 式子内親王 藤原良経 —新古今風歌人たちの表現技法—  13 源実朝 —近代文学者から見た実朝—  14 天智天皇 後鳥羽院 —帝王の和歌—  15 『小倉百人一首』享受について  16 試験 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                |
|------------|---|-------|----------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50513A01      |
| 科目名        | 歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ   | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I   |       |                |
| 担当者名       | 菅澤 庸子   | 旧科目名称 | 日本古代史Ⅰ, 日本古代史s |
| 講義概要       | <p>激動する世界情勢の中、現在ほど国家や民族について見直すことが求められている時代はないだろう。いま自分が属している「日本」という社会とは何か。はじまりから振り返る事は現代を考える上でも大切である。 本講では「日本」以前に「倭人」として中国に存在を発見された時期から、「日本」という国号を自ら名のり「天皇」という王号を創り出した時期とその背景、古代社会の世界標準としての「律令制」の受け入れとその破綻について、順次論じる。その一方で人々の意識について名前の付け方を通して考え、田村麻呂伝承と蝦夷観を通じて中世への道筋を考察する。</p>   |       |                |
| 教材（テキスト）   | なし。講義時ごとにプリントを配付する。   |       |                |
| 教材（参考文献）   | 講義時に適宜紹介する。   |       |                |
| 教材（その他）    |   |       |                |
| 評価方法       | 平常点（20％）授業中提出物（ほぼ毎回行う予定）と出席状況などによる。定期テスト（80％）   |       |                |
| 到達目標       | 古代日本社会の特色の理解。現在の「日本」について改めて考える一つの視座を養う。   |       |                |
| 準備学習       | 日本史の大きな流れを基礎知識として確認しておくこと。中学、高校などで使用した教科書を見直すなどしておくことよい。日本史概説を履修しておくことが望ましい。  |       |                |
| 受講者への要望    | <p>常時出席し、講義中ノートをよく取っておくこと。テキストはないので、やむを得ず欠席する場合はノートを友人にみせてもらうこと。理解に応じて講義を進めるので、質問があれば積極的におこなうこと。</p>  |       |                |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 開講にあたって — 「日本」とは何か—   2. 「倭人」の発見   3. 倭王権の誕生   4. 白村江の敗戦   5. 「天皇」号と「日本」国号の創出   6. 律令制国家の特質（1）   7. 律令制国家の特質（2）   8. 人名にみる奈良時代の人の意識   9. 人名にみる平安時代の人の意識   10. 律令制の破綻と 10 世紀の転換（1）   11. 律令制の破綻と 10 世紀の転換（2）   12. 律令制の破綻と 10 世紀の転換（3）   13. 田村麻呂伝承と蝦夷観の変遷 — 中世への視座— （1）   14. 田村麻呂伝承と蝦夷観の変遷 — 中世への視座— （2）   15. まとめ — 日本の古代社会の特質—</p> |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |                  |
|--|--|-------|------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50513B01        |
| 科目名  | 歴史学特殊講義（日本古代史）II   | 単位数   | 2                |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II   |       |                  |
| 担当者名   | 菅澤 庸子  | 旧科目名称 | 日本古代史II, 日本古代史 f |
| 講義概要   | 日々変動する世界情勢の中、新しい秩序の構築が模索されている。国家の枠組みを超えたアジアの連携もその一つである。今後より深い結びつきをもつであろうアジアの国々と日本は、今までどのような関わりをもってきたのか。歴史を振り返ることは未来に踏み出す一歩である。 本講では東アジアの世界における日本の歴史について、次の3つの視点から論じる。1つは国としての接し方。東アジア共通の国際秩序である冊封体制への対応の仕方について。2つは人間の往来。どんな人々が海を越えて列島に来て、日本側はどう対応したか。3つは文化の交流。渡来したものをいかに受けとめ、日本の文化として形づくったか。これらを主軸に画期となる時期を取り上げてみていくこととする。 |       |                  |
| 教材（テキスト）   | なし。講義時ごとにプリントを配付する。  |       |                  |
| 教材（参考文献）   | 講義時に適宜紹介する。  |       |                  |
| 教材（その他）  |  |       |                  |
| 評価方法   | 平常点（10%）出席状況などによる。小テスト（20%）定期テスト（70%）  |       |                  |
| 到達目標   | 古代日本と東アジアの関わり方の理解。今後のアジアとの関わり方について考える一つの視座を養う。   |       |                  |
| 準備学習   | 日本史の大きな流れを基礎知識として確認しておくこと。中学、高校などで使用した教科書を見直すなどしておくことよい。日本史概説を履修しておくことが望ましい。   |       |                  |
| 受講者への要望  |  |       |                  |
| 前半に一度、授業理解の度合いの確認と復習を兼ねて小テストをおこなう（下記講義の順序欄参照）。常時出席し、講義中ノートをよく取っておくこと。テキストはないのでやむを得ず欠席する場合は友人にノートをみせてもらうこと。理解に応じて講義を進めるので、質問があれば積極的におこなうこと。   |  |       |                  |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                  |
| 1. 開講にあたって 一東アジアの中の日本― 2. 東アジア世界の政治秩序（1）冊封体制とは 3. 東アジア世界の政治秩序（2）倭王権の対応 その1 4. 東アジア世界の政治秩序（3）倭王権の対応 その2 5. 小テスト 6. 復習（テスト解説）、東アジア世界の政治秩序（4）古代日本国の対応（奈良） その1 7. 東アジア世界の政治秩序（5）古代日本国の対応（奈良） その2 8. 東アジア世界の政治秩序（6）古代日本国の対応（平安） その1 9. 東アジア世界の政治秩序（7）古代日本国の対応（平安） その2 10.人流の歴史（1）渡来第1波 11.人流の歴史（2）渡来第2波 12.人流の歴史（3）渡来第3波 その1 13.人流の歴史（4）渡来第3波 その2 14.異文化交流による日本文化の形成（1） 15.異文化交流による日本文化の形成（2） |  |       |                  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |                    |
|--|--|-------|--------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50523A01          |
| 科目名  | 日本語史 A   | 単位数   | 2                  |
| 科目名 (英語表記)   | History of Japanese Language A   |       |                    |
| 担当者名   | 山中 延之  | 旧科目名称 | 日本語の歴史 A, 日本語の歴史 s |
| 講義概要   | 日本語の音 (おと) の歴史について概説する。例えば、平安時代のハ行音はファ・フィ・フ・フェ・フォのように発音されていたと考えられている。しかし、現代の発音は、私たちがよく知るように、ハ・ヒ・フ・ヘ・ホである。このような違いのあることがなぜ分かるのか。どのように変化していったのか。このような具体的な現象について、視覚的な資料などを補いながら、講義をおこなう。教科書として、橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて』を読む。 時代背景・文化的背景についても解説する。 |       |                    |
| 教材 (テキスト)  | 橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて他二篇』(1980年、岩波文庫)  |       |                    |
| 教材 (参考文献)  | 亀井孝・大藤時彦・山田俊雄編『日本語の歴史』(1963-66年、平凡社 *平凡社ライブラリー再収) 佐竹昭広著『古語雑談』(1986年、岩波新書) 金田一春彦著『日本語新版(上)(下)』(1988年、岩波新書) 秋本守英編『資料と解説日本文章表現史』(2006年、和泉書院) 山口仲美『日本語の歴史』(2006年、岩波新書)  その他  |       |                    |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜配布・指示する。   |       |                    |
| 評価方法   | 平常点 (受講態度等) 20%、学期末試験 80%  |       |                    |
| 到達目標   | 学生諸君自身が、様々な日本語の現象について言葉を用いて説明することができるようになることを目標とする。例えば、日本語について誤った知識が流通していることがある (「関東と関西はアクセントが逆」など)。なぜそれが誤りと言えるのか、どうして誤った考えが広まったのか。このようなことについて、論理的に説明できるようになることが目標である。   |       |                    |
| 準備学習   | 特になし。 次回までに読んでおくべき論文等がある場合は、事前に指示する。   |       |                    |
| 受講者への要望  |  |       |                    |
| 学生諸君からの発言・質問を歓迎する。 他の受講者の迷惑となる行為 (特に私語) は慎むこと。   |  |       |                    |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                    |
| 1 橋本進吉著「駒のいななき」(指定テキスト所収)を読む…日本語のハ行音の歴史について考える 2 橋本「駒のいななき」に対する異見を検討する 3 橋本進吉著「国語音韻の変遷」(指定テキスト所収)を読む(1)…第一期(～奈良時代)I 4 橋本「国語音韻の変遷」を読む(2)…第一期II 5 橋本「国語音韻の変遷」を読む(3)…第一期III 6 橋本「国語音韻の変遷」を読む(4)…第二期(平安～室町時代)I 7 橋本「国語音韻の変遷」を読む(5)…第二期II 8 橋本「国語音韻の変遷」を読む(6)…第二期III 9 橋本「国語音韻の変遷」を読む(7)…第三期(江戸～現代)I 10 橋本「国語音韻の変遷」を読む(8)…第三期II 11 橋本「国語音韻の変遷」を読む(9)…第三期III 12 補足・アクセント 13 補足・文字と音韻I 14 補足・文字と音韻II 15 まとめ 学期末試験  *諸事情により上の予定を変更することがある。 |  |       |                    |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                    |
|------------|--|-------|--------------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50523B01          |
| 科目名        | 日本語史 B   | 単位数   | 2                  |
| 科目名 (英語表記) | History of Japanese Language B   |       |                    |
| 担当者名       | 山中 延之  | 旧科目名称 | 日本語の歴史 B, 日本語の歴史 f |
| 講義概要       | 日本語の歴史の様々な面について概説する。山口仲美『日本語の歴史』を読むことによって、日本語における文体・音韻・文法・語彙等の歴史を学ぶ。テキストを要約しつつ、補足資料を用いることで、より多面的な理解を目指す。  時代背景・文化的背景についても適宜解説する。   |       |                    |
| 教材 (テキスト)  | 山口仲美 (2006)『日本語の歴史』岩波書店 (岩波新書新赤版 1018)   |       |                    |
| 教材 (参考文献)  | 橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて他二篇』(1980年、岩波文庫)   亀井孝・大藤時彦・山田俊雄編『日本語の歴史』(1963-66年、平凡社 *平凡社ライブラリー再収)   佐竹昭広著『古語雑談』(1986年、岩波新書)   金田一春彦著『日本語新版(上)(下)』(1988年、岩波新書)   秋本守英編『資料と解説日本文章表現史』(2006年、和泉書院)   その他  |       |                    |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜配布・指示する。   |       |                    |
| 評価方法       | 平常点 (受講態度等) 20%、学期末試験 80%  |       |                    |
| 到達目標       | 日本語史上のいくつかのことがらを知ることで、普段用る日本語に対する理解を深める。 日本語に対する客観的な観察が行えるようになる。   |       |                    |
| 準備学習       | 特になし。 次回までに読んでおくべき論文等がある場合は、事前に指示する。   |       |                    |
| 受講者への要望    | 学生諸君からの発言・質問を歓迎する。 他の受講者の迷惑となる行為 (特に私語) は慎むこと。   |       |                    |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに…講義の概要等について説明する 2 奈良時代 I  3 奈良時代 II  4 奈良時代 III  5 平安時代 I  6 平安時代 II  7 平安時代 III  8 鎌倉・室町時代 I  9 鎌倉・室町時代 II  10 鎌倉・室町時代 III  11 江戸時代 I  12 江戸時代 II  13 江戸時代 III  14 明治時代以降 I  15 明治時代以降 II ・まとめ 試験  *諸事情により上の予定を変更することがある。 |       |                    |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50527A0A |
| 科目名   | 日本語学講読A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading on Japanese Language Study A  |       |           |
| 担当者名  | 丸田 博之   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 2回生の「購読」は、卒業論文作成の最初のステップである。購読→演習→卒論の流れを念頭におき、授業に参加されたい。発表用レジュメを作成できる能力を育成する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 天草版イソップ物語―大英図書館本影印（勉誠出版）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業中の発表（50%）、レポート（50%）で採点する。   |       |           |
| 到達目標  | 専門演習の前段階として、資料の探索方法を会得する。   |       |           |
| 準備学習  | 市販のイソップ物語に目を通しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁。遅刻もしないように。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の概要説明  2 ポルトガル式アルファベットの読み方  3 昨年度発表者のレジュメ検討  4 個人発表・合評  5 個人発表・合評  6 個人発表・合評  7 個人発表・合評  8 個人発表・合評  9 個人発表・合評  10 合評会  11 個人発表・合評  12 個人発表・合評  13 個人発表・合評  14 個人発表・合評  15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50529B01 |
| 科目名   | 日本語学特殊講義B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Japanese Language Study B  |       |           |
| 担当者名  | 岩田 美穂  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>中学・高校と古典語を学んだ人は多いと思うが、その古典語を現代語とつながりのある言葉として認識している人は少ない。普段私たちが話している言葉と古典の言葉とは全くの別物ではなく、古典語の世界から長い歴史を経て現在につながってきているのが現代語である。本講義では、各時代の特徴的な現象を取り上げ、それらの単語や文法の現象がどのように現代とつながっているのか、分析・考察していく。また、後半には現代語の現象も取り上げ、現在から将来へ言葉がどのように変わっていくか考えていく。通時的・共時的に言葉をとらえることで、普段何気なく使っている言葉について理解を深めてもらいたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業時にプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜、授業内で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 出席・質問カード（30%）、授業内小テスト（30%）、レポート（40%） 毎回授業時に質問カードを配り、質問や疑問を考えてもらう。質問カードの提出がない者は出席とは認めない。 授業内小テストは2回行う。テストの2週間前には告知する。   |       |           |
| 到達目標  | 古典語から現代語へ、日本語の歴史の概略を知る。 古典語の資料が扱えるようになる。 日常的に使っている言葉に関心を持ち、疑問や不思議な現象を発見し、分析することができる。   |       |           |
| 準備学習  | 普段使っている言葉で気になる現象はないか、考えておく。 各講義の最後に次の講義のための準備を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 積極的に授業に出席し、単に講義を聴くだけでなく積極的に発言、質問をすること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1, はじめに、資料と時代区分 2, 上代（奈良時代）の言葉（1） 3, 上代（奈良時代）の言葉（2） 4, 中古（平安時代）の言葉（1） 5, 中古（平安時代）の言葉（2） 6, 中世（鎌倉・室町時代）の言葉（1） 7, 中世（鎌倉・室町時代）の言葉（2） 8, 小テスト 9, 近世（江戸時代）の言葉（1） 10, 近世（江戸時代）の言葉（2） 11, 近代（明治時代）の言葉 12, 近・現代の言葉 13, 方言と歴史 14, 方言と歴史 15, まとめと小テスト |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50529D01 |
| 科目名  | 日本語学特殊講義D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Japanese Language Study D   |       |           |
| 担当者名   | 松本 朋子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代人である私たちにとって、古代の日本語が記された資料は難解で、ほとんど理解できないこともある。これは、古代から現代までのあいだに、日本語に何らかの変化が起こった、ということの現れである。  文法に注目しても、古代日本語にみられる係り結びや助詞、助動詞などのうちのいくつかは、現代語では既に失われてしまっている、と考えられる。また反対に、近代語・現代語に特有の文法もある。  この講義では、現代語と古代語では日本語の文法が変化している、という点に着目する。まずはじめに古代日本語の様相を知ることができる資料について概観し、そして、そこに見られるいくつかの現象をピックアップし、考察を行っていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、適宜プリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 小田勝『古代日本語文法』おうふう 金田一春彦『日本語 新版（下）』岩波新書   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）出席状況等による。学期末レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標   | 日本語の文法が、どのような歴史的変遷を経て、現代日本語へとつながっていったのか、という点について考える。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 古代日本語についての基礎知識①  2. 古代日本語についての基礎知識②  3. 古代日本語についての基礎知識③  4. 名詞  5. 動詞  6. さまざまな述語  7. 時間についての表現  8. 文の述べかた  9. 形容詞・副詞  10. 代名詞・指示語  11. 句と文①  12. 句と文②  13. 助詞①  14. 助詞②  15. 複文  ※講義の内容については、受講者の希望に応じて変更することがある |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50539001 |
| 科目名        | 日本史研究入門  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Study of Japanese History  |       |           |
| 担当者名       | 中森 洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本史研究の基礎となる、史料の読み方、調べ方を学ぶ。最初に、史料を読むために必要な基礎知識を学習し、続いて、活字化された史料(古文書)を用いて、その様式と読み方を学ぶ。ただし、近世文書を主とする。近世文書は、地域史を研究しようとするとき、最も多く伝存している史料だからである。授業形式は、まず基礎知識の学習は講義形式とする。次に、古文書(近世文書)の解読は、当初は、講師が解読例を示し次回に受講者が復習するというかたちをとるが、後半は、受講者を指名した輪読形式とする。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 若尾俊平編著『図録古文書入門事典(新装版)』(柏書房株式会社)、児玉幸多編『古文書調査ハンドブック』(株式会社吉川弘文館)、日本歴史学会編『概説古文書学・近世編』(株式会社吉川弘文館)、ほか。   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点40%(出席状況・報告内容・小テスト・レポート等による)、定期試験60%  |       |           |
| 到達目標       | 日本史研究の基礎知識を習得すると共に、活字史料(近世古文書)の解読力を身につけることをめざす。  |       |           |
| 準備学習       | 活字史料の解読については、講義の最後に、次回のプリントを配布するので、各自必ず予習しておくこと(とくに後半期は発表者を指名する)。  |       |           |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |
| 史料が読めなければ、歴史学は学べない。歴史史料は、現代人にとっては外国語に近い。したがって、史料の解読力を身につけるには、外国語学ぶのと同様に、継続的な学習が必須であるので、地道な努力を望む。なお、史料(古文書)の読み方を習得するには、声を出して読むことが効果的です。  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |
| *以下の授業計画は、受講者の習熟度により、変更することがあります。 1. はじめに(参考図書とその調べ方) 2. 史料集とその調べ方、研究史とその調べ方 3. 日本史研究の基礎知識1(旧国名、官職名) 4. 日本史研究の基礎知識2(暦と時刻法、方角) 5. 日本史研究の基礎知識3(度・量・衡) 6. 日本史研究の基礎知識4(江戸幕府と藩の職制) 7. 日本史研究の基礎知識5(収取制度) 8. 日本史研究の基礎知識6(貨幣制度) 9. 日本史研究の基礎知識7(交通制度) 10. 古文書のかたち・種類・装幀 11. 近世文書の様式と解読1(判物・朱印状・黒印状) 12. 近世文書の様式と解読2(法度・条目1) 13. 近世文書の様式と解読3(法度・条目2) 14. 近世文書の様式と解読4(触書) 15. 近世文書の様式と解読5(高札) 16. 近世文書の様式と解読6(裁許状) 17. 近世文書の様式と解読7(村掟・村定) 18. 近世文書の様式と解読8(五人組帳前書) 19. 近世文書の様式と解読9(検地帳) 20. 近世文書の様式と解読10(年貢割付状・皆済目録) 21. 近世文書の様式と解読11(宗門人別改帳) 22. 近世文書の様式と解読12(往来手形) 23. 近世文書の様式と解読13(願書) 24. 近世文書の様式と解読14(内済証文) 25. 近世文書の様式と解読15(町法・町内式目) 26. 近世文書の様式と解読16(沽券) 27. 近世文書の様式と解読17(奉公人請状) 28. 近世文書の様式と解読18(借用証文・売買証文) 29. 近世文書の様式と解読19(その他) 30. まとめ |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50541A0A |
| 科目名        | 歴史民俗学資料講読（日本史）A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Reading: Historical Folklore Materials ( Japanese History) A   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>日本の文化や社会あるいは自らの育った地域の歴史を研究するうえで、昔の人々が書き残した日記や地誌あるいは旅の紀行文、町や村で起こった出来事に関する訴状や命令書などの史料を読むことは、もっとも基礎的で必修かつ不可欠の作業。でも、この作業は1年や2年で出来ることではなく、ほんとうの読解力を身につけるには、数年の学習を必要とします。  この授業では、干支や時刻、度量衡、特異な文字（異体字や変体仮名）、常用の語句とその意味、定型の文章など、まず史料を読むための基礎的な知識を学びますが、これはほとんど自習となり、すぐに史料の購読に入ります。  講読するのは、文亀元（1501）年3月から永正元（1504）年12月までの約4年間、和泉国日根荘という家領の荘園に下向して直務支配をした前関白九条政基の日記『政基公旅引付』。戦国時代における在地の状況を生き生きと伝える記録として有名な史料です。  この日記の講読は、前回生から既にスタートしており、それを継承して文亀2年正月から読み始めます。昨年度の受講生（3回生）が数名、続けてゼミに入ってくるかもしれませんが、これもいい勉強になると思います。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『政基公旅引付』のコピープリント   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で教示   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業内で教示   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等と授業中の講読力（50%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 声を出して間違いなく読めること。   |       |           |
| 準備学習       | 必ず予習してくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>講読の進行度に合わせて、必ず予習をしてください。予習無しに出席しても、全く理解できず無意味です。最低限、このルールだけは守ってください。なお、科目はA・Bとなっていますが、Bだけの受講は原則認めません。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>A（春学期）   1. 開講にあたって   2. 日本史の史料に関する基礎知識の学習   3. 九条家領和泉国日根野荘の概説   4. 『政基公旅引付』の概説   5. 『政基公旅引付』を読む   6. 同 上   7. 同 上   8. 同 上   9. 同 上   10. 同 上   11. 同 上   12. 同 上   13. 同 上   14. 同 上   15. 同 上  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50541B0A |
| 科目名        | 歴史民俗学資料講読（日本史）B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Reading: Historical Folklore Materials ( Japanese History) B   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>日本の文化や社会あるいは自らの育った地域の歴史を研究するうえで、昔の人々が書き残した日記や地誌あるいは旅の紀行文、町や村で起こった出来事に関する訴状や命令書などの史料を読むことは、もっとも基礎的で必修かつ不可欠の作業。でも、この作業は1年や2年で出来ることではなく、ほんとうの読解力を身につけるには、数年の学習を必要とします。  この授業では、干支や時刻、度量衡、特異な文字（異体字や変体仮名）、常用の語句とその意味、定型の文章など、まず史料を読むための基礎的な知識を学びますが、これはほとんど自習となり、すぐに史料の購読に入ります。  講読するのは、文亀元（1501）年3月から永正元（1504）年12月までの約4年間、和泉国日根荘という家領の荘園に下向して直務支配をした前関白九条政基の日記『政基公旅引付』。戦国時代における在地の状況を生き生きと伝える記録として有名な史料です。  この日記の講読は、前回生から既にスタートしており、それを継承して文亀2年正月から読み始めます。昨年度の受講生（3回生）が数名、続けてゼミに入ってくるかもしれませんが、これもいい勉強になると思います。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『政基公旅引付』のコピープリント   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で教示   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業内で教示   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等と授業中の講読力（50%）により評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 声を出して間違いなく読めること。   |       |           |
| 準備学習       | 必ず予習してくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>講読の進行度に合わせて、必ず予習をしてください。予習無しに出席しても、全く理解できず無意味です。最低限、このルールだけは守ってください。なお、科目はA・Bとなっていますが、Bだけの受講は原則認めません。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>B（秋学期）   1. 『政基公旅引付』を読む   2. 同 上   3. 同 上   4. 同 上   5. 同 上   6. 同 上   7. 同 上   8. 同 上   9. 同 上   10. 同 上   11. 同 上   12. 同 上   13. 同 上   14. 同 上   15. 同 上  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                |
|---|---|-------|----------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50544A01      |
| 科目名   | 歴史学特殊講義（日本中世史）Ⅰ   | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I  |       |                |
| 担当者名  | 中西 裕樹   | 旧科目名称 | 日本中世史Ⅰ, 日本中世史s |
| 講義概要  | <p>戦国時代は、大名や寺社だけではなく、さまざまな人々が歴史を動かす主体となりました。特に畿内周辺では、京都に室町幕府や諸権門が存続する中、村などを中心とする地域社会が成熟をみせます。現代のわれわれとは異なり、中世の人々が活動した主な舞台は、この生まれ育った地域にありました。 本講義では、首都京都の周辺にあたる丹波・摂津などの地域を取り上げます。そして、時代が大きく近世へ向かう中、これら地域をリードした人々の動向と地域を包括した権力の変化をとらえ、戦国時代の畿内の特徴を考察していきます。</p> |       |                |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |                |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介します。  |       |                |
| 教材（その他）   | パワーポイントや映像、プリントなどを使用。   |       |                |
| 評価方法  | 平常点 30%(出席状況など)、定期テスト 70%として評価します。  |       |                |
| 到達目標  | 個別の研究事例から歴史像を組み立てる作業を通じて、研究の視野を広げることを目的とする。   |       |                |
| 準備学習  | 講義は段階を追って進めていくので、個人でも適宜復習をお願いしたい。   |       |                |
| 受講者への要望   |   |       |                |
| 歴史学特殊講義(日本中世史)Ⅱと同じフィールド(研究対象の場所や時代)を取り扱うので、あわせての受講が望ましい。講義には積極的な参加をお願いします。  |   |       |                |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                |
| 1 ガイダンス 戦国時代への視点  2 戦国大名の登場  3 一揆の広がり  4 戦国の村と町  5 畿内の戦国時代  6 室町幕府と細川京兆家  7 戦国大名三好長慶と地域社会  8 地域の動向① 荘園と村  9 地域の動向② 村々の姿  10 地域の動向③ 侍たちの活動  11 京都とその周辺① 国人たちの活動  12 京都とその周辺② 地域の「大名」へ  13 天下統一と地域社会① 織田信長以前  14 天下統一と地域社会② 織田信長以後  15 まとめ 戦国時代の畿内と地域社会 |   |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                  |
|------------|--|-------|------------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50544B01        |
| 科目名        | 歴史学特殊講義（日本中世史）II   | 単位数   | 2                |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II  |       |                  |
| 担当者名       | 中西 裕樹  | 旧科目名称 | 日本中世史II, 日本中世史 f |
| 講義概要       | <p>中世は「地域」の時代です。しかし、地域の歴史を扱うにあたり、いつも豊富な資料に恵まれるとは限りません。このため、歴史地理学や考古学など、さまざまな分野の研究手法を駆使する必要があります。その1つのアプローチが城館跡のフィールド調査に基づく城館研究で、都市や寺院研究への応用も可能です。  戦国時代は、人々と戦乱が隣り合わせであり、戦国大名から村人に至るまで、実に多彩な人々が「城館」という軍事施設を構えていました。本講義では、地域史を探る方法論として城館研究を用い、城館跡を通じた畿内の戦国時代像や織田信長・豊臣秀吉らの統一権力、そして現在へと続く城下町への知見を探ります。</p> |       |                  |
| 教材（テキスト）   | 特になし。  |       |                  |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介します。   |       |                  |
| 教材（その他）    | パワーポイントや映像、プリントなどを使用。  |       |                  |
| 評価方法       | 平常点 30% (出席状況など)、定期テスト 70% として評価します。   |       |                  |
| 到達目標       | フィールドワークなど城館研究の方法論を学び、研究の視野を広げることを目的とする。   |       |                  |
| 準備学習       | 講義は段階を追って進めていくので、個人でも適宜復習をお願いしたい。  |       |                  |
| 受講者への要望    | 歴史学特殊講義(日本中世史) I と同じフィールド(研究対象の場所や時代)を取り扱うので、あわせての受講が望ましい。講義には積極的な参加をお願いします。   |       |                  |
| 講義の順序とポイント | <p>1 ガイダンス 城館研究入門  2 城館の歴史と中世城館の世界  3 城館研究のフィールドワーク  4 戦国大名と信長・秀吉の城  5 武装する村と一揆の城  6 城館と地域社会～フィールドの実践①  7 城館と地域社会～フィールドの実践②  8 丹波からみた山城の世界  9 守護たちの大規模戦争と地域の城館  10 城館からみた戦国時代の畿内  11 戦国大名三好長慶の城と織田信長  12 城下町の誕生と巨大寺内町  13 信長と秀吉の城下町～安土と大坂  14 京都の「御土居」から近世城下町へ  15 まとめ 戦国時代の城館と地域社会</p>                |       |                  |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50551A01 |
| 科目名   | 日本美術史 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | History of Japanese Arts A   |       |           |
| 担当者名  | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとOHC・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に用いない   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」(東京美術、2002年)   |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回、図版プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法  | 期末のレポート(75点)と平常点(25点)の合計で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 日本の文化・芸術の特質を絵画を通じて理解できるようになること   |       |           |
| 準備学習  | 不要   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業中の私語を慎むこと。注意しても従わないものには、退席を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 奈良時代以前  2. 平安時代の仏画  3. 平安時代の絵巻物  4. 鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻  5. 室町時代の水墨画  6. 安土桃山時代の障屏画(狩野派ほか)  7. 同上 (長谷川派)  8. 狩野派・土佐派  9. 琳派  10. 浮世絵  11. 文人画  12. 円山・四條派  13. 洋風画  14. 奇想の画家たち  15. 絵画の材料と絵の具 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50551B01 |
| 科目名        | 日本美術史B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Japanese Arts B  |       |           |
| 担当者名       | 西村 俊範   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語るができない。  以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、OHCとビデオを多用しながら概観したい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特には用いない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、1998年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回図版プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法       | 期末のレポート（75点）と平常点（25点）の合計で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解する   |       |           |
| 準備学習       | 不要  |       |           |
| 受講者への要望    | 私語を慎むこと。注意しても従わないものには退席を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 縄文土器・弥生土器  2. 土師器・須恵器・奈良三彩  3. 初期貿易陶磁（三彩ほか）  4. 初期貿易陶磁（青磁・白磁）  5. 灰釉・緑釉  6. 荘園貿易の時代  7. 六古窯  8. 鎌倉・室町時代の輸入陶磁  9. 新安海底遺物  10. 安土桃山時代の茶陶  11. 安土桃山・江戸の輸入陶磁  12. 伊万里焼  13. 後期伊万里・鍋島  14. 京焼  15. 明治以降の陶磁  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50554B0A |
| 科目名  | 伝統文化専門演習 I B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar: Specialized Japanese Culture IB   |       |           |
| 担当者名   | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本の伝統文化の中から、各自が興味を抱いたテーマを1つ選ぶ。そのテーマについての、現在までの研究状況、問題点の把握、自分なりの取りまとめを行って、卒業研究の完成に至るまでの実際の過程を具体的に認識する作業を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点50点・発表50点   |       |           |
| 到達目標   | 卒業研究を滞りなく進められるような力をつける。  |       |           |
| 準備学習   | あらかじめ、掘り下げてみたいテーマを各自考えておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 他の学生の発表を聞いて、討論に加わり、意見・感想を述べることも平常点に含まれているので、積極的に加わってほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 講義の進め方、発表の手順の説明 2. 各自のテーマの持ち寄り、図書館で参考図書を選定 3. 発表 4. 発表 5. 発表 6. 発表 7. 発表 8. 発表 9. 発表 10. 発表 11. 発表 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 合評会 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50556A0A |
| 科目名  | 伝統文化専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar: Specialized Japanese Culture II A                                    |       |           |
| 担当者名   | 西村 俊範   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 伝統文化に関する卒業論文の指導を目標とする。受講生が卒業研究の候補に選んでいる題材を順次取り上げて発表してもらい、研究テーマの論点が整理できるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各自のテーマに沿ったものを用意する   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 授業中の発表またはレポート   |       |           |
| 到達目標   | 選んだテーマを詳しく調査してゆくための方法を身につけ、テーマに関する知識を深め、現状での論点となりうるような問題が何処にあるかを的確に認識する能力を養う  |       |           |
| 準備学習   | 卒業論文のテーマの候補を2～3考えておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 他の発表者の研究方法・発表方法を大いに参考にして自己の研究に生かしてほしい  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 各自のテーマの選定 2. 先行する研究書・論文の調査1 3. 先行する研究書・論文の調査2 4. 先行する研究書・論文の調査3 5. 先行研究の読み込み1 6. 先行研究の読み込み2 7. 先行研究の読み込み3 8. 調査のまとめを発表1 9. 調査のまとめを発表2 10. 調査のまとめを発表3 11. まとめに対する指導1 12. まとめに対する指導2 13. まとめに対する指導3 14. 指導に基づく改善作業 15. 改善発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                       |  |       |           |
|---------------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                                    | 2012                                       | 授業コード | J50556B0A |
| 科目名                                   | 伝統文化専門演習 II B                              | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                            | Seminar: Specialized Japanese Culture II B |       |           |
| 担当者名                                  | 西村 俊範                                      | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                  | 卒業研究の指導                                    |       |           |
| 教材 (テキスト)                             |  |       |           |
| 教材 (参考文献)                             | 必要なものを適宜用意する                               |       |           |
| 教材 (その他)                              |  |       |           |
| 評価方法                                  | 発表の仕方と準備資料                                 |       |           |
| 到達目標                                  | 各自のテーマに沿って、十分な準備と他人が理解しやすい話し方の工夫がなされること    |       |           |
| 準備学習                                  | 授業の中で順次指示する                                |       |           |
| 受講者への要望                               |  |       |           |
| 授業時間だけでなく随時質問・指導の時間を自発的に取るようにしてください   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                            |  |       |           |
| 1～5 研究の指導  6～10 中間報告  11～15 個別の問題点の指導 |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50561A01 |
| 科目名   | 日本文化史 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Cultural History of Japan A  |       |           |
| 担当者名  | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>現代の日本文化は、世界的な変化と連動して新たな枠組みを形成しつつあります。まして最近の驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、今後、どのような文化世界が形づくられていくのかを極めて見えにくくしています。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきました。その意味でも、今あらためて日本文化の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならないのです。  本講義では、(I)「都市の文化史」(春学期)と(II)「茶の文化史」(秋学期)の二つをテーマとして設定。(I)では、古代都市「平安京」の造営から中・近世都市「京都」の成立に至る変遷をベースとしながら、各時期における文化的特徴を明らかにし、日本文化を考えるうえでの問題点と新たな視点を提起します。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』(阿吡社)・同『日本の茶 — 歴史と文化 —』(淡交社)。ほかに講義内で適宜に教示。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリント資料を配付。   |       |           |
| 評価方法  | 春学期末に上杉本「洛中洛外図屏風」に関するレポートを課します。成績は、提出レポート30パーセント、定期試験70パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 日本文化の歴史に興味を持ち、自分で何かを調べてみよう。  |       |           |
| 準備学習  | 授業の進行に合わせて次のテーマを予告しますので、それについての学習をして講義に臨んでください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 真摯な姿勢での受講を望みます。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. はじめに (テーマI「都市の文化史」——平安京と京都——)   2. 古代都市「平安京」   3. 唐風と国風   4. 貴族サロンと女流文学   5. 武士と合戦物   6. 中世都市「京都」の成立   7. 日本の14世紀(南北朝内乱の社会史)   8. 同   9. 室町文化の創造   10. 「洛中洛外図屏風」の成立と展開   11. 上杉本「洛中洛外図屏風」にみる中世都市京都の生活と風俗 (I)   12. 上杉本「洛中洛外図屏風」にみる中世都市京都の生活と風俗 (II)   13. 天下統一と近世都市「京都」の成立   14. 同   15. 江戸・大坂・京都</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50561B01 |
| 科目名  | 日本文化史 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Cultural History of Japan B   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>現代の日本文化は、世界的な変化と連動して新たな枠組みを形成しつつあります。まして最近の驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、今後、どのような文化世界が形づくられていくのかを極めて見えにくくしています。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきました。その意味でも、今あらためて日本文化の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならないのです。  本講義では「茶の文化史」をテーマとして設定。日本の茶文化は平安京に華ひらき京都の家元茶道に至る、優れて都市的・伝統的な文化の世界に属するものですが、喫茶や茶道にとどまらずライフサイクルにおける茶の習俗(茶俗)をも明らかにすることによって茶文化とその歴史の総合的理解を促し、日本文化を考えるうえでの問題点と新たな視点を提起します。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』(阿吡社)・同『日本の茶 — 歴史と文化 —』(淡交社)。ほかに講義内で適宜に教示。   |       |           |
| 教材(その他)  | 必要に応じてプリント資料を配付。  |       |           |
| 評価方法   | 秋学期末に「ふるさとの茶俗」に関するレポートを課します。成績は、提出レポート30パーセント、定期試験70パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標   | ライフサイクルにおける茶の習俗(茶俗)に興味を持ち、自分の生まれ育った地域の茶俗を調べてみよう。  |       |           |
| 準備学習   | 茶の文化に関する総合的な理解とは何か、ということを中心に念頭に置き、新聞や雑誌などの記事にも注意をはらって欲しい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 真摯な姿勢での受講を望みます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. はじめに(テーマII「茶の文化史」)  2. 喫茶の伝来   3. 唐風茶の盛衰   4. 新しい茶法の将来   5. 喫茶の普及   6. 茶の湯の成立と展開   7. 「一服一銭」の茶   8. 描かれた茶屋   9. 忘れられた「茶湯」—— もう一つの茶文化世界 ——   10. 歳時の茶俗(I) —— 正月の若水と大福茶 ——   11. 歳時の茶俗(II) —— 盆月(盂蘭盆)の茶湯 ——   12. 婚姻儀礼にみる茶俗 —— 茶と文化コミュニケーション ——   13. 産育・葬送儀礼にみる茶俗 —— 茶の境界性とキヨメ機能 ——   14. 日本茶俗の歴史(I)   15. 同上(II)  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50564A01 |
| 科目名   | 日本文化論 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Cultural Theory about Japan I  |       |           |
| 担当者名  | 西村 俊範  | 旧科目名称 | 日本文化論 A   |
| 講義概要  | シルクロードと正倉院  奈良の正倉院には、遣唐使などによる 8 世紀 (日本では奈良時代、中国では唐時代) の国際的な交流によってもたらされた貴重な文物が数多く保管されている。その中には、シルクロードを通じて遥か遠く西方の地域から齎されたものも少なくない。シルクロード・遣唐使の実情を概説したうえで、正倉院に保管される多彩な文物を紹介する。ビデオと OHC を多く用いる予定。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 東野治之「正倉院」(岩波新書)  |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回プリントを配布する  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (25 点満点,出席状況等による) と期末のレポート (75 点満点) 合計で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 日本文化の成り立ち・多面性に対する認識の涵養   |       |           |
| 準備学習  | 高校の日本史・世界史レベルの文化に関する知識があれば良い。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義中の私語を慎むこと。注意しても従わない場合は退室を求めることがある。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. シルクロードー砂漠の道ー   2. シルクロードー海の道ー   3. シルクロードー仏教の伝来ー   4. 遣唐使 1   5. 遣唐使 2   6. 新羅と渤海   7. 正倉院概説   8. 正倉院の歴史   9. 正倉院の絵画   10. 正倉院の書と文房具   11. 正倉院の楽器   12. 正倉院の染織   13. 正倉院の金属器   14. 正倉院の木漆器   15. 正倉院の宝物ーシルクロードの香りー |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                     |   |       |           |
|-------------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                                  | 2012  | 授業コード | J50564B01 |
| 科目名                                 | 日本文化論II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)                           | Cultural Theory about Japan II  |       |           |
| 担当者名                                | 西村 俊範   | 旧科目名称 | 日本文化論B    |
| 講義概要                                | 茶と酒 日本文化の特質を、喫茶と飲酒の二つの観点から探る。  喫茶も飲酒も、ともに世界的拡がりを持ち、我々の日常に深く浸透した嗜好品であり、すでに日常生活習慣と言えるものになっている。それゆえに、各地域の文化的特色を探り比較する良い手がかりともなるものである。酒と茶に関する基本的知識・歴史を概説して、日本的な喫茶と飲酒のあり方を見てみたい。ビデオとOHCを多く用いる予定。 |       |           |
| 教材(テキスト)                            |   |       |           |
| 教材(参考文献)                            | 村井康彦「茶の文化史」(岩波新書)   |       |           |
| 教材(その他)                             | 毎回プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法                                | 平常点(25点満点,出席状況等による)と期末のレポート(75点満点)の合計で評価する。   |       |           |
| 到達目標                                | 茶と酒に関する一歩進んだ正しい理解   |       |           |
| 準備学習                                | 特に求めない  |       |           |
| 受講者への要望                             |   |       |           |
| 講義中の私語を慎むこと。注意しても従わない場合は退室を求める事がある。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                          | 1. 酒造りの歴史1 2. 酒造りの歴史2 3. 日本の酒 4. 日本酒の歴史 5. 茶とは  6..中国の喫茶文化(唐)  7. 中国の喫茶文化(宋以降)  8. 日本への伝来  9. 茶道の成立  10. 茶道の大成  11. 桃山時代の茶陶 12. 茶道の発展  13. 戦国時代以後の茶  14. 日本の煎茶道  15. ヨーロッパの茶                |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50568A0A |
| 科目名        | 日本文学専門演習 I A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: Specialized Japanese Literature IA   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 『雨月物語』は、江戸時代中期に京や大坂に住んだ上田秋成によって著された怪異小説である。9編の短編小説で構成されている。作品を読みながら、用語の問題点や、歴史的背景、中国の怪奇小説との関連など、問題点を解説する。また、各自がテーマを決めて授業中に発表を行い、疑問点を出し合いながら、意見を交換する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『改訂版 雨月物語』鶴月洋訳注 角川ソフィア文庫 781円 (税別)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 鶴月洋『雨月物語評釈』(角川書店) 新編日本古典文学全集『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(小学館)   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50% 発表またはレポート 50%   |       |           |
| 到達目標       | テーマを掘り下げていく力を養うこと 人前で、他の人にわかるように説明ができるようになること   |       |           |
| 準備学習       | マンガや子供向きの本でもよいから、 雨月物語全体を読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | テーマを決め、授業中に発表してもらおう。 期末のレポートは、発表をしておく書きやすいので、 なるべく早く発表すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、雨月物語の解説 (山崎) 2、上田秋成の生涯 (山崎) 3、「白峯」の背景 保元の乱 (以下受講生による発表、テーマは仮題) 4、西行法師と崇徳院の怨霊  5、「菊花の約」 6、映画DVD鑑賞「雨月物語」 7、「夢応の鯉魚」と三井寺 8、鯉を描いた画家～主人公のモデル～ 9、「仏法僧」の豊臣秀次 10、吉備津神社の釜占い 11、中国の「牡丹燈記」 12、中国の「魚服記」 13、発表 14、発表 15、まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50568B0A |
| 科目名        | 日本文学専門演習 I B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar: Specialized Japanese Literature IB  |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）担当外の授業での質問・発言・議論等 担当時の発表（60%）  |       |           |
| 到達目標       | 卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。   |       |           |
| 準備学習       | 古典文学史について、高校の副読本程度の知識は身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。 1 卒業研究について 3回生秋学期にすべきこと 2 さまざまな進路 3 資料の集め方 4 卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む） 5~14 同 この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表 15 まとめ 今後の日程 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50570A0A |
| 科目名   | 日本文学専門演習II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Seminar: Specialized Japanese Literature IIA                      |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 受講生には4月~6月にテーマについて発表を試み、 10月の中間発表を目標に準備する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 受講生のテーマに共通するものがあれば用いる   |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点、授業への参加度、調査などの実績   |       |           |
| 到達目標  | テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること          |       |           |
| 準備学習  | 自分の興味のあるテーマを考えること   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し 卒業研究にむけて調査をしていくこと   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 各自テーマの選定 2 図書館で調査~カードの取り方 3 小発表と討論 4 小発表と討論 5 書誌学的調査の方法 6 調査 7 参考文献の紹介 8 参考資料の紹介 9 先行研究を考える 10 先行研究の紹介 11 発表 12 発表 13 課題を考える 14 課題を考える 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50570A0B |
| 科目名        | 日本文学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: Specialized Japanese Literature IIA  |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究の指導を行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 学期開始時の発表 (40%)   卒業研究の制作に向けての通常の進行状況 (60%)  |       |           |
| 到達目標       | 各自の卒業研究制作を機会に、より思考を深めるとともに、論述・創作能力の実質的な伸長を図る。   |       |           |
| 準備学習       | 前年度の専門演習 I を土台とする。  |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。    1 卒業研究・創作第一次合同発表会   2 ~ 1 5 卒業研究制作作業の報告と確認、今後の作業の見通し、問題点等について、個別に綿密な指導を行う。 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50570B0A |
| 科目名        | 日本文学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: Specialized Japanese Literature IIB   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究を実際に書いていながら、派生する諸問題を考察していく 中間発表を行う   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 発表など   |       |           |
| 到達目標       | 他人が読んでわかるような文章を書けるようになること 論理的な思考ができるようになること  |       |           |
| 準備学習       | 発表の機会に発表するよう 準備してくること  |       |           |
| 受講者への要望    | 自分の研究だけでなく他の人の研究にも関心をもち 授業中積極的に発言してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒業研究に向けて自分のテーマを決める 2 先行研究を調べる 3 資料を集める 4 実際に序文を書いてみる 5 序文を書くためには、何が必要か、資料を集める 6 調査研究 7 調査研究 8 論文の構成を考える 9 第一章を書いてみる 10 第二章を書いてみる 11 第三章を書いてみる 12 第四章を書いてみる 13 まとめを書いてみる 14 注をつけてみる 15 清書 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50570B0B |
| 科目名  | 日本文学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar: Specialized Japanese Literature IIB            |       |           |
| 担当者名   | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒業研究の指導を行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 学期開始時の発表 (40%)   卒業研究の制作進行 (60%)                        |       |           |
| 到達目標   | 各自の卒業研究制作を通じて、独創的発想・論理的思考・粘り強い調査・魅力的な文章作成能力の、実質的な伸長を図る。 |       |           |
| 準備学習   | 日本文学専門演習 II A の受講を前提とする。                                |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。  1 卒業研究・創作 合同中間発表会   2～15 卒業研究の執筆分を報告。その問題点の指導、書き直し、今後の執筆作業の見通し、調査上の問題点などについて、個別に綿密な指導を行う。 |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50575B0A |
| 科目名   | 日本文学講読B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading: Japanese Literature B   |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 『紫式部日記』をじっくり読む。その過程で、古典文学の基礎知識や紫式部の人生、時代背景について学ぶ。                                  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 紫式部・山本淳子著『紫式部日記』（角川文庫ビギナーズ・クラシックス日本の古典） 授業担当者が著者なので、授業時に一括配布します（有料）。各自で購入しないで結構です。 |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）非担当時間の質問・発言・議論等  担当発表（60%）   |       |           |
| 到達目標  | 平安文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。   |       |           |
| 準備学習  | 担当発表授業が始まる前に教科書を熟読すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 授業の進め方・各時のテーマ発表 受講者の調査発表担当時を決定・図書館で参考図書紹介 2 紫式部日記前史1（山本） 3 紫式部日記前史2（山本） 4 出産を待つ土御門第と中宮彰子(ここから受講者発表開始) 5 彰子の家族 6 皇子誕生 7 祝い事と彰子 8 菊を見ても 紫式部の苦悩1 9 行幸 紫式部の苦悩2 10 五十日の祝い 11 源氏物語新本仕立て 12 大晦日の強盗 13 三才女批評 14 本当の教養 15 総括 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5057700A |
| 科目名        | 日本文学講読C 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Reading: Japanese Literature C   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 滝沢馬琴の読本『南総里見八犬伝』を取り上げて読んでいく。 戦国時代初期、安房（千葉県）の国主・里見家にまつわる物語。 江戸後期、滝沢馬琴が文章を、北斎の弟子柳川重信が挿絵を担当して出版され、 半世紀にわたってベストセラーになった歴史小説。古文に自信のない人も歓迎。 伏姫と愛犬・八房。一つの原型は中国の『水滸伝』。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%と授業への参加度 20% およびレポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | 江戸時代の小説・滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』を読む。物語を楽しみつつ、江戸の風俗や生活の仕組みを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 滝沢馬琴や、中国の白話小説の水滸伝・三国志について、 少し調べておくとうわかりやすい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 長編小説なので、欠席すると話がわかりにくくなります。 できるだけ欠席しないで下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 『南総里見八犬伝』と作者・滝沢馬琴について                      2 発端の物語 里見義美と結城合戦                      3 玉梓の呪い  <br>4 伏姫と犬の八房の誕生                      5 富山の洞窟                      6 『水滸伝』のさわりを読む  <br>7 『三国志』のさわりを読む                      8 本編の物語 大塚番作と宝刀・村雨丸                      9 手束の懐妊と犬の与四郎  <br>10 信乃と浜路                      11 番作の死と信の玉の出現                      12 墓六・亀笹のたくらみ  <br>13 額蔵の生い立ち                      14 糠助の頼み～芳流閣の決闘                      15 浜路の運命 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50579A01 |
| 科目名        | 日本文学史 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Japanese Literature A  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 s   |
| 講義概要       | 高校までで学習する文学史が、ともすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いので、学習した知識をさらに有機的に理解し直し、理解を深めてもらうように工夫した講義を行う。 奈良時代から現代までの全部を概観するのは不可能なので、日本文学史 A では上代を中心として取り上げ、後の時代の文学に対する影響を考察する。(B では江戸時代を概観する) 古事記、日本書紀、万葉集を中心として紹介していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『原色シグマ新日本文学史』文英堂 630円 秋学期「日本文学史B」にも用います。 ほかにプリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 小学館刊新編日本古典文学全集『古事記』・『万葉集』など   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標       | 上代から近現代までの、文学史の流れと個々の作品の内容を理解する   |       |           |
| 準備学習       | テキストを買って、読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席し、提出物は期限までに提出すること。 日本語日本文化を専攻する学生は、 この授業だけでなく使いますので、 必ずテキストを購入してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 上代の文学 『古事記』イザナギ・イザナミのみこと  2 上代の文学 『古事記』天の岩戸  3 上代の文学 『古事記』八咫のおろち  4 上代の文学 『古事記』因幡のしろうさぎ  5 上代の文学 『古事記』倭建命  6 上代の文学 『古事記』海幸彦と山幸彦ほか  7 上代の文学 『万葉集』  8 上代の文学 『万葉集』  9 上代の文学 『日本書紀』  8 上代の文学 『日本書紀』  9 上代の文学 『風土記』  10 文学の流れ 浦島太郎と『万葉集』  11 文学の流れ 浦島太郎『御伽草子』から絵本まで  12 羽衣伝説から能「羽衣」まで  13 三輪山伝説から能「三輪」まで  14 まとめと復習  15 まとめと復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50579A0A |
| 科目名        | 日本文学史 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Japanese Literature A  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 s   |
| 講義概要       | 高校までで学習する文学史が、ともすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いので、学習した知識をさらに有機的に理解し直し、理解を深めてもらうように工夫した講義を行う。 奈良時代から現代までの全部を概観するのは不可能なので、日本文学史 A では上代を中心として取り上げ、後の時代の文学に対する影響を考察する。(B では江戸時代を概観する) 古事記、日本書紀、万葉集を中心として紹介していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『原色シグマ新日本文学史』文英堂 630円 秋学期「日本文学史B」にも用います。 ほかにプリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 小学館刊新編日本古典文学全集『古事記』・『万葉集』など   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標       | 上代から近現代までの、文学史の流れと個々の作品の内容を理解する   |       |           |
| 準備学習       | テキストを買って、読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席し、提出物は期限までに提出すること。 日本語日本文化を専攻する学生は、 この授業だけでなく使いますので、 必ずテキストを購入してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 上代の文学 『古事記』イザナギ・イザナミのみこと  2 上代の文学 『古事記』天の岩戸  3 上代の文学 『古事記』八咫のおろち  4 上代の文学 『古事記』因幡のしろうさぎ  5 上代の文学 『古事記』倭建命  6 上代の文学 『古事記』海幸彦と山幸彦ほか  7 上代の文学 『万葉集』  8 上代の文学 『万葉集』  9 上代の文学 『日本書紀』  8 上代の文学 『日本書紀』  9 上代の文学 『風土記』  10 文学の流れ 浦島太郎と『万葉集』  11 文学の流れ 浦島太郎『御伽草子』から絵本まで  12 羽衣伝説から能「羽衣」まで  13 三輪山伝説から能「三輪」まで  14 まとめと復習  15 まとめと復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50579B01 |
| 科目名   | 日本文学史B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | History of Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 f   |
| 講義概要  | 江戸時代から近代までの文学をできるだけ幅広く概観する。作品名だけを知っていて内容を知らないという場合が非常に多いので、作品の内容に少しでも触れるよう心がけたい。高校までで学習する文学史が、とすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いが、作品にふれることで、作品の息吹を感じたり、時代背景を学んだりすることを、大切にしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『原色シグマ新日本文学史』 文英堂 630 円 を春学期の文学史Aに続いて用います。 他に プリントも配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標  | 江戸時代から近代にかけてのの人々の生活や考え方を、作品から学ぶ。 登場人物の社会的地位の多様さや、作品による視点のちがいなどから、 実生活で広い視野を持つことを学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 紹介される作品の現代語訳を読んでおくことが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 必ず教科書を買って、毎回持ってきてください ノートを取ってください   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 江戸時代の文学 概観 雅俗の概念 2 浮世草子 好色物の代表作『好色一代男』より 3 浮世草子 『好色五人女』より 4 江戸時代の町人の都市生活・慣習 5 町人物の代表作『世間胸算用』より 6 談林俳諧 西鶴『独吟一日千句』より 7 近世の大坂 近松作品と人形浄瑠璃 8 『曾根崎心中』と『冥土の飛脚』 9 松尾芭蕉『おくのほそ道』より 10 歌舞伎ビデオ鑑賞 『助六由縁江戸桜』 11 江戸時代の三都の花街 吉原・島原・新町 12 近世の学問 国学・儒学・心学  13 滑稽本 十返舎一九『東海道中膝栗毛』 14 子供絵本の進化 15 明治期の小説 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50579B0A |
| 科目名   | 日本文学史B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | History of Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 f   |
| 講義概要  | 江戸時代から近代までの文学をできるだけ幅広く概観する。作品名だけを知っていて内容を知らないという場合が非常に多いので、作品の内容に少しでも触れるよう心がけたい。高校までで学習する文学史が、とすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いが、作品にふれることで、作品の息吹を感じたり、時代背景を学んだりすることを、大切にしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『原色シグマ新日本文学史』 文英堂 630 円 を春学期の文学史Aに続いて用います。 他に プリントも配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標  | 江戸時代から近代にかけてのの人々の生活や考え方を、作品から学ぶ。 登場人物の社会的地位の多様さや、作品による視点のちがいなどから、 実生活で広い視野を持つことを学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 紹介される作品の現代語訳を読んでおくことが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 必ず教科書を買って、毎回持ってきてください ノートを取ってください   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 江戸時代の文学 概観 雅俗の概念 2 浮世草子 好色物の代表作『好色一代男』より 3 浮世草子 『好色五人女』より 4 江戸時代の町人の都市生活・慣習 5 町人物の代表作『世間胸算用』より 6 談林俳諧 西鶴『独吟一日千句』より 7 近世の大坂 近松作品と人形浄瑠璃 8 『曾根崎心中』と『冥土の飛脚』 9 松尾芭蕉『おくのほそ道』より 10 歌舞伎ビデオ鑑賞 『助六由縁江戸桜』 11 江戸時代の三都の花街 吉原・島原・新町 12 近世の学問 国学・儒学・心学  13 滑稽本 十返舎一九『東海道中膝栗毛』 14 子供絵本の進化 15 明治期の小説 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50594001 |
| 科目名       | 認知心理学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Cognitive Psychology  |       |           |
| 担当者名      | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 認知心理学は、広義には哲学、言語学、人類学、神経科学、人工知能研究との結びつきが強く、学際的な学問であるが、狭義には、人間の認知活動を研究する学問である。すなわち、「意識」が外界をどのように認知するかに関する学問である。  本講では、下記の項目を中心に人間の認知活動に関する重要な研究を紹介しながら、理論的および実験的認知心理学について論述する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）   |       |           |
| 到達目標      | 人間の心と行動を認知的アプローチによって理解できるようにすること。   |       |           |
| 準備学習      | 配布資料を見ておくこと。  |       |           |

受講者への要望

①心理学概論を履修しているものとして、授業を進めます。| ②授業内容は、かなりレベルが高く、簡単に単位が取れる訳ではありません。| ③授業内容を努力して理解すれば、どこにでも通用する人間の認知機能を理解できるようになります。||

講義の順序とポイント

1. 認知心理学とは何か：①認知とは何か |2. 認知心理学とは何か：②心理学における認知の扱い |3. 認知心理学とは何か：③認知心理学の誕生 |4. 認知的アプローチとは何か |5. 認知心理学の方法 |6. これからの認知心理学 |7. 初期認知：①子どもに対する大人のイメージ |8. 初期認知：②新生児と乳児の能力 |9. 初期認知：③自己認識の発達 |10. 視覚認知：①知覚の成立過程 |11. 視覚認知：②視覚の基本的特性 |12. 視覚認知：③形の知覚 |13. 視覚認知：④知覚の情報処理過程 |14. 記憶認知：①情報処理過程 |15. 記憶認知：②記憶の諸相|

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J5059500A |
| 科目名   | 認知心理学上級実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Laboratory in Cognitive Psychology                             |       |           |
| 担当者名  | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 心理学上級実験では、心理学基礎実験をさらに発展させ、視覚認知・記憶認知を中心として実験を実施し、実験レポートの提出を求める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50％）は出席状況等による。実験レポート（50％）                                  |       |           |
| 到達目標  | 人間の認知機能について、ある程度専門的に探求できる能力を身につけさせる。                           |       |           |
| 準備学習  | 実験計画を練り上げること。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業には必ず出席すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <実験課題の例示>   (1) 視覚認知に関する実験   ①錯視   ②色と見かけの大きさ   ③動体認知   (2) 記憶認知に関する実験   ①系列位置効果が生じるメカニズム   ②ワーキングメモリ   (3) その他   ①認知と情動   ②認知機能の生理心理学的研究 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50596001 |
| 科目名       | 博物館概論 【博】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Museology   |       |           |
| 担当者名      | 黒川 孝宏   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 近年、博物館・資料館等を取り巻く環境は、経済状況の厳しさからその社会的役割・機能についての見直しが 行われており、決して好調で順調に推移しているとはいえない。講義では、博物館・資料館等が社会の発展と もにどのように進歩してきたのか、その歴史と現状・課題について概説する。また現在求められている基本的な 目的と機能、さらに関連法律等にも言及し、学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的知識の習得を図る。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義時に随時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 講義用資料コピー等を適時配布する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（50%）出席状況等による。定期テスト（50%）。  |       |           |
| 到達目標      | 博物館・資料館等の発達・発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・役割・機能に関する認識に、さらに関連法律に関する知識の習得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | 博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。   |       |           |

|            |   |
|------------|---|
| 受講者への要望    | 学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。  |
| 講義の順序とポイント | 1 博物館・資料館等の歴史と現状について<概説1> 2 博物館等の歴史の変遷（各論1） 3 博物館等の現状について（各論2） 4 博物館等の現状について（各論3） 5 博物館・資料館等の基本的な目的・機能について<概説2> 6 博物館等の目的について（各論1） 7 博物館等の機能について（各論2） 8 博物館・資料館等の関連法律について<概説3> 9 博物館等の関連法律・博物館法（各論1） 10 博物館等の関連法律・博物館法（各論2） 11 博物館等の関連法律・その他（各論3） 12 博物館・資料館等の今後の課題と展望について<概説4> 13 博物館等の今後の課題について（各論1） 14 博物館等の展望について（各論2） 15 博物館・資料館等と生涯学習について [総括まとめ] <概説5> |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50597001 |
| 科目名        | 博物館情報・メディア論【博】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Museum Information & Media   |       |           |
| 担当者名       | 黒川 孝宏  | 旧科目名称 | 博物館情報論    |
| 講義概要       | 博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化しているシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのが大きな課題となっている。講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特になし。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義時に随時紹介する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 講義用資料コピー等を適時配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。定期テスト(50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 博物館・資料館における情報全般について<概説> 2 博物館情報論について 民俗資料 3 博物館情報論について 歴史資料 4 博物館情報論について その他 5 博物館・資料館の情報技術の活用について<概説> 6 博物館と情報技術について デジタル技術 7 博物館と情報技術について マルチメディア 8 博物館と情報技術について 情報システム 9 博物館と情報技術について 文化財システム1 10 博物館と情報技術について 文化財システム2 11 博物館と情報技術について 文化財システム3 12 博物館と情報技術について 展示公開 13 博物館と情報技術について 調査研究 14 博物館と情報技術について 著作権 15 博物館情報の課題と展望 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50600A01 |
| 科目名        | 発達心理学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Developmental psychology I   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 | 発達心理学     |
| 講義概要       | 胎児期からの発達について、理論、事例を通して学ぶ。母子関係、父子関係、家族を始めとし、社会との関係の中で、情動、コミュニケーション、言語、社会性などが、どのように発達するのについて学ぶ。また、障害についても学び、そこから見えてくるものについて考えを深める。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 乳幼児精神医学への招待 小此木啓吾／渡辺久子編 ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。またビデオなども活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (授業への出席、課題提出等を含む授業態度) 50%。試験50%。   |       |           |
| 到達目標       | 胎児期から幼児期の発達について、理解し、自分なりに考えることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 近年の母子をめぐる事件や、教育における問題など、社会的な視点を持ち、意識的に考えてみることをして下さい。   |       |           |

受講者への要望

授業への積極的な参加を求めます。グループでの討論などにも積極的に参加して下さい。私語は厳禁です。遅刻、早退なども理由を申し出て下さい。これらは、皆が落ち着いて授業を聞くために必要なマナーです。授業を落ち着いて聞くことは学生の権利ですので、この環境を作るために、皆で協力して下さい。マナーを守れない人には、単位を出さないこともあります。

講義の順序とポイント

1,オリエンテーション|2,発達について|3,精神分析的発達理論|4,認知発達理論|5 受胎から誕生まで①生まれる前の子どもの心|6,受胎から誕生まで②生まれる前の様々な問題|7,誕生から乳幼児期まで①乳幼児の身体と認知の発達|8,誕生から乳幼児期まで②母子相互作用と乳児の発達|9,誕生から乳幼児期まで③情動の発達|10,誕生から乳幼児期まで④コミュニケーションの発達|11,誕生から乳幼児期まで⑤言葉の発達、自己感|12,障害について|13,育児と家族|14,母性拒否症候群、虐待|15,まとめ||

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50600B01 |
| 科目名        | 発達心理学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Developmental psychology II   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 | 発達心理学 f   |
| 講義概要       | 人間の発達について、主に、児童期以降に焦点をあてて学んでいく。児童期・思春期・青年期・成人期・老年期にそれぞれどのような人生の課題があると考えられているのかを理解する。また、言葉は人間の人格の形成や、活動、思考に深く関わるものであるため、言葉と心、言葉と人間について考える。これらの学習を通して、人間についてより深く理解することを旨とする。                        |       |           |
| 教材(テキスト)   | プリントを適宜配布する。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 発達の理論をきずく 村井潤一編 ミネルヴァ書房 子どもとファンタジー 守屋慶子 新曜社   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点50%(授業態度、授業内レポートなどを含む) 試験50%   |       |           |
| 到達目標       | 児童期から老年期までの発達について理解し、考えを深めることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 自分自身や、自分の周りの出来事、社会での問題などに目を向けて自分なりに考えてみることをして下さい。 また、言葉や、イメージなど、普段は当たり前であまり意識しないことにも、意識を向け、色々な本を読んで下さい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 私語は厳禁です。授業中の入退室も、理由を述べてもらいます。授業を落ち着いて聞くことは、学生みんなの権利です。そのような環境を作るために、上記のマナーを守ることへの協力をお願いします。マナーを守れない人には単位を出さないこともあります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1,ライフサイクル①西洋と日本 2,ライフサイクル②各発達段階の特徴 3,児童期の課題 自己意識の芽生え 4,思春期の課題  5,青年期の課題 6.自己意識と他者  7.思春期・青年期に生じやすい問題 8,親子関係・親離れ・子離れ 9,映画で観る親子関係  10,親になること 11,老年期の課題 12,感情の発達 13,行為の自己調節と言葉 14,病と障害・死の問題  15, まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J5060300A |
| 科目名  | 発達臨床実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)   | Training in Clinical Developmental Psychology                |       |           |
| 担当者名   | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「臨床心理学専門演習 I B」を補完する授業として位置づけるので、講義概要は「臨床心理学専門演習 I B」と同様である。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業で紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリント類を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席や受講態度などの平常点 (50%)、課題への取り組みの評価点 (50%)。                      |       |           |
| 到達目標   | どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。                      |       |           |
| 準備学習   | 読んでみたい本を読む。テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れる。                    |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 面接実習①   2. 同 ②   3. 同 ③   4. 同 ④   5. 見学事前学習   6. 社会福祉施設<br>等見学①   7. 同 ②   8. 同 ③   9. 同<br>④   10. 同 ⑤   11. 同 ⑥   12. 体験学習ほか ①   13. 同<br>②   14. 同 ③   15. 同 ④   ※これらの内容や順序は変更されることがある。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50604001 |
| 科目名        | 発達臨床心理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Developmental Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 乳幼児期から中年期・老年期にわたって、具体的なエピソードなどをおして複雑な社会的諸要因も描出しつつ、援助職の動きの実際やあるべき姿、発達臨床心理学の課題について述べたい。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働（コラボレーション）の実際）について多くを語ることになる。そこには、子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。発達臨床は検査室や治療室のなかだけのものではないし、心理職しか携わらないものでもない。様々な場所、様々な職種の人たちが、対象者の幸せに一步でも近づくためのひとつの拠り所としている。相談された症状や問題行動を“治す”ためには“育てる”視点も同時にもたなければ、子どもたちの今より少しでも幸せにはたどりつかない。協働が求められる所以である。広く対人援助業務を紹介することによって、受講生が自分の進路を考える機会にもなればと考えている。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 川畑 隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」<br> <br>2009 明石書店 麻生・浜田編「よくわかる臨床発達心理学・第2版」 2006 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント類を使用する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度による平常点（50%）。授業内まとめ作業の成果の提出（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | 発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方を学び、子どもを健全に育成するための視点を自らの内にもてるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめに～発達臨床心理学とは何か  2.あられる課題①乳幼児期  3. 同 ②児童期・思春期  4. 同<br>③青年期  5. 同 ④中年期・老年期  6.家族とその機能①円環論を中心に  7. 同 ②家族の発達  8.前半のまとめ  9.課題にどう取り組むか 10.知的障害や発達障害① 11. 同 ② 12. 同<br>③ 13.不登校や社会的ひきこもり 14.その他の子どもたちが示す現象 15.後半のまとめ ※授業の内容や順序は変更されることがある。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50605A01 |
| 科目名        | 比較社会論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The Study of Comparative Societies A   |       |           |
| 担当者名       | 平田 知久  | 旧科目名称 | 比較社会論 s   |
| 講義概要       | この講義には「比較社会論」という名前がついています。 その名の通り、ある「共通の主題」からさまざまな社会を比較することによって、それぞれの社会に対する新しい知を得ることが、この講義の目的です。 この講義では、共通の主題として東アジア・東南アジアの主要都市にある「インターネットカフェ」を選びました。皆さんが考えている以上に、アジアにはインターネットカフェが多くあり、インターネットカフェはそれぞれの社会で、それぞれの機能を担っています。 インターネットカフェは東アジア・東南アジアの各都市でどのようなものとして存在するのか。また、インターネットカフェの利用者とはどのような人々なのか。このような問いを携えながら、その他の現代メディアとの関係も含めて、それぞれの社会に共通する問題や個別の問題を考えていきたいと考えています。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特にありませんが、講義の中で適宜紹介していきたいと思ひます。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特にありませんが、講義の中で適宜紹介していきたいと思ひます。   |       |           |
| 教材（その他）    | 特にありません。   |       |           |
| 評価方法       | 出席点（コメント含む）・・・ 30% 期末レポート …………… 70%  |       |           |
| 到達目標       | 1. インターネット・パソコン利用に関する東アジア・東南アジア諸都市の特殊性と、その社会的・文化的・経済的背景を知ること。 2. テクノロジーとメディア利用を考える上での比較社会学的視座の有用性を知ること。  |       |           |
| 準備学習       | 特に必要ありませんが、インターネットカフェを利用したことがある人はそのときの経験について、利用したことがない人はインターネットカフェについてのイメージについて答えられるようにしておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の人数にもよりますが、できるだけ皆さんが考えていることを、講義に組み込みながら進めていきたいと思ひます。ですので、講義中に皆さんに質問することも多々あると思ひますが、あまり緊張しないでください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 次のような予定で講義を進めます。 01. イントロダクション—インターネットカフェとアジア 02. 東京のインターネットカフェ(1)—個人ブースは犯罪の温床? 03. 東京のインターネットカフェ(2)—静寂の空間と臭い 04. ソウルのインターネットカフェ(1)—誕生日会はPC房で 05. ソウルのインターネットカフェ(2)—誰がためにゲームはある 06. 北京・天津・上海のインターネットカフェ(1)—都市の外延について 07. 北京・天津・上海のインターネットカフェ(2)—娯楽はいかに提供されるべきか 08. 香港のインターネットカフェ—移民の歌 09. 台北のインターネットカフェ—郊外化する店舗とその裏側 10. シンガポールのインターネットカフェ—多民族国家とインターネット 11. マニラのインターネットカフェ(1)—朝から昼まで営業できなかった店舗 12. マニラのインターネットカフェ(2)—帰国して開店するというこゝ 13. バンコクのインターネットカフェ(1)—ガラス張りの空間 14. バンコクのインターネットカフェ(2)—恥ずかしさの対価 15. まとめ—アジアとインターネットの未来 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50605B01 |
| 科目名   | 比較社会論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | The Study of Comparative Societies B   |       |           |
| 担当者名  | 矢野 裕巳  | 旧科目名称 | 比較社会論 B   |
| 講義概要  | <p>人はなぜ争うのか？国と国、民族と民族、世界のいくつかの紛争をとりあげ、争いの原因を比較検証していきます。 人はなぜ争うのか？人類の歴史は戦争の歴史であると言われてます。戦争、紛争は経済戦争や裁判での紛争等の意味にも使われるが、ここでは、敵対する戦力が武力を行使して争う武力紛争について考える。なお一般的に紛争は比較的小規模な武力衝突であり、より大規模な武力衝突を戦争と考えられていますが、その境目が完全にはっきりしているわけではありません。戦争は悪であると考えer人は多いと思います。しかし、今なお世界には多くの紛争が存在し、多くの人達が苦しんでいます。毎講義に1つの紛争を取り上げ、その背景を解りやすく学びます。最後にはそれぞれの紛争の背後にある共通の問題点を受講者に考えてもらいたいと思います。なお世界情勢の変化により取り上げる紛争地域が代わる場合もあります。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント教材を毎回配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | プリント教材を毎回配布  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 毎講義のなかで25分～35分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC 3段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。10 講義への出席が絶対条件です。   |       |           |
| 到達目標  | 世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。  |       |           |
| 準備学習  | 毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義は1回1回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 講義後期 1、アルメニア 2、クルド 3、キプロス 4、ソマリア 5、ルワンダ 6、シエラレオネ 7、カシミール 8、東ティモール 9、チェチェン 10、北アイルランド 11、バスク 12、グルジア 13、ボスニア・ヘルツェゴビナ 14、コンボ 15、まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J5061200A |
| 科目名        | 表現療法実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Psychotherapy and Expression   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 実習の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%） レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 積極的に参考文献などに目を通しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。  1 オリエンテーション 2 連想実験—実習 3 描画法—バウム、風景構成法—実習 5. 6. 描画法の理解 7. 箱庭療法とは 8～12. 箱庭—実習 13. 14 箱庭療法の理解 15 表現療法のまとめ  </p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50619A01 |
| 科目名        | 文化社会学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Culture A   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人、金、情報、思想、メディアが国境を越えて移動する今日、たとえ自分が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送ることはできない時代になりました。自分とは異なる文化との共生はいかにできるのでしょうか。本講義では、文化の「違い」が力関係の中で問題となる場面をとりあげて考えていきます。たとえば異なる人種や民族だけでなく、地域や年齢、職業、ジェンダーなど、身近な「違い」をとりあげ、「排除」「同化」「無関心」におちいらず、他文化理解の可能性と限界を考えていきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『異文化論への招待ー＜違い＞からの自文化再発見』黒木雅子著 朱鷺書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用する。適宜資料は配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 他文化理解の可能性を考える  |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特になし       |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション 2～3,文化とは何か 4. 社会化とは 5. アイデンティティ（存在証明）と差別 6. 異文化接触とアイデンティティの変容 7. 文化相対主義のジレンマ 8. 多文化コミュニケーション 9. コミュニケーションとコンテキスト 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. コミュニケーション・ノイズ 13. カルチャーショックと逆カルチャーショック 14. ソーシャルサポート 15. まとめ                            |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50619B01 |
| 科目名        | 文化社会学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Culture B  |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>人、金、情報、思想、メディアが国境を越えて移動する今日、たとえ自分が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送ることはできない時代になりました。自分とは異なる文化との共生はいかにできるのでしょうか。本講義では、文化の「違い」が力関係の中で問題となる場面をとりあげて考えていきます。たとえば異なる人種や民族だけでなく、地域や年齢、職業、ジェンダーなど、身近な「違い」をとりあげ、「排除」「同化」「無関心」におちいらず、他文化理解の可能性と限界を考えていきます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『異文化論への招待ー＜違い＞からの自文化再発見』黒木雅子著 朱鷺書房  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用する。適宜資料は配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 他文化理解の可能性   |       |           |
| 準備学習       | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
| 特になし       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1,後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 社会資源と格差 4,マイノリティとは誰のことか  5, なぜエスニシティか  6, 差別の複合性と重層性 7, 黄禍論とは 8, 日本人論をめぐって 9, 日本のなかの多文化 10, 被害者非難と被害者崇拝 11, ビデオ 12, 異文化から多文化へ 13, 平等と公平をめぐって 14, 多文化社会の可能性と限界 15, まとめ </p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50629A0A |
| 科目名   | 歴史民俗学資料講読（口頭伝承）A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading: Historical Folklore Materials ( Oral Cultural Tradition) A                       |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 神話研究の第一人者であるレヴィ＝ストロースの論文を読みます。語られている内容は難解なものが、神話や物語を 学術的に分析してみたいと考えている人なら、取り組む価値があると思います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | レヴィ＝ストロース 『神話論理』 I  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 発表（70%）授業への貢献度（30%）   |       |           |
| 到達目標  | レヴィ＝ストロースを恐れない。   |       |           |
| 準備学習  | 毎回前もってレヴィ論文を読んでくること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 自分の担当する箇所は、せめて一ヶ月前から読み始めること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 講読の進め方について   2レヴィ＝ストロース   3 神話論理 1 の輪読 1   4 神話論理 1 の輪読 2   5 神話論理 1 の輪読 3   6 神話論理 1 の輪読 4   7 神話論理 1 の輪読 5   8 神話論理 1 の輪読 6   9 神話論理 1 の輪読 7   10 神話論理 1 の輪読 8   11 神話論理 1 の輪読 9   12 神話論理 1 の輪読 10   13 神話論理 1 の輪読 11   14 神話論理 1 の輪読 12   15 神話論理を振り返って |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50629B0A |
| 科目名   | 歴史民俗学資料講読（口頭伝承）B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading: Historical Folklore Materials ( Oral Cultural Tradition) B     |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | （1）民族誌とそこから広がる世界を探索してみましょう。。今年度は『イシ』と『ゲド戦記』です。 （2）自分の愛する研究者をひとり発見しましょう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | シオドラ・クローパー『イシ』 ル＝グウィン『ゲド戦記』 アルフレッド・クローパーの報告書                            |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 発表（70%） 授業への貢献度（30%）  |       |           |
| 到達目標  | 民族誌というジャンルを楽しめるようになる。 自分の愛する研究者をひとり発見する。                                |       |           |
| 準備学習  | 必ず事前にテキストを読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 自分の愛する研究者を発見するためには、たくさんの書物を読まなければなりません。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ゲド戦記 1 2 ゲド戦記 2 3 イシ 1 4 イシ 2 5 イシ 3  6 イシ 4 7 報告書 1 8 報告書 2 9 報告書 3 10 報告書 4 11 私の愛する研究者 1 12 私の愛する研究者 2 13 私の愛する研究者 3 14 私の愛する研究者 4 15 私の愛する研究者 5 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |              |     |       |        |
|---|--|-------|--------------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J50639A01    |     |       |        |
| 科目名                                     | 民俗学A   | 単位数   | 2            |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                               | Folklore Studies A   |       |              |     |       |        |
| 担当者名                                    | 飯倉 義之  | 旧科目名称 | 民俗学 I, 民俗学 s |     |       |        |
| 講義概要                                    | 本講義は、日本民俗学の研究範囲や研究手法などの基礎的な知識を得ることを目的とする。 その方法として、現在の日本民俗学の持つ学問の制度や研究手法を自明のものとして、学史を遡ってそれらがたちあられるおおもとを確認し、その意義を確認する。 いわば民俗学を民俗学するいとなみを通じて、民俗学の学史と方法の基礎を学んでいく。 本講義では、主に柳田國男にはじまる日本民俗学の学問の流れを概説する。   |       |              |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。  |       |              |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 井之口章次『民俗学の方法』講談社学術文庫 宮田登『新版日本の民俗学』講談社学術文庫 ちくま新書「民俗学の冒険」シリーズ（『幸福祈願』『人生の装飾法』『妖怪変化』『覚悟と生き方』） 小松和彦・関一敏『新しい民俗学へ』せりか書房 「国文学解釈と鑑賞」2008-8（73-8）特集：フォークロアの最前線、至文堂 など  |       |              |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |              |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点30%（出席状況などによる）、授業時の提出物30%、定期試験40%   |       |              |     |       |        |
| 到達目標                                    | 日本民俗学の基礎を学び、現代の民俗文化の調査・研究のための技術と視点を身につけることを目標とする。  |       |              |     |       |        |
| 準備学習                                    | 民俗学の基本的な流れや学術用語を理解しておくことが望ましい。   |       |              |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 講義で触れうるのはエッセンスに過ぎない。講義で取り上げた研究者の著作や論文には、できるだけ自分で触れてもらいたい。  |       |              |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. イントロダクション～なぜ民俗学史なのか～ 2. 民俗学と民族学 2つのミンゾクガク 3. 日本民俗学の祖・柳田國男1・柳田國男のできるまで 経世済民の民俗学 4. 日本民俗学の祖・柳田國男2・柳田國男の方法 雑誌と郵便の組織作り 5. 日本民俗学の祖・柳田國男3・「民間伝承の会」から「日本民俗学会」へ 6. 民俗学前史1 「鄙」への視線と菅江真澄 7. 民俗学前史2 江戸趣味・ドルメン・土俗学 8. 柳田國男の並走者1 南方熊楠、博覧強記の人 9. 柳田國男の並走者2 折口信夫の民俗学的文学研究 10. 柳田國男の並走者3 渋沢敬三とアチック・ミュージアム 11. 弟子たちの時代1 戦前：木曜会同人と山村調査 12. 弟子たちの時代2 戦後：九学会連合と講座民俗学 13. 弟子たちの時代3 高度経済成長：民話ブームと学生研究会 14. 弟子たちの時代4 ポストモダン：「日本民俗学の落日」 15. まとめ～日本民俗学の明日はどっちだ？～ |       |              |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力          | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |  |       | ○            | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |              |     |       |        |

|           |   |       |              |
|-----------|---|-------|--------------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50639B01    |
| 科目名       | 民俗学B  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記） | Folklore Studies B  |       |              |
| 担当者名      | 飯倉 義之   | 旧科目名称 | 民俗学II, 民俗学 f |
| 講義概要      | 本講義では、日本民俗学の研究範囲や研究手法などの基礎的な知識を得ることを目的とする。 その方法として、現在の日本民俗学の持つ学問の制度や研究手法を自明のものとして、学史を遡ってそれらがたちあられるおおもとを確認し、その意義を確認する。 いわば民俗学を民俗学するいとなみを通じて、民俗学の学史と方法の基礎を学んでいく。 本講義では、具体的な民俗事例や研究成果を例として、日本民俗学の学問の方法を概説する。 |       |              |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。   |       |              |
| 教材（参考文献）  | 井之口章次『民俗学の方法』講談社学術文庫 宮田登『新版日本の民俗学』講談社学術文庫 ちくま新書「民俗学の冒険」シリーズ（『幸福祈願』『人生の装飾法』『妖怪変化』『覚悟と生き方』） 小松和彦・関一敏『新しい民俗学へ』せりか書房 「国文学解釈と鑑賞」2008-8（73-8）特集：フォークロアの最前線、至文堂 など   |       |              |
| 教材（その他）   |   |       |              |
| 評価方法      | 平常点30%（出席状況などによる）、授業時の提出物30%、定期試験40%  |       |              |
| 到達目標      | 日本民俗学の基礎を学び、現代の民俗文化の調査・研究のための技術と視点を身につけることを目標とする。   |       |              |
| 準備学習      | 民俗学の基本的な流れや学術用語を理解しておくことが望ましい。  |       |              |

#### 受講者への要望

講義で触れうるのはエッセンスに過ぎない。講義で取り上げた研究者の著作や論文には、できるだけ自分で触れてもらいたい。

#### 講義の順序とポイント

1. イントロダクション～なぜ方法論なのか～|2. 学問史という意味 民俗学を民俗学すること|3. 遠く的一致、近くの不一致 重ね写真の方法|4. 民俗をどう見るか 民俗資料の分類法さまざま|5. 「常民」とはだれなのか 「常民」論争からみえるもの|6. 柳田民俗学批判（1） 非常民の民俗学|7. 柳田民俗学批判（2） 柳田國男と植民地支配|8. 立体的にムラをみる 地域研究法・伝承母胎論|9. 地域とは何か 民俗的空間イメージ|10. 目に見える心意の追求 都市の怪異と境界論|11. 現代の民俗学を目指して 都市民俗研究|12. フォークロリズム 民俗の商品化・民俗学の商品化|13. 現代日本の縁起かつぎ 俗信の論理|14. 民俗誌の展開 〈口承〉研究と「正しい民俗芸能研究」|15. まとめ～日本民俗学の明日はどっちだ？～|

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50655A01 |
| 科目名   | 妖怪文化論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Culture and Conceptions of the Strange A  |       |           |
| 担当者名  | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 | 妖怪文化論 s   |
| 講義概要  | <p>古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになってきました。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。  妖怪文化論A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 佐々木高弘著『怪異の風景学—妖怪文化の民俗地理』古今書院、2009年  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006年  |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオやパワーポイントを活用する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート 20%、学期末レポート 80%   |       |           |
| 到達目標  | 妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 教科書・参考書を読んだ上で受講すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる）  2 妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで  3 妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』  4 妖怪体験とことば：風景認識の三角形  5 妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クピナシウマ」と「首切れ馬」  6 集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団  7 頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ  8 妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査  9 『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し  10 怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚  11 現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』  12 廃墟と幽霊・怪異世界：18世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行  13 現代の廃墟と近代化遺産：18世紀後半と現代の比較  14 妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ  15 世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観 </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50655B01 |
| 科目名        | 妖怪文化論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Culture and Conceptions of the Strange B   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっていきます。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。  妖怪文化論Bでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小松和彦『妖怪文化論入門』せりか書房、2006年。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席状況等による。レポート（80%）   |       |           |
| 到達目標       | 妖怪文化論という視点、位置を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | テキストは事前に読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自ら本を読み、現場を歩いて下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>（1）イントロダクション I.絵を解説する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪 </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50658001 |
| 科目名   | 理論社会学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theoretical Sociology   |       |           |
| 担当者名  | 新堂 粧子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよからう。このような観点から本講義ではいくつかの社会的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけでなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会的命題への重要なかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業中に行う命題ごとの小テスト   |       |           |
| 到達目標  | 社会的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。  |       |           |
| 準備学習  | 上記の参考文献等を手掛かりに、みずから興味のある社会的命題をさがしてみる。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出席した以上は、私語を慎んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 預言の自己成就 (R.K. マートン) ① 2. 預言の自己成就 (R.K. マートン) ② 3. 欲望の模倣とモデル=ライバル論 (R. ジラール) ① 4. 欲望の模倣とモデル=ライバル論 (R. ジラール) ② 5. 志向のくいちがいと羞恥 (M. シェーラー) ① 6. 志向のくいちがいと羞恥 (M. シェーラー) ② 7. 閉じた社会と開いた社会 (H. ベルクソン) ① 8. 閉じた社会と開いた社会 (H. ベルクソン) ② 9. プロテスタンティズムの倫理と資本主義 (M. ウェーバー) ① 10. プロテスタンティズムの倫理と資本主義 (M. ウェーバー) ② 11. 人格崇拜の成立 (E. デュルケム) ① 12. 人格崇拜の成立 (E. デュルケム) ② 13. 自由からの逃走 (E. フロム)  14.~15.まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50662A01 |
| 科目名  | 臨床心理学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Clinical Psychology I   |       |           |
| 担当者名   | 久保 克彦   | 旧科目名称 | 臨床心理学 s   |
| 講義概要   | 臨床心理学とは、病気や障害あるいは不幸な出来事などによって引き起こされる心の悩みや苦しみを軽減するために、心理的援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。本講では、臨床心理学の成り立ちや、その理論や治療技法に関する主要な考え方について解説する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は特に使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 菅佐和子、他著 「臨床心理学の世界」 有斐閣  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験 (70%)、平常点 (30%) 出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標   | こころの問題への心理的援助に求められる基本的な理論や治療技法の理解を目指す。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 オリエンテーション 2 臨床心理学とは何か・臨床心理学の研究法 3 臨床心理学の歴史 4 心理アセスメント 知能検査 (ビネー式) 5 心理アセスメント 知能検査 (ウェクスラー式) 6 心理アセスメント 人格検査 (質問紙法) 7 心理アセスメント 人格検査 (投影法) 8 異常心理学 正常と異常 9 異常心理学 精神障害の分類 10 異常心理学 精神障害の症状 11 カウンセリングの基本的問題 12 カウンセリングの基本的技術 13 カウンセリングの理論 14 臨床心理士の活動領域 15 まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50662B01 |
| 科目名   | 臨床心理学Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Clinical Psychology II   |       |           |
| 担当者名  | 伊原 千晶  | 旧科目名称 | 臨床心理学 f   |
| 講義概要  | <p>臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえて、心理的問題に対する援助に必要な基礎的理論・治療技法の概略を学ぶ。  臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、心の問題を抱えた人やその家族を理解し、それらの人々を援助するための方法を研究・実践する、心理学の一分野である。しかし「心の問題」の内容は多岐にわたる上に、その原因や対処方法は複雑である。クライアント(来談者)の訴えは日常的な悩みや心理的ストレスによる身体的・精神的症状のこともあれば、幻覚・妄想などの病理体験を伴うものであることもある。また、発達障害を持つ子供を養育・援助する上での問題、慢性身体疾患に罹患したり身体的障害を被ったりした際の心理的負担なども援助の対象となる。従ってそれらの問題への対処方法の理解・実践には、まず人格構造やその形成過程についての様々な理論を学び、それに基づいて心の問題を分析・理解した上で、心理検査や観察によって見立てを行い、実際に様々な援助技法を用いて援助していくという過程が必要である。  本講義では、臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえた上で、人生の様々な年代においてどのような臨床心理学的課題が存在しているのかを、発達心理学的な分析も加えながら学ぶと共に、人格構造や援助技法に関する基礎的理論を学習する。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 平木典子・梶岩秀章 編著 カウンセリングの基礎 臨床の心理学を学ぶ 北樹出版   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 川瀬・松本・松本 心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法 ナカニシヤ出版   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 学期末試験 70% レポート及び平常点 30%  |       |           |
| 到達目標  | 臨床心理学の基礎的理論を習得するとともに、様々な心理的問題・精神的障害についての理解を深める。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に、次回の講義内容を指示するので、その部分の教科書を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業中は当然私語厳禁です。それに加えて、関連図書を読むなど、自らの関心に従って積極的に学ぶ姿勢が必要です。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  | <p>1～5. 臨床心理学における基礎理論－人格・発達理論   (フロイト、エリクソン、ロジャーズなど)   6～10. 臨床心理学的治療論及び具体的治療技法   (精神分析、来談者中心療法、行動療法など)   11. 各発達段階にみられる様々な問題－乳幼児期   12. 各発達段階にみられる様々な問題－児童期   13. 各発達段階にみられる様々な問題－青年期   14. 各発達段階にみられる様々な問題－成人期・老年期   15. 心理臨床の実際   但し、1～5 と 6～10 は適宜順序を入れ換えて、組み合わせて講義する。</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50665A0A |
| 科目名   | 臨床心理学専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IA in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名  | 伊原 千晶  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 1. 臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 2. 卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。  これらの課題を実行するために、a. 臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、b. 自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手に入れて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を1年を通して実施する。  また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 市橋秀雄 『心の地図 こころの障害を理解する 上・下』星和書店  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要な図書は、授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。  |       |           |
| 準備学習  | 毎回、次回の演習に対する準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 心理学基礎実験 A・B 両方の単位及び臨床心理学 I・II の単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 臨床心理学専門演習 I A の運営方針についてーオリエンテーション  2. 就職ガイダンス 3~7. こころの地図 上巻講読・発表 乳幼児期~児童期 8. 学習と進路について 9~11. こころの地図 上巻講読・発表 青年期 1  12. 学習と進路について 13~14. こころの地図 上巻講読・発表 青年期 2 15.まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J50665A0B |     |       |        |
| 科目名                                     | 臨床心理学専門演習 I A  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Seminar IA in Clinical Psychology  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 臨床心理学はその専門家になる人だけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 使用しない。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | 授業で紹介する。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | 適宜、プリント等を配布する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 出席や受講態度などの平常点 (50%)、課題への取り組みの評価点 (50%)。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 読んでみたい本を読む。テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れる。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. オリエンテーション、個別面談①   2. 知り合うセッション①   3. 同 ②   4. テーマディスカッション①   5. 同 ②   6. 文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①   7. 同 ②   8. 同 ③   9. 同 ④   10. 同 ⑤   11. 同 ⑥   12. 同 ⑦   13. テーマディスカッション③   14. 同 ④   15. 個別面談②、まとめ   ※以上については、内容や順序の変更があり得る。   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |  |       |           |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50665A0C |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IA in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を推し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。  春学期は、様々な文献を全員で講読および発表して、臨床心理学や医療心理学についての理解を深める。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は特に使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 乾 吉佑、他編 「医療心理臨床」 星和書店  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による、発表 (30%)、議論への参加 (20%)。  |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習への準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論には、積極的・主体的に取り組んでほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 学習と進路 I 3 文献講読 (医療心理臨床) 4 文献講読 (医療における臨床心理士の役割) 5 文献講読 (総合病院における心理臨床)  6 文献講読 (単科精神病院における心理臨床) 7 文献講読 (精神科クリニックにおける心理臨床)  8 学習と進路 II 9 文献講読 (心療内科領域における心理臨床)  10 文献講読 (小児科領域における心理臨床)  11 学習と進路 III 12 文献講読 (リハビリテーション領域における心理臨床) 13 文献講読 (歯科口腔外科領域における心理臨床) 14 文献講読 (産婦人科領域における心理臨床)  15 文献講読 (開業クリニック領域における心理臨床) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50665A0D |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IA in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 特に I A では、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。 臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を習得するとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を学ぶ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 子どもの宇宙 河合隼雄著 岩波新書   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席及び討論への参加状況など 発表及びその内容をまとめたレポート (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 専門演習 I A、Bを通して 1) 興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 2) 口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記1) 2) を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。  大学院進学を志望する者は、そのための基礎学力、語学力をつける一個別に対応一。   |       |           |
| 準備学習       | 討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自発的に勉強をする習慣をつけて欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 注) 履修者の人数によって内容は変わりうる。  1 オリエンテーション: 演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。 2,3 『子どもの宇宙』 第1章 子どもと家族 発表および討論 4,5 『子どもの宇宙』 第2章 子どもと秘密 発表および討論 6,7 『子どもの宇宙』 第3章 子どもと動物 発表および討論 8,9 『子どもの宇宙』 第4章 子どもと時空 発表および討論 10,11 『子どもの宇宙』 第5章 子どもと老人 発表および討論 12,13 『子どもの宇宙』 第6章 子どもと死 発表および討論 14,15 『子どもの宇宙』 第7章 子どもと異性 発表および討論 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50665A0E |
| 科目名  | 臨床心理学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar IA in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名   | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 【講義の概要】  基礎的な文献を読み、発表する。発表者以外は、きちんとそれに対して意見が言えるように練習します。芸術療法、箱庭療法など、基礎文献のテーマによっては実習を取り入れます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への積極的な参加、発表だけではなく、自分の考えを人にも伝えられること。   |       |           |
| 到達目標   | 心理療法の様々な理論を学ぶ中で、疑問をもち、考え、自分について理解を深めること。  |       |           |
| 準備学習   | 心理療法の基本的な文献など、自分で読むこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。自分の感じたことを言葉にして、人に伝えようとする姿勢を求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 【講義の順序とポイント】  演習 1 A  1、オリエンテーション  2、図書館で文献を探す練習  3、基礎文献 箱庭療法  4、箱庭実習  5、基礎文献 風景構成法、バウムテスト 6、風景構成法、バウムテスト実習 7、基礎文献 コラージュ 8、コラージュ実習 9、基礎文献 心理療法  10、心理療法ビデオ 11、基礎文献、言語連想 12、言語連想分析、 13、基礎文献 夢分析 14、基礎文献 遊戯療法 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50665B0A |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 1. 臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。  2. 卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。  これらの課題を実行するために、a. 臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、b. 自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手に入れて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を実施する。  また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 市橋秀雄 『心の地図 こころの障害を理解する 上・下』星和書店   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要な図書は、授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。   |       |           |
| 準備学習       | 臨床心理学専門演習 I A の内容を、再度よく理解しておくこと。 各講義ごとに、次週のための課題を提示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学基礎実験 A・B 両方の単位及び臨床心理学 I・II の単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 春学期のまとめ  2~5. こころの地図 下巻講読・発表 人格障害 6~9. こころの地図 下巻講読・発表 躁うつ病  10~13. こころの地図 下巻講読・発表 統合失調症 14. 病院見学 15. まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50665B0B |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学はその専門家になる人だけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためには自分自身の成長が重要である。この演習ではゼミ生の精神的力量の向上に焦点を当てる。扱うテーマや教材は臨床心理学と直接は関連が薄いように思われるものも多いかもしれないが、必要な時に援助を求める人の横に居て、その人から信頼を得られる人に少しずつでも近づけるための工夫であり、それは臨床心理学的目的をもったものである。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業で紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点 (50%)、課題への取り組みの評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。  |       |           |
| 準備学習       | 読んでみたい本を読む。テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の新しい自分の発見を促す要因を含んだ場を提供したいと思っているので、積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 進路と卒業研究①   2. 個別面談①   3. 文献講読・英文読解・体験学習のいずれか①   4. 同<br>②   5. 見学事前学習   6. 見学事前学習、社会福祉施設等見学①   7. 見学振り返り、社会福祉施設等見学②   8. 同<br>③   9. 同   ④<br>  10. 同   ⑤   11. 同<br>⑥   12. 見学振り返り、見学のまとめ   13. 卒業研究研究①<br>  14. 同   ②   15. 個別面談②   ※以上については、内容や順序の変更があり得る。           |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50665B0C |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学や医療心理学の基礎文献の講読および発表を通して、臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深める。さらに、将来の卒業論文作成を視野において、各自の問題意識や素朴な疑問を専門分野における課題に練り上げていく作業を押し進めていきたい。また、医療心理臨床の現場で出会う様々な疾患や、それに対する援助技術についても学習する。  秋学期は、臨床心理学や医療心理学に関する論文を、全員で講読および発表を行う。また、秋学期の後半は、各自の問題意識や疑問に関する文献を収集し、それをまとめたものを発表し、卒業研究で取り組むテーマの決定につなげていく。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は特に使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による、発表 (30%)、議論への参加 (20%)。  |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学や医療心理学の基礎概念や主題などの理解を深めることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論には積極的・主体的に取り組んでほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション・個人面談  2 個人面談  3 論文講読  4 論文講読  5 論文講読  6 論文講読  7 論文講読  8 論文講読  9 個人テーマ発表  10 個人テーマ発表  11 個人テーマ発表  12 個人テーマ発表  13 個人テーマ発表  14 個人テーマ発表  15 個人テーマ発表  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50665B0D |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 専門演習 II A・B における卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を身に付ける。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席及び討論への参加状況など 発表及びその内容をまとめたレポート (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 各自関心ある研究テーマを絞る。 専門演習 I A でも挙げているが、 文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 研究発表の際には討論に参加できるように関連文献を読むなどして準備をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に論文を読み、読書を進めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 文献発表・討論 3 文献発表・討論 4 文献発表・討論 5 文献発表・討論 6 文献発表・討論 7 研究発表・討論 8 研究発表・討論 9 研究発表・討論 10 研究発表・討論 11 研究発表・討論 12 英語文献購読 13 英語文献購読 14 英語文献購読 15 英語文献購読 具体的な雲影方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50665B0E |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IB in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自のテーマにそって文献を探し、発表する。聞く方は、必ず発表者に対して感想や意見を言うことを通して、さらに自分の考えを深めるようにする。     |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業への積極的な参加、責任のある態度、学ぼうとする姿勢  |       |           |
| 到達目標       | 各自の興味のあるテーマをさらに深めること。他者に自分の意見をつたえられること。                                  |       |           |
| 準備学習       | 日ごろから、心理療法に関する文献などに注意し、積極的に自分で読んでみること。                                   |       |           |
| 受講者への要望    | ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。積極的に参加して下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 2, 3 4 5 6 7 8 9 各自のテーマに沿って発表, テーマに沿った文献については相談に応じる 10 11 12 13 14 15 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50667A0B |
| 科目名   | 臨床心理学専門演習ⅡA   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Seminar IIA in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名  | 川畑 隆  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 演習ⅠA・Bの延長としての発達臨床心理学演習、各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生生活最後の1年間であることを意識しながら、各時間を構成する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ  |       |           |
| 教材(その他)   | 必要に応じてプリント類を配布する  |       |           |
| 評価方法  | 出席や受講態度などの平常点(50%)、課題への取り組みの評価点(50%)。   |       |           |
| 到達目標  | 各自のテーマにそった卒業研究の実施に向けた準備ができること。  |       |           |
| 準備学習  | 自分の卒業研究テーマについての学習を行なうこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の準備となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張してほしい。          |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. グループ別テーマ研究①   2. // ②   3. // ③   4. //                  |   |       |           |
| ④   5. // ⑤   6. 進路・卒業研究に関して①   7. // ②   8. //             |   |       |           |
| 過去の卒業研究の講読①   9. // ②   10. 文献(教科書)講読。各自の卒業研究個別指導①   11. // |   |       |           |
| ③   13. // ④   14. //                                       |   |       |           |
| ⑤   15. // ⑥   ※上記の内容や順序は変更があり得る。                           |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50667A0C |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIA in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。  春学期は、卒業論文の作成に向けて、下記のテキストを全員で講読する。                  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 津川律子・遠藤裕乃著 「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル」 金剛出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による、発表 (30%)、議論への参加 (20%)。   |       |           |
| 到達目標       | 各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション・個人面談  2 個人面談  3 文献講読  4 文献講読  5 文献講読  6 文献講読  7 文献講読  8 文献講読  9 先行研究展望の発表  10 先行研究展望の発表  11 先行研究展望の発表  12 先行研究展望の発表  13 先行研究展望の発表  14 先行研究展望の発表  15 先行研究展望の発表 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50667A0D |
| 科目名   | 臨床心理学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IIA in Clinical Psychology                               |       |           |
| 担当者名  | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業論文の作成を念頭に置きながら、各人の興味関心合わせて研究を進めることを通して、臨床心理学・深層心理学について学ぶ。      |       |           |
| 教材 (テキスト)   |  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席及び討論への参加状況など 発表及びその内容をまとめたレポート (50%)                 |       |           |
| 到達目標  | 専門演習 IB で絞り込んだ研究テーマに関する先行文献を探して、自らの研究の位置づけを明らかにしながら、卒業研究の計画を進める。 |       |           |
| 準備学習  | 討論に積極的に参加できるように、関連のある文献に目を通す。                                    |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 能動的に研究する態度を習得して欲しい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 .オリエンテーション  2 文献購読  3 文献購読  4 先行研究に関する発表  5 先行研究に関する発表  6 先行研究に関する発表  7 先行研究に関する発表  8 先行研究に関する発表  9 卒業研究計画発表 10 卒業研究計画発表 11 卒業研究計画発表 12 卒業研究計画発表 13 卒業研究計画発表 14 予備 (計画発表)  15 予備 (計画発表) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50667A0E |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIA in Clinical Psychology                    |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の興味あるテーマを絞って文献を読み、発表する。 ゼミ生が中心の授業です。しっかりと参加して下さい。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 授業への積極的な参加  |       |           |
| 到達目標       | 各自の興味あるテーマを選び、調べ、まとめること。 他者の発表を聞き、自分の意見も言えること。        |       |           |
| 準備学習       | 心理療法に関する文献を読むこと                                       |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に参加して下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 2 3 4 5 6 7 各自のテーマに沿って文献講読、発表 8 9 10 11 12 13 14 15 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50667A0F |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIA in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、具体的な研究方法を検討し、決定する。 その過程において、臨床心理学についての、より専門的な探求を推し進める。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 発表 50%、討論 50%として、総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標       | 専門演習 IB で学んだ知識を元に、研究テーマを絞り込み、卒業論文の準備や作成を進める。先行研究に基づいた研究計画を立てる。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回次週までの課題が出るので、着実にこなすことが求められる。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究は自らが作成するものであるから、自分の問題意識を纏めると共に、主体的に授業にかかわること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション・個人面談 2. 卒業研究について 3. 関連文献講読 4. 関連文献講読 5. テーマ選定 6. テーマ選定・討議 7. テーマ決定 8. 先行研究展望の発表 9. 先行研究展望の発表 10. 先行研究展望の発表 11. 実施方法検討 12. 実施方法検討 13. 実施方法検討 14. 実施準備  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50667B0B |
| 科目名   | 臨床心理学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IIB in Clinical Psychology                          |       |           |
| 担当者名  | 川畑 隆  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の1年間であることを意識しながら、各時間を構成する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | とくに指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ                      |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリント類を配布する  |       |           |
| 評価方法  | 出席や受講態度などの平常点 (50%)、課題への取り組みの評価点 (50%)。                     |       |           |
| 到達目標  | 各自のテーマにそった卒業研究の実施と完成。                                       |       |           |
| 準備学習  | 自分の卒業研究の完成に向けたあらゆる準備を行なうこと。                                 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の実施、完成となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってもらいたい。                                   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 卒業研究と進路について   2. 卒業研究等に関する個別相談指導①   3. //  |   |       |           |
| ②   4. // ③   5. テーマ・ディスカッション①   6. //  |   |       |           |
| ②   7. 卒業研究中間発表会①   8. // ②   9. // ③   10. テーマ・ディスカッション③   11. 卒業研究等に関する個別相談指導④   12. // |   |       |           |
| ⑤   13. // ⑥   14. テーマ・ディスカッション④   15. まとめ   ※上記の内容や順序は変更があり得る。                           |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50667B0C |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIB in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。  秋学期は、各自のテーマに即して、研究計画を立て、卒業研究を行い、論文に仕上げていくが、途中経過の中間発表や個別指導を行う。                     |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は特に使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による、発表 (30%)、議論への参加 (20%)。  |       |           |
| 到達目標       | 各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を行うことを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のために準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション・個人面談  2 個人面談  3 卒業研究の中間発表  4 卒業研究の中間発表  5 卒業研究の中間発表  6 卒業研究の中間発表  7 卒業研究の中間発表  8 卒業研究の中間発表   9 卒業研究の個人指導  10 卒業研究の個人指導  11 卒業研究の個人指導  12 卒業研究の個人指導  13 卒業研究の個人指導  14 卒業研究の個人指導  15 卒業研究の個人指導 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50667B0D |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIB in Clinical Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究を進め、論文作成の指導を中心に行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席及び討論への参加状況など 発表及びその内容をまとめたレポート (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文の作成。   |       |           |
| 準備学習       | 関連文献に目を通すこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的に研究に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 卒業研究の中間発表 3 卒業研究の中間発表 4 卒業研究の中間発表 5 卒業研究の中間発表 6 卒業研究の中間発表 7 卒論指導 8 卒論指導 9 卒論指導 10 卒論指導 11 卒論指導 12 卒論指導 13 まとめ 14 まとめ 15 発表 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50667B0E |
| 科目名        | 臨床心理学専門演習 II B                                   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar IIB in Clinical Psychology               |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。           |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業への積極的な参加                                       |       |           |
| 到達目標       | テーマを絞り、それについて調べ、まとめること。                          |       |           |
| 準備学習       | 自分の興味あるテーマに沿って文献を読むこと                            |       |           |
| 受講者への要望    | 自分で興味をもって学んで下さい。                                 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 2 3 4 5 6 7 8 各自のテーマに沿って発表 9 10 11 12 13 14 15 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50667B0F |
| 科目名   | 臨床心理学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar IIB in Clinical Psychology  |       |           |
| 担当者名  | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 専門演習 II A での検討を元に、各自が関心を持つテーマについて研究を行う。 研究結果については、適宜中間報告を行い、軌道修正をしながら、最終的な論文に纏め上げていく。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 発表および討議(50%)、卒業論文の提出(50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 卒業論文作成のための調査や分析を実施し、論文を纏め上げることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 毎時間、研究および論文作成の進行状況に応じた課題を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 自分の論文を作成するために、主体的・積極的に参加することが求められる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. オリエンテーション・個人面談 2. 論文構想の中間報告 3. 論文構想の中間報告 4. 研究実施の中間報告 5. 研究実施の中間報告 6. 研究実施の中間報告 7. 結果・考察の検討 8. 結果・考察の検討 9. 結果・考察の検討 10.卒業論文作成 11.卒業論文作成 12.卒業論文作成 13.卒業論文作成 14.卒業論文作成 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50670001 |
| 科目名  | 歴史学概論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Historical Science   |       |           |
| 担当者名   | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験60%、授業内レポート40%   |       |           |
| 到達目標   | 戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 戦後歴史学再考   2. 大塚史学（1）   3. 大塚史学（2）   4. 現代歴史学の展開   5. アリエス — 心性の歴史家（1）   6. アリエス — 心性の歴史家（2）   7. アリエス — 心性の歴史家（3）   8. フーコー — 権力の系譜学（1）   9. フーコー — 権力の系譜学（2）   10. フーコー — 権力の系譜学（3）   11. ウォーラーステイン — 世界システム論（1）   12. ウォーラーステイン — 世界システム論（2）   13. ノースとトマス — ニュー・エコノミック・ヒストリー（1）   14. ノースとトマス — ニュー・エコノミック・ヒストリー（2）   15. 史料読解入門 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50679A01 |
| 科目名   | 歴史人類学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Historical Anthropology A  |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 歴史と構造について考える。また、書承で伝えられたもの、口承で伝えられたもの間にある共通点と差異について考える。          |       |           |
| 教材(テキスト)  |  |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 期末考査(70%) 授業内提出物(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 歴史と構造について基本的な考え方を理解する。 書承で伝えられたもの、口承で伝えられたもの間にある共通点と差異について、理解する。 |       |           |
| 準備学習  | 講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 歴史学と人類学 2 循環する時間意識 3 儀礼という考え方1 4 儀礼という考え方2 5 出自という考え方1 6 出自という考え方2 7 神話語り 8 口承による王の系譜1 9 口承による王の系譜2 10 書承による一族の系譜 11 西洋の時間意識 12 構造と歴史1 13 構造と歴史2 14 構造と歴史3 15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50679B01 |
| 科目名  | 歴史人類学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Historical Anthropology B                          |       |           |
| 担当者名   | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では、人類学と歴史学の出会いについて論じる。                          |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 期末考査（70%） 授業内提出物（30%）                              |       |           |
| 到達目標   | 人類学と歴史学がどのような背景のもとで出会い、どのような相互交渉を持ったのかについて、理解を深める。 |       |           |
| 準備学習   | 講義中に挙げられた文献は読んでおくこと。                               |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 人類学からのアプローチ   2 大伝統と小伝統 1   3 大伝統と小伝統 2   4 大伝統と小伝統 3   5 歴史学からのアプローチ 1   6 歴史学からのアプローチ 2   7 厚い記述 1   7 厚い記述 2   8 厚い記述 3   9 ミクロストーリー 1   10 ミクロストーリー 2   11 オーラルヒストリー 1   12 オーラルヒストリー 2   13 オーラルヒストリー 3   14 人類学と歴史学   15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50681A01 |
| 科目名  | 歴史地理学 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Historical Geography A  |       |           |
| 担当者名   | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学 A では、まず歴史地理学の学説史と方法論を概観する。学説史と方法論においては、特に空間認知の歴史地理に焦点を当てる。この方法論が歴史地理学において発展したのは、歴史時代の人間集団の地理的行動が、現代の私たちの価値体系では、理解できないからである。したがって、特定の時代の人間集団の空間認知を研究する必要がある。また歴史地理学における野外調査の方法についても触れる。  特に歴史地理学 A では、古代の村落・都市・交通・政治に関する地理的行動、地理的空間に焦点を当て、具体的な事例に則して講義していく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤岡謙二郎編『新訂歴史地理』大明堂。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント配布、ビデオやパワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 学期末レポート (80%)   |       |           |
| 到達目標   | 歴史民俗学における歴史地理学の方法論、テーマの独自性の理解を目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1 歴史地理学とは：地理学の中の位置づけ、先史歴史地理学、原史歴史地理学、歴史地理学、文献歴史地理学、民俗歴史地理学、考古歴史地理学  2 歴史地理学の研究方法：H.Price の三つの研究領域、役場や旧家の資料類とその意義、野外における遺物・遺跡・史跡などの調査、近世大坂の絵図と現在の地形図の比較、徳島県史付図の絵図、開田図、条里制、城下町絵図。  3 自然環境と歴史地理学：気候変動、海水準移動、歴史地理学が見る縄文時代と弥生時代  4 縄文時代の集落と生活：集落形態、縄文時代の生活、比較民族誌的研究 (民俗歴史地理学)  5 弥生時代の集落形態：文化人類学のデータの重要性  6 古代国家の都城制と交通路：条里制、大化の改新の詔、『日本書紀』  7 古代の歴史地理学：動物行動学の応用、畿内の四至、領域性、ネットワーク認知  8 古代国家の政治領域：畿内の四至の特性、関塞の存在の可能性  9 古代国家の政治領域の防衛：関塞の立地条件  10 古代の関①：「名壑の横河」の立地条件と小字  11 古代の関②：「赤石の櫛淵」の立地条件と小字  12 古代の関③：「紀伊の兄山」の立地条件と小字  13 古代の関④：「近江の狭々波の逢坂山」の立地条件と小字  14 古代の関の表示行動：K.Lynch の 5 つのエレメント、万葉集  15 景観の記号化：継起景観と領域行動 </p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50681B01 |
| 科目名   | 歴史地理学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Historical Geography B   |       |           |
| 担当者名  | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Bでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。  特に歴史地理学Bでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることが、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）学期末レポート（80%）   |       |           |
| 到達目標  | 歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 歴史民俗学における歴史地理学とは：歴史地理学Aとのつながり 2 カルチュラル・スタディーズの「神話」：口頭伝承としての神話、『口語訳 古事記』、 3 『古事記』の神話：フィールドの神話神話と伝説と昔話の関係、歴史地理学の独自性 4 神話の力：『古事記』と『日本書紀』の記事の比較 5 古代史の見解：古代史の考え方と歴史地理学の考え方 6 神話の分布と世界観の拡散：歴史地理学における環境知覚研究 7 神話のシンボリズムと場所：『日本書紀』と『風土記』 8 「袖振峰」佐賀県の佐用姫伝説：佐賀県の伝説との比較 9 神話の環境知覚研究：環境知覚と創造神話、平安京の都市プランと風水 10 神話のシンボルと場所：トラジャの葬送儀礼と世界創造神話 11 拡散した神話・話型の変容過程：『平家物語』、河原町の「三面鬼」、昔話 12 話型と景観：娘の家、丹塗の矢型、変容モデル図、変容モデルチャート 13 理想郷の景観①：神話モデルの景観 14 理想郷の景観②：伝説モデルの景観 15 理想郷の景観③：昔話モデルの景観 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50687A0A |
| 科目名   | 歴史民俗学資料講読（都市文化史）A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading: Historical Folklore Materials (History of Urban Culture) A   |       |           |
| 担当者名  | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。（中略）ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『遠野物語』柳田国男、角川ソフィア文庫   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標  | 専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| テキストの前半『遠野物語』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。  1～15 受講生の発表と討論                       |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50687B0A |
| 科目名   | 歴史民俗学資料講読（都市文化史）B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading: Historical Folklore Materials ( History of Urban Culture) B  |       |           |
| 担当者名  | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。（中略）ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『口語訳 古事記 神代篇』三浦佑之・訳・注釈、文春文庫   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標  | 専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| テキストの後半『古事記』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。  1～15 受講生の発表と討論                        |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50697A0B |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習ⅠA  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar: History and Folklore IA   |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 3回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のⅠAは、4つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全3回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）    | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント  |       |           |
| 評価方法       | 発表（60％） 討論（40％）  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。  |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 スケジュールの発表  2～14 歴史民俗学専攻3回生の発表と討論、  15 卒業研究の文献調査とフィールドワーク   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50697A0C |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習ⅠA  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar: History and Folklore IA   |       |           |
| 担当者名       | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 3回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習のⅠAは、4つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全3回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）    | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント  |       |           |
| 評価方法       | 発表（60％） 討論（40％）  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。  |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 スケジュールの発表   2～14 歴史民俗学専攻3回生の発表と討論、   15 卒業研究の文献調査とフィールドワーク   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50697A0D |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore IA  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 3回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習の I A は、5つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全3回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介  |       |           |
| 教材 (その他)   | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント   |       |           |
| 評価方法       | 発表 (60%) 討論 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。   |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 スケジュールの発表   2 ~14 歴史民俗学専攻3回生の発表と討論、   15 卒業研究の文献調査とフィールドワーク   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50697A0E |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore IA  |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 3回生の春学期に開講される歴史民俗学専攻の演習の I A は、5つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全3回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介  |       |           |
| 教材 (その他)   | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント   |       |           |
| 評価方法       | 発表 (60%) 討論 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。   |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 スケジュールの発表  2～14 歴史民俗学専攻3回生の発表と討論、  15 卒業研究の文献調査とフィールドワーク  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50698B0B |
| 科目名  | 歴史民俗学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar: History and Folklore IB  |       |           |
| 担当者名   | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>本演習では、歴史民俗の空間的側面に焦点を当てるため、歴史民俗の人文地理学的研究を特に重視します。  人文地理学は、文化の空間的側面を研究する学問です。あらゆる文化は、人間と環境との相互関係から生まれます。したがって、あらゆる文化が空間的特性を持つことになります。このように、人文地理学は様々な文化を研究対象にすることができます。  受講生は、どのような歴史民俗に関するテーマを持って本演習に臨んでもかまいません。従来の受講生の多くは、神話、伝説、昔話、都市伝説、妖怪、地域、映画、食文化、祭り、異文化などをテーマとしてきました。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるいはフィールドワークを行い、4回生での卒論の準備とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介  |       |           |
| 教材 (その他)   | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント   |       |           |
| 評価方法   | 発表 (60%) 討論 (40%)   |       |           |
| 到達目標   | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。                              |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 スケジュール  2 テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館  3~1 4 ゼミ生の発表と討論  1 5 まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                               |   |       |                      |
|-------------------------------|---|-------|----------------------|
| 年度                            | 2012  | 授業コード | J50698B0C            |
| 科目名                           | 歴史民俗学専門演習 I B   | 単位数   | 2                    |
| 科目名 (英語表記)                    | Seminar: History and Folklore IB  |       |                      |
| 担当者名                          | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |                      |
| 講義概要                          | この演習は  ①異文化研究を行うことを目標にしています。自分の生まれ育った文化とは違う形を持つ文化を、観察したり分析したりするには、天与の才能の他に知識や技術が必要です。このクラスではその知識や技術の習得に努めます。 参与観察の方法、インタビューの方法、資料の整理の仕方、旅行の技術、民族誌の書き方などなど。お手本になるのは、昔と現在の人類学者や民俗学者の著作です。  ②口承文芸を研究したいと考えている学生さんも歓迎です。口承文芸研究も異文化研究と同様なトレーニングが必要です。そのほかにテキスト作成の技術やテキスト分析の知識も必要になるでしょう。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるいはフィールドワークを行い、4回生での卒論の準備とします。 |       |                      |
| 教材 (テキスト)                     |   |       |                      |
| 教材 (参考文献)                     |   |       |                      |
| 教材 (その他)                      | 学生の作成したレジュメ、パワーポイント   |       |                      |
| 評価方法                          | 発表 (60%) 討論 (40%)   |       |                      |
| 到達目標                          | プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。  |       |                      |
| 準備学習                          | テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備  |       |                      |
| 受講者への要望                       |   |       |                      |
| 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。 |   |       |                      |
| 講義の順序とポイント                    |   |       |                      |
| 1                             | スケジュールの作成   | 2     | テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館 |
| 5                             | まとめ   | 3～14  | 担当者の発表と討論            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50698B0D |
| 科目名   | 歴史民俗学専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar: History and Folklore IB  |       |           |
| 担当者名  | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本文化史や日本史概説・資料講読など、2回生まで基礎的な学習をしてきた諸君は、次の段階として、興味を抱いた分野に関するテーマを持ち、その専門的な研究を開始することになります。そこで必要とされてくるのが、それぞれのテーマに関する基本的な史料の所在や、論文や書籍などによって既往の研究成果を知ることです。この演習では、それを段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受けます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業内で指導。   |       |           |
| 教材 (その他)  | なし。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点50パーセント、プレゼンテーションの内容50パーセントを合わせて評価。  |       |           |
| 到達目標  | 研究テーマの確立と、研究史の熟知。   |       |           |
| 準備学習  | 自らの研究発表準備はもちろんのこと、発表者の研究テーマおよびその内容に関する事前の学習。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| とりあえず各自の興味に沿った研究テーマの設定と確立に努力して欲しい。真摯な姿勢での受講を望みます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| B (秋学期)   1 研究テーマの基本資料に関する発表   2 同 上   3 同 上   4 同<br>上   5 同 上   6 同 上   7 同 上   8 研究テーマの再検討   9 同<br>上   10 同 上   11 同 上   12 研究テーマに関する既往の論文等の蒐集作業と研究史の発表   13<br>同 上   14 同 上   15 同 上 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50698B0E |
| 科目名  | 歴史民俗学専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar: History and Folklore IB   |       |           |
| 担当者名   | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 都市文化史 A,B・都市文化史講読など、2 回生まで基礎的な学習をしてきた学生諸君が、その中から興味を抱いたテーマに関して、専門的な研究を開始させることになる。提出した研究計画書をまず検討し、それに沿って、テーマをめぐる資料、論文を探し出し、これまでの研究史を知るという順序になることだろう。段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受ける。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (50%) 出席状況等による。レポート (50%)  |       |           |
| 到達目標   | 最初は思いつきにすぎなかった研究テーマをどれだけ客観的なものに仕立てられるか。それが卒業研究の成果につながっていく。   |       |           |
| 準備学習   | 論文や図書の収集、解読。フィールドワーク。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 関連の論文を読んでいくことで、文献目録を作ったり、研究史を意識していくようにする。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| (1) 研究テーマの再プレゼンテーション  (2) 同上  (3) 同上  (4) 同上  (5) 同上  (6) 研究テーマに関する研究史発表  (7) 同上  (8) 同上  (9) 同上  (10) 同上  (11) 研究計画書の検討  (12) 同上  (13) 同上  (14) 文献目録作成について  (15) 卒業研究に向けて |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50701A0B |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II A   |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習は、歴史民俗学演習 I A・B の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3 回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしばる作業を行います。   演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介   |       |           |
| 教材 (その他)   | 発表者のレジュメ、パワーポイント   |       |           |
| 評価方法       | 発表 (50%) 毎回の討論 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の書き方   2 各自のテーマ設定   3～15 ゼミ生の発表と討論   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50701A0C |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II A  |       |           |
| 担当者名       | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本演習は、歴史民俗学演習 I A・B の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3 回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点を絞る作業を行います。   演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 発表 (50%) 毎回の討論 (50%)  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | フィールドワークと資料読解については、各自計画を立て、自主的に行っておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の書き方   2 各自のテーマ設定   3～15 ゼミ生の発表と討論  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |             |                |          |          |          |
|--|---|-------------|----------------|----------|----------|----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード       | J50701A0D      |          |          |          |
| 科目名  | 歴史民俗学専門演習 II A  | 単位数         | 2              |          |          |          |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar: History and Folklore II A  |             |                |          |          |          |
| 担当者名   | 吉村 亨  | 旧科目名称       |                |          |          |          |
| 講義概要   | 3回生までに研究テーマを設定、それに関する研究史を整理し史料や論文を蒐集中の諸君は、その研究内容を深めるために何度かの発表の積み重ねを必要とします。この演習では、それを段階に応じて行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受け、最終的には卒業研究を作成・完成します。 |             |                |          |          |          |
| 教材 (テキスト)  | なし。   |             |                |          |          |          |
| 教材 (参考文献)  | 授業内で教示。   |             |                |          |          |          |
| 教材 (その他)   | なし。   |             |                |          |          |          |
| 評価方法   | ゼミ参加状況40パーセント、プレゼンテーションの内容40パーセント、卒業研究 (論文) 20パーセントを合わせて評価。   |             |                |          |          |          |
| 到達目標   | 卒業論文の完成。  |             |                |          |          |          |
| 準備学習   | 卒業論文完成にむけての努力。  |             |                |          |          |          |
| 受講者への要望  |   |             |                |          |          |          |
| ぜひとも卒業研究 (論文) を完成させましょう。卒論は大学生として必修の作品であり、今までの勉学の集大成です。真摯な姿勢での受講を望みます。 |   |             |                |          |          |          |
| 講義の順序とポイント   |   |             |                |          |          |          |
| A (春学期)  | 1   | 開講にあたって   2 | 研究発表 (複数回)   3 | 同 上   4  | 同 上   5  | 同 上   6  |
|  | 同 上   7   | 同 上   8     | 同 上   9        | 同 上   10 | 同 上   11 | 同 上   12 |
|  | 同 上   13  | 同 上   14    | 同 上   15       | 同 上   16 | 同 上   17 | 同 上   18 |
|  |   |             |                |          |          |          |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50701A0E |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II A   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習は、歴史民俗学演習 I A・B の受講生が引き続き受講することを原則とします。演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 発表 (50%) 毎回の討論 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 先行研究論文を早く発見し、出来るだけ多く読んでおくこと。もちろん、具体的な現場を出来るだけ訪ねておくことも重要です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の書き方   2 各自のテーマ設定   3~15 ゼミ生の発表と討論   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50701B0B |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II B   |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本演習は、歴史民俗学演習 II B の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3 年生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介   |       |           |
| 教材 (その他)   | 発表者のレジュメ、パワーポイント   |       |           |
| 評価方法       | ゼミ生の発表 (70%) と毎回の討論 (20%)、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表 (10%)  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の準備状況の発表   2～9 ゼミ生の発表と討論   10 卒論中間発表会 (歴史民俗学専攻全体)   11～15 ゼミ生の発表と討論  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50701B0C |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II B   |       |           |
| 担当者名       | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本演習は、歴史民俗学演習IIAの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | ゼミ生の発表 (70%) と毎回の討論 (20%)、11月に行われる卒業研究の中間発表会での発表 (10%)   |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の準備状況の発表  2～9 ゼミ生の発表と討論  10 卒論中間発表会 (歴史民俗学専攻全体)   11～15 ゼミ生の発表と討論  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50701B0D |
| 科目名   | 歴史民俗学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar: History and Folklore II B  |       |           |
| 担当者名  | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 3回生までに研究テーマを設定、それに関する研究史を整理し史料や論文を蒐集中の諸君は、その研究内容を深めるために何度かの発表の積み重ねを必要とします。この演習では、それを段階に応じて行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受け、最終的には卒業研究を作成・完成します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業内で教示。   |       |           |
| 教材 (その他)  | なし。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミ参加状況40パーセント、プレゼンテーションの内容40パーセント、卒業研究 (論文) 20パーセントを合わせて評価。   |       |           |
| 到達目標  | 卒業論文の完成。  |       |           |
| 準備学習  | 卒業論文完成にむけての努力。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ぜひとも卒業研究 (論文) を完成させましょう。卒論は大学生として必修の作品であり、今までの勉学の集大成です。真摯な姿勢での受講を望みます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| B (秋学期)   1 開講にあたって   2 研究発表 (複数回)   3 同 上   4 同 上   5 同 上   6 同 上   7 同 上   8 同 上   9 同 上   10 同 上   11 同 上   12 同 上   13 同 上   14 同 上   15 卒業研究提出 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50701B0E |
| 科目名        | 歴史民俗学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar: History and Folklore II B  |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習は、歴史民俗学演習II Aの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。  受講生は、3回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。  演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ゼミ生の発表 (70%) と毎回の討論 (20%)、11月に行われる卒業研究の中間発表会での発表 (10%)  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 最後の最後まで推敲を重ね、粘り強く思考と執筆をつづけること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 卒論の準備状況の発表   2～9 ゼミ生の発表と討論   10 卒論中間発表会 (歴史民俗学専攻全体)   11～15 ゼミ生の発表と討論   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50703A01 |
| 科目名   | 歴史民俗学特殊講義 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized History and Folklore IA   |       |           |
| 担当者名  | 飯倉 義之   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>【主題】  近年、日本の民俗文化研究の一分野として「妖怪文化研究」が脚光を浴びている。 小松和彦を中心とする国際日本文化研究センターの「怪異・妖怪伝承データベース」や「怪異・妖怪画像データベース」、東アジア怪異学会の活動、青弓社「ナイトメア叢書」等、多くの研究成果が世に送り出されている。 そうした妖怪文化研究の成果をわれわれは、小説・ドラマ・アニメ・ゲーム・まんがといった創作物を通じても摂取している。 本講義では、妖怪文化の現代的受容の例として妖怪の登場するまんがをとりあげ、妖怪の描かれ方の変遷を通じて、民俗文化の変化・変容過程を理解し、併せていま・このわれわれの心意に迫ることをめざす。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 小松和彦 (編)『図解雑学 日本の妖怪』ナツメ社 香川県立歴史博物館・京都国際マンガミュージアム『妖怪画の系譜』河出書房新社 小松和彦『妖怪文化入門』せりか書房 小松和彦 (編著)『怪異・妖怪文化の伝統と創造』せりか書房 京極夏彦『妖怪の理 妖怪の檻』角川書店  |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点30% (出席状況などによる)、授業時の提出物30%、定期試験40%   |       |           |
| 到達目標  | 妖怪の登場するマンガ・アニメ等を題材とし、妖怪文化の現代的受容の分析を通じて、日本民俗文化の変化・変容を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 講義で取り上げるまんがが作品について、あらすじなりとも目にして臨むことが望ましい  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 本講義はまんがを通じての妖怪文化論・民俗文化論であり、サブカルチャー作品論やまんが・アニメ批評ではないので、その点で誤解のないように。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. イントロダクション～なぜ、妖怪まんが論なのか～ 2. 妖怪とは何か、妖怪文化とは何か 3. 妖怪研究史概説1 柳田國男＝民俗学の妖怪研究 4. 妖怪研究史概説2 井上円了＝哲学の妖怪研究 5. 妖怪研究史概説3 江馬務・藤澤衛彦＝風俗史学の妖怪研究 6. 通俗的妖怪観の誕生～妖怪ブームと水木しげるの時代～ 7. 妖怪まんが前史 江戸の妖怪まんが 8. 妖怪まんがを読む1 水木しげるの妖怪まんが 「ゲゲゲの鬼太郎」「河童の三平」ほか 9. 妖怪まんがを読む2 異人・アウトローとしての妖怪 「どろろ」「猫目小僧」「妖怪人間ベム」ほか 10. 妖怪まんがを読む3 妖怪まんが冬の時代とオカルトブーム 11. 妖怪まんがを読む4 妖怪バトルまんがの時代 「幽霊白書」「うしおととら」「GS美神極楽大作 !!」ほか 12. 妖怪まんがを読む5 妖怪まんがと学校の怪談 「地獄先生ぬ～べ～」ほか 13. 妖怪まんがを読む6 「妖怪のいる日常」へ 「百鬼夜行抄」「もっけ」「夏目友人帳」ほか 14. 妖怪まんがを読む7 「萌え」の対象としての妖怪～かわいい妖怪たち 「カッパの飼いかた」「妖怪研究家ヨシムラ」「もののけもの」ほか 15. 妖怪まんがを読む8 「萌え」の対象としての妖怪～セクシーな妖怪たち 「かのこん」「ロザリオとバンパイア」「t a c t i c s」「おとめ妖怪ざくろ」ほか 16. まとめ～妖怪文化の明日はどちらだ?～</p> |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50703B01 |
| 科目名        | 歴史民俗学特殊講義 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized History and Folklore IB  |       |           |
| 担当者名       | 飯倉 義之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年、テレビや活字のメディアで「都市伝説」が脚光を浴びている。 都市の住民たちや学生達の間で爆発的に流行する噂話や都市伝説、「学校の怪談」などは、現代の口承文芸と言ってよい。 本講義では、口承文芸の一領域として都市伝説をとりあげ、民俗文化の伝承・伝播の過程を理解し、併せていま・ここのわれわれの心意に迫ることをめざす。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 日本口承文芸学会『シリーズことばの世界 第3巻 はなす』三弥井書店 ブルンヴァン『消えるヒッチハイカー』『チョーキング・ドーベルマン』『メキシコから来たペット』『くそっ!なんてこった』『赤ちゃん列車が行く』新宿書房 ブレードニヒ『悪魔のほくろ』『ジャンボジェット』白水社 池田香代子ほか『ピアスの白い糸』『走るおばあさん』『魔女の伝言板』『幸福のEメール』白水社 常光徹『学校の怪談』ミネルヴァ書房 松谷みよ子『現代民話考』全12巻 ちくま文庫   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点30% (出席状況などによる)、授業時の提出物30%、定期試験40%  |       |           |
| 到達目標       | 「都市伝説」を題材とし、口承文芸の分析を通じて、日本の民俗文化の伝承・伝播のありようを理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 民俗学の一分野としての口承文芸の領域について学習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | テレビで放送されている「芸人都市伝説」のようなことも扱いますが、すべてがそのようなおもしろおかしい題材ではありませんので、そのつもりで。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション～なぜ、都市伝説論なのか～ 2. 口承文芸とは何か カタリ・ハナシ・ウタ・コトワザ 3. 説話の世界 昔話/伝説/世間話 4. 柳田國男の「世間話」研究 5. 流れ口裂け女 「世間話」から「都市伝説」へ 6. 1989年の(うわさ)ブーム 人面犬・アイドル・まゆげコアラ 7. 口承文芸研究の黒船 ブルンヴァンの「都市伝説」とブレードニヒの「現代伝説」 8. 都市伝説と(うわさ)はどう違う? 流言/ゴシップ/都市伝説 9. 都市流言の系譜 江戸の浮説流言・幕末維新の流言・戦時下の流言 10. 学校の怪談、トイレの花子さん 「学校の伝承」の発見 11. 学校の怪談への道 松谷みよ子「現代民話考」 都市伝説の2000年モード 芸人達の都市伝説 12. メディアで広がる都市伝説1 「不幸の手紙」から「ゼロックスロア」、そして「チェーンメール」へ 13. メディアで広がる都市伝説2 電承文芸の世界 インターネット怪談「くねくね」 14. メディアで広がる都市伝説3 「ヴィジュアル系実話誌」の世界と「陰謀論」 15. まとめ～口承文芸の明日はどっちだ?～ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50705A01 |
| 科目名        | 歴史民俗学特殊講義 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Specialized History and Folklore II A  |       |           |
| 担当者名       | 本多 健一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「神社と祭りから考える京都・亀岡の歴史と文化」  どんな神社であっても、昔からの歴史があり、今もお参りする人々がいます。そして、そんな人々の信仰の結晶として、時に豪快で、時に華やかな、祭りという民俗行事が受け継がれてきています。  本講義では、長い都であった京都、そして京都と深いつながりのある亀岡の神社と祭りを題材にして、両地域の歴史と文化を新しい視点から考えてみたいと思います。また、あわせて過去から受け継がれ、将来へ伝承していく民俗文化の今日的な意義について考えます。  具体的な対象は、八坂神社・祇園祭、伏見稲荷・稲荷祭、松尾大社・松尾祭、北野天満宮・ずいき祭、御霊神社・御霊祭、今宮神社・今宮祭といった大きな神社・祭りだけでなく、見落としがちな小さな神社や祭り、六斎念仏(ろくさいねんぶつ)のような民俗芸能もとりあげます。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。各講義でプリントなどを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 京都市編『京都の歴史』、学芸書林、1968-1976 など。 各講義にて適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 映像資料なども多く活用して、できるだけ現場の雰囲気が感じられるように工夫したい。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%、出席状況等) および講義の中で課す小課題 (50%) によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 神社や祭りを通じて、地域の歴史と文化を考える力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | ①神社を見つけたら、どういう土地にあるか、祭られている神は何か、誰がいつお参りしているかといったことに関心を持ってほしい。 ②多くの祭りは年に一度しか行われぬ。近所で祭りがあれば、積極的に見聞してほしい。   |       |           |
| 受講者への要望    | ①各自、京都や亀岡の地図を選んで持参すること。観光ガイドブックや観光案内所で配っているパンフレットなどでも可。 ②講義の中で何回か課題を出し、小レポートや簡単な作業を行ってもらおう。作業の場合、定規や色鉛筆などを準備しておくこと (事前に連絡する)。 ③遅刻や私語は、欠席以上に減点対象とすることがあるので注意してほしい。詳細は初回講義に説明する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション - 現代社会における民俗、その中での神社と祭り 2. 対象とする神社と祭り - 時代による変遷、季節的な特徴 3. 京都の神社① - 平安京の都市プランと市街地の変遷 4. 京都の神社② - なぜ平安京内に大きな神社がないのか 5. 京都の神社③ - なぜ京都の中で地域によって信仰する神社が違うのか・その1 6. 京都の神社④ - なぜ京都の中で地域によって信仰する神社が違うのか・その2 7. 亀岡の神社① - 亀岡盆地の洪水と開発伝説から何がみえてくるか 8. 亀岡の神社② - 祭神の分布と祭の伝承から考える亀岡 9. 京都の祭りの歴史① - 平安・鎌倉期 「御霊会と馬長(うまおさ)の時代」 10. 京都の祭りの歴史② - 南北朝・室町期 「鉾の時代」 11. 京都の祭りの歴史③ - 戦国・江戸期 「戦乱からの復興と爛熟」 12. 京都の祭りの歴史④ - 明治から現代 「祭りと観光・地域振興」 13. 祭りからみる京都と近郊農村とのつながり - 特殊祭具、鉾の分布と六斎念仏を演じた農民とを題材にして 14. 現代における祭りの伝承 - ドキュメンタリー映画 「ほんがら」 から考える 15. まとめ  学生諸君の要望を聞きながら、講義として祭りを見学しに行くことも検討する。 なお、講義の進み具合によって順番・内容の変更がありうる。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50705B01 |
| 科目名   | 歴史民俗学特殊講義 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Specialized History and Folklore II B  |       |           |
| 担当者名  | 北村 皆雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義は、映像を用いて、身の回りの生活、風景、民俗を&lt;撮り、編集し、仕上げる&gt;一連のプロセスを実践を通して学ぶものである。 今、生活の中で映像の利用なしでは成り立たなくなっている。いたるところに映像が氾濫している。しかし、いざ自分が発信者、記録者となったとき、どのようにビデオカメラを回したらいいのか、またどのように編集し、人に見せるものとして完成させたらいいのか、戸惑うことが多い。 今回の集中講義では、身の回りの中から学生自身がテーマを決め、企画案を書き、さらに自ら撮影、編集、仕上げまでを手がけられるようにする。いわば映像制作の基礎編である。 必要に応じて、参考映像を見せながら「映像民俗学、映像人類学とは何か」について論ずる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内提出物 (100%)  |       |           |
| 到達目標  | 撮影、編集、仕上げまで  |       |           |
| 準備学習  | あらかじめ撮影したいもの、素材、テーマを考えておいて欲しい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 映像に関して、経験、未経験を問わない。 ただ、何を映像にしたいか、それだけは考えてきて欲しい。 周辺の自然 (木、岩でも)、風景、あるいは友人、おもしろい出来事、生活、信仰、民俗行事でもいい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>●1日目 1、撮影テーマ提出、 2、検討 3、グループ分け 4、ロケハン 5、撮影撮影 6、撮影 ●2日目 7、撮影 (小型ビデオカメラ使用) 8、編集 (現在の編集基本ツールであるマックのファイナルカットプロを使用) 9、編集手直し (指導) ●3日目 10、編集 11、仕上げ (字幕) 12、音、音楽入れ) 13、完成 14、試写 15、討論</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50707001 |
| 科目名        | 話しことば表現講座  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Speaking Word Expression Course  |       |           |
| 担当者名       | 伏見 昌子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人が理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないように話す力を磨きたいものです。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性を認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躰に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。各講義で適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 話しことば検定3級テキスト・2級テキスト（日本話しことば協会）  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%） 出席状況などによる。授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（60%）する。  |       |           |
| 到達目標       | コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・TV・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われている「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話し言葉検定試験」にもトライして下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 概論 2. 話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） 3. 日本語の音 4. 話しことば検定模擬問題（筆記リスニング） 5. 情報を収集・整理して話す（他己紹介） 6. 音声表現の技術I 7. 音声表現の技術II 8. 敬語I 9. 敬語II 10. 自己PR（特に就職活動を意識して自己PRを考える） 11. 自己PR（考えた自己PRを効果的に話す） 12. 聞く技術 13. わかりやすく話す 14. 効果的に話す 15. まとめ（期間外試験）</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50716A0A |
| 科目名        | メディア専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IA: Media  |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講生の関心をふまえ、まず、4 回生時の卒論執筆ないし制作に必要な基本的レクチャー (内容、方法) を教員が行う (2~3 回を予定)。その後、上記の共通テキストや、各自の興味・問題意識に即した基本文献や資料の講読・発表を行い、全員でディスカッションを行う。春学期は、各受講生が、卒論・制作につながる自分の「関心の軸」の探索を行うことを主眼とする。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。 なお、春学期の演習では、その3回を使って就職活動支援を実施する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 若林直樹・及部克人監修『コミュニケーション研究 I』武蔵野美術大学出版局、2002 年 佐藤章『ヒットを生み出す最強チーム術 キリンビール・マーケティング部の挑戦』平凡社新書、2009 年 他  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) : テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験 (60%) : レポート   |       |           |
| 到達目標       | 広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などについて学び、卒業論文・制作のための基礎知識、方法を身につける。各自のテーマ設定とそのすすめ方を固めることを年間の目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 1) 自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現 (CM、印刷広告、インターネット広告等) は日頃から収集しておくこと。 2) 他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>&lt;演習で扱うトピック例&gt; 1. ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。 2. 特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。 3. 音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。 等  &lt;研究テーマの例&gt; 1. 特定商品分野のマーケティングの具体的なプランニングないし研究 2. 特定商品の広告計画、広告表現の作成 (ポスターや CM の制作)  3. 企業のブランド研究 4. 広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論 5. 広告表現などマス・メディアの内容分析 6. 広告産業の研究 7. 流行・消費トレンド分析、商品文化研究 8. 音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究   &lt;講義予定&gt; 第 1 回: オリエンテーション 第 2 回: 進路指導 (1) 就職 (進路) 登録票の作成、E-Testing の登録など 第 3 回: 研究テーマと方法について 第 4 回: 進路指導 (2) 自己分析・自己 PR など 第 5 回: ゼミ生発表 (共通課題)  第 6 回: ゼミ生発表 (同)  第 7 回: ゼミ生発表 (同)  第 8 回: ゼミ生発表 (同)  第 9 回: 広告表現等の制作 (チーム別)  第 10 回: 広告表現等の作品制作 (同)  第 11 回: 広告表現等の作品制作 (同)  第 12 回: 広告表現等の作品制作 (同)  第 13 回: 広告表現等の作品制作 (プレゼンテーション)  第 14 回: 進路指導 (3) 自己 PR 文の作成・添削など 第 15 回: 春学期のふりかえり</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50716A0B |
| 科目名        | メディア専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IA: Media  |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア(media)」とは、言い換えれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒(なかだち)”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。  本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。  ※「ワークショップ(workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共有”を実践する“場” |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 水越伸『メディア・ピオトープ:メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  関口久雄『メディアのブリコラージュ:つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008   |       |           |
| 教材(その他)    | プリント、映像教材他。   |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価。   |       |           |
| 到達目標       | メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。  |       |           |
| 準備学習       | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。   |       |           |

#### 受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む(面倒なこと多し)。

#### 講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。||たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CDを聴く、ビデオ/DVDを鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館/博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか(なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル/他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。||つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。||※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい(不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点にご留意下さい)。||・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している |・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる |・自分がやりたいこと/やりたくないことをきちんと主張できる |・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと(得意でないこと)にでも積極的にチャレンジできる |・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている |・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる ||★メディア《つくる》工房 {<http://media-tukuru.jp>} ||01 オリエンテーション |02 ワークショップ 01|03 ワークショップ 02|04 ワークショップ 03 |05 ワークショップ 04|06 ワークショップ 05|07 ワークショップ 06|08 ワークショップ 07 |09 ワークショップ 08 |10 ワークショップ 09 |11 ワークショップ 10 |12 ワークショップ 11|13 ワークショップ 12|14 ワークショップ 13|15 ワークショップ 14| |★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50716A0C |
| 科目名        | メディア専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IA: Media  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 放送業界や映像制作業界で役立つ知識と放送、映像、CMなどの制作技術を高めるために、地元“亀岡”の文化等を題材にした「放送番組作品」「映像作品」「CM作品」をチーム単位で制作して、亀岡市民に公開する。 また、夏季休暇中に地元放送局へのインターンシップも実施する予定である。受け入れ側の条件整備が必要であり、希望者は5月上旬に申し出ること。                        |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常の評価及び制作する「放送番組作品」「映像作品」「CM作品」の企画段階、完成段階で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 取材を通して地域の人々と交流を図り、作品を本学から広く発信できるようにつとめる。  |       |           |
| 準備学習       | 情報に貪欲で、常にアンテナを張っておく心がけが必要。  |       |           |
| 受講者への要望    | 作品の企画と制作は演習時間では限界があり、演習時間外も使って行うこと。また、映像制作に関心と意欲があり、チームワークがとれて積極的に取材・編集を行い責任感ある受講生を望む。且つ映像制作実習・映像編集実習等を履修していることが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 作品制作の大まかなスケジュール   春学期 ①～④ 企画立案の前段として「亀岡ガイダンス」  ⑤～⑨ 企画リサーチ、企画立案  ⑩～⑬ 企画構成、企画審査  ⑭～⑮ ロケハン   夏季休暇 制作 (撮影・仮編集)   秋学期 ①～⑦ 編集、作品仮完成、作品審査  ⑧～⑪ 編集、作品完成、作品上映会 (亀岡市民対象)  ⑫ アンケートまとめ ⑬⑭ 作品パッケージ化作業 ⑮ 制作総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50716A0D |
| 科目名        | メディア専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IA: Media   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | <p>評価はそれぞれの専門研究の進捗度50%、さらに各種レポートやプレゼンテーション20~30%、そして平常点(授業への参加の度合い)30~20%です。  </p>   |       |           |
| 到達目標       | <p>各自の専門研究を進めることに尽きますが、同時にそれを通じて学習と進路の融合、つまり就職に研究を役立てることを目標とします。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>大学で自身が独自に研究するわけですから、自分が何に興味を抱いて研究したいのか、あるいは自身の将来にそれがどのように役立つのかをよく考えて、ふさわしい主題を考えておいてください。</p>  |       |           |

#### 受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。| 実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。| できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けて欲しいと思います。||

#### 講義の順序とポイント

1 インTRODクシヨン|2 進路と研究分野について討議|3 進路と研究分野について討議|4 ウェブを使った情報検索|5 新聞や書籍による情報収集の方法|6 個々の卒業研究に関する個別相談と指導|7 個々の卒業研究に関する個別相談と指導|8 個々の卒業研究に関する個別相談と指導|9 テーマ設定と研究方法の検証|10 卒業研究の中間発表と討議|11 卒業研究の中間発表と討議|12 卒業研究の中間発表と討議|13 各種文献のチェック|14 夏季休暇における研究計画の発表|15 総括|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50716B0A |
| 科目名        | メディア専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IB: Media   |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講者は春学期の作業をふまえ、さらに関連文献や先行・類似研究などを閱讀することで、自己の「テーマ設定」を行い、テーマに即した資料収集・整理分析や参考文献の活用にもとづき発表を行う。その際、調査・制作をすすめるための方法（文献調査、統計データ分析、アンケート調査、インタビュー、事例研究等）などについて、教員のアドバイスを受けて学ぶ。 CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 受講生のテーマに応じ、適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) : テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作   定期試験 (60%) : レポートないし作品制作   |       |           |
| 到達目標       | 学年末に自己のテーマ設定と年間の講読・発表にもとづき、レポートないし制作計画を提出する。これが4回生時における卒業研究の「序論」ないし制作計画となることが望ましい。   |       |           |
| 準備学習       | 1) 自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現 (CM、印刷広告、インターネット広告等) は日頃から収集しておくこと。  2) 他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>&lt; 演習で扱うトピック例 &gt;   1. ヒット商品、人気 CM、ブランドをつくる企業や広告会社の戦略はどうなっているか。  2. 特定の広告表現に消費者が惹きつけられるのは、どんな表現や手法が使われているからか。  3. 音楽配信などデジタル・メディアの普及により、音楽産業はどうなっていくのか。 等    &lt; 研究テーマの例 &gt;   1. 特定商品分野のマーケティングの具体的プランニングないし研究   2. 特定商品の広告計画、広告表現の作成 (ポスターや CM の制作)   3. 企業のブランド研究   4. 広告クリエイター研究、コマーシャル・アート論   5. 広告表現などマス・メディアの内容分析   6. 広告産業の研究   7. 流行・消費トレンド分析、商品文化研究   8. 音楽作品や音楽産業など、メディア文化・文化産業研究    &lt; 講義予定 &gt;   第 1 回 : オリエンテーション   第 2 回 : 各自の専攻 (卒業研究) テーマの発表 (1)   第 3 回 : 各自の専攻 (卒業研究) テーマの発表 (2)   第 4 回 : ゼミ生発表 (リサーチ課題)   第 5 回 : ゼミ生発表 (同)   第 6 回 : ゼミ生発表 (同)   第 7 回 : ゼミ生発表 (同)   第 8 回 : ゼミ生発表 (同)   第 9 回 : リサーチにもとづく広告表現等の制作 (チームないし個別)   第 10 回 : 広告表現等の作品制作 (同)   第 11 回 : 広告表現等の作品制作 (同)   第 12 回 : 広告表現等の作品制作 (同)   第 13 回 : 広告表現等の作品制作 (同)   第 14 回 : 広告表現等の作品制作 (プレゼンテーション)   第 15 回 : 秋学期のふりかえり ・ 卒業研究テーマの決定  </p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50716B0B |
| 科目名   | メディア専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Seminar IB: Media  |       |           |
| 担当者名  | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | コミュニケーションの手段・道具としての「メディア(media)」とは、言い換えれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒(なかだち)”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。  本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。  ※「ワークショップ(workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共有”を実践する“場” |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 水越伸『メディア・ピオトープ:メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  関口久雄『メディアのブリコラージュ:つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008   |       |           |
| 教材(その他)   | プリント、映像教材他。   |       |           |
| 評価方法  | 総合的に評価。   |       |           |
| 到達目標  | メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。  |       |           |
| 準備学習  | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む(面倒なこと多し)。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。  たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CDを聴く、ビデオ/DVDを鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館/博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか(なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル/他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。  つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。  ※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい(不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点にご留意下さい)。  ・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している  ・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる  ・自分がやりたいこと/やりたくないことをきちんと主張できる  ・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと(得意でないこと)にでも積極的にチャレンジできる  ・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている  ・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる   ★メディア《つくる》工房 { <a href="http://media-tukuru.jp">http://media-tukuru.jp</a> }  01 オリエンテーション  02 ワークショップ 15 03 ワークショップ 16 04 ワークショップ 17  05 ワークショップ 18 06 ワークショップ 19 07 ワークショップ 20 08 ワークショップ 21  09 ワークショップ 22  10 ワークショップ 23  11 ワークショップ 24  12 ワークショップ 25 13 ワークショップ 26 14 ワークショップ 27 15 ワークショップ 28  ★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。 |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50716B0C |
| 科目名        | メディア専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Seminar IB: Media   |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 放送業界や映像制作業界で役立つ知識と放送、映像、CMなどの制作技術を高めるために、地元“亀岡”の文化等を題材にした「放送番組作品」「映像作品」「CM作品」をチーム単位で制作して、亀岡市民に公開する。 また、夏季休暇中に地元放送局へのインターンシップも実施する予定である。受け入れ側の条件整備が必要であり、希望者は5月上旬に申し出ること。                       |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 参考プリントを随時配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常の評価及び制作する「放送番組作品」「映像作品」「CM作品」の企画段階、完成段階で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 取材を通して地域の人々と交流を図り、作品を本学から広く発信できるようにつとめる。   |       |           |
| 準備学習       | 情報に貪欲で、常にアンテナを張っておく心がけが必要。   |       |           |
| 受講者への要望    | 作品の企画と制作は演習時間では限界があり、演習時間外も使って行うこと。また、映像制作に関心と意欲があり、チームワークがとれて積極的に取材・編集を行い、責任感ある受講生を望む。且つ映像制作実習・映像編集実習等を履修していることが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 作品制作の大まかなスケジュール  春学期 ①～④ 企画立案の前段として「亀岡ガイダンス」  ⑤～⑨ 企画リサーチ、企画立案  ⑩～⑬ 企画構成、企画審査  ⑭～⑮ ロケハン   夏季休暇 制作 (撮影・仮編集)   秋学期 ①～⑦ 編集、作品仮完成、作品審査  ⑧～⑪ 編集、作品完成、作品上映会 (亀岡市民対象)  ⑫ アンケートまとめ ⑬⑭ 作品パッケージ化作業 ⑮ 制作総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50716B0D |
| 科目名   | メディア専門演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Seminar IB: Media   |       |           |
| 担当者名  | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   |  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポートやプレゼンテーション50%、積極的な議論の有無20~30%、平常点(授業への参加度)30~20%。   |       |           |
| 到達目標  | 専門研究を通じてきちんとした形で卒業論文を完成させることは言うまでもないが、その過程で活発な議論、卓越したプレゼンテーション能力を養う。それはマスメディアへの就職に限らず、どんな企業への修飾に役立つと思われる。  |       |           |
| 準備学習  | ジャーナリズム演習なので、日頃からテレビでニュースをよく見、さらに新聞を読むようにしておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。  実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。  できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受けてほしいと思います。 </p> |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 オリエンテーション  2 研究の進捗状況の発表  3 研究の進捗状況の発表  4 ゼミ生によるディスカッション  5 リサーチ方法についての検討会  6 個々の卒業研究に関する個別相談と指導  7 個々の卒業研究に関する個別相談と指導  8 個々の卒業研究に関する個別相談と指導  9 参考文献や最新データについての報告  10 論点の整理  11 卒業研究の中間発表と討議  12 卒業研究の中間発表と討議  13 卒業研究の中間発表と討議  14 問題点について指導  15 まとめ </p>   |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50726A0A |
| 科目名   | メディア専門演習II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Advanced Seminar II A: Media  |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。                                      |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 受講生のテーマに応じ、適時指示する。  |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(40%)：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験(60%)：レポート   |       |           |
| 到達目標  | 自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。  |       |           |
| 準備学習  | 1) 自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現(CM、印刷広告、インターネット広告等)は日頃から収集しておくこと。 2) 他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。  <講義予定> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談(1) 第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談(2) 第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第9回：卒業研究の発表・指導 第10回：卒業研究の発表・指導 第11回：卒業研究の発表・指導 第12回：卒業研究の発表・指導 第13回：卒業研究の発表・指導 第14回：卒業研究の発表・指導 第15回：春学期のふりかえり |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50726A0B |
| 科目名  | メディア専門演習ⅡA   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Seminar II A: Media   |       |           |
| 担当者名   | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | メディア専門演習ⅠA・Bに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 水越伸『メディア・ピオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005   関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008 |       |           |
| 教材（その他）  | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法   | 総合的に評価。  |       |           |
| 到達目標   | メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。   |       |           |
| 準備学習   | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。  01 オリエンテーション  02 卒業研究演習 01 03 卒業研究演習 02 04 卒業研究演習 03  05 卒業研究演習 04 06 卒業研究演習 05 07 卒業研究演習 06 08 卒業研究演習 07  09 卒業研究演習 08  10 卒業研究演習 09  11 卒業研究演習 10  12 卒業研究演習 11 13 卒業研究演習 12 14 卒業研究演習 13 15 卒業研究演習 14  ★メディア《つくる》工房 { <a href="http://media-tukuru.jp">http://media-tukuru.jp</a> } |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50726A0C |
| 科目名  | メディア専門演習ⅡA  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Seminar II A: Media  |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | メディア専門演習ⅠA・Bでの映像制作に関する実践的な学びを基に、卒業研究に向けての優れた映像表現の探求とともに卒業論文（作品）作成のためのノウハウを学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 「放送、映像に関する小論文」及び「卒業研究」によって評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 優れた放送番組を通して表現手法を学び、日本文化や伝統文化等を発信する「放送番組」「映像作品」を本格的に制作、又は論文化する。                |       |           |
| 準備学習   | 卒業研究テーマに沿った優れた放送番組、映像作品にできる限り多く触れること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 「卒業研究」への取り組みを早い段階から積極的に行うこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| （春学期）   ①～⑧   優れた放送番組に関する表現内容、手法のゼミ発表を行う。   ⑨～⑮   卒業研究テーマに関するリサーチを行う。    （秋学期）   ①～⑨   各自卒業研究の論文化、作品化及び内容のゼミ発表を行う。   ⑩～⑭   各自卒業研究の個別指導   ⑮ ゼミまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J50726A0D |
| 科目名       | メディア専門演習ⅡA   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Advanced Seminar II A: Media   |       |           |
| 担当者名      | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。  </p> |       |           |
| 教材(テキスト)  |  |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法      | 各種レポートやプレゼンテーション50%、積極的な議論の有無20~30%、平常点(授業への参加の度合い)30~20%。   |       |           |
| 到達目標      | 専門研究を通じて就職など進路に反映させるのが最大の目標です。   |       |           |
| 準備学習      | 新聞やテレビ、雑誌、映画などでいま、世間で何が関心を呼んでいるのか、好奇心をもって豊かな情報を身につけておいてください。   |       |           |

#### 受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。| 実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。| できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受講して下さい。||

#### 講義の順序とポイント

1 オリエンテーション| 2 卒業研究と進路についてのガイダンス| 3 卒業論文の作成方法| 4 卒業研究のテーマと内容発表| 5 卒業研究のテーマと内容発表| 6 個々の卒業研究に関する個別相談と指導| 7 個々の卒業研究に関する個別相談と指導| 8 個々の卒業研究に関する個別相談と指導| 9 テーマについてのグループ・ディスカッション| 10 テーマについてのグループ・ディスカッション| 11 研究の進捗動向発表と討議| 12 研究の進捗動向発表と討議| 13 卒論に必要な情報・データの補足指導| 14 ゼミ全体に対する研究状況の分析と評価| 15 春学期の総括|||

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50726B0A |
| 科目名   | メディア専門演習ⅡB  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Seminar II B: Media  |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。                              |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 受講生のテーマに応じ、適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）：自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 卒業研究（60%）：論文ないし作品   |       |           |
| 到達目標  | 自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。  |       |           |
| 準備学習  | 1) 自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2) 他の受講生の卒業研究・制作についても、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。   <講義予定> 第1回：オリエンテーション 第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1） 第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2） 第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第9回：卒業研究の発表・指導 第10回：卒業研究の発表・指導 第11回：卒業研究の発表・指導 第12回：卒業研究の発表・指導 第13回：卒業研究の発表・指導 第14回：卒業研究の発表・指導 第15回：秋学期のふりかえり ・「ゼミ論集」編集打合せ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50726B0B |
| 科目名  | メディア専門演習ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Seminar II B: Media   |       |           |
| 担当者名   | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | メディア専門演習ⅠA・Bに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 水越伸『メディア・ピオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005   関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008 |       |           |
| 教材（その他）  | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法   | 総合的に評価。  |       |           |
| 到達目標   | メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。   |       |           |
| 準備学習   | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。   01 オリエンテーション   02 卒業研究演習 15   03 卒業研究演習 16   04 卒業研究演習 17   05 卒業研究演習 18   06 卒業研究演習 19   07 卒業研究演習 20   08 卒業研究演習 21   09 卒業研究演習 22   10 卒業研究演習 23   11 卒業研究演習 24   12 卒業研究演習 25   13 卒業研究演習 26   14 卒業研究演習 27   15 卒業研究演習 28   ★メディア《つくる》工房 { <a href="http://media-tukuru.jp">http://media-tukuru.jp</a> } |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50726B0C |
| 科目名  | メディア専門演習ⅡB  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Advanced Seminar II B: Media  |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | メディア専門演習ⅠA・Bでの映像制作に関する実践的な学びを基に、卒業研究に向けての優れた映像表現の探求とともに卒業論文(作品)作成のためのノウハウを学ぶ。 |       |           |
| 教材(テキスト)   |   |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 「放送、映像に関する小論文」及び「卒業研究」によって評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 優れた放送番組を通して表現手法を学び、日本文化や伝統文化等を発信する「放送番組」「映像作品」を本格的に制作、又は論文化する。                |       |           |
| 準備学習   | 卒業研究テーマに沿った優れた放送番組、映像作品にできる限り多く触れること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 「卒業研究」の論文化(作品化)への取り組みを積極的かつ具体的に行うこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| (春学期)   ①～⑧   優れた放送番組に関する表現内容、手法のゼミ発表を行う。   ⑨～⑮   卒業研究テーマに関するリサーチを行う。    (秋学期)   ①～⑨   各自卒業研究の論文化、作品化及び内容のゼミ発表を行う。   ⑩～⑭   各自卒業研究の個別指導   ⑮ ゼミまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J50726B0D |
| 科目名       | メディア専門演習ⅡB  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Advanced Seminar II B: Media  |       |           |
| 担当者名      | 福永 勝也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。   &lt;</p> |       |           |
| 教材(テキスト)  |   |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法      | 各種レポートやプレゼンテーション50%、積極的な議論の有無20~30%、平常点(授業への参加度合い)30~20%。   |       |           |
| 到達目標      | 専門研究を通じて将来の進路、つまり就職に反映させることを最大の目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | ジャーナリズム演習なので、ネットやテレビ、新聞などで、いまどんな社会事象がニュースになっているのかを勉強しておいてください。  |       |           |

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。| 実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。| できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。||

講義の順序とポイント

1 卒業論文の完成に向けたスケジュール作成| 2 卒業研究のテーマ確認と指導| 3 研究に必要な資料やデータ収集指導| 4 個々の卒業研究に関する個別指導| 5 個々の卒業研究に関する個別指導| 6 個々の卒業研究に関する個別指導| 7 卒業研究の中間発表とゼミ生による討議| 8 卒業研究の中間発表とゼミ生による討議| 9 卒業研究の中間発表とゼミ生による討議| 10 個々の卒論に対する評価とデータ補充の指導| 11 各自の卒業論文の最終発表とディスカッション| 12 各自の卒業論文の最終発表とディスカッション| 13 各自の卒業論文の最終発表とディスカッション| 14 ゼミ全体のテーマ・ディスカッションとそれに対する評価| 15 卒業論文の講評と総括|||

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50736A0A |
| 科目名  | メディア基礎演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic Seminar: Media (s)  |       |           |
| 担当者名   | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>広告コミュニケーション、マーケティングについての基本文献を講読し、たとえば「講義の順序とポイント」に示すような問題を考え、ディスカッションを行う。 テキストの講読を中心に、CM 映像や広告図版、マーケティング事例など、なるべく具体的な素材を使いながら授業を進める。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』ブチグラ・パブリッシング、2006 年 谷村智康『CM 化するニッポン—なぜテレビが面白くなくなったのか』WAVE 出版、2005 年</p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>スタジオジブリ『ハウシカの新聞広告って見たことありますか』徳間書店、2002 年</p>   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | <p>平常点 (40%) : テキストの講読、自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 定期テスト (60%) : 期末レポート</p>  |       |           |
| 到達目標   | <p>広告、広報・PR (パブリック・リレーションズ) などを主題として書かれた、しっかりとした基本文献を精読・味読し、それらにかかわる基本となる概念・事象について学ぶ。</p>   |       |           |
| 準備学習   | <p>関心を持つ広告主のマーケティング、PR、広告表現について、日頃から注意し、資料収集を行っておくこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 企業が市場にアプローチする戦略としてのマーケティングはどのように発展し、どんな方法を持っているか。 2. マーケティングの主要な手段としての広告はどのように発達し、どんな特徴を持っているか。 3. メディア企業の事業と、それを支える広告ビジネスはどのようなしくみになっているか。   &lt;講義予定&gt; 第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 : テキスト講読・発表 (1)  第 3 回 : テキスト講読・発表 (2)  第 4 回 : テキスト講読・発表 (3)  第 5 回 : テキスト講読・発表 (4)  第 6 回 : テキスト講読・発表 (5)  第 7 回 : テキスト講読・発表 (6)  第 8 回 : テキスト講読・発表 (7)  第 9 回 : テキスト講読・発表 (8)  第 10 回 : テキスト講読・発表 (9)  第 11 回 : 広告表現等の作品制作 (チーム別)  第 12 回 : 広告表現等の作品制作 (同)  第 13 回 : 広告表現等の作品制作 (同)  第 14 回 : 広告表現等の作品制作 (プレゼンテーション)  第 15 回 : 春学期のふりかえり  </p> |   |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50736A0B |
| 科目名        | メディア基礎演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Seminar: Media (s)  |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「メディアでなにができるのか? (=メディア・リテラシー)」を考え、実践するための基礎演習。  春学期は、メディア環境を“生態系”としてとらえ、今日のメディア社会が抱えるさまざまな問題を実践的に考える『メディア・ピオトープ:メディアの生態系をデザインする』を講読し、内容について、個人発表をする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 水越伸『メディア・ピオトープ:メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 関口久雄『メディアのプリコラージュ:つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント、映像教材他。   |       |           |
| 評価方法       | 個人発表 (レジュメ作成/プレゼンテーション) + 最終レポートを総合的に評価。  |       |           |
| 到達目標       | メディアと社会について考える/実践する。  |       |           |
| 準備学習       | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的に参加することを望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 受講者は、各人、最低1回の個人発表 (レジュメ作成/プレゼンテーション) と最終レポートを必修とする。  01 オリエンテーション  02 文献講読 01 03 文献講読 02 04 文献講読 03  05 文献講読 04 06 文献講読 05 07 文献講読 06 08 文献講読 07  09 文献講読 08  10 文献講読 09  11 文献講読 10  12 文献講読 11 13 文献講読 12 14 文献講読 13 15 文献講読 14 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50736A0C |
| 科目名        | メディア基礎演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Seminar: Media (s)  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「映像文化」とは「人間の生き様を映像化したもの」である。それは、ニュース、ドキュメンタリーからドラマ、中継に至るまで様々な映像表現によって感動的に伝えられる。放送と映像の理論を学ぶと同時に、その理論的効果として放送や映像制作の実習により映像表現の基本的な手法を実践的に理解する。また、秋学期に地元テレビ局の制作・報道現場と生放送の見学実習を予定している。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常の評価及び制作した作品で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 中継や番組制作を通して理論や技術を実践的に学ぶとともに、社会が必要とするチームワークの大切さを習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常生活の中で常に疑問を持ち、発見することを心がける。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「番組・映像制作に意欲があり、チームワークがとれて積極的な受講生が望ましい。且つ、「スタジオ放送実習」「デジタル映像編集実習」を履修済み、または、併行履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①～② 放送と映像の理論学習   ③～⑤ スタジオでのラジオ、テレビ番組制作実習   ⑥～⑪ テレビ中継放送実習   ⑫～⑭ 中継録画映像の編集   ⑮ 合評会   秋学期   映像作品制作実習   ①～④ 企画、構成   ⑤～⑧ 撮影取材   ⑨～⑭ 編集、字幕、ナレーション、ミックスダウン (途中、地元テレビ局見学あり)   ⑮ 合評会       |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50736A0D |
| 科目名        | メディア基礎演習 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Seminar: Media (s)  |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。   &lt;</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 授業内の各種レポートやプレゼンテーション50%、積極的な議論の有無30~20%、平常点(授業への参加の度合い)20~30%。  |       |           |
| 到達目標       | ニュース学習を通じて社会常識を養いますが、最終的には個々の研究が将来の進路に結びつかせてほしいと思います。   |       |           |
| 準備学習       | 議論を活発にするために、いま世の中で起きていること、つまりニュースをテレビや新聞などで勉強しておいてください。   |       |           |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |
| <p>高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。  実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。  できれば「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。   </p> |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |
| <p>1 演習の意味とその意義の説明  2 基礎演習から専門演習への過程について  3 それぞれの進路希望聴取  4 研究テーマの選択と指導  5 卒業研究に関する個別相談と指導  6 卒業研究に関する個別相談と指導  7 卒業研究に関する個別相談と指導  8 図書館における資料蒐集  9 テーマについてディスカッション  10 卒業研究の中間発表と討議  11 卒業研究の中間発表と討議  12 卒業研究の中間発表と討議  13 メディア研究書の輪読  14 秋学期に向けての研究課題の提示  15 まとめ   </p>  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50736B0A |
| 科目名   | メディア基礎演習 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Basic Seminar: Media (f)  |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 企業や広告会社は、どんな方法で、またどんなプロセスで商品や広告をつくっているのだろうか。基本文献を講読しながら、たとえば「講義の順序とポイント」に示すようないくつかの問題についてディスカッションを行う。また、広告などのメディア表現を実際に作るための情報整理の基礎を学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | ジェームズ・ヤング『アイデアの作り方』阪急コミュニケーションズ、1988年 高柳ヤヨイ『レイアウトのデザインを読む。—情報デザインのロジックを学ぶ』ソシム、2005年   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 真木準編『一つ上のアイデア。』インプレス、2005年  |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (40%) : テキストの講読、自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 定期テスト (60%) : 期末レポート   |       |           |
| 到達目標  | 広告、広報・PR (パブリック・リレーションズ)などを主題として書かれた、しっかりとした基本文献を精読・味読し、それらにかかわる基本となる概念・事象について学ぶ。広告クリエイティブの基本的な発想法、デザインの基本を身につける。                       |       |           |
| 準備学習  | 関心を持つ広告主のマーケティング、PR、広告表現について、日頃から注意し、資料収集を行っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. スポンサー企業の宣伝部は、どんなプロセスで広告をつくっているか。 2. 広告クリエイターはどんな発想と方法で消費者に注目される広告表現をつくるのか。 3. 読みやすく魅力的な広告表現のデザインをつくるために、どのような情報の整理と配置の作業が必要か。  <講義予定> 第1回:オリエンテーション 第2回:テキスト講読・発表(1) 第3回:テキスト講読・発表(2) 第4回:テキスト講読・発表(3) 第5回:テキスト講読・発表(4) 第6回:テキスト講読・発表(5) 第7回:テキスト講読・発表(6) 第8回:広告表現等の作品制作(チーム別) 第9回:広告表現等の作品制作(同) 第10回:広告表現等の作品制作(同) 第11回:広告表現等の作品制作(同) 第12回:広告表現等の作品制作(同) 第13回:広告表現等の作品制作(同) 第14回:広告表現等の作品制作(プレゼンテーション) 第15回:秋学期のふりかえり |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50736B0B |
| 科目名   | メディア基礎演習 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Basic Seminar: Media (f)   |       |           |
| 担当者名  | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | メディアでなにができるのか? (=メディア・リテラシー)を考え、実践するための基礎演習。 秋学期は、春学期の展開として、文章を読む/音楽を聴く/映像を見る…そして、個人発表をする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講者の関心領域に応じて、相談の上、指定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 水越伸『メディア・ピオトープ:メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  関口久雄『メディアのブリコラージュ:つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008          |       |           |
| 教材 (その他)  | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法  | 個人発表 (レジュメ作成/プレゼンテーション) +最終レポートを総合的に評価。  |       |           |
| 到達目標  | メディアと社会について考える/実践する。   |       |           |
| 準備学習  | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 主体的に参加することを望む。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 受講者は、各人、最低1回の個人発表 (レジュメ作成/プレゼンテーション) と最終レポートを必修とする。  01 オリエンテーション  02 メディア体験実習 01 03 メディア体験実習 02 04 メディア体験実習 03  05 メディア体験実習 04 06 メディア体験実習 05 07 メディア体験実習 06 08 メディア体験実習 07  09 個人発表 01  10 個人発表 02  11 個人発表 03  12 個人発表 04 13 個人発表 05 14 個人発表 06 15 個人発表 07 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50736B0C |
| 科目名        | メディア基礎演習 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Seminar: Media (f)  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「映像文化」とは「人間の生き様を映像化したもの」である。それは、ニュース、ドキュメンタリーからドラマ、中継に至るまで様々な映像表現によって感動的に伝えられる。放送と映像の理論を学ぶと同時に、その理論的効果として放送や映像制作の実習により映像表現の基本的な手法を実践的に理解する。また、秋学期に地元テレビ局の制作・報道現場と生放送の見学実習を予定している。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 参考プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常の評価及び制作した作品で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 中継や番組制作を通して理論や技術を実践的に学ぶとともに、社会が必要とするチームワークの大切さを習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常生活の中で常に疑問を持ち、発見することを心がける。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「番組・映像制作に意欲があり、チームワークがとれて積極的な受講生が望ましい。且つ、「スタジオ放送実習」「デジタル映像編集実習」を履修済み、または、併行履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 春学期   ①～② 放送と映像の理論学習   ③～⑤ スタジオでのラジオ、テレビ番組制作実習   ⑥～⑪ テレビ中継放送実習   ⑫～⑭ 中継録画映像の編集   ⑮ 合評会    秋学期   映像作品制作実習   ①～④ 企画、構成   ⑤～⑧ 撮影取材   ⑨～⑭ 編集、字幕、ナレーション、ミックスダウン（途中、地元テレビ局見学あり）   ⑮ 合評会 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50736B0D |
| 科目名        | メディア基礎演習 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Seminar: Media (f)   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>日々の新聞、テレビ、雑誌などの報道を教材にしながら、いま世の中で何が話題になっているのか、その問題点は何かを正確に理解し、私たちの周りで起きている種々の社会事象を自主的かつ客観的に考察する。その際に必要なのは、社会を批判的に読み解く鋭い洞察力である。これら各種報道を実習的に解析することによって、マスコミとジャーナリズム、そして情報社会の実態に迫る。 まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直前に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 各種レポートやプレゼンテーション50%、積極的な議論の有無30~20%、平常点(授業への参加の度合い)20~30%。   |       |           |
| 到達目標       | ニュース学習を通じて社会常識を醸成するのが最大の目標だが、それを通じて将来の進路、つまり就職に反映させてほしいと思います。  |       |           |
| 準備学習       | 議論を活発にするためにテレビや新聞でニュース報道に親しんでほしいと思います。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけて、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。  実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。  できれば「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。  </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 夏休み期間中の研究進捗状況の発表 2 夏休み期間中の研究進捗状況の発表 3 テーマ・ディスカッション 4 卒業研究に関する個別相談と指導 5 卒業研究に関する個別相談と指導 6 卒業研究に関する個別相談と指導 7 図書館における文献探索 8 メディアに対する基礎知識の確認 9 ジャーナリズムに関する基礎知識の確認 10 卒業研究の中間発表と討議 11 卒業研究の中間発表と討議 12 卒業研究の中間発表と討議 13 補足研究の指摘 14 各個人の研究に対する問題点の提示 15 まとめ  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50737A01 |
| 科目名   | 国語科教育法 I 【教】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Teaching Method : Japanese I                                       |       |           |
| 担当者名  | 寺田 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 国語教育に関わる話題をできるだけ広く取り上げながら、国語教育実践を行っていくための基礎的な知識の習得をめざす。            |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 適宜、プリント等で提示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 糸井通浩ほか編『国語教育を学ぶ人のために』世界思想社。ほかに、必要に応じて授業中に提示する。                     |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 試験(70%)によって評価を行う。ただし、講義中にミニレポート(30%)の提出を求めることがある。また、講義への全出席が前提となる。 |       |           |
| 到達目標  | 1.国語教育についての理論的理解 2.国語教育を構想する力量の習得 3.国語教育の内容についての知識の獲得              |       |           |
| 準備学習  | 課題レポート   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 本講義は、国語教育に関する「概論」である。わずかな時間に国語教育の全体にふれることになるので、広く、浅くなるのを免れない。参考書を読み、課題レポートなどには、真剣に取り組むことが必要である。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回 国語教育／国語科教育とは何かー学習指導要領 第2回 国語科の構造ー三領域ー事項 第3回 文学を読むということはどういう行為かー〈意味〉 第4回 なぜ登場人物の気持ちを考えるのかーブッククラブ 第5回 論理的な話し合い1ー三角ロジック 第6回 論理的な話し合い2ー討論ゲーム 第7回 評論文・論説文の読み方1ー茂木健一郎「最初のペンギン」 第8回 評論文・論説文の読み方2ー村上陽一郎「科学と世界観」 第9回 書くことにおける論理と対話 第10回 古典に親しむ1ー「枕草子」 第11回 古典に親しむ2ー漢詩 第12回 詩の鑑賞 第13回 短歌・俳句の鑑賞 第14回 学習を推し進める教師の発言とは何かー発問 第15回 国語科教育の成果と展望 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50737B01 |
| 科目名  | 国語科教育法Ⅱ 【教】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Japanese II                                     |       |           |
| 担当者名   | 寺田 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 学習者の発達段階に応じた国語科授業を構想する力量を形成するために、先行文献を手がかりとして、国語科授業の方法に関する理解を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、プリント等で提示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 難波博孝編『臨床国語教育を学ぶ人のために』世界思想社。ほかに、必要に応じて授業中に提示する。                    |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。             |       |           |
| 到達目標   | 1.国語科授業の方法を理解する。 2.先行文献を活用できる。 3.指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。           |       |           |
| 準備学習   | 教材研究及び学習指導案の作成  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 模擬授業を行うので、時間外に履修者で集まり練習を行うなど、自主的な取り組みを期待する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 国語科授業研究の意義 第2回 教材分析の方法 第3回 類似性に基づいた推論の果たす役割 第4回 授業形態のバリエーションとその特徴 第5回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅰ 第6回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅱ 第7回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅲ 第8回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅳ 第9回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅴ 第10回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅵ 第11回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅶ 第12回 教材分析および模擬授業の検討（演習）Ⅷ 第13回 学習意欲に培う指導目標と評価規準 第14回 国語学力の発達 第15回 学習者の交流を促す原理 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50737C01 |
| 科目名  | 国語科教育法Ⅲ 【教】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Japanese III  |       |           |
| 担当者名   | 寺田 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中学校・高等学校における国語科教育の目標、内容、方法のすべてにわたって、国語科の授業を担当するための基礎となる知識、理解、技能を修得することをめざす。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、プリント等で提示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。                       |       |           |
| 到達目標   | 1.中等国語科の構造と内容についての知識の獲得。 2.中等国語科指導法についての理論的理解。 3.中等国語科授業を構想する力量の習得。         |       |           |
| 準備学習   | 教材研究  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受け身の姿勢でなく授業への積極的な参加を期待する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 学習活動の構想 第2回 文学教材解釈の実際1—小集団で一文を読む 第3回 文学教材解釈の実際2 第4回 文学教材解釈の実際3 第5回 創作指導の方法1—リレー小説を書こう 第6回 創作指導の方法2 第7回 随筆を書く 第8回 文学教材の構造1 第9回 文学教材の構造2 第10回 文学教材の構造3 第11回 コミュニケーションとは何か 第12回 コミュニケーションの学習活動の開発 第13回 演劇 第14回 メディアリテラシー 第15回 国語学力—習得・活用・学習意欲 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50737D01 |
| 科目名  | 国語科教育法Ⅳ 【教】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Japanese IV   |       |           |
| 担当者名   | 寺田 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 国語科教科書に記載されてきた文学教材を取り上げ、教材研究の基本的な考え方や方法について明らかにする。                                  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、プリント等で提示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 学期末レポート(50%)によって評価を行う。また演習発表(50%)も評価する。講義への全出席が前提となる。                               |       |           |
| 到達目標   | 1.教材研究の基本的な考え方や方法が理解できる。 2.学習指導を構想することができる。 3.通史的な観点から、それぞれの教材の扱われ方の変遷を、理解することができる。 |       |           |
| 準備学習   | 教材研究を行い資料を作成する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 演習発表の活動を含むので、時間外の準備が必要となる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回 教材研究の方法 第2回 なぜ登場人物の気持ちを読むのか 第3回 文学の授業の見方 第4回 教材研究1 第5回 教材研究2 第6回 教材研究3 第7回 教材研究4 第8回 教材研究5 第9回 教材価値の探究 第10回 授業評価の方法 第11回 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導 第12回 読書指導 第13回 マイクロティーチング 第14回 アナロジー 第15回 国語の授業作り |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |     |       |        |
|--|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50741A01 |     |       |        |
| 科目名  | キャリア研究 s  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | Career Research (s)   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>3 年生対象科目です。この科目はこれから具体的に就業活動に取り組もうとする 3 年生を対象にしています。  また、この科目は、キャリア研究 f と対になっています。  「自らのキャリア」の中で「職業」に就くことは、もっとも重大な選択であり主要な目標のひとつです。自らの将来を描き、具体的にしていくための手法を、就職活動に必要なスキルの獲得を通して、学びます。 (1) 広く将来の人生について、いかに生きるのか、なにをなすべきなのかについて考えます。 (2) まず、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、それをもとにして職業観・人生観にそった企業、業種、職種を選択していきます。 (3) また、「自己 P R」、「履歴書」の作成など、就職活動にむけて取り組まなければならない課題とそれを実現する作業を、キャリアサポートセンターと連携して、一つ一つ、時期を失わず、確実に進めます。 (4) 同時に、コミュニケーション能力を高めねばなりません。そのためには、授業で討論、報告をしっかりと行います。ゼミ、クラブ、アルバイトなども重要です。 (5) こうした就職能力は社会的に通用するものでなければなりません。E-Testing の一定の成績が要求されます。 (6) また、「キャリア研究」は他の科目とは異なった特殊性があります。専門的な就職活動の知識は、キャリアサポートセンターのスタッフが蓄積していますので、キャリアサポートセンターの援助と指導を受けるため、面談することが不可欠です。 </p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | キャリアサポートセンター配布資料  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する   |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 以下の要件を全てクリアしてください。 ①自己分析シート作成 ②自己 P R 文作成 ③キャリアサポ面談 ④E-Testing(設定した目標に達すること) ⑤インターンシップ応募 その上で、授業中の討論、報告によって評価する。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 単位認定要件と同じ   |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 文書の提出がある場合、必ず下書きを準備してくる。 必ず、新聞記事一面を読んでおくこと。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |           |     |       |        |
| <p>(1) これからのキャリア形成に向けた取り組みの中では、スケジュール管理は重要です。就職活動は、時期を失うとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。 (2) 実践経験としてインターンシップへの応募も義務付けます。 (3) また、これからのキャリア形成の準備には、豊かな一般教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。企業研究、業界研究科目も取ってください。 (4) さらに、社会人になれば他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイトなどでも意識的に他人と交流し、コミュニケーション能力を高めておいてください。</p>  |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |     |       |        |
| <p>第 1 回： キャリア形成の準備のために、この 1 年どの様な目標を持つのか考えます。 第 2 回： 就職登録票の記入、E-Testing の申込み 第 3 回： これまでのキャリア……過去の自分を振り返る 自分史 1 第 4 回： 自分史 2 第 5 回： 自分史 3(その後、キャリアサポ面談) 第 6 回： インターンシップ申込み。申込書作成 第 7 回： 志望動機作成のための企業研究 第 8 回： 自分の長所……自分のセールス・ポイントを整理する 自己分析シート 1 第 9 回： 自己分析シート 2 第 10 回： 自己分析シート 3 第 11 回： 就職サイトへの登録と E-testing の活用方法について 第 12 回： 自己分析シートの完成……過去から現在までの自分を整理する 第 13 回： 自己 P R……自分の長所を表現する 自己 P R 文 1 第 14 回： 自己 P R 文 2 第 15 回： 自己 P R 文 3 講義の順序は、事情により前後、重複あるいは省略することがあります。  </p> |   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力)  | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○   |       |           | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50741B0A |
| 科目名        | キャリア研究 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Research (f)  |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫  | 旧科目名称 | 山本 幹夫     |
| 講義概要       | <p>3 年生対象科目です。この科目は、キャリア研究 s の合格者が登録できます。 「自らのキャリア」の中で「職業」に就くことは、もっとも重大な選択であり主要な目標のひとつです。自らの将来を描き、具体的にしていくための手法を就職活動に必要なスキルとおして学びます。 (1)広く将来の人生について、いかに生きるのか、なにをなすべきなのかについて考え続けます。 (2)まず、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、それをもとにして職業観・人生観にそった企業・業種・職種を選択していきます。 (3)また、具体的な課題として「自己PR」「エントリーシート・履歴書」など就職活動にむけて取り組まなければならない課題とそれを実現する作業を、キャリアサポートセンターと連携して、一つ一つ時期を失わず、確実に進めます。 (4)同時に、コミュニケーション能力を高めねばなりません。そのためには、授業で討論、報告をしっかりと行います。 (5)こうした就職能力は、社会的に通用するものでなければなりません。E-Testing の一定の成績が要求されます。 (6)また、「キャリア研究」は他の科目とは異なった特殊性があります。専門的な就職活動の知識は、キャリアサポートセンターのスタッフが蓄積していますので、キャリアサポートセンターの援助と指導を受けるため、面談することが不可欠です。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | キャリアサポートセンター配布資料   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 春学期合格者のみ。 以下の要件をクリアすること ①履歴書作成 ②エントリーシート作成 ③キャリアサポート面談 ④業界研究セミナー出席 授業での報告、討論によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 単位認定要件と同じ  |       |           |
| 準備学習       | 文書の提出がある場合、必ず下書きを準備してくる。 新聞の一面を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>(1)これからのキャリア形成に向けた取り組みの中では、スケジュール管理は重要です。就職活動は、時期を失うとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。 (2)就職体験談、企業セミナーなどの講座への出席。 (3)また、これからのキャリア形成の準備には、豊かな一般教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでください。企業研究、業界研究科目も取ってください。 (4)さらに、社会人になれば他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイトなどでも意識的に他人と交流し、コミュニケーション能力を高めておいてください。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回：履歴書を書く 履歴書の要件を考える サポート講座、グループワーク・ディスカッション申込み 第2回：履歴書を書く  第3回：履歴書の完成(その後、キャリアサポート面談) 第4回：企業研究 どのような仕事がしたいのか 適職検索 第5回：どのような業界があるのか:業界検索 第6回：就職ナビによる企業検索 第7回：業界研究セミナー出席 第8回：エントリーシートを書く エントリーシートの目標を考える 第9回：エントリーシート1：企業・業界共通編 第10回：エントリーシート2：企業・業界独自編 第11回：4 年生による「就職活動体験セミナー」:就職活動の体験をまなぶ 第12回：グループディスカッションの練習 第13回：マナー：社会人としての常識を確認します。 第14回：まとめ1……志望動機の確認  第15回：まとめ2……この時期に具体的にしなければならないこと 講義の順序は、事情により前後、重複あるいは省略することがあります。  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50742001 |
| 科目名        | 脳と心  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Brain and Mind   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 脳と心との関係は如何にというのは、長年論争されてきたいわゆる「心身問題」である。  本講では、心はどのようにして生まれるのか、脳と心関係をどう考えるのか、心が脳をコントロールできる側面などを検討し、脳にとって悪い「クセ」を直して脳を活性化させる方法について論述する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）  |       |           |
| 到達目標       | 脳と心関係を正しく理解できるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 資料を見ておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 心理学入門、心理学概論を履修したものとして、講義を進めます。授業には必ず出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 意識は科学で解明できるか （1）意識と脳科学 2. 脳と心をどう考えるか （1）意識と心の起源 （2）脳と心の関係について 3. 脳と心をどう考えるか （3）脳と心の諸説 （4）脳から心へ （5）心は脳を超える 4. 意識を作る脳 （1）意識と体をつなぐ 5. 意識を作る脳 （2）心を見る （3）意識の構図 6. 意識する心 （1）意識と認知 7. 心が脳を変える （1）量子力学と心 （2）心の力 8. 心が脳を変える （3）心が脳をコントロールする 9. 脳と神経 （1）脳の諸相 10. 利きまつわる問題 （1）利き手 11. 生理心理学 （1）脳波と事象関連電位 12. 脳に悪い習慣をどのように直すか 13. 脳を活性化させる方法 14. ブレイン・ルール 15. 頭にいいことをやろう |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50743A01 |
| 科目名        | 歴史民俗学上級講読（歴史）Ⅰ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced class of Reading: Historical Folklore Materials (Japanese History) I  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>1・2回生で日本史研究に関する基礎的な学習をしてきた学生諸君は、次の段階、つまり3回生となって専門演習に所属し、個々のテーマにそって卒業論文作成に向けた研究を開始するのだが、ここで必要とされるのが、史料を読み解く高いレベルの能力である。その場合、しばしば難解な障壁となるのが近世・近代の古文書群で、殆どの学生は未だこれを読む訓練を受けていないし、読み解く能力も持ちあわせていない。日本の中・近世や近代はもちろんのこと、地域の歴史や習俗・伝承などを研究しようとする者にとって、この問題は致命的といってもよいほどの重大事である。  原文書を読む能力は一朝一夕にして身に付くものではない。が、せめて、生の古文書や写真版と接したときの恐怖感だけは払拭しておきたいものだ。  この上級講読では、亀岡市域に属する「馬路町共有文書」を材料として、近世文書読解の訓練をしたい。具体的には、同志社大学人文科学研究所が昭和32年に作成した文書目録の分類に従いながら、近世初頭～幕末にいたる代表的な古文書を抽出し、その実物大コピーを資料として用いる。  講義時に、毎回2～3点のコピー資料と原稿用紙が配布され、諸君はそれを次週までに読んでくる。この作業を1年間、30回繰り返す。単純だが、難しく苦しい作業となるが、頑張ってみる価値はあると確信する。奮ってチャレンジして欲しい。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 原文書の実物大コピーを配布。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で教示。  |       |           |
| 教材（その他）    | とくになし。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等と読解能力（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 全体の約3分2ぐらいの文字が読めて、大体の内容が理解できる。   |       |           |
| 準備学習       | 前もって配布された古文書のコピーを、必ず宿題としてやってくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 初めから読めるとは考えていませんが、できることなら、市販や図書館の古文書関係の書籍を利用して、日頃から読む訓練を自習してください。これと、週一回の講義を合わせると、みるみる力がつきます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 開講にあたって  2. 宗旨改帳  3. 寺請証文  4. 宗旨人別帳  5. 宗旨送状  6. 五人組改帳  7. 反別名寄・内見帳  8. 年貢免状  9. 年貢皆済目録  11. 定米帳  12. 耕地荒・水旱  13. 出作  14. 譲与  15. 質   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50743B01 |
| 科目名        | 歴史民俗学上級講読（歴史）II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced class of Reading: Historical Folklore Materials (Japanese History) II  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>1・2回生で日本史研究に関する基礎的な学習をしてきた学生諸君は、次の段階、つまり3回生となって専門演習に所属し、個々のテーマにそって卒業論文作成に向けた研究を開始するのだが、ここで必要とされるのが、史料を読み解く高いレベルの能力である。その場合、しばしば難解な障壁となるのが近世・近代の古文書群で、殆どの学生は未だこれを読む訓練を受けていないし、読み解く能力も持ちあわせていない。日本の中・近世や近代はもちろんのこと、地域の歴史や習俗・伝承などを研究しようとする者にとって、この問題は致命的といってもよいほどの重大事である。  原文書を読む能力は一朝一夕にして身に付くものではない。が、せめて、生の古文書や写真版と接したときの恐怖感だけは払拭しておきたいものだ。  この上級講読では、亀岡市域に属する「馬路町共有文書」を材料として、近世文書読解の訓練をしたい。具体的には、同志社大学人文科学研究所が昭和32年に作成した文書目録の分類に従いながら、近世初頭～幕末にいたる代表的な古文書を抽出し、その実物大コピーを資料として用いる。  講義時に、毎回2～3点のコピー資料と原稿用紙が配布され、諸君はそれを次週までに読んでくる。この作業を1年間、30回繰り返す。単純だが、難しく苦しい作業となるが、頑張ってみる価値はあると確信する。奮ってチャレンジして欲しい。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 原文書の実物大コピーを配布。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で教示。   |       |           |
| 教材（その他）    | とくになし。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等と読解能力（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | 全体の約3分2割の文字が読めて、大体的な内容が理解できる。   |       |           |
| 準備学習       | 前もって配布された古文書のコピーを、必ず宿題としてやってくること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初めから読めるとは考えていませんが、できることなら、市販や図書館の古文書関係の書籍を利用して、日頃から読む訓練を自習してください。これと、週一回の講義を合わせると、みるみる力がつきます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1(16). 四ヶ村割賦目録  2(17). 小入用帳  3(18). 引替・引戻  4(19). 勘定・金銀入払  5(20). 拝借・御用金  6(21). 入会・境目  7(22). 山年貢  8(23). 水利 上河内村相論  9(24). 水利 西田村相論  10(25). 水利 大井川筋  11(26). 触廻状  12(27). 鉄砲証文  13(28). 家族・相続  14(29). 奉公  15(30). 商売 </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                            |  |       |           |
|----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                         | 2012   | 授業コード | J50744A01 |
| 科目名                        | 歴史民俗学上級講読（民俗）Ⅰ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                  | Advanced class of Reading: Historical Folklore Materials (Folklore) I  |       |           |
| 担当者名                       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                       | 歴史民俗学上級講読では、高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は3人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）                   | 受講者と相談して適宜決める  |       |           |
| 教材（参考文献）                   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）                    | プリントの配布  |       |           |
| 評価方法                       | 平常点（20％）発表（60％）レポート（20％）   |       |           |
| 到達目標                       | 各分野の専門的な英文が読めるようになること。   |       |           |
| 準備学習                       | 配布プリントの予習  |       |           |
| 受講者への要望                    |  |       |           |
| 参考文献にも目を配ること。              |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                 |  |       |           |
| 1 教科書の選定と解説  2～15 受講者による講読 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                            |  |       |           |
|----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                         | 2012   | 授業コード | J50744B01 |
| 科目名                        | 歴史民俗学上級講読（民俗）Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                  | Advanced class of Reading: Historical Folklore Materials (Folklore) II   |       |           |
| 担当者名                       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                       | 歴史民俗学上級講読Ⅱでは、Ⅰと同様に高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は3人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）                   | 受講者と相談して適宜決める  |       |           |
| 教材（参考文献）                   | 適宜紹介   |       |           |
| 教材（その他）                    | プリントの配布  |       |           |
| 評価方法                       | 平常点（20％）発表（60％）レポート（20％）   |       |           |
| 到達目標                       | 各分野の専門的な英文が読めるようになること。   |       |           |
| 準備学習                       | 配布プリントの予習  |       |           |
| 受講者への要望                    |  |       |           |
| 参考文献にも目を配ること。              |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                 |  |       |           |
| 1 教科書の選定と解説  2～15 受講者による講読 |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |      |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50745A01 |
| 科目名  | 中国文学特殊講義A 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Specialized Chinese Literature A                           |       |           |
| 担当者名   | 成田 健太郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 後漢末・三国時代の歴史がどのように語り継がれ読み継がれてきたか講究する。各時代の「三国志観」の特色を明らかにしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席等による。レポート（70%）                                   |       |           |
| 到達目標   | 東アジアで愛されつづけている三国志の世界とその文化的背景について多角的な視点を得る。                 |       |           |
| 準備学習   | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。                              |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. はじめに  2. 中国の歴史書と歴史観  3. 范曄『後漢書』に描かれる後漢末の様相  4. 陳寿『三国志』に描かれる三国時代の様相  5. 『三国志』裴松之注に引用される諸書  6. 唐代文学に描かれる三国時代  7. 司馬光『資治通鑑』と北宋の三国時代史観  8. 朱熹『資治通鑑綱目』と南宋の三国時代史観  9. 中国の通俗文学  10. 三国志雑劇  11. 『三国志平話』  12. 『三国志演義』  13. その後の三国志  14. 日本における三国志  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50745B01 |
| 科目名   | 中国文学特殊講義B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Specialized Chinese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 成田 健太郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 後漢末・三国時代の歴史がどのように語り継がれ読み継がれてきたか講究する。魏・呉・蜀三国や主要人物への見方が時代によってどのように変化してきたか明らかにしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。講義中に適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）出席等による。レポート（70%）  |       |           |
| 到達目標  | 東アジアで愛されつづけている三国志の世界とその文化的背景について多角的な視点を得る。                                      |       |           |
| 準備学習  | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. はじめに  2. 董卓  3. 呂布  4. 三国の内政  5. 三国の外交  6. 三国の軍事  7. 曹操  8. 司馬懿  9. 孫権  10. 周瑜  11. 劉備  12. 関羽  13. 張飛  14. 諸葛亮  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50751001 |
| 科目名  | 美意識の比較文化   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Comparison Culture of Sense of Beauty  |       |           |
| 担当者名   | 荒木 利枝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 美意識は、人によって、また状況によって、異なるものである。そして、時代や他の文化的要素、社会的環境などさまざまな要因によって変化する。もちろん、外見だけでなく、内面の情報も、美意識の形成過程に影響を与えるのである。このような美意識を生み出す背景や原理は複雑で、その要素を知ることが「美しく」生きるために不可欠といえる。この講義では、美意識の国際比較、自己表現としての化粧、コミュニケーションにおける化粧行動の役割など多様なトピックスを取り上げ、化粧の効用やその行為自体の意義について解説する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 50% 期末テスト 50%   平常点は、授業中の発表や、課題、提出物を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 美意識の形成についてのアウトラインを学び、化粧行動の基本的意義を踏まえた上で、社会的、文化的効果を理解する。単に知識を得るだけでなく、調査や討論、発表などを通して、各自、美しい社会人として行動するためのヒントを得ることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成、発表準備等）を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業は、講義の他、グループワーク、小レポート作成、発表などの活動もあるので、受講者には積極的な参加を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回 講義の概要説明 第2回 「美しさ」とは 第3回 化粧と美意識 第4回 顔のコミュニケーション 第5回 「美しさ」と社会性 第6回 化粧の歴史 第7回 美意識の国際比較 1 第8回 美意識の国際比較 2 第9回 装いと変身 第10回 自己表現としての化粧 1 第11回 自己表現としての化粧 2 第12回 化粧品選好 1 第13回 化粧品選好 2 第14回 高齢者と美意識 第15回 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50753001 |
| 科目名        | 国際社会と資源  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Society and Natural Resources  |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。</p> <p>本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題、エネルギー資源問題、鉱物資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版（2008年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008年）   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）、レポートの提出（30%）、学期末試験（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 参考書リーディング（授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）   |       |           |
| 受講者への要望    | 教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. シラバスの説明・地球資源問題とは  2. 海洋資源の減少問題 I（概況）  3. 海洋資源の減少問題 II（タラ類）  4. 海洋資源の減少問題 III（マグロ）  5. 海洋資源の減少問題 IV（クジラ）  6. 森林の減少問題 I   7. 森林の減少問題 II   8. 生物多様性の減少問題   9. 人口問題   10. 食糧問題   11. 水資源問題   12. 化石資源問題   13. エネルギー資源問題   14. 鉱物資源問題   15. 地球の環境容量と生きている地球指数   15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50754001 |
| 科目名   | 経済開発と環境   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Economic Development and Environment  |       |           |
| 担当者名  | 上須 道德   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>発展途上国にとって貧困克服や生活向上のために経済成長は人々の生活を向上させるために不可欠と考えられます。また、先進国においても日々の豊かな生活を支える経済活動が汚染問題や資源枯渇問題を引き起こし、人々の生活を脅かしています。この授業では、環境汚染問題や資源問題などをとりあげ、経済学的な視点からどうして公害などの環境問題がおこるのかどのような方法で解決できるのかに焦点をあて、経済発展と環境の関係を明らかにします。また授業の初めに、経済専門誌（日本経済新聞など）を使って経済と環境に関する時事問題について解説することも試みます。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | テキストブック環境と公害 泉 留維, 室田 武, 和田 喜彦, 三保 学著 評論社   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に提示します。  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義資料など配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%出席状況等、中間試験 30%、期末試験 50%から総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 社会や経済と環境の関係について理解し、例えば日本の環境政策(エコカー減税など)が果たして環境にとって良いものなのか、自身で考えられることを目標にします。  |       |           |
| 準備学習  | 毎日、新聞に目を通し、自分で考える習慣を身に付けましょう。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 読んで、聞いて、見て、考えて、行動する。いろいろなことに興味を持ってください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1回 暮らしと環境 第2回 経済活動と公害 第3回 環境と経済学①：マーケットって何？ 第4回 環境と経済学②：経済学からみた自然環境とは？公害はどうしておこる？ 第5回 環境政策：理論と実践 第6回 環境と経済学③：環境の価値の計測 第7回 公共事業と環境の関係を考える 第8回 エネルギーの問題と復習 第9回 中間試験（授業内で行う） 第10回 環境と経済・金融  第11回 経済のグローバル化と環境問題 第12回 資源利用と循環型社会 第13回 持続可能な観点からみた消費者・生活者としての私達の役割 第14回 少子高齢化とこれからの日本－貿易、農業・林業から考えてみよう 第15回 期末試験</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50756001 |
| 科目名  | 京都の音 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sounds of Kyoto   |       |           |
| 担当者名   | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 京都を「音」から把握することで、京都の自然・文化・都市空間の特徴を理解する                   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 中川真『平安京 音の宇宙——サウンドスケープの旅へ』 小松正史『サウンドスケープの技法——音風景とまちづくり』 |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点70%、定期レポート30%  |       |           |
| 到達目標   | 音をとおして京都の自然・文化・都市空間の特徴を理解する                             |       |           |
| 準備学習   | 音のデータの収集、整理   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・京町家キャンパスで開講する予定です（春学期：木曜2時間目 10：30～12：00）。 ・音の採集のためフィールドワークを実施する予定です。日程は受講者と相談して決定します（交通費は自己負担）。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 音と身体① 3. 音と身体② 4. サウンドスケープ論① 5. サウンドスケープ論② 6. 京都の音：自然 7. 京都の音：生活 8. 京都の音：寺社 9. 京都の音：祭礼 10. 京都の音：都市空間 11. 京都の音：茶道 12. 京都の音楽 13. 京都のサウンドアート① 14. 京都のサウンドアート② 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50757001 |
| 科目名        | 美容とブランド   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Beauty and Brand  |       |           |
| 担当者名       | 荒木 利枝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>日本の美容業界は、明治から昭和に至る経済発展の原動力となり、またいち早く国際化に対応してきた。とくに化粧品産業は、その時代の文化や経済と密接にかかわり、高度な販売システムを形成した独特の市場を持っている。消費者が、最も海外製品を身近に感じることができる市場であるともいえるだろう。シャネル、クリスチャン・ディオール、ジバンシィ、イヴ・サンローランといったトップ・ブランドはもちろん、M.A.C、ポピュラウン、ナース、メイクアップフォーエバーなどのアーティスト系ブランドも数千円で手に入るのである。それに対抗する国産メーカーの動きも目が離せない。このように、対象とする顧客が明確で、新製品（新色）の発売周期も安定した業界は他にはない魅力がある。  この講義では、美容業界、とくに化粧品市場に焦点をあて、その歴史や独特の流通システム、メーカーの組織、ブランドのプロフィールなどを解説し、企業研究にも取り組む。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50% 期末テスト 50%  平常点は、授業中の発表や、課題、提出物を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 日米欧における化粧品市場の変遷、ブランディングの歴史、化粧品メーカーの組織やその販売の現場など、美容業界の全体像を把握した上で、個別企業の動きを理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義中に、次回講義のための準備学習（資料収集やレポート作成、発表準備等）を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業は、講義の他、グループワーク、小レポート作成、発表などの活動もあるので、受講者には積極的な参加を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 講義の概要説明 第2回 化粧品とブランド 第3回 化粧品産業の流通システム 第4回 美容の歴史 1 第5回 美容の歴史 2 第6回 美容の歴史 3 第7回 インターネットと化粧品 第8回 法制度 第9回 化粧品企業 第10回 主要ブランドの特徴 第11回 小売の現状—販売店のフロア・プラン 1 第12回 小売の現状—販売店のフロア・プラン 2 第13回 化粧品市場の今後 第14回 化粧品企業の社会的責任 第15回 まとめ  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50759001 |
| 科目名  | 海外ニュースと時事問題   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English through Foreign Media   |       |           |
| 担当者名   | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この講義では「クローン牛の牛肉問題」「アフガニスタンの女性の現」など現代の興味深い問題を扱っているニュース番組を見て英語を学びます。DVDを見ながらテキストを読むことによって、段階的に理解を深めていく、視野を広げます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | Onoda, Sakae & Cooker, Lucy: BBC Understanding the News in English 9, Kinseido Publishing                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 20% 授業内課題 30% レポート 50%  |       |           |
| 到達目標   | 英語のニュース放送を見て、だいたいの内容を理解し討論する。   |       |           |
| 準備学習   | 世界の時事問題への関心を持つこと。海外のニュース（インターネット、新聞、テレビ）を見る習慣をもつこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 自分の視野を広めたい気持ちで授業に毎回出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. Olympic Tickets on Sale  2. Free from House Arrest 3. Kate Middleton Tour  4. Wikipedia—10 Years Old  5. Beef from Cloned Cows  6. Children as News Reporters 7. Women's Lives in Afghanistan  8. British Summertime Controversy  9. Bio-diversity at Risk  10. Tobacco Displays Banned  11. Schoolchildren and Sleep  12. Jobs for the Over-50s  13. Imports Increase Food Miles  14. British Trade with the Far East  15. A Celebration of Multiculturalism in London |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50761A01 |
| 科目名        | エアライン講座 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Airline Course I  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講座では、エアライン業界で羽ばたきたいと願う学生、サービス業や一般企業に就職したいと望む学生たちに、実践的な知識・技能が習得できるように講義を展開します。本講座のねらいは、お客様をもてなすホスピタリティ、洗練されたしぐさやマナーを習得し、エアライン他の業界に就職するための how-to を理解し、受講生のキャリア形成を支援することにあります。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%)、テスト (30%)   |       |           |
| 到達目標       | ①航空業界の仕事に関する理解を深める ②ホスピタリティの意義を理解し、その表現力を高める ③キャリア形成に役立つコミュニケーション能力を高める   |       |           |
| 準備学習       | 授業で学んだマナーや美しいしぐさを日常生活でも実践し、反復によって習得していくこと。  |       |           |

受講者への要望

授業を担当するのはウィズネス社の女性講師です。岡崎はコーディネーターを担当します。||航空会社の採用試験は、客室乗務員、グランドスタッフ、総合職など合わせて年間 300 回近い募集がありますが、人気の高い業界のため、その倍率は 50~100 倍ともいわれています。高倍率の試験を勝ち抜くためには、高水準の知識・技能・マナーを習得しなければなりません。|一方、エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用することでしょう。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の 3 回生ですが、2 回生以上であれば受講することができます。||マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス                    オリエンション/航空業界の仕事について/航空業界で求められる人材とは?|2. 自己表現力①    接遇の5原則 (I) トレーニング [挨拶・キビキビした動作・笑顔づくり]|3. 自己表現力②    接遇の5原則 (II) トレーニング [節度ある話し方・接客話法]|4. 自己表現力③    好感を持ってもらうためのスピーチ法と学んだことのチェックと強化|5. 接遇対応法①    待機~出迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|6. 接遇対応法②    待機~出迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|7. 接遇対応法③    待機~出迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|8. 接遇対応法④    電話の受け方・かけ方のポイントと実践訓練|9. 接遇対応法⑤    ロールプレイングの課題提出⇒グループワークとワークチェック⇒チームで成果を出すための要因とは?|10. 自己分析            自己分析をして夢を実現させよう    \*交流分析チェックと行動パターンの把握|11. ES・履歴書の理解            エントリーシートの理解    \*航空業界やその他の企業で書かせられるテーマとは?|12. ES・履歴書の理解            今から準備しておくべき、文字で自分を伝えるための常識|13. 面接対策実践①            面接では何が見られるのか? 面接で選ばれる学生となるために入退出の動きのトレーニング|14. 面接対策実践②            模擬面接体験で自分のことを伝えてみよう!    \*面接での質疑応答のポイント|15. テストと今後について    あなたの夢を実現するためには?~体験学習から学ぶ~  
\*確認テスト実施

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50762A0A |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Human Communication Studies Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、地球環境問題や資源問題をテーマに演習形式の学習を進める。教科書や参考文献や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を養う。特に本演習では、地球規模での環境・資源問題について、幅広く学ぶことを目的としている。具体的には、教科書の中の 11 のテーマを受講者に割り当て、割り当てられた受講者はそのテーマについてレジュメを作成し、内容について報告する。他の受講者はその内容について質問を行い、全員で議論をすることで理解を深める。受講者は今回のテーマの中から最も興味のある問題を研究テーマとして選択し、3 回生の専門演習でさらに深く研究を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版（2008 年）（五訂版）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 左巻 健男, 九里 徳泰, 平山 明彦著『地球環境の教科書 10 講』東京書籍（2005 年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 教科書を補う資料等を適宜配布する。  |       |           |
| 評価方法       | レポート・宿題の提出（50%）、発表（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 地球的規模での国際的な環境問題や資源問題について幅広い知識を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 割り当てられたテーマについては教科書を読んでレジュメを作成し、発表の準備をすること。それ以外のテーマについても、教科書を読んで質問の準備をすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して発表したり、質問したりすること。提出物の締め切りを厳守すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに - 地球環境問題とは  2. 地球環境問題の概観  3. 地球サミットからヨハネスブルグサミットへ  4. 地球の温暖化 I   5. 地球の温暖化 II   6. オゾン層の破壊  7. 酸性雨  8. 海洋汚染  9. 有害破棄物の越境移動  10. 生物の多様性の減少  11. 森林の減少  12. 砂漠化  13. 開発途上国における環境問題  14. その他（南極、世界遺産、地球環境研究、貿易）  15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50762A0B |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Human Communication Studies Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間が自分を磨くために、そして、人との付き合いを大切にするために、お祭りがあるのではないのでしょうか。ヨーロッパの中で昔から伝わる四季折々のお祭り、たとえば国、街、町内のお祭り、そして、家族のお祝いごとを楽しく説明したいと思います。日本の中で暮らしていても、ヨーロッパのお祭りの過ごし方を少し取り上げるのが、おしゃれではないのでしょうか。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価（50%）する。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識を身につけ、現代社会に必要な文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 必ず出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2~4. ヨーロッパの神話 5~6. ヨーロッパの神話時代のお祭り 7~8. 国のお祭り 9~10. 町のお祭り 10~12. 家を建てる時のお祭り 13~14. 家族の誕生を祝うお祭り 15. 講義のまとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50762A0C |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Human Communication Studies Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>・この演習では、国際観光都市「京都」の文化をテーマに演習形式の学習を進めます。 ・岡崎の専門は社会学ですので、社会学的な思考や方法が重視されます。 ・「京都」の研究をとおして、本や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を育成します。 ・パリやフィレンツェなど外国の観光都市と比較して、国際的な視野から「京都」を研究します。 ・具体的な研究対象、フィールドワーク内容については、受講生と話し合っ決めて決めます。</p>                           |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要な資料は授業にて配布します。京都に関連する本や論文を取り上げる予定です。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%) : 出席状況、発表、通常課題等を含む 期末レポート (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 京都の文化、社会、産業、観光に関する基礎知識と、地域研究に必要な基本能力を習得すること  |       |           |
| 準備学習       | 京都に関する情報を事前に調べてくる課題が出されます。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>* 調査研究に必要な能力を身につけるため、「社会学調査演習」「質的社会調査法」を履修することが望ましい。 * 京都学研究プログラムの科目を並行履修することが望ましい:「京都学」「京都検定講座」「伝統文化実習」など * 岡崎の担当する「京都の音」「現代社会論」「現代アートへの招待」(集中講義)などの授業を履修することが望ましい。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション: 春学期の計画  2. 京都に関する基礎知識(1)  3. 京都に関する基礎知識(2)  4. 講読(1): 京都のまち  5. 講読(2): 京都の文化  6. 講読(3): 京都の観光  7. フィールドワークの計画  8. 9. フィールドワーク (京都市内)  10. フィールドワークの結果・考察  11. 情報収集の方法  12. 研究発表の方法  13. 研究発表と討論(1)  14. 研究発表と討論(2)  15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50762B0A |
| 科目名   | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Human Communication Studies Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ヒューマン・コミュニケーション基礎演習 A では、地球環境問題や資源問題の現状について幅広く学んだが、本演習では、それらの問題への対策の面に焦点をあて、演習形式の学習を進める。本演習でも教科書や参考文献や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を養う。具体的には、教科書の中の 12 のテーマを受講者に割り当て、割り当てられた受講者はそのテーマについてレジュメを作成し、内容について報告する。他の受講者はその内容について質問を行い、全員で議論をすることで理解を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | レスター ブラウン著 福岡 克也・北濃 秋子訳『エコ・エコノミー』家の光協会（2002 年）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | レスター ブラウン著 『プラン B4.0 人類文明を救うために』ワールドウォッチジャパン（2010 年）   |       |           |
| 教材（その他）   | 教科書を補う資料等を適宜配布する。  |       |           |
| 評価方法  | レポート・宿題の提出（50%）、発表（50%）  |       |           |
| 到達目標  | 地球的規模での国際的な環境問題や資源問題への対策である、エコロジーと経済の統合としての「エコ・エコノミー」のアプローチについて理解すること。   |       |           |
| 準備学習  | 割り当てられたテーマについては教科書を読んでレジュメを作成し、発表の準備をすること。それ以外のテーマについても、教科書を読んで質問の準備をすること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して発表したり、質問したりすること。提出物の締め切りを厳守すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに - エコ・エコノミーとは  2. レスターブラウンとアースポリシー研究所  3. 「経済と地球」についてのコペルニクス的転回  4. ストレスの兆候：気候と水  5. ストレスの兆候：生物基盤  6. 人類の挑戦、エコ・エコノミー  7. ソーラー / 水素型エネルギー経済を構築する  8. 新しいマテリアル経済を設計する  9. 全人類の食料供給を確保する  10. 森林の生産機能とサービス機能を守る  11. 健康で暮らしやすい都市にする  12. 地球規模の家族計画で人口を安定化する  13. 経済改革を実行する政策手段  14. エコ・エコノミーへ、改革の最後のチャンス  15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50762B0B |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Human Communication Studies Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間が自分を磨くために、そして、人とお付き合いを大切にするために、お祭りがあるのではないのでしょうか。ヨーロッパの中で昔から伝わる四季折々のお祭り、たとえば国、街、町内のお祭り、そして、家族のお祝いごとを楽しく説明したいと思います。日本の中で暮らしていても、ヨーロッパのお祭りの過ごし方を少し取り上げるのが、おしゃれではないのでしょうか。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価（50%）する。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識を身につけ、現代社会に必要な文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 必ず出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. お見合いとお祭り 3~5. 結婚式とお祭り 6~7. おくりびととお祭り 8~9. 農民のお祭り 10~11. 雨乞いのお祭り 12~13. 初物とお祭り 14. 縁起とお祭り 15. 講義のまとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50762B0C |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション基礎<br>演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Human Communication Studies Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>・この演習では、国際観光都市《京都》をテーマに演習形式の学習を進めます。 ・岡崎の専門は社会学ですので、社会学的な思考や方法が重視されます。 ・京都の研究をとおして、本や資料を読んで調べる力、発表する力、議論する力を育成します。 ・京都でのフィールドワーク体験をとおして、頭と体の両方を使って考えることに挑戦します。 ・具体的な研究対象、フィールドワーク内容については、履修生と話し合っ決めていきます。 ・秋学期には「国際文化交流会」等で、研究内容を発表する機会を設ける予定です。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な資料は授業で配布します：京都に関連する著作、論文など   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）：出席状況、発表、通常課題等を含む 期末レポート（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 京都の文化、社会、産業、観光に関する基礎知識と、地域研究に必要な基本能力を習得すること   |       |           |
| 準備学習       | 京都に関する情報を事前に調べてくる課題が出される予定です。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・文化や都市について調べる力を身につけるために、「社会学調査演習」「質的社会調査法」を履修することが望ましい。 ・京都学研究プログラムの科目を並行履修することが望ましい：「京都学」「京都検定講座」「伝統文化実習」など ・京都の人や文化を体験するための学外フィールドワークを取り入れる予定です。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション：秋学期の計画  2. 京都の環境・地理  3. 京都の産業  4. 京都の文化  5. 京都の観光(1)  6. 京都の観光(2)  7. フィールドワークの計画  8. 9. フィールドワーク（京都市内）  10. フィールドワークの結果・考察  11. 京都と国際観光都市との比較(1)  12. 京都と国際観光都市との比較(2)  13. 研究発表と討論(1)  14. 研究発表と討論(2)  15. まとめ</p>                    |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | J50763A0A |     |       |        |
| 科目名                                     | 英語コミュニケーション基礎演習A   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)                               | English Communication Seminar A  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 「英語の文法は難しくて、苦手である」と思っている人いかに文法は簡単で、楽しいものかわかる授業を行なう。英語の基本文法を文法として理解するのではなく、実際に運用できる形で教える。「運用」という意味は、自分の思っていることが書けて、話せる事を意味する。授業内では、文法、構文を基本ベースにして、相手に伝えたい内容をしっかりと表現できる英語力を身につける。そのために、補助教材として会話主体で作られたテキストを用いて、スピーキングの能力を養う。  |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)                                | Antony J. Parker 「Let's Enjoy English at Home and Abroad!」(松柏社), プリント教材  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)                                |  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 期末レポート(50%) 授業内試験とレポート(50%)  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | やさしい英語が読めて、基本的な事柄なら書けて、口頭で伝えられる技能を身につける。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 世界に目を向けて、英語で情報を受け取り、発信できるように努力すること。具体的には、英語でニュースを見て、そのことに対して自分の意見がまずは日本語で言えるようにすること、そして、それをやさしい英語でなんとか意図が伝えられるように日々英語の能力が上達するように努力すること。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 宿題として課す英文のリーディングと英語で書く日記は毎週欠かさないで提出すること。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. 現在形の肯定文 Unit 1 Encountering an International Student   2. 現在形の疑問文、否定文<br>  3. 過去形 Unit 2 Talking about Judy's Hometown   4. 現在完了形<br>  5. 過去形と現在形 Unit 3 Beautiful Santa Monica Beach   6. 規則動詞と不規則動詞   7. 未来<br>をあらわす表現 Unit 4 Judy's Room in the Dormitory   8. 助動詞   9. 命令文<br>Unit 5 On the Way to Mai's Home   10. Be, Have, Do と 助動詞   11. さまざまな疑問文 Unit 6<br>What a Comfortable Home!   12. 間接話法   13. 不定詞と動名詞 Unit 7 Taking Summer Vacation in<br>America   14. go, get, do, make, have   15. 代名詞 A Luxurious Flight to Los Angeles |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50763A0B |
| 科目名        | 英語コミュニケーション基礎演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Communication Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises, extensive reading, and diary writing.   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Handouts and other materials will be distributed in class.  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | In-class conversation tests (70%) Written reports (20%) Final test (10%)  |       |           |
| 到達目標       | By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.   |       |           |
| 準備学習       | Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.  |       |           |
| 受講者への要望    | Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. Complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in English.   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Introduction to the course 2. Topic: Where are you from? 3. Topic: Do you like living here? 4. Pragmatics 1 - Silence and Conversation 5. Topic: What time do you usually get up? 6. Topic: How long does it take you to get here? 7. Topic: Pragmatics 2- Dynamic Conversations 8. Topic: What clubs are you in? 9. Topic: What's your favorite subject? 10. Topic: How long have you been playing the piano? 11. Topic: What do you think is a good way to study English? 12. Topic: Would you like to get married someday?  13. Topic: What is a good age to have children? 14. Topic: Do you think it's OK to live together before marriage? 15. Final conversation test |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50764B0A |     |       |        |
| 科目名  | 英語コミュニケーション基礎演習B   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)  | English Communication Seminar B  |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | 「英語の文法は難しくて、苦手だ」と思っている人に、文法はそれほど難しいものではなく、意外に簡単で、わかれば、それを使って英語の文章が書けて、ゆっくりなら話せるのだ、という自信が持てるような授業を行なう。英語の基本文法を文法としてだけ理解するのではなく、実際に運用できる形で教える。「運用」するという意味は、自分の思っていることが書けて、話せる事を意味する。授業内では、文法、構文を基本ベースにして、相手に伝えたい内容をしっかりと表現できる英語力を習得するトレーニングを行う。そのため、補助教材として会話主体で作られたテキストを用いて、スピーキングの能力を養う。 |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)   | Antony J. Parker 「Let's Enjoy English at Home and Abroad!」(松柏社), プリント教材  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)  |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 学期末レポート(50%) 授業内試験とレポート(50%)   |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | やさしい英語が読めて、基本的な事柄なら書いて、あるいは、口頭で伝えられる技能を身につける。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 世界に目を向けて、英語で情報を受け取り、発信できるように努力すること。具体的には、英語でニュースを見て、そのことに対して自分の意見がまずは日本語で言えるようにすること、そして、それをやさしい英語でなんとか意図が伝えられるように日々努力すること。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |           |     |       |        |
| 課題とするリーディングと日記は毎週欠かさないで提出すること。   |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 所有格 2. 冠詞 Unit 9 Los Angeles, Here I am! 3. 可算名詞、不可算名詞 4. the + 場所を表す名詞 Unit 10 To Judy's Home in Santa Monica 5. some, any 6. a lot, many, much Unit 11 At Judy's Home 7. 形容詞、副詞 8. 比較級 Unit 12 Los Angeles, What a Big City!  9. 最上級 10. 語順 Unit 13 Going to the Beach  11. 前置詞 12. 語群動詞 Unit 14 Visiting UCLA 13. 接続詞と節 14. 関係代名詞 Unit 15 So Long, America! 15. 関係副詞 |  |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |  |       |           |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50764B0B |
| 科目名   | 英語コミュニケーション基礎演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | English Communication Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | This course is intended to serve as a higher intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises, extensive reading, and diary writing. |       |           |
| 教材（テキスト）  | Handouts and other materials will be distributed in class.  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | In-class conversation tests (70%) Written reports (20%) Final test (10%)  |       |           |
| 到達目標  | By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.   |       |           |
| 準備学習  | Students will be required to complete reading, grammar and writing assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude. Complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in English.   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. Introduction to the course/review 2. Topic: Have you ever been abroad? 3. Topic: Are there any foods I should try in New York? 4. Topic: What have you been up to recently? 5. Topic: What kind of music do you like? 6. Topic: Do you have any plans for this weekend? 7. Topic: Do you have a part-time job? 8. Topic: What do you spend your money on? 9. Topic: What's the weather like where you're from? 10. Topic: What do you do for New Year's? 11. Topic: What's your hometown famous for? 12. Topic: Will you still be living here five years from now? 13. Topic: Would you rather live in Japan or overseas? 14. Topic: What would your dream job be? 15. Final conversation test |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50765A0A |
| 科目名   | 日本語学専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar : Japanese Language Study IA   |       |           |
| 担当者名  | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 中世語の文献を原典で読む。授業は、各自に担当範囲を示し、それについて調査・研究した結果を順次発表してもらう。一人につき二回の発表機会を設けたいと思っている。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | こちらで用意する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業内で逐次紹介する。ただし、参考文献そのものを探すことも重要な学習であるので、最低限にとどめる。                              |       |           |
| 教材 (その他)  | 図書館の指定図書。  |       |           |
| 評価方法  | 発表50点と期末レポート50点の総合評価。  |       |           |
| 到達目標  | 卒業論文作成への礎をしっかりと築くこと。   |       |           |
| 準備学習  | 2回生時の購読のレジュメを見直しておいて欲しい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| すでに活字化されているものに頼らず、原典に直接当たり、他資料を駆使しながら、独力で読み解く姿勢で臨んで欲しい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 授業の概要説明、対象資料の紹介  2 これまでの研究史概説  3 各自発表  4 発表  5 発表  6 発表  7 発表  8 発表  9 合評会  10 発表  11 発表  12 発表  13 発表  14 発表  15 合評会 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50766001 |
| 科目名  | 生活と文化の世界史  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of World Lifestyles and Cultures   |       |           |
| 担当者名   | 波多野 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人類が歴史の中で地理的、気候的条件に適応しつつ、この地球上でどのように多様な身体、生活、文化、社会を築きあげてきたかを概観し、国際社会への深い理解を養う。                                      |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 講義中にプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内小テスト（50%）、レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標   | （科目にかかわる内容）世界史を作り上げてきた衣食住および知識という文化要素の発生と伝播の具体例を学び、文化理解の基礎を養う。 （基礎学力にかかわる内容）日常生活から歴史を見直す。文献探索、レポート作成などの実務能力を身につける。 |       |           |
| 準備学習   | 新聞やテレビなどを通じて文化、社会問題への関心を養うこと   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講者が授業中に質問すること、授業中の担当者からの質問に答えることを奨励する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 講義概要説明 2 人類の発生と発展 3 農業文化の発生 4 農業革命と文明の形成(1) 5 農業革命と文明の形成(2) 6 産業革命(1) 7 産業革命(2) 8 文化交流 9 食文化(1) 10 食文化(2) 11 歴史を動かした衣料(1) 12 歴史を動かした衣料(2) 13 住居と都市 14 知識と情報 15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50767A0A |
| 科目名        | 日本語学専門演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar : Japanese Language Study II A   |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業論文作成のための基礎体力を養う。おおまかでもよいので、受講生は自らが卒業論文で扱うであろうテーマについての既存研究を調査し、その結果を何度かにわたって授業内で報告する。この作業を通じて、受講生は、論文の何たるかを知り、また自らの卒論テーマがどの程度研究されているものか、自分の入り込む余地は残されているのか、などを直截に知ることにより、卒論テーマの設定の難しさを体験する。秋学期の演習 B への礎とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特定のものはない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内で行われる「報告」によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文のテーマ設定の端緒を掴むこと。  |       |           |
| 準備学習       | 3 回生までの演習レジメに目を通しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | とにかく自分に厳しく、コツコツと地道に作業を進めること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 卒論テーマ設定に関するディスカッション  2. 資料検索方法の実際  3. 図書館の利用法  4. 卒論テーマの外枠  5. 調査報告  6. 調査報告  7. 調査報告  8. 中間まとめ  9. 調査報告  10. 調査報告  11. 調査報告  12. 調査報告  13. 調査報告  14. 調査報告  15. 大まかなまとめ                                   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50767B0A |
| 科目名  | 日本語学専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar : Japanese Language Study II B   |       |           |
| 担当者名   | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 卒論作成の具体的な作業を行う。春学期演習 II A の成果を踏まえ、大まかなテーマから徐々にテーマを絞って行き、少なくとも 10 月中期段階で明確なテーマを見つけ出すことを目標とする。その後、先行研究の調査を十分に行った上で、さらにテーマにふりいをかけて、実際に書き進める作業に入る。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特定のものはない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介はするが、最小限に留める。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 論文がすべて。  |       |           |
| 到達目標   | 学部レベルの卒論を書き上げることが最低限の目標だが、実際には「論文」として一般に通用するものを目指す。  |       |           |
| 準備学習   | 春学期の成果を夏休み中に忘れてしまわないように。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 焦らず、念入りに調査すること。卒論の完成ばかりを気にしないで執筆までの準備期間を大切にすること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 先行研究の研究 (1)   2. 先行研究の研究 (2)   3. 専攻研究の研究 (3)   4. 論文テーマの吟味 (1)   5. 論文テーマの吟味 (2)   6. 進捗状況の発表   7. 進捗状況の発表   8. 進捗状況の発表   9. 進捗状況の発表   10. 進捗状況の発表   11. 論文検討   12. 論文検討   13. 論文検討   14. 論文検討   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50768001 |
| 科目名   | 司法・矯正・福祉心理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Psychology for Justice, Remedy and Welfare   |       |           |
| 担当者名  | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 前半は非行や犯罪に関する心理学、後半では福祉に関する心理学の講義を行なう。司法は裁判を指すが、ここでは警察の捜査業務なども含み、矯正は少年院や刑務所などでの加害者教育を示している。また非行や犯罪には福祉や医療もかかわるようにシステムが整えられており、それらも含めた非行や犯罪にかかわる現場の業務と、そこに心理学がどのように貢献しているかについて述べる。福祉とは“しあわせ”のことだと考えてよいが、講義では児童福祉、とくに虐待を中心に述べ、虐待防止と人間のしあわせとの関連性について心理学的に解説する。なお、非行や犯罪にかかわる業務に携わるのは国家・地方公務員が主であり、福祉業務は公務員・民間にまたがる。各職場や職種の紹介も授業のなかで行ないたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 藤岡淳子「犯罪・非行の心理学」2007 有斐閣ブックス K、ブル他著／仲真紀子監訳「犯罪心理学～ビギナーズガイド：世界の捜査、裁判、矯正の現場から」2010  有斐閣 川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」2006 岩波新書 川畑 隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法～よりよい展開へのヒント」 2009 明石書店  |       |           |
| 教材（その他）   | プリント類を使用する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席や授業態度による平常点（50％）と、授業内まとめ作業の成果の提出（50％）  |       |           |
| 到達目標  | 非行や犯罪に関することに心理学がどのように貢献しているか、心理学をとおして人間の福祉をどうはかるかについて学ぶことで、人間や社会についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習  | 非行や犯罪、そして福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 01.はじめに～犯罪や非行の現状と課題、各機関の業務と法律 02.犯罪や非行の心理学①警察・検察における実践 03. 同<br>②自白や目撃証言等と裁判 04. 同 ③矯正教育や管理、治療 05. 同 ④少年事件<br> 06. 同 ⑤児童相談所の非行相談 07.障害との関係や被害者支援、その他の問題 08.前半のまとめ 09.各福祉分野の臨床心理学的問題 10.児童虐待① 11.児童虐待② 12.児童虐待③、高齢者、配偶者、障害者への虐待 13.児童福祉現場における心理臨床 14.福祉現場での労働 15.後半のまとめ ※講義の内容と順序は変更があり得る。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J50769001 |
| 科目名   | エコの知恵 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Wisdom of Ecology   |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>講義概要  伝統的な暮らしや文化には、自然や他者との調和を可能にする知恵がたくさんふくまれています。この科目は京町家キャンパスで行い、京都の中心の中京区で実際に暮らしと文化を見直す視点から木造建築の「京町家」を保存し、エコに取り組み地域の環境を守ろうとする実例を学びます。『京の町家 丁寧な暮らし』の著者・小島富佐江氏による連続「京町家の暮らし」シリーズや、京町家作事組（建築専門家集団）の方々の、地域の町づくりや祇園祭の山鉾巡行の中心となっている現代の町衆・吉田孝次郎氏、町家の暮らしを伝える秦めぐみ氏など、にぎやかな講師陣を迎えて、フィールドワーク体験を伴うリレー講義を展開します。全体のまとめ役は、江戸時代からの伝統に詳しい本学人間文化学部教授の山崎美紗子が担当します。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | その都度プリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点50% レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 見学や体験を通して、環境や暮らしの問題を自身のことと実感できるようになる  |       |           |
| 準備学習  | テレビや新聞で報道される環境や暮らしについての問題に関心を持ってほしい。とくに京都の地域的取り組みの報道に注目してほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的に質問するなど授業に自分から参加してください。 外部講師の場合もあります。個人のお宅を訪問することもあり、マナーに気をつけましょう。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>講義の順序とポイント 1,京都という都市～町のなりたち (山崎) 2. 体験 町家のしつらえ替え (小島・山崎) 3. 京町家のなりたち～京町家の特徴 (小島) 4. 代表的「京町家 無名舎」の見学とお話  特別講師講師 祇園祭山鉾連合会理事長・吉田孝次郎氏 (山崎) 5. 世界から見た京町家  釜座町町家 (ちょういえ) の見学とワールド・モニュメント・ファンド (小島) 6. 木造建築のすばらしさと工夫   特別講師 作事組副理事長・荒木正巨氏 (小島) 7. 町家の暮らし その1 「衣」 (小島) 糸一本も大切に……安物買いの銭失いにならないように 8. 町家の暮らし その2 「食」 (小島) 大切にいただく……もったいないことをしない 9. 町家の暮らし その3 「住」 (小島)  座の文化を大切に……柔軟な考え 暮らし方 10. 京町家の見学(フィールドワーク)  11. 江戸時代時代の「町家」売買の例 (山崎) 12. 町家の知恵を現代に活かすには (小島) 13. たたみの今昔 (山崎) 14. 木造の家とコンクリートの家 (山崎) 15. 京都の暮らしにみる正月のしきたり (小島・山崎)  (季節や講師の都合により、順番が変わることがあります。) </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50770001 |
| 科目名        | 表現力講座  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Training for Verbal Expressions  |       |           |
| 担当者名       | 山田 裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講座は、主として演劇的手法を用いた様々な表現方法を経験してもらう講座になります。 そのため、いわゆる講義形式ではなく、体験型の授業が多くなります。  「演劇」と聞いて皆さんは何を連想するでしょうか。 「大きな声でセリフを言う」? 「観客の前でパフォーマンスをする」?  間違いではありませんが、それが演劇の全てではありません。 演劇の面白さは、架空の状況に身を置き、その中で様々なシチュエーションや他人の人生、ドラマを体験できることにあります。また、グループで一つのシーンを創り上げるという共同作業は、皆さんのコミュニケーション能力の向上に大いに役立つでしょう。その中には、実は日常生活の中で活かせるものも沢山あるのです。  演劇の体験と言っても、「本格的な演技」する必要は全くありません（しても構いませんが）。ただ、演劇的体験を経る前と後で、皆さんの「人間力」がどの様に変化したのかを各自考察していただきたいと思います。  また本講座では演劇的ワークショップの実践他、映像資料等により舞台演劇の鑑賞、解説も行います。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて各講義でプリント等を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要であれば授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材、音楽CDを活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況による。 授業中の課題、プリント等により評価（50%）する。   |       |           |
| 到達目標       | 何かを「表現」するために必要な想像力、コミュニケーション能力を持てる様になる。  様々な「表現」があることを知り、「表現」するための答えは一つではないことを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 特に必要ないが、可能であれば何らかの分野の芸術鑑賞（演劇に限らない。たとえば美術、音楽など）をお勧めします。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動着でなくても構わないが、ある程度動きやすい服装で授業に臨んで下さい。  能動的且つ柔軟な気持ちで授業に臨んでくれることを期待します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. はじめに 表現とは? 2. 様々な舞台表現① 3. 表現するためのエクササイズ① 4. 詩の表現① 5. 詩の表現② 6. 表現するためのエクササイズ② 7. 自由課題 8. 様々な舞台表現② 9. 朗読～朗読劇① 10. 朗読～朗読劇② 11. 台本を読んでみる 12. 台本を演じてみる 13. 小作品創作① 14. 小作品創作② 15. 小作品発表まとめ</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50771001 |
| 科目名  | 実践キャリア英語   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical English for Business                               |       |           |
| 担当者名   | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | TOEIC の学習を通して、英語力アップを図る。                                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 妻鳥千鶴子著 「First time Tirainer for the TOEIC TEST」(センゲージ・ラーニング) |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内テスト(70%), 授業内レポート 30%                                     |       |           |
| 到達目標   | まずは、TOEIC などの得点力アップを図る。そして、その力が実践に役立つものとなるようにトレーニングを行う。      |       |           |
| 準備学習   | 日頃から、TOEIC 形式の問題に慣れておくことが大切です。                               |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数多くの問題にあるように、常々努力してください。°  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. Shopping 2. Dily Llife 3. Transportation 4. Jobs 5. Meals  7. Communication 8. Fun 9. Office Work 10. Meeting 11. Travell 12. Finance 13. Business 14. まとめ 15. 講評 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50772001 |
| 科目名        | サムライ文化論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Samurai culture   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は欧米でも注目を浴びてきました。しかし、歴史的な存在である「侍」と現代人が使用する「サムライ」には、それぞれの意味に共通性と独自性が認められます。 本講義では、平安時代の武士の登場とともにやがて身分となる「侍」、戦国をリードし新たな時代を担った「侍」、江戸時代の平和の中で自らの存在を問うた「侍」など、多義的なサムライを通史として把握します。そして、歴史学以外の教員も参加し、現代の文化に生きるサムライの意味をとらえていきます。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特になし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイントや映像、プリントなどを使用。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 歴史学など様々な分野の研究成果をふまえたうえで、現代をとらえる視点を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 少なからず日本史の知識が必要になるので、不明な点は講義での質問や自主学習で補ってほしい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「サムライ」をキーワードとする文化や事象に目を配り、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 インTRODクシヨン サムライ文化論とは(中西裕樹) 2 現代のサムライ文化(佐々木高弘) 3 民俗とサムライ文化論(堀田穰) 4 平安時代 武士の誕生(吉村亨) 5 鎌倉時代 武家と侍(中西裕樹) 6 室町時代 新たな「侍」の登場(中西裕樹) 7 京都学園大学とサムライ文化論のフィールド(中西裕樹) 8 戦国時代 地域社会のリーダーから大名へ(中西裕樹) 9 天下統一のサムライ文化 国際化と城郭(中西裕樹) 10 江戸時代 治世者としての士(中西裕樹) 11 江戸のサムライ文化 由緒と武具甲冑(中西裕樹) 12 庶民が求めたサムライ 土農工商の幕末(中西裕樹) 13 近代という時代とサムライ(中西裕樹) 14 今日のサムライブームとその背景(中西裕樹) 15 まとめ(中西裕樹) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J5077400A |
| 科目名        | ディベート演習 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Debate Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 荒木 利枝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ディベートとは、与えられた論題について肯定側と否定側とに分かれてそれぞれの主張を行い、その優劣を競い合うものである。ディベートには多くの種類があるが、本演習では、その中でも特に「競技ディベート」の方式に則してディベートを学んでいく。  はじめにディベートの基礎について、ディベートとは何か、またディベートを通してどのような技術が身に付くのか等を理解する。次に、立論、反対尋問、第一反駁、第二反駁の4つのステージで肯定・否定の主張を組み立てることを学ぶ。さらに、肯定・否定の主張（論点）を組み立てるために、それをサポートする客観的な事実や証拠資料を収集し整理する。町家一階のパソコンを利用しながら、幅広く情報を収集し、その中から論点をサポートするのに役立つものや、相手側の論点を崩すために役立つものを取捨選択する。集めた情報や資料から論点を客観的証拠に基づいて説得的に主張するための文書「立論シート」を作成する。また、相手側論点を予想し、その弱点を指摘する「反駁」の準備を行う。  最後には実際にディベートの試合を肯定と否定の立場でそれぞれ2試合行う。チームとしての準備段階でもそうであるが、試合ではメンバーどうしが協力し、話し合いながら作戦を立てることが必要で、こうしたことによってチームワークも培われる。また、客観的なものの見方、考え方など、社会人にとって必要な能力を身に付けることも目標である。さらに重要なことは、このディベート実践を通して、その根本に流れる西洋文化を理解することができることである。こうした理解は国際文化を学ぶ学生には特に重要である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキスト「ディベートすべし！」（経済学部版）を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 松本茂著『頭を鍛えるディベート入門 — 発想と表現の技法』講談社（1996年）   |       |           |
| 教材（その他）    | 教科書を補う資料等を適宜配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）、ディベート試合（50%） 平常点は、授業中の課題取り組みへの積極性、グループワークへの貢献、提出物などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標       | ディベートの実践を通じて、情報を収集し活用する能力、プレゼンテーション能力、説得力ある議論を展開するための技術を修得すること。また、ディベートを通して、その根本に流れる西洋文化（相対的なものの見方や考え方、論理的な思考方法など）を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書リーディング、プレゼンテーションのための文書作成など   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習の前に教科書・参考書の指定されたところを読んで準備し、演習に出席して内容を理解すること。提出物の締め切りを厳守すること。積極的な姿勢で参加してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに — ディベートとは   2. なぜディベートを学ぶのか   3. 論理的な話し方とは   4. ディベートの基礎 I（立論・反対尋問）   5. ディベートの基礎 II（第一反駁・第二反駁）   6. 情報収集 I   7. 情報収集 II   8. 情報収集 III   9. 立論の作成 I   10. 立論の作成 II   11. 反対尋問の作成   12. 反駁の準備   13. ディベート試合 I   14. ディベート試合 II   15. まとめ — 反省と整理   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50775A0A |
| 科目名  | ネイティブ英語専門演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Advanced Native English Seminar IA   |       |           |
| 担当者名   | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | In this seminar, students will do intensive practice in the English skills required to achieve a score of 500 in the TOEIC test. All students will be required to take the TOIEC test at the completion of the course. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English. |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Atsushi Mizumoto and Mark Stafford、Successful Keys to the TOEIC Test 1 (2nd Edition), Kirihara Shoten  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | Participation: 20%, Self-study quizzes:30%, Presentations 25%, Diary/reports: 25%  |       |           |
| 到達目標   | By the end of this course, students should aim to achieve a score of over 500 in the TOEIC test. They shall also have gained oral and written fluency to a level at which they can communicate in some depth in English.   |       |           |
| 準備学習   | Students are encouraged to expose themselves to as much high-level English (books, magazines, TV, films) as possible before and during this course. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. Students are to bring their textbook and dictionaries to each class. 2. Students should regularly complete writing and speaking assignments, as well as the weekly Self-study quizzes and a diary in English. 3. Students should set clear goals for the development of their English skills, and work steadily towards these goals.  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. Daily Life 「品詞の違い・広告を読む」 2. Places 「カード・通知を読む」 3. People 「代名詞・図表とメモをメモ」 4. Travel 「メッセージと手紙を読む」 5. Business 「動詞の形・通知、メモを読む」 6. Office 「手紙を読む」 7. Technology 「語彙関連・メモと概要を読む」 8. Personnel 「記事を読む(1)」 9. Management 「接続詞・通知を読む」 10. Purchasing 「レシートを読む」 11. Finances 「時制・レシピを読む」 12. Media 「記事を読む(2)」 13. Entertainment 「前置詞・Eメールを読む」 14. Health 「FAXを読む」 15. Restaurants 「熟語・申込用紙を読む」 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50775B0A |
| 科目名  | ネイティブ英語専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Advanced Native English Seminar IB   |       |           |
| 担当者名   | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | In this seminar, students will continue their intensive practice in English skills, this time aiming to achieve a score of at least 600 in the TOEIC test. All students will be required to take the TOIEC test at the completion of the course. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English. |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Atsushi Mizumoto and Mark Stafford、Successful Keys to the TOEIC Test 2 (2nd Edition), Kiriara Shoten   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | Participation: 20%, Self-study quizzes:30%, Presentations 25%, Diary/reports: 25%  |       |           |
| 到達目標   | By the end of this course, students should aim to achieve a score of 600 in the TOEIC test. They shall also have gained oral and written fluency to a level at which they can communicate in some depth in English.  |       |           |
| 準備学習   | Successful completion of ネイティブ英語専門演習 1A is a prerequisite for this course. Students are encouraged to expose themselves to as much high-level English (books, magazines, TV, films) as possible before and during this course. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development.  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. Students are to bring their textbook and dictionaries to each class. 2. Students should regularly complete writing and speaking assignments, as well as the weekly Self-study quizzes and a diary in English. 3. Students should set clear goals for the development of their English skills, and work steadily towards them. |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. Daily Life  2. Places  3. People  4. Travel  5. Business  6. Office  7. Technology  8. Personnel  9. Management  10. Purchasing  11. Finances  12. Media  13. Entertainment  14. Health  15. Restaurants  |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50777A0A |
| 科目名        | キャリアゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、3 回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  そのために、まず第一に、就職活動の全体のスケジュールを把握することが肝心である。次に、自分の特性を知るための「自己分析」を行い、続いて自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」について考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材  (2) 2012 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『2012 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社   『絶対内定 2012』 杉村太郎 ダイヤモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポートセンター配布資料   |       |           |
| 評価方法       | <p>単位認定の必要条件：   (1) 就職登録票の完成とキャリアサポへの提出  (2) E-Testing + 就職実践模試の申し込み  (3) 自己分析シートの完成と提出  (4) キャリサポ個人面談  (5) 自己PR 文 2 本の完成と提出  (6) E-Testing 3 分野の test をレベル 2 へ</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>文字通り、「自らのキャリア」について考える。  自分の「夢」と、現在の「自分」との距離を「どのような手段で」埋めるのかについて考えるため、様々な分析 法を指導する。  </p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。  (2) 自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事を整理しておく。  </p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>(1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を、時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返す。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回： スタートガイダンス、パーソナルシートの作成、  就職登録票の下書き、E-Testing とは何か、  インターンシップ申込 第 2 回： 就職登録票、E-Testing 申込み、京学なび確認 第 3 回： 自分探し：過去の自分を振り返る  第 4 回： 自分史：自分の歴史を整理する  第 5 回： 自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する  第 6 回： 自己分析シート下書き (1)  第 7 回： 自己分析シート下書き (2)  第 8 回： 自己分析シート清書 第 9 回： 自己分析シートの完成と提出 第 10 回： 自己PR のポイント整理 第 11 回： 自己PR 文 1 の作成 第 12 回： 自己PR 文 1 の完成 第 13 回： 自己PR 文 2 の作成 第 14 回： 自己PR 文 2 の完成 第 15 回： まとめ・総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50777B0A |
| 科目名        | キャリアゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Career Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義は、3回生諸君一人ひとりが就職活動にむけて取り組まなければならない長い行程を、キャリアサポートセンターとの連携で、一つ一つ時期を失わず、確実に進めることを目的とするものである。  秋学期は、春学期のキャリアゼミ A での準備、特に自己分析に基づいて、自らの職業観・人生観に基づく「企業・業界の選択」を行う。さらには、就職活動で必ず求められる「エントリーシート・履歴書」などの書き方を指導する中で、いかに他人と「意思の共有・コミュニケーション」ができているかを考える。  こうしたステップでの作業は、時期を失うことなく、同時に社会的要求水準をクリアすることが求められるため、必ずキャリア・サポートセンターの専門スタッフによる面接を単位認定要件として課す。また、キャリア・サポートセンター提供の就職対策講座の受講も義務付ける。 </p>                           |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) プリント教材  (2) 2012 就職ガイド   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『2012 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社   『絶対内定 2012』 杉村太郎 ダイアモンド社 等  |       |           |
| 教材 (その他)   | 京都学園大学キャリアサポート・センター配布資料  |       |           |
| 評価方法       | <p>単位認定の必要条件：  (1) 履歴書完成と提出  (2) キャリサポ個人面談  (3) エントリーシートの完成  (4) 面接対策講座 STEP1 (基礎) の受講  (5) E-Testing 3 分野の test をレベル 3 へ  (6) 内定獲得講座の受講</p>   |       |           |
| 到達目標       | <p>自らのキャリア形成プランに基づき、次の一歩としての就職活動に向けた具体的な準備を進める。履歴書・エントリーシートの作成、あるいは面接対策など実践的な取り組みを通じて、自分を表現する技術を磨き上げる。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 自分のこれからを見通して、いますべきことを確実にやる。  (2) 提出するシートは、いまの自分として「完成」と納得できる水準まで磨き上げる。  (3) 日常生活の中で、企業・業界関連情報に対して注意を払うと同時に、様々な社会時事問題に関する  理解を広め、両者の間での直接・間接の結び付きを考える。   </p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>(1) 就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じよ。  (2) 各時間ごとの課題を時期を失うことなく完了し、以後、熟考・推敲を繰り返して、自分を表現する技術を高めよ。  (3) スケジュール管理をしっかりとするため、手帳を持参すること。  </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回： キャリアゼミ B の概要説明、就職ナビの活用方法確認、WEB エントリー  第 2 回： 履歴書を書く (1)   第 3 回： 履歴書を書く (2)   第 4 回： 仕事内容研究・企業研究 (1)   第 5 回： 仕事内容研究・企業研究 (2)   第 6 回： 仕事内容研究・企業研究 (3)   第 7 回： 仕事内容研究・企業研究 (4)   第 8 回： エントリーシートを書く (1)   第 9 回： エントリーシートを書く (2)   第 10 回： エントリーシートを書く (3)   第 11 回： エントリーシートを書く (4)   第 12 回： WEB エントリー (1)   第 13 回： WEB エントリー (2)   第 14 回： 面接の要領、グループ面接・実践  第 15 回： 総括：就職活動の心得・2 月合同説明会にむけて</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            | ○   | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50778A0A |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar IA  |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習の目標は、研究テーマを決めて、先行研究のサーベイを行う事である。研究テーマを決めるのは大変な作業である。まずは、自分の興味のある分野について、多くの資料を収集しなければならない。それらの資料に目を通していく中で、研究テーマを絞っていかなければならない。また、テーマを絞った後は、先行研究のサーベイを進めていく。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 課題達成度 (100%)   |       |           |
| 到達目標       | (1) テーマを決めること。  (2) 先攻文献をサーベイすること。  (3) 論文の目的やその方法を設定すること。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の演習で与えられた課題を完成させること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回の演習で与えられた課題を必ず完成させて、次回の演習で報告すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回～第5回： テーマを決める。  第6回～第12回： 先行文献をサーベイする。  第13回～第15回： 論文の目的やその方法を設定する。   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50778A0B |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar IA   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本ではジャンヌ・ダルクやボレオンは有名ですが、あまり知られていない歴史上の人物、とくに英雄達に光りをあてて、彼（彼女）等の性格、行動、足跡を辿ります。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（出席状況）による（50%）。授業中に小テストを行う（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。過去の人物が現代社会に与えている影響を考えます。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 必ず出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.講義の説明 2.カロギスーフランスの聖徳太子？（1） 3.カロギスーフランスの聖徳太子？（2） 4.シャルマニユー勉強嫌いの王様（1） 5.シャルマニユー勉強嫌いの王様（2） 6.ジャンヌ・ダルク（1） 7.ジャンヌ・ダルク（2） 8.ジャンヌ・ダルク（3） 9.オランブ・ド・ゲージュ革命の中の女性 10.マリ・アントワネット（1） 11.マリ・アントワネット（2） 12.ボレオンの奥さん達（1） 13.ボレオンの奥さん達（2） 14.ドゴール將軍－現代の英雄 15.まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50778A0C |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar IA   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「文化」を社会的に考察する。 考察対象は、京都文化、音楽文化、ポピュラー文化、外国文化（欧米、アジア）などである。 具体的な題材は、受講生の関心にあわせて決定する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な資料は授業にて配布する。文化に関連する著作、論文を取り上げる予定である。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）：出席状況、発表、通常課題等を含む、期末レポート（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 文化社会学の研究に必要な基礎知識と基本能力を習得すること  |       |           |
| 準備学習       | 授業で指定された課題に取り組むこと。多様な文化を体験的に学ぶこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・調査研究に必要な能力を身につけるため、「社会学調査演習」「質的社会調査法」を同時に履修することが望ましい。 ・岡崎の担当する授業を履修することが望ましい：「現代社会論」「現代アートへの招待」（集中講義）「京都の音」など</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション：春学期の計画  2. 講読：文化研究の基礎(1)  3. 講読：文化研究の基礎(2)  4. 講読：文化研究の基礎(3)  5. 講読：文化研究の基礎(4)  6. 講読のまとめ  7. フィールドワークの計画  8. 9. フィールドワーク  10. フィールドワークの結果・考察 11. 研究の方法(1) 12. 研究の方法(2) 13. 研究発表と討論(1) 14. 研究発表と討論(2) 15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50778A0D |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar IA  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。                                 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材を利用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況等 50%、発表 50%) による。  |       |           |
| 到達目標       | 簡単な調査、文献講読を通じて、《コミュニケーションの社会学》に関する基本事項を理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習への積極的な参加を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. グループ・インタビュー準備 3. グループ・インタビューのテーマ解説 4. データの整理と考察 5. 発表会 6. その他の社会調査法概説 7. コミュニケーション社会学研究のための基礎文献概説 8. 文献講読のテクニックおよび使用メディアの概説 9. 文献講読(1) 10. 文献講読(2) 11. 文献講読(3) 12. 文献講読(4) 13. レポート執筆について 14. まとめ 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等 (予備日) |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50778B0A |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar IB   |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習の目標は、春学期の演習で決めたテーマについて、参考文献を探し、読んでまとめていくことである。演習前に与えられた課題（参考論文を読んでまとめる）を、演習の中で報告する。また、資料の収集も進めて、収集した資料を整理する。最後は、論文全体の構想を練っていく。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 課題達成度 (100%)  |       |           |
| 到達目標       | (1) 参考文献を探し、読んでまとめること。  (2) 資料の収集を行い、整理すること。  (3) 論文全体の構想を練ること。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の演習で与えられた課題を完成させること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回の演習で与えられた課題を必ず完成させて、次回の演習で報告すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回～第 5 回： 参考文献を探し、読んでまとめる。  第 6 回～第 12 回： 資料の収集を行い、整理する。  第 13 回～第 15 回： 論文全体の構想を練る。   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50778B0B |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar IB   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本ではジャンヌ・ダルクやボレオンは有名ですが、あまり知られていない歴史上の人物、とくに英雄達に光りをあてて、彼(彼女)等の性格、行動、足跡を辿ります。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(出席状況)による(50%)。授業中に小テストを行う(50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。過去の人物が現代社会に与えている影響を考えます。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 必ず出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.講義の説明 2.ジュリエット-パリの守り神(1) 3.ジュリエット-パリの守り神(2) 4.デュケクラン-百年戦争の英雄 5.フランス一世-イヴマンの王様(1) 6.フランス一世-イヴマンの王様(2) 7.アンリ四世-ゲルメの王様 8.ルイ十四世-太陽王(1) 9.ルイ十四世-太陽王(2) 10.ボレオンの母(1) 11.ボレオンの母(2) 12.マリ・キュリー 13.戦争中のパリを守ったパリジエンヌ達(1) 14.戦争中のパリを守ったパリジエンヌ達(2) 15.まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50778B0C |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar IB  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文化を社会的に考察する。 考察対象は、京都文化、音楽文化、ポピュラー文化、外国文化（欧米、アジア）などである。 具体的な題材は、受講生の関心にあわせて決定する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な資料は授業にて配布する。文化に関連する著作、論文を取り上げる予定である。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）：出席状況、発表、通常課題等を含む、期末レポート（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 文化社会学の研究に必要な基礎知識と基本能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習       | 授業で指定された課題に取り組むこと。多様な文化を体験的に学ぶこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・調査研究に必要な能力を身につけるため、「質的社会調査法」を同時に履修することが望ましい。 岡崎の担当する「アートギャラリー実習」「ポップ・ミュージック論」などの授業を履修することが望ましい。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション：秋学期の計画  2. 講読：文化社会学の基礎(1)  3. 講読：文化社会学の基礎(2)  4. 講読：文化社会学の基礎(3)  5. 講読：文化社会学の基礎(4)  6. 講読のまとめ  7. フィールドワークの計画  8. 9. フィールドワーク 10. フィールドワークの結果・考察 11. 社会学的研究の方法(1) 12. 社会学的研究の方法(2) 13. 研究発表と討論(1) 14. 研究発表と討論(2) 15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J50778B0D |
| 科目名  | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar IB  |       |           |
| 担当者名   | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。定期的に研究発表を行ない、レポートを提出する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材を利用する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（出席状況等）50%、レポート50%。   |       |           |
| 到達目標   | 自分の研究テーマ、研究の方法を明確にすること。  |       |           |
| 準備学習   | 講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマを探しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 演習への積極的な参加を求める。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. ガイダンス 2. 4回生による就職活動報告会 3. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(1) 4. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(2) 5. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(3) 6. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(4) 7. 夏休みレポートの発表とグループ・ディスカッション(5) 8. 文献講読(1) 9. 文献講読(2) 10. 文献講読(3) 11. 文献講読(4) 12. 文献講読(5) 13. 研究計画書執筆について 14. まとめ 15. キャリアサポートセンターのゼミ訪問等（予備日） |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50779A0A |
| 科目名        | 英語コミュニケーション専門演習 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced English Communication Seminar I A  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 基礎演習で、読解力が不足しているのが目立ったので、専門演習では比較的難易度の低い英文を早く読めるようなトレーニングを行う。その際に、発音矯正も行う。専門演習では、しっかりした文法の知識に裏付けられた「英文を書ける力、話せる力」を育成するのみならず、リーディングの基礎力を養成する。  語彙の習得にも力をいれ、毎回、前回の単語テストを行う。リーディングでは、しっかりと構文と文法事項を踏まえて内容が把握できる力をつける。また、スピーキングにおいては、話せるためにはパターン・プラクティクが不可欠であるので、文法項目に沿った会話文を作り、それを習得することによって、すこしずつ話せるパターンを増やしていく。ライティングの力をつけるために、英作文だけではなく、自分の気持ちが英語で表現できるような指導も行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 授業内テスト(50%)、授業内レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 英文がしっかりと理解でき、自分の思っていることが書けて、言えるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 予習はいらない。しっかりと復習をすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | まずは授業に休まず、しっかりと出席すること。そして、復習は必ずし、一步一步上達するように心がけること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 現在時制、現在進行形   2. 過去時制、過去進行形   3. 現在完了、現在完了進行形   4. 未来形   5. 過去完了形   6. 受動態   7. 助動詞   8. 疑問文   9. 否定文   10. 可算名詞 不可算名詞   11. 名詞の複数形   12. 比較級   13. 不定詞   14. 動名詞   15. 分詞  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50779B0A |
| 科目名        | 英語コミュニケーション専門演習 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced English Communication Seminar I B   |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 基礎演習で、読解力が不足しているのが目立ったので、専門演習では比較的に難易度の低い英文を早く読めるようなトレーニングを行う。その際に、発音矯正も行う。専門演習では、しっかりした文法の知識に裏付けられた「英文を書ける力、話せる力」を育成するのみならず、リーディングの基礎力を養成する。語彙の習得にも力をいれ、毎回、前回のテキストに出てきた単語のテストを行う。リーディングでは、しっかりと構文と文法事項を踏まえて内容が把握できる力をつける。また、スピーキングにおいては、話せるためにはパターン練習が不可欠であるので、文法項目に沿った会話文を作り、それを習得することによって、すこしずつ話せるパターンを増やしていく。ライティングの力をつけるために英作文だけではなく、自分の気持ちが英語で表現できるような指導も行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | 図書館にある英語教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内テスト(50%)、授業内レポート(50%)   |       |           |
| 到達目標       | 英語が速く読めて、自分の意見が書けるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の復習と、授業の課題の提出  |       |           |
| 受講者への要望    | まずは授業に休まずに、しっかりと出席すること。そして、必ず復習をするように心がけること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 目的語、補語 2. 文の構造 3. 文型 4. 単文、複文 5. 単文、複文 2 6. 補語 7. 接続詞 8. 修飾語  9. 修飾語 2 10. 前置詞  11. 関係代名詞 12. 関係副詞 13. 仮定法 14. 仮定法 2 15. 話法   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50780A01 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar II A   |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習の目標は、すでに論文の全体構成が完成しているので、その各章の議論を順番に進めていくことである。各章の議論がまとまり次第演習で報告し、そこでの質問やコメントを通して、さらに論文に加筆したり修正を加えたりして議論をステップアップさせていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 課題達成度（100%）   |       |           |
| 到達目標       | （1）各章ごとに議論を進め、演習で報告すること。 （2）報告の際になされた質問やコメントを通して、議論を深めていくこと。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の演習で与えられた課題を完成させること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回の演習で与えられた課題を必ず完成させて、次回の演習で報告すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回～5回：各章ごとに議論を進め、演習で報告する。  第6回～15回：報告の際になされた質問やコメントを通して、議論を深めていく。  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50780A02 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習ⅡA  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar II A  |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この演習では、卒業研究にむけた指導を行います。 春学期には、論理的な文章を書くためのトレーニングをし、卒業論文を書く方法について学びます。研究計画書を作成した後、各自で研究を深め、研究発表します。互いの研究発表をめぐって、ともに学ぶのがこのゼミの目標です。授業とは別にイベント、学会、講演会、文化行事、ボランティア活動などに参加し、知見や経験を深めることも重要です。多様な情報を交換し交感する「場」としてもゼミを活用してきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）：出席、発表、課題提出等を含む 学期末レポート（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 各自の卒業研究に必要な知識・情報を収集し、まとめること。   |       |           |
| 準備学習       | 各自の研究に必要な文献の読解、調査の実施。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席すること。やむをえず欠席する場合は、かならず自分で連絡すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 春学期の計画 2. 卒業研究の方法① 3. 卒業研究の方法② 4. 研究資料の収集① 5. 研究資料の収集② 6. 講読① 7. 講読② 8. 講読③ 9. 研究発表と討論① 10. 研究発表と討論② 11. 研究発表と討論③ 12. 論文執筆の指導① 13. 論文執筆の指導② 14. 論文執筆の指導③ 15. まとめ  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50780A03 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar II A   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 私の専門は、理論社会学・音楽社会学・精神分析です。また今年度のゼミの基本テーマは「現代社会と現代文化」としています。ただしゼミ生の卒論研究のテーマは社会学／人間学に関連するものであれば自由としています。各自が本当に重要で価値があると思う問題を学問的に追究してください。有意義な卒業研究となるようにサポートします。 春学期には、論理的な文章を書くためのトレーニングをし、卒業論文を書く方法について学びます。研究計画書を作成した後、各自で研究を深め、研究発表します。互いの研究発表をめぐって、ともに学ぶのがこのゼミの目標です。授業とは別にイベント、学会、講演会、文化行事、ボランティア活動などに参加し、知見や経験を深めることも重要です。多様な情報を交換し交感する「場」としてもゼミを活用してきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%) : 出席、発表、課題提出等を含む 学期末レポート (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 各自の卒業研究に必要な知識・情報を収集し、まとめること。  |       |           |
| 準備学習       | 各自の研究に必要な文献の読解、調査の実施。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席すること。やむをえず欠席する場合は、かならず自分で連絡すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 春学期の計画 2. 卒業研究の方法① 3. 卒業研究の方法② 4. 研究資料の収集① 5. 研究資料の収集② 6. 講読① 7. 講読② 8. 講読③ 9. 研究発表と討論① 10. 研究発表と討論② 11. 研究発表と討論③ 12. 論文執筆の指導① 13. 論文執筆の指導② 14. 論文執筆の指導③ 15. まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50780A04 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar II A  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミ生は、この主題にそったテーマを各自で選び、5人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。ヒューマン・コミュニケーション専門演習Iまで進めてきた研究をさらに発展させる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自の研究テーマに応じて指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況等 50%、発表 50%) による。  |       |           |
| 到達目標       | 卒業研究の方向性を決め、必要なデータを集めること。  |       |           |
| 準備学習       | 講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報を探しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. これまでの研究の報告とディスカッション(1) 3. これまでの研究の報告とディスカッション(2) 4. これまでの研究の報告とディスカッション(3) 5. これまでの研究の報告とディスカッション(4) 6. これまでの研究の報告とディスカッション(5) 7. アカデミック・ライティング解説 8. アカデミック・ライティング実習 9. 追加資料の報告とディスカッション(1) 10. 追加資料の報告とディスカッション(2) 11. 追加資料の報告とディスカッション(3) 12. 追加資料の報告とディスカッション(4) 13. 追加資料の報告とディスカッション(5) 14. 中間報告資料作成についてのガイダンス 15. まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50780B01 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Human Communication Seminar II B   |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習の目標は、これまで進めてきた議論をまとめて、論文を完成させることである。論文が完成した後は、パワーポイントを使用して、論文の発表準備を行う。最後の演習の日には、論文発表を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 課題達成度（100%）   |       |           |
| 到達目標       | （1） 論文を完成させること。 （2） 論文の発表準備を行うこと。 （3） 論文を発表すること。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の演習で与えられた課題を完成させること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回の演習で与えられた課題を必ず完成させて、次回の演習で報告すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回～第10回： 論文を完成させる。  第11回～第14回： 論文の発表準備を行う。  第15回： パワーポイントを使用して論文を発表する。                     |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50780B02 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar II B   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この演習では、各自の卒業研究の完成にむけて指導をしていきます。 各自が本当に重要で価値があると考え<br>る問題を学問的に追究してください。 秋学期には、卒論中間発表を行い、論文の執筆を進めます。 卒業研<br>究をゼミで中間発表し、ディスカッションを重ねます。 また個別の論文指導を重点的におこない、卒業論文<br>の完成をめざします。                             |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (100%) : 出席、発表、課題提出等を含む。  |       |           |
| 到達目標       | ゼミでの指導、討議をつうじて、質の高い卒業研究を完成させること。  |       |           |
| 準備学習       | 各自の研究に必要な文献の読解、調査の実施。 発表レジュメの準備、論文執筆など。   |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
|            | 卒業研究が大学での学びの集約となるよう、最善の努力をすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント |   |       |           |
|            | 1. 秋学期の計画、研究の進捗状況の確認 2. 卒業論文執筆の方法① 3. 卒業論文執筆の方法② 4. 調査研究の指導① 5. 調査<br>研究の指導② 6. 調査研究の指導③ 7. 卒業研究中間発表① 8. 卒業研究中間発表② 9. 論文執筆指導① 10.論文執筆指導<br>② 11.論文執筆指導③ 12.論文執筆指導④ 13.論文執筆指導⑤ 14.論文執筆指導⑥ 15.まとめとふりかえり |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50780B03 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar II B  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 私の専門は、理論社会学・音楽社会学・精神分析です。また今年度のゼミの基本テーマは「現代社会と現代文化」としてしています。ただしゼミ生の卒論研究のテーマは社会学／人間学に関連するものであれば自由としています。各自が本当に重要で価値があると思う問題を学問的に追究してください。有意義な卒業研究となるようにサポートします。 秋学期には、卒論中間発表を行い、論文の執筆に入ります。 個別の論文指導を重点的におこない、卒業論文の完成をめざします。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%) : 出席状況、発表、通常課題等を含む、期末レポート (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 充実した内容の卒業研究を完成させること。   |       |           |
| 準備学習       | 各自の課題に即した研究を進めること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究が大学での学びの集約となるよう、最善の努力をすること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 秋学期の計画、研究の進捗状況の確認 2. 卒業論文執筆の方法① 3. 卒業論文執筆の方法② 4. 調査研究の指導① 5. 調査研究の指導② 6. 調査研究の指導③ 7. 卒業研究中間発表① 8. 卒業研究中間発表② 9. 論文執筆指導① 10.論文執筆指導② 11.論文執筆指導③ 12.論文執筆指導④ 13.論文執筆指導⑤ 14.論文執筆指導⑥ 15.まとめとふりかえり                              |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50780B04 |
| 科目名        | ヒューマン・コミュニケーション専門<br>演習 II B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Human Communication Seminar II B  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。ゼミでは、この主題にそったテーマを各自で選び、5人程度のグループ・ディスカッションを通して、内容を吟味しあう。社会学専門演習 IIIA までで進めてきた研究をまとめる。                                 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各自の研究テーマに応じて指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (出席状況等 50%、発表 50%) による。  |       |           |
| 到達目標       | 卒業研究を完成させること。  |       |           |
| 準備学習       | 講義、各種メディア、日常生活を通して、常に自分の研究テーマに必要な情報を探しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究を念頭におき、演習に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 中間報告会(1) 3. 中間報告会(2) 4. 中間報告会(3) 5. 中間報告会(4) 6. 中間報告会(5) 7. 長文ライティングのコツ(1) 8. 長文ライティングのコツ(2) 9. 卒業研究の作成と相互添削(1) 10. 卒業研究の作成と相互添削(2) 11. 卒業研究の作成と相互添削(3) 12. 卒業研究の作成と相互添削(4) 13. 卒業研究の作成と相互添削(5) 14. 卒業研究の最終確認 15. まとめと卒業論文集作成についての解説 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50781A01 |
| 科目名        | 英語コミュニケーション専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced English Communication Seminar II A  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 4年間の英語学習の集大成として、「読めて、書けて、聞けて、話せる」総合力の充実を目指します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート(60%)、授業内レポート(40%)   |       |           |
| 到達目標       | 基本事項をマスターしたかどうかの確認と、最終的にそれを駆使できる能力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から英語に接する時間を増やすように心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自覚を持ち、しっかりとした目標を設定して授業に臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.2.3. 読解力の総仕上げ 4.5.6. ライティング力の総仕上げ  7.8.9. リスニング力の総仕上げ<br> 10.11.12 会話力の総仕上げ 13.14.15. 発表力の総仕上げ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J50781B01 |
| 科目名        | 英語コミュニケーション専門演習ⅡB  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced English Communication Seminar II B  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 4年間の集大成として、「読めて。書けて。聞けて。話せる」英語力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート(60%)， 授業内レポート(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 基本事項をマスターしたかどうかの確認と、最終的にそれを駆使できる能力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、英語に接する時間を持つように心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望    | いままで、学習してきたことが総合的にひとつの「力」として結集するように努力すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.2.3. 読解力の総仕上げ 4.5.6. ライティング力の総仕上げ  7.8.9. リスニング力の総仕上げ<br> 10.11.12 会話力の総仕上げ 13.14.15. 発表力の総仕上げ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J50782A01 |
| 科目名   | ネイティブ英語専門演習 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Native English Seminar II A   |       |           |
| 担当者名  | Stephen Richmond   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | In this seminar, students will learn the basics of academic writing, as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English. |       |           |
| 教材 (テキスト)   | All materials to be distributed in class.  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | In-class tests/exercises (50%) Reports (50%)   |       |           |
| 到達目標  | By the completion of this seminar, all students should have a basic working knowledge of the rules and conventions of academic English, as well as skills in writing, editing, and reading theses and papers in English.   |       |           |
| 準備学習  | All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class.  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course. |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 Introduction to the course 2-3 Academic Writing Style 4-5 Research, note-taking, referencing 6-7 Planning your essay 8-9 Writing your essay  10-11 Integrating evidence and your own ideas 12-13 Critical analysis 14-15 Editing and proofreading   |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J50782B01 |
| 科目名        | ネイティブ英語専門演習 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Native English Seminar II B  |       |           |
| 担当者名       | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | In this seminar, students will learn and practice more academic writing as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations and diary entries and reports, in order to build students' overall skills in communicative English. |       |           |
| 教材 (テキスト)  | All materials to be distributed in class  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | In-class tests/exercises (50%) Reports (50%)  |       |           |
| 到達目標       | By the completion of this seminar, students should have expanded their knowledge of the rules and conventions of academic writing in English, and developed further their skills in reading and writing academic English .  |       |           |
| 準備学習       | All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class. Students should also read widely on topics about which they wish to write.  |       |           |
| 受講者への要望    | Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course.   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 Introduction to the course/review of first semester 2-3 Academic Writing Style 4-5 Research, note-taking, referencing 6-7 Planning your essay 8-9 Writing your essay  10-11 Integrating evidence and your own ideas 12-13 Critical analysis 14-15 Editing and proofreading  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J50784001 |
| 科目名  | 実践ビジネス英会話   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名   | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | This course aims to give students an introduction to English used in various business situations. As English becomes ever more important as a tool of international business, it is important that students wishing to use English in their career gain an basic understanding of business communication. |       |           |
| 教材（テキスト）   | Gareth Knight & Mark O'Neill: Business Explorer 2, Cambridge University Press   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | In-class conversation tests (50%) Classwork and reports (30%) Progress tests (20%)  |       |           |
| 到達目標   | By the completion of this course, students will have a basic familiarity with the language and culture of international business. They will have acquired a decent working vocabulary with the aim of understanding and taking part in everyday business communication.                                   |       |           |
| 準備学習   | Students should familiarize themselves with the lessons by reading over the textbook material before class.   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| Students are encouraged to expose themselves to as much high-level English as possible before and during this course., and actively seek out opportunities to expand their knowledge of business English. Students are asked to make and commit to a study schedule, remembering that work done outside of class is essential to their English language development. |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. Greeting Visitors 2. Companies 3. Occupations  4. Products 5. Comparing services 6. Systems 7. Messages 8. Appointments 9. Meetings 10. Negotiating 11. Money 12. Marketing 13. Socializing 14. Presenting Information 15. Trends   |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60001001 |
| 科目名  | 自然保護思想   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Philosophy of nature conservation  |       |           |
| 担当者名   | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>自然保護思想は当初、自然の「開発か保存か」の2項対立的図式の、後者の立場での社会的運動のなかで形成された。しかし、やがて「環境保全」という考え方が登場し、社会も環境保全への具体的配慮や対策を展開し出す。この事態に影響されて、「自然を保護するとはどういうことか」の思想性はある種混迷し、後退したかにみえる。しかし、人間中心主義に環境的自然を操作・改変してきた人類史（農業革命、次に産業革命）が、転換期にあるのは確かである（「環境革命」という革命へ）。ここに、「人類の権利と義務」にかかわる新たな地平での「自然保護思想」が、準備されつつある。このような文脈を下地にし、自然-人間関係の具体的、歴史的に現れてきた「自然を大切に（ないしは破壊する）」事例・事柄を引き合いにだしながら、環境的自然の持続性と公平性、存在の豊かさを求める自然保護思想について、可能な限り多様に、多面的・多面的に講述する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 北尾邦伸著『森林社会デザイン学序説（第3版）』J-FIC 社 2,500 円 [「バイオ環境デザイン原論」と併用]  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 鬼頭秀一著『自然保護を問いなおす』ちくま新書、F・ナッシュ著『自然の権利』ちくま学芸文庫、アルド・レオポルド著『野生のうたが聞こえる』講談社学術文庫、田村正勝著『見える自然と見えない自然』行人社、田端英雄編著『里山の自然』保育社   |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点（20%） 授業中のミニレポート（20%） 期末課題レポート（60%）   |       |           |
| 到達目標   | 持続可能な社会にむけての配慮と熟慮、および行動を迫られている現代にあって、それらに方向性と深みを与えるところの、環境的自然の「保存」と「保全」をめぐる自然保護思想についての理解。  |       |           |
| 準備学習   | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 世の中、ものごとに広く関心を寄せ、常に知的好奇心に満ちた生活をしてください。本をじっくり読んでください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. はじめに - 「自然」・Nature という言葉、欧米人の自然観、日本人の自然観  2. 桜 - はる さくらが サク、花がサキ 実をムスブ  3. 「自然」を「保護」するということ - 『星の王子さま』のアプリヴォアゼをめぐる  4. 原生林の消失と劣化の現実、その(1) - シベリア・タイガとシベリア・タイガー  5. 同 上 その(2) - 熱帯雨林、北米オールド・グロスと北マダラフクロウ  6. 原生自然「保存」への対処 - 国連 MAB 計画、アメリカのエコシステム・マネジメント  7. 自然の「保存」と「保全」 - 森岡正博による四つの領域  8. 里山の自然とはどういう自然か、その(1) - 今森光彦が描く世界（ビデオ）  9. 同 上 その(2) - 解説-  10. 里山的自然の「保全」  11. 自然保護をめぐる法的秩序 - 畠山武道著『自然保護法講義』（北大図書刊行会）を参照して-  12. 環境倫理 - 自然の生存権・世代間倫理・地球全体主義 [加藤尚武著『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）]  13. ディープ・エコロジー - アルネ・ネスの「自己」実現  14. 生命地域主義（バイオリージョナリズム）の源流 - アルド・レオポルドの「土地倫理」  15. 自然はだれのものか - 公平・公正・レディティマシー（正当性・正統性）、コモンズ、公共性  （※担当者が適宜変更することがある） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60002001 |
| 科目名        | 生命倫理  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Ethics and Life Science   |       |           |
| 担当者名       | 塚田 敬義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオエシックス（生命倫理）の基本的事項を学習する。その視点として、バイオエシックスの問題を倫理的・法的・社会的問題（ELSI; ethical, legal and social issues）として捉える。さらに、最新のトピックを紹介しながら、現行の法律、諸制度およびバイオエシックス（生命倫理）に係る問題群が複雑かつ密接に関係していることを理解し、整理できるようにデジタル教材を効果的に使いながら進める。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「生命倫理と環境倫理」 八坂書房 出版 ISBN 4-89694-957-5  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価（70%）する。  |       |           |
| 到達目標       | 生命倫理の意味と概要を基本的に理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 バイオエシックス総論①： 歴史的背景（WWII以前）について講ずる。 第2回 バイオエシックス総論②： 歴史的背景（WWII以降）について講ずる。 第3回 バイオエシックス総論③： 倫理規範および倫理問題の考え方について講ずる。 第4回 自己決定と人間の尊厳： インフォームド・コンセントの法理について講ずる。 第5回 医療と法律： 行為規範として、医療と法律の問題について講ずる。 第6回 生殖補助医療： 生殖医療（ART、代理母、着床前診断等）について講ずる。 第7回 人工妊娠中絶： 中絶の歴史的背景、胎児の生命権および女性の権利から講ずる。 第8回 遺伝子およびゲノム： 遺伝子およびゲノム情報等の生命倫理問題について講ずる。 第9回 ライフサイエンス： ライフサイエンス全般に係る倫理的問題について講ずる。 第10回 人の死について①： 安楽死と尊厳死の概念の違いを説明し、人の死について講ずる。 第11回 人の死について②： 脳死の概念について講ずる。 第12回 移植医療： 移植に関する倫理的問題を講ずる。 第13回 再生医療： 再生医療とクローン技術の倫理問題を講ずる。 第14回 広義の生命倫理 第15回 講義のまとめ： 講義の総括をする。 （講義の進捗状況に応じ、順番や内容の一部変更がある。） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J60004001 |
| 科目名       | 人権の歴史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | History of Human Rights   |       |           |
| 担当者名      | 一宮 真佐子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見・差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を学ぶ。その後、何が差別となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題には人権・差別問題が含まれており、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について考えていく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので持参のこと（原則月曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、講義中に行うミニレポートやグループワークから判断する。   |       |           |
| 到達目標      | 人権概念の生成と変遷について理解した上で、現代におけるさまざまな人権問題について考え、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。  |       |           |
| 準備学習      | 人権・差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。   |       |           |

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。

講義の順序とポイント

① ガイダンス～人権・差別・偏見|② 近代の人権思想（1）17・18世紀の政治思想と「思想・言論の自由」|③ 近代の人権思想（2）宗教改革と自然権|④ 近代の人権思想（3）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ|⑤ 何が「差別表現」とされるのか（1）差別表現と規制|⑥ 何が「差別表現」とされるのか（2）ひとつの「ことば」をめぐって|⑦ メディアに見る差別（1）マンガのなかの「人種」 |⑧ メディアに見る差別（2）イギリスの階級社会|⑨ メディアに見る差別（3）日本のマイノリティ|⑩ 差別と環境問題（1）公害「以前」～労働環境における人権|⑪ 差別と環境問題（2）公害「以後」・アメリカの環境正義|⑫ 差別と環境問題（3）「迷惑施設」と生活環境問題|⑬ 差別と環境問題（4）都市のなかの差別|⑭ 差別と環境問題（5）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス|⑮ まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60006001 |
| 科目名        | 環境教育・富良野自然塾  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Education/ Furano Field  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（70%） レポート（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）  |       |           |
| 準備学習       | オランダの「森の幼稚園」や亀岡市の「地球環境子ども村」などにも関心をよせてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。 「富良野自然塾・倉本聰対談集 愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくとも参考になります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。 「富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリ一滴」）： 山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなこととして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリ一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。   事前学習（キャンパスプラザ京都）： 7月27日（金）5講時 18：20～（3時間）   現地実習（北海道・富良野自然塾）： 9月1日（土）～3日（月）（予定）   事後学習（キャンパスプラザ京都）： 9月7日（金）5講時 18：20～（3時間） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60007001 |
| 科目名        | 科学技術史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Science and Technology   |       |           |
| 担当者名       | 但馬 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在の科学技術の発展の鍵は制度化・巨大化・精密化という三語に要約されよう。この講義では、その発展の過程が必ずしも単線的・直線的になされてきたわけではないことを明らかにし、科学的知識のもつ本質的性質と呼べるものを浮き彫りにすることを目的としている。また、この性質の理解から科学者の在るべき姿について考察するという科学技術倫理の要素も講義には含まれる。実際に扱うトピックとしては、数学や物理学、情報工学、環境についての諸問題が含まれる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。プリント配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 野家 啓一（著）『パラダイムとは何か クーンの科学史革命』講談社学術文庫，2008年  |       |           |
| 教材（その他）    | 上記以外にも適切な参考書を複数紹介します。パワーポイントや映像資料も用います。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況・小テスト等による。定期試験(70%)。 有意義な意見の発表等がある場合等は加点します。 また授業参加者の状況を考慮して、ディベート課題を出す場合があります。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 各時代ごとの科学的技術的知識の形態を正しく把握すること。 2. 科学理論の変遷についての理論的把握を行うこと。 3. 現代科学に内在する問題点について批判的検討を加える視点をもつこと。   |       |           |
| 準備学習       | この講義は科学の「過去」に関する問題を扱いますが、それは単に過去の事項を暗記することではなく、やがては現代の社会と関連した科学技術の問題について考察を深めていくことを目的としています。したがって普段からさまざまなマスメディアで取り扱われる科学関係の話題に親しみ、科学技術の本質について思索を巡らすことは有益でしょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 自然科学だけでなく文理問わない幅広い知的好奇心をもって積極的に講義に臨んでください。 2. 私語や携帯電話の使用等には、減点や期末試験の受験を認めないなど厳しく対処します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス  2. 古代の科学：ギリシャにおける科学の曙  3. 中世の科学：精密科学としての天文学 4. アラビア科学の成立  5. 初期近代(1)：万能人と人文主義的科学 6. 初期近代(2)：近代解剖学の成立、印刷技術の発展 7. 前半内容の確認 8. 17世紀(1)：二つの科学革命論  9. 17世紀(2)：科学方法論の成立、ガリレオ、デカルト  10. 18世紀：ニュートンと啓蒙主義  11. 19世紀(1)：フランス革命後の社会と科学の制度化 12. 19世紀(2)：ダーウィニズムと自然誌 13. 20世紀の科学革命(1)：戦争と巨大科学、情報科学の発展 14. 20世紀の科学革命(2)：環境科学、STS論 15. 総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60008001 |
| 科目名   | 日本の農業   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Japanese Agriculture                          |       |           |
| 担当者名  | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本農業の過去と現在の姿を総合的に理解する。                        |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しないが、講義の中で順次紹介する。                         |       |           |
| 教材（参考文献）  | 祖田 修・杉村 和彦 編 「食と農を学ぶ人のために」 世界思想社              |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を配布する。                                      |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）講義期間中のレポート（20%）と講義終了後のレポート（50%）で評価する。 |       |           |
| 到達目標  | 将来の農業と食の姿について、おのずから考えられるようになること。              |       |           |
| 準備学習  | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 農業に関する書物を一冊でも読んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. はじめに 2. 日本の農業を取り巻く諸問題。(植物生産を中心として) 3. 日本の農業を取り巻く諸問題。(動物生産を中心として) 4. 日本人は農業をいつ始めたか。日本農業の発達史。 5. 日本農業の発達史。 6. 農業と食糧問題。(穀物の生産) 7. 農業と食糧問題。(野菜・果樹の生産) 8. 農業と食糧問題。(畜産物の生産) 9. 農業生産を取り巻く環境。(生産の役割を中心として) 10. 農業生産を取り巻く環境。(物質の流れを中心として) 11. 農業と科学技術、品種改良。 12. 農業と科学技術 - 特に畜産を中心として。 13. ヒトの健康と作物。 14. 日本農業の今後の展開。 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J60009001 |
| 科目名       | 食の安全安心  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Food Safety I   |       |           |
| 担当者名      | 瀧井 幸男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>食品は人間が食する直前までは、人間と同様に生きていた「生物」のからだの一部から作られていることを理解する。例えば、生きている牛は病原性微生物を排除できるが、と殺されて牛肉の形になれば、微生物にとって格好の栄養源となり、病原性微生物に感染することがおこりうる。野菜、魚貝類のような生鮮食品では、収穫後、時間を経過するにつれて汚染されやすくなる。放射能汚染は記憶に新しいところである。  病原性微生物に感染した食品を微生物とともに摂取したあと、微生物が人間の体内で増殖して、感染症に至る場合と、すでに病原性微生物に感染した食品の中で毒素（トキシン）がつくられている場合がある。後者ではトキシンが熱に安定な物質であることが多いので、食品を加熱調理しても、感染症を発症することがおこりうる。  食品を適切に保存し、健康な食生活を送るためには、微生物学、食品衛生学に対する正確な知識が必要である。食品としての安全性は、物理的手段（加熱）、化学的な方法（防腐剤・防カビ剤・保存料）および生物学的予防（食品内に無害の乳酸菌を共存させるなど）によって守られる。しかし食の「安心」は、人間の心理的なところによることが多いことを学ぼう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 瀧井幸男 改訂版『食の安全と健康＝生命の科学＝』 わかくさ印刷   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 定期試験の成績、期間中に実施する小テストおよび出席状況により評価する。定期試験・小テスト実施時には、教科書の持込みを認める。教科書の内容を超えて出題することはない。  |       |           |
| 到達目標      | 人間の生命を維持し健康を増進するために必要な食に関わる知識を修得する。とりわけ人間が食する食品の対象は、人間以外の生物（動物、植物、微生物）を素材とすること、ならびにそれらが食品素材となる直前まで生きていた生命体であることを認識する。   |       |           |
| 準備学習      | ミカンや食パンに生えるカビなどの微生物を観察し、なぜそれらが食品素材で仲間を増やすのかを考えてみよう。   |       |           |

|            |   |  |  |
|------------|---|--|--|
| 受講者への要望    | 複雑な化学式や構造式をできるだけ使わないで、わかりやすく解説する。授業の円滑な進行に障害をきたすような私語を控えること。教科書に即して講義する。放射能汚染と食品についてトピックを紹介する。  |  |  |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 食品の定義。   2. 食品として望ましい性質。   3. 食品として好ましくない性質。   4. 食品は微生物の栄養源になる。   5. 人間と微生物のよい関係・悪い関係。   6. 代表的な病原性微生物による感染。   7. 殺菌、滅菌、消毒の定義。   8. 安全な食品とは何か。   9. 遺伝子組換え食品、トリインフルエンザウイルスなど。   10. 安全と安心との違い。   11. 健康な食生活を送るための心得。   12. 人間と微生物の生命活動に共通する原則   13. 人間と微生物の生命活動における相違点   14. 人間の生命活動の原点：遺伝子の役割   15. 食の安全に関する法的な規制について</p> |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60010001 |
| 科目名   | シリーズ特別講義A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Special Lecture Series A   |       |           |
| 担当者名  | 辻村 茂男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | とくに定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況、受講態度等による平常点(70%) レポート(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。   |       |           |
| 準備学習  | 種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1) はじめに。この講義の意義とねらいを説明する。 2)~5) 農業、漁業、林業の現場で働いている人たちからメッセージ。 6)~8) 農協、漁協、林業組合で働いている人たちからのメッセージ。 9)~11) 工業、商業の現場で環境問題に取り組んでいる人たちからのメッセージ。 12)~14) 廃棄物問題、開発問題に関わっている専門家や市民運動関係者からのメッセージ。 15) まとめ  以上の諸課題に関して、学外の先達に1コマずつの講義をお願いする。なお、講師の方々との日程調整上、順序は未定である。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60011001 |
| 科目名   | シリーズ特別講義B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Special Lecture Series B  |       |           |
| 担当者名  | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本のバイオサイエンスとその応用技術は現在、明治以来の先人のたゆまぬ努力と研鑽の結果、世界でも最先端のレベルにある。そうした企業などの第一線で活躍されている研究者・技術者の方々を講師として招き、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの現状・将来について講義をしていただく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況など）10% 指定した課題に対するレポート90%  |       |           |
| 到達目標  | 産業界におけるバイオ技術の活用について理解を深める。 現役の企業人から直接話を聴くことで、自らのキャリア形成に関するイメージを描き、バイオ環境学部での勉学の動機付けや勉学意欲の向上につなげる。  |       |           |
| 準備学習  | バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーについて、メディア（新聞、TV、Webなど）を通じた最新の情報に意識的に接しておく。「バイオインダストリー論」などと併せて受講すると、バイオインダストリーについての理解がより深まる。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 関心のある分野について、最低でも新書などの関連文献を熟読し、レポートを書く際の参考にすること。 レポートの書き方についても、各自解説書等を読んで自学すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) 科学技術とバイオテクノロジー 2) バイオ基盤技術産業(1) 3) バイオ基盤技術産業(2) 4) 創薬産業(1) 5) 創薬産業(2) 6) 生化学産業(1) 7) 生化学産業(2) 8) 食品産業(1) 9) 食品産業(2) 10) 醸造産業(1) 11) 醸造産業(2) 12) 植物関連産業(1) 13) 植物関連産業(2) 14) バイオ基盤産業(1) 15) バイオ基盤産業(2) 講義の順序は開講時に決定するが、各講師の都合により変更する場合がある。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60012001 |
| 科目名        | 社会と環境問題  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Problems and Society   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 江戸時代が終わって明治期に入ると、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。さらに戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、新潟イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、このような健康被害に対して、すぐに補償がなされたわけではない。原因究明に時間を要し、被害者は悲惨な状況下に置かれた。2011年には、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされた。このように現実には多くの人が放射能という環境汚染問題に直面して、どう対処すべきなのかを考える上で、過去に起こった環境問題に対して、その当時の人々がどう考え、どう対処したのかを学ぶことから多くの重要な事柄を導き出すことができる。この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を説明し、現在の環境問題への対処を考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小田康徳編「公害・環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000円＋消費税   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験（80点）、適宜行う小テスト（20点）  |       |           |
| 到達目標       | 現在の環境問題を自分なりに考えられるようにする  |       |           |
| 準備学習       | 教科書の該当部分を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 「環境化学」を受講しておくことが望ましい。 わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。 現在の環境問題として、放射能に関連するニュースを把握しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 汚染による被害と損害賠償についての一般論  2. 福島第一原子力発電所の事故と環境汚染  3. 戦前：足尾鉍毒事件の概要  4. 戦前：別子銅山煙害事件  5. 今も続く鉍山排水による汚染とその対処  6. 戦前：大阪の工業化と大気汚染と煙害防止策  7. 戦後の経済復興と公害問題  8. 戦後：水俣病の発生  9. 戦後：水俣病のその後  10. 公害被害者への差別と住民間の対立  11. 戦後：イタイイタイ病  12. 戦後：四日市公害  13. 戦後：四日市の水質汚濁  14. 現代：原子力発電所の事故のその後の状況  15. まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60013001 |
| 科目名        | 環境問題と法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Problems and Laws   |       |           |
| 担当者名       | 大原 有理   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 環境問題が深刻化するにつれて、環境保全のために様々な法政策がとられている。それは身近な地方自治体の条例から、国の法律にいたるまでの国内法領域、更には国際的な地球環境問題を扱うような国際法領域にもまたがる。環境法に関する基礎教養を身につけながら、環境法が現代社会においてどのような役割を果たしているのかを考察する。                      |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めないが、講義中に適時提示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に紹介するものを中心に、各自適切なものを選ぶこと。  |       |           |
| 教材（その他）    | パワーポイントやビデオ教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート（60%）と講義中の小レポート(40%)による評価を原則とする。  |       |           |
| 到達目標       | 環境問題と法の基礎を学び、環境問題を解決するために望ましい法政策を考える力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 普段からメディアの報道や、書籍等を通じて環境に関する話題に関心を持つこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 環境問題を身近な問題として捉え、各講義で提出を求める小レポート等を通じて、各自の見解を積極的に示してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション 2. 環境法の基本理念と体系 3. 環境基本法 4. 環境法の発展史 5. 水質汚濁と法 6. 大気汚染と法 7. 循環型社会の法Ⅰ 8. 循環型社会の法Ⅱ 9. 自然保護の法 10. 環境アセスメントの法 11. 環境問題と裁判 12. 地球環境問題と国際法 13. 地球温暖化と法 14. 環境ガバナンスと法 15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60015001 |
| 科目名        | 経済活動と環境問題   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Problems and Economic Growth  |       |           |
| 担当者名       | 一宮 真佐子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 環境問題とは地球規模での環境破壊だけでなく、身近な生活環境に至るまで様々なレベルの問題を含んでいる。この講義では特に「農」「食」に関わる生産者と消費者双方の立場からの活動に着目して環境問題を考える。 講義前半では、農業・食料の生産環境そのものに着目し、食料の生産・流通・消費（フードシステム）について食料経済学や農業経済学の基礎を学ぶ。近年は自給率の低下により輸入品が大量に出回っており、グローバリゼーションの下での食料貿易とその問題についても取り上げる。 経済活動は環境問題の最大の原因ではあるが、逆に経済活動を通じて問題を解決していく取り組みも見られる。後半では具体例を取り上げながら、農業生産の変化や家庭での消費活動と環境問題との関係を考えていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて講義中に提示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので持参のこと（原則月曜日にアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%、講義中に行うミニレポート等による）と定期テスト（70%）から総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | この講義では、環境問題を経済面から読み解く際に必要な経済学の基礎と事例の提示が中心となる。講義中に事例に対する見解も示すが、それも含めて受講者が「批判的に思考する」ことが最終目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 食・農・環境問題についての新聞記事・テレビ番組等、メディアに関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 質疑は随時受け付けますので、私語厳禁。配付資料から定期テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①ガイダンス～フードシステムと食生活の変化 ②食品工業～海外進出・原料輸入と安全性確保の取組 ③食品流通・小売業（1）商品が消費者に届くまで ④食品流通・小売業（2）商品が消費者に届くまで ⑤世界の食料生産と消費～人口問題と需給バランス ⑥日本の食料生産～農業構造問題 ⑦食料の輸入と自給率 ⑧輸入自由化～食のグローバリゼーション ⑨食料安全保障～農業保護と農業の多面的機能・国際分業論 ⑩世界の食料貿易とフェアトレード～食の南北問題 ⑪農業生産と環境問題～農業の外部性 ⑫日本の有機農業運動～マンガ「夏子の酒」から ⑬有機農業の制度化と食の安全性 ⑭家庭と環境問題～主婦達の運動、ゴミ・エネルギー問題 ⑮家庭と環境問題～ライフスタイルと環境       |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60016001 |
| 科目名  | 生物の分類  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Taxonomy   |       |           |
| 担当者名   | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>私たちは、さまざまな生き物を種として認識することができる。また、生物種は、命名規約に従って、種名がつけられ類別されている。では、種とはいったい何を表しているのだろうか。個体と種の関係はどうなっているのだろうか。こうした生き物を種に分類することについて、さまざまな事例を通して学ぶ。また、種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。このような系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の系統関係についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 馬渡峻輔「動物分類学の論理」東京大学出版会 E.O.ワイリー他「系統分類学入門」 根井正利、S.クマー「分子進化と分子系統学」培風館 ジョン・C・エイビス「生物系等地理学」東京大学出版会  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法   | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する   |       |           |
| 到達目標   | 生物には種名がつけられているが、種といったときに、何が想定されているのかについて考えを深める。また、この地球にはどのような生き物が出て、どのような関係にあると考えられているのかについても概観し、地球にいる様々な生物を知る。  |       |           |
| 準備学習   | これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われていています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 類別と分類 2 種概念、基準標本システム、命名規約 3 種とはなにかを考える 1 種とはなんぞや? 4 種とはなにかを考える 2 交配可能性とは? 5 種とはなにかを考える 3 種分化 6 生物地理と分類 1 系譜 7 生物地理と分類 2 分布と種分化過程 8 分類体系 1 生物を分類体系にまとめる 9 分類体系 2 分子系統 10 分類体系 3 分岐分類法 11 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 1 12 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 2 13 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 3 14 生物の分類 地球にはどんな生き物がいたのか 1 絶滅の歴史 15 生物の分類 地球にはどんな生き物がいたのか 2 過去の多様性を学ぶ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60017001 |
| 科目名  | 生物の生態  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Ecology  |       |           |
| 担当者名   | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 全ての生物は進化の産物である。行動や生態を含めて、生物の様々な性質がどのような状況に対する適応として進化してきたのかについて扱う。                    |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 粕谷英一「行動生態学入門」東海大学出版会 トリヴァース「生物の社会進化」産業図書 ドーキンス「利己的な遺伝子」紀伊國屋書店                        |       |           |
| 教材（その他）  | 講義中に適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法   | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する   |       |           |
| 到達目標   | 生物の生態について、物質機械のメカニズム理解だけでなく、物質機械がどのような状況に対してどのような機能を進化させてきたのかという双方の視点から理解できるようになること。 |       |           |
| 準備学習   | 生物学、生物の分類、水圏生態学とあわせて受講することが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 生物の生態や進化について、多くの人が常識と思っていた考え方とは大きく異なる視点を提供します。生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、我々人を含めた生物の生態を楽しんでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ダーウィンの進化論、至近要因と究極要因 2 ライオンの生態を至近要因と究極要因から解き明かす 3 有性生殖と無性生殖 4 有性生殖の進化 5 性比について 6 進化的に安定な戦略（ESS） 7 動物の配偶システム 8 性淘汰 雄間の闘争と雌による配偶者選び 精子競争と配偶者選択 9 利他行動の進化 血縁淘汰、相互協力行動、操作 10 利他行動の進化 互惠的利他行動、囚人のジレンマとシッペ返し戦略 11 種間の協力・相利関係 アカシアとアリ 12 種間の協力・相利関係 栽培 13 遺伝子、個体、ミーム 14 人の生態 15 人間理解に向けて |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60018001 |
| 科目名        | 昆虫の科学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Entomology   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 昆虫の種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると80%にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や形態と機能といった生理学側面を中心に学び、同種並びに他種生物との相互作用といった生態学的理解への基礎を深める。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜推薦する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義に必要な教材は、適宜指示あるいは配布する   |       |           |
| 評価方法       | 期間中のレポート(小論文、3回)と期末試験(1回)に出席を加味して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 昆虫という生き物についての関心を深め、基本的知識を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 昆虫に関する予備知識の多寡は問いません。受講者自身の経験で不思議に感じたり、昆虫に関する本を読んでももっと知りたいと思った事柄を2つ～3つ書き留め、初回に持参してください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講を通じて昆虫をはじめとした生き物への関心を深めてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 昆虫とは  2. 昆虫の形態学  3. 昆虫の分類学  4. 昆虫の成長と変態、休眠  5. 昆虫の栄養と消化・吸収・排泄  6. 昆虫の呼吸と循環系  7. 昆虫の感覚と神経系  8. 昆虫の運動と行動  9. 昆虫の生殖と配偶行動  10. 昆虫の情報化学物質  11. 昆虫の移動と分散  12. 昆虫の捕食と寄生  13. 役に立つ昆虫  14. 昆虫個体群とその動態  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60019001 |
| 科目名   | 土壌の科学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to Soil Science  |       |           |
| 担当者名  | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 土壌は陸上の生物にとって必須の環境である。特に植物は土壌に依存して生存しており、農業について土壌抜きには語れない。また土壌に対する基礎的な認識を深めることは、バイオ環境を理解するうえでも欠かせない要素である。土壌とは何か、土壌の特性などについての理解を深め、土壌と植物、畑や水田の土壌、土壌と地球環境などについて考える。全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 「土壌サイエンス入門」三枝正彦・木村真人編、文永堂出版 「土壌学の基礎－生成・機能・比沃土・環境」松中照夫著、農文協 「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版  |       |           |
| 教材（その他）   | その他の参考書は最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20％）出席状況やワークシート等による。定期試験（80％）。  |       |           |
| 到達目標  | 陸上生物－特に植物－の生存の場としての土壌についての基礎的理解を深める。  |       |           |
| 準備学習  | 土壌について学ぶ機会はこれまでほとんどなかったと思うので、事前学習というよりは、毎回の講義の後に、参考書にとりあげた「土とは何だろう？」の該当する部分を読み、理解を確実にしたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 農業を営む上で土壌はきわめて重要な働きをしている。また農業を主要な産業とする地域の環境を考える場合に土壌は重要な要素のひとつである。本講義では主として農耕地土壌を対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と現代的課題を学んでほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 土壌とは   2. 土壌の成り立ち (1) 土壌の構成、土壌の生成   3. 土壌の成り立ち (2) 土壌粘土、土壌の老化   4. 植物にとって良い土壌の構造とは (1) 土壌の物理性   5. 植物にとって良い土壌の構造とは (2) 土壌の化学性   6. 植物にとって良い土壌の構造とは (3) 土壌の化学性   7. 植物にとって良い土壌の構造とは (4) 土壌にすむ生物   8. 土壌の動的平衡状態   9. 畑土壌の特徴 (1) 日本の幡土壌の分布、褐色森林土・褐色低地土   10. 畑土壌の特徴 (2) 黒ボク土   11. 水田土壌の特徴 (1) 土壌特性   12. 水田土壌の特徴 (2) 栄養分の動態   13. 土壌はそれぞれの顔を持つ：土壌の分類   14. 土壌と地球環境 (1) 温暖化ガスの発生   15. 土壌と地球環境 (2) 問題土壌 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60020001 |
| 科目名        | 微生物の世界   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The World of Microorganisms  |       |           |
| 担当者名       | 萩下 大郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。 本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から解説し、暮らしの中の微生物について理解させる。                                |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水昌、堀之内末治 編 文永堂出版  2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦ら 編 朝倉書店   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（出席状況などによる）（20%） ・期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標       | 1) 生物界における微生物の位置を理解する。  2) 生態系における微生物の存在形態を理解する。  3) 人間生活と微生物との関わりについて具体的に理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 緒論  2) 生物界における微生物の位置  3) 有用微生物：食品の製造  4) 有害微生物：病原微生物、腐敗  5) 文化と微生物  6) 健康と微生物  7) 家庭環境と微生物  8) 環境浄化と微生物  9) 共生と微生物  10) 生物の進化と微生物  11) 農林水畜産業と微生物  12) 鉱業と微生物  13) 石油と微生物  14) 食糧と微生物  15) エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合があります。） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60021001 |
| 科目名  | 生物の多様性   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Biodiversity   |       |           |
| 担当者名   | 鈴木 玲治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 今日、「生物多様性」は環境問題において頻繁に語られるキーワードとなり、その保全は環境保全に関わるあらゆる活動の錦の御旗のごとく扱われているが、「生物多様性」の概念を正確に理解している人は意外に少なく、その保全の意義に対する議論も十分とは言い難い。本科目では、種の多様性に加え、遺伝的多様性や生態系の多様性など、「生物多様性」という言葉に含まれる多面的側面の理解を目指す。また、多様性の喪失を生む諸要因や、生物多様性保全に関わる国際社会の動向を理解すると共に、その保全の意義について、様々な視点から議論を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「生物の種多様性」 裳華房 「生物の多様性って何だろう？」 京都大学学術出版会  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点と、期末試験により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 生物多様性の概念を理解し、その保全の意義について議論する力を磨く。また、生物多様性保全に関わる国際社会の動向への理解を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 「生物多様性」という言葉に含まれる意味を調べしておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス：生物多様性とは？ 2 曖昧な種の定義：オオカミとコヨーテの関係 3 生物多様性の概念Ⅰ：種の多様性 4 生物多様性の概念Ⅱ：遺伝的多様性 5 生物多様性の概念Ⅲ：生態系の多様性 6 自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ 7 生物間相互作用と生態系：多種共存を支えるしくみ 8 進化と生物多様性：植物と動物の共進化 9 多様性の指標となる種：キーストーン種とアンブレラ種 10 生物多様性の危機：絶滅する種・蔓延する種 11 生態系の復元：土壌シードバンクの機能 12 都市に生きる野生動物 13 地球温暖化と生物多様性 14 生物多様性と国際社会：生物資源をめぐる南北問題  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J60022001 |
| 科目名       | 生物学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Biology  |       |           |
| 担当者名      | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのあ<br>る視点を提供する。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第2版—分子・細胞・個体から知る“生命”<br>のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義中に適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法      | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する   |       |           |
| 到達目標      | 生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能<br>を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広<br>げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。 |       |           |
| 準備学習      | 生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽<br>しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。  |       |           |

#### 受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽  
しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を  
理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命  
現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

#### 講義の順序とポイント

1 イントロダクション ～身の回りの生物～ 生物の分類と図鑑の使い方|2 生物とは（1） ティンバーゲンの4つのなぜ 至  
近要因と究極要因|3 生物の進化 自然淘汰と性淘汰|4 生物とは（2） 個体の構造 分子～細胞～個体|5 食物とエネルギー  
源 動物生理学|6 神経、筋肉の制御 動物生理学、性決定機構 発生生物学|7 生物とは（3） 同種の個体 個体～個体群|8  
性の意味 行動生態学|9 他個体との相互作用 行動生態学|10 生物とは（4） 個体の暮らし 個体群～生態系|11 生物の数  
の話 増えたり、減ったり、食ったり、食われたり 生態学|12 生物の分布 生物地理学|13 生物が進化してきた道筋 生物は  
多様なのか、一様なのか？ 系統分類学|14 生物の死|15 人間理解 文化的進化と遺伝的進化

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60023001 |
| 科目名   | 化学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Chemistry  |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解させる。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつけてもらう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 教科書：サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版、800 円)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  | フレッシュマンセミナー化学 (京都学園大学バイオ環境学部編) の必要箇所のコピー ビデオ「ホフマンの化学の世界」など   |       |           |
| 評価方法  | 期末試験の成績(70%)、数回行う小テスト、出席状況、受講態度(30%)を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 本学部での専門科目履修に必要な基礎学力として、化学物質の構造および反応に関わる基礎を学び、物質の基本概念を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 特に、高校での化学の履修が不十分な学生はフレッシュマンセミナー化学(本学部で編集) を使って高校化学の履修内容を確実にして講義に臨んでもらう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義内容や配布資料についての理解を深めるために小テストやレポートを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義内容の復習も頑張る、化学の基礎知識を習得して下さい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 物質の基本概念と化学   2. 原子と分子、元素と化合物   3. 原子と電子の軌道   4. モルの概念、分子模型   5. 元素の周期律   6. 化学結合   7. 化学式・組成式・分子式・構造式   8. 化学反応と化学熱力学   9. 反応速度   10. 酸と塩基   11. 酸化と還元   12. 無機化合物の性質   13. 環境と化学 1   14. 有機化合物の性質   15. 環境と化学 2 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60023002 |
| 科目名   | 化学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Chemistry  |       |           |
| 担当者名  | 湊 和也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解させる。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題について化学的知識を元に考察できる習慣をつけてもらう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 教科書：サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版、800 円)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  | フレッシュマンセミナー化学 (京都学園大学バイオ環境学部編) の必要箇所のコピー ビデオ「ホフマンの化学の世界」など   |       |           |
| 評価方法  | 期末試験の成績(70%)、小テスト、出席状況、受講態度(30%)を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 本学部での専門科目履修に必要な基礎学力として、化学物質の構造および反応に関わる基礎を学び、物質の基本概念を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 特に、高校での化学の履修が不十分な学生はフレッシュマンセミナー化学(本学部で編集) を使って高校化学の履修内容を確実にして講義に臨んでもらう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義内容や配布資料についての理解を深めるために小テストやレポートを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義内容の復習も頑張る、化学の基礎知識を習得して下さい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 物質の基本概念と化学   2. 原子と分子、元素と化合物   3. 原子と電子の軌道   4. モルの概念、分子模型   5. 元素の周期律   6. 化学結合   7. 化学式・組成式・分子式・構造式   8. 化学反応と化学熱力学   9. 反応速度   10. 酸と塩基   11. 酸化と還元   12. 無機化合物の性質   13. 環境と化学 1   14. 有機化合物の性質   15. 環境と化学 2 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60023003 |
| 科目名  | 化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Chemistry   |       |           |
| 担当者名   | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | バイオ環境を理解するには物質の基本概念を身につける必要がある。地球上の物質は様々な元素から構成されていることを学び、さらに物質の性質を元素や原子の構造から理解できるようにする。        |       |           |
| 教材 (テキスト)  | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－』 東京化学同人 2850 円 (+ 税)                     |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 中川徹夫著 化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本 1500 円+税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著 『一般化学』(上)(下) 東京化学同人 各 2980 円+税 |       |           |
| 教材 (その他)   | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－ 問題と解答』 東京化学同人 1700 円 (+ 税)               |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト (80%) 小テスト (20%)  |       |           |
| 到達目標   | 物質の成り立ちを理解し、物質量の概念を習得する。物質変換を化学反応として認識する。   |       |           |
| 準備学習   | 教科書を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| これまでの化学の履修経験は問わないが、授業と並行して例題や教材 (その他) の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。 さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習し、理解を深めること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 化学とはどのような学問か 2. 測定の体系 3. 物質 4. 元素・原子・分子 5. 周期表 1 6. 周期表 2 7. 元素記号 8. 構造式 9. 化学結合 1 10. 化学結合 2 11. 化学反応式 12. 物質の量モル 13. 溶体の化学・濃度 14. 物質の三態 1 15. 物質の三態 2 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60024001 |
| 科目名        | 物理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Physics  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 物理学は自然科学のすべての分野の中で、精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の正確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる運動方程式、運動量、エネルギー、角運動量、解析力学などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | なし   |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 運動方程式（1）：位置・速度・加速度 2. 運動方程式（2）：力とポテンシャル 3. 運動方程式（3）：運動の法則 4. 運動量（1）：質点の運動量 5. 運動量（2）：質点系の運動量 6. 運動量（3）：運動量の保存 7. エネルギー（1）：力学的エネルギー・弾性エネルギー 8. エネルギー（2）：電流と磁界・電力とジュール熱 9. エネルギー（3）：エネルギーの保存 10. 角運動量（1）：質点の角運動量 11. 角運動量（2）：質点系の角運動量 12. 角運動量（3）：角運動量の保存 13. 解析力学（1）：最小作用の原理 14. 解析力学（2）：ラグランジュ方程式 15. 解析力学（3）：ハミルトンの正準方程式 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60025001 |
| 科目名        | 地球科学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Earth Science   |       |           |
| 担当者名       | 中村 琢磨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人類は地球表層の生物圏に依存して物質文明を発展させてきた。このため、人間社会は地球環境の在り方や様々な自然現象と無関係ではいられない。本講義では地球の成り立ちを理解したうえで個体としての地球に関する自然現象とその法則性や関連する環境問題について解説を行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 酒井 治孝 著 地球学入門 東海大学出版会 ISBN4-486-01615-7   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 内藤 玄一, 前田 直樹 著 地球科学入門 米田出版 ISBN978-4-486-01615-1  |       |           |
| 教材（その他）    | 無し  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験 100%   |       |           |
| 到達目標       | バイオ環境を学ぶ上で人類が生活する地球環境についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 授業はテキスト「地球学入門」の内容に沿って進めていくので、講義前に予習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 本科目は環境地球科学と合わせて受講することを推奨する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要, ねらいおよび注意事項のガイダンス  2. 宇宙と太陽系の構造  3. 惑星地球の特徴  4. 地球表層の環境  5. 地球表層と生物  6. 水と二酸化炭素の循環  7. 地球の構造と組成  8. 鉱物と岩石  9. 鉱物資源と化石燃料  10. プレートテクトニクス  11. 火山と噴火  12. 地震と断層  13. 日本列島の成り立ち  14. 岩石の風化と土壌の形成  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60026001 |
| 科目名        | 数学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Mathematics   |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>数学はあらゆる科学の基礎となる学問である。また数学を学ぶためには、基礎からの積み重ね以外に方法はない。現在では高校数学と本来大学で学ぶべき数学とのギャップは相当広いと言われている。本講ではこのギャップを埋めることに重点を置き、数の概念にはじまる基礎的事項からはじめ、微分方程式まで、内容は易しく、論理的かつ原理的視点を重視して講義する。また数学が物理、化学、生物学等の自然科学諸分野の発展に如何に寄与してきたか、現在の実生活と如何に関連しているか等についても講述する。 尚、講義予定は学生諸君の自学自習の程度によって変更もあり得る。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 松本孝芳著 「みんなの数学ホップ・ステップ・ジャンプ」 （海青社）   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 評価方法の目安： 基本的には定期試験の成績（80%）及びレポート、出席状況等（20%）とする。   |       |           |
| 到達目標       | 数学に関する基礎学力を身につけ、種々の学業分野における応用力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書の予習・復習を確実にしておくこと。自ら教科書の問題の解答を試みること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者への要望 自学自習に時間を割くこと。また受講者には、授業中の問題解答を課す事もある。 何事もそうであるが、学業もまた自ら学ぶ意思を持ち、其れを実践・努力しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 自然数から無理式の計算について学ぶ。  2. 一次関数、二次関数、不等式について学ぶ。  3,4.三角関数とその公式について学ぶ。  5. 指数法則と指数関数について学ぶ。  6. 対数の特性、常用対数、自然対数とその関数について学ぶ。  7. 関数の極限について学ぶ。  8-10. 微分の基礎的意味、いろいろな関数の微分及びその応用について学ぶ。  11,12. 積分の基礎的意味、いろいろな関数の積分及びその応用について学ぶ。  13. 順列、組合せについて学ぶ。  14. 統計処理、データ解析の基礎について学ぶ  15. 簡単な微分方程式の解法及び科学的現象の解析への微分方程式の応用について学ぶ。 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60026002 |
| 科目名   | 数学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Mathematics   |       |           |
| 担当者名  | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で代数学の基礎となる数、方程式、関数、グラフ、ベクトルなどについて具体例をもとに考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法  | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標  | 数学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習  | 日常から外界の自然現象について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 物理学を履修することが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 数（1） 2. 数（2） 3. 数（3） 4. 方程式（1） 5. 方程式（2） 6. 方程式（3） 7. 関数（1） 8. 関数（2） 9. 関数（3） 10. グラフ（1） 11. グラフ（2） 12. グラフ（3） 13. ベクトル（1） 14. ベクトル（2） 15. ベクトル（3） |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60027001 |
| 科目名        | 生物学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Field Biology   |       |           |
| 担当者名       | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。  後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜配布する   |       |           |
| 評価方法       | レポートによる  |       |           |
| 到達目標       | 科学的な手順で「同じ」と「違う」を科学的に考えるかについての基本を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | これまでに生物学を学んだかどうかは問わない。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 魚類の分類と同定 検索図鑑の使い方（同定） 2 魚類の分類と同定 標本の記載（計測） 3 魚類の分類と同定 標本の記載（スケッチ） 4 土壌動物の採集と固定 5 土壌動物の同定と比較 統計を使ったデータ処理 6 野外での生物調査（1） 7 野外での生物調査（2） 統計を使ったデータ処理  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60027002 |
| 科目名        | 生物学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Field Biology   |       |           |
| 担当者名       | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。  後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜配布する   |       |           |
| 評価方法       | レポートによる  |       |           |
| 到達目標       | 科学的な手順で「同じ」と「違う」を科学的に考えるかについての基本を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | これまでに生物学を学んだかどうかは問わない。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 魚類の分類と同定 検索図鑑の使い方（同定） 2 魚類の分類と同定 標本の記載（計測） 3 魚類の分類と同定 標本の記載（スケッチ） 4 土壌動物の採集と固定 5 土壌動物の同定と比較 統計を使ったデータ処理 6 野外での生物調査（1） 7 野外での生物調査（2） 統計を使ったデータ処理  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60028001 |
| 科目名  | 化学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Chemistry  |       |           |
| 担当者名   | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 化学実験を行うにあたって、最も重要である化学物質を取扱うための基礎知識と技術および化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用方法、実験結果のまとめ方を習得する。更に、実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 配布資料（化学実験指示書）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）  |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ「安全な化学実験のために」   各種データ処理に使用する関数電卓（1500円程度）  |       |           |
| 評価方法   | 実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 化学関連の実験に共通の実験操作を経験させるとともに、化学の研究を進めるうえで要求される観察力、思考力、想像力を養う。  |       |           |
| 準備学習   | 配布資料の実験指示書を予め読み、実施内容の概要を把握しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 専門課程の実験や卒業研究の際の基本になる実験態度、化学物質の取扱方法、器具や機器の使用法を習得する良い機会なので、受講者は毎講時出席した上で実験に慣れて欲しい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 実験器具の説明、安全講習   2. ガラス細工   3. 秤量操作と滴定操作の習得   4. 各種試薬・溶液の調製   5. 弱酸の電離平衡と電離定数   6. 緩衝液（バッファ）の pH   7. 反応速度と濃度・温度の関係   8. クスノキからカンファーの抽出 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60028002 |
| 科目名  | 化学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)   | Experimental Course in Chemistry  |       |           |
| 担当者名   | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解すると共に、実験の基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリントを配布   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 飯田隆ら 編 『イラストで見る化学実験の基礎知識』 丸善 3000 円+税  A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学-基本の考え方を中心に-』 東京化学同人 2850 円 (+税) |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法   | レポート (80%)、小テスト (20%)   |       |           |
| 到達目標   | 基本的な実験操作を習得する。定性実験を理解する。化学実験のレポートの書き方を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 必ず実験手順の予習をすること。また、実験と関連する理論をしっかりと理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 実験用のノート (ルーズリーフは不可) を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス、化学実験基礎操作 1 (ガラス器具の扱い方)  2. 化学実験基礎操作 2 (はかり、パーナーの使い方)  3. 化学実験基礎操作 3 (ピペット類の扱い方)  4. クロマトグラフィーによる混合物の分離 5. 溶解度の測定 6. 無機定性実験 1 (金属イオンの分離と確認)  7. 無機定性実験 2 (未知イオンの同定)  8. まとめ、小テスト |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60029001 |
| 科目名        | 物理学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Physics   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり、これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて、長さ、質量、時間などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め、さらに、得られたデータの信頼性については、コンピュータを活用した処理をとおして考察する。                        |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | なし   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）   |       |           |
| 到達目標       | 物理学の基本原理解にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について意識的に観察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学・演習，環境情報数学・演習，物理学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 物理学実験概論：測定の原理，誤差の伝播，データの処理方法 2. 基本単位量の測定：長さ，質量，時間 3. 力学量の測定（1）：重力加速度と位置エネルギー 4. 力学量の測定（2）：ばね定数と弾性エネルギー 5. 力学量の測定（3）：運動量と角運動量 6. 波動の測定（1）：弦の振動数 7. 波動の測定（2）：音波の速度と振動数 8. 波動の測定（3）：光の反射・屈折と干渉 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60030001 |
| 科目名   | 地球科学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Earth Science                      |       |           |
| 担当者名  | 中村 琢磨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本実験は、簡単な実験や観察を通して宇宙や地球についての理解を深めるとともに、気象現象のメカニズムについて概説する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 酒井 治孝 著 地球学入門 東海大学出版会 ISBN4-486-01615-7                   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 内藤 玄一, 前田 直樹 著 地球科学入門 米田出版 ISBN978-4-486-01615-1          |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリント配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 毎回のレポート 70%, まとめ発表 30%                                    |       |           |
| 到達目標  | 地球科学の様々な現象に関する実験や観測を通して体感的に理解することを目標としている。                |       |           |
| 準備学習  | 地球科学実験は内容的に地球科学との関連性が大きいので、地球科学のテキストも熟読しておくこと。            |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 探究心をもって受講することを望む。また、環境地球科学実験と合わせて受講することを推奨する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. 真北の測定 3. 重力加速度の測定 4. 断層や地形形成のしくみ 5. 天体望遠鏡の使い方と黒点・天体観測 6. 気象データの解説と天気図の作成 7. 気象レポートのデータ集めと考察 8. まとめと評価試験 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003100A |
| 科目名        | 情報処理実習 I   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Information Processing I   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコン I    |
| 講義概要       | 現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウェアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『情報リテラシー』 FOM 出版 2,000 円   (著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『Excel で学ぶ基礎物理学 - Excel 2010/2007 対応版 - 』   新田 英雄 監修、山本 将史 著 (オーム社) 2,800 円  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標       | (a) コンピュータのハードウェアについての基本的な知識の修得   (b) プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解   (c) 文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得   (d) コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウェア活用技術の修得   (e) プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得  |       |           |
| 準備学習       | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、物理学を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 情報基礎 (1): 情報処理実習概論 - コンピュータの基礎   2. 情報基礎 (2): ハードウェアとソフトウェア   3. 情報基礎 (3): OS とアプリケーション   4. 情報通信 (1): ネットワークの基礎   5. 情報通信 (2): WEB ブラウザを用いたインターネットの利用   6. 情報通信 (3): メールとファイルの転送   7. 文書処理 (1): 文書作成ソフトの基礎   8. 文書処理 (2): 文書作成ソフトによる文書の構造化   9. 文書処理 (3): 文書の体裁とオブジェクトの貼り付け   10. データ処理基礎 (1): 表計算ソフトウェアの基礎   11. データ処理基礎 (2): 表計算ソフトウェアとデータ処理   12. データ処理基礎 (3): 表計算ソフトウェアでのグラフの作成   13. 情報表現基礎 (1): プレゼンテーションソフトウェアの基礎   14. 情報表現基礎 (2): プレゼンテーションの組み立て方と表現   15. 情報表現基礎 (3): プレゼンテーションの作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003100B |
| 科目名        | 情報処理実習 I   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Information Processing I   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコン I    |
| 講義概要       | 現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウェアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『情報リテラシー』 FOM 出版 2,000 円   (著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『Excel で学ぶ基礎物理学 - Excel 2010/2007 対応版 - 』   新田 英雄 監修、山本 将史 著 (オーム社) 2,800 円  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標       | (a) コンピュータのハードウェアについての基本的な知識の修得   (b) プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解   (c) 文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得   (d) コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウェア活用技術の修得   (e) プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得  |       |           |
| 準備学習       | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、物理学を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 情報基礎 (1): 情報処理実習概論 - コンピュータの基礎   2. 情報基礎 (2): ハードウェアとソフトウェア   3. 情報基礎 (3): OS とアプリケーション   4. 情報通信 (1): ネットワークの基礎   5. 情報通信 (2): WEB ブラウザを用いたインターネットの利用   6. 情報通信 (3): メールとファイルの転送   7. 文書処理 (1): 文書作成ソフトの基礎   8. 文書処理 (2): 文書作成ソフトによる文書の構造化   9. 文書処理 (3): 文書の体裁とオブジェクトの貼り付け   10. データ処理基礎 (1): 表計算ソフトウェアの基礎   11. データ処理基礎 (2): 表計算ソフトウェアとデータ処理   12. データ処理基礎 (3): 表計算ソフトウェアでのグラフの作成   13. 情報表現基礎 (1): プレゼンテーションソフトウェアの基礎   14. 情報表現基礎 (2): プレゼンテーションの組み立て方と表現   15. 情報表現基礎 (3): プレゼンテーションの作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003100C |
| 科目名        | 情報処理実習 I  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Information Processing I  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 | パソコン I    |
| 講義概要       | 現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウェアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 富士通エフ・オー・エム出版 『情報リテラシー』 F O M出版 2000 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 新田 英雄 監修 山本 将史 著 『Excel で学ぶ基礎物理学 Excel 2 0 1 0 / 2 0 0 7 対応版』 オーム社 2 8 0 0 円  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | レポート (1 0 0 %)  |       |           |
| 到達目標       | (a) コンピュータのハードウェアについての基本的な知識の修得  (b) プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解  (c) 文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得  (d) コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウェア活用技術の修得  (e) プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得   |       |           |
| 準備学習       | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、物理学を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 情報基礎 (1): 情報処理実習概論 - コンピュータの基礎  2. 情報基礎 (2): ハードウェアとソフトウェア  3. 情報基礎 (3): OS とアプリケーション  4. 情報通信 (1): ネットワークの基礎  5. 情報通信 (2): WE B ブラウザを用いたインターネットの利用  6. 情報通信 (3): メールとファイルの転送  7. 文書処理 (1): 文書作成ソフトの基礎  8. 文書処理 (2): 文書作成ソフトによる文書の構造化  9. 文書処理 (3): 文書の体裁とオブジェクトの貼り付け  10. データ処理基礎 (1): 表計算ソフトウェアの基礎  11. データ処理基礎 (2): 表計算ソフトウェアとデータ処理  12. データ処理基礎 (3): 表計算ソフトウェアでのグラフの作成  13. 情報表現基礎 (1): プレゼンテーションソフトウェアの基礎  14. 情報表現基礎 (2): プレゼンテーションの組み立て方と表現  15. 情報表現基礎 (3): プレゼンテーションの作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003100D |
| 科目名        | 情報処理実習 I  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Information Processing I  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 | パソコン I    |
| 講義概要       | 現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウェアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 富士通エフ・オー・エム出版 『情報リテラシー』 F O M出版 2000 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 新田 英雄 監修 山本 将史 著 『Excel で学ぶ基礎物理学 Excel 2 0 1 0 / 2 0 0 7 対応版』 オーム社 2 8 0 0 円  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | レポート (1 0 0 %)  |       |           |
| 到達目標       | (a) コンピュータのハードウェアについての基本的な知識の修得  (b) プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解  (c) 文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得  (d) コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウェア活用技術の修得  (e) プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得   |       |           |
| 準備学習       | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、物理学を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 情報基礎 (1): 情報処理実習概論 - コンピュータの基礎  2. 情報基礎 (2): ハードウェアとソフトウェア  3. 情報基礎 (3): O S とアプリケーション  4. 情報通信 (1): ネットワークの基礎  5. 情報通信 (2): W E B ブラウザを用いたインターネットの利用  6. 情報通信 (3): メールとファイルの転送  7. 文書処理 (1): 文書作成ソフトの基礎  8. 文書処理 (2): 文書作成ソフトによる文書の構造化  9. 文書処理 (3): 文書の体裁とオブジェクトの貼り付け  10. データ処理基礎 (1): 表計算ソフトウェアの基礎  11. データ処理基礎 (2): 表計算ソフトウェアとデータ処理  12. データ処理基礎 (3): 表計算ソフトウェアでのグラフの作成  13. 情報表現基礎 (1): プレゼンテーションソフトウェアの基礎  14. 情報表現基礎 (2): プレゼンテーションの組み立て方と表現  15. 情報表現基礎 (3): プレゼンテーションの作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003200A |
| 科目名        | 情報処理実習 II  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Information Processing II  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコン II   |
| 講義概要       | 情報処理実習 I で修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウェア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『情報リテラシー』 FOM 出版 2,000 円  (著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『Excel で学ぶ基礎物理学 — Excel 2010/2007 対応版 — 』  新田 英雄 監修、山本 将史 著 (オーム社) 2,800 円   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標       | (a) 情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得  (b) 表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得  (c) プレゼンテーションソフトを応用した高度な資料作製技術の修得  (d) HTML による基本的なWEB ページ作製技術の修得   |       |           |
| 準備学習       | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し、動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学・演習, 物理学・演習を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 情報機器応用 (1): 情報処理実習概論-インターネットと通信の基礎  2. 情報機器応用 (2): インターネットにおける情報サービスの種類  3. 情報機器応用 (3): 情報セキュリティとネットワークセキュリティおよび知的財産の基礎  4. 情報機器応用 (4): ハードウェアとOS について、プログラムを実行するとは  5. 情報機器応用 (5): プログラムとデータ構造  6. データ処理応用 (1): 表計算ソフトの様々な機能  7. データ処理応用 (2): 表計算ソフトによる処理とプログラミング言語による処理  8. データ処理応用 (3): 表計算を用いた物理シミュレーション  9. データ処理応用 (4): 表計算を用いたシミュレーション結果の整理と応用  10. データ処理応用 (5): 表計算ソフトウェアによる様々なデータの表現  11. 情報表現応用 (1): コンピュータを用いたプレゼンテーションの特徴  12. 情報表現応用 (2): プレゼンテーションと様々なソフトウェア  13. 情報表現応用 (3): プレゼンテーション方法の違いと適した表現方法  14. 情報表現応用 (4): インターネットでの情報表現とWEB ページ  15. 情報表現応用 (5): WEB ページの作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6003200B |
| 科目名  | 情報処理実習 II  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)   | Practical Course in Information Processing II  |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコン II   |
| 講義概要   | 情報処理実習 I で修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウェア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『情報リテラシー』 FOM 出版 2,000 円  (著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』  新田 英雄 監修、山本 将史 著 (オーム社) 2,800 円   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標   | (a) 情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得  (b) 表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得  (c) プレゼンテーションソフトを応用した高度な資料作製技術の修得  (d) HTML による基本的なWEB ページ作製技術の修得 |       |           |
| 準備学習   | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し、動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学・演習, 物理学・演習を履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 情報機器応用 (1): 情報処理実習概論-インターネットと通信の基礎  2. 情報機器応用 (2): インターネットにおける情報サービスの種類  3. 情報機器応用 (3): 情報セキュリティとネットワークセキュリティおよび知的財産の基礎  4. 情報機器応用 (4): ハードウェアとOS について、プログラムを実行するとは  5. 情報機器応用 (5): プログラムとデータ構造  6. データ処理応用 (1): 表計算ソフトの様々な機能  7. データ処理応用 (2): 表計算ソフトによる処理とプログラミング言語による処理  8. データ処理応用 (3): 表計算を用いた物理シミュレーション  9. データ処理応用 (4): 表計算を用いたシミュレーション結果の整理と応用  10. データ処理応用 (5): 表計算ソフトウェアによる様々なデータの表現  11. 情報表現応用 (1): コンピュータを用いたプレゼンテーションの特徴  12. 情報表現応用 (2): プレゼンテーションと様々なソフトウェア  13. 情報表現応用 (3): プレゼンテーション方法の違いと適した表現方法  14. 情報表現応用 (4): インターネットでの情報表現とWEB ページ  15. 情報表現応用 (5): WEB ページの作成 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6003200C |
| 科目名   | 情報処理実習Ⅱ  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Practical Course in Information Processing II  |       |           |
| 担当者名  | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコンⅡ     |
| 講義概要  | 情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウェア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。              |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通エフ・オー・エム出版 『情報リテラシー』 FOM出版 2000円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 新田 英雄 監修 山本 将史 著 『Excel で学ぶ基礎物理学 Excel 2010/2007対応版』 オーム社 2800円  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | レポート（100%）   |       |           |
| 到達目標  | (a) 情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得  (b) 表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得  (c) プレゼンテーションソフトを応用した高度な資料作製技術の修得  (d) HTMLによる基本的なWEBページ作製技術の修得 |       |           |
| 準備学習  | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し、動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 数学・演習，物理学・演習を履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 情報機器応用（1）：情報処理実習概論－インターネットと通信の基礎  2. 情報機器応用（2）：インターネットにおける情報サービスの種類  3. 情報機器応用（3）：情報セキュリティとネットワークセキュリティおよび知的財産の基礎  4. 情報機器応用（4）：ハードウェアとOSについて、プログラムを実行するとは  5. 情報機器応用（5）：プログラムとデータ構造  6. データ処理応用（1）：表計算ソフトの様々な機能  7. データ処理応用（2）：表計算ソフトによる処理とプログラミング言語による処理  8. データ処理応用（3）：表計算を用いた物理シミュレーション  9. データ処理応用（4）：表計算を用いたシミュレーション結果の整理と応用  10. データ処理応用（5）：表計算ソフトウェアによる様々なデータの表現  11. 情報表現応用（1）：コンピュータを用いたプレゼンテーションの特徴  12. 情報表現応用（2）：プレゼンテーションと様々なソフトウェア  13. 情報表現応用（3）：プレゼンテーション方法の違いと適した表現方法  14. 情報表現応用（4）：インターネットでの情報表現とWEBページ  15. 情報表現応用（5）：WEBページの作成 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6003200D |
| 科目名  | 情報処理実習 II  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)   | Practical Course in Information Processing II  |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | パソコン II   |
| 講義概要   | 情報処理実習 I で修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウェア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。              |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 富士通エフ・オー・エム出版 『情報リテラシー』 FOM出版 2000円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 新田 英雄 監修 山本 将史 著 『Excel で学ぶ基礎物理学 Excel 2010/2007 対応版』 オーム社 2800円   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標   | (a) 情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得  (b) 表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得  (c) プレゼンテーションソフトを応用した高度な資料作製技術の修得  (d) HTML による基本的なWEB ページ作製技術の修得 |       |           |
| 準備学習   | 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し、動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学・演習, 物理学・演習を履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 情報機器応用 (1): 情報処理実習概論-インターネットと通信の基礎  2. 情報機器応用 (2): インターネットにおける情報サービスの種類  3. 情報機器応用 (3): 情報セキュリティとネットワークセキュリティおよび知的財産の基礎  4. 情報機器応用 (4): ハードウェアとOS について、プログラムを実行するとは  5. 情報機器応用 (5): プログラムとデータ構造  6. データ処理応用 (1): 表計算ソフトの様々な機能  7. データ処理応用 (2): 表計算ソフトによる処理とプログラミング言語による処理  8. データ処理応用 (3): 表計算を用いた物理シミュレーション  9. データ処理応用 (4): 表計算を用いたシミュレーション結果の整理と応用  10. データ処理応用 (5): 表計算ソフトウェアによる様々なデータの表現  11. 情報表現応用 (1): コンピュータを用いたプレゼンテーションの特徴  12. 情報表現応用 (2): プレゼンテーションと様々なソフトウェア  13. 情報表現応用 (3): プレゼンテーション方法の違いと適した表現方法  14. 情報表現応用 (4): インターネットでの情報表現とWEB ページ  15. 情報表現応用 (5): WEB ページの作成 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300A |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。1 回生から 2 回生まで必修科目とし、科学英語 I～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br> T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。   |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1週   ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。  第2週～第6週   英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて  学習する。  第6週の終わりに小テストをする。   第7週～第11週   英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。   第12週～第15週   文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300B |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。1 回生から 2 回生まで必修科目とし、科学英語 I～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br> T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。   |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1週   ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。  第2週～第6週   英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて  学習する。  第6週の終わりに小テストをする。   第7週～第11週   英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。   第12週～第14週   文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。   第15週  期末試験。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300C |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | 井川 浩司   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。1 回生から 2 回生まで必修科目とし、科学英語 I～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br> T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。   |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1週   ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。  第2週～第6週   英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて  学習する。  第6週の終わりに小テストをする。   第7週～第11週   英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。   第12週～第14週   文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。   第15週  期末試験。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300D |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 萩野 敏 他 著『E A R N E S T 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円 Raymond Murphy 著『Basic Grammar in Use Student's Book without Answers and CD-ROM: Reference and practice for students of North American English』Paperback Cambridge   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | テキスト『E A R N E S T 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 英文と和文の相違  2. 同演習  3. 可算名詞と不可算名詞  4. 同演習  5. 自動詞・他動詞と人称代名詞  6. 同演習  7. 第1文型・第3文型  8. 同演習  9. 形容詞  10. 同演習  11. 第2文型  12. 同演習  13. 第4文型・第5文型  14. 同演習  15. 副詞  16. 同演習  17. 形容詞・副詞の比較級・最上級(1)  18. 同演習  19. 形容詞・副詞の比較級・最上級(2)  20. 同演習  21. 前置詞(1)  22. 同演習  23. 前置詞(2)  24. 同演習  25. 助動詞(1)  26. 同演習  27. 助動詞(2)  28. 同演習  29. 総合演習(1)  30. 総合演習(2) |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300E |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 萩野 敏 他 著『E A R N E S T 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円 Raymond Murphy 著『Basic Grammar in Use Student's Book without Answers and CD-ROM: Reference and practice for students of North American English』Paperback Cambridge   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | テキスト『E A R N E S T 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 英文と和文の相違  2. 同演習  3. 可算名詞と不可算名詞  4. 同演習  5. 自動詞・他動詞と人称代名詞  6. 同演習  7. 第1文型・第3文型  8. 同演習  9. 形容詞  10. 同演習  11. 第2文型  12. 同演習  13. 第4文型・第5文型  14. 同演習  15. 副詞  16. 同演習  17. 形容詞・副詞の比較級・最上級(1)  18. 同演習  19. 形容詞・副詞の比較級・最上級(2)  20. 同演習  21. 前置詞(1)  22. 同演習  23. 前置詞(2)  24. 同演習  25. 助動詞(1)  26. 同演習  27. 助動詞(2)  28. 同演習  29. 総合演習(1)  30. 総合演習(2) |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003300F |
| 科目名        | 科学英語 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English I  |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。科学英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。1 回生から 2 回生まで必修科目とし、科学英語 I～IVとして段階的に展開される。「科学英語 I」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br> T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。   |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1週   ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。  第2週～第6週   英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて  学習する。  第6週の終わりに小テストをする。   第7週～第11週   英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。   第12週～第15週   文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400A |
| 科目名        | 科学英語 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「科学英語 I」に続く科目として、1 回生の秋学期に開講する。「科学英語 II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。                             |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br>T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に所属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。  |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。  |       |           |

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。|

講義の順序とポイント

1 週 ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。||第 2 週～第 8 週 | 「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The | Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を| 通して、科学英語の文章を読解する。|  
第 8 週の終わりに小テストをする。| |第 9 週～第 1 5 週 | 「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、| 図表などについて学習する。| 同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を| 通して、科学英語の読解力を高める。|

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400B |
| 科目名        | 科学英語 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「科学英語 I」に続く科目として、1 回生の秋学期に開講する。「科学英語 II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。                             |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br>T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に所属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。  |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。|

#### 講義の順序とポイント

1 週 ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。||第 2 週～第 8 週 | 「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The | Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を| 通して、科学英語の文章を読解する。|  
第 8 週の終わりに小テストをする。| |第 9 週～第 1 4 週 | 「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、| 図表などについて学習する。| 同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を| 通して、科学英語の読解力を高める。||第 1 5 週 | 期末試験|

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400C |
| 科目名        | 科学英語 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | 井川 浩司  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「科学英語 I」に続く科目として、1 回生の秋学期に開講する。「科学英語 II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。                             |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br>T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に所属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。  |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。|

#### 講義の順序とポイント

1 週 ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。||第 2 週～第 8 週 | 「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The | Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を| 通して、科学英語の文章を読解する。|  
第 8 週の終わりに小テストをする。| |第 9 週～第 1 4 週 | 「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、| 図表などについて学習する。| 同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を| 通して、科学英語の読解力を高める。||第 1 5 週 | 期末試験|

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400D |
| 科目名        | 科学英語Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 萩野 敏 他 著『E A R N E S T 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円 Raymond Murphy 著『Basic Grammar in Use Student's Book without Answers and CD-ROM: Reference and practice for students of North American English』Paperback Cambridge  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書   |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | テキスト『E A R N E S T 英文法・語法』を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習 2. 同演習 3. 動詞の時制 基本時制と進行形 4. 同演習 5. 動詞の完了形と完了進行形 6. 同演習 7. 時制のまとめ 8. 同演習 9. 受動態（1） 10. 同演習 11. 受動態（2） 12. 同演習 13. 受動態（3） 14. 同演習 15. 疑問詞と特殊疑問文 16. 同演習 17. 一般・選択・付加疑問文 18. 同演習 19. 命令文・特殊な文 20. 同演習 21. 否定文 22. 同演習 23. 動名詞・不定詞 24. 同演習 25. 分詞・不定詞基本 26. 同演習 27. 総合演習（1） 28. 総合演習（2） 29. 総合演習（3） 30. 総合演習（4） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400E |
| 科目名        | 科学英語Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 萩野 敏 他 著『E A R N E S T 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円 Raymond Murphy 著『Basic Grammar in Use Student's Book without Answers and CD-ROM: Reference and practice for students of North American English』Paperback Cambridge  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書   |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | テキスト『E A R N E S T 英文法・語法』を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習 2. 同演習 3. 動詞の時制 基本時制と進行形 4. 同演習 5. 動詞の完了形と完了進行形 6. 同演習 7. 時制のまとめ 8. 同演習 9. 受動態（1） 10. 同演習 11. 受動態（2） 12. 同演習 13. 受動態（3） 14. 同演習 15. 疑問詞と特殊疑問文 16. 同演習 17. 一般・選択・付加疑問文 18. 同演習 19. 命令文・特殊な文 20. 同演習 21. 否定文 22. 同演習 23. 動名詞・不定詞 24. 同演習 25. 分詞・不定詞基本 26. 同演習 27. 総合演習（1） 28. 総合演習（2） 29. 総合演習（3） 30. 総合演習（4） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003400F |
| 科目名        | 科学英語 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English II  |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「科学英語 I」に続く科目として、1 回生の秋学期に開講する。「科学英語 II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。                             |       |           |
| 教材 (テキスト)  | R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English (科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。<br>T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ライフサイエンス必須英和辞典 (羊土社)。 J.H.M. Webb 著 『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。   |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (配布する)  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に所属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。  |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。|

#### 講義の順序とポイント

1 週 ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。||第 2 週～第 8 週 | 「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The | Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を| 通して、科学英語の文章を読解する。|  
第 8 週の終わりに小テストをする。| |第 9 週～第 1 5 週 | 「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、| 図表などについて学習する。| 同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と「Stress and illness」の講読を| 通して、科学英語の読解力を高める。|

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6003500A |
| 科目名   | 科学英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Scientific English A  |       |           |
| 担当者名  | 萩下 大郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 科学英語 I、II で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。       |       |           |
| 教材 (テキスト)   | "The Earth and Our Health" (小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂)  シグマ基本問題集英文法 新課程版 新装版 (文英堂編集部 文英堂) (萩下先生、松本先生のクラスの学生のみ) |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版 (ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社)  "Road to Scientific English" (科学英語への道) (Prieto Rafael 京都学園大学)   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (出席、小テスト、課題の提出など)  中間試験 期末試験  |       |           |
| 到達目標  | 2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。   |       |           |
| 準備学習  | 各クラスの最初の講義時間に方法を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義外での自学を必須とする。 各講義で確認小テストを実施する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) Guidance 2, 3) Unit 5 Hahhhhhch! Allergies 4, 5) Unit 6 Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs 6, 7) Unit 7 Is a Little Alcohol Healthy? 8, 9) Unit 8 Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops 10, 11) Unit 9 What's Really in My Food? Organic Food Labeling 12, 13) Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement 14, 15) Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine 16) Midterm Exam 17, 18) Unit 12 Drug-resistant Superbugs 19, 20) Unit 13 Global Warming: A Global Warming 21, 22) Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun 23, 24) Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water 25, 26) Unit 16 A Brown Cloud over Asia 27, 28) Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills 29, 30) Unit 18 Building a Nuclear Mountain  (ただし、各クラスによって進捗は前後する。) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003500B |
| 科目名        | 科学英語 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English A   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語 I・II』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書   |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)   |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | テキスト『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習  2. 品詞・句・節  3. 目的語をとる分詞句  4. 読解問題  5. 目的語をとる不定詞句  6. 読解問題  7. 使役動詞と原型不定詞  8. 読解問題  9. 知覚動詞  10. 読解問題  11. 等位接続詞  12. 読解問題  13. 時・場所・原因・結果を表す従属接続詞  14. 読解問題  15. 譲歩・条件を表す従属接続詞  16. 読解問題  17. 名詞節を導く接続詞  18. 読解問題  19. 指示代名詞と不定代名詞  20. 読解問題  21. 関係代名詞:主格 that/which  22. 関係代名詞:主格 who  23. 読解問題  24. 関係代名詞:目的格 that/which  25. 関係代名詞:目的格 who/whom  26. 読解問題  27. 長文読解 (1)  28. 長文読解 (2)  29. 長文読解 (3)  30. 総合演習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6003500C |
| 科目名   | 科学英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Scientific English A  |       |           |
| 担当者名  | 松本 孝芳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 科学英語 I、II で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。       |       |           |
| 教材 (テキスト)   | "The Earth and Our Health" (小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂)  シグマ基本問題集英文法 新課程版 新装版 (文英堂編集部 文英堂) (萩下先生、松本先生のクラスの学生のみ) |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版 (ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社)  "Road to Scientific English" (科学英語への道) (Prieto Rafael 京都学園大学)   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (出席、小テスト、課題の提出など)  中間試験 期末試験  |       |           |
| 到達目標  | 2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。   |       |           |
| 準備学習  | 各クラスの最初の講義時間に方法を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義外での自学を必須とする。 各講義で確認小テストを実施する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) Guidance 2, 3) Unit 5 Hahhhhhch! Allergies 4, 5) Unit 6 Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs 6, 7) Unit 7 Is a Little Alcohol Healthy? 8, 9) Unit 8 Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops 10, 11) Unit 9 What's Really in My Food? Organic Food Labeling 12, 13) Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement 14, 15) Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine 16) Midterm Exam 17, 18) Unit 12 Drug-resistant Superbugs 19, 20) Unit 13 Global Warming: A Global Warming 21, 22) Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun 23, 24) Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water 25, 26) Unit 16 A Brown Cloud over Asia 27, 28) Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills 29, 30) Unit 18 Building a Nuclear Mountain  (ただし、各クラスによって進捗は前後する。) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6003500D |
| 科目名        | 科学英語 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English A   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語 I・II』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書   |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)   |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | テキスト『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習  2. 品詞・句・節  3. 目的語をとる分詞句  4. 読解問題  5. 目的語をとる不定詞句  6. 読解問題  7. 使役動詞と原型不定詞  8. 読解問題  9. 知覚動詞  10. 読解問題  11. 等位接続詞  12. 読解問題  13. 時・場所・原因・結果を表す従属接続詞  14. 読解問題  15. 譲歩・条件を表す従属接続詞  16. 読解問題  17. 名詞節を導く接続詞  18. 読解問題  19. 指示代名詞と不定代名詞  20. 読解問題  21. 関係代名詞:主格 that/which  22. 関係代名詞:主格 who  23. 読解問題  24. 関係代名詞:目的格 that/which  25. 関係代名詞:目的格 who/whom  26. 読解問題  27. 長文読解 (1)  28. 長文読解 (2)  29. 長文読解 (3)  30. 総合演習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6003500E |
| 科目名   | 科学英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Scientific English A  |       |           |
| 担当者名  | 井川 浩司   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 科学英語 I、II で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。       |       |           |
| 教材 (テキスト)   | "The Earth and Our Health" (小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂)  シグマ基本問題集英文法 新課程版 新装版 (文英堂編集部 文英堂) (萩下先生、松本先生のクラスの学生のみ) |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版 (ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社)  "Road to Scientific English" (科学英語への道) (Prieto Rafael 京都学園大学)   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (出席、小テスト、課題の提出など)  中間試験 期末試験  |       |           |
| 到達目標  | 2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。   |       |           |
| 準備学習  | 各クラスの最初の講義時間に方法を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義外での自学を必須とする。 各講義で確認小テストを実施する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) Guidance 2, 3) Unit 5 Hahhhhhch! Allergies 4, 5) Unit 6 Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs 6, 7) Unit 7 Is a Little Alcohol Healthy? 8, 9) Unit 8 Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops 10, 11) Unit 9 What's Really in My Food? Organic Food Labeling 12, 13) Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement 14, 15) Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine 16) Midterm Exam 17, 18) Unit 12 Drug-resistant Superbugs 19, 20) Unit 13 Global Warming: A Global Warming 21, 22) Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun 23, 24) Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water 25, 26) Unit 16 A Brown Cloud over Asia 27, 28) Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills 29, 30) Unit 18 Building a Nuclear Mountain  (ただし、各クラスによって進捗は前後する。) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6003600A |
| 科目名  | 科学英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Scientific English B  |       |           |
| 担当者名   | 松原 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『明日を見つめて: Imaging Tomorrow』 (成美堂) 1,800 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『科学英語への道 (Road to Scientific English)』 (本学オリジナルプリント) 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』 (羊土社)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | ・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。  |       |           |
| 準備学習   | ・講義前には必ず英文を日本語に訳してくる。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・講義後は復習を行い、問題点をその日のうちに解決する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。 TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス (講義の心構え、勉強の方法など)  2~4. Lesson1 The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease 5~7. Lesson2 Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots 8~10. Lesson3 Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success 11~13. Lesson4 Stem Cell Research: Promises and Problems 14. 中間テスト 15~17. Lesson5 Tsunami, Hurricanes, and Global Warming 18~20. Lesson6 World Population: Too many ?or Too Few? 21~23. Lesson7 After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future 24~26. Lesson8 Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots 27~29. Lesson9 Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue? 30. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003600B |
| 科目名        | 科学英語B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific English B  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | テキスト『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習 2. 関係代名詞：所有格 3. 読解問題 4. 関係代名詞：前置詞句中 5. 読解問題 6. 関係代名詞：what 7. 読解問題 8. 関係代名詞：as/but/than 9. 関係副詞：when/where 10. 関係副詞：how/why 11. 複合関係詞 12. 読解問題 13. 分詞構文（1） 14. 分詞構文（2）：完了形と受動態 15. 独立分詞構文と独立不定詞 16. 読解問題 17. 仮定法：条件 18. 仮定法：願望 19. 仮定法：if 節以外の仮定法 20. 読解問題 21. 準否定と部分否定 22. 二重否定 23. 長文読解（1） 24. 長文読解（2） 25. 長文読解（3） 26. 長文読解（4） 27. 長文読解（5） 28. 長文読解（6） 29. 長文読解（7） 30. 総合演習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6003600C |
| 科目名  | 科学英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Scientific English B  |       |           |
| 担当者名   | 松本 孝芳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『明日を見つめて: Imaging Tomorrow』 (成美堂) 1,800 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『科学英語への道 (Road to Scientific English)』 (本学オリジナルプリント) 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』 (羊土社)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | ・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。  |       |           |
| 準備学習   | ・講義前には必ず英文を日本語に訳してくる。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・講義後は復習を行い、問題点をその日のうちに解決する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。 TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス (講義の心構え、勉強の方法など)  2~4. Lesson1 The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease 5~7. Lesson2 Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots 8~10. Lesson3 Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success 11~13. Lesson4 Stem Cell Research: Promises and Problems 14. 中間テスト 15~17. Lesson5 Tsunami, Hurricanes, and Global Warming 18~20. Lesson6 World Population: Too many ?or Too Few? 21~23. Lesson7 After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future 24~26. Lesson8 Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots 27~29. Lesson9 Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue? 30. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6003600D |
| 科目名        | 科学英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific English B  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語 I・II・III』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | テキスト『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 基本の復習  2. 関係代名詞：所有格  3. 読解問題  4. 関係代名詞：前置詞句中  5. 読解問題  6. 関係代名詞：what  7. 読解問題  8. 関係代名詞：as/but/than  9. 関係副詞：when/where  10. 関係副詞：how/why  11. 複合関係詞  12. 読解問題  13. 分詞構文 (1)  14. 分詞構文 (2)：完了形と受動態  15. 独立分詞構文と独立不定詞  16. 読解問題  17. 仮定法：条件  18. 仮定法：願望  19. 仮定法：if 節以外の仮定法  20. 読解問題  21. 準否定と部分否定  22. 二重否定  23. 長文読解 (1)  24. 長文読解 (2)  25. 長文読解 (3)  26. 長文読解 (4)  27. 長文読解 (5)  28. 長文読解 (6)  29. 長文読解 (7)  30. 総合演習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6003600E |
| 科目名  | 科学英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Scientific English B  |       |           |
| 担当者名   | 井川 浩司   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 科学英語 I, II, III に続く科目として、自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『明日を見つめて: Imaging Tomorrow』 (成美堂) 1,800 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『科学英語への道 (Road to Scientific English)』 (本学オリジナルプリント) 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』 (羊土社)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表、出席状況など(20%)の結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | ・英語の Paragraph 構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。  |       |           |
| 準備学習   | ・講義前には必ず英文を日本語に訳してくる。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・講義後は復習を行い、問題点をその日のうちに解決する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。 TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス (講義の心構え、勉強の方法など)  2~4. Lesson1 The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease 5~7. Lesson2 Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots 8~10. Lesson3 Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success 11~13. Lesson4 Stem Cell Research: Promises and Problems 14. 中間テスト 15~17. Lesson5 Tsunami, Hurricanes, and Global Warming 18~20. Lesson6 World Population: Too many ?or Too Few? 21~23. Lesson7 After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future 24~26. Lesson8 Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots 27~29. Lesson9 Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue? 30. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | J60037001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 英会話   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | English Conversation  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 宮田 ワンダ  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 7日間の集中講義は、幅広い英語つまりスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの上達を目指します。 自分の英語力にあったペースで勉強ができます。リスニング、理解、コミュニケーション、英作文、プレゼンテーションの5つに集中し、上達させます。プレゼンテーションの中で学ぶポイントは英語だけに限らず、日本語での発表にも活用できます。わかりやすく、関わりやすいテーマや教材を使うので高校で英語が苦手だった方にも英語を身近に感じることができます。90分間の1講時を3つに分け、集中できる短いアクティビティ形式を取ります。20人程度の少人数クラスで午前中はMiyata先生、午後はTabohashi先生というように、クラスと先生を交代します。一日目に40人を2クラスに分けるが、様子を見てからメンバーを移動させます。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 教科書は利用しない。 講師がプリントを配る。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               |   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                |   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 絵を見て話を説明する 30%、授業への参加 (英語での自発的発言、数が勝負) 40%、語彙などの小テスト 30%  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 疑問文製作にスピードを正確さを付ける、聞いた英数字を楽に書き留める、日本語で考えた数字を楽に英語で伝える、動詞を抜かさないように意識できる、映像から文章が書ける、環境に関するラジオ番組から意味が取れるようになる。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | http://www.loe.org で興味のある生物を英語で search(左側で茶色い文字)をして、番組の部分を一つだけ選んで MP3 player などで同じものを週 3 回聞くこと。(同 website にスクリプトがあり、それを利用してください。) Transcript を見ながら 4 月からの 4 ヶ月間の間、同じものを聞いて親しむこと。 たとえば crayfish(ザリガニ)で  http://www.loe.org/shows/segments.htm?programID=09-P13-00044&segmentID=5 の 鉱山工事で小川の生物全滅の話がでる。 Pause をして repeat をしたり、shadowing をしたりすること。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 授業中は英語のみではなす。出席は不可欠。4 回分休むと単位取得できません。授業中の睡眠は欠席とする。授業に 10 分以上遅れて入ることも 0.5 の欠席にする。語学の集中講座は講義と違ってインターアクティブなものでエネルギーが必要。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1.自己紹介、chants、疑問文製作、テキスト読解、語彙練習問題を解く 2.chants, 語彙の小テスト、ディクテーション、ストーリーを伝える練習、聞き取り練習、数の練習 3.chants, ビデオ映像を文章に、語彙の復習と小テスト、絵伝えペアワーク、幾何学的な形の名を覚える、支持を聞いて絵を描く 4.chants、疑問文製作、テキスト読解、語彙練習問題を解く 5.chants, 語彙の小テスト、ディクテーション、ストーリーを伝える練習、聞き取り練習、数の練習 6.chants, ビデオ映像を文章に、語彙の復習と小テスト、絵伝えペアワーク、幾何学的な形の名を覚える、支持を聞いて絵を描く 7.chants、疑問文製作、テキスト読解、語彙練習問題を解く  8.chants, 語彙の小テスト、ディクテーション、ストーリーを伝える練習、聞き取り練習、数の練習 9.chants, ビデオ映像を文章に、語彙の復習と小テスト、絵伝えペアワーク、幾何学的な形の名を覚える、支持を聞いて絵を描く 10.chants、疑問文製作、テキスト読解、語彙練習問題を解く 11.chants, 語彙の小テスト、ディクテーション、ストーリーを伝える練習、聞き取り練習、数の練習 12.chants, ビデオ映像を文章に、語彙の復習と小テスト、絵伝えペアワーク、幾何学的な形の名を覚える、支持を聞いて絵を描く 13.chants、疑問文製作とマッチング、テキスト読解、語彙練習問題を解く、プレゼンテーション練習 14.chants, 語彙の小テスト、ディクテーション、ストーリーを伝える練習、聞き取り練習、数の練習 15.chants, ビデオ映像を文章に、語彙の復習と小テスト、絵伝えペアワーク、幾何学的な形の名を覚える、支持を聞いて絵を描くプレゼンテーション発表 |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6004300A |
| 科目名        | バイオサイエンス概論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Bioscience Research   |       |           |
| 担当者名       | 萩下 大郎   | 旧科目名称 | バイオ環境概論 I |
| 講義概要       | バイオサイエンス学科の全専任教員が担当する。各自が関わってきたそれぞれの研究や学問分野のトピックスを講義し、環境問題に配慮したバイオサイエンスの諸科学やその展開過程での考え方、哲学、面白さなどを伝授するオムニバス形式の講義である。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | OHP やパワーポイントでの講義となる。  |       |           |
| 評価方法       | 興味をもった教官の講義 2 件について、期末に内容を 1000 字程度のレポートとして提出してもらい、当該教員がその内容を評価する。また講義へ出席することに意味があり、出席を重視し、規定回数以上の欠席の場合は、単位を認めない。   |       |           |
| 到達目標       | バイオサイエンスのカバーする広い分野について、一般的な理解をして貰うことが狙いである  |       |           |
| 準備学習       | 特段の準備を要しない  |       |           |
| 受講者への要望    | 真剣に受講して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション (バイオサイエンス概論とは) オムニバス形式の講義内容の紹介。  2 植物環境連関学 (不良環境に対する植物の適応戦略) 不良土壌に対する植物の適応と遺伝子工学による耐性獲得。  3 植物細胞工学 (植物バイオの現状と展望) 持続可能な社会における「植物」の役割と植物バイオ技術の現状と展望。  4 分子植物生理学 (植物の形づくりの秘密) 植物を形づくる細胞生長過程—細胞伸長の制御タンパク質を中心に。  5 食品化学 (機能性食品の開発) 食品及び食品成分の栄養性、健康機能性の解説。  6 生体栄養科学 (がん発生にからむ健康と食品) がん発生のメカニズム、食品中の発がん性物質および発がん抑制物質の紹介。  7 化学生態学 (化学生態学とは何か) 生物学と有機化学の境界領域である化学生態学の概要紹介。  8 生物有機化学 (医薬品の開発の実際) 生物機能物質の代表としての医薬品、その研究開発の紹介。  9 天然物化学 (さまざまな機能性分子) 有機化学の基礎の解説、多様な生理活性物質の紹介。  10 遺伝子工学 (遺伝子からみた生物の環境適応) 環境ストレスに応答する遺伝子について、基礎的な話題や研究の展望の紹介。  11 分子生物学 (ゲノムが拓くプロテオームの世界) ポストゲノム時代の中心となるプロテオーム研究の現状と将来の展望。  12 一般微生物学 (微生物の生物学) 微生物学とはどういう学問か。その歴史と最新の話題。  13 応用微生物学 (役に立つ微生物) 微生物はどのように人間の役に立ってきたか。発酵・醸造や物質生産への応用について。  14 産業微生物学 (微生物と環境問題) 環境問題、地球温暖化問題に対して微生物に何ができるか。産業微生物学からの解答。  15 (予備、総合討論) バイオサイエンス概論を学んで。 |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|                               |  |       |           |
|-------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                            | 2012   | 授業コード | J6004400A |
| 科目名                           | バイオ環境概論II                                    | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                     | Introduction to Bioenvironmental Science II  |       |           |
| 担当者名                          | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                          | 再履修者のみ履修可。 バイオ環境について概説し、論じる。 集中講義方式で行う。      |       |           |
| 教材（テキスト）                      | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）                      |  |       |           |
| 教材（その他）                       |  |       |           |
| 評価方法                          | レポート（80%）、平常点（20%）                           |       |           |
| 到達目標                          | バイオサイエンス学科とバイオ環境デザイン学科の学問研究の有機的関係について理解を深める。 |       |           |
| 準備学習                          | 環境に関するニュースなどを見ておくこと                          |       |           |
| 受講者への要望                       |  |       |           |
| 特になし。                         |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                    |  |       |           |
| 集中講義方式で行う。 実施日時および内容は追って掲示する。 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J6004500A |
| 科目名       | 作物栽培実習（実践プロジェクトA）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)   |       |           |
| 担当者名      | 關谷 次郎  | 旧科目名称 | 作物栽培管理実習  |
| 講義概要      | 実習農園で各自に一定面積の受持ちの区画を配分する。夏野菜を中心に栽培し、植え付けからその収穫までの栽培法や栽培環境管理方法などを体験する。この作物栽培実習を通して、単に栽培技術の重要性の認識だけでなく、土壌、温度などの物理的環境、肥料、農薬などの化学的環境、病害虫や益虫などの生物的環境など生物と環境について広く考えるきっかけを作る。「キャンパスの横に農場がある」、「農場の中に教室がある」地の利を活かし、実習時間以外の観察・体験も大切にし、作物を育て収穫する喜びを体験する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、適宜講義プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 「新版野菜栽培の基礎」池田英男・川城英男編著、農山漁村文化協会 「おいしい野菜づくり」加藤義松監修、成美堂出版など  |       |           |
| 教材（その他）   | その他野菜や作物の栽培に関する図書が図書館バイオ環境分室にあるので適宜参考にすること。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（栽培作業状況など） 50% レポート 50%   |       |           |
| 到達目標      | 作物栽培を通じて植物の生育や環境に対する観察力、生物と環境のかかわりについて考える基礎力を養う。   |       |           |
| 準備学習      | 毎回の実習で観察したこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことなどを調べて、次回の実習に活かすように心がける。   |       |           |

受講者への要望

トレーナーなど作業ができる服装、長靴、軍手などは受講者が用意する。|野帳（持ち運びできるハンディーな観察記録ノート）に栽培中に観察したことなどを必ず記録する。|実習中の観察などからある項目をとりあげ、これについて調べ、レポートにまとめる積極的な取組みを望む。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、種まき、作物資料調査|2. 実習講義および区割り、耕起・畝立て・整地、種まき|3. 実習講義および耕起・畝立て・整地|4. 実習講義および移植、支柱の準備などの栽培管理と記録|5. 実習講義および除草、施肥、支柱やネットの設置などの栽培管理と記録|6. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録|7. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録|8. 中間検討会|9. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録|10. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録|11. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫|12. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫|13. 実習講義および除草、施肥、害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫|14. 収穫、後片付けと整理、品評会および検討会|15. 栽培記録の取りまとめ、資料調査、レポート作成|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6004500B |
| 科目名  | 作物栽培実習（実践プロジェクトA）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)   |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年  | 旧科目名称 | 作物栽培管理実習  |
| 講義概要   | 畑（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ。同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする。畑水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する。栽培技術については敷き藁などの生物素材の有効性について理解を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて準備します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 京野菜を楽しむ 淡交社  現代農業など  |       |           |
| 教材（その他）  | 農業資材・肥料などについては実物を用意します野で各自判断をして使用してください。   |       |           |
| 評価方法   | 管理作業状況70%、レポート30%  |       |           |
| 到達目標   | 栽培体験を通じて作物の成長変化をまなぶ。また栽培技術の初歩を習得する。イネおよび黒豆の収穫は秋期になりますので夏休みの対策を考えておくこと。   |       |           |
| 準備学習   | 農業関係の書籍を読んで置くこと。キャンパス周辺の農地などを観察し、どのような作業をしているかをつかんでおく。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われます。毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するようにしてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.実習のガイダンス 2.資材の調達（支柱、敷き藁、ネット、肥料の調整） 3.畑作業と記録1（整地、区割り、ネット） 4.畑作業2（播種） 5.水田作業と記録1（区割りなど田植え準備） 6.水田作業と記録2（田植え） 7.畑作業と記録3（敷き藁調整、畦除草） 8.畑作業と記録4（除草） 9.畑作業と記録5（除草） 10.水田管理と記録3（施肥と除草） 11.水田管理と記録4（水田生物観察と除草効果観察） 12.畑作業と記録6（黒豆播種、除草と記録） 13.水田管理と記録5（病害虫の観察、除草） 14.畑作業と記録7（収穫、重量測定記録） 15.まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60046001 |
| 科目名        | バイオ技術動向   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Trends in Biotechniques   |       |           |
| 担当者名       | 谷田 清一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ゲノムや遺伝子の実体が明らかにされる過程で、遺伝子組み換え技術や細胞融合技術、あるいは、そこから派生するモノクローナル抗体作製技術、遺伝子改変動植物作製技術などが相次いで誕生し、これらを支える分析・計測・解析技術が相まって生命科学の分野に技術革新をもたらした。これらのバイオ技術に支えられてバイオ関連産業が飛躍的な成長を遂げ、大きな産業分野を形成するに至っている。この講義では、医・薬・食・農とかかわりの深いバイオ技術の動向を、生命科学の基礎知識とともに幅広く解説する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (10%) 出席状況等による。最終講義時にテスト (90%)。   |       |           |
| 到達目標       | 生命科学の基礎知識とバイオ技術の理解を目指す。   |       |           |
| 準備学習       | バイオ関連のメディア情報に関心を持つこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的、能動的な姿勢で受講すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. バイオ技術の背景   2. ゲノムの基礎 (1) (構造、複製、遺伝子)   3. ゲノムの基礎 (2) (RNA 干渉、エピジェネティクス)   4. ゲノム関連技術の基礎   5. 細胞の営み (1) (増殖)   6. 細胞の営み (2) (死、不死化)   7. 細胞の営み (3) (がんの治療技術)   8. 細胞関連技術 (1) (細胞培養の基礎、幹細胞の基礎)   9. 細胞関連技術 (2) (幹細胞の応用)   10. 病とバイオ技術 (疾患の動向、医薬品開発概要)   11. バイオ医薬品と製造技術 (1) (概要)   12. バイオ医薬品と製造技術 (2) (治療用抗体、治療用核酸)   13. 薬と天然物   14. 食とバイオ技術 (生活習慣病、機能性食品、プロバイオティクス)   15. 農とバイオ技術 (品種改良、遺伝子組み換え農作物、バイオ燃料) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     | ○     |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60047001 |
| 科目名  | バイオ環境技術動向   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Trends in Bioenvironmental Techniques   |       |           |
| 担当者名   | 田崎 雅晴   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 地球環境が危惧されている現代、バイオテクノロジーを利用した技術が目目されている。しかし我々はそれ以前より、環境に生物を取り入れた技術の恩恵を受けている。  本講義では、生物と環境との基本的な繋がりを確認して、それを利用してきた技術の流れを理解してもらうことから始める。それを理解した上で、大きく「環境の利用/浄化」と「環境の創造」に分けて、普遍的な環境バイオ技術から、近年注目されている新しい環境バイオの話題までを紹介する。  この講義により環境バイオテクノロジーを学ぶ研究者としての最低限の知識と考え方を身につけて頂きたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用せず  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて随時指示  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント等を配布  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（出席状況などによる）として、評価の割合を最大30%とする  |       |           |
| 到達目標   | ・環境とバイオテクノロジーの歴史を理解する。  ・身の回りの生活にバイオテクノロジーが密着に関与していることを認識する。  ・現社会における問題とバイオテクノロジーとの関連を理解する。  ・生態系、生物多様性の意味と重要性を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | ・報道されている現代社会の問題を「バイオテクノロジー」を研究する者の目で考えておく   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・常識的な態度で受講すること。  ・試験は前半と後半の2回に分けて実施する予定である。  ・就職活動等、正当な理由での欠席の場合は、必ず申し出て、所定の手続きを行うこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 環境とは何か?   2. バイオテクノロジーを利用した環境の利用/浄化   ●バイオテクノロジーと環境   ●バイオマスの利用技術について   ●生物を利用した水質浄化（水処理）について   ●バイオテクノロジーを利用した土壌汚染浄化について   ●環境に関するトピックス   3. 自然環境の保全・修復・創造   ●生物多様性保全と企業の役割   ●生態系のプランニング（生態計画技術）   ●環境アセスメントとミティゲーション（生態系保全技術）   ●参加型の環境創造に向けて（住民や学生の参加によるピオトープ計画）   ●これからの環境計画 |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6004900A |
| 科目名  | 基礎バイオサイエンス実験  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Bioscience   |       |           |
| 担当者名   | 萩下 大郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | バイオサイエンス学科の全ての専任教員による各分野の実験をオムニバス方式で体験する。バイオサイエンス各分野の特徴的な基礎実験を体験することで、専門分野で必要となる機器操作や基本技術、実験に関する規範を身につける。『バイオ環境概論ⅠおよびⅡ』と共に、バイオ環境学部の共通教育過程で重要な専門基礎科目である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 各分野毎に、実験の手順書や指南書を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『イラストで見る超基本バイオ実験ノート』（羊土社）   『アット・ザ・ベンチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて、教材を実験時間中に提供する。   |       |           |
| 評価方法   | 実験レポートの成績（70%）、レポート課題の内容（30%）などを考慮し、総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標   | バイオサイエンス分野の基礎的な実験を理解し、技法を習得し、結果を整理し、発表できるレポートを作成することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習   | 各実験の実験書に前もって目を通し、実験課題について把握に努め理解できる部分と不明な部分を区別できるように準備すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| バイオサイエンス分野で必要となる専門実験実習の正しい基本を習得するものであり、レポート作成も含めて基礎教育訓練であるから、実験開始の10分間前までに着替えて入室すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 実験全体の説明・実験室の機器利用説明・実験準備など〔2012年9月27日〕   2. グリニャール反応を利用したトリフェニルカルビノールの合成（坂本・若村・清水）〔2012年9月27日〕   3. クロマトグラフィーによる物質の分離（坂本・若村・清水）〔2012年10月4日〕   4. 定性分析実験と機器分析の基礎実習（坂本・若村・清水）〔2012年10月11日〕   5. 生体試料の扱いとDNAの抽出と定量（中村・松原）〔2012年10月18日〕   6. 生体試料からのタンパク質の調製と分画の基礎（中村・松原）〔2012年11月1日〕   7. 微生物学実験法：顕微鏡観察法（清水・萩下・篠田）〔2012年11月8日〕   8. 微生物学実験法：染色法（清水・萩下・篠田）〔2012年11月15日〕   9. 微生物学実験法：バクテリアの培養（清水・萩下・篠田）〔2012年11月22日〕   10. 澱粉の加水分解と生成グルコースの定量（深見・矢野）〔2012年11月29日〕   11. 食品に含まれるビタミンCの定量分析（深見・矢野）〔2012年12月6日〕   12. 植物の生体成分の定量（高瀬・プリエト）〔2012年12月13日〕   13. 植物のタンパク質含量の定量（高瀬・プリエト）〔2012年12月20日〕   14. 機器器具のメンテナンス、廃棄物の処理法と注意事項、清掃と片付けについて〔2013年1月10日〕   15. 全体のまとめ “専門実験への道”〔2013年1月17日〕 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6005000A |
| 科目名        | バイオ環境事業見学実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Trips for Learning Bioenvironmental Science   |       |           |
| 担当者名       | 高瀬 尚文   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオ環境の事業体・事業地ないしは工場、の現地見学と実習。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 事前講義ではパワーポイントを用い、プリントを配布して説明・学習をする。   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況等（50%） 実習レポート評価（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 百聞は一見に如かず。  |       |           |
| 準備学習       | 訪問先の情報をインターネット等で収集しておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 集合時間に遅刻しないでください。興味津々という態度で臨んでください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 特色があつて訪れて意義あるバイオ企業、ないしは環境保全事業体を訪れ、実際に現場技術と現場・経営環境を見学実習する。4つのコースを用意し、受講生はそのうちの1つのコースを選択する。現地での見学実習をする前に、予備知識を得るための関連講義を集中的に実施する。見学実習は9月中旬を予定しているが、実施の詳細は7月上旬に公示する。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60051001 |
| 科目名   | 環境生物学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Environmental Biology   |       |           |
| 担当者名  | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 地球温暖化、森林破壊、食糧危機など、21世紀に深刻化することが危惧される諸問題の理解には、地球環境や地域環境に対する学際的・分野横断的なアプローチが不可欠である。本科目では、大気、地形、土壌などの非生物的環境と、その中で生きる主体としての生物との相互作用を理解すると共に、その相互作用の中で人間活動の関わりを総合的な視点で捉えることを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 分野が多岐にわたるため、毎回の授業の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況等による平常点と、期末試験により評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 非生物的環境と生物の相互作用に関わる基礎知識の習得と、その相互作用の中で人間活動の関わりを理解する。また、これまでの人間活動の功罪と、今後の暮らしのあり方を論ずる視点を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | これまでに生物学や環境学を学んだかどうかは、不問。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス：環境生物学とは？   2 土壌は一日にしてならず：岩石が土に変わるまで   3 土壌と生物の相互作用：いのちを育む土の役割   4 大気と生物の相互作用：炭素循環を考える   5 世界を変えた窒素固定：ハーバー・ボッシュ法の功罪   6 地形が生み出す植生の多様性   7 自然条件下の植生遷移：極相林と動的平衡   8 人為作用下の植生遷移：草地や林地の持続的管理   9 人為が生み出す生物多様性：里山の今と昔   10 農地と林地の複合利用：アグロフォレストリーの展望   11 森を畑に、畑を森に：焼畑に受け継がれる在来知   12 焼畑を活かした日本の森づくり：焼畑の現代的意義   13 森はだれのものか？：熱帯林問題を考える   14 生態資源の持続的利用：生物生産と環境保全の調和   15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60052001 |
| 科目名        | 環境化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Environmental Chemistry   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 無機化学を研究解析手段とする無機環境化学と有機化学を研究解析手段とする有機環境科学を、リレー講義する。無機環境化学としては、地球環境問題としての酸性雨、アスベスト問題、富栄養化の問題、重金属汚染問題などを取り上げる。有機環境化学としては、ダイオキシン問題、環境ホルモン問題、農薬などを取り上げる。またそれに加え、放射性物質についても取り上げる。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 新版 生活と環境 三共出版 わかる環境科学 三共出版  |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する   |       |           |
| 評価方法       | 無機分野は出席状況と小テスト (20%) および期末試験 (80%)、有機(プラス放射性物質)分野はレポート3回(80%)と期末試験(20%)に出席状況を加味して評価する。なお、試験は無機分野と有機(プラス放射性物質)分野、別々に実施する。  |       |           |
| 到達目標       | 各種の環境化学物質について、正当な評価ができること   |       |           |
| 準備学習       | 化学のわかることが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望    | 本講義を通して、環境問題の本質を理解して貰いたい  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 全体説明と序論  2 環境中での物質移動  3 大気汚染と汚染物質の循環  4 水収支と水質汚染  5 土壌中での物質循環と土壌汚染  6 生物圏での物質循環、地球温暖化  7 酸性雨問題、エネルギーと環境破壊  8 無機分野のまとめ  9 ダイオキシン問題  10 ダイオキシンと環境ホルモン  11 放射性物質とは  12 放射線の生物への影響  13 放射線の人体への影響  14 農薬の基礎知識  15 「農薬」をめぐる様々な問題 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60052002 |
| 科目名        | 環境化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Chemistry   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私たちの身の回りには、様々な種類の物質がある。その中には、私たちの健康に直接の害作用がある物質がいくつかある。福島原子力発電所の事故で放出された放射性物質もその一例である。これらの毒物は、空気を通じて、また飲み水や食べ物を通じて体内に入り込み、毒作用を示す。このため、現在では様々な法律で排出が規制されているが、それでも、被害が出るケースがある。また、私たちの健康に直接の害がない物質でも、私たちの生活に大きな害作用を及ぼすものがある。このような直接的または間接的に害作用を及ぼす物質が、どこから発生して、どんな害をもたらすのかを化学的な視点から講義する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 岡部昭二ら共著「新版 生活と環境」三共出版、2300円＋消費税   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験（80点）、適宜行う小テスト（20点）   |       |           |
| 到達目標       | 害がある物質で被害を受けないように、基礎知識を身に付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 身近にある食品、洗剤、化粧品、スプレーなどに書いてある「成分」の表示を普段から見ると心かげること。放射能関係のニュースには目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>ノートをしっかりとって、復習をすること。 秋学期に「社会と環境問題」履修する人は、この講義を必ず履修して欲しい。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 基本事項：有機物と無機物、化学式  2. 放射性物質  3. 有機物の燃焼：一酸化炭素、二酸化炭素  4. 石油石炭の燃焼：硫黄酸化物  5. 自動車排ガス：窒素酸化物、光化学オキシダント  6. ラップ類の燃焼：ダイオキシン  7. アスベスト（石綿）、シックハウス：ホルムアルデヒド、有機溶剤  8. 混ぜるな危険：塩素ガス  9. 殺虫剤：有機リン化合物  10. 重金属  11. 水質汚濁物質  12. 食品添加物  13. 食中毒菌  14. 悪臭物質  15. まとめ </p>                                  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60053001 |
| 科目名   | 環境物理学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Environmental Physics   |       |           |
| 担当者名  | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 物理学は自然科学のすべての分野の中で、精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の正確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる連続体、波動、弾性体、流体、熱力学などについて具体例をもとに考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法  | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標  | 物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習  | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 数学・演習，環境情報数学，物理学・演習を履修することが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 波動（1）：弦の振動 2. 波動（2）：音波の伝播 3. 波動（3）：光波の伝播 4. 連続体（1）：剛体・弾性体・流体 5. 連続体（2）：剛体の慣性モーメント 6. 連続体（3）：剛体の運動方程式 7. 弾性体（1）：弾性体の変形 8. 弾性体（2）：剛性率と体積弾性率 9. 弾性体（3）：弾性体の振動 10. 流体（1）：パスカルの原理 11. 流体（2）：連続の方程式 12. 流体（3）：流体の速度と圧力 13. 熱力学（1）：熱と温度 14. 熱力学（2）：熱力学の第1法則 15. 熱力学（3）：熱力学の第2法則 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60054001 |
| 科目名  | 環境地球科学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Earth Science   |       |           |
| 担当者名   | 中村 琢磨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 地球科学の講義では固体としての地球の概要と歴史を解説したが、本講義では主に大気や海洋の循環が気候に与える影響、ならびに地球環境の変化と生物の進化について講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 酒井 治孝 著 地球学入門 東海大学出版会 ISBN4-486-01615-7   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 内藤 玄一, 前田 直樹 著 地球科学入門 米田出版 ISBN978-4-486-01615-1                                  |       |           |
| 教材（その他）  | 無し  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験 100%   |       |           |
| 到達目標   | 惑星地球の表層（大気圏）における様々な気象メカニズムを理解すること。  |       |           |
| 準備学習   | 授業はテキスト「地球学入門」の内容に沿って進めていくので、講義前に予習しておくことが望ましい。                                   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 本科目は地球科学に引き続きの講義であるので、地球科学と合わせて受講することを推奨する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 講義の概要、ねらいおよび注意事項のガイダンス  2. 地球の熱収支  3. 大気の大循環  4. 地球と月の関係  5. 海洋の構造と循環  6. モンスーン  7. エルニーニョとラニーニャ  8. 気候変動  9. 気候と気象 (1)  10. 気候と気象 (2)  11. 天気図と気象予報  12. 酸素の起源と生物進化(1)  13. 生物進化 (2)   14. 人類による地球環境の変化  15. まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60055001 |
| 科目名   | 環境生物学実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Environmental Bio logy   |       |           |
| 担当者名  | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本科目では、森林環境の測り方や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会  |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況等による平常点と、レポート提出により評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 森の環境を測る I：試験区設定・毎木調査 3 森の環境を測る II：毎木調査・標本採取 4 身近な樹木の名前を知ろう I：植物標本の作製・同定 5 身近な樹木の名前を知ろう II：植物標本の同定・スケッチ 6 農地・林地の土壌の違い I：土を覗て、触って比較する 7 農地・林地の土壌の違い II：土の簡易分析 8 レポートのまとめ方 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60055002 |
| 科目名   | 環境生物学実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Environmental Bio logy   |       |           |
| 担当者名  | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本科目では、森林環境の測り方や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会  |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況等による平常点と、レポート提出により評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 森の環境を測る I：試験区設定・毎木調査 3 森の環境を測る II：毎木調査・標本採取 4 身近な樹木の名前を知ろう I：植物標本の作製・同定 5 身近な樹木の名前を知ろう II：植物標本の同定・スケッチ 6 農地・林地の土壌の違い I：土を覗て、触って比較する 7 農地・林地の土壌の違い II：土の簡易分析 8 レポートのまとめ方 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60056001 |
| 科目名  | 環境化学実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Environmental Chemistry           |       |           |
| 担当者名   | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境分析法の初歩的な実習として無機環境化学実験（3回分）と有機環境化学実験（4回分）を学期の1／2期間で実施する |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特に定めない   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要な教材・器具は教官が配布あるいは準備する                                   |       |           |
| 評価方法   | 実験ごとのレポートで評価する   |       |           |
| 到達目標   | 実験をとおして環境科学を実感できること                                      |       |           |
| 準備学習   | 化学を履修していることが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 実験には、危険性が高い操作が含まれる。取り扱い方を間違えると取扱者自身だけでなく、近くにいる人にもも危害が及ぶ。 実験開始前の教官の指示を注意深く聴き、役割分担について同じ班のメンバーと十分に意思疎通をはかって、進めること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 無機環境化学実験  1 環境水中の浮遊物質の測定と水処理  2 環境中のアンモニア態窒素の測定  3 水道水中の残留塩素の測定 有機環境化学実験  1 ビニル系プラスチックに含まれる可塑剤フタル酸の抽出と定量  2 バイルシュタイン反応を利用して、塩素を含むプラスチックを探す  ピクリン酸紙を使って、青酸を発生する動植物を探す  3 廃食用油からバイオジーゼル油を作る  4 廃食用油から石鹸を作る |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60056003 |
| 科目名   | 環境化学実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Environmental Chemistry   |       |           |
| 担当者名  | 藤井 康代  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 環境を評価は、化学的な分析による数値を元にして行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、定量実験の手法、データ解析を理解する。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリントを配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 飯田隆ら 編 『イラストで見る化学実験の基礎知識』 丸善 3000 円+税  A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－』 東京化学同人 2850 円（+税） |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布  |       |           |
| 評価方法  | レポート（100%）   |       |           |
| 到達目標  | 基本的な実験の操作を習得する。定量実験と定性実験の違いを理解する。検量線を理解する。データの解析および考察力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 必ず実験手順の予習をすること。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. ガイダンス－注意事項－ 2. pH の測定と緩衝液 3. 酸解離定数 4. 中和滴定 5. 反応速度測定 6. 酸化還元滴定 7. アボガドロ数の測定 8. 窒素酸化物の定量        |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60057001 |
| 科目名        | 環境物理学実験   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Environmental Physics  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり、これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて、電流、電圧、温度などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め、さらに、得られたデータの信頼性については、コンピュータを活用した処理をとおして考察する。                                 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 物理学の基本原理解にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について意識的に観察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学・演習，環境情報数学・演習，物理学・演習・実験，環境物理学を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 環境物理学実験概論：測定の原理，誤差の伝播，データの処理方法  2. 基本単位の測定：電流，温度  3. 電磁気量の測定（1）：電気伝導度と抵抗率  4. 電磁気量の測定（2）：電流と磁場  5. 電磁気量の測定（3）：電磁誘導と相互誘導  6. 熱力学量の測定（1）：固体と液体の比熱  7. 熱力学量の測定（2）：気体の温度・圧力・体積  8. 熱力学量の測定（3）：ジュール熱と仕事当量 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60058001 |
| 科目名   | 環境地球科学実験  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Environmental Earth Science  |       |           |
| 担当者名  | 中村 琢磨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本実験は、岩石や化石標本などの試料の観察を通して試料の特徴の捉え方を学ぶとともに、光学顕微鏡などの器具の使い方を練習する。また、簡単な物性試験を通して試料の性質を分析する方法を概説する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 酒井 治孝 著 地球学入門 東海大学出版会 ISBN4-486-01615-7   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 内藤 玄一, 前田 直樹 著 地球科学入門 米田出版 ISBN978-4-486-01615-1  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリント配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 毎回のレポート 70%, まとめ発表 30%  |       |           |
| 到達目標  | 観察や実験を通じて試料の形態や性質の違いを理解するとともに、顕微鏡などの器具の使い方に習熟する。  |       |           |
| 準備学習  | 環境地球科学実験は内容的に地球科学との関連性が大きいので、地球科学のテキストも熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 探究心をもって受講することを望む。また、地球科学実験と合わせて受講することを推奨する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. 岩石標本の観察 3. 示準化石の観察 4. 光学顕微鏡の使い方&珪藻土・星砂観察 5. 花粉の観察 6. 土質試験（1）練習編（試料の調製, 含水比, 密度, 粒度分布） 7. 土質試験（2）実践編（試料の調製, 含水比, 密度, 粒度分布） 8. まとめと評価試験 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60059001 |
| 科目名        | 環境情報数学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Information Mathematics   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 環境計測に関わる情報は科学技術の進展にもなってその質は向上し量は増加し続けている。これらの膨大な情報は目的に応じて適切に処理しなければ効果的に利用することはできない。この講義では環境情報データの処理や解析を目的に応じて行うために必要な数学、各種関数変換などを学修し、これらを基礎としたデータ処理、解析の方法を考察する。               |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標       | 数理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成員、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常から外界の自然現象について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学・演習，物理学・演習，環境物理学を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 行列・行列式（1） 2. 行列・行列式（2） 3. 行列・行列式（3） 4. 場の解析（1） 5. 場の解析（2） 6. 場の解析（3） 7. 定積分（1） 8. 定積分（2） 9. 定積分（3） 10. 複素関数（1） 11. 複素関数（2） 12. 複素関数（3） 13. 複素解析（1） 14. 複素解析（2） 15. 複素解析（3） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60060001 |
| 科目名  | 環境情報数学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Environmental Information Mathematics  |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境計測によって得られた情報を目的に応じて効果的に利用するためには、データ処理や解析のための数学および各種関数変換の適用方法を理解することが必要である。この演習では具体的に環境情報データを処理、解析するための数学、各種関数変換を利用するための方法を学修し、得られた結果について考察する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法   | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標   | 数理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習   | 日常から外界の自然現象について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 数学・演習、環境情報数学、物理学・演習・実験、環境物理学・実験を履修することが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. フーリエ級数 (1)   2. フーリエ級数 (2)   3. フーリエ級数 (3)   4. フーリエ変換 (1)   5. フーリエ変換 (2)   6. フーリエ変換 (3)   7. 常微分方程式 (1)   8. 常微分方程式 (2)   9. 常微分方程式 (3)   10. 偏微分方程式 (1)   11. 偏微分方程式 (2)   12. 偏微分方程式 (3)   13. 変分法 (1)   14. 変分法 (2)   15. 変分法 (3) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60063001 |
| 科目名        | バイオ環境デザイン原論   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of sustainable design  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | デザインとは、モノのカたちづくりを介して、生活様式を構想力をもって変える行為。そして、諸々の関係を調整する行為である。人類生存の基盤である水とみどりと土地を、自然の摂理である共生と循環の原理に即していかに健全に維持し、そのうえにいかになたなスタイルの産業と暮らしをうちたてるか。豊かな感性と創造的発想をもってこの「生命地域」をデザインすることにかかわるところの、考え方・方向性と構図的枠組み(バイオ・リージョナリズム) および手法・技法について講述する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 北尾邦伸著『森林社会デザイン学序説 (第3版)』J-F I C社 2,500円 [[「自然保護思想」と併用]  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 植田和弘他著『持続可能な地域社会のデザイン -生存とアメニティの公共空間-』有斐閣、深澤直人著『デザインの輪郭』TOTO出版、河北秀也著『デザイン原論』新曜社   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況等による平常点 (20%) 授業中のミニレポート (20%) 期末課題レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標       | バイオ環境・共生社会を具体的にデザインするための根本的で基礎的な発想・構図とその技法への理解。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 世の中、ものごとに広く関心を寄せ、常に知的好奇心に満ちた生活をしてください。本をじっくり読んでください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロ：状況 -まなざし (知・認識) と情意を統一した“かたち”への希求   2. デザインとはなにか -「かた・ち」をつくる (輪郭と張り、配置・関係・襲)、構想と設計、つくり   3. デザインの発生 -イタリヤ・ルネサンス、デッサンと意図   4. デザイン史 (意匠性と企画) -とくにウィリアム・モリスのアーツ・アンド・クラフツ運動について   5. 美について -美・美学・芸術、芸術美と自然美、テイスト (味あい) としての全体性、もののあはれ・うつろい   6. 造園 -代償風景をつくる、フランス式幾何学庭園と日本庭園(1)   7. 自然のとり込み (引きよせ) 方 -借景と遣り水、日本庭園(2)、「花鳥風月」というソフトウェアによる遊学 (松岡正剛)   8. これからの都市のかたち -田園都市構想、京都という“都市”、コンパクトシティー、日本のふるさと原型と都市創造   9. 要素と構成 -みどり・水・土・太陽エネルギーと共生・循環・アメニティ   10. 原生自然の保存のための制度設計と空間設計 -国立公園、国連 MAB 計画   11. 「バイオ環境・共生社会」の生きられる景観・景域のデザイン   ...ヨーロッパの発想と事業化 その(1) 河川の再自然化   12. 同上 その(2) ビオトープと建築生物学   13. 同上 その(3) 農林漁業のルネサンス   14. 森のゼロ・エミッション型循環社会の建築 そのグランドデザイン   15. バイオ環境・共生社会への政策デザイン -生命地域主義、市民社会・コモンズ・ガバナンス    (※担当者が適宜変更することがある) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60064001 |
| 科目名        | 環境汚染物質動態論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Evolution of Contaminants in the Environment   |       |           |
| 担当者名       | 古武家 善成   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会は多くの合成化学物質の恩恵を受け私たちの生活は化学物質で溢れている。しかし、合成化学物質の多くは何らかの有害性を有するため、その健康影響や環境影響が強く懸念されている。また、重金属類は日本の公害病の主要な原因の一つとなり、今なお健康影響を及ぼしている。本講義では、これら環境汚染物質について、汚染状況・環境動態・毒性・リスク等に関する基礎を学ぶ。東日本大震災による福島第一原発事故の環境影響は計り知れないことから、原発の原理と事故に関する講義を環境科学特論として加える。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「環境科学入門：地球と人類の未来のために」川合真一郎，張野宏也 山本義和，化学同人 (2011)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。  |       |           |
| 評価方法       | 課題に対するレポート提出で評価する。まとめ小テストの合格が必須。   |       |           |
| 到達目標       | 日本の環境問題の歴史や現状を把握するとともに、重金属や合成化学物質の汚染状況・環境動態・毒性・リスクに関する基礎知識を習得する。 環境ディベートを通して、自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。  |       |           |
| 準備学習       | 環境関連の日々のニュースに目を通すこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 環境問題の解決には、暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし、発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。小テストとレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) ガイダンスおよび「環境科学序論 1」日本の環境問題の歴史 2) 「環境科学序論 2」地域環境問題 3) 「環境科学序論 3」地球環境問題 4) 「環境科学特論」原子力発電の原理と事故 5) 「重金属汚染とその動態」イタイイタイ病・ヒ素中毒・水俣病 6) 「化学物質汚染とその動態 1」ダイオキシン・PCB (1)  7) 「化学物質汚染とその動態 2」ダイオキシン・PCB (2)  8) 「化学物質汚染とその動態 3」環境ホルモン 9) 環境ディベート 1 10) 環境ディベート 2 11) 「汚染物質の毒性と環境リスク」毒性の発現機構とリスク評価 12) 「汚染物質の管理と監視」管理体制と環境モニタリング 13) 「身近な環境問題 1」洗剤による環境汚染 14) 「身近な環境問題 2」食品添加物を考える 15) まとめと小テスト |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60065001 |
| 科目名  | 保全生態学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Conservation Ecology  |       |           |
| 担当者名   | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 保全生態学は、病んだ地球の生物多様性の診断と治療を担うことを目的とする学問であり、その研究対象、手段、実践の方策などは、生態学の領域に留まらず、社会科学をも含めた学際的な学問分野である。本科目では、生態系保全を考える上で必要な、種や個体群に関する生態学的な基礎知識を習得すると共に、生態系の破壊や生物多様性の喪失を生む諸要因に対する理解を深める。また、生態系保全に向けた取り組みの現状と課題について学び、生態系保全の意義について、学際的・分野横断的な視点からの議論を試みる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「保全生態学入門」 文一総合出版 「保全生物学のすすめ」 文一総合出版 「生態系を蘇らせる」 NHKブックス  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点と、期末試験により評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 何のため、誰のために生態系を保全するのか、受講生一人一人が自分自身の問題として捉える視点を磨き、自分なりの考えに基づき生態系保全の意義を論ずる力を習得する。  |       |           |
| 準備学習   | 参考文献や新聞などから、生態系保全の現状と課題に対する分野横断的・学際的な情報を収集しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 ガイダンス：保全生態学の目指すもの 2 生態系における種の機能 3 個体群生態学とメタ個体群 4 個体群維持に必要な「数」と「面積」 5 環境変化の影響：生息場所の分断と孤立化 6 生物学的侵入とその影響：猛威を振るう外来種 7 生物多様性保全のための管理と計画 8 アユモドキの保全と水田農業 1 9 アユモドキの保全と水田農業 2 10 個体群の復元と野生復帰：蘇るコウノトリ 11 里山の再生：管理のための管理を超えて 12 消滅する熱帯林：生態系保全と地域住民の生活 13 ミレニアム生態系評価：未来を占う4つのシナリオ 14 生態系の保全：誰のため、何のため？ 15 まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60066001 |
| 科目名        | 食品安全学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Food Safety II   |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 食品は人の生命を維持するために必要不可欠であり、その安全性について考慮することが非常に重要である。 本講義では残留農薬、環境汚染物質、食品添加物等の作用と安全性についての解説を行い、これらの化学物質による健康への影響についての理解を深める。また、食糧の確保や安全の面から注目されている遺伝子組換え食品や BSE について解説し、食品の安全性を確保するための法的規制や方策についても触れる。 さらに、従来のように食品成分だけに注目した安全性を考えるのではなく、自然環境、社会制度、経済構造、国際的な食糧需給など、幅広い分野を視野に入れて食の安全性を考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅家祐輔編『食安全の科学』三共出版 2,940 円  山口 英昌著『食環境科学入門』ミネルヴァ書房 3,675 円  |       |           |
| 教材（その他）    | 授業中にプリント配布する。 京学ナビおよび R ドライブによりファイルを提供する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(20%), レポート(80%)  |       |           |
| 到達目標       | 食品の安全性について、科学的根拠に基づき幅広い観点から評価出来るように、安全評価法や社会制度などの食品安全に関連する基本的知識を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から食の安全性を意識し、新聞等のメディアや自分自身が摂取している食品成分に関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には毎回出席し、意欲的に取り組んでほしい。 感情やイメージではなく科学的根拠に基づいて食品の安全性を考える視野を養ってほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめに - 食品の安全性とは何か -  2.食品安全の基準 - わが国の食品安全行政の構図と関連法規 -  3.食品の安全評価法 - 食品成分の分析法とその安全評価システム -  4.生体異物の体内動態 - 農薬や環境汚染物質等の毒性と代謝 -  5.食品添加物の用途 - 食品添加物の定義、種類、構造ならびに効能 -  6.食品添加物の安全性 - 食品添加物の安全基準と使用規制の現状 -  7.農薬の種類と安全性 - 農薬の種類、構造、効能、安全基準および使用リスク -  8.環境汚染物質による食品汚染 - PCB, ダイオキシン等による食品汚染の現状とそのリスク -  9.遺伝子組換え作物の安全性 - 遺伝子組換え作物の導入効果とそのリスク -  10.食中毒とその対策 - 食中毒の発生メカニズムと予防のための衛生管理システム -  11.BSE 汚染とその対策 - BSE 対策の歴史と現状におけるリスク -  12.放射線照射食品の安全性 - 放射線照射食品の長所とリスク -  13.健康食品の安全性 - 健康食品の効能とリスクおよび法的規制 -  14.食品成分表示の現状と問題点 - 食品の規格、表示規制とトレーサビリティシステム -  15.食のグローバル化とハーモニゼーション - 国際化時代におけるわが国の食の安全確保のための課題と方向性 - |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60067A01 |
| 科目名   | 測量学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Surveying  |       |           |
| 担当者名  | 鈴木 真理子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 測量学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では3次元空間における基本的な測量を、測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定方法を考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 浅野 繁喜 他 著『最新測量入門』実教出版 2, 940円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 細川 吉晴 他 著『よくわかる測量実習』コロナ社 2, 940円 : 測量学実習のテキストとして使用   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 小テスト（毎次の演習問題）100%  |       |           |
| 到達目標  | 測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成員力、目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。                          |       |           |
| 準備学習  | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 数学、数学演習、環境情報数学、環境情報数学演習、物理学、図学および製図実習を履修しておくことと、測量学実習Ⅰを並行履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 測量を学ぶにあたって 2. 面積及び体積 3. 距離測量（1） 4. 距離測量（2） 5. 距離測量（3） 6. 平板測量（1） 7. 平板測量（2） 8. 水準測量（1） 9. 水準測量（2） 10. 水準測量（3） 11. 測量の誤差 12. 角測量（1） 13. 角測量（2） 14. 角測量（3） 15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60067B01 |
| 科目名  | 測量学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Surveying II   |       |           |
| 担当者名   | 鈴木 真理子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 測量学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では3次元空間における基本的な測量を、測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定方法を考察する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 浅野 繁喜 他 著『最新測量入門』実教出版 2, 940円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 細川 吉晴 他 著『よくわかる測量実習』コロナ社 2, 940円 : 測量学実習のテキストとして使用   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 小テスト (毎次の演習問題) 100%  |       |           |
| 到達目標   | 測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力, 目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。                          |       |           |
| 準備学習   | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学, 数学演習, 環境情報数学, 環境情報数学演習, 物理学, 測量学 I および測量学実習 I を履修しておくことと, 測量学実習 II を並行履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. トラバース測量 (1)   2. トラバース測量 (2)   3. トラバース測量 (3)   4. トラバース測量 (4)   5. 地形測量 (1)   6. 地形測量 (2)   7. 地形測量 (3)   8. 基準点測量 (1)   9. 基準点測量 (2)   10. 基準点測量 (3)   11. 基準点測量 (4)   12. 路線測量 (1)   13. 路線測量 (2)   14. 路線測量 (3)   15. まとめ |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60068A01 |
| 科目名        | 測量学実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Surveying   |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 真理子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 測量学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。測量学実習では定量的に測定されたデータから3次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって、この実習では3次元空間における基本的な測量を、測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定を通して行い、得られたデータの信頼性についても考察する。           |       |           |
| 教材（テキスト）   | 細川 吉晴 他 著『よくわかる測量実習』コロナ社 2, 940円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 後藤 憲一 他 編『詳解 物理・応用 数学演習』共立出版 3, 570円  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、数学演習、環境情報数学、環境情報数学演習、物理学および製図実習を履修しておくことと、測量学を並行履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 測量実習の基礎（1） 2. 測量実習の基礎（2） 3. 距離測量（1） 4. 距離測量（2） 5. 平板測量（1） 6. 平板測量（2） 7. 平板測量（3） 8. 平板測量（4） 9. 平板測量（5） 10. 水準測量（1） 11. 水準測量（2） 12. 水準測量（3） 13. 角測量（1） 14. 角測量（2） 15. 角測量（3） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60068B01 |
| 科目名        | 測量学実習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Surveying II   |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 真理子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 測量学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。測量学実習では定量的に測定されたデータから3次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって、この実習では3次元空間における基本的な測量を、測量学の構成原理にもとづいて具体的な地形の測定を通して行い、得られたデータの信頼性についても考察する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 細川 吉晴 他 著『よくわかる測量実習』コロナ社 2, 940円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 後藤 憲一 他 編『詳解 物理・応用 数学演習』共立出版 3, 570円   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | レポート (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 測量学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学, 数学演習, 環境情報数学, 環境情報数学演習, 物理学および製図実習・測量学実習 I を履修しておくことと, 測量学を並行履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. トラバース測量 (1)   2. トラバース測量 (2)   3. トラバース測量 (3)   4. 地形測量 (1)   5. 地形測量 (2)   6. 地形測量 (3)   7. 三角測量 (1)   8. 三角測量 (2)   9. 三角測量 (3)   10. 三辺測量 (1)   11. 三辺測量 (2)   12. 三辺測量 (3)   13. 路線測量 (1)   14. 路線測量 (2)   15. 路線測量 (3) |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60069001 |
| 科目名        | 製図実習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Drafting  |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 真理子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 図学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。製図実習では定量的に作図された図面から3次元の空間概念を具体的に認識することができる。したがって、この実習では3次元空間における基本的な製図を、図学の構成原理にもとづいて具体的な立体の作図を通して行い、得られた図面の3次元的イメージについても考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 磯田 浩／鈴木 賢次郎 共著『工学基礎 図学と製図』サイエンス社 1,554円 磯田 浩／鈴木 賢次郎 共著『演習 図学と製図』サイエンス社 924円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 後藤 憲一 他 編『詳解 物理・応用 数学演習』共立出版 3,570円   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 図学の基本的原理にもとづいた製図の具体的な構成力、目的に応じた適切な作図およびそれらの3次元的イメージについて考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、数学演習、環境情報数学および物理学を履修しておくことと、環境情報数学演習・図学を並履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 製図実習の基礎・平面図形 2. 主投影図 3. モデルの制作 4. 副投影図 5. 直線実長視図 6. 直線点視図 7. 平面直線視図 8. 平面実形視図 9. 平面実形視図の応用問題 10. 切断面 11. 相貫 12. モデルの制作 13. 等測投影図 14. 等測投影図 15. 透視投影図             |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60072001 |
| 科目名   | 生態学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Ecology   |       |           |
| 担当者名  | 大西 信弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 水圏の生態系は一次生産者がプランクトン中心であったり、食物連鎖が多くの段階をへるなど、特徴的な性質がみられる。魚類を中心に、その生態の特徴を紹介していく。  後半では、人為的な環境である水田が独自の生態系を生み出している例や、水産資源を巡る人の活動も紹介していく。これらの事例から、水圏の生態系と周辺の生態系の関連についても理解を深めていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）  | ベゴン・ハーパー・タウンゼント「生態学 個体・個体群・群集の科学」京都大学学術出版会  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜紹介する  |       |           |
| 評価方法  | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する  |       |           |
| 到達目標  | 魚類を中心に水生生物の生態を紹介し、水圏の生態の特徴を概観することを目的とする。  |       |           |
| 準備学習  | これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 観測事実に基づいて、論理的な思考を柔軟に展開して生命現象を理解することを訓練してもらいたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 水圏の特徴   2 魚類の生態調査方法   3 魚類の生態1   4 魚類の生態2   5 魚類の生態3   6 魚類の生態4   7 魚類の配偶システム   8 亀岡の水生生物   9 生物の人為的な移動の問題   10 サンゴ礁   11 水産資源量の変動   12 水圏の一次生産   13 水圏の生食食物連鎖と有機物の動態   14 水産資源と人間活動1   15 水産資源と人間活動2 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60073001 |
| 科目名        | 水環境化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |  |       |           |
| 担当者名       | 辻村 茂男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 河川・湖沼・内海域における水質汚濁メカニズムや物質循環について理解を深めるために、水質を評価するための様々な指標について講述する。琵琶湖・淀川・大阪湾など身近な水環境を事例として多く取り上げ、水圏における今後のバイオ環境のあり方について考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 浦瀬太郎著 「明解水質環境学」 プレアデス出版 武田育郎著 「よくわかる水環境と水質」 オーム社 その他、講義の中で適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、受講態度等による平常点(30%) 定期テスト(70%)   |       |           |
| 到達目標       | 水圏における今後のバイオ環境のあり方について深く考察できる実力をつける。   |       |           |
| 準備学習       | 水環境について幅広く視界をめぐらせ、日常の中で、感覚を鋭敏に研ぎ澄ませておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義内容に関するいろんな角度からのテーマについて、ミニレポートを作成し、提出していただくので、気を抜くことなく取り組んでいただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 水環境と水質指標  2. 物理学的指標  3. 化学的指標 1  4. 化学的指標 2  5. 生物学的指標 1  6. 生物学的指標 2  7. 水質の法的規制  8. 生活排水対策と排水処理  9. 面源汚濁対策  10. 浄水処理と水道水質  11. 河川の水環境  12. 湖沼の水環境 1  13. 湖沼の水環境 2  14. 内海域の水環境  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60074001 |
| 科目名   | 水環境化学実験  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   |  |       |           |
| 担当者名  | 辻村 茂男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 対象とするフィールド（河川、湖沼、海域）の環境要素（物質系、生態系を含めて）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術の習得をめざす。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書： 実験指導書（環境水質実験ノート）を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 各実験レポートを総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 水環境の様々な環境要素（物質系、生態系を含めて）の現状を、定量的に把握するための高度な分析技術の習得する。                |       |           |
| 準備学習  | 原則的には「環境水質学」の単位を修得していることが望ましい。                                       |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| すべての実験に積極的に取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1) 実験オリエンテーション 2) 化学実験の基礎講習 3) 淡水プランクトンの顕微鏡観察  4) クロロフィル a の定量 5) COD（化学的酸素要求量）の定量 6) 河川での流量測定 7) 一般環境項目の水質測定と採水 8) 溶存酸素濃度の定量 9)～10) 栄養塩類のアンモニア態窒素、リン酸態リンの定量 11) 凝集沈殿と浮遊物質の測定 12) キレート滴定によるカルシウムイオン、マグネシウムイオンの濃度分析、硬度の計算 13) 原子吸光分析によるカルシウムイオンの濃度分析、残留塩素の分析 14) 陰イオン界面活性剤の分析 15) 環境水質実験のまとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60075001 |
| 科目名        | 都市水概論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Urban Water   |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一  | 旧科目名称 | 水系管理計画学   |
| 講義概要       | 本講義では私たちに最も身近な水について考える。水とはどのような特性があるのか、よく知っているようで知らない水についてまず学習する。その後、流域全体を対象にして、上流から下流に向けて、森林、里山・水田、河川、湖沼、都市、沿岸域、地下水における水管理の現状、課題について学ぶ。河川などの自然の水の流れ以外に、人工的なダム、堰や下水道などの役割が近年注目されていることから、自然と人為との双方の視点を取りいれて学ぶ。その後、流域における健全な水循環を形成していくための課題や施策、その効果の判定方法など総合的な水の管理計画に発展させる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 嘉田由紀子編「水をめぐると自然 日本と世界の現場から」有斐閣  山崎農業研究所編「21 世紀水危機農からの発想」農文協  土木学会関西支部編「川のなんでも小事典」講談社 BlueBacks  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など  |       |           |
| 評価方法       | 出席率・学ぶ意欲・確認小テスト・フィールドワーク参加・関連ビデオの視聴参加（50%）、試験（50%）による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 都市を中心とした流域全体の水管理の現状と課題、今後の方策について理解する  |       |           |
| 準備学習       | 水の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、関心を高めておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 2 年次春学期の都市環境論をあわせて受講することが望ましい。毎回、講義内容の確認小テストを時間の終わりに実施し、学生の講義への参加の状況を見る。小テストはその日の講義で、わかったこととわからなかったことを中心に感想を記入する形式であるので、積極的な講義への参加を期待する。また、フィールドワークや関連ビデオを何度か実施する予定であるので、講義以外のメニューに関しても積極的な参加を期待する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要  2. 水の特性 1  3. 水の特性 2  4. 森林の水文特性  5. 水田・里山の水文特性 6. 河川の水管理 1  7. 河川の水管理 2  8. 湖沼の水管理 1 9. 湖沼の水管理 2  10. 都市の水管理 1  11. 都市の水管理 2  12. 沿岸域の水管理 13. 地下水の水管理  14. 洪水対策 15. 講義のまとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60076001 |
| 科目名        | 流域環境デザイン論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Watershed Design   |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>1. 豊かな流域環境をとりもどすためのリ・デザインをめざして、自然へのまなざし（自然認識のとらえ直し）、エコシステムマネジメントおよび空間計画（計画制度・枠組みの新地平、協治）、新たな素材と技法を伴った事業的展開（河川の生態工学）について、代表的な参考文献を参照しながら講義を進める。[森本]  </p> <p>2. 琵琶湖・淀川水系は、近畿 1700 万人の飲み水の水源である。そこで、この水系を水質環境および生態系保全の面から流域環境をリ・デザインするモデルとして取り上げ、この水系の今後の新たなあり方を検討する。[辻村]</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、ミニレポート、講義終了時のテストなどの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 流域環境をとりもどすためのリ・デザインをめざして、現在の考え方を学ぶとともに、琵琶湖・淀川水系を現実のひとつのモデルとして認識し、理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 流域環境に関するさまざまな現象について、日常の中で幅広くアンテナをひろげておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回、講義の終了まえに、講義内容の総括、あるいは感想、提言を求めるので、これにも真剣に取り組むように。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) 流域思考-自然へのまなざし- その1   2) 流域思考-自然へのまなざし- その2   (岸由二『自然へのまなざし-ナチュラルリストたちの大地』、紀伊国屋書店)   3) エコシステムマネジメント-アメリカではじまっている「流域管理」- その1   4) エコシステムマネジメント-アメリカではじまっている「流域管理」- その2   (柿澤宏昭『エコシステムマネジメント』、築地書店)   5) スイスにみる空間計画   (財.農村開発企画委員会編『スイスの空間計画』、農林統計協会)   6) ヨーロッパの河川再自然化事業   7) 水辺域の生態工学   (砂防学会編『水辺域ポイントブック-これからの管理と保全-』、古今書院)   8)~9) 淀川に合流する三川、宇治川水系、木津川水系、桂川水系の流域環境の現状   10)~12) 琵琶湖総合開発事業から琵琶湖総合保全整備計画へ   13) 淀川水系での「河川整備計画」と淀川水系流域委員会   14) 琵琶湖の水環境と地球気候変動の影響   15) まとめ    (※担当者が適宜変更することがある)</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | J60077001 |     |       |        |
| 科目名                                     | ランドスケープエコロジー  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Landscape Ecology and Planning  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>人間と自然の関係の総合化された姿を景観として実体的にとらえ、多様にその構造の分析パターンを示す。また、「比較」や比喩という手法で多元的に位置どりを与え、好ましいバイオ環境・共生社会のかたちや立ち現れ方 (elicit) を流域単位でデザインするための構想力を高めることをめざした講義を行う。 さまざまな水の流れを伴って川は水系をつくり、水系は大地のひろがりとともに流域をつくりだす。川は合わさってときに大河となり、河口で海に注ぐ。大河河口は文明を発生させ、育んだ。人類はこれまで人為を加えて流域の姿・かたちを造り変えてきたが、それらは自然と一体となった景観として現れている。また、その背後には、見えない流域ランドスケープとしての生態文化複合の履歴が刻まれ、横たわっている。山の辺景観、水辺景観、海辺景観を足がかりにして視覚的構造分析を行い、また、空間構造の比較検討を行って、「景観の衰退」や「生きられる景観 (好ましい棲息空間)」を論じ、これらが活き活きとした川の復権や豊かな流域社会を構想する際の基礎学となることを示す。</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               |   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | <p>樋口忠彦著『景観の構造』技報堂出版、同『日本の景観-ふるさとの原型』春秋社、桑子敏雄著『風景のなかの環境哲学』東京大学出版会、嘉田由紀子著『水辺ぐらしの環境学-琵琶湖と世界の湖から-』昭和堂、中村良夫著『風景学入門』中公新書、中川理著『風景学-風景と景観をめぐる歴史と現在』共立出版</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | 適宜プリントを配布する。パワーポイントも時に使用する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 出席状況等による平常点 (20%) 授業中のミニレポート (20%) 期末課題レポート (60%)   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 好ましい生息域としての風景・景観像を自分なりに描けるようになってもらうこと。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | <p>なつかしい未来としての「ふるさと」、その風景・景観に強い関心をもってもらいたい。そのためにもよく学び (読書)、よく遊んで (現地への旅) ください。</p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>1. イントロダクション -風景・景観と流域、審美生・快適性・生活景・風景の創造 (誘出)   2. 景観法 (景観緑三法) および京都市眺望景観創生条例について   3. ランドスケープの視覚的構造   4. ランドスケープの空間的構造   5. 地形・感性による日本の「ふるさと」の原型 -樋口忠彦による7つの景観-   6. 生きられる風景を誘出する景観 -精神世界と交流する自然-   7. トポフィリア: 場所への愛 (イーファー・トウアン)   8. 生活世界の風景・景観 -水辺の風景を中心に-   9. 空間の履歴 -生きられる風景、景観の衰退・壊死する風景-   10. 空間の再編と流域景観デザイン   11. 流域景観の形成・変容にかかわるケース・スタディ   -琵琶湖・淀川流域・・・明治の文化-   12. 同 上   -長良川河口堰をめぐる・・・現代の 이슈-   13. オーギュスタン・ベルグの「通態性 (trannjective)、そしてアフォーダンス・生態心理学   14. 景観生態学、そして隈研吾監修『境界-世界を変える日本の空間操作術』   15. まとめ   (※担当者が適宜変更することがある)</p> |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |   |       |           |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60078001 |
| 科目名        | 治山治水論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Ecosystem approach to disaster risk reduction   |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近代日本での洪水と土砂の流れの制御技術を述べ、そのうえで、生きている川をあまりに分断し、自然の挙動・摂理からあまりにも人々を遠ざけた「治め方」の反省的検討と、新たな発想からの治山治水技術について述べる。すなわち、下記の「ポイント」で示したようにⅠ部では河川についての科学的な基礎知識を、Ⅱ部では近代の治山治水の技術学を、さらにⅢ部ではバイオ環境・共生社会をデザインすることとも関連しての、「流域」の時代に相応しい治山治水の発想とその技術的可能性について講述する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 吉川勝秀著『河川流域環境学 -21世紀の環境学』技報堂出版、太田岳彦監『地球環境時代の水と森』J-FIC、大熊孝著『[増補]洪水と治水の河川史』平凡社   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況等による平常点（20%） 授業中のミニレポート（20%） 定期テスト（60%）   |       |           |
| 到達目標       | 「河川環境」を意識した治山治水技術のパースペクティブの獲得。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 河をもって河を治める「しなやかな」技術に興味をもってください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>I. 「河川の科学」をめぐる基礎知識  1. 川の大きさと形状  2. 川がつくる地形と川の個性  3. 流水現象（水文学・水理学）  4. 洪水と渇水  II. 治山治水の技術  5. 流量の計測  6. 水害への備え、計画水位  7. 河川構造物の種類・機能・設計  8. ダムの役割と構造  9. 砂防工（砂防ダム）  10. 治山・砂防植栽  III. 「流域圏・共生」の時代の治山治水  11. 「河川環境」と治水・利水  12. 近代治山治水技術の思想および工法の見直し  13. 琵琶湖総合開発の歴史的評価  14. 流域管理と合意形成  15. まとめ  （※担当者が適宜変更することがある）</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60079001 |
| 科目名  | エコミュージアム構想学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Ecomuseum Design  |       |           |
| 担当者名   | 大西 信弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>エコミュージアムは、地域の暮らしの知恵が地域の環境の中で息づく博物館です。従来型の博物館や知識に対する評価では、地域の暮らしの知恵には価値を見いだせませんでした。エコミュージアムが大切にするのは、こうした日常的な暮らしの知恵です。また、日常的な出来事を建物の中に保存することは難しいので、必然的に人が暮らしている日常そのものを活用して、住民が主体となる生活空間そのものが従来の博物館と同等の価値を持つという考え方です。  この視点は、バイオ環境デザインにおいて欠くことができません。なぜなら、地域の人の暮らしを抜きにしたバイオ環境のデザインはあり得ないからです。  本講義では、実際の国内でのエコミュージアム活動を紹介し、関連する農村開発やエコツーリズムなどと比較することで、エコミュージアムの特徴をさぐり、どのような状況でエコミュージアム活動が生きるのかを探ります。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 星山幸男「自然との共生とまちづくり」北樹出版   大原一興「エコミュージアムへの旅」鹿島出版会   小松光一編「エコミュージアム」家の光協会  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜紹介する  |       |           |
| 評価方法   | 講義内でのレポート発表、レポート提出の双方を勘案する  |       |           |
| 到達目標   | 人の暮らしについて、さまざまな視点から見つめ直して、人の暮らしを重視した地域おこしに必要な視点を理解すること。   |       |           |
| 準備学習   | 農業など、人の生業（なりわい）に関連する講義を受講しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 地域の人の暮らしに関心のある学生の参加を待っています。既存の議論や価値観にとらわれずに、人の暮らしについて何が大事なことなのかをよく考えて、自由な発想で各自のエコミュージアム構想を展開してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 エコミュージアムとはなにか   2 日本におけるエコミュージアムの現状   3 国内の事例紹介 1   4 国内の事例紹介 2   5 国内の事例紹介 3   6 国内の事例紹介 4   7 農村開発との比較   8 エコツーリズムとの比較   9 ナショナルトラスト運動との比較   10 環境保全活動との比較   11 エコミュージアム構想 1   12 エコミュージアム構想 2   13 エコミュージアム構想 3   14 エコミュージアム構想 4   15 エコミュージアムのゆくさき これから何をを目指すのか |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60080001 |
| 科目名        | 流域環境デザイン演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Environmental Waters hed Design  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 1. 下記に示した各々の事項について、学生参加・応答および文献解読といったかたちで演習を行う。 [森本]   2. 琵琶湖・淀川水系での他項目にわたる水質環境の指標物質の実測データを用いて、水質環境の現状および流下特性を把握し、今後の琵琶湖・淀川水系の流域環境の保全のあり方を検討する。[辻村]  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、ミニレポート、講義終了時のテストなどの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 自然と共生した流域圏・都市の再生を実現に関して、また琵琶湖・淀川水系の流域環境の保全のあり方について認識を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 流域環境に関するさまざまな問題について、常に感受性を磨くよう努めておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業には逃げずに取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) トピックス： その1 ハツ場ダム中止問題をめぐって 2) トピックス： その2 鞆の浦景観の地裁判決をめぐって 3) 国土のランドデザインとマスタープラン： 時代が要求している課題 4) イメージおよび構想力： 「生きられる景観」をめぐる2葉の対比的写真 5) 発想法： 京都学園大学のキャンパス緑化を発想する 6) 流域管理と合意形成： 「滋賀県造林公社と琵琶湖総合開発」の自省的検討 7) 政策デザイン： 亀岡市の環境行政と市民自治 8)～9) 淀川水系三川（桂川水系、宇治川水系、木津川水系）での、水質環境の指標物質類の実測データをグラフ化 10)～11) 淀川への汚染指標物質の負荷量計算と各指標物質間の関係性の検討 12)～13) 琵琶湖への栄養塩類負荷量の実測データをグラフ化 14) 各栄養塩類の負荷量計算と琵琶湖水質の関係性の検討 15) まとめ [森本・辻村]  （※担当者が適宜変更することがある） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012                                    | 授業コード | J60081001 |
| 科目名  | 農環境論                                    | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Agricultural Environments               |       |           |
| 担当者名   | 矢澤 進                                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 農業は人間が生存するための基盤環境として重要な役割を担っていることを理解する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しないが、講義の中で順次紹介する。                   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 藤本 文弘 著 「生物多様性と農業」 農文協                  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配布する。                                |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）およびレポート（70%）で評価する。              |       |           |
| 到達目標   | 日々の生活環境と農業との関わりを理解する。                   |       |           |
| 準備学習   | 農業に関する書物を一冊でよいから読んでおくこと。                |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 日々の生活の中で、「生き物」に対する観察眼を養うように心がけてほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. はじめに 2. わが国の農業生産の実態。(水田) 3. わが国の農業生産の実態。(畑地) 4. 作物の誕生と自然環境。 5. 作物の誕生－人と環境。 6. 農耕の起源と栽培植物。 7. 作物の潜在能力を引き出すための環境。 8. 農業のもつ多面的機能。 9. 農業と社会環境。 10. 農業生産の環境への負荷。 11. 人とその他の生き物が生きるための基盤環境と農業。 12. 農業と生物多様性。 13. 農業の多様性について。 14. わが国の農業生産の今後。 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60082001 |
| 科目名   | 野生動物保全学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Wildlife Management   |       |           |
| 担当者名  | 高柳 敦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 野生動物の保全には、絶滅しないようにして生物の多様性を保つことと人間に大きな被害をもたらさないようにすることの2つの目標があり、その2つの目標をいかにバランスよく実現するかが重要な課題である。本講義では、シカやクマなどの大型野生動物による農林業被害の問題を中心に、この課題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。特に、被害問題の現状について理解を深めると共に、被害問題の解決には、野生動物の生態や被害の発生プロセス、人間社会の対応の在り方など、さまざまな要素が関係していることについて理解する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | （適切な教材がないので、特に指定していません。以下に、参考図書の中でも特に講義内容に近いものを上げておきます。） 「森林の再発見」（p285-316：第8章「人間と野生動物との新たな関係」）  大田誠一編、京都大学学術出版会、2007（4,410円） 「ワイルドライフ・マネジメント入門」三浦慎吾、岩波書店、2008（1,260円）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 被害問題に関する文献として  「動物たちの反乱」河合 雅雄・林 良博編著、PHPサイエンスワールド新書、2009  「森林環境〈2007〉動物反乱と森の崩壊」森林環境研究会、森林文化協会、2007 生物の保全に関する文献として  「生物保全の生態学」鷲谷いづみ、共立出版、1999  |       |           |
| 教材（その他）   | 教材は、毎回講義の時に配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 期末の試験と1回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は8対2～6対4である。講義では、毎回、簡単な質問を書いた出席票を渡し、それに意見を書いて提出してもらう。評価に当たっては出席状況も考慮する。  |       |           |
| 到達目標  | 生物多様性の保全において重要な事項を理解すること。ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの生態とその被害について理解すること。野生動物の保護管理を総合的に行うとはどういうことかを理解すること。   |       |           |
| 準備学習  | 特に学習準備は必要ないが、身近にいないしは興味のある野生動物について、その生態や保全についての疑問点を列記し、野生動物の保全において、何が問題なのかについて自分なりのイメージや疑問点をもっておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 野生動物の保全の問題は、テレビや新聞の中だけでなく、必ず身近なところにも見られる問題である。知識として何かを学ぶというより、自分の身近な問題を解決するという能動的な姿勢で講義に臨んで欲しい。講義では、指名して知識や意見などを尋ねるので、必ず答えるように心がけて欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 野生動物を保全するとはどういうことか。野生動物保全学へのイントロダクション。 第2回 生物多様性とは何か、なぜ生物多様性の保全が重要か。生物多様性を理解する。 第3回 日本の野生動物相はどういう特徴があるのか。日本の野生動物についての基礎。 第4回 外来生物とはどんな生物でなぜ問題か。外来生物問題の解説。 第5回 レポート計画発表会 第6回 カモシカなど希少生物の保全の抱える課題について解説。 第7回 カモシカによる農林業被害問題とは何か。被害問題の背景などについて解説。 第8回 保護地域による野生動物の保全。保護地域による保全の課題について解説。 第9回 ニホンジカ被害問題。ニホンジカの生態とその被害について解説。 第10回 個体数と被害問題。個体数の増加や捕殺による調整の在り方について解説。 第11回 クマ類の生態と保全。ツキノワグマを中心にクマ類の生態と保全について解説。 第12回 ツキノワグマによる被害と防除。林業被害や出沒被害について解説。 第13回 京都府南丹市芦生地域における野生動物保護管理について解説。 第14回 野生動物のもたらす被害とその防除についての解説。 第15回 野生動物保護管理と社会。総合的 management の考え方と社会に根ざした保全について解説。  以上は進行の目安であり、受講者の理解や興味などによって変更することもある。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60083001 |
| 科目名        | 農・森林環境デザイン論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Design of Regional Ecosystem and Land Use   |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>かつての日本の農業は後背地の森林や河川と有機的なつながりのもとで営まれていた。しかし、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至った。そこで、森林から海までの物質の移動、水の流れを基にして、望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について、国内外の学術的・実践的事例に学び、日本の将来の森林像・農業像を考察する。 里山学や有機農業論を並行して受講することが望ましい。 </p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 講義時に随時配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 岩坪 五郎 著 「森林生態学」 文永堂出版  佐藤 洋一郎 監 「焼畑の環境学」 思文閣出版 中尾 佐助 著 「栽培植物と農耕の起源」 岩波新書 中静 透 著 「森のスケッチ」 東海大学出版   |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法       | 時間ごとの小レポートの達成度と最終レポートで評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。  |       |           |
| 準備学習       | 農学関連、森林生態学関連の資料に目を通す。量は多くなくて良い。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>専門書を読むに堪える能力をみにつけること。 「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 概論（矢澤・鈴木） 2. 森林の組成と環境要因（鈴木） 3. 植生遷移と森林のダイナミクス（鈴木） 4. 樹木の生活史戦略（鈴木） 5. 森林生態系の物質循環（鈴木） 6. 二次林の成り立ちと土地利用の履歴（鈴木） 7. 東南アジアの焼畑（鈴木） 8. 日本の焼畑（鈴木） 9. 人間と森林の付き合い方の変遷（鈴木） 10. 生き物にとっての望ましい農業環境（矢澤） 11. 農業の環境を視野に入れたリデザイン [1]（矢澤） 12. 農業の環境を視野に入れたリデザイン [2]（矢澤） 13. フィールドワーク（亀岡市 矢澤） 14. 亀岡市の農業環境を視野に入れたリデザイン（矢澤） 15. 総括（矢澤・鈴木）</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60084001 |
| 科目名        | 森林環境・林業論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Forest Environment and Forestry   |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 林業の再生・再興を図ることをめざして、立ち帰るべき基礎となる森林生態学と、継承すべき林業技術学・林業生産学について講述する。さらに、流域圏での林業の復権を構想する新たな森林計画学（森林環境・林業のデザイン学）を展望する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 日本生態学会編『森の不思議を解き明かす』文一総合出版  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 国連ミレニアムアセスメント著『生態系サービスと人類の将来』文一総合出版、種生物学会編『森林の生態学』文一総合出版、菊沢喜八郎・甲山隆司編『森の自然史』北海道大学図書刊行会、種生物学会編『森の分子生態学』文一総合出版、百瀬邦泰著『熱帯雨林を観る』講談社選書メチエ、井上民二著『熱帯雨林の生態学』八坂書房、半田良一編著『林政学』文永堂、佐々木恵彦他編著『森林科学』文永堂   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況等による平常点（40％） 定期テスト（期末課題レポート）60％   |       |           |
| 到達目標       | 森林・林業をめぐる循環と共生、ストック（生態系、林木蓄積）とフロー（生態系サービス、林木成長の収穫）、伐採と更新、時間と空間の秩序づけ等々における深さと豊かさについての理解をめざす。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | しっかりと学んで下さい。聴く耳と見る目をもって。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 日本の森林と林業の変遷   2. 森林の遷移と攪乱   3. 人工林の林相転換：育成複層林施業   4. 熱帯林をとりまく環境   5. 熱帯の林業 1：択伐林業   6. 熱帯の林業 2：タウンヤ林業   7. 持続的な森林資源利用に向けて（以上、鈴木）   8. 林業史、木材利用の変遷   9. 伐採＝更新の林業類型（林業の作業種・作業法）   10. 林業森林空間の場所的・時間的秩序づけ   11. 森林林木の蓄積量と生長量の計測   12. 造林・育林技術、間伐技術、伐出技術   13. 森林・林業政策、森林計画制度   14. 流域林業の編成、流域のコモンズとしての森林・林業  （以上、森本）   15. まとめ（森本、鈴木）  （※担当者が適宜変更することがある） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60085001 |
| 科目名  | 里山学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | SATOYAMA Studies  |       |           |
| 担当者名   | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 里山とは何か、生態学、人類の文化、環境学、という様々な視点から、論理的且つ科学的に考察する。 言説に惑わされず、里山の本質（生態学的特性、歴史的位置づけなど）を現実に即して講ずる。今後の里山のあり方を考える材料を提供する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 田端英雄編「里山の自然」（保育社）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「里山学のすすめ」 「大文字山を歩こう」 「野山はコンビニ」 「ソテツは恩人」 「ドングリの謎-拾って、食べて、考えた」 「教えてゲッチョ先生!雑木林は不思議な世界」 など                          |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点、小レポート点、最終レポート点を総合評価する。 担当者ごとに課題が設定される。  |       |           |
| 到達目標   | 「里山保全のための里山保全」が有益なのか？言説にまどわされない知性を身につける。 里山とは何か、生態学、人類の文化、環境学、という様々な視点から、今後の里山生態系のあるべき姿を模索し、実践に結びつけるよう努める。      |       |           |
| 準備学習   | 里山という言葉の定義を下調べしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 農森林環境デザイン論、流域環境デザイン論、都市自然化デザイン論、をそれぞれ並行履修することが強く望まれる。 フィールドでの実体験と、それを裏付けていく作業を繰り返すこと。 文献や教科書を熟読すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 里山の歴史 2. 市民参加の里山保全 3. 環境教育のフィールドとしての里山、自然を楽しむ・身近な自然としての里山 4. 里山の利活用 5. 地域資源を生かす試み（以上、中川） 6. 植物生態学からみた里山の変遷 7. 里山林の植生遷移 8. 里山の生態系と生物多様性 9. 里山保全に向けた取り組み 10. 森林資源の持続的利用：里山と焼畑（以上、鈴木） 11. 日本の原風景としての里山（ランドスケープ論） 12. 環境倫理学と里山（環境倫理学のパラダイム・シフト） 13. 森林政策・資源政策・国土利用計画における里山 14. 里山保全にとってのcommons 15. 雑木林林業の復権（以上、森本）  （※担当者が適宜変更することがある） |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60086001  |
| 科目名  | 里山学実習  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Vocational Guidance I  |       |            |
| 担当者名   | 吉村 文彦  | 旧科目名称 | 里山学B、里山学II |
| 講義概要   | <p>かつての私たちの生活は里山の資源に依存していましたが、私たちは、高度経済成長期に、里山の資源に頼らない生活を選択しました。里山は、人が活用することによって成り立っていたのですから、利用されない木々が山をおおい茂りました。これが緑豊かな里山の実態です。  環境の激変に生活できなくなった生き物が、絶滅に追いやられています。アカマツもコナラも里山の重要な構成樹種ですが、センチュウやカビによる病気で枯れています。里山の生物の生息地がドンドン変質もしくは無くなり、景観上も生物多様性上も大問題となっています。  この里山を修復し保全する方法として、亀岡の特色を活かした回復が必要である。ここ亀岡は丹波まつたけの産地である。アカマツやマツタケの生活に適した山では、マツタケの生活するアカマツ林再生が適切と思われる。里山学実習では、その方法について学ぶと同時に実践する。 尚、この実習は、亀岡市寺生産森林組合の全面的な協力によって支えられている。 </p> |       |            |
| 教材（テキスト）   | 里山再生を楽しむ!!「まつたけ山復活させ隊の仲間たち」 高文研刊 1680 円  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 「ここまで来た!まつたけ栽培」(株)トロント(03-3408-1521)4,500 円  |       |            |
| 教材（その他）  | 京まつたけ再生の市民運動であるまつたけ山復活させ隊のブログ{ <a href="http://blog.goo.ne.jp/npoiroem">http://blog.goo.ne.jp/npoiroem</a> } 参照のこと。  |       |            |
| 評価方法   | 平常点(50%)出席状況などによる。授業中に行う理解度テストにより評価(50%)する。  |       |            |
| 到達目標   | 里山の重要性を理解し、その地域の特色を活かした里山再生法を身につける。  |       |            |
| 準備学習   | テキストを読んでおいて下さい。また、技術的なことは、参考文献(P43~94)をよく読んでおくこと。  |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| <p>里山学実習は、マツタケの生活するアカマツ林づくりを実習するので、軽作業のできる服装や軍手やタオルや長靴もしくは運動靴を用意すること。また、ノコギリとナタも可能ならば持参のこと。飲み水も必要である。  大学から亀岡市東別院神原へ大学バスで移動する(所用時間はバスで30分、徒歩10分)。  雨など作業不能のときは、講義に変更(教室)。掲示板などで連絡する。 </p>  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| <p>1) 里山は景観上も生物多様性上からも重要な生態系であることを学ぶ(講義)。 2) マツタケ生産量の減少要因について学ぶ(講義)。マツタケ山づくり作業の計画策定。 3) 現地でマツタケ発生環境整備作業の適地かどうかを調べ、作業手順の決定。実習場所は亀岡市寺生産森林組合所有の京都学園大学マツタケ発生研究試験林。 4) アカマツ林の実態調査。アカマツ枯損木や被圧木を伐倒し、適当な長さに切る。 5) 上記の物を集積地に運び出す。 6) 株元径5cm以上の広葉樹を伐倒し枝を払い、幹を適当な長さに切る。 7) 上記(6)のものを運び出す。 8) (6)の作業をする。 9) (7)の作業をする。 10) 膝頭より低い灌木をすべて切る。運び出す。 11) 中小径木(株元直径5cm未満)の密度調整。伐倒、枝払いの後、適当な長さに切る。運び出す。 12) (11)の繰り返し。 13) 地掻をする。 14) 地掻をする。 15) 里山学実習で学んだことについての理解度テストを行う(講義室)。 </p> |  |       |            |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

|   |                             |       |           |
|---|-----------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                        | 授業コード | J60087001 |
| 科目名   | 有機農業論                       | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Organic Agriculture         |       |           |
| 担当者名  | 矢澤 進                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 有機農業の実態を把握し、生産技術との関わりを理解する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しないが、講義の中で順次紹介する。       |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の中で適宜紹介する。                |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を配布する。                    |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）およびレポート（70%）で評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 有機農法を科学的に理解する。              |       |           |
| 準備学習  | 特になし。                       |       |           |
| 受講者への要望   |                             |       |           |
| 食生活における安全性の問題についてよく考えておくこと。   |                             |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                             |       |           |
| 1. はじめに 2. 作物と肥料。 3. 施肥と作物の生育。 4. 作物と土壌。（土壌の生成と作物生産）。 5. 作物と土壌。（土壌における物質の流れと作物生産） 6. 作物の生育と環境。（土壌成分、土壌特性） 7. 作物の生育と環境。（環境の複合要因と作物生産） 8. 作物の生育と環境。（アレロパシーについて） 9. 有機農業に対する科学的裏付け。 10. 日本と世界の有機農業について。 11. 有機農業の実践（水稻）。 12. 有機農業の実践（野菜）。 13. 有機農業の実践（果樹）。 14. 日本の有機農業の展望について。 15. まとめ |                             |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60088001 |
| 科目名        | 農・森林環境デザイン演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Design of Regional Ecosystem and Land Use  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 農・森林環境デザイン論において議論した森林環境と農業環境のつながりを重視しながら、「日本の農地生態系」というシステムの持続可能性に着目したテーマを各自が設定する。 各自のテーマに従い、参考文献収集や聞き取り調査、現地調査を行い、その成果をレポートにとりまとめ、口頭発表を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし   |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況及び中間発表・最終発表・最終レポートの内容をもとに評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 適切なテーマの設定方法を理解する。 参考文献の効率的な検索・収集方法を習得する。 先行研究の到達点と未到達点を理解する。 論文骨子作成に必要な論理的思考力を習得する。 分かりやすい口頭発表手法を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 卒業研究に向けて、自分なりの疑問に基づき、研究課題を設定するよう、日々学ぶこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | 1) 農・森林環境デザインの基本的な考え方（矢澤・鈴木） 2) レポート・論文執筆に求められるもの（矢澤・鈴木） 3) 文献検索実習、テーマの検討（鈴木） 4) 文献検索実習、テーマの決定（鈴木） 5) 参考文献収集、データ収集（鈴木） 6) レポートの骨子作成（矢澤・鈴木） 7～9) 中間発表、骨子の再検討 [1]（矢澤・鈴木） 10) 草稿執筆（矢澤・鈴木） 11) 草稿執筆、発表準備（矢澤・鈴木） 12～15) 最終成果発表（矢澤・鈴木） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60089001 |
| 科目名        | 都市林概論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Urban Forests   |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年   | 旧科目名称 | 都市緑化論     |
| 講義概要       | 都市域に存在する森林の多面的な機能及び評価について述べる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | その都度準備します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 雑木林の植生管理 ソフトサイエンス社 まちの森生活 全国林業改良普及協会  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 理解度 70%、レポート 30%。   |       |           |
| 到達目標       | 都市林の持つさまざまな機能、価値について理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 森林文化について事前に学習しておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 新聞やほかの情報から新しい森林の持つ価値について興味を持って情報収集をしておいてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 森林のデータ 2. 世界の大都市と森林 3. 都市林の特性 4. 放置した森林の再生 1 5. 放置した森林の再生 2 6. 市民参加の森づくり 1 7. 市民参加の森づくり 2 8. 森林レクリエーション 1 9. 森林レクリエーション 2 10. 森林レクリエーション 3 11. 森林文化 1 火と森林 12. 森林文化 2 音と森林 13. 森林文化 3 木とクラフト 14. 森林文化 4 木地屋と森林 15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60090001 |
| 科目名   | 都市環境論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Urban Environments  |       |           |
| 担当者名  | 中川 重年   | 旧科目名称 | 都市水辺環境論   |
| 講義概要  | 都市の中の水辺や森林（緑）環境の個性を世界及び日本の各地において実際の写真やビデオで知り、都市のイメージの捉え方、水辺を歩く楽しさや森林にふれあう楽しさについて解説する。都市の中での水辺・森林環境はさまざまな役割を担っており、都市景観や親水景観・森林景観の形成のみならず、動植物の生息空間、ヒートアイランドの抑制、都市水害との係わりなどと深いつながりを有していることを学ぶ。また、都市が急激に拡大する中で水辺・森林環境が著しく劣化した時代の背景や現在取り組まれている水辺・森林環境の再生のあり方、水辺環境の調査・評価手法について学ぶ。最後に、今後の都市環境の創造に向けた取り組み事例を踏まえた再生ものあり方を学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書は使用せず、プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 岡太郎・菅原正孝編「都市の水環境の新展開」技報堂出版   萩原良巳、萩原清子、高橋邦夫「都市環境と水辺計画」勁草書房   松浦茂樹・島谷幸宏「水辺空間の魅力と創造」鹿島出版会 (担当：原)   松井・内田・谷本・北村「大都会に造られた森」第1プランニングセンター  森本・白幡「環境デザイン学」朝倉書店  TRUE「まちに自然をつくる」中央法規  山脇正俊「近自然学」山海堂  (担当：中川)  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など  |       |           |
| 評価方法  | 出席率・学ぶ意欲・確認小テスト・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習（50%）、試験（50%）による総合評価  |       |           |
| 到達目標  | 都市の水辺・森林環境の歴史的な形成過程と現在の都市空間の中での役割について学ぶ   |       |           |
| 準備学習  | 都市環境の中での水辺森林環境の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立て関心を高めておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること。また、講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習などがあるので積極的に参加すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (原担当)  1. 日本の代表的な水辺環境  2. 世界の代表的な水辺環境  3. 都市と水辺の交通（舟運）、水文化  4. 水辺環境と食文化、生業、水辺の遊び 5. 水環境の劣化、喪失の時代  6. 動植物の生息空間としての水辺環境 7. ヒートアイランドと水辺環境  8. 都市の水辺環境の再生   (中川担当)  9.日本の代表的な都市森林環境 10.世界の代表的な森林環境 11.都市と森林を結ぶ川の歴史 12.森林と食文化、生業、山遊び 13.森林の劣化、喪失の時代 14.ヒートアイランドと森林 15.都市の森林環境の再生 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60091001  |
| 科目名        | 環境教育・ビオトープ学   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Education/ Biotope Studies  |       |            |
| 担当者名       | 中川 重年   | 旧科目名称 | 環境教育ビオトープ学 |
| 講義概要       | 環境教育の場としてのビオトープのうち、森林と水田を中心に学習を行います。森林ビオトープ学習は管理の違いによる林床植生の質と量の違いが測定も容易で、さまざまな形のビオトープを比較しやすい長所があります。また森林の基礎的な環境を反映した樹木の成長、萌芽性といった樹木個体の生理、森林の光環境や微気象といった環境条件について講義・観察・実習を6回にわたって行います。後半では水田の生き物について5回にわたり観察及び実習を行い、経時変化を把握したうえでその変化を理解し、これらを教育手法に生かします。  |       |            |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてその都度用意します。  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 新しい環境教育の実践 朝岡幸彦 編著 高文堂  環境教育のすすめ 沼田真監修 東海大学出版会  ビオトープの管理・活用 杉山恵一・重松敏則編 朝倉書店   |       |            |
| 教材（その他）    |   |       |            |
| 評価方法       | 授業および実習(60%)とレポート(40%) で評価します。  |       |            |
| 到達目標       | ビオトープに対する評価の仕方および造成などの面での理解を高める。  |       |            |
| 準備学習       | バイオ環境園、水田、畑などキャンパス内にあるさまざまな里山要素を生き物のすみか（ビオトープ）という視点で多く見てください。   |       |            |
| 受講者への要望    | 森林や水田などでさまざまなシーンを思い浮かべ、環境を理解するための事象の整理、推察、および手法をイメージする習慣がたくよう自己訓練をしてください。   |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1 概論 ビオトープとは、学校教育とビオトープ   2 ビオトープつくりの素材   3 学校におけるビオトープの事例   4 ビオトープと指標植物   5 森林ビオトープの設計 1 現地確認 森林断面図の作成   6 森林ビオトープの設計 2 現地確認 森林断面図の作成（レポート）   7 水田の生物観察 種の同定作業   8 水田ビオトープ生物相の経時変化 1（レポート）   9 森林ビオトープの設計 3   10 森林ビオトープの実習 1 測定ポイントの設定   11 水田ビオトープ生物相の経時変化 2   12 森林ビオトープの実習 4 温度環境の測定と指標植物（レポート）   13 森林ビオトープの実習 5 成長の測定   14 水田ビオトープ生物相の経時変化 3   15 まとめ |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60092001 |
| 科目名   | 地域再生・まちづくり論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Community Development  |       |           |
| 担当者名  | 寺川 政司  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリントを配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 三村浩史編著「地域共生のまちづくり」学芸出版 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」   |       |           |
| 教材（その他）   | 資料を授業時に配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業時提出のレポート 20% 授業に対する熱意 30% フィールドワーク等への参画と成果 50%   |       |           |
| 到達目標  | ・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。                         |       |           |
| 準備学習  | ・様々なメディア（新聞・冊子・TV・Web・現場 等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. まちづくり概論 2. わが国の都市とまちの変遷 3. 住宅政策の変遷とまちづくり 4. 共同住宅団地の変遷<軍艦アパート> 5. 戦前長屋地域の再生 <関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦> 6. まちの再生と多様な住まい<コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅> 7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり 8.~14 亀岡市フィールドワーク・ワークショップ 15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン  (市民主体のまちづくりと専門家) |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60093001 |
| 科目名        | 都市自然化デザイン論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Design of Urban Naturalization   |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市空間における人と自然との関係性の再構築のためのアイデアやコンセプト、エコロジカルな都市空間に向けての具体的なデザイン手法（エコロジカルプランニング）を学ぶ。とりわけ、本講義ではその土地が本来もっていた潜在的な生態的機能を最大限に発揮できる都市デザインの手法、すなわちエコロジカルプランニングの考え方を基本軸として展開する。また、現在大きな課題となっている都市の再生に関する総合的なデザイン手法を、森林（緑地）造成と水辺からの都市再生という切り口で掘り下げる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 地理情報システムによる生物多様性と景観プランニング 地人書房   自然再生 ソフトサイエンス社   自然林の復元 文一総合出版   近自然学 山海堂   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオ上映など。   |       |           |
| 評価方法       | 学ぶ意欲・確認小テスト（50%）、試験（50%）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | エコロジカルなデザインについて一定の理解と手法について理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 都市域における自然の造成・再生事例を現地に行き確認しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | [原]  1. 講義全体の概要 2. 水辺空間を中心としたエコロジカルプランニングについて 3. 水辺空間の時間軸からのデザイン手法 4. 水辺空間の空間軸からのデザイン手法 5. 水辺空間の関係軸からのデザイン手法 6. 総合的な水辺空間のデザイン手法 7. KJ法（グループディスカッションの手法）によるデザインコンセプト構築 8. KJ法によるデザインコンセプト発表 [中川]  9. エコロジカルプランニングによるデザイン手法 1  10. エコロジカルプランニングによるデザイン手法 2  11. エコロジカルプランニングによるデザイン手法 3  12. エコロジカルプランニングによるデザイン手法 4 13. 都市の中の緑造成・再生 東日本  14. 都市の中の緑造成・再生 西日本  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60094001 |
| 科目名        | 都市緑化材料学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Materials for Urban Tree-Planting  |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市緑化に用いる樹木などについて形態的な特徴、生態的特性、成長の概説を行い、理解を深める。また緑化樹木の増殖や管理方法を学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 日本の樹木 小学館  庭木と緑化樹 誠文堂新光社  緑化・植栽マニュアル 経済調査会  自然林の復元文一総合出版   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてその都度準備します。   |       |           |
| 評価方法       | 学ぶ意欲（50%）、レポート（50%）による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 都市で見られる30種類の樹木についてその名称、形態的特徴、生態的特徴、増殖について理解できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | 造園樹木、野生樹木の図鑑を見て形態的な特徴を区別できるようにします。庭園を見学し、その使われ方を理解する。森林公園などを見学し樹種の判定とその設計の考え方を読み取る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 2年次に学習した桑田寺（キャンパス近く）の樹木を十分見ておいてください  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 都市における実際例  2 緑化樹木 針葉樹（種類・特性）  3 緑化樹木 広葉樹1（種類・特性）  4 緑化樹木 広葉樹2（種類・特性）  5 緑化樹木 広葉樹3（種類・特性）  6 緑化樹木 低木1（種類・特性）  7 緑化樹木 低木2（種類・特性）  8 緑化樹木 低木3（種類・特性）  9 緑化植物（草本類・地被植物）  10 緑化樹木生産の実際  11 維持管理技術・樹木の病虫害  12 増殖技術  13 移植技術  14 剪定枝などの有効利用  15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60095001 |
| 科目名        | 住環境論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Studies of Housing and Residential Areas  |       |           |
| 担当者名       | 甲斐 徹郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業は、知識を得る場ではなく、自らの暮らしのデザインを実践する場です。その暮らしのデザインは、「まち」との関係をベースとして展開させます。「まちづくり」は、専門家の仕事であって、自分の小さな力では、「まち」をデザインしたり、変えたりすることなどできるわけがないと決めつけている学生が多い。ところが、実は、「まち」は、自分の関わりによって変えることができます。この授業では、「まち」を自分たちが影響することのできる身近な存在として捉え直し、「まちの環境」と「コミュニティ」をデザインし、「まち」を使いこなす実践的な手法を身につけ、自分たちの生活の中でその手法を具体的に应用することを目的とします。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「自分のためのエコロジー」（甲斐徹郎著・ちくまプリマー新書）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「まちに森をつくって住む」（甲斐徹郎+チームネット著・農文協）   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業出席(50%)とレポート(50%)で評価します。レポートは、「自分のためのまちづくり戦略」と題した企画書を作成することが課題。   |       |           |
| 到達目標       | 自分自身の生活をベースに、まず、「自分のためにどうしたいか」を原動力に、「まちの環境」と「コミュニティ」をデザインする思考方法と実践的な手法を身につけます。  |       |           |
| 準備学習       | 自分自身の暮らしと「まち」の関係を意識してください。「もっとこうだったらいいのに」「こういうことをやりたい」など、「自分の思い」がこの授業の出発点になります。   |       |           |
| 受講者への要望    | 今現在の自分の暮らしそのものを深く見つめ直し、その暮らしを「まち」との関係の中で実際にデザインしたいと考える主体的な参加者を求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 「環境共生」とは  2. 環境共生と熱環境  3. 環境共生型コーポラティブ住宅  4. エコロジー・ベネフィット論～「環境」を装置化する方法  5. コミュニティ・ベネフィット論～「コミュニティ」を装置化する方法  6. 他人と自分との利害を調整する合意形成論  7. 自己組織化する「まち」と、しない「まち」  8. まちづくりと複雑系理論  9. 「住まいづくり」と「まちづくり」を結びつける方法論  10. 演習：自分のために「まち」をデザインする   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60096001 |
| 科目名        | 都市排水廃棄物論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Urban Drain Water   |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>普段私たちが使っている水はどこからきてどこに行くのか。また、ゴミはどこからきてどこに行くのか。このような普段の生活の中で、無意識のうちに当たり前のように使っている水と物質に着眼し、その流れを追跡しながら、都市での排水、廃棄物の問題を掘り下げ、どこに問題が潜んでいるのかを探る。一般論ではなく、具体的な地域や街を取り上げ、そこで展開している事例を中心に、KJ法などのグループ間でのディスカッションのための基礎的方法論を通じて、20世紀末に進んだ大量生産、大量消費、大量廃棄の時代からこれからの私たちの社会のあり方を学ぶ。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 下水道バランスシート 北斗出版   発想法 創造性開発のために 中公新書   PCM 手法に基づくモニタリング・評価 財団法人 国際開発高等教育機関  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、ビデオ上映など   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況・学ぶ意欲・確認小テスト（50%）、試験（50%）による総合評価  |       |           |
| 到達目標       | 都市の排水廃棄物に関する問題抽出手法について理解すること  |       |           |
| 準備学習       | 都市の中の排水や廃棄物は身近な問題でもあるので、家庭や地域において関心を高めるようにすること  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 都市排水廃棄物論の概要   2. 都市における排水の状況   3. 都市排水の処理   4. 都市における廃棄物の状況   5. 都市廃棄物の処理   6. フィールドワークの実施   7. フィールドワークの発表   8. 江戸時代のリサイクル社会   9. 現代の資源の再利用   10. 自然の力を生かした排水処理   11. 下水汚泥の再利用   12. K J 法実施その 1   13. K J 法発表その 1   14. K J 法実施その 2   15. K J 法発表その 2 と講義のまとめ  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60097001 |
| 科目名        | 都市環境解析学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Analysis of Urban Environments   |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 | 都市環境診断学   |
| 講義概要       | <p>私たちの暮らしが広がる都市環境の現状と課題を「指標」を軸として掘り下げていく。まず、最初に生物指標と都市環境との関係性を広く学習し、生物の生息状況が都市環境の変化に関係していることを学ぶ。その後、地球規模の環境問題とも関連するさまざまな新しい指標が提案されてきている動向を学習する。たとえば、水分野ではバーチャルウォーターや安定同位体による環境診断が挙げられる。食糧関連ではフードマイレージなどが、持続可能性の分野では、エコロジカルフットプリントなどが新しく提案されてきている。また、講義の中で実際に大学周辺をグループ単位で調査するフィールドワークを実施し、その成果を教室にてグループリーダが発表する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、プリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況・学ぶ意欲・授業ごとの演習・グループワーク（50%）、試験（50%）による総合評価  |       |           |
| 到達目標       | 都市環境や持続可能な社会に関する指標について理解し、グループ単位でのフィールドワークと発表が行うことができることを目標とする   |       |           |
| 準備学習       | 都市の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立てて関心を高めておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | フィールドワークはグループ単位で実施する。グループリーダーはその後パワーポイントで教室にて発表をする。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.講義の概要  2.生物指標について1  3.フィールドワーク（ウォークラリー）  4.生物指標について2  5.フィールドワーク（グリーンマップ）  6.新しい指標について（安定同位体）  7.グリーンマップのグループ別発表  8.新しい指標について（バーチャルウォーター）  9.フィールドワーク（フィールドキャンパス）  10.新しい指標について（エコロジカルフットプリント）  11.フィールドキャンパスのグループ別発表  12.新しい指標について（総幸福量）  13.新しい指標について（フードマイレージ）  14.新しい指標について（ゼロエミッション）  15.講義のまとめ  </p>      |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60098001 |
| 科目名        | ランドスケープデザイン実習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental design studio: Urban landscapes  |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市空間における人と自然との関係性の再構築のためのアイデアやコンセプト、エコロジカルな都市空間に向けての具体的なデザイン手法（エコロジカルプランニング）を春学期の都市自然化デザインの講義で学んで、次のステップとして本演習では、エコロジカルプランニングの考え方を実際に展開していく際に必要なフィールドでの問題発見能力を高めるため、大学周辺におけるグループ単位での調査を行う。またモデル制作も行う。ともにグループ毎に発表することから、結果をまとめる能力、さらにプレゼン能力を鍛える。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 学ぶ意欲・確認小テスト（50%）、提出物（50%）による総合評価。  |       |           |
| 到達目標       | 都市空間の自然化、再生にかかわる諸調査手法及び具現化のためのプロセスを学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | 興味をもって都市の自然について事例を見つけて学習しておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること。また PC 操作にも慣れておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | [原]  1. フィールドでの問題発見手法とグループワークの手法 2. グループ単位でのフィールド調査の実施（その 1） 3. グループ単位でのフィールド調査の発表 4. グループ単位でのフィールド調査の実施（その 2） 5. グループ単位でのフィールド調査の発表 6. グループ単位でのフィールド調査の実施（その 3） 7. グループ単位でのフィールド調査の発表   [中川]  8. 植栽地の環境条件などの把握  9. 植栽地の環境条件の全体把握  10. 緑地の特性を生かした植栽計画 1（パワーポイント制作）  11. 緑地の特性を生かした植栽計画 2（モデル制作）  12. 緑地の特性を生かした植栽計画 3（モデル制作）  13. 緑地の特性を生かした植栽計画 4（モデル制作）  14. 緑地の特性を生かした植生計画 5（モデル制作）  15. パワーポイントによる発表及び講評 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60099001 |
| 科目名  | 環境地球科学演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | 環境地球科学演習   |       |           |
| 担当者名   | 古武家 善成   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 今や地球規模まで拡大した環境問題を解決するためには、地域・地球スケールの物質循環の理解が極めて重要である。環境負荷が少なく再生可能な環境物質（エコマテリアル）は、その物質循環をスムーズに回転させる要となる。本講義では、地球・環境科学の基礎である物質循環論とエコマテリアル論を組み合わせ、環境問題解決の道筋を考える。 東日本大震災による福島第一原発事故の環境影響は計り知れないことから、原発の原理と事故に関する講義を環境科学特論として加える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「森里海連環学」京都大学フィールド科学教育センター編、京都大学学術出版会（2007）   |       |           |
| 教材（その他）  | 資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。  |       |           |
| 評価方法   | 課題に対するレポート提出で評価する。まとめ小テストの合格が必須。   |       |           |
| 到達目標   | 環境問題を理解する基礎となる物質循環の概要を地球・環境科学の視点から学ぶとともに、エコマテリアルの概念を習得し低炭素社会で生きる力を養う。 環境ディベートを通して、自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。   |       |           |
| 準備学習   | 環境問題やエネルギー問題に関する日々のニュースに目を通すこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 環境問題の解決には、暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし、発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。小テストとレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1) ガイダンスおよび「環境科学序論」環境問題の歴史と公害病 2) 「環境科学特論」原子力発電の原理と事故 3) 地球環境と大気の循環 4) 地球環境と水の循環 5) 物質循環と里山・里海 6) 都市の物質循環と川の役割 7) 循環型社会と廃棄物 8) 環境問題ビデオ鑑賞 9) 環境ディベート1 10) 環境ディベート2 11) 低炭素社会とエコマテリアル 12) エコマテリアルとライフサイクルアセスメント 13) エコマテリアルと再生可能エネルギー 14) エコマテリアルと環境ビジネス・グリーン購入 15) まとめと小テスト |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60100001 |
| 科目名   | マテリアル設計論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Material Design Theory   |       |           |
| 担当者名  | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 環境材料を積極的に利用するには目的に応じた性質を備えた物質を創成する必要があり、そのためには物質構造と物性の関係について理解することが重要である。この講義では物質構造、設計、合成、評価の基礎となる結晶構造、固体物性の理解および結晶合成、材料解析の方法について学修する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし   |       |           |
| 教材（その他）   | なし   |       |           |
| 評価方法  | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標  | 量子物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習  | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 数学、環境情報数学・演習、物理学・実験、環境物理学・実験、マテリアル構造論、環境マテリアル実験を履修することが望ましい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 波動方程式（1） 2. 波動方程式（2） 3. 波動方程式（3） 4. 量子力学（1） 5. 量子力学（2） 6. 量子力学（3） 7. 原子構造（1） 8. 原子構造（2） 9. 原子構造（3） 10. 分子構造（1） 11. 分子構造（2） 12. 分子構造（3） 13. 結晶構造（1） 14. 結晶構造（2） 15. 結晶構造（3） |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |             |
|------------|--|-------|-------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60103001   |
| 科目名        | 環境マテリアル実験  | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Environmental Materials   |       |             |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 | 環境マテリアル実験 I |
| 講義概要       | 環境材料を積極的に利用するには目的に応じた性質を備えた物質を創成する必要があるため、そのためには物質構造と物性の関係について理解することが重要である。この実験では物理量の測定原理にもとづいて、力学物性、熱物性、電磁気物性、電子物性、光物性などあらゆる固体物性の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め、得られたデータの信頼性についても考察する。  |       |             |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |             |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |             |
| 教材（その他）    | なし   |       |             |
| 評価方法       | レポート（100%）   |       |             |
| 到達目標       | 物性物理学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |             |
| 準備学習       | 日常から物性現象について意識的に観察する習慣を身につけておくこと。  |       |             |
| 受講者への要望    | 数学，環境情報数学・演習，物理学・実験，環境物理学・実験，マテリアル構造論を履修することが望ましい。   |       |             |
| 講義の順序とポイント | 1. 力学物性の測定（1）  2. 力学物性の測定（2）  3. 力学物性の測定（3）  4. 熱物性の測定（1）  5. 熱物性の測定（2）  6. 熱物性の測定（3）  7. 電磁気物性の測定（1）  8. 電磁気物性の測定（2）  9. 電磁気物性の測定（3）  10. 電子物性の測定（1）  11. 電子物性の測定（2）  12. 電子物性の測定（3）  13. 光物性の測定（1）  14. 光物性の測定（2）  15. 光物性の測定（3） |       |             |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |             |
|------------|---|-------|-------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60104001   |
| 科目名        | 環境材料学実験   | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Environmental Materials  |       |             |
| 担当者名       | 石本 弘治   | 旧科目名称 | 環境マテリアル実験II |
| 講義概要       | 前半では、水質の浄化に適した材料を選定する実験を通じて、材料特性を理解するとともに実験技術を習得する。後半においては、各自が種々の材料を用いた浄化装置を考えその評価を行う。 最終講において、それぞれの浄化装置についての成果発表を実施する。   |       |             |
| 教材（テキスト）   | 適宜プリント等を配布する。   |       |             |
| 教材（参考文献）   |   |       |             |
| 教材（その他）    |   |       |             |
| 評価方法       | 実験時における小試験（50%）、最終成果発表（50%）   |       |             |
| 到達目標       | 水質を浄化するということの意義は何か、最適な浄化材料をどのように使用すれば良いのかについて理解できること。換言すれば、「必ずしも解がひとつでない課題に対して、これまでの学習や経験を利用して、実現可能な解を見つける」能力であるエンジニアリングデザイン能力を涵養することにある。   |       |             |
| 準備学習       | 環境浄化材料学と合わせて受講するか水質浄化材料および水質浄化方法について理解しておくこと。   |       |             |
| 受講者への要望    | 本講義実験に興味を持って受講して欲しい。  |       |             |
| 講義の順序とポイント | 1. 実験のガイダンス 2. 水質浄化のための基礎実験（1） 3. 水質浄化のための基礎実験（2） 4. 水質浄化のための基礎実験（3） 5. 土系材料による水質浄化（1） 6. 土系材料による水質浄化（2） 7. 炭素系材料による水質浄化（1） 8. 炭素系材料による水質浄化（2） 9. 生物系材料による水質浄化 10. 膜系材料による水質浄化 11. その他の材料による水質浄化 12. 水質浄化装置の試作と評価（1） 13. 水質浄化装置の試作と評価（2） 14. 水質浄化装置の試作と評価（3） 15. 成果発表とまとめ |       |             |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60105001 |
| 科目名  | バイオマス概論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Biomass   |       |           |
| 担当者名   | 金川 貴博   | 旧科目名称 | バイオマス資源論  |
| 講義概要   | 今日の私たちの生活は、再生不可能な資源である化石資源（石油、石炭、天然ガスなど）に大きく依存しており、このことが、地球の温暖化や大気汚染、水質汚染など、様々な環境問題を引き起こしている。さらには、私たちの生活を支える基盤であるこのような資源が近い将来に枯渇しそうであり、現在のような生活は長くは続けられない。一方、古来より人類は、樹木や草木（イネ、麦、野菜など）を、食料、原材料、エネルギー源として利用してきた。これらは、太陽エネルギーを利用して育った生物であり、持続的に再生可能な資源である。この講義では、人類の生存を支えてきた生物システムの全体像を、地球規模での物質循環という視点から説明し、生物由来の再生可能な資源（バイオマス）の利用のあり方や、環境問題およびエネルギー問題を考えるための基礎的な事項を講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて、プリントを配布する  |       |           |
| 評価方法   | 期末試験（80点）、適宜行う小テスト（20点）   |       |           |
| 到達目標   | 人類の生存を支える生物システムを理解し、そこから環境問題およびエネルギー問題を自らの視点で考えられるようにする。  |       |           |
| 準備学習   | 日ごろから環境問題やエネルギー問題に関するニュースなどを読むように心がけること   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 黒板に書いた文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. バイオマスを有効利用していた昔の生活と、ナウル共和国の事例  2. 自然界での食物連鎖と物質の循環  3. 水の循環と酸素の循環  4. 地球規模でのリンの循環：リンの循環での生物の大きな役割  5. 地球規模での炭素の循環（1）：燃焼と二酸化炭素の発生  6. 地球規模での炭素の循環（2）：有機物の生産と消費  7. 地球規模での窒素の循環（1）：窒素循環の全体像   8. 地球規模での窒素の循環（2）：食糧輸入と窒素化合物の過剰  9. 地球規模での窒素の循環（3）：過剰な窒素化合物の害と窒素化合物の処理  10. 地球規模での物質循環のまとめ  11. バイオマスの利用技術の概要（1）：炭化、化学的ガス化、メタン発酵  12. バイオマスの利用技術の概要（2）：エタノール発酵、バイオディーゼル  13. バイオマスの利用技術の概要（3）：堆肥化、その他   14. バイオマス利用の長所と欠点  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                 |
|------------|--|-------|-----------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60106001       |
| 科目名        | 環境化学演習   | 単位数   | 2               |
| 科目名 (英語表記) |  |       |                 |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 | バイオマス材料プロセス工学 I |
| 講義概要       | 太陽エネルギーを利用して生物が生産した物質を、人類は古来より、食料、エネルギー、原材料として利用してきた。これらは、持続的に再生可能な資源であり、人類の存続のためには、石油や石炭のように使えばなくなってしまう資源の利用に頼りすぎず、再生可能なバイオマス（生物由来の再生可能な資源）を有効に利用することが求められる。しかしながら、バイオマスの有効利用法とされている技術には、環境や資源の観点からは、不適切な技術がかなり存在する。この講義では、バイオマスの利用技術の全体を紹介するとともに、その技術が真に環境問題の解決に役立つ方法なのかどうかを考察する。そして、人類の生存を持続可能ならしめるに必要な資源利用のあり方や、環境問題を考えるための基礎的な知識を習得させる。 |       |                 |
| 教材 (テキスト)  | 藤村宏幸著「バイオマス 究極のゼロエミッション」海象社 800円+消費税   |       |                 |
| 教材 (参考文献)  |  |       |                 |
| 教材 (その他)   |  |       |                 |
| 評価方法       | 期末試験 (80点)、適宜行う小テスト (20点)  |       |                 |
| 到達目標       | バイオマスの利用方法の概要と問題点を理解する   |       |                 |
| 準備学習       | 日ごろから環境問題やエネルギー問題に関するニュースなどを読むように心がけること  |       |                 |
| 受講者への要望    | 黒板に書いた文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること  |       |                 |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. バイオマス利用技術の概要  3. バイオマスの利用技術：メタン発酵  4. バイオマスの利用技術：エタノール発酵 (1)  5. バイオマスの利用技術：エタノール発酵 (2)  6. バイオマスの利用技術：乳酸発酵とポリ乳酸の製造  7. バイオマスの利用技術：バイオディーゼル技術  8. バイオマスの利用技術：ガス化技術  9. 自然エネルギー   10. プランテーション型バイオマスの利活用  11. バイオマスと遺伝子組換え技術  12. バイオマス利用プロジェクト事例  13. バイオマス産業コンプレックス  14. バイオマス推進の課題：コストの問題、技術の問題  15. まとめ                       |       |                 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                 |
|------------|--|-------|-----------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60107001       |
| 科目名        | バイオマスプロセス工学  | 単位数   | 2               |
| 科目名（英語表記）  | Biomass Processing Technology  |       |                 |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 | バイオマス材料プロセス工学II |
| 講義概要       | <p>廃棄物系バイオマスの有効利用の方法として重要な技術が、メタン発酵技術と堆肥化技術である。そこで、この2つの技術について、原理、方法、意義などを詳しく講義する。また、バイオマスの利用に当たって考えなければならない問題に、廃液の処理がある。特に、メタン発酵の場合、発酵後の廃液をどうするのが現実的に大きな問題になっている。そこで、廃水の処理についても講義する。そして、バイオマスの有効利用について、利用に伴って排出される廃水・排ガス・廃棄物の処理も考慮した全体としてのシステムを考えていく。</p> |       |                 |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |                 |
| 教材（参考文献）   |  |       |                 |
| 教材（その他）    |  |       |                 |
| 評価方法       | 期末試験（80%）、随時行うテスト（20%）   |       |                 |
| 到達目標       | バイオマスの利用技術について、理解を深める。   |       |                 |
| 準備学習       | バイオマスの利用に関するニュースなどを日ごろから読んでおくこと  |       |                 |
| 受講者への要望    | 「バイオマス資源材料実験」を受講する人はこの講義を受講して内容を理解すること   |       |                 |
| 講義の順序とポイント | <p>1. バイオマス利用に伴って出る廃水の処理方法  2. 廃水処理：活性汚泥法の原理  3. 廃水処理：活性汚泥を構成する微生物  4. 廃水処理：BODとCOD  5. 堆肥化：原理  6. 堆肥化：意義と目的  7. 堆肥化：方法  8. 堆肥化：事例の紹介  9. 堆肥化：微生物の働き  10. 堆肥化：悪臭問題  11. メタン発酵：原理  12. メタン発酵：目的と効果  13. メタン発酵：微生物の働き  14. バイオマスの総合的な有効利用  15. まとめ </p>      |       |                 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60109001  |
| 科目名   | バイオマス科学  | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)  | Biomass Science  |       |            |
| 担当者名  | 藤井 康代  | 旧科目名称 | バイオマス資源材料学 |
| 講義概要  | バイオマスの中で木質系のバイオマスの占める割合は高い。特に樹木は重要なバイオマスである。樹木の組織のほとんどは細胞壁である。木材の一般的な性質は細胞壁の構造や成分によるところ多い。樹木には大きく分けると針葉樹と広葉樹が存在するが、両者には概観のみならず細胞組織に大きな違いがあり、木材の性質に影響を与えている。本講義では針葉樹材、広葉樹材の比較をしながら、木材の理解に必要な生物学的・物理学的・化学的性質を解説する。 |       |            |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |            |
| 教材 (参考文献)   | 古野毅・澤辺攻編 『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社  高橋徹・中山義雄編 『木材科学講座 3 物理』 海青社  城代進・鮫島一彦編 『木材科学講座 4 化学』 海青社  |       |            |
| 教材 (その他)  | なし   |       |            |
| 評価方法  | 定期テスト (100% )  |       |            |
| 到達目標  | 木本植物の特徴を理解する。特に、針葉樹および広葉樹の成分、構造を理解し、木質バイオマス利用に必要な材料、素材の特性を理解する。  |       |            |
| 準備学習  | どのようなところで、針葉樹材や広葉樹材が利用されているか考えて、そこからそれぞれの特徴を推測すること。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 受講中に、常に「針葉樹」「広葉樹」の類似点や相違点を整理し、まとめながら学習すること。 3回生秋学期配当のバイオマスエネルギー実験 (バイオマス実験B) の受講を希望する人は受講すること。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| 1. 樹木の概観構造  2. 木本植物の植物学上の分類  3. 針葉樹の細胞  4. 広葉樹の細胞 5. その他の木化植物の細胞 6. 伸長生長と二次肥大生長  7. 細胞壁の構造  8. 糖科学の基礎  9. 細胞壁の主要 3 成分 1 セルロース 1  10. 細胞壁の主要 3 成分 1 セルロース 2  11. 細胞壁の主要 3 成分 2 ヘミセルロース  12. 細胞壁の主要 3 成分 3 リグニン  13. 木材の三大欠点-燃える・狂う・腐る- 14. 木材の物理特性 15. まとめ |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |             |
|--|---|-------|-------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60110001   |
| 科目名  | バイオマスエネルギー工学  | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記)   | Biomass Energy Technology   |       |             |
| 担当者名   | 藤井 康代   | 旧科目名称 | バイオマスエネルギー学 |
| 講義概要   | バイオマスエネルギーは太陽エネルギーが変換したエネルギーの一例に過ぎない。まず、エネルギー科学の基本的となる熱力学の法則について講義を行う。その上で過去にすでに利用されているバイオマスエネルギーから現在研究途上のバイオマスのエネルギー変換までその原理を解説する。あわせて生物学的物質変換で重要な役割を担う酵素について理解を深める。 |       |             |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |             |
| 教材 (参考文献)  | 横山 伸也・芋生 憲司 著 『バイオマスエネルギー』 森北出版 2730 円  |       |             |
| 教材 (その他)   | なし  |       |             |
| 評価方法   | 定期テスト (100%)  |       |             |
| 到達目標   | エネルギーは形が変化するだけで、量が変わらないことを理解する。さらに、同じ量のエネルギーであっても質のよいものと悪いものがあることを理解する。(熱力学の法則を理解する。)   バイオマスのエネルギー利用において、水の存在の重要性を理解する。  基本的な変換である熱化学的変換と生物学的変換の特徴を理解する。             |       |             |
| 準備学習   | 物理学や化学で使用する単位について予習しておく。バイオマス利用に関する書籍などに目を通し、どのような利用法があるのかを理解しておく。  |       |             |
| 受講者への要望  |   |       |             |
| バイオマス資源材料学を受講していることが望ましい。  |   |       |             |
| 講義の順序とポイント   |   |       |             |
| 1. エネルギー科学の基礎 1 エネルギーとは何か   2. エネルギー科学の基礎 2 仕事とエネルギー   3. エネルギー科学の基礎 3 エネルギー保存則   4. エネルギー科学の基礎 4 熱効率   5. エネルギー科学の基礎 5 エネルギーの質   6. 新エネルギー   7. バイオマスの分類と含水率   8. 高位発熱量と低位発熱量   9. 熱化学的変換 1 燃焼・炭化   10. 熱化学的変換 2 熱分解・ガス化   11. 熱化学的変換 3 超臨界分解   12. その他の変換 1 バイオディーゼル   13. その他の変換 2 固形燃料   14. 生物学的変換 1 酵素   15. 生物学的変換 2 バイオエタノール |   |       |             |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                     |   |       |             |
|-------------------------------------|---|-------|-------------|
| 年度                                  | 2012  | 授業コード | J60111001   |
| 科目名                                 | バイオマス実験 A   | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記)                          | Experimental Course in Biomass A  |       |             |
| 担当者名                                | 金川 貴博   | 旧科目名称 | バイオマス資源材料実験 |
| 講義概要                                | <p>廃棄物系バイオマスの有効利用の方法として、重要な技術が、メタン発酵と堆肥化である。そこで、この2つの技術を理解するために、簡易なメタン発酵装置を用いたメタン発酵の実験と、生ゴミを原料とした堆肥化実験を行う。また、廃水の処理についても実験を行う。廃水処理実験では、処理現場で実際に使われている活性汚泥を用いる。</p>   |       |             |
| 教材 (テキスト)                           | なし  |       |             |
| 教材 (参考文献)                           |   |       |             |
| 教材 (その他)                            |   |       |             |
| 評価方法                                | 平常点 (40%)、レポート (30%)、随時行うテスト (30%)  |       |             |
| 到達目標                                | バイオマスの利用技術について、実験を通じて理解を深める。  |       |             |
| 準備学習                                | 「バイオマス材料プロセス工学II (バイオマスプロセス工学)」を受講して内容を理解すること   |       |             |
| 受講者への要望                             |   |       |             |
| 危険な薬品を使う実験があるので、注意事項をしっかりと聞いて理解すること |   |       |             |
| 講義の順序とポイント                          | <p>1. 実験に際しての一般的注意事項、汎用器具の正しい使用法  2. 廃水処理実験：活性汚泥の沈降性の測定、微生物濃度の測定  3. 廃水処理実験；簡易キットによる COD の測定、微生物濃度の算出  4. 廃水処理実験；アナモックス菌によるアンモニアの処理 (1)  5. 廃水処理実験；アナモックス菌によるアンモニアの処理 (2)  6. 廃水処理実験；まとめ  7. 堆肥化実験；生ゴミと副資材の混合  8. 堆肥化実験；堆肥化過程の観察  9. 堆肥化実験；堆肥中の微生物を分離して培養   10. 堆肥化実験；微生物の観察  11. 堆肥化実験；まとめ  12. メタン発酵実験；装置の組み立てと廃水の投入  13. メタン発酵実験；メタン生成量の測定  14. メタン発酵実験；まとめ  15. 全体のまとめと片付け </p> |       |             |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60112001    |
| 科目名        | バイオマス実験  | 単位数   | 2            |
| 科目名 (英語表記) | Experimental Course in Biomass   |       |              |
| 担当者名       | 藤井 康代  | 旧科目名称 | バイオマスエネルギー実験 |
| 講義概要       | 木質バイオマスの一般的な成分分析を通して、木質バイオマス、特に針葉樹と広葉樹の相違点を理解する。バイオマス科学の講義内容を実験を通じて、理解を深めていく。また、バイオマスエネルギー工学の講義で紹介するバイオマスの生物学的変換過程において、重要な役割をする酵素について実験を通して理解をする。具体的には全体を三部に分けそれぞれ、一部:木材の成分分析、二部:酵素活性測定、三部:木材の組織観察を行う。   |       |              |
| 教材 (テキスト)  | 実験書 (実験初日に配布)  |       |              |
| 教材 (参考文献)  | 古野毅・澤辺攻編 『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社  城代進・鮫島一彦編 『木材科学講座 4 化学』 海青社   |       |              |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |              |
| 評価方法       | レポート (100%)  |       |              |
| 到達目標       | 木材の分析法を学び、木材の成分に対する理解を深める。酵素反応実験を通して、実験操作を習得するとともに酵素の性質を理解する。永久プレパラートの作り方や顕微鏡の扱い方を習得する。  |       |              |
| 準備学習       | 必ず実験の予習をし、手順を実験ノートに簡単にまとめておくこと。  |       |              |
| 受講者への要望    | バイオマス科学を受講していること。 実験用のノート (ルーズリーフは不可) を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。「提出さえすればいい」わけではない。  |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 注意事項  2. 一般木材分析 1 含水量、灰分量の測定 3. 一般木材分析 2 有機溶媒抽出物の定量 4. 一般木材分析 3 リグニンの定量 5. 一般木材分析 4 ヘミセルロースの定量 6. 一般木材分析 5 セルロースの定量 7. 酵素反応実験 1 示適条件測定 1 8. 酵素反応実験 2 標準溶液の調整 9. 酵素反応実験 3 示適条件測定 2 10. 酵素反応実験 4 複数のセルラーゼ活性の比較 11. 酵素反応実験 5 ろ紙崩壊活性測定 12. プレパラートの作製  13. 組織の観察 1 草本類 14. 組織の観察 2 針葉樹 15. 組織の観察 3 広葉樹 |       |              |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60113001 |
| 科目名        | 環境アセスメント  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Assessment  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 大規模な開発事業から環境を保全するための環境アセスメントの概念、考え方、具体的な手順、日本での発展経緯や課題について学ぶ。環境アセスメントは生物学や物理学などの純粋学問と異なり、環境を保全するための必要性から生まれてきたものであり、実践的な学問と位置づけられる。したがって、実際のアセス対象事業を例に取り上げながら、大気汚染、水質汚濁、騒音などの項目の選定、予測方法の考え方、環境保全目標の立て方、保全対策の提案手法などの実際を学ぶ。また、近年提案されている戦略的環境アセスメントの考え方、関連する環境管理計画、環境基本計画、自然再生など、最新の環境保全の枠組みを学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 原科幸彦「環境アセスメント（改訂版）」財団法人 放送大学教育振興会   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況・学ぶ意欲・確認小テスト・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習（50%）、試験（50%）による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 環境アセスメントの概念と実際の調査の手法、予測評価の手法などについて理解する  |       |           |
| 準備学習       | 環境アセスメントはダムや道路などの公共事業のあり方と密接に関連しているため、政治や経済の動向にも関心を寄せること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎週授業内容の確認小テストを実施するので、授業には毎回出席すること。また、講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習などがあるので積極的に参加すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.環境アセスメントとはどのような概念か  2.環境アセスメントの対象となる事業と環境影響  3.大気汚染・水質汚濁の調査手法について 4.騒音・振動・交通量の調査手法について 5.動物・植物の調査手法について 6.景観・日照・電波障害・廃棄物の調査手法について 7.予測評価の手法について（その1） 8.予測評価の手法について（その2） 9.環境基準、環境指標などの保全目標、保全対策  10.環境アセスメントの手続きと住民参加、報告書の作成  11.ミティゲーションと HEP（その1） 12.ミティゲーションと HEP（その2） 13.環境アセスメントと地理情報システム（GIS）  14.戦略的環境アセスメント、その他の環境関連法案  15.講義のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60114001 |
| 科目名   | 環境アセスメント演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Practical Course in Environmental Assessment   |       |           |
| 担当者名  | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>環境アセスメントを実際に行う中で最近注目されている GIS (地理情報システム) の活用方法について学ぶ。本演習は 3 階の PC ルームにて行うことから、コンピュータの操作にある程度慣れておく必要がある。演習に必要なデータは大学の共通サーバーである R ドライブに格納するので、この R ドライブから各学生の U ドライブにコピーして演習作業を行う。前半は、テキストを配布しその中の演習を通じて、GIS の概念、基本的な操作方法、空間データの活用方法や解析方法、解析結果の表現方法などに関して習得し、GIS をこれからの研究課題に応用できることを目指す。後半は、フリーの GIS である MANDARA を用いて、環境アセスメントの中で実際に行われている空間解析について例題を通じて学習する。GIS は 3 階の PC ルーム以外に、1 階の図書室、9 階の都市自然化デザイン研究室でも使うことができる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | ARCGIS Desktop 逆引きガイド E S R I ジャパン株式会社 著   MANDARA フリー GIS パーフェクトマスター 古今書院   |       |           |
| 教材 (その他)  | GIS 演習データ、適宜プリントを配布、パワーポイントなど  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況・学ぶ意欲・授業ごとの演習レポートによる総合評価   |       |           |
| 到達目標  | 環境アセスメントにおける GIS など空間情報の解析ツールの操作方法を習得する  |       |           |
| 準備学習  | R ドライブや U ドライブなど、コンピュータの基本的な事項を十分に理解しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業は 3 階の PC ルームにて実施するので PC 操作に慣れておくこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. ARCGIS 演習 1 (GIS の基礎)   2. ARCGIS 演習 2 (データ表示)   3. ARCGIS 演習 3 (検索・解析)   4. ARCGIS 演習 4 (データプロセッシング)   5. ARCGIS 演習 5 (データ作成・構築)   6. ARCGIS 演習 6 (亀岡ジオデータベースのレイアウト)   7. ARCGIS による環境解析その 1   8. ARCGIS による環境解析その 2   9. ARCGIS による環境解析その 3   10. フリー GIS MANDARA による環境アセスメントへの応用   11. フリー GIS MANDARA による環境アセスメントへの応用 2   12. フリー GIS MANDARA による環境アセスメントへの応用 3   13. フリー GIS MANDARA による環境アセスメントへの応用 4   14. フリー GIS MANDARA による環境アセスメントへの応用 5   15. 講義のまとめ |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |              |
|------------|---|-------|--------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60115001    |
| 科目名        | 環境リスクマネジメント   | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Risk Management   |       |              |
| 担当者名       | 辻村 茂男   | 旧科目名称 | 環境リスクマネージメント |
| 講義概要       | 現実に直面している環境、あるいは健康に対するリスクをまちがいに認識し、いかに定量的に評価し、いかに削減し、あるいは回避できるかを検討するため、いくつかの毒性リスク、発ガンリスク、あるいは生態系へのリスクを具体的事例として取り上げ、環境リスクの評価の手法、およびリスクマネジメントの手法について検討する。   |       |              |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、プリントを配布する。  |       |              |
| 教材（参考文献）   | 吉田喜久雄, 中西準子著 「環境リスク解析入門」 東京図書 浦野紘平, 松田裕之共編 「生態環境リスクマネジメントの基礎」 オーム社 松田裕之著 「生態リスク学入門：予防的順応的管理」 共立出版 その他、講義の中で適宜紹介する。  |       |              |
| 教材（その他）    |   |       |              |
| 評価方法       | 出席状況、受講態度等による平常点(30%) 定期テスト(70%)  |       |              |
| 到達目標       | 現実に直面している環境、あるいは健康に対するリスクをまちがいに認識し、定量的に評価した上で、いかに削減し、あるいは回避するかを実現する力をつける。   |       |              |
| 準備学習       | 環境問題に関するさまざまな現象について、日常的に幅広くアンテナをひろげておくこと。   |       |              |
| 受講者への要望    | 科学的根拠に基づくリスクの評価・管理方法について深く考えて下さい。   |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1) 環境リスクマネジメントの意義 2) 環境リスク評価の基本的考え方 3) リスクマネジメントの基本手順 4) 水道水に内在する生物系（大腸菌、クリプトスピリジウム、アオコ等）によるリスクの評価 5)～6) 水道水に内在する化学物質系（鉛、界面活性剤、農薬、環境ホルモン等）によるリスクの評価 7)～8) 塩素消毒によって形成される水道水の発ガンリスクの評価 9)～10) 化学物質の生態リスク評価 11) 外来生物・遺伝子組換え作物のリスク評価 12) 野生動物の保護と獣害 13) 水産資源管理 14) 合意形成へのリスクコミュニケーション 15) まとめ |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |               |
|---|---|-------|---------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60116001     |
| 科目名   | 環境リスクマネジメント演習   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）   | Practical Course in Environmental Risk Management   |       |               |
| 担当者名  | 辻村 茂男   | 旧科目名称 | 環境リスクマネジメント演習 |
| 講義概要  | 環境リスク評価を定量的、かつ論理的に行うために、具体的事例のいくつかに関して、環境リスクを計算する演習を行い、自分で計算できる能力を習得させる。ついで、学生それぞれに具体的なフィールド（もしくは仮想フィールド）を設定させ、リスク計算を行わせてうえで、リスク削減、リスク回避のためのリスクマネジメントの方策を提案させる。 |       |               |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。  |       |               |
| 教材（参考文献）  |   |       |               |
| 教材（その他）   |   |       |               |
| 評価方法  | ミニレポート(25%)、課題発表(25%)、課題レポート(50%)により総合的に評価する。   |       |               |
| 到達目標  | 環境リスク評価を定量的、かつ論理的に行えること、また、それらのリスクを削減、あるいは回避するためのリスクマネジメントの方策を提案できる力をつけること。   |       |               |
| 準備学習  | さまざまな環境問題について幅広く視界をめぐらせ、日常の中で、感覚を鋭敏に研ぎ澄ませておくこと。   |       |               |
| 受講者への要望   |   |       |               |
| 原則として、「環境リスクマネジメント」の単位を修得していることが望ましい。   |   |       |               |
| 講義の順序とポイント  |   |       |               |
| 1) 環境リスクマネジメントの意義 2) 環境リスク評価の基本的考え方 3) 現実に起こっている環境リスクを、いかにして見つけるか 4) 現実に起こっている環境リスクを、実際に評価してみる 5) 自分の身近に起こっている、具体的な環境リスクの事例を見つけ、演習のテーマとして設定する 6)～8) 設定したテーマに関する現状調査（フィールド調査、聞き取り調査、資料収集など）を実施する 9)～11) 調査データについてのリスク評価を行い、問題解決のためのリスクマネジメントの方策を考える 12) 調査、研究の成果にもとづいて、レポートを作成する 13)～15) レポート内容を、パワーポイントを用いて発表する |   |       |               |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |               |
|------------|---|-------|---------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60117001     |
| 科目名        | 環境マネジメント演習  | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  |   |       |               |
| 担当者名       | 箆橋 一輝   | 旧科目名称 | ISO環境マネジメント演習 |
| 講義概要       | <p>持続可能な発展を実現するためには、人間の経済活動の結果として生じる様々な環境負荷を正しく把握・制御するシステムを、市民・企業・政府が協働して構築する必要があります。本講義では、持続可能性の経済学の知見を活用しながら、持続可能な環境マネジメントシステムを構築するために必要な基礎知識について理解を深めることを目的としています。また、企業・行政が行っている環境マネジメントの実際についても、受講者に理解を深めてもらうため、外部講師として環境マネジメントに携わる実務者を招いて講義を行います。</p>  |       |               |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示します   |       |               |
| 教材（その他）    | 講義中に指示します   |       |               |
| 評価方法       | レポート（80%）、および出席点（20%）により評価します。  |       |               |
| 到達目標       | 環境マネジメントシステムの基本的な知識を習得することを目指します。   |       |               |
| 準備学習       | 適宜、講義中に指示します。   |       |               |
| 受講者への要望    | <p>受講者の皆さんには、実際に企業や行政機関などが環境対策にどのように取り組んでいるのか、関心をもって新聞やニュースなどを見て、常に最新の情報に触れてほしいと思います。</p>   |       |               |
| 講義の順序とポイント | <p>講義の具体的な予定は以下の通りですが、受講者数、授業の進捗状況、受講者の問題関心等に応じて、適宜変更します。 第1回 オリエンテーション 第2回 持続可能な経済学の基礎知識(1) 第3回 持続可能な経済学の基礎知識(2) 第4回 環境リスクと意思決定 第5回 環境リスクの評価手法 第6回 環境マネジメントシステムの基礎知識(1) 第7回 環境マネジメントシステムの基礎知識(2) 第8回 環境マネジメントシステムの実際(外部講師) 第9回 環境影響評価の基礎知識 第10回 環境影響評価の実際 第11回 リスクコミュニケーション 第12回 地球環境問題の事例分析 第13回 地域環境問題の事例分析 第14回 レポート提出に向けて 第15回 まとめ</p> |       |               |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   |     | ○   | ○     |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60118001 |
| 科目名  | 化学生態学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Chemical Ecology  |       |           |
| 担当者名   | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | すべての生物は他の生物との相互作用の中で生活している。ヒトもその例外ではない。相互作用の基本は、食う-食われるという栄養関係であるが、本講義では直接栄養としてやり取りされる物質を扱うことはない。本講義で扱うのは、たとえば食物探索に利用される匂いや味といった化学物質が運ぶ情報についてである。すなわち、同種、異種の生物間でやりとりされる生物情報について、情報化学物質とその機能を中心に知識と理解を深める。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ハルポーン化学生態学 文永堂 化学生態学への招待 三共出版   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する   |       |           |
| 評価方法   | 期間中および期末のレポート(小論文、3~4回)に出席を加味して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 自然界における化学物質による生物間の相互作用についての関心を高め、理解を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 有機化学の基本的知識を有していることが望ましい。授業内容の理解に化学、特に有機化学の知識は必ずしも不可欠ではない。しかし、より深く理解しようとする、有機化学の基本的知識が必要になるであろう。受講中に興味がわき科学的知識の不足を感じる事があれば、それを化学を学ぶきっかけにすれば良いではないか。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 対象となる生物や現象が非常に多様である。多くの知識を得ることも大切であるが、知識の獲得以上に、それぞれの生き物が多様で巧みな生き方をしていることを、だれか他の人にも面白く楽しく語って伝えてほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 化学生態学とは 2. 昆虫と寄主植物 摂食刺激物質 -カイコはなぜクワしか食べないか?-  3. 昆虫と寄主植物 植物の有毒物質 -カイコはなぜクワを食べられるのか?-  4. アレロパシー 植物間の化学的交渉 5. 動物による送粉 - 動物と植物の共進化 6. フェロモン - 化学物質で交わす言葉 7. 昆虫のフェロモン - 配偶者探索におけるフェロモンの役割 8. 合成性フェロモンの農作物害虫防除への利用 9. 性フェロモンの化学的解明 - 超微量分析化学 10. 社会性昆虫の化学交信 - アリ 11. 社会性昆虫の化学交信 - ミツバチ 12. 天敵の寄主探索 - 寄主の化学交信に付け込む天敵たち 13. 病原菌から身を守る植物 - 抗菌物質で森林浴 14. 脊椎動物のフェロモン - 哺乳類の複雑さ 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60119001 |
| 科目名  | 応用微生物学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Applied Microbiology B  |       |           |
| 担当者名   | 萩下 太郎   | 旧科目名称 | 産業微生物学    |
| 講義概要   | 産業微生物学を取り扱う。 微生物機能を活用するバイオプロセスを使った医薬品・精密化学品・食品の製造について、産業上有用な微生物の探索・機能開発と微生物利用による工業生産の背景・特徴など具体例を提示しながら説明する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1) 応用微生物学 第2版(2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版 2) 遺伝子から見た応用微生物学(2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店                                 |       |           |
| 教材（その他）  | 講義資料を配付する   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（出席状況などによる）（約20%） ・中間試験・期末試験（80%）   |       |           |
| 到達目標   | 1) 微生物利用による工業的生産方法の特徴・利点を理解する。 2) 個々の事例について、産業として成立した時代的背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から理解する。                         |       |           |
| 準備学習   | 受講者は「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学A」とあわせて受講することを推奨する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1) 身近なバイオものづくり  2) 生命の仕組みの本質的理解とその応用  3) 抗生物質の発見  4) 抗生物質の特徴  5) 抗生物質生産  6) 微生物機能を用いる有用物質生産：アミノ酸(1)  7) 微生物機能を用いる有用物質生産：アミノ酸(2)  8) 微生物機能を用いる有用物質生産：核酸関連物質(1)  9) 微生物機能を用いる有用物質生産：核酸関連物質(2)  10) 微生物機能を用いる有用物質生産：糖質  11) 微生物機能を用いる有用物質生産：生理活性物質  12) 酵素の発見と酵素産業(1)  13) 酵素の発見と酵素産業(2)  14) 微生物を利用した環境浄化  15) 世の中に役に立つ微生物 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012100A |
| 科目名        | 専門外書講読A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific Reading in English A  |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書(英文)を精読する。当講義の主なる目的は、外書を講読することによって科学英文に慣れ、科学英文に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的及び化学的基礎学力を系統的に養うことである。 このために秋学期の専門外書講読Bと同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、化学の基礎に対する系統的理解と知識の蓄積を図る。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | "General, Organic, and Biochemistry", Sixth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill Higher Education), 当講義では Edition No.を統一する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 評価方法の目安: 基本的には定期試験の成績(80%)及びレポート、出席状況等(20%)とする。  |       |           |
| 到達目標       | 科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。  |       |           |
| 準備学習       | 必ず予習・復習をすること。不明な単語等は授業開始前に調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | スピード感をもって授業を進めるので、必ず予習をしてくること。使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。何事もそうであるが、学業は自ら学ぶ意思を持ち、其れを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | "General, Organic, and Biochemistry"から、基礎的且つ重要な部分を講読する。前半は主に、有機化学(organic chemistry)や生化学(biochemistry)を理解するために必要な一般化学(general chemistry)の主要部分を講読し、進行具合により生化学の基礎の講読へ進めていく。 講読予定(講読の進み具合、その他により変更の可能性あり) General chemistry 1. 1.2 Matter and properties  2. 2.1 Composition of the atom  3. 2.3 Light, Atomic structure  4. 2.4 The periodic law and the periodic table  5,6. 2.6 The octet rule  7,8 3.1 Chemical bonding 9 3.3 Properties of Ionic and covalent compounds 10,11 3.4 Lewis structure of molecules and polyatomic ions 12 4.1 The mol concept and atoms  13. 4.2 The chemical formula, molar mass  14. 4.3 The chemical equation and information it conveys 15. 4.4 Balancing chemical equations |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6012100B |
| 科目名  | 専門外書講読A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific Reading in English A                                |       |           |
| 担当者名   | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 教養レベルの有機化学と生化学の専門外書を精読する。科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。         |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『General, Organic, and Biochemistry』 6th edition, MacGraw Hill |       |           |
| 教材（参考文献）   | ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書                                       |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 以下で評価する。 中間テスト（45%） 期末試験（45%） 平常点（10%）：毎回の単語テスト結果、受講態度等        |       |           |
| 到達目標   | 英文教科書を読むことによって、専門用語を理解し、内容を把握する。                               |       |           |
| 準備学習   | 予習は必ず行う。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 予習は必ず行うこととする。初めて学習する単語については辞書で意味や発音を調べ、英文を訳せるようにしておく。併せて復習を行う（翌週の単語テストに備える。英文読解の基礎力を確実に身につける）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1週 ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など）  第2週～第14週「General, Organic, and Biochemistry」を通して、科学英語の読解力を高める。毎週、前週に学んだ専門用語の単語テストを実施する。第8週に中間テストを実施する。 第15週 まとめ（試験含む） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012100C |
| 科目名        | 専門外書講読A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific Reading in English A  |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 科学英語 I～IVで学習した基礎的な英語力を運用し、バイオサイエンス分野の教科書の英文テキストを精読する。英文法についての理解をさらに深めると共に、分野の専門用語、科学論文の表現法を学習する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | ・プリントを配布する。 ・シグマ基本問題集英文法 新装版（文英堂編集部 文英堂） （科学英語 III で、すでに購入しているはずである）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | General, organic and biochemistry, 7th ed. (McGraw-Hill) Denniston, Topping, Caret 共著 ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（出席、宿題など）（20%） 中間試験（40%） 期末試験（40%）  |       |           |
| 到達目標       | 3 回生修了時にバイオサイエンス分野の原著論文を通読するだけの英語力を身につけるという目標に向かって、各自の英語力をレベルアップする。  |       |           |
| 準備学習       | 最初の講義時間に方法を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 英文法の問題集・単語の暗記を毎回の宿題とする。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) Chemistry (1) 2) Chemistry (2) 3) Chemistry (3) 4) Biochemistry (1) 5) Biochemistry (2) 6) Biochemistry (3) 7) Microbiology (1) 8) Midterm Exam 9) Microbiology (2) 10) Microbiology (3) 11) Plant physiology (1) 12) Plant physiology (2) 13) Plant physiology (3) 14) Food science (1) 15) Food science (2) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60121A0A |
| 科目名        | 専門演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Scientific Reading A   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語 I・II・III・IV』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円  |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに、記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。   |       |           |
| 準備学習       | 参考文献『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. What are the ages?  2. How many people?  3. Prove that!  4. How do you do it?  5. Where do you live?  6. What is the smallest possible value?  7. Find the positive value!  8. What is the relationship?  9. Can they do it? 10. What is the minimum number? 11. How many times? 12. How many faces? 13. Which lockers will be closed? 14. What can you say? 15. How many minutes? |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60121A0B |
| 科目名        | 専門演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Scientific Reading A   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語 I・II・III・IV』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円  |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに、記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。   |       |           |
| 準備学習       | 参考文献『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. What are the ages?  2. How many people?  3. Prove that!  4. How do you do it?  5. Where do you live?  6. What is the smallest possible value?  7. Find the positive value!  8. What is the relationship?  9. Can they do it? 10. What is the minimum number? 11. How many times? 12. How many faces? 13. Which lockers will be closed? 14. What can you say? 15. How many minutes? |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60121B0A |
| 科目名   | 専門演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Scientific Reading B  |       |           |
| 担当者名  | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円   |       |           |
| 教材（その他）   | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書   |       |           |
| 評価方法  | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標  | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに、記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。  |       |           |
| 準備学習  | 参考文献『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. Prove this by induction!  2. How many regions?  3. What is the largest integer n?  4. Can you deduce the correct formula?  5. Prove that!  6. What is the speed?  7. Can you do it with a picture?  8. When was sunrise?  9. Solve it in a few seconds! 10. How many steps? 11. What is the length? 12. What is the length? 13. How many ways? 14. Will the bug ever reach the wall? 15. What is the largest number? |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60121B0B |
| 科目名        | 専門演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Scientific Reading B   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって、科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として、文章構成の要素となる単語、語法、文、文法、構文などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 萩野 敏 他 著『EARNEST 英文法・語法』改訂版 文英堂 1,680円  |       |           |
| 教材（その他）    | 英和・和英・英英辞典等の英語辞書  |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標       | 英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに、記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。   |       |           |
| 準備学習       | 参考文献『EARNEST 英文法・語法』を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め、辞書を引く習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Prove this by induction!  2. How many regions?  3. What is the largest integer n?  4. Can you deduce the correct formula?  5. Prove that!  6. What is the speed?  7. Can you do it with a picture?  8. When was sunrise?  9. Solve it in a few seconds! 10. How many steps? 11. What is the length? 12. What is the length? 13. How many ways? 14. Will the bug ever reach the wall? 15. What is the largest number? |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012200A |
| 科目名        | 専門外書講読B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Scientific Reading in English B  |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 春学期の専門外書講読Aに続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書(英文)を精読する。当講義の主なる目的は、外書を講読することによって科学英文に慣れ、科学英文に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的及び化学的基礎学力を系統的に養うことである。 このために春学期の専門外書講読Aと同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、化学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | "General, Organic, and Biochemistry" , Sixth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill Higher Education) ,当講義では Edition No.を統一する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 評価方法の目安： 基本的には定期試験の成績(80%)及びレポート、出席状況等(20%)とする。  |       |           |
| 到達目標       | 科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。  |       |           |
| 準備学習       | 必ず予習・復習をすること。未知の単語は授業前に調べておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

スピード感をもって授業を進めるので、必ず予習をしてくること。使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。何事もそうであるが、学業は自ら学ぶ意思を持ち、其れを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

#### 講義の順序とポイント

"General, Organic, and Biochemistry" から、基礎的且つ重要な部分を講読する。春学期の続きから、前半は主に生化学(biochemistry)を理解するために必要な基礎的部分を講読する。|講読予定(講読の進み具合、その他により変更の可能性あり)|  
 |Biochemistry|1. 16.1 Types of carbohydrates , |2,3 16.2 Monosaccharides|4,5. 16.3 Stereoisomers and stereochemistry|6. 16.4 Biologically important monosaccharides |7,8. 16.5 Biologically important disaccharides |9. 16.6 Polysaccharides |10. 18.2 The  $\alpha$ -amino acids |11. 18.3 The peptide bond |12. 18.4 The primary structure of proteins, |13. 18.5 The secondary structure of proteins |14. 18.6 The tertiary structure of proteins , |15. 18.7 The quaternary structure of proteins|

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6012200B |
| 科目名  | 専門外書講読B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Scientific Reading in English B                                |       |           |
| 担当者名   | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 教養レベルの有機化学と生化学の専門外書を精読する。科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。         |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『General, Organic, and Biochemistry』 6th edition, MacGraw Hill |       |           |
| 教材（参考文献）   | ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書                                       |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 以下で評価する。 中間テスト（45%） 期末試験（45%） 平常点（10%）：毎回の単語テスト結果、受講態度等        |       |           |
| 到達目標   | 英文教科書を読むことによって、専門用語を理解し、内容を把握する。                               |       |           |
| 準備学習   | 予習は必ず行う。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 予習は必ず行うこととする。初めて学習する単語については辞書で意味や発音を調べ、英文を訳せるようにしておく。併せて復習を行う（翌週の単語テストに備える。英文読解の基礎力を確実に身につける）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1週 ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など）  第2週～第14週「General, Organic, and Biochemistry」を通して、科学英語の読解力を高める。毎週、前週に学んだ専門用語の単語テストを実施する。第8週に中間テストを実施する。 第15週 まとめ（試験含む） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6012200C |
| 科目名   | 専門外書講読B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Scientific Reading in English B   |       |           |
| 担当者名  | 清水 伸泰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 科学英語Ⅰ～Ⅳを総括する科目として、有機化学と生化学の基礎を解説した専門外書を講読する。科学論文独特の用語や英語表現、関連する文法について学習する。    |       |           |
| 教材（テキスト）  | General, organic and biochemistry (McGraw-Hill)  Denniston, Topping, Caret 共著 |       |           |
| 教材（参考文献）  | 英和辞書  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 中間試験（30%）、定期試験（30%）、理解度テスト（30%）、出席状況・受講態度（10%）                                |       |           |
| 到達目標  | 卒業研究で必要となる科学論文の読解力をつける。   |       |           |
| 準備学習  | 予習は必ず行うこととする。初めて学習する英単語については辞書で意味や発音を調べ、講義までに英文を訳せるようにしておく。                   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業後には復習を行い英文読解の基礎力を確実に身につける。併せて授業内容と合致する単元を、他の講義で使用した教科書等を参考にして内容をより深く理解する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 講義の進め方を説明する。"Enzymes"のイントロダクションを読む。  2. Nomenclature and classification 3. The effect of enzymes on activation energy of a reaction 4. The effect of substrate concentration on enzyme-catalyzed reactions 5. The enzyme-substrate complex 6. Specificity of the enzyme-substrate complex 7. The transition state and product formation 8. 中間試験 9. Cofactors and coenzymes 10. Environmental effects 11. Regulation of enzyme activity 12. Inhibition of enzyme activity 13. Proteolytic enzymes 14. Uses of enzymes in medicine 15. Summary |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6012300A |
| 科目名   | 専攻演習   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Specialized Scientific Topics   |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教員からの配布資料、および各自が用意する資料。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している                                |       |           |
| 準備学習  | 各自が発表内容を理解しやすいように整理する  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 必ず出席することを原則とする。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 春学期（第1回～第15回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。  秋学期（第16回～第30回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を適宜行う。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6012300B |
| 科目名   | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 生体の内外環境変化に応じて遺伝子とその産物の発現変化とその制御機構を   (1) ゲノムの構造レベル   (2) 細胞の分化・発生の時空間的レベル   (3) 情報伝達の経路レベル   (4) シグナル伝達に関わる分子レベル   (5) その他, 関連の複合体分子レベルについて,  基本的な専門技法の習熟, 専門知識の習得と理解を各自のレベルに応じて,  専門課題に取り組む研究テーマの理解, 課題の設定, 実行, 解決する能力を育成する. |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 最新の学術雑誌の発表論文や総説を題材として扱う.  春学期は専門分野の概要を把握できる題材を, 秋学期は専門分野の優れた英文の論文を題材にする.  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各専門課題の教科書, 参考書, 辞典など.   |       |           |
| 教材 (その他)  | 専門分野の公共データベースを活用する.   |       |           |
| 評価方法  | 選択課題の理解度, 課題の整理, 解決手段や技法の理解, 成果の理解と分析, 評価について, 全体を要約する能力 (50%) と表現力 (30%), 事後調査や整理 (20%) を総合的に判断する.   |       |           |
| 到達目標  | ライフサイエンス分野の研究の理解と成果を評価できることとさらに応用や発案できる力量を習熟すること.  また, 学習の終えた領域については, キーワードを整理し, 正しく内容を説明できるようにする.  |       |           |
| 準備学習  | 3 回生ままでに修学したことを必要なそれぞれの場面で関連づけて把握し, 理解できるように事前に準備すること.  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 勤勉に取り組むことと同じ失敗を繰り返さないように努力し, 常に課題解決に意欲的であること.   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1-2. ゲノム構造の理解  3-4. ゲノム構造のエピジェネティック変化  5-6. ゲノム構造に関わるタンパク質  7-8. 初期胚発生の理解  9-10. 細胞分化の制御  11-12. 組織特異的な制御と維持  13-14. 細胞外シグナルの種類と受容体  15-16. シグナル伝達経路と関連因子  17-18. シグナルの分子形態  19-20. シグナルの発生と消失  21-22. 新規解析手法の理解  23-24. 地域・個体・組織・細胞・分子レベルでの生物多様性の解析手法  25-26. 病因関連因子の動態と解析法  27-28. 生体の恒常性維持と破綻  29-30. 科学リテラシーと文献・特許などの調査とプレゼンテーション技法について |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6012300C |
| 科目名        | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版 2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店 3) Brock 微生物学 (2003) Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳 オーム社   |       |           |
| 教材 (その他)   | 微生物学に関する文献・資料 (各回ごとに配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 文献・資料の読解と演習について、次の点で評価する。 ・ゼミ (発表/質疑) への取り組み (50%)  ・文献・資料の理解度 (25%)  ・科学英語の読解力 (25%)   |       |           |
| 到達目標       | 1) 化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2) 科学英語の読解力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生は担当教員の指定した文献・資料を読んで、その内容を解説するゼミを行う。その他の受講生は当該文献・資料の内容を理解し、積極的な質疑応答を通じて互いにその理解を深める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 担当教員による文献・資料の読み方についての講述 (1)  2) 担当教員による文献・資料の読み方についての講述 (2)  3) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料1)  4) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料2)  5) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料3)  6) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料4)  7) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料5)  8) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料6)  9) 受講生の発表と質疑 (微生物学に関する文献・資料7)  10) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料1)  11) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料2)  12) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料3)  13) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料4)  14) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料5)  15) 受講生の発表と質疑 (応用微生物学に関する文献・資料6) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6012300D |
| 科目名   | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。               |       |           |
| 教材（テキスト）  | 各自資料を準備する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：出席状況、受講態度 |       |           |
| 到達目標  | 各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。                             |       |           |
| 準備学習  | 各自、発表内容を準備し、発表資料とする。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 春学期（週1回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて45分程度、各自2回。）。 秋学期（週2回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて45分程度、各自2回。）。 各自の実験進捗（10分、各自隔週に発表）。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6012300E |
| 科目名        | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テーマを決めて、適切な原著論文(できれば英語を母国語とする著者の英語論文)を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそぞいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 学術雑誌などを適宜指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況及び演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。また英語の教材を使用することが望ましいので、英語力をつけるよう努めること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 4年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンスと原著論文の検索法等の実習   2. 演習用教材の準備   3. 原著論文の構成や論理構成等についての説明   4～30. 原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6012300F |
| 科目名                                       | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）                                 | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名                                      | 辻村 茂男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                      | 基本的には、卒業研究として取り組む研究課題に関して、必要となる文献・資料を学ぶことと、各自の研究活動での進捗状況を検討し、卒業研究を立派に完成させるための基礎力を充実させる。 |       |           |
| 教材（テキスト）                                  |   |       |           |
| 教材（参考文献）                                  |   |       |           |
| 教材（その他）                                   |   |       |           |
| 評価方法                                      | この演習で、如何に積極的に意見を述べ、論を展開できるかを基本に評価する。  |       |           |
| 到達目標                                      | 卒業研究を立派に完成させるための基礎力を充実させる。  |       |           |
| 準備学習                                      | 自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な勉強を済ませておく。   |       |           |
| 受講者への要望                                   |   |       |           |
| 演習、研究に気力を充実させて臨むこと。                       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                                |   |       |           |
| 1)～15) 卒論研究の各テーマに関連する文献・資料の検討と、研究の進捗状況の検討 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6012300G |
| 科目名  | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Specialized Scientific Topics                      |       |           |
| 担当者名   | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「卒業研究」と一体化させて、適宜に内容を変えて演習を行う。                                 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 「卒論研究」と一体的に評価する。平常点（100%）                                     |       |           |
| 到達目標   | キャリア形成（これからの一生を通じて有意義となる専門性をもった能力）につながる「作品」としての卒業論文の作成に役立つ演習。 |       |           |
| 準備学習   | 主体的に準備学習をして臨んでください。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 卒論はあくまで自主性・自力のものでつくりあげるもの。そのことを指導・サポートするための演習です。意欲的な受講を期待しています。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ～3. 卒論作成の基礎知識 4. ～6. 流域環境デザインをめぐる課題の設定について 7. ～9. フィールド調査についての基礎演習 10. ～15. 各受講生による卒論取り組みの進捗状況・内容の発表と議論  （※担当者が適宜変更することがある） |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6012300H |
| 科目名   | 専攻演習   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Specialized Scientific Topics   |       |           |
| 担当者名  | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 卒業研究をすすめるにあたって必要な、文献の読解や、方法論の検討などについて、演習を行う。                                     |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法  | 卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標  | 各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。                             |       |           |
| 準備学習  | 生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が好ましい。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 客観的な視点で、文献や資料を読解し、議論の妥当性や方法論の妥当性などについて検討する中で、観測事実と向き合い、理解を深める過程について深く検討する。これらの経験をもとに、各自の卒業研究の進め方などについても議論を重ねたい。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6012300I |
| 科目名   | 専攻演習   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Specialized Scientific Topics   |       |           |
| 担当者名  | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 森林から海までの物質の移動や水の流れを基にして、望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について、国内外の学術的・実践的事例に学び、日本の将来の森林像・農業像を描く（デザインする）ための方法論を模索し、その実現法の獲得をめざす。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業時に配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 授業時に配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 日常の達成度により評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 農地生態系と生産について学び、日本の将来の森林像・農業像、望ましい未来像に関して、描く（デザインする）ための方法論を模索し、その実現法の獲得をめざす。  |       |           |
| 準備学習  | 農地生態についてよく観察しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 農地と森林問題について日頃から興味を持っておくこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに 2. 農・森環境についての問題を検討する。 3. 農・森環境についての問題を検討する。 4. 農・森環境についての問題を検討する。 5. 農・森環境についての問題を検討する。 6. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 7. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 8. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 9. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 10. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 11. 農・森環境についての問題とその解決法について検討する。 12. 自らが選んだ問題点についてフィールドなどで検証し知識を深める。 13. 自らが選んだ問題点についてフィールドなどで検証し知識を深める。 14. 自らが選んだ問題点についてフィールドなどで検証し知識を深める。 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6012300K |
| 科目名  | 専攻演習   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Specialized Scientific Topics                 |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 1.都市自然化手法  2.里山の管理手法  3.植物の増殖手法  4.ピオトープの評価法  5.林産物の利用実態 |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに事前準備はしませんが、必要に応じて準備します。                               |       |           |
| 教材（参考文献）   | 研究目的に沿った教科書を使います。  |       |           |
| 教材（その他）  | とくに準備はしません。 その 都度必要に応じて用意します。                            |       |           |
| 評価方法   | 専攻演習については講義内容の習得・理解度合で評価します。                             |       |           |
| 到達目標   | 物事を総合的に分析理解できるようにする。                                     |       |           |
| 準備学習   | 一つの項目について興味を持って主体的に取り組めるよう準備しておいてください。                   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 文献などの資料を十分利用できるようにしてください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.都市自然化手法 講義と現地調査 3 回 2.里山の管理手法 講義と現地調査 3 回 3.植物の増殖手法 講義と実験 3 回 4.農地と森林の評価法 講義と現地調査 3 回 5.林産物の利用実態 講義と現地調査 3 回 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6012300L |
| 科目名        | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 今年度の専攻演習は、卒業論文を書くために必要な技能を学ぶ。また、野外でのウォーキングを通じて、地図の読み方、GPS の使い方などの実践的な手法を学ぶ。具体的な場所に関しては、山陰古道などの旧街道、鯖街道などの食文化と関連する街道、亀岡市内の山々などを対象とし、京都や大阪、奈良などの街歩きも対象とする。移動は、大学のマイクロバスを積極的に利用し、場所の状況に応じて適宜電車やバスを利用する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は使用せず、これまでの卒業生の卒論、文献、論文の書き方の図書などのプリントを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | フィールドワークは各地の地図と 25000 分の 1 の地形図などを利用する  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況・学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | GIS に関連するデータベースの包括的な理解と現場での環境課題の抽出  |       |           |
| 準備学習       | 環境アセスメント演習などの GIS 学習やこれまでの講義で学んだことをよく理解しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | フィールドワークは、普段歩きなれていない学生には最初体力面でついていけないかもしれないが、徐々にペースアップして慣れるようになってほしい  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 毎回テーマを設定して実施していく。当面の予定としては以下のとおり  ・講義の概要 ・A R C G I S の使い方 5 回程度 ・卒業生の論文 3 回程度 ・論文の書き方 5 回程度 ・フィールドワーク 10 回程度 ・講義のまとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60123000 |
| 科目名        | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアル研究室では、無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な、物質の合成、解析、分析、評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この演習では、結晶合成装置、X線解析装置、X線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を、理論的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | レポート（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、環境情報数学・演習、物理学・実験、環境物理学・実験、マテリアル設計論、環境マテリアル実験を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 結晶構造（1） 2. 結晶構造（2） 3. 結晶構造（3） 4. X線回折（1） 5. X線回折（2） 6. X線回折（3） 7. 結晶解析（1） 8. 結晶解析（2） 9. 結晶解析（3） 10. 分子結合（1） 11. 分子結合（2） 12. 分子結合（3） 13. 結晶結合（1） 14. 結晶結合（2） 15. 結晶結合（3） 16. エネルギーバンド（1） 17. エネルギーバンド（2） 18. エネルギーバンド（3） 19. 共有結晶（1） 20. 共有結晶（2） 21. 共有結晶（3） 22. 金属結晶（1） 23. 金属結晶（2） 24. 金属結晶（3） 25. 半導体（1） 26. 半導体（2） 27. 半導体（3） 28. 光学物性（1） 29. 光学物性（2） 30. 光学物性（3） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                         |   |       |           |
|-------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                      | 2012  | 授業コード | J6012300P |
| 科目名                     | 専攻演習  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）               | Seminar on Specialized Scientific Topics  |       |           |
| 担当者名                    | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                    | 研究とは何をするをいうのか、科学的な思考とはどういうものか、最新の研究はどのような形で発表されるのか、どのようにして自分の研究を外部に発表するかを講義するとともに、発表された研究論文をいくつか読む。また、英語論文を読むために基礎として、および論理的な思考の訓練として、英語で記述された教科書を受講者が音読し、日本語に訳す。さらに、受講生が各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容について受講者全員で討議する。  |       |           |
| 教材（テキスト）                | Philip Ball: "The Elements ?A Very Short Introduction-", Oxford University Press.  ISBN 978-0-19-284099-8   |       |           |
| 教材（参考文献）                |   |       |           |
| 教材（その他）                 | 必要に応じてプリントを配布する   |       |           |
| 評価方法                    | 受講態度（50%）、発表内容（50%）   |       |           |
| 到達目標                    | 環境関係の最新情報を得るために必要な読解力を身につけるとともに、自分の研究を論文としてまとめる技術を身につける。  |       |           |
| 準備学習                    | 指定された部分の発表の準備を十分に行うこと   |       |           |
| 受講者への要望                 |   |       |           |
| 疑問に思う点は、その都度、積極的に質問すること |   |       |           |
| 講義の順序とポイント              | 1. 研究の基本 2. 研究論文の書き方 3. 研究論文の実例紹介：日本語の論文  4. 研究論文の実例紹介：英語の論文 2. 教科書の音読と翻訳 第1章の1  3. 教科書 第1章の2 4. 教科書 第1章の3 5. 教科書 第2章の1 6. 英文読解の基本的事項 7. 教科書 第2章の2 8. 教科書 第2章の3 9. 教科書 第2章の4 10. 教科書 第2章の5 14. 各自の研究テーマの紹介（1） 15. 各自の研究テーマの紹介（2） 16. 教科書 第6章の1 17. 教科書 第6章の2 18. 教科書 第6章の3 19. 教科書 第6章の4 20. 教科書 第6章の5 21. 各自の研究の中間報告（1） 22. 各自の研究の中間報告（2） 24. 研究論文の実例紹介（3） 25. 研究論文の実例紹介（4） 26. 研究のまとめ方 27. 各自の研究発表（1） 28. 各自の研究発表（2） 29. 各自の研究発表（3） 30. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012400A |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。                      |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。   |       |           |
| 準備学習       | 指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。                                      |       |           |
| 受講者への要望    | 毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 - 5 週 実験テーマの設定  6 - 1 5 週 テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解  1 6 - 5 0 週 テーマの取り組み  5 1 - 5 8 週 卒業論文の作成  5 9 - 6 0 週 卒業研究の発表練習および発表 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J6012400B |
| 科目名       | 卒業研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記） | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名      | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 研究課題はバイオサイエンス分野の中でも   (1) 生体内外の環境変化に伴う遺伝子の発現・抑制機構に関して、その分子的な基盤を解明すること。   (2) ゲノミクス・プロテオミクスによる環境ストレス応答シグナル伝達機構を解明すること。   (3) 遺伝子やタンパク質の構造機能解析のための新たな技法の開発を対象にした課題に取り組む。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 最新の学術雑誌の発表論文や総説など。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | ライフサイエンス分野の学術雑誌、技術書、総説、単行書、バイオ関連データベースなどを利用する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 卒業研究の課題の把握と理解（20%）、   実験計画の策定（20%）、   実験の遂行と結果（20%）およびその評価（20%）、   他者からの評価を議論できる能力（10%）、   発表表現能力（10%）などを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 新規な課題を追求し、卒業論文として完成させること。  |       |           |
| 準備学習      | 研究進行中に遭遇した失敗を一つ一つ反省し、同じミスをくり返さないように事前に心がけ対策を整えることを習得すること。  |       |           |

#### 受講者への要望

研究室で求められることは、社会に出ても求められることとなります。|大学生生活の集大成として与えられた研究テーマに意欲的に取り組むこと。|研究室構成員の一員として、各自が研究活動の遂行と維持に協力し合うこと。|大学院進学者希望者は、いつからでも随時個別指導をおこなうので申し出ること。|| 各自の進行状況は、随時教員に報告し、事後の対策など議論することで| 各自の課題解決能力を育成することを目指しています。|

#### 講義の順序とポイント

主に以下の内容の研究活動をおこなうので、分担以外の他の課題にも相互に理解すること。|1-5. 神経疾患（パーキンソン病など）に關与するシグナル伝達因子の機能解析|6-10. ガン疾患に關与するシグナル因子の機能解析|11-15. 機能性食品成分に反応するシグナル因子の探索|16-20. 環境変化に反応する微生物の機能タンパク質の探索|21-25. 特定環境の生態系および生物の多様性（バイオーム）を解析するための環境プロテオミクス|26-30. 脂肪細胞の分化制御機構の解析|31-35. 筋細胞の分化制御機構の解析|36-40. 胚発生時のメチル化 DNA 結合タンパク質および複合体の機能解析|41-45. DNA メチル化パターンの維持に關与するタンパク質の機能解析|46-50. 環境因子による遺伝子発現変化（環境エピゲノム）の解析|51-55. 改変タンパク質の機能と構造解析|56-60. エピゲノムおよびプロテオーム解析のための技術評価と開発|

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|                     |   |       |           |
|---------------------|---|-------|-----------|
| 年度                  | 2012  | 授業コード | J6012400C |
| 科目名                 | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）           | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名                | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                | 微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（１）微生物相の解析、（２）微生物のスクリーニング、（３）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材（テキスト）            |   |       |           |
| 教材（参考文献）            | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版 2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店 3) Brock 微生物学 (2003) Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳 オーム社   |       |           |
| 教材（その他）             | 先行研究に関する文献（原著論文・総説）など   |       |           |
| 評価方法                | 課題研究と卒業論文について、次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）  |       |           |
| 到達目標                | 1) バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2) 一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。  |       |           |
| 準備学習                | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望             | ・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1年間、全力で努力することを求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント          |   |       |           |
| 担当教員が個別的な研究指導を随時行う。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6012400D |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。  |       |           |
| 準備学習       | 実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎日9時半に研究室にくること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 実験テーマの設定  2. テーマに関する文献情報やweb情報の取得、理解  3. テーマの取り組み  4. 卒業論文の作成  5. 卒業研究の発表                    |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6012400E |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。 これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ・発表などから評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習   | これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 4年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。                                |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を3回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6012400F |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 辻村 茂男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 流域環境デザインは多様・多面的なアプローチを要請している。このことと関連して、卒論ではケース・スタディおよび野外調査を重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。主として、琵琶湖・淀川水系から大阪湾を対象とする。河川では、桂川の最上流域、るり溪、大学周辺の曾我谷川や犬飼川など、湖沼では、通天湖（るり溪上流）や天若湖（日吉ダム）などのダム湖、大学周辺のため池、琵琶湖など、海域では神戸港～大阪湾が対象地域となる。それぞれの水域において、人間活動がその水域に及ぼしている影響や、水質と生物の関わり、物質循環について研究テーマを設定し、研究を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 卒論への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。  |       |           |
| 到達目標       | 各自が取り組んだテーマに関して、得られた研究成果を科学論文にふさわしい内容で卒業論文として完成させる  |       |           |
| 準備学習       | 自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な勉強を済ませておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 卒業研究に全力で専念できるだけの単位数はすでに取得していること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 担当教員が個別的な研究指導を随時行う。   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012400G |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 講義形式によってではなく、卒論の課題設定、文献・資料の収集と解読、フィールド調査、データ解析等々についての指導とサポートを行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 研究への日常的取り組み（平常50%） 成果としての卒論のできばえ（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 生き生きとした課題の設定と、研究成果としてのできのよい論文。   |       |           |
| 準備学習       | 次々に疑問点（課題の限定）が深化するような研究姿勢が望ましく、そのための不断の学習が求められる。   |       |           |
| 受講者への要望    | 意欲的に取り組んで欲しい。じっくりと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義形式によってではなく、適宜の指導とサポートを行う。 現在の研究テーマは以下の3つで、それに関連する卒論の取り組みを行う学生を受け入れる。 ・流域環境の再自然化 -里山・里川・里海への素材的アプローチ- ・土地利用の変遷と流域景観 -「空間の履歴」としての全体性アプローチ- ・「なつかしい未来へ」のデザイン構想  2009年度の学生の卒論テーマは以下のものであった。「治山・治水工事における自然素材の復権」、「滋賀県造林公社問題と琵琶湖総合開発」、「外来種問題と行政対応-琵琶湖におけるブラックバスを中心に-」、「里川がもつ可能性-子供にとっての自然環境を考える-」、「環境思想としてのLOHAS-ウェンデル・ベリーの農的生活思想と対比させて-」、「風景・景観論と光の質感」、「バイオマス産業社会実現の可能性」。2010年度のテーマは、6次産業論と農協の役割、子供の”遊び”と環境教育、滋賀県針江のエコツーリズム、鞆の浦景観のCVM計測、コンパクトシティ都市計画論と自転車社会、であった。  （※担当者が適宜変更することがある） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J6012400H |
| 科目名   | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名  | 大西 信弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>流域環境デザインは多様・多面的なアプローチを要請している。このことと関連して、卒論ではケース・スタディおよび野外調査を重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。いままじ具体的に示すと、以下のような領域が挙げられる。  1. 森林・林業の流域管理システム、京都御苑や京都国有林（東山、嵐山等）の保全・利用計画、地域素材を用いての河川環境・治水施設の修復（南丹地域の木製砂防ダム、粗だ・里山利用）、環境宣言“都市”（ex.滋賀県高島市）のケース・スタディ、京都府下のイノベーション・6次産業化の地域分析、バイオマス（ペレット燃料）を軸にした地域組織化のケース・スタディ（大阪府森林組合・高槻の場合など）がテーマや場所としてある。また、自然保護思想、環境倫理に関しては文献研究も可能。  2. 水質分析を基本にした琵琶湖・淀川水系流域の水環境の研究。神戸空港による大阪湾の海洋環境破壊の実態調査。亀岡の水環境（曾我谷川、犬飼川、日吉ダムを含めた保津川）の基礎調査。  3. 曾我谷川流域、保津川流域に生息する動物の生態に関する研究。水田などの人の活動が流域の生態系に与える影響に関する研究。エコミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての研究。そのほか、一般的な動物生態学、動物社会学などに関連する分野の研究。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜紹介する  |       |           |
| 評価方法  | 卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。  |       |           |
| 到達目標  | 各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。  |       |           |
| 準備学習  | 生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が好ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |                             |       |           |
|--|-----------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                        | 授業コード | J6012400I |
| 科目名  | 卒業研究                        | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research         |       |           |
| 担当者名   | 矢澤 進                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 実験・フィールド調査を中心に、研究論文の完成を目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業時に配布する。                   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業時に紹介する。                   |       |           |
| 教材（その他）  | 授業時に配布する。                   |       |           |
| 評価方法   | 研究論文の完成度をもとに評価する。           |       |           |
| 到達目標   | 新しい現象についての解析力を身につける。        |       |           |
| 準備学習   | 自から問題点を見つけるように常に心がけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |                             |       |           |
| 問題になっている事柄の分析と解決の方法を身につけるように努力する。  |                             |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                             |       |           |
| 1. はじめに  2. 問題点の設定について。  3. 問題点の設定について。  4. 問題点の解決法について。  5. 問題点の解決法へのアプローチ。  6. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  7. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  8. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  9. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  10. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  11. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  12. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  13. 実験・フィールド調査でその問題点を深化させる。  14. 論文の構成と発表。  15. まとめ |                             |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6012400K |
| 科目名  | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 各自のテーマに沿った講義を行います。たとえば、 1.都市自然化手法  2.里山の管理手法  3.植物の増殖手法  4.ピオトープの評価法  5.林産物の利用実態  などです。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 研究目的に沿った教材、参考書を使います。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 研究目的に沿った教科書を使います。   |       |           |
| 教材（その他）  | 研究目的に沿った資料を渡します。  |       |           |
| 評価方法   | 卒業研究については目標に達した場合合格。及び達さなかった場合不合格。  |       |           |
| 到達目標   | 十分な物事の分析と組み立て、表現ができるようにします。   |       |           |
| 準備学習   | 卒業研究を始めるに際し、テーマあるいはそれに関連する文献資料をよく読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 卒業研究の目的・構成などについて筋道を立てておいてください。 文献などの資料を十分利用できるようにしてください。                                       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.都市自然化手法 講義と現地調査  2.里山の管理手法 講義と現地調査  3.植物の増殖手法 講義と実験  4.ピオトープの評価法 講義と現地調査  5.林産物の利用実態 講義と現地調査 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6012400L |
| 科目名   | 卒業研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）   | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名  | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>バイオ環境学部の第1期生の都市自然化デザイン原研究室所属のゼミ学生は亀岡の風土を知ることを目的に、亀岡に関係した研究テーマを選定し実施した。9編の論文の全体を通じて亀岡への理解が深まったと考えられる。第2期生は「カバタ-水辺の暮らし-」、「亀岡盆地の水路網と水利権」、「滋賀県旧草津川のリデザイン」、「全国の水系における洪水リスク」、「里山の指標化」、「亀岡における農産物直売所」、「かめおかグリーンマップ」、「都市近郊での環境教育の実践」をテーマとして実施した。第3期生は、犬飼川のオオサンショウウオ、亀岡の淡水魚やクワガタムシなどの生物調査、琵琶湖のヨシ原、鯖街道、古地図と旧街道、亀岡における獣害としてテーマでスタートする。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書は使用せず、プリントやGISデータを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など   |       |           |
| 評価方法  | 出席状況・学ぶ意欲・卒業研究の成果による総合評価   |       |           |
| 到達目標  | ゼミへの出席と研究発表を通じて卒業研究として所定の水準を超えること  |       |           |
| 準備学習  | 並行する専攻演習や3回生までの講義で学んだことをよく理解しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 就職活動と同時進行となるが、しっかりとゼミに出席してほしい。結果的にはその緊張感が就職にも結びつく。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 毎週、春学期と秋学期で通算約30回の卒論ゼミを行う。発表は、1回につき3名程度とし、順に発表を行うので、おおむね3週間に1回の発表となる。発表は、パワーポイントで行い、事前にレジュメを学生の人数分用意しておくこと。発表の学生は事前にパワポとレジュメを準備する。発表のあと、他の学生は質問や感想を一人一人必ず述べること。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60124000 |
| 科目名        | 卒業研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアル研究室では、無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な、物質の合成、解析、分析、評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この研究では、結晶合成装置、X線解析装置、X線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を、実験的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | 卒業論文（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 数学、環境情報数学・演習、物理学・実験、環境物理学・実験、マテリアル設計論、環境マテリアル実験を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 結晶合成法（1） 2. 結晶合成法（2） 3. 結晶合成法（3） 4. 結晶合成実験（1） 5. 結晶合成実験（2） 6. 結晶合成実験（3） 7. 結晶解析法（1） 8. 結晶解析法（2） 9. 結晶解析法（3） 10. 結晶解析実験（1） 11. 結晶解析実験（2） 12. 結晶解析実験（3） 13. 成分分析法（1） 14. 成分分析法（2） 15. 成分分析法（3） 16. 成分分析実験（1） 17. 成分分析実験（2） 18. 成分分析実験（3） 19. 結晶評価法（1） 20. 結晶評価法（2） 21. 結晶評価法（3） 22. 結晶評価実験（1） 23. 結晶評価実験（2） 24. 結晶評価実験（3） 25. 固体物性測定法（1） 26. 固体物性測定法（2） 27. 固体物性測定法（3） 28. 固体物性測定実験（1） 29. 固体物性想定実験（2） 30. 固体物性測定実験（3） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6012400P |
| 科目名        | 卒業研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Graduation Research  |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオマス資源をエネルギー源や原材料として高度に有効利用するのに必要な技術として、生化学的な変換技術に力点を置き、バイオマスを加工する技術や、バイオマス加工から派生する廃物の利用や廃物・排水・悪臭の処理技術など、バイオマスの利用や環境保全をテーマにした研究、または、人に共生している微生物の研究や、その微生物を研究するための DNA 解析法、さらに DNA 解析法の応用などの中からテーマを選び、調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 研究テーマに則した教材を選んで貸与する  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)、卒業論文（50%）   |       |           |
| 到達目標       | テーマに沿って調査や実験を実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる能力を身に付ける。   |       |           |
| 準備学習       | 多くの文章を読んで、文章によって表現する能力を高めるように心がけること  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究室は勉学の間であることを常に念頭において行動すること。使用した器具類の後片付けや整理整頓を行うこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～5. 研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解  6～10. 調査や実験計画の立案  11～25. 調査や実験の実施  26～30. 調査や実験の結果の中間段階でのまとめ  31～44. 調査や実験の実施  45～49. 調査や実験結果のまとめ  50～54. 卒業論文の作成  55～58. 研究内容の口頭発表の準備  59. 研究内容の口頭発表  60. まとめと後片付け                       |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60125001 |
| 科目名  | 有機化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Organic Chemistry   |       |           |
| 担当者名   | 坂本 文夫   | 旧科目名称 | 有機化学概論    |
| 講義概要   | 日常生活や将来の職業生活において、有機化学が重要な役割を果たしていることを理解してもらうこと、日常発生している科学や技術に関する問題について良識ある判断ができる基礎知識を習得してもらうことを目標とする。有機化学の概念や一般的な知識を講義するだけでなく、環境、食品、医薬品等の分野で有機化学と密接に関係する話題を取り上げ、有機化学の眼で理解できるような基礎的な専門知識を講義する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版、800 円)   配布資料  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | H G S 分子構造模型 C 型セット (丸善、4000 円)   ビデオ「ホフマンの化学の世界」   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験の成績 (70%)、小テストの状況、出席状況・受講態度 (30%) 等を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 専門科目履修に必要な基礎学力として、有機化合物の構造、命名法および反応について基本的な内容を修得する。   |       |           |
| 準備学習   | 講義の進捗に合わせてテキストの予習をする。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義内容や配布資料についての理解を深めるためにレポートや小テストを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義外での学習もいとわずに有機化学の基礎知識を習得して下さい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 有機化合物と化学結合   2. 有機化合物を構成する元素とその特性   3. 有機化合物の分類と IUPAC 命名法 1   4. 有機化合物の分類と IUPAC 命名法 2   5. 有機化合物の構造 1   6. 有機化合物の構造 2   7. 光学異性   8. 構造決定   9. 酸性・塩基性   10. 脂肪族化合物の反応、立体選択性   11. 芳香族化合物の化学、配向性   12. 身のまわりの有機化学 1   13. 身のまわりの有機化学 2   14. 生命と有機化学   15. まとめ |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60126001 |
| 科目名        | 有機機器分析学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Organic Spectroscopy   |       |           |
| 担当者名       | 清水 伸泰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 低分子有機化合物の構造決定を目的として、分離技術、核磁気共鳴分光法 (NMR)、質量分析法 (MS)、赤外分光法 (IR)、紫外・可視分光法 (UV-VIS) について解説する。講義の後半では、各種スペクトルデータを組み合わせた有機化合物の構造決定に関する演習を重点的に行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析』 小川桂一郎ら 著 (東京化学同人)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『入門機器分析化学』 庄野利之、脇田久伸 編著 (三共出版)   『入門クロマトグラフィー第2版』 Roy J. Gritter ほか 著/原昭二 翻訳 (東京化学同人)   『第2版 機器分析のてびき—IR、NMR、MS、UV データ集』 泉美治ら監修 (化学同人)   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 試験 (70%)、理解度テスト (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 各種スペクトルより主要な情報を的確に抽出できる。また、自分が必要とする情報を得るには、どのようなスペクトルを測定すればよいかを判断できる。最終的には、分離法から分析法まで一連の構造決定スキームを立案できる。  |       |           |
| 準備学習       | 有機化学の基礎 (有機化合物の構造とその特徴、命名法) をよく理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 単に有機化合物の分離法、分析機器の操作、方法を覚えるのではなく、原理や構造を十分理解して、応用能力を養ってもらいたい。本講義で学んだ内容は、バイオサイエンス分野の卒業研究で十分活かしていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. クロマトグラフィー I (ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー)   2. クロマトグラフィー II (薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー)   3. 紫外・可視分光法 (UV-VIS)   4. 赤外分光法 (IR)   5. 核磁気共鳴分光法 (NMR) I (基本原理、 <sup>1</sup> H NMR)   6. 核磁気共鳴分光法 II ( <sup>1</sup> H NMR の応用)   7. 核磁気共鳴分光法 III ( <sup>13</sup> C NMR)   8. 核磁気共鳴分光法 IV (NMR スペクトルの解析)   9. 質量分析法 (MS) I (基本原理、測定装置)   10. 質量分析法 II (イオン化法、開裂パターン、フラグメンテーション)   11. 質量分析法 III (マススペクトルの解析)   12. 総合演習 I (各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析)   13. 総合演習 II   14. 総合演習 III   15. 総合演習 IV |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60127001 |
| 科目名  | 有機反応機構論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Organic Reaction Mechanisms  |       |           |
| 担当者名   | 清水 伸泰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 代表的な有機反応の機構を、有機電子論の立場から平易に解説していく。有機化合物の体系を学ぶとともに、反応のメカニズムについて理解を深める。                           |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 講義プリント 『キーノート有機化学』 Andrew F. Parsons 著、村田 滋 訳 (東京化学同人)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『ブルース有機化学概説』 Paula Y. Bruce 著/大船ら 監訳 (化学同人)  『マクマリー有機化学 上・中 第6版』 John McMurry 著/伊東ら 訳 (東京化学同人) |       |           |
| 教材 (その他)   | H G S 分子構造模型 C 型セット  |       |           |
| 評価方法   | 試験 (70%)、理解度テスト (30%)  |       |           |
| 到達目標   | 有機化合物の反応形式がどのようなものであり、またなぜそうなるかを体系的に理解する。  |       |           |
| 準備学習   | 有機化学の基礎 (有機化合物の構造とその特徴、命名法) をよく理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 有機化学反応のメカニズムはただ暗記するのではなく、有機化学の基礎を踏まえた上で考察することが重要である。独自の反応機構を提案し、議論できることを期待している。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 化学結合と分子構造 I   2. 化学結合と分子構造 II   3. 酸と塩基   4. アルケンとアルキン I   5. アルケンとアルキン II   6. 芳香族化合物 I   7. 芳香族化合物 II   8. 求核置換反応   9. 脱離反応   10. カルボン酸誘導体   11. カルボニル化合物 I   12. カルボニル化合物 II   13. カルボニル化合物 III   14. 演習 I   15. 演習 II |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60128001 |
| 科目名  | 生物有機化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Bioorganic Chemistry  |       |           |
| 担当者名   | 坂本 文夫   | 旧科目名称 | 生物機能有機化学  |
| 講義概要   | 生物有機化学は生物体を形成し、含まれる種々の有機化合物の性質や機能について追求する学問分野である。有機化合物の多様な性質と機能は、それぞれの構造と官能基の違いによる。それらの複雑な有機化合物を生体で作り出す生合成の過程もまた重要である。生体、環境との関わりに焦点をあててこれらの有機化学を学習する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 生物有機化学 (長澤寛道著、東京化学同人) 2600 円 + 税   配布資料   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | H G S 分子構造模型 C 型セット (丸善、4000 円)   ビデオ   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験の成績 (70%) を中心に、小テスト・レポートの成績、出席状況・受講態度 (30%) 等を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 生命化学および環境科学の基礎学問としての有機化学を、有機化合物と生体、環境との関わりに焦点をあてて学習する。我々の周囲に存在する生体分子の多様性、有用性ならびにそれらの由来についての知識を得る。   |       |           |
| 準備学習   | テキストの概要を把握しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義内容や配布資料についての理解を深めるためにレポートや小テストを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義外での学習もいとわずに生物有機化学の知識を習得して下さい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 天然有機化合物   2. 生物活性物質と生物検定   3. 生物活性物質の精製、単離   4. 生物活性物質 - 各論 1 (脂肪酸関連)   5. 生物活性物質 - 各論 2 (ポリケチド)   6. 生物活性物質 - 各論 3 (テルペノイド)   7. 生物活性物質 - 各論 4 (アルカロイド)   8. ホルモン 1   9. ホルモン 2   10. フェロモン 1   11. フェロモン 2   12. 植物生長調節物質   13. 生理活性物質 (医薬 1)   14. 生理活性物質 (医薬 2)   15. 生理活性物質 (医薬 3) |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60130001 |
| 科目名        | 生化学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Biochemistry I   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 生きている細胞を構成している物質を理解することに重点をおき、生体高分子であるタンパク質・核酸・多糖類・脂質とその構成単位であるアミノ酸,ヌクレオチド,糖,脂肪酸などについて科学的な分子基盤を理解し、生体物質の特性を理解することから,生化学Ⅱでの生命体の維持にかかわる分子機能を学習するための基礎力の習得をめざす。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書：『ヴォート基礎生化学』(第3版) 2009年12月発行, 東京化学同人  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『ヴォート生化学 上、下』(第3版), 東京化学同人   『エッセンシャル細胞生物学』(原書第2版), 南江堂   『生化学事典』(第4版), 東京化学同人   |       |           |
| 教材 (その他)   | "Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science   『レーヴン/ジョンソン 生物学 {上・下}』培風館   アメリカ版大学生物学の教科書 第1巻細胞生物学, 第2巻分子遺伝学, 第3巻分子生物学 講談社               |       |           |
| 評価方法       | 各講義の理解度・配布資料の整理・ノートの整理・小テストなどの平素の受講 (30%) と期末テスト(70%) について, その結果とまとめ方, 理解度, 応用力, 表現力などを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 生化学Ⅱの代謝を中心とした学習に必要な基礎と応用の習得。   |       |           |
| 準備学習       | 高校生物ⅠとⅡの範囲を復習しながら、講義を受けて下さい。   |       |           |

#### 受講者への要望

授業毎に理解度を確認し,必ず資料やノートを整理し, 復習して欲しい。|授業後の課題について、ミニツツペーパーで答えられなかった場合には、授業配布のプリントや教科書などを参考に復習して下さい。不明な点や疑問は積極的にミニツツペーパーに記載し, 質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて, 質問してください (質問受付: 随時、B10-3 研究室)。|

#### 講義の順序とポイント

1. 地球と生命: 地球の歴史と生命の進化, 水と生体分子, 細胞の構造, 同化と異化 | 2. 生命科学の概要: 生命の不思議, 右向きと左向き, 右巻きと左巻き, 右回りと左回り | 3. 核酸と染色体 | 4. アミノ酸は何種類あるのだろうか | 5. アミノ酸の機能、機能性ポリペプチド | 6. タンパク質の種類と機能 | 7. タンパク質の基本構造とドメイン | 8. 単糖と多糖、その種類と機能 | 9. 複合糖質とその特徴 | 10. 脂質と生体膜の表と裏 | 11. 機能性分子の活躍 | 12. 酵素の機能と特徴 | 13. 生体分子の取り扱い | 14. 生命科学の課題 (情報) と科学リテラシー | 15. 演習 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60131001 |
| 科目名        | 生化学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Biochemistry II  |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 生命体ではどのような酵素化学反応が調節され、効率的におこなわれているかを理解し、調和のとれた生物の個体を維持するエネルギーの産生と貯蔵のシステム、個々の生体構成物質の動的な変化過程や調節機能や再利用機構がどのように働いているかを把握する。生物がもっている巧みな機構を認識し、生命の基本システムを学習することを目標とし、広く生命科学の発展学習に必要な基礎学力の習熟をめざす。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書：『ヴォート基礎生化学』(第3版) 2009年12月発行, 東京化学同人  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『ヴォート生化学 上、下』(第3版), 東京化学同人   『エッセンシャル細胞生物学』(原書第2版), 南江堂   『生化学事典』(第4版), 東京化学同人   |       |           |
| 教材 (その他)   | "Molecular Biology of The Cell" (fifth edition), Garland Science   『レーヴン/ジョンソン 生物学 {上・下}』培風館   アメリカ版大学生物学の教科書 第1巻細胞生物学, 第2巻分子遺伝学, 第3巻分子生物学 講談社   |       |           |
| 評価方法       | 授業単位毎の小課題のレポート(ミニツツペーパー), 資料の整理とノートの整理, 小テスト(以上の項目合わせて30%), 期末試験(70%) などの結果を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 生化学を基本に細胞生物学, 分子生物学, 栄養科学, 遺伝子工学, 生体高分子学などの学習に必要な基礎的な学力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習       | 生化学 II の進度に応じて, 生化学 I の基本事項の復習と, より理解を深める事前学習が必要である。   |       |           |

#### 受講者への要望

授業毎に理解度を自己点検・確認し, 必ず資料やノートを整理し, 復習すること。| 余裕のある人は英文教科書の対応する部分の読解に挑戦すること。| 不明な点や疑問は積極的にミニツツペーパーや出講カードに記載し, 質問するかオフィスアワーなどを活用して研究室を訪ねて, 質問してください (質問受付: 随時、B10-3 研究室)。

#### 講義の順序とポイント

1. 生化学 I の復習と代謝とは何か | 2. 細胞と組織の機能分担と生体膜 | 3. 生体エネルギーの産生と貯蔵 | 4. グルコースを利用する反応 | 5. 解糖の調節機構と破綻 | 6. 貯蔵多糖とアスリート | 7. TCA サイクル・エンジンは | 8. ミトコンドリアのパワーと呼吸 | 9. 葉緑体のパワーと光合成 | 10. 生物間の物質循環と生物多様性 | 11. 貴重な脂肪と余分な脂肪 | 12. 生活習慣病と生体物質の代謝 | 13. アミノ酸の供給分解と窒素代謝 | 14. 臓器と器官の相互役割分担 | 15. 演習 |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60132001 |
| 科目名        | 生理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Physiology   |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久  | 旧科目名称 | 生理学概論     |
| 講義概要       | <p>生体は多種多様な外部環境の変化に曝されているにもかかわらず、その内部環境は常に一定の状態に維持されている。この恒常性の維持には生体を構成している組織、器官、臓器などの連携と調和が必要不可欠である。本講義では人体の恒常性の維持機構を理解するために神経系、内分泌系および免疫系を中心に講義し、個体全体がどのようにして生体反応を統合的に制御し、生体システムを維持しているのかについて学ぶ。さらに、生体システムの破綻が引き起こす疾病についても触れる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブによりファイルを提供する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(10%), 定期テスト(70%), レポート(20%)  |       |           |
| 到達目標       | ヒトの生体システム全体がどのようなメカニズムで統合的に制御されているかを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 生化学 I および II の内容を復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.はじめに ー生理学とはー 2.血液成分、体液成分とその機能 3.血液循環とその調節 4.肺による体液成分の調節 5.腎による体液成分の調節 6.情報伝達物質とその受容体 7.ホルモンの作用 8.ニューロンとシナプス 9.中枢神経と末梢神経 10.自律神経 11.代謝の統合的調節 12.免疫担当細胞の種類と働き 13.体液性免疫と細胞性免疫 14.免疫疾患 15.まとめ</p>                                   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60133001 |
| 科目名   | 生体高分子学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Biomacromolecular Science  |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 生命機能に関わる種々のタンパク質、核酸に重点をおき、これらの生体高分子がどのようにして、どのような機能発現を示すのかを理解し、生体高分子の相互作用の把握から生命体が進化の過程で獲得してきた特異な機能とその多様性および巧みな調節機能を理解し、生命科学で注目されている主要な課題について、個々のテーマを生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学で学んだことを相互に関連づけ、体系的に理解し、要約説明できることをめざす。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特定の教科書は指定しない。 配布プリント・パワーポイント・DVD等を利用する。また、課題追求のための教材は随時紹介する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 1. 2 回生で用いた分子生物学・細胞生物学・生化学などの参考図書と最新の文献を参考にする。   |       |           |
| 教材 (その他)  | "Molecular Biology of The Cell"(Fifth Ed.) B.Alberts et.al.  "Developmental Biology" (Eighth Ed) S.C. Gilbert  "Biochemistry" (3rd Ed) D. Voet & J. Voet   |       |           |
| 評価方法  | 課題レポート (20%), 課題発表 (50%), 講義の要約 (15%), 講義中の質疑 (15%) について総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 遺伝子機能を中心にタンパク質複合体相互作用による細胞の機能を理解することと課題を深く理解し、要約し明解に発表できることを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 検討課題毎に、既に修学した生化学・分子生物学・細胞生物学・生理学・バイオインフォマティクス・遺伝子工学などで学んだことを把握して講義に望むこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義内容を十分に理解するよう復習して欲しい。 課題を追求し、調査する能力を身につけること。 情報処理能力を鍛えるために、Database 検索力を磨いて欲しい。 従って、講義時間以外に Database にアクセスし、情報の価値を知って欲しい。 不明な点、疑問などは積極的にオフィスアワーなどを活用して質問してください (随時受付)。 遅刻厳禁。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 細胞分裂と細胞周期 2. クロマチンの構造と細胞機能 3. 遺伝子の活性化機構と転写制御機構 4. 転写 snRNA と新機能 5. 転写の開始と転写の終止 6. 発ガンとガン抑制 7. 核膜孔と細胞内輸送システム 8. 細胞骨格と細胞外マトリックス  9. トランスポーターと多彩なシグナル伝達機構 10. 発生を制御する細胞機能  11. ウイルス感染の分子機構と免疫系の相互認識機構  12. 免疫系の細胞間相互認識機構 13. エピジェネティックな制御 14. タンパク質の高次複合体構造解析の現状 15. 課題演習・課題発表会  (タンパク質の構造ドメインについて、各自が今まで学習してきたことをまとめて発表できるように指導する) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60136001 |
| 科目名        | 分子生物学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Molecular Biology   |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 分子生物学では、生命現象の基本である遺伝とタンパク質合成を中心に、生体高分子合成反応を理解することを目標とする。本講義では、DNA の二重らせん構造と染色体構造、DNA の複製と DNA からタンパク質へ遺伝情報が伝達される仕組み（転写、翻訳）及びその調節機構を分子レベルで解説する。さらに、遺伝子の組換え、DNA の突然変異、修復及び環境適応等についても分子レベルで講義する。遺伝子の構造と機能に関する重要な知見は実際どのような実験によって明らかになったかをふまえた講義とする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特になし。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Donald Voet 他著『ヴォート基礎生化学、第2版』（東京化学同人）。 田村降明、村松正實著『基礎分子生物学、第2版』（東京化学同人）。 Bruce Alberts 他著『Essential 細胞生物学、第2版』（南江堂）。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 和田勝著 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学』（羊土社）。 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』（講談社）。 プリント（配布する）、DVD など。  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験、小テスト、実力問題、出席・受講態度などの結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 分子生物学の全体像を理解することを目標としている。   |       |           |
| 準備学習       | 予習・復習を毎回行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. シラバスの説明、ガイダンス、分子生物学とは？  2. 生物と遺伝とは。メンデルの遺伝法則  3. 情報高分子：DNA と RNA の化学的構造とその立体構造。核酸の物理的性質  4. 情報物質としての遺伝子、染色体、染色質（クロマチン）の性質 5. 生体高分子集合体：原核生物と真核生物のゲノム構造  6. 遺伝情報の保存：DNA ポリメラーゼ、DNA の二方向複製メカニズム、DNA の修復  7. 遺伝子が組換わる、相同組換えと非相同組換え。遺伝子地図  8. 遺伝情報の転写：RNA ポリメラーゼによる RNA 合成メカニズム  9. 真核生物 RNA の転写後修飾とスプライシング  10. 真核生物における発現制御機構  11. 原核生物の転写制御：トリプトファンオペロンの調節、ラクトースオペロンの調節  12. 遺伝暗号の翻訳：mRNA の読み枠、tRNA の合成とアミノ酸選択機構  13. タンパク質の合成機構の流れ：リボゾームの構造、ペプチド鎖伸長の分子機構  14. DNA の変異：突然変異の種類、変異と適応  15. 演習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60137001 |
| 科目名  | 細胞生物学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Cell Biology   |       |           |
| 担当者名   | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>生化学 I,II および分子生物学を十分に理解したことを前提に、生命現象の基本単位である細胞の構造と機能について分子レベルで解説する。  具体的には生命現象における様々な物質の挙動を各細胞内小器官との関連で説明するとともに、その解析法についても解説する。また、細胞輸送、細胞骨格、細胞間コミュニケーションなど、多細胞生物に必要な仕組み、更に細胞内情報伝達、細胞周期、細胞分裂、細胞死の制御機構やこれらの異常と各種疾患との関連についても概説する。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>Bruce Alberts 他 著 (中村桂子他 監訳) 『Essential 細胞生物学 原書第3版』 (南江堂) 8,000 円 和田勝著 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第2版』 (羊土社) 3,000 円 尾張部克志、神谷律 著『ベーシックマスター細胞生物学』 (オーム社) 3,600 円 </p>   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 期末試験(60%)、レポート(10%)、講義での発表、受講態度、出席状況などの平常点(30%)の結果を総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標   | <p>・生物を構成する基本単位「細胞」の構成要素および細胞内小器官の構造と機能を理解する。  ・細胞内区画と物質の輸送、細胞内シグナル伝達機構のしくみを理解する。 ・細胞骨格や細胞接着、細胞内マトリックスに関わるタンパク質の種類と役割について概説できる。 ・正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。 ・この講義で学んだことを、専門実験や卒業演習で適用できる能力を身につける。 </p>                                    |       |           |
| 準備学習   | <p>バイオサイエンス入門、生化学 I,II、分子生物学で学んだ基礎項目や専門用語を復習しておくこと。 予習として参考書に目をとおしておく。講義の最後に演習を行うので、次回の講義までに疑問点を調べ理解しておく。 </p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義には必ず出席し、復習を積極的に行うようにしてください。 疑問点があれば積極的に聞くようにしてください。 細胞生物学で学んだ用語について、自分の言葉で表現できる能力を身につけること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. ガイダンス 2. 細胞とは何か 3. 細胞の膜構造と細胞小器官 4. 細胞内区画と細胞内輸送 5. 細胞骨格と細胞運動 6. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション 7. 細胞内情報伝達 8. 細胞周期 9. がんの細胞生物学① 10. がんの細胞生物学② 11. 生殖と発生・細胞分化 12. 細胞の再生、老化と細胞死 13. 脳神経系、免疫系の細胞生物学 14. 細胞生物学に関する最新技術動向 15. まとめと演習 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60138001 |
| 科目名   | 遺伝子工学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Genetics Engineering  |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ゲノム解析がもたらす多大なゲノム配列情報と種々の技術との融合で新たに可能となる学問領域について、その分子生物学的な基礎から具体的な応用例までを原理と技法の理解と応用演習を通じて習熟を深め、多様な遺伝子産物の応用と有用性を学習し、生命科学が現代社会にどのように貢献できるかを考察しながら理解する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特定の教科書は指定しない。配布プリント等を利用して、授業内容を整理し、My Textbook を各自で作る。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 1, 2 回生で用いた分子生物学, 細胞生物学, 生化学などの参考図書を参考にする。  |       |           |
| 教材 (その他)  | "Current Protocols in Molecular Biology", "Molecular Cloning -A Laboratory Manual" などに掲載されている基本的な技法を教材にする。  |       |           |
| 評価方法  | 期末試験 (60%) ・課題レポート, 小テスト, 講義中の評価(40%) として、総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 生物の遺伝子情報を整理し、正しく読み取り、緻密に理解できる力量の習熟をめざし、種々の遺伝情報に対応できることを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 分子生物学の基本事項を正確に把握して、遺伝子工学の個々の課題を理解できる準備学習が必要である。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 遅刻厳禁。講義には欠かさず出席し、各回の講義内容を十分に理解するよう復習をして欲しい。不明な点や疑問は積極的にオフィスアワーなどを活用して質問してください (随時受付: B10-3 研究室)。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 遺伝子工学開発の歴史と染色体について  2. 遺伝子工学の原理と基礎技術について  3. タンパク質工学  4. ゲノム解析と遺伝子診断  5. 細胞工学  6. モノクローナル抗体・人工染色体  7. 遺伝子改変動物と遺伝子改変植物  8. 人工臓器・再生臓器・組織培養  9. 胚と生殖工学・クローン動物  10. 単為発生とゲノムインプリンティング  11. ES 細胞と iPS 細胞  12. RNA 工学 13. 遺伝子治療と遺伝子工学の新展開  14. 遺伝子操作技法の応用演習 15. バイオインフォマティクスの演習のまとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60141001 |
| 科目名        | 微生物学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Microbiology II   |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史   | 旧科目名称 | 微生物生産学    |
| 講義概要       | 一般微生物学の後半を取り扱う。 微生物学 I に引き続き、微生物のマクロな生物学的性質としての多様性、生態学を扱う。さらに、「応用微生物学 A」(発酵・醸造学)、「応用微生物学 B」(産業微生物学) へとつながる微生物の利用、人や家畜などの病気との関わりについての基礎を学ぶ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ワークブックを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) Brock 微生物学 (2003) Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳 オーム社 世界各国で高い評価を受けている教科書の第 9 版の翻訳。原著は 2010 年に 13th ed.が出ており、2011 年夏に普及版が出版予定。  2) IFO 微生物学概論 (2010) 発酵研究所 大島泰治 監修 培風館 現在日本語で読める一般微生物学の教科書のうち、最新かつ最も詳しいもの。  3) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦ら編著 朝倉書店 応用微生物学だが、内容は一般微生物学寄り。 |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ・平常点 (出席状況や受講態度などによる) (20%)   ・小テスト (40%)   ・期末試験 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 1) 微生物の系統分類と多様性について理解する。  2) 微生物の生態学と地球環境における役割について理解する。  3) 微生物と人との関わりについて、そのポジティブ、ネガティブの両面を理解する。   4) 微生物による感染症とその防御についての基礎を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 「微生物学 I」とあわせて受講すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」の基礎となる学問であるので、これらを受講する場合は「微生物学 I、II」を受講しておくことを推奨する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 微生物の進化と系統学  2) バクテリアとアーキア  3) ユーカリアの細胞生物学とユーカリアに属する微生物  4) ウィルスの多様性  5) 微生物生態学の手法  6) 微生物の生息域と多様性  7) 栄養サイクル、生物分解とバイオレメディエーション  8) 微生物共生  9) 微生物の生育制御  10) ヒトとの相互作用  11) 免疫と宿主の防御  12) 診断微生物学  13) 疫学  14) 感染症 1   15) 感染症 2                                       |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60142001 |
| 科目名        | 応用微生物学 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Applied Microbiology A  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌  | 旧科目名称 | 発酵・醸造学    |
| 講義概要       | 明治時代にヨーロッパから導入された近代微生物学の最初の研究対象のひとつは、長い伝統を持ち、世界的にもきわめて優れた技術でつくられていた日本の発酵・醸造物であった。本講義では、微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について、製法とその微生物学、生化学、化学を解説し、さらに産業としての歴史と、現在のありようについて触れる。加えて、京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々から実際のお話を伺う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 醸造・発酵食品の事典 吉沢 淑 他編 (2002) 朝倉書店  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ・小テスト (30%)   ・定期試験 (20%)   ・レポート (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 1) 発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。  2) 日本には特に様々な発酵・醸造製品が発達していることを理解する。  3) 日常生活の中で発酵・醸造製品に関心を持てるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 2009 年度生は「環境微生物学」、「微生物生産学」、「応用微生物学」(2010 年度生以降は「微生物学 I」、「微生物学 II」)を受講しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | ・発酵・醸造学の基本的な事項に関する小テストを数回行い、そこから定期試験を出題する。  ・各種の食品・飲料・調味料の中から一つを選び、自分の関心のあるテーマについて詳しく調査したレポートを提出する。  ・レポートについては、解説書を参照して調査の仕方、論述の仕方、様式について自学すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 発酵・醸造学とは何か: その微生物学・生化学・化学  2) 酒類総論: ワイン・ビール・清酒・蒸留酒  3) 酒類各論: ワイン  4) 酒類各論: ビール  5) 酒類各論: 清酒 (1)  6) 酒類各論: 清酒 (2)  7) 発酵調味料総論: 醤油・味噌・食酢・味醂  8) 発酵調味料各論: 醤油  9) 発酵調味料各論: 味噌  10) 発酵食品総論: 野菜・畜産物・水産物・パン  11) 発酵食品各論: 漬物 (1)  12) 発酵食品各論: 漬物 (2)  13) 発酵食品各論: なっとう  14) 発酵食品各論: 乳製品  15) 発酵食品各論: パン  (順番、内容は講師の方の都合によって変更する場合があります。) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60143001 |
| 科目名        | バイオインダストリー論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Bioindustry  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 今世紀の社会の様々な問題は、バイオサイエンスを基盤とした産業を抜きに考えることは出来ない。本講義ではまず、20 世紀に展開されたバイオインダストリーについて、日本の産業の動向と共に概括する。ついで、21 世紀の食品・化学工業、環境問題、エネルギー・資源問題、食糧問題へのバイオテクノロジーのアプローチについて、その可能性と展望を日本の科学技術政策及び世界の動向を紹介しながら考える。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 応用微生物学 第2版 清水 昌、堀之内末治 編 (2008) 文永堂出版   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材やプレゼンテーションソフト等を用い、適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ・平常点 (出席状況などによる) (20%)   ・レポート (30%)   ・定期テスト (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 微生物の多様な機能 (能力) について科学的に理解するとともに、産業利用の観点から考察し、理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 2009 年度生は「環境微生物学」の内容を復習しておくこと。「微生物生産学」「応用微生物学」「発酵・醸造学」と「産業微生物学」を受講しておくことが望ましい。 (2010 年度生以降は「微生物学 I」「微生物学 II」「応用微生物学 A」「応用微生物学 B」を受講しておくことが望ましい。)   |       |           |
| 受講者への要望    | ・能動的な姿勢で講義に出席すること。  ・遅刻や私語は厳禁である。遅刻の場合は理由を申告すること。  ・常識や偏見にとられない柔軟な発想や思考力を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 科学技術とバイオ 2) 日本の産業の動向とバイオインダストリーの展望 3) 日本の科学技術政策 4) エネルギー/資源問題とバイオ - 1 5) エネルギー/資源問題とバイオ - 2 6) 食糧問題の展望 7) 環境問題の現状 8) 環境問題解決へのバイオのアプローチ - 1 9) 環境問題解決へのバイオのアプローチ - 2 10) 医薬品工業の現状と展望 11) 食品工業の現状と展望 - 1 12) 食品工業の現状と展望 - 2 13) 化学工業とバイオ - 1 14) 化学工業とバイオ - 2 15) 最近のトピックス 順序・内容は状況によって変更することがある。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60144001 |
| 科目名        | 食品化学 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Food Chemistry I   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 食品は栄養性（一次機能）、嗜好性（二次機能）の他に三次機能として、健康機能が現在注目されている。おもな食品成分を上記機能に関連付けて化学的側面から理解する。蛋白質、脂肪、炭水化物の分解・吸収およびエネルギーを含む栄養としての体内での変化について、わかりやすく概説する。これらはすべて化学変化であり、食品・栄養に必要な有機化学（加水分解、脱水、酸化・還元反応など）を復習し、さらにそれらを触媒する酵素についても簡単に取り上げる。さらに、嗜好性に影響を持つ食品の物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）についても説明する。これらを理解することによって、食品に関して知識を深め、さらに深い食品成分あるいは食品製造への理解の基礎とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 早瀬文孝・佐藤隆一郎編著『わかりやすい食品化学』（三共出版）（ISBN978-4-7827-0549-0）  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下で評価する。 期末試験の成績（60%） 質問（10%） 簡単な確認テストおよび発表（10%） 平常点（20%）：出席状況、受講態度など  |       |           |
| 到達目標       | 食品の機能性や成分を理解するための基礎知識を得る。  |       |           |
| 準備学習       | 必ずしも必要ではない。講義をしっかりと聴くことと提供された講義資料を復習し、疑問があれば、次回講義時に質問して理解を深めること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義はしっかりと聴き、積極的に疑問や質問をすること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 食品化学で学ぶことおよび食品成分の概要  2. 食品・栄養を理解するための化学 1（化学構造、加水分解反応および関与する酵素）  3. 食品・栄養を理解するための化学 2（脱水反応および関与する酵素）  4. 食品・栄養を理解するための化学 3（酸化・還元反応および関与する酵素）  5. 水（水と食品の関わり）  6. 炭水化物 1（炭水化物の種類とその化学的性質）  7. 炭水化物 2（炭水化物の利用）  8. 脂肪（脂肪の種類とその化学的性質、およびその利用）  9. 蛋白質（アミノ酸、蛋白質の構造と化学的性質）  10. 蛋白質（アミノ酸、蛋白質の利用）  11. ビタミン・ミネラル（種類と生体での分布・作用）  12. 食品の物性 1（コロイド）  13. 食品の物性 2（レオロジー・テクスチャー）  14. 食品の安全（食品安全の用語、GMO や BSE などについて解説する）  15. まとめと復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J60145001 |
| 科目名       | 食品化学II   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Food Chemistry II  |       |           |
| 担当者名      | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 食品の成分と機能性について詳しく説明する。また、加工や食品の工業的な製造法についても説明する。いくつかの機能性成分や色素については化学構造と機能性を理解する。貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を科学的な側面から理解する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 川岸舜朗・中村良編著『新しい食品化学』（三共出版）（ISBN4-7827-0425-9 C3061） 安井勉・桐山修八編著『食品科学』（三共出版）（ISBN4-7827-0285-X）                     |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 以下で評価する。 期末試験の成績（60%） 課題調査と発表（20%） 平常点（20%）：出席状況、受講態度など  |       |           |
| 到達目標      | 食品の機能性や成分を理解する。また、食品の製造過程を理解する。  |       |           |
| 準備学習      | 必ずしも必要ではない。講義をしっかりと聴くことと提供された講義資料を復習し、疑問があれば、次回講義時に質問して理解を深めること。   |       |           |

#### 受講者への要望

席は指定席とする。課題を与えるのでそれを調査・発表する（グループを設定するのでそのグループで調査・発表することも可能）。|講義はしっかりと聴き、積極的に疑問や質問をすること。

#### 講義の順序とポイント

1. 植物性食品1（米、麦の成分と機能性）|2. 植物性食品2（大豆、芋、野菜および果実の成分と機能性）|3. 植物性食品3（植物性食品の製造）|4. 動物性食品1（食肉の成分と機能性）|5. 動物性食品2（牛乳、卵および乳製品の成分と機能性および製造）|6. 油脂食品（油脂および油脂製品の成分と機能性および製造）|7. 嗜好品と調味料（飲料、甘味料、調味料、香辛料の成分と機能性および製造）|8. 機能性成分1（植物成分のポリフェノール、リグニン構造と機能性）|9. 機能性成分2（その他の植物成分および動物成分の構造と機能性、機能性食品）|10. 食品色素の化学（食品成分としての色素の構造と機能性）|11. 貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化1（糖、アミノ酸、脂肪酸）|12. 貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化2（核酸、ポリフェノールなど）|13. 食品の安全性（有害微生物その他による食品の汚染と防止）|14. 特定保健用食品（その制度、トクホ食品および実例の紹介）|15. まとめと復習|

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60147001 |
| 科目名        | 生体栄養科学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Nutritional Science  |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 何をどのくらい食べたらどうなるか？について生化学的なアプローチで解説を行う。すなわち、個体の栄養成分である糖、タンパク質、脂質、ビタミンなどの機能や代謝系、これらを摂取した時の生体反応や調節機構について解説を行い、全ての栄養素が相互に関連しあって生体が維持されていることについて理解を深める。さらに、動脈硬化や糖尿病といった生活習慣病と食品成分との関係など、栄養と疾病との関わりについて、その研究方法などを含め概説を行い、知識を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 藺田勝編『栄養科学イラストレイテッド生化学』羊土社 2,800円   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業中にプリントを配布する。 京学なびおよびRドライブによりファイルを提供する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(10%), 定期テスト(80%), レポート(10%)  |       |           |
| 到達目標       | 生体の維持機構を理解するために、栄養成分の生理機能や代謝系とその調節機構についての知識を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 生化学Ⅰ、Ⅱおよび生理学の内容を復習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめにー生体栄養科学とはー 2.栄養成分の消化吸収 3.糖質の化学 4.糖質の機能と代謝 5.アミノ酸とタンパク質の化学 6.アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 7.脂質の化学 8.脂質の機能と代謝 9.三大栄養素の相互変換 10.代謝の調節と疾病 11.ビタミンの生理作用 12.ミネラルの生理作用 13.食品成分の生体調節機能（1）ー抗酸化作用ー 14.食品成分の生体調節機能（2）ー代謝調節作用ー 15.まとめ         |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60148001 |
| 科目名   | 食品衛生学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Food Hygiene  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 裕康   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 生活の基本である「食」は、我々の健康ひいては生命に直接影響を及ぼすきわめて重要な因子であることから、食品の安全性確保に関する知識と理解を深めることを目標とする。  食品の安全確保は、我々の生活の質（QOL）に直接影響するものであるが、近年における我が国の食生活多様化と輸入食品の増大に伴い、その重要性がますます高まってきている。本講義では、我が国における食品の安全確保のための法的規制と体制ならびに手法について概説すると共に、食品に起因する健康障害について原因別に解説し、同時に健康障害防止策についても述べる。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書：食品衛生学－「食の安全」の科学－改訂第2版（那須正夫、和田啓爾編）南江堂  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 定期試験（60%）、到達度確認中間試験（40%）により評価する。ただし、受講出席状況が2／3未満の場合は定期試験受験資格を与えない。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 我が国の食品衛生行政、法的規制について説明できる。  2. 食品の安全確保のシステムについて説明できる。  3. 食中毒の種類を列举し、発生状況を説明できる。  4. 腐敗、変敗の機構および食品保存法について説明できる。  5. 調理等による食品成分の有害化について説明できる。  6. 代表的な食品添加物について、用途、働きを説明できる。  7. 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の最後に次回の講義内容を予告するので、教科書該当ページに目を通しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 食品衛生に関するニュース等に常日頃から関心を持つように心がけること。  私語は厳禁とする。私語が過ぎる場合には、他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 わが国の食品衛生行政と法的規制 第2回 わが国の食品衛生行政と法的規制(その2) 第3回 食品の安全確保(HACCP他) 第4回 食品に起因する健康障害、食中毒発生状況 第5回 微生物による食中毒(1) 第6回 微生物による食中毒(2) 第7回 到達度確認中間試験 第8回 自然毒(1) 第9回 自然毒(2) 第10回 化学物質による食品汚染(1) 第11回 化学物質による食品汚染(2) 第12回 食品の変質、食品保存法 第13回 食品成分の有害化、遺伝子組み換え食品 第14回 食品添加物総論 第15回 食品添加物各論 第16回 定期試験 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60149001 |
| 科目名        | 植物生理学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Plant Physiology  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎   | 旧科目名称 | 分子植物生理学 I |
| 講義概要       | 本講義では、植物の構造や機能を理解するのに必要な基本的事項を個体、細胞、分子のレベルで理解し、将来の応用的展開を計る際の基礎力をつけることを目標とする。具体的には、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などについて学ぶ。全講義期間を通じて数回、ワークシートを配布して講義の理解度を確認する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「テイツ・ザイガー植物生理学 (第3版)」 J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷和彦/島崎健一郎監訳、培風館。 その他の参考書については最初の講義で紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイントを活用して講義を進める。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) 出席状況、小試験等による。定期試験 (70%)。  |       |           |
| 到達目標       | これから農資源やバイオテクノロジーについて学ぼうとする人が、植物の構造や機能についての基礎的事項を個体、細胞、分子のレベルで理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 最初の講義で紹介する参考図書などを活用すること。  |       |           |

#### 受講者への要望

植物個体あるいは細胞のレベルでの植物の構造や機能、生理反応の基礎的理解をめざしている。これまで植物についてあまり興味がなかった人も積極的に学んで欲しい。本講義とともに生物分類、生態学、細胞生物学に関する講義もあわせて学ぶことを勧めます。なお高校で生物を履修しなかった人も積極的に受講して欲しい。

#### 講義の順序とポイント

1. 植物の進化と3つの役割 | 2. 植物の構造 | 3. 細胞の構造 | 4. 細胞内小器官 | 5. 植物と環境 (光、重力など) | 6. 植物と環境 (土壌、温度など) | 7. 植物の成長と分化 | 8. 植物ホルモンとその作用 (1) オーキシン | 9. 植物ホルモンとその作用 (2) サイトカイニン | 10. 植物ホルモンとその作用 (3) エチレン | 11. 植物ホルモンとその作用 (4) ジベレリン | 12. 植物ホルモンとその作用 (5) アブシジン酸他 | 13. 光合成 (1) 明反応 | 14. 光合成 (2) 暗反応 | 15. 植物の栄養

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     | ○     |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |            |
|--|---|-------|------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60150001  |
| 科目名  | 植物生化学   | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)   | Plant Biochemistry  |       |            |
| 担当者名   | 關谷 次郎   | 旧科目名称 | 分子植物生理学 II |
| 講義概要   | 植物の機能の中でとりわけ重要なものが光合成である。本講義では光合成の概要を述べ、光合成の場である葉緑体の構造を説明した後、C3 光合成のそれぞれの要素過程 (明反応、暗反応、光呼吸など) について述べる。その後 C4 光合成などについても述べる。さらにショ糖やデンプン合成について理解し、光合成の全体像についてその重要性を認識する。窒素代謝も植物特有であり、窒素同化は光合成過程の明反応とリンクしている。植物の窒素代謝の全体像についても理解を深める。全講義期間を通じて数回のワークシートによって理解度の確認を行う。 |       |            |
| 教材 (テキスト)  | なし、毎回講義の際にプリントを配布する。  |       |            |
| 教材 (参考文献)  | (1)「テイツ・ザイガー植物生理学 (第3版)」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷和彦/島崎健一郎監訳、培風館<br>  (2)「植物の生化学・分子生物学」 B.B.Buchanan ら著、岡田清隆ら監訳、学会出版センター  |       |            |
| 教材 (その他)   | パワーポイントを活用しながら講義を進める。   |       |            |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況やワークシート等による。定期試験 (60%)。   |       |            |
| 到達目標   | 生物圏において太陽の光エネルギーの補足という重要な機能を有する植物の光合成および窒素同化について理解を深める。   |       |            |
| 準備学習   | 植物生理学、生化学 I を履修しておくことが望ましい。   |       |            |
| 受講者への要望  |   |       |            |
| 植物生化学では光合成と窒素代謝に重点をおいて講義するので、生物に共通する代謝・機能などについては取り扱わない。そのため生化学 I 及び II は必ず履修すること。また植物生化学からさらに植物細胞工学、植物代謝工学へと発展させることが望ましい。  |   |       |            |
| 講義の順序とポイント   |   |       |            |
| 1. 光合成とは、葉緑体の構造   2. 光合成 (1) 明反応   3. 光合成 (2) 明反応   4. 光合成 (3) 暗反応   5. 光合成 (4) 暗反応   6. 光合成 (5) 光呼吸と C4 光合成   7. ショ糖の合成   8. デンプンの合成、セルロースの合成   9. 光合成と転流   10. 窒素の代謝 (1) 窒素同化   11. 窒素の代謝 (2) 窒素同化とその調節   12. 窒素の代謝 (3) アミノ酸の生合成、  13. 窒素の代謝 (4) 窒素固定   14. 窒素の代謝 (5) 窒素固定   15. 植物のエネルギー代謝の特徴 |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60151001 |
| 科目名   | 植物細胞工学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Plant Cell Engineering   |       |           |
| 担当者名  | 高瀬 尚文  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 植物細胞工学の基礎となる個体の成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能発現、組織培養の要素技術、遺伝子組換えの要素技術を概説する。また、組織培養と遺伝子組換え技術の具体的な事例と課題、今後の可能性について紹介する。                                 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 植物バイオテックの実際（農山漁村文化協会）、植物バイオテクノロジー（理工図書）、レクチャーバイオテクノロジー（培風館）、植物バイオテクノロジー（幸書房）。 細胞の分子生物学（ニュートンプレス）、ヴォート基礎生化学 第2版（東京化学同人）、植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）。 |       |           |
| 教材（その他）   | 講義資料を配布する。適宜、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（授業態度など） 30% 定期試験 70%   |       |           |
| 到達目標  | 植物細胞の基本構造とその働きを分子レベルで理解する。 植物遺伝子の構造と機能発現を分子レベルで理解する。 組織培養の基礎と意義を理解する。 遺伝子組換え技術の基礎と意義を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 植物バイオテクノロジーと日常生活の関わりを意識する。植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の履修を要望する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。絶えず、生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 植物細胞工学の歴史と概要 2. 植物個体の成り立ち 3. 植物細胞の構造と機能発現(1) 4. 植物細胞の構造と機能発現(2) 5. 植物遺伝子の構造と機能 6. 植物遺伝子の機能発現(1) 7. 植物遺伝子の機能発現(2) 8. 植物遺伝子組換え技術の基礎(1) 9. 植物遺伝子組換え技術の基礎(2) 10. 植物遺伝子組換え技術と産業 11. 植物遺伝子組換え技術の展開 12. 植物組織培養の基礎(1) 13. 植物組織培養の基礎(2) 14. 植物組織培養技術と産業 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60152001 |
| 科目名  | 植物代謝工学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Plant Metabolic Engineering  |       |           |
| 担当者名   | 高瀬 尚文  | 旧科目名称 | 植物メタボローム  |
| 講義概要   | 植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。また、植物代謝工学の基礎となる代謝調節の仕組みと代謝工学の原理、遺伝子組換え技術を用いた代謝工学研究の具体的事例、今後の課題と可能性について紹介する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第3版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など               |       |           |
| 教材（その他）  | 講義資料を配布する。パワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（学習の姿勢など） 30% 定期試験 70%  |       |           |
| 到達目標   | 植物固有の代謝物とその生合成について理解する。また、植物における代謝物の高次機能について理解する。代謝調節とその多段階的な制御機構を通じて、代謝工学の基礎・原理を分子レベルで理解する。代謝工学の意義と課題を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 生活や産業と植物バイオテクノロジーとの関わりを意識する。 植物生理学、植物生化学、生化学、植物細胞工学を履修しておくことを望む。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可避である。積極的かつ継続的な取り組みを望む。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 植物代謝工学とは   2. 代謝調節とその仕組み   3. 窒素代謝 1   4. 窒素代謝 2   5. 脂肪酸代謝 1   6. 脂肪酸代謝 2   7. 一次代謝と環境応答   8. 二次代謝とは   9. テルペン類   10. フェノール性化合物   11. アルカロイド 1   12. アルカロイド 2   13. 二次代謝と環境応答   14. 植物メタボローム   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J60153001 |
| 科目名   | 有用産業植物学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Plants of Industrial Interest  |       |           |
| 担当者名  | 秋田 徹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 植物は、古くから香辛料あるいは医薬品や食品添加物の素材として人類に利用されてきたが、21世紀の今日、人類は植物に対して産業素材として大きな期待を寄せている。新たなバイオアッセイ法との組み合わせで新規な生理活性を示す植物成分の発見、あるいはメタボリックエンジニアリングによって有用成分の生産性の向上が計られるなど産業的にも植物が再評価されている。これら産業的に有用な植物を医薬品に関連する植物、食品産業に有用な植物に分けて、その特性などについて理解を深めることを目標とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の最初に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイントを用いる。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（10%）は出席状況等による。各講義日の最後に行う試験によって評価（90%）する。   |       |           |
| 到達目標  | 医薬品、食品添加物などの産業で重要な役割を果たしている植物について理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 植物の分類や植物生理生化学などに関する関連する分野を復習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義中に疑問に思った点があれば積極的に質問などをしてほしい。 講義プリントとパワーポイントを用いて講義を進めるが、重要な点はメモを取ること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 医薬品と植物（1）薬用植物の定義（ハーブから最新医薬品まで）  2. 医薬品と植物（2）医薬品の歴史  3. 医薬品と植物（3）生薬としての利用  4. 医薬品と植物（4）植物からの医薬品創製（成分としての利用）  5. 医薬品と植物（5）現在と将来、そして課題  6. 食品と植物（1）食品添加物概説  7. 食品と植物（2）食品添加物と植物  8. 食品と植物（3）多糖類の利用1  9. 食品と植物（4）多糖類の利用2 10. 食品と植物（5）色素成分の利用1 11. 食品と植物（6）色素成分の利用2 12. 食品と植物（7）香料成分の利用1 13. 食品と植物（8）香料成分の利用2  14. 食品と植物（9）機能性食品への応用 15. 食品と植物（10）まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60160001 |
| 科目名        | バイオサイエンス入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Bioscience   |       |           |
| 担当者名       | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、バイオサイエンス学科で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、バイオサイエンス全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Eric J. Simon 著 池内正彦監訳 『エッセンシャル キャンベル生物学』 丸善 7,000 円 バイオサイエンス研究会編 『バイオサイエンス』 オーム社 3,675 円 Richard Allan 著 後藤太郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第2版』 オーム社 3,000 円 D.サダヴァ著 石崎泰樹・丸山敬 監訳 『大学生物学の教科書 第1巻細胞生物学』 講談社 1,300 円 |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験(50%)、毎回の演習およびレポート(25%)、講義での発表、受講態度、出席状況などの平常点(25%)の結果を総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標       | バイオサイエンスの基本事項について正しく理解する。 バイオサイエンスの専門用語について説明ができる。 バイオサイエンスに関わるマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 基本的には高校時代の理科学科の学習履歴を問わず講義を行うが、高校の理科の教科書は復習しておくことが望ましい。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は必ずこの講義を受けること。|演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。|日頃からバイオサイエンスの分野について関心を持つように心がける。|

#### 講義の順序とポイント

1. ガイダンス (科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及) |2. 生物科学 (バイオサイエンス) とは? (生物と無生物の違い、バイオとは?) |3. 細胞の基本構造 (生命の基本単位である細胞とは) |4. 生命の化学 I (生命の化学的基盤、水と環境) |5. 生命の化学 II (生命分子の多様性、高分子の構造) |6. 生体エネルギー (エントロピー、結合エネルギー、化学平衡) |7. 生体分子と代謝 (物質代謝、酵素反応) |8. バイオに関連した科学計算 (物質の濃度計算、生物統計の考え方) |9. 生命の設計図 (遺伝、遺伝子の複製と発現、セントラルドグマなど) |10. バイオテクノロジー (バイオ研究の基本技術) |11. 生物の恒常性 (内分泌系とホルモンなど) |12. 植物バイオ (光合成、植物のバイオテクノロジーなど) |13. 生物の進化 (進化の歴史、遺伝子レベルで見た進化) |14. バイオサイエンスと医療・食糧・環境 (医療・食糧・環境に役立つバイオ技術) |15. まとめと演習||1 は松原、矢野、2-8 は矢野、9-15 は松原が担当します。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60162001 |
| 科目名        | 化学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Chemistry  |       |           |
| 担当者名       | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 春学期の化学に引き続き環境科学を学ぶ上で必要な化学を基礎知識を演習を行いながら講義する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－』 東京化学同人 2850 円 (+ 税)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 中川徹夫著 化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本 1500 円+税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著 『一般化学』(上)(下) 東京化学同人 各 2980 円+税   |       |           |
| 教材 (その他)   | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－ 問題と解答』 東京化学同人 1700 円 (+ 税)   |       |           |
| 評価方法       | 定期テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標       | 代表的な化学反応 (酸塩基や酸化還元反応) や反応に伴う熱やエネルギーの変化を理解する。平衡という概念を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 教科書を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業と並行して例題や教材 (その他) の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。 さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 酸と塩基 1－アレニウス、ブレンステッドの定義 2. 酸と塩基 2－ルイスの定義 3. 中和反応と塩 4. 水素イオン濃度と pH 5. 化学平衡 6. 酸化数 7. 酸化と還元 8. 酸化還元反応 9. 反応速度 10. 熱化学反応式 11. 電子軌道 1  12. 電子軌道 2  13. 有機化合物と無機化合物 14. 異性体 15. 示性式 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60163001 |
| 科目名        | 数学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Mathematics  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では数学の体系の中で解析学の基礎となる行列、複素数、数列、微分・積分、確率・統計などについて具体例をもとに考察する。             |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）   |       |           |
| 到達目標       | 数学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から外界の自然現象について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学，物理学・演習を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 行列（1） 2. 行列（2） 3. 行列（3） 4. 複素数（1） 5. 複素数（2） 6. 複素数（3） 7. 数列（1） 8. 数列（2） 9. 数列（3） 10. 微分・積分（1） 11. 微分・積分（2） 12. 微分・積分（3） 13. 確率・統計（1） 14. 確率・統計（2） 15. 確率・統計（3） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60164001 |
| 科目名        | 物理学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Physics   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 物理学は自然科学のすべての分野の中で、精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる電場、磁場、電流、電磁場、電磁波などについて具体例をもとに考察する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | なし   |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 数学・演習      | 物理学を履修することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 電場（1）：電荷 2. 電場（2）：静電場 3. 電場（3）：電荷とスカラーポテンシャル 4. 電流（1）：電荷と電流 5. 電流（2）：定常電流 6. 電流（3）：交流 7. 磁場（1）：電流の磁気作用 8. 磁場（2）：電流とベクトルポテンシャル 9. 磁場（3）：コイルの磁場 10. 電磁場（1）：変動電流と電磁場 11. 電磁場（2）：電磁誘導 12. 電磁場（3）：相互誘導 13. 電磁波（1）：変動電場と変動磁場 14. 電磁波（2）：変動電磁場と電磁波 15. 電磁波（3）：電磁波の伝播 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60166001 |
| 科目名   | 樹木学実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   |   |       |           |
| 担当者名  | 中川 重年   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 物質生産や生物の多様性確保の場である森林を構成する樹木についてその形態や生態を中心に実物を通じて理解を深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 実習での理解 50%、小テスト 50%                                     |       |           |
| 到達目標  | 実際の樹木を正確に観察しスケッチすることを通じて生物の多様性を理解する                     |       |           |
| 準備学習  | キャンパスをはじめとする身近にある樹木を問題意識を持って観察するようにしてください。              |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 生物に対する漠然とした見方を変え、生き物を突き詰めて観察することを勧めます。初めてと思われる木炭画で表現する手法を学びます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 種子の観察 1 樹木の源である種子の観察を行い種子発芽につなげる 2 種子の観察 2 3 挿木実験 1 無性繁殖できる樹木を学ぶ 4 挿木実験 2 5 花の観察 1 普段見ないさまざまな樹木の花の構造を観察する 6 花の観察 2 7 根の観察 1 普段見ない根について観察する 8 根の観察 2 9 樹形の観察 1 樹形の特徴を学ぶ 10 樹形の観察 2 11 樹皮の観察 1 樹種による樹皮の違い及び樹齢による差異を理解する 12 樹皮の観察 2 13 木材の観察 1 木材の組織を観察する 14 木材の観察 2  15 まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60167001 |
| 科目名  | 図学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |  |       |           |
| 担当者名   | 鈴木 真理子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 図学は3次元空間を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。この講義では3次元空間における基本的な図形を、図学の構成原理にもとづいて具体的な立体の作図方法を考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 磯田 浩／鈴木 賢次郎 共著『工学基礎 図学と製図』サイエンス社 1, 5 5 4 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 小テスト（毎次の演習問題）100%  |       |           |
| 到達目標   | 図学の基本的原理にもとづいた図形の具体的な構成力、目的に応じた適切な作図およびそれらの3次元イメージについて考察する能力を修得する。                         |       |           |
| 準備学習   | 日常から外界の空間について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学、数学演習、環境情報数学および物理学を履修しておくことと、製図実習を並行履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 図のかき方と平面図形（1） 2. 図のかき方と平面図形（2） 3. 投影（1） 4. 投影（2） 5. 正投影法による幾何学的解析の基礎（1） 6. 正投影法による幾何学的解析の基礎（2） 7. 正投影法による幾何学的解析の基礎（3） 8. 正投影法による幾何学的解析の基礎（4） 9. 切断・相貫（1） 10. 切断・相貫（2） 11. 直接的投影法（1） 13. 直接的投影法（2） 14. 直接的投影法（3） 15. 直接的投影法（4） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60168001 |
| 科目名  | 環境物理学演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   |   |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境材料を積極的に利用するには目的に応じた性質を備えた物質を創成する必要がある、そのためには物質構造と物性の関係について理解することが重要である。この講義では物質構造、固体物性の基礎となる量子物理学の理解および物性解析の方法について学修する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法   | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標   | 量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 数学・演習, 環境情報数学・演習, 物理学・演習・実験, 環境物理学・実験, 環境マテリアル実験を履修することが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 前期量子論 (1)   2. 前期量子論 (2)   3. 前期量子論 (3)   4. 波動方程式 (1)   5. 波動方程式 (2)   6. 波動方程式 (3)   7. 球対称ポテンシャル (1)   8. 球対称ポテンシャル (2)   9. 球対称ポテンシャル (3)   10. 角運動量・スピン (1)   11. 角運動量・スピン (2)   12. 角運動量・スピン (3)   13. 多電子系 (1)   14. 多電子系 (2)   15. 多電子系 (3) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60169001 |
| 科目名  | 樹木医学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Woody Plant Health   |       |           |
| 担当者名   | 本位田 有恒   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する知識について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 堀大才・岩谷美苗「図解 樹木の診断と手当て」農文協 1, 5 0 0 円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂3版 9, 0 0 0 円 もしくは、なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(5 0 %)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(5 0 %)により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。  |       |           |
| 準備学習   | 身近な樹木について、日々関心を持って見ること。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 遅刻や私語は厳禁。各講義で小テストを行う可能性あり。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| ①樹木医概論その1 ②樹木医概論その2 ③樹木の保護と保存 ④樹木の文化 ⑤都市における樹木(公園、街路) ⑥診断の方法と手順 ⑦病害の診断と防除 ⑧腐朽病害基礎 ⑨虫害の診断と防除 ⑩樹木の危険度診断(街路樹) ⑪樹木の剪定技術 ⑫樹木の外科的対策 ⑬樹木の移植法 ⑭植栽基盤 ⑮土壌改良と発根促進 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60170001 |
| 科目名  | 環境材料工学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   |  |       |           |
| 担当者名   | 石本 弘治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境工学の概論と地域環境とセメント, コンクリート, 鉄筋, 岩石, 高分子材料などの性質と環境と調和した設計・施工法について詳述する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特別に定めない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 別途紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント配布   |       |           |
| 評価方法   | 講義内で行うクイズ (20%), 定期試験 (80%)  |       |           |
| 到達目標   | 環境と建設材料学・技術の諸問題を解決する能力を養うこと。 特に建設材料学、各材料の分類・関連性等の全体像をつかむことができること。    |       |           |
| 準備学習   | これまでの環境学について復習し, これからの環境と建設について考察しておくこと。                             |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 環境と調和した材料についてどのように考えていくべきかを考えながら受講して欲しい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 環境工学と材料工学 2. 環境工学概論 (騒音,低周波音,公害振動)  3. 環境工学概論 (水質汚濁)  4. 環境工学概論 (大気汚染)  5. 環境工学概論 (土壌汚染)  6. 環境工学概論廃棄物)  7. 建設材料の基本的性質 8. セメント・コンクリート 9. 鋼材 10.土質系材料 11.有機質材料 12.建設材料の劣化現象および防止対策 13.建設材料の設計概念 14.環境との調和と適切な維持・管理・更新に配慮した設計・施工 15.まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60171001 |
| 科目名        | 環境材料工学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名       | 石本 弘治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 環境材料を扱う上で必要な構造力学・水理学・土質力学などの力学演習と建設施工法について学ぶための事例演習を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント等による。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 別途紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義中におけるクイズ（20%）、定期試験（80%）   |       |           |
| 到達目標       | 環境工学における材料学の関連性とその応用が判ること。  |       |           |
| 準備学習       | 環境材料工学を十分理解しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 環境材料工学と連動しているため合わせて受講する必要がある。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 環境材料工学演習をするにあたり 2. 環境工学演習（騒音,低周波音,公害振動） 3. 環境工学演習（水質汚濁） 4. 環境工学演習（大気汚染） 5. 環境工学演習（土壌汚染） 6. 環境工学演習（廃棄物） 7. 環境材料工学演習（構造力学1） 8. 環境材料工学演習（構造力学2） 9. 環境材料工学演習（構造力学3） 10.環境材料工学演習（水理力学1） 11.環境材料工学演習（水理力学2） 12.環境材料工学演習（土質力学1） 13.環境材料工学演習（構造力学1） 14 環境材料工学演習（.環境との調和と適切な維持・管理・更新に配慮した設計・施工） 15.まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J60172001 |
| 科目名  | 森林立地・土壌学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Forest Stand and Soil Science  |       |           |
| 担当者名   | 木平 英一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では、森林生態系で水や養分がどのように循環しているか考えます。樹木－土壌－大気－水はひとつにつながった生態系ですので、相互に影響をおよぼしながら物質のやりとりをしています。物質の循環を見ることによって、森林の機能や役割について考えてみます。森林は自然の生態系ですが、人間の活動と無縁ではありません。酸性雨や温暖化の問題は、自然の物質循環を人間が攪乱している現象なのです。このような、森林に関わる具体的な問題を多くとりあげ、物質の動きから検討してみます。講義の最後に、日本の森林の現状と課題について、森林資源の有効活用という視点から考えてみたいと思います。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義時にプリントを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業時に適宜指示します。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布し、パワーポイントも活用します。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30％） 出席状況等によります。 授業時に課すレポート（70％）   |       |           |
| 到達目標   | 森林は、地球環境の中で重要な役割を果たしています。それは、陸地の中で森林の面積が大きいからです。樹木1本が重要なのではなく、木と土、水などを含めた多くの樹木の集合体（森林生態系）としての森林が重要なわけです。森林を大きな集合体として機能や役割を考えるためには、物質のやりとりを見るのが有効です。森林でどのように水や養分が循環しているかを知り、森林をマクロ（巨視的）にとらえることが目標です。  |       |           |
| 準備学習   | 講義を受ける前に、準備は必要ありません。プリントとパワーポイントを併用しますので、講義時間内に理解できる内容です。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 森林は身近な存在ですが、普段の生活の中で森林に触れる機会は少ないと思います。たまには、森の中を散歩し、森林や土を観察してみてください。きっと、面白いことや不思議なことが見つかると思います。身近な森に触れることで、講義の内容に興味をもってもらえると思います。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 森林土壌の特徴と役割  2 森林土壌と水の循環  3 実際の森林土壌  4 森林の炭素の循環 その1  5 森林の炭素の循環 その2  6 森林土壌における養分の循環 その1  7 森林土壌における養分の循環 その2  8 人間活動と森林 酸性雨  9 人間活動と森林 温暖化  10 物質循環からみた森林生態系  11 日本の森林資源の現状と課題  12 日本の森林は切って使う時代へ 国産材の有効利用  13 木をエネルギーとして有効に使う バイオエネルギー その1  14 木をエネルギーとして有効に使う バイオエネルギー その2  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60173001 |
| 科目名        | 樹木医学実習   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Course in Woody Plant Health   |       |           |
| 担当者名       | 本位田 有恒   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する技術について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 堀大才・岩谷美苗「図解 樹木の診断と手当て」農文協 1, 500円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂3版 9, 000円   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(50%)により評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。  |       |           |
| 準備学習       | 身近な樹木について、日々関心を持って見ること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語は厳禁。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①樹木の病虫害観察実習Ⅰ ②樹木の病虫害観察実習Ⅱ ③樹木の病虫害観察実習Ⅲ ④樹木の腐朽病害観察実習Ⅰ ⑤樹木の腐朽病害観察実習Ⅱ ⑥周辺環境調査 ⑦樹木の地上部調査Ⅰ ⑧樹木の地上部調査Ⅱ ⑨樹木の地下部調査 ⑩危険度診断 ⑪剪定実習 ⑫剪定実習 ⑬剪定実習 ⑭土壌改良実習 ⑮土壌改良実習  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J60176001 |
| 科目名        | 生物物理化学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Biophysical Chemistry  |       |           |
| 担当者名       | 松本 孝芳  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 自然界において生物は一見特異な存在のように見えるが決してそうではなく、物理化学の原則に厳密に従って生命を維持している。生物は負のエントロピーを食べて生きていくといわれている。また生物が生命を維持するために細胞内で行っている種々の化学反応や物理的現象には、自由エネルギーと言われるエネルギーが深く関与している。またこれらエントロピーや自由エネルギー等は、環境・リサイクル問題や地球温暖化等の資源・エネルギー問題と深く関わっている。エントロピーや自由エネルギーを理解することは、物理化学の主要テーマの一つである。物理化学は自然現象や生物・非生物が示す現象を研究し、その本質を理解するために不可欠な学問であり、物理化学的視点なくしてこれらの現象の本質を理解することは不可能に近い。当講義では物理化学の基礎を、できるだけ生物や生命現象及び環境・エネルギー問題と関連付けながら系統的に講述する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書：松本孝芳著『バイオサイエンスのための物理化学入門』(丸善、2005), 通常の紙製版に加えて、電子版が利用可能になる予定。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 一般に市販されている物理化学の参考書   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 評価方法の目安： 基本的には定期試験の成績 (80%) 及びレポート、出席状況等 (20%) とする。  |       |           |
| 到達目標       | 物理化学の基礎学力をつけ、生物、生化学、環境・エネルギー問題等への応用力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 教科書の予習・復習を確実にすること。理解し難い箇所について、授業中にする質問を整理しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初歩的な微分積分学の知識があることが望ましい。従って、春学期の小生の講義「数学」と併せて履修することが望ましい。講義内容については、個々の問題に論理的連続性があるので、継続して聴講することが肝要である。何事もそうであるが、学業は自ら学ぶ意思を持ち、其れを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1-2 回 原子・分子の概念   第 3-4 回 種々の複雑な物質や現象を理解するための基礎となる分子の運動について、巨視的及び微視的な観点から講述する。   第 5-8 回 分子の集合体としての系を、極めて一般的に巨視的に扱う熱力学について、できるだけ自然現象や生命現象との関わりに触れながら基礎から講述する。   第 9-12 回 生物が生命維持に用いているエネルギーは如何なるエネルギーか、また環境・エネルギー問題と関連付けながら、エントロピー及び自由エネルギー等の本質を明解に解説する。   第 13-15 回 生命維持に必要な種々の現象、例えば浸透圧、膜平衡、能動輸送及び種々の電池の原理等を、物理化学的観点から基礎的且つ統一的に解説する。   尚、いずれの授業においても、授業内容の理解を深めるために、それに関連する演習問題を課すことがある。              |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。   履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60177001 |
| 科目名   | 生物化学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Biological Chemistry  |       |           |
| 担当者名  | 金川 貴博   | 旧科目名称 | 環境微生物学    |
| 講義概要  | 物質的に言えば、3か月前の私たちと、現在の私たちは、ほとんど別物である。3か月の間に、私たちの体を構成している細胞は新しく作り直されて、古い細胞と入れ替わっている。そして、その細胞の中では、化学反応が常に行われており、私たちの日々の活動を可能にしている。私たちの体内でどんな化学反応が起こっているのか、また、植物や微生物の体内ではどんな反応が起こっているのか。そして、生命はどのようにして維持され、子孫へはどのようにして遺伝情報が伝わっていくのか。これは、私たちの健康を考える上で、また、生物の生態を考える上での基本となる事柄である。細胞内の化学反応とその調節、および遺伝について解説する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 山川喜輝著「理系なら知っておきたい生物の基本ノート[生化学・分子生物学編]」 中経出版 1600円+消費税   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 期末試験 (60%)、レポートと小テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標  | 生物の体内での物質変換を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 教科書を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 復習をしっかりと行い、基本となる用語を、その都度、理解すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 生体をつくる物質、いろいろなタンパク質  2. タンパク質の構造  3. 酵素とは  4. 酵素活性の調節、酵素の阻害剤  5. 酵素の大きさ、細胞の大きさ  6. エネルギー代謝  7. 好気呼吸  8. 光合成  9. DNAの構造  10. DNAの複製  11. 遺伝子の発現  12. 転写と翻訳の実際  13. 遺伝子の突然変異  14. 遺伝子工学  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60178001 |
| 科目名        | 微生物学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Microbiology I  |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史   | 旧科目名称 | 環境微生物学    |
| 講義概要       | 一般微生物学の前半を取り扱う。 微生物はわれわれの身体の内外をとりまくあらゆる環境中に存在している。これについての基礎的な学問である一般微生物学の歴史、学問体系と、微生物のミクロな生物学的性質としての生化学、分子生物学、遺伝学について学ぶ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | ワークブックを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) Brock 微生物学 (2003) Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳 オーム社 世界各国で高い評価を受けている教科書の第 9 版の翻訳。原著は 2010 年の 13th ed.が最新。 2) IFO 微生物学概論 (2010) 発酵研究所 大島泰治 監修 培風館 現在日本語で読める一般微生物学の教科書のうち、最新かつ最も詳しいもの。 3) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦ら編著 朝倉書店 応用微生物学だが、内容は一般微生物学寄り。                |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ・平常点 (出席状況や受講態度などによる) (20%)  ・小テスト (40%)  ・期末試験 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 1) 微生物学の歴史的展開を理解する。 2) 微生物細胞の構造上の特徴とその化学的・生化学的基盤を理解する。 3) 微生物の基礎的な代謝と、増殖を数学的に取り扱う方法を理解する。  4) 微生物の分子生物学、遺伝学の基礎を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 化学や生化学の基礎を学習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「微生物学 II」とあわせて受講すること。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」の基礎となる学問であるので、これらを受講する場合は「微生物学 I、II」を受講しておくことを推奨する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 微生物と微生物学 1  2) 微生物と微生物学 2  3) バクテリアとアーキアの細胞構造と機能 1  4) バクテリアとアーキアの細胞構造と機能 2  5) 栄養、培養と微生物の代謝  6) 微生物の生育  7) バクテリアの分子生物学  8) アーキアとユーカリアの分子生物学  9) 遺伝子発現の制御  10) ウィルスとウィルス学  11) バクテリアとアーキアの遺伝学  12) 遺伝子工学  13) 微生物のゲノミクス  14) 光栄養、化学無機栄養と主要な生合成  15) 有機化合物の資化 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J6017900A |
| 科目名  | 環境科学基礎実験   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Environmental Science   |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境科学はバイオ環境を体系的に理解し構成するための概念的基礎となるものである。環境科学実験では定性および定量的に測定されたデータから環境科学的概念を具体的に認識することができる。したがって、この実験ではバイオ環境に密接に関係する物理・化学・生物・地学の各分野の基本的な測定を、測定原理にもとづいて具体的な現象の観察を通して行い、得られたデータの信頼性についても考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）  | なし   |       |           |
| 評価方法   | レポート（100%）   |       |           |
| 到達目標   | 環境科学の基本的原理にもとづいた測定の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ収集力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。  |       |           |
| 準備学習   | 日常から外界の環境について意識的に観察する習慣を身につけておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学・演習，物理学・演習，化学・演習，生物学・実験，環境生物学実験，地球科学・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   | 1. 物理環境基礎実験（1）  2. 物理環境基礎実験（2）  3. 物理環境基礎実験（3）  4. 物質環境基礎実験（1）  5. 物質環境基礎実験（2）  6. 物質環境基礎実験（3）  7. 生物環境基礎実験（1）  8. 生物環境基礎実験（2）  9. 生物環境基礎実験（3）  10. 地球環境基礎実験（1）  11. 地球環境基礎実験（2）  12. 地球環境基礎実験（3）  13. 環境科学総合実験（1）  14. 環境科学総合実験（2）  15. 環境科学総合実験（3） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60180001 |
| 科目名        | 京野菜栽培加工実習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する。京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する。さらに収穫物を加工し口にするものの意義をフィールドで理解させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 図説 野菜新書 朝倉書店 京野菜を楽しむ 淡交社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 管理作業状況 70%、レポート 30%   |       |           |
| 到達目標       | 栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ。また栽培技術の初歩を習得する。共食の重要性を気づかせる  |       |           |
| 準備学習       | 農業関係、食関係の書籍を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 多くの学生にとって作物の栽培は初めてでしょうから。努めて畑に通いその変化を観察してください。またさまざまな食文化について情報を得るようにしてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 京野菜のガイダンス  2 土づくりと播種準備、栽培に向けての注意事項  3 うね立てと整地  4 播種  5 畑作業と記録  6 除草中耕  7 間引ー1と記録  8 追肥・除草と地中温度の測定  9 除草・中耕と土壌中の生き物観察  10 間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定  11 ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定  12 畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察）  13 加工実習ー1（漬物）  14 加工実習ー2（千枚漬）  15 まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J60182001 |
| 科目名        | 分子生物学演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) |   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>バイオサイエンス分野では日々新たなバイオ技術が使われ、今日のバイオ産業に発展を担ってきました。本講義では、それぞれの技法の基本的なコンセプトを理解することで、技法を習得することで、将来の応用力の基礎を身につけることを目指しています。 生体高分子であるタンパク質と核酸の分子性状と特性を把握し、種々の応用実験の原理と活する展開を理解できる課題に取り組み、種々のタンパク質に対応できる技術基盤とあらゆる生物の遺伝子資源を活用できる 基盤技術の理解と習得をめざします。 </p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>特定の教科書は指定しない。 必要に応じて、専門実験の分子生物学実験の実験指導書を利用し、適宜プリントも配布する。 </p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>分子生物学分野の最新技法の理解を深めるのに必要な参考図書や実験技法のビデオライブラリーなどは、バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書・ビデオなどを、閲覧活用できるような利便を図っている。 </p>  |       |           |
| 教材 (その他)   | <p>毎回の演習資料などパワーポイントやビデオなどを活用して、演習時間内に提示する。 </p>   |       |           |
| 評価方法       | <p>必修の演習であり、全回出席しなければならない。 成績の評価は、以下に示す内容を考慮し、総合的に評価する。  ・演習課題の達成度(70%)  ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%)  ・実験課題の発表会の発表(15%) </p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>以下の5項目を重点的な達成目標とする。  ・演習課題の理解・解決の達成  ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得  ・実験機器の操作手順と注意事項の把握  ・実験成果のプレゼン・スキルの習得  ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底 </p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>事前に演習内容を把握しておくこと。 </p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>遅刻は安全な実験を行う上であってはならないことである。開始前の注意事項や連絡事項をメモする機会であるから、しっかりメモする習慣も身につけること。午後の始めにある演習であることから、自己の体調管理をしっかりと臨むこと。 理解が十分でない点は、積み残さないで、演習担当者から早めに演習を受けること。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 分子生物学演習のガイド 2. 実験結果の精度と誤差および統計処理について 3. 緩衝液の原理とpHの理解 4. タンパク質の等電点とアミノ酸組成について 5. イオン交換クロマトグラフィーの原理 6. ゲルろ過クロマトグラフィーの理解 7. アクリルアミドゲル・アガロースゲルの理解 8. 電気泳動・遠心力による生体高分子の分離原理の理解 9. 検量線作成の基本と理解 10. 分子量の求め方について 11. PCR 反応や酵素反応の反応特性の理解 12. 遺伝子組換え操作と制限酵素や修飾酵素の理解 13. 遺伝子選別の原理と遺伝子発現制御機構の理解 14. 測定機器の操作と原理の理解 15. 測定器具の操作と原理の理解 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60183001 |
| 科目名   | 有機化学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  |   |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 有機化学実験を実施するにあたり、必須事項である有機化合物の性質、安全な取扱い方法、実験器具や機器についての正しい使用法等を演習形式で習得する。また、有機機器分析法の基本概念や、生物試験の特徴を習得する。合わせて、実験ノートや報告書の作成についての演習を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 配布資料  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 関数電卓、分子模型   |       |           |
| 評価方法  | レポート、小テストの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 有機化学実験の目的と内容、手順を理解すること。実験結果の整理、解釈、考察が適切に出来ることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 配布資料を熟読して、有機合成化学実験にかかわる知識、手順を整理しておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 本演習は有機合成化学実験をスムーズかつ効果的に実施するために必要な知識や手順を体得するためのものである。本演習を受講しない学生や遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) 有機合成化学、安全教育 2) 置換反応、植物生長調節剤の用途、農薬  3) 有機反応機構 4) バイオアッセイ (植物試験他) 5) 酸化反応、甘味料  6) 実験ノート、実験報告書の作成 7) バイオアッセイ (甘味試験他) 8) 光学異性体の旋光度測定 9) 光学分割  10) 光学異性体と天然物 11) 光学異性体と不斉合成 12) クロマトグラフィー 13) Wittig反応と炭素-炭素結合形成反応 14) 有機機器分析  15) 有機化学演習のまとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60184001 |
| 科目名   | 食品・栄養科学演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   |   |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 食品・栄養科学実験の各課題に対して、その実験の背景、必要な試薬の濃度計算や調製法、実験機器の使用法、測定法の原理等の基礎知識を学ぶ。                |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書は指定しない。 演習書をプリントにして配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）、レポート（40%）、試験（40%）。   |       |           |
| 到達目標  | 実験の背景を理解する。正確な実験を遂行するための基礎知識を習得する。結果発表会はチーム（4人）が協力し合い、プレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。 |       |           |
| 準備学習  | 必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。                         |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| この演習は食品・栄養科学実験の内容説明も兼ねている。この演習に出席しないものは食品・栄養科学実験の履修を認めない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 食品・栄養科学実験オリエンテーション（食品実験のための心得など）  2. 濃度計算  3. 食品からのタンパク質分離精製法  4. タンパク質の定量法  5. 脂肪のケン化とGC分析による脂肪酸定量法  6. 原子吸光によるカルシウム定量法  7. 麹酵素の精製と力価測定法  8. 食品の微生物検査法  9. 実験動物の取扱方   10. アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製法  11. 結果発表会（中間時期および終了時期の計2回） |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J60185001 |
| 科目名  | 応用微生物学演習  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   |   |       |           |
| 担当者名   | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 応用微生物学実験に伴い、実験の背景となる学問内容の講義と問題演習を行う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 応用微生物学実験と共通   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第2巻、第3巻 京都大学農学部農芸化学教室編 (1965) 産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編 (2002) 培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編 (1999) 講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編 (1986) 講談社 |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 応用微生物学実験と共通   |       |           |
| 到達目標   | 基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学A」、「応用微生物学B」を受講すると、より理解が深まる。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1) 培地の調製 2) 微生物の染色 3) 微生物の増殖 4) 微生物の代謝1 5) 微生物の代謝2 6) 微生物の代謝3 7) 有用微生物のスクリーニング1 8) 有用微生物のスクリーニング2 9) 有用微生物のスクリーニング3 10) 微生物による物質生産1 11) 微生物による物質生産2 12) 微生物による物質生産3 13) 発酵・醸造1 14) 発酵・醸造2 15) 発酵・醸造3 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J60186001 |
| 科目名   | 植物バイオ演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   |   |       |           |
| 担当者名  | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 植物の生長解析や細胞工学の基礎となる、① 植物の細胞・組織培養、 ② 光合成活性、 ③ 窒素代謝などを取りあげて、その背景を理解するとともに、実験法や解析法などについての演習を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、最初に植物バイオ実験と共通のプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 最初の時間に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 出席状況や受講態度、演習解答などの平常点（50%）および小試験（50%）から評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 植物の基本的な機能の実験法や解析法に対する理解を深める。  |       |           |
| 準備学習  | 植物バイオ実験と共通のテキストを配布するので、掲載の実験法、解析法について事前に理解を深めておくことが望ましい。                                    |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、分枝生物学などを履修しておくことが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 植物の組織培養実験法および解析法（1） 2. 植物の組織培養実験法および解析法（2） 3. 植物の組織培養実験法および解析法（3） 4. 植物の組織培養実験法および解析法（4） 5. 植物の組織培養実験法および解析法（5） 6. 光合成実験法および解析法（1） 7. 光合成実験法および解析法（2） 8. 光合成実験法および解析法（3） 9. 光合成実験法および解析法（4） 10. 光合成実験法および解析法（5） 11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1） 12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2） 13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3） 14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4） 15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5） |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J6018700A |
| 科目名        | 有機化学実験   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) |  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 有機合成化学実験を中心に、最も重要である化学物質を取扱うための知識と技術および合成化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法を習得する。更に、有機機器分析実験を通して、最新の分析技術、生物試験を通して生物への反応の特徴を習得する。実験結果のまとめ方や報告書の作成についても習熟する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 配布資料 (実験指示書 有機化学実験)  安全の手引き (京都学園大学バイオ環境学部編)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 関数電卓   |       |           |
| 評価方法       | 実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 実験の目的と内容、手順を理解することと、実験操作の習熟と実験結果の整理、解釈、考察が出来ることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 指示書を熟読して、器具、薬品等の取扱いを含め、実験手順を整理しておく。  |       |           |

#### 受講者への要望

有機化学演習での解説や実験開始前に指示書に従い説明する実験内容を十分に理解すること。演習および実験説明に遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

#### 講義の順序とポイント

1) オリエンテーション、ガラス細工|2) 置換反応による植物生長調節剤 2, 4-D の合成 1|3) 置換反応による植物生長調節剤 2, 4-D の合成 2|4) 置換反応による植物生長調節剤 2, 4-D の合成 3、植物試験|5) 酸化反応による甘味料サッカリンの合成 1|6) 酸化反応による甘味料サッカリンの合成 2|7) 酸化反応による甘味料サッカリンの合成 3、甘味試験|8) (±)-1-フェニルエチルアミンの光学分割 1|9) (±)-1-フェニルエチルアミンの光学分割 2|10) (±)-1-フェニルエチルアミンの光学分割 3|11) (±)-1-フェニルエチルアミンの光学分割 4|12) Wittig 反応による E-および Z-スチルベンの合成 1|13) Wittig 反応による E-および Z-スチルベンの合成 2|14) Wittig 反応による E-および Z-スチルベンの合成 3、機器分析|15) Wittig 反応による E-および Z-スチルベンの合成 4、機器分析

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |                                     |       |           |
|------------|-------------------------------------|-------|-----------|
| 年度         | 2012                                | 授業コード | J6018800A |
| 科目名        | 生化学実験                               | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Biochemistry |       |           |
| 担当者名       | 松原 守                                | 旧科目名称 | 【再履修科目】   |
| 講義概要       |                                     |       |           |
| 教材（テキスト）   |                                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |                                     |       |           |
| 教材（その他）    |                                     |       |           |
| 評価方法       |                                     |       |           |
| 到達目標       |                                     |       |           |
| 準備学習       |                                     |       |           |
| 受講者への要望    |                                     |       |           |
| 講義の順序とポイント |                                     |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J6018900A |
| 科目名   | 食品・栄養科学実験  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Experimental Course in Food Science  |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 食品・栄養科学実験を通じて、食品成分、食品の機能性、動物の扱い、食品における微生物管理など食品分野で重要かつ基礎的な実験技術を学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 実験指導書をプリントにして配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（80%）：実験ノートおよびチェックシートの記入、結果発表会での資料作成と発表、出席状況、実験への取り組みなど。 試験（20%）。                                       |       |           |
| 到達目標  | 実験技術、実験内容を理解する。実験結果の解析を行なうことができる。チーム4人が意志の疎通をはかり、協力し合って実験をスムーズに進めることができる。結果発表会はプレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。 |       |           |
| 準備学習  | 必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 実験の心得に従うこと。遅刻厳禁（遅刻者は記録し、ペナルティを与える）。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 食品成分の分離（牛乳からカゼインの分離）とアミノ酸、タンパク質の定性・定量実験（呈色反応）、脂肪のケン化とGC分析による定量およびカルシウムの定量（原子吸光分析）。 2. 麴の酵素（アミラーゼ）力価を測定。 3. 食品の微生物検査。 4. 高脂肪食ラットの血清脂質および肝臓脂質の測定。 5. アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012                                     | 授業コード | J6019000A |
| 科目名        | 遺伝子化学実験                                  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Molecular Cloning |       |           |
| 担当者名       | 松原 守                                     | 旧科目名称 | 【再履修科目】   |
| 講義概要       |  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       |  |       |           |
| 到達目標       |  |       |           |
| 準備学習       |  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J6019100A |
| 科目名  | 応用微生物学実験  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Experimental Course in Applied Microbiology   |       |           |
| 担当者名   | 篠田 吉史   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 2 回生秋学期の「基礎バイオサイエンス実験」での微生物学実習に引き続き、一般微生物学の基礎的な技法について学ぶ。さらに、それらの技法を使って応用微生物学に関する実験を行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第2巻、第3巻 京都大学農学部農芸化学教室編 (1965) 産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編 (2002) 培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編 (1999) 講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編 (1986) 講談社 |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | ・実験態度、実験台の整理整頓（20%） ・実験ノートへの適切な記述（40%） ・テキストの問題への解答（40%）  |       |           |
| 到達目標   | 基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学A」、「応用微生物学B」を受講すると、より理解が深まる。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1) 培地の調製 2) 微生物の染色 3) 微生物の増殖 4) 微生物の代謝1 5) 微生物の代謝2 6) 微生物の代謝3 7) 有用微生物のスクリーニング1 8) 有用微生物のスクリーニング2 9) 有用微生物のスクリーニング3 10) 微生物による物質生産1 11) 微生物による物質生産2 12) 微生物による物質生産3 13) 発酵・醸造1 14) 発酵・醸造2 15) 発酵・醸造3 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J6019200A |
| 科目名       | 植物バイオ実験   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Experimental Course in Plant Science  |       |           |
| 担当者名      | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 植物の生長解析や細胞工学の基礎となるいくつかのテーマを取りあげ、その背景を理解しつつ実験技術とその解析法を修得することを目的とする。 第 1 に、植物細胞工学の基礎となる植物組織・細胞培養を取りあげ、無菌操作・無菌培養などの基礎技術の修得や植物ホルモンとの関連などについて理解する。 第 2 に、光合成を取りあげ、細胞分画の基礎、光合成活性測定とその解析法などを修得する。 第 3 に、窒素栄養代謝を取りあげ、その生化学的実験技術や解析法、成分分析法などについて修得する。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、実験の最初にプリント（テキスト）を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 最初の時間に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 出席状況や受講態度、ノート等による平常点（50%）および実験レポート（50%）から評価する。  |       |           |
| 到達目標      | 植物の基本的な働きや細胞工学に必要な実験法・実験技術と解析方法を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習      | 実験テキストを配布するので、それぞれの実験前によく読んで実験ノートに要点をまとめ、実験が手際よく行えるように準備しておくこと。 「安全の手引き」の内容は常に確認しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   | <p>関連する講義科目・演習（植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、分枝生物学）を受講しておくことが望ましい。 実験は全回出席を基本とする。実験を安全に行うために、服装や受講態度に留意し、教員や実験助手の指示を守ること。実験した内容は実験ノートにきちんと記録しておくこと。また実験結果の取りまとめはその日のうちに行っておくこと。</p> <p>講義の順序とポイント</p> <p>1. 植物の組織培養実験（1） 2. 植物の組織培養実験（2） 3. 植物の組織培養実験（3） 4. 植物の組織培養実験（4） 5. 植物の組織培養実験（5） 6. 光合成活性測定実験（1） 7. 光合成活性測定実験（2） 8. 光合成活性測定実験（3） 9. 光合成活性測定実験（4） 10. 光合成活性測定実験（5） 11. 植物窒素栄養代謝実験（1） 12. 植物窒素栄養代謝実験（2） 13. 植物窒素栄養代謝実験（3） 14. 植物窒素栄養代謝実験（4） 15. 植物窒素栄養代謝実験（5） </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J6019300A |
| 科目名        | 分子生物学実験   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) |   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオサイエンス分野の基本的な実験である生化学実験や遺伝子化学実験をおこなう。生体物質であるタンパク質の基本的な実験と酵素反応を解析する実験、および遺伝子である DNA の扱いと塩基配列解析実験と組み換え遺伝子の発現実験を通じて、種々の実験機器を扱う基本的な技術基盤を理解し、操作も習得し、基本技法の原理の理解を深め、タンパク質の性状、機能などの理解と DNA の性状、遺伝子の調節機能などの理解を深化させる実験実習をめざす。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特定の教科書は指定しない。 実験指導書はプリントにして、開講時に配布する。 実験レポートの課題や発表会の課題は、実験進行に合わせて、案内する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 実験の理解を深める参考図書などは、実験実習時間内に案内するほか、バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書を指定し、活用の利便性も図っている。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを活用して、提示する。  |       |           |
| 評価方法       | 必修の専門実験であり、全回出席しなければならない。 成績の評価は、以下に示す内容を考慮し、総合的に評価する。  ・実験レポート(70%)  ・実験中の評価・実験ノートの評価(15%)  ・実験成果の発表(15%)  |       |           |
| 到達目標       | 以下の 5 項目を重点的な到達目標とする。  ・実験の事前準備と実験計画を指導書をもとに実験ノートに整理できること。  ・個々の実験の目的と内容やコンセプトを理解すること。  ・種々の実験操作を習熟すること。  ・実験結果の計算・整理・解釈・評価を実験班内で協力して、達成すること。  ・成果の発表や課題の発表で、クラスメート面前でのプレゼンスキルを身につけること。                               |       |           |
| 準備学習       | 配布された実験手順書を事前に読み、実験手順の概要などを実験ノートに整理して、実験当日の手順の操作や時間経過の計画をまとめること。 さらに手順書に書かれている内容や課題を十分理解できない場合は、下調べをしておくこと。 なお、事前準備の後でも、疑問や不明なことがあれば、必ず実験開始前の質問タイムを利用して、質問内容を整理して教員に質問すること。   |       |           |

#### 受講者への要望

バイオサイエンス分野で必要な専門実験実習について正しい基本を習得するものである。比較的長時間集中しなければ実験の進行が滞るので、過密なスケジュールにならないように、各自のタイムマネジメント（実験期間の体調自己管理も大切）も大切である。|実験レポート・課題演習・実験結果報告会も含めて、グループ内でメンバー間の円滑なコミュニケーションを図り、自己のスキルを磨いてほしい。|専門実験で身につけたスキルは、卒業研究や就活にも必要な基本的な能力を高めるものであることを確信して下さい。|

#### 講義の順序とポイント

1-2. 実験概要の全体説明と実験試薬などの準備、緩衝溶液の作成や濃度計算と滅菌方法| 3-4. 実験試料の取扱い・抽出操作・分離・分画の操作| 5-6. タンパク質の抽出と可溶化とタンパク質の定量| 7-8. タンパク質の分離・分別と精製、タンパク質の電気泳動ゲルの作成| 9-10. タンパク質の SDS-PAGE と膜への転写・ウエスタンブロット|11-12. 酵素反応の解析(反応条件の解析)|13-14. 酵素反応の解析(基質濃度と阻害剤濃度による反応解析)|15-16. コンピテント細胞の作製と形質転換|17-18. プラスミド DNA の抽出と調製と精製|19-20. 遺伝子断片の増幅とサブクローニング|21-22. 塩基配列の解析|23-24. 組換えタンパク質の発現誘導と可溶性精製|25-26. 発現タンパク質の機能解析と純度検定|27-28. 実験成果の整理とグループ内検討|29-30. 実験結果と課題の発表会|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |              |
|------------|---|-------|--------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72026A01    |
| 科目名        | 【院】理論経済学演習 A  | 単位数   | 2            |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Theoretical Economics A  |       |              |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 | 【院】理論経済学演習 I |
| 講義概要       | <p>学術論文を「読む」訓練を行う。理論経済学分野の学術論文は、文章に加えて数学記号による表現が用いられる。慣れていない読者は、内容を理解するために多くの時間を要することがある。本講義では、比較的理解しやすい論文から読み始め、内容を理解する訓練を行う。</p>  |       |              |
| 教材 (テキスト)  | 受講者の関心に合わせて学術論文を決定し、それをテキストとする。   |       |              |
| 教材 (参考文献)  | 随時指定する。   |       |              |
| 教材 (その他)   | 特になし。   |       |              |
| 評価方法       | 講義中の発表等で評価する。   |       |              |
| 到達目標       | 専門分野の学術論文をある程度の速さで読めるようになる。   |       |              |
| 準備学習       | 専門用語については調べておく必要がある。  |       |              |
| 受講者への要望    | 修士課程の2年間は、体感的には短いので、計画的に過ごすことを念頭に置いて受講してもらいたい。  |       |              |
| 講義の順序とポイント | <p>1 ガイダンス 論文の選定  2 比較的理解しやすい論文の輪読①  3 比較的理解しやすい論文の輪読②  4 比較的理解しやすい論文の輪読③  5 若干の数学的展開が含まれる論文の輪読①  6 若干の数学的展開が含まれる論文の輪読②  7 若干の数学的展開が含まれる論文の輪読③  8 統計的検証を行っている論文の輪読①  9 統計的検証を行っている論文の輪読②  10 統計的検証を行っている論文の輪読③  11 数学的展開のフォロー①  12 数学的展開のフォロー②  13 数学的展開のフォロー③  14 目的に応じた論文の読み方を整理する  15 全体のまとめ</p> |       |              |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72026B01 |
| 科目名        | 【院】理論経済学演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Theoretical Economics B  |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 自ら経済モデルを設定して比較静学などの検証作業を行う準備として、既存研究のモデル展開をフォローする訓練が有効である。本講義では、受講者が理論経済学分野の論文を選定し、こうした訓練を行う。そして、後半には、既存研究を応用・発展させる作業も行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者の関心に合わせて学術論文を決定し、それをテキストとする。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 随時指定する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし。   |       |           |
| 評価方法       | 講義中の発表等で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 簡単な経済モデルを自ら設定して検証を行えるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | テキストとなる論文を熟読する。特に、計算過程のフォローに時間がかかる場合もある。  |       |           |
| 受講者への要望    | メジャーなジャーナルに掲載された論文であっても、計算ミスを含んでいる場合がある。ただ、簡単にテキストの間違いと断定せずに、よく計算過程をフォローする気力をもって講義に臨んでもらいたい。                              |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 ガイダンス 論文の選定 発表順の決定  2～8 受講者が自分の選定した論文の内容を解説する  9～14 受講者が選定した論文を応用・発展させて、その内容を発表する  15 全体のまとめ                            |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72026C01 |
| 科目名        | 【院】理論経済学演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Theoretical Economics C   |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の核となるオリジナルな経済モデルを構築することが本講義の概要である。                                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（その他）    | 特殊な教材を使用する予定はない。   |       |           |
| 評価方法       | 進捗状況報告の内容で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 僅かでもいいので、オリジナルな研究成果を作れることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 試作した経済モデルの計算による検証には時間がかかるので、こうした作業が必要となる。                                  |       |           |
| 受講者への要望    | 試作した経済モデルを検証すると、望ましい結論にならないことはよくある。粘り強く作業を続ける意思を持って講義に臨んでもらいたい。            |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 研究テーマの検証  2～1 0 研究の主要部分についてのディスカッション  1 1～1 4 修士論文の構成確認  1 5 夏期休暇中の課題の決定 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72026D01 |
| 科目名        | 【院】理論経済学演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Theoretical Economics D                                    |       |           |
| 担当者名       | 畔上 秀人   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文完成に向けて、最終的なまとめ作業を行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 指定しない。  |       |           |
| 教材（その他）    | 指定しない。  |       |           |
| 評価方法       | 作業への取り組み方で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 修士論文を完成させる。   |       |           |
| 準備学習       | 講義内外の区別なく学習が必要となる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 修士論文が完成しなければ修了できないので、本講義の単位と修士論文の完成は同一と考えてもらいたい。                      |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 修士論文の進捗状況確認  2～10 研究成果、関連文献研究の不足部分についてのディスカッション  11～15 修士論文に基づく研究発表 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                 |   |       |           |
|-----------------|---|-------|-----------|
| 年度              | 2012  | 授業コード | J72057001 |
| 科目名             | 【院】計量経済学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）       | Advanced Methods of Econometrics  |       |           |
| 担当者名            | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要            | 統計分析には多くのアプローチが考えられるが、この講義では基礎的な「計量モデル分析」を中心とした講義を行う。モデルの対象はマクロ経済、企業経営、都市経営、等様々考えられる。モデルに含まれる要素間の関係を構造方程式の体系として表現する基礎的訓練と、構造パラメータの推定をいかに行うか種々考察する。安定したモデル構造を推定し、これを通じて各種シミュレーション分析をする。ただし、いきなり高度なモデルを扱うより、初学者を意識したレベルから始める。  パラメータの推定と評価に必要な統計知識を授業の各所で必要に応じ講義する。ただし、確率論は最小限の知識にとどめ、実際の統計分析に重点を置く。この分析にはアメリカでは標準的なツールとなっているEViewsを利用する。 |       |           |
| 教材（テキスト）        |   |       |           |
| 教材（参考文献）        |   |       |           |
| 教材（その他）         |   |       |           |
| 評価方法            | 平常点   |       |           |
| 到達目標            | 計量経済学の入門知識の習得   |       |           |
| 準備学習            | 適宜宿題を課すのでそれを発表すること  |       |           |
| 受講者への要望         |   |       |           |
| 実証分析への関心を高めて欲しい |   |       |           |
| 講義の順序とポイント      | 1 単回帰モデル   2 単回帰の実際   3 重回帰   4 分散の不均一性   5 分散の不均一性その2   6 系列相関   7 DWとその実際   8 トレンドとモデルの工夫   9 多重共線性   10 多重共線性の例と工夫   11 ダミー変数の扱い   12 ダミー変数の扱いその2   13 同時方程式モデル   14 同時方程式の簡単な例   15 まとめ   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72058001 |
| 科目名        | 【院】経済統計学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Statistics  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済統計学では、SNA統計を中心に、各種統計の内容理解を前提に、これの実証分析への応用を主な課題とする。すなわち、統計データの数量的分析手法については、単一方程式による各種回帰分析手法、及び、同時方程式体系の解法を系統的に解説する。また、既に実用化されているいくつかの計量モデルの分析を通じて、計量モデルの構造や作成のプロセスを理解させると共に、自ら簡単なモデル作成とシミュレーション分析を行えるような訓練を行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点  |       |           |
| 到達目標       | 経済データを背景の理論に関連づけて理解すること  |       |           |
| 準備学習       | 適宜準備資料を指示するので、それを読み込んでくること   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特にありません    |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 時系列データの処理   2 トレンドと季節調整   3 指数   4 物価指数の実際   5 労働力   6 賃金と労働市場   7 労働市場の動向   8 労働時間と生産性   9 賃金と失業   10 家計-所得と貯蓄・消費   11 家計調査   12 消費構造   13 消費構造と国際比較   14 景気変動   15 まとめ</p>                                      |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72059001 |
| 科目名        | 【院】時系列データ分析   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Time Series Analysis  |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | マクロ金融システムの時系列データを分析する。マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などの経済指標の時系列データの特性を統計学の観点から分析する。定常、非定常、トレンド、AIC、VAR モデルなどの基礎概念を修得する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリント配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 毎回の小課題と2回のレポートを評価   |       |           |
| 到達目標       | 経済時系列を統計学的に分析できること。   |       |           |
| 準備学習       | 統計分析に必要な数学やコンピュータの知識は分析ソフトを使いながら慣ればよいので、はじめから高いレベルを要求しないが、経済現象の理解は必須である。ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論などの基礎知識をもとに、インフレ、デフレ、金融政策、財政政策などを理解していることが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 統計学やパソコンは使っているうちにだんだん慣れてくる。はじめは難しく感じるかもしれないが、苦手意識から拒絶反応を持たないようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.データの取得と加工・修正  日次、週次、月次、四半期、などのデータ特性と季節調整の概念 2.同上  散布図、回帰直線、トレンドの検出 3.定常・非定常の検定  経済・金融データの多くが非定常変数であるので、単位根検定の方法を知る。 4. 同上  日本のデータを分析 5.同上  ヨーロッパ・アメリカのデータを分析 6.パラメータ推定の方法  最小自乗法、t-値、 7.同上  最尤法、GMM 法 8.AIC の考え方  データ・フィッティングの基礎となる AIC 評価規範の考え方 9.同上  各種の具体例 10.金融分析  Marshall の k、マネー、GDP、金利の相互関係 11.同上  貨幣需要関数 12.VAR モデルの考え方  相互依存する変数の時間遅れを伴う相関の強さ 13.同上  成長率モデルとレベル変数の扱い 14.VEC モデルの考え方  非定常変数の長期均衡関係と、定常な成長率モデルとの関係 15.同上  長期均衡の観点から見た貨幣需要関数 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J72060001 |
| 科目名  | 【院】時系列モデル  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Time Series Models   |       |           |
| 担当者名   | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などから時系列マクロ金融モデルを作成し、モデルを用いた経済現象の分析を行う。金融問題として扱われるデフレ、流動性の罅、金融不安の定量分析、貨幣需要関数の安定性などを考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて資料配布   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 毎回の課題と2回のレポート  |       |           |
| 到達目標   | マクロの時系列モデルを、各国のデータで作成すること。   |       |           |
| 準備学習   | 経済現象の理解が不可欠である。ミクロ、マクロ、金融論などを基本知識として、インフレ、デフレなどの現象を理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 経済データ専用の分析ソフトを使うので、操作方法などよりも、何を分析し、その分析結果が経済学的に何を意味しているのかという理解がもっとも大事である。長い道のりではあるが、がんばってほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.VAR モデル作成  Vector Auto Regressive モデルの作成方法を学ぶ。 2.同上  遅れ次数、変数の増減（取捨選択）などの確認 3.インパルス応答  VAR モデルにおけるインパルス応答とその解釈 4.同上  成長率とレベル変数におけるインパルス応答の意味 5.VEC モデル作成  Vector Error Correction モデルの作成方法を学ぶ。 6.同上  共和分と、非定常変数間の長期均衡関係 7.同上  VEC モデルにおけるインパルス応答 8.不均一分散モデル（GARCH モデル）の作成  GARCH モデルの成り立ちとその意味 9.TARCH モデル、EGARCH モデルの作成  各種の不均一分散モデルの比較検討 10.投資リスクと金融資産のリスク管理  株式収益率のボラティリティ変動モデル（ARCH モデル） 11.同上  株式収益率のボラティリティ変動モデル（確率ボラティリティモデル） 12.不均一分散モデルの応用  金融不安の導出（日銀 DI による資金繰り判断と貸出金利） 13.共和分手法による金融問題の解析  流動性の罅 14.同上  貨幣需要関数 15.同上  長短金利が貨幣需要関数に及ぼす影響 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72062001 |
| 科目名        | 【院】金融経済論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Economics   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | まず、金融システムの概要を理解し、株式、債券市場の分析を通じて、株価決定の理論、債券利回りの構造など、資産運用において欠くことのできない、ファイナンスの知識を教授する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、2008 Laurence Ball, Moeny, Banking, and Financial Markets, Worth Publishers, 2009                             |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義時の学習意欲、熱心度およびレポート   |       |           |
| 到達目標       | ファイナンスの基本知識の習得につとめ、経済および景気に関する日々生ずる現実の問題に自分なり考えが持てるようにする。また、将来金融機関に就職する場合の基本的知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回次の講義の資料提供をおこなうので、しっかり事前の予習をすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 病気以外の欠席は認めない。英語が読めることが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 金融の仕組み  2. 銀行とその役割  3. 証券会社とその役割  4. 保険会社とその役割  5. 経済情報の見方  6. 短期金融市場  7. 長期金融市場  8. 株式市場  9. 外国為替市場  10. 証券投資のリスクとリターン  11. 金利の期間構造  12. オプションとデリバティブ  13. 金融規制  14. 金融危機  15. 講義のまとめ：ライフプランと資産運用 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72066001 |
| 科目名        | 【院】公共経済学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Public Economics  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「市場の失敗」のよって生じる非効率な資源配分状況とは何か、そしてその非効率性を回避するために政府が行うべき適切な経済政策や市場介入とは何か、について理論的に理解する。特に、資源配分の効率性についての判断基準としては、余剰および社会的厚生関数を利用する。  また、所得分配の公平性についての様々な判断基準を踏まえ、各種の課税について公平性の基準から見た理論的評価を確認する。また、個人レベルでのライフ・サイクルに基づく消費計画を前提とし、課税がもたらす個人の厚生および社会的厚生への効果について検討する。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 麻生良文『公共経済学』有斐閣   井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣   |       |           |
| 教材（参考文献）   | フェルドマン&セラノー『厚生経済学と社会的選択論』シーエーピー出版   Auerbach&Feldstein, Handbook of Public Economics, North-Holland.  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内報告 50% レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | <p>「資源配分の効率性」を判断基準に政府の経済的機能・役割について、理論研究を中心に理解する。また、公平な所得分配を実現するための政府の政策、特に課税について、その効果を個人の経済活動および社会的厚生などの視点から多面的に捉える。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>「ミクロ経済学」の基礎理論は復習しておいてほしい。特に、制約付き最適化問題および社会的厚生（余剰）についての理解は不可欠である。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>（１） 確実に丁寧な理解を心がける。  （２） 理解が曖昧な点は諦めずに、理解できるまで質問する。  （３） 理論分析の前提条件の妥当性、およびその修正がもたらす結論への影響について考える。  （４） 現実社会を前提に、経済理論が提示する結論の有効性とその限界について考える。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回：講義の概要、および政府の分類   第2回：パレート最適と補償原理   第3回：余剰、および社会的厚生関数   第4回：政府の市場介入の効果（１） 価格規制、数量規制   第5回：政府の市場介入の効果（２） 参入規制、課税・補助金   第6回：市場の失敗（１） 不完全競争   第7回：市場の失敗（２） 外部効果   第8回：市場の失敗（３） 公共財の最適供給   第9回：ライフサイクル・モデルによる個人の生涯消費計画   第10回：課税の効果（１） 所得税&amp;所得控除 勤労期間の労働供給への効果   第12回：課税の効果（２） 消費税 個人の生涯消費への効果   第13回：課税の効果（３） 利子課税&amp;資産課税 個人の貯蓄および消費への効果   第14回：給付の効果（１） 年金給付 個人の生涯消費、貯蓄および労働供給への効果   第15回：給付の効果（２） 失業給付&amp;医療給付 個人の消費、貯蓄および労働供給への効果  </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J72068001 |
| 科目名  | 【院】経済社会学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Sociology   |       |           |
| 担当者名   | 平田 謙輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>本講義では、まず近代という時代がいかなる歴史的背景の下に誕生し、そしてどのような特質を持つのかを概観する。次に、そこへ登場する社会構想である自由主義の特徴と限界について考察し、近代のもう一つの体制構想である社会主義についても検討を行う。また、近代民主主義の理念とその変質にも目を向ける。  さらに、戦後西側諸国で指導像とされた福祉国家について、その理想と現実とはどのようなものであったかを考察した上で、近代の転換の方位と新たな社会の原理について展望する。  なお、受講者には毎回事前に配布する資料等を熟読しておくことが求められ、授業の中でその内容等について報告を行ってもらうこともある。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 野尻武敏『第三の道』晃洋書房 野尻武敏『転換期の政治経済倫理序説』ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内の課題（報告等）（50%）、レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標   | 近代社会の特質と近代の体制構想、および経済社会体制の転換の方向について理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 指示する文献等を事前に熟読すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 十分な準備（予習）の上で授業に臨むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 近代の誕生  2. 近代の特性  3. 自由主義社会思想  4. 自由資本主義の展開  5. 体制混合化  6. 自由市場経済の諸機能  7. 新自由主義の思潮  8. 社会主義の新展開  9. 近代民主主義社会  10. 利益団体と多元社会化  11. 福祉国家の形成と挫折  12. 高齢化の進行  13. 少子化問題  14. 近代の原理と社会保障の困難  15. 福祉社会の展望 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J72073001 |
| 科目名  | 【院】経済政策論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Policy   |       |           |
| 担当者名   | 内山 隆夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 政策主体を巡る議論を整理したのち、マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに、政策形成過程の問題を取りあげ、経済社会の「三重秩序」構想を紹介する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | レジュメを配付   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | レポート  |       |           |
| 到達目標   | 経済政策論の基礎理論についての理解を深める   |       |           |
| 準備学習   | わが国の政策問題についての動向を注視する  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 経済社会のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 日本経済の現況（1）  2. 日本経済の現況（2）  3. 政策主体と経済社会の多元化  4. 成長政策  5. 分配政策  6. 経済安定化政策（1）  7. 経済安定化政策（2）  8. 経済安定化政策（3）  9. 経済安定化政策（4）  10. 経済安定化政策（5）  11. 政策形成過程  12. 政策形成の担い手  13. 政策形成のパラダイム  14. 協調的政策形成  15. 三重秩序論 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72074001 |
| 科目名        | 【院】比較経済政策論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Comparative Analysis of Economic Policy   |       |           |
| 担当者名       | 内山 隆夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 共通する政策課題でも、その解決策は多様である。それぞれの国の歴史的・社会的・経済的な背景が異なるからである。とはいえ、諸外国の政策的取り組みが参考にならないわけではないし、政策にもいわば流行がある。例えば、先進各国で今日広く強調されるのが積極的労働市場政策であり、ワーク・ライフ・バランスである。そのことを通じて経済社会における人間回復が目指されているといってもよい。我が国の政策課題をEUの経済社会政策を中心にしながら比較検討したい。                          |       |           |
| 教材（テキスト）   | レジュメを配付   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート  |       |           |
| 到達目標       | 欧州の政策実践とわが国の政策実践の成果比較   |       |           |
| 準備学習       | 欧州の経済社会動向を注視しよう！  |       |           |
| 受講者への要望    | 経済のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. わが国の経済社会と政策課題（1） 2. わが国の経済社会と政策課題（2） 3. わが国の経済社会と政策課題（3） 4. 欧州社会モデル 5. 欧州統合の拡大（1） 6. 欧州統合の拡大（2） 7. 欧州統合の深化（1） 8. 欧州統合の深化（2） 9. 欧州統合の深化（3） 10. リスボン戦略の展開（1） 11. リスボン戦略の展開（2） 12. 欧州雇用政策の展開（1） 13. 欧州雇用政策の展開（2） 14. EUの経済社会政策  15. 福祉国家からワーフフェア国家へ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72075001 |
| 科目名        | 【院】 公共政策論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Public Policy  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「公共性」とは何か、さらに公共の利益をどのような概念で捉え、それを測定可能な具体的指標として何に注目すべきであるのか。これらの問題は、価値判断を伴う規範的アプローチによって捉えていくしかない。すなわち、公共性の問題は公共の哲学から独立には論じ得ない。   また、公共の利益の実現およびその拡大を図る役割の一部は政府が担うが、その政府は不完全であり、政府が公共の利益を損なう場合も生じうる。民主主義社会における政府の意思決定メカニズムに内在する欠陥について、経済学的視点から分析するのが「公共選択論」である。   さらに、現日本社会や国際社会が現実の社会問題を解決するために法的規制や予算編成、あるいは公共サービスの供給を行っているが、それらの背景にある具体的な政策目標や政策理論についても検討していく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | (1) Muller,D.C., Public Choice II, Cambridge University Press.   (2) 宮本憲一『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』有斐閣。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | (1) ミューラー,D.C.,『ハンドブック・公共選択の展望』I-III 関谷・大岩訳 多賀出版。   (2) 新藤宗幸『概説日本の公共政策』東京大学出版会。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内報告 50% レポート課題 50%   |       |           |
| 到達目標       | 公共性とは何か、公共の利益を実現すべき政府の意思決定における欠陥は何か、現代の日本および国際社会が目指す公共の利益とその政策手段は何か、について効率性を主要な判断基準として理解する。  |       |           |
| 準備学習       | (1) ミクロ経済学の基礎を復習しておくこと。   (2) 配布資料を予習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 「公共経済学」と合わせての履修が望ましい。   (2) 現代日本の公共政策に関する具体的な課題について、日頃から関心を持って能動的に情報に接する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回：公共性の概念と哲学   第2回：政府とは何か   第3回：政府の失敗とそのメカニズム   第4回：公共選択論 (1) 投票のルール   第5回：公共選択論 (2) 投票のパラドックスと中位投票者モデル   第6回：公共選択論 (3) 選挙制度と政治家の行動   第7回：公共選択論 (4) 官僚   第8回：公共政策 (1) 年金・医療・介護   第9回：公共政策 (2) 労働政策   第10回：公共政策 (3) 社会資本整備   第11回：公共政策 (4) 公債管理政策   第12回：国際公共政策 (1) 国際公共財とは何か   第13回：国際公共政策 (2) 地球環境政策   第14回：国際公共政策 (3) 途上国の開発援助   第15回：国際公共政策 (4) 安全保障</p>        |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72076001 |
| 科目名   | 【院】社会政策論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Social Policy   |       |           |
| 担当者名  | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義では、まず社会政策実践およびドイツ語圏における社会政策論の展開を概観することを通じて、社会保障の原理的・思想的基盤について考察を行う。次に、今日の社会保障制度の中から医療・年金・介護に関する各分野を取り上げ、それらの方法、目的および意義を考察するとともに、少子高齢社会においてそれらが直面する課題について検討を行うことにより、わが国の社会保険制度への理解を深めることを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要に応じて資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内の課題（報告等）（50%）、レポート（50%）。   |       |           |
| 到達目標  | 社会保障の意義と社会保険制度の概要を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 指示する文献等を事前に熟読すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ・受講者には、授業の中で文献の内容について報告を行ってもらいたいことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。  学部在学中に「社会政策」（または「社会保障論」）を受講済みであることが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 社会保障の制度と定型 2. 社会政策から社会保障へ 3. 社会政策の構造機能 4. 社会保障と補完性原則 5. 社会保険の概要 6. 医療保険の概念と制度体系 7. 健康保険 8. 国民健康保険 9. 公的年金制度の体系と意義 10. 国民年金 11. 厚生年金 12. 公的年金制度と高齢化 13. 介護と社会保険 14. 介護保険の基礎知識 15. 介護保険制度の課題 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72079001 |
| 科目名   | 【院】金融政策論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Monetary Policy   |       |           |
| 担当者名  | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 金融政策の具体的手法について学び、マクロ経済の動向、金融政策と景気変動、マネーストックと実体経済の関係についての理解を深める。昨今の世界を震撼させている、金融危機の実体とその原因についても学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、 2008   |       |           |
| 教材（その他）   | P.Howels and K. Bain, The Economics of Money, Banking and Finance, Second. Ed. Prentice Hall, 2002.   L. Jonung, J. Kiander, and P. Varita, The Great Financial Crisis in Finland and Sweden, Edward Elger, 2009. |       |           |
| 評価方法  | 講義参加の熱心度およびレポート   |       |           |
| 到達目標  | 金融政策全般の知識を習得し、金融危機などの現実問題に自分なりの意見を持てるようにする。   |       |           |
| 準備学習  | 毎回つぎの時間の講義資料を提供するので、事前に予習をよくしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 欠席をしないこと。英語が読めることが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 金融政策とは何か  2. 日本銀行の金融調節  3. 高度成長と金融①  4. 高度成長と金融②  5. バブル経済と金融①  6. バブル経済と金融②  7. 金融自由化と金融危機①  8. 金融自由化と金融危機②  9. アメリカの S&L 金融危機  10. メキシコの金融危機  11. 北欧の金融危機①  12. 北欧の金融危機②  13. 東アジア金融危機  14. サブプライムローンと金融危機  15. 1930年代の世界大恐慌 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J72122A01 |
| 科目名  | 【院】金融経済論演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar on Financial Economics A  |       |           |
| 担当者名   | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、日本の金融危機とアメリカ大恐慌について学ぶ。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 田中隆之『現代日本経済：バブルとポストバブルの奇跡』日本評論社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 若田部 『危機の経済政策』 日本評論社 小川一夫 『失われた 10 年の真実』 東洋経済新報社 藤井真理子 『金融革新と市場危機』 日本経済新聞社 伊藤隆敏他 『ポスト平成不況の日本経済』 日本経済新聞社 村松・奥野 『平成バブルの研究上,下』 東洋経済新報社 浜田・原田 『長期不況の理論と実証』 東洋経済新報社 深尾 『マクロ経済と産業構造』 慶応大学出版会 池尾 『不良債権と金融危機』 慶応大学出版会 吉川 『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』 慶応大学出版会  星・カシャップ 『日本金融システム進化論』 日本経済新聞社 |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 金融危機についての理解の程度  |       |           |
| 到達目標   | 金融危機についての基本的理解ができること。   |       |           |
| 準備学習   | 毎時間与えられるアドバイスに従い、論文の修正をすること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 論文作成に専念すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72122C01 |
| 科目名   | 【院】金融経済論演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Financial Economics C                      |       |           |
| 担当者名  | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 1年目で修士論文の骨格ができていますので、それを完成されるために全力を尽くす。               |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | さらに必要な文献資料を紹介するが、自分でも探す努力をする。                         |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 論文の進捗度  |       |           |
| 到達目標  | 修士論文を8月末までに完成させる。                                     |       |           |
| 準備学習  | 毎講義ごとに与えられる、担当者の批判点に十分答えられるように、資料文献を探し、検討し、論文の修正をはかる。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 修士論文作成に全力を上げる。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 修士論文の部分的発表、資料調査を繰り返しおこない、論文を完成させる。 8月末に一応論文を完成させる。   1. 論文概要の報告  2. 修正論文概要の報告  3. 1章の概要報告  4. 修正1章の概要報告  5. 2章の概要報告  6. 修正2章の概要報告  7. 3章の概要報告  8. 修正3章の概要報告  9. 4章の概要報告 10. 修正4章の概要報告 11. 5章の概要報告 12. 修正5章の概要報告 13. 全体の報告 14. 修正報告 15. 担当者からのまとめと注意 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|   |                                  |       |           |
|---|----------------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                             | 授業コード | J72122D01 |
| 科目名   | 【院】金融経済論演習D                      | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Financial Economics D |       |           |
| 担当者名  | 宮川 重義                            | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 修士論文を完成させる。                      |       |           |
| 教材（テキスト）  |                                  |       |           |
| 教材（参考文献）  |                                  |       |           |
| 教材（その他）   |                                  |       |           |
| 評価方法  | 修士論文の内容によって評価する。                 |       |           |
| 到達目標  | 修士論文の完成                          |       |           |
| 準備学習  | 論文の推敲を繰り返す。                      |       |           |
| 受講者への要望   |                                  |       |           |
| 担当者以外の教員にも修士論文の内容を話し、コメントをもらう。  |                                  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                                  |       |           |
| <p>修士論文の最終的完成をめざし、推敲を繰り返す。 他の教員から与えられたコメントも参考に新たな文献資料を読み、論文を完成させる。  1. 1章報告  2. 修正1章報告  3. 2章報告  4. 修正2章報告  5. 3章報告  6. 修正3章報告  7. 4章報告  8. 修正4章報告  9. 5章報告 10. 修正5章報告 11. 全体についてのコメント 12. 全体報告① 13. 全体報告② 14. 全体報告③ 15. 担当者からの最終コメント</p> |                                  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72123B01 |
| 科目名        | 【院】金融経済論演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Financial Economics B   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 演習Aに準ずる。1年目は論文の基礎として、日本の金融危機とアメリカ大恐慌について学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | ミルトン・フリードマンとアンナ・シュウォーツ『大収縮1929-1933』日経BPクラシックス   |       |           |
| 教材（参考文献）   | Ben Bernanke, Essays on the Great Depression, Princeton University, 2000.   Edward Chancellor, Devil Take the Hindmost: A History of Financial Speculation (山岡訳『バブルの歴史』日経BP社)   F. Allen, Only Yesterday--A Informal History of the Nineteen Twenties, New York, Harper and Brothers.   Peter Temin, Did Monetary forces Cause the Great Depression?, W.Norton, 1976.   Peter Temin, Lessons From the Great Depression, Cambridge, 1989.   C. Kindleberger, Maniacs, Panics and Crashes, Basic books Inc., NY. 1989.   パ-カ-『大恐慌を見た経済学者11人はどう生きたか』中央経済社 |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 金融危機についての理解の程度   |       |           |
| 到達目標       | 金融危機についての基本的理解ができること。  |       |           |
| 準備学習       | 演習Aに準ずる。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習Aに準ずる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 1920年代のアメリカ   2. 金本位制の問題   3. 金融仮説とフリードマン①   4. 金融仮説とフリードマン②  <br>5. バーナンキの貸付仮説①   6. バーナンキの貸付仮説②   7. B.ストロングの死と金融政策   8. 金融政策指標と大恐慌  <br>9. 真正手形ドクトリン   10. ケインズと大恐慌   11. ルーズベルトの金融改革①   12. ルーズベルトの金融改革②  <br>13. 37年の出口問題   14. 第二次世界大戦は恐慌を終了させたか。   15. 講義まとめ   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72154A01 |
| 科目名        | 【院】租税論演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Tax Policy A  |       |           |
| 担当者名       | 堀村 不器雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では租税論および租税法の基礎的・体系的理解を深めることを目的とする。わが国の税制は国税だけでも法人税、所得税、相続税、消費税等々その範囲が膨大でその全体を理解するのは容易ではない。それぞれの税目を概観しながら、わが国税制の現状と問題点を考察する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 諏訪園健司編『図説日本の税制 (平成 23 年度版)』 財経詳報社 山本守之著『租税法の基礎知識』 税務経理協会   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業での報告、議論内容等を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などに関心をもって読むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の活発な議論を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. わが国の税制の概要  2. 租税制度の変遷 (1)  3. 租税制度の変遷 (2)  4. 租税制度の変遷 (3)  5. 租税制度の現状 (所得税 1)  6. 租税制度の現状 (所得税 2)  7. 租税制度の現状 (法人税 1)  8. 租税制度の現状 (法人税 2)  9. 租税制度の現状 (法人税 3)  10.租税制度の現状 (法人税 4)  11.租税制度の現状 (消費税 1)  12.租税制度の現状 (消費税 2)  13.租税制度の現状 (消費税 3)  14.国際課税制度  15.平成 24 年度税制改正 |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72154C01 |
| 科目名        | 【院】租税論演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Tax policy C   |       |           |
| 担当者名       | 堀村 不器雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目的とする。論文とレポートとの違いは問題意識の有無にある。常に社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業での報告、議論内容等を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。   |       |           |
| 準備学習       | 研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回から第5回 概要の作成 第6回から第10回 章節構成の作成 第11回から第15回 章節構成の概要作成   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72154D01 |
| 科目名        | 【院】租税論演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Tax policy D  |       |           |
| 担当者名       | 堀村 不器雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目標とする。社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業での報告、議論内容等を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | わが国の現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。  |       |           |
| 準備学習       | 研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回から第8回 草稿の作成 第9回から第15回 全体の仕上げ  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72155B01 |
| 科目名        | 【院】租税論演習 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Tax Policy B  |       |           |
| 担当者名       | 堀村 不器雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、租税論演習 A で学んだ知識のうえに立ち、受講者の関心のある税目につき、より掘り下げた個別問題を研究する。基本書や研究論文等の講読や、判例研究を地道に行うことを第一歩として、その上で高い問題意識を持って、個別論点の検討を行うことによって、修士論文にふさわしいテーマを見出すことが望まれる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 山本守之著『租税法の基礎知識』 税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル（法人税編）』 税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル（所得税編）』 税務経理協会   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業での報告、議論内容等を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などに関心をもって読むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の活発な議論を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 所得税の現状と問題点（1）  2. 所得税の現状と問題点（2）  3. 所得税の現状と問題点（3）  4. 法人税の現状と問題点（1）  5. 法人税の現状と問題点（2）  6. 法人税の現状と問題点（3）  7. 法人税の現状と問題点（4）  8. 法人税の現状と問題点（5）  9. 法人税の現状と問題点（6）  10.消費税の現状と問題点（1）  11.消費税の現状と問題点（2）  12.消費税の現状と問題点（3）  13.資産税の現状と問題点（1）  14.資産税の現状と問題点（2）  15.資産税の現状と問題点（3） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J72159001 |
| 科目名   | 【院】マクロ経済学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Macroeconomics   |       |           |
| 担当者名  | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学院のマクロ経済学であるが、受講者の知識にバラつきがあることも踏まえて、ある程度基礎的な内容にも触れて講義する。マクロ経済学やミクロ経済学を専攻しない院生でも、経済学研究科としてふさわしい修士論文の完成に役立つ内容の講義にしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 浅子和美, 加納悟, 倉澤資成共著 『新経済学ライブラリー3 マクロ経済学 第2版』 新世社   |       |           |
| 教材（参考文献）  | テキスト, 論文等, 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 事前に準備する教材は特にない。  |       |           |
| 評価方法  | レポートにより評価する。   |       |           |
| 到達目標  | マクロ経済学を専攻する院生は、研究の基礎知識を漏れなく身につける。 その他の専攻の院生は、修士論文作成に必要な参考文献を読みこなせる知識を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 経済モデルを解説する際、途中の展開を省略することもあるので、すぐに理解できない場合には自分で計算を確認することが必要になる。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| より良い修士論文に仕上げることを常に考えて受講してもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 経済活動水準の決定① GDPについて（ガイダンスも含む） 2 経済活動水準の決定② 市場と経済主体 3 GDPの決定① ケインズ経済学の考え方 4 GDPの決定② 古典派経済学の考え方 5 労働市場と完全雇用 6 不完全雇用経済と有効需要原理 7 家計の消費・貯蓄行動① ライフサイクル仮説など 8 家計の消費・貯蓄行動② 消費と貯蓄 9 企業の投資行動① 投資の調整コスト 10 企業の投資行動② トービンのq理論 11 貨幣需要① 貨幣の三機能 12 貨幣需要② 貨幣の機能に基づく需要 13 貨幣供給① マネーサプライからマネーストックへ 14 貨幣供給② 信用創造 15 まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J72160001 |
| 科目名   | 【院】マクロ経済分析   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Macroeconomic Analysis   |       |           |
| 担当者名  | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 「マクロ経済学」に引き続いて、基礎知識の確認も行いながら講義する。マクロ経済学やミクロ経済学を専攻しない院生でも、経済学研究科としてふさわしい修士論文の完成に役立つ内容の講義にしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 浅子和美, 加納悟, 倉澤資成共著 『新経済学ライブラリー3 マクロ経済学 第2版』 新世社   |       |           |
| 教材（参考文献）  | テキスト, 論文等, 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 事前に準備する教材は特にない。  |       |           |
| 評価方法  | レポートにより評価する。   |       |           |
| 到達目標  | マクロ経済学を専攻する院生は, 研究の基礎知識を漏れなく身につける。 その他の専攻の院生は, 修士論文作成に必要な参考文献を読みこなせる知識を身につける。                |       |           |
| 準備学習  | 経済モデルを解説する際, 途中の展開を省略することもあるので, すぐに理解できない場合には自分で計算を確認することが必要になる。                             |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| より良い修士論文に仕上げることを常に考えて受講してもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 マクロ経済の一般均衡 フロー市場とストック市場  2 各種市場 労働市場, 生産物市場, 資産市場  3 古典派経済学の体系① 完全雇用均衡  4 古典派経済学の体系② 数量方程式と貨幣の中立性  5 ケインズ経済学の体系① 不完全雇用均衡  6 ケインズ経済学の体系② 総需要・総供給分析  7 ケインズ経済学の体系③ IS-LM分析  8 価格調整と数量調整 モデルの前提  9 インフレーション インフレ期待とIS-LM分析  10 失業 フィリップス曲線  11 景気循環 各種サイクル  12 広義政府の経済活動① 財政政策  13 広義政府の経済活動② 金融政策  14 マクロ安定化政策 合理的期待と政策の有効性  15 まとめ |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J72161001 |
| 科目名  | 【院】情報科学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Science  |       |           |
| 担当者名   | 濱崎 淳洋  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現在のネットワーク社会の安全を守る基本的な技術として暗号があります。この講義では暗号の理論的な基礎である初等整数論の話を表計算ソフト Excel を使って学びます。それを踏まえて公開鍵暗号方式の仕組みと安全性を考察します。また、実際のネットワーク環境での利用方法を実習します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 靄浩二著「Excel で学ぶ暗号技術入門」オーム社 2730 円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 熊谷直樹著 「ウェブ時代の暗号」 ちくま新書 700 円   |       |           |
| 教材（その他）  | プリント配布・ホームページ  |       |           |
| 評価方法   | 平常点出席状況(40%)と、授業内レポートとレポート(60%)で評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 暗号技術について、実社会での意味と、具体的技術的な内容を把握することです。  |       |           |
| 準備学習   | 現代社会におけるセキュリティ技術やネットワークにおける脅威・事件を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学の計算を厭わないことと、コンピュータの操作が一通り出来ることです。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 講義の順序は  1. 暗号入門  2. 初等整数論1  3. 初等整数論2  4. 初等整数論3  5. 暗号技術(1)共通鍵暗号  6. 暗号技術(2)公開鍵暗号  7. 暗号技術(3)ハッシュ関数とデジタル署名  8. 暗号攻撃方法  9. 情報セキュリティ技術(1)電子認証技術  10. 情報セキュリティ技術(2)SSL  11. 情報セキュリティ技術(3)SSH  12. 情報セキュリティ技術(4)IPSec  13. ネットワーク社会と暗号 14. 量子暗号 15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72162001 |
| 科目名        | 【院】経済学史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Economics  |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>アダム・スミスに始まるイギリス古典派経済学を中心に講義をおこなう。「現代経済学」の源流はスミスの『国富論』（1776年）に求められ、このスミスからリカードとマルサスをへて、J. S. ミルにいたる系譜をイギリス古典派経済学と呼んでいる。   この講義では、サミュエル・ホランダー著『古典派経済学』をテキストにして、イギリス古典派経済学の系譜をスミスからミル、そしてマルクスまでたどり、i)「価値と分配の理論」、ii)「資本・雇用・成長理論」、iii)「経済学方法論」という三つの視点から講義をおこないたい。  </p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | サミュエル・ホランダー著（千賀重義他訳）『古典派経済学』（多賀出版）1991年   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義において適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義資料をプリントにて配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による。レポート（60%）  |       |           |
| 到達目標       | 現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探究する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるスミス、マルサス、リカード、J. S. ミル、マルクスといった人物の経済学上の古典については、翻訳でもよいので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義でとりあげるイギリス経済学の古典的著作ならどれでもいいので、少なくとも1冊通読することを求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 経済学史におけるイギリス古典派経済学の位置   2. アダム・スミスの先行者たち   3. 重農主義者たち   4. 価値と分配の理論(1)——スミス   5. 価値と分配の理論(2)——リカード   6. 価値と分配の理論(3)——J・S・ミル   7. 資本・雇用・成長理論(1)——スミス   8. 資本・雇用・成長理論(2)——リカード   9. 資本・雇用・成長理論(3)——J・S・ミル   10. 貨幣と銀行業   11. 経済学方法論(1)——スミス   12. 経済学方法論(2)——リカード   13. 経済学方法論(3)——J・S・ミル   14. マルクス経済学の古典派的特徴   15. 古典派経済学から近代経済学へ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J72163001 |
| 科目名  | 【院】近代経済学史  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Modern Economics  |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 1870年代は古典派経済学が解体し、それを契機としてマルクス経済学と近代経済学が成立した時代である。限界革命をもって始まった近代経済学は、1930年代にケインズ経済学が登場することによって危機の時代を乗り切り、さらに今日では「環境」「教育」「医療」「政治」といった社会のあらゆる分野にまで考察領域を拡大し、進化を続けている。こうした近代経済学の成立と発展の過程を、現代まで紹介することが、本講義の課題である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用せず、配布する講義資料によって授業を進める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義において適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 講義資料やプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40%）出席状況等による。レポート（60%）   |       |           |
| 到達目標   | この講義では、「限界革命」に始まる近代経済学の発展を現代まで辿り、時代的制約を免れぬ経済学の科学としての問題性を解明するとともに、現代社会の諸問題を解決しうる新しい経済学とはどうあるべきかを探求することを、あわせて目標としている。  |       |           |
| 準備学習   | テキストは使用しないので、授業においてあらかじめ指示した参考文献や講義資料に必ず目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業や参考文献に出てくる経済学の古典的文献のなかで、とくに翻訳があるものについては、可能なかぎり原典に直接あたることを求める。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 「限界革命」と近代経済学の成立  2. ジェヴォンズ   3. メンガー   4. ワルラス   5. ケンブリッジ学派——マーシャルとピグー   6. シュンペーターの経済学  7. ヴェブレンと制度派経済学   8. ケインズ革命(1)  9. ケインズ革命(2)  10. ケインズ革命(3)  11. 新古典派的総合——サミュエルソン   12. ケインズ批判の諸潮流(1)  13. ケインズ批判の諸潮流(2)  14. ケインズ批判の諸潮流(3)  15. 現代社会 と経済学の課題 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72164001 |
| 科目名        | 【院】社会経済史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Social Economy  |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 絹産業の歴史をまとめた英書を読むことによって経済史の方法論を身につける。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | Federico, An Economic History of the Silk Industry, 1830—1930  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）とテキストの理解度（50％）に応じて評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 一国の枠組みにとらわれずに幅広い視野に立って経済の歴史を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 奥村正二『小判・生糸・和鉄』、岩波書店、1973年を予め読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | テキストに英書を用いるので、予習した上で授業に臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 フランスとアメリカの絹工業  2 養蚕業の立地  3 製糸業と撚糸業の立地  4 器械製糸の技術  5 完全競争下の製糸業  6 製糸企業の労務管理  7 絹の大衆化  8 流行が果たした役割  9 製糸業における技術革新：日本の事例  10 製糸業における技術革新：イタリアの事例  11 制度の比較：日本の事例  12 制度の比較：イタリアの事例  13 国家の役割：日本の事例  14 国家の役割：イタリアと中国の事例  15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J72165001 |
| 科目名       | 【院】西洋経済史  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Economic History of Western Countries   |       |           |
| 担当者名      | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 産業革命の歴史について概観する。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | Taulis Industrial Histories, 3vols.   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点(50%)と文献の理解度(50%)に応じて評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 産業革命の展開過程や技術について理解を深める。   |       |           |
| 準備学習      | 『産業革命の世界』（全3巻）、有斐閣を予め読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
|           | テキストに英書を用いるので予習した上で授業に臨むこと。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント  |       |           |
|           | 1 産業革命と現代 2 産業革命期技術の研究史 3 産業革命以前の紡織技術 4 先駆的な機械の発明 5 アークライトの綿紡績工場 6 ジェニーとミュール 7 織布加工の革新と化学工業 8 力織機 9 水車の伝統と産業革命 10 石炭の利用 11 大気圧蒸気機関 12 ワット機関 13 木炭製鉄の時代 14 コークス高炉と鑄鋼法 15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                   |   |       |           |
|-------------------|---|-------|-----------|
| 年度                | 2012  | 授業コード | J72168001 |
| 科目名               | 【院】交通経済論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）         | Transportation Economics  |       |           |
| 担当者名              | 西藤 二郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要              | わが国における鉄道・道路・空港などの交通社会資本は、戦後の人口増加と、経済成長の中で、特有の財源制度に支えられて進められてきた。いまわが国は世界に類を見ないほど速いスピードで、少子・高齢化が進んでいる中で、財政逼迫が同時に生じている。こうした中で今後のわが国における交通社会資本の整備は、どのような資金で、誰が、どのように負担していくことが望ましいのかについて、わが国での特有の財源制度の問題と負担の関係について考察していく。   |       |           |
| 教材（テキスト）          | 竹内健蔵著『交通経済学入門』有斐閣ブックス、2008年10月  |       |           |
| 教材（参考文献）          | 進捗に応じて、適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）           | 進捗に応じて適宜指示する  |       |           |
| 評価方法              | レジュメのまとめ方：50%、発表態度：30%、予習態度：20%   |       |           |
| 到達目標              | 現在の交通社会資本のあるべき姿を、具体的な地域経済の中での総合交通政策の中で考える   |       |           |
| 準備学習              | 各自の出身地の交通社会資本の問題点を考えておく   |       |           |
| 受講者への要望           |   |       |           |
| 講義テキストは、必ず予め読んでくる |   |       |           |
| 講義の順序とポイント        | 1.交通プロジェクト評価の必要性について（3回ほど）  ①交通プロジェクトとは  ②費用便益分析の理論的根拠  ③まとめ<br> 2.費用便益分析について（3回ほど）  ①プロジェクト評価の方法  ②財務分析との違い  ③財務分析から費用分析へ 3.経済効果の計測方法(3回ほど)  ①経済効果計測の範囲  ②便益移転のメカニズム  ③経済効果計測に関する注意点 4.費用便益方法の限界（3回ほど）  ①評価時点の設定について  ②評価項目の計測方法  ③費用便益方法の限界について 5.交通投資による地域開発(3回ほど)  ①キャピタリゼーション仮説  ②デベロッパー定理  ③まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72169001 |
| 科目名        | 【院】租税論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tax Policy   |       |           |
| 担当者名       | 堀村 不器雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では租税論の重要問題について理解を深めることを目的とする。租税は経済や国民生活に直結する極めて重要なものであり、その正しい理解は不可欠である。とくに将来税理士等の職業会計人を目指す者にとっては、租税の理論的、体系的な理解は必須である。公平・中立・簡素の租税原則、租税の転嫁と帰着などの基本問題の十分な理解のうえに立って、今後のあるべき税制の姿を議論して行きたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山本守之著『租税法の基礎論理』 税務経理協会 林正寿著『租税論』 有斐閣   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業中の報告や議論内容（50%）、レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標       | わが国の租税体系を理解し、所得税、法人税、消費税などの主要税目のしくみや問題点を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 租税論・租税法の基礎知識がない受講者は、入門書（『図解 日本の税制（最新版）』財務詳報社など）を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の活発な議論を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 租税の意義 2. 租税の経済理論 3. 租税原則 4. 租税の種類、わが国の租税体系 5. 所得税の概要 6. 所得税の課税標準 7. 法人税の概要 8. 法人税の課税標準 9. 法人税の課税所得の計算原理（1） 10. 法人税の課税所得の計算原理（2） 11. 消費税の概要 12. 消費税の課題 13. 国際課税 14. 組織再編税制 15. 税務執行と租税回避 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|                 |   |       |           |
|-----------------|---|-------|-----------|
| 年度              | 2012  | 授業コード | J72170001 |
| 科目名             | 【院】租税制度論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）       | Theory of Taxation System   |       |           |
| 担当者名            | 堀村 不器雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要            | <p>本講義では、主に租税制度の変遷過程を学ぶことを通じて、わが国における租税制度の重要問題についての理解を深めることを目的とする。経済活動のグローバル化の進展に対応して、所得課税においては近年の税制改革は税率引き下げ、課税ベース拡大の方向にある。一方で、消費税の導入、税率引き上げ等で消費課税のウェイトが高まっている。現在わが国では税収入が一般会計の50%を下回り、巨額の国債残高をかかえ財政危機に陥っている中であって、今後のあるべき税制について議論していきたい。なお、資産課税においては、現行の相続税の課税方式の見直しが議論されているが、これについても事業承継問題と関連させながら検討する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）        | 山本守之著『租税法の基礎理論』 税務経理協会  |       |           |
| 教材（参考文献）        | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）         | 授業内容に沿ったレジュメを適宜配布する。  |       |           |
| 評価方法            | 授業中の報告や議論内容（70%）、レポート（30%）  |       |           |
| 到達目標            | わが国の租税制度の変遷を理解し、今後のあるべき税制の姿を探求することを目的とする。   |       |           |
| 準備学習            | 租税制度等の基礎知識がない受講者は入門書（とくに相続税関係）を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望         |   |       |           |
| 授業中の活発な議論を期待する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント      | <p>1. 租税の意義  2. 租税理論の変遷  3. 租税制度の沿革（1）  4. 租税制度の沿革（2）  5. シャウブ勧告による税制  6. 第1次税制改革（昭和61年）  7. 第2次税制改革（平成6年）  8. 第3次税制改革（平成10年）  9. 連結納税制度  10. 財政再建  11. 資産課税の変遷  12. 相続税の概要  13. 財産評価の概要  14. 事業承継税制  15. 今後の税制改革</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                  |  |       |           |
|------------------|--|-------|-----------|
| 年度               | 2012   | 授業コード | J72171A01 |
| 科目名              | 【院】計量経済学演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）        | Seminar on Econometrics A  |       |           |
| 担当者名             | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要             | 日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。   |       |           |
| 教材（テキスト）         |  |       |           |
| 教材（参考文献）         |  |       |           |
| 教材（その他）          |  |       |           |
| 評価方法             | 平常点  |       |           |
| 到達目標             | 計量経済モデルに対する理解と実践   |       |           |
| 準備学習             | 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること   |       |           |
| 受講者への要望          |  |       |           |
| 特にありません          |  |       |           |
| 講義の順序とポイント       |  |       |           |
| 受講者と共にモデリングに取り組む | 第1回 ガイダンス 第2回 回帰分析入門(EViews 入門) 第3回 その2 第4回 その3 第5回 重回帰分析 第6回 その2 第7回 重回帰分析とその解釈 第8回 社会データを用いた事例分析 第9回 その2 第10回 論文様式の発表とチェック 第12回 重回帰分析の応用 第13回 その2 第14回 分析の発表 第15回 全体のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|   |                           |       |           |
|---|---------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                      | 授業コード | J72171B01 |
| 科目名   | 【院】計量経済学演習B               | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Econometrics B |       |           |
| 担当者名  | 尾崎 タイヨ                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 簡単な計量経済モデルの作成             |       |           |
| 教材（テキスト）  |                           |       |           |
| 教材（参考文献）  |                           |       |           |
| 教材（その他）   |                           |       |           |
| 評価方法  | 平常点                       |       |           |
| 到達目標  | モデルの実際を通してモデリングに慣れる       |       |           |
| 準備学習  | 与えた課題を着実に実践する             |       |           |
| 受講者への要望   |                           |       |           |
| 特にありません   |                           |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                           |       |           |
| 日本経済の簡単なモデルの作成 第1回 ガイダンス 第2回 日本経済モデルの概要 第3回 EViews の練習 第4回 消費関数 第5回 その2 第6回 その3 第7回 投資関数 第8回 その2 第9回 その3 第10回 その他の高度な回帰分析 第11回 その2 第12回 その3 第14回 システムとしてのモデル 第15回 まとめ |                           |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |                           |       |           |
|---|---------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                      | 授業コード | J72171C01 |
| 科目名   | 【院】計量経済学演習C               | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Econometrics C |       |           |
| 担当者名  | 尾崎 タイヨ                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 修士論文の準備                   |       |           |
| 教材（テキスト）  |                           |       |           |
| 教材（参考文献）  |                           |       |           |
| 教材（その他）   |                           |       |           |
| 評価方法  | 平常点                       |       |           |
| 到達目標  | 修士論文の課題設定と分析の概要の把握        |       |           |
| 準備学習  | 課題と議論のポイントを必ず準備する         |       |           |
| 受講者への要望   |                           |       |           |
| 特にありません   |                           |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                           |       |           |
| 毎回、修論のデータ収集、分析、参考文献の輪読 中間段階で何回でも発表する 第1回 ガイダンス 第2回 修士論文テーマ設定<br>討議 第3回 修士論文テーマ設定（1） 第4回 修士論文テーマ設定（2） 第5回 データ収集と分析中間発表（1） 第6回<br>データ収集と分析中間発表（2） 第7回 データ収集と分析中間発表（3） 第8回 データ収集と分析中間発表（4） 第9回 分<br>析発表（1） 第10回 分析発表（2） 第11回 分析発表（3） 第12回 レポートまとめ（1） 第13回 レポートまとめ<br>（2） 第14回 レポートまとめ（3） 第15回 全体のまとめ |                           |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |                           |       |           |
|---|---------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                      | 授業コード | J72171D01 |
| 科目名   | 【院】計量経済学演習D               | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Econometrics D |       |           |
| 担当者名  | 尾崎 タイヨ                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 修士論文の完成                   |       |           |
| 教材（テキスト）  |                           |       |           |
| 教材（参考文献）  |                           |       |           |
| 教材（その他）   |                           |       |           |
| 評価方法  | 修士論文                      |       |           |
| 到達目標  | 修士にふさわしい論文                |       |           |
| 準備学習  | 特にありません                   |       |           |
| 受講者への要望   |                           |       |           |
| 特にありません   |                           |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                           |       |           |
| 修士論文の完成を目指し、途中段階のチェックを毎回行う。 第1回 ガイダンス 第2回 論文中間発表（1） 第3回 関連論文<br>輪読等資料精査 第4回 分析の発展 第5回 論文中間発表（2） 第6回 分析結果の討議 第7回 分析結果の討議 第8回 分<br>析結果の討議 第9回 分析発表（1） 第10回 分析発表（2） 第11回 分析発表（3） 第12回 修士論文まとめ（1） <br>第13回 修士論文まとめ（2） 第14回 修士論文まとめ（3） 第15回 全体のまとめ |                           |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72172A01 |
| 科目名        | 【院】時系列解析演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Time Series Analysis A  |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 経済時系列データの解析手順を修得する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 複数回のレポート   |       |           |
| 到達目標       | 経済時系列データの解析手順を修得する。VAR モデルの理解。   |       |           |
| 準備学習       | 数学やコンピュータの理解は慣れてくれば出来る。経済学の基礎勉強が欠かせない。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経済学の基礎をよく勉強しておいてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.VAR モデルの作成 2.同上 3.同上 4.同上 5.日本のマクロデータへの応用 6.同上 7.同上 8.同上 9.ヨーロッパのマクロデータへの応用 10.同上 11.同上 12.同上 13.株式データへの応用 14.同上 15.同上 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72172B01 |
| 科目名        | 【院】時系列解析演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Time Series Analysis B   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | VEC モデルの理解と作成方法の習得  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（複数回）   |       |           |
| 到達目標       | VEC モデルの作成  |       |           |
| 準備学習       | 経済学の勉強  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学は気にせず、経済学的な意味合いを理解することが重要。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.VEC モデルの作成 2.同上 3.同上 4.日本のマクロデータへの応用 5.同上 6.同上 7.ヨーロッパのマクロデータへの応用 8.同上 9.同上 10.株式データへの応用 11.同上 12.同上 13.不況時のマクロマネー系（金融不安要因の導入）  14.同上 15.同上 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72172C01 |
| 科目名        | 【院】時系列解析演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Time Series Analysis C   |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の作成（時系列モデル使用）   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 修士論文の出来あがり具合  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文の作成   |       |           |
| 準備学習       | 経済学の知識（特に金融論）   |       |           |
| 受講者への要望    | 分析手法の数理的な理解をへて、現実の経済現象に切り込んで、解明していかなければならない。経済は生きているので解明への道は険しいが、得られる果実も大きい。あきらめずにチャレンジしてほしい。                                 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.マクロマネー系の分析 2.デフレの分析 3.インフレの分析 4.貨幣需要関数と共和分の関係 5.precautionary demand の推定 6.から15. インフレ、デフレの影響で変動する貨幣需要関数に関連したテーマのもとで、修士論文の作成 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72172D01 |
| 科目名        | 【院】時系列解析演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Time Series Analysis D  |       |           |
| 担当者名       | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | マクロマネー系の実証分析をテーマとして修士論文の作成   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 修士論文の出来具合  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文の完成  |       |           |
| 準備学習       | テーマに関するサーベイ  |       |           |
| 受講者への要望    | 数理的な分析手法の修得と、それを使って経済現象の解明を目指すという2つのバリアを乗り越えなければならない。あきらめないでがんばってほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.から15. 修士論文の作成 （1）テーマの選定、 （2）テーマの新規性と経済学的な意味合いの検証 （3）分析手法の妥当性を検討 （4）分析結果の検証 以上の流れがうまく行かないときは、新しい分析手法を工夫するか、テーマを選定し直すかで、やり直す。結果が得られるまこの流れを続ける。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72173A01 |
| 科目名   | 【院】経済学史演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar on History of Economic Thought A  |       |           |
| 担当者名  | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 「経済学の父」とよばれるアダム・スミスが 1776 年に刊行した『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、壮大な経済学体系であり、全部で 5 篇からなっている。本演習〔A〕では第 1・第 2 編の経済理論をとりあげ、その内容を現代の経済理論と比較しながら検討することにしたい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | アダム・スミス『国富論』(水田洋監訳、岩波文庫・全 4 分冊) : 第 1・第 2 分冊  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況等による。レポート (50%)   |       |           |
| 到達目標  | 演習における古典文献の読解を通じて、修士論文作成に必要とされる基本的な学習能力と学習方法を鍛錬する。  |       |           |
| 準備学習  | 受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかりと予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジュメを作成して、演習に出席すること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| テキストについては、岩波文庫版 (水田監訳) の『国富論』を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 『国富論』体系について   2. 分業論(1)   3. 分業論(2)   4. 貨幣論   5. 価値論(1)   6. 価値論(2)   7. 価格論(1)   8. 価格論(2)   8. 賃金論   9. 利潤論   10. 地代論   11. 資本の理論(1)   12. 資本の理論(2)   13. 銀行論   14. 資本蓄積論   15. 資本投下順位論 |   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72173B01 |
| 科目名   | 【院】経済学史演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Seminar on History of Economic Thought B  |       |           |
| 担当者名  | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、全部で5篇からなる壮大な経済学体系である。本演習〔B〕では、第5編の国家財政論の内容を、経費論・租税論・公債論の順序で集中的に分析することを旨とする。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | アダム・スミス『国富論』(水田洋監訳、岩波文庫・全4分冊)：第3・第4分冊   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜プリントや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(50%)出席状況等による。レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標  | 演習における古典文献の読破を通じて、修士論文作成に必要とされる基本的な学習能力と学習方法を鍛錬する。修士論文の大まかな構想を固めることが、到達目標となる。                             |       |           |
| 準備学習  | 受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかりと予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジュメを作成して、演習に出席すること。                       |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| テキストについては、岩波文庫版(水田監訳)の『国富論』を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. スミスの国家財政論について   2. 経費論(1)   3. 経費論(2)   4. 経費論(3)   5. 経費論(4)   6. 経費論(5)   7. 租税論(1)   8. 租税論(2)   9. 租税論(3)   10. 租税論(4)   11. 租税論(5)   12. 公債論(1)   13. 公債論(2)   14. 公債論(3)   15. スミス国家財政論の総括 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J72173C01 |
| 科目名  | 【院】経済学史演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on History of Economic Thought C  |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、全部で5篇からなる壮大な経済学体系である。本演習〔C〕では、第4編の中心テーマである重商主義政策批判をとりあげ、スミスにおける経済的自由主義の基本思想を学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・全4分冊）：第2・第3分冊   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標   | 演習における基礎的能力の鍛錬と、修士論文作成のための構想と準備にいたる基本的指導をおこなう。  |       |           |
| 準備学習   | 受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかりと予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジюмеを作成して、演習に出席すること。                            |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| テキストについては、岩波文庫版（水田監訳）の『国富論』を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. スミスにおける自由主義の経済政策論   2. 商主義政策の経済理論   3. 輸入制限政策(1)   4. 輸入制限政策(2)   5. 戻し税と通商条約   6. 奨励金について(1)   7. 奨励金について(2)   8. 穀物貿易と穀物法(1)   9. 穀物貿易と穀物法(2)   10. 東西インド貿易論   11. アメリカ革命論   12. 植民地問題(1)   13. 植民地問題(2)   14. 植民地問題(3)   15. 重商主義批判の総括 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72173D01 |
| 科目名        | 【院】経済学史演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Seminar on History of Economic Thought D  |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スミスの『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、全部で5篇からなる壮大な経済学体系である。本演習〔D〕の前半では、3編の近代社会成立の歴史分析と第4編・第9章の重農学派批判をとりあげ、スミスにおける近代社会の歴史認識と自由主義の経済思想との関係について、より踏み込んだ検討を試みる。本演習〔D〕の後半では、修士論文の完成まで、個別指導を徹底したいと考えている。 </p>  |       |           |
| 教材(テキスト)   | アダム・スミス『国富論』(水田洋監訳、岩波文庫・全4分冊)：第2・第3分冊   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜プリントや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 演習における基礎的能力の鍛錬と修士論文の完成。   |       |           |
| 準備学習       | 受講生は、テキストと指示された参考文献とをしっかりと予習すること。また報告を指名された受講生については、指定された当該範囲分のレジюмеを作成して、演習に出席すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習〔D〕の後半は、修士論文を仕上げるきわめて重要な時期である。演習に無断で欠席しないことはもちろん、つねに緊密に演習担当者と連絡を密にするように要望する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 近代社会の成立とスミスの歴史認識  2. 富裕の自然的進歩  3. 中世ヨーロッパの農村   4. 中世ヨーロッパの都市   5. 都市の商業による農村の改良   6. スミスの重農学派批判(1)   7. スミスの重農学派批判(2)   8. 修士論文の指導(1)  9. 修士論文の指導(2)  10. 修士論文の指導(3)  11. 修士論文の指導(4)  12. 修士論文の指導(5)  13. 修士論文の指導(6)  14. 修士論文の最終チェック  15. 修士論文の完成 </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72174A01 |
| 科目名        | 【院】社会経済史演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on History of Social Economy A  |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 経済史の論文ができる過程を追体験してもらう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）と文献の理解度（50%）に応じて評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 歴史研究に占める史料の意義を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 下記文献を前もって読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 論文を何度も書き直して完成度を高める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>経済史の論文ができる過程を追体験してもらうために、まず先行研究の一例として石井寛治『日本蚕糸業史分析』東京大学出版会、1972年を講読する。著者の石井氏は、本書の中で日本産生糸は品質が低かったため、1890年代から1900年代の欧米の市場で絹織物の経糸として使用されなかったと主張している。ところが、当時のアメリカで出版されていた業界誌の記事を読むと、石井氏の主張に反する事実が出てくる。そこで、こうした記事を原史料として解読した上で、この問題を扱っている拙稿「経糸考」、「京都学園大学経済学部論集」第15巻第3号、2005年の内容を検討する。  なお、石井寛治『日本蚕糸業史分析』は本学の図書館が所蔵している。拙稿「経糸考」を掲載している「京都学園大学経済学部論集」第15巻第3号は本学の図書館で配布している。アメリカの業界誌については、必要な部分をコピーして受講生に配布する。   1 予備知識の解説  2 石井寛治『日本蚕糸業史分析』の内容の検討①  3 石井寛治『日本蚕糸業史分析』の内容の検討②  4 石井寛治『日本蚕糸業史分析』の内容の検討③  5 石井寛治『日本蚕糸業史分析』の内容の検討④  6 石井寛治『日本蚕糸業史分析』の内容の検討⑤  7 アメリカの業界誌が伝えた実態の検討①  8 アメリカの業界誌が伝えた実態の検討②  9 アメリカの業界誌が伝えた実態の検討③  10 拙稿「経糸考」の内容の検討①  11 拙稿「経糸考」の内容の検討②  12 拙稿「経糸考」の内容の検討③  13 拙稿「経糸考」の内容の検討④  14 拙稿「経糸考」の内容の検討⑤  15 まとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012                                   | 授業コード | J72174B01 |
| 科目名  | 【院】社会経済史演習B                            | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on History of Social Economy B |       |           |
| 担当者名   | 大野 彰                                   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 経済史の論文ができる過程を追体験してもらう。                 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%）と文献の理解度（50%）に応じて評価する。          |       |           |
| 到達目標   | 歴史研究に占める史料の意義を理解する。                    |       |           |
| 準備学習   | 下記文献を前もって読んでおく。                        |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 論文を何度も書き直して完成度を高める。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>経済史の論文ができる過程を追体験してもらうために、まず先行研究の一例として森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』、森山書店、1931年を講読する。著者の森氏は本書の中で日本の製糸結社の興隆と衰退について論じている。ところが、当時のアメリカで出版されていた業界誌の記事を読むと、森氏が逆選択の発生に気づいていなかったことがわかる。そこで、こうした記事を原史料として解読した上で、この問題を扱っている拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」、「京都学園大学経済学部論集」第17巻第1号、2007年の内容を検討する。なお、拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」を掲載している「京都学園大学経済学部論集」、第17巻第1号は本学の図書館で配布している。森氏の著書とアメリカの業界誌については、必要な部分をコピーして受講生に配布する。   1 予備知識の解説  2 森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』の内容の検討①  3 森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』の内容の検討②  4 森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』の内容の検討③  5 森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』の内容の検討④  6 森泰吉郎『蚕糸業資本主義史』の内容の検討⑤  7 アメリカの業界誌が伝えた逆選択の状況の検討①  8 アメリカの業界誌が伝えた逆選択の状況の検討②  9 アメリカの業界誌が伝えた逆選択の状況の検討③  10 拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」の内容の検討①  11 拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」の内容の検討②  12 拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」の内容の検討③  13 拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」の内容の検討④  14 拙稿「座繰製糸並びに組合製糸の意義と限界」の内容の検討⑤  15 まとめ</p> |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72174C01 |
| 科目名        | 【院】社会経済史演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on History of Social Economy C   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文のテーマに応じて受講生が蒐集した先行研究に検討を加える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席（50％）と修士論文の進捗度（50％）に応じて評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 完成度の高い修士論文を作成する。   |       |           |
| 準備学習       | 先行研究を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 論文を何度も書き直して完成度を高める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>受講生がどのようなテーマで修士論文を書くにしても、そのテーマに関する膨大な量の先行研究があるはずである。 それらの全てを読み込むには半期では足りないが、できる限り多くの先行研究を整理することを受講生に求めたい。  1 経済史の研究方法の解説 2 修士論文のテーマ設定 3 先行研究の蒐集と整理① 4 先行研究の蒐集と整理② 5 先行研究の蒐集と整理③ 6 先行研究の蒐集と整理④ 7 先行研究の蒐集と整理⑤ 8 先行研究の蒐集と整理⑥ 9 先行研究の蒐集と整理⑦ 10 先行研究の蒐集と整理⑧ 11 先行研究の蒐集と整理⑨ 12 先行研究の蒐集と整理⑩ 13 先行研究の蒐集と整理⑪ 14 先行研究の蒐集と整理⑫ 15 まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72174D01 |
| 科目名        | 【院】社会経済史演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on History of Social Economy D   |       |           |
| 担当者名       | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文のテーマに応じて受講生が蒐集した史料に検討を加える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）と修士論文の進捗度（50%）に応じて評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 完成度の高い修士論文を作成する。   |       |           |
| 準備学習       | 先行研究を整理しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 論文を何度も書き直して完成度を高める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>経済史の論文の質は読み込んだ原史料の量に比例する傾向がある。このことは修士論文にも当てはまる。 そこで、受講生にはできる限り多くの原史料を蒐集し、その内容を仔細に読み込むことを求めたい。 さらに論文がある程度できてくると、今度は不備な点や足りない点が見えてくるものである。 そこで、最後に、こうした欠陥を修正し、修士論文の完成につなげるようにしたい。  1 原史料の蒐集の仕方の説明①  2 原史料の蒐集の仕方の説明②  3 原史料の読解①  4 原史料の読解②  5 原史料の読解③  6 原史料の読解④  7 原史料の読解⑤  8 原史料の読解⑥  9 原史料の読解⑦ 10 原史料の読解⑧ 11 原史料の読解⑨ 12 原史料の読解⑩ 13 修士論文の最終点検① 14 修士論文の最終点検② 15 修士論文の最終点検③</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |                              |       |           |
|---|------------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                         | 授業コード | J72175A01 |
| 科目名   | 【院】経済政策論演習 A                 | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Economic Policy A |       |           |
| 担当者名  | 内山 隆夫                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 修士論文のテーマについての論文指導            |       |           |
| 教材（テキスト）  |                              |       |           |
| 教材（参考文献）  |                              |       |           |
| 教材（その他）   |                              |       |           |
| 評価方法  | レポート                         |       |           |
| 到達目標  | 修士論文のテーマ設定                   |       |           |
| 準備学習  | 関連文献の収集と講読                   |       |           |
| 受講者への要望   |                              |       |           |
| 経済社会のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！                                      |                              |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                              |       |           |
| 第 1 回から第 5 回 基礎データの整理 第 6 回から第 10 回 問題の所在の確認 第 11 回から第 15 回 基本文献の講読 |                              |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |                              |       |           |
|---|------------------------------|-------|-----------|
| 年度  | 2012                         | 授業コード | J72175B01 |
| 科目名   | 【院】経済政策論演習B                  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Economic Policy B |       |           |
| 担当者名  | 内山 隆夫                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 修士論文のテーマについての論文指導            |       |           |
| 教材（テキスト）  |                              |       |           |
| 教材（参考文献）  |                              |       |           |
| 教材（その他）   |                              |       |           |
| 評価方法  | レポート                         |       |           |
| 到達目標  | 修理論文の章構成の作成                  |       |           |
| 準備学習  | 関連文献の収集と講読                   |       |           |
| 受講者への要望   |                              |       |           |
| 経済社会のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！                        |                              |       |           |
| 講義の順序とポイント  |                              |       |           |
| 第1回から第5回 基本文献の講読 第6回から第10回 論文構成の概要 第11回から第15回 章節構成の概要 |                              |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                                  |                              |       |           |
|----------------------------------|------------------------------|-------|-----------|
| 年度                               | 2012                         | 授業コード | J72175C01 |
| 科目名                              | 【院】経済政策論演習C                  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                        | Seminar on Economic Policy C |       |           |
| 担当者名                             | 内山 隆夫                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                             | 修士論文のテーマについての論文指導            |       |           |
| 教材（テキスト）                         |                              |       |           |
| 教材（参考文献）                         |                              |       |           |
| 教材（その他）                          |                              |       |           |
| 評価方法                             | レポート                         |       |           |
| 到達目標                             | 修士論文のスケルトンの完成                |       |           |
| 準備学習                             | 関連文献の収集と講読                   |       |           |
| 受講者への要望                          |                              |       |           |
| 経済社会のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！   |                              |       |           |
| 講義の順序とポイント                       |                              |       |           |
| 第1回から第8回 章節構成の概要 第9回から第15回 草稿の作成 |                              |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                                  |                              |       |           |
|----------------------------------|------------------------------|-------|-----------|
| 年度                               | 2012                         | 授業コード | J72175D01 |
| 科目名                              | 【院】経済政策論演習D                  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                        | Seminar on Economic Policy D |       |           |
| 担当者名                             | 内山 隆夫                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                             | 修士論文のテーマについての論文指導            |       |           |
| 教材（テキスト）                         |                              |       |           |
| 教材（参考文献）                         |                              |       |           |
| 教材（その他）                          |                              |       |           |
| 評価方法                             | レポート                         |       |           |
| 到達目標                             | 修士論文の完成                      |       |           |
| 準備学習                             | 関連文献の収集と講読                   |       |           |
| 受講者への要望                          |                              |       |           |
| 経済社会のメガトレンドを理解し、問題解決能力を向上させよう！   |                              |       |           |
| 講義の順序とポイント                       |                              |       |           |
| 第1回から第8回 草稿の再検討 第9回から第15回 論文の仕上げ |                              |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72176A01 |
| 科目名        | 【院】公共経済学演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Public Economics A   |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | IHORI, H., Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan 1996.  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内報告 50% レポート課題 50%  |       |           |
| 到達目標       | 公共経済学の応用研究について概観し、経済学の技術および手法の使用について基礎を固める。   |       |           |
| 準備学習       | (1) テキストの指定箇所を読み、ノートを作成する。  (2) 理解が曖昧な箇所を明確にして授業に臨む。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 現代日本の政策課題への関心を持ち、日頃から雑誌や新聞、web で情報収集を心がける。  (2) 「記憶」よりも「理解」を優先して欲しい。また、理解には妥協無く正確に納得できる水準まで取り組むことが重要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第 1 回：講義の概要とテキストの紹介 第 2 回：市場機構と公的介入 第 3 回：自然独占産業と公的規制 第 4 回：最適課税の理論 第 5 回：公共財の理論 第 6 回：公共選択の理論 第 7 回：政党と官僚の経済分析 第 8 回：公債の負担 第 9 回：公債発行と財政運営 第 10 回：高齢化と年金改革 第 11 回：政府支出政策のマクロ効果 第 12 回：公共投資 第 13 回：開放経済での公共政策 第 14 回：国と地方の分担システム 第 15 回：まとめ |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J72176B01 |
| 科目名  | 【院】公共経済学演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Public Economics B   |       |           |
| 担当者名   | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | Presson & Tabellini, Political Economics, MIT Press.  |       |           |
| 教材（参考文献）   | （１）Presson & Tabellini, Monetary and Fiscal Policy, MIT Press.   （２）クリスタル&ペナンリー著・黒川監訳『経済政策の公共選択分析』 勁草書房 |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、案内・配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内報告 50% 課題レポート 50%  |       |           |
| 到達目標   | 政策決定の政治過程に焦点を当てた経済分析を学び、伝統的経済学の分析で不足する部分を確認する。  |       |           |
| 準備学習   | （１）テキストの指定した箇所を読み、ノートを作成する。   （２）理論および英語で理解が曖昧な箇所を事前に明確にしておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 英文のテキストを利用するが、受講者の英語力に応じて進度は調整する。経済学で使用される英語は「慣れ」で克服できるので、辛抱強く取り組んで欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：講義の概要とテキストの紹介   第2回：General Introduction   第3回：Preference and Institutions   第4回：Electoral Competition   第5回：Agency   第6回：Partisan Politicians   第7回：General-Interest Politics   第8回：Special-Interest Politics(1)   第9回：Special-Interest Politics(2)   第10回：Electoral Rules and Electoral Competition   第11回：Institutions and Accountability   第12回：Political Regimes   第13回：Dynamic Policy Problems   第14回：Public Debt   第15回：まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72176C01 |
| 科目名        | 【院】公共経済学演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Public Economics C  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文作成の準備としての文献講読  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、案内・配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内報告50% 課題レポート50%   |       |           |
| 到達目標       | (1) 修士論文のテーマを決定する。 (2) 主要参考文献を集め、それらを通読する。   |       |           |
| 準備学習       | 毎週の課題論文を読んで、ノートを作成しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 修士論文の作成には、先ず多くの先行研究論文に目を通すことが不可欠な準備作業となる。 (2) 次に、先行研究を自分の基準で分類・整理していくことが重要となる。 (3) 春学期中に最低30本の文献を読破するペースで取り組んで欲しい。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：研究テーマの絞込み 第2回：研究テーマの主要先行研究リストの作成 第3回-第14回：研究テーマの主要先行研究論文を毎週1本取り上げる。 第15回：まとめ、および夏期休暇中の研究計画の確認                      |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |                               |       |           |
|--|-------------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                          | 授業コード | J72176D01 |
| 科目名  | 【院】公共経済学演習D                   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Public Economics D |       |           |
| 担当者名   | 久下沼 仁筈                        | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 修士論文作成                        |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。                      |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、案内する。                      |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜、案内・配布する。                   |       |           |
| 評価方法   | 修士論文の中間報告および完成論文の提出 100%      |       |           |
| 到達目標   | 修士論文の完成                       |       |           |
| 準備学習   | 修士論文の執筆                       |       |           |
| 受講者への要望  |                               |       |           |
| （1）春学期に、修士論文の準備として作成したノートを活用する。 （2）修士論文作成の50%は、先行研究を踏まえた問題意識の明確化と論文の構成・章立てで決まる。 （3）修士論文作成のスケジュールに遅れないよう、着実に執筆を進める。 |                               |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                               |       |           |
| 第1回-第2回：修士論文テーマの確認と論文構成の検討 第3回-第10回：修士論文中間報告 第11回-第12回：修士論文の初校提出と内容確認 第13回-第14回：修士論文の2校提出と最終確認 第15回：発表および口頭試問の確認   |                               |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                     |  |       |           |
|---------------------|--|-------|-----------|
| 年度                  | 2012   | 授業コード | J72178A01 |
| 科目名                 | 【院】地域交通論演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）           | Seminar on Regional Transportation A   |       |           |
| 担当者名                | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                | 交通社会資本のうち、特に道路について掘り下げて考える   |       |           |
| 教材（テキスト）            | 武藤博己著『道路行政』東京大学出版会、2008年7月   |       |           |
| 教材（参考文献）            | 進捗状況に応じて、適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）             | 進捗状況に応じて、適宜指示する  |       |           |
| 評価方法                | レジュメの内容：50%、発表態度：30%、提出物：20%   |       |           |
| 到達目標                | わが国の道路行政について、歴史を踏まえて現在の政策を評価する   |       |           |
| 準備学習                | テキストだけではなく、広く新聞・雑誌の論評を読んでおく  |       |           |
| 受講者への要望             |  |       |           |
| 連絡・報告・相談が確実に実行できること |  |       |           |
| 講義の順序とポイント          |  |       |           |
| 1.一般道路の管理(3回ほど)     | ①一般道路の現況(国際比較)   ②道路の管理内容   ③道路行政マネジメント   2.道路行政の財源(3回ほど)   ①道路特定財源の実態   ②道路特定財源の見直し   ③小泉内閣以後の特定財源制度   3.道路計画と社会資本整備計画(3回ほど)   ①計画の必要性   ②第12次までの道路整備計画のあらまし   ③その見直し   4.道路行政の分権と政策評価(3回ほど)   ①分権化の必要性   ②道路行政評価制度   ③市民による道路評価方法   5.政治と道路の関係(3回ほど)   ①道路の歴史と政治力   ②政官業の利益共同体の崩壊   ③まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J72178B01 |
| 科目名   | 【院】地域交通論演習B                                 | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Regional Transportation B        |       |           |
| 担当者名  | 西藤 二郎                                       | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 交通社会資本の整備に関して、受講者の関心領域がどこにあるかを相談しながらテーマを考える |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜指示する                                      |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する                                      |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示する                                      |       |           |
| 評価方法  | 先行研究の資料渉猟の進捗状況（50%）、論文執筆計画の具体性（30%）、相談（20%） |       |           |
| 到達目標  | 少なくとも先行研究は読破できること                           |       |           |
| 準備学習  | 先行研究の渉猟                                     |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な質疑応答  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>受講生と相談しながら、執筆準備をする事を基本とするが、おおよそ次のような順序を予定する 第一段階：テーマの確定にむけて（2回程度）  1.問題意識の領域を絞り、おおよその結論をイメージする  2.問題意識領域ごとの先行研究を探す  3.目次（暫定的）を作成 第二段階：各章の作成にむけて（3回程度）  1.各章の参考文献  2.各章の結論概要  3.骨格内容の梗概 第3段階：各章の執筆（5月の連休明けから本格執筆）（夏休みを含む10回程度）  1.骨格となる分権を列挙しその中から導き出す小括  2.執筆と推敲  3.中間報告へむけての準備  4.執筆と推敲</p> |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |                                      |       |           |
|--|--------------------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                                 | 授業コード | J72178C01 |
| 科目名  | 【院】地域交通論演習C                          | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Regional Transportation C |       |           |
| 担当者名   | 西藤 二郎                                | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 受講生の問題意識にしたがって、修士論文の作成を指導する          |       |           |
| 教材（テキスト）   | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 教材（参考文献）   | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 教材（その他）  | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 評価方法   | 論文執筆進捗状況（60%）、先行研究の渉猟（30%）、相談（20%）   |       |           |
| 到達目標   | 先行研究の文献の渉猟と論旨をつかむ                    |       |           |
| 準備学習   | 途中での立ち止まりをなくすべく、つねに相談する              |       |           |
| 受講者への要望  |                                      |       |           |
| 積極的な相談   |                                      |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                                      |       |           |
| <p>受講者のテーマによって内容は異なるが、指導は以下の方法による 第一段階：問題意識と結論の明確化（4～5回程度）  1.問題意識と結論、その結論を導くための要素分解  2.各要素に関する先行研究の渉猟  3.先行研究の読破 第二段階：執筆と推敲（4～5回程度）  1.各章の問題意識と結論を導くための節編成  2.各章・節の内容と、先行研究の対比  3.暫定的章立て編成の完成 第三段階：中間報告にむけて（5回～7回）  1.中間報告の概略－方向性と現在の進捗状況について  2.指摘事項に関する修正  3.指摘事項に関する文献渉猟</p> |                                      |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |                                      |       |           |
|--|--------------------------------------|-------|-----------|
| 年度   | 2012                                 | 授業コード | J72178D01 |
| 科目名  | 【院】地域交通論演習D                          | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Regional Transportation D |       |           |
| 担当者名   | 西藤 二郎                                | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 受講生のテーマに沿って修士論文作成の指導をする              |       |           |
| 教材（テキスト）   | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 教材（参考文献）   | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 教材（その他）  | 時宜に応じて指示する                           |       |           |
| 評価方法   | 論文執筆の進捗状況（60%）、相談（40%）               |       |           |
| 到達目標   | 先行研究の文献の理解                           |       |           |
| 準備学習   | 途中で立ち止まることなく、つねに相談                   |       |           |
| 受講者への要望  |                                      |       |           |
| つねに相談  |                                      |       |           |
| 講義の順序とポイント   |                                      |       |           |
| <p>受講者のテーマによって内容は異なるが、指導は以下の方法による 第一段階：中間報告での指摘事項を組み入れた筋立て（5回～6回）  1.指摘事項に関する文献渉  2.指摘事項による修正  3.修正後の展開の確認 第二段階：執筆と推敲（5～6回） 第三段階：論文完成の作業（2回～5回）  1序章・結章の作成  2.参考文献・引用文献の精査  3.印刷製本</p> |                                      |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72189001 |
| 科目名        | 【院】ミクロ経済学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Microeconomics   |       |           |
| 担当者名       | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ミクロ経済学の主題である、合理的な経済主体の行動および資源配分について学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上決める。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業中の報告（50%） レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 経済の理論分析を行うための基礎を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 学部のミクロ経済学、経済数学を復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 学部レベルのミクロ経済学・経済数学の知識を前提とする。 受講者は毎回報告が求められ、そのための相当な量の予習・復習が必要である。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション 2. 消費者行動1 3. 消費者行動2 4. 消費者行動3 5. 消費者行動4 6. 企業行動1 7. 企業行動2 8. 企業行動3 9. 企業行動4 10. 企業行動5 11. 市場均衡1 12. 市場均衡2 13. 市場均衡3 14. 市場均衡4 15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012                                     | 授業コード | J72190001 |
| 科目名  | 【院】ミクロ経済分析                               | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Microeconomic Analysis                   |       |           |
| 担当者名   | 齋藤 弘樹                                    | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 経済分析のための有用なツールであるゲーム理論の基礎を学び、種々の問題に応用する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上決める。                             |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。                              |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業中の報告（50%） レポート（50%）                    |       |           |
| 到達目標   | 経済の理論分析を行うための基礎を身につけること。                 |       |           |
| 準備学習   | 学部のミクロ経済学、経済数学を復習しておくこと。                 |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 学部レベルのミクロ経済学・経済数学の知識を前提とする。 受講者は毎回報告が求められ、そのための相当な量の予習・復習が必要である。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 期待効用理論1 3. 期待効用理論2 4. 戦略型ゲーム1 5. 戦略型ゲーム2 6. 戦略型ゲーム3 7. 展開型ゲーム1 8. 展開型ゲーム2 9. 展開型ゲーム3 10. 寡占市場1 11. 寡占市場2 12. 情報の非対称性1 13. 情報の非対称性2 14. オークション1 15. オークション2 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J72191001 |
| 科目名  | 【院】国際金融論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Finance   |       |           |
| 担当者名   | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 為替レートの決定理論，および為替レート変動が及ぼすマクロ経済効果について主に身につけることを目的とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 未定  |       |           |
| 教材（参考文献）   | ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』 有斐閣 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』 新世社 ○河合正弘(1994)『国際金融論』 東京大学出版会 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』 有斐閣   |       |           |
| 教材（その他）  | ○Mark(2001), "International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods" Wiley-Blackwell. ○Sarno and Taylor(2003), "The economics of exchange rates" Cambridge University Press.  ○Obstfeld and Rogoff(1996), "Foundations of international Macroeconomics" The MIT Press. |       |           |
| 評価方法   | 授業中の報告を評価の中心とする。 適宜，レポート，テストなどを課し，理解度の判断・評価材料にすることもある。  |       |           |
| 到達目標   | 学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げること为目标とする。  |       |           |
| 準備学習   | 学部初級レベルの国際金融，また大学院の国際金融を学ぶ上で必要なマクロ経済学，金融論の知識を整理・復習しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業は教材・資料の輪読を中心に進めるので，事前に指示した教材・資料の予習は必須とする（但し，必要に応じて講義も行う予定である）。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：為替レートの基礎概念  第2回：国際収支の基礎概念  第3回：為替レートの決定理論1  第4回：為替レートの決定理論2  第5回：為替レートの決定理論3  第6回：為替レートの決定理論4  第7回：為替レートの決定理論5  第8回：為替レートの決定理論6  第9回：開放経済における政策効果1  第10回：開放経済における政策効果2  第11回：開放経済における政策効果3  第12回：開放経済における政策効果4  第13回：開放経済における政策効果5  第14回：開放経済における政策効果6  第15回：まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72192001 |
| 科目名        | 【院】国際経済学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Economics  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年の国際経済学・国際マクロ経済学の理論モデルを身につけることを目的とする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 未定   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』 有斐閣 ○大川昌幸(2006)『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』 有斐閣   |       |           |
| 教材（その他）    | ○Obstfeld and Rogoff(1996), "Foundations of International Macroeconomics", The MIT Press. ○授業に関連した学術雑誌掲載論文   |       |           |
| 評価方法       | 授業中の報告を評価の中心とする。 適宜、レポート、テストなどを課し、理解度の判断・評価材料にすることもある。   |       |           |
| 到達目標       | 学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって、修士論文が書けるまで学力を引き上げること为目标とする。   |       |           |
| 準備学習       | 学部初級レベルの国際経済学，また国際経済学を学ぶ上で必要なミクロ経済学，マクロ経済学を整理・復習しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業は教材・資料の輪読を中心に進めるので，事前に指示した教材・資料の予習は必須とする（但し，必要に応じて講義も行う予定である）。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回：リカード・モデル1 第2回：リカード・モデル2 第3回：ヘクシャー・オーリンモデル1 第4回：ヘクシャー・オーリンモデル2 第5回：ヘクシャー・オーリンモデル3 第6回：マンデル・フレミングモデル1 第7回：マンデル・フレミングモデル2 第8回：マンデル・フレミングモデル3 第9回：マンデル・フレミングモデル4 第10回：New Open Economy Macroeconomics 1 第11回：New Open Economy Macroeconomics 2 第12回：New Open Economy Macroeconomics 3 第13回：New Open Economy Macroeconomics 4 第14回：New Open Economy Macroeconomics 5 第15回：まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72193001 |
| 科目名        | 【院】財政学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Public Finance   |       |           |
| 担当者名       | 森田 圭亮  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では、政府支出の在り方やその財源調達方法について、ミクロ理論的なアプローチを使って理解を深める。本講義は、指定教材を受講生が報告する形式で基本的に進めていく。したがって、受講生は事前に予習や報告準備をしていくことが求められる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 無  |       |           |
| 教材（参考文献）   | Atkinson A. B. and Stiglitz J. E., 1987, Lecture on Public Economics, MacGraw-Hill International Editions.   Rosen H.S. and Gayer T., 2008, Public Finance, McGraw-Hill Irwin.   Cullis J. and Jones P., 1998, Public Finance and Public Choice, Oxford University Press.   Varian H. R., 1992, Microeconomic Analysis, W. W. Norton and Company, Inc.   |       |           |
| 教材（その他）    | 上記教材及び下記学術雑誌などから適宜教材資料を指定する。   American Economic Review/ Econometrica/ Quarterly Journal of Economics/ Journal of Public Economics/ Journal of Political Economy/ Journal of Economic Theory/ Regional Science and Urban Economics   |       |           |
| 評価方法       | 試験 40%、報告 40%、レポート課題 10%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標       | 税の在り方や公債の在り方、政府支出の在り方について、経済学的な視点から説明できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | 微積分や線形代数を理解しておくことが望ましい。また、ミクロ経済学やマクロ経済学の初級・中級程度の水準の知識を身につけておくことが望ましい。また、基本的に指定教材を受講生が発表する形で講義を進めていく。そのため、基礎的な経済数学に加えて、学術英語をある程度読解できる能力が求められる。少なくとも、毎回講義で発表担当者は報告資料などの発表準備をしておかなければならない。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生は講義への積極的な参加を求められる。また、受講生各人が日ごろ疑問に思っている財政学上の疑問点があれば積極的に質問することを期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。 2.資源配分の効率性（1） 線形代数を応用して、パレート効率性について説明する。 3.資源配分の効率性（2） 線形代数を応用して、厚生経済学の基本定理を説明する。 4.資源配分の効率性（3） 陰関数定理を活用しつつ、社会厚生関数の形状や性質について説明する。 5.最適課税論（1） 積分を応用しつつ、余剰分析の基本的な行い方を説明する。 6.最適課税論（2） 弾力性の概念を応用しつつ、ラムゼイ・ルールについて説明する。 7.公共財の理論（1） 公共財の特徴を説明しつつ、公共財供給者としての政府の役割を説明する。 8.公共財の理論（2） ラグランジュ乗数法を応用しつつ、限界代替率や限界変形率を導出する。 9.公共財の理論（3） 陰関数定理を活用しつつ、社会厚生最大化問題を解き、サミュエルソン＝ルールを導出する。 10.外部性と環境（1） 余剰分析を応用しつつ、外部不経済が経済にもたらす影響について説明する。 11.外部性と環境（2） 外部性を内部化し、社会的に最適な解を導出する方法について説明する。 12.混合寡占 クールノー＝ナッシュ均衡の概念を応用しつつ、混合寡占市場における民営化の影響を説明する。 13.地方分権（1） 小国開放経済下において各地方政府がナッシュ的に行動した場合の問題点を紹介する。 14.地方分権（2） シュタッケルベルク均衡の概念を用いつつ、地方分権化における中央政府の役割について説明する。 15.講義のまとめ これまでの講義のまとめをおこなう |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J72194001 |
| 科目名       | 【院】財政政策論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Financial Policy   |       |           |
| 担当者名      | 森田 圭亮  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 本講義では、マクロ経済学的な視点から政府支出の在り方や税や公債の在り方について説明する。本講義は、指定教材を受講生が報告する形式をベースにして講義を進めていく予定である。したがって、受講生は事前に予習や報告準備をしていくことが求められる。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 無  |       |           |
| 教材（参考文献）  | Auerbach A. and M. Feldstein, 2002, Handbook of Public Economics, North-Holland. Atkinson A. B. and Stiglitz J. E., 1987, Lecture on Public Economics, MacGraw-Hill International Editions. Rosen H.S. and Gayer T.,2008, Public Finance, McGraw-Hill Irwin. De la Croix D. and Michel P., 2002, A Theory of Economic Growth, Cambridge University Press.  Barro R. J. and Sala-i-Martin X., 1995, Economic Growth, The MIT Press. |       |           |
| 教材（その他）   | 上記教材及び下記学術雑誌などから適宜教材資料を指定する。 American Economic Review/ Econometrica/ Quarterly Journal of Economics/ Journal of Public Economics/ Journal of Political Economy/ European Economic Review/ Journal of Economic Dynamics and Control   |       |           |
| 評価方法      | 試験 40%、報告 40%、レポート課題 10%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標      | マクロ経済学的な視点から、税や公債、政府支出の在り方を説明できるようにする。   |       |           |
| 準備学習      | 微積分や数列を理解しておくことが望ましい。また、授業の進行度や学生の理解度に応じて経済成長理論を扱う可能性があるため、差分方程式や微分方程式を理解しておくことが望ましい。授業内容をより詳しく理解するためには、マクロ経済学の初級・中級程度の水準の知識を身につけておくことが望ましい。授業は英文の学術書籍をベースにして、学生の報告を軸にしながらか進めていくため、学術英語に慣れておくことと事前の綿密な報告準備も求められる。  |       |           |

#### 受講者への要望

受講生は講義への積極的な参加を求められる。また、受講生各人が日頃抱いている疑問を積極的に提示するならば、そのテーマにそって資料を選択し、講義をおこなう予定である。

#### 講義の順序とポイント

1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。|2.静学的な財政政策の効果（1）ケインズ・モデルを使って財政政策の効果を説明する。|3.静学的な財政政策の効果（2）IS-LM分析を使って財政政策の効果を説明する。|4.静学的な財政政策の効果（3）IS-LMモデルを開放経済に拡張した上で、固定相場制における財政政策の効果を説明する。|5.静学的な財政政策の効果（4）IS-LMモデルを開放経済に拡張した上で、変動相場制における財政政策の効果を説明する。|6.社会保障（1）非線形計画法を使って社会保障の意義を説明する。|7.社会保障（2）重複世代型モデルを使って年金制度が抱える問題点を説明する。|8.社会保障（3）重複世代型モデルを使って年金制度改革が抱える問題点を説明する。|9.社会保障（4）契約理論を応用して、医療・介護サービスに関する現物給付が抱える問題点を説明する。|10.公債（1）2期間モデルを構築したうえで、リカードの等価定理を説明する。|11.公債（2）重複世代型モデルを使ってパローの等価定理を説明する。|12.動学的な財政政策の効果（1）ハロッド・ドーマー・モデルを使って財政政策がもたらす効果を説明する。|13.動学的な財政政策の効果（2）ソロー・モデルを使って財政政策がもたらす効果を説明する。|14.動学的な財政政策の効果（3）AKモデルを使って財政政策がもたらす効果を説明する。|15.講義のまとめ これまでの講義のまとめをおこなう。

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72195001 |
| 科目名        | 【院】 パーソナルファイナンス  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Personal Finance   |       |           |
| 担当者名       | 山本 陽一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ライフプランニング・リタイアメントプランニングに関して、個人が誕生→結婚→住宅取得→退職→老後の生活というライフ・デザインの理論と応用を講義する。具体的にはFPの上級資格であるCFP資格審査試験・CFP認定者の「パーソナルファイナンス」分野を意識し、そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す。なお、提案書の作成も併せて行い、実際の応用も確認する。受講するにあたってはすべての項目において税金に関連するため、AFPレベルの知識の他、所得税等の知識を有していることが望ましい。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 貝塚啓明『パーソナルファイナンス』日本FP協会 2100円 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社 1950円  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要においてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) レポート又は発表(50%)  |       |           |
| 到達目標       | ライフ・デザインの理論、それに伴う税金等の知識を学習して、FPとしてアドバイスができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。又、講義のはじめに前回の講義の理解度をはかるために問題演習を行う。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようにする。そのためには予習をきっちりとしてくること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. パーソナルファイナンスの基礎知識   パーソナルファイナンスの目的・プロセス・手法を理解している。 </p> <p>2. FPとコンプライアンス   金融商品販売法・消費者契約法を理解している。   3. 教育資金設計   教育費に関する知識・全体像を理解している。    4. 住宅資金設計   住宅ローン・住宅の売却時の税金等を理解している。    5. 社会保険の基礎知識   社会保険の目的と分類を理解している。    6. 医療保険制度   健康保険・国民健康保険の概要・仕組みを理解している。   7. 労働保険制度   労災保険・雇用保険を理解している。   8. 独立起業と資金計画   起業にあたり資金の調達の方法を理解している。   9. リタイアメントプランニングの全体像と提案書の作成(1)   キャッシュフロー表、老後のリスクマネジメント理解、および提案書の作成    10. 公的年金制度(1)   公的年金制度の基礎、老齢年金の種類・計算の基礎を理解している。   11. 公的年金制度(2)   振替加算・繰上げ制度、障害年金・遺族年金、年金に関する税金の理解。    12. 退職後の医療・介護保険制度   退職後の医療・介護保険制度の仕組みを理解している。   13. 企業年金・退職金の基礎知識   企業年金の種類・退職金に関する税金について理解している。   14. 提案書の作成(2)   提案書を作成する。   15. 提案書の作成(3)   提案書を作成する。                       </p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J72196001 |
| 科目名        | 【院】リスクの経済学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economics on Risk Management  |       |           |
| 担当者名       | 山本 陽一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>公的年金制度が問題視される今日、リタイアメント後の生活に不安を感じる人は多いはずである。そこで公的年金を補完するために、民間保険を含めた金融商品とを組み合わせ、リスクを回避する手法について講義を行う。具体的にはFPの上級資格であるCFP資格審査試験・CFP認定者の「リスクと保険」分野を意識し、そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す。受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFPレベルの知識の他、所得税等の知識を有していることが望ましい。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 下和田功『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣ブックス 2835円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 宇野典明『リスクマネジメント』日本FP協会 2100円 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社 1950円   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要においてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）レポート又は発表(50%)   |       |           |
| 到達目標       | 公的年金の制度、これを補完するための保険、将来のリスクに係る問題を理解、解決できるようにしたい。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。又、講義のはじめに前回の講義の理解度をはかるために問題演習を行う。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようにする。そのためには予習をきっちりとしてくること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. はじめに・保険制度   社会保険制度と民間保険について理解している。    2. 保険の基礎   期待値・分散原理・標準偏差等の考え方を理解している。    3. 不確実性の経済学の概要   期待効用とリスクの関係を理解している。    4. 非対称情報下での保険市場   保険契約者と保険会社の関係を理解している。    5. 保険のコスト   大数の法則・期待損害額等の保険料の仕組みを理解している。    6. 保険業界を取り巻く環境   昨今の保険業界の現状・保障のニーズを把握している。    7. 保険によるリスクマネジメント   リスクの分類と特性・保険での制御可能な範囲を理解している。    8. 保険の仕組みと契約   剰余金・配当金のしくみ、保険約款の記載事項を理解している。    9. 個人向け生命保険   生命保険の種類・特性を理解している。    10. 個人年金保険   個人年金保険の種類・特性を理解している。    11. 企業年金と企業年金類似制度   企業年金の全体像について理解をしている。    12. 確定拠出年金   確定拠出年金の概要・仕組みについて理解している。    13. 財形貯蓄保険と第三分野の保険   確定拠出年金の概要・仕組みについて理解している。    14. 生命保険の税務   保険料控除・契約者配当・保険金の受取時の課税関係を理解している。    15. おわりに・個人年金保険の税務   保険金の受取時、解約時の課税関係を理解している。   </p> <p>個人年金保険の税務   保険金の受取時、解約時の課税関係を理解している。   </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J72197001 |
| 科目名        | 【院】リスク・マネジメント  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Risk Management  |       |           |
| 担当者名       | 山本 陽一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業経営に関わるリスクを中心に、その防衛策について講義する。財務リスクにも言及し、保険でカバーすることができるリスクについて、回避・移転等する方法を指導する。具体的にはFPの上級資格であるCFP資格審査試験・CFP認定者の「リスクと保険」分野を意識し、そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す。受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFPレベルの知識の他、所得税・法人税等の知識を有していることが望ましい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 赤堀勝彦『最近のリスクマネジメントと保険の展開』ゆりり書房 2625円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 宇野典明『リスクマネジメント』日本FP協会 2100円 宮口定雄『税務ハンドブック平成24年度版』パーソナル社 1950円  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要においてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）レポート又は発表(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 企業経営におけるリスクの抽出、対処方法など本質的なことを理解できるようにしたい。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。又、講義のはじめに前回の講義の理解度をはかるために問題演習を行う。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようにする。そのためには予習をきっちりとすること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに・危機管理とリスクマネジメント   企業経営に関わるリスクを掌握している。   2. 企業のリスクマネジメント   リスクの回避・制御・分離・移転を理解している。   3. リスクファイナンスの活用   リスクファイナンスの意義・対象について理解をしている。   4. 財務リスク(1)   金融商品のリスクの種類・分類について理解をしている。   5. 財務リスク(2)   デリバティブによるヘッジについて理解をしている。   6. 損害保険業界の動向   損害保険の種類・内容について理解している。   7. 損害保険の仕組み(1)   保険契約・損害賠償の法律を理解している。   8. 損害保険の仕組み(2)   損害保険でカバーできる限界の測定することができる。   9. 損害保険の税務   保険料・保険金の税金について理解をしている。    10. 法人のリスクマネジメントと保険設計(1)   生命保険の事例について解説を行う。   11. 法人のリスクマネジメントと保険設計(2)   保険料の経理処理・契約者配当の経理処理を理解している。   12. 法人生命保険契約の税務(1)   保険料の経理処理・契約者配当の経理処理を理解している。   13. 法人生命保険契約の税務(2)   死亡退職金・慶弔金の受取時の課税関係を理解している。   14. 保険業法   保険募集の規制・クーリングオフ・契約者保護機構を理解をしている。   15. おわりに・保険約款・手続きについて   約款の見方・内容を正しく理解している。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73003B01 |
| 科目名        | 【院】NPO研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | NPO B   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 非営利組織は共通した側面をもっているものの、多様であり、その実態も様々である。それらを支える法的制度も行政の支援策もまた多様である。非営利組織の全体的姿のみならず、多様な NPO の特徴なども理解されることが重要であり、このためより個別的かつ具体的な視点から取上げられる。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 「起業時代の NPO」坂本信雄著(八千代出版株式会社)   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「ローカル・ガバナンスの実証分析」坂本信雄著(八千代出版株式会社)   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等、調査・報告(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 会社のような企業と国や地方の政府のほかに、ボランティアのような NPO(非営利組織)はどのように存在するのでしょうか? ボランティア活動はそもそも好き勝手に行っているのだろうか? NPO といってもボランティア活動を担う団体だけでなく、社会福祉法人や公益法人、さらには私立大学などの学校法人も含む組織はどのような特徴があるだろうか? この授業を通じて学ぶことはあまりに多い。   |       |           |
| 準備学習       | 指定された教材などを事前に読む。  |       |           |
| 受講者への要望    | NPO は今日ではメディアを通じて日々、報道されており、それらに関心をもって欲しい。また、受講生は自ら地域社会において何らかの NPO が存在するので、自らも参加することを期待したい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、NPO の財源構成を探る  2、資金調達の実情  3、日米のファンド・レイジング活動の実態  4、遺贈寄付の実態と課題  5、寄付金課税の実態  6、企業のフィランソロピー活動の実態と課題  7、企業のメセナの実態と課題  8、NPO の評価と課題  9、NPO の評価方法  10、NPO 法人と認定 NPO 法人の実情  11、公益法人、社会福祉法人、学校法人と NPO 法人の比較検証  12、非営利組織のマネジメント課題  13、非営利組織の戦略  14、非営利組織のアントレプレルナーの役割  15、NPO による公共性の創造について考える |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73020A01 |
| 科目名        | 【院】会計学演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Accounting A  |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>(1) 本「演習 A」担当者が予定している内容展開に先立って、まずは、受講者が入学段階で申請していた「研究計画書」の内容について本人に改めて報告させ、当該内容の再確認を行う。そうした再確認作業の中で、当初予定していた当該研究計画内容の延長線上での修士論文作成に取り組むのか否かを再検討させる。 (2) 本「演習 A」は、後期の「演習 B」と併せて、「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開され、次年度の演習 C・D で完成すべき修士論文の作成に向けての「序章」と位置づけられる。 (3) そこで、初年度前期の「演習 A」としては、財務会計分野において展開されている諸問題を整理して明確にすべく、現行会計制度の内容確認を行う。 (4) そのうえで、後期の「演習 B」では、IFRS(国際財務報告基準)の動向などを中心に取り上げる。特に、最近の IFRS の影響は日本の会計基準に多大な影響を与え、実践面で即時的に対応すべき諸問題の展開がみられるようになってきており、IFRS に関する議論の方向性がわが国の会計基準に関する議論にも非常に大きな影響を及ぼすようになってきているが故である。 (5) 以上のような現行会計制度における会計基準に関する現状分析の中で、既述の主題に関する幅広い研究素材を提供することとしたい。こうした広範な考察を通じて、財務会計分野における諸問題を整理・確認したうえで、受講者が修士論文のテーマ決定を行い、後期開始までに問題整理や資料収集に努め、次年度の論文完成に向けて余裕をもって展開できるよう指導する。 (6) なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識した論文テーマの選定とその課題内容の更なる深化に努めていただきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>(1) 中田信正 著 『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方—論文作法と文献調査—』 同文館出版  <br/> (2) 履修者と相談のうえ、研究テーマに応じて、適宜指示する。</p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリント配布等を行う。   |       |           |
| 評価方法       | 原則として、授業への平素の取組状況 (20%)、授業内報告 (30%)、期末レポート (50%) に基づき、総合評価を行う。   |       |           |
| 到達目標       | <p>(1) 修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 (2) 自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 (3) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 (4) わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準)の影響等について理解している。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 <br/> (2) 報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>(1) 自主性と双方向性を意識し、毎回、自らの課題や疑問をもって演習に臨むこと。 (2) 輪番制で報告させるのを常とするので、自主的問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>上記の講義概要を遂行するため、次のような展開を予定している。  1. 本演習のガイダンス   2. 修士論文の作成に関する基礎指導   3. 会計分野に関する修士論文の作成指導   4. わが国の制度会計の現状   5. わが国の会計制度を取り巻く諸問題   6. 論題の選定に関する指導   7. 論題の選定に関する報告と討議   8. 選定論題に関する問題点の報告(1)   9. 選定論題に関する問題点の報告(2)   10. 資料一覧の作成指導   11. 資料一覧の作成報告   12. 論文構成に関する指導(1)   13. 論文構成に関する指導(2)   14. 論文構成に関する指導(3)   15. 総括</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73020B01 |
| 科目名        | 【院】会計学演習 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar on Accounting B  |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>(1) 本「演習 B」は、前期の「演習 A」に続いて「財務会計分野における諸問題の研究」との主題のもとで展開され、次年度の演習 C・D で完成すべき修士論文の作成に向けての「序章」と位置づけられるべきものである。 (2) そこで、初年度後期の「演習 B」としては、前期において収集整理した財務会計分野に関する諸問題を吟味するなかで、修士論文として取り上げるテーマを絞り込んでいく作業を行う。 (3) 特に後期の本演習では、まずは IFRS(国際財務報告基準)の動向を中心に取り上げる。最近の IFRS の影響は従前以上に日本の会計基準に多大な影響を与え、実践面で即自的に対応すべき諸問題の展開がみられるようになってきているが故である。IFRS に関する議論の方向性が、わが国の会計基準に関する議論にも非常に大きな影響を及ぼすようになってきているのである。 (4) 以上のような現行会計制度における会計基準の現状分析の中での広範な考察を通じて、財務会計分野の諸問題を整理・確認したうえで、前期終了時期に焦点を絞ったテーマを中心に、いよいよ修士論文の論題決定と当該論題に関する論点整理、そして更なる資料収集と十分な読込みと整理に努めていただき、次年度の論文完成に向けて指導していくことになる。 (5) なお、税理士志望の院生には、特に将来の専門職業人としての活躍の場をも意識して、当該論文テーマの選定には慎重に進めていただきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 履修者と相談のうえ、研究テーマに応じて、適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリント配布を行う。  |       |           |
| 評価方法       | 原則として、授業への平素の取組状況 (20%)、授業内報告 (30%)、期末レポート (50%) に基づき、総合評価を行う。   |       |           |
| 到達目標       | <p>(1) 修士論文の作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 (2) 自己の将来方向を踏まえた適切な修士論文のテーマ選定ができる。 (3) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 (4) わが国の会計制度へ及ぼす IFRS(国際財務報告基準)の影響について理解している。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 毎回の講義時に自らの問題意識のもとで課題や疑問を提示できるよう、準備を行って講義に臨む。 (2) 報告担当課題などについて、事前に周到な準備を行い、レジュメなども作成して、報告に臨むこと。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | 自主的な問題意識をもった積極的な取り組みを期待する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>初年度後期の所期の目的を達成し、次年度へ引き継ぐために、次の予定で展開することにしたい。  1. 秋セメスターのガイダンス  2. 論文構成に関する報告と討議(1)  3. 論文構成に関する報告と討議(2)  4. 論文構成に関する報告と討議(3)  5. 論文構成に関する報告と討議(4)  6. 論文構成に関する報告と討議(5)  7. 論文構成に関する報告と討議(6)  8. 資料収集状況の確認   9. 下書きの部分的報告と指導(1)  10. 下書きの部分的報告と指導(2)  11. 下書きの部分的報告と指導(3)   12. 下書きの部分的報告と指導(4)   13. 下書きの部分的報告と指導(5)   14. 下書きの部分的報告と指導(6)   15. 総括</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J73020C01 |
| 科目名   | 【院】会計学演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Accounting C   |       |           |
| 担当者名  | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | （１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、前期の「演習C」では、前年度での指導を通じて具体化してきた修士論文のテーマ・構成内容、さらには資料収集を再確認したうえで、下書内容について部分的報告を受けつつ、指導を重ねることになる。           |       |           |
| 教材（テキスト）  | 修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、必要なプリント配布を行う。  |       |           |
| 評価方法  | 授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標  | （１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。 |       |           |
| 準備学習  | 毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| （１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。 （２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、申請に際してのQ&Aでも指摘されている次の２点に特に注意されたい。 ①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。 ②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。 （３）以上の点も踏まえて、修士論文としての実質要件はもちろん、形式要件（ページ数を明示した目次と参考（引用）文献目録の付記）についても十分注意されたい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 最終年度における修士論文作成の前半部として、次の予定で展開することにした。  1. 本演習のガイダンス  2. 論文構成及び資料収集等に関する再確認(1)  3. 論文構成及び資料収集等に関する再確認(2)  4. 下書きの部分的報告と指導(1)  5. 下書きの部分的報告と指導(2)  6. 下書きの部分的報告と指導(3)  7. 下書きの部分的報告と指導(4)  8. 下書きの部分的報告と指導(5)  9. 下書きの部分的報告と指導(6)  10. 下書きの部分的報告と指導(7)  11. 下書きの部分的報告と指導(8)  12. 下書きの部分的報告と指導(9)  13. 下書きの部分的報告と指導(10)  14. 下書きの部分的報告と指導(11)  15. 総括  |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J73020D01 |
| 科目名  | 【院】会計学演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Seminar on Accounting D   |       |           |
| 担当者名   | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | (1) 本研究科における最終年となる2年目の演習では、1年間を通じて、修士論文の作成指導をその主要内容として展開する。 (2) そこで、後期の「演習D」では、前期に引き続き、論文の推敲を重ねて、10月頃には一応の完成を予定に指導する。その後は、微修正などを通じてより充実したものへと仕上げる努力をして頂くように指導する。          |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特に使用しない。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 必要に合わせて、適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜、プリント配布を行う。   |       |           |
| 評価方法   | 授業への平素の取組状況(50%)と授業内報告(50%)を総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標   | (1) 税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 (2) 上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。 |       |           |
| 準備学習   | 毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| (1) 原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。 (2) 税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、次の2点に注意されたい。  ①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。  ②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し(概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次(ページ数が記入されているもの)及び参考(引用)文献目録を必ず添付。)」となっている。 (3) 以上の点も踏まえて、論文の形式としてページ数を記載した目次と参考(引用)文献目録を明示するよう注意されたい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 最終年度における修士論文完成に向けて、次の予定で展開することにした。  1. 秋セメスターのガイダンス  2. 論文構成に関する再確認(1)  3. 論文構成に関する再確認(2)  4. 論文内容の討議と推敲(1)  5. 論文内容の討議と推敲(2)  6. 論文内容の討議と推敲(3)  7. 論文内容の討議と推敲(4)  8. 論文内容の討議と推敲(5)  9. 論文内容の討議と推敲(6)  10. 論文内容の討議と推敲(7)  11. 論文内容の討議と推敲(8)  12. 論文内容の討議と推敲(9)  13. 論文内容の討議と推敲(10)  14. 論文内容の討議と推敲(11)  15. 総括   |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73024A01 |
| 科目名        | 【院】会計学研究A   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Accounting Research A   |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>(1) 本講義では第一に、経営学研究科において会計学を専攻し、将来的には税理士などの専門職を志向される院生を強く意識し、修士論文のテーマ選定に際しての有益な基礎知識を得ようとする目的にも資するように、最近の新会計基準を含むわが国における現行会計制度の展開内容に関する諸問題を整理し、考察する。  (2) 第二に、他研究科の院生、特に会計専門職志望生の受講も意識し、わが国の制度会計の現状を整理・考察し、更には最近の国際会計基準の影響と展開をも加味して、今後の展望も含めた会計基準の内容を研究する。  (3) 以上の観点から、まずは、会計学及び税法に関する修士論文の作成に資するよう、第一のテキストを活用して論文作法の再確認を行う。そのうえで、制度会計としての会社法会計及び金融商品取引法会計の内容について、第二のテキストを資料に輪番制で受講生の報告を求め、質疑応答を行う。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | <p>(1) 中田信正 著 『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方—論文作法と文献調査—』 同文館出版 ¥2,000  (2) 山地範明 著 『会計制度(新訂版)』 同文館出版 ¥2,000</p>  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義時に、適宜指示する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜、プリント配布を行う。   |       |           |
| 評価方法       | 授業への平素の取組状況(20%)、授業内報告(30%)、期末レポート(50%)に基づき、総合評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | <p>(1) 修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。  (2) 修士論文としての適切なテーマ選定ができる。  (3) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。  (4) わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>(1) 毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。  (2) 毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。  (3) 報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | 財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>原則的に、次のような内容を展開する。  1. 本講義の意義と内容等のガイダンス   2. 修士論文の作成に関する基本指導  3. 会計及び税法に関する修士論文の作成指導  4. わが国における企業会計制度の動向   5. 会計制度の国際動向とわが国の対応   6. 企業会計原則と概念フレームワーク   7. 会社法会計の内容   8. 会社法に基づく開示制度   9. 会社法における計算書類  10. 金融商品取引法会計の内容  11. 金融商品取引法に基づく開示制度  12. 有価証券報告書の意義と内容  13. 新会計基準 14. タックスプランニング 15. 総括</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73024B01 |
| 科目名   | 【院】会計学研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Accounting Research B  |       |           |
| 担当者名  | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | （１）研究Aの考察を受けて、課題及び自主テーマに基づく報告と討議を重ねることにより、わが国の会計制度に関する理解を深めることにしたい。 （２）現行の会計基準などの動向に関しては、その都度の最新情報を提供して、考察する。                        |       |           |
| 教材（テキスト）  | 山地範明 著 『会計制度(新訂版)』 同文館出版 ￥2,000  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義時に、適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、プリント配布を行う。  |       |           |
| 評価方法  | 原則として、授業への平素の取組状況（20%）、授業内報告（30%）、期末レポート（50%）に基づき、総合評価を行う。   |       |           |
| 到達目標  | （１）わが国の制度会計としての会社法会計と金融商品取引法会計の現状と問題点について理解しており、説明できる。 （２）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解しており、説明できる。 （３）わが国の制度会計に関する課題を選定し、報告できる。            |       |           |
| 準備学習  | （１）わが国の制度会計について、事前にテキスト内容を再確認して、知識を整理しておく。 （２）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。 （３）後半部分では、自主テーマを選定し、まとめ、レジュメ作成を含めて報告準備をしておく。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。  1. 本講義の展開内容等のガイダンス   2. わが国における制度会計の現状と国際会計基準   3. わが国の制度会計における諸問題の確認   4. 課題設定に関する概要説明と討議   5. 課題に基づく報告と討議(1)   6. 課題に基づく報告と討議(2)   7. 課題に基づく報告と討議(3)   8. 課題に基づく報告と討議(4)   9. 課題に基づく報告と討議(5)   10. 自主テーマに基づく報告と討議(1)   11. 自主テーマに基づく報告と討議(2)   12. 自主テーマに基づく報告と討議(3)   13. 自主テーマに基づく報告と討議(4)   14. 自主テーマに基づく報告と討議(5)   15. 総括 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73031A01 |
| 科目名   | 【院】監査論研究A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                                       | Auditing Research A  |       |           |
| 担当者名  | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 監査は社会のインフラとして非常に重要な役割を果たしている。しかし、一般には馴染みがない（オリンパスの不正経理事件で監査法人が何をしたか・しなかったか？）。同時に、最近は新興企業を中心に粉飾経理が表面化している。そこで、この講義では、最初に、社会のインフラとしての監査の意義と特徴を、実際のケースを通して理解する。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 吉見 宏 『ケースブック監査論 第4版』 新生社、2008年。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 報告 40%、レポート 40%、（講義中の）発言 20%   |       |           |
| 到達目標  | 1. 監査の意義と限界を理解している 2. 日本の監査制度の概要を理解している 3. 不正経理が行われる背景を理解している  |       |           |
| 準備学習  | 1. 指示された資料に事前に目を通す 2. 指示された課題について報告を準備する 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問する  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| レジュメの書き方、報告（プレゼンテーション）の仕方は、学部学生向けの本で身に付けていて欲しい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                                      |  |       |           |
|   | 1. ミーティング 2. 会計監査の必要性：ケース  3. 会計専門職による監査：ケース  4. 監査期待ギャップ問題：ケース  5. 金融商品取引法監査制度：ケース 6. 公認会計士の仕事内容  7. 会社法_監査役監査制度：ケース  8. 会社法_会計監査人監査：ケース  9. 監査と粉飾経理  10. 監査基準と監査手続き：ケース  11. 監査報告書：ケース  12. 他の監査人等の利用と内部監査：ケース  13. 継続企業の前題の監査：ケース  14. 不正な支出の監査：ケース  15. 環境監査：ケース |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73031B01 |
| 科目名        | 【院】監査論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Auditing Research B  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 監査基準を輪読を通して研究し、日本の監査制度について理解を深める。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上、決定する。監査論研究Aを受講せず、監査論研究Bだけの受講を希望する者は、教科書を決めるため、春学期中に申し出ること。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 報告 40%、レポート 40%、（講義中の）発言 20%   |       |           |
| 到達目標       | 1. 監査の意義と限界を理解している 2. 監査基準を理解している 3. 会計監査の手続きを理解している 4. 監査を受けた会計情報の特徴と監査プロセスを理解している  |       |           |
| 準備学習       | 1. 指示された資料に事前に目を通す 2. 指示された課題について報告内容を準備する 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問する  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | レジュメの書き方、報告（プレゼンテーション）の仕方は、学部学生向けの本で身に付けておいて欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | I 監査基準 1. 監査基準の基礎 2. リスクアプローチ 3. 目的基準・一般基準・実施基準 4. 内部統制と試査 5. 監査手続 (1) 6. 監査手続 (2) 7. 品質管理基準 8. 継続企業の監査 9. 監査意見  II 制度監査 10. 連結財務諸表監査 11. 内部統制報告書監査 12. 会計監査人監査 13. 監査役監査 14. 四半期財務情報監査 15. 総括 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73044A01 |
| 科目名        | 【院】起業論研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Entrepreneurship Research A  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。 起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発、新しいマーケットの創造、そして経済の競争力を高める上で、起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方、ビジネス機会発見の方法、マーケット分析、そしてファイナンシャル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房   |       |           |
| 教材（その他）    | 関連論文・専門誌掲載記事等、必要に応じてコピー配布  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（60%）出席・発表などによる。レポート（40%）。  |       |           |
| 到達目標       | 起業に関わる理論やデータの概観を把握すること。  |       |           |
| 準備学習       | 日常的に起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 起業についての社会的意義の整理  2. 起業に関わる内外データから見る現状把握①  3. //<br>②  4. 先行研究から見る起業論①  5. // ②  6. 起業活動と経済活動  7. 起業活動と経営戦略  8.<br>// ケーススタディ  9. 起業家の資質  10. // ケーススタディ  11. 事業機会の認識と評価  12.<br>// ケーススタディ  13. 起業活動とビジネスモデルの構築  14. 課題 15. まとめ               |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J73044B01 |
| 科目名   | 【院】起業論研究 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Entrepreneurship Research B   |       |           |
| 担当者名  | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義は、起業論研究 A に引き続き、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する 起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発、新しいマーケットの創造、そして経済の競争力を高める上で、起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方、ビジネス機会発見の方法、マーケット分析、そしてファイナンシャル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房  |       |           |
| 教材（その他）   | 関連論文・専門誌掲載記事  |       |           |
| 評価方法  | ,平常点（60％）出席、発表による。レポート（40％）   |       |           |
| 到達目標  | 起業家のケースをステップ毎に学ぶことにより、起業の基礎理論を修得する。   |       |           |
| 準備学習  | 日常的に起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業への積極的参加・発表を期待します。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 起業のステップ  2. 創業期のマーケティング  3. // ケーススタディ  4. 人材の確保と活用  5. // ケーススタディ  6. 資金調達  7. // ケーススタディ  8. 競争戦略・成長戦略  9. // ケーススタディ  10. 女性起業家の特質  11. // ケーススタディ  12. 起業支援体制の変化  13. //  14. 起業家人材の育成 15. まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73055C01 |
| 科目名        | 【院】経営学原理演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Principles of Management C  |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>近年、企業経営をめぐって、さまざまな問題が噴出している。たとえば、企業の国際化への対応、情報化をめぐる諸問題、企業不祥事の多発、コーポレート・ガバナンスのあり方、企業と従業員との関係の見直し、企業の生産性の低下等々である。この演習では、これら現代日本の企業経営における、およびそれをめぐる諸問題を考察するにあたって、まずドイツとアメリカの経営学を振り返りつつ解決の拠り所を見出したいと考えている。そこにはすでに多くの学問的遺産があるからである。  これらのことを踏まえつつ、各自のテーマの修士論文の作成に取り組んでもらう。きめ細かく、個別に指導します。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 各報告者が提示する  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、パワーポイント、板書  |       |           |
| 評価方法       | レポートと報告（60%）、平常点（20%）、討論（20%）  |       |           |
| 到達目標       | 経営に関する問題発見能力、分析力、実行力、つまり修士論文の完成。 他の受講者の論文の評価・批判能力の育成。  |       |           |
| 準備学習       | 経営問題を常に意識し、関連の論文・著書のノートを取っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な論議を望む  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 01 A君報告  02 B君報告  03 C君報告  04 A君報告  05 B君報告  06 C君報告  07 A君報告  08 B君報告  09 C君報告  10 A君報告  11 B君報告  12 C君報告 13 A君報告 14 B君報告  15 T報告   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73055D01 |
| 科目名        | 【院】経営学原理演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Principles of Management D   |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>近年、企業経営をめぐって、さまざまな問題が噴出している。たとえば、企業の国際化への対応、情報化をめぐる諸問題、企業不祥事の多発、コーポレート・ガバナンスのあり方、企業と従業員との関係の見直し、企業の生産性の低下等々である。この演習では、これら現代日本の企業経営における、およびそれをめぐる諸問題を考察するにあたって、まずドイツとアメリカの経営学を振り返りつつ解決の拠り所を見出したいと考えている。そこにはすでに多くの学問的遺産があるからである。  これらを踏まえつつ、各自のテーマの修士論文の作成に取り組んでもらう。きめ細かく、個別に指導します。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 各報告者が提示する   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、パワーポイント、板書   |       |           |
| 評価方法       | レポートと報告（60%）、平常点（20%）、討論（20%）   |       |           |
| 到達目標       | 経営に関する論文作成力、生涯学習力の育成、つまり修士論文の完成。 他の受講者の論文の評価・批判能力の育成。   |       |           |
| 準備学習       | 修士論文の中間報告   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な論議を望む   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 01 A君報告  02 B君報告  03 C君報告  04 A君報告  05 B君報告  06 C君報告  07 A君報告  08 B君報告  09 C君報告  10 A君報告  11 B君報告  12 C君報告 13 A君報告 14 B君報告  15 T報告  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J73059A01 |
| 科目名   | 【院】経営学原理研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Principles of Management Research A   |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「経営とは何か」という問題は斯学の成立当初より研究者の頭を悩ませてきた問題であるが、現在では、それは経済的側面・技術的側面・人間的社会的側面の総合されたものという見方が一般的である。それぞれの側面の研究のために経営経済学 (マネジリアル・エコノミクス)・経営技術学 (経営工学)・経営社会学があるが、しかしそれらは全くバラバラに存在するのではない。たとえば、経済への一方的な努力と引き換えに、人間 (社会) の面で不都合が生じるという事が実際にある。したがって実学志向という本研究科の性格からしても、これら経営諸学を、純粋にではなく、ある関係において論じていきたい。   ここでは中国文化圏の国家や経営を欧米のそれと比較しながら、説明していきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』(森山書店・2012年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | マックス・ウェーバー著大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫・2005年)<br> 渡辺利夫 (編)『アジア経済読本 (第4版)』(東洋経済・2009年)  長谷川正『経営と支配理論』(森山書店・1996年)  長谷川正・吉富和雄他著『経営の支配と官僚制組織』(同文館・2001年)   |       |           |
| 教材 (その他)  | パワーポイント   |       |           |
| 評価方法  | 原則として、平常点 (60%)・レポートと報告 (40%)   |       |           |
| 到達目標  | 世界各国・地域の経済や経営をその歴史や文化と関連して理解できること  論理的分析力、柔軟性、生涯学習力の育成  |       |           |
| 準備学習  | 該当する部分の文献を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 常識や偏見にとらわれない柔軟な思考を望む  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 0 1. 比較としての西欧 ① 科学技術と米英独の経済   0 2. 比較としての西欧 ② 大衆消費社会の到来   0 3. 比較としての西欧 ③ 資本主義のグローバル化   0 4. 中国の経済停滞の始まり 秦の始皇帝 ①   0 5. 中国の経済停滞の始まり 秦の始皇帝 ②   0 6. 清王朝とその経済構造   0 7. 清王朝と西欧との接触   0 8. 清王朝と近代化   0 9. 戦後の中国経済の発展   1 0. 中国経済の成長とその課題   1 1. 矛盾と分裂の台湾 ①   1 2. 矛盾と分裂の台湾 ②   1 3. マックス・ヴェーバー「倫理論文」再考 ①   1 4. マックス・ヴェーバー「倫理論文」再考 ②   1 5. まとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                      |   |       |           |
|----------------------|---|-------|-----------|
| 年度                   | 2012  | 授業コード | J73059B01 |
| 科目名                  | 【院】経営学原理研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）            | Principles of Management Research B   |       |           |
| 担当者名                 | 長谷川 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                 | <p>「経営とは何か」という問題は斯学の成立当初より研究者の頭を悩ませてきた問題であるが、現在では、それは経済的側面・技術的側面・人間的社会的側面の総合されたものという見方が一般的である。そして経営経済学（マネジリアル・エコノミクス）・経営技術学（経営工学）・経営社会学があるが、しかしそれらは全くバラバラに存在するのではない。たとえば、経済への一方的な努力の下に、人間（社会）の面で不都合が生じるという事が実際にある。したがって実学志向という本研究科の性格からしても、これら経営諸学を、純粋にではなく、ある関係において論じていきたい。  ここではアジア近隣諸国の国家や経営をその歴史や文化と関連付けながら、説明していきたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）             | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012年）  |       |           |
| 教材（参考文献）             | 渡辺利夫（編）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済・2009年） 岩崎育夫（編）『アジアの企業家』（東洋経済・2003年） その他、そのつど指示する   |       |           |
| 教材（その他）              | パワーポイント、ビデオ   |       |           |
| 評価方法                 | 原則として、平常点（60%）・レポートと報告（40%）   |       |           |
| 到達目標                 | アジア各国・地域の経済や経営をその歴史や文化と関連して理解できること。 論理的分析力、柔軟性、生涯学習力の育成。  |       |           |
| 準備学習                 | 日経新聞や経済雑誌にできるだけ目を通すこと   |       |           |
| 受講者への要望              |   |       |           |
| 常識や偏見にとらわれない柔軟な思考を望む |   |       |           |
| 講義の順序とポイント           | <p>1. アジアの巨大消費市場  2. アジアにおける日本企業のマーケティング戦略  3. 朝鮮半島の歴史  4. 現代韓国の文化と産業  5. 東南アジアの経済の発展  6. ベトナム社会主義共和国の経済発展  7. タイ王国の経済発展  8. シンガポール共和国の経済発展  9. マレーシアの経済発展  10. インドネシア共和国の歴史と文化  11. インドネシア共和国の産業と経営  12. アジアにおける華人経営  13. インドとヒンドゥー教  14. 現代インドと経済と経営  15. まとめ</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73069A01 |
| 科目名        | 【院】経営史演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Management History A  |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習 A B においては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上で決める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。  |       |           |
| 準備学習       | 研究テーマを早急に定め、研究の進展に最大限の努力を傾注しなければならない。  |       |           |
| 受講者への要望    | 2 年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.本演習についての概説  2.修士論文作成に関する基礎的説明  3.本学図書館利用に関する説明（所蔵文献・情報検索法の説明）  4.研究テーマの選定に関する指導  5.研究テーマの選定に関する報告  6.研究課題に関する文献研究(1)  7.研究課題に関する文献研究(2)  8.研究テーマに関する問題点の整理  9.基本文献の研究報告(1) 10.基本文献の研究報告(2) 11.基本文献の研究報告(3) 12.論文構成に関する指導(1) 13.論文構成に関する指導(2) 14.関係史料への一次的接近のための情報収集(1) 15.関係史料への一次的接近のための情報収集(2) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73069B01 |
| 科目名        | 【院】経営史演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Management History B   |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習A Bにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上で決める。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。   |       |           |
| 準備学習       | 研究の進展に最大限の努力を傾注しなければならない。   |       |           |
| 受講者への要望    | 2年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.収集史料を基にした研究報告(1)  2.収集史料を基にした研究報告(2)  3.収集史料を基にした研究報告(3)  4.先行研究の整理(1)  5.先行研究の整理(2)  6.研究テーマに関する問題点の整理(1)  7.研究テーマに関する問題点の整理(2)  8.基本文献の研究報告(1)  9.基本文献の研究報告(2)  10.基本文献の研究報告(3)  11.追加的史料の情報収集(1)  12.追加的史料の情報収集(2)  13.追加的史料の情報収集(3)  14.追加的史料の情報収集(4)  15.追加的史料の情報収集(5) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73105A01 |
| 科目名        | 【院】情報管理論研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Management A  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント配布。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(40%)、平常点(30%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ホワイトカラー職務能力評価試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。  ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。   1. 受講ガイダンス  ワードプロセッシング演習  スプレッドシート演習  Gmail、Windows Live、Thinkfree、Evernote、Twitter アカウント取得  2. プレゼンテーション基礎演習  3. プレゼンテーション応用演習  4. 情報化技術の理解  5. 経営戦略の理解  6. 情報化戦略の立案  7. 情報の収集 1  8. 情報の収集 2  9. 情報の整理 1  10. 情報の整理 2  11. 情報の加工  12. 情報の表現  13. パソコンソフトの活用  14. 関連法規の理解  15. 理論的側面のまとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73105B01 |
| 科目名        | 【院】情報管理論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Management B   |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。</p>                                       |       |           |
| 教材（テキスト）   | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント配布。  |       |           |
| 評価方法       | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(40%)、平常点(30%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ホワイトカラー職務能力評価試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。  ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。   1. 受講ガイダンス  2. アイデアプロセシング演習基礎 1  3. アイデアプロセシング演習基礎 2  4. アイデアプロセシング演習応用 1  5. アイデアプロセシング演習応用 2  6. 情報システムの種類  7. ITソリューションの調達方法  8. ITソリューションの活用  9. システム化計画の立案  10. システム要求の分析と要件定義  11. システム開発におけるその他の業務  12. システムの運用  13. 情報セキュリティ  14. 情報システム導入の失敗の原因  15. システム面からのまとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J73110A01 |
| 科目名  | 【院】情報処理研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Processing A  |       |           |
| 担当者名   | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。  本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。  使用するスクリプト言語には、Ruby を予定している。この言語を用い、データベースの検索プログラムの作成等を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。  本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(50%)出席状況、報告等による。 レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 </li> <li>・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。</li> </ul>   |       |           |
| 準備学習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 </li> <li>・詳細は各講義の最後に指示する。</li> </ul>   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。 能動的な姿勢で講義に取り組むことを望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 インTRODクシヨン 2 Ruby の基礎(1) 文字と数値 3 Ruby の基礎(2) 制御構造 4 Ruby の基礎(3) オブジェクトと変数 5 Ruby の基礎(4) 条件判断と繰り返し 6 Ruby の基礎(5) メソッド 7 オブジェクト指向プログラミング(1) クラス 8 オブジェクト指向プログラミング(2) 継承 9 オブジェクト指向プログラミング(3) モジュール 10 クラスの利用(1) 数値、配列、文字列 11 クラスの利用(2) 入出力、ファイル、日付 12 検索プログラムの作成(1) 13 検索プログラムの作成(2) 14 レポートの作成(1) 15 レポートの作成(2) |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73110B01 |
| 科目名   | 【院】情報処理研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Information Processing B   |       |           |
| 担当者名  | 翁長 朝英  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。  本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。  使用するスクリプト言語には、Ruby と Ruby/Tk を予定している。GU を用いたデータベース検索プログラムの作成を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。  本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(50%)出席状況、報告等による。レポート(50%)  |       |           |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 </li> <li>・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。</li> </ul>  |       |           |
| 準備学習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 </li> <li>・詳細は各講義の最後に指示する。</li> </ul>  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。 能動的な姿勢で講義に取り組むことを望む。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 インTRODクシヨN  2 Ruby/Tk の基礎(1) ラベル 3 Ruby/Tk の基礎(2) ボタン 4 Ruby/Tk の基礎(3) エントリ 5 Ruby/Tk の基礎(4) フォント、ウィンドウ 6 検索プログラムの作成(1) GUI の作成 7 検索プログラムの作成(2) GUI の作成 8 検索プログラムの作成(3) GUI の作成 9 検索プログラムの作成(4) GUI の作成 10 検索プログラムの作成(5) GUI との結合 11 検索プログラムの作成(6) GUI との結合 12 検索プログラムの作成(7) GUI との結合 13 レポートの作成(1) 14 レポートの作成(2) 15 レポートの作成(3) |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73115A01 |
| 科目名        | 【院】人的資源管理論研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Human Resources Management A  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | HRM(Human Resources Management)というコンセプトはアメリカで生まれた。PM (Personnel Management) と HRM の相違については未だ同意の築かれたものはないにしても、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。日本では、人的資源管理と訳され、今日に至っている。この訳が正しいかどうかは別にして、この領域の多くは、売り上げやシェアや利益といった企業業績(あるいは経営戦略)と人材管理・開発との関係について研究を行っている。この講義では、HRM とは何かについての諸説を読解し、また事例を通して担い手である人事部・HR 部の役割を把握する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 第 1 回目に学部時代の学習状況を聞き、テキストを決定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回の発表内容 (70%) および平常点 (30%) 出席状況等により評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 以下の修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。  |       |           |
| 準備学習       | テキストの担当箇所を要約し、レジюмеに仕立てること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 学部時代に人事・労務管理論やHRMを学んだことのある方を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.人事・労務管理と HRM の相違は?①  2.人事・労務管理と HRM の相違は?②  3.人事・労務管理と HRM の相違は?③  4.経営戦略と HRM の関係①  5.経営戦略と HRM の関係②  6.経営戦略と HRM の関係③  7.行動科学と HRM の関係①  8.行動科学と HRM の関係②  9.行動科学と HRM の関係③  10.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について①  11.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について②  12.日本における人事・労務管理論および HRM 研究の展開について③  13.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは?①  14.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは?②  15.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業の HR 部の違いは?③ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73115B01 |
| 科目名   | 【院】人的資源管理論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Human Resources Management B   |       |           |
| 担当者名  | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | HRM(Human Resources Management)というコンセプトはアメリカで生まれた。PM (Personnel Management) と HRM の相違については未だ同意の築かれたものはないにしても、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。日本では、人的資源管理と訳され、今日に至っている。この訳が正しいかどうかは別にして、この領域の多くは、売り上げやシェアや利益といった企業業績(あるいは経営戦略)と人材管理・開発との関係について研究を行っている。この講義では、HRM とは何かについての諸説を読解し、また事例を通して担い手である人事部・HR 部の役割を把握する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 第1回目にテキストを指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適時参考書や論文を指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 毎回の発表内容（70%）および 平常点（30%）出席状況等により評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 以下の修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の仕組みを人的資源と関連付けて理解できる。   |       |           |
| 準備学習  | テキストの担当箇所を要約し、レジюмеに仕立てること。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 学部時代に人事・労務管理論やHRMを学んだことのある方を望む。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業のHR部の違いは?② 2.日本企業の人事・労務管理部とアメリカ企業のHR部の違いは?③ 3.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について① 4.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について② 5.日本企業におけるコース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、等について③ 6.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBAの待遇、等について① 7.アメリカ企業における先任権、職務給、報奨、MBAの待遇、等について② 8.IR(労使関係)とHRMの関係は?① 9.IRとHRMの関係は?② 10.IRとHRMの関係は?③ 11.HRMの「システム」とは?① ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から 12.HRMの「システム」とは?② ベストプラクティス、コンティンジェンシー、コンフィギュレーション、等の観点から、および一般システム論と自己組織化研究、等の観点から 13.所得と格差社会について 14.修士論文のテーマ発表① 15.修士論文のテーマ発表② |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|               |  |       |           |     |       |        |
|---------------|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度            | 2012   | 授業コード | J73129A01 |     |       |        |
| 科目名           | 【院】 中小企業経営論研究 A  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)    | Small Business Management A  |       |           |     |       |        |
| 担当者名          | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要          | <p>戦後日本の中小企業は、高度成長、バブル期を経て、現在失われた 20 年と揶揄される時代を迎えているが、中小企業ではその独自性を活かし、自助努力により活力を持って日本経済を支えている存在である。  この間事業所数ベースで約 99 パーセントの割合を占める中小企業が、日本経済の発展成長に果たした役割には多大なものがあるといえる。  このため中小企業経営論の研究に当たり、本講座では、戦後の中小企業の歩みについてその実態の理解を進めるとともに、国の中小企業政策面からの考察も行い、中小企業経営に国の政策面から何が求められ、それに対して、中小企業がどのように対応したか、そして現状における課題およびそれをどのように解決していくのかについて、中小企業論を踏まえた中小企業経営論の解明を行いたい。  このため研究の中心は、中小企業基本法、中小企業白書、国の中小企業政策の推移等を中心に据えての講義となる。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)     |  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)     | 必要の都度紹介する。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)      | 適宜プリントを配布  |       |           |     |       |        |
| 評価方法          | 平常点 50%、レポート 50%   |       |           |     |       |        |
| 到達目標          | 日本における中小企業の戦後の軌跡、現状と課題を中小企業論の観点を踏まえ理解習得する事によって、実際の中小企業経営に資する、能力の涵養を図る。  当該講座により習得した知識およびスキルは、起業はもとよりありとあらゆる組織の一員としても、活用できるものである。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習          | 日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報入手に努める。  特に最近は中小企業研究の著書が減少傾向にあることから、政府機関など公的機関が発行する中小企業関連冊子、ネット情報などの取得にも留意されたい。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望       | 中小企業への関心を常にもって、中小企業の課題などの解決に必要とされるマネジメントを念頭に、双方向の授業となりますので、積極的な参加をお願いします。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント    | <p>1 はじめに (本講座の概要)   2 戦後中小企業の軌跡～戦後復興期   3 ～高度成長期   4<br/>～バブル期から現在   5 中小企業基本法と中小企業経営～改正前基本法   6<br/>改正後基本法   7 ～経営革新、創業、連携を中心とした経営   8 中小企業白書<br/>に見る中小企業経営の現状と課題   9 ②   10<br/>③   11 中小企業政策と中小企業経営   12 ②   13<br/>③   14 まとめ   15 ②   適宜講義内容を踏まえた課題に基づき、グループワークを行う。</p>  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |  |       |           |     |       |        |
|               |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73129B01 |
| 科目名        | 【院】 中小企業経営論研究 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Small Business Management B  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>中小企業経営は、中小がゆえの特色と独自性を持って行われてきた。しかしながら総じてその経営は、大企業経営と比較して、生産性が低い、賃金が低い、設備が前近代的である、家計と企業が分離で経営実体が把握できないなどさまざまな経営上の問題を抱えて行われてきたことは周知のことである。  この事に加え企業のライフサイクル面からの考察を加えれば、スタートアップ期、発展成長期、安定期、衰退期（事業承継期）それぞれのステージにおいて求められるマネジメントの方法は、おのずと差異が生じると考えられる。  以上から中小企業の特色を踏まえた、各ライフステージにおける中小企業経営論について考察を進めたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要の都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要の都度プリントを配布   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50% レポート点 50%  |       |           |
| 到達目標       | 本講座受講により得た知識は、実際の中小企業経営に資する知識とスキルの習得を行う。  なお中小企業経営に限らず、どのような進路を選択肢を選ぼうとも、活用できるよう研究を進める。  |       |           |
| 準備学習       | 日常においても中小企業経営に関心を持ち、関連する情報について、専門書、専門雑誌、ネットなどにより、収集に努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 双方向の講座を目指していますので、積極的な授業への参加をお願いいたします。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに (本講座の概要)   2 中小企業経営における特質   3 スタートアップ (起業) 時における中小企業経営) ~ ビジネスチャンスの発見   4 ~ 経営資源の調達   5 ~ ビジネスシステムの構築   6 発展・成長期における中小企業経営 ~ 組織化戦略   7 ~ 成長戦略   8 ~ 財務戦略   9 安定期における中小企業経営 ~ イノベーションと多角化戦略 ①   10 ②   11 ③   12 衰退期 (事業承継期) における中小企業経営 ~ 事業承継における留意点   13 ~ 事業承継構想   14 ~ 事業承継計画   15 まとめ  </p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73141A01 |
| 科目名   | 【院】経営管理論研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Business Management Research A   |       |           |
| 担当者名  | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。  この講義では、まず、管理論が生成した背景を学びます。次に、経営管理の理論的な発展過程を体系的に理解します。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって 20 世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論、人間関係論などさまざまな理論が発展しています。これらの理論を踏まえて、組織をどう統制し、戦略はどう策定するのかという課題を、実例を通して考察します。講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかを、経営管理論という立場から説明できるようになることをめざします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著『経営管理論 新版』有斐閣アルマ,2009 年,1995 円。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (60%) 出席状況等による。レポート (40%)。   |       |           |
| 到達目標  | 経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 ガイダンス (授業の進め方や目的の説明等)   2 企業の形態と株式会社について   3 経営管理の生成① (所有と経営の分離など)   4 経営管理の生成② (所有と経営の分離の事例分析)   5 経営管理の生成③ (持株会社の事例分析)   6 経営管理の発展① (経営管理の諸理論)   7 経営管理の発展② (経営管理の諸理論)   8 組織のデザイン① (組織構造の種類、利点と問題点)   9 組織のデザイン② (組織構造の事例分析)  10 経営戦略① (代表的な理論)  11 経営戦略② (事例分析)  12 資源の管理① (代表的な理論)  13 資源の管理② (事例分析)  14 企業の社会的責任と CSR  15 まとめ  授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。</p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73141B01 |
| 科目名   | 【院】経営管理論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Business Management Research B   |       |           |
| 担当者名  | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 経営管理の代表的な学説を学ぶとともに、現代企業を取り巻くさまざまな活動を経営管理という視点から考察します。経営管理は、日常何らかの組織にかかわりをもっている私たちにとって、最も関連の深い学問です。経営を構成体としてみれば組織であり、組織が成立するところには組織を形成・維持するための管理機能が生じます。今日の経営管理論の基礎は、テイラーの科学的管法やファヨールの管理論の出現によって20世紀初頭に築かれました。その後、近代管理論や人間関係論などの理論が発展してきました。  この講義では、経営管理の基本的な理論を踏まえて、企業の活性化や変革、情報通信技術を利用した組織デザインなど、現代企業が直面するさまざまな課題について検討します。  講義を通じて、いま企業がどのような課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかという実践的なプロセスを理論的に説明できるようになることをめざしています。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著『経営管理論 新版』有斐閣アルマ,2009年,1995円。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布します。新聞記事やビデオ教材を使用することもあります。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（60%）出席状況などによる。レポート（40%）。   |       |           |
| 到達目標  | 経営管理の代表的な学説を体系的に把握できること。 現代企業を取り巻くさまざまな活動を、経営管理の視点から考えられるようになること。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成します。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| この講義は事前学習を必要とします。テキストを事前に読んでまとめ、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 ガイダンス（授業の進め方や目的の説明等） 2 モチベーションと組織活性化①（人間関係論、動機づけ理論など） 3 モチベーションと組織活性化②（事例分析） 4 経営のリーダーシップ①（代表的な理論） 5 経営のリーダーシップ②（事例分析） 6 企業文化の創造と変革  7 日本の経営管理（日本の経営について） 8 組織間関係の管理①（戦略的提携に向けての基礎） 9 組織間関係の管理②（事例分析） 10 グローバル戦略①（日本企業の国際化の論理） 11 グローバル戦略②（事例分析） 12 情報管理①（代表的な理論） 13 情報管理②（事例分析、インターネットビジネス） 14 情報管理③（事例分析、テレワーク） 15 まとめ  授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新的话题を取り上げていきたいと考えています。 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73146A01 |
| 科目名        | 【院】財務諸表論研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Financial Statements Research A  |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と相談の上決定する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて随時指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)   |       |           |
| 到達目標       | 税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。  |       |           |
| 準備学習       | 報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくる。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 企業経営における会計の基本的な機能 3. 会計の本質と概念フレームワーク 4. 日本の会計制度 5. 会計の国際化とコンバージェンス 6. 財務会計のシステムと複式簿記 7. 会計公準と会計原則 8. 一般原則 9. 損益計算書原則 10. 貸借対照表原則 11. 貸借対照表の様式と見方 12. 損益計算書の様式と見方 13. キャッシュ・フロー計算書の様式と見方 14. その他のディスクロージャー 15. 総括  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73146B01 |
| 科目名        | 【院】財務諸表論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Statements Research B  |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究Aでは、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究Bでは、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と相談の上決定する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて随時指示する   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%   |       |           |
| 到達目標       | 税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。  |       |           |
| 準備学習       | 報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくる。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 資産の会計 1：金融商品 2. 資産の会計 2：棚卸商品 3. 資産の会計 3：有形固定資産 4. 資産の会計 4：無形固定資産 5. 資産の会計 5：減損 6. 負債の会計 1：引当金 7. 負債の会計 2：退職給付 8. 負債の会計 3：資産除去債務 9. 純資産の会計 10. 収益の認識と測定 11. 費用の認識と測定 12. 企業集団と連結会計 13. 企業結合の会計 14. 税効果会計 15. 総括：改めて会計とは何か  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73150A01 |
| 科目名        | 【院】起業論演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Entrepreneurship Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、起業論として展開されている国内外の理論をケーススタディの手法によって知識を深めるとともに、自らの課題設定ができるように指導する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『アントレプレナーシップ』(ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経BP社) 『アントレプレナーシップ入門』(D・J・ストーリー著、有斐閣) 『アントレプレナー創造』(高木晴夫著、生産性出版)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 関連論文、専門誌掲載記事等   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席・授業内報告などによる。レポート (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 起業に関わる理論やデータの概観を把握し、事例を研究分析する基礎力をつける。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布する資料を読み、理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 起業についての総論 2. 起業と経済成長① 3. // ② 4. 起業論の分類 5. 起業論の評価 6. ケーススタディの方法 7. ケースライティングについて 8. // ⑨. ケースの設定 10. ケーススタディ① 11. // ② 12. // ③ 13. // ④ 14. ケース分析① 15. // ② |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J73150B01 |
| 科目名   | 【院】起業論演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Entrepreneurship Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 起業についての基礎理論と習得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。 演習Aで学んだことを基に、起業家や起業支援機関の調査やヒアリングを行い、自分自身の研究テーマを見つける。          |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経BP社） 『アントレプレナーシップ入門』（D・J・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版） |       |           |
| 教材（その他）   | 関連論文、専門誌掲載記事等   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%）出席・授業内報告などによる。レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標  | 起業に関わる理論やデータの概観を把握し、研究分析力をつける。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に与えられた課題を実行すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 演習Aの振り返りとガイダンス 2. 研究テーマ設定の考え方 3. テーマ設定と周辺情報収集の方法 4. 情報収集と整理① 5. // | ② 6. 調査及びヒアリングの方法 7. 起業家・支援機関のヒアリング計画 8. //   |       |           |
| 9. ヒアリング 10. ヒアリング 11. ヒアリング結果の整理 12. 論文作成の基本 13. 論文構成について 14. //     | 15. まとめ   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73151A01 |
| 科目名        | 【院】財務諸表論演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Financial Statements A   |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習は、A,B,C,D4つの演習が1セットであり、2年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自が特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 まず最初の Semester では、論文テーマの選択を見据えながら、会計の基礎的概念を理解することを中心に研究の基礎を固めていきたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開講後、受講者と相談しながら決定する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 斎藤静樹編著『詳解 討議資料 財務会計の概念フレームワーク』第2版 中央経済社   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%  |       |           |
| 到達目標       | (1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること   |       |           |
| 準備学習       | ほぼ毎回次回への課題を用意するので報告レジュメにまとめてくること  |       |           |
| 受講者への要望    | 問題意識をもって課題に取り組み、受講すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.オリエンテーション 2.修士論文の方向性に関する指導(1) 3.修士論文の方向性に関する指導(2) 4.図書館を中心とする資料検索の方法に関する指導 5.会計上の諸概念の検討(1) 6.会計上の諸概念の検討(2) 7.会計上の諸概念の検討(3) 8.会計上の諸概念の検討(4) 9.会計基準を巡る諸問題の検討(1) 10.会計基準を巡る諸問題の検討(2) 11.会計基準を巡る諸問題の検討(3) 12.会計基準を巡る諸問題の検討(4) 13.会計基準を巡る諸問題の検討(5) 14.会計基準を巡る諸問題の検討(6) 15.演習 B に向けての課題設定 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73151B01 |
| 科目名        | 【院】財務諸表論演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Financial Statements B  |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習は、A,B,C,D4つの演習が1セットであり、2年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。演習Bでは、テーマもしくは題材を決定し、先行研究をリファアーしながら本人の方向性を決定していくことにする。このセメスターのうちにある程度論文のフローチャートが完成することが望ましい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開講後、受講生と相談しながら決定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 斎藤静樹編著 『詳解 討議資料 財務会計の概念フレームワーク』第2版 中央経済社   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%   |       |           |
| 到達目標       | (1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること  |       |           |
| 準備学習       | ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること  |       |           |
| 受講者への要望    | 問題意識を持って課題に取り組み受講すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習Cに向けての課題整理 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J73155A01 |
| 科目名  | 【院】国際経営論研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | International Management Research A  |       |           |
| 担当者名   | 仲田 正機  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>経済のグローバル化と企業経営の国際化の進展によって、国際経営論研究の重要性はこれまでになく増大している。今年度は、企業経営の国際比較の視点から、コーポレート・ガバナンスの問題に焦点を合わせて、講義を進めたい。  講義の前半では、国際経営を展開する企業におけるガバナンスの基本構造と、国際比較のパスpekティブについて考察し、講義の後半では日本・英米両国・中国におけるコーポレート・ガバナンス改革の国際比較分析を行なうことにしたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | <p>テキスト； 仲田正機 (編著)『比較コーポレート・ガバナンス研究—日本・英国・中国の分析—』(中央経済社)の内容に沿って、講義を進める。但し、テキストの購入を義務づけません。資料をプリントして配布する予定である。</p>  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 植竹・仲田 (編著)『現代企業の所有・支配・管理』(ミネルヴァ書房)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 国際経営に関する資料やインターネット (各社HP) は、適宜、講義の進捗状況に合わせて紹介します。  |       |           |
| 評価方法   | <p>授業への出席と、質問、討論、発表などの貢献度を 50 パーセント、期末のレポート、またはまとめの口頭発表における創造性や論理性等を 50 パーセントで評価し、それらを基にして総合的に評価する。</p>  |       |           |
| 到達目標   | <p>現代経営は、中小企業も含めてグローバル化しつつあり、今日の企業経営を理解するには、国際経営の知識が不可欠である。この講義を通じて、国際比較を含む国際経営論の基本問題と基礎理論にアプローチすること、これを到達目標としたい。</p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>受講する前提として、まず海外の出来事に対する興味、関心、好奇心が少なからず持っている受講生を望みます。その上で、経営と経済の基本的な知識があれば、十分です。講義を受講する段階では、受講生の実情に合わせて、相談しながら準備学習について指示します。</p>  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>物事を明らかにしてやろうという、探究心を絶やさないう、諦めないで、向き合って欲しいものである。これさえあれば、必ず講義を通じて、自分がやり遂げたいことを達成できるはず。この達成感が大切です。これを得るために頑張る人、待っています。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 国際経営の基本問題—本国籍会社と在外子会社の関係  2 国際経営と国際比較経営の研究課題  3 主要国におけるコーポレート・ガバナンス改革の動向  4 国際比較コーポレート・ガバナンスの研究動向  5 比較制度分析について理解を深める  6 プリンシパル—エージェンシー理論は何を解いているか  7 主要国における「エージェンシー問題」の多様性  8 英国と米国におけるコーポレート・ガバナンス改革と規制強化  9 英米両国における機関株主の増大とCGの構造変化 10 日本におけるCGの構造変化 11 日本におけるCG改革と経営者インセンティブ問題 12 中国におけるCGの展開 13 中国企業のガバナンス改革と経営者インセンティブ問題 14 多国籍企業—国際経営のCGの実践課題 15 国際経営研究と企業理論の展開</p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J73155B01 |
| 科目名  | 【院】国際経営論研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Management Research B  |       |           |
| 担当者名   | 仲田 正機  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | いま、東アジアビジネス圏は、中国の著しい経済発展によって新しい発展の局面に入っている。そのなかでも、日本、中国、韓国を含む東北アジアにおける経済交流とビジネス提携が顕著である。この地域では、どの国から見ても、国際経営の展開のモデル地域であると言っても過言ではない。  この授業では、中国における市場経済発展・産業発展・企業制度改革が、どのように国際経営の展開をもたらしているかについて研究することにした。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定のテキストは使用しないで、レジュメと資料をプリントして準備します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 仲田正機ほか（編著）『東北アジアビジネス提携の展望』（文眞堂 刊）。  そのほか、授業の進捗状況に合わせて、講義の中で紹介します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 日系各企業の東アジア地域を中心とする「国際経営」の展開に関する資料を、講義の進捗状況に合わせて、資料として準備します。また、受講者に事前に調べてほしいものについては授業中に紹介します。   |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加度、および最終時間における試験か口頭発表で、総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 東アジア地域における日系多国籍企業の国際経営について、理論的・実証的に分析する仕方を身につけること、これを獲得目標とします。   |       |           |
| 準備学習   | 春学期の「国際経営論研究A」を受講してほしい。また、東アジア地域の経済交流やビジネス提携について、日頃から、新聞や雑誌で記事に親しんでもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 中国や韓国等の経済発展と企業改革に関心を向けてほしい。これらの国の企業との共生（提携）は、今後の日本企業には必須の要件である。受講者のこれからの生き方に繋がる問題でもあり、自分に関りのあることとして研究してもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 東アジア（経済）共同体への展望と各国企業の課題  2 中国の市場経済とは、何か、それはどのように発展してきたか  3 国有企業の改革と民営企業の発展   4 民営企業の発展経過と発展形態  5 市場経済の発展における外国企業と中小企業の役割  6 外国企業が展開する「国際経営」の具体的展開（1）  7 同上（2）  8 同上（3）  9 国有企業の現状と課題 10 国有企業改革と経営機関の形成・発展 11 物流インフラ整備の課題 12 中小民営企業の技術水準 13 国有大企業の「国際経営」展開 14 東北アジアビジネス提携における政府の役割 15 展望と課題 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J73157A01 |
| 科目名  | 【院】アジア情報研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Regional Situation Analysis in Asia A                                    |       |           |
| 担当者名   | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 各回授業の平常点（50点）＋レポート（50点）  |       |           |
| 到達目標   | インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。                     |       |           |
| 準備学習   | 英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。                    |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス   2. インドの歴史1   3. 学生による報告・ディスカッション   4. インドの歴史2   5. 学生による報告・ディスカッション   6. インドの文化1   7. 学生による報告・ディスカッション   8. インドの文化2   9. 学生による報告・ディスカッション   10. インドの宗教1   11. 学生による報告・ディスカッション   12. インドの宗教2   13. 学生による報告・ディスカッション   14. 南アジアと東アジアについて   15. まとめ   (受講者の理解度や希望に応じて内容を変更することもある。) |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J73157B01 |
| 科目名   | 【院】アジア情報研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Regional Situation Analysis in Asia B                                    |       |           |
| 担当者名  | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示する   |       |           |
| 評価方法  | 各回授業の平常点（50点）＋レポート（50点）  |       |           |
| 到達目標  | インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。                     |       |           |
| 準備学習  | 英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。                    |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス   2. インドの政治1   3. 学生による報告・ディスカッション   4. インドの政治2   5. 学生による報告・ディスカッション   6. インドの経済1   7. 学生による報告・ディスカッション   8. インドの経済2   9. 学生による報告・ディスカッション   10. インドの企業1   11. 学生による報告・ディスカッション   12. インドの企業2   13. 学生による報告・ディスカッション   14. インドの将来について   15. まとめ   (受講生の理解度や希望に応じて内容を変更することもある。) |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73158A01 |
| 科目名        | 【院】経営史研究A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management History A  |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見出し、変化の極点として現代を捉え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、ということも出来よう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上で決める。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | I 1.日本経営史の課題  2.江戸時代の経済発展  3.江戸時代の商家経営  4.江戸期商家の経営システム  5.商家の経営管理システム II 6.明治前・中期の日本経済  7.近代的経営組織の形成  8.近代的経営管理の形成  9.明治国家と企業 II 10.日露戦後から昭和初年に至る日本経済  11.大企業時代の到来  12.新興産業の勃興と産業開拓活動  13.企業活動の国際化  14.経営管理の進展  15.まとめ  *受講者の顔触れにより、講義の順序や重点を変更することがある。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73158B01 |
| 科目名        | 【院】経営史研究B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management History B   |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見出し、変化の極点として現代を捉え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、ということも出来よう。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講者と相談の上で決める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>III 1.日本経営史の課題  2.戦前から戦後へ--経済政策の展開と経営環境の変化  3.大企業体制の変遷  4.労使関係の変化  5.技術開発の推進  6.経営管理の展開 IV 7.高度成長とその後の日本経済の変転  8.成長を実現したメカニズム--中間組織の成長促進機能  9.日本的経営と協調的労使関係  10.資本家企業の急成長  11.中小企業の役割と第三次産業の動向  12.技術革新と技術開発  13.多品種少量生産体制の構築  14.日本的経営の光と影  15.まとめ  *受講者の顔触れにより講義の順序や重点を変更することがある。</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J73160A01 |
| 科目名       | 【院】マーケティング論演習A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Seminar on Marketing A   |       |           |
| 担当者名      | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | マーケティングに関する基礎的研究書、論文の収集と内容整理を行う。 その中から1,2冊を選定し、春学期のうちに内容を理解し、修士論文のテーマ探しをする。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 関係研究書、論文の収集整理力（60%）、授業参加度（40%）   |       |           |
| 到達目標      | マーケティング研究書・論文を収集することにより、マーケティングの研究範囲の理解と、今後の個人研究のテーマを決めるための準備段階とすることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習      | あらかじめ研究書、論文をどうリストアップするかを考えておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 個人での研究作業が中心となるので、時間をコントロールして十分な時間を演習にかけられるよう周囲の環境を整えておくこと。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1.                 イントロダクション 2～1 2.    個人研究（適宜指導する） 1 3, 1 4    春学期まとめ報告                          （読了した研究書・論文の中から1つ選び、その要旨と自分の意見をまとめ、報告する） 1 5.                 修士論文のテーマ指導、秋学期のための準備指導 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73160B01 |
| 科目名        | 【院】マーケティング論演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Marketing B   |       |           |
| 担当者名       | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文のテーマの方向性を確定し、その範囲での先行論文、研究の資料収集。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜提示、指導する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 研究成果（収集力、内容把握力）（60%）、研究時間、態度（40%）  |       |           |
| 到達目標       | 個人が研究するテーマでの先行研究の把握を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 春学期で得た知識の整理をしておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 個人研究が中心となるので、時間管理をしっかりとやり、学習の成果をあげること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 インTRODクシヨン 2~12 先行論文・研究書の収集と整理  少なくとも 2,3 冊はしっかり読み<br>こすこと 13、14 修士論文のテーマを確定する  15 秋学期のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|             |   |       |           |     |       |        |
|-------------|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度          | 2012  | 授業コード | J73161A01 |     |       |        |
| 科目名         | 【院】マーケティング論研究A  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)   | Special Studies A on Marketing  |       |           |     |       |        |
| 担当者名        | 足立 勝彦   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要        | マーケティングの理論と戦略性、有効性について考察していく。 講義は、講義、研究書輪読、演習などを組み合わせて進めていく。最後に学んできたマーケティングに関して、個人でテーマをもうけ、レポートを提出する。   |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)    | P. コトラー『コトラーのマーケティング入門』ピアソン・エディケーション  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)    |   |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)     |   |       |           |     |       |        |
| 評価方法        | 授業理解度 50%、レポート点 50%の合計点   |       |           |     |       |        |
| 到達目標        | マーケティングの基本理論を習得することを目標とする。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習        | マーケティングの基本的知識について学習しておくこと   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望     | 「ブランド・マネジメント論」「消費者行動論」「広告ビジネス論」並びに「マーケティング論」などを履修済みの学生対象。授業時間外の研究活動も相当時間必要とされるので意欲的な学習態度が必要である。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  | 1 インTRODクシヨN  2~12 主としてP.Kotler「MARKETING AN INTRODUCTION」(邦題「コトラーのマーケティング入門」)を用いて、  マーケティング、とくにプランニングに必要な要点について学ぶ   (1) マーケティングとは何か  (2) 企業のミッション  (3) マーケティング戦略(競争モデルを中心に)  (4) マーケティング・ミックス  (5) ターゲット・マーケティング  (6) マーケティングセグメンテーション事例1  (7) マーケティングセグメンテーション事例2  (8) マーケティングセグメンテーション事例3  (9) ポジショニング戦略  (10) スポーツマーケティング事例  13~14 春学期のまとめとしてのレポート  15 レポート提出・発表&評価 |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |   |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J73161B01 |
| 科目名        | 【院】マーケティング論研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Special Studies B on Marketing   |       |           |
| 担当者名       | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | マーケティング理論、とりわけ戦略論としてのブランド論の研究。 広範なマーケティング領域の中から戦略論としての「ブランド論」に焦点をあて、その理論と戦略性、有効性について考察していく。 講義は、講義、研究書輪読、演習などを組み合わせて進めていく。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 足立勝彦、市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房 2000 円   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業理解度 50%、レポート点 50%の合計点  |       |           |
| 到達目標       | ブランド戦略の手法と有効性についての理解を高めることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | ブランドに関する研究書、書籍を事前に1冊以上読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ○前期のマーケティング論研究 A で学んだことを復習しておくこと。 ○授業時間外の研究活動も相当時間必要とされるので意欲的な学習態度が必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション  2~10 「ブランド・インサイト」の輪読形式によりブランド戦略について理解を深めていく  <br>(1) ブランドとは何か  (2) ネーミング  (3) ブランドのデザインング  (4) ブランドの機能1  <br>(5) ブランドの機能2  (6) ブランドの機能3  (7) ブランド・コアバリュー  (8) ブランド・ロイヤルティ <br>(9) ブランドのM&A事例 11~14 ブランドに関するテーマを各自設定し、研究レポートを作成  15 レポート提出ならびに発表 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73164A01 |
| 科目名        | 【院】経営組織論研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Organization Theory A   |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現代社会においては、企業をはじめとして、組織というものがさまざまな形で存在しており、社会にとって不可欠な存在となっているが、われわれが生活を営んでいく上でもこれらの組織との関係を避けて通ることはできないものとなっている。したがって、われわれにとっても組織というものを理解することが非常に重要となるのである。このような組織はなんらかの目的を達成するために形成されるものであるため、組織の立場からするとその目的を合理的・効率的に達成する必要がある。しかし組織の立場を重視するあまり、その構成員である個人の人間性を無視して活動すれば、その組織の存続が危うくなるのは明白である。また組織は、その組織を取り巻く社会を考慮することなく活動する場合にも同様に社会的に存続することができなくなる。このように、経営組織論においては、効率性、人間性および社会性というものが非常に重要になってくる。したがって、本講義では、このような観点のもと、「個人とはなにか」、「組織とは何か」、「個人と組織との関係はどのようなものか」および「組織と組織との関係とはどのようなものか」などといった根本的な問題について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解することが目的である。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 稲村毅・百田義治『経営組織の論理と変革』ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指示する  |       |           |
| 評価方法       | 原則として、平常点 (40%)・毎回の報告内容 (30%)・レポート (30%) に基づき評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営組織論の基本問題である「個人」、「組織」、「個人と組織との関係」および「組織と組織との関係」について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 講義は経営組織論に関するテキストを輪読し、主として学生による報告、質疑および議論によって行う。したがって、受講者全員がテキストの該当部分を予習し、報告担当者はその該当部分のレジュメを作成することが必要となる。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得している方を望む。講義への積極的な参加を期待する。</p> <p>講義の順序とポイント</p> <p>1. ガイダンス：講義の目的と視点   2. 組織の概念   3. 経営組織と効率性①   4. 経営組織と効率性②   5. 経営組織と効率性③   6. 経営組織と人間性①   7. 経営組織と人間性②   8. 経営組織と人間性③   9. 経営組織と社会性①   10. 経営組織と社会性②   11. 経営組織と社会性③   12. 現代経営組織の基本問題①   13. 現代経営組織の基本問題②   14. 現代経営組織の基本問題③   15. まとめ   ※ 学生の興味や理解度に応じて、講義の順序や重点を変更することがある。</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73164B01 |
| 科目名        | 【院】経営組織論研究 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Organization Theory B   |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現代社会においては、企業をはじめとして、組織というものがさまざまな形で存在しており、社会にとって不可欠な存在となっているが、われわれが生活を営んでいく上でもこれらの組織との関係を避けて通ることはできないものとなっている。したがって、われわれにとっても組織というものを理解することが非常に重要となるのである。このような組織はなんらかの目的を達成するために形成されるものであるため、組織の立場からするとその目的を合理的・効率的に達成する必要がある。しかし組織の立場を重視するあまり、その構成員である個人の人間性を無視して活動すれば、その組織の存続が危うくなるのは明白である。また組織は、その組織を取り巻く社会を考慮することなく活動する場合にも同様に社会的に存続することができなくなる。このように、経営組織論においては、効率性、人間性および社会性というものが非常に重要になってくる。したがって、本講義では、このような観点のもと、「個人とはなにか」、「組織とは何か」、「個人と組織との関係はどのようなものか」および「組織と組織との関係とはどのようなものか」などといった根本的な問題について、経営組織論研究が盛んに行われているアメリカとドイツの諸学説を検討することによって理解を深めることが目的である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 第1回目の講義でテキストを指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 水原熙『西ドイツ経営組織論（改訂増補版）』森山書店 エーリッヒ・フレーゼ著、清水敏允監訳『組織デザインの原理』文眞堂  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 原則として、平常点（40％）・毎回の報告内容（30％）・レポート（30％）に基づき評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 経営組織論の基本問題である「個人」、「組織」、「個人と組織との関係」および「組織と組織との関係」について経営組織論の中でどのように検討されているのかを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 講義は経営組織論に関するテキストを輪読し、主として学生による報告、質疑および議論によって行う。したがって、受講者全員がテキストの該当部分を予習し、報告担当者はその該当部分のレジュメを作成することが必要となる。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得している方を望む。講義への積極的な参加を期待する。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ガイダンス：講義の目的と視点  2. アメリカにおける古典的経営組織論①  3. アメリカにおける古典的経営組織論②  4. アメリカにおける伝統的経営組織論①  5. アメリカにおける伝統的経営組織論②  6. アメリカにおける近代的経営組織論①  7. アメリカにおける近代的経営組織論②  8. ドイツにおける古典的経営組織論①  9. ドイツにおける古典的経営組織論②  10. ドイツにおける伝統的経営組織論①  11. ドイツにおける伝統的経営組織論②  12. ドイツにおける経営経済学的組織論①  13. ドイツにおける経営経済学的組織論②  14. その他の組織論の動向  15. まとめ ※ 学生の興味や理解度に応じて、講義の順序や重点を変更することがある。</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J73165A01 |
| 科目名  | 【院】経営戦略論研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 代表的な経営戦略策定手法を紹介し、それをケーススタディで実際に活用することで、修得する。          |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介します   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配付します  |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加度（50%）、発表内容（50%）                                |       |           |
| 到達目標   | 経営戦略策定の手法を修得する。                                       |       |           |
| 準備学習   | 毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 財務分析 3. // ケーススタディ 4. SWOT 分析 5. // ケーススタディ 6. PPM 7. // ケーススタディ 8. 競争戦略 9. // ケーススタディ 10. 成長戦略 11. // ケーススタディ 12. BPR 13. // ケーススタディ 14. 戦略マップ 15. // ケーススタディ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J73165B01 |
| 科目名        | 【院】経営戦略論研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名       | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業の経営戦略についてのケーススタディを行う。 個人ごとに日本の企業の中から1社を選んで、文献、雑誌記事、新聞記事、企業のホームページなどを基に、その企業の経営戦略について調査・分析・考察を行う。それをパワーポイントを使って発表し、全体で討議を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介します   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配付します  |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加度（50%）、発表内容（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 企業分析の方法を修得する。 自分が研究対象として選んだ企業の経営戦略についてプレゼンテーションができる。  |       |           |
| 準備学習       | 各自の研究成果の発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究対象企業の選択 2. 関連文献、資料の調査① 3. 関連文献、資料の調査② 4. 研究概要の発表、討議① 5. 研究概要の発表、討議② 6. 分析、発表資料作成① 7. 分析、発表資料作成② 8. 中間発表、討議① 9. 中間発表、討議① 10. 追加調査・分析、発表資料作成① 11. 追加調査・分析、発表資料作成② 12. 発表、討議① 13. 発表、討議② 14. 発表、討議③ 15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J73166A01 |
| 科目名  | 【院】経営戦略論演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 経営戦略に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。                    |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介します   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配付します  |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加度（50%）、発表内容（50%）                                |       |           |
| 到達目標   | 修士論文のテーマ選定に向けての準備。                                    |       |           |
| 準備学習   | 毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。                             |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2～14. 文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15. まとめと秋学期への準備 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J73166B01 |
| 科目名  | 【院】経営戦略論演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。           |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介します   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配付します  |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加度（50%）、発表内容（50%）                                |       |           |
| 到達目標   | 修士論文のテーマを決定。  |       |           |
| 準備学習   | 毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 修士論文テーマ仮決定 2~14. テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15. 修士論文テーマ決定 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74001A01 |
| 科目名   | 【院】労働法A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Labor Law A   |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 | 【院】労働法I   |
| 講義概要  | <p>本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法を中心に、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な問題、就業規則の不利益変更、わが国の解雇法制、時間外労働に対する規制、配転・出向、および、セクシュアル・ハラスメントなどの問題につき、判例や論文等を素材に受講生全員で考察していく。  各テーマを受講生に割り当てたうえ発表・報告してもらう。報告者以外の受講生にもそのテーマについての予習を前提に授業を進めていく。特に報告者は相当の時間と労力を注ぎ込む覚悟が必要である。熱意のある受講生を希望する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書（テキスト）は特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 参考文献等については開講時に説明する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）価格未定  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提に、授業時の報告およびレポート（70%）と期末の面接試験（30%）とで行なう予定である。   |       |           |
| 到達目標  | 労働法上の重要テーマを通じて、労働法の基礎知識をはじめ、労働法の考え方や労働法の判例の読解力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習  | 授業で取り上げる各テーマについて、開講時又は随時説明する参考文献を事前に必ず通読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業で取り上げた各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1回 講義の進め方・その他諸注意 -- 最近の労働法上の問題点について 第2回 労働条件の不利益変更 その1 第3回 労働条件の不利益変更 その2 第4回 労働条件の不利益変更 その3 第5回 解雇制約法理について その1 第6回 解雇制約法理について その2 第7回 解雇制約法理について その3 第8回 時間外労働の問題について その1 第9回 時間外労働の問題について その2 第10回 配転・出向問題について その1 第11回 配転・出向問題について その2 第12回 配転・出向問題について その3 第13回 セクシュアル・ハラスメント問題について その1 第14回 セクシュアル・ハラスメント問題について その2 第15回 セクシュアル・ハラスメント問題について その3</p> |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74001B01 |
| 科目名        | 【院】労働法B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Labor Law B   |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 | 【院】労働法II  |
| 講義概要       | 本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法および集団的労働関係法を中心に、テーマについては受講生とも相談しながら決めていく。基本的には労働法Aを受講・履修していることが望ましい。  重要な裁判例や論文等を素材に、各テーマにつき受講生に割り当て、発表・報告したうえで、受講者全員で考察していく。報告者以外の受講生にもそのテーマにつき十分な予習を要求する。学問に対して熱意ある受講生を希望する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書（テキスト）は特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 参考文献等については開講時に説明する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）価格未定  |       |           |
| 評価方法       | 出席を前提に、授業時における積極的な姿勢・発言内容等を重視したうえで（60%）、報告内容や期末のレポート（40%）をもとに行なう予定である。  |       |           |
| 到達目標       | 労働法上の重要テーマを通じて、各争点における学説や裁判例における見解を法理論的に分析したうえで、当該争点につき各自の意見を明確に提示できるようにすること。   |       |           |
| 準備学習       | 授業で取り上げる各テーマについて、開講時又は随時説明する参考文献を事前に必ず通読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回取り上げた各テーマについて積極的に調べ、考察し、そのうえで授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組むことを求める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 本講義で取り扱うテーマについては、受講生とも相談しながら決定するので、講義の順序に沿った形では記載できないが、参考までに取り扱う可能性のあるテーマを下記に掲げておく（各テーマにつき授業回数としては3回程度である）。 第1回 労働条件の個別化に伴う問題について その1 第2回 労働条件の個別化に伴う問題について その2 第3回 労働条件の個別化に伴う問題について その3 第4回 雇用形態の多様化に伴う新たな問題について その1 第5回 雇用形態の多様化に伴う新たな問題について その2 第6回 雇用形態の多様化に伴う新たな問題について その3 第7回 労働法の規制緩和について その1 第8回 労働法の規制緩和について その2 第9回 雇用の平等に関連する問題について その1 第10回 雇用の平等に関連する問題について その2 第11回 雇用の平等に関連する問題について その3 第12回 職場におけるプライバシー問題について その1 第13回 職場におけるプライバシー問題について その2 第14回 労働組合法制の再検討について その1 第15回 労働組合法制の再検討について その2 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J74020A01 |
| 科目名   | 【院】金融取引法演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Financial Dealings Law Seminar A   |       |           |
| 担当者名  | 渡邊 博己  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 預金取引・貸出取引・為替取引など、銀行の主要な取引種別ごとに、数個のテーマを設定し、それに関する主要な判例について、判例法上の位置づけや学理上の問題点を踏まえ、具体的な銀行実務において、どのようなことを留意して対応すべきかという点を中心に検討する。受講者の個別報告を中心に進行を図っていくこととする。               |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 指定しない。  必要に応じて、判例・文献・その他を指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 階猛・渡邊雅之「銀行の法律知識<第2版>」(日経文庫)  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 個別報告 (50%)・レポート (50%)  |       |           |
| 到達目標  | すでに民法・商法の基本知識を習得していることを前提に、銀行の日常業務である預金取引・貸出取引・為替取引等について、これらの法律が、銀行実務において、どのように運用されているかを明らかにする。具体的には、判例の事案を素材にして、銀行実務との関わりあいの中で問題点を抽出し、あるべき実務対応を考える能力の涵養を図ることを目標とする。 |       |           |
| 準備学習  | 各回のテーマについて、事前に判例集にあたって十分に予習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 教室では、できれば学生と教員との間での議論できる時間を持つようにしたいので、受講者には、事前に判例集にあたって十分に予習をし、各回のテーマについて、それぞれの考え方をまとめ、問題意識をもって受講することを求める。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. 銀行業務・銀行取引と法律・約款(1)   2. 同上(2)  銀行法、独占禁止法、金融商品販売法、組織犯罪処罰法、本人確認法など民商法以外の法律が、銀行取引においても、充分に目配りする必要があることはいうまでもない。とくに、最近の金融機関において、これらの法令の遵守をはじめとするコンプライアンス態勢の確立が求められる中、一方では、預金口座不正利用も頻発している。金融機関実務としては、これらの事態にどういった対応を図るべきか等についても、検討する。   3. 銀行の守秘義務と情報提供(1)  4. 同上(2)   銀行グループ会社間での情報共有の問題、公的調査への対応の問題などが、守秘義務との関連では、主たる論点となる。その目的との関わりで、顧客に対する守秘義務がどこまで緩和されるかという、二律背反の問題について妥当な解決を考えていく。  5. 預金取引の相手方(1)  6. 同上(2)   とくに自然人について、意思能力の欠如が銀行取引上問題になることが多い。判例としては、融資取引の事案に関するものがほとんどであるが、これらの検討を通じて銀行取引全般における問題点を検討する。  7. 預金契約の成立 (誤振込の場合の問題) (1)   8. 同上(2)  ATM機による振込件数の増加に伴い、振込依頼人による誤振込事例が多くなっている。誤振込先との間で預金が成立したとして取扱うのが銀行にとって便宜であるが、それでよいのか問題になる。振込・預金といったシステム化された機械的な取引のなかで個別顧客の利益をいかに調整するか、これを法的にどう整序していくか、判例の考え方を素材に、現在の実務のあり方を検討する。  9. 預金の帰属(1)  10. 同上(2)  出捐者と預入行為者が異なる場合、預金はいずれに帰属するかという点については、古くから議論があり、出捐者説が通説・判例とされていた。ところが、最近、他人の金銭を管理するのに普通預金口座を用いた事例について、出捐者説とは相異なる方向を示す最高裁判決が相次いで登場した。当事者の利害関係の妥当な調整を図った問題解決を指向した結果であり、大方の支持を受けているが、その射程等について検討する必要がある。  11. 預金の払戻し・解約 (不正払戻しの事例を中心に) (1)  12. 同上(2)   盗難通帳などによる預金払戻しの事案において、銀行は、どのような場合に責任があるとされ、また、どのような場合に免責されるか、判例の判断基準を明らかにすることとする。  13. 偽造・盗難カードによる預金払戻し(1)  14. 同上(2)  偽造・盗難キャッシュカードによる預金払出しについて、18年2月から施行されている預金者保護法の内容を踏まえ、銀行と預金者の間で、どのようなことが問題になるかを検討する。   15. まとめ</p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74020B01 |
| 科目名  | 【院】金融取引法演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Dealings Law Seminar B   |       |           |
| 担当者名   | 渡邊 博己  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 預金取引・貸出取引・為替取引など、銀行の主要な取引種別ごとに、数個のテーマを設定し、それに関する主要な判例について、判例法上の位置づけや学理上の問題点を踏まえ、具体的な銀行実務において、どのようなことを留意して対応すべきかという点を中心に検討する。受講者の個別報告を中心に進行を図っていくこととする。               |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない。  必要に応じて、判例・文献・その他を指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 階猛・渡邊雅之「銀行の法律知識<第2版>」（日経文庫）  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 個別報告（50%）・レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標   | すでに民法・商法の基本知識を習得していることを前提に、銀行の日常業務である預金取引・貸出取引・為替取引等について、これらの法律が、銀行実務において、どのように運用されているかを明らかにする。具体的には、判例の事案を素材にして、銀行実務との関わりあいの中で問題点を抽出し、あるべき実務対応を考える能力の涵養を図ることを目標とする。 |       |           |
| 準備学習   | 各回のテーマについて、事前に判例集にあたって十分に予習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教室では、できれば学生と教員との間での議論できる時間を持つようにしたいので、受講者には、事前に判例集にあたって十分に予習をし、各回のテーマについて、それぞれの考え方をまとめ、問題意識をもって受講することを求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. 預金の相続(1)   2. 同上(2)  預金窓口で日常化しているものの、種々の法律問題があることから、トラブルの発生も多い取引が相続の取扱いである。ここでは、共同相続人の1人に対する払戻し、遺言執行者に対する払戻しについて、判例に基づく銀行実務のあり方を検討する。  3. 手形・小切手から一括支払システム等の活用(1)  4. 同上(2)  手形・小切手の支払は銀行の基本業務の一つであったが、最近は徐々にその使用が減少している。これに代わるものとして「一括支払システム」が大きく普及しているところであるが、譲渡担保方式の一括支払システムの代物弁済条項について、国税徴収法との関係で、最近その効力を否定する最高裁判決が示され、その意義と限界が明らかにされた。銀行実務では、このような動向に対して、新たな法的構成を提案するが、その問題点と実務の方向性を検討する。  5. ローンカードの紛失・盗難とカードローン取引(1)  6. 同上(2)   カードローンは融資商品として、すっかり定着した感があるが、カードの盗難・紛失対策については、クレジットカードほど整備されていないのが現実である。実際に盗難・紛失カードが使用された場合の責任の分担は民法・商法の解釈に委ねるほかないが、現在の判例の考え方が、実務上合理性を有するかを検討する。  7. 融資者責任をめぐる諸問題(1)  8. 同上(2)   銀行がその取扱商品以外を顧客に勧めるとともに、その購入資金を融資した場合に、融資者としての責任が問われることがある。このような問題について、銀行の法的責任を追及するにあたって、どのような規範的義務が想定されるか、それはなぜか、などを検討する。また、貸し渋り、貸し剥がし問題等に端を発した「金融円滑化法」の問題についても考えていく。  9. 集合動産譲渡担保をめぐる諸問題(1)   10. 同上(2)  集合動産譲渡担保が注目されており、判例も重要なものが最高裁から出されている。これらの判例によって明らかにされたことを実務にどう活かしていくかを検討する。併せて、「動産・債権譲渡に係る公示制度」についても、その意義と問題点について検討する。  11. 保証人の責任制限(1)  12. 同上(2)   "平成17年4月1日から施行された『民法の一部を改正する法律』では、保証制度の見直しが行われ、「貸金等債務」について「根保証」をした「個人」に関して、保証人保護の観点から改正が行われ、根保証取引を多く用いている金融機関実務に少なからず影響を及ぼすことになる。そこで、まず、融資取引において用いられている根保証の現状とその問題点を明らかにし、この問題点を克服するための金融機関実務がどう対応してきたかを検討し、そして、保証制度の見直しにおいて何が問題にされ、これに対し改正法はどのような考え方をとったかを整理し、今後の実務対応の課題を検討することとする。  13. 銀行の業務範囲と「その他の付随業務」(1)  14. 同上(2)   銀行法では、10条1項で固有業務を行うことができる旨が規定され、同条2項で付随業務、11条で他業証券業務、12条でその他法律により営むことのできる業務を行うことができる旨が規定されており、これら以外の業務を行うことは禁止されている（他業禁止）。しかし、10条2項本文柱書で「その他の付随業務」が認められており、この解釈次第では、相当広範囲な業務を営むことができる。ここでは、「その他の付随業務」の意義を明らかにする中で、新たな業務をどのような考え方で取り込んでいったのかを検討する。  15. まとめー今後の金融取引法の課題</p> |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|



|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74029A01 |
| 科目名        | 【院】行政法演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Law Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 行政法総論のうち、基礎理論、行政組織、行政作用の部分を判例を素材に学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（100%）出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標       | 判例を素材により実務的な力を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 次週のテーマについて、教科書、法令、判例の予習をすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 行政法の講義科目を履修すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 公法と私法   2 法律による行政の原理   3 行政主体と行政庁   4 権限の委任と代理   5 行政立法   6 行政裁量   7 行政行為の瑕疵   8 行政契約   9 行政指導   10 行政計画   11 行政上の義務履行確保   12 行政罰   13 行政手続   14 情報公開・個人情報保護   15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74029B01 |
| 科目名        | 【院】行政法演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Law Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 行政法総論のうち、行政救済法の部分を判例を素材に学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（100%）出席状況等による。   |       |           |
| 到達目標       | 判例を素材により実務的な力を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 次週のテーマについて、教科書、法令、判例の予習をすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 行政法の講義科目を履修すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 損失補償   2 国家賠償 1 条   3 国家賠償 2 条   4 賠償と補償の谷間   5 行政上の不服申し立て   6 行政事件訴訟法   7 取消訴訟の対象   8 取消訴訟の原告適格   9 訴えの利益   10 取消訴訟の審理   11 執行停止制度   12 取消訴訟以外の抗告訴訟   13 当事者訴訟・争点訴訟   14 機関訴訟・民衆訴訟   15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                |
|---|---|-------|----------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74047001      |
| 科目名   | 【院】企業取引法  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）   | Corporate Dealings Law  |       |                |
| 担当者名  | 原 弘明  | 旧科目名称 | 【院】商法 I（企業取引法） |
| 講義概要  | 企業取引の総則に該当する商法総則について、より深く理解するための双方向型、研究形式の講義。   |       |                |
| 教材（テキスト）  | 1. 森本滋編『商法総則講義〔第3版〕』（成文堂、2007年） 2. 江頭憲治郎=山下友信編『商法（総則・商行為）判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2008年）                      |       |                |
| 教材（参考文献）  | 講義中、適宜紹介する。   |       |                |
| 教材（その他）   | 講義時点で最新の六法を持参すること。  |       |                |
| 評価方法  | 1. 個別報告内容(50%) 2. 受講態度(10%)講義中の発言内容などから判断する 3. 学期末レポート(40%)   |       |                |
| 到達目標  | 商法総則および会社法総則の規定と基本的な判例法理について理解できる。それを説明できる。また、応用的な問題に遭遇した場合に、自力で調査して妥当な解を発見できる。                     |       |                |
| 準備学習  | 1. 個別報告指名時には、レジュメと報告の十分な準備をすること。 2. 個別報告に当たっていない場合でも、何らかの発言（興味深い・難しいといった感想は誰でも抱くので除外）ができるようにしておくこと。 |       |                |
| 受講者への要望   |   |       |                |
| 民法を履修済みか並行して履修していること。   |   |       |                |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                |
| 個別判例などを素材に、受講生に以下のようなテーマを報告してもらい、質問・討論する。受講生は、事前に基本書等を十分に読み込み、講義に参加すること。 1. 商法と民事一般法の規制区分－商人概念 2. 商法総則と会社法総則－会社と商行為法の関係 3. 絶対的商行為－営利性判断の第1段階 4. 営利的商行為－営利性判断の第2段階 5. 営業概念 6. 営業譲渡－会社法上の事業譲渡との異同も併せつつ 7. 商業登記－企業情報の開示制度 8. 商号・商号登記－会社の取り扱いとの異同も併せつつ 9. 商号権－商号を有することによる法的効果 10. 支配人・商業使用人－営業範囲の拡張形態 11. 支配人の代理権－会社の代表機関との異同も併せつつ 12. 代理商－他者の利用 13. 外観主義－民法より拡張された「取引の安全」 14. 名板貸法理－名義使用許諾により生じるリスク 15. 商業登記と外観主義－登記はどこまで重んじられるか |   |       |                |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |             |
|--|--|-------|-------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74061001   |
| 科目名  | 【院】租税法総論   | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）  | Tax Law Introduction   |       |             |
| 担当者名   | 村井 淳一  | 旧科目名称 | 【院】租税法Ⅰ（総論） |
| 講義概要   | 租税法理論の基本的部分に当たる、租税の意義、租税法の基本原則、解釈と適用、課税要件(総論及び基礎的な各論)に関する事項を中心に研究を行う。そこで、実定法である租税法がいかなる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるための、ベースとなる知識や考え方を整理し深めてゆく。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論・検討をする中で、問題点を明らかにし理解を深める。 なお、演習の事例は予定であり、変更の場合がある。 |       |             |
| 教材（テキスト）   | 金子宏『租税法(第17版)』(弘文堂)  |       |             |
| 教材（参考文献）   | 別冊ジュリスト『租税判例百選(第5版)』 その他は講義中に指示する。   |       |             |
| 教材（その他）  | 講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定  |       |             |
| 評価方法   | 報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。   |       |             |
| 到達目標   | 1 租税法の基本原則と憲法との関係を理解し、問題点を把握する。 2 租税法の具体的な適用に当たっての問題点を理解し、その解釈はどうあるべきかを理論的に追求できることを目標とする。  |       |             |
| 準備学習   | 租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。  |       |             |
| 受講者への要望  |  |       |             |
| 憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。 税法が記載された六法、法規集を持参する。またはweb上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。  |  |       |             |
| 講義の順序とポイント   |  |       |             |
| 1. 租税と租税法 税制の概要  2. 租税法の基本原則 租税法律主義と租税公平主義 1  3. 租税法の基本原則 租税法律主義と租税公平主義 2  4. 事例演習 大島訴訟 最高裁昭 60.3.27  5. 事例演習 旭川市国民健康保険条例事件 最高裁平 18.3.1 他  6. 租税法の法源と効力 租税法の法源と効力  7. 租税法の解釈と適用 租税法と私法  8. 租税法の解釈と適用 租税回避  9. 事例演習 錯誤による財産分与契約事件 最高裁平元.9.14 他  10. 事例演習 相互売買事件 東京高裁平 11.6.21  11. 課税要件総論 課税要件、要件事実論  12. 課税要件各論 個人所得課税の基礎(所得税の仕組みと概要)  13. 課税要件各論 法人所得課税の基礎(法人税の仕組みと概要)  14. 課税要件各論 消費税及び国際課税の基礎  15. タックス・プランニングの基礎 |  |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |               |
|------------|---|-------|---------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74062001     |
| 科目名        | 【院】所得税法   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Income Tax Law  |       |               |
| 担当者名       | 橋本 清治   | 旧科目名称 | 【院】租税法Ⅱ（所得税法） |
| 講義概要       | 受講者に各テーマを分担していただき、各回で報告していただきます。その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。  本講義は、教科書の「所得税法」の部分进行学习します。特に重要な部分については、その事項に係る判例等の検討も行います。また、将来、税理士等を希望されている受講者が殆どだと思いますので、税務事例および税理士実務についても触れていく予定です（なお、講義の順序は、一応の進行予定で、実際の授業では若干の変更を行う場合があります。                           |       |               |
| 教材（テキスト）   | 教科書：金子 宏『租税法（最新版）』弘文堂   |       |               |
| 教材（参考文献）   | 参考書：清永啓次『新版税法（最新版）』ミネルヴァ書房、『租税判例百選（5版）』有斐閣   佐藤英夫編集『租税法演習ノート21問』弘文堂   その他：随時指定  |       |               |
| 教材（その他）    |   |       |               |
| 評価方法       | 報告内容、毎回の議論への参加度合(50%)、レポート(50%)   |       |               |
| 到達目標       | ・所得税法の基本を理解する。  ・所得税に係る判例を検討できる。  |       |               |
| 準備学習       | 三木義一著『よくわかる税法入門』（最新版：有斐閣）を講義開始時までに読んできてください。  |       |               |
| 受講者への要望    | 税務六法等の法規集持参または Web による法令利用  |       |               |
| 講義の順序とポイント | 1. 所得税・所得の意義   2. 所得税の種類・課税単位   3. 納税義務者・課税標準と税額算出   4. 各種所得の意義と範囲(利子・配当・不動産)   5. 同上(事業・給与)   6. 同上(退職・山林・雑)   7. 同上(譲渡・一時)   8. 収入金額と必要経費   9. 税額計算等   10. 所得税法に係る判例研究(1)   11. 同上(2)   12. 同上(3)   13. 同上(4)   14. 所得税法に係る事例研究(1)   15. 所得税法に係る事例研究(2) |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |               |
|---|--|-------|---------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J74063001     |
| 科目名   | 【院】法人税法  | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）   | Corporation Tax Law  |       |               |
| 担当者名  | 橋本 清治  | 旧科目名称 | 【院】租税法Ⅲ（法人税法） |
| 講義概要  | <p>受講者に各テーマを分担していただき、各会に報告していただきます。その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。  本講義は、教科書の「法人税法」の部分进行学习します。特に重要な部分については、その事項に係る判例等の検討も行います。なお、受講者と相談の上、教科書を『法人税法講義』（上記参考書）に変更する場合があります。また、将来、税理士等を希望されている受講者が殆どだと思いますので、税務事例および税理士実務についても触れていく予定です（なお、講義の順序は、一応の進行予定で、実際の授業では若干の変更を行う場合があります）。  また、時間に余裕があれば、相続税法についても検討を加えたいと思います。</p> |       |               |
| 教材（テキスト）  | 教科書：金子 宏『租税法（最新版）』弘文堂  |       |               |
| 教材（参考文献）  | <p>参考書：『よくわかる法人税入門』有斐閣  清永啓次『新版税法（最新版）』ミネルヴァ書房、岡村忠生『法人税法講義』（最新版）成文堂   『租税判例百選（5版）』有斐閣、佐藤英明編『租税法演習ノート21問』（最新版）弘文堂</p>   |       |               |
| 教材（その他）   |  |       |               |
| 評価方法  | 報告内容、毎回の議論への参加度合い(50%)、レポート(50%)   |       |               |
| 到達目標  | ・法人税法の基本を理解する。  ・法人税法に係る判例を検討できる。  |       |               |
| 準備学習  | 三木義一著『よくわかる税法入門』（最新版：有斐閣）を開講時までに読む。  |       |               |
| 受講者への要望   |  |       |               |
| 税務六法等の法規集持参または、Webによる法令利用   |  |       |               |
| 講義の順序とポイント  |  |       |               |
| <p>1. 法人税の意義・性質等   2. 納税義務者と課税所得の範囲   3. 法人所得計算の総説(法人税法 22条等)   4. 益金の額の計算(1)   5. 益金の額の計算(2)   6. 損金の額の計算(1)   7. 損金の額の計算(2)   8. 損金の額の計算(3)   9. 法人税額の計算   10. 連結納税等   11. 同族会社と所得課税   12. 法人税法に係る判例研究(1)   13. 同上(2)   14. 法人税法に係る事例研究(1)   15. 法人税法に係る事例研究(2)</p> |  |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74068A01 |
| 科目名   | 【院】租税法演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Tax Law Seminar A   |       |           |
| 担当者名  | 村井 淳一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 受講者が、租税法の基本原則を理解し、主要税目の基本的仕組みや理論を習得できるよう、講義及び受講者による報告を行う。 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に定めない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 租税法の基本原則、主要税目の仕組みや理論、及びそれらの問題点について、理解することを目標とする。 研究テーマの選択、及びテーマに合わせた知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。         |       |           |
| 準備学習  | 各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 税法の理解のために必須となる、簿記・会計学の基礎的知識を習得すること。 数多くの論文を読むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 税法の学び方について 個人面談 2 研究計画について 今後の研究計画に関する「研究・指導スケジュール」の説明、研究計画書の作成について 3 判例研究の方法等 論文の読み方、判例研究の方法、基本書・参考文献等について 4、5 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読 6 修士論文テーマ報告会 院生(2回生)による修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。 7~13 基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。 14,15 判例研究 基本的な判例を指定し、院生による判例研究の報告と、それに対する議論を行う。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74068B01 |
| 科目名        | 【院】租税法演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tax Law Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 村井 淳一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 併せて、税目横断的な事例研究、タックス・プランニング事例の検討等により、実務における税務問題に対しても理論的に解明し対応できる能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 各院生の選択するテーマに合わせた、知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。 実務上の税務問題に対する理論的な解明のための能力の涵養を図る。   |       |           |
| 準備学習       | 各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数多くの論文を読むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 研究計画について 研究計画について、その方向性と今後の研究方法に関して(個人面談等)  2～5 基本文献講読 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。 6 修士論文中間報告会 院生(2回生)による修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～13 研究報告(判例研究等) 各院生が、自分の研究テーマ(又は興味のある分野)に関する判例研究等の報告を行い、それを基にして議論を行う。 14,15 事例研究 実務的な事例(実務で発生しやすい、税目横断的な税務問題)を設定し、その問題に対する対応方法や解決策を検討する(院生による報告と議論による。) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74068C01 |
| 科目名        | 【院】租税法演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tax Law Seminar C   |       |           |
| 担当者名       | 村井 淳一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各院生の選択するテーマに合わせて、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各院生の選択するテーマに合わせて、適宜指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 研究計画について「研究計画の概要」に基づいて、今後の研究方法に関する検討(個人面談等) 2～5 研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 6 修士論文テーマ報告会 修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。 7～15 研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74068D01 |
| 科目名        | 【院】租税法演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tax Law Seminar D   |       |           |
| 担当者名       | 村井 淳一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 研究計画について 今後の研究方法に関しての検討(個人面談等)  2～5 研究報告 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。  6 修士論文中間報告会 修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。  7～15 研究報告 各院生が、修士論文に沿った研究報告を行い、それを基にして議論を行う。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74075001 |
| 科目名        | 【院】有価証券法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Negotiable Instruments Law  |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 手形法について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。また、手形法は、企業の道具として考案されたという経緯から、強度の論理一貫性に彩られた極めて技術的な法制度であり、理解のポイントは、「民法の原則をいかに修正（あるいは維持）するか」という点にある。このため民法（とくに総則）についても十分復習しておいてもらいたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 早川徹『基本講義 手形・小切手法』（新世社、2007年）、『別冊ジュリスト 173号・手形小切手判例百選[第六版]』（有斐閣・2004年）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 報告内容・議論への参加度合（60%）、学期末レポート（40%）。  |       |           |
| 到達目標       | 手形法について、その基本理論をもとに、理論がどのように判例に現われているかを理解し、実際問題を処理できる能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 民法（とくに総則）については十分復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | どんな些細な点でも、間違いを恐れず発言しようとする能動的な姿勢が大事である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 手形行為の方式と解釈   2. 手形行為の成否   3. 手形行為の代理   4. 手形の偽造と変造   5. 手形の善意取得   6. 人的抗弁の制限   7. 手形の振出し   8. 手形の裏書   9. 手形保証   10. 手形の支払・遡求   11. 手形交換   12. 手形の時効   13. 除権判決   14. 利得償還請求権   15. 手形割引  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |             |
|------------|--|-------|-------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74076A01   |
| 科目名        | 【院】英語文献研究 A  | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記) | English Document Research A  |       |             |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 | 【院】英語文献研究 I |
| 講義概要       | <p>現在ヨーロッパでは、私法の統一のための準備作業が着実に進んでいる。2009 年には共通参照枠草案 (Draft Common Frame of Reference) の最終版が公表され、EU ではこれをめぐる議論が活発化している。  このような統一私法に向けた動きのさきがけとなったのは、EU 指令によるヨーロッパ消費者法の統一であると言われている。そして、2001 年に施行された消費者契約法を含む日本の消費者保護立法は、ヨーロッパ消費者法を参照し、その影響を受けてきている。  また、現在アジアでも法統合についての議論が活発になされており、ヨーロッパ消費者法はそのような統合の際の重要なモデルとなるものと思われる。そのため、ヨーロッパ消費者法の形成および現状について知ることは、比較法の観点から意義を有するのみでなく、日本やアジアにおける消費者保護法のあり方を理解するうえでも役に立つものである。  本講義では、Hans-W. Micklitz / Norbert Reich / Peter Rott, Understanding EU Consumer Law, 2009 の消費者契約における不公正条項の規制に関する部分を講読する。また、ヨーロッパ法に関する基礎的知識については、講読の必要に応じて講義する。</p> |       |             |
| 教材 (テキスト)  | なし、プリントを配布する。  |       |             |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |             |
| 教材 (その他)   | 最新版の六法および英和辞書を持参すること。  |       |             |
| 評価方法       | 平常点 (100%) 出席状況、予習状況および訳出部分の理解度による。  |       |             |
| 到達目標       | 1. 英語の法律文献を正確に理解する能力を養う。  2. 日本法と外国法を比較することによって、日本法への理解を深める。   |       |             |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための予習部分を指示する。  |       |             |
| 受講者への要望    | 1. 相当の英語能力および消費者法に対する関心を有すること。  2. 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。  |       |             |
| 講義の順序とポイント | <p>予定としては以下の内容を考えているが、授業の進行状況により変更することもある。  1. はじめに  2. The starting point  3. ~4. The proposals of the Commission  5. ~6. The deliberations in the Council of Ministers  7. ~8. The protective purpose of Directive 93/13/EEC of 5 April 1993  9. ~10. Objective scope of application of the Directive  11. ~12. Exceptions to the scope of application  13. ~14. Subjective application criteria  15. まとめ</p>  |       |             |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |             |
|------------|---|-------|-------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74076B01   |
| 科目名        | 【院】英語文献研究B  | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）  | English Document Research B   |       |             |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 | 【院】英語文献研究II |
| 講義概要       | <p>現在ヨーロッパでは、私法の統一のための準備作業が着実に進んでいる。2009年には共通参照枠草案（Draft Common Frame of Reference）の最終版が公表され、EUではこれをめぐる議論が活発化している。  このような統一私法に向けた動きのさきがけとなったのは、EU指令によるヨーロッパ消費者法の統一であると言われている。そして、2001年に施行された消費者契約法を含む日本の消費者保護立法は、ヨーロッパ消費者法を参照し、その影響を受けてきている。  また、現在アジアでも法統合についての議論が活発になされており、ヨーロッパ消費者法はそのような統合の際の重要なモデルとなるものと思われる。そのため、ヨーロッパ消費者法の形成および現状について知ることは、比較法の観点から意義を有するのみでなく、日本やアジアにおける消費者保護法のあり方を理解するうえでも役に立つものである。  本講義では、Hans-W. Micklitz / Norbert Reich / Peter Rott, Understanding EU Consumer Law, 2009の消費者契約における不公正条項の規制に関する部分を講読する。また、ヨーロッパ法に係わる基礎的知識については、講読の必要に応じて講義する。</p> |       |             |
| 教材（テキスト）   | なし、プリントを配布する。   |       |             |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |             |
| 教材（その他）    | 最新版の六法および英和辞書を持参すること。   |       |             |
| 評価方法       | 平常点（100%）出席状況、予習状況および訳出部分の理解度による。   |       |             |
| 到達目標       | 1. 英語の法律文献を正確に理解する能力を養う。  2. 日本法と外国法を比較することによって、日本法への理解を深める。  |       |             |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための予習部分を指示する。   |       |             |
| 受講者への要望    | 1. 相当の英語能力および消費者法に対する関心を有すること。  2. 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。   |       |             |
| 講義の順序とポイント | <p>予定としては以下の内容を考えているが、授業の進行状況により変更することもある。  1. はじめに  2. The so-called indicative list and its legal nature  3. ~ 4. Is there an obligation to implement for the member States?  5. ~ 6. The content of the indicative list  7. ~ 8. Adequate and effective means of law enforcement - associations and authorities with standing to sue  9. ~ 10. Limitation period  11. ~ 12. Review ex officio  13. ~ 14. Reform of the Unfair Terms Directive 93/13/EEC  15. まとめ</p>   |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J74080A01 |
| 科目名   | 【院】刑法A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Criminal Law A   |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦  | 旧科目名称 | 【院】刑法I    |
| 講義概要  | 刑法総論の代表的な概説書を読み進めることにより、刑法総論の基本問題を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。    |       |           |
| 教材（テキスト）  | 受講生と相談の上決定する   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて指示する   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 100%   |       |           |
| 到達目標  | 学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける |       |           |
| 準備学習  | 指定したテキストを読み、その概要をまとめて授業に臨むこと 参考文献等を適宜参照することが望ましい                   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| おおむね以下の順序に従う。受講生の理解度と関心に応じて適切な調整を行う。 1. 開講にあたって  2. 刑法および刑法学  3. 刑法・刑法学の歴史  4. 刑法の基本原則  5. 刑法の適用範囲  6. 犯罪の意義と犯罪論の体系  7. 行為  8. 構成要件の意義と機能  9. 構成要件要素  10. 因果関係  11. 不作為犯  12. 違法性の意義、可罰的違法性  13. 法令行為、正当業務行為  14. 被害者の同意  15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74080B01 |
| 科目名  | 【院】刑法B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Criminal Law B   |       |           |
| 担当者名   | 立石 雅彦  | 旧科目名称 | 【院】刑法II   |
| 講義概要   | 刑法Aに引き続き、刑法総論の代表的な概説書を読み進めることにより、刑法総論の基本問題を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と相談の上決定する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて紹介する   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて指示する   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 100%   |       |           |
| 到達目標   | 学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける       |       |           |
| 準備学習   | 指定したテキストを読み、その概要をまとめて授業に臨むこと 参考文献等を適宜参照することが望ましい                         |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| おおむね以下の順序に従う。受講生の理解度と関心に応じて適切な調整を行う。 1. 正当防衛  2. 緊急避難  3. 責任の意義と責任主義  4. 責任能力  5. 故意  6. 過失、期待可能性  7. 未遂論の基礎  8. 実行の着手  9. 不能犯、中止犯  10. 共犯の意義と種類  11. 共同正犯  12. 教唆犯  13. 従犯  14. 共犯の諸問題  15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74082A01 |
| 科目名        | 【院】 民法法演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Civil Law Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民法法に関する修士論文作成のための民法法の基礎知識につき、また、実務知識として、民法法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし (選定テーマに応じて指定することがある)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 大村敦志ほか「民法研究ハンドブック」(有斐閣 2000年)   |       |           |
| 評価方法       | 演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による (100%)   |       |           |
| 到達目標       | 民法法に関する修士論文を完成させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 教材 (その他) を一読して適宜メモをしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。 民法法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。 ・個別に修士論文につき指導をする。 ・民法法を掘り下げて勉強をするには、多分時間が足りないので修士論文テーマの選択を早めにする。  学習配分例 1.取引主体 (人、権利能力なき社団財団、法人)  2.法律行為、意思表示の到達 3.代理取引の実態 4.不動産物権変動 5.動産物権変動、集合動産 6.所有権、占有権、地上権 7.賃貸借 (土地) - 契約書を中心に 8.賃貸借 (建物) - 契約書を中心に 9.請負取引の実務 10.委任取引の実務 11.銀行取引実務 融資 (1)  12. // 融資 (2)  13. // 預金 14. // 振込、貸金庫 15.民法法文献の活用、論文中間指導、まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74082B01 |
| 科目名        | 【院】民事法演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Civil Law Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし（選定テーマに応じて指定することがある）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 大村敦志ほか「民法研究ハンドブック」（有斐閣 2000年）   |       |           |
| 評価方法       | 演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 教材（その他）を一読して適宜メモをしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。 民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | ・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。 ・個別に修士論文につき指導をする。  学習配分例 1.債権の効力と実務 2.責任財産の保全 3.保証の実務 4.債権譲渡・債務引受 5.債権の消滅－相殺を中心に 6.担保物権の総合知識 7.留置権と実務 8.先取特権 9.抵当権の効力 10.抵当権と物上代位 11.抵当権と法定地上権 12.抵当権侵害、抵当物件の競売 13.質権の実務 14.譲渡担保実務 15.民事法文献の活用、論文指導、まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74088001  |
| 科目名  | 【院】民法総則  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | General Principles of Civil Law  |       |            |
| 担当者名   | 宮川 不可止   | 旧科目名称 | 【院】民法Ⅰ（総則） |
| 講義概要   | 人、行為能力、法人など民法の基礎につき、これを身につけるのみならず、これらを掘り下げる研究能力を育成するべく、講義する。最近の民法改正にも触れ、既習の民法知識を洗い替えるに必要な講義を行なう。 |       |            |
| 教材（テキスト）   | 内田 貴『民法Ⅰ（第4版）補訂版 総則・物権総論』（東京大学出版会、2008年）   |       |            |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |            |
| 教材（その他）  | なし   |       |            |
| 評価方法   | 平常点（20%）出席及び発言状況等による。レポート並びに報告内容（80%）  |       |            |
| 到達目標   | 民法の基礎につき掘り下げて、民法に関する研究能力を有することを目標とする。 取引実務現状につき理解することを目標とする。                                     |       |            |
| 準備学習   | 教科書の指定箇所を毎回一読して疑問点を明らかにしておくこと。   |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| 積極的な発言、質問を期待する。 初日に、「レポート」につき説明するので早めに対応すること。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| 1. 民法総論、民法の構造、民法典の構成、日本民法の歴史   2. 人・権利能力   3. 意思能力、行為能力（1）   4. 意思能力、行為能力（2）   5. 代理とはなにか、代理の効果、無権代理   6. 意思表示（2） 錯誤   7. 意思表示（3） 詐欺、強迫   8. 代理とはなにか、代理の効果、無権代理   9. 表見代理   10. 法人制度 - 内部関係、外部関係   11. 契約の有効性 - 無効、取消   12. 条件・期限・期間   13. 時効制度の構造・存在理由、時効の完成 - 取得時効・消滅時効、時効の中断・時効の停止、時効の効果、時効の援用・時効利益の放棄   14. 物 [動産・不動産、主物・従物、元物・果実、所有権の客体要件]   15. まとめ、民法総則の動向と課題 |  |       |            |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74094A01 |
| 科目名   | 【院】会社法A（コーポレート・ファイナンス）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Corporation Law (Corporate Finance)   |       |           |
| 担当者名  | 小野里 光広  | 旧科目名称 | 【院】会社法 I  |
| 講義概要  | 会社法におけるコーポレート・ファイナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法分野に触れる場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 江頭憲治郎『株式会社法 第4版』（有斐閣、2011年）、『別冊ジュリスト No.205・会社法判例百選 第2版』（有斐閣、2011年）。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 報告内容・議論への参加度合（60%）、学期末レポート（40%）。  |       |           |
| 到達目標  | 会社法（コーポレート・ファイナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、実務上の問題を処理する能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| どんな些細な点でも、間違いを恐れず発言する能動的な姿勢が大事である。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 株主平等の原則   2. 名義書換   3. 株式の譲渡   4. 譲渡制限株式   5. 従業員持株制度   6. 略式質   7. 自己株式   8. 第三者に対する新株の有利発行   9. 買取引受と不公正発行価額   10. 第三者割当増資による企業買収   11. 防衛策としての第三者割当増資   12. 著しく不公正な方法による第三者割当増資   13. 新株発行無効事由   14. 新株予約権発行の差止め   15. 社債権者 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74094B01 |
| 科目名   | 【院】会社法B（コーポレート・ガバナンス）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Corporation Law (Cooperate Governance)  |       |           |
| 担当者名  | 原 弘明  | 旧科目名称 | 【院】会社法Ⅱ   |
| 講義概要  | コーポレート・ガバナンスに関する議論について、より深く理解するための双方向型、研究形式の講義。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 1. 江頭憲治郎『株式会社法（第4版）』（有斐閣、2011年予定） 2. 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト、有斐閣、2011年）                      |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中、適宜紹介する。なお、関心がある受講生は、「旬刊商事法務」誌を随時チェックするとよい。  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義時点で最新の六法を持参すること。  |       |           |
| 評価方法  | 1. 個別報告内容(50%) 2. 受講態度(10%)講義中の発言内容などから判断する 3. 学期末レポート(40%)   |       |           |
| 到達目標  | 会社の機関に関する会社法規定と基本的な判例法理について理解できる。それを説明できる。また、応用的な問題に遭遇した場合に、自力で調査して妥当な解を発見できる。                      |       |           |
| 準備学習  | 1. 個別報告指名時には、レジュメと報告の十分な準備をすること。 2. 個別報告に当たっていない場合でも、何らかの発言（興味深い・難しいといった感想は誰でも抱くので除外）ができるようにしておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 可能であれば、会社法A（コーポレート・ファイナンス分野）と併せて履修することが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 個別判例などを素材に、受講生に以下のようなテーマを報告してもらい、質問・討論する。金融商品取引法との交錯分野についても、適宜扱う。受講生は、事前に基本書等を十分に読み込み、講義に参加すること。  1. 株主総会の招集・議事進行にかかる諸問題 2. 株主総会決議の瑕疵 3. 代表機関の代表行為と取引の安全 4. 競業取引・利益相反取引 5. 取締役の報酬規制 6. 取締役の会社に対する責任 7. 取締役の第三者に対する責任 8. 責任追及の訴え（株主代表訴訟） 9. 監査役・会計監査人・会計参与 10. 委員会設置会社の利用 11. 非公開会社における定款自治と株主間契約 12. 持分会社の利用 13. 合併 14. 事業譲渡・会社分割 15. 企業買収・委任状争奪戦 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                |
|------------|---|-------|----------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74097001      |
| 科目名        | 【院】租税手続法  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | Taxes Procedure Law   |       |                |
| 担当者名       | 村井 淳一   | 旧科目名称 | 【院】租税法Ⅳ（租税手続法） |
| 講義概要       | 租税の確定から徴収に至る租税手続について、重要な論点を中心に理解を深める。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論・検討をする中で、論点を整理し理解を深める 演習の事例は予定であり、変更の場合がある。 なお本年は、併せて、租税実体法中の基幹税目の一つである相続税及び贈与税について、事業承継の観点から学習する。  |       |                |
| 教材（テキスト）   | 金子宏『租税法(第17版)』（弘文堂）   |       |                |
| 教材（参考文献）   | 別冊ジュリスト『租税判例百選(第5版)』  その他は講義中に指示する。   |       |                |
| 教材（その他）    | 講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定   |       |                |
| 評価方法       | 報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。  |       |                |
| 到達目標       | 租税実体法との関係において、租税手続に係る重要な論点を理解することを目標とする。  |       |                |
| 準備学習       | 租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。   |       |                |
| 受講者への要望    | 租税実体法についての基礎的な知識があること。憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。 税法が記載された六法、法規集を持参する。またはweb上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。   |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1. 導入 租税手続法の意義、租税行政組織  2. 租税確定手続 申告納税方式(申告、更正の請求、更正・決定)  3. 租税確定手続 申告納税方式(推計課税)、賦課課税方式、除斥期間、質問検査権  4. 事例演習 更正の請求の可否 最高裁昭 57.2.23  5. 事例演習 推計課税 東京高裁平 6.3.30 質問検査権 最高裁昭 48.7.10  6. 租税徴収手続 納付と徴収  7. 租税徴収手続 源泉徴収  8. 租税徴収手続 滞納処分  9. 事例演習 源泉徴収 最高裁昭 45.12.24 平 4.2.18  10. 事例演習 滞納処分と民法 177 条 最高裁昭 35.3.31  11. 事例演習 一括システムと国税徴収 最高裁平 15.12.19  12. 相続の概要及び相続・事業承継の考え方  13. 相続税の仕組みと計算  14. 贈与税、財産評価  15. 事業承継の考え方 |       |                |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74100A01 |
| 科目名        | 【院】経済法演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Economic Law Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済法 A 及び経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の重要な基本判例および審決を取り上げ、独占禁止法の概念について理解を深める。受講生が、担当する判例について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。企業結合を除く独占禁止法の重要な事件、具体的には、不当な取引制限の禁止、事業者団体の活動規制、不公正な取引方法に関する事件を主に取り上げる。なお、具体的な授業の進め方及び講義の順番等については、受講生と相談の上、変更する場合がある。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案したうえで決定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (発言・授業内レポート) 20%   報告 40%   期末レポート 40%  |       |           |
| 到達目標       | 判例の研究を通じて、独占禁止法の重要概念についての理解を深め、主にカルテルの事案につき、独占禁止法に基づいた判断ができるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 経済法 A の内容の習得  |       |           |
| 受講者への要望    | 十分な学習時間を確保した上で、根気よく課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション   2. 東芝ケミカル事件   3. シール談合事件   4. 協和エクシオ事件   5. 郵便番号自動読取機事件   6. 広島県石商広島市連合会事件   7. 石油カルテル刑事事件   8. 日本遊戯銃協会事件   9. 日本医療食協会事件   10. 北海道新聞事件   11. 都営芝浦と畜場事件   12. 東芝エレベーター事件   13. 資生堂東京販売事件   14. ローソン事件   15. 総括</p>              |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74100B01 |
| 科目名        | 【院】経済法演習 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Law Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済法 A および経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の企業結合等に関する実際の事例を取り上げて検討する。受講生が、担当する事案について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。前半は、企業結合に関する事例を取り上げる。後半は、受講生の興味関心を尊重して、とりあげる分野及び事例を決定するので、講義の順序に掲載されている後半部分の事例は目安である。具体的な講義の形式や内容の比重については、受講生と相談の上、変更する場合がある。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して最初の授業で決定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（発言・授業内レポート）20%   報告40%   期末レポート40%  |       |           |
| 到達目標       | 独占禁止法の企業結合規制における分析方法を理解し、独占禁止法の重要概念についての理解を深めることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 経済法 B の内容の習得  |       |           |
| 受講者への要望    | 十分な学習時間を確保し、担当する事例について責任を持って準備すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション  2 広島電鉄事件  3 東宝・スバル事件  4 新日鉄合併事件  5 JAL・JAS 事業統合事例  6 ポリオレフィン事業統合事例  7 UFJホールディングスの事例  8 企業結合規制のまとめ  9 ロックマン工法事件  10 LP ガス販売差別対価差止請求事件  11 有線ブロードネットワークス事件  12 野村証券事件  13 鶴岡灯油事件  14 奈良県入札談合住民代位損害賠償請求事件  15 総括</p>            |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74101A01 |
| 科目名        | 【院】法哲学A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Legal Philosophy A   |       |           |
| 担当者名       | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。  上記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。  本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | ハワード・ゼア 『修復的司法とは何か』 新泉社  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 随時指示   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点   |       |           |
| 到達目標       | 1. 法に関わる哲学的思考様式が身に付く。  2. 正義論を展開する際の諸課題が理解できる。  3. 正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。  |       |           |
| 準備学習       | 輪読の当番の有無にかかわらず、事前にテキストを精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 序論 正義論の意味   2. 同上   3. 第1章 問題整理：ケーススタディ①   4. 問題整理：ケーススタディ②   5. 第2章 応報的正義①   6. 応報的正義②   7. 補遺：法と強制   8. 第3章 パラダイムとしての正義①   9. パラダイムとしての正義②   10. 補遺：法的な思考の構成   11. 第4章 コミュニティ的正義①   12. コミュニティ的正義②   13. 補遺：法と実践的知恵   14. 終章 応報的正義からコミュニティ的正義へ①   15. 応報的正義からコミュニティ的正義へ②</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74101B01 |     |       |        |
| 科目名  | 【院】法哲学B  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）  | Legal Philosophy B   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>いわゆる司法改革の名の下で、さまざまなことが提案され実施されている（或いは実施されようとしている）が、その向かうところはどこなのであろうか。この現代的な課題を廻って、本講義は、そもそも正義とは何かという原理的な問い（この問いのうちには当然法と倫理との関係といった問いも含まれてくる）を中心に、その正義を実現するにふさわしい法体制のありようを考察する。  上記のテキストの著者ハワード・ゼアは、近代以降の法体制が国家権力が支配してきた「応報的」正義を中心に構築されたとし、これに対して、「参加と対話」が奨励され「コミュニティが重要な役割を演ずる」「関係修復的」正義を中核とする法体制の可能性を提示する。  本講義の展開は、強制としての正義・法から合意による正義・法へというパラダイムの変更という今日的な問題に通底するものがある。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）   | ハワード・ゼア 『修復的司法とは何か』 新泉社  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）   | 随時指示   |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）  |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 講義時の発言内容 30 点と学期末レポート 70 点   |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 1. 法に関わる哲学的思考様式が身に付く。  2. 正義論を展開する際の諸課題が理解できる。  3. 正義論の諸原則を具体的文脈の中で展開できる。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 輪読の当番の有無にかかわらず、事前にテキストを精読し、自分なりの問題意識を深めておくこと。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |           |     |       |        |
| テキストを丹念に読み多角的に考える姿勢で受講してください。  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 序論 正義論の意味  2. 同上  3. 第1章 問題整理：ケーススタディ①  4. 問題整理：ケーススタディ②  5. 第1章 契約の正義①  6. 契約の正義②  7. 補遺：宗教と法   8. 第2章 被害者と加害者の和解プログラム①  9 被害者と加害者の和解プログラム②  10. 補遺：実践と理論   11. 第3章 関係修復的正義のパラダイム①  12. 関係修復的正義のパラダイム②  13. 第4章 変革的正義としての関係修復的正義①  14. 変革的正義としての関係修復的正義②  15. 終章 我々はどこにいるのか？ |  |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待  |  |       |           |     |       |        |
|  |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74102A01 |
| 科目名        | 【院】憲法A（統治機構）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Constitutional Law A (Government Mechanism)  |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、日本国憲法の下での統治機構を巡る今日的な問題を幾つか取り上げて、多少なりとも立ち入った検討を行う予定である。ここで取り上げる予定の15のテーマはいずれも、恐らく諸君にとって大変関心の大きいものと思われるが、こと本格的な法学的分析となると、実は間口の広い、また奥行きも大変深い検討課題でもあるのであって、その上、難解な原理的問題とも常に密接にかかわってくるものであるだけに、半年間の講義だけでは不十分であることは否めない。ただ講義回数を消化したに過ぎない授業となりかねるのであるが、それも院生の場合には、受講態度・研究意欲/如何により私の杞憂に終わるのではとったりもしている。いずれにしても、担当者としては、この講義が本格的な検討への跳躍台としての意味をもつものになれば願っている。  なお、憲法の統治機構の既定の解釈を巡っては、これまでにかんがりの判例の蓄積もあることから、特に法実における「生きた統治機構論」を知っておくためにも、関連判例の学習は不可欠であることから、本講義では、判例にも焦点を当てることにも心掛けたいと思っている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めていない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリント等を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による。レポート試験（60%）。  |       |           |
| 到達目標       | 統治機構をめぐる今日の問題について意見をもつとともに、少なくともそのもつ今日的意義なり課題について各自が共通の理解をもつことを狙いとしている。  |       |           |
| 準備学習       | 今日における統治機構の問題をカバーするためにも、新聞・テレビなどで報道される内容を常に意識し、メモなど心掛けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 多くの文献を読む必要があるので、大いに図書館を利用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>① 統治機構の構成原理（国民主権） ② 統治機構の構成原理（権力分立） ③ 統治機構の構成原理（法の支配） ④ 代表民主制と選挙 ⑤ 現行選挙制度と憲法 ⑥ 政治献金と憲法 ⑦ 国会は「国権の最高機関」といことの意味 ⑧ 国会は「唯一の立法機関」といことの意味 ⑨ 両院制（参議院改革も含めて） ⑩ 「国民内閣制」と憲法 ⑪ 行政改革と憲法 ⑫ 民営化と憲法 ⑬ 司法改革と憲法 ⑭ 税財政と憲法 ⑮ 地方分権と憲法</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74102B01 |
| 科目名        | 【院】憲法B（基本的人権）   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Constitutional Law B (Fundamental Human Rights)   |       |           |
| 担当者名       | 三並 敏克   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、基本的人権、特に日本国憲法の下での基本的人権を中心に扱う。もっとも2単位（半年）ものの講義であるので、憲法Bの射程として本来想定されている検討対象領域に微細に立ち入ることは到底深野であるから、本講義では、現代社会における今日的な人権問題を幾つか取り上げて、多少なりとも立ち入った検討を行う予定である。  ここで取り上げる予定の15個のテーマはいずれも、おそらく諸君にとって大変問題関心の大きいものと思われるが、ことそれらの本格的な法学的分析となると、実は間口の広い、また奥行きも大変深い検討課題であるのであって、その上、非常に難解な一般的人権理論や個別的人権理論とも常に密接にかかわってくるものであるだけに、半年間の講義だけでは不十分であることは否めない。ただ講義回数を消化したに過ぎない授業ともなりかねないのであるが、それも、院生の場合には、受講態度・研究意欲如何により私の杞憂に終わるのではとしたりもしている。いずれにしても、担当者として、この講義が本格的な検討への跳躍台としての意味をもつものなればと願っている。  「なお、憲法の人権規定の解釈を巡っては、これまでにかなりの判例の蓄積もあることから、特に法実務における「生きた人権」を知っておくためにも、関連判例の学習は不可欠であることから、本講義では、判例に焦点を当てることにも心掛けたいと思っている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に定めていない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別的な文献は、開講時にその都度指摘する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30％）出席状況などによる。レポート試験（70％）。  |       |           |
| 到達目標       | 基本的人権の今日的問題について各自が意見をもつとともに、少なくともそのもつ今日的意義なり課題について各自が共通の理解を持つことを狙いとしている。  |       |           |
| 準備学習       | 今日における基本的人権の問題をフォローするためにも、新聞・テレビ等で報道される内容を常に意識し、メモなど心掛けておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 多くの文献を読む必要があるので、大いに図書館を利用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ① 国際社会と人権 ② 企業社会と人権（1） ③ 企業社会と人権（2） ④ 情報社会と人権 ⑤ 住基ネット社会と人権 ⑥ 厳罰化社会と人権 ⑦ メディア社会と人権（1） ⑧ メディア社会と人権（2） ⑨ 男女共同参画社会と人権 ⑩ バリアフリー社会と人権 ⑪ 循環型社会と人権 ⑫ 少子高齢社会と人権 ⑬ 法化社会と人権 ⑭ 租税社会と人権 ⑮ まとめ  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74103A01 |
| 科目名        | 【院】刑事訴訟法 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Law of Criminal Procedure A   |       |           |
| 担当者名       | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。  ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 資料などを掲載したプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。   |       |           |
| 到達目標       | 特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。  |       |           |
| 準備学習       | 予習としてのレポートを作成すること。参考文献を収集したうえで、その内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに   2 刑事訴訟法の基本原理   3 捜査 (1)   4 捜査 (2)   5 捜査 (3)   6 捜査 (4)   7 捜査 (5)   8 公訴の提起 (1)   9 公訴の提起 (2)   10 公訴の提起 (3)   11 公判手続 (1)   12 公判手続 (2)   13 公判手続 (3)   14 公判手続 (4)   15 まとめ  </p>           |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74103B01 |
| 科目名        | 【院】刑事訴訟法B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law of Criminal Procedure B  |       |           |
| 担当者名       | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。  ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 資料などを掲載したプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。  |       |           |
| 到達目標       | 特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。   |       |           |
| 準備学習       | 予習としてのレポートを作成すること。参考文献を収集したうえで、その内容を把握しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに  2 刑事訴訟法の基本原理  3 捜査（1）  4 捜査（2）  5 捜査（3）  6 捜査（4）  7 捜査（5）  8 公訴の提起（1）  9 公訴の提起（2）  10 公訴の提起（3）  11 公判手続（1）  12 公判手続（2）  13 公判手続（3）  14 公判手続（4）  15 まとめ</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74104001 |
| 科目名        | 【院】行政作用法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Action Law   |       |           |
| 担当者名       | 木藤 伸一郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 行政法総論の部分のうち、基本原理、行政組織、行政作用法を扱う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井敬子・橋本博之『行政法 [第3版]』弘文堂   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(100%)出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標       | 行政法の基本原理を習得し、組織法、作用法の全体像の理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 必ず、教科書の該当部分を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 行政救済法の履修が望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 行政と法   2. 行政活動の規制原理   3. 行政組織   4. 行政立法   5. 行政行為－概念・種類   6. 行政行為－裁量   7. 行政行為－効力・瑕疵・取消しと撤回   8. 行政行為－瑕疵・取消しと撤回・附款   9. 行政計画   10. 行政契約・行政指導   11. 行政上の強制執行   12. 行政上の即時強制・行政罰   13. 行政手続法   14. 情報公開   15. 個人情報保護 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J74105001 |
| 科目名  | 【院】行政救済法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Remedies Law   |       |           |
| 担当者名   | 小林 明夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 行政法総論の分野のうち、救済法の部分を扱う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井敬子・橋本博之『行政法』[第3版]（弘文堂、2011年）3,465円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況、質問等の発言状況等による。 報告（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 行政救済法の全体像とそれぞれの制度の理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 初回に報告テーマの割当てを行う。個別報告に際してはレジュメ等の十分な準備を行うこと。 自らの報告の順番でないときでも、自分なりの見解、質問等の発言ができるように準備しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 行政作用法の履修が望ましい。 なお、作用法の履修経験がない場合には、テキストで入念に作用法分野の基本的概念を押さえておくこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| おおむね以下の内容・順序で報告してもらうことを予定しているが、具体的な進め方については受講生の理解度と関心に応じて変更することもあり得る。 1. オリエンテーション 2. 行政救済法の体系、損失補償制度 3. 国家賠償法総説、国家賠償法1条 4. 国家賠償法2条 5. 国家補償法におけるその他の問題 6. 行政不服申立て（1） 7. 行政不服申立て（2） 8. 行政不服申立て（3） 9. その他の行政上の救済制度 10. 行政事件訴訟概観、行政事件訴訟の種類、当事者訴訟、客観訴訟 11. 取消訴訟の訴訟要件（1）（処分性） 12. 取消訴訟の訴訟要件（2）（原告適格） 13. 取消訴訟の訴訟要件（3）（その他の訴訟要件） 14. 取消訴訟の審理・判決など 15. その他の抗告訴訟 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | 00         | 00  | 00  | 00  | 00    | 00     |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J74106001 |
| 科目名   | 【院】家族法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Family Law   |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 人間が家庭という小集団を形成し、またそこで生活していくために必要なルールも民法が規定している。いわゆる結婚や、離婚、親子の関係、相続といったことを法律はいかに規定しているのか学び、現代社会において新たに生じた問題をいかに解決するのが望ましいのかをともに考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 二宮周平『家族法』（新世社、第3版、2009）  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 講義を行った場合には、期末テストの評価により、受講生が報告を行う方式による場合には、その報告内容及び議論への参加具合を評価の対象とする。   |       |           |
| 到達目標  | 家族法の知識を得る。   |       |           |
| 準備学習  | 事前及び事後に教科書等により各講義の内容を再確認し、知識を自らのものとする。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 初回に要望を伺います。考えてきて下さい。 報告の場合には、責任を持って。いずれの場合にも主体的に参加されるよう希望する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 各受講者の学部における履修具合や大学院における研究テーマとの関係で重要である点がある場合には、そこを特に重点的に扱うこととする。したがって、内容は不確定であるが、ひとまず、以下のような総合的な講義を予定しておく。 第1回 導入、婚姻の成立、婚姻意思、婚姻障害事由 第2回 婚姻の効果、日常家事債務、婚姻の解消 第3回 有責配偶者からの離婚請求、離婚の効果 第4回 実親子関係（父性推定、認知、準正） 第5回 養親子関係（普通養子縁組、特別養子縁組） 第6回 親権（親権者、身上監護、財産管理） 第7回 後見（未成年後見、成年後見制度） 第8回 相続（相続人、代襲相続、同時死亡の推定） 第9回 相続権の剥奪（相続欠格、相続人の廃除）、相続の承認と放棄 第10回 相続財産、債権・債務の相続、遺産共有、 第11回 相続分（法定相続分・指定相続分） 第12回 相続人間の平等（特別受益の持ち戻し、寄与分）、遺産分割 第13回 遺言（遺言の種類、自筆証書遺言の方式、遺言の撤回） 第14回 遺留分（遺留分の範囲、基礎財産） 第15回 遺留分額、遺留分減殺請求権、減殺の方法 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74107A01 |
| 科目名        | 【院】経済法A  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Economic Law A   |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。  本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいか、カルテルが独占禁止法上違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。  具体的な講義の形式や内容の比重については、受講生と相談の上、変更する場合がある。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して、最初の授業で決定する。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 最初の授業で紹介する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 毎回レジュメ等を配布する   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(出席状況、授業内レポート)40% 学期末レポート60%  |       |           |
| 到達目標       | カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法上、カルテルが不正な取引方法に該当するかどうかを判断するために必要な重要概念及び思考の枠組みを理解し、説明できるようになることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 企業間の競争や企業活動全般に関心を持つこと。 各講義の最後に指示する次回までの準備学習に取り組むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション 独占禁止法の概要  2 カルテル規制の全体像  3 カルテルの仕組みと形態  4 意思の連絡(東芝ケミカル事件)  5 競争の実質的制限  6 入札談合(安藤造園事件)  7 行政指導とカルテル(石油カルテル事件)  8 事業者団体とカルテル(大阪バス協会事件)  9 医師会とカルテル(観音寺市医師会事件)  10 カルテルに対する措置の概要と手続き  11 課徴金  12 刑事責任  13 民事責任  14 米国・EUにおけるカルテル規制  15 総括</p>                             |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74107B01 |
| 科目名        | 【院】経済法B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Law B  |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | グローバル経済においては、企業結合が活発に行われている。経済活動のルールを定める独占禁止法は、「公正かつ自由な競争」を維持・促進するため、カルテルなど、市場における競争に悪影響を及ぼす行為を禁止するだけでなく、市場構造に影響を与える企業結合も規制している。しかし、企業結合規制の場合、企業結合が競争を促進する可能性と競争を制限する可能性を慎重に判断する必要がある。  本講義では、企業結合の目的及び態様を理解したうえで、独占禁止法の企業結合規制について検討する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生の独占禁止法の学習歴等に応じて、最初の授業で決定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回レジュメ等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート40% 学期末レポート60%   |       |           |
| 到達目標       | 企業結合が市場における競争に及ぼす影響を理解し、独占禁止法による企業結合規制がどのようなに行われるかを理解できるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 企業結合等の企業活動に関するニュースに関心を持つこと。 各講義の最後に指示する次回までの準備学習に取り組むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 企業活動全般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 企業結合規制の全体像 2 企業結合の態様と目的① 3 企業結合の態様と目的② 4 一般集中規制①概要と歴史 5 一般集中規制② 6 市場集中規制の概要 7 市場画定の方法 8 水平型企業結合 9 垂直型企業結合 10 混合型企業結合 11 総合事例問題 12 総合事例問題 13 米国の企業結合規制 14 EUの企業結合規制 15 総括  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74108A01 |
| 科目名        | 【院】国際法A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Law A  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、下記の英語で書かれた国際法の標準的な教科書の第1章「国際社会の主要な法的特徴」（3-21頁）を講読し、国際社会や国際法の基本的性質を理解することを主な目的とする。大学院の国際法の講義である以上、世界の標準的な国際法の教科書がどのように構成され、何が書かれているのかも視野に入れる必要がある。テキストの著者である A.Cassese 教授は世界を代表する国際法学者の1人であり、旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所所長なども務めた。受講生は担当部分の訳文を作成し、それをチェックしながら内容を理解し検討する。そして、可能であれば日本の教科書との比較検討も行いたい。なお、受講生の要望によって、テキストの他の章を読むことも可能である。なお、英語を読むのがどうしても負担である場合、日本の国際法の主な教科書を分野ごとに比較検討することなども考えている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | Antonio Cassese, International Law, 2nd ed. (Oxford University Press, 2005) 初回の講義で、該当章のコピーを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>【教科書】 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第3版〕』（東信堂、2011年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第2版〕』（有斐閣、2010年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第4版〕』（有斐閣、2007年）  </p> <p>【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂） 奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂）  </p> <p>【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第2版〕』（別冊ジュリスト204号、2011年） 松井芳郎編『判例国際法〔第2版〕』（東信堂、2006年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例50』（三省堂、2010年）  *その他のものについては講義で適宜紹介する</p>   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（70%）、翻訳のレポート（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 2. 法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 3. 翻訳を通じて、法学分野における日本語能力の向上させる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. 講義で明示した予習範囲は事前に必ず講読してくること。 2. 割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず訳してくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 積極的な参加を希望する。 2. 無断欠席はしないこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 履修ガイダンス  2. 「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」  3. 「1.2 国際法主体の性質」  4. 「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」  5. 「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」  6. 「1.4 集団的責任」  7. 「1.4 集団的責任」  8. 「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」  9. 「1.6 国家の行動の自由の範囲」  10. 「1.6 国家の行動の自由の範囲」  11. 「1.6 国家の行動の自由の範囲」  12. 「1.7 実効性の最も重要な役割」  13. 「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」  14. 「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」  15. 「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」        |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74108B01 |
| 科目名        | 【院】国際法B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Law B  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 国際法Bでは、自由権規約委員会(*)が日本政府の第5回定期報告書を審査し、2008年10月に採択した総括所見(Concluding Observations)を講読することを通じて、国際人権法に照らした日本の人権問題について検討を行う。具体的には、男女平等、死刑廃止などの刑事法関連問題、在日コリアンやアイヌなどの少数民族の権利などを扱う。本講義では、国際法だけでなく、憲法、刑事法、家族法、労働法、社会保障法などの専門用語についても英語で学ぶことができるはずである。  *国際人権規約の自由権規約に基づいて設置された条約機関で、締約国による規約の履行を監視する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 自由権規約委員会が日本政府による第5回国家報告書を審査して2008年に公表した総括所見(Concluding Observations, UN Doc., CCPR/C/JPN/CO/5, 30 Oct. 2008)。初回の講義でテキストのコピーを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』(岩波書店、1988年) 畑博行・水上千之編『国際人権法概論〔第4版〕』(有信堂、2006年) 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック 国際人権法』(日本評論社、2006年) 芹田健太郎ほか『ブリッジブック国際人権法』(信山社、2008年) 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第3版〕』(日本評論社、2009年)  【条約集】 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第3版〕』(東信堂、2006年)  その他については、講義で適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(70%)、レポート(30%)   |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際人権保障の意義や仕組みを理解する。 2. 国際人権法から見て、日本にはどのような人権問題が存在するのかを把握し、国際基準に照らして考える。 3. 法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 1. 講義で明示した予習範囲は事前に必ず講読してくる。 2. 割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず和訳してくる。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法は必ず持参すること。 2. 無断欠席はしないこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 履修ガイダンス 2. 国際人権保障についての講義 3. 「序論」、「肯定的側面」(男女共同参画社会の法制化など) 4. 「主要な懸念事項および勧告」(第一選択議定書の未批准、「公共の福祉」の概念など) 5. 「主要な懸念事項および勧告」(男女差別) 6. 「主要な懸念事項および勧告」(刑事法に関わる問題) 7. 「主要な懸念事項および勧告」(刑事法に関わる問題) 8. 「主要な懸念事項および勧告」(刑事法に関わる問題) 9. 「主要な懸念事項および勧告」(刑事法に関わる問題) 10. 「主要な懸念事項および勧告」(戦後補償問題など) 11. 「主要な懸念事項および勧告」(庇護申請者の扱いなど) 12. 「主要な懸念事項および勧告」(婚外子などに対する差別) 13. 「主要な懸念事項および勧告」(国民年金法に関わる問題など) 14. 「主要な懸念事項および勧告」(アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など) 15. 予備 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74109A01 |
| 科目名   | 【院】独語文献研究 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | German Document Research A                            |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法を少し覗く。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   |   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 講義における取組み具合により評価する。                                   |       |           |
| 到達目標  | ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。                       |       |           |
| 準備学習  | 自らの担当部分はもちろんのこと、他の受講生の担当部分についても、一読する。                 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 担当部分については、責任を持って訳出してくること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。  受講者のドイツ語能力に大きく作用されるため、進度は不明であるが、第 2 章法律行為から読み進めることにする。 各回 1 頁程度進めるのが理想である。それを前提にすれば、各回の内容は以下の通りである。   (1) ガイダンス・担当順の確定等  (2) "\$ 4 Vertrag, Willenserklärung und Rechtsgeschäft" 中の   "Faelle" 及び "I. Vertrag 1. Bedeutung"  (3) 同 "2. Vertragsfreiheit"  (4) 同 "3. Begriff"  (5) 同 "II. Willenserklärung 1. Begriff"  (6) 同上  (7) 同上  (8) 同上  (9) 同 "2. Arten"  (10) 同 "3. Abgrenzung"  (11) 同 "III. Rechtsgeschäft 1. Begriff"  (12) 同 "2. Arten"  (13) "\$ 5 Verpflichtungs- und Verfügungsgeschäfte, kausale und abstrakte Geschäfte" 中の "Faelle"  (14) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfügungsgeschäfte 1. Verpflichtungsgeschäfte"  (15) 同 "2. Verfügungsgeschäfte"</p> |   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待            |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|  |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
|--|---|--|-----------|--|---|--|-------------------|---|--|------------------|---|-----|-------------------------|--|---|-------------------------------|---|--------------------------------|----------------|---|-----|-------------------|---|-----|-----------------------------|--|---|--|--|------------------|---|---|--------------|--|--|---------|---|--|-----------------------------|----|--|--|
| 年度   | 2012  | 授業コード                                    | J74109B01 |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 科目名  | 【院】独語文献研究B  | 単位数                                      | 2         |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 科目名（英語表記）  | German Document Research B                              |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 担当者名   | 右近 潤一   | 旧科目名称                                    |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 講義概要   | Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法をもう少し覗く。 |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 教材（テキスト）   |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 教材（参考文献）   |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 教材（その他）  |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 評価方法   | 講義中における取組み具合を評価する。                                      |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 到達目標   | ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。                         |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 準備学習   | 自らの担当部分はもちろんのこと、他の受講生の担当部分についても、一読する。                   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 受講者への要望  |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 担当部分については、責任を持って訳出してくること。  |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 講義の順序とポイント   |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| <p>Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。  本講義では「独語文献研究A」の続きを読むことにする。当然受講者の習得具合にあわせるが、できる限り各回 1 頁ずつ読み進めることを目標とする。それを前提として各回の内容は主に次の通りである。</p> <p>   (1) ガイダンス／報告順の決定等 (2)" § 5 Verpflichtungs- und Veruegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の </p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;">"I. Verpflichtungs- und Veruegungsgeschaefte 3.</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>Unterschiede" (3)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1.</td> </tr> <tr> <td>Einfuehrung" (4)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"2.</td> </tr> <tr> <td>Kausale Geschaefte" (5)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">同</td> </tr> <tr> <td>"3. Abstrakte Geschaefte" (6)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"III. Abstraktionsgrundsatz 1.</td> </tr> <tr> <td>Bedeutung" (7)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"2.</td> </tr> <tr> <td>Auswirkungen" (8)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"3.</td> </tr> <tr> <td>Gesezgeberischer Grund" (9)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">同</td> </tr> <tr> <td>"4. Nachteile des Abstraktionsprinyips" (10)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">同上 (11)" § 6 Die</td> </tr> <tr> <td>Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle (12)</td> <td style="text-align: center;">同</td> <td style="text-align: center;">"I. Einfache</td> </tr> <tr> <td>Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung" (13)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">同上 (14)</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td></td> <td style="text-align: center;">"2. Auslegungsmethode" (15)</td> </tr> <tr> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> |   |  |           |  | "I. Verpflichtungs- und Veruegungsgeschaefte 3. |  | Unterschiede" (3) | 同 | "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. | Einfuehrung" (4) | 同 | "2. | Kausale Geschaefte" (5) |  | 同 | "3. Abstrakte Geschaefte" (6) | 同 | "III. Abstraktionsgrundsatz 1. | Bedeutung" (7) | 同 | "2. | Auswirkungen" (8) | 同 | "3. | Gesezgeberischer Grund" (9) |  | 同 | "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips" (10) |  | 同上 (11)" § 6 Die | Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle (12) | 同 | "I. Einfache | Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung" (13) |  | 同上 (14) | 同 |  | "2. Auslegungsmethode" (15) | 同上 |  |  |
|  | "I. Verpflichtungs- und Veruegungsgeschaefte 3.         |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Unterschiede" (3)  | 同   | "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Einfuehrung" (4)   | 同   | "2.                                      |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Kausale Geschaefte" (5)  |   | 同  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| "3. Abstrakte Geschaefte" (6)  | 同   | "III. Abstraktionsgrundsatz 1.           |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Bedeutung" (7)   | 同   | "2.                                      |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Auswirkungen" (8)  | 同   | "3.                                      |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Gesezgeberischer Grund" (9)  |   | 同  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips" (10)   |   | 同上 (11)" § 6 Die                         |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle (12)  | 同   | "I. Einfache                             |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung" (13)   |   | 同上 (14)                                  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 同  |   | "2. Auslegungsmethode" (15)              |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |
| 同上   |   |  |           |  |   |  |                   |   |  |                  |   |     |                         |  |   |                               |   |                                |                |   |     |                   |   |     |                             |  |   |  |  |                  |   |   |              |  |  |         |   |  |                             |    |  |  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74110001 |
| 科目名        | 【院】物権総論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Real Right Introduction   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 物権法の基礎的な論点を把握するために必要な事項について講義する。 主要な論点について、判例・学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、理解を深めるように講義を行う。 各テーマについて、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。受講者は、教科書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくることを前提とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 内田貴「民法Ⅰ総則・物権総論 [第4版]」（2008年東京大学出版会）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | なし  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席、発言状況等による。 個別報告兼レポート内容（80%）によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | ・ 物権法の基礎的な論点につき理解することを目標とする。 ・ 現代社会における物権法の動向と課題につき理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 教科書の指定箇所につき毎日一読して疑問点を明らかにしておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 物権法に関する民法条文の構成と配列につき何度も参照して理解するように努めること。 予習は十分に行われていることが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 物権法の概観と物-物の意義（動産・不動産、主物・従物、果実）   2 物権法定主義、物権の分類、物権の目的   3 物権の効力-優先的効力、物権的請求権   4 契約による物権変動の一般理論   5 不実登記と民法94条2項の類推適用   6 物権変動の対抗要件と背信的悪意者排除論   7 動産の物権変動-民法178条の基本的問題点、即時取得   8 占有の効力-占有訴権   9 所有権の内容   10 所有権の取得原因   11 不動産の共有、  12 相隣関係、通行地役権   13 地上権（約定地上権、法定地上権）   14 永小作権、地役権、入会権   15 まとめ、物権法の動向と課題 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J74111001 |
| 科目名        | 【院】担保物権法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Collateral Right Method  |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 担保物権法の基礎的な論点を把握するために必要な事項について講義する。 主要な論点について、判例・学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、理解を深めるように講義を行なう。 各テーマについて、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。受講者は、教科書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくることを前提とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 内田貴「民法Ⅲ債権総論・担保物権 [第3版]」（2005年東京大学出版会）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | なし   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席、発言状況等による。 個別報告兼レポート内容（80%）によって評価する。   |       |           |
| 到達目標       | ・ 担保物権法の基礎的な論点につき理解することを目標とする。 ・ 現代社会における担保物権法の動向と課題につき理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 教科書の指定箇所につき毎回一読して疑問点を明らかにしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 担保物権法に関する民法条文の構成と配列につき、何度も参照して理解するように努めること。 予習を十分しておいてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 担保制度概観   □ 物的担保と人的担保・法定担保物権と約定担保物権・典型担保と非典型担保   □ 執行法制の役割   2 抵当権1（意義・設定）   □ 目的物の範囲   □ 優先弁済権の範囲   3 抵当権2（効力の及ぶ範囲）   □ 物上代位代位物の範囲・抵当権者が代位物に優先権を行使しうる時期   □ 法定地上権の問題   4 抵当権3（侵害に対する抵当権者の権利）   □ 抵当権侵害（抵当権に基づく物権的請求権・抵当権者の損賠償請求権）   5 抵当権4（実行手続）   □ 競売手続   □ 共同抵当の配当   6 抵当権5（抵当権の消滅）   □ 目的物の取得時効による消滅   □ 抵当権消滅請求制度－滌除制度の見直し（平成15年改正）   7 根抵当権   □ 意義・設定   □ 元本確定（確定事由・確定の効果）   8 質権   □ 動産質・不動産質   □ 権利質   9 留置権   □ 留置権の成立要件、効力   10 先取特権   □ 先取特権の成立要件、効力   11 非典型担保とは、仮登記担保、所有権留保   12 譲渡担保の一般法理   13 動産譲渡担保、不動産譲渡担保   14 債権譲渡担保、動産・債権譲渡担保公示制度   15 まとめ、担保物権法の動向と課題 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74112001 |
| 科目名   | 【院】債権総論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Claim Introduction  |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 民法第三編第一章の内容を扱う。   |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 初めて債権総論を学ぶ者 野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、永田 真三郎『民法（3）債権総論（有斐閣 S シリーズ）』（有斐閣、第 3 版、2005）978-4641159136 一度勉強したことのある者 中田裕康『債権総論』（岩波書店、2008） 川井健『債権総論』（有斐閣、第 2 版補訂版、2009） |       |           |
| 教材（その他）   | 中田 邦博、高嵩 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276   |       |           |
| 評価方法  | 講義を行う場合には期末試験を行い、希望テーマに基づき報告を行う場合には、その内容、参加の度合いなどを評価の対象とする。   |       |           |
| 到達目標  | 債権法の内容を理解し、理解を深める。  |       |           |
| 準備学習  | 各回のテーマにつき事前に、基本書等を確認しておく。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 受講者の要望に従うが、講義を行う場合には、次の順序で行う。 第 1 回 債権総論を学ぶにあたって；債権の目的と種類 1（特定物債権） 第 2 回 債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率） 第 3 回 債権の目的と種類 3（利息制限）；債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行） 第 4 回 債務不履行 2（債務者の帰責事由） 第 5 回 債務不履行 3（履行の強制） 第 6 回 債務不履行 4（416 条の理解） 第 7 回 債権の対外的効力 1（債権者代位権） 第 8 回 債権の対外的効力 2（詐害行為取消権） 第 9 回 多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務；連帯債務） 第 10 回 多数当事者の債権関係 2（連帯債務；保証債務） 第 11 回 当事者の交替 1（債権譲渡） 第 12 回 当事者の交替 2（債務引き受け） 第 13 回 債権の消滅 1（消滅の意義・弁済） 第 14 回 債権の消滅 2（代物弁済・供託・相殺） 第 15 回 債権の消滅 3（更改・免除・混同） |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6 つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74113001 |
| 科目名        | 【院】契約法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Contract Method   |       |           |
| 担当者名       | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 不動産売買契約・賃貸借契約など不動産をめぐる契約を素材にして、契約法に関する主要な論点についての受講者の判例報告を基に、学説や実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、理解を深めていくこととする。  各テーマについて、ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 内田貴著『民法Ⅱ債権各論（第2版）』（東京大学出版会、2007）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況や授業態度等による。授業での判例報告（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 不動産をめぐる契約の現状ならびにこれに関する判例、学説および実務を理解する。  2. 契約についての事例を分析し、解決する能力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 初回到報告テーマの割当てを行う。また、各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 受講者は、基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実地的な解決法をあらかじめ考えてくることを前提とするので、予習を十分しておいてほしい。  2. 最新の六法を必ず持参すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス・判例報告の割当て  2. 契約法概観  3. 契約の交渉  情報提供義務、契約締結上の過失  4. 契約の成立  契約の成立と契約書  5. 契約の効力  危険負担  6. 契約の終了  7. 売買契約（1）  再売買の予約・買戻し、手付  8. 売買契約（2）  瑕疵担保責任  9. 売買契約（3）  土壌汚染に伴う問題  10. 売買契約（4）  特別法（住宅の品質確保の促進等に関する法律など）  11. 賃貸借契約（1）  不動産賃貸借と借地借家法  12. 賃貸借契約（2）  敷金問題等と消費者契約法  13. 請負契約  瑕疵担保責任（欠陥建物をめぐる問題）  14. 建築士・建築施工者の責任  15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74114001 |
| 科目名        | 【院】不法行為法  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tort Law  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。  ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 民法判例百選II債権 [第6版]  |       |           |
| 教材（参考文献）   | ・潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」（新世社・ライブラリ法学基本講義、2009年） ・藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄「民法IV－債権各論[第3版補訂]」（有斐閣Sシリーズ、2009年） ・内田貴「民法II [第2版]債権各論」（東大出版会、2007年） ・窪田充見「不法行為法－民法を学ぶ」（有斐閣、2007年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 民法判例百選II債権 [第6版] に参考文献として指示されている資料。   |       |           |
| 評価方法       | 個別報告（50%）・レポート（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 不法行為法の制度・目的、または基本概念について判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。   |       |           |
| 準備学習       | 参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること   |       |           |
| 受講者への要望    | 個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 景観利益  2 意見ないし論評の表明と名誉毀損  3 過失の意義  4 因果関係の立証  5 未成年者と監督義務者の責任  6 暴力団組長の使用者責任  7 共同不法行為の要件  8 共同不法行為と使用者責任の競合と求償  9 年少女子の逸失利益と家事労働分の加算  10 名誉毀損と慰謝料  11 過失相殺の要件  12 過失相殺と身体的特徴の斟酌  13 慰謝料請求権の相続性  14 民法724条後段の除斥期間の起算点  15 差止請求 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J74115001 |
| 科目名  | 【院】法情報処理  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law Information Processing  |       |           |
| 担当者名   | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>法学部以外学部出身者が、法学の修士論文を作成するに際し必要となるスキルの習得を目指す。 具体的には、法律の基礎知識を確認するとともに論文の構成や引用方法を身につける必要がある。 まず、法律の仕組みを学び、関連する法律を探し出し、法律を読む練習を重ねる。次に、裁判の仕組み及び判例の構造を学ぶ。 論文の執筆に必要な力は、実際に小論文を作成し、推敲するという実践を経なければ身につくものではない。半年間の講義の中で2回レポート（小論文）を実際に執筆し、その添削を受け、それを推敲するという作業を繰り返す。そのような実践と並行して、学術論文の構造を理解し、学術論文を探し、読み解く作業を行う。レポートのテーマについては、受講生の関心のあるテーマを尊重しながら、担当者と受講生とが相談の上、決定する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 京都学園大学法学会『法学の扉（第3版）』（成文堂）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜レジュメや資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点20% レポート（2つ）80%  |       |           |
| 到達目標   | 必要な法律分野の資料を収集し、論理的な文章構成について理解し、資料に基づく法学分野のレポートを作成することができるようになることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に指示する次の講義のための準備学習に取り組むこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 十分な予習復習、小論文執筆のための時間の確保すること。 大学院生としての自覚。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>以下は取り上げる内容の順番の目安である。受講生のこれまでの学習状況に応じて変更がありうる。  1 オリエンテーション・論文の構成 2 論文の構成 3 序章の役割 4 レポートの作成 5 論文の書き方 6 レポートの推敲 7 法律の読み方  8 論文の探し方・引用用法 9 論文の読み方 10 報告1 11 報告2 12 レポートの作成 13 レポートの推敲① 14 レポートの推敲② 15 総括</p> |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J74166A01 |
| 科目名   | 【院】憲法演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Constitutional Law Seminar A  |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>この演習を希望する者は、各自が恐らく既にこの時点で温めているであろう修士論文のテーマとの関連で受講する者と思われるので、演習内容も専らそうした院生の掲げるテーマに即して決めることになる。それ故、ここでは演習内容を予め特化して掲げることは差し控える。いずれにしても、受講希望者は、憲法そのものに関連するテーマテーマを中心に研究しようとする者であると思われるので、それを徹底的に掘り下げるといって演習が行われることになる。しかし、そうでない場合は、基本的人権の総論的問題を中心に扱う予定であるし、また、各自の抱える修士論文テーマにおいて部分的に憲法研究と関連する限りでしか憲法演習の受講を希望しない場合には、各自の希望するテーマを取り上げるという形で演習を進めていきたいと考えている。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に定めていない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | その都度指摘する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (40%) 出席状況・報告内容等による。レポート試験 (60%)。   |       |           |
| 到達目標  | 基本的人権の総論的問題に対する掘り下げた検討を通じて問題の所在と議論の行方についてより一層の理解を深めるとともに、文献の読解力や文章表現力の向上をも目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 今日における人権総論問題をフォローするためにも、新聞・テレビなどで報道される内容を常に意識し、メモなど心掛けておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 多くの文献を読む必要があるので、大いに図書館を利用すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>修士論文との関連で受講する場合には、開講時に受講生と相談の上、関連資料の配布も含めて、具体的に決めて行く予定であるが、そうでない場合には、以下のテーマから選んで報告してもらおう。もちろん、受講人数の関係で報告できないテーマも出てくるが、それらについては私の方で講義するというスタイルで進めて行く。 ① 人権の観念 (1)  ② 人権の観念 (2)  ③ 人権の体系 (1)  ④ 人権の体系 (2)  ⑤ 科学技術の進歩と新しい人権 (1)  ⑥ 科学技術の進歩と新しい人権 (2)  ⑦ 子どもの人権 ⑧ 外国人の人権 ⑨ 法人の人権 ⑩ 私人間の人権保障の理論 (1)  ⑪ 私人間の人権保障の理論 (2)  ⑫ 特別権力関係の理論 ⑬ 人権の限界 (1)  ⑭ 人権の限界 (2)  ⑮ 包括的人権</p> |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J74166B01 |
| 科目名  | 【院】憲法演習 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Constitutional Law Seminar B  |       |           |
| 担当者名   | 三並 敏克   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>この演習を希望する者は、各自が恐らく既にこの時点で温めているであろう修士論文のテーマとの関連で受講する者と思われるので、演習内容も専らそうした院生の掲げるテーマに即して決めることになる。それ故、ここでは演習内容を予め特化して掲げることは差し控える。いずれにしても、受講希望者は、憲法そのものに関連するテーマを中心に研究しようとする者であると思われるので、それを徹底的に掘り下げるといって演習が行われることになる。しかし、そうでない場合は、基本的人権の各論的問題、特に人権の中で重要な位置を占める精神的自由に関する問題を中心に扱う予定であるし、また、各自の抱える修士論文テーマにおいて部分的に憲法研究と関連する限りでしか憲法演習の受講を希望しない場合には、各自の希望するテーマを取り上げるという形で演習を進めていきたいと考えている。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めていない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その都度指摘する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況・報告内容等による。レポート試験 (60%)。   |       |           |
| 到達目標   | 基本的人権の各論的問題に対する掘り下げた検討を通じて問題の所在や議論の行方についてより一層の理解を深めるとともに、文献の読解力や文章の表現力の向上をも目指す。   |       |           |
| 準備学習   | 今日における人権各論的問題をカバーするためにも、新聞・テレビなどで報道される内容を常に意識し、メモなど心掛けておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 多くの文献を読む必要があるので、大いに図書館を利用すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>修士論文との関連で受講する場合には、開講時に受講生と相談の上、関連資料の配布も含めて、具体的に決めて行く予定であるが、そうでない場合には、精神的自由に関する以下のテーマから選んで報告してもらおう。もちろん、受講人数の関係で報告できないテーマも出てくるが、それらについては私の方で講義するというスタイルで進めて行く。 ① 内申書と生徒の思想・信条の自由 ② 強制加入団体の政治献金と構成員の思想の自由 ③ 神道式地鎮祭と政教分離原則 ④ 内閣総理大臣の靖国公式参拝 ⑤ 犯罪の扇動と表現の自由 ⑥ 「有害図書」と表現の自由 ⑦ わいせつ文書の頒布禁止と表現の自由 ⑧ ビラ配りと住居侵入罪 ⑨ プライバシーと表現の自由 ⑩ ノンフィクションと前科の公表 ⑪ 少年事件と報道の自由 ⑫ 取材源の秘匿と表現の自由 ⑬ 国家秘密と取材の自由 ⑭ 情報公開と知る権利 ⑮ 学問の自由と大学の自治 </p> |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J74167A01 |
| 科目名  | 【院】 刑事法演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Criminal Law Seminar A                                       |       |           |
| 担当者名   | 立石 雅彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 修士論文を完成させるための基礎能力をつけるため、刑事法関係文献の講読を行う。  おおむね刑法 A と連動させて進行する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と相談の上決定する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その都度紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて用意する   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 100%   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文作成のための基礎知識、基礎的学力を身につける                                   |       |           |
| 準備学習   | 次回演習で取り上げる教材を読み、その概要をまとめておくこと   参考文献等も参照しておくことが望ましい          |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本演習は、刑事法関係の修士論文を書こうとする受講生のためのものである。修士論文のテーマ選択を意識しつつ演習に臨んでほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| おおむね以下の順序に従う。受講生の理解度と関心に応じて適切な調整を行う。  1. 開講にあたって   2. 刑法および刑法学   3. 刑法・刑法学の歴史   4. 刑法の基本原則   5. 刑法の適用範囲   6. 犯罪の意義と犯罪論の体系   7. 行為   8. 構成要件の意義と機能   9. 構成要件要素   10. 因果関係   11. 不作為犯   12. 違法性の意義、可罰的違法性   13. 法令行為、正当業務行為   14. 被害者の同意   15. まとめ |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J74167B01 |
| 科目名  | 【院】 刑法演習 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Criminal Law Seminar B                                      |       |           |
| 担当者名   | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 修士論文を完成させるための基礎能力をつけるため、刑事法関係文献の講読を行う。 おおむね刑法 B と連動させて進行する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と相談の上決定する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて指示する  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 100%  |       |           |
| 到達目標   | 修士論文作成のための基礎知識、基礎的学力を身につける                                  |       |           |
| 準備学習   | 次回演習で取り上げる教材を読み、その概要をまとめておくこと 参考文献等も参照しておくことが望ましい           |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 本演習は、刑事法関係のテーマで修士論文を書こうとする受講生のためのものである。修士論文のテーマ選択を意識しつつ演習に臨んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 刑法 B と連動し、おおむね以下の順序に従う。受講生の理解度と関心に応じて適切な調整を行う。 1. 正当防衛  2. 緊急避難  3. 責任の意義と責任主義  4. 責任能力  5. 故意  6. 過失、期待可能性  7. 未遂論の基礎  8. 実行の着手  9. 不能犯、中止犯  10. 共犯の意義と種類  11. 共同正犯  12. 教唆犯  13. 従犯  14. 共犯の諸問題  15. まとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                  |   |       |           |
|------------------|---|-------|-----------|
| 年度               | 2012  | 授業コード | J74172A01 |
| 科目名              | 【院】 商事法演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）        | Commercial Law Seminar A  |       |           |
| 担当者名             | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要             | 修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 A の範囲を取り扱う。具体的な授業の進め方及び講義の順序等については、受講生と相談の上、変更する場合もある。  |       |           |
| 教材（テキスト）         | 特に、指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）         | 江頭憲治郎『株式会社法 第4版』（有斐閣、2011年）。  |       |           |
| 教材（その他）          | 必要に応じて指示する  |       |           |
| 評価方法             | 平常点 100%。   |       |           |
| 到達目標             | 修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習             | 各回のテーマについて、事前に十分に予習をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望          |   |       |           |
| 関係する文献を十分消化すること。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント       | 1. 開講にあたって   2. 株主平等の原則   3. 株式譲渡   4. 譲渡制限株式   5. 略式質   6. 自己株式   7. 第三者に対する新株の有利発行   8. 買取引受と不公正発行価額   9. 第三者割当増資による企業買収   10. 防衛策としての第三者割当増資   11. 著しく不公正な方法による第三者割当増資   12. 新株発行無効事由   13. 新株予約権発行の差止め   14. 社債権者   15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J74172B01 |
| 科目名        | 【院】 商大法演習 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Commercial Law Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 B の範囲を取り扱う。具体的な授業の進め方及び講義の順序等については、受講生と相談の上、変更する場合もある。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に、指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 江頭憲治郎『株式会社法 第4版』(有斐閣、2011年)。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて指示する  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 100%。   |       |           |
| 到達目標       | 修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 各回のテーマについて、事前に十分に予習をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 関係する文献を十分消化すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 開講にあたって  2. 株主総会に関する諸問題  3. 経営判断の原則  4. 競業取引  5. 利益相反取引  6. 取締役の会社に対する責任  7. 取締役の第三者に対する責任  8. 責任追及の訴え (株主代表訴訟)  9. 監査役・会計監査人・会計参与  10. 委員会設置会社  11. 持分会社に関する諸問題  12. 合併  13. 事業譲渡・会社分割  14. 企業買収  15. まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75007A01 |
| 科目名        | 【院】コミュニケーション社会学特論<br>A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Sociology of Communication A   |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要な理論を紹介し、これを適用しながら現代社会の理解に努める。  「コミュニケーション社会学特論I」では、社会を理解する手段としてのコードの理論を理解し、その活用を試みる。G.H.ミードからエスノメソドロジーまでのアメリカ社会学のある潮流の源泉にはC.S.パースの記号論がある。その影響は、社会学にとどまらず、多方面の文化研究や哲学的思考に影響を与えており、この点はソシュールの記号学についても同様である。講義では、これらの理論の基本的な考え方、社会学的思考とのかかわりについて論じる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（講義中に配付する）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指?する。  |       |           |
| 教材（その他）    | なし。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）とレポート（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | どんな対象でもよいので、コードの理論から社会や社会現象を分析できるようになること。できれば、?らの研究対象をコードの理論から分析すること。  |       |           |
| 準備学習       | 講義と並?して、?分の研究テーマを明確にする作業を続けること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義形式の授業ではあるが、受講?には毎回意?を求める。積極的に参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義概要、予備知識 2. コミュニケーションとコード 3. 記号論 4. 記号学(1) 5. 記号学(2) 6. メタ?語と対象?語 7. ダブルバインド 8. デノテーションとコノテーション(1) 9. デノテーションとコノテーション(2) 10. 語りとし 11. ラベリング 12. ?元論(1) 13. ?元論(2) 14. 物語 15. 全体のまとめ  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75011001 |
| 科目名        | 【院】コミュニティ・アプローチ特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Community Approach   |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学と聞けば、面接室での心理テストや心理療法を思い浮かべるだろう。そしてそれらを行えるようになることが臨床心理学の学習の中心だと考えるかもしれない。しかし、行う事柄の目的は対象とする人の援助であることを考えるようになると、その人が面接室の心理臨床家の前にいる時間はほんのわずかであるので、それ以外の時間における援助についても考えることになる。また、面接室での面接もそのことの影響を受けたり、援助全体をより広い視野で組み立て直す必要が出てきたりする。さらに、予防的観点から一般住民に働きかけるべき内容も臨床家は自らの内にもつことになり、社会のあり方についてもより深く考えるようになる。そのようなより広い視野をもち、その人や住民の生活する地域全体、いろんな専門家や非専門家に対してもアプローチしていこうとするのがコミュニティ心理学である。言い換えれば、ソーシャル・ワークの一部も含み込んだ臨床心理学であり、臨床実践を行っていくうえでの必要不可欠なアプローチである。授業では、児童福祉臨床業務におけるコミュニティ・アプローチの実際を中心に検討し、またコミュニティ・アプローチの諸概念や方法について整理したい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 植村・高島・原・久田編著「よくわかるコミュニティ心理学」2006 ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度による平常点（50％）。課題への取り組みについての評価点（50％）。  |       |           |
| 到達目標       | 対人援助についてより広い視野で検討し、実践に移すことのできるようなセンスを学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | コミュニティ心理学に関する文献に目を通しておくのが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 対人援助に関する社会的取り組みは多く、よく報道もされているので、日頃から関心をもち情報収集に努めてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 児童相談所業務におけるコミュニティ・アプローチ  2. コミュニティ心理学とは何か  3. 発想と理論  4. 介入や援助①  5. 同 ②  6. 家庭・地域・学校関連①  7. 同 ②  8. 同 ③  9. 医療・保健・福祉関連①  10. 同 ②  11. 同 ③  12. 産業・職場関連  13. 多文化コミュニティや新しい手段  14. まとめのディスカッション①  15. 同 ②  ※上記の内容や順序については変更される場合がある。  コミュニティ・アプローチに関する見学や実習の機会がタイミングよくあれば、それに替える回もあり得る。</p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                 |
|--|---|-------|-----------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75012A01       |
| 科目名  | 【院】ジェンダー社会学研究演習 A   | 単位数   | 2               |
| 科目名 (英語表記)   | Graduate Seminar in Sociology of Gender A   |       |                 |
| 担当者名   | 黒木 雅子   | 旧科目名称 | 【院】ジェンダー論研究演習 I |
| 講義概要   | ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると理解されはじめて 30 年余り、ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性のジェンダー、そしてセクシュアリティと広い。その背景には、80 年代半ば以降、ジェンダー理論がジェンダーだけでなく、人種・エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教などさまざまな差異 (社会的カテゴリー) と向きあわねばならなくなったことがある。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。 |       |                 |
| 教材 (テキスト)  | 最初の演習にて講読文献リストを配布し、指定する。  |       |                 |
| 教材 (参考文献)  | 適宜配布あるいは指定する  |       |                 |
| 教材 (その他)   | 特になし  |       |                 |
| 評価方法   | 平常点(40%)出席状況等による。期末レポート(60%)  |       |                 |
| 到達目標   | ジェンダー社会学の系譜および基礎的理解   |       |                 |
| 準備学習   | 演習にて指示する  |       |                 |
| 受講者への要望  |   |       |                 |
| 日本語だけでなく英語の文献講読を行う予定である。                               |   |       |                 |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                 |
| 1, イントロダクション 2, 研究の計画について 3~14, 文献リストから選び講読を行う 15, まとめ |   |       |                 |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                 |
|---|---|-------|-----------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75012B01       |
| 科目名   | 【院】ジェンダー社会学研究演習B  | 単位数   | 2               |
| 科目名（英語表記）                                     | Graduate Seminar in Sociology of Gender B   |       |                 |
| 担当者名  | 黒木 雅子   | 旧科目名称 | 【院】ジェンダー論研究演習II |
| 講義概要  | ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると理解されはじめて 30 年余り、ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性のジェンダー、そしてセクシュアリティと広い。その背景には、80 年代半ば以降、ジェンダー理論がジェンダーだけでなく、人種・エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教などさまざまな差異（社会的カテゴリー）と向きあわねばならなくなったことがある。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。 |       |                 |
| 教材（テキスト）                                      | 講読文献リストより指定する   |       |                 |
| 教材（参考文献）                                      | 適宜配布あるいは指定する  |       |                 |
| 教材（その他）                                       | 特になし  |       |                 |
| 評価方法  | 平常点(40%)出席状況等による。期末レポート(60%)  |       |                 |
| 到達目標  | 各自の研究課題をジェンダー社会学の理論のなかで位置づける  |       |                 |
| 準備学習  | 演習にて指示する  |       |                 |
| 受講者への要望                                       |   |       |                 |
| 日本語だけでなく英語の文献講読を行う予定である。                      |   |       |                 |
| 講義の順序とポイント                                    |   |       |                 |
| 1, 後期イントロダクション 2~14, 文献リストからの選書、講読、発表 15, まとめ |   |       |                 |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75012C01 |
| 科目名  | 【院】ジェンダー社会学研究演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology of Gender C   |       |           |
| 担当者名   | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると理解されはじめて 30 年余り、ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性のジェンダー、そしてセクシュアリティと広い。その背景には、80 年代半ば以降、ジェンダー理論がジェンダーだけでなく、人種・エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教などさまざまな差異（社会的カテゴリー）と向きあわねばならなくなったことがある。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 講読文献リストより指定する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜配布あるいは指定する  |       |           |
| 教材（その他）  | 特になし  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%)出席状況等による。期末レポート(70%)  |       |           |
| 到達目標   | 修士論文計画書に基づいてリサーチを行う   |       |           |
| 準備学習   | 演習にて指示する  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 日本語だけでなく英語の文献講読を予定である。                                 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1, イントロダクション 2, 研究計画について 3~14, 研究計画に沿った講読と論文指導 15, まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75012D01 |
| 科目名        | 【院】ジェンダー社会学研究演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology of Gender D   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ジェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると理解されはじめて 30 年余り、ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性のジェンダー、そしてセクシュアリティと広い。その背景には、80 年代半ば以降、ジェンダー理論がジェンダーだけでなく、人種・エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教などの差異（社会的カテゴリー）と向きあわねばならなくなったことがある。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 講読文献リストより指定する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜配布あるいは指定する  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席状況等による、修士論文(80%)  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文の完成   |       |           |
| 準備学習       | 演習にて指示する  |       |           |
| 受講者への要望    | 日本語だけでなく英語の文献講読を行う予定である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, イントロダクション 2, 研究計画について 3~14 論文指導と発表 15, まとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75015A01     |
| 科目名        | 【院】ジェンダー社会学特論A   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Sociology of Gender A  |       |               |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 | 【院】ジェンダー論特論 I |
| 講義概要       | <p>女と男の関係は、長い間社会のなかで変えることのできない自然なものとして自明視されてきた。それを批判的に読み解き、問いを発するために必要なのが「ジェンダー」という分析概念である。ジェンダー社会学の出発点では、「人間」という性別中立（性別不問）の分析では、女性だけでなく男性の経験も十分に捉えることはできないという認識がある。本特論では、日本とアメリカの社会学および隣接分野におけるジェンダーに関する基礎的な文献を読むことによって、ジェンダー研究がどのように発展してきたかその系譜をたどり、包括的な理解と課題をさぐる。</p> |       |               |
| 教材（テキスト）   | 最初の授業にて指定する  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 適宜配布あるいは指定する   |       |               |
| 教材（その他）    | 特になし   |       |               |
| 評価方法       | 発表、期末レポート  |       |               |
| 到達目標       | 社会学のなかでのジェンダー研究の位置づけと基礎的理解   |       |               |
| 準備学習       | 授業にて指示する   |       |               |
| 受講者への要望    |  |       |               |
| 授業にて指示する   |  |       |               |
| 講義の順序とポイント | 1, イントロダクション 2, 各自の研究計画について 3, ジェンダー社会学とは 4, ジェンダー社会学の位置づけと系譜 5~14, 指定文献の購読と発表 15, まとめ   |       |               |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                  |
|--|---|-------|------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75024A01        |
| 科目名  | 【院】ジャーナリズム研究演習 A  | 単位数   | 2                |
| 科目名 (英語表記)   | Graduate Seminar on Journalism A  |       |                  |
| 担当者名   | 福永 勝也   | 旧科目名称 | 【院】ジャーナリズム研究演習 I |
| 講義概要   | 演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第1に研究テーマの設定、第2にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第3に関連文献の蒐集と読解、第4にメディアなどの現場取材、第5に総合把握と問題点の集約、第6に研究発表(プレゼンテーション)、最後の第7が修士論文の作成である。 |       |                  |
| 教材(テキスト)   | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)  |       |                  |
| 教材(参考文献)   |   |       |                  |
| 教材(その他)  |   |       |                  |
| 評価方法   | 授業内レポート50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション30%、平常点(授業への参加度合い)20%。   |       |                  |
| 到達目標   | 当然のことながら、院生の専門研究が修士号レベルに達するまで高めることに尽きるが、それと併せてその研究が将来の就職にも反映されることを望む。   |       |                  |
| 準備学習   | ジャーナリズム研究はいわば実証学でもあるので、テレビや新聞、雑誌などで研究テーマがどのように報じられているのか、事前に検証しておいてほしいと思います。   |       |                  |
| 受講者への要望  |   |       |                  |
| マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。   |   |       |                  |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                  |
| 1 大学院における研究計画とそのスケジュール 2 研究テーマ設定に関する討議 3 研究テーマ設定に対する評価と指導 4 方法論決定に関する協議 5 方法論策定のための資料選択 6 具体的な研究計画の決定 7 研究計画の具体化としての文献・調査対象の選定 8 研究結果報告と指導 9 研究結果報告と指導 10 研究結果報告と指導 11 研究・調査結果の報告と指導 12 文献目録の作成 13 経過発表と討論 14 研究領域に関する研究書の講読 15 総括 |   |       |                  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                  |
|------------|---|-------|------------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75024B01        |
| 科目名        | 【院】ジャーナリズム研究演習B   | 単位数   | 2                |
| 科目名(英語表記)  | Graduate Seminar on Journalism B  |       |                  |
| 担当者名       | 福永 勝也   | 旧科目名称 | 【院】ジャーナリズム研究演習II |
| 講義概要       | 演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第1に研究テーマの設定、第2にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第3に関連文献の蒐集と読解、第4にメディアなどの現場取材、第5に総合把握と問題点の集約、第6に研究発表(プレゼンテーション)、最後の第7が修士論文の作成である。       |       |                  |
| 教材(テキスト)   | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)  |       |                  |
| 教材(参考文献)   |   |       |                  |
| 教材(その他)    |   |       |                  |
| 評価方法       | 演習に対する取り組み姿勢やレポート50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション30%、平常点(授業への参加の度合い)20%。  |       |                  |
| 到達目標       | 研究論文を修士号レベルに高めるのは当然であるが、それと同時に、その研究成果を将来の進路、つまり就職に結びつけることが最終的な目標である。  |       |                  |
| 準備学習       | ジャーナリズム研究はテレビや新聞、雑誌など様々なメディア研究を抜きにしては語れず、その意味に於いて幅広い情報収集が求められる。このジャンルは幅が広いので、できるだけ早く研究テーマを絞っておくことが肝要と思われる。  |       |                  |
| 受講者への要望    | マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。  |       |                  |
| 講義の順序とポイント | 1 研究論文の進行状況発表 2 調査結果報告 3 資料蒐集(新聞・文献) 4 資料検索と蒐集(ウェブ) 5 研究と論文作成の方法について 6 研究の中間発表と討議 7 研究の中間発表と討議 8 研究課題に関する実際的検証 9 既存(類似・参考)論文の蒐集結果の発表 10 専門研究書の輪読 11 各種データの蒐集と整理(客観化) 12 各種データの蒐集と整理(客観化) 13 研究結果の報告とそれに対する指導 14 研究結果の報告とそれに対する指導 15 まとめ |       |                  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                   |
|--|---|-------|-------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75024C01         |
| 科目名  | 【院】ジャーナリズム研究演習C   | 単位数   | 2                 |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Journalism C  |       |                   |
| 担当者名   | 福永 勝也   | 旧科目名称 | 【院】ジャーナリズム研究演習III |
| 講義概要   | 演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第1に研究テーマの設定、第2にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第3に関連文献の蒐集と読解、第4にメディアなどの現場取材、第5に総合把握と問題点の集約、第6に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第7が修士論文の作成である。 |       |                   |
| 教材（テキスト）   | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）  |       |                   |
| 教材（参考文献）   |   |       |                   |
| 教材（その他）  |   |       |                   |
| 評価方法   | 演習に対する取り組み姿勢やレポート50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーションの内容30%、平常点（授業への参加の度合い）20%。   |       |                   |
| 到達目標   | 研究を修士号レベルに高めるのは当然だが、それに加えて、その成果を将来の進路、つまり就職に結びつけることが肝要と思われる。  |       |                   |
| 準備学習   | ジャーナリズムは幅広い分野をカバーしており、しかも様々なメディアがあることから、研究テーマを早く決定して、リサーチの焦点を絞っておくことが必要である。   |       |                   |
| 受講者への要望  |   |       |                   |
| マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。   |   |       |                   |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                   |
| 1 研究進捗状況についてのディスカッション  2 追加蒐集資料の報告とそれに対する指導  3 研究結果報告と指導  4 研究結果報告と指導  5 研究の中間発表とそれに対する評価と討議  6 研究の中間発表とそれに対する評価と討議  7 文献目録の作成  8 研究分析項目の設計と発表  9 研究分析項目の設計と検証  10 論文全体の問題点整理  11 仮説（研究）に対する検証  12 データに関するプレゼンテーション  13 データに関するプレゼンテーションと指導  14 論文の文章学的検証  15 完成論文作成のための最終検討 |   |       |                   |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                  |
|---|---|-------|------------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75024D01        |
| 科目名   | 【院】ジャーナリズム研究演習D   | 単位数   | 2                |
| 科目名（英語表記）   | Graduate Seminar on Journalism D  |       |                  |
| 担当者名  | 福永 勝也   | 旧科目名称 | 【院】ジャーナリズム研究演習IV |
| 講義概要  | 演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第1に研究テーマの設定、第2にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第3に関連文献の蒐集と読解、第4にメディアなどの現場取材、第5に総合把握と問題点の集約、第6に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第7が修士論文の作成である。 |       |                  |
| 教材（テキスト）  | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）  |       |                  |
| 教材（参考文献）  |   |       |                  |
| 教材（その他）   |   |       |                  |
| 評価方法  | 演習に対する取り組み姿勢やレポート50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーションの内容30%、平常点（授業への参加の度合い）20%。   |       |                  |
| 到達目標  | 個々の専門研究が修士号レベルに達するのは当然ですが、その成果が将来の進路、つまり就職に繋がることを目指します。   |       |                  |
| 準備学習  | ジャーナリズムの世界は研究対象が国内外、あるいはメディアそのものも新聞、テレビ、雑誌、ネットなど多種多様なので、主題を決定する前に全体を俯瞰しておくことが求められます。  |       |                  |
| 受講者への要望   |   |       |                  |
| マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。  |   |       |                  |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                  |
| 1 論文作成のための最終プロセスの確認  2 論文全体の論点整理  3 情報・データの正確性のチェック  4 論理展開の齟齬の有無の検証  5 研究の中間発表と討議  6 研究の中間発表と討議  7 研究結果報告とそれに対する指導  8 研究結果報告とそれに対する指導  9 引用文献とその内容の分析・検証  10 引用データの検証とその是非の確認作業  11 引用データの検証とその是非の確認作業  12 論文の論理性に対する検証  13 研究論文の文章学的なチェック  14 論文の最終的な発表とそれに対する評価  15 総括 |   |       |                  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75032A01 |
| 科目名   | 【院】ジャーナリズム特論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Journalism A  |       |           |
| 担当者名  | 福永 勝也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 今日の高度情報化社会において、新聞やテレビによる報道、さらにインターネット上を玉石混交の様々な情報が流れているが、それらを「賢い情報人」としていかに正確に、そして批判的に読み解くかが問われている。そうしないと、人々は本当に必要な情報とは何かを特定できないまま、圧倒的なメディアの力による情報洪水に流されてしまうことになりかねない。この授業ではそのような観点から、教科書によってジャーナリズムの根幹を学ぶとともに、日々発生している様々な社会事象について、共に考え検証していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 講義途中や終了時におけるレポート（70%）、小テスト（10%）、さらに授業参加の度合い（20%）などを総合して判断する。  |       |           |
| 到達目標  | 情報化社会を左右している各種メディアの現況やメカニズムの理解、その上に立ってニュースを正確に分析することによって社会事象に対する客観的認識を深める。  |       |           |
| 準備学習  | ともかく教科書をよく読んでおくこと。さらに、新聞やテレビなどによって報道されている日々のニュースに対する感度を上げておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出来るだけ最新のニュースについて、学生とともに分析しながらリテラシー能力を高めたいと思っているが、大学院である限り、やはりジャーナリズムのアカデミックな原理（原論）を学ぶ必要があると思います。そのために、ジャーナリズムをより深く考察するために教科書利用は欠かせません。教科書必携です。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ジャーナリズム概説入門 2 日本の新聞、テレビ、インターネット概況 3 戦国時代を迎えた米国のメディア状況 4 世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現 5 新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題 6 マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか 7 IT革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」 8 新旧メディア企業によるM&A（合併・吸収）戦争 9 各種メディアにおけるメディア産業論 10 新聞はオールドメディアで消えゆく運命か 11 圧倒的影響力を誇るテレビメディアの功罪 12 ジャーナリズムとポピュリズムの問題 13 政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係 14 コマーシャルリズムによってジャーナリズムは衰退するのか 15 ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75037A01 |
| 科目名        | 【院】 マルチメディア特論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Multi-media Society A  |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間を拡張すると同時に人間を社会的に枠づける役割を果たす「メディア（media）」に関する基礎的な文献購読を基に、メディアと社会の関係を歴史的に省察し、今日のメディアと社会の関係について考えていく。<br>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業内に相談の上、指示。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法       | 総合的に評価。  |       |           |
| 到達目標       | メディアと社会を自分の視点で考える。   |       |           |
| 準備学習       | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的に参加することを望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 基礎文献購読／個人発表。  01 オリエンテーション  02 文献講読 01 03 文献講読 02 04 文献講読 03  05 文献講読 04 06 文献講読 05 07 文献講読 06 08 文献講読 07  09 文献講読 08  10 文献講読 09  11 文献講読 10  12 文献講読 11 13 文献講読 12 14 個人発表 01 15 個人発表 02 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75041001 |
| 科目名  | 【院】映像制作特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Media-Product Making  |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「テレビ」が娯楽メディアとして登場して約60年。今や世の中の出来事や動きを知る手段としては「新聞」をはるかに凌ぐ存在となっている。それだけにデジタル時代を迎えてNHK、民間放送とも報道情報の発信を質・量とも充実させなければならない。 テレビ映像の情報量の多さと「同時性」「速報性」などの特性は、視聴者に感覚的に事件や出来事を認識させることができる。しかし、客観報道が求められるニュース映像やドキュメンタリー映像といえども制作者（ディレクター、記者、カメラマン等）のスタンスに影響を受ける。また加熱する取材合戦による報道被害、やらせ映像、センセーショナルな映像表現など制作者の姿勢に批判が集中する事例も多い。 過去の優れた報道映像や日々、放送される映像作品を実証的に検証することで、報道映像の制作手法や、取材の可能性と限界、社会的影響を考察する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 教材プリントを随時、配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 学期末の「小論文」や「映像作品」によって評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 情報社会の中で、依存度が高いテレビ放送のニュース映像、ドキュメンタリー映像を検証することで、報道映像の制作手法とその可能性と限界、社会的影響を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 日常的に優れた報道番組、ドキュメンタリー番組に接するよう心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 将来、テレビメディアの報道現場を目指す、意欲的な学生の受講が望ましい。                          |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| ①～③ テレビ放送の現状と放送の仕組み ④～⑧ ニュース、報道番組の検証 ⑨～⑭ ドキュメンタリー番組の検証 ⑮ まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75044001 |
| 科目名        | 【院】学校カウンセリング特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in School Counseling   |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学校臨床心理学やカウンセリングの概論については学部での授業、あるいは自主学習によって理解していることを前提に進めるので、概論を学習していない受講者は、「学校臨床心理学」「スクール・カウンセリング」などの初心者向け書籍に目を通しておくことを勧める。講義は、学校現場における子どもや家族に向けての援助活動に焦点を当て、下記の教科書にそって進める。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 川畑隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法～よりよい展開へのヒント～」2009 明石書店。最初の授業で著者割引価格で販売するので、事前に購入する必要はない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 出席や授業態度による平常点（50％）。課題への取り組みなどの評価点（50％）。   |       |           |
| 到達目標       | 学校のスタッフとして「子どもと家族の援助」にどう関わるかについて、イメージが描けること。  |       |           |
| 準備学習       | 次回の授業で扱う部分を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生からも積極的に見解等について発言してほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション   2. 相談を受けたら何を援助したらよいのか ①   3. 同 ②   4. つながりをみつけ悪循環を切るために①   5. 同 ②   6. 1人で考えこまずにみんなで考えよう   7. かかわりをつくるためにどんな工夫をすればよいか   8. つながりのもつ意味を6つの家族像から考える①   9. 同 ②   10. 保護者からのクレームへの対応が援助に結びつくために   11. 障害児への支援をバランスよく行なう   12. 児童虐待に適切に対応する   13. 外部機関と連携するためのコツ   14. その他の課題   15. まとめ</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75048B01 |
| 科目名        | 【院】学習心理学特論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Psychology of Learning B  |       |           |
| 担当者名       | 菊野 春雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業の目標は、授業を通して、学習における諸課題についての心理学的メカニズムを理解することである。さらにそれらの知見から多くの示唆を得ることが可能になる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「発達と教育の心理学」創元社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 日常の授業への参加（40％）と課題の遂行（60％）によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | この授業を受講することによって、学習についての課題を理解し考える力をつけたい。   |       |           |
| 準備学習       | 授業中に指示します。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に対しては積極的な議論への参加を希望します。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)はじめに (2)学業不振 (3)学力と評価 (4)評価のタイプ (5)教師のリーダーシップ (6)教師と学習 (7)学習意欲 (8)認知発達から見た学習 (9)ピアジェ理論と学習 (10)ヴィゴツキー理論と学習 (11)学習の方法と教授 (12)画像の認識と記憶 (13)画像の認識と発達 (14)目撃記憶と目撃証言 (15)目撃記憶の理論：融合理論と共存理論 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75050001 |
| 科目名   | 【院】教育評価・心理検査特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Educational Assessment and Psychological Testing                                    |       |           |
| 担当者名  | 藤岡 秀樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 学力・知能・学習・性格・集団などの学校現場における教育評価のあり方と心理検査の活用について論じる。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書・参考書については、第1回目の講義で紹介する。プリントを毎回配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | レポート（65%）、授業における発表内容や受講態度（30%）、その他（5%）を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 教育評価の技法を理解し、それらを活用できるようになること。  2. 様々な心理検査の特徴を理解し、正しく実施して結果の解釈ができること。  3. 心理教育的アセスメントを行う際の倫理を理解できること。 |       |           |
| 準備学習  | 学部で学んだ心理検査について、一通りの復習を事前に行って頂きたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業は、講義形式で進めるが、ディスカッションの場を取り入れるので、積極的に参加して欲しい。レポート課題を与えるので、授業に欠席しないこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回～第3回 オリエンテーション 教育評価・心理教育的アセスメントとは、アセスメントに基づく支援、学校心理学におけるアセスメントの意義 第4回～第5回 心理教育的アセスメントの方法 調査法、観察法、面接法、テスト法、記録のまとめ方、信頼性と妥当性 第6回～第9回 心理検査の活用 質問紙法、作業検査法、投影法の概要 知能検査（田中ビネーV、WISC-III、WISC-IV）、認知能力検査（K-ABC）、学力検査（CRT、NRT）を重点的に紹介する 第10回 進路適性と職業興味検査 VPI 職業興味検査を体験する 第11回～第14回 教育評価 指導と評価の一体化、診断的評価・形成的評価・総括的評価、目標に準拠した評価と集団に準拠した評価、評価規準と評価基準、個人内評価、ポートフォリオ評価、ルーブリック、パフォーマンス評価 第15回 まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75051A01 |
| 科目名        | 【院】 広告広報特論 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Studies in Advertising and Public Relations A   |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 企業や組織のマーケティング、広告活動、広告産業の実際などについての文献を講読し、またさまざまな広告キャンペーンやクリエイターの作品の分析などにもとづき、PR 活動や戦略的なコミュニケーション活動、そこでのクリエイティブ (広告表現) の展開について考察を行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生の関心などもふまえ、講義中に指示する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) : 授業での発表   試験 : 期末レポート (60%)   |       |           |
| 到達目標       | 組織のコミュニケーション活動、PR 活動、広告展開について、理論や実際をリアルに学習した上で、その必要性和問題性を認識し、送り手・受け手の双方の立場からの洞察を行えるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 1) テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。  2) ひとつの広告表現について、オーディエンス (市民・消費者)、送り手・作り手 (広告主、広告会社) の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 広告や広報は、どのような個人や組織も自らの活動への支持を形成し、その成就を果たすために不可欠な発想や行動である。どんな進路を考える者も幅広い視野でこのテーマをとらえ、参加してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <講義予定>   第 1 回 : オリエンテーション   第 2 回 : テキスト講読・発表 (1)   第 3 回 : テキスト講読・発表 (2)   第 4 回 : テキスト講読・発表 (3)   第 5 回 : テキスト講読・発表 (4)   第 6 回 : テキスト講読・発表 (5)   第 7 回 : テキスト講読・発表 (6)   第 8 回 : テキスト講読・発表 (7)   第 9 回 : テキスト講読・発表 (8)   第 10 回 : テキスト講読・発表 (9)   第 11 回 : テキスト講読・発表 (10)   第 12 回 : テキスト講読・発表 (11)   第 13 回 : テキスト講読・発表 (12)   第 14 回 : テキスト講読・発表 (13)   第 15 回 : ふりかえり |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75059A01    |
| 科目名        | 【院】社会学研究演習 A                                       | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology A                    |       |              |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 【院】社会学研究演習 I |
| 講義概要       | 「社会学研究演習」A・B・C・Dを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。 |       |              |
| 教材（テキスト）   |  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）    |  |       |              |
| 評価方法       | 研究発表とレポート・論文に依る。                                   |       |              |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する。   |       |              |
| 準備学習       | 個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。                              |       |              |
| 受講者への要望    | 積極的に研究に取り組むことを望む。                                  |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1-10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆                        |       |              |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75059B01    |
| 科目名        | 【院】社会学研究演習B  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology B                    |       |              |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 【院】社会学研究演習II |
| 講義概要       | 「社会学研究演習」A・B・C・Dを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。 |       |              |
| 教材（テキスト）   |  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）    |  |       |              |
| 評価方法       | 研究発表とレポート・論文に依る。                                   |       |              |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する。   |       |              |
| 準備学習       | 個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。                              |       |              |
| 受講者への要望    | 積極的に研究に取り組むことを望む。                                  |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1-10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆                        |       |              |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |             |
|------------|--|-------|-------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75059C01   |
| 科目名        | 【院】社会学研究演習C  | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology C                    |       |             |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 【院】社会学研究演習Ⅲ |
| 講義概要       | 「社会学研究演習」A・B・C・Dを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。 |       |             |
| 教材（テキスト）   |  |       |             |
| 教材（参考文献）   |  |       |             |
| 教材（その他）    |  |       |             |
| 評価方法       | 研究発表とレポート・論文に依る。                                   |       |             |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する。   |       |             |
| 準備学習       | 個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。                              |       |             |
| 受講者への要望    | 積極的に研究に取り組むことを望む。                                  |       |             |
| 講義の順序とポイント | 1-10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆                        |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75059D01    |
| 科目名        | 【院】社会学研究演習D  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar in Sociology D                    |       |              |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 【院】社会学研究演習IV |
| 講義概要       | 「社会学研究演習」A・B・C・Dを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。 |       |              |
| 教材（テキスト）   |  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）    |  |       |              |
| 評価方法       | 研究発表とレポート・論文に依る。                                   |       |              |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する。   |       |              |
| 準備学習       | 個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。                              |       |              |
| 受講者への要望    | 積極的に研究に取り組むことを望む。                                  |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1-10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆                        |       |              |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75068A01    |
| 科目名        | 【院】社会心理学特論A  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Social Psychology A  |       |              |
| 担当者名       | 有馬 淑子  | 旧科目名称 | 【院】社会心理学特論 I |
| 講義概要       | <p>集団過程においては、話し合いが始まると同時に、互いに共有可能な意味を探り合い、その場において一定の共有知識構造が形成される。この過程において、集団の意志決定が極端化する集団極化現象が生じる過程をデータから検討する。さらに、このような共有知識構造が、どのように合意形成過程に影響するのかを探るため、個人の記憶システム、小集団内の相互作用、社会に共有される知識構造の変動、そしてインターネットにおける共有知識について検討を進める。</p> |       |              |
| 教材（テキスト）   | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）    |  |       |              |
| 評価方法       | 平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。  |       |              |
| 到達目標       | 文献を読みこなして論考する力を養う。   |       |              |
| 準備学習       | これまでに培った英語力を持続させておくこと。   |       |              |
| 受講者への要望    | 授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。   |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1～2. 集団極化現象 3～4. 集団の情報処理システム 5～6. 世論変動と普及過程 7～8. 社会的アイデンティティ 9～10. リーダーシップと集団間コンフリクト 12～13. インターネットと集合知 14～15. 討論と発表   |       |              |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | 12         | 11  | 12  | 13  | 13    | 14     |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75068B01 |
| 科目名        | 【院】社会心理学特論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Social Psychology B  |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>集団過程においては、話し合いが始まると同時に、互いに共有可能な意味を探り合い、その場において一定の共有知識構造が形成される。この過程において、集団の意志決定が極端化する集団極化現象が生じる過程をデータから検討する。さらに、このような共有知識構造が、どのように合意形成過程に影響するのかを探るため、個人の記憶システム、小集団内の相互作用、社会に共有される知識構造の変動、そしてインターネットにおける共有知識について検討を進める。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要な文献・教材は授業中に適宜指示する  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）と、発表(30％)と最終レポート(30％)により評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 文献を読みこなして論考する力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | これまでに培った英語力を持続させておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～2. 集団極化現象 3～4. 集団の情報処理システム 5～6. 世論変動と普及過程 7～8. 社会的アイデンティティ 9～10. リーダーシップと集団間コンフリクト 12～13. インターネットと集合知 14～15. 討論と発表   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75071001 |
| 科目名  | 【院】障害児心理学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Psychology for Disability Children  |       |           |
| 担当者名   | 清水 里美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 障害のある子ども、または障害の疑われる子どもの心理特性について、発達心理学および臨床心理学の立場から考察する。とりわけ、自閉症などの発達障害を中心に、さまざまな適応上の問題を抱える子どもの知的側面や情緒的側面に関する心理アセスメントおよび心理治療、発達支援について概説する。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに指定しない。各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 中瀬惇他編著『新版K式発達検査反応実例集』ナカニシヤ出版、生澤雅夫他編著『新版K式発達検査法』ナカニシヤ出版、ジェルソー他著、清水里美訳『カウンセリング心理学』ブレーン出版、佐藤泰正著『障害児の心理』学芸図書株式会社、柘植雅義・井上雅彦編著『発達障害の子を育てる家族への支援』金子書房、その他授業中に適宜紹介する。 |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（20%）出席状況等による。授業中の課題（30%） 期末レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標   | 発達心理学および臨床心理学の立場から障害のある子どもの心理特性や支援を考えるうえで必要とされる観点を理解し、実践の場で活用できる力を身につけることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 障害児問題に関する世の中の動きを常に意識し、新聞などの記事およびテレビ番組などにも関心をもっておくこと。 各講義の中で、次の講義のための準備学習を適宜指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 障害児心理学について、広く関心をもって授業に臨んでほしい。 講義の中で、意見交換をしたり、体験したりする時間を設けるので、積極的な参加を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.子どもの発達過程：胎児期からの子どもの発達の様子を映像も用いながら解説する。 2. 発達のアセスメント：乳幼児期から学童期にかけて発見される発達の問題とそのアセスメントの方法について解説する。 3. 知的障害と肢体不自由：知的障害児と肢体不自由児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。  4. 視覚・聴覚障害と言語障害：視覚・聴覚障害児と言語障害児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。 5. 広汎性発達障害：広汎性発達障害児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。 6. 学習障害と注意欠陥・多動性障害：学習障害児と注意欠陥・多動性障害児の障害特性および心理アセスメントについて概説する。 7. 情緒障害と病弱・虚弱：情緒障害児と病弱・虚弱児の障害特性および心理アセスメントについて概説する。 8. 保護者への支援：障害のある子どもの保護者の心理と支援の実際について概説する。 9. 障害児へのソーシャルサポートと特別支援教育：さまざまなソーシャルサポートや特別支援教育の現状について概説する。 10. 幼稚園保育園における支援：具体的な事例をもとに、幼稚園における支援の実際について概説する。 11. 小学校における支援：具体的な事例をもとに、小学校における支援の実際について概説する。 12. 中学校における支援：具体的な事例をもとに、中学校における支援の実際について概説する。 13. 高校・大学における支援：具体的な事例をもとに、高校・大学における支援の実際について概説する。 14. 就労支援：障害のある人への就労支援のあり方について概説する。 15. まとめと今後の課題 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75078A01 |
| 科目名        | 【院】心理学研究演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Graduate Seminar on Psychology A   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、各自の興味や将来の進路に合わせて、人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。また、授業時間外に実験を実施し、得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。<br>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) は出席状況等による。研究発表 (50%)   |       |           |
| 到達目標       | 人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。  |       |           |
| 準備学習       | レジュメの作成  |       |           |
| 受講者への要望    | いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 研究テーマを設定し、修士論文作成計画を提出させる。  2. 修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。  3. 設定されたテーマに関する内外の文献収集を行う。  4. 収集した文献のレジュメを作成して発表し、解明すべき問題点を明らかにする。  5. 研究テーマを再調整する。  6. 実験計画を立て、授業時間外に実験を実施する。  7. 実験データを分析し、発表する。  8. 研究レポートを作成する。  ----- ●修士論文作成のための指導計画  1. 1回生の春学期に文献検索等をしながらか修士論文のテーマを設定し、予備調査あるいは予備実験を行う。  2. 1回生の秋学期に修士論文のテーマに関する引用・参考文献一覧を作成しながら、第1調査あるいは第1実験を行う。  3. 2回生の春学期に第1調査あるいは第1実験の結果と考察を作成し、第2調査あるいは第2実験を行う。  4. 2回生の秋学期に第2調査あるいは第2実験の結果と考察を作成し、序論と方法を作成して、修士論文を完成させる。 </p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75078B01 |
| 科目名        | 【院】心理学研究演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Psychology B  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本演習では、各自の興味や将来の進路に合わせて、人間の認知活動に関する内外の文献や資料を収集し、レジュメを作成して発表し、解明すべき問題などについて討論を行う。また、授業時間外に実験を実施し、得られたデータを分析して発表する。そのような文献研究および実験の実施によって修士論文を作成する。<br>   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）は出席状況等による。研究発表（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 人間の認知と情動を深く理解できる能力を身につけさせる。   |       |           |
| 準備学習       | レジュメの作成   |       |           |
| 受講者への要望    | いつでも研究発表できるよう準備しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究テーマを設定し、修士論文作成計画を提出させる。   2. 修士論文作成計画に基づいて修士論文の指導計画を立てる。   3. 設定されたテーマに関する内外の文献収集を行う。   4. 収集した文献のレジュメを作成して発表し、解明すべき問題点を明らかにする。   5. 研究テーマを再調整する。   6. 実験計画を立て、授業時間外に実験を実施する。   7. 実験データを分析し、発表する。   8. 研究レポートを作成する。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75086001 |
| 科目名        | 【院】心理学研究法特論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Psychology Research Method A   |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 心理学研究のデザインについて、実験法や調査法等のデータ収集方法、独立変数と従属変数の設定、因果関係の検証可能性、などの視点から整理する。また、そうした研究を進めるために必要な、各種の統計手法を学習する。 受講者各自のこれまでに行ってきた研究や現在進めている研究（学部卒業研究や修士研究など）、興味を持っている研究などを可能な限り具体例として取り上げながら、実際の研究場面でのデザイン設定のポイント、適切な統計分析手法の選択と、データ解析結果の解釈の仕方、などを検討する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に紹介する   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)、および発表(50%)によって評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 心理学の研究計画を立てるために必要な基本事項を習得する。 量的研究を行うための、統計的方法の基礎を習得する。どのような研究計画にどのような統計方法が適切なのかを判断できるようになることと、統計的手法を適切に使いこなせるようになることが求められる。  |       |           |
| 準備学習       | 統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は、この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 各自がこれまでに行った研究や現在興味をもっている先行研究などの具体例を積極的に提供し、主体的に学習を行うことを希望する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 心理学研究法にかかわる基本的事項の整理 2. 推測統計の原理と必要性(1) 3. 推測統計の原理と必要性(2) 4. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(1) 5. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(2) 6. 相関研究とその分析方法(1) 7. 相関研究とその分析方法(2) 8. カテゴリカルデータの分析方法(1) 9. カテゴリカルデータの分析方法(2) 10. 測定の信頼性と妥当性(1) 11. 測定の信頼性と妥当性(2) 12. 探索的因子分析と関連手法(1) 13. 探索的因子分析と関連手法(2) 14. 因果モデルの当てはめ（構造方程式モデリング）(1) 15. 因果モデルの当てはめ（構造方程式モデリング）(2) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |            |
|------------|--|-------|------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75087A01  |
| 科目名        | 【院】心理療法特論A   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Psychotherapy A  |       |            |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 | 【院】心理療法特論I |
| 講義概要       | システム論的家族療法に関して、まず担当者のスタンスや経験、家族療法の基礎的事項について紹介し、次には実習と文献購読を交互に行ないたい。実習では家族合同面接の実施、家族の特徴の観察と評価に関するものを多く取り入れ、少なくとも家族とのよりよい関係を作り（ジョイニング）、家族アセスメントが可能な初回面接は実施できるような初歩的面接力と、観察力をつけることを目指したい。 家族療法は、とくに児童臨床の場合、子どもと子どもが育つ場の育成を考えるとときに有用な視点であり方法である。またシステム論的家族療法の視点は、家族員間だけでなくセラピストとクライアントの関係等のシステムにも目を配らせてくれるので、他の療法を行なう場合にも役に立ち、さらに家族だけでなく、その上位システム（様々な社会的集団等）を扱う場合にも力を貸してくれるので、コミュニティ・アプローチの際にも有用である。 |       |            |
| 教材（テキスト）   | 川畑 隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 2009 明石書店…初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 亀口憲治編著「心理療法プリマーズ 家族療法」2006 ミネルヴァ書房 中釜洋子著「家族のための心理援助」2008 金剛出版  その他については、授業で随時紹介する。   |       |            |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |            |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点（50%）、課題への取り組みの評価点（50%）。  |       |            |
| 到達目標       | 家族とのジョイニング（親しくなるための働きかけ）や、一定の家族アセスメントを可能とする家族合同初回面接を初級レベルで行なえるようになること。   |       |            |
| 準備学習       | 教科書や紹介する参考書を読み込む。  |       |            |
| 受講者への要望    | 実際の臨床場面に役立つ内容なので、より熱心に取り組んでほしい。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1. 担当者と家族療法   2. 家族療法の基礎①   3. // ②   4. 面接実習①   5. 文献講読①   6. 面接実習②   7. 文献講読②   8. 面接実習③   9. 文献講読③   10. 面接実習④   11. 文献講読④   12. 面接実習⑤   13. 文献講読⑤   14. 面接実習⑥   15. 文献講読⑥   (上記の内容や順序については変更があり得る)   |       |            |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75087C01  |
| 科目名  | 【院】心理療法特論C   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Psychotherapy C  |       |            |
| 担当者名   | 片山 知子  | 旧科目名称 | 【院】心理療法特論C |
| 講義概要   | 心理療法特論Cでは、遊戯療法についての講義と実習を行う。遊戯療法は、心理療法全般に通じる様々なエッセンスを含んでいる。そこで遊戯療法を理論的な側面だけではなく、体験実習、事例解釈の3つの側面からの講義を行う。実習による体験を生かして、理論や事例を理解してもらいたい。遊戯療法への入門。 |       |            |
| 教材（テキスト）   | 授業でプリントを配布する。  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示、紹介する。   |       |            |
| 教材（その他）  | スライドや写真など、教材は準備、指示します。   |       |            |
| 評価方法   | 平常点（40%）は、出席状況による。レポート（30%）。授業中の積極的参加（30%）   |       |            |
| 到達目標   | 遊戯療法の理論に加え、体験実習と授業の事例検討のディスカッションによって、遊戯療法に必要な基礎知識を習得する。  |       |            |
| 準備学習   | 自分で1つ遊戯療法の事例を選び、コピーして最初の授業に持参して下さい。  |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| ディスカッションや実習への積極的な参加を希望する。実習での個人や集団での体験を大切に、その体験をもとに、事例研究に望んでもらいたい。また特に、授業中は自分の意見や疑問を自由に発言してもらいたい。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| 1. 講義1 遊戯療法の基礎  2. 講義2 様々な子供たちとの遊戯療法（情緒障害・発達障害・被虐待児童）  3. 講義3 大人への遊戯療法：箱庭療法  4. 実習1 箱庭療法の実習と理論1  5. 実習2 箱庭療法の実習と理論2   6. 実習3 コラージュの実習と理論  7. 実習4 スカイグルの実習と理論  8. 実習5 グループで一つのものを作る体験  9. 実習6 実習のまとめ  10. 事例検討1 事例研究におけるグループディスカッション1  11. 事例検討2 事例研究におけるグループディスカッション2  12. 事例検討3 事例研究におけるグループディスカッション3  13. 事例検討4 事例研究におけるグループディスカッション4  14. 事例検討5 事例研究におけるグループディスカッション5  15. 講義4 総括 |  |       |            |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J75094001 |
| 科目名   | 【院】人間文化基礎特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Introduction to Humanities and Social Sciences  |       |           |
| 担当者名  | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 人文学と社会科学を交差させることによって、歴史、文化、社会システム、心の相互関連を理解し、受講生各自の研究テーマをその中に位置づける複眼的視野の形成を狙う。心理・メディア・文化を専門とする教員より各分野の基礎概念と方法論を学びながら、各自の研究テーマを深化させる。各担当教員よりそれぞれのレポート課題を課す予定。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 教材は授業時間中に指示する  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50%）、授業での課題・発表、レポート（50%） なお、レポートは3分野それぞれについて提出。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 受講生の研究テーマ・問題関心を、幅広い視野から位置づけなおす。 2. 修士論文執筆に必要な方法的基礎を知る。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 出席重視のため、遅刻、欠席のないように。 やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回 オリエンテーション／コミュニケーションとは何か？（君塚） 第2回 コミュニケーションとメディア（君塚） 第3回 コミュニケーションと社会—社会が「現実」をつくる（君塚） 第4回 社会と研究—研究者の立ち位置（君塚） 第5回 コミュニケーションと調査・研究—まとめ・ふりかえり（君塚） 第6回 しぐさの世界—身体表現の心理学（小川） 第7回 しぐさと表情の心理分析（小川） 第8回 しぐさの比較文化（小川） 第9回 しぐさ・動作・ふるまいの心理学（小川） 第10回 ことばと文化の心理学（小川） 第11回 総合的な茶文化史研究を求めて（吉村） 第12回 産育・葬送儀礼にみる茶俗の研究（吉村） 第13回 婚礼茶俗と文化コミュニケーション（吉村） 第14回 歳時の茶俗と供茶・施茶の世界（吉村） 第15回 日本茶俗史の研究（吉村） |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75095B01 |
| 科目名        | 【院】図書館情報文化特論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Library Information Studies B   |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 多メディア化の時代を迎えて図書館で収集する資料の範囲は拡大する傾向にある。収集資料の多様化によって新たな資料選択の基準が必要になる。特にヤングアダルト層の要求が多いマンガ、ビデオ等の資料は、まだ図書館としても評価の基準が固まっておらず、どこで購入の線引きをするかで常の意見の分かれるところである。本論では、近年、公共図書館や学校図書館において議論を呼んでいる、映像資料の取扱いに焦点をあて、我が国における表現としての位置づけや、ヤングアダルト層の情報要求の変化を考慮しつつ、図書館における映像資料の取扱いについて検討を進めていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて授業の中で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてビデオ等を視聴する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席等平常点（30％）、発表、授業や討論への参加度（10％）、レポート（60％）。   |       |           |
| 到達目標       | 図書館等社会教育施設における新しいメディアの取扱いかたについて考えをまとめる。   |       |           |
| 準備学習       | 新しいメディアのあり方について広い視野を持っておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 討論や発表には積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、オリエンテーション 2、図書館における映像資料の位置づけ 3、映像メディアに対する否定的意見（1） 4、映像メディアに対する否定的意見（2） 5、サブカルチャー表現としての問題点 6、図書館の館種による評価基準の違い 7、映像メディアに対する肯定的意見（1） 8、映像メディアに対する肯定的意見（2） 9、教養主義と貸出し中心主義 10、利用者の情報要求の把握 11、ヤングアダルトサービスと資料選択 12、多メディア化する社会の中の図書館 13、具体的な事例研究（1） 14、具体的な事例研究（2） 15、まとめ、研究発表  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75097A01 |
| 科目名  | 【院】政治社会学特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Political Sociology A  |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 近代の天皇のうちで、明治・昭和両天皇と異なって、大正天皇は長らく注目されずにきた。ところが、近年、大正天皇に関する研究が進み、従来の大正天皇像が変化を迫られている。この講義では、近年の大正天皇に関する文献を研究することにより、大正天皇の実像に迫り、また、日本における天皇の役割について考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 発表とレポートによる。  |       |           |
| 到達目標   | 大正天皇に関する認識を得る。   |       |           |
| 準備学習   | 明治・大正時代に関する歴史的な知識を持つておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 積極的に取り組んでほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2-5. 原武史『大正天皇』（朝日新聞社）について。 6-9. 古川隆久『大正天皇』（吉川弘文館）について。 10-13. ディキンソン『大正天皇』（ミネルヴァ書房）について。 14、15. 上記著作の比較研究 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75102001 |
| 科目名   | 【院】精神医学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Psychiatric Medicine  |       |           |
| 担当者名  | 佐々木 徹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>今日、クリニックを訪れるクライアントは多彩であり、彼らの訴えや問題とするところもまた多岐に渡る。その中で個々の訴えや症状に目を奪われることなく彼らの状態像を正しく見極め、適切に評価してゆくことが心理臨床にも期待されるだろう。さらには、医学的検査・治療が必要となる状況ないし可能性に対しても常に目が開かれていなければならない。そのためには個々のケースに際し、評価や判断の前提となる医学的知見もまた必要とされるであろう。  本講義はクリニックにおける心理臨床を円滑に行ってゆくためにも、精神医学の基本的な理解に基づいて個々のケースが一層多面的に捉えられるよう進められる。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリント等を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ディスカッションならびにプレゼンテーション（60%）。 レポート（40%）。  |       |           |
| 到達目標  | 精神医学における障害についての理解を深め、そこにおいて得られた知見を心理臨床の現場へとつなげることを目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 宿題を課す。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 心理臨床の個々のケースを念頭において、講義がより実践的に活用されるよう期待する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. 精神医学の対象  2. 精神医学の概念  3. 症候学 I（精神症状）  4. 症候学 II（身体症状）  5. 全体と部分の成り立ち  6. 動物的ということ  7. 植物的ということ  8. 精神 mind と心情 soul  9. からだについて I（病理的次元）  10. からだについて II（文化社会的表現）  11. からだについて III（間身体的あり方）  12. 行為と環境  13. 生態学的観点  14. 診断と治療  15. まとめ</p> |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75115A01 |
| 科目名        | 【院】都市文化史特論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in History of Urban Cul ture A   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのことばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」（『消えるヒッチハイカー』解説）  必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | Tara M. McGowan "The Kamishibai Classroom", ABC-CLIO, 2010, ISBN978-1-59158-873-3   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。   |       |           |
| 準備学習       | 時には英語文献などの読解も行うので、あらかじめ訳しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 方法を理解し、自らの課題解決に応用できるようにしてもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)イントロダクション (2)英文による紙芝居文献読解 (3)同上 (4)同上 (5)同上 (6)同上 (7)同上 (8)同上 (9)イメージによる街を歩く (10)絵引きの方法 (11)画像解釈学 (12)民俗学にとって近代とは何か (13)都市民俗学  (14) 還元の方法  (15) まとめ  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | 0          | 0   | 0   | 0   | 0     | 0      |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75115B01 |
| 科目名        | 【院】都市文化史特論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in History of Urban Cul ture B   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。  「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのこばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」(『消えるヒッチハイカー』解説)  必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | Tara M. McGowan "The Kamishibai Classroom", ABC-CLIO, 2010, ISBN978-1-59158-873-3   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。   |       |           |
| 準備学習       | 時には英語文献などの読解も行うので、あらかじめ訳しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 方法を理解し、自らの課題解決に応用できるようにしてもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1)イントロダクション (2)英文による紙芝居文献読解～(8) (9)文化的背景を学ぶ～(15)   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                |
|------------|---|-------|----------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75124A01      |
| 科目名        | 【院】日本語文化研究演習 A  | 単位数   | 2              |
| 科目名 (英語表記) | Graduate Seminar on Japanese Language A   |       |                |
| 担当者名       | 丸田 博之   | 旧科目名称 | 【院】日本語文化研究演習 I |
| 講義概要       | 研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいか」「何をどのように調べればよいか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。 |       |                |
| 教材 (テキスト)  | 授業中に指示する。   |       |                |
| 教材 (参考文献)  | 個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。   |       |                |
| 教材 (その他)   | 国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。   |       |                |
| 評価方法       | 授業中の発表 (50点) と期末レポート (50点) とで総合的に評価する。  |       |                |
| 到達目標       | 個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。  |       |                |
| 準備学習       | 卒業論文の推敲。  |       |                |
| 受講者への要望    | 院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。  |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1 半年間の授業の概要説明   2 卒業論文の要約発表   3 各自の研究項目に関する発表   4 発表   5 発表   6 発表   7 発表   8 発表   9 合評会   10 発表   11 発表   12 発表   13 発表   14 発表   15 反省会・合評会   |       |                |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                |
|------------|---|-------|----------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75124B01      |
| 科目名        | 【院】日本語文化研究演習B   | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Language B   |       |                |
| 担当者名       | 丸田 博之   | 旧科目名称 | 【院】日本語文化研究演習II |
| 講義概要       | 研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいか」「何をどのように調べればよいか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。 |       |                |
| 教材（テキスト）   | 授業中に指示する。   |       |                |
| 教材（参考文献）   | 個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。   |       |                |
| 教材（その他）    | 国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。   |       |                |
| 評価方法       | 授業中の発表（50点）と期末レポート（50点）とで総合的に評価する。  |       |                |
| 到達目標       | 個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。  |       |                |
| 準備学習       | 卒業論文の推敲。  |       |                |
| 受講者への要望    | 院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。  |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1 半年間の授業の概要説明  2 卒業論文の要約発表  3 各自の研究項目に関する発表  4 発表  5 発表  6 発表  7 発表  8 発表  9 合評会  10 発表  11 発表  12 発表  13 発表  14 発表  15 反省会・合評会   |       |                |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75124C01 |
| 科目名        | 【院】日本語文化研究演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Language C   |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいか」「何をどのように調べればよいか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業中の発表（50点）と期末レポート（50点）とで総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文の推敲。  |       |           |
| 受講者への要望    | 院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 半年間の授業の概要説明  2 卒業論文の要約発表  3 各自の研究項目に関する発表  4 発表  5 発表  6 発表  7 発表  8 発表  9 合評会  10 発表  11 発表  12 発表  13 発表  14 発表  15 反省会・合評会   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75124D01 |
| 科目名        | 【院】日本語文化研究演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Language D   |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいか」「何をどのように調べればよいか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業中の発表（50点）と期末レポート（50点）とで総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。  |       |           |
| 準備学習       | 卒業論文の推敲。  |       |           |
| 受講者への要望    | 院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 半年間の授業の概要説明  2 卒業論文の要約発表  3 各自の研究項目に関する発表  4 発表  5 発表  6 発表  7 発表  8 発表  9 合評会  10 発表  11 発表  12 発表  13 発表  14 発表  15 反省会・合評会   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75131A01 |
| 科目名        | 【院】日本語文化特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Japanese Language A  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 中世の日本語資料を読む。 大学院の場合、各院生ごとに研究テーマは決まっているが、求められる研究姿勢は同じである。中世の日本語資料をたたき台にして、研究に必要な能力を養っていく。取り扱う時代が中世であっても、その前後の時代、また現代の事象も常々念頭に置いておかなばならない。該博な知識が得られるような授業にしたいと思っている。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点のみ。   |       |           |
| 到達目標       | 原書に親しむ習慣をつける。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | しっかりと予習をしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 中世資料の概要 2 同上 3 中世資料の購読 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 同上 13 同上 14 同上 15 同上   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75134A01 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature A   |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 江戸後期の上田秋成の読本『春雨物語』を題材とする。  雨月物語の姉妹編であるが、江戸時代に刊行されることはなかった。  怪奇小説として高い評価を得ている。  各自のテーマにそって問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。           |       |           |
| 教材（テキスト）   | 春雨物語・書初機嫌海（新潮社）   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点10% レポート90%  |       |           |
| 到達目標       | 江戸時代の様々の風俗、歴史や先行文学作品の影響 など、調べる方法を身に付けること  |       |           |
| 準備学習       | 春雨物語の現代語訳を読んでおく和良好的   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中、積極的に発言すること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 春雨物語の概説 2 発表 血かたびら（取り上げる話は授業中に相談） 3 同じ 4 同じ 5 発表 一つ目の神 6 同じ 7 同じ 8 発表 宮木が塚 9 同じ 10 同じ 11 まとめ 12 関係論文 13 諸本の話 14 雨月物語との比較 15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75134A02 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature A   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 源氏物語を登場人物から考える  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山本淳子編『「源氏物語」が読みたくなる本』（グラフ社）本体 1333 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で適時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（100%）発表・発言等   |       |           |
| 到達目標       | 『源氏物語』に登場する人々の人間性を知り、その物語世界の深さを考える。   |       |           |
| 準備学習       | 授業の始まる前に教科書の「第二部」を読了しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 担当者出ない場合にもしばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の進め方説明・各章の担当者決定。  3 回以降はその章の標題となっている人物について担当者が調査し発表する形式で進める。  2 作者紫式部（山本担当）  3 桐壺帝と桐壺更衣  4 光源氏 1   5 光源氏 2   6 光源氏 3   7 空蝉  8 夕顔  9 紫の上（若紫時代）  10 末摘花・源典侍  11 藤壺中宮  12 六条御息所  13 葵の上  14 朧月夜  15 明石の御方 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75139B01 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature B  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講生各自のテーマに沿った内容を取りあげることとする   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点10% 授業中の発表とレポート90%  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと   |       |           |
| 準備学習       | 各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみてもまわりの意見を採り入れること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～5 各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する 6～8 各自の研究の小さい部分を発表する 9、10 教員のアドバイスを受けて各自で章立てを考える 11～15 執筆した部分を発表し議論しつつ、論文を修正していく |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75139B02 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature B   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 源氏物語を登場人物から考える  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山本淳子編『「源氏物語」が読みたくなる本』（グラフ社）本体 1333 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で適時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（発表・課題等）100%   |       |           |
| 到達目標       | 『源氏物語』に登場する人々の人間性を知り、その物語世界の深さを考える。   |       |           |
| 準備学習       | 授業の始まる前に教科書の「第二部」を読了しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の進め方説明・各章の担当者決定。  3 回以降はその章の標題となっている人物について担当者が調査し発表する形式で進める。  2 作者紫式部（山本担当）  3 惟光  4 夕霧  5 玉鬘  6 頭中将  7 鬘黒大将  8 女三の宮  9 柏木  10 紫の上  11 宇治の大君  12 薫  13 宇治の中の君  14 匂宮  15 浮舟 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75143C01 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature C  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 江戸時代の文学、および文学史の分野のなかで、 次のジャンルのいずれかを受講生と相談の上取りあげ論じていく。  国学、漢学、浮世草子、読本、人情本、滑稽本、和歌、和歌史、 古典注釈(上代文学・中古文学に関わるもの)。                  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点10%、発表とレポート90%  |       |           |
| 到達目標       | 授業に積極的に関わること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。   |       |           |
| 準備学習       | 取りあげることになった作品、作家などについて、 基本的な知識は自分で勉強すること   |       |           |
| 受講者への要望    | 問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。 講義の内容については、受講生の興味に合わせて臨機応変に対応していく   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 取りあげる作品や作家の選定 2 予備基本知識 3 先行研究の調査 4 先行研究の読解 5 作品の読み進め 6 問題点の視点の種類を考える 7～12 読み進めながら、問題点を考える 13 問題点の調査の方法 14 発表 15 まとめと展望を考える |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75143C02 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature C   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 源氏物語を登場人物から考える  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山本淳子編『「源氏物語」が読みたくなる本』（グラフ社）本体 1333 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で適時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(発表・課題等) 100%  |       |           |
| 到達目標       | 『源氏物語』に登場する人々の人間性を知り、その物語世界の深さを考える  |       |           |
| 準備学習       | 授業の始まる前に教科書の「第二部」を読了しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の進め方説明・各章の担当者決定。  3 回以降はその章の標題となっている人物について担当者が調査し発表する形式で進める。  2 作者紫式部（山本担当）  3 桐壺帝と桐壺更衣  4 光源氏 1   5 光源氏 2   6 光源氏 3   7 空蝉  8 夕顔  9 紫の上（若紫時代）  10 末摘花・源典侍  11 藤壺中宮  12 六条御息所  13 葵の上  14 朧月夜  15 明石の御方 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75144D01 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature D  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講生各自のテーマに沿った内容を取りあげることとする   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点10% 授業中の発表とレポート90%  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと   |       |           |
| 準備学習       | 各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみてもまわりの意見を採り入れること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～5 各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する 6～8 各自の研究の一部を発表する 9, 10 教員のアドバイスを受けつつ各自で章立てを考える 11～15 執筆した部分を発表し議論しつつ、論文を組み立てていく |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75144D02 |
| 科目名        | 【院】日本古典文学研究演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Classic Literature D   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 源氏物語を登場人物から考える  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山本淳子編『「源氏物語」が読みたくなる本』（グラフ社）本体 1333 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で適時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（発言・課題等）100%   |       |           |
| 到達目標       | 『源氏物語』に登場する人々の人間性を知り、その物語世界の深さを考える。   |       |           |
| 準備学習       | 授業の始まる前に教科書の「第二部」を読了しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の進め方説明・各章の担当者決定。  3 回以降はその章の標題となっている人物について担当者が調査し発表する形式で進める。  2 作者紫式部（山本担当）  3 惟光  4 夕霧  5 玉鬘  6 頭中将  7 鬘黒大将  8 女三の宮  9 柏木  10 紫の上  11 宇治の大君  12 薫  13 宇治の中の君  14 匂宮  15 浮舟 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75151A01 |
| 科目名   | 【院】日本古典文学特論 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Japanese classic literature A                           |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 紫式部の人生  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 山本淳子『私が源氏物語を書いたわけ 紫式部ひとり語り』（角川学芸出版、2011年）定価 1400円 （一括購入するので個人で用意しなくてもよろしい。） |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 期末レポート 100%   |       |           |
| 到達目標  | 紫式部の人生と思想を知ること、平安時代の女性の置かれた状況、源氏物語を生んだ文化的土壌、人間の普遍的葛藤などを学ぶ。                  |       |           |
| 準備学習  | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業ではしばしば意見や解釈を求めるので、積極的に答えてほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の概要 2 紫式部の少女期 3 越前に下る・恋 4 紫式部の夫 5 夫との死別 6 喪失の果てに 世と身と心 7 人生への再生 創作によって 8 源氏物語への問いかけ 1 9 源氏物語への問いかけ 2 10 不本意出仕と自己陶冶  11 本領発揮 漢文進講 12 彰子の出産 13 紫式部と道長 14 弟の死 ささやかな生への思い 15 総括 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J75157D01 |
| 科目名       | 【院】日本古典文学特論D 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Advanced Studies in Japanese classic literature D   |       |           |
| 担当者名      | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 本居宣長著『紫文要領』を読む。 本居宣長が28歳の時に書いたこの本は、源氏物語の総論であり、 源氏物語の核心として有名な宣長の「もののあはれ論」が展開されている。               |       |           |
| 教材（テキスト）  | 新潮日本古典集成『本居宣長集』 新潮社 2600円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 本居宣長全集  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点とレポート  |       |           |
| 到達目標      | 江戸時代における源氏物語受容を理解する。思想史の中で「もののあわれ」論を考察する。   |       |           |
| 準備学習      | 源氏物語のあらすじを知っておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
|           | 源氏物語について基礎知識を自習してください。  |       |           |
|           | 講義の順序とポイント  |       |           |
|           | 1, 本居宣長の生い立ちと京都遊学  2, 本居宣長の学問の変遷  3, 源氏物語の研究史  4, 源氏物語の研究史  5, 近世の源氏物語受容  6～14, 『紫文要領』  15, まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75166A01 |
| 科目名        | 【院】日本歴史文化特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Japanese Culture History A  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | モノと人との深い関わりの歴史のなかで、茶と日本人との関係は、我が国への喫茶文化の伝来から今日の家元茶道の隆盛に至るまで、日本の伝統文化を代表する一分野として重要な位置をしめている。本講では、唐風茶の伝来から近世家元茶道の成立に至るまでの過程と、そうした茶文化を底辺で支えた宇治茶の歴史を学びたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『日本の茶 歴史と文化』・『宇治茶の文化史』（ともにコピーを配布）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 林屋辰三郎『図録茶道史』・村井康彦『茶の文化史』ほか。授業内で適宜指示。  |       |           |
| 教材（その他）    | 教科書のコピー配布。  |       |           |
| 評価方法       | 講義への出席70%、レポート30%として評価。レポート内容については、講義内で指示。  |       |           |
| 到達目標       | 日本の茶、宇治茶に関する基本的な知識を習得し、できたら外国人に概略を説明できること。  |       |           |
| 準備学習       | 前もって配布された教科書のコピーを読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 我が国への喫茶文化の伝来から今日の家元茶道の隆盛に至るまで、ということになれば、平安時代から江戸時代まで、茶文化に関する約1000年の歴史を学ぶこととなります。当然のことながら、日本の歴史に関する1000年余の学習も必要とされるわけですが、そうした知識の習得にも心がけ、真摯な姿勢で受講することを望みます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに（「日常茶飯」と日本人）  2. 喫茶の源流  3. 抹茶の創始  4. 茶園のひろがり  5. 中世の「茶」  6. 宇治茶の登場  7. 御茶師登場  8. 茶業界の転換  9. 茶どころ宇治  10. 外国人のみた日本の茶  11. 茶の湯のなかの「茶」  12. 宇治茶の歴史と文化（宇治茶の誕生）  13. 同 上 （宇治茶の展開）  14. 同 上 （茶匠と茶師と）  15. 終講にあたって（日本文化と「茶文化」） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J75174A01 |
| 科目名   | 【院】認知心理学特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Cognitive Psychology A   |       |           |
| 担当者名  | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 人間の脳は外界をどのように認知し、心は外界の情報をどのように処理するのかに関して、ある程度深く論述する。そして、一般的に言われている、脳と心を活性化させる様々な方法の有効性を検討する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常、(50%)は出席状況等による。発表(50%)  |       |           |
| 到達目標  | 人間の認知機能と心の働きを深く理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 配布資料を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 脳と心の働きについて実践的に学びたい大学院生の受講を望みます。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 人間は外界をどのように認知するか。  ①視覚認知  ②聴覚認知  ③その他の認知機能  2. 脳の構造と機能  ④脳の構造  ⑤大脳半球機能差  ⑥脳機能を高める運動  ⑦脳機能を高める食生活  ⑧短期記憶と長期記憶の増進法  ⑨男の脳と女の脳  3. 心とは何か  ⑩どのようにして心が生み出されるか  ⑪脳の神経伝達物質  ⑫脳からストレスを撃退する方法  ⑬脳の働きを高める感じる脳の鍛え方  ⑭脳に悪い習慣  ⑮人間として如何に生きるか |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75184A01 |
| 科目名  | 【院】発達心理学特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Developmental Psychology A   |       |           |
| 担当者名   | 竹内 謙彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本授業「発達心理学特論B」は、「発達支援」という視点から人間発達のプロセスを概観する。発達のプロセスや発達の時期ごとの諸特徴について述べる点は、AとBで共通であるが、とりわけ本授業Bでは、発達支援に関わる諸問題（発達障害や様々な不適応、心理的な諸問題など）を取り上げ、主として認知発達との関連から論じることとしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 子安増生(編)(2005)『よくわかる認知発達とその支援』ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等に基づく平常点(20%)、数回程度の授業時小レポート(20%)、および最終レポート(60%)を総合的に考慮して成績の評価を行う。 最終レポートの課題の詳細は、授業時に伝える。   |       |           |
| 到達目標   | 発達の全体像に関する基本的知識を得ると同時に、特に認知発達のプロセスにおいて生じる諸問題について、そのメカニズムと対応の基本を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 授業に臨むに当たっては、授業で取り上げるテーマに相当する教科書の該当章は事前に読んでおくこと。授業では、教科書が受講生に読まれていることを前提にして、発展的な内容を盛り込む形で進める。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教科書に記載されている参考文献や授業中に紹介する資料等をもとに、自発的・発展的に学習を進めてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 本授業の位置づけ、発達心理学とは何か  2. 発達理解の基礎①：認知発達の段階①  3. 発達理解の基礎②：認知発達の段階②  4. 発達理解の基礎③：知能・認知スタイル・学習  5. 発達理解の基礎④：認知と感情・意志  6. 発達の時期①：乳児期  7. 発達の時期②：幼児期  8. 発達の時期③：児童期A  9. 発達の時期④：児童期B  10. 発達の時期⑤：青年期  11. 発達の時期⑥：成人期・老年期  12. 認知発達の障害①：障害とは、診断、様々な障害①  13. 認知発達の障害②：様々な障害②～発達障害を中心に  14. 認知発達の障害③：様々な障害③  15. 授業全体のまとめと補足 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | 00         | 00  | 00  | 00  | 00    | 00     |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75184B01 |
| 科目名  | 【院】発達心理学特論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Developmental Psychology B   |       |           |
| 担当者名   | 竹内 謙彰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本授業「発達心理学特論B」は、「発達支援」という視点から人間発達のプロセスを概観する。発達のプロセスや発達の時期ごとの諸特徴について述べる点は、AとBで共通であるが、とりわけ本授業Bでは、発達支援に関わる諸問題（発達障害や様々な不適応、心理的な諸問題など）を取り上げ、主として認知発達との関連から論じることとしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 子安増生(編)(2005)『よくわかる認知発達とその支援』ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等に基づく平常点(20%)、数回程度の授業時小レポート(20%)、および最終レポート(60%)を総合的に考慮して成績の評価を行う。 最終レポートの課題の詳細は、授業時に伝える。   |       |           |
| 到達目標   | 発達の全体像に関する基本的知識を得ると同時に、特に認知発達のプロセスにおいて生じる諸問題について、そのメカニズムと対応の基本を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 授業に臨むに当たっては、授業で取り上げるテーマに相当する教科書の該当章は事前に読んでおくこと。授業では、教科書が受講生に読まれていることを前提にして、発展的な内容を盛り込む形で進める。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教科書に記載されている参考文献や授業中に紹介する資料等をもとに、自発的・発展的に学習を進めてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 本授業の位置づけ、発達心理学とは何か  2. 発達理解の基礎①：認知発達の段階①  3. 発達理解の基礎②：認知発達の段階②  4. 発達理解の基礎③：知能・認知スタイル・学習  5. 発達理解の基礎④：認知と感情・意志  6. 発達の時期①：乳児期  7. 発達の時期②：幼児期  8. 発達の時期③：児童期A  9. 発達の時期④：児童期B  10. 発達の時期⑤：青年期  11. 発達の時期⑥：成人期・老年期  12. 認知発達の障害①：障害とは、診断、様々な障害①  13. 認知発達の障害②：様々な障害②～発達障害を中心に  14. 認知発達の障害③：様々な障害③  15. 授業全体のまとめと補足 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度                                       | 2012  | 授業コード | J75196B01 |
| 科目名                                      | 【院】文化人類学特論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                                | Advanced Studies in Cultural Geography B  |       |           |
| 担当者名                                     | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                     | 本講義の英語名称は、Advanced Studies in Cultural Anthropology B である。  本講義は、文化人類学的手法によって、修士論文を作成しようとする院生に、その調査技法やデータ分析の方法を伝授するものである。 |       |           |
| 教材（テキスト）                                 |   |       |           |
| 教材（参考文献）                                 |   |       |           |
| 教材（その他）                                  |   |       |           |
| 評価方法                                     | 提出物および講義内での発表・議論への貢献によって評価する。   |       |           |
| 到達目標                                     | 人類学的なセンスを身につける。   |       |           |
| 準備学習                                     | センスは一日では身につけません。たくさんの本を読み、またいろいろな地域に出かけて、様々な体験をしてください。  |       |           |
| 受講者への要望                                  |   |       |           |
| 自分のフィールド地を持つように。                         |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                               |   |       |           |
| 授業の進め方は、受講者の問題意識やスキルを勘案して、受講者と相談の上、決定する。 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |               |
|------------|---|-------|---------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75199A01     |
| 科目名        | 【院】文化地理研究演習 A   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Cultural Geography A  |       |               |
| 担当者名       | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 | 【院】文化地理研究演習 I |
| 講義概要       | 文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、以上のような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。まずは上記の点を基本的な文献を解読することで学ぶ。 |       |               |
| 教材（テキスト）   | 演習生と相談の上決定  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介  |       |               |
| 教材（その他）    | 受講生のレジュメ  |       |               |
| 評価方法       | 平常点（20%）発表（60%）論文の提出（20%）   |       |               |
| 到達目標       | 文化地理学の基礎的文献を理解することを目標とする。   |       |               |
| 準備学習       | 出来るだけ多くの学術論文を読んでおくこと。   |       |               |
| 受講者への要望    | 自身のテーマと文化地理学の関係を念頭に置くこと。  |       |               |
| 講義の順序とポイント | 1 演習生のテーマ設定と基本文献の選定  2～14 演習生の発表、討論  15 まとめ   |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                |
|------------|--|-------|----------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75199B01      |
| 科目名        | 【院】文化地理研究演習 B  | 単位数   | 2              |
| 科目名 (英語表記) | Graduate Seminar on Cultural Geography B   |       |                |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 | 【院】文化地理研究演習 II |
| 講義概要       | 文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、以上のような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。演習 B では A で発表した内容と自身のフィールドワークの成果との関係を発表。 |       |                |
| 教材 (テキスト)  | 演習生と相談の上決定   |       |                |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介   |       |                |
| 教材 (その他)   | 受講生のレジュメ   |       |                |
| 評価方法       | 平常点 (20%) 発表 (60%) 論文の提出 (20%)   |       |                |
| 到達目標       | 文化地理学の理論・方法論と自身のテーマの合致点を探り理解すること。  |       |                |
| 準備学習       | フィールドワークをしておくこと。   |       |                |
| 受講者への要望    | 自身のテーマと文化地理学の関係を説明出来るようにしておくこと。  |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1 演習生のテーマ設定とフィールドの報告   2 ~ 1 4 演習生の発表、討論   1 5 まとめ   |       |                |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |                |
|------------|--|-------|----------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75199C01      |
| 科目名        | 【院】文化地理研究演習C   | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Cultural Geography C   |       |                |
| 担当者名       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 | 【院】文化地理研究演習III |
| 講義概要       | 文化地理学は様々な人文・社会科学系の理論や方法論の成果と共に発展してきた。したがって広く人文・社会科学系にも目を配っておく必要がある。そのためには欧米で発表されている最新の成果に注目しなければならない。その上で演習生のフィールドの成果にどのように最新の成果が応用できるかを考えていく。 |       |                |
| 教材（テキスト）   | 演習生と相談の上決定   |       |                |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介   |       |                |
| 教材（その他）    | 受講生のレジュメ   |       |                |
| 評価方法       | 平常点（20%）発表（60%）論文の提出（20%）  |       |                |
| 到達目標       | 文化地理学の理論・方法論を自身のテーマに応用して修士論文の基礎を構築。  |       |                |
| 準備学習       | 修士論文の研究計画書と構成を作成しておくこと。  |       |                |
| 受講者への要望    | 広く人文・社会科学系の理論・方法論も視野に入れること。  |       |                |
| 講義の順序とポイント | 1 演習生のフィールドと採用する理論・方法論の報告  2～14 演習生の発表、討論  15 まとめ  |       |                |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |               |
|--|--|-------|---------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75199D01     |
| 科目名  | 【院】文化地理研究演習D   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）                                  | Graduate Seminar on Cultural Geography D   |       |               |
| 担当者名                                       | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 | 【院】文化地理研究演習IV |
| 講義概要                                       | ここまで行ってきた研究成果のまとめに入る。演習生はそれぞれの修士論文の途中経過を発表する。11月に開催される歴史民俗学専攻の卒業論文・修士論文の中間発表では、最終的な成果を発表してもらう。 |       |               |
| 教材（テキスト）                                   | 演習生と相談の上決定   |       |               |
| 教材（参考文献）                                   | 適宜紹介   |       |               |
| 教材（その他）                                    | 受講生のレジュメ   |       |               |
| 評価方法                                       | 発表（50%）論文の提出（50%）  |       |               |
| 到達目標                                       | 修士論文の作成。   |       |               |
| 準備学習                                       | 修士論文の下書きを作成しておくこと。   |       |               |
| 受講者への要望                                    |  |       |               |
| 修士論文の進展状況の報告を常に求める。                        |  |       |               |
| 講義の順序とポイント                                 |  |       |               |
| 1 演習生の修士論文の進捗状況の報告  2～14 演習生の発表、討論  15 まとめ |  |       |               |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75206A01 |
| 科目名        | 【院】文化地理特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Cultural Geography A  |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、近年の文化地理学の動向を見る。その上で、私たちの心と景観の交流のあり方を探る。文化地理学には数多くの研究テーマと方法がある。その中でも、「心のなかの景観」は視覚以外の感覚での環境知覚に注目している。私たちは、景観は目で見るものと考えがちであるが、そうではない。人間は、聴覚・嗅覚・味覚・触覚をも使って、環境からの情報を知覚しているのである。そのような景観を「見えない景観」と呼ぶこともできるだろう。またそのような景観は、私たちの心と深く関わっているとも言える。本講義では、このような「心のなかの景観」研究の視点から、私たち人間の環境知覚を探っていく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2003年。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜配布  |       |           |
| 評価方法       | 講義内での発言 40%、学期末レポート 60%   |       |           |
| 到達目標       | 民話を通じて地理学と心理学の接点を見だし、具体的事例に則して理解してもらうことを到達目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 参考文献を事前に読み、講義中の議論に参加できる準備をしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 民間説話に関する、民俗学・心理学の本をいくつか読んでおくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 心と景観の交流   2 文化地理学のテーマと研究方法   3 近年の動向   4 環境知覚研究の意義   5 人文主義地理学とは   6 心のなかの景観研究   7 昔話の象徴性   8 ユング派の昔話研究   9 民俗学の昔話研究   10 文化人類学の昔話研究   11 昔話と心のなかの景観：事例 1   1 2 事例 2   1 3 事例 3   14 事例 4   15 まとめ  </p>   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75212A01 |
| 科目名        | 【院】理論社会学特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Theoretical Sociology A  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>社会学は《聖なるもの》と社会的なものの関係を、社会理論の原論的課題として追究してきた。本講義では、こうした「聖なるもの社会学」の系譜をたどることによって、聖なる体験のもつ現代的意義を理論的に検討する。はじめに、スポーツ、芸術から性愛にいたるまでの《聖なるもの》の体験の諸相を概観し、これをフロー理論（チクセントミハイ）や三次元の間学（作田啓一）の理論的視座のもとに位置づける。続いて、ニーチェ、ウェーバー、デュルケーム、ジラール、カイヨワ、バタイユなどの理論において、《聖なるもの》と社会の関係がどのようにとらえられているのかを検討する。さらに、個人主義においては聖の観念が人格の尊厳と相関することを確認し、日本における個人主義の可能性と問題点について考察する。最後に、夏目漱石における個人主義に光をあてることで、《聖なるもの》と社会の関係について考察をさらに深める予定である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 作田啓一『一語の辞典 個人』三省堂  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要な資料は授業内に配布する   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50 点、レポート 50 点   |       |           |
| 到達目標       | 理論的に人間と社会を理解する能力を身につける   |       |           |
| 準備学習       | 授業内で指示するテキストを読んでくることが要求される   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業で概説した理論の原テキストにあたって理解を深める努力をしてほしい   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 聖なる体験の諸相   2. チクセントミハイ—フロー体験   3. 作田啓一—三次元の間学   4. ニーチェ—サルタンチマン   5. ウェーバー—カリスマと近代社会   6. デュルケーム—集合的沸騰と社会秩序   7. ジラール—模倣の欲望   8. ジラール—供犠と受難   9. カイヨワ—遊びの社会学   10. バタイユ—消尽と純粹贈与   11. アガンベン—剥き出しの生と主権権力   12. 日本の個人主義①   13. 日本の個人主義②   14. 日本の個人主義③   15. まとめ—聖なるものと現代社会</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75212B01    |
| 科目名        | 【院】理論社会学特論B  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Theoretical Sociology B  |       |              |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 | 【院】理論社会学特論II |
| 講義概要       | 本講義の目的は、デュルケームからモース、バタイユへと継承された、聖性と共同性をめぐる思想を理解することにある。彼らの思考方法を学ぶことで、社会現象を理論的に把握する高度な能力を身に付けることが本講義の目標である。   |       |              |
| 教材（テキスト）   |  |       |              |
| 教材（参考文献）   |  |       |              |
| 教材（その他）    |  |       |              |
| 評価方法       | 平常点（50％）とレポート（50％）による総合評価  |       |              |
| 到達目標       | 社会現象を把握する理論的視座を習得すること  |       |              |
| 準備学習       | 講義内で配布する文献資料を事前に読んでくること  |       |              |
| 受講者への要望    | より深い理解のために関連文献を読んで学習を深めてほしい  |       |              |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション  2. デュルケーム(1):デュルケームのあゆみと思考の基礎  3. デュルケーム(2):『自殺論』、アノミーとエゴイズム  4. デュルケーム(3):『宗教生活の原初形態』、集合的沸騰と秩序の形成  5. モース(1):モースのあゆみと思考の基礎  6. モース(2):『贈与論』、関係形成の力、戦争と贈与  7. モース(3):構造主義、レヴィ=ストロース『親族の基本構造』  8. バタイユ(1):バタイユのあゆみと思考の基礎  9. バタイユ(2):聖なるもの・エロティシズム・共同性  10. バタイユ(3):ポトラッチ、供犠、暴力  11. バタイユ(4):芸術と遊び、ラスコーの壁画、岡本太郎  12. バタイユ(5):普遍経済学の試み、純粹贈与  13. 作田啓一:個人主義の起源、個人と超個人  14. アガンベン、ナンシー:剥き出しの生、現代の共同性  15. まとめ</p> |       |              |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | 7          | 8   | 13  | 8   | 18    | 12     |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75218A01 |
| 科目名   | 【院】臨床心理学研究演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Graduate Seminar on Clinical Psychology A   |       |           |
| 担当者名  | 山 愛美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が広がられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 心理臨床の基礎的な理解。 修士研究の方向性を見極める。   |       |           |
| 準備学習  | 関連文献を読む。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的・能動的に取り組むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 文献講読・発表・討論 2 文献購読・発表・討論 3 文献講読・発表・討論 4 文献講読・発表・討論 5 文献講読・発表・討論 6 文献講読・発表・討論 7 研究発表・討論 8 研究発表・討論 9 研究発表・討論 10 研究発表・討論 11 研究発表・討論 12 研究発表・討論 13 研究発表・討論 14 研究発表・討論 15 研究発表・討論 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75218A02 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Clinical Psychology A   |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。  臨床心理学研究演習 A・B では、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、発表（30%）、議論への参加（30%）。   |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション 2 学部卒業研究の振り返り 3 学部卒業研究の振り返り 4 学部卒業研究の振り返り 5 学部卒業研究の振り返り 6 合同演習 7 自由研究発表 8 自由研究発表 9 自由研究発表 10 自由研究発表 11 合同演習 12 先行研究の総括の発表 13 先行研究の総括の発表 14 先行研究の総括の発表 15 先行研究の総括の発表</p>                                    |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75218A03 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Graduate Seminar on Clinical Psychology A   |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その都度、紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点 (50%)、課題への取り組みの評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。  |       |           |
| 準備学習       | 自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 最初の授業で企画された内容にしたがって、各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.研究演習の企画及び卒業論文の検討 (1)   2.卒業論文の検討 (2)   3. " (3)   4. " (4)   5. " (5)   6. " (6)   7.研究演習 (1)   8. " (2)   9. " (3)   10. " (4)   11. " (5)   12. " (6)   13. " (7)   14. " (8)   15. " (9) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75218B01 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Clinical Psychology B   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が広がられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 修士研究の方向性を定める。 心理臨床の実践の理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的・積極的に研究を広め、深めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 研究発表・討論／文献紹介 2 研究発表・討論／文献紹介 3 研究発表・討論／文献紹介 4 研究発表・討論／文献紹介 5 研究発表・討論／文献紹介 6 研究発表・討論／文献紹介 7 研究発表・討論／文献紹介 8 研究発表・討論／文献紹介 9 研究発表・討論／文献紹介 10 研究発表・討論／文献紹介 11 研究発表・討論／文献紹介 12 研究発表・討論／文献紹介 13 研究発表・討論／文献紹介 14 研究発表・討論／文献紹介 15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75218B02 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Clinical Psychology B   |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。  臨床心理学研究演習A・Bでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、発表（30%）、議論への参加（30%）。   |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 研究テーマの発表 3 研究テーマの発表  4 研究テーマの発表  5 研究テーマの発表 6 合同演習 7 自由研究発表 8 自由研究発表 9 自由研究発表 10 自由研究発表 11 合同演習 12 研究計画の発表 13 研究計画の発表 14 研究計画の発表 15 研究計画の発表   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75218B03 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習B  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Graduate Seminar on Clinical Psychology B  |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 使用しない。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | その都度、紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点(50%)、課題への取り組みの評価点(50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。   |       |           |
| 準備学習       | 自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.研究演習(1)  2. // (2)  3. // (3)  4. // (4)  5. // (5)  6. // (6)<br>  7.修士論文の計画に関して(1)  8. // (2)  9. // (3) 10.<br>// (4) 11. // (5) 12. // (6) 13. //<br>(7) 14. // (8) 15. // (9) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75221C01 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate seminar on clinical psychology C  |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマに即して修士論文作成を行う。また、心理臨床の実践の理解を深める。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 修士論文作成の計画を立て、実施。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。   |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的、計画的に研究を進めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 修士論文の先行研究に関する発表・討論  2 修士論文の先行研究に関する発表・討論  3 修士論文の先行研究に関する発表・討論  4 まとめ  5 修士論文の計画発表・討論  6 修士論文の計画発表・討論  7 修士論文の計画発表・討論  8 まとめ  9 文献講読・討論  10 文献講読・討論  11 文献講読・討論  12 修士論文計画指導  13 修士論文計画指導  14 修士論文計画指導  15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75221C02 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate seminar on clinical psychology C  |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心を持ち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。臨床心理学研究演習C・Dでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、発表（30%）、議論への参加（30%）。  |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 研究計画の発表 3 研究計画の発表 4 研究計画の発表 5 研究計画の発表 6 合同演習 7 修士論文作成中間発表 8 修士論文作成中間発表 9 修士論文作成中間発表 10 修士論文作成中間発表 11 合同演習 12 修士論文作成中間発表 13 修士論文作成中間発表 14 修士論文作成中間発表 15 修士論文作成中間発表  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75221C03 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習C  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate seminar on clinical psychology C  |       |           |
| 担当者名       | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | その都度、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点（50%）、課題への取り組みの評価点（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | 各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行する。  |       |           |
| 準備学習       | 自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実にこなすこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 修士論文のための研究実施に関して (1)   2. // (2)   3.<br>// (3)   4. // (4)   5. //<br>(5)   6. // (6)   7. // (7)<br>  8. // (8)   9. // (9)  10.<br>// (10)  11. // (11)  12. //<br>(12)  13. // (13)  14. // (14)<br>4)  15. // (15) |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75221D01 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate seminar on clinical psychology D   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の作成を行う。また心理臨床の実践の理解を深める。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 発表、出席、討論への参加状況などを総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 修士論文の完成。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的・計画的に研究を進めること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 修士研究の進捗状況発表  2 修士研究の進捗状況発表  3 修士研究の進捗状況発表  4 文献講読  5 文献講読  6 文献講読   7 修士論文中間発表  8 修士論文中間発表  9 修士論文中間発表 10 修士論文作成指導 11 修士論文作成指導 12 修士論文作成指導 13 修士論文作成指導 14 修士論文作成指導 15 まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75221D02 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究演習D  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate seminar on clinical psychology D  |       |           |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。臨床心理学研究演習C・Dでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、発表（30%）、議論への参加（30%）。  |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション  2 修士論文作成個別指導  3 修士論文作成個別指導  4 修士論文作成個別指導  5 修士論文作成個別指導  6 合同演習  7 修士論文作成個別指導  8 修士論文作成個別指導  9 修士論文作成個別指導  10 修士論文作成個別指導  11 合同演習  12 修士論文作成個別指導  13 修士論文作成個別指導  14 修士論文作成個別指導  15 修士論文作成個別指導                  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J75221D03 |
| 科目名   | 【院】臨床心理学研究演習D                                      | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Graduate seminar on clinical psychology D          |       |           |
| 担当者名  | 川畑 隆   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。                        |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その都度、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 出席や受講態度などの平常点（50%）、課題への取り組みの評価点（50%）。              |       |           |
| 到達目標  | 各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行し、論文が完成する。 |       |           |
| 準備学習  | 自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実にこなすこと。           |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.修士論文の執筆に関して (1)   2. // (2)   3. // (3)   4.<br>// (4)   5. // (5)   6. // (6)   7.<br>// (7)   8. // (8)   9. // (9)  10.<br>// (10)  11. // (11)  12. // (12)  13.大学<br>院での研究のまとめ (1)  14. // (2)  15. // (3) |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75225001 |
| 科目名        | 【院】臨床心理学研究法特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Clinical Psychology Method   |       |           |
| 担当者名       | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 臨床心理学の研究法について学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点、発表及びレポートを総合して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 臨床心理学のさまざまな研究法を習得し、修士研究に活かす。   |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | 自らの修士研究を念頭において能動的に取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 心理臨床の歴史的パラダイム  2 心理臨床の歴史的パラダイム  3 研究法  4 研究法  5 心理臨床学の論文を読む、発表  6 心理臨床学の論文を読む、発表  7 心理臨床学の論文を読む、発表  8 心理臨床学の論文を読む、発表  9 心理臨床学の論文を読む、発表  10 心理臨床学の論文を読む、発表  11 事例研究  12 事例研究  13 事例研究  14 事例研究  15 研究法まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |             |
|---|---|-------|-------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75226A01   |
| 科目名   | 【院】臨床心理学特論A   | 単位数   | 2           |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Studies in Clinical Psychology A   |       |             |
| 担当者名  | 久保 克彦   | 旧科目名称 | 【院】臨床心理学特論I |
| 講義概要  | <p>本特論では、まず前半に、臨床心理学の学問体系や臨床心理士を養成する大学院教育について概観し、その上で、臨床心理学に関わる各学派（精神分析学派、ユング派、ロジャース派、行動療法学派など）の鍵となる概念を比較検討することによって、臨床心理学の総合的な観点の習得を目指す。さらに、各学派の人格理論、精神病理論、治療論などの理解を深める。また、そうした理解が単に知的な理解に留まることなく、心理臨床実践に活かされるものになるように配慮して指導を行う。後半は、精神分析理論や対象関係論の立場から転移や逆転移などの概念を用いて、クライアントと治療者の関係性に着目する形で、見立てや面接経過の理解が深まることを目標にした指導を行う。  講義と演習形式を併用するが、必要に応じて実習も取り入れて、授業を進める予定である。</p> |       |             |
| 教材（テキスト）  | 大塚義孝編 「臨床心理学原論」 誠信書房 東山紘久編 「臨床心理面接学」 誠信書房 丸田俊彦著 「サイコセラピー練習帳」 岩崎学術出版社  |       |             |
| 教材（参考文献）  |   |       |             |
| 教材（その他）   | 適宜、プリントなどを配布する。   |       |             |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況等による、レポート（30%）、発表（30%）。   |       |             |
| 到達目標  | 心理臨床を実践していく上で必要とされる臨床心理学の理論や技法の習得を目指す。  |       |             |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |             |
| 受講者への要望   |   |       |             |
| 演習形式での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。   |   |       |             |
| 講義の順序とポイント  |   |       |             |
| 1 オリエンテーション 2 臨床心理学の理念と方法 3 臨床心理学の歴史 4 臨床心理士の養成 5 臨床心理学の倫理問題 6 心理アセスメントの実際問題 7 精神分析的アプローチ 8 クライアント中心療法的アプローチ 9 認知行動療法的アプローチ 10 診断面接 11 治療契約と治療同盟 12 転移と逆転移 13 ワーキングスルー（徹底操作） 14 対象関係論的アプローチ 15 臨床実習やスーパーヴィジョンの心構え |   |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75226B01    |
| 科目名        | 【院】臨床心理学特論B  | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Clinical Psychology B  |       |              |
| 担当者名       | 伊原 千晶  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理学特論II |
| 講義概要       | 心理臨床を実践するためには、理論および技法を単に知識として勉強するだけではなく、自らの具体的な経験と関連付けながら身につけることが必要不可欠である。  本講義においては、臨床心理学特論 A で学んだことを前提に、より詳細に各学派の理論や技法について学習すると同時に、実際の心理臨床において、如何にそれを応用していくかを学ぶ。 |       |              |
| 教材（テキスト）   | 北山修著「精神分析理論と臨床」 誠信書房 など 受講生と相談の上、決定する  |       |              |
| 教材（参考文献）   | 主として扱う文献に関連した図書を、適宜指示する。   |       |              |
| 教材（その他）    | 必要に応じて、適宜プリントを配布する。  |       |              |
| 評価方法       | 授業での発表、レポートなどを総合して評価する。  |       |              |
| 到達目標       | 心理臨床を実践していく上で必要不可欠な理論および技法を、実践に役立つ形で身につける。   |       |              |
| 準備学習       | 臨床心理学に関する基礎的な理論について、復習しておくこと。  |       |              |
| 受講者への要望    | 積極的な参加を望みます。   |       |              |
| 講義の順序とポイント | 1.精神分析の理論 2.対象関係論の展望 3~4.フロイトの症例「ドラ」から学ぶ 5~6 フロイトと鼠男について 7.言葉と夢の関係 8~9 神経症 10~11. 「性格的困難」のための覚書 12~13.思春期の危機 14.精神療法の実際 15.まとめ                                     |       |              |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |               |
|------------|---|-------|---------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75232A01     |
| 科目名        | 【院】臨床心理基礎実習 A   | 単位数   | 1             |
| 科目名 (英語表記) | Practicum on Clinical Psychology Basic A  |       |               |
| 担当者名       | 伊原 千晶   | 旧科目名称 | 【院】臨床心理基礎実習 I |
| 講義概要       | <p>カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に疑似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。  同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。</p> |       |               |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じて講義途中で指定する場合がある。   |       |               |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する。   |       |               |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリント等を配布する。   |       |               |
| 評価方法       | 受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。   |       |               |
| 到達目標       | 受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。   |       |               |
| 準備学習       | 臨床心理学の基礎理論について復習すること。   |       |               |
| 受講者への要望    | 自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。  |       |               |
| 講義の順序とポイント | (流れによって以下の計画に変更があり得る)  1 オリエンテーション  2~3 面接の流れについて  4~7 応答練習  8~10 箱庭制作  11~13 箱庭制作の振り返り・検討  14~15 実習先での訓練について   |       |               |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75232B01     |
| 科目名        | 【院】臨床心理基礎実習B   | 単位数   | 1             |
| 科目名（英語表記）  | Practicum on Clinical Psychology Basic B   |       |               |
| 担当者名       | 伊原 千晶  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理基礎実習II |
| 講義概要       | <p>実習先での訓練が中心となるが、その中で臨床心理職をめざそうとする自分に目を向け、心理的な構えと共に、面接時の自分が相手と向き合う角度、視線の方向、身体の状態などへの気付きも促す。また、単なる“礼儀”レベルを超えて対人援助業務を構成する重要な要素である、相手（関係者や実習先も含む）への挨拶や態度、求められることへの対応についても取り上げる。病院・相談機関などの臨床機関の見学も実施する。</p> <p>同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深められるよう、さらには訓練途中の不安や同一性拡散の体験なども受けとめられるように援助する。</p> |       |               |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて講義途中で指定する場合がある。  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 適宜紹介する。  |       |               |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |               |
| 評価方法       | 平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。   |       |               |
| 到達目標       | 実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。  |       |               |
| 準備学習       | 臨床心理基礎実習Aで学習した内容について、自分なりに振り返りを実施しておくこと。   |       |               |
| 受講者への要望    | 自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。   |       |               |
| 講義の順序とポイント | <p>（流れによって以下の計画に変更があり得る）  1 春学期のふりかえり  2～4 臨床心理職をめざそうとする自分  5～7 マイクロ・カウンセリング  8～11 対応のバリエーション（ロール・プレイ）  12～14 実習先での経験について  15 まとめ</p>  |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |               |
|------------|---|-------|---------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J75236A01     |
| 科目名        | 【院】臨床心理査定演習 A   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Practicum on psychological Assessment A   |       |               |
| 担当者名       | 川畑 隆  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理査定演習 I |
| 講義概要       | <p>子どもの臨床においてだけではないのだが、指導的、治療的アプローチを行なう前提として、子どもの状態の査定、仮説の構成を行なうことが必要である。査定の道具としての検査の実施においては、発達指数（DQ）や知能指数（IQ）を算出すればすむものではない。具体的データから子どもの目からは世の中がどう見え、耳からはどう聞こえているのかを、その子の身になって思い浮かべられるようになりたい。そのためにも、検査者と被検査者との関係のなかでの子どもの行動を観察して読む作業が要る。そして、それらの検査者のなかでのみたての統合をとおして次の援助に移すことができる。 現場の児童臨床で不可欠な新版K式発達検査 2001 を実施し役立てることができるようになるための入門演習を行なう。また、WISC-IIIも重要な検査なので実施、整理法について確認しておく。さらに、ロールシャッハ・テストは、おとなだけでなく子どもにとっても有力な検査なので、学習を進めるための基礎を確認しておきたい。</p> |       |               |
| 教材（テキスト）   | 高石浩一・大島剛・川畑隆共編「心理学実習 応用編 1 知能・発達検査実習～新版K式を中心に」2011  培風館・・・初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 新版K式発達検査 2001、WISC-IIIの実施マニュアル、片口法によるロールシャッハ・テスト関連図書など… 備品図書を利用するので購入する必要はない。 川畑隆・菅野道英・大島剛ほか著「発達相談と援助～新版K式発達検査 2001 を用いた心理臨床～」2005  ミネルヴァ書房   |       |               |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |               |
| 評価方法       | 出席や受講態度などの平常点（50%）、課題への取り組みの評価点（50%）。   |       |               |
| 到達目標       | 実習した検査を実際に用いることができるようになる、あるいはその基礎が得られる。   |       |               |
| 準備学習       | 演習時間内にできることには限りがあるので、時間外にも自主的に学習を行なってほしい。   |       |               |
| 受講者への要望    | 教科書をよく読み、演習時間外においても実際に検査用具を手にし、検査の施行法を身につけてほしい。   |       |               |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 発達・発達障害・発達検査・発達診断・発達援助・家族援助などについて   2. K式発達検査の概要と施行法①   3. ②   4. ③   5. K式発達検査の結果の整理法①   6. K式発達検査を読む①   7. ②   8. ③   9. ④   10. ⑤   11. ウェクスラー法の実施、整理法などの確認   12. ロールシャッハテストの基本①～施行法とスコアリング～   13. ②～スコアリング演習～   14. ③～スコアリング演習～   15. ④～スコアリング演習～ ※上記の順序等については変更があり得る。</p>  |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75236B01     |
| 科目名        | 【院】臨床心理査定演習B   | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Practicum on psychological Assessment B  |       |               |
| 担当者名       | 久保 克彦  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理査定演習II |
| 講義概要       | 心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指す。特に、投影法、質問紙法、作業法などのパーソナリティ検査を用いて、様々な事例の分析を行う。また、技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。  |       |               |
| 教材（テキスト）   | 教科書は特に使用しない。   |       |               |
| 教材（参考文献）   | 片口安史著 「新・心理診断法」 金子書房   |       |               |
| 教材（その他）    | 適宜、プリントなどを配布する。  |       |               |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による、レポート（30%）、発表（30%）。  |       |               |
| 到達目標       | 心理臨床場面で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目標とする。  |       |               |
| 準備学習       | 各演習の最後に次の演習のための準備学習を指示する。  |       |               |
| 受講者への要望    | 演習での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。  |       |               |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 心理アセスメントと精神医学的診断 3 ウェクスラー式知能検査による事例分析 4 内田ークレペリン作業検査による事例分析 5 MMP I による事例分析 6 ロールシャッハテストによる事例分析 A 7 ロールシャッハテストによる事例分析 B  8 ロールシャッハテストによる事例分析 C 9 ロールシャッハテストによる事例分析 D 10 ロールシャッハテストによる事例分析 E 11 ロールシャッハテストによる事例分析 F 12 TAT による事例分析 13 P-Fスタディ による事例分析 A 14 P-Fスタディ による事例分析 B 15 P-Fスタディ による事例分析 C |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |             |
|--|---|-------|-------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J75242A01   |
| 科目名  | 【院】臨床心理実習 A   | 単位数   | 1           |
| 科目名（英語表記）  | Practicum on Clinical Psychology Advance d A  |       |             |
| 担当者名   | 山 愛美  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理実習 I |
| 講義概要   | 本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインタークカンファレンス及びスタッフミーティングも含まれる。 |       |             |
| 教材（テキスト）   |   |       |             |
| 教材（参考文献）   |   |       |             |
| 教材（その他）  |   |       |             |
| 評価方法   | 発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。  |       |             |
| 到達目標   | 事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。  |       |             |
| 準備学習   | 関連文献を積極的に探して読んでおくこと。  |       |             |
| 受講者への要望  |   |       |             |
| 心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。 事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。   |   |       |             |
| 講義の順序とポイント   |   |       |             |
| I ケースカンファレンスなど 1 オリエンテーション 発表の順番など実習の進め方を決定。インタークカンファレンス。スタッフミーティング。 2 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 3 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 4 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 5 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 6 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 7 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 8 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 9 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 10 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 11 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 12 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 13 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 14 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 15 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング  [授業の行われな時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う] 7月 インタークカンファレンス スタッフミーティング 8月 インタークカンファレンス スタッフミーティング 9月 インタークカンファレンス スタッフミーティング  II 学外及び学内実習 学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。 学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。 なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。 実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。 |   |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |             |
|---|---|-------|-------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75242B01   |
| 科目名   | 【院】臨床心理実習B  | 単位数   | 1           |
| 科目名（英語表記）   | Practicum on Clinical Psychology Advance d B  |       |             |
| 担当者名  | 山 愛美  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理実習II |
| 講義概要  | 本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインタークカンファレンス及びスタッフミーティングも含まれる。 |       |             |
| 教材（テキスト）  |   |       |             |
| 教材（参考文献）  |   |       |             |
| 教材（その他）   |   |       |             |
| 評価方法  | 発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。  |       |             |
| 到達目標  | 事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。  |       |             |
| 準備学習  | 関連文献を積極的に探して読んでおくこと。  |       |             |
| 受講者への要望   |   |       |             |
| 毎回の出席を義務とする。 守秘義務の徹底。   |   |       |             |
| 講義の順序とポイント  |   |       |             |
| I カンファレンスなど 1 オリエンテーション 発表の順番など実習の進め方を決定。インタークカンファレンス。スタッフミーティング。 2 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 3 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 4 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 5 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 6 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 7 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 8 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 9 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 10 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 11 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 12 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 13 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 14 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング 15 ケースカンファレンス インタークカンファレンス スタッフミーティング  [授業の行われな時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う] 1月 インタークカンファレンス スタッフミーティング 2月 インタークカンファレンス スタッフミーティング 3月 インタークカンファレンス スタッフミーティング  II 学外及び学内実習 学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。 学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。 なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。 実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。 |   |       |             |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75246A01     |
| 科目名        | 【院】臨床心理面接特論 A  | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Studies in Methods of Clinical Interview A  |       |               |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理面接特論 I |
| 講義概要       | 臨床心理面接の基礎を学ぶ   |       |               |
| 教材（テキスト）   | 母親の心理療法 橋本やよい 日本評論社 ユング 心理療法論 みすず書房 神話と意識 「夢との取り組み」 w. ギーグリッヒ 日本評論社  |       |               |
| 教材（参考文献）   | 夢の臨床 河合隼雄・鐘幹八郎 編 金剛出版  |       |               |
| 教材（その他）    |  |       |               |
| 評価方法       | 授業への積極的な参加、課題の提出などにより評価する。   |       |               |
| 到達目標       | 面接の基本について理解を深めること。   |       |               |
| 準備学習       | 臨床の事例に接したり文献を読むこと。   |       |               |
| 受講者への要望    | 積極的に参加して下さい。   |       |               |
| 講義の順序とポイント | 1、 心理療法について  2、 初回面接で気をつけること  3、 心理療法における枠の問題  4、 心理療法における時間、中断、終結  5、 6、 事例から学ぶ 子どもの事例   7、 8、 事例から学ぶ 思春期の事例  9、 10、 事例から学ぶ 成人の事例   11、 12 事例から学ぶ」 母親面接   13 夢について  14、 発達障害について  15、 まとめ |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |               |
|-----------|---|-------|---------------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J75246B01     |
| 科目名       | 【院】臨床心理面接特論B  | 単位数   | 2             |
| 科目名（英語表記） | Advanced Studies in Methods of Clinical Interview B   |       |               |
| 担当者名      | 山 愛美  | 旧科目名称 | 【院】臨床心理面接特論II |
| 講義概要      | 心理療法における理論と技法について学ぶ   |       |               |
| 教材（テキスト）  |   |       |               |
| 教材（参考文献）  |   |       |               |
| 教材（その他）   |   |       |               |
| 評価方法      | 発表及び平常点   |       |               |
| 到達目標      | 心理臨床の多様な実践力を養う  |       |               |
| 準備学習      | 参考文献などを積極的に読んでおくこと。   |       |               |
| 受講者への要望   |   |       |               |
|           | 事例を扱うので守秘義務を徹底すること。   |       |               |
|           | 講義の順序とポイント  |       |               |
|           | 1 オリエンテーション 2 事例研究（1） 3 事例研究（2） 4 事例研究（3） 5 事例研究（4） 6 事例研究（5） 7 心理療法の理論と実践 描画（1） 8 心理療法の理論と実践 描画（2） 9 心理療法の理論と実践 箱庭（1） 10 心理療法の理論と実践 箱庭（2） 11 心理療法の理論と実践 箱庭（3） 12 心理療法の理論と実践 箱庭（4） 13 言葉とイメージ（1） 14 言葉とイメージ（2） 15 まとめ |       |               |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75251A01 |
| 科目名  | 【院】日本歴史文化研究演習 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Graduate Seminar on Japanese Culture His tory A  |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本文化史・地域社会史に関する各自の研究テーマを確定し、そのテーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集ができていかどうかを検証。そのうえで、テーマに関する研究史の整理と数回にわたる研究発表を積み重ね、最終的に修士論文を作成、その指導にあたる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業内で例示。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて指示。  |       |           |
| 評価方法   | 各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション内容が50パーセント、学期末提出の修士論文50パーセントを合わせて評価。   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文の完成。   |       |           |
| 準備学習   | 修士論文完成に向けての努力。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 研究テーマの明確な設定と研究史の整理のうえに立ったオリジナル性の高い修士論文作成を目標にした日常努力。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 各自の研究テーマの確定  2 同 上  3 同 上  4 同 上  5 研究テーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集結果の報告  6 同 上  7 同 上  8 同 上  9 同 上  10 テーマに関する研究史の整理に関するプレゼンテーション   11 同 上  12 同 上  13 中間発表  14 同 上  15 同 上 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75251B01 |
| 科目名  | 【院】日本歴史文化研究演習B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Culture History B   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本文化史・地域社会史に関する各自の研究テーマを確定し、そのテーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集ができていかどうかを検証。そのうえで、テーマに関する研究史の整理と数回にわたる研究発表を積み重ね、最終的に修士論文を作成、その指導にあたる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で例示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて指示。  |       |           |
| 評価方法   | 各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション内容が50パーセント、学期末提出の修士論文50パーセントを合わせて評価。   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文の完成。   |       |           |
| 準備学習   | 修士論文完成に向けての努力。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 研究テーマの明確な設定と研究史の整理のうえに立ったオリジナル性の高い修士論文作成を目標にした日常努力。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 各自の研究テーマの確定  2 同 上  3 同 上  4 同 上  5 研究テーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集結果の報告  6 同 上  7 同 上  8 同 上  9 同 上  10 テーマに関する研究史の整理に関するプレゼンテーション   11 同 上  12 同 上  13 中間発表  14 同 上  15 同 上 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75251C01 |
| 科目名  | 【院】日本歴史文化研究演習C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Culture History C   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本文化史・地域社会史に関する各自の研究テーマを確定し、そのテーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集ができていかどうかを検証。そのうえで、テーマに関する研究史の整理と数回にわたる研究発表を積み重ね、最終的に修士論文を作成、その指導にあたる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で例示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて指示。  |       |           |
| 評価方法   | 各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション内容が50パーセント、学期末提出の修士論文50パーセントを合わせて評価。   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文の完成。   |       |           |
| 準備学習   | 修士論文完成に向けての努力。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 研究テーマの明確な設定と研究史の整理のうえに立ったオリジナル性の高い修士論文作成を目標にした日常努力。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 各自の研究テーマの確定  2 同 上  3 同 上  4 同 上  5 研究テーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集結果の報告  6 同 上  7 同 上  8 同 上  9 同 上  10 テーマに関する研究史の整理に関するプレゼンテーション   11 同 上  12 同 上  13 中間発表  14 同 上  15 同 上 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J75251D01 |
| 科目名  | 【院】日本歴史文化研究演習D   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Graduate Seminar on Japanese Culture History D   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本文化史・地域社会史に関する各自の研究テーマを確定し、そのテーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集ができていかどうかを検証。そのうえで、テーマに関する研究史の整理と数回にわたる研究発表を積み重ね、最終的に修士論文を作成、その指導にあたる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で例示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて指示。  |       |           |
| 評価方法   | 各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション内容が50パーセント、学期末提出の修士論文50パーセントを合わせて評価。   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文の完成。   |       |           |
| 準備学習   | 修士論文完成に向けての努力。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 研究テーマの明確な設定と研究史の整理のうえに立ったオリジナル性の高い修士論文作成を目標にした日常努力。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 各自の研究テーマの確定  2 同 上  3 同 上  4 同 上  5 研究テーマに関する論文・著書等の徹底的な蒐集結果の報告  6 同 上  7 同 上  8 同 上  9 同 上  10 テーマに関する研究史の整理に関するプレゼンテーション   11 同 上  12 同 上  13 中間発表  14 同 上  15 同 上 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J75252A01 |
| 科目名        | 【院】英語文化特論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講学生の希望を尊重して授業を行うが、とりあえずは、総合的な英語力向上を目指す。特に、ライティングと自分の書いた文章を暗記して、それを口頭で言う練習を課したいと思っている。英文に関しては、ネットや新聞などの同時代的な記事を読み、現代文化の比較をする。          |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート(50%)、平常テスト(50%)   |       |           |
| 到達目標       | 英語の記事などを読んで、それに関して自分の意見を英語で言えるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、英語を読み、英語を聞き、英語で書くように努めること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 英語の辞書を頻繁に使うようにしてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.-3. 基本的な日常会話と、平易な英文理解 4.-8. 易しい言葉を用いて少々複雑な内容の問題について話す。トピック別のテーマについて読み、論述する。 9.-14. 4-8で行ったトピックについて論述したことを基礎にスピーチを作って、発表を課す。 15. まとめ。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J75253A01 |
| 科目名   | 【院】環境社会特論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   |   |       |           |
| 担当者名  | 内藤 登世一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>本講義では、環境経済学の研究に経済理論や計量的手法を応用する。また、環境経済学の分野における諸問題及び分析手法を学ぶために、多くの主題を幅広く概観する。前半は、外部効果の問題や、外部効果の存在する市場の機能を改善するための方法について学ぶ。後半は、環境の改善によって得られる利益の評価の問題を考察し、特に非市場財の価値評価の方法における問題を紹介する。講義では特に以下の点に重点を置いて進めていく。  1) 環境計画や環境経済学の歴史・発展過程を簡潔に概観すること。  2) 環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶ  こと。  3) 環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法について理解すること。  4) 環境政策における不確実性の影響や持続的環境管理の可能性について考察すること。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | James R. Kahn 1998. The Economic Approach to Environmental and Natural Resources, Dryden Press, 2nd Ed. (ジェームズ・R. カーン著・内藤 登世一訳 [1998] 『環境と資源への経済学的アプローチ』 未出版)   |       |           |
| 教材（参考文献）  | ① David W. Pearce and R. Kerry Turner. [1990] Economics of Natural Resources and Environment., Johns Hopkins Press.   ② A. Myrick Freeman, III. [1993] The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods, Resources for the Future Inc., 2nd Ed.   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内ディスカッション（50%）・期末レポート（50%）  |       |           |
| 到達目標  | 環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて理解できるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 授業の前に、毎回の内容について、教科書を読んで準備すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 序論・歴史  2. 環境管理及び環境経済学の進化発展  3. 環境政策から生じる便益や費用についての分析  4. 厚生変化の測定についての基本的概念  5. 外部効果・財産所有権  6. 環境政策・政策手段 - 概観  7. 環境税・環境基準・排出権取引制度  8. 環境政策から生じる便益や費用の配分  9. 間接的便益評価・非使用価値  10. 価値評価のための仮説的手法  11. 生産要素投入としての環境の質  12. 財産価値・レクリエーションからの便益  13. 環境管理における不確実性の役割  14. 持続的環境管理  15. 総括 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76001A01 |
| 科目名        | 【院】生物有機化学特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioorganic Chemistry I  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の要件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文 (各回ごとに受講生に配布する)。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度 (20%)  ・研究目的の理解度 (20%)  ・研究手法の理解度 (20%)  ・科学的観点からの当該文献の価値判断 (20%)  ・質疑への参加度 (20%)   |       |           |
| 到達目標       | 化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。   |       |           |
| 準備学習       | 予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説   2. 担当教員による文献の読解法についての解説   3. 受講生の発表と質疑 (機器分析に関する文献 1)   4. 受講生の発表と質疑 (機器分析に関する文献 2)   5. 受講生の発表と質疑 (機器分析に関する文献 3)   6. 受講生の発表と質疑 (機器分析に関する文献 4)   7. 受講生の発表と質疑 (機器分析に関する文献 5)   8. 受講生の発表と質疑 (天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献 1)   9. 受講生の発表と質疑 (天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献 2)   10. 受講生の発表と質疑 (ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献 1)   11. 受講生の発表と質疑 (ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献 2)   12. 受講生の発表と質疑 (ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献 3)   13. 受講生の発表と質疑 (ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献 4)   14. 受講生の発表と質疑 (ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献 5)   15. まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76001B01 |
| 科目名  | 【院】生物有機化学特別演習Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioorganic Chemistry II  |       |           |
| 担当者名   | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、様々な文献や関連原著論文に対する高度な読解力を要する。原著論文には一定の記述様式があり、これに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を身につけることを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）   |       |           |
| 到達目標   | 生物有機化学特別演習Ⅰで修得した内容を基盤として、化学生態学、天然物化学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。  |       |           |
| 準備学習   | 配布される文献や資料の概要を把握しておく。発表に際しては計画的に準備をして、発表のスキルを向上させるよう努力する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 担当教員による生物有機化学特別演習Ⅰの習熟度評価   2. 担当教員による文献の収集・整理についての解説   3. 受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献1）   4. 受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献2）   5. 受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献3）   6. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献1）   7. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献2）   8. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献1）   9. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献2）   10. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献3）   11. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献4）   12. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献5）   13. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献6）   14. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献7）   15. まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76001C01 |
| 科目名        | 【院】生物有機化学特別演習Ⅲ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioorganic Chemistry III   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の要件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）   |       |           |
| 到達目標       | 化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。  |       |           |
| 準備学習       | 予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説   2. 担当教員による文献の読解法についての解説   3. 受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献1）   4. 受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献2）   5. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献1）   6. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献2）   7. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献3）   8. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献4）   9. 受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献5）   10. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献1）   11. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献2）   12. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献3）   13. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献4）   14. 受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献5）   15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76001D01 |
| 科目名        | 【院】生物有機化学特別演習IV  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioorganic Chemistry IV   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%）  ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%）  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択（1） 2. 研究手法の理解とその評価、研究結果の記述様式とその評価（1） 3. 研究背景と新規課題の発見、関連研究領域の総合的な理解（1） 4. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択（2） 5. 研究手法の理解とその評価、研究結果の記述様式とその評価（2） 6. 研究背景と新規課題の発見、関連研究領域の総合的な理解（2） 7. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択（3） 8. 研究手法の理解とその評価、研究結果の記述様式とその評価（3） 9. 研究背景と新規課題の発見、関連研究領域の総合的な理解（3） 10. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択（4） 11. 研究手法の理解とその評価、研究結果の記述様式とその評価（4） 12. 研究背景と新規課題の発見、関連研究領域の総合的な理解（4） 13. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択（5） 14. 研究手法の理解とその評価、研究結果の記述様式とその評価（5） 15. 研究背景と新規課題の発見、関連研究領域の総合的な理解（5） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76002002 |
| 科目名        | 【院】生物有機化学特別研究 (2012-2013)   | 単位数   | 8         |
| 科目名 (英語表記) | Research in Bioorganic Chemistry  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | よりよいバイオ環境を目指して、化学生態学に焦点を当て、コナダニ類や昆虫類を材料として研究を行なう。受講生に担当させる具体的な研究テーマは秘密情報であり、また当教室の状況や当該分野の外部情報によって変化する。研究分野の概要としては、新規ダニ種のフェロモンの同定、フェロモンの作用機構、昆虫の産卵・摂食阻害物質の探索、ニホンミツバチのフェロモンの同定、ニホンミツバチとスズメバチの化学生態学、行動科学、昆虫-植物-寄生蜂間のいわゆる”3者関係”の化学生態学があげられる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当するテーマの関連論文、Web での検索情報   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 修士論文および口頭発表 (80%) で主に評価し、日常の研究態度、教室運営への協力度 (20%) を合わせて総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 修士論文の完成とともに生物有機化学分野で何らかの新しい知見を得る。研究成果を学会発表、論文投稿などで公表する。   |       |           |
| 準備学習       | 研究を推進するに当たり、文献を的確に収集し、関連情報を把握する。その情報を元に具体的な目標設定や実験計画を立案する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 原著論文や関連速報論文の読解が研究の初期には特に重要であり、科学英語の理解力を向上させる。また、その分野での新しい発見には新しい視点や広い視野、そして深い洞察が必須であり、これらを獲得するためにどうすれば良いかを常に考えて行動して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. テーマの企画   2. テーマに関する文献情報の収集、内容の理解   3. 実験計画の立案   4. 実験、考察、実験計画の変更、再実験、考察の繰り返し   5. 論文の作成   6. 研究発表  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76003A01 |
| 科目名  | 【院】分子生物学特別演習 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Molecular Biology I   |       |           |
| 担当者名   | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 生命科学研究に関連する文献の探索と理解力を強化するとともに、研究課題の発見力を養成する。  今日の生命科学の飛躍的な発展は、多様な生物の遺伝子情報の蓄積と多くの先端技術が基盤となっている。生命科学研究には膨大な専門用語の習熟と関連文献の読解力と理解力を必要としている。本演習では、各受講者の研究課題に即した関連分野の文献検索と主要な研究論文の読解力と手技手法の理解力を育成し、研究課題関連領域の最新の全容を把握することと課題の発見と評価する力量の育成を目的とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 毎回、必要に応じた教材資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、個別に教材を推薦する。   |       |           |
| 評価方法   | 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。  ・文献概要の理解度 (10%)  ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度 (20%)  ・研究手法の原理と手技手法の理解度 (20%)  ・研究成果の理解度 (20%)  ・研究の課題点の発見力と価値評価力 (10%)  ・質疑・討論の貢献度 (20%)   |       |           |
| 到達目標   | 発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする。  |       |           |
| 準備学習   | 事前に配布された資料を把握しておくこと。遅刻厳禁。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義ごとに受講者1名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その内容を発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。また、紹介された論文のキーワードを選び出し、説明文を作成する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 担当教員より研究領域の総説と文献検索、課題文献の読み方について  2. 担当教員より課題文献のデータの読み方と関連データの検索法について  3. 受講者の発表と質疑 (遺伝子発現制御に関する基本的な文献1)  4. 受講者の発表と質疑 (遺伝子発現制御に関する基本的な文献2)  5. 受講者の発表と質疑 (遺伝子発現制御に関する基本的な文献3)  6. 受講者の発表と質疑 (遺伝子発現制御に関する基本的な文献4)  7. 受講者の発表と質疑 (発現タンパク質の機能に関する基本的な文献1)  8. 受講者の発表と質疑 (発現タンパク質の機能に関する基本的な文献2)  9. 受講者の発表と質疑 (発現タンパク質の機能に関する基本的な文献3)  10. 受講者の発表と質疑 (発現タンパク質の機能に関する基本的な文献4)  11. 受講者の発表と質疑 (高等動物細胞の機能に関する基本的な文献1)  12. 受講者の発表と質疑 (高等動物細胞の機能に関する基本的な文献2)  13. 受講者の発表と質疑 (高等動物細胞の機能に関する基本的な文献3)  14. 受講者の発表と質疑 (高等動物細胞の機能に関する基本的な文献4)  15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習 I の総括と課題の整理 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76003B01 |
| 科目名   | 【院】分子生物学特別演習Ⅱ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar in Molecular Biology II  |       |           |
| 担当者名  | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰで修得した内容を基盤に、生命科学研究の原著論文の読解力を養成し、科学的課題の理解力を鍛える。  最新の生命科学研究の知見の習得には、先端技術の理解力と多様な専門文献や原著論文に対する読解力と膨大な生命科学情報データベースの調査能力を必要としている。本演習では、各受講者の研究課題に即した関連分野の文献解析と関連データ検索とデータ解析処理の演習を通じて、主要な原著論文の読解力と成果の解析能力の習熟を目的とし、研究成果の客観的な評価力を醸成し、新たな課題の発見や追求できる能力の育成を目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 毎回、必要に応じた教材資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて、個別に教材を推薦する。   |       |           |
| 評価方法  | 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。  ・文献概要の理解度（10%）  ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%）  ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%）  ・研究成果の理解度（20%）  ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%）  ・質疑・討論の貢献度（20%）   |       |           |
| 到達目標  | 発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に配布された資料を把握しておくこと。遅刻厳禁。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義ごとに受講者1名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その内容を発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。また、紹介された論文のキーワードを選び出し、説明文を作成する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰの習熟度の評価と本演習の課題目標について 2. 担当教員による課題設定と目標についての具体例の紹介  3. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献1）  4. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献2）  5. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献3）  6. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献4）  7. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献1）  8. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献2）  9. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献3）  10. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献4）  11. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献1）  12. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献2）  13. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献3）  14. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献4）  15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅱの総括と課題の整理 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76003C01 |
| 科目名  | 【院】分子生物学特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Molecular Biology III  |       |           |
| 担当者名   | 松原 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅱまでに習熟した内容を基盤として、生命科学研究の原著論文の読解力をさらに強化し、科学的課題の解決力を養成する。 最新の生命科学研究遂行には多様な関連研究成果の探索と理解に基づいて、新たな研究課題の設定と研究課題の妥当な解決方法の計画と手技手法のスキルの習熟が必要である。応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅰ・Ⅱまでの習得内容を基盤として、主要関連論文の高度な読解力と関連分野の解析力と理解力を基軸に、各受講者の研究課題分野の現状認識と課題解決法の客観的な設定と企画力の力量の養成を目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 生命科学分野の国際的に高い評価を受けた主要な原著論文を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。  ・文献の概要理解と関連文献選択の適正度（10%）  ・研究分野の背景理解と研究目的の解析力（20%）  ・研究の手技手法の理解度と新規性の発見力（20%）  ・研究結果の理解度と解析力（20%）  ・新規課題の発見力と価値評価力（10%）  ・質疑・討論の貢献度（20%）   |       |           |
| 到達目標   | 生命科学研究の原著論文の読解力を習得し、さらに科学的課題の解決力を習熟する。  |       |           |
| 準備学習   | 事前に配布された資料を把握しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義ごとに受講者1名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献と複数の関連文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その抄読内容を整理して発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅱの習熟度の評価と本演習の課題目標について  2. 担当教員による国際的な主要な原著論文と関連分野の論述動向と内容について  3. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文1）  4. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文2）  5. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文3）  6. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文4）  7. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文1）  8. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文2）  9. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文3）  10. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文4）  11. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文1）  12. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文2）  13. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文3）  14. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文4）  15. 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲの総括と課題の整理 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J76003D01 |
| 科目名       | 【院】分子生物学特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Seminar in Molecular Biology IV   |       |           |
| 担当者名      | 松原 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲまでに習熟した内容を基盤として、具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を養成する。 膨大な研究成果が発表される生命科学研究分野では、研究成果を公表する場合には常に最新の成果の理解と有効性を判断し、学問領域の最新の現状を把握する必要がある。本演習では、各受講者の研究課題に関連した研究領域の客観的な最新の現状認識力とともに、生命科学領域の学術誌への論文投稿のための研究背景説明や研究成果の解析、整理、表現の検討と論述展開や引用文献の扱いなどスキルの養成を目標とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 受講者自身が関連分野の原著論文や総説のリストを作成し配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その都度、紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。  ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%）  ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%）  ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%）  ・研究結果の理解度と解析評価力（20%）  ・新規課題の提案企画力と論述力（10%）  ・質疑・討論の貢献度（20%）   |       |           |
| 到達目標      | 具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を習得する。   |       |           |
| 準備学習      | 事前に配布された資料で予習しておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

講義ごとに受講者1名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで関連分野の文献を複数選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を論述形式でレジメを作成し、その内容を発表する。生命科学領域に関わる論文作成のスキルを養成する。その他の受講者も、論文作成のスキル習得に参加する。

#### 講義の順序とポイント

講義の順序とポイント |1. 担当教員による応用生化学・遺伝子機能学特別演習Ⅲの習熟度の評価と本演習の課題目標について |2. 担当教員による国際的な主要論文の論述形式と整理ポイントについて |3. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文1） |4. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文2） |5. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文3） |6. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文4） |7. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文5） |8. 担当教員による論文構成と論述形式とデータ整理とDataBank登録について |9. 担当教員による論文投稿規定と論文作成のスキルについて |10. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（1） |11. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（2） |12. 受講生成成の研究論文発表に対するの討論（1） |13. 受講生成成の研究論文発表に対するの討論（2） |14. 受講生成成の研究論文発表についての評価と問題点の指摘 |15. 受講生成成の研究論文発表についての改善案の検討と討議 |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76004002 |
| 科目名   | 【院】分子生物学特別研究 (2012-2013)   | 単位数   | 8         |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Molecular Biology  |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 生体や細胞内外の環境変化に対し機能維持に遺伝子やその産物がどのような制御機構を用いているのかを (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間レベル (3) 情報の伝達レベル (4) シグナル分子レベル (5) 多分子の複合体レベルでの機能解析に取り組む研究課題を選択し、課題の把握と理解に努め、必要な手技技法にも熟達し、研究に励み、妥当な結論から研究成果の学問上の意義や社会的な活用法にも考察して修士論文としてまとめ上げる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 研究課題に応じ、研究の進展に伴い、個別に教材や文献を提供する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要に応じて、Databank などの資料を指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 修士論文の研究課題の把握と理解 (20%)、実験計画の策定 (20%)、実験の遂行と結果 (20%) およびその評価 (20%)、他者からの評価を議論できる能力 (10%)、発表表現能力 (10%)などを総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。  |       |           |
| 準備学習  | 事前準備については、指導教員が個々に必要に応じた最適な指導をする。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 社会が求めている人材を各自イメージしながら、グリーンバイオ技術者や研究者に必要なスキルと知識を身につけること。 目標とする研究テーマに真剣に意欲的に忍耐強く立ち向かって取り組むこと。 研究室構成員の一員として、院生は研究活動の遂行と維持にリーダー的な立場で行動すること。 研究科内で実施される大学院生専門情報交換会へ積極的に参加し、特別研究のスキル向上に研鑽すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| (1 年次) 1-3. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 4-6. 研究計画の策定と研究方法の検討 7-9. ゲノムレベルでの研究課題の検討 10-13. 細胞レベルでの研究課題の検討 14-17. 修飾分子レベルでの研究課題の検討 18-21. 生体高分子複合体・細胞内オルガネラ等での検討 22-30. 予備実験の実施と結果の検討 (2 年次) 31-34. 実験計画の吟味と改善 35-40. 実験の実施と再現性及び信頼性の確立 41-50. 発展的な実験の実施と結果の検討 51-54. 関連分野の実験成果と比較し、新規性の確認と検討 55-58. 成果の整理と検討及び発表形式の検討 59-60. 発表形式の検討と確認 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76005A01 |
| 科目名        | 【院】微生物機能開発学特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Microbial Biotechnology I   |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語に習熟することも必須である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) 応用微生物学 谷 吉樹 著 (1992) コロナ社   2) 応用微生物学 第2版 清水 昌、堀之内末治 編 (2008) 文永堂出版   3) 遺伝子から見た応用微生物学 熊谷英彦 他 編 (2008) 朝倉書店   4) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. Madigan, M.T. et al. (2010) Pearson Education   |       |           |
| 教材 (その他)   | 微生物学に関する文献 (総説・原著論文) (各回ごとに配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 文献の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献選択の適正度 (20%)  ・研究目的の理解度 (20%)  ・研究手法の理解度 (20%)  ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断 (20%)  ・質疑への参加度 (20%)   |       |           |
| 到達目標       | 微生物機能開発学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。  |       |           |
| 準備学習       | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 担当教員による文献の読み方についての講述 (1)   2) 担当教員による文献の読み方についての講述 (2)   3) 受講生の発表と質疑 (微生物生理学に関する文献1)   4) 受講生の発表と質疑 (微生物生理学に関する文献2)   5) 受講生の発表と質疑 (微生物生理学に関する文献3)   6) 受講生の発表と質疑 (微生物生理学に関する文献4)   7) 受講生の発表と質疑 (微生物生理学に関する文献5)   8) 受講生の発表と質疑 (微生物遺伝学に関する文献1)   9) 受講生の発表と質疑 (微生物遺伝学に関する文献2)   10) 受講生の発表と質疑 (微生物遺伝学に関する文献3)   11) 受講生の発表と質疑 (微生物酵素学に関する文献1)   12) 受講生の発表と質疑 (微生物酵素学に関する文献2)   13) 受講生の発表と質疑 (微生物酵素学に関する文献3)   14) 受講生の発表と質疑 (微生物代謝に関する文献1)   15) 受講生の発表と質疑 (微生物代謝に関する文献2) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76005B01 |
| 科目名        | 【院】微生物機能開発学特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Microbial Biotechnology II  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが論文の内容を理解する上で必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版  2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店  3) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. (2010) Madigan, M.T. et al. Pearson Education  |       |           |
| 教材 (その他)   | 微生物学に関する文献 (総説・原著論文) (各回ごとに配布する)   |       |           |
| 評価方法       | 文献の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献選択の適正度 (20%)  ・研究目的の理解度 (20%)  ・研究手法の理解度 (20%)  ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断 (20%)  ・質疑への参加度 (20%)   |       |           |
| 到達目標       | 微生物機能開発学特別演習 I で修得した内容を基盤として、微生物機能開発学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 担当教員による微生物機能開発学特別演習 I の習熟度評価  2) 担当教員による文献の収集・整理法についての講述  3) 受講生の発表と質疑 (微生物分子細胞生物学に関する原著論文1)   4) 受講生の発表と質疑 (微生物分子細胞生物学に関する原著論文2)   5) 受講生の発表と質疑 (微生物分子細胞生物学に関する原著論文3)   6) 受講生の発表と質疑 (微生物による物質生産に関する原著論文1)   7) 受講生の発表と質疑 (微生物による物質生産に関する原著論文2)   8) 受講生の発表と質疑 (微生物による物質生産に関する原著論文3)   9) 受講生の発表と質疑 (微生物による物質生産に関する原著論文4)   10) 受講生の発表と質疑 (微生物機能開発に関する原著論文1)   11) 受講生の発表と質疑 (微生物機能開発に関する原著論文2)   12) 受講生の発表と質疑 (微生物機能開発に関する原著論文3)   13) 受講生の発表と質疑 (微生物機能開発に関する原著論文4)   14) 受講生の発表と質疑 (微生物機能開発に関する原著論文5)   15) まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76005C01 |
| 科目名        | 【院】微生物機能開発学特別演習Ⅲ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Microbial Biotechnology III  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめて上げる能力を養成する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版  2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店  3) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. (2010) Madigan, M.T. et al. Pearson Education   |       |           |
| 教材（その他）    | 微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）   |       |           |
| 評価方法       | 文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）   |       |           |
| 到達目標       | 微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、プレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 (1)   2) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 (2)   3) 受講生の発表と質疑 (1)   4) 受講生の発表と質疑 (2)   5) 受講生の発表と質疑 (3)   6) 受講生の発表と質疑 (4)   7) 受講生の発表と質疑 (5)   8) 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 (1)   9) 受講生の発表と質疑 (6)   10) 受講生の発表と質疑 (7)   11) 受講生の発表と質疑 (8)   12) 受講生の発表と質疑 (9)   13) 受講生の発表と質疑 (10)   14) 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 (2)   15) まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76005D01 |
| 科目名        | 【院】微生物機能開発学特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Microbial Biotechnology Ⅳ   |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、微生物機能開発学領域における論文作成のためのスキルを養成する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版  2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店  3) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. (2010) Madigan, M.T. et al. Pearson Education  |       |           |
| 教材（その他）    | 受講生が作成したレジュメなど。  |       |           |
| 評価方法       | 選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 英文誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 前半は微生物機能開発学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述  2) 受講生の発表と質疑 (1)  3) 受講生の発表と質疑 (2)  4) 受講生の発表と質疑 (3)  5) 受講生の発表と質疑 (4)  6) 受講生の発表と質疑 (5)  7) 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘  8) 担当教員による論文作成のスキルの解説  9) 受講生が作成した論文に対する質疑 (1)  10) 受講生が作成した論文に対する質疑 (2)  11) 受講生が作成した論文に対する質疑 (3)  12) 受講生が作成した論文に対する質疑 (4)  13) 受講生が作成した論文に対する質疑 (5)  14) 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘  15) まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76006002 |
| 科目名  | 【院】微生物機能開発学特別研究<br>(2012-2013)  | 単位数   | 8         |
| 科目名 (英語表記)   | Research in Microbial Biotechnology   |       |           |
| 担当者名   | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 微生物機能開発学領域における学術研究を通して、応用微生物学分野の専門知識と技術を高いレベルで修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、目的とする機能を最高レベルで保持する菌株を探索し、(1) 当該機能の微生物学的・生化学的意義の解明、(2) 遺伝子レベルでの機能解明、(3) 遺伝子工学的的手法による機能増強、(4) 物質生産の場合はその生物工学的諸条件の確立、といった過程を通じた機能開発を行う。これらの研究の成果を修士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版  2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店  3) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. (2010) Madigan, M.T. et al. Pearson Education   |       |           |
| 教材 (その他)   | 先行研究に関する文献 (原著論文・総説) など   |       |           |
| 評価方法   | 学術研究と修士論文について、次の点で評価する。 ・研究への取り組み (50%)  ・修士論文の論理性 (25%)  ・修士論文の学問的到達度 (25%)  |       |           |
| 到達目標   | 1) 応用微生物学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。  2) 応用微生物学分野の学問的意義のある修士論文 (英文) の完成。  |       |           |
| 準備学習   | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・微生物機能の開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・学術研究への2年間の徹底的な没頭を求める。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 担当教員が個別的な研究指導を随時行う。  |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76007A01 |
| 科目名   | 【院】食品機能学特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar in Food Science I   |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 食品科学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。  各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 食品科学に関する文献 (各回ごとに配布する)。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度 (20%)  ・研究目的の理解度 (20%)  ・研究手法の理解度 (20%)  ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断 (20%)  ・質疑への参加度 (20%)                  |       |           |
| 到達目標  | 英語原著論文の内容を迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。明確で的確なプレゼンテーションができる。  |       |           |
| 準備学習  | 常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 担当教員より文献の検索法について講述する。   2. 担当教員より文献の読み方について講述する (1)。   3. 担当教員より文献の読み方について講述する (2)。   4. 受講生の発表と質疑 (低分子食品成分分析法、解析に関する文献 1)   5. 受講生の発表と質疑 (低分子食品成分分析法、解析に関する文献 2)   6. 受講生の発表と質疑 (低分子食品成分分析法、解析に関する文献 3)   7. 受講生の発表と質疑 (高分子食品成分分析法、解析に関する文献 1)   8. 受講生の発表と質疑 (高分子食品成分分析法、解析に関する文献 2)   9. 受講生の発表と質疑 (高分子食品成分分析法、解析に関する文献 3)   10. 受講生の発表と質疑 (食品成分生理学に関する文献 1)   11. 受講生の発表と質疑 (食品成分生理学に関する文献 2)   12. 受講生の発表と質疑 (食品成分生理学に関する文献 3)   13. 受講生の発表と質疑 (食品成分のバイオ変換に関する文献 1)   14. 受講生の発表と質疑 (食品成分のバイオ変換に関する文献 2)   15. 受講生の発表と質疑 (食品成分のバイオ変換に関する文献 3) |   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76007B01 |
| 科目名        | 【院】食品機能学特別演習Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Food Science II  |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 食品科学で修得した内容を基盤として、食品科学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。  各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 食品科学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）   |       |           |
| 到達目標       | 英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。   |       |           |
| 準備学習       | 常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 担当教員による食品科学特別演習Ⅰの習熟度評価。 2. 担当教員より文献の収集・整理について講述する（1）。 3. 担当教員より文献の収集・整理について講述する（2）。 4. 受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文1） 5. 受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文2） 6. 受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文3） 7. 受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文1） 8. 受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文2） 9. 受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文3） 10. 受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文1） 11. 受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文2） 12. 受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文3） 13. 受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文1） 14. 受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文2） 15. 受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文3） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76007C01 |
| 科目名   | 【院】食品機能学特別演習Ⅲ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar in Food Science III  |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 食品機能・健康科学演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | ・問題設定の適正度（30％） ・文献・原著論文選択の適正度（20％） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30％） ・質疑への参加度（20％）                      |       |           |
| 到達目標  | 受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。                                       |       |           |
| 準備学習  | 受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 文献・原著論文の収集・整理法の講述 2. 受講生の発表と質疑（1） 3. 受講生の発表と質疑（2） 4. 受講生の発表と質疑（3） 5. 受講生の発表と質疑（4） 6. 受講生の発表と質疑（5） 7. 受講生の発表と質疑（6） 8. 受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1） 9. 受講生の発表と質疑（7） 10. 受講生の発表と質疑（8） 11. 受講生の発表と質疑（9） 12. 受講生の発表と質疑（10） 13. 受講生の発表と質疑（11） 14. 受講生の発表と質疑（12） 15. 受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2） |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76007D01 |
| 科目名        | 【院】食品機能学特別演習Ⅳ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Food Science IV   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生が作成したレジュメなど。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 前半は食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 受講生の発表と質疑（1） 2. 受講生の発表と質疑（2） 3. 受講生の発表と質疑（3） 4. 受講生の発表と質疑（4） 5. 受講生の発表と質疑（5） 6. 受講生の発表と質疑（6） 7. 受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8. 論文作成のスキルを解説 9. 受講生が作成した論文に対する質疑（1） 10. 受講生が作成した論文に対する質疑（2） 11. 受講生が作成した論文に対する質疑（3） 12. 受講生が作成した論文に対する質疑（4） 13. 受講生が作成した論文に対する質疑（5） 14. 受講生が作成した論文に対する質疑（6） 15. 受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76008002 |
| 科目名   | 【院】食品機能学特別研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）   | Research in Food Science                               |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 野菜・作物の機能性成分の化学および生理機能に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。       |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 修士論文および口頭発表で評価する。                                      |       |           |
| 到達目標  | 修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。 |       |           |
| 準備学習  | 研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。         |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。                             |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. テーマの企画・設定  2. テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解  3. 実験計画の立案  4. テーマの取り組み  5. 修士論文の作成  6. 研究の発表 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76009A01 |
| 科目名  | 【院】植物バイオテクノロジー特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Plant Biotechnology I  |       |           |
| 担当者名   | 高瀬 尚文   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生が作成したレジュメを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 選択した各文献について次の点で評価する。(1) 文献選択の適正度 (20%)、(2) 研究目的の理解度 (20%)、(3) 研究手法の理解度 (20%)、(4) 科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断 (20%)、(5) 質疑への参加度 (20%)  |       |           |
| 到達目標   | 植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。   |       |           |
| 準備学習   | 原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 担当教員より文献の読み方について講述する (1)   2. 担当教員より文献の読み方について講述する (2)   3. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   4. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   5. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   6. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   7. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   8. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   9. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   10. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   11. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   12. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   13. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   14. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献)   15. 受講生の発表と質疑 (植物バイオテクノロジーに関する文献) |   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           |            |     |     |     |       |        |
|               |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | J76009B01 |
| 科目名       | 【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Seminar in Plant Biotechnology II   |       |           |
| 担当者名      | 高瀬 尚文   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 受講生が作成したレジュメを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）  |       |           |
| 到達目標      | 植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。  |       |           |
| 準備学習      | 原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。   |       |           |

受講者への要望

講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰの習熟度評価 | 2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う | 3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） | 15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76009C01 |
| 科目名   | 【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar in Plant Biotechnology III  |       |           |
| 担当者名  | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 受講者が作成したレジュメなどを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%）、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%）、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%）、（４）質疑への参加度（20%）   |       |           |
| 到達目標  | 植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。Ⅱ   |       |           |
| 準備学習  | 原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）   2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）   3. 受講生の発表と質疑（１）   4. 受講生の発表と質疑（２）   5. 受講生の発表と質疑（３）   6. 受講生の発表と質疑（４）   7. 受講生の発表と質疑（５）   8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）   9. 受講生の発表と質疑（６）   10. 受講生の発表と質疑（７）   11. 受講生の発表と質疑（８）   12. 受講生の発表と質疑（９）   13. 受講生の発表と質疑（１０）   14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）   15. まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76009D01 |
| 科目名  | 【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅳ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Plant Biotechnology IV  |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生が作成したレジュメなどを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%）、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%）、（３）論文作成および発表能力（50%）   |       |           |
| 到達目標   | ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。Ⅱ   |       |           |
| 準備学習   | 原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義時間ごとに受講生1～2名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。   2. 受講生の発表と質疑（1）   3. 受講生の発表と質疑（2）   4. 受講生の発表と質疑（3）   5. 受講生の発表と質疑（4）   6. 受講生の発表と質疑（5）   7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘   8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。   9. 受講生が作成して論文に対する質疑（1）   10. 受講生が作成して論文に対する質疑（2）   11. 受講生が作成して論文に対する質疑（3）   12. 受講生が作成して論文に対する質疑（4）   13. 受講生が作成して論文に対する質疑（5）   14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘   15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76010002 |
| 科目名        | 【院】植物バイオテクノロジー特別研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Research in Plant Biotechnology  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについての必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱書などを提示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。<br>②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。                              |       |           |
| 講義の順序とポイント | 修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | J76011A01 |
| 科目名       | 【院】流域環境デザイン特別演習 I                                  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Seminar on Design of Watershed-Scale-Environment I |       |           |
| 担当者名      | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 流域環境デザインについて適宜演習を行う。                               |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 総合的に判断する。  |       |           |
| 到達目標      | 特に設けない。状況に応じて設定する。                                 |       |           |
| 準備学習      | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 文献をしっかり読んで下さい。                                     |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 適宜行う。  （※担当者が適宜変更することがある）                          |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            |      |     |     |       |        |
|             |            |      |     |     |       |        |

|                           |   |       |           |
|---------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                        | 2012  | 授業コード | J76011B01 |
| 科目名                       | 【院】流域環境デザイン特別演習Ⅱ                                    | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                 | Seminar on Design of Watershed-Scale-Environment II |       |           |
| 担当者名                      | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                      | 適宜行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）                  |   |       |           |
| 教材（参考文献）                  |   |       |           |
| 教材（その他）                   |   |       |           |
| 評価方法                      | 総合的に行う。   |       |           |
| 到達目標                      | 事前には設定しない。  |       |           |
| 準備学習                      | その都度指示する。   |       |           |
| 受講者への要望                   | しっかり勉強して下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント                |   |       |           |
| 適宜進める。Ⅱ（※担当者が適宜変更することがある） |   |       |           |

|             |            |      |     |     |       |        |
|-------------|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |      |     |     |       |        |
|             |            |      |     |     |       |        |

|                           |  |       |           |
|---------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                        | 2012   | 授業コード | J76011C01 |
| 科目名                       | 【院】流域環境デザイン特別演習Ⅲ                                     | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                 | Seminar on Design of Watershed-Scale-Environment III |       |           |
| 担当者名                      | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                      | 適宜行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）                  |  |       |           |
| 教材（参考文献）                  |  |       |           |
| 教材（その他）                   |  |       |           |
| 評価方法                      | 総合的に判断する。  |       |           |
| 到達目標                      | 事前には設定しない。   |       |           |
| 準備学習                      | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 受講者への要望                   | しっかり勉強して下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント                |  |       |           |
| 適宜進める。Ⅱ（※担当者が適宜変更することがある） |  |       |           |

|             |            |      |     |     |       |        |
|-------------|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |      |     |     |       |        |
|             |            |      |     |     |       |        |

|                            |   |       |           |
|----------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                         | 2012  | 授業コード | J76011D01 |
| 科目名                        | 【院】流域環境デザイン特別演習IV                                   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                  | Seminar on Design of Watershed-Scale-Environment IV |       |           |
| 担当者名                       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                       | 適宜行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）                   |   |       |           |
| 教材（参考文献）                   |   |       |           |
| 教材（その他）                    |   |       |           |
| 評価方法                       | 総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標                       | 事前には設定しない。  |       |           |
| 準備学習                       | 必要に応じて指示する。   |       |           |
| 受講者への要望                    |   |       |           |
| しっかり勉強して下さい。               |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                 |   |       |           |
| 適宜進める。  （※担当者が適宜変更することがある） |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76012002 |
| 科目名        | 【院】流域環境デザイン特別研究<br>(2012-2013)                    | 単位数   | 8         |
| 科目名 (英語表記) | Research on Design of Watershed-Scale-Environment |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 適宜行う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標       | 適宜目標を設定する。  |       |           |
| 準備学習       | 必要に応じて指示する。                                       |       |           |
| 受講者への要望    | しっかり研究に励んで下さい。                                    |       |           |
| 講義の順序とポイント | 適宜進める。   (※担当者が適宜変更することがある)                       |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76013A01 |
| 科目名        | 【院】農・森林環境デザイン特別演習<br>I  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Design of Regional Ecosystem and Land Use I  |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 生産と環境について、生理・生態的側面も含めて、いくつかの文献を精読・理解して、研究の背景、研究方法、結果と考察などについて報告し、その内容についての議論を行い、研究論文の評価能力を涵養する。また課題を課し、それについて検討し発表する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 基本的な文献資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 論文などの読解力（50%）、フィールドでの観察力と考察力（20%）、発表内容の構想力（30%）で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 食料生産と環境との係わりを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から食料生産と環境についての論文に目を通しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 植物を見る眼を十分に養うことを望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 概要と意図説明。  2. 文献輪読[1] (学生の発表と質疑)。  3. 文献輪読[2] (学生の発表と質疑)。  4. 文献輪読[3] (学生の発表と質疑)。  5. [1]、[2]、[3] (のまとめの討論および補足解説。  6. 文献輪読[4] (学生の発表と質疑)。  7. 文献輪読[5] (学生の発表と質疑)。  8. 文献輪読[6] (学生の発表と質疑)。  9. [4]、[5]、[6] (のまとめの討論および補足解説。  10. フィールドでの実習討論[1]。  11. フィールドでの実習討論[2]。  12. 課題についての発表[1]。  13. 課題についての発表[2]。  14. 課題についての発表[3]。  15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76013B01 |
| 科目名        | 【院】農・森林環境デザイン特別演習<br>II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Design of Regional Ecosystem and Land Use II  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 農・森林環境デザインに関する文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として理解し、これを問題点解決に活用するための能力を涵養する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教員と相談して選んだ英語文献を使用。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 英語文献の選択の適切さ（20%）、内容の理解度（70%）、発表の取りまとめや表現の適切さ（10%）の割合で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 文献の読解力の育成  |       |           |
| 準備学習       | 英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 生産を基本とした環境デザインの構築を理解した新しい考え方を展開してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 概要と意図説明。  2. 英語の基礎的な論文を読解する（1）。  3. 英語の基礎的な論文を読解する（2）。  4. 英語の基礎的な論文を読解する（3）。  5. 英語の基礎的な論文を読解する（4）。  6. 英語の基礎的な論文を読解する（5）。  7.（1）～（5）の内容などについての討論。  8. フィールドでの実証・実体験（1）。  9. 英語の基礎的な論文を読解する（6）。  10. 英語の基礎的な論文を読解する（7）。  11. 英語の基礎的な論文を読解する（8）。  12. 英語の基礎的な論文を読解する（9）。  13.（6）～（9）の内容などについての討論。  14. フィールドでの実証・実体験（2）。  15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76013C01 |
| 科目名        | 【院】農・森林環境デザイン特別演習<br>III   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Design of Regional Ecosystem and Land Use III   |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 玲治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 農・森林環境デザインに関する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとめた情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 教員と相談して選んだ英文文献   |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | 英語文献の選択の適切さ（20%）、内容の理解度（70%）、発表の取りまとめや表現の適切さ（10%）の割合で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 論文の読み方と発表のスキルを修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 日々興味のある論文に目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 関連論文を事前によく読んでおくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 概要と意図説明   2. 英語論文を読解する（1）   3. 英語論文を読解する（2）   4. 英語論文を読解する（3）   5. 英語論文を読解する（4）   6. 英語論文を読解する（5）   7. （1）～（5）内容をもとに討論   8. フィールドでの実証・実体験（1）   9. 英語論文を読解する（6）   10. 英語論文を読解する（7）   11. 英語論文を読解する（8）   12. 英語論文を読解する（9）   13. （6）～（9）の内容をもとに討論   14. フィールドでの実証・実体験（2）   15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76013D01 |
| 科目名  | 【院】農・森林環境デザイン特別演習<br>IV  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Design of Regional Ecosystem and Land Use IV  |       |           |
| 担当者名   | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | これまでに学んだ農・森林環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成する。              |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教員と相談して選んだ英語論文の文献  |       |           |
| 教材（参考文献）   | その都度与える。   |       |           |
| 教材（その他）  | 特になし   |       |           |
| 評価方法   | 第6回までにつて、英語文献の選択の適切さ（10%）、内容の理解度（40%）、発表の取りまとめや表現の適切さ（10%）の割合で評価する。第7回以降は、作成論文の内容の適切さ（30%）、発表方法（10%）で評価する。 |       |           |
| 到達目標   | 農・森林環境デザインに関する論文の読破と論文の書き方を修得する。   |       |           |
| 準備学習   | 本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 自然の観察を日々行っておくこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。 2. 関連英語論文を解読し、発表と質疑（1） 3. 関連英語論文を解読し、発表と質疑（2） 4. 関連英語論文を解読し、発表と質疑（3） 5. 関連英語論文を解読し、発表と質疑（4） 6. 関連英語論文を解読し、発表と質疑（5） 7. 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘 8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。 9. 受講生が作成した論文に対する質疑（1） 10. 受講生が作成した論文に対する質疑 11. 受講生が作成した論文に対する質疑 12. 受講生が作成した論文に対する質疑 13. 受講生が作成した論文に対する質疑 14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76014002 |
| 科目名        | 【院】農・森林環境デザイン特別研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Research on Design Studies of Regional Ecosystem and Land Use   |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究論文の構成力・書き方について論述し、論文を作成する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜資料を配布し、教材などを指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 基本的な文献・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 論文の完成度・発表力について評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 論文の完成   |       |           |
| 準備学習       | これまでの学習課題のまとめ   |       |           |
| 受講者への要望    | 常に新しい発見があるように努める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに 2. 論文作成に向けての課題についての検討。 3. 論文作成に向けての課題についての検討。 4. 論文の構成について。 5. 論文の構成について。 6. 研究論文作成に向けての実験・実習。 7. 研究論文作成に向けての実験・実習。 8. 研究論文作成に向けての実験・実習。 9. 研究論文作成に向けての実験・実習。 10. 研究論文作成に向けての実験・実習。 11. 研究論文作成に向けての実験・実習。 12. 研究論文作成に向けての実験・実習。 13. 研究論文作成に向けての実験・実習。 14. 論文のまとめについての検討。 15. まとめ 完成論文について |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76015A01 |
| 科目名  | 【院】都市自然化デザイン特別演習 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Urban Design for Naturalization I   |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 修士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 研究課題に即した国際学術文献を選定する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて、各自に紹介する   |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）   |       |           |
| 到達目標   | 修士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習   | 都市環境の中で水や緑に関する情報はメディアに取り上げられることが多いので、注意して情報を収集しておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 社会とのつながりを軸に持てるよう視野を広く持ち、専門について知見を深めてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5. 研究計画と研究方法論（1） 6. 研究手法の理解と検討（1） 7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8. 研究計画と研究方法論（2） 9. 研究手法の理解と検討（2） 10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11. 研究計画と研究方法論（3） 12. 研究手法の理解と検討（3） 13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14. 研究計画と研究方法論（4） 15. 研究手法の理解と検討（4） |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76015B01 |
| 科目名        | 【院】都市自然化デザイン特別演習Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Urban Design for Naturalization II   |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウェアは ArcGIS、TNTmips など比較的にこの分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に活用できる技術を身につけることを目的とする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 図解 Arc GIS GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得   |       |           |
| 準備学習       | 都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 . ArcGIS の基本操作 2 .ArcGIS と GoogleEarth 3 .ArcGIS の ToolBox の使い方 4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst) 5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst) 6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション)  7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方） 8 .ArcGIS による流域解析 1  9 .ArcGIS による流域解析 2  10 .ArcGIS による指標解析 1  11 .ArcGIS による指標解析 2  12 .ArcGIS による指標解析 3  13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1  14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2  15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76015C01 |
| 科目名  | 【院】都市自然化デザイン特別演習Ⅲ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Urban Design for Naturalization III   |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本列島を中心に、人間と森林のかかわりを日本各地の事例を通じて学ぶ。過度な自然からの草木収奪から生まれた特異な植生や景観を学ぶ。薪炭の過度の収奪から生じたせき悪地、鉱山開発によるはげ山、農業生産を増大させるための原野の新田開発、窯業用燃料に伐採されたアカマツ林、ブナ林を伐採した木地屋、森林を計画的に経営し利用した焼畑農業、その歴史的意義と現代的意義を考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開発の歴史地理（田村勝正）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 里山と人の履歴（犬井正）、古代・中世の耕地と村落（高重進）、池の文化（末永雅雄）、木ごろろを知る（中川重年）、ろくろ（橋本鉄男）   |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | レポート（50%）（内容の理解 40%、この内容を踏まえた論理的な組み立てが構築できているか 10%）   試験（50%）（内容の理解 30%、この内容を踏まえた論理的な組み立ての構築 20%）  |       |           |
| 到達目標   | せき悪地改良及び新田開発に伴う森林造成史   |       |           |
| 準備学習   | 森林を生産、利用、歴史、文化の諸面でもとらえるように関連文献を読み込んでおいてください。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 普段接する機会の少ない山間地の林業地帯での歴史文化について各自でフィールドを定め、ヒアリングなどを行うよう務めてください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 里山の諸要素の基本概念整理   2. 古代文献から見る里山の発生 1   3. 古代都市と窯業   4. 理解度測定小発表   5. 新田開発の発生と展開、背景   6. 鉱山開発と森林   7. 木地屋の森林利用   8. 理解度測定小発表   9. 焼畑と森林   10. せき悪地の発生と歴史 2 近代   11. 理解度測定小発表   12. せき悪地緑化事業現地研修 神戸市六甲山   13. せき悪地緑化事業現地研修 大谷鉱山   14. 理解度確認発表   15. まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76015D01 |
| 科目名   | 【院】都市自然化デザイン特別演習IV   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Urban Design for Naturalization IV  |       |           |
| 担当者名  | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 都市空間における新しい環境指標及び生物指標の開発を行う。既存の環境指標及び生物指標についての整理したのち、都市空間において今後必要とされる新しい指標について考察を加える。複数の新しい指標の概念を明らかにし、これらの指標を用いて実際に複数の都市を対象とした空間評価を行う。新しい指標としては、水循環、持続可能性、エコロジカルフットプリント、地産地消、ヒートアイランド、幸せの指標など、これからの新しい都市の在り方を検討する上で重要と考えられる概念を掘り下げることとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 環境指標 その考え方と作成手法（内藤正明他）学陽書房 環境指標の展開（内藤正明他）学陽書房 エコロジカルフットプリント（和田喜彦監訳）合同出版  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 既存の指標のレビュー（30%）、新しい指標の概念（30%）、都市環境の評価（40%）   |       |           |
| 到達目標  | 新しい環境指標及び生物指標の構築   |       |           |
| 準備学習  | 1, 2 で構いませんから、都市で起きている特徴的なエコロジカルな活動を探り出し、その情報収集し現地確認をしておいてください   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 参考図書の1, 2について読み込んでおいてください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.環境指標と生物指標について（イントロダクション） 2.既存の環境指標・生物指標の整理1 3.既存の環境指標・生物指標の整理2 4.既存の環境指標・生物指標の整理3 5.新しい環境指標の概念づくり1 6.新しい環境指標の概念づくり2 7.新しい環境指標の概念づくり3 8.新しい環境指標の概念づくり4 9.新しい環境指標の概念づくり5 10.新しい環境指標に基づいた都市環境の評価1 11.新しい環境指標に基づいた都市環境の評価2 12.新しい環境指標に基づいた都市環境の評価3 13.新しい環境指標に基づいた都市環境の評価4 14.新しい環境指標に基づいた都市環境の評価5 15.まとめ |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76016002 |
| 科目名        | 【院】都市自然化デザイン特別研究   | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Research on Urban Design for Naturalization  |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市自然化デザイン研究室での修士論文作成のために必要となる研究スキルを磨くことと、研究テーマの絞り込みのための文献調査を中心に行う。人数も限定されることから学部までの大勢の講義形式ではなく、学生と教員とで適宜定期的にとれる時間をみて行うこととする。研究スキルとしては、論文の書き方、英語論文の読み方、現場での調査手法の取得、GIS やリモセンデータの使い方、空間的な解析手法などについて学生が主体として行い、教員が適宜アドバイスを取る形とする。研究テーマの絞り込みに関しては、幅広い文献を継続的に読むことと、現地での調査を繰り返すことによって進めていくものとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて、紹介する  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%）  ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%）  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること  |       |           |
| 準備学習       | これまでの研究・学習を整理しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 幅広い情報収集と進化させる研究を進展させるよう努めてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 研究結果の進展に基づいて適宜指導する。  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76017A01 |
| 科目名        | 【院】エコマテリアル特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Ecomaterials Science I   |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアルと称される環境物質について研究を進めるには、結晶や鉱物、ガラス質物質、炭素材料や酸化物などの物質・材料についての基礎知識が必要である。この演習ではまずこのような基礎知識を得るため、日本語で書かれた物質・材料の文献を読み、受講生がこれらの基礎知識を得るようにすると同時に、物理学や数学の知識を必要とする文献をも読みこなす能力を養成することを目的とする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 情報収集の適正度 (30%)、文献の読解力 (30%) および内容の理解度 (40%) を評価する。  |       |           |
| 到達目標       | エコマテリアルの研究に必要な情報の収集法と文献の読解力および物質・材料研究の基礎を養う。  |       |           |
| 準備学習       | エコマテリアルの研究に必要な物理学、無機化学、物質科学の基礎学力を準備学習する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 大学院の学生として、自学自習の態度で学習する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 担当教員が必要な情報を得るための方法を講義する。   2. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(1) 材料の合成、加工、製造   3. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(2) 固体中の電子の動き   4. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(3) 固体中の電荷の偏り—誘電体—   5. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(4) 固体表面と外部雰囲気との相互作用   6. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(5) 固体中のイオンの動き   7. 担当教員と受講生との論文または書物の内容についての討論。   8. 論文または書物の内容に関する受講生の調査発表。   9. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(1) 磁性体について   10. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(2) 吸着剤と触媒   11. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(3) 個体の蛍光・発光   12. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(4) 光ファイバー   13. 基礎的な論文または書物の1章を読む。(5) セラミックス   14. 担当教員と受講生との論文または書物の内容についての討論。   15. 論文または書物の内容に関する受講生の調査発表。  </p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76017B01 |
| 科目名        | 【院】エコマテリアル特別演習Ⅱ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Ecomaterials Science II  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアルと称される環境物質について研究を進めるには、結晶や鉱物、ガラス質物質、炭素材料や酸化物などの物質・材料についての基礎知識とこれらの知識を得るための英文の読解力が必要である。多くの文献は英文で書かれており、そのため英語の論文を読むことが求められる。この演習では、英文で環境物質に関する文献を読むこととし、これより基礎知識を得ると同時に、英文の読解力を養うこととする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 情報収集の適正度（30%）、英文の内容について読解力（30%） および内容の理解度（40%）を評価する。  |       |           |
| 到達目標       | エコマテリアルの研究に必要な情報の収集法と英文の文献の読解力および物質・材料研究の基礎を養う。   |       |           |
| 準備学習       | エコマテリアルの研究に必要な物理学、無機化学、物質科学の基礎学力を準備学習する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 大学院の学生として、自ら考え自ら学習することを期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 担当教員が英文での必要な情報を得るための方法を講義する。  2. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(1) the solid state  3. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(2) atomic structure  4. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(3) forces between atoms  5. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(4) the ionic model  6. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(5) the covalent model  7. 担当教員と受講生との英文の論文または書物の内容についての討論。  8. 英文の論文または書物の内容に関する受講生の調査発表。  9. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(1) mixed bonds  10. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(2) other type of bonds  11. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(3) lengths and strengths of bond types  12. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(4) complex crystal structures  13. 英文の基礎的な論文または書物の1章を読む。(5) isomorphism and solid solutions  14. 担当教員と受講生との英文の論文または書物の内容についての討論。  15. 英文の論文または書物の内容に関する受講生の調査発表。 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76017C01 |
| 科目名        | 【院】エコマテリアル特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Ecomaterials Science III   |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアルと称される環境物質について研究を進めるには、結晶や鉱物、ガラス質物質、炭素材料や酸化物などの物質・材料についての基礎知識とこれらを研究・解析するための手法を身につける必要がある。即ち、物質の化学組成と結晶としての性質の解析が基礎となる。この演習では微小な領域の化学組成を知るため走査型電子微小分析装置の構造と、結晶としての性質を知るためX線、電子線による結晶の回折の理論を学び、物質解析の手法を養う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 結晶の解析法の理解度（50%）、物理化学的分析法の理解度（50%）について評価する。  |       |           |
| 到達目標       | エコマテリアルの研究に必要な結晶解析法と物理的化学分析法を学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 結晶の解析法と物理的化学分析法の学習に必要な物理学、無機化学および数学の準備学習を行う。  |       |           |
| 受講者への要望    | 大学院の学生として、自ら考え自ら学習することを要望する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 結晶による回折の基礎理論（1）結晶の周期配列と単位格子 2. 結晶による回折の基礎理論（2）基本格子とブラベー格子 3. 結晶による回折の基礎理論（3）結晶系とミラー指数 4. 結晶による回折の基礎理論（4）3点群 5. 結晶による回折の基礎理論（5）空間群 6. X線による結晶の回折（1）X線の性質と回折 7. X線による結晶の回折（2）原子によるX線の反射とブラッグの回折条件 8. X線による結晶の回折（3）逆格子 9. X線による結晶の回折（4）エバルトの回折条件 10. 電子線による結晶の化学分析（1）電子線の性質 11. 電子線による結晶の化学分析（1）白色X線と特性X線 12. 電子線による結晶の化学分析（1）微焦点電子線による特性X線の測定と化学組成 13. X線結晶解析装置の構造（1）粉末X線装置 14. X線結晶解析装置の構造（2）単結晶X線装置 15. 走査型電子微小分析装置の構造 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76017D01 |
| 科目名        | 【院】エコマテリアル特別演習IV   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Ecomaterials Science IV   |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでに学んだエコマテリアル特別演習 I -IIIを基礎にして、受講生は各自の環境物質について研究をまとめる上で、問題点を明らかにし、過去の研究との整合性、実験の適正な実行とその結果の評価、過去の研究と今回の結果の意義についての議論、これから導かれる結論などを論文の形にして行く能力を養う。作成された論文の修正、評価、発表できる能力も指導する。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 物質解析演習の達成度（50%）と論文の作成演習の達成度（50%）について評価する。  |       |           |
| 到達目標       | エコマテリアルの研究を遂行し論文を作成する能力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 関係する論文を読破し、研究結果を発表するための基礎を準備学習する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 大学院の学生として、自ら考え自ら学び研究結果を発表することを要望する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 過去のエコマテリアル研究について、文献を読み重ねて序論として纏める（1） 2. 過去のエコマテリアル研究について、文献を読み重ねて序論として纏める（2） 3. 過去のエコマテリアル研究について、文献を読み重ねて序論として纏める（3） 4. 過去のエコマテリアル研究について、文献を読み重ねて序論として纏める（4） 5. 行った合成・解析実験と結果について纏める（1） 6. 行った合成・解析実験と結果について纏める（2） 7. 行った合成・解析実験と結果について纏める（3） 8. 行った合成・解析実験と結果について纏める（4） 9. 過去の研究と行った実験とその結果について整合的にその意義を捉えて、議論と結論として纏める（1） 10. 過去の研究と行った実験とその結果について整合的にその意義を捉えて、議論と結論として纏める（2） 11. 過去の研究と行った実験とその結果について整合的にその意義を捉えて、議論と結論として纏める（3） 12. 過去の研究と行った実験とその結果について整合的にその意義を捉えて、議論と結論として纏める（4） 13. 受講生が作成した論文について、評価を行い修正を加える（1） 14. 受講生が作成した論文について、評価を行い修正を加える（2） 15. 完成した論文の纏めと発表を行う </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76018002 |
| 科目名        | 【院】エコマテリアル特別研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Research in Ecomaterials Science  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | エコマテリアルと称される環境物質について研究を進めるには、結晶や鉱物、ガラス質物質、炭素材料や酸化物などの物質・材料についての基礎知識が必要である。また、これらの環境物質を研究するための手法、即ち、マクロからミクロに物質を観察するため光学顕微鏡から電子顕微鏡観察、化学組成を知るため蛍光X線分析やE P M A分析、結晶構造や結晶度を知るためX線回折などの機器分析にも親しむ必要がある。これらの基礎を学習・実習しつつ多孔質物質、蛍光物質、エネルギー保存物質などの環境物質の研究を実施する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 文献読破力（30%）、実験力（40%）、発表力（30%）で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | エコマテリアルの研究に必要な基礎を身に付け、研究を遂行する。  |       |           |
| 準備学習       | エコマテリアルの研究に必要な物理学、無機化学、物質科学、およびこれらの基礎となる数学を準備学習する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 大学院の学生として、自ら考え自ら研究を遂行することを要望する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 二酸化炭素の吸着・保持物質や水質浄化物質などの環境物質の探査 II 2. 二酸化炭素の吸着・保持物質や水質浄化物質などの環境物質の探査 III 3. 研究題目の概要設定   4. 文献の調査   5. 研究題目の設定   6. 文献の調査   7. エコマテリアル研究の実験 II 8. 実験結果の討議と次の方針検討 II 9. エコマテリアル研究の実験 III 10. 実験結果の討議と次の方針検討 III 11. エコマテリアル研究の実験 III   12. 実験結果の討議と次の方針検討 III   13. エコマテリアル研究の実験 IV   14. 実験結果の討議と次の方針検討 IV   15. 研究の纏め |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76019A01 |
| 科目名        | 【院】バイオマス高度化利用特別演習<br>I   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Biomass I   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオマス利用技術の最新情報を得るには、国内外の情報を読み解くことが必要である。そこで、適当なキーワードを選んで、バイオマス利用技術に関する学術論文を検索し、得られた学術論文を読んで理解する技術を習得させる。最初は国内で発行されている日本語の原著論文を受講生が検索し、その中から適当な原著論文を選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。原著論文を読むことで、原著論文のスタイルに慣れさせるとともに、原著論文をどのように読み解くのかを習得させる。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 受講生の発表内容（60%）、質疑応答内容（40%）  |       |           |
| 到達目標       | バイオマス利用技術に関する国内の情報を収集する方法を習得し、その内容を読解する力を付ける   |       |           |
| 準備学習       | 選んだ論文を事前に十分に読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 論文の内容について、理解できない部分を教員にくり返し質問して、理解に努めること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 原著論文とは何か、研究とは何かの基本的な事項を講義する。   2. インターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な原著論文を選ぶ。   3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。   4. 受講生による発表と質疑応答（1）   5. 受講生による発表と質疑応答（2）   6. 受講生による発表と質疑応答（3）   7. 受講生による発表と質疑応答（4）   8. 受講生による発表と質疑応答（5）   9. 受講生による発表に対する総合的な講評（1）   10. 受講生による発表と質疑応答（6）   11. 受講生による発表と質疑応答（7）   12. 受講生による発表と質疑応答（8）   13. 受講生による発表と質疑応答（9）   14. 受講生による発表と質疑応答（10）   15. 受講生による発表に対する総合的な講評（2） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76019B01 |
| 科目名   | 【院】バイオマス高度化利用特別演習<br>II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Biomass II  |       |           |
| 担当者名  | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | バイオマス利用技術の最新情報を得るには、国内からの情報だけでなく、海外からの情報も読んで理解することが必要である。そこで、バイオマス利用技術に関する英文の情報を検索し、得られた英文の学術論文を読んで理解する技術を習得させる。まず、英語の原著論文を受講生が検索し、その中から適切なものを選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。英文の原著論文を読むことで、独特のスタイルや、専門的な英単語に慣れるようにする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 受講生の発表内容（60%）、質疑応答内容（40%）  |       |           |
| 到達目標  | バイオマス利用技術に関する英文の情報を読解する力をつける   |       |           |
| 準備学習  | 選んだ英語の論文を事前に読んで、理解に努めること。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 英文を翻訳しただけでは、理解したことにはならず、その内容を把握することが論文を理解するということであり、わからないところは、教員に質問して理解に努めること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ   2. 英文の原著論文を読むに当たっての基本を講義する   3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。   4. 受講生による発表と質疑応答（1）   5. 受講生による発表と質疑応答（2）   6. 受講生による発表と質疑応答（3）   7. 受講生による発表と質疑応答（4）   8. 受講生による発表と質疑応答（5）   9. 受講生による発表に対する総合的な講評（1）   10. 受講生による発表と質疑応答（6）   11. 受講生による発表と質疑応答（7）   12. 受講生による発表と質疑応答（8）   13. 受講生による発表と質疑応答（9）   14. 受講生による発表と質疑応答（10）   15. 受講生による発表に対する総合的な講評（2） |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76019C01 |
| 科目名        | 【院】バイオマス高度化利用特別演習<br>III   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Biomass III   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオマス利用技術についての海外からの情報を読み解くだけでなく、自らの研究を海外へ向けて発表する技術を習得させる。最初は、すでに学術誌に掲載されている英文の論文をまねることが必要であり、前半では、英文の学術論文を読んで、使えそうな表現を抜書きして他の受講生に紹介する。そして、後半では自らの研究の内容を英文にする練習を行う。英文での学術論文の記述にあたって一番簡単に記述できる部分は、実験や調査の方法の記述であるから、この部分の記述のパターンを習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 作成した論文の内容（60%）、発表と質疑応答の内容（40%）   |       |           |
| 到達目標       | バイオマス利用技術に関する論文の作成技術を身に付ける   |       |           |
| 準備学習       | 英語の論文を事前によく読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | わからないところを放置せずに、教員に質問して理解に努めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 原著論文を英文で書くための基本を講義 2. インターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ 3. 受講生による発表と質疑応答（1） 4. 受講生による発表と質疑応答（2） 5. 受講生による発表と質疑応答（3） 6. 受講生による発表と質疑応答（4） 7. 受講生による発表と質疑応答（5） 8. 受講生による発表と質疑応答（6） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評 10. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（1） 11. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（2） 12. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（3） 13. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（4） 14. 受講生による英文の論文の作成：実験方法の記述（5） 15. 受講生による論文作成に対する総合的な講評 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                             |   |       |           |
|-----------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                          | 2012  | 授業コード | J76019D01 |
| 科目名                         | 【院】バイオマス高度化利用特別演習<br>IV   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                   | Seminar on Biomass IV   |       |           |
| 担当者名                        | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                        | バイオマス利用技術について、自分が行った研究を英文で記述して、原著論文として仕上げる技術を習得させる。演習Ⅲでは、実験方法を記述する訓練をしており、演習Ⅳでは、残りの部分、つまり、実験結果や調査結果の記述方法と、緒論と考察の記述を訓練する。そして、自分の行った実験の結果を学术论文の形式で書いてみる。学术论文にまとめる練習を通じて、「研究とは何か」を体得できるようにする。論文作製には、ワードを用いる。   |       |           |
| 教材（テキスト）                    |   |       |           |
| 教材（参考文献）                    |   |       |           |
| 教材（その他）                     |   |       |           |
| 評価方法                        | 作成した英文の内容（40%） 作成した論文の内容（60%）   |       |           |
| 到達目標                        | バイオマス利用技術に関する論文を完成させる力を身に付ける  |       |           |
| 準備学習                        | 英文の論文を事前によく読んでおくこと。自分の実験について、内容をまとめておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                     |   |       |           |
| 疑問に思うことが出てきたら、積極的に教員に質問すること |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                  |   |       |           |
|                             | 1. 原著論文を英文で書くための基本を講義 2. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（1） 3. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（2） 4. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（3） 5. 受講生による英文の論文の作成：実験結果の記述（4） 6. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（1） 7. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（2） 8. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（3） 9. 受講生による英文の論文の作成：緒論と考察の記述（4） 10. 受講生自身の実験について、実験方法を論文形式にまとめる。 11. 受講生自身の実験について、結果を論文形式にまとめる。 12. 受講生自身の実験について、考察を論文形式で書く。 13. 受講生自身の実験について、緒論を記載する。 14. 受講生自身の実験について、参考文献と要約を記述する。 15. まとめ |       |           |

|             |            |      |     |     |       |        |
|-------------|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |      |     |     |       |        |
|             |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76020002 |
| 科目名        | 【院】バイオマス高度化利用特別研究  | 単位数   | 8         |
| 科目名（英語表記）  | Biomass Research   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バイオマス資源をエネルギー源や原材料として高度に有効利用するのに必要な技術として、生化学的な変換技術に力点を置き、バイオマスを加工する技術や、バイオマス加工から発生する廃棄物・廃水の利用や処理の技術、または、環境保全に関する研究、廃水処理に関する微生物集団の研究、その微生物を研究するためのDNA解析技術、さらにDNA解析技術の応用などの中からテーマを設定して調査または研究を行ない、論文にまとめる。                                   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 論文の内容（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 選んだテーマに沿って自ら調査や実験の計画を立て、これを実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる高度な能力を身に付ける。  |       |           |
| 準備学習       | 広い視野に立って自分の研究内容を見つめることができるように、環境関係のニュースを日ごろから関心を持って読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日々の実験や調査の蓄積が重要であり、こつこつとムラなく行うこと  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1～5. 研究テーマの選定と関連資料のインターネット利用による探索、および資料の内容の理解  6～10. 調査や実験計画の立案  11～25. 調査や実験の実施  26～30. 調査や実験の結果の中間段階でのまとめ  31～44. 調査や実験の実施  45～49. 調査や実験結果のまとめ、エクセルの利用  50～54. 論文の作成、ワードの利用  55～58. 研究内容の口頭発表の準備、パワーポイントの利用  59. 研究内容の口頭発表  60. まとめと後片付け |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76021A01 |
| 科目名   | 【院】科学英語演習 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Practical Course in Scientific English I  |       |           |
| 担当者名  | 宮田 ワンダ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 論文の構造を理解し、要旨の構成要素について理解する。実践を通じて、英語でプレゼンテーションを行うスキルとそれに対する自信を身につける。 査読論文の構成についてよく理解することが第一の目的である。さらに、定型的なプレゼンテーションを行って学生同士で評価しあうことで、英語と一般的なプレゼンテーションのスキルを磨く。ライティングについては論理展開の形式を検討することを通じて向上を図る。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 講師がプリントを配る。以下のものを参考にしてください。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 学術雑誌に掲載された論文を選んで使用する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 比較のため、アカデミック・ライティング以外の文章も適宜使用する。  |       |           |
| 評価方法  | 「Practice Presentation」20%、授業への参加 40%、「Final Comparative Presentation」20% Writing 20%   |       |           |
| 到達目標  | イントネーションの重要性を意識させる。プレゼンテーションのスキルを磨く。科学的な目的のために書かれるアカデミック・ライティングとそれ以外の文章の違いを理解する。英文作成上の効果的な表現・技法を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 常々英語に慣れ親しんでおくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 原稿を見ずに英語でプレゼンテーションを行うこと、英語で文章を作成すること、授業で音読すること、テキストの問題を解くこと、を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.プレゼンテーション・スキルについての解説、「解説プレゼンテーション」の実例、プレゼンテーションの定型の練習 2.学術論文とその他の文章を比較したリーディング、英文の構成要素の効果的な使用について 3.「解説プレゼンテーション」の練習、テキストの音読、批評、発音とイントネーション 4.「解説プレゼンテーション」の練習、ライティングの練習、音読による発音とイントネーション練習 5.発音の練習、科学論文を読む、ライティングの練習 6.発音の練習、見本プレゼンテーション解説と解説、ライティングの練習 7.発音の練習、科学論文を読む、ライティングの練習 8.発音の練習、見本プレゼンテーション解説と解説、ライティングの練習 9.発音の練習、科学論文を読む、ライティングの練習 10.発音の練習、見本プレゼンテーション解説と解説、ライティングの練習 11.発音の練習、科学論文を読む、ライティングの練習 12.発音の練習、見本プレゼンテーション解説と解説、ライティングの練習 13.「比較プレゼンテーション」実行 14.「比較プレゼンテーション」実行 15.「比較プレゼンテーション」実行 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76021B01 |
| 科目名        | 【院】科学英語演習 II  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Practical Course in Scientific English II   |       |           |
| 担当者名       | Amundrud Thomas Martin  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ライティングの練習や論文執筆を通じて、英語の科学論文のライティングの構成、文法、語彙、文体上の要素、編集などを学ぶ。また、クラスでの演習を通じて、英語によるコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを磨く。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | H. Glasman-Deal 著, 「Science Research Writing: A Guide for Non-Native Speakers of English」 Imperial College Press. (アマゾンより通販で入手できる)。その他講義に際し適宜資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 評価は以下のようにして行う   ・授業中に行なう演習とプレゼンテーション (30%)   ・ライティングの課題や宿題の遂行能力と正確さ (50%)   ・授業への参加と授業中の態度 (20%)  |       |           |
| 到達目標       | 学術雑誌および会議のための出版可能なレベルの英語文書を作成するために必要な基礎的スキルを身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 修士論文研究を題材にして、英語要旨や英語論文を作成しておくことが望ましい。また修士論文研究に関連した論文やパソコンに取り込んだ資料を準備することが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 英語の科学論文全体を作成する十分な時間がないため、修士論文研究の要旨を上手に書き上げることができるようになることを目指す。受講生は修士論文研究について英語で説明したりすることを求められる。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. Introduction to the course & basics of paragraph writing 2. What makes scientific writing in English difficult?: The passive voice 3. Introduction to the structure of scientific articles: Overview  4. Introduction to the structure of scientific articles: The introduction 5. Review: Scientific article introductions and passive voice 6. Introduction to the structure of scientific articles: The methodology section 7. What makes scientific writing in English difficult?: Using prefixes, roots, and suffixes 8. How to summarize 9. Review: The methodology section 10. Introduction to the structure of scientific articles: The results section 11. How to write an abstract in English (1) 12. How to write an abstract in English (2) 13. Review: The results section 14. Introduction to the structure of scientific articles: The discussion and conclusion 15. Using citations and references |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76022001 |
| 科目名        | 【院】生物有機化学特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Course in Bioorganic Chemistry  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では、化学生態学および天然物化学の観点から、昆虫類を材料とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説、それらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物のハンドリングの具体例を示しながら解説する。次に、本研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ミツバチ等の昆虫フェロモンや行動科学の研究成果を中心とした知見を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 各項目に対してレポート提出を課し、次の3項目の理解度および習熟度で評価する。  ・化学生態学の応用と社会的基盤 (20%)   ・各知見・手法・技術の有機化学および生物学的学問基盤 (50%)   ・各知見・手法・技術の一般および特異的要素解析 (30%)   |       |           |
| 到達目標       | 化学生態学および天然物化学の観点から植物や昆虫を材料とした最近の研究の進歩を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための学問基盤を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 序論   2. 微量天然物の機器分析 (GC/MS、LC/MS)   3. 微量天然物の機器分析 (NMR、IR 等)   4. 天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱い   5. コガネムシの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   6. コガネムシの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   7. カミキリムシの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   8. カミキリムシの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   9. 蛾の化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   10. 蛾の化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   11. ミツバチの化学生態学 (集合フェロモン、植物-昆虫の共進化)   12. ミツバチの化学生態学 (警報、性フェロモン)   13. スズメバチの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   14. スズメバチの化学生態学 (警報、集合、性フェロモン)   15. まとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76023001 |
| 科目名   | 【院】分子生物学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Advanced Course in Molecular Biology   |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 進めざましい生命科学の基盤は、分子や細胞レベルで種々の機能を理解できる分子生物学にあります。 最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけることを本講義の目的にします。とりわけ、クロマチンの動的構造と機能、転写調節や転写抑制の機構、タンパク質構造と機能調節、細胞の応答シグナル、細胞や細胞小器官同士のクロストーク、発生分化の調節遺伝子システム、疾患関連遺伝子群とエピジェネティクスなどに注目します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 教科書は特定しないが、学習履歴に応じて個々に講義時間内で推薦する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | Molecular Biology of The Cell (Fifth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter  |       |           |
| 教材 (その他)  | "Handbook of Epigenetics - The New Molecular and Medical Genetics" Ed. by Trygve Tollefsbol 2011 Elsevier Inc. を2010年度の講義で用いました。 2011年度も新しい分野ですので引き続き試用します。 PDF版かPrints版を配布します。                          |       |           |
| 評価方法  | 提供した教材に関する課題レポートを講義毎に課し、講義時間内や時間外レポートによって、 以下の内容で評価します。  ・課題の理解度と概要要約の評価 (40%)  ・キーワードの理解度から科学リテラシーの評価 (30%)  ・関連課題の調査と整理の評価 (30%)   |       |           |
| 到達目標  | 生命科学全体に関して、とりわけ最新的话题を中心に種々の現象を理解し、分子的な基盤に基づき説明できること。   |       |           |
| 準備学習  | 最近のトピックスおよび講義内で案内する次回の講義に関して、事前に予備知識を整理しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義ノートを整理し、課題レポートを作成し、期限を守って提出すること。 レポートに追加課題や添削がある場合は、指示に従ったレポートを完成させること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. クロマチン構成タンパク質の構造変化と機能調節  2. クロマチン構成タンパク質を化学修飾するタンパク質  3. クロマチン構造の変化を引き起こすエネルギー依存タンパク質  4. 転写調節因子の複合体タンパク質の動的変化と転写活性の調節  5. ヘテロクロマチン構造維持と核骨格タンパク質の動態  6. 組織特異性と多様な転写抑制因子群  7. 細胞分化を誘導する転写調節因子  8. 細胞内外の環境を感知する細胞膜タンパク質と細胞マトリックスタンパク質  9. 細胞外シグナルの伝達経路を調節するタンパク質と細胞骨格タンパク質の構造変化  10. シグナル伝達と核内応答機構で機能するタンパク質  11. 細胞社会を調節するタンパク質と応答システムで機能する因子  12. 生体の恒常性を維持し、監視するシステムに関わる生体分子  13. 細胞分裂と発生や老化に関わる調節するタンパク質の機能  14. 細胞社会の破綻と病因関連タンパク質とガン化  15. 課題レポートの発表と討論会 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76024001 |
| 科目名   | 【院】応用微生物学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Advanced Course in Applied Microbiology   |       |           |
| 担当者名  | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 微生物を用いる産業技術、すなわち微生物バイオテクノロジーは、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等に関連する具体例を示すことによって現行技術を理解し、それを基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 1) 応用微生物学 第 2 版 (2008) 清水 昌、堀之内末治 編 文永堂出版   2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦 他 編 朝倉書店   3) Brock Biology of Microorganisms 13th ed. (2010) Madigan, M.T. et al. Pearson Education   |       |           |
| 教材（その他）   | 各項目に関連する資料をプリント等で提供する。  |       |           |
| 評価方法  | 各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）   |       |           |
| 到達目標  | 微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。   |       |           |
| 準備学習  | 微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) 序論   2) 伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類 1）   3) 伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類 2）   4) 伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他）   5) 化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴）   6) 化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物 1）   7) 化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物 2）   8) 抗生物質等の医薬品製造（抗生物質 1）   9) 抗生物質等の医薬品製造（抗生物質 2）   10) 抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤 1）   11) 抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤 2）   12) 環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤）   13) 環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術）   14) 環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術）   15) まとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76025001 |
| 科目名  | 【院】食品科学特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Food Science  |       |           |
| 担当者名   | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 拙著の総説「Functional Foods and Biotechnology in Japan」を紹介するとともにその中に掲載されているトピックスの原著論文を読むことによって、機能性食品の開発や製造におけるバイオテクノロジーを理解する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて、プリント配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals」 CRC Press（2010年4月）  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 各自にトピックスの論文の紹介を担当させ(50%)、発表力および受講者の質疑(25%)、その応答の仕方(25%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 英語論文の読解力および理解力に基づいて、食品バイオの技術基盤を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 担当する論文は発表できるようにまとめておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講者は英語論文の内容を読むことで理解することを心掛ける。発表は理解させることを目的とする。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 総論  2. Bioactive Peptides Processed by Proteases or Microbes  3. 論文紹介  4. Oligosaccharides  5. 論文紹介  6. Dietary Fibers and Other Bioactive Saccharides  7. 論文紹介  8. Glucosylation of Flavonoids  9. 論文紹介  10. Other Glycosylated Products  11. 論文紹介  12. Functional Lipids or Acylated Products Processed by Lipase  13. 論文紹介  14. Functional Foods Fermented by Microbes  15. 展望 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76026001 |
| 科目名  | 【院】植物生理生化学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Plant Biochemistry and Physiology   |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 植物の機能開発やその有効活用を行うために、植物の構造、機能の基盤となる遺伝子について理解を深め、さらに光合成・一次代謝・二次代謝などを含む植物の代謝、環境応答などについて理解を深める。さらにこれらの分子生物学的な背景についても最新の報告を含めて講述する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「植物の生化学・分子生物学」 B.B.Buchanan 原著、杉山監修（学会出版センター） 「テイツ・ザイガー植物生理学（第3版）」J.L.テイツ/E.ザイガー著、西谷/島崎監訳（培風館）   |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 講義の基礎的理解と応用的課題に対するレポート作成を課し、講義の基礎的理解度と応用課題に対する取組み内容で評価する。レポート対象となる講義の範囲は以下のとおりであり、それぞれに対して25%の配分とする。1. 植物の構造と機能および植物細胞工学、2. 植物の代謝：光合成と一次代謝、3. 植物の代謝：二次代謝と植物の環境応答、4. 応用技術 |       |           |
| 到達目標   | 植物の機能開発の基盤とするため、植物機能を生理生化学的に理解し、分子生物学的な背景の理解と細胞工学的手法に習熟する。   |       |           |
| 準備学習   | 植物生理学や生化学に関する基礎的事項について復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義内容の理解を深めるために応用的課題をレポートに課すので、参考書等の活用すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 植物の構造と機能：1. 細胞と細胞内小器官  2. 植物の構造と機能：2. 器官と組織  3. 植物の遺伝子：1. 遺伝子の機能と遺伝子工学  4. 植物の遺伝子：2. 植物組織培養などの細胞工学  5. 植物の代謝：光合成  6. 植物の代謝：光合成  7. 植物の代謝：一次代謝  8. 植物の代謝：一次代謝  9. 植物の代謝：二次代謝  10. 植物の代謝：二次代謝  11. 植物の環境応答  12. 植物の環境応答  13. 応用技術：植物による環境汚染除去技術  14. 応用技術：食糧問題と植物バイオテクノロジー  15. 応用技術：食糧問題と植物バイオテクノロジー |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76027001 |
| 科目名  | 【院】流域環境学特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Watershed-Scale-Environment  |       |           |
| 担当者名   | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 方法論的「流域」論（いまなぜ流域かの「流域思考」）から始める。次に以下の4つについて、つとめてケーススタディを介して、各論的内容で講じる。1) 保全生態学と河川環境、2) 景観としての河川・流域環境、3) 河川計画および土地利用計画と流域管理、4) 流域社会での合意形成 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 北尾邦伸著『森林社会デザイン学序説（第3版）』J-FIC、北尾邦伸著『森林環境と流域社会』雄山閣、アメリカF E M A Tドキュメント、柿沢宏昭『エコシステムマネジメント』築地書館   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点（20%） 授業中のミニレポート（20%） 期末課題レポート（60%）  |       |           |
| 到達目標   | 流域環境をめぐる知（認識）と情意を統合する高度な学力の獲得。  |       |           |
| 準備学習   | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 分断され、衰退した、すなわち自然との関係で生き活きたものでなくなってしまった「流域環境」に関心を寄せて、講義に臨んでください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. イントロダクションー流域という思考、流域を単位とした場所論ー  2. 河川環境 1)ー地形・流水現象から見た河川構造ー  3. 河川環境 2)ー魚類の生態と生息環境・ピオトープー  4. 河川環境 3)ー水源林・溪畔林・河畔林・海岸林の植生と生態ー  5. 景観 1)ー生活景としての景観（生きられる景観）の構造、とくに水辺の暮らしー  6. 景観 2)ー自然美としての景観とその保全ー  7. 景観 3)ーランドスケープ・エコロジーー  8. 景観 4)ー壊死する風景・衰退する風景と修景ー  9. 流域管理 1)ー従来型河川計画・土地利用計画を超えた流域管理計画ー  10. 流域管理 2)ーヨーロッパに見る空間計画と景観・景観デザイナーー  11. 流域管理 3)ーアメリカに見る生態系管理としてのウォーターシェド・マネジメントー  12. 流域管理 4)ー河川の再自然化および生態文化複合としての川の復権ー  13. 流域社会と合意形成 1)ー流域社会のコモンズとしての河川環境ー  14. 流域社会と合意形成 2)ー合意形成、パートナーシップ、協働、ガバナンスー  15. まとめ  （※担当者が適宜変更することがある） |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76028001 |
| 科目名        | 【院】農地生態学特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Agricultural Ecosystems  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の食料生産の実態を理解した上で、日本の農地にみられる水田、畑地、果樹園、農用林、農業用水を「農地生態系」としてとらえ、わが国と諸外国との農地生態系の違いを生産的および文化的側面から考察を加える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜資料を配布し、教材を指示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜資料を配布し、教材を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜資料を配布し、教材を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | レポート（50%）と発表（50%）で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 食料生産と環境保全を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から植物・動物を観察する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 食料生産の実態を把握しつつ、生産の場である農地を生態学を基本としてみる眼を養うこと。このことを基に自ら仮説を模索し、設定し、先行研究をレビューし、検証の目処を立てる努力をすること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 概論  2. 日本の食料生産の実態。  3. 世界における日本の食料生産。  4. 作物の発達の歴史。  5. 作物の発達の歴史と生産の場。  6. 日本と西洋の食文化。  7. 日本と西洋の食文化と農業生産。  8. 農地生態学から見た日本と西洋の違い（1）。  9. 農地生態学から見た日本と西洋の違い（2）。  10. 農地生態学から見た日本と熱帯地域の違い。  11. 栽培技術と農地生態（1）。  12. 栽培技術と農地生態（2）。  13. テーマ別発表（1）。  14. テーマ別発表（2）。  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76029001 |
| 科目名        | 【院】都市環境デザイン特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Urban Environmental Design  |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 都市環境および都市環境を取り巻く外部領域（流域圏など）の双方を対象として、現状での課題を、都市の緑と水という視点から包括的に取り上げる。緑の視点からの課題に関しては中川が担当し、水の視点からの課題は原が担当する。緑と水を表裏一体の軸として都市環境を貫き、課題の抽出から、将来に向けての改善策（デザイン）について幅広い検討を行う。課題の抽出に際しては、住民参加や合意形成などの人文社会的な観点からのアプローチも取り入れ、改善策に関しては GIS による解析ツールなども活用し、可視化できる手法についても学ぶ                   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する（担当：原・中川）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて、各自に紹介する   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習（50%）、試験（50%）による総合評価  |       |           |
| 到達目標       | 都市環境を水や緑の面から総合的に理解すること   |       |           |
| 準備学習       | 都市環境の中での水や森林（緑）の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立て関心を高めておくこと  |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>（担当：原） 1.講義の概要（都市環境とは） 2. 都市環境を取り巻く水の課題 1 3. 都市環境を取り巻く水の課題 2 4.都市環境の解析方法 1 5.都市環境の解析方法 2 6.都市環境のデザイン手法 1 7.都市環境のデザイン手法 2 （担当：中川） 8. 都市環境を取り巻く森林と緑の課題 1 9. 都市環境を取り巻く森林と緑の課題 2 10.都市環境の解析方法 3 11.都市環境の解析方法 4 12.都市環境のデザイン手法 3 13.都市環境のデザイン手法 4 14. 都市環境のデザイン手法 5 15. まとめ </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76030001 |
| 科目名        | 【院】地球環境科学特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Global Environmental Science  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 地球科学は人類を含めた地球上に生存する動植物の環境を理解するための基礎となる学問領域である。それゆえこの講義では、地球の誕生から現在に至る地球の歴史、地球の変動などの地球そのものの理解を促し、そのうえで、人類の生存環境としての地球環境の変遷を、地下資源、エネルギー、大気環境などの項目について環境の視点より論ずる。                      |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 内容の理解度について試験をおこなう（100%）。   |       |           |
| 到達目標       | 地球環境の現状と将来および問題点を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 各種統計情報や書物、論文などを読み、地球環境について学習する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 自学自習の姿勢を持つこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1．太陽系の形成と初期地球 2．地球の年齢 3．最古の岩石  4．最古の化石  5．縞状鉄鉱層 6．雪球地球  7．地質時代  8．過去の生物の変遷  9．過去の微生物の変遷  10．地球環境の激変・天変地異 11．同位体の測定と過去の温度  12．地球の大気と温度の変遷Ⅰ  13．地球の大気と温度の変遷Ⅱ  14．地球の資源 15．地球の資源と地球環境 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76031001 |
| 科目名        | 【院】生物資源特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Biological Resources   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料の大量消費が環境悪化や資源枯渇の問題を引き起こしている。この問題を解決する1つの有力な手段が、再生可能な生物資源の活用である。わが国において化石燃料の利用が急激に増えたのは昭和40年以降であり、それ以前は、再生可能な生物資源を大いに活用して生活を営んでいた。しかし、現在の便利な生活の状況を昭和40年以前の状態に戻すことは不可能であり、そこには様々な工夫が必要である。今後、生物資源をどのように活用すべきかを考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントを配布する   |       |           |
| 評価方法       | レポート（60%） 授業中に行う小テスト（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 再生可能な生物資源の特性と利用技術を理解し、今後の利用のあり方を考える力を身に付ける  |       |           |
| 準備学習       | 新聞などで報道されるバイオマス利用に関する記事を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業の内容をしっかりとノートにとって、復習をすること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 廃棄物系生物資源の活用（1）：畜産糞尿の特性  2. 廃棄物系生物資源の活用（2）：畜産糞尿の利用技術  3. 廃棄物系生物資源の活用（3）：畜産糞尿の利用に伴う臭気などの問題と解決策  4. 廃棄物系生物資源の活用（4）：畜産糞尿の実際の活用事例  5. 廃棄物系生物資源の活用（5）：畜産糞尿利用の新技术  6. 廃棄物系生物資源の活用（6）：下水汚泥の概要と特性  7. 廃棄物系生物資源の活用（7）：下水汚泥活用技術と問題点  8. 廃棄物系生物資源の活用（8）：下水汚泥活用の事例  9. 廃棄物系生物資源の活用（9）：その他の廃棄物系生物資源  10. 未利用生物資源の活用（1）：林地残材の特性と利用  11. 未利用生物資源の活用（2）：建築関係の廃材の特性と利用  12. 資源作物の開発と利用  13. 生物資源の総合的な活用技術  14. 生物資源活用の今後の展望  15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |

|                        |   |       |           |
|------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                     | 2012  | 授業コード | J76033001 |
| 科目名                    | 【院】環境デザイン最先端技術特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）              | Advanced Course in Techniques in Bioenvironmental Design  |       |           |
| 担当者名                   | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                   | 人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現する技術として、最新の様々な情報を提供する。積極的に学外からの講師を招いて、技術の紹介をしてもらう。紹介された内容への理解を深めるため、受講生がさまざまな角度から検討して討議する。  |       |           |
| 教材（テキスト）               | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）               |   |       |           |
| 教材（その他）                |   |       |           |
| 評価方法                   | レポート（80%）、授業中の討議内容と受講態度（20%）  |       |           |
| 到達目標                   | 人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現するための技術を学び、それを応用する力を身に付ける。  |       |           |
| 準備学習                   | 新聞やテレビなどに登場する環境関連の話題を読んでおくこと  |       |           |
| 受講者への要望                |   |       |           |
| 疑問に思う点があれば、積極的に質問をすること |   |       |           |
| 講義の順序とポイント             |   |       |           |
|                        | 1. ガイダンス   2. 最先端技術の紹介と討議（1）   3. 最先端技術の紹介と討議（2）   4. 最先端技術の紹介と討議（3）   5. 最先端技術の紹介と討議（4）   6. 最先端技術の紹介と討議（5）   7. 最先端技術の紹介と討議（6）   8. これまでの論議のまとめ   9. 最先端技術の紹介と討議（7）   10. 最先端技術の紹介と討議（8）   11. 最先端技術の紹介と討議（9）   12. 最先端技術の紹介と討議（10）   13. 最先端技術の紹介と討議（11）   14. 最先端技術の紹介と討議（12）   15. まとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76035001 |
| 科目名        | 【院】知的財産権特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Advanced Course in Intellectual Property Rights  |       |           |
| 担当者名       | 奥野 彰彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 今日、知的財産権はビジネスのあらゆる分野で重要視されてきているが、今後IT化・グローバル化がさらに加速していくと、知的財産権の重要性は飛躍的に高まっていくことが予想される。本講義は、これから社会や産業界で知的財産や知的ビジネスに関わる際に必要な基礎知識の理解を深め、次いでバイオテクノロジーや環境分野にポイントを絞った各論でさらに知的財産に関する認識を深めることを目的とする。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 平成23年度知的財産権制度説明会(初心者向け)テキスト『知的財産権制度入門』(特許庁編)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 平成23年度産業財産権を巡る国際情勢について(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書再生医療(要約版)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書マイクロアレイ関連技術(要約版)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書固体廃棄物及び土壌汚染の処理技術(要約版)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書バイオベースポリマー関連技術(要約版)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書太陽電池(要約版)(特許庁編)(特許庁編) 特許出願技術動向調査報告書メタンハイドレート(要約版)(特許庁編) 中小・ベンチャー企業知的財産戦略マニュアル(特許庁編)                                     |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | (1) 知的財産制度の現状、知的財産戦略の意義・役割、知的財産法概論、(2) 特許法・実用新案法、意匠法、商標法、著作権法・不正競争防止法、(3) バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権、の3分野についてのレポートを課し、そのレポートの内容で評価する。 評価は(1) 30%、(2) 40%、(3) 30%の割合とする。   |       |           |
| 到達目標       | 知的財産権 no 基礎知識の理解を深め、バイオテクノロジーや環境分野に関してさらに認識を深める。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞やインターネット等で新製品開発は特許に関する記事等を読むなどして、知的財産に関する興味を持ってほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 知的財産権について初歩者にも理解できるように述べるが、しっかりと復習することを希望する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.知的財産制度の現状 知的財産戦略の意義・役割(1)  2.知的財産制度の現状 知的財産戦略の意義・役割(2)  3.知的財産法概論  4.特許法・実用新案法(1)  5.特許法・実用新案法(2)  6.特許法・実用新案法(3)  7.特許法・実用新案法(4)  8.意匠法  9.商標法 10.著作権法・不正競争防止法 11.一般社会・ビジネス社会における知的財産問題 12.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権(1) 13.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権(2) 14.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権(3) 15.バイオテクノロジーと環境分野における知的財産権(4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | J76036001 |
| 科目名  | 【院】環境倫理学特論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Environmental Ethics  |       |           |
| 担当者名   | 丸山 徳次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 環境倫理学は環境倫理についての哲学的な探究であり、環境倫理とは人間と人間以外のモノや自然との倫理的関係のことですが、そうした環境倫理の哲学的な探究が環境倫理学です。本講義では、環境倫理学の歴史的な展開をあとづけ、現在における環境倫理学の課題を明らかにするとともに、日本での環境倫理学の方向性について論じます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 加藤尚武編『(新版) 環境と倫理』（有斐閣、2005年）、1800円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 鬼頭秀一・福永真弓編『環境倫理学』（東京大学出版会、2009年）、3000円 丸山徳次編『岩波応用倫理学 2 環境』（岩波書店、2004年）、3200円   |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオなどを用いる場合もある。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）：出席状況等による。 テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 環境倫理学の意義と可能性と必要性について理解し、倫理的な思考を身につけることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 積極的に講義に参加し、次の項目について事前にテキストを見ておく。日頃から新聞などを通して、環境関連の出来事に注目していく。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義に積極的に参加する、つまり、まじめに出席するとともに、疑問点などについては、積極的に質問するようにしてほしい。                              |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 環境倫理学とは何か  2～4. 環境倫理学の歴史  5. 自然を守る理由  6. 日本の公害問題  7. 「公害から環境問題へ」  8～15. 環境倫理学の具体的課題 |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76037001 |
| 科目名  | 【院】環境行政法特論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Course in Environmental Administrative Law   |       |           |
| 担当者名   | 富野 暉一郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では地球温暖化などの全地球的課題から、生活環境のグリーン化まで、幅広い環境問題に対応する行政の制度的対応の在り方を、持続可能な社会を実現するための社会的なしくみとしての行政法の視点から、基本的な議論を紹介する。 具体的には、まず環境行政法の基本となる「環境」の公益性を福祉国家型の公益と持続可能な社会における環境の公益性を比較し、その規制理念の違いを検討する。次に国内における各政策分野の環境行政の特徴を検討する。さらに、地方分権と地方分権時代の法律と条例の関係について考察し、地方自治体における環境法制の重要性について議論する。最後に、立法（の過程について、特に地方自治体における条例の制定過程を学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。講義で使用する資料等については、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 条例の事例等を適宜コピーして配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50%） 出席状況等による  レポート（50%） 講義終了時に出题する   |       |           |
| 到達目標   | 行政法の基礎的な概念を把握する。 環境行政法をとりまく社会環境の変化による行政法のパラダイムシフトの知識を得る。 国と地方自治体の環境法制の違いと特色の概略を理解する 地方自治体における立法過程を知る。   |       |           |
| 準備学習   | リーマンショック以後の世界経済の変調に関する報道に関心を持つこと 地方自治体の環境行政の担当部局とその担当事務を調査しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 環境問題に対応するためには科学技術だけでなく、法律や制度そして生活意識など、社会科学・人文科学的なアプローチが重要であることを学んでほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. イントロダクション 環境法制の歴史と意義  2. 公益概念のパラダイムシフト   福祉国家における公益概念と環境法制  3. 公益概念のパラダイムシフト II 持続可能な社会というパラダイムシフト  4. 公益概念のパラダイムシフト III “非自由な社会”における新たな公共性  5. フリーディスカッション  6. 公害から環境へ  7. 環境から持続可能性へ  8. 環境行政法のカテゴリー  9. 環境行政法の社会的機能  10. 法律と行政と  11. フリーディスカッション  12. 条例の策定   策定プロセス  13. 条例の策定 II 事例研究  14. 技術と社会制度  15. まとめ（フリーディスカッション） |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76038001 |
| 科目名        | 【院】インターンシップ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Internship   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>関連企業などで生産および開発研究を体験し、大学の研究室で学んだことが実社会でどのように生かされているかを知ることが目的とする。研究指導教員から、各大学院生の研究テーマを勘案してインターンシップ先を選定し、必要事項を調整する。終了後にレポートを提出させるとともに、派遣先での状況を把握して、職業人になるための指導をおこなう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | インターンシップ先に応じて、必要なものがあれば紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 敬語の使い方・礼儀作法のマナー集など   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の評価をおこなう。  ・インターンシップのための準備学習（20%）  ・インターンシップ先での評価（60%）  ・インターンシップ参加後の自主学習と自己評価（20%）  |       |           |
| 到達目標       | 社会人として必要な技能を身につけ、自己の目標設定を把握できること。  |       |           |
| 準備学習       | 社会的な話題や業界の現状を事前に研究しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | いろいろな職場での規律を遵守できること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1-2. 事前準備学習 3-12. インターンシップ先に応じて、相互に事前打ち合わせの元で、種々のプログラムを提案する。  13. インターンシップの報告発表会 14. 業界研究と職業研究と科学リテラシー 15. 自己の人生設計とスキル   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A01 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A02 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A03 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A04 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A05 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A06 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A07 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A08 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A09 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A10 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01A11 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science I  |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、各自に紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・研究課題選定に係わる文献調査と整理 (30%)  ・研究課題遂行のための全体計画書の完成度 (40%)  ・研究課題に必要な研究手法の理解度 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前準備をおこなうこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 視野を広く保ち、意欲的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 研究課題の選定 2. 文献検索法 3. 文献整理術 4. 関連分野の学術論文の理解と整理 (1) 5. 研究計画と研究方法論 (1) 6. 研究手法の理解と検討 (1) 7. 関連分野の学術論文の理解と整理 (2) 8. 研究計画と研究方法論 (2) 9. 研究手法の理解と検討 (2) 10. 関連分野の学術論文の理解と整理 (3) 11. 研究計画と研究方法論 (3) 12. 研究手法の理解と検討 (3) 13. 関連分野の学術論文の理解と整理 (4) 14. 研究計画と研究方法論 (4) 15. 研究手法の理解と検討 (4) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B01 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B02 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B03 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B04 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を拡げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B05 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B06 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B07 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B08 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B09 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B10 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01B11 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science II   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案を理解し、周辺科学技術にも視野を広げ、幅広い研究が展開できる学識と能力を養成をする。  各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ、得られた論文の中から適切なものを複数選び、それらを読んで理解する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・最新の国際的な学術文献の理解度 (30%)  ・関連研究分野の応用研究法の理解度 (40%)  ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 研究指導教員の指導に従って、事前学習をする。   |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し、絶えず関連分野の学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (1) 2. 研究手法の理解とその評価 (1) 3. 研究結果の記述様式とその評価 (1) 4. 研究背景と新規課題の発見 (1) 5. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (1) 6. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (2) 7. 研究手法の理解とその評価 (2) 8. 研究結果の記述様式とその評価 (2) 9. 研究背景と新規課題の発見 (2) 10. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (2) 11. 国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択 (3) 12. 研究手法の理解とその評価 (3) 13. 研究結果の記述様式とその評価 (3) 14. 研究背景と新規課題の発見 (3) 15. 関連研究領域の総合的な総説の理解 (3) |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C01 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力 (40%)  ・学術論文の構成と論理性の解析力 (30%)  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C02 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（1） 2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（1） 3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（1） 4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（2） 5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（2） 6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（2） 7. 研究手法の統合的な整理（1） 8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（3） 9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（4） 14. 研究手法の統合的な整理（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C03 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力 (40%)  ・学術論文の構成と論理性の解析力 (30%)  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C04 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C05 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力 (40%)  ・学術論文の構成と論理性の解析力 (30%)  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C06 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（1） 2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（1） 3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（1） 4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（2） 5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（2） 6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（2） 7. 研究手法の統合的な整理（1） 8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（3） 9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（4） 14. 研究手法の統合的な整理（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C07 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（1） 2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（1） 3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（1） 4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（2） 5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（2） 6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（2） 7. 研究手法の統合的な整理（1） 8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（3） 9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（4） 14. 研究手法の統合的な整理（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C08 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（1） 2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（1） 3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（1） 4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（2） 5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（2） 6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（2） 7. 研究手法の統合的な整理（1） 8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（3） 9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価（4） 14. 研究手法の統合的な整理（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C09 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C10 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01C11 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅲ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science III  |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について総合的に評価する。  ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%）  ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%）  ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布された論文を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (1)  2. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (1)  3. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (1)  4. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (2)  5. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (2)  6. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (2)  7. 研究手法の統合的な整理 (1)  8. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (3)  9. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (3)  10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (3)  11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解 (4)  12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価 (4)  13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価 (4)  14. 研究手法の統合的な整理 (2)  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D01 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別 2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1) 3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1) 4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1) 5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2) 6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2) 7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2) 8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3) 9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3) 10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3) 11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4) 12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4) 13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4) 14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D02 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science IV   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D03 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science IV   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解（40%）  ・課題解決に用いられた研究手法の理解（30%）  ・新規の研究手法の利用法と評価力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析（1）  3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（1）  4. 未解決の課題の発見と解決法の想定（1）  5. 高度な学術論文の論理構造の解析（2）  6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（2）  7. 未解決の課題の発見と解決法の想定（2）  8. 高度な学術論文の論理構造の解析（3）  9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（3）  10. 未解決の課題の発見と解決法の想定（3）  11. 高度な学術論文の論理構造の解析（4）  12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（4）  13. 未解決の課題の発見と解決法の想定（4）  14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D04 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D05 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science IV   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別 2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1) 3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1) 4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1) 5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2) 6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2) 7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2) 8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3) 9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3) 10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3) 11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4) 12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4) 13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4) 14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景 15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D06 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解（40%）  ・課題解決に用いられた研究手法の理解（30%）  ・新規の研究手法の利用法と評価力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析（1）  3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（1）  4. 未解決の課題の発見と解決法の想定（1）  5. 高度な学術論文の論理構造の解析（2）  6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（2）  7. 未解決の課題の発見と解決法の想定（2）  8. 高度な学術論文の論理構造の解析（3）  9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（3）  10. 未解決の課題の発見と解決法の想定（3）  11. 高度な学術論文の論理構造の解析（4）  12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（4）  13. 未解決の課題の発見と解決法の想定（4）  14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D07 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D08 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D09 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解（40%）  ・課題解決に用いられた研究手法の理解（30%）  ・新規の研究手法の利用法と評価力（30%）   |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析（1）  3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（1）  4. 未解決の課題の発見と解決法の想定（1）  5. 高度な学術論文の論理構造の解析（2）  6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（2）  7. 未解決の課題の発見と解決法の想定（2）  8. 高度な学術論文の論理構造の解析（3）  9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（3）  10. 未解決の課題の発見と解決法の想定（3）  11. 高度な学術論文の論理構造の解析（4）  12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法（4）  13. 未解決の課題の発見と解決法の想定（4）  14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D10 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D01D11 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習Ⅳ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science Ⅳ  |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 研究課題の全体構成案に基づく研究活動の成果を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、問題解決に使われる新規の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。  バイオ環境に関わる専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得する。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知ることには学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目について 総合的に評価する。  ・高度な学術論文の論理構成の理解 (40%)  ・課題解決に用いられた研究手法の理解 (30%)  ・新規の研究手法の利用法と評価力 (30%)  |       |           |
| 到達目標       | 博士論文の研究課題に関する研究を進める上で重要な研究手法を理解し、習得するために必要な学識の取得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 研究課題と関連のある研究手法を習得し、絶えず関連学術文献に注目すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 高度な学術論文の選別  2. 高度な学術論文の論理構造の解析 (1)   3. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (1)   4. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (1)   5. 高度な学術論文の論理構造の解析 (2)   6. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (2)   7. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (2)   8. 高度な学術論文の論理構造の解析 (3)   9. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (3)   10. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (3)   11. 高度な学術論文の論理構造の解析 (4)   12. 高度な問題解決の手法の理解と活用法 (4)   13. 未解決の課題の発見と解決法の想定 (4)   14. 研究領域の新たな潮流のまとめと社会的背景  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E01 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E02 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E03 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E04 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E05 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E06 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76D01E07 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別演習 V  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar in Bioenvironmental Science V  |       |           |
| 担当者名  | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。   |       |           |
| 準備学習  | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E08 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | J76D01E09 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V   |       |           |
| 担当者名                            | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                        |   |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)  |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|                                 |  |       |           |
|---------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                              | 2012   | 授業コード | J76D01E10 |
| 科目名                             | 【院】 バイオ環境特別演習 V  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                      | Seminar in Bioenvironmental Science V  |       |           |
| 担当者名                            | 玉田 攻   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。   |       |           |
| 教材 (テキスト)                       | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)                       | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)                        |  |       |           |
| 評価方法                            | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)   |       |           |
| 到達目標                            | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。   |       |           |
| 準備学習                            | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望                         |  |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性  15.バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | J76D01E11 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別演習 V  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar in Bioenvironmental Science V  |       |           |
| 担当者名  | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったかどうかを判断する能力を養う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解 (25%)  ・問題の解決方法の発見 (25%)  ・成果の妥当性と判断力 (25%)  ・研究成果の発表方法 (25%)   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。   |       |           |
| 準備学習  | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (1)  2. 問題解決手法の評価 (1)  3. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (1)  4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解 (2)  5. 問題解決手法の評価 (2)  6. 未解決の課題の解決法の発見と選択 (2)  7. 受講生の研究成果の把握  8. 受講生の研究成果の評価  9. 受講生の研究成果の発表方法  10. 受講生の研究成果の記述法  11. 受講生の研究成果の課題整理  12. 受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法  13. 研究課題領域の検証  14. 研究課題の社会性と国際性  15. バイオ環境特別演習のまとめ |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D01F01 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標  | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習  | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネージメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | J76D01F02 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネージメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F03 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネジメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F04 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネジメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F05 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 （25%）   ・研究成果の表現力 （25%）   ・研究成果の評価力 （25%）   ・研究成果の統合力 （25%）      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13. 研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F06 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネジメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D01F07 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名  | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標  | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習  | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネージメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F08 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)  2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)  3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)  4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)  5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)  6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)  7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)  8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)  9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)  10.専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)  11.研究成果のプロモーション (1)  12.研究成果のプロモーション (2)  13. 研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F09 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)   2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)   3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)   4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)   5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)   6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)   7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)   8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)   9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)   10. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)   11. 研究成果のプロモーション (1)   12. 研究成果のプロモーション (2)   13. 研究者のキャリアアップ   14. 研究のマネジメント   15. バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F10 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 （25%）   ・研究成果の表現力 （25%）   ・研究成果の評価力 （25%）   ・研究成果の統合力 （25%）      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13. 研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | J76D01F11 |
| 科目名  | 【院】 バイオ環境特別演習VI   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Seminar in Bioenvironmental Science VI  |       |           |
| 担当者名   | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 演習 I～Vで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、関連分野の総説を紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 以下の項目を総合的に評価する。  ・研究成果の解析力 (25%)   ・研究成果の表現力 (25%)   ・研究成果の評価力 (25%)   ・研究成果の統合力 (25%)      |       |           |
| 到達目標   | 研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。                                |       |           |
| 準備学習   | 事前に論文や関連総説を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 国際的な学術論文の投稿規定 (1)  2. 国際的な学術論文の投稿規定 (2)  3. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (1)  4. 標準的な論文投稿スタイルの習得 (2)  5. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (1)  6. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (2)  7. 専門分野特有の研究成果の表現方法 (3)  8. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (1)  9. 専門分野特有の研究成果の発表方法 (2)  10.専門分野特有の研究成果の発表方法 (3)  11.研究成果のプロモーション (1)  12.研究成果のプロモーション (2)  13. 研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02021 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5週. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10週. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15週. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20週. 研究データ収集法の検討 21-25週. 研究成果の解析 26-30週. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35週. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50週. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55週. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60週. 研究成果の公開手法の検討 (3年次) 61-65週. テクニカルライティングの検証 66-70週. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80週. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85週. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90週. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02022 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02023 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02024 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02025 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | J76D02026 |
| 科目名        | 【院】 バイオ環境特別研究 (2012-2014)  | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記) | Research in Bioenvironmental Science   |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。   |       |           |
| 評価方法       | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する  |       |           |
| 到達目標       | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。  |       |           |
| 準備学習       | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02027 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02028 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02029 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02030 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 玉田 攻  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目指す。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | J76D02031 |
| 科目名   | 【院】 バイオ環境特別研究   | 単位数   | 12        |
| 科目名 (英語表記)  | Research in Bioenvironmental Science  |       |           |
| 担当者名  | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み、博士論文を完成させるために必須の講義。  各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら、研究テーマを設定し、文献調査などを行って、その分野の現状を把握したあと、実験や調査を行い、その研究の成果を原著論文としてまとめ、論文誌編集部へ投稿する。編集部とのやり取りを経て、その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする。最後に、これまでの研究の内容を、博士論文としてまとめる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に設定しないが、必要に応じて指導教員から紹介する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  | 最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書。  |       |           |
| 評価方法  | 研究課題の把握と新規性 (20%)、 実験計画の策定と独創性 (20%)、 研究遂行と研究成果 (20%)  研究成果の自己評価 (20%)、 他者からの意見や評価を議論できる能力 (10%)、 成果の発表表現能力 (10%) などを総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標  | 研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し、バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。   |       |           |
| 準備学習  | 日々、研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し、スキルの上達に心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと。また、大学院生専門情報交換会にも必ず出席して、特別研究の遂行に努めること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| (1年次) 1-5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10. 研究計画の策定と研究方法の検討 11-15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20. 研究データ収集法の検討 21-25. 研究成果の解析 26-30. 研究成果の評価と新規課題の検討 (2年次) 31-35. 研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50. 研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55. 研究課題の社会的意義と解析評価 56-60. 研究成果の公開手手法の検討 (3年次) 61-65. テクニカルライティングの検証 66-70. 投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80. 関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85. 研究成果公開のためのプレゼンテーションの検討 86-90. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚、各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には、両者の話し合いの上、重点項目を変更する場合もある。 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |
|              |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0003001 |
| 科目名  | T O E F L 研究   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Preparation Course for TOEFL   |       |           |
| 担当者名   | 塩田 英子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この授業では TOEFL のスコアアップをはかるための実践的な取り組みを行います。まず初回から2回の授業では TOEFL のスコアを知るための模擬テストを行います。その後、教科書やプリント教材を用いて、さまざまなタイプの問題にふれていきます。また、必要に応じて受講者全員に対して添削指導も行います。このような取り組みにより、TOEFL に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、TOEFL の問題を体系的に攻略していきたいと思えます。授業で取り組んだ内容についてはこまめに小テスト等で確認していく予定です。毎回の授業時の小テストおよび授業時に測定する TOEFL のスコアによって評価を行いますので、毎回の授業への参加はとても重要になります。留学を考えている皆さんには TOEFL はとても重要です。真剣にスコアアップに取り組みたいと思う方はぜひ参加してください。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Mark D. Stafford and Chizuko Tsumatori 著『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』  CENGAGE Learning 2,200 円+税   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜授業中に指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜授業中に指示します。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) : 授業態度や出席状況により評価します。 課題・テスト (60%) : 授業時に課す小テストや提出物により評価します。 到達度 (20%) : 期間の最初と最後に行う TOEIC の模擬試験の結果や授業内での取り組みから測ります。  |       |           |
| 到達目標   | TOEFL の出題形式を把握し、語彙、文法、読解、リスニングの力を向上させ、iBT70 点程度 (ITP525 点程度) の取得を目標とします。   |       |           |
| 準備学習   | 1. 授業で扱った内容について日常的に予習・復習を繰り返すことがスコアアップへの近道となります。 2. なるべく多くの英語の授業を受講し、日ごろから基礎力増強につとめてください。 3. 各授業中に添削課題や自宅学習についての情報を提示する予定です。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 初回授業時に新しいリングノート(背の部分がらせん状の針金でとめてあるノート)をお持ちください。 2. 授業以外でも講義期間中に TOEFL の試験に挑戦することを願います。 3. 授業中の携帯電話の使用・睡眠・私語による妨害など、授業態度にはくれぐれもご注意ください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回 オリエンテーションと TOEFL 模試 (LISTENING)  第2回 TOEFL 模試 (READING)  第3回 Pre-test 第4回 Unit 1 & Unit 2 第5回 Unit 2 & Unit 3 第6回 Unit 4 & Unit 5 第7回 Unit 5 & Unit 6 第8回 まとめと復習 ① 第9回 Unit 7 & Unit 8 第10回 Unit 8 & Unit 9 第11回 Unit 10 & Unit 11 第12回 Unit 11 & Unit 12 第13回 Post-test & TOEFL 模試 (LISTENING)  第14回 TOEFL 模試 (READING)  第15回 まとめと復習 ②  上記はあくまでも予定であり、変更になる可能性があります。 各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0004001 |     |       |        |
| 科目名   | TOEIC研究   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)   | Preparation Course for TOEIC  |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | TOEICの練習問題、模擬テストを用いて習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な授業を行います。TOEICに類出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略していきます。将来、仕事で英語を使う分野へ就職を希望する学生には必須の科目です。                            |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)  | Takeshi Kamijo・Braven Smillie 著. Best Shot for the TOEIC Test. (金星堂、1900円) その他プリント教材  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)  | 英語辞書(英和・和英)など その他授業中に指示します。   |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)   | 必要に応じてCD, DVDを使用することがあります。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 定期テスト(50%)、小テスト、課題の提出状況、授業への参加状況(50%)により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の3分の2以上の出席が必要です。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | 高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけることを目指します。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。TOEIC420点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。 |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | TOEICの出題形式、問題の傾向など、TOEICの問題集などを見て実際に問題を解き、把握しておくようにしてください。セルフラーニング室を活用し、TOEICの過去問題などを調べておいてください。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |   |       |           |     |       |        |
| ①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。  教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。 ②欠席、遅刻をしないように努めてください。 ③課題は必ず期限までに提出してください。 ④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。 ⑤自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」(学志館1階)を活用してください。 ⑥当科目以外にもなるべく多くの英語プログラム、プロジェクト科目を受講するようにしてください。   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |     |       |        |
| 以下の各項目を約1回の授業で学習する予定です。 1. TOEICの出題形式説明  Living Arrangements  Part 1 日常生活/Part 3 情報を与える会話/Part 5 自動詞・他動詞/Part 7 コミュニティーに関わるメモ・告知 2. Entertainment  Part 2 5W1Hを使った応答問題/Part 3 情報を与える会話/Part 5 時制/Part 7 イベントの告知・広告 3. Traffic and Transportation  Part 1 交通と乗り物/Part 4 交通関連のアナウンス/Part 5 能動態・受動態/Part 7 交通や輸送に関するメール・告知 4. Travel  Part 2 5W1Hを使った応答問題/Part 4 旅行関連のガイド/アナウンス/Part 5 助動詞/Part 7 旅行に関する広告・告知 5. Office Work  Part 1 オフィスワーク/Part 3 オフィスでの依頼の会話/Part 5 不定詞・動名詞/Part 7 オフィスでの通知・メール 6. Marketing  Part 2 Yes/No 疑問文/Part 3 広告や企画に関する会話/Part 5 現在分詞・過去分詞/Part 7 マーケティングの手紙・メール 7. Purchasing  Part 1 商品の購入/Part 4 社内アナウンス/Part 5 類義語①/Part 7 購買に関するメール・手紙 8. Technology  Part 2 Yes/No を使った応答問題/Part 4 社内アナウンス/Part 6 長文穴埋め問題/Part 7 リサーチレポート 9. Personnel  Part 1 職業環境と人事/Part 3 スケジュールの調整をする会話/Part 5 類義語②/Part 7 人事に関するメール 10. Finance and Money  Part 2 付加疑問文を使った応答問題/Part 3 スケジュールの調整をする会話/Part 5 関係詞①/Part 7 金融に関する記事 11. News Media  Part 1 報道と担当者の仕事/Part 4 ニュース報道/Part 5 関係詞②/Part 7 ニュース記事 12. Press Release  Part 2 付加疑問文を使った応答問題/Part 4 ニュース報道・報道発表/Part 5 接続詞・前置詞①/Part 7 二つのパッセージ 13. Research  Part 1 研究や打ち合わせ/Part 3 研究について話す会話/Part 5 接続詞・前置詞②/Part 7 二つのパッセージ  14. Environment  Part 2 アドバイスや考えの応答問題/Part 3 環境問題の会話/Part 6 長文穴埋め問題/Part 7 環境に関する指示・提案 15 Health  Part 1 運動と食事/Part 4 広告/Part 5 仮定法/Part 7 医療に関するレポート |   |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |   |       |           |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JE0015001 |
| 科目名       | 英語インテンシブリーディング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Intensive Reading in English   |       |           |
| 担当者名      | 古木 圭子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | この授業では、エッセイや論文を正確に読み、その内容を的確に理解する能力を養成します。専門分野の文献を読んだり、文学作品を鑑賞したりできる、より高度な読解力を身につけることを目標とします。  特にこの授業では、"異文化間の人びとがコミュニケーションを取る際の"Polite Fictions"（相手に対して礼儀正しく振舞おうとする際に、その言動の根拠となる考え方）について学びます。その過程で、異文化の人と接する際に直面する不可解な言動や不愉快な言動に出会う際、それらを自己の枠組みにおいて解釈するのではなく、相手の文化背景における言動の意味を想像し、それによって、よりよい異文化理解を深めることを促してゆきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 坂本ナンシー・坂本示洋 著、Polite Fictions in Collision—Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other?（金星堂、1 2 5 0 円） その他プリント教材  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 英語辞書(英和・和英) など   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてCDを使用することがあります。  |       |           |
| 評価方法      | 定期テスト(50%)、課題の提出状況、授業への参加状況（50%）により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の3分の2以上の出席が必要です  |       |           |
| 到達目標      | 内容にメッセージ性を含む英文エッセイを正確に読み取り、それに対して自己の意見を英文で表現する力を養います。  |       |           |
| 準備学習      | 英字新聞や、インターネットの英語記事などを読む機会をできるだけ作り、英語の長文を読むことに慣れるようにしてください。   |       |           |

#### 受講者への要望

①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。また、教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。|②欠席、遅刻をしないように努めてください。|③課題は必ず期限までに提出してください。|④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。|⑤自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館1階）を活用してください。|⑥当科目以外にもなるべく多くの英語プログラム、プロジェクト科目を受講するようにしてください。

#### 講義の順序とポイント

以下の項目を約1回の授業で学習します。|1. 授業内容と評価方法の説明| You and I are Equals ①|2. You and I are Equals②|3. You and I are Close Friends ①|4. You and I are Close Frined ②| You and I are Relaxed ①|5. You and I are Relaxed ②|6. You and I are Independent|7. People as Individuals|8. Being Original|9. Questions! Questions!|10. Answers to the Point!|11. Conversational Ballgames|12. Don't Apologize!|13. Nobody Told Me! ①|14. Nobody Told Me! ②|15. まとめおよび定期試験準備|

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0016001 |
| 科目名   | 英語クリエイティブライティング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Creative Writing in English   |       |           |
| 担当者名  | Paul James Bird   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 文単位の英作文から一歩進んで、まとまった内容を持つ一定量の英文（パラグラフ）を書く練習をします。パラグラフの構成を学び、自分が伝えたい内容を整理して表現できる能力を養います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | "Writing from Within Intro", Kelly & Gargagliano, Cambridge University Press.           |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、定期レポートなどにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標  | 難易度が少し高い語彙や、やや複雑な構文を用い、パラグラフおよびエッセイの構造を理解し、日常生活の話題についてまとまった分量のエッセイを書く力を身につける。           |       |           |
| 準備学習  | 英語クリエイティブライティングⅠ、および他の英語科目で身につけた語彙、文法事項、文章表現法などの復習をしておいてください。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Who am I? Lesson 3 - An ideal partner Lesson 4 - Snapshot Lesson 5 - My seal Lesson 6 - Review 1 Lesson 7 - It's a party Lesson 8 - Thank-you letter Lesson 9 - Movie review Lesson 10 - Friendship Lesson 11 - Review 2 Lesson 12 - Superhero powers Lesson 13 - Advertisements Lesson 14 - Review 3 Lesson 15 - Final Review |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0020001  |
| 科目名   | 英語スピーキング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Speaking   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 | 英語スピーキング I |
| 講義概要  | この科目は初級英語会話演習です。ネイティブスピーカーの教員が担当し、英語口語表現の基礎を実践的に養成します。                                 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Passport 1", Buckingham & Lansford; Oxford.   |       |            |
| 教材（参考文献）  |  |       |            |
| 教材（その他）   |  |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験により総合的に評価します。  |       |            |
| 到達目標  | 日常の身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して、英語スピーキングにおける定型の表現方法を用い、自分の考えを述べ、気持ちを簡単な英語で表現するための基礎力を身につける。 |       |            |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Asking for things on a flight. Lesson 3 - Answering questions at immigration. Lesson 4 - Talking about family. Lesson 5 - Asking for things you need. Lesson 6 - Review 1. Lesson 7 - Scrabble. Lesson 8 - Ordering a meal. Lesson 9 - Asking for directions. Lesson 10 - Getting money at a bank. Lesson 11 - Reserving a hotel room. Lesson 12 - Review 2. Lesson 13 - Scrabble. Lesson 14 - Getting help for medical problems. Lesson 15 - Final Review. |  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0020002  |
| 科目名   | 英語スピーキング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Speaking   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 | 英語スピーキング I |
| 講義概要  | この科目は初級英語会話演習です。ネイティブスピーカーの教員が担当し、英語口語表現の基礎を実践的に養成します。                                 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Passport 1", Buckingham & Lansford; Oxford.   |       |            |
| 教材（参考文献）  |  |       |            |
| 教材（その他）   |  |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験により総合的に評価します。  |       |            |
| 到達目標  | 日常の身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して、英語スピーキングにおける定型の表現方法を用い、自分の考えを述べ、気持ちを簡単な英語で表現するための基礎力を身につける。 |       |            |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Asking for things on a flight. Lesson 3 - Answering questions at immigration. Lesson 4 - Talking about family. Lesson 5 - Asking for things you need. Lesson 6 - Review 1. Lesson 7 - Scrabble. Lesson 8 - Ordering a meal. Lesson 9 - Asking for directions. Lesson 10 - Getting money at a bank. Lesson 11 - Reserving a hotel room. Lesson 12 - Review 2. Lesson 13 - Scrabble. Lesson 14 - Getting help for medical problems. Lesson 15 - Final Review. |  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0020003  |
| 科目名   | 英語スピーキング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Speaking   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 | 英語スピーキング I |
| 講義概要  | この科目は初級英語会話演習です。ネイティブスピーカーの教員が担当し、英語口語表現の基礎を実践的に養成します。                                 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Passport 1", Buckingham & Lansford; Oxford.   |       |            |
| 教材（参考文献）  |  |       |            |
| 教材（その他）   |  |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験により総合的に評価します。  |       |            |
| 到達目標  | 日常の身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して、英語スピーキングにおける定型の表現方法を用い、自分の考えを述べ、気持ちを簡単な英語で表現するための基礎力を身につける。 |       |            |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Asking for things on a flight. Lesson 3 - Answering questions at immigration. Lesson 4 - Talking about family. Lesson 5 - Asking for things you need. Lesson 6 - Review 1. Lesson 7 - Scrabble. Lesson 8 - Ordering a meal. Lesson 9 - Asking for directions. Lesson 10 - Getting money at a bank. Lesson 11 - Reserving a hotel room. Lesson 12 - Review 2. Lesson 13 - Scrabble. Lesson 14 - Getting help for medical problems. Lesson 15 - Final Review. |  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0020004  |
| 科目名   | 英語スピーキング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Speaking   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 | 英語スピーキング I |
| 講義概要  | この科目は初級英語会話演習です。ネイティブスピーカーの教員が担当し、英語口語表現の基礎を実践的に養成します。                                 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Passport 1", Buckingham & Lansford; Oxford.   |       |            |
| 教材（参考文献）  |  |       |            |
| 教材（その他）   |  |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験により総合的に評価します。  |       |            |
| 到達目標  | 日常の身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して、英語スピーキングにおける定型の表現方法を用い、自分の考えを述べ、気持ちを簡単な英語で表現するための基礎力を身につける。 |       |            |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Asking for things on a flight. Lesson 3 - Answering questions at immigration. Lesson 4 - Talking about family. Lesson 5 - Asking for things you need. Lesson 6 - Review 1. Lesson 7 - Scrabble. Lesson 8 - Ordering a meal. Lesson 9 - Asking for directions. Lesson 10 - Getting money at a bank. Lesson 11 - Reserving a hotel room. Lesson 12 - Review 2. Lesson 13 - Scrabble. Lesson 14 - Getting help for medical problems. Lesson 15 - Final Review. |  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0020005  |
| 科目名   | 英語スピーキング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Speaking   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 | 英語スピーキング I |
| 講義概要  | この科目は初級英語会話演習です。ネイティブスピーカーの教員が担当し、英語口語表現の基礎を実践的に養成します。                                 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Passport 1", Buckingham & Lansford; Oxford.   |       |            |
| 教材（参考文献）  |  |       |            |
| 教材（その他）   |  |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験により総合的に評価します。  |       |            |
| 到達目標  | 日常の身近な話題や自分の興味・関心のあることに関して、英語スピーキングにおける定型の表現方法を用い、自分の考えを述べ、気持ちを簡単な英語で表現するための基礎力を身につける。 |       |            |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Asking for things on a flight. Lesson 3 - Answering questions at immigration. Lesson 4 - Talking about family. Lesson 5 - Asking for things you need. Lesson 6 - Review 1. Lesson 7 - Scrabble. Lesson 8 - Ordering a meal. Lesson 9 - Asking for directions. Lesson 10 - Getting money at a bank. Lesson 11 - Reserving a hotel room. Lesson 12 - Review 2. Lesson 13 - Scrabble. Lesson 14 - Getting help for medical problems. Lesson 15 - Final Review. |  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0023001 |
| 科目名   | 英語スピーチ&ディベート  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Speech and Debate in English  |       |           |
| 担当者名  | Paul James Bird   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ネイティブスピーカーの教員から、英語でのプレゼンテーションの技術やディベートの方法を学び、スピーチとディベートを実践する演習です。   |       |           |
| 教材(テキスト)  | "Speaking of Speech", Harrington & LeBeau; MacMillan.   |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験などにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標  | 「英語中級スピーキング」、「英語パーソナルコミュニケーション」に続いて、口語表現力をさらに高め、自分の調べたことについてプレゼンテーションをしたり、社会性の高い問題について自分の意見を述べたり、ディベートをしたりするための力を身につける。 |       |           |
| 準備学習  | 「英語中級スピーキング」、「英語パーソナルコミュニケーション」および他の英語科目で身につけた口語表現の復習をしてください。英語でスピーチや討論をするための基礎として、社会問題に関心を持ち、英字新聞などを読むことを心がけてください。     |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Posture & Eye Contact Lesson 3 - Gestures I Lesson 4 - Gestures II Lesson 5 - Voice Inflection Lesson 6 - Review 1 Lesson 7 - Scrabble Lesson 8 - Effective Visuals Lesson 9 - Explaining Visuals Lesson 10 - The Introduction Lesson 11 - The Body Lesson 12 - The Conclusion Lesson 13 - Review 2 Lesson 14 - Scrabble Lesson 15 - Practice Speeches |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0026001 |
| 科目名   | 英語ゼミ I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | English Seminar I  |       |           |
| 担当者名  | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>英語プロジェクトでは、自分探しと友だち作りからはじめて、リサーチを通じたプレゼンテーションにつなげる。経済のグローバル化や国際競争の中で企業が求める英語力と、知性や教養を磨き異文化理解を深めるという現代社会が求める英語力の両方を高め、自らの「夢の実現」に向かってステップ・バイ・ステップですすめるように、ハードナレッジとソフトスキルの備わった人材育成を行う。  英語プロジェクトの最初のゼミにあたる「英語ゼミ I」では、社会のいろいろな問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行います。  最終的に4年生の「英語プロジェクト修了研究」に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めていきたいと思います。  今学期は、英語で意見交換できる力を養うため、最近の話題や諸問題に対して自分の意見を英語で表現する力を養うことを目標とします。1つのテーマに対して賛成・反対の立場を覚え、それらの表現を使って自分の意見をかたちづくる練習をします。  各ユニットは Understanding th main ideas ではじまり、Lisning や Talking about it で短いエッセイを読み、ディスカッションに役立つ語句や文を学び、それらの表現をマッチング形式で練習します。  Building a paragraph や Undrstanding statistics では、与えられた討論テーマに対する賛成と反対の理由や意見をつくり、モデル文を参考に自分自身の意見を自由に発表できるようにします。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | FOR and AGAINST--Expressing opinions and exchanging ideas (成美堂)   賛否両論 - 英語で表現する社会問題 -   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 授業参加 (30%)、レポート (50%)、およびアチーブメントテスト (20%)   各タイトルの終了時に、自分の意見をまとめてレポートにする。  |       |           |
| 到達目標  | 「総合英語 A」や「基礎英語 A」につづく、英語プロジェクトへの基礎ゼミである。  自分たちの文化を理解し、異文化を理解できるようになる。  最初は意見交換から始め、ディスカッションへとつなげる。できれば、簡単なプレゼンテーションができるようになることを目標としたい。   |       |           |
| 準備学習  | 授業のテーマに関して下調べを行い、積極的にディスカッションやディベートに参加することを望みます。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、ディスカッションに参加することを望みます。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。  第 1 回 Class intoroduction &amp; self introduction   第 2 回 The Internet: Is it a good way to meet people?   第 3 回 Needs: Are they a serious problem?   第 4 回 Fashion: Do young people spend too much time and money on fashion?   第 5 回 Environment: Should we continue o use nuclear energy?   第 6 回 Junk food: Is it becoming a serious problem?   第 7 回 Should men take paternity leave?   第 8 回 Depopulation: Should we accept more foreign workers?   第 9 回 Examinations: Are they the best form of assessment?   第 10 回 Animal testing: Should it be allowed?   第 11 回 Temporary workers: Should we do more to reduce the number of temporary workers?   第 12 回 Robot care: Should robots take care of the elderly and sick/   第 13 回 College: Do you need to go to college to be successful?   第 14 回 Genetically modified food: Should w accept it?   第 15 回 まとめと内容確認</p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0026002 |
| 科目名  | 英語ゼミ I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | English Seminar I  |       |           |
| 担当者名   | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>英語プロジェクトでは、自分探しと友だち作りからはじめて、リサーチを通じたプレゼンテーションにつなげる。経済のグローバル化や国際競争の中で企業が求める英語力と、知性や教養を磨き異文化理解を深めるという現代社会が求める英語力の両方を高め、自らの「夢の実現」に向かってステップ・バイ・ステップですすめるように、ハードナレッジとソフトスキルの備わった人材育成を行う。  英語プロジェクトの最初のゼミにあたる「英語ゼミ I」では、社会のいろいろな問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行います。  最終的に4年生の「英語プロジェクト修了研究」に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めていきたいと思います。  今学期は、英語で意見交換できる力を養うため、最近の話題や諸問題に対して自分の意見を英語で表現する力を養うことを目標とします。1つのテーマに対して賛成・反対の立場を覚え、それらの表現を使って自分の意見をかたちづくる練習をします。  各ユニットは Understanding th main ideas ではじまり、Lisning や Talking about it で短いエッセイを読み、ディスカッションに役立つ語句や文を学び、それらの表現をマッチング形式で練習します。  Building a paragraph や Undrstanding statistics では、与えられた討論テーマに対する賛成と反対の理由や意見をつくり、モデル文を参考に自分自身の意見を自由に発表できるようにします。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | FOR and AGAINST--Expressing opinions and exchanging ideas (成美堂)   賛否両論 - 英語で表現する社会問題 -   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 授業参加 (30%)、レポート (50%)、およびアチーブメントテスト (20%)   各タイトルの終了時に、自分の意見をまとめてレポートにする。  |       |           |
| 到達目標   | 「総合英語 A」や「基礎英語 A」につづく、英語プロジェクトへの基礎ゼミである。  自分たちの文化を理解し、異文化を理解できるようになる。  最初は意見交換から始め、ディスカッションへとつなげる。できれば、簡単なプレゼンテーションができるようになることを目標としたい。   |       |           |
| 準備学習   | 授業のテーマに関して下調べを行い、積極的にディスカッションやディベートに参加することを望みます。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、ディスカッションに参加することを望みます。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。  第 1 回 Class intoroduction & self introduction   第 2 回 The Internet: Is it a good way to meet people?   第 3 回 Needs: Are they a serious problem?   第 4 回 Fashion: Do young people spend too much time and money on fashion?   第 5 回 Environment: Should we continue o use nuclear energy?   第 6 回 Junk food: Is it becoming a serious problem?   第 7 回 Should men take paternity leave?   第 8 回 Depopulation: Should we accept more foreign workers?   第 9 回 Examinations: Are they the best form of assessment?   第 10 回 Animal testing: Should it be allowed?   第 11 回 Temporary workers: Should we do more to reduce the number of temporary workers?   第 12 回 Robot care: Should robots take care of the elderly and sick/   第 13 回 College: Do you need to go to college to be successful?   第 14 回 Genetically modified food: Should w accept it?   第 15 回 まとめと内容確認 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0026003 |
| 科目名        | 英語ゼミ I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語プロジェクトに参加した学生には一人ずつゼミ生ファイルを作成し、個人の能力に応じた指導を行います。ゼミでの演習を通じてそれぞれの英語力を測定し、弱点補強と一層の英語運用能力の向上をはかります。英検準2級/TOEIC380/TOEFL420点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。  さらに、卒業までに英語で論文を作成する力を養うため、模範的な英文を読む力と共に、単なる日常会話ではなく、英語で自分の意見を述べ、書くことのできる力を養います。また、英語で討論する練習を行いません。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 茂木 秀昭・鈴木 克義・Stephen Hesse 著. Taking Sides--Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂、2010年), 1500円 その他プリント教材   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英和辞典・英英辞典、その他授業中に指示をします。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、CD, DVD などを使用することがあります。  |       |           |
| 評価方法       | 定期レポートおよび最終発表 (50%)、課題、授業への参加、発表の状況など (50%) により、総合的に評価します。なお、単位認定には全授業回数の3分の2以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | 「英語プロジェクト」登録学生が、最終的に英語で卒業論文を作成、または英語によるプレゼンテーションを行うための基礎力を養います。   |       |           |
| 準備学習       | 身近な話題について英語でディスカッションをする準備のために、英字新聞などの記事を読み、自分の意見を英語で表現し、まとめる練習をしてください。  |       |           |

#### 受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、毎回授業に持参してください。テキストを持参しない場合は減点とします。|②授業中、積極的に英語を話す機会を持ってください。|③英語で文章を書く課題を課しますので、期限は必ず守ってください。|④授業には必ず辞書 (英和、英英辞典など) を持参してください。

#### 講義の順序とポイント

以下の各項目を一回の授業で終了します。|1. 授業内容と成績評価方法の説明/英検サンプルテスト①/各受講生の目標設定|2. Discussion: :Should Cellular Phone Use Be Banned in Public Places? | --公共の場所での携帯電話の使用を禁止すべきか ① |3. Discussion: :Should Cellular Phone Use Be Banned in Public Places? | --公共の場所での携帯電話の使用を禁止すべきか ②|4. Discussion: Should Smoking Be Prohibited on University Campuses? | --キャンパス内での喫煙は禁止されるべきか①|5. Discussion: Should Smoking Be Prohibited on University Campuses? | --キャンパス内での喫煙は禁止されるべきか②|6. Discussion: Should Japan Introduce Daylight Saving Time? | --日本はサマータイム制を導入すべきか①|7. Discussion: Should Japan Introduce Daylight Saving Time? | --日本はサマータイム制を導入すべきか②|8. 英検サンプルテスト②/各受講生の目標再確認|9. Discussion: Should Working Women Quit Their Jobs after Childbirth? | --働く女性は出産後、仕事をやめるべきか①|10. Discussion: Should Working Women Quit Their Jobs after Childbirth? | --働く女性は出産後、仕事をやめるべきか ②|11. Discussion: Should Married Women Be Allowed to Use Their Maiden Names? | --結婚後の旧姓使用は認められるべきか①|12. Discussion: Should Married Women Be Allowed to Use Their Maiden Names? | --結婚後の旧姓使用は認められるべきか②|13. Discussion 総まとめ|14. 各受講生のミニプレゼンテーション①|15. 各受講生のミニプレゼンテーション②

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0026004 |
| 科目名        | 英語ゼミ I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Seminar I   |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語プロジェクトに参加した学生には一人ずつゼミ生ファイルを作成し、個人の能力に応じた指導を行います。ゼミでの演習を通じてそれぞれの英語力を測定し、弱点補強と一層の英語運用能力の向上をはかります。英検準2級/TOEIC380/TOEFL420点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。  さらに、卒業までに英語で論文を作成する力を養うため、模範的な英文を読む力と共に、単なる日常会話ではなく、英語で自分の意見を述べ、書くことのできる力を養います。また、英語で討論する練習を行いません。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 茂木 秀昭・鈴木 克義・Stephen Hesse 著. Taking Sides--Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂、2010年), 1500円 その他プリント教材   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英和辞典・英英辞典、その他授業中に指示をします。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて、CD, DVD などを使用することがあります。  |       |           |
| 評価方法       | 定期レポートおよび最終発表 (50%)、課題、授業への参加、発表の状況など (50%) により、総合的に評価します。なお、単位認定には全授業回数の3分の2以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | 「英語プロジェクト」登録学生が、最終的に英語で卒業論文を作成、または英語によるプレゼンテーションを行うための基礎力を養います。   |       |           |
| 準備学習       | 身近な話題について英語でディスカッションをする準備のために、英字新聞などの記事を読み、自分の意見を英語で表現し、まとめる練習をしてください。  |       |           |

#### 受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、毎回授業に持参してください。テキストを持参しない場合は減点とします。|②授業中、積極的に英語を話す機会を持ってください。|③英語で文章を書く課題を課しますので、期限は必ず守ってください。|④授業には必ず辞書 (英和、英英辞典など) を持参してください。

#### 講義の順序とポイント

以下の各項目を一回の授業で終了します。|1. 授業内容と成績評価方法の説明/英検サンプルテスト①/各受講生の目標設定|2. Discussion: :Should Cellular Phone Use Be Banned in Public Places? | --公共の場所での携帯電話の使用を禁止すべきか ① |3. Discussion: :Should Cellular Phone Use Be Banned in Public Places? | --公共の場所での携帯電話の使用を禁止すべきか ②|4. Discussion: Should Smoking Be Prohibited on University Campuses? | --キャンパス内での喫煙は禁止されるべきか①|5. Discussion: Should Smoking Be Prohibited on University Campuses? | --キャンパス内での喫煙は禁止されるべきか②|6. Discussion: Should Japan Introduce Daylight Saving Time? | --日本はサマータイム制を導入すべきか①|7. Discussion: Should Japan Introduce Daylight Saving Time? | --日本はサマータイム制を導入すべきか②|8. 英検サンプルテスト②/各受講生の目標再確認|9. Discussion: Should Working Women Quit Their Jobs after Childbirth? | --働く女性は出産後、仕事をやめるべきか①|10. Discussion: Should Working Women Quit Their Jobs after Childbirth? | --働く女性は出産後、仕事をやめるべきか ②|11. Discussion: Should Married Women Be Allowed to Use Their Maiden Names? | --結婚後の旧姓使用は認められるべきか①|12. Discussion: Should Married Women Be Allowed to Use Their Maiden Names? | --結婚後の旧姓使用は認められるべきか②|13. Discussion 総まとめ|14. 各受講生のミニプレゼンテーション①|15. 各受講生のミニプレゼンテーション②

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0027001 |
| 科目名        | 英語ゼミ II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語ゼミ I に引き続き、英語プロジェクトに参加学生に、一人ずつゼミ生ファイルを作成し、個人の能力に応じた指導を行います。ゼミでの演習を通じてそれぞれの英語力を測定し、弱点補強と一層の英語運用能力の向上をはかります。英検準 2 級/TOEIC380/TOEFL420 点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。  さらに、卒業までに英語で論文を作成する力を養うため、模範的な英文を読む力と共に、単なる日常会話ではなく、英語で自分の意見を述べ、書くことのできる力を養います。また、英語で討論を行う練習をします。 また英語でプレゼンテーションを行うための基礎を学びます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 茂木 秀昭・鈴木 克義・Stephen Hesse 著. Taking Sides--Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂、2010年), 1500 円 (英語ゼミ I と同じ教科書)  その他プリント教材   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英語辞書 (英和、和英など)  必要に応じて CD、DVD を使用することがあります。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 定期レポートおよび最終発表 (50%)、課題、授業への参加、発表の状況など (50%) により、総合的に評価します。なお、単位認定には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | 「英語プロジェクト」登録学生が、最終的に英語で卒業論文を作成、または英語によるプレゼンテーションを行うための基礎力を養います。   |       |           |
| 準備学習       | 身近な話題について英語でディスカッションをする準備のために、英字新聞などの記事を読み、自分の意見を英語で表現し、まとめる練習をしてください。  |       |           |

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、毎回授業に持参してください。テキストを持参しない場合は減点とします。|②授業中、積極的に英語を話す機会を持ってください。|③英語で文章を書く課題を課しますので、期限は必ず守ってください。|④授業には必ず辞書 (英和、英英辞典など) を持参してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を約 1 回の授業で学習します。|1. TOEIC サンプルテスト/各受講生の目標確認|2. Discussion: Should All Elementary Schools Introduce English into Their Curriculum?| —すべての小学校で英語を教えるべきか ①|3. Discussion: Should All Elementary Schools Introduce English into Their Curriculum?| —すべての小学校で英語を教えるべきか ②|4. Discussion: Should English Be Eliminated from University Entrance Exams?| --大学入試から英語をはずすべきか|5. Discussion: Should Criminal Law Be Applied to Juvenile Murderers?| --未成年の殺人犯に刑法を適用すべきか ①|6. Discussion: Should Criminal Law Be Applied to Juvenile Murderers?| --未成年の殺人犯に刑法を適用すべきか ②|7. Discussion: Were the Atomic Bombings of Hiroshima and Nagasaki Necessary to End the War?| —ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下は戦争終結に必要なだったか|8. TOEIC サンプルテスト|9. Discussion: Should Commercial Whaling Be Resumed?| --商業捕鯨は再開されるべきか ①|10. Discussion: Should Commercial Whaling Be Resumed?| --商業捕鯨は再開されるべきか ②|11. Discussion: Should Nuclear Power Plants Be Abolished in Japan?| --日本の原子力発電所を廃止するべきか|12. Discussion: Should Nuclear Power Plants Be Abolished in Japan?| --日本の原子力発電所を廃止するべきか|13. Discussion: Should the U.S. Bases Be Removed from Okinawa?| --沖縄から米軍基地を撤廃すべきか ①|14. Discussion: Should the U.S. Bases Be Removed from Okinawa?| --沖縄から米軍基地を撤廃すべきか ②|15. まとめおよび学生の発表| |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待            | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0027002 |
| 科目名        | 英語ゼミ II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Seminar II  |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英語ゼミ I に引き続き、英語プロジェクトに参加学生に、一人ずつゼミ生ファイルを作成し、個人の能力に応じた指導を行います。ゼミでの演習を通じてそれぞれの英語力を測定し、弱点補強と一層の英語運用能力の向上をはかります。英検準 2 級/TOEIC380/TOEFL420 点以上を取得できる英語力の養成を目標とします。  さらに、卒業までに英語で論文を作成する力を養うため、模範的な英文を読む力と共に、単なる日常会話ではなく、英語で自分の意見を述べ、書くことのできる力を養います。また、英語で討論を行う練習をします。 また英語でプレゼンテーションを行うための基礎を学びます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 茂木 秀昭・鈴木 克義・Stephen Hesse 著. Taking Sides--Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂、2010年), 1500円 (英語ゼミ I と同じ教科書)  その他プリント教材  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英語辞書 (英和、和英など)  必要に応じてCD、DVDを使用することがあります。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 定期レポートおよび最終発表 (50%)、課題、授業への参加、発表の状況など (50%) により、総合的に評価します。なお、単位認定には全授業回数の3分の2以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | 「英語プロジェクト」登録学生が、最終的に英語で卒業論文を作成、または英語によるプレゼンテーションを行うための基礎力を養います。   |       |           |
| 準備学習       | 身近な話題について英語でディスカッションをする準備のために、英字新聞などの記事を読み、自分の意見を英語で表現し、まとめる練習をしてください。  |       |           |

#### 受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、毎回授業に持参してください。テキストを持参しない場合は減点とします。|②授業中、積極的に英語を話す機会を持ってください。|③英語で文章を書く課題を課しますので、期限は必ず守ってください。|④授業には必ず辞書 (英和、英英辞典など) を持参してください。

#### 講義の順序とポイント

次の各項目を約1回の授業で学習します。|1. TOEIC サンプルテスト/各受講生の目標確認|2. Discussion: Should All Elementary Schools Introduce English into Their Curriculum?| —すべての小学校で英語を教えるべきか ①|3. Discussion: Should All Elementary Schools Introduce English into Their Curriculum?| —すべての小学校で英語を教えるべきか ②|4. Discussion: Should English Be Eliminated from University Entrance Exams?| --大学入試から英語をはずすべきか|5. Discussion: Should Criminal Law Be Applied to Juvenile Murderers?| --未成年の殺人犯に刑法を適用すべきか ①|6. Discussion: Should Criminal Law Be Applied to Juvenile Murderers?| --未成年の殺人犯に刑法を適用すべきか ②|7. Discussion: Were the Atomic Bombings of Hiroshima and Nagasaki Necessary to End the War?| —ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下は戦争終結に必要なだったか|8. TOEIC サンプルテスト|9. Discussion: Should Commercial Whaling Be Resumed?| --商業捕鯨は再開されるべきか ①|10. Discussion: Should Commercial Whaling Be Resumed?| --商業捕鯨は再開されるべきか ②|11. Discussion: Should Nuclear Power Plants Be Abolished in Japan?| --日本の原子力発電所を廃止すべきか|12. Discussion: Should Nuclear Power Plants Be Abolished in Japan?| --日本の原子力発電所を廃止すべきか|13. Discussion: Should the U.S. Bases Be Removed from Okinawa?| --沖縄から米軍基地を撤廃すべきか ①|14. Discussion: Should the U.S. Bases Be Removed from Okinawa?| --沖縄から米軍基地を撤廃すべきか ②|15. まとめおよび学生の発表| |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0028001 |
| 科目名        | 英語ゼミⅢ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Seminar III   |       |           |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「英語ゼミⅢ／Ⅳ」は、「英語ゼミⅠ／Ⅱ」に続いて、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修する２年度目生の中核ゼミ（登録必要科目）である。  ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の19-20世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレベルに到達目標を置きながら引き続き英語力の底上げをはかっていく。  「Ⅲ」では特に、「Ⅰ／Ⅱ」を通じて把握した受講生の弱点に対策を講じながら、毎回の語彙テストや英検／TOEIC／TOEFLなどの検定試験問題によって英語力の強化をはかるとともに、選択したトピックスの下でのディスカッションを行って英語運用能力の展開をはかる。 </p>                         |       |           |
| 教材（テキスト）   | Seishi Sato, A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes、南雲堂、700円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語学習に英語の辞書は必須である。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント（ハンドアウト）教材  |       |           |
| 評価方法       | <p>応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（50%）、語彙テスト成果（20%）、英語問題演習成果（20%）、トピック提起（10%）などの項目で総合的に評価する。出席不良者の単位は認定しない。 </p>   |       |           |
| 到達目標       | <p>1. ＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検２級／TOEIC520／TOEFL470前後の力を安定化させる。  2. 英語運用のために不足する技能を弱点として認識して、具体的な対策を講じることができる。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>1. 弱点強化の方法を見出し、集中的に取り組むこと。  2. 異文化圏の人びとと英語で話し合うのに相応しいトピックを考えてくること。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. 事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。  2. 同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも２科目は履修すること。  3. 英検やTOEICなどの英語資格試験を積極的に受験すること。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>下記は、講義の順序ではなく、暫定的に「ゼミⅢ」のポイントを示している。  1. ゼミ概要・評価方法説明、「ゼミⅡ課題」の復習  2. What's the Purpose of Your Learning English  3. Vocabulary Quizzes  4. Pronunciations  5. Common Topics 1-8  6. Present Participles  7. Past Participles  8. Relatives  9. Conjunctions &amp; Clauses  10. Verbs Transitive &amp; Intransitive  11. Voices Active &amp; Passive  12. Basic Sentence Patterns  13. Subjunctive Mood  14. Constructions  15. 「英語ゼミⅣ課題」準備説明 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0028002 |
| 科目名        | 英語ゼミⅢ   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Seminar III   |       |           |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「英語ゼミⅢ／Ⅳ」は、「英語ゼミⅠ／Ⅱ」に続いて、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修する2年度目生の中核ゼミ（登録必要科目）である。  ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の19-20世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレベルに到達目標を置きながら引き続き英語力の底上げをはかっていく。  「Ⅲ」では特に、「Ⅰ／Ⅱ」を通じて把握した受講生の弱点に対策を講じながら、毎回の語彙テストや英検／TOEIC／TOEFLなどの検定試験問題によって英語力の強化をはかるとともに、選択したトピックスの下でのディスカッションを行って英語運用能力の展開をはかる。 </p>                         |       |           |
| 教材（テキスト）   | Seishi Sato, A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes、南雲堂、700円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語学習に英語の辞書は必須である。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント（ハンドアウト）教材  |       |           |
| 評価方法       | <p>応答／発表／ディスカッションを中心とした授業内演習参加状況（50%）、語彙テスト成果（20%）、英語問題演習成果（20%）、トピック提起（10%）などの項目で総合的に評価する。出席不良者の単位は認定しない。 </p>   |       |           |
| 到達目標       | <p>1. ＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検2級／TOEIC520／TOEFL470前後の力を安定化させる。  2. 英語運用のために不足する技能を弱点として認識して、具体的な対策を講じることができる。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>1. 弱点強化の方法を見出し、集中的に取り組むこと。  2. 異文化圏の人びとと英語で話し合うのに相応しいトピックを考えてくること。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. 事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。  2. 同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも2科目は履修すること。  3. 英検やTOEICなどの英語資格試験を積極的に受験すること。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>下記は、講義の順序ではなく、暫定的に「ゼミⅢ」のポイントを示している。  1. ゼミ概要・評価方法説明、「ゼミⅡ課題」の復習  2. What's the Purpose of Your Learning English  3. Vocabulary Quizzes  4. Pronunciations  5. Common Topics 1-8  6. Present Participles  7. Past Participles  8. Relatives  9. Conjunctions &amp; Clauses  10. Verbs Transitive &amp; Intransitive  11. Voices Active &amp; Passive  12. Basic Sentence Patterns  13. Subjunctive Mood  14. Constructions  15. 「英語ゼミⅣ課題」準備説明 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0029001 |
| 科目名  | 英語ゼミⅣ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Seminar IV   |       |           |
| 担当者名   | 諸戸 樹一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「英語ゼミⅢ／Ⅳ」は、「英語ゼミⅠ／Ⅱ」に続いて、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修する2年度目生の中核ゼミ（登録必要科目）である。  ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の19-20世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレベルに到達目標を置きながらも、引き続き英語力の底上げをはかっていく。  「Ⅳ」では、「Ⅲ」に引き続き、毎回の語彙テストや英検／TOEIC／TOEFLなどの検定試験問題によって英語力の強化をはかるとともに、最終年度において「修了研究」に取り組むための準備研究を行い、仕事で英語を使えるようにするための基礎を築いていく。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | Seishi Sato, A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes、南雲堂、700円 ※春学期「英語ゼミⅢ」使用教科書に同じ。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語学習に英語の辞書は必須である。  |       |           |
| 教材（その他）  | プリント（ハンドアウト）教材   |       |           |
| 評価方法   | 応答／発表を中心とした授業内演習参加状況（40%）、語彙テスト成果（20%）、英語問題演習成果（15%）、ゼミⅣ課題の成果（25%）などの項目で総合的に評価する。出席不良者の単位は認定しない。   |       |           |
| 到達目標   | <p>1. ＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検2級／TOEIC520／TOEFL470前後の力を安定化させる。  2. 仕事において英語を運用する状況と結びつけて英語学習および研究の具体的な方法を考えることができるようになる。 </p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>1. 必要十分な資料を収集し、資料に基づいてゼミ課題に取り組むこと。  2. 「PowerPoint」（プレゼンテーションソフトウェア）を駆使できるようにしておくこと。 </p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>1. 事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。  2. 同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも2科目は履修すること。  3. 英検やTOEICなどの英語資格試験を積極的に受験すること。 </p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>下記は、講義の順序ではなく、暫定的に「ゼミⅣ」のポイントを示している。  1. ゼミ概要・評価方法説明、「ゼミⅣ課題」説明   2. How to Make a Presentation   3. How to Write an Essay   4. 「ゼミⅣ課題」のテーマ報告   5. Question-Responses   6. Incomplete Sentences   7. 「ゼミⅣ課題」の中間報告1   8. Short Conversation Listening   9. Text Completion   10. 「ゼミⅣ課題」の中間報告2   11. Short Talk Listening   12. Word Order Quizzes   13. 「ゼミⅣ課題」プレゼンテーション   14. Reading Comprehension   15. 「ゼミⅣ課題」最終版報告  </p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0029002 |
| 科目名  | 英語ゼミⅣ  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Seminar IV   |       |           |
| 担当者名   | 諸戸 樹一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「英語ゼミⅢ／Ⅳ」は、「英語ゼミⅠ／Ⅱ」に続いて、＜英語プロジェクト＞において集中的に英語を履修する2年度目生の中核ゼミ（登録必要科目）である。  ＜英語プロジェクト＞全体の概要では、「Ⅲ／Ⅳ」は「ゼミ担当者の専門に応じた演習を行う」こととなっているが、英語ポップスの歌詞を演習の教材として用いることがあるとしても、専門の19-20世紀イギリス文学や英詩の講読を中心に演習を進めるつもりはない。英語力の基礎が未だ不安定な受講生も含まれているため、全体演習では「Ⅰ／Ⅱ」よりは一段高いレベルに到達目標を置きながらも、引き続き英語力の底上げをはかっていく。  「Ⅳ」では、「Ⅲ」に引き続き、毎回の語彙テストや英検／TOEIC／TOEFLなどの検定試験問題によって英語力の強化をはかるとともに、最終年度において「修了研究」に取り組むための準備研究を行い、仕事で英語を使えるようにするための基礎を築いていく。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | Seishi Sato, A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes、南雲堂、700円 ※春学期「英語ゼミⅢ」使用教科書に同じ。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語学習に英語の辞書は必須である。  |       |           |
| 教材（その他）  | プリント（ハンドアウト）教材   |       |           |
| 評価方法   | 応答／発表を中心とした授業内演習参加状況（40%）、語彙テスト成果（20%）、英語問題演習成果（15%）、ゼミⅣ課題の成果（25%）などの項目で総合的に評価する。出席不良者の単位は認定しない。   |       |           |
| 到達目標   | <p>1. ＜英語プロジェクト＞における集中的な英語履修により、英検2級／TOEIC520／TOEFL470前後の力を安定化させる。  2. 仕事において英語を運用する状況と結びつけて英語学習および研究の具体的な方法を考えることができるようになる。 </p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>1. 必要十分な資料を収集し、資料に基づいてゼミ課題に取り組むこと。  2. 「PowerPoint」（プレゼンテーションソフトウェア）を駆使できるようにしておくこと。 </p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>1. 事前の指示に基づいてゼミ参加に必要な準備を十分に行い、毎回出席すること。  2. 同じ学期に＜英語プロジェクト＞を含む英語科目を他に少なくとも2科目は履修すること。  3. 英検やTOEICなどの英語資格試験を積極的に受験すること。 </p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>下記は、講義の順序ではなく、暫定的に「ゼミⅣ」のポイントを示している。  1. ゼミ概要・評価方法説明、「ゼミⅣ課題」説明   2. How to Make a Presentation   3. How to Write an Essay   4. 「ゼミⅣ課題」のテーマ報告   5. Question-Responses   6. Incomplete Sentences   7. 「ゼミⅣ課題」の中間報告1   8. Short Conversation Listening   9. Text Completion   10. 「ゼミⅣ課題」の中間報告2   11. Short Talk Listening   12. Word Order Quizzes   13. 「ゼミⅣ課題」プレゼンテーション   14. Reading Comprehension   15. 「ゼミⅣ課題」最終版報告  </p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0030001 |
| 科目名   | 英語パーソナルコミュニケーション   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Interpersonal Communication in English   |       |           |
| 担当者名  | Paul James Bird  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ネイティブスピーカーの教員が担当する英会話演習です。少人数での対話やペアワークの形式で、日本および英語圏の文化や社会問題などについて英語で話し合える力を養います。                                  |       |           |
| 教材（テキスト）  | "Discover Debate", Lubetsky, LeBeau & Harrington; Language Solutions.  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、口答試験などにより総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 「英語中級スピーキング」に続いて、口語表現力をさらに高め、少人数の対話において、日本および英語圏の文化や社会問題などについて話し合うための英語スピーキング力を身につける。                              |       |           |
| 準備学習  | 「英語中級スピーキング」および他の英語科目で身につけた英語口語表現の復習をしてください。英語で対話やディスカッションをするための基礎として、英語圏および日本の文化、社会問題に関心を持ち、英字新聞などを読むことを心がけてください。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Have an Opinion 1 Lesson 3 - Have an Opinion 2 Lesson 4 - Explaining your Opinion 1 Lesson 5 - Explaining Your Opinion 2 Lesson 6 - Review & Debate 1 Lesson 7 - Supporting Your Opinion 1 Lesson 8 - Supporting Your Opinion 2 Lesson 9 - Organising Your Opinion 1 Lesson 10 - Organising Your Opinion 2 Lesson 11 - Review & Debate 2 Lesson 12 - Refuting Explanations 1 Lesson 13 - Refuting Explanations 2 Lesson 14 - Review & Debate 3 Lesson 15 - Review & Debate 4 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0031001 |
| 科目名  | 英語プラクティカルライティング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Writing in English  |       |           |
| 担当者名   | Paul James Bird   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | すべての英語科目の背景となる英語圏の文化と英語という言葉への理解を深めることを目的とします。日英の文化や言葉の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解をはかります |       |           |
| 教材（テキスト）   | "Basic & Key Skill Builder", West Nottinghamshire College. MATERIALS WILL BE PROVIDED IN THE LESSONS.                           |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への賛否状況、課題、レポートなどにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 英語圏および日本の文化、さらに文化間の差異について理解を深め、英語の文献を正確に理解するための分析力、自分の意見を明確に述べるためのコミュニケーション力を身につける。   |       |           |
| 準備学習   | 英語圏の文化、日本の文化について、自分の興味あるトピックなどを見つけ、それについての英語の文献などを探し、読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble. Lesson 2 - Spelling workshop 1. Lesson 3 - Spelling workshop 2. Lesson 4 - Business Letters 1. Lesson 5 - Business Letters 2. Lesson 6 - Curriculum Vitae 1. Lesson 7 - Curriculum vitae 2. Lesson 8 - Review 1 Lesson 9 - Scrabble Lesson 10 - Memoranda. Lesson 11 - Reading aloud & summarising 1. Lesson 12 - Reading aloud & summarising 2. Lesson 13 - Reports 1. Lesson 14 - Reports 2. Lesson 15 - Final Review |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0033001     |
| 科目名        | 英語ゼミV  | 単位数   | 2             |
| 科目名(英語表記)  | English Seminar V  |       |               |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 | 英語プロジェクト修了研究I |
| 講義概要       | <p>2年生の「英語ゼミ」では社会の諸問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行いました。  3年生の「英語ゼミ」では、4年生の修了研究に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めてきました。  今学期は、秋学期に開講される「英語プロジェクト修了研究」に向けて、Presentation Workshop というテキストを用いて、口頭でのプレゼンテーション能力の開発と育成に努めたいと思います。  このテキストはDVDで英語プレゼンテーションの技法を学ぶものであり、各章3種類のプレゼンテーションをDVD(字幕入り)に収録されており、段階的に英語のプレゼンテーションを学習できる構成になっています。  内容は、エネルギー、人口問題、国際理解などのトピックを取り扱っており、語彙、読解、リスニング、プレゼンテーションの順で展開されているので、比較的理解しやすくなっています。  DVDに収録されたミニ・レクチャーで、さまざまな種類のプレゼンテーション・スキルを学習できます。</p> |       |               |
| 教材(テキスト)   | Presentation Workshop-- Oral Communication for Academic Purposes (金星堂) 「DVDで学ぶ英語プレゼンテーションの技法」  |       |               |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指導します。   |       |               |
| 教材(その他)    |  |       |               |
| 評価方法       | 授業参加(30%)、プレゼンテーション(50%)、およびアチーブメントテスト(20%) 各タイトルの終了時に、自分の意見をまとめてレポートにする。  |       |               |
| 到達目標       | <p>「英語ゼミIII」、「英語ゼミIV」につづいて、英語プロジェクトの上級ゼミです。  社会のいろいろな問題や異文化に対する理解を深め、自らの考えを構築し、他の人びとに伝えることができるようになることを目標とします。  英語運用能力としては、英検2級～準1級レベルの修得を目標とします。 </p>  |       |               |
| 準備学習       | 事前に、授業のテーマに従って下調べやデータなど情報収集に努め、自分の意見をまとめてみましょう。  |       |               |
| 受講者への要望    | ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、ディスカッションに参加することを望みます。 秋学期の修了研究作品の作成に向け、ひとつずつステップアップしていきましょう。  |       |               |
| 講義の順序とポイント | <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1回 Class introduction  第 2回 Introducing Yourself (1) 第 3回 Introducing Yourself (2) 第 4回 Japan's Global Peace Index (1) 第 5回 Japan's Global Peace Index (2) 第 6回 Social Networking (1) 第 7回 Social Networking (2) 第 8回 UNESCO (1) 第 9回 UNESCO (1) 第10回 Review 第11回 Presentation (1) 第12回 Presentation (2) 第13回 The Daily News (1) 第14回 The Daily News (2) 第15回 まとめと内容確認</p>  |       |               |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |               |
|------------|--|-------|---------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0033002     |
| 科目名        | 英語ゼミV  | 単位数   | 2             |
| 科目名(英語表記)  | English Seminar V  |       |               |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 | 英語プロジェクト修了研究I |
| 講義概要       | <p>2年生の「英語ゼミ」では社会の諸問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行いました。  3年生の「英語ゼミ」では、4年生の修了研究に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めてきました。  今学期は、秋学期に開講される「英語プロジェクト修了研究」に向けて、Presentation Workshop というテキストを用いて、口頭でのプレゼンテーション能力の開発と育成に努めたいと思います。  このテキストはDVDで英語プレゼンテーションの技法を学ぶものであり、各章3種類のプレゼンテーションをDVD(字幕入り)に収録されており、段階的に英語のプレゼンテーションを学習できる構成になっています。  内容は、エネルギー、人口問題、国際理解などのトピックを取り扱っており、語彙、読解、リスニング、プレゼンテーションの順で展開されているので、比較的理解しやすくなっています。  DVDに収録されたミニ・レクチャーで、さまざまな種類のプレゼンテーション・スキルを学習できます。</p> |       |               |
| 教材(テキスト)   | Presentation Workshop-- Oral Communication for Academic Purposes (金星堂) 「DVDで学ぶ英語プレゼンテーションの技法」  |       |               |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指導します。   |       |               |
| 教材(その他)    |  |       |               |
| 評価方法       | 授業参加(30%)、プレゼンテーション(50%)、およびアチーブメントテスト(20%) 各タイトルの終了時に、自分の意見をまとめてレポートにする。  |       |               |
| 到達目標       | <p>「英語ゼミIII」、「英語ゼミIV」につづいて、英語プロジェクトの上級ゼミです。  社会のいろいろな問題や異文化に対する理解を深め、自らの考えを構築し、他の人びとに伝えることができるようになることを目標とします。  英語運用能力としては、英検2級～準1級レベルの修得を目標とします。 </p>  |       |               |
| 準備学習       | 事前に、授業のテーマに従って下調べやデータなど情報収集に努め、自分の意見をまとめてみましょう。  |       |               |
| 受講者への要望    | ゼミは学生たちが作る授業なので、他人の意見に耳を傾け、また積極的に意見を述べ、ディスカッションに参加することを望みます。 秋学期の修了研究作品の作成に向け、ひとつずつステップアップしていきましょう。  |       |               |
| 講義の順序とポイント | <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1回 Class introduction  第 2回 Introducing Yourself (1) 第 3回 Introducing Yourself (2) 第 4回 Japan's Global Peace Index (1) 第 5回 Japan's Global Peace Index (2) 第 6回 Social Networking (1) 第 7回 Social Networking (2) 第 8回 UNESCO (1) 第 9回 UNESCO (1) 第10回 Review 第11回 Presentation (1) 第12回 Presentation (2) 第13回 The Daily News (1) 第14回 The Daily News (2) 第15回 まとめと内容確認</p>  |       |               |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                |
|--|---|-------|----------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0034001      |
| 科目名  | 英語プロジェクト修了研究  | 単位数   | 2              |
| 科目名 (英語表記)   | English Project Completion Research   |       |                |
| 担当者名   | 田中 宏明   | 旧科目名称 | 英語プロジェクト修了研究II |
| 講義概要   | <p>2年生の「英語ゼミ」では社会の諸問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行いました。  3年生の「英語ゼミ」では、4年生の修了研究に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めてきました。  4年生の春学期はプレゼンテーション技法の基礎について学びました。  この「英語プロジェクト修了研究」では、これまでの3年間で培った英語運用能力といろいろな事象に対する知識を実践します。  実際には、春学期に続いて Presentation Workshop を用いて、口頭でのプレゼンテーション能力の応用について学びながら、各自が選んだ作品研究を進めていきます。  授業時間のうち、3分の2を全体学習に、残りの3分の1を個人指導に当てる予定です。  大学での学問生活を締めくくり、生涯の学習につなげることができる卒業作品作りをしましょう。  </p> |       |                |
| 教材 (テキスト)  | Presentation Workshop-- Oral Communication for Academic Purposes (金星堂)   「DVDで学ぶ英語プレゼンテーションの技法」   |       |                |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指導します。  |       |                |
| 教材 (その他)   |   |       |                |
| 評価方法   | 授業参加 (40%)、プレゼンテーション等の作品制作 (60%)  |       |                |
| 到達目標   | 「英語ゼミV」につづく、英語プロジェクトの総仕上げのゼミです。  社会のいろいろな問題や異文化に対する理解を深め、自らの考えを構築して、他の人びとに伝えることを目標とします。  英語運用能力としては、英検2級~準1級レベルの修得を目標とします。  |       |                |
| 準備学習   | 早めに卒業研究の作品を決め、実際の制作作業に取りかかってください。   |       |                |
| 受講者への要望  |   |       |                |
| 卒業作品はゼミ生たちがこれまでの総仕上げとして作成するものなので、精一杯がんばってください。発表会を楽しみにしています。   |   |       |                |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                |
| <p>初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。  第 1 回 Japan's Low Birth Rate (1)  第 2 回 Japan's Low Birth Rate (2)  第 3 回 Nuclear Power (1)  第 4 回 Nuclear Power (1)  第 5 回 The Internationalization of Japan's University (1)  第 6 回 The Internationalization of Japan's University (2)  第 7 回 Japan and the United Nations Security Council (1)  第 8 回 Japan and the United Nations Security Council (2)  第 9 回 Artificial Inteligence (1)   第 10 回 Artificial Inteligence (2)   第 11 回 Review  第 12 回 Presentation Preparation (1)  第 13 回 Presentation Preparation (2)  第 14 回 Presentation Preparation (3)  第 15 回 Presentation </p> |   |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                |
|--|---|-------|----------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0034002      |
| 科目名  | 英語プロジェクト修了研究  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）  | English Project Completion Research   |       |                |
| 担当者名   | 田中 宏明   | 旧科目名称 | 英語プロジェクト修了研究II |
| 講義概要   | <p>2年生の「英語ゼミ」では社会の諸問題に関する多様な意見を読んで、自らの意見をまとめる練習を行いました。  3年生の「英語ゼミ」では、4年生の修了研究に向けて、自らの意見を形成して発表する段階へと英語力を高めてきました。  4年生の春学期はプレゼンテーション技法の基礎について学びました。  この「英語プロジェクト修了研究」では、これまでの3年間で培った英語運用能力といろいろな事象に対する知識を実践します。  実際には、春学期に続いて Presentation Workshop を用いて、口頭でのプレゼンテーション能力の応用について学びながら、各自が選んだ作品研究を進めていきます。  授業時間のうち、3分の2を全体学習に、残りの3分の1を個人指導に当てる予定です。  大学での学問生活を締めくくり、生涯の学習につなげることができる卒業作品作りをしましょう。  </p> |       |                |
| 教材（テキスト）   | Presentation Workshop-- Oral Communication for Academic Purposes（金星堂） 「DVDで学ぶ英語プレゼンテーションの技法」  |       |                |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指導します。  |       |                |
| 教材（その他）  |   |       |                |
| 評価方法   | 授業参加（40%）、プレゼンテーション等の作品制作（60%）  |       |                |
| 到達目標   | 「英語ゼミV」につづく、英語プロジェクトの総仕上げのゼミです。  社会のいろいろな問題や異文化に対する理解を深め、自らの考えを構築して、他の人びとに伝えることを目標とします。  英語運用能力としては、英検2級～準1級レベルの修得を目標とします。  |       |                |
| 準備学習   | 早めに卒業研究の作品を決め、実際の制作作業に取りかかってください。   |       |                |
| 受講者への要望  |   |       |                |
| 卒業作品はゼミ生たちがこれまでの総仕上げとして作成するものなので、精一杯がんばってください。発表会を楽しみにしています。   |   |       |                |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                |
| <p>初回授業時に、クラス毎に授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1回 Japan's Low Birth Rate (1) 第 2回 Japan's Low Birth Rate (2) 第 3回 Nuclear Power (1) 第 4回 Nuclear Power (1) 第 5回 The Internationalization of Japan's University (1) 第 6回 The Internationalization of Japan's University (2) 第 7回 Japan and the United Nations Security Council (1) 第 8回 Japan and the United Nations Security Council (2) 第 9回 Artificial Inteligence (1)  第 10回 Artificial Inteligence (2)  第 11回 Review 第 12回 Presentation Preparation (1) 第 13回 Presentation Preparation (2) 第 14回 Presentation Preparation (3) 第 15回 Presentation </p> |   |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0036001  |
| 科目名        | 英語ライティング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | English Writing   |       |            |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 | 英語ライティング I |
| 講義概要       | <p>「英語ライティング」は、英語プログラムの基礎レベル英語表現演習科目である。書く技能の習得を中心に、基本的な英文の構造を学び、英語によるコミュニケーション能力の基礎を築いていく。  このクラスでは、英語表現という観点から英文法の基本を再確認し、日常生活でよく使われる表現の演習を通じて、英語で表現する場合に必須の発想法を身につけていく。  英語によるコミュニケーション（意思疎通）のために英会話だけが重視された時代があったが、今日ではインターネットの普及により、コミュニケーションを図る手段としては、直接出会っての会話や電話などよりも Eメールのほうが重用されてきている。会話では、限られた少数の人との間でしか意思疎通をはかることができない。しかし、インターネット、Eメールを英語で利用できるようなれば、はるかに多くの人たちとの間で意思疎通を試みることができる。そもそも英文を書く力がなければ、「まっとうな」会話などではしない。 </p> |       |            |
| 教材（テキスト）   | Hidehiko Konaka、Life with Snoopy: A Writing and Listening Handbook（『スヌーピーと学ぶライティングとリスニング』）、南雲堂、2,000 円  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 英語学習には、英語の辞書（英和辞典など）は必須である。   |       |            |
| 教材（その他）    |   |       |            |
| 評価方法       | 応答・発表／受講態度などにおける授業内演習評価（約 40％）および毎回の小テストを含む授業内復習テストの成果（約 60％）で総合的に評価する。なお、出席不良者は評価対象としない。   |       |            |
| 到達目標       | 日常よく使われる英語表現を用い、身近な話題について短い英文で表現したり、平易な英語でメモや e-mail などを書いたりするための基礎力を身につける。   |       |            |
| 準備学習       | 1. 教科書各課の表現文法解説をよく読んだ後、予習として各 writing 問題に取り組んでくること。  2. 付属の CD を何度も聴いて、音声によっても英文を記憶すること。  |       |            |
| 受講者への要望    | 初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生で、誤りを恐れず自ら進んで発表できる学生の受講を強く望む。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | <p>下記の順序とポイントについては、進度に応じて多々変更が生じる。なお、教科書はライティング演習に用いるので、リスニングやスピーキングの演習課題は省略する。  1. 演習概要・評価方法説明、自動詞   2. 他動詞、句動詞   3. 基本時制、進行形   4. 完了形   5. 助動詞   6. 名詞・冠詞、代名詞   7. 受動態   8. 形容詞、副詞   9. 分詞   10. 不定詞   11. 動名詞   12. 前置詞、接続詞   13. 関係詞   14. 比較・否定   15. 仮定法  </p>  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |            |
|--|---|-------|------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0036002  |
| 科目名  | 英語ライティング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | English Writing   |       |            |
| 担当者名   | 古木 圭子   | 旧科目名称 | 英語ライティング I |
| 講義概要   | この授業では、英文の書き方の基礎を養成することを目的とします。他人に理解してもらえる英文を書くために、語彙力、語法、文法を含め、高校までに習得した内容の復習を行いながら、sentence の構成を中心に学ぶことを通して、着実な基礎的英作文力を身につけるように指導を行います。特に 1 つの文内での内容の並べ方に重点を置きます。そして、和文英訳ばかりでなく、「英語を英語として捉えて」英文を書くことを目指します。 |       |            |
| 教材（テキスト）   | Fundamentals of English Composition through Living Grammar  『文法から入る英作文基礎演習』（英宝社、1800 円） その他プリント教材   |       |            |
| 教材（参考文献）   | 辞書（英和、和英、英英辞典など）  |       |            |
| 教材（その他）  | 必要に応じて CD を使用することがあります。   |       |            |
| 評価方法   | 定期テスト(50%)、課題、授業への参加状況（50%）により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。   |       |            |
| 到達目標   | 本授業では、英語の基礎文法の復習をしながら、日常よく使われる英語表現を用い、身近な話題について短い英文で表現したり、平易な英語でメモや e-mail などを書いたりするための基礎力を身につけます。  |       |            |
| 準備学習   | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |
| 受講者への要望  |   |       |            |
| ①毎回の授業に、必ず辞書（英和、和英）を持参してください。辞書を持参しなければ、授業内の課題を行うことが困難になります。 ②テキストは、必ず初回の授業までに購入してください。授業にテキストを持ってこない場合は、減点することになります。 ③英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ④本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。 |   |       |            |
| 講義の順序とポイント   |   |       |            |
| 以下の各項目を 1 回の授業で学習します。  1 授業内容の紹介と成績評価方法の説明   基本文型（1） 2 基本文型（1 1） 3 主語の明示化／命令文 4 名詞／冠詞 5 助動詞 6 疑問文 7 比較 8 進行形／未来形 9 完了形 10 不定詞／動名詞 11 受動態／"It"構文 12 接続詞（1） 13 接続詞（1 1） 14 仮定法                                     |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0036003  |
| 科目名   | 英語ライティング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Writing   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird   | 旧科目名称 | 英語ライティング I |
| 講義概要  | 文単位の英作文から一歩進んで、まとまった内容を持つ一定量の英文（パラグラフ）を書く練習をします。パラグラフの構成を学び、自分が伝えたい内容を整理して表現できる能力を養います。 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Write Ideas", Shoemaker & Polycarpou; Heinle.  |       |            |
| 教材（参考文献）  |   |       |            |
| 教材（その他）   |   |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、定期レポートなどにより総合的に評価します。   |       |            |
| 到達目標  | 難易度が少し高い語彙や、やや複雑な構文を用い、パラグラフおよびエッセイの構造を理解し、日常生活の話題についてまとまった分量のエッセイを書く力を身につける。           |       |            |
| 準備学習  | 「英語ライティング I」、「英語ライティング II」および他の英語科目で身につけた語彙、文法事項、文章表現法などの復習をしておいてください。                  |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。   |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| Lesson 1 - Planning Lesson 2 - Drafting Lesson 3 - Writing a letter of self-introduction Lesson 4 - Writing a letter about a famous person Lesson 5 - Review 1 Lesson 6 - Writing a letter about your favourite sport Lesson 7 - Writing a postcard about a picnic Lesson 8 - Writing a letter about your room Lesson 9 - Writing a postcard about a holiday Lesson 10 - Review 2 Lesson 11 - Writing a diary Lesson 12 - Describing popular cultural activities Lesson 13 - Describing your family Lesson 14 - Review 3 Lesson 15 - Final Review |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0036004  |
| 科目名   | 英語ライティング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Writing   |       |            |
| 担当者名  | Paul James Bird   | 旧科目名称 | 英語ライティング I |
| 講義概要  | 文単位の英作文から一歩進んで、まとまった内容を持つ一定量の英文（パラグラフ）を書く練習をします。パラグラフの構成を学び、自分が伝えたい内容を整理して表現できる能力を養います。 |       |            |
| 教材（テキスト）  | "Write Ideas", Shoemaker & Polycarpou; Heinle.  |       |            |
| 教材（参考文献）  |   |       |            |
| 教材（その他）   |   |       |            |
| 評価方法  | 授業への参加状況、課題、定期レポートなどにより総合的に評価します。   |       |            |
| 到達目標  | 難易度が少し高い語彙や、やや複雑な構文を用い、パラグラフおよびエッセイの構造を理解し、日常生活の話題についてまとまった分量のエッセイを書く力を身につける。           |       |            |
| 準備学習  | 「英語ライティング I」、「英語ライティング II」および他の英語科目で身につけた語彙、文法事項、文章表現法などの復習をしておいてください。                  |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。   |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| Lesson 1 - Planning Lesson 2 - Drafting Lesson 3 - Writing a letter of self-introduction Lesson 4 - Writing a letter about a famous person Lesson 5 - Review 1 Lesson 6 - Writing a letter about your favourite sport Lesson 7 - Writing a postcard about a picnic Lesson 8 - Writing a letter about your room Lesson 9 - Writing a postcard about a holiday Lesson 10 - Review 2 Lesson 11 - Writing a diary Lesson 12 - Describing popular cultural activities Lesson 13 - Describing your family Lesson 14 - Review 3 Lesson 15 - Final Review |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0036005  |
| 科目名   | 英語ライティング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | English Writing   |       |            |
| 担当者名  | 沖野 真理香  | 旧科目名称 | 英語ライティング I |
| 講義概要  | 文単位の英作文の練習から始め、まとめた内容を持つ一定量の英文（パラグラフ）を書く練習まで行います。パラグラフの構成を学び、自分が伝えたい内容を整理して表現できる能力を養います。    |       |            |
| 教材（テキスト）  | David E. Bramley&河合忠仁『Useful English for Communication(自己表現力をつけるためのコミュニケーション英作文)』（松柏社）      |       |            |
| 教材（参考文献）  |   |       |            |
| 教材（その他）   |   |       |            |
| 評価方法  | 平常点(30%)—出席状況・授業態度・毎回実施する小テストの結果等 宿題・課題提出(20%) 定期(学期末)テスト(50%)                              |       |            |
| 到達目標  | 難易度が少し高い語彙や、やや複雑な構文を用い、パラグラフおよびエッセイの構造を理解し、日常生活の話題についてまとめた分量のエッセイを書く力を身につける。                |       |            |
| 準備学習  | 他の英語科目で身につけた語彙、文法事項、文章表現法などの復習をしておいてください。 毎回授業のはじめに小テスト(復習テスト)を行います。そのための復習を欠かさないようにしてください。 |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。 ③授業には必ず辞書を持参してください。   |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| 1 イントロダクション 2 Unit 1 譲歩の表現/受動態を学ぶ 3 Unit 2 相手をほめる表現/現在完了(1)を学ぶ 4 Unit 3 内容を確認する表現/助動詞を学ぶ 5 Unit 4 推量する表現/関係代名詞を学ぶ 6 Unit 5 不満を述べる表現/複文(1)を学ぶ 7 Unit 6 相手を誘う表現/複文(2)を学ぶ 8 Unit 7 考えや希望を述べる表現/名詞節を学ぶ 9 Unit 8 受け答えの表現/to 不定詞(1)を学ぶ 10 Unit 9 聞き返しの表現/接続詞を学ぶ 11 Unit 10 会話をつなぐ表現/現在分詞・動名詞を学ぶ 12 Unit 11 肯定・否定の表現/現在完了(2)を学ぶ 13 Unit 12 疑いを述べる表現/to 不定詞(2)を学ぶ 14 Unit 13 数量の表現/命令文を学ぶ 15 まとめ 定期テストについての説明 |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0039001 |
| 科目名        | 英語ラピッドリーディング  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Rapid Reading   |       |           |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>&lt;英語プロジェクト&gt;の専門科目であり、「英語中級リーディング」に続いてリーディング力の養成を目的とした演習を行う。特にこの科目では、科目名が示す通り、英文速読に必要な技能の修得を第一とした演習を行う。  英文読解には英文の種類と読み手側の目的に応じた読み方が必要となるが、本科目では速読法の修得を第一の目的とした演習を行うため、教材には多種類の英文ではなく新聞記事を基にした英文テキストを用いる。その理由は、人びとが日常生活において特に意図せず速読している文章が何かとえば、何よりも先ず新聞記事のはずだからである。新聞記事はまた、さまざまな分野の話題を提供してくれるので、英語の語彙修得もさまざまな分野においてそれが可能となる。  まとまりごとに意味をくみ取りながら読み進めていく Sense Group Reading という読解の基本を軸に、主要な速読法の体得を試みていく。 </p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | Stephen Edward Rife 他、Reading Crystalline (『英文読解の総合演習』)、三修社、1,700 円   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語学習には英語の辞書（英和辞典など）が必須である。  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 応答・発表／Exercises などにおける授業内演習評価（60%）並びに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、出席不良者の単位は認定しない。  |       |           |
| 到達目標       | 1 分間に 100 語程度の英文を読んで大要を把握する読解力の修得を目標として、英検、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験問題において高いスコアを取得するのに必要な英文速読の技能を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 1 つのまとまった意味を表している語句のまとまり（Sense Group）で区切りながら、課題英文を何十回も音読してくること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>下記の順序とポイントは、実際の進捗と各テキストの利用方法とに応じて変更することがある。  1. 演習概要・評価方法説明、The Miracle on the Hudson   2. Down with Selfishness   3. Students and Cell Phones   4. Garmarjobat   5. Lay Judge System   6. The Night of Sudan   7. 中間課題、America's Game   8. The Road to the Presidency   9. The Jazz Funeral   10. Kenichiro Mogi   11. Stem Cell Research   12. "Made in Japan"   13. Nonviolence for a Better World   14. 期末課題、Revolution: Beatles Leap into Digital Age with Remastered Catalog   15. まとめ、Youth  </p> |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0041001  |
| 科目名        | 英語リーディング  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | English Reading   |       |            |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 | 英語リーディング I |
| 講義概要       | <p>「英語リーディング」は、英語プログラムの基礎リーディング演習科目であり、英語圏の国ぐにの文化事情や社会問題、あるいは国際問題や時事問題などを主題とした平易な英文を読みながら、英文から正確に情報を入手する技能の基礎力を養成する科目である。   このクラスでは、Speed-Reading 用に工夫された読み物を題材として、英語によるコミュニケーション（意思疎通）に必要な語彙力の強化を図りながら、Sense Group Reading and Shadowing、Skimming、Scanning、Making a Summary、Using 5W Questions など、英文から正確に情報を入手するために覚えておいたほうがよいリーディングの基本的な技法を学んでいく。  </p>   |       |            |
| 教材（テキスト）   | Aaron Dodson 他、Fresh Starts: Rapid Reading for Fluency and Fun（『楽しく学ぶ速読スキル演習』）、南雲堂、1,700 円  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 英語学習に、英語の辞書（英和辞典など）は必須である。  |       |            |
| 教材（その他）    |   |       |            |
| 評価方法       | 応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）並びに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、出席不良者は評価対象としない。  |       |            |
| 到達目標       | <p>1. 高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。   2. 英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。  </p>   |       |            |
| 準備学習       | 最も効果的な英語学習は音読である。教科書の英文を何十回も繰り返し音読すること。   |       |            |
| 受講者への要望    | 初回はもちろんのこと、授業に毎回出席できる学生の受講を強く望む。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | <p>下記の順序とポイントについては、実際の進度に応じて変更が生じる。教科書はリーディングスキルを学ぶ演習に用いるので、リスニング演習等は省略する。   1. 演習概要・評価方法説明、A Pirate   2. The Power of Laughter   3. Hobbits   4. Homo Floresiensis---Real Life Hobbits?   5. A Return Flight from Space   6. Hayabusa   7. 中間課題、A Traveler   8. Mythology   9. Struggling Youth   10. Family Survey   11. Our World   12. An Inspiration Story   13. Writing Your Fears Away   14. 最終課題、New Media   15. 復習とまとめ  </p> |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0041002  |
| 科目名  | 英語リーディング   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | English Reading  |       |            |
| 担当者名   | 沖野 真理香   | 旧科目名称 | 英語リーディング I |
| 講義概要   | 英文の読解方法を基礎から練習し、英文を正確に読む技術を養います。多量の英文の概要を把握し、要点をまとめる練習も行います。           |       |            |
| 教材（テキスト）   | Richard Carpenter & 関口智子『Focus on Reading! (読み方から教えるリーディング・レッスン)』（松柏社） |       |            |
| 教材（参考文献）   |  |       |            |
| 教材（その他）  |  |       |            |
| 評価方法   | 平常点(30%)—出席状況・授業態度・毎回実施する小テストの結果等 課題提出(20%) 定期(学期末)テスト(50%)            |       |            |
| 到達目標   | 400 words 程度の英文を集中してすばやく読み、概要を英文でまとめる能力を身につける。                         |       |            |
| 準備学習   | 他の英語科目で身につけた単語、イディオム、文法などの復習をしておいてください。                                |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| ①毎回、指定箇所の単語に関する小テストを行います。単語の意味やスペルの予習を行いましょう。 ②授業には必ず辞書を持参してください。  ③リーディング・スキルを養うために、適宜授業以外での課題への取り組み(宿題)を指示します。提出期限は必ず守りましょう。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| 1 イントロダクション&Lesson 1 本文を読む前に内容を予測する 2 Lesson 2 「流し読み」で大意をつかむ 3 Lesson 3 本文の内容を時間の経過に沿ってまとめる 4 Lesson 4 文中の描写を絵やイラストで視覚化する 5 Lesson 5 本文の内容を箇条書きにしてまとめる 6 Lesson 6 文章全体の構成を把握する 7 Lesson 7 指示語が指すものに注意して読む 8 Lesson 8 具体例を見つけて要点をよりよく理解する 9 Lesson 9 「事実」と「意見」を区別して読む 10 Lesson 10 ヒントを手がかりに未知の語彙の意味を探る 11 Lesson 11 意味のまとまりごとに区切って読む 12 Lesson 12 「とばし読み」で知りたい情報を探す 13 Lesson 13 読み取った情報をチャートに整理する 14 Lesson 14 読解を通して語彙を増やす 15 Lesson 15 要約して理解したことを確認する & 定期テストについての説明 |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0041003 |
| 科目名   | 英語リーディング  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | English Reading   |       |           |
| 担当者名  | 塩田 英子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業では英語の読解力の伸長をはかります。特に英字新聞の読み方の基礎を身に着け、身近な出来事や世界の話題について英語で読み解く練習をしていきたいと思ひます。授業で使う教科書は新聞の見出し語から書き出しの構造、内容を予測して読む方法などさまざまな側面から新聞記事にアプローチしています。この教科書を使って一緒に英語で書かれた新聞記事を読み解いていきましょう。また、新聞記事で用いられる見出しの表現にはいくつかの、知っておくべきルールがあります。そういった新聞英語特有の文法を身に着けることで新聞のみならず、広告や雑誌記事などを読み解くための知識が身に付くのではないかと思ひます。英語で書かれた新聞や雑誌を読みたいという方はもちろん、英語の読解力を伸ばしたいという方は誰でも大歓迎です。一緒に新聞英語の世界をのぞいてみませんか？ |       |           |
| 教材（テキスト）  | Tadamitsu KAMIMOTO 著 『How to Read Newspaper Headlines New Edition:はじめての英字新聞[新訂版]』 Asahi Press 1,500円+税  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜授業中に指示します。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜授業中に指示します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）：授業態度や出席状況により評価します。 中間試験（40%）：授業中に行う中間試験の結果により評価します。 期末試験（40%）：最終講義時に行う期末試験の結果により評価します。   |       |           |
| 到達目標  | 英語で書かれた新聞記事の読み方の基礎を身に着け、読解力の伸長をはかります。そして、必要に応じて辞書を利用しながら英語で書かれた新聞記事の要点を理解することを目標とします。   |       |           |
| 準備学習  | 1. 授業で扱った内容について日常的に予習・復習を繰り返すことが読解力獲得の助けとなります。 2. なるべく多くの英語の授業を受講し、日ごろから基礎力増強につとめてください。 3. 授業中に課題や自宅学習についての情報を提示する予定です。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 指示した課題以外にも予習・復習をするよう、心がけてください。 2. 授業以外でも日頃からなるべく多くの英語に触れることを願ひます。 3. 授業中の携帯電話の使用・睡眠・私語による妨害など、授業態度にはくれぐれもご注意ください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 オリエンテーション+Lesson2 第2回 Lesson 2 & 3 第3回 Lesson 3 & 4 第4回 Lesson 5 & 6 第5回 Lesson 7 & 8 第6回 Lesson 9 & 10 第7回 Lesson 11 & 12 第8回 中間試験 第9回 Lesson 13 & 14 第10回 Lesson 15 & 16 第11回 Lesson 17 & 18 第12回 Lesson 19 & 20 第13回 Lesson 21 & 22 第14回 Lesson 23-25 第15回 期末試験  上記はあくまでも予定であり、変更になる可能性があります。 各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0041004  |
| 科目名        | 英語リーディング  | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記) | English Reading   |       |            |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 | 英語リーディング I |
| 講義概要       | まとまった量の平易な英語の文章を読むことにより、パラグラフリーディングとトピックセンテンス(主題文)の概念に対する理解を促します。また、同時に英語の語彙力強化にも努め、基礎英語文法事項の復習も行います。さらに、内容についての練習問題を行うことで、英語の長文読解力を鍛えます。また模範的な英文を「読む」作業を通して、みずからの考えを英語で表現するライティング力も養います。 |       |            |
| 教材 (テキスト)  | Richard Carpenter, 関口 智子 著. Focus on Reading (松柏社、1900円)  |       |            |
| 教材 (参考文献)  | 英語辞書 (英和、英英、和英) など  |       |            |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて CD およびプリント教材を使用します。  |       |            |
| 評価方法       | 定期テスト(50%)、小テストおよび課題、授業への参加状況 (50 %) により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。   |       |            |
| 到達目標       | 高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。   |       |            |
| 準備学習       | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |            |

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。|②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。教科書を持参しない場合は減点とします。また、授業には必ず辞書を持参してください。|③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。|④授業外でもなるべく英語を使う機会を増やすために「セルフラーニング室」(英語学習自習室、学志館 1 階)を使用するようにしてください。|⑤当科目以外にも、できるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で終了します。|1. 授業内容、評価方法の説明| 本文を読む前に内容を予測する "The T-shirt"|2. 「流し読み」で大意をつかむ "Hey, whacha doin'?"|3. 本文の内容を時間の経過に沿ってまとめる "You Got 30 Minutes!"|4. 文中の描写を絵やイラストで視覚化する "The Flag of the United States"|5. 本文の箇条書きにしてまとめる "Names"|6. 文章全体の構成を把握する "Johnny Depp"|7. 指示語が指すものに注意して読む "American Holidays"|8. 具体例を見つけて要点をよりよく理解する "Autistic Savant"|9. 「事実」と「意見」を区別して読む "Linus"|10. ヒントを手がかりに未知の語いの意味を探る "Environment Disaster"|11. 意味のまとまりごとに区切って読む "The Man in Black"|12. 「とばし読み」で知りたい情報を探る "Famous Animals"|13. 読み取った情報をチャートに整理する "The Incandescent Light Bulb"|14. 読解を通して語いを増やす "Jazz"|15. 要約して理解したことを確認する "Tectonic Plates"

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JE0045001 |
| 科目名       | 英語リスニング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | English Listening   |       |           |
| 担当者名      | 古木 圭子   | 旧科目名称 | 英語リスニング I |
| 講義概要      | この科目は初級リスニング演習です。視聴覚教材を装備したオーディオ・ビジュアル教室で CD, DVD, テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニング力を上達させるための基礎力を養成します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | James Bean 著, Listen to This--Basic (『リスニングスキルの総合演習・基礎編』) (成美堂) (¥2,400)   その他プリント教材              |       |           |
| 教材（参考文献）  | 英和、英英、和英辞書など  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 授業内試験（50%）、小テスト、課題、授業への参加状況(50%) により総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標      | リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話などを英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につけます。    |       |           |
| 準備学習      | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |           |

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。| 教科書を忘れた場合は減点とします。|②授業には、必ず辞書を持参してください。|③欠席、遅刻をしないように努めてください。|④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。|⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。|⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」(学志館1階)を活用してください。|⑦当科目以外にもなるべく多くの英語プログラム科目を受講するようにしてください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を1回の授業で学習します。|1. It's nice to meet you. 「初めまして」|2. That's a great hairstyle! 「相手を褒める表現」|3. Shopping trip 「買い物での表現」|4. What are you doing this weekend? 「相手の予定を尋ねる表現」|5. Have you been to San Francisco? 「場所の説明、道案内の表現」|6. My best Friend 「親友について語る」|7. I'm taller than you are. 「比較の表現」|8. Where shall we eat? 「レストランでの注文」|9. Going to the Movies 「映画について」|10. Shopping for the perfect gift 「贈り物を選ぶ」|11. What's your favorite? 「趣味、嗜好について語る」|12. Hard work 「仕事について」|13. I was so embarrassed! 「恥をかいた経験について語る」|14. What should I do? 「困ったときには？」|15. まとめ

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0045002 |
| 科目名  | 英語リスニング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Listening   |       |           |
| 担当者名   | Paul James Bird   | 旧科目名称 | 英語リスニング I |
| 講義概要   | この科目は初級リスニング演習です。視聴覚機器を装備したオーディオ・ビジュアル教室でDVD、ビデオ、CD、テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニングを上達させるための基礎力を養成します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | "Tune In 2 - Learning English Through Listening", Richards & O'Sullivan, Oxford.                  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加状況、課題、定期試験などにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話等を英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につける。      |       |           |
| 準備学習   | 高校卒業時までまでに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Lesson 1 - The Family Lesson 2 - People Lesson 3 - School Life Lesson 4 - Movies Lesson 5 - Review 1 Lesson 6 - Countries & Places Lesson 7 - Appearances Lesson 8 - Sports Lesson 9 - The Home Lesson 10 - Review 2 Lesson 11 - Animals Lesson 12 - Free Time Lesson 13 - Buying Things Lesson 14 - Great Inventions Lesson 15 - Final Review |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0045003 |
| 科目名        | 英語リスニング   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Listening   |       |           |
| 担当者名       | 西垣 有夏   | 旧科目名称 | 英語リスニング I |
| 講義概要       | 本講座は速聴トレーニング講座とします。聴き取りのトレーニングを積むことで英検、TOEICといった検定試験のリスニング学習につなげていきます。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。なお、学内でも本講義の学習ができるように、セルフラーニング室に視聴覚教材を用意しておきます。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定はしませんが、基本的な英文法に自信のない学生は、高校時代に利用した文法書を持ち込むことを勧めます。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和辞典必携。高校時代に使用していたものでも良いですが、小型のポケットサイズの辞書は認めません。所持している辞書が有用かどうかわからなければ担当者に実際に辞書を見せて確認をとると良いです。電子辞書の利用は許可しますが、携帯電話の辞書機能の利用は断固として禁止します。                                     |       |           |
| 評価方法       | 平常点(15%)出席状況等による、課題レポート(25%)、定期テスト(60%)。なお、全授業回数の3分の1以上欠席した学生は失格となります。  |       |           |
| 到達目標       | 英語を単語や熟語単位でなく、文章構造を把握した上で、平易な英文を文単位で聞き取ることができるようになることを目的とします。   |       |           |
| 準備学習       | 英語の基礎に自身のない学生は、基礎英語を併せて履修することを勧めます。各講義の最後に次の講義についての説明をします。毎回授業毎に宿題を出すので次の講義の開始時までには仕上げ提出してください。なお、宿題はその日に学習した内容の復習を兼ねるものなので、きちんと授業に参加していれば難しくありません。常に反復学習をする姿勢を忘れないでください。 |       |           |

#### 受講者への要望

本講座は先に書いたようにトレーニング講座なので気力のある学生向けの講座です。英語を学習するなら英和辞典は必携です。また、リーディングなら何とかできるが、リスニングは不安という学生の受講も歓迎します。スクリプト(視聴覚教材で流した英文)を見れば容易に理解できる英文でも、いざ聴き取りとなると難しいと感じることがあるかもしれません。トレーニングを継続して粘り強く取り組んでいきましょう。|

#### 講義の順序とポイント

以下の内容を原則として1回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。|1. 授業の説明、基本文型シャッフルトレーニング①| 2. 基本文型シャッフルトレーニング②| 3. 基本文型シャッフルトレーニング③| 4. 文型コンビネーショントレーニング(基本編)①| 5. 文型コンビネーショントレーニング(基本編)②| 6. 文型コンビネーショントレーニング(基本編)③| 7. 文型コンビネーショントレーニング(基本編)④| 8. 文型コンビネーショントレーニング(基本編)⑤| 9. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)①|10. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)②|11. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)③|12. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)④|13. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)⑤|14. 文型コンビネーショントレーニング(発展編)⑥|15. まとめおよび定期試験準備||

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0045004 |
| 科目名  | 英語リスニング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Listening   |       |           |
| 担当者名   | Paul James Bird   | 旧科目名称 | 英語リスニング I |
| 講義概要   | この科目は初級リスニング演習です。視聴覚機器を装備したオーディオ・ビジュアル教室でDVD、ビデオ、CD、テープなどの教材を活用した演習を行い、英語リスニングを上達させるための基礎力を養成します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | "Tune In 2 - Learning English Through Listening", Richards & O'Sullivan, Oxford.                  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加状況、課題、定期試験などにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話等を英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につける。      |       |           |
| 準備学習   | 高校卒業時までまでに学んだ英語の基本語彙、口語表現、文法の基本事項などの復習をしてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Lesson 1 - The Family Lesson 2 - People Lesson 3 - School Life Lesson 4 - Movies Lesson 5 - Review 1 Lesson 6 - Countries & Places Lesson 7 - Appearances Lesson 8 - Sports Lesson 9 - The Home Lesson 10 - Review 2 Lesson 11 - Animals Lesson 12 - Free Time Lesson 13 - Buying Things Lesson 14 - Great Inventions Lesson 15 - Final Review |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JE0045006 |
| 科目名       | 英語リスニング  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | English Listening  |       |           |
| 担当者名      | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>ビデオを使った学習を通して、アメリカ合衆国での生活に必要な英語表現力を身につける。  この授業の目的は、海外旅行を志す人や海外で暮らしたいと考えている学生諸君に、日常生活で会うさまざまな場面を収録したビデオを用いて、英語のリスニング能力の向上を図ることです。これから海外旅行をしようと思っている学生諸君の心のかたすみにある言葉や習慣に対する一抹の不安を解消して自信を持って海外への一歩を踏み出してもらうことと、アメリカで自由かつ活発に暮らすために必要なリスニング&amp;スピーキング能力の向上を図ることを目的にしています。そのため、クラス全員が1つのシチュエーションを共有することによって互いの表現力を高めていく方法がよいと考え、「海外生活A to Z」（アメリカ生活体験）をやってみることにしました。アメリカという国ではそれぞれの民族がそれぞれのお国訛りの英語を話しています。したがって日本人もジャパニーズ・イングリッシュ（Japaninglish）で意思疎通ができれば良いと考えています。大切なことはいかにコミュニケーションをはかり、自分の意思を伝え、相手の意図を把握するかということです。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント教材（テキストを購入する必要はありません）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 授業参加（50%）と・定期試験（50%）の総合評価とする。  |       |           |
| 到達目標      | 旅行や生活に必要な基本的英語表現を修得する。授業終了時点で、英検準2級程度のリスニング力およびスピーキング力を身につける。  |       |           |
| 準備学習      | たとえば、英語の歌や英語のスピーチを聴いたり、英語を見たりして、英語リスニング力を養っておくことが大切です。   |       |           |

|  |  |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
|--|--|-----|--|-----|---|-----|--|-----|--|-----|-------------------------------------|-----|-----------------------------------|-----|---|-----|---------------------------------------|-----|--|------|------------------------------------|------|------------------------------------|------|---------------------------------------|------|---|------|--------------------------------|------|------------|
| 受講者への要望  |  |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| <p>授業では、毎回ビデオを見ながら、いろいろな英語表現に触れ、活用できるようにします。そのため、空所補充の形式でクイズを行いますので、積極的に参加してください。この結果が、授業参加の評価となります。 ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②この授業以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 ③実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ④英語学習のための設備がある学志館1階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自習に励んでください。</p>   |  |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 講義の順序とポイント   |  |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 主な項目は次の通りです。なお、講義の順序は少し異なる場合もあります。 （旅行編）</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>Introduction /Looking for an Apartment</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>Paying with Travelers Checks/ Paying the Rent</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>Starting a Conversation/ Asking about a Car Pool</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>Using Valet Parking / Taking Friends Out to Dinner</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>Charging the Tip/ Getting a Haircut</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>At the Pool/ Using a Coin Laundry</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>Having Something Fixed/ Reporting a Robbery</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>Visiting a Doctor/ Using the Bathroom</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>Getting a Number from Information/ Going to the Drug Store</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>Ordering Take-out Food/ Buying Gas</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>Drinking Coffee/ Using a Pay Phone</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>Checking into a Hotel/ Ordering Drink</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>Reserving a Flight/ Paying with a Credit Card</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>Asking Direction/ Checking Out</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと達成度の確認</td> </tr> </table> |  | 第1回 | Introduction /Looking for an Apartment | 第2回 | Paying with Travelers Checks/ Paying the Rent | 第3回 | Starting a Conversation/ Asking about a Car Pool | 第4回 | Using Valet Parking / Taking Friends Out to Dinner | 第5回 | Charging the Tip/ Getting a Haircut | 第6回 | At the Pool/ Using a Coin Laundry | 第7回 | Having Something Fixed/ Reporting a Robbery | 第8回 | Visiting a Doctor/ Using the Bathroom | 第9回 | Getting a Number from Information/ Going to the Drug Store | 第10回 | Ordering Take-out Food/ Buying Gas | 第11回 | Drinking Coffee/ Using a Pay Phone | 第12回 | Checking into a Hotel/ Ordering Drink | 第13回 | Reserving a Flight/ Paying with a Credit Card | 第14回 | Asking Direction/ Checking Out | 第15回 | まとめと達成度の確認 |
| 第1回  | Introduction /Looking for an Apartment                     |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第2回  | Paying with Travelers Checks/ Paying the Rent              |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第3回  | Starting a Conversation/ Asking about a Car Pool           |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第4回  | Using Valet Parking / Taking Friends Out to Dinner         |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第5回  | Charging the Tip/ Getting a Haircut                        |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第6回  | At the Pool/ Using a Coin Laundry                          |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第7回  | Having Something Fixed/ Reporting a Robbery                |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第8回  | Visiting a Doctor/ Using the Bathroom                      |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第9回  | Getting a Number from Information/ Going to the Drug Store |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第10回   | Ordering Take-out Food/ Buying Gas                         |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第11回   | Drinking Coffee/ Using a Pay Phone                         |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第12回   | Checking into a Hotel/ Ordering Drink                      |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第13回   | Reserving a Flight/ Paying with a Credit Card              |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第14回   | Asking Direction/ Checking Out                             |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |
| 第15回   | まとめと達成度の確認   |     |  |     |   |     |  |     |  |     |                                     |     |                                   |     |   |     |                                       |     |  |      |                                    |      |                                    |      |                                       |      |   |      |                                |      |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |                 |     |       |        |
|--|--|-------|-----------------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0049001       |     |       |        |
| 科目名  | 英語資格試験パソコンワーク  | 単位数   | 2               |     |       |        |
| 科目名（英語表記）  | CALL for English Proficiency Tests   |       |                 |     |       |        |
| 担当者名   | 浜田 史子  | 旧科目名称 | 英語資格試験パソコンワーク I |     |       |        |
| 講義概要   | このクラスは英検準2級取得を目標に据え、準2級相当の英語力をつけることを目指します。パソコンを利用して、準2級に必要な知識とスキルを得て、実力を養います。パソコンを使っでの学習なので、各自が自分の理解度に合わせて学習の進捗を進めていけます。  教材内容は英検の試験と同じく、語彙・イディオム・文法・作文・会話文・長文読解・リスニングの問題が準備されていて、段階ごとに学んでいくようになっています。  また過去の英検問題を教材として使って、実際の出題問題にも慣れてもらい、受験準備に役立てると同時に実用英語を身につけていってほしいと思います。 |       |                 |     |       |        |
| 教材（テキスト）   | ネットワーク教材（TDK「英検合格コース準2級」） + プリント教材 教科書購入の必要はありません。   |       |                 |     |       |        |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示。  |       |                 |     |       |        |
| 教材（その他）  | 英検準2級の過去問題   |       |                 |     |       |        |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、目標達成度・正答率・平常点（40%）を総合評価。 英検準2級受験も評価に含めません。 真面目に地道に努力する人を評価します。   |       |                 |     |       |        |
| 到達目標   | CALL 教室でネットワーク教材を活用しながら、語彙、文法、読解、リスニングなどの力をさらに向上させ、英検準2級、TOEIC430点程度の取得を目標とする。   |       |                 |     |       |        |
| 準備学習   | 各授業の最後に次の授業のための準備学習を指示。  |       |                 |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |                 |     |       |        |
| 英検準2級を受験することを希望します。自主学習に近い授業なので、1回ごとのペースを決め、自分でゴールを定めて自主的に勉強を進める意志をもって出席してください。  |  |       |                 |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                 |     |       |        |
| 1 授業内容、成績評価、パソコン利用方法の説明  2 Practice1 語彙・文法・作文問題  3 Practice1 読解  4 Practice1 リスニング問題  5 Practice2 語彙・文法・作文問題  6 Practice2 読解・リスニング問題  7 Practice3 語彙・文法・作文問題  8 Practice3 読解・リスニング問題  9 Practice4 語彙・文法・作文問題 10 Practice4 読解・リスニング問題  11 Practice5 語彙・文法・作文問題 12 Practice5 読解・リスニング問題 13 Practice6 語彙・文法・作文問題 14 Practice6 読解・リスニング問題 15 まとめと復習テスト （適宜、英検準2級の過去問題で理解度の確認をしたり、 小テストを行います。講義順序・内容は若干変更になることもあります。） |  |       |                 |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力             | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   |  |       |                 |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |  |       |                 |     |       |        |

|   |  |       |                 |
|---|--|-------|-----------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0049002       |
| 科目名   | 英語資格試験パソコンワーク  | 単位数   | 2               |
| 科目名（英語表記）   | CALL for English Proficiency Tests   |       |                 |
| 担当者名  | 田中 宏明  | 旧科目名称 | 英語資格試験パソコンワーク I |
| 講義概要  | 主にパソコンを使って、英検準2級取得をめざした実践的演習を行います。  授業は学生諸君一人ひとりが過去問題を通して自らの英語運用能力をチェックすることからはじめ、自分のペースでそれぞれの出題分野に挑戦します。したがって、進むスピードも分野もそれぞれの学生で異なります。学習は授業が行われるCALL教室（G12）だけでなく、隣接したセルフラーニング室でも行えます。意欲のある学生ほど進度も速く、得るものが多いと思います。  授業はコンピュータソフトを利用した教材と、過去問題のプリント教材の両方を用いて進めていきます。最終的に英検準2級合格レベルの英語力を育成します。  また、早く進んだ学生は英検2級やTOEICのネットワーク教材にも挑戦できます。 英検の二次面接試験の模擬面接練習も行います。模擬面接を経験した学生は、これまでほぼ全員が合格しています。  まずはこの授業を通して、英検準2級一次試験（筆記）に合格し、面接試験に合格しましょう。 |       |                 |
| 教材（テキスト）  | ネットワーク教材（主としてTDK「英検合格コース準2級」）、およびプリント教材（英検過去問題）を使用しますので、教科書を購入する必要はありません。  |       |                 |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜示します。  |       |                 |
| 教材（その他）   |  |       |                 |
| 評価方法  | 目標達成度およびすべてのプラクティス終了（40%）、授業参加（20%）、定期試験（40%）による評価とします。英検の準2級受験および結果も評価の対象に含めます。   |       |                 |
| 到達目標  | CALL教室でネットワーク教材を活用しながら、語彙、文法、読解、リスニングなどの力をさらに向上させ、英検準2級、TOEIC430点程度の取得を目標とする。  |       |                 |
| 準備学習  | 毎回の授業でセルフラーニング室を利用した自律学習範囲を指示します。また、過去問題を用いたホームページを出します。これらの課題を達成すると、英検準2級に合格できます。   |       |                 |
| 受講者への要望   |  |       |                 |
| パソコンを初めて使う人でも、基本的にはマウスの操作だけで学習できるのでなにも心配する必要はありません。英検（本学において受験可能）をできるだけ受験することもすすめます。  |  |       |                 |
| 講義の順序とポイント  |  |       |                 |
| 第1回 CALL学習とソフト利用方法や解説 第2回 Practice 1 語彙・文法・作文問題  第3回 Practice 1 読解・リスニング問題 第4回 Practice 2 語彙・文法・作文問題  第5回 Practice 2 読解・リスニング問題 第6回 Practice 3 語彙・文法・作文問題  第7回 Practice 3 読解・リスニング問題 第8回 Practice 4 語彙・文法・作文問題  第9回 Practice 4 読解・リスニング問題 第10回 Practice 5 語彙・文法・作文問題  第11回 Practice 5 読解・リスニング問題 第12回 Practice 6 語彙・文法・作文問題  第13回 Practice 6 読解・リスニング問題 第14回 Practice 7 語彙・文法・作文・読解・リスニング問題  第15回 まとめと達成度確認 |  |       |                 |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |             |
|------------|--|-------|-------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0051001   |
| 科目名        | 英語資格試験ワーク  | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記) | Studies for English Proficiency Test   |       |             |
| 担当者名       | 西垣 有夏  | 旧科目名称 | 英語資格試験ワーク I |
| 講義概要       | TOEIC400 点レベルを目指す教材を用いた演習講座とします。TOEIC は現在多くの企業で取り上げられ、入社や昇進昇給につながるときもあります。TOEIC はリスニングパート 4 つ、リーディングパート 3 つの計 7 パートで構成されています。すべてのパートを取り上げて演習を行います。                         |       |             |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。なお、学内でも本講義の学習ができるように、セルフラーニング室に視聴覚教材を用意しておきます。   |       |             |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定しませんが、基本的な英文法に自信のない学生は、高校時代に利用した文法書を持ち込むことを勧めます。   |       |             |
| 教材 (その他)   | 英和辞典必携。高校時代に使用していたものでも良いですが、小型のポケットサイズの辞書は認めません。所持している辞書が有用かどうかわからなければ担当者に実際に辞書を見せて確認をとると良いです。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の利用は断固として禁止します。                                     |       |             |
| 評価方法       | 平常点(15%)出席状況等による、課題レポート(25%)、定期試験(60%)。なお、全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した学生は失格となります。  |       |             |
| 到達目標       | 徹底した演習を通じて、TOEIC の学習方法を身につけ TOEIC 対策に向けた学習を学生が自発的にできるようにする。  |       |             |
| 準備学習       | 英語の基礎に自信のない学生は、基礎英語を併せて履修することをお勧めします。各講義の最後に次回の授業について説明します。毎回授業毎に宿題を出すので次の講義の開始時までには仕上げ提出してください。なお、宿題はその日に学習した内容の復習を兼ねるものなので、きちんと授業に参加していれば難しくありません。常に反復学習をする姿勢を忘れないでください。 |       |             |

#### 受講者への要望

先に書いたようにこれは TOEIC400 点を目指すレベルの教材を用いた演習なので、かなりの根気、気力、そして主体性をもって授業に望んでください。TOEIC の本番の試験はリスニング 45 分間、リーディング 75 分間休憩なしの試験なので、体力と集中力が要求されます。授業一回一回を大切にしてください。それから、TOEIC 形式には慣れも肝心なので、形式に困惑して平易な設問でも間違えることがあるかもしれません。そのところは講義担当者も学生の立場を重々承知の上です。なんと言っても、やる気のある学生の受講を歓迎します。|

#### 講義の順序とポイント

以下の内容を原則として 1 回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。| 1.授業の説明、Part 1 & Part 2 の基礎固め| 2.Part 1 & Part 2 の基礎固め(前回の続き)、Part 3 & Part 4 の基礎固め| 3.Part 3 & Part 4 の基礎固め(前回の続き)、Part 5 & Part 6 の基礎固め| 4.Part 5 & Part 6 の基礎固め(前回の続き)、Part 7 の基礎固め| 5.Part 7 の基礎固め(前回の続き)、ここまでの TOEIC の基礎まとめ| 6.Part 1 スコアアップ作戦| 7.Part 2 スコアアップ作戦| 8.Part 3 スコアアップ作戦| 9.Part 4 スコアアップ作戦|10.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦①|11.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦②|12.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦③|13.Part 7 スコアアップ作戦①|14.Part 7 スコアアップ作戦②|15.まとめ、および定期試験準備|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |             |
|------------|--|-------|-------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0051002   |
| 科目名        | 英語資格試験ワーク  | 単位数   | 2           |
| 科目名 (英語表記) | Studies for English Proficiency Test   |       |             |
| 担当者名       | 西垣 有夏  | 旧科目名称 | 英語資格試験ワーク I |
| 講義概要       | TOEIC400 点レベルを目指す教材を用いた演習講座とします。TOEIC は現在多くの企業で取り上げられ、入社や昇進昇給につながる時もあります。TOEIC はリスニングパート 4 つ、リーディングパート 3 つの計 7 パートで構成されています。すべてのパートを取り上げて演習を行います。                          |       |             |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。なお、学内でも本講義の学習ができるように、セルフラーニング室に視聴覚教材を用意しておきます。   |       |             |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定しませんが、基本的な英文法に自信のない学生は、高校時代に利用した文法書を持ち込むことを勧めます。   |       |             |
| 教材 (その他)   | 英和辞典必携。高校時代に使用していたものでも良いですが、小型のポケットサイズの辞書は認めません。所持している辞書が有用かどうかわからなければ担当者に実際に辞書を見せて確認をとると良いです。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の利用は断固として禁止します。                                     |       |             |
| 評価方法       | 平常点(15%)出席状況等による、課題レポート(25%)、定期試験(60%)。なお、全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した学生は失格となります。  |       |             |
| 到達目標       | 徹底した演習を通じて、TOEIC の学習方法を身につけ TOEIC 対策に向けた学習を学生が自発的にできるようにする。  |       |             |
| 準備学習       | 英語の基礎に自信のない学生は、基礎英語を併せて履修することをお勧めします。各講義の最後に次回の授業について説明します。毎回授業毎に宿題を出すので次の講義の開始時までには仕上げ提出してください。なお、宿題はその日に学習した内容の復習を兼ねるものなので、きちんと授業に参加していれば難しくありません。常に反復学習をする姿勢を忘れないでください。 |       |             |

#### 受講者への要望

先に書いたようにこれは TOEIC400 点を目指すレベルの教材を用いた演習なので、かなりの根気、気力、そして主体性をもって授業に望んでください。TOEIC の本番の試験はリスニング 45 分間、リーディング 75 分間休憩なしの試験なので、体力と集中力が要求されます。授業一回一回を大切にしてください。それから、TOEIC 形式には慣れも肝心なので、形式に困惑して平易な設問でも間違えることがあるかもしれません。そのところは講義担当者も学生の立場を重々承知の上です。なんと言っても、やる気のある学生の受講を歓迎します。|

#### 講義の順序とポイント

以下の内容を原則として 1 回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。| 1.授業の説明、Part 1 & Part 2 の基礎固め| 2.Part 1 & Part 2 の基礎固め(前回の続き)、Part 3 & Part 4 の基礎固め| 3.Part 3 & Part 4 の基礎固め(前回の続き)、Part 5 & Part 6 の基礎固め| 4.Part 5 & Part 6 の基礎固め(前回の続き)、Part 7 の基礎固め| 5.Part 7 の基礎固め(前回の続き)、ここまでの TOEIC の基礎まとめ| 6.Part 1 スコアアップ作戦| 7.Part 2 スコアアップ作戦| 8.Part 3 スコアアップ作戦| 9.Part 4 スコアアップ作戦|10.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦①|11.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦②|12.Part 5 & Part 6 スコアアップ作戦③|13.Part 7 スコアアップ作戦①|14.Part 7 スコアアップ作戦②|15.まとめ、および定期試験準備|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0054001 |
| 科目名        | 英語中級スピーキング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Intermediate English Speaking  |       |           |
| 担当者名       | Paul James Bird  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ネイティブスピーカーの教員との会話を通して、的確なリスニング力と応答能力の習得を目指します。「英語スピーキングⅠ」「英語スピーキングⅡ」から進んで、あるトピックに対する自分の意見や考えをまとめて口頭で表現できる力を養います。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | "New Cutting Edge Elementary Students' Book", Sarah Cunningham & Peter Moor; Longman.  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加状況、課題、口答試験などにより総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 「英語スピーキングⅠ」、「英語スピーキングⅡ」に続いて、口語表現力をさらに高め、日常生活の身近な状況や自分自身の状況について説明をしたり、印象に残った出来事について英語で話をしたり、簡単な伝言などをしたりするための英語スピーキング力を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 「英語スピーキングⅠ」、「英語スピーキングⅡ」および他の英語科目で身につけた英語口語表現の復習をしてください。英語で対話やディスカッションをするための基礎として、英語圏および日本の文化、社会問題に関心を持ち、英字新聞などを読むことを心がけてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Finding Information & Answering Questions Lesson 3 - Talking About Your Favourite Thing & Family Lesson 4 - Finding Things In Common Lesson 5 - Asking Politely Lesson 6 - Completing a Survey / Buying a Ticket Lesson 7 - Review 1 Lesson 8 - Scrabble Lesson 9 - Food / Describing Pictures Lesson 10 - Tell Your Life Story Lesson 11 - Arrange a night out Lesson 12 - Shopping Lesson 13 - Describing a Picture Lesson 14 - Review 2 Lesson 15 - Final Review |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0055001 |
| 科目名  | 英語中級ライティング  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Intermediate English Writing  |       |           |
| 担当者名   | Paul James Bird   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 文単位の英作文から一歩進んで、まとまった内容を持つ一定量の英文（パラグラフ）を書く練習をします。パラグラフの構成を学び、自分が伝えたい内容を整理して表現できる能力を養います。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | "North Star Reading & Writing 1", Merdinger & Barton; Longman.                          |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への参加状況、課題、定期レポートなどにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 難易度が少し高い語彙や、やや複雑な構文を用い、パラグラフおよびエッセイの構造を理解し、日常生活の話題についてまとまった分量のエッセイを書く力を身につける。           |       |           |
| 準備学習   | 「英語ライティングⅠ」、「英語ライティングⅡ」および他の英語科目で身につけた語彙、文法事項、文章表現法などの復習をしておいてください。                     |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Reading about a website Lesson 3 - Interviewing and writing about your classmates' interests Lesson 4 - Reading about a letter from the school Principal Lesson 5 - Writing a letter to give your opinion Lesson 6 - Review 1 Lesson 7 - Scrabble Lesson 8 - Reading a magazine interview Lesson 9 - Writing a biography Lesson 10 - Reading a sports column Lesson 11 - Writing about a possession Lesson 12 - Review 2 Lesson 13 - Reading an information brochure Lesson 14 - Writing a letter to an editor Lesson 15 - Final Review |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0056001 |
| 科目名        | 英語中級リーディング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Intermediate English Reading   |       |           |
| 担当者名       | 浜田 史子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 英文記事を読んで、時事英語を学ぶと同時に、現代の時代の姿を多面的に把握し、理解してもらうのがこの授業の目的です。  各 chapter では、時事英語に出る単語・表現・文法などをセクションごとに練習し、背景となる短い記事を読んで本文に入るとい、段階的な配慮がなされているので、自分の知らない分野でも、無理なく読み進めて行けるようになっていきます。  刻々と変わる「今」を感じてもらうために、英字新聞の記事を読んだり、英語ニュースを入れることも考えています。  すべての chapter を読むのは難しいので、希望を聞いて、なるべく興味のある話題の chapter を読んでいこうと思います。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 深山晶子他編著『Insights 2012 世界を読むメディア英語入門 2012』（金星堂）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリント配布   |       |           |
| 評価方法       | 復習テスト（60%）、出席状況・平常点（40%）を総合評価。 真面目に努力する人を評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 英字新聞の読解に慣れ、英字新聞の記事を読む力を身につけ、「今」の時事問題に関心を持つ。  |       |           |
| 準備学習       | 予習をしっかりとすることが重要。時事的事柄に興味と関心を持ってもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 準備学習でも書いたが、十分な予習をしてきてもらいたい。英和辞典（電子辞書可）を必ず持参のこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 教科書の内容、授業の進め方、学習方法、成績評価等について説明  （皆さんの希望の chapter を読んでいくので、実際の授業はこの内容・順番とは違います）  2 Chapter 1 And Yet He Tweets デーブさんのツイート  3 Chapter 2 Universities Raise Their Brand Awareness 大学ブランドカアップ大作戦  4 Chapter 3 The Old Is New iPad で紙芝居  5 Chapter 4 Hard to Be a Smart Shopper 賢い消費者になるのも楽じゃない  6 Chapter 5 Tornado Watching 竜巻予測技術の利用法  7 Chapter 6 Nigirizushi Goes Overseas スシもグローバル化  8 Chapter 7 Can New Law Increase Organ Donations? どうなる? 臓器移植  9 Chapter 8 As You Like It デジタル・ディスプレイで広告革命  10 Chapter 9 Soothing Robots Save Seniors 癒されたい  11 Chapter10 Time Out 大人の見る夢  12 Chapter11 To Go, or Not to Go 留学か就職か、それが問題だ  13 Chapter12 SOS from the Arctic 北極圏から SOS   14 Chapter13 Taking Advantage of Difficult Conditions 農業で会社おこし  15 まとめと復習テスト  （講義順序・内容は変更になることもあります）</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0057001 |
| 科目名        | 英語文化研究 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | English Cultural Studies A  |       |           |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「英語文化研究」は&lt;英語プロジェクト&gt;専門科目の1つであり、英語圏の文化と英語という言語への理解を深めることを目的とした科目である。日英の文化や言語の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解を図っていく。  担当者の専門はイギリス文学およびイギリス事情研究であるので、その専門知識が多少とも生かせるように、この「A」では主としてイギリスの社会文化事情を取り扱っていく。とは言え、真に研究してほしいのは受講生それぞれの母国のことであり、テキストの講読によってイギリス事情の一端を知った後は、同一主題の母国事情と比較し、最終的には母国への理解を深めてほしい。 </p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Christopher Belton 他、The Unchanging Face of Great Britain: The Way British People See the World (『イギリスの背景を読む』)、金星堂、1,500 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英語学習には、英語の辞書 (英和辞典など) は必須である。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 事前検索/応答・発表/ディスカッションなどにおける授業内演習評価 (60%) 並びに報告を含むレポート課題の成果 (40%) で総合的に評価する。なお、出席不良者の単位は認定しない。   |       |           |
| 到達目標       | 1. イギリス事情との比較によって、母国の相対物への理解を深める。  2. 英検で2級レベルの英文から必要な情報を正確に入手するための英語力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 1. テキストの英文を何度も音読すること。  2. 教科書の「知っておこう」などから得た知識を基に、母国の相対物がどのような状況にあるか調べておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 十分な準備学習を行って毎回の授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>下記の順序とポイントは、実際の進度に応じて変更する。イギリスの文化事情を研究する科目であり、リーディングの科目ではないので、教科書の Notes や「知っておこう」、Outline などは授業で取り上げるが、読解問題などは省略する。  1. 演習概要・評価方法説明、The Euro---Yes or NO?   2. Education in Britain   3. レポート課題説明、The Shadow Cabinet and Floating Voters   4. Household Waste and Recycling   5. Social Classes   6. レポート課題調査、Embarrassment British Style   7. Humour in Great Britain   8. The British Climate   9. レポート課題確認、British Gentlemen   10. Eccentric Britain   11. Immigration   12. レポート課題報告、The Royal Family   13. Industrial Devolution   14. レポート課題提出、Sports and Gambling   15. Warm Beer and the English Pub、まとめ </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0058001 |
| 科目名        | 英語文化研究B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Cultural Studies B  |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業では、すべての英語科目の背景となる英語圏の文化と、英語という言葉への理解を深めることを目的とします。日英の文化や言葉の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解をはかります。  特にこの授業では、日系アメリカ人の歴史と文化、特に日系アメリカ人の強制収容問題に焦点をあてることで、多民族国家としてのアメリカの様相を捉えることを目的とします。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | Mary Tsukamoto・Elizabeth Pinkerton 著. We the People: A Story of Internment in America.（英宝社、 1800円） その他プリント教材  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 英語辞書（英和・和英）など その他授業中に指示します。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてCDを使用することがあります。   |       |           |
| 評価方法       | 定期レポート(50%)、課題の提出状況、授業への参加状況（50%）により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の3分の2以上の出席が必要です  |       |           |
| 到達目標       | 日系アメリカ人の歴史と文化に対する理解を深め、同時に英語の長文読解力の向上を目指します。  |       |           |
| 準備学習       | 日系アメリカ人の歴史と文化について、できるだけ情報を収集し、予備知識を持っておいください。   |       |           |
| 受講者への要望    | ①教科書は、必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。教科書がないと、授業での課題を行うことができません。また、教科書を持参しない場合は最終評価から減点することになります。また、英語辞書も必ず持参してください。 ②欠席、遅刻をしないように努めてください。 ③課題は必ず期限までに提出してください。 ④授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。 ⑤自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館1階）を活用してください。 ⑥当科目以外にもなるべく多くの英語プログラム、プロジェクト科目を受講するようにしてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | この授業においては、日系アメリカ人二世の Mary Tsukimoto さんが、みずからの強制収容所における体験をつづった著書 We the People: A Story of Internment in America を読み、日系アメリカ人の歴史をたどることで、多民族国家アメリカ合衆国への理解を促すことを目的とします。また同時に、英語論文読解、作成方法について学びます。  以下の各項目を約1回の授業で学びます。 1 Introduction: History of Japanese Americans  2. Introduction: A Heroine's Story, pp. 7-13. 3. Life Goes On (1), pp. 14-21. 4. Life Goes On (2), (3), pp. 22-33. 5. Life Goes On (4), A Time of Growth(1), pp.34-44. 6. A Time of Growth (2), pp. 45-50. 7. A Time of Growth (3), pp. 51-59. 8. Home to Florin (1),(2), pp. 60-73. 9. Home to Florin (3), pp. 74-83. 10. From Roots to Redress (1), (2), pp. 84-95. 11. From Roots to Redress (3), (4), pp. 96-108. 12. From Roots to Redress (5), pp. 109-115. 13. From Roots to Redress (6), pp. 116-122. 14. From Roots to Redress (3), pp. 123-129. 15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JE0058C01 |
| 科目名  | 英語文化研究C   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Cultural Studies C  |       |           |
| 担当者名   | Paul James Bird   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | すべての英語科目の背景となる英語圏の文化と英語という言葉への理解を深めることを目的とします。日英の文化や言葉の比較、英語圏の文化事情を扱ったテキストの読解とテーマについてのディスカッション、英語圏の文学、映像作品の鑑賞などを通して、異文化理解をはかります |       |           |
| 教材（テキスト）   | "Can You Believe It? - Book One", Huizenga, Oxford.   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 授業への賛歌状況、課題、レポートなどにより総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 英語圏および日本の文化、さらに文化間の差異について理解を深め、英語の文献を正確に理解するための分析力、自分の意見を明確に述べるためのコミュニケーション力を身につける。   |       |           |
| 準備学習   | 英語圏の文化、日本の文化について、自分の興味あるトピックなどを見つけ、それについての英語の文献などを探し、読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②本科目以外にもできるだけ多くの英語プロジェクト専門科目を履修してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Lesson 1 - Scrabble Lesson 2 - Please Get Rid of That Smell!! Lesson 3 - Red in the Face Lesson 4 - Leopard Makes Himself at Home Lesson 5 - Heart Patient Walks Home Fast Asleep Lesson 6 - Businessman Freaks Out Lesson 7 - Review 1 Lesson 8 - Scrabble Lesson 9 - Toy Saves Man's Life Lesson 10 - Hat Lady Wants to Cheer You Up Lesson 11 - Bear Goes on Vacation Lesson 12 - Man Hangs on for Dear Life Lesson 13 - Neighbours Fed Up With Loud Music Lesson 14 - Review 2 Lesson 15 - Scrabble / Final Review |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0060001 |
| 科目名        | 英語文化事情A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Language and Culture A  |       |           |
| 担当者名       | 諸戸 樹一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>英語の運用能力を高めるには、英語という言葉のもつ特性とともに、その背景となっている英語圏の文化事情などを理解する必要もあり、「英語文化事情」では、英語力の向上を視野に入れながら、英語圏の国ぐいのさまざまな社会文化事情について講義を行っている。  「A」では、英語の「母国」イギリスを対象とし、日本とは特に目立って異なる事象を取り上げて比較し、その長短を考えながら、これからの時代を生きる諸君の選択にとって何らかの参考となるような講義を行う。  「英米」（近年では「米英」）と一括りにされ、イギリスもアメリカとほとんど同じような国と思われがちであるが、イギリス人と日本人の間には、大陸に隣接する島国の国民として歴史的に同じような問題を抱えたりもしており、イギリスは日本人にとってはアメリカなどよりも大いに参考となる国の1つであると言ってもよい。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント（ハンドアウト）教材  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に、特にイギリス事情に関する文献の回において紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | <p>応答・発表／授業内課題／受講態度などにおける受講状況評価（90%）および最終授業課題の成果（10%）で総合的に評価する。ただし、常時出席者が50名を大きく超えた場合には、受講状況評価（60%）および期末レポート（40%）で評価する。 </p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>1. 英語は日本語とはさまざまな点で異なるが、その英語の「母国」であるイギリスという国の歴史的文化的社会的な背景事情を基礎知識として身につける。  2. 表面上の異同に惑わされないよう留意しながら、異文化圏の事象との相違を検証する方法を身につけて、相違が生まれてくる背景事情を理解できるようになる。 </p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>1. &lt;京学ナビ&gt;の「教材提供」に送っておく教材プリントで予習しておくこと。  2. 講義中に紹介する文献の少なくとも1冊には目を通すこと。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. 講義に休まず出席できる者の受講を強く望む。出席不良者の単位は認定しない。  2. 英語力向上の努力を続けている学生の受講を望む。 </p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>下記の順序とポイントは資料の入手状況などに応じて若干変更することがある。  1. 講義概要・評価方法説明、連合王国   2. 伝説の王 King Arthur と England 小史   3. イギリス事情に関する文献   4. 英語小史と The Common Wealth   5. 牧場・公園・庭園・駐車場   6. イギリス発祥のスポーツ   7. 過激な動物愛護、日常生活におけるマナー   8. 王族・貴族と二院制の国会   9. 週末の過ごし方、労働時間と勤務形態   10. パブという社交場とイギリス料理   11. village 愛と遺跡管理   12. 鉄道発祥国の交通機関   13. 学校教育制度と gap year   14. イギリスの文学、Auld Lang Syne   15. まとめと最終授業課題  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0061001 |
| 科目名        | 英語文化事情B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | English Language and Culture B   |       |           |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>英語文化を理解するにはイギリス文化とともにアメリカ文化への正しい認識が不可欠です。英語文化圏の中でも特にアメリカ合衆国の経済・社会の影響を大きく受けている現代の日本においては、アメリカの歴史と文化を正確に認識することが日本文化の本質を知る上でも重要なことです。  現代では身近な国となったアメリカ合衆国も、その歴史については学生諸君があまり理解できていないことがたくさんあります。この講義では、アメリカという国がどういう理由で成立し、どんな経過をたどって今日まで歩んできたか、また人類全体の中でどんな意味をもっているのか、そしてそのアメリカは、これからどの方向に進もうとしているのかについても考えてみたい。このように、アメリカの歴史の必然性を考察することによって、現代のアメリカ合衆国の基礎となる思想を検討する機会をもうけたいと考えています。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は購入する必要がありません。毎回レジメを記したプリント教材を配布します。参考書については、講義中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | <p>受講人数によって、評価方法は変更されることがあります。現在のところ、下記のように予定しています。 毎回の授業終了時に、授業内容に関する簡単他クイズを出します。これを小テストとして、30%の評価対象とします。最終授業の際に、課題とまとめとして試験を実施する予定です。これを、定期試験として70%の評価対象とします。</p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>英語文化のひとつの背景であるアメリカ合衆国の歴史を検証することを通じて、現代のアメリカを考える基礎となる知識を養います。歴史を単なる過去の事象の羅列としてではなく、現代アメリカ社会との関係の中で捉えます。また、同時代の日本の事象にも目を配り、歴史を複眼的に見ていきます。これを通して、アメリカ合衆国への理解を深めます。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>アメリカ合衆国について、いろいろ調べておいてください。 第1回目の授業で、関心のある内容について、意見を述べてください。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>受講者数にもよりますが、できるだけ双方向の形（インタラクティブ）で授業を運営したいと思えます。多くの学生が、出席するだけでなく、授業に参加することを望みます。 なお、出席は京学なびで把握しますが、授業に出席して終了時点でのクイズに対する解答の提出がない場合は欠席と見なします。また、授業中は他の学生の迷惑となるような行為は控えてください。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第1回 アメリカ社会についてのケーススタディ  - 私の目から見たアメリカ社会 第2回 Christopher Columbus は America 大陸を「発見」したのか  - なぜ、コロンブスはアメリカ大陸をめざしたのか 第3回 Mayflower 号の Pilgrim Fathers（巡礼始祖）たち  - なぜ、ピルグリムファザーズはアメリカ大陸にわたったのか 第4回 The American Revolution（アメリカ独立戦争）  - なぜ、イギリスから独立する必要があったのか 第5回 The Constitution of USA 1（アメリカ憲法の制定1）  - なぜ、憲法が必要だったのか 第6回 The Constitution of USA 2（アメリカ憲法の制定2）  - なぜ、二大政党ができたのか 第7回 Westward Movement（西漸運動）と Manifest Destiny（明白な運命）  - なぜ、人びとは西部をめざしたのか 第8回 The Civil War（南北戦争）- Abraham Lincoln と 奴隷制度  - なぜ、南北の州で戦争が生じたのか 第9回 世界大国への道-アメリカ経済発展の再考察1  - なぜ、アメリカ合衆国は産業国家になれたのか 第10回 世界大国への道-アメリカ経済発展の再考察2  - なぜ、アメリカ合衆国は急速な発展を遂げられたのか 第11回 W. W. I（第一次世界大戦）と T. W. Wilson  - なぜ、アメリカ合衆国は第1次世界大戦に参戦したのか 第12回 1920年代のアメリカ-禁酒法と Jazz Age  - なぜ、アメリカ社会は発展し、また腐敗していったのか 第13回 The Great Depression（大恐慌）と New Deal 政策  - なぜ、世界恐慌は生じたのか 第14回 W. W. II（第二次世界大戦）から東西冷戦時代へ  - なぜ、アメリカ合衆国は自由主義世界のリーダーになれたのか 第15回 まとめと内容確認 </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0064001 |
| 科目名   | 英語文献講読B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Reading Literature in English B  |       |           |
| 担当者名  | 西垣 有夏  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | アメリカ文化に関する英文講読を主体としますが、議事録、広告、書類などの様々な形態の英文になじみ、正確な情報取得能力を養成します。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 特に指定はしませんが、基本的な英文法に自信のない学生は、高等学校時代に利用した文法参考書を持ち込むことを勧めます。  |       |           |
| 教材（その他）   | 英和辞典必携。高校時代に使用したものでも構いませんが、小型のポケットサイズの辞書は勧めません。所持している辞書が授業で有用かどうかかわらなければ担当者に実際に辞書を見せて確認をとると良いです。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の利用は断固として禁止します。 |       |           |
| 評価方法  | 平常点(15%)出席状況等による。課題レポート(25%)、定期テスト(60%)。なお、全授業回数の3分の1以上欠席した学生は失格とします。  |       |           |
| 到達目標  | アメリカ文化に対する理解と様々な形態で書かれた基本的な英文の文書の情報を正確に把握できるようにします。  |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義についての説明をします。毎回授業毎に宿題を出すので次の講義の開始時までには仕上げて提出してください。宿題はその日に学習した内容の復習を兼ねるものなので、きちんと授業に参加していれば難しくありません。常に反復学習をする姿勢を忘れないでください。     |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 予習、復習の徹底、積極的な授業参加を切望します。授業では英和辞書必携です。この授業で要求されるのは英語力よりも学生の積極性です。基本的な単語を用いていても、慣れない文書形態だととまどうかもしれません。間違いや内容把握のミスを恐れることなく、前向きな姿勢で授業に臨んでください。質問があれば遠慮なくしてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 以下の内容を原則として1回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。  1. 授業の説明/英語の看板を読んでみる  2. 野球  3. ミシシッピ川  4. 運動器具の広告/時刻表/駐車料金/宿泊施設に関する情報をつかむ  5. ディズニーランド  6. 視聴者からラジオ局への問い合わせ/ラジオ番組表の情報をつかむ  7. アップルパイ  8. 内服薬の説明書/雑誌広告掲載案内  9. ジャズ 10. 銀行口座開設/旅行手配文書を読む 11. ブルース 12. 議事録/求人広告/応募書類文書を読む 13. ハンバーガー 14. 郵便物損害賠償の説明文/コンピューターのソフトウェアのマニュアルを読む 15. まとめ、定期試験準備 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0068A01 |
| 科目名   | 総合英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Comprehensive English A   |       |           |
| 担当者名  | 田中 宏明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「総合英語 A」は、主として1回生向けの選択科目です。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。  この授業では、Reading Adventure 2 を用いて英語の4技能を高めます。このテキストはナショナル・ジオグラフィックの写真とビデオを使ったティーンエイジャー向けの語彙力・読解力を強化する初級者向けのリーディング教材です。科学・歴史テクノロジー、文学などの分野を含んだ興味深い内容が書かれています。 Free Web Support として、ビデオクリップ、オーディオ CD、自主学习などの教材を入手できるので、自律学習にも向いています。英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。  なお、定員は35名です。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | Reading Adventure 2 (センゲージラーニング)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 辞書 (英和、英英辞典など)。その他授業中に指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)  | テキストには CD がついています。  |       |           |
| 評価方法  | 「総合英語 A」では、授業中の発表など授業参加 (20%)、課題提出 (20%)、および定期試験 (60%) の評価を合算して最終評価をします。  |       |           |
| 到達目標  | 中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようになる。日常的话题および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につける。春学期修了までに英検準2級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。   |       |           |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②総合英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 ③実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ④英語学習のための設備がある学志館1階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自習に励んでください。</p>  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第1回 Introduction   第2回 Helping Others 第3回 Movie Directors 第4回 Coffee Culture 第5回 Around the World 第6回 The Puffer Fish 第7回 Techonology in the Classroom 第8回 Interesting Buildings 第9回 Bollywood 第10回 The Nobel Prize 第11回 A Funny Cure 第12回 Palm Reading  第13回 Amazing Memory 第14回 Incredible Dogs 第15回 まとめ  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0068A02 |
| 科目名   | 総合英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Comprehensive English A   |       |           |
| 担当者名  | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。特にこの授業では、英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。  文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかりと身につけることを目指します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | Tamotsu Tanaka 他 著. Make It Clear--Grammar Learning for Beginners and Intermediates.  (朝日出版社、1600 円) その他プリント教材  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 英語辞書(英和、和英) など  |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてCDを使用することがあります。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内テスト(70%)、課題、授業への参加状況(30%)により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の3分の2以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標  | 高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。   |       |           |
| 準備学習  | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書(英和、和英)を持参してください。 ③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。 ④授業外でもなるべく英語を使う機会を増やすために「セリフラーニング室」(英語学習自習室、学志館1階)を使用するようにしてください。 ⑤当科目以外にも、できるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 次の各項目を、約1回の授業で学習します。 1. 文の要素 2. 基本5文型 3. 第1文型、be動詞・一般動詞 4. 動詞の種類 5. 第2文型、名詞[1] 6. 名詞[2] 7. 第3文型、代名詞[1] 8. 代名詞[2] 9. 第4文型、形容詞 10. 第5文型、副詞 11. 冠詞 12. 前置詞 13. 接続詞 14. 関係詞 15. 助動詞   |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0068A03 |
| 科目名        | 総合英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Comprehensive English A   |       |           |
| 担当者名       | 浜田 史子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>単語力を増し、英文法事項を確認・理解して、英文読解力を養成し、英語の総合力をつけるのが、このクラスの目標です。 各課では、 ①語彙・文法を確認したうえで、本文を読み内容を把握する。 ②内容に関するチェックやリスニングで理解度を確認する。 当たり前のことですが、こういう地道な作業を繰り返すことで、英語力が向上していくということを理解してもらいたいです。繰り返しのリズムをつけていくことが学習では大切であるということを学んでもらうのも目標です。また、テキストだけでなく、DVDを使ってリスニング力養成も行う予定です。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『Practical Reading Expert 基礎強化編』 穴戸真他著 成美堂  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 復習テスト (中間+期末) (60%)  平常点・提出物・出席状況 (40%)  地道に真面目に努力する人を評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 読解・文法・リスニング等の英語の総合力を促進する。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の授業の進む範囲 (練習問題も含む) を予習しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自主的、積極的に授業に参加してもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。 2 Lesson 1 ヨガ 3 Lesson 2 ポスト・イット 4 Lesson 3 宇宙旅行 5 Lesson 4 インターネット俗語 6 Lesson 5 アイスクリーム味見人 7 Lesson 6 ミア・ハム 8 復習テスト (中間) [予定] 9 Lesson 7 いじめ 10 Lesson 8 ケベック冬祭り 11 Lesson 9 盗作 12 Lesson10 シックハウス症候群 13 Lesson11 バードストライク 14 Lesson12 人口減少 15 復習テスト (期末)   (各回の順番と内容は変更することもあります)  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0068B01 |
| 科目名        | 総合英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Comprehensive English B   |       |           |
| 担当者名       | 田中 宏明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「総合英語 B」は、主として1回生向けの選択科目です。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。  このクラスは A Visit to Amazing Kansai-based Companies というテキストを使って、関西に本社を持つ12の企業について紹介した文章を読みながら、英語のリーディング力の育成を行います。将来就職活動を行うみなさんが、実在する企業についてのエピソードを英語読解の学習を通して知ること、少しでも「企業」を身近に感じて欲しいと思います。  春学期の「総合英語 A」や「基礎英語 A」で、ある程度「読む力」を身につけたみなさんが、英語を実践的に使ってみることを目的としています。  このテキストの英語本文は、各企業のホームページの英語版を基に作成されていますので、将来のビジネスシーンにおいても有効に活用できると思います。  この授業では、各企業の秘話を読み、練習問題をやりながら、英語の基本的な読解力を養えるように英語学習を進めていきます。  なお、定員は35名です。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | A Visit to Amazing Kansai-based Companies (松柏社)   (英語で知る日本企業秘話)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 辞書 (英和、英英辞典など)。その他授業中に指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 「総合英語 B」では、授業中の発表など授業参加 (20%)、課題提出 (20%)、および定期試験 (60%) の評価を合算して最終評価をします。  |       |           |
| 到達目標       | <p>中学や高校、また春学期で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につける。   秋学期修了までに、英検準2級レベルの英語力を養うことを目標とします。</p>  |       |           |
| 準備学習       | これまでに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②総合英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 ③実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ④英語学習のための設備がある学志館1階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習に励んでください。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1回 Introduction  第 2回 サントリー 水とともに生きる (1)  第 3回 サントリー 水とともに生きる (2)  第 4回 ナベル 卵にこめた祈りと戦い (1)  第 5回 ナベル 卵にこめた祈りと戦い (2)  第 6回 象印マホービン 日常生活思想  第 7回 コクヨ ひらめき・はかどり・ここちよさ  第 8回 紀州技研工業 世界へ飛ばせ、紀州インク  第 9回 コーナン DIY ショップから住まいの総合店へ  第 10回 モンベル 山にいだむー機能美の追求  第 11回 トタニ技研工業 技術を包んで半世紀ー製袋機の未来を拓く  第 12回 サンスター 常に健康の増進と生活文化の向上に奉仕する  第 13回 武田薬品工業 くすりづくりの王道を行く  第 14回 江崎グリコ おいしさと健康  第 15回 まとめと内容確認  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0068B02 |
| 科目名        | 総合英語 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Comprehensive English B   |       |           |
| 担当者名       | 古木 圭子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「総合英語 A」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、日本、アメリカ、イギリス、その他の英語圏の国々が持っている文化を比較し学習しながら、英語を学習してゆきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 川田伸道 著. Know the Differences, Broaden Your World!--Short Readings and Basic Grammar for Cultural Literacy (朝日出版社 1600 円)                    |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英語辞書 (英和・和英) など その他授業中に指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてCDを使用することがあります。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内テスト(70%)、課題、授業への参加状況 (30 %) により総合的に評価します。なお、単位認定には授業回数の3分の2以上の出席が必要です。   |       |           |
| 到達目標       | 高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。                     |       |           |
| 準備学習       | 高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。  |       |           |

#### 受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。|②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しない場合は、減点とします。また、授業には必ず辞書を持参してください。|③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。|④授業外でもなるべく英語を使う機会を増やすために「セリフラーニング室」(英語学習自習室、学志館1階)を使用するようにしてください。|⑤当科目以外にも、できるだけ多くの英語プログラム科目を履修してください。

#### 講義の順序とポイント

以下の各項目を約1回の授業で学習します。|1. 授業方法と評価方法の説明および注意事項| When Do You Eat? --アフタヌーンティーってお茶の時間?—|2. Before You Go to England —イギリスはどこにあるのか—|3. Future of the Shopping Mall—なんでも買えるお店はどこにある?—|4. Basic of Apartment Renting—世界の借家事情—|5. In That Really English?—それってホントに英語なの?—|6. Dining Out: East and West—「私がおごります」は失礼になる時もある?—|7. Careers and Promotions--年功序列と実力主義、どちらがいい?—|8. Bath or Shower? —あなたは風呂派? それともシャワー派?—|9. White=Right?—美白の魔力、白い肌が美しいというのは社会共通か?—|10. Money and Modern Weddings—経済力と結婚の厳しい現実—|11. Subway Around the World—世界の地下鉄を乗りこなそう—|12. Work Hours—生きるために働くのか、働くために生きるのか—|13. Female Leaders—女性と仕事|14. Virtual Reality—視覚と触覚の狭間で—|15. School Years Around the World—新学年は4月から? 9月から?—

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JE0068B03 |
| 科目名        | 総合英語B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Comprehensive English B   |       |           |
| 担当者名       | 浜田 史子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>単語力を増し、英文法事項を確認・理解して、英文読解力を養成し、英語の総合力をつけるのが、このクラスの目標です。 各課では、 ①語彙・文法を確認したうえで、本文を読み内容を把握する。 ②内容に関するチェックやリスニングで理解度を確認する。 当たり前のことですが、こういう地道な作業を繰り返すことで、英語力が向上していくということを理解してもらいたいです。繰り返しのリズムをつけていくことが学習では大切であるということをお学んでもらうのも目標です。また、テキストだけでなく、DVDを使ってリスニング力養成も行う予定です。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 『Practical Reading Expert 基礎強化編』 穴戸真他著 成美堂  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし  |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 復習テスト(中間+期末) (60%)  平常点・提出物・出席状況 (40%)  地道に真面目に努力する人を評価します。   |       |           |
| 到達目標       | 読解・文法・リスニング等の英語の総合力を促進する。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の授業の進む範囲(練習問題も含む)を予習しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自主的、積極的に授業に参加してもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 春学期まとめと秋学期の授業の内容・進め方および成績評価について説明  2 Lesson 13 クラゲ  3 Lesson 14 ガラス職人  4 Lesson 15 ブラジル流サッカー  5 Lesson 16 エディプス・エレクトラ・コンプレックス  6 Lesson 17 Yahoo!!  7 Lesson 18 光公害  8 復習テスト(中間) [予定]  9 Lesson 19 英語の種類  10 Lesson 20 バーチャル・リアリティ  11 Lesson 21 ガイ・フォークス祭り  12 Lesson 22 2030年  13 Lesson 23 宇宙飛行士  14 Lesson 24 安全性テスト用人形  15 復習テスト(期末)   (各回の順番と内容は変更することがあります)</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0071001 |
| 科目名   | 基礎英語 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Basic English 1  |       |           |
| 担当者名  | 諸戸 樹一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「基礎英語 A / B」では、平易な英語教材を使用して、「総合英語 A / B」およびその他の英語プログラム演習科目を学ぶ上で基礎となる英語力を養成する。  「総合英語 A / B」での目標は、英検で準 2 級 (TOEIC ではスコア 400 以上) 目標レベルの英語力を安定化させることにあるが、「基礎英語 A / B」では、そのレベルにはまだ達していない英語力からの向上と安定化をはかる。英語力の基礎の基礎を固めながらも、異文化理解を目的とした内容の教材を用いて、大学生に相応しい教養の涵養もはかる。  このクラスでは、教科書前半部の Lessons にじっくり取り組み、イギリスの日常生活の中に見出される文化や習慣の違いを楽しみながら、英語の基礎力養成を行う。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | Terry O'Brien 他、Good Times: English Daily Life in Easy English (『基礎英語で学ぶイギリス生活』、南雲堂、1,900 円 ※Lessons 1-10  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 英語学習には、英語の辞書 (英和辞典など) が必須である。  |       |           |
| 教材 (その他)  | プリント (ハンドアウト) 教材   |       |           |
| 評価方法  | 応答・発表 / 小テストなどにおける授業内演習評価 (60%) 並びに中間および期末の授業内課題の成果 (40%) で総合的に評価する。なお、出席不良者は評価対象としない。   |       |           |
| 到達目標  | <p>1. 大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得して活用できるようになる。  2. 日常的な話題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する基礎力を身につける。 </p>  |       |           |
| 準備学習  | <p>準備学習   1. 教科書に添付の CD を何度か聴いた後、その音声を真似て実際に声を出して何度も英語を読むこと。つまり、教科書の英語を何度も音読すること。  2. 教科書 Read の英文以外はほぼすべて問題演習となっているので、正解か不正解かにはこだわらず、事前学習段階で自分なりの答えを出しておくこと。 </p>   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>1. 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。  2. 「基礎英語」以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修すること。  3. 英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦すること。  4. 学志館 1 階「セルフラーニング室」を活用して、自習に励むこと。 </p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>下記の順序とポイントは、実際の進度に応じて変更することがある。  1. 演習概要・評価方法説明、基礎力判定テスト   2. A Baby's Name   3. Moving into a New House   4. Taking a Trip   5. A Saleswoman   6. Review   7. 中間課題   8. 中間課題の復習   9. Getting a Driving Licence   10. Holding a Party   11. Choosing a Present   12. Getting Married   13. Review   14. 期末課題   15. 期末課題の復習、春学期のまとめ  </p> |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JE0071002 |
| 科目名        | 基礎英語 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic English 1  |       |           |
| 担当者名       | 西垣 有夏  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 基本的な英文法を学習することで、今後の英語学習、さらに英検や TOEIC といった資格試験へとつなげていくようにします。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定しませんが、大学入学前に使用していた文法書の持ち込みをお勧めします。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和辞典、おすすめは『ジーニアス英和辞典』(第3版)。これ以外であっても高校時代に使用した辞書が本講座で通用する場合がありますので、授業時に担当者に見せてください。電子辞書の使用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の使用は断固として禁止します。 |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (15%) 出席状況等による、課題 (25%)、定期試験 (60%)。なお、全授業回数の3分の1以上欠席した学生は失格となります。  |       |           |
| 到達目標       | 基本的な英文法を理解できるようになることを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 英語アレルギーにならないために、英文をできるかぎり目を通すようにしてください。  |       |           |

#### 受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語習得には継続的な努力が必要です。授業ではどんどん当てていきます。その時どうしても周囲の受講者と英語力を比較してしまいがちですが、自分の英語力の向上だけを考えて取り組むようにしてください。粘った分だけ、失敗の数だけ身に付くもの、それが英語です。|

#### 講義の順序とポイント

以下の内容を原則として1回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。|1.授業の説明、英語の基本一動詞|2.過去から未来へ一時制|3.動詞のオシャレを演出一助動詞|4.脇役じゃないの！一名詞|5.豊かな表現力の持ち主一形容詞|6.どっちがお好き？最も好きなのは？一比較|7.愛するよりも愛されたい一受動態|8.ここまでの復習、演習|9.バラエティーに富む会話のために一不定詞と動名詞|10.英語にあって日本語にないもの一現在完了|11.確認させて！一付加疑問文と間接疑問文|12.英語達人への道一関係代名詞|13.形容詞のようになる！一現在分詞|14.ここまでの復習、演習|15.まとめおよび定期試験準備||

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0071003 |
| 科目名   | 基礎英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Basic English 1   |       |           |
| 担当者名  | 塩田 英子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業では比較的平易な英語教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思っています。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の1シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行ったり、洋楽の歌詞を聞き取る機会も持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEIC や英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や洋楽、新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | Keiichiro Fukui, Nagaki Kitayama and Margaret Yamanaka 著 『Basic English Expressions and Short Readings (リーディングに活かす基礎英語表現)』  Asahi Press(朝日出版社) ¥1,600+税   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 辞書 (英和、英英辞典など)。その他授業中に指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じて、CD や DVD を使用することがあります。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%)：授業態度や出席状況などにより評価します。 中間試験(40%)：授業内に行う中間試験の結果を総合して判断します。 期末試験(40%)：最終回に実施する期末試験の得点から評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的话题および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。  |       |           |
| 準備学習  | 1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に次の授業のための準備学習を指示します。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.英語学習のための設備がある学志館1階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自習に励んでください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 第1回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第2回 Unit 1 + Movie Script I 1 第3回 Unit 2 + Movie Script I 2 第4回 Unit 3 + Movie Script I 3 第5回 Unit 4 + Movie Script I 4 第6回 Unit 5 + Movie Script II 1 第7回 Unit 6 + Movie Script II 2 第8回 中間試験 第9回 Unit 7 + Movie Script II 3 第10回 Unit 8 + Movie Script II 4 第11回 Unit 9 + Movie Script III 1 第12回 Unit 10 + Movie Script III 2 第13回 Unit 11 + Movie Script III 3 第14回 Unit 12+ Movie Script III 4 第15回 まとめと復習 *上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0071004 |
| 科目名   | 基礎英語 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Basic English 1   |       |           |
| 担当者名  | 沖野 真理香  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業は基本的な語彙と文法項目を習得し、コミュニケーション能力を向上させることを目標とします。テキストは基本的な文法項目の理解を深めるための練習問題と、やさしい英語で書かれた長文問題で構成されています。授業では、文法事項の学習から始めて、関連する練習問題に取り組んだ後、リーディングやリスニングを通した各種の練習によって学習事項の確認、定着を図ります。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 佐藤哲三他『English Primer』(南雲堂)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)—出席状況・授業態度・毎回実施する小テストの結果等 課題提出(10%) 中間テスト(10%) 定期(学期末)テスト(50%)  |       |           |
| 到達目標  | ①基本的な文法の知識と基礎レベルの語彙を習得する。 ②やさしい英文が読めて、簡単なコメントを英語で書けるようになる。  |       |           |
| 準備学習  | 授業のはじめに既習範囲に関する小テストを行います。そのため、受講者は授業の復習を毎回充分にしておく必要があります。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ①授業には必ず辞書を持参してください。 ②理解度の確認のために、小テストを毎回行ないますので、受講者は授業以外にも相当量の自宅学習が求められます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 イントロダクション 2 Unit 1 be 動詞 3 Unit 2 一般動詞(現在) 4 Unit 3 一般動詞(過去) 5 Unit 4 進行形 6 Unit 5 未来形  7 Unit 6 助動詞 8 中間テスト 9 Unit 7 名詞・冠詞 10 Unit 8 代名詞  11 Unit 9 前置詞 12 Unit 10 形容詞・副詞  13 Unit 11 比較 14 Unit 12 命令文・感嘆文 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0071005 |
| 科目名  | 基礎英語 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic English 1  |       |           |
| 担当者名   | 西垣 有夏  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 基本的な英文法を学習することで、今後の英語学習、さらに英検や TOEIC といった資格試験へとつなげていくようにします。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定しませんが、大学入学前に使用していた文法書の持ち込みをお勧めします。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和辞典、おすすめは『ジーニアス英和辞典』(第3版)。これ以外であっても高校時代に使用した辞書が本講座で通用する場合がありますので、授業時に担当者に見せてください。電子辞書の使用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の使用は断固として禁止します。 |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (15%) 出席状況等による、課題 (25%)、定期試験 (60%)。なお、全授業回数の3分の1以上欠席した学生は失格となります。  |       |           |
| 到達目標   | 基本的な英文法を理解できるようになることを目標とします。   |       |           |
| 準備学習   | 英語アレルギーにならないために、英文をできるかぎり目を通すようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語習得には継続的な努力が必要です。授業ではどんどん当てていきます。その時どうしても周囲の受講者と英語力を比較してしまいがちですが、自分の英語力の向上だけを考えて取り組むようにしてください。粘った分だけ、失敗の数だけ身に付くもの、それが英語です。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 以下の内容を原則として1回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。 1.授業の説明、英語の基本一動詞 2.過去から未来へ一時制 3.動詞のオシャレを演出一助動詞 4.脇役じゃないの！一名詞 5.豊かな表現力の持ち主一形容詞 6.どっちがお好き？最も好きなのは？一比較 7.愛するよりも愛されたい一受動態 8.ここまでの復習、演習 9.バラエティーに富む会話のために一不定詞と動名詞 10.英語にあって日本語にないもの一現在完了 11.確認させて！一付加疑問文と間接疑問文 12.英語達人への道一関係代名詞 13.形容詞のようになる！一現在分詞 14.ここまでの復習、演習 15.まとめおよび定期試験準備 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0072001 |
| 科目名  | 基礎英語 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic English 2  |       |           |
| 担当者名   | 諸戸 樹一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「基礎英語 A / B」では、平易な英語教材を使用して、「総合英語 A / B」およびその他の英語プログラム演習科目を学ぶ上で基礎となる英語力を養成する。  「総合英語 A / B」での目標は、英検で準 2 級 (TOEIC ではスコア 400 以上) 目標レベルの英語力を安定化させることにあるが、「基礎英語 A / B」では、そのレベルにはまだ達していない英語力からの向上と安定化をはかる。英語力の基礎の基礎を固めながらも、異文化理解を目的とした内容の教材を用いて、大学生に相応しい教養の涵養もはかる。  このクラスでは、教科書後半部の Lessons にじっくり取り組み、イギリスの日常生活の中に見出される文化や習慣の違いを楽しみながら、英語の基礎力養成を行う。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | Terry O'Brien 他、Good Times: English Daily Life in Easy English (『基礎英語で学ぶイギリス生活』、南雲堂、1,900 円 ※Lessons 11-20   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 英語学習には、英語の辞書 (英和辞典など) が必須である。  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント (ハンドアウト) 教材   |       |           |
| 評価方法   | 応答・発表 / 小テストなどにおける授業内演習評価 (60%) 並びに中間および期末の授業内課題の成果 (40%) で総合的に評価する。なお、出席不良者は評価対象としない。   |       |           |
| 到達目標   | <p>1. 大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得して活用できるようになる。  2. 日常的な話題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する基礎力を身につける。 </p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>1. 教科書に添付の CD を何度か聴いた後、その音声を真似て実際に声を出して何度も英語を読むこと。つまり、教科書の英語を何度も音読すること。  2. 教科書 Read の英文以外はほぼすべて問題演習となっているので、正解か不正解かにはこだわらず、事前学習段階で自分なりの答えを出しておくこと。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>1. 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。  2. 「基礎英語」以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修すること。  3. 英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦すること。  4. 学志館 1 階「セルフラーニング室」を活用して、自習に励むこと。 </p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>講義の順序とポイント   下記の順序とポイントは、実際の進度に応じて変更することがある。  1. 演習概要・評価方法説明、基礎力判定テスト   2. Studying Abroad   3. Going Shopping   4. Drinking Alcohol   5. Visiting a Hospital   6. Review   7. 中間課題   8. 中間課題の復習   9. Volunteer Activities   10. Sports   11. Festivals   12. Renting DVDs   13. Review   14. 期末課題   15. 期末課題の復習、秋学期のまとめ   </p> |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JE0072002 |
| 科目名   | 基礎英語B  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Basic English 2  |       |           |
| 担当者名  | 塩田 英子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業では比較的平易な英語教材を使用し、英語の基礎力の定着を目指します。加えて、皆さんが英語に興味を持つためのヒントを提供していきたいとも思っています。たとえばこの授業では毎回、映画を視聴し、その中の1シーンをとりあげてセリフの聞き取りを行ったり、洋楽の歌詞を聞き取る機会も持つ予定です。さらに、英語で書かれた日本の風物についての記事を読み、身近な出来事について英語を通して考える取り組みも行います。皆さんからの希望があれば適宜、TOEICや英検などの資格試験に対応した問題演習を取り入れることも可能です。英語はあまり得意ではないけれど、映画や洋楽、新聞の英語には興味があるという方も大歓迎です。いっしょに英語の世界を楽しみましょう。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | Keiichiro Fukui, Nagaki Kitayama and Margaret Yamanaka 著『Basic English Expressions and Short Readings(リーディングに活かす基礎英語表現)』  Asahi Press(朝日出版社) ¥1,600+税  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 辞書(英和、英英辞典など)。その他授業中に指示します。  |       |           |
| 教材(その他)   | 必要に応じて、CDやDVDを使用することがあります。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%)：授業態度や出席状況などにより評価します。 中間試験(40%)：授業内に行う中間試験の結果を総合して判断します。 期末試験(40%)：最終回に実施する期末試験の得点から評価します。   |       |           |
| 到達目標  | 1.大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着をはかります。 2.さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようにします。 3.日常的话题および社会の身近な問題について、読解、聴解、および伝達する力を身につけます。   |       |           |
| 準備学習  | 1.高校卒業時までに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 2.授業で扱ってほしい映画や洋楽などの題材があればぜひ教えてください。 3.各授業中に次の授業のための準備学習を指示します。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1.英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 2.基礎英語以外にもできるだけ多くの英語プログラム科目を履修するようにしてください。 3.実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 4.英語学習のための設備がある学志館1階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自習に励んでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回 初回オリエンテーション(授業の進め方について等) 第2回 Unit 13 + Movie Script I 1 第3回 Unit 14 + Movie Script I 2 第4回 Unit 15 + Movie Script I 3 第5回 Unit 16 + Movie Script I 4 第6回 Unit 17 + Movie Script II 1 第7回 Unit 18 + Movie Script II 2 第8回 中間試験 第9回 Unit 19 + Movie Script II 3 第10回 Unit 20 + Movie Script II 4 第11回 Unit 21 + Movie Script III 1 第12回 Unit 22 + Movie Script III 2 第13回 Unit 23 + Movie Script III 3 第14回 Unit 24 + Movie Script III 4 第15回 まとめと復習 *上記はあくまでも目安であり、変更の可能性があります。詳細は授業中に指示します。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JE0072003 |
| 科目名  | 基礎英語 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic English 2  |       |           |
| 担当者名   | 西垣 有夏  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかりとっておくことが不可欠です。本講義では英文法の基礎固めを完成させ、今後の英語学習を確実なものとし、TOEIC や英検といった検定試験突破に向かうようにします。            |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特に指定しませんが、大学入学前に使用していた文法書の持ち込みをお勧めします。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 英和辞典、おすすめは『ジーニアス英和辞典』(第3版)。これ以外であっても高校時代に使用した辞書が本講座で通用する場合がありますので、授業時に担当者に見せてください。電子辞書の使用は認めますが、携帯電話などの辞書機能の仕様は断固として禁止します。 |       |           |
| 評価方法   | 平常点(15%)出席状況等による、課題(25%)、定期試験(60%)。なお、全授業回数の3分の1以上欠席した学生は失格となります。  |       |           |
| 到達目標   | 高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めを確実にすることを目標とします。   |       |           |
| 準備学習   | 基本的な文法の復習をしておいてください。日頃から英語に目を通すように心がけてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業では英和辞典必携。受講態度を確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。基本的な英文法に自身のない学生は文法書を持参してください。希望があれば、春学期に西垣が担当した基礎英語 A の教材を差し上げますから自習してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 以下の各項目を約1回の授業で完結しますが、受講者のレベルによって変更もありえます。 1. まずは基本文型の把握を一第2文型、第5文型 2. 十人十色一第1文型、第3文型、第4文型、様々な動詞 3. 過去から未来に架ける橋一時制 4. ここまでの復習、演習 5. 緑の下の力持ち一助動詞  6. マイペース主義者一不定詞 7. 似て非なるもの一動名詞と分詞 8. 比べてみない?一比較級① 9. 比べてみない?一比較級② 10. バカにされてもほめられても一受動態 11. 詳細は後ほど一関係詞① 12. 詳細は後ほど一関係詞② 13. オバケの世界一仮定法① 14. オバケの世界一仮定法② 15. まとめと定期試験準備 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JE0072004 |
| 科目名   | 基礎英語B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Basic English 2   |       |           |
| 担当者名  | 沖野 真理香  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | この授業は基本的な語彙と文法項目を習得し、コミュニケーション能力を向上させることを目標とします。テキストは基本的な文法項目の理解を深めるための練習問題と、やさしい英語で書かれた長文問題で構成されています。授業では、文法事項の学習から始めて、関連する練習問題に取り組んだ後、リーディングやリスニングを通じた各種の練習によって学習事項の確認、定着を図ります。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 佐藤哲三他『English Primer』(南雲堂)  |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)—出席状況・授業態度・毎回実施する小テストの結果等 課題提出(10%) 中間テスト(10%) 定期(学期末)テスト(50%)  |       |           |
| 到達目標  | ①基本的な文法の知識と基礎レベルの語彙を習得する。 ②やさしい英文が読めて、簡単なコメントを英語で書けるようになる。  |       |           |
| 準備学習  | 授業のはじめに既習範囲に関する小テストを行います。そのため、受講者は授業の復習を毎回充分にしておく必要があります。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ①授業には必ず辞書を持参してください。 ②理解度の確認のために、小テストを毎回行ないますので、受講者は授業以外にも相当量の自宅学習が求められます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 イントロダクション 2 Unit 13 接続詞(I) 3 Unit 14 不定詞(I)・動名詞(I) 4 Unit 15 受動態 5 Unit 15 受動態  6 Unit 16 現在完了形 7 Unit 17 接続詞(II) 8 中間テスト 9 Unit 18 5つの基本文型 10 Unit 19 各種疑問文 11 Unit 20 不定詞(II) 12 Unit 21 It の特別用法復習 13 Unit 22 分詞・動名詞(II) 14 Unit 23 関係代名詞 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0001A01 |
| 科目名        | 入門スペイン語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Spanish (s)   |       |           |
| 担当者名       | 中川 節子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>“スペイン”というと、皆さんはどんなことを連想するでしょうか？ サッカー、闘牛、フラメンコ、情熱…etc.あるいは、「スペインってどこにあるの？」と思う人もいるでしょう。 スペインは、ヨーロッパの西の端イベリア半島にあり、首都はマドリッド、国の面積はほとんど日本と同じくらいです。ヨーロッパの中では、温暖で「太陽の国」ともいわれます。最近では、レアルマドリッド、バルセロナなど、スペインサッカーリーグでも有名です。 また、スペイン語はスペインだけでなく、中南米のほとんどの国や、アメリカ合衆国でも話される言葉でもあります。 ここにあげた事はスペインやスペイン語のほんの一部、ごく表面的なことです。授業では、スペイン語のABCから学ぶだけでなく、視聴覚教材を用いてスペインやその言語圏の国々についても学んでいきます。 今まで、知らなかった国や文化を知ることができ、視野が広がることでしょう。 Vamos a estudiar juntos. 一緒に勉強しましょう!!</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『スペイン語のABC』 坂東省次・中川節子著 第三書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『プログレッシブスペイン語辞典』 小学館  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、授業態度、小テスト、期末試験から総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 簡単な受け答えや旅行で使う府フレーズを中心に学習し、スペイン語検定5~4級を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 特に必要なし。復習に重点をおき、自習されたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初めて学ぶ言葉なので、とにかく出席して欲しい。新しい言葉を学ぶことは楽しい感じられるだろう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 導入、発音 2. あいさつ、出身 3. カルメンはスペイン人です。 4. これは何ですか？ 5. 駅はどこにありますか？ 6. 私はコーヒーを飲みます。 7. お昼は何を食べる？ 8. 冷蔵庫に何がありますか？ 9. どこに住んでいますか？ 10. 曜日・日付 11. マドリッド行の電車は何時に出ますか？ 12. 時刻 13. どうした？ー頭が痛いんです。 14. 日曜日は何をするの？ー友達とサッカーをするんだ。 15. まとめ</p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0001A02 |
| 科目名        | 入門スペイン語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Spanish (s)   |       |           |
| 担当者名       | 中川 節子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>“スペイン”というと、皆さんはどんなことを連想するでしょうか？ サッカー、闘牛、フラメンコ、情熱…etc.あるいは、「スペインってどこにあるの？」と思う人もいるでしょう。 スペインは、ヨーロッパの西の端イベリア半島にあり、首都はマドリッド、国の面積はほとんど日本と同じくらいです。ヨーロッパの中では、温暖で「太陽の国」ともいわれます。最近では、レアルマドリッド、バルセロナなど、スペインサッカーリーグでも有名です。 また、スペイン語はスペインだけでなく、中南米のほとんどの国や、アメリカ合衆国でも話される言葉でもあります。 ここにあげた事はスペインやスペイン語のほんの一部、ごく表面的なことです。授業では、スペイン語のABCから学ぶだけでなく、視聴覚教材を用いてスペインやその言語圏の国々についても学んでいきます。 今まで、知らなかった国や文化を知ることができ、視野が広がることでしょう。 Vamos a estudiar juntos. 一緒に勉強しましょう!!</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『スペイン語のABC』 坂東省次・中川節子著 第三書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『プログレッシブスペイン語辞典』 小学館  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、授業態度、小テスト、期末試験から総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 簡単な受け答えや旅行で使う府フレーズを中心に学習し、スペイン語検定5~4級を目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 特に必要なし。復習に重点をおき、自習されたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初めて学ぶ言葉なので、とにかく出席して欲しい。新しい言葉を学ぶことは楽しい感じられるだろう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 導入、発音 2. あいさつ、出身 3. カルメンはスペイン人です。 4. これは何ですか？ 5. 駅はどこにありますか？ 6. 私はコーヒーを飲みます。 7. お昼は何を食べる？ 8. 冷蔵庫に何がありますか？ 9. どこに住んでいますか？ 10. 曜日・日付 11. マドリッド行の電車は何時に出ますか？ 12. 時刻 13. どうした？ー頭が痛いんです。 14. 日曜日は何をするの？ー友達とサッカーをするんだ。 15. まとめ</p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0001B0A |
| 科目名        | 入門スペイン語 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Spanish (f)   |       |           |
| 担当者名       | 中川 節子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>“スペイン”というと、皆さんはどんなことを連想するでしょうか？ サッカー、闘牛、フラメンコ、情熱…etc.あるいは、「スペインってどこにあるの？」と思う人もいるでしょう。 スペインは、ヨーロッパの西の端イベリア半島にあり、首都はマドリッド、国の面積はほとんど日本と同じくらいです。ヨーロッパの中では、温暖で「太陽の国」ともいわれます。最近では、レアルマドリッド、バルセロナなど、スペインサッカーリーグでも有名です。 また、スペイン語はスペインだけでなく、中南米のほとんどの国や、アメリカ合衆国でも話される言葉でもあります。 ここにあげた事はスペインやスペイン語のほんの一部、ごく表面的なことです。授業では、スペイン語のABCから学ぶだけでなく、視聴覚教材を用いてスペインやその言語圏の国々についても学んでいきます。 今まで、知らなかった国や文化を知ることができ、視野が広がることでしょう。 Vamos a estudiar juntos. 一緒に勉強しましょう！ </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『スペイン語のABC』 坂東省次・中川節子著 第三書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『プログレッシブスペイン語辞典』 小学館  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、授業態度、小テスト、期末試験などから総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 簡単な受け答えや旅行で使うフレーズを中心に学習し、スペイン語検定5～4級を目指す。   |       |           |
| 準備学習       | 特に必要なし。復習に重点をおき、自習されたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初めて学ぶ言葉なので、とにかく出席して欲しい。新しい言葉を知ることが楽しいことだとわかってもらえるでしょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 導入,発音   2. あいさつ, 出身   3. カルメンはスペイン人です。  4. これは何ですか。  5. 駅はどこにあります。道をたずねる   6. 私はコーヒーを飲みます。 カフェテリアでの会話   7. お昼は何を食べる？ レストランでの会話   8. 冷蔵庫には何がありますか？   9. どこに住んでいますか？   10. 曜日・日付   11. 時刻   12. マドリッド行きの電車は何時に出ますか？   13. どうしたの？-頭が痛いんです。  14.日曜日の何をするの？-友達とサッカーをするんだ。  15.まとめ   </p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0001B0B |
| 科目名        | 入門スペイン語 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Spanish (f)   |       |           |
| 担当者名       | 中川 節子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>“スペイン”というと、皆さんはどんなことを連想するでしょうか？ サッカー、闘牛、フラメンコ、情熱…etc.あるいは、「スペインってどこにあるの？」と思う人もいるでしょう。 スペインは、ヨーロッパの西の端イベリア半島にあり、首都はマドリッド、国の面積はほとんど日本と同じくらいです。ヨーロッパの中では、温暖で「太陽の国」ともいわれます。最近では、レアルマドリッド、バルセロナなど、スペインサッカーリーグでも有名です。 また、スペイン語はスペインだけでなく、中南米のほとんどの国や、アメリカ合衆国でも話される言葉でもあります。 ここにあげた事はスペインやスペイン語のほんの一部、ごく表面的なことです。授業では、スペイン語のABCから学ぶだけでなく、視聴覚教材を用いてスペインやその言語圏の国々についても学んでいきます。 今まで、知らなかった国や文化を知ることができ、視野が広がることでしょう。 Vamos a estudiar juntos. 一緒に勉強しましょう!!</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『スペイン語のABC』 坂東省次・中川節子著 第三書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『プログレッシブスペイン語辞典』 小学館  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリント配布  |       |           |
| 評価方法       | 出席状況、授業態度、小テスト、期末試験などから総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 簡単な受け答えや旅行で使うフレーズを中心に学習し、スペイン語検定5~4級を目指す。   |       |           |
| 準備学習       | 特に必要なし。復習に重点をおき、自習されたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初めて学ぶ言葉なので、とにかく出席して欲しい。新しい言葉を知るとは楽しいことだとわかってもらえるでしょう。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 導入,発音   2. あいさつ, 出身   3. カルメンはスペイン人です。  4. これは何ですか。  5. 駅はどこにあります。道をたずねる   6. 私はコーヒーを飲みます。 カフェテリアでの会話   7. お昼は何を食べる? レストランでの会話   8. 冷蔵庫には何がありますか?   9. どこに住んでいますか?   10. 曜日・日付   11. 時刻   12. マドリッド行きの電車は何時に出ますか?   13. どうしたの?-頭が痛いんです。  14.日曜日の何をするの?-友達とサッカーをするんだ。  15.まとめ   </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |     |       |        |
|---|--|-------|------------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JH0004A01  |     |       |        |
| 科目名   | 入門ドイツ語 s   | 単位数   | 2          |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Basic German (s)   |       |            |     |       |        |
| 担当者名  | 奥村 哲夫  | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 A s |     |       |        |
| 講義概要  | ドイツの若者3人が織りなす日常生活を生き生きと描いたストーリーです。このテキストは実際にドイツ国内で撮影され、映像に収められた贅沢なものです。「読み、話し、聴く」の3方面から総合的に、映像の助けを借りて学習ができるようになっています。  また、ここで、現代ドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックについての情報も得られるよう、テキストが構成されているので、ご期待ください。 |       |            |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | 荻野蔵平他著 『ぼくらの未来－映像と会話で学ぶ初級ドイツ語』 (CD、DVD 付き) 朝日出版社 2625円   |       |            |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 在間 進著 『ゼロから始めるドイツ語』 三修社 1600円+税  |       |            |     |       |        |
| 教材 (その他)  | 根本道也他著 『新アポロン独和辞典』 同学社 4000円 (税込)  (必ずしもこの辞書でなくても勿論よろしい。とにかく自分と相性の合うものを入手しなさい。)  |       |            |     |       |        |
| 評価方法  | 出席や予復習も含めた授業への参加度・貢献度 (40%)、定期試験 (30%)、授業内小テスト (20%)、宿題 (10%)  必ずしもこれはそれほど厳密なものではない。   |       |            |     |       |        |
| 到達目標  | 異文化を理解する。言葉は文化を担うものであり、そのために、ここで、将来のためにドイツ語の最初歩を学んでおく。   |       |            |     |       |        |
| 準備学習  | CD や DVD という強い味方がついているのだ。これを活用しない手はない。フル活用して講義に臨もう。語学でなによりも大切なのは、間断なく『予復習する』、という素朴なこと。一心不乱に励んでみよ。  |       |            |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |            |     |       |        |
| 意欲、明朗さ、大きな発声。そして常時の出席、無遅刻が肝要。情熱的に取り組んでいただきたい。意欲なき者には退去を命ずることもある。  |  |       |            |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |     |       |        |
| (各課に大体3回程かける。)   1. 授業の方針説明 アルファベット 発音等   2. 同上   3. 第1課 「君はレーナを知っているかい？」 人称と動詞の現在人称変化、定動詞の位置、動詞 sein / 音楽   4. 同上   5. 同上   6. 第2課 「ボールペンを持ってる？」 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格、動詞 haben / 教育制度   7. 同上   8. 同上   9. 第3課 「ボールを持ってる？」 名詞の複数形、複数名詞の格、男性弱変化名詞 / スポーツ   10. 同上   11. 第4課 「僕は君にフライドポテトを持ってきてあげる。」 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden / ファーストフード   12. 同上   13. 第5課 「僕は町へ行く」 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形、da[r]/wo[r] +前置詞 / 友だち   14. 同上   15. 同上 |  |       |            |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力        | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○  | ○     | ○          | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |            |     |       |        |

|   |  |       |            |     |       |        |
|---|--|-------|------------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JH0004A02  |     |       |        |
| 科目名   | 入門ドイツ語 s   | 単位数   | 2          |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Basic German (s)   |       |            |     |       |        |
| 担当者名  | 奥村 哲夫  | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 A s |     |       |        |
| 講義概要  | ドイツの若者3人が織りなす日常生活を生き生きと描いたストーリーです。このテキストは実際にドイツ国内で撮影され、映像に収められた贅沢なものです。「読み、話し、聴く」の3方面から総合的に、映像の助けを借りて学習ができるようになっています。  また、ここで、現代ドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックについての情報も得られるよう、テキストが構成されているので、ご期待ください。 |       |            |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | 荻野蔵平他著 『ぼくらの未来－映像と会話で学ぶ初級ドイツ語』 (CD、DVD 付き) 朝日出版社 2625円   |       |            |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 在間 進著 『ゼロから始めるドイツ語』 三修社 1600円+税  |       |            |     |       |        |
| 教材 (その他)  | 根本道也他著 『新アポロン独和辞典』 同学社 4000円 (税込)  (必ずしもこの辞書でなくても勿論よろしい。とにかく自分と相性の合うものを入手しなさい。)  |       |            |     |       |        |
| 評価方法  | 出席や予復習も含めた授業への参加度・貢献度 (40%)、定期試験 (30%)、授業内小テスト (20%)、宿題 (10%)  必ずしもこれはそれほど厳密なものではない。   |       |            |     |       |        |
| 到達目標  | 異文化を理解する。言葉は文化を担うものであり、そのために、ここで、将来のためにドイツ語の最初歩を学んでおく。   |       |            |     |       |        |
| 準備学習  | CD や DVD という強い味方がついているのだ。これを活用しない手はない。フル活用して講義に臨もう。語学でなによりも大切なのは、間断なく『予復習する』、という素朴なこと。一心不乱に励んでみよ。  |       |            |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |            |     |       |        |
| 意欲、明朗さ、大きな発声。そして常時の出席、無遅刻が肝要。情熱的に取り組んでいただきたい。意欲なき者には退去を命ずることもある。  |  |       |            |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |     |       |        |
| (各課に大体3回程かける。)   1. 授業の方針説明 アルファベット 発音等   2. 同上   3. 第1課 「君はレーナを知っているかい？」 人称と動詞の現在人称変化、定動詞の位置、動詞 sein / 音楽   4. 同上   5. 同上   6. 第2課 「ボールペンを持ってる？」 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格、動詞 haben / 教育制度   7. 同上   8. 同上   9. 第3課 「ボールを持ってる？」 名詞の複数形、複数名詞の格、男性弱変化名詞 / スポーツ   10. 同上   11. 第4課 「僕は君にフライドポテトを持ってきてあげる。」 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden / ファーストフード   12. 同上   13. 第5課 「僕は町へ行く」 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形、da[r]/wo[r] +前置詞 / 友だち   14. 同上   15. 同上 |  |       |            |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力        | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○  | ○     | ○          | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |            |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JH0004B0A  |
| 科目名  | 入門ドイツ語 f   | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)   | Basic German (f)   |       |            |
| 担当者名   | 奥村 哲夫  | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 A f |
| 講義概要   | ドイツの若者3人が織りなす日常生活を生き生きと描いたストーリーです。 このテキストは実際にドイツ国内で撮影され、映像におさめられたという贅沢なものです。 「読み、話し、聴く」の3方面から総合的に、映像の助けを借りて学習ができるようになっています。  また、現代ドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックについての情報も得られるよう、ドイツの生活や文化の多方面に渡って紹介していくつもりです。 |       |            |
| 教材 (テキスト)  | 荻野蔵平他著 『ぼくらの未来—映像と会話で学ぶ初級ドイツ語』 (CD、DVD 付) 朝日出版社 2625 円   |       |            |
| 教材 (参考文献)  | 在間 進著 『ゼロから始めるドイツ語』 三修社 1600 円+税   |       |            |
| 教材 (その他)   | 根本 道也他著 『新アポロン独和辞典』 同人社 4000円 (税込)  これを薦めるが、勿論、これ以外の辞書でもよい。自分と相性がいいと思ったものを使いなさい。   |       |            |
| 評価方法   | 出席や予復習も含めた授業への参加度・貢献度 (40%)、定期試験 (30%)、授業内小テスト (20%)、宿題 (10%)。 これはあまり厳密なものではない。  |       |            |
| 到達目標   | 異文化を理解すること。言葉は文化を担うものであり、そのために、ここで、将来のためにドイツ語の最初歩を学んでおく。   |       |            |
| 準備学習   | CD や DVD という強い味方がついている。これを活用しない手はない。フル活用して講義に臨もう。語学学習でなによりも大切なことは、「予復習を欠かさない」という素朴なこと。一心不乱に励め。   |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| 意欲、明朗、大きな発声。そして常時の出席と無遅刻が肝要です。楽しく、情熱的にとりくみましょう。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| (各課に大体2回程かける)   1. 第6課 「君のケータイ電話はこわれていないよ。」 定冠詞類、不定冠詞類、否定の nicht, 否定冠詞 kein / 携帯電話   2. 同上   3. 第7課 「パーティーは8時に始まるわ。」 分離動詞 非分離動詞 副文 従属接続詞 / パーティー   4. 同上   5. 第8課 「レストランでは喫煙してはいけません。」 話法の助動詞 未来形 / タバコは18歳、アルコールは16歳から   6. 同上   7. 第9課 「旅は素敵だった？」 動詞の3基本形 過去人称変化 / 休暇   8. 同上   9. 第10課 「私はそれを28時間でやっつてのけたわ。」 現在完了 非人称の es / 運転免許   10. 同上   11. 第11課 「高い家賃を払わなきゃならないの？」 形容詞の語尾変化 比較級 最上級 / ハウスシェア   12. 同上   13. 第12課 「私は子供たちにかかわるのが好きよ。」 受動態 再帰代名詞 再帰動詞 / 大学制度   14. 同上   15. 総括 |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JH0004B0B  |
| 科目名   | 入門ドイツ語 f   | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)  | Basic German (f)   |       |            |
| 担当者名  | 奥村 哲夫  | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 A f |
| 講義概要  | ドイツの若者3人が織りなす日常生活を生き生きと描いたストーリーです。 このテキストは実際にドイツ国内で撮影され、映像におさめられたという贅沢なものです。 「読み、話し、聴く」の3方面から総合的に、映像の助けを借りて学習ができるようになっています。  また、現代ドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックについての情報も得られるよう、ドイツの生活や文化の多方面に渡って紹介していくつもりです。 |       |            |
| 教材 (テキスト)   | 荻野蔵平他著 『ぼくらの未来—映像と会話で学ぶ初級ドイツ語』(CD、DVD 付) 朝日出版社 2625 円  |       |            |
| 教材 (参考文献)   | 在間 進著 『ゼロから始めるドイツ語』 三修社 1600 円+税   |       |            |
| 教材 (その他)  | 根本 道也他著 『新アポロン独和辞典』 同人社 4000 円(税込) これを薦めるが、勿論、これ以外の辞書でもよい。自分と相性がいいと思ったものを使いなさい。  |       |            |
| 評価方法  | 出席や予復習も含めた授業への参加度・貢献度(40%)、定期試験(30%)、授業内小テスト(20%)、宿題(10%)。これはあまり厳密なものではない。   |       |            |
| 到達目標  | 異文化を理解すること。言葉は文化を担うものであり、そのために、ここで、将来のためにドイツ語の最初歩を学んでおく。   |       |            |
| 準備学習  | CD や DVD という強い味方がついている。これを活用しない手はない。フル活用して講義に臨もう。語学学習でなによりも大切なことは、「予復習を欠かさない」という素朴なこと。一心不乱に励め。   |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 意欲、明朗、大きな発声。そして常時の出席と無遅刻が肝要です。楽しく、情熱的にとりくみましょう。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| (各課に大体2回程かける)  1. 第6課 「君のケータイ電話はこわれていないよ。」 定冠詞類、不定冠詞類、否定の nicht, 否定冠詞 kein / 携帯電話   2. 同上  3. 第7課 「パーティーは8時に始まるわ。」 分離動詞 非分離動詞 副文 従属接続詞 / パーティー  4. 同上  5. 第8課 「レストランでは喫煙してはいけません。」 話法の助動詞 未来形 / タバコは18歳、アルコールは16歳から   6. 同上  7. 第9課 「旅は素敵だった？」 動詞の3基本形 過去人称変化 / 休暇   8. 同上   9. 第10課 「私はそれを28時間でやっただけだわ。」 現在完了 非人称の es / 運転免許   10. 同上  11. 第11課 「高い家賃を払わなきゃならないの？」 形容詞の語尾変化 比較級 最上級 / ハウスシェア   12. 同上   13. 第12課 「私は子供たちにかかわるのが好きよ。」 受動態 再帰代名詞 再帰動詞 / 大学制度  14. 同上  15. 総括 |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JH0005A01  |
| 科目名   | 入門ドイツ語会話 s   | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)  | Basic German Conversation (s)  |       |            |
| 担当者名  | 熊谷 知実  | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 B f |
| 講義概要  | 簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をする練習をします。最低限の文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ゲームや音楽、ビデオ教材をとりいれて、楽しく、無理なく、ドイツ語の発音に親しんでいくことを、この授業ではめざします。 |       |            |
| 教材 (テキスト)   | 秋田静雄 他著『ドイツ語インフォメーション【新改訂版】』 朝日出版社 2400 円+税  |       |            |
| 教材 (参考文献)   |  |       |            |
| 教材 (その他)  | ビデオ教材を利用し、プリントは適宜配布する。   |       |            |
| 評価方法  | 語学は毎週の積み重ねが大切なので、平常点 (60%) 出席状況等による。加えて定期テスト 40%   |       |            |
| 到達目標  | 異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。   |       |            |
| 準備学習  | 授業時間内に覚えた表現を、自宅で声に出しながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。   |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| 1 発音の基礎 (1)   2 発音の基礎 (2)   3 簡単な挨拶   4 電話番号をさく   5 名前や出身をたずねる   6 趣味をたずねる   7 「私」と「君」で対話する復習   8 名詞の性   9 持ち物を確認する   10 買物をする   11 欧州の国と言語   12 旅行計画   13 カフェで注文する   14 レストランで注文する   15 「私」と「あなた」で対話する復習 |  |       |            |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |            |
|---|---|-------|------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JH0005B0A  |
| 科目名   | 入門ドイツ語会話 f  | 単位数   | 2          |
| 科目名 (英語表記)  | Basic German Conversation (f)   |       |            |
| 担当者名  | 熊谷 知実   | 旧科目名称 | 入門ドイツ語 B f |
| 講義概要  | 前期に引き続いて、ドイツ語で会話をする練習をします。様々なシーンで使える表現や語彙を、さらに増やしていく予定です。ゲームや音楽、ビデオ教材をとりいれながら、実践的なコミュニケーションを楽しく学ぶことを、後期の授業では目指していきます。 |       |            |
| 教材 (テキスト)   | 秋田静雄 他著『ドイツ語インフォメーション【新改訂版】』 朝日出版社 2400 円+税   |       |            |
| 教材 (参考文献)   |   |       |            |
| 教材 (その他)  | ビデオ教材を利用し、プリントは適宜配布する。  |       |            |
| 評価方法  | 語学は毎週の積み重ねが大切なので、平常点 (60%) 出席状況等による。加えて定期テスト 40%  |       |            |
| 到達目標  | 異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、現代社会に必要なドイツ語力の基礎を習得する。  |       |            |
| 準備学習  | 授業時間内に覚えた表現を、自宅で声に出しながら復習すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業では毎回、前回の復習から入ります。  |       |            |
| 受講者への要望   |   |       |            |
| 語学は積み重ねが大事。とにかく出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。一年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身につけているはずです。  |   |       |            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |            |
| 1 前期の復習:「私」と「君」で対話する 2 前期の復習:「私」と「あなた」で対話する 3 天候や気候 4 友人の家に電話をかける 5 国際電話をかける 6 駅はどこか 7 道案内 8 電話で様々な対話を展開させる復習 9 ホテルを予約する 10 ホテルにチェックインする 11 何時に列車は出るのか 12 乗車券を購入する 13 何に興味があるか 14 感想を伝える 15 旅行会話の復習 |   |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0007A01 |
| 科目名        | 入門ハングル s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Korean (s)   |       |           |
| 担当者名       | 李 雨洲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ハングルを習い始めた初歩の段階。 前半は基礎の授業と連携して文字と発音を行う。 後半は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、 場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では言葉 (韓国語) だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。      |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 金順玉・阪堂千津子著 「新チャレンジ! 韓国語」 白水社、2300 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 朱信源 編著 「標準 日韓・韓日コンパクト辞典」 白帝社   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオや CD 教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 日常点(出席状況, 授業への参加姿勢、課題など) 60%, テスト 40%,   |       |           |
| 到達目標       | 発音・文字 (ハングル) の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。                                     |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 異文化 (言葉、文化) に対する知的好奇心と理解心を持つこと。 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がける事。 韓国語は、構造の面において日本語と類似しており、日本語話者にとっては学習しやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができますので、ぜひ頑張って下さい。" |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 韓国語について   2. 基本母音   3~5. 基本子音   6~7. 総合母音   8~9. パッチム   10~12 自己紹介の表現   「私は~です/ですか」   13~14. 有、無しの表現   「時間ありますか」   15. 整理と確認                  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0007A02 |
| 科目名        | 入門ハングル s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Korean (s)   |       |           |
| 担当者名       | 李 雨洲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ハングルを習い始めた初歩の段階。 前半は基礎の授業と連携して文字と発音を行う。 後半は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、 場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では言葉 (韓国語) だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。      |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 金順玉・阪堂千津子著 「新チャレンジ! 韓国語」 白水社、2300 円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 朱信源 編著 「標準 日韓・韓日コンパクト辞典」 白帝社   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオや CD 教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 日常点(出席状況, 授業への参加姿勢、課題など) 60%, テスト 40%,   |       |           |
| 到達目標       | 発音・文字 (ハングル) の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。                                     |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 異文化 (言葉、文化) に対する知的好奇心と理解心を持つこと。 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がける事。 韓国語は、構造の面において日本語と類似しており、日本語話者にとっては学習しやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができますので、ぜひ頑張って下さい。" |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 韓国語について   2. 基本母音   3~5. 基本子音   6~7. 総合母音   8~9. パッチム   10~12 自己紹介の表現   「私は~です/ですか」   13~14. 有、無しの表現   「時間ありますか」   15. 整理と確認                  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | JH0007B0A |     |       |        |
| 科目名                                     | 入門ハングル f  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Basic Korean (f)  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 李 雨洲  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | ハングルを習い始めた初歩の段階。 前半は基礎の授業と連携して文字と発音を行う。 後半は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、 場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では言葉(韓国語)だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。                 |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)                                | 金順玉・阪堂千津子著「新チャレンジ!韓国語」白水社、2300円   |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)                                | 朱信源 編著「標準 日韓・韓日コンパクト辞典」白帝社  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)                                 | ビデオやCD教材を活用する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 日常点(出席状況、授業への参加姿勢、課題など)60%、テスト40%、  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 発音・文字(ハングル)の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 異文化(言葉、文化)に対する知的好奇心と理解心を持つこと。 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がける事。 韓国語は、構造の面において日本語と類似しており、日本語話者にとっては学習しやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができますので、ぜひ頑張って下さい。"            |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. 春学期復習 2~3. それは何ですか  職業、趣味の表現 4~5. 尊敬形の作り方 6~7. 日曜日に何をしますか。  うちとけた「です・ます」の作り方 8~9. 数字に楽しもう 10~12. 何が好きですか。  変則用言 13~14. 週末に何をしましたか。  過去形の作り方  15. 整理と確認 |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力  | 協働能力  | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | JH0007B0B |     |       |        |
| 科目名                                     | 入門ハングル f   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Basic Korean (f)   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 李 雨洲   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | ハングルを習い始めた初歩の段階。 前半は基礎の授業と連携して文字と発音を行う。 後半は、慣用的な言い回しを用いた挨拶や自己紹介、 場面や状況に応じての質問・依頼・対応、数にまつわる表現などを学習する。 授業では言葉 (韓国語) だけではなく、韓国の文化や生活についても紹介する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 金順玉・阪堂千津子著 「新チャレンジ! 韓国語」 白水社, 2300 円   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | 朱信源 編著 「標準 日韓・韓日コンパクト辞典」 白帝社   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | ビデオや CD 教材を活用する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 日常点(出席状況, 授業への参加姿勢、課題など) 60%, テスト 40%,   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 発音・文字 (ハングル) の練習を十分に行った上、基本的な表現を使って簡単な文章を作る。 簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになる。 韓国の文化・生活などを紹介し、異文化に対する理解を深める。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を知らせる。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 異文化 (言葉、文化) に対する知的好奇心と理解心を持つこと。 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がける事。 韓国語は、構造の面において日本語と類似しており、日本語話者にとっては学習しやすい言語です。 入門韓国語を勉強しただけでも、旅先での簡単な会話ができますので、ぜひ頑張って下さい。"   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. 春学期復習   2 ~ 3. それは何ですか   職業、趣味の表現   4 ~ 5.<br>尊敬形の作り方   6 ~ 7. 日曜日に何をしますか。   うちとけた「です・ます」の作り方   8 ~ 9.<br>数字に楽しもう   10 ~ 12. 何が好きですか。   変則用言   13 ~ 14. 週末に何をしましたか。  <br>過去形の作り方   15 整理と確認 |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働能力  | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0010A01 |
| 科目名        | 入門フランス語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (s)  |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | フランス語は、英語のようにすでに学生が高校時代から学んでいる言語ではなく、全く初めて学ぶのが普通であるから、まずフランス語の背景にあるフランス文化を理解することが必要である。そのため、フランス文化の粋を示す都、パリの案内をしながら、自然にフランス語に親しむことが有益である。パリの歴史や生活を説明しながら、フランス語の発音や表現を学ぶ。会話ができることを目標にする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 福井芳男著『Un petit tour dans Paris』朝日出版社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『クラウン仏和辞典』三省堂   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価(50%)する。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。フランス語の会話ができるようになることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義では、つぎのような順序で「パリものがたり」を見てゆきたい。 そのなかで、フランス文化とフランス語の関係を説明する。<br> 1. 講義の説明 2~3. パリの発祥地シテ島 4~6. カルチェラタン (学生街) のサン・ミシェル大通り 7~9. セーヌ河右岸 10~12. パリの交通手段 13~15. ルーブル美術館                        |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0010A02 |
| 科目名        | 入門フランス語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (s)  |       |           |
| 担当者名       | 阪上 進一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。「やさしいフランス語」というタイトルの通り、このテキストは、基本的な単語や動詞を身近な会話や練習問題の中で繰り返して使うことにより、フランス語の基礎がゆるやかに定着していけるように作成されている。既に日本語で聞き覚えのあるような身近なフランス語から学習し始めることにより、初めて接するフランス語や発音への戸惑いも徐々に解消し、フランス語への理解や関心がさらに深まってゆくものと期待している。  折に触れ、パリやフランスの風景等のビデオを紹介したり、フランスの風俗や習慣等についても言及することにより、広い意味でのフランス文化への関心を広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆきたい。なお途中で、テキストで使われている単語を小冊子にして配布する予定である。尚、授業の後半で、自己紹介のレポートを作成する。 </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標       | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 : 授業の進め方や評価の仕方等の説明、辞書等の紹介、アルファベットの発音。  2 : アルファベットの発音、綴り字の読み方と単母音字の発音、名詞。  3 : 複母音字の発音。1 課 : 名詞と不定冠詞。  4 : 鼻母音の発音。1 課 : 名詞と部分冠詞。  5 : 子音字の発音。1 課 : 名詞と提示の表現①。  6 : 発音上の規則の説明。2 課 : 定冠詞、主語の人称代名詞。  7 : 挨拶の表現。2 課 : 第 1 群規則変化動詞の説明と練習。  8 : 2 課 : 第 1 群規則変化動詞の練習、提示の表現②。  9 : 3 課 : 動詞 (avoir) の練習。数字 (1 ~ 10)。年齢の言い方。  10 : 3 課 : 疑問文と否定文の作り方、子供の会話の練習。  11 : 4 課 : 動詞 (?tre) の練習。指示形容詞。  12 : 4 課 : 所有形容詞の説明、ホテルでの会話練習。  13 : 5 課 : 形容詞の性数変化の説明と練習。  14 : 5 課 : プティックでの会話練習。自己紹介の表現とレポートの説明。  15 : 春学期のまとめと復習 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0010A03 |
| 科目名        | 入門フランス語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (s)  |       |           |
| 担当者名       | 阪上 進一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。「やさしいフランス語」というタイトルの通り、このテキストは、基本的な単語や動詞を身近な会話や練習問題の中で繰り返して使うことにより、フランス語の基礎がゆるやかに定着していけるように作成されている。既に日本語で聞き覚えのあるような身近なフランス語から学習し始めることにより、初めて接するフランス語や発音への戸惑いも徐々に解消し、フランス語への理解や関心がさらに深まってゆくものと期待している。  折に触れ、パリやフランスの風景等のビデオを紹介したり、フランスの風俗や習慣等についても言及することにより、広い意味でのフランス文化への関心を広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆきたい。なお途中で、テキストで使われている単語を小冊子にして配布する予定である。尚、授業の後半で、自己紹介のレポートを作成する。 </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標       | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 : 授業の進め方や評価の仕方等の説明、辞書等の紹介、アルファベットの発音。  2 : アルファベットの発音、綴り字の読み方と単母音字の発音、名詞。  3 : 複母音字の発音。1 課 : 名詞と不定冠詞。  4 : 鼻母音の発音。1 課 : 名詞と部分冠詞。  5 : 子音字の発音。1 課 : 名詞と提示の表現①。  6 : 発音上の規則の説明。2 課 : 定冠詞、主語の人称代名詞。  7 : 挨拶の表現。2 課 : 第 1 群規則変化動詞の説明と練習。  8 : 2 課 : 第 1 群規則変化動詞の練習、提示の表現②。  9 : 3 課 : 動詞 (avoir) の練習。数字 (1 ~ 10)。年齢の言い方。  10 : 3 課 : 疑問文と否定文の作り方、子供の会話の練習。  11 : 4 課 : 動詞 (?tre) の練習。指示形容詞。  12 : 4 課 : 所有形容詞の説明、ホテルでの会話練習。  13 : 5 課 : 形容詞の性数変化の説明と練習。  14 : 5 課 : プティックでの会話練習。自己紹介の表現とレポートの説明。  15 : 春学期のまとめと復習 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0010A04 |
| 科目名        | 入門フランス語 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (s)  |       |           |
| 担当者名       | 阪上 進一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。「やさしいフランス語」というタイトルの通り、このテキストは、基本的な単語や動詞を身近な会話や練習問題の中で繰り返して使うことにより、フランス語の基礎がゆるやかに定着していけるように作成されている。既に日本語で聞き覚えのあるような身近なフランス語から学習し始めることにより、初めて接するフランス語や発音への戸惑いも徐々に解消し、フランス語への理解や関心がさらに深まってゆくものと期待している。  折に触れ、パリやフランスの風景等のビデオを紹介したり、フランスの風俗や習慣等についても言及することにより、広い意味でのフランス文化への関心を広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆきたい。なお途中で、テキストで使われている単語を小冊子にして配布する予定である。尚、授業の後半で、自己紹介のレポートを作成する。 </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標       | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 : 授業の進め方や評価の仕方等の説明、辞書等の紹介、アルファベットの発音。  2 : アルファベットの発音、綴り字の読み方と単母音字の発音、名詞。  3 : 複母音字の発音。1 課 : 名詞と不定冠詞。  4 : 鼻母音の発音。1 課 : 名詞と部分冠詞。  5 : 子音字の発音。1 課 : 名詞と提示の表現①。  6 : 発音上の規則の説明。2 課 : 定冠詞、主語の人称代名詞。  7 : 挨拶の表現。2 課 : 第 1 群規則変化動詞の説明と練習。  8 : 2 課 : 第 1 群規則変化動詞の練習、提示の表現②。  9 : 3 課 : 動詞 (avoir) の練習。数字 (1 ~ 10)。年齢の言い方。  10 : 3 課 : 疑問文と否定文の作り方、子供の会話の練習。  11 : 4 課 : 動詞 (?tre) の練習。指示形容詞。  12 : 4 課 : 所有形容詞の説明、ホテルでの会話練習。  13 : 5 課 : 形容詞の性数変化の説明と練習。  14 : 5 課 : プティックでの会話練習。自己紹介の表現とレポートの説明。  15 : 春学期のまとめと復習 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0010B0A |
| 科目名        | 入門フランス語 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (f)  |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | フランス語は、英語のようにすでに学生が高校時代から学んでいる言語ではなく、全く初めて学ぶのが普通であるから、まずフランス語の背景にあるフランス文化を理解することが必要である。そのため、フランス文化の粋を示す都、パリの案内をしながら、自然にフランス語に親しむことが有益である。パリの歴史や生活を説明しながら、フランス語の発音や表現を学ぶ。会話ができることを目標とする。       |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 福井芳男著『Un petit tour dans Paris』 朝日出版社   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『クラウン仏和辞典』 三省堂  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。授業中に課すプリント問題により評価(50%)する。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。フランス語の会話ができるようになることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義では、フランス語を学ぶ前提として、フランスとくにパリの文化について学びながら、自然に、正しく美しいフランス語の発音ができ、また、文法もわかるように努力すること。そのために、毎回出席することが必要である。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義では、つぎのような順序で「パリものがたり」を見てゆきたい。 そのなかで、フランス文化とフランス語の関係を説明する。<br> 1. 講義の説明 2~4. シャンゼリゼ  5~6. グラン・ブルヴァール大通り  7~8. セーヌ河岸のブキニスト (本屋)  9~10. パリの粋 - (おしゃれ)  11~12. パリの現代  13~14. 伝統と新しさ  15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JH0010B0B |
| 科目名  | 入門フランス語 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic French (f)   |       |           |
| 担当者名   | 阪上 進一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>春学期と同様に、学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。折に触れ、フランスの映像も紹介して、広い意味でのフランス文化への関心も広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆく。尚、この授業は、春学期の「入門フランス語 s」で使ったテキストをそのまま使用し、同時に春学期の内容を引き継いでいる。  授業は、すでに学んだフランス語の発音、冠詞類、基本動詞等の簡単な復習から初めて、引き続き基礎フランス語の習得を図り運用能力の獲得に努めてゆく。尚、授業の後半で、それまでに学んだ動詞を使って「一日の行動」を述べる簡単なレポートを作成する。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)   |       |           |
| 到達目標   | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 : 春学期の復習① (発音、冠詞類、基本動詞)   2 : 春学期の復習② (発音、冠詞類、基本動詞)   3 : 6 課 : 動詞 (aller, venir) の練習。  4 : 6 課 : 前置詞と定冠詞の縮約、近い未来 (過去) の作り方。  5 : 6 課 : 命令形の作り方、友人同士の会話。不規則な形容詞。  6 : 7 課 : 第 2 群規則変化動詞と動詞 (prendre) の練習。  7 : 7 課 : 形容詞と副詞の比較級と最上級。  8 : 7 課 : 強勢形人称代名詞、レストランでの会話。  9 : 8 課 : 動詞 (faire と partir) の練習。  10 : 8 課 : 直接目的語と間接目的語の説明と練習。  11 : 9 課 : 動詞 (devoir 等) 疑問代名詞。  12 : 9 課 : 代名動詞の説明と練習。  13 : 9 課 : 友人同士の会話。  14 : 10 課 : 時制の説明と複合過去の説明。  14 : 10 課 : 複合過去の練習、学習した動詞を使ってのレポートの説明。  15 : 秋学期のまとめと復習 </p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JH0010B0C |
| 科目名  | 入門フランス語 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Basic French (f)   |       |           |
| 担当者名   | 阪上 進一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>春学期と同様に、学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。折に触れ、フランスの映像も紹介して、広い意味でのフランス文化への関心も広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆく。尚、この授業は、春学期の「入門フランス語 s」で使ったテキストをそのまま使用し、同時に春学期の内容を引き継いでいる。  授業は、すでに学んだフランス語の発音、冠詞類、基本動詞等の簡単な復習から初めて、引き続き基礎フランス語の習得を図り運用能力の獲得に努めてゆく。尚、授業の後半で、それまでに学んだ動詞を使って「一日の行動」を述べる簡単なレポートを作成する。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)   |       |           |
| 到達目標   | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 分かりやすく楽しい授業を目指してゆくので、授業への積極的な参加を期待している。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 : 春学期の復習① (発音、冠詞類、基本動詞)   2 : 春学期の復習② (発音、冠詞類、基本動詞)   3 : 6 課 : 動詞 (aller, venir) の練習。  4 : 6 課 : 前置詞と定冠詞の縮約、近い未来 (過去) の作り方。  5 : 6 課 : 命令形の作り方、友人同士の会話。不規則な形容詞。  6 : 7 課 : 第 2 群規則変化動詞と動詞 (prendre) の練習。  7 : 7 課 : 形容詞と副詞の比較級と最上級。  8 : 7 課 : 強勢形人称代名詞、レストランでの会話。  9 : 8 課 : 動詞 (faire と partir) の練習。  10 : 8 課 : 直接目的語と間接目的語の説明と練習。  11 : 9 課 : 動詞 (devoir 等) 疑問代名詞。  12 : 9 課 : 代名動詞の説明と練習。  13 : 9 課 : 友人同士の会話。  14 : 10 課 : 時制の説明と複合過去の説明。  14 : 10 課 : 複合過去の練習、学習した動詞を使ってのレポートの説明。  15 : 秋学期のまとめと復習 </p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0010B0D |
| 科目名        | 入門フランス語 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic French (f)   |       |           |
| 担当者名       | 阪上 進一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>春学期と同様に、学生の理解を基本方針として、一緒に発音や練習を繰り返してゆく間にフランス語の基礎がゆるやかに定着することを目指して授業を進めてゆく。折に触れ、フランスの映像も紹介して、広い意味でのフランス文化への関心も広げてゆきながら、無理なく基礎フランス語の世界を楽しめるように図ってゆく。尚、この授業は、春学期の「入門フランス語 s」で使ったテキストをそのまま使用し、同時に春学期の内容を引き継いでいる。  授業は、すでに学んだフランス語の発音、冠詞類、基本動詞等の簡単な復習から初めて、引き続き基礎フランス語の習得を図り運用能力の獲得に努めてゆく。尚、授業の後半で、それまでに学んだ動詞を使って「一日の行動」を述べる簡単なレポートを作成する。 </p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 斎藤昌三著、『ル・フランセ・ファシル』、白水社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況等による。レポート (20%)、小テスト (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 初級文法および基本的な表現を学びフランス語の基礎の習得を図りながら、異文化への関心や理解を促す。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 分かりやすく楽しい授業を目指してゆくの、授業への積極的な参加を期待している。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 : 春学期の復習① (発音、冠詞類、基本動詞)   2 : 春学期の復習② (発音、冠詞類、基本動詞)   3 : 6 課 : 動詞 (aller, venir) の練習。  4 : 6 課 : 前置詞と定冠詞の縮約、近い未来 (過去) の作り方。  5 : 6 課 : 命令形の作り方、友人同士の会話。不規則な形容詞。  6 : 7 課 : 第 2 群規則変化動詞と動詞 (prendre) の練習。  7 : 7 課 : 形容詞と副詞の比較級と最上級。  8 : 7 課 : 強勢形人称代名詞、レストランでの会話。  9 : 8 課 : 動詞 (faire と partir) の練習。  10 : 8 課 : 直接目的語と間接目的語の説明と練習。  11 : 9 課 : 動詞 (devoir 等) 疑問代名詞。  12 : 9 課 : 代名動詞の説明と練習。  13 : 9 課 : 友人同士の会話。  14 : 10 課 : 時制の説明と複合過去の説明。  14 : 10 課 : 複合過去の練習、学習した動詞を使ってのレポートの説明。  15 : 秋学期のまとめと復習 </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                              |
|--|---|-------|------------------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JH0013A01                    |
| 科目名  | 入門中国語 s   | 単位数   | 2                            |
| 科目名 (英語表記)   | Basic Chinese (s)   |       |                              |
| 担当者名   | 劉 曉嵐  | 旧科目名称 |                              |
| 講義概要   | 中国標準語というのは、世界人口の五分之一も占めている中国の人々が用いる共通語です。注目されつつある中国の経済発展と中華人のイデオロギ-への理解を深めるには、中国語の発音と基礎文法を学び、そして簡単な日常会話を覚えることが確実に役立つ一歩になるでしょう。 この講義では、授業回数に合わせ、実用的語彙と分かりやすい文法を主に、さらにレベルアップを図り、適切な活用のできる練習に工夫して編集されたテキストを使用するため、一年の勉強を通して語学の基盤作りや、簡単なコミュニケーションと初級レベルの文章表現を身につけることが期待できます。また、語学勉強のみならず、時間の余裕があれば、中国の地図を見たり、中国に関する映像を觀賞したりして、皆で日中関係などを話し合うことも一つの楽しみでしょう。 |       |                              |
| 教材 (テキスト)  | 陳 淑梅・張 国露 著 「中国のひとり旅」 駿河台出版社 2300 円 CD 付  |       |                              |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。  |       |                              |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。   |       |                              |
| 評価方法   | 出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、定期試験(筆記と会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、定期試験を受ける資格を失い、成績は評価できません。   |       |                              |
| 到達目標   | 異文化の理解を深めるために必要な外国語の知識と学び方を身につけ、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。  |       |                              |
| 準備学習   | 各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。  |       |                              |
| 受講者への要望  |   |       |                              |
| 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。  |   |       | 積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。 |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                              |
| 1. 授業の進め方と成績評価の解説 2. 発音の一 ピンイン、四声と母音の前半 3. 発音の二 母音の後半と子音 4. 発音の三 鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉  5. 第一課 「初めまして」 人称代名詞、動詞述語文 6. 第二課 「両替」 指示代名詞、語気助詞 7. 第一課と第二課の練習 8. 第三課 「チェックイン」 所有の表現、時間の言い方 9. 第四課 「タクシーに乗る」 場所代名詞、副詞 10. 第三課と第四課の練習 11. 第五課 「注文」 疑問詞、不定の表現 12. 第六課 「ショッピング」 方位詞、数量詞と存在の表現 13. 第五課と第六課の練習 比較、動詞の可能形 14. 文法まとめと会話テスト 15. 総合復習 |   |       |                              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                              |
|--|---|-------|------------------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JH0013A02                    |
| 科目名  | 入門中国語 s   | 単位数   | 2                            |
| 科目名 (英語表記)   | Basic Chinese (s)   |       |                              |
| 担当者名   | 劉 曉嵐  | 旧科目名称 |                              |
| 講義概要   | 中国標準語というのは、世界人口の五分之一も占めている中国の人々が用いる共通語です。注目されつつある中国の経済発展と中華人のイデオロギ-への理解を深めるには、中国語の発音と基礎文法を学び、そして簡単な日常会話を覚えることが確実に役立つ一歩になるでしょう。 この講義では、授業回数に合わせ、実用的語彙と分かりやすい文法を主に、さらにレベルアップを図り、適切な活用のできる練習に工夫して編集されたテキストを使用するため、一年の勉強を通して語学の基盤作りや、簡単なコミュニケーションと初級レベルの文章表現を身につけることが期待できます。また、語学勉強のみならず、時間の余裕があれば、中国の地図を見たり、中国に関する映像を観賞したりして、皆で日中関係などを話し合うことも一つの楽しみでしょう。 |       |                              |
| 教材 (テキスト)  | 陳 淑梅・張 国露 著 「中国のひとり旅」 駿河台出版社 2300 円 CD 付  |       |                              |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。  |       |                              |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。   |       |                              |
| 評価方法   | 出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、定期試験(筆記と会話)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、定期試験を受ける資格を失い、成績は評価できません。   |       |                              |
| 到達目標   | 異文化の理解を深めるために必要な外国語の知識と学び方を身につけ、中国の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。  |       |                              |
| 準備学習   | 各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。  |       |                              |
| 受講者への要望  |   |       |                              |
| 週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。  |   |       | 積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。 |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                              |
| 1. 授業の進め方と成績評価の解説 2. 発音の一 ピンイン、四声と母音の前半 3. 発音の二 母音の後半と子音 4. 発音の三 鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉  5. 第一課 「初めまして」 人称代名詞、動詞述語文 6. 第二課 「両替」 指示代名詞、語気助詞 7. 第一課と第二課の練習 8. 第三課 「チェックイン」 所有の表現、時間の言い方 9. 第四課 「タクシーに乗る」 場所代名詞、副詞 10. 第三課と第四課の練習 11. 第五課 「注文」 疑問詞、不定の表現 12. 第六課 「ショッピング」 方位詞、数量詞と存在の表現 13. 第五課と第六課の練習 比較、動詞の可能形 14. 文法まとめと会話テスト 15. 総合復習 |   |       |                              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0013A03 |
| 科目名        | 入門中国語 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (s)  |       |           |
| 担当者名       | 薛 羅軍   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「人」と「人」とのコミュニケーションがますます重要となりつつある現代において、他者の言語をお互いに学び合うことは非常に重要なことなのです。中国の言語を学ぶことによって中国社会を理解し、中国の文化や価値観の異質性と共通性に触れ、中国人の生活習慣や物事の感じ方、考え方を知ることができます。ゆえに、本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。 ①文法事項は分かりやすく簡明に解説します。 ②話題はできるだけ中国社会にひろげます。 ③中国文化を多く紹介するため、テープやビデオを活用します。 ④毎回基本文型の応用ができるように、2人組で会話をさせます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『中国語ははじめの一步』 竹島金吾監修 尹景春 竹島毅 著 白水社出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし   |       |           |
| 評価方法       | 本講義では、以下に挙げる三つのことを重視し、それらを総合的に判断して成績評価を行います。 ①出席率<br>②普段の授業での実力 ③期末試験  |       |           |
| 到達目標       | 前期前半は第1課から第8課まで、前期後半は簡単な自己紹介と挨拶。   |       |           |
| 準備学習       | 本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。毎回基本文系の応用が出来るように、2人組で会話をさせます  |       |           |
| 受講者への要望    | 楽しい、充実した授業をめざしてお互いがんばりましょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①第1課 語彙 文法 本文 ②練習問題 ③第2課 語彙 文法 本文 ④練習問題 ⑤第3課 語彙 文法 本文 ⑥練習問題 ⑦第1課から第3課までの復習 ⑧第4課 語彙 文法 本文 ⑨練習問題 ⑩第5課 語彙 文法 本文 ⑪練習問題 ⑫第6課 語彙 文法 本文 ⑬練習問題 ⑭総復習 ⑮試験  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0013A04 |
| 科目名        | 入門中国語 s  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (s)  |       |           |
| 担当者名       | 薛 羅軍   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「人」と「人」とのコミュニケーションがますます重要となりつつある現代において、他者の言語をお互いに学び合うことは非常に重要なことなのです。中国の言語を学ぶことによって中国社会を理解し、中国の文化や価値観の異質性と共通性に触れ、中国人の生活習慣や物事の感じ方、考え方を知ることができます。ゆえに、本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。 ①文法事項は分かりやすく簡明に解説します。 ②話題はできるだけ中国社会にひろげます。 ③中国文化を多く紹介するため、テープやビデオを活用します。 ④毎回基本文型の応用ができるように、2人組で会話をさせます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『中国語ははじめの一步』 竹島金吾監修 尹景春 竹島毅 著 白水社出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし   |       |           |
| 評価方法       | 本講義では、以下に挙げる三つのことを重視し、それらを総合的に判断して成績評価を行います。 ①出席率<br>②普段の授業での実力 ③期末試験  |       |           |
| 到達目標       | 前期前半は第1課から第8課まで、前期後半は簡単な自己紹介と挨拶。   |       |           |
| 準備学習       | 本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。毎回基本文系の応用が出来るように、2人組で会話をさせます  |       |           |
| 受講者への要望    | 楽しい、充実した授業をめざしてお互いがんばりましょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①第1課 語彙 文法 本文 ②練習問題 ③第2課 語彙 文法 本文 ④練習問題 ⑤第3課 語彙 文法 本文 ⑥練習問題 ⑦第1課から第3課までの復習 ⑧第4課 語彙 文法 本文 ⑨練習問題 ⑩第5課 語彙 文法 本文 ⑪練習問題 ⑫第6課 語彙 文法 本文 ⑬練習問題 ⑭総復習 ⑮試験  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0013B0A |
| 科目名        | 入門中国語 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (f)   |       |           |
| 担当者名       | 劉 曉嵐  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 春学期に引き続いて、同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、「旅行」というテーマをめぐり、中国語の単文構造、基礎慣用句、そして日常用語などを学ぶことを通じて、受講生の、未来を拓く必要となる国際的適応力と実践力を養う試みが期待されます。受講生のみなさん、続けて頑張ってください。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 陳 淑梅・張 国路 著 「中国のひとり旅」 駿河台出版社 2300 円 CD 付  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、定期試験(筆記と会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、定期試験を受ける資格を失い、成績は評価できません。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解を深めるために必要な外国語の知識と学び方を身に付け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。  |       |           |

#### 受講者への要望

週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。| 積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

#### 講義の順序とポイント

1. 春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業要求の解説|2. 第七課 「値切り」 動詞の結果補語、完了と変化の表現|3. 第八課 「道を尋ねる」 助動詞のいろいろ、語気助詞のいろいろ|4. 第七課と第八課の練習 |5. 第九課 「ファーストフード店」 動詞の過去形・未来形|6. 第十課 「乗車券を買う」 否定の表現、疑問文のまとめ|7. 第九課と第十課の練習|8. 会話の訓練 |9. 第十一課 「頼みごと」 可能補語、動詞の経験形|10. 第十二課 「落し物」 連動文、禁止の表現|11. 第十一課と第十二課の練習 介詞、前置詞と慣用句|12. 補充教材の勉強 動詞の進行中形と程度補語|13. 文法まとめ|14. 会話テスト 一年の勉強の感想について話し合しましょう|15. 秋学期の総括||

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JH0013B0B |
| 科目名        | 入門中国語 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (f)   |       |           |
| 担当者名       | 劉 曉嵐  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 春学期に引き続いて、同じテキストを使用し、同じ授業の進め方で、「旅行」というテーマをめぐり、中国語の単文構造、基礎慣用句、そして日常用語などを学ぶことを通じて、受講生の、未来を拓く必要となる国際的適応力と実践力を養う試みが期待されます。受講生のみなさん、続けて頑張ってください。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 陳 淑梅・張 国路 著 「中国のひとり旅」 駿河台出版社 2300 円 CD 付  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。   |       |           |
| 評価方法       | 出席重要視、平常点 30%、レポート・発表 20%、定期試験(筆記と会話テスト)50% 全授業回数三分の一以上を欠席した場合、定期試験を受ける資格を失い、成績は評価できません。  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解を深めるために必要な外国語の知識と学び方を身に付け、中国語の現代社会に必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得します。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。  |       |           |

受講者への要望

週に一回しかないこの時間を大切に、自ら学ぼうという姿勢が望ましいです。| 積極的に発音・会話の訓練を受けるよう心がけてほしいです。

講義の順序とポイント

1. 春学期で学んだ知識を復習しながら、夏休みのことを話し合い、秋学期授業要求の解説|2. 第七課 「値切り」 動詞の結果補語、完了と変化の表現|3. 第八課 「道を尋ねる」 助動詞のいろいろ、語気助詞のいろいろ|4. 第七課と第八課の練習 |5. 第九課 「ファーストフード店」 動詞の過去形・未来形|6. 第十課 「乗車券を買う」 否定の表現、疑問文のまとめ|7. 第九課と第十課の練習|8. 会話の訓練 |9. 第十一課 「頼みごと」 可能補語、動詞の経験形|10. 第十二課 「落し物」 連動文、禁止の表現|11. 第十一課と第十二課の練習 介詞、前置詞と慣用句|12. 補充教材の勉強 動詞の進行中形と程度補語|13. 文法まとめ|14. 会話テスト 一年の勉強の感想について話し合しましょう|15. 秋学期の総括||

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0013B0C |
| 科目名        | 入門中国語 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (f)  |       |           |
| 担当者名       | 薛 羅軍   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「人」と「人」とのコミュニケーションがますます重要となりつつある現代において、他者の言語をお互いに学び合うことは非常に重要なことなのです。中国の言語を学ぶことによって中国社会を理解し、中国の文化や価値観の異質性と共通性に触れ、中国人の生活習慣や物事の感じ方、考え方を知ることができます。ゆえに、本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。 ①文法事項は分かりやすく簡明に解説します。 ②話題はできるだけ中国社会にひろげます。 ③中国文化を多く紹介するため、テープやビデオを活用します。 ④毎回基本文型の応用ができるように、2人組で会話をさせます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『中国語ははじめの一步』 竹島金吾監修 尹景春 竹島毅 著 白水社出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし   |       |           |
| 評価方法       | 本講義では、以下に挙げる三つのことを重視し、それらを総合的に判断して成績評価を行います。 ①出席率<br>②普段の授業での実力 ③期末試験  |       |           |
| 到達目標       | 後期前半は第9課から第11課 後期後半12課から13課まで、全部の復習。   |       |           |
| 準備学習       | 本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。毎回基本文系の応用が出来るように、2人組で会話をさせます  |       |           |
| 受講者への要望    | 楽しい、充実した授業をめざしてお互いがんばりましょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①第1課 語彙 文法 本文 ②練習問題 ③第2課 語彙 文法 本文 ④練習問題 ⑤第3課 語彙 文法 本文 ⑥練習問題 ⑦第1課から第3課までの復習 ⑧第4課 語彙 文法 本文 ⑨練習問題 ⑩第5課 語彙 文法 本文 ⑪練習問題 ⑫第6課 語彙 文法 本文 ⑬練習問題 ⑭総復習 ⑮試験  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JH0013B0D |
| 科目名        | 入門中国語 f  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Basic Chinese (f)  |       |           |
| 担当者名       | 薛 羅軍   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「人」と「人」とのコミュニケーションがますます重要となりつつある現代において、他者の言語をお互いに学び合うことは非常に重要なことなのです。中国の言語を学ぶことによって中国社会を理解し、中国の文化や価値観の異質性と共通性に触れ、中国人の生活習慣や物事の感じ方、考え方を知ることができます。ゆえに、本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。 ①文法事項は分かりやすく簡明に解説します。 ②話題はできるだけ中国社会にひろげます。 ③中国文化を多く紹介するため、テープやビデオを活用します。 ④毎回基本文型の応用ができるように、2人組で会話をさせます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『中国語ははじめの一步』 竹島金吾監修 尹景春 竹島毅 著 白水社出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし   |       |           |
| 評価方法       | 本講義では、以下に挙げる三つのことを重視し、それらを総合的に判断して成績評価を行います。 ①出席率<br>②普段の授業での実力 ③期末試験  |       |           |
| 到達目標       | 後期前半は第9課から第11課 後期後半12課から13課まで、全部の復習。   |       |           |
| 準備学習       | 本講義は「話す」と「聞く」によるコミュニケーション力の養成と向上を目指します。毎回基本文系の応用が出来るように、2人組で会話をさせます  |       |           |
| 受講者への要望    | 楽しい、充実した授業をめざしてお互いがんばりましょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | ①第1課 語彙 文法 本文 ②練習問題 ③第2課 語彙 文法 本文 ④練習問題 ⑤第3課 語彙 文法 本文 ⑥練習問題 ⑦第1課から第3課までの復習 ⑧第4課 語彙 文法 本文 ⑨練習問題 ⑩第5課 語彙 文法 本文 ⑪練習問題 ⑫第6課 語彙 文法 本文 ⑬練習問題 ⑭総復習 ⑮試験  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0001A0A |
| 科目名  | 日本語基礎A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Japanese A  |       |           |
| 担当者名   | 山本 さゆみ  | 旧科目名称 | 日本語 I     |
| 講義概要   | 大学生生活に必要な日本語の基礎技能の定着をはかる。 簡単なレポート・論文・専門書などの読解を通して、大学での勉学に必要な基礎的読解技術を養うことを目指す。同時に、聴解練習を通して、目からだけではなく耳からの日本語理解能力を高める予定。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「大学・大学院留学生の日本語」①読解編（アルク）2007年 1600円   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | プリント、ビデオ、新聞、雑誌など。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。定期テスト（70%）   |       |           |
| 到達目標   | 日本語読解・聴解の基礎技能の定着をはかる。日本語能力試験2級レベルを目指す。  |       |           |
| 準備学習   | 学習課のことはチェックしてくる。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻・欠席はしない。宿題は期限厳守のこと。予習・復習を欠かさず、授業に積極的に参加すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. コース説明  2. 基礎的読解技術と聴解練習①  3. 基礎的読解技術と聴解練習②  4. 基礎的読解技術と聴解練習③  5. 基礎的読解技術と聴解練習④  6. 基礎的読解技術と聴解練習⑤  7. 基礎的読解技術と聴解練習⑥  8. 基礎的読解技術と聴解練習⑦  9. 基礎的読解技術と聴解練習⑧  10. 基礎的読解技術と聴解練習⑨  11. 基礎的読解技術と聴解練習⑩  12. 基礎的読解技術と聴解練習⑪  13. 基礎的読解技術と聴解練習⑫  14. 基礎的読解技術と聴解練習⑬  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0001A0B |
| 科目名  | 日本語基礎A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basic Japanese A   |       |           |
| 担当者名   | 山本 さゆみ   | 旧科目名称 | 日本語 I     |
| 講義概要   | 大学生生活に必要な日本語の基礎技能の定着をはかる。 簡単なレポート・論文・専門書などの読解を通して、大学での勉学に必要な基礎的読解技術を養うことを目指す。同時に、聴解練習を通して、目からだけでなく耳からの日本語理解能力を高める予定。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「大学・大学院留学生の日本語」①読解編（アルク）2007年 1600円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | プリント、ビデオ、新聞、雑誌など。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 日本語読解・聴解の基礎技能の定着をはかる。日本語能力試験2級レベルを目指す。   |       |           |
| 準備学習   | 学習課のことはチェックしてくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 遅刻・欠席はしない。宿題は期限厳守のこと。予習・復習を欠かさず、授業に積極的に参加すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. コース説明  2. 基礎的読解技術と聴解練習①  3. 基礎的読解技術と聴解練習②  4. 基礎的読解技術と聴解練習③  5. 基礎的読解技術と聴解練習④  6. 基礎的読解技術と聴解練習⑤  7. 基礎的読解技術と聴解練習⑥  8. 基礎的読解技術と聴解練習⑦  9. 基礎的読解技術と聴解練習⑧  10. 基礎的読解技術と聴解練習⑨  11. 基礎的読解技術と聴解練習⑩  12. 基礎的読解技術と聴解練習⑪  13. 基礎的読解技術と聴解練習⑫  14. 基礎的読解技術と聴解練習⑬  15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0001A0C |
| 科目名   | 日本語基礎A  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Basic Japanese A  |       |           |
| 担当者名  | 大久保 加奈子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める  |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし。プリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)   | プリントのほかに、DVD、CDなどを用いる。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%) 授業内での発表・課題(40%) 試験(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 大学生生活に必要な中上級の日本語運用能力を身につけ、日本語を使ってレポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。 |       |           |
| 準備学習  | 授業外でも積極的に日本語を使うこと。予習を欠かさないこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で授業に参加することを求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス、自己紹介 2. 日本語の文章表現 3. 日本語の文章構成 4. 文章の大意をつかむ、要約する 5. 説明文① 6. 説明文② 7. 説明文③ 8. 体験・感想文① 9. 体験・感想文② 10. 意見文① 11. 意見文② 12. 物語① 13. 物語② 14. 発表準備 15. まとめ、発表 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0002B0A |
| 科目名        | 日本語基礎B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Basic Japanese B   |       |           |
| 担当者名       | 塩谷 尚子  | 旧科目名称 | 日本語II     |
| 講義概要       | 授業の前半では、文章作成や大学生活に必要な文法の基礎技能を中心に学ぶ。また、必要に応じて、初級文法の復習や聴解を随時加えていく予定。 授業の後半では、簡単な発表などを通して、文章作成や会話力の向上を目指し、日本語の運用能力を身に付ける。また、それに伴う文章の論理的な組み立て方も学ぶ。 小テストを、授業時間内に2回行う。これは、授業で習った確認テストであり、評価の一つとなる。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 開講後、指示する。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 随時指示する。  |       |           |
| 教材(その他)    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。 小テスト2回(30%) 課題提出(20%)  |       |           |
| 到達目標       | 日本語文法・作文・会話・発表の基礎技能の定着をはかり、日本語能力試験 N2 レベルを目指す。   |       |           |
| 準備学習       | 日本語能力を確実に向上させるために、各講義の予習・復習を必ず行うこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重量である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション 2. 文法の基礎技能①・運用能力① 3. 文法の基礎技能②・運用能力② 4. 文法の基礎技能③・運用能力③ 5. 文法の基礎技能④・運用能力④ 6. 文法の基礎技能⑤・運用能力⑤ 7. 文法の基礎技能⑥・運用能力⑥ 8. 小テスト・まとめ 9. 文法の基礎技能⑦・運用能力⑦ 10.文法の基礎技能⑧・運用能力⑧ 11.文法の基礎技能⑨・運用能力⑨ 12.文法の基礎技能⑩・運用能力⑩ 13.文法の基礎技能⑪・運用能力⑪ 14.文法の基礎技能⑫・運用能力⑫ 15.小テスト・まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0002B0B |
| 科目名        | 日本語基礎B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Basic Japanese B   |       |           |
| 担当者名       | 松本 朋子  | 旧科目名称 | 日本語Ⅱ      |
| 講義概要       | 日本語能力試験 N2 級受験に必要な中級の文法を学びます。  初中級の文章作成及び、それに必要な文法・文型・表現を学びます。また、論理的な文章を読み、その組み立てや展開を学び、文章作成に活かせるようにします。  文章を作成し、発表します。発表について、分かりやすく質問し、また、答えることで会話力の向上を図ります。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 開講後指示する  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集 N1,N2,N3』国際交流基金、日本国際教育支援協会  天野みどり『ワークブック日本文法』おうふう  友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級』アルク   |       |           |
| 教材(その他)    | プリント教材   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%) 出席状況・授業参加状況などによる。授業内に行う発表(20%)、復習小テスト・まとめ試験(40%)。   |       |           |
| 到達目標       | 日本語文法・作文・会話・発表の基礎技能の習得、日本語能力試験 N2 級レベルの日本語力習得を目指します。   |       |           |
| 準備学習       | 学習した項目はよく復習してください。項目毎に小テストします。  また、宿題にした範囲の予習をしっかりとってください。  機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。  インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握してください。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・遅刻や欠席をしないように心がけてください。  ・授業中配布した資料を必ず持参してください。  ・辞書/電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。  ・課題は期限内に提出してください。  ・積極的に授業に参加しましょう。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 学習の方法・授業のすすめ方・評価などについて。助詞  2. 助詞  3. 取り立て  4. 助詞の働きをする言葉  5. 助詞の働きをする言葉  6. 助詞の働きをする言葉  7. 名詞化、まとめと復習  8. 複文  9. 名詞修飾  10. 時間  11. 仮定・逆説  12. 原因・理由  13. 感覚  14. 推量・願望・感嘆・提案  15. 副詞、まとめと復習  以上のように授業をすすめるが、適宜修正する。 </p> |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0002B0C |
| 科目名   | 日本語基礎B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Basic Japanese B   |       |           |
| 担当者名  | 廣坂 直子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 初級修了程度の日本語力を想定し、中級の文法・会話・作文能力を総合的に伸ばすことを目的とする。                                     |       |           |
| 教材（テキスト）  | 土岐哲ほか『日本語中級J301 - 基礎から中級へ -』スリーエーネットワーク ¥2,330+税  (中国語版、英語版、韓国語版があるので、必要なものを購入のこと) |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | プリントやビデオ教材を使用する場合もある。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（45%）出席状況、取組態度等による。 授業内テスト（30%）、学期末試験（25%）                                      |       |           |
| 到達目標  | 日本での大学生生活を充実させるために必要な日本語を習得する。   |       |           |
| 準備学習  | 第一回目の授業時に具体的に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 語学の授業であるため、毎回の授業での積極的な参加態度を高く評価する。安易な欠席・遅刻のないようにしてもらいたい。 授業には毎回辞書を持参すること。 欠席等で授業内テストが受けられなかった場合は、自ら申し出て必ず教員の指示を受けること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| テキストの様子を見ながら進む。2～3課ごとに到達度テストを行う予定。 次の15回分は「予定」なので、テスト日程などは変更の可能性がある。 1. 導入、1課～ 2. 1課-2課 3. 2課-3課 4. 3課 5. 4課 6. 1-3課テスト、4課 7. 5課 8. 5-6課 9. 6課 10. 4-6課テスト、7課 11. 7-8課 12. 9課 13. 7-9課テスト、10課 14. 10課 15. まとめと学期末試験 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0002B0D |
| 科目名        | 日本語基礎B  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Basic Japanese B  |       |           |
| 担当者名       | 大久保 加奈子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 平井悦子・三輪さち子著『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』スリーエーネットワーク 2,310円   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | プリント、CD、DVD などを用いる。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%) 授業内での発表・課題(40%) 試験(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 大学生活に必要な中上級の日本語運用能力を身につけ、日本語を使ってレポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 授業外でも積極的に日本語を使うこと。予習を欠かさないこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的な態度で授業に参加することを求める。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス、自己紹介 2. 第1課 音楽と音の効果 3. 第2課 いい数字・悪い数字 4. 第3課 「おもしろい」日本① 5. 第3課 「おもしろい」日本② 6. 第4課 くしゃみ① 7. 第4課 くしゃみ② 8. 第5課 わたしの町① 9. 第5課 わたしの町② 10. 第6課 この日に食べなきゃ、意味がない!① 11. 第6課 この日に食べなきゃ、意味がない!② 12. 第7課 お相撲さんの世界① 13. 第7課 お相撲さんの世界② 14. 第8課 第一印象① 15. 第8課 第一印象② |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012                                      | 授業コード | JM0003A0A |
| 科目名   | 日本語応用 A                                   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Applied Japanese A                        |       |           |
| 担当者名  | 丸田 博之                                     | 旧科目名称 | 日本語Ⅲ      |
| 講義概要  | 日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験1級レベルを目指す。          |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 『大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編』(アカデミックジャパニーズ研究会編著) |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 近代短編小説 (芥川龍之介全集)                          |       |           |
| 教材 (その他)  | 日本語に関するビデオやDVDの鑑賞。                        |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (60%)、試験 (40%) で総合的に評価する。             |       |           |
| 到達目標  | 日本語能力試験1級の実力を身につける。                       |       |           |
| 準備学習  | 日本の短編小説を読んでおくこと。                          |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。   2 『留学生の日本語』第1課 異文化適応   3 第2課 いじめ   4 第3課 衝動買いを誘導する   5 第4課 ビデオカメラの人間工学   6 第5課 多様化の中のテレビ   7 第6課 フリーター   8 第7課 安全でおいしい水を飲むために   9 第8課 「まじめ」という言葉   10 第9課 がん告知   11 杜子春 (1)   12 杜子春 (2)   13 蜘蛛の糸   14 猿蟹合戦   15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012                                      | 授業コード | JM0003A0B |
| 科目名   | 日本語応用 A                                   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Applied Japanese A                        |       |           |
| 担当者名  | 丸田 博之                                     | 旧科目名称 | 日本語Ⅲ      |
| 講義概要  | 日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験 1 級レベルを目指す。        |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 『大学・大学院 留学生の日本語③論文読解編』(アカデミックジャパニーズ研究会編著) |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 近代短編小説 (芥川龍之介全集)                          |       |           |
| 教材 (その他)  | 日本語に関するビデオやDVDの鑑賞。                        |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (60%)、試験 (40%) で総合的に評価する。             |       |           |
| 到達目標  | 日本語能力試験 1 級の実力を身につける。                     |       |           |
| 準備学習  | 日本の短編小説を読んでおくこと。                          |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。   2 『留学生の日本語』第 1 課 異文化適応   3 第 2 課 いじめ   4 第 3 課 衝動買いを誘導する   5 第 4 課 ビデオカメラの人間工学   6 第 5 課 多様化の中のテレビ   7 第 6 課 フリーター   8 第 7 課 安全でおいしい水を飲むために   9 第 8 課 「まじめ」という言葉   10 第 9 課 がん告知   11 杜子春 (1)   12 杜子春 (2)   13 蜘蛛の糸   14 猿蟹合戦   15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0003A0C |
| 科目名        | 日本語応用A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Applied Japanese A  |       |           |
| 担当者名       | 小鹿原 敏夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 中級レベルの留学生の日本語に応用力をつけることを目標とする。授業は第一部においては『大學・大学院、留学生の日本語③論文読解偏（ISBN978-4-0523-3）』を教材として文法事項の復習を行う。そして第二部では日本語で書かれた文学作品や論説文を用いて読解力を磨く。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席点・平常点30%、期末試験70%  |       |           |
| 到達目標       | 論説文や文学作品の読解力を身につけ、それをレポート執筆に応用できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回、前課の漢字小テストを行う。また予習として本文を何度も音読しておくことを薦める。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業で学んだ表現や言い回しを、恥ずかしがらないで日本人の友人に実際に使うことを心がけて欲しい。自分のよく知っている表現にばかり頼っていると語学力がつきません。使い方がおかしければ友人ならばあなたの間違いを正してくれるでしょう。同様にレポートを執筆する際にもこの授業で学んだ表現を積極的に取り入れてみましょう。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義の内容は以下のように計画している。 第1回「留学生の日本語」 第1課+夏目漱石作「坊ちゃん」購読 第2回同 第2課+「坊ちゃん」購読 第3回 同 第3課+「坊ちゃん」購読 第4回 同 第4課+太宰治作「走れメロス」購読 第5回 同 第5課+「走れメロス」購読 第6回同 第6課+「走れメロス」購読 第7回 同 第7課+新聞論説文の読解とディスカッション 第8回同 第8課+新聞論説文の読解とディスカッション 第9回 同 第9課+新聞論説文の読解とディスカッション 第10回 同 第10課+村上春樹作「夜のとほざる」購読 第11回 同 第11課+「夜のとほざる」購読 第12回 同 第12課+「夜のとほざる」購読 第13回 同 第13課+レポートの書き方について 第14回 同 第14課+レポートの書き方演習 第15課今学期のまとめ  毎回の講義はおおむね以下の要領で行われる。 1.漢字小テスト 2.「留学生の日本語」  ①本文を音読 ②文法事項の解説 ③練習問題 ④補足 3.日本語の文学作品・論説文の購読  ①本文を音読 ②注意すべき表現の解説 ③その内容に関するディスカッション 4. その他質問事項があれば、解説する。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0003A0D |
| 科目名        | 日本語応用 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Applied Japanese A   |       |           |
| 担当者名       | 小鹿原 敏夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 中級レベルの留学生の日本語に応用力をつけることを目標とする。授業は第一部においては『大學・大学院、留学生の日本語③論文読解偏 (ISBN 978-4-0523-3)』を教材として文法事項の復習を行う。そして第二部では日本語で書かれた文学作品や論説文を用いて読解力を磨く。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 出席点・平常点 30%、期末試験 70%   |       |           |
| 到達目標       | 論説文や文学作品の読解力を身につけ、それをレポート執筆に応用できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回、前課の漢字小テストを行う。また予習として本文を何度も音読しておくことを薦める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 授業で学んだ表現や言い回しを、恥ずかしがらないで日本人の友人に実際に使うことを心がけて欲しい。自分のよく知っている表現にばかり頼っていると語学力がつきません。使い方がおかしければ友人ならばあなたの間違いを正してくれるでしょう。同様にレポートを執筆する際にもこの授業で学んだ表現を積極的に取り入れてみましょう。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義の内容は以下のように計画している。  第 1 回「留学生の日本語」 第 1 課+夏目漱石作「坊ちゃん」購読  第 2 回 同 第 2 課+「坊ちゃん」購読  第 3 回 同 第 3 課+「坊ちゃん」購読  第 4 回 同 第 4 課+太宰治作「走れメロス」購読  第 5 回 同 第 5 課+「走れメロス」購読  第 6 回 同 第 6 課+「走れメロス」購読  第 7 回 同 第 7 課+新聞論説文の読解とディスカッション  第 8 回 同 第 8 課+新聞論説文の読解とディスカッション  第 9 回 同 第 9 課+新聞論説文の読解とディスカッション  第 10 回 同 第 10 課+村上春樹作「夜のとほざる」購読  第 11 回 同 第 11 課+「夜のとほざる」購読  第 12 回 同 第 12 課+「夜のとほざる」購読  第 13 回 同 第 13 課+レポートの書き方について  第 14 回 同 第 14 課+レポートの書き方演習  第 15 課 今学期のまとめ   毎回の講義はおおむね以下の要領で行われる。  1. 漢字小テスト  2. 「留学生の日本語」  ①本文を音読 ②文法事項の解説 ③練習問題 ④補足  3. 日本語の文学作品・論説文の購読  ①本文を音読 ②注意すべき表現の解説 ③その内容に関するディスカッション  4. その他質問事項があれば、解説する。 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0004B0A |
| 科目名   | 日本語応用B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Applied Japanese B  |       |           |
| 担当者名  | 大久保 加奈子   | 旧科目名称 | 日本語IV     |
| 講義概要  | さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『日本語5つのとびら－中上級編－』凡人社 1,995円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 教科書ホームページ { <a href="http://www.apu.ac.jp/language/im2/">http://www.apu.ac.jp/language/im2/</a> } |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%) 授業内での発表・課題(40%) 試験(40%)  |       |           |
| 到達目標  | 大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、日本語を使ってレポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。         |       |           |
| 準備学習  | 授業外でも積極的に日本語を使うこと。予習を欠かさないこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で授業に参加することを求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス、自己紹介 2. 第1課 ストレス社会と癒し① 3. 第1課 ストレス社会と癒し② 4. 第2課 世界に広がる一村一品運動① 5. 第2課 世界に広がる一村一品運動② 6. 第3課 かわりゆく交流都市① 7. 第3課 かわりゆく交流都市② 8. 第4課 漢字と日本人① 9. 第4課 漢字と日本人② 10. 第5課 気持ちとことば① 11. 第5課 気持ちとことば② 12. 第6課 21世紀の「門戸開放」① 13. 第6課 21世紀の「門戸開放」② 14. 第7課 方言と共通語① 15. 第7課 方言と共通語② |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0004B0B |
| 科目名   | 日本語応用B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Applied Japanese B  |       |           |
| 担当者名  | 大久保 加奈子   | 旧科目名称 | 日本語IV     |
| 講義概要  | さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『日本語5つのとびら－中上級編－』凡人社 1,995円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 教科書ホームページ { <a href="http://www.apu.ac.jp/language/im2/">http://www.apu.ac.jp/language/im2/</a> } |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%) 授業内での発表・課題(40%) 試験(40%)  |       |           |
| 到達目標  | 大学生生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、日本語を使ってレポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。        |       |           |
| 準備学習  | 授業外でも積極的に日本語を使うこと。予習を欠かさないこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で授業に参加することを求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス、自己紹介 2. 第1課 ストレス社会と癒し① 3. 第1課 ストレス社会と癒し② 4. 第2課 世界に広がる一村一品運動① 5. 第2課 世界に広がる一村一品運動② 6. 第3課 かわりゆく交流都市① 7. 第3課 かわりゆく交流都市② 8. 第4課 漢字と日本人① 9. 第4課 漢字と日本人② 10. 第5課 気持ちとことば① 11. 第5課 気持ちとことば② 12. 第6課 21世紀の「門戸開放」① 13. 第6課 21世紀の「門戸開放」② 14. 第7課 方言と共通語① 15. 第7課 方言と共通語② |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0004B0C |
| 科目名   | 日本語応用B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Applied Japanese B   |       |           |
| 担当者名  | 岩田 美穂  | 旧科目名称 | 日本語IV     |
| 講義概要  | 中上級の文法を学び、日本語能力試験 N1 級レベルの日本語力習得を目指します。 中上級の文章作成及びそれに必要な文法表現・文構成を学びます。また、論理的な文章を読み、その組み立てや展開を学び、文章力の養成を図ります。発表について、分かりやすく質問し、また、答えることで、会話力の向上を目指します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 開講後指示する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集 N1,N2,N3』 国際交流基金、日本国際教育支援協会 友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 500 中・上級』アルク  |       |           |
| 教材（その他）   | プリント教材   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況・提出物状況などによる。授業内に行う発表（20%）、復習小テスト・まとめ試験（40%）。   |       |           |
| 到達目標  | やや高度な日本語文法、作文、会話、発表技術の習得。日本語能力試験 N1 級、あるいはそれ以上のレベルの日本語力習得を目指す。   |       |           |
| 準備学習  | 学習した項目を小テストします。毎回、復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握し、見聞きしたことに対して 自分の意見をまとめてみましょう。              |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ・遅刻や欠席をしないように心がけてください。 ・授業中配布した教材は、必ず持参してください。 ・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出してください。 ・積極的に授業に参加しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1, 学習の方法、授業の進め方、評価などについて。基本的な動詞、レポートに使われる文体  2, 基本的な動詞、文の基本、文末表現 3, 受け身文、自動詞・他動詞 4, 論理的な文章を書くための接続詞の使い方（1） 5, 論理的な文章を書くための接続詞の使い方（2） 6, さまざまなとりたて表現（1） 7, さまざまなとりたて表現（2） 8, さまざまなとりたて表現（3） 9, さまざまな条件文 10, さまざまな条件文 11, さまざまな原因・理由文 12, 論理的な文章の書き方 13, 自分の意見を発表する 14, 自分の意見を発表する 15, 試験  以上のように進めますが、適宜修正します。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0004B0D |
| 科目名   | 日本語応用B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Applied Japanese B   |       |           |
| 担当者名  | 岩田 美穂  | 旧科目名称 | 日本語IV     |
| 講義概要  | 中上級の文法を学び、日本語能力試験 N1 級レベルの日本語力習得を目指します。 中上級の文章作成及びそれに必要な文法表現・文構成を学びます。また、論理的な文章を読み、その組み立てや展開を学び、文章力の養成を図ります。発表について、分かりやすく質問し、また、答えることで、会話力の向上を目指します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 開講後指示する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集 N1,N2,N3』 国際交流基金、日本国際教育支援協会 友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 500 中・上級』アルク  |       |           |
| 教材（その他）   | プリント教材   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況・提出物状況などによる。授業内に行う発表（20%）、復習小テスト・まとめ試験（40%）。   |       |           |
| 到達目標  | やや高度な日本語文法、作文、会話、発表技術の習得。日本語能力試験 N1 級、あるいはそれ以上のレベルの日本語力習得を目指す。   |       |           |
| 準備学習  | 学習した項目を小テストします。毎回、復習をしてください。 宿題にした範囲の予習をしてください。 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流しましょう。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握し、見聞きしたことに対して 自分の意見をまとめてみましょう。              |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ・遅刻や欠席をしないように心がけてください。 ・授業中配布した教材は、必ず持参してください。 ・辞書／電子辞書を持ってきて、授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出してください。 ・積極的に授業に参加しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1, 学習の方法、授業の進め方、評価などについて。基本的な動詞、レポートに使われる文体  2, 基本的な動詞、文の基本、文末表現 3, 受け身文、自動詞・他動詞 4, 論理的な文章を書くための接続詞の使い方（1） 5, 論理的な文章を書くための接続詞の使い方（2） 6, さまざまなとりたて表現（1） 7, さまざまなとりたて表現（2） 8, さまざまなとりたて表現（3） 9, さまざまな条件文 10, さまざまな条件文 11, さまざまな原因・理由文 12, 論理的な文章の書き方 13, 自分の意見を発表する 14, 自分の意見を発表する 15, 試験  以上のように進めますが、適宜修正します。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0004B0E |
| 科目名   | 日本語応用B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Applied Japanese B                                       |       |           |
| 担当者名  | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本語能力試験に向けた問題を考えることによって、文法だけでなく日本語の文章を理解するために必要な表現を学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『試験に出る文法と表現』 桐原書店 1,890 円                                |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 40% 期末テスト 60%  |       |           |
| 到達目標  | やや高度な日本語文法、表現方法を学び、日本語能力試験 N1 級、あるいはそれ以上のレベルの日本語力修得を目指す。 |       |           |
| 準備学習  | スピーチ原稿の作成を課す予定である。                                       |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 自分の目標を常に意識して授業に臨んでほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. ガイダンス、自己紹介  2. 助詞の働きをする言葉  3. 「さえ、こそ、まで、ほど、のみ・・・」を使った言葉  4. 時を表す言葉  5. 「わけ、こと、もの、ところ」と使った言葉  6. 「よう、～う／よう、まい、べき」を使った言葉  7. 接続の言葉－その1  8. 接続の言葉－その2  9. 主に文末で使われる言葉  10. 複合語として使われる言葉  11. 名詞を使った言葉  12. ～を・・・として／にして  13. 敬語－その1  14. 敬語－その2  15. 試験 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM000500A |
| 科目名   | 日本事情  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Japanese Culture and Current Affairs  |       |           |
| 担当者名  | 廣瀬 和子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本の社会・文化や生活習慣などを学び、日本語学習に生かします。 プリント教材、新聞、雑誌、DVDなどで学習したことについて考え話し合います。さらに詳しく調べ、話し合ったことをまとめて発表します。そして、自分や他の人の発表について話し合います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 開講後指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 永田由利子『Voices from Japan ～ありのままの日本を知る・語る～』 くろしお出版  |       |           |
| 教材（その他）   | 新聞、雑誌などを活用したプリントを配布します。 DVD教材を活用します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況・授業参加等による。作文・発表（20%）。まとめ試験（40%）   |       |           |
| 到達目標  | 日本社会や文化について学び、日本語力を伸ばす。積極的に自分の意見を発表し、質疑応答や意見交換に参加する。  |       |           |
| 準備学習  | 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流する。 大学の行事や活動に参加する。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握する。 地域の行事などに感心を持ち積極的に参加し、地域の人達とも交流する。                |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ・遅刻や欠席をしないように心がけてください。 ・授業中配布した資料・教材は必ず持参してください。 ・辞書を授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出してください。 ・積極的に授業に参加しましょう。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 学習の方法、授業の進め方等について。日本語について 2. 日本語について 3. 日本語のことば  4. 日本語の音  5. 擬音語・擬態語 6. 社会の中の言葉 7. 自国語と日本語 8. 復習とまとめ  9. 日本社会について1 10. 日本社会について2 11. 食生活 12. 日本社会について3 13. 伝統文化・まつり 14. 自国のまつり 15. 復習とまとめ  以上のように進めますが、適宜修正します。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   |     | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM000500B |
| 科目名   | 日本事情  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Japanese Culture and Current Affairs  |       |           |
| 担当者名  | 廣瀬 和子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本の社会・文化や生活習慣などを学び、日本語学習に生かします。 プリント教材、新聞、雑誌、DVDなどで学習したことについて考え話し合います。さらに詳しく調べ、話し合ったことをまとめて発表します。そして、自分や他の人の発表について話し合います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 開講後指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 永田由利子『Voices from Japan ～ありのままの日本を知る・語る～』 くろしお出版  |       |           |
| 教材（その他）   | 新聞、雑誌などを活用したプリントを配布します。 DVD教材を活用します。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）出席状況・授業参加等による。作文・発表（20%）。まとめ試験（40%）   |       |           |
| 到達目標  | 日本社会や文化について学び、日本語力を伸ばす。積極的に自分の意見を発表し、質疑応答や意見交換に参加する。  |       |           |
| 準備学習  | 機会をとらえて、日本人学生と積極的に交流する。 大学の行事や活動に参加する。 インターネット・新聞・テレビ等で日本社会の動きや出来事を把握する。 地域の行事などに感心を持ち積極的に参加し、地域の人達とも交流する。                |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ・遅刻や欠席をしないように心がけてください。 ・授業中配布した資料・教材は必ず持参してください。 ・辞書を授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出してください。 ・積極的に授業に参加しましょう。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 学習の方法、授業の進め方等について。日本語について 2. 日本語について 3. 日本語のことば  4. 日本語の音  5. 擬音語・擬態語 6. 社会の中の言葉 7. 自国語と日本語 8. 復習とまとめ  9. 日本社会について1 10. 日本社会について2 11. 食生活 12. 日本社会について3 13. 伝統文化・まつり 14. 自国のまつり 15. 復習とまとめ  以上のように進めますが、適宜修正します。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   |     | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM000600A |
| 科目名  | 日本語作文演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Japanese Writing   |       |           |
| 担当者名   | 廣瀬 和子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 文の構成と展開、表現を学び、論理的な文章作成能力の育成をはかります。 事実を正確に、事実と自分の意見、また、自分の意見と人の意見を明確に区別して伝え、明快で論理的な文章作成力育成を目指します。いろいろな文を読み、文の構成・表現を学びます。また、他の人の文章を読み、聞き、分析して自分の考えを述べる練習をします。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開講後指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 浜田麻里他 『論文ワークブック』 くろしお出版 阿部紘久『明快な文章』 くろしお出版 野内良三著 『日本語作文術』 中央公論社   |       |           |
| 教材（その他）  | 新聞、雑誌等を活用したプリント教材   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50％）出席状況、授業参加などによる。作文及び作文表現小テスト・発表（50％）   |       |           |
| 到達目標   | 文の組み立て方とさまざまな表現を習得する。文を書くために知っておかなければならない言葉のルールを学ぶ。事実と自分の意見と他の人の意見を明確に区別して作文する。 論理的な文章を作成、発表し、質問や意見に分かりやすく答える。 人の文章を読み、聞き、自分の意見を発表する。                       |       |           |
| 準備学習   | 新聞や雑誌を読み内容を把握しまとめる。自分の意見を交えて他の人に話し、意見交換をする。 参考文献を読んで論文の表現を勉強する。 TVで見たことや身近なことを作文する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・遅刻・欠席をしないようところがけてください。 ・必要な配布資料は必ず持ってきてください。 ・辞書は必ず携行して、授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出できるよう計画的に作業してください。詳しいことは適宜指示します。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 学習の方法、授業の進め方、評価などについて。  作文総論    以下次のように進めますが、適宜修正します。<br>   2. 作文総論  3. 課題の提示 論文の構成要素、  4. 課題の提示・目的の提示   5. 目的の提示   6. 定義と分類  7. 図表の提示  8. 図表の提示  9. 対比と比較  10. 変化の形容  11. 変化の形容  12. 原因の考察・列挙  13. 原因の考察・帰結  14. 同意と反論・帰結  15. まとめ発表 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM000600B |
| 科目名  | 日本語作文演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Seminar on Japanese Writing   |       |           |
| 担当者名   | 廣瀬 和子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 文の構成と展開、表現を学び、論理的な文章作成能力の育成をはかります。 事実を正確に、事実と自分の意見、また、自分の意見と人の意見を明確に区別して伝え、明快で論理的な文章作成力育成を目指します。いろいろな文を読み、文の構成・表現を学びます。また、他の人の文章を読み、聞き、分析して自分の考えを述べる練習をします。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 開講後指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 浜田麻里他 『論文ワークブック』 くろしお出版 阿部紘久『明快な文章』 くろしお出版 野内良三著 『日本語作文術』 中央公論社   |       |           |
| 教材（その他）  | 新聞、雑誌等を活用したプリント教材   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（50％）出席状況、授業参加などによる。作文及び作文表現小テスト・発表（50％）   |       |           |
| 到達目標   | 文の組み立て方とさまざまな表現を習得する。文を書くために知っておかなければならない言葉のルールを学ぶ。事実と自分の意見と他の人の意見を明確に区別して作文する。 論理的な文章を作成、発表し、質問や意見に分かりやすく答える。 人の文章を読み、聞き、自分の意見を発表する。                       |       |           |
| 準備学習   | 新聞や雑誌を読み内容を把握しまとめる。自分の意見を交えて他の人に話し、意見交換をする。 参考文献を読んで論文の表現を勉強する。 TVで見たことや身近なことを作文する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ・遅刻・欠席をしないようところがけてください。 ・必要な配布資料は必ず持ってきてください。 ・辞書は必ず携行して、授業中活用してください。 ・課題は期限内に提出できるよう計画的に作業してください。詳しいことは適宜指示します。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 学習の方法、授業の進め方、評価などについて。  作文総論    以下次のように進めますが、適宜修正します。<br>   2. 作文総論  3. 課題の提示 論文の構成要素、  4. 課題の提示・目的の提示   5. 目的の提示   6. 定義と分類  7. 図表の提示  8. 図表の提示  9. 対比と比較  10. 変化の形容  11. 変化の形容  12. 原因の考察・列挙  13. 原因の考察・帰結  14. 同意と反論・帰結  15. まとめ発表 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM000600C |
| 科目名   | 日本語作文演習   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Seminar on Japanese Writing   |       |           |
| 担当者名  | 塩谷 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | レポート・論文作成における構成や表現を学び、アカデミック・ライティングを学ぶ。 また、各自テーマを決め、それに沿って、作成を進めていく。 講義の最後には、発表を行い、意見を述べる練習を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 開講後指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(50%)出席状況等による。課題作成(30%) 課題発表(20%)  |       |           |
| 到達目標  | レポート・論文作成における基礎技能の定着をはかり、アカデミック・ライティングを目指す。 また、発表し、質疑応答に的確に答えると同時に、人の発表を聞き、自分の意見も発表する。          |       |           |
| 準備学習  | 日本語作文能力を確実に向上させるために、各講義の復習を必ず行うこと。 常に様々なテーマに関心を持ち、日本語による意見交換ができるように心掛ける。  また、常に論文の表現を意識すること。    |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 遅刻・欠席をせず、授業に積極的に参加することが最も重要である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 作文の基本 3. 段落 4. 仕組みの説明 5. レポート作成 6. 資料の利用 7. 引用の仕方 8. 歴史的な経過の説明・分類 9. 比較・対照 10.因果関係 11.定義・要約 12.句読点の打ち方 13.各種の記号の使い方 14.発表準備 15.,発表・まとめ  ※適宜修正する予定 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JM0007001 |
| 科目名       | キャリアデザイン  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Career Design   |       |           |
| 担当者名      | 中尾 都史子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 変化が大きく、混沌とした現代社会において、「キャリアデザイン」は個人にとって、有意義な人生を送るために必須のものとなっている。そこで、講義を通して、将来の人生設計と職業を結びつけ、社会的自立を身につけ、ビジネス社会の状況を理解し、学びの大切さを確認し、「働くこと」について考え、自己理解を深める事を目的とする。一般的な講義形式で、具体的な知識や情報を提供する他、「聞くだけ」に終わらない為にもワークシートや小レポートなどに取り組んでもらう事をほぼ毎回予定している。また、授業で得た知識や気づきを自己の生活（専門科目やゼミ、部活、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、資格取得など）にも波及させるために、自らが取り組む課題や目標を設定し、その後の具体的な成果や進捗（進み具合のこと）状況を報告してもらうことも予定している。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 「大学生のためのキャリアガイドブック」寿山泰二・宮城まり子・三川俊樹・宇佐見義尚・柏木理佳・長尾博暢著（北大路書房）1800円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業の進度に応じて適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | レジュメや参考資料、ワークシートなどを毎回配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（20%）出席状況による。定期試験の成績に60%、受講姿勢やレポートなどの提出課題20%   |       |           |
| 到達目標      | 「キャリアデザイン」という考え方を手がかりにして、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」について理解を深め、充実した学生生活を送る事を基礎とした進路選択行動を実現する。  |       |           |
| 準備学習      | 授業の進度に応じて、適宜指示する。   |       |           |

#### 受講者への要望

1. 頑張って出席してください。皆さんが参加しないと始まりません。
2. 個人ワークやグループワークには積極的に参加してください。
3. 時間を守ってください。（やむを得ず遅刻した場合は、静に入室の上、必ず理由を報告してください）
4. 私語を慎んでください（何度か注意しても聞き入れない場合は、退室していただくこともあります）
5. 携帯電話は電源を切って、カバンの中に仕舞ってください。
6. 授業中はむやみに退出しないで下さい。
7. 飲食はしないで下さい。
8. その他、授業の運営を乱したり、他の学生の迷惑になるような行為は慎んでください。

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション～「キャリアデザイン」とは
2. キャリアデザインに必要なリソース①～自己理解～
3. キャリアデザインに必要なリソース②～大学生の意味と意義～
4. キャリアデザインに必要なリソース③～コミュニケーション力～
5. キャリアデザインに必要なリソース④～「資格」～
6. キャリアデザインに必要なリソース⑤～価値観～
7. キャリアデザインに必要なリソース⑥～求められる能力～
8. 中間まとめ
9. どのように働くか①～働くこと～
10. どのように働くか②～職業社会の基礎知識～
11. どのように働くか③～働き方と自己実現～
12. どのように働くか④～ジェンダーとワークライフバランス～
13. どのように働くか⑤～ライフキャリアを考える～
14. どのように働くか⑥～就職活動の基礎知識～
15. 全体まとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0008001 |
| 科目名        | キャリアベーシックトレーニング   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Career Basic Training   |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学のキャリア形成支援講座の1つとして開講されます。この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。中でも、「読み書き（ビジネス文書）」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講義の目的です。前半の「読み書き」に関する講義では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学部分では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 1 西尾宣明 編 『日本語表現法』 樹村房   2 山田哲也 『社会人の基礎数字』 (株) テックス  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況、提出物等による。到達度確認テスト・期末（定期）テスト(70%)  |       |           |
| 到達目標       | ・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。   |       |           |
| 準備学習       | ・各講義の項目に関連した箇所を熟読しておくこと。 ・詳細な箇所については、各講義の最後に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。明確な目的意識を持って受講することを望みます。 就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 文書表現①（文書によるコミュニケーション）  2 文書表現②（ビジネス文書作成の要領）  3 文書表現③（文書作成実務 1）  4 文書表現④（文書作成実務 2）  5 文書表現⑤（企画書を作成する）  6 文書表現⑥（郵送の実務）  7 文書表現⑦（長文を読む）  8 文書表現のまとめ（到達度の確認）  9 数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算）  10 数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合）  11 数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算）  12 数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算）  13 数学・数的処理の基礎⑤（速度算）  14 数学・数的処理の基礎⑥（濃度算）  15 数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論） （定期試験 数学・数的処理の基礎） |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0009001 |
| 科目名   | コミュニケーション・スキル  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Communication Skill  |       |           |
| 担当者名  | 中尾 都史子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「コミュニケーション・スキル」は、働くことだけでなく、人生を送る上で非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人、人と社会をつなぐものであり、コミュニケーション力が私たちの生活や仕事、ひいては人生を充実あるものにしてくれるのである。コミュニケーションを学ぶということは、自分の表現のスキルを磨くことだけでなく、表現すべき自分自身をも磨くことに他ならない。学生時代に「コミュニケーション能力」を学び、身につけることは大いに意義のあることである。したがって、コミュニケーションの知識を身につけるだけが目的でなく、実践し、現実の場面で活用できるようになるために、一般的な講義形式だけでなく、参加・体験型トレーニングを毎回予定している。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 五十嵐健著「コミュニケーション基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター 1400 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業の進度に応じ、その都度指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20％）出席状況による。受講姿勢や小レポートなどの提出課題 20％ 定期テスト 60％  |       |           |
| 到達目標  | 生活（学生生活だけでなく、プライベート上の生活も含む）を送る上での自己のコミュニケーション能力の向上と、職業生活を送る上でのコミュニケーション能力の向上を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 授業の進度に応じて適宜指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>1. 無遅刻・無欠席を期待する。（やむを得ない場合は、後ほど、その理由を報告すること）  2. 主体性を持ち、積極的・能動的に参加してください。  3. 授業の運営を乱したり、他の学生の迷惑になるような行為は慎んでください。（場合によっては退出していただきます）  4. コミュニケーションは使うことにより身につきます。必ず、授業以外の場で実践をするよう心がけてください。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. オリエンテーション～「コミュニケーション」とは  2. コミュニケーション上手になるために  3. 自分の世界を広げる  4. 自分を知る  5. 聞く技術①  6. 聞く技術②～質問する～  7. 伝える技術①ノンバーバル  8. 伝える技術②  9. 中間まとめ  10. プレゼンテーション①  11. プレゼンテーション②  12. ディスカッション  13. 心理学を利用したコミュニケーション  14. 面接のコミュニケーション  15. 全体まとめ</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0010A01 |
| 科目名  | ジェンダー論A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Gender and Society A   |       |           |
| 担当者名   | 桂 容子   | 旧科目名称 | ジェンダー論s   |
| 講義概要   | ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。トレンドな話題であるので、時事問題やポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で、適宜提示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 随時配布する資料と、A V資料。特に、理解を深めるために、時事問題とからめた映像資料などを使用する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内におこなうレポート提出（回数、内容とも評価の対象）＋ミニテスト＝(50%) 期末試験(50%)   |       |           |
| 到達目標   | ジェンダーについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。ジェンダー問題に敏感な視点を養うことによって、さまざまな社会的事象の問題性が興味深く捉えられるようになり、各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。                       |       |           |
| 準備学習   | 日常的に接するメディアなどは、ジェンダー問題の宝庫であるので、授業内で扱った話題やメディア資料などを、意識的に読み解く姿勢を常に持って欲しい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 普段の授業を大切にしてください。きちんと授業を聞き、90分を有効に使えば、理解に到達できるようにしたいと考えています。わからないことは、どんなことでも、遠慮なく、質問に来て下さい。個人的なことでも、授業後に相談に来てもらえば、一緒に考えます。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 導入：ジェンダー論について 2. ジェンダーとは何か 3. 表現されるジェンダー 4. ジェンダー規範 5. 女とは誰のことか、男とは誰のことか 6. ジェンダー・アイデンティティ 7. セクシュアル・オリエンテーション 8. インターセックスという概念 9. 性、恋愛 10. 法と制度 11. ジェンダー化する日常 12. ジェンダー、セクシュアリティの政治性 13. ジェンダー、セクシュアリティの多様性 14. ジェンダー、セクシュアリティの当事者性 15. まとめ  これらの授業テーマは、時事的なトピックにも対応するかたちで、多少の変更を加えながら進めます。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0010B01 |
| 科目名  | ジェンダー論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Gender and Society B   |       |           |
| 担当者名   | 桂 容子   | 旧科目名称 | ジェンダー論 f  |
| 講義概要   | この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。授業では、戦後からの法制度や政策の変化をたどりながら、人権問題や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。随時、資料を配布。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業内で、適宜、提示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 授業内で配布する資料と、AV資料。理解を深めるために、時事的問題を扱う際には、政府啓発映像やテレビ映像なども使用する。  |       |           |
| 評価方法   | 授業内で実施するレポート（回数、内容とも評価の対象）＋ミニテスト＝（50％） 期末試験（50％）   |       |           |
| 到達目標   | 現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、人間にとって、幸福な社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。  |       |           |
| 準備学習   | ジェンダーに関わる問題は、報道メディアに日々登場するので、常に意識的にチェックする姿勢を望む。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ホームワークなどの課題を課さないの、普段の授業を大切に、90分を有効に過ごすことを望みます。きちんと授業を聞くことによって、理解が深まるような授業を目指します。また、わからないこと、相談したいことは、遠慮なく授業後等に聞きに来て下さい。どんなことでも、一緒に考えます。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 導入：ジェンダー論について 2. ジェンダーとは何か 3. ジェンダーの表象  4. 戦後の男女同権 5. 高度経済成長期の性別役割分業 6. 国際社会とジェンダー 7. 「差別」と「区別」 8. 労働とジェンダー  9. セクシュアル・ハラスメント 10. 性・恋愛 11. ファッションとジェンダー  12. DV  13. デートDV  14. 男女共同参画  15. まとめ  以上の授業テーマは、時事的な話題等の状況に応じて、変更を加えながら進めます。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0012001 |
| 科目名  | ビジネス実務論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Practical Business   |       |           |
| 担当者名   | 水原 道子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「ビジネスとオフィスワーク」 樹村房 1900 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 10%、小テスト 20%、定期試験 70%の総合評価とする  |       |           |
| 到達目標   | 社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | ニュースや新聞等で興味ある時事問題を收拾し、的確に話せるようにまとめておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講にあたっては、必ずテキストを持参すること   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. ガイダンス…授業の概要及び受講ルール   2. 企業とビジネス活動…ビジネス界の動き   3. 学生と社会人…それぞれの立場の違い   4. ビジネス業務の心構え…協働の精神と社会人のルール   5. 接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ   6. 接遇(1)…ビジネスシーンにおける対応   7. 接遇(2)…敬語と話し方   8. 対応の基本 I …電話に関する基本マナー   9. 対応の基本 II …訪問に関する基本マナー   10. 冠婚葬祭 I …常識としての冠婚葬祭マナー(1)   11. 冠婚葬祭 II …常識としての冠婚葬祭マナー(2)   12. ファイリング I …ファイリングシステムについて   13. ファイリング II …ファイリングの実際   14. クレーム対応…クレーム処理の原則   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0015A01 |
| 科目名        | フィールドワーク京都（歴史と文化）<br>A 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork in Kyoto (History & Culture) A   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>一千年をはるかに超えて一国のミヤコたり続けた都市、世界に類例のない、こんな場所が私たちの身近にあります。それが日本の歴史遺産ともいべき「京都」。多くの人々の心を惹きつけてやまない「京都」の魅力は、この都市が積み重ねてきた時間の長さと同様な文化遺産にあるといえます。京都の大学では、日常の学生生活のなかで、こうした世界に気軽にふれることができ、身近なものとして、その歴史や文化を学ぶことができるのも、大学生としての大きな魅力といってもよいでしょう。  本科目は、平安京に始まる京都の歴史と文化を軸に、講義とフィールドワークが組み合わされて展開されます。訪れる史跡や施設の知識を前もって学習しておく、また違ったものが見えてきますし、とても身近に感じられるようになるはず。  せっかく京都の大学に入学したのです。新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」は、祇園祭を支える鉾町の真ん中に在ります。ここを拠点として、京都の歴史を学び、フィールドワークで身近な文化に触れる体験をしてみませんか。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 村井康彦著『京都史跡見学』（岩波書店、ジュニア新書51）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 林屋辰三郎他編『京都の歴史』（平凡社） 森谷剋久他編『京都府の歴史』（河出書房新社） 吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントなどを配布。   |       |           |
| 評価方法       | フィールドワークのうち春学期末にレポート提出を求めますが、成績は、講義・フィールドワークでの活動状況を70パーセント、レポート30パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 京都が今よりもっと好きになり、自分で調べ、実際にその場所を訪ねることができるだけでなく、人を案内して行けるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 各回の講義に応じて、フィールドワークに出かける場所があらかじめ分かっています。その場所や機関について前もって学習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | この科目は、新町通錦小路上ルの「京町家キャンパス」を拠点にして、月1度程度の土曜日に開設され、午前の1・2講時を講義、午後の3・4講時をフィールドワークに当てます。フィールドワーク実施にともなう交通費や拝観・入場・観覧に要する費用は、原則、自己負担です。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>4月21日（土） 講義「平安京造営と鎮護国家の仏教」   フィールドワーク  <br/> 東寺・羅城門址・大極殿址・平安京創生館   5月15日（火） 午前・午後とも   フィールドワーク  <br/> 「葵祭り」と「上賀茂」社家町の見学（オプション・参加自由）   5月26日（土） 講義「平安貴族と別業文化」  <br/> フィールドワーク   嵯峨野・野宮神社・清涼寺・大覚寺   6月16日（日） 午前・午後とも  <br/> フィールドワーク   源氏物語ミュージアム・宇治十帖古跡・平等院界隈の見学と県祭りの野外調査  <br/> 7月14日（土） 講義「都市と祭礼、祇園祭を中心に」   DVDの観賞   フィールドワーク  <br/> 鉾町・八坂神社の見学ほか</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0015B01 |
| 科目名        | フィールドワーク京都（歴史と文化）<br>B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork in Kyoto (History & Culture) B   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>一千年をはるかに超えて一国のミヤコたり続けた都市、世界に類例のない、こんな場所が私たちの身近にあります。それが日本の歴史遺産ともいべき「京都」。多くの人々の心を惹きつけてやまない「京都」の魅力は、この都市が積み重ねてきた時間の長さと同様な文化遺産にあるといえます。京都の大学では、日常の学生生活のなかで、こうした世界に気軽にふれることができ、身近なものとして、その歴史や文化を学ぶことができるのも、大学生としての大きな魅力といってもよいでしょう。  本科目は、平安京に始まる京都の歴史と文化を軸に、講義とフィールドワークが組み合わされて展開されます。訪れる史跡や施設の知識を前もって学習しておく、また違ったものが見えてきますし、とても身近に感じられるようになるはず。  せっかく京都の大学に入学したのです。新町通錦小路上ルにオープンしている「京町家キャンパス」は、祇園祭を支える鉾町の真ん中に在ります。ここを拠点として、京都の歴史を学び、フィールドワークで身近な文化に触れる体験をしてみませんか。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 村井康彦著『京都史跡見学』（岩波書店、ジュニア新書51）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 林屋辰三郎他編『京都の歴史』（平凡社）  森谷剋久他編『京都府の歴史』（河出書房新社）  吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリントなどを配布。   |       |           |
| 評価方法       | フィールドワークのうち春学期末にレポート提出を求めますが、成績は、講義・フィールドワークでの活動状況を70パーセント、レポート30パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 京都が今よりもっと好きになり、自分で調べ、実際にその場所を訪ねることができるだけでなく、人を案内して行けるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 各回の講義に応じて、フィールドワークに出かける場所があらかじめ分かっています。その場所や機関について前もって学習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | この科目は、新町通錦小路上ルの「京町家キャンパス」を拠点にして、月1度程度の土曜日に開設され、午前の1・2講時を講義、午後の3・4講時をフィールドワークに当てます。フィールドワーク実施にともなう交通費や拝観・入場・観覧に要する費用は、原則、自己負担です。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>10月20日（土） 講義「鎌倉幕府と六波羅探題」   フィールドワーク  <br/> 三十三間堂・六波羅密寺・珍皇寺・六波羅探題址・建仁寺   11月10日（土） 講義「室町幕府と京都文化」  <br/> フィールドワーク   等持院・一条通・清明社・相国寺   11月24日（土） 講義「近世の京都」  <br/> フィールドワーク   二条城・島原・西本願寺   12月 8<br/> 日（土） 講義「近代の京都」   フィールドワーク   疎水記念<br/> 館・疎水橋・南禅寺・哲学の道   12月25日（火） 午後   フィールドワーク  <br/> 御土居址・北野天満宮縁日（天神さん）の見学     </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0016A01 |
| 科目名       | マスコミ論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Mass Communication Theory A  |       |           |
| 担当者名      | 福永 勝也  | 旧科目名称 | マスコミ論s    |
| 講義概要      | <p>私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | <p>ともかく積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評しましょう。評価については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（20%）、期末（期間外）試験（50%）です。 </p>  |       |           |
| 到達目標      | <p>社会で起きている様々な事象の意味を理解し、バランスのとれた批判力を養うのが目的だが、それは社会常識の醸成にもつながる。つまり、社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。</p>  |       |           |
| 準備学習      | <p>マスコミ理論に加えて日々のニュース解説も行いますので、出来るだけ夜のテレビニュースや新聞を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでもニュース記事を閲覧しておいてください。</p>  |       |           |

#### 受講者への要望

世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な社会事象に関する報道が教材になるわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておいてください。| このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

#### 講義の順序とポイント

1 マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能| 2 わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程| 3 朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで| 4 テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生| 5 米国に追隨した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち| 6 「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化| 7 「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか| 8 NHK的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換| 9 ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか| 10 久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論| 11 職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャルイズム| 12 テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典II」の虚偽報道| 13 「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道| 14 政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道| 15 メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | JM0016B01 |     |       |        |
| 科目名                                     | マスコミ論B   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)                               | Mass Communication Theory B  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 福永 勝也  | 旧科目名称 | マスコミ論 f   |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることが、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思えます。  </p>  |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)                                | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)   |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)                                | その時々授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | <p>ともかく積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評しましょう。評価については、出席状況等を含む平常点(30%)、授業内レポート(20%)、期末(期間外)試験(50%)です。   </p>  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | <p>情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかといった情報判断力が求められます。それがバランスのとれた社会常識の構築につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。</p>   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | <p>マスコミ論の授業は日々起きているニュース性のある社会事象を教材にしているわけですから、毎日の新聞報道、それが難しければ、少なくともテレビニュースはよく見ておいてください。</p>   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | <p>世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュースを新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどで知ることがマスコミ論を学習する際には大切です。ともかく、あらゆるものに興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることを望みます。  このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論A・B」(福永担当)を受講することをお奨めします。  </p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>1 IT革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容  2 ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤  3 インターネットの登場によるユビキタスの「情報通信革命」とは何か  4 メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」(地球村)の誕生  5 消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか  6 ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか  7 新旧メディアによる仁義なき「M&amp;A(合併・買収)ウォーズ」の行方  8 アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐  9 ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」  10 マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網  11 世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件  12 ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末  13 TBSに対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性  14 巨大メディア・コングロマリット(複合企業)による情報の世界的支配  15 メディア業界への就職を希望する学生諸君のために </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0018A01 |
| 科目名        | 音声学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Phonetics I  |       |           |
| 担当者名       | 橋崎 勝則  | 旧科目名称 | 音声学 s     |
| 講義概要       | 日本語の「あ」の音は5種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は4種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における、意味を区別する音素が色々な音声を含むことを理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | IPA 表  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点40パーセント(授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の実技小テストを受けることが必須である。  |       |           |
| 到達目標       | 破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPAの表が理解できる。   |       |           |
| 準備学習       | 幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大きめに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 音声学の対象  2. 英語の母音と日本語の母音の大きな相違点  3. 調音法  4. 調音点  5. 破裂音1  6. 破裂音2  7. 前半のまとめと小テスト  8. 鼻音、弾き音  9. 摩擦音1  10. 摩擦音2  11. 側音、接近音  12. 第一基本母音と第二基本母音  13. ビデオで見る音声学の成果1  14. ビデオで見る音声学の成果2  15. 春学期のまとめ      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0018B01 |
| 科目名   | 音声学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Phonetics II   |       |           |
| 担当者名  | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 音声学 f     |
| 講義概要  | 日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。                     |       |           |
| 教材 (テキスト)   | IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店 2310 円   |       |           |
| 教材 (その他)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 40 パーセント (授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト 60 パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代用する場合もある。                       |       |           |
| 到達目標  | 調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音 15 個とアメリカ英語の母音 22 個の正確な発音ができるようになる。 |       |           |
| 準備学習  | 音声学 I を履修しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 音声学の対象   2. IPA の見方 1   3. IPA の見方 2   4. 音と文字 1   5. 音と文字 2   6. 音と文字 3   7. 前半のまとめと小テスト   8. 子音の発音 1   9. 子音の発音 2   10. 母音の発音 1   11. 母音の発音 2   12. 意味と音   13. 音声特徴 1   14. 音声特徴 2   15. 秋学期のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0021001 |
| 科目名        | きもの学   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Kimono Studies   |       |           |
| 担当者名       | 清水 宏一  | 旧科目名称 | きもの学（基礎）  |
| 講義概要       | 日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装としてのきものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きもの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美の追求を嗜好するきもの世界を探ります。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | きもの文化検定公式教本Ⅰ『きものの基本』（社）全日本きもの振興会企画編集   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | ①平常点（50%）出席状況による ②毎回課す授業内レポート ③確認テスト（50%）  |       |           |
| 到達目標       | 「きもの」を通じた日本文化への理解を深めることを目標とします。  |       |           |
| 準備学習       | 普段からきものに関する意識を強めてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | キャンパスプラザ京都（京都駅前）で行う夏季集中講義であることから、夏季の期間にしっかりと取り組む意志のある学生の参加を希望します。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1回 「ガイダンス」 講義の流れの説明と和 cultura（開講挨拶、受講の諸注意、和 culturaについて）  2回 「きものを知る1」 大震災を乗り越えて（先祖から受け継いできたきもの文化）  3回 「きものを知る2」 世界の民族衣装と日本のきもの（きものを生み出してきた日本の豊かな文化）  4回 「きものを知る3」 きもの歴史と現代のきもの（洋服との違いと長所・欠点）  5回 「きものを知る4」 きものTPO（季節、時、場所、場合ごとのルール）  6回 「きものに親しむ1」 きもの選び（素材、染織、色、文様）  7回 「きものに親しむ2」 きもの産地（いろいろな生地の特徴と値段）  8回 「きものに親しむ3」 着るための準備（小物、半衿、体型補正、下着）  9回 「きものに親しむ4」 悉皆の仕事（しみ抜き、染め替え、仕立て直し） 10回 「きものを楽しむ1」 モードとしてのきもの（きものを気楽に着る） 11回 「きものを楽しむ2」 きものと日本文化（きもの美しさとしぐさ） 12回 「きものを楽しむ3」 男のきものとダンディズム（やさしくたくましく誇り高く） 13回 「きものを楽しむ4」 晴れ着としてのきもの（節目の装束と婚礼衣装） 14回 「きものに挑戦する1」 まとめと試験（レポートと最終試験） 15回 「きものに挑戦する2」 きものファッションショー（自分流に着たきもの姿）  ※ 外部著名講師による講義シリーズですので、変更される場合があります |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | JM0023001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 環境倫理学   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                               | Environmental Ethics  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 佐別当 義博  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 地球温暖化に代表される環境問題が、しきりに議論されている。しかし、これ以上環境が悪化しないような方策の議論となると、合意に至るのは困難なようである。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきた自然観、国家観の基礎に働いてきた倫理に代わる、新たな倫理が未だ構築されていないからである。  本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、新たな倫理を模索した代表的な人々の思想を批判的に紹介する。この講義が、新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。   |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 使用しない   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 講義の進行に合わせ、その都度紹介する。   |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 | 講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 授業中に書いてもらう小論文試験（5回ほど）の素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が6割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 1. 自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 2. 多面的に思考を展開できるようになる。 3. 環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 日頃から新聞等で紹介される環境問題に関する記事を読んでおくこと。 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビ確認すること。）  1. 序論   2. 第1章 環境倫理学の成立  §1 倫理学とは？   3. §2 環境とは？   4. §3 エマソンの思想   5. §4 ソローの思想  6.（第1回授業内レポート）  エピソード1 -温暖化問題から環境倫理の課題を考える-   7. 第2章 環境問題の淵源 -近代的自然観再考-   §5 環境問題の構造   8. §6 デカルト的自然観   9.（第2回授業内レポート）  エピソード2 化石燃料問題 -負の連鎖について-   10. 同上（ビデオ学習）   11.（第3回授業内レポート）  エピソード3 バイオ燃料は救世主？   12. 同上（ビデオ学習）   13.（第4回授業内レポート）   第3章 環境倫理学の展開   §7 「土地倫理」 -レオポルドの思想-   14. 同上   15. §6 「ディープ・エコロジー」 -アルネ・ネスの思想-  （第5回授業内レポート） </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |   |       | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0024001 |
| 科目名   | 医療倫理学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Medical Ethics   |       |           |
| 担当者名  | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の進行に合わせその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 講義資料は事前に京学なびに登録するので、各自プリントアウトして講義に臨むこと。  |       |           |
| 評価方法  | 授業中に書いてもらう小論文試験（5回ほど）の素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が6割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 2. 多面的に思考を展開できるようになる。 3. 医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から新聞等で紹介される医療問題に関する記事を読んでおくこと。 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈黙考に心がけること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| （注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）  1. 序論  2. 第1章 医療倫理学とは  §1 倫理学とは？  3. 同上  4. §2 医療倫理学の成立  5. 同上  6. 同上  7. (第1回授業内レポート)  第2章 医療倫理学の諸原則  §3 自己決定とパターナリズム  8. §4 QOLとSOL  9. (第2回授業内レポート)  第3章 生殖医療   §7 生殖医療の現状  10. §8 子をなす自由と子どもの出自を知る権利（ビデオ学習）  11. (第3回授業内レポート)  第4章 臓器移植法  §9 脳死判定   12. §10 「私の」からだ？  13. (第4回授業内レポート)  第5章 安楽死と尊厳死  §11 死ぬ権利？（ビデオ学習）  14. §12 「私の」いのち？  15. まとめ  (第5回授業内レポート) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0026001 |
| 科目名   | 京都の文学  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Literature of Kyoto  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 京都の地形やおおよその成り立ちを最初に解説し、京都の地理の全体像を頭に入れてもらってから、個々の名所にまつわる物語を一回読み切り形式で紹介していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 毎回プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%と期末試験 50%   |       |           |
| 到達目標  | 京都の有名な神社や寺院の場所といわれが頭に入るので 京都の地理に明るく、地形もわかりやすく 古都への理解が進むことが目的である。           |       |           |
| 準備学習  | 現在の京都市について、地図をながめておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業を聞くだけでなく、自分で京都の名所を訪れてほしい。 少なくとも 70%は授業に出席してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 前置き 京都の地理と交通手段について  2 下鴨神社と上賀茂神社～平安京以前～【山城国風土記】 3 葵祭～嵯峨野～野宮【源氏物語】 4 京都御所～源三位頼政～鶴退治 【平家物語】  5 清水寺～出会いの場所～安寿と厨子王【山椒大夫】  6・7 絶世の美女・常磐御前～五条の橋～牛若丸と弁慶～鞍馬山【絵本・牛若丸】  8 白拍子静御前の一生～堀川夜討ち～吉野の別れ【絵本・静御前】 9 大原寂光院～建礼門院徳子【平家物語】  10 宇治川の先陣争い【平家物語】  11 一条戻り橋～渡辺綱～茨木童子【平家物語・歌舞伎】  12 大江山の酒呑童子【御伽草子】 13 穴太寺～亀岡【今昔物語】 14 復習  15 まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0027A01  |
| 科目名        | 宇宙と地球の科学A   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Science of the Universe and the Earth A   |       |            |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔   | 旧科目名称 | 宇宙と地球の科学 s |
| 講義概要       | 太陽系についての知識は20世紀後半に入って急激に拡大した。これはこれまでの可視光による観測に加えて赤外線・電波観測、人工衛星による紫外線・X線の観測、惑星探査機による観測などの成果である。地球の構造についても研究が進んだが、同時に人間社会の活動が地球環境に及ぼす影響が深刻な問題を投げかけている。この講義では太陽系の最新知識について述べ、地球環境、宇宙環境の中での人類のあり方についても考える。 |       |            |
| 教材（テキスト）   |   |       |            |
| 教材（参考文献）   |   |       |            |
| 教材（その他）    | プリントを配布する。  |       |            |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席状況等による。定期試験（60%）  |       |            |
| 到達目標       | 自然科学における考え方と方法について地球や太陽系を題材として理解を深める。   |       |            |
| 準備学習       | 太陽系や地球に関する問題を常に意識し、新聞やテレビ等のメディアに日々関心を持っておくこと。   |       |            |
| 受講者への要望    | 高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義である。DVDやビデオを用い、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1. 太陽系の構造   2. 惑星の運動法則   3. 地球の姿   4. 地球の環境   5. 月   6. 水星   7. 金星   8. 火星   9. 木星   10. 木星の衛星   11. 土星   12. 天王星、海王星、冥王星   13. 小惑星   14. 彗星   15. まとめ  |       |            |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |            |
|------------|---|-------|------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0027B01  |
| 科目名        | 宇宙と地球の科学B   | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Science of the Universe and the Earth B   |       |            |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔   | 旧科目名称 | 宇宙と地球の科学 f |
| 講義概要       | 星や宇宙についての知識は20世紀後半に入って急激に拡大した。これはこれまでの可視光による観測に加えて赤外線・電波観測、人工衛星による紫外線・X線の観測による観測などの成果である。この講義では星や宇宙の最新知識について述べ、宇宙環境の中での人類のあり方についても考える。  |       |            |
| 教材（テキスト）   |   |       |            |
| 教材（参考文献）   |   |       |            |
| 教材（その他）    | プリントを配布する。  |       |            |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等による。定期試験（60％）  |       |            |
| 到達目標       | 自然科学における考え方と方法について宇宙を題材として理解を深める。   |       |            |
| 準備学習       | 宇宙に関する問題を常に意識し、新聞やテレビ等のメディアに日々関心を持っておくこと。   |       |            |
| 受講者への要望    | 高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義である。DVDやビデオを用い、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。  |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1. 天文と宇宙   2. 地球上の現象   3. 天体からくる光   4. 望遠鏡と天体観測装置   5. 太陽   6. 恒星の性質   7. 恒星の誕生   8. 恒星の死   9. パルサー、中性子星   10. ブラックホール   11. 我々の銀河系   12. 系外銀河   13. クェーサー、活動銀河   14. 現代の宇宙論   15. 地球外生命の探索 |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0028A01 |
| 科目名  | 京都学 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Kyoto Studies I  |       |           |
| 担当者名   | 清水 宏一  | 旧科目名称 | 京都学 s     |
| 講義概要   | 京料理、京菓子、きもの、祭、寺社、町家、祇園花街など現代の京都を代表する、いわゆる「京都らしいもの」を素材にして、その歴史やいわれ、後世に伝えていくための革新的取り組みなどを知ることにより、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく古都・京都の「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (50%) 出席状況等によります。定期テスト (50%)   |       |           |
| 到達目標   | 「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学ぶことを目標とします。  |       |           |
| 準備学習   | 京都に関わる行事やイベント、ニュースなどに関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| この講座は、京都の歴史、産業、文化、観光、風物をテーマに、コミュニケーション力、協働力、適応力、行動力、課題発見力、論理的思考力などの「人間力」を養うために、産学官協力の一環として設定されました。そのため、京都学 I では、そのための基本的知識を、京都学 II では実践的課題を学ぶようにカリキュラムされています。 したがって、京都学 I の受講生は京都学 II の履修を前提に取り組んでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約1200年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。その間、京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。世界の歴史でも際立って長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことはきわめて珍しいことです。その根源は何かを探ります。 第 1 回 授業ガイダンスと日本文化の基本  第 2 回 京都の街並み (京都のまちを作った古代思想と、首都の条件)  第 3 回 伝統産業と京都 (伝統産業の基本と、織物、染物、漆器、陶器など製品の分野)  第 4 回 ものづくりの伝統 (府県ごとの伝統産品とその中での京ものの価値)  第 5 回 東京奠都と明治の冒険 (琵琶湖疏水、蹴上発電所、上水道、別荘地開発、市電など)  第 6 回 京都の新産業 (島津製作所、京セラ、任天堂などベンチャー企業の源流)  第 7 回 京都の文化 (京料理の美とこだわりに見る宮廷・社寺・町衆の文化)  第 8 回 京都の伝統 (茶道・華道・香道・書道・禅道などにみる修業と和文化)  第 9 回 京都の社寺 (世界遺産や風物・自然など京都の観光の実態と振興戦略)  第 10 回 京都の文化観光 (町家、美術館、博物館、産業館、映画村など文化拠点)  第 11 回 京都の祭事 (葵祭、祇園祭、時代祭、五山送り火、花灯路、学生祭典京など祭の根源)  第 12 回 京都の新観光 (産業観光、体験観光、ニューツーリズム、心の観光など)  第 13 回 京都の値打ち (京モノ神話、ブランド力、若さの源流、和文化など)  第 14 回 京都の風物 (京の歳時記、京都人気質、新しいまちづくり、コミュニケーション)  第 15 回 京都の将来 (全体のまとめと、明日への期待) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0028B01 |
| 科目名   | 京都学 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Kyoto Studies II   |       |           |
| 担当者名  | 清水 宏一  | 旧科目名称 | 京都学 f     |
| 講義概要  | 「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都の営みを、暮らし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学ぶとともに、観光関連施設での現地学習を行います。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%)、フィールドワーク (50%)   |       |           |
| 到達目標  | 「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都の営みを、暮らし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学びます。                     |       |           |
| 準備学習  | 京都に関わる行事やイベント、ニュースなどに関心を持つておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 京都学 I を修得していることが望ましいが、必修要件ではありません。 フィールドワークでの現地講義が必須であり、土曜日等の授業休講日における参加が必要です。また、見学先によっては、交通費、入場料等の実費負担が発生します。 なお、本学学生以外の受講生 (一般聴講生等) がフィールドワークに参加する場合は必ず傷害保険に加入いただくことになります。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ◎ 講義 (途中でフィールドワークが入ります)   第 1 回 授業ガイダンスと京都の一般常識  第 2 回 京都のまちづくり戦略  第 3 回 京都の観光戦略  第 4 回 京都の産業戦略  第 5 回 京都の文化・教育戦略  第 6 回 京都のコミュニケーション戦略  第 7 回 ユニバーサルサービス  第 8 回 和文化によるプレゼンテーション術  第 9 回 ニューツーリズムと亀岡での可能性   ◎ フィールドワーク (これらのうちから相手方の都合等を考慮して決定します)   第 1 回 京都市伝統産業ふれあい館  第 2 回 京都リサーチパーク (京都産業 2 1、京都市産業技術研究所、アステム)   第 3 回 京都駅ビルと京都駅周辺の観光名所 (観光センター、東寺、本願寺など)   第 4 回 京都府農林水産技術センター農林センター塾   第 5 回 京都市中央卸売市場第一市場  第 6 回 京都国際まんがミュージアム   ◎ あらかじめ設定するフィールドワークは上記の 6 回ですが、状況に応じてその他のフィールドワークを設定することがあります。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0029A01 |
| 科目名   | 京都検定講座 I  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I  |       |           |
| 担当者名  | 堤 勇二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 京都大発見！ 年間五千万人を迎え続ける観光都市・京都。  京都を最強の観光都市たらしめている理由は一体なんでしょう？   普段は気づかないけれども、その意味を考えると、そこには千年の歴史を背景に、衣食住のすべてにわたり日本文化を創出し、また宗教、学問をリードし続けるスピリチュアル都市の凄みが見えてきます。  講義はクイズ形式で進行し、皆さんと一緒に考えていきます。  この機会に是非京都の魅力を再発見しましょう。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 使用しない。適宜プリント配布  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 内容ごとに紹介   |       |           |
| 教材 (その他)  | パワーポイント使用。場合によって映画・ビデオも上映。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況等による。定期テスト (20%) レポート (30%)   出席は授業中に提出する問題の回答を兼ねた出席カードのみ評価します。  授業中に質問した場合は平常点評価をアップします。   |       |           |
| 到達目標  | 京都を好きになり、その理由を人に説明できる。  授業で採り上げた場所や観光素材を自信をもって人に紹介できる。  京都の祭礼の本来の意味を正しく理解する。  ガイド本に記載されていない自分だけの京都の魅力を発見できる。  |       |           |
| 準備学習  | 京都に関する書籍、新聞記事、テレビ番組などを見て、京都への意識を高めておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出席は各授業で配布しその場で記入する出席カードのみ評価します。  平素から京都への興味を持ち、疑問や質問を持つようにしてください。  授業中に質問をした人は、平常点をプラスしますので、どしどし質問してください。  講義内容や順番は適宜変更する可能性もあります。  町家キャンパスについては野外学習や現地見学を行う可能性もあります。その場合の交通費や拝観料その他は自己負担となります。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 京都とは？ はじめに 京都の観光 京都の神社 I  京都の神社 II  京都の寺院 I  京都の寺院 II  京都の世界遺産 京都の祭 I  京都の祭 II  京都の名所 京都の工芸 京都の料理 京都の菓子 京都への質問 京都とは？ まとめ  |   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |      | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0029A02 |
| 科目名   | 京都検定講座 I 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I  |       |           |
| 担当者名  | 堤 勇二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 京都大発見！ 年間五千万人を迎え続ける観光都市・京都。  京都を最強の観光都市たらしめている理由は一体なんでしょう？   普段は気づかないけれども、その意味を考えると、そこには千年の歴史を背景に、衣食住のすべてにわたり日本文化を創出し、また宗教、学問をリードし続けるスピリチュアル都市の凄みが見えてきます。  講義はクイズ形式で進行し、皆さんと一緒に考えていきます。  この機会に是非京都の魅力を再発見しましょう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。適宜プリント配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 内容ごとに紹介   |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイント使用。場合によって映画・ビデオも上映。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50％）出席状況等による。定期テスト（20％） レポート（30％）  出席は授業中に提出する問題の回答を兼ねた出席カードのみ評価します。  授業中に質問した場合は平常点評価をアップします。  |       |           |
| 到達目標  | 京都を好きになり、その理由を人に説明できる。  授業で採り上げた場所や観光素材を自信をもって人に紹介できる。  京都の祭礼の本来の意味を正しく理解する。  ガイド本に記載されていない自分だけの京都の魅力を発見できる。  |       |           |
| 準備学習  | 京都に関する書籍、新聞記事、テレビ番組などを見て、京都への意識を高めておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出席は各授業で配布しその場で記入する出席カードのみ評価します。  平素から京都への興味を持ち、疑問や質問を持つようにしてください。  授業中に質問をした人は、平常点をプラスしますので、どしどし質問してください。  講義内容や順番は適宜変更する可能性もあります。  町家キャンパスについては野外学習や現地見学を行う可能性もあります。その場合の交通費や拝観料その他は自己負担となります。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 京都とは？ はじめに 京都の観光 京都の神社 I  京都の神社 II  京都の寺院 I  京都の寺院 II  京都の世界遺産 京都の祭 I  京都の祭 II  京都の名所 京都の工芸 京都の料理 京都の菓子 京都への質問 京都とは？ まとめ  |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0029B01 |
| 科目名        | 京都検定講座 II   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture II   |       |           |
| 担当者名       | 山本 一也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>京都検定に合格するには、重要事項の暗記は当然のことながら、京都の歴史や文化の本質を学ぶことも案外重要であるように思われる。しかも、平安京から続く京都の文化は、日本の古典的な文化の基礎であると言われる。つまりは、京都の文化を学ぶことは、日本の文化を学ぶことでもある。  だが、そうした京都の文化にも非常に多様な側面がある。そのうち、京都検定合格のために重要なテーマをいくつか設定し、それを歴史という観点から学ぶことにより、京都の文化の特質を捉えることが本講座の目的である。  授業では、歴史史料、文学史料、絵画史料だけでなく、様々な映像資料(ドキュメンタリー、映画、アニメーション)なども使用することで、より具体的なイメージの構築を図りたい。  京都検定を受検するにせよしないにせよ、この講義を受講することで、京都ブームの世にあって人よりも京都を楽しめるようになっていただければと思う。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に随時指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし。   |       |           |
| 評価方法       | 授業参加(約 50%) + テスト(約 50%)による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 京都検定合格。  京都の文化と歴史に詳しくなる。  |       |           |
| 準備学習       | 不要。   |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的な出席と授業への取り組みが必要です。  京都検定を受検する予定のない人も勿論受講可能です。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>順序は変動する可能性があります。  ①京都について学ぶ意義   ②京都の構造 ~平安京から都市京都へ   ③桓武天皇と平安遷都   ④怨霊と御霊信仰   ⑤菅原道真と北野天満宮   ⑥様々なケガレ   ⑦女人禁制   ⑧祇園祭   ⑨鳥辺野と六道まいり   ⑩盆行事と五山の送り火   ⑪『源氏物語』と天皇のキサキ   ⑫賀茂祭(葵祭)   ⑬京都の花街   ⑭京都を舞台にした文学・映画   ⑮まとめ</p>  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                  |
|--|---|-------|------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0030A01        |
| 科目名  | 京都商人論 I   | 単位数   | 2                |
| 科目名 (英語表記)   | Theory of Kyoto Merchants I   |       |                  |
| 担当者名   | 植田 知子   | 旧科目名称 | 京都商人論 A, 京都商人論 s |
| 講義概要   | <p>平安京遷都 (794 年) 以来、明治維新 (1868 年) に至る約 1100 年の間、京都は日本の政治・経済・文化・産業の中心地として発展してきました。その間、京都は幾多の戦火や災禍を乗り越えなければならず、そうした経験の中から生み出された生活規範・行動様式・商いの理念は、今日の京都の商人にも受け継がれています。 「京都商人論 I」では、まず物資の流通の点から、京都のおかれた位置を理解することにつとめます。平安末期から鎌倉初期になると、一定の商品流通が見られるようになり、店舗商業が成立しますが、これが最初にあらわれたのが京都です。本講義では、主に中世から近世における商業の仕組みと、その発展過程を学ぶことを課題とします。なお、個々の商人の活動についても、数例取り上げて具体的に紹介します。 </p> |       |                  |
| 教材 (テキスト)  | 使用しません。各講義でプリントを配布します。  |       |                  |
| 教材 (参考文献)  | 授業中、適宜指示します。  |       |                  |
| 教材 (その他)   | 古文書・絵図・写真なども教材として使用します。   |       |                  |
| 評価方法   | 小レポート (20%) 定期テスト (80%)   |       |                  |
| 到達目標   | 京都における商業および、商人の発展過程を理解すること。   |       |                  |
| 準備学習   | 毎回、前週の授業内容を整理・理解したうえで次の授業に臨んで下さい。疑問点があれば、早めに質問して下さい。  |       |                  |
| 受講者への要望  |   |       |                  |
| 京都の伝統的な商家や商品に関心を持ちましょう。  |   |       |                  |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                  |
| <p>1. 日本古代の物資の流通  2. 平安京の市と商品  3. 中世の商業と商人①; 問と座  4. 中世の商業と商人②; 土倉と借上  5. 京都の代表的商人①  6. 京都の代表的商人②  7. 幕藩制社会の仕組みと商業  8. 近世の商業と商人①  9. 近世の商業と商人②  10. 京都の代表的商人③  11. 京都の代表的商人④  12. 文化都市から観光都市京都へ  13. 京都の代表的商人⑤  14. 京都の代表的商人⑥  15. まとめ</p> |   |       |                  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |                |
|---|--|-------|----------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0030B01      |
| 科目名   | 京都商人論  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Kyoto Merchants I  |       |                |
| 担当者名  | 植田 知子  | 旧科目名称 | 京都商人論B, 京都商人論f |
| 講義概要  | 近世初期に活躍した初期豪商・初期特権商人らに代わり、寛文～元禄期に現れてくるのが地道で堅実な新興商人層です。「京都商人論II」で焦点をあてるのはこの新興商人たちで、講義は次の2点を課題として進めていきます。①近世商家の雇用制度や経営理念についての理解。②商家の外観・内部構造・道具類・広告宣伝などに着目し、京都商人の商慣習や商業活動をより多角的、具体的に把握すること。 なお、「京都商人論II」を受講する前に、「京都商人論I」を受講して、基本的な商業史・経済史の知識を学んでおくことが望まれます。 |       |                |
| 教材（テキスト）  | 使用しません。各講義でプリントを配布します。   |       |                |
| 教材（参考文献）  | 授業中、適宜指示します。   |       |                |
| 教材（その他）   | 古文書・絵図・写真などを教材として使用します。  |       |                |
| 評価方法  | 小レポート（20%） 定期テスト（80%）  |       |                |
| 到達目標  | 商家の雇用制度と経営理念を理解し、時代とともに商業活動がどのように変化、進展したのかを学ぶ。   |       |                |
| 準備学習  | 京都商人論Iからの継続的受講が望まれる。   |       |                |
| 受講者への要望   |  |       |                |
| 京都の町を歩いてみましょう。老舗の店構えや看板、商品陳列に目をとめましょう。新聞や業界誌に掲載された店主・経営者の方々の経営談、商品開発の秘話、奮闘記などを読みましょう。   |  |       |                |
| 講義の順序とポイント  |  |       |                |
| 1. 京都の歴史と風土  2. 商家の雇用制度①  3. 商家の雇用制度②  4. 京都商人の経営理念；家訓①  5. 京都商人の経営理念；家訓②  6. 京都商人の経営理念；家訓③  7. 町運営と商家  8. 商家の外観と商いの道具  9. 看板・暖簾に見る京都の商い①  10. 看板・暖簾に見る京都の商い②  11. 屋号と商標  12. 広告宣伝  13. 京都の代表的商人①  14. 京都の代表的商人②  15. まとめ |  |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0032A01 |
| 科目名        | 経営学入門 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Management A  |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生   | 旧科目名称 | 経営学入門 s   |
| 講義概要       | 1 経営学の対象は企業の活動です。企業の目的は利益を追求することと、物とサービスの永続的な生産と供給をすることです。 2 そのため、企業を取り巻く環境の変化に対応する企業行動を勉強します。 3 具体的に力を入れることは、企業の組織のあり方と経営戦略を、理論と事例より、詳しく説明し講義を進めたいと思っています。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 伊丹敬之 加護野忠男著 『ゼミナール経営学入門』 日本経済新聞社 3,150 円   中古本でも可(例として、アマゾンで300円より)   梅津祐良監修 池上重輔著 『「図解」わかる! MBA』 PHP 文庫 514円    石井淳蔵 奥村昭博 加護野忠男 野中郁次郎  |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験と平常点を総合して評価します。 評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。  |       |           |
| 到達目標       | 経営学の基本的な仕組みと、内容を知る。 ビジネスマンに必要な経営の知識を学ぶことを目標とします。  |       |           |
| 準備学習       | 企業の経営に興味を持ってください。社会での出来事、特に企業の様々な活動を注意深く見たり、聞いたり、読んだりしてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語は厳禁です。 私語が多い人は、他の学生の迷惑となりますので退出を求めます。 鉛筆とノートを持参して、筆記をする習慣をつけてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 進め方として、 ① 企業と環境との関係 ② 競争の戦略 ③ 事業構造の戦略 ④ 国際化の戦略 ⑤ 経営制度と資本金  ⑥ 組織のマネジメント ⑦ 組織構造のありかた ⑧ 人とインセンティブ ⑨ 計画とコントロール  ⑩ 経営理念と経営文化 ⑪ 人の配置と育成 ⑫ リーダーシップ ⑬ 企業の発展と矛盾  ⑭ 日本的経営の特徴 ⑮ 日本の企業システムと人  の順番に進めたいとおもっています。 そこでは、教科書とパワーポイントにて分かり易い図表を見せながら進めますので、筆記道具を忘れないようにしてください。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0032B01 |
| 科目名        | 経営学入門B   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Introduction to Management B   |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生  | 旧科目名称 | 経営学入門 f   |
| 講義概要       | 前期に続いてより詳しく、進めます。 経営学の対象は企業の活動です。企業の目的は利益を追求することと、物とサービスの永続的な生産と供給をすることです。そのため、企業を取り巻く環境の変化に対応する企業行動を勉強します。 具体的に力を入れることは、販売とベンチャービジネスの経営戦略を、理論と事例より、詳しく説明し講義を進めたいと思っています。  |       |           |
| 教材(テキスト)   |  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 伊丹敬之 加護野忠男著 『ゼミナール経営学入門』 日本経済新聞社 3,150円   中古本でも可(例として、アマゾンで300円より)   梅津祐良監修 池上重輔著 『「図解」わかる! MBA』 PHP 文庫 514円   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験と平常点を総合して評価します。 評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。   |       |           |
| 到達目標       | ビジネスマンに必要な経営用語と実例を理解します。また、おもな経営戦略についての理解を深めます。  |       |           |
| 準備学習       | 企業経営についての雑誌、新聞、インターネットでの記事を読んでもください。特に、固有の企業名で報道される記事には必ず目を通してください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語は厳禁です。 私語が多い人は、他の学生の迷惑となりますので退出を求めます。 鉛筆とノートを持参して、筆記をする習慣をつけてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 前期の続きで進みます。特に、経営戦略の切口より進めたいと思います。  ① 販売管理の戦略(1-2回)  ② マーケティング戦略(3-5回) と事例研究(6-8)   ③ 生産管理戦略 トヨタの経営戦略(9-11)   ④ 国際化戦略(12回)  ⑤ ベンチャービジネス(13回)  ⑥ 企業家精神(14回)  ⑦ 組織戦略(15回) ここでは、パワーポイントにて分かり易い図表を見せながら進めますので、筆記道具を忘れないようにしてください。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0033001 |
| 科目名        | 経済学概論   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Economics   |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済学はその時代に生じた問題に答えようとして考察され、発展してきた。本講では経済学が資本主義の発展をどのように理論的に説明してきたのか、その考え方を捉える。 市民社会の成立を経て、18世紀後半にスミスは人々の「同感」と市場における価格体系によって社会の均衡が実現すると考えた。 市場が社会に行き渡った19世紀後半になると、ワルラスは、市場経済制度を基礎とする国民経済における市場のメカニズムを明らかにした。 しかし、生産設備が巨大となって、20世紀に入り、ヴェブレンは、自由競争は阻害され、資源配分が不均衡となり、同時に金融市場が不安定になることを指摘した。 その後、1930年代前後の大恐慌期に、ケインズは大量の失業を目の当たりにして、資本主義にはもともと不均衡であり、経済学はそれも視野に入れた「一般理論」でなければならないと主張した。彼の考え方に基づく経済政策を採用し、戦後、資本主義は安定と成長を実現する。 ところが、1960年代後半から財政赤字が深刻となり、1970年代に長期・構造不況期にはいる。その過程でフリードマンの新自由主義的な主張が受け入れられた。今日、資本主義は金融自由化が進められ、「国際的な金融市場」に活路を見いだしている。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 宇沢弘文、『経済学の考え方』、岩波新書   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点20%（毎回の授業で、質問、要望、感想を提出。出席点ではない。） 定期試験80%。  |       |           |
| 到達目標       | <p>経済学の基礎概念：市場、分配、価格、企業、需要、所得、貨幣などの理解。 資本主義の段階的発展と経済学の発展の関係の理解。 価格と需要・供給がどのように決まるかの理解。 国民所得はどの様に循環しているかの理解。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。 授業の冒頭10分で、授業のテーマを説明するので、それを頭に入れて話を聞くこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経済学の内容とともに資本主義の発展、経済学の思考方法に関心を持ってほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>I はじめに 経済学の課題と方法   1 経済学とは何か II 市民社会の経済学 スミス  2 同感の思想  3 産業革命  4 分業論  5 貨幣、自然価格論  III 資本主義の確立 リカード  6 投下労働価値説 IV 自由競争の頂点 ワルラス  7 消費者の行動  8 価格と需要  9 労働力の供給  10 生産者の行動   11 価格と供給  12 需給均衡理論  13 新古典派の資本主義観  14 過渡期 大不況期 V 20世紀の資本主義 ヴェブレン  15 消費者の行動  16 企業の行動  17 寡占市場、金融不安  18 過渡期 大恐慌 VI ケインズ政策の時代 ケインズ  19 非自発的失業  20 流動性選好  21 有効需要理論   22 IS・LM分析  23 財政金融政策  24 戦後安定と成長 国際通貨制度  25 過渡期 長期不況 VII 新自由主義経済学  26 供給経済学 マネタリズム  27 金融自由化、バブル VIII まとめ  28 ワルラス価格論のまとめ  29 ケインズ国民所得論のまとめ  30 経済学の方法  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0036001 |
| 科目名       | 現代基礎教養   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Modern General Education   |       |           |
| 担当者名      | 山下 功   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。  「判断推理」の問題では、知識は必要とされません。与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められています。 そのため、対策はなおざりになりがちですが、正答率に差がつくのもこの科目です。  また、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められています。  こうした論理力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生全員を本講義の対象とします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 資格試験研究会編『公務員試験新スーパー過去問ゼミ3 判断推理[改訂版]』実務教育出版、2010年 ※数的推理ではありません。注意して下さい。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、講義中にプリントを配布   |       |           |
| 評価方法      | 中間テスト（40%） 学期末テスト（40%） レポート及び平常点（20%）  |       |           |
| 到達目標      | 社会人として求められる論理的な判断力の獲得。   |       |           |
| 準備学習      | 各トピックの必修問題を予習しておく、講義の理解がより深まります。また、復習は十分に行ってください。  |       |           |
| 受講者への要望   | <p>熱意をもって取り組むこと。 話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみるのが理解への一番の近道です。 また、講義中の質問を歓迎します。</p> <p>講義の順序とポイント</p> <p>1. 講義ガイダンス 2. 対応関係1 3. 対応関係2 4. 順序関係1 5. 順序関係2 6. 位置関係1 7. 位置関係2 8. 中間テスト 9. 試合の勝敗1 10. 試合の勝敗2 11. 発言推理1 12. 発言推理2 13. 操作の手順1 14. 操作の手順2 15. 暗号  ※講義の進行具合により、中間テストの日程は前後します。</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0037001 |
| 科目名       | 現代社会と教育  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Education in the 21st Century  |       |           |
| 担当者名      | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 70年代、80年代にゆるやかに上昇してきた大学・短大への進学率は、90年代に入って予想をこえる伸びを示し、今世紀に入ってついに50%を超え、2010年春には56.8%という史上最高の数字に至った。2011年は56.7%であり、すでに「大衆化」の段階をとくに通り過ぎている。これに専門学校への進学者をあわせると、ほぼ80%。だれもが希望すれば高等教育とかかわることのできる「ユニバーサル・アクセス」の段階を突き進んでいるのである。  「ユニバーサル化」した高等教育は、当然、質が大きく変化する。そこで各教育機関は、それぞれ独自、個別の課題をいくつもかかえ、模索し悩みながらそれらの克服に取り組んでいる。  現在、全体として日本の高等教育は、激動を続けて一つのシステムとしての安定にいたらず、いわば混沌状態にある。そうした中に、伝統的な秩序の崩壊から新しい秩序の再生の様相を見届けようとする、ある教育学者のレポートを読んでいく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 教科書一冊とは定めない。教育社会学者天野郁夫の論文・講演のコピーを適宜配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | とくに指定なし。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材や新聞記事などを多用する。   |       |           |
| 評価方法      | ほぼすべての授業において、その日の講義内容についての小テストを行ない、その合計点を評点とする。  |       |           |
| 到達目標      | 20世紀の終末からはじまったわが国の大学の変化、とくに教育機関としての機能の多様化について理解し、今後の課題を考える。  |       |           |
| 準備学習      | 普段から新聞やテレビその他メディアの報道に目をむけ、とりわけ青年期の教育や発達の問題に関心を持つように心がけること。   |       |           |

#### 受講者への要望

とくに専門性の高い難しい内容の講義を行なうつもりはない。現代の学校教育全体の問題の根元には、高等教育の普及、大衆化があるということから出発して、大学教育という身近な領域で起こっているさまざまな動きや変化について、わかりやすく平易に解説する授業をこころがける。毎回のテストも、理解した内容の要点を平明簡潔にまとめる力があれば問題ない。| ただし毎時間テストがあるから、出席不良では単位修得は難しい。また、遅刻者の入室は授業の流れを妨げるから、教室から締め出すこともする。ちなみに2011年度を受講生の単位取得率は、経済学部42%、経営学部54%、法学部83%だった。

#### 講義の順序とポイント

1. 講義の目的と概要 | 2. 混迷する大学像 (1987) | 3. 挑戦される大学 (1988) | 4. 大学改革——今なぜ必要か (1992) | 5. 内部組織——学部・講座制のゆくえ (1993) | 6. 学部教育——新しい姿を求めて (1992) | 7. 展望——高等教育の未来 (1991) | 8. 新しい大学像 (1995) | 9. 研究から教育へ (1996) | 10. 大学に教育革命を (1996) | 11. ユニバーサル化の衝撃 (1996) | 12. 改革の展望 (1995) | 13. 教養教育の課題 (1995) | 14. 質の保証装置 (1996) | 15. 再び「教育革命」を (2000) | 16. 大学の学力問題 (1998) | 17. 変わりゆく高等教育 (2002) | 18. 構造的な変化 (2002) | 19. 高等教育システムが変わる (2002) | 20. 変貌する大学 (2002) | 21. 多様化する学生 (2002) | 22. 専門職大学院の衝撃 (2003) | 23. 教育改革のいま (2003) | 24. 異空間性の復権 (2003) | 25. 知の共同体から企業体へ (2000) | 26. 日本モデルの構築へ (2003) | 27. 改革の潮流と課題 (2002) | 28. グランドデザインの模索 (2004) | 29. 「将来像答申」の読み方 (2005) | 30. 講義のまとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                       | 2012   | 授業コード | JM0038A01 |     |       |        |
| 科目名                                      | 国際関係論A   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                                | International Relations A  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                     | 小山 雅徳  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                     | 本講義の目的は、現在の国際社会において生じる様々な問題を客観的・理論的に理解するため、その基礎となる知識を習得することである。具体的には、第一に、主権国家を基礎的構成要素とする現在の国際社会の成立と変容について、その歴史的経緯を学んでいく。第二に、国際社会の在り方・性質に関する多様な見方を理解するために、複数の理論的視角を学んでいく。   |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                 | レジュメを使用する  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                 | 授業中に適宜指示する   |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                  | 必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                     | 期末試験：70%、平常点（コメントカード等の提出状況に基づく）：30%  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                     | 1. 主権国家を基礎単位とする国際社会の性質について、特に国内社会との異同を説明することができる。  2. 現在の国際社会が成立するまでの歴史的経緯を説明することができる。  3. 国際社会の在り方に関して、複数の理論的視角に基づく異なる見方を説明することができる。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                     | 1. 高校レベルの世界史の内容（特に近現代史）を復習しておくこと。  2. 国際社会で生じている様々な出来事や問題に関して、新聞やテレビなどの報道に注意を払うこと。  3. レジュメを熟読しておくこと。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                  | 1. 基本的な講義内容はレジュメに記載しますが、レジュメを読むだけでは単位取得は困難であると思われます。講義に出席し、しっかりとノートを取り、必要に応じて適宜参考文献を参照するなどして、各自でレジュメの内容を補完して行って下さい。  2. 不定期にコメントシート又は小レポートの提出を授業時間中に求めます。提出状況は平常点として成績評価に加味します。  3. 授業時間中の私語は慎んで下さい。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                               | 1. イントロダクション  2. 国際社会と国内社会の相違  3. 西欧国際社会の成立（1）：主権国家の誕生  4. 西欧国際社会の成立（2）：ナショナリズムと帝国主義  5. 西欧国際社会から現代国際社会へ（1）：第一次世界大戦と「危機の20年」  6. 西欧国際社会から現代国際社会へ（2）：第二次世界大戦と国連の誕生  7. 冷戦（1）：冷戦の起源と展開  8. 冷戦（2）冷戦構造の変容と冷戦の終焉  9. 冷戦後の国際社会：「歴史の終わり」か「文明の衝突」か？  10. 国際社会の見方（1）：リアリズム  11. 国際社会の見方（2）：リベラリズム  12. 国際社会の見方（3）：従属論と世界システム論  13. 国際社会の見方（4）：コンストラクティビズム  14. 国際社会の見方（5）：事例分析  15. まとめ |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0038B01 |
| 科目名        | 国際関係論B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | International Relations B   |       |           |
| 担当者名       | 小山 雅徳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、「グローバル化」と「地域主義」をキーワードとしながら、今日の国際社会で生じている地域的あるいは地球規模の諸問題について、体系的かつ巨視的な視点から理解することができるようになることを目指す。また、そのような視点に立脚したうえで、日本の外交政策の方向性について、受講者各々が考える契機となることを合わせて目標とする。  なお、本講義の受講にあたって国際関係論 A の履修は要件ではないが、可能であれば先に国際関係論 A を履修しておくことが望ましい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | レジュメを使用する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてビデオ教材やパワーポイントを活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験：70%、平常点 (コメントカード等の提出状況に基づく)：30%  |       |           |
| 到達目標       | <p>1. 「グローバル化」とは何を意味するのか、またそれが今日の国際社会においてどのような影響をもたらしているのかを説明することができる。  2. 今日の国際社会に存在する地域主義の動きについて、具体的な事例に言及しながら説明することができる。  3. 今日の国際社会における日本の外交政策について、各自が自分の考えを持ち、それを論理的・説得的に説明することができる。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>1. 地球規模の諸問題や世界各地における地域統合の動きについて、新聞やテレビなどにおける報道に日々関心を持っておくこと。  2. 日本の外交政策について関心を持っておくこと。  3. レジュメを熟読しておくこと。</p>   |       |           |

#### 受講者への要望

1. 基本的な講義内容はレジュメに記載しますが、レジュメを読むだけでは単位取得は困難であると思われます。講義に出席し、しっかりとノートを取り、必要に応じて適宜参考文献を参照するなどして、各自でレジュメの内容を補完して行って下さい。| 2. 不定期にコメントシート又は小レポートの提出を授業時間中に求めます。提出状況は平常点として成績評価に加味します。| 3. 授業時間中の私語は慎んで下さい。

#### 講義の順序とポイント

1. イントロダクション| 2. グローバリゼーションとは何か (1)：ヒト・モノ・カネの移動とその影響| 3. グローバリゼーションとは何か (2)：グローバリゼーションの歴史| 4. グローバリゼーションとは何か (3)：南北問題と反グローバリゼーション運動| 5. グローバリゼーションとは何か (4)：非国家主体の台頭| 6. グローバリゼーションとは何か (5)：グローバル・ガバナンス論| 7. グローバリゼーションとは何か (6)：事例研究| 8. グローバリゼーションと地域主義 (1)：国際社会における地域主義| 9. グローバリゼーションと地域主義 (2)：欧州統合の深化と拡大| 10. グローバリゼーションと地域主義 (3)：アジアにおける地域統合| 11. グローバリゼーションと地域主義 (4)：地域経済統合と FTA| 12. グローバリゼーションと地域主義 (5)：東アジア共同体に向けた動き| 13. グローバリゼーションと日本 (1)：国際社会の中の日本| 14. グローバリゼーションと日本 (2)：グローバル・アジェンダと日本の役割| 15. まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | JM0039001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 産業心理学  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Industrial Psychology  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 森田 敬信  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | めまぐるしく変化する世界情勢の中で、わが国においても産業構造の変化、たとえば企業のリストラチャリングなどともなっていて組織の人的構造もまた急激に変化している。それは場合によっては労働者に過酷な適応を求めることになる。職場の人間関係においても自我防衛機制が強く、心に重いヨロイをつけた人々が多くなり、生き生きした実存感を持っていない。人生 80 年といわれる高齢者社会における労働市場の変化、また多様化する価値観、職業観によって適性・エゴアイデンティティに悩む若者も多い。コンピューターの発達で職場の在り方を急速に変化させ、テクノストレスとなって人間関係の欠如、思いやり喪失などを生じてくる。経済的発展による空間移動の多量化、高速化は、それに従事する人々のみならず公害となって多くの人々の健康や安全を脅かしている。多様化するライフスタイルは消費者行動にも変化をもたらしている。このような産業行動における諸問題について、人の特性を中心とした実証的研究を基に概説する   |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | NIP 研究会編『仕事とライフ・スタイルの心理学』福村出版 2,800 円  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               |  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | 適宜プリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点 (30%) 出席状況等による。レポート (20%) 定期テスト (50%)  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 「働く人」になるための基礎的な知識を得ること、心の準備ができること。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 働く人やリーダーをよく観察し、自分のキャリアについても関心を持っておく。ヒューマンエラーに関するニュースなど情報収集をしておく。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 毎時、その時間のテーマに関連した小テストを実施し理解度を診断する。小テストには質問、感想などメッセージも遠慮なく記入してよい。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. 産業社会と人間 (講義概要の説明) ① 経済のソフト化 (情報・知識を扱う産業) と人間  2. ② 労働市場の変化 (女性の社会進出、パートタイマー) ③ 高齢化社会と労働  3. 職業適性とキャリア ① 職業適性の意味 ② 適性の予見性と職務の相補性  4. ③ 適性の測定 ④ キャリア・アンカーとメンター  5. 職業適応 ① 職務適応と職場適応、職場定着  6. ② 社会的欲求と達成動機 (やる気を起こさせるには)  7~8. ③ 職場適応の理論 (ハーズバーグ、永丘、樋口他)  9. 産業ストレスとメンタルヘルス ① ストレスの意味とストレスの測定  10. ② 疾患と行動パターン (A 型行動パターン)  11. 職場のストレスとメンタルヘルスマネジメント  12. (実習) 感受性訓練 (心のヨロイ (自我防衛機制) をはずしてみたら)  13~14. 職場の安全とヒューマンファクター ① 事故とヒューマンファクター  15. ② 安全教育  16. 職場集団の構造と集団力学 ① 集団の構造と集団の種類  17~18. ② 集団力学と社会的態度  19~21 ③ リーダーシップ: PM 理論、状況適応理論、代替性理論  22. (実習) 小集団活動の有効性 (QC 活動を例に)  23. 働く意欲 ① 代表的人間観 (マクレガー、アージリス他)  24. ② 動機づけ管理  25. 高速化社会の行動科学 ① 高速化社会 ② 交通にみられる選択 (交通手段、経路の選択)   ③ 空間移動にかかわる安全の問題  26~28. 経済行動の心理学   ① ライフスタイルと消費者行動 ② 消費者の決定過程 ③ 消費者の心的会計 ④ こころと経済  29~30. ① 現代勤労者像とそのライフスタイル展望 ② 業態別、勤労者のライフスタイル比較 |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0041A01 |
| 科目名  | 自然環境 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Natural Environment and Environmental Concerns A  |       |           |
| 担当者名   | 青木 哲哉   | 旧科目名称 | 自然環境 s    |
| 講義概要   | この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。  自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山 (テキストの第 1 章「火山」)、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形 (第 2 章「山と川」) を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 評価は基本的に定期試験 (85%)、レポート (10%)、および授業中の発言 (5%) で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。  |       |           |
| 到達目標   | 自然環境の基礎知識を養い、日本の自然環境をさらに深く理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 「講義の順序とポイント」を参照して、次回の講義で取り扱うテキストの内容を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| ●受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合には、退室を求める。 ●講義には、能動的な姿勢で出席するように。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. はじめに — ガイダンス   2. 火山(1) — 爆発する日本の火山   3. 火山(2) — 火山の一生、大カルデラ火山 (前半)   4. 火山(3) — 大カルデラ火山 (後半)、富士・伊豆の火山   5. 火山(4) — 火山地域の金属資源、歴史時代の金属資源   6. 火山(5) — 火成岩の利用、火山地域の工業・農業   7. 火山(6) — 火山体の大規模崩壊、火山地域の土砂災害、噴石などによる災害   8. 授業内レポート(1) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。  9. 山と川(1) — 河川侵食と谷壁斜面の発達、堆積段丘の形成   10. 山と川(2) — 扇状地の形成、山腹斜面の地形   11. 山と川(3) — 崩壊しやすい地質条件、斜面災害の発生   12. 山と川(4) — 崩壊の免疫性と侵食速度、地殻変動と山地の隆起   13. 山と川(5) — 水系の発達、山地の成長過程   14. 授業内レポート(2) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。   15. おわりに — 定期試験に関する説明など |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0041B01 |
| 科目名       | 自然環境B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Natural Environment and Environmental Concerns B   |       |           |
| 担当者名      | 青木 哲哉  | 旧科目名称 | 自然環境 f    |
| 講義概要      | 本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。  自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第5章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第7章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 評価は基本的に定期試験（85%）、レポート（10%）、および授業中の発言（5%）で行う。詳細は第1回目の講義で説明する。   |       |           |
| 到達目標      | 自然環境の基礎知識を養い、日本の自然環境をさらに深く理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習      | 「講義の順序とポイント」を参照して、次回の講義で取り扱うテキストの内容を読んでおくこと。   |       |           |

受講者への要望

●受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合には、退室を求める。|●講義には、能動的な姿勢で出席するように。

講義の順序とポイント

1. はじめに — ガイダンス | 2. 平野(1) — 日本の自然を反映する平野、沖積低地に恵まれた日本の平野 | 3. 平野(2) — 海水準変動と沖積層の堆積 | 4. 平野(3) — 沖積低地の地形、自然堤防が発達する濃尾平野 | 5. 平野(4) — 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、国土に刻まれる稲作 | 6. 平野(5) — 筑紫平野のクリーク、水辺の喪失 | 7. 授業内レポート(1) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。| 8. 海岸(1) — 生命に満ちあふれた干潟、白砂青松の砂浜海岸 | 9. 海岸(2) — 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸 | 10. 海岸(3) — 生物がつくるサンゴ礁海岸 | 11. 海岸(4) — 古砂丘・旧砂丘・新砂丘、海底に残る大河川 | 12. 海岸(5) — 火山活動とともに変化する海岸、海岸侵食 | 13. 海岸(6) — 地盤沈下と0m地帯、地球温暖化による海面上昇の危機 | 14. 授業内レポート(2) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。| 15. おわりに — 定期試験に関する説明など

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0042A01 |
| 科目名   | 自然地理学 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Physical Geography A   |       |           |
| 担当者名  | 青木 哲哉  | 旧科目名称 | 自然地理学 s   |
| 講義概要  | 本講義では、第四紀(概ね人類の時代で約 170 万年前から現在まで)における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。  自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 評価は基本的に定期試験(85%)、レポート (10%)、および授業中の発言 (5%) で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。  |       |           |
| 到達目標  | 自然地理学の概念(自然地理学が如何なる科学か)と人類を取り巻いてきた自然環境について、より深く理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義で次の講義に関する準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ●受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合には、退室を求める。 ●講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに — ガイダンス   2. 氷河期(1) — 氷河によって形成された丘の特色   3. 氷河期(2) — 丘の調査による氷河期の発見   4. 氷河地形と土壌 — 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程   5. 多氷期(1) — 堆積物から解明された複数の氷河期   6. 多氷期(2) — 複数の氷河期における融氷河段丘の形成   7. 気候変化(1) — 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発   8. 気候変化(2) — 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化   9. 気候変化(3) — 古記録からみた歴史時代の気温変化   10. 都市気候(1) — 都市の気温上昇とヒートアイランド   11. 都市気候(2) — ヒートアイランドの形成要因   12. 都市気候(3) — 風、湿度、日射量について   13. 授業内レポート(1) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。   14. 授業内レポート(2) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。   15. おわりに — 定期試験に関する説明など |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0042B01 |
| 科目名       | 自然地理学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Physical Geography B   |       |           |
| 担当者名      | 青木 哲哉  | 旧科目名称 | 自然地理学 f   |
| 講義概要      | 本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 170 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。  自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法      | 評価は基本的に定期試験（85%）、レポート（10%）、および授業中の発言（5%）で行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。   |       |           |
| 到達目標      | 自然地理学の概念（自然地理学が如何なる科学か）と人類を取り巻いてきた自然環境について、より深く理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | 各講義で次の講義に関する準備学習を指示する。   |       |           |

受講者への要望

●受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合には、退室を求める。|●講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. はじめに — ガイダンス | 2. 海水準変動(1) — 氷河性海水準変動の理論 | 3. 海水準変動(2) — 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準（旧海水準）| 4. 海水準変動(3) — 旧海水準の年代決定 | 5. 海水準変動(4) — 過去 2 万年間における海水準変動の実態 | 6. グレーシャル・アイスタシー — 地球規模で発生している地殻変動 | 7. 平野(1) — 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色 | 8. 平野(2) — 自然堤防帯と三角州の特色 | 9. 平野(3) — 沖積層の分析による環境復原 | 10. 平野(4) — 沖積平野の形成過程と環境変化 | 11. 水害(1) — 輪中の成立とその背景 | 12. 水害(2) — 輪中地域における近世・近代の治水 | 13. 授業内レポート(1) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。| 14. 授業内レポート(2) — レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 | 15. おわりに — 定期試験に関する説明など

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0044001 |
| 科目名   | 社会学概論   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Sociology   |       |           |
| 担当者名  | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきます。この授業では、 家族・学校・労働など、社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、幅広く学んでいきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | アンソニー・ギデンズ『社会学 (第5版)』而立書房   |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回プリントを配ります。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート・平常点 (40%) + 中間テスト (30%) + 期末試験 (30%)  |       |           |
| 到達目標  | 社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。   |       |           |
| 準備学習  | 具体的な準備学習については、各講義の最後に伝えます。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 2010 年度まで同じ社会学関連の授業に「社会学入門」があって、この「社会学概論」はその内容と部分的に重複します(とくに家族、学校、労働の部分) ので、そのつもりで受講を検討してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1・社会と個人との関係 2・出産をとりまく家族と社会の諸問題 3・最初期の子ども心身の発達・1 4・最初期の子ども心身の発達・2 5・家族のなかでの成長と葛藤・1 6・家族のなかでの成長と葛藤・2 7・家族の歴史・1 8・家族の歴史・2 9・現代の家族・1 10・現代の家族・2 11・家族の病 12・学校の社会的機能 13・学校のなかでの成長と葛藤・1 14・学校のなかでの成長と葛藤・2 15・まとめ 16・中間テスト 17・前青春期における成長 18・青春期の様々な心的・社会的課題・1 19・青春期の様々な心的・社会的課題・2 20・青春期の様々な心的・社会的課題・3 21・労働の社会的諸問題・1 22・労働の社会的諸問題・2 23・組織と人間 24・成年期の葛藤と社会・1 25・成年期の葛藤と社会・2 26・老年期と脱社会化・1 27・老年期と脱社会化・2 28・最晩年の諸段階・1 29・死後の社会的対応 30・まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0045A01 |
| 科目名  | 社会学入門A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Sociology A   |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治   | 旧科目名称 | 社会学入門s    |
| 講義概要   | 社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門A」では、とくに、ふだん身の回りに普通に見かける現象について考えます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）   |       |           |
| 到達目標   | 身の回りの社会現象についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 普段から書物や新聞やテレビなどに接して、現代社会の動きに関心をもつようにしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1、積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。 2、私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1、ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。 2、（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の4種類に分類できること。 3、（家族1）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。 4、（家族2）社会における家族の役割が以前の時代とはかなり変化していること。 5、（学校1）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。 6、（学校2）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を大きく受けていること。 7、（企業1）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など） 8、（企業2）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）。 9、（企業3）男女雇用機会均等法と、企業の中での女性労働者の実態。 10、（マスメディア）現在ではマスメディアの力は大きく、自分の意見も実はメディアの受け売りかもしれないこと。 11、（国際化）社会は国際化しているが、その反面、国内の在日韓国朝鮮人の実態は知られていない点。 12、（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。 13、（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にあること。 14、（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0045A0A |
| 科目名  | 社会学入門A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Sociology A   |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治   | 旧科目名称 | 社会学入門s    |
| 講義概要   | 社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門A」では、とくに、ふだん身の回りに普通に見かける現象について考えます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）   |       |           |
| 到達目標   | 身の回りの社会現象についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 普段から書物や新聞やテレビなどに接して、現代社会の動きに関心をもつようにしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1、積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。 2、私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1、ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。 2、（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の4種類に分類できること。 3、（家族1）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。 4、（家族2）社会における家族の役割が以前の時代とはかなり変化していること。 5、（学校1）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。 6、（学校2）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を大きく受けていること。 7、（企業1）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など） 8、（企業2）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）。 9、（企業3）男女雇用機会均等法と、企業の中での女性労働者の実態。 10、（マスメディア）現在ではマスメディアの力は大きく、自分の意見も実はメディアの受け売りかもしれないこと。 11、（国際化）社会は国際化しているが、その反面、国内の在日韓国朝鮮人の実態は知られていない点。 12、（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。 13、（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にあること。 14、（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0045B01 |
| 科目名  | 社会学入門B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Sociology B  |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 社会学入門 f   |
| 講義概要   | 社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門B」では、現代の日本社会全体のいろいろな側面について考えます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）  |       |           |
| 到達目標   | 現代の日本社会の社会的な側面についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 普段から書物や新聞・テレビなどに接して、現代社会の動きに関心を持つようにしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。  2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。  2, (家族) 他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。  3, (資本主義) 資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で、貧富の格差も拡大する。  4, (格差社会) 日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。  5, (労働1) 経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。  6, (労働2) 労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。  7, (政治) 祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。  8, (基本的人権1) 国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。  9, (基本的人権2) 現代の日本社会で基本的人権がどのような状況になっているかを考える。  10, (マスメディア) 犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライバシーのバランスの問題。  11, (宗教と社会) 科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。  12, (近代化) 近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。  13, (管理社会化) 社会の近代化のマイナス面の一つに、管理社会化の進行がある点。  14, (社会調査) 世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。  15, まとめ |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0045B0A |
| 科目名  | 社会学入門B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Sociology B  |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治  | 旧科目名称 | 社会学入門 f   |
| 講義概要   | 社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、などの問題が取り上げられますが、「社会学入門B」では、現代の日本社会全体のいろいろな側面について考えます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）  |       |           |
| 到達目標   | 現代の日本社会の社会的な側面についての理解を深める。   |       |           |
| 準備学習   | 普段から書物や新聞・テレビなどに接して、現代社会の動きに関心を持つようにしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。  2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。  2, (家族) 他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。  3, (資本主義) 資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で、貧富の格差も拡大する。  4, (格差社会) 日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。  5, (労働1) 経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。  6, (労働2) 労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。  7, (政治) 祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。  8, (基本的人権1) 国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。  9, (基本的人権2) 現代の日本社会で基本的人権がどのような状況になっているかを考える。  10, (マスメディア) 犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライバシーのバランスの問題。  11, (宗教と社会) 科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。  12, (近代化) 近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。  13, (管理社会化) 社会の近代化のマイナス面の一つに、管理社会化の進行がある点。  14, (社会調査) 世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。  15, まとめ |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0047001 |
| 科目名        | 心の科学   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | The Mind   |       |           |
| 担当者名       | 森田 敬信  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>21世紀は心の時代といわれる。コンピューターや携帯電話の発達が生生活環境をめまぐるしく変化させ、それが精神構造に複雑な影響を与えている。人間関係において自我防衛機制が強く、心に重いヨロイをつけた人々が多くなり、生き生きした実存感を持ってないでいる。情報過多に適応するために、心の中にいわゆる【バカの壁】をつくってしまう。また多様化する価値観によってエゴアイデンティティに悩む若者も多い。そして自分や他人の心や行動を理解することが困難になっている。  物を見るメカニズムを探る知覚、物事を学び身につけていくメカニズムを解明しようとする学習、子供から青年そして成人を経て老年にいたる変化を追及する発達、自分や他人の性格の成り立ちを明らかにしようとする性格、心の病と健康を扱う臨床、社会生活における人間関係のメカニズムを説明する社会、の各心理学における諸問題について、実証的研究を基に概説する。  教科書にトピックスとしてまとめられた資料によっても、心理学の重要な考え方や主要な実験について十分な知識が得られるだろう。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 齋藤 勇編『図説心理学入門』誠信書房 1,800円  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。レポート（20%）定期テスト（50%）   |       |           |
| 到達目標       | 自分や他人の心や行動を理解する「心の目」を持つことを目標にする。   |       |           |
| 準備学習       | 「心の科学」に関する本を幅広く読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | グループで心理学の実験を行うので遅刻しないように。 毎回簡単な質問をするので出席票に回答すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 心と行動 ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則  2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚  3~5. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理  6. 知覚のずれ（錯視の実験）  7. 社会的認知  8~9. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類  10~11. ③ 欲求と認知の関連 ④ フラストレーションとコンフリクト  12. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論  13~14. 学習と思考：学ぶこと、考えることの心理 ①条件づけ（鏡映描写の実験）  15. ② 記憶（連想価と記憶の実験）  16. ③ 概念と課題解決（創造性テスト）  17. ④ 社会的学習 発達と教育：育つ心と育てる心  18. ① 発達とは何か ② 発達の様相 ③ 発達と教育に関わる問題  19. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症  20~21. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論（性格テスト）  22. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程  23. ② 親和と対人魅力 ③ 社会的態度と態度変容  24~25. ④ 社会的相互作用：援助行動、攻撃行動、群集心理 26. 脳と生理心理：心とからだの関係 ①大脳のはたらき（二重課題作業）② 右脳と左脳  27. ③ 大脳辺縁系と間脳 ④ 意識・眠りと夢  28.臨床心理：アセスメント、心理検査法 29.心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法 30.行動療法、認知療法  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0051A01 |
| 科目名        | 人権の歴史と現代A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The History and Modernization of Human Rights A   |       |           |
| 担当者名       | 中島 智枝子  | 旧科目名称 | 人権の歴史と現代s |
| 講義概要       | 2008年のリーマン・ショック以降一段と広がった格差は深刻な貧困問題を生んでいる。また、昨年起きた東日本大震災、原発事故等、現在直面している問題は私たちに人間らしい生活あるいは自然との共生等を問うているといえる。これらの問題の解決に当たって、何よりも優先されなければならないのは人権の尊重であろう。  授業では、国際社会での取り組みについては国連を中心に概観する。その後、日本における問題として部落問題、民族問題、在日外国人問題を取り上げ、これらの問題の考察を通して人権尊重になにが重要なのかを考えていきたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の際テーマごとに紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業にあたりプリント（レジュメ・資料）を配布する。 ビデオ教材を視聴する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%） 授業への取り組みを出席状況およびビデオ視聴時の感想等で評価する。 定期テスト（70%） 基本的事項が理解されているかの確認および小論文で構成されたテストで評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 差別の歴史を学ぶなかで自己の内なる無意識の差別に気づき、差別からの解放および差別に屈しない人間の強さを考えたい。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞やテレビでの人権問題を取り扱った記事、番組等を積極的に読み、視聴してほしい。 配布プリントを精読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 質問等積極的な態度で授業に臨んでほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. 国際社会と人権（1） 人権思想の歴史  3. 国際社会と人権（2） 戦争・平和・人権  4. 国際社会と人権（3） 人権保障システムについて  5. 部落問題（1） “けがれ”を考える  6. 部落問題（2） 近代市民社会と身分制  7. 部落問題（3） 差別撤廃の取り組み 1  8. 部落問題（4） 差別撤廃の取り組み 2  9. 部落問題（5） 今後の課題  10. アイヌ民族問題（1）日本人の“自画像”  11. アイヌ民族問題（2）北海道の近代とアイヌ民族  12. 在日外国人問題（1）国際化とは  13. 在日外国人問題（2）「在日」の歴史  14. 在日外国人問題（3）文化交流  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0051B01  |
| 科目名  | 人権の歴史と現代B  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | The History and Modernization of Human Rights B  |       |            |
| 担当者名   | 中島 智枝子   | 旧科目名称 | 人権の歴史と現代 f |
| 講義概要   | 「人権」は人間が生まれた日から目を閉じるまでであるものです」といわれているように、人権にかかわる問題は多岐にわたり様々な問題がある。  授業では性差別問題をはじめ、病気に関わる人権問題としてハンセン病問題、障がい者の人権問題を取り上げ、人権問題について理解を深めたい。 |       |            |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |            |
| 教材（参考文献）   | 授業の際テーマごとに紹介する。  |       |            |
| 教材（その他）  | 授業にあたりプリント（レジュメ・資料）を配布する。 ビデオ教材を視聴する。  |       |            |
| 評価方法   | 平常点（30%） 授業への取り組みを出席状況およびビデオ視聴時の感想等で評価する。 定期テスト（70%） 基本的事項が理解されているかの確認および小論文で構成されたテストで評価する。  |       |            |
| 到達目標   | 自己の内なる無意識の差別に気づき、人権尊重のシャープな感覚の養成を目指したい。  |       |            |
| 準備学習   | 新聞やテレビでの人権問題を取り扱った記事、番組等を積極的に読み、視聴してほしい。 配布プリントを精読しておくこと。  |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| 質問等積極的な態度で授業に臨んでほしい。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| 1. はじめに  2. 性差別問題（1） 男女平等ですか？  3. 性差別問題（2） 歴史の中の女  4. 性差別問題（3） 労働における女  5. 性差別問題（4） 労働上の問題   6. 性暴力問題 DVについて  7. 多様な性をめぐる問題 性自認の問題  8. 多様な性をめぐる問題 性的指向の問題  9. ハンセン病問題 ハンセン病と「らい予防法」 10. ハンセン病問題「らい予防法」廃止後 11. 障がい者と人権（1） 「障がい」について 12. 障がい者と人権（2） ノーマライゼーションについて 13. 障がい者と人権（3） 就労について 14. 障がい者と人権（4） 教育について 15. まとめ |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0052001 |
| 科目名       | 人文地理学  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Human Geography  |       |           |
| 担当者名      | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 人間は地表面を離れて生活できないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。  本講義では近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、メディア研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。  前半は、主に人文地理学のテーマと学際的な特性と可能性について、様々な学問分野との交流の具体的事例をもとに探っていく。後半は前半での理論的展望を引き継ぎ、「空想の場所と現実の場所との交流」というテーマに焦点をしばり、昔話・神話を題材に、再検討する。特に本講義では人々の頭の中にある空想の場所が、現実の場所に反映されていることを強調する。上記のテーマを探りつつ、と同時に人文地理学の可能性についても模索していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997. 佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2003年。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオやパワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法      | 授業内レポート 40% 学期末レポート 60%  |       |           |
| 到達目標      | 様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習      | 現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成する準備をしておくこと。   |       |           |

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1 人文地理学とは：文化とは| 2 人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化| 3 近代以降の私たちの場所：sense of place placelessness| 4 文化地域：（形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域）| 5 文化拡散（拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散）| 6 文化生態学（環境決定論、可能論、環境知覚研究）| 7 文化統合（社会科学としての地理学）| 8 人文主義地理学（ロード・オブ・ザ・リングスの地図とは）| 9 伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト| 10 文化景観：景観を読む（解釈学的分析）| 11 東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン| 12 民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観| 13 現実世界を構築した空想世界：ジャックと豆の木、心のなかの景観| 14 昔話の感覚地理—大工と鬼六、グレート・マザー、食わず女房の分析| 15 昔話と心のなかの景観—奈良梨採り、通過儀礼との類似点| 16 映画と心のなかの景観—映画『エイリアン』| 17 宇宙空間とジャングルの類似性：リプリーの自己実現、民俗文化と大衆文化の継承性| 18 民話の分布図：池田の民話とサウンドスケープ| 19 昔話の触覚地理—木の知恵、二人の旅人、プリント、感覚地理学と触角地理| 20 触覚地理からストーリー・パスへ：世界樹で首を吊る| 21 昔話の原風景—瞬間の風景（DEFの野原）、プロップの構造分析、| 22 原風景とは：『スダンドバイミー』| 23 野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、実在する原風景、池田の民話と原風景 | 24 『ツイズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動| 25 『羊たちの沈黙』と女性の自立：映画に継承された心象風景の伝統 | 26 落語の二人の旅人：「伊勢参宮神賑」| 27 落語に見る近世大坂の環境知覚：「まんじゅうこわい」「質屋蔵」「次の御用日」| 28 落語の見る近世京都の環境知覚：「こぶ弁慶」「景清」| 29 近世の大坂人の見た異界像：「地獄八景亡者戯」「小倉舟」「月宮殿星都」| 30 人文地理学の冒険を展望する|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0053A01 |
| 科目名        | 政治学原論A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Political Theory A   |       |           |
| 担当者名       | 中村 友一  | 旧科目名称 | 政治学原論 s   |
| 講義概要       | 政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Aでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。  なお、政治学原論 A と B の双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回レジュメを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況などによる。 学期末試験（70%）  |       |           |
| 到達目標       | (1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。  |       |           |
| 準備学習       | (1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. 公共政策と行政 13. 政策過程 14. 制度と政策 15. まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                       |  |       |           |
|---------------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                                    | 2012   | 授業コード | JM0053B01 |
| 科目名                                   | 政治学原論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                             | Political Theory B   |       |           |
| 担当者名                                  | 中村 友一  | 旧科目名称 | 政治学原論 f   |
| 講義概要                                  | 政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。  なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。 |       |           |
| 教材（テキスト）                              | 毎回レジュメを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）                              | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）                               |  |       |           |
| 評価方法                                  | 平常点（30%）出席状況などによる。 学期末試験（70%）  |       |           |
| 到達目標                                  | (1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。  |       |           |
| 準備学習                                  | (1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                               |  |       |           |
| 講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                            | 1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. まとめ                                 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                       |   |       |           |
|---------------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                                    | 2012  | 授業コード | JM0054001 |
| 科目名                                   | 政治学入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                             | Introduction to Political Science   |       |           |
| 担当者名                                  | 中村 友一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                  | 政治学入門は、2 回生以降に受講する政治学系科目（政治学原論や国際関係論）への導入科目である。この講義の目的は、それらの政治学系科目を受講するために必要な基本的な「知識」や「ことば」を身につけることにある。そのため、(1)教科書をしっかり読んでその内容（「知識」）を理解すること、(2)そのなかに挙げられている政治学の専門用語（「ことば」）を覚えることを講義を通じて達成してほしい。複雑で多様性を増した現代の国家において、政治の世界はしばしば分かりにくいと言われている。そうしたなかで自らの考えをまとめ、他者と話し合うための最初の手がかりとして今回の講義を活用してほしいと願っている。  |       |           |
| 教材（テキスト）                              | 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め [第3版]』（有斐閣、2009年） 1,900円  |       |           |
| 教材（参考文献）                              | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）                               |   |       |           |
| 評価方法                                  | 平常点（30%）出席状況などによる。 学期末試験（70%）   |       |           |
| 到達目標                                  | (1) 政治学系科目の修得に必要な政治学の基礎的な専門用語の意味を理解する。 (2) それらの専門用語を用いて、政治に関する時事的な話題を説明することができる。 (3) 政治における論点について、論拠を挙げて他の人と話し合うことができる。   |       |           |
| 準備学習                                  | (1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) 教科書は事前にしっかり目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望                               |   |       |           |
| 講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                            | 1、イントロダクション 2、政治の世界（序、政治学を勉強してみませんか） 3、選挙と投票（1. えっ!!投票するの？誰に投票するの？） 4、メディアと政治（2. テレビが政治を作る？） 5、政治家の仕事（3. 政治家ってどんな人？） 6、政党と政党政治（4. 思想と利権のからみあい） 7、官僚制（5. 官僚ってどんな人？） 8、利益集団（6. 変わる「コネ」社会日本） 9、政策過程（7. 政策のつくられ方） 10、首相のリーダーシップ（8. 日本の最高権力者） 11、地方自治（9. 自立の気概） 12、国際関係史その1（10. 世界はどこへ行く？） 13、国際関係史その2（同上） 14、国際政治経済（11. グローバリゼーションと地域主義） 15、まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0056A01 |
| 科目名  | 生命の科学A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Life Science A                                  |       |           |
| 担当者名   | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。            |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜指示する  |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト（期末試験）100%（ただし場合によっては平常点を加味することがある）        |       |           |
| 到達目標   | 生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。 |       |           |
| 準備学習   | 自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。                 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1.「生命の科学A」→「生命の科学B」の順に受講することが望ましい。 2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。 3.教室内は飲食禁止。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.授業ガイダンス、生と死について 2.心臓死について 3.脳死について 4.脳死とその原因 5.脳死と臓器移植（その1） 6.脳死と臓器移植（その2） 7.脳の構造と機能（その1） 8.脳の構造と機能（その2） 9.脳の構造と機能（その3） 10.心臓の構造と機能（その1） 11.心臓の構造と機能（その2） 12.心臓の病気（その1） 13.心臓の病気（その2） 14.血圧について 15.まとめ （なお受講生の理解度や希望に応じて内容を変更することもある。） |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JM0056B01 |
| 科目名       | 生命の科学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Life Science B                                  |       |           |
| 担当者名      | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。            |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示する  |       |           |
| 評価方法      | 定期テスト（期末試験）100%（ただし場合によっては平常点を加味することがある）        |       |           |
| 到達目標      | 生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。 |       |           |
| 準備学習      | 自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。                 |       |           |

受講者への要望

1.「生命の科学A」→「生命の科学B」の順に受講することが望ましい。|2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。|3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について|2.肝臓の構造と機能|3.肝臓の病気（その1）|4.肝臓の病気（その2）|5.ガンについて|6.細菌とウイルスについて|7.感染症について（その1）|8.感染症について（その2）|9.遺伝と遺伝子について（その1）|10.遺伝と遺伝子について（その2）|11.遺伝子、DNA、ゲノムについて（その1）|12.遺伝子、DNA、ゲノムについて（その2）|13.遺伝子と病気について（その1）|14.遺伝子と病気について（その2）|15.まとめ|（なお受講生の理解度や希望に応じて内容を変更することもある。）

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JM0058001 |
| 科目名       | 西洋史概説   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | General History of Europe   |       |           |
| 担当者名      | 乳原 孝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 乳原 孝著 『「怠惰」に対する闘い』 嵯峨野書院（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 中間レポート（20%）、レポート試験（40%）、授業内レポート（40%）  |       |           |
| 到達目標      | 西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習      | 授業中に指示する。   |       |           |

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

1. 西洋史学の課題 | 2. 古代ギリシアの人口と身分構成 | 3. 古代ギリシアの奴隷制 (1) | 4. 古代ギリシアの奴隷制 (2) | 5. 古代ギリシアにおける女性の財産権 (1) | 6. 古代ギリシアにおける女性の財産権 (2) | 7. 古代ギリシアにおける女性の地位 | 8. 死生観の歴史 (1) | 9. 死生観の歴史 (2) | 10. 死生観の歴史 (3) | 11. 中世における神判 | 12. 中世・近世における魔女裁判の概要 (1) | 13. 中世・近世における魔女裁判の概要 (2) | 14. 中世・近世における魔女裁判の概要 (3) | 15. 中世・近世における魔女裁判の概要 (4) | 16. イギリスにおける魔女裁判 (1) | 17. イギリスにおける魔女裁判 (2) | 18. 近世における犯罪と刑罰 (1) | 19. 近世における犯罪と刑罰 (2) | 20. 近世における犯罪と刑罰 (3) | 21. 新大陸の征服史 (1) | 22. 新大陸の征服史 (2) | 23. 新大陸の征服史 (3) | 24. 近代世界システムの理論の概要 (1) | 25. 近代世界システムの理論の概要 (2) | 26. 近代世界システムの成立史 (1) | 27. 近代世界システムの成立史 (2) | 28. 近代奴隷貿易の起源 | 29. 近代奴隷貿易の展開 (1) | 30. 近代奴隷貿易の展開 (2)

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0059A01 |
| 科目名  | 地誌 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Regional Geography A   |       |           |
| 担当者名   | 金子 直樹  | 旧科目名称 | 地誌 s      |
| 講義概要   | 地誌は、未知の世界を記録していく作業から発展してきた地理学の根幹となった事象であり、基本的に「地域の特徴」を提示したものと考えられている。本講義では、まず地誌の基本資料ともなってきた地図の歴史および種類やその読み方を確認し、その上で地図で最も正確な地形図から、確認できる「地域の特徴」を検討する。具体的には自然環境と集落立地、および歴史的事象との関連性等であり、主に身近な京阪神地域を取り上げる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト 100%で評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 地形図等の地理資料から、地域の自然的特徴およびそれに適応した生活者の営み、あるいはそこに刻まれた歴史の痕跡を読み取れることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次回以降の準備を指示するが、主として配布する地図資料の読図をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義中は当然のことながら静粛にしていきたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.オリエンテーション:地誌の概説 2.地形図の読み方:縮尺・等高線・記号の確認 3.地形図にみる村落 1:地形に適応した生態的特徴 1-扇状地 4.地形図にみる村落 2:地形に適応した生態的特徴 2-氾濫原 5.地形図にみる村落 3:形態的区分-集村 6.地形図にみる村落 4:形態的区分-散村 7.地形図にみる村落 5:散村立地の背景 1-歴史的特徴 8.地形図にみる村落 6:散村立地の背景 2-自然的特徴 9.地形図から読む古代 1:農地(条里制)の痕跡 10.地形図から読む古代 2:条里制と環濠集落 11.地形図から読む古代 3:道路(官道)の痕跡 12.地形図から読む京都 1:平安京の成立-条坊制都市 13.地形図から読む京都 2:「四神相応」思想との関連性 14.地形図から読む京都 3:「碁盤目状」区画の変貌 15.地形図から読む京都 4:豊臣秀吉による再開発 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0059A02 |
| 科目名  | 地誌 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Regional Geography A   |       |           |
| 担当者名   | 金子 直樹  | 旧科目名称 | 地誌 s      |
| 講義概要   | 地誌は、未知の世界を記録していく作業から発展してきた地理学の根幹となった事象であり、基本的に「地域の特徴」を提示したものと考えられている。本講義では、まず地誌の基本資料ともなってきた地図の歴史および種類やその読み方を確認し、その上で地図で最も正確な地形図から、確認できる「地域の特徴」を検討する。具体的には自然環境と集落立地、および歴史的事象との関連性等であり、主に身近な京阪神地域を取り上げる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト 100%で評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 地形図等の地理資料から、地域の自然的特徴およびそれに適応した生活者の営み、あるいはそこに刻まれた歴史の痕跡を読み取れることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次回以降の準備を指示するが、主として配布する地図資料の読図をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義中は当然のことながら静粛にしていきたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.オリエンテーション:地誌の概説 2.地形図の読み方:縮尺・等高線・記号の確認 3.地形図にみる村落 1:地形に適応した生態的特徴 1-扇状地 4.地形図にみる村落 2:地形に適応した生態的特徴 2-氾濫原 5.地形図にみる村落 3:形態的区分-集村 6.地形図にみる村落 4:形態的区分-散村 7.地形図にみる村落 5:散村立地の背景 1-歴史的特徴 8.地形図にみる村落 6:散村立地の背景 2-自然的特徴 9.地形図から読む古代 1:農地(条里制)の痕跡 10.地形図から読む古代 2:条里制と環濠集落 11.地形図から読む古代 3:道路(官道)の痕跡 12.地形図から読む京都 1:平安京の成立-条坊制都市 13.地形図から読む京都 2:「四神相応」思想との関連性 14.地形図から読む京都 3:「碁盤目状」区画の変貌 15.地形図から読む京都 4:豊臣秀吉による再開発 |  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |      |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0059B01 |
| 科目名        | 地誌 B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Regional Geography B   |       |           |
| 担当者名       | 金子 直樹  | 旧科目名称 | 地誌 f      |
| 講義概要       | 地誌は、未知の世界を記録していく作業から発展してきた地理学の根幹となった事象であり、基本的に「地域の特徴」を提示したものと考えられている。しかし、眼前に表れる「地域の特徴」は、自然的に存在することはなく、様々な社会的状況によって意図的に創り出される傾向が強い。本講義では、その一つの指標として想定される地域の文化(地域文化)について、その現状、特に文化財化および観光化の状況、歴史等を考えたい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 使用しない。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 定期テスト 100%で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | それまで「伝統」とされ文化遺産等に価値づけられてきた事項の構築性を確認することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回以降の準備について指示するが、むしろ各回ごとで扱った内容を復習してもらいたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 講義中は当然のことながら静粛にしていきたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 「地域文化」の検討 2. 「地域文化」の現在：遠野における民俗文化の現状 3. 「伝統文化」とノスタルジ?：日本人の「ふるさと」イメージ誕生の経緯 4. ディスカバー・ジャパン・キャンペーンとアンノン族 5. 「ふるさと」の商品化と文化遺産化 6. 町並み「保存」への取り組み 2—妻籠 1(観光資源としての文化遺産) 7. 町並み「保存」への取り組み 3—妻籠 2(保存と復元の問題) 8. 町並み「保存」への取り組み 4—竹富島 1(南島文化起源説と「楽園」イメージ) 9. 町並み「保存」への取り組み 5—竹富島 2(「赤瓦」の意味) 10. 町並み「保存」への取り組み 6—竹富島 3(創られた伝統と真正性の問題) 11. 町並み「保存」への取り組み 7—白川郷 1(ユイによる維持) 12. 町並み「保存」への取り組み 8—白川郷 2(世界遺産の影響) 13. 文化的景観の「保存」1—世界遺産との関係性 14. 文化的景観の「保存」2—棚田 1(社会的意義の変容) 15. 文化的景観の「保存」3—棚田 2(維持の困難さ) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0060A01 |
| 科目名        | 哲学概論 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Philosophy A   |       |           |
| 担当者名       | 樋口 善郎  | 旧科目名称 | 哲学概論 s    |
| 講義概要       | <p>哲学 (philosophy) とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知 (sophia) を愛すること (phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、(1) 十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、(2) 次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、(3) 最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (40 パーセント) と学期末試験 (60 パーセント) で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で数回実施する小テストによる。  |       |           |
| 到達目標       | 知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。  |       |           |
| 準備学習       | デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。  |       |           |

受講者への要望

(1) 私語は厳禁である。(2) 評価における平常点の割合が大きいため、出席や小テストの提出を欠かさないように。

講義の順序とポイント

1. 導入 - 1 「哲学」という名称 2 知的探求 3 十七世紀の知的革命 | 2. 科学革命 - 1 天動説から地動説へ 2 力学の変化 3 デカルトの位置 | 3. デカルトの学問観 1 - 1 「理性を導く」 2 道 3 直観と演繹 | 4. デカルトの学問観 2 - 1 「一切を疑う」 2 悪霊の仮説 3 「我思うゆえに我あり」 | 5. デカルトの学問観 3 - 1 物心二元論 2 「真理の種子」 3 哲学の木 | 6. デカルトの自然学 - 1 目的論 2 デカルトの機械論 3 渦動宇宙 | 7. 源流 1 - 1 キリスト教 2 ギリシア哲学 3 ピュタゴラスの数学思想 | 8. 源流 2 - 1 プラトン 2 「魂を肉体から解放する」 3 想起説 | 9. 源流 3 - 1 アリストテレス 2 経験と学問 3 整理 | 10. デカルト対ニュートン - 1 ニュートン 2 実験哲学 | 11. 経験論 - 1 ロック 2 ヒューム | 12. カント 1 - 1 若きカント 2 超越論哲学 | 13. カント 2 - 1 感性と悟性 2 コペルニクスの転回 | 14. カッシーラー - 1 合理論、経験論、そして超越論哲学 2 カッシーラー 3 シンボル形式の哲学 | 15. まとめ - 1 「知識はどこから由来するか？」

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0060A02 |
| 科目名  | 哲学概論 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Philosophy A   |       |           |
| 担当者名   | 樋口 善郎  | 旧科目名称 | 哲学概論 s    |
| 講義概要   | <p>哲学 (philosophy) とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知 (sophia) を愛すること (phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、(1) 十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、(2) 次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、(3) 最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (40 パーセント) と学期末試験 (60 パーセント) で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で数回実施する小テストによる。  |       |           |
| 到達目標   | 知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。  |       |           |
| 準備学習   | デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| (1) 私語は厳禁である。(2) 評価における平常点の割合が大きいため、出席や小テストの提出を欠かさないように。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. 導入 - 1 「哲学」という名称 2 知的探求 3 十七世紀の知的革命   2. 科学革命 - 1 天動説から地動説へ 2 力学の変化 3 デカルトの位置   3. デカルトの学問観 1 - 1 「理性を導く」 2 道 3 直観と演繹   4. デカルトの学問観 2 - 1 「一切を疑う」 2 悪霊の仮説 3 「我思うゆえに我あり」   5. デカルトの学問観 3 - 1 物心二元論 2 「真理の種子」 3 哲学の木   6. デカルトの自然学 - 1 目的論 2 デカルトの機械論 3 渦動宇宙   7. 源流 1 - 1 キリスト教 2 ギリシア哲学 3 ピュタゴラスの数学思想   8. 源流 2 - 1 プラトン 2 「魂を肉体から解放する」 3 想起説   9. 源流 3 - 1 アリストテレス 2 経験と学問 3 整理   10. デカルト対ニュートン - 1 ニュートン 2 実験哲学   11. 経験論 - 1 ロック 2 ヒューム   12. カント 1 - 1 若きカント 2 超越論哲学   13. カント 2 - 1 感性と悟性 2 コペルニクスの転回   14. カッシーラー - 1 合理論、経験論、そして超越論哲学 2 カッシーラー 3 シンボル形式の哲学   15. まとめ - 1 「知識はどこから由来するか？」</p> |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JM0060B01 |
| 科目名       | 哲学概論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Philosophy B  |       |           |
| 担当者名      | 樋口 善郎   | 旧科目名称 | 哲学概論 f    |
| 講義概要      | <p>哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo）、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（1）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（2）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（3）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、さまざまな感情とどのように向き合ったらよいか、という問題を考えてみたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（40パーセント）と学期末試験（60パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で数回実施する小テストによる。   |       |           |
| 到達目標      | さまざまな感情との向き合い方を哲学史を手がかりに考える。  |       |           |
| 準備学習      | デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。   |       |           |

|   |  |  |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 受講者への要望   |  |  |  |  |  |  |
| (1) 私語は厳禁である。(2) 評価における平常点の割合が大きいため、出席や小テストの提出を欠かさないように。  |  |  |  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント  |  |  |  |  |  |  |
| <p>1. 導入 - 1 「哲学」という名称 2 知的探求 3 十七世紀とデカルト   2. デカルトの心身問題 - 1 物心二元論 2 心身二元論 3 松果腺   3. デカルトの情念論 1 - 1 『情念論』 2 情念のメカニズム 3 基本情念   4. デカルトの情念論 2 - 1 自由意志 2 「容易な治療法」 3 「万能薬」   5. デカルトの道德論 - 1 哲学の木 2 暫定道德   6. 源流 1 - 1 キリスト教 2 『旧約聖書』における霊と肉 3 『新約聖書』における霊と肉   7. 源流 2 - 1 プラトン 2 魂と肉体 3 魂の三分説   8. 源流 3 - 1 ストア派 2 善き神霊 3 無情念（アパティア）   9. スピノザ - 1 スピノザ 2 決定論 3 情念の制御   10. カント - 1 カント 2 実践理性の役割 3 自律は自由   11. アリストテレス - 1 アリストテレス 2 ポリス的動物 3 親愛   12. ホッブズ - 1 ホッブズ 2 自惚れる人間 3 リヴァイアサン   13. ヒューム - 1 ヒューム 2 感情の奴隷 3 共感という原理   14. ヘーゲル - 1 ヘーゲル 2 精神の自由 3 歴史哲学   15. まとめ - 1 「感情とどのように向き合うか？」</p> |  |  |  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0060B02 |
| 科目名  | 哲学概論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Philosophy B  |       |           |
| 担当者名   | 樋口 善郎   | 旧科目名称 | 哲学概論 f    |
| 講義概要   | <p>哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo）、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（1）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（2）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（3）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、さまざまな感情とどのように向き合ったらよいか、という問題を考えてみたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40パーセント）と学期末試験（60パーセント）で評価する。平常点は、出席状況ならびに、授業内で数回実施する小テストによる。   |       |           |
| 到達目標   | さまざまな感情との向き合い方を哲学史を手がかりに考える。  |       |           |
| 準備学習   | デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| （1）私語は厳禁である。（2）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 導入－1「哲学」という名称 2 知的探求 3 十七世紀とデカルト   2. デカルトの心身問題－1 物心二元論 2 心身二元論 3 松果腺   3. デカルトの情念論 1－1 『情念論』 2 情念のメカニズム 3 基本情念   4. デカルトの情念論 2－1 自由意志 2 「容易な治療法」 3 「万能薬」   5. デカルトの道德論－1 哲学の木 2 暫定道德   6. 源流 1－1 キリスト教 2 『旧約聖書』における霊と肉 3 『新約聖書』における霊と肉   7. 源流 2－1 プラトン 2 魂と肉体 3 魂の三分説   8. 源流 3－1 ストア派 2 善き神霊 3 無情念（アパティア）   9. スピノザ－1 スピノザ 2 決定論 3 情念の制御   10. カント－1 カント 2 実践理性の役割 3 自律は自由   11. アリストテレス－1 アリストテレス 2 ポリス的動物 3 親愛   12. ホッブズ－1 ホッブズ 2 自惚れる人間 3 リヴァイアサン   13. ヒューム－1 ヒューム 2 感情の奴隷 3 共感という原理   14. ヘーゲル－1 ヘーゲル 2 精神の自由 3 歴史哲学   15. まとめ－1 「感情とどのように向き合うか？」</p> |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0063A01 |
| 科目名   | 東洋史概説A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Asian History A   |       |           |
| 担当者名  | 中西 竜也   | 旧科目名称 | 東洋史概説s    |
| 講義概要  | 「イスラーム原理主義」と聞いて、何を思い浮かべるだろうか。おそらく大抵の人は、9.11や爆弾テロを連想したのではないか。あるいはひょっとすると、最近の中東情勢に関心のある人ならば、中東の民主化（アラブの春）を想起したかもしれない。テロと民主化。なんとなく結びつきそうにない両者だが、「イスラーム原理主義」はたしかに両者と関係がある、不思議な概念なのである。「イスラーム原理主義」とは、いったい何なのか？—そんなふうに疑問に思えた人、関心が持てた人。「イスラーム原理主義」について一緒に考えましょう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業中にプリントを配布   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 小川忠『原理主義とは何か—アメリカ、中東から日本まで』講談社 2003年 大塚和夫『イスラーム主義とは何か』岩波書店 2004年 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店 2002年   |       |           |
| 教材（その他）   | 特になし  |       |           |
| 評価方法  | ペーパーテスト   |       |           |
| 到達目標  | 「イスラーム原理主義」の歴史的展開、多様性を理解する  |       |           |
| 準備学習  | 上に挙げた参考文献をはじめ、イスラームの歴史や思想に関する概説書を読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| イスラーム世界の歴史や地理に関して、高校で習う程度の知識を身につけておくことが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 導入 2 イスラームの基本事項 3 イスラーム法学 4 イスラーム法学 5 スーフィズム 6 スーフィズム 7 イブン・アラビーと存在一性論 8 ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ 9 ワッハーブ運動とサウジアラビア 10 「ワッハーブ派」の背景としてのスーフィズムの改革 11 サラフィー主義 12 ムスリム同胞団 13 イラン革命 14 「イスラーム原理主義」の現在 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0063B01 |
| 科目名        | 東洋史概説B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Asian History B  |       |           |
| 担当者名       | 中西 竜也  | 旧科目名称 | 東洋史概説 f   |
| 講義概要       | 中国には「漢族」以外にも様々な「民族」が存在する。中国史を、様々な「民族」の立場から多元的に把握するならば、中国について新しい見方ができるかもしれない。そこで本講義では、中国ムスリムの立場から中国近現代史を捉えなおすことを試みたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 張承志『回教からみた中国』中央公論社 1993年 楊海英『モンゴルとイスラーム的中国—民族形成をたどる歴史人類学紀行』風響社 2007年 堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』（アジア遊学 129）勉誠出版 2009年   |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | ペーパーテスト  |       |           |
| 到達目標       | 中国の多元性や民族問題を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 中国近現代史に関する概説書を読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 中国の歴史や地理について、高校で習う程度の知識を身につけておくことが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 導入 2 中国ムスリム社会の形成 3 明清時代の中国ムスリム 4 清末の中国ムスリム 5 中華民国と国民国家建設 6 中国イスラーム教育改革 7 イフワーン派と愛国愛教 8 侮教事件と「回族」アイデンティティの形成 9 共産党の民族政策 10 新疆「解放」と中国ムスリム 11 文化大革命と中国ムスリム 12 改革開放と中国ムスリム 13 中国イスラーム伝統思想の変容 14 中国ムスリムの現在 15 まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0064001 |
| 科目名  | 統計学入門   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Statistics  |       |           |
| 担当者名   | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この講義では、統計学の基本である 記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など)を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 長畑秀和 著 「統計学へのステップ」 共立出版 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）  | レジメプリントとホームページ  |       |           |
| 評価方法   | 平常点出席状況と授業内レポート（54%）、その理解度を確認する試験（46%）、この2つの項目を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。標本から母集団の特性を論理的に正しく推測検定する方法を習得すること。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 数学的な記号や法則は、本だけで修得するのは困難であるので、毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め、簡単な演習問題を課し提出してもらおうので電卓を用意して欲しい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.統計と情報 2.データの視覚的なまとめ 3.代表値－平均値 4.散布度－分散・標準偏差 5.散布図と相関係数 6.回帰分析 7.事象と確率 8.確率変数 9.総合練習 10.まとめ 11.9.2 次元以上の確率分布 12.二項分布 13.ポアソン分布 14.正規分布 15.統計量の分布 16.推定の考え方 17.検定の考え方 18.母分散に関する検定・推定 19.総合練習 20.まとめ 21.母平均に関する検定・推定 22.母分散の比に関する検定・推定 23.母平均の差に関する検定・推定 24.母比率の差に関する検定・推定 25.適合度の検定 26.独立性の検定 27.ノンパラメトリック検定 28.回帰分析 29.検定・推定の総合練習 30.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0065001 |
| 科目名  | 統計分析の基礎   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | The Basic of Metric Analysis  |       |           |
| 担当者名   | 臼井 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。  特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないで、積極的に問題を解いて欲しい。  数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996年  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（10点、出席状況等による）+授業時間内の小テスト（3回×10点=30点）+定期試験（60点）  |       |           |
| 到達目標   | 統計学の基本的な考え方を学んでいく。  |       |           |
| 準備学習   | 積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. イントロダクション：統計学の意味と考えかたについて。  2. 数列と等差数列：数列とは何か、等差数列とその和の求め方。  3. 等比数列：等比数列の考えかた、その一般項の求め方。  4. 和の記号 $\Sigma$ ：和の記号 $\Sigma$ の定義と、簡単な数列の和。  5. 度数分布表とヒストグラム：度数分布表と累積度数分布表、ヒストグラムの作り方。  6. 代表値1：3種類の代表値：平均・メディアン・モードと、その違い。  7. 代表値2：度数分布表から代表値を求める方法。  8. 散布度：データのばらつきを示す分散・標準偏差・四分偏差。  9. クロス集計：与えられたデータを、集計・分析する方法。  10. 相関係数：相関係数とは何か。相関関係と因果関係の違い。  11. 小テスト1：1～10で扱った範囲の理解度を見ます。  12. 小テストの返却と解説：自分がどこが間違っただかを確認して下さい。  13. 集合と場合の数：集合の表し方と、場合の数上げ。  14. 順列と組み合わせ：順列と組み合わせの考えかたと計算法。  15. 確率とその計算：確率の定義、その基本性質。  16. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値。  17. 2次元確率変数と確率変数の独立性：2つの確率変数の扱い方と、独立性の意味。  18. 小テスト2：13～17で扱った範囲の理解度を見ます。  19. 小テストの返却と解説：自分がどこが間違っただかを確認して下さい。  20. 二項分布：確率分布の一つである二項分布について。  21. 正規分布：正規分布の特徴と、標準正規分布表の見方。  22. カイ二乗分布・t分布：カイ二乗分布とt分布、自由度の考えかた。  23. 標本調査の考えかた：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味。  24. 区間推定：正規分布とt分布を使った、母平均の区間推定。  25. 仮説検定と母平均の検定：正規分布とt分布を使った、母平均の仮説検定。  26. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使った、母比率の差の仮説検定。  27. 適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使った、適合度と独立性の検定。  28. 小テスト3：20～27で扱った範囲の理解度を見ます。  29. 小テストの返却と解説：自分がどこが間違っただかを確認して下さい。  30. これまで学んだ事柄を、パソコン（Excel）で実行します。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0066A01 |
| 科目名        | 日本の文学A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Literature A   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%出席・発言等） 課題二つ（30%×2）  |       |           |
| 到達目標       | 古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。  |       |           |
| 準備学習       | 本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。  |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 単位取得方法の説明等 2 枕草子 帝と後の純愛悲劇1 3 枕草子 帝と後の純愛悲劇2 4 枕草子 帝と後の純愛悲劇3 5 枕草子 帝と後の純愛悲劇4 6 枕草子 帝と後の純愛悲劇5 7 枕草子 帝と後の純愛悲劇6 8 平家物語 平家一門の栄枯盛衰1 9 平家物語 平家一門の栄枯盛衰2 10 平家物語 平家一門の栄枯盛衰3 11 平家物語 平家一門の栄枯盛衰4 12 平家物語 平家一門の栄枯盛衰5 13 平家物語 平家一門の栄枯盛衰6 14 平家物語 平家一門の栄枯盛衰7 15 総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0066B01 |
| 科目名        | 日本の文学B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）出席・発言等 課題（30%×2）   |       |           |
| 到達目標       | 古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。   |       |           |
| 準備学習       | 本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | 1 単位取得方法の説明等 2 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 1 3 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 2 4 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 3 5 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 4 6 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 5 7 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 6 8 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 7 9 安倍晴明 平安京ミステリー 1 10 安倍晴明 平安京ミステリー 2 11 安倍晴明 平安京ミステリー 3 12 安倍晴明 平安京ミステリー 4 13 安倍晴明 平安京ミステリー 5 14 安倍晴明 平安京ミステリー 6 15 総括 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0068001 |
| 科目名        | 日本語表現法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Method of Japanese Expression  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「書く」能力を高めるために様々な角度からアプローチする。しっかりした文章を読むこと、日本語の正書法を知ること、実際に書いてみることを柱として授業を進めていく。講義形式のみではなく、学生諸君にも文章を作ってもらい、それを添削したり、授業の材料として取り上げたりしながら、教員と学生とが双方向にタイアップしていく授業形態をとりたいと思っている。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 小林秀雄『考えるヒント』   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）と試験（50%）とで総合的に判断する。  |       |           |
| 到達目標       | 日本語の文章の正書法を会得する。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞のコラムを読むようにして欲しい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 私語は厳禁。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の概要説明 2 論説文を読む（1） 3 論説文を読む（2） 4 論説文を書く（1） 5 添削と合評 6 添削と合評 7 手紙文を書く 8 添削と合評 9 添削と合評 10 論説文を書く（2） 11 添削と合評 12 添削と合評 13 固有語と借用語 14 漢字の基礎知識 15 まとめ                         |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0068002 |
| 科目名       | 日本語表現法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Method of Japanese Expression  |       |           |
| 担当者名      | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 社会に出て恥ずかしくない「書く」「話す」言葉の技法を身につける。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（100%） 毎時の漢字小テスト受験・提出物提出状況とその内容・敬語習得チェック等   |       |           |
| 到達目標      | 講義概要と同。  |       |           |
| 準備学習      | 平素より言葉遣いに注意し、講義で得た知識や技術を生活で実行すること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 作業中心の授業なので、積極的に取り組むこと。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1 話し言葉と書き言葉 2 敬語 1 3 敬語 2 4 敬語 3 5 敬語 4 6 敬語 5 7 敬語 6 8 敬語 7 9 手紙を書く 1 10 手紙を書く 2 11 手紙を書く 3 12 文章実作 悪文を直す 13 文章 短い文でつなぎ言葉を入れる 14 文章 アピールする文章に仕立てる 15 総括 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0068003 |
| 科目名        | 日本語表現法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Method of Japanese Expression  |       |           |
| 担当者名       | 岩田 美穂  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「書く」ことは、「話す」ことと同じくらい大事なコミュニケーションのツールである。日々のレポート、就職活動における、履歴書、小論文、意見文など、意外と文章を書く機会が多い。その際、本当に正しく、相手に自分の言いたいことが伝わっているだろうか。本講義では、社会に出るために、あるいは、社会に出てから困らないように、「書く」能力を高めることを目標とする。特に、学生にとって文章を書く身近な機会であるレポートの書き方を中心に講義を進める。最終的には講義内容をふまえて、実際にレポートを書いてもらう。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、授業中にプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要があれば授業内で指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）出席状況＋提出物。授業中の小テスト、レポート（50％）  |       |           |
| 到達目標       | 日本語の正しい書き方についての知識を得ること それらの知識を使って実際に正しく、相手に伝わる文章を書くことができるようになることの2点を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 今まで自分が書いたもの（レポートや作文など）があれば見直しておく。 各講義の最後に次の講義のための準備を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に遅刻しないこと。 毎回課題に取り組んでもらう。積極的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに、正しい文とは何か  2 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 3 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 4 論理的な文章を書く・・・読みやすいレポートにするために 5 論理的な文章を書く・・・資料の調べ方 6 論理的な文章を書く・・・資料の引用の仕方 7 論理的な文章を書く・・・資料の読み取り・分析 8 論理的な文章を書く・・・資料をもとにレポートを書いてみる 9 敬語の使い方・・・尊敬語 10 敬語の使い方・・・謙譲語・丁寧語 11 実用文の書き方・・・メールの書き方 12 実用文の書き方・・・手紙を書く、お礼状を書く 13 実用文の書き方・・・ビジネス文書を書く 14 実用文の書き方・・・小論文を書く 15 実用文の書き方・・・履歴書を書く ※なお、内容・順序等は若干変更する場合がある。</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0068004 |
| 科目名        | 日本語表現法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Method of Japanese Expression  |       |           |
| 担当者名       | 岩田 美穂  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「書く」ことは、「話す」ことと同じくらい大事なコミュニケーションのツールである。日々のレポート、就職活動における、履歴書、小論文、意見文など、意外と文章を書く機会が多い。その際、本当に正しく、相手に自分の言いたいことが伝わっているだろうか。本講義では、社会に出るために、あるいは、社会に出てから困らないように、「書く」能力を高めることを目標とする。特に、学生にとって文章を書く身近な機会であるレポートの書き方を中心に講義を進める。最終的には講義内容をふまえて、実際にレポートを書いてもらう。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、授業中にプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要があれば授業内で指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）出席状況＋提出物。授業中の小テスト、レポート（50％）  |       |           |
| 到達目標       | 日本語の正しい書き方についての知識を得ること それらの知識を使って実際に正しく、相手に伝わる文章を書くことができるようになることの2点を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 今まで自分が書いたもの（レポートや作文など）があれば見直しておく。 各講義の最後に次の講義のための準備を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に遅刻しないこと。 毎回課題に取り組んでもらう。積極的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに、正しい文とは何か  2 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 3 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 4 論理的な文章を書く・・・読みやすいレポートにするために 5 論理的な文章を書く・・・資料の調べ方 6 論理的な文章を書く・・・資料の引用の仕方 7 論理的な文章を書く・・・資料の読み取り・分析 8 論理的な文章を書く・・・資料をもとにレポートを書いてみる 9 敬語の使い方・・・尊敬語 10 敬語の使い方・・・謙譲語・丁寧語 11 実用文の書き方・・・メールの書き方 12 実用文の書き方・・・手紙を書く、お礼状を書く 13 実用文の書き方・・・ビジネス文書を書く 14 実用文の書き方・・・小論文を書く 15 実用文の書き方・・・履歴書を書く ※なお、内容・順序等は若干変更する場合がある。</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0068006 |
| 科目名        | 日本語表現法   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Method of Japanese Expression  |       |           |
| 担当者名       | 岩田 美穂  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「書く」ことは、「話す」ことと同じくらい大事なコミュニケーションのツールである。日々のレポート、就職活動における、履歴書、小論文、意見文など、意外と文章を書く機会が多い。その際、本当に正しく、相手に自分の言いたいことが伝わっているだろうか。本講義では、社会に出るために、あるいは、社会に出てから困らないように、「書く」能力を高めることを目標とする。特に、学生にとって文章を書く身近な機会であるレポートの書き方を中心に講義を進める。最終的には講義内容をふまえて、実際にレポートを書いてもらう。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜、授業中にプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要があれば授業内で指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）出席状況＋提出物。授業中の小テスト、レポート（50％）  |       |           |
| 到達目標       | 日本語の正しい書き方についての知識を得ること それらの知識を使って実際に正しく、相手に伝わる文章を書くことができるようになることの2点を目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 今まで自分が書いたもの（レポートや作文など）があれば見直しておく。 各講義の最後に次の講義のための準備を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業に遅刻しないこと。 毎回課題に取り組んでもらう。積極的に課題に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 はじめに、正しい文とは何か  2 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 3 論理的な文章を書く・・・レポートの構成の基礎 4 論理的な文章を書く・・・読みやすいレポートにするために 5 論理的な文章を書く・・・資料の調べ方 6 論理的な文章を書く・・・資料の引用の仕方 7 論理的な文章を書く・・・資料の読み取り・分析 8 論理的な文章を書く・・・資料をもとにレポートを書いてみる 9 敬語の使い方・・・尊敬語 10 敬語の使い方・・・謙譲語・丁寧語 11 実用文の書き方・・・メールの書き方 12 実用文の書き方・・・手紙を書く、お礼状を書く 13 実用文の書き方・・・ビジネス文書を書く 14 実用文の書き方・・・小論文を書く 15 実用文の書き方・・・履歴書を書く ※なお、内容・順序等は若干変更する場合がある。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0069A01 |
| 科目名  | 日本史概説A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Japan A   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 | 日本史概説s    |
| 講義概要   | <p>驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、世界の変化と連動して新たな社会の枠組みを形成しつつある。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきた。その意味でも、今あらためて日本の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならない。   この講義では、日本の歴史研究を主導された網野善彦氏による待望の通史『日本社会の歴史』を教科書として用い、解説や補足を加えながらこの書を通読し、「日本国」の成立から現代に至る自国の歴史を学ぶなかで、私たちが抱える様々な問題点と新たな視点を提起する。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書：網野善彦著『日本社会の歴史』上・中・下（全3冊、岩波新書500・501・502）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 参考書：吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）。ほかに講義中に適宜指示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント資料も配付。   |       |           |
| 評価方法   | 成績は、授業内レポートが30パーセント、定期試験を70パーセントとして評価する。授業内レポートについては、授業の途中で内容の説明を行う。   |       |           |
| 到達目標   | 日本社会の全域に及ぶ歴史の流れを理解したうえで、個別の時代や事象に興味をいただくこと。  |       |           |
| 準備学習   | 授業は、個々の受講生に教科書を声を出して読んでもらいます。必ず、前もって教科書を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 準備学習のところで書きましたが、この授業では、教科書を声を出して読んでもらいます。日本の古代や中世の歴史用語や人名は、あらかじめ学習しておかないと正しく読めないほど難しいものです。進行にあわせて準備し、真摯な姿勢で受講してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 はじめに ―― 開講にあたって   2 第1章 原始の列島と人類社会   3 同 上   4 第2章 首長たちの時代   5 同 上   6 第3章 国家形成への道   7 同 上   8 第4章 「日本国」の成立と列島社会   9 同 上   10 第5章 古代小帝国日本国の矛盾と発展   11 同 上   12 同 上   13 第6章 古代日本国の変質と地域勢力の胎動   14 同 上   15 同 上 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0069B01 |
| 科目名  | 日本史概説B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Japan B   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 | 日本史概説 f   |
| 講義概要   | <p>驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、世界の変化と連動して新たな社会の枠組みを形成しつつある。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきた。その意味でも、今あらためて日本の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならない。   この講義では、日本の歴史研究を主導された網野善彦氏による待望の通史『日本社会の歴史』を教科書として用い、解説や補足を加えながらこの書を通読し、「日本国」の成立から現代に至る自国の歴史を学ぶなかで、私たちが抱える様々な問題点と新たな視点を提起する。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書：網野善彦著『日本社会の歴史』上・中・下（全3冊、岩波新書 500・501・502）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 参考書：吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）。ほかに講義中に適宜教示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント資料も配付。   |       |           |
| 評価方法   | 成績は、授業内レポートが30パーセント、定期試験を70パーセントとして評価する。授業内レポートについては、授業の途中で内容の説明を行う。   |       |           |
| 到達目標   | 日本社会の全域に及ぶ歴史の流れを理解したうえで、個別の時代や事象に興味をいただくこと。  |       |           |
| 準備学習   | 授業は、個々の受講生に教科書を声を出して読んでもらいます。必ず、前もって教科書を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>準備学習のところでも書きましたが、この授業では、教科書を声を出して読んでもらいます。日本の古代や中世の歴史用語や人名は、あらかじめ学習しておかないと正しく読めないほど難しいものです。進行にあわせて準備し、真摯な姿勢で受講してください。  </p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 はじめに — 講義再開にあたって   2 第7章 東国王権の出現と王朝文化の変貌   3 同上   4 第8章 東西の王権の併存と葛藤   5 同上   6 同上   7 第9章 動乱の時代と列島社会の転換   8 同上   9 同上   10 第10章 地域小国家の分立と抗争   11 同上   12 同上   13 第11章 再統一された日本国と琉球王国・アイヌ社会   14 同上   15 第12章 展望 — 十七世紀後半から現代へ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0070001 |
| 科目名        | 梅岩「心学」研究  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Ethics of Ishida Baigan   |       |           |
| 担当者名       | 植田 知子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 石門心学の開祖石田梅岩（1685～1744）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、江戸時代、士農工商の身分制の中で最も低い地位におかれた商人の社会的存在価値を明確に主張し、商人自らその役割を自覚して、それを果たすことが家業繁栄の道であることを説きました。梅岩とその一門の人々が主張した正直・勤勉・質素・儉約などの徳目は、京都の多くの商家の家訓に取り入れられ、今日でも重んじられています。本講義では、当時の時代背景や商業活動にも言及しながら、梅岩教学の根本原理を理解することに努めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 石田梅岩著『都鄙問答』などを、資料プリントとして配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 柴田 実著『石田梅岩』（人物叢書）吉川弘文館、2007年（新装版第3刷）。1500円。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、資料プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法       | 小レポート（40％） 定期テスト（60％）   |       |           |
| 到達目標       | 梅岩教学の根本原理を理解することに努めます。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布する資料プリントには、毎回一通り目を通しておいて下さい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 継続して受講しないと、内容が分からなくなるので、できるだけ欠席しないようにして下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 石田梅岩の生い立ちと業績  2. 心を尽くして性を知る  3. 商人の社会的役割  4. 商人にとって学問の必要性①  5. 商人にとって学問の必要性②  6. 営利心と利潤①  7. 営利心と利潤②  8. 前半部分のまとめ  9. 正直とは  10. 儉約とは  11. 家の存続  12. 他者への奉仕  13. 社会秩序と生活規範  14. 家訓に見る心学の影響  15. まとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0071A01 |
| 科目名        | 美術工芸史 A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Artistic Handicrafts History A  |       |           |
| 担当者名       | 角谷 江津子  | 旧科目名称 | 美術工芸史 s   |
| 講義概要       | <p>工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に日本の陶磁器を中心に先史時代から中世までを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形態にどのように表現されているかなどの「もの」としての陶磁器についてもあわせて言及していく。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。適宜プリントなど配布。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 矢部良明『日本やきもの史』 美術出版社 1998年   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 出席をふくむ平常点 10~20% 定期テスト (あるいはレポート) 80%   |       |           |
| 到達目標       | 日本の陶磁器の歴史とそれが生み出された時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。  |       |           |
| 準備学習       | 日本の歴史に関心を持ち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 工芸の概念   2 日本の陶磁器史入門   3 縄文時代の陶磁器 (縄文土器)   4 弥生時代の陶磁器 (弥生土器)   5 古墳時代の陶磁器 (須恵器)   6 奈良・平安時代の陶磁器 I (奈良三彩)   7 奈良・平安時代の陶磁器 II (緑釉陶器と灰釉陶器)   8 中世の陶磁器   9 瀬戸   10 常滑・渥美   11 越前・珠洲   12 茶の湯の成立と陶器   13 美濃陶磁 (黄瀬戸・瀬戸黒)   14 美濃陶磁 (志野・織部)   15 まとめ    以上は予定</p>      |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0071B01 |
| 科目名        | 美術工芸史 B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Artistic Handicrafts History B   |       |           |
| 担当者名       | 角谷 江津子   | 旧科目名称 | 美術工芸史 f   |
| 講義概要       | <p>工芸史は芸術分野では絵画・彫刻に比べ地味でそれほど注目を浴びないが、人々の生活に深くかかわりを持ち、各時代の生活史を反映している。本講義では、まず「工芸」の概念をとらえ、その工芸のなかから特に日本の陶磁器を中心に先史時代から中世までを概説していく。陶磁器は人間生活に密着しており、その歴史を概観することで、各時代の生活・文化との関わりにもふれ、ひろく文化史的な立場より考えていく。各時代の造形感覚が、作品の文様・形態にどのように表現されているかなどのモノとしての陶磁器についてもあわせて言及していく。</p>                                |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。適宜プリントなど配布。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 矢部良明『日本やきもの史』 美術出版社 1998年  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 出席をふくむ平常点 10~20% 定期テスト (あるいはレポート) 80%  |       |           |
| 到達目標       | 日本の陶磁器の歴史とそれが生み出された時代を理解すること。また陶磁器を見て、基本的なものについてはその特徴などから区別ができること。   |       |           |
| 準備学習       | 日本の歴史に関心を持ち、博物館・美術館あるいは書籍などで陶磁器を見て親しむこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻はしないこと。また、主体的に聴講すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 唐津・萩・薩摩の成立   2 京焼の発展 1 (楽・光悦)   3 京焼の発展 2 (仁清・乾山)   4 京焼の発展 3 (古清水)   5 磁器の誕生 (古伊万里と肥前磁器)   6 磁器の展開 1 (柿右衛門・古九谷と肥前磁器)   7 磁器の展開 2 (鍋島と肥前磁器)   8 近代の陶磁器 - 明治陶磁器を中心に -   9 万国博覧会と美術陶磁器の成立   10 陶磁器の輸出と文化交流   11 民芸運動について   12 日本の染色 (小袖・刺繍・友禅)   13 日本の甲冑 1   14 日本の甲冑 2   15 まとめ   以上は予定</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0072A01 |
| 科目名        | 物質の科学A  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Materials Science A   |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英   | 旧科目名称 | 物質の科学s    |
| 講義概要       | 自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。                                    |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 木下紀正 他 『物理学の基礎（身近なアプローチ）』 東京教学社   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況等による。 定期テスト(70%)  |       |           |
| 到達目標       | ・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。   |       |           |
| 準備学習       | ・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 ・詳細は各講義の最後に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 物質の科学の講義について 2 光のはなし(1) 光の性質 3 光のはなし(2) 光の性質 4 光のはなし(3) 光と電磁波 5 虹のはなし(1) 虹の現象 6 虹のはなし(2) 光の分散と虹 7 青空のはなし(1) 青空の現象 8 青空のはなし(2) 光と粒子の散乱 9 電磁気のはなし(1) 電気と磁気の現象 10 電磁気のはなし(2) 電磁波 11 電磁気のはなし(3) 電磁波 12 電子レンジのはなし(1) 電子レンジの構造 13 電子レンジのはなし(2) 電子レンジの発熱の原理 14 電磁調理器のはなし(1) 電磁調理器の構造 15 電磁調理器のはなし(2) 電磁調理器の発熱の原理 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0072B01 |
| 科目名        | 物質の科学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Materials Science B   |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英   | 旧科目名称 | 物質の科学 f   |
| 講義概要       | 自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、原子の発光に関する現象（オーロラとレーザー）を考察することによって、物質の性質と原子の構造について理解を深めます。後半は、放射線について考察し、物質の性質と放射線の影響や利用について理解を深めます。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 木下紀正 他 『物理学の基礎（身近なアプローチ）』 東京教学社   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況等による。 定期テスト(70%)  |       |           |
| 到達目標       | ・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。   |       |           |
| 準備学習       | ・講義で配布するプリントを熟読しておくこと。 ・詳細は各講義の最後に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 物質の科学の講義について 2 物質と原子のはなし(1) 物質と原子 3 物質と原子のはなし(2) 原子 4 原子と光のはなし(1) 原子から出る光 5 原子と光のはなし(2) 原子のモデル 6 原子と光のはなし(3) 原子の構造 7 オーロラのはなし(1) オーロラ 8 オーロラのはなし(2) オーロラの発光原理 9 レーザーのはなし(1) レーザーのしくみ 10 レーザーのはなし(2) 誘導放出 11 原子核のはなし(1) 原子と原子核 12 原子核のはなし(2) 原子核 13 放射線のはなし(1) 放射線の種類と特徴 14 放射線のはなし(2) 放射線の影響 15 放射線のはなし(3) 放射線の利用 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0073A01 |
| 科目名        | 文化人類学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cultural Anthropology A  |       |           |
| 担当者名       | 比嘉 夏子  | 旧科目名称 | 文化人類学s    |
| 講義概要       | 本講義では、文化人類学の核である「フィールドワーク」を中心として、その方法論と可能性について、具体的な調査研究事例を検討し、解説していく。受講を通して、他者／自己を理解することの面白さと困難さを知るとともに、自らが社会に飛び込んでいくための基礎力を養ってほしい。  日常空間を「フィールド」とする視点を獲得することで、世界が奥行きをもって見えてくるだろう。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布し、参考文献も適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦―〈実践〉人類学入門』世界思想社   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内での小テスト 50% 学期末レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | フィールドワークの方法と応用可能性を理解し、文化人類学の基礎となる視点を獲得する。  |       |           |
| 準備学習       | 自分がフィールドワークをする場合、何をテーマに選ぶだろうか。自らの関心を常に探っておこう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席はもちろん、積極的な受講態度を求める。毎回授業の最後に小テストを実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要とイントロダクション 2. 文化人類学とフィールドワーク 3. 「他者」との出会い（1）  4. 「他者」との出会い（2） 5. 仕事の世界（1）  6. 仕事の世界（2）  7. 社会と周縁（1）  8. 社会と周縁（2）  9. コミュニケーション（1）  10. コミュニケーション（2）  11. 宗教と信仰（1）  12. 宗教と信仰（2）  13. 「異文化」との遭遇（1）  14. 「異文化」との遭遇（2）  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | -          | -   | -   | -   | -     | -      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0073AH1 |
| 科目名        | 文化人類学A   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cultural Anthropology A  |       |           |
| 担当者名       | 比嘉 夏子  | 旧科目名称 | 文化人類学s    |
| 講義概要       | 本講義では、文化人類学の核である「フィールドワーク」を中心として、その方法論と可能性について、具体的な調査研究事例を検討し、解説していく。受講を通して、他者／自己を理解することの面白さと困難さを知るとともに、自らが社会に飛び込んでいくための基礎力を養ってほしい。  日常空間を「フィールド」とする視点を獲得することで、世界が奥行きをもって見えてくるだろう。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布し、参考文献も適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦―〈実践〉人類学入門』世界思想社   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内での小テスト 50% 学期末レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | フィールドワークの方法と応用可能性を理解し、文化人類学の基礎となる視点を獲得する。  |       |           |
| 準備学習       | 自分がフィールドワークをする場合、何をテーマに選ぶだろうか。自らの関心を常に探っておこう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 出席はもちろん、積極的な受講態度を求める。毎回授業の最後に小テストを実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要とイントロダクション 2. 文化人類学とフィールドワーク 3. 「他者」との出会い（1）  4. 「他者」との出会い（2） 5. 仕事の世界（1）  6. 仕事の世界（2）  7. 社会と周縁（1）  8. 社会と周縁（2）  9. コミュニケーション（1）  10. コミュニケーション（2）  11. 宗教と信仰（1）  12. 宗教と信仰（2）  13. 「異文化」との遭遇（1）  14. 「異文化」との遭遇（2）  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | -          | -   | -   | -   | -     | -      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0073B01 |
| 科目名        | 文化人類学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cultural Anthropology B   |       |           |
| 担当者名       | 比嘉 夏子   | 旧科目名称 | 文化人類学 f   |
| 講義概要       | 本講義では、前半で文化人類学の基礎的な理論や概念を解説したうえで、後半では古典的な民族誌（エスノグラフィー）を紹介し、具体的な事例から対象社会を検討していく。受講を通して、この世界に生きる人びとの多様さを理解するとともに、自己の価値観を相対化できるようになってもらいたい。  様々な映像や民族誌の記述に触れながら、文化人類学 A で学んだ論点をさらに深めていく。     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布し、参考文献も適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 米山俊直・谷泰（編）『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社 米山俊直（編）『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業内での小テスト 50% 学期末レポート 50%。  |       |           |
| 到達目標       | 文化人類学の理論や概念を理解した上で、民族誌を読み解く力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 文化人類学 A の内容を復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者は文化人類学 A を受講していることが望ましい。出席はもちろん、積極的な受講態度を求める。毎回授業の最後に小テストを実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要とイントロダクション 2. 人類学の種類 3. 文化人類学の歴史 4. 文化人類学の対象 5. 文化人類学の理論 6. 文化人類学の応用 7. 生態人類学 8. 民族誌を読み解く（1） 9. 認識人類学 10. 民族誌を読み解く（2） 11. 経済人類学 12. 民族誌を読み解く（3） 13. 都市人類学 14. 民族誌を読み解く（4） 15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          | -          | -   | -   | -   | -     | -      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0073BH1 |
| 科目名        | 文化人類学B  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cultural Anthropology B   |       |           |
| 担当者名       | 比嘉 夏子   | 旧科目名称 | 文化人類学 f   |
| 講義概要       | 本講義では、前半で文化人類学の基礎的な理論や概念を解説したうえで、後半では古典的な民族誌（エスノグラフィー）を紹介し、具体的な事例から対象社会を検討していく。受講を通して、この世界に生きる人びとの多様さを理解するとともに、自己の価値観を相対化できるようになってもらいたい。  様々な映像や民族誌の記述に触れながら、文化人類学 A で学んだ論点をさらに深めていく。     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布し、参考文献も適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 米山俊直・谷泰（編）『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社 米山俊直（編）『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業内での小テスト 50% 学期末レポート 50%。  |       |           |
| 到達目標       | 文化人類学の理論や概念を理解した上で、民族誌を読み解く力を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 文化人類学 A の内容を復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者は文化人類学 A を受講していることが望ましい。出席はもちろん、積極的な受講態度を求める。毎回授業の最後に小テストを実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の概要とイントロダクション 2. 人類学の種類 3. 文化人類学の歴史 4. 文化人類学の対象 5. 文化人類学の理論 6. 文化人類学の応用 7. 生態人類学 8. 民族誌を読み解く（1） 9. 認識人類学 10. 民族誌を読み解く（2） 11. 経済人類学 12. 民族誌を読み解く（3） 13. 都市人類学 14. 民族誌を読み解く（4） 15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | -          | -   | -   | -   | -     | -      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                   |
|------------|---|-------|-------------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0075A01         |
| 科目名        | 法学概論 A (日本国憲法を含む)   | 単位数   | 2                 |
| 科目名 (英語表記) | Law A (including the Constitution)  |       |                   |
| 担当者名       | 三並 敏克   | 旧科目名称 | 法学概論 (日本国憲法を含む) s |
| 講義概要       | <p>現代の社会は法の網が細かく張り巡らされており、法の知識なくしては十分に判断することができない場合が、非常に多くなってきたことも確かである。したがって、法を研究対象とする法学を基礎から学ぶ必要性は、社会の一員として今日ますます重要となってきた。本講義では、まず、法学を学ぶとはどういうことなのか、を問うことにする。こうした問いの下では、法学がもつばら研究対象とする「法」とは一体何なのか (と同時に、法学と他の学問分野との違いは何か) から始まって、法の解釈、法の分類など法学の基本問題が検討されなければならないであろう。次に、いちいち実定法の主な分野の基本原理や概略を述べるのが「法学概論」の普通の講義スタイルであろうが、本講義では、国法の根本法たる日本国憲法を概説して、折に触れて各分野の法領域に言及することにした。憲法は各種の法領域の根本原則を規定しているからである。その場合にも、現代社会が抱える今日的問題に常に目配せして講義することが、法学を学ぶこととの意義を再認識してもらうためにも、必要と考えていることから、今問題になっている法律問題や憲法問題を意識的に取り上げて講義するというスタイルで授業を進めていこうと考えている。</p> |       |                   |
| 教材 (テキスト)  | 小林武・三並敏克編『いま日本国憲法は〔第4版〕』(法律文化社、2011年春刊行予定)  |       |                   |
| 教材 (参考文献)  | 末川 博編『法学入門〔第6版〕』(有斐閣、2009年)、中川 淳編『現代法学を学ぶ人のために〔第二版〕』(世界思想社、2008年)   |       |                   |
| 教材 (その他)   | 日本国憲法については上記のテキストを使用するが、法学ないし法律学については、上記の参考書などもベースにして、筆者なりに作成した比較的詳細なレジュメなどを配布する予定。   |       |                   |
| 評価方法       | 平常点 (40%) 出席状況などによる (ここではレジュメを肉付けしたものの提出で評価する場合もあるし、小テストを何回かおこう)。定期テスト (60%)。定期試験は受講人数によってはレポート試験に替えることもある。   |       |                   |
| 到達目標       | 現代の社会は、法の知識なくしては十分に判断することができない場合が非常に多くなっていることから、法学を学ぶことの必要性和意義を理解できるようにする。「日本国憲法を含む」講義でもあるので、その基本的な論点を理解できるようにする。   |       |                   |
| 準備学習       | この講義が同時代的なものであることを理解してもらうためにも、新聞・テレビなどで報道される法学・憲法問題を常に意識し、それらを自分なりにメモしておくこと。  |       |                   |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語を厳禁することはもとよりのこと、積極的な姿勢で出席するよう心掛けること。図書館を大いに利用すること。   |       |                   |
| 講義の順序とポイント | <p>① 法とは何か——法学と自然科学・経済学との違いも含めて ② 法の適用と解釈——法解釈学の方法 ③ 法の発展と法の分類——「自然法と実定法」、「制定法・慣習法・判例法」、「国内法・国際法」、「公法・私法」 ④ 日本の憲法の歴史——明治憲法から日本国憲法へ ⑤ 日本国憲法の特質——平和主義と象徴天皇制 ⑥ 基本的人権の保障——人権の体系論・主体論・効力論 ⑦ 基本的人権の限界論——人権と公共の福祉 ⑧ 精神的自由権——なぜ優越的地位をもつか ⑨ 経済的自由権と社会権 ⑩ 身体的自由権——適正手続の保障、被告人の権利、被害者の権利 ⑪ 国会の性格と地位と権能 ⑫ 内閣と行政権——現代国家と行政権の役割 ⑬ 裁判所——裁判を受ける権利と司法権 ⑭ 財政の基本原則や地方自治の基本原則 ⑮ 憲法改正と憲法尊重擁護義務——「憲法の保障」</p>  |       |                   |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |                  |
|--|---|-------|------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JM0075B01        |
| 科目名  | 法学概論B   | 単位数   | 2                |
| 科目名（英語表記）  | Law B   |       |                  |
| 担当者名   | 宮川 不可止  | 旧科目名称 | 法学概論（日本国憲法を含む） f |
| 講義概要   | 法とは、法律とは、日常生活、企業活動との関わり、隣接領域（道徳、習俗等）との関係、紛争の解決方法の諸形態、日本法の歩みなどにつき分かりやすく解説する。 |       |                  |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。  |       |                  |
| 教材（参考文献）   | 谷口貴都＝松原哲編・基礎からわかる法学（成文堂、2010年）  |       |                  |
| 教材（その他）  | 必要に応じプリントを配布する。   |       |                  |
| 評価方法   | レポート試験（40％） 定期試験（50％） その他（10％）による。  |       |                  |
| 到達目標   | 法に対してさまざまな視点をあてることにより法の基礎にあるものを理解して、紛争の解決を図るべく行動できることを目標とする。                |       |                  |
| 準備学習   | 参考文献として掲げた前掲書を予め読んでおくこと。  |       |                  |
| 受講者への要望  |   |       |                  |
| 小六法を持参し、参照すること。  |   |       |                  |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                  |
| 1.わたしたちをとりまく法 2.法にはどのようなものがあるか、法の分類 3.裁判制度、紛争の解決方法 4.家族と法 5.親子と法 6.相続 7.正常でない意思表示 8.担保と保証 9.事故と法的責任 10.一般不法行為の成立要件 11.消費生活と法 12.会社と法 13.職場と法 14.犯罪と法 15.交通事故と法 |   |       |                  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0078001 |
| 科目名        | 論理学入門  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Logic  |       |           |
| 担当者名       | 杉本 俊介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 論理学の初歩を学ぶ。論理学では、話が矛盾しているとか整合的だというのが厳密に言えばどのようなことなのかを明らかにし、矛盾したものと整合的なものを区別する方法を見いだす。また、正しい論証とは何か、正しい論証とそうでない論証とを区別することも目指す学問でもある。  話が矛盾しているかどうか、論証が正しいかどうか、を見きわめることは、文系・理系にかかわらず、さまざまな勉強をするときに役立つことである。講義では、論理学の初歩的なテクニックを身につけることを目標にする。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 野矢茂樹『論理学』東京大学出版会、1994年。 戸田山和久『論理学をつくる』名古屋大学出版会、2000年。  その他の参考文献については、授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。確認テスト（20%） 定期テスト（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 論理学の初歩的なテクニックを身につけ、論理的思考力を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の理解度に合わせて授業を進めたいので、講義に積極的に出席するように心がけてください。 遅刻や私語を厳禁とします。 定期テストに加え、よりやさしい確認テストを実施します。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに（論理学とは何か、論理学で記号を使うわけ） 2. 集合・関係とは何か 3. 正しい論証・矛盾した話、シンタクス・セマンティクスとは何か 4. 命題論理とは何か、命題論理のシンタクス 5. 命題論理のセマンティクス（1） 6. 命題論理のセマンティクス（2） 7. ここまでの確認 8. （論理）形式とは何か 9. 命題論理で日本語を形式化する 10. ここまでの確認  11. 述語論理とは何か 12. 述語論理のシンタクス 13. ここまでの確認 14. 述語論理のセマンティクス（1） 15. 述語論理のセマンティクス（2） 16. ここまでの確認 17. 自然演繹とは何か 18. 命題論理の自然演繹 19. 述語論理の自然演繹（1） 20. 述語論理の自然演繹（2） 21. ここまでの確認 22. シンタクスとセマンティクスの結びつき（健全性と完全性） 23. 日本語を形式化するときの注意点 24. 述語論理で日本語を形式化する 25. ここまでの確認 26. 同一性記号を導入する（1） 27. 同一性記号を導入する（2） 28. ひとつの個体を指す表現の問題 29. ここまでの確認 30. まとめ（もっと論理学を学ぶために） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0089A01 |
| 科目名  | 英語講読 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | English Reading I  |       |           |
| 担当者名   | 今西 薫   | 旧科目名称 | 英語講読 s    |
| 講義概要   | この授業は、大学院を目指している学生のためのリーディングの基礎的な授業です。英文を読み進む中で、文法や構文を理解したうえでの単調な翻訳作業のような授業になる可能性があります。将来の夢や希望を実現するための修行の場だととらえ、積極的に課された課題をこなしていくことが望めます。復習をしっかりとしてください。毎週かなりの英語の学習時間が必要です。プリント教材は文法事項を中心にした英文で作ってあります。読解力の向上のためには習得すべき必須の事柄です。  学生諸君の目指す試験が辞書持込みであるのか、ないのかによって語彙の増やし方については、対応が分かれていますが、やはり語彙は多いにこしたことはありません。できるだけ語彙を増やすような授業にします。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内テスト(100%)   |       |           |
| 到達目標   | 最終的に大学院の入学試験に合格できる英語能力を身につけるための基礎力を養う。   |       |           |
| 準備学習   | 毎回、前回学習した内容に関してテストを行うので、復習中心の学習をするように心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業には毎回出席すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 文の要素、文型を中心にした英文 2. 文の種類、品詞を中心にした英文  3. 動詞の活用を中心にした英文  4. 自動詞と他動詞を中心にした英文 5. 群動詞を中心にした英文 6. 基本時制を中心にした英文 7. 完了時制を中心にした英文 8. 進行形を中心にした英文 9. 受動態の基本形を中心にした英文 10. いろいろな受動態の英文 11. 助動詞を使った英文 12. 不定詞を使った英文 13. 分詞の形容詞用法の英文 14. 分詞構文の英文 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0089B01 |
| 科目名   | 英語講読II  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | English Reading II  |       |           |
| 担当者名  | 今西 薫  | 旧科目名称 | 英語講読 f    |
| 講義概要  | この授業は、大学院を目指している学生のためのリーディングの授業です。英文を読み進む中で、文法や構文を理解したうえでの単調な翻訳作業のような授業になる可能性があります。将来の夢や希望を実現するための修行の場だととらえ、積極的に課された課題をこなしていくことが望まれます。毎週かなりの英語の学習時間が必要です。受講する学生の英語習熟度にあわせて、プリント教材を作ります。復習を中心に学習してください。  学生諸君の目指す試験が辞書持込みであるのか、ないのかによって語彙の増やし方については、対応が分かれますが、やはり語彙は多いにこしたことはありません。できるだけ語彙を増やすような授業にします。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | プリント教材  |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内テスト(100%)  |       |           |
| 到達目標  | 大学院受験に合格できる水準まで英文を日本語に翻訳できる能力を高めること。  |       |           |
| 準備学習  | 日常わからない単語が出てきたときには、すばやく辞書でその語を確認できる能力を養うとともに、やはり基本的な語彙はマスターしておいてもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講者は授業には毎回出席すること。なお、英和辞典を持参すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 動名詞を中心にした英文 2. 前置詞を中心にした英文 3. 名詞をを中心にした英文  4. 代名詞をを中心にした英文 5. 前置詞を中心にした英文 6. 比較構文を中心にした英文 7. 関係代名詞を中心にした英文 8. 関係副詞を中心にした英文 9. 等位接続詞の訳し方の難しさについて  10. 従属接続詞を中心にした英文 11. 仮定法過去を中心にした英文 12. 仮定法過去完了を中心にした英文  13. 倒置、強調などの構文の見分け方、訳し方 14. 物主構文の訳し方について 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JM0090001 |
| 科目名       | 倫理学概論  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Ethics   |       |           |
| 担当者名      | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。  それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。  本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨場的な現場（産屋）に成るよう努める。  カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理的考察を深めるためのものである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の進行に合わせて、その都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 講義資料は京学ナビに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。   |       |           |
| 評価方法      | 授業中に書いてもらう小論文試験（6回ほど）の素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が6割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 1. 倫理的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2. 上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようになる。 3. 倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。   |       |           |
| 準備学習      | 日頃から新聞等で紹介される倫理上の問題に関する記事を読んでおくこと。 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。   |       |           |

受講者への要望  
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈黙考に心がけること。

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 講義の順序とポイント   |  |  |  |
| （注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること）  1. 序論 本講義について   2. §1 倫理学とは   3. 同上   4. §2 現代の倫理学的問題   5. 同上   6. 第1章 倫理学の成立と変遷   7. §3 ソクラテス以前   8. 同上   9. §4 ソクラテス   10. 同上   11. 第1回授業内レポート   12. §5 ソクラテス以後のポリスの倫理   13. 同上   14. §6 ユダヤ・キリスト教的倫理   15. 同上   16. 第2回授業内レポート   17. §7 近代の倫理   18. ①近代とキリスト教   19. ②デカルトの倫理   20. 同上   21. 第3回授業内レポート   22. §8 客体的善   23. ①アリストテレスの倫理   24. ②功利主義、責任倫理   25. §9 主体的善   26. ①アリストテレスの徳論   27. ②カントの道徳性   28. 同上   29. 第4回授業内レポート   30. 第3章 善と規範   31. §10 価値と事実   32. §11 規範の正当化   33. 同上   34. 第5回授業内レポート   35. 第4章 自由と良心   36. §12 自由   37. 同上   38. 29. §13 良心   39. 30. 同上、まとめ   40. 第6回授業内レポート |  |  |  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JM0091A01 |
| 科目名  | 科学の歴史 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | History of Science A   |       |           |
| 担当者名   | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 八杉龍一著 『新版 科学とは何か』 (1991年) 東京教学社など (図書館で借りるだけでもよい)                        |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト (期末試験) 100% (ただし場合によっては平常点を加味することがある)                              |       |           |
| 到達目標   | 自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。                         |       |           |
| 準備学習   | 現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 「科学の歴史 A」 → 「科学の歴史 B」 の順に受講することが望ましい。   2. 教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。   3. 教室内は飲食禁止。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス   2. 科学の定義と領域について   3. 科学の方法と限界について   4. 古代文明と科学、技術について   5. 暦、占星術と天文学について   6. 古代ギリシャの科学 (その1)   7. 古代ギリシャの科学 (その2)   8. 古代ローマ帝国の科学   9. 中世ヨーロッパの科学   10. アラビアの科学   11. 宗教と科学について   12. 錬金術と化学について   13. 科学革命について (その1)   14. 科学革命について (その2)   15. まとめ   (受講生の理解度や希望によって内容を変更することもある。) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JM0091B01 |
| 科目名   | 科学の歴史B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | History of Science B                             |       |           |
| 担当者名  | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 八杉龍一著 『新版 科学とは何か』（1991年）東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示する   |       |           |
| 評価方法  | 定期テスト（期末試験）100%（ただし場合によっては平常点を加味することがある）         |       |           |
| 到達目標  | 自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。 |       |           |
| 準備学習  | 現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。                 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 「科学の歴史A」→「科学の歴史B」の順に受講することが望ましい。  2. 教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。  3. 教室内は飲食禁止。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス  2. 科学と技術について  3. 科学革命とその影響  4. 解剖学と医学の発展  5. 産業革命期の科学について  6. 化学の発展  7. 進化論について  8. 生物学と生命科学の発展  9. 新しい物質観と物理学の発展  10. 科学と戦争について（その1）  11. 科学と戦争について（その2）  12. コンピューターの歴史  13. インターネットの歴史  14. 科学者の社会的責任について  15. まとめ （受講生の理解度や希望に応じて内容を変更することもある。） |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0093001 |
| 科目名   | 京都の歴史   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | History of Kyoto  |       |           |
| 担当者名  | 菅澤 庸子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 歴史は地域に根ざしたものである。京都という一つの地域に生活した人々の営みの歴史を知ることが、日本文化や歴史の一面を知ることに通じるといえよう。 本講では都のおかれる以前から現代に至るまでの京都の町の足跡を辿る。平安京以前の様子や賀茂祭の歴史、平安京に暮らす人々、祇園会のあり方の変化、商業をはじめとする産業の発展などを取り上げ、京都の歴史と文化の特色をみていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。講義時ごとにプリントを配付する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 映像資料などを活用する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50％）2回の小テストや授業内提出物などによる。レポート試験（50％）   |       |           |
| 到達目標  | 京都の町の歴史と特色の理解。地域からの視点で歴史を考える姿勢を培う。  |       |           |
| 準備学習  | 寺社や博物館をはじめ、現在京都に残る史蹟を普段から見てもわる姿勢をもつこと。授業では各回のテーマごとにできるだけ関連史蹟を紹介していくので、参考にしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 第1回の講義で、講義全体の趣旨や留意点、最終のレポート試験の内容を説明する（講義中に言及した史蹟や寺社を一つ選択し、各自で見学してレポートに記すというものを予定）。登録前であっても必ず初回から出席すること。やむをえず欠席した人は友人などにノートを見せてもらうこと。また、平常点として講義内容復習の小テストを2回おこなう。講義中ノートをよく取っておくこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 開講にあたって ー地域学としての「京都の歴史」ー 2. 「平安京」以前 3. 「山背」遷都（1） 4. 賀茂祭 5. 「山背」遷都（2） 6. 第1回小テスト 7. テスト解説（復習）、平安京に暮らす人々 8. 平安京の都市災害 9. 市町と広場 10.町衆と民衆文化 11.レポート解説、河原者の遺した文化 12.江戸時代の産業の発展 13.第2回小テスト 14.テスト解説（復習）、新興商人の文化 15.「西京」から再び「京都」へ ー近現代の京都ー |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0094A01 |
| 科目名        | ジェンダー論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Gender and Society I   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーのもっとも身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という規範です。一般的に、ジェンダー論というと女性問題と誤解している人は多いですが、ジェンダー規範が男性にも不利益をもたらしているという認識が重要です。本授業では、これまで「人間」の問題としてジェンダーレスで見過ごされてきた様々な問題を、ジェンダーというレンズを通して人間を理解する「女と男の人間関係学」です。前期は主に、総論的トピックスを扱う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 配布資料は毎回、授業初めに配ります。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『女性のデータブック』第4版 有斐閣、『女性学事典』岩波書店 (図書館にあります)  |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材を活用   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%)出席状況等による、期末テスト (70%)  |       |           |
| 到達目標       | ジェンダーの視点を通して女と男の人間関係を理解をする   |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特になし       |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション 2. ジェンダーとは 3. ジェンダーの獲得と社会化 4. 性別役割分担 1 5. 性別役割分担 2 6. 働く女性は増えたか 7. 格差社会をジェンダーで読む 8. 日本のジェンダー平等指数 9. セクシュアリティ 1 10. セクシュアリティ 2 11. セクシュアリティ 3 12. 母性愛と父性愛 13. 生殖技術の光と影 14. ビデオで見るジェンダー問題 15. まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JM0094A0A |
| 科目名        | ジェンダー論 I   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Gender and Society I   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーのもっとも身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という規範です。一般的に、ジェンダー論というと女性問題と誤解している人は多いですが、ジェンダー規範が男性にも不利益をもたらしているという認識が重要です。本授業では、これまで「人間」の問題としてジェンダーレスで見過ごされてきた様々な問題を、ジェンダーというレンズを通して人間を理解する「女と男の人間関係学」です。前期は主に、総論的トピックスを扱う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 配布資料は毎回、授業初めに配ります。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『女性のデータブック』第4版 有斐閣、『女性学事典』岩波書店 (図書館にあります)  |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材を活用   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%)出席状況等による、期末テスト (70%)  |       |           |
| 到達目標       | ジェンダーの視点を通して女と男の人間関係を理解をする   |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特になし       |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション 2. ジェンダーとは 3. ジェンダーの獲得と社会化 4. 性別役割分担 1 5. 性別役割分担 2 6. 働く女性は増えたか 7. 格差社会をジェンダーで読む 8. 日本のジェンダー平等指数 9. セクシュアリティ 1 10. セクシュアリティ 2 11. セクシュアリティ 3 12. 母性愛と父性愛 13. 生殖技術の光と影 14. ビデオで見るジェンダー問題 15. まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0094B01 |
| 科目名        | ジェンダー論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Gender and Society II   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーのもっとも身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という規範です。一般的に、ジェンダー論というと女性問題と誤解している人は多いようですが、ジェンダー規範が男性にも不利益をもたらしているという認識が重要です。本授業では、これまで「人間」の問題としてジェンダーレスで見過ごされてきた様々な問題を、ジェンダーのレンズを通して人間を理解する「女と男の人間関係学」です。後期は主に、ジェンダーの各論トピックスを扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 配布資料は毎回の授業初めに配ります。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『女性のデータブック』第4版 有斐閣、『女性学事典』岩波書店（図書館にあります）  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）   |       |           |
| 到達目標       | ジェンダーの視点を通して女と男の人間関係を理解する   |       |           |
| 準備学習       | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
| 特になし       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 後期イントロダクション 2, ジェンダー研究・女性学・フェミニズムズ 3, 男性問題 4, 変わる「男性らしさ」 5, 近代家族 1 6, 近代家族 2 7, 教育とジェンダー 8, マスメディアのなかのジェンダー 9, メディア・リテラシー 10, 「こころの社会学」から見るジェンダー 11 言語にみるジェンダー 12, 少子化社会とジェンダー 13, 高齢社会とライフコースの変化 14, 宗教とジェンダー 15,まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JM0094B0A |
| 科目名        | ジェンダー論II  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Gender and Society II   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーのもっとも身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という規範です。一般的に、ジェンダー論というと女性問題と誤解している人は多いようですが、ジェンダー規範が男性にも不利益をもたらしているという認識が重要です。本授業では、これまで「人間」の問題としてジェンダーレスで見過ごされてきた様々な問題を、ジェンダーのレンズを通して人間を理解する「女と男の人間関係学」です。後期は主に、ジェンダーの各論トピックスを扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 配布資料は毎回の授業初めに配ります。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『女性のデータブック』第4版 有斐閣、『女性学事典』岩波書店（図書館にあります）  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）   |       |           |
| 到達目標       | ジェンダーの視点を通して女と男の人間関係を理解する   |       |           |
| 準備学習       | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
| 特になし       |   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, 後期イントロダクション 2, ジェンダー研究・女性学・フェミニズムズ 3, 男性問題 4, 変わる「男性らしさ」 5, 近代家族 1 6, 近代家族 2 7, 教育とジェンダー 8, マスメディアのなかのジェンダー 9, メディア・リテラシー 10, 「こころの社会学」から見るジェンダー 11 言語にみるジェンダー 12, 少子化社会とジェンダー 13, 高齢社会とライフコースの変化 14, 宗教とジェンダー 15,まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0095A01 |
| 科目名   | 歴史入門 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to History A   |       |           |
| 担当者名  | 乳原 孝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 乳原孝著 『エリザベス朝時代の犯罪者たち』 嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験 (期末レポート) 用に用います。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   |   |       |           |
| 教材 (その他)  |   |       |           |
| 評価方法  | 中間レポート (20%)、レポート試験 (期末レポート) (40%)、平常点 (40%) で評価します。平常点は、授業内レポート (複数回) で評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。  |       |           |
| 準備学習  | 授業で取り上げるテーマについて、何故そのようなことが行われていたのか、その意味を個人的に考える。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  | 1. 講義の概要と評価方法等の確認  2. 魔女裁判、概要  3. 魔女裁判、異端審問の成立  4. 魔女裁判、裁判の方法  5. 魔女裁判、魔女の自供  6. 魔女裁判、宗教改革との関連  7. 魔女裁判、科学者と魔女  8. 魔女裁判、学説 (1)  9. 魔女裁判、学説 (2)  10. ハーメルンの笛吹き男伝説 (1)  11. ハーメルンの笛吹き男伝説 (2)  12. ハーメルンの笛吹き男伝説 (3)  13. 吸血鬼伝説 (1)  14. 吸血鬼伝説 (2)  15. 吸血鬼伝説 (3)                     |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JM0095B01 |
| 科目名   | 歴史入門B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Introduction to History B   |       |           |
| 担当者名  | 乳原 孝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 乳原孝著 『エリザベス朝時代の犯罪者たち』 嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 中間レポート（20%）、レポート試験（期末レポート）（40%）、平常点（40%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。   |       |           |
| 到達目標  | 西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。  |       |           |
| 準備学習  | 授業で取り上げるテーマについて、何故そのようなことが行われていたのか、その意味を個人的に考える。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  | 1. 講義の概要と評価方法等の確認  2. 西洋中世・近代の犯罪と刑罰（1）  3. 西洋中世・近代の犯罪と刑罰（2）  4. 西洋中世・近代の犯罪と刑罰（3）  5. 動物裁判（1）  6. 動物裁判（2）  7. 動物裁判（3）  8. ペストの歴史（1）  9. ペストの歴史（2）  10. ペストの歴史（3）  11. コロンブス（1）  12. コロンブス（2）  13. 奴隷貿易と近代世界システム（1）  14. 奴隷貿易と近代世界システム（2）  15. 奴隷貿易と近代世界システム（3）                     |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABA |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括    * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABB |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 竿田 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excelがある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目：履修者による自己紹介および懇談 3回目：図書館利用ガイダンス 4回目：大学教育の特徴について 5回目：大学での学び 6回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目：「大学での学び」に関する討議 9回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目：添削結果を返却する 11回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目：人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目：各自が発表する 14回目：各自が発表する 15回目：総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABC |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括   * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ABD |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。  実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。  (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。  (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括   * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABE |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括    * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABF |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400 字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excel がある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介  2 回目：履修者による自己紹介および懇談  3 回目：図書館利用ガイダンス  4 回目：大学教育の特徴について  5 回目：大学での学び  6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)  7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)  8 回目：「大学での学び」に関する討議  9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる 10 回目：添削結果を返却する 11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度) 13 回目：各自が発表する 14 回目：各自が発表する 15 回目：総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABG |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excelがある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目:本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目:履修者による自己紹介および懇談 3回目:図書館利用ガイダンス 4回目:大学教育の特徴について 5回目:大学での学び 6回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目:「大学での学び」に関する討議 9回目:新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目:添削結果を返却する 11回目:各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目:人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目:各自が発表する 14回目:各自が発表する 15回目:総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABH |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。  実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。  (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。  (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括   * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABI |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excelがある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目：履修者による自己紹介および懇談 3回目：図書館利用ガイダンス 4回目：大学教育の特徴について 5回目：大学での学び 6回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目：「大学での学び」に関する討議 9回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目：添削結果を返却する 11回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目：人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目：各自が発表する 14回目：各自が発表する 15回目：総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABK |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excel がある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目:本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目:履修者による自己紹介および懇談 3回目:図書館利用ガイダンス 4回目:大学教育の特徴について 5回目:大学での学び 6回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目:「大学での学び」に関する討議 9回目:新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目:添削結果を返却する 11回目:各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目:人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目:各自が発表する 14回目:各自が発表する 15回目:総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABL |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excel がある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目:本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目:履修者による自己紹介および懇談 3回目:図書館利用ガイダンス 4回目:大学教育の特徴について 5回目:大学での学び 6回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目:「大学での学び」に関する討議 9回目:新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目:添削結果を返却する 11回目:各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目:人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目:各自が発表する 14回目:各自が発表する 15回目:総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABM |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括    * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>   |       |           |

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABN |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として1年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1)本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2)本ゼミナールの第2の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。 2. 資料を読んで内容を要約できる。 3. 400字程度のレポートが書ける。 4. 人前で発表できる。 5. 論理的思考力が養われる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. Word,Excelがある程度使えるようにしておく。 2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。  |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1回目:本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介 2回目:履修者による自己紹介および懇談 3回目:図書館利用ガイダンス 4回目:大学教育の特徴について 5回目:大学での学び 6回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 7回目:課題「大学での学び」に関するレポートの作成(200字程度) 8回目:「大学での学び」に関する討議 9回目:新聞記事を読んで、要点をまとめる 10回目:添削結果を返却する 11回目:各自が新聞記事に対する発表を行い討議する 12回目:人に薦めたい本を紹介する(400字程度) 13回目:各自が発表する 14回目:各自が発表する 15回目:総括  * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ABO |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>スタートアップゼミ A は、演習科目として 1 年次春学期に開講される。各学生のゼミ所属は学籍番号順に指定され、新入生全員が履修登録することになっている。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 (1) 本ゼミナールの第 1 の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 (2) 本ゼミナールの第 2 の重要な目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4 つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。  以上のいずれの目的においても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 各ゼミの担当教員から指示される。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 本学の各種システムを理解する。  2. 資料を読んで内容を要約できる。  3. 400 字程度のレポートが書ける。  4. 人前で発表できる。  5. 論理的思考力が養われる。  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word, Excel がある程度使えるようにしておく。  2. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る。   |       |           |
| 受講者への要望    | 履修登録必要科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 回目：本ゼミナールに関するガイダンスと、担当者の自己紹介   2 回目：履修者による自己紹介および懇談   3 回目：図書館利用ガイダンス   4 回目：大学教育の特徴について   5 回目：大学での学び   6 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   7 回目：課題「大学での学び」に関するレポートの作成 (200 字程度)   8 回目：「大学での学び」に関する討議   9 回目：新聞記事を読んで、要点をまとめる   10 回目：添削結果を返却する   11 回目：各自が新聞記事に対する発表を行い討議する   12 回目：人に薦めたい本を紹介する (400 字程度)   13 回目：各自が発表する   14 回目：各自が発表する   15 回目：総括   * 担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください。</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AEA |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。  (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の見出し・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>   (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。   (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AEB |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。 (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解しておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書閲覧・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>  (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。  (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AEC |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 齋藤 弘樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。  (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解をしておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書閲覧・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>   (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。   (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AED |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。  (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書閲覧・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>   (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。   (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AEF |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 森田 敬信   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。 (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解しておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書閲覧・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>  (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。  (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001AEG |
| 科目名  | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名   | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | このスタートアップゼミ A の目標は、1 回生のみなさんに大学での修学に必要な基礎的能力を身につけてもらうことです。各クラスとも「共通プログラム」で授業が行われます。具体的には、ライティング、つまり「書くこと」に重点を置きつつ、レポート（発表）の作成の仕方について学びます。ここで身に付けるべき「資料の収集」「資料の理解と整理」「資料の活用」「レポートの作成」といった基礎的能力は、単に大学教育においてのみ不可欠というだけでなく、将来、みなさんが社会人として活躍される場合にも必ず役立つ実践的な力となるはずで、また、作成したレポートは「経済学部レポート・コンテスト」の審査の対象となります。ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組み、結果として文章作成能力を高めてくれることを期待しています。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 共通テキスト「アカデミック・ライティング」を配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、案内・指定します。  |       |           |
| 評価方法   | ①平常点 30%  ②中間実技試験 10%  ③期末実技試験 60%  |       |           |
| 到達目標   | 資料検索、ノート作成、レポート作成などのアカデミック・ライティングに必要な基本スキルを身につける。   |       |           |
| 準備学習   | (1) レポート作成のための資料収集を日頃から行う。  (2) 資料に目を通し、分からない項目については調べ、正確な理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 大学での修学においてゼミはその中心的な位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートになります。必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：大学生活の心得1  第2回：大学生活の心得2   大学生活4年間を楽しく、かつ有意義に過ごすためにどのような点に気をつければよいのか、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。  第3回：図書館ガイダンス1  第4回：図書館ガイダンス2   大学での学習効果を高めるための最善の方法は、図書館を有効に利用することです。図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書閲覧・貸出しの方法について学びます。  第5回：アカデミック・ライティング実習1  第6回：アカデミック・ライティング実習2  第7回：アカデミック・ライティング実習3  第8回：アカデミック・ライティング実習4  第9回：アカデミック・ライティング実習5   みなさんは、これからの大学教育のさまざまな機会に文章を書くことを求められます。ゼミ報告に不可欠な「レジュメ」と呼ばれる報告資料や、多くの講義授業で課せられるレポート、学期末の論述式の答案、さらには4年間の学習の集大成というべき卒業論文が、その代表的なものです。このライティング実習の目的は、こうした大学教育に欠かせないさまざまな文書作成のノウハウを学びます。  第10回：レポート作成実習1  第11回：レポート作成実習2  第12回：レポート作成実習3  第13回：レポート作成実習4  第14回：レポート作成実習5   後半の5回では設定されたテーマに関するレポートの作成を実践し、レポート・コンテストへの提出が求められます。  第15回：まとめ   <その他>   (1) 学内ディベート大会の見学   例年7月第1週に実施される経済学部ゼミナール連合協議会主催の「学内討論大会」を見学し、2年次春学期のプログラムであるディベートの雰囲気に触れます。   (2) 履修相談   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスします。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHA |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHC |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~ | 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~ | 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHD |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHE |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHF |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHG |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~ | 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~ | 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHH |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 佐々木 高弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHI |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~ | 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~ | 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHJ |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHK |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 手塚 恵子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHL |
| 科目名        | スタートアップゼミ A 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHM |
| 科目名        | スタートアップゼミ A 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~ | 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~ | 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHN |
| 科目名        | スタートアップゼミ A 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHS |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001AHT |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房  松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書 近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |

#### 受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. オリエンテーション (1) ~知り合う~| 2. 同 (2) ~大学で学ぶとは~| 3. 同 (3) ~履修要項とスタディ・スキルズ~ (テキスト第1章) | 4. ノートをとる (テキスト第2章) | 5. テキストや資料を読む (1) ~基本編~ (テキスト第3章) | 6. 同 (2) ~より深く~ (テキスト第4章) | 7. 図書館で情報を集める (テキスト第5章) | 8. インターネットで情報を集める (テキスト第6章) | 9. 情報の整理 (テキスト第7章) | 10. レポートの書き方 (1) ~基本編~ (テキスト第8章) | 11. 同 (2) ~より効果的に~ (テキスト第9章) | 12. 同 (3) ~パソコンの有効利用~ (テキスト第10章) | 13. プレゼンテーションの方法 (1) ~基本編~ (テキスト第11章) | 14. 同 (2) ~よりよい工夫~ (テキスト第12章) | 15. 春学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJA |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2～4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5～7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8～10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11～13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJB |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 村田 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2~4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5~7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8~10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11~13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJC |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2～4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5～7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8～10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11～13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJD |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2～4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5～7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8～10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11～13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJE |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2～4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5～7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8～10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11～13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJG |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2~4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5~7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8~10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11~13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001AJH |
| 科目名  | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名   | 佐別当 義博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では対応できない場合が多い。そこで、スタートアップゼミ A では、大学で学ぶ際に必要とされる以下の基礎的な能力と技術の習得を目指し、ゼミ形式で学習していただくものとする。なお、本ゼミで身につけていただきたい能力と技術は、以下の通りである。Ⅱ ・平易な文章を読み、内容を理解し、それを表現する能力・技術Ⅰ ・説得ある文章を書く能力・技術Ⅰ ・講義でノートを取り、その内容を文章化する能力・技術Ⅰ ・一定の調査の結果を口頭で報告する能力・技術Ⅰ ・報告や文書に対して意見を述べる能力・技術Ⅰ ・レジュメを作成する能力・技術Ⅰ ・レポートを作成する能力・技術Ⅱ以上につき、各担当教員が工夫を凝らした教材を用いてゼミを進めることになる。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 担当教員によって重視される項目は異なるが、基本的には、出席状況、授業態度、提出物によって評価する。出席不良の場合には単位が認定されないこともある。  |       |           |
| 到達目標   | 1) 解説文等を読解して、要約・縮約することができる。 2) 意見文等を読解して、意見文を作成することができる。 3) 複数の資料を読解して、レポートを作成することができる。 4) 資料を参考にして、レジュメを作成することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から文章の読み書きに親しんでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 『法学の扉』第1章の内容を中心に、担当教員それぞれが工夫をこらしたプログラムを展開するが、以下のポイントについては共通である。なお、図書館ガイダンス等の共通プログラムの日程により、多少、変更の可能性はある。 1、イントロダクション 2～4、解説文等を読解して、要約・縮約する。 5～7、意見文等を読解して、意見文を作成する。 8～10、複数の資料を読解して、一つのレポートを作成する。 11～13、資料を参考にレジュメを作成する。 14、まとめ なお、全15回中1回は、図書館ガイダンスにあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASA |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル  2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習  3) 読書目標: 学習を支える国語力  4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記  5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記  6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記  7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館  8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション  9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介  10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く  11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く  12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く  13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために  14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察  15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASB |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASC |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 清水 伸泰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASD |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASE |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 松原 守  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。 </p>  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | <p>大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。 </p>   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル  2) 大学でのノートのとり方 : 講義を再現・予習と復習  3) 読書目標 : 学習を支える国語力  4) 国語力のトレーニング 1 : 敬語・文法・語彙・表記  5) 国語力のトレーニング 2 : 敬語・文法・語彙・表記  6) 国語力のトレーニング 3 : 敬語・文法・語彙・表記  7) 大学生の調べ方 1 : インターネットと図書館  8) 大学生の調べ方 2 : 図書館オリエンテーション  9) キャリアを考える : キャリアサポートセンターの紹介  10) 国語力のトレーニング 4 : 伝わる日本語を書く  11) 国語力のトレーニング 5 : 伝わる日本語を書く  12) 国語力のトレーニング 6 : 伝わる日本語を書く  13) レポートの書き方 : レポートの種類・「盗用」にならないために  14) 国語力のトレーニング 7 : 小規模な調査と考察  15) 国語力のトレーニング 8 : 小規模な調査と考察 </p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASF |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル  2) 大学でのノートのとり方 : 講義を再現・予習と復習  3) 読書目標 : 学習を支える国語力  4) 国語力のトレーニング 1 : 敬語・文法・語彙・表記  5) 国語力のトレーニング 2 : 敬語・文法・語彙・表記  6) 国語力のトレーニング 3 : 敬語・文法・語彙・表記  7) 大学生の調べ方 1 : インターネットと図書館  8) 大学生の調べ方 2 : 図書館オリエンテーション  9) キャリアを考える : キャリアサポートセンターの紹介  10) 国語力のトレーニング 4 : 伝わる日本語を書く  11) 国語力のトレーニング 5 : 伝わる日本語を書く  12) 国語力のトレーニング 6 : 伝わる日本語を書く  13) レポートの書き方 : レポートの種類・「盗用」にならないために  14) 国語力のトレーニング 7 : 小規模な調査と考察  15) 国語力のトレーニング 8 : 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASG |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 萩下 大郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASH |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASI |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。 </p>  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | <p>大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。 </p>   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル  2) 大学でのノートのとり方 : 講義を再現・予習と復習  3) 読書目標 : 学習を支える国語力  4) 国語力のトレーニング 1 : 敬語・文法・語彙・表記  5) 国語力のトレーニング 2 : 敬語・文法・語彙・表記  6) 国語力のトレーニング 3 : 敬語・文法・語彙・表記  7) 大学生の調べ方 1 : インターネットと図書館  8) 大学生の調べ方 2 : 図書館オリエンテーション  9) キャリアを考える : キャリアサポートセンターの紹介  10) 国語力のトレーニング 4 : 伝わる日本語を書く  11) 国語力のトレーニング 5 : 伝わる日本語を書く  12) 国語力のトレーニング 6 : 伝わる日本語を書く  13) レポートの書き方 : レポートの種類・「盗用」にならないために  14) 国語力のトレーニング 7 : 小規模な調査と考察  15) 国語力のトレーニング 8 : 小規模な調査と考察 </p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASJ |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASK |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 高瀬 尚文   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | 大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習 3) 読書目標: 学習を支える国語力 4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記 5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記 6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記 7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館 8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション 9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介 10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く 11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く 12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く 13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために 14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察 15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASL |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 日本語検定 公式練習問題集 3級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | <p>大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。 </p>  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 60% 定期試験 40%   |       |           |
| 到達目標       | <p>大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。 </p>   |       |           |
| 準備学習       | 1年間に相当量の本を読むことを義務づけるので、読んでみたいと思う本を探しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1) 大学・大学生とは何か? : バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル  2) 大学でのノートのとり方: 講義を再現・予習と復習  3) 読書目標: 学習を支える国語力  4) 国語力のトレーニング1: 敬語・文法・語彙・表記  5) 国語力のトレーニング2: 敬語・文法・語彙・表記  6) 国語力のトレーニング3: 敬語・文法・語彙・表記  7) 大学生の調べ方1: インターネットと図書館  8) 大学生の調べ方2: 図書館オリエンテーション  9) キャリアを考える: キャリアサポートセンターの紹介  10) 国語力のトレーニング4: 伝わる日本語を書く  11) 国語力のトレーニング5: 伝わる日本語を書く  12) 国語力のトレーニング6: 伝わる日本語を書く  13) レポートの書き方: レポートの種類・「盗用」にならないために  14) 国語力のトレーニング7: 小規模な調査と考察  15) 国語力のトレーニング8: 小規模な調査と考察 </p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にしてください。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASM |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 辻村 茂男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表                               |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASN |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASO |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASP |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表                               |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASQ |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 玲治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASR |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASS |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASU |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表                               |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASV |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001ASW |
| 科目名        | スタートアップゼミ A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A   |       |           |
| 担当者名       | 藤井 康代  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。  |       |           |
| 準備学習       | <p>日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001ASY |
| 科目名        | スタートアップゼミ A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar A  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界 60 カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加する必要があります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 イントロダクション 大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想 ブレインストーミング 8 いろいろ発想 KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表                               |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBA |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

|  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 受講者への要望  |  |  |  |  |  |  |
| 本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。 1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること   |  |  |  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント   |  |  |  |  |  |  |
| 1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介 2回目：履修者による自己紹介および質疑応答 3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答 4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答 5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度) 6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する 7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度) 12回目：履修者による報告 13回目：添削結果の返却 14回目：学科選択について、質疑応答 15回目：総括   * ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください |  |  |  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBB |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 上川 芳実   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

|  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 受講者への要望  |  |  |  |  |  |  |
| 本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。 1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること   |  |  |  |  |  |  |
| 講義の順序とポイント   |  |  |  |  |  |  |
| 1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介 2回目：履修者による自己紹介および質疑応答 3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答 4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答 5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度) 6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する 7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする 11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度) 12回目：履修者による報告 13回目：添削結果の返却 14回目：学科選択について、質疑応答 15回目：総括   * ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください |  |  |  |  |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBC |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 長谷川 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBE |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBF |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 吉中 康子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBG |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBH |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBI |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBJ |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBK |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBL |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BBM |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 櫻井 俊則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ B は、演習科目として1年次秋学期に開講される。新入生全員履修登録することになる。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 2回生からの所属学科を選ぶ必要があるため、ここで各学科の講義内容を理解すると共に、自分の学びたい方向や将来の進路をイメージする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 担当教員から指示される   |       |           |
| 教材 (その他)   | 担当教員から指示される   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%) 出席状況等による。授業中に課すレポート等の提出物により評価 (50%) する  |       |           |
| 到達目標       | 1. 経営学部教育システムを理解する 2. 本を読んで内容を要約できる 3. 800字程度のレポートが書ける 4. 人前で発表できる  |       |           |
| 準備学習       | 1. Word・Excel を使えるようにしておく 2. 図書館に行く習慣を身につける 3. 新聞に目を通す。テレビのニュースを見る  |       |           |

#### 受講者への要望

本ゼミナールは履修登録必要科目であり、リテラシー能力の補強をしつつ、学部教育の概要を確認することを主目的としているので、2年次からの学科所属を前に、両学科の内容を十分に認識していただきたい。|1回生の秋学期終了時に、キャリアゼミのクラス募集を行うので、希望ゼミに所属できるよう教員とのコミュニケーションを積極的にとるよう努力すること

#### 講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンスと担当者の自己紹介|2回目：履修者による自己紹介および質疑応答|3回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|4回目：経営学科・事業構想学科の展開科目に関する説明と質疑応答|5回目：「大学生活を振り返って」のレポート作成 (400字程度)|6回目：添削後返却し、レポートの書き方について指導する|7回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|8回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|9回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|10回目：ゼミ担当教員が指定した本を輪読し、内容について討議・解説をする|11回目：輪読した本の要点をまとめる (800字程度)|12回目：履修者による報告|13回目：添削結果の返却|14回目：学科選択について、質疑応答|15回目：総括|| \* ゼミ担当教員によって進度や内容の変更がありますので、教員の指示に従ってください

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BEA |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 川田 耕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ B の主な目標は次の 2 つに要約されます。  (1) スタートアップゼミ A で学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。  (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ A と同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A のテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%   中間実技試験 10%   期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。  (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。  (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。  (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール    第 2 回 - 第 5 回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ 2 では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。   第 6 回 - 第 10 回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ A で学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。   第 11 回 - 第 14 回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。   第 15 回：プレゼン・コンテスト    &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BEB |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ B の主な目標は次の 2 つに要約されます。  (1) スタートアップゼミ A で学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。  (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ A と同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A のテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%   中間実技試験 10%   期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。  (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。  (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。  (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール    第 2 回 - 第 5 回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ 2 では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。   第 6 回 - 第 10 回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ A で学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。   第 11 回 - 第 14 回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。   第 15 回：プレゼン・コンテスト    &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BEC |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 齋藤 弘樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ B の主な目標は次の 2 つに要約されます。  (1) スタートアップゼミ A で学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。  (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ A と同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A のテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%   中間実技試験 10%   期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。  (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。  (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。  (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール    第 2 回 - 第 5 回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ 2 では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。   第 6 回 - 第 10 回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ A で学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。   第 11 回 - 第 14 回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。   第 15 回：プレゼン・コンテスト    &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BED |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ Bの主な目標は次の2つに要約されます。 (1) スタートアップゼミ Aで学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。 (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ Aと同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ Aのテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30% 中間実技試験 10% 期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。 (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。 (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。 (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール   第2回-第5回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ2では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。  第6回-第10回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ Aで学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。  第11回-第14回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。  第15回：プレゼン・コンテスト   &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BEF |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 森田 敬信   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ B の主な目標は次の 2 つに要約されます。  (1) スタートアップゼミ A で学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。  (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ A と同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A のテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%   中間実技試験 10%   期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。  (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。  (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。  (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール    第 2 回 - 第 5 回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ 2 では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。   第 6 回 - 第 10 回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ A で学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。   第 11 回 - 第 14 回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。   第 15 回：プレゼン・コンテスト    &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BEG |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>このスタートアップゼミ B の主な目標は次の 2 つに要約されます。  (1) スタートアップゼミ A で学んだライティングの技術をさらに発展させ、自分で設定したテーマについて研究しその内容を適切にまとめる能力を身に付ける。  (2) 研究内容を他者に対して明確に説得力をもって説明するプレゼンテーション能力を身につける。  これらの目標を達成するための最初のステップとしては、まず多くの文献を読みこなすことが求められます。具体的には、ゼミで配布された資料、あるいは自分で収集した資料を複数読み、内容を的確に把握して、ポイントを解りやすく整理するトレーニングを行います。  次に、その報告内容を他者に分かりやすく明快に、そして説得力をもって説明するためのプレゼンテーションの技術を学びます。また、各自が作成した報告資料は、経済学部プレゼンテーション・コンテストの対象として審査されます。プレゼンの能力は、専門課程の研究に役立つだけでなく、社会人としても必要となる力です。スタートアップゼミ A と同様、ゼミ生の全員がこのプログラムに真剣に取り組むことで、各自がそのプレゼンテーション能力を高めることができるよう期待します。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A のテキスト「アカデミック・ライティング」を引き続き使用する。また、各ゼミで資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、案内する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 30%   中間実技試験 10%   期末実技試験 60%   |       |           |
| 到達目標       | 文献講読を通じて専門課程での学習・研究に必要なレベルの情報の収集と整理の技術を養う。また、自分の研究内容を他者に対して明確に分かり易く説明するプレゼンテーションの技術を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習       | (1) 図書館等での文献検索の方法を確認しておくこと。  (2) プレゼン用ソフト「パワーポイント」の基本的な利用方法に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | (1) 必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。  (2) ゼミでのプレゼンテーションを必ず行うこと。  (3) プレゼン・コンテストに参加すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回：ゼミの概要と目的、実施スケジュール    第 2 回 - 第 5 回：文献講読   大学での学習には、多くの文献を読みこなす力が不可欠です。単に文章が読めるだけでなく、そこに書かれているポイントを理解し、必要に応じてそれを適確にまとめ説明することも求められます。そこで、ゼミ 2 では、テキストやさまざまな配布資料、あるいはみなさんが独自に選んだ文献などを用いて、徹底的に「読む」力を養うことを目的とします。   第 6 回 - 第 10 回：アカデミック・ライティング実習   スタートアップゼミ A で学んだアカデミック・ライティングを発展させ、文献講読と合わせて、調査した事実に基づき形式の整った報告資料を作成する方法を学びます。これは今後のゼミ報告や社会人生活でも必要とされる能力です。   第 11 回 - 第 14 回：プレゼンテーション実習   作成した報告資料の内容を他者に対して、限られた時間で、分かりやすく明快に説明するために必要な様々な技術を学びます。その上で、ゼミの中で実際に報告を行い、プレゼンの実践的なトレーニングを行います。   第 15 回：プレゼン・コンテスト    &lt;その他&gt;   各自の関心のある分野やテーマに合わせ、今後の学習計画や資格取得方法などについて、ゼミの担当教員が適切にアドバイスをします。</p> |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHA |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BHC |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 伊原 千晶  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |

#### 受講者への要望

受講者への要望|ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. 協働力を自分たちで育て合う (1) | 2. 同 (2) | 3. 同 (3) | 4. 適応力を高める (1) | 5. 同 (2) | 6. コミュニケーション力をつける (1) | 7. 同 (2) | 8. 同 (3) | 9. 行動力を発揮する (1) | 10. 同 (2) | 11. 課題発見力を自分の中に見つける (1) | 12. 同 (2) | 13. 論理的思考力を積み上げる (1) | 14. 同 (2) | 15. 秋学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある)

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHD |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 行廣 隆次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 ころし出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BHE |
| 科目名        | スタートアップゼミ B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |

#### 受講者への要望

受講者への要望|ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. 協働力を自分たちで育て合う (1) | 2. 同 (2) | 3. 同 (3) | 4. 適応力を高める (1) | 5. 同 (2) | 6. コミュニケーション力をつける (1) | 7. 同 (2) | 8. 同 (3) | 9. 行動力を発揮する (1) | 10. 同 (2) | 11. 課題発見力を自分の中に見つける (1) | 12. 同 (2) | 13. 論理的思考力を積み上げる (1) | 14. 同 (2) | 15. 秋学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある)

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BHF |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |

#### 受講者への要望

受講者への要望|ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. 協働力を自分たちで育て合う (1) | 2. 同 (2) | 3. 同 (3) | 4. 適応力を高める (1) | 5. 同 (2) | 6. コミュニケーション力をつける (1) | 7. 同 (2) | 8. 同 (3) | 9. 行動力を発揮する (1) | 10. 同 (2) | 11. 課題発見力を自分の中に見つける (1) | 12. 同 (2) | 13. 論理的思考力を積み上げる (1) | 14. 同 (2) | 15. 秋学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある)

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHG |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHI |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 佐々木 高弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BHJ |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |

#### 受講者への要望

受講者への要望|ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. 協働力を自分たちで育て合う (1) | 2. 同 (2) | 3. 同 (3) | 4. 適応力を高める (1) | 5. 同 (2) | 6. コミュニケーション力をつける (1) | 7. 同 (2) | 8. 同 (3) | 9. 行動力を発揮する (1) | 10. 同 (2) | 11. 課題発見力を自分の中に見つける (1) | 12. 同 (2) | 13. 論理的思考力を積み上げる (1) | 14. 同 (2) | 15. 秋学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある)

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BHK |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標       | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習       | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |

#### 受講者への要望

受講者への要望|ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。 |

#### 講義の順序とポイント

1. 協働力を自分たちで育て合う (1) | 2. 同 (2) | 3. 同 (3) | 4. 適応力を高める (1) | 5. 同 (2) | 6. コミュニケーション力をつける (1) | 7. 同 (2) | 8. 同 (3) | 9. 行動力を発揮する (1) | 10. 同 (2) | 11. 課題発見力を自分の中に見つける (1) | 12. 同 (2) | 13. 論理的思考力を積み上げる (1) | 14. 同 (2) | 15. 秋学期のまとめ | (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある)

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHL |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHM |
| 科目名   | スタートアップゼミ B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHN |
| 科目名   | スタートアップゼミ B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHO |
| 科目名   | スタートアップゼミ B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHP |
| 科目名   | スタートアップゼミ B 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC001BHR |
| 科目名   | スタートアップゼミ B 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | Stephen Richmond  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話の聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くらしお出版   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部  |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。   |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。  |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHS |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 橋本 尚子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみたい。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BHT |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 山本 幹夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スタートアップゼミ A に引き続き、自分を磨いてほしい。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」だ。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」だが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいう。だから教員の話聴くことが主になる「講義」とは異なる。コンピューターを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の1年間をサポートしていこうというのがこのゼミだ。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしている。さて、このゼミでは1人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学4年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしている。基礎力としては、①協働力 ②適応力 ③コミュニケーション力 ④行動力 ⑤課題発見力 ⑥論理的思考力などがあげられる。1人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待したい。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 学習技術研究会編著「改訂版 知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-」 2006 くろしお出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 藤田哲也他「改増版 大学基礎講座」 2006 北大路書房   松野弘「大学生のための知的勉強術」2010 講談社現代新書   近田政博「学びのチップス」2009 玉川大学出版部   |       |           |
| 教材 (その他)  | 必要に応じてプリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点 (50%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点 (50%)。  |       |           |
| 到達目標  | 下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。   |       |           |
| 準備学習  | 前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 受講者への要望 ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 協働力を自分たちで育て合う (1)   2. 同 (2)   3. 同 (3)   4. 適応力を高める (1)   5. 同 (2)   6. コミュニケーション力をつける (1)   7. 同 (2)   8. 同 (3)   9. 行動力を発揮する (1)   10. 同 (2)   11. 課題発見力を自分の中に見つける (1)   12. 同 (2)   13. 論理的思考力を積み上げる (1)   14. 同 (2)   15. 秋学期のまとめ   (以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC001BJA |
| 科目名   | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | 村田 淑子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法律学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。  |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。 2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。  |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。 1、ガイダンス 2、法律文の読み方 3、法律ができるまで 4、日本の裁判システム 5、裁判員の参加する刑事裁判 6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー 8・9、あなたは大人? -子供の自己決定権について考えてみよう 10、エレベーターの取り替え費用 11・12、交通事故 13・14、会社は誰のもの? なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BJB |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。   |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。   2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。   3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。   |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。  1、ガイダンス   2、法律文の読み方   3、法律ができるまで   4、日本の裁判システム   5、裁判員の参加する刑事裁判   6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー   8・9、あなたは大人? - 子供の自己決定権について考えてみよう   10、エレベーターの取り替え費用   11・12、交通事故   13・14、会社は誰のもの?   なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC001BJC |
| 科目名   | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法律学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。  |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。 2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。  |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。 1、ガイダンス 2、法律文の読み方 3、法律ができるまで 4、日本の裁判システム 5、裁判員の参加する刑事裁判 6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー 8・9、あなたは大人? -子供の自己決定権について考えてみよう 10、エレベーターの取り替え費用 11・12、交通事故 13・14、会社は誰のもの? なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BJD |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 渡邊 博己  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。   |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。  2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。  3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。   |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。  1、ガイダンス   2、法律文の読み方   3、法律ができるまで   4、日本の裁判システム   5、裁判員の参加する刑事裁判   6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー   8・9、あなたは大人? - 子供の自己決定権について考えてみよう   10、エレベーターの取り替え費用   11・12、交通事故   13・14、会社は誰のもの?   なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BJE |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。   |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。 2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。   |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。 1、ガイダンス 2、法律文の読み方 3、法律ができるまで 4、日本の裁判システム 5、裁判員の参加する刑事裁判 6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー 8・9、あなたは大人? -子供の自己決定権について考えてみよう 10、エレベーターの取り替え費用 11・12、交通事故 13・14、会社は誰のもの? なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC001BJF |
| 科目名   | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名  | 右近 潤一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法律学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。  |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。 2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。  |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。 1、ガイダンス 2、法律文の読み方 3、法律ができるまで 4、日本の裁判システム 5、裁判員の参加する刑事裁判 6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー 8・9、あなたは大人? -子供の自己決定権について考えてみよう 10、エレベーターの取り替え費用 11・12、交通事故 13・14、会社は誰のもの? なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC001BJH |
| 科目名   | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名  | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 大学の勉強は、高校までの勉強のやり方では通用しない場合が多い。法学という新しい学問を学ぶ場合には、特にそうだとする。そこで、スタートアップゼミ Bでは、スタートアップゼミ Aの成果を発展させつつ、さらに法学を学ぶための基礎学力の錬成と、法学の学習に見合った基本的な技術の習得とを目指すこととする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 京都学園大学法学会編『法学の扉 (第3版)』(成文堂、2007年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 各担当教員が、授業の進展に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 講義資料としてプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提として、授業態度、提出物によって評価する。出席状況が不良の場合には、単位が認定されないこともあり得る。   |       |           |
| 到達目標  | 1) 法的思考に慣れる。 2) 事案・判決文など論理性の高い文章を読みとる。 3) スタートアップゼミ Aで培った能力・技術をさらに発展させる。   |       |           |
| 準備学習  | 各担当教員が、各回の最後に次回のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ゼミで課せられる作業や宿題に、まじめに、こつこつ取り組むこと。 本ゼミの単位を取得していなければ卒業できないので、休まずに心して取り組むこと。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 『法学の扉』の第3章で取り上げられているテーマを中心に展開する。その展開の中で行われる各作業を通して、第2章の教育目的も実現していく。 1、ガイダンス 2、法律文の読み方 3、法律ができるまで 4、日本の裁判システム 5、裁判員の参加する刑事裁判 6・7、マクドナルドのあぶないコーヒー 8・9、あなたは大人? -子供の自己決定権について考えてみよう 10、エレベーターの取り替え費用 11・12、交通事故 13・14、会社は誰のもの? なお、全15回中1回は、コース制説明会にあてる。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSA |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSB |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSC |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 清水 伸泰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSD |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 中村 正彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSE |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林  担当教員の指導に従って購入する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSF |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 清水 昌   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSG |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 萩下 大郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSH |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSI |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 深見 治一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSJ |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSK |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | 高瀬 尚文  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジюме/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC001BSL |
| 科目名        | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名       | Rafael Prieto  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 級 川本信幹 監修 (2009) 東京書籍  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修 (2006) 旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編 橋本修 他 (2008) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編 福嶋健伸 他 (2009) 三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編 安部朋世 他 (2010) 三省堂 「スキルアップ! 日本語力 大学生のための日本語練習帳」名古屋大学日本語研究会 GK7 (2009) 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編 速水 博司 (2003) 蒼丘書林 担当教員の指導に従って購入する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントなどを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など) 70% 「日本語検定」3 級以上の認定 30%   |       |           |
| 到達目標       | 国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。  |       |           |
| 準備学習       | スタートアップゼミ A に積極的に取り組み、夏期休暇の課題に取り組む。  |       |           |
| 受講者への要望    | 内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 夏期休暇の課題レポート発表 2) 小論文の書き方: 主張のあるレポート 3) 小論文の書き方: 組み立てプランと情報収集 4) 文章を読解する: アカデミック・リーディング 5) 文章を要約する: パラグラフの分析 6) データを読み取る: リサーチ・リテラシー入門 7) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 8) プレゼンテーションの準備: レジューメ/アウトライン 9) 視覚資料のつくりかた: 効果的なスライド 10) ディベートの技法: 議論の深め方 11) ディベートの技法: 議論の深め方 12) 口頭表現の基礎: 印象のよい話し方 13) 小論文についての発表とディスカッション 14) 小論文についての発表とディスカッション 15) 小論文についての発表とディスカッション |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSM |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 辻村 茂男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSN |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 森本 幸裕   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSO |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 大西 信弘   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSP |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSQ |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 鈴木 玲治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSR |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 中川 重年   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001BSS |
| 科目名  | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名   | 原 雄一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法   | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標   | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BST |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 石本 弘治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001BSU |
| 科目名  | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法   | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標   | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC001BSV |
| 科目名        | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法       | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標       | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表</p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC001BSW |
| 科目名  | スタートアップゼミ B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar B   |       |           |
| 担当者名   | 藤井 康代  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する  |       |           |
| 評価方法   | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します   |       |           |
| 到達目標   | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。  |       |           |
| 準備学習   | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMC001BSY |
| 科目名  | スタートアップゼミ B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Start-up Seminar B  |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないのでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミ B では、課題解決の方法を通じて、論理的思考やグループでの討論、それらを効果的発表することに主眼をおきます。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 新聞を活用する   |       |           |
| 評価方法   | 与えられた課題について、各ゼミと合同ゼミでの発表を総合して評価します  |       |           |
| 到達目標   | 課題解決を通じて、自分が学んだことをいろいろな場面に応用する力を身につけること。グループ課題や発表を通じて、建設的な議論をする力を身につけること。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE (Newspaper in Education : 教育に新聞を) は、世界60カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 イントロダクション 学んだことを活用する 2 課題解決の基本 3 課題解決のための情報収集 4 「文章」を批判的に読む 5 課題解決のためのデータ分析 6 仮説の組み立てと検証 7 いろいろ発想 MN 法 8 いろいろ発想 マインドマップ 9 論理的な思考と解決策 10 グループで課題発見 11 グループで課題解決 12 発表して人に伝える 13 相手にわかってもらえる発表方法 14 合同ゼミ発表 15 合同ゼミ発表 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0A |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 平常点50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア </p> |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0B |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 大西 昭生  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 平常点50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0C |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 村田 淑子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 出席50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0D |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 山本 幹夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 出席50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0E |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 高瀬 尚文  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 出席50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0F |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 辻村 茂男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 出席50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0G |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 平常点50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自己を知る① 7 自己を知る② 8 自己を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア </p> |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002A0H |
| 科目名   | 私の人生設計 I A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IA  |       |           |
| 担当者名  | 久下沼 仁筈   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。この「人間力」を育成する上で、大切なのが、自分の人生を設計し、どのように京都学園大学で人間力を育成するかを計画することです。これをより明確にするためには、「自分はどのようなことに興味や関心を持っているのか」「自分の価値観はどのようなものか」を知ることが必要です。また、社会に旅立つ前に「大学で何を、どのように学んでいくのか」が大事なのです。この「私の人生設計 I A」では、「キャリアデザイン」の要素（「自己を知る」「適性を知る」「企業組織を知る」「業界業種を知る」「職業観を作る」「将来展望の計画をイメージできる」）を含めながら、卒業後の進路、つまりは人生における仕事に焦点を当てながら、将来設計を考えていくということを目的としています。こうした内容を、できる限りペアワークやグループワークによって学んでいきます。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。また、毎回200字ワークを行い、添削して返却します。活動を必ず言語化して残しておくこと、これを大切な習慣とします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | カード式教材   |       |           |
| 評価方法  | 出席50% (参加度、200字ワーク提出) レポート50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会や企業などを知る過程で将来への設計を考え、同時にコミュニケーション能力、言語リテラシーの習慣化を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や業界への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。知らない人とのチームワークをうまく組む、苦手な課題にも取り組めるように、視点を変えて考え直す、様々な経験を積んでみる、視野を広げることを心がけてください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 全体導入ガイダンス 2 大学生活とキャリア① 3 大学生活とキャリア② 4 さまざまな進路 5 さまざまな働き方 6 自分を知る① 7 自分を知る② 8 自分を知る③ 9 先輩体験談① 10 企業風土について 11 先輩体験談② 12 タイムマネジメント 13 実社会の仕事・会社 14 授業で身に付く「基礎力」を考える 15 これからのキャリア |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002B0A |
| 科目名   | 私の人生設計 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB  |       |           |
| 担当者名  | 尾崎 タイヨ   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC002B0B |
| 科目名   | 私の人生設計 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB   |       |           |
| 担当者名  | 坂本 信雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心にを行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC002B0C |
| 科目名   | 私の人生設計 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB   |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心にを行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC002B0D |
| 科目名   | 私の人生設計 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB   |       |           |
| 担当者名  | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心にを行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002B0E |
| 科目名   | 私の人生設計 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB  |       |           |
| 担当者名  | 矢野 善久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC002B0F |
| 科目名   | 私の人生設計 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB   |       |           |
| 担当者名  | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心にを行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 出席 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%  |       |           |
| 到達目標  | 社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |   |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMC002B0G |
| 科目名   | 私の人生設計 I B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB   |       |           |
| 担当者名  | 乳原 孝  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心にを行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC002B0H |
| 科目名   | 私の人生設計 I B   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning IB  |       |           |
| 担当者名  | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 I B」では、社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション力、協働力、論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。内容としては、キャリア関連、数的処理、論理思考、読解のトレーニングをテーマに、協同学習を展開します。このような内容は、一見「これは難しいそうだ!」と思うかもしれませんが、楽しく学ぶことができる問題を工夫しています。とくに、一人ではなく、共同で問題解決に当たることで、「教えあう」「質問しあう」などを通して「理解を補完しあう」ことで、協働性やコミュニケーション力を培います。さらに、リーダーシップをとる、個人の役割と責任を明確にした集団問題解決を行うなど、「私の人生設計 I A」でも用いたペアワーク、グループワークを中心として実施します。問題が解けるかどうかは大事ですが、そのこと以上に、解決に至る共同での作業、その進め方、役割分担などを的確に、適正に実施することが大事です。共同できる力は、コミュニケーション力を求められるとともに、そのコミュニケーションを円滑化するための他者理解、仲間の理解を必要とします。社会や企業ばかりか、大学の学習において求められている重要な力です。本授業は、このような近い将来に求められる具体的な能力、態度、知識を学びつつ、実は大学における学習に十分役立つ内容を提供するものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法  | 出席 50% (参加度、60字ワーク提出) レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会で必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、コミュニケーション能力、協働力、数的処理、読解能力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習  | ほぼ毎回、宿題が出ます。「協働」学習を高めるためにも、必ず宿題をやっておきましょう。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 クール0 (グループワーキング) 3 クール1 (キャリア情報) 4 クール2 (読解スキル) 5 クール3 (数的処理・論理思考) 6 クール0 (グループワーキング) 7 クール1 (キャリア情報) 8 クール2 (読解スキル) 9 クール3 (数的処理・論理思考) 10 クール0 (グループワーキング) 11 クール1 (数的処理・論理思考) 12 クール2 (読解スキル) 13 クール3 (数的処理・論理思考) 14 最終グループワーキング 15 まとめ授業 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0A |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 渡辺 恵一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 出席 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECE についての課題 1   4 クール1 第2回 MECE についての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J 法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J 法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0B |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50%、レポート 50%   |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECE についての課題 1   4 クール1 第2回 MECE についての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J 法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J 法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0C |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 出席 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECEについての課題 1   4 クール1 第2回 MECEについての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JMC003A0D |
| 科目名        | 私の人生設計 II A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A   |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「M E C E (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する  |       |           |
| 評価方法       | 出席 50%、レポート 50%   |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。   |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 M E C E についての課題 1   4 クール1 第2回 M E C E についての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J 法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J 法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0E |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 篠田 吉史  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 出席 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECEについての課題 1   4 クール1 第2回 MECEについての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 論理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0F |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 原 雄一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 出席 50%、レポート 50%  |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは? 人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECE についての課題 1   4 クール1 第2回 MECE についての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J 法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J 法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JMC003A0H |
| 科目名        | 私の人生設計 II A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | My Life Planning II A  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「私の人生設計 II A」は京都学園大学が定める社会に必要な基礎的能力である「人間力」を育成するための科目のひとつです。「人間力」とは、・コミュニケーション能力・協働力・適応力・行動力・課題発見力・論理的思考力の6つと定義しています。「私の人生設計 I A / I B」では、・コミュニケーション能力・協働力・適応力といった基礎的能力を中心に育成してきましたが、「私の人生設計 II A / II B」は、「人間力」の中の・課題発見力・論理的思考力を育成していきます。そして、この II A では、論理的思考の手法を中心に学びます。I B で、経験した協同学習のスタイルを継続し、与えられたテーマに沿って手法を学び、実践していきます。この授業の中で学ぶ論理的思考の手法は、「K J 法」「MECE (ミーシー)」「ロジックツリー」「フェルミ推定」といった4つの手法です。こうした内容を、I B で経験した「教えあう」「質問しあう」など協同学習によって学んでいきます。ここで学習する論理的思考力は、I A / I B で学んだ・コミュニケーション能力・協働力・適応力とともに、将来社会人として働く場面で必要なだけでなく、大学の専門領域の学習においても求められている重要な基礎的能力です。具体的な手法を学ぶ良い機会ですので、しっかり参加してください。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 50%、レポート 50%   |       |           |
| 到達目標       | 将来の社会や企業や大学での学習においても役立つ手法を知り、そのために必要な論理的思考力を高めていきます。   |       |           |
| 準備学習       | 日頃から、新聞・雑誌、TVなどで社会や企業などの情報に接して、仕事や時事への興味関心を高めておきましょう。  |       |           |
| 受講者への要望    | ペアワーク、グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 イントロダクション 論理的思考力とは?人間力の測定 (1回目)   2 クール1 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   3 クール1 第1回 MECEについての課題 1   4 クール1 第2回 MECEについての課題 2   5 クール2 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   6 クール2 第1回 ロジックツリーについての課題 1   7 クール2 第2回 ロジックツリーについての課題 2   8 クール3 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   9 クール3 第1回 K J法についての課題 1   10 クール3 第2回 K J法についての課題 2   11 クール4 第0回 テーマに則した例題のグループワーク   12 クール4 第1回 フェルミ推定についての課題 1   13 クール4 第2回 フェルミ推定についての課題 2   14 総括授業 課題を出し、これまで学んだ手法で実践   15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (2回目)  </p>   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC003B0A |
| 科目名  | 私の人生設計ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | My Life Planning ⅡB  |       |           |
| 担当者名   | 渡辺 恵一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「私の人生設計ⅡB」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 出席50%、レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習   | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考える I  4 クール1 第2回 原因を特定する I  5 クール1 第3回 原因を特定する II  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考える I  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考える II  8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考える I  11 クール2 第2回 原因を特定する I  12 クール2 第3回 原因を特定する II  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考える I  14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考える II  15 まとめ授業 総括・人間力の測定(3回目) |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC003B0B |
| 科目名   | 私の人生設計 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning II B  |       |           |
| 担当者名  | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 II B」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1 回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%、レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考える I  4 クール1 第2回 原因を特定する I  5 クール1 第3回 原因を特定する II  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考える I  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考える II  8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考える I  11 クール2 第2回 原因を特定する I  12 クール2 第3回 原因を特定する II  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考える I  14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考える II  15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (3回目) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC003B0C |
| 科目名  | 私の人生設計ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | My Life Planning ⅡB  |       |           |
| 担当者名   | 諸戸 樹一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「私の人生設計ⅡB」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 出席50%、レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習   | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考えるⅠ  4 クール1 第2回 原因を特定するⅠ 5 クール1 第3回 原因を特定するⅡ  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考えるⅠ  11 クール2 第2回 原因を特定するⅠ  12 クール2 第3回 原因を特定するⅡ  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ 14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 15 まとめ授業 総括・人間力の測定(3回目) |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC003B0D |
| 科目名  | 私の人生設計ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | My Life Planning ⅡB  |       |           |
| 担当者名   | 手塚 恵子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「私の人生設計ⅡB」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 出席50%、レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習   | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考えるⅠ  4 クール1 第2回 原因を特定するⅠ 5 クール1 第3回 原因を特定するⅡ  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考えるⅠ  11 クール2 第2回 原因を特定するⅠ  12 クール2 第3回 原因を特定するⅡ  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ 14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 15 まとめ授業 総括・人間力の測定(3回目) |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC003B0E |
| 科目名  | 私の人生設計ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | My Life Planning ⅡB  |       |           |
| 担当者名   | 清水 伸泰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「私の人生設計ⅡB」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 出席50%、レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習   | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考えるⅠ  4 クール1 第2回 原因を特定するⅠ 5 クール1 第3回 原因を特定するⅡ  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考えるⅠ  11 クール2 第2回 原因を特定するⅠ  12 クール2 第3回 原因を特定するⅡ  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ 14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 15 まとめ授業 総括・人間力の測定(3回目) |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JMC003B0F |
| 科目名  | 私の人生設計ⅡB   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | My Life Planning ⅡB  |       |           |
| 担当者名   | 中川 重年  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>「私の人生設計ⅡB」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法   | 出席50%、レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習   | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考えるⅠ  4 クール1 第2回 原因を特定するⅠ 5 クール1 第3回 原因を特定するⅡ  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考えるⅠ  11 クール2 第2回 原因を特定するⅠ  12 クール2 第3回 原因を特定するⅡ  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考えるⅠ 14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考えるⅡ 15 まとめ授業 総括・人間力の測定(3回目) |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JMC003B0H |
| 科目名   | 私の人生設計 II B  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | My Life Planning II B  |       |           |
| 担当者名  | 西 政治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「私の人生設計 II B」では、社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を身につけるトレーニングを中心に行います。これまで育成してきた「人間力」を使って、「ケースメソッド」という方法で授業を行っていきます。1 回生から実施してきた「私の人生設計」の集大成の授業です。 内容としては、実際の社会で起こっていることや時事問題等をテーマに、そのテーマに対して、グループで考え、グループなりの解決方法を考えていきます。授業では、①原因を考える ②原因を特定する ③解決のための打ち手を考える という順序を踏み、事実を確認したり、問題点を探ったりし、それに対する解決策のアイデアや戦略をグループで練っていきます。 そういった授業で、これまで育成してきた人間力をしっかり活用して、最終段階として、課題発見力・論理的思考力をしっかりと身につけるトレーニングを行います。グループのメンバーとしっかり協力し合い、役割を決め、学んだ手法で、自分たちなりの考えで、いま実際の社会で起こっていることに対する解決策を考えることは、高度で難しいですが、非常にやりがいがあります。最終的には、これまで以上に水準の高い「人間力」が身につくことになるでしょう。ここでの学習は、将来社会人として働く場面で発揮されるだけでなく、大学での学習方法や研究活動、卒業論文の作成にも大変役立ちます。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 必要に応じプリント等の資料を配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)  | 特になし ※授業中に適宜指示する   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%、レポート 50%   |       |           |
| 到達目標  | 社会に必要な基礎的な能力である「人間力」のうち、課題発見力・論理的思考力を高めていきます。  |       |           |
| 準備学習  | 宿題が出ます。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークを実施します。積極的なチーム作り、意見交換を行うので授業では積極的に参加してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクション 進め方やゴールの説明 2 クール1 第0回 グループ作り 3 クール1 第1回 原因を考える I  4 クール1 第2回 原因を特定する I  5 クール1 第3回 原因を特定する II  6 クール1 第4回 解決のための打ち手を考える I  7 クール1 第5回 解決のための打ち手を考える II  8 グループワーキング グッド・プラクティスについて 9 クール2 第0回 グループ作り 10 クール2 第1回 原因を考える I  11 クール2 第2回 原因を特定する I  12 クール2 第3回 原因を特定する II  13 クール2 第4回 解決のための打ち手を考える I  14 クール2 第5回 解決のための打ち手を考える II  15 まとめ授業 総括・人間力の測定 (3回目) |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JMQ001701 |
| 科目名  | インターンシップA   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Internship A  |       |           |
| 担当者名   | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。      |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 参加したプログラムの時間数や内容により、終了後本学に提出されたレポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「インターンシップA」として単位認定する。 |       |           |
| 到達目標   | 自らの研究テーマをより確実なものとするを目指す。  |       |           |
| 準備学習   | 準備のために必要な説明会を開催する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 以下の順序で行う   ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。   ・各受講生の受け入れ先を決定。   ・インターンシップの実施   ・報告書の提出   ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JMQ003901 |
| 科目名   | インターンシップB   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Internship B  |       |           |
| 担当者名  | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。    |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | インターンシップに参加した場合、終了後、本学に提出され、レポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「インターンシップB」として、単位認定する。 |       |           |
| 到達目標  | 自らの研究テーマをより確実なものとするを目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 準備のために必要な説明会を開催する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施  ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
|             |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0005A01    |
| 科目名        | 教育原論【教】  | 単位数   | 2            |
| 科目名(英語表記)  | Principles of Education  |       |              |
| 担当者名       | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 | 教育原理A, 教育原理I |
| 講義概要       | <p>中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力と人間的な資質を、4年間の大学教育を通して培う場が教職課程である。  この科目は、「教職教養」を育てるこの課程の、導入・基礎の部分にあたるもので、「教育」の理念、思想および歴史を学ぶことによって、教育という人間の活動の本質と意味を知得することをめざしている。  本講はおおよそ5部構成となっている。  まず第1部で教育とは何か、言語的な意味の基本的事項を明らかにする。  第2部として、人間にとってなぜ教育が必要なのか、そして教育という課題にどうこたえなければならないかを考える。  第3部は、人間形成を支える要素、すなわち素質と環境とがどのように教育と関係するのかということについての考察。  第4部では、教育の機能をミクロ的、マクロ的観点から整理する。後者では実際の人間社会、とりわけ近代以降の社会において教育制度が果たしてきた役割を見る。  第5部では、現代の学校教育の深刻な状況と今後の課題について考える。  なお、この「教育原論」は、受講の便宜のために、同一の講義を週2回開講する。 </p> |       |              |
| 教材(テキスト)   | 教科書として特定の書物を定めることはしない。   |       |              |
| 教材(参考文献)   | とくに指定するものはない。  |       |              |
| 教材(その他)    | プリント資料を中心に、ビデオなども相当数活用する。  |       |              |
| 評価方法       | 出席は当然重視するが、それは期末試験を受けるための条件であり、期末の筆記試験の成績が評価の最大の材料である。   |       |              |
| 到達目標       | 人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。  |       |              |
| 準備学習       | 教育に限らず、人間と社会一般に幅広い関心を普段からもつこと。また、文章を読み、書く習慣は必須である。   |       |              |
| 受講者への要望    | <p>教職への強い意志だけでなく、読み、書き、考える、自分自身の力に自信をもつ者だけに受講を制限したい。基本的に、1、2回生が対象である。</p>  |       |              |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 講義の概要と成績評価の方法  2. 「教育」の語義  3. 教育の可能性と必要性  4. 人間と文化  5. 人間形成の諸要素——素質  6. 人間形成の諸要素——環境  7. 素質と環境にたいする教育(学習経験)の関係  8. 教育のミクロ的な機能——社会化(人間化)  9. 教育のマクロ的な機能——経済的機能  10. 教育のマクロ的な機能——政治的機能  11. 教育のマクロ的な機能——社会的機能  12. 近代国家と教育制度  13. 教育の危機の諸相  14. 今後の教育の基本課題  15. 講義のまとめと試験に向けた学習のポイント</p>   |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |              |
|------------|--|-------|--------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0005A02    |
| 科目名        | 教育原論【教】  | 単位数   | 2            |
| 科目名(英語表記)  | Principles of Education  |       |              |
| 担当者名       | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 | 教育原理A, 教育原理I |
| 講義概要       | <p>中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力と人間的な資質を、4年間の大学教育を通して培う場が教職課程である。  この科目は、「教職教養」を育てるこの課程の、導入・基礎の部分にあたるもので、「教育」の理念、思想および歴史を学ぶことによって、教育という人間の活動の本質と意味を知得することをめざしている。  本講はおおよそ5部構成となっている。  まず第1部で教育とは何か、言語的な意味の基本的事項を明らかにする。  第2部として、人間にとってなぜ教育が必要なのか、そして教育という課題にどうこたえなければならないかを考える。  第3部は、人間形成を支える要素、すなわち素質と環境とがどのように教育と関係するのかということについての考察。  第4部では、教育の機能をミクロ的、マクロ的観点から整理する。後者では実際の人間社会、とりわけ近代以降の社会において教育制度が果たしてきた役割を見る。  第5部では、現代の学校教育の深刻な状況と今後の課題について考える。  なお、この「教育原論」は、受講の便宜のために、同一の講義を週2回開講する。 </p> |       |              |
| 教材(テキスト)   | 教科書として特定の書物を定めることはしない。   |       |              |
| 教材(参考文献)   | とくに指定するものはない。  |       |              |
| 教材(その他)    | プリント資料を中心に、ビデオなども相当数活用する。  |       |              |
| 評価方法       | 出席は当然重視するが、それは期末試験を受けるための条件であり、期末の筆記試験の成績が評価の最大の材料である。   |       |              |
| 到達目標       | 人間という生き物にとって「教育」が必要であることの確信を得ること。  |       |              |
| 準備学習       | 教育に限らず、人間と社会一般に幅広い関心を普段からもつこと。また、文章を読み、書く習慣は必須である。   |       |              |
| 受講者への要望    | <p>教職への強い意志だけでなく、読み、書き、考える、自分自身の力に自信をもつ者だけに受講を制限したい。基本的に、1、2回生が対象である。</p>  |       |              |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 講義の概要と成績評価の方法  2. 「教育」の語義  3. 教育の可能性と必要性  4. 人間と文化  5. 人間形成の諸要素——素質  6. 人間形成の諸要素——環境  7. 素質と環境にたいする教育(学習経験)の関係  8. 教育のミクロ的な機能——社会化(人間化)  9. 教育のマクロ的な機能——経済的機能  10. 教育のマクロ的な機能——政治的機能  11. 教育のマクロ的な機能——社会的機能  12. 近代国家と教育制度  13. 教育の危機の諸相  14. 今後の教育の基本課題  15. 講義のまとめと試験に向けた学習のポイント</p>   |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0007001 |
| 科目名        | 教育相談 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Educational Counseling   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 | 学校カウンセリング |
| 講義概要       | 近年学校の教員にもさまざまなカウンセリング的知識が求められるようになってきている。 教員にとって必要なカウンセリング的視点、相談にのるとはどのようなことか等について学ぶ。 グループでの討論などにより、自分で考え、意見を伝え、かつ他者の意見にもコメントできるように実習も行う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ヒルベルという子がいた 偕成社 ペーターヘルトリング  子どもの見える行動見えない行動 瀝々社<br>菅野純 葬式ごっこ 八年後の証言 豊田 充 風雅書房  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | グループでの話し合いなど、積極的に参加して下さい。グループでの様子や、授業内レポートなどの平常点、試験ともに60点以上で合格とします。  |       |           |
| 到達目標       | 教員にとって必要なカウンセリングの知識を獲得し、現在の教育の様々な問題について、視野を広げ、理解を深めること。  |       |           |
| 準備学習       | 自分自身が経験してきた教育の中での問題、教育相談の事例にあたるものなどを振り返り、考えること。 それらを大きく教育の問題の中に位置付けできるよう、文献を読んでみることに。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的に授業に参加して下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、 カウンセリングとは  2、 人の話を聞くということ、言葉の技法 3、 教員による生徒のコントロールの問題  4、 いじめ①事例 教員が気付かない場合 5、 いじめ② 事例 教員が気付いた場合 6、 発達障害について①定義など  7、 発達障害の事例②軽度のもの  8、 発達障害の事例③自閉症など重度のもの  9、 不登校①不登校の種類  10、 不登校②長引く不登校 11、 ビデオを通して考える  12、 インターネット上でのいじめについて  13、 生徒を理解するために必要な工夫・配慮 14、 生徒や親とのカウンセリング 必要な配慮  15、 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |     |       |        |
|--|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0008001 |     |       |        |
| 科目名  | 教育方法 【教】  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | Methods of Teaching   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 谷口 高士   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>教育現場では、教育効果を上げる情報機器や視聴覚メディア、特にコンピュータとインターネットの活用について強い関心が寄せられている。しかし、教育とは何か、学習とは何かについての理解がなければ、最新技術も形だけのものになってしまう。そこで、本講義では、教育の目的と方法、教授と学習といった基本的概念や、各種の教授法や授業形態の意義や特徴をおさえた上で、新しい視聴覚機器やメディアの教育現場での具体的な活用方法や、より豊かな教授・学習環境を整えるための方向性を考えていくことをねらいとする。</p>      |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | <p>下記の書籍を、必ず事前に購入しておくこと。  井上智義 (編)  『視聴覚メディアと教育方法 Ver.2—認知心理学とコンピュータ科学の応用実践のために』 北大路書房 税込定価¥2,415</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | 授業内で指示する  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   | 授業内で指示する  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 事前課題の提出 (20%)、平常点 (30%) : 出席および授業内での小レポート、最終課題および試験 (50%)   |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | メディアの特性と人間の認知特性を理解し、それらを生かした教育の方法と技術の基本を修得する  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | <p>事前課題 (必須) :  事前に教科書の第3部 (情報の視覚化と複数の感覚を活用する教育、心理学を活かした教育実践のために、教育用ソフトウェアの研究開発) を読み、各章について重要な点をまとめたい。疑問点や現状を鑑みて改善すべき点や指摘しなさい。合計で A4 用紙3枚以上5枚以内にまとめること。報道・出版された最近の教育事情、具体的事例、研究成果などを交えて書くのが望ましい。引用箇所と、自分の意見や考察とは、明確に分けて書くこと (引用文献や URL を明記する)。授業初回時に提出する。</p> |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |           |     |       |        |
| <p>1. 「準備学習」に記載した「事前課題」を作成して、初回授業時に提出すること。  2. HTML を利用した教材作成実習を行う予定なので、パソコン操作、日本語入力、ホームページ作成の基本を習得していることが望ましい。  3. 最近の教育関連の報道・解説記事等に目を通してほしい。</p>   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |     |       |        |
| <p>はじめに、教育目的にそった方法と技術の関係、教授と学習の関係などの概念を提示し、その上で教授の基礎、教授の過程、教授の様式など教育方法の基本的・一般的な考え方について概説する。そしてさらに、教育における新しいメディアの活用を考える講義を行う。ここでは、実際の活用方法の実技なども取り入れていきたい。  1) 教育方法の概念(1) 教育の目的と技術 (教育方法の定義)  2) 教育方法の概念(2) 教授と学習 (教育者・学習者と方法の関係、学習指導の原理)  3) 教授の基礎 学級組織 (一斉教授と個別学習)、教科内容 (教科の概念、教科課程の構造)  4) 教授の過程(1) 導入・提示の段階 (学習動機の喚起)、学習活動の段階 (知識の消化)  5) 教授の過程(2) 総括・実践の段階 (学習結果の整理と系統化、実際の応用)、評価の段階 (学習結果の測定、問題点の発見と解決、新たな学習意欲の喚起)  6) 教授の様式(1) 狭義の教授法 (教師からの知識の伝達 : 講義、展示)  7) 教授の様式(2) 自習法 (生徒自身の知識習得 : 経験、観察、実験)  8) 教授の様式(3) 相互学習法 (教師と生徒・生徒相互の関係から生まれる知識習得 : 問答、討議、発表)  9) 教授メディア(1) 視聴覚メディアの歴史とその特性  10) 教授メディア(2) 人間の情報処理のしくみ (記憶システムと知識、情報の伝達と理解、人の視聴覚情報処理)  11) 教授メディア(3) マルチメディアの教育への利用 (コンピュータを活用した学習支援、疑似体験、シミュレーションの可能性、情報理解の促進、総合的な学習への利用)  12) 教授メディア(4) コンピュータ・リテラシーと教育 (幅広いコンピュータ活用能力をめざす学習)  13) 教授メディア(5) 学校教育と情報ネットワーク (生涯学習や国際活動への利便性、技術に偏しない「心の教育」の重要性)  14) 教材開発(1) ホームページ技術の基礎 (コンピュータ環境に依存しないマルチメディア教材を作るために)  15) 教材開発(2) ホームページ技術を利用した教材の作成 (長所と短所を自ら体験し理解する)</p> |   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JP0009001  |
| 科目名   | 教育課程論 【教】  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | Curriculum(Special Activities Education)   |       |            |
| 担当者名  | 田中 曜次  | 旧科目名称 | 教育課程・特別活動論 |
| 講義概要  | まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。受講生には具体的な授業計画が作成できる知識・技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。 |       |            |
| 教材（テキスト）  | 『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領 解説 総則編』（平成20年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領 解説 総則編』（平成21年に改正）   |       |            |
| 教材（参考文献）  | 林勲編『教育の原理』法律文化社  |       |            |
| 教材（その他）   | 適宜資料を配布する。   |       |            |
| 評価方法  | 平常点・小テスト30%（各授業の最後に提出する） 課題レポート30%（2回以上おこなう 課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験40%  以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。   |       |            |
| 到達目標  | ・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。   |       |            |
| 準備学習  | ・1回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通して、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| ・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 ・各講義で、小テストを実施する。復習を心がけて欲しい。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| 1. 教育課程とは何か   2. カリキュラムの構成原理   3. 経験主義と系統主義   4. 「問題解決的学習」   5. 「仮説実験授業」   6. 教育課程の検討①（目標と評価）   7. 教育課程の検討②（教材）   8. 教育課程の検討③（授業研究1）   9. 教育課程の検討④（授業研究2）   10. 「学力」とは何か   11. 学習指導要領の変遷① カリキュラム改革運動   12. 学習指導要領の変遷② 教育内容の現代化   13. 学習指導要領の変遷③ 「ゆとり」と「生きる力」   14. 新しい学習指導要領のポイント① 学力にかかわる問題   15. 新しい学習指導要領のポイント② 「習得」「活用」「探究」 |  |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0010A01 |
| 科目名        | 教育実習 A 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Teaching Practice A   |       |           |
| 担当者名       | 竹熊 耕一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。  2週間もしくは3週間の実習の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な側面をしっかりと把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。  さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にもふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが—それが安易にできると考えてはならないが—少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。  基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 事前指導において「教育実習の手引き」その他を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | とくになし。  |       |           |
| 教材 (その他)   | とくになし。  |       |           |
| 評価方法       | 実習ノートの内容 (20%)。実習校による評価 (60%)。レポート (20%)。   |       |           |
| 到達目標       | 中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。  |       |           |
| 準備学習       | 教科の深い知識、学習指導・生活指導を真剣に工夫する態度、柔軟で幅のある対人姿勢、そして健康な身体を備えること。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。  2. 教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 実際の実習 (5月後半ないし6月の前半からがほとんど) に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTRなどを活用して実習への構えを整えてもらうが、3年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。  2. 実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らないこと。  3. 実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、レポートの提出も求める。  4. 成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる。そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。  学習指導 = 基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術   生活指導 = 個別・集団指導、生徒理解、教科外指導   実習態度 = 勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0010A02 |
| 科目名        | 教育実習 A 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Teaching Practice A   |       |           |
| 担当者名       | 竹熊 耕一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。  2週間もしくは3週間の実習の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な側面をしっかりと把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。  さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にもふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが—それが安易にできると考えてはならないが—少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。  基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 事前指導において「教育実習の手引き」その他を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | とくになし。  |       |           |
| 教材 (その他)   | とくになし。  |       |           |
| 評価方法       | 実習ノートの内容 (20%)。実習校による評価 (60%)。レポート (20%)。   |       |           |
| 到達目標       | 中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。  |       |           |
| 準備学習       | 教科の深い知識、学習指導・生活指導を真剣に工夫する態度、柔軟で幅のある対人姿勢、そして健康な身体を備えること。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>1. あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。  2. 教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 実際の実習 (5月後半ないし6月の前半からがほとんど) に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTRなどを活用して実習への構えを整えてもらうが、3年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。  2. 実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らないこと。  3. 実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、レポートの提出も求める。  4. 成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる。そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。  学習指導 = 基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術   生活指導 = 個別・集団指導、生徒理解、教科外指導   実習態度 = 勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野</p>   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0010B01 |
| 科目名        | 教育実習 B 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Teaching Practice B   |       |           |
| 担当者名       | 田中 曜次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。  事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 「実習の手引き」その他を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、実習ノート 20%、実習校による評価 60% 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。  学習指導 = 基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術   生活指導 = 個別・集団指導、生徒理解、教科外指導   実習態度 = 勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野   |       |           |
| 到達目標       | ・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。  教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。  事前に実習校との連絡をとり、実習の内容などについて理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 2 週間あるいは 3 週間 (4 週間) におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかりと把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。  学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが (安易にそれができると考えてはならないが) 少しでもできたならば実習の意義はあっというまに高まるだろう。  自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.オリエンテーション 2.教育実習の概要について (DVD の視聴など)  3.学習指導について ①授業参観について 4.学習指導について ②学習指導案の書き方 5.生徒指導について ①中学校における問題事象 6.学級指導について ①学級担任の仕事 7.教育実習の準備 8.教育実習 ① 9.教育実習 ② 10.教育実習 ③ 11.教育実習のまとめ 実習ノートによる整理 12.教育実習報告 ①各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する 13.教育実習報告 ② 各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する 14.討議 各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する 15.まとめ     教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | JP0010B02 |     |       |        |
| 科目名                                     | 教育実習 B 【教】   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Teaching Practice B  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。  事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | 「実習の手引き」その他を配布する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               |  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点 20%、実習ノート 20%、実習校による評価 60% 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。  学習指導 = 基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術   生活指導 = 個別・集団指導、生徒理解、教科外指導   実習態度 = 勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | ・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。  教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。  事前に実習校との連絡をとり、実習の内容などについて理解しておくこと。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 2 週間あるいは 3 週間 (4 週間) におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかりと把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。  学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが (安易にそれができると考えてはならないが) 少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。  自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。 |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1.オリエンテーション 2.教育実習の概要について (DVD の視聴など)  3.学習指導について ①授業参観について 4.学習指導について ②学習指導案の書き方 5.生徒指導について ①中学校における問題事象 6.学級指導について ①学級担任の仕事 7.教育実習の準備 8.教育実習 ① 9.教育実習 ② 10.教育実習 ③ 11.教育実習のまとめ 実習ノートによる整理 12.教育実習報告 ①各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する 13.教育実習報告 ② 各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する 14.討議 各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する 15.まとめ     教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JP0012001 |
| 科目名   | 教育制度論 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | The Education System   |       |           |
| 担当者名  | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | わが国の公教育制度を、学校教育中心に概観する。学校制度の歴史、構造、教育行政の実際、そして現代の学校の機能と役割から 21 世紀の新しい学校像についても考えていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 定まったテキストというものは用いない。必要な資料を適宜配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | とくに指定するものはない。  |       |           |
| 教材（その他）   | メディアからの資料（TV 報道、新聞記事など）を多用する。  |       |           |
| 評価方法  | 学期末の筆記試験の成績が評価の柱。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件。出席不良は減点の対象となる。                             |       |           |
| 到達目標  | 学校教育というものを、より広い社会的な観点から捉える態度を得ること。   |       |           |
| 準備学習  | 普段から学校教育への関心を、メディアの報道などを通して養っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に自信をもつ者のみ受講すること。1、2 回生を対象とする授業である。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 講義の概要と目標  2. 学校の歴史—日本の近世  3. 学校の歴史—日本の近代から現代  4. 学校の歴史—欧米の近代から現代  5. 学校制度と関係法令  6. 学校体系  7. 教育政策  8. 文部科学省と中央教育審議会  9. 教育委員会制度の歴史的経緯  10. 教育委員会制度の現在  11. 学校運営  12. 学校の多様化  13. 学校制度の周縁  14. 脱学校という考え方  15. 講義のまとめと試験のポイント |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JP0012002 |
| 科目名   | 教育制度論 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | The Education System   |       |           |
| 担当者名  | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | わが国の公教育制度を、学校教育中心に概観する。学校制度の歴史、構造、教育行政の実際、そして現代の学校の機能と役割から 21 世紀の新しい学校像についても考えていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 定まったテキストというものは用いない。必要な資料を適宜配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | とくに指定するものはない。  |       |           |
| 教材（その他）   | メディアからの資料（TV 報道、新聞記事など）を多用する。  |       |           |
| 評価方法  | 学期末の筆記試験の成績が評価の柱。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件。出席不良は減点の対象となる。                             |       |           |
| 到達目標  | 学校教育というものを、より広い社会的な観点から捉える態度を得ること。   |       |           |
| 準備学習  | 普段から学校教育への関心を、メディアの報道などを通して養っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に自信をもつ者のみ受講すること。1、2 回生を対象とする授業である。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 講義の概要と目標  2. 学校の歴史—日本の近世  3. 学校の歴史—日本の近代から現代  4. 学校の歴史—欧米の近代から現代  5. 学校制度と関係法令  6. 学校体系  7. 教育政策  8. 文部科学省と中央教育審議会  9. 教育委員会制度の歴史的経緯  10. 教育委員会制度の現在  11. 学校運営  12. 学校の多様化  13. 学校制度の周縁  14. 脱学校という考え方  15. 講義のまとめと試験のポイント |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0013A01 |
| 科目名        | 教育実習事前指導 I 【教】   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) |  |       |           |
| 担当者名       | 田中 曜次  | 旧科目名称 | 教職演習 I    |
| 講義概要       | <p>教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週1回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模範実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならない、希望する科目の1時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案(細案)を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。そのうえで、毎週1回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業(模擬のための模擬)を数回行ない、友人のアドバイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う1ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも1週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導館を完成させるために使う。 50分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点20%、模擬授業の成果80%(学習指導案の内容も含む)。  |       |           |
| 到達目標       | <p>模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはありません。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得(教職課程だけでなく一般教科もふくめて)ができていない者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.オリエンテーション 2.模擬授業参観 ① 前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観 ② 前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業 各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する  5.模擬授業 受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業  7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業 複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.まとめ</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0013A02 |
| 科目名        | 教育実習事前指導 I 【教】   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) |  |       |           |
| 担当者名       | 谷野 二郎  | 旧科目名称 | 教職演習 I    |
| 講義概要       | <p>教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週1回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならない、希望する科目の1時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案(細案)を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。そのうえで、毎週1回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業(模擬のための模擬)を数回行ない、友人のアドバイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う1ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡する。また、少なくとも1週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導館を完成させるために使う。 50分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点20%、模擬授業の成果80%(学習指導案の内容も含む)。  |       |           |
| 到達目標       | <p>模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはある。 不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得(教職課程だけでなく一般教科もふくめて)ができていない者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.オリエンテーション 2.模擬授業参観 ① 前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観 ② 前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業 各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する  5.模擬授業 受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業  7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業 複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.まとめ</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0013B01 |
| 科目名  | 教育実習事前指導Ⅱ【教】  | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)  |   |       |           |
| 担当者名   | 田中 曜次   | 旧科目名称 | 教職演習Ⅱ     |
| 講義概要   | <p>「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週1回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならない、希望する科目の1時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案(細案)を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。そのうえで、毎週1回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業(模擬のための模擬)を数回行ない、友人のアドバイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する  |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点20%、模擬授業の成果80%(学習指導案の内容も含む)  |       |           |
| 到達目標   | <p>模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。</p>  |       |           |
| 準備学習   | <p>模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など3回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。</p> |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業 各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する  5.模擬授業 受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業  7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業 複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.まとめ</p>    |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JP0013B02 |
| 科目名  | 教育実習事前指導Ⅱ【教】   | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)  |  |       |           |
| 担当者名   | 谷野 二郎  | 旧科目名称 | 教職演習Ⅱ     |
| 講義概要   | <p>「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週1回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならない、希望する科目の1時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案(細案)を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。そのうえで、毎週1回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業(模擬のための模擬)を数回行ない、友人のアドバイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点20%、模擬授業の成果80%(学習指導案の内容も含む)   |       |           |
| 到達目標   | <p>模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。</p>   |       |           |
| 準備学習   | <p>模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。</p>  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など3回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。</p> |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業 各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する  5.模擬授業 受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業  7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業 複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.まとめ</p>    |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0014A01 |
| 科目名        | 教職基礎講座A 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basics of Educational Studies A  |       |           |
| 担当者名       | 竹熊 耕一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>教職課程の履修をはじめながら、最終的に免状に到達しない学生の数は、きわめて多い。進路変更や適性のちがいに気づいて課程を離脱する場合もあるが、実は、大半が基礎学力の不足による脱落である。  教職が、「学校」という公共的な制度にかかわる専門職である以上、ただ「子どもが好きだから」とか「子どもの成長の手助けをしたい」といった欲求があるだけでは不十分である。（なんでもいから卒業時に資格を得たい、というのは論外）  教育の基本的なかたちは文化の伝達であり、教師は、知識や技能や態度といった、社会で生きるための知的な価値を子どもたちのなかに育てていく力をもっていなければならない。その出発点は、自分のなかに、伝えるべき「文化」が備わっていることである。  しかし本学の教職課程に参加してくる学生のなかには、知識どころか、基本的な日本語の読み書きもおぼつかない者もいる。そのような部分が脱落することは致し方ない。  本講では、そうしたなかで、まだ不十分ではあるが、文化的に成長する可能性をもった諸君について、教育学学習の手ほどきを行なう。〈実戦〉のための〈実践〉的練習をくりかえして、効果をあげたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 読み、書き、考えるため、教育学を中心にさまざまな文献を用い、一冊の教科書というものは定めない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | とくになし。   |       |           |
| 教材（その他）    | 多種の資料を授業時に配布する。  |       |           |
| 評価方法       | とくに定期試験は行わず、毎回の課題消化の積み上げで評点を出す。  |       |           |
| 到達目標       | 4年間で教員免許を取得するために必要な基礎学力の定着。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の宿題に真摯に取り組んだ上で出席すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>教職課程をスタートしたが、単位修得が順調にすすまず、どうしたらよいか不安状態のなかにある——そうした秋学期の1回生を対象とする、全くの自由選択科目である。自分がその立場にあると思うならば、臆せず参加しよう。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 単位修得の要件とは   2. どのような力が、どこまで必要なのか   3. 説明と論述について求められること   4. 〈分かること〉から〈分かったことを理解してもらうこと〉へ   5. ことばと文字   6. 正確な日本語の使い方   7. 文章の組み立て方   8. 主題と展開   9. 講義内容のポイントの理解   10. 問題の焦点化と要点整理   11. 用語法と基本概念   12. 教育学のキーワードを説明する訓練 (1)   13. 同上 (2) (文章化の練習)   14. 同上 (3) (添削)   15. まとめ</p>  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0014B01 |
| 科目名  | 教職基礎講座B 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Basics of Educational Studies B   |       |           |
| 担当者名   | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 【講義の概要】 新聞の記事を要約するなどの練習を通して、文章がきちんと書けるようになることを目指す。自分の考えをまとめたり、発表の練習も行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 【評価方法】 授業への参加、課題を提出すること   |       |           |
| 到達目標   | 自分の考えを整理して文章にし、人にも伝えられること。  |       |           |
| 準備学習   | 小説、教育に関するもの、様々な分野の本を読んで下さい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 【受講者への要望】 自主的に学ぼうとする姿勢を評価します   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 【講義の順序とポイント】 1、オリエンテーション 2、文章を読み、要約する練習 3、 4、自分で新聞記事を切り抜き、レジュメを作り、発表する 5、テーマを決めて自分で文章を書く練習 6、 7、本を読み感想文を書く 8、感想文を書き発表する 9、他者の感想文にコメントする 10、教育に関するテーマを選び、論文を書く 11、 12、論文を発表する、コメントする 13、 14、一つのテーマについて討論 15、まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0015001 |
| 科目名        | 教職総合ゼミ 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Training Seminar  |       |           |
| 担当者名       | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人類に共通する課題、日本社会全体にかかわるテーマを学び、それらにかかわる理解を進める。また、それらに関する学習を、学校教育でいかに進めるかについて実践的な指導力を養う。 受講生で4名程度のグループを作る。その後、 設定されたテーマについて、計画を立て、それに基づいてフィールドワーク、資料調査などの方法により探究活動を行う。そして、成果をプレゼンテーションの形で発表する。たがいに批評をした後、レポートとして指導計画書を作成する。 受講生の人数によって、ディベートやディスカッション、模擬授業などプレゼンテーションの形式を変更する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 講義の際に配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）・プレゼンテーション（30%）・レポート（20%）を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 人類に共通する課題、日本社会全体にかかわるテーマ（環境や国際理解、福祉に関する問題など）について多面的に理解する。  課題を設定し、自分で計画的に調査を進め、学んだ内容をまとめることができる。  探究的な学習、問題解決的な学習を計画し指導することができる。   |       |           |
| 準備学習       | 現在、取り上げられている社会的な問題や論争に対して、注意を払い、その論点や主張の違いなどについて理解を進めておく。  発表や発言に対して積極的になれるように努力しておく。  |       |           |
| 受講者への要望    | グループでの活動を重視しているため、遅刻や欠席は基本的には認められない。  教員を志望する学生なら、責任ある態度で参加してもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. 教職総合ゼミの内容と意義  3. 具体的な探求テーマ決定及びグループ結成  4. 学習計画の作成及び発表  5. 調査・研究活動1  6. 調査・研究活動2  7. 中間報告（質疑応答・担当者の指導助言）  8. 調査・研究活動3  9. 調査内容のまとめ  10. プレゼンテーション準備1  11. プレゼンテーション準備2  12. プレゼンテーション1（質疑応答・討議）  13. プレゼンテーション2（ ）  14.受講生各自による指導計画書の作成 15.まとめの講義                |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                  |  |       |           |
|----------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                               | 2012   | 授業コード | JP0016001 |
| 科目名                              | 教職入門 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                       | Introduction to Teaching Profession  |       |           |
| 担当者名                             | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                             | 現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。   |       |           |
| 教材 (テキスト)                        | 林勲編『教育の原理』法律文化社  |       |           |
| 教材 (参考文献)                        | 参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)                         |  |       |           |
| 評価方法                             | 平常点・小テスト 30% (各授業の最後に提出する)   課題レポート 30% (2回以上おこなう 課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。)   学期末試験 40%   以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。  自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。  |       |           |
| 到達目標                             | ・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。  ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。  ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。  |       |           |
| 準備学習                             | ・基礎的な学力 (知識だけではない) が身につけていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。  ・各講義において、小テストを実施する。復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。  ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。   |       |           |
| 受講者への要望                          |  |       |           |
| 教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                       | 1.オリエンテーション   2.教育にかかわる問題 (学力低下など)   3.教育にかかわる問題 (学校の国際化など)   4.教職員の種類と職務 (教員の資格と要件)   5.教職員の種類と職務 (教員の任用)   6.教職員の種類と職務 (教員の服務 教員の分限と懲戒)   7.教員の資質・能力 (学習指導)   8.教員の資質・能力 (教材研究)   9.教員の資質・能力 (授業研究)   10.教員の資質・能力 (教育評価)   11.教員の資質・能力 (生徒理解)   12.教員の資質・能力 (生徒指導)   13.教員の資質・能力 (学校経営への参画)   14.教員の研修   15..まとめ |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                  |   |       |           |
|----------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                               | 2012  | 授業コード | JP0016002 |
| 科目名                              | 教職入門 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                        | Introduction to Teaching Profession   |       |           |
| 担当者名                             | 田中 曜次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                             | 現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）                         | 林勲編『教育の原理』法律文化社   |       |           |
| 教材（参考文献）                         | 参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）                          |   |       |           |
| 評価方法                             | 平常点・小テスト 30%（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%（2回以上おこなう 課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40%  以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。   |       |           |
| 到達目標                             | ・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。   |       |           |
| 準備学習                             | ・基礎的な学力（知識だけではない）が身につけていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・各講義において、小テストを実施する。復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望                          |   |       |           |
| 教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                       | 1.オリエンテーション  2.教育にかかわる問題（学力低下など）  3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）  4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）  5.教職員の種類と職務（教員の任用）  6.教職員の種類と職務（教員の服務 教員の分限と懲戒）  7.教員の資質・能力（学習指導）  8.教員の資質・能力（教材研究）  9.教員の資質・能力（授業研究）  10.教員の資質・能力（教育評価）  11.教員の資質・能力（生徒理解）  12.教員の資質・能力（生徒指導）  13.教員の資質・能力（学校経営への参画）  14.教員の研修 15..まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JP0017A01 |
| 科目名  | 社会科・公民科教育法 I 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Teaching Method : Cibics I   |       |           |
| 担当者名   | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中学校社会科公民的分野の授業を行うために必要な、学習内容や学習方法を学ぶ。三回生で履修する「教職演習」に向けて、「学習指導案」の作成と具体的な場面での「授業作り」(発問・指示や板書)を練習する機会を作る。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『中学校学習指導要領』(平成20年改訂)   『中学校学習指導要領 解説 社会科編』(同)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義で紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 20% 学習指導案などレポート 30% 試験 (小テストを含む) 50%   |       |           |
| 到達目標   | 中学校社会科の公民的分野の「学習指導案」を作成し、その一部を実際の授業として行う。 このためには、「政治・経済・社会の基本的な内容を理解している」「公民的資質の育成という社会科の目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを本に、発問や板書などを計画できる」ということが必要になります。 |       |           |
| 準備学習   | 高等学校の「現代社会」「政治経済」「倫理社会」の復習を行うこと。 「公民」は現代の問題を扱う教科・科目・分野であるので、常に社会的な問題を意識し、新しい情報を収集すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。  授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかわかる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.オリエンテーション   2.小学校における政治学習・経済学習   3.「公民的資質」とは何か   4.政治に関する学習 「法教育」など   5.経済に関する学習 「金融教育」など   6.社会に関する学習 「開発教育」など   7.学習指導案の書き方 ①目標と評価   8.学習指導案の書き方 ②教材観、生徒観、指導観   9.学習指導案の書き方 ③展開計画   10.授業作り 発問・指示 板書計画   11~13. ミニ模擬授業及び授業の批評   受講生を生徒にし、15-30分程度の模擬授業を行う。たがいに講評を行う。   14. ミニ模擬授業の反省と学習指導案の修正   15.まとめ |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0017B01 |
| 科目名        | 社会科・公民科教育法Ⅱ【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Cibics II   |       |           |
| 担当者名       | 川口 広美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「良い社会科の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様なしてなら答えていく。講義では実際の中学校社会科・高校公民科の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの社会科授業観を作り上げてもらいたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜，レジュメを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 社会認識教育学会（2010）『中学校社会科教育』学術図書出版，全国社会科教育学会（2011）『社会科教育実践ハンドブック』明治図書   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（発表点数も含む）：30%，レポート（2回）：30%，試験（中間・期末あわせて）：40%   |       |           |
| 到達目標       | 教科と子どもの実態を踏まえて，中等公民科を指導できる基礎的な力量を養う ①社会科・公民科の役割と意義を理解できる ②社会科・公民科授業を分析し，意義と課題を評価できる ③社会科・公民科授業の構造を考察し，指導計画を作成できる  |       |           |
| 準備学習       | ・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。  ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。  2. 第1回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション（教科科目の役割，講義の進め方，良い社会科・公民科授業とは） 2. 社会科の役割と意義 3. 伝統的な社会科授業の分析（1） 4. 伝統的な社会科授業の分析（2） 5. 新しい社会科・公民科授業の分析（1） 6. 新しい社会科・公民科授業の分析（2） 7. 新しい社会科・公民科授業の分析（3） 8. 新しい社会科・公民科授業の分析（4） 9. 新しい社会科・公民科授業の分析（5），中間テスト 10. 新しい社会科・公民科授業の分析（6），中間テストの見直し 11. 新しい社会科・公民科授業の分析（7） 12. 新しい社会科・公民科授業の分析（8） 13. 新しい社会科・公民科授業の開発（1） 14. 新しい社会科・公民科授業の開発（2） 15. まとめ・試験 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | -          | -   | -   | -   | -     | -      |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0018A01 |
| 科目名        | 社会科・地歴科教育法Ⅰ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Social StudiesⅠ  |       |           |
| 担当者名       | 田中 曜次  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、「地理歴史は暗記」という概念を捨てること、公の場で教師が言うべきものではない。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを見つけることがこの講義の内容です。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためにはどのような要素が必要か考えていきたいと思えます。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『中学校学習指導要領』（平成20年改訂）   『中学校学習指導要領 解説 社会科編』（同）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の内容にかかわるものをその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点20% 学習指導案などレポート30% 試験（小テストを含む）50%   |       |           |
| 到達目標       | <p>中学校社会科の地理的分野、歴史的分野の授業を「学習指導案」の形で表現できる。 このためには、「地理や歴史の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>まず、中学校や高等学校の地理・歴史に関する復習が必要、特に高等学校で学習していない科目（地理の場合が多い）は意識して取り組むようにしてほしい。  出版されている授業記録などを読み、「良い授業」とはどのようなものか考えてほしい。</p>   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。  授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。 </p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.オリエンテーション  2.社会科の歴史  3.小学校の歴史学習・地理学習  4.高等学校地歴科との関連  5.地理的分野の目標・内容 ①世界の様々な地域  6.地理的分野の目標・内容 ②日本の様々な地域  7.地理的分野の目標・内容 ③主題を設けて行う学習  8.地理的分野の目標・内容 ④地域的特色をとらえる学習 9.地理的分野の目標・内容 ⑤地図と統計資料  10.歴史的分野の目標・内容 ①歴史のとらえ方  11.歴史的分野の目標・内容 ②古代までの日本  12.歴史的分野の目標・内容 ③中世～近世の日本 13.歴史的分野の目標・内容 ④近代の日本と世界  14.歴史的分野の目標・内容 ⑤現代の日本と世界  15.まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0018B01 |
| 科目名        | 社会科・地歴科教育法Ⅱ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Social Studies II  |       |           |
| 担当者名       | 川口 広美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 「良い社会科の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様なしてなら答えていく。講義では実際の中学校社会科・高校地理歴史科の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの社会科授業観を作り上げてもらいたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜，レジュメを配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 社会認識教育学会（2010）『中学校社会科教育』学術図書出版，全国社会科教育学会（2011）『社会科教育実践ハンドブック』明治図書  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（発表点数も含む）：30%，レポート（2回）：30%，試験（中間・期末あわせて）：40%  |       |           |
| 到達目標       | 教科と子どもの実態を踏まえて，中等地理歴史科を指導できる基礎的な力量を養う ①社会科・地理歴史科の役割と意義を理解できる ②社会科・地理歴史科授業を分析し，意義と課題を評価できる ③社会科・地理歴史科授業の構造を考察し，指導計画を作成できる   |       |           |
| 準備学習       | ・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。  ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。  2. 第1回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション（教科科目の役割，講義の進め方，良い社会科・地理歴史授業とは） 2. 社会科の役割と意義 3. 伝統的な社会科授業の分析（1） 4. 伝統的な社会科授業の分析（2） 5. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（1） 6. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（2） 7. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（3） 8. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（4） 9. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（5），中間テスト 10. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（6），中間テストの見直し 11. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（7） 12. 新しい社会科・地理歴史科授業の分析（8） 13. 新しい社会科・地理歴史科授業の開発（1） 14. 新しい社会科・地理歴史科授業の開発（2） 15. まとめ・試験 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | -          | -   | -   | -   | -     | -      |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JP0019A01 |
| 科目名       | 商業科教育法Ⅰ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Teaching Method : Business I   |       |           |
| 担当者名      | 横井 靖男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 高等学校の商業教育に携わろうとする受講生を対象とし、学習指導要領や教科書を通じ、商業教育の基本を学習する。 とりわけ、実際に教科書に触れることによって、学習指導要領の内容を実践的に体得できることを目指すとともに、教職に就く希望を有する受講生にとって必要なIT能力を身につけることを目指す。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 文部省編『高等学校学習指導要領解説 商業編 <平成>22年5月』 (実教出版, 2010年5月) 『商業034 ビジネス基礎 新訂版』(実教出版) 『商業038 情報処理21 新訂版』(実教出版) 『30時間でマスター Excel 2007』(実教出版)                  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 講義中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)   | 講義中に適宜配布する   |       |           |
| 評価方法      | 授業内発表・テスト・レポート(70%)、その他(30%)   |       |           |
| 到達目標      | 商業に関する「学習指導要領」の内容を理論的・体系的に理解するとともに、商業教育の意義・変遷・展望などの理解を深める。   |       |           |
| 準備学習      | 日頃、新聞などのメディアの情報(必ずしも商業関係に限らない)にアンテナを張っていることが望ましい。  |       |           |

#### 受講者への要望

本来は高等学校の商業教育に携わろうとする受講生を対象とするが、教員免許を取得する目的であっても、受講することは可能である。また、必ずしも商業高校卒業生でなくても、総合高校の商業科目を選択していなくても、受講可能であるが、受講の際は、商業科目の真摯な学習が求められる。

#### 講義の順序とポイント

1. 年間講義計画の説明、受講生に対するアンケート| 2. 受講生のアンケートをもとにしたオリエンテーション| 3. 商業教育の意義・目標| 4. 商業教育の意義・目標| 5. 商業教育の学習内容の具体的検討(その1-1)「ビジネス基礎」| 6. 商業教育の学習内容の具体的検討(その1-2)「ビジネス基礎」| 7. 商業教育の変遷 | 8. 現行学習指導要領(総則編)の検討| 9. 現行学習指導要領(商業編)の検討| 10. 商業教育の学習内容の具体的検討(その2-1)「ビジネス基礎」| 11. 商業教育の学習内容の具体的検討(その2-1)「ビジネス基礎」| 12. 指導計画・授業展開| 13. 学校教育における教師の役割| 14. 高等学校新学習指導要領の検討| 15. 総まとめ|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0019B01 |
| 科目名   | 商業科教育法Ⅱ【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Teaching Method : Business II   |       |           |
| 担当者名  | 横井 靖男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 商業科の免許取得を志す受講生に、商業に関する「学習指導要領」の内容を理論的・体系的に講義するとともに、商業教育の意義・変遷・展望などを学習する。 高等学校の商業教育に携わろうとする受講生を対象とし、学習指導要領や教科書を通じ、商業教育の基本を学習する。 とりわけ、実際に教科書に触れることによって、学習指導要領の内容を実践的に体得できることを目指すとともに、教職に就く希望を有する受講生にとって必要なIT能力を身につけることを目指す。 なお、情報機器等を活用した講義・実習をすることもあ<br>る。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 文部省編『高等学校学習指導要領解説 商業編 <平成>22年5月』 (実教出版, 2010年5月) 『商業034 ビジネス基礎 新訂版』(実教出版) 『商業038 情報処理21 新訂版』(実教出版) 『30時間でマスター Excel 2007』(実教出版)   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 講義中に適宜指示する  |       |           |
| 教材(その他)   | 講義中に適宜配布する  |       |           |
| 評価方法  | 授業内発表・テスト・レポート(70%)、その他(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 商業に関する「学習指導要領」の内容を理論的・体系的に理解するとともに、商業教育の意義・変遷・展望などの理解を深める。  |       |           |
| 準備学習  | 日頃、新聞などのメディアの情報(必ずしも商業関係に限らない)にアンテナを張っていることが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 本来は高等学校の商業教育に携わろうとする受講生を対象とするが、教員免許を取得する目的であっても、受講することは可能である。また、必ずしも商業高校卒業生でなくても、総合高校の商業科目を選択していなくても、受講可能であるが、受講の際は、商業科目の真摯な学習が求められる。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 商業教育と学校運営  2. 商業教育をとりまく社会的状況の把握・検討  3. 商業教育の学習内容の具体的検討(その3-1)「情報処理」(実習)  4. 商業教育の学習内容の具体的検討(その3-2)「情報処理」(実習)  5. 商業教育の成果・課題  6. 商業教育の成果・課題  7. 商業教育の学習内容の具体的検討(その4-1)「簿記」  8. 商業教育の学習内容の具体的検討(その4-2)「簿記」  9. 教育課程部会・中教審などでのこれまでの審議状況の検討  10. 商業教育の国際比較  11. 商業教育の学習内容の具体的検討(その5-1)「その他の科目」  12. 商業教育の学習内容の具体的検討(その5-1)「その他の科目」  13. 高等学校現場における商業教育の現状の把握・検討  14. 商業教育の展望  15. 総まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0020A01 |
| 科目名        | 情報科教育法 I 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Teaching Method : Information Studies I  |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 教科情報免許を取得しようとする受講生に、「学習指導要領」に基づき情報に関する指導事項を講義する。具体的事例を示し講義をすすめる。高等学校情報教育に従事しようとする者を対象に、教科情報とはいかなるものかを学び、指導法の習得、教材研究のありかた、指導案の組み立てなど、教員に必要な資質と教養を身につけることを目標としている。他、新学習指導要領に関する内容も含む。具体的事例をとりあげ、教育の本質と教師の役割を学習できるように講義を進める。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書： 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局  高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | レポートドライブから教材・資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (20%) 出席状況等による。レポート (30%) 定期テスト (50%)  |       |           |
| 到達目標       | 教科情報 (普通科) の取り扱うべき内容の指導案を作成し、授業が行える。   |       |           |
| 準備学習       | コンピュータ操作や機能を把握し、コンピュータを情報処理に活用できるよう努める。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.年間講座計画の説明、学習指導要領における情報教育  情報教育の体系化、文部科学省の定める教科目標  2.情報教育の目標 (情報活用の実践力、科学的な理解、情報社会に参画する態度)  3.普通教科「情報」の概要 (教科内容、必修事項)  4.普通教科「情報」新設の趣旨、目標   中学技術家庭学習内容、他教科科目との関連  5-1.情報ABCの目標と内容   普通教科情報の科目構成、3科目の特徴  5-2.新学習指導要領   情報ABCから統合した科目へ  6.専門教科「情報」の目標、科目構成  7.指導計画の作成と実習等の取扱い  8.単元の構成、単元指導計画、指導案  9.他教科との連携  10.実習の目的、座学と実習の効果的な配置  11.実習設計と教材開発 (実習計画と実習指導案作成)  12.情報モラルの指導   (情報化の影の部分への対応、情報手段による社会参加   情報と著作権、情報発信者の責任、情報活用と知的所有権)  13.指導案の作成 (教育の目標、年間指導計画、指導案課題の提出)  14.模擬授業 (ビデオ撮影)  15.模擬授業の検討、指導案・授業実施資料の作成 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0020B01 |
| 科目名        | 情報科教育法Ⅱ【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Method : Information Studies II  |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 高等学校の情報教育に従事しようとする者を対象に、教科情報とはいかなるものかを学び、指導法の習得、教材研究のありかた、指導案の組み立てなど、教員に必要な資質と教養を身につけることを目標としている。他、新学習指導要領に関する内容も含む。具体的事例をとりあげ、教育の本質と教師の役割を学習できるように講義を進める。教科情報免許を取得しようとする受講生に、「学習指導要領」に基づき情報に関する指導事項を講義する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書： 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局  高等学校学習指導要領解説情報編 開隆堂出版   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20％）出席状況等による。レポート（30％） 定期テスト（50％）   |       |           |
| 到達目標       | 教科情報（普通・専門科）の取り扱うべき内容の指導案を作成し、授業が行える。さらに、教科を取り巻く現状に応じ、指導内容の改善が行える。  |       |           |
| 準備学習       | 情報科教育法Ⅰを受講後受講されたい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1-1.後期講座計画の説明、普通教科情報 A・B・C と専門教科情報、専門教科教育目標  1-2.新学習指導要領  2.専門教科指導と評価  3.専門教科「情報」の目標、科目構成、教科目標と3つの分野   （システム設計・管理分野、共通分野、マルチメディア分野）  4.専門教育課程と科目、教育目標に沿った課程と科目  5.教育課程編成（教育目標に沿った各科目の単位数、各科目の時間配分）  6.カリキュラム編成   （進路とカリキュラム編成、モデル学科教育課程の作成、教科指導計画の作成）  7.各科目の取扱う内容、専門科目指導計画  8.実習等の取扱い   （指導計画の作成と実習等の取扱い、実習演習：スクリプトと Web ページ）  9.実習と課題研究  10.地域・産業界との連携  11.実習指導計画作成と教材開発（単元の指導計画作成）  12.教科「情報」の模擬授業（ビデオ撮影）  13.模擬授業の改善（ビデオを元に）  14.新しいメディアの利用（情報機器を使った授業展開）  15.進路を考慮した学科・教育課程の作成、教科指導計画課題の作成 |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0021A01 |
| 科目名        | 職業指導 I 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Vocational Guidance I  |       |           |
| 担当者名       | 横井 靖男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「職業指導」から「進路指導」への時代の流れにしたがって、小学校・中学校・高等学校における職業・進路指導方法について学習する。進路は自己の生き方と結びついたもので、単なる「進路選択」などではない、人生にとって大切なものは何かということに希求するものであることを体得することによって、小学生・中学生・高校生の進路選択を指導するにふさわしい知識・識見・情熱を獲得することを、基本的な主題とする。 学校における進路指導が、単なる職業指導・進学指導ではなく、「いのちとは何か」「生きるとは何か」という構想力をふまえた内容であることをはっきり自覚したうえで、「自己の人生の生き方」という視点をふまえることに留意して学習する。 また、大学生が実際の職業に関する知識・体験に乏しいことから、各種メディア・視聴覚機器・情報機器などを通じて、実際の職業に関する知見を深めるよう、留意する。各種メディア・視聴覚機器・情報機器を活用した学習をおこなうことによって、中学生・高校生に与えるそれらのインパクト（震えるような感動や人生を変えるほどのショックなどを与えるほどのインパクト）の強さ、学校教育におけるそれらの学習の大切さを、体感する。 受講生が、進路指導を外的・客観的なものとして受けとめるのではなく、自己実現をめざし、自己の進路とのかかわりを意識することによって、主体的に進路指導をとらえることに留意しながら、学習をすすめる。 さらに、進路指導も教育活動の一環であることから、プレゼンテーション能力を受講生が身につけることができるよう、配慮する。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松田文子・高橋 超編著『生きる力が育つ生徒指導と進路指導』(北大路書房, 2009年(再版))  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義中に適宜指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義中に適宜配布する   |       |           |
| 評価方法       | 授業内発表・テスト・レポート(70%)、その他(30%)   |       |           |
| 到達目標       | <p>学生が、自己のこれまでの学習環境・学習履歴を振り返り、その上に立って自己の進路の展望を踏まえたうえで、現在の日本の就職・進路状況や社会情勢にもアンテナを張り巡らし、常に何かを希求していく姿勢を持つことによって、これからの長い人生を生きていくうえで大切なこと(とりわけ社会的弱者に対する優しい視点)に気づき、中学生や高校生に自己の進路を選択させる知識・識見・情熱を持つこと。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>学生が、日ごろから、新聞などのメディアに目を通し、現在の日本の就職・進路状況や社会情勢にもアンテナを張り巡らし、諸々の書物を読み、芸術などに触れる姿勢を保ち、生きるとは何か人生とは何かという問いを内に秘めながら、たえず何かを希求するという精神を持ち続けること。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>この講義は、教職科目ではあるが、必ずしも教職に就くことを目標にしていない学生であっても、「講義概要」や「到達目標」に共感する学生の履修を歓迎する。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 年間講義計画の説明、受講生に対するアンケート  2. 進路指導の意義と基本理念 ①  3. 進路指導の意義と基本理念 ②  4. 進路指導の基礎理論①  5. 進路指導の基礎理論②  6. 進路指導の歴史と現状 -世界-  7. 進路指導の歴史と現状 -日本-  8. 進路指導の諸活動  9. 教育課程と進路指導  10. 学校運営における進路指導の組織と体制  11. 特別活動と進路指導  12. 小学生に対する進路指導  13. 中学生に対する進路指導  14. 高校生に対する進路指導  15. 総まとめ </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0021B01 |
| 科目名        | 職業指導Ⅱ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Vocational Guidance II   |       |           |
| 担当者名       | 横井 靖男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「職業指導」から「進路指導」への時代の流れにたがって、小学校・中学校・高等学校における職業・進路指導方法について学習する。進路は自己の生き方と結びついたもので、単なる「進路選択」などではない、人生にとって大切なものは何かということに希求するものであることを体得することによって、小学生・中学生・高校生の進路選択を指導するにふさわしい知識・識見・情熱を獲得することを、基本的な主題とする。  学校における進路指導が、単なる職業指導・進学指導ではなく、「いのちとは何か」「生きるとは何か」という構想力をふまえた内容であることをはっきり自覚したうえで、「自己の人生の生き方」という視点をふまえることに留意して学習する。  また、大学生が実際の職業に関する知識・体験に乏しいことから、各種メディア・視聴覚機器・情報機器などを通じて、実際の職業に関する知見を深めるよう、留意する。各種メディア・視聴覚機器・情報機器を活用した学習をおこなうことによって、中学生・高校生に与えるそれらのインパクト(震えるような感動や人生を変えるほどのショックなどを与えるほどのインパクト)の強さ、学校教育におけるそれらの学習の大切さを、体感する。  受講生が、進路指導を外的・客観的なものとして受けとめるのではなく、自己実現をめざし、自己の進路とのかかわりを意識することによって、主体的に進路指導をとらえることに留意しながら、学習をすすめる。  さらに、進路指導も教育活動の一環であることから、プレゼンテーション能力を受講生が身につけることができるよう、配慮する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 松田文子・高橋 超編著『生きる力が育つ生徒指導と進路指導』(北大路書房, 2009年(再版))  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義中に適宜指示する   |       |           |
| 教材(その他)    | 講義中に適宜配布する   |       |           |
| 評価方法       | 授業内発表・テスト・レポート(70%)、その他(30%)   |       |           |
| 到達目標       | <p>学生が、自己のこれまでの学習環境・学習履歴を振り返り、その上に立って自己の進路の展望を踏まえたうえで、現在の日本の就職・進路状況や社会情勢にもアンテナを張り巡らし、常に何かを希求していく姿勢を持つことによって、これからの長い人生を生きていくうえで大切なこと(とりわけ社会的弱者に対する優しい視点)に気づき、中学生や高校生に自己の進路を選択させる知識・識見・情熱を持つこと。</p>  |       |           |
| 準備学習       | <p>学生が、日ごろから、新聞などのメディアに目を通し、現在の日本の就職・進路状況や社会情勢にもアンテナを張り巡らし、諸々の書物を読み、芸術などに触れる姿勢を保ち、生きるとは何か人生とは何かという問いを内に秘めながら、たえず何かを希求するという精神を持ち続けること。</p>  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>この講義は、教職科目ではあるが、必ずしも教職に就くことを目標にしていない学生であっても、「講義概要」や「到達目標」に共感する学生の受講を歓迎する。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 課題(「職業指導Ⅰ」)提出、課題発表と討論  2. 進路指導計画  3. 進路指導の方法・技術  4. 進路相談の方法と技術   5. カウンセリングの基礎理論  6. 家族・諸機関などとの連携・協力  7. 校外研修・インターンシップについて(基礎理論)  8. 校外研修・インターンシップについて(具体的な現状把握)  9. 校外研修・インターンシップについて(分析)  10. 教師の研修  11. 進路指導の模擬実践(小学校)  12. 進路指導の模擬実践(中学校)  13. 進路指導の模擬実践(高等学校)  14. 進路指導・進路相談の課題と展望  15. 総まとめ </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0022001 |
| 科目名        | 生徒・進路指導論 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Educational Guidance  |       |           |
| 担当者名       | 黒田 忠一   | 旧科目名称 | 生徒指導論     |
| 講義概要       | 生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法、今日の課題などについて学ぶ。 生徒指導上のいろいろな問題を踏まえつつ、日ごろの学校教育活動を通じて、健全な発達の支援をいかに行うか考察する。 従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「生徒指導提要（文部科学省）」など授業時に指示します。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材（その他）    | ○ パワーポイントを活用する。 ○ 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 筆記試験、出席状況、提出物などで総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 生徒指導に関わる基本的な事項を習得することで、生徒指導感覚の備わった教員を育成する。  |       |           |
| 準備学習       | 履修計画に合わせて教材を通読する。   |       |           |
| 受講者への要望    | ○ 出席状況を最重視する。 ○ 生徒指導のロールプレイングなどへの積極的な参加を期待している。 ○ 本学の建学精神に則った言動を行っていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.学習指導要領に記された生徒指導、進路指導の考え方 2.生徒指導概念・目的・原理について 3.教科指導と生徒指導について 4.生徒理解－その考え方 5.生徒理解－資料収集と活用について 6.キャリア教育と進路指導 7.キャリア教育の進め方 8.問題行動の実態と捉え方 1 9.問題行動の実態と捉え方 2 10.問題行動の原因・経過・対応 11.いじめ、不登校問題 12.学校の生徒指導体制 13.事例演習 14.学級担任の生徒指導 15.授業内定期試験 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0023001 |
| 科目名        | 道德教育の指導法 【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Study on Moral Education  |       |           |
| 担当者名       | 黒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間形成における道德教育について、理論的に整理しつつ、道德をめぐる今日の問題を考察する。 また、「道德の時間」の指導計画、指導資料、授業案等、実際の事例をもとに比較・検討し、教室での規範意識の育成と道德教育の進め方について考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説（道德編）」など授業時に指示します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ○ パワーポイントを活用する。 ○ 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席最重視。学習指導案、模擬授業、提出物などで総合的に評価します。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 道德教育とは何か。そして道德教育の課題は何であるかについて考察する。 2. 児童生徒にとって、道德教育を人間形成の柱として位置づけし、指導力のある教員を目指す。 3. 指導する教材の道德的価値を確認し、それをいかにして道德的な実践力に結びつけるか考察する。   |       |           |
| 準備学習       | 学習指導要領や教材を通読する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 模擬授業等、授業時における積極的な参加を期待している。 本学の建学精神に則った言動を行っていただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 教職課程と道德教育 2. 学習指導要領で求められている道德教育 3. 外国における道德教育 4. 発達理論と道德意識形成 5. 日本人の道德意識の形成史 6. 全体計画と年間指導計画 7. 道德の時間の指導 8. 学校全体で取り組む道德教育 9. 道德学習指導案の作成 10. 道德読み物資料について① 11. 道德読み物資料について② 12. 道德の時間の指導について 13. 模擬授業 14. 模擬授業 15. 授業体験の発表、討論、まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0024001 |
| 科目名   | 特別活動論 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Extra-curriculum Activity   |       |           |
| 担当者名  | 田中 曜次   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現在、学校教育の中で行われている「特別活動」を取り上げ、学校行事・学級活動・生徒会活動などがどのように位置づけられているのかを考える。 これまでの『学習指導要領』の変遷を踏まえて、「特別活動」がどのように取り扱われていたのかを概観する。そして、教科や道徳、さらには「総合的な学習」などとの関連を整理し、「特別活動」がどのようなことを目指して、どのような方法で行われていくべきなのかを考えていきたい。 各自が、「特別活動」の指導計画を作成できるようになることを目標としている。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領 解説 特別活動編』（平成20年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領 解説 特別活動編』（平成21年改正）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 林勲編『教育の原理』法律文化社   |       |           |
| 教材（その他）   | 講義の内容に関する参考資料を配布、紹介する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点・小テスト30%（各授業の最後に提出する） 課題レポート30%（2回以上おこなう 課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験40%  以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。  |       |           |
| 到達目標  | ・学校で行われている「特別活動」について理解を進める。教育目標と活動の関係を意識し、さまざまな教育活動が行われていることを知る。 「学級指導」や「学級活動」など特別活動の具体的な場面を想定し、実際の指導を考え、学習指導案にまとめることができる。 さまざまな教育目標に対して、「特別活動」の指導計画を作成することができる。  |       |           |
| 準備学習  | ・1回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） 各学校で行われている、特徴的な活動や取り組みについて、さまざまな記録が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 各講義で行う小テストや紹介した参考資料などを利用し、学校教育の課題や新しい動向などを常に意識するように。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 特別活動とは何か   2. 学習指導要領の変遷   3. 新しい学習指導要領   4. 特別活動の目標（小レポートⅠ）   5. 特別活動の内容①学級活動の特質   6. 特別活動の内容②学級活動の実践   7. 特別活動の内容③生徒会活動   8. 特別活動の内容④学校行事   9. 特別活動と必修教科・選択教科   10. 特別活動と道徳   11. 特別活動と総合的な学習   12. 特別活動と生徒指導   13. 特別活動の指導計画①調査・計画   14. 特別活動の指導計画②指導計画案作成（小レポートⅡ）   15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0025001 |
| 科目名        | 発達と学習の心理学 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Development and Learning Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 【講義の概要】 教職課程において必要な発達と学習について学ぶ。 人間は生まれてからどのように発達成長していくのか、知能、人格、人間関係の面から学ぶ。また学習では、記憶や行動の成り立ちや、学習障害、発達障害など近年注目されている学習における障害についても学び、考える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | よくわかる認知発達とその支援 子安増生編 ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（レポート、授業への積極的な参加など）、試験ともに60点以上で合格とする。  |       |           |
| 到達目標       | 人間の発達、学習について理解を深める。障害についても学び、考える。   |       |           |
| 準備学習       | 授業内で指示する文献など読むこと  |       |           |
| 受講者への要望    |   |       |           |
| 授業への積極的な参加 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 【講義の順序とポイント】   1、行動   2、学習のプロセス   3、達成動機   4、記憶とイメージ   5、発達 フロイトの発達理論   6、発達 エリクソンの発達理論   7、発達 親子関係から見た発達 幼児期   8、発達 親子関係から見た発達 思春期、青年期   9、発達 ピアジェの発達理論①同化・調節・シエマ   10、発達 ピアジェの発達理論 ②発達段階の特徴   11、様々な障害   12、発達障害   13、ビデオを通して障害児への関わりについて考える   14、グループ討論   15、まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JP0026A01 |
| 科目名       | 理科教育法Ⅰ【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） |  |       |           |
| 担当者名      | 前園 律子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 中等理科教育（特に高等学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、高等学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、理科教育における特徴的な指導法や環境教育などの実践例を、ゼミ形式で概観する。さらに、安全管理や学習指導案の構成・評価方法などの講義を通して、実務上の課題についての見識を深め、理科教員としての素地を身につける。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説・理科編 理数編」 実教出版（平成21年12月）発行   336円  （高校生のとときの使用理科教科書やノートを残している人は、準備しておく。）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリント配付する。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30%）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や発表内容などの積極的な取り組み（30%） 定期テスト（40%）   |       |           |
| 到達目標      | 1. 理科教育の目的と特徴、高等学校学習指導要領・理科の目標が説明できる。 2. 高等学校学習指導要領・理科の改訂の要点を、簡潔に説明できる。 3. めざしたい理科の授業像や重視したい指導法を、具体例を挙げて提案できる。   |       |           |
| 準備学習      | 講義の過程で文献調査などの課題を出すので、レポートを準備して授業に臨む。   |       |           |

受講者への要望

課題の発表やグループ討議の機会を複数回つくるので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

1. 理科教育の目的と目標 | 2. 理科教育の歴史 —主として、学習指導要領の変遷— | 3. 高等学校学習指導要領（平成21年3月公示）・理科における | (1) 改訂の趣旨 | 4. // (2) 科目構成及び新設科目の内容と取扱いの要点 | 5. // (3) 「生物基礎」・「生物」の内容と取扱いの要点 | 6. // (4) 他科目の性格と目標 | 7. // (5) 指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮事項 | 8. 課題レポートの発表 | 9. 理科教育の特徴 —観察・実験などの意義、安全管理— | 10. 理科の授業の進め方 —代表的な教授理論（探究学習、仮説実験授業など）の考え方とその学習過程— | 11. 理科教育における環境教育、エネルギー教育、STS教育の事例 | —グループワークによる文献調査と発表— | 12. // | 13. 理科学習指導案の構成 | 14. 高等学校理科の評価 —観点別評価の観点、評価規準例など— | 15. まとめ

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0026B01 |
| 科目名  | 理科教育法Ⅱ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  |   |       |           |
| 担当者名   | 前園 律子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 高等学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究をいかした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。               |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特に定めない  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 1. 左巻健男, 内村 浩編「授業にいかす! 理科教育法 中学校・高校編」  東京書籍(2009年4月)発行 2, 200円  2. 高等学校検定教科書   (高校生のときの使用理科教科書やノートを残している人は、準備しておく。) |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜プリント配付する。 理科教育法Ⅰ受講時の講義資料及び記録ノート   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%)出席状況等による。 授業時の課題や発表(模擬授業及び授業検討会等)内容など(40%) 作成した学習指導案(30%)   |       |           |
| 到達目標   | 1. 教材研究をいかした高等学校理科学習指導案が作成できる。  2. わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。   |       |           |
| 準備学習   | 高等学校理科の生物領域を中心に、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 楽しくわかる理科の授業とは?   2. 理科教育における「習得・活用・探究型の学習活動」  3. 高等学校理科での教材取扱いの工夫及び授業の進め方  4. 高等学校理科の授業づくり —生物領域を中心として—<br>  (1) 学習指導計画例、評価規準例、学習指導案の書き方1 —主として、展開計画—  5. // (2) 学習指導案の具体例の検討   6. // (3) グループワークによる模擬授業1の計画  7. // (4) グループワークによる模擬授業1の実施  8. // (5) 授業例のビデオ視聴と授業検討  9. 模擬授業2の計画と実施  (1) 模擬授業2の項目の選択と教材研究  10. // (2) 学習指導案の作成(各自)  11. グループ別の模擬授業(全員が展開計画の抽出箇所を演示)  12. //  13. 代表者による模擬授業(代表者が展開計画の抽出箇所を演示)  14. 学習指導案の書き方2 —教材観・生徒観・指導観、目標と評価など—   15. 高等学校理科授業についてのまとめ、作成中の指導案の修正・提出 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JP0026C01 |     |       |        |
| 科目名  | 理科教育法Ⅲ 【教】   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   |  |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 前園 律子  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | 中等理科教育（特に中学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、検定教科書や学校現場の実践例を資料にした講義・演習をもとに、中学校理科の教材や授業の進め方及び評価方法についての理解を深める。これらを通して、中学校理科の授業づくりの基礎・基本の習得をめざす。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | 文部科学省 「中学校学習指導要領解説・理科編」 大日本図書（平成20年9月）発行  110円。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | 適宜紹介する。 （中学生のときの使用理科教科書やノートを残している人は、準備しておく。）   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   | 適宜プリント配付する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。 授業時の課題提出状況や発表など積極的な態度（30%） 定期テスト（40%）  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 1. 中学校学習指導要領・理科の目標と、改訂の要点について説明できる。 2. 中学校学習指導要領・理科において「追加及び移行された内容」を例に挙げて、その意図や背景を説明できる。 3. 中学校理科で取り上げられている観察・実験例の、実験ノートを作成できる。 4. 理科を通して身につけさせたい力と、重視したい指導法や授業の工夫を提案できる。         |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 授業の過程で予告される資料分析等の課題を準備して、授業に臨む。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |  |       |           |     |       |        |
| 課題の発表やグループでの意見交換の機会を多くつくるので、積極的に参加してほしい。   |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 心に残る理科授業 一小・中・高等学校の授業体験を通して―  2. 中学校学習指導要領（平成20年3月公示）・理科における   (1) 改訂の要点  3. // (2) 改訂の要点と実践例   4. // (3) 第1分野の内容と改訂の特徴  5. // (4) 第2分野の内容と改訂の特徴  6. // (5) 指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮事項  7. // (6) 追加された内容の模擬授業 ―グループワークによる展開計画の立案―  8. // ―模擬授業の実施1―  9. // ―模擬授業の実施2―   10. 中学校理科教科書における教材の具体例 ―主として、観察・実験の内容―  11. //   12. 中学校理科の評価 ―観点別評価の観点、評価規準例など―   13. 中学校理科授業の進め方1 ―グループ学習、ノート指導、課題研究など―   14. 中学校理科授業の進め方2 ―主として、環境教育の事例―  15. まとめ |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)   | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |  |       |           |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JP0026D01 |
| 科目名       | 理科教育法Ⅳ【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) |   |       |           |
| 担当者名      | 前園 律子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 中学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究をいかした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。                    |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特に定めない  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 1. 左巻健男, 内村 浩編 「授業にいかす! 理科教育法 中学校・高校編」   東京書籍(2009年4月)発行 2, 200円   2. 中学校理科検定教科書   (中学生のときの使用理科教科書やノートを残している人は、準備しておく。) |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜プリント配付する。   |       |           |
| 評価方法      | 平常点(30%) 出席状況等による。  授業時の課題や発表(模擬授業及び授業検討会等)内容など(40%)   作成した学習指導案(30%)   |       |           |
| 到達目標      | 1. 教材研究をいかした中学校理科学習指導案が作成できる。  2. わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。  |       |           |
| 準備学習      | 中学校理科の、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。  |       |           |

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| 受講者への要望    | 発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。   |  |  |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 楽しくわかる理科の授業とは?   2. 中学校理科の授業の進め方 —「活用する力」を育てる授業の実践例—   3. 中学校理科の授業における教材・教具の工夫   4. 中学校理科の授業づくり   (1) 授業例の参観と授業検討 —講義担当者による演示—   5. // (2) 学習指導案の内容 1 —主として、展開計画—   6. // (3) 学習指導案の内容 2 —目標と評価、板書計画など—   7. // (4) 授業例のビデオ視聴 —観察・実験を取り入れた授業—   8. 模擬授業の計画と実施 —観察・実験の基本操作の指導法(実技を含む)—   (1) 顕微鏡の使い方   9. // (2) 模擬授業の項目の選択と教材研究   10. // (3) 学習指導案の作成 1(各自)   11. // (4) グループ別の模擬授業(全員が展開計画の抽出箇所を演示)   12. //   13. // (5) 基本操作の指導法のまとめ   14. 学習指導案の作成 2(各自)   15. 中学校理科授業についてのまとめ、作成中の学習指導案 2の修正・提出</p> |  |  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |  |       |            |
|------------|--|-------|------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0027001  |
| 科目名        | 図書館サービス特論 【司】  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Communication in Libraries   |       |            |
| 担当者名       | 有吉 未充  | 旧科目名称 | コミュニケーション論 |
| 講義概要       | 図書館の役割は利用者と資料（情報）とを結びつけることであるが、それは大きな意味で情報発信者と情報受容者のコミュニケーションの仲立ちをすることでもある。また、図書館サービスの提供自体が図書館員と利用者のコミュニケーションの上に成立している。さらに今日では図書館側から様々なメディアを用いて情報発信を行うことも必要になってきている。本論ではこのような状況に目を向けながら、現代社会における人間のコミュニケーションのあり方をさまざまな角度からとらえ、コミュニケーションと図書館サービスとの関係についても考察していく。  |       |            |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。  |       |            |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて授業の中で紹介。   |       |            |
| 教材（その他）    | プリント配布、ビデオなどの副教材を使用。   |       |            |
| 評価方法       | 平常点（30％）出席状況等による、授業内での課題（20％）、レポート（50％）  |       |            |
| 到達目標       | コミュニケーションのあり方を理解し、コミュニケーション能力を高める。   |       |            |
| 準備学習       | 社会とコミュニケーションのあり方について日頃から関心をもっておくこと。  |       |            |
| 受講者への要望    | レポートは必ず提出すること。授業内での課題には積極的に取り組むこと。   |       |            |
| 講義の順序とポイント | 1、コミュニケーションとはなにか 2、現代社会とコミュニケーション（1） 3、現代社会とコミュニケーション（2） 3、文化とコミュニケーション 4、新しい情報技術とコミュニケーション 5、パーソナルコミュニケーションツールをつくる（1） 6、パーソナルコミュニケーションツールをつくる（2） 7、多文化コミュニケーション 8、多文化コミュニケーションロールプレイ（1） 9、多文化コミュニケーションロールプレイ（2） 10、図書館サービスとコミュニケーション 11、図書館のサイン計画 12、図書館利用者とのコミュニケーション 13、図書館内部でのコミュニケーション（1） 14、図書館内部でのコミュニケーション（2） 15、まとめ（現代社会とコミュニケーション） |       |            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0030001 |
| 科目名        | 情報資源組織論 【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Resources of Organiation and Representation  |       |           |
| 担当者名       | 堀田 穰   | 旧科目名称 | 資料組織概説    |
| 講義概要       | 図書館の資料は、組織されることによって活用される状態となる。かつての目録・分類・件名という図書館の伝統的技術は、電子化によって大きく変化を受けざるを得なくなっている。目録は電子化、ネットワーク化されることによって、社会的な存在意義を増しているのだ。理論的な理解をしっかりと進めるとともに、経緯と変化にも注目したい。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 根本彰『文献世界の構造』勁草書房   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 図書館情報資源は、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源から組織され構成される。組織化についての理論と技術を理解し、「情報資源組織演習」で実際に身につけることになる。書誌階層、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、機械可読目録（MARC）と書誌データの活用法等々、歴史的経緯を含めて概観する。   |       |           |
| 準備学習       | 司書課程の中では難解な講義になるので、参考書などを読んで理解を進めるように。   |       |           |
| 受講者への要望    | 図書館の目録は電子化、ネットワーク化することによって社会的な存在意義が重たくなっている。そのことをインターネット等を使用する際に意識し、関心を持つように。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、情報資源組織化の意義と理論 2、書誌コントロールの理解 3、標準化 4、書誌記述法、日本目録規則（NCR）等 5、主題分析の意義と理論 6、主題分析と分類法 日本十進分類法（NDC）等 7、主題分析と索引法 基本件名標目表（BSH）等 8、書誌情報の作成と書誌構造、階層理解 9、書誌情報の流通、書誌ユーティリティ 10、書誌情報の提供、OPAC の管理運用 11、ネットワーク情報資源の組織化 12、検索エンジン、オンライン書店との比較 13、多様な情報資源の組織化 14、目録のネットワーク化と出版 15、メタデータ、ダブリンコア等 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0031001 |
| 科目名  | 図書館情報資源概論 【司】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Library Information Resources   |       |           |
| 担当者名   | 有吉 未充   | 旧科目名称 | 図書館資料論    |
| 講義概要   | 情報社会において人間と情報メディアの関係は大きく変化し、図書館の社会における役割も変化しつつある。これからの図書館司書は書籍のみならず様々な情報メディアの特性を理解しておくことが求められる。本論では図書館で取り扱う各種情報メディアの特性を理解することに重点を置き、それらを図書館がいかに選択し、受け入れていくかを見渡していく。また、広い視野からの情報資料の流通についても考えていく。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 馬場俊明『図書館資料論』新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ7）日本図書館協会。その他必要に応じて授業内で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | プリント配布。資料の画像などを提示。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40％）出席状況等による。定期テスト（60％）   |       |           |
| 到達目標   | 図書館における資料の種類とその特性について理解する。  |       |           |
| 準備学習   | 単元ごとに練習問題を用意するのでそれにとりくみ、そこまでの内容を理解した上で次の単元にすすむ。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 欠席した場合も練習問題は必ずやっておくこと。授業内での私語は禁止。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1、図書館資料とはなにか  2、情報と図書館  3、図書館資料と図書館の自由  4、印刷資料 ①図書（文字と紙媒体の発達）  5、印刷資料 ②図書（一般図書）  6、印刷資料 ③図書（児童図書、マンガ、YA図書）  7、印刷資料 ④雑誌  8、印刷資料 ⑤新聞  9、印刷資料 ⑥小冊子  10、その他の資料 ①行政資料、地域資料、灰色文献  11、その他の資料 ②点字資料、電子書籍  12、その他の資料 ③映像資料、音声資料  13、出版流通、販売と図書館  14、資料の選定  15、まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0033001 |
| 科目名        | 図書館制度・経営論 【司】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Library Management  |       |           |
| 担当者名       | 古川 保彦   | 旧科目名称 | 図書館経営論    |
| 講義概要       | 生涯学習社会の中で図書館の占める位置は大きい。それぞれのライフステージに果たす役割を図書館に関わる人々が意識し、整備していかなければならない。経営という視点から見るとまず自治体がいかに図書館を経営していくかという問題から始まる。つまり都市における図書館論である。そして館長論にまでいたる。この過程で、図書館の整備計画、サービス計画、情報ネットワーク、組織、職員論さらに活動の評価方法にまで考察を及ぼす。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて提示する  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてプリント等を配布する  |       |           |
| 評価方法       | レポート試験 60% 平常点(出席、授業への参加態度等)40% 以上を総合的に評価する   |       |           |
| 到達目標       | 図書館経営における必須事項の把握と、図書館の意義について知識と理念を獲得する。   |       |           |
| 準備学習       | 実際に身近な公共図書館に足を運び、運営状況をできるだけ客観的に観察しておくこと。 そこでの感想や気付きを授業のトピックスとして意見交換を行うので必ず見学しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回、受講者の発表や意見を交えてディスカッションし、課題を深めたい。その妨げとなる遅刻は厳に慎むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1・図書館経営の意義   2・図書館経営と関係法規 1   3・図書館経営と関係法規 2   4・図書館の自由   5・図書館の職員   6・図書館の組織   7・図書館資料の収集と保存   8・図書館の施設と設備   9・図書館ネットワークの形成   10・図書館の計画 とマーケティング   11・図書館業務   12・図書館サービスの評価 1   13・図書館サービスの評価 2   14・図書館経営の実際   15・まとめと今後の課題 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                            |
|--|---|-------|----------------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0034A01                  |
| 科目名  | 情報資源組織実習 I 【司】  | 単位数   | 1                          |
| 科目名 (英語表記)   | Knowledge Organization 1  |       |                            |
| 担当者名   | 有吉 未充   | 旧科目名称 | 資料組織実習 s、資料組織演習 s、資料組織実習 I |
| 講義概要   | 日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。特に資料の分類については実践的な能力を身につけられるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類の練習を行う。 「情報検索演習」では機械可読目録 (MARC) について、実際にパソコンを使ってデータの収集を実習し、「資料組織概説」では書誌ユーティリティの意義について学んだが、この演習でそれらを含めた資料組織の全体像をとらえられるようにする。 |       |                            |
| 教材 (テキスト)  | 特定の教科書は使用しない  |       |                            |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて授業中に紹介する。   |       |                            |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントを配布する。  |       |                            |
| 評価方法   | 平常点 (40%) 出席状況等による、実習課題、レポート、小テスト等の課題 (60%)。出席が少ない者は評価の対象にしない。  |       |                            |
| 到達目標   | 図書館における資料組織の方法の習得   |       |                            |
| 準備学習   | 日頃から分類・目録というものに関心をもっておくこと。  |       |                            |
| 受講者への要望  |   |       |                            |
| 実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。  |   |       |                            |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                            |
| 1、オリエンテーション 2、図書館と分類法分類 3、日本十進分類法 4、世界の主要な分類法 5、分類の基礎練習 6、日本十進分類法の実践 7、分類法練習 (1) 8、分類法練習 (2) 9、分類法練習 (3) 10、分類法練習 (4) 11、分類法練習 (5) 12、分類法練習 (6) 13、基本件名表目表 (1) 14、基本件名表目表 (2) 15、まとめ 有吉クラスと高橋クラスでは講義順序に多少違いが出ることもある。 |   |       |                            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                             |     |       |        |
|--|---|-------|-----------------------------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0034A02                   |     |       |        |
| 科目名  | 情報資源組織実習 I 【司】  | 単位数   | 1                           |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | Knowledge Organization 1  |       |                             |     |       |        |
| 担当者名   | 高橋 和子   | 旧科目名称 | 資料組織実習 s, 資料組織演習 s、資料組織実習 I |     |       |        |
| 講義概要   | 日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。春季の I では資料の分類については実践的な能力を身につけられるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類法を学ぶ。  学問全体を体系的に分けられている NDC を習熟することによって、ぶれのない分類が付与できるように、事例を多く分類していく。  同時に図書 (情報) を分析するため幅広い分野への関心や理解力を必要性を説く。  毎回レポートか実習課題の提出し、翌週にその解題をしながら復習後、次に進む。 |       |                             |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | 大学側で用意する、日本十進分類法を使用する。  |       |                             |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じて授業中に紹介する。   |       |                             |     |       |        |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリントを配布する。  |       |                             |     |       |        |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 出席状況等による、実習課題、レポート、小テスト等の課題 (80%)。出席が少ない者は評価の対象にしない。  |       |                             |     |       |        |
| 到達目標   | 図書館における資料分析の方法および、日本十進分類法の習得  |       |                             |     |       |        |
| 準備学習   | 日頃から幅広く情報うとは? ということに関心をもっておくこと。  大学図書館を頻繁に利用すること。   |       |                             |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |                             |     |       |        |
| 実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。  |   |       |                             |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                             |     |       |        |
| 1、オリエンテーション  2、図書館と分類法分類  3、世界の主要な分類法  4、日本十進分類法  5、分類規定  6、分類法練習 (1)  7、分類法練習 (2)  8、分類法練習 (3)  9、分類法練習 (4)  10、分類法練習 (5)  11、分類法練習 (6)  12、分類法練習 (7)  13、分類法練習 (8)  14、分類法練習 (9)  15、基本件名表目表 |   |       |                             |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力                         | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待  | ○   | ○     | ○                           | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。   |   |       |                             |     |       |        |

|  |  |       |                            |
|--|--|-------|----------------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JP0034B01                  |
| 科目名  | 情報資源組織実習Ⅱ【司】   | 単位数   | 1                          |
| 科目名（英語表記）  | Knowledge Organization II  |       |                            |
| 担当者名   | 有吉 未充  | 旧科目名称 | 資料組織実習 f, 資料組織演習 f、資料組織実習Ⅱ |
| 講義概要   | 日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。特に資料の分類については実践的な能力を身につけられるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類の練習を行う。組織実習Ⅱでは組織実習Ⅰと併せて資料組織法を理解できるようにする。 |       |                            |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない   |       |                            |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて授業中に紹介する。  |       |                            |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |                            |
| 評価方法   | 平常点（40％）出席状況等による、実習課題、レポート、小テスト等の課題（60％）。出席が少ない者は評価の対象にしない。  |       |                            |
| 到達目標   | 図書館における資料組織の方法の習得  |       |                            |
| 準備学習   | 日頃から分類・目録というものに関心をもっておくこと。   |       |                            |
| 受講者への要望  |  |       |                            |
| 実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。  |  |       |                            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                            |
| 1、オリエンテーション 2、資料組織法について 3、資料組織法練習（1） 4、資料組織法練習（2） 5、資料組織法練習（3） 6、資料組織法練習（4） 7、資料組織法練習（5） 8、資料組織法練習（6） 9、資料組織法練習（7） 10、資料組織法練習（8） 11、資料組織法練習（9） 12、資料組織法練習（10） 13、資料組織法練習（11） 14、資料組織法練習（12） 15、まとめ 有吉クラスでは分類実習に重点を置く。高橋クラスではエクセルによる目録作成実習を行う |  |       |                            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |                            |
|---|---|-------|----------------------------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0034B02                  |
| 科目名   | 情報資源組織実習Ⅱ【司】  | 単位数   | 1                          |
| 科目名（英語表記）   | Knowledge Organization II   |       |                            |
| 担当者名  | 高橋 和子   | 旧科目名称 | 資料組織実習 f, 資料組織演習 f、資料組織実習Ⅱ |
| 講義概要  | 日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。秋季のⅡは目録を中心として講義する。  おもに日本目録規則に従って、パソコン教室にてエクセルでの目録作業を実践する。ミスなく正確な目録作業をするためには、パソコンのブラインドタッチが重要になる。情報抽出方法と同時にキーボードやエクセルの習熟も目的とする |       |                            |
| 教材（テキスト）  | 必要なレジメは原則 USB メモリーで提供する。  |       |                            |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて授業中に紹介する。   |       |                            |
| 教材（その他）   | 必要に応じて配布する。   |       |                            |
| 評価方法  | 平常点（20％）出席状況等による、実習課題、レポート、小テスト等の課題（80％）。出席が少ない者は評価の対象にしない。   |       |                            |
| 到達目標  | 図書館において利用者ニーズに即した目録方法を習得する。   |       |                            |
| 準備学習  | 日頃からパソコンに慣れ、特にキーボードは原稿を見ながら打てるようにしておく。  |       |                            |
| 受講者への要望   |   |       |                            |
| 実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。   |   |       |                            |
| 講義の順序とポイント  |   |       |                            |
| 1、オリエンテーション 2、日本目録規則について 3、資料組織法練習（1） 4、資料組織法練習（2） 5、資料組織法練習（3） 6、資料組織法練習（4） 7、資料組織法練習（5） 8、資料組織法練習（6） 9、資料組織法練習（7） 10、資料組織法練習（8） 11、資料組織法練習（9） 12、資料組織法練習（11） 13、資料組織法小テスト 14、資料組織法練習（11） 15、まとめ |   |       |                            |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JP0036001 |
| 科目名   | 児童サービス論 【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Library Services for Children  |       |           |
| 担当者名  | 古川 保彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 図書館の児童サービスの目的は、子どもたちに読書の楽しさを知らせ、将来の図書館利用者としての手助けをするためである。また読書のみならず児童文化の伝達、社会教育の場としての役割も担っている。そのための児童図書と中学・高校生のためのヤングアダルトサービスの資料の収集、排架、整理と児童のための設備備品などについて考える。 図書館が児童にとって楽しいところであり児童文化を伝達する場所としての児童室の運営と、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、紙芝居などの技術を習得する。また児童の読書を推進するために学校図書館や地域との協力連携など、社会に目を向けた児童サービスの在り方と課題を検討していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | その都度、プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて提示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリント等を配布する   |       |           |
| 評価方法  | レポート 60% 平常点(出席、授業態度等)40% 以上を総合的に評価する  |       |           |
| 到達目標  | 子どもという存在を理解し、その成長に対して読書がどのような意義を持つかを理解し、図書館の 役割と機能がどのようにあるべきかを認識することを目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 科目開始前、あるいは途中において、身近な公共図書館に出向き、児童サービスのためのコーナーが どのように作られているか、またその蔵書や図書館員の動きを観察しておくこと。そうした体験を受講者 全員で共有し、授業のトピックスとして意見交換をするので、必ず見学しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 読書導入の手段としての絵本、読み聞かせ（読み語り）を体験します。 遅刻は厳禁です。読み語り、ストーリーテリングの実施時の途中入室 は慎んでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 児童サービスの意義   2. 児童サービスの歴史   3. 児童の資料の種類と特性について(具体的に資料を紹介しながら)   4. 同じ   5. 児童の資料の各分野における評価と蔵書構成   6. 児童の資料の収集、分類、配架、廃棄   7. 児童のための設備と備品   8. 児童に対するコミュニケーション、レファレンスサービス   9. 実技指導（読み聞かせ）1   10. 実技指導（読み聞かせ）2   11. 実技指導(ブックトーク) 3   12. 実技指導(ブックトーク) 4   13. 解説と実技指導(紙芝居、ストーリーテリング)   14. 他の機関、地域と図書館の児童サービスとの関わり   15. まとめと今後の課題 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0037A01 |
| 科目名   | 社会教育課題研究Ⅰ【社】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Social Education Project StudyⅠ   |       |           |
| 担当者名  | 小田 博子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 社会教育の現代的課題について、理解、研究、分析を深める授業をすすめる。現代社会に生起する諸問題は多様であり、その解決方法もまた様々である。「社会教育とは何か?」を問うことによって、現代社会の問題についての考察を深めていく。そして、生涯学習社会における社会教育主事の役割についてその理解を深めていく。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 「新しい時代を創る社会教育」伊藤俊夫 編 全日本社会教育連合  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 「新社会教育手帳」坂本登 編著 日常出版 「現代における社会教育の課題」今西孝蔵・村井茂 編著 八千代出版   |       |           |
| 教材(その他)   | 授業中に適宜、資料やプリント等を配布  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況等による平常点(30%)。授業中に課す課題・レポート・発表による評価(70%)   |       |           |
| 到達目標  | ・社会教育について基本的な理解を得ること ・現代社会の問題の原因と対処について基本的な理解を得ること ・社会に対する多面的な見方を獲得すること   |       |           |
| 準備学習  | 日常的に、書物や新聞等で現代社会の問題の情報をチェックするなどして、理解を深める努力をしておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的且つ前向きな姿勢で授業に臨んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 オリエンテーション 2 社会教育の意義・役割、これからの社会教育 3 社会教育の内容・形態・方法 4 生涯学習社会における現代的課題とは何か ① 5 同上 ② 6 青少年をめぐる問題 7 青少年の育成と社会教育 8 家庭教育・学校教育・社会教育の連携 9 高齢者をめぐる問題と課題、少子化問題とその課題 10 生命・健康・人権をめぐる課題 11 男女共同参画社会と社会教育 12 女性問題をめぐる課題 13 地域理解・地域の連帯・地域の歴史文化と社会教育 14 地域の課題について各自研究テーマを設定 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0037B01 |
| 科目名  | 社会教育課題研究Ⅱ【社】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Social Education Project Study II                       |       |           |
| 担当者名   | 小田 博子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 社会教育課題研究Ⅰの授業をふまえて、さらに様々な現代的課題を考察する。                     |       |           |
| 教材(テキスト)   | 「新しい時代を創る社会教育」 伊藤俊夫 編 全日本社会教育連合                         |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「新社会教育手帳」 坂本登 編著 日常出版 「現代における社会教育の課題」 今西孝蔵・村井茂 編著 八千代出版 |       |           |
| 教材(その他)  | 授業中に適宜配布する資料やプリント                                       |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点(30%)。 授業中に課す課題・レポート・発表による評価(70%)            |       |           |
| 到達目標   | 課題研究Ⅰの基礎を踏まえ、解決していかなければならぬ課題を自ら見つけ、社会教育の学習機会を準備できる力を養う。 |       |           |
| 準備学習   | 社会の動きに関心を持ち、書物や新聞等からの情報を問題意識をもって把握しておく。                 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積極的且つ前向きな姿勢で授業に臨み、主体的に受講してほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 オリエンテーション 2 人権尊重、人権文化の創造と社会教育 3 人権問題と社会教育の推進 4 同和問題と社会教育 5 同和教育について 6 女性差別の現実、その様々な問題 7 同上 8 高齢者、障害者、子ども、女性、外国人その他社会的弱者に対するいじめ、虐待、暴力などの現実とその課題について 9 同上 10 現代社会に生じる様々な人権問題と社会教育 11 持続可能な社会の発展のための社会教育 12 同上 ① 地球の汚染について 13 同上 ② 地球の温暖化について 14 同上 ③ 人口・飢餓・貧困・格差・資源等の問題について 15 まとめ |   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JP0039001 |
| 科目名       | 図書館施設論 【司】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Books,Buildings and Social Engineering   |       |           |
| 担当者名      | 高橋 和子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 大量の情報を扱ったり、細かい作業の多い図書館業務を円滑に進めるためにはコンピュータは必要不可欠なツールである。データベースソフト、などこれからの図書館に求められる情報化について本講義では初心者を対象に基本的な知識、操作技術、現状について概説する。図書館業務で作成する統計データの作成ではエクセルでの実習、目録作成ではアクセスの実習をする。(講義の順番や項目は進捗状況により変更することがある)。ほぼ毎回簡単なレポート提出がある。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | (社) 情報科学技術協会編 情報検索の基礎知識 新訂2版   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 毎回補助プリント配布   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | レポート・出席状況・などによる総合評価、(社) 情報科学技術協会主催「情報検索基礎能力試験」に合格した者は合格点を付与する。   |       |           |
| 到達目標      | 「情報検索基礎能力試験」合格レベルのスキル向上を目指す。   |       |           |
| 準備学習      | 大学の PC にインストールされている OZAWAKEN 等のキーボード練習ソフトを利用して、入力がスムーズにできるようにしてください。   |       |           |

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| 受講者への要望    | PC を利用した授業となりますので、できるだけ入力がスムーズにできるようにしてください。実習に近い授業となりますので、出席が必須です。  |  |  |
| 講義の順序とポイント | 1.授業ガイダンス  2.図書館における情報機器  活用事例など紹介  3.情報社会に関する基礎知識  情報社会に関する社会の出来事、政策や法制度、著作権など考察  4.コンピュータのハードウェアとソフトウェア  周辺機器、機器の種類、構成、基本的な機能、周辺機器との接続の知識  ソフトウェアの種類、機能の特徴等  5.入力方法、EXCEL 実習  表やグラフ作成実習  6--7.EXCEL 関数の利用法  検索データのダウンロードおよび変換作業  8--9.データの表現の基礎知識  情報の単位、デジタルデータ、2進数、文字・画像・音声表現など  10-11.ネットワーク、インターネット、通信技術、セキュリティ  ネットワークのしくみ、情報通信、セキュリティの対策と技術  12--13.EXCEL と ACCESS の連携によるデータベース作成実習  14.図書館施設概要  15.図書館施設例・まとめ |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0041001 |
| 科目名        | 図書館サービス概論 【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Library Services   |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充  | 旧科目名称 | 図書館サービス論  |
| 講義概要       | 本論では図書館が提供するさまざまなサービスの意義と種類（貸出し、読書案内、利用者支援、利用教育、文化活動、ハンディキャップを持つ人のための支援、多文化サービス）について、意義と方法を論ずる。また、わが国の公共図書館が閲覧中心サービスから貸出し中心サービスに転換した歴史的経過、さらに今日進行しつつある情報リテラシー習得支援、ビジネス支援サービスへの転換について社会的背景を分析しながら、今後図書館にどのようなサービスが求められていくかを考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 高山正也編『改訂 図書館サービス論』樹村房、『知っておきたい図書館の仕事』エルアイユー、その他必要に応じて授業内で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントを配布。ビデオなどの副教材を使用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等による、レポート（60％）   |       |           |
| 到達目標       | 情報社会に対応した図書館サービスのあり方を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | できれば公共図書館を訪れてどのようなサービスが行われているのか見学しておくことと講義内容の理解に役立つ。   |       |           |
| 受講者への要望    | レポートは必ず提出すること。私語は禁止。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、図書館サービスの意義と目的  2、図書館サービスの要素  3、サービスの種類 テクニカルサービスとパブリックサービス  4、サービスの種類と方法（1）閲覧、貸出し、予約  5、サービスの種類と方法（2）レファレンスサービス、情報サービス  6、サービスの種類と方法（3）図書館行事、広報活動  7、公共図書館におけるサービスの構造  8、館種別図書館サービスと図書館協力  9、利用者のセグメント別サービス①児童サービス②ヤングアダルトサービス  10、利用者のセグメント別サービス③高齢者サービス④ハンディキャップを持つ人のためのサービス  11、利用者のセグメント別サービス⑤アウトリーチ⑥多文化サービス  12、新しいサービス：情報リテラシー習得支援、ビジネス支援  13、図書館サービスと著作権  14、図書館協力、関連機関との協力体制  15、図書館サービスの今後の課題 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JP0042001 |
| 科目名   | 博物館教育論 【博】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Educational Methods of Museology   |       |           |
| 担当者名  | 千田 康治  | 旧科目名称 | 教育学概論     |
| 講義概要  | 博物館学芸員として業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論を学ぶ。そして様々な目的・対象にあわせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義時に適時紹介します。   |       |           |
| 教材（その他）   | 資料等を適時配布します。   |       |           |
| 評価方法  | 出席点60%、定期試験40%で評価します。  |       |           |
| 到達目標  | 社会教育施設である博物館における教育活動について、その基盤となる理論や実践に関する知識を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。        |       |           |
| 準備学習  | 様々な博物館・美術館等を訪れ、展示見学・講座聴講・ワークショップ参加等の経験する。                                    |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 座学だけでは伝わらないことが多々あります。京都とその一円には、良質なコレクションを所蔵していたり、独自の活動を展開している博物館・美術館が数多く存在しており、これらに興味を持ち、足を運んでください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 第1回 社会教育施設としての博物館教育の意義 第2回 博物館教育の歴史 第3回 博物館教育の特性 第4回 設置者・種別による博物館教育の目的の違い 第5回 コミュニケーションとしての博物館教育 第6回 文化財の保存と博物館教育 第7回 博物館と学校教育 第8回 博物館と生涯学習 第9回 調査研究と博物館教育 第10回 博物館教育の実際Ⅰ 体制（組織・人員・設備） 第11回 博物館教育の実際Ⅱ 企画及び実施 第12回 博物館教育の実際Ⅲ 地域・他の組織との連携 第13回 博物館教育の実際Ⅳ 教材開発・人材育成 第14回 博物館教育の実際Ⅴ 評価・展開 第15回 博物館教育の今後 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0045001 |
| 科目名        | 博物館経営論 【博】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Museum Management   |       |           |
| 担当者名       | 黒川 孝宏   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能 を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。職員体制及び施設・設備の充実に行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要である。講義では具体的な実践例を紹介しながら博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働のまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に随時紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 講義用資料コピー等を適時配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。定期テスト（50%）。  |       |           |
| 到達目標       | 博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 博物館・資料館等における経営論全般について<概説1> 2 博物館経営論について 財務・予算（各論1） 3 博物館経営論について 財務・予算（各論2） 4 博物館経営論について 財務・予算（各論3） 5 博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について<概説2> 6 博物館事業計画の戦略・理念について（各論1） 7 博物館事業計画の指針・方針について（各論2） 8 博物館事業実施について 地域連携（各論3） 9 博物館事業実施について 市民協働（各論4） 10 博物館事業評価について（各論5） 11 博物館施設管理について<概説3> 12 博物館施設管理について もの（各論1） 13 博物館施設管理について ひと（各論2） 14 博物館施設管理について ば（各論3） 15 博物館経営論の課題と将来展望について [総括まとめ] <概説4> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0046001 |
| 科目名        | 博物館資料論 【博】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Museum Materials & Artifacts   |       |           |
| 担当者名       | 黒川 孝宏  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介し、いかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に随時紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 講義用資料コピー等を適時配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。定期テスト（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学芸員や社会教育主事の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 博物館資料論全般について<概説1> 2 博物館資料について 文化財（各論1） 3 博物館資料について 文化財（各論2） 4 博物館資料について 文化財（各論3） 5 博物館資料について 文化財（各論4） 6 博物館資料の収集・整理・保管について<概説2> 7 博物館資料の収集・整理・保管について 歴史資料（各論1） 8 博物館資料の収集・整理・保管について 歴史資料（各論2） 9 博物館資料の収集・整理・保管について 歴史資料（各論3） 10 博物館資料の調査・研究・展示について<概説3> 11 博物館資料の取り扱い技術について 歴史資料（各論1） 12 博物館資料の取り扱い技術について 歴史資料（各論2） 13 博物館資料の取り扱い技術について 歴史資料（各論3） 14 博物館資料の調査研究への活用について<概説4> 15 博物館資料論の課題と将来展望について [総括まとめ] <概説5> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0054001 |
| 科目名   | 図書・図書館史【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | History of Books and Libraries  |       |           |
| 担当者名  | 川瀬 綾子   | 旧科目名称 | 図書及び図書館史  |
| 講義概要  | 木版印刷から電子図書まで多様な形態をとる図書の歴史を概観し、それを収集・整理し、利用に供してきた個人の文庫や神社の御文庫、書籍館や図書館の歴史を考察する。また京都については印刷・出版が江戸期以前から発生し、神社の文庫や資料館も多く存在するのでそれが現代にどのように継承され発展してきたかを概説する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特に指定しない。毎回プリントを配布する。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 必要に応じて提示する。   |       |           |
| 教材(その他)   | 必要に応じて、プリント等を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | レポート90% 平常点(出席、授業への参加態度等)10%以上を総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 図書というメディアの歴史と、図書館という機関の成立事情を把握し、現代における情報メディアのあり方と図書館という存在の現代的な意義について認識することを目指す。   |       |           |
| 準備学習  | 図書や図書館の歴史について、受講者各自が関心を持つトピックについて意見交換をするので、事前にシラバスを確認しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 一方的な事実伝達ではなく、歴史的事実を話題にしながら受講者の意見や感想をもとにディスカッションをしながら進めたい。遅刻はその大きな妨げとなるので、時間厳守で臨むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 記録の誕生と図書の歴史(キープ、ワンパム、欠刻、絵文字等)   2. // // (パピルス、粘土板、貝多羅葉等)   3. // // (甲骨、竹簡、木簡等)   4. 古代・中世の図書館   5. // //   6. 活字印刷と図書館(西洋・東洋)   7. // // (日本)   8. 印刷術の発達と造本形態の変遷   9. // //   10. 貴族及び武士階級の文庫(芸亭、金沢文庫、足利学校等)   11. 近世の図書館状況(寺院、神社藩校私塾等の文庫)   12. 近代図書館の黎明   13. 日本の近現代図書館   14. 市民図書館の出現   15. 現代公共図書館の理念と図書館の未来像 |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JP0055A01 |
| 科目名   | 日本語教授法 A (日本語表現)                                    | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Teaching Japanese as a Foreign Language A           |       |           |
| 担当者名  | 塩谷 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本語学習者に日本語を教える場合、何を教えればいいのか。 日本語教育の基礎となる文法事項について学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | プリントを中心に進める。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 随時指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(50%)出席状況による。 レポートまたは定期テスト(50%)                  |       |           |
| 到達目標  | 日本語教育における日本語について理解する。                               |       |           |
| 準備学習  | 日本語の表現について、常に意識し、関心を持っておくこと。                        |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。日本語教育に興味がある学生は、是非受講してほしい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 文法について 3. 動詞の活用 4. 時間に関する表現① 5. 時間に関する表現② 6. 受身形 7. 使役形 8. 話し手の気持ちや考えを表す表現① 9. 話し手の気持ちや考えを表す表現② 10.接続節① 11.接続節② 12.接続節③ 13. 敬語① 14.敬語② 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0055B01 |
| 科目名        | 日本語教授法B（教科研究）  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Japanese as a Foreign Language B  |       |           |
| 担当者名       | 塩谷 尚子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本語を学ぶ人々は、日本や海外で学び、またその学習目的も様々である。このような人々に日本語を教える場合、何を覚えておかなければならないのだろうか。日本語学習者に対する理解を深めるとともに、日本語教育の歴史や教授法、コースデザイン、評価について学ぶ。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを中心に授業を進める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 随時指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%)出席状況等による。 レポートまたは定期テスト(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 日本語教育の歴史、代表的な教授法、学習者の学び方、評価方法などについて理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 学習方法や学習スタイル等について、常に興味を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。日本語教育に興味がある学生は、是非受講してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション 2. 日本語学習者① 3. 日本語学習者② 4. 日本語教育の歴史① 5. 日本語教育の歴史② 6. いろいろな教授法① 7. いろいろな教授法② 8. いろいろな教授法③ 9. いろいろな教授法④ 10.コースデザイン① 11.コースデザイン② 12.コースデザイン③ 13.コースデザイン④ 14.評価方法① 15.評価方法②・まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0058A01 |
| 科目名        | 社会教育計画Ⅰ【社】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Social Education ProgramⅠ   |       |           |
| 担当者名       | 奥村 將治   | 旧科目名称 | 社会教育計画s   |
| 講義概要       | <p>社会教育主事資格を取得し、将来、社会教育主事や社会教育指導委員として、地方自治体における生涯学習・社会教育を推進するための社会教育計画を立案できる能力を育成する。生涯学習・社会教育を実施していくための方針・計画・実施・評価などの理論と方法を学習する。今日、地方分権や学習社会の時代と言われている折、住民の「自立と共生」が地方自治体及び住民の重要な課題となっている。この住民の「自立と共生」の資質・能力を高め、社会や地域において主体的に活動することにより、自己実現・人格の完成を目指す生涯学習・社会教育を探求しながら、「社会教育計画Ⅰ」では、社会教育計画の基礎的、基本的な内容を学習する。本講義は、行政だけでなく企業、NPO、カルチャーセンターなどで、人々の学習を計画・実施していくためにも必要な内容とする。また、社会教育の目的は、国民・住民一人ひとりの「人間力の育成」でもあり、教育の基本である「人間力の育成」についても学習する。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 今西幸蔵著『社会教育計画ハンドブック』八千代出版 2, 100円(税別) 生涯学習・社会教育行政研究会編集『生涯学習・社会教育行政必携』4, 500円(税別)   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)出席状況等による。定期テスト(60%)。  |       |           |
| 到達目標       | 社会教育の学習計画を立案するための基礎的内容を理解するとともに、学生が自分自身の「人間力の育成」を考える資質の向上を図ることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 今日の社会問題に常に関心を持ち、コミュニケーション能力を高めることを意識していること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 議論する時間をできるだけ設定するので、積極的な発言によりコミュニケーション能力を高めるように心がけてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.生涯学習と社会教育計画 2.社会教育計画の基本原則 3.社会教育計画の方法論の基本 4.社会教育計画の歴史と今日の課題 5.ボランティア活動と社会教育計画 6.自治意識を育てる社会教育計画 7.社会教育計画と社会教育調査活動 8.マルチメディアと社会教育計画 9.社会教育活動における評価 10.社会教育の情報提供と社会教育計画 11.生涯学習相談活動と社会教育計画 12.社会教育主事等社会教育職員の任務と役割 13.今日的な課題と社会教育計画 14.社会教育行政と社会教育計画 15.まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0058B01 |
| 科目名        | 社会教育計画Ⅱ【社】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Social Education Program II   |       |           |
| 担当者名       | 奥村 將治   | 旧科目名称 | 社会教育計画 f  |
| 講義概要       | 社会教育主事資格を取得し、将来、社会教育主事や社会教育指導委員として、地方自治体における生涯学習・社会教育を実施するための社会教育計画を立案できる能力を育成する。生涯学習・社会教育を実施していくための方針・計画・実施・評価などの理論と方法を学習する。「社会教育計画Ⅰ」では、社会教育計画の基礎的、基本的な内容を学習し、本講座では、学習対象者別、学習内容別に、学習計画の実際について具体的実践的に学ぶ。「社会教育計画Ⅰ」と「社会教育計画Ⅱ」は連続講座であるが、「社会教育計画Ⅱ」を先行して受講することは可能である。国民の今日的な学習課題である政治、経済、環境、教育等についての学習の進め方を学習するとともに、国民一人一人及び学生自身の「人間力の育成」について探求する。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 今西幸蔵・村井茂編著『現代における社会教育の課題』八千代出版 2, 400円(税別) 生涯学習・社会教育行政研究会編集『生涯学習・社会教育行政必携』4, 500円(税別)   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%)出席状況等による。定期テスト(60%)。  |       |           |
| 到達目標       | 社会教育の学習計画を実際具体的に立案できる能力を養うとともに社会教育の基本である「人間力の育成」についての学習を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 今日の社会問題に常に関心を持ち、社会教育計画の学習の中で反映させること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義を聴くだけでなく、自分で学習課題をもつように努めること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.家庭教育と社会教育計画 2.乳幼児の学習と社会教育計画 3.少年の学習と社会教育計画 4.青年の学習と社会教育計画 5.成人の学習と社会教育計画 6.高齢者の学習と社会教育計画 7.女性の学習と社会教育計画 8.障がい者の学習と社会教育計画 9.人権学習と社会教育計画 10.文化・スポーツ活動と社会教育計画 11.政治・経済学習と社会教育計画 12.自然・環境学習と社会教育計画 13.公民館における社会教育計画 14.公民館以外の社会教育施設における社会教育計画 15.まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JP0062A01 |
| 科目名  | 日本語教授法C（教材研究）【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Teaching Japanese as a Foreign Language C (Teaching Materials)       |       |           |
| 担当者名   | 塩谷 尚子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本語教育の教室活動において、具体的に何をどのように教えればいいのか。 初級・中級・上級に関する教材、また具体的な教室活動について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを中心に授業を進める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 随時指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点(50%)出席状況等による。 レポートまたは定期テスト(50%)                                  |       |           |
| 到達目標   | 日本語教育の教材、また言語技能別・レベル別教室活動について理解する。                                   |       |           |
| 準備学習   | 日本語の表現と日本事情について常に関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. オリエンテーション 2. 教室活動について 3. レベル別教室活動 4. 言語技能別教室活動① 5. 言語技能別教室活動② 6. 言語技能別教室活動③ 7. 言語技能別教室活動④ 8. 教材・教具① 9. 教材・教具② 10.教材・教具③ 11.教材・教具④ 12.初級クラス 13.中級クラス 14.上級クラス 15.まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0062B01 |
| 科目名  | 日本語教授法D（教育実習）【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                                  | Teaching Japanese as a Foreign Language D (Teaching Practice) |       |           |
| 担当者名                                       | 塩谷 尚子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                       | 日本語学習者を対象に実習を行い、教案作成について学ぶ。                                   |       |           |
| 教材（テキスト）                                   | プリントを中心に授業を進める。   |       |           |
| 教材（参考文献）                                   | 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）                                    | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法                                       | 平常点(30%)出席状況による。 実習(40%) レポート(30%)                            |       |           |
| 到達目標                                       | 教案作成を行い、実際にクラス活動が行えることを目標とする。                                 |       |           |
| 準備学習                                       | 日本語の表現について、どのように用いられているのかを常に意識すること。                           |       |           |
| 受講者への要望                                    |   |       |           |
| 柔軟な思考を持ち、授業に積極的に参加することを望む。                 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                                 |   |       |           |
| 1. オリエンテーション・実習の予定について 2～14.教案作成・実習 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JP0064001 |
| 科目名       | 博物館実習【博】   | 単位数   | 3         |
| 科目名（英語表記） | Practical Museum Training  |       |           |
| 担当者名      | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 博物館の学芸員資格の取得を目指すものに、必要な実務的経験の場を提供し、知識を教授して、学芸員としての実践的能力を養う。具体的には、見学を含むあらかじめの学内実習を通じて博物館実務の実際に習熟したうえで、館園実習に赴いて現場体験を積む。館園実習後ふたたび学内実習において、現場体験に基づいて、博物館理解をさらに深める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 授業中に適宜配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | とくになし  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 平常点50%（出席状況等と報告内容による）と学外実習成績50%  |       |           |
| 到達目標      | 学内における実習と、実際に活動している博物館における実習を通じて、博物館学芸員として必要とされる業務に対する理解、必要とされる技術の習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習      | 自ら体験して体得する授業です。積極的に授業の課題に取り組むことが必要です。  |       |           |

#### 受講者への要望

主に学外博物館の実習に備えた実習科目です。原則的に欠席は認められません。実習科目なので、変則的な授業が行われることがあります。かならず掲示を確認してください。|また、興味本位の履修は断ります。学芸員資格取得に必要な単位の大部分を取得しているか否かを確認したうえで、要件を満たしている履修希望者のみに最終的な履修登録を認めます。

#### 講義の順序とポイント

1. 学内実習－考古系博物館の見学実習1|2. 学内実習－考古系博物館の見学実習2|3. 学内実習－美術系博物館の見学実習1|4. 学内実習－美術系博物館の見学実習2|5. 学内実習－展示・資料の保管の実務1|6. 学内実習－展示・資料の保管の実務2|7. 学内実習－陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習1|8. 学内実習－陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習2|9. 学内実習－各種茶道具の取り扱い実習1|10. 学内実習－各種茶道具の取り扱い実習2|11. 学内実習－館園実習に関する事前指導、注意点の把握|12. 館園実習－博物館における実務体験1|13. 館園実習－博物館における実務体験2|14. 学内実習－各自の博物館実習体験の報告と問題点の指摘並びに指導|15. 学内実習－館園実習経験による理解に基づいて、各自の理想の博物館像を構想して発表する|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0068A01 |
| 科目名        | 職業指導 I (農業)【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Vocational Guidance I  |       |           |
| 担当者名       | 名取 一好  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 職業指導 I では、職業の概念、職業指導の役割や課題、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携の現状などについて解説する。また、近年、フリーターやニートの著しい増加など、若者の職業離れが社会問題となっていることから、その原因や解決策等について互いに意見交換することによる討議形式の授業も行う。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材(その他)    | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%) 出席状況による。授業中に課す小レポート(30%) 授業終了時の最終レポート(40%)。   |       |           |
| 到達目標       | 職業指導の意義、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携等を理解するとともに、わが国における産業・就業構造の現状や専門教育の実態を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアを通して、社会・経済・教育等に関する情報に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 職業の概念 3. 職業分類について 4. 職業観・勤労観 5. 職業指導の役割と課題 6. 職業指導・進路指導の歴史 7. 職業指導と進路指導の定義 8. 高等学校における職業指導 9. 高等学校学習指導要領(特別活動における進路指導) 10. 職業適性検査 11. 専門高校生の進路状況・進路意識 12. 職業教育の現状と課題 13. わが国における学校教育・職業教育制度 14. 専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携 15. 職業指導 I のまとめ |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JP0068B01 |
| 科目名       | 職業指導Ⅱ（農業）【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Vocational Guidance II  |       |           |
| 担当者名      | 名取 一好   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 職業指導Ⅱでは、職業指導・キャリア教育に関する教育行政、わが国におけるキャリア教育や諸外国における職業・キャリア教育の現状と課題等について解説する。また、高等学校は、就職するにせよ、進学するにせよ、生徒を学校から社会へ導く重要な役割を持つ教育機関であるが、解決すべき課題もあることから、高等学校におけるキャリア教育の今後の在り方等について互いに意見交換する討議形式の授業も行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（30％）出席状況による。授業中に課す小レポート（30％）授業終了時の最終レポート（40％）。  |       |           |
| 到達目標      | 学校におけるキャリア教育、諸外国における職業・キャリア教育の現状等を理解するとともに、労働関係法規等を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。  |       |           |
| 準備学習      | 新聞等のメディアを通して、社会経済や教育に関する情報に関心をもっておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
|           | 能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント  |       |           |
|           | 1. 職業指導Ⅰの復習 2. キャリア教育の定義と意義 3. キャリア教育の現状と課題 4. 学校におけるキャリア教育の現状と課題Ⅰ 5. 学校におけるキャリア教育の現状と課題Ⅱ 6. 職業指導・キャリア教育に関する教育行政 7. 職業指導・キャリア教育の方法論 8. 諸外国における職業・キャリア教育（アメリカ合衆国） 9. 諸外国における職業・キャリア教育（ドイツ） 10. 諸外国における職業・キャリア教育（イギリス） 11. 諸外国における職業・キャリア教育（フランス） 12. 職業指導・キャリア教育の評価について 13. 労働関係法規 14. 職業指導Ⅱのまとめ 15. これからの高等学校教育や職業指導の在り方についての展望 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JP0069A01 |
| 科目名        | 農業科教育法 I 【教】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) |  |       |           |
| 担当者名       | 名取 一好  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>農業科教育法 I では、農業教育の変遷および現状の分析から、その特質を探るとともに、高等学校学習指導要領の意義や内容および農業高校における生徒の意欲・関心・態度を向上させるための授業のあり方やその方法など、当該教科の指導の基礎や背景について広い視野から総論的に考察し、当該教科についての多面的な理解の徹底とともに、教授能力の育成を図る。  授業は、その時々々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事について紹介するとともに、農業や教育に関するテレビ番組などの映像資料も用いる。授業は講義を中心に進めるが、教師としての教授能力育成の観点から、これらの内容をテーマとした討議法による授業も予定している。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) 出席状況による。授業中に課す小レポート (30%) 授業終了時のレポート (40%)。  |       |           |
| 到達目標       | 高等学校学習指導要領等、中等農業教育に関する基礎的・基本的な事項を理解するとともに、農業の実態をも考慮に入れた視点から教授できる力量をつけることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアを通して、農業や教育に関する情報に関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べるよう心がける。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. わが国の教育制度   2. 職業教育政策の現状と課題   3. 明治以降における教育制度及び農業教育の歴史   4. 農業教育の現状と課題   5. 教育課程行政の現状と高等学校学習指導要領の意義   6. 中央教育審議会答申の内容と高等学校学習指導要領の見方   7. 高等学校学習指導要領 (総則)   8. 高等学校学習指導要領 (農業)   9. 高等学校学習指導要領 (農業基礎科目)   10. 高等学校学習指導要領 (課題研究・総合実習)   11. 高等学校学習指導要領 (農業経営系科目)   12. 高等学校学習指導要領 (栽培・畜産系科目)   13. 高等学校学習指導要領 (生活系科目・他)   14. 農業教科の特質   15. 農業科教育法 I のまとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JP0069B01 |
| 科目名        | 農業科教育法Ⅱ【教】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  |   |       |           |
| 担当者名       | 名取 一好   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>農業科教育法Ⅱでは、農業科教育法Ⅰで学んだ内容を受け、学習指導要領、農業科目の教科書、ならびに農業に関する教材を基にして農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の目的とその方法について解説する。  授業は、農業科教育法Ⅰで解説した農業教科の学習指導要領を基に、学習指導計画、学習評価、教科書行政の解説を中心に行うが、その時々々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事についても紹介する。また、授業は講義を中心に進めるが、教師としての教授能力育成の観点から、これらの内容をテーマとした討議法による授業も予定している。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況による。授業中に課す小レポート(30%)授業終了時のレポート(40%)。  |       |           |
| 到達目標       | 農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の意義・目的・方法等について理解するとともに、指導計画案の作成、模擬授業等を通して、指導の実践的感覚および力量の形成を目指す。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアを通して、農業や教育に関する情報に関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 農業科教育法Ⅰの復習  2. 農業教科に関する学習指導法  3. 学習指導計画の意義等  4. 指導計画案の作成及びそれに基づいた模擬授業Ⅰ  5. 指導計画案の作成及びそれに基づいた模擬授業Ⅱ  6. 農業教科における評価規準  7. 農業教科における学習評価の特性  8. 学習評価の目的や方法等Ⅰ  9. 学習評価の目的や方法等Ⅱ  10. 教科書の検定・供給制度  11. 農業教科に関する教材研究  12. 諸外国の教育制度・農業教育の現状  13. 農業問題および教育問題等についての解説と討議  14. これからの高等学校教育と専門高校の在り方についての展望  15. 農業科教育法Ⅱのまとめ</p> |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JP0070001 |
| 科目名  | 図書館情報技術論 【司】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  |   |       |           |
| 担当者名   | 堀田 穰  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | コンピュータの基礎、図書館業務システムの理解、データベースの基礎・概要、検索エンジン、デジタルアーカイブ、クラウドコンピューティング等々図書館をめぐる情報技術を解説する。                       |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 図書館業務にかかわる情報技術は、飛躍的に発展して来ている。その到達状況を理解し、また可能性についても把握しておくことが必要になっている。そして技術である以上、実際に使いこなせることが求められるため、演習も実施する。 |       |           |
| 準備学習   | インターネットでデジタル・アーカイブズに手軽に触れられるようになっているので、自らの関心分野に積極的に使用するよう。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| それぞれが所属する学部、学科、専攻の学問分野に、学習したことを生かせるように取り組んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会、地方公共団体の電子化 3.蔵書管理と貸出管理、情報技術活用の現状 4.蔵書検索と図書館間ネットワーク 5.図書館の業務システム 6.図書館からの情報発信、ホームページの組み立て 7.データベース概要 8.データベースの仕組み 9.検索エンジンの位置と可能性 10.検索エンジンの仕組み 11.電子化、電子資料の管理技術 12.コンピュータシステム管理概要 13.デジタルアーカイブの設計 14.デジタルアーカイブの仕組み 15.ソリューションと図書館 |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         |            |     |     |     |       |        |
|             |            |     |     |     |       |        |





|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ040505 |     |       |        |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（ゴルフ）   | 単位数   | 1         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Golf)   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | <p>《ゴルフ》というスポーツは、  ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれ         という、真に国際的なスポーツである。  ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男      女すべてと一緒に楽しむことができる。  ③ハンディキャップ制を採用している      ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参      加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。  ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる      ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と      技術がものをいう。  ⑤未知の人との出会いがある      ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3~4 人が一組となってプレーするた      め、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々      な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるの      である。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など、人間的なマナーが必用となる。 </p> |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）   |   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 講義要項「生涯スポーツプログラム」3-9）を参照  |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | 構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、  生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、  スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。  将来ゴルフへの参加ができる基礎的な能力・技術を体得する。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 特になし。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |   |       |           |     |       |        |
| 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズ   を必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500円）が必要。授業内で用意できる   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |     |       |        |
| <p>ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導   ・ボールを真っ直ぐに打つための理論   ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1ラウンド 2150円、が別途必要になります）    [初心者] ・正しいゴルフスイングを理解する・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7番）のアプローチ練習 ・10~50ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使ってのパッティング練習   [中・上級者]   ・ゴルフコースラウンドを目標・ショートアイアンを正確に・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ・ロングアイアンの練習・ウッド（1W、3W、4W、5W）の練習・パッティング練習   ・正確なアプローチ    1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること）   2.フィットネステスト B（室内練習-グリップ、アドレス、スイング理論）   3.ショートアイアン（PW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング   4.ショートアイアンのハーフスイング 軸を作ったのスイング   5.ショートアイアンのハーフスイング 体重移動のスイング   6.ミドルアイアン（7   ）のハーフスイング   7.ヘッドスピードの加速 ホロスイング   8.アプローチ ランニングアプローチとロブショット   9.ヘッドスピードの加速 ホロスイング、ミドルアイアン   10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上   11.グラウンドでのコースラウンド練習と方向性の向上   12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー   13.PW、7   , アプローチ・テスト   14. 15.コースラウンド（学外実習）個別指導</p> |   |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ040606 |     |       |        |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（ゴルフ）   | 単位数   | 1         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Golf)   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | <p>《ゴルフ》というスポーツは、  ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれ   るという、真に国際的なスポーツである。  ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男   女すべてと一緒に楽しむことができる。  ③ハンディキャップ制を採用している   ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参   加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。  ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる   ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と   技術がものをいう。  ⑤未知の人との出会いがある   ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3~4 人が一組となってプレーするた   め、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々   な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるの   である。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など、人間的なマナーが必用となる。 </p> |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）   |   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 講義要項「生涯スポーツプログラム」3-9) を参照   |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | 構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、  生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、  スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。  将来ゴルフへの参加ができる基礎的な能力・技術を体得する。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 特になし。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |   |       |           |     |       |        |
| 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズ   を必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できる  |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |     |       |        |
| ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導   ・ボールを真っ直ぐに打つための理論   ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります）    [初心者] ・正しいゴルフスイングを理解する・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習 ・10~50 ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使っ   てのパッティング練習   [中・上級者]   ・ゴルフコースラウンドを目標・ショートアイアンを正確に・ミドルアイアンを真っ直   ぐに打つ・ロングアイアンの練習・ウッド（1W、3W、4W、5W）の練習・パッティング練習   ・正確なアプローチ    1.オリエンテーシ   ョン、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること）   2.フィットネステスト B（室内練習-グリップ、アドレス、ス   イング理論）   3.ショートアイアン（PW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング   4.ショートアイアンのハーフス   イング 軸を作ったのスイング   5.ショートアイアンのハーフスイング 体重移動のスイング   6.ミドルアイアン（7   ）のハーフスイング   7.ヘッドスピードの加速 ホロスイング   8.アプローチ ランニングアプローチとロブショット   9.ヘッドス   ピードの加速 ホロスイング、ミドルアイアン   10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上   11.グラ   ウウンドでのコースラウンド練習と方向性の向上   12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー   13.PW、7   , アプ   ローチ・テスト   14. 15.コースラウンド（学外実習）個別指導 |   |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待   | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JSJ050101 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（サッカー）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Soccer)  |       |           |
| 担当者名      | 西 政治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | サッカーは、世界で最も多くの人々に親しまれ、楽しまれているスポーツである。そこであれこれ技術を個々別々に習得しようとしたり、あるいは、それを習得したからサッカーができるようになったと考えず、サッカーをサッカーらしくしている技術的特質を「コンビネーションを含むシュート」ととらえ、基礎技術を「2～4人のコンビネーションによるパスシュート」（トラッピングやドリブルを含む）を中心に考える。初心者、経験者を問わず、技術の向上を図るとともに、多くの仲間をつくり、交流を大切に、安全で楽しさを求めるものとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照   |       |           |
| 到達目標      | サッカーのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の計画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、フィットネステストA | 2 フィットネステストB | 3 安全対策 ウォームアップ ボールコントロール・ボールリフティング | トラッピング・ドリブル クーリングダウン | 4 攻守の基礎 トラッピングーパスーシュート・ドリブルーシュート | コンビネーションーパスーシュート ミニゲーム クーリングダウン | 5 対人(攻防) 4対1・3対1・4対2 ミニゲーム クーリングダウン | 6 対人(攻防) 2対2・3対3・4対4 ミニゲーム クーリングダウン | 7 ウォームアップ フルコートゲーム（チームメイトの特徴を知る）クーリングダウン | 8 ウォームアップ フルコートゲーム（MTM）クーリングダウン | 9 ウォームアップ フルコートゲーム（ポジショニングを考える）クーリングダウン | 10 ウォームアップ フルコートゲーム（ホームポジションを考える）クーリングダウン | 11 ウォームアップ フルコートゲーム（ゲーム・マネジメントする）クーリングダウン | 12 ウォームアップ フルコートゲーム（チーム・マネジメント）クーリングダウン | 13 ウォームアップ フルコートゲーム（チームの完成）クーリングダウン | 14 ウォームアップ フルコートゲーム（チームの完成）クーリングダウン | 15 まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JSJ050202 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（サッカー）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Soccer)   |       |           |
| 担当者名      | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | サッカーは、世界で最も多くの人々に親しまれ、楽しまれているスポーツである。そこであれこれ技術を個々別々に習得しようとしたり、あるいは、それを習得したからサッカーができるようになったと考えず、サッカーをサッカーらしくしている技術的特質を「コンビネーションを含むシュート」ととらえ、基礎技術を「2～4人のコンビネーションによるパス－シュート」（トラッピングやドリブルを含む）を中心に考える。初心者、経験者を問わず、技術の向上を図るとともに、多くの仲間をつくり、交流を大切に、安全で楽しさを求めるものとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照  |       |           |
| 到達目標      | サッカーのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の計画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、フィットネステストA | 2 フィットネステストB | 3 安全対策 ウォームアップ ボールコントロール・ボールリフティング | トラッピング・ドリブル クーリングダウン | 4 攻守の基礎 トラッピング－パス－シュート・ドリブル－シュート | コンビネーション－パス－シュート ミニゲーム クーリングダウン | 5 対人(攻防) 4対1・3対1・4対2 ミニゲーム クーリングダウン | 6 対人(攻防) 2対2・3対3・4対4 ミニゲーム クーリングダウン | 7 ウォームアップ フルコートゲーム（チームメイトの特徴を知る）クーリングダウン | 8 ウォームアップ フルコートゲーム（MTM）クーリングダウン | 9 ウォームアップ フルコートゲーム（ポジショニングを考える）クーリングダウン | 10 ウォームアップ フルコートゲーム（ホームポジションを考える）クーリングダウン | 11 ウォームアップ フルコートゲーム（ゲーム・マネジメントする）クーリングダウン | 12 ウォームアップ フルコートゲーム（チーム・マネジメント）クーリングダウン | 13 ウォームアップ フルコートゲーム（チームの完成）クーリングダウン | 14 ウォームアップ フルコートゲーム（チームの完成）クーリングダウン | 15 まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ060101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（ソフトボール）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Softball)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席と態度30%・レポート30%・技術40%  |       |           |
| 到達目標       | ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを獲得する。試合の企画・立案・運営が出来るようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 事前にソフトボールの技術やルールについて本を読み、専門用語などを理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション、フィットテストA  2. フィットテストB  3. 基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①  ・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）  ・バッティング（トス・フリー・バンド）  4. 基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②  5. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①  ・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）  ・ノック（内野・外野）  ・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）  6. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②  7. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③  8. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①  , 守備フォーメーション  ・攻撃フォーメーション  9. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②  10. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③  11. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①  12. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②  13. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③  14. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④  15. まとめ レポート提出   </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ060202 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（ソフトボール）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Softball)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席と態度30%・レポート30%・技術40%  |       |           |
| 到達目標       | ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを獲得する。試合の企画・立案・運営が出来るようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 事前にソフトボールの技術やルールについて本を読み、専門用語などを理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション、フィットテストA  2. フィットテストB  3. 基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①  ・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）  ・バッティング（トス・フリー・バンド）  4. 基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②  5. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①  ・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）  ・ノック（内野・外野）  ・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）  6. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②  7. 組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③  8. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①  , 守備フォーメーション  ・攻撃フォーメーション  9. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②  10. チームプレイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③  11. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①  12. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②  13. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③  14. ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④  15. まとめ レポート提出   </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ070101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（テニス）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Tennis)  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、 かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな 役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも 気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯 スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができよう。 しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに 立ってプレーしてみると、なかなかおもしろいとはいかないものである。 そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の 広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達 してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップや フェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリー スポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して 好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく 理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた 技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照  |       |           |
| 到達目標       | この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。(戦略・理論を含む) 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。  おもな内容 1.オリエンテーション、フィットネステストA 2.フィットネステストB 3~15 ・ラケットに慣れる ・ボールのパウンドに慣れる ・フットワークを覚える ・打点の位置を覚える ・クロス、ストローク打ちを覚える ・ボレーとストロークの打ち方を覚える ・サーブを覚える ・サーブからラリーを覚える ・ラリー練習からダブルスゲーム ・ダブルスゲーム ・ダブルスのホームーション ・ダブルスの簡単なスコアを付けてのゲーム ・ゲームの運営(5人でのダブルス) </p>  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ070202 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（テニス）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Tennis)  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、 かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな 役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも 気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯 スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができよう。 しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに 立ってプレーしてみると、なかなかおもしろいとはいかないものである。 そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の 広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達 してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップや フェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリー スポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して 好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく 理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた 技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照  |       |           |
| 到達目標       | この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。(戦略・理論を含む) 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。  おもな内容 1.オリエンテーション、フィットネステストA 2.フィットネステストB 3~15 ・ラケットに慣れる ・ボールのパウンドに慣れる ・フットワークを覚える ・打点の位置を覚える ・クロス、ストローク打ちを覚える ・ボレーとストロークの打ち方を覚える ・サーブを覚える ・サーブからラリーを覚える ・ラリー練習からダブルスゲーム ・ダブルスゲーム ・ダブルスのホームーション ・ダブルスの簡単なスコアを付けてのゲーム ・ゲームの運営(5人でのダブルス) </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ070303 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（テニス）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Tennis)   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、 かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな 役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも 気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯 スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができよう。 しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに 立ってプレーしてみると、なかなかおもしろいとはいかないものである。 そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の 広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達 してテニスの素晴 らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップや フェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリー スポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して 好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく 理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた 技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照   |       |           |
| 到達目標       | この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。   |       |           |
| 準備学習       | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。(戦略・理論を含む) 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。  おもな内容 1.オリエンテーション、フィットネステストA 2.フィットネステストB 3~15 ・ラケットに慣れる ・ボールのパウンドに慣れる ・フットワークを覚える ・打点の位置を覚える ・クロス、ストローク打ちを覚える ・ボレーとストロークの打ち方を覚える ・サーブを覚える ・サーブからラリーを覚える ・ラリー練習からダブルスゲーム ・ダブルスゲーム ・ダブルスのホームーション ・ダブルスの簡単なスコアを付けてのゲーム ・ゲームの運営(5人でのダブルス) </p>   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                 |   |       |           |
|---------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                              | 2012  | 授業コード | JSJ070404 |
| 科目名                             | 生涯スポーツ実技（テニス）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）                       | Lifelong Sports Practice (Tennis)   |       |           |
| 担当者名                            | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                            | <p>テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、 かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな 役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供からお年寄りまで、性別を問わず誰でも 気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯 スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができよう。 しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに 立ってプレーしてみると、なかなかおもしろいとはいかないものである。 そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の 広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達 してテニスの素晴 らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップや フェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリー スポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して 好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく 理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた 技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）                        |   |       |           |
| 教材（参考文献）                        |   |       |           |
| 教材（その他）                         |   |       |           |
| 評価方法                            | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照   |       |           |
| 到達目標                            | この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。   |       |           |
| 準備学習                            | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望                         |   |       |           |
| 運動にふさわしい服装をすること。三国山オムニコートで実施する。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                      | <p>1. 少なくともダブルスのゲームが楽しめるようにする。(戦略・理論を含む) 2. 練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3. 社会人として色々な施設を利用してテニスを楽しむことができるようにする。  おもな内容 1.オリエンテーション、フィットネステストA 2.フィットネステストB 3~15 ・ラケットに慣れる ・ボールのパウンドに慣れる ・フットワークを覚える ・打点の位置を覚える ・クロス、ストローク打ちを覚える ・ボレーとストロークの打ち方を覚える ・サーブを覚える ・サーブからラリーを覚える ・ラリー練習からダブルスゲーム ・ダブルスゲーム ・ダブルスのホームーション ・ダブルスの簡単なスコアを付けてのゲーム ・ゲームの運営(5人でのダブルス) </p>   |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSJ080101 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技(バスケットボール)   | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)   | Lifelong Sports Practice (Basketball)  |       |           |
| 担当者名  | 岩倉 留美子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 毎回の試合の中で、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身につけ、ゲームを重ねることで活用できるようにする。また、経験者は未経験者に対して特別に配慮し、お互いに教えあうこととする。希望者には授業の1～3回目の時間で特別指導を行い、必要に応じて授業のなかで個別指導を行う。また、経験者はそのレベルに応じた練習をお互いに提案し、実施する。 個人技能や集団技能を身につけるため、いろいろな練習方法を紹介し実践する。ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | バスケットボールのゲームが楽しくできるよう基本的な技術を身につける。特に個人のシュート力アップを図る。また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出てください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| *内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。 1. オリエンテーション、フィットネステストA  2. フィットネステストB、個人技能(シュート) 3. バスケットボールスキルテスト  ゴール下30秒シュート、フリースロー10本、スリーポイント10本  オールコートドリブルシュート、ジャンプシュート、3ポイントシュート  試しのゲーム 4. 個人技能  シューティング、(ドリブルシュート・ジャンプシュート・フリースロー・スリーポイント)  ミートからの抜き(もらい足)、3人のあわせのプレイ、ハーフコート2対1、  試しのゲーム 5. 班編成、ルール説明、個人技能と対人技能・ディフェンスとオフェンス(班ごとハーフコート3対3) 6.7.8.9.10.  班活動開始、シューティング、オールコートドリブルシュート、ミートからの抜き、3人のあわせのプレイ、  ハーフコート2対1、ハーフコート3対3  リーグ戦I～V 11. 班再編成、ハーフコートチームオフェンス、審判法、ゲーム 12. バスケットボールスキルテスト  オールコートドリブルシュート(30秒)、ゴール下シュート(30秒)ジャンプシュート10本、3P10本  13. シューティング、ハーフコートチームオフェンス、ゲーム 14. シューティング、ゲーム 15. まとめのゲーム・レポートの説明、及び提出について |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSJ080202 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技(バスケットボール)   | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)   | Lifelong Sports Practice (Basketball)  |       |           |
| 担当者名  | 岩倉 留美子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 毎回の試合の中で、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身につけ、ゲームを重ねることで活用できるようにする。また、経験者は未経験者に対して特別に配慮し、お互いに教えあうこととする。希望者には授業の1～3回目の時間で特別指導を行い、必要に応じて授業のなかで個別指導を行う。また、経験者はそのレベルに応じた練習をお互いに提案し、実施する。 個人技能や集団技能を身につけるため、いろいろな練習方法を紹介し実践する。ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | バスケットボールのゲームが楽しくできるよう基本的な技術を身につける。特に個人のシュート力アップを図る。また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出てください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| *内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。 1. オリエンテーション、フィットネステストA  2. フィットネステストB、個人技能(シュート) 3. バスケットボールスキルテスト  ゴール下30秒シュート、フリースロー10本、スリーポイント10本  オールコートドリブルシュート、ジャンプシュート、3ポイントシュート  試しのゲーム 4. 個人技能  シューティング、(ドリブルシュート・ジャンプシュート・フリースロー・スリーポイント)  ミートからの抜き(もらい足)、3人のあわせのプレイ、ハーフコート2対1、  試しのゲーム 5. 班編成、ルール説明、個人技能と対人技能・ディフェンスとオフェンス(班ごとハーフコート3対3) 6.7.8.9.10.  班活動開始、シューティング、オールコートドリブルシュート、ミートからの抜き、3人のあわせのプレイ、  ハーフコート2対1、ハーフコート3対3  リーグ戦I～V 11. 班再編成、ハーフコートチームオフェンス、審判法、ゲーム 12. バスケットボールスキルテスト  オールコートドリブルシュート(30秒)、ゴール下シュート(30秒)ジャンプシュート10本、3P10本  13. シューティング、ハーフコートチームオフェンス、ゲーム 14. シューティング、ゲーム 15. まとめのゲーム・レポートの説明、及び提出について |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSJ080303 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技(バスケットボール)   | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)   | Lifelong Sports Practice (Basketball)  |       |           |
| 担当者名  | 岩倉 留美子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 毎回の試合の中で、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身につけ、ゲームを重ねることで活用できるようにする。また、経験者は未経験者に対して特別に配慮し、お互いに教えあうこととする。希望者には授業の1～3回目の時間で特別指導を行い、必要に応じて授業のなかで個別指導を行う。また、経験者はそのレベルに応じた練習をお互いに提案し、実施する。 個人技能や集団技能を身につけるため、いろいろな練習方法を紹介し実践する。ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | バスケットボールのゲームが楽しくできるよう基本的な技術を身につける。特に個人のシュート力アップを図る。また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出てください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| *内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。 1. オリエンテーション、フィットネステストA  2. フィットネステストB、個人技能(シュート) 3. バスケットボールスキルテスト  ゴール下30秒シュート、フリースロー10本、スリーポイント10本  オールコートドリブルシュート、ジャンプシュート、3ポイントシュート  試しのゲーム 4. 個人技能  シューティング、(ドリブルシュート・ジャンプシュート・フリースロー・スリーポイント)  ミートからの抜き(もらい足)、3人のあわせのプレイ、ハーフコート2対1、  試しのゲーム 5. 班編成、ルール説明、個人技能と対人技能・ディフェンスとオフェンス(班ごとハーフコート3対3) 6.7.8.9.10.  班活動開始、シューティング、オールコートドリブルシュート、ミートからの抜き、3人のあわせのプレイ、  ハーフコート2対1、ハーフコート3対3  リーグ戦I～V 11. 班再編成、ハーフコートチームオフェンス、審判法、ゲーム 12. バスケットボールスキルテスト  オールコートドリブルシュート(30秒)、ゴール下シュート(30秒)ジャンプシュート10本、3P10本  13. シューティング、ハーフコートチームオフェンス、ゲーム 14. シューティング、ゲーム 15. まとめのゲーム・レポートの説明、及び提出について |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSJ080404 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技(バスケットボール)   | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)   | Lifelong Sports Practice (Basketball)  |       |           |
| 担当者名  | 岩倉 留美子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 毎回の試合の中で、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身につけ、ゲームを重ねることで活用できるようにする。また、経験者は未経験者に対して特別に配慮し、お互いに教えあうこととする。希望者には授業の1～3回目の時間で特別指導を行い、必要に応じて授業のなかで個別指導を行う。また、経験者はそのレベルに応じた練習をお互いに提案し、実施する。 個人技能や集団技能を身につけるため、いろいろな練習方法を紹介し実践する。ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特になし   |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | バスケットボールのゲームが楽しくできるよう基本的な技術を身につける。特に個人のシュート力アップを図る。また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出てください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| *内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。 1. オリエンテーション、フィットネステストA  2. フィットネステストB、個人技能(シュート) 3. バスケットボールスキルテスト  ゴール下30秒シュート、フリースロー10本、スリーポイント10本  オールコートドリブルシュート、ジャンプシュート、3ポイントシュート  試しのゲーム 4. 個人技能  シューティング、(ドリブルシュート・ジャンプシュート・フリースロー・スリーポイント)  ミートからの抜き(もらい足)、3人のあわせのプレイ、ハーフコート2対1、  試しのゲーム 5. 班編成、ルール説明、個人技能と対人技能・ディフェンスとオフェンス(班ごとハーフコート3対3) 6.7.8.9.10.  班活動開始、シューティング、オールコートドリブルシュート、ミートからの抜き、3人のあわせのプレイ、  ハーフコート2対1、ハーフコート3対3  リーグ戦I～V 11. 班再編成、ハーフコートチームオフェンス、審判法、ゲーム 12. バスケットボールスキルテスト  オールコートドリブルシュート(30秒)、ゴール下シュート(30秒)ジャンプシュート10本、3P10本  13. シューティング、ハーフコートチームオフェンス、ゲーム 14. シューティング、ゲーム 15. まとめのゲーム・レポートの説明、及び提出について |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ090101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ090202 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ090303 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JSJ090404 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（バドミントン）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名      | 今村 悟  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標      | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。                                   |       |           |

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、フィットネステストA|2 フィットネステストB|3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携|4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン|5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ|6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスの簡易ゲームとジャッジ|7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルの簡易ゲームとジャッジ|8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスのゲームとジャッジ|9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルのゲームとジャッジ|10 ダブルスのリーグ戦と運営|11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営|12 シングルのリーグ戦と運営|13 シングルのリーグ戦と運営|14 トーナメント戦と運営|15 まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ090505 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 三浦 重則  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JSJ090606 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（バドミントン）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名      | 今村 悟  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標      | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。                                   |       |           |

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、フィットネステストA|2 フィットネステストB|3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携|4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン|5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ|6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスの簡易ゲームとジャッジ|7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルの簡易ゲームとジャッジ|8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスのゲームとジャッジ|9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルのゲームとジャッジ|10 ダブルスのリーグ戦と運営|11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営|12 シングルのリーグ戦と運営|13 シングルのリーグ戦と運営|14 トーナメント戦と運営|15 まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ090707 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技 (バドミントン)   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク (ステップ・スキップ走法)・フットワークとストロークの連携 4 ストローク (アンダー・オーバー)・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス (ショート・ロング)・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JSJ090808 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（バドミントン）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名      | 三浦 重則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標      | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。                                   |       |           |

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1 オリエンテーション、フィットネステストA|2 フィットネステストB|3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携|4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン|5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ|6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスの簡易ゲームとジャッジ|7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルの簡易ゲームとジャッジ|8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| ダブルスのゲームとジャッジ|9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ| シングルのゲームとジャッジ|10 ダブルスのリーグ戦と運営|11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営|12 シングルのリーグ戦と運営|13 シングルのリーグ戦と運営|14 トーナメント戦と運営|15 まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JSJ090909 |
| 科目名       | 生涯スポーツ実技（バドミントン）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名      | 竹下 恵都子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標      | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。                                   |       |           |

|  |  |
|--|--|
| 受講者への要望  |  |
| 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |  |
| 講義の順序とポイント   |  |
| 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ091010 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 竹下 恵都子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ091111 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（バドミントン）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Badminton)   |       |           |
| 担当者名       | 今村 悟   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%  |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携 4 ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ091212 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技 (バドミントン)   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Lifelong Sports Practice (Badminton)  |       |           |
| 担当者名       | 今村 悟  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 具体的には、態度20%、レポート40%、技術40%   |       |           |
| 到達目標       | バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3 ラケットワークとフットワーク (ステップ・スキップ走法)・フットワークとストロークの連携 4 ストローク (アンダー・オーバー)・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン 5 サービス (ショート・ロング)・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ&レシーブ 6 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスの簡易ゲームとジャッジ 7 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルの簡易ゲームとジャッジ 8 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  ダブルスのゲームとジャッジ 9 基礎打ち (ドロップ・ドライブ)・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ&レシーブ  シングルのゲームとジャッジ 10 ダブルスのリーグ戦と運営 11 ミックスダブルスのリーグ戦と運営 12 シングルのリーグ戦と運営 13 シングルのリーグ戦と運営 14 トーナメント戦と運営 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JSJ100101 |
| 科目名  | 生涯スポーツ実技（バレーボール）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Volleyball)   |       |           |
| 担当者名   | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>バレーボールを通じて学生間の交流を深め、楽しいスポーツ活動を展開する中で、スポーツを享受する考え方を高めると共に、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。  実技においては、基礎技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレーに具体的に生かし、楽しみながら理論的なゲームが実践出来るようになることを目標に授業を進めます。  バレーボールは、ラリーを続けることで面白さを実感することのできるものです。そのためには個人技能を伸ばすことを最優先に考え、並行して集団技能を高めていくことが大切です。生涯スポーツとして個人が楽しむだけでなく、仲間全体で目標を立て協力する態度も養う。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照   |       |           |
| 到達目標   | 到達目標   この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。  |       |           |
| 準備学習   | 準備学習   特になし。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 運動にふさわしい服装をすること。体育館用スポーツシューズを持参すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1.オリエンテーション、フィットネステストA  2.フィットネステストB、グループ編成  3.パス(オーバーハンド、アンダーハンド)、サーブ(アンダー、変化球、ドライブ、ジャンプ)簡易ゲーム  4.基礎技術の習得とルールの理解簡易ゲームと今後の課題  5.トスの重要性(オープン、平行、クイック、バック)アタック(セミ、オープン、平行、クイック、バック、時間差)、ブロック、フェント  簡易ゲーム  6.組織的な攻撃と防御 簡易ゲーム  7.組織的な攻撃と防御 簡易ゲーム ゲーム分析と今後の課題  8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、簡易ゲーム  9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上、ゲーム 10.ゲームと審判法、攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上 11.ゲームと審判法、攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上 12.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 13.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 14.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 15.まとめ各自の体力とバレーボール</p> |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | JSJ100202 |
| 科目名  | 生涯スポーツ実技（バレーボール）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Volleyball)   |       |           |
| 担当者名   | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>バレーボールを通じて学生間の交流を深め、楽しいスポーツ活動を展開する中で、スポーツを享受する考え方を高めると共に、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。  実技においては、基礎技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレーに具体的に生かし、楽しみながら理論的なゲームが実践出来るようになることを目標に授業を進めます。  バレーボールは、ラリーを続けることで面白さを実感することのできるものです。そのためには個人技能を伸ばすことを最優先に考え、並行して集団技能を高めていくことが大切です。生涯スポーツとして個人が楽しむだけでなく、仲間全体で目標を立て協力する態度も養う。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 講義要項「生涯スポーツプログラム」(3-9)を参照   |       |           |
| 到達目標   | 到達目標   この授業は、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、 生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化 の生活化をはかる。  |       |           |
| 準備学習   | 準備学習   特になし。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 運動にふさわしい服装をすること。体育館用スポーツシューズを持参すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1.オリエンテーション、フィットネステストA  2.フィットネステストB、グループ編成  3.パス(オーバーハンド、アンダーハンド)、サーブ(アンダー、変化球、ドライブ、ジャンプ)簡易ゲーム  4.基礎技術の習得とルールの理解簡易ゲームと今後の課題  5.トスの重要性(オープン、平行、クイック、バック)アタック(セミ、オープン、平行、クイック、バック、時間差)、ブロック、フェント  簡易ゲーム  6.組織的な攻撃と防御 簡易ゲーム  7.組織的な攻撃と防御 簡易ゲーム ゲーム分析と今後の課題  8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、簡易ゲーム  9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上、ゲーム 10.ゲームと審判法、攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上 11.ゲームと審判法、攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーションチームワークの向上 12.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 13.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 14.ゲームと審判法、簡易スコアの作成(ゲーム分析) 15.まとめ各自の体力とバレーボール</p> |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ110101 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（フィットネス）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Fitness)  |       |           |
| 担当者名  | 三浦 重則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。  具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要時にプリントを配布。  |       |           |
| 教材（その他）   | 特になし  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）、トレーニング日誌（20%）、レポート（40%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。  |       |           |
| 到達目標  | <p>この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリ等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 オリエンテーション、フィットネステストA  2 フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明  3 ストレッチングの理論と実技  4 ストレッチング・フィットネストレーニングの実技  5 ストレッチング・フィットネストレーニングの実技  6 フィットネスプロフィールの作成  7 フィットネストレーニング  8 フィットネストレーニング  9 フィットネストレーニング 10 フィットネストレーニング 11 フィットネストレーニング 12 フィットネストレーニング 13 フィットネステストの評価 14 フィットネステストの評価 15 まとめ </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ110102 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（フィットネス）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Fitness)  |       |           |
| 担当者名  | 三浦 重則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。  具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特になし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要時にプリントを配布。  |       |           |
| 教材（その他）   | 特になし  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）、トレーニング日誌（20%）、レポート（40%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。  |       |           |
| 到達目標  | <p>この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリ等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 オリエンテーション、フィットネステストA  2 フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明  3 ストレッチングの理論と実技  4 ストレッチング・フィットネストレーニングの実技  5 ストレッチング・フィットネストレーニングの実技  6 フィットネスプロフィールの作成  7 フィットネストレーニング  8 フィットネストレーニング  9 フィットネストレーニング 10 フィットネストレーニング 11 フィットネストレーニング 12 フィットネストレーニング 13 フィットネステストの評価 14 フィットネステストの評価 15 まとめ </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ120101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（フットサル）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Futsal)  |       |           |
| 担当者名       | 西 政治   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは40メートル、ゴールラインは20メートルと従来のサッカーコート約9分の1の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少ないためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。      |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照   |       |           |
| 到達目標       | フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション、フィットネステストA   2. フィットネステストB   3. 競技の特性及び競技規則を理解する。<br>  4. ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)   5. パス - 対面パス (固定、動きながら、2グループ)  <br>6. パス - スクエアパス (2タッチ、ワンツー、3人目)   7. シュート - ポストシュート、ドリブルシュート<br>  8. シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)   9. 対人 - 1対1、2対1、2対2、3対2<br> 10. ウォーミングアップ - ゲーム (ドリブル) - クールダウン  11. ウォーミングアップ - ゲーム (パス) - クールダウン<br> 12. ウォーミングアップ - ゲーム (シュート) - クールダウン<br> 13. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン  14. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン<br> 15. まとめ |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ120202 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（フットサル）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Futsal)   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは40メートル、ゴールラインは20メートルと従来のサッカーコート約9分の1の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少ないためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。</p>                    |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照  |       |           |
| 到達目標       | フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション、フィットネステストA   2. フィットネステストB   3. 競技の特性及び競技規則を理解する。<br/>   4. ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)   5. パス - 対面パス (固定、動きながら、2グループ)  <br/> 6. パス - スクエアパス (2タッチ、ワンツー、3人目)   7. シュート - ポストシュート、ドリブルシュート<br/>   8. シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)   9. 対人 - 1対1、2対1、2対2、3対2<br/>  10. ウォーミングアップ - ゲーム (ドリブル) - クールダウン  11. ウォーミングアップ - ゲーム (パス) - クールダウン<br/>  12. ウォーミングアップ - ゲーム (シュート) - クールダウン<br/>  13. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン  14. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン<br/>  15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ120303 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（フットサル）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Futsal)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは40メートル、ゴールラインは20メートルと従来のサッカーコート約9分の1の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少ないためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。</p>                    |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照  |       |           |
| 到達目標       | フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション、フィットネステストA   2. フィットネステストB   3. 競技の特性及び競技規則を理解する。<br/>   4. ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)   5. パス - 対面パス (固定、動きながら、2グループ)  <br/> 6. パス - スクエアパス (2タッチ、ワンツー、3人目)   7. シュート - ポストシュート、ドリブルシュート<br/>   8. シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)   9. 対人 - 1対1、2対1、2対2、3対2<br/>  10. ウォーミングアップ - ゲーム (ドリブル) - クールダウン  11. ウォーミングアップ - ゲーム (パス) - クールダウン<br/>  12. ウォーミングアップ - ゲーム (シュート) - クールダウン<br/>  13. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン  14. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン<br/>  15. まとめ</p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSJ120404 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（フットサル）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Futsal)   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>フットサルとは、ポルトガル語とスペイン語のサッカーを表す言葉と、室内を表す言葉の合成語で、いつの間にか短く略され「フットサロ」→「フットサル」と変化して、全世界で定着していったものである。フットサルはミニチュアサッカーに近いが、タッチラインは40メートル、ゴールラインは20メートルと従来のサッカーコート約9分の1の広さを使用する。コートからボールが出ればキックインで再開し、オフサイドがないなど、コートだけでなく競技規則がサッカーと異なる。ボールはサッカーよりひと回り小さく弾みにくいうえに、人数も少ないためキック力などよりも、トラップや小さいパスなどの個人技が求められるスポーツである。授業では、楽しくフットサルをおこなうために必要な個人技術を身につけ、個人技術の応用であるグループ戦術を目指す。また、授業を通して仲間と積極的にコミュニケーション取り、継続して授業をおこなうことで体力の維持増進につながり、心身の健康を目指す。授業後半では、ルールを理解し審判ができるように目指し、ゲーム運営が出来るようになる。</p>                    |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」を参照  |       |           |
| 到達目標       | フットサルとサッカーのルールの違いを理解する。ゲームを円滑に行えるテクニックを身に付け、チームメイトと積極的にコミュニケーションが取れるようになる。最終的には、受講生でゲーム運営ができるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. オリエンテーション、フィットネステストA   2. フィットネステストB   3. 競技の特性及び競技規則を理解する。<br/>   4. ボールコントロール - ボールキープ(個人、グループ)   5. パス - 対面パス (固定、動きながら、2グループ)  <br/> 6. パス - スクエアパス (2タッチ、ワンツー、3人目)   7. シュート - ポストシュート、ドリブルシュート<br/>   8. シュート - パス～シュート(ワントラップ、ダイレクト)   9. 対人 - 1対1、2対1、2対2、3対2<br/>  10. ウォーミングアップ - ゲーム (ドリブル) - クールダウン  11. ウォーミングアップ - ゲーム (パス) - クールダウン<br/>  12. ウォーミングアップ - ゲーム (シュート) - クールダウン<br/>  13. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン  14. ウォーミングアップ - ゲーム (リーグ戦) - クールダウン<br/>  15. まとめ</p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ150101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（柔道）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Judo)  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の 理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない 学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 2セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 講義要項「生涯スポーツプログラム」3-9)を参照   |       |           |
| 到達目標       | 相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。  |       |           |
| 受講者への要望    | 柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3~15 主な内容 ・相手を倒すための組み方 ・自分が倒されないための組み方と移動方法 ・安全に倒されるための受け身 ・日常生活に役立つ礼法 ・相手が前に出てきた力を利用して倒す技 ・相手が後ろに下がる力を利用して倒す技 ・相手が横に移動した力を利用して倒す技 ・相手が掛けた技に倒されないための方法 ・相手が掛けた技を利用して相手を倒す方法 ・連続技の方法 ・寝技の効用 ・相手に逃げられない押さえ込み方法 ・押さえられた場合の逃げ方 ・安全な締め技の方法 活法の理論と実技 ・力のいらぬ間接技 ・実技テスト 相手が前に出てきた力を利用して倒す技  相手が後ろに下がる力を利用して倒す技  相手が横に移動した力を利用して倒す技<br>（上級者同じ技で行う） レポート 自分の生活における精力善用・自他共栄とは  自分の生活における礼法とは |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | JSJ150202 |     |       |        |
| 科目名                                     | 生涯スポーツ実技（柔道）   | 単位数   | 1         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）                               | Lifelong Sports Practice (Judo)  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 橋本 禎万  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | 柔道は日本古来の柔術が近代化され、今日では世界で多くの人が競技している。 しかし、本学で取り組む柔道は、生涯スポーツとして位置づけるために、競技力よりも、技術の 理論性を理解し、他のスポーツにも応用できるよう実施していきたい。柔道着を持参できない 学生は大学より貸し与える。学期末時に必ず返却すること。 2セメスター以上単位修得者は希望により京都府柔道連盟に初段の推薦をする。（有料）   |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                |  |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                |  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 講義要項「生涯スポーツプログラム」3-9)を参照   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 相手と対応して、身体を操作する武道の技術と礼法  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 特になし。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 柔道着を必ず着用すること。（※柔道着は大学にて貸し出す。）  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1 オリエンテーション、フィットネステストA 2 フィットネステストB 3~15 主な内容 ・相手を倒すための組み方 ・自分が倒されないための組み方と移動方法 ・安全に倒されるための受け身 ・日常生活に役立つ礼法 ・相手が前に出てきた力を利用して倒す技 ・相手が後ろに下がる力を利用して倒す技 ・相手が横に移動した力を利用して倒す技 ・相手が掛けた技に倒されないための方法 ・相手が掛けた技を利用して相手を倒す方法 ・連続技の方法 ・寝技の効用 ・相手に逃げられない押さえ込み方法 ・押さえられた場合の逃げ方 ・安全な締め技の方法 活法の理論と実技 ・力のいらぬ間接技 ・実技テスト 相手が前に出てきた力を利用して倒す技  相手が後ろに下がる力を利用して倒す技  相手が横に移動した力を利用して倒す技<br>（上級者同じ技で行う） レポート 自分の生活における精力善用・自他共栄とは  自分の生活における礼法とは |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ160101 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（卓球）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Table Tennis)   |       |           |
| 担当者名  | 今村 悟  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツは実践の科学であるので、まず参加することが大前提となる。参加することによって仲間づくりや、健康に対する意識の向上、試合での作戦等を学ぶ。経験者は初心者へのアドバイスと補助を行なう。              |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 具体的には、態度 20%、レポート 40%、技術 40%  |       |           |
| 到達目標  | 卓球のルールや競技性を理解し、スポーツを楽しむためのスキルを獲得する。 試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習  | スポーツ活動を実施する前のウォーミングアップやストレッチングの方法を知っておく。 スポーツを安全に実施できる知識や、打撲・捻挫等の怪我に対する応急処置を知っていること。 ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 運動にふさわしい服装をすること。 スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 オリエンテーリング、フィットネステスト A  2 フィットネステスト B  3 ガイダンス 卓球台の設置と準備 簡易試合と技術レベルの確認 ラケットの選び方とグリップ  4 スイングの仕方と乱打  5 サーブの方法とシングルのルール新ルールについて シングルの簡易試合  6 前回の復習 サーブ② クロス打ちの乱打（正確性と連続性） シングルス練習試合  7 前回の復習 ドライブの打ち方 バックハンドの打ち方 シングルス練習試合  8 前回の復習 ショートとツッツキの打ち方 シングルス練習試合  9 前回の復習 カットの打ち方 ダブルスのルールと簡易試合  10 前回の復習 スマッシュの打ち方 ダブルス練習試合  11 シングルス総当たり戦①(A B グループ別)  12 シングルス総当たり戦①(A B グループ別)  13 ダブルス総当たり戦①チーム編成 = A グループ 1 位と B グループ 最下位ペア ……  14 ダブルス総当たり戦②  15 ダブルス総当たり戦 まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | JSJ160202 |
| 科目名   | 生涯スポーツ実技（卓球）  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Lifelong Sports Practice (Table Tennis)   |       |           |
| 担当者名  | 今村 悟  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツは実践の科学であるので、まず参加することが大前提となる。参加することによって仲間づくりや、健康に対する意識の向上、試合での作戦等を学ぶ。経験者は初心者へのアドバイスと補助を行なう。              |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 具体的には、態度 20%、レポート 40%、技術 40%  |       |           |
| 到達目標  | 卓球のルールや競技性を理解し、スポーツを楽しむためのスキルを獲得する。 試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。   |       |           |
| 準備学習  | スポーツ活動を実施する前のウォーミングアップやストレッチングの方法を知っておく。 スポーツを安全に実施できる知識や、打撲・捻挫等の怪我に対する応急処置を知っていること。 ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 運動にふさわしい服装をすること。 スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 オリエンテーリング、フィットネステスト A  2 フィットネステスト B  3 ガイダンス 卓球台の設置と準備 簡易試合と技術レベルの確認 ラケットの選び方とグリップ  4 スイングの仕方と乱打  5 サーブの方法とシングルのルール新ルールについて シングルの簡易試合  6 前回の復習 サーブ② クロス打ちの乱打（正確性と連続性） シングルス練習試合  7 前回の復習 ドライブの打ち方 バックハンドの打ち方 シングルス練習試合  8 前回の復習 ショートとツッツキの打ち方 シングルス練習試合  9 前回の復習 カットの打ち方 ダブルスのルールと簡易試合  10 前回の復習 スマッシュの打ち方 ダブルス練習試合  11 シングルス総当たり戦①(A B グループ別)  12 シングルス総当たり戦①(A B グループ別)  13 ダブルス総当たり戦①チーム編成 = A グループ 1 位と B グループ 最下位ペア ……  14 ダブルス総当たり戦②  15 ダブルス総当たり戦 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSJ200101 |
| 科目名        | 生涯スポーツ実技（剣道）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Kendo)   |       |           |
| 担当者名       | 明尾 恵   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>剣道の基本動作、基本技術の習得。対人関係を通じた応用技術（応じ技）の習得を目指す。また、試合を通して、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。ただ、武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を特に重視している。試合前後の高ぶる気持ちを抑え、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められる。「礼」を通して、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を身に付ける。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 評価方法       | <p>じつぎ実技試験を2回実施（評価割合60%）する。 関心・意欲・態度（安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重して試合ができる等。評価割合20%） 知識・理解（正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する等。評価割合20%） 実技科目ですので、出席することが大前提です。</p>   |       |           |
| 到達目標       | 基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | 剣道の技術書や武人に関する小説を読んで、心の準備状態を整えてください。「温故知新」大事なことです。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>体操服で出席してください。面・小手・胴・竹刀・稽古着・袴を個人で準備する必要はありません。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます。粗暴な行動は慎んでください。初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーションとフィットネステスト（2回目にシャトルランを実施します。） 2 はじめに 剣道全般について説明。  礼（立礼、座礼）、竹刀（名称、持ち方）、構え、足さばき、素振り 3 素振り、打突の仕方と受け方、基本の打ち 4-6 相手の動きに応じた基本動作（二人組で）、中段の構え、足さばき、面・小手・胴の打ち込み 道具のつけ方、しまい方 7-10 基本となる技 しかけ技（一本打ち、二段の技、はらい技、出ばな技、引き技） ○かかり稽古、互格稽古 ○しかけ技による簡易試合 ○審判法 11-13 ○応じ技（抜き技、すり上げ技、返し技、打ち落とし技） ○かかり稽古、互格稽古 ○応じ技、しかけ技を用いた簡易試 14-15 ○日本剣道形 ○審判法 ○試合</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JSJ200102 |
| 科目名  | 生涯スポーツ実技（剣道）   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Lifelong Sports Practice (Kendo)   |       |           |
| 担当者名   | 明尾 恵   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>剣道の基本動作、基本技術の習得。対人関係を通じた応用技術（応じ技）の習得を目指す。また、試合を通して、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。ただ、武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を特に重視している。試合前後の高ぶる気持ちを抑え、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められる。「礼」を通して、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を身に付ける。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 評価方法   | <p>じつぎ実技試験を2回実施（評価割合60%）する。 関心・意欲・態度（安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重して試合ができる等。評価割合20%） 知識・理解（正確に道具の着脱ができる。有効打突を理解する等。評価割合20%） 実技科目ですので、出席することが大前提です。</p>   |       |           |
| 到達目標   | 基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。  |       |           |
| 準備学習   | 剣道の技術書や武人に関する小説を読んで、心の準備状態を整えてください。「温故知新」大事なことです。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>体操服で出席してください。面・小手・胴・竹刀・稽古着・袴を個人で準備する必要はありません。裸足で行います。相手と打突する場面が出てきます。粗暴な行動は慎んでください。初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 オリエンテーションとフィットネステスト（2回目にシャトルランを実施します。） 2 はじめに 剣道全般について説明。  礼（立礼、座礼）、竹刀（名称、持ち方）、構え、足さばき、素振り 3 素振り、打突の仕方と受け方、基本の打ち 4-6 相手の動きに応じた基本動作（二人組で）、中段の構え、足さばき、面・小手・胴の打ち込み 道具のつけ方、しまい方 7-10 基本となる技 しかけ技（一本打ち、二段の技、はらい技、出ばな技、引き技） ○かかり稽古、互格稽古 ○しかけ技による簡易試合 ○審判法 11-13 ○応じ技（抜き技、すり上げ技、返し技、打ち落とし技） ○かかり稽古、互格稽古 ○応じ技、しかけ技を用いた簡易試 14-15 ○日本剣道形 ○審判法 ○試合</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSR012A01 |
| 科目名        | スポーツ社会学概論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Sociology   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人間は社会から離れて、一人だけで生活することはできない。住む、働く、学ぶ、遊ぶなどといった生活活動は特定の人々や集団をよりどころに営まれている。現代におけるスポーツが社会生活とどのように結びついているか、又健康に影響をもたらすか学び、社会生活を行う上でスポーツの価値を如何に利用し、社会生活に役立つ方法としてスポーツの企画運営が、できる能力を養い、リーダーシップがとれるようにすることを期待する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配付する。   |       |           |
| 評価方法       | 毎回レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%   |       |           |
| 到達目標       | スポーツと社会について学び生涯スポーツの実施に役立たせる。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義における準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 遅刻や私語を厳禁とする。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.生涯スポーツとは？簡単なトーナメントとリーグ戦の組み合わせ。  2.現代生活とスポーツ。  3.これからの生活とスポーツ。我国のスポーツ。変わる社会とスポーツ。  諸外国のスポーツ。  4.生涯にわたってスポーツを楽しむためには  5.ライフサイクルとスポーツ  6.スポーツ指導の上手な受け方  7.すぐれたスポーツ選手の共通点  8.トーナメント並びにリーグ戦の組み方  9.生涯スポーツイベントの企画運営  10.スポーツ技術論 各スポーツの技術とその理論  11.スポーツ指導論 生涯スポーツ指導者に求められるもの  12.指導計画とリーダーシップ 年齢と指導特性  13.スポーツと産業 企業とスポーツ プロスポーツ スポーツとマスメディア  14.スポーツ事業の企画運営 生涯スポーツとしての今後の大会運営  15.人によるダブルスの理想的な組み合わせ、スポーツ社会学のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JSR012B01 |
| 科目名        | 運動学概論   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Kinematics  |       |           |
| 担当者名       | 橋本 禎万   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人生を豊かに営む上には健康は欠かせないものがあります。そのためには 基礎体力を養い、周りの環境破壊から来る様々な外敵より身を守り続ける 必要があります。若い時代に築き上げられた体力も、今日の文明や精神的 ストレスにより直ぐ様、剥奪されてしまいます。健康の維持増進には、 その年齢や体力に合った運動をする必要があります スポーツが身体の発達に どのように貢献するか、又健康や体力に影響をもたらすか 学び、スポーツを 行う上で障害の防止やトレーニング方法を理解し、各人の目標に合った トレーニング方法を追求する |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配付する。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回レポート 60%、中間レポート 20%、最終レポート 20%  |       |           |
| 到達目標       | スポーツと身体について学び、生涯スポーツの実施に役立たせる。 体力測定を行ない各自の目標に合ったトレーニング処方 を追求する。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義における準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語を厳禁とする。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.人類とスポーツ  2.身体の発達とスポーツ（体力測定）  3.健康・体力とスポーツ（体力測定）  4.青少年期の健康・体力とスポーツ  5.中高年の健康・体力とスポーツ  6.スポーツと健康管理  7.身体のしくみと運動  8.運動力学  9.体力測定の統計処理とその利用  10.トレーニングの科学  11.体力とトレーニング  12.健康とトレーニング  13.各種トレーニング  14.各個人の目標に合ったトレーニング  15.各個人の今後の課題                          |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSR031A01 |
| 科目名   | スポーツ国際交流論 A  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                                  | Theory of International Sports Exchange A  |       |           |
| 担当者名  | 今村 悟   | 旧科目名称 | スポーツ国際交流論 |
| 講義概要  | 世界の国を理解することは大変難しく時間を要する。そこには歴史があり、文化や生活習慣が国や地域、人種によって異なるからである。このような異文化を理解し、交流することは 21 世紀の課題であり、日本の立場を考えたとき必要不可欠である。この課題をスポーツは簡単に解決してくれる最も素晴らしい手段の一つである。 スポーツは、世界中の人種や言語を超えて理解できる最高のコミュニケーションツールの一つである。 このスポーツの持っている最大の特徴を、最大限活用するためにはどのような方法があるのかを事例紹介を通して講義する。 このスポーツ国際交流論 A は、外国人を日本に受け入れる場合のスポーツ交流について学ぶ。 |       |           |
| 教材 (テキスト)                                   |  |       |           |
| 教材 (参考文献)                                   | 新・スポーツと健康の科学 晃洋書房 2007   |       |           |
| 教材 (その他)                                    | 資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30)   毎時間小レポート(15)  シミュレーションレポート(40点) 外国人を日本に受け入れる交流計画書を作成する。  まとめレポート (15点)   |       |           |
| 到達目標  | 外国人を日本に受け入れるシミュレーションレポートを作成する能力を養う。  |       |           |
| 準備学習  | シミュレーションレポートを作成するための準備をすること。 来日国、スポーツ種目、人数、男女比率、受け入れ市町村等   |       |           |
| 受講者への要望                                     |  |       |           |
| 遅刻しないこと 携帯は禁止 途中退席禁止 小レポートと京学ナビの両方をもって出席とする |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                                  | 1、ガイダンス 評価方法について 講義の概要 2、スポーツ国際交流とは 3、スポーツ国際交流の意義と使命 4、スポーツの意味 5、日本のスポーツ国際交流の現状 6、スポーツ文化の国際比較 7、スポーツ国際交流の構図 8、日本に受け入れる交流① 交流相手 9、日本に受け入れる交流② 事務局 10、日本に受け入れる交流③交流プログラム 11、日本に受け入れる交流④日程 12、事例紹介① 映像+資料 13、事例紹介② 映像+資料 14、日本に受け入れるシミュレーションレポートのかき方 15、まとめレポート   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSR031B01 |
| 科目名        | スポーツ国際交流論B   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of International Sports Exchange B  |       |           |
| 担当者名       | 今村 悟   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 世界の国を理解することは大変難しく時間を要する。そこには歴史があり、文化や生活習慣が国や地域、人種によって異なるからである。このような異文化を理解し、交流することは 21 世紀の課題であり、日本の立場を考えたとき必要不可欠である。この課題をスポーツは簡単に解決してくれる最も素晴らしい手段の一つである。  スポーツは、世界中の人種や言語を超えて理解できる最高のコミュニケーションツールの一つである。 このスポーツの持っている最大の特徴を、最大限活用するためにはどのような方法があるのかを事例紹介を通して講義する。  このスポーツ国際交流論Bは、外国に遠征して行うスポーツ交流について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 新・スポーツと健康の科学 晃洋書房 2007   |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30点）  毎時間の小レポート(15) シミュレーションレポート（40点） 外国に遠征する交流計画書作成する。 まとめレポート（15点）   |       |           |
| 到達目標       | 外国に遠征するシミュレーションレポートを作成する能力を養う。   |       |           |
| 準備学習       | シミュレーションレポートを作成するための準備をすること。 遠征する国、受け入れ市町村、種目、人数、男女比率、遠征するグループ(大学、サークル、競技団体等)  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
|            | 遅刻しないこと 携帯は禁止 途中退席禁止 小レポートと京学ナビをもって出席とする   |       |           |
| 講義の順序とポイント |  |       |           |
|            | 1、ガイダンス 評価方法 2、講義概要について 3、スポーツ国際交流とは 4、スポーツの意味 5、スポーツ文化の国際比較と日本のスポーツ文化 6、スポーツ国際交流の構図 7、外国に遠征するスポーツ国際交流① 交流相手 8、外国に遠征するスポーツ国際交流② 遠征準備と研修 9、外国に遠征するスポーツ国際交流③ 交流プログラム 10、外国に遠征するスポーツ国際交流④ 日程 11、事例紹介① 映像と資料 12、事例紹介②映像と資料 13、外国に遠征するシミュレーションレポートのかき方について 14、世界の生活習慣と文化の違いについて 15、まとめレポートについて              |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JSR051001 |
| 科目名        | 生涯スポーツの理論  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Lifetime Sports  |       |           |
| 担当者名       | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>生涯スポーツとは生涯にわたって自分自身のライフサイクルに適したスポーツを楽しみながら継続的に実施することである。そこで、本講義では生涯スポーツの構成要素となる体育・スポーツやレクリエーションの本質を学ぶ。  スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。しかし、現在は子どもから大人まで、国民の3分の2が運動習慣を身につけていないとの報告もある。  今、問題として挙げられている運動不活発がもたらす生活習慣病が要因となる死亡は約6割を占める（がん30.5%、虚血性心疾患15.7%、脳血管疾患13.0%、糖尿病1.3%、高血圧性疾患0.6%）。医療費に占める割合も10兆円を超えている。  次いで問題視されているのが自殺率であり、我が国はロシアに次いで2位である。その他にも社会的課題として、ネグレクト、虐待、健康の不平等など安全・安心に暮らすための新たな知識と実践力が必要な時代となっている。また、このような問題は一人で解決できるものではなく世代を超えたネットワークと協働。「新しい公共理念」や「自助」「共助」「公助」の循環が必要であると言える。  本講義は生涯スポーツをコアに人間と社会を理解するグローバルな知識と教養と自立した学び方を身につけ、その延長線上にスポーツをライフスタイルに位置づけることを目指した「知行合一」を目指す実践型の講義である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 新・健康スポーツの科学(晃洋書房)  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 教材（参考文献）レクリエーション支援の基礎 ビデオ 緊急5カ年計画解説ビデオ DVD ささまざまな現場で活躍するレクリエーション支援者  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント教材及びビデオ& DVD   |       |           |
| 評価方法       | 授業内ミニレポート&課題解決レポートの評価を60%、プレテスト&ポストテストなどを40%とする。   |       |           |
| 到達目標       | 生活習慣の乱れやストレスが健康に及ぼす影響など、健康課題は深刻で、「健康増進法」によってアプローチしなければ問題の解決が図れない時代となった。そこで、健康対策について学び、学んだ知識及び実践スキルを、個人レベルにとどまらず、子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。人の一生を通じたトータルな健康感を養う。  |       |           |
| 準備学習       | 厚生労働省の健康関連情報や文部科学省のスポーツ関連情報について、チェックしておくこと。 毎週木曜日の早朝に実施している、「健康体操教室」に1回は参加し体験レポートを提出する。 体力測定・日常行動調査・食事調査を実施、分析する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 無断での中途入・退室・早退は認めません。出席と授業内レポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。 ミニレポートとは①授業中の課題 ②新しく得た知識 ③感想や質問 を書き、これを5点満点で評価。  優れたミニレポートは内容によっては加点をします。 ミニレポートの用紙は授業はじめのみ配ります。遅刻しないようにしてください。また、授業中の私語厳禁です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 授業ガイダンス：体育・スポーツ・レクリエーションの始まり、スポーツ政策と行政  2. 少子高齢化と健康づくり、介護予防、レクリエーションの意義  運動不足が健康に与える影響  3. 健康づくりを支える制度と海外の事例（ドイツ体操祭）  4. 健康づくりのための運動プログラムの原則と認知と行動 5. 健康と健康増進の概念、生活習慣変容の重要性  ライフスタイルとレクリエーション・エアロビクスの重要性・体力測定の意義と内容 6. 高齢社会の課題とQOL向上と健康づくり、レクリエーション  エアロビクスとアネロビクスの運動様式の違い・高齢者の体力測定  7. スポーツ組織の歴史とオリンピックムーブメント、世界のスポーツ  8. ソーシャルキャピタルの構築とレクリエーション  9. レクリエーション事業論とリーダーシップ、組織づくりと行政とのパートナーシップ  10. 障害者スポーツと組織  11. スポーツマーケティングの概念とスポーツビジネスの背景 12. 組織の経営論、クラブの育成と運営、プログラム企画運営の基礎知識と手順  13. 健康づくり・レクリエーションの素材とアクティビティ  14. スポーツボランティアと地域活性化、スポーツ活動とセーフコミュニティへの展開   P D C A サイクル  15. まとめ</p>  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |            |
|--|--|-------|------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JSR051A01  |
| 科目名  | 健康スポーツ理論A  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Health & Sports A  |       |            |
| 担当者名   | 山下 哲   | 旧科目名称 | 生涯スポーツの理論A |
| 講義概要   | <p>体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。しかし、現在は子供から大人まで、国民の3分の2が運動習慣を身につけていないし、死亡原因でも生活習慣病が約6割（がん30.5%、虚血性心疾患15.7%、脳血管疾患13.0%、糖尿病1.3%、高血圧性疾患0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も10兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで2位である。  このような現代社会を生きる若者にとって、健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクターの資格の取得やこのためのカリキュラムの設置は、学生が就職して社会に出たときに、生かせる場面が数多い。第1に、QOLの向上や生活習慣病の予防は今後重要なキーワードである。また、「ホスピタリティ」というキーワードも重要視されている。相手の立場にたったものの考え方をすることが強調され、そのためのトレーニングの内容や意義も学んでほしいことの1つである。このことは、一般企業に就職する学生のキャリアスキルともいえる。第2に、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」も強調すべき点である。  今日の社会は平和が脅かされ、子どもから高齢者まで、ネグレクト、虐待、自殺、健康の不平等などさまざまな社会的課題を多く抱えている。現代を生きる私たちには平和で、安心・安全に暮らすための新たな知識と実践力が必要である。また、このようなことは一人で解決できるものではなく世代を超えたネットワークと協働が必要である。人間と社会を理解するグローバルな知識と教養と自立した学び方を身につけ、その延長線上に資格の取得を目指した実践型の講義である。</p> |       |            |
| 教材（テキスト）   | 新・健康スポーツの科学(晃洋書房)・・・☆必ず購入してください 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)   |       |            |
| 教材（参考文献）   | レクリエーション支援の基礎 ビデオ 緊急5カ年計画解説ビデオ DVD 健康運動実践指導者実技の解説、さまざまな現場で活躍するレクリエーション支援者  |       |            |
| 教材（その他）  | プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト  |       |            |
| 評価方法   | 課題解決レポートの評価を50%、学習態度、ポストテストなどを50%とする。  |       |            |
| 到達目標   | 生活習慣の乱れやストレスが健康に及ぼす影響など、健康課題は深刻で、「健康増進法」によってアプローチしなければ問題の解決が図れない時代となった。そこで、健康対策について学び、学んだ知識及び指導スキルを、個人レベルにとどまらず、子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。人の一生を通じてトータルな健康感を養う。  |       |            |
| 準備学習   | 厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。   |       |            |
| 受講者への要望  |  |       |            |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。出席と授業内レポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。この授業は健康運動実践指導者、レクリエーション・インストラクターの資格を取得するための第一段階である。また、社会教育主事資格取得必修科目でもある。  |  |       |            |
| 講義の順序とポイント   |  |       |            |
| <p>1. 21世紀を生きる人のための資格健康運動実践指導者とレクリエーション・インストラクター、その活動の課題と展望、歴史と理念(ビデオ教材) 2. 少子高齢化と健康づくり、介護予防、レクリエーションの意義  運動不足が健康に与える影響 3. 健康づくりとレクリエーション運動を支える制度 4. 健康運動実践指導者とレクリエーション・インストラクターの役割  健康づくりのための運動プログラムの原則と認知と行動 5. 健康と健康増進の概念、生活習慣変容の重要性  ライフスタイルとレクリエーション・エアロビクス的重要性・体力測定の意義と内容 6. 高齢社会の課題とQOL向上と健康づくり、レクリエーション  エアロビクスとアナロビクスの運動様式の違い・高齢者の体力測定  7. 少子化の課題とセーフコミュニティとレクリエーション  8. ソーシャルキャピタルの構築とレクリエーション  9. レクリエーション事業論とリーダーシップ、組織づくりと行政とのパートナーシップ  10. 事業計画の立案と安全なイベント運営  11. 健康づくりとレクリエーション活動の安全管理  運動強度を表す指標とその意味  12. 組織の経営論、クラブの育成と運営、プログラム企画運営の基礎知識と手順  13. 健康づくり・レクリエーションの素材とアクティビティ  14. レクリエーション事業の評価、サーベイランスとエビデンスの   P D C A サイクル  15. まとめ</p> |  |       |            |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|

|   |   |  |   |   |   |   |
|---|---|--|---|---|---|---|
| 期 待                                     | ○ |  | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |  |   |   |   |   |

|   |  |       |            |
|---|--|-------|------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | JSR051B01  |
| 科目名   | 健康スポーツ理論B  | 単位数   | 2          |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Health & Sports B  |       |            |
| 担当者名  | 山下 哲   | 旧科目名称 | 生涯スポーツの理論B |
| 講義概要  | わが国に「体育」が誕生したのは、身体教育ということばを簡略化した明治9年である。フランス式の教育に範をとり、ロック（1632～1704）、スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め、体育についても早くからその特性について着目していた。さて、体育スポーツ・レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。また、ドイツ体操祭の歴史から、ボトムアップで成立した組織のあり方を考えてみよう。  また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。 |       |            |
| 教材（テキスト）  | ドイツ体操祭(晃洋書房)   |       |            |
| 教材（参考文献）  | 新・健康スポーツの科学(晃洋書房)  |       |            |
| 教材（その他）   | プリント教材及びビデオ  |       |            |
| 評価方法  | 授業内ミニレポート(60%)、テスト(40%)   授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題 ②新しい知識 ③感想や質問 を書き、これを5点満点で評価。優れた内容には加点をします。   |       |            |
| 到達目標  | 体育・スポーツ・レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。   |       |            |
| 準備学習  | 前回の講義で学んだことを復習しておくこと。  |       |            |
| 受講者への要望   |  |       |            |
| 遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業はじめに配ります。ミニテストを行う場合もあります。   |  |       |            |
| 講義の順序とポイント  |  |       |            |
| 1. 体育・スポーツ・レクリエーションの始まり、スポーツ政策と行政   2. 中世の体育・スポーツ・レクリエーション   3. 20世紀の体育・スポーツ・レクリエーション、スポーツマーケティングの概念   4. スポーツ・レクリエーションの現状と課題、スポーツビジネスの背景   5. ドイツ体操祭について、スポーツ産業を考える   6. 市民精神と体操クラブ、亀岡市での取組みと成果   7. 女性の体操祭への参加、スポーツとジェンダー   8. 体操ユースの話、スポーツを楽しむ条件   9. 時代変遷の中の競技、スポーツフォアオール運動とグローバルな展開   10. ドイツの体操クラブの成り立ち、スポーツ指導者の動向   11. 労働者スポーツ連盟について、スポーツ団体スポーツ組織   12. スポーツ組織の歴史とオリンピックムーブメント、世界のスポーツ   13. 障害者スポーツと組織   14. スポーツボランティアと地域活性化、スポーツ活動とセーフコミュニティへの展開   15. まとめ |  |       |            |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0010002 |
| 科目名        | コンピュータ・ネットワーク入門   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Computer Networks   |       |           |
| 担当者名       | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現在、インターネットが社会の情報基盤となり、IT(情報技術)革命が進行している。ネットワークで何が可能であるか、何が最適であるか、どのようにコミュニケーション方法が変化していくかなどを考えることが非常に重要になっている。しかし、携帯電話などのメディアの表面的な技術進歩を追求しても本質を見失うだけである。ここ十数年の間に確立されたネットワークの基本的なスケルトンを理解し、それをもとにして現在を位置づけていくのが賢明のように思われる。この授業ではネットワーク技術の基本となる TCP/IP について、その構造と利用方法を理論と実践を通して学習する。  ネットワーク学習の基本ソフトウェア (OS)として Linux を中心に利用する。  また授業前半が座学を中心に、後半において演習を中心とした授業展開を行う。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 初歩からのネットワーク(実教出版) その他、適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)、演習としてのレポート(50%)、定期試験(20%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | インターネットの基本技術である TCP/IP を理論と実践により習得する。 TCP/IP 理解の題材としては Linux サーバを取りあげて演習を行い、Linux によるサーバシステムについて自分でシステム構築できるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | Linux に触れておく。 MS-Windows (XP, Vista, 7 等)のコマンドプロンプトの使用経験を積んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | コマンドライン操作(CUI)が基本となるので、Windows 環境(GUI)しか知らない場合、最初慣れるまで注意が必要である。授業の特性上、欠席すると以後の授業についていけなくなるので、留意して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1.受講ガイダンス・ネットワークとは 2.ネットワークの基礎知識(1) 3.ネットワークの基礎知識(2) TCP/IP プロトコルスイート 4.TCP/IP ネットワークインターフェース層 (物理層・データリンク層)  5.TCP/IP インターネット層 IP アドレス 6.TCP/IP インターネット層 ヘッダ・経路制御 7.TCP/IP DNS トランスポート層 8.TCP/IP トランスポート層(ポート番号) 9.TCP/IP アプリケーション層 10.ネットワークの構築 11.サーバの役割 12.Web サーバ(1) Apache 13.Web サーバ(2) Apache の管理・設定 14.ネットワークの保守・セキュリティ・何のためのネットワーク? 15.まとめ 講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 担当教員のホームページ に公開する。ホームページアドレスは授業の際に告知する。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030001 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030003 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2 / 3 以上の出席が必要です。   |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

#### 受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

#### 講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030005 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030007 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

#### 受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

#### 講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030008 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

#### 受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

#### 講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV003000B |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV003000D |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 翁長 朝英   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV003000F |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 岩崎 恭輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

#### 受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

#### 講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。)| 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。)|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030001 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 臼井 正  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | JV0030010 |
| 科目名       | パソコン応用A   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Applied Computing A   |       |           |
| 担当者名      | 岩崎 恭輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 富士通オフィス機器(株)『よくわかる Excel2010 応用』FOM 出版, 2000 円  |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   | なし  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には2/3以上の出席が必要です。  |       |           |
| 到達目標      | 表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。  |       |           |
| 準備学習      | Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1 入門の復習 | 2 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 3 関数の利用 II | 4 関数の利用 III | 5 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 6 表作成の活用 練習問題 | 7 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、| 8. グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 9 グラフィックの活用 練習問題 | 10 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 11 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 12 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 13 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | 14 マクロ (8章) マクロの作成と実行 | 15 マクロ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) | 新入生クラス | 1 大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更) | 2 ネットワーク、情報倫理、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用) | 3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付) | 4 関数の利用 I (1章) 順位付け、条件判断、データ検索 | 5 関数の利用 II | 6 関数の利用 III | 7 表作成の活用 (2章) 条件付き書式、入力規則 | 8 表作成の活用 練習問題 | 9 グラフの活用 (3章) 複合グラフ、グラフの編集、図形の作成 | 10 グラフィックの利用 (4章) 図形の作成 | 11 グラフィックの活用 視覚的なまとめ | 12 複数ブックの操作とデータベースの活用 (5・6章) データの集計と統合、テーブルの利用 | 13 複数ブックの操作とデータベースの活用 練習問題 | 14 ピボットテーブルとピボットグラフ (7章) ピボットテーブル・グラフの作成と編集 | 15 ピボットテーブルとピボットグラフ 練習問題 | (担当者や授業の進度によって変更することがあります。) |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0050002 |
| 科目名        | パソコン応用B   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Applied Computing B   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義で資料をレポートドライブから配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。授業中に課す課題により評価（70%）する。 課題プレゼンテーションの実施（必修）。  |       |           |
| 到達目標       | 目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作  2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成  3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成  4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した  スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加  5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と   様々な要素を持つプレゼンテーションの作成  6.統一感と効果:統一感のあるスライド作成とアニメ設定  各種機器への対応  7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成   （テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）   課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]  8.課題テーマプレゼン演習とビデオ撮影 9.プレゼンビデオから、プレゼンの改善（プレゼンと資料）  10.プレゼン資料作成：発表資料作成   課題演習[スライドを仕様に従い修正]  11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して   演習[プレゼン資料の作成]  12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出   課題演習[スライドを仕様に従い修正]  13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価   話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術  15.プレゼンの改善：ビデオ・コメントを参考にプレゼンの改善 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JV0050003 |
| 科目名  | パソコン応用 B   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記)   | Applied Computing B  |       |           |
| 担当者名   | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>● プリゼンテーション作成の訓練を行う。Microsoft Office の Power Point を使用し、(1) 作成方法に習熟すること、(2) 実際に発表して注意点を学ぶこと、の2つを目指す。 ● 練習問題を多数用意しておくので、パソコンの初心者でも中級者でも区別なしに受講できる。 ● 毎回の練習問題に加え、2つの課題を消化しなければならない。(1) 自分の出身地の紹介(例えば観光案内)の power point を作成して提出。(2) 自由課題で power point を作成し、約4分間の発表を受講者全員の前で行う。 ● 教職「情報」を希望する経済学部生は、担当者森田の「パソコン応用 B」を受講しなければならない。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じ、資料配布   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | よくわかる Microsoft Office Power Point 2010 FOM 出版   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じ(ほとんど毎回)、練習問題を配布  |       |           |
| 評価方法   | 練習問題(毎回)の回答を提出(15%)、出身地紹介の power point 作成(35%)、自由課題の power point の作成(25%)と発表(25%)  |       |           |
| 到達目標   | power point 作成の技術的な手法を身につけること。 作成した power point を発表すること。   |       |           |
| 準備学習   | EXCEL と WORD は知っておいた方がよい。高校で習ってその後忘れた人は復習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 人によって習熟度が違うが、気にすることはない。初心者用、中級者用の練習問題を用意しておくので、各自のレベルに応じて進んでいけばよい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. プリゼンテーションの作成(導入部分) 2. プレースホルダーと文字(編集、配置) 3. 同上 4. 図やオブジェクトの挿入・編集 5. 同上 6. 図形の作成と編集 7. 同上 8. 「出身地の紹介」の power point 作成 9. 同上 10. 特殊効果(アニメーション) 11. 同上 12. 「自由課題」の power point 作成 13. 同上 14. 発表 15. 発表 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV005000A |
| 科目名        | パソコン応用B  | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Applied Computing B  |       |           |
| 担当者名       | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この講義ではプレゼンテーションを支援するソフトウェアの代表的なもののひとつである、マイクロソフト社パワーポイント (Power Point) を教材として使い、基本操作を学びます。パワーポイントの機能のある程度使いこなし、明確で効果的なプレゼンテーションができるようになることをめざして学習を進めていきます。  学期の最後には、自ら選んだ事柄を題材にしたプレゼンテーションを実際に制作し、発表します。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 講義開始日に指示します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等と、課題 (授業内、授業外) の提出 (55%) により評価します。  |       |           |
| 到達目標       | プレゼンテーションソフト (Power Point) の機能を使って、効果的なスライドを作成する知識を習得します。  作成したスライドを使って、効果的なプレゼンテーションができることを目標とします。  |       |           |
| 準備学習       | 復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 出席は2/3以上が必要です。  Wordの基本操作を習得していることを前提にしています。  遅刻をしないこと。私語等、他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 本学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワード変更)   2 ネットワーク、情報倫理、休講情報、図書館の蔵書検索 (検索結果をゼミの図書ガイダンスで使用)   3 電子メール (パスワード変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)   4 パワーポイントの基本的な操作   5 図形の作成   パワーポイントではワードと同じように、図形製作用の機能が備え付けられています。それを使って図形を作成します。   6 組織図の作成   パワーポイントには組織図を書くための専用のソフトが組み込まれています。それを使い組織図の例を作ってみます。   7 アニメーションの設定等   アニメーションの設定やイラストの挿入等を行い、印象に残るようなスライドを作ってみます。   8 新聞記事を用いたスライドの作成   9 発表   10 表とグラフの作成の基礎   Excel を使用して表とグラフを作成し、パワーポイントに挿入する方法を学びます。   11 表とグラフの作成の応用   インターネットから統計データを収集して表とグラフを作成し、パワーポイントに挿入する方法を学びます。   12 プレゼンテーションの実際の制作 (1)   この授業で習ったことを使い、自分なりのプレゼンテーションを作ります。   13 プレゼンテーションの実際の制作 (2)   14 発表   15 まとめ |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JV0070001 |
| 科目名  | パソコン応用C  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Applied Computing C  |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくこと卒業後もいろいろと役に立ちます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『できる Access 2010』インプレス   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし。  |       |           |
| 教材（その他）  | なし。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（出席状況や受講姿勢など）50%。課題（50%）。   |       |           |
| 到達目標   | Access を使ってデータベースを作成することができる。  |       |           |
| 準備学習   | パソコン入門かその他の応用科目の単位取得者、並びに同等以上のレベルを有していること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 教科書に沿って実習を行います。最後に課題として、Access を使ったデータベースを作成してもらいます。 1. データベースとは 2. データの保存・・・テーブルとは(1) 3. データの保存・・・テーブルとは(2) 4. データの抽出・・・クエリとは(1) 5. データの抽出・・・クエリとは(2) 6. データの入力・・・フォームとは(1) 7. データの入力・・・フォームとは(2) 8. データの印刷・・・レポートとは(1) 9. データの印刷・・・レポートとは(2) 10. リレーショナルデータベースについて(1) 11. リレーショナルデータベースについて(2) 12. データベースの活用(1)・・・課題作成 13. データベースの活用(2)・・・課題作成 14. データベースの活用(3)・・・課題作成 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JV0070002 |
| 科目名  | パソコン応用C  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Applied Computing C  |       |           |
| 担当者名   | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくこと卒業後もいろいろと役に立ちます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『できる Access 2010』インプレス   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし。  |       |           |
| 教材（その他）  | なし。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（出席状況や受講姿勢など）50%。課題（50%）。   |       |           |
| 到達目標   | Access を使ってデータベースを作成することができる。  |       |           |
| 準備学習   | パソコン入門かその他の応用科目の単位取得者、並びに同等以上のレベルを有していること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 教科書に沿って実習を行います。最後に課題として、Access を使ったデータベースを作成してもらいます。 1. データベースとは 2. データの保存・・・テーブルとは(1) 3. データの保存・・・テーブルとは(2) 4. データの抽出・・・クエリとは(1) 5. データの抽出・・・クエリとは(2) 6. データの入力・・・フォームとは(1) 7. データの入力・・・フォームとは(2) 8. データの印刷・・・レポートとは(1) 9. データの印刷・・・レポートとは(2) 10. リレーショナルデータベースについて(1) 11. リレーショナルデータベースについて(2) 12. データベースの活用(1)・・・課題作成 13. データベースの活用(2)・・・課題作成 14. データベースの活用(3)・・・課題作成 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000B |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育（パソコン）の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目：e-learningの説明（Wordの基本操作と文字入力）| 6回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 7回目：Word表の作成（表と罫線）| 8回目：Word文書の編集（書式設定・均等割り付け・ルビ）| 9回目：Word文書表現力（画像、ワードアート、クリップアート）| 10回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 11回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 12回目：Excelグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 13回目：Excelデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| 中級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 6回目：Word表の作成（表と罫線）| 7回目：Word文書の編集、文書表現力| 8回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 9回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 10回目：Excelのグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 11回目：Excelのデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 12回目：PowerPointの基本操作（プレゼンテーションの作成、図・表の挿入）| 13回目：PowerPointの基本操作（アニメーションの設定、スライド印刷）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JV011000C |
| 科目名       | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名      | 山本 幹夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | この科目は、本学における情報処理教育（パソコン）の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材（その他）   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等による。課題（授業内、授業外）の提出により評価する（55%）。  出席は2/3以上が必要です。   |       |           |
| 到達目標      | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習      | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目：e-learningの説明（Wordの基本操作と文字入力）| 6回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 7回目：Word表の作成（表と罫線）| 8回目：Word文書の編集（書式設定・均等割り付け・ルビ）| 9回目：Word文書表現力（画像、ワードアート、クリップアート）| 10回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 11回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 12回目：Excelグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 13回目：Excelデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| 中級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 6回目：Word表の作成（表と罫線）| 7回目：Word文書の編集、文書表現力| 8回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 9回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 10回目：Excelのグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 11回目：Excelのデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 12回目：PowerPointの基本操作（プレゼンテーションの作成、図・表の挿入）| 13回目：PowerPointの基本操作（アニメーションの設定、スライド印刷）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000D |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学ナビ (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目: e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)| 6回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 7回目: Word表の作成 (表と罫線)| 8回目: Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)| 9回目: Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)| 10回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 11回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 12回目: Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 13回目: Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| 中級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学ナビ (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 6回目: Word表の作成 (表と罫線)| 7回目: Word文書の編集、文書表現力| 8回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 9回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 10回目: Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 11回目: Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 12回目: PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)| 13回目: PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JV011000E |
| 科目名       | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名      | 坂元 尚美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | この科目は、本学における情報処理教育（パソコン）の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材（その他）   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等による。課題（授業内、授業外）の提出により評価する（55%）。  出席は2/3以上が必要です。   |       |           |
| 到達目標      | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習      | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス|1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ|2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）|3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）|4回目：京学なび（課題提出）、Rドライブ、タッチタイピング|5回目：e-learningの説明（Wordの基本操作と文字入力）|6回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷|7回目：Word表の作成（表と罫線）|8回目：Word文書の編集（書式設定・均等割り付け・ルビ）|9回目：Word文書表現力（画像、ワードアート、クリップアート）|10回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）|11回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）|12回目：Excelグラフ機能（グラフの作成、印刷）|13回目：Excelデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）|14回目：復習、応用|15回目：復習、応用||中級クラス|1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ|2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）|3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）|4回目：京学なび（課題提出）、Rドライブ、e-learningの説明|5回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷|6回目：Word表の作成（表と罫線）|7回目：Word文書の編集、文書表現力|8回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）|9回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）|10回目：Excelのグラフ機能（グラフの作成、印刷）|11回目：Excelのデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）|12回目：PowerPointの基本操作（プレゼンテーションの作成、図・表の挿入）|13回目：PowerPointの基本操作（アニメーションの設定、スライド印刷）|14回目：復習、応用|15回目：復習、応用||\* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000F |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 坂元 尚美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育（パソコン）の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学なび（課題提出）、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目：e-learningの説明（Wordの基本操作と文字入力）| 6回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 7回目：Word表の作成（表と罫線）| 8回目：Word文書の編集（書式設定・均等割り付け・ルビ）| 9回目：Word文書表現力（画像、ワードアート、クリップアート）| 10回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 11回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 12回目：Excelグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 13回目：Excelデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| 中級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学なび（課題提出）、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 6回目：Word表の作成（表と罫線）| 7回目：Word文書の編集、文書表現力| 8回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 9回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 10回目：Excelのグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 11回目：Excelのデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 12回目：PowerPointの基本操作（プレゼンテーションの作成、図・表の挿入）| 13回目：PowerPointの基本操作（アニメーションの設定、スライド印刷）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000G |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 大塚 素子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学ナビ (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング|5回目:e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)|6回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|7回目:Word表の作成 (表と罫線)|8回目:Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)|9回目:Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)|10回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|11回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|12回目:Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|13回目:Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||中級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学ナビ (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明|5回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|6回目:Word表の作成 (表と罫線)|7回目:Word文書の編集、文書表現力|8回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|9回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|10回目:Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|11回目:Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|12回目:PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)|13回目:PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||\* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000H |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 臼井 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング|5回目:e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)|6回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|7回目:Word表の作成 (表と罫線)|8回目:Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)|9回目:Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)|10回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|11回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|12回目:Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|13回目:Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||中級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明|5回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|6回目:Word表の作成 (表と罫線)|7回目:Word文書の編集、文書表現力|8回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|9回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|10回目:Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|11回目:Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|12回目:PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)|13回目:PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||\* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000I |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 臼井 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学なび (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目: e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)| 6回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 7回目: Word表の作成 (表と罫線)| 8回目: Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)| 9回目: Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)| 10回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 11回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 12回目: Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 13回目: Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| 中級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学なび (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 6回目: Word表の作成 (表と罫線)| 7回目: Word文書の編集、文書表現力| 8回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 9回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 10回目: Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 11回目: Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 12回目: PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)| 13回目: PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000J |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 坂元 尚美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学なび (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目: e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)| 6回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 7回目: Word表の作成 (表と罫線)| 8回目: Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)| 9回目: Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)| 10回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 11回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 12回目: Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 13回目: Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| 中級クラス| 1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ| 2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)| 3回目: Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)| 4回目: 京学なび (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目: Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷| 6回目: Word表の作成 (表と罫線)| 7回目: Word文書の編集、文書表現力| 8回目: Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)| 9回目: Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)| 10回目: Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)| 11回目: Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)| 12回目: PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)| 13回目: PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)| 14回目: 復習、応用| 15回目: 復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | JV011000K |
| 科目名       | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名      | 臼井 正   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | この科目は、本学における情報処理教育（パソコン）の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材（その他）   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（45%）出席状況等による。課題（授業内、授業外）の提出により評価する（55%）。  出席は2/3以上が必要です。   |       |           |
| 到達目標      | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習      | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、タッチタイピング| 5回目：e-learningの説明（Wordの基本操作と文字入力）| 6回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 7回目：Word表の作成（表と罫線）| 8回目：Word文書の編集（書式設定・均等割り付け・ルビ）| 9回目：Word文書表現力（画像、ワードアート、クリップアート）| 10回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 11回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 12回目：Excelグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 13回目：Excelデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| 中級クラス| 1回目：大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ| 2回目：図書館の情報検索（検索結果の印刷）、情報倫理（ネチケット、コンピュータウィルス等）| 3回目：Webメールの初期設定と利用（パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付）| 4回目：京学ナビ（課題提出）、Rドライブ、e-learningの説明| 5回目：Word文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）、印刷| 6回目：Word表の作成（表と罫線）| 7回目：Word文書の編集、文書表現力| 8回目：Excel基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）| 9回目：Excel表計算機能（罫線、書式の設定、関数）| 10回目：Excelのグラフ機能（グラフの作成、印刷）| 11回目：Excelのデータベース機能（並べ替え、オートフィルタ）| 12回目：PowerPointの基本操作（プレゼンテーションの作成、図・表の挿入）| 13回目：PowerPointの基本操作（アニメーションの設定、スライド印刷）| 14回目：復習、応用| 15回目：復習、応用|| \* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。| 履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000L |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 大塚 素子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

講義の順序とポイント

初級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング|5回目:e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)|6回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|7回目:Word表の作成 (表と罫線)|8回目:Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)|9回目:Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)|10回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|11回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|12回目:Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|13回目:Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||中級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明|5回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|6回目:Word表の作成 (表と罫線)|7回目:Word文書の編集、文書表現力|8回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|9回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|10回目:Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|11回目:Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|12回目:PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)|13回目:PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||\* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV011000M |
| 科目名        | パソコン入門   | 単位数   | 1         |
| 科目名 (英語表記) | Fundamentals Computer  |       |           |
| 担当者名       | 大塚 素子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この科目は、本学における情報処理教育 (パソコン) の入門科目である。パソコンの習熟度に応じてクラス分けを行い、初心者を対象とした初級クラス、ある程度知識のある中級クラスに分かれます。すでに一通りの知識のある人は、「パソコン入門」ではなく「パソコン応用」を受講してください。  現代社会は、コンピュータ (特にパソコン) を抜きには考えられません。皆さんが実社会に入る頃には、更に発展していることでしょう。これは皆さんが入学した学部や就職先に関係なく、直面する現実です。  こうした現実に臆することなく立ち向かっていくためには、早いうちから実社会に即した能力を身につけ、親しんでおく必要があります。  初級クラスは、できるだけ早くパソコンに慣れてもらうことを主眼において授業を行います。  中級クラスは、少し高度な課題に挑戦してもらいます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Word2010 基礎・応用、Excel2010 基礎・応用、PowerPoint2010  |       |           |
| 教材 (その他)   | e-learning 用学習プログラムと担当教員が用意した練習問題を用います。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等による。課題 (授業内、授業外) の提出により評価する (55%)。  出席は2/3以上が必要です。  |       |           |
| 到達目標       | キーボードのタッチタイピングができるようになること。  10分間で300字の文章入力ができるようになること。  簡単なビジネス文書が作成できること。  エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。  日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。  |       |           |
| 準備学習       | e-learning で予習・復習しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。| 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し e-learning の自学自習をすること。|

#### 講義の順序とポイント

初級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、タッチタイピング|5回目:e-learningの説明 (Wordの基本操作と文字入力)|6回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|7回目:Word表の作成 (表と罫線)|8回目:Word文書の編集 (書式設定・均等割り付け・ルビ)|9回目:Word文書表現力 (画像、ワードアート、クリップアート)|10回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|11回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|12回目:Excelグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|13回目:Excelデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||中級クラス|1回目:大学のコンピュータ環境 (ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ|2回目:図書館の情報検索 (検索結果の印刷)、情報倫理 (ネチケット、コンピュータウィルス等)|3回目:Webメールの初期設定と利用 (パスワードの変更、ユーザー環境の設定、送受信、ファイル添付)|4回目:京学なび (課題提出)、Rドライブ、e-learningの説明|5回目:Word文書の作成 (文章の入力、文字の配置・修飾)、印刷|6回目:Word表の作成 (表と罫線)|7回目:Word文書の編集、文書表現力|8回目:Excel基本操作 (データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル)|9回目:Excel表計算機能 (罫線、書式の設定、関数)|10回目:Excelのグラフ機能 (グラフの作成、印刷)|11回目:Excelのデータベース機能 (並べ替え、オートフィルタ)|12回目:PowerPointの基本操作 (プレゼンテーションの作成、図・表の挿入)|13回目:PowerPointの基本操作 (アニメーションの設定、スライド印刷)|14回目:復習、応用|15回目:復習、応用||\* 担当者や授業の進度によって変更することがあります。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0250001 |
| 科目名        | プログラミング B I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Programming BI  |       |           |
| 担当者名       | 坂元 尚美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | C言語とその発展形であるC++はプログラミングにおける汎用性と自由度の高さから、現在、コンピュータのソフトウェア開発において最も多く用いられている言語の一つである。この言語の取得を通じて、コンピュータによる情報処理の有効性を確認し、「情報資産」を自主的に運用できる情報基礎力を養うことを目的とする。 C言語は現在、情報処理技術者試験の出題言語である。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 林晴比古著「新訂新C言語入門スーパービギナー編」ソフトバンクパブリッシング   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 林晴比古著「新訂新C言語入門ビギナー編」「新訂新C言語入門シニア編」ソフトバンクパブリッシング   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) は出席状況などによる 課題到達度 (70%) は授業中に作成されたプログラムの完成度と授業中の質疑応答・授業内レポートの完成度から判断する   |       |           |
| 到達目標       | 1.自力で教科書を読み、必要な技術を自学自習できるようになるための教科書の使い方を習得する 2.コンピュータを用いた情報処理と人間の行う情報処理の違いについて理解し、その効果的な役割分担について理解する   |       |           |
| 準備学習       | パソコン入門程度のパソコンの技術を復習すること   |       |           |
| 受講者への要望    | パソコン入門程度のパソコンの技術を習得していること 遅刻は厳禁とする  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください 1.電子計算機の歴史 2.C言語を使うにあたっての基礎知識 (MS-DOSとコンパイラの使い方など) について 3.C言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得 (1) 4.C言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得 (2) 5.プログラム構造の基礎 6.C言語における変数について 7.見やすいプログラムについて 8.標準入出力 (1) 9.標準入出力 (2) 10.for文による繰り返し処理 (1) for文の基礎知識 11.for文による繰り返し処理 (2) for文の発展的利用法 12.for文による繰り返し処理 (3) 高度なfor文の使い方 13.情報理論 (1) データ処理の基礎概念 14.配列の表現法・変数や配列の初期化について 15.ファイル入出力 (1) ファイルの入力 16.ファイル入出力 (2) ファイルの出力 17.ファイル入出力 (3) ファイルの入出力 18.基礎技術の確認 (1) 19.基礎技術の確認 (2) 20.do-while文による繰り返し処理 21.分岐処理の基礎 22.分岐処理の応用 23.構造化プログラミングについて 24.構造化プログラミングによるプログラムの作成 (1) 25.構造化プログラミングによるプログラムの作成 (2) 26.情報理論 (2) いいプログラムと悪いプログラム 27.総合演習 (1) 短いプログラムを効率的に作成する 28.総合演習 (2) 複雑なプログラムを作成する 29.総合演習 (3) 使いやすい工夫をしたプログラムを作成する 30.まとめ |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0250002 |
| 科目名        | プログラミング B I   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Programming BI  |       |           |
| 担当者名       | 大塚 素子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | C言語とその発展形であるC++はプログラミングにおける汎用性と自由度の高さから、現在、コンピュータのソフトウェア開発において最も多く用いられている言語の一つである。この言語の取得を通じて、コンピュータによる情報処理の有効性を確認し、「情報資産」を自主的に運用できる情報基礎力を養うことを目的とする。 C言語は現在、情報処理技術者試験の出題言語である。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 林晴比古著「新訂新C言語入門スーパービギナー編」ソフトバンクパブリッシング   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 林晴比古著「新訂新C言語入門ビギナー編」「新訂新C言語入門シニア編」ソフトバンクパブリッシング   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (30%) は出席状況などによる 課題到達度 (70%) は授業中に作成されたプログラムの完成度と授業中の質疑応答・授業内レポートの完成度から判断する   |       |           |
| 到達目標       | 1.自力で教科書を読み、必要な技術を自学自習できるようになるための教科書の使い方を習得する 2.コンピュータを用いた情報処理と人間の行う情報処理の違いについて理解し、その効果的な役割分担について理解する   |       |           |
| 準備学習       | パソコン入門程度のパソコンの技術を復習すること   |       |           |
| 受講者への要望    | パソコン入門程度のパソコンの技術を習得していること 遅刻は厳禁とする  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください 1.電子計算機の歴史 2.C言語を使うにあたっての基礎知識 (MS-DOSとコンパイラの使い方など) について 3.C言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得 (1) 4.C言語を使うにあたっての基礎知識の技術的習得 (2) 5.プログラム構造の基礎 6.C言語における変数について 7.見やすいプログラムについて 8.標準入出力 (1) 9.標準入出力 (2) 10.for文による繰り返し処理 (1) for文の基礎知識 11.for文による繰り返し処理 (2) for文の発展的利用法 12.for文による繰り返し処理 (3) 高度なfor文の使い方 13.情報理論 (1) データ処理の基礎概念 14.配列の表現法・変数や配列の初期化について 15.ファイル入出力 (1) ファイルの入力 16.ファイル入出力 (2) ファイルの出力 17.ファイル入出力 (3) ファイルの入出力 18.基礎技術の確認 (1) 19.基礎技術の確認 (2) 20.do-while文による繰り返し処理 21.分岐処理の基礎 22.分岐処理の応用 23.構造化プログラミングについて 24.構造化プログラミングによるプログラムの作成 (1) 25.構造化プログラミングによるプログラムの作成 (2) 26.情報理論 (2) いいプログラムと悪いプログラム 27.総合演習 (1) 短いプログラムを効率的に作成する 28.総合演習 (2) 複雑なプログラムを作成する 29.総合演習 (3) 使いやすい工夫をしたプログラムを作成する 30.まとめ |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV0280001 |
| 科目名        | プログラミングB II  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Programming B II   |       |           |
| 担当者名       | 坂元 尚美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在のコンピュータプログラミングは、多くの人が互いに協力し合って行われている。そのため、協力関係を有効に機能させるための様々な教養もまた、純粋な技術的能力と同様に必要とされている。 そこで、本講義では、コンピュータや OS の種類にかかわらず動作するプログラムの作成が可能な Java 言語を用いてコンピュータやプログラミングの基礎知識を学び、これらを踏まえて Java 言語の基本構文やオブジェクト指向プログラミングについて学習する。また、それと並行して、コンピュータにかかわる基礎的な教養について解説し、他者と協力して行う現代コンピュータプログラミングの基礎的な能力を養う |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 富士通エフ・オー・エム株式会社著 はじめてでもわかる Java 入門 FOM 出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | プログラミングの技術の到達度 (50点)、課題への取り組み (25点)、基礎教養への理解度 (25点)  |       |           |
| 到達目標       | 1. Java の基礎を理解し、オブジェクト指向プログラミングの有効性を理解する 2. 教科書から自力で必要な情報を取得し、活用する 3. コンピュータに関係する基礎的な教養を身につけ、他人と協力してプログラミングをするための基礎的な能力を養う   |       |           |
| 準備学習       | パソコン入門で習う程度の基本的なパソコン操作が確実にできること  |       |           |

#### 受講者への要望

Windows やワープロの操作に熟達し、OS やファイルの構成を最低限知っていることが望ましい。|基本的に教科書に従って講義を進めていくので、教科書は必ず準備すること。

#### 講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください||第1回 プログラミングにかかわる基礎知識|第2回 Java の基本構造|第3回 Java プログラムの基本構造|第4回 変数と配列の構造と理解|第5回 制御文と算術演算処理の構造と理解 (1)|第6回 制御文と算術演算処理の構造と理解 (2)|第7回 プログラミング基礎知識確認|第8回 オブジェクト指向プログラムの作成|第9回 クラスからオブジェクトの作成|第10回 アクセス修飾子の追加とアクセス制限|第11回 コンストラクタの作成と同時処理|第12回 オーバーロードの作成と動作|第13回 クラスの継承とサブクラスの作成 (1)|第14回 クラスの継承とサブクラスの作成 (2)|第15回 オブジェクト指向プログラム確認|第16回 コマンドライン入力とオブジェクトの作成|第17回 エラー発生時の処理の追加方法について|第18回 エラーにおける例外処理について (1)|第19回 コマンドライン入力とオブジェクト確認|第20回 テキストファイル入出力の概要|第21回 テキストファイルへのデータ書き込み (1)|第22回 テキストファイルへのデータ書き込み (2)|第23回 テキストファイルからのデータ読み込み|第24回 サブクラスに対応したテキストファイル入出力|第25回 GUI 画面の作成|第26回 GUI 画面からのデータ書き込み|第27回 商品データ読み込みのための GUI 画面作成と商品データの読み込み|第28回 サブクラスに対応した GUI への拡張|第29回 Java による課題プログラムの作成|第30回 まとめ

| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行働力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待           |            | ○   | ○   | ○   | ○     |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | JV0290001 |
| 科目名  | プログラミングC   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Programming C  |       |           |
| 担当者名   | 大塚 素子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>PHP という WEB 用のプログラミング言語を使って、ホームページを作る演習を行います。PHP は一般的なプログラミングでよく使われる C 言語とよく似た言語ですが、これまでまったくプログラムを書いたことがない人でも、ページを見ている人が入力した情報に応じて表示が変わるホームページを簡単に作成することができます。  今年度、この授業では、全くプログラミング経験ない人、また、IT 業界志望の学生を対象にして書かれたテキストを使います。一般的なパソコン関係の入門書のような予備知識を必要としません。  初心者でも、いくつかのホームページを作成することを通して基本的なプログラムの書き方を理解し、いろいろなホームページを作ることができるようになります。自分のホームページを作ってみましょう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 谷藤賢一著『いきなりはじめる PHP ワクワク・ドキドキの入門教室』リックテレコム 1800円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 山本昌弘著『学生のための PHP 言語 基礎からウェブシステムまで』東京電機大学出版局 1900円  |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）…出席状況等による。 課題到達度（70%）…授業中に作成するプログラムの完成度と提出レポートにより評価する。   |       |           |
| 到達目標   | PHP 言語を使ってホームページを作成することで、プログラミングの楽しさを知る。   |       |           |
| 準備学習   | パソコンの基本操作をマスターしていること。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 原則、授業に欠席しないこと。どうしても欠席する場合も、連続して休まないように。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. プログラミングとは   2. アンケートページを作ってみよう 1   3. アンケートページを作ってみよう 2   4. アンケートページを作ってみよう 3   5. アンケートページを作ってみよう 4   6. プログラムの流れを変える (if 文)   7. プログラムの流れを変える (switch 文)   8. 繰り返し処理 (for 文)   9. 繰り返し処理 (while 文)   10. これまでの復習   11. 配列   12. 配列の利用   13. フォームのしくみ   14. フォームを利用したデータ送信   15. 関数のしくみ   16. 関数の利用   17. 日付と時刻の利用   18. 変数の有効範囲   19. これまでの復習   20. 文字列データ   21. 正規表現 I   22. 正規表現 II   23. ファイルヘデータの書き込み   24. ファイルからデータの読み込み   25. データベースページを作ってみよう 1   26. データベースページを作ってみよう 2   27. データベースページを作ってみよう 3   28. データベースページを作ってみよう 4   29. まとめ 1   30. まとめ 2    受講者の理解度に応じて、内容及び順番を変更することがあります。</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0330A01 |
| 科目名        | マルチメディア表現 s   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | The Study of Multi-Media Expression (s)   |       |           |
| 担当者名       | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。  従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。  画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | スタジオ イー・スペース著『Photoshop レッスンブック』ソシム, 2400 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等と、各回の作業結果と、完成作品の機能性, デザイン性, システムとしての完成度 (55%) の総合評価とします。   |       |           |
| 到達目標       | Photoshop で、写真の加工や web のデザインなどが出来るようになること。  |       |           |
| 準備学習       | ホームページのデザイン, 雑誌のデザインなど, デザイン全般を注意しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 基本的な技術を積み重ねて創作していくので、各回の内容をよく復習しておくこと。また、 遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.Photoshop の基本 2.ペイントツールとパネルの操作 3.文字ツール 4-5.選択範囲 6-7.レイヤー 8.シェイプ 9-10.写真を加工 11-12.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る 13-14.ブログデザインを作る 15.まとめ   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | JV0330B01 |
| 科目名        | マルチメディア表現 f   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | The Study of Multi-Media Expression (f)   |       |           |
| 担当者名       | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚ましものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。  従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。  画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 佐藤好彦著『Flash レッスンブック』ソシム, 2300 円   |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (45%) 出席状況等と、各回の作業結果と、完成作品の機能性, デザイン性, システムとしての完成度 (55%) の総合評価とします。   |       |           |
| 到達目標       | Flash で、動きのあるホームページを作成すること。   |       |           |
| 準備学習       | WEB デザインのなかで、アニメーション関係のサイトを閲覧しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 基本的な技術を積み重ねて創作していくので、各回の内容をよく復習しておくこと。また、 遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.Flash の基本 2-3.基本的なアニメーション 4-5.インタラクティブなコンテンツ 6-7.より高度なアニメーション 8-10.ActionScript 11-12.サウンド・ビデオの利用 13-14.ホームページの制作 15.まとめ  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | JV0340001 |
| 科目名        | パソコン入門+パソコン応用A   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction of Handling on Personal Computer and Application of Handling on Per   |       |           |
| 担当者名       | 大塚 素子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 前半のパソコン入門では、パソコンに慣れてもらうことに主眼を置きながら、演習課題をこなす少し高度な課題にも挑戦してもらいます。後半のパソコン応用では様々な関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データ集計やピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的機能と作業の効率化を進めるテクニックを習得します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 必要に応じ、そのつど講義内においてプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 富士通エフ・エム・オー株式会社 「よくわかる Word2007 基礎」 FOM 出版 富士通エフ・エム・オー株式会社 「よくわかる Excel2007 応用」 FOM 出版   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (50%)、レポート提出 (30%)、講義内課題提出 (20%) の総合評価とする。   |       |           |
| 到達目標       | 実社会に即したコンピュータの能力 (Word や Excel) を身につけることが目標です  |       |           |
| 準備学習       | 講義内で学んだことは必ず復習し、次回の講義のためにテキストを熟読しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

この科目はパソコン入門/パソコン応用と連続になります。パソコン入門においては早くパソコンに慣れ、Word や Excel の演習問題を取り入れ基本的な操作を習得してもらうことに主眼を置き、前半の講義を進めていきます。後半のパソコン応用はパソコンの基本的な操作を習得したことを前提に、応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。そのために準備学習はしっかりとしておくことです。

講義の順序とポイント

パソコン入門|第1回 大学のコンピュータ環境|第2回 インターネット利用方法、情報倫理、図書館情報検索|第3回 Word 基本操作 (文書入力、編集、文字の体裁、保存・呼び出し)|第4回 Word 基本操作確認 (課題・小テスト)|第5回 Word 表作成 (表と罫線の使い方)、印刷、レポート管理システムの使い方|第6回 Word 例文作成 (書式設定の使い方)|第7回 Word 例文作成 (図形・クリップアートの使い方)|第8回 Word 確認演習問題 (課題作成)|第9回 Excel 基本操作 (データ・計算式入力、訂正・削除、オートフィル)|第10回 Excel 表計算機能 (罫線、書式設定、関数) ①|第11回 Excel 表計算機能 (罫線、書式設定、関数) ②|第12回 Excel グラフ機能 (グラフ作成、印刷)|第13回 Excel データベース機能|第14回 Word と Excel の連携|第15回 復習 (確認課題の作成)|パソコン応用|第16回 入門の復習|第17回 関数の利用 (順位付け、条件判断、データ検索)|第18回 関数の利用 確認演習問題|第19回 Excel 表作成の活用 (条件付き書式、入力規則)|第20回 Excel 表作成に活用 確認演習問題|第21回 グラフィックスの活用 (複合グラフ、グラフ編集、図形作成) ①|第22回 グラフィックスの活用 (複合グラフ、グラフ編集、図形作成) ②|第23回 グラフィックスの活用 確認演習問題|第24回 複数ブックの操作とデータベース (データ集計と統合、テーブルの利用)|第25回 複数ブックの操作とデータベース 確認演習問題|第26回 ピボットテーブルとピボットグラフ (ピボットテーブル・グラフの作成と編集)|第27回 ピボットテーブルとピボットグラフ 確認演習問題|第28回 マクロ (マクロ作成と実行)|第29回 ビジネス活用関数テクニック (基本)|第30回 ビジネス活用関数テクニック (基本)

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | N60001001 |
| 科目名  | 自然保護思想   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Philosophy of nature conservation  |       |           |
| 担当者名   | 森本 幸裕  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>自然保護思想は当初、自然の「開発か保存か」の2項対立的図式の、後者の立場での社会的運動のなかで形成された。しかし、やがて「環境保全」という考え方が登場し、社会も環境保全への具体的配慮や対策を展開し出す。この事態に影響されて、「自然を保護するとはどういうことか」の思想性はある種混迷し、後退したかにみえる。しかし、人間中心主義に環境的自然を操作・変更してきた人類史（農業革命、次に産業革命）が、転換期にあるのは確かである（「環境革命」という革命へ）。ここに、「人類の権利と義務」にかかわる新たな地平での「自然保護思想」が、準備されつつある。このような文脈を下地にし、自然-人間関係の具体的、歴史的に現れてきた「自然を大切に（ないしは破壊する）」事例・事柄を引き合いにだしながら、環境的自然の持続性と公平性、存在の豊かさを求める自然保護思想について、可能な限り多様に、多面的・多面的に講述する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 北尾邦伸著『森林社会デザイン学序説（第3版）』J-FIC 社 2,500 円 [「バイオ環境デザイン原論」と併用]  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 鬼頭秀一著『自然保護を問いなおす』ちくま新書、F・ナッシュ著『自然の権利』ちくま学芸文庫、アルド・レオポルド著『野生のうたが聞こえる』講談社学術文庫、田村正勝著『見える自然と見えない自然』行人社、田端英雄編著『里山の自然』保育社   |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオやパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点（20%） 授業中のミニレポート（20%） 期末課題レポート（60%）   |       |           |
| 到達目標   | 持続可能な社会にむけての配慮と熟慮、および行動を迫られている現代にあって、それらに方向性と深みを与えるところの、環境的自然の「保存」と「保全」をめぐる自然保護思想についての理解。  |       |           |
| 準備学習   | 前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 世の中、ものごとに広く関心を寄せ、常に知的好奇心に満ちた生活をしてください。本をじっくり読んでください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. はじめに - 「自然」・Nature という言葉、欧米人の自然観、日本人の自然観  2. 桜 - はる さくらが サク、花がサキ 実をムスブ  3. 「自然」を「保護」するということ - 『星の王子さま』のアプリヴォアゼをめぐる  4. 原生林の消失と劣化の現実、その(1) - シベリア・タイガとシベリア・タイガー  5. 同 上 その(2) - 熱帯雨林、北米オールド・グロスと北マダラフクロウ  6. 原生自然「保存」への対処 - 国連 MAB 計画、アメリカのエコシステム・マネジメント  7. 自然の「保存」と「保全」 - 森岡正博による四つの領域  8. 里山の自然とはどういう自然か、その(1) - 今森光彦が描く世界（ビデオ）  9. 同 上 その(2) - 解説-  10. 里山的自然の「保全」  11. 自然保護をめぐる法的秩序 - 畠山武道著『自然保護法講義』（北大図書刊行会）を参照して-  12. 環境倫理 - 自然の生存権・世代間倫理・地球全体主義 [加藤尚武著『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）]  13. ディープ・エコロジー - アルネ・ネスの「自己」実現  14. 生命地域主義（バイオリージョナリズム）の源流 - アルド・レオポルドの「土地倫理」  15. 自然はだれのものか - 公平・公正・レディティマシー（正当性・正統性）、コモンズ、公共性  （※担当者が適宜変更することがある） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | N60008001 |
| 科目名        | 日本の農業   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Agriculture  |       |           |
| 担当者名       | 矢澤 進  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本農業の過去と現在の姿を総合的に理解する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しないが、講義の中で順次紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 祖田 修・杉村 和彦 編 「食と農を学ぶ人のために」 世界思想社  |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）講義期間中のレポート（20%）と講義終了後のレポート（50%）で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 将来の農業と食の姿について、おのずから考えられるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 特になし。   |       |           |
| 受講者への要望    | 農業に関する書物を一冊でも読んでほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. はじめに 2. 日本の農業を取り巻く諸問題。(植物生産を中心として) 3. 日本の農業を取り巻く諸問題。(動物生産を中心として) 4. 日本人は農業をいつ始めたか。日本農業の発達史。 5. 日本農業の発達史。 6. 農業と食糧問題。(穀物の生産) 7. 農業と食糧問題。(野菜・果樹の生産) 8. 農業と食糧問題。(畜産物の生産) 9. 農業生産を取り巻く環境。(生産の役割を中心として) 10. 農業生産を取り巻く環境。(物質の流れを中心として) 11. 農業と科学技術、品種改良。 12. 農業と科学技術 - 特に畜産を中心として。 13. ヒトの健康と作物。 14. 日本農業の今後の展開。 15. まとめ </p> |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | N60009001 |
| 科目名       | 食の安全安心  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Food Safety I   |       |           |
| 担当者名      | 瀧井 幸男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>食品は人間が食する直前までは、人間と同様に生きていた「生物」のからだの一部から作られていることを理解する。例えば、生きている牛は病原性微生物を排除できるが、と殺されて牛肉の形になれば、微生物にとって格好の栄養源となり、病原性微生物に感染することがおこりうる。野菜、魚貝類のような生鮮食品では、収穫後、時間を経過するにつれて汚染されやすくなる。放射能汚染は記憶に新しいところである。  病原性微生物に感染した食品を微生物とともに摂取したあと、微生物が人間の体内で増殖して、感染症に至る場合と、すでに病原性微生物に感染した食品の中で毒素（トキシン）がつくられている場合がある。後者ではトキシンが熱に安定な物質であることが多いので、食品を加熱調理しても、感染症を発症することがおこりうる。  食品を適切に保存し、健康な食生活を送るためには、微生物学、食品衛生学に対する正確な知識が必要である。食品としての安全性は、物理的手段（加熱）、化学的な方法（防腐剤・防カビ剤・保存料）および生物学的予防（食品内に無害の乳酸菌を共存させるなど）によって守られる。しかし食の「安心」は、人間の心理的なところによることが多いことを学ぼう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 瀧井幸男 改訂版『食の安全と健康＝生命の科学＝』 わかくさ印刷   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 定期試験の成績、期間中に実施する小テストおよび出席状況により評価する。定期試験・小テスト実施時には、教科書の持込みを認める。教科書の内容を超えて出題することはない。  |       |           |
| 到達目標      | 人間の生命を維持し健康を増進するために必要な食に関わる知識を修得する。とりわけ人間が食する食品の対象は、人間以外の生物（動物、植物、微生物）を素材とすること、ならびにそれらが食品素材となる直前まで生きていた生命体であることを認識する。   |       |           |
| 準備学習      | ミカンや食パンに生えるカビなどの微生物を観察し、なぜそれらが食品素材で仲間を増やすのかを考えてみよう。   |       |           |

#### 受講者への要望

複雑な化学式や構造式をできるだけ使わないで、わかりやすく解説する。授業の円滑な進行に障害をきたすような私語を控えること。教科書に即して講義する。放射能汚染と食品についてトピックを紹介する。

#### 講義の順序とポイント

1. 食品の定義。 | 2. 食品として望ましい性質。 | 3. 食品として好ましくない性質。 | 4. 食品は微生物の栄養源になる。 | 5. 人間と微生物のよい関係・悪い関係。 | 6. 代表的な病原性微生物による感染。 | 7. 殺菌、滅菌、消毒の定義。 | 8. 安全な食品とは何か。 | 9. 遺伝子組換え食品、トリインフルエンザウイルスなど。 | 10. 安全と安心との違い。 | 11. 健康な食生活を送るための心得。 | 12. 人間と微生物の生命活動に共通する原則 | 13. 人間と微生物の生命活動における相違点 | 14. 人間の生命活動の原点：遺伝子の役割 | 15. 食の安全に関する法的な規制について

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | N60018001 |
| 科目名        | 昆虫の科学  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Entomology   |       |           |
| 担当者名       | 若村 定男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 昆虫の種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると80%にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や形態と機能といった生理学側面を中心に学び、同種並びに他種生物との相互作用といった生態学的理解への基礎を深める。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に定めない   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜推薦する   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義に必要な教材は、適宜指示あるいは配布する   |       |           |
| 評価方法       | 期間中のレポート(小論文、3回)と期末試験(1回)に出席を加味して評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 昆虫という生き物についての関心を深め、基本的知識を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 昆虫に関する予備知識の多寡は問いません。受講者自身の経験で不思議に感じたり、昆虫に関する本を読んでももっと知りたいと思った事柄を2つ～3つ書き留め、初回に持参してください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講を通じて昆虫をはじめとした生き物への関心を深めてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 昆虫とは  2. 昆虫の形態学  3. 昆虫の分類学  4. 昆虫の成長と変態、休眠  5. 昆虫の栄養と消化・吸収・排泄  6. 昆虫の呼吸と循環系  7. 昆虫の感覚と神経系  8. 昆虫の運動と行動  9. 昆虫の生殖と配偶行動  10. 昆虫の情報化学物質  11. 昆虫の移動と分散  12. 昆虫の捕食と寄生  13. 役に立つ昆虫  14. 昆虫個体群とその動態  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | N60019001 |
| 科目名  | 土壌の科学   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Introduction to Soil Science  |       |           |
| 担当者名   | 關谷 次郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 土壌は陸上の生物にとって必須の環境である。特に植物は土壌に依存して生存しており、農業について土壌抜きには語れない。また土壌に対する基礎的な認識を深めることは、バイオ環境を理解するうえでも欠かせない要素である。土壌とは何か、土壌の特性などについての理解を深め、土壌と植物、畑や水田の土壌、土壌と地球環境などについて考える。全講義期間を通じて数回ワークシートを配布し、理解度を確認する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 「土壌サイエンス入門」三枝正彦・木村真人編、文永堂出版 「土壌学の基礎－生成・機能・比沃土・環境」松中照夫著、農文協 「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版  |       |           |
| 教材 (その他)   | その他の参考書は最初の授業で紹介する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 出席状況やワークシート等による。定期試験 (80%)。   |       |           |
| 到達目標   | 陸上生物－特に植物－の生存の場としての土壌についての基礎的理解を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 土壌について学ぶ機会はこれまでほとんどなかったと思うので、事前学習というよりは、毎回の講義の後に、参考書にとりあげた「土とは何だろう?」の該当する部分を読み、理解を確実にしたい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 農業を営む上で土壌はきわめて重要な働きをしている。また農業を主要な産業とする地域の環境を考える場合に土壌は重要な要素のひとつである。本講義では主として農耕地土壌を対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と現代的課題を学んでほしい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 土壌とは   2. 土壌の成り立ち (1) 土壌の構成、土壌の生成   3. 土壌の成り立ち (2) 土壌粘土、土壌の老化   4. 植物にとって良い土壌の構造とは (1) 土壌の物理性   5. 植物にとって良い土壌の構造とは (2) 土壌の化学性   6. 植物にとって良い土壌の構造とは (3) 土壌の化学性   7. 植物にとって良い土壌の構造とは (4) 土壌にすむ生物   8. 土壌の動的平衡状態   9. 畑土壌の特徴 (1) 日本の幡土壌の分布、褐色森林土・褐色低地土   10. 畑土壌の特徴 (2) 黒ボク土   11. 水田土壌の特徴 (1) 土壌特性   12. 水田土壌の特徴 (2) 栄養分の動態   13. 土壌はそれぞれの顔を持つ: 土壌の分類   14. 土壌と地球環境 (1) 温暖化ガスの発生   15. 土壌と地球環境 (2) 問題土壌 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | N60020001 |
| 科目名        | 微生物の世界   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | The World of Microorganisms  |       |           |
| 担当者名       | 萩下 大郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。 本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から解説し、暮らしの中の微生物について理解させる。                              |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1) 応用微生物学 第2版 (2008) 清水昌、堀之内末治 編 文永堂出版 2) 遺伝子から見た応用微生物学 (2008) 熊谷英彦ら 編 朝倉書店  |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材やパワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（出席状況などによる）（20%） ・期末試験（80%）  |       |           |
| 到達目標       | 1) 生物界における微生物の位置を理解する。 2) 生態系における微生物の存在形態を理解する。 3) 人間生活と微生物との関わりについて具体的に理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1) 緒論  2) 生物界における微生物の位置  3) 有用微生物：食品の製造  4) 有害微生物：病原微生物、腐敗  5) 文化と微生物  6) 健康と微生物  7) 家庭環境と微生物  8) 環境浄化と微生物  9) 共生と微生物  10) 生物の進化と微生物  11) 農林水畜産業と微生物  12) 鉱業と微生物  13) 石油と微生物  14) 食糧と微生物  15) エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合がある。） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T20005001 |
| 科目名  | 国際経済学 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | International Economics   |       |           |
| 担当者名   | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 近年、グローバル化している経済状況を理解し、そこで生じる様々な課題に対処するための分析ツールを提供するのが国際経済学です。本講義の前半では、国際貿易論の分野を扱います。具体的には、貿易のパターンや貿易の利益を説明する理論モデルを扱います。後半では、国際マクロ経済学の分野から、主に国際マクロ経済政策の政策効果について学びます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 下記の参考文献・その他に記載されたテキストに従ってレジュメを作成し配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ○澤田康幸(2003)『基礎コース 国際経済学』 新世社  ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』 新世社  ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』 有斐閣  |       |           |
| 教材 (その他)   | ○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎 国際経済学』 中央経済社  ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門 国際経済学』 岩波書店  ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』 有斐閣   |       |           |
| 評価方法   | 学期末テスト(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標   | グローバル化する経済活動の現状を理解しながら、国際経済学を理解するための理論モデルを学習し、理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の授業を必ず履修しておいて下さい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とします。遅刻の場合、その理由を求めます。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回：イントロダクション (国際経済学とは?)   第2回：貿易の基本モデル：部分均衡分析(1)   第3回：貿易の基本モデル：部分均衡分析(2)   第4回：貿易の基本モデル(2)：2財の貿易モデル(1)   第5回：貿易の基本モデル(2)：2財の貿易モデル(2)   第6回：リカード・モデル(1)   第7回：リカード・モデル(2)   第8回：ヘクシャー・オーリンモデル(1)   第9回：ヘクシャー・オーリンモデル(2)   第10回：不完全競争と国際貿易(1)   第11回：不完全競争と国際貿易(2)   第12回：完全競争と貿易政策(1)   第13回：完全競争と貿易政策(2)   第14回：不完全競争と貿易政策(1)   第15回：不完全競争と貿易政策(2)   第16回：生産要素の国際移動(1)   第17回：生産要素の国際移動(2)   第18回：前半のまとめ   第19回：海外取引と国際収支   第20回：外国為替の仕組み(1)   第21回：外国為替の仕組み(2)   第22回：為替レートの決定(1)：絶対的購買力平価   第23回：為替レートの決定(2)：相対的購買力平価   第24回：為替レートの決定(3)：金利平価式   第25回：IS-LM分析の復習(1)   第26回：IS-LM分析の復習(2)   第27回：国際マクロ経済政策：固定相場制における財政金融政策 (資本移動が完全なケース)   第28回：国際マクロ経済政策：変動相場制における財政金融政策 (資本移動が完全なケース)   第29回：国際マクロ経済政策：固定相場制・変動相場制における財政金融政策 (資本移動がないケース)   第30回：後半のまとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T20044001 |     |       |        |
| 科目名   | 交通経済論 【他】  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Transportation Economics   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 西藤 二郎  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | <p>鉄道・道路・空港などは社会全体で、世代を超えて利用していくもので、こうした設備は交通社会資本といわれる。わが国におけるこれらの交通社会資本の整備は、戦後の人口増加と、経済成長の中で、特有の財源制度に支えられて進められてきたが、いまわが国は世界に類を見ないほど速いスピードで、少子・高齢化が進んでいる。しかも、こうした社会資本が整備されてから40～50年が経ち、更新投資が必要になってきている。そうした状況の中で、財政の逼迫問題が同時に生じてきている。 そうであるだけに、今後のわが国における交通社会資本の整備は、どのような資金で、誰が、どのように負担していくことが望ましいのかについて考えるために、わが国での特有の財源制度の問題と負担の関係について考察していく。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | なし、各時間ごとに、プリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)  | 講義に関連するビデオ教材を用いることもある。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 1.各章が終わるごとに、チームを構成し、チームでまとめて行うプレゼンを評価 (30%)  2.各省ごとのプレゼンノートの評価して返却する (30%)  3.レポート：亀岡市のコミュニティバスの観察乗車報告 (20%)  4.質問など平常点 (20%) を総合する。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | 今起きている社会現象について、要点をまとめる力をつける (論理的思考力)  その解決方法についての自分の意見をまとめる力を身に付ける (課題発見力)  チームで考えて、まとめる力をつける。(協働能力)  プレゼンの要領を習得する。(コミュニケーション力)  |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 日常から新聞・雑誌・ニュースに注意を払い、友人と意見を交わす習慣を身に付ける   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |           |     |       |        |
| 講義中の私語、飲食、携帯メールなどは、厳禁。  |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |     |       |        |
| <p>1. 交通社会資本の特質と費用負担   (道路・鉄道・空港などの建設維持の費用負担はどうあるべきなのか)  第1回目：交通社会資本の性格を考える 第2回目：交通社会資本の費用の負担のあり方  第3回目：費用負担のあるべき方向  第4回目：開発利益還元の方法と問題点 第5回目：プレゼン  2. 高速道路政策を考える  (道路公団は何が問題で民営化されたのか、そして新会社にどのような問題があるのか)  第6回目：道路公団民営化の必要性  第7回目：資金調達方法と運営方法  第8回目：新会社の仕組みの問題点 第9回目：総合交通政策からの問題点 第10回目：プレゼン   3.道路混雑問題の解消  (交通需要管理の方法と問題点について考える)  第11回目：渋滞発生の原因と対策 第12回目：TDM政策 第13回目：プライシング制度の有効性 第14回目：ピークロードプライシング制の有効性と問題点 第15回目：プレゼン    4. 地方におけるバス事業のありかた   (地方交通の足としてバス事業は、どのようにして維持すべきか)  第16回目：バス事業の推移と実態  第17回目：バス事業の性格と経営努力  第18回目：バス事業に対する補助政策  第19回目：地域協議会の組織化の重要性を考える 第20回目：プレゼン  5. 運賃決定原理と仕組み   (通常の財の価格が市場で自ずと「決まる」の)に対して、運賃はなぜ「決める」のか)  第21回目：公共料金としての運賃が持つ3つの性格  第22回目：運賃決定の諸方式を考える   ①原価補償主義 ②総括原価方式(積上げ方式)とその問題点  第23回目：③総括原価方式(レートベース方式)  第24回目：④ヤードスティック方式 ⑤プライスカップ方式 ⑥インセンティブ規制  第25回目：プレゼン  6. 規制の理論と緩和の理論   (規制は何のために行うのか、そしてどのような理論に基づくのか)  第26回目:規制理論のパターンと類型  第27回目：伝統的規制理論とその問題点  第28回目：産業利益説とその問題点  第29回目：コンテストابل・マーケット理論とその限界 第30回目：プレゼン</p> |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働能力  | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |           |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T20052001 |
| 科目名       | 福祉社会論 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Welfare Society   |       |           |
| 担当者名      | 平田 謙輔   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。  そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本が抱える諸問題について多角的に検討し、来たるべき「福祉社会」を展望したい。  なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要に応じて授業中に資料を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 足立正樹（著）『高齢社会と福祉社会』高学出版  |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じて授業中に資料を配布する。  |       |           |
| 評価方法      | 中間試験（35%）、学期末試験（52%）、平常点（13%） （別途指示するレポート等により加点する場合があります。）  |       |           |
| 到達目標      | 高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解をする。  |       |           |
| 準備学習      | 日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 各回に配布された資料を熟読しておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

・初回の授業で授業の進め方や評価方法について説明するので、初回から必ず出席すること。|・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退席、飲食はしないこと。|・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には試験結果に関わりなく単位を認定しない。|・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

#### 講義の順序とポイント

1. 授業の進め方と講義の概要| 2. 少子・高齢社会の到来（参考文献の第1章）| 3. 社会保障の誕生（同）| 4. 社会保障の普及（同）| 5. 日本の社会保障（同）| 6. 高齢化と医療保障（同）| 7. 高齢化と年金問題（同）| 8. 介護問題登場の背景（参考文献の第2章）| 9. 四種類の介護供給システム（同）| 10. わが国の介護保障システムの展開（同）| 11. 公的介護保険の構造と問題点（同）| 12. 介護保険の2005年改正（同）| 13. 前半のまとめ| 14. 労働時間の短縮（参考文献の第3章）| 15. 労働と自由時間（同）| 16. わが国の勤労観（同）| 17. 自由時間の意識と活用形態（同）| 18. 自由時間と無償労働（同）| 19. 自由時間の使途（同）| 20. 少子社会の問題（参考文献の第4章）| 21. 少子化の趨勢（同）| 22. 「近代」の原理と人口動態（同）| 23. 社会保障の限界（同）| 24. 少子化対策の種類（同）| 25. 各国の少子化対策（同）| 26. 近代の精神（参考文献の第5章）| 27. 自由主義の構想と資本主義の内在的諸問題（同）| 28. 福祉国家の誕生と経済社会問題（同）| 29. 福祉国家批判と福祉社会の展望（同）| 30. 全体のまとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T20056001 |
| 科目名  | 社会政策 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Social Policy  |       |           |
| 担当者名   | 平田 謙輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>今日わが国では、他に類を見ない速さで少子・高齢化が進んでいる。こうした状況の下で、社会保障が期待される役割はますます大きくなっているが、それが大きな困難に直面していることも周知の通りである。  そこでこの講義では、今日われわれの生活にとって欠くことのできないものとなっている社会保障について、はじめにその全体像を概観した上で、医療、年金、介護という社会保障の主要な分野を取り上げて見ていく。ここでは、それぞれの制度の目的と概要、そしてその現状と問題点などについて説明を行う。  次に、社会保障の原理と体系について述べた上で、社会保障の登場から今日に至るまでの歴史的展開を見ていく。ここでは、戦後西側諸国の指導像となった「福祉国家」がどのように成立し、どのような特徴を持つのか、そしてそこに生じた困難とはどのようなものなのかを考察する。  最後に、少子・高齢化が進行するわが国における社会保障の今日的課題について検討し、これからの社会保障のあり方について展望する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じて授業中に資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じて授業中に資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 中間試験（35%）、 学期末試験（52%）、平常点（13%）  （別途指示するレポート等により加点する場合があります。）   |       |           |
| 到達目標   | 社会保障の諸制度の目的と意義を理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 日ごろから社会保障関係のみならず、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 各回に配布された資料を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>・初回の授業で授業の進め方や評価方法について説明するので、初回から必ず出席すること。 ・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。 ・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には試験結果に関わりなく単位を認定しない。 ・資料配布は原則として授業中のみ行う。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1.授業の進め方と講義の概要 2.社会保障の概念と制度①（参考文献の第1章1節） 3.社会保障の概念と制度②（同） 4.高齢化と少子化 5.医療保障の概念と方法（第3章1節） 6.医療保障の制度体系（第3章2節） 7.医療保険の現状（第3章4節） 8.医療保険の課題（第3章5節） 9.所得保障と年金（第4章1節） 10.年金制度の現状①（第4章3節） 11.年金制度の現状②（同） 12.年金制度の課題（第4章4節） 13.前半のまとめ 14.高齢者介護をめぐる状況①（第5章1節） 15.高齢者介護をめぐる状況②（同） 16.高齢者介護システムの類型（第5章3節） 17.介護保険制度の概要（第5章4節） 18.介護保険制度の課題（第5章5節） 19.社会保障の必要性①（第1章2節） 20.社会保障の必要性②（同） 21.社会保障の必要性③（同） 22.体系と二定型（第1章3節） 23.福祉国家の光と陰①（第1章4節） 24.福祉国家の光と陰②（同） 25.社会保障の源流（第2章1節） 26.社会保障の登場と発展（第2章2節） 27.わが国の社会保障の発展（第2章3節） 28.福祉国家の危機と社会保障の新展開（第2章4節） 29.社会保障の展望（第6章） 30.全体のまとめ</p> |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T20062001 |
| 科目名       | 財政学 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Public Finance  |       |           |
| 担当者名      | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国は様々な問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直していく必要がある。そこで、本講義では政府の役割や税制度の在り方、政府支出のあり方などについての理解を深めることを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 無   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 1.金澤 史男 「財政学（有斐閣ブックス）」（2005/4） 2.貝塚 啓明「財政学」（2003/3） 3.林 宜嗣 「基礎コース 財政学（基礎コース経済学）」（2005/5）  |       |           |
| 教材（その他）   | 無   |       |           |
| 評価方法      | 試験 70%、レポート提出 20%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標      | 税の在り方や政府支出の在り方などについて理解を深める。   |       |           |
| 準備学習      | ミクロ経済学やマクロ経済学について理解を深めておくことが望ましい。   |       |           |

受講者への要望

新聞記事などを通じて疑問に思ったことについて、積極的に質問することを歓迎する。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。|2.政府の役割（1） 政府がなぜ必要であるかについて説明する。|3.政府の役割（2） 前回講義を踏まえて、政府の役割をより詳しく説明する。|4.国の歳入 我が国の歳入の実態について、概要を説明する。|5.課税の原則 税の在り方についての基本原則について説明する。|6.消費税（1） 個別消費税と一般消費税の特徴の違いを説明する。|7.消費税（2） 一般消費税の特徴を詳しく説明する。|8.消費税（3） 我が国の付加価値税制度について説明する。|9.消費税（4） 一般消費税の課題とその改善策について説明する。|10.消費税（5） 個別消費税の特徴を詳しく説明する。|11.消費税（6） ガソリンや酒、タバコを個別消費税の課税ベースとする根拠を説明する。|12.法人税（1） 法人税の帰着と天下の問題について説明する。|13.法人税（2） 近年の法人税の実態とその背景を説明する。|14.法人税（3） 前回講義に引き続き、近年の法人税の実態とその背景を説明する。|15.前半講義のまとめ 前半講義のまとめを行う。|16.所得税（1） 効率性の視点から見た所得税の在り方について説明する。|17.所得税（2） 公平性の視点から見た所得税の在り方について説明する。|18.所得税（3） 公平性と効率性のトレードオフについて説明する。|19.国債（1） 我が国の国債発行の実態について説明する。|20.国債（2） 国債発行の良い点と悪い点について説明する。|21.社会保障（1） 社会保障の機能について説明する。|22.社会保障（2） 社会保障がなぜ必要かについて説明する。|23.社会保障（3） 我が国の年金制度について説明する。|24.社会保障（4） 賦課型年金制度と積立型年金制度の違いを説明する。|25.社会保障（5） 年金制度改革に伴う二重の負担について説明する。|26.社会保障（6） 年金制度改革の在り方について説明する。|27.地方分権（1） 中央集権国家と地方分権国家の違いについて説明する。|28.地方分権（2） 地方分権がもたらす弊害について説明する。|29.地方分権（3） 地方分権下での中央政府の役割について説明する。|30.後半講義のまとめ 後半講義のまとめを行う。

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   |     |     | ○     |        |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T20064001 |
| 科目名       | 金融論 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記） | Money and Banking   |       |           |
| 担当者名      | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 初めて金融を学ぶ者にも十分理解できるように、できるだけ平易な言葉で金融の問題を解説したい。金融政策および金融システムの基礎理論の解説から始め、金融政策の現実、応用に順次段階的に進める。今年度は金融危機をキーワードに、特にバブル、不況という繰返しはどのようにして生ずるのか、また金融政策はいかにあるべきか、金融規制はどの程度必要かという点に重点をおきつつ講義する。1929年に始まる世界大恐慌におけるアメリカ連銀の金融政策を検証し、金融政策にどのような問題点や誤りがあったかを明らかにし、不況期における望ましい金融政策のあり方についても講義する。また、アメリカのサブプライム金融危機をはじめこれまで各国が経験した、バブル、不況の事例についても紹介する。身近な事例を紹介しつつ金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 最初の講義日にテキスト、参考書を紹介する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 中間試験（30%）、学期末試験（55%）、講演会出席レポート（5%）  |       |           |
| 到達目標      | 現実の経済問題を理解し、新聞の経済記事が読め、自分の考えを他人に話せる能力をつける。  |       |           |
| 準備学習      | 復習を心がけること。それが、次の講義の理解につながる。   |       |           |

#### 受講者への要望

分からないことは恥ではありません。積極的に分からないところを指摘してください。また、友達とディスカッションすることを奨励します。

#### 講義の順序とポイント

以下のように講義展開をはかる。||1-2 金融危機と金融政策、概説 | デフレ、バブル、バブルバスト ||3-4 伝統的金融政策の手法 | 金融市場、情報の非対称性 ||5-6 マネーサプライと経済活動 | 貨幣数量理論 ||7-8 預金通貨の供給メカニズム | 信用乗数、貸し渋り、B I S規制 ||9-10 日銀の伝統的金融調節 | 日銀理論、日銀当座預金、積み進捗率 ||11-12 非伝統的金融政策| 量的金融緩和政策と信用緩和政策||13-14 デフレ下の金融政策の効果 | 貨幣乗数、コールレート、時間軸政策、ポートフォリオ・リバランス効果、流動性のワナ ||15 大恐慌1（20年代のアメリカ経済と連銀の金融政策） | 消費ブーム、フロリダの土地投機、株価高騰 ||16-17 大恐慌2（金融引締めとバブル崩壊） | ブローカーズローン、銀行倒産、債務デフレ、マネービュー、クレジットビュー- ||18-19 大恐慌3（株価下落とその後の不況） | 真正手形ドクトリン、金利と金融政策指標、預金保険、37年の教訓 ||20-21 アメリカの80年代の金融危機（貯蓄貸付組合危機） | 金融自由化、金融規制と監督 ||22-23 東アジアの金融危機 | 金融自由化、固定相場制 | |24-25 北欧の金融システムと金融危機 | フィンランド、スウェーデン、ノルウェー ||26-27 サブプライム金融危機 | 証券化、影の銀行、資金余剰、テールルール ||28-29 金融規制改革| バーゼル合意、自己資本比率、銀証分離、利益相反、モラルハザード、規制アービトラージ||30 この講義で学んだことの総括 | ||

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T20066001 |
| 科目名   | 時系列データ分析 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)  | Time Series Analysis   |       |           |
| 担当者名  | 森田 洋二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 経済時系列データの統計分析を行う。データの取得、加工、基本的性質(定常、非定常)の確認、時系列モデリング、作成モデルの検証、モデルによる経済現象の解明といった一連の大きな実証分析の流れを勉強する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 必要に応じて、資料やデータを EXCEL、EViews のファイルで配布。  |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 毎回の課題提出(30%)と5回程度のレポート提出(20%)、定期試験(50%)  |       |           |
| 到達目標  | お互いに関連しながら動く時系列データ間の基礎的な分析方法の取得。時間差を伴う関連の概念の理解。  |       |           |
| 準備学習  | 分析手法は数学とコンピュータを要するが、使っていれば少しずつ慣れてくる。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いなどである。経済学の基礎知識が必要である。          |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.データ取得と加工 2.季節調整、平均化、smoothing 3.定常、非定常の検定(単位根の考え方) 4.同上(遅れ次数とAIC) 5.同上(検定力の検証) 6.同上(日本のデータへの応用) 7.同上(ヨーロッパのデータへの応用) 8.レベル変数(非定常)と階差変数(定常) 9.モデル作成とAICによる遅れ次数決定 10.同上 11.自己相関、相互相関 12.相関関数(時間遅れ) 13.同上 14.回帰モデル 15.同上 16.自己回帰モデル(ARモデル、Auto Regressive Model) 17.同上 18.VARモデル(Vector Auto Regressive Model) 19.同上(多変数モデルにおける変数の選択) 20.同上(インパルス応答) 21.同上(成長率モデルとレベルモデル) 22.同上(日本のマクロVARモデル) 23.同上(ヨーロッパのマクロVARモデル) 24.Grangerの因果性 25.同上(日本のマクロVARモデル) 26.同上(ヨーロッパのマクロVARモデル) 27.共和分の検出と貨幣需要関数への応用 28.同上(日本のマクロVECモデル) 29.同上(ヨーロッパのマクロVECモデル) 30.まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T20075001 |
| 科目名        | 国際金融論 【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | International Finance  |       |           |
| 担当者名       | 道和 孝治郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在は経済のグローバル化が進み、外国の経済状況を無視できないだけでなく、日本経済が世界に及ぼす影響も考慮して政策運営を進める必要がますます高まっています。この講義は現実の国際金融を理解する上で不可欠な国際金融の理論的な知識と制度に関する知識の修得を目的とします。特に為替レートの決定メカニズム、為替レートと貿易収支の関係、国際金融の仕組みや開放経済における政策効果といった点に焦点を当てて説明します。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 下記の参考文献・その他に記載されたテキストに従ってレジュメを作成し配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ○高木信二(1992)『入門 国際金融』 日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』 新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』 有斐閣   |       |           |
| 教材 (その他)   | ○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』 日本経済新聞社  ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』 新世社   |       |           |
| 評価方法       | 学期末テスト(60%)、小テスト(20%)、レポート(20%)  |       |           |
| 到達目標       | 国際金融における為替レートの役割、為替レートの決定メカニズム、そして為替レートが及ぼすマクロ経済効果を主に学習することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 「マクロ経済学」、「金融論」の授業を必ず履修しておいて下さい。  |       |           |

受講者への要望

遅刻や私語を厳禁とします。遅刻の場合、その理由を求めます。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。

講義の順序とポイント

第1回：イントロダクション（国際金融とは？） | 第2回：開放経済の対外経済取引（開放経済における国民所得勘定） | 第3回：開放経済の対外経済取引（国際収支表の見方・書き方） | 第4回：外国為替の基礎1（外国為替の仕組み、外国為替市場の特徴） | 第5回：外国為替の基礎2（為替レートの見方、名目為替レートと実質為替レート） | 第6回：外国為替の基礎3（円高・円安と貿易収支） | 第7回：外国為替の基礎4（マーシャル・ラーナー条件、Jカーブ効果） | 第8回：復習 | 第9回：為替レート決定理論1（絶対的購買力平価） | 第10回：為替レート決定理論1（相対的購買力平価） | 第11回：為替レート決定理論1（バラッサ・サミュエルソンの定理） | 第12回：為替レート決定理論1（金利平価） | 第13回：為替レート決定理論2を分析するための準備 | 第14回：為替レート決定理論2（伸縮価格マネタリーモデル） | 第15回：為替レート決定理論2（硬直価格マネタリーモデル） | 第16回：為替レート決定理論2（為替リスクを考慮したケースの為替レート決定理論） | 第17回：復習 | 第18回：開放経済における政策効果を分析するための準備1（マクロ経済学の復習1） | 第19回：開放経済における政策効果を分析するための準備2（マクロ経済学の復習2） | 第20回：為替介入の方法と効果（介入の仕組みと効果経路） | 第21回：開放経済における政策効果（固定相場制における財政金融政策：資本移動が完全なケース） | 第22回：開放経済における政策効果（変動相場制における財政金融政策：資本移動が完全なケース） | 第23回：開放経済における政策効果（固定相場制における財政金融政策：資本移動がないケース） | 第24回：開放経済における政策効果（変動相場制における財政金融政策：資本移動がないケース） | 第25回：復習 | 第26回：通貨危機の考え方（通貨危機の発生メカニズム） | 第27回：通貨危機の考え方（通貨危機に対する通貨制度） | 第28回：国際通貨制度1 | 第29回：国際通貨制度2 | 第30回：まとめ

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T20190001 |
| 科目名   | 西洋経済史 【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）   | Economic History of Western Countries  |       |           |
| 担当者名  | 大野 彰   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>「西洋経済史」という科目名からわかるように、ヨーロッパやアメリカなど西洋諸国の経済の歴史について学ぶことが、この科目の目的です。具体的には、3つの項目を予定しています。第一に、小麦、ビール、コーヒー、砂糖、綿織物など様々な物産の歴史を通じて、どのようにしてヨーロッパ世界が形成されたのかを見ていきます。第二に、絹（シルク）の歴史について学びます。中国で発見された絹はイタリアやフランスに伝わりました。ヨーロッパで考案された器械製糸技術は明治政府の手で富岡製糸場に導入されましたが、日本はそれに独自の改良を加えました。日本産生糸の欧米向け輸出が躍進した理由について考えます。第三に、19世紀末にヨーロッパで馬車を元にして自動車が考案されてから今日に至るまでの歴史を概観します。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 大野彰「アメリカ絹工業が生糸に求めた要件は何か」、『京都学園大学経済学部論集』、第17巻第2号、2008年。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート（28%）、期間外試験（72%）  |       |           |
| 到達目標  | 創意工夫によって経済が大きく発展することを学んでほしいと思います。  |       |           |
| 準備学習  | 参考文献（1～46ページ）を熟読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 座席を指定するので、授業中は指示された席に着席すること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1 ガイダンス 2 農耕の起源 3 牧畜の起源 4 オリエンツの灌漑農業 5 ヨーロッパの二圃制と三圃制 6 中世ヨーロッパの大開墾運動と森林の破壊 7 中世ヨーロッパの荘園と村落共同体 8 三圃制の解体と囲い込み運動 9 コーヒーの歴史①イスラーム世界からヨーロッパへの伝播 10 コーヒーの歴史②ヨーロッパ人によるコーヒー園の経営 11 ヨーロッパ世界の膨張①レコンキスタ 12 ヨーロッパ世界の膨張②コロンブスのアメリカ大陸到達 13 ヨーロッパ世界の膨張③環大西洋経済圏の形成 14 産業革命 15 絹の発見と伝播 16 ヨーロッパの絹工業とアメリカの絹工業の比較 17 日本の開国と欧米向け生糸輸出の始まり 18 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件①逆選択の解消 19 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件②荷口の斉一化 20 アメリカ絹工業が生糸に求めた要件③繰返し工程 21 イタリア産生糸と日本産生糸（信州上一番格生糸）の比較 22 アメリカ市場における住み分けの成立と崩壊 23 生糸の格付と商標 24 レーヨンとナイロンの登場 25 ヨーロッパにおける自動車産業の誕生（馬車から自動車へ） 26 アメリカにおける自動車大量生産体制の確立 27 アメリカ自動車産業の国際競争力低下 28 自動車貿易摩擦 29 自動車産業における競争関係の変化 30 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T20199001 |
| 科目名  | 経済数学 【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Mathematics for Economics   |       |           |
| 担当者名   | 濱崎 淳洋   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | この講義では、高校で既習の1次関数・2次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし  |       |           |
| 教材（その他）  | レジメプリントとホームページ  |       |           |
| 評価方法   | 平常点出席状況と授業内レポート（54%）、その理解度を確認する試験（46%）、この2つの項目を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用・行列の計算と応用などの能力を獲得すること。   |       |           |
| 準備学習   | 高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 数学的な記号や法則は、本だけで自習するのは困難であるので、毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め、その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.経済数学とは 2.高校数学の復習 1 3.高校数学の復習 2 4.高校数学の復習 3 5.数列 6.数列の極限 7.関数 8.指数関数・対数関数 9.総合演習 10.まとめ 1 11.関数の極限と微分 12.微分の公式 13.微分の計算 14.微分の応用 15.微分の応用 2 16.ベクトル 17.行列 18.行列式 19.総合練習 20.まとめ 21.逆行列 22.ランク 23.線形計画法 24.固有値と対角化 25.2次形式 26.2変数関数の偏微分 27.2変数関数の極大・極小 28.2変数関数の条件付極値 29.総合練習 30.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T20206001 |
| 科目名   | 経済学史【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)   | History of Economic Thought   |       |           |
| 担当者名  | 渡辺 恵一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも16世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始されている。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』(1776年)によってその原型が完成され、その後今日に至まで200年以上の歴史をへて発展してきた。  本講義では、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第1部「資本主義成立期の経済学」(重商主義と重農主義)・第2部「古典派経済学の成立と解体」(スミスからマルクスまで)・第3部「近代経済学の成立と発展」(限界革命から現代まで)という順序で概説する。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | 田中敏弘編著『経済学史』(八千代出版)3,200円   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 講義のなかで適宜指摘する。   |       |           |
| 教材(その他)   | 講義資料としてプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)確認テスト・出席状況等による。レポート試験2回(70%)  |       |           |
| 到達目標  | 経済学の歴史を切り拓いてきた過去の偉大な経済学者の理論や思想について学びながら、現実起こっているさまざまな経済問題にたいする基本的な見方や考え方を学習することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書を予習してから授業に出席すること。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 授業で「分からないこと」や「疑問に思ったこと」は、授業中に質問するか、または参考書にあたって調べるようにする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. 経済学史の課題   2. 重商主義の定義   3. 重商主義の経済政策(1)   4. 重商主義の経済政策(2)   5. 重商主義の経済学説   6. 重農主義成立の歴史的背景   7. ケネーの『経済表』(1)   8. ケネーの『経済表』(2)   9. アダム・スミスの生涯と著作   10. 『国富論』解説(1)   11. 『国富論』解説(2)   12. 『国富論』解説(3)   13. 『国富論』解説(4)   14. 前半の総括(第1回目レポート課題の発表)   15. マルサス人口論   16. 穀物法論争—マルサス vs. リカードウ   17. リカードウの経済学(1)   18. リカードウの経済学(2)   19. J・S・ミルと現代   20. マルクスと現代(1)   21. マルクスと現代(2)   22. 近代経済学の成立(1)   23. 近代経済学の成立(2)   24. シュンペーターの経済学   25. ケインズ革命(1)   26. ケインズ革命(2)   27. ケインズ革命(3)   28. ケインズ以後の近代経済学の展開   29. 後半の総括(第1回目レポート課題の発表)   30. 経済学の課題と現代</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T20207001 |
| 科目名        | 計量経済学 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Econometrics  |       |           |
| 担当者名       | 尾崎 タイヨ  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済・社会データを数量的に分析する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方など一々チェックするので、細かく修正してもらう。 (なぜ文句を言われるのか、どう修正すれば社会に受け入れられる水準になるのか考えてもらう) これを何回も題材を変えながら繰り返す。例年、4種類ぐらいのテーマになる。</p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 『初歩からの計量経済学 (第2版)』 白砂堤津耶著 日本評論社   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | この科目は難しいイメージがあるが、実は過去の合格率は95%以上である。 授業中にみんなで取り組んで作成した資料をその都度提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する。 期末テストは実施しない。   |       |           |
| 到達目標       | Excel を使って、相関分析、回帰分析ができるようになること   |       |           |
| 準備学習       | パソコンの授業は別に受講しておく方がいいが、知らなくても親切に教えるので心配は要らない   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>休むと次の内容に進んでいるので、理解できなくなる。決して休まないこと。 毎回、コンピュータ室で分析とレポート作りに励むので、Excel などが苦手では困るが、できるだけ親切に指導する。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 講義の全体構成   2 平均と分散   3 平均と分散の実例   4 課題(1)の分析   5~7 課題(1)の修正と完成   8 回帰分析その1   9 回帰分析その2   10 より進んだ回帰分析   11 回帰分析と評価   12 回帰分析と評価その2   13 回帰分析と評価その3   14 課題(2)の分析   15~18 課題(2)の修正と完成   19 回帰分析と多変量解析   20 課題(3)の分析   21~24 課題(3)の修正と完成   25 課題(4)の分析   26~29 課題(4)の修正と完成   30 まとめ  </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T20209001 |
| 科目名  | マクロ経済学 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Macroeconomics I   |       |           |
| 担当者名   | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「マクロ経済学基礎」から一歩進み、より高度なマクロ経済学を学びます。しかしながら、数学的に込み入ったモデルを追うのではなく、現実の日本経済のデータをフォローしながら理解を深めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 滝川好夫 『たのしく学ぶマクロ経済学』 ミネルヴァ書房 2008年 ※ 2012年1月現在 2,800円（税別）                                   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 使用する場合は指示します。  |       |           |
| 教材（その他）  | 京学なびから講義ノートを各自ダウンロードし、プリントアウトして持参する。   |       |           |
| 評価方法   | 中間試験：50% 期末試験：50%  |       |           |
| 到達目標   | 簡単なマクロ経済モデルの説明ができること。 マクロ経済を説明するために必要な統計データを見つけることができること。                                  |       |           |
| 準備学習   | 時々マクロ経済学基礎を復習しましょう。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学を用いた解説は最小限にとどめる予定です。しかし、受講者が体感する難しさにはバラつきがあるので、よく考えてから受講しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 国民経済計算と日本経済 三面等価の原則 3 国民所得勘定① 国内総生産と国内総支出 4 国民所得勘定② 経済成長率と寄与度 5 景気① GDPギャップ 6 景気② 景気動向指数 7 経済成長① 成長会計 8 経済成長② 経済成長の諸理論 9 マクロの消費① 消費関連の統計 10 マクロの消費② 消費関数 11 マクロの投資① 投資関連の統計 12 マクロの投資② 投資の決定理論 13 資金循環勘定 マクロのお金の流れ 14 利子率と収益率① 利回りとは 15 利子率と収益率② 各種の金利 16 貨幣の需要と供給① 貨幣需要とは 17 貨幣の需要と供給② 貨幣供給のコントロール 18 株価決定の理論 株価に影響を与える要因 19 GDPの決定① 45度線モデル 20 GDPの決定② 乗数モデル 21 IS-LMモデル① IS曲線の導出 22 IS-LMモデル② LM曲線の導出 23 一般物価水準 物価水準の計算方法 24 AS曲線 総供給曲線の考え方 25 AD曲線 実質GDPと物価水準の決定 26 外国為替レート 為替レートの決定 27 開放体系のマクロ経済モデル① 国際収支表 28 開放体系のマクロ経済モデル② IS-LM-BPモデル 29 日本の財政① 歳入と歳出 30 日本の財政② 財政赤字と国債 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T20209002 |
| 科目名  | マクロ経済学 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記)   | Macroeconomics I   |       |           |
| 担当者名   | 畔上 秀人  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「マクロ経済学基礎」から一歩進み、より高度なマクロ経済学を学びます。しかしながら、数学的に込み入ったモデルを追うのではなく、現実の日本経済のデータをフォローしながら理解を深めます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 滝川好夫 『たのしく学ぶマクロ経済学』 ミネルヴァ書房 2008年 ※ 2012年1月現在 2,800円 (税別)                                  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 使用する場合は指示します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 京学なびから講義ノートを各自ダウンロードし、プリントアウトして持参する。   |       |           |
| 評価方法   | 中間試験：50% 期末試験：50%  |       |           |
| 到達目標   | 簡単なマクロ経済モデルの説明ができること。 マクロ経済を説明するために必要な統計データを見つけることができること。                                  |       |           |
| 準備学習   | 時々マクロ経済学基礎を復習しましょう。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 数学を用いた解説は最小限にとどめる予定です。しかし、受講者が体感する難しさにはバラつきがあるので、よく考えてから受講しましょう。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 国民経済計算と日本経済 三面等価の原則 3 国民所得勘定① 国内総生産と国内総支出 4 国民所得勘定② 経済成長率と寄与度 5 景気① GDPギャップ 6 景気② 景気動向指数 7 経済成長① 成長会計 8 経済成長② 経済成長の諸理論 9 マクロの消費① 消費関連の統計 10 マクロの消費② 消費関数 11 マクロの投資① 投資関連の統計 12 マクロの投資② 投資の決定理論 13 資金循環勘定 マクロのお金の流れ 14 利子率と収益率① 利回りとは 15 利子率と収益率② 各種の金利 16 貨幣の需要と供給① 貨幣需要とは 17 貨幣の需要と供給② 貨幣供給のコントロール 18 株価決定の理論 株価に影響を与える要因 19 GDPの決定① 45度線モデル 20 GDPの決定② 乗数モデル 21 IS-LMモデル① IS曲線の導出 22 IS-LMモデル② LM曲線の導出 23 一般物価水準 物価水準の計算方法 24 AS曲線 総供給曲線の考え方 25 AD曲線 実質GDPと物価水準の決定 26 外国為替レート 為替レートの決定 27 開放体系のマクロ経済モデル① 国際収支表 28 開放体系のマクロ経済モデル② IS-LM-BPモデル 29 日本の財政① 歳入と歳出 30 日本の財政② 財政赤字と国債 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | T20211001 |     |       |        |
| 科目名                                     | ミクロ経済学 【他】   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Microeconomics I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | ミクロ経済学 I  |     |       |        |
| 講義概要                                    | ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体（消費者、生産者）の意思決定に焦点を当てて、どのような資源配分が行われるのか、どのように価格が決定されるかを分析する。その分析手法は、経済学を学ぶ上で必要不可欠である。 本講義では、 （1）競争市場における価格決定と資源配分の効率性、 （2）消費者および生産者の意思決定、 を中心に講義する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 使用しない。   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点（10%） レポート（30%） 定期試験（60%）   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 経済分析の手法の基礎を身につけること。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 毎回復習を欠かさないこと。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. イントロダクション 2. 需要曲線と消費者行動1 3. 需要曲線と消費者行動2 4. 需要曲線と消費者行動3 5. 需要曲線と消費者行動4 6. 需要曲線と消費者行動5 7. 供給曲線と生産者行動1 8. 供給曲線と生産者行動2 9. 供給曲線と生産者行動3 10. 供給曲線と生産者行動4 11. 供給曲線と生産者行動5 12. 部分均衡分析1 13. 部分均衡分析2 14. 部分均衡分析3 15. 前半まとめ 16. 消費者行動の理論1 17. 消費者行動の理論2 18. 消費者行動の理論3 19. 消費者行動の理論4 20. 消費者行動の理論5 21. 生産者行動の理論1 22. 生産者行動の理論2 23. 生産者行動の理論3 24. 生産者行動の理論4 25. 生産者行動の理論5 26. 生産者行動の理論6 27. 一般均衡分析1 28. 一般均衡分析2 29. 一般均衡分析3 30. まとめ |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | T20211002 |     |       |        |
| 科目名                                     | ミクロ経済学 【他】   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Microeconomics I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 齋藤 弘樹  | 旧科目名称 | ミクロ経済学 I  |     |       |        |
| 講義概要                                    | ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体（消費者、生産者）の意思決定に焦点を当てて、どのような資源配分が行われるのか、どのように価格が決定されるかを分析する。その分析手法は、経済学を学ぶ上で必要不可欠である。 本講義では、 （1）競争市場における価格決定と資源配分の効率性、 （2）消費者および生産者の意思決定、 を中心に講義する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）                                | 使用しない。   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）                                | 授業中に適宜指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）                                 |  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 平常点（10%） レポート（30%） 定期試験（60%）   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | 経済分析の手法の基礎を身につけること。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | 中学・高校数学の復習をしておくことが望ましい。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | 毎回復習を欠かさないこと。  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 1. イントロダクション 2. 需要曲線と消費者行動1 3. 需要曲線と消費者行動2 4. 需要曲線と消費者行動3 5. 需要曲線と消費者行動4 6. 需要曲線と消費者行動5 7. 供給曲線と生産者行動1 8. 供給曲線と生産者行動2 9. 供給曲線と生産者行動3 10. 供給曲線と生産者行動4 11. 供給曲線と生産者行動5 12. 部分均衡分析1 13. 部分均衡分析2 14. 部分均衡分析3 15. 前半まとめ 16. 消費者行動の理論1 17. 消費者行動の理論2 18. 消費者行動の理論3 19. 消費者行動の理論4 20. 消費者行動の理論5 21. 生産者行動の理論1 22. 生産者行動の理論2 23. 生産者行動の理論3 24. 生産者行動の理論4 25. 生産者行動の理論5 26. 生産者行動の理論6 27. 一般均衡分析1 28. 一般均衡分析2 29. 一般均衡分析3 30. まとめ |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |  |       | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T20213001 |     |       |        |
| 科目名   | 情報処理概論 【他】   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Information Processing   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | 情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。 このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしていくにはワープロ、表計算ソフトウェアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきた。 本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウェア、ソフトウェアの基本的構成」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | なし   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 井上 義祐、小池 俊隆 編書 「経営情報処理概論 (改訂版)」 同文館出版  飯島 淳一 著 「入門情報システム学」 上山 清二 著 「Web で学ぶ情報処理概論」 晃洋書房  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)  | レジュメを適時配布  |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 「授業中の小テスト」(20%)+「レポート+試験」(50%)+平常点(30%)  |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得を目指す。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか?」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か?」等を予習しておくことが望ましい。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |  |       |           |     |       |        |
| 1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。   |  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |     |       |        |
| 1. ガイダンス-情報処理とは 2. コンピュータの歴史 3. コンピュータの種類 4. デジタルとアナログ 5. ハードウェアとソフトウェア 6. 情報の表現(1) 7. 情報の表現(2)-10進数と2進数 8. 情報の表現(3)-16進数 9. コンピュータの計算の仕組み-2進数による計算 10. コンピュータの基本論理回路 11. コンピュータの構成装置(1) 入力装置と出力装置 12. コンピュータの構成装置(2) 制御装置と演算装置 13. コンピュータの構成装置(3) 記憶装置 14. コンピュータの情報処理方式(1) 15. コンピュータの情報処理方式(2)-コンピュータシステムと信頼性 16. コンピュータの情報処理方式(3)-集中処理と分散処理 17. コンピュータのOSとプログラミング言語 18. ソフトウェアシステムの開発 19. 情報通信ネットワーク(1)-通信とネットワーク 20. 情報通信ネットワーク(2)-インターネット 21. 暮らしのなかの情報処理(1)-情報社会 22. 暮らしのなかの情報処理(2)-携帯電話 23. 暮らしのなかの情報処理(3)-電子商取引 24. 暮らしのなかの情報処理(4)-情報倫理とセキュリティ  25. 暮らしのなかの情報処理(5)-著作権 26. 暮らしのなかの情報処理(6)-個人情報 27. 暮らしのなかの情報処理(7)-反社会的情報 28. 暮らしのなかの情報処理(8)-ウイルス 29. ユビキタス社会への発展 30. まとめ |  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)  | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待  |  |       | ○         |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T20219001 |
| 科目名        | 公共経済学【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名(英語表記)  | Public Economics  |       |           |
| 担当者名       | 久下沼 仁筈  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>公共経済学の基本的テーマとしては、政策主体としての政府の役割に焦点が当てられる。つまり、政府とは何か？政府は何をすべきであるか？政府には何ができるのか？といった問題に対して経済学的な分析を与えるのが公共経済学である。また、社会にとって望ましい政府の在り方を考察する際に用いる合理性や公平性の判断基準は多様であり、実はそれらの基準自体が全て不完全で怪しい。本講義では、社会を構成する最小単位としての個人のレベルで判断基準を分解し、個人の意思決定のメカニズムを多面的に考えることから始めたい。  他方で、個々人の経済的な選択を集計するシステムとしての市場機構もやはり不完全であり、様々な失敗を引き起す。それを補おうとする現実の政府も不完全であり、政府も失敗を犯す。また、その政府を選び出し、またその活動を規定するシステムとしての民主主義も不完全である。これらの不完全さの原因はどこにあるのか、どのようなメカニズムで失敗が生じるのかを考え、次にそれらが少しでもより良く機能するための処方箋について考察する。その応用として、現実の日本社会における具体的な諸問題を公共経済学という視点から捉え、問題の本質を理解しその解決策としての政策について考える。</p>   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 井堀利宏(1998)『基礎コース・公共経済学』新世社  土居丈朗(2002)『入門公共経済学』日本評論社  加藤寛(1999)『入門公共選択・改訂版』三嶺書房   |       |           |
| 教材(その他)    | 『世界統計白書・2009年度版』木本書店  その他、内外の調査研究機関発表の統計データ   |       |           |
| 評価方法       | ① 中間・期末試験 70%, 授業内テスト・レポート 30%  ② 授業中の発表など平常点は加点材料として、授業中の私語や途中退室は減点材料として、それぞれ扱う。   |       |           |
| 到達目標       | ① 「効率性」と「公平性」を判断基準に、公共部門の経済的役割とその意思決定過程を理論的に理解する。 ② 現代日本が直面する諸問題に関して、その原因と解決策を中心に公共経済学的視点からの理解を深める。   |       |           |
| 準備学習       | ① 公共経済学で利用されるミクロ経済学の分析道具を復習・確認しておく。 ② 授業内で配布された資料に目を通して置く。 ③ 指定された項目について調べ、その基本概念を理解しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | ① 授業開始後 20 分以降の入室は認めない。 ②「記憶」という作業を忘れ、論理を「理解」することに集中すること。 ③ ミクロ経済学の単位を修得していることが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 公共経済学とは何か：公共経済学の焦点と、その成立の歴史的・経済的背景  2. 政府の誕生：政府は昔、盗賊だった？ 社会契約はいつ結ばれたのか？  3. 政府はなぜ肥る：皆が政府に頼るから？ 政府自身が大きくなりたいたいから？  4. 公平性とは何か：価値判断とは何か？公平性の基準：功利主義 マキシミン原理 利他主義  5. 効率性とは何か？無駄とは何か？効率性の比較基準 1：パレート基準  6. 効率性とは何か？無駄とは何か？効率性の比較基準 2：カルドア基準 ヒックス基準  7. 効率性と公平性：両立は可能か？社会の幸福を一番大きくするには？  8. 市場機構と効率性：市場での取引で得る利益とは？ 余剰分析の基礎  9. 市場機構への政府介入：規制は必要なのか？ 価格規制、数量規制、参入規制の余剰分析  10. 市場の失敗①：公企業はなぜ必要か？ 規制の経済学  11. 市場の失敗②：民間企業はなぜ販売しないのか？ 公共財の経済学(1)  12. 市場の失敗③：政府はどこまで供給すべきか？ 公共財の経済学(2)  13. 市場の失敗④：公害はゼロにしないで良いのか？ 外部効果の経済学  14. 中間試験  15 .財政赤字の経済学①：なぜ政府の借金は膨らむのか？ 16. 財政赤字の経済学②：世代間で負担の先送りは生じるのか？ 17. 財政赤字の経済学③：借金返済のシナリオはあるのか？ 18. 民主主義の経済分析①：個人の選択を集計できるか？ 投票の経済学(1)  19. 民主主義の経済分析②：個人の選択を集計できるか？ 投票の経済学(2)  20. 民主主義の経済分析③：政策の立案と実行は誰が？ I：政治家と官僚の経済学  21. 民主主義の経済分析④：政策の立案と実行は誰が？ II：利益集団の経済学  22. 現代日本の公共経済学的課題①：消費税と所得税のどちらが良いか？ 課税の経済学  23. 現代日本の公共経済学的課題②：政府の借金はだれがいつ返すのか？ 財政赤字と公債  24. 現代日本の公共経済学的課題③：少子高齢化が生じるのはなぜか？ 結婚と家族の経済学  25. 現代日本の公共経済学的課題④：年金はもらえるのか？ 年金の経済学  26. 現代日本の公共経済学的課題⑤：核兵器は必要か？ 安全保障の経済学  27. 幸福の経済学①：効用の前提と限界とは？ 効用と幸福  28. 幸福の経済学②：金持ちは幸福か？ 所得と幸福  29. 幸福の経済学③：国が違えば幸福も違うか？ 政治体制や政治参加と幸福  30. 講義のまとめ：公共経済学の現代的役割</p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T20328001 |
| 科目名        | 金融入門 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction to Finance   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 重義   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この講義は NPO 法人「エイプロシス」の協力で実施されます。毎回、現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | レポート（30%）、試験（70%）   |       |           |
| 到達目標       | 資産形成および生涯設計の基礎知識を修得する。  |       |           |
| 準備学習       | 復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の目的  2. 経済の動き、証券市場の基本的仕組み  3. マネープランの必要性と金融商品  4. 債券の基礎知識  5. 債券投資の実際  6. 株式投資の魅力とリスク  7. 株価の変動要因  8. 決算書の見方  9. 主な投資指標の見方 10. 株式投資の判断 11. 投資信託をの基礎知識 12. 投資信託を選ぶポイント 13. 資産運用についての 14. 講義のまとめ1 15. 講義のまとめ2  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T20329001 |
| 科目名   | 財政入門 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Introduction to Public Finance  |       |           |
| 担当者名  | 森田 圭亮   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識を活用して、政策にあり方について説明する。   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 無   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 1.井堀 利宏「財政学 (新経済学ライブラリ)」 (2006/2) 2.畑農 鋭矢、林 正義、吉田 浩「財政学をつかむ (テキストブックス「つかむ」)」 (2008/6/14) 3.小塩 隆士「コア・テキスト財政学 (ライブラリ経済学コア・テキスト&最先端)」 (2003/1) |       |           |
| 教材 (その他)  | 無   |       |           |
| 評価方法  | 試験 70%、レポート 20%、授業態度 10%  |       |           |
| 到達目標  | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識を確認し、それらを使って具体的に政策の在り方が議論できることを理解する。  |       |           |
| 準備学習  | ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識について、予習復習をしておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ミクロ経済学やマクロ経済学をベースにして授業を進めるため、事前にこれらの学問について知識を深めておくことが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.ガイダンス 講義の位置づけや講義の進め方について説明する。 2.余剰分析 (1) ミクロ経済学の基本的な考え方について説明する。 3.余剰分析 (2) 余剰の概念を使って市場のゆがみについて説明する。 4.余剰分析 (3) 余剰分析を使って市場独占の弊害を説明する。 5.余剰分析 (4) 余剰分析を使って税がもたらす歪みについて説明する。 6.余剰分析 (5) 余剰分析を使って関税の功罪について説明する。 7.余剰分析 (6) 余剰分析を使って公害の問題について説明する。 8.IS-LM 分析 (1) マクロ経済学の基本的な考え方について説明する。 9.IS-LM 分析 (2) 財市場均衡および貨幣市場均衡について説明する。 10.IS-LM 分析 (3) 乗数効果について説明する。 11.IS-LM 分析 (4) クラウディング・アウトについて説明する。 12.IS-LM 分析 (5) 財政政策と金融政策を併用する意味について説明する。 13.雇用対策 雇用対策の在り方について説明する。 14.少子高齢化対策 社会保障の在り方を中心に、少子高齢化社会における政策の在り方を説明する。 15.講義のまとめ これまでの講義のまとめを行う。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T20330001 |
| 科目名        | 情報社会 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Society   |       |           |
| 担当者名       | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義で資料を配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。レポート（35%）、定期試験（55%）  |       |           |
| 到達目標       | 情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。 講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.消費社会と情報社会  情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化  マスメディアの多様化と情報環境の変化、デジタル経済  2.情報技術  情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理  3.新しい情報技術  ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題  電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点  電子署名・電子認証、電子取引  4.情報システム  集中と分散、情報産業の多様化  コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業  5.情報と産業  情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化  企業倫理  高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット  6.情報と職業  労働・職業上の問題  情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質  職業と自己実現、職業観と職業意識  7.情報と個人  日常生活と情報システム、情報モラル、デジタル格差  個人情報保護、個人情報の取得・利用に際してのルール  知的財産、企業等による個人情報の利用  8.情報と著作権  情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権  知的所有権  9.情報と教育  人間形成、情報社会で求められる教育  情報環境、マルチメディア  10.IT 技術者  IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用  IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法  11.情報と通信  u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消  情報アクセスへの格差、情報格差  通信・放送の融合・連携  12.情報倫理 (1)  情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護  13.情報倫理 (2)  情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール  個人情報の保護  14.情報化と社会 (1)  高度情報通信社会の諸課題  情報化とグローバル化に伴う生活の変化  15.情報化と社会 (2)  産業、社会生活、モラル、人との関わり  現代社会の情報の意義役割の理解 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T20354A01 |
| 科目名        | 日本語学概論A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study A  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本語史における音韻・文法・文字・表記・語彙の各分野の重要事項について通時的に概観する。基本的なことがらについても丁寧でわかりやすい説明を試み、本格的に日本語の勉強を始めるためのガイダンスとしたい。学習者にとって効果的でわかりやすい授業という見地から、ひとつひとつの項目について個別的、羅列的に論を展開することは避け、音韻、文法をはじめとする各項目が有機的繋がりを持ちながら変化を遂げてきた日本語のダイナミズムとも言うべきものを探りながら授業を進めていきたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『日本語要説』 ひつじ書房  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50％）と期末試験（50％）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | 日本語学の基礎知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習       | 図書館等で、日本語の概説書を一冊読んでおくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の概要説明  2 日本語学の時代区分  3 古代語と近代語  4 各時代語の主な文献  5 日本語の音韻数の変遷  6 上代特殊仮名遣  7 唇音退化  8 ハ行転呼音現象  9 ヲコト点  10 変体仮名（1）  11 変体仮名（2）  12 仮名遣（1）  13 仮名遣（2）  14 アクセント  15 まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T20354B01 |
| 科目名        | 日本語学概論B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Introduction in Japanese Language Study B  |       |           |
| 担当者名       | 丸田 博之  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本語が最も大きく変化した室町後期の資料を実際に見ることによって、日本語を研究する上で勘案しなければならない重要な点を体得させる。特に、狂言詞章、キリシタン資料には十分な時間をとり、多方面からの分析を試みる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 市販の教材は使用しない。コピーを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義の中で紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）と期末試験（50%）による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | 語学資料を読み解く眼を育成する。   |       |           |
| 準備学習       | 実際の狂言をビデオなどで観ておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 授業中の私語は厳禁。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 授業の概要説明  2 学校文法の復習  3 古典文法の復習  4 中世語の資料  5 狂言のことば（1）  6 狂言のことば（2）  7 狂言のことば（3）  8 キリシタン資料の背景  9 加津佐版の研究  10 天草版の研究（1）  11 天草版の研究（2）  12 長崎版の研究  13 中国資料  14 朝鮮資料  15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T20396A01 |
| 科目名  | 経済英書講読A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Readings of Foreign Texts in Economics A  |       |           |
| 担当者名   | 道和 孝治郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 英語文献の講読を通じて、経済学の基礎的な考え方、および専門用語の理解を正確にすることを目的とする。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 下記の参考文献に記載されたテキストのコピーを配布します。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | N. Gregory Mankiw (2007), 『Principles of Economics』 4th Edition                             |       |           |
| 教材 (その他)   | 特になし  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%), 授業内テスト (30%), レポート (40%)  |       |           |
| 到達目標   | 1. 英語文献を通じて、経済学の基礎概念を正確に理解することを目的とする。 2. また、基礎学力にかかわる内容として英文音読, 単語, 文法事項, 読解の力を付けることを目的とする。 |       |           |
| 準備学習   | 特になし  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 必ず辞書を持参するようにして下さい。また、予習を前提とした講義を考えているので、予習はこの講義を受講する上での条件です。また、授業の内容をもとに授業内テストを数回行います。よって、復習も重要なので、必ず予習・復習をするようにして下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 第1回: Market and Competition 第2回: Demand 第3回: Supply 第4回: Supply and Demand Together 第5回: 復習 第6回: The Elasticity of Demand 第7回: The Elasticity of Supply 第8回: Three Applications of Supply, Demand, and Elasticity 第9回: Controls on Prices 第10回: Taxes 第11回: 復習 第12回: Consumer Surplus 第13回: Producer Surplus 第14回: Market Efficiency 第15回: まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T20482A01 |
| 科目名  | 日本文学概論A 【他】                                    | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Studies of Japanese Literature A               |       |           |
| 担当者名   | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 平安時代の物語  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを用意する。                                     |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内の発言・毎回の小レポート 40% 期末レポート 60%                 |       |           |
| 到達目標   | 平安文学の中でも、特に物語を概観し、同時代の物語文学の状況について基礎的な知識を身につける。 |       |           |
| 準備学習   | 高校の日本史・文学史における平安時代の記述を読んでおくことが望ましい。            |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 授業内ではしばしば発言を求めるので、積極的に答えてほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 授業の概要について 2 竹取物語 1 アジアのファンタジー 3 竹取物語 2 結婚したくない女 求婚難題譚 4 竹取物語 3 月に帰る聖女 5 伊勢物語 1 在原業平・藤原高子との駆け落ち 6 伊勢物語 2 在原業平・伊勢斎宮との秘話 7 伊勢物語 3 在原業平・政治の裏側で 8 伊勢物語 4 愛と友情 9 落窪物語 1 虐待姫と玉の輿  10 落窪物語 2 特異なスカトロジー 11 蜻蛉日記 古物語よりリアルを！ 12 源氏物語 1 初めてのリアリズム  13 源氏物語 2 創作と権力 14 源氏物語 3 栄華と苦悩、光と闇 15 総括 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T20482B01 |
| 科目名   | 日本文学概論B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Studies of Japanese Literature B   |       |           |
| 担当者名  | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 紫式部の人生   |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 山本淳子『私が源氏物語を書いたわけ 紫式部ひとり語り』(角川学芸出版、2011年) 定価 1400円   (一括購入するので個人で用意しなくてもよろしい。) |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  |  |       |           |
| 評価方法  | 授業内の発言・小レポート 40% 期末レポート 60%  |       |           |
| 到達目標  | 紫式部の人生と思想を知ること、平安時代の女性の置かれた状況、源氏物語を生んだ文化的土壌、人間の普遍的葛藤などを学ぶ。                     |       |           |
| 準備学習  | 文学史における源氏物語の位置づけについて知っておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業内ではしばしば意見を求めるので、積極的に発言してほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 授業の概要 2 紫式部の少女期 3 越前に下る・恋 4 紫式部の夫 5 夫との死別 6 喪失の果てに 世と身と心 7 人生への再生 創作によって 8 源氏物語への問いかけ 1 9 源氏物語への問いかけ 2 10 不本意出仕と自己陶冶  11 本領発揮 漢文進講 12 彰子の出産 13 紫式部と道長 14 弟の死 ささやかな生への思い 15 総括 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T20566001 |
| 科目名        | 情報社会と経済 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Information and Economics  |       |           |
| 担当者名       | 宇佐美 照夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 20 世紀末に情報通信技術分野のイノベーションにより、世界各国で「工業社会から情報社会」への進化」が加速してきた。日本の経済や個人の生活の枠組みはこの IT 革命と呼ばれているイノベーションと同期するスピードで変わり始め、その先には「進化する高度情報社会」が到来しようとしている。これからの高度情報社会では、生活や経済がどのように さらに変化していくのでしあろうか？ 21 世紀の情報社会ではこれまでの工業社会では経験できなかった新しい事業形態や製品が創発されてきている。その結果、経済活動に大きな影響力のある銀行・証券などの金融業界をはじめ、製造業、農業、個人生活のインフラである交通、エネルギー、流通、さらには行政、教育、サービス等のあらゆる分野で変化がおりつつある。 本講義は、この IT 革命を引き起こした技術イノベーションはどのようなものなのか？また、IT イノベーションによって各分野でどのような変化がおこっているのか？すなわち、暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、今後私たちの「経済活動」すなわち「暮らし」はどのように変化していくのかを考え習得する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する   |       |           |
| 教材 (その他)   | レジュメを適時配布  |       |           |
| 評価方法       | 「授業中の小テスト」(20%)+「レポート+試験」(50%)+「平常点」(30%)  |       |           |
| 到達目標       | IT イノベーションによる暮らしへの影響や企業経営への影響、国家経済への影響等について学習し、これからの高度情報化社会での「経済活動」すなわち「暮らし」はそのように進化するか等の知見の習得。  |       |           |
| 準備学習       | 情報社会になって「新しく創出された事業は各業界でどのような例があるか？」、あるいは「インターネットバンキング」、「電子マネー」など工業社会との違いを予習しておくことが望ましい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。 2. 講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 情報社会とは(1) 3. 情報社会とは(2) 4. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(1) 5. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(2) 6. IT 革命を引き起こした技術イノベーションとキーテクノロジー(3) 7. IT 革命が経済に与える影響 8. IT 革命への国の施策 9. 情報社会での各業界における新しい事業形態(1) 10. 情報社会での各業界における新しい事業形態(2) 11. 情報社会での各業界における新しい事業形態(3) 12. 情報社会での各業界における新しい事業形態(4) 13. 情報社会での各業界における新しい事業形態(5) 14. これからの高度情報社会での暮らしと経済 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T30002001 |
| 科目名  | NPO経営論【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | NPO Management   |       |           |
| 担当者名   | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 非営利組織の具体的な活動や組織の特徴を探ることとする。そして、NPO活動と行政の関係、企業との関係を総合的に取上げる。そこではNPMの路線や協働、自治会、さらには、企業の社会的貢献などがキーワードになる。また、NPOの起業、NPOの経営問題なども取上げられる。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 「起業時代のNPO」坂本信雄著(八千代出版株式会社)   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「ローカル・ガバナンスの実証分析」坂本信雄著(八千代出版株式会社)  |       |           |
| 教材(その他)  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%)出席状況等による。期末定期試験70%。  |       |           |
| 到達目標   | NPOの現実的かつ実際的な役割や課題に迫ってみよう。そこでは、市場経済のもとでNPO活動がどのような意義をもっているかを理解することに通じる。  |       |           |
| 準備学習   | 受講生が住んでいる地域社会において、何らかのNPO活動に気づいて欲しい。それがどのような活動をしているのか、眼を向けて欲しい。また、実際にNPO活動に関連している方(2~3名)呼び出して、現実的な取組みを話してもらう機会も工夫している。             |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 受講生自らがNPOに関心をもつだけでなく、できれば受講生が住んでいるところのNPO活動に実際に参加することを期待したい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1、入門NPOからNPO経営論への引継ぎ 2、これだけは理解してから始めましょう。公共とは何か? 3、行政の変化とNPO 4、協働の実態と問題を探ってみよう 5、市民参加と協働の関係を考えてみよう 6、自治会・町内会の役割を探る 7、企業とNPOの関係を考えてみよう 8、企業の社会的貢献を考えてみよう 9、社会的貢献の実態をみてみよう 10、地域通貨とは何だろう 11、「エンデの遺言」から現代の経済社会の実像に迫ってみよう 12、NPOも起業なのです。起業へのステップを探ることにしよう 13、NPO法人設立のノウハウ、手順を学びましょう 14、NPOの経営問題は何だろう。企業における経営問題との関連を比較しながら、NPO特有の経営問題を取上げる 15、再び、NPOはどうしてこの世に存在するのでしょうか? |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                             |  |       |           |
|-----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                          | 2012   | 授業コード | T30011001 |
| 科目名                         | インターネットビジネス論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                   | Theory of Internet Business  |       |           |
| 担当者名                        | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                        | 今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。  本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。   |       |           |
| 教材（テキスト）                    | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材（参考文献）                    | 中村忠之著『ネットビジネス進化論 ―e ビジネスからクラウド、ソーシャルメディアへ』中央経済社、2011年。   |       |           |
| 教材（その他）                     | 適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。  |       |           |
| 評価方法                        | 平常点（40%）出席状況、授業内レポート等。定期テスト（60%）。  |       |           |
| 到達目標                        | インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。   |       |           |
| 準備学習                        | 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。   |       |           |
| 受講者への要望                     |  |       |           |
| 私語や遅刻を厳禁とする。私語が過ぎれば、退出を求める。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                  | 1 ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等）   2 インターネットの基本特性とビジネスに与える影響   3 電子商取引の種類と動向   4 電子商取引（B to B）   5 電子商取引（B to C、C to C）   6 ビジネスモデルの定義とビジネスモデルの分類   7 ビジネスモデル特許、競争優位を巡る争い   8 ソーシャルメディアとビジネス①   9 ソーシャルメディアとビジネス②   10 インターネット広告   11 新しいビジネスモデル（グーグルの例）   12 電子商取引の安全性   13 電子決済と電子マネー   14 インターネットビジネスの展望   15 まとめ   授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新的话题を取り上げていきたいと考えています。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30033001 |
| 科目名        | スポーツ栄養学 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Nutrition  |       |           |
| 担当者名       | 矢野 善久   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 体を構成している物質は食事により栄養素として供給され、主に運動により消費されることから、栄養素の摂取と運動のバランスは健康の維持・増進や競技スポーツのパフォーマンスに大きな影響を与えることが知られている。本講義ではタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素の役割を栄養学的に解説する。さらに、健康増進と競技力向上を目指した食事の実践方法についても紹介する。 なお、本講義は健康運動実践指導者養成講座のうちの1つである。                     |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 授業中にプリントを配布する。 京学なびおよびRドライブによりファイル提供を提供する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(10%)、定期テスト(70%)、レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標       | 食事・栄養に関する基礎的内容を理解し、実際の生活やスポーツに応用できる知識を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から自分の健康状態や食事内容に関心を持つておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には毎回出席し、意欲的に取り組んでほしい。 講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.はじめに スポーツ栄養学とはー 2.五大栄養素の役割と日本人の食事摂取基準 3.消費エネルギーの算出と摂取量 4.食品の消化吸収 5.運動時のエネルギー代謝 6.筋力づくりとタンパク質の代謝 7.スタミナづくりと糖質・脂質の代謝 8.肥満による健康障害と正しいダイエット法 9.ビタミンの役割 10.ミネラルの役割 11.水分補給の重要性と摂取方法 12.サプリメントの種類と摂取方法 13.外食・コンビニ食と栄養バランス 14.食生活の展望と健康増進 15.まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800A |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディ스플레이   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800B |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800C |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディ스플레이  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800D |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 大島 博行  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800E |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 翁長 朝英  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要なものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800F |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ(京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者(顧客(一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など)の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   |  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点60% レポート40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーションなどを涵養する。  |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに(本実習の概要)  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに(本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800H |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004800J |
| 科目名        | フィールドワーク実習A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum A  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)  </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900A |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要なとされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900B |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900C |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900E |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 山下 勤   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーションなどを涵養する。  |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900F |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ (京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者 (顧客 (一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など) の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに (本実習の概要)   2 店舗運営に関する各種マニュアル   3 販売における業務   4 マーチャンダイジング   5 商品計画   6 仕入計画   7 在庫管理   8 販売管理   9 ストアオペレーション   10 ディスプレイ   11 マーケティング   12 顧客管理   13 販売促進   14 計数管理   15 おわりに (本実習の総括)</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900G |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 田中 宏明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900H |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ（京學堂）」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者（顧客（一般消費者を含む）、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など）の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 60% レポート 40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。   |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに（本実習の概要）  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに（本実習の総括）</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3004900I |
| 科目名        | フィールドワーク実習B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Fieldwork Practicum B  |       |           |
| 担当者名       | 涌田 龍治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>【フィールドワーク実験ショップ】  本フィールドワークは、平成21年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化」を目的として開設された、「学生の学生による学生のための実験ショップ(京學堂)」において、フィールドワークを実施する講座である。  本フィールドワークにおいては、店舗経営の実習を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理など幅広い知識の習得を行う。また店舗経営は、多くの利害関係者(顧客(一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、公共団体など)の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、実験ショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。  さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について、適切に対応する事、日々店舗経営における革新を図る事などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。  </p> |       |           |
| 教材(テキスト)   |  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 必要に応じその都度紹介する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点60% レポート40%   |       |           |
| 到達目標       | 実験ショップ経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーションなどを涵養する。  |       |           |
| 準備学習       | 実験ショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常からあらゆるメディアを通して努める。   |       |           |
| 受講者への要望    | 実験ショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>店舗経営にあたっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要なものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。    1 はじめに(本実習の概要)  2 店舗運営に関する各種マニュアル  3 販売における業務  4 マーチャンダイジング  5 商品計画  6 仕入計画  7 在庫管理  8 販売管理  9 ストアオペレーション  10 ディスプレイ  11 マーケティング  12 顧客管理  13 販売促進  14 計数管理  15 おわりに(本実習の総括)</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T30052A01 |
| 科目名  | ブランド・マネジメント論Ⅰ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Brand Management I   |       |           |
| 担当者名   | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | ブランドに係わる基礎的な理論を学んでいく。 教科書、参考書を中心に、補助的にVTRや各種教材を使用して進めていく。加えて、授業内で適宜小レポートを課し授業内容の理解度のアップを図り、また自ら考えながら学ぶ方式も取り入れていく。 なお、授業内講師（実務家）を1名予定 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房 2000円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | D.A.アーカー『ブランド・エクイティ戦略』ダイヤモンド社  |       |           |
| 教材（その他）  | 授業内配布資料  |       |           |
| 評価方法   | 期末テストの得点による。 但し授業への参加状況や授業内レポートも加味する。（全体の20%以内）  |       |           |
| 到達目標   | ブランド学を学ぶための基礎的知識(ブランドの定義、機能)を習得することを目標とする。 秋学期のブランド・マネジメント論Ⅱを学ぶための準備学習でもある。  |       |           |
| 準備学習   | 身近にあるブランドものについて予め購入動機(なぜ買ったのか)や満足度などを考えておくこと   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ○関連科目、「マーケティング」「消費者行動論」「広告ビジネス論」なども併せて受講すること。 ○授業には必ず出席し、積極的に学ぶという姿勢で臨むこと。 ○教科書に沿って授業を進めていき、期末テストでは教科書持込可とするので必ず早い時期に入手すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 イントロダクション――ブランド・マネジメントを学ぶに当たって  2 ブランドとは―京都はブランドか  3 ブランドとは―ブランドの定義  4 ブランドの成り立ちと商標法  5 ブランドの種類  6 ブランドの構成要素  7 ブランドのネーミング1  8 ブランドのネーミング2  9 ブランドの機能1 -- ブランドの識別機能  10 ブランドの機能2 --ブランドの信頼機能  11 ブランドの機能3 --ブランド世界造り機能  12 ブランド戦略事例研究(1) 13 ブランド戦略事例研究(2) 14 特別講義（実務家によるケーススタディ） 15 授業のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30052B01 |
| 科目名   | ブランド・マネジメント論II 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Brand Management II  |       |           |
| 担当者名  | 足立 勝彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | ブランドに係わる戦略的課題を具体的な事例を元に学んでいく。 ブランド・マネジメント論I(春学期)と同様に、教科書、参考書を中心に、補助的にVTRや各種教材を使用して進めていく。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房 2000円  |       |           |
| 教材(参考文献)  | D.A.アーカー『ブランド・エクイティ戦略』ダイヤモンド社  |       |           |
| 教材(その他)   | 授業内資料  |       |           |
| 評価方法  | 期末テストの得点による。 但しj授業への参加状況や授業内レポートも加味する。(全体の20%以内)   |       |           |
| 到達目標  | ブランド戦略が経済活動の中でどのような機能・役割を担っているのかを習得することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 春学期のブランド・マネジメント論Iで学んだことをよく復習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| ○春学期のブランド・マネジメント論Iの受講者向け。 ○授業には必ず出席し、積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。 ○教科書は春学期と同じ教科書を使用するので、まだ入手していない学生は必ず早い時期に取得しておくこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクションーブランド・マネジメント論Iのまとめ  2 ブランドのコアバリュー(1) 3 ブランドのコアバリュー(2) 4 ブランド・ロイヤルティ(1) 5 ブランド・ロイヤルティ(2) 6 ブランドの記憶  7 ブランドの寿命  8 ブランドの再生  9 ブランドの開発  10 ブランドの紛争(1)  11 ブランドの紛争(2)  12 ブランドキャンペーン事例 研究(1) 13 ブランドキャンペーン事例研究(2) 14 ブランドM&A 事例研究 15 授業のまとめ |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30061001 |
| 科目名        | ベンチャー・ビジネス論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Venture Business Management  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム (流行) の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面からの接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの本質およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家) の理念を中心に実践的な側面も併せ講義をする。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』(嵯峨野書院、2004年)   井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』(嵯峨野書院、2007)   P.F.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』(ダイヤモンド社、2007)  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。  |       |           |
| 受講者への要望    | ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに(本講義の概要)   2 ベンチャービジネス(以下 VB という) の定義   3 VB の変遷の歴史   4 VB とイノベーション・企業 (起業) 家精神   5 VB の経営理念   6 VB の組織と戦略 1   7 VB の組織と戦略 2   8 VB とリーダーシップ   9 VB における会計的側面   10 VB における資本政策と資金調達   11 VB 創造の実際 (VB のデザインからプランニングへ)   12 VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見)   13 VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用)   14 VB システムの構築(ビジネスモデル特許など)   15 おわりに(本講義の総括) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T30070001 |
| 科目名       | 応用商業簿記 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Applied Bookkeeping for a Commercial Firm  |       |           |
| 担当者名      | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 日本商工会議所簿記検定3級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定2級商業簿記のうち、株式会社の会計処理と本支店会計をカバーすることを目指します（各種取引の処理は「商業簿記II」でカバーします）。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 渡部・片山・北村編著 『検定簿記講義2級商業簿記 平成24年度版』 中央経済社、2012年。   |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | ホームワーク20%、平常点10%、試験70%   |       |           |
| 到達目標      | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 中規模企業の資金調達（株式および社債の発行）取引の記帳ができる 3. 本支店合併財務諸表を作成できる   |       |           |
| 準備学習      | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 講義で指示された課題を解いて、次回の講義で提出してください 3. 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください                        |       |           |

#### 受講者への要望

1. 原則として、「商業簿記I」の単位取得者または日商簿記3級合格者が対象です。「商業簿記II」との同時履修を強く勧めます。|2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。|3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。|4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。

#### 講義の順序とポイント

I 商業簿記Iの復習 |1. 簡単なテスト（成績には関係ありません）と講義概要の紹介（商業簿記IIとの違い） |2. 商業簿記Iの復習 ||II 商業簿記Iから応用商業簿記へ |3. 株式会社の会計（その1）：株式会社の設立 |4. 株式会社の会計（その2）：増資 |5. 株式会社の会計（その3）：剰余金 |6. 株式会社の会計（その4）：利益の処分/損失の処理 |7. 株式会社の会計（その5）：社債(1) |8. 株式会社の会計（その6）：社債(2) |9. 株式会社の会計（その7）：株式会社会計の総復習|10. 本支店会計（その1）：本支店会計の意義と連結財務諸表 |11. 本支店会計（その2）：本支店間の取引 |12. 本支店会計（その3）：未達事項 |13. 本支店会計（その4）：内部取引と内部利益の控除 |14. 本支店会計（その5）：本支店合併財務諸表 |15. 本支店会計（その6）：本支店会計の総復習

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30090001 |
| 科目名   | 環境ビジネス論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Environment-Related Business   |       |           |
| 担当者名  | 長澤 忠彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 地球温暖化をはじめ森林破壊や砂漠化など地球環境の破壊が進行しつつある。これらの破壊を防止し、「持続可能な発展」を実現することが21世紀の人類最大の課題である。  「気候変動枠組み条約―京都議定書」の目標最終年次を迎え、今後の国際的取り組みに関する議論が本格化しつつある。地球温暖化の主要原因である二酸化炭素の発生は、人口の増加や経済活動に起因するものであり、発生抑制のための技術や社会経済システムの開発、さらには我々のライフスタイルの見直しが要求されている。  講義では、まず温暖化をはじめ地球環境問題の現状とその原因を理解するとともに、その対策を考える。次に、我が国がかつて経験した高度経済成長に伴う公害問題の発生とその克服の歴史をレビューする。さらに、「循環型社会の形成」について、現状と今後の方向について考える。最後に「環境経営」と「企業の社会的責任」について学ぶ。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 地球環境研究会編集「地球環境キーワード事典（五訂版）」中央法規出版 1, 500円  |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイントを活用する。  |       |           |
| 評価方法  | 期末に実施するレポート（80%）、平常点（20%）出席状況等による。   |       |           |
| 到達目標  | 地球環境問題の現況やその原因を理解し、社会人や企業人としてそれに対応や対策ができる基礎的な力を習得する。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞等のメディアで日々報じられる環境問題について関心をもっておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。  2. 遅刻や私語を厳禁とする。私語がひどい場合、退出を求めることがある。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 地球環境問題の概要 [ガイダンス]  2. 地球環境問題と対策 1 現在の状況  3. 地球環境問題と対策 2 対策と取り組み  4. 地球温暖化問題 1 地球温暖化のメカニズム  5. 地球温暖化問題 2 温暖化防止への国際的動向  6. 地球温暖化問題 3 温暖化防止技術と取り組み  7. 公害問題 1 日本における公害克服の歴史  8. 公害問題 2 残された問題と法規制の仕組み  9. 循環型社会の形成 1 ごみ問題と対策  10. 循環型社会の形成 2 リサイクルの現状と問題  11. 新しい化学物質への対応 化学物質の問題と対策  12. 企業の社会的責任 企業のコンプライアンス等  13. 環境問題と経済的手段 環境税、炭素税等  14. 環境問題とライフスタイルの変革   15. 環境経営と環境ビジネス |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T30094001 |
| 科目名       | 監査論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Auditing   |       |           |
| 担当者名      | 内川 正夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 監査は社会のインフラとして非常に重要な役割を果たしています。それにもかかわらず、馴染みがないので、取っつきにくい分野です（オリンパスの不正経理で監査法人が何をしたか分かるでしょうか？）。監査基準の解説をしても何のこともさっぱり分からないことも多いようです。そこで、監査論では、社会のインフラとしての監査の意義と特徴を、実際のケースを通して理解します。ビデオの視聴を交えて講義を進める回もあります。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | プリント配布   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 吉見 宏 著 『ケースブック監査論第4版』 新生社、2008年。   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | ホームワーク 20%、平常点 10%、試験 50%、発言 20%   |       |           |
| 到達目標      | 1. 監査の意義を何も知らない人に説明できる 2. 日本の監査制度の特徴を理解している 3. 不正経理が行われる背景を理解している 4. 監査を受けた会計情報の特徴や監査プロセスを理解している   |       |           |
| 準備学習      | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください   |       |           |

受講者への要望

「入門簿記」、「簿記原理」、「会計学入門」、「会計学概論」は、必ず履修しておくこと。「商業簿記Ⅱ」、「応用商業簿記」、「財務諸表論」、「税務会計論」を既に履修しているか同時履修が望ましい。

講義の順序とポイント

1. ミーティング|2. 会計監査の必要性：ケース |3. 会計専門職による監査：ケース |4. 監査期待ギャップ問題：ケース |5. 金融商品取引法監査制度：ケース |6. 公認会計士の仕事内容 |7. 会社法\_監査役監査制度：ケース |8. 会社法\_会計監査人監査：ケース |9. 監査と粉飾経理 |10. 監査基準と監査手続：ケース |11. 監査報告書：ケース |12. 他の監査人等の利用と内部監査：ケース |13. 継続企業の前提の監査：ケース |14. 不正な支出の監査：ケース |15. 総括|講義の順序は以上のように予定していますが、ビデオ等の視聴を入れる場合があります。

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T30098001 |
| 科目名  | 管理会計論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management Accounting  |       |           |
| 担当者名   | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 管理会計は経営管理のための会計といわれます。この講義では、テキストをもとに、管理会計の基本的な考え方と技法をケースなどを使って分かりやすく解説していきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 加登豊・李建 『ケースブック コストマネジメント〔第2版〕』 新世社、2011年。                                      |       |           |
| 教材（参考文献）   | 加登豊編 『インサイト管理会計』 中央経済社、2008年。  |       |           |
| 教材（その他）  | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内確認テスト（20%）、ホームワーク（20%）、レポート（20%）、中間・期末テスト（40%）                              |       |           |
| 到達目標   | ① 売上高・費用・利益の関係を理解している。 ② 意思決定のための管理会計手法を理解している。 ③ 業績管理のための管理会計手法を理解している。       |       |           |
| 準備学習   | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。                      |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 本科目履修後、引き続き「原価計算論」（秋学期）を履修することを強くお勧めします。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 インTRODクション（企業と市場）  2 設備投資計画（I）：NPV法  3 設備投資計画（II）：IRR法  4 損益分岐点分析（I）  5 損益分岐点分析（II）  6 予算管理（I）  7 予算管理（II）  8 問題演習  9 業績評価（I）  10 業績評価（II）  11 標準原価計算  12 在庫管理   13 輸送計画  14 財務情報分析  15 まとめと問題演習 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30103001 |
| 科目名   | 企業家史 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Great Entrepreneurs  |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り上げる。可能であれば、いままし取り上げる企業家を増やしたいと考えている。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。毎回資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の中でその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論社 宮本又郎『日本をつくった企業家』新書館             |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席を加味して、総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 企業家の行動原理を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の予定を伝えるので、推薦書などを参照されると良い。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。 日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新  2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)  3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)  4.電気鉄道網の形成(小林一三)  5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)  6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)  7.重化学工業の成長(野口 遵)  8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)  9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助) 10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介) 11.本田宗一郎・藤沢武夫と「世界のホンダ」 12.井深 大・盛田昭夫とソニー 13.日本型生産システムの構築(大野耐一) 14.宅配便事業の実現・発展(小倉昌男) 15.大量生産時代と大量消費時代の担い手 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30113A01 |
| 科目名   | 京都の観光産業 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Tourism Industry in Kyoto I   |       |           |
| 担当者名  | 櫻井 正明   | 旧科目名称 | 京都の観光産業 A |
| 講義概要  | 世界での「観光」の重要性を理解し、我が国の取り組みや地域での取り組み、観光関連産業などを考察するので、「京都の観光産業」を念頭に置きつつ、主として「国際観光」についての講義となる。 パワーポイント・スライドを中心とした講義形式とし、授業ごとにプリント資料を配布する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 『観光白書』各年度版 観光庁編 2,095 円 『観光学大事典』 香川 眞編 木楽舎発行 3,333 円+税  『LRT と持続可能なまちづくり』 青山吉隆・小谷通泰 編著 2008 年学芸出版社                                    |       |           |
| 教材 (その他)  | パワーポイントを活用し、授業ごとにプリントを配布する  |       |           |
| 評価方法  | 授業中課題ミニッツ・レポート (20%)、レポート (20%)、定期テスト (60%)   |       |           |
| 到達目標  | 現代社会における「観光の重要性」を理解する。  |       |           |
| 準備学習  | 新聞などのメディアに掲載される観光関連情報に日々関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 私語は厳禁である。筆記具を持って教室に入ること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.この科目のオリエンテーション (講義概要、評価方法など)  2.観光とは 3.現代における観光の意義 4.観光の歴史 5.観光の現状と課題 (国内観光)  6.観光の現状と課題 (海外観光)  7.観光の現状と課題 (訪日外国人観光)  8.観光対象と観光資源 9.地域社会と観光振興 10.旅行産業 11.運輸産業 12.宿泊産業 13.テーマパーク産業 14.クルーズ 15.まとめ |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30113B01 |
| 科目名        | 京都の観光産業Ⅱ 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Tourism Industry in Kyoto II   |       |           |
| 担当者名       | 櫻井 正明  | 旧科目名称 | 京都の観光産業B  |
| 講義概要       | 日本の観光政策、国と自治体、京都の事例を含めて講義する。また観光マーケティングについて旅行産業、航空産業、宿泊産業など産業別に学ぶ。 教科書は用いないが、パワーポイント・スライドを中心とした講義とし、授業ごとにプリント資料を配布する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『観光マーケティング論』 山上 徹著 白桃書房 1,680円 『観光白書』 各年度版 観光庁編 2,095円  『観光学大事典』 香川 眞編 木楽舎 3,333+税   |       |           |
| 教材（その他）    | パワーポイントを活用し授業ごとにプリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業中課題ミニッツレポート(20%)、 レポート (20%)、 定期テスト (60%)  |       |           |
| 到達目標       | 国、自治体の観光政策、観光関連産業の事業取り組みでのマーケティングの基本について理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアによる観光関連の情報に日々関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 「京都の観光産業」のタイトルであるが、グローバルな観光潮流の中での日本政府、地方自治体の観光政策と各観光関連産業の観光マーケティングについて学ぶので、観光を総合的に理解する意欲を持って受講されたい。 私語は厳禁である。筆記具を持って教室に入ること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.この科目のオリエンテーション（講義概要、評価方法など） 2.世界での観光事象データの解説 3.日本の観光政策① 4.日本の観光政策② 5.観光マーケティング理論① 6.観光マーケティング理論② 7.地方自治体のマーケティング 8.地方自治体のマーケティング(京都市のケース①)  9.地方自治体のマーケティング(京都市のケース②)  10.観光産業のマーケティング（旅行産業） 11.観光産業のマーケティング（航空産業①） 12.観光産業のマーケティング（航空産業②） 13 観光産業のマーケティング（宿泊産業）. 14.観光産業のマーケティング（テーマパークなど） 15.まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30126001 |
| 科目名        | 業界事情研究 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | A Study of the Industry  |       |           |
| 担当者名       | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の産業は戦後「奇跡」と呼ばれるまでの大きな発展と変貌を遂げてきた。また今日グローバル化時代を迎え、今後の課題などが明らかとなってきている。そこで日本を代表する業界を取り上げその過去・現在・未来についての考察を行いたい。加えてその業界の発展の要となった経営手法(例えば自動車産業におけるトヨタ看板方式、アパレル産業におけるSPA、流通・外食産業におけるチェーンマネジメントシステムなど)についての理解を進めたい。また事例研究として各業界を代表する企業から講師を招き、求める人材像や業界における現状課題についての講義も合わせて行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%、レポート 30%、試験 50%  |       |           |
| 到達目標       | 日本産業を代表する業界に関する知識を涵養するとともに、事例研究を通して受講生の進路選択への参考とすることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | さまざまな業界に興味を持つとともに、関連する情報収集に新聞、雑誌、テレビなど多くのメディアを通じて努め受講に望むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに(本講座の概要)   2 戦後日本産業の軌跡   3 加工組立産業(業界)   4 消費財産業(業界)   5 流通産業(業界)   6 外食産業(業界)   7 金融産業(業界)   8 事例研究①((注) 以下同じ)   9 事例研究②   10 事例研究③   11 事例研究④   12 事例研究⑤   13 事例研究⑥   14 事例研究⑦   15 おわりに(本講座の総括)   (注) 事例研究については、各業界からの外部講師による講義を受講する。                              |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30140001 |
| 科目名        | 経営学史 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Management Theories   |       |           |
| 担当者名       | 倉田 致知  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | いかなる経営課題を先人はどのようにして解決していこうとしたかを学びます。経営学は課題解決に必要なとされる知識を様々な学問領域から借用しています。経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは様々です。一見すると、何でもありのように見えますが、様々な角度から事象を見ているわけであり、多角的視点を養うことができると考えております。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ビデオ教材や OHC を活用する。 適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間課題・宿題 (45%) と期末課題・宿題 (45%)、 および講義内小テストや感想文、等により評価する (10%)。   |       |           |
| 到達目標       | 次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 *経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。 *多角的な視点で事象を分析することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 経営学総論と経営管理論の単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |

受講者への要望

\*遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。|\*配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。|\*経営学総論と経営管理論の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.経営学史の内容と進行について。内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的な管理運動、等。||2.伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等 (テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等) 。||3.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的な管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。 ||4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等 (メイヨー、レスリスバーガー、等)。 ||5.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。 ||6.近代管理論、協働システム、誘因一貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等 (バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等)。 中間課題について。||7.近代管理論、協働システム、誘因一貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。 ||8.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等 (ワイヤーマン、シェーニッツ、プレントナー、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等) 。||9.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等 (ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等)。 ||10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。 ||11.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 ||12.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 ||13.日本の経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 期末課題について。||14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等 (チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等)。 ||15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |     |       |        |
|--|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                       | 2012   | 授業コード | T30141001 |     |       |        |
| 科目名                                      | 経営学総論 【他】  | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                               | Principles of Business Administration  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                     | 長谷川 正  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                     | <p>欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。  本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。  より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。</p>   |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                                | <p>・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上にアップロードしておきます。  ・トップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義に臨んで下さい。  ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。  ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。  ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくとう便利です。 </p>   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                                | <p>一般的な「経営学総論」の参考書は第1回目の講義で言います。  各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。</p>  |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                 | <p>パワーポイントを使って、虫食い状態でない資料に基づいて講義を進めます。  ビデオや新聞の切抜き等も使います。</p>  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                     | <p>原則として、平常点 (20%)、期末試験 (80%)</p>  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                     | <p>経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。  経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。</p>  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                     | <p>事前に講義用のプリントに目を通しておくこと</p>   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                  | <p>私語は厳禁とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。</p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                               | <p>第1部 はじめに  01. 予備的考察①  02. 予備的考察②  03. 予備的考察③  第2部 経営学の基礎  04. 豊かさの時代と企業  05. 大企業の誕生  06. 大企業の行きづまり  07. 日本の企業  08. 企業の新たな歩み  09. なぜ経営学が必要か  10. 経営・企業・管理   11. アメリカの経営学   12. ドイツの経営学   13. 経営の「通知簿」(会計の話)   14. 身近な「経営」(コンビニの話)   15. 中間的まとめ  第3部 経営学の中心問題 (1) 組織と戦略   16. 経営組織のいろいろ   17. 経営戦略とは   18. 「選択と集中」と組織能力の戦略   19. 組織と経営戦略の事例 ①   20. 組織と経営戦略の事例 ②  第4部 経営学の中心問題 (2) 企業統治   21. 企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは   22. 企業統治の理論   23. 企業統治の事例   第5部 経営学の中心問題 (3) 企業の国際化   24. 企業の国際化とは   25. 比較優位の理論   26. 企業の国際化の事例   第6部 経営の未来   27. 未来を見据えて ①新たな歩み   28. 未来を見据えて ②技術の未来   29. 未来を見据えて ③経営の未来   30. まとめ </p> |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○  | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30150A01 |
| 科目名  | 経営管理論 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Business Management I   |       |           |
| 担当者名   | 倉田 致知   | 旧科目名称 | 経営管理論 A   |
| 講義概要   | <p>企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの経営学の文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての事例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。  経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ビデオ教材や OHC を活用する。  適時参考書を指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 中間課題・宿題 (45%) と期末課題・宿題 (45%)、  および講義内小テストや感想文、等により評価する (10%)。   |       |           |
| 到達目標   | 次のいずれかの修得を目指す。  * 企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。  * 経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。  * 多角的な視点で事象を分析することができる。   |       |           |
| 準備学習   | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。  各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。  配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 企業の形態と株式会社について、上場や非上場について①  2. 企業の形態と株式会社について、上場や非上場について②  3. 利益の源泉と投資、財務諸表の見方、金融機関の役割について  4. 経営管理の変遷と学説: 伝統的管理論、管理過程論、人間関係論、近代管理論 中間課題について   5. 管理論のジャングル戦、動機づけ理論におけるジャングル戦、条件適合理論、条件適合的リーダーシップ論①   6. 管理論のジャングル戦、動機づけ理論におけるジャングル戦、条件適合理論、条件適合的リーダーシップ論②  7. 株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係について  8. コーポレート・ガバナンス: 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴①  9. コーポレート・ガバナンス: 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴②  10. 経営戦略論 (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、GE グリッド、チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ) ①  11. 経営戦略論 (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、GE グリッド、チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ) ②  12. アライアンス、M&amp;A、持ち株会社について① 期末課題について  13. アライアンス、M&amp;A、持ち株会社について②  14. 経営組織: ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織  15. 戦略的事業単位、マトリックス組織、組織とは何かに対する様々な見解: 近年の研究の紹介</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30150B01 |
| 科目名  | 経営管理論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Business Management II  |       |           |
| 担当者名   | 倉田 致知   | 旧科目名称 | 経営管理論B    |
| 講義概要   | <p>企業の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。管理されない存在を強調する文献を含み実に多くの経営学の文献が管理に焦点を当てている。本講義は、企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかについての事例および理論・学説を通して『管理とは何か』に接近する。  経営諸資源と関連付けて企業の全体的な仕組みを説明することになるので、講義対象となる領域はかなり広い。言い換えると、これから経営学を学ぼうとする者にその全体像を提示するという構成になっており、基礎的な内容で話を進めることになる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。プリントを適時配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ビデオ教材やOHCを活用する。 適時参考書を指示する。   |       |           |
| 教材（その他）  | 適時参考書や論文を指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 中間課題・宿題(45%)と期末課題・宿題(45%)、 および講義内小テストや感想文、等により評価する(10%)。  |       |           |
| 到達目標   | <p>次のいずれかの修得を目指す。 *企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 *経営理論に基づき現実の組織行動を論理的に捉えることができる。 *多角的な視点で事象を分析することができる。 </p>   |       |           |
| 準備学習   | 経営学総論の単位を取得している方が望ましい。および、経営管理論Ⅰの単位を取得している方が望ましい。 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1.労働基準法について(36協定、労働時間、割増賃金を中心にして)① 2.労働基準法について(36協定、労働時間、割増賃金を中心にして)② 3.人事管理論 遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合、持株会社について① 4.人事管理論 遅い昇進、新卒採用、長期雇用、企業別組合、持株会社について② 5.非正規と正規社員の現状と課題 中間課題について 6.生産管理、テイラー＝フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式① 7.生産管理、テイラー＝フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式② 8.生産管理、テイラー＝フォード生産方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式③ 9.情報と通信ネットワーク：TQM、BPR、EC、Posシステム、テレコミュニケーション① 10.情報と通信ネットワーク：TQM、BPR、EC、Posシステム、テレコミュニケーション② 11.CALS、バーチャルコーポレーション 12.SCM、CIM、IT革命?K革命?① 期末課題について 13.SCM、CIM、IT革命?K革命?② 14.知識社会と知識創造 知識創造の理論について、暗黙知と形式知の関係、コンピテンシーとは① 15.知識社会と知識創造 知識創造の理論について、暗黙知と形式知の関係、コンピテンシーとは②</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30163A01 |
| 科目名   | 経営戦略論 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Business Strategy I  |       |           |
| 担当者名  | 大島 博行  | 旧科目名称 | 経営戦略論 A   |
| 講義概要  | <p>経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する → 企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる → 新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる → 経営戦略の知識や実践力が深まる  という好循環になればしめたものです。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし、各講義でプリントを配付します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | <p>1. 石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣   2. 伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社   3. 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学 新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。</p>  |       |           |
| 教材 (その他)  | 適宜プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート (70%)、定期テスト (30%)  |       |           |
| 到達目標  | 経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞やテレビのニュースに常に関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。</p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. 経営戦略とは 2. 事例研究：マクドナルドとモスバーガー 3. ポイントカード 4. 価格戦略 5. 事例研究：餃子の王将 6. 事例研究：サイゼリヤ 7. ビジネスモデル 8. 事例研究：コンビニ 9. SWOT 分析 10. 顧客囲い込み 11. 企業価値 12. M &amp; A  13. 事例研究：新日鉄とミタルスチール 14. これからの日本型経営 15. まとめ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30163B01 |
| 科目名   | 経営戦略論Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Business Strategy II   |       |           |
| 担当者名  | 大島 博行  | 旧科目名称 | 経営戦略論B    |
| 講義概要  | 経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する → 企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる → 新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる → 経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし、各講義でプリントを配付します。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 1. 石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 2. 伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 3. 東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学 新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。   |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜プリントを配付します。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート(70%)、定期テスト(30%)  |       |           |
| 到達目標  | 経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞やテレビのニュースに常に関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 毎回授業の最後に10分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 経営戦略と組織 2. 事例研究：パナソニック 3. ブランド戦略 4. PB(プライベートブランド) 5. デフレスパイラル 6. SCM(サプライチェーン・マネジメント) 7. ローコスト経営 8. 事例研究：オーケストア 9. 事例研究：みずほの村市場 10. 多角化戦略 11. PPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント) 12. イノベーションのジレンマ 13. 事例研究：デジカメ 14. アウトソーシング 15. まとめ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |     |       |        |
|---|--|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012   | 授業コード | T30166A01 |     |       |        |
| 科目名                                     | 経営組織論Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名(英語表記)                               | Business Organization Theory I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 宮田 将吾  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているが、経営組織論Ⅰでは、組織の特徴と組織における個人に関して基本的な点を理解することを目的としている。 また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。</p>                |       |           |     |       |        |
| 教材(テキスト)                                | 基本的に、教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材(参考文献)                                | バーナード著、山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年。 その他、必要に応じて指示する。  |       |           |     |       |        |
| 教材(その他)                                 | プリントやレジュメを配布する。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | <p>基本的には、平常点(出席状況や受講姿勢など)20%、小テスト(講義の切りの良いところで1度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。)30%、学期末に行う試験50%の割合で評価する。 また、講義に関して積極的な発言あるいは意見をを行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。</p>   |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | <p>1. 「個人」、「組織」および「個人と組織との関係」とはどのようなものであるのかを理解する。 2. 個人はなぜ組織に入り、そこで活動を続けるのかという個人の行動原理を理解する。 3. 組織の立場から管理者は個人に対してどのような役割を果たすべきかということを理解する。</p>  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | <p>1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次の講義で担当教員に質問する。 3. 日常において組織と個人の関係に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。</p>  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | <p>1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。 2. 講義への積極的な参加を望む。</p>  |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | <p>基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。  1. オリエンテーション   2. 経営学における組織論の展開   3. 組織における個人の捉え方   4. 組織の定義と成立条件①   5. 組織の定義と成立条件②   6. 公式組織と非公式組織・組織の起源と成長   7. 組織の専門化と組織形態   8. 前半のまとめと理解度の確認(小テストを予定)  9. 個人の行動原理と組織の行動原理   10. 組織の均衡① -誘因の方法-   11. 組織の均衡② -説得の方法-   12. 組織における権限の理論   13. 組織の道徳的側面   14. 組織における意思決定と人間の合理性   15. まとめ</p> |       |           |     |       |        |
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力   | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |  |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |  |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30166B01 |
| 科目名        | 経営組織論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Business Organization Theory II   |       |           |
| 担当者名       | 宮田 将吾   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>組織とは、なんらかの目的のために形成されるものであるが、個人はそのような組織を自ら形成したり、あるいはすでに形成されている組織に自らの主体的な意思決定で入ったりするものである。現代社会においては、このような組織がさまざまな形で存在しているが、個人が生活を営んでいく上では、これらの組織との関係を避けて通ることはできない。したがって、個人がより良く生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠なのである。 経営組織論は、そのような組織の中でも、我々の日常生活に密接な関わりを持つ企業組織を研究対象としているものである。経営組織論Ⅰでは組織の特徴と組織における個人に関して学習したが、その内容を踏まえ、経営組織論Ⅱでは、アメリカとドイツにおいて経営組織論がどのように生成し、展開されてきたのかということを検討し、そのことによって、現実の組織の諸問題を解明していきたいと考えている。また、本講義を通して、企業組織に参加する自分をイメージしてもらい、現代社会を生き抜いていくための基礎力が養われれば幸いである。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | バーナード著、山本安次郎 / 田杉競 / 飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年。 その他、必要に応じて指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | プリントやレジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 基本的には、平常点（出席状況や受講姿勢など）20%、小テスト（講義の切りの良いところで1度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%、学期末に行う試験50%の割合で評価する。 また、講義に関して積極的な発言あるいは意見をを行う学生に対しては、評価の際に考慮に含める。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 春学期の「経営組織論Ⅰ」で学んだことをさらに深く理解し、「個人の立場」と「組織の立場」がどのようなものであるのかを簡単に説明することができる。 2. 経営組織論の歴史的な変遷を理解する。 3. アメリカの経営組織論とドイツの経営組織論との違いを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 1. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 2. 復習してわからない点をまとめ、次の講義で担当教員に質問する。 3. 日常における組織の諸問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 経営学関係の科目を履修していることが望ましい。 2. 経営組織論Ⅱを受講する前に、経営組織論Ⅰを履修していることが望ましい。 3. 講義への積極的な参加を望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが、学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。 講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。 </p> <p>1. オリエンテーション   2. 経営学における組織論の展開   3. アメリカにおける組織論の流れ① - 科学的管理法 -   4. アメリカにおける組織論の流れ② - 管理過程学派 -   5. アメリカにおける組織論の流れ③ - 人間関係論 -   6. アメリカにおける組織論の流れ④ - バーナードの近代組織論① -   7. アメリカにおける組織論の流れ⑤ - バーナードの近代組織論② -   8. 前半のまとめと理解度の確認（小テストを予定）  9. アメリカにおける組織論の流れ⑥ - バーナードの近代組織論③ -   10. アメリカにおける組織論の流れ⑦ - その他の動向① -   11. アメリカにおける組織論の流れ⑧ - その他の動向② -   12. ドイツにおける組織論① - ニックリッシュの組織論 -   13. ドイツにおける組織論② - グーテンベルクの組織論 -   14. ドイツにおける組織論③ - その他の動向 -   15. まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30173001 |
| 科目名   | 経営分析論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Financial Statement Analysis   |       |           |
| 担当者名  | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点から見ると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 田中弘 『会計データの読み方・活かし方』中央経済社 1890 円   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回レジュメを配布する予定です  |       |           |
| 評価方法  | 授業内レポート(20点)、授業内テスト(50点)および平常点(30点)  |       |           |
| 到達目標  | 会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。  |       |           |
| 準備学習  | 教科書の指定ページを読むこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 積極的な講義への参加を期待します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 企業分析の意義  2. 会計の役割と株式会社  3. 売上と利益  4. 貸借対照表の見方  5. 損益計算書の見方  6. いくつかの業種の財務諸表  7. 収益性の分析(1)  8. 収益性の分析(2)  9. 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方  14. 企業グループと連結決算 15. 総合評価 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30185001 |
| 科目名   | 原価計算論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Cost Accounting  |       |           |
| 担当者名  | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義では、管理会計の分野のうち、とりわけ戦略的な管理会計のトピックスを取り上げます。テキストをもとに、さまざまな原価計算・コストマネジメント技法について、ケースなどを使って分かりやすく解説していきます。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 加登豊・李建 『ケースブック コストマネジメント (第2版)』 新世社、2011年。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   |  |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内確認テスト (20%)、ホームワーク (20%)、レポート (20%)、中間・期末テスト (40%)  |       |           |
| 到達目標  | ① 伝統的原価管理の特徴を理解している。 ② 戦略的コストマネジメントの意義を説明できる。 ③ 戦略的コストマネジメントの特徴を理解している。                                |       |           |
| 準備学習  | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 春学期の「管理会計論」を既に履修していることが望ましい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 イントロダクション (原価・利益・価格の関係)   2 ABC/ABM (I)   3 ABC/ABM (II)   4 品質コストマネジメント   5 原価企画 (I)   6 原価企画 (II)   7 環境コストマネジメント   8 問題演習   9 ライフサイクルコストニング   10 価格決定   11 バランス・スコアカード   12 資源配分計画: PPM   13 グローバル管理会計 (I)   14 グローバル管理会計 (II)   15 まとめと問題演習 |  |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30189001 |
| 科目名        | 現代日本経済論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Advance to Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | バブルはどうして起ったのだろうか？終身雇用・年功序列制などの日本型経済経営システムやバブル崩壊、不良債権問題、景気後退の長期化、さらには少子化・高齢化、巨額な財政赤字、どれもこれも日本経済が抱えた問題、否、まだ抱えている問題でもある。それらを正しく理解することがスタートになる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストは使用しない。授業時にパワーポイントで講義内容を表示する。また、一定期間後、これを受講生に開示する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 植松・坂本ほか「日本経済論」 八千代出版株式会社  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等、期末定期試験（60％）   |       |           |
| 到達目標       | 日本経済を理解するうえで、GDP、為替レート、国際収支、金利、物価などのマクロ経済から、コーポレート・ガバナンス、株式会社、バランスシート、特別損失、規制緩和、成長戦略などの基礎的な理解が欠かせないので、できるだけ現実の経済に迫まることにしましょう。   |       |           |
| 準備学習       | 主要な日刊紙で報道されている経済ニュースの内容や背景などが理解できるようになって欲しい。そうなれば自ずと日常的に経済社会の変化に関心をもつことができるばかりでなく、自らも経済社会のあり方に関して問題意識を高めることができる。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「入門日本経済論」の履修者が望ましい。また、原則として講義終了後、理解度テストを実施する。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、プラザ合意による日本経済への影響  2、円高のメリットとデメリット  3、内外価格差問題の理解  4、平成景気のプロセス  5、バブルとは何か、何故、バブルが起こるのか   6、バブルによる影響を考えてみる。「バブルの大きさ、山高ければ谷深し」の比喻を解明しよう   7、バブルはどのようにして崩壊したか   8、不良債権の発生と処理に向けてどのような対策がとられたか。何故、大手銀行まで潰れたのだろうか  9、過去のバブルを検証してみる。バブルの教訓と課題。  10、日本型リスク行動を検証する。さらに日本型経営システムを問う。  11、「失われた10年」の景気プロセス  12、デフレ・スパイラルの検証  13、金融危機後の日本経済  14、人口減少による日本経済への影響  15、日本経済の課題と展望 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30194A01 |
| 科目名        | 工業簿記 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Factory Bookkeeping I  |       |           |
| 担当者名       | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 基本的に、「工業簿記・原価計算」をはじめて学ぶ学生を対象にします。原価とは何か、原価はどのように計算するのか、原価の計算方法にはどんなものがあるか、計算した原価情報で何が出来るか、こうした素朴な疑問に答えを出していくことがこの講義の大きな狙いとなっています。日商簿記検定試験(2級)をも念頭においた講義なので、受講後は検定試験にチャレンジすることをお勧めします。                                      |       |           |
| 教材 (テキスト)  | T A C 簿記検定講座著 『合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記』 T A C 出版  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回ホームワークのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (25%)、ホームワーク (25%)、中間・期末テスト (50%)  |       |           |
| 到達目標       | ① 工業簿記の意義と特徴を理解している。 ② 原価計算と工業簿記の関連を理解している。 ③ 個別原価計算の手続きを理解している。   |       |           |
| 準備学習       | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 若干の「商業簿記」の知識があることを前提に講義を進めます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 工業簿記の基礎   2 工業簿記の勘定連絡   3 個別原価計算 (I)   4 個別原価計算 (II)   5 個別原価計算 (III)   6 材料費 (I)   7 材料費 (II)   8 問題演習 (I)   9 労務費 (I)   10 労務費 (II)   11 経費   12 部門別個別原価計算 (I)   13 部門別個別原価計算 (II)   14 部門別個別原価計算 (III)   15 問題演習 (II) |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                           |  |       |           |
|---------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                        | 2012   | 授業コード | T30194B01 |
| 科目名                       | 工業簿記Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                 | Factory Bookkeeping II   |       |           |
| 担当者名                      | 李 建  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                      | 本講義では、総合原価計算のさまざまな計算手続きについて学びます。また、単なる原価計算に留まらず、原価の管理に役立つ手法として、標準原価計算や直接原価計算についても学習します。日商簿記検定2級工業簿記の範囲のうち、後半部分をカバーすることを目指します（前半部分は「工業簿記Ⅰ」でカバー）。受講後はぜひ検定試験にチャレンジして下さい。                        |       |           |
| 教材（テキスト）                  | T A C簿記検定講座著 『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記』 T A C出版  |       |           |
| 教材（参考文献）                  |  |       |           |
| 教材（その他）                   | 毎回ホームワークのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法                      | 平常点（25%）、ホームワーク（25%）、中間・期末テスト（50%）   |       |           |
| 到達目標                      | ① 総合原価計算の手続きを理解している。 ② 工企業の財務諸表が作成できる。 ③ 原価管理の考え方を理解している。  |       |           |
| 準備学習                      | ① 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておく。 ② ホームワークの問題を解いて、次回の講義で提出する。  |       |           |
| 受講者への要望                   |  |       |           |
| 原則として、「工業簿記Ⅰ」の単位取得者が対象です。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                | 1 総合原価計算（Ⅰ）  2 総合原価計算（Ⅱ）  3 総合原価計算（Ⅲ）  4 総合原価計算（Ⅳ）  5 総合原価計算（Ⅴ）  6 財務諸表（Ⅰ）  7 財務諸表（Ⅱ）  8 問題演習（Ⅰ）  9 標準原価計算（Ⅰ）  10 標準原価計算（Ⅱ）  11 標準原価計算（Ⅲ）  12 直接原価計算（Ⅰ）  13 直接原価計算（Ⅱ）  14 本社工場会計  15 問題演習（Ⅱ） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30201A01 |
| 科目名   | 国際経営論A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | International Management A   |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正  | 旧科目名称 | 国際経営論     |
| 講義概要  | <p>グローバルゼーション(地球規模化)という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。  なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。  そこで「国際経営論A」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア(特に中国文化圏)との比較を試みたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。  非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』(森山書店・2012年)   |       |           |
| 教材(参考文献)  | <p>・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上に資料をアップロードしておきます。 ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論A」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかりと聴いて確認をしてください。  ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくとう便利です。 </p>  |       |           |
| 教材(その他)   | そのつど、指示します。  |       |           |
| 評価方法  | ほとんど毎回行う小テスト(20%)、期末試験(80%)  |       |           |
| 到達目標  | 世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成   |       |           |
| 準備学習  | 教科書の該当箇所を読んでおくことと上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。</p>  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>01. はじめに、講義のテーマと進め方 02. 欧米の経済発展 ①科学技術の発展 03. 欧米の経済発展 ②大衆消費社会の到来 04. 欧米の経済発展 ③グローバルゼーション(自動車を例にとって) 05. マックス・ヴェーバー「倫理論文」その1 06. マックス・ヴェーバー「倫理論文」その2 07. 中国 ①秦の始皇帝 08. 中国 ②盛世と呼ばれた時代・清 09. 中国 ③18-19世紀とヨーロッパ  10. 中国 ④戦後の経済成長 11. 台湾 ①矛盾と分裂の台湾 12. 台湾 ②戦後台湾の経済と経営 13. 東南アジアにおける華人 14. 巨大消費市場としてのアジア 15. 講義のまとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30201B01 |
| 科目名   | 国際経営論B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | International Management A  |       |           |
| 担当者名  | 長谷川 正   | 旧科目名称 | 各国経済・経営事情 |
| 講義概要  | <p>グローバルゼーション (地球規模化) という言葉が使われだして久しい。企業の活動や観光、はたまた犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。  なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、明治以降の変化はあるし、現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。  「国際経営論 A」では欧米とアジア (特に中国文化圏) との比較を中心に論じているが、「国際経営論 B」では韓国と東南アジア諸国とインドのそれぞれの文化と産業・経営について論じる。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。  非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』(森山書店・2012年)  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | <p>・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「<a href="http://hasegawa02.nukimi.com/">http://hasegawa02.nukimi.com/</a>」上に資料をアップロードしておきます。  ・トップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 B」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。  ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第1回目の講義で言います。  ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかりと聴いて確認をしてください。   ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくことと便利です。</p>  |       |           |
| 教材 (その他)  | そのつど、指示します。   |       |           |
| 評価方法  | しばしば行う小テスト (20%)、期末試験 (80%)   |       |           |
| 到達目標  | 世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成  |       |           |
| 準備学習  | 教科書の該当箇所を読んでおくことと上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。  ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>0 1. アジアの変貌  0 2. 朝鮮半島の歴史  0 3. 戦後朝鮮半島の産業と経営  0 4. 韓国の財閥 (Chaebol チェボル) の経営  0 5. ベトナム社会主義共和国の産業と経営  0 6. タイ王国と華人経営  0 7. マレーシアの経済発展  0 8. シンガポール共和国の経済発展  0 9. インドネシア共和国の歴史と産業 その1  1 0. インドネシア共和国の歴史と産業 その2  1 1. インドの歴史とヒンドゥー教  1 2. インドの産業と経営  1 3. アジアと日本企業 その1  1 4. アジアと日本企業 その2  1 5. 講義のまとめ</p> |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                       | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30226001 |
| 科目名        | 女性経営者論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Women Own's Businesses  |       |           |
| 担当者名       | 大石 友子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④IT化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。                   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 毎回レジュメプリントを配布する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 必要に応じてビデオ教材を活用する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。  |       |           |
| 準備学習       | マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者について関心を持ち、情報を得ておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ 事業機会の認識 6. // 起業プロセス 7. // 資金調達 8. // マーケティング 9. // 人材活用 10. 女性が中心となるNPO 11. SOHOと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30230001 |
| 科目名   | 商学 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Business and Commerce  |       |           |
| 担当者名  | 堀池 敏男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本経済において流通・商業がなう役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。このため商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く論じられているのが現状である。このような認識を踏まえ、商業において中心的役割を果たす小売機構・機関を中心として、一般的に論じられている流通・商業に関する社会経済的視点および流通・商業をなう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアオペレーション等についての理解を進める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義内容についてのプリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%、レポート 30%、試験 50%  |       |           |
| 到達目標  | 商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識・スキルの習得を目指す。  |       |           |
| 準備学習  | 日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 はじめに（本講座の概要）   2 商学の研究対象としての流通・商業   3 商学への接近①（流通・商業・マーケティング）   4 ②（伝統的・近代的接近方法）   5 商業の発展   6 商業を担う卸売機構および小売機構   7 卸売機構の現状と課題   8 小売機構①現状と課題   9 ②業態発展理論  10 業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など  11 商圏と商業集積の考察 ① 商店街  12 ② ショッピングセンター  13 商業の実際 ① マーチャンダイジング  14 ② ストアオペレーション  15 おわりに（本講義の総括） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30231A01 |
| 科目名  | 商業簿記Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Bookkeeping for a Commercial Firm I   |       |           |
| 担当者名   | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 簿記の基礎知識(経営学部開講科目「簿記原理」)を前提にして、1)商業簿記の基礎を復習し、続いて、2)商業簿記の基礎を学習します。日本商工会議所簿記検定3級の試験範囲をカバーすることを目指します。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡部 裕巨・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社* *2011年度「簿記原理」の教科書です(2010年度以前に「簿記原理」を受講した人は、その時の教科書で構いません)。他学部の学生で、簿記を受講したことがある人は、その際に使用した教科書を持参してください。 |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  |   |       |           |
| 評価方法   | ホームワーク 20%、平常点 10%、試験 70%   |       |           |
| 到達目標   | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 個人企業で行われる各種の取引を記帳できる 3. 個人企業の決算手続きを理解している 4. 個人企業の財務諸表を作成できる  |       |           |
| 準備学習   | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 原則として、「簿記原理」の単位取得者が対象です。「入門簿記」のみを受講した人にはやや難しいようです。履修にあたっては、図書館で教科書を確認するなどしてから決めてください。 2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。 3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定への挑戦を勧めます。 4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。               |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Ⅰ. 簿記原理の復習  1. 簡単なテスト(成績には関係ありません)  2. 簿記原理の復習(その1)  3. 簿記原理の復習(その2)と小テスト   Ⅱ. 簿記原理から商業簿記Ⅰへ  4. 商品勘定(3分法)  5. 手形(その1)  6. 手形(その2)  7. 有価証券  8. 固定資産(その1)  9. 固定資産(その2)  10. 貸倒引当金  11. 収益と費用(その1)  12. 収益と費用(その2)  13. 帳簿組織 14. 決算と財務諸表(その1)  15. 決算と財務諸表(その2) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30231B01 |
| 科目名  | 商業簿記Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Bookkeeping for a Commercial Firm II  |       |           |
| 担当者名   | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本商工会議所簿記検定3級程度の実力を前提にして、より実践的な取引の記帳など中級程度の簿記の学習を進めます。日本商工会議所簿記検定2級商業簿記のうち、各種取引の記帳をカバーすることを目指します(株式会社の会計と本支店会計は、「応用商業簿記」でカバーします)。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡部・片山・北村編著 『検定簿記講義2級商業簿記 平成24年度版』 中央経済社、2012年。  |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  |   |       |           |
| 評価方法   | ホームワーク20%、平常点10%、試験70%  |       |           |
| 到達目標   | 1. 複式簿記の意義と特徴を理解している 2. 小売・卸売業における各種取引(例:手形取引、特殊商品売買取引)の記帳ができる  |       |           |
| 準備学習   | 1. 講義で指示された教科書のページに事前に目を通してください 2. 指示された課題について報告を準備してください 3. 講義内容で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください                                      |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1. 原則として、「商業簿記Ⅰ」の単位取得者または日商簿記3級(全商2級)合格者が対象です。「応用商業簿記」との同時履修を強く勧めます。 2. 簿記の基礎知識がない人は、「入門簿記」または「簿記原理」を履修してください。 3. 自分の理解度を確認するために、また、就職活動の一助とするために、日商簿記検定2級への挑戦を勧めます。 4. 講義を欠席すると、その後の理解に著しい支障が出る恐れがあります。欠席する講義のフォローは必ず行ってください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| Ⅰ 商業簿記Ⅰの復習  1.簡単なテスト(成績には関係ありません)と講義概要の紹介(応用商業簿記との違い)  2.商業簿記Ⅰの復習   Ⅱ 商業簿記Ⅰから商業簿記Ⅱへ  3.現金預金(その1) : 当座勘定 4.現金預金(その2) : 銀行勘定調整表 5.有価証券: 売買・評価と貸借・差入れ・預かり・保管 6.債権債務 : 債務保証・未決算・ 7.手形(その1) : 自己指図為替手形と自己宛為替手形 8.手形(その2) : 手形の裏書・割引 9.手形(その3) : 不渡りと荷為替手形 10.商品売買(その1) : 商品の割引・割戻 11.商品売買(その2) : 商品評価損と商品減耗損 12.特殊商品売買(その1) : 「通常の商品売買」と「特殊商品売買」 13.特殊商品売買(その2) : 未着品取引と委託販売・受託販売 14.特殊商品売買(その3) : 委託買付・受託買付と割賦販売 15.帳簿組織 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30248001 |
| 科目名  | 情報と職業 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Information and Occupation  |       |           |
| 担当者名   | 駒田 忠一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>情報通信社会の中で、職業と自己のあり方生き方と職業を考える。若者を取り巻く現状を白書等から述べ、職業の意義と役割を考え、自己のあり方生き方と職業を論じる。  教職希望者には、教育者としての進路指導、職業指導のあり方を論じる。職業指導では、生徒の入学時からの計画的で継続的な指導が重要であり、望ましい勤労観、職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択できるように指導する必要がある。また、教育者としての進路指導はいかにあるべきか、情報化を進路指導にどのように活用するか、大量の情報が交換できる高度情報通信社会の中で、主として専門教科「情報」を学ぶ生徒が将来、技術者として活躍するために、進路指導がいかにあるべきか、また情報化を進路指導にどのように活用していくか論じる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | レポートドライブから教材・資料を配布する。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (30%) 学習履歴状況等による。e-learning により課す課題評価 (70%)   |       |           |
| 到達目標   | 職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。   |       |           |
| 準備学習   | 新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、自分の都合の良い時間にコンピュータ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意欲がないものとみなす場合がある。  能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. 白書等から、若者を取り巻く現状   職業の意義と役割   職業とキャリア   1-1. 職業指導とは何か   学習指導要領の規定   2. 情報産業の現状   これからの情報化社会で求められる人材   人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル   3. 厚生労働省等統計データから、現状分析   3-1. 高等学校における進路指導の現状   4. 高校生の就職に関わる法・制度・仕組み   職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法   公共職業安定所と学校との職業紹介の分担   新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等   統一応募書類   5. 高等学校卒業生・大卒の就職の推移と現状   高卒者と大卒者の評価、採用問題   雇用情勢・経済成長   6. 職業意識   自分が望むあるいは目標とする職業   何のために働くか   6-1. 生徒の職業意識の希薄化   7. インターシップの実施   8. キャリアデザイン   職種に必要な能力、何が必要か   8-1. ホームルーム等での進路指導   9. 職業と職業生活について   職業及び職業生活   勤労・職業の意義と役割   職業生活と法令   10. 情報化と社会の変化について   情報化に伴う産業と社会生活の変化   情報関連産業の発達と資源・環境問題   情報社会のモラル   11. 職業と自己実現   職業適性の理解   自己のあり方生き方と職業   進路選択と自己実現   12. 求められる進路指導の改善   キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策   13. インターネットの進路指導への活用   14. 若年失業者問題と対策   15. 職業とキャリアの形成</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30250001 |
| 科目名   | 情報セキュリティ論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Privacy Protection  |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せれば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 相戸浩志『情報セキュリティの基本と仕組み第3版 基礎から学ぶセキュリティリテラシー』秀和システム  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 情報処理推進機構『情報セキュリティ読本 改訂版』実教出版 新藤茂・加藤直樹『教師のための情報セキュリティ入門』日本標準 その他は適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン・ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。   |       |           |
| 評価方法  | 授業内提出物及び小テスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(30%)、平常点(20%)で評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることが出来る知識を身につける。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。   1. 受講ガイダンス、IT(情報技術)に潜む危険  2. 企業における情報セキュリティの対象  3. 情報セキュリティを取り巻く状況  4. 情報漏えいの防止  5. インターネットの安全を図る(1)  6. インターネットの安全を図る(2)  7. 電子メールの安全を図る技術  8. 暗号化とデジタル署名  9. 情報資産のライフサイクルマネジメント  10. 情報セキュリティマネジメントシステム  11. 個人情報保護  12. 事業継続管理  13. リスクマネジメントシステム  14. 情報セキュリティリテラシーの強化  15. まとめ</p>        |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                             |  |       |           |
|-----------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                          | 2012   | 授業コード | T30252A01 |
| 科目名                         | 情報ネットワーク論 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)                  | The Study of Information Network Community I   |       |           |
| 担当者名                        | 安達 房子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                        | パソコン等のコンピュータをインターネットに代表される通信ネットワークに接続して、情報をやり取りすることが多くなっています。このような情報ネットワークを利用したコミュニケーションは、私たちの生活に欠かせなくなっています。  本講義では、コンピュータと通信ネットワークの基礎的な知識を学び、情報ネットワークの仕組みを理解できるようになることをめざします。  |       |           |
| 教材 (テキスト)                   | なし、各講義でプリントを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)                   | 田上博司著『デジタルコミュニケーション』晃洋書房,2007年,2415円 その他授業中に適宜指示します。   |       |           |
| 教材 (その他)                    | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材やパワーポイントを活用します。   |       |           |
| 評価方法                        | 平常点 (40%) 出席状況、授業内レポート等。定期テスト (60%)。   |       |           |
| 到達目標                        | コンピュータの基本的な仕組みを理解することを目標とします。 通信ネットワークの基本的な仕組みを理解することを目標とします。  |       |           |
| 準備学習                        | 新聞等のメディアを活用し、最新の情報ネットワークの動向に関心を持つようにしてください。  |       |           |
| 受講者への要望                     |  |       |           |
| 私語や遅刻をしないこと。私語が過ぎれば、退出を求める。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                  | 1 ガイダンス (授業の進め方や目的の説明、情報と通信の概念)   2 コンピュータの歴史   3 コンピュータの仕組み①   4 コンピュータの仕組み②   5 ソフトウェアと周辺機器①   6 ソフトウェアと周辺機器②   7 コンピュータ・ネットワークの仕組み①   8 コンピュータ・ネットワークの仕組み②   9 インターネットの歴史と仕組み   10 インターネットの仕組み   11 Web ページを活用したコミュニケーション   12 電子メールを活用したコミュニケーション   13 携帯電話によるコミュニケーションの仕組み   14 情報ネットワークの展望   15 まとめ    授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新的话题を取り上げていきたいと考えています。 |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T30252B01 |
| 科目名       | 情報ネットワーク論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | The Study of Information Network Community II   |       |           |
| 担当者名      | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 携帯電話やパソコンをインターネットに接続して利用することが日常的に行われるようになってきました。このような情報ネットワークの利用は、私たちの生活に大きな影響を与えています。  本講義では、情報ネットワークが社会でどのように活用されているのかを学びます。さらに、情報ネットワークを活用する上で問題点や課題について学習します。講義を通じて、情報ネットワークを安全に活用するために必要な知識を学んでいきます。   |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義でプリントを配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 情報処理推進機構編著『情報セキュリティ読本』実教出版,2009年,500円 山住富也『モバイルネットワーク時代の情報倫理』近代科学社,2009年,1680円 その他授業中に適宜指示します。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布します。 ビデオ教材やパワーポイントを活用します。  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（40%）出席状況、授業内レポート等。定期テスト（60%）。   |       |           |
| 到達目標      | 社会での情報ネットワークの活用状況を知るとともに、問題点について理解することを目標とします。 情報ネットワークを安全に活用するために必要な知識を習得します。  |       |           |
| 準備学習      | 新聞等のメディアを活用し、最新の情報ネットワークの動向に関心を持つようになしてください。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
|           | 私語や遅刻をしないこと。私語が過ぎれば、退出を求める。   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント  |       |           |
|           | 1 ガイダンス（授業の進め方や目的の説明等、携帯電話の歴史と動向） 2 通信ネットワークとサービスの発展① 3 通信ネットワークとサービスの発展② 4 情報格差の問題と対策 5 電子商取引 6 ソーシャルメディア  7 テレワーク 8 個人情報の保護 9 コンピュータウイルス 10 サイバー攻撃 11 情報セキュリティ 12 ネットワークと知的財産権 13 情報ネットワークの動向 14 情報ネットワーク社会の展望  15 まとめ    授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新的话题を取り上げていきたいと考えています。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30256A01 |
| 科目名        | 情報科学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Information Science I  |       |           |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、FORTRAN、BASIC、C、Javaなどの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いてFORTRANのプログラムを作成し、実行を行ってもらおう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門 I』培風館  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート (60%)、定期試験 (40%)   |       |           |
| 到達目標       | 情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 情報処理に関する問題を常に意識し、新聞等のメディアやインターネットに日々関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. アルゴリズムとは何か   2. アルゴリズムと流れ図   3. 数のアルゴリズム   4. 変数   5. 入力と出力   6. 浮動小数点表示   7. 基本的な流れ図   8. カウンタと見張り役   9. 部分文字列の探索   10. 算術式   11. まるめ   12. 最大値を求めるアルゴリズム 1   13. 最大値を求めるアルゴリズム 2   14. 集計のアルゴリズム   15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○    | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30256B01 |
| 科目名        | 情報科学Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Information Science II   |       |           |
| 担当者名       | 岩崎 恭輔  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、FORTRAN、BASIC、C、Javaなどの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いてFORTRANのプログラムを作成し、実行を行ってもらおう。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   | A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ⅰ』培風館   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（60%）、定期試験（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 情報処理に関する問題を常に意識し、新聞等のメディアやインターネットに日々関心を持っておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. ユークリッドのアルゴリズム1   2. ユークリッドのアルゴリズム2   3. 平方根のアルゴリズム   4. 多重判断の簡潔な表現   5. 一次元配列1   6. 一次元配列2   7. 整列のアルゴリズム1   8. 整列のアルゴリズム2   9. 整列のアルゴリズム3   10. ループ構造   11. 探索のアルゴリズム   12. 二次元配列1   13. 二次元配列2   14. 段階的分解   15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30260A01 |
| 科目名        | 情報管理論Ⅰ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Theory of Information Management I  |       |           |
| 担当者名       | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材(その他)    | プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ等を用意することが望ましい。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(35%)、平常点(15%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の前に2時間程度の予習、講義後に2時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経営、情報に関する諸科目をより多く受講していただきたい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1. 受講ガイダンス 2. 情報化技術の理解 3. 経営戦略の理解 4. 情報化戦略の立案 5. まとめ(テスト) 6. 情報の収集 7. 情報の整理 8. 情報の整理 9. 情報の加工 10. 情報の表現 11. まとめ(テスト) 12. パソコンソフトの活用 13. パソコンソフトの活用 14. 関連法規の理解 15. 理論的側面のまとめ</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30260B01 |
| 科目名   | 情報管理論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Information Management II   |       |           |
| 担当者名  | 新長 章典   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。  また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。  本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。  講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学ナビ に公開する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版社  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | プリント配布。（主に A4 と A3）  配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。  出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。  Twitter が利用できるケータイ等の準備が望ましい。  |       |           |
| 評価方法  | 授業内提出物及びテスト(30%)、レポート(20%)、定期試験(35%)、平常点(15%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。   |       |           |
| 準備学習  | 各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。  1. 受講ガイダンス   2. 情報システムの種類   3. IT ソリューションの調達方法   4. IT ソリューションの活用   5. まとめ(テスト)   6. システム化計画の立案   7. システム要求の分析と要件定義 II   8. システム要求の分析と要件定義 III   9. システム開発におけるその他の業務   10. まとめ(テスト)   11. システムの運用   12. 情報セキュリティ I   13. 情報セキュリティ II   14. 情報システム導入の失敗の原因   15. システム面からのまとめ</p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30278001 |
| 科目名        | 西洋社会経済史 【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Social and Economic History of Europe  |       |           |
| 担当者名       | 乳原 孝   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 近世以降の欧米における社会経済史を、通史ではなくテーマごとに考察したいと思う。主に16世紀と19世紀のイギリスを対象にして、当時の経済事情から生じた様々な社会問題を取り上げたい。特に、都市化に伴う貧困や犯罪の増加、工業化による生活の変化など、庶民の日常生活を具体的に見ていきたいと思う。また、そうしたミクロの世界と同時に、世界経済システムというマクロの世界を認識することによって、両者をリンクさせ、広い視野から物事を考えられるようにしたいと思う。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 乳原 孝著 『「怠惰」に対する闘い』 嵯峨野書院（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 中間レポート（20%）、レポート試験（40%）、授業内レポート（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 西洋における社会経済史の諸問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 授業中に指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 16世紀イギリスの経済（1） 2. 16世紀イギリスの経済（2） 3. ロンドンの人口増加と都市化（1） 4. ロンドンの人口増加と都市化（2） 5. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（1） 6. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（2） 7. イギリス近世の貧民・浮浪者問題（3） 8. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（1） 9. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（2） 10. 浮浪者取締り法・救貧法の展開（3） 11. 「流行」の社会経済史（1） 12. 「流行」の社会経済史（2） 13. 「流行」の社会経済史（3） 14. 「流行」の社会経済史（4） 15. 産業革命再考（1） 16. 産業革命再考（2） 17. 19世紀イギリスの社会経済（1） 18. 19世紀イギリスの社会経済（2） 19. 給水問題とコレラ（1） 20. 給水問題とコレラ（2） 21. 給水問題とコレラ（3） 22. 19世紀イギリスの犯罪と社会（1） 23. 19世紀イギリスの犯罪と社会（2） 24. 19世紀イギリスの貧民問題（1） 25. 19世紀イギリスの貧民問題（2） 26. イギリスの奴隷貿易（1） 27. イギリスの奴隷貿易（2） 28. イギリスの奴隷貿易（3） 29. イギリスと世界システム（1） 30. イギリスと世界システム（2） |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度                                      | 2012  | 授業コード | T30282001 |     |       |        |
| 科目名                                     | 税務会計論 【他】   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)                              | Tax Accounting  |       |           |     |       |        |
| 担当者名                                    | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要                                    | <p>(1) 本講義における税務会計としては、個人企業所得に課される税金(所得税)と法人企業所得に課される税金(法人税)の双方の計算分野を対象とする。すなわち、所得税法会計と法人税法会計を内容とし、両者の基礎を学ぶのが本講義の目的である。ここでは、課税所得を確定したうえで税額が算定されることになる。</p> <p>  (2) このような観点から、本講義においては、所得税法及び法人税法に従って課税所得がどのように計算されるのか、また、それに基づく税額の計算及び申告がどのように行われるのかといった論点を中心に、その要点を出来るだけ平易に講述する。そこでの内容としては、後述のように、租税制度の概要を確認したうえで、所得税法会計、法人税法会計の順に課税所得及び税額の計算システムの概観を解説することにした。</p> <p>  (3) なお、所得税に関するケース・スタディとして、架空の家族構成と収入状況を想定し、実際の納税申告書の作成演習を行い、提出してもらう予定である。その際に、は税務職員にも来て頂き、講演及び実務面の補助指導をして頂く予定である。  (4) また、科目内容の実践的重要性をも考慮して、実務検定として定評のある全国経理学校協会主催の税務会計能力検定試験の内容に関連する問題演習も活用したい。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)                               | ①岩崎 功 著 / 奥田よし子 監修 『所得税法テキスト』 英光社 ¥1,200 ②岩崎 功 著 / 奥田よし子 監修 『法人税法テキスト』 英光社 ¥1,200   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)                               | 中田 信正 著 『税務会計要論【13訂版】』 同文館出版 ¥3,600   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)                                | 適宜、必要に応じてプリント配布を行う。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法                                    | 原則として、平常の受講状況(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。  |       |           |     |       |        |
| 到達目標                                    | (1) 税法の概要および税務会計の基礎を理解している。  (2) 所得税会計と法人税会計における「課税所得と税額」の計算構造を理解している。  (3) 基本的な所得税の確定申告書が作成できる。  (4) 法人税申告書「別表4」の構造を理解している。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習                                    | (1) 講義時に指示された次回講義に関連するテキスト部分について、事前に解読し、予習すること。 (2) 毎回配布する私製アンケート「ミニッツ・ペーパー」に質問・疑問を記入できるように、予習の段階で疑問点があればメモをし、講義後に疑問が解けなければアンケートに明記すること。質問内容には、可能な限り次回の講義時に説明する予定であるので、積極的にどうぞ。 (3) 所得税確定申告書の作成演習に際しては、講義者の方で納税者家族のケース設定を行うが、自主的なケース設定も歓迎するので、積極的に講義に参加するように準備すること。 (4) 講義内で税務職員の講演も設定するので、積極的に質疑応答に参加するように事前準備をすること。 (5) 国税庁のホームページへのアクセスを積極的に試み、租税制度の仕組みや申告書の作成など、身近な事例を想定しながら平素より税務への関心を高めるように学習すること。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望                                 | (1) 企業所得の算定に関しては簿記・会計的知識が基礎となるが、そうした基礎知識が十分に無い場合も想定して講義を進める。 (2) 実務上は税法無視の経理実践はあり得ず、特に中小企業経理では税務会計が極めて重視されている点に注意して頂きたい。 (3) 実学としての税務に興味ある諸君の積極的な履修を希望している。   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント                              | 講義の主要な論点は以下の通りであるが、必要に応じて変更することもある。  【税務会計の基礎】   (1) 講義展開のガイダンスと租税制度の概要   (2) 企業会計と税務会計   【所得税会計分野】   (3) 所得税の概要   (4) 所得の種類とその計算方法   (5) 課税標準と所得控除の内容   (6) 課税総所得金額と所得税額の計算方法   (7) 納税申告書の作成演習   【法人税会計分野】   (8) 法人税の概要   (9) 所得金額の計算   (10) 「益金の額」の計算   (11) 「損金の額」の計算①   (12) 「損金の額」の計算②   (13) 「損金の額」の計算③   (14) 法人税額の計算と申告・納税   (15) 総括  |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○   | ○     | ○         | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |   |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30401A01 |
| 科目名        | 中小企業経営論 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Small & Medium Business Management I  |       |           |
| 担当者名       | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本では、全体の企業数のうち、中小企業は 99%です。これらの、歴史、経営戦略を勉強しましょう。  1960年代からの高度経済成長期、'70年代のオイルショックの反動期、'80年代の情報化、ハイテク化、国際化の期間、'90年代の社会主義の解体・変質と発展途上国の成長により、21世紀より市場経済が地球規模に拡大して世界大競争時代へと変質してきました。21世紀は若者に起業(ベンチャービジネス)をもとめています。  この間、わが国における中小企業の変化には、著しいものがありました。そこで本講義では、この間の中小企業の歴史と政策を顧みたくうえで、現象的な側面から本質的な側面まで見て行くこととします。  特に、諸君たちが生まれてからの変わりようと、21世紀を睨んだ将来の方向(起業家精神の精神・知識・戦略)に力点を置きます。その中でなにがしかのヒントとインパクトを感じて、より勉強される事を目的としています。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 授業効果上がるべく、動画、図や表を使つてのパワーポイントの授業になります。事例やデータは、そのつどインターネットを駆使しての説明とします。内容を追つて進めていくが、参考文献や資料、コピーはその都度配布します。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 山根節 山田英夫 『経営戦略の考え方』 日本経済新聞社 フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング・コンセプト』 大川修三 訳  |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験と平常点を総合して評価します。  評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。   |       |           |
| 到達目標       | 1 日本国内の企業のほとんどが中小企業であることを理解する。  2 そこでの経営がどのようにして行われているかの現況を知つた上で、これからの在り方を勉強します。  3 特に、中小企業独自の経営戦略を詳細に勉強するつもりです。  |       |           |
| 準備学習       | 日常の生活の中で、習つたことの中小企業経営と比較してしてください。その上で、次回の授業の疑問点として頭に残しておいてください。また、質問をされることを期待しています。   |       |           |
| 受講者への要望    | 休まず、私語をせず、遅れずに出席しましょう。楽しく、役に立つ、勉強をします。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 中小企業の経営とは(1回)   2. 中小企業との経営の課題(2回)   3. 中小企業の経営戦略(3-5回)   4. 中小企業の財務戦略(6-7回)   5. 経営分析(8-9回)   6. 中小企業のマーケティング(10-13回)   7. ITとサービス化の中小企業経営(14-15回)  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30401B01 |
| 科目名  | 中小企業経営論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Small & Medium Business Management II   |       |           |
| 担当者名   | 大西 昭生   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 前期の授業において中小企業を取り巻く環境と経営について、講義しました。 後期においては、現況の分析加えて中小企業経営の将来展望を講義することとします。 特に、21世紀を睨んだ将来の方向（起業家精神の精神・知識・戦略）に力点を置きます。その中でなにかのヒントとインパクトを感じて、より勉強されん事を目的としています。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業効果上がるべく、動画、図や表を使つてのパワーポイントの授業になります。事例やデータは、そのつどインターネットを駆使しての説明とします。内容を追つて進めていくが、参考文献や資料、コピーはその都度配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 山根節 山田英夫 『経営戦略の考え方』 日本経済新聞社 フィリップ・コトラー 『コトラーのマーケティング・コンセプト』 大川修三 訳  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験と平常点を総合して評価します。 評価採点の基準は定期試験80、平常点20の配分比率です。  |       |           |
| 到達目標   | 1 学習したベンチャービジネスの知識を持って、自分なりの起業ができるよう努力してみる。 2 そこの問題点と疑問点を見つけたことが必要でしょう。 3 実社会での企業経営の展望を見つきたい。   |       |           |
| 準備学習   | ベンチャービジネスについての記事を見逃がさず読んでください。また、インターネットで検索をする癖をくけてください。準備としては「検索することと、読むこと」が事前の学習としています。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 遅刻や私語は厳禁です。 私語が多い人は、他の学生の迷惑となりますので退出を求めます。 鉛筆とノートを持参して、筆記をする習慣をつけてください。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| はじめに 春学期とのとの繋がりを説明する 10. ベンチャービジネス(1-3回) 11. 起業家精神と事業構想とは(4-5回) 12. 起業の発想と道具(6回) 13. 関西起業家の先人より学ぶ(7回) 14. 中小企業の人材の育成とリーダーシップ(8-9回) 15. 中小企業の海外進出 中国(10回) 16. 中小企業の海外進出 ベトナム(11回) 17 中小企業の生産管理(12回) 18. 21世紀の中小企業 (13-14回) 19. まとめ(15回) |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30410A01 |
| 科目名   | 日本経営史 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Japanese Business History I   |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実   | 旧科目名称 | 日本経営史 A   |
| 講義概要  | 江戸時代より明治時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。     |       |           |
| 教材 (テキスト)   | なし。毎回資料を配付する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義の中でその都度紹介する。  |       |           |
| 教材 (その他)  | 次の書籍を薦める。(いずれも本学図書館に所蔵)  宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣 |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席などを加味して、総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の講義予定を伝えるので、推薦書に目を通しておくと良い。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけてたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.日本経営史の課題  2.江戸時代の経済発展  3.豪商の企業者活動  4.商家の企業形態(上方商人・三井家)  5.近江商人の企業者活動  6.明治維新改革と近代経営の形成  7.三菱の創立と多角化(岩崎弥太郎・弥之助)  8.渋沢栄一の合本主義と産業化の促進  9.銀行業の生成と発展(国立銀行の発足と普通銀行への過程)  10.会社制度の導入と発展(多角的出資と重役兼任)  11.近江商人の企業者活動と滋賀県企業家、  12.明治維新と三井家の家政改革  13.財閥の形成過程  14.経済団体の形成  15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30410B01 |
| 科目名   | 日本経営史Ⅱ 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Japanese Business History II   |       |           |
| 担当者名  | 上川 芳実  | 旧科目名称 | 日本経営史B    |
| 講義概要  | 大正期より昭和戦後期に至る企業経営の発展過程を概説する。 第一次大戦期の企業成長と戦後不況期の企業経営の困難、さらに第二次大戦後の日本型企業経営の構築について講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。毎回資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義の中でその都度紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣     |       |           |
| 評価方法  | 試験を中心とし、小レポート・出席などを加味して、総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 経営史の基礎知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の終わりに次回の講義予定を伝えるので、推薦書を参照してほしい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけてたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1.日本経営史の課題  2.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長  3.大企業時代の到来と企業間関係の変化  4.財閥の巨大化、  5.企業金融の構造と展開(間接金融制と株式・社債発行)  6.日本的労務管理の形成（第一次大戦・戦後期の労働問題）  7.「商業革命」と大企業の流通政策  8.化学工業の発展  9.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 10.企業集団の成立とその機能、 11.家電量産・量販体制の形成 12.自動車産業の発展 13.事業部制、企業系列の展開 14.中間組織と日本型企业 15.まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30420001 |
| 科目名        | 入門NPO論【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Introduction to NPO  |       |           |
| 担当者名       | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 会社のような企業と国や地方の政府のほかに、ボランティアのようなNPO(非営利組織)はどのように存在するのでしょうか?ボランティア活動はそもそも好き勝手に行っているのだろうか?NPOといってもボランティア活動を担う団体だけでなく、社会福祉法人や公益法人、さらには大学などの学校法人も含むのはどうしてなのだろうか?この授業を通じて学ぶことはあまりに多い。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | 「起業時代のNPO」坂本信雄著(八千代出版株式会社)   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 「ローカル・ガバナンスの実証分析」坂本信雄著(八千代出版株式会社)  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%)出席状況等による、期末試験70%   |       |           |
| 到達目標       | NPOが存在する理由とその役割を理解して欲しい。また、NPOは企業と政府とも異なる組織体だが、共通しているところもあるのでそれを見出すこと、さらには企業、政府、NPOのトライアングルがどのような相互関連にあるかについても理解できるようにしましょう。   |       |           |
| 準備学習       | 受講生自らNPOに関心をもつだけでなく、できれば受講生が住んでいるところのNPO活動に実際に参加することを期待したい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 受講生自らもボランティア活動に関心を持てば、勉強への意欲は一段と高まることでしょう。また、この授業は公開講義になっており、一般社会人も受講する場合があります。さらに、授業の一環として、5月ないし6月の特定の日曜日に保津川の清掃ボランティアに参加しましょう。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、NPOの全体像 2、非営利組織の特徴 3、様々な組織の特徴(会社、政府、非営利組織)と相互関連を見てみよう 4、公共・公益とは何だろう 5、NPOの定義・論理は何だろう 6、NPOとボランティアの関連を考えてみよう 7、NPOを法律面から見てみよう 8、心理面から見たNPOも考えてみよう 9、NPOの優遇政策や寄付の制度をみてみよう 10、公益法人制度とNPOはどんな関係があるのだろうか 11、NPOの様々な種類・タイプを探ってみよう 12、ユニークなボランティア団体を探ってみよう 13、強制力とフリーライダーの関係を考えてみよう 14、公共財とNPOの関係 15、ソーシャル・キャピタルとNPOの関係 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T30421001 |
| 科目名       | 入門日本経済論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Introduction to Japanese Economy   |       |           |
| 担当者名      | 坂本 信雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 経済の変化が大きいほど、私たちへの教訓もまた大きい。いわゆるバブルが崩壊した後の日本経済は「失われた10年」と言われたが、その後一度、立ち直りかけたものの、1 昨年アメリカ発の金融危機をきっかけに再び経済は困難な状況にあり、「失われた20年」とも評されている。日本経済の現状と課題を理解することを目指してみよう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | テキストは使用しない。授業時にパワーポイントで講義内容を表示する。また、一定期間後、これを受講生に開示する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 植松・坂本ほか「日本経済論」 八千代出版株式会社   |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 平常点（40％）出席状況等、期末定期試験（60％）  |       |           |
| 到達目標      | 少なくとも主要な日刊紙で報道されている経済ニュースの内容や背景などが理解できるようになって欲しい。そうなれば自ずと日常的に経済社会の変化に関心をもつことができる。  |       |           |
| 準備学習      | 授業の開始後、10分程度は最新のWEBニュースを取上げて解説するので、事前に経済ニュースに眼を向けて欲しい。   |       |           |

#### 受講者への要望

経済活動は個々の企業を主体に行われる、経営の外的要因として為替レートや物価、金利などのマクロ経済の変化に着目することも欠かせない。例えば、仮に効率的に経営されている企業であっても輸出比率が高ければ円高の影響は避けられない。経済の変化をミクロ的な見方だけでなく、マクロ的な変化も含めて理解するアプローチが求められているので、これを理解しましょう。

#### 講義の順序とポイント

1、経済成長率・景気の尺度について理解しよう | 2、GDP/GNPの理解、付加価値概念の理解 | 3、3面等価の考え方（生産・支出・分配）を理解しよう | 4、景気動向指数（DI）とは何だろう。先行・一致指数の考え方 | 5、戦後の日本経済の復興要因は何か | 6、復興期にはどのような経済政策がとられたか | 7、日本にもあった高度経済成長はどのようにして実現したか | 8、高度経済成長期の経済政策の特徴は何か | 9、高度経済成長による負の遺産は何か | 10、石油危機はどうして生じたのか | 11、資源の無い国・日本がどうして石油危機を乗り越えられたのだろうか？ | 12、固定相場制から変動相場制への移行はどうして起きたのだろうか | 13、高度経済成長の終焉を整理してみよう | 14、アメリカのレーガノミックスと双子の赤字問題 | 15、プラザ合意の成立

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30422001 |
| 科目名  | 入門簿記【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Introduction to Bookkeeping   |       |           |
| 担当者名   | 竿田 嗣夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>(1) 簿記(ぼき)とは「帳簿(ちょうぼ)記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表(さいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳(きちょう)方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、秋学期の「簿記原理」(日商簿記検定3級程度)の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第2版』 中央経済社 ¥1,260  |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜、プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。  |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡(仕訳から財務諸表の作成まで)を理解している。   |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| (1) 簿記の初学者(これまで簿記を習ったことがない人)は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産(資本)]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30422002 |
| 科目名  | 入門簿記【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Introduction to Bookkeeping   |       |           |
| 担当者名   | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>(1) 簿記(ぼき)とは「帳簿(ちょうぼ)記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表(ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳(きちょう)方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、秋学期の「簿記原理」(日商簿記検定3級程度)の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第2版』 中央経済社 ¥1,260  |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜、プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。  |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡(仕訳から財務諸表の作成まで)を理解している。   |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| (1) 簿記の初学者(これまで簿記を習ったことがない人)は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産(資本)]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30422004 |
| 科目名  | 入門簿記【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Introduction to Bookkeeping   |       |           |
| 担当者名   | 内川 正夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>(1) 簿記(ばき)とは「帳簿(ちょうぼ)記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表(ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳(きちょう)方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、秋学期の「簿記原理」(日商簿記検定3級程度)の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡部 裕亘 『ファーストステップ 簿記を学ぶ 第2版』 中央経済社 ¥1,260  |       |           |
| 教材(参考文献)   |   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜、プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法   | 原則として、小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。  |       |           |
| 到達目標   | (1) 複式簿記の基本原則を理解している。 (2) 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3) 個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 (4) 簿記一巡(仕訳から財務諸表の作成まで)を理解している。   |       |           |
| 準備学習   | (1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 (3) 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、次回の講義で質問してください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| (1) 簿記の初学者(これまで簿記を習ったことがない人)は、この講義でウォーミング・アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。 (2) 科目の性格上、出席を重視します。 (3) 学習時には「頭と手」の活用を意識してください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| この講義は、原則、次の順序で展開します。  1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的・種類   2. 資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表   3. 収益・費用と損益計算書   4. 取引と取引要素の結合関係   5. 取引と勘定記入   6. 仕訳①[資産・負債・純資産(資本)]   7. 仕訳②[収益・費用]   8. 仕訳と転記   9. 仕訳帳と総勘定元帳   10. 試算表の原理   11. 6桁精算表   12. 決算手続き   13. 貸借対照表と損益計算書の作成   14. 決算演習   15. 総括 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30431001 |
| 科目名  | 品質管理【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Industrial Quality Control  |       |           |
| 担当者名   | 櫻井 俊則   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中国をはじめ、東南アジア諸国の経済発展に伴い、わが国が世界に誇る「品質」についても、安くてよい製品が海外で生産され、わが国製造業は、価格競争・品質競争において非常に厳しい状況におかれている。品質管理活動も、従来のQCサークルを中心としたボトムアップの品質改善活動から、トップダウンを主体としたマネジメントとしての品質管理活動に移行しつつある。そのひとつが、品質システムの国際規格ISO9000である。第2次世界大戦後、アメリカの統計的品質管理の導入からスタートしたわが国の品質管理活動をわかりやすく事例を取り入れながら講義を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しない。パワーポイントで作成したスライドで講義を進める。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「よくわかるこれからの品質管理」、山田 正美著、同文館出版。平成16年。  |       |           |
| 教材（その他）  | エクスペローラ→レポートドライブ→教員個人→櫻井俊則→教材提供→品質管理→配布資料印刷   |       |           |
| 評価方法   | 毎回、学んだ中で、もっとも大事だと思ったことや質問を書いてもらいこれ出席をとります。これを授業内レポートとし、平常点（30%）出席・授業内レポート、定期試験(70%)で評価する。 定期試験は全て持ち込み可。   |       |           |
| 到達目標   | 1. 品質管理の歴史的展開過程について説明できる  2. 品質管理の重要性について説明できる  3. 統計的品質管理の基礎が理解できる  4. 社会で生じている品質管理の問題に関心をもち、自主的に情報を獲得し、問題点を的確に把握することができる  5. 授業で取り上げた問題について、自分の考えを簡潔に書くことができる  6. パワーポイントで作成したものを配布資料として自分で印刷できる  |       |           |
| 準備学習   | 品質管理に関する新聞記事や報道に常に関心をもっていること  図書館で品質管理に関する文献を読んでおくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 欠席・遅刻することなく、授業中は私語を慎み、積極的に参加すること  授業内レポートは時間内に提出すること  社会や産業界の品質管理に関する動向に関心をもち、新聞、雑誌などに目を通しておくこと  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1回目：技術革新と品質管理  2回目：品質管理の定義と歴史   3回目：品質管理の概念  4回目：品質を管理するとは   5回目：TQMについて  6回目：ISOについて  7回目：データをとる目的  8回目：QCの七つ道具について  9回目：統計的品質管理について  10回目：検査とは   11回目：抜取検査   12回目：品質保証とは  13回目：品質保証と信頼度   14回目：バスタブ曲線について  15回目：総括  * 進度により順序や内容が若干変わることがあります。 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30435001 |
| 科目名        | 簿記原理 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Theory of Bookkeeping  |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>企業の経営活動の記録は複式簿記の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書が作成される。企業が日常的にどのような活動を行っているのかを簡潔な事例で知ることは経営学全般の基礎知識となるし、簿記の技法とその背景にある理論を知ることは、会計領域科目を理解するための基礎として必要不可欠になる。  実務的には、ほとんどの会計事務はコンピュータ処理されているであろうが、インプットするのは人間の手であり、アウトプットされた会計資料を読み解くのは人間の頭によらざるを得ない。複式簿記に関する技法と理論を理解しておくことが求められるのである。  このような観点から、本講義では、簿記をはじめて学ぶ者を対象として分かり易い解説を行い、複式簿記の基礎知識と記帳技法の効率的な修得を図ることにその目的がおかれている。  なお、簿記検定に挑戦しようと思う学生は2月に実施される日商簿記検定を目標にしてほしいが、授業では対応できないいくつかの応用問題を各自で挑戦し、解法を理解しておく必要がある。また11月の検定に挑戦しようと思うものは、キャリアサポートセンターが提供している課外講座の活用も有効である。</p>   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 渡部 裕亘・片山 覚・北村 敬子編著『新検定簿記ワークブック／3級商業簿記』中央経済社  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回レジュメを配布する予定です  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験(70%)、授業内小テスト(30%)   |       |           |
| 到達目標       | 商業簿記における各種取引の内容を理解し、仕訳と転記ができる 決算の意義を理解し、適切に決算整理事項の処理ができる 簿記の一巡 (仕訳から財務諸表の作成まで) を理解している   |       |           |
| 準備学習       | 講義で指示された教科書のページに事前に目を通しておくこと 講義で指示された課題を当日 (または翌日までに) 解いて、次回の講義で提出すること 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、講義終了後、あるいは次回の講義までに担当教員に質問すること  |       |           |
| 受講者への要望    | 簿記の習得には日々の積み重ねが最善の方法であり、毎回の講義に積極的に参加し、その日のうちに理解しておくことが何よりも大事である。自分の理解度を確認するためにも日商簿記検定にも挑戦してほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 簿記の基本原則(1)：貸借対照表と損益計算書  2 簿記の基本原則(2)：取引と仕訳  3 簿記の基本原則(3)：勘定転記  4 簿記の基本原則(4)：試算表と精算表  5 簿記の基本原則(5)：決算処理  6 現金処理の記帳(1)：現金と当座預金  7 現金処理の記帳(2)：現金過不足、インプレスト・システム  8 商品売買の記帳(1)：分記法と三分法  9 商品売買の記帳(2)：三分法による決算整理  10 商品売買の記帳(3)：仕入帳、売上帳、商品有高帳  11 商品売買の記帳(4)：売掛金、買掛金と貸倒れ  12 手形の記帳(1)：約束手形と為替手形  13 手形の記帳(2)：裏書と割引  14 有価証券の取得と売却  15 その他の債権債務(1)：前受金と前払金  16 その他の債権債務(2)：未収金と未払金  17 その他の債権債務(3)：借入金、貸付金、立替金、預り金  18 その他の債権債務(4)：仮払金と仮受金  19 固定資産の取得と減価償却  20 固定資産の売却  21 営業費の記帳  22 資本金の処理  23 税金の処理 24 決算整理(1)：商品売買益、減価償却、貸倒の見積もり  25 決算整理(2)：費用の見越し・繰り延べ(1) 26 決算整理(3)：費用の見越し・繰り延べ(2) 27 決算整理(4)：8桁精算表 28 決算整理(5)：8桁精算表(2) 29 財務諸表の作成 30 総合復習 </p> |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           |            |     |     |     |       |        |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30458001 |
| 科目名   | 流通論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | A Theory of Distribution  |       |           |
| 担当者名  | 堀池 敏男   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 戦後「流通」は、社会経済の環境変化により日々進化してきたが、21世紀に入り急激に進むグローバル経済化、IT革命のもと新たな進化を遂げようとしている。そこで、「流通」の実態に幅広い観点からのアプローチを試み、基礎理論の習得に努める。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 20%、レポート 30%、定期試験 50%   |       |           |
| 到達目標  | 現代流通論に関する基礎知識の習得および進化する流通の現状と課題について理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習  | 流通および流通活動に関して興味を持ち、日経 MJ はじめ講義関連情報情報の入手に努めた上で受講されたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 真摯な姿勢で受講に取り組むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 はじめに～考察の観点 2 流通を取り巻く環境変化について 3 流通の経済的側面 4 流通の産業的側面 5 流通の機構的側面 6 小売機構について 7 ～業態面からの考察 8 ～集積面からの考察 9 ～組織面からの考察 10 卸売機構について① 11 卸売機構について② 12 物流機構について① 13 物流機構について② 14 IT革命と流通 15 おわりに～流通戦略の新展開および本講義の総括 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30459001 |
| 科目名  | 財務管理論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Management  |       |           |
| 担当者名   | 近藤 汐美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では、最初に企業活動に必要な不可欠な「資金」の流れをもとに、財務管理の基本的考え方を解説します。その後、財務諸表分析などの分析手法を用いて財務管理を行っていくために重要な分析数値を見ていきます。最後に、「企業価値」の基本概念について解説し、理解を深めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 第一回目の講義時に伝えます。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 平野 秀輔（著）『財務管理の基礎知識 [第2版増補版] 一財務諸表の見方から経営分析、管理会計まで』（2011年、白桃書房）  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 出席状況(40%)、授業中に課す小テスト(10%)および定期試験(50%)の結果を総合して評価します。   |       |           |
| 到達目標   | 財務会計の基本的知識をもとに、財務「管理」の基礎となる考え方の習得を目指します。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を伝えます。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 簿記や会計理論に関連する基本的な知識をもって受講することが望ましいです。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス (総論) 2. 財務会計の考え方と財務管理の重要性 3. 資金を集める (1) 4. 資金を集める (2) 5. 資金を運用する (1) 6. 資金を運用する (2) 7. 資金運用の成果を上げる 8. 財務諸表分析の基礎概念 9. 財務諸表分析の手法 (1) 10. 財務諸表分析の手法 (2) 11. 財務諸表分析の手法 (3) 12. 損益分岐点分析とCVP分析 13. 企業価値の評価 (1) 14. 企業価値の評価 (2) 15. 総括 |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30460001 |
| 科目名        | 財務諸表論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Accounting  |       |           |
| 担当者名       | 藤川 義雄   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。  企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。  また時に、簿記1、2級レベルの練習問題にも取り組んでいく予定である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回レジュメを配布する予定です   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート(20%)、授業内小テスト数回(50%)および平常点(30%)  |       |           |
| 到達目標       | 財務会計の意義と機能について理解している。 会計情報の開示制度を理解している。 財務諸表の意義・特徴を理解している。 会計が企業経営に与える影響について理解している。   |       |           |
| 準備学習       | 講義内容に応じて宿題を課す   |       |           |
| 受講者への要望    | 簿記原理を履修済みか、日商簿記3級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.日本の会計制度 4.財務会計のシステムと複式簿記 5.会計基準と会計原則 6.貸借対照表の内容 7.損益計算書の内容 8.キャッシュ・フロー計算書の内容 9.その他のディスクロージャー 10.企業集団と連結会計 11.企業の設立・資金調達と会計 12.仕入・生産活動と会計 13.販売活動と会計 14.会計の国際化 15.総括：改めて会計とは何か   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30463001 |
| 科目名        | スポーツ指導者論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Sports Leader   |       |           |
| 担当者名       | 山下 哲  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を30%、学習態度、テストなどを70%とする。  |       |           |
| 到達目標       | スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに、文化としてのスポーツ  2 指導者の役割①  3 指導者の役割②  4 トレーニング論①  5 トレーニング論②  6 成長・発育のスキルの発達  7 スポーツ指導の方法と運動の学習理論  8 スポーツ指導の方法と運動の学習理論  9 指導計画のたて方  10 性、年齢に応じたスポーツ指導計画  11 スポーツ活動と安全管理  12 スポーツと栄養  13 スポーツと心理的な要因  14 スポーツと法  15 まとめ             |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T30464001 |
| 科目名        | 野球ビジネス論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Baseball Business Theory   |       |           |
| 担当者名       | 堀込 孝二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 四国・九州アイランドリーグ球団代表の立場により現場の生きた声を伝える。教科書的な話一辺倒ではなく、現場でいかに役に立つかにテーマを絞り、現場で実際に使える情報や知識の習得を目指す。チケット販売や集客のためのイベント、そして運営。スポーツビジネスの現場では実際どのようなことが行われているのか、現場ではどのような知識や能力、経験が必要とされているのか。現役の球団代表がリアルに伝え、学習することができる。        |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 広瀬一郎著『スポーツ・マネジメント入門』東洋経済新報社  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点、授業内レポート、定期テストにより評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 机上の空論ではなく実際のスポーツビジネスの現場で役に立つ情報や知識を習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 単なる競技部分 (試合の勝敗) だけでなく球団のビジネス部分にも日ごろから興味をもち、インターネットや新聞などから情報収集しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 各講義ごとにレポートお提出してもらう予定。内容はその日の講義について。 私語を厳禁とする。過ぎる場合、他者への迷惑を勘案し退室を求める場合もありうる。 正解を求めるのではなく、様々な提案やアイデアを出してほしいと願う内容の講義であるのでそのつもりで用意しておくこと。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. はじめに 2. スポーツ産業と他産業との違い 3. マネジメントの本質 (スポーツマネジメントとは) 4. ステークホルダーを理解する 5. スポーツがもつ公共性 6. GMの役割 7. 人事マネジメント 8. グループワーク 9. コミュニケーション戦略 10. 顧客管理とは 11. スポーツマーケティング 12. 顧客満足とは 13. 自治体との関わり方 14. 定期テスト 15. まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30465001 |
| 科目名  | サッカービジネス論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Soccer Business Theory  |       |           |
| 担当者名   | 廣嶋 禎数   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 日本に於いてサッカー文化を根付かせ、ビジネスとして成り立たせ、さらにサッカーを発展させるために必要なことについて考察する。                       |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材、パワーポイント等を使用<br>適宜プリント等を配布し使用する  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況と参加態度による。レポート（70%）  |       |           |
| 到達目標   | プロサッカーを日本の中において、定着させるために必要な知識を身に付ける。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞等の各メディアに掲載されているスポーツ関連の記事をマネジメントの視点から興味を持って読むこと。その他、次回の講義に必要な準備学習があれば、各講義の最後に指示する。 |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積極的な態度で受講するとともに、私語等他の受講者の迷惑になる行動は慎むこと。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. プロスポーツとは 3. 日本におけるプロサッカーの位置 4. Jリーグの理念について考える 5. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと1 6. Jリーグの理念を実現させるためにひつようなこと2 7. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと3 8. Jリーグの理念を実現させるために必要なこと4 9. Jクラブの経営の現状1 10. Jクラブの経営の現状2 11. Jクラブの経営の現状3 12. Jクラブの経営の現状4 13. サッカークラブの運営1 14. サッカークラブの運営2 15. まとめ |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T30466001 |
| 科目名       | 競技スポーツ論（野球）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports(Baseball)  |       |           |
| 担当者名      | 原田 富士雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業をしたい。                |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 評価方法      | 授業内試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標      | プロスポーツとしての野球から、アマチュアスポーツの野球まで、硬式野球というジャンルの全体像を把握し、選手・監督・組織の理解を深める。  野球の楽しさを知り、人に伝え、文化としての野球の発展についてのポリシーを持つことができる。 |       |           |
| 準備学習      | 他のスポーツと野球はどこが違うのか、グローバルな考え方と地域での野球人口拡大のための定期的で継続的な活動について知るために現場を知る、本を読むなど興味の幅を広げること。                              |       |           |

|   |
|---|
| 受講者への要望   |
| 遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。  |
| 講義の順序とポイント  |
| <p>1. "はじめに（オリエンテーション）  授業概要、方法の説明と同時にどのような授業を目指すのかを、野球を通じてスポーツの楽しさを説明する。（試合観戦）"  2. "野球の組織（野球とは）  日本の野球界には大別してアマとプロの組織がある。アマの中には社会人・大学・高校の組織があり、更には少年野球もある。これらを判り易く説明し理解してもらおう。"  3. 日本の野球と世界の野球  4. "野球のマネジメント 監督の役割（指導者の行動範囲）  コーチのあるべき姿を指導者という名のもとに、どのような形で勝利に結びつけて行くのかを、説明すると共に一緒に学んでいく。"  5. "技能向上コーチング（指導方法）  育てるというスポーツの中で一番重要なことを、基本論議から指導者に必要なセンス（能力とは）を説明していく。"  6. 野球における指導者のリーダーシップ  7. "一流選手への道   一流選手になるには一流選手を育てるには 何が必要なのか、その指導方法や巧くなっていく過程を代表選手を例に挙げて説明していく。（イチロー、王、長島、ダルビッシュ）"  8. "育てて勝った名将達   野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"  9. "育てて勝った名将達   野球界の名将といわれる方達（数人）の指導理論や共通性を探っていき、類稀なる能力を考察できるよう説明を行う。"  10. "必勝法と必敗法   どうすれば勝てるのか？なぜ負けるのか？を 具体的事例を挙げて説明する。"  11. "ミーティングとサイン   スポーツについて、ミーティングの必要性和サインの重要性を説明する。"  12. "ワンプレーの重さ   ツーツのプレーには重みがある。事例を挙げ、プレーの組み合わせが勝利に直結もするし、敗因になることも説明する。"  13. 戦術を説明し、それに対するディスカッションを行う  14. "データの活用と感ピューター   データに基づく 第六感の活用はどのようなものか、プレーの確率を例に挙げ説明する。"  15. 授業内 試験  </p> |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T30467001 |
| 科目名   | 競技スポーツ論（サッカー）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Competitive Sports(Soccer)  |       |           |
| 担当者名  | 廣嶋 禎数   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツの派生から生涯スポーツと競技スポーツへの分化そしてプロスポーツの出現という歴史的な背景を学び、さらにこれから競技スポーツをいかに発展せ、選手の競技力をいかに向上させ、さらにそれをいかにチーム力の向上に結びつけるかを学ぶ |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 特に指定なし  |       |           |
| 教材（その他）   | ビデオ教材、パワーポイント等を使用<br>適宜プリント等を配布し使用する  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30％）出席状況と参加態度による。レポート（70％）  |       |           |
| 到達目標  | 競技スポーツに振興に必要な要素を理解し、また、選手個人およびチームとしての競技力をいかに向上させるかを理解する   |       |           |
| 準備学習  | サッカーに関わる技術書とを読むこと。また新聞等のプロサッカーに関わる記事に目を通すこと。次回の講義に必要な事前準備があれば講義終了時に連絡する。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 積極的な態度で受講するとともに、私語等他の受講者の迷惑になる行動は慎むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. ガイダンス 2. スポーツとは 3. サッカーの起源 4. サッカーの発展 5. 日本サッカーの歴史 6. システムの変遷 7. ルールの変遷 8. 現在のルールについて 9. 競技力の向上1 10. 競技力の向上2 11. コーチの役割 12. 選手の育成 13. コーチの育成 14. 審判の育成 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30468001 |
| 科目名   | フィールドワーク京都（スポーツ活動研究）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Fieldwork in Kyoto (Sports Activity Research)  |       |           |
| 担当者名  | 吉中 康子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、様々な話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなど、日常生活になくてはならないものとなっている。  フィールドワーク京都（スポーツ活動研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関するビジネスを題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに様々な文献とフィールドワークから、スポーツ・レクリエーション・スポーツや生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考え、スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜、資料配布や参考書を紹介する。  |       |           |
| 評価方法  | 授業参加度、課題レポートによる総合評価  |       |           |
| 到達目標  | 報告書を作成できるようにする。  |       |           |
| 準備学習  | 事前に自分が報告書作成のテーマとするスポーツについて調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 土曜日等にフィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。 個人又はグループで視察するスポーツイベントを決定し、報告書を作成します。 また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 授業ガイダンス・スポーツ活動とレクリエーション活動（目的にあわせたRW）  2. 学内イベントの企画（目的にあわせたRW） 3. 学内イベントの企画（目的にあわせたRW） 4. 学内イベントの運営実施と評価（レポート提出：目的にあわせたRW） 5. 課題の設定：スポーツ活動研究レポートをつくろう（目的にあわせたRW）  6. スポーツで世界1になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか？  7. スポーツを数字で評価するには？ ① 8. スポーツを数字で評価するには？ ②  9. フィールドワーク：アシックススポーツミュージアム見学  10. スポーツの競技者人口の動向グラフの作成  11. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成  12. フィールドワーク：京都サンガの試合視察とレポート作成（目的にあわせたRW）  13. 京都サンガ視察レポート発表  14. 京都サンガ視察レポート発表 15. 京都サンガ視察レポート発表 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T30471001 |
| 科目名  | トレーニング論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Training Theory  |       |           |
| 担当者名   | 山田 陽介  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>体力トレーニングとは、運動負荷に対する身体的・精神的適応能力の開発過程である。実際のスポーツ現場では、さらに狭義的な行動体力の開発を目的とした、数多くのトレーニングが行われている。最近ではスポーツ現場を越え、一般人にまで、体力トレーニングについての情報はあふれており、さらに新しい理論が加わってきている。  本講義では一般的体力の向上を目指した、体力トレーニングの基礎を学ぶ。体力トレーニングの目的を理解し、体力を総括的にとらえた上で、目的とするパフォーマンス向上のためには、動作様式の特異性などを考慮して、どのような方法をどのように取り入れるかをテーマに、具体例を提示しながら進めていく。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要時にプリントを用意  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60点以上）およびレポート、出席・学習態度により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標   | <p>身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めること、さらに、実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する際に必要な基礎的能力を養うことを目的としている。</p>   |       |           |
| 準備学習   | <p>身体の機能や特徴に関する知識を踏まえて、トレーニング科学の理解を深めて欲しい。 事前に解剖学や運動生理学の基礎的な知識を得ておくこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義と実際の実技を取り入れて行う。 トレーニングルームを使用するので、指示された日はトレーニングウェアとトレーニングシューズを準備すること。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 はじめに 2 体力とは 3 トレーニングの進め方 4 トレーニングの種類 5 体力要素による分類 6 トレーニング計画とその実際 1 7 トレーニング計画とその実際 2 8 体力指標の測定とその評価 9 体力指標の測定とその評価 10 体脂肪量の測定 11 体力テストについて 12 体力テストについて 13 動作様式に合わせたトレーニング 14 実技試験 15 まとめ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T30472001 |
| 科目名       | 競技スポーツ実技（サッカー）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports Practice(Soccer)   |       |           |
| 担当者名      | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | <p>競技スポーツとしてのサッカーで重要なことは、何よりも試合に勝つことであり、そのためには得点をしなければなりません、それがサッカーの楽しさです。選手には、パーフェクトスキルを獲得し、状況に応じたプレーを行うことが求められ、ゴールを奪うために攻撃を継続的に行うことが求められます。守備については、ボールを取られたらすばやく奪い返すことや、相手チームのボールをどのように奪い、効果的に攻撃につなげることが出来るかの視点で考えなければなりません。  そこで、この授業では、競技スポーツ論（サッカー）と連携し、サッカー競技における理論の理解（技術・戦術）とスキルの向上を目指します。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（出席状況や参加態度等）20% 実技60% レポート20%  |       |           |
| 到達目標      | この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上をはかり、クリエイティブでたくましい選手として、友情や人間関係を深め、アスリートとしての資質向上をはかる。  |       |           |
| 準備学習      | スポーツを安全に実施できる知識（ウォーム・アップ・クーリングダウン、ケガに対する応急処置）を事前に理解しておくこと。  |       |           |

受講者への要望

競技スポーツの目的は、最高のパフォーマンスを達成することであり、そのためにはコンディションをよい状態に保つことが必要であり、自己の健康管理を行え、生活することが必要である。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、フィットテストA| 2. フィットテストB、安全対策（ウォームアップ、クーリングダウン、応急処置）| 3. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）ミニゲーム①|

- ・ ボールリフティング、ドリブル、ボールコントロール、スクリーン&ターン|
- ・ インターセプト、ボディーコンタクト、タックル|

4. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム②| 5. 技術と戦術を結ぶ重要な要素（ボールによる・パスしたら動く・周りを観る・ボールを奪いに行く）を理解する。ミニゲーム③| 6. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム|

- ・ パス、ドリブル、シュート|
- ・ スルーパス、壁パス、クロスオーバー、
- ・ ポジショニング、アプローチ、チャレンジ&カバー|

7. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム①| 8. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム②| 9. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム③| 10. 個人戦術（攻撃・守備）やグループ戦術（攻撃・守備）を理解し、実践する。ハーフコートゲーム④| 11. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。|

- ・ MTM、ホーメイション、ゲーム分析|

12. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム①| 13. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム②| 14. 個人、グループ、チームが、より高度な技術・戦術をゲームで発揮出来るようになる。フルコートゲーム③| 15. まとめ レポート提出

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T30473001 |
| 科目名       | 競技スポーツ実技（野球）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Competitive Sports Practice(Baseball)   |       |           |
| 担当者名      | 原田 富士雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 野球の基本を理論的に技術的に学び、団体スポーツという観点から人間関係も重視し、野球を通してスポーツの楽しさを感じる授業を目指すとともに、将来指導者としての資質を高めることを目的とする授業としたい。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 評価方法      | 実技試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標      | 野球はライセンスを取得すればマネージャー(監督)やコーチに就けるというものではありません。野球の指導は多種多様な戦術と攻、守に分かれて複雑なゲームを制していく力が求められます。選手の体力、技術、心理が大きくゲームを動かします。授業では、これらをいかにコントロールしていくか、また、これらに俊敏に対応できるプレーヤーをどう育てるかを、自身が様々な経験をし、学ぶ事で指導者への入口が見えるようにします。 |       |           |
| 準備学習      | 野球ルールを徹底的に学習しておくこと。   |       |           |

受講者への要望

準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。|遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。

講義の順序とポイント

1. "はじめに（オリエンテーション）| 授業の概要説明と野球 投・攻・守 の練習方法を理解させる。" |2. "硬式野球実技（基本）\* 準備運動 \* キャッチボール \* トスバッティング \* 守備練習 |（投・打・捕の体験）\* 打撃練習（野球を体験して難しさ、楽しさを感じてもらおう）" |3. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |4. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は守備練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |5. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |6. "実技（応用とサイン） 試合を行う又は打撃練習| グランド整備、挨拶、準備運動、試合へと一連の必要事項を説明しながら行動をとらせていく。" |7. "実技（ゲーム形式）| 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |8. "実技（ゲーム形式）| 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |9. "実技（ゲーム形式）| 遠投、走力等を計測し、自己の能力の分析を自身が行う事が出来るようにする。" |10. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |11. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |12. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |13. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |14. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |15. 試合形式でルールを解説し頭脳プレーの幾つかも体験させる。室内の場合（VTR鑑賞による学習） |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3047400A |
| 科目名        | スポーツ実技(水泳・水中運動) 【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)  | Sports Practice (Swim and Exercise in Water)   |       |           |
| 担当者名       | 池田 早耶香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 水泳・水中運動については以下の点を理解させる。水の性質の理解。水中運動:水中での立ち方、腕、脚を動かし、抵抗感をつかませる。歩く、走るなど速さを変えて実習し、心拍数と運動強度の関係を習得させる。  水中エアロビクスを構成する各種運動・動作を実習させる。運動プログラムを作成し、運動を実施し、心拍数で確かめさせる。指導上の留意点を理解させる。水と体の衛生及び水温、救急法などの安全対策を理解させる。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を2回実施する(評価割合50%)。また、授業内筆記テスト(評価割合25%)、気づきシート(評価割合20%)、学習態度(評価割合5%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | 健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。   |       |           |
| 準備学習       | 毎回の授業で、指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。 サンスポーツにおいて実習を行います。プール使用料(1万円)を事前に徴収します。 4/24・5/8・22・29・6/5・12・19・26・7/3・10は現地集合・現地解散となります。遅刻は許されません。 タトゥーや入れ墨をしている人も許可されません。水着とスイミングキャップを準備すること。 サンスポーツの会員メンバーの迷惑にならないよう、服装・マナーにも気をつけてください。 初回の授業は教室でオリエンテーションをします。 |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 オリエンテーション 2 水中エアロビクス 3 水中エアロビクス 4 水中運動 5 水中運動 6 水中運動と安全対策 7 水泳・水中運動 8 水泳・水中運動 9 水泳・水中運動 10 実技テスト 11 基本プログラム 12 基本プログラム 13 基本プログラム 14 実技テスト 15 まとめ  |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |  |       |                        |
|------------|--|-------|------------------------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T3047500A              |
| 科目名        | スポーツ実技(エアロビクススポーツ)<br>【他】  | 単位数   | 1                      |
| 科目名(英語表記)  | Sports Practice(Aerobic Sports)  |       |                        |
| 担当者名       | 吉中 康子  | 旧科目名称 | スポーツ実技(エアロビクスダンス・健康体操) |
| 講義概要       | <p>ちょっとしたことばかけやアクションで「笑い」が起こる。スポーツ実技(エアロビクススポーツ)ではQOLの向上、健康づくり、介護予防を目的に有酸素運動を楽しみながら効果的に指導する方法を学び、自らが指導できるように実践力を獲得する。健康運動実践指導者やレクリエーション・インストラクター資格の取得を目指して、運動プログラムと簡単なゲーム、及び社会的な課題の発見・解決力までを身につける。イベントや集会などの「みんなで楽しむ」場面を盛り上げ、演出する能力も磨く。  将来は地域のボランティアとしてあるいは非営利組織で、企業の業務の一環として、さまざまな場で健康運動実践指導者やレクリエーションで学んだことを実践に生かし、生涯自由時間を創造的にデザインするプログラムの開発・提供、調査・提案を行なえるようキャリアアップしていこう。</p>   |       |                        |
| 教材(テキスト)   | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)   |       |                        |
| 教材(参考文献)   | レクリエーション支援の基礎・スポーツと健康の科学 必要に応じて指示する。   |       |                        |
| 教材(その他)    | 体操祭やレクリエーションフェスティバルの記録映像 チラシやパンフレット  |       |                        |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を2回実施する(評価割合60%)。また、授業内筆記テスト(評価割合25%)、振り返りメモ(評価割合20%)、学習態度(評価割合5%)など、これらの結果を総合して成績評価を行う。   |       |                        |
| 到達目標       | 健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう知識及び指導スキルを習得することである。   |       |                        |
| 準備学習       | 事前に有酸素運動についての理論を学習しておくこと。  |       |                        |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。この授業は、実践を通して学ぶことが目的である。心拍数を測定し、主観的な運動強度などを実感しながら進めていく。正しい食生活と睡眠に注意して参加すること。  |       |                        |
| 講義の順序とポイント | <p>1 ホスピタリティトレーニングの内容と方法・エアロビクススポーツを楽しむために   2 コミュニケーションゲームの体験とエアロビクススポーツ   3 エアロビクスダンス初級   4 エアロビクスダンス中級(運動量を上げるための指導)   5 エアロビクスダンス中級(運動量を上げるための指導)と   対象を想定したレクリエーション支援の実践①   6 中高年者のための健康体操   7 エアロビクスダンス中級と対象に合わせたアクティビティの   選択方法とその視点   8 ウォーミングアップの方法とニュースポーツの展開①   9 ニュースポーツとクーリングダウン   10 アイスブレーキングの実習とスポーツ   11 アイスブレーキングの実習とスポーツ   12 対象者間の相互作用の引き出し方・活用方法   13. アクティビティの指導案の作成   14. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出   15. 指導実習・プログラム作成と指導案の提出</p> |       |                        |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T3047600A |
| 科目名        | スポーツ実技（ジョギング・ウォーキング）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Sports Practice (Jog Walking)   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 健康・体力づくりの運動であるジョギング・ウォーキングを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、ウォーキングカレンダーの記入（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。  |       |           |
| 到達目標       | 安全で効果的なジョギング・ウォーキングの運動プログラムを習得する。 対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて理解する。   |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。毎回筆記具を持参してください。晴天時は人工芝のグラウンド、雨天時は体育館ランニングコースを使用する。服装とシューズを各自が用意してください。心拍数の測定などもするので前日は十分な睡眠をとっておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. オリエンテーション  2. ストレッチングとウォーキング  3. ジョギング  4. ジョギング  5. ジョギング  6. ウォーキング  7. ウォーキング  8. ウォーキング  9. ウォーキング  10. 基本プログラム  11. 基本プログラム  12. 実技テスト  13. 基本プログラム  14. 実技テスト  15. まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30477001 |
| 科目名        | メンタルトレーニング論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Mental Training Theory  |       |           |
| 担当者名       | 池田 早耶香  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この講義は、運動習慣の確立を含め、生活習慣病予防の望ましい行動変容について理解させ、適切な動機づけとその工夫、ストレス解消の生理・心理・社会的な側面の関連を理解し習得させる。また、スポーツを心理的側面からとらえる事を目的とし、スポーツ心理学という学問的背景から、メンタル面強化のメンタルトレーニングを紹介する。基本的に、講義で紹介した心理的スキルを毎日の練習や試合で応用し、自分自身のメンタル面を強化していく内容である。          |       |           |
| 教材（テキスト）   | 「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）、必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。   |       |           |
| 到達目標       | スポーツを心理的側面からとらえ、スポーツと人間の心理を理解し、さまざまな場面で応用できるように学ぶことが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の講義で指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに 2 生活習慣病予防と運動習慣確立のための心理学の意義 3 メンタルヘルスとストレス 4 生活習慣病の発症と心理特性 5 メンタルトレーニングとは 6 メンタルトレーニングの現場での活用 7 メンタルヘルスの実際 8 理想的心理状態と方法 9 目標設定、プラン作成 10 イメージトレーニング1 11 イメージトレーニング2 12 イメージトレーニング3 13 集中力のトレーニング 14 試合に対する心理的準備 15 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T3047800A |
| 科目名        | トレーニング実習 【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Training Practice   |       |           |
| 担当者名       | 西 政治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 補強運動の必要性和プログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導方法を学ばせる。特に上体起こし、腕立て伏せなどの筋力系と柔軟性、調整力などのトレーニングの実施法を習得させる。アイソメトリックやウェイト、サーキットなどのさまざまなトレーニングの原則・効果・組み立て方などを学ぶ。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 評価方法       | 試験は、実技試験を実施する（評価割合 60%）。また、授業内筆記テスト（評価割合 25%）、トレーニングメニューの作成（評価割合 20%）、学習態度（評価割合 5%）。これらの結果を総合して成績評価を行う。   |       |           |
| 到達目標       | 補強運動の必要性和プログラムへの取り入れ方を理解する。目的に応じたトレーニングの重要性とその方法、実施上の注意点について実習を通して学び、応用できるようにする。  |       |           |
| 準備学習       | スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | トレーニングルームを使用するので、トレーニングウェアとトレーニングシューズを準備してください。また、トレーニング器具の正しい使用法を守り、安全に、大切に扱うこと。 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに  2. 補強運動の必要性  3. 目的に応じた体操  4. トレーニングの特徴  5. ウェイト・トレーニングの原則、効果  6. ウェイト・トレーニングの原則、効果  7. サーキット・トレーニングの原則・効果  8. サーキット・トレーニングの原則・効果  9. トレーニングの期分け  10. ハイパワートレーニング  11. ミドルパワートレーニング  12. ローパワートレーニング  13. 実技試験  14. 実技試験  15. まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30479001 |
| 科目名        | コーチング実習（野球）【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Sport Coaching Practice(Baseball)   |       |           |
| 担当者名       | 住友 平  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日本の野球レベルは世界でもトップです。なぜ今、日本の野球がこのレベルに君臨できるのかを考えた時、日本人はこの野球というものに「野球道」として取り組んできたからなのではないかと考えられます。ベースボールと野球の違いは「ベースボール」はゲームとして楽しむところから成立しています。「野球」は子どもを教育するために、ということで日本に広がっていきました。そこで、このベースボールと野球を融合させ、厳しく、楽しく、を子供たちにどのように教えていくべきかを指導していきます。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材（その他）    | 必要時にプリントを用意   |       |           |
| 評価方法       | 実技試験（60点以上）およびレポート、学習態度により総合的に評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 自分が指導する選手に対して的確なアドバイスと練習方法、なぜ礼儀が大切なのかを指導できるようにする。挨拶や返事はなぜ大切か、それは相手に心意気を伝えることである。バッティングや守備という技術面だけでなく、チームプレーとしての心を学んでほしい。  |       |           |
| 準備学習       | 野球ルールを徹底的に学習しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 準備・片づけはグループ単位で輪番制で行います。当番の学生は責務をこなすこと。遅刻早退はしないこと。礼で始まり、礼で終わる授業を心掛けてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>&lt; 小学生向けの指導&gt; (1) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶、指導者やチーム関係者に対して挨拶や言葉使いなど。  ■グラウンド整備、トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。 (2) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方を教える。正確な投げ方、腕の使い方の指導。  ■ノック 内野の捕球姿勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。 (3) 4 技術面（打撃）  ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バスター ■フリーバッティング (4) 5 技術面（走塁）  ■ベースランニング ■リード ■スライディング &lt;中学生の指導&gt; (5) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶 指導者やチーム関係者に対して挨拶や言葉使いなど。団体行動の周知徹底。  ■グラウンド整備 トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。  チームの道具、ヘルメットやキャッチャー道具、チーム旗の管理。 (6) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。関節可動域を大きくする体操の指導。体幹系の体操やトレーニングの指導。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方を教える。遠投、クイックスロー、スナップスローの指導  ポジション別 投手、捕手、内野手、外野手にスローイングフォームを指導。（専門知識要）  ■ノック 内野の捕球姿勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。  ポジション別にフィールディングやカバーリング、バックアップを指導。（専門知識要） (7) 4 技術面（打撃） ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バスター ■フリーバッティング (8) 5 技術面（走塁） ■ベースランニング ■リード ■スライディング (9) 6 戦術面（作戦） ■サイン フラッシュサイン、ブロックサインの指導 ■セオリー 攻撃面、守備面のセオリーの指導（座学） &lt;高校生の指導&gt; (10) 1 野球による人間教育  ■礼節、挨拶 指導者や学校関係者に対して挨拶や言葉使いなど。団体行動の周知徹底。  ■グラウンド整備 トンポのかけ方やベースの設置、ラインの引き方など野球をするための準備を教える。  ■道具の手入れ グラブやバット、スパイクの手入れの仕方やユニフォームの着こなし方などを教える。  チームの道具、ヘルメットやキャッチャー道具、チーム旗の管理。 (11) 2 準備運動（アップ）  ■ランニング、ランニングフォームの指導。腕の振り方や足の合わせ方、掛け声の出し方を教える。  フィジカル系のトレーニング、強化系のトレーニングの指導。乳酸走系の強化ランニングの指導  ■準備体操、ストレッチの仕方などを教える。関節可動域を大きくする体操の指導。体幹系の体操やトレーニングの指導。  3 技術面（守備）  ■キャッチボール ボールの投げ方や、補給の仕方を教える。遠投、クイックスロー、スナップスローの指導  ポジション別 投手、捕手、内野手、外野手にスローイングフォームを指導。（専門知識要）  ■ノック 内野の捕球姿</p> |       |           |

勢、グラブの使い方、スローイングステップの仕方などを教える。| ポジション別にフィルディングやカ  
 バーリング、バックアップを指導。(専門知識要) | (12) 4 技術面 (打撃) ■素振り ■バント ■トスバッティング ■バス  
 ター ■フリーバッティング | (13) 5 技術面 (走塁) ■ベースランニング ■リード ■スライディング | (14) 6 戦術  
 面 (作戦) | ■サイン フラッシュサイン、ブロックサインの指導 ■セオリー 攻撃面、守備面のセオリーの指導 (座学) |  
 ■分析 (データ) 他チームのデータ収集。自チームのデータ分析。 | (15) 総括 レポート作成

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30480001 |
| 科目名   | コーチング実習（サッカー）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）   | Sport Coaching Practice(Soccer)  |       |           |
| 担当者名  | 山下 哲   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | コーチング実習では、将来的にサッカーの指導者を目指している学生を対象として、コーチング論（サッカーをベースとした）と連携し、競技レベルの向上を目指すサッカーチーム（U-12）に関わり、指導（観察・分析・コーチング補助）を実習形式で行います。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況や参加態度等）20% 実技40% レポート40%   |       |           |
| 到達目標  | この授業では、受講者一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、スキルの向上を図り、指導者として、スポーツの楽しさを自ら表現できるモデルとなり、言動で見本を示し、プレイヤーと信頼関係を持てるようにする。                     |       |           |
| 準備学習  | 基本的な安全対策（救急処置、応急処置）が理解できていることや、スポーツ事故における指導者の法的責任についての知識を獲得していること。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 本授業の特性を理解し、スポーツにふさわしい服装であることはもちろんのこと、自主性と探究心をもって取り組めること。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. オリエンテーション  2. 指導現場観察①（グラウンドで行われているU-12の指導を観察し、レポートにまとめる。）  3. 指導現場観察②（グラウンドで行われているU-12の指導を観察し、レポートにまとめる。）  4. 指導現場観察③（トレーニングの準備から終了までの状況把握する。）  5. 指導現場観察④（トレーニングの準備から終了までの状況把握し、レポートにまとめる。）  6. 指導実習①（指導担当を決め、担当者に付き観察する。）  7. 指導実習②（指導担当を決め、担当者に付き観察する。）  8. 指導実習③（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。）  9. 指導実習④（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。） 10. 指導実習⑤（指導担当を決め、担当者に付き指導の手伝をする。） 11. 指導立案と実践①（トレーニングメニューを作成し、指導する。） 12. 指導立案と実践②（トレーニングメニューを作成し、指導する。） 13. 指導立案と実践③（トレーニングメニューを作成し、指導する。） 14. 指導立案と実践④（トレーニングメニューを作成し、指導する。） 15. まとめ レポート提出 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |              |
|--|--|-------|--------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T30481001    |
| 科目名  | コーチング実習(生涯スポーツ)【他】   | 単位数   | 1            |
| 科目名(英語表記)  | Sport Coaching Practice(Lifelong Sports)   |       |              |
| 担当者名   | 吉中 康子  | 旧科目名称 | レクリエーション現場実習 |
| 講義概要   | <p>コーチング実習(生涯スポーツ)の学習目的は各種スポーツの指導者としての指導実践を磨くことと、レクリエーション・インストラクターの資格取得です。特に、「対人関係」のトレーニングとしてレクリエーション理論に基づき学びます。特に、「ホスピタリティトレーニング」等、相手を思いやるコミュニケーション力、レクリエーション事業を考えていく場合の「企画力」等を授業で身につけます。次の段階として、実際の授業にTA(ティーチングアシスタント)として入り、授業をサポートします。また、学外での事業参加も必修です。  本来のレクリエーション教育は、「楽しさを通して社会が抱える課題に対してアプローチする」ということを基本コンセプトにしています。この資格の取得を目指すことでキャリアアップに役立てましょう。授業時間外での現場実習では、各自が時間調整に最大の努力を払うこと。挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守ること。(実習の参加費や交通費は各自で負担する)</p> |       |              |
| 教材(テキスト)   | レクリエーション支援の基礎  |       |              |
| 教材(参考文献)   |  |       |              |
| 教材(その他)  | 印刷資料、DVD、参考図書などを随時提示します。   |       |              |
| 評価方法   | 指導案、指導レポート、事業の企画書の作成(50%) 実技試験(50%)  |       |              |
| 到達目標   | 自分の得意なスポーツ種目の指導ができるようになる。 レクリエーション・インストラクターとして、様々なイベントのサポートができる。   |       |              |
| 準備学習   | TAをする種目について、歴史、ルール、技術など徹底的に学習しておくこと。 レクリエーション・インストラクターの資格を取得するために、教科書内の知識はすべて事前学習しておくこと。   |       |              |
| 受講者への要望  |  |       |              |
| 挨拶、言葉遣い、時間や約束を守るという社会的なルールを守り、向上心を持って、常に積極的に取り組むこと。 TAに参加した場合は担当教員と事前に綿密な打ち合わせをした後に指導サポートをすること。学生に対し、次の行動を予測したり、安全配慮をするなど、常により授業となるように働きかけること。   |  |       |              |
| 講義の順序とポイント   |  |       |              |
| <p>授業以外の現場実習だけでなく、授業内でのTA実習なども取り入れます。 1. コーチング実習(生涯スポーツ)オリエンテーション・ さまざまな対象とアクティビティ・生涯スポーツのTA及び レクリエーションインストラクターの資格についての説明 2. ホスピタリティトレーニング実習 3. 遊びのマニュアル作成(ゲームや自然環境利用の遊び) 4. アイスブレイキング実習(グループまたは個人でゲームを紹介します) 5. グループで種目別に分かれて指導案作成 6. 生涯スポーツ指導実習 7. 生涯スポーツ指導実習 8. 生涯スポーツ指導実習 9. 生涯スポーツ指導実習 10. 生涯スポーツ指導実習 11. イベントの企画と運営(集いの演出実習) 12. 事業参加①(レク楽園・ワークショップの出席) 13. 事業参加②(レク楽園の出席) 14. 事業参加③(レク楽園の出席) 15. 学内イベント実施</p> |  |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30482A01 |
| 科目名  | スポーツ生理学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Physiology of Physical Exercise I   |       |           |
| 担当者名   | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間の身体構造 (解剖学) と機能 (生理学) の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの1つ。<br> なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜指示または配布する   |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) + 小テスト (30%) + 期末試験 (50%)   |       |           |
| 到達目標   | 生理学と解剖学の基礎を修得する。  |       |           |
| 準備学習   | 常に健康や運動について関心をもつこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。 2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。 3.教室内は飲食禁止。 4.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.授業ガイダンス 2.骨・骨格について (その1) 3.骨・骨格について (その2) 4.関節、靭帯、腱について 5.筋肉について 6.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構 7.筋線維タイプと収縮特性 8.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋 9.身体運動に関係する骨 (その1) 10.身体運動に関係する骨 (その2) 11.身体運動に関係する骨 (その3) 12.身体運動に関係する筋 (その1) 13.身体運動に関係する筋 (その2) 14.身体運動に関係する筋 (その3) 15.まとめ  (なお受講者の理解度や希望などに応じて内容を変更することもある。) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T30482B01 |
| 科目名       | スポーツ生理学Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Physiology of Physical Exercise II  |       |           |
| 担当者名      | 山下 勤  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの1つ。<br> なお個々のスポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 適宜指示する  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜指示または配布する   |       |           |
| 評価方法      | 平常点（20%）+小テスト（30%）+期末試験（50%）  |       |           |
| 到達目標      | 生理学と解剖学の基礎を修得する。  |       |           |
| 準備学習      | 常に健康や運動について関心をもつこと。   |       |           |

受講者への要望

1.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。|2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。|3.教室内は飲食禁止。|4.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス|2.呼吸について|3.呼吸器系の解剖学（その1）|4.呼吸器系の解剖学（その2）|5.呼吸のメカニズム（その1）|6.呼吸のメカニズム（その2）|7.運動と呼吸について（その1）|8.運動と呼吸について（その2）|9.血液循環について|10.循環器系の解剖学（その1）|11.循環器系の解剖学（その2）|12.循環器系の生理学（その1）|13.循環器系の生理学（その2）|14.運動と血液循環について|15.まとめ|（なお受講者の理解度や希望などに応じて内容を変更することもある。）

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30485A01 |
| 科目名        | スポーツ医学 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sports Medicine I   |       |           |
| 担当者名       | 西川 弘恭   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は病気のなりたちとその予防・治療をはじめ、環境や生活様式を含む社会と健康とのかかわり等から構成され、個人および集団の健康を守るために必要となる知識、実践活動について概説する。健康の基礎が日々の暮らしの中にあり、食生活、運動、勉学、労働等を中心とした生活習慣と環境との長年にわたる相互作用が健康状態に大きな影響を及ぼすことを理解し、各人が積極的な実践活動を通じて、自分に適した健康を獲得するだけでなく、学んだ知識及び指導スキルを、健康増進や介護予防にも十分に生かせるよう課題研究レポートも課す。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 課題解決レポートの評価を 50%、学習態度、ポストテストなどを 50%とする。   |       |           |
| 到達目標       | 健康管理・生活習慣病・救急処置など、生活に密接した医学の知識を子どもたちの発達段階をふまえた健康教育、中高年のメタボリックシンドロームや介護予防にも十分に生かせるよう学ぶことが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回の講義で指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5 分前には着席しておいてください。座席指定とします。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 健康管理と運動の役割  2 健康管理と運動の役割  3 健康管理と運動の役割  4 健康管理と運動の役割  5 健康管理と運動の役割  6 生活習慣病 (1)  7 生活習慣病 (2)  8 生活習慣病 (3)  9 生活習慣病 (4)  10 感染症とその他の疾患  11 救急処置実習  12 救急処置実習  13 救急処置実習  14 救急処置実習  15 まとめ   |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○    | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T30485B01 |
| 科目名   | スポーツ医学Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Sports Medicine II   |       |           |
| 担当者名  | 西川 弘恭  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | スポーツの医学的な意義を理解する。運動処方基礎や慢性疾患における運動療法の理論と実際なども取り上げることによって疾病予防、治療の一環としてのスポーツ医学の意義についても言及する。運動環境、運動と疾病の関係を医学的に考察する。スポーツに伴う身体環境の変化と疾病への影響、さらにスポーツ外傷・障害の概要等について学習する。また、運動場面で遭遇する、熱中症(熱疲労、熱痙攣、熱射病)過換気症候群、突き指、骨折、捻挫、頭部外傷などの応急処置やテーピングの方法を習得させる。スポーツ傷害の予防等を題材として取り上げるなかで課題研究レポートも課す。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、必要時にプリントを用意。  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 授業中に専門書、専門雑誌の紹介をする。  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 課題解決レポートの評価を50%、学習態度、ポストテストなどを50%とする。  |       |           |
| 到達目標  | 運動開始前・中・後の症状、徴候から運動中止を判定する方法を理解する。スポーツ医学的障害として熱中症、過換気症候群、高山病、整形外科的外傷などでの症状と徴候および予防法を理解する。学校や各種スポーツ活動で教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することが到達目標である。  |       |           |
| 準備学習  | 毎回の講義で指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は厳禁。5分前には着席しておいてください。座席指定とします。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 スポーツ選手健康管理 2 健康管理のシステム 3 トレーニングの生理学的適応現象 4 トレーニング中の注意事項 5 トレーニングによる病的現象 6 運動障害と予防 7 運動障害と予防 8 運動障害と予防 9 運動障害と予防 10 運動障害と予防 11 スポーツによる内科的障害とその対策 12 スポーツ選手におこりやすい病気とその予防 13 スポーツによる外科的傷害とその対策 14 発育期に多いケガ・成人で多いケガ 15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T30489001 |
| 科目名        | 経営特別講義D 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Management Studies D  |       |           |
| 担当者名       | 安達 房子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師にお迎えして、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 未定  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 未定  |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30％）出席状況、受講態度等による。各回の講義内容についての感想文（70％）。   |       |           |
| 到達目標       | 経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 適宜指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁。マナーを守れない受講生の退出を求めます。マナーを守れない学生は受講を控えてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 女性企業家講座について 2. 女性の視点に立ったマネジメント 3. 起業、その発展の秘密 4. 自己実現への道 5. 起業を目指す人へ 6. おもてなしの心 7. 女性の選択 8. 女性の働き方 9. 女性管理者として 10. 女性と専門職 11. 起業と成長 12. ネットコミュニケーションで広がる女性の起業 13. 自分のキャリアから言えること 14. 仕事を通じた人間としての成長 15. まとめ  講師の都合などにより変更になる可能性があります。 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T30500001 |
| 科目名  | ファイナンス論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Finance   |       |           |
| 担当者名   | 幸田 圭一朗  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>本講義では、ファイナンスのなかでも、コーポレート・ファイナンス (企業の資金に関するマネジメント) に焦点を当て、資金の流れを通じた企業の経済活動について考えます。このファイナンス論では、正味現在価値 (NPV) の計算に軸を置き、ある投資プロジェクトに対して実施すべきか否かの意識決定プロセスの修得を目指します。したがって、本講義では主に計算を通じた算定を行いますので、数学や数式について抵抗を感じるかもしれません。しかし、簡単な設定から計算練習などを行いながら、理解度に応じて進行していく予定です。 なお、本講義 (ファイナンス論) に付随する金融商品の仕組みやデリバティブなどは、秋学期開講の金融工学にて扱いますので、合わせて受講されますことを推奨いたします。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | テキストの指定は特に行わず、毎回レジュメを配布します。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 石野雄一 (2005) 『道具としてのファイナンス』 日本実業出版社 砂川伸幸ほか (2008) 『日本企業のコーポレートファイナンス』 日本経済新聞出版社  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、資料を配布します。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (30%) 出席状況、小テスト (不定期) などによる。 期末試験 (70%)  また、その他提出物など踏まえ、総合して成績評価を行います。  |       |           |
| 到達目標   | 本講義を通して、企業の投資に関する意思決定プロセスを理解すること  |       |           |
| 準備学習   | 前回講義の復習   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>前回の講義の復習をきちんと行うようにしてください。また、答えを待つのではなく、自らの力で計算していくことが力になります。 また、電卓 (携帯電話の電卓機能は不可) を毎回持参するようにしてください。 遅刻や私語、携帯電話の使用など他人への迷惑を考えたいうえでの常識を求めます。 配布物などの欠席時の対応は、相当の理由がある場合のみ応じます。しかし、小テストは不定期に実施するので、注意するようにしてください。 </p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. イントロダクション ～ファイナンスとは～ 2. 時間価値 ～単利と複利、将来価値と現在価値～ 3. 企業による資金調達概要～株式と負債、間接金融と直接金融～ 4. 財務諸表と重要な財務指標 ～貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、損益分岐点、自己資本比率～ 5. キャッシュフロー (1) ～利益とキャッシュフロー～ 6. キャッシュフロー (2) ～キャッシュフロー計算書、フリー・キャッシュフロー～ 7. リスクとリターン (1) ～期待収益率、リスク～ 8. リスクとリターン (2) ～リスク・プレミアム、ハイリスク・ハイリターン～ 9. 復習、計算問題の練習など 10. 企業の資本コスト (1) ～債権者と株主のリスクとリターン、負債コスト、株主資本コスト～ 11. 企業の資本コスト (2) ～加重平均資本コスト～ 12. 現在価値と正味現在価値 (1) ～現在価値 (復習)、永続価値、成長永続価値～ 13. 現在価値と正味現在価値 (2) ～正味現在価値 (NPV) ～ 14. 復習、計算問題の練習など 15. まとめ</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40012001 |
| 科目名        | 法哲学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Legal Philosophy I  |       |           |
| 担当者名       | 佐別当 義博  | 旧科目名称 | 法哲学       |
| 講義概要       | 本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。  本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係 (例えば立法精神)、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書は指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義の進行に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。  |       |           |
| 評価方法       | 授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が6割未満だった場合には、再レポートを課す。   |       |           |
| 到達目標       | 法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 授業内で書いていただく小論文は実施日を事前に告知するので、論点等を確認しておくこと。 新聞等で正義に関わる記事等は常日頃から読むようにすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡 (講義時と京学なび) で確認すること。) </p> <p>1. 初めに   2. 序論 § 1 法哲学とは? (法を哲学するとは?)   3. § 2 法の目的とは? (法が目的とするとされている諸々の事柄と正義の関係)   4. (第1回授業内レポート)   第1章 古典的正義論 § 3 ソクラテス   5. § 4 アリストテレス   6. 同上   7. (第2回授業内レポート)   § 5 ユダヤ・キリスト教   8. 第2章 近代的正義論 § 6 カント   9. 同上   10. § 7 J. S. ミル   11. (第3回授業内レポート)   第3章 現代の正義論 § 8 近代的正義論の限界   12. § 9 ロールズ   13. 同上   14. § 10 リバタリアニズムとコミュニタリアニズム   15. (第4回授業内レポート)   まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40014001 |
| 科目名        | 法社会学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Sociology of Law I   |       |           |
| 担当者名       | 沼口 智則  | 旧科目名称 | 法社会学      |
| 講義概要       | 春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学 (I~IV)・生命をめぐる法社会学 (I~III)・宗教をめぐる法社会学 (I~III) のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 講義の都度紹介していく。   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 学期末試験 (80%)、講義の際の小レポート (20%) による総合評価。  |       |           |
| 到達目標       | 裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。  |       |           |
| 準備学習       | 法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 開講にあたって ー春・秋の講義全体のアウトラインー  2. 法社会学とは何か I 日本の法社会学 (1)   3. 法社会学とは何か II 欧米の法社会学 (1)   4. 裁判をめぐる法社会学 I 民事裁判・行政裁判・刑事裁判  5. 裁判をめぐる法社会学 II 冤罪  6. 裁判をめぐる法社会学 III 死刑制度  7. 裁判をめぐる法社会学 IV 裁判員制度  8. 生命をめぐる法社会学 I 生殖技術と法  9. 生命をめぐる法社会学 II 脳死・臓器移植と法  10. 生命をめぐる法社会学 III 安楽死・尊厳死と法  11. 宗教をめぐる法社会学 I 政治と宗教と法  12. 宗教をめぐる法社会学 II 政教分離  13. 宗教をめぐる法社会学 III 愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析  14. 全体のまとめ  15. 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40017001 |
| 科目名        | 税法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Tax Law   |       |           |
| 担当者名       | 村井 淳一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味をもてるような内容とする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 清永敬次『税法』(ミネルヴァ書房) 3,360円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 岡村忠生ほか『ベーシック税法』(有斐閣アルマ) 2,205円 その他は、初回の講義時に説明する。また、授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期テストの成績で評価する。 平常点(出席状況等による)及びレポート(1~2回)の評価を加味する。 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1 税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2 税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3 主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはweb上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

#### 講義の順序とポイント

1. 総論1 導入、租税と税法 |2. 総論2 租税法律主義と租税平等主義 |3. 総論3 税法の解釈と適用、課税要件 |4. 所得税1 納税義務者、課税単位、所得概念 |5. 所得税2 課税標準と所得分類 |6. 所得税3 所得税の計算構造 |7. 所得税4 確定申告、申告書作成演習 |8. 法人税1 法人税の性格、種類、納税義務者 |9. 法人税2 法人税の計算構造 |10. 法人税3 法人税の課税標準(個別規定その1)|11. 法人税4 法人税の課税標準(個別規定その2)|12. 相続税・贈与税 相続税の体系と課税要件 |13. 消費税 消費税の仕組と概要 |14. 地方税 地方税の概要|15. 租税手続法等 納税申告と税務調査、脱税

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40027001 |
| 科目名   | 消費者法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Consumer Law  |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | インターネットトラブル、クレジット被害や高齢者を狙った悪質商法など、多くの消費者被害の発生が日々報道されている。本講義では、このような消費者問題の現状を把握すると共に、これに対する法的対応の手法を検討する。「消費者契約法」、「特定商取引法」、「割賦販売法」などの法律やこれまで蓄積されてきた重要判例を中心に、日常生活からの事例を取り上げながらなるべく分かり易く講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 日本弁護士連合会編『消費者法講義（第3版）』（日本評論社、2009）  |       |           |
| 教材（その他）   | 1. パワーポイントを活用する。  2. 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）出席状況等による。学期末試験（80%）。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における消費者問題のあり方およびこれに対する法的対応を理解する。  2. 具体的な消費者トラブルを多角的に分析し、解決する能力を養う。  |       |           |
| 準備学習  | 1. 現代社会における消費者問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。  2. 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 民法総則および契約法の基本的知識があることが望ましい。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  3. 他者への迷惑となるので、私語を厳禁とする。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 消費者問題と消費者法  2. 消費者契約と民法（1）  契約の成立と意思表示の瑕疵  3. 消費者契約と民法（2）  契約内容と効力  4. 消費者契約法（1）  契約締結過程の適正化（前半）  5. 消費者契約法（2）  契約締結過程の適正化（後半）  6. 消費者契約法（3）  契約内容の適正化（前半）  7. 消費者契約法（4）  契約内容の適正化（後半）  8. 特定商取引法（1）  規制の特徴、クーリング・オフ制度、契約取消権  9. 特定商取引法（2）  過量販売解除制度、中途解約制度、ネガティブ・オプション  10. 割賦販売法（1）  クレジット被害の実態と背景、割賦販売法の適用対象  11. 割賦販売法（2）  主な規制内容  12. 製造物責任法  13. 消費者信用と多重債務（利息制限法、貸金業法など）  14. 情報通信・電子商取引と消費者保護  15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T40029001 |
| 科目名       | 知的財産法 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Intellectual Property Law   |       |           |
| 担当者名      | 市政 梓  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | なぜ知的財産法を学ぶのか。知的財産法は、現代の経済社会においてなくてはならないものとなっています。世界中の人々が知的財産の重要性に気づきました。それは、経済の発展をもたらすからです。グローバル社会の中、知的財産の保護はますます重要となっています。授業では、知的財産法の諸制度である、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、不正競争防止法、著作権法について概説を行います。我が国における知的財産の法的保護、救済制度を理解することを目的としています。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 角田政芳『知的財産権六法 2011〔平成23年版〕』（三省堂、2011年）※購入するときは最新版を購入すること   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 土肥一史『知的財産法入門〔第12版〕』（中央経済社、2010年） 辻本希世士（著）＝辻本一義（編）『「商品のモノマネ」のルール』（PHP研究所、2009年）  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布   |       |           |
| 評価方法      | 定期試験(100%)  |       |           |
| 到達目標      | 知的財産法についての基本的な知識を身につけることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習      | 憲法、民法の基礎知識があることが望ましい。   |       |           |

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| 受講者への要望    | 知的財産権六法持参のこと。 私語厳禁。私語がすぎるものは退室を命ずる。 他人に迷惑をかける行為（教室をうろうろする、大声を出す、ごみを出すなど）をするものは、退出を命じたり、単位を認めないことがある。 毎回確認小テストを行なう（点数には反映しない）。  |  |  |
| 講義の順序とポイント | 講義の順序とポイント】 1. 知的財産とは(1)：知的財産法の概要 2. 知的財産とは(2)：知的財産の歴史 3. 特許法(1)：特許制度概説 4. 特許法(2)：特許権侵害、実用新案法：制度概説 5. 著作権法(1)：著作権法概説 6. 著作権法(2)：著作権の制限 7. 意匠法：意匠制度概説 8. 商標法：商標制度概説 9. 商標法：商標権侵害 10. 不正競争防止法：不正競争法概説 11. 不正競争行為、救済、制限 12. 国際的知的財産法(1)：国際的な知的財産侵害、歴史 13. 国際的知的財産法(2)：ガット・WTO、発展途上国への技術移転 14. 知的財産権制度の現状：日本における知的財産政策、著作権のフェアユース 15. 独占禁止法：概説 |  |  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40038A02 |
| 科目名  | 会社法Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Corporation Law I  |       |           |
| 担当者名   | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 会社法は、現代資本主義社会に不可欠な存在である、企業形態のひとつである会社に関する法律である。 会社法Ⅰでは、企業・会社の諸形態、設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制などを扱う。抽象的な部分についても、簡単なモデル・ケースを提示しつつ、講義を進める。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 北村雅史=柴田和史=山田純子『現代会社法入門〔第4版〕』(有斐閣、2010年) ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 1. 江頭憲治郎『株式会社法〔第4版〕』(有斐閣、2011年予定) 2. 江頭憲治郎ほか編『会社法判例百選〔第2版〕』(有斐閣、2011年) 3. 山下友信=神田秀樹編『商法判例集〔第4版〕』(有斐閣、2010年)  |       |           |
| 教材(その他)  | 随時、教員作成のレジュメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。   |       |           |
| 評価方法   | 1. 平常点(20%)出席状況等から判断する。 2. 期末試験(80%)   |       |           |
| 到達目標   | 1. 会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等について基本的な理解ができ、それを文章で説明できる。 2. 講義範囲について、簡単なケースの法的処理を文章で説明できる。   |       |           |
| 準備学習   | 1. 講義前に、講義対象部分のテキストを一読しておくのが望ましい。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくことよい。 3. 社会生活上の問題と会社法との関連について、信頼できるメディアの情報に気を配ってほしい。                                 |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。 2. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. ガイダンス--会社法とは何か  2. 会社の法的性質  3. 会社の種類  4. 会社法の総則規定  5. 株主の有限責任と資本制度  6. 株式会社の設立  7. 株式の意義、株主の権利  8. 株式の内容と種類  9. 株主名簿、株式の譲渡  10. 自己株式  11. 募集株式の発行 12. 株式発行の瑕疵  13. 新株予約権 14. 社債  15. 全体を通した復習 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40038B01 |
| 科目名  | 会社法Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Corporation Law II   |       |           |
| 担当者名   | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関(コーポレート・ガバナンス)について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。会社法を学ぶことは、将来企業社会で活躍しようとする皆さんに必ず役に立つであろう。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 神田秀樹『会社法』(弘文堂)。最新版を用いる。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(10%)出席状況等による。定期テスト(90%)。   |       |           |
| 到達目標   | 会社法のうち、株式会社の機関(コーポレート・ガバナンス)に関わる基本的な理解を得る。   |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション  2. 株式会社の機関設計  3. 株主総会の権限・招集  4. 株主総会の議事・決議  5. 取締役  6. 取締役の義務  7. 取締役会  8. 代表取締役  9. 監査役・監査役会  10. 会計監査人  11. 委員会設置会社  12. 役員等の責任  13. 株主代表訴訟  14. 計算  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40043001 |
| 科目名        | 金融商品取引法 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Financial Instruments and Exchange Law  |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済活動において企業は非常に重要な役割を果たしているが、ある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスにおいて成功することはできない。世の中における資金の流れの重要性は、体中に栄養を運ぶ血液の流れにたとえることもできる。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借る場合は、赤字でも利子をつけて返済しなければならないが、株式を発行して集めた資金は、会社が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を支払えばよい。このように、リスクがつきものであるビジネスにとっては、株式による資金調達が適している。しかし、投資家が安心して株式を購入するには、いろいろとルールが整っていることが必要である。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしている。この講義では、この金融商品取引法の基本的な仕組みを学ぶ。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる金融商品取引法』（弘文堂、2011年）。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントなどを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。定期テスト（90%）。  |       |           |
| 到達目標       | 金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に係わる報道・ニュースについて関心を持ち、その問題点を把握できるようになる。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、金融と法との関係を意識するよう努めてもらいたい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション   2. 有価証券の取引方法   3. 企業内容の開示規制   4. 金融商品取引業者の規制（1）   5. 金融商品取引業者の規制（2）   6. 公開買付け（TOB）   7. 投資信託   8. 集団投資スキーム   9. 詐欺的行為の禁止   10. インサイダー取引の規制   11. 相場操縦の規制   12. 金融商品取引業者による不公正取引   13. 罰則と課徴金   14. デリバティブ取引   15. まとめ</p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40048001 |
| 科目名   | 刑法 I (刑法総論) 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Criminal Law I (General Part)   |       |           |
| 担当者名  | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>刑法は、どのような行為が犯罪になるか、それに対していかなる刑罰が加えられるかを定めた法である。大学では、総論と各論に分けて講義されるのが一般的である。犯罪には、殺人罪、窃盗罪、放火罪ほか多くのものがあるが、総論ではすべての、あるいは多くの犯罪に共通する問題や、刑罰の基本問題を取り上げる。 なお、刑法総論をより深く学ぶために、「刑法特別講義」が設けられている。できるだけ多くの学生諸君が刑法特別講義を受講することを希望する。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない。  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 講義内で紹介する  |       |           |
| 教材 (その他)  | レジュメを配布する。 六法を持参すること  |       |           |
| 評価方法  | 期末試験 (記述式) の成績 60%、小テスト(ほぼ毎回実施する)成績 40%   |       |           |
| 到達目標  | <p>刑法総論のさまざまな課題を考える基礎を身につけることを目標とする。刑法総論の主要な課題について理解を深め、それらに関する簡単な事例をとりあげ、それをどのように解決するかを考えていくことを通じて、刑法総論の諸問題を考察する方法を身につけるようにしていきたい。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>前回の講義を復習して授業に望んでほしい。刑法総論は体系的に組み立てられているので、前回までの内容がしっかりと理解できていないと、つぎの講義が分からなくなることが多いことに留意されたい。 次回講義内容については、参考書で予習することも大切である。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>刑法総論は体系的に構成されており、連続して講義に出席することが大切である。 受講にあたっての心構えは、1に「参加」、2に「集中」である。</p>   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1. 刑法の意義と機能   2. 罪刑法定主義 その1   3. 罪刑法定主義 その2   4. 犯罪論の体系、構成要件の基本問題   5. 作為と不作為   6. 因果関係 (客観的帰属)   7. 違法性の基本問題   8. 正当防衛と緊急避難   9. その他の違法性阻却事由   10. 責任の基本問題、責任能力   11. 故意と違法性の意識の可能性   12. 錯誤   13. 過失   14. 未遂   15. 共犯</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40050001 |
| 科目名        | 刑法Ⅱ（刑法各論）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Criminal Law II (Specific Offences)   |       |           |
| 担当者名       | 立石 雅彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪というようなさまざまな犯罪に固有の成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が体系的、抽象的であったのに対して、各論は、断片的で具体的である。総論の方が面白いというのが定評であるが、わたしたちの身近にある問題と直結しているので、各論の方が理解しやすいかもしれない。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 立石雅彦ほか『テキスト刑法各論 [補訂第2版]』青林書院（2007年）   |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメを配布する 六法を毎回持参すること   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験（記述式）60%、小テスト（ほぼ毎回実施する）結果40%  |       |           |
| 到達目標       | 各犯罪について、成立要件を理解し、個々の成立要件に関して主要な問題点を考察する基礎を身につける。  |       |           |
| 準備学習       | 前回の講義を復習し、しっかり理解した上、つぎの講義に臨んでほしい。 参考書等を利用して次回の講義内容をあらかじめ把握しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 刑法各論の分野では、社会の変化にともなう新たなテーマがしばしば問題となる。社会問題への関心を持つ姿勢が、楽しく受講することにつながる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 刑法各論の対象と課題   2. 生命・身体に対する罪の基本問題   3. 殺人の罪   4. 傷害の罪   5. 過失傷害の罪、墮胎の罪、遺棄の罪   6. 自由に対する罪の諸問題   7. 秘密・名誉に対する罪   8. 財産に対する罪の基本問題   9. 窃盗の罪   10. 強盗の罪   11. 詐欺および恐喝の罪   12. 横領罪および背任の罪   13. 公共の安全に対する罪の基本問題、放火のおよび失火の罪   14. 取引の安全に対する罪の基本問題、文書偽造の罪   15. 国家的法益に対する罪の基本問題、公務の執行を妨害する罪 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40052001 |
| 科目名        | 犯罪学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Criminology  |       |           |
| 担当者名       | 阿部 千寿子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>刑事立法の改正が進み、現在さまざまな刑事司法制度についての法律改正がなされている。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつかれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。この講義では、まず、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度などについて検討したうえで、近年改正がなされた犯罪被害者、児童虐待、交通犯罪関連の特別法における犯罪対策についての理解を深めていく予定である。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じて紹介する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 学期末の論述式試験の結果（80％）、そのほか、出席や授業の中で行う感想文等（20％）によって成績を評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 「刑法」、「刑事訴訟法」などで身に付けた法律の知識を前提として、刑事司法制度の現状を正しく理解し、各種の犯罪対策の現状と問題点を考察することができるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 教科書の関係箇所を読んでおくこと。 新聞やニュースを見て、報道された刑事司法に関連する内容を把握しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。特に、理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 犯罪学、刑事政策とは  2 犯罪情勢  3 治安状況  4 犯罪の原因  5 犯罪化と非犯罪化  6 日本の警察制度  7 刑罰、保安処分、保護処分  8 犯罪者の処遇（施設内処遇、社会内処遇）  9 児童虐待、DV、ストーカー  10 犯罪被害者対策  11 少年非行対策  12 薬物犯罪  13 暴力団犯罪  14 交通犯罪  15 精神障害者の犯罪</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T40054001 |
| 科目名  | 刑事訴訟法Ⅰ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Law of Criminal Procedure I   |       |           |
| 担当者名   | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。  では、実際の刑事手続はどのような流れか知っているだろうか。事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか。犯罪に対する制裁である刑罰を科すには、日本国憲法 31 条によって、手続に従った捜査・裁判を経なければならない。そして、その刑事手続を定める法律の代表格が「刑事訴訟法」である。  この講義では、刑事手続の流れと刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観したうえで、主として公訴が提起される前の段階について解説する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 渡辺咲子『刑事訴訟法講義』(信山社、第5版、2010)   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』(有斐閣、第9版、2011)  |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。  |       |           |
| 評価方法   | 学期末試験の結果(80%)、そのほかに授業の中で実施する小テスト(20%)によって成績を評価する。   |       |           |
| 到達目標   | 刑事手続の全体の流れや捜査に関して定めた条文について理解し、刑事手続に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになる。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるため、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1 刑事訴訟法とは  2 強制捜査と任意捜査  3 任意捜査の限界(写真撮影、おとり捜査など)  4 捜査の端緒(職務質問、所持品検査など)  5 捜査の端緒②(任意同行、自動車検問など)  6 違法収集証拠排除法則  7 逮捕・勾留(通常逮捕)  8 逮捕・勾留②(現行犯逮捕、緊急速捕)  9 逮捕・勾留③(勾留、別件逮捕・勾留)  10 検証・通信傍受  11 搜索・差押え  12 搜索・差押え②  13 搜索・差押え③  14 被疑者の取調べ  15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40056001 |
| 科目名        | 国際法 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | International Law I  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 国際法 I では、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第 1 部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第 2 部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第 5 版〕』(有斐閣 S シリーズ、2007 年) 2,000 円 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 【教科書】 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第 3 版〕』(東信堂、2011 年) 浅田正彦編『国際法』(東信堂、2011 年) 小寺彰ほか編『講義国際法〔第 2 版〕』(有斐閣、2010 年) 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第 4 版〕』(有斐閣、2007 年)  【条約集】 松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 奥脇直也編『国際条約集』(有斐閣) 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009 年) 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009 年)  【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第 2 版〕』(別冊ジュリスト 204 号、2011 年) 松井芳郎編『判例国際法〔第 2 版〕』(東信堂、2006 年) 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例 5 0』(三省堂、2010 年)  *その他のものについては講義で適宜紹介する |       |           |
| 教材 (その他)   | パワーポイントやスライドを用いる場合がある  |       |           |
| 評価方法       | 毎回行う小テスト 40 点、定期試験 60 点。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 2. 国際法の中心的な主体である国家について理解する。 3. 世界の空間秩序(陸・海・空)が国際法上どのように構成されているのか理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。   |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語をつつしむこと。 3. 講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 導入部 総論 1. 受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法 2. 国際法の主体  第 1 部 国際法における国家 3. 国家の成立と変動(1) - 国家承認 4. 国家の成立と変動(2) - 国家承継 5. 国家の機関 6. 国家の基本的権利義務 7. 国家管轄権の規律 8. 主権免除  第 2 部 国際社会の空間秩序 9. 国家領域 10. 日本の領土問題 11. 海の国際法(1) - 現代の海洋秩序の構造 12. 海の国際法(2) - 航行利用制度 13. 海の国際法(3) - 海域の境界画定など 14. 空の国際法 15. まとめ  *進度により若干の変更がありうる  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40058001 |
| 科目名   | 国際法Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | International Law II  |       |           |
| 担当者名  | 西片 聡哉   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>国際法Ⅱでは、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第1部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第2部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についてのDVD鑑賞も行う予定である。講義では、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。</p>  |       |           |
| 教材(テキスト)  | 松井芳郎ほか『国際法〔第5版〕』(有斐閣Sシリーズ、2007年)2,000円/毎回、講義レジュメ・資料を配付する。   |       |           |
| 教材(参考文献)  | <p>【教科書】松井芳郎『国際法から世界を見る〔第3版〕』(東信堂、2011年) 浅田正彦編『国際法』(東信堂、2011年) 小寺彰ほか編『講義国際法〔第2版〕』(有斐閣、2010年) 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第4版〕』(有斐閣、2007年)  【条約集】松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 奥脇直也編『国際条約集』(有斐閣) 松井芳郎編『ハンディ条約集』(東信堂、2009年) 杉原高嶺編『コンサイス条約集』(三省堂、2009年)  【判例集】小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第2版〕』(別冊ジュリスト204号、2011年) 松井芳郎編『判例国際法〔第2版〕』(東信堂、2006年) 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例50』(三省堂、2010年)  *その他のものについては講義で適宜紹介する</p> |       |           |
| 教材(その他)   | 国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法  | 毎回行う小テスト(40%)、定期試験(60%) 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 分権的な国際社会で国際法(条約や慣習法)がどのように形成されるのか理解する。 2. 国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 3. 分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。  |       |           |
| 準備学習  | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1部 国際法の成立 1. 受講ガイダンス、国際法の法源 2. 国際法の法源 3. 条約法(1)一条約の成立 4. 条約法(2)一留保 5. 条約法(3)一条約の無効など  第2部 国際法の適用・実施 6. 国際法の国内的適用一日本の場合を中心に 7. 国家責任(1)一国家責任の成立 8. 国家責任(2)一国家責任の追及 9. 紛争の平和的処理 10. 紛争の司法的解決(1)一国際司法裁判所の手続 11. 紛争の司法的解決(2)一国際司法裁判所の活動 12. 国際司法裁判所についてのDVD鑑賞 13. 紛争の司法的解決(3)一紛争処理の「司法化」 14. 国連の政治的機関による紛争処理 15. まとめ  *進度により若干の変更がありうる</p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40060001 |
| 科目名        | 国際法Ⅲ 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Law III  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第1部）、次に平和の維持、人権保障、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第2部）。また、国連の活動に関するDVD鑑賞も予定している。講義では、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 松井芳郎ほか『国際法〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ、2007年）2,000円/毎回、講義レジュメ・資料を配付する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>【教科書】松井芳郎『国際法から世界を見る〔第3版〕』（東信堂、2011年）浅田正彦編『国際法』（東信堂、2011年）小寺彰ほか編『講義国際法〔第2版〕』（有斐閣、2010年）家正治ほか編『国際機構〔第4版〕』（世界思想社、2009年）杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第4版〕』（有斐閣、2007年）佐藤哲夫『国際機構法』（有斐閣、2005年）</p> <p>   【条約集】松井芳郎編『ベーシック条約集』（東信堂）奥脇直也編『国際条約集』（有斐閣）松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年）杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年）</p> <p>   【判例集】小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第2版〕』（別冊ジュリスト204号、2011年）松井芳郎編『判例国際法〔第2版〕』（東信堂、2006年）杉原高嶺・酒井啓巨編『国際法基本判例50』（三省堂、2010年）</p> <p>   *その他のものについては講義で適宜紹介する</p> |       |           |
| 教材（その他）    | 国連の活動に関するビデオ教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法       | 毎回行う小テスト（40%）、定期試験（60%） 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 2. 国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 3. 条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。  |       |           |
| 準備学習       | 1. 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。 2. 講義の最後に、次回の予習範囲を明示するので、教科書などの該当箇所を事前に呼んでくること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1部 国際社会の組織化と国際機構 1. 受講ガイダンス、国際機構の展開（1）—第二次大戦まで 2. 国際機構の展開（2）—第二次大戦以降 3. 国際機構の設立および組織構造 4. 国際機構の表決手続 5. 国連の活動に関するDVD鑑賞  第2部 国際公益のための国際協力 6. 平和の維持（1）—国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障 7. 平和の維持（2）—国連における武力行使の禁止との集団安全保障 8. 平和の維持（3）—自衛権、国連の平和維持活動 9. 平和の維持（4）—軍縮、国際人道法 10. 国際公域における国際協力 11. 国際人権保障 12. 経済的国際協力 13. 環境保全（1）—展開・基本原則 14. 環境保全（2）—環境条約における履行確保の仕組み 15. まとめ</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40065001 |
| 科目名        | 国際経済法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Economic Law   |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心に国際経済に関わる国際法について講義する。現代では、経済分野の国内法や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。  講義では、日本に関わる具体的な事例や TPP などの時事問題にも触れながら、とくに WTO 体制を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法』（有斐閣、2003年） 小室程夫『新版 国際経済法』（東信堂、2007年） 滝川敏明『WTO法 第2版』（三省堂、2010年）  【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集 第2版』（東信堂、2002年）  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 小テスト 60 点（2 回目以降毎回行う）。レポート 40 点。 詳細は初回の講義で説明する。  |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 2. WTO 体制を中心とした国際貿易の法的枠組みを理解する。 3. 海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞やニュースで頻繁に取り上げられる国際経済問題に日頃から関心を持ち、注意を払うこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 2. 講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 導入部 1. 受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法  第1部 国際貿易と国際法 2. 貿易に関する国際法の展開 3. GATT の成立と展開 4. WTO 体制の成立と概要 5. WTO の紛争解決手続 6. WTO における物品貿易 7. WTO におけるサービス貿易 8. WTO における知的財産権 9. WTO と環境保護 10. WTO と地域経済統合 11. WTO と南北問題  第2部 海外投資および国際金融と国際法 12. 海外投資に関する国際法の展開 13. 投資紛争解決 14. 国際金融に関する国際法の展開 15. IMF・世界銀行の組織構造と活動 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40068A01 |
| 科目名   | 労働法Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Labour Law I   |       |           |
| 担当者名  | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という2つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向(パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など)や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者の基礎的な事項を考察する。  まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題を検討する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』(弘文堂、2011年)2400円+税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」(有斐閣、2009年)2476円+税   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』(有斐閣、2012年) 価格未定  |       |           |
| 教材(その他)   | 適宜レジュメを配布する(原則1回のみ)。   |       |           |
| 評価方法  | 出席を前提に、期末の試験(70%)、および、授業内小テスト等(30%)で評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標  | 職場において必要とされる法律知識のうち、本講義ではとくに労働法に焦点を当てて授業を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や情報等を身につけてもらうことが本講義のねらいである。   |       |           |
| 準備学習  | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持っておくこと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やTVニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。  第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 労働法の概観(歴史・労働法とは) 第3回 労働法の主体(労働者・使用者・労働組合) 第4回 労働契約と権利・義務 第5回 就業規則(1) 第6回 就業規則(2) 第7回 募集・採用内定 第8回 男女雇用平等 第9回 解雇・労働契約の終了(1) 第10回 解雇・労働契約の終了(2) 第11回 賃金・退職金(1) 第12回 賃金・退職金(2) 第13回 労働時間(1) 第14回 労働時間(2) 第15回 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40068B01 |
| 科目名  | 労働法Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Labour Law II  |       |           |
| 担当者名   | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。  法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』(有斐閣、2011年)2400円+税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」(有斐閣、2009年)2476円+税   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』(弘文堂、2012年)価格未定   |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜レジュメを配布する(原則1回のみ)。   |       |           |
| 評価方法   | 出席を前提に、期末の試験(80%)および授業内小テスト等(20%)で評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標   | 社会人として求められる労働法の基礎知識(とくに労働基準法および労働契約法についての基礎知識)を判例等も踏まえたうえで理解すること。  |       |           |
| 準備学習   | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やTVニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。  第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 配置転換・出向 第3回 時間外労働・休日労働 第4回 年次有給休暇 第5回 派遣労働(1) 第6回 派遣労働(2) 第7回 パートタイム労働 第8回 女性労働・年少労働 第9回 外国人労働 第10回 職場規律・懲戒 第11回 災害補償(1) 第12回 災害補償(2) 第13回 個別的労働関係紛争の解決手続 第14回 最近の個別的労働法をめぐる諸問題 第15回 まとめ |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40070001 |
| 科目名        | 社会保障法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Security Law  |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。  それには大きく（1）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金）、（2）社会福祉（老人・児童・障がい者）、（3）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | <p>西村健一郎『社会保障法入門〔補訂版〕』（有斐閣、2010年）1900円＋税 西村健一郎ほか編「社会保障判例百選〔第4版〕」（有斐閣、2008年）2600円＋税</p>   |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001年）3200円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003年）3500円＋税 </p>   |       |           |
| 教材（その他）    | その他の参考文献等については開講時に指示する。  |       |           |
| 評価方法       | 出席を前提に、期末試験（80%）および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。  |       |           |
| 到達目標       | 社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞記事やTVニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目についてテキストを通読しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | <p>教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにTVニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。  また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。</p>  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 社会保障法とは 社会保障法の体系 第3回 医療保険法（1）健康保険法 第4回 医療保険法（2）国民健康保険法 第5回 年金保険法（1）国民年金法 第6回 年金保険法（2）厚生年金保険法 第7回 介護保険法 第8回 授業内小テスト 第9回 労災保険法 第10回 雇用保険法 第11回 児童手当 児童福祉 母子福祉 障がい者福祉  第12回 高齢者福祉 生活保護法 第13回 社会保障法総論 社会保障法の共通事項 憲法と条約 第14回 社会保障法総論 権利救済 第15回 まとめ</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40071001 |
| 科目名        | 経済法Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Competition LawⅠ   |       |           |
| 担当者名       | 村田 淑子  | 旧科目名称 | 経済法       |
| 講義概要       | <p>スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。また、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。  この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法[第3版]』(有斐閣) 1995円  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 『経済法判例・審決百選』(有斐閣) 2940円 泉水文雄・土佐和生・宮井雅明・林秀弥『経済法』(有斐閣) 2700円(外税)   |       |           |
| 教材(その他)    | 毎回レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 1) 平常点(30%)出席状況・授業内レポート等 2) 小テスト(70%)  |       |           |
| 到達目標       | 入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、カルテルに関する基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 能動的な姿勢で講義に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 市場経済と競争 2. 独占禁止法の目的と全体像 3. 入札談合  4. 独占禁止法のキーワード 6. 不当な取引制限① 7. 不当な取引制限② 8. 不当な取引制限③ 9. 小テスト 10. 事業者団体に対する規制 11. 私的独占① 12. 私的独占② 13. 私的独占③ 14. エンフォースメント① 15. エンフォースメント②・小テスト  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40076001 |
| 科目名        | 地方自治論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Local Autonomy   |       |           |
| 担当者名       | 長澤 高明  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の方途を探るために、基礎的知識を提供することを目的としています。テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。話が抽象的にならないように常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、今の諸君の生活にも密接にかかわる分野であるということをごきちんと理解できる講義にしたいと思っています。新聞記事も題材に取り上げます。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | 使用しません。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | そのつど指示しますが、さしあたり、今井照『図解 よくわかる地方自治のしくみ 第3次改訂版』学陽書房、2008。  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 定期試験50%、レポート50%。 定期試験は、基礎用語の理解と論述問題をくみあわせたもの。 レポートは、2000字程度。テーマは各自が設定する。最終講義時までに担当者に直接手渡すこと。 もちろん講義への積極的な姿勢も加味して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 自分の住んでいる自治体の出している公報を読んで理解できるようになること。また新聞の地方版を読んで理解できるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 毎日、新聞に目を通す習慣をつけ、疑問を感じた事柄を自分で調べておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 諸君とともに問題を考えながら講義し、時には諸君にマイクを向けることもあるので常に頭をフル回転の状態にしておくこと。また、受講者の人数にもよるが、諸君を複数のグループに分けて討論してもらうこともあるので、積極的に発言すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 地方自治についての私たちの知識と意識の確認。 2 地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3 自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4 自治体の成立過程とその必然性について考える。 5 明治期以降の自治体について。版籍奉還や廃藩置県の意味を再確認する。 6 第二次世界大戦後の自治体について。戦後改革の意味を考える。 7 政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8 政策と手段②：公共事業と政策評価システム。ダム問題や空港問題についても考える。 9 自治体の地域経営と条例。さまざまな条例について紹介する。 10 財務と運営：国税と地方税。直接税と間接税。補助金。 11 直接請求権と常設型住民投票について考える。 12 市民活動とNPOについて考える。 13 地方議会と地方公務員の役割について考える。 14 首長のリーダーシップとは何かについて考える。 15 全般をまとめ、今後何を考えなければならないか、皆で議論する。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40079001 |
| 科目名   | 憲法 I (憲法総論) 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Constitutional Law I (General Part)   |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克   | 旧科目名称 | 憲法総論      |
| 講義概要  | <p>はじめて憲法を体系的に学ぶに当たっては、その前提として、「憲法の学び方」はもとよりのこと、「憲法」の概念や「憲法の解釈」といった憲法総論上の基本問題を概観しておく必要がある。通例、憲法総論としては、以上のような「憲法の理解」にかかわる問題のほかに、憲法の法源、憲法の変動などを概観するのが普通であるが、本講義では、講義時間の関係上、日本国憲法との関連でそれらを適宜触れるにとどめておく。</p> <p>日本国憲法総論としては、まず日本国憲法の歴史的意义・位置を明らかにするために「日本の憲法の歴史」を概観することにし、次いで、日本国憲法の基本原理と特徴（象徴天皇制や戦争放棄など）を述べることにする。その上で、憲法講義を受ける者ならば当然に履修すべきものとして設けられている憲法Ⅱ（基本的人権）・憲法Ⅲ（統治機構）・憲法Ⅳ（憲法訴訟）の科目との関連で、これらを受講する者の前提作業として、それぞれについて学習しておくべき基本的な事項を憲法Ⅰで概説的・総論的に講義しておくこととしよう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 小林武・三並敏克編『いま日本国憲法は〔第5版〕』（法律文化社、2011年）   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。   |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (40%) 出席状況等による(レジュメの肉付けしたものを講義終了時に提出してもらおう場合もあるあるし、小テストも何回か行う)。定期テスト (60%)。   |       |           |
| 到達目標  | 憲法の基礎知識を習得し、特にそれぞれの項目の基本原則について、各自が基本的に理解できるようにすることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習  | 今日における憲法問題を常に意識し、特に新聞、テレビなどで報道される憲法問題をメモしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもとよりのこと、積極的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| ① 憲法とはなにか(憲法の内容・本質・特質) ② 日本の憲法の歴史 ③ 平和主義と平和的生存権 ④ 象徴天皇制 ⑤ 人権の憲法的保障の意味と範囲 ⑥ 精神的自由権——なぜ表現の自由は優越的地位をもつか ⑦ 経済的自由権——近代の経済的自由権と現代の経済的自由権 ⑧ 身体的自由権——適正手続の保障 ⑨ 社会権 ⑩ 政治参加の権利 ⑪ 国会——その性格と地位 ⑫ 内閣——内閣の地位と組織 ⑬ 裁判所——裁判を受ける権利と裁判所 ⑭ 財政の基本原則並びに地方自治の基本原則 ⑮ 憲法改正と憲法尊重擁護義務 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40081001 |
| 科目名  | 憲法Ⅱ（基本的人権）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Constitutional Law II (Fundamental Human Rights)   |       |           |
| 担当者名   | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>憲法Ⅱでは基本的人権、特に日本国憲法の下での基本的人権を巡る問題を中心に扱う。まず、人権の憲法的保障の意味、人権の体系論、人権の主体論、人権規定の効力論（人権の私人間効力論のほか、いわゆる「特別権力関係理論」や部分社会の法理）、人権の限界論（「人権と公共の福祉」論）といった人権総論的問題を比較的詳しく講義した上で、人権各論として、包括的人権、平等権、精神的自由権、身体的自由権、経済的自由権、社会権、選挙権・被選挙権、受益権という順序で、しかも各項目に微細に立ち入って講義するのは時間の関係から無理なことから、できるだけ重要論点や最近の問題を指摘・検討・フォローするという形で講義する予定である。但し、その場合でも、余り深く立ち入ると学生に理解困難なことも予想されることから、むしろ講義内容を理解してもらうということの方に力点を置いた講義となるよう、資料配布なども含めて色々工夫したいと思っている。  なお、憲法の人権規定の解釈を巡っては、これまでに無数と言ってよいほどの判例・学説の蓄積があるが、特に法実務における「生きた憲法」を知るためには、人権判例の学習も不可欠であることから、本講義では、人権判例にできるだけ焦点を当てることにも心掛けたいと思っている。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小林武・三並敏克編『いま日本国憲法は〔第5版〕』（法律文化社、2011年）  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40％）出席状況等による（レジュメの肉付けしたものを講義の終了時に提出してもらった場合もあるし、何回か小テストも行う）。定期テスト(60％)。  |       |           |
| 到達目標   | 人権の観念・新しい人権など基本的人権の総論問題についてより一層の理解を深め、日本国憲法の下で、自由権・平等権をはじめ各種人権が今日抱えている問題の所在と今後の議論の行方について理解し、学生自身も意見をもつことができるようにしたい。  |       |           |
| 準備学習   | 今日における人権問題を常に意識し、特に新聞・テレビ等で報道される人権問題のメモ等しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもよりのこと、能動的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。図書館も大いに利用してもらいたい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| ① 人権の体系論と新しい人権 ② 人権は誰のものか（人権の主体論） ③ 人権規定の効力論(人権規定の私人間効力といわゆる特別権力関係における人権規定の効力) ④ 人権の限界論（公共の福祉論など） ⑤ 法の下での平等と合理的差別 ⑥ 思想・良心の自由、学問の自由 ⑦ 信教の自由・政教分離原則 ⑧ いま表現の自由が危ない ⑨ 経済的自由権（その1）——居住移転の自由・職業選択の自由 ⑩ 経済的自由権（その2）——財産権の保障 ⑪ 身体的自由権——加害者の人権と被害者の人権 ⑫ 社会権（その1）——老人の人権、環境権、教育を受ける権利 ⑬ 社会権（その2）——勤労の権利、労働基本権 ⑭ 選挙権と被選挙権 ⑮ 受益権 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40082001 |
| 科目名   | 憲法Ⅲ（統治機構）【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Constitutional Law III (Frame of Government)   |       |           |
| 担当者名  | 三並 敏克  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>憲法Ⅲでは、日本国憲法下の統治機構論を中心に学習する。この憲法Ⅲを受講するに当たって、次の二点に留意してもらいたい。  第一は、人権保障と統治機構の関係が目的と手段の関係にあるということである。そこにまた統治機構の存在理由があるわけである。しかし、その現実態から見れば、むしろパラドクシカルな局面が眼につく。それだけに、あえて人権と統治機構の相互関係のあり方については、本来のあるべき姿に焦点を当てて検討しておく必要がある。  第二は、日本国憲法が採用する統治機構の構成原理を歴史的・原理的に考察し、それを踏まえて現実の統治機構の諸問題に接近するということである。近代憲法の統治機構の構成原理として一般に指摘される「国民主権」「権力分立」「法の支配」など、各々がいかなる歴史的背景と意義をもって登場し、矛盾を孕みつつ現代に至っているか、そして、日本国憲法がこれらの原理に支えられたどのような諸制度を採用し、それらをどのように組み合わせて全体の統治機構を構成しているか、といった歴史的、原理的考察視角を重視したい。  なお、講義は、講義時間の関係から、日本国憲法の下での統治機構各論を微細に立ち入って検討する余裕がないと思われるので、重要論点や最近の問題を指摘・検討・フォローという形で進めて行くことになる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利＝著『憲法Ⅱ（第4版）』（有斐閣、2006年）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 個別具体的な文献は、講義時にその都度指摘する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 毎回、その日の講義のレジュメ等を配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40％）出席状況等による（レジュメの内付けしたものを講義の終了時に提出してもらった場合もあるし、小テストを何回か行う）。定期テスト（60％）を考えているが、受講人数によっては、レポート試験に替えることもある。   |       |           |
| 到達目標  | 日本国憲法下の統治機構について、その構成原理のより一層の理解を深め、国会、内閣、裁判所、財政、地方自治に関する基礎的知識を踏まえた上で、特に今日における問題の所在や議論の行方についてもより一層の理解を深めるようにする。  |       |           |
| 準備学習  | この講義が同時代的なものであることを理解するためにも、今日における統治機構の問題を常に意識し、特に新聞・テレビ等で報じられている統治機構問題をメモしておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 遅刻や私語を厳禁とすることはもとよりのこと、能動的な姿勢で講義に出席するよう心掛けてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ① 統治機構の構成原理（その1）——なぜ「国民主権」なのか ② 統治機構の構成原理（その2）——なぜ「権力分立」・「法の支配」なの ③ 国会の唯一立法機関として地位と立法の意味 ④ 国会の構成——二院制(両院制) ⑤ 国会の活動 ⑥ 国会の権限と国会議員の地位・権能 ⑦ 議院の権限（国政調査権、議院規則制定権、懲罰権など） ⑧ 議院内閣制と政党 ⑨ 内閣総理大臣の権能 ⑩ 内閣の権限と責任 ⑪ 司法権と司法審査 ⑫ 司法権の独立 ⑬ 裁判所の構成・権能 ⑭ 財政——財政監督の方式(予算・予備費・決算・財政状況の報告など) ⑮ 地方自治——地方公共団体の種類・組織・権能と住民の権利 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40085001 |
| 科目名   | 行政法Ⅰ（総論）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Administrative Law I (Introduction)  |       |           |
| 担当者名  | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の3つの講義で構成される。本講義では、行政法総論のうち、行政法の基本原理と、行政組織法のうち、行政組織の基本概念などを、そのほか、行政作用法の一部も扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 櫻井敬子・橋本博之『行政法 [第3版]』弘文堂  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 定期試験 60% 授業内テスト 20% 平常点（20%）出席状況等による。  |       |           |
| 到達目標  | 行政法の基礎、行政法の基本原理を習得し、行政組織法と行政手続、情報公開、個人情報保護の分野の概要を学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 次週の講義テーマについて、必ず教科書を読む。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 行政法の学び方   2. 行政法の基礎－行政の概念・公法と私法   3. 法律による行政の原理   4. 行政の一般原則   5. 行政上の法律関係   6. 行政組織法の基本原理   7. 国の行政組織   8. 地方の行政組織   9. 中間まとめ   10. 行政手続<br>①   11. 行政手続 ②   12. 情報公開 ①   13. 情報公開 ②   14. 個人情報保護   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40090001 |
| 科目名        | 民法 I (総則) 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Civil Law I (General Provisions)  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民法総則に規定されている主要な制度について、現在社会の実際面での役割を確認するという作業を、講義を通じて追及していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 永田眞三郎・松本恒雄・松岡久和「民法入門・総則 エッセンシャル民法1 [第4版]」(有斐閣双書ブックス)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 佐久間毅「民法の基礎1 総則[第3版]」(有斐閣)  佐久間毅・石田剛・山下純司・原田昌和「民法 I 総則」(有斐閣 Legal Quest)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 講義用レジュメを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | ・小テスト(5回程度実施、40%)  ・レポート(2回程度実施、20%)  ・定期試験(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 1 「民法総則」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文・判例を立体的に理解する。  2 民法総則の中の各制度が実際界においてどのような使われ方をしているかを知る。  3 各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。 |       |           |
| 準備学習       | 講義用レジュメは15回分をまとめて配布するので、各回の講義の概要程度は予習しておくこと。  |       |           |

#### 受講者への要望

民法入門の次に学ぶ科目として位置づけられている。また、他の民法科目を学ぶにあたって、民法総則の十分な理解が要求される場合が多い。したがって、講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。| 教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。|

#### 講義の順序とポイント

1 民法とは何か(民法のシステム・民法の基本原則・民法の適用範囲)| 2 私権・私権行使についての原則| 3 権利者や義務者としての「人」-権利能力| 4 取引行為者としての「人」-意思能力と行為能力/行為能力の制限| 5 法人| 6 法律行為と意思表示との関係/意思表示の到達と受領| 7 不完全な意思表示(1)(心裡留保・虚偽表示・錯誤)| 8 不完全な意思表示(2)(詐欺・強迫)| 9 法律行為の自由と制約(強行法規違反・公序良俗違反)| 10 無効と取消し| 11 条件・期限・期間| 12 代理(1) (代理権の基本的仕組みと機能・代理権・代理行為)| 13 代理(2) (無権代理)| 14 代理(3) (表見代理)| 15 時効|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40091001 |
| 科目名   | 民法Ⅱ（物権法）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Civil Law II (Law of Real Estates)   |       |           |
| 担当者名  | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 現代の物権法の全般を対象にする。物権法の基礎知識として、物権の意義、物権の性質、物権法定主義、民法上の物権、慣習法上の物権につき、その概要を講義する。 次に、物権の効力、物権の変動（物権変動の公示と公信、物権変動の一般理論、不動産の物権変動、動産の物権変動）、所有権（所有権の内容、所有権の取得、共有、建物区分所有権）、用益物権、占有権等につき講義する。担保物権法との関係についても触れる。 最後にまとめを行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 近江幸治・民法講義Ⅱ 物権法（第3版）（成文堂、2006年）、初日にプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 授業中に適宜指示する   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点(20%)出席状況等による。定期テスト(80%)  |       |           |
| 到達目標  | 現代社会で行われている物権法の知識を具有して、その活用方法を習得する。土地に関する諸施策や不動産鑑定評価との関連知識、土地に関する総合的な情報提供などの問題についても基礎知識を得ることを目標に加える。土地私法学の観点からも注意を払ってほしい。  |       |           |
| 準備学習  | 民法総則の教材を読み直しておくこと。 教科書の緒言（はしがき）を読んでおくこと。 法律学小辞典（第4版補訂版）を活用して民事法に関する項目のうち、民法総則、物権法に関するものにつき、簡単に目を通しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 初日に講義方針を説明する。初日の欠席者につき減点するので注意のこと。 遅刻は時には思わぬ迷惑となりがねないことを留意すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| ①物権制度総説  ②物権法定主義  ③物権の本質  ④物権の客体  ⑤物権の優先的効力  ⑥物上請求権  ⑦物権の変動 ----公示と公信 ⑧不動産の物権変動  ⑨動産の物権変動  ⑩占有権  ⑪所有権  ⑫共有、建物区分所有  ⑬用益物権  ⑭担保物権  ⑮まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40093001 |
| 科目名        | ドイツ中近世の文学 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | German Literature (The Early Modern Age)  |       |           |
| 担当者名       | 奥村 哲夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ドイツ文学史上における頂点の一つである12、13世紀の中世封建期の文学から、更にもう一つの頂点をなす古典主義文学及びその後に花咲いたロマン主義期の文学までを取り上げる。時代をあまりに丹念に追って数多くを網羅することなく、言わば点描的に紹介する。  封建期の文学としては、騎士階級の詩人に担われた宮廷文学、即ち、英雄叙事詩と恋愛詩をとりあげ、それ以降は主に古典主義とロマン主義のものを重点的にとりあげる。  それぞれの時期、時代を代表する作家とその作品を出来るだけ具体的に考察する。精彩ある文学表現の妙を味わうべく、各個別にその作品の何節かを抜粋し、鑑賞と思考の材料を提供していく。   </p>  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 手塚富雄著 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 660円  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 折にふれ紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜,プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験レポート(60%) 授業内レポート・テスト(20%) その他、出席しての意見発表等も加点。以上はさほど厳密なものではない。   |       |           |
| 到達目標       | 詩や小説や戯曲の面白さを知り、言語表現への豊かな感性を磨くこと。  |       |           |
| 準備学習       | 第一に、テキストにとりあげられる章を毎回読んでくること。第二に、そのなかのいくつかの作品を折々読むようにすること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 詩、小説、物語等を愛好する受講生を歓迎する。堅苦しくかまえず、気楽に自由な発言ができる場を共に創り出そう。意欲的に取り組んでくれることを願っている。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>(都合により、一部変更もありうる。)  1. 序論 文学とは何か。ドイツ文学とは?  2. 中世期 : 作者不詳 『ニーベルンゲンの歌』  3. 中世期 : ヴォルフラム 『パルチファル』  4. 中世期 : ゴットフリート 『トリスタン』 ヴァルター 『ミネザング』  5. 啓蒙主義期 : レッシング 『賢者ナータン』他  6. 疾風怒涛期 : ゲーテ 『ウェルテル』  7. 疾風怒涛期 : シラー 『群盗』   8. 古典主義期 : ゲーテ 『ファウスト』他  9. 古典主義期 : シラー 『ウィリアム・テル』他  10. ロマン主義期 : 前期ロマン派 ノヴァーリス 『青い花』他  11. ロマン主義期 : 後期ロマン派 ホフマン 『悪魔の霊液』他  12. 流派を超えた作家 : クライスト 『ペンテシレイア』  13. 流派を超えた作家 : ジャン・パウル 『長靴をはいた牡猫』  14. 授業内レポート作成   15. レポート講評及び授業総括</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40094A01 |
| 科目名        | 法制史 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Legal History I  |       |           |
| 担当者名       | 小宮山 直子   | 旧科目名称 | 法制史 s     |
| 講義概要       | この授業では、中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について概観します。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法は明治以降の近代日本法に大きな影響を与えたとされていますが、そのことを念頭におきつつ、ヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて学んでいきます。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しません。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』(ナカニシヤ出版) その他は、講義の中で適宜紹介します。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験80%、平常点(レポートなどの課題)20%  |       |           |
| 到達目標       | ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得することを目的とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回講義への準備学習を指示します。   |       |           |
| 受講者への要望    | 2～3回に1度の割合で、授業内レポートなどの課題を実施する予定です。 教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 ガイダンス 第2回 中世の社会と法 第3回 中世都市と法 第4回 キリスト教と法 第5回 近世の社会と法① 第6回 近世の社会と法②(魔女裁判) 第7回 フランス革命①(旧制度の解体、裁判制度の改革) 第8回 フランス革命②(民法典の成立等) 第9回 19世紀におけるフランスの社会と近代法① 第10回 19世紀におけるフランスの社会と近代法② 第11回 19世紀におけるドイツの社会と近代法① 第12回 19世紀におけるドイツの社会と近代法② 第13回 フランス・ドイツの戦間期の法 第14回 戦後のヨーロッパの社会と法(EUの成立) 第15回 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40094B01 |
| 科目名        | 法制史Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Legal History II   |       |           |
| 担当者名       | 小宮山 直子   | 旧科目名称 | 法制史 f     |
| 講義概要       | この授業の前半では、中世以降のヨーロッパ社会の展開を踏まえつつ、ヨーロッパにおける近代法と「法学」の発展を中心に学びます。特に日本近代法に大きな影響を与えたフランス及びドイツの「法学」の歴史に重点を置きます。また、後半は、ヨーロッパ法からの影響を考えつつ、日本における近代法形成の歴史について考察します。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特に指定しません。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』(ナカニシヤ出版) その他は、講義の中で随時紹介します。  |       |           |
| 教材(その他)    | 毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。   |       |           |
| 評価方法       | 期末試験80%、平常点(授業内の小レポートなど)20%  |       |           |
| 到達目標       | ヨーロッパ(ドイツ・フランス)の近代法学、及び日本における近代法の歴史について基礎的な知識を習得することを目標とします。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次回講義への準備学習を指示します。   |       |           |
| 受講者への要望    | 2～3回に1度の割合で、授業内レポートなどの課題を実施する予定です。 春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 ガイダンス 第2回 中世における大学の成立と法学の発展・ローマ法の継受 第3回 フランスのアンシャン・レジーム期における法学 第4回 フランス革命と法 第5回 フランス民法典の成立と影響 第6回 19世紀フランスの法学 第7回 19世紀ドイツの法学(歴史法学・ドイツ民法典) 第8回 20世紀フランス・ドイツの法学 第9回 明治維新・日本における近代法の継受 第10回 明治期・日本近代法の形成①(憲法) 第11回 明治期・日本近代法の形成②(民法) 第13回 明治期・日本近代法の形成③(刑法) 第14回 明治期・日本近代法の形成④(司法制度の整備) 第15回 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |              |
|------------|---|-------|--------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40103001    |
| 科目名        | 民法V（家族法）【他】   | 単位数   | 2            |
| 科目名（英語表記）  | Civil Law V (Family and Inheritance)  |       |              |
| 担当者名       | 右近 潤一   | 旧科目名称 | 民法V（家族法），家族法 |
| 講義概要       | 夫婦や親子の法律関係（民法第4編親族）、相続や死後の財産処分（第5編相続）について学ぶ。  |       |              |
| 教材（テキスト）   | 高橋 朋子、床谷 文雄、棚村 政行 『民法7 親族・相続』（有斐閣、第3版、2011）978-4641124523   |       |              |
| 教材（参考文献）   | 中田 邦博、高嶋 英弘 『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276  |       |              |
| 教材（その他）    | 講義中にプロジェクターで表示するものを京学なびにて配付します。事前にプリントして持参して下さい。  |       |              |
| 評価方法       | 期末試験のみに基づき評価する。   |       |              |
| 到達目標       | 親族相続法上の制度とその背後にある民法の考え方を知識として得る。  |       |              |
| 準備学習       | 提供する資料を事前にプリントし1度目を通しておくこと。必ず復習すること。  |       |              |
| 受講者への要望    | <p>評価は期末テストの結果に従いますが、期末テストの結果は、受講生の出席と受講態度に左右されることが明白です。履修登録をしても出席しなければ、単位は取れません。主に一年生が受講する講義ですので、メモをとり易く話す心がけますから、とる練習もしましょう。</p>  |       |              |
| 講義の順序とポイント | <p>民法の第4編及び第5編を扱う。他の民法科目は、最大でも1編で1科目となっているところ、本講義は2編を扱わなければならないため、最初の7回を親族法に当て、後半の8回を相続法に当てる。 第1回 導入、婚姻の成立、婚姻意思、婚姻障害事由 第2回 婚姻の効果、日常家事債務、婚姻の解消 第3回 有責配偶者からの離婚請求、離婚の効果 第4回 実親子関係（父性推定、認知、準正） 第5回 養親子関係（普通養子縁組、特別養子縁組） 第6回 親権（親権者、身上監護、財産管理） 第7回 後見（未成年後見、成年後見制度） 第8回 相続（相続人、代襲相続、同時死亡の推定） 第9回 相続権の剥奪（相続欠格、相続人の廃除）、相続の承認と放棄 第10回 相続財産、債権・債務の相続、遺産共有、 第11回 相続分（法定相続分・指定相続分） 第12回 相続人間の平等（特別受益の持ち戻し、寄与分）、遺産分割 第13回 遺言（遺言の種類、自筆証書遺言の方式、遺言の撤回） 第14回 遺留分（遺留分の範囲、基礎財産） 第15回 遺留分額、遺留分減殺請求権、減殺の方法 </p> |       |              |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40104001 |
| 科目名  | 民法Ⅳ（債権総論）【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law of Obligations   |       |           |
| 担当者名   | 右近 潤一  | 旧科目名称 | 民法Ⅲ（債権総論） |
| 講義概要   | 民法典の第3編「債権」中、第1章「総則」の内容を取り上げる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、永田 眞三郎『民法（3）債権総論（有斐閣 S シリーズ）』（有斐閣、第3版、2005）978-4641159136                                  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  | 講義中にプロジェクターで表示するものを「京学なび」にて配付します。事前にプリントして持参して下さい。 中田 邦博、高嶋 英弘『新・キーワード民法—民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 |       |           |
| 評価方法   | 期末試験の評価に従う。  |       |           |
| 到達目標   | 契約法の基本を押さえる。   |       |           |
| 準備学習   | 事前に配付資料を一読し、できる限り教科書の該当部分に目を通す。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められる。 成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 第1回 債権総論を学ぶにあたって；債権の目的と種類1（特定物債権） 第2回 債権の目的と種類2（特定物債権種類債権～利率） 第3回 債権の目的と種類3（利息制限・選択債権） 第4回 債務不履行1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由） 第5回 債務不履行2（履行の強制、416条の理解） 第6回 損害賠償 第7回 債権の対外的効力1（債権者代位権） 第8回 債権の対外的効力2（債権者代位権） 第9回 債権の対外的効力3（詐害行為取消権） 第10回 多数当事者の債権関係1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務） 第11回 多数当事者の債権関係2（連帯債務） 第12回 多数当事者の債権関係3（連帯債務2） 第13回 多数当事者の債権関係4（保証債務、連帯保証債務） 第14回 当事者の交替1（債権譲渡、債務引受） 第15回 債権の消滅1（消滅の意義・弁済等） |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40107001 |
| 科目名   | 民法V（契約法）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Civil Law V (Contracts)  |       |           |
| 担当者名  | Antonios Karaiskos   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 本講義の前半部分では、すべての契約に共通するルールを、後半部分では現代社会において重要ないくつかの契約類型に関するルールを取り扱う。  契約についての日常生活からの身近な事例を中心に、なるべく分かり易く講義する。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 近江幸治著『民法講義V契約法（第3版）』（成文堂、2006）   |       |           |
| 教材（参考文献）  | なし。  |       |           |
| 教材（その他）   | 1. パワーポイントを活用する。  2. 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（20%）出席状況や授業態度等による。  学期末テスト（80%）。   |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における契約のあり方および関連する民法の条文の仕組みを理解する。  2. 日常生活における契約に関する事例を多角的に分析し、解決する能力を養う。                            |       |           |
| 準備学習  | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 1. 講義で取り上げた箇所については、教科書等でよく復習すること。  2. 最新版の六法を必ず持参すること。  3. 他者への迷惑となるので、私語を厳禁する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに  講義概要、他の民法科目との関係  2. 契約の意義  契約の拘束力および種類  3. 契約の成立  申込みと承諾、契約締結上の過失責任  4. 同時履行の抗弁権  意義、要件および効果  5. 危険負担  意義、債権者主義および債務者主義  6. 契約の解除（1）  意義、解除権の発生要件および行使  7. 契約の解除（2）  解除の効果、解除権の消滅  8. 売買契約（1）  意義と成立（予約、手付）  9. 売買契約（2）  売買の効力（前半）  10. 売買契約（3）  売買の効力（後半）  11. 消費貸借契約  契約の成立、利息など  12. 賃貸借契約（1）  意義、性質、成立、存続期間、効力および終了  13. 賃貸借契約（2）  借地関係、借家関係  14. 請負契約  意義、成立、効力および終了  15. まとめ |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40108001 |
| 科目名        | 民法Ⅲ（担保物権法）【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Law of Real Security   |       |           |
| 担当者名       | 宮川 不可止   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現代社会は信用取引を基礎にして成り立っている。担保になるべきものをいかにして見出し、交渉をして担保提供してもらうかが重要なポイントとなる。 担保手段の種類、共通の性質のあらましと民法上の法定担保物権、約定担保物権の全般にわたり概要を説明する。 抵当権については、意義、設定、効力の及ぶ範囲、実行前の効力、優先弁済権の実現について説明する。 非典型担保については、仮登記担保と不動産譲渡担保の違いを説明し、動産譲渡担保、債権譲渡担保の仕組みについても説明する。 最後にまとめを行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 松井宏興ほか・プリメール民法 2 物権・担保物権法(第3版)(法律文化社、2005年)。 初日にプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(20%)出席状況等による。定期テスト(80%)  |       |           |
| 到達目標       | 現代社会で行われている担保物権法の基礎知識を具有して、その活用方法を習得する。 不動産鑑定評価等の関連知識を得る。 抵当権に関する占有と優先弁済権につき基礎知識を得る。   |       |           |
| 準備学習       | 民法総則の教材を読み直しておくこと。 教科書の緒言(はしがき)を読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 初日に講義方針を説明する。初日の欠席者につき減点するので注意のこと。 遅刻は思わぬ迷惑となりかねないことを留意すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.担保物権とはなにか、担保物件の種類  2.担保物権の性質と効力  3.留置権  4.先取特権  5.質権  6.動産質・不動産質・権利質  7.抵当権の設定  8.抵当権の効力の及ぶ範囲  9.抵当権の実行前の効力 10.抵当権の優先弁済権の実現 11.抵当権の賃貸借 12.根抵当権 13.仮登記担保 14.譲渡担保 15.まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40109B01 |
| 科目名  | 行政書士実務論 A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Practice of Administrative Scriveners A  |       |           |
| 担当者名   | 三木 常照  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>わが国の行政省庁は、法令用語にいう許可・認可・免許などの多数の規制権限を有している。こうした規制行政が許認可行政と称されている。許認可行政は経済活動の公正確保や市民の権利の保護、生活上の安全確保などの目的を掲げて展開されているが、その目標とは裏腹に社会の発展に逆行する事態や既得の権利の擁護につながり、また申請や実施については多大のコストがかかるという側面を併せ持っている。 また、許認可手続と行政手続は密接な関係にある。申請と許認可の取消や営業停止などの不利益処分にもその焦点を当て、検討してみたい。 そもそも、行政にとって何故、許認可が必要なのか。許認可申請をとおして申請者である市民と行政を媒介している行政書士と許認可の関係を考察し、許認可行政の問題点を学生諸君と共同討議方式ですすめていきたい。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 三木常照著 『増補改訂版 行政書士の役割』 ふくろう出版 2,100 円   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 適宜、指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点 (20%) 出席状況等による。レポート (30%)、定期試験 (50%) など多面的評価を行います。   |       |           |
| 到達目標   | 許認可行政を市民と行政を媒介する行政書士の視点から捉え、わが国の行政と許認可の仕組みについて理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のためのテキスト準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 各講義テーマ毎の学生諸君の積極的な発言を期待しています。但し、私語は厳禁。他の受講生への配慮から退室を求める場合もあります。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1.行政書士とは  2.法律関連資格者の紹介  3.法律関連資格者の歴史  4.法律関連資格者の諸外国事情  5.業務の仕組みと現実  6.業務の実際  7.申請と行政手続  8.行政手続法と許認可  9.許認可・行政書士・市民 10.行政書士をめぐる環境と課題 11.業際問題 12.規制緩和と地方分権 13. IT化と行政書士 14.許認可書類作成 (建設業許可・入札手続) 15.許認可書類作成 (相続手続・株式会社設立) |  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40110001 |
| 科目名        | 民法VI (不法行為法) 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Civil Law VI (Torts)  |       |           |
| 担当者名       | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 民法第三編第五章(709～724 条)に規定の不法行為法の基本的な構造について、判例の考え方にに基づき講義する。基本的な事項について、具体例に基づき、ていねいに説明するという方法で進めていくこととする。これによって、一般的な資格試験に対応できるだけの情報を提供するようにしたい。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法」(新世社・ライブラリ法学基本講義)  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | ・藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄「民法IV－債権各論[第3版補訂]」(有斐閣Sシリーズ、2009年) ・内田貴「民法II[第2版]債権各論」(東大出版会、2007年) ・窪田充見「不法行為法－民法を学ぶ」(有斐閣、2007年) ・野澤正充「事務管理・不当利得・不法行為 セカンドステージ債権法III(法セミLAW CLASSシリーズ)」(日本評論社、2011年)   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | ・小テスト(5回程度実施、40%)  ・レポート(2回程度実施、20%)  ・定期試験(40%)  |       |           |
| 到達目標       | 1 「不法行為法」の中の主要な制度について、その制度趣旨や条文・判例を立体的に理解する。 2 不法行為法の中の各制度が、実際界においてどのような使われ方をしているかを知る。 3 各種資格試験において、どのような問題が出題されているかを確認する。  |       |           |
| 準備学習       | 講義用レジュメは15回分をまとめて配布するので、各回の講義の概要程度は予習しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 講義には必ず出席し、少なくとも講義中はなるべく前方の席に座り、真剣に講義に集中して欲しい。最新版の六法や教科書を持参せずに授業に出席するのは論外である。  教室の後ろの方でケータイをいじり続けながら、それでもある種のテクニックで単位を取れるような科目ではないことは、心得ておいてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 不法行為制度とは 2. 不法行為の要件(故意・過失) 3. 不法行為の要件(権利・利益侵害) 4. 不法行為の要件(損害の発生) 5. 不法行為の要件(因果関係) 6. 責任能力・監督者の責任 7. 不法行為の効果(賠償額の算定・物損の金銭的評価) 8. 不法行為の効果(身体・生命の侵害による損害の金銭的評価、精神的損害) 9. 不法行為の効果(損害賠償の範囲、賠償額の減額) 10. 損害賠償請求権者 11. 使用者責任 12. 物の支配管理から生じる責任、共同不法行為 13. 消滅時効、原状回復・差止請求 14. ケース・スタディ(1)－交通事故 15. ケース・スタディ(2)－プライバシー・名誉の侵害 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T40113001 |
| 科目名  | 経済法Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Competition Law II  |       |           |
| 担当者名   | 村田 淑子   | 旧科目名称 | 経済法特別講義   |
| 講義概要   | <p>「経済法」の講義では、独占禁止法、競争政策の基礎となる考え方や制度を学びました。「経済法特別講義」では、「経済法」で学んだことを土台として、「カルテル(不当な取引制限)」や「私的独占」以外の独占禁止法の内容について学びます。具体的には、人気商品を買いたければ不人気商品も買わないと売らないという「抱き合わせ販売」や、不当な安売である「不当廉売」等の「不公正な取引方法」や企業合併等の「企業結合」を取り上げます。これらは、カルテルよりも複雑な行為類型であり、本当に競争に悪影響を及ぼすため禁止されるべき行為なのかどうかを丁寧に分析する必要があります。それゆえ、面白さの度合いも高まり、実際の経済活動をより深く理解できるようになります。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法[第3版]』(有斐閣)1995円  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 『経済法判決・審決百選』(有斐閣)2940円  |       |           |
| 教材(その他)  | 毎回レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 1) 平常点(30%)出席状況・授業内レポート等 2) 小テスト(2回)70%   |       |           |
| 到達目標   | 独占禁止法の基本概念を理解し、不公正な取引方法及び企業結合に関する基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができることを目標とする。   |       |           |
| 準備学習   | 各回の講義の最後に指示する教科書の箇所を読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 能動的な姿勢で講義に出席すること。 ビジネスや企業活動に関心を持ち、新聞を読んだり、ニュースを視聴すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 独占禁止法の目的と全体像 2 独禁法の重要キーワード 3. 企業結合規制1 (なぜ企業は合併や業務提携をするのか?) 4. 企業結合規制2 (市場確定) 5. 企業結合規制3 (競争の実質的制限) 6. 一般集中規制・小テスト 7. 不公正な取引方法の全体像・景品表示規制 8. 再販売価格維持 (なぜ、どこの店で買っても同じ値段の商品があるのか?) 9. 取引拒絶 (嫌いな相手との取引を拒絶したら独禁法違反になるのか?) 10. 不当廉売 (なぜ安売りが独禁法違反になるのか?) 11. 抱き合わせ販売(マイクロソフト事件) 12. 排他条件付き取引など(資生堂事件) 13. 優越的地位の濫用(ローソン事件) など 14. エンフォースメント・公正取引委員会 15. まとめ・小テスト |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     |       | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T40115001 |
| 科目名  | 法哲学Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Legal Philosophy II   |       |           |
| 担当者名   | 佐別当 義博  | 旧科目名称 | 法哲学特別講義   |
| 講義概要   | <p>本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないだろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。  本講義では、「法哲学」と同様、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。「法哲学」に確認した課題、すなわち法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を前提にしつつ、いくつかの法領域において正義論の展開の具体層を概観すると同時に、正義論と法体系の相互関係(例えば立法精神)、正義論と実定法解釈のあり方、正義論と国家論、正義論と人権論にも言及する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 教科書は指定しない。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義の進行に合わせてその都度紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)  | 講義のレジュメは京学ナビに登録するので、事前にプリントアウトしておくこと。   |       |           |
| 評価方法   | 授業内で書いてもらう、4回の小論文の素点の合計が成績となる。 その都度評価して返却するので、合格点に至らなかった者は再レポートを提出すること。   |       |           |
| 到達目標   | 法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。  |       |           |
| 準備学習   | 授業内で書いていただく小論文は実施日を事前に告知するので、論点等を確認しておくこと。 新聞等で正義に関わる記事等は常日頃から読むようにすること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>(注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡(講義時と京学ナビ)で確認すること。)    1. 初めに  2. 序論「法哲学」で学習したことの確認  3. 同上  4. 第1章 生命倫理と法   § 1 臓器移植法と正義  5. § 2 安楽死法と正義(オランダのケース)  6. § 3 死刑と正義  7. 同上   8. (第1回授業内レポート)  第2章 環境倫理と法  § 4 環境基本法と正義  9. § 5 グローバリゼーションと正義  10. (第2回授業内レポート)  第3章 多文化状況における正義  § 6 ブルカ禁止法(フランスのケース)と正義  11. § 7 少数民族と国家の関連における正義   12. 同上  13. (第3回授業内レポート)  第4章 報復的正義から修復的正義へ   § 8 報復的正義と問題点  14. § 9 修復的正義  15. (第4回授業内レポート)  まとめ    </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40116001 |
| 科目名        | 法社会学Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Sociology of Law II  |       |           |
| 担当者名       | 沼口 智則  | 旧科目名称 | 法社会学特別講義  |
| 講義概要       | 秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学(Ⅰ～Ⅳ)・天皇制をめぐる法社会学(Ⅰ～Ⅲ)・正義をめぐる法社会学(Ⅰ～Ⅱ)を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | 竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義の都度紹介していく。   |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 学期末試験(80%)・講義の際の小レポート(20%)による総合評価。   |       |           |
| 到達目標       | フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。  |       |           |
| 準備学習       | 法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 法社会学の現状 I 日本の法社会学(2) 2. // II 欧米の法社会学(2) 3. フェミニズムをめぐる法社会学 I 女性の権利の歴史(1) 4. // II // (2) 5. // III 男女平等-特に憲法14条と第24条- 6. // IV 男女平等-夫婦別氏(姓)論議- 7. 天皇制をめぐる法社会学 I 天皇制とは? 8. // II 近代神権的天皇制 9. // III 象徴天皇制 10. 正義をめぐる法社会学 I 法哲学と法社会学 11. // II 正義と法 12. 法社会学の役割と任務 I -全体の総括- 13. // II // 14. 全体のまとめ 15. 全体のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40118001 |
| 科目名  | 会社法Ⅲ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Corporation Law III  |       |           |
| 担当者名   | 小野里 光広   | 旧科目名称 | 会社法特別講義Ⅰ  |
| 講義概要   | 現代社会において、一定規模以上の重要な取引を担うのは個人ではなく、共同企業形態としての会社であり、特に株式会社が重要なのは言うまでもない。この講義では、事業譲渡・合併・会社分割など、会社の組織再編について、基本的な枠組みを講義する。会社法を学ぶことは、将来企業社会で活躍しようとする皆さんに必ず役に立つであろう。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 神田秀樹『会社法』(弘文堂)。最新版を用いる。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適宜紹介する。  |       |           |
| 教材(その他)  | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(10%)出席状況等による。定期テスト(90%)。   |       |           |
| 到達目標   | 会社法のうち、組織再編に関わる基本的な理解を得る。  |       |           |
| 準備学習   | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. イントロダクション 2. 組織再編手続 3. 事業譲渡 4. 合併の意義 5. 合併の手続 6. 合併の無効 7. 会社分割の意義 8. 会社分割の手続 9. 会社分割の無効 10. 株式交換・株式移転の意義 11. 株式交換の手続 12. 株式移転の手続 13. 株式交換・株式移転の無効 14. 企業グループ・結合企業 15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40121001 |
| 科目名   | 刑事訴訟法Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Law of Criminal Procedure II  |       |           |
| 担当者名  | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>2009年5月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきている。刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか。どのようなルールがあるのか。誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある。  また、問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第9版、2010）  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 第1回授業で指定する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。  |       |           |
| 評価方法  | 学期末試験の結果（80%）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（20%）によって成績を評価する。   |       |           |
| 到達目標  | <p>刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになる。  重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになる。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>事前に判例百選の関係箇所を読んでおくこと。  学習にあたっては刑事手続の全体像を把握しておく必要があるため、前回の復習をしておくこと。新聞やニュースを見て、報道された刑事事件の内容を把握しておくこと。</p>   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。 捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 刑事手続の流れ  2 任意捜査と強制捜査の区別  3 写真撮影とビデオ撮影  4 おとり捜査  5 強制採尿  6 職務質問  7 接見交通  8 起訴状  9 訴因変更  10 証拠開示  11 自白法則  12 伝聞法則  13 違法収集証拠排除法則  14 裁判員制度  15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40122001 |
| 科目名        | 国際人権法 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Human Rights Law  |       |           |
| 担当者名       | 西片 聡哉   | 旧科目名称 | 国際法特別講義   |
| 講義概要       | 人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本であり、今後もおそらく変わらないであろう。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の1つとなり、国連の60年を超える活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本における人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第1部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第2部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。        |       |           |
| 教材（テキスト）   | 芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、2008年）2500円 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、1988年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法（第3版）』（日本評論社、2009年） 畑 博行・水上千之編『国際人権法概論（第4版）』（有信堂、2006年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック 国際人権法』（日本評論社、2006年）  【条約集】 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、2009年） 杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集（第3版）』（東信堂、2006年）  |       |           |
| 教材（その他）    | 世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。  |       |           |
| 評価方法       | 2回目以降毎回行う小テスト60点、レポート40点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。   |       |           |
| 到達目標       | 1. 国際人権保障の意義と限界を理解する。 2. 人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 3. 日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。  |       |           |
| 準備学習       | 日本国内や世界で発生する国際問題に関心を持ち、国際法の観点から考えてみよう。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 六法を必ず持参すること。 2. 講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 3. 講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1部 国際人権保障の仕組み 1. 受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開  2. 国際人権保障の理念と特徴  3. 国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するDVD鑑賞も行う）  4. 人権条約の実施措置（1）－普遍的人権条約  5. 人権条約の実施措置（2）－地域的人権条約  6. 個人の国際刑事責任（1）－国際犯罪の成立と展開  7. 個人の国際刑事責任（2）－国際刑事裁判所の活動 第2部 日本における国際人権法の実施 8. 総論、国籍  9. 一般外国人の処遇、犯罪人引渡  10. 難民の保護  11. 刑事施設における被拘禁者の処遇  12. 少数者の権利  13. 社会権の保障  14. 私人間における差別撤廃  15. 戦後補償  *進度により若干の変更がありうる |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40123001 |
| 科目名        | 労働法Ⅲ 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Labour Law III   |       |           |
| 担当者名       | 柏崎 洋美  | 旧科目名称 | 労働法特別講義   |
| 講義概要       | 本講義では、労働法の領域のうち、集団的労働法を学んでいく。労使関係における制度および法的枠組み、並びに、法的問題について考察する。労働組合の結成から、その組織を維持・運営していくための様々の活動、使用者との労働条件をめぐる団体交渉、場合によっては争議行為をへて、労働協約の締結にいたるまでの過程を考察対象とする。  本講義は科目名「労働法」または「労働法Ⅰ」および「労働法Ⅱ」の履修が前提となる。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 浅倉むつ子ほか『労働法〔第4版〕』（有斐閣、2011年）2400円＋税、および、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第8版〕」（有斐閣、2009年）2476円＋税   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 菅野和夫『労働法〔第10版〕』（弘文堂、2012年）価格未定   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜レジュメを配布する（原則1回のみ）。   |       |           |
| 評価方法       | 出席を前提に、期末の試験(80%)および授業内小テスト等（20%）で評価する予定である。   |       |           |
| 到達目標       | 社会人として求められる労働法の基礎知識（とくに労働組合法）を判例等も踏まえたうえで理解すること。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に、参考文献等を指摘したうえで、次回講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。  また、講義時のマナーが守れない場合には、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 講義の進め方・その他諸注意 第2回 労働法とは 集団的労働法の概観  第3回 労働基本権  第4回 労働組合の結成および運営（1） 第5回 労働組合の結成および運営（2）  第6回 組合活動 第7回 団体交渉 第8回 労働協約（1） 第9回 労働協約（2） 第10回 争議行為 第11回 使用者の争議行為（ロック・アウト） 第12回 不当労働行為およびその救済（1） 第13回 不当労働行為およびその救済（2） 第14回 最近の集団的労働法をめぐる諸問題 第15回 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40133001 |
| 科目名        | 有価証券法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Negotiable Instruments Law   |       |           |
| 担当者名       | 小野里 光広   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 有価証券の典型である手形・小切手は、商取引における支払又は信用供与の手段として、現代の企業活動に重要な役割を果たしている。この講義では、手形・小切手の基礎的な知識を身につけるとともに、現実のビジネス社会において手形・小切手がどのように利用されているのかを学んでいく。 手形・小切手を扱うのは人（自然人・法人）であるため、民法Ⅰ（民法総則）の内容を理解していることが、手形法・小切手法を学ぶうえで助けとなる。また、手形・小切手を用いているのは主として企業であるため、金融取引の総論となる民法Ⅳ（債権総論）や、会社法Ⅰ・Ⅱをあわせて受講することが望ましい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 早川徹『基本講義 手形・小切手法』（新世社、2007年）。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 小塚荘一郎・森田果『支払決済法』（商事法務、2010年）   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜プリントなどを配布する。六法必携。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（10%）出席状況等による。定期テスト（90%）。   |       |           |
| 到達目標       | 手形・小切手に関わる基礎知識を身につけ、ビジネス社会における手形・小切手の利用方法をイメージできるようにすることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 新聞等のメディアにおいて経済問題に注目し、関心を持っておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ①民法Ⅰ（民法総則）を履修済みであること。 ②民法Ⅳ（債権総論）、会社法Ⅰ・Ⅱの履修が望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 有価証券とは何か   2. 手形・小切手の意義と経済的機能   3. 手形行為の意義と特性   4. 手形行為の成立要件、有効要件   5. 無権代理と偽造   6. 振出、白地手形   7. 裏書   8. 手形取得者の保護   9. 手形の支払   10. 遡求   11. 手形保証   12. 手形訴訟   13. 為替手形   14. 小切手   15. 電子記録債権   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40134001 |
| 科目名   | 金融取引実務と民商法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Financial Transaction Business and Commercial Law   |       |           |
| 担当者名  | 渡邊 博己   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 銀行など金融機関で、日常的に行われている預金取引・融資取引などの実際を素材にして、民法・商法等の規定が、どのように活かされているかを検討する。あわせて、振り込み詐欺等による預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件の発生、金融機関窓口での金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に、金融機関実務が、どのような対応を図ろうとしているかを、現場の動きを可能な限りフォローしながら考えていきたいと思います。  民法・商法などの法律になじみのない方もおられると思いますので、入門的な解説は必要に応じ行っていくことを予定しております。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | レジュメ資料配付予定  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 階猛・渡邊雅之「銀行の法律知識<第2版>」（日経文庫）   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | レポート(100%)  |       |           |
| 到達目標  | 1 金融機関の日常業務である預金取引・融資取引などにおいて、民法・商法等の規定が、どのように活かされているかを理解する。  2 預金口座の不正利用の問題など社会問題になっている事件、金融機関窓口での金融商品販売をめぐる問題など、日々発生する諸問題に、金融機関実務が、どのような対応を図ろうとしているかを知る。  3 金融機関実務、金融取引実務に関心を持つ。  |       |           |
| 準備学習  | 講義の予定テーマに関しては、日本経済新聞等で報道されていることも多いので、これらの話題について関心を持って講義に望む。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 講義には必ず出席し、講義で取り上げた個所について、参考書等で内容確認を行い、確実な知識を身につけるようにしていただきたい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 金融機関の機能と役割・金融監督  2 金融機関取引とその相手方  3 金融商品の販売①（法規制の概要）  4 金融商品の販売②（ルールの適用と問題点）  5 預金取引①（預金取引開始にあたっての本人確認）  6 預金取引②（預金契約の成立）  7 預金取引③（盗難通帳による預金の払戻し、偽造・盗難カード、インターネットバンキングのなりすまし事例など）  8 預金取引④（預金の相続）  9 決済システム①（手形・小切手の支払い、内国為替の仕組み）  10 決済システム②（誤振込・振り込み詐欺の問題、電子マネーなど）  11 融資取引①（基本的な仕組み、融資判断における取締役の責任など）  12 融資取引②（担保・保証）  13 貸出金の回収①（基本）  14 貸出金の回収②（いくつかの事例の研究）  15 金融取引実務とコンプライアンス（疑わしい取引の届出制度など） |   |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待         | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T40136001 |
| 科目名       | 現代日本政治 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Modern Japanese Politics   |       |           |
| 担当者名      | 服部 聡   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣 2003年）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 筆記試験による。   |       |           |
| 到達目標      | 日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。  |       |           |
| 準備学習      | 可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。   |       |           |

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
| 受講者への要望    | 現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。   |  |  |
| 講義の順序とポイント | <p>1 明治憲法体制から新憲法体制へ 戦後日本政治の特徴について   2 国会と立法過程 立法過程の特徴とその問題について   3 国会と予算成立過程 予算成立過程とその問題について   4 官僚制 日本における官僚制の特徴について   5 政治家・官僚・財界 日本政治における癒着の問題について   6 日本の政党 1 各政党の特徴について   7 日本の政党 2   8 選挙 1 選挙制度とその特徴について   9 選挙 2   10 地方自治 1 日本における地方自治の歴史とその現状について   11 地方自治 2   12 政治とマス・メディア 政治とマス・メディアの関係について   13 日本と国際政治 戦後日本の外交政策とその課題について   14 福祉政策 福祉政策の現状とその問題点について   15 まとめ</p> |  |  |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |   |       |           |
|-----------|---|-------|-----------|
| 年度        | 2012  | 授業コード | T40137001 |
| 科目名       | 外交史 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Diplomatic History  |       |           |
| 担当者名      | 服部 聡  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 入江昭『日本の外交』（中公新書）  |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法      | 筆記試験による。  |       |           |
| 到達目標      | 日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。  |       |           |
| 準備学習      | テキストをよく読んでおくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。

#### 講義の順序とポイント

1 外交とは 外交の歴史と基本的な仕組みについて | 2 様々な国際秩序 様々な国際秩序について | 3 開国と近代化 江戸時代の特徴と開国以後の日本について | 4 日清戦争とその意味 日清戦争の意味について | 5 日露戦争とその意味 日露戦争の意味について | 6 欧米との対等化の達成 日露戦争後の日本外交と条約改正について | 7 第一次世界大戦 第一次世界大戦と日本の対応 | 8 ベルサイユ体制の成立 ベルサイユ体制の成立とその実態について | 9 ワシントン体制の成立 ワシントン体制の成立とその実態について | 10 満州事変と満州国建国 満州事変の原因とその結果について | 11 華北分離工作と日中戦争 日中戦争の原因とその展開 | 12 太平洋戦争 太平洋戦争の原因とその展開について | 13 敗戦と占領 アメリカの対日占領政策について | 14 戦後日本の再出発 戦後日本外交の展開について | 15 まとめ

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40155B01 |
| 科目名        | 行政書士実務論B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practice of Administrative Scriveners B  |       |           |
| 担当者名       | 三木 常照  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>行政書士の機能と機能障害を中心にその役割を検討する。具体的業務の紹介を交えながら、実際に権利・義務に関する相続・遺言や会社の設立、建設業許可から入札参加資格審査などの申請書類を作成し、その根拠法を探る。また、許認可手続と不可分な関係にある行政手続法では、許可取消、営業停止などの不利益処分時に行われる聴聞や弁明手続に行政書士が聴聞代理人となり得るが、その点も併せて、検討を加えたい。</p> <p>わが国の法律専門職は細分化しすぎ、それが市民に不便をもたらしている。市民は行政と接触しながら、日常生活を営んでいる。学生の諸君も自動車の運転免許や車庫証明・自動車登録、住民票や戸籍の取得などを経験したことがあると思うが、行政側の所管や縄張りによって日常生活が細分化されていることを望んでいるわけではない。市民にとって今後の行政と法律専門職のあり方を学生諸君と共同討議方式で検討したい。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 三木常照著 『増補改訂版 行政書士の役割』 ふくろう出版 2,100円  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 適宜、指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）出席状況等による。レポート（30%）、定期試験（50%）など多面的評価を行います。  |       |           |
| 到達目標       | 行政書士業務の実際とその機能について理解することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のためのテキスト準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 各講義テーマ毎の学生諸君の積極的な発言を期待しています。但し、私語は厳禁。他の受講生への配慮から退室を求める場合もあります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 法律関連資格者の紹介   2. 行政書士の資格要件   3. 行政書士の目的および業務   4. 行政書士の義務   5. 業務の実際   6. 相続・遺言（書類作成）   7. 法人設立（書類作成）   8. 建設業の許可（書類作成）   9. 入札と談合   10. 鉄の三角同盟   11. 許認可の概要   12. 行政手続法と許認可   13. 行政と市民   14. 行政書士の機能と機能障害   15. 国民視点の規制改革  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T40166A01 |
| 科目名   | 消防と法Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Fire Fighting and Law I   |       |           |
| 担当者名  | 廣瀬 仁久   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>公務員の中でも、住民の生命と財産を守るために、時には我が身の危険を顧みず消火活動や人命救助に当たる消防職員は、一般の事務職員とは異なり阪神淡路大震災以後、大きな注目を浴び、男女を問わずこの職業を目指す若者が増加しています。一方、消防職員の日常業務、災害現場における活動等、その真の姿を理解している方は多くはないと思います。この講義では、消防の仕事を知り、理解することで、将来、消防職員に就こうとする学生諸君の目的意識の向上を図ると共に、身近な防火・防災に関心を持ってもらうこと。併せて職員になるためには何をなすべきか、なしたなら如何にあるべきかを伝えていきます。講義内容は、机上学習の他に、訓練参加、実技、事例研究などを取り入れ、多彩なものとしします。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特に指定しません  |       |           |
| 教材(参考文献)  | その都度、紹介します。   |       |           |
| 教材(その他)   | 必要に応じてプリント等を配布します。  |       |           |
| 評価方法  | 出席状況と、期末レポートによる総合評価   |       |           |
| 到達目標  | 地方公務員である消防職員の仕事と多様化する災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。  |       |           |
| 準備学習  | 現在、地球上では前例のない災害が毎年のように発生しています。このような災害の発生メカニズムから被災者の自立支援にまで関心を持ち、その防災の一端に携わっている消防の活動をテレビや新聞、雑誌等で常に注視しておいて下さい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>消防は、どのような法律を根拠に活動しており、起こりうる災害に対してどのように備えているのか?住民の生命・財産を守る消防職員に興味を持ち、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。なお、「消防と法Ⅰ」は、法令等に基づき消防の業務や今日の災害を知り、その対処の方法などを学び、「消防と法Ⅱ」では、実戦の訓練や図上訓練、防災地図の作成などの他、各種講習会などを体験する実技中心の講義としします。「消防と法Ⅰ」「消防と法Ⅱ」はどちらか一方、または双方の受講が可能です。</p>           |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>1 講時 公務員と消防職員  2 講時 日本における災害の現状  3 講時 消防業務の概要  4 講時 消防の日常業務と現場活動  5 講時 消防組織法  6 講時 消防法   7 講時 その他の消防関係法令  8 講時 消防財政  9 講時 警防業務(火災)  10 講時 火災原因調査  11 講時 警防業務(救助)  12 講時 警防業務(救急)  13 講時 予防業務(学園大学内の建物の査察を実施)  14 講時 予防業務(危険物の知識と防火管理)  15 講時 亀岡消防署消防活動(救助訓練大会: 5月末実施)見学       </p> |   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                    | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T40166B01 |
| 科目名   | 消防と法Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Fire Fighting and Law II   |       |           |
| 担当者名  | 廣瀬 仁久  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 「消防と法Ⅱ」は、実戦訓練や図上訓練、防災地図作成等の他、各種講習会などを体験する消防実技中心の講義です。                              |       |           |
| 教材(テキスト)  | 特に指定しません   |       |           |
| 教材(参考文献)  | その都度、紹介します。  |       |           |
| 教材(その他)   | 必要に応じてプリント等を配布します。   |       |           |
| 評価方法  | 出席状況と、期末レポートによる総合評価  |       |           |
| 到達目標  | 消防職員の仕事と災害を知り、防災に関する知識を高めると共に、目的とする進路へのモチベーションを高め、維持する。                            |       |           |
| 準備学習  | 消防の活動に絶えず関心を持ち、テレビや新聞、雑誌等から消防に対する知識を吸収しておくこと。 また、大学の周辺の地理や地形的特徴などにも関心を持って観察しておくこと。 |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 消防の実践的活動を目にし、また自ら体験し、住民の生命・財産を守る消防職員が実際にどんなことをしているのかを知るなどして、進路を考える上での一助にしてほしい。同時に、現在の公務員の姿、倫理に関心を持ち、厳しく見つめてほしい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 講時 消防活動の概要 2 講時 危機管理と安全管理 3 講時 K Y T(危険予知訓練) 4 講時 普通救命講習受講(1) 5 講時 普通救命講習受講(2) 6 講時 消防署見学と消防体験(亀岡消防署) 7 講時 住民に安心安全を届ける防災指導 8 講時 子供の頃から防災教育を! 9 講時 災害を知り、町を知る(大学周辺の防災調査) 10 講時 地図を読み取る(1) 11 講時 地図を読み取る(2) 12 講時 防災マップの作成 13 講時 DIG(Disaster-災害 Imagination-想像力 Game-ゲーム) = 災害対策  14 講時 防災講演会聴講(11月に実施) 15 講時 現職消防職員の話聞く(財政その他)  ※14 講時は、11月の下旬、「ガレリアかめおか」で行います。 |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |     |       |        |
|--|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T40167001 |     |       |        |
| 科目名  | 少年法 【他】   | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名（英語表記）  | Juvenile Law  |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 阿部 千寿子  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要   | <p>過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小6女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということとを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。  警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。</p> |       |           |     |       |        |
| 教材（テキスト）   | 河村博編『少年法―その動向と実務―』（東京法令出版、改訂版、2009）   |       |           |     |       |        |
| 教材（参考文献）   | 授業の中で必要に応じて紹介する。  |       |           |     |       |        |
| 教材（その他）  | 適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。  |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 学期末試験の結果（80%）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（20%）によって成績を評価する。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになる。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 事前に教科書の関係箇所を読んでおくこと。  新聞やニュースを見て、報道された少年事件の内容を把握しておくこと。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |           |     |       |        |
| この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。  学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |     |       |        |
| 1 少年法とは  2 少年法制の沿革  3 少年法の目的と対象  4 少年保護事件の対象と手続  5 警察による捜査・予防活動（1）  6 警察による捜査・予防活動（2）  7 警察による捜査・予防活動（3）  8 警察における非行防止活動  9 家庭裁判所における事件受理  10 観護措置  11 調査・試験観察   12 少年審判  13 終局決定  14 刑事処分相当による検察官送致決定・刑罰の緩和  15 まとめ |   |       |           |     |       |        |
| 人間力（6つの基礎力）  | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待  |   |       |           |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T40179001 |
| 科目名        | ドイツ近現代の文学 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Modern German Literature  |       |           |
| 担当者名       | 奥村 哲夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 19世紀に入って30年位で、ドイツ理想主義は終息する。哲学ではヘーゲルが観念論体系を完成させた頃である。以降は、技術時代に踏み入った時代の変転の中で文学はその質を大きく変え、現代の我々の文学とかなり相似するものが登場することとなる。  本講では、写実主義、自然主義、反自然主義、表現主義、新即物主義を経て第2次世界大戦の終わる1945年までを主に扱い、それ以降の約半世紀間の「今」に至るまでは、受講生の興味に応じて選択的に取り上げることとする。  それぞれの時期、時代を代表する作家とその作品を具体的に考察してゆく。精彩ある表現の妙を味わうべく、各個別にその作品の何節かを抜粋し、鑑賞と思考の材料を提供していく。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 手塚富雄著 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 660円+税  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 折にふれ紹介する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜、プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験レポート (60%)、授業内テスト・レポート (20%)、出席しての意見発表点等も若干加点。以上はさほど厳密なものではない。  |       |           |
| 到達目標       | 様々な文学表現を楽しみ、自らも表現意欲を高めていくこと。  |       |           |
| 準備学習       | 毎回、テキストの指定された箇所を読んでくることと、そこに出てくるいくつかの作品を読むようにすること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 私的に詩や小説やドラマ等を愛好されている諸君の受講を特に歓迎します。なんでも自由に伸び伸びと意見をかわせる場にしたいと思えます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | (都合により、一部変更もありえます。)  1. 写実主義 : 青年ドイツ派 ハイネ 『歌の本』他  2. 写実主義 : 詩的写実主義 ケラー 『グライフェン湖の代官』  3. 自然主義 : ハウプトマン 『日の出前』他  4. 反自然主義 : 印象主義 ホフマンスタール 『バッソンピエール元帥の体験』他  5. 反自然主義 : 理想主義的文学 : リルケ 『マルテの手記』他  6. 表現主義、新即物主義から1945年まで : カフカ 『変身』  7. 同上 : ヘッセ 『デミアン』  8. 同上 : Th.マン 『トニオ・クレーゲル』  9. 同上 : ブレヒト 『三文オペラ』  10. 第2次大戦後から現在まで ベル 『ある道化の意見』他  11. 同上 : グラス 『ブリキの太鼓』他  12. 同上 : ハントケ 『ゴールキーパーの不安』他  13. 同上 : エンデ 『モモ』  14. 授業内レポート作成  15. レポート講評及び授業総括 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T40211001 |
| 科目名  | 行政法Ⅱ（作用法）【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Administrative Law II (Actions)  |       |           |
| 担当者名   | 木藤 伸一郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の3つの講義で構成される。本講義では、行政作用法の部分と行政の義務履行確保の部分、行政手続、情報公開、個人情報保護を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 櫻井敬子・橋本博之『行政法 [第3版]』弘文堂  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%） 授業内テスト（20%） 平常点（20%）   |       |           |
| 到達目標   | 行政作用のそれぞれの特色を理解するとともに、行政救済法との関係も学ぶ。  |       |           |
| 準備学習   | 次週の講義テーマについて教科書を読む。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。 憲法科目は履修すること。行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずセットで履修すること。 地方自治法も履修することが望ましい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 行政法の学び方と講義の概要   2. 行政作用の種類   3. 行政立法   4. 行政行為の概念と種類   5. 行政裁量   6. 行政行為の効力   7. 行政行為の瑕疵   8. 行政行為の取消しと撤回   9. 行政行為の附款   10. 行政計画   11. 行政契約   12. 行政指導   13. 行政上の強制執行   14. 行政上の即時強制・行政罰   15. まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T40221001 |
| 科目名        | 商法総則・商行為法 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Commercial Code (General Provisions and Commercial Transaction)  |       |           |
| 担当者名       | 原 弘明   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 商法・会社法に代表される商事法の原則を規定する商法総則と、商法第2編(商行為)について講義する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する、会社法総則についても適宜触れる。 民法上の契約は、商人でない者同士のもの(C2C取引)を想定する。これに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為法では、商人間のもの(B2B取引)および商人と消費者のもの(B2C取引)が想定される。これらを、簡単なモデル・ケースを提示しつつ、講義する。                        |       |           |
| 教材（テキスト）   | 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法I-総則・商行為〔第4版〕』（有斐閣、2009年） ※改訂の場合は、改訂版の購入を薦めるが、講義に影響しないよう旧版使用者にも配慮する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 1. 森本滋編『商法総則講義〔第3版〕』（成文堂、2007年） 2. 森本滋編著『商行為法講義〔第3版〕』（成文堂、2009年） 3. 江頭憲治郎=山下友信編『商法(総則・商行為)判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2008年） ※1・2は教科書の類書であり、購入は自由。3は判例集で、なるべく購入してほしいが、必須とはしない。  |       |           |
| 教材（その他）    | 随時、教員作成のレジユメを配布する。 必ず、講義時点で最新の六法を持参すること。   |       |           |
| 評価方法       | 1. 平常点(20%)出席状況等から判断する。 2. 期末試験(80%)   |       |           |
| 到達目標       | 1. 現代社会において、商法がどのように役立っているか、知識を得て法的に理解できる。 2. 商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。   |       |           |
| 準備学習       | 1. 講義前に、講義対象部分のテキストを一読しておくのが望ましい。 2. 余裕がある受講生は、事前に百選の関連判例を一読しておくことよい。 3. どのような社会生活上の問題が商法に関連するのか、信頼できるメディアの情報に気を配ってほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1. 民法総則・契約法を履修済みであるか、並行して受講していること。昨年度までに「商法総則」「商行為各論」の両方の単位を取得した者は、本講義を履修できない。 2. 遅刻・欠席の場合は、正当な理由がなければ平常点に反映させる。 3. 講義の妨げとなる、携帯電話等での通話、私語などの行為は、場合によっては退室させ、平常点に反映させる。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. ガイダンス 2. 商法の意義、商法の法源、商人主義と商行為主義 3. 商人資格とその取得時期 4. 営業・営業譲渡、商号規制 5. 商業帳簿、資産の評価 6. 商業使用人、代理商 7. 商業登記 8. 商法総則のまとめ 9. 商行為概念とその効果 10. 商行為の代理・商事契約の成立 11. 商事担保:債権総論・担保物権の特則 12. 企業取引の補助者(仲立人・問屋)、商事売買 13. 問屋営業・運送営業 14. 場屋営業・倉庫営業 15. 全体を通じた復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            | ○   |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50003A01 |
| 科目名        | アートギャラリー実習Ⅰ【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名(英語表記)  | Practical Art Gallery I   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>この授業は美術家の藤阪新吾と社会学者の岡崎宏樹が共同で担当します。授業のねらいは「生きた社会としての展覧会」を共に制作する経験を通じて、社会性と感性を育むことにあります。  アート (art) は、絵画や彫刻、写真や映像といった作品として具現化されますが、たんなるモノをつくる活動ではありません。アートとは、作品とその制作を通じて、社会的な場や状況それ自体を美的・感性的 (aesthetic) に問いかけるものです。キレイなモノではない美しいモノゴトとしての人と人の交流=交感、言いかえれば「社会美」という関係性をめぐる活動でもあります。  こうした観点をふまえ、「アートギャラリー実習」は、日常における美的・感性的認識とその社会的な意義への理解を経験的に深めることを目的としています。具体的には、アートについての画像・映像を用いたレクチャー、フィールドワークによる現場リサーチ、さまざまな実材を用いたワークショップと作品制作、ゲスト (アーティスト/建築家) を招いた授業などをおこないます。そして、授業の総仕上げとして「展覧会」を協働して制作します。  J.ボイスは、「すべての人間は芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして彫塑 (造形) される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。  よって、この授業では、個人の作品制作だけでなく、「小さな社会」としての授業その自体を重視します。授業に関係するさまざまな人たち (教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者) との関わり合いを通じて、展覧会を共に作りあげることを自覚し、「生きた社会としての展覧会」を協働制作することをめざします。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (60%) : 出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。  作品 (30%)。レポート (10%)。  |       |           |
| 到達目標       | アートワークの体験を通じて、日常における美的・感性的 (aesthetic) なものごとの味わい (taste) とその社会的意義への理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 準備学習は授業ごとに提示します : 下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など   |       |           |
| 受講者への要望    | <p>・この授業は、授業は特殊なスケジュールで行われることをよくふまえたうえで受講してください。 ・今年度の展覧会は、2012年11月30日 (金)・12月1日 (土)・12月2日 (日) の3日間を予定しています。展覧会期間中の会場運営は授業の一環ですので、かならず参加してください。 ・通常授業は金曜日4時間目ですが、展覧会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日/日曜日などに振り替える場合があります。 ・「フィールドワーク」や会場での作品の制作・展示は、4・5時間目の2コマとなります (代わりに他の授業日が休講になります)。 ・この授業は、個人的な作品制作だけでなく、展覧会の関係者と共に、受講者全員が協働して「展覧会」を制作するものです。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。 ・学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。 ・春学期の集中講義 (8月)「現代アートへの招待」を受講することが望ましい。</p>   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション   2. ワークショップ   3・4. フィールドワーク (学外学習) *    5. 作品構想のプレゼンテーション①    6. 作品構想のプレゼンテーション②    7・8. 会場の美化と作品の準備・制作 (学外現場学習) *    9・10. 作品の展示 (学外現場学習) *   11・12. 展覧会プレオープン (学外現場学習) 【11/30 (金)】 *    13. 展覧会初日 (学外現場学習) 【12/1 (土)】    14. 展覧会2日目 (学外現場学習) 【12/2 (日)】    15. 振り返り : プレゼンテーション③   * 4・5時間目の2コマとなり、他の授業日が休講になります。</p>  |       |           |

|              |            |     |     |     |       |        |
|--------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50011002 |
| 科目名        | アニメ文化論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Anime Cultures  |       |           |
| 担当者名       | 有吉 未充   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、特にスタジオ・ジブリへの道筋に焦点をあてて、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特定の教科書は使用しない。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント配布、ビデオなどの副教材を使用。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40％）出席状況等による。レポート（60％）  |       |           |
| 到達目標       | アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得すること。   |       |           |
| 準備学習       | 現代社会におけるアニメの影響を意識し、なるべく多様な作品を見るようにつとめること。   |       |           |
| 受講者への要望    | 映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。課題レポートは必ず提出すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1、アニメーションとは何か 2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1） 3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2） 4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3） 5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4） 6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法） 7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法） 8、アニメーションの様々な技法（3）（CG、その他の技法） 9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ 10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立 11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展 12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・1970年以降 13、日本のアニメーションの歴史（5）人形アニメーション・日本アニメのもう一つの顔 14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ 15、日本のアニメーションの歴史（7）アニメの現在から未来へ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50026A01 |
| 科目名        | コミュニケーション社会学A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Communication A  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。  コミュニケーション社会学 A のサブテーマは「コードの理論」。コード（または記号）は、何かを表わす何かと定義できる。人々のコミュニケーションの多くはコードを介して行なわれ、社会はさまざまな面でコードの影響を受ける。人々が使うコードは、必ずしもそれと意識して使われるわけではないので、いらぬ固定観念を生んだり、社会問題につながったりする。講義では、ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて、こうしたコードと社会とのかかわりを論じる。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会的に分析するという方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>《イントロダクション》 1. 講義概要、予備知識 《記号論》 2. 記号 3. デノテーションとコノテーション 4. ファッション 5. ワーディング 6. パンクのコノテーション  《二元論》 7. 二元論 8. 二元論批判 9. 国語教育というコミュニケーション 10. 物語 11. 景観  《ラベリング》 12. ラベリング 13. 期待  《まとめ》 14. 復習と補足 15. 全体のまとめ</p>  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50026B01 |
| 科目名        | コミュニケーション社会学B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Communication B  |       |           |
| 担当者名       | 岡本 裕介   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。  コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なつたという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（講義中に配付する）。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に指示する。   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を使用する。   |       |           |
| 評価方法       | 授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。   |       |           |
| 到達目標       | 日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会的に分析するという方法を理解すること。  |       |           |
| 準備学習       | ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>《イントロダクション》 1. 講義概要、予備知識 《現代人の相互行為》 2. 都市のストレンジャー(1) 3. 都市のストレンジャー(2) 4. 相互行為儀礼 5. ぼかし表現 《大衆社会のコミュニケーション》 6. 大衆と中間集団 7. 大衆の社会心理 8. 「盗撮ソング」論 《応用問題——郊外とメディア》 9. 郊外(1) 10. 郊外(2) 11. ネット社会 12. ソーシャルメディア 13. 流言 《まとめ》 14. 復習と補足 15. 全体のまとめ</p>   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T50036A01 |
| 科目名       | ジャーナリズム論A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Journalism A   |       |           |
| 担当者名      | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)   |       |           |
| 教材(参考文献)  | その時々授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法      | プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的に授業に出席してください。就職の際にも役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(20%)、期末(期間外)試験(50%)です。  |       |           |
| 到達目標      | ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際になりに役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けられるわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います   |       |           |
| 準備学習      | 授業では新聞やテレビで報道されているその時々ニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るため、出来るだけニュースをよく読み、よく見ておいてほしいと思います。  |       |           |

受講者への要望

講義者は32年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。| このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論A・B」(福永担当)を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1 ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義| 2 民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由| 3 新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容| 4 発表ジャーナリズムとメディア・スクラム(集団的過熱取材)の罪| 5 「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道| 6 坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任| 7 「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断| 8 社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道| 9 「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分| 10 全国紙も報じた死者の尊厳を冒瀆する「東電女性社員殺人事件」報道| 11 メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報保護| 12 週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害| 13 「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由| 14 「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表| 15 ジャーナリストを志す学生諸君のために|

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50036B01 |
| 科目名        | ジャーナリズム論B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Journalism B   |       |           |
| 担当者名       | 福永 勝也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知るとは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思えます。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『衰退するジャーナリズム—岐路に立つマス・メディアの諸相』(福永勝也著・ミネルヴァ書房)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニュース映像を見てもらいます。  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | <p>ともかく、授業に積極的に出席して、ジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(20%)、期末(期間外)試験(50%)です。    </p>  |       |           |
| 到達目標       | <p>最終的には卓越した社会常識や情報感覚を養うことですが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。</p>   |       |           |
| 準備学習       | <p>授業ではジャーナリズム理論だけではなく、その時々々のニュース報道を分析、解説するので、日頃から新聞やテレビのニュースをよく見ておいてください。</p>   |       |           |

#### 受講者への要望

ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。| この科目を受講する学生諸君には、教科書と一緒に全学共通の関連科目「マスコミ論A・B」を是非とも受講することを薦めます。||

#### 講義の順序とポイント

1 「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象| 2 放送の自律性の危機—「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか| 3 「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性| 4 メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか| 5 「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作| 6 「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム| 7 欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ| 8 当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態| 9 戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇| 10 戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”| 11 情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か| 12 「朝まで生テレビ」(テレビ朝日)に常連出演する“知性の人々”| 13 「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義| 14 論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム| 15 大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育|

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50044001 |
| 科目名  | スタジオ放送実習 【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Studio Broadcasting   |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが“コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 教材プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。実習及び作品評価点（70%）   |       |           |
| 到達目標   | 本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 春学期 ①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②ラジオ副調整室の音響機器操作  ③ラジオ番組の企画・構成、選曲  ④ 同 ⑤ラジオ番組放送・リハーサル  ⑥ 同 ⑦～⑭ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか)  ⑮実習ラジオ作品の審査と合評   秋学期 ①テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②テレビスタジオの映像・音声機器操作  ③「ニュースワイド」番組の企画・構成  ④ 同 ⑤～⑦「ニュースワイド」のニュース映像取材 ⑧～⑪「ニュースワイド」のニュース映像編集作業 ⑫テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル  ⑬テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番（校内放送ほか） ⑭ 同 ⑮実習テレビ作品の審査と合評  協働概要 ・学生と市民との共同企画会議 ・学生・市民による共同取材、制作 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50044002 |
| 科目名  | スタジオ放送実習 【他】  | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Studio Broadcasting   |       |           |
| 担当者名   | 近藤 晴夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが“コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | 教材プリントを随時配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席状況等による。実習及び作品評価点（70%）   |       |           |
| 到達目標   | 本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 春学期 ①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②ラジオ副調整室の音響機器操作  ③ラジオ番組の企画・構成、選曲  ④ 同 ⑤ラジオ番組放送・リハーサル  ⑥ 同 ⑦～⑭ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか)  ⑮実習ラジオ作品の審査と合評   秋学期 ①テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成  ②テレビスタジオの映像・音声機器操作  ③「ニュースワイド」番組の企画・構成  ④ 同 ⑤～⑦「ニュースワイド」のニュース映像取材 ⑧～⑩「ニュースワイド」のニュース映像編集作業 ⑫テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル  ⑬テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番（校内放送ほか） ⑭ 同 ⑮実習テレビ作品の審査と合評  協働概要 ・学生と市民との共同企画会議 ・学生・市民による共同取材、制作 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50047001 |
| 科目名        | テレビ放送論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of TV-Broadcasting  |       |           |
| 担当者名       | 近藤 晴夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多様な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、NHKと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化をもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年12月頃に開催される「全日本CM大賞入賞作品発表会」の鑑賞を通じて学ぶ。 </p>         |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教材プリントを随時配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 北川泰三著『新版・テレビ映像論』（2000年版）比叡書房 2500円 ビデオ教材を使用する  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。  |       |           |
| 準備学習       | 日常的にテレビ放送に関心を持ち、問題意識をもって視聴すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「ACC全日本CM大賞入賞作品発表会」見学実習（12月頃、於KBSホール）の入場料（300円）が必要。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>秋学期  1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題 2. テレビ放送の定義 人間の拡張－マクルーハンの世界 媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命  3. テレビ放送の機能 マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－  4. 報道番組の役割① 情報伝達－真実の報道 その1－  5. 報道番組の役割② 情報伝達－真実の報道 その2－  6. 報道番組の役割③ 情報伝達－真実の報道 その3－  7. 報道番組の役割④ 環境監視－権力監視－  8. 報道番組の役割⑤ 世論形成－民意の代弁－  9. テレビ放送の潜在的機能① 印象化－イメージ付け－  10.学外学習 全日本CMフェスティバル入賞作品鑑賞会  11. テレビ放送の潜在的機能② 慢性化－感覚の麻痺－  12.テレビ放送の潜在的機能③ 娯楽化－衝撃の期待－  13.テレビ放送の潜在的機能④ 画一化－模倣と流行－  14.テレビ放送の潜在的機能⑤ 行動化－感性与理性の二極化－ 15.まとめ   </p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50068001 |
| 科目名        | ポップ・ミュージック論【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Study of Popular Music   |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>本講義では、ポピュラー音楽という文化を表現者（人間）と社会（制度）の両面から考察する。前半では、英米世界で人気を博するポピュラー音楽（ロック、レゲエ、ファンク、ラップなど）をとりあげ、これらを音楽表現と社会的コンテクストの両面から考察する。後半では、これら英米の音楽の影響を受けて展開する日本のポピュラー音楽をとりあげて論じる。表現者にかんしては、ライフヒストリー、作品、パフォーマンス、インタビュー等に着目し、社会的コンテクストにかんしては、メディア、若者文化、音楽産業、エスニシティ等を考察する。以上をつうじて、音楽文化を理解するための「パースペクティブ（視座）」を学ぶことをめざす。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50点）、レポート（50点）   |       |           |
| 到達目標       | 音楽文化を考えるための「視点」を学びとること   |       |           |
| 準備学習       | 授業でとりあげるアーティストの作品を授業前／後によく聴くこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業では音楽教材を扱うので、私語は厳禁です。授業内に書くショートエッセイによって平常点を判断します。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. イントロダクション  2. 英米のポピュラー音楽(1):エルヴィス・プレスリーのロックンロール  3. 英米のポピュラー音楽(2):ビートルズのロック①  4. 英米のポピュラー音楽(3):ビートルズのロック②  5. 英米のポピュラー音楽(4):ブルースとジミ・ヘンドリックス  6. 英米のポピュラー音楽(5):セックス・ピストルズのパンク  7. 英米のポピュラー音楽(6):ボブ・マーリーのレゲエ  8. 英米のポピュラー音楽(7):ヒップ・ホップの誕生  9. 英米のポピュラー音楽(8):マイケル・ジャクソンの表現①  10. 英米のポピュラー音楽(9):マイケル・ジャクソンの表現②  11. 英米のポピュラー音楽のリズム:ジャズ、R &amp; B、ファンク  12. 日本のポピュラー音楽(1):日本語のロック①  13. 日本のポピュラー音楽(2):日本語のロック②  14. 日本のポピュラー音楽(3):歌謡曲からJポップへ  15. 音楽ビジネス論、まとめ</p> |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50086001 |
| 科目名        | マルチメディア論 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | The Study of Multi-Media Society   |       |           |
| 担当者名       | 関口 久雄  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>「メディア（media）」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。   本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会における新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考えていく。 </p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 必要に応じてプリント等を配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 水越伸『メディア・ピオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005  関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント、映像教材他。  |       |           |
| 評価方法       | 定期テスト（100%）。   |       |           |
| 到達目標       | 「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー）」を考える。   |       |           |
| 準備学習       | 自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 講義内で紹介する文献/web サイト等を自分の関心に応じて復習する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 主体的に参加することを望む。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>01 オリエンテーション  02 メディアとは《その1》  03 文字メディア《その1》  04 文字メディア《その2》  05 映像メディア《その1》  06 映像メディア《その2》  07 音メディア《その1》  08 音メディア《その2》  09 コンピュータというメディア《その1》  10 コンピュータというメディア《その2》  11 コンピュータというメディア《その3》  12 ラジオとテレビ《その1》  13 ラジオとテレビ《その2》  14 ラジオとテレビ《その3》  15 ゲームというメディア  16 電話というメディア  17 メディアとは《その2》  18 intermission メディア関連作品上映会  19 社会とコンピュータ《その1》  20 メディアと表現《その1》  21 メディアと表現《その2》  22 メディアと表現《その3》  23 社会とコンピュータ《その2》  24 メディアと教育《その1》  25 メディアと教育《その2》  26 社会とコンピュータ《その3》  27 メディアで遊ぶ《その1》  28 メディアで遊ぶ《その2》  29 メディアとは《その3》  30 まとめ  ※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意ください。</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50096001 |
| 科目名   | メディア・リテラシー 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Media Literacy  |       |           |
| 担当者名  | 畑 律江  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 今や私たちが現実だと思っていることの大半は、実は新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどのメディアから得た知識である。「メディアが現実を構成している」とも言える現代では、この世界を生きていく上で「メディア・リテラシー」の力が欠かせないものとなっている。この講義は、「メディア・リテラシー」の意味と意義を理解し、その能力を身につけることを狙いとする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に使用しない。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 随時指示する。   |       |           |
| 教材（その他）   | 必要に応じてプリントを配布。ビデオ、DVDなどの視聴覚資料を用いることもある。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況、時間内の発表、提出物などの総合評価）が 60%、最終日の午後に行うレポート作成が 40%   |       |           |
| 到達目標  | 日本のメディアの現状や課題を知った上で、メディアに見られるさまざまな表現を分析・評価し、メディアから流れてくる情報をクリティカルに読み解く習慣を身につける。それと同時に、メディアを通して自身の考えを発信し、多様なコミュニケーションを創り出していくことの重要性を理解する。   |       |           |
| 準備学習  | 現在のメディアについて疑問や関心を持って接しておくこと、未来のメディアのあり方などについて、自分なりに考えを深めておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 日ごろから新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなどのメディアに積極的に接し、メディアに対する問題意識を持つように心掛けておいてください。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに～メディア・リテラシーへの扉 </li> <li>・メディア・リテラシー教育の歩みと多様な試み </li> <li>・映像とBGMの効果 </li> <li>・メディアの中の暴力表現 </li> <li>・ワイドショーの表現とメディアスクラム </li> <li>・新聞の表現形式 </li> <li>・メディアに描かれるマイノリティー市民 </li> <li>・ジェンダーとメディア </li> <li>・演説とプロパガンダ </li> <li>・漫画、アニメーション作品を読み解く </li> <li>・広告表現と視聴率をめぐって </li> <li>・インターネットと既存メディア </li> <li>・携帯電話による束縛とサイバーリテラシー </li> <li>・男性雑誌と女性雑誌 </li> <li>・雑誌のテーマを分析する   以上のようなテーマのほか、時事的な話題に触れることがある。必要に応じて内容を省略したり、順序を入れ替えることもある。   </li> </ul> |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50124001 |
| 科目名        | ヨーロッパ文化 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | European Culture   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | ヨーロッパには多くの国があり、それぞれの文化をもっています。各国は他国の文化を取り入れつつ、自国の文化を大切にしています。多文化社会の中で自分のアイデンティティーを失わないで共に生きるコツを教えます。イギリス、ドイツ、スペイン、イタリア、ベルギー、スイスの文化の話も致します。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要なヨーロッパ文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. ヨーロッパの名前について 3. ヨーロッパの中で生きるために 4. ヨーロッパの言葉 5. ヨーロッパの国々と自分の国 6. フランスの文化 7. フランスの歴史 8. フランスの日常生活 9. お隣の国イギリス 10. お隣の国ドイツ 11. お隣の国スペイン 12. お隣の国イタリア 13. お隣の国ベルギーとスイス 14. 日常生活の中で生まれる平和 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50134001 |
| 科目名        | おいしいフランス語 【他】 【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Delicious French Language and Culture  |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 日常生活において基本的に大切なのは、コミュニケーションとしての言葉の使い方と食事です。この講義の目的は、フランス語のやさしい会話をしながら、家庭料理、宮廷料理のレシピを紹介することです。これは、他では聞けない京都学園限定の講義です。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    | プリント   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%  |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なフランス語の知識と学び方およびフランス文化を身につけ、現代社会に必要なフランス語力とヨーロッパ文化の基礎を習得する。  |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. あいさつ 3. フランスの「いただきます」と「ごちそうさま」 4. 好き嫌いが言えるように 5. 朝のお食事(1) 6. 朝のお食事(2) 7. お昼のお食事(1) 8. お昼のお食事(2) 9. フランスのお弁当 10. 夜のお食事(1) 11. 夜のお食事(2) 12. お菓子—一般家庭と宮殿 13. お食事のときの飾り 14. お客さんを招くとき 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50135A01 |
| 科目名        | かな文字基礎講読A 【他】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Basic Seminar on Japanese-Kana Character A  |       |           |
| 担当者名       | 竹島 一希   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字(字形)しか存在しない。「あ」という音を、「あ(安)」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、一つの音は多くの字形によって書かれた(変体仮名)。「阿・愛・垂・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体(くずし字)が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材(テキスト)に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。春学期は『伊勢物語』を中心に購読する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』(淡交社・2006年) 児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版・1993年)  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子校注『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』(新編日本古典文学全集12・1994年)  |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 授業への参加態度80%+期末テスト20%=100%   |       |           |
| 到達目標       | くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 教材(テキスト)を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。  |       |           |
| 受講者への要望    | 秋学期開講の「かな文字基礎講読B」を続けて受講することが望ましい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1 オリエンテーション/遠州本第一〇六段 2 遠州本第四九段 3 遠州本初段前半 4 遠州本初段後半 5 遠州本第四段前半 6 遠州本第四段後半 7 嵯峨本第九段前半 8 嵯峨本第九段後半 9 嵯峨本第二三段前半 10 嵯峨本第二三段後半 11 真界本第六九段 12 真界本第八二段 13 真界本第八四段 14 真界本第一二三段・一二五段 15 試験</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                      |  |       |           |
|--------------------------------------|--|-------|-----------|
| 年度                                   | 2012   | 授業コード | T50135B01 |
| 科目名                                  | かな文字基礎講読B 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)                            | Basic Seminar on Japanese-Kana Character B   |       |           |
| 担当者名                                 | 竹島 一希  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要                                 | <p>仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字(字形)しか存在しない。「あ」という音を、「あ(安)」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、ある音は多くの字形によって書かれた(変体仮名)。「阿・愛・亜・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体(くずし字)が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材(テキスト)に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。秋学期は和歌を中心に購読する。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)                             | 兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』(淡交社・2006年) 児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版・1993年)   |       |           |
| 教材(参考文献)                             | 小島憲之・新井栄蔵校注『古今和歌集』(新日本古典文学大系5・1989年) 田中裕・赤瀬信吾校注『新古今和歌集』(新日本古典文学大系11・1992年)   |       |           |
| 教材(その他)                              |  |       |           |
| 評価方法                                 | 授業への参加態度80%+期末テスト20%=100%  |       |           |
| 到達目標                                 | くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。   |       |           |
| 準備学習                                 | 教材(テキスト)を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。   |       |           |
| 受講者への要望                              |  |       |           |
| 春学期開講の「かな文字基礎講読A」から引き続いて受講することが望ましい。 |  |       |           |
| 講義の順序とポイント                           | <p>1 オリエンテーション/八代集抄 古今集夏歌 2 八代集抄 古今集恋歌二 3 八代集抄 古今集仮名序 4 八代集抄 春歌上 5 二十一代集 古今集恋歌二 6 二十一代集 古今集雑歌下 7 二十一代集 古今集秋歌上 8 二十一代集 古今集羈旅歌 9 二十一代集 新古今集春歌上 10 二十一代集 新古今集秋歌上 11 新古今集(伝為相筆) 哀傷歌 12 新古今集(伝為相筆) 恋歌五 13 新古今集(伝為相筆) 雑歌下 14 新古今集(伝為相筆) 神祇歌 15 試験</p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |     |       |        |
|---|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50148001 |     |       |        |
| 科目名   | 映像文化論 【他】   | 単位数   | 4         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)  | Theory of Video Culture   |       |           |     |       |        |
| 担当者名  | 深井 勉  | 旧科目名称 |           |     |       |        |
| 講義概要  | リュミエール兄弟のシネマトグラフの上映 (1895 年) で始まった映像文化は、20 世紀の映画とテレビによって大きく開花した。 初期映画時代から今日に至るまで、多くの映画監督や放送人によって制作されたドラマやドキュメンタリー、テレビ中継は、国境を越えて人々に感動を与えてきた。それは、「映像」が地球規模での「文化コミュニケーション」を可能にすることを示唆している。 特に、映画監督や映像理論家によって研究された“劇的映像”の表現理論と映画では成し得なかった“テレビ中継”の美的表現理論は、映像作品が“芸術”であり得ることを教え、その表現方法を学ぶことが、即ち「映像文化」を学ぶことになることを教えている。 文化を「人間の生き方」と考えるなら、様々な人間の生き方を記録した映像作品こそ「映像文化」であり、その鑑賞を通して感動を伝える美的映像表現理論を実証的に学ぶと同時に、デジタル時代の 21 世紀の「映像文化」の役割と課題について考察する。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)   | なし、各講義でプリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)   | 北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版) 比叡書房 2500 円   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)  | ビデオ教材を活用する。適宜教材プリントを配布する。   |       |           |     |       |        |
| 評価方法  | 平常点 (30%) 出席状況等による。定期テスト (70%)。   |       |           |     |       |        |
| 到達目標  | 「映像」の歴史をその理論と実際 (作品) から検証することで、21 世紀の「映像文化」の役割と課題を理解する。   |       |           |     |       |        |
| 準備学習  | 様々な映像に接する時は、その表現方法等に常に関心を持って臨むこと。   |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望   |   |       |           |     |       |        |
| 本講義は 2 時間連続で同一テーマを扱うため必ず両時間とも出席すること。出席チェックは厳格に行い不正が判明した際は受講を拒否する場合がある。また、私語は厳禁、過ぎた場合は退室を求めることがある。   |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |     |       |        |
| 1. 映像文化の定義 映像とは「二次元における三次元の再現」  2. 映像の特性 視覚による「具体性」と記録による「再現性、創造性」  3. 映像の歴史① 映像文化の魁「写真」  4. 同 (映像検証)  5. 映像の歴史② 映画の誕生 その 1「銀幕に登場した世紀の映像、シネマトグラフ」  6. 同 (映像検証)  7. 映像の歴史③ 映画の誕生 その 2「劇映画への道」  8. 同 (映像検証)  9. 映像の歴史④ 映画の成長 その 1「ストーリーテラーの監督・グリフィス」  10. 同 (映像検証)  11. 映像の歴史⑤ 映画の成長 その 2「笑いと涙の喜劇王・チャップリン」  12. 同 (映像検証)  13. 映像の歴史⑥ 記録から創作へ「驚異のモンタージュ手法」  14. 同 (映像検証)  15. 映像の歴史⑦ 映画芸術への道「弁証法的編集、コリジョン (衝突)」  16. 同 (映像検証)  17. 映像の手法① トーカーの出現「音と映像によるアクチュアリティ」  18. 同 (映像検証)  19. 映像の手法② シネマスコープの世界「拡大する映像空間の迫力」  S F X・V F Xの世界「新たな映像表現」  20. 同 (映像検証)  21. 映画の形式① ネオリアリズム「映画界のドキュメンタリードラマ」  22. 同 (映像検証)  23. 映画の形式② ヌーベルバーグ「映像表現の常識を打ち破る新しい波」  24. 同 (映像検証)  25. 日本映画の魅力① 「日本映画の誕生と世界のクロサワ」  26. 同 (映像検証)  27. 日本映画の魅力② 「世界をリードするジャパニメーション」  28. 同 (映像検証)  29. テレビの時代 自由に進化する映像表現「テレビ映像とコマーシャル映像」  30. 同 (映像検証) |   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6 つの基礎力)   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待   |   |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。   |   |       |           |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50187A01 |
| 科目名        | 漢文学講読A 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Chinese Writing Study Reading A   |       |           |
| 担当者名       | 中村 健史   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 『論語』の講読を通して、漢文の訓読（書き下しと解釈）を学ぶ。  この授業では、訓読に関する基本的な知識の確認からはじめて、訓点の付された漢文を自在に読める程度にまで進みたい。授業は用意された文章を皆で読む形式を取る。文法や語義を確認しつつ、丁寧に作品を読んでゆく。特に担当者を指名することはしないので、全員が予習をして授業に臨んでほしい。  授業では、内容に沿って、適宜、漢文学や国文学に関する知識を紹介する。分からないこと、疑問に思ったこと、知りたいと思ったことがあれば、積極的に質問してほしい。  日本の文学・言語・文化は、長いあいだにわたり、中国から大きな影響を受けている。また、近代以前の漢文には、東アジアの共通語としての性格もあった。漢文を学ぶことは、内と外から同時に日本をながめるということでもある。興味を持って取り組んでほしい。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。各講義でプリントを配布する。ただし、漢和辞典をかならず用意すること。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし。   |       |           |
| 教材（その他）    | 各自で漢和辞典を用意すること（電子辞書は不可）。漢和辞書については、特に書名を指定することはしないが、新しく購入するのであれば、『角川 新字源』改訂版（角川学芸出版、2400円）を推薦する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%、授業への参加度、予習状況）、授業中に課す簡単なプリント問題（30%、2回程度）、定期テスト（30%）で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 漢文の基本的な語彙、語法（文法）、訓読、解釈、及び関連する知識を習得することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 次回講読する教材を授業中に配布するので、かならず予習し、書き下し文と現代語訳をつくって授業に臨むこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | かならず予習をして授業に出席すること。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1.漢文法の基礎 2.『論語』と孔子 3.伊藤仁斎と『論語』 4.『論語』講読 学問 5.『論語』講読 学問 6.『論語』講読 教育・弟子 7.『論語』講読 教育・弟子 8.『論語』講読 修養・徳 9.『論語』講読 修養・徳 10.『論語』講読 修養・徳 11.『論語』講読 仁・礼楽 12.『論語』講読 仁・礼楽 13.『論語』講読 政治 14.『論語』講読 政治 15.定期テスト  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待          |            |     | ○   |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50187B01 |
| 科目名        | 漢文学講読B 【他】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Chinese Writing Study Reading B  |       |           |
| 担当者名       | 中村 健史  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>頼山陽『日本外史』の講読を通して、漢文の訓読(書き下しと解釈)を学ぶ。  『日本外史』は幕末の儒者・頼山陽が鎌倉～戦国時代の歴史を漢文でつづった書物であり、幕末にひろく読まれた流行書でもあった。授業では、そのうち「豊臣氏」のくだり、すなわち豊臣秀吉の一代記を読む。  この授業では、訓読に関する基本的な知識の確認からはじめて、訓点の付された漢文を自在に読める程度にまで進みたい。授業は用意された文章を皆で読む形式を取る。文法や語義を確認しつつ、丁寧に作品を読んでゆく。特に担当者を指名することはしないので、全員が予習をして授業に臨んでほしい。  授業では、内容に沿って、適宜、漢文学や国文学に関する知識を紹介する。分からないこと、疑問に思ったこと、知りたいと思ったことがあれば、積極的に質問してほしい。  日本の文学・言語・文化は、長いあいだにわたり、中国から大きな影響を受けている。また、近代以前の漢文には、東アジアの共通語としての性格もあった。漢文を学ぶことは、内と外から同時に日本をながめるということでもある。興味を持って取り組んでほしい。</p> |       |           |
| 教材(テキスト)   | 特になし。各講義でプリントを配布する。ただし、漢和辞典をかならず用意すること。  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 特になし。  |       |           |
| 教材(その他)    | 各自で漢和辞典を用意すること(電子辞書は不可)。漢和辞書については、特に書名を指定することはないが、新しく購入するのであれば、『角川 新字源』改訂版(角川学芸出版、2400円)を推薦する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(30%、授業への参加度、予習状況)、授業中に課す簡単なプリント問題(30%、2回程度)、定期テスト(30%)で評価する。   |       |           |
| 到達目標       | 漢文の基本的な語彙、語法(文法)、訓読、解釈、及び関連する知識を習得することを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 次回講読する教材を授業中に配布するので、かならず予習し、書き下し文と現代語訳をつくって授業に臨むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | かならず予習をして授業に出席すること。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1.漢文法の基礎 2.『日本外史』と頼山陽 3.『日本外史』講読 秀吉の出生 4.『日本外史』講読 寺を出る 5.『日本外史』講読 松下家 6.『日本外史』講読 織田家 7.『日本外史』講読 織田信長 8.『日本外史』講読 屏の工事 9.『日本外史』講読 結婚 10.『日本外史』講読 刀の盗難 11.『日本外史』講読 墨俣城 12.『日本外史』講読 墨俣城 13.『日本外史』講読 墨俣城 14.『日本外史』講読 竹中重治 15.定期テスト ※第3回～第14回は講読の授業を行う。なお、内容・順序等は授業の進度に合わせて多少変更する場合がある。</p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T50227001 |
| 科目名   | 現代アートへの招待 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Invitation to Contemporary Art   |       |           |
| 担当者名  | 岡崎 宏樹  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>アート art は本来、生の技法 art であり、私たちに活力を与え、生活をより良くする力を持っています。アートは、道徳の善悪や科学の真偽の枠に収まらず、「感じること」と「考えること」を同時に作動させます。この授業では、「感じること」と「考えること」をともに大切にしつつ、現代アートの魅力とその力の源を探っていきます。  現代アートは「わからない」「難しい」という言い方がよくなされます。他方、現代アートは自由に「感じればいい」という言い方もなされます。この「わかるようなわからないような」、「難しいようなそうでないような」、「自由に感じられるようなそうでないような」ところに、現代アートの独特な味わいがあります。  授業では、現代アートの基礎を解説する講義に加えて、フィールドワークや創作ワークショップ、制作実習などを行い、現代アートを多様な角度から学びます。この総合的な学びによって、何気ない日常のなかに新たな喜びや豊かさを発見できる知性と感性を養うこと。これがこの授業の目標です。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   | 学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（60％）・・・講義、フィールドワーク、ワークショップへの参加を含む レポート及び作品（40％）  |       |           |
| 到達目標  | 現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 本や雑誌、テレビやインターネットをはじめ、アートをめぐるビジュアルとテキストに意識的に触れること。 さまざまなギャラリーや美術館にできるだけ足を運ぶこと。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>* 8月上旬（6～9日）の4日間の集中講義期間を予定しています。 *前半は京町家キャンパスにて、後半は大学（亀岡）にて授業を行う予定です。 *フィールドワークにかかる交通費および施設入場料等は自己負担となります。 *展覧会の会期や現場の事情等によって日時・内容は調整される場合があります。 *本講義の受講者には、秋学期「アートギャラリー実習Ⅰ」を受講することを期待します。  現代アートをより深く感じ、理解するには、受け身で授業を受ける（消費する）だけでは不十分です。情報による固定観念をわきに置いて、アートを積極的かつ意欲的に味わう姿勢によって、味わいもより深いものとなります。このことがわかれば、感覚的にキモチいいこととも、観念的に楽しいこととも異なる「別の快感・喜び」の体験世界が広がることでしょう。</p>                            |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| <p>1. はじめに：アートを味わうために 2. レクチャー①：現代アートとアートの現代 3. フィールドワーク①：街並み・建築・風景 4. レクチャー②：わかるアート／わからないアート 5. レクチャー③：感じるアート／考えるアート 6. フィールドワーク②（ギャラリー・美術館・アートスペース） 7. フィールドワーク③（ギャラリー・美術館・アートスペース） 8. レクチャー④：アートの社会／社会のアート 9. ワークショップ① 10. ワークショップ②  11. レポート制作 12. アート現場実習① 13. アート現場実習② 14. アート現場実習③ 15. まとめ：アートの味わい  *8月6日（月）～9日（木）：4日間の集中講義を予定しています。 *前半（8月6日・7日）は京町家キャンパス、後半（8月7日、8日）は大学（亀岡）で授業を行う予定です。</p> |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50228001 |
| 科目名        | 現代イギリス・アイルランド事情【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Contemporary English and Irish Society   |       |           |
| 担当者名       | 今西 薫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>まず、この授業は教員が一方的に話すのではなく、相互間の話し合いを通して授業を進める。英語がわかる学生がそろえば英語で授業を行う。そろわない場合は、英単語を日本語での授業に入れる。  言葉と文化は密接に結びついています。できるだけ、英語の資料を多く用い、復習を兼ねて毎回、[英語のテスト]を行いますので、英国の文化を知るだけでなく、英語の学習をする気持ちで受講してください。  文化に関して言うと、他の国の文化を知ることは二つの意味で大切です。それは、その国の文化を知ること、そしてもう一つは、日本の文化をより良く理解するためにも他国の文化を知ることが大切なのです。スライド、インターネットなどの情報を駆使して、イギリスの歴史や文化について学習します。まずは、ロンドンが都市として発展した経緯を追い、ロンドンを検証します。また、イギリスのスポーツや美術、文学、演劇、映画、音楽、ファッションなどの流行からお茶やコーヒー文化、イギリス人の日常なども見てみましょう。さらに、アイルランドに関しては、イギリスとの密接な歴史的な関係や、背景を踏まえて、国と国との結びつきの原点を探ってみましょう。  英語を勉強する中で、英語の発祥の国であるイギリス(アイルランド)をすこしずつ理解していく気持ちで受講してください。語彙を増やすために、毎回のテストは主に単語テストとします。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント教材（英語教材も用いる）   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末レポート(50%)、 授業内テスト(30%)、 授業内レポート(20%)   |       |           |
| 到達目標       | 地の国の成り立ちや文化を知るだけでなく、それによって日本のことも相対的に比較できる多角的な価値判断能力の基礎を養う。   |       |           |
| 準備学習       | 常々、海外のニュースなどを興味を持って見たり、読んだりするように努めてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | なにか、自分の興味のある事柄に関して、他の国と日本と比較するようにしてください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 2. 3. ロンドンを中心に、歴史的な観点から大切な場所を、スライド、ネット、動画などで探訪し、その現代的な意義について学ぶ。 4. 5. 6. イギリスのスポーツ、ファッション、音楽などを知る。 7. 8. イギリスの地方都市について 9. イギリス映画について  10. 11. 12. イギリス演劇、ミュージカル、文学などの大衆芸術について 13. イギリスとアイルランドの関係を知る。 14. 15. 民話(英語で)、神話、伝説について </p>  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50240001 |
| 科目名        | 現代社会論 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories on Modern Society  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | この授業では「現代社会と若者」をテーマに社会学の講義をおこなう。若者は現代社会を映し出す鏡であるといわれる。講義では、社会学の諸理論を参照し、現代社会の基本構造を概説するとともに、この社会条件のもとにおかれた若者の生の諸相を考察する。これによって、社会的思考の基礎を学習し、現代の社会・文化を社会的にとらえる方法を習得することが、この授業のねらいである。 |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』（筑摩書房） 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 6 メディア・情報・消費社会』（世界思想社） 井上俊・長谷正人編『文化社会学入門：テーマとツール』（ミネルヴァ書房）  |       |           |
| 教材（その他）    | レジュメや関連資料は授業内にプリント配布する  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）、定期テスト（60%）   |       |           |
| 到達目標       | 自らが置かれた社会的条件を客観的に把握するための知識と方法を習得すること。   |       |           |
| 準備学習       | 新聞やニュースなどから積極的に現代社会の情報を入手すること。 指定した文献などを読んでおくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 「考える」姿勢を重視します。授業内にショートエッセイを書いてもらいます。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. はじめに 2. アイデンティティ① 3. アイデンティティ② 4. 若者のコミュニケーション① 5. 若者のコミュニケーション② 6. 若者文化論① 7. 若者文化論② 8. 消費社会論① 9. 消費社会論② 10. 若者と労働世界① 11. 若者と労働世界② 12. 若者と労働世界③ 13. リスク社会論 14. 現代の共同性 15. まとめ  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50243A01 |
| 科目名        | 言語学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Linguistics I   |       |           |
| 担当者名       | 檜崎 勝則   | 旧科目名称 | 言語学 s     |
| 講義概要       | 「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」という。それはなぜなのかということを考えることから始める、人間の言葉について考察をする。現代言語学の父であるソシュールの説を学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学を少し多めに学ぶ。それから日本語について、方言を含めて学んでいく。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 各講義でプリントを配布する。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 授業中に適時指示する。   |       |           |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜指示する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点40パーセント (授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代えることができる。  |       |           |
| 到達目標       | 言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の2側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深める。発音記号を見て、対応する音声の違いが理解できるようにする。日本語の方言を学ぶ時点で自分の方言を客観的に記述できるようにする。さらに言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。   |       |           |
| 準備学習       | 身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。   |       |           |
| 受講者への要望    | 身近な言葉に対して「面白いな〜!」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 言語学の学習対象   2. ソシュールの紹介   3. 言語学の専門用語導入1   4. 言語学の専門用語導入2   5. 音素とローマ字表記   6. 音素と音声   7. 前半のまとめと小テスト   8. 国際音声字母表の見方と調音1   9. 国際音声字母表の見方と調音2   10. 国際音声字母表の見方と調音3   11. 音韻論1   12. 音韻論2   13. 日本語の方言1   14. 日本語の方言2   15. 春学期のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50243B01 |
| 科目名  | 言語学Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Linguistics II   |       |           |
| 担当者名   | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 言語学 f     |
| 講義概要   | 言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学Ⅰの概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中に適時指示する。  |       |           |
| 教材(その他)  |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点40パーセント(授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代えることができる。  |       |           |
| 到達目標   | 音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 言語学Ⅰを履修しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 身近な言葉に対して「面白いな～!」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかりと記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 春学期学習内容の概要  2. 方言と音韻論1  3. 方言と音韻論2  4. 素性表示と音韻論  5. 連濁と日本語の形態論  6. 動詞の連用形と日本語の形態論  7. 前半のまとめと小テスト  8. 直接構成素分析と句構造文法  9. 句構造文法と統語論1  10. 句構造文法と統語論2  11. 生成文法1  12. 生成文法2  13. 意味論・語用論  14. 類型論といろいろなトピック・セム語紹介  15. 秋学期のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50262A01 |
| 科目名  | 広告広報論Ⅰ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theories of Advertising and Public Relations I  |       |           |
| 担当者名   | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>企業や行政、団体やNPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPOの広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）   | <p>天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』ブチグラパブリッシング、2006年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995年</p>  |       |           |
| 教材（その他）  |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（40%）：授業内レポート（2回程度）、定期テスト（60%）   |       |           |
| 到達目標   | 基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。   |       |           |
| 準備学習   | <p>1) テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 2) ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者）、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。</p>   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| <p>1) 「広告広報論Ⅰ」（基礎編）、「広告広報論Ⅱ」（応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。 2) 「CM表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ⅰ」、できれば「広告広報論Ⅱ」を履修した上で登録を行うこと。 3) CMや広告を眺めることに労力はいらぬが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦勞のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められるよう。 </p>  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>第1回 開講にあたって 第2回 広告広報とは何か？ マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体 第3回 広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ） 第4回 宣伝（プロパガンダ）と広告 第5回 宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート 第6回 広告媒体（1）：人を寄せるもの、すべてがメディアになる 第7回 広告媒体（2）：放送メディア／印刷メディア 第8回 広告媒体（3）：インターネット 第9回 ブランド商品の誕生と広告 第10回 市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？ 第11回 広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（1）コカ・コーラCM等 第12回 広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（2）ビール類CM等 第13回 広告キャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードルCM等 第14回 授業内レポート 第15回 まとめ  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50262B01 |
| 科目名   | 広告広報論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theories of Advertising and Public Relations II   |       |           |
| 担当者名  | 君塚 洋一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>企業や行政、団体やNPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPOの広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし  |       |           |
| 教材（参考文献）  | <p>天野祐吉編『あたらしい教科書 6 広告』プチグラパブリッシング、2006年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995年</p>  |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（40%）：授業内レポート（2回程度）、定期テスト（60%）   |       |           |
| 到達目標  | <p>応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングやPR活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。</p>   |       |           |
| 準備学習  | <p>1) テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 2) ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者）、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。 </p>  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| <p>1) 「広告広報論Ⅰ」（基礎編）、「広告広報論Ⅱ」（応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。 2) 「CM表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ⅰ」、できれば「広告広報論Ⅱ」を履修した上で登録を行うこと。 3) CMや広告を眺めることに労力はいらぬが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦勞のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。 </p>  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| <p>第1回 イントロダクション  第2回 広告産業と広告取引  第3回 広告会社の組織と業務（1） 第4回 広告会社の組織と業務（2）：CMディレクターの仕事等 第5回 広告計画の策定と実施（1）市場競争と広告表現（ビール類） 第6回 広告計画の策定と実施（2）ブランドと広告表現・その1（コカ・コーラ） 第7回 広告計画の策定と実施（3）ブランドと広告表現・その2（ナイキ1） 第8回 広告計画の策定と実施（4）ブランドと広告表現・その3（ナイキ2） 第9回 広告計画の策定と実施（5）ブランドと広告表現・その4（ユニクロ） 第10回 広報・PRの基本概念と歴史（アメリカ・日本におけるPRの発展） 第11回 広報・PRの実務を知る  第12回 企業の社会的責任と広報・PR（1） 第13回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞  第14回 授業内レポート 第15回 まとめ </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50270001 |
| 科目名        | 表現文化論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Culture Expression   |       |           |
| 担当者名       | 君塚 洋一  | 旧科目名称 | 広告文化論     |
| 講義概要       | 社会において「対話の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方——メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000年  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%）：授業内レポート2回程度。授業で提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題提出（60%）：最終レポートないし作品制作   |       |           |
| 到達目標       | さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。  |       |           |
| 準備学習       | 良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 第1回 イントロダクション 第2回 メディアとしての芸術・デザイン 第3回 メディア表現が現実をつくる-1：メディア・記号と現実、芸術社会学の考え方 第4回 メディア表現が現実をつくる-2：メディアの中の文化：メディア表現への記号論 第5回 メディア表現の技法とメカニズム：イメージ編集の技法 第6回 課題の発表とコメント 第7回 社会集団と作品表現：表現をつくる社会の力、文化の編成 第8回 作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルとR & B） 第9回 文化の伝播と人的交流による作品表現の創造と変容：ポサノヴァ、ヒップホップ 第10回 ノスタルジーと作品表現：メディア体験がノスタルジーをつくる 第11回 課題の発表とコメント 第12回 ポストモダンと作品表現 第13回 流動する社会における作品表現の役割 第14回 まとめ 第15回 最終課題の発表とコメント |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50304A01 |
| 科目名        | 社会心理学 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Social Psychology I   |       |           |
| 担当者名       | 有馬 淑子   | 旧科目名称 | 社会心理学 s   |
| 講義概要       | 社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、1テーマ1時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | よくわかる社会心理学 山田・北村・結城編著 ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   | ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。   |       |           |
| 評価方法       | 試験 (70%) と小テストによる平常点 (30%) により評価する。 試験は論述題と専門用語の知識を問う小問からなる。 論述題はあらかじめ告知するので、事前に準備してよい。   |       |           |
| 到達目標       | 周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。   |       |           |
| 準備学習       | 基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望    | 授業と並行して、メールを用いたディスカッションを行って頂く予定です。積極的に参加して下さい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 数字は、教科書の章番号を示しています。 第 1 回 概論 7-1 研究を理解するための視点、7-2 実証研究の方法 第 2 回 認知心理学の基礎 1-5 素朴な現実主義 第 3 回 動機と感情 1-2 自動性とコントロール 第 4 回 対人認知 1-1 印象形成の 2 過程、1-7 対人認知の期待の確証 第 5 回 推論 1-3 対応バイアス、1-4 責任帰属、1-6 自己中心性バイアス 第 6 回 自己 3-1 自己呈示 第 7 回 社会的比較 2-5 社会的比較、2-7 ステイグマ 第 8 回 非言語的コミュニケーション 3-2 マインドリーディング 第 9 回 説得的コミュニケーション 2-2 説得、2-3 依頼 第 10 回 態度 1-8 態度、2-1 態度変化 第 11 回 対人関係 3-3 社会的排除、3-6 ソーシャルサポート、3-8 葛藤解決 第 12 回 攻撃 3-7 攻撃行動 第 13 回 社会的交換 3-4 社会的交換、3-5 援助行動 第 14 回 進化心理 7-4 新しい社会心理学 第 15 回 まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50304B01 |
| 科目名  | 社会心理学Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Psychology II  |       |           |
| 担当者名   | 有馬 淑子   | 旧科目名称 | 社会心理学 f   |
| 講義概要   | 社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | よくわかる社会心理学 山田・北村・結城編著 ミネルヴァ書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）  | ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。   |       |           |
| 評価方法   | 試験（70％）と小テストによる平常点（30％）により評価する。 試験は論述題と専門用語の知識を問う小問からなる。 論述題はあらかじめ告知するので、事前に準備してよい。   |       |           |
| 到達目標   | 周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。   |       |           |
| 準備学習   | 基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 授業と並行して、メールを用いたディスカッションを行って頂く予定です。積極的に参加して下さい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 数字は、教科書の章番号を示しています。 第1回 概論  春学期のまとめ 第2回 社会的影響  2-4 勢力と服従 第3回 集団の意思決定  4-3 集団意思決定 第4回 同調と逸脱  2-6 多数派と少数派 第5回 社会的促進  4-1 集団の生産性、6-1 組織のネットワーク 第6回 リーダーシップ  4-2 リーダーシップ 第7回 社会的アイデンティティ  4-4 内集団ひいき 第8回 ジレンマ状況  4-5 囚人のジレンマ、4-6 社会的ジレンマ 第9回 ネットワーク  6-1 スモールワールド、6-2 3者閉包、6-3 弱い紐帯、6-7 社会関係資本  第10回 集合現象  5-6 ニュースと噂の伝播、6-4 普及とネットワーク、6-5 閾値モデル 第11回 インターネット  5-7 デジタルデバイド、5-3 培養理論 第12回 メディア  5-1 フレーミング、5-2 議題設定、5-4 沈黙の螺旋、5-5 第三者効果 第13回 社会的共有認知 第14回 文化と進化 第15回 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50321001 |
| 科目名        | 社会問題論 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Social Problems  |       |           |
| 担当者名       | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 現在の日本社会には、格差の拡大や派遣労働者の解雇など、人々が安定した社会生活を営むことを妨げるような問題が多数存在する。この講義では、いくつかの社会問題について、実態を説明し、それらを解決するために提案されている方法について紹介する。 なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々政治や経済のニュースの解説をおこなう。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）    | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法       | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）  |       |           |
| 到達目標       | 現代の日本社会がかかえる社会問題の基本を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。  |       |           |
| 受講者への要望    | 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。 2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。 2, 貧困：格差、ホームレス、生活保護。 3, 労働1：派遣労働。 4, 労働2：過労死、失業、ニート。 5, 外国人：不法入国と国内定住。 6, 女性：パート労働、母子家庭。 7, 子ども：学童保育、子どもの権利条約。 8, 高齢者：介護保険、高齢者医療。 9, 年金：年金財政、年金負担と給付。 10, 医療：一部に見られる医師不足。 11, 健康保険：国民医療費。 12, 税金：税制、税負担、国家財政、国債残高。 13, 食料：自給率、地産地消、フェア・トレード、食品添加物。 14, 政治の責任と「自己責任」 15, まとめ。 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50340A01 |
| 科目名  | 書道（書写を含む）A 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Calligraphy A (The Transcript is Include d)   |       |           |
| 担当者名   | 西尾 利香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 義務教育における書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。 本講では、毛筆を用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざまな書写場面で生かしていくとともに、板書や作品鑑賞を加えることにより国語科書写を指導するうえで求められる資質・能力の基礎を育成することを目的とする。 また、楷書から行書へ段階的に移行できるように、書写力の定着と応用をはかる。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし、各講義で適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 『明解：書写教育』全国大学書写書道教育学会編（萱原書房）、『小学書写』・『中学書写』（日本文教出版他）   |       |           |
| 教材（その他）  | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点(30%)、出席状況などによる。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 小・中学校の書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 1. 現代社会において文字を用いる際の目的・場面等に応じ、情報機器の利用と手で書くこととを適切に使い分けることを常に意識する。 2. 文字を素材とする書道は、言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って臨む。 3.各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 1.実技科目である。毎講時の作品制作での基本技術習得と創造性を期待したい。 2.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。 3.書道（書写を含む）Bからでも履修可能だが、講義順序からしてもAを先に履修しておくことが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1.はじめにー書写・書道の概要ー 2.楷書の特徴 3.楷書の基本点画 1 4.楷書の基本点画 2 5.書体の変遷からみる楷書・行書の研究 6.楷書・行書に調和する仮名（ひらがな・カタカナ）1 7.楷書・行書に調和する仮名（ひらがな・カタカナ）2 8.板書技法 9.漢字仮名交じりの書（創作）1 10.漢字仮名交じりの書（創作）2 11.漢字仮名交じりの書（創作）3 12.篆刻 13.作品鑑賞法 14.課題研究 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50340B01 |
| 科目名   | 書道（書写を含む）B 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Calligraphy B (The Transcript is Include d)   |       |           |
| 担当者名  | 西尾 利香   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 行書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。 本講では、毛筆を用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、行書および仮名の実用性を基盤としながらも、創作へと学習を拡大できる指導力を育成することを目的とする。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし、各講義で適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）  | 『明解：書写教育』全国大学書写書道教育学会編（萱原書房）、『中学書写』（日本文教出版他）  |       |           |
| 教材（その他）   | 適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点(30%)、出席状況などによる。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課すレポート課題(25%)により評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 小・中学校の書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。                    |       |           |
| 準備学習  | 1. 現代社会において文字を用いる際の目的・場面等に応じ、情報機器の利用と手で書くことを適切に使い分けることを常に意識する。 2. 文字を素材とする書道は、言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って臨む。 3.各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 1.実技科目である。毎講時の作品制作での基本技術習得と創造性を期待したい。 2.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。 3.書道（書写を含む）Bからでも履修可能だが、講義順序からしてもAを先に履修しておくことが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1.はじめにー書写・書道の概要ー 2.行書の特徴 3.行書の基本点画 1 4.行書の基本点画 2 5.仮名の特徴 6.仮名の基本 1 7.仮名の基本 2 8.書体の変遷からみる行書・仮名の研究 9.漢字仮名交じりの書（小筆）1 10.漢字仮名交じりの書（小筆）2 11.和装本創作 1 12.和装本創作 2 13.作品鑑賞法 14.課題研究 15.まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50366001 |
| 科目名        | 心理学概論 【他】  | 単位数   | 4         |
| 科目名（英語表記）  | Advanced Psychology  |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>ヒトの心は、きわめて優れた環境適応力と文化・文明を創り出すばらしい力をもっている。この力を脳に求める立場もあるが、脳を機能させているのは、やはり「心」であろう。この「心」を研究する学問は、心理学である。しかし、「心」を直接観察したり、分析することはできないので、実験や行動観察などの間接的な手段を用いて探究している。現代心理学は、人間の顕在的行動と心的過程を実験や行動観察などを通じて科学的に解明することを目指している。  本講では、心理学の歴史的展開を眺めながら、心理学の各領域についてある程度を深く論述する。</p>  |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（20%）は出席状況等による。定期試験結果（80%）  |       |           |
| 到達目標       | 日常生活における心理学的事象を、ある程度正しく理解できるようになる。   |       |           |
| 準備学習       | 講義を聴くだけでなく、配付された資料を深く理解するために、複数の心理学概論書を参考に勉学すること。  |       |           |
| 受講者への要望    | ①授業には必ず出席してください。  ②授業内容は、心理学の入門よりもかなり高い専門的レベルです。  ③資料をしっかりと勉強しなければ、簡単に単位が取れる訳ではありません。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>1. 心理学とは何か：「心理学」という用語  2. 心理学の課題と方法  3. 心理学の領域と課題  4. 心理学の歴史的展開：①連合主義、②感覚・知覚研究 5. 心理学の歴史的展開：③精神物理学、④心理学の独立  6. 心理学の歴史的展開：⑤19世紀末の心理学、⑥比較心理学  7. 心理学の歴史的展開：⑦個人差の心理学、⑧精神分析学 8. 心理学の歴史的展開：⑨ゲシュタルト心理学 9. 心理学の歴史的展開：⑩行動主義、⑪新行動主義  10. 心理学の歴史的展開：⑫認知心理学、⑬発達心理学  11. 心理学の歴史的展開：⑭社会心理学、⑮臨床心理学  12. 脳と心：①脳と心をどう考えるか  13. 脳と心：②脳と神経  14. 脳と心：③生理心理学  15. 知覚：①感覚・知覚の生理学的基礎  16. 知覚：②知覚範囲  17. 知覚：③あるがままの世界と知覚する世界  18. 知覚：④働きかけによって形作られた世界  19. 知覚：⑤意味づけられた世界  20. 知覚：⑥注意  21. 学習：①学習とは何か  22. 学習：②行動主義と学習理論  23. 学習：③媒介理論  24. 学習：④オペラント条件づけ  25. 記憶：①記憶のしくみ  26. 記憶：②記録のメカニズム  27. 記憶：③情報の保持・検索・忘却  28. 記憶：④ワーキングメモリー 29. 記憶の情報処理過程 30. 日常性の記憶 </p> |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T50380A01 |
| 科目名       | 心理統計学Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記) | Statistical Methods in Psychology I  |       |           |
| 担当者名      | 行廣 隆次  | 旧科目名称 | 心理統計学入門   |
| 講義概要      | 心理学研究では、データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学Ⅰでは、質的変数と量的変数のそれぞれについて、分析の視点、データの収集と整理の方法、分析結果の解釈の仕方について、記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して、自ら収集したデータを解析できる能力、また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2,940円  |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   | 毎回プリントを配布  |       |           |
| 評価方法      | レポート課題(授業ごとに毎回出題, 30%)および学期末試験(70%)を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標      | 心理学研究に必要な統計手法のうち、表やグラフの作成、要約指標(平均、標準偏差、相関係数、等)の算出と、これらの利用方法を習得する。  |       |           |
| 準備学習      | 毎回の課題に必ず取り組むとともに、各回の授業内容をよく復習して、次回の授業に臨むこと。  |       |           |

|            |  |
|------------|--|
| 受講者への要望    | 学習内容の積み重ねが重要な科目であるので、遅刻や欠席は厳禁である。 授業には電卓を準備すること。 講義内容をただ聞いているのではなく、演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。 毎回、学習内容を確認するための課題を出題する。   |
| 講義の順序とポイント | 1. 統計データの役割、種類、収集の方法 2. 変数のタイプ分類(量的変数と質的変数)とその分析の視点 3. 質的変数(カテゴリカル変数)の分析(1): クロス集計表を用いた記述、比率の比較 4. 質的変数(カテゴリカル変数)の分析(2): 連関と連関係数 5. 量的変数の分析(1): 度数分布とヒストグラム、代表値 6. 量的変数の分析(2): 代表値と散布度、グラフによる記述 7. 量的変数の分析(3): 変数の標準化と集団内での相対的位置の評価、正規分布 8. 量的変数の条件間比較(1): 条件間比較のポイント、グラフを用いた比較、散布度の重要性、効果量 9. 量的変数の条件間比較(2): t検定の概説 10. 量的変数の条件間比較(3): 対応のあるデータ(反復測定データ)の性質とその分析方法 11. 量的変数の条件間比較(4): 分布の偏りに関する留意点、平均と中央値の違い 12. 二つの量的変数間の関係の分析(1): 散布図と相関係数 13. 二つの量的変数間の関係の分析(2): 相関係数の算出方法と特性 14. 二つの量的変数間の関係の分析(3): 相関の解釈における留意点、相関関係と因果関係 15. 授業のまとめ |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50380B01 |
| 科目名        | 心理統計学Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Statistical Methods in Psychology II  |       |           |
| 担当者名       | 行廣 隆次   | 旧科目名称 | 心理統計学     |
| 講義概要       | 心理学を学ぶ学生が、研究に必要な統計的手法を理解し、自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学Ⅱでは、心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について、推測統計的手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で、各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと、分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また、分析を正しく使用するために必要な、分析手法の原理の解説を行う。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2,940円   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | 毎回プリントを配布   |       |           |
| 評価方法       | レポート課題（授業ごとに毎回出題，30％）および学期末試験（70％）を総合して評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 心理統計学Ⅰでの学習内容を基礎として、以下の事項を理解・習得する。 （1）推測統計の原理 （2）各種の統計的検定の目的と使用方法 （3）特に、分散分析の原理と使用方法，結果の意味   |       |           |
| 準備学習       | 心理統計学Ⅰを先に履修していること。 毎回の課題に必ず取り組むとともに、各回の授業内容をよく復習して、次回の授業に臨むこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 学習内容の積み重ねが重要な科目であるので、遅刻や欠席は厳禁である。 授業には電卓を準備すること。 講義内容をただ聞いているのではなく、演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。 毎回、学習内容を確認するための課題を出題する。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点 2. 統計的検定の原理（1）： t検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本概念 3. 統計的検定の原理（2）： 確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布） 4. 統計的検定の原理（3）： 帰無仮説と対立仮説，第1種の誤りと第2種の誤り，検定力 5. 相関係数に関する検定 6. クロス集計表の独立性の検定 7. 検定手法の選択基準と手法間の関係 8. 一要因分散分析 9. 二要因分散分析（1）： 要因と水準，各要因の主効果 10. 二要因分散分析（2）： 交互作用効果 11. 二要因分散分析（3）： 主効果と交互作用の意味と解釈 12. 多重比較，単純効果の検定 13. 被験者内要因の分散分析 14. ノンパラメトリック検定 15. 授業のまとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50395001 |
| 科目名  | 人格心理学【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Personality Psychology   |       |           |
| 担当者名   | 山 愛美   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 人間のパーソナリティをどのように捉え、どのように理解するのかは人格心理学ないしは心理学における中核的な課題である。本講義では、まず人格心理学における基本的な内容ーパーソナリティの認知、理論、構造、発達、理解などーを一通りおさえる。その上で、人間の心についてテーマを定めて、映画などをマテリアルとして深層心理学的、臨床心理学的な視点から考察を深める。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 講義中配布  |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義中紹介  |       |           |
| 教材(その他)  |  |       |           |
| 評価方法   | 授業内に課す課題 50% 定期試験 50%  |       |           |
| 到達目標   | 人間のパーソナリティについて理解する上で基本的な理論を理解し、 現代社会に生きる人間の心に纏わるさまざまな問題の深い理解につなげること。   |       |           |
| 準備学習   | 心理学に限らず読書の幅を広げる事。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。 能動的に授業に出席すること。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 オリエンテーションーどのように学ぶか   「私」の歴史について考える 2 パーソナリティの認知 3 パーソナリティの理論 4 パーソナリティの構造 5 パーソナリティの発達(1) 6 パーソナリティの発達(2) 7 パーソナリティの理解 心理テスト実習 8 子どもの心の世界について考える(1) テーマ:目に見えないものを見る 9 解説 授業内レポート 10 心について理解を深める(1) テーマ:心の変容について 11 心について理解を深める(2) 12 解説 授業内レポート 13 適応とは?まとめ 14 子どもの心の世界について考える(2) テーマ:子どもの遊びに見る宗教性 15 解説 授業内レポート |  |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50416001 |
| 科目名  | 政治社会学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Political Sociology  |       |           |
| 担当者名   | 小川 賢治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代の社会では個人の自由は大きいように思われる。結婚相手の選択や、身につける衣装の好み、自分の意見を発表することも、自由であるように見える。しかし、少し深く考えてみると、本当に自由なのかどうかは確かではない。何についても全く自由に発言できるとは誰も思っていないし、メディアにおいて触れられないタブーの問題もある。また、近年では街のあちこちに監視カメラが増えていて、プライバシー侵害の問題が指摘されている。この講義では、現代社会のこのような問題について考える手がかりを提供する。  なお、上記の基本テーマを理解する助けともなるので、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースの解説を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義時に紹介する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）  |       |           |
| 到達目標   | 現代日本社会の監視社会的な特徴について理解する。   |       |           |
| 準備学習   | 日頃から新聞やテレビなどに接して、現代社会の諸側面に興味をもってほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 1, 積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。  2, 私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑になるので、退室を求める。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1, ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて   2, 監視カメラの増加とプライバシー   3, 住民基本台帳ネットワークと個人情報の保護   4, 信教の自由と国家の強制力   5, 政教分離   6, 国旗の問題   7, 国歌の問題   8, 教科書検定   9, 愛国心とは何か   10, 民主主義の意味   11, 自由主義の意味   12, 国家の概念   13, 現在の天皇制の特色   14, 天皇制と民主主義の関わり   15, まとめ |  |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50420A01 |
| 科目名   | 生涯学習概論Ⅰ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Lifelong LearningⅠ  |       |           |
| 担当者名  | 土屋 尚子   | 旧科目名称 | 生涯学習概論s   |
| 講義概要  | 2006(平成18)年12月に改正された教育基本法には、旧法にはなかった、「生涯学習の理念」を規定した条文が新設されている。同条では、「生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること」ができる社会の実現が提唱されているが、今、なぜ、そのような社会が目指されなければならないのだろうか。そもそも、それはどのような社会なのだろうか。  本講義では、代表的な生涯学習論、日本における生涯学習政策の歴史の変遷、現代の教育改革論議における生涯学習の位置づけなどから生涯学習の基本的原理について学習する。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材(参考文献)  | 授業中適宜紹介する   |       |           |
| 教材(その他)   | 授業中適宜プリントを配布する  |       |           |
| 評価方法  | A、Bのどちらか好きな方を選ぶこと  A 平常点とテストの点数の混合 中間テスト(20%) 平常点(40%) 出席状況、毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等 定期テスト(40%)  B テストの点数のみ 中間テスト(20%) 定期テスト(80%)  ※どちらの評価方法の場合も、中間テストを受験していることが、定期テストの受験資格となる   |       |           |
| 到達目標  | 生涯学習の基本原則を理論的観点、歴史的観点から理解できる  |       |           |
| 準備学習  | 自分の周囲にある、生涯学習関連施設(センター、図書館、博物館、美術館、民間の学習施設等)を常に意識し、その活動内容に関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう ・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。①授業を聴いてわかったこと、②授業の内容に関する感想、意見、の二つのポイントで作成すること  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| ガイダンス 1 生涯学習の理論—ユネスコにおける生涯教育論 2 —OECDにおける生涯学習論 3<br>—日本における生涯学習政策 4 —石田梅岩の思想 5 中間テスト 6 日本社会と生涯学習政策—<br>イントロダクション 7 —学歴社会の是正① 8 —学歴社会の是正② 9 —<br>—日本型雇用制度の変化への対応 10 —<br>若年不安定就業者に対する支援 11 生涯学習と学校教育—ゆとり教育の推進 12 —奉仕・体験<br>活動の導入 13 生涯学習とスポーツ—生涯スポーツという考え方 14 —学校体育の変化 15<br>まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50420B01 |
| 科目名  | 生涯学習概論Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Lifelong Learning II   |       |           |
| 担当者名   | 土屋 尚子  | 旧科目名称 | 生涯学習概論 f  |
| 講義概要   | 日本国憲法は、法の下での平等について規定し、社会的身分、門地、人種、信条又は性別による不当な差別を禁止している。その実現のために国は、様々な人権教育、人権啓発の活動を推進しているが、生涯学習政策の分野においても関連施策を策定し、実施している。  本講義では、生涯学習の中でも人権にかかわる領域をいくつかとりあげ、その実態を見ていきながら、人権問題の解決のために生涯学習が果たす役割について考える。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 授業中適宜紹介する  |       |           |
| 教材(その他)  | 授業中適宜プリントを配布する   |       |           |
| 評価方法   | A、Bのどちらか好きな方を選ぶこと  A 平常点とテストの点数の混合 平常点(40%)出席状況、毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 等 中間テスト(20%) 定期テスト(40%)  B テストの点数のみ 中間テスト(20%) 定期テスト(80%)  ※どちらの評価方法も、中間テストを受験していることが定期テストの受験資格となります                           |       |           |
| 到達目標   | ・現代社会における人権問題への理解を深めること ・生涯学習において人権を学ぶことの意義を理解すること   |       |           |
| 準備学習   | 現代社会における人権問題を常に意識し、新聞、メディアに日々関心を持っておくこと  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| ・遅刻と途中退室は原則として認めない。悪質な場合は、平常点の減点対象とする ・1時間の授業中で私語を2回注意された人は退室してもらう ・毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。①授業を聴いてわかったこと、②授業の内容に関する感想、意見、の二つのポイントで作成すること   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス 2 生涯学習に関して留意すべきこと—管理装置としての側面 3 —再生産装置としての側面 4 「人権」を教える・学ぶということ 5 中間テスト 6 部落差別と生涯学習—教育を受ける権利の保障① 7 —教育を受ける権利の保障② 8 —識字運動の展開 9 —同和教育の存在意義をめぐる議論 10 女性差別と生涯学習—近代的性別役割分業論の成立と普及 11 —性別役割分業観が反映する学校教育 12 —男女共同参画学習政策の課題① 13 —男女共同参画学習政策の課題② 14 障害者差別と生涯学習—障害者の教育の歴史 15 —障害者の社会参画を目指して |  |       |           |

|             |            |     |     |     |       |        |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待          |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50430001 |
| 科目名        | 西洋の礼儀とマナー 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Western Etiquette and Manners   |       |           |
| 担当者名       | 藤田 ジャクリーン   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | (1)フランスの社会で人に会うときのマナーを考える。 (2)西欧料理をいただく際のマナーを考える。 やさしいフランス語を覚えながら、すぐコミュニケーションできるように、そして、楽しく食事ができるように講義します。テーブル・セッティングの勉強も致します。  |       |           |
| 教材（テキスト）   |   |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    | プリント  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（50%）出席状況等による。授業内テスト 50%   |       |           |
| 到達目標       | 異文化の理解。そのために必要なヨーロッパ文化の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要なマナーの根本を習得する。   |       |           |
| 準備学習       | 各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席することが必要である。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 講義の説明 2. 礼義と常識 3. 礼儀とマナーの関係 4. やさしいフランス語と礼儀 5. やさしいフランス語とマナー 6. 20代の人達のマナー 7. 20代の人達の礼儀 8. 自然に身につける思いやりとマナー― 9. お外のマナー 10. 家の中のマナー 11. マナーに必要な品々 12. マナー違反の賛沢 13. 気付かれていない気品 14. 礼儀とマナーの楽しさ 15. 講義のまとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T50458A01 |
| 科目名   | 中国文学概論A 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Chinese Literature A                                       |       |           |
| 担当者名  | 成田 健太郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 中国文学（中国の多数民族＝漢族の言語である漢語で書かれた文学）の歴史、ジャンル、主な作者や作品について講述する。本講義では唐以前を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | なし。講義中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）   | 音声・映像メディアを適宜活用したい。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（30%）出席等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標  | 中国文化の精髓であり、現代中国文化や日本文化の礎にもなっている中国文学の特質を理解する。                         |       |           |
| 準備学習  | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. はじめに 2. 言志と載道—中国文学の特質— 3. 太古の歌謡—詩経と楚辞— 4. 熱弁する人々—諸子百家の著作— 5. 壮大なる時空—史記・漢書と漢賦— 6. 愛と生のうた—五言詩の登場— 7. 英雄たちの文学—建安文学— 8. 隠棲詩人の祖—陶淵明— 9. 貴族たちのいづまい—世説新語— 10. 怪異を語る—志怪小説— 11. アンソロジーの決定版—文選— 12. 「漢詩」の完成—近体詩— 13. 詩仙と詩聖—李白と杜甫— 14. ルネサンスの胎動—韓愈・柳宗元— 15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50458B01 |
| 科目名  | 中国文学概論B 【他】【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Theory of Chinese Literature A                                       |       |           |
| 担当者名   | 成田 健太郎   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 中国文学（中国の多数民族＝漢族の言語である漢語で書かれた文学）の歴史、ジャンル、主な作者や作品について講述する。本講義では宋以降を扱う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。講義中に適宜プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 講義中に適宜指示する。  |       |           |
| 教材（その他）  | 音声・映像メディアを適宜活用したい。   |       |           |
| 評価方法   | 平常点（30%）出席等による。定期テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標   | 中国文化の精髓であり、現代中国文化や日本文化の礎にもなっている中国文学の特質を理解する。                         |       |           |
| 準備学習   | 日頃から中国の文化に興味・関心をもっていることが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 講義への能動的な参加姿勢を期待する。毎回時間を設けるので積極的な質問を歓迎する。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. はじめに  2. 士大夫たちの文学—北宋—  3. 民間へひろがる文学世界と亡国のなげき—南宋—  4. もうひとつの「漢詩」—詞—  5. オペラの隆盛—元曲—  6. エンターテインメント小説の頂点—白話小説・四大奇書—  7. 擬古か自我解放か—明の詩文—  8. 伝統文学の総決算—清の詩・詞・散文・戯曲—  9. 珠玉の恋愛小説—紅樓夢—  10. 和尚たちの文学—五山文学—  11. 侍たちの文学—江戸漢文学—  12. ゆらぐ伝統文学—西洋文明の流入と中国文学—  13. たちあがる民族と文学—文学革命—  14. 国家と自由と文学と—現代文学—  15. まとめ |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50463B01 |
| 科目名        | 伝統文化実習B（能楽）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Traditional Culture B  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 仕舞は、扇を持って、舞台上で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。  謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分を含んで一緒に謡って練習します。  どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。  着付けも練習します。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリント・CDなどを配布   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点。授業への参加度。   |       |           |
| 到達目標       | 仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること  |       |           |
| 準備学習       | 配布したCDを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 初心者歓迎。伝統文化論Bの講義をあらかじめ受講する必要はありません。 受講するかどうかを迷う場合はあらかじめ担当者に相談してください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 仕舞の基本 扇の持ち方と構え方 足拍子のリズム  2 入門の曲 鶴亀 仕舞「鶴亀」(前半)  3 復習  4 入門の曲 鶴亀 仕舞「鶴亀」(後半)  5 復習  6 謡「鶴亀」・仕舞の復習  7 謡 復習・仕舞の復習  8 謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり 仕舞「鶴亀」  9 謡「橋弁慶」牛若丸登場 仕舞「鶴亀」  10 謡「橋弁慶」五条の橋の対決 仕舞「鶴亀」  11 練習  12 リハーサル  13 着付けをして仕舞を舞う 第一グループ 14 同上 第二グループ 15 総復習 |       |           |

|   |            |      |     |     |       |        |
|---|------------|------|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働能力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |      |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |      |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T50465001 |
| 科目名       | 伝統文化実習C（やきもの）【他】   | 単位数   | 1         |
| 科目名（英語表記） | Practical Traditional Culture C  |       |           |
| 担当者名      | 佐々木 大和   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | 陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000円程度）を授業内で行うので注意のこと。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 各種出版物  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法      | 作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。  |       |           |
| 到達目標      | 作品の完成  |       |           |
| 準備学習      | 美術館見学  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
|           | 自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように   |       |           |
|           | 講義の順序とポイント   |       |           |
|           | 1.陶磁器の歴史 2～6.土こね 7～10.成形 11～12.施釉 13～14.焼成 15.評価   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50475001 |
| 科目名        | 伝統文化論C 【他】 【町家】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Theories of Traditional Culture C  |       |           |
| 担当者名       | 西村 俊範  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 陶芸の歴史を認識し、残された名品を鑑賞しながら、陶芸の奥深さを理解したい。ビデオと写真資料を多く紹介する予定。  伝統文化実習C (担当・佐々木)を合わせて履修して、陶芸の実技も体験することを薦めたい。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 矢部良明「日本やきもの史」(美術出版社、1998年)   |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回プリントを配布する。   |       |           |
| 評価方法       | 平常点(25点満点、出席状況等による)と期末のレポート(75点満点)の合計で評価する。  |       |           |
| 到達目標       | 工芸が持つ「用の美」の理解  |       |           |
| 準備学習       | 特に求めない   |       |           |
| 受講者への要望    | 日本美術、特に陶芸に興味を持ち、実技(伝統文化実習C)も併せて受講する意欲のある学生を求める。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 土器作りとは   2. 世界の焼き物   3. 陶器と磁器   4. 縄文・弥生・須恵   5. 中国—陶芸の発展—   6. 青磁の展開   7. 天目茶碗   8. 景德鎮窯   9. 日本の六古窯   10. 備前焼   11. 桃山の茶陶   12. 織部焼   13. 京焼の歴史   14. 伊万里焼1   15. 伊万里焼2 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50476A01 |
| 科目名        | 伝統文化論A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Theories of Traditional Culture A   |       |           |
| 担当者名       | 飯島 照仁   | 旧科目名称 | 伝統文化論 I   |
| 講義概要       | 日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりを目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考えてる。 |       |           |
| 教材(テキスト)   | 『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著 淡交社(1,900円+税) 必要に応じてプリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 『茶の匠』 飯島照仁著 淡交社 『茶室をつくる』飯島照仁著 淡交社   |       |           |
| 教材(その他)    |   |       |           |
| 評価方法       | 出席率と試験(教科書持込可)による総合評価   |       |           |
| 到達目標       | 日本の伝統文化(茶の湯)の基礎をもとに、異文化との関わり、衣・食・住の価値観の相違などを理解することを目標とする。   |       |           |
| 準備学習       | 講義の際に準備学習の指示をする。  |       |           |
| 受講者への要望    | 日本の伝統文化である茶の湯に興味のある方。 日本建築や庭園に興味のある方。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 総論 2. 日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 3. 同上 4. 茶の湯入門 5. 同上 6. 同上 7. 茶の湯の建築入門 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 茶の湯の庭入門 12. 同上 13. 同上 14. 茶の湯と異文化交流 15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50476B01 |
| 科目名  | 伝統文化論B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Theories of Traditional Culture B  |       |           |
| 担当者名   | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 | 伝統文化論II   |
| 講義概要   | この時間は日本の中世の演劇である「能楽」がテーマである。 担当者の山崎美紗子は観世流能楽師なので、実技を指導することができる。この利点を生かして、受講生のみなさんに毎回声を出して謡を謡ってもらい、最終の授業までに結婚式でうたわれる「高砂や〜」がうたえるようにしたい。秋学期には、仕舞の実習の時間も設けられている。  日本の伝統演劇である能と狂言のうち、能は悲劇であり、狂言は喜劇である。能で涙し、肩をこらしたお客さんは、狂言で笑い、こった肩をほぐす。両方を交互に組み合わせて、一日の興行が成立する。 この時間は主に能や狂言の基本的な約束事や、仕組み、を知ってもらうことに重点をおきたい。 ビデオを見、解説をして能を知ってもらう。 また、授業の一環として、平安神宮の薪能(たきぎのう)を見学するほか、 能楽師を招いて能面や装束の着付の実演を行う。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | プリントを配布する  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 初めての能・狂言 (小学館)   |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法   | 平常点30% 学期末試験50% 薪能など実演見学のレポート提出20%   |       |           |
| 到達目標   | 能楽の基本的知識理解、ひいては日本の伝統芸能の本質を 海外の文化と比べて知ること   |       |           |
| 準備学習   | テレビなどで伝統芸能の能・狂言、文楽や歌舞伎の時間があれば、 5分か10分でも見たり聞いたりしておくことがのぞましい   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 秋学期に「実習」があります。実習とこの講義はどちらを先に履修してもかまいません。 一方だけ履修してもかまいません。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 『道成寺絵巻』の話……安珍・清姫  2 いちばん面白い能・「道成寺」…DVDで見る  3 「道成寺」後半を見る 4 能面のいろいろ  5 能「鉄輪」と『陰陽師』  6 能の五番立て 神・男(武将)・女(姫君)・現在物(ドラマ)・鬼  7 能の台本・謡の見方と能舞台の工夫  8 囃子 大鼓・小鼓・笛・太鼓  9 「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇  10 曾我兄弟の能と歌舞伎  11 「葵上」源氏物語と能  12 「海士」玉取り伝説と能  13 「邯鄲」中国の伝説と能  14 「鞍猿(うつぼざる)」の狂言  15 能面・能装束の着付(器楽練習室Iで行います)   その他 平安神宮の薪能の見学(5/30または6/1)   (都合がつかない人は別の公演を代用して貰います) |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |                    |
|--|--|-------|--------------------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50523A01          |
| 科目名  | 日本語史 A 【他】   | 単位数   | 2                  |
| 科目名 (英語表記)   | History of Japanese Language A   |       |                    |
| 担当者名   | 山中 延之  | 旧科目名称 | 日本語の歴史 A, 日本語の歴史 s |
| 講義概要   | 日本語の音 (おと) の歴史について概説する。例えば、平安時代のハ行音はファ・フィ・フ・フェ・フォのように発音されていたと考えられている。しかし、現代の発音は、私たちがよく知るように、ハ・ヒ・フ・ヘ・ホである。このような違いのあることがなぜ分かるのか。どのように変化していったのか。このような具体的な現象について、視覚的な資料などを補いながら、講義をおこなう。教科書として、橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて』を読む。 時代背景・文化的背景についても解説する。 |       |                    |
| 教材 (テキスト)  | 橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて他二篇』(1980年、岩波文庫)  |       |                    |
| 教材 (参考文献)  | 亀井孝・大藤時彦・山田俊雄編『日本語の歴史』(1963-66年、平凡社 *平凡社ライブラリー再収) 佐竹昭広著『古語雑談』(1986年、岩波新書) 金田一春彦著『日本語新版(上)(下)』(1988年、岩波新書) 秋本守英編『資料と解説日本文章表現史』(2006年、和泉書院) 山口仲美『日本語の歴史』(2006年、岩波新書)  その他  |       |                    |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜配布・指示する。   |       |                    |
| 評価方法   | 平常点 (受講態度等) 20%、学期末試験 80%  |       |                    |
| 到達目標   | 学生諸君自身が、様々な日本語の現象について言葉を用いて説明することができるようになることを目標とする。例えば、日本語について誤った知識が流通していることがある (「関東と関西はアクセントが逆」など)。なぜそれが誤りと言えるのか、どうして誤った考えが広まったのか。このようなことについて、論理的に説明できるようになることが目標である。   |       |                    |
| 準備学習   | 特になし。 次回までに読んでおくべき論文等がある場合は、事前に指示する。   |       |                    |
| 受講者への要望  |  |       |                    |
| 学生諸君からの発言・質問を歓迎する。 他の受講者の迷惑となる行為 (特に私語) は慎むこと。   |  |       |                    |
| 講義の順序とポイント   |  |       |                    |
| 1 橋本進吉著「駒のいななき」(指定テキスト所収)を読む…日本語のハ行音の歴史について考える 2 橋本「駒のいななき」に対する異見を検討する 3 橋本進吉著「国語音韻の変遷」(指定テキスト所収)を読む(1)…第一期(～奈良時代)I 4 橋本「国語音韻の変遷」を読む(2)…第一期II 5 橋本「国語音韻の変遷」を読む(3)…第一期III 6 橋本「国語音韻の変遷」を読む(4)…第二期(平安～室町時代)I 7 橋本「国語音韻の変遷」を読む(5)…第二期II 8 橋本「国語音韻の変遷」を読む(6)…第二期III 9 橋本「国語音韻の変遷」を読む(7)…第三期(江戸～現代)I 10 橋本「国語音韻の変遷」を読む(8)…第三期II 11 橋本「国語音韻の変遷」を読む(9)…第三期III 12 補足・アクセント 13 補足・文字と音韻I 14 補足・文字と音韻II 15 まとめ 学期末試験  *諸事情により上の予定を変更することがある。 |  |       |                    |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |                    |
|------------|---|-------|--------------------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50523B01          |
| 科目名        | 日本語史 B 【他】  | 単位数   | 2                  |
| 科目名 (英語表記) | History of Japanese Language B  |       |                    |
| 担当者名       | 山中 延之   | 旧科目名称 | 日本語の歴史 B, 日本語の歴史 f |
| 講義概要       | 日本語の歴史の様々な面について概説する。山口仲美『日本語の歴史』を読むことによって、日本語における文体・音韻・文法・語彙等の歴史を学ぶ。テキストを要約しつつ、補足資料を用いることで、より多面的な理解を目指す。  時代背景・文化的背景についても適宜解説する。  |       |                    |
| 教材 (テキスト)  | 山口仲美 (2006)『日本語の歴史』岩波書店 (岩波新書新赤版 1018)  |       |                    |
| 教材 (参考文献)  | 橋本進吉著『古代国語の音韻に就いて他二篇』(1980年、岩波文庫)   亀井孝・大藤時彦・山田俊雄編『日本語の歴史』(1963-66年、平凡社 *平凡社ライブラリー再収)   佐竹昭広著『古語雑談』(1986年、岩波新書)   金田一春彦著『日本語新版(上)(下)』(1988年、岩波新書)   秋本守英編『資料と解説日本文章表現史』(2006年、和泉書院)   その他   |       |                    |
| 教材 (その他)   | 授業中に適宜配布・指示する。  |       |                    |
| 評価方法       | 平常点 (受講態度等) 20%、学期末試験 80%   |       |                    |
| 到達目標       | 日本語史上のいくつかのことがらを知ることで、普段用る日本語に対する理解を深める。 日本語に対する客観的な観察が行えるようになる。  |       |                    |
| 準備学習       | 特になし。 次回までに読んでおくべき論文等がある場合は、事前に指示する。  |       |                    |
| 受講者への要望    | 学生諸君からの発言・質問を歓迎する。 他の受講者の迷惑となる行為 (特に私語) は慎むこと。  |       |                    |
| 講義の順序とポイント | 1 はじめに…講義の概要等について説明する 2 奈良時代 I  3 奈良時代 II  4 奈良時代 III  5 平安時代 I  6 平安時代 II  7 平安時代 III  8 鎌倉・室町時代 I  9 鎌倉・室町時代 II  10 鎌倉・室町時代 III  11 江戸時代 I  12 江戸時代 II  13 江戸時代 III  14 明治時代以降 I  15 明治時代以降 II ・まとめ 試験  * 諸事情により上の予定を変更することがある。 |       |                    |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T50561A01 |
| 科目名  | 日本文化史 A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Cultural History of Japan A  |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>現代の日本文化は、世界的な変化と連動して新たな枠組みを形成しつつあります。まして最近の驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、今後、どのような文化世界が形づくられていくのかを極めて見えにくくしています。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきました。その意味でも、今あらためて日本文化の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならないのです。  本講義では、(I)「都市の文化史」(春学期)と(II)「茶の文化史」(秋学期)の二つをテーマとして設定。(I)では、古代都市「平安京」の造営から中・近世都市「京都」の成立に至る変遷をベースとしながら、各時期における文化的特徴を明らかにし、日本文化を考えるうえでの問題点と新たな視点を提起します。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』(阿吽社)・同『日本の茶 — 歴史と文化 —』(淡交社)。ほかに講義内で適宜に教示。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリント資料を配付。   |       |           |
| 評価方法   | 春学期末に上杉本「洛中洛外図屏風」に関するレポートを課します。成績は、提出レポート30パーセント、定期試験70パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標   | 日本文化の歴史に興味を持ち、自分で何かを調べてみよう。  |       |           |
| 準備学習   | 授業の進行に合わせて次のテーマを予告しますので、それについての学習をして講義に臨んでください。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 真摯な姿勢での受講を望みます。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1. はじめに (テーマI「都市の文化史」—— 平安京と京都 ——)   2. 古代都市「平安京」   3. 唐風と国風   4. 貴族サロンと女流文学   5. 武士と合戦物   6. 中世都市「京都」の成立   7. 日本の14世紀 (南北朝内乱の社会史)   8. 同 上   9. 室町文化の創造   10. 「洛中洛外図屏風」の成立と展開   11. 上杉本「洛中洛外図屏風」にみる中世都市京都の生活と風俗 (I)   12. 上杉本「洛中洛外図屏風」にみる中世都市京都の生活と風俗 (II)   13. 天下統一と近世都市「京都」の成立   14. 同 上   15. 江戸・大坂・京都</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50561B01 |
| 科目名  | 日本文化史B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Cultural History of Japan B   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>現代の日本文化は、世界的な変化と連動して新たな枠組みを形成しつつあります。まして最近の驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、今後、どのような文化世界が形づくられていくのかを極めて見えにくくしています。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきました。その意味でも、今あらためて日本文化の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならないのです。  本講義では「茶の文化史」をテーマとして設定。日本の茶文化は平安京に華ひらき京都の家元茶道に至る、優れて都市的・伝統的な文化の世界に属するものですが、喫茶や茶道にとどまらずライフサイクルにおける茶の習俗（茶俗）をも明らかにすることによって茶文化とその歴史の総合的理解を促し、日本文化を考えるうえでの問題点と新たな視点を提起します。 </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）・同『日本の茶 — 歴史と文化 —』（淡交社）。ほかに講義内で適宜に教示。   |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント資料を配付。  |       |           |
| 評価方法   | 秋学期末に「ふるさとの茶俗」に関するレポートを課します。成績は、提出レポート30パーセント、定期試験70パーセントとして評価します。  |       |           |
| 到達目標   | ライフサイクルにおける茶の習俗（茶俗）に興味を持ち、自分の生まれ育った地域の茶俗を調べてみよう。  |       |           |
| 準備学習   | 茶の文化に関する総合的な理解とは何か、ということを常に念頭に置き、新聞や雑誌などの記事にも注意をはらって欲しい。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 真摯な姿勢での受講を望みます。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>1. はじめに（テーマII「茶の文化史」）  2. 喫茶の伝来   3. 唐風茶の盛衰   4. 新しい茶法の将来   5. 喫茶の普及   6. 茶の湯の成立と展開   7. 「一服一銭」の茶   8. 描かれた茶屋   9. 忘れられた「茶湯」—— もう一つの茶文化世界 ——   10. 歳時の茶俗（I）—— 正月の若水と大福茶 ——   11. 歳時の茶俗（II）—— 盆月（盂蘭盆）の茶湯 ——   12. 婚姻儀礼にみる茶俗 —— 茶と文化コミュニケーション ——   13. 産育・葬送儀礼にみる茶俗 —— 茶の境界性とキヨメ機能 ——   14. 日本茶俗の歴史（I）   15. 同上（II）  </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T50564A01 |
| 科目名   | 日本文化論 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Cultural Theory about Japan I  |       |           |
| 担当者名  | 西村 俊範  | 旧科目名称 | 日本文化論 A   |
| 講義概要  | シルクロードと正倉院  奈良の正倉院には、遣唐使などによる 8 世紀 (日本では奈良時代、中国では唐時代) の国際的な交流によってもたらされた貴重な文物が数多く保管されている。その中には、シルクロードを通じて遥か遠く西方の地域から齎されたものも少なくない。シルクロード・遣唐使の実情を概説したうえで、正倉院に保管される多彩な文物を紹介する。ビデオと OHC を多く用いる予定。 |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 東野治之「正倉院」(岩波新書)  |       |           |
| 教材 (その他)  | 毎回プリントを配布する  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (25 点満点,出席状況等による) と期末のレポート (75 点満点) 合計で評価する。   |       |           |
| 到達目標  | 日本文化の成り立ち・多面性に対する認識の涵養   |       |           |
| 準備学習  | 高校の日本史・世界史レベルの文化に関する知識があれば良い。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義中の私語を慎むこと。注意しても従わない場合は退室を求めることがある。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. シルクロードー砂漠の道ー   2. シルクロードー海の道ー   3. シルクロードー仏教の伝来ー   4. 遣唐使 1   5. 遣唐使 2   6. 新羅と渤海   7. 正倉院概説   8. 正倉院の歴史   9. 正倉院の絵画   10. 正倉院の書と文房具   11. 正倉院の楽器   12. 正倉院の染織   13. 正倉院の金属器   14. 正倉院の木漆器   15. 正倉院の宝物ーシルクロードの香りー |  |       |           |

| 人間力 (6 つの基礎力)                           | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|                                     |   |       |           |
|-------------------------------------|---|-------|-----------|
| 年度                                  | 2012  | 授業コード | T50564B01 |
| 科目名                                 | 日本文化論Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）                           | Cultural Theory about Japan II  |       |           |
| 担当者名                                | 西村 俊範   | 旧科目名称 | 日本文化論B    |
| 講義概要                                | 茶と酒 日本文化の特質を、喫茶と飲酒の二つの観点から探る。  喫茶も飲酒も、ともに世界的拡がりを持ち、我々の日常に深く浸透した嗜好品であり、すでに日常生活習慣と言えるものになっている。それゆえに、各地域の文化的特色を探り比較する良い手がかりともなるものである。酒と茶に関する基本的知識・歴史を概説して、日本的な喫茶と飲酒のあり方を見てみたい。ビデオとOHCを多く用いる予定。 |       |           |
| 教材（テキスト）                            |   |       |           |
| 教材（参考文献）                            | 村井康彦「茶の文化史」（岩波新書）   |       |           |
| 教材（その他）                             | 毎回プリントを配布する。  |       |           |
| 評価方法                                | 平常点（25点満点,出席状況等による）と期末のレポート（75点満点）の合計で評価する。   |       |           |
| 到達目標                                | 茶と酒に関する一歩進んだ正しい理解   |       |           |
| 準備学習                                | 特に求めない  |       |           |
| 受講者への要望                             |   |       |           |
| 講義中の私語を慎むこと。注意しても従わない場合は退室を求める事がある。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント                          | 1. 酒造りの歴史1 2. 酒造りの歴史2 3. 日本の酒 4. 日本酒の歴史 5. 茶とは  6..中国の喫茶文化（唐）  7. 中国の喫茶文化（宋以降）  8. 日本への伝来  9. 茶道の成立  10. 茶道の大成  11. 桃山時代の茶陶 12. 茶道の発展  13. 戦国時代以後の茶  14. 日本の煎茶道  15. ヨーロッパの茶                |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50579A01 |
| 科目名        | 日本文学史 A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | History of Japanese Literature A  |       |           |
| 担当者名       | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 s   |
| 講義概要       | 高校までで学習する文学史が、ともすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いので、学習した知識をさらに有機的に理解し直し、理解を深めてもらうように工夫した講義を行う。 奈良時代から現代までの全部を概観するのは不可能なので、日本文学史 A では上代を中心として取り上げ、後の時代の文学に対する影響を考察する。(B では江戸時代を概観する) 古事記、日本書紀、万葉集を中心として紹介していく。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 『原色シグマ新日本文学史』文英堂 630円 秋学期「日本文学史B」にも用います。 ほかにプリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 小学館刊新編日本古典文学全集『古事記』・『万葉集』など   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標       | 上代から近現代までの、文学史の流れと個々の作品の内容を理解する   |       |           |
| 準備学習       | テキストを買って、読んでおくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 毎回出席し、提出物は期限までに提出すること。 日本語日本文化を専攻する学生は、 この授業だけでなく使いますので、 必ずテキストを購入してください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 上代の文学 『古事記』イザナギ・イザナミのみこと  2 上代の文学 『古事記』天の岩戸  3 上代の文学 『古事記』八咫のおろち  4 上代の文学 『古事記』因幡のしろうさぎ  5 上代の文学 『古事記』倭建命  6 上代の文学 『古事記』海幸彦と山幸彦ほか  7 上代の文学 『万葉集』  8 上代の文学 『万葉集』  9 上代の文学 『日本書紀』  8 上代の文学 『日本書紀』  9 上代の文学 『風土記』  10 文学の流れ 浦島太郎と『万葉集』  11 文学の流れ 浦島太郎『御伽草子』から絵本まで  12 羽衣伝説から能「羽衣」まで  13 三輪山伝説から能「三輪」まで  14 まとめと復習  15 まとめと復習 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T50579B01 |
| 科目名   | 日本文学史B 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | History of Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 | 日本文学史 f   |
| 講義概要  | 江戸時代から近代までの文学をできるだけ幅広く概観する。作品名だけを知っていて内容を知らないという場合が非常に多いので、作品の内容に少しでも触れるよう心がけたい。高校までで学習する文学史が、とすれば作家や作品名の単なる知識に終わってしまっていることが多いが、作品にふれることで、作品の息吹を感じたり、時代背景を学んだりすることを、大切にしたい。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 『原色シグマ新日本文学史』 文英堂 630 円 を春学期の文学史Aに続いて用います。 他に プリントも配布する   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点30%、小レポート20%、期末試験50%   |       |           |
| 到達目標  | 江戸時代から近代にかけてのの人々の生活や考え方を、作品から学ぶ。 登場人物の社会的地位の多様さや、作品による視点のちがいなどから、 実生活で広い視野を持つことを学ぶ。   |       |           |
| 準備学習  | 紹介される作品の現代語訳を読んでおくことが望ましい   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 必ず教科書を買って、毎回持ってきてください ノートを取ってください   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 江戸時代の文学 概観 雅俗の概念 2 浮世草子 好色物の代表作『好色一代男』より 3 浮世草子 『好色五人女』より 4 江戸時代の町人の都市生活・慣習 5 町人物の代表作『世間胸算用』より 6 談林俳諧 西鶴『独吟一日千句』より 7 近世の大坂 近松作品と人形浄瑠璃 8 『曾根崎心中』と『冥土の飛脚』 9 松尾芭蕉『おくのほそ道』より 10 歌舞伎ビデオ鑑賞 『助六由縁江戸桜』 11 江戸時代の三都の花街 吉原・島原・新町 12 近世の学問 国学・儒学・心学  13 滑稽本 十返舎一九『東海道中膝栗毛』 14 子供絵本の進化 15 明治期の小説 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50594001 |
| 科目名        | 認知心理学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Cognitive Psychology   |       |           |
| 担当者名       | 小川 嗣夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 認知心理学は、広義には哲学、言語学、人類学、神経科学、人工知能研究との結びつきが強く、学際的な学問であるが、狭義には、人間の認知活動を研究する学問である。すなわち、「意識」が外界をどのように認知するかに関する学問である。  本講では、下記の項目を中心に人間の認知活動に関する重要な研究を紹介しながら、理論的および実験的認知心理学について論述する。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  |  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (20%) は出席状況等による。定期試験結果 (80%)   |       |           |
| 到達目標       | 人間の心と行動を認知的アプローチによって理解できるようにすること。  |       |           |
| 準備学習       | 配布資料を見ておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | ①心理学概論を履修しているものとして、授業を進めます。  ②授業内容は、かなりレベルが高く、簡単に単位が取れる訳ではありません。  ③授業内容を努力して理解すれば、どこにでも通用する人間の認知機能を理解できるようになります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 認知心理学とは何か：①認知とは何か  2. 認知心理学とは何か：②心理学における認知の扱い  3. 認知心理学とは何か：③認知心理学の誕生  4. 認知的アプローチとは何か  5. 認知心理学の方法  6. これからの認知心理学  7. 初期認知：①子どもに対する大人のイメージ  8. 初期認知：②新生児と乳児の能力  9. 初期認知：③自己認識の発達  10. 視覚認知：①知覚の成立過程  11. 視覚認知：②視覚の基本的特性  12. 視覚認知：③形の知覚  13. 視覚認知：④知覚の情報処理過程  14. 記憶認知：①情報処理過程 15. 記憶認知：②記憶の諸相 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50600A01 |
| 科目名        | 発達心理学 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Developmental psychology I   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子  | 旧科目名称 | 発達心理学     |
| 講義概要       | 胎児期からの発達について、理論、事例を通して学ぶ。母子関係、父子関係、家族を始めとし、社会との関係の中で、情動、コミュニケーション、言語、社会性などが、どのように発達するのについて学ぶ。また、障害についても学び、そこから見えてくるものについて考えを深める。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 適宜プリントを配布する。   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 乳幼児精神医学への招待 小此木啓吾／渡辺久子編 ミネルヴァ書房  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布する。またビデオなども活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (授業への出席、課題提出等を含む授業態度) 50%。試験50%。   |       |           |
| 到達目標       | 胎児期から幼児期の発達について、理解し、自分なりに考えることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 近年の母子をめぐる事件や、教育における問題など、社会的な視点を持ち、意識的に考えてみることをして下さい。   |       |           |

#### 受講者への要望

授業への積極的な参加を求めます。グループでの討論などにも積極的に参加して下さい。私語は厳禁です。遅刻、早退なども理由を申し出て下さい。これらは、皆が落ち着いて授業を聞くために必要なマナーです。授業を落ち着いて聞くことは学生の権利ですので、この環境を作るために、皆で協力して下さい。マナーを守れない人には、単位を出さないこともあります。

#### 講義の順序とポイント

1,オリエンテーション|2,発達について|3,精神分析的発達理論|4,認知発達理論|5 受胎から誕生まで①生まれる前の子どもの心|6,受胎から誕生まで②生まれる前の様々な問題|7,誕生から乳幼児期まで①乳幼児の身体と認知の発達|8,誕生から乳幼児期まで②母子相互作用と乳児の発達|9,誕生から乳幼児期まで③情動の発達|10,誕生から乳幼児期まで④コミュニケーションの発達|11,誕生から乳幼児期まで⑤言葉の発達、自己感|12,障害について|13,育児と家族|14,母性拒否症候群、虐待|15,まとめ||

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50600B01 |
| 科目名        | 発達心理学Ⅱ 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Developmental psychology II   |       |           |
| 担当者名       | 橋本 尚子   | 旧科目名称 | 発達心理学 f   |
| 講義概要       | 人間の発達について、主に、児童期以降に焦点をあてて学んでいく。児童期・思春期・青年期・成人期・老年期にそれぞれどのような人生の課題があると考えられているのかを理解する。また、言葉は人間の人格の形成や、活動、思考に深く関わるものであるため、言葉と心、言葉と人間について考える。これらの学習を通して、人間についてより深く理解することを目指す。                         |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを適宜配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 発達の理論をきずく 村井潤一編 ミネルヴァ書房 子どもとファンタジー 守屋慶子 新曜社   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点50%（授業態度、授業内レポートなどを含む）試験50%  |       |           |
| 到達目標       | 児童期から老年期までの発達について理解し、考えを深めることを目標とする。  |       |           |
| 準備学習       | 自分自身や、自分の周りの出来事、社会での問題などに目を向けて自分なりに考えてみることをして下さい。 また、言葉や、イメージなど、普段は当たり前であまり意識しないことにも、意識を向け、色々な本を読んで下さい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 私語は厳禁です。授業中の入退室も、理由を述べてもらいます。授業を落ち着いて聞くことは、学生みんなの権利です。そのような環境を作るために、上記のマナーを守ることへの協力をお願いします。マナーを守れない人には単位を出さないこともあります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1,ライフサイクル①西洋と日本 2,ライフサイクル②各発達段階の特徴 3,児童期の課題 自己意識の芽生え 4,思春期の課題  5,青年期の課題 6.自己意識と他者  7.思春期・青年期に生じやすい問題 8,親子関係・親離れ・子離れ 9,映画で観る親子関係  10,親になること 11,老年期の課題 12,感情の発達 13,行為の自己調節と言葉 14,病と障害・死の問題  15, まとめ |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50605A01 |
| 科目名        | 比較社会論A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | The Study of Comparative Societies A  |       |           |
| 担当者名       | 平田 知久   | 旧科目名称 | 比較社会論 s   |
| 講義概要       | この講義には「比較社会論」という名前がついています。 その名の通り、ある「共通の主題」からさまざまな社会を比較することによって、それぞれの社会に対する新しい知を得ることが、この講義の目的です。 この講義では、共通の主題として東アジア・東南アジアの主要都市にある「インターネットカフェ」を選びました。皆さんが考えている以上に、アジアにはインターネットカフェが多くあり、インターネットカフェはそれぞれの社会で、それぞれの機能を担っています。 インターネットカフェは東アジア・東南アジアの各都市でどのようなものとして存在するのか。また、インターネットカフェの利用者とはどのような人々なのか。このような問いを携えながら、その他の現代メディアとの関係も含めて、それぞれの社会に共通する問題や個別の問題を考えていきたいと考えています。   |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特にありませんが、講義の中で適宜紹介していきたいと思います。  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 特にありませんが、講義の中で適宜紹介していきたいと思います。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 特にありません。  |       |           |
| 評価方法       | 出席点 (コメント含む) … 30% 期末レポート …………… 70%   |       |           |
| 到達目標       | 1. インターネット・パソコン利用に関する東アジア・東南アジア諸都市の特殊性と、その社会的・文化的・経済的背景を知ること。 2. テクノロジーとメディア利用を考える上での比較社会学的視座の有用性を知ること。   |       |           |
| 準備学習       | 特に必要ありませんが、インターネットカフェを利用したことがある人はそのときの経験について、利用したことがない人はインターネットカフェについてのイメージについて答えられるようにしておいてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 受講者の人数にもよりますが、できるだけ皆さんが考えていることを、講義に組み込みながら進めていきたいと思っています。ですので、講義中に皆さんに質問することも多々あると思いますが、あまり緊張しないでください。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 次のような予定で講義を進めます。 01. イントロダクション—インターネットカフェとアジア 02. 東京のインターネットカフェ(1)—個人ブースは犯罪の温床? 03. 東京のインターネットカフェ(2)—静寂の空間と臭い 04. ソウルのインターネットカフェ(1)—誕生日会はPC房で 05. ソウルのインターネットカフェ(2)—誰がためにゲームはある 06. 北京・天津・上海のインターネットカフェ(1)—都市の外延について 07. 北京・天津・上海のインターネットカフェ(2)—娯楽はいかに提供されるべきか 08. 香港のインターネットカフェ—移民の歌 09. 台北のインターネットカフェ—郊外化する店舗とその裏側 10. シンガポールのインターネットカフェ—多民族国家とインターネット 11. マニラのインターネットカフェ(1)—朝から昼まで営業できなかった店舗 12. マニラのインターネットカフェ(2)—帰国して開店するという事 13. バンコクのインターネットカフェ(1)—ガラス張りの空間 14. バンコクのインターネットカフェ(2)—恥ずかしさの対価 15. まとめ—アジアとインターネットの未来 |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T50605B01 |
| 科目名   | 比較社会論B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | The Study of Comparative Societies B   |       |           |
| 担当者名  | 矢野 裕巳  | 旧科目名称 | 比較社会論 B   |
| 講義概要  | <p>人はなぜ争うのか？国と国、民族と民族、世界のいくつかの紛争をとりあげ、争いの原因を比較検証していきます。 人はなぜ争うのか？人類の歴史は戦争の歴史であると言われてます。戦争、紛争は経済戦争や裁判での紛争等の意味にも使われるが、ここでは、敵対する戦力が武力を行使して争う武力紛争について考える。なお一般的に紛争は比較的小規模な武力衝突であり、より大規模な武力衝突を戦争と考えられていますが、その境目が完全にはっきりしているわけではありません。戦争は悪であると考えer人は多いと思います。しかし、今なお世界には多くの紛争が存在し、多くの人達が苦しんでいます。毎講義に1つの紛争を取り上げ、その背景を解りやすく学びます。最後にはそれぞれの紛争の背後にある共通の問題点を受講者に考えてもらいたいと思います。なお世界情勢の変化により取り上げる紛争地域が代わる場合もあります。 </p> |       |           |
| 教材(テキスト)  | プリント教材を毎回配布  |       |           |
| 教材(参考文献)  | プリント教材を毎回配布  |       |           |
| 教材(その他)   |  |       |           |
| 評価方法  | 毎講義のなかで25分~35分で、その日の講義内容に関するレポートを書いてもらい、ABC 3段階で評価。全講義における得点で成績をつけます。10 講義への出席が絶対条件です。   |       |           |
| 到達目標  | 世界の紛争を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握できる力をつける事を目標とします。  |       |           |
| 準備学習  | 毎日、新聞に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。  |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義は1回1回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解する事を基本に考えます。出席を重視します。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 講義後期 1、アルメニア 2、クルド 3、キプロス 4、ソマリア 5、ルワンダ 6、シエラレオネ 7、カシミール 8、東ティモール 9、チェチェン 10、北アイルランド 11、バスク 12、グルジア 13、ボスニア・ヘルツェゴビナ 14、コンボ 15、まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50619A01 |
| 科目名        | 文化社会学A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Culture A   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人、金、情報、思想、メディアが国境を越えて移動する今日、たとえ自分が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送ることはできない時代になりました。自分とは異なる文化との共生はいかにできるのでしょうか。本講義では、文化の「違い」が力関係の中で問題となる場面をとりあげて考えていきます。たとえば異なる人種や民族だけでなく、地域や年齢、職業、ジェンダーなど、身近な「違い」をとりあげ、「排除」「同化」「無関心」におちいらず、他文化理解の可能性と限界を考えていきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『異文化論への招待ー＜違い＞からの自文化再発見』黒木雅子著 朱鷺書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用する。適宜資料は配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 他文化理解の可能性を考える  |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特になし       |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. イントロダクション 2～3,文化とは何か 4. 社会化とは 5. アイデンティティ（存在証明）と差別 6. 異文化接触とアイデンティティの変容 7. 文化相対主義のジレンマ 8. 多文化コミュニケーション 9. コミュニケーションとコンテキスト 10. 言語的コミュニケーション 11. 非言語的コミュニケーション 12. コミュニケーション・ノイズ 13. カルチャーショックと逆カルチャーショック 14. ソーシャルサポート 15. まとめ                            |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50619B01 |
| 科目名        | 文化社会学B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Sociology of Culture B   |       |           |
| 担当者名       | 黒木 雅子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 人、金、情報、思想、メディアが国境を越えて移動する今日、たとえ自分が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送ることはできない時代になりました。自分とは異なる文化との共生はいかにできるのでしょうか。本講義では、文化の「違い」が力関係の中で問題となる場面をとりあげて考えていきます。たとえば異なる人種や民族だけでなく、地域や年齢、職業、ジェンダーなど、身近な「違い」をとりあげ、「排除」「同化」「無関心」におちいらず、他文化理解の可能性と限界を考えていきます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 『異文化論への招待ー＜違い＞からの自文化再発見』黒木雅子著 朱鷺書房   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 特になし   |       |           |
| 教材（その他）    | ビデオ教材を活用する。適宜資料は配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）出席状況等による、期末テスト（70%）  |       |           |
| 到達目標       | 他文化理解の可能性  |       |           |
| 準備学習       | 特になし   |       |           |
| 受講者への要望    |  |       |           |
| 特になし       |  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1,後期イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 社会資源と格差 4,マイノリティとは誰のことか  5, なぜエスニシティか  6, 差別の複合性と重層性 7, 黄禍論とは 8, 日本人論をめぐって 9, 日本のなかの多文化 10, 被害者非難と被害者崇拝 11, ビデオ 12, 異文化から多文化へ 13, 平等と公平をめぐって 14, 多文化社会の可能性と限界 15, まとめ  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T50753001 |
| 科目名        | 国際社会と資源 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | International Society and Natural Resources  |       |           |
| 担当者名       | 内藤 登世一   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。</p> <p>本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題、エネルギー資源問題、鉱物資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特に指定しない。各講義でプリントを配布する。   |       |           |
| 教材（参考文献）   | ① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版（2008年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008年）   |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点（30%）、レポートの提出（30%）、学期末試験（40%）   |       |           |
| 到達目標       | 地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。  |       |           |
| 準備学習       | 参考書リーディング（授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）   |       |           |
| 受講者への要望    | 教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求めます。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. シラバスの説明・地球資源問題とは  2. 海洋資源の減少問題 I（概況）  3. 海洋資源の減少問題 II（タラ類）  4. 海洋資源の減少問題 III（マグロ）  5. 海洋資源の減少問題 IV（クジラ）  6. 森林の減少問題 I   7. 森林の減少問題 II   8. 生物多様性の減少問題   9. 人口問題   10. 食糧問題   11. 水資源問題   12. 化石資源問題   13. エネルギー資源問題   14. 鉱物資源問題   15. 地球の環境容量と生きている地球指数   15. まとめ  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50754001 |
| 科目名        | 経済開発と環境 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Economic Development and Environment  |       |           |
| 担当者名       | 上須 道徳   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>発展途上国にとって貧困克服や生活向上のために経済成長は人々の生活を向上させるために不可欠と考えられます。また、先進国においても日々の豊かな生活を支える経済活動が汚染問題や資源枯渇問題を引き起こし、人々の生活を脅かしています。この授業では、環境汚染問題や資源問題などをとりあげ、経済学的な視点からどうして公害などの環境問題がおこるのかどのような方法で解決できるのかに焦点をあて、経済発展と環境の関係を明らかにします。また授業の初めに、経済専門誌（日本経済新聞など）を使って経済と環境に関する時事問題について解説することも試みます。</p>   |       |           |
| 教材（テキスト）   | テキストブック環境と公害 泉 留維, 室田 武, 和田 喜彦, 三保 学著 評論社   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に提示します。  |       |           |
| 教材（その他）    | 講義資料など配布します。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点 20%出席状況等、中間試験 30%、期末試験 50%から総合的に評価します。  |       |           |
| 到達目標       | 社会や経済と環境の関係について理解し、例えば日本の環境政策(エコカー減税など)が果たして環境にとって良いものなのか、自身で考えられることを目標にします。  |       |           |
| 準備学習       | 毎日、新聞に目を通し、自分で考える習慣を身に付けましょう。   |       |           |
| 受講者への要望    | 読んで、聞いて、見て、考えて、行動する。いろいろなことに興味を持ってください。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>第 1 回 暮らしと環境 第 2 回 経済活動と公害 第 3 回 環境と経済学①：マーケットって何？ 第 4 回 環境と経済学②：経済学からみた自然環境とは？公害はどうしておこる？ 第 5 回 環境政策：理論と実践 第 6 回 環境と経済学③：環境の価値の計測 第 7 回 公共事業と環境の関係を考える 第 8 回 エネルギーの問題と復習 第 9 回 中間試験（授業内で行う） 第 10 回 環境と経済・金融  第 11 回 経済のグローバル化と環境問題 第 12 回 資源利用と循環型社会 第 13 回 持続可能な観点からみた消費者・生活者としての私達の役割 第 14 回 少子高齢化とこれからの日本－貿易、農業・林業から考えてみよう 第 15 回 期末試験</p> |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | T50761A01 |
| 科目名        | エアライン講座 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Airline Course I  |       |           |
| 担当者名       | 岡崎 宏樹   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講座では、エアライン業界で羽ばたきたいと願う学生、サービス業や一般企業に就職したいと望む学生たちに、実践的な知識・技能が習得できるように講義を展開します。本講座のねらいは、お客様をもてなすホスピタリティ、洗練されたしぐさやマナーを習得し、エアライン他の業界に就職するための how-to を理解し、受講生のキャリア形成を支援することにあります。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  |   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点 (70%)、テスト (30%)   |       |           |
| 到達目標       | ①航空業界の仕事に関する理解を深める ②ホスピタリティの意義を理解し、その表現力を高める ③キャリア形成に役立つコミュニケーション能力を高める   |       |           |
| 準備学習       | 授業で学んだマナーや美しいしぐさを日常生活でも実践し、反復によって習得していくこと。  |       |           |

受講者への要望

授業を担当するのはウィズネス社の女性講師です。岡崎はコーディネーターを担当します。||航空会社の採用試験は、客室乗務員、グランドスタッフ、総合職など合わせて年間 300 回近い募集がありますが、人気の高い業界のため、その倍率は 50~100 倍ともいわれています。高倍率の試験を勝ち抜くためには、高水準の知識・技能・マナーを習得しなければなりません。|一方、エアライン業界が要求する高水準の知識・技能・マナーを習得すれば、一般企業でもかならず通用することでしょう。それゆえ、本講座は、航空業界の志望者だけでなく、サービス業をはじめ、広く一般就職をめざす学生を対象としています。対象学年は就職活動前の 3 回生ですが、2 回生以上であれば受講することができます。||マナーは実践によって学ぶものですので、出席と積極的な参加・学習を要望します。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス                    オリエンション/航空業界の仕事について/航空業界で求められる人材とは?|2. 自己表現力①  接  
 遇の 5 原則 (I) トレーニング  [挨拶・キビキビした動作・笑顔づくり]|3. 自己表現力②  接遇の 5 原則 (II) トレーニ  
 ング  [節度ある話し方・接客話法]|4. 自己表現力③  好感を持ってもらうためのスピーチ法と学んだことのチェックと強化|  
 5. 接遇対応法①  待機~出迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|6. 接遇対応法  
 ②  待機~出迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|7. 接遇対応法③  待機~出  
 迎え~案内~飲み物サービス~お見送りのシーンで必要とされる知識と実践ワーク|8. 接遇対応法④  電話の受け方・かけ方の  
 ポイントと実践訓練|9. 接遇対応法⑤  ロールプレイングの課題提出⇒グループワークとワークチェック⇒チームで成果を出すた  
 めの要因とは?|10. 自己分析                    自己分析をして夢を実現させよう                    \*交流分析チェックと行動パターンの把握|11.  
 ES・履歴書の理解                    エントリーシートの理解                    \*航空業界やその他の企業で書かせられるテーマとは?|12. ES・履歴書の理  
 解                    今から準備しておくべき、文字で自分を伝えるための常識|13. 面接対策実践①                    面接では何が見られるのか? 面  
 接で選ばれる学生となるために入退出の動きのトレーニング|14. 面接対策実践②                    模擬面接体験で自分のことを伝えてみ  
 よう!                    \*面接での質疑応答のポイント|15. テストと今後について                    あなたの夢を実現するためには?~体験学習から学ぶ~  
 \*確認テスト実施

|               |            |     |     |     |       |        |
|---------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6 つの基礎力) | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待           | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T50769001 |
| 科目名  | エコの知恵 【他】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Wisdom of Ecology   |       |           |
| 担当者名   | 山崎 ふさ子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>講義概要  伝統的な暮らしや文化には、自然や他者との調和を可能にする知恵がたくさんふくまれています。この科目は京町家キャンパスで行い、京都の中心の中京区で実際に暮らしと文化を見直す視点から木造建築の「京町家」を保存し、エコに取り組み地域の環境を守ろうとする実例を学びます。『京の町家 丁寧な暮らし』の著者・小島富佐江氏による連続「京町家の暮らし」シリーズや、京町家作事組（建築専門家集団）の方々の、地域の町づくりや祇園祭の山鉾巡行の中心となっている現代の町衆・吉田孝次郎氏、町家の暮らしを伝える秦めぐみ氏など、にぎやかな講師陣を迎えて、フィールドワーク体験を伴うリレー講義を展開します。全体のまとめ役は、江戸時代からの伝統に詳しい本学人間文化学部教授の山崎美紗子が担当します。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | その都度プリントを配布する   |       |           |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |
| 教材 (その他)   |   |       |           |
| 評価方法   | 平常点50% レポート50%  |       |           |
| 到達目標   | 見学や体験を通して、環境や暮らしの問題を自身のことと実感できるようになる  |       |           |
| 準備学習   | テレビや新聞で報道される環境や暮らしについての問題に関心を持ってほしい。とくに京都の地域的取り組みの報道に注目してほしい。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 積極的に質問するなど授業に自分から参加してください。 外部講師の場合もあります。個人のお宅を訪問することもあり、マナーに気をつけましょう。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| <p>講義の順序とポイント 1,京都という都市～町のなりたち (山崎) 2. 体験 町家のしつらえ替え (小島・山崎) 3. 京町家のなりたち～京町家の特徴 (小島) 4. 代表的「京町家 無名舎」の見学とお話  特別講師講師 祇園祭山鉾連合会理事長・吉田孝次郎氏 (山崎) 5. 世界から見た京町家  釜座町町家 (ちょういえ) の見学とワールド・モニュメント・ファンド (小島)  6. 木造建築のすばらしさと工夫   特別講師 作事組副理事長・荒木正巨氏 (小島) 7. 町家の暮らし その1 「衣」 (小島) 糸一本も大切に……安物買いの銭失いにならないように 8. 町家の暮らし その2 「食」 (小島) 大切にいただく……もったいないことをしない 9. 町家の暮らし その3 「住」 (小島)  座の文化を大切に……柔軟な考え 暮らし方 10. 京町家の見学(フィールドワーク)  11. 江戸時代時代の「町家」売買の例 (山崎) 12. 町家の知恵を現代に活かすには (小島) 13. たたみの今昔 (山崎) 14. 木造の家とコンクリートの家 (山崎) 15. 京都の暮らしにみる正月のしきたり (小島・山崎)  (季節や講師の都合により、順番が変わることがあります。) </p> |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T60006001 |
| 科目名        | 環境教育・富良野自然塾【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Education/ Furano Field  |       |           |
| 担当者名       | 關谷 次郎  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。   |       |           |
| 教材（テキスト）   |  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（70%） レポート（30%）  |       |           |
| 到達目標       | 森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）  |       |           |
| 準備学習       | オランダの「森の幼稚園」や亀岡市の「地球環境子ども村」などにも関心をよせてください。   |       |           |
| 受講者への要望    | 自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。 「富良野自然塾・倉本聰対談集 愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくとも参考になります。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。 「富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリ一滴」）： 山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなこととして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリ一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。   事前学習（キャンパスプラザ京都）： 7月27日（金）5講時 18：20～（3時間）   現地実習（北海道・富良野自然塾）： 9月1日（土）～3日（月）（予定）   事後学習（キャンパスプラザ京都）： 9月7日（金）5講時 18：20～（3時間） |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T60010001 |
| 科目名  | シリーズ特別講義A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Special Lecture Series A   |       |           |
| 担当者名   | 辻村 茂男  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | とくに定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）  |  |       |           |
| 評価方法   | 出席状況、受講態度等による平常点(70%) レポート(30%)  |       |           |
| 到達目標   | 環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。   |       |           |
| 準備学習   | 種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1) はじめに。この講義の意義とねらいを説明する。 2)~5) 農業、漁業、林業の現場で働いている人たちからメッセージ。 6)~8) 農協、漁協、林業組合で働いている人たちからのメッセージ。 9)~11) 工業、商業の現場で環境問題に取り組んでいる人たちからのメッセージ。 12)~14) 廃棄物問題、開発問題に関わっている専門家や市民運動関係者からのメッセージ。 15) まとめ  以上の諸課題に関して、学外の先達に1コマずつの講義をお願いします。なお、講師の方々との日程調整上、順序は未定である。 |  |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     |            |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | T60011001 |
| 科目名   | シリーズ特別講義B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Special Lecture Series B  |       |           |
| 担当者名  | 清水 昌  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 日本のバイオサイエンスとその応用技術は現在、明治以来の先人のたゆまぬ努力と研鑽の結果、世界でも最先端のレベルにある。そうした企業などの第一線で活躍されている研究者・技術者の方々を講師として招き、バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーの現状・将来について講義をしていただく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  |   |       |           |
| 教材（参考文献）  |   |       |           |
| 教材（その他）   |   |       |           |
| 評価方法  | 平常点（出席状況など）10% 指定した課題に対するレポート90%  |       |           |
| 到達目標  | 産業界におけるバイオ技術の活用について理解を深める。 現役の企業人から直接話を聴くことで、自らのキャリア形成に関するイメージを描き、バイオ環境学部での勉学の動機付けや勉学意欲の向上につなげる。  |       |           |
| 準備学習  | バイオテクノロジーおよびバイオインダストリーについて、メディア（新聞、TV、Webなど）を通じた最新の情報に意識的に接しておく。「バイオインダストリー論」などと併せて受講すると、バイオインダストリーについての理解がより深まる。                           |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 関心のある分野について、最低でも新書などの関連文献を熟読し、レポートを書く際の参考にすること。 レポートの書き方についても、各自解説書等を読んで自学すること。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1) 科学技術とバイオテクノロジー 2) バイオ基盤技術産業(1) 3) バイオ基盤技術産業(2) 4) 創薬産業(1) 5) 創薬産業(2) 6) 生化学産業(1) 7) 生化学産業(2) 8) 食品産業(1) 9) 食品産業(2) 10) 醸造産業(1) 11) 醸造産業(2) 12) 植物関連産業(1) 13) 植物関連産業(2) 14) バイオ基盤産業(1) 15) バイオ基盤産業(2) 講義の順序は開講時に決定するが、各講師の都合により変更する場合がある。 |   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T60012001 |
| 科目名        | 社会と環境問題 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Environmental Problems and Society   |       |           |
| 担当者名       | 金川 貴博  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 江戸時代が終わって明治期に入ると、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。さらに戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、新潟イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、このような健康被害に対して、すぐに補償がなされたわけではない。原因究明に時間を要し、被害者は悲惨な状況下に置かれた。2011年には、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされた。このように現実には多くの人が放射能という環境汚染問題に直面して、どう対処すべきなのかを考える上で、過去に起こった環境問題に対して、その当時の人々がどう考え、どう対処したのかを学ぶことから多くの重要な事柄を導き出すことができる。この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を説明し、現在の環境問題への対処を考える。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 小田康徳編「公害・環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000円＋消費税   |       |           |
| 教材（参考文献）   |  |       |           |
| 教材（その他）    |  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験（80点）、適宜行う小テスト（20点）  |       |           |
| 到達目標       | 現在の環境問題を自分なりに考えられるようにする  |       |           |
| 準備学習       | 教科書の該当部分を読んでおくこと   |       |           |
| 受講者への要望    | 「環境化学」を受講しておくことが望ましい。 わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。 現在の環境問題として、放射能に関連するニュースを把握しておくこと。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 汚染による被害と損害賠償についての一般論  2. 福島第一原子力発電所の事故と環境汚染  3. 戦前：足尾鉍毒事件の概要  4. 戦前：別子銅山煙害事件  5. 今も続く鉍山排水による汚染とその対処  6. 戦前：大阪の工業化と大気汚染と煙害防止策  7. 戦後の経済復興と公害問題  8. 戦後：水俣病の発生  9. 戦後：水俣病のその後  10. 公害被害者への差別と住民間の対立  11. 戦後：イタイイタイ病  12. 戦後：四日市公害  13. 戦後：四日市の水質汚濁  14. 現代：原子力発電所の事故のその後の状況  15. まとめ   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T60016001 |
| 科目名  | 生物の分類 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Taxonomy   |       |           |
| 担当者名   | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | <p>私たちは、さまざまな生き物を種として認識することができる。また、生物種は、命名規約に従って、種名がつけられ類別されている。では、種とはいったい何を表しているのだろうか。個体と種の関係はどうなっているのだろうか。こうした生き物を種に分類することについて、さまざまな事例を通して学ぶ。また、種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。このような系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の系統関係についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 馬渡峻輔「動物分類学の論理」東京大学出版会 E.O.ワイリー他「系統分類学入門」 根井正利、S.クマー「分子進化と分子系統学」培風館 ジョン・C・エイビス「生物系等地理学」東京大学出版会  |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法   | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する   |       |           |
| 到達目標   | 生物には種名がつけられているが、種といったときに、何が想定されているのかについて考えを深める。また、この地球にはどのような生き物が出て、どのような関係にあると考えられているのかについても概観し、地球にいる様々な生物を知る。  |       |           |
| 準備学習   | これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われていています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 類別と分類 2 種概念、基準標本システム、命名規約 3 種とはなにかを考える 1 種とはなんぞや? 4 種とはなにかを考える 2 交配可能性とは? 5 種とはなにかを考える 3 種分化 6 生物地理と分類 1 系譜 7 生物地理と分類 2 分布と種分化過程 8 分類体系 1 生物を分類体系にまとめる 9 分類体系 2 分子系統 10 分類体系 3 分岐分類法 11 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 1 12 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 2 13 生物の分類 地球にはどんな生き物がいるのか 3 14 生物の分類 地球にはどんな生き物がいたのか 1 絶滅の歴史 15 生物の分類 地球にはどんな生き物がいたのか 2 過去の多様性を学ぶ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | T60021001 |
| 科目名  | 生物の多様性 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Biodiversity   |       |           |
| 担当者名   | 鈴木 玲治  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 今日、「生物多様性」は環境問題において頻繁に語られるキーワードとなり、その保全は環境保全に関わるあらゆる活動の錦の御旗のごとく扱われているが、「生物多様性」の概念を正確に理解している人は意外に少なく、その保全の意義に対する議論も十分とは言えない。本科目では、種の多様性に加え、遺伝的多様性や生態系の多様性など、「生物多様性」という言葉に含まれる多面的側面の理解を目指す。また、多様性の喪失を生む諸要因や、生物多様性保全に関わる国際社会の動向を理解すると共に、その保全の意義について、様々な視点から議論を行う。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 特になし。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 「生物の種多様性」 裳華房 「生物の多様性って何だろう？」京都大学学術出版会   |       |           |
| 教材（その他）  | 資料を配付する。   |       |           |
| 評価方法   | 出席状況等による平常点と、期末試験により評価する。  |       |           |
| 到達目標   | 生物多様性の概念を理解し、その保全の意義について議論する力を磨く。また、生物多様性保全に関わる国際社会の動向への理解を深める。  |       |           |
| 準備学習   | 「生物多様性」という言葉に含まれる意味を調べしておく。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいため、皆さんの積極的な発言を期待します。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 ガイダンス：生物多様性とは？ 2 曖昧な種の定義：オオカミとコヨーテの関係 3 生物多様性の概念Ⅰ：種の多様性 4 生物多様性の概念Ⅱ：遺伝的多様性 5 生物多様性の概念Ⅲ：生態系の多様性 6 自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ 7 生物間相互作用と生態系：多種共存を支えるしくみ 8 進化と生物多様性：植物と動物の共進化 9 多様性の指標となる種：キーストーン種とアンブレラ種 10 生物多様性の危機：絶滅する種・蔓延する種 11 生態系の復元：土壌シードバンクの機能 12 都市に生きる野生動物 13 地球温暖化と生物多様性 14 生物多様性と国際社会：生物資源をめぐる南北問題  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|           |  |       |           |
|-----------|--|-------|-----------|
| 年度        | 2012   | 授業コード | T60022001 |
| 科目名       | 生物学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記） | Biology  |       |           |
| 担当者名      | 大西 信弘  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要      | これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのあ<br>る視点を提供する。  |       |           |
| 教材（テキスト）  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第2版—分子・細胞・個体から知る“生命”<br>のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人  |       |           |
| 教材（その他）   | 講義中に適宜紹介する   |       |           |
| 評価方法      | 講義中のレポート、小テストなどを勘案して評価する   |       |           |
| 到達目標      | 生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能<br>を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広<br>げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。 |       |           |
| 準備学習      | 生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽<br>しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。  |       |           |

#### 受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽  
しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を  
理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命  
現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

#### 講義の順序とポイント

1 イントロダクション ～身の回りの生物～ 生物の分類と図鑑の使い方|2 生物とは（1） ティンバーゲンの4つのなぜ 至  
近要因と究極要因|3 生物の進化 自然淘汰と性淘汰|4 生物とは（2） 個体の構造 分子～細胞～個体|5 食物とエネルギー  
源 動物生理学|6 神経、筋肉の制御 動物生理学、性決定機構 発生生物学|7 生物とは（3） 同種の個体 個体～個体群|8  
性の意味 行動生態学|9 他個体との相互作用 行動生態学|10 生物とは（4） 個体の暮らし 個体群～生態系|11 生物の数  
の話 増えたり、減ったり、食ったり、食われたり 生態学|12 生物の分布 生物地理学|13 生物が進化してきた道筋 生物は  
多様なのか、一様なのか？ 系統分類学|14 生物の死|15 人間理解 文化的進化と遺伝的進化

| 人間力（6つの基礎力） | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|-------------|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待         | ○          |     |     |     | ○     | ○      |

○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。|履修の参考にして下さい。

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | T60023001 |
| 科目名   | 化学【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Chemistry  |       |           |
| 担当者名  | 坂本 文夫  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解させる。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつけてもらう。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 教科書：サイエンスビュー化学総合資料(実教出版、800円)  |       |           |
| 教材(参考文献)  |  |       |           |
| 教材(その他)   | フレッシュマンセミナー化学(京都学園大学バイオ環境学部編)の必要箇所のコピー ビデオ「ホフマンの化学の世界」など   |       |           |
| 評価方法  | 期末試験の成績(70%)、数回行う小テスト、出席状況、受講態度(30%)を考慮に入れ総合的に評価する。  |       |           |
| 到達目標  | 本学部での専門科目履修に必要な基礎学力として、化学物質の構造および反応に関わる基礎を学び、物質の基本概念を身につける。  |       |           |
| 準備学習  | 特に、高校での化学の履修が不十分な学生はフレッシュマンセミナー化学(本学部で編集)を使って高校化学の履修内容を確実にして講義に臨んでもらう。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 講義内容や配布資料についての理解を深めるために小テストやレポートを課すことがある。受講者は毎講時出席した上で講義内容の復習も頑張る、化学の基礎知識を習得して下さい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1. 物質の基本概念と化学   2. 原子と分子、元素と化合物   3. 原子と電子の軌道   4. モルの概念、分子模型   5. 元素の周期律   6. 化学結合   7. 化学式・組成式・分子式・構造式   8. 化学反応と化学熱力学   9. 反応速度   10. 酸と塩基   11. 酸化と還元   12. 無機化合物の性質   13. 環境と化学1   14. 有機化合物の性質   15. 環境と化学2 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T60023003 |
| 科目名  | 化学【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Chemistry   |       |           |
| 担当者名   | 藤井 康代   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | バイオ環境を理解するには物質の基本概念を身につける必要がある。地球上の物質は様々な元素から構成されていることを学び、さらに物質の性質を元素や原子の構造から理解できるようにする。        |       |           |
| 教材(テキスト)   | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－』 東京化学同人 2850 円(+税)                       |       |           |
| 教材(参考文献)   | 中川徹夫著 化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本 1500 円+税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著 『一般化学』(上)(下) 東京化学同人 各 2980 円+税 |       |           |
| 教材(その他)  | A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著 『化学－基本の考え方を中心に－ 問題と解答』 東京化学同人 1700 円(+税)                 |       |           |
| 評価方法   | 定期テスト(80%) 小テスト(20%)  |       |           |
| 到達目標   | 物質の成り立ちを理解し、物質量の概念を習得する。物質変換を化学反応として認識する。   |       |           |
| 準備学習   | 教科書を熟読しておくこと。   |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| これまでの化学の履修経験は問わないが、授業と並行して例題や教材(その他)の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。 さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習し、理解を深めること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 化学とはどのような学問か 2. 測定の体系 3. 物質 4. 元素・原子・分子 5. 周期表 1 6. 周期表 2 7. 元素記号 8. 構造式 9. 化学結合 1 10. 化学結合 2 11. 化学反応式 12. 物質の量モル 13. 溶体の化学・濃度 14. 物質の三態 1 15. 物質の三態 2 |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T60024001 |
| 科目名        | 物理学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Physics  |       |           |
| 担当者名       | 伊東 和彦  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 物理学は自然科学のすべての分野の中で、精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の正確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる運動方程式、運動量、エネルギー、角運動量、解析力学などについて具体例をもとに考察する。  |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし   |       |           |
| 教材（参考文献）   | なし   |       |           |
| 教材（その他）    | なし   |       |           |
| 評価方法       | テスト（100%）  |       |           |
| 到達目標       | 物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習       | 日常から物理現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望    | 数学を履修することが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 運動方程式（1）：位置・速度・加速度 2. 運動方程式（2）：力とポテンシャル 3. 運動方程式（3）：運動の法則 4. 運動量（1）：質点の運動量 5. 運動量（2）：質点系の運動量 6. 運動量（3）：運動量の保存 7. エネルギー（1）：力学的エネルギー・弾性エネルギー 8. エネルギー（2）：電流と磁界・電力とジュール熱 9. エネルギー（3）：エネルギーの保存 10. 角運動量（1）：質点の角運動量 11. 角運動量（2）：質点系の角運動量 12. 角運動量（3）：角運動量の保存 13. 解析力学（1）：最小作用の原理 14. 解析力学（2）：ラグランジュ方程式 15. 解析力学（3）：ハミルトンの正準方程式 |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |
|--|---|-------|-----------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | T60026002 |
| 科目名  | 数学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | Mathematics   |       |           |
| 担当者名   | 伊東 和彦   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要   | 数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって、自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で代数学の基礎となる数、方程式、関数、グラフ、ベクトルなどについて具体例をもとに考察する。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | なし  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | なし  |       |           |
| 評価方法   | テスト (100%)  |       |           |
| 到達目標   | 数学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。   |       |           |
| 準備学習   | 日常から外界の自然現象について数理的に考察する習慣を身につけておくこと。  |       |           |
| 受講者への要望  |   |       |           |
| 物理学を履修することが望ましい。   |   |       |           |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |
| 1. 数 (1)   2. 数 (2)   3. 数 (3)   4. 方程式 (1)   5. 方程式 (2)   6. 方程式 (3)   7. 関数 (1)   8. 関数 (2)   9. 関数 (3)   10. グラフ (1)   11. グラフ (2)   12. グラフ (3)   13. ベクトル (1)   14. ベクトル (2)   15. ベクトル (3) |   |       |           |

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | T60160001 |
| 科目名        | バイオサイエンス入門 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Introduction to Bioscience   |       |           |
| 担当者名       | 松原 守   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 本講義は、バイオサイエンス学科で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、バイオサイエンス全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。  |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 特に指定しない  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | Eric J. Simon 著 池内正彦監訳 『エッセンシャル キャンベル生物学』 丸善 7,000 円 バイオサイエンス研究会編 『バイオサイエンス』 オーム社 3,675 円 Richard Allan 著 後藤太郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第2版』 オーム社 3,000 円 D.サダヴァ著 石崎泰樹・丸山敬 監訳 『大学生物学の教科書 第1巻細胞生物学』 講談社 1,300 円 |       |           |
| 教材 (その他)   | 適宜プリントを配布  |       |           |
| 評価方法       | 期末試験(50%)、毎回の演習およびレポート(25%)、講義での発表、受講態度、出席状況などの平常点(25%)の結果を総合的に判断する。   |       |           |
| 到達目標       | バイオサイエンスの基本事項について正しく理解する。 バイオサイエンスの専門用語について説明ができる。 バイオサイエンスに関わるマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。  |       |           |
| 準備学習       | 基本的には高校時代の理科学科の学習履歴を問わず講義を行うが、高校の理科の教科書は復習しておくことが望ましい。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。   |       |           |

#### 受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は必ずこの講義を受けること。|演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。|日頃からバイオサイエンスの分野について関心を持つように心がける。|

#### 講義の順序とポイント

1. ガイダンス (科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及) |2. 生物科学 (バイオサイエンス) とは? (生物と無生物の違い、バイオとは?) |3. 細胞の基本構造 (生命の基本単位である細胞とは) |4. 生命の化学 I (生命の化学的基盤、水と環境) |5. 生命の化学 II (生命分子の多様性、高分子の構造) |6. 生体エネルギー (エントロピー、結合エネルギー、化学平衡) |7. 生体分子と代謝 (物質代謝、酵素反応) |8. バイオに関連した科学計算 (物質の濃度計算、生物統計の考え方) |9. 生命の設計図 (遺伝、遺伝子の複製と発現、セントラルドグマなど) |10. バイオテクノロジー (バイオ研究の基本技術) |11. 生物の恒常性 (内分泌系とホルモンなど) |12. 植物バイオ (光合成、植物のバイオテクノロジーなど) |13. 生物の進化 (進化の歴史、遺伝子レベルで見た進化) |14. バイオサイエンスと医療・食糧・環境 (医療・食糧・環境に役立つバイオ技術) |15. まとめと演習||1 は松原、矢野、2-8 は矢野、9-15 は松原が担当します。|

| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | TM0018A01 |
| 科目名        | 音声学 I 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記) | Phonetics I  |       |           |
| 担当者名       | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 音声学 s     |
| 講義概要       | 日本語の「あ」の音は5種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は4種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における、意味を区別する音素が色々な音声を含まれることを理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。 |       |           |
| 教材 (テキスト)  | IPA 表  |       |           |
| 教材 (参考文献)  |  |       |           |
| 教材 (その他)   |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点40パーセント(授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の実技小テストを受けることが必須である。  |       |           |
| 到達目標       | 破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPAの表が理解できる。   |       |           |
| 準備学習       | 幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大きめに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 音声学の対象  2. 英語の母音と日本語の母音の大きな相違点  3. 調音法  4. 調音点  5. 破裂音1  6. 破裂音2  7. 前半のまとめと小テスト  8. 鼻音、弾き音  9. 摩擦音1  10. 摩擦音2  11. 側音、接近音  12. 第一基本母音と第二基本母音  13. ビデオで見る音声学の成果1  14. ビデオで見る音声学の成果2  15. 春学期のまとめ        |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | TM0018B01 |
| 科目名  | 音声学Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Phonetics II   |       |           |
| 担当者名   | 檜崎 勝則  | 旧科目名称 | 音声学 f     |
| 講義概要   | 日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。                 |       |           |
| 教材(テキスト)   | IPA表と毎回の授業で配布するプリント。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店 2310円  |       |           |
| 教材(その他)  | 授業中に適宜指示する。  |       |           |
| 評価方法   | 平常点40パーセント(授業参加態度と提出物により判断する)、定期テスト60パーセント。但し、学期中の小テストを受けることが必須である。小テストはエッセイに代用する場合もある。                        |       |           |
| 到達目標   | 調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音15個とアメリカ英語の母音22個の正確な発音ができるようになる。 |       |           |
| 準備学習   | 音声学Ⅰを履修しておくことが望ましい。  |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1. 音声学の対象 2. IPAの見方1 3. IPAの見方2 4. 音と文字1 5. 音と文字2 6. 音と文字3 7. 前半のまとめと小テスト 8. 子音の発音1 9. 子音の発音2 10. 母音の発音1 11. 母音の発音2 12. 意味と音 13. 音声特徴1 14. 音声特徴2 15. 秋学期のまとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     | ○   |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | TM0026001 |
| 科目名   | 京都の文学 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Literature of Kyoto  |       |           |
| 担当者名  | 山崎 ふさ子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 京都の地形やおおよその成り立ちを最初に解説し、京都の地理の全体像を頭に入れてもらってから、個々の名所にまつわる物語を一回読み切り形式で紹介していく。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 毎回プリントを配布する  |       |           |
| 教材（参考文献）  |  |       |           |
| 教材（その他）   |  |       |           |
| 評価方法  | 平常点 50%と期末試験 50%   |       |           |
| 到達目標  | 京都の有名な神社や寺院の場所といわれが頭に入るので 京都の地理に明るく、地形もわかりやすく 古都への理解が進むことが目的である。           |       |           |
| 準備学習  | 現在の京都市について、地図をながめておくこと   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| 授業を聞くだけでなく、自分で京都の名所を訪れてほしい。 少なくとも 70%は授業に出席してください。  |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 1 前置き 京都の地理と交通手段について  2 下鴨神社と上賀茂神社～平安京以前～【山城国風土記】 3 葵祭～嵯峨野～野宮【源氏物語】 4 京都御所～源三位頼政～鶴退治 【平家物語】  5 清水寺～出会いの場所～安寿と厨子王【山椒大夫】  6・7 絶世の美女・常磐御前～五条の橋～牛若丸と弁慶～鞍馬山【絵本・牛若丸】  8 白拍子静御前の一生～堀川夜討ち～吉野の別れ【絵本・静御前】 9 大原寂光院～建礼門院徳子【平家物語】  10 宇治川の先陣争い【平家物語】  11 一条戻り橋～渡辺綱～茨木童子【平家物語・歌舞伎】  12 大江山の酒呑童子【御伽草子】 13 穴太寺～亀岡【今昔物語】 14 復習  15 まとめ |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |           |
|---|--|-------|-----------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | TM0029A01 |
| 科目名   | 京都検定講座 I 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)  | Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I   |       |           |
| 担当者名  | 堤 勇二   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | <p>京都大発見！ 年間五千万人を迎え続ける観光都市・京都。  京都を最強の観光都市たらしめている理由は一体なんでしょう？   普段は気づかないけれども、その意味を考えると、そこには千年の歴史を背景に、衣食住のすべてにわたり日本文化を創出し、また宗教、学問をリードし続けるスピリチュアル都市の凄みが見えてきます。  講義はクイズ形式で進行し、皆さんと一緒に考えていきます。  この機会に是非京都の魅力を再発見しましょう。</p> |       |           |
| 教材 (テキスト)   | 使用しない。適宜プリント配布   |       |           |
| 教材 (参考文献)   | 内容ごとに紹介  |       |           |
| 教材 (その他)  | パワーポイント使用。場合によって映画・ビデオも上映。   |       |           |
| 評価方法  | 平常点 (50%) 出席状況等による。定期テスト (20%) レポート (30%)   出席は授業中に提出する問題の回答を兼ねた出席カードのみ評価します。  授業中に質問した場合は平常点評価をアップします。  |       |           |
| 到達目標  | <p>京都を好きになり、その理由を人に説明できる。  授業で採り上げた場所や観光素材を自信をもって人に紹介できる。  京都の祭礼の本来の意味を正しく理解する。  ガイド本に記載されていない自分だけの京都の魅力を発見できる。</p>  |       |           |
| 準備学習  | 京都に関する書籍、新聞記事、テレビ番組などを見て、京都への意識を高めておく。   |       |           |
| 受講者への要望   |  |       |           |
| <p>出席は各授業で配布しその場で記入する出席カードのみ評価します。  平素から京都への興味を持ち、疑問や質問を持つようにしてください。  授業中に質問をした人は、平常点をプラスしますので、どしどし質問してください。  講義内容や順番は適宜変更する可能性もあります。  町家キャンパスについては野外学習や現地見学を行う可能性もあります。その場合の交通費や拝観料その他は自己負担となります。 </p> |  |       |           |
| 講義の順序とポイント  |  |       |           |
| 京都とは？ はじめに 京都の観光 京都の神社 I  京都の神社 II  京都の寺院 I  京都の寺院 II  京都の世界遺産 京都の祭 I  京都の祭 II  京都の名所 京都の工芸 京都の料理 京都の菓子 京都への質問 京都とは？ まとめ  |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | TM0029A02 |
| 科目名   | 京都検定講座Ⅰ 【他】【町家】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）   | Certifying Examination for Kyoto Tourism and CultureⅠ   |       |           |
| 担当者名  | 堤 勇二  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要  | 京都大発見！ 年間五千万人を迎え続ける観光都市・京都。  京都を最強の観光都市たらしめている理由は一体なんでしょう？   普段は気づかないけれども、その意味を考えると、そこには千年の歴史を背景に、衣食住のすべてにわたり日本文化を創出し、また宗教、学問をリードし続けるスピリチュアル都市の凄みが見えてきます。  講義はクイズ形式で進行し、皆さんと一緒に考えていきます。  この機会に是非京都の魅力を再発見しましょう。 |       |           |
| 教材（テキスト）  | 使用しない。適宜プリント配布  |       |           |
| 教材（参考文献）  | 内容ごとに紹介   |       |           |
| 教材（その他）   | パワーポイント使用。場合によって映画・ビデオも上映。  |       |           |
| 評価方法  | 平常点（50％）出席状況等による。定期テスト（20％） レポート（30％）  出席は授業中に提出する問題の回答を兼ねた出席カードのみ評価します。  授業中に質問した場合は平常点評価をアップします。  |       |           |
| 到達目標  | 京都を好きになり、その理由を人に説明できる。  授業で採り上げた場所や観光素材を自信をもって人に紹介できる。  京都の祭礼の本来の意味を正しく理解する。  ガイド本に記載されていない自分だけの京都の魅力を発見できる。  |       |           |
| 準備学習  | 京都に関する書籍、新聞記事、テレビ番組などを見て、京都への意識を高めておく。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 出席は各授業で配布しその場で記入する出席カードのみ評価します。  平素から京都への興味を持ち、疑問や質問を持つようにしてください。  授業中に質問をした人は、平常点をプラスしますので、どしどし質問してください。  講義内容や順番は適宜変更する可能性もあります。  町家キャンパスについては野外学習や現地見学を行う可能性もあります。その場合の交通費や拝観料その他は自己負担となります。 |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 京都とは？ はじめに 京都の観光 京都の神社Ⅰ 京都の神社Ⅱ 京都の寺院Ⅰ 京都の寺院Ⅱ 京都の世界遺産 京都の祭Ⅰ 京都の祭Ⅱ 京都の名所 京都の工芸 京都の料理 京都の菓子 京都への質問 京都とは？ まとめ   |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | TM0029B01 |
| 科目名        | 京都検定講座Ⅱ【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture II  |       |           |
| 担当者名       | 山本 一也  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>京都検定に合格するには、重要事項の暗記は当然のことながら、京都の歴史や文化の本質を学ぶことも案外重要であるように思われる。しかも、平安京から続く京都の文化は、日本の古典的な文化の基礎であると言われる。つまり、京都の文化を学ぶことは、日本の文化を学ぶことでもある。  だが、そうした京都の文化にも非常に多様な側面がある。そのうち、京都検定合格のために重要なテーマをいくつか設定し、それを歴史という観点から学ぶことにより、京都の文化の特質を捉えることが本講座の目的である。  授業では、歴史史料、文学史料、絵画史料だけでなく、様々な映像資料(ドキュメンタリー、映画、アニメーション)なども使用することで、より具体的なイメージの構築を図りたい。  京都検定を受検するにせよしないにせよ、この講義を受講することで、京都ブームの世にあって人よりも京都を楽しめるようになっていただければと思う。</p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | なし。毎回プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 授業中に随時指示する。  |       |           |
| 教材（その他）    | なし。  |       |           |
| 評価方法       | 授業参加(約 50%) + テスト(約 50%)による総合評価  |       |           |
| 到達目標       | 京都検定合格。  京都の文化と歴史に詳しくなる。   |       |           |
| 準備学習       | 不要。  |       |           |
| 受講者への要望    | 積極的な出席と授業への取り組みが必要です。  京都検定を受検する予定のない人も勿論受講可能です。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>順序は変動する可能性があります。  ①京都について学ぶ意義   ②京都の構造 ~平安京から都市京都へ   ③桓武天皇と平安遷都   ④怨霊と御霊信仰   ⑤菅原道真と北野天満宮   ⑥様々なケガレ   ⑦女人禁制   ⑧祇園祭   ⑨鳥辺野と六道まいり   ⑩盆行事と五山の送り火   ⑪『源氏物語』と天皇のキサキ   ⑫賀茂祭(葵祭)   ⑬京都の花街   ⑭京都を舞台にした文学・映画   ⑮まとめ</p>   |       |           |

|  |            |     |     |     |       |        |
|--|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                              | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                       | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。  履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |                  |
|--|---|-------|------------------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | TM0030A01        |
| 科目名  | 京都商人論 I 【他】   | 単位数   | 2                |
| 科目名 (英語表記)   | Theory of Kyoto Merchants I   |       |                  |
| 担当者名   | 植田 知子   | 旧科目名称 | 京都商人論 A, 京都商人論 s |
| 講義概要   | <p>平安京遷都 (794 年) 以来、明治維新 (1868 年) に至る約 1100 年の間、京都は日本の政治・経済・文化・産業の中心地として発展してきました。その間、京都は幾多の戦火や災禍を乗り越えなければならず、そうした経験の中から生み出された生活規範・行動様式・商いの理念は、今日の京都の商人にも受け継がれています。 「京都商人論 I」では、まず物資の流通の点から、京都のおかれた位置を理解することにつとめます。平安末期から鎌倉初期になると、一定の商品流通が見られるようになり、店舗商業が成立しますが、これが最初にあらわれたのが京都です。本講義では、主に中世から近世における商業の仕組みと、その発展過程を学ぶことを課題とします。なお、個々の商人の活動についても、数例取り上げて具体的に紹介します。 </p> |       |                  |
| 教材 (テキスト)  | 使用しません。各講義でプリントを配布します。  |       |                  |
| 教材 (参考文献)  | 授業中、適宜指示します。  |       |                  |
| 教材 (その他)   | 古文書・絵図・写真なども教材として使用します。   |       |                  |
| 評価方法   | 小レポート (20%) 定期テスト (80%)   |       |                  |
| 到達目標   | 京都における商業および、商人の発展過程を理解すること。   |       |                  |
| 準備学習   | 毎回、前週の授業内容を整理・理解したうえで次の授業に臨んで下さい。疑問点があれば、早めに質問して下さい。  |       |                  |
| 受講者への要望  |   |       |                  |
| 京都の伝統的な商家や商品に関心を持ちましょう。  |   |       |                  |
| 講義の順序とポイント   |   |       |                  |
| <p>1. 日本古代の物資の流通  2. 平安京の市と商品  3. 中世の商業と商人①; 問と座  4. 中世の商業と商人②; 土倉と借上  5. 京都の代表的商人①  6. 京都の代表的商人②  7. 幕藩制社会の仕組みと商業  8. 近世の商業と商人①  9. 近世の商業と商人②  10. 京都の代表的商人③  11. 京都の代表的商人④  12. 文化都市から観光都市京都へ  13. 京都の代表的商人⑤  14. 京都の代表的商人⑥  15. まとめ</p> |   |       |                  |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |  |       |                |
|---|--|-------|----------------|
| 年度  | 2012   | 授業コード | TM0030B01      |
| 科目名   | 京都商人論 【他】  | 単位数   | 2              |
| 科目名（英語表記）   | Theory of Kyoto Merchants I  |       |                |
| 担当者名  | 植田 知子  | 旧科目名称 | 京都商人論B, 京都商人論f |
| 講義概要  | 近世初期に活躍した初期豪商・初期特権商人らに代わり、寛文～元禄期に現れてくるのが地道で堅実な新興商人層です。「京都商人論II」で焦点をあてるのはこの新興商人たちで、講義は次の2点を課題として進めていきます。①近世商家の雇用制度や経営理念についての理解。②商家の外観・内部構造・道具類・広告宣伝などに着目し、京都商人の商慣習や商業活動をより多角的、具体的に把握すること。 なお、「京都商人論II」を受講する前に、「京都商人論I」を受講して、基本的な商業史・経済史の知識を学んでおくことが望まれます。 |       |                |
| 教材（テキスト）  | 使用しません。各講義でプリントを配布します。   |       |                |
| 教材（参考文献）  | 授業中、適宜指示します。   |       |                |
| 教材（その他）   | 古文書・絵図・写真などを教材として使用します。  |       |                |
| 評価方法  | 小レポート（20%） 定期テスト（80%）  |       |                |
| 到達目標  | 商家の雇用制度と経営理念を理解し、時代とともに商業活動がどのように変化、進展したのかを学ぶ。   |       |                |
| 準備学習  | 京都商人論Iからの継続的受講が望まれる。   |       |                |
| 受講者への要望   |  |       |                |
| 京都の町を歩いてみましょう。老舗の店構えや看板、商品陳列に目をとめましょう。新聞や業界誌に掲載された店主・経営者の方々の経営談、商品開発の秘話、奮闘記などを読みましょう。   |  |       |                |
| 講義の順序とポイント  |  |       |                |
| 1. 京都の歴史と風土  2. 商家の雇用制度①  3. 商家の雇用制度②  4. 京都商人の経営理念；家訓①  5. 京都商人の経営理念；家訓②  6. 京都商人の経営理念；家訓③  7. 町運営と商家  8. 商家の外観と商いの道具  9. 看板・暖簾に見る京都の商い①  10. 看板・暖簾に見る京都の商い②  11. 屋号と商標  12. 広告宣伝  13. 京都の代表的商人①  14. 京都の代表的商人②  15. まとめ |  |       |                |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | TM0033001 |
| 科目名        | 経済学概論 【他】   | 単位数   | 4         |
| 科目名 (英語表記) | Economics   |       |           |
| 担当者名       | 山本 幹夫   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | <p>経済学はその時代に生じた問題に答えようとして考察され、発展してきた。本講では経済学が資本主義の発展をどのように理論的に説明してきたのか、その考え方を捉える。 市民社会の成立を経て、18世紀後半にスミスは人々の「同感」と市場における価格体系によって社会の均衡が実現すると考えた。 市場が社会に行き渡った19世紀後半になると、ワルラスは、市場経済制度を基礎とする国民経済における市場のメカニズムを明らかにした。 しかし、生産設備が巨大となって、20世紀に入り、ヴェブレンは、自由競争は阻害され、資源配分が不均衡となり、同時に金融市場が不安定になることを指摘した。 その後、1930年代前後の大恐慌期に、ケインズは大量の失業を目の当たりにして、資本主義にはもともと不均衡であり、経済学はそれも視野に入れた「一般理論」でなければならないと主張した。彼の考え方に基づく経済政策を採用し、戦後、資本主義は安定と成長を実現する。 ところが、1960年代後半から財政赤字が深刻となり、1970年代に長期・構造不況期にはいる。その過程でフリードマンの新自由主義的な主張が受け入れられた。今日、資本主義は金融自由化が進められ、「国際的な金融市場」に活路を見いだしている。 </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 宇沢弘文、『経済学の考え方』, 岩波新書  |       |           |
| 教材 (参考文献)  | なし  |       |           |
| 教材 (その他)   | 毎回レジュメを配布する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点20% (毎回の授業で、質問、要望、感想を提出。出席点ではない。) 定期試験80%。   |       |           |
| 到達目標       | <p>経済学の基礎概念：市場、分配、価格、企業、需要、所得、貨幣などの理解。 資本主義の段階的発展と経済学の発展の関係の理解。 価格と需要・供給がどのように決まるかの理解。 国民所得はどの様に循環しているかの理解。 </p>  |       |           |
| 準備学習       | テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。 授業の冒頭10分で、授業のテーマを説明するので、それを頭に入れて話を聞くこと。   |       |           |
| 受講者への要望    | 経済学の内容とともに資本主義の発展、経済学の思考方法に関心を持ってほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | <p>I はじめに 経済学の課題と方法   1 経済学とは何か II 市民社会の経済学 スミス  2 同感の思想  3 産業革命  4 分業論  5 貨幣、自然価格論  III 資本主義の確立 リカード  6 投下労働価値説 IV 自由競争の頂点 ワルラス  7 消費者の行動  8 価格と需要  9 労働力の供給  10 生産者の行動   11 価格と供給  12 需給均衡理論  13 新古典派の資本主義観  14 過渡期 大不況期 V 20世紀の資本主義 ヴェブレン  15 消費者の行動  16 企業の行動  17 寡占市場、金融不安  18 過渡期 大恐慌 VI ケインズ政策の時代 ケインズ  19 非自発的失業  20 流動性選好  21 有効需要理論   22 IS・LM分析  23 財政金融政策  24 戦後安定と成長 国際通貨制度  25 過渡期 長期不況 VII 新自由主義経済学  26 供給経済学 マネタリズム  27 金融自由化、バブル VIII まとめ  28 ワルラス価格論のまとめ  29 ケインズ国民所得論のまとめ  30 経済学の方法  </p>   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     | ○   |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | TM0063A01 |
| 科目名   | 東洋史概説A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | Asian History A   |       |           |
| 担当者名  | 中西 竜也   | 旧科目名称 | 東洋史概説s    |
| 講義概要  | 「イスラーム原理主義」と聞いて、何を思い浮かべるだろうか。おそらく大抵の人は、9.11や爆弾テロを連想したのではないか。あるいはひょっとすると、最近の中東情勢に関心のある人ならば、中東の民主化(アラブの春)を想起したかもしれない。テロと民主化。なんとなく結びつきそうにない両者だが、「イスラーム原理主義」はたしかに両者と関係がある、不思議な概念なのである。「イスラーム原理主義」とは、いったい何なのか?—そんなふうに疑問に思えた人、関心が持てた人。「イスラーム原理主義」について一緒に考えましょう。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | 授業中にプリントを配布   |       |           |
| 教材(参考文献)  | 小川忠『原理主義とは何か—アメリカ、中東から日本まで』講談社2003年 大塚和夫『イスラーム主義とは何か』岩波書店2004年 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店2002年  |       |           |
| 教材(その他)   | 特になし  |       |           |
| 評価方法  | ペーパーテスト   |       |           |
| 到達目標  | 「イスラーム原理主義」の歴史的展開、多様性を理解する  |       |           |
| 準備学習  | 上に挙げた参考文献をはじめ、イスラームの歴史や思想に関する概説書を読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| イスラーム世界の歴史や地理に関して、高校で習う程度の知識を身につけておくことが望ましい。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1 導入 2 イスラームの基本事項 3 イスラーム法学 4 イスラーム法学 5 スーフィズム 6 スーフィズム 7 イブン・アラビーと存在一性論 8 ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ 9 ワッハーブ運動とサウジアラビア 10 「ワッハーブ派」の背景としてのスーフィズムの改革 11 サラフィー主義 12 ムスリム同胞団 13 イラン革命 14 「イスラーム原理主義」の現在 15 まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | TM0063B01 |
| 科目名        | 東洋史概説B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Asian History B  |       |           |
| 担当者名       | 中西 竜也  | 旧科目名称 | 東洋史概説 f   |
| 講義概要       | 中国には「漢族」以外にも様々な「民族」が存在する。中国史を、様々な「民族」の立場から多元的に把握するならば、中国について新しい見方ができるかもしれない。そこで本講義では、中国ムスリムの立場から中国近現代史を捉えなおすことを試みたい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | 授業中にプリントを配布  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 張承志『回教からみた中国』中央公論社 1993年 楊海英『モンゴルとイスラーム的中国—民族形成をたどる歴史人類学紀行』風響社 2007年 堀池信夫編『中国のイスラーム思想と文化』（アジア遊学 129）勉誠出版 2009年   |       |           |
| 教材（その他）    | 特になし   |       |           |
| 評価方法       | ペーパーテスト  |       |           |
| 到達目標       | 中国の多元性や民族問題を理解する。  |       |           |
| 準備学習       | 中国近現代史に関する概説書を読んでおく。   |       |           |
| 受講者への要望    | 中国の歴史や地理について、高校で習う程度の知識を身につけておくことが望ましい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 導入 2 中国ムスリム社会の形成 3 明清時代の中国ムスリム 4 清末の中国ムスリム 5 中華民国と国民国家建設 6 中国イスラーム教育改革 7 イフワーン派と愛国愛教 8 侮教事件と「回族」アイデンティティの形成 9 共産党の民族政策 10 新疆「解放」と中国ムスリム 11 文化大革命と中国ムスリム 12 改革開放と中国ムスリム 13 中国イスラーム伝統思想の変容 14 中国ムスリムの現在 15 まとめ |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期 待                                     | ○          |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | TM0066A01 |
| 科目名        | 日本の文学A 【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Japanese Literature A   |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。   |       |           |
| 教材（テキスト）   | プリントを配布する。  |       |           |
| 教材（参考文献）   |   |       |           |
| 教材（その他）    |   |       |           |
| 評価方法       | 平常点（40%出席・発言等 課題二つ（30%×2）   |       |           |
| 到達目標       | 古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。  |       |           |
| 準備学習       | 本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。  |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 単位取得方法の説明等 2 枕草子 帝と後の純愛悲劇1 3 枕草子 帝と後の純愛悲劇2 4 枕草子 帝と後の純愛悲劇3 5 枕草子 帝と後の純愛悲劇4 6 枕草子 帝と後の純愛悲劇5 7 枕草子 帝と後の純愛悲劇6 8 平家物語 平家一門の栄枯盛衰1 9 平家物語 平家一門の栄枯盛衰2 10 平家物語 平家一門の栄枯盛衰3 11 平家物語 平家一門の栄枯盛衰4 12 平家物語 平家一門の栄枯盛衰5 13 平家物語 平家一門の栄枯盛衰6 14 平家物語 平家一門の栄枯盛衰7 15 総括 |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |  |       |           |
|------------|--|-------|-----------|
| 年度         | 2012   | 授業コード | TM0066B01 |
| 科目名        | 日本の文学B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | Japanese Literature B  |       |           |
| 担当者名       | 山本 淳子  | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。  |       |           |
| 教材(テキスト)   | プリントを配布する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   |  |       |           |
| 教材(その他)    |  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(40%) 出席・発言等 課題(30%×2)  |       |           |
| 到達目標       | 古典と京都に実感的に親しむ。自分の知識として作品を知り、自分の心でそれを味わう。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。   |       |           |
| 準備学習       | 本授業は基礎的教養の養生を目指すので、予備知識は不要。もちろん古典好き・史跡好きは歓迎する。 予習よりも、各講義時間でしっかり味わうことが重要。成果については毎回講義時に問う。   |       |           |
| 受講者への要望    | しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。  |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1 単位取得方法の説明等 2 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 1 3 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 2 4 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 3 5 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 4 6 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 5 7 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 6 8 源氏物語 光源氏栄光と苦悩の人生 7 9 安倍晴明 平安京ミステリー 1 10 安倍晴明 平安京ミステリー 2 11 安倍晴明 平安京ミステリー 3 12 安倍晴明 平安京ミステリー 4 13 安倍晴明 平安京ミステリー 5 14 安倍晴明 平安京ミステリー 6 15 総括 |       |           |

| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      | ○          | ○   | ○   | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | TM0069A01 |
| 科目名  | 日本史概説A 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | History of Japan A   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 | 日本史概説s    |
| 講義概要   | <p>驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、世界の変化と連動して新たな社会の枠組みを形成しつつある。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきた。その意味でも、今あらためて日本の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならない。   この講義では、日本の歴史研究を主導された網野善彦氏による待望の通史『日本社会の歴史』を教科書として用い、解説や補足を加えながらこの書を通読し、「日本国」の成立から現代に至る自国の歴史を学ぶなかで、私たちが抱える様々な問題点と新たな視点を提起する。  </p> |       |           |
| 教材（テキスト）   | 教科書：網野善彦著『日本社会の歴史』上・中・下（全3冊、岩波新書500・501・502）   |       |           |
| 教材（参考文献）   | 参考書：吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』（阿吽社）。ほかに講義中に適宜教示。  |       |           |
| 教材（その他）  | 必要に応じてプリント資料も配付。   |       |           |
| 評価方法   | 成績は、授業内レポートが30パーセント、定期試験を70パーセントとして評価する。授業内レポートについては、授業の途中で内容の説明を行う。   |       |           |
| 到達目標   | 日本社会の全域に及ぶ歴史の流れを理解したうえで、個別の時代や事象に興味をいただくこと。  |       |           |
| 準備学習   | 授業は、個々の受講生に教科書を声を出して読んでもらいます。必ず、前もって教科書を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| 準備学習のところで書きましたが、この授業では、教科書を声を出して読んでもらいます。日本の古代や中世の歴史用語や人名は、あらかじめ学習しておかないと正しく読めないほど難しいものです。進行にあわせて準備し、真摯な姿勢で受講してください。   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| 1 はじめに ―― 開講にあたって   2 第1章 原始の列島と人類社会   3 同 上   4 第2章 首長たちの時代   5 同 上   6 第3章 国家形成への道   7 同 上   8 第4章 「日本国」の成立と列島社会   9 同 上   10 第5章 古代小帝国日本国の矛盾と発展   11 同 上   12 同 上   13 第6章 古代日本国の変質と地域勢力の胎動   14 同 上   15 同 上 |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |  |       |           |
|--|--|-------|-----------|
| 年度   | 2012   | 授業コード | TM0069B01 |
| 科目名  | 日本史概説B 【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名 (英語表記)   | History of Japan B   |       |           |
| 担当者名   | 吉村 亨   | 旧科目名称 | 日本史概説 f   |
| 講義概要   | <p>驚異的な通信技術の発達に象徴される高度情報化は、世界の変化と連動して新たな社会の枠組みを形成しつつある。こうした時代の転換期にあって先行きが見えづらくなったとき、人間は過去をふりかえり、未来への道を探ろうとしてきた。その意味でも、今あらためて日本の歴史を学ぶということは、この国のあり方を見直す新たな視点を獲得し未来への方途を探ることにほかならない。   この講義では、日本の歴史研究を主導された網野善彦氏による待望の通史『日本社会の歴史』を教科書として用い、解説や補足を加えながらこの書を通読し、「日本国」の成立から現代に至る自国の歴史を学ぶなかで、私たちが抱える様々な問題点と新たな視点を提起する。  </p> |       |           |
| 教材 (テキスト)  | 教科書：網野善彦著『日本社会の歴史』上・中・下 (全3冊、岩波新書 500・501・502)   |       |           |
| 教材 (参考文献)  | 参考書：吉村 亨著『中世地域社会の歴史像』(阿吽社)。ほかに講義中に適宜教示。  |       |           |
| 教材 (その他)   | 必要に応じてプリント資料も配付。   |       |           |
| 評価方法   | 成績は、授業内レポートが30パーセント、定期試験を70パーセントとして評価する。授業内レポートについては、授業の途中で内容の説明を行う。   |       |           |
| 到達目標   | 日本社会の全域に及ぶ歴史の流れを理解したうえで、個別の時代や事象に興味をいただくこと。  |       |           |
| 準備学習   | 授業は、個々の受講生に教科書を声を出して読んでもらいます。必ず、前もって教科書を読んでくること。   |       |           |
| 受講者への要望  |  |       |           |
| <p>準備学習のところでも書きましたが、この授業では、教科書を声を出して読んでもらいます。日本の古代や中世の歴史用語や人名は、あらかじめ学習しておかないと正しく読めないほど難しいものです。進行にあわせて準備し、真摯な姿勢で受講してください。  </p>   |  |       |           |
| 講義の順序とポイント   |  |       |           |
| <p>1 はじめに — 講義再開にあたって   2 第7章 東国王権の出現と王朝文化の変貌   3 同上   4 第8章 東西の王権の併存と葛藤   5 同上   6 同上   7 第9章 動乱の時代と列島社会の転換   8 同上   9 同上   10 第10章 地域小国家の分立と抗争   11 同上   12 同上   13 第11章 再統一された日本国と琉球王国・アイヌ社会   14 同上   15 第12章 展望 — 十七世紀後半から現代へ</p> |  |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力 (6つの基礎力)                            | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      |            |     |     |     |       |        |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | TM0070001 |
| 科目名        | 梅岩「心学」研究【他】   | 単位数   | 2         |
| 科目名（英語表記）  | Practical Ethics of Ishida Baigan   |       |           |
| 担当者名       | 植田 知子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 石門心学の開祖石田梅岩（1685～1744）は、丹波国桑田郡東懸村（現在の亀岡市東別院東掛）の出身です。梅岩は、江戸時代、士農工商の身分制の中で最も低い地位におかれた商人の社会的存在価値を明確に主張し、商人自らその役割を自覚して、それを果たすことが家業繁栄の道であることを説きました。梅岩とその一門の人々が主張した正直・勤勉・質素・儉約などの徳目は、京都の多くの商家の家訓に取り入れられ、今日でも重んじられています。本講義では、当時の時代背景や商業活動にも言及しながら、梅岩教学の根本原理を理解することに努めます。 |       |           |
| 教材（テキスト）   | 石田梅岩著『都鄙問答』などを、資料プリントとして配布します。  |       |           |
| 教材（参考文献）   | 柴田 実著『石田梅岩』（人物叢書）吉川弘文館、2007年（新装版第3刷）。1500円。   |       |           |
| 教材（その他）    | 適宜、資料プリントを配布します。  |       |           |
| 評価方法       | 小レポート（40％） 定期テスト（60％）   |       |           |
| 到達目標       | 梅岩教学の根本原理を理解することに努めます。  |       |           |
| 準備学習       | 事前に配布する資料プリントには、毎回一通り目を通しておいて下さい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 継続して受講しないと、内容が分からなくなるので、できるだけ欠席しないようにして下さい。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 石田梅岩の生い立ちと業績  2. 心を尽くして性を知る  3. 商人の社会的役割  4. 商人にとって学問の必要性①  5. 商人にとって学問の必要性②  6. 営利心と利潤①  7. 営利心と利潤②  8. 前半部分のまとめ  9. 正直とは  10. 儉約とは  11. 家の存続  12. 他者への奉仕  13. 社会秩序と生活規範  14. 家訓に見る心学の影響  15. まとめ   |       |           |

| 人間力（6つの基礎力）                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 期待                                      |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|  |   |       |           |     |       |        |
|--|---|-------|-----------|-----|-------|--------|
| 年度   | 2012  | 授業コード | TM0089A01 |     |       |        |
| 科目名  | 英語講読 I 【他】  | 単位数   | 2         |     |       |        |
| 科目名 (英語表記)   | English Reading I   |       |           |     |       |        |
| 担当者名   | 今西 薫  | 旧科目名称 | 英語講読 s    |     |       |        |
| 講義概要   | この授業は、大学院を目指している学生のためのリーディングの基礎的な授業です。英文を読み進む中で、文法や構文を理解したうえでの単調な翻訳作業のような授業になる可能性があります。将来の夢や希望を実現するための修行の場だととらえ、積極的に課された課題をこなしていくことが望めます。復習をしっかりとしてください。毎週かなりの英語の学習時間が必要です。プリント教材は文法事項を中心にした英文で作ってあります。読解力の向上のためには習得すべき必須の事柄です。   学生諸君の目指す試験が辞書持込みであるのか、ないのかによって語彙の増やし方については、対応が分かれていますが、やはり語彙は多いにこしたことはありません。できるだけ語彙を増やすような授業にします。 |       |           |     |       |        |
| 教材 (テキスト)  | プリント教材  |       |           |     |       |        |
| 教材 (参考文献)  |   |       |           |     |       |        |
| 教材 (その他)   |   |       |           |     |       |        |
| 評価方法   | 授業内テスト(100%)  |       |           |     |       |        |
| 到達目標   | 最終的に大学院の入学試験に合格できる英語能力を身につけるための基礎力を養う。  |       |           |     |       |        |
| 準備学習   | 毎回、前回学習した内容に関してテストを行うので、復習中心の学習をするように心がけること。  |       |           |     |       |        |
| 受講者への要望  |   |       |           |     |       |        |
| 授業には毎回出席すること。  |   |       |           |     |       |        |
| 講義の順序とポイント   |   |       |           |     |       |        |
| 1. 文の要素、文型を中心にした英文 2. 文の種類、品詞を中心にした英文  3. 動詞の活用を中心にした英文  4. 自動詞と他動詞を中心にした英文 5. 群動詞を中心にした英文 6. 基本時制を中心にした英文 7. 完了時制を中心にした英文 8. 進行形を中心にした英文 9. 受動態の基本形を中心にした英文 10. いろいろな受動態の英文 11. 助動詞を使った英文 12. 不定詞を使った英文 13. 分詞の形容詞用法の英文 14. 分詞構文の英文 15. まとめ |   |       |           |     |       |        |
| 人間力 (6つの基礎力)   | コミュニケーション力  | 協働力   | 適応力       | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待   | ○   |       |           |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。  |   |       |           |     |       |        |

|   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| 年度  | 2012  | 授業コード | TM0089B01 |
| 科目名   | 英語講読Ⅱ【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)   | English Reading II  |       |           |
| 担当者名  | 今西 薫  | 旧科目名称 | 英語講読 f    |
| 講義概要  | この授業は、大学院を目指している学生のためのリーディングの授業です。英文を読み進む中で、文法や構文を理解したうえでの単調な翻訳作業のような授業になる可能性があります。将来の夢や希望を実現するための修行の場だととらえ、積極的に課された課題をこなしていくことが望まれます。毎週かなりの英語の学習時間が必要です。受講する学生の英語習熟度にあわせて、プリント教材を作ります。復習を中心に学習してください。  学生諸君の目指す試験が辞書持込みであるのか、ないのかによって語彙の増やし方については、対応が分かれますが、やはり語彙は多いにこしたことはありません。できるだけ語彙を増やすような授業にします。 |       |           |
| 教材(テキスト)  | プリント教材  |       |           |
| 教材(参考文献)  |   |       |           |
| 教材(その他)   |   |       |           |
| 評価方法  | 授業内テスト(100%)  |       |           |
| 到達目標  | 大学院受験に合格できる水準まで英文を日本語に翻訳できる能力を高めること。  |       |           |
| 準備学習  | 日常わからない単語が出てきたときには、すばやく辞書でその語を確認できる能力を養うとともに、やはり基本的な語彙はマスターしておいてもらいたい。  |       |           |
| 受講者への要望   |   |       |           |
| 受講者は授業には毎回出席すること。なお、英和辞典を持参すること。  |   |       |           |
| 講義の順序とポイント  |   |       |           |
| 1. 動名詞を中心にした英文 2. 前置詞を中心にした英文 3. 名詞をを中心にした英文  4. 代名詞をを中心にした英文 5. 前置詞を中心にした英文 6. 比較構文を中心にした英文 7. 関係代名詞を中心にした英文 8. 関係副詞を中心にした英文 9. 等位接続詞の訳し方の難しさについて  10. 従属接続詞を中心にした英文 11. 仮定法過去を中心にした英文 12. 仮定法過去完了を中心にした英文  13. 倒置、強調などの構文の見分け方、訳し方 14. 物主構文の訳し方について 15. まとめ |   |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期待                                      | ○          |     |     |     | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点がおかれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |

|            |   |       |           |
|------------|---|-------|-----------|
| 年度         | 2012  | 授業コード | TM0093001 |
| 科目名        | 京都の歴史【他】  | 単位数   | 2         |
| 科目名(英語表記)  | History of Kyoto  |       |           |
| 担当者名       | 菅澤 庸子   | 旧科目名称 |           |
| 講義概要       | 歴史は地域に根ざしたものである。京都という一つの地域に生活した人々の営みの歴史を知ることは、日本文化や歴史の一面を知ることに通じるといえよう。 本講では都のおかれる以前から現代に至るまでの京都の町の足跡を辿る。平安京以前の様子や賀茂祭の歴史、平安京に暮らす人々、祇園会のあり方の変化、商業をはじめとする産業の発展などを取り上げ、京都の歴史と文化の特色をみていく。   |       |           |
| 教材(テキスト)   | なし。講義時ごとにプリントを配付する。   |       |           |
| 教材(参考文献)   | 講義中に適宜紹介する。   |       |           |
| 教材(その他)    | 映像資料などを活用する。  |       |           |
| 評価方法       | 平常点(50%) 2回の小テストや授業内提出物などによる。レポート試験(50%)  |       |           |
| 到達目標       | 京都の町の歴史と特色の理解。地域からの視点で歴史を考える姿勢を培う。  |       |           |
| 準備学習       | 寺社や博物館をはじめ、現在京都に残る史蹟を普段から見てもわる姿勢をもつこと。授業では各回のテーマごとにできるだけ関連史蹟を紹介していくので、参考にしてほしい。   |       |           |
| 受講者への要望    | 第1回の講義で、講義全体の趣旨や留意点、最終のレポート試験の内容を説明する(講義中に言及した史蹟や寺社を一つ選択し、各自で見学してレポートに記すというものを予定)。登録前であっても必ず初回から出席すること。やむをえず欠席した人は友人などにノートを見せてもらうこと。また、平常点として講義内容復習の小テストを2回おこなう。講義中ノートをよく取っておくこと。   |       |           |
| 講義の順序とポイント | 1. 開講にあたって ー地域学としての「京都の歴史」ー 2. 「平安京」以前 3. 「山背」遷都(1) 4. 賀茂祭 5. 「山背」遷都(2) 6. 第1回小テスト 7. テスト解説(復習)、平安京に暮らす人々 8. 平安京の都市災害 9. 市町と広場 10. 町衆と民衆文化 11. レポート解説、河原者の遺した文化 12. 江戸時代の産業の発展 13. 第2回小テスト 14. テスト解説(復習)、新興商人の文化 15. 「西京」から再び「京都」へ ー近現代の京都ー |       |           |

|   |            |     |     |     |       |        |
|---|------------|-----|-----|-----|-------|--------|
| 人間力(6つの基礎力)                             | コミュニケーション力 | 協働力 | 適応力 | 行動力 | 課題発見力 | 倫理的思考力 |
| 期 待                                     |            |     |     | ○   | ○     | ○      |
| ○印は、この科目で特に力点が置かれている基礎力です。 履修の参考にして下さい。 |            |     |     |     |       |        |